

2022年度 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2022/5/2〕最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A0001】 憲法Ⅰ〔建石 真公子〕春学期授業/Spring	1
【A0002】 憲法Ⅱ〔建石 真公子〕秋学期授業/Fall	2
【A0003】 憲法Ⅰ〔建石 真公子〕春学期授業/Spring	3
【A0004】 憲法Ⅱ〔建石 真公子〕秋学期授業/Fall	4
【A0005】 憲法Ⅲ〔國分 典子〕春学期授業/Spring	5
【A0006】 憲法Ⅳ〔國分 典子〕秋学期授業/Fall	6
【A0007】 現代情報法Ⅰ〔鈴木 秀美〕春学期授業/Spring	7
【A0008】 現代情報法Ⅱ〔鈴木 秀美〕秋学期授業/Fall	8
【A0009】 国際社会と憲法Ⅰ〔大津 浩〕春学期授業/Spring	9
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ〔谷田川 知恵〕春学期授業/Spring	10
【A0012】 ジェンダーと法Ⅱ〔谷田川 知恵〕秋学期授業/Fall	12
【A0015】 憲法訴訟論〔大津 浩〕秋学期授業/Fall	13
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ〔鶴澤 和彦〕春学期授業/Spring	15
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ〔洪 賢秀〕秋学期授業/Fall	16
【A0021】 行政法入門Ⅰ〔西田 幸介〕春学期授業/Spring	17
【A0022】 行政法入門Ⅱ〔西田 幸介〕秋学期授業/Fall	19
【A0023】 行政作用法Ⅰ〔濱西 隆男〕春学期授業/Spring	20
【A0024】 行政作用法Ⅱ〔濱西 隆男〕秋学期授業/Fall	21
【A0025】 行政救済法Ⅰ〔氏家 裕順〕春学期授業/Spring	22
【A0026】 行政救済法Ⅱ〔氏家 裕順〕秋学期授業/Fall	24
【A0027】 租税手続法〔阿部 雪子〕秋学期授業/Fall	25
【A0028】 租税実体法〔阿部 雪子〕春学期授業/Spring	26
【A0029】 地方自治法〔氏家 裕順〕秋学期授業/Fall	27
【A0030】 環境法〔朝賀 広伸〕秋学期授業/Fall	28
【A0031】 民事法総論〔大澤 彩〕秋学期授業/Fall	30
【A0032】 契約法Ⅰ〔大澤 彩〕春学期授業/Spring	31
【A0033】 民事法総論〔新堂 明子〕秋学期授業/Fall	33
【A0034】 契約法Ⅰ〔新堂 明子〕春学期授業/Spring	34
【A0039】 契約法Ⅱ〔福田 清明〕春学期授業/Spring	35
【A0040】 債権回収法Ⅰ〔福田 清明〕秋学期授業/Fall	36
【A0041】 不法行為法〔川村 洋子〕秋学期授業/Fall	37
【A0042】 契約法Ⅲ〔川村 洋子〕春学期授業/Spring	38
【A0043】 契約法Ⅳ〔大澤 彩〕秋学期授業/Fall	39
【A0044】 不法行為法〔川村 洋子〕秋学期授業/Fall	40
【A0045】 契約法Ⅲ〔川村 洋子〕春学期授業/Spring	41
【A0046】 親族法〔和田 幹彦〕春学期授業/Spring	42
【A0047】 相続法〔和田 幹彦〕秋学期授業/Fall	43
【A0048】 消費者法Ⅰ〔大澤 彩〕春学期授業/Spring	45
【A0049】 消費者法Ⅱ〔大澤 彩〕秋学期授業/Fall	46
【A0050】 商法総則・商行為法Ⅰ〔椋川 泰史〕秋学期授業/Fall	48
【A0054】 会社法〔荒谷 裕子〕年間授業/Yearly	49
【A0055】 会社法〔潘 阿憲〕年間授業/Yearly	51
【A0069】 民事訴訟法Ⅰ〔杉本 和士〕春学期授業/Spring	52
【A0070】 民事訴訟法Ⅱ〔杉本 和士〕秋学期授業/Fall	53
【A0071】 民事訴訟法Ⅲ〔杉本 和士〕秋学期授業/Fall	54
【A0074】 破産法Ⅰ〔倉部 真由美〕春学期授業/Spring	55
【A0075】 破産法Ⅱ〔倉部 真由美〕秋学期授業/Fall	56
【A0076】 民事再生法〔倉部 真由美〕秋学期授業/Fall	57
【A0077】 刑法総論Ⅰ〔佐藤 輝幸、佐野 文彦〕秋学期授業/Fall	58
【A0078】 刑法総論Ⅱ〔佐野 文彦〕春学期授業/Spring	59
【A0079】 刑法総論Ⅰ〔佐藤 輝幸、佐野 文彦〕秋学期授業/Fall	60
【A0085】 犯罪学〔佐野 文彦〕春学期授業/Spring	61
【A0086】 刑事政策〔佐野 文彦〕秋学期授業/Fall	62

【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤本 茂] 春学期授業/Spring	63
【A0091】 労働基準法 [藤本 茂] 秋学期授業/Fall	65
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [浜村 彰] 春学期授業/Spring	66
【A0093】 労働基準法 [浜村 彰] 秋学期授業/Fall	68
【A0094】 労働組合法 [浜村 彰] 春学期授業/Spring	69
【A0095】 労働法特論 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	70
【A0096】 社会保障法Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	71
【A0097】 社会保障法Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	72
【A0098】 社会政策 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	73
【A0099】 雇用・福祉政策 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	74
【A0104】 国際空間法 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	75
【A0105】 国際安全保障法 [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	76
【A0109】 国際人権法 [佐々木 亮、建石 真公子] 年間授業/Yearly	77
【A0110】 国際組織法 [猪瀬 貴道] 秋学期授業/Fall	79
【A0112】 国際刑事法 [安藤 貴世] 秋学期授業/Fall	81
【A0116】 日本法制史Ⅰ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	82
【A0117】 日本法制史Ⅱ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	83
【A0120】 ドイツ法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	84
【A0121】 ドイツ法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	85
【A0122】 イギリス法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	86
【A0123】 イギリス法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	87
【A0124】 法社会学 [北村 隆憲] 秋学期授業/Fall	88
【A0125】 英米法Ⅰ [小山田 朋子] 春学期授業/Spring	90
【A0126】 英米法Ⅱ [小山田 朋子] 秋学期授業/Fall	91
【A0127】 アジア法Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	92
【A0128】 アジア法Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	93
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [谷山 敬一] 春学期授業/Spring	94
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall	95
【A0203】 行政法入門Ⅰ [濱西 隆男] 春学期授業/Spring	96
【A0204】 行政法入門Ⅱ [濱西 隆男] 秋学期授業/Fall	97
【A0212】 外国書講読(独語)Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	98
【A0213】 外国書講読(英語)Ⅰ [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	99
【A0214】 外国書講読(英語)Ⅱ [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	100
【A0223】 会社法入門 [荒谷 裕子] 春学期授業/Spring	101
【A0224】 会社法 [潘 阿憲] 年間授業/Yearly	102
【A0237】 比較政治論Ⅰ [新川 敏光] 春学期授業/Spring	103
【A0238】 比較政治論Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	104
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	105
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ [梅垣 千尋] 秋学期授業/Fall	106
【A0251】 知的財産法Ⅰ [武生 昌士] 春学期授業/Spring	107
【A0252】 知的財産法Ⅱ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	108
【A0257】 日本政治論Ⅰ [中嶋 一成] 秋学期授業/Fall	109
【A0258】 日本政治論Ⅱ [藤田 直央] 春学期授業/Spring	111
【A0259】 日本政治思想史Ⅰ [河野 有理] 春学期授業/Spring	112
【A0260】 日本政治思想史Ⅱ [河野 有理] 秋学期授業/Fall	113
【A0265】 法律学特講(知的財産法の今日的課題) [武生 昌士] 春学期授業/Spring	114
【A0271】 ヨーロッパ政治思想史Ⅰ [上村 剛] 春学期授業/Spring	115
【A0272】 ヨーロッパ政治思想史Ⅱ [上村 剛] 秋学期授業/Fall	116
【A0277】 比較福祉国家Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring	117
【A0278】 比較福祉国家Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	118
【A0281】 経済政策Ⅰ [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	119
【A0282】 経済政策Ⅱ [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	120
【A0307】 行政学 [林 嶺那] 年間授業/Yearly	121
【A0314】 マス・コミュニケーション論Ⅰ [郭 善英] 春学期授業/Spring	122
【A0315】 マス・コミュニケーション論Ⅱ [郭 善英] 秋学期授業/Fall	123
【A0316】 日本政治史Ⅰ [明田川 融] 春学期授業/Spring	124
【A0317】 日本政治史Ⅱ [明田川 融] 秋学期授業/Fall	125

【A0348】 公共哲学Ⅰ〔西村 清貴〕春学期授業/Spring	126
【A0354】 外国書講読（独語）Ⅰ〔上田 知夫〕春学期授業/Spring	127
【A0355】 外国書講読（独語）Ⅱ〔上田 知夫〕秋学期授業/Fall	128
【A0428】 法律学特講（こども行政と法）〔氏家 裕順〕春学期授業/Spring	129
【A0429】 法律学特講（政策と法）〔氏家 裕順〕秋学期授業/Fall	130
【A0430】 外国書講読（英語）Ⅰ〔氏家 裕順〕春学期授業/Spring	132
【A0431】 外国書講読（英語）Ⅱ〔氏家 裕順〕秋学期授業/Fall	133
【A0436】 政治過程論Ⅰ〔山口 二郎〕春学期授業/Spring	134
【A0437】 政治過程論Ⅱ〔山口 二郎〕秋学期授業/Fall	135
【A0440】 民事手続法入門〔倉部 真由美〕秋学期授業/Fall	136
【A0441】 法律学特講（大陸法思想史）〔西村 清貴〕秋学期授業/Fall	137
【A0442】 法律学特講（英米法思想史）〔金井 光生〕春学期授業/Spring	138
【A0443】 行政組織法〔氏家 裕順〕春学期授業/Spring	139
【A0444】 都市法〔西田 幸介〕秋学期授業/Fall	140
【A0452】 法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）〔大原 利夫〕春学期授業/Spring	142
【A0453】 法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）〔大原 利夫〕秋学期授業/Fall	143
【A0457】 外国書講読（仏語）Ⅰ〔大津 浩〕春学期授業/Spring	144
【A0458】 外国書講読（仏語）Ⅱ〔大津 浩〕秋学期授業/Fall	145
【A0475】 会社法入門〔椋川 泰史〕春学期授業/Spring	146
【A0477】 金融商品取引法Ⅰ〔荒谷 裕子〕春学期授業/Spring	147
【A0479】 金融商品取引法Ⅱ〔荒谷 裕子〕秋学期授業/Fall	148
【A0481】 法律学特講（〔法学部同窓会寄付講座〕企業法務への案内）〔武生 昌士〕秋学期授業/Fall	149
【A0485】 政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）〔半田 滋〕春学期授業/Spring	151
【A0520】 都市政策〔杉崎 和久〕春学期授業/Spring	152
【A0521】 まちづくり論〔杉崎 和久〕秋学期授業/Fall	153
【A0522】 コミュニティ政策（日本）〔名和田 是彦〕春学期授業/Spring	155
【A0523】 コミュニティ政策（理論・国際比較）〔名和田 是彦〕秋学期授業/Fall	156
【A0535】 外国書講読（中国語）Ⅰ〔黄 偉修〕春学期授業/Spring	157
【A0536】 外国書講読（中国語）Ⅱ〔黄 偉修〕秋学期授業/Fall	158
【A0552】 知的財産法Ⅲ〔武生 昌士〕秋学期授業/Fall	159
【A0553】 法律学特講（憲法哲学）〔金井 光生〕秋学期授業/Fall	160
【A0554】 政治学特殊講義Ⅰ（現代の政治理論）〔面 一也〕春学期授業/Spring	161
【A0555】 政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）〔面 一也〕秋学期授業/Fall	162
【A0573】 憲法Ⅳ〔國分 典子〕秋学期授業/Fall	163
【A0574】 憲法Ⅲ〔國分 典子〕春学期授業/Spring	164
【A0575】 法律学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）〔安田 和史〕秋学期授業/Fall	165
【A0576】 法律学特講（芸術振興の法と政策―アート・ロー入門―）〔澤田 悠紀〕サマーセッション/Summer Session1	167
【A0606】 財政と金融Ⅰ〔島澤 諭〕春学期授業/Spring	168
【A0607】 財政と金融Ⅱ〔島澤 諭〕秋学期授業/Fall	169
【A0625】 Global Governance〔弓削 昭子〕春学期授業/Spring	170
【A0649】 国際NGO論Ⅰ〔山口 誠史〕春学期授業/Spring	171
【A0650】 国際NGO論Ⅱ〔山口 誠史〕秋学期授業/Fall	172
【A0652】 国際文化交流Ⅰ〔牧田 東一〕春学期授業/Spring	173
【A0653】 国際文化交流Ⅱ〔牧田 東一〕春学期授業/Spring	174
【A0662】 アジア国際政治概論〔水野 孝昭〕秋学期授業/Fall	175
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ〔木村 正俊〕春学期授業/Spring	176
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ〔木村 正俊〕秋学期授業/Fall	177
【A0670】 日本の政治と外交Ⅰ〔高橋 和宏〕秋学期授業/Fall	178
【A0716】 旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ〔溝口 修平〕秋学期授業/Fall	179
【A0717】 国際協力論Ⅰ〔志賀 裕朗〕春学期授業/Spring	180
【A0718】 国際協力論Ⅱ〔志賀 裕朗〕秋学期授業/Fall	182
【A0736】 オセアニアの政治と社会Ⅰ〔今泉 裕美子〕春学期授業/Spring	183
【A0737】 オセアニアの政治と社会Ⅱ〔今泉 裕美子〕秋学期授業/Fall	185
【A0749】 国際機構論Ⅰ〔弓削 昭子〕秋学期授業/Fall	186
【A0755】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ〔真嶋 麻子〕春学期授業/Spring	187
【A0756】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ〔真嶋 麻子〕秋学期授業/Fall	188
【A0759】 国際経済論Ⅰ〔田村 晶子〕春学期授業/Spring	189

【A0760】 国際経済論Ⅱ [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	190
【A0813】 商法入門Ⅰ [潘 阿憲] 春学期授業/Spring	190
【A0814】 商法入門Ⅱ [潘 阿憲] 秋学期授業/Fall	191
【A0820】 法律実務入門Ⅰ [藤本 茂] 春学期授業/Spring	192
【A0821】 法律実務入門Ⅱ [藤本 茂] 秋学期授業/Fall	194
【A0832】 外国書講読(英語)Ⅰ [杉田 敦] 春学期授業/Spring	195
【A0833】 外国書講読(英語)Ⅱ [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	196
【A0838】 外国書講読(仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	197
【A0839】 外国書講読(仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	198
【A0840】 ヨーロッパ政治史Ⅰ [網谷 龍介] 春学期授業/Spring	199
【A0841】 ヨーロッパ政治史Ⅱ [網谷 龍介] 秋学期授業/Fall	200
【A0868】 人権と企業社会Ⅰ [土屋 仁美] オータムセッション/Autumn Session	201
【A0898】 アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	202
【A0899】 アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	203
【A0909】 政治学特殊講義Ⅰ(政治学の原典を読む) [細井 保] 春学期授業/Spring	204
【A0910】 政治学特殊講義Ⅱ(政治学の原典を読む) [細井 保] 秋学期授業/Fall	205
【A0917】 政治学特殊講義Ⅰ(日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	206
【A0918】 政治学特殊講義Ⅱ(日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	207
【A0921】 現代政策学特講Ⅰ(立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring	208
【A0922】 現代政策学特講Ⅱ(立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall	209
【A0925】 外国書講読(朝鮮語)Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	210
【A0926】 外国書講読(朝鮮語)Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	211
【A2212】 哲学特講(1) - 1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	212
【A2213】 哲学特講(1) - 2 [山下 真] 秋学期授業/Fall	213
【A2216】 哲学特講(3) - 1 [松本 力] 春学期授業/Spring	214
【A2217】 哲学特講(3) - 2 [古屋 俊彦] 秋学期授業/Fall	215
【A2218】 哲学特講(4) - 1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	216
【A2219】 哲学特講(4) - 2 [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	217
【A2220】 哲学特講(5) - 1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	218
【A2221】 哲学特講(5) - 2 [相原 博] 秋学期授業/Fall	219
【A2222】 哲学特講(6) - 1 [大橋 基] 春学期授業/Spring	220
【A2223】 哲学特講(6) - 2 [酒井 健] 秋学期授業/Fall	221
【A2224】 哲学特講(7) - 1 [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	222
【A2225】 哲学特講(7) - 2 [大森 一三] 秋学期授業/Fall	223
【A2226,A3672】 哲学特講(8) - 1/科学哲学Ⅰ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	224
【A2227,A3673】 哲学特講(8) - 2/科学哲学Ⅱ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	225
【A2553】 日本文芸批評史 A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	226
【A2555】 日本文芸批評史 B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	226
【A2558】 日本言語学特殊研究 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	227
【A2560】 日本言語学特殊研究 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	228
【A2561】 中国文芸史 A [長谷川 真史] 春学期授業/Spring	229
【A2563】 中国文芸史 B [長谷川 真史] 秋学期授業/Fall	230
【A2566】 書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	231
【A2568】 メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	232
【A2584】 表現と著作権 A [内藤 裕之] 春学期授業/Spring	233
【A2586】 表現と著作権 B [内藤 裕之] 秋学期授業/Fall	234
【A2604】 古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	235
【A2657】 日本文芸研究特講(1) 上代 A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	236
【A2658】 日本文芸研究特講(1) 上代 B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	237
【A2661】 日本文芸研究特講(2) 中古 A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	238
【A2662】 日本文芸研究特講(2) 中古 B [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	239
【A2663】 日本文芸研究特講(2) 中古 C [萩野 了子] 春学期授業/Spring	240
【A2664】 日本文芸研究特講(2) 中古 D [萩野 了子] 秋学期授業/Fall	240
【A2665】 日本文芸研究特講(3) 中世 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	241
【A2666】 日本文芸研究特講(3) 中世 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	242
【A2668】 日本文芸研究特講(3) 中世 D [阿部 亮太] 秋学期授業/Fall	243
【A2669】 日本文芸研究特講(4) 近世 A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	244

[A2670]	日本文芸研究特講 (4) 近世B [伊與田 麻里江]	秋学期授業/Fall	245
[A2671]	日本文芸研究特講 (4) 近世C [宮本 祐規子]	春学期授業/Spring	246
[A2673]	日本文芸研究特講 (5) 近代A [佐藤 未央子]	春学期授業/Spring	247
[A2674]	日本文芸研究特講 (5) 近代B [佐藤 未央子]	秋学期授業/Fall	248
[A2675]	日本文芸研究特講 (5) 近代C [高口 智史]	春学期授業/Spring	249
[A2676]	日本文芸研究特講 (5) 近代D [梅澤 亜由美]	秋学期授業/Fall	250
[A2677]	日本文芸研究特講 (6) 現代A [藤木 直実]	春学期授業/Spring	251
[A2678]	日本文芸研究特講 (6) 現代B [藤木 直実]	秋学期授業/Fall	252
[A2681]	日本文芸研究特講 (7) 漢文A [永井 弥人]	春学期授業/Spring	253
[A2682]	日本文芸研究特講 (7) 漢文B [永井 弥人]	秋学期授業/Fall	254
[A2683]	日本文芸研究特講 (7) 漢文C [吉井 涼子]	春学期授業/Spring	255
[A2684]	日本文芸研究特講 (7) 漢文D [吉井 涼子]	秋学期授業/Fall	256
[A2685]	日本文芸研究特講 (8) 言語A [王 安]	春学期授業/Spring	257
[A2686]	日本文芸研究特講 (8) 言語B [間宮 厚司]	秋学期授業/Fall	258
[A2687]	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治]	春学期授業/Spring	259
[A2688]	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治]	秋学期授業/Fall	259
[A2689]	日本文芸研究特講 (10) 演劇A [伊海 孝充]	春学期授業/Spring	260
[A2690]	日本文芸研究特講 (10) 演劇B [伊海 孝充]	秋学期授業/Fall	260
[A2693]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史A [本塚 亘]	春学期授業/Spring	261
[A2694]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史B [本塚 亘]	秋学期授業/Fall	262
[A2695]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌A [四元 康祐]	春学期授業/Spring	263
[A2696]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌B [四元 康祐]	秋学期授業/Fall	264
[A2697]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸A [三井 喜美子]	春学期授業/Spring	265
[A2698]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸B [三井 喜美子]	秋学期授業/Fall	266
[A2699]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸A [福 寛美]	春学期授業/Spring	267
[A2700]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸B [福 寛美]	秋学期授業/Fall	268
[A2701]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸C [阿部 美菜子]	春学期授業/Spring	269
[A2702]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸D [阿部 美菜子]	秋学期授業/Fall	269
[A2703]	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン]	春学期授業/Spring	270
[A2704]	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン]	秋学期授業/Fall	271
[A2707]	日本文芸研究特講 (16) 特域C [安原 眞琴]	春学期授業/Spring	272
[A2708]	日本文芸研究特講 (16) 特域D [山口 恭子]	秋学期授業/Fall	273
[A2804]	英語学概論A [椎名 美智]	春学期授業/Spring	274
[A2805]	英語学概論B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	275
[A2806]	言語学概論A [石川 潔]	春学期授業/Spring	276
[A2807]	言語学概論B [石井 創]	秋学期授業/Fall	277
[A2808]	英語・言語学講義A [椎名 美智]	秋学期授業/Fall	278
[A2809]	英語・言語学講義B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	279
[A2810]	社会言語学 [塩田 雄大]	秋学期授業/Fall	280
[A2811]	応用言語学 [近藤 隆子]	秋学期授業/Fall	281
[A2824]	比較文学A [柳橋 大輔]	春学期授業/Spring	282
[A2825]	比較文学B [柳橋 大輔]	秋学期授業/Fall	283
[A2901]	英語史A [福元 広二]	春学期授業/Spring	284
[A2902]	英語史B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	285
[A2903]	英文学史A [丹治 愛]	春学期授業/Spring	286
[A2904]	英文学史B [丹治 愛]	秋学期授業/Fall	287
[A2905]	米文学史A [宮川 雅]	春学期授業/Spring	288
[A2906]	米文学史B [宮川 雅]	秋学期授業/Fall	289
[A2907]	英米文学講義ⅠA [宮川 雅]	春学期授業/Spring	290
[A2908]	英米文学講義ⅠB [宮川 雅]	秋学期授業/Fall	291
[A2909]	英米文学講義ⅡA [丹治 愛]	春学期授業/Spring	292
[A2910]	英米文学講義ⅡB [丹治 愛]	秋学期授業/Fall	293
[A2911]	英語学講義A [福元 広二]	春学期授業/Spring	294
[A2912]	英語学講義B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	295
[A2913,A2326]	言語学講義ⅠA／言語と論理Ⅰ (言語学講義Ⅰ) A [石川 潔]	春学期授業/Spring	296
[A2914,A2327]	言語学講義ⅠB／言語と論理Ⅰ (言語学講義Ⅰ) B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	297
[A2915]	言語学講義ⅡA [伊藤 達也]	春学期授業/Spring	298

【A2916】 言語学講義Ⅱ B [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	299
【A2917】 英語音声学 A [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	299
【A2918】 英語音声学 B [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	300
【A2919】 英語音声学 A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	301
【A2920】 英語音声学 B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	302
【A2923】 英語・言語学特殊講義 A [小野 綾子] 春学期授業/Spring	303
【A2924】 英語・言語学特殊講義 B [小野 綾子] 秋学期授業/Fall	304
【A2967】 英米文学特殊講義Ⅲ [迫 桂] 春学期授業/Spring	305
【A2968】 英米文学特殊講義Ⅳ [迫 桂] 秋学期授業/Fall	307
【A2969】 文学研究方法論 A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	308
【A2970】 文学研究方法論 B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	309
【A2977】 英語の文法力Ⅰ [椎名 美智] 春学期授業/Spring	310
【A2978】 英語の文法力Ⅱ [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	312
【A2979】 メディア・リテラシーⅠ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	313
【A2980】 メディア・リテラシーⅡ [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	314
【A2981】 比較文化論(1) [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	315
【A2982】 英米文化概論 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	316
【A2983】 英米文化概論 B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	317
【A2988】 Comparative Culture(2) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	318
【A2989】 Comparative Culture(3) [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	319
【A3113,A3856】 日本考古学/日本考古学(資格) [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	320
【A3114】 日本古代史 [春名 宏昭] 春学期授業/Spring	321
【A3115】 日本中世史 [及川 亘] 秋学期授業/Fall	322
【A3116】 日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	323
【A3117】 日本近代史 [内藤 一成] 春学期授業/Spring	323
【A3118】 日本現代史 [劉 傑] 春学期授業/Spring	324
【A3121】 日本古代史科学Ⅰ [春名 宏昭] 秋学期授業/Fall	325
【A3124】 日本近世史科学Ⅰ [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	326
【A3125】 日本近世史科学Ⅱ [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	327
【A3126】 日本近代史科学 [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	327
【A3127】 日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期授業/Fall	328
【A3135】 東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期授業/Spring	329
【A3136】 東洋中世史 [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall	330
【A3143】 西洋古代史 [後藤 篤子] 春学期授業/Spring	331
【A3144】 西洋中世史 [大貫 俊夫] 春学期授業/Spring	332
【A3145】 西洋近代史 [中嶋 毅] 春学期授業/Spring	333
【A3146】 西洋現代史 [古川 高子] 秋学期授業/Fall	334
【A3152,A3855】 考古学概論/考古学概論(資格) [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	335
【A3153,A2274】 史学概論/歴史思想(史学概論) [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	336
【A3154】 日本史特講Ⅰ [中山 学] 春学期授業/Spring	337
【A3155】 日本史特講Ⅱ [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	338
【A3157】 日本史特講Ⅳ [中山 学] 秋学期授業/Fall	339
【A3158】 日本史特講Ⅴ [宮間 純一] 秋学期授業/Fall	340
【A3159】 日本史特講Ⅵ [米崎 清実] 春学期授業/Spring	341
【A3160】 日本史特講Ⅶ [山田 康弘] 春学期授業/Spring	342
【A3162】 東洋史特講Ⅰ [飯尾 秀幸] 秋学期授業/Fall	343
【A3163】 東洋史特講Ⅱ [澁谷 由紀] 春学期授業/Spring	344
【A3164】 東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	345
【A3165】 東洋史特講Ⅳ [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	346
【A3168】 西洋史特講Ⅰ [後藤 篤子] 秋学期授業/Fall	347
【A3169】 西洋史特講Ⅱ [大貫 俊夫] 秋学期授業/Fall	348
【A3170】 西洋史特講Ⅲ [篠原 琢] 秋学期授業/Fall	349
【A3171】 西洋史特講Ⅳ [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	351
【A3172】 西洋史特講Ⅴ [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall	352
【A3173】 西洋史特講Ⅵ [大鳥 由香子] 春学期授業/Spring	353
【A3174】 西洋史特講Ⅶ [遠藤 泰生] 秋学期授業/Fall	354
【A3201】 日本史特講Ⅸ [内藤 一成] 春学期授業/Spring	355

【A3202】 日本史特講Ⅹ [森田 貴子] 秋学期授業/Fall	356
【A3209】 東洋考古・美術史 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	356
【A3217】 東洋史特講Ⅶ [久野 美樹] 春学期授業/Spring	357
【A3218】 東洋史特講Ⅷ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	358
【A3219】 西洋史特講Ⅸ [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	359
【A3408】 地誌学概論 (1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	360
【A3409】 地誌学概論 (2) [南 春英] 秋学期授業/Fall	361
【A3412】 地球科学概論Ⅰ [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	362
【A3413】 地球科学概論Ⅱ [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	363
【A3417】 自然環境論 [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	364
【A3420】 生物・土壌地理学及び実験Ⅰ [小川 滋之] 春学期授業/Spring	365
【A3421】 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ [小川 滋之] 秋学期授業/Fall	366
【A3422】 気候・気象学及び実験Ⅰ [山口 隆子] 春学期授業/Spring	367
【A3423】 気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期授業/Fall	368
【A3424】 海洋・陸水学及び実験Ⅰ [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	369
【A3425】 海洋・陸水学及び実験Ⅱ [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	370
【A3426】 社会経済地理学 (1) [小原 文明] 秋学期授業/Fall	371
【A3427】 社会経済地理学 (2) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	372
【A3428】 社会経済地理学 (3) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	373
【A3445】 世界地誌 (3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	374
【A3446】 世界地誌 (4) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	376
【A3447】 世界地誌 (5) [吉村 郊子] 春学期授業/Spring	377
【A3448】 世界地誌 (6) [加賀美 雅弘] 春学期授業/Spring	378
【A3449】 地理学読図演習 (1) [山口 隆子] 春学期授業/Spring	379
【A3450】 地理学読図演習 (2) [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	380
【A3452】 自然地理学特講 (2) [飯泉 佳子] 春学期授業/Spring	381
【A3455】 人文地理学特講 (1) [小田 宏信] 秋学期授業/Fall	381
【A3456】 人文地理学特講 (2) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	382
【A3457】 人文地理学特講 (3) [小原 文明] 春学期授業/Spring	383
【A3481】 社会経済地理学 (4) [呉羽 正昭] 秋学期授業/Fall	384
【A3482】 文化地理学 (1) [中俣 均] 春学期授業/Spring	385
【A3483】 文化地理学 (2) [中俣 均] 秋学期授業/Fall	386
【A3488】 自然地理学特講 (4) [近藤 博史] 秋学期授業/Fall	387
【A3489】 人文地理学特講 (4) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	388
【A3513】 地理学史 [中俣 均] 秋学期授業/Fall	389
【A3601,A2254】 心理学概論／心理学1 (心理学概論) 1 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	390
【A3602,A2255】 心理学史／心理学1 (心理学史) 2 [高砂 美樹] 秋学期授業/Fall	391
【A3619】 脳の科学 [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	392
【A3620】 認知心理学 [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	393
【A3621】 認知科学入門 [北原 真冬] 春学期授業/Spring	394
【A3622】 発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	395
【A3623】 教育心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	396
【A3624】 学習心理学 [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	397
【A3667】 言語心理学 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	398
【A3721】 産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	399
【A3819】 歴史地理学 (1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	401
【A3820】 歴史地理学 (2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	402
経営学科専門科目 200 番台 【A4362】 キャリア・マネジメントⅡ (2019 年度以降入学者) [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	403
経営学科専門科目 300 番台 【A4363】 経営組織論Ⅰ [長岡 健] 春学期授業/Spring	404
経営学科専門科目 300 番台 【A4364】 経営組織論Ⅱ [長岡 健] 秋学期授業/Fall	406
経営学科専門科目 300 番台 【A4369】 人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring	408
経営学科専門科目 300 番台 【A4370】 人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall	410
経営学科専門科目 300 番台 【A4379】 税務会計論Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring	412
経営学科専門科目 300 番台 【A4380】 税務会計論Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	413
経営学科専門科目 300 番台 【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	414
【A4394】 組織経済学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	415
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4423】 日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	416

経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4424】 日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	418
経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4425】 企業評価論Ⅰ [高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	420
経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4426】 企業評価論Ⅱ [高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	421
経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4427】 経営分析論Ⅰ [福多 裕志]	春学期授業/Spring	422
経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4428】 経営分析論Ⅱ [福多 裕志]	秋学期授業/Fall	423
	【A4437】 経営分析Ⅰ [高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	424
	【A4438】 経営分析Ⅱ [高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	425
	【A4439】 経営分析Ⅲ [福多 裕志]	春学期授業/Spring	426
	【A4440】 経営分析Ⅳ [福多 裕志]	秋学期授業/Fall	427
市場経営学科専門科目 200 番台	【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度]	春学期授業/Spring	428
市場経営学科専門科目 200 番台	【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度]	秋学期授業/Fall	429
市場経営学科専門科目 200 番台	【A4471】 デリバティブ入門Ⅰ (2019 年度以降入学者) [山嵜 輝]	春学期授業/Spring	430
市場経営学科専門科目 200 番台	【A4472】 デリバティブ入門Ⅱ (2019 年度以降入学者) [山嵜 輝]	秋学期授業/Fall	431
市場経営学科専門科目 300 番台	【A4475】 産業組織論Ⅰ [大木 良子]	春学期授業/Spring	432
市場経営学科専門科目 300 番台	【A4476】 産業組織論Ⅱ [大木 良子]	秋学期授業/Fall	433
市場経営学科専門科目 300 番台	【A4477】 情報技術論Ⅰ [入戸野 健]	春学期授業/Spring	434
市場経営学科専門科目 300 番台	【A4478】 情報技術論Ⅱ [入戸野 健]	秋学期授業/Fall	435
市場経営学科専門科目 300 番台	【A4481】 経営のための経済学 [宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	436
	【A4487】 ファイナンス論Ⅰ (2018 年度以前入学者) [山嵜 輝]	春学期授業/Spring	437
	【A4488】 ファイナンス論Ⅱ (2018 年度以前入学者) [山嵜 輝]	秋学期授業/Fall	438
	【A6035】 Presentation and Public Speaking (Advanced) [Mark James BIRTLES]	春学期授業/Spring	439
	【A6036】 Presentation and Public Speaking (Advanced) [Mark James BIRTLES]	秋学期授業/Fall	440
	【A6037】 Presentation and Public Speaking (Standard) [MEADOWS ALAN]	春学期授業/Spring	441
	【A6038】 Presentation and Public Speaking (Standard) [MEADOWS ALAN]	秋学期授業/Fall	442
	【A6039】 English Test Preparation for IELTS [Marcus LOVITT]	春学期授業/Spring	443
	【A6041】 Professional Communication [Mark James BIRTLES]	秋学期授業/Fall	444
	【A6042】 Statistics [Yuji OGIHARA]	秋学期授業/Fall	445
	【A6043】 Translation [Sarah ALLEN]	秋学期授業/Fall	446
	【A6048】 Introduction to Programming [Youyung HYUN]	春学期授業/Spring	447
	【A6107】 Drama Survey [Tony DANI]	春学期授業/Spring	448
	【A6109】 Religious Studies [Robert SINCLAIR]	秋学期授業/Fall	449
	【A6110】 History of Modern Europe [Markus WINTER]	秋学期授業/Fall	450
	【A6111】 History of Modern East Asia [Chris Hyunkyu PARK]	秋学期授業/Fall	451
	【A6113】 Music Appreciation [Cathy Lynn COX]	春学期授業/Spring	452
	【A6114】 Drama Workshop [Tony DANI]	秋学期授業/Fall	453
	【A6121】 Manga Studies [Stevie Tongshun SUAN]	春学期授業/Spring	454
	【A6123】 Visual Arts [Aquiles HADJIS]	春学期授業/Spring	455
	【A6124,A6551】 Topics in Arts: Fine Arts [Suzanne Carol MOONEY]	秋学期授業/Fall	457
	【A6125,A6550】 Topics in Arts: Visual Communication Design [Gary MCLEOD]	秋学期授業/Fall	459
	【A6128】 Contrastive Linguistics [Geraldo FARIA]	春学期授業/Spring	460
	【A6131】 Language Education in the Digital Era [Robert PATERSON]	秋学期授業/Fall	461
	【A6132】 Second Language Acquisition [Tomoko SHIGYO]	秋学期授業/Fall	462
	【A6133】 Comparative Education [Machiko KOBORI]	秋学期授業/Fall	463
	【A6140,A6500】 French A I [Masamichi SUZUKI]	春学期授業/Spring	464
	【A6141,A6501】 French A II [Masamichi SUZUKI]	秋学期授業/Fall	465
	【A6142,A6502】 French B I [Tamio OKAMURA]	春学期授業/Spring	466
	【A6143,A6503】 French B II [Tamio OKAMURA]	秋学期授業/Fall	467
	【A6144,A6504】 Spanish A I [Taiga WAKABAYASHI]	春学期授業/Spring	468
	【A6145,A6505】 Spanish A II [Taiga WAKABAYASHI]	秋学期授業/Fall	469
	【A6146,A6506】 Spanish B I [Yoshifumi Onuki]	春学期授業/Spring	470
	【A6147,A6507】 Spanish B II [Yoshifumi Onuki]	秋学期授業/Fall	471
	【A6148,A6508】 Chinese A I [Yuko TAKADA]	春学期授業/Spring	472
	【A6149,A6509】 Chinese A II [Yuko TAKADA]	秋学期授業/Fall	473
	【A6150,A6510】 Chinese B I [Shota WATANABE]	春学期授業/Spring	474
	【A6151,A6511】 Chinese B II [Shota WATANABE]	秋学期授業/Fall	475
	【A6152】 English in the Movies [Megumi KOBAYASHI]	春学期授業/Spring	476
	【A6163】 Cultural and Ethnic Diversity in Japan [Kyung HEE HA]	春学期授業/Spring	477

[A6167] Developmental Psychology [Sayaka AOKI] 秋学期授業/Fall	478
[A6168,A6520] Media Studies [Zeliha MUGE IGARASHI] 秋学期授業/Fall	479
[A6174] Introduction to Development Studies [Norio USUI] 春学期授業/Spring	480
[A6175] Introduction to Environmental Science [Ayami OTSUKA] 春学期授業/Spring	481
[A6187] Principles of Business Management [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	482
[A6188] Introduction to Tourism Studies [John MELVIN] 春学期授業/Spring	483
[A6189] Introduction to Tourism Studies [John MELVIN] 秋学期授業/Fall	484
[A6190] Information Studies [Alfons JOSEF SCHUSTER] 秋学期授業/Fall	485
[A6192] Information and Society [May Kristine Carlon] 春学期授業/Spring	486
[A6205] American History and Society [Robert SINCLAIR] 春学期授業/Spring	487
[A6212] Sociology of Work and Employment [Allen KIM] 秋学期授業/Fall	488
[A6213] Sociology of Law [Kelesha NEVERS] 春学期授業/Spring	489
[A6214] Sociology of Violence [Yuki NAKAMURA] 秋学期授業/Fall	490
[A6217] Gender, Sexuality and Society [Daiki HIRAMORI] 春学期授業/Spring	491
[A6219] Media Effects [Zeliha MUGE IGARASHI] 春学期授業/Spring	492
[A6223] Asian Popular Culture [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	493
[A6224] Japanese Popular Culture [Akiko MIZOGUCHI] 秋学期授業/Fall	494
[A6225] Music and Culture [Cathy Lynn COX] 秋学期授業/Fall	495
[A6226] Performance Studies [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	496
[A6229] Digital Writing and Publication [Mark James BIRTLES] 春学期授業/Spring	497
[A6230] Digital Writing and Publication [Mark James BIRTLES] 秋学期授業/Fall	498
[A6232] Science and Technology Studies [Youyung HYUN] 春学期授業/Spring	499
[A6233] Art and Design [Suzanne Carol MOONEY] 春学期授業/Spring	500
[A6239] Applied Psychology [Sayaka AOKI] 春学期授業/Spring	501
[A6240,A6552] Quantitative Research Methods [Yu NIIYA] 秋学期授業/Fall	502
[A6243] Macroeconomics II [Alberto Javier INIGUEZ Montiel] 春学期授業/Spring	503
[A6244] Microeconomics II [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	504
[A6250] Teaching Pronunciation [Katsuya YOKOMOTO] 春学期授業/Spring	505
[A6251,A6527] Semantics and Pragmatics [Nobumi NAKAI] 春学期授業/Spring	506
[A6254,A6557] Psycholinguistics [Mako ISHIDA] 秋学期授業/Fall	507
[A6259] Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes [Chie SAITO] 秋学期授業/Fall	508
[A6262] Business Negotiation [Takamasa FUKUOKA] 秋学期授業/Fall	509
[A6263] General Topics II: Business Ethics [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	510
[A6264] Organizational Behavior [Junko SHIMAZOE] 春学期授業/Spring	511
[A6266,A6532] Brand Management [Takamasa FUKUOKA] 秋学期授業/Fall	512
[A6269] Marketing Research [Kayhan TAJEDDINI] 秋学期授業/Fall	513
[A6272] Entrepreneurship and New Ventures [Sean MICHAEL HACKETT] 秋学期授業/Fall	514
[A6273] Creative Industries [Stevie Tongshun SUAN] 秋学期授業/Fall	515
[A6274] Tourism Development in Japan [John MELVIN] 春学期授業/Spring	516
[A6275] General Topics II: Japanese Taxation [Maymay HO] 春学期授業/Spring	517
[A6279] English Teaching in Primary School [Machiko KOBORI] 秋学期授業/Fall	519
[A6283] Political Theory [Kazuhiro WATANABE] 秋学期授業/Fall	520
[A6284] Japanese Politics [Jeffrey JAMES HALL] 春学期授業/Spring	521
[A6285] American Politics and Foreign Policy [Jeffrey JAMES HALL] 秋学期授業/Fall	522
[A6290] Religion and Politics [Christopher Michael KAVANAGH] 秋学期授業/Fall	523
[A6297] Development Economies [Delgado Narro Augusto Ricardo] 春学期授業/Spring	524
[A6298] Environment and Development [Gregory Gene TOTH] 春学期授業/Spring	525
[A6299] Society and Environmental Change [Ayami OTSUKA] 秋学期授業/Fall	526
[A6306] Readings in Philosophy [Robert SINCLAIR] 春学期授業/Spring	527
[A6309,A6553] Advanced Topics in Contemporary Art [Akiko MIZOGUCHI] 秋学期授業/Fall	528
[A6310] Art in the Real World [Suzanne Carol MOONEY] 春学期授業/Spring	529
[A6311] Film Studies [Andree LAFONTAINE] 春学期授業/Spring	530
[A6318] Social Theory: Perspectives on Inequality [Yuki NAKAMURA] 秋学期授業/Fall	531
[A6319,A6541] Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki HIRAMORI] 春学期授業/Spring	532
[A6320] Migration and Diaspora [Chris Hyunkyu PARK] 秋学期授業/Fall	533
[A6321] Feminist Theory [Daiki HIRAMORI] 秋学期授業/Fall	534
[A6323] Special Topics I: Photography and Culture [Gary MCLEOD] 春学期授業/Spring	535

[A6324] Fact and Fiction in the Movies [Catherine Marie MUNROE HOTES]	秋学期授業/Fall	536
[A6325] Comparative Media [Kukhee Choo]	秋学期授業/Fall	537
[A6326] Media and Globalization [Stevie Tongshun SUAN]	秋学期授業/Fall	538
[A6327] Media and the Nation [Stevie Tongshun SUAN]	春学期授業/Spring	539
[A6328] Media Research [Kukhee Choo]	春学期授業/Spring	540
[A6329] Impact of Artificial Intelligence [Maymay HO]	春学期授業/Spring	541
[A6332] Cultural Psychology [Takafumi SAWAUMI]	春学期授業/Spring	542
[A6333] Community Psychology [Toshiaki SASAO]	春学期授業/Spring	543
[A6334] Clinical Psychology [Keiko ITO]	秋学期授業/Fall	544
[A6335] Psychology of Morality [Christopher Michael KAVANAGH]	秋学期授業/Fall	545
[A6336,A6554] Qualitative Research Methods [Allen KIM]	秋学期授業/Fall	546
[A6339,A6533] Syntactic Theory [Peter EVANS]	春学期授業/Spring	547
[A6340] Morphology: Building Words [Peter EVANS]	春学期授業/Spring	548
[A6342] English in Asia [Megumi KOBAYASHI]	秋学期授業/Fall	550
[A6343] Language Policy [Geraldo FARIA]	秋学期授業/Fall	551
[A6346] International Business [EYO Shiaw Jia]	春学期授業/Spring	552
[A6347] International Economics [Ayako SAIKI]	春学期授業/Spring	553
[A6348] International Finance [Ayako SAIKI]	秋学期授業/Fall	555
[A6349] Digital Transformation [Youyung HYUN]	春学期授業/Spring	557
[A6350] Digital Transformation [Youyung HYUN]	秋学期授業/Fall	558
[A6351] Digital Marketing [Youyung HYUN]	春学期授業/Spring	559
[A6352] Supply Chain Management [Kayhan TAJEDDINI]	秋学期授業/Fall	560
[A6353] Services Marketing [John MELVIN]	春学期授業/Spring	561
[A6354] Corporate Social Responsibility [Sairan HAYAMA]	春学期授業/Spring	562
[A6355] Corporate Social Responsibility [Sairan HAYAMA]	秋学期授業/Fall	563
[A6356] Cultural Tourism [John MELVIN]	秋学期授業/Fall	564
[A6357] Digital Marketing [Youyung HYUN]	秋学期授業/Fall	565
[A6359] English Teaching in Primary School: Advanced [Tomoko SHIGYO]	春学期授業/Spring	566
[A6363,A6542] International Relations of the Asia-Pacific [TAKESHI YUZAWA]	秋学期授業/Fall	567
[A6364] Advanced Comparative Politics [Nathan GILBERT QUIMPO]	春学期授業/Spring	568
[A6365] Globalization and Political Change [Jenny De Asis BALBOA]	秋学期授業/Fall	569
[A6366] Peace Building [Aigul KULNAZAROVA]	春学期授業/Spring	571
[A6369] International Development Policy [Ippeita NISHIDA]	春学期授業/Spring	573
[A6370] International Environmental Policy [Gregory Gene TOTH]	秋学期授業/Fall	575
[A6371] Global Political Economy [Nathalie CAVASIN]	春学期授業/Spring	576
[A6374] International Law [Kiyoshi ADACHI]	春学期授業/Spring	578
[A6375] Law in a Globalizing World [Kelesha NEVERS]	春学期授業/Spring	579
[A6378] Financial Statement Analysis [Maymay HO]	春学期授業/Spring	580
[A6380,A6555] Stock Investment [EYO Shiaw Jia]	秋学期授業/Fall	581
[A6401,A6402] Seminar: British Culture and Literature I [Mitsutoshi SOMURA]	春学期授業/Spring	582
[A6403,A6404] Seminar: British Culture and Literature II [Mitsutoshi SOMURA]	秋学期授業/Fall	583
[A6405,A6406] Seminar: Diversity of English I [Yutai WATANABE]	春学期授業/Spring	584
[A6407,A6408] Seminar: Diversity of English II [Yutai WATANABE]	秋学期授業/Fall	585
[A6409,A6410] Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko KOBORI]	春学期授業/Spring	586
[A6411,A6412] Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko KOBORI]	秋学期授業/Fall	587
[A6413,A6414] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Diana KHOR]	春学期授業/Spring	588
[A6415,A6416] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Diana KHOR]	秋学期授業/Fall	589
[A6417,A6418] Seminar: Self and Culture I [Yu NIIYA]	春学期授業/Spring	590
[A6419,A6420] Seminar: Self and Culture II [Yu NIIYA]	秋学期授業/Fall	591
[A6421,A6422] Seminar: International Relations I [TAKESHI YUZAWA]	春学期授業/Spring	592
[A6423,A6424] Seminar: International Relations II [TAKESHI YUZAWA]	秋学期授業/Fall	593
[A6425,A6426] Seminar: Tourism Management I [John MELVIN]	春学期授業/Spring	594
[A6427,A6428] Seminar: Tourism Management II [John MELVIN]	秋学期授業/Fall	595
[A6429,A6430] Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [EYO Shiaw Jia]	春学期授業/Spring	596
[A6431,A6432] Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [EYO Shiaw Jia]	秋学期授業/Fall	597
[A6433,A6434] Seminar: Global Strategic Management I [Sairan HAYAMA]	春学期授業/Spring	598
[A6435,A6436] Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa FUKUOKA]	秋学期授業/Fall	599

【A6437,A6438】 Seminar: Literature in Theory and Practice I [Gregory KHEZRNEJAT] 春学期授業/Spring	600
【A6439,A6440】 Seminar: Literature in Theory and Practice II [Gregory KHEZRNEJAT] 秋学期授業/Fall	601
【A6441,A6442】 Seminar: Media Across Borders I [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	602
【A6443,A6444】 Seminar: Media Across Borders II [Stevie Tongshun SUAN] 秋学期授業/Fall	603
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人]	604
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人]	605
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人]	606
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B1012】 文化と文明 [小林 信也]	607
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B1012】 文化と文明 [小林 信也]	608
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B1012】 文化と文明 [小林 信也]	609
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎]	610
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎]	611
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎]	612
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1268】 ジオロジカルエンジニアリング [中谷 匡志]	613
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子]	615
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子]	616
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子]	617
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2007】 色彩論 [大高 知子]	618
建築学科_外国語科目_英語以外 【B2050】 英語表現技術 [ペイカー ダンカン]	620
システムデザイン学科_外国語科目_英語以外 【B2050】 英語表現技術 [ペイカー ダンカン]	621
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語以外 【B2050】 英語表現技術 [ペイカー ダンカン]	622
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄]	623
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄]	624
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄]	625
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一]	626
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一]	627
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一]	628
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛白]	629
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛白]	630
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛白]	631
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登]	632
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登]	633
建築学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登]	634
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼]	635
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼]	636
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼]	637
建築学科_専門科目_導入科目 【B2151】 建築のしくみ [安藤 直見]	638
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2345】 デザイン理論 (SD) [秋元 淳]	640
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2401】 建築生理心理1 [川久保 俊]	641
建築学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン]	642
システムデザイン学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン]	643
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン]	644
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B2505】 数値計算法 [酒井 久和]	646
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2633】 インタフェースデザイン [土屋 雅人]	647
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2638】 材料と構造のデザイン [竹内 則雄]	648

システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2639】 熱と流れのデザイン [田中 豊] 春学期前半/Spring(1st half) .	649
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2640】 オペレーションズリサーチ [野々部 宏司] 秋学期前半/Fall(1st half) .	651
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2668】 デザインケーススタディ [土屋 雅人、大西 景太] 秋学期授業/Fall .	652
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2671】 情報システムデザイン [田岡 賢輔] 秋学期授業/Fall .	653
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [安積 伸] 春学期授業/Spring .	654
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2726】 メカニカルデザイン (2019年度以降入学生) [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half) .	655
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2734】 スマートマシンデザイン (2019年度以降入学生) [梅館 拓也] 秋学期前半/Fall(1st half) .	656
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2735】 ゲームプログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期前半/Spring(1st half) .	657
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2737】 AR プログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期後半/Spring(2nd half) .	658
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall .	659
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall .	660
建築学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall .	661
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曽 裕] 春学期授業/Spring .	662
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曽 裕] 春学期授業/Spring .	664
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曽 裕] 春学期授業/Spring .	666
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall .	668
建築学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring .	669
都市環境デザイン工学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring .	670
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring .	671
建築学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half) .	672
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half) .	673
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half) .	674
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	675
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	676
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half) .	677
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3406】 西洋建築史 [稲益 祐太] 春学期授業/Spring .	678
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3409】 日本建築史 [高村 雅彦] 秋学期授業/Fall .	679
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3410】 建築計画1 [岩佐 明彦] 春学期授業/Spring .	680
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3411】 建築計画2 [岩佐 明彦] 秋学期授業/Fall .	681
建築学科_専門科目_展開科目 【B3417】 木造建築の構法 [網野 禎昭] 秋学期後半/Fall(2nd half) .	682
建築学科_専門科目_展開科目 【B3427】 空間の構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring .	683
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3436】 建築生理心理2 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall .	684
建築学科_専門科目_展開科目 【B3439】 音・振動環境 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall .	685
建築学科_専門科目_展開科目 【B3540】 都市建築史 (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [高村 雅彦] 春学期授業/Spring .	686
都市環境デザイン工学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B3697】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall .	687
建築学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall .	688
システムデザイン学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall .	689
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3699】 生態学概論 (2019年度以降入学生) [山田 由美] 秋学期授業/Fall .	690
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3809】 メカトロニクス [木村 文信] 秋学期後半/Fall(2nd half) .	691
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3812】 システム工学 [森 健一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) .	692
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3816】 素材と機能 [中丸 啓] 秋学期前半/Fall(1st half) .	694
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3825】 コストマネジメント [飯塚 隼光] 秋学期授業/Fall .	696
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall .	697

建築学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	698
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	699
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3831】 プロジェクトマネジメント (SD) [村上 季史、永田 義昭]	
春学期授業/Spring	700
【C0200】 国際文化情報学の展開 [大西 亮] 春学期授業/Spring	702
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	704
【C0211】 システム論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	705
【C0212】 デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	706
【C0213】 文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	707
【C0214】 情報産業論 [鏡 明彦] 春学期授業/Spring	709
【C0215】 ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	711
【C0220】 表象文化概論 [深谷 公宣、大嶋 良明、岡村 民夫、グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	713
【C0221】 メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	714
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	716
【C0223】 メディアと社会 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	719
【C0224】 身体表象論 [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	721
【C0230】 比較文化 [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	722
【C0232】 現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	723
【C0234】 異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	724
【C0235】 国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	726
【C0236】 国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	728
【C0241】 国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	730
【C0301】 世界の言語Ⅱ [内山 政春] 春学期授業/Spring	731
【C0302】 世界の英語 [小中原 麻友] 春学期授業/Spring	732
【C0432】 メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	734
【C0433】 プログラミング言語基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	736
【C0437】 社会とデータサイエンス [和泉 順子] 春学期授業/Spring	737
【C0438】 道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	738
【C0439】 メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	739
【C0535】 英語アプリケーションⅥ [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring	741
【C0715】 スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	742
【C0716】 スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	743
【C0720】 スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	744
【C0721】 スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	745
【C0771】 情報コミュニケーションⅡ [和泉 順子] 春学期授業/Spring	746
【C0772】 情報コミュニケーションⅢ [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	748
【C0773】 情報アプリケーションⅠ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	750
【C0774】 情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	751
【C0800】 こころの科学 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	752
【C0801】 ゲーム構築論 [重定 如彦] 春学期授業/Spring	753
【C0802】 こころとからだの現象学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	754
【C0813】 情報セキュリティとプライバシー [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	755
【C0814】 文化と生物 [川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美、鈴木 忠] 秋学期授業/Fall	756
【C0815】 文化と環境情報 [佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂] 秋学期授業/Fall	757
【C0820】 文化情報空間論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	759
【C0821】 コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	760
【C0830】 コネクション・デザイン [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	762
【C0831】 情報の編集論 [川村 たつる] 春学期授業/Spring	763
【C0832】 文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	764
【C0833】 ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	765
【C0850】 パフォーマンスの美学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	767
【C0852】 サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	768
【C0854】 現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	769
【C0860】 マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	771
【C0862】 メディア表現ワークショップ2 [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	773
【C0863】 メディア表現ワークショップ3 [グアリーニ レティツィア] 秋学期授業/Fall	774
【C0870】 映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	775

【C0881】	ポピュラー音楽論 [大寫 徹] 春学期授業/Spring	776
【C0882】	コミックス論 [野田 謙介] 春学期授業/Spring	777
【C0900】	世界の中の日本文学 [グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	778
【C0902】	世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	779
【C0945】	スペイン語圏の文化Ⅰ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	781
【C0964】	英語圏の文化Ⅴ (文学と社会 B) [北 文美子] 秋学期授業/Fall	783
【C0999】	フランス語圏の文化Ⅳ (複言語・複文化社会) [廣松 勲] 春学期授業/Spring	784
【C1001】	異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	785
【C1011】	異文化と身体表現 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	786
【C1022】	実践翻訳技法 [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	787
【C1051】	持続可能な社会 [中西 由季子] 春学期授業/Spring	788
【C1060】	インターンシップ事前学習 [石森 大知、北 文美子] 春学期授業/Spring	789
【C1501】	デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	791
【C1503】	文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	792
【C2002】	民法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	793
【C2003】	民法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	794
【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	795
【C2016】	環境法Ⅳ [今井 康介] 秋学期授業/Fall	797
【C2019】	労働環境法 [水野 圭子] 春学期授業/Spring	798
【C2020】	自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 春学期授業/Spring	800
【C2021】	自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	802
【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期授業/Spring	803
【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	805
【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	807
【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	808
【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	809
【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	810
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	812
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	814
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	815
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	816
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	817
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	819
【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	820
【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	821
【C2316】	環境人類学Ⅰ [橋爪 太作] 春学期授業/Spring	822
【C2317】	環境人類学Ⅱ [藤原 江美子] 秋学期授業/Fall	823
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	824
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	825
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	826
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	827
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [鈴木 倫太郎] 春学期授業/Spring	828
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	829
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	830
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [三村 起一] 春学期授業/Spring	831
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	832
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	833
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	834
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	835
【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	836
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	837
【C2504】	キャリア入門 [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	838
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	840
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	841
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	842
基幹科目_選択	【C7080】 労働法 [砂押 以久子] 秋学期授業/Fall	843
基幹科目_選択	【C7081】 ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	844

基幹科目_選択	【C7082】 若者の自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	846
基幹科目_選択	【C7083】 職業選択論Ⅰ [上西 充子] 春学期授業/Spring	847
基幹科目_選択	【C7084】 ライフコース論 [高崎 美佐] 秋学期授業/Fall	848
基幹科目_選択	【C7085】 生活設計論Ⅰ (社会保障) [上田 将史] 春学期授業/Spring	849
基幹科目_選択	【C7086】 生活設計論Ⅱ (生活設計) [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	850
基幹科目_選択	【C7088】 キャリアモデル・ケーススタディ [梅崎 修] 春学期授業/Spring	851
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7152】 外書講読A (発達・教育) [福田 紀子] 春学期授業/Spring	852
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7153】 外書講読B (発達・教育) [長岡 智寿子] 春学期授業/Spring	854
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7154】 生涯発達心理学Ⅰ [松浦 千春] 春学期授業/Spring	855
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7155】 生涯発達心理学Ⅱ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	856
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7156】 臨床教育相談論Ⅰ [飯野 雄大] 春学期授業/Spring	857
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7157】 臨床教育相談論Ⅱ [飯野 雄大] 秋学期授業/Fall	858
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7158】 キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 春学期授業/Spring	859
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7159】 キャリアカウンセリングⅡ [高橋 浩] 秋学期授業/Fall	860
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7160】 キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子] 秋学期授業/Fall	861
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7173】 学校論Ⅰ (キャリア形成) [松尾 知明] 春学期授業/Spring	862
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7174】 学校論Ⅱ (キャリア形成) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	863
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7175】 学校論Ⅲ (キャリア教育) [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	864
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7176】 学校論Ⅳ (キャリア教育) [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	865
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7187】 メディア教育論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring	866
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7188】 メディア教育論Ⅱ [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	867
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7189】 教育マネジメントⅠ [仲田 康一] 春学期授業/Spring	868
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7190】 教育マネジメントⅡ [仲田 康一] 秋学期授業/Fall	869
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7191】 教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	870
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7192】 現代教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	871
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7193】 生涯学習論Ⅲ (成人教育論Ⅰ) [森本 扶] 春学期授業/Spring	872
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7194】 生涯学習論Ⅳ (成人教育論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	873
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7195】 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	874
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7196】 学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	875
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7197】 教育社会学Ⅰ [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	876
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7198】 教育社会学Ⅱ [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	877
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育	【C7199】 教育経済学 [荒木 宏子] 秋学期授業/Fall	878
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7252】 外書講読A (ビジネス) [中野 貴之] 秋学期授業/Fall	879
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7253】 外書講読B (ビジネス) [杉原 弘恭] 春学期授業/Spring	880
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7254】 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	881
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7255】 人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	882
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7256】 人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	883
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7257】 産業・組織心理学Ⅰ [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	885
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7258】 産業・組織心理学Ⅱ [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	886
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7259】 キャリア開発論 [松原 光代] 春学期授業/Spring	887
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7260】 リーダーシップ論 [佐野 達] 秋学期授業/Fall	888
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7261】 経営統計論A (心理データ) [菊地 史倫] 春学期授業/Spring	889
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7262】 企業会計論 [松本 徹] 春学期授業/Spring	890
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7263】 経営統計論B (企業データ) [中野 貴之] 秋学期授業/Fall	891
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7264】 経営組織論Ⅰ [梅木 眞] 春学期授業/Spring	892
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7265】 経営組織論Ⅱ [梅木 眞] 秋学期授業/Fall	893
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7266】 戦略経営論Ⅰ [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	894
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7267】 戦略経営論Ⅱ [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	895
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7268】 経営分析論Ⅰ [平井 裕久] 春学期授業/Spring	896
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7269】 経営分析論Ⅱ [平井 裕久] 秋学期授業/Fall	897
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7270】アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚、市川 大樹] 春学期授業/Spring	898
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7271】アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚、市川 大樹] 秋学期授業/Fall	899
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7272】 職業キャリア論 [松浦 民恵] 春学期授業/Spring	901
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス	【C7273】 労働経済学 [梅崎 修] 春学期授業/Spring	902

展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7274】	シティズンシップ論 [榎並 利博]	春学期授業/Spring	903
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7275】	生産システム論 [小林 哲也]	秋学期授業/Fall	904
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7276】	国際経営論 [森 直子]	春学期授業/Spring	905
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7277】	日本経済論 [長谷部 弘道]	秋学期授業/Fall	906
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7278】	産業論 [青木 成樹]	秋学期授業/Fall	908
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7280】	マーケティング論 [酒井 理]	春学期授業/Spring	910
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7281】	流通・マーケティング戦略論 [小川 浩孝]	春学期授業/Spring	911
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7282】	流通・サービスビジネス論 [酒井 理]	春学期授業/Spring	912
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7283】	就業機会発見実務 [今井 道子]	春学期授業/Spring	913
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7302】	外書講読A (ライフ) [門脇 仁]	春学期授業/Spring	915
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7303】	外書講読B (ライフ) [門脇 仁]	秋学期授業/Fall	916
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7304】	コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵]	春学期授業/Spring	917
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7305】	コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	918
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7306】	家族論 [齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	919
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7307】	若者文化論 [玉川 博章]	春学期授業/Spring	920
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7308】	世代間交流論 [安田 節之]	秋学期授業/Fall	921
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7309】	身体表現論 [叶 雄大]	春学期授業/Spring	922
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7310】	地域文化論 [緑川 岳志]	秋学期授業/Fall	923
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7311】	アイデンティティ論 [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	924
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7312】	余暇集団論 [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	925
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7313】	NPO論 [山口 佳子]	秋学期授業/Fall	926
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7314】	公共サービス論 [前浦 穂高]	秋学期授業/Fall	927
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7315】	アート・マネジメント論 [山口 佳子]	春学期授業/Spring	928
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7316】	文化経営論 [武田 知也]	秋学期授業/Fall	929
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7317】	メディア文化論 [堤 信子]	秋学期授業/Fall	930
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7318】	文化マーケティング論 [横石 崇]	春学期授業/Spring	931
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7319】	ブランド創造論 [石原 篤]	春学期授業/Spring	932
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7320】	産業文化論 [上原 義子]	秋学期授業/Fall	934
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7324】	多文化社会論Ⅰ [小田 昌教]	春学期授業/Spring	935
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7325】	多文化社会論Ⅱ [金 泰植]	春学期授業/Spring	937
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7326】	多文化社会論Ⅲ [挽地 康彦]	春学期授業/Spring	938
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7327】	アジア社会論Ⅰ [日下部 尚徳]	春学期授業/Spring	939
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7328】	アジア社会論Ⅱ [日下部 尚徳]	秋学期授業/Fall	940
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7329】	国際関係論Ⅰ [熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	941
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7330】	国際関係論Ⅱ [塩田 潤]	秋学期授業/Fall	942
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7331】	国際地域研究Ⅰ [福井 令恵]	春学期授業/Spring	943
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7332】	国際地域研究Ⅱ [福井 令恵]	秋学期授業/Fall	944
展開科目_総合	【C7350】	就業機会とキャリア [酒井 理]	秋学期授業/Fall	945
展開科目_選択必修(体験型)	【C7351】	職業能力ベーシックスキルⅠ [島村 泰子]	春学期授業/Spring	946
展開科目_選択必修(体験型)	【C7352】	職業能力ベーシックスキルⅡ [島村 泰子]	秋学期授業/Fall	947
関連科目	【C7700】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ) [Robert Durham]	春学期授業/Spring	949
関連科目	【C7701】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ) [Robert Durham]	秋学期授業/Fall	950
関連科目	【C7702】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ) [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	951
関連科目	【C7703】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ) [Kregg Johnston]	秋学期授業/Fall	952
関連科目	【C7704】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ) [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	953
関連科目	【C7710】	就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [佐藤 厚、上西 充子]	秋学期授業/Fall	954
関連科目	【C7711】	就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸]	春学期授業/Spring	956
関連科目	【C7712】	就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸]	秋学期授業/Fall	957
応用情報工学科_学科専門科目	【H4036】	数論 [安田 幹]	春学期授業/Spring	959
応用情報工学科_学科専門科目	【H4043】	プログラミング言語 J A V A [藤浦 豊徳]	春学期授業/Spring	960
応用情報工学科_学科専門科目	【H4044】	プログラミング言語 J A V A [藤浦 豊徳]	春学期授業/Spring	962
創生科学科_学科専門科目	【H4065】	複素関数論 [西村 滋人]	春学期授業/Spring	964
機械工学科機械工学専修_学科専門科目	【H5149】	応用数学(機械) [清水 朝雄]	春学期授業/Spring	965
機械工学科機械工学専修_学科専門科目	【H5150】	応用解析(機械) [清水 朝雄]	秋学期授業/Fall	966
電気電子工学科_学科専門科目	【H5616】	複素関数論(電気) [塚田 和美]	春学期授業/Spring	967
電気電子工学科_学科専門科目	【H5650】	応用数学(電気) [鳥飼 弘幸]	春学期授業/Spring	968
電気電子工学科_学科専門科目	【H5652】	確率統計(電気) [斉藤 利通、中村 俊博]	秋学期授業/Fall	969

電気電子工学科_学科専門科目	【H5663】	応用物理学〔西村 征也〕	春学期授業/Spring	970
応用情報工学科_学科専門科目	【H6154】	応用数学（情報）〔陸名 雄一〕	春学期授業/Spring	971
応用情報工学科_学科専門科目	【H6155】	応用解析（情報）〔陸名 雄一〕	秋学期授業/Fall	972
経営システム工学科_学科専門科目	【H6780】	複素関数論（経営）〔神谷 亮〕	秋学期授業/Fall	973
経営システム工学科_学科専門科目	【H6781】	数値解析（経営）〔小林 健太〕	秋学期授業/Fall	975
経営システム工学科_学科専門科目	【H6813】	応用数学（経営）〔神谷 亮〕	春学期授業/Spring	976
学部共通科目	【H7001】	グリーンケミストリ〔渡邊 雄二郎〕	春学期授業/Spring	977
学部共通科目	【H7006】	環境と人間〔越智 英輔、街 勝憲〕	秋学期授業/Fall	978
学部共通科目	【H7007】	植物薬理学〔三富 正明〕	秋学期授業/Fall	979
学部共通科目	【H7008】	物理学概論 I〔金沢 育三〕	春学期授業/Spring	980
学部共通科目	【H7009】	物理学概論 II〔金沢 育三〕	秋学期授業/Fall	981
学部共通科目	【H7010】	グリーンケミストリ〔加藤 尚之〕	春学期授業/Spring	982
学部共通科目	【H7011】	環境と人間〔長谷川 敬洋、平塚 二郎〕	春学期授業/Spring	983
学部共通科目	【H7015】	物理学概論 I〔金沢 育三〕	春学期授業/Spring	985
学部共通科目	【H7016】	物理学概論 II〔金沢 育三〕	秋学期授業/Fall	986
学部共通科目	【H7017】	高分子化学〔渡辺 敏行〕	秋学期授業/Fall	987
学部共通科目	【H7018】	環境安全化学〔大波 英幸、福島 由美子〕	春学期授業/Spring	988
学部共通科目	【H7019】	環境安全化学〔吉原 利一〕	春学期授業/Spring	989
学部共通科目	【H7020】	分析化学〔渡邊 雄二郎〕	春学期授業/Spring	991
学部共通科目	【H7021】	バイオエンジニアリング〔稲本 進〕	秋学期授業/Fall	992
学部共通科目	【H7023】	物質構造化学〔緒方 啓典〕	秋学期授業/Fall	993
学部共通科目	【H7024】	機器分析学〔高橋 純一〕	秋学期授業/Fall	994
学部共通科目	【H7025】	機器分析学〔黒田 裕、野口 恵一、加藤 敏代〕	秋学期授業/Fall	996
学部共通科目	【H7031】	バイオエンジニアリング〔萩原 知明〕	秋学期授業/Fall	997
学部共通科目	【H7032】	分析化学〔加治 大哉〕	秋学期授業/Fall	998
学部共通科目	【H7033】	物質機能化学〔緒方 啓典〕	春学期授業/Spring	999
学部共通科目	【H7034】	物質変換化学〔奥村 和〕	春学期授業/Spring	1000
学部共通科目	【H7035】	物質循環化学〔明石 孝也〕	秋学期授業/Fall	1001
学部共通科目	【H7036】	バイオマテリアル〔湯田坂 雅子〕	秋学期授業/Fall	1002
学部共通科目	【H7038】	分子エレクトロニクス〔照井 通文〕	春学期集中/Intensive(Spring)	1003
学部共通科目	【H7040】	蛋白工学〔常重 アントニオ〕	秋学期授業/Fall	1004
学部共通科目	【H7041】	生物有機化学〔芝 清隆〕	春学期授業/Spring	1005
学部共通科目	【H7042】	食品科学〔三浦 豊〕	春学期授業/Spring	1006
学部共通科目	【H7043】	遺伝子工学〔佐藤 勉〕	秋学期授業/Fall	1007
生命機能学科_学科専門科目	【H7045】	生体超分子〔曾和 義幸〕	春学期授業/Spring	1008
学部共通科目	【H7071】	基礎有機化学 I〔河内 敦〕	春学期授業/Spring	1009
学部共通科目	【H7072】	基礎有機化学 II〔河内 敦〕	秋学期授業/Fall	1010
学部共通科目	【H7073】	応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕	秋学期授業/Fall	1011
学部共通科目	【H7081】	分子生物学 I〔佐藤 勉〕	春学期授業/Spring	1012
学部共通科目	【H7082】	分子生物学 I〔片山 映〕	春学期授業/Spring	1013
学部共通科目	【H7083】	分子生物学 II〔山本 兼由〕	秋学期授業/Fall	1014
学部共通科目	【H7084】	分子生物学 II〔小見 美央〕	秋学期授業/Fall	1015
学部共通科目	【H7085】	生物化学 I〔金丸 周司〕	春学期授業/Spring	1016
学部共通科目	【H7086】	生物化学 I〔田島 寛隆〕	春学期授業/Spring	1017
学部共通科目	【H7087】	蛋白質構造機能学 I〔廣野 雅文〕	春学期授業/Spring	1018
学部共通科目	【H7088】	蛋白質構造機能学 II〔曾和 義幸〕	秋学期授業/Fall	1019
学部共通科目	【H7089】	分子薬理学〔小藤 智史〕	春学期授業/Spring	1020
生命機能学科_学科専門科目	【H7090】	構造生物学〔金丸 周司〕	春学期授業/Spring	1021
学部共通科目	【H7303】	植物医科学概論〔鍵和田 聡、津田 新哉、石川 成寿、廣岡 裕吏〕	春学期授業/Spring	1022
学部共通科目	【H7304】	植物病学概論〔濱本 宏〕	秋学期授業/Fall	1023
学部共通科目	【H7305】	植物分子細胞生物学〔鍵和田 聡〕	秋学期授業/Fall	1024
学部共通科目	【H7306】	生物学概論 I〔清水 隆〕	春学期授業/Spring	1025
学部共通科目	【H7307】	生物学概論 II〔清水 隆〕	秋学期授業/Fall	1026
生命機能学科_学科専門科目	【H7502】	計算機科学概論 I〔豊田 太郎〕	春学期授業/Spring	1027
生命機能学科_学科専門科目	【H7503】	計算機科学概論 II〔豊田 太郎〕	秋学期授業/Fall	1028
生命機能学科_学科専門科目	【H7509】	発生生物学〔小林 麻己人、川岸 万紀子〕	春学期集中/Intensive(Spring)	1029
生命機能学科_学科専門科目	【H7512】	物理化学概論 I〔見附 孝一郎〕	春学期授業/Spring	1030

生命機能学科_学科専門科目	【H7513】物理化学概論 I I [見附 孝一郎] 秋学期授業/Fall	1031
生命機能学科_学科専門科目	【H7515】生理病理学 [丸井 朱里] 秋学期授業/Fall	1033
生命機能学科_学科専門科目	【H7534】細胞情報学 [川岸 郁郎] 秋学期授業/Fall	1034
生命機能学科_学科専門科目	【H7536】神経科学 [高田 耕司] 秋学期授業/Fall	1035
生命機能学科_学科専門科目	【H7537】分子免疫学 [金山 剛士] 秋学期授業/Fall	1036
生命機能学科_学科専門科目	【H7538】バイオイメージング [佐甲 靖志] 春学期授業/Spring	1037
生命機能学科_学科専門科目	【H7551】生物化学 I I [西川正俊] 秋学期授業/Fall	1038
生命機能学科_学科専門科目	【H7552】生物物理学 I [西川正俊] 春学期授業/Spring	1039
生命機能学科_学科専門科目	【H7553】生物物理学 I I [曾和義幸] 秋学期授業/Fall	1040
学部共通科目	【H7554】細胞生物学 I [金子 智行] 春学期授業/Spring	1041
学部共通科目	【H7555】細胞生物学 I [小見 美央] 春学期授業/Spring	1042
生命機能学科_学科専門科目	【H7556】細胞生物学 I I [川岸 郁郎] 秋学期授業/Fall	1043
学部共通科目	【H7558】生物統計学 [谷合 弘行] 秋学期授業/Fall	1044
生命機能学科_学科専門科目	【H7560】ゲノム構造機能学 I [佐藤 勉] 春学期授業/Spring	1045
生命機能学科_学科専門科目	【H7561】ゲノム構造機能学 I I [皆川 周] 秋学期授業/Fall	1046
学部共通科目	【H7562】細胞構造機能学 I [金子 智行] 春学期授業/Spring	1047
学部共通科目	【H7563】細胞構造機能学 I I [山本 健太郎] 秋学期授業/Fall	1048
生命機能学科_学科専門科目	【H7564】生体分子分析学 I [今村 大輔] 春学期授業/Spring	1049
生命機能学科_学科専門科目	【H7565】生体分子分析学 I I [林 勇樹] 秋学期授業/Fall	1050
学部共通科目	【H7566】分子微生物学 [皆川 周] 春学期授業/Spring	1051
学部共通科目	【H7569】バイオインフォマティクス [今村 大輔] 秋学期授業/Fall	1052
学部共通科目	【H7570】ケミカルバイオロジー [影近 弘之] 秋学期授業/Fall	1053
生命機能学科_学科専門科目	【H7571】バイオエナジェティクス [常重 アントニオ] 春学期授業/Spring	1054
生命機能学科_学科専門科目	【H7572】医用生体工学 [金子 智行] 秋学期授業/Fall	1055
応用植物科学科_学科専門科目	【H8003】栽培植物学 [佐野 俊夫] 春学期授業/Spring	1056
応用植物科学科_学科専門科目	【H8004】植物病原菌類学 [廣岡 裕史] 春学期授業/Spring	1057
応用植物科学科_学科専門科目	【H8005】植物病防除学 [石川 成寿] 秋学期授業/Fall	1058
応用植物科学科_学科専門科目	【H8006】土壌科学 [亀和田 國彦] 秋学期授業/Fall	1059
応用植物科学科_学科専門科目	【H8009】診断技術論 [大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕史、平田 賢司] 春学期授業/Spring	1061
応用植物科学科_学科専門科目	【H8013】植物生理生態学 [佐野 俊夫] 秋学期授業/Fall	1062
応用植物科学科_学科専門科目	【H8014】雑草学 [佐野 俊夫、横山 昌雄] 秋学期授業/Fall	1063
応用植物科学科_学科専門科目	【H8015】植物医科ビジネス論 [高橋 修一郎、宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子] 秋学期授業/Fall	1064
応用植物科学科_学科専門科目	【H8017】フードセイフティ論 [川本 伸一、濱松 潮香、八戸 真弓] 秋学期授業/Fall	1065
学部共通科目	【H8021】植物バイオテクノロジー概論 [川合 伸也] 春学期授業/Spring	1066
学部共通科目	【H8022】植物メディカルゲノム学 [大島研郎、濱本宏] 秋学期授業/Fall	1068
学部共通科目	【H8023】植物細菌学 [大島 研郎] 春学期授業/Spring	1069
学部共通科目	【H8024】植物ウイルス学 [津田 新哉] 秋学期授業/Fall	1070
学部共通科目	【H8025】微生物生態学 [堀 知行] 春学期授業/Spring	1072
応用植物科学科_学科専門科目	【H8026】環境昆虫学 [安田 耕司] 春学期授業/Spring	1073
応用植物科学科_学科専門科目	【H8027】媒介システム学 [津田 新哉] 春学期授業/Spring	1074
応用植物科学科_学科専門科目	【H8028】植物メディカルシステム学 [濱本 宏] 春学期授業/Spring	1075
応用植物科学科_学科専門科目	【H8030】植物感染生理学 [鍵和田 聡] 春学期授業/Spring	1076
応用植物科学科_学科専門科目	【H8031】植物臨床医科学 [石川 成寿] 春学期授業/Spring	1077
応用植物科学科_学科専門科目	【H8032】生物制御化学 [中牟田 潔] 秋学期授業/Fall	1078
応用植物科学科_学科専門科目	【H8033】植物医科学法論 [福盛田 共義] 春学期授業/Spring	1080
応用植物科学科_学科専門科目	【H8034】ポストハーベスト論 [廣岡 裕史、宮ノ下 明大] 秋学期授業/Fall	1081
応用植物科学科_学科専門科目	【H8035】植物生理病学 [佐野 俊夫、亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1082
応用植物科学科_学科専門科目	【H8103】国際食料需給論 [黒川 哲治] 春学期授業/Spring	1083
応用植物科学科_学科専門科目	【H8104】植物管理技術論 [松崎 守夫、山口 弘道] 春学期授業/Spring	1084
応用植物科学科_学科専門科目	【H8105】教職化学 [田 艶] 春学期授業/Spring	1085
応用植物科学科_学科専門科目	【H8106】基礎植物害虫学 [大井田 寛] 秋学期授業/Fall	1086
応用植物科学科_学科専門科目	【H8107】グリーン経済学 [黒川 哲治] 秋学期授業/Fall	1087
応用植物科学科_学科専門科目	【H8108】植物栄養学 [亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1088
応用植物科学科_学科専門科目	【H8110】教職物理学 [金沢 育三] 秋学期授業/Fall	1090
応用植物科学科_学科専門科目	【H8113】応用植物害虫学 [大井田 寛] 春学期授業/Spring	1091

応用植物科学科_学科専門科目	【H8114】食料・地域政策論 [黒川 哲治] 秋学期授業/Fall	1092
応用植物科学科_学科専門科目	【H8115】自然再生学概論 [大井田 寛、黒川 哲治、安田 耕司、橋本 智美] 秋学期授業/Fall	1093
応用植物科学科_学科専門科目	【H8117】ホーティカルチャー論 [津田 新哉、紺野 祥平、池田 敬、鈴木 栄] 春学期授業/Spring	1094
応用植物科学科_学科専門科目	【H8118】教職生物学 [齋藤 理佳] 秋学期授業/Fall	1095
応用植物科学科_学科専門科目	【H8120】実践植物遺伝学 [柳澤 貴司、黒羽 剛] 春学期授業/Spring	1096
環境応用化学科_学科専門科目	【H8501】化学熱力学 I [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1097
環境応用化学科_学科専門科目	【H8502】化学熱力学 I I [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1098
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1100
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1101
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1102
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1103
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1104
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1106
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [森 隆昌] 春学期授業/Spring	1107
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1108
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】応用化学基礎 [河内 敦] 春学期授業/Spring	1109
環境応用化学科_学科専門科目	【H8512】無機化学概論 [明石 孝也] 秋学期授業/Fall	1110
環境応用化学科_学科専門科目	【H8523】応用化学入門 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1111
環境応用化学科_学科専門科目	【H8525】物理化学 I [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1112
環境応用化学科_学科専門科目	【H8526】物理化学 I I [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1113
環境応用化学科_学科専門科目	【H8527】無機化学 I [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1114
環境応用化学科_学科専門科目	【H8528】無機化学 I I [石垣 隆正] 秋学期授業/Fall	1115
環境応用化学科_学科専門科目	【H8529】有機化学 I [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1116
環境応用化学科_学科専門科目	【H8530】有機化学 I I [杉山 賢次] 秋学期授業/Fall	1117
環境応用化学科_学科専門科目	【H8533】コンピュータ利用化学 [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	1118
環境応用化学科_学科専門科目	【H8541】電気化学 [片山 英樹] 春学期授業/Spring	1119
環境応用化学科_学科専門科目	【H8545】反応工学 [小堀 深] 春学期授業/Spring	1120
環境応用化学科_学科専門科目	【H8548】量子化学 [野口 真理子] 春学期授業/Spring	1121
環境応用化学科_学科専門科目	【H8549】錯体化学 [田所 誠] 春学期授業/Spring	1122
環境応用化学科_学科専門科目	【H8553】化学統計力学 [藤森 裕基] 秋学期授業/Fall	1123
環境応用化学科_学科専門科目	【H8554】物質設計化学 [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1124
環境応用化学科_学科専門科目	【H8555】エネルギー環境化学 [打越 哲郎] 秋学期授業/Fall	1125
環境応用化学科_学科専門科目	【H8556】触媒化学 [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1126
環境応用化学科_学科専門科目	【H8580】環境化学工学概論 [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1127
環境応用化学科_学科専門科目	【H8581】環境化学工学応用 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1128
環境応用化学科_学科専門科目	【H8584】無機素材反応化学 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1130
環境応用化学科_学科専門科目	【H8585】教職生物学 [齋藤 理佳] 秋学期授業/Fall	1131
創生科学科_学科専門科目	【H9270】フーリエ変換 [西村 滋人] 秋学期授業/Fall	1132
創生科学科_学科専門科目	【H9271】空間の幾何 [中村 真帆] 春学期授業/Spring	1133
創生科学科_学科専門科目	【H9272】対称性と構造 [長谷 正司] 春学期授業/Spring	1134
専門教育科目_専門科目	【J0401】情報科学入門 [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	1135
専門教育科目_専門科目	【J0402】情報科学入門 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1136
専門教育科目_専門科目	【J0403】コンピュータシステム入門 1 [首藤 裕一] 春学期授業/Spring	1137
専門教育科目_専門科目	【J0404】コンピュータシステム入門 1 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1138
専門教育科目_専門科目	【J0405】コンピュータシステム入門 2 [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	1139
専門教育科目_専門科目	【J0406】コンピュータシステム入門 2 [村上 健一郎] 秋学期授業/Fall	1140
専門教育科目_専門科目	【J0409】離散構造 1 [尾花 賢] 春学期授業/Spring	1141
専門教育科目_専門科目	【J0410】離散構造 1 [佐藤 裕二] 春学期授業/Spring	1142
専門教育科目_専門科目	【J0411】離散構造 2 [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1143
専門教育科目_専門科目	【J0412】離散構造 2 [首藤 裕一] 秋学期授業/Fall	1144
専門教育科目_専門科目	【J0419】論理回路入門 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1145
専門教育科目_専門科目	【J0420】プログラミング入門 1 [赤石 美奈] 春学期前半/Spring(1st half)	1146
専門教育科目_専門科目	【J0421】プログラミング入門 1 [久東 義典] 春学期前半/Spring(1st half)	1147
専門教育科目_専門科目	【J0422】プログラミング入門 1 [波多野 大督] 春学期前半/Spring(1st half)	1148
専門教育科目_専門科目	【J0423】プログラミング入門 1 [佐藤 周平] 春学期前半/Spring(1st half)	1149

専門教育科目_専門科目	【J0424】	プログラミング入門 2 [赤石 美奈] 春学期後半/Spring(2nd half)	1150
専門教育科目_専門科目	【J0425】	プログラミング入門 2 [久東 義典] 春学期後半/Spring(2nd half)	1151
専門教育科目_専門科目	【J0426】	プログラミング入門 2 [波多野 大督] 春学期後半/Spring(2nd half)	1152
専門教育科目_専門科目	【J0427】	プログラミング入門 2 [佐藤 周平] 春学期後半/Spring(2nd half)	1153
専門教育科目_専門科目	【J0429】	プログラミング入門 3 [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1154
専門教育科目_専門科目	【J0430】	プログラミング入門 3 [小林 郁夫] 秋学期授業/Fall	1155
専門教育科目_専門科目	【J0431】	プログラミング入門 3 [細部 博史] 秋学期授業/Fall	1156
専門教育科目_専門科目	【J0432】	プログラミング入門 3 [高村 誠之] 秋学期授業/Fall	1157
専門教育科目_専門科目	【J0433】	データ構造とアルゴリズム [首藤 裕一] 春学期授業/Spring	1158
専門教育科目_専門科目	【J0434】	データ構造とアルゴリズム [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1159
専門教育科目_専門科目	【J0439】	最適化 [佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1160
専門教育科目_専門科目	【J0440】	最適化 [佐川 浩彦] 秋学期授業/Fall	1161
専門教育科目_専門科目	【J0441】	アルゴリズムの設計と解析 [黄 潤和] 春学期授業/Spring	1162
専門教育科目_専門科目	【J0501】	プログラミング 1(C/C++) [廣津 登志夫、佐藤 周平] 秋学期授業/Fall	1163
専門教育科目_専門科目	【J0505】	プログラミング 2(C/C++) [相島 健助、廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1165
専門教育科目_専門科目	【J0509】	プログラミング演習 1(C/C++) [廣津 登志夫] 秋学期授業/Fall	1167
専門教育科目_専門科目	【J0511】	形式言語とオートマトン [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	1168
専門教育科目_専門科目	【J0512】	形式言語とオートマトン [藤田 悟] 春学期授業/Spring	1170
専門教育科目_専門科目	【J0513】	コンピュータ構成と設計入門 [八巻 隼人] 春学期授業/Spring	1172
専門教育科目_専門科目	【J0514】	コンパイラ [佐々木 晃] 春学期授業/Spring	1173
専門教育科目_専門科目	【J0515】	プログラミング演習 2(C/C++) [小池 崇文] 春学期授業/Spring	1174
専門教育科目_専門科目	【J0519】	統計学 2 [高村 誠之] 秋学期授業/Fall	1175
専門教育科目_専門科目	【J0520】	統計学 2 [小西 克巳] 秋学期授業/Fall	1176
専門教育科目_専門科目	【J0521】	情報基礎学 A [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1177
専門教育科目_専門科目	【J0522】	情報基礎学 B [雪田 修一] 春学期授業/Spring	1178
専門教育科目_専門科目	【J0523】	コンピュータ構成と設計 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1179
専門教育科目_専門科目	【J0524】	情報理論 [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1181
専門教育科目_専門科目	【J0525】	プログラム設計 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1182
専門教育科目_専門科目	【J0526】	オペレーティングシステム [山田 浩史] 春学期授業/Spring	1184
専門教育科目_専門科目	【J0527】	型システムと関数型言語 [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1185
専門教育科目_専門科目	【J0528】	ソフトウェア工学 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1186
専門教育科目_専門科目	【J0529】	並列分散処理 [八巻 隼人] 秋学期授業/Fall	1188
専門教育科目_専門科目	【J0530】	新ネットワーク理論 [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1190
専門教育科目_専門科目	【J0531】	情報・ネットワークセキュリティ入門 [上田 浩] 春学期授業/Spring	1192
専門教育科目_専門科目	【J0534】	プログラミング 3(Java) [細部 博史] 秋学期授業/Fall	1194
専門教育科目_専門科目	【J0535】	プログラミング 3(Java) [黄 潤和] 秋学期授業/Fall	1195
専門教育科目_専門科目	【J0536】	ヒューマンコンピュータインタラクション [細部 博史] 春学期授業/Spring	1196
専門教育科目_専門科目	【J0537】	データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1197
専門教育科目_専門科目	【J0538】	データベース [坂本 寛] 秋学期授業/Fall	1198
専門教育科目_専門科目	【J0539】	人工知能 [赤石 美奈] 秋学期授業/Fall	1199
専門教育科目_専門科目	【J0540】	人工知能 [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	1201
専門教育科目_専門科目	【J0541】	プログラミング 4(Java) [馬 建華] 春学期授業/Spring	1203
専門教育科目_専門科目	【J0542】	コンピュータネットワーク [馬 建華] 秋学期授業/Fall	1204
専門教育科目_専門科目	【J0543】	サービスコンピューティング [佐治 信之] 秋学期授業/Fall	1205
専門教育科目_専門科目	【J0544】	オペレーションズリサーチ [小西 克巳] 春学期授業/Spring	1207
専門教育科目_専門科目	【J0545】	オブジェクト指向プログラミング [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1208
専門教育科目_専門科目	【J0546】	情報検索 [相島 健助] 秋学期授業/Fall	1209
専門教育科目_専門科目	【J0547】	ユビキタスコンピューティング [馬 建華] 春学期授業/Spring	1211
専門教育科目_専門科目	【J0549】	コンピュータグラフィックス [佐藤 周平] 秋学期授業/Fall	1212
専門教育科目_専門科目	【J0550】	パターン認識と機械学習 [伊藤 克亘、佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1213
専門教育科目_専門科目	【J0551】	プログラミング (MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1214
専門教育科目_専門科目	【J0552】	プログラミング演習 2(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	1216
専門教育科目_専門科目	【J0555】	デジタル信号処理 [高村 誠之] 春学期授業/Spring	1217
専門教育科目_専門科目	【J0556】	画像処理 [花泉 弘] 秋学期授業/Fall	1218
専門教育科目_専門科目	【J0557】	音声情報処理 [大石 康智] 秋学期授業/Fall	1219
専門教育科目_専門科目	【J0558】	プログラミング演習 3(MATLAB) [花泉 弘] 春学期授業/Spring	1221
専門教育科目_専門科目	【J0560】	科学技術計算 [岩沢 美佐子] 秋学期授業/Fall	1222

【K6004】	日本国憲法〔川鍋 健〕年間授業/Yearly	1223
【K6005】	民法一部〔菅 富美枝〕年間授業/Yearly	1224
【K6006】	民法二部〔菅 富美枝〕年間授業/Yearly	1225
【K6007】	商法一部〔笹久保 徹〕年間授業/Yearly	1226
【K6008】	商法二部〔笹久保 徹〕年間授業/Yearly	1227
【K6009】	経済法〔山田 務〕年間授業/Yearly	1228
【K6010】	労働法〔小林 大祐〕年間授業/Yearly	1229
【K6012】	経営学〔砂田 充〕年間授業/Yearly	1231
【K6046】	社会経済学応用A〔大友 敏明〕春学期授業/Spring	1232
【K6047】	社会経済学応用A〔大友 敏明〕春学期授業/Spring	1233
【K6048】	社会経済学応用B〔大友 敏明〕秋学期授業/Fall	1234
【K6049】	社会経済学応用B〔大友 敏明〕秋学期授業/Fall	1235
【K6054】	日本経済論A〔小黒 一正〕春学期授業/Spring	1236
【K6055】	日本経済論A〔小崎 敏男〕春学期授業/Spring	1237
【K6056】	日本経済論B〔小黒 一正〕秋学期授業/Fall	1238
【K6057】	日本経済論B〔小崎 敏男〕秋学期授業/Fall	1239
【K6058】	国際経済論A〔田村 晶子〕春学期授業/Spring	1240
【K6059】	国際経済論A〔武智 一貴〕春学期授業/Spring	1240
【K6060】	国際経済論B〔田村 晶子〕秋学期授業/Fall	1241
【K6061】	国際経済論B〔武智 一貴〕秋学期授業/Fall	1242
【K6062】	財政学A〔小林 克也〕春学期授業/Spring	1242
【K6063】	財政学A〔天利 浩〕春学期授業/Spring	1243
【K6064】	財政学B〔小林 克也〕秋学期授業/Fall	1244
【K6065】	財政学B〔天利 浩〕秋学期授業/Fall	1245
【K6066】	金融論A〔武田 浩一〕春学期授業/Spring	1246
【K6067】	金融論A〔高橋 秀朋〕春学期授業/Spring	1247
【K6068】	金融論B〔武田 浩一〕秋学期授業/Fall	1248
【K6069】	金融論B〔高橋 秀朋〕秋学期授業/Fall	1249
【K6070】	経済の数理A〔佐柄 信純〕春学期授業/Spring	1250
【K6071】	経済の数理B〔佐柄 信純〕秋学期授業/Fall	1251
【K6094】	計量経済学A〔宮崎 憲治〕春学期授業/Spring	1252
【K6095】	計量経済学B〔宮崎 憲治〕秋学期授業/Fall	1253
【K6098】	西洋経済史A〔杉浦 未樹〕春学期授業/Spring	1254
【K6099】	西洋経済史B〔杉浦 未樹〕秋学期授業/Fall	1255
【K6102】	企業と経済・応用A〔鈴木 豊〕春学期授業/Spring	1256
【K6103】	企業と経済・応用B〔河村 真〕秋学期授業/Fall	1257
【K6108】	現代ファイナンス入門A〔湯前 祥二〕春学期授業/Spring	1258
【K6109】	現代ファイナンス入門B〔湯前 祥二〕秋学期授業/Fall	1259
【K6114】	会計学応用Ⅰ（財務会計）A〔竹口 圭輔〕春学期授業/Spring	1260
【K6115】	会計学応用Ⅰ（財務会計）B〔竹口 圭輔〕秋学期授業/Fall	1261
【K6116】	会計学応用Ⅱ（管理会計）A〔梅津 亮子〕春学期授業/Spring	1262
【K6117】	会計学応用Ⅱ（管理会計）B〔梅津 亮子〕秋学期授業/Fall	1263
【K6122】	経済データ分析A〔明城 聡〕春学期授業/Spring	1264
【K6123】	経済データ分析B〔明城 聡〕秋学期授業/Fall	1265
【K6124】	経済地理〔近藤 章夫〕春学期授業/Spring	1266
【K6125】	産業集積論〔近藤 章夫〕秋学期授業/Fall	1267
【K6128】	コーポレートガバナンス論A〔胥 鵬〕春学期授業/Spring	1268
【K6129】	コーポレートガバナンス論B〔胥 鵬〕秋学期授業/Fall	1269
【K6130】	リスク・マネジメントA〔湯前 祥二〕春学期授業/Spring	1270
【K6131】	リスク・マネジメントB〔湯前 祥二〕秋学期授業/Fall	1271
【K6132】	企業経営史A〔飯塚 陽介〕春学期授業/Spring	1272
【K6133】	企業経営史B〔飯塚 陽介〕秋学期授業/Fall	1273
【K6136】	企業経営論A〔井上 祐樹〕春学期授業/Spring	1274
【K6137】	企業経営論B〔井上 祐樹〕秋学期授業/Fall	1275
【K6140】	企業実務研究A〔武田 浩一〕春学期授業/Spring	1277
【K6141】	企業実務研究B〔武田 浩一〕秋学期授業/Fall	1278
【K6142】	国際会計制度A〔倉井 潔〕春学期授業/Spring	1279

【K6143】 国際会計制度 B [倉井 潔] 秋学期授業/Fall	1280
【K6144】 金融ビジネス論 A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1281
【K6146】 金融ビジネス論 B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1282
【K6148】 開発経済論 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1283
【K6149】 開発経済論 B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1284
【K6150】 国際関係論 A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	1285
【K6151】 国際関係論 B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	1286
【K6152】 経済人類学 A [河野 正治] 春学期授業/Spring	1287
【K6153】 経済人類学 B [河野 正治] 秋学期授業/Fall	1288
【K6154】 環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1289
【K6155】 環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1290
【K6156】 環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1291
【K6157】 環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1292
【K6160】 経済地理 A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	1293
【K6161】 経済地理 B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	1294
【K6162】 アメリカ経済論 A [下斗米 秀之] 春学期授業/Spring	1295
【K6163】 アメリカ経済論 B [下斗米 秀之] 秋学期授業/Fall	1296
【K6164】 ヨーロッパ経済論 A [伊東 林蔵] 春学期授業/Spring	1297
【K6165】 ヨーロッパ経済論 B [伊東 林蔵] 秋学期授業/Fall	1298
【K6166】 現代アジア経済論 A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	1299
【K6167】 現代アジア経済論 B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	1300
【K6168】 中国経済論 A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1301
【K6169】 中国経済論 B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1302
【K6180】 ドイツ語セミナー A [布川 恭子] 春学期授業/Spring	1303
【K6181】 ドイツ語セミナー B [布川 恭子] 秋学期授業/Fall	1304
【K6182】 フランス語セミナー B [橋本 到] 秋学期授業/Fall	1305
【K6183】 フランス語セミナー A [橋本 到] 春学期授業/Spring	1306
【K6184】 ロシア語セミナー A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1307
【K6185】 ロシア語セミナー B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1308
【K6186】 中国語セミナー A [石 碩] 春学期授業/Spring	1309
【K6187】 中国語セミナー B [石 碩] 秋学期授業/Fall	1310
【K6188】 スペイン語セミナー A [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	1311
【K6189】 スペイン語セミナー B [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	1312
【K6190】 現代社会と情報 A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	1313
【K6191】 現代社会と情報 B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1314
【K6194】 経済統計論 A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1315
【K6195】 経済統計論 B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1316
【K6196】 日本文化論 [黒田 俊太郎] 秋学期授業/Fall	1317
【K6200】 政治過程論 [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	1318
【K6201】 国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	1319
【K6202】 日本思想史 [古澤 直人] 春学期授業/Spring	1320
【K6203】 開発経済入門 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1321
【K6204】 開発経済入門 B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1322
【K6209】 環境科学 A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	1323
【K6210】 環境科学 B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	1324
【K6211】 人間とスポーツ [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	1325
【K6212】 時事英語セミナー A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1326
【K6213】 時事英語セミナー B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1327
【K6214】 日本文化史 [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	1328
【K6219】 経済学史 A [山本 英子] 春学期授業/Spring	1329
【K6220】 経済学史 B [山本 英子] 秋学期授業/Fall	1330
【K6221】 公共経済論 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1331
【K6222】 公共経済論 B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1332
【K6223】 環境政策論 A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1333
【K6224】 環境政策論 B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1334
【K6225】 日本経済史 A [長原 豊] 春学期授業/Spring	1335
【K6226】 日本経済史 B [長原 豊] 秋学期授業/Fall	1336

[K6227]	社会経済思想史A〔後藤 浩子〕	春学期授業/Spring	1338
[K6228]	社会経済思想史B〔後藤 浩子〕	秋学期授業/Fall	1339
[K6229]	経済政策論A〔濱秋 純哉〕	春学期授業/Spring	1340
[K6230]	経済政策論B〔濱秋 純哉〕	秋学期授業/Fall	1341
[K6231]	農業経済論A〔西澤 栄一郎〕	春学期授業/Spring	1342
[K6232]	農業経済論B〔西澤 栄一郎〕	秋学期授業/Fall	1343
[K6233]	社会政策論A〔菅原 琢磨〕	春学期授業/Spring	1344
[K6234]	社会政策論B〔菅原 琢磨〕	秋学期授業/Fall	1345
[K6235]	労働経済論A〔酒井 正〕	春学期授業/Spring	1346
[K6236]	労働経済論B〔酒井 正〕	秋学期授業/Fall	1347
[K6237]	金融各論ⅠA〔高橋 秀朋〕	春学期授業/Spring	1348
[K6238]	金融各論ⅠB〔高橋 秀朋〕	秋学期授業/Fall	1349
[K6239]	情報経済論A〔鈴木 豊〕	春学期授業/Spring	1350
[K6240]	情報経済論B〔鈴木 豊〕	秋学期授業/Fall	1351
[K6241]	地方財政論A〔小林 克也〕	春学期授業/Spring	1352
[K6242]	地方財政論B〔小林 克也〕	秋学期授業/Fall	1353
[K6243]	社会保障論A〔小黒 一正〕	春学期授業/Spring	1354
[K6244]	社会保障論B〔小黒 一正〕	秋学期授業/Fall	1355
[K6245]	産業組織論A〔河村 真〕	春学期授業/Spring	1356
[K6246]	産業組織論B〔河村 真〕	秋学期授業/Fall	1357
[K6247]	金融各論ⅡA〔武田 浩一〕	春学期授業/Spring	1358
[K6249]	金融各論ⅡB〔武田 浩一〕	秋学期授業/Fall	1359
[K6251]	企業金融論A〔胥 鵬〕	春学期授業/Spring	1360
[K6252]	企業金融論B〔胥 鵬〕	秋学期授業/Fall	1361
[K6253]	数理統計学A〔宮脇 典彦〕	春学期授業/Spring	1362
[K6254]	数理統計学B〔宮脇 典彦〕	秋学期授業/Fall	1363
[K6268]	国際金融論A〔ブー トウン カイ〕	春学期授業/Spring	1364
[K6269]	国際金融論B〔ブー トウン カイ〕	秋学期授業/Fall	1365
[K6270]	企業経済論A〔砂田 充〕	春学期授業/Spring	1366
[K6271]	企業経済論B〔砂田 充〕	秋学期授業/Fall	1367
[K6306]	ビジネス英語初級A〔JOHN LACEY〕	春学期授業/Spring	1368
[K6307]	ビジネス英語初級B〔JOHN LACEY〕	秋学期授業/Fall	1369
[K6312]	世界の文化と思想A〔芝田 幸一郎〕	春学期授業/Spring	1370
[K6313]	世界の文化と思想B〔芝田 幸一郎〕	秋学期授業/Fall	1371
[K6314]	地球環境論A〔山崎 友紀〕	春学期授業/Spring	1372
[K6315]	地球環境論B〔藤田 貢崇〕	秋学期授業/Fall	1373
[K6316]	ビジネス英語初級A〔GLENN FERN〕	春学期授業/Spring	1374
[K6317]	ビジネス英語初級B〔GLENN FERN〕	秋学期授業/Fall	1375
[K6318]	ビジネス英語初級A〔GLENN FERN〕	春学期授業/Spring	1377
[K6319]	ビジネス英語初級B〔GLENN FERN〕	秋学期授業/Fall	1378
[K6320]	会計学入門Ⅱ（原価計算）A〔梅津 亮子〕	春学期授業/Spring	1380
[K6321]	会計学入門Ⅱ（原価計算）B〔梅津 亮子〕	秋学期授業/Fall	1381
[K6326]	国際貿易論A〔武智 一貴〕	春学期授業/Spring	1382
[K6327]	国際貿易論B〔武智 一貴〕	秋学期授業/Fall	1383
[K6328]	ビジネス英語中級A〔YONGUE JULIA SALLE〕	春学期授業/Spring	1384
[K6329]	ビジネス英語中級B〔YONGUE JULIA SALLE〕	秋学期授業/Fall	1385
[K6330]	ビジネス英語中級A〔ジェイ マツオ タナカ〕	春学期授業/Spring	1386
[K6331]	ビジネス英語中級B〔ジェイ マツオ タナカ〕	秋学期授業/Fall	1387
[K6332]	監査論A〔岸 牧人〕	春学期授業/Spring	1388
[K6333]	監査論B〔岸 牧人〕	秋学期授業/Fall	1389
[K6334]	会計学入門Ⅰ（財務会計）A〔堀江 優希〕	春学期授業/Spring	1390
[K6335]	会計学入門Ⅰ（財務会計）B〔堀江 優希〕	秋学期授業/Fall	1391
[K6337]	マクロ経済学A〔檜野 智子〕	春学期授業/Spring	1392
[K6338]	マクロ経済学B〔檜野 智子〕	秋学期授業/Fall	1393
[K6339]	ミクロ経済学A〔篠原 隆介〕	春学期授業/Spring	1394
[K6340]	ミクロ経済学B〔篠原 隆介〕	秋学期授業/Fall	1395
[K6341]	現代経済学応用A〔八木橋 毅司〕	春学期授業/Spring	1396

【K6342】現代経済学応用B〔八木橋 毅司〕秋学期授業/Fall	1397
【K6343】マクロ経済学A〔松尾 朋紀〕春学期授業/Spring	1398
【K6344】マクロ経済学B〔松尾 朋紀〕秋学期授業/Fall	1399
【K6345】ミクロ経済学A〔平井 俊行〕春学期授業/Spring	1400
【K6346】ミクロ経済学B〔平井 俊行〕秋学期授業/Fall	1401
【K6347】財政学A(市ヶ谷開講)〔島澤 諭〕春学期授業/Spring	1402
【K6348】財政学B(市ヶ谷開講)〔島澤 諭〕秋学期授業/Fall	1403
【K6349】経済政策論A(市ヶ谷開講)〔濱秋 純哉〕春学期授業/Spring	1404
【K6350】経済政策論B(市ヶ谷開講)〔濱秋 純哉〕秋学期授業/Fall	1405
【K6351】国際経済論A(市ヶ谷開講)〔田村 晶子〕春学期授業/Spring	1406
【K6352】国際経済論B(市ヶ谷開講)〔田村 晶子〕秋学期授業/Fall	1406
【K6501】特別講義(寄付講座 証券市場論)〔大和証券(株)〕春学期授業/Spring	1407
【K6575】特別講義(ビジネス日本語A)〔大石 有香〕春学期授業/Spring	1408
【K6576】特別講義(ビジネス日本語B)〔大石 有香〕秋学期授業/Fall	1408
【K6695】Business Communication I A〔GLENN FERN〕春学期授業/Spring	1409
【K6696】Business Communication I B〔GLENN FERN〕秋学期授業/Fall	1410
【K6697】Business Communication I A〔GLENN FERN〕春学期授業/Spring	1412
【K6698】Business Communication I B〔GLENN FERN〕秋学期授業/Fall	1413
【K6699】Business Communication II A〔YONGUE JULIA SALLE〕春学期授業/Spring	1415
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6699】Business Communication II A〔YONGUE JULIA SALLE〕春学期授業/Spring	1416
【K6700】Business Communication II B〔YONGUE JULIA SALLE〕秋学期授業/Fall	1417
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6700】Business Communication II B〔YONGUE JULIA SALLE〕秋学期授業/Fall	1418
【K6701】Business Communication II A〔ジェイ マツオ タナカ〕春学期授業/Spring	1419
【K6702】Business Communication II B〔ジェイ マツオ タナカ〕秋学期授業/Fall	1420
【K6705】日本国憲法A〔川鍋 健〕春学期授業/Spring	1421
【K6706】日本国憲法B〔川鍋 健〕秋学期授業/Fall	1422
【K6707】民法一部A〔菅 富美枝〕春学期授業/Spring	1423
【K6708】民法一部B〔菅 富美枝〕秋学期授業/Fall	1424
【K6709】民法二部A〔菅 富美枝〕春学期授業/Spring	1425
【K6710】民法二部B〔菅 富美枝〕秋学期授業/Fall	1426
【K6711】商法一部A〔笹久保 徹〕春学期授業/Spring	1427
【K6712】商法一部B〔笹久保 徹〕秋学期授業/Fall	1428
【K6713】商法二部A〔笹久保 徹〕春学期授業/Spring	1429
【K6714】商法二部B〔笹久保 徹〕秋学期授業/Fall	1430
【K6715】経済法A〔山田 務〕春学期授業/Spring	1431
【K6716】経済法B〔山田 務〕秋学期授業/Fall	1432
【K6717】労働法A〔小林 大祐〕春学期授業/Spring	1433
【K6718】労働法B〔小林 大祐〕秋学期授業/Fall	1434
【K6719】経営学A〔砂田 充〕春学期授業/Spring	1435
【K6720】経営学B〔砂田 充〕秋学期授業/Fall	1436
【K6721】Principles of Economics A〔JESS DIAMO N D〕春学期授業/Spring	1437
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6721】Principles of Economics A〔JESS DIAMO N D〕春学期授業/Spring	1438
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6722】Principles of Economics B〔JESS DIAMO N D〕秋学期授業/Fall	1439
【K6722】Principles of Economics B〔JESS DIAMO N D〕秋学期授業/Fall	1440
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6723】International Economics A〔倪 彬〕春学期授業/Spring	1441
【K6723】International Economics A〔倪 彬〕春学期授業/Spring	1442
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6724】International Economics B〔倪 彬〕秋学期授業/Fall	1443
【K6724】International Economics B〔倪 彬〕秋学期授業/Fall	1444
【K6725】Area Studies A〔馬 欣欣〕春学期授業/Spring	1445
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6725】Area Studies A〔馬 欣欣〕春学期授業/Spring	1446

【K6726】Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1447
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6726】Area Studies	
B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1448
【K6727】Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1450
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6727】Business	
Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1451
【K6728】Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1452
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6728】Business	
Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1453
【K6729】簿記Ⅱ A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1454
【K6730】簿記Ⅱ B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1455
【K6731】地域経済論 A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	1456
【K6732】地域経済論 B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	1457
【K6733】Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	1458
【K6734】Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	1459
【K6735】Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	1460
【K6736】Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	1461
【K6739】Academic Research Seminar A [山崎 達朗] 春学期授業/Spring	1462
【K6740】Academic Research Seminar B [山崎 達朗] 秋学期授業/Fall	1462
【K6741】世界経済史 A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	1463
【K6742】世界経済史 B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	1464
【K6745】財務諸表論 A [竹口 圭輔] 春学期授業/Spring	1465
【K6746】財務諸表論 B [竹口 圭輔] 秋学期授業/Fall	1466
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6747】Demography	
A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1467
【K6747】DemographyA [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1468
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6748】Demography	
B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1469
【K6748】DemographyB [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1470
【K6749】原価計算 A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1471
【K6750】原価計算 B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1472
【K6751】会計学入門 A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	1473
【K6752】会計学入門 B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	1474
【K6755】管理会計 A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1475
【K6756】管理会計 B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1475
【K6757】スポーツ経済論 [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	1476
【K6764】Business Communication IA [JOHN LACEY] 春学期授業/Spring	1477
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6764】Business	
Communication I A [JOHN LACEY] 春学期授業/Spring	1478
【K6765】Business Communication IB [JOHN LACEY] 秋学期授業/Fall	1479
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6765】Business	
Communication I B [JOHN LACEY] 秋学期授業/Fall	1480
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6770】Japan and	
ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1481
【K6770】Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1482
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6771】Japan and	
ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1483
【K6771】Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1484
【K6774】Multi-National Enterprises A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1485
【K6775】Multi-National Enterprises B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1486
【K7001】演習 [岸 牧人] 年間授業/Yearly	1487
【K7002】演習 [小黒 一正] 年間授業/Yearly	1489
【K7003】演習 [平井 俊行] 年間授業/Yearly	1490
【K7004】演習 [岡部 雅史] 年間授業/Yearly	1491
【K7005】演習 [奥山 利幸] 年間授業/Yearly	1492
【K7006】演習 [山崎 達朗] 年間授業/Yearly	1493
【K7007】演習 [杉浦 未樹] 年間授業/Yearly	1494

【K7008】	演習 [小沢 和浩]	年間授業/Yearly	1496
【K7012】	演習 [河村 真]	年間授業/Yearly	1497
【K7013】	演習 [阿部 俊弘]	年間授業/Yearly	1498
【K7016】	演習 [JESS DIAMO N D]	年間授業/Yearly	1500
【K7018】	演習 [武田 浩一]	年間授業/Yearly	1501
【K7019】	演習 [後藤 浩子]	年間授業/Yearly	1502
【K7020】	演習 [小林 克也]	年間授業/Yearly	1504
【K7021】	演習 [近藤 章夫]	年間授業/Yearly	1505
【K7022】	演習 [KALENGA N JOHN]	年間授業/Yearly	1506
【K7023】	演習 [坂本 憲昭]	年間授業/Yearly	1508
【K7024】	演習 [佐柄 信純]	年間授業/Yearly	1509
【K7025】	演習 [馬 欣欣]	年間授業/Yearly	1510
【K7026】	演習 [酒井 正]	年間授業/Yearly	1511
【K7027】	演習 [胥 鵬]	年間授業/Yearly	1512
【K7028】	演習 [菅 富美枝]	年間授業/Yearly	1514
【K7029】	演習 [鈴木 豊]	年間授業/Yearly	1516
【K7030】	演習 [砂田 充]	年間授業/Yearly	1517
【K7031】	演習 [竹口 圭輔]	年間授業/Yearly	1519
【K7032】	演習 [八木橋 毅司]	年間授業/Yearly	1520
【K7033】	演習 [武智 一貴]	年間授業/Yearly	1521
【K7034】	演習 [田村 晶子]	年間授業/Yearly	1522
【K7035】	演習 [倉井 潔]	年間授業/Yearly	1523
【K7036】	演習 [山崎 友紀]	年間授業/Yearly	1524
【K7037】	演習 [芝田 幸一郎]	年間授業/Yearly	1525
【K7038】	演習 [ブー トウン カイ]	年間授業/Yearly	1526
【K7040】	演習 [長原 豊]	年間授業/Yearly	1527
【K7041】	演習 [池上 宗信]	年間授業/Yearly	1529
【K7042】	演習 [ROBERT D STROUD]	年間授業/Yearly	1530
【K7043】	演習 [西澤 栄一郎]	年間授業/Yearly	1531
【K7044】	演習 [新田 誠吾]	年間授業/Yearly	1532
【K7045】	演習 [明城 聡]	年間授業/Yearly	1533
【K7046】	演習 [朴 宗玄]	年間授業/Yearly	1535
【K7047】	演習 [橋本 到]	年間授業/Yearly	1536
【K7048】	演習 [馬場 敏幸]	年間授業/Yearly	1537
【K7049】	演習 [荒木 祥太]	年間授業/Yearly	1538
【K7051】	演習 [平瀬 友樹]	年間授業/Yearly	1539
【K7052】	演習 [廣川 みどり]	年間授業/Yearly	1540
【K7053】	演習 [濱秋 純哉]	年間授業/Yearly	1541
【K7055】	演習 [古澤 直人]	年間授業/Yearly	1542
【K7058】	演習 [松波 淳也]	年間授業/Yearly	1543
【K7059】	演習 [宮崎 憲治]	年間授業/Yearly	1544
【K7060】	演習 [石 碩]	年間授業/Yearly	1545
【K7061】	演習 [宮脇 典彦]	年間授業/Yearly	1546
【K7064】	演習 [富永 靖敬]	年間授業/Yearly	1548
【K7066】	演習 [湯前 祥二]	年間授業/Yearly	1549
【K7067】	演習 [YONGUE JULIA SALLE]	年間授業/Yearly	1550
【K7068】	演習 [山田 快]	年間授業/Yearly	1551
【K7070】	演習 [梅津 亮子]	年間授業/Yearly	1552
【K7071】	演習 [杉本 龍勇]	年間授業/Yearly	1553
【K7072】	演習 [池田 雅美]	年間授業/Yearly	1554
【K7073】	演習 [飯野 厚]	年間授業/Yearly	1556
【K7074】	演習 [伊東 林蔵]	年間授業/Yearly	1557
【K7075】	演習 [菅 幹雄]	年間授業/Yearly	1558
【K7076】	演習 [高橋 秀朋]	年間授業/Yearly	1559
【K7077】	演習 [藤田 貢崇]	年間授業/Yearly	1561
【K7078】	演習 [篠原 隆介]	年間授業/Yearly	1562
【K7079】	演習 [菅原 琢磨]	年間授業/Yearly	1563

【K7080】	演習 [結城 笙子] 年間授業/Yearly	1564
【K7082】	演習 [高尾 直知] 年間授業/Yearly	1566
【K7083】	演習 [張 欣] 年間授業/Yearly	1567
【K7084】	演習 [中谷 安男] 年間授業/Yearly	1568
【K7085】	演習 [倪 彬] 年間授業/Yearly	1569
講義・実習科目	【LA004】 政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	1570
講義・実習科目	【LA005】 政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	1571
講義・実習科目	【LA006】 日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	1571
講義・実習科目	【LA007】 憲法 [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1572
講義・実習科目	【LA008】 民法(総則) [松田 佳久] 春学期授業/Spring	1573
講義・実習科目	【LA009】 民法(財産法) [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	1574
講義・実習科目	【LA010】 ミクロ経済学 [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring	1575
講義・実習科目	【LA011】 マクロ経済学 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	1576
講義・実習科目	【LA012】 組織論 [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1577
講義・実習科目	【LA014】 財政学Ⅰ [古市 将人] 春学期授業/Spring	1577
講義・実習科目	【LA015】 財政学Ⅱ [古市 将人] 秋学期授業/Fall	1578
講義・実習科目	【LA016】 行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1578
講義・実習科目	【LA017】 行政法Ⅰ [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1580
講義・実習科目	【LA018】 行政法Ⅱ [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	1581
講義・実習科目	【LA019】 政策と制度 [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1582
講義・実習科目	【LA020】 人的資源論 [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1583
講義・実習科目	【LA102】 社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1584
講義・実習科目	【LA103】 社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	1585
講義・実習科目	【LA104】 中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1586
講義・実習科目	【LA105】 地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	1587
講義・実習科目	【LA106】 地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	1588
講義・実習科目	【LA107】 産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1589
講義・実習科目	【LA108】 産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1590
講義・実習科目	【LA109】 国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	1591
講義・実習科目	【LA110】 国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1592
講義・実習科目	【LA111】 経済政策論 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	1592
講義・実習科目	【LA112】 金融システム論 [八木 勲] 春学期授業/Spring	1593
講義・実習科目	【LA202】 環境経済学Ⅰ [島本 美保子] 春学期授業/Spring	1594
講義・実習科目	【LA203】 環境経済学Ⅱ [島本 美保子] 秋学期授業/Fall	1595
講義・実習科目	【LA204】 環境政策論 [馬場 健司] 春学期授業/Spring	1596
講義・実習科目	【LA205】 環境自治体論 [馬場 健司] 春学期授業/Spring	1597
講義・実習科目	【LA206】 エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	1598
講義・実習科目	【LA207】 気候変動論 [縫村 崇行] 春学期授業/Spring	1599
講義・実習科目	【LA210】 社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1600
講義・実習科目	【LA211】 社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1600
講義・実習科目	【LA303】 市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1601
講義・実習科目	【LA304】 地方財政論 [早崎 成都] 秋学期授業/Fall	1602
講義・実習科目	【LA305】 地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1603
講義・実習科目	【LA306】 地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	1605
講義・実習科目	【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1607
講義・実習科目	【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	1608
講義・実習科目	【LA310】 国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1609
講義・実習科目	【LA311】 国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1610
講義・実習科目	【LB004】 社会学理論AⅠ [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1611
講義・実習科目	【LB005】 社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1612
講義・実習科目	【LB006】 社会学理論BⅠ [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1613
講義・実習科目	【LB007】 社会学理論BⅡ [佐藤 成基] 秋学期授業/Fall	1614
講義・実習科目	【LB010】 理論社会学 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1615
講義・実習科目	【LB011】 社会学史Ⅰ [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1616
講義・実習科目	【LB012】 社会学史Ⅱ [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1617
講義・実習科目	【LB013】 歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1618
講義・実習科目	【LB014】 歴史社会学Ⅱ [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1618

講義・実習科目	【LB015】	数理社会学Ⅰ	〔斎藤 友里子〕	春学期授業/Spring	1619
講義・実習科目	【LB016】	数理社会学Ⅱ	〔斎藤 友里子〕	秋学期授業/Fall	1620
講義・実習科目	【LB017】	原典講読〔菊澤 佐江子〕		秋学期授業/Fall	1621
講義・実習科目	【LB018】	社会学総合特講A〔鈴木 智之〕		春学期授業/Spring	1622
講義・実習科目	【LB019】	社会学総合特講B〔鈴木 智道〕		秋学期授業/Fall	1623
講義・実習科目	【LB026】	統計調査法〔斎藤 友里子〕		春学期授業/Spring	1624
講義・実習科目	【LB102】	発達・教育の理論Ⅰ	〔山下 大厚〕	春学期授業/Spring	1625
講義・実習科目	【LB103】	発達・教育の理論Ⅱ	〔山下 大厚〕	秋学期授業/Fall	1626
講義・実習科目	【LB104】	家族社会学Ⅰ	〔菊澤 佐江子〕	春学期授業/Spring	1627
講義・実習科目	【LB105】	家族社会学Ⅱ	〔菊澤 佐江子〕	秋学期授業/Fall	1628
講義・実習科目	【LB106】	臨床社会学Ⅰ	〔三井 さよ〕	春学期授業/Spring	1629
講義・実習科目	【LB107】	臨床社会学Ⅱ	〔三井 さよ〕	秋学期授業/Fall	1630
講義・実習科目	【LB108】	社会心理学Ⅰ	〔土倉 英志〕	春学期授業/Spring	1631
講義・実習科目	【LB109】	社会心理学Ⅱ	〔土倉 英志〕	秋学期授業/Fall	1631
講義・実習科目	【LB110】	エイジングの社会学	〔姫野 宏輔〕	秋学期授業/Fall	1632
講義・実習科目	【LB202】	環境社会学Ⅰ	〔堀川 三郎〕	春学期授業/Spring	1633
講義・実習科目	【LB203】	環境社会学Ⅱ	〔堀川 三郎〕	秋学期授業/Fall	1634
講義・実習科目	【LB204】	現代農業・農村の社会学	〔池田 寛二〕	春学期授業/Spring	1635
講義・実習科目	【LB205】	地域環境論	〔池田 寛二〕	秋学期授業/Fall	1636
講義・実習科目	【LB301】	文化社会学B〔武田 俊輔〕		秋学期授業/Fall	1637
講義・実習科目	【LB304】	文化人類学〔謝 荔〕		春学期授業/Spring	1638
講義・実習科目	【LB305】	宗教社会学	〔永井 美紀子〕	春学期授業/Spring	1639
講義・実習科目	【LB306】	スポーツ文化論	〔水上 博司〕	秋学期授業/Fall	1640
講義・実習科目	【LB402】	国際社会学Ⅰ	〔田嶋 淳子〕	春学期授業/Spring	1641
講義・実習科目	【LB403】	国際社会学Ⅱ	〔田嶋 淳子〕	秋学期授業/Fall	1642
講義・実習科目	【LB404】	国際関係論Ⅰ	〔二村 まどか〕	春学期授業/Spring	1643
講義・実習科目	【LB405】	国際関係論Ⅱ	〔二村 まどか〕	秋学期授業/Fall	1644
講義・実習科目	【LB406】	国際社会と民族	〔高橋 誠一〕	春学期授業/Spring	1645
講義・実習科目	【LB407】	開発とジェンダー	〔吉村 真子〕	秋学期授業/Fall	1646
講義・実習科目	【LB408】	地域研究（ヨーロッパ）	〔高橋 愛〕	秋学期授業/Fall	1647
講義・実習科目	【LB409】	地域研究（アジア）	〔吉村 真子〕	春学期授業/Spring	1648
講義・実習科目	【LB410】	地域研究（中国）	〔綿貫 哲郎〕	秋学期授業/Fall	1649
講義・実習科目	【LB904】	特講（地域・都市社会学の再構築）	〔武田 俊輔〕	春学期授業/Spring	1650
講義・実習科目	【LD009】	メディアの思想	〔小林 直毅〕	秋学期授業/Fall	1651
講義・実習科目	【LD011】	社会問題とメディア	〔津田 正太郎〕	秋学期授業/Fall	1652
講義・実習科目	【LD012】	認知科学	〔中井 彩香〕	春学期授業/Spring	1653
講義・実習科目	【LD013】	知的財産権法	〔白田 秀彰〕	秋学期授業/Fall	1654
講義・実習科目	【LD014】	メディア法	〔白田 秀彰〕	秋学期授業/Fall	1655
講義・実習科目	【LD015】	公共性と民主主義Ⅰ	〔鈴木 宗徳〕	春学期授業/Spring	1656
講義・実習科目	【LD016】	公共性と民主主義Ⅱ	〔鈴木 宗徳〕	秋学期授業/Fall	1657
講義・実習科目	【LD023】	特講（コミュニケーション・デザイン論）	〔石寺 修三、青木 貞茂〕	春学期授業/Spring	1658
講義・実習科目	【LD100】	メディア文化論	〔稲増 龍夫〕	春学期授業/Spring	1659
講義・実習科目	【LD103】	広告・消費文化論	〔青木 貞茂〕	春学期授業/Spring	1660
講義・実習科目	【LD104】	広告・PR論	〔青木 貞茂〕	秋学期授業/Fall	1661
講義・実習科目	【LD106】	情報科学とコミュニケーション	〔金井 明人〕	春学期授業/Spring	1662
講義・実習科目	【LD107】	認知映像論	〔金井 明人〕	秋学期授業/Fall	1663
講義・実習科目	【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ	〔水野 剛也〕	春学期授業/Spring	1664
講義・実習科目	【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ	〔飯田 裕美子〕	秋学期授業/Fall	1665
講義・実習科目	【LD200】	消費者行動論	〔諸上 茂光〕	春学期授業/Spring	1666
講義・実習科目	【LD203】	都市空間とデザインⅠ	〔齋藤 伊久太郎〕	春学期授業/Spring	1667
講義・実習科目	【LD204】	都市空間とデザインⅡ	〔齋藤 伊久太郎〕	秋学期授業/Fall	1668
講義・実習科目	【LD206】	メディアの歴史	〔小林 直毅〕	春学期授業/Spring	1668
講義・実習科目	【LD210】	メディアコンテンツ論	〔西田 善行〕	秋学期授業/Fall	1669
講義・実習科目	【LD300】	メディアテクノロジーと社会	〔橋爪 絢子〕	春学期授業/Spring	1670
講義・実習科目	【LD301】	メディアテクノロジーと社会分析	〔橋爪 絢子〕	秋学期授業/Fall	1671
講義・実習科目	【LD303】	社会ネットワーク論Ⅰ	〔境 新一〕	春学期授業/Spring	1672
講義・実習科目	【LD304】	社会ネットワーク論Ⅱ	〔境 新一〕	秋学期授業/Fall	1673

講義・実習科目【LD306】デジタル情報環境論〔土橋 臣吾〕春学期授業/Spring	1674
講義・実習科目【LD307】デジタル情報環境分析〔土橋 臣吾〕秋学期授業/Fall	1675
講義・実習科目【LD309】ソーシャルメディア論〔藤代 裕之〕春学期授業/Spring	1676
講義・実習科目【LD310】ソーシャルメディア分析〔藤代 裕之〕秋学期授業/Fall	1676
専門教育科目_専門基幹科目【M1610】スポーツコーチング論Ⅰ〔平野 裕一〕秋学期授業/Fall	1677
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】スポーツトレーニング論Ⅰ〔平野 裕一〕春学期授業/Spring	1678
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント〔木下 訓光〕春学期授業/Spring	1680
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1730】スポーツリスクマネジメント〔木下 訓光〕春学期授業/Spring	1682
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ〔井上 尊寛〕秋学期授業/Fall	1684
専門教育科目_専門基幹科目【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ〔井上 尊寛〕秋学期授業/Fall	1685
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1790】スポーツコーチング論A〔平野 裕一〕秋学期授業/Fall	1686
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論〔山本 浩〕秋学期授業/Fall	1687
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3150】マーケティングリサーチ実習〔伊藤 真紀〕年間授業/Yearly	1688
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ〔伊藤 真紀〕春学期授業/Spring	1690
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ〔伊藤 真紀〕春学期授業/Spring	1691
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】マーケティングリサーチ実習〔伊藤 真紀〕春学期授業/Spring	1692
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習〔伊藤 真紀〕秋学期授業/Fall	1693
【N1001】地域問題入門〔野田 岳仁〕春学期授業/Spring	1694
【N1002】コミュニティマネジメント入門〔水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁〕春学期授業/Spring	1695
【N1003】社会問題論〔高良 麻子〕春学期授業/Spring	1696
【N1006】心理学(2021年度以降入学者)〔前田 基成〕春学期授業/Spring	1696
【N1006】心理学(2020年度以前入学者)〔前田 基成〕春学期授業/Spring	1697
【N1050】福祉国家論〔布川 日佐史〕春学期授業/Spring	1698
【N1052】社会的包摂論〔水野 雅男〕秋学期授業/Fall	1699
【N1053】地域計画論〔今井 裕久〕秋学期授業/Fall	1700
【N1054】コミュニティビジネス論〔山藤 竜太郎〕秋学期授業/Fall	1701
【N1055】ローカルイノベーション論〔野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也〕秋学期授業/Fall	1702
【N1059】アジア地域開発論(2021年度以降入学者)〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	1703
【N1059】アジア地域開発論(2020年度以前入学者)〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	1704
【N1101】社会福祉原理〔平野 寛弥〕秋学期授業/Fall	1705
【N1102】医療政策論〔小磯 明〕春学期授業/Spring	1706
【N1107】都市住宅政策論〔水野 雅男〕春学期授業/Spring	1707
【N1108】地域文化政策論〔須田 英一〕春学期授業/Spring	1708
【N1109】環境政策論〔藤澤 浩子〕春学期授業/Spring	1709
【N1110】地方自治論〔中嶋 学〕秋学期授業/Fall	1710
【N1113】地域経済論〔関司 直也〕秋学期授業/Fall	1711
【N1115】福祉の思想と歴史〔白川 耕一〕春学期授業/Spring	1712
【N1116】国際協力論〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	1713
【N1117】Community Based Inclusive Development〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	1714
【N1151,N6151】地域経営論〔松本 昭〕春学期授業/Spring	1715
【N1152】ソーシャルイノベーション論〔土肥 将敦〕春学期授業/Spring	1716
【N1153】ソーシャルマネジメント論〔樋口 邦史〕秋学期授業/Fall	1717
【N1154】ソーシャルファイナンス論〔徳永 洋子〕春学期授業/Spring	1718
【N1155,N6155】NPO論〔渡真利 紘一〕春学期授業/Spring	1719
【N1156】協同組合論〔阿高 あや〕秋学期授業/Fall	1720
【N1158】居住福祉論〔大原 一興〕春学期授業/Spring	1721
【N1160】人権活動論〔寺中 誠〕春学期授業/Spring	1722
【N1161,N6161】農山村とコミュニティ〔関司 直也〕春学期授業/Spring	1723
【N1162,N6162】コミュニティアート〔吉野 裕之〕秋学期授業/Fall	1724
【N1163,N6163】コミュニティスポーツ〔遠藤 華英〕春学期授業/Spring	1725
【N1164】地域遺産マネジメント論〔須田 英一〕春学期授業/Spring	1726
【N1165,N6165】地域ツーリズム〔野田 岳仁〕秋学期授業/Fall	1727
【N1166】住民参加の手法〔杉崎 和久〕春学期授業/Spring	1728
【N1171】ボランティアアクション(2020年度以前入学者)〔高井 大輔〕秋学期授業/Fall	1729
【N1171】ボランティアアクション(2021年度以降入学者)〔高井 大輔〕秋学期授業/Fall	1730
【N1172】Disability and Development in Asia〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	1731

【N1208】セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1732
【N1211,N6211】多文化ソーシャルワーク [中條 桂子] 春学期授業/Spring	1733
【N1212】死生観とソーシャルワーク [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	1734
【N1219】家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall	1735
【N1222,N6222】コミュニティ心理学 (2018 年度以降入学者) [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	1736
【N1223】異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1737
【N1225】教育心理学特講 [大瀧 玲子] 秋学期授業/Fall	1738
【N1453】心理療法 [津村 麻紀] 春学期授業/Spring	1739
【N1505】臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1740
【N1506】精神分析学 [中 康] 秋学期授業/Fall	1741
【N1507】児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1742
【N1508】認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	1743
【N1512】グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1744
【N1608】精神生理学特講 [望月 聡] 春学期授業/Spring	1745
【N1609】認知心理学特講 [望月 聡] 秋学期授業/Fall	1746
【N8001】ケアマネジメント論 [柴崎 祐美] 春学期授業/Spring	1747
【N8004】文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	1748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0102】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0104】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0106】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0108】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0110】情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	1758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	1759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0112】情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	1760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0113】情報処理演習Ⅰ [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring	1761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0114】情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	1762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	1764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0116】情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	1765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0117】情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	1766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0118】情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	1767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0119】情報処理演習Ⅰ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	1768
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0120】情報処理演習Ⅱ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	1769

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0453】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	1806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0454】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	1808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring	1810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0503】法政学の探究 L B [古俣 達郎] 春学期授業/Spring	1812
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0504】法政学の探究 L A [古俣 達郎、高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	1813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0621】リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ：小原文明、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービスグループ] 春学期授業/Spring	1815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1001】日本古典文学 A [表 きよし] 春学期授業/Spring	1816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1002】日本古典文学 B [表 きよし] 秋学期授業/Fall	1817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1003】日本古典文学 A [園 明美] 春学期授業/Spring	1819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1004】日本古典文学 B [園 明美] 秋学期授業/Fall	1820
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1005】日本古典文学 A [成島 知子] 春学期授業/Spring	1821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1006】日本古典文学 B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	1822
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1007】日本古典文学 A [成島 知子] 春学期授業/Spring	1824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1008】日本古典文学 B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	1825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1009】日本近・現代文学 A [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	1827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1010】日本近・現代文学 B [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	1828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1013】日本文学 A [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	1829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1014】日本文学 B [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	1830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1015】日本文学 A [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	1831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1016】日本文学 B [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	1832
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1017】外国文学 A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	1833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1018】外国文学 B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	1834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1019】外国文学 A [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	1835
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1020】外国文学 B [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	1836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1021】外国文学 A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	1837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1022】外国文学 B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	1839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1023】外国文学 A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	1840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1024】外国文学 B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	1842

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1025】外国文学A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	1843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1026】外国文学B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	1844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1027】日本近・現代文学A [安藤 優一] 春学期授業/Spring	1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1028】日本近・現代文学B [安藤 優一] 秋学期授業/Fall	1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1061】文章論 [安藤 優一] 春学期授業/Spring	1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1062】文章論 [関口 雄士] 春学期授業/Spring	1848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1063】文章論 [関口 雄士] 春学期授業/Spring	1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1064】文章論 [関口 雄士] 秋学期授業/Fall	1850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1065】文章論 [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	1851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1069】文章論 [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	1852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1081】言語学A [板井 美佐] 春学期授業/Spring	1853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1082】言語学B [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	1854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1083】言語学A [興石 哲哉] 春学期授業/Spring	1855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1084】言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	1857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1085】言語学A [副島 健作] 春学期授業/Spring	1858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1086】言語学B [副島 健作] 秋学期授業/Fall	1859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1091】哲学I [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	1861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1092】哲学II [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	1862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1093】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1094】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	1864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1095】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1096】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	1866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1097】哲学I [山口 誠一] 春学期授業/Spring	1867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1098】哲学II [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	1868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1099】哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	1869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1100】哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	1870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1101】哲学I [谷口 力] 春学期授業/Spring	1871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1102】哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	1872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】哲学I [大西 正人] 春学期授業/Spring	1873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】哲学II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	1874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】哲学I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	1875
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	1876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】哲学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	1877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】哲学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	1878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】哲学I [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	1879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】哲学II [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	1880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】倫理学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	1881

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fall	1882
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学Ⅰ [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	1883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学Ⅱ [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	1884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学Ⅰ [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	1885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学Ⅱ [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	1886
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学Ⅰ [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring	1887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学Ⅱ [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	1888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学Ⅰ [森村 修] 春学期授業/Spring	1890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学Ⅱ [森村 修] 秋学期授業/Fall	1891
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学Ⅰ [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	1892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学Ⅱ [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	1893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学Ⅰ [越部 良一] 春学期授業/Spring	1894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fall	1895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】 倫理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授業/Spring	1896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】 倫理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/Fall	1897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】 倫理学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	1898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】 倫理学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	1899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】 倫理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】 倫理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	1901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】 倫理学Ⅰ [鵜澤 和彦] 春学期授業/Spring	1903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】 倫理学Ⅱ [鵜澤 和彦] 秋学期授業/Fall	1904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】 倫理学Ⅰ [大貫 義久] 春学期授業/Spring	1906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】 倫理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授業/Fall	1907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】 倫理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】 倫理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	1909
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】 倫理学Ⅰ [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	1911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】 倫理学Ⅱ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	1912
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】 倫理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】 倫理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	1915

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	1916
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	1918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	1920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	1921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	1922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	1924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	1925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史 I [内川 勇海] 春学期授業/Spring	1930
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史 II [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	1931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史 I [内川 勇海] 春学期授業/Spring	1932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史 II [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	1933
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】 日本史 I [根崎 光男] 春学期授業/Spring	1934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】 日本史 II [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	1935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1203】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1204】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1205】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1206】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1207】 日本史 I [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	1942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1208】 日本史 II [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	1943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1209】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1210】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1211】 日本史 I [根崎 光男] 春学期授業/Spring	1947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1212】 日本史 II [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	1948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1221】 宗教論 I [若林 明彦] 春学期授業/Spring	1949

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1222】 宗教論Ⅱ [若林 明彦] 秋学期授業/Fall	1950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1223】 宗教論Ⅰ [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	1951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1224】 宗教論Ⅱ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	1952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1231】 芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1232】 芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1233】 芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	1955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1234】 芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	1956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1235】 芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	1957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1236】 芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	1959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1301】 日本文学と文化L A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	1960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1302】 日本文学と文化L B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	1961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1303】 日本文学と文化L C [今泉 隆裕] 春学期授業/Spring	1962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1304】 日本文学と文化L D [今泉 隆裕] 秋学期授業/Fall	1964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1305】 日本文学と文化L E [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	1965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1306】 日本文学と文化L F [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	1966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1307】 日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	1967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1308】 日本文学と文化L H [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	1969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1309】 外国文学と文化L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1310】 外国文学と文化L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1311】 外国文学と文化L C [日原 傳] 春学期授業/Spring	1973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1312】 外国文学と文化L D [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1313】 外国文学と文化L E [大崎 さやの] 春学期授業/Spring	1975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1314】 外国文学と文化L F [大崎 さやの] 秋学期授業/Fall	1976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1315】 文学と社会L A [梶裕史] 春学期授業/Spring	1977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1316】 文学と社会L B [梶裕史] 秋学期授業/Fall	1979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1319】 文学と社会L C [白戸満喜子] 春学期授業/Spring	1980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1320】 文学と社会L D [白戸満喜子] 秋学期授業/Fall	1981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1321】 文学と社会L E [中澤忠之] 春学期授業/Spring	1982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1322】 文学と社会L F [中澤忠之] 秋学期授業/Fall	1983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1323】 日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	1984

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1324】日本文学と文化 LH [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	1986
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1362】音声学 L [副島 健作] 秋学期授業/Fall	1987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1381】哲学 L I [大西 正人] 春学期授業/Spring	1988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1382】哲学 L II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	1989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1383】哲学 L I [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	1990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1384】哲学 L II [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	1991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1391】倫理学 L I [森村 修] 春学期授業/Spring	1992
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1392】倫理学 L II [森村 修] 秋学期授業/Fall	1994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1393】倫理学 L I [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	1995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1394】倫理学 L II [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	1996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1395】倫理学 L I [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	1997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1396】倫理学 L II [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	1999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1397】倫理学 L I [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	2000
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1398】倫理学 L II [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	2001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1399】倫理学 L I [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring	2002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1400】倫理学 L II [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	2004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1401】倫理学 L I [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	2005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1402】倫理学 L II [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	2006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1411】論理学 L I [佐々木 護] 春学期授業/Spring	2007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1412】論理学 L II [佐々木 護] 秋学期授業/Fall	2008
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1421】東洋史 L I [岡安 勇] 春学期授業/Spring	2009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1422】東洋史 L II [岡安 勇] 秋学期授業/Fall	2011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1423】東洋史 L I [長谷部 圭彦] 春学期授業/Spring	2012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1424】東洋史 L II [長谷部 圭彦] 秋学期授業/Fall	2013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1431】西洋史 L A [後藤 篤子] 春学期授業/Spring	2014
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1432】西洋史 L B [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall	2015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1433】西洋史 L A [新井 隆] 春学期授業/Spring	2016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1434】西洋史 L B [新井 隆] 秋学期授業/Fall	2018

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1435】西洋史ⅠA [渡辺 知]	
春学期授業/Spring	2021
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1436】西洋史ⅠB [内川 勇海]	
秋学期授業/Fall	2022
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1437】西洋史ⅠA [渡辺 知]	
春学期授業/Spring	2023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1438】西洋史ⅠB [内川 勇海]	
秋学期授業/Fall	2024
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1441】日本史ⅠⅠ [森 朋久]	
春学期授業/Spring	2025
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1442】日本史ⅠⅡ [森 朋久]	
秋学期授業/Fall	2026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1443】日本史ⅠⅠ [仁平 義孝]	
春学期授業/Spring	2027
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1444】日本史ⅠⅡ [仁平 義孝]	
秋学期授業/Fall	2028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1445】日本史ⅠⅠ [貫井 裕恵]	
春学期授業/Spring	2029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1446】日本史ⅠⅡ [貫井 裕恵]	
秋学期授業/Fall	2030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1447】日本史ⅠⅠ [鈴木 多聞]	
春学期授業/Spring	2031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1448】日本史ⅠⅡ [鈴木 多聞]	
秋学期授業/Fall	2032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1451】宗教論ⅠⅠ [須藤 孝也]	
春学期授業/Spring	2033
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1452】宗教論ⅠⅡ [須藤 孝也]	
秋学期授業/Fall	2034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2001】法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/Spring	2035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2002】法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	2036
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2003】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	2037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2004】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2038
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2005】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	2039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2006】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2040
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2007】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	2041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2008】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2042
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2009】法学Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	2043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2010】法学Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	2044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2011】法学Ⅰ [水野 圭子] 春学期授業/Spring	2045
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2012】法学Ⅱ [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	2046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2013】法学Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	2048
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2014】法学Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2015】法学Ⅰ [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	2050
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2016】法学Ⅱ [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	2051
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2017】法学Ⅰ [菅谷 麻衣] 春学期授業/Spring	2052
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2018】法学Ⅱ [菅谷 麻衣] 秋学期授業/Fall	2053
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春学期授業/Spring	2054

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋学期授業/Fall	2055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2033】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	2056
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	2057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2059
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】 経済学Ⅰ [村舘 靖之] 春学期授業/Spring	2060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】 経済学Ⅱ [村舘 靖之] 秋学期授業/Fall	2061
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】 経済学Ⅰ [梅溪 健児] 春学期授業/Spring	2062
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】 経済学Ⅱ [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	2063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2064
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2066
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2068
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2072
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	2075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	2076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2080
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2083
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2088

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	2090
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	2091
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	2092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】地理学Ⅰ [高木 正、米家 志乃 布] 春学期授業/Spring	2093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】地理学Ⅱ [高木 正、米家 志乃 布] 秋学期授業/Fall	2094
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】地理学Ⅰ [前川 明彦、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	2095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】地理学Ⅱ [前川 明彦、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	2096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期 授業/Spring	2097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期 授業/Fall	2098
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】地理学Ⅰ [前畑 明美、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	2099
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】地理学Ⅱ [前畑 明美、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	2100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】地理学Ⅰ [前畑 明美、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	2101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】地理学Ⅱ [前畑 明美、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	2102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】社会学Ⅰ [菅野 摂子] 春学期授 業/Spring	2103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】社会学Ⅱ [菅野 摂子] 秋学期授 業/Fall	2104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	2105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fa	2106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	2108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fa	2109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	2110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fa	2111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	2112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fa	2113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期 授業/Spring	2114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期 授業/Fall	2115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	2116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fa	2117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	2118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fa	2119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	2120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2162】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	2121

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	2122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fa	2123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	2124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fa	2125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2169】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	2128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2170】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	2129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授 業/Spring	2130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fa	2131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	2132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	2133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	2136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2193】文化人類学 [谷 憲一] 春学期授 業/Spring	2137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2195】文化人類学 [北原 卓也] 春学期授 業/Spring	2138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授 業/Spring	2139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	2140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2201】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	2141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2203】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	2143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2205】文化人類学 [廣田 龍平] 春学期授 業/Spring	2144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2207】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授 業/Spring	2145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2209】文化人類学 [石森 大知] 春学期授 業/Spring	2146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2211】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期 授業/Spring	2147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2212】社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期 授業/Fall	2148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2213】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	2149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2214】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	2150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2215】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期 授業/Spring	2151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2216】社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期 授業/Fall	2152

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2217】 社会思想 I [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2218】 社会思想 II [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2219】 社会思想 I [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	2155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】 社会思想 II [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall	2157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】 社会思想 I [村田 玲] 春学期授業/Spring	2158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】 社会思想 II [村田 玲] 秋学期授業/Fall	2159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2321】 経済学 L A [中平 千彦] 春学期授業/Spring	2160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2322】 経済学 L B [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	2162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2323】 経済学 L A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	2163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2324】 経済学 L B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	2164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2325】 経済学 L A [陳 文挙] 春学期授業/Spring	2166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2326】 経済学 L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	2167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2327】 経済学 L A [水野 和夫] 春学期授業/Spring	2169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2328】 経済学 L B [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	2170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2341】 心理学 L A [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2342】 心理学 L B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2343】 心理学 L A [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2344】 心理学 L B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2351】 地理学 L A [長沢 利明、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2352】 地理学 L B [長沢 利明、米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2353】 地理学 L C [片岡 義晴、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2354】 地理学 L D [片岡 義晴、米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2355】 地理学 L C [高木 正、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2356】 地理学 L D [高木 正、米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2357】 地理学 L A [長沢 利明、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2358】 地理学 L B [長沢 利明、米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2359】 地理学 L C [前川 明彦、米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2360】 地理学 L D [前川 明彦、米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2187

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2361】 社会学 L A [松下 優一] 春学期授業/Spring	2188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2362】 社会学 L B [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2363】 社会学 L C [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2364】 社会学 L D [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2371】 政治学 L A [木村 正俊] 春学期授業/Spring	2192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2372】 政治学 L B [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2382】 文化人類学 L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	2194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2384】 文化人類学 L [谷 憲一] 秋学期授業/Fall	2195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2386】 文化人類学 L [北原 卓也] 秋学期授業/Fall	2196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2388】 文化人類学 L [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	2197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2390】 文化人類学 L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	2198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2392】 文化人類学 L [梅村 絢美] 秋学期授業/Fall	2200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2394】 文化人類学 L [渡辺 浩平] 秋学期授業/Fall	2201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2396】 文化人類学 L [廣田 龍平] 秋学期授業/Fall	2202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2398】 文化人類学 L [梅村 絢美] 秋学期授業/Fall	2203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2400】 文化人類学 L [石森 大知] 秋学期授業/Fall	2205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2401】 社会思想 L A [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2402】 社会思想 L B [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2403】 社会思想 L A [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2404】 社会思想 L B [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】 教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】 教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】 教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】 教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】 教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】 教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】 教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】 教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2217

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】教養数学 A [池田 宏一郎] 春学期 授業/Spring	2218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】教養数学 B [池田 宏一郎] 秋学期 授業/Fall	2219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】教養数学 A [倉田 俊彦] 春学期授 業/Spring	2220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】教養数学 B [倉田 俊彦] 秋学期授 業/Fall	2221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授 業/Spring	2222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授 業/Fall	2223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授 業/Spring	2224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授 業/Fall	2225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3019】教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授 業/Spring	2226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3020】教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授 業/Fall	2227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】基礎数学 I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	2228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	2229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】基礎数学 I [板井 昌典] 春学期 授業/Spring	2230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】基礎数学 II [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	2231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】基礎数学 I [池田 宏一郎] 春学 期授業/Spring	2232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】基礎数学 II [池田 宏一郎] 秋学 期授業/Fall	2233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】基礎数学 I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	2234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	2235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】基礎数学 I [板井 昌典] 春学期 授業/Spring	2236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3040】基礎数学 II [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	2237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3041】基礎数学 I [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	2238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3042】基礎数学 II [倉田 俊彦] 秋学期 授業/Fall	2239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3043】基礎数学 I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3044】基礎数学 II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3047】基礎数学 I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3048】基礎数学 II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3051】入門物理学 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3052】入門物理学 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2245

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3053】 入門物理学 A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3054】 入門物理学 B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3055】 入門物理学 A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3056】 入門物理学 B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3057】 入門物理学 A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3058】 入門物理学 B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3059】 入門物理学 A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3060】 入門物理学 B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3061】 入門物理学 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3062】 入門物理学 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3065】 入門物理学 A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3066】 入門物理学 B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3081】 入門生物学 A [木原 章] 春学期授 業/Spring	2260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3082】 入門生物学 B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	2261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3083】 入門生物学 A [木原 章] 春学期授 業/Spring	2262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3084】 入門生物学 B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	2263
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3085】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3086】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3087】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3088】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3089】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3090】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3091】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3092】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3093】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3094】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3111】 入門化学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	2277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3112】 入門化学 B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall	2278

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3113】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3114】 入門化学 B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3117】 入門化学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3118】 入門化学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3119】 入門化学 A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	2283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3120】 入門化学 B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	2284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3121】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3122】 入門化学 B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3125】 入門化学 A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	2287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3126】 入門化学 B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	2288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3171】 天文学 A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3172】 天文学 B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3173】 天文学 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring	2291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3174】 天文学 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	2292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3175】 天文学 A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3176】 天文学 B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3181】 科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3182】 科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3183】 科学史 A [金光 秀和] 春学期授業/Spring	2298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3184】 科学史 B [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	2299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3185】 科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3186】 科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3187】 科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3188】 科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3211】 発展数学Ⅰ [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3212】 発展数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3213】 発展数学Ⅰ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3214】 発展数学Ⅱ [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2309

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3221】 教養物理学 L A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3222】 教養物理学 L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3223】 教養物理学 L B [吉田 智] 春学期授業/Spring	2312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3224】 教養物理学 L B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3225】 教養物理学 L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3226】 教養物理学 L C [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3231】 教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	2316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3232】 教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	2317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3233】 教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	2319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3234】 教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	2320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3241】 教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3242】 教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	2323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3243】 教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3244】 教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	2326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3261】 教養化学 L A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3262】 教養化学 L A [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	2329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3263】 教養化学 L B [中島 弘一] 春学期授業/Spring	2330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3264】 教養化学 L B [西村 直美] 秋学期授業/Fall	2331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3266】 教養化学 L A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3267】 教養化学 L C [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3268】 教養化学 L D [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3269】 教養化学 L E [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3301】 サイエンス・ラボ A [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3302】 サイエンス・ラボ B [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3303】 サイエンス・ラボ A [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3304】 サイエンス・ラボ B [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3305】 サイエンス・ラボ A [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3306】 サイエンス・ラボ B [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2341

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3307】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3308】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3309】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3310】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3311】サイエンス・ラボA [向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3312】サイエンス・ラボB [向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3313】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3314】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3315】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3316】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3317】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3318】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3319】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3320】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3321】サイエンス・ラボA [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3322】サイエンス・ラボB [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3323】サイエンス・ラボA [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3324】サイエンス・ラボB [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3325】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3326】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3327】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3328】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3329】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3330】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3331】サイエンス・ラボA [向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3332】サイエンス・ラボB [向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3334】サイエンス・ラボB [向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2370

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3336】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3337】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3338】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3339】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3340】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3341】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3342】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3343】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3344】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5451】健康の科学L A [阿 部 巧] 春学期授業/Spring	2397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5452】健康の科学L B [藤 平 杏子] 秋学期授業/Fall	2398

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5453】健康の科学 L A [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	2399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5454】健康の科学 L B [谷本 都栄] 秋学期授業/Fall	2400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6001】第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6002】第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	2403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6005】第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6006】第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6051】日本語コミュニケーション A [副島 健作] 春学期授業/Spring	2406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6052】日本語コミュニケーション B [副島 健作] 秋学期授業/Fall	2407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6101】漢字・漢文学 A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	2409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6102】漢字・漢文学 B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	2410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】教養ゼミ I [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	2411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】教養ゼミ II [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	2412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6105】文芸創作講座 A [グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	2413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6106】文芸創作講座 B [グアリーニ レティツィア] 秋学期授業/Fall	2414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6107】日本芸能論 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	2415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6108】日本芸能論 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	2416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6109】身体表現論 A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	2417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6110】身体表現論 B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	2418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6111】美術論 A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	2419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6112】美術論 B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	2421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6113】芸術と人間 A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	2423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6114】芸術と人間 B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	2424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6115】仏教思想論 A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6116】仏教思想論 B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6117】行為の理論 A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	2428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6118】行為の理論 B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	2429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】教養ゼミ I [森村 修] 春学期授業/Spring	2430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】教養ゼミ II [森村 修] 秋学期授業/Fall	2431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6121】中国の民族と文化 A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6122】中国の民族と文化 B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6125】古代日本・中国の法と社会 A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	2435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6126】古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	2436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	2437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	2438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2440

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズ A [グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	2441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クィア・スタディーズ B [グアリーニ レティツィア] 秋学期授業/Fall	2442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史 A [吉田 敬介] 春学期 授業/Spring	2443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史 B [吉田 敬介] 秋学期 授業/Fall	2444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論 A [山本 そ のこ] 春学期授業/Spring	2445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論 B [山本 そ のこ] 秋学期授業/Fall	2447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミ I [矢澤 美佐紀] 春学期授業/Spring	2448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミ II [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	2449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6143】 イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	2450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6144】 イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	2451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6204】 教養ゼミ II [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6205】 教養ゼミ I [水野 和夫] 春学期授業/Spring	2453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6206】 教養ゼミ II [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	2455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6207】 福祉社会論 A [菅野 摂子] 春学期授業/Spring	2456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6208】 福祉社会論 B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	2457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春 学期授業/Spring	2458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋 学期授業/Fall	2459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学期 授業/Fall	2460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学 A [宇野 カオリ] 春学期授 業/Spring	2461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学 B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6219】 沖縄を考える A [明田川 融、大里 知 子] 春学期授業/Spring	2464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6220】 沖縄を考える B [明田川 融、大里 知 子] 秋学期授業/Fall	2465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6223】 教養ゼミ I [金子 匡良] 春学期授業/Spring	2466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6224】 教養ゼミ II [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌 A [加藤 美 雄] 春学期授業/Spring	2468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌 B [加藤 美 雄] 秋学期授業/Fall	2469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	2471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界 A [池田 宏一郎] 春学期授 業/Spring	2473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙 A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙 B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術 A [井坂 政裕] 春学期授 業/Spring	2477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術 B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2478

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子 A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子 B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミ I [川上 裕司] 春学期授業/Spring	2481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミ II [川上 裕司] 秋学期授業/Fall	2482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6321】 教養ゼミ I [木原 章] 春学期授業/Spring	2483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6322】 教養ゼミ II [木原 章] 秋学期授業/Fall	2484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学 A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学 B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学 A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	2487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学 B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	2488
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 IT リテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	2491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	2492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論 A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論 B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミ I [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2498
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミ II [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語 A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	2503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語 B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	2504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級 A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	2505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級 B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	2506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想 A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想 B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏 A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	2509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏 B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	2510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化 A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化 B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術 A [辻 英史] 春学期授業/Spring	2513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術 B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	2514

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6501】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6505】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	2518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6506】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	2519
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6507】 スポーツ科学 A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	2520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6508】 スポーツ科学 B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	2522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6511】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	2526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6512】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	2527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	2528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	2529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6515】 スポーツ科学 A [秋本 成晴] 春学期授業/Spring	2530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6516】 スポーツ科学 B [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	2532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	2533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	2535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	2536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	2537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6523】 教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	2538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6524】 教養ゼミ II [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	2540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring	2545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall	2546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6533】 教養ゼミ I [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	2549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6607】 教養ゼミ I [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	2555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6608】 教養ゼミ II [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	2556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6609】 フランス語コミュニケーション (中・上級) A [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	2558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6610】 フランス語コミュニケーション (中・上級) B [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	2559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2560

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	2562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	2563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	2564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	2565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授業/Spring	2568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	2569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級A [周 重雷] 春学期授業/Spring	2572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	2573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳A [高田 裕子] 春学期授業/Spring	2574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳B [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	2575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	2578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	2579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	2581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	2582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	2585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	2586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring	2587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	2588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	2589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	2590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	2591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	2593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	2594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2301】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2595

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2302】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2303】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [ELIKO M KOSAKA] 春学期授業/Spring	2598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2304】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [ELIKO M KOSAKA] 秋学期授業/Fall	2599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2305】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2306】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2351】 ビジネス・イングリッシュⅠ [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2352】 ビジネス・イングリッシュⅡ [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2381】 English Reading and Vocabulary Ⅰ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	2604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2382】 English Reading and Vocabulary Ⅱ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	2605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2383】 English Reading and Vocabulary Ⅰ [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	2606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2384】 English Reading and Vocabulary Ⅱ [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	2607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2391】 English Academic Writing Ⅰ [DYLAN O SCUDDER] 春学期授業/Spring	2608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2392】 English Academic Writing Ⅱ [DYLAN O SCUDDER] 秋学期授業/Fall	2610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2393】 English Academic Writing Ⅰ [MARK D BURNS] 春学期授業/Spring	2612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2394】 English Academic Writing Ⅱ [MARK D BURNS] 秋学期授業/Fall	2613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2395】 English Academic Writing Ⅰ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2396】 English Academic Writing Ⅱ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2401】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	2616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2402】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	2617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2403】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [岩坪 友子] 春学期授業/Spring	2619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2404】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [岩坪 友子] 秋学期授業/Fall	2620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2405】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	2622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2406】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	2623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2407】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [余田 剛] 春学期授業/Spring	2624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2408】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [余田 剛] 秋学期授業/Fall	2625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2409】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [金谷 優子] 春学期授業/Spring	2627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2410】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	2629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2411】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	2631

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2412】 英語で学ぶ 社会と文化Ⅱ [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	2632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2441】 English Presentation I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	2634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2442】 English Presentation II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	2635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2443】 English Presentation I [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2444】 English Presentation II [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2445】 English Presentation I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	2638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2446】 English Presentation II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	2640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2447】 English Presentation I [MARK D BURNS] 春学期授業/Spring	2641
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2448】 English Presentation II [MARK D BURNS] 秋学期授業/Fall	2642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2451】 英語アカデ ミック・リーディングⅠ [岩崎 博] 春学期授業/Spring	2643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2452】 英語アカデ ミック・リーディングⅡ [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	2645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2481】 英語検定試 験対策Ⅰ [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	2647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2482】 英語検定試 験対策Ⅱ [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	2649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2483】 英語検定試 験対策Ⅰ [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2484】 英語検定試 験対策Ⅱ [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2485】 英語検定試 験対策Ⅰ [宮崎 早季] 春学期授業/Spring	2653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2486】 英語検定試 験対策Ⅱ [宮崎 早季] 秋学期授業/Fall	2654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2487】 英語検定試 験対策Ⅰ [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	2655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2488】 英語検定試 験対策Ⅱ [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	2656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2601】 Oral Communication I [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2602】 Oral Communication II [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2603】 Oral Communication I [R. G. ジェイムズ] 春学期授業/Spring	2659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2604】 Oral Communication II [R. G. ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	2660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2611】 English through Movies and Drama I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2612】 English through Movies and Drama II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2613】 English through Movies and Drama I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	2663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2614】 English through Movies and Drama II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	2664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2621】 TOEIC(R) I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2665

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2622】 TOEIC(R)	
Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2623】 TOEIC(R)	
Ⅰ [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2624】 TOEIC(R)	
Ⅱ [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2631】 英語検定試	
験対策Ⅰ [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2632】 英語検定試	
験対策Ⅱ [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2641】 Business	
CommunicationⅠ [今井 澄子] 春学期授業/Spring	2672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2642】 Business	
CommunicationⅡ [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	2673
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2651】 ニュース英	
語Ⅰ [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	2675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2652】 ニュース英	
語Ⅱ [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	2676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3621】 日本語の世界 L A	
[尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3622】 日本語の世界 L B	
[尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3623】 日本の文化と社会	
L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3624】 日本の文化と社会	
L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コ	
ミュニケーションⅠ [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	2683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コ	
ミュニケーションⅡ [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	2684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現	
法Ⅰ [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現	
法Ⅱ [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視	
聴覚Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視	
聴覚Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4287】 SDGs で学	
ぶドイツ語Ⅰ [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	2689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4288】 SDGs で学	
ぶドイツ語Ⅱ [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	2691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界 L	
A [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界 L	
B [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社	
会 L A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社	
会 L B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界	
L A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	2697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界	
L B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語	
コミュニケーション (初級)Ⅰ [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	2700

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語 コミュニケーション (初級) II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	2701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5279】 時事フラン ス語 I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5280】 時事フラン ス語 II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と 社会 L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	2707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と 社会 L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	2708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5293】 フランス生活文化 論 L A [河村 英和] サマーセッション/Summer Session	2710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5294】 フランス生活文化 論 L B [河村 英和] 秋学期授業/Fall	2711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5295】 フランス生活文化 論 L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	2713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5296】 フランス生活文化 論 L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	2714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6243】 ロシアの文化と社 会 L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	2715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6244】 ロシアの文化と社 会 L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	2716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7413】 中国語コ ミュニケーション初級 I [周 重雷] 春学期授業/Spring	2717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7414】 中国語コ ミュニケーション初級 II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	2718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7431】 中国語作文初 級 I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	2719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7432】 中国語作文初 級 II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	2720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7433】 中国語視聴覚 初級 I [劉 渴水] 春学期授業/Spring	2721
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7434】 中国語視聴覚 初級 II [劉 渴水] 秋学期授業/Fall	2722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7437】 資格中国語 初級 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	2723
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7438】 資格中国語 初級 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	2724
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7445】 中国語の世界 L A [渡辺 大] 春学期授業/Spring	2725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7446】 中国語の世界 L B [渡辺 大] 秋学期授業/Fall	2727
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7447】 中国の文化と社会 L A [山本 律] 春学期授業/Spring	2728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7448】 中国の文化と社会 L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	2729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R8301】 スペイン語 コミュニケーション I [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	2730
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R8302】 スペイン語 コミュニケーション II [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	2731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R8303】 現代のスペイ ン語 I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	2732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R8304】 現代のスペイ ン語 II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2733
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R8305】 スペイン語の世界 L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	2734

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R8306】 スペイン語の世界 L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	2735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9281】 朝鮮語 3 C I (コミュニケーション) [富所 明秀] 春学期授業/Spring	2736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9282】 朝鮮語 3 C II (コミュニケーション) [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	2737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9283】 朝鮮語 4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	2738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9284】 朝鮮語 4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	2739
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9285】 朝鮮語 5 A I (講読) [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	2740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9286】 朝鮮語 5 A II (講読) [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	2741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9287】 朝鮮語 5 B I (表現法) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9288】 朝鮮語 5 B II (表現法) [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会 L A [李 英美] 春学期授業/Spring	2744
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会 L B [李 英美] 秋学期授業/Fall	2745

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。

全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となります。授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行い、合間に理解度を確認するために質問を行う場合があります。レジュメおよび録画は、原則として毎週火曜日夜間にアップします。質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や学び方についての「憲法とは何か」を学ぶ
第 2 回	憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1 ～ 4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。
第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。
第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。

第 11 回 人権の国際的保障

第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。

第 12 回 人権の私人間適用

私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。

第 13 回 個人の尊重と人格権

憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。

第 14 回 個人の尊重－プライバシーの権利－

現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。

授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「課題レポート」または教室での「筆記試験」（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。
疑問のある時には気軽に HOPPI の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases. It is arranged in all courses.

< Learning Objectives >

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies > Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report(100%)

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。

授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。レジュメおよび録画は、火曜日夜間にアップする。

録画のアップ方法は、第2週に『お知らせ』で通知する。

質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と基本的人権保障の思想及びメカニズムを学ぶ
第2回	人権総論	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第3回	人権主体- 公務員・外国人の人権	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第4回	13 条- 人格権	13 条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。
第5回	13 条- プライバシーの権利	13 条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。

第6回 生命権

13 条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。

第7回 平等

憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。

第8回 思想・良心の自由

思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。

第9回 信教の自由

信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。

第10回 表現の自由

表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人々の人権保護について考える。

第11回 参政権

参政権の意義と課題について学ぶ

第12回 社会権・生存権

生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。

第13回 労働基本権

現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。

第14回 人身の自由・公正な裁判

刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。授業には、レジュメを印刷し持参すること、授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第7版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）、小テスト1回（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.

< Learning Objectives >

The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.

It is a subject that is arranged in all courses.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report (100%).

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。

全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となります。授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行いつつ、合間に理解度を確認するために質問を行う場合があります。レジュメおよび録画は、毎週火曜日夜間にアップします。録画のアップ方法は、第 2 週に「お知らせ」で通知します。質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や学び方についての「憲法とは何か」を学ぶ
第 2 回	憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1 ～ 4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。
第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。

第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。
第 11 回	人権の国際的保障	第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。
第 12 回	人権の私人間適用	私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。
第 13 回	個人の尊重と人格権	憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。
第 14 回	個人の尊重－プライバシーの権利－	現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。

授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「課題レポート」あるいは対面の「定期試験」により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。疑問のある時には気軽 HOPPI の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases. It is arranged in all courses.

< Learning Objectives >

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report(100%).

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。

授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。レジュメおよび録画は、原則として毎週火曜日夜間にアップする。録画のアクセスについては、第2週に「お知らせ」で通知する。質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と基本的人権保障の思想及びメカニズムを学ぶ
第2回	人権総論	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第3回	人権主体- 公務員・外国人の人権	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第4回	13条- 人格権	13条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。
第5回	13条- プライバシーの権利	13条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。

第6回 生命権

13条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。

第7回 平等

第8回 思想・良心の自由

思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。

第9回 信教の自由

第10回 表現の自由

表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人々の人権保護について考える。参政権の意義と課題について学ぶ。生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。

第11回 参政権

第12回 社会権・生存権

第13回 労働基本権

現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。

第14回 人身の自由・公正な裁判

刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。授業には、レジュメを印刷し持参すること、授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016年。
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版）2019年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第7版）岩波書店、2019年

【成績評価の方法と基準】

「課題レポート」あるいは対面の『定期試験』（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.

< Learning Objectives >

The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.

It is a subject that is arranged in all courses.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report (100%).

LAW200AB

憲法Ⅲ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的变化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）
佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）
辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）
高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）
元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）
渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）及び理解度確認テスト（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB

憲法Ⅳ**國分 典子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）

佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）

野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）

辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）

高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）

元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）

渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

など

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価します。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB

現代情報法 I

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を、半期の講義を通して問い直します。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを考えます。インターネットによる SNS での投稿のように、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

表現の自由の基本原則、メディア・ジャーナリズム活動を支える法・社会制度について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限をめぐる裁判例、ジャーナリストに憲法上認められた特別扱いとはどのようなものかについて学びます。具体的な事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方によどのような問題があるかを検討します。ジャーナリストを目指すだけでなく、SNS などによる情報発信者として誰でも知っておくべき表現の自由についての基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」とする予定ですが、その場合も、例外的に第 1 回から第 6 回まではオンラインで行う予定です。また、法学部の方針により、受講者が 250 人以上となった場合は全ての授業が「オンライン授業」になります。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業はオンデマンドを予定しています。「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	表現の自由 1	名誉毀損総論
第 3 回	表現の自由 2	名誉毀損各論
第 4 回	表現の自由 3	プライバシーの侵害
第 5 回	表現の自由 4	犯罪報道とその限界
第 6 回	表現の自由 5	事前差止め
第 7 回	表現の自由 6	表現の内容規制と内容中立規制
第 8 回	表現の自由 7	ヘイトスピーチ規制（外国）
第 9 回	表現の自由 8	ヘイトスピーチ規制（日本）
第 10 回	取材の自由・報道の自由 1	法廷カメラ取材の規制を中心に
第 11 回	取材の自由・報道の自由 2	取材源の証言強制

第 12 回 取材の自由・報道の自由 取材資料の提出強制と取材の自由 由 3

第 13 回 取材の自由・報道の自由 国家秘密と取材の自由 由 4

第 14 回 取材の自由・報道の自由 特定秘密と取材の自由 由 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第 2 版〕』（ミネルバ書房、2019 年）

【参考書】

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第 2 版〕』有斐閣、2018 年
 松井茂記『マスメディア法入門〔第 5 版〕』日本評論社、2013 年
 山田健太『法とジャーナリズム〔第 3 版〕』学陽書房、2014 年
 ＊このほかは配布する授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）によります（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくとういでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (defamation, hate speech law, freedom of the press and State secret etc.).

LAW200AB

現代情報法Ⅱ

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を問い直す。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを、放送法、インターネット法、情報公開法、個人情報保護法を中心に考えます。テレビ番組の政治的公平性や真実性、また、インターネットのSNSによるプライバシー権や肖像権の侵害など、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

放送とインターネットを支える法・社会制度について、また、情報公開法と個人情報保護法について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのか、なぜ政治がメディアに圧力をかけてはいけないのかという視点から、放送法や放送倫理、インターネット法やインターネットリテラシー、情報公開法などについて学びます。また、なぜ自分が自分らしくあるためにプライバシーは保護されるべきなのかという視点から個人情報保護法についても学びます。具体的事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。テレビ局やIT企業で働くことを目指す人だけでなく、視聴者として、また、SNSなどによる情報発信者として誰もが知っておくべき基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」とする予定ですが、その場合も、例外的に第1回から第5回までと第14回はオンラインで行う予定です。また、法学部の方針により、受講者が250人以上となった場合は全ての授業が「オンライン授業」になります。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業はオンデマンドを予定しています。「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	放送法制1	放送制度の概要
第2回	放送法制2	番組編集準則の合憲性
第3回	放送法制3	「真実」確保のための放送法の仕組み
第4回	放送法制4	訂正放送と反論権
第5回	放送法制5	公共放送の仕組みと役割
第6回	放送法制6	放送法制における法的規制と自主規制
第7回	インターネット法1	インターネット上の表現の自由
第8回	インターネット法2	プロバイダの責任
第9回	インターネット法3	検索結果削除請求権（忘れられる権利？）

第10回	インターネット法4	SNS 法規制
第11回	インターネット法5	インターネット上の青少年保護
第12回	情報公開・個人情報保護1	知る権利はどのように法制度として具体化されているか？
第13回	情報公開法・個人情報保護2	自己情報コントロール権はどのように法制度として具体化されているか？ メディア適用除外はなぜ認められているか？
第14回	情報公開法・個人情報保護3	情報公開制度と個人情報保護制度の相互関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、レジュメ冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2019 年

【参考書】

鈴木秀美＝山田健太編著『放送制度概論』商事法務、2011 年
 松井茂記＝鈴木秀美＝山口いつ子『インターネット法』有斐閣、2015 年
 長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018 年
 松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013 年
 山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014 年
 ＊そのほかの参考書は授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといよいでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (broadcasting law, internet Law, official information disclosure system, personal information protection system etc.).

LAW300AB

国際社会と憲法 I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を学ぶ。そのうえで、現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的特徴、各国憲法に共通する「現代立憲主義」化の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義への対応状況についても考察する。

本授業は、「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」に属する。

【到達目標】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を理解できるようになる。現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的な特徴を理解したうえで、それぞれの憲法の違いを超えて共通して存在する「現代立憲主義」化の傾向とそのような変化の基本的な要因を理解できるようになる。最後に、21 世紀のグローバル立憲主義における西欧憲法原理の展開方向を見通す力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

イギリス、フランス、ドイツの近現代憲法史を講義する中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴と成立背景、及び立憲主義間の対立を解説する。その上で、20 世紀以降、現在までのイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の特徴と変容を分析することで「現代立憲主義」の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義の展開方向を解説する。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と比較憲法の方法論、及び「近代市民憲法」成立の歴史的背景について講義する。
第 2 回	近代イギリス憲法（1）	イギリス市民革命とイギリスにおける近代立憲主義の成立について講義する。
第 3 回	近代イギリス憲法（2）	イギリスにおける議会政治の発達と近代立憲主義の確立について講義する。
第 4 回	現代イギリス憲法	現代イギリス憲法の特徴について講義する。
第 5 回	近代フランス憲法（1）	フランス革命期の「近代立憲主義」と「民衆型立憲主義」の対立について講義する。

第 6 回	近代フランス憲法（2）	フランス第 3 共和制における近代立憲主義の確立と現代立憲主義への変容の萌芽について講義する。
第 7 回	現代フランス憲法（1）	フランス第 4 共和制憲法の成立と崩壊、ならびに第 5 共和制憲法の成立について講義する。
第 8 回	現代フランス憲法（2）	フランス第 5 共和制憲法の特徴について講義する。
第 9 回	現代フランス憲法（3）	第 5 共和制憲法の特徴を引き続き講義したのちに、現在のフランス憲法の変容について講義する。
第 10 回	近代ドイツ憲法（1）	ドイツにおける近代立憲主義の困難性とフランクフルト憲法成立について講義する。
第 11 回	近代ドイツ憲法（2）	プロイセン憲法とドイツ帝国憲法の分析を踏まえつつ、「外見的立憲主義」について講義する。
第 12 回	現代ドイツ憲法（1）	ワイマール憲法について講義する。
第 13 回	現代ドイツ憲法（2）	現行ドイツ憲法の成立過程とその人権保障の特徴について講義する。
第 14 回	現代ドイツ憲法（3）と本授業のまとめ	現行ドイツ憲法の統治機構面の特徴、ならびに欧州統合におけるその変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

西欧近現代史について、毎回の講義の時間で扱われる予定の部分を自主的に勉強し、あるいは授業後に自主的に復習すること。また、イギリス、フランス、ドイツそれぞれについて、テキストの各国憲法の「概説」部分を予習すること。

対面式授業を受ける場合でも可能な限り、Hoppii にアップした各回の授業内容ビデオ（オンデマンド式）と文字ベースの授業内容要旨を事前・又は事後に読了すること。加えて、同じくアップする予定の小テストに授業後に解答し、授業内容の確認に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第 5 版）』2020 年、三省堂、2,700 円＋税

【参考書】

杉原泰雄『憲法の歴史～新たな比較憲法学のすすめ～』岩波書店（1996 年）

辻村みよ子『比較憲法（第 3 版）』岩波書店（2018 年）

辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』三省堂（2012 年）

【成績評価の方法と基準】

対面式試験の実施が可能な場合は、定期試験（50 %）、各回の小テストの合計（45 %）、及び授業参加の積極度（5 %）により評価する。対面式試験の実施が不可能な場合は、各回の小テストの合計（70～75 %）、授業アンケートや期末レポート（20～25 %）、その他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多いため進捗が遅れがちとなり、授業の最後で急ぐ傾向があるので、時間配分に留意するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

予習や復習用に PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要。

【その他の重要事項】

レジュメや資料は Hoppii で事前配布するので、特に対面式授業の場合は、必ず事前にプリントアウトして持参してほしい。

【Outline (in English)】

【Course outline】Lecture of some constitutional histories and their actual constitutionalism in the developed democratic countries like England, France and Germany.

【Learning Objectives】The goals of this course are to be able to understand some different characters of constitutionalism type between England, France and Germany and their futures under the globalization.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination:50%, Total of short tests:45%, and in-class contribution;5%.

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業はオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。必要に応じて動画を提供する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. 議論による貢献：担当教員の一方的な解説だけではなく、教室にいる全員で議論を行う。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探究する知的好奇心を持ち、それまでの解説を理解していることが前提となる。オンライン授業のときは学習支援システムの掲示板がそのための場になる。

3. リアクションペーパー：毎回提出する。

4. レポート：容易に解決法の見つからない問題についてのレポート提出を3 - 4 回課す。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界

2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法では何が問題で何を学ぶのか全体像の把握
3	近代市民法の成立と女性の排除 1	欧米を中心にした女性の権利の歴史
4	近代市民法の成立と女性の排除 2	日本の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約、国際刑事裁判所
6	公私二元論とジェンダー主流化	法律上の平等と事実上の平等
7	ポジティブ・アクション (PA)、アファーマティブ・アクション (AA)	AA/PA の歴史と種類、効果
8	S O G I (性的指向と性自認)	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々をめぐる権利
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条例
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法
11	家族とジェンダーと法 1	家族の多様化と家族法
12	家族とジェンダーと法 2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法 3	母子家庭の貧困をめぐる問題
14	家族とジェンダーと法 4	生殖補助医療と養子制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html>
授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望まれる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三成・笹沼・立石・谷田川『ジェンダー法学入門〔第3版〕』（法律文化社・2019年）。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば毎回利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

教科書末尾に参考文献を豊富に掲載してある。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献度（10%）、コメント（30%）、およびレポート（60%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一步、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we are going to be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender bias.

【Learning activities outside of classroom】

Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(10%): participation of arguments in classroom
2. Reaction paper on each lecture(30%)
3. Reports(3-4times)(60%)

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は様々ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く視点を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業はオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。必要に応じて動画を提供する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方とはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. 議論による貢献：担当教員の一方的な解説だけではなく、教室にいる全員で議論を行う。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探究する知的好奇心を持ち、それまでの解説を理解していることが前提となる。オンライン授業のときは学習支援システムの掲示板がそのための場になる。

3. リアクションペーパー：毎回提出する。

4. レポート：容易に解決法の見つからない問題についてのレポート提出を3 - 4 回課す。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて

3	労働とジェンダーと法	均等法ができる前：結婚解雇、定年差別
4	労働とジェンダーと法	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法	間接差別、アンペイドワーク
6	暴力とジェンダーと法	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法	デート DV、ストーカー
9	暴力とジェンダーと法	性暴力
10	暴力とジェンダーと法	セクシュアル・ハラスメント
11	暴力とジェンダーと法	買売春、ポルノグラフィー
12	暴力とジェンダーと法	中絶と堕胎
13	生殖とジェンダーと法	リプロダクティブライツ
14	女性に対する暴力と男	男性被害の複雑性の被害

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html>

授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望まれる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三成・笹沼・立石・谷田川『ジェンダー法学入門〔第3版〕』（法律文化社・2019年）。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば毎回携行し、使いこなしてほしい。

【参考書】

教科書末尾に参考文献を豊富に掲載してある。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献度（10 %）、コメント（30 %）、およびレポート（60 %）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we are going to be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is and how to solve the problems from international perspectives.

2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender bias.

【Learning activities outside of classroom】

Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(10%): participation of arguments in classroom
2. Reaction paper on each lecture(30%)
3. Reports(3-4times)(60%)

LAW300AB

憲法訴訟論

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを目指す。

【到達目標】

付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に着けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論、諸法理について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの再拡大などで大学の方針が変更された場合は、オンデマンド式のオンライン授業を行う（詳細は秋学期開始時の第1回授業のガイダンスにおいて説明する）。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料（資料は対面式が可能な場合は教室で配布する）を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて、授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のビデオによるオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第1回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後に、授業の進め方を解説する。
第2回	違憲審査制の諸類型と日本の違憲審査制の特質	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第3回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第4回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。

第 5 回	憲法判断回避の準則・合憲的限定解釈	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則と合憲的限定解釈について講義する。
第 6 回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（1）	具体的な判例の分析を通じて法令違憲について講義する。
第 7 回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（2）	具体的な判例の分析を通じて適用違憲、処分違憲、違憲判決の効力について講義する。
第 8 回	立法行為の違憲訴訟	立法行為、とりわけ立法の不作為の違憲訴訟について講義する。
第 9 回	合理的期間論と事情判決の法理（1）	選挙訴訟を例に挙げて違憲・無効判断の回避手法の展開について講義する。
第 10 回	合理的期間論と事情判決の法理（2）	前回に引き続き、選挙訴訟を例に挙げて合理的期間論の新たな展開について講義する。
第 11 回	立法者の合理的意思推定と部分無効の法理	郵便法事件判決と国籍法事件判決を分析し、権利救済のための司法による事実上の立法の意味と限界を探る。
第 12 回	司法権の限界と部分社会の法理	具体的な判例を紹介しつつ、統治行為論や部分社会の法理の意味と限界を解説する。
第 13 回	裁判を受ける権利と対審・公開の原則	憲法 32 条と 82 条が保障する裁判を受ける権利の意味について、具体的な判例を通じて解説する。
第 14 回	違憲審査基準の現状と本授業のまとめ	二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業（憲法Ⅰ～Ⅳ）で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。1 回の授業につき最低でも 4 時間の予習復習を行うことが推奨される。

対面式授業の場合には、Hoppii に事前にアップされた各回の授業内容のビデオ（オンデマンド式）を事前ないし事後に視聴し、また同じくアップされている各回の小テストに授業後に解答するように努めること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はせず、代わりにオンデマンド方式のビデオで授業内容を解説する予定である。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017 年）、3,800 円（＋税）
初宿正典他共著『憲法 Case and Materials 憲法訴訟』（有斐閣、第 2 版、2013 年）7,150 円

芦部信喜（高橋和幸補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019 年）3,520 円

L S 憲法研究会編『プロセス演習・憲法』（信山社、第 4 版、2012 年）5,800（＋税）円

【成績評価の方法と基準】

対面式試験の実施が可能な場合は、定期試験（50 %）、各回の小テストの合計（45 %）、及び授業参加の積極度（5 %）により評価する。

対面式試験の実施が不可能になった場合は、各回の小テストの合計（70～75 %）、授業アンケートや期末レポート（20～25 %）、その他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

事前や事後の学習、学習準備のため、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

【その他の重要事項】

弁護士として訴訟実務も行っているため、憲法訴訟論の中で、必要に応じて実際の訴訟との関連性を考慮した授業を行う。

授業で用いるレジュメや資料は Hoppii に事前にアップしておくので、各自で事前にダウンロード、プリントアウトして、特に対面式授業の場合は授業に持参すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Lecture of Japanese constitutional litigation theories through analysis of some constitutional precedents in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to be able to understand the proper character of Japanese constitutional litigation system and the actualities of its constitutional decisions.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination:50%, Total of short tests:45%, and in-class contribution;5%.

LAW200AB

生命倫理と人権 I

鵜澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20 世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）並びに三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）を学んでいきます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴し、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられているような、法的教養を深めるに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律およびガイドラインなど）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業（講義）の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題等が提供されます。課題は主に医療ドラマから出されます。受講生は、このドラマを視聴し、課題に答えて送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第 2 回	生命倫理と人権思想の歴史①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第 3 回	生命倫理と人権思想の歴史②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第 4 回	終末期医療と人権①：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。

第 5 回	終末期医療と人権②：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第 6 回	終末期医療と人権③：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	第 4 回と第 5 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 7 回	小児医療と人権①：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IA の適用例、日本における IA の実施率について考察します。
第 8 回	小児医療と人権②：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第 9 回	小児医療と人権③：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	第 7 回と第 8 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 10 回	コンピテンスと人権①：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第 11 回	コンピテンスと人権②：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第 12 回	コンピテンスと人権③：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	第 11 回と第 12 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 13 回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第 14 回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2 時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答え、その内容を送信してください（3 時間）。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください。

【テキスト（教科書）】

小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10:4480688684

【参考書】

①トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10:4792360641

②森村修著『ケアの形而上学』、大修館書店、2,200 円、ISBN-978-4-469-26895-9C3012

【成績評価の方法と基準】

試験方法：筆記試験、実施時期：授業内試験。筆記試験 50%、各課題 50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか (40 %)。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか (30 %)。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか (30 %)。なお、グループディスカッションで司会 (及び「まとめ」の執筆) を担当した受講生には、授業評価点として 5 点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで欠席しても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされてあります。このシステムを活用して学習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

NPO 法人ホームケアエクスパーツ協会、日本生殖医療看護学会 (第 13 回実践セミナー)、文部省 SSH 事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理的な解決策を考えます。

【Outline (in English)】

Bioethics has developed into today's form from the background of inhumane human experiments in the middle of the 20th century. Taking into account such historical human rights issues, we learn in this class the four principles of bioethics (respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, justice) and three concepts of consent (informed consent, informed ascent, proxy consent). At that time, we will watch medical dramas related to the lecture contents and deepen our understanding of bioethical concepts and human rights issues. This course is suitable for legal education, such as those listed in the Culture, Society, and Law Course. It also belongs to the course of an Administration, Public Policy, and Law.

LAW200AB

生命倫理と人権Ⅱ

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をととして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第 2 回	生殖医療技術と倫理	生殖医療技術と「生殖医療民法特例法」と諸課題
第 3 回	遺伝子関連技術と倫理	遺伝情報と差別
①		
第 4 回	遺伝子関連技術と倫理	ゲノム研究とゲノム医療
②		
第 5 回	遺伝子関連技術と倫理	ゲノム編集と遺伝子関連検査
③		
第 6 回	再生医療と倫理①	クローン技術
第 7 回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第 8 回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第 9 回	移植医療をめぐる倫理	脳死と臓器移植
①		
第 10 回	移植医療をめぐる倫理	いのちの贈物の光と影
②		
第 11 回	移植医療をめぐる倫理	移植ツーリズム
③		
第 12 回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第 13 回	死をめぐる倫理②	新型コロナウイルスと終末期
第 14 回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』（東京大学出版会、2015 年、税込 2592 円）

棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020 年、税込 880 円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）

その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート 50%と、ミニレポートの課題 50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school's course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

LAW200AB

行政法入門 I

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にある。行政法も、法の一つであるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政法の基本原理を学ぶ。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③権限の代行について説明することができる。
- ④指揮監督について説明することができる。
- ⑤行政法の基本原理について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン・オンデマンドで実施する。そのために、学修支援システム（Hoppii）と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を指定テキストと照らし合わせながら閲覧した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出する（任意）ことで、学習を進める。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 行政法のイメージ	授業の進め方 行政法令の諸相 行政の主体とプロセス
第 2 回	行政法序論（1）	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第 3 回	行政法序論（2）	行政の意義と分類
第 4 回	行政法序論（3）	公法私法二元論 民事法の適用
第 5 回	行政主体と行政機関（1）	行政主体の種類
第 6 回	行政主体と行政機関（2）	行政機関の権限と分類
第 7 回	行政主体と行政機関（3）	行政機関の類似概念

第 8 回	行政機関の相互関係	指揮監督 権限の代行
第 9 回	行政法の基本原則 (1)	法律による行政の原理の意義と内容
第 10 回	行政法の基本原則 (2)	法律による行政の原理の形式性と その克服
第 11 回	行政法の基本原則 (3)	信義誠実の原則
第 12 回	行政法の基本原則 (4)	権利濫用禁止の原則
第 13 回	行政法の基本原則 (5)	比例原則
第 14 回	行政法の基本原則 (6)	平等原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）を用いる。

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 5 版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学芸書房）
- ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）

その他

- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100 %）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。引き続き授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。なお、スマートフォンのみでの受講は、推奨しない。

【その他の重要事項】

行政法の科目としては、行政法入門Ⅰ・Ⅱのほかに、行政作用法Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱ、行政組織法、地方自治法、環境法、都市法、租税実体法、租税手続法がある。行政法の科目を履修または受講する場合、いずれも行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講していることを前提として授業が行われるので、単位修得の有無にかかわらず、2 年次に行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講しておくことが望ましい。ただし、行政法の他の科目を履修するに当たって、行政法入門Ⅰ・Ⅱの履修あるいは単位取得は必須の条件としていない。

これらのほか、法学部のカリキュラムでは行政法として位置づけられていないが、教育法、経済法、社会保障法など行政と密接に関係する法律分野もある。行政に関する法律問題を学びたいと思っている学生は、行政法の科目のみならず、これらの科目を受講するとよいだろう。

【Outline (in English)】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

At the end of the course, students are expected to understand outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門Ⅱでは、行政法入門Ⅰに引き続きそれを前提に、行政作用法および行政救済法の基本的な理論について解説する。

行政作用とは行政主体が私人に対してする行政活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用法の詳細は、この授業に続く行政作用法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業選択・職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

この授業では、こうした認識を前提に、行政作用については、行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを示すとともに、行政作用に関する一般制度として行政手続を取り上げる。前者では、とりわけ、行政機関が行政主体のために行政作用としてする行為（行政の行為）の法形式的整理が重要である。行政の行為には様々なものが含まれるが、それは、権力性、法効果および具体性の三要素によって分類される。この基準によって行政の行為の法的性質を見極められるようになることが、まずもって必要である。

行政救済とは、行政作用により私人に生じた不利益の救済のことをいい、これを行政救済法は規律する。その主要法律として、行政事件訴訟法、行政不服審査法および国家賠償法がある。行政救済法の詳細は、この授業に続く行政救済法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政法学では、行政救済に関して、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償請求などを取り上げてきた。行政救済とは別の観点として、行政作用の司法審査というものがある。これは、行政作用の適法性を行政とは個別される国家機関である裁判所が審査するものであり、それは行政事件訴訟だけでなく民事訴訟や刑事訴訟においても行われる。

この授業の受講者は、行政法入門Ⅰで学んだ行政法の基本原理と行政組織法の基礎を前提に、行政作用法と行政救済法の基本的な法制度を理解し、行政法現象を法的に把握できるようになることを期待される。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ①行政の各種の行為（行為形式）について説明することができる。
- ②行政救済の概略を説明することができる。
- ③行政手続について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン・オンデマンドで実施する。そのために、学修支援システム（Hoppii）と Google クラウドを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラウドを主として利用する。受講者は、① Google クラウドを通して配信される動画を指定テキストと照らし合わせながら閲覧した（必須）うえで、② Google クラウドを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出する（任意）ことで、学習を進める。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	行政の各種の行為（1）	内部的行為と外部的行為 行政の行為形式
第 2 回	行政の各種の行為（2）	行政行為
第 3 回	行政の各種の行為（3）	法規命令
第 4 回	行政の各種の行為（4）	行政契約 実力行使 行政指導
第 5 回	行政救済法の基礎（1）	行政作用の司法審査 行政事件訴訟の意義
第 6 回	行政救済法の基礎（2）	取消訴訟の意義
第 7 回	行政救済法の基礎（3）	取消訴訟の訴訟要件
第 8 回	行政救済法の基礎（4）	無効等確認訴訟 差止訴訟
第 9 回	行政救済法の基礎（5）	義務付け判決 当事者訴訟
第 10 回	行政救済法の基礎（6）	民衆訴訟 機関訴訟
第 11 回	行政救済法の基礎（7）	行政上の不服申立て
第 12 回	行政救済法の基礎（8）	国家賠償
第 13 回	行政手続の基礎（1）	適正手続の保障
第 14 回	行政手続の基礎（2）	行政手続の手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 7 版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法 上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義 下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学要書房）
- ・藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）

その他

- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラウドおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は、推奨しない。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅱのカリキュラム上の位置づけについては、行政法入門Ⅰのシラバス参照。

【Outline (in English)】

In this course, the basic legal theories of acts of Administrative Agency and the outline of Administrative Remedies are taken up. Acts of Administrative Agency are concerned to Fundamental Human Rights. For example, Regulation to Occupation will regulate the Freedom to act Occupation. Livelihood Protection will realize the Right to live. So, in these meanings, the Administrative Law theories are means of Human Rights Protection. Administrative Remedies mean remedies to rights or interests that are injured by acts of Administrative Agency.

At the end of the course, students are expected to understand legal forms of act of Administrative Agency, law of Administrative Remedies and law of Administrative Procedure.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW300AB

行政作用法 I

濱西 隆男

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①行政作用法 I は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」および「文化・社会と法コース」に配置されている科目である。②この科目においては、「行政法入門 I・II」において取り扱われた内容を踏まえ、まず、行政作用法の理解の前提として不可欠である「行政法の基礎」「行政組織法の基礎」を取り上げる。③その後に、領域横断的に行政分野における法現象を分析する理論的枠組みとしての「行政の行為形式論」（行政立法、行政計画、行政処分、行政契約、行政指導）の前半部分である行政立法、行政計画、行政処分を取り上げる。④本科目は、(a)「行政法入門 I・II」を前提とし、(b)「行政作用法 II」、「行政救済法 I・II」とともに受講することにより、行政法の学部レベルにおける知識の修得・定着を図る。さらに、行政法の知識の修得を望む受講者に対しては、(c)「行政組織法」のほか、「都市法」「環境法」の受講を期待したい。

【到達目標】

- ①行政法の体系の概要を理解し、民商法等の民事法と行政法との差異を説明できる。
- ②行政作用法の修得の前提である行政組織法の概要を把握し、行政組織の意思決定の法的メカニズムを理解し、現代的に重要な法現象である民営化の実情とその法的問題点を理解する。
- ③領域横断的な法的分析の枠組みである「行政の行為形式論」の意義を理解する。
- ④行政立法と他の行為形式との違いを理解し、行政立法に関する様々な法的規律とその特徴について説明できる。
- ⑤行政処分と他の行為形式との違いを理解し、行政処分に関する様々な法的規律とその特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I 授業は、一般的な講義形式で進める。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、学習支援システムを通じて、音声付きのパワーポイント資料と詳細なレジュメの配信の2本立てを基本とする。

II 受講生は、教科書を購入し、学習支援システムから配信される資料と相互参照しながら、視聴と自習を通じて、学習する。

III 授業内容に関する質問については、第1回の授業で、質問の手順について説明する。

IV 受講生へのフィードバックは、中間レポート試験の講評について、事後に公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 行政作用法・現代行政法の特徴
第2回	行政法の基礎理論 (1)	行政法の意義と体系
第3回	行政法の基礎理論 (2)	法律による行政の原理等の一般原則
第4回	行政組織法の基礎 (1)	行政主体と行政機関
第5回	行政組織法の基礎 (2)	行政主体等と私人の関係

第 6 回	行政活動（作用）概説	行政活動（作用）と行政の行為形式論
第 7 回	中間レポート試験	中間レポート試験の出題範囲は第 1 回～第 5 回
第 8 回	行政立法	行政立法と法的規制
第 9 回	行政規則と行政計画	行政規則の機能 行政計画と策定手続
第 10 回	行政処分（1）	行政処分の意義と類型
第 11 回	行政処分（2）	行政処分の効力
第 12 回	行政処分（3）	行政処分の裁量と瑕疵
第 13 回	行政処分（4）	行政処分の無効・取消し・撤回
第 14 回	行政処分（5）	行政処分の附款

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に基づいて学習する。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法（第2版）』（弘文堂、2018年）

【参考書】

高橋滋編著『行政法 Visual Materials（第2版）』（有斐閣、2020年）

宇賀克也ほか編『行政法判例百選Ⅰ（第7版）』（有斐閣、2017年）

西田幸介『行政作用法講義』（生協購買部で販売）

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ 原則として中間レポート試験の結果（40％）と期末レポート試験の結果（60％）の合計点で成績評価を行う。

Ⅱ 受講生へのフィードバックは、中間レポート試験の講評について、事後に公表する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者の変更があった。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる環境を整備する必要がある。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅰおよび行政法入門Ⅱを履修しているか履修中であることを前提として、授業を進める。両科目を履修していないかあるいは履修中でない者が、この科目を履修することを排除しないが、その場合には、各自で両科目で取り扱われる内容について、学習しておくことが必要である。また、この科目を履修したのちに、行政作用法Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(1) In this lecture, we first handle the basics theory of Administrative Law and Administrative Organization Law by reviewing the contents of "Introduction to Administrative Law I・II". Then will be first half of theory of Administrative Operations (Administrative Rules, Administrative PLans and Administrative Dispositions).

(2) Students are expected to acquire knowledge about administrative law at the undergraduate level.

(3) Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

(4) Grading will be decided based on mid-term report(40%) and term-end report(60%).

LAW300AB

行政作用法Ⅱ

濱西 隆男

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①行政作用法Ⅱは、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」および「文化・社会と法コース」に配置されている科目である。②この科目においては、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」及び「行政作用法Ⅰ」の受講を前提として、行政領域横断的な法的分析の理論枠組みである「行政の行為形式論」の後半部分である行政契約、行政指導を取り上げる。③その後に、「行政上の履行強制」、行政罰を典型とする制裁や各種の誘導の仕組み等からなる「行政上の実効性確保の仕組み」を取り上げる。④その上で、行政活動の公正を確保する「行政手続の仕組み」と行政活動の基盤となる「行政情報の収集・管理・提供の仕組み」を解説する。⑤本科目は、(α)「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」を前提し、(β)「行政作用法Ⅰ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」とともに受講することにより、行政法の学部レベルにおける知識の修得・定着を図る。さらに、行政法の知識の修得を望む受講者に対しては、(γ)「行政組織法」のほか、「都市法」「環境法」の受講を期待したい。

【到達目標】

① 領域横断的な法的分析を可能とする理論枠組みである「行政の行為形式論」の後半部分につき、行政契約、行政指導に即して、説明できる。

② 行政上の実効性確保の全体像とその現代的な課題を理解できる。

③ 行政手続の意義とその課題を理解できる。

④ 行政情報の収集・管理・提供の体系の全体像を把握した上で、行政情報の取扱いの法的特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

Ⅰ 授業は、一般的な講義形式で進める。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、学習支援システムを通じて、音声付きのパワーポイント資料と詳細なレジュメの配信の2本立てを基本とする。

Ⅱ 受講生は、教科書を購入し、学習支援システムから配信される資料と相互参照しながら、視聴と自習を通じて、学習する。

Ⅲ 授業内容に関する質問については、第1回の授業で、質問の手順について説明する。

Ⅳ 受講生へのフィードバックは、中間レポート試験の講評について、事後に公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 行政契約（1）	授業の進め方 行政処分との異同
第 2 回	行政契約（2）	行政契約の類型と法的規制
第 3 回	行政指導（1）	行政処分との異同と行政指導の類型
第 4 回	行政指導（2）	行政指導の法的規制
第 5 回	行政手続の仕組み（1）	申請に対する処分手続
第 6 回	行政手続の仕組み（2）	不利益処分手続、届出手続
第 7 回	中間レポート試験	中間レポート試験の出題範囲は第 1 回～第 6 回

第 8 回	行政の実効性確保の仕 組み（１）	代執行、直接強制、即時強制
第 9 回	行政の実効性確保の仕 組み（２）	間接強制、強制徴収、行政罰
第 10 回	行政の実効性確保の仕 組み（３）	その他の行政の実効性確保に関連 する仕組み
第 11 回	行政情報の収集・管 理・提供の仕組み （１）	行政調査
第 12 回	行政情報の収集・管 理・提供の仕組み （２）	行政情報の公開
第 13 回	行政情報の収集・管 理・提供の仕組み （３）	個人情報の保護
第 14 回	行政情報の収集・管 理・提供の仕組み （４）	公文書管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法（第2版）』（弘文堂、2018年）

【参考書】

高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2015年）
宇賀克也ほか編『行政法判例百選Ⅰ（第7版）』（有斐閣、2017年）
西田幸介『行政作用法講義』（生協書籍部で販売）

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ 原則として中間レポート試験の結果（40％）と期末レポート試験の結果（60％）の合計点で成績評価を行う。
Ⅱ 受講生へのフィードバックは、中間レポート試験の講評について、事後に公表する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者の変更があった。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる環境を整備する必要がある。

【その他の重要事項】

この授業は行政作用法Ⅰを履修した者を対象としている。行政作用法Ⅰを履修していない者の受講を排除しないが、同科目を未受講の場合、そこで取り上げられる内容をあらかじめ自習しておくことが望まれる。

【Outline (in English)】

- (1) In this lecture, we first handle last half of the theory of Administrative Operations (Administrative Contracts and Administrative Guidance), the System of Administrative Execution, Administrative Procedures and Access to Information and Protection of Personal Information Held by Administrative Organs.
- (2) Students are expected to acquire knowledge about administrative law at the undergraduate level.
- (3) Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
- (4) Grading will be decided based on mid-term report (40%) and term-end report (60%).

LAW300AB

行政救済法Ⅰ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害され又は必然的に侵害されるおそれのある私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復・予防のために適切かつ十分なものであることも、重要である。

民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政不服審査（行政上の不服申立て）、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政不服審査は、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、行政救済法Ⅰの授業では、行政事件訴訟が、行政救済法Ⅱの授業では、行政不服審査、国家賠償、そして損失補償が、とりあげられる。

行政救済法Ⅰでは、行政事件訴訟の概要を理解するとともに、その抱える問題を学ぶ。

行政救済法Ⅰは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

行政事件訴訟の類型とそれらの相互関係を説明することができる。

取消訴訟の概要と抱える問題を説明することができる。

取消訴訟以外の抗告訴訟を説明することができる。

抗告訴訟における仮の救済を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入講義	各種の行政救済制度（行政の分野に特有の救済制度） 行政事件訴訟と民刑事訴訟の違い
第 2 回	各種の行政事件訴訟（1）	行政事件訴訟の類型（抗告訴訟、形式的当事者訴訟）
第 3 回	各種の行政事件訴訟（2）	行政事件訴訟の類型（実質的当事者訴訟、客観訴訟、機関訴訟） 各訴訟類型の相互関係
第 4 回	取消訴訟（1）	訴訟要件と本案勝訴要件 訴訟要件の教示の制度

第 5 回	取消訴訟 (2)	処分性
第 6 回	取消訴訟 (3)	原告適格
第 7 回	取消訴訟 (4)	訴えの客観的利益
第 8 回	取消訴訟 (5)	違法主張の制限 違法性の承継 違法判断の基準時
第 9 回	取消訴訟 (6)	判決の種類と効力 事情判決
第 10 回	取消訴訟以外の抗告訴訟 (1)	無効等確認訴訟
第 11 回	取消訴訟以外の抗告訴訟 (2)	不作為違法確認訴訟
第 12 回	取消訴訟以外の抗告訴訟 (3)	義務付け訴訟
第 13 回	取消訴訟以外の抗告訴訟 (4)	差止訴訟
第 14 回	抗告訴訟における仮の救済 問題演習	執行停止 仮の義務付け 仮の差止め 行政上の紛争について提起可能な訴訟の具体的な検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲のテキスト・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政救済法講義』（生協書籍部で販売。2019 年）

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 II 〔第 7 版〕』（有斐閣、2021 年）
 神橋一彦『行政救済法 〔第 2 版〕』（信山社、2016 年）
 塩野宏『行政法 II 〔第 6 版〕』（有斐閣、2019 年）
 芝池義一『行政法読本 〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）
 藤田宙靖『新版行政法総論（下）』（青林書院、2020 年）
 そのほか、初回の授業で紹介するもの。
 最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

行政救済法 I・II の授業は、行政法入門 I・II の内容を修得したこと、あるいは、修得中であることを前提に行われる。行政法入門 I・II でとりあげられる事柄を修得できていない場合、それらを自習すること。そうしなければ、授業内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

また、行政作用法 I・II を、学習済みであるか、あるいは、学習中であることが望ましい。この授業で解説される内容をより深く理解できると思われるからである。そのため、受講者には、行政作用法 I・II を履修することも期待されている。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out the Administrative Case Litigation Act 1962 (c.139) and to lean inherent problems of the Act 1962.

After completing this course, you should be able to:

- Explain kinds of actions laid down in the Act 1962 and spell out relationship between the actions;
- Sketch out Actions for the Revocation of Administrative Dispositions (these are included in Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions – see Art. 3 and 9 of the Act 1962), with identifying its problems;

- Explain the rest actions of Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions; and
- Explain provisional remedies which could be asked before the court where each Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions are field.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading the textbook and your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

行政救済法Ⅱ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害され又は必然的に侵害されるおそれのある私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復・予防のために適切かつ十分なものであることも、重要である。

民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政不服審査（行政上の不服申立て）、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政不服審査は、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、行政救済法Ⅰの授業では、行政事件訴訟がとりあげられた。行政救済法Ⅱの授業では、行政不服審査、国家賠償、そして損失補償がとりあげられる。

この授業で主として学習するのは、行政不服審査については、その手続の概要であり、また、国家賠償については、国家賠償責任の類型（公権力行使責任と営造物管理責任）と各類型の国家賠償責任の成立要件であり、また、損失補償については、その要否と内容である。

行政救済法Ⅱは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

行政不服審査について、その手続の概要を説明することができる。
公権力行使責任（国家賠償法 1 条 1 項に基づく責任）の概要を説明することができる。

営造物管理責任（国家賠償法 2 条 1 項に基づく責任）の概要を説明することができる。

損失補償の要否と内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	行政不服審査 (1)	行政不服審査の意義 取消訴訟との関係 行政上の不服申立ての類型
第 2 回	行政不服審査 (2)	行政上の不服申立ての要件 行政不服審査の手続

第 3 回	行政不服審査 (3)	行政不服審査の裁決 仮の救済
第 4 回	国家賠償制度総説 (1)	国家賠償責任の類型と概要
第 5 回	国家賠償制度総説 (2)	賠償責任の主体 国家賠償法と他の法律との関係 相互保証主義
第 6 回	公権力行使責任の概要 (1)	公権力の行使 公務関連性（職務関連性）
第 7 回	公権力行使責任の概要 (2)	故意・過失と違法性
第 8 回	公権力行使責任の概要 (3)	行政権限の不行使の違法性
第 9 回	公権力行使責任の概要 (4)	立法作用・司法作用の違法性
第 10 回	営造物管理責任の概要 (1)	公の営造物 設置・管理の瑕疵
第 11 回	営造物管理責任の概要 (2)	瑕疵の判断枠組み
第 12 回	営造物管理責任の概要 (3)	水害と河川管理の瑕疵 供用関連瑕疵
第 13 回	営造物管理責任の概要 (4)	本来の用法論
第 14 回	損失補償	要否と内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲のテキスト・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政救済法講義』（生協書籍部で販売。2019 年）

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅱ〔第 7 版〕』（有斐閣、2021 年）

神橋一彦『行政救済法〔第 2 版〕』（信山社、2016 年）

塩野宏『行政法Ⅱ〔第 6 版〕』（有斐閣、2019 年）

芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）

藤田宙靖『新版行政法総論（下）』（青林書院、2020 年）

そのほか、初回の授業で紹介するもの。

最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅱの授業は、行政救済法Ⅰの内容を理解できたこと、行政法入門Ⅰ・Ⅱの内容を修得したこと、あるいは、それらの内容を学習中であることを前提として行われる。それらについての学習が十分でない場合、自習すること。そうしなければ、この授業の内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

また、行政作用法Ⅰ・Ⅱを、学習済みであるか、あるいは、学習中であることが望ましい。この授業で解説される内容をより深く理解できると考えられるからである。そのため、受講者には、行政作用法Ⅰ・Ⅱを履修することも期待されている。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies, to understand sorts of responsibility and conditions for attributing responsibility to the public entities, and to know need (or no need) and substance of compensation caused by lawful administrative acts.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies;
- ・ Sketch out contents laid down by Art. 1 and 2 of the State Redress Act 1947 (c.125); and
- ・ Explain need (or no need) and substance of compensation caused by lawful administrative acts.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading the textbook and your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

租税手続法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、租税の申告、更正・決定等の確定手続きや納税の滞納処分などの租税徴収手続に関する基本的事項を学習する。租税の確定手続や徴収手続は、行政法や民法などの法領域とも密接に関連しているため、これらの法も参照しながら租税の手続的側面について学ぶ。租税手続法の重要論点は、裁判例を通じて知識を確実なものとする。なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や徴収手続を対象とする法分野である。本講義では、租税の確定手続及び徴収手続に関する法律上の要件や効果について基本的な知識を習得することを目標とする。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として授業時間内に解説時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	授業の進め方、租税手続法とは
第 2 回	租税法の基本原則 (1)	租税法律主義
第 3 回	租税法の基本原則 (2)	租税公平主義
第 4 回	租税法の解釈と適用	租税法と私法、租税回避、偽装行為
第 5 回	租税手続法、租税確定手続 (1)	租税確定手続と租税徴収手続との関係
第 6 回	租税手続法、租税確定手続 (2)	申告納税制度、賦課課税制度、納税環境の整備
第 7 回	租税手続法、租税確定手続 (3)	納税申告、青色申告制度
第 8 回	租税手続法、租税確定手続 (4)	更正の請求と修正申告、更正・決定等の期間制限
第 9 回	租税手続法、租税確定手続 (5)	推計課税の要件・方法、納税環境の整備
第 10 回	租税手続法、租税確定手続 (6)	質問検査権（税務調査）、質問検査の法的根拠、質問検査の要件
第 11 回	租税徴収手続・納付と徴収 (1)	租税の納付、徴収納付（源泉徴収等）、租税の徴収
第 12 回	租税徴収手続・納付と徴収 (2)	租税確定手続、納税義務の成立と確定
第 13 回	租税徴収手続・納付と徴収 (3)	滞納処分、違法性の承継
第 14 回	租税徴収手続・納付と徴収 (4)	租税債権の優先劣後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を重視すること。税制改正などの新聞記事や報道にも注目してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒『大系租税法第 3 版』（中央経済社、2021）

増井良啓『租税法入門 2 版』（有斐閣、2018）

水野忠恒編『テキストブック租税法第 2 版』（中央経済社、2018）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第 7 版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 50 %、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように、授業では裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The student can learn the basic matter of collection procedure, such as tax procedures to fixes, such as decision(filing of return,correction,determination) of a tax, payment, return of a tax, and a notice of tax payment, a disposition for failure to pay, by this lecture.Since a tax procedures to fix and collection-of-taxes procedure are closely connected with law, such as Civil Code and the administrative law, the student can learn the fundamental knowledge of the procedural side of a tax, referring to these law.The student can learn exact knowledge by analysis of a judicial precedent about the important point of argument of tax adjective law.

LAW300AB

租税実体法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などを総称する法分野である。これらの税目のうち、特に所得課税の分野である所得税法、法人税法を中心に学習し、租税法の基礎理論を習得する。各税法の解釈や適用の問題は、裁判例を通じて確実な知識を身につける。

なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

所得税法及び法人税法を体系的に学習することを通じて、社会で必要な税法の知識を身につける。所得税法では、所得税の基本理念が理解できるようになる。また、法人税法では法人所得の計算と企業会計の関係について必要な知識を習得する。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。なお、後期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の理論、知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載し解説したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、租税法とは、租税の現状、租税の必要性	授業の進め方、租税体系
第 2 回	租税法の基本原則、申告納税制度	租税法律主義、租税公平主義、シャープ税制の成立
第 3 回	所得税法、所得の定義、非課税所得	所得概念の理論・消費型・支出型所得概念、発生型・取得型所得概念、非課税所得
第 4 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (1)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (1)
第 5 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (2)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (2)
第 6 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (3)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (3)
第 7 回	所得の年度帰属、必要経費	年度帰属の原則、権利確定主義、必要経費の意義、家族的企業と必要経費
第 8 回	損益通算、所得控除と税額控除、確定申告	損益通算制度、所得控除と税額控除の意義、課税標準と税額
第 9 回	法人税法と法人税の納税義務者	法人の形態と納税義務者、事業体の課税問題

- 第10回 法人所得・法人税額の 法人所得の計算と企業会計の関係
計算(1)
- 第11回 法人所得・法人税額の 益金、益金の別段の定め
計算(2)
- 第12回 法人所得・法人税額の 損金、損金の別段の定め①
計算(3)
- 第13回 法人所得・法人税額の 損金、損金の別段の定め②
計算(4)
- 第14回 特殊関係法人の課税問 同族会社の課税・同族会社の行
題・総括 為・計算の否認規定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を重視すること。税制改正などの新聞記事や報道にも注目すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

増井良啓『入門租税法2版』有斐閣

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒『大系租税法第3版』（中央経済社、2021）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 50 %、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

A Tax substantive law is a law field that collectively refers to the Income Tax Law, Corporate Tax Law, Inheritance Tax Law, Consumption Tax Law, and Local Tax Law. The students can learn the basic theory of tax law, focusing on the fields of income taxation and corporate income taxation. The problem of the interpretation and application of each tax law will be acquired through court cases. The student can learn exact knowledge according to a judicial precedent about application of Income Tax Law, Corporate Tax Law, or an interpretative important point of argument.

LAW300AB

地方自治法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自主法（＝地方自治法）が存在するが、授業では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学ぶ。その目的は、行政・公共政策と法コースにあげられているような、法的問題を理解し、その問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を身につけることにある。

【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方公共団体の意義と種類、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤条例制定権の限界・地方自主法相互の関係、⑥国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分、⑦国の行政的関与について、それぞれ説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	主要な法的問題
第2回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第3回	地方公共団体の意義と種類(1)	普通地方公共団体の意義と種類 団体間の組織・権限の違い
第4回	地方公共団体の意義と種類(2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編
第5回	地方公共団体の意義と種類(3)	特別地方公共団体の意義と種類
第6回	住民の権利(1)	住民の意義 参政権
第7回	住民の権利(2)	直接請求権
第8回	住民の権利(3)	公の施設の利用権
第9回	住民の権利(4)	住民監査請求 住民訴訟
第10回	住民の権利(5)	住民投票
第11回	地方公共団体の組織	議会と長の関係
第12回	地方公共団体の自治立法権	条例制定権の限界・地方自主法相互の関係

第 13 回 地方公共団体の自治行政権 国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分
第 14 回 国と地方公共団体の関係 国の行政的関与の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ。テキストは使用しない。

【参考書】

塩野宏『行政法 III 〔第 5 版〕』（有斐閣、2019 年）
人見剛・須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法 〔第 3 版〕』（北樹出版、2015 年）
白藤博行ほか著『アクチュアル地方自治法』（法律文化社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader 〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to lean major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain a principle of local autonomy;
- ・ Explain definition and sorts of local authorities;
- ・ Explain individual's rights which the Act 1947 provides;
- ・ Explain relationship between council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority;
- ・ Explain limits on legislative powers of local authorities;
- ・ Explain differences between public services necessarily delivered by the state and local authorities; and
- ・ Explain manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

環境法

朝賀 広伸

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する 2 単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の基本的な考え方の修得に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

本講義では、学生における以下の到達目標の達成を目指す。

Ⅰ 知識面

- ①受講者は、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことができる。憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる。これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる。
- ②さらに進んで、受講者は、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる。

Ⅱ 能力面

- ①受講者は、法律文献を正確に読解できる。併せて、受講者は、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる。
- ②受講者は、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことができる
- ③受講者は、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも積極的に取り組むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面講義で行います。授業内において、適宜、質問を出しディスカッションの機会を作ります。理解度を測るための小レポートの課題を出します。

また、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要・授業の進め方 成績評価の方法
第 2 回	環境法の生成（1）	公害法の生成、公害対策基本法、 公害・環境訴訟の展開
第 3 回	環境法の生成（2）	地球環境問題の発生、環境基本 法、福島原発事故・環境法への組 込み
第 4 回	環境法の基礎（1）	環境法の理念、環境法における主 体、環境保全の手法①（規制的手 法、土地利用規制手法、事業手 法、買上げ・管理契約手法、計画 的管理手法）

第 5 回	環境法の基礎 (2)	環境保全の手法②(非権力的手法)・③(経済的インセンティブ・ディスインセンティブ)・④(情報を媒介としたインセンティブ・ディスインセンティブ)
第 6 回	環境法の基礎 (3)	環境保全の費用負担
第 7 回	環境法の基礎 (4)	国際的な環境保全、東アジアの環境問題
第 8 回	環境汚染の規制・環境保全 (1)	環境の保全と計画的手法
第 9 回	環境汚染の規制・環境保全 (2)	公害規制(大気汚染・土壌汚染を例として)
第 10 回	環境汚染の規制・環境保全 (3)	原子力安全規制 (1) - 歴史・概要
第 11 回	環境汚染の規制・環境保全 (4)	原子力安全規制 (2) - 福島原発事故以降の改革、化学物質規制
第 12 回	環境汚染の規制・環境保全 (5)	廃棄物処理・循環型社会形成
第 13 回	地球環境問題とその対策	地球環境問題とその対策
第 14 回	公害・環境紛争と司法・行政上の解決(概論)	共同不法行為・環境行政訴訟(公権力の行使、処分性、原告適格、仮の救済、住民訴訟)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることを望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は用いない。講義の際に、必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

(図書館等において、参照し活用すること)

阿部泰隆・淡路剛久編『環境法(第4版)』(有斐閣、2011年) 3,456 円

大塚直『環境法[第4版]』(有斐閣、2020年) 5,280 円

北村喜宣『環境法[第5版]』(弘文堂、2020年) 3,630 円

【成績評価の方法と基準】

評価方法と基準：

平常点(小レポート、ディスカッション等の授業貢献)：60%

期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器(無線LANの接続が可能なPC、スマートフォン等)を持参することが望ましい。オンラインリアルタイム配信を利用する場合には、①PC(所有しない者には大学から貸与される)、②無線ルーター(所有しない者には貸与または通信費が補助される)又はデータ回線、③六法(WEB上に政府の法令データベースが公開されている)

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

This course is an introduction to environmental law as a whole, and is a 2 credit course.

Because of the remarkable progress in the environmental law policy system and the frequent enactment, revision, and abolition of environmental laws and regulations, the emphasis of the lecture will be on the acquisition of the basic concepts of environmental law, taking into account the status of the latest laws and regulations and the discussion of theories.

Students will be able to understand the lecture more precisely if they have knowledge of civil law, constitutional law, administrative law and administrative remedy law.

(Learning Objectives)

1. Knowledge

1) Students can deepen their knowledge of the Constitution, Civil Law, Administrative Law, etc. by learning laws, theories, and precedents in the field of environmental law. Students can also use this as a stepping stone to full-scale study of these fields.

In addition, students will be able to acquire knowledge on legal policy issues such as global warming, environmental pollution in East Asia, and participation in environmental issues.

2. Ability

(1) Students will be able to read and understand legal documents and court cases accurately.

(2) Students will be able to correctly understand environmental issues and conduct legal analysis.

(3) Students will be able to understand basic literature on natural science.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

It is recommended that students voluntarily search the Ministry of the Environment's website and other websites for information on terms they do not understand during the class.

In addition, since the reality of environmental problems is often difficult to understand without a basic knowledge of science and technology, students are encouraged to look up explanations on the Ministry of the Environment's website and other sources for topics of interest.

(Method)

In class, I will ask questions and create opportunities for discussion as appropriate. Students will be given small report assignments to measure their level of understanding.

Feedback will also be given in class.

(Grading Criteria /Policy)

Evaluation method and criteria

・ Ordinary points (small reports, discussions and other class contributions): 60 %,

・ Final report: 40 %.

LAW100AB

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。

また、民法は私たちの生活にとって身近でかつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでのオフィスアワーを行うことがあるので進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説は学習支援システムや授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	民法とは何か・民法上の基本概念（物とは何か）	民法とは何か、民法の「物」概念の基本概念（物とは何か）および関連規定についての講義
第 2 回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第 3 回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析
第 4 回	権利の主体・発展問題①民法における外観法理	民法 94 条 2 項と 110 条をめぐる判例の解説
第 5 回	権利の主体・発展問題②法人	法人とは何か、法人の設立についての講義

第 6 回	権利の主体・発展問題③法人	法人の対外関係についての講義
第 7 回	無効と取消しについて	無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義
第 8 回	時効①	時効とは何か、時効の援用についての講義
第 9 回	時効②	時効の完成猶予、更新についての講義
第 10 回	時効③	消滅時効についての講義
第 11 回	時効④	時効の起算点をめぐる判例の分析
第 12 回	民法と特別法の関係－消費者契約法	消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明
第 13 回	現代における民法の役割①消費者問題と民法	消費者契約法が適用された裁判例の分析
第 14 回	現代における民法の役割②高齢者問題と民法	高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM で解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。

本授業の予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2018 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。なお、開講時に第 5 版が発売されている可能性もある。開講時点での最新版を教科書として用いるため、開講直前に購入すること。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

六法（出版社は問わない）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権（第 8 版）』（有斐閣、2018 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）。

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第 4 版）』（弘文堂、2018 年）

その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 40 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 60 % とする。

つまり、小テスト 40 % + 学期末試験またはレポート 60 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

少なくとも「契約法 I」を受講した上でこの科目を受講すること。

学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(40%) and term-end examination(60%).

LAW100AB

契約法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。

また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでのオフィスアワーを行うので進路相談や学習相談に活用して欲しい。

事前課題や小テストの解説は学習支援システムや授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約とは何か（ガイド	民法とは何か、契約法とは何か ンスも兼ねて）
第 2 回	契約の成立	民法における契約の成立に関する 規定
第 3 回	契約の解釈・契約の内 容	契約の解釈、公序良俗規定
第 4 回	契約の有効要件①意思 表示総論、意思の不存 在	意思表示総論、心裡留保、虚偽表 示①
第 5 回	契約の有効要件②意思 の不存在	虚偽表示②、錯誤
第 6 回	契約の有効要件③意思 表示の瑕疵	詐欺、強迫
第 7 回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告
第 8 回	契約の主体②自然人	意思能力、行為能力①行為能力と は何か、未成年者

第 9 回	契約の主体③自然人	行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護
第 10 回	代理①	代理とは何か、代理の種類、代理人の義務
第 11 回	代理②	代理権の濫用、代理行為、無権代理①
第 12 回	代理③	無権代理②、無権代理と相続
第 13 回	代理④	表見代理①民法 109 条、110 条
第 14 回	代理⑤	表見代理②民法 112 条、109 条と 110 条の重畳適用、110 条と 112 条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。

本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2020 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

以上 2 点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権（第 8 版）』（有斐閣、2018 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第 4 版）』（弘文堂、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 40 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 60 % とする。

つまり、小テスト 40 % + 学期末試験またはレポート 60 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(40%) and term-end examination(60%).

LAW100AB

民事法総論**新堂 明子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を扱う。これに関する法律（民法等）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を説明することができる。これに関する法律（民法等）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法学入門
第 2 回	民法入門	民法入門
第 3 回	無効と取消し（1）	無効と取消し（1）
第 4 回	無効と取消し（2）	無効と取消し（2）
第 5 回	代理（1）	有権代理の要件と効果（1）
第 6 回	代理（2）	有権代理の要件と効果（2）
第 7 回	代理（3）	無権代理（1）
第 8 回	代理（4）	無権代理（2）
第 9 回	代理（5）	表見代理（1）
第 10 回	代理（6）	表見代理（2）
第 11 回	法人（1）	法人（1）
第 12 回	法人（2）	法人（2）
第 13 回	消滅時効（1）	消滅時効（1）
第 14 回	消滅時効（2）	消滅時効（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

『民法判例百選 I 総則・物権〔第 8 版〕』

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則〔第 5 版〕』（2020 年）

四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第 9 版〕』（2018 年）

山野目章夫『民法概論 1 民法総則』（2017 年）

（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験。（100%）

法学部の方針により、対面（教室）で定期試験を実施することができない場合には、学習支援システムにおいて、定期試験代替措置を講じます。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

studying avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW100AB

契約法 I**新堂 明子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を扱う。これに関する法律（民法）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を説明することができる。これに関する法律（民法）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法律要件、法律効果、法的三段論法
第 2 回	民法入門（1）	所有 → 物権、契約 → 債権の抽象化。法律行為、意思表示の意味。「総則」の意味
第 3 回	民法入門（2）	契約の成立
第 4 回	民法入門（3）	契約の終了
第 5 回	権利能力、意思能力、行為能力（1）	権利能力、意思能力、未成年者
第 6 回	行為能力（2）	成年被後見人と成年後見人
第 7 回	行為能力（3）	被保佐人と保佐人、被補助人と補助人
第 8 回	意思表示（1）	心裡留保、虚偽表示（1）
第 9 回	意思表示（2）	虚偽表示（2）
第 10 回	意思表示（3）	錯誤（1）
第 11 回	意思表示（4）	錯誤（2）
第 12 回	意思表示（5）	詐欺・強迫（1）
第 13 回	意思表示（6）	詐欺・強迫（2）
第 14 回	強行規定違反、公序良俗違反	強行規定違反、公序良俗違反

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

『民法判例百選 I 総則・物権 [第 8 版]』

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則 [第 5 版]』

四宮和夫＝能見善久『民法総則 [第九版]』

山野目章夫『民法概論 1 民法総則』

（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100 %）。

法学部の方針により、対面（教室）で定期試験を実施することができない場合には、学習支援システムにおいて、定期試験代替措置を講じます。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

studying formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW200AB

契約法Ⅱ

福田 清明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修者は、本授業は条文で言うと、民法第3編債権第1章総則の「債権の目的」、「債権の効力」の中の債務不履行の責任、「債権の消滅」を学ぶ。民法という法律を学ぶとは、条文の趣旨、制度の要件と効果を学び、与えられた事例を条文の解釈・適用を通じて解決できることを意味する。契約法Ⅱという名称の授業なので、履修者は、契約法と救済手段との関連で、上記の民法条文を学んでください。なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

本授業の目標は、履修者が、基本的な事例問題を民法条文の解釈・適用を通して、解決できるようになることである。これが大きな目標である。

小さな目標としては、履修者が民法の注釈書（コンメンタール）を活用できることになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1 各回の授業は、前半 30 分程度で、前回授業で学んだことに関連した一行問題及び事例問題（「授業復習問題」と総称する）を解説します（第1回授業は除く）。後半 1 時間程度で、当日に予定した項目を講義します。
- 2 講義レジュメにしたがって授業を進めます。板書は、図・表を書くために利用します。
- 3 授業全体の中で、履修者を指名して答えて頂くことがあります。この問答は、成績評価に全く関係ないので、指名されたら答えて頂きたい。
- 4 「講義レジュメ」、「授業教材」、「授業復習問題」は、遅くとも3日前の土曜日には、学習支援システムにアップします。具体例でいうと、15日の講義に関する講義レジュメ、授業教材は、12日にはアップします。15日の授業の復習に関する授業復習問題も、12日にはアップします。その解説は、22日の授業中で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①講義に際しての諸注意
	債権の目的 (1)	②特定物債権
第2回	債権の目的 (2)	特定物債権
第3回	債権の目的 (3)	種類債権
第4回	債権の目的 (4)	①金銭債権 ②元本債権と利息債権
第5回	事実としての債務不履行の総説 履行の強制	①履行請求権、解除、損害賠償請求権 ②直接強制、代替執行、間接強制 ③強制に馴染まない債務
第6回	債務不履行による損害賠償 (1)	①基本的損害賠償請求権（415条1項）の成立要件 ②債務の履行に代わる損害賠償請求権（415条1項・2項）
第7回	債務不履行による損害賠償 (2)	賠償されるべき損害の範囲（416条）

第8回 債務不履行による損害賠償 (3) ①損害賠償額の減額事由
②金銭債務の特則
③賠償額の予定
④損害賠償による代位

第9回 債権者が給付を受領しない場合の救済手段 ①弁済の提供
②受領遅滞
③弁済供託

第10回 債権の消滅 (1) ①弁済のやり方
②第三者の弁済
③第三者への弁済
弁済による代位

第11回 債権の消滅 (2)

第12回 債権の消滅 (3)

第13回 債権の消滅 (4)

①代物弁済
②更改
③免除
④混同

第14回 総復習または予定調整回 総復習の時間にするか（第1回から第13回の各回の授業復習問題をそれぞれの回について1題ずつ選びそれについて解説を行う）、または授業予定から遅れている場合の調整回とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- 1 授業の準備① 教科書の該当箇所を読んでくる。
- 2 授業の準備② 学習支援システムからダウンロードした福田・授業教材の該当箇所を読んでくる。
- 3 授業に持参する物 学習支援システムからダウンロードした福田・授業レジュメ（A4の用紙1枚）及び六法又は六法代替物を持参する。
- 4 復習① 学習支援システムからダウンロードした福田・授業復習問題を解いてくる。解説は次回の授業中に福田が行う。
- 5 復習② 学習支援システムからダウンロードした福田・授業教材（word ファイル）を、各自で使いやすいように削除、補充、入れ替えを行う。一言でいうとノート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

石田剛・荻野奈緒・斎藤由紀『債権総論』日本評論社 2018 年（本体価格 1900 円）

【参考書】

- ①松岡久和など編『改正債権法コンメンタール』法律文化社 2020 年（税込価格 7700 円）
- ②有斐閣『法律用語辞典』第5版 2020 年（本体価格 5250 円）

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

履修者が学習支援システムを利用できる機器をもっていることは重要です。

【その他の重要事項】

なし / No

【Outline (in English)】

In this class, in terms of articles, students will learn "Subject of Claims" and "Liability for Default" and "Extinction of Claims" in Chapter 1 General Provisions of Part 3 Claims of the Civil Code. Learning the Civil Code means learning the purpose of the articles, the requirements and effects of the institutions, and being able to solve a given cases through interpretation and application of the articles in the Civil Code. Since the class is called "Contract Law II," students are expected to study the Civil Code in relation to contract law and remedies.

Note that this class belongs to all courses, including the "Trial and Law Course".

LAW200AB

債権回収法 I

福田 清明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、履修者は、民法第3編第1章に規定された制度で債権回収のための制度として利用できるものを扱う。具体的には、①債権回収の基本的な仕組み、②債権回収をより確実にするための人的担保（多数当事者の債権債務）、③責任財産保全の保全（債権者代位権と詐害行為取消権）、④債権譲渡・債務引受である。

なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

本授業の目標は、履修者が、基本的な事例問題を民法条文の解釈・適用を通して、解決できるようになることである。これが大きな目標である。

小さな目標としては、履修者が民法の注釈書（コンメンタール）を活用できることになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1 各回の授業は、前半 30 分程度で、前回授業で学んだことに関連した一行問題及び事例問題（「授業復習問題」と総称する）を解説します（第1回授業は除く）。後半 1 時間程度で、当日に予定した項目を講義します。
- 2 講義レジュメにしたがって授業を進めます。板書は、図・表を書くために利用します。
- 3 授業全体の中で、履修者を指名して答えて頂くことがあります。この問答は、成績評価に全く関係ないので、指名されたら答えて頂きたい。
- 4 「講義レジュメ」、「授業教材」、「授業復習問題」は、遅くとも3日前の土曜日には、学習支援システムにアップします。具体例でいうと、15日の講義に関する講義レジュメ、授業教材は、12日にはアップします。15日の授業の復習に関する授業復習問題も、12日にはアップします。その解説は、22日の授業中で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 債権回収の基本原則 多数当事者の債権債務	ガイダンス 債権回収の基本原則と民法上の制度
第2回	多数当事者の債権債務(1)	債権者代位権の要件 ①不可分債務、
第3回	多数当事者の債権債務(2)	②連帯債務
第4回	多数当事者の債権債務(3)	①不真正連帯債務、 ②保証債務の成立
第5回	多数当事者の債権債務(4)	①債権者と保証人の対外関係、 ②主債務と保証債務の影響関係、 ③保証人と主債務者の内部関係（求償権）
第6回	多数当事者の債権債務(5)	①共同保証、 ②根保証、 ③事業に係わる個人保証の保証人の保護
第7回	債権者代位権(1)	①債権者代位権の成立要件 ②債権者代位権の行使方法

第8回	詐害行為取消権(1)	①債権者代位権行使の効果 ②転用事例
第9回	詐害行為取消権(2)	詐害行為取消権の要件 ①詐害行為取消権の行使方法、 ②詐害行為取消権行使の効果
第10回	詐害行為取消権(3)	詐害行為取消権行使の効果
第11回	債権譲渡(1) 一般の債権譲渡	①債権譲渡総論 ②債権譲渡の効力発生要件、 ③譲渡制限特約、
第12回	債権譲渡(2) 一般の債権譲渡	①債権譲渡の対抗要件、 ②将来債権譲渡、 ③債務者の抗弁
第13回	債権譲渡(3) 預貯金債権の債権譲渡	①預貯金債権の債権譲渡の効力発生要件、 ②譲渡制限特約
第14回	債務引受 契約上の地位の移転	①併存的債務引受 ②免責的債務引受 ③契約上の地位の移転と貸貸人の地位の譲渡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- 1 授業の準備① 教科書の該当箇所を読んでくる。
- 2 授業の準備② 学習支援システムからダウンロードした福田・授業教材の該当箇所を読んでくる。
- 3 授業に持参する物 学習支援システムからダウンロードした福田・授業レジュメ（A4の用紙1枚）及び六法又は六法代替物を持参する。
- 4 復習① 学習支援システムからダウンロードした福田・授業復習問題を解いてくる。解説は次の授業中に福田が行う。
- 5 復習② 学習支援システムからダウンロードした福田・授業教材を、各自で使いやすいように削除、補充、入れ替えを行う。一言でいうとノート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

石田剛・荻野奈緒・斎藤由紀『債権総論』日本評論社 2018 年（本体価格 1900 円）

【参考書】

- ①松岡久和など編『改正債権法コンメンタール』法律文化社 2020 年（税込価格 7700 円）
- ②有斐閣『法律用語辞典』第5版 2020 年（本体価格 5250 円）

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

履修者が授業支援システムを利用できる機器をもっていることは重要です。

【その他の重要事項】

なし / No

【Outline (in English)】

In this class, students will deal with the systems provided in Chapter 1 of Part 3 of the Civil Code that can be used for debt collection. Specifically, the course will cover (1) the basic structure of debt collection, (2) human collateral to ensure more reliable debt collection (claims and obligations of multiple parties), (3) preservation of responsible property (Subrogation Right for Creditors and Creditor's Right to Demand Rescission of Fraudulent Act), and (4) assignment of claims and assumption of debts.

Note that this subject belongs to all courses.

LAW100AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大人数授業に関する今年度の大学の方針により、オンライン授業を原則とする（オンデマンド方式のみになる場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第 10 回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理

第 11 回 基本型不法行為の効果 減額調整——過失相殺と損益相殺論③

第 12 回 基本型不法行為の効果 損害賠償請求権者の範囲・間接損害論④

第 13 回 複合型不法行為 使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）

第 14 回 その他の法定債権 事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第 3 版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第 2 版）、大村敦志『新基本民法 6 不法行為編』、川井健『民法概論 4』（補訂版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第 8 版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンラインを含めて授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。
 契約法Ⅲが対象とする債権編については 2020 年 4 月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ 債権各論』、中田裕康『契約法』、大村敦志『基本民法 5 契約編』、平井宜雄『債権各論Ⅰ上－契約総論』、その他債権法改正（2017 年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB

契約法Ⅳ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

契約各則のうち、貸借型（消費貸借・質貸借・使用貸借）、役務提供型（請負・委任・雇用・寄託）、その他（組合など）について学習する。「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

私達の日常生活においては売買以外の契約も多く見られる。例えば家を借りる、お金を借りる、家を建ててもらい、医者診療を受ける、といった有償の取引はもちろん、友達に本を借りる、ホテルのフロントに荷物を預けるといった無償での約束も、実は民法の売買契約以外の契約類型に該当する。このような現代取引において重要な契約類型を学ぶことで、現代取引におけるルールのほか、現代取引のあり方について学ぶ。

【到達目標】

質貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用、寄託、組合等についてその権利義務の発生・その内容・終了に関わるルールの意義と内容を理解することができる。

具体的には各契約における当事者間の権利義務の発生、権利義務の内容、契約の終了を中心に、規定の内容やそれに関する学説や判例を理解する。単に規定の内容を学ぶだけではなく、各契約類型の特徴およびその現代取引における役割を意識しながら、なぜそのような規定となっているのか、現行規定にはどのような問題があるのか、といった観点から学ぶ。

また、契約類型によっては民法以外の特別法において詳細なルールが設けられていることも多い。本講義ではこれらのうち、実際の取引において重要な役割を果たしているものについても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日はレジュメをもとに解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ハイフレックスで行う場合、解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

受講生の数が多くない場合には双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要 参考文献の指示
第 2 回	貸借型①	消費貸借①民法の消費貸借
第 3 回	貸借型②	消費貸借②クレジット契約、消費者信用
第 4 回	貸借型③	使用貸借
第 5 回	貸借型④	質貸借①質貸借とは、質貸借契約の成立
第 6 回	貸借型⑤	質貸借②質貸人・質借人の義務
第 7 回	貸借型⑥	質貸借③譲渡・転貸、第三者との関係

第 8 回	貸借型⑦	質貸借④質貸借の終了、定期借家権
第 9 回	役務型①	委任①
第 10 回	役務型②	委任②サービス契約の規定の在り方
第 11 回	役務型③	請負①請負とは、請負の成立
第 12 回	役務型④	請負②請負の効力、終了
第 13 回	役務型⑤	雇用、寄託
第 14 回	その他	組合契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

曾野裕夫＝松井和彦＝丸山絵美子『民法Ⅳ契約』（有斐閣、2021 年）。判例教材として、瀬川信久＝内田貴『民法判例集債権各論第 4 版』（有斐閣、2020 年）。

【参考書】

契約各論に関しては、以下の 3 つの書籍を特に薦める。経済的事情が許せば購入して学習して欲しい。

契約各論の全体像および現代における契約規定の在り方を考える上で有益な書籍として、大村敦志『新基本民法 5 契約編 各種契約の法（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

山本豊＝笠井修＝北居功『民法 5 契約（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2018 年）。開講時までに 2 版に改訂される場合には 2 版を教科書とする。

中田裕康『（新版）契約法』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 40 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 60 % とする。

つまり、小テスト 40 % + 学期末試験またはレポート 60 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業での解説は聞き取りやすい速度で、レジュメを工夫しながら行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【Outline (in English)】

In this lesson, we learn the rule of each contract in a Civil Code, for example, the lease contract, the service contract. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(40%) and term-end examination(60%).

LAW200AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大人数授業に関する今年度の大学の方針により、オンライン授業を原則とする（オンデマンド方式のみになる場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第 10 回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理

第 11 回 基本型不法行為の効果 減額調整——過失相殺と損益相殺論③

第 12 回 基本型不法行為の効果 損害賠償請求権者の範囲・間接損害論④

第 13 回 複合型不法行為 使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）

第 14 回 その他の法定債権 事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第 3 版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第 2 版）、大村敦志『新基本民法 6 不法行為編』、川井健『民法概論 4』（補訂版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第 8 版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンラインを含めて授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊な効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。
 契約法Ⅲが対象とする債権編については 2020 年 4 月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ 債権各論』、中田裕康『契約法』、大村敦志『基本民法 5 契約編』、平井宜雄『債権各論Ⅰ上—契約総論』、その他債権法改正（2017 年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB

親族法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあります。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

授業の概要と目的：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学に縁のない他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「自分の頭で考える。正答は一つではない。」

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が、まさいに行われました。

それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。

こうした「民法大改正」のうねりの中で、第4編「親族法」も民法改正と無縁ではありません。

●まずは現行民法の「親族編」つまり親族法の法的論点について、独自の解釈論を展開し、根拠を論述できる能力を身につけます。

●さらに、どのような親族法改正が必須か、例えば旧くて新しい問題としては「(選択的)夫婦別氏」、新しい課題では「同性婚の合法化」、そして憲法との関連では、「離婚後の未成年の子と、嫡出でない未成年の子の、片方の親のみによる『単独親権制度』は憲法違反で改正すべきか？」など、「民法、その中でも『親族編』の諸問題を、自分の頭で考え、法改正論を独自に論じ、根拠を論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。

●また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。

●学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。（匿名可可能です。）次の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、社会・家庭、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や家庭でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	現行民法改正過程の前半（主に1946年）に関する講義&質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程の前半（主に1947年）に関する講義&質疑応答
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する講義&質疑応答
第4回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する講義&質疑応答
第5回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する講義&質疑応答
第6回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する講義&質疑応答
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する講義&質疑応答
第8回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第9回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第10回	実親子関係の発生（3）：人工生殖（その1）	不妊治療中の人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第11回	実親子関係の発生（4）：人工生殖（その2）	不妊治療ではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第12回	養親子関係：子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する講義&質疑応答
第13回	授業内試験【とその振り返り：次回】	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第14回	授業内試験の講評	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：

高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第6版 有斐閣アルマ ￥2,400+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：●期末の「授業内試験」90点。●「授業内試験」の「講評」出席で平常点10点。

●期末の「授業内試験」では、到達目標である：

1) 親族法の学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に親族法の説得的な解釈論を展開できる能力

2) 親族法の改正論の諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に論じ、根拠を論述する能力以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境を整えます。
- 授業のスピードを速くしすぎず、学生がフォローしやすいテンポにします。
- 「目からも学ぶ」ことを重視し、DVD、ブルーレイ教材を使います。
- 教科書や参考書にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
- 「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.

LAW300AB

相続法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ★この科目は「他学部公開科目」でもあります。
 - この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
- 授業の概要と目的：
- 民法典の「第 5 編 相続」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につけます。
 - 法学部生、他学部生とも、必ず人生で 1 度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学に縁のない他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
 - 「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「自分の頭で考える。正答は一つではない。」

【到達目標】

- 学生は、学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につけます。
- また 21 世紀に入って、同じ民法の第 3 編「債権法」の大改正が、まに行われました。
- それに伴い、第 1 編の「総則」も 部分的に改正されています。
- こうした「民法大改正」の一環として、第 5 編「相続法」にも改正が行われたことを学びます。
- まずは現行民法の「相続編」つまり相続法の法的論点について、独自の解釈論を展開し、根拠を論述できる能力を身につけます。
- さらに、どのような相続法改正が必須としてすでに行われたか、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、自分の頭で考え、今後必要となるであろう法改正論を独自に論じ、根拠を論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。
- また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。
- 学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。（匿名可能です。）次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
- 学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
- 学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、答は一つではありません。
- 学生皆さんが生きていく 21 世紀の日本では、国内外、社会・家庭、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
- 学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や家庭でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	全体的な授業計画	開講にあたって、この授業で何を学ぶか シラバスの説明による、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認
第 2 回	相続法総論	相続法総則 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権。加えて相続法改正の要点と今後の改正の展望。
第 3 回	相続人 (1)	1. 胎児と相続
第 4 回	相続人 (2)	2. 相続人の範囲 3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除
第 5 回	相続の効力 (1)	3. 同時死亡の推定 1. 相続財産の範囲
第 6 回	相続の効力 (2)	2. 法定相続分 (1)
第 7 回	相続の効力 (3)	2. 法定相続分 (2) 3. 指定相続分
第 8 回	遺産分割	4. 具体的相続分・特別受益、寄与分 1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止
第 9 回	相続の承認・放棄、遺産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在
第 10 回	遺言	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止 4. 普通方式遺言と特別方式遺言
第 11 回	遺言の効力	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回
第 12 回	遺留分	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄
第 13 回	授業内試験【とその振り返り：次回】	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 14 回	授業内試験の講評	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書】：高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法 7 親族・相続』第 6 版 有斐閣アルマ ￥2,400+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】

- 【予定】：●期末の「授業内試験」90 点。●「授業内試験」の「講評」出席で平常点 10 点。
●期末試験では、到達目標である：

1) 相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に相続法の説得的な解釈論を展開できる能力

2) 相続法の改正と今後の改正論の諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に論じ、根拠を論述する能力

以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境を整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、学生がフォローしやすいテンポにします。
- 「目からも学ぶ」ことを重視し、DVD、ブルーレイ教材を使います。
- 教科書や参考書にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。

●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。

●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

To learn the Japanese Law of Inheritance, the fifth book of the Japanese Civil Code.

LAW300AB

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪徳商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ハイフレックスで行う場合、同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者法とは何か	消費者・事業者概念、消費者基本法
第 2 回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失
第 3 回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺
第 4 回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法 4 条など
第 5 回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法 4 条など

第 6 回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引
第 7 回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その 1	民法による不当条項規制、約款論
第 8 回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その 2	消費者契約法 8 条～10 条
第 9 回	消費者契約の内容の適正化④履行段階	信義則の役割、契約の解釈
第 10 回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要
第 11 回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、過量販売規制など
第 12 回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続
第 13 回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	名義貸し、預金トラブル
第 14 回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。また、消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてくれていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞しておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 4 版）』（日本評論社、2020 年）
 河上正二＝沖野眞已編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）
 大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 70 % とする。

また、「事前課題」に対する掲示板への書き込みを評価に入れる（30 %）つまり、学期末試験またはレポート 70 % + 掲示板への書き込み 30 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。
 感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process short-comment(30%) and term-end examination(70%).

LAW300AB

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ハイフレックスで行う場合、同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者取引の対象①物	民法の規定との関係の品質
第 2 回	消費者取引の対象②物	製造物責任①の安全性（1）
第 3 回	消費者取引の対象③物	製造物責任の安全性（2）
第 4 回	消費者取引の対象④品	食品衛生法など品質・安全性に関する行政規制
第 5 回	消費者取引の対象⑤	民法の規定・特定商取引法サービス契約論
第 6 回	消費者取引・各論①悪	悪徳商法の各類型についての説明
第 7 回	消費者取引・各論②金	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法
第 8 回	消費者取引・各論③建	建築トラブルをめぐる民事判例建築取引
第 9 回	消費者取引・各論④電	電子商取引をめぐる民事判例および特別法
第 10 回	消費者保護制度論①行	消費者庁、国民生活センターの役割行政機関の役割

- 第11回 消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その1 ADR 制度、消費者団体訴訟
- 第12回 消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その2 集団的消費者被害救済について
- 第13回 消費者取引と市場の公正 独禁法と消費者法の関係、景品表示法について
- 第14回 消費者・事業者の活動 消費者団体の役割、公益通報者保護法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。また、消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

10月に大澤彩『消費者法（仮）』（商事法務）が出版される予定である。出版された場合には、同書をテキストとする。詳細は初回授業で指示する。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第4版）』（日本評論社、2020年）

河上正二＝沖野真己編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）

大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を70%とする。

また、「事前課題」に対する掲示板への書き込みを評価に入れる（30%）つまり、学期末試験またはレポート70%＋掲示板への書き込み30%＝100%で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・消費者法Ⅰを受講済みであるのが望ましい。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDGsの観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn consumer law, especially, the safety and the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process short-comment(30%) and term-end examination(70%).

LAW200AB

商法総則・商行為法 I

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

えー、2 年生の方ははじめまして。担当のトチカワです。よろしく。商法と会社法によって規整されているものは、私法上の権利義務関係、すなわち本来は民法によって規整されるはずの生活関係です。そこで疑問となるのは「なぜ民法の他にわざわざ商法や会社法といった法律が制定されたのか？」ということですね。この疑問に対して、商法や会社法がその適用対象としている人（法人も含む）や組織のもつ特徴に視点をあてて疑問への答を探ろう、ということがこの講義のテーマとなります。

(1) まず、民法と比較しながら、商法という法分野（注：法分野としての商法は、「商法」という名称の法律も含まれますが、それよりもっと広い概念で、例えば「会社法」も法分野としての商法に含まれます）にはどのような特色があるのかについて学びます。その際に重要になる法概念が「商人」及び「商行為」です。この 2 つの概念については、法律上の厳密な定義がありますから、この定義をしっかり覚え身に付けることが、この講義の第 1 関門になります。

(2) 次に、「企業」という概念について学びます。これは「商人」とは異なり、厳密な法的定義のない言葉ですが、商法を学ぶ際に鍵となる概念です。やや抽象的な議論になりがちなのですが、現実にある様々な形態・業態の企業をイメージしながら考えていきましょう。

(3) 次に企業の営みであり、また企業の組織そのものを指す言葉でもある「営業」「事業」についての商法・会社法上の規定と、その意義について学びます。ここら辺から本格的に判例についても言及していきます。予め読んでおいて欲しい判例は事前に示しますので、講義当日には指定された判例の全文を手元に置いて講義を聞くようにして下さい。

(4) 次に、「営業」「事業」と不可分の関係にある「商号」について学びます。併せて「営業所」「支店」「商業帳簿」など、企業の物的設備に関する規整も学びましょう。

(5) 企業の人的設備と言われる「使用人」についての規定も学びます。民法の「代理」についての定めの特則になる部分ですので、民法における代理に関する諸規定も併せて復習しながら考えていきます。

(6) 商業登記に関する規整を検討します。同じ登記でも不動産登記とは大きく異なる制度ですので、混乱しないようについてきて下さい。

(7) 最後に商取引の分野における民法とは異なる商法の規律について検討します。

なお、本講義は『裁判と法コース』および『企業・経営と法コース（商法中心）（労働法中心）』に属します。

【到達目標】

商法及び会社法の「総則」部分および商法の「商行為」に置かれている条文が、実際にどのような場面で、どのような規範として適用されることになるのかを理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形態で行います。2 年次生が主な対象であるということと秋学期の授業であることを考慮して、希望的観測を込めて対面授業を基本としつつ、動画配信（オンデマンド）を交えて行う形式といたします。本シラバスだけではなく、各回の授業用のレジュメや参考資料を配付して理解の助けとなるようにします。資料等はできるだけ事前配付をしたいと思います。授業支援システムの資料配付機能を積極的に使用しますので、皆さんもどんどん活用してください。授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	開講にあたって・商法とは何か	講義の進め方と全体像／民法と規整範囲が重なる商法・会社法が制定されなければならないのは何故なのかを考える。
第 2 回	商人と商行為	「商人」及び「商行為」の法律上の定義について学ぶ。
第 3 回	商法の意義	商法 1 条の「商事」とは何を指すかについて、商的色彩説と企業法説を紹介しながら、民法と商法の異同とその関係を考える。〔テキスト第 1 章〕
第 4 回	客観的意義における営業・事業	譲渡の対象となる営業・事業とは何か。営業譲渡・事業譲渡の要件及び効果はどのようなになっているかを検討する。〔テキスト pp.33-38〕
第 5 回	営業譲渡・事業譲渡の法的効果	代表的な判例をいくつか取り上げて、営業譲渡・事業譲渡に関する現行法の規範を検討する。〔テキスト pp.38-49〕
第 6 回	濫用的（許害的）な営業・事業の譲渡	営業譲渡・事業譲渡が債権者を害する目的でなされた濫用的なものである場合の規律を検討する。
第 7 回	商号の保護と名板貸責任	商号の意義、商号権の侵害と商号権侵害に関する救済方法、他人に商号使用を許諾した場合（名板貸）に生じ得る責任について学ぶ。〔テキスト第 3 章・第 7 章〕
第 8 回	支配人と表見支配人	支配人など商業使用人の資格と権限及び義務、表見支配人の行為に関する営業主の責任について学ぶ。〔テキスト pp.75-88、第 8 章〕
第 9 回	支配人以外の商業使用人	無権限で商人や会社を代理する権限があるかのように振る舞った者がいる場合について、いくつか判例を取り上げて、現行法における規範を検討する。〔テキスト pp.88-90〕
第 10 回	商業登記	商業登記の効力と不実の登記がなされた場合の関係者の責任について学ぶ。〔テキスト第 5 章・第 9 章〕
第 11 回	商行為の代理と委任	商行為の代理と委任についての商法上の特則を、民法上の規律と比較しながら概観する。〔テキスト pp.191-197〕
第 12 回	商事売買	売買契約に関して商法が定める特則を学ぶ。〔テキスト第 12 章〕
第 13 回	補助商	他の企業の活動を補助することを役割とする企業（代理商・仲立人・問屋）に関する商法上の規整を概観する。〔テキスト第 15 章〕
第 14 回	補助商事例研究	判例の検討を通じて、代理商・仲立人・問屋に関する規範の現状を検討する。〔テキスト第 15 章〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・民法のなかでも、法律行為（特に代理）、債権譲渡、債務不履行責任については、ひととおりは学修してあることが望ましい。
 ・受講者はテキストの該当部分を事前に一読しているということを前提として講義を進めます。
 ・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおいて下さい。できれば解説部分にも目を通していただければ更に講義内容についての理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明ほか『商法総則・商行為法〔第3版〕』（有斐閣アルマ・2019年）

【参考書】

神作裕之ほか『商法判例百選』別冊ジュリスト 243号（有斐閣・2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・法律学科の専門科目ですから言うまでもないことですが、商法・会社法だけでなく他の法令も掲載されている六法を常に参照可能な状態で用意しておいて下さい。

・六法は (a) 最新の条文が反映され、(b) 講義中に口頭で指示される指定条文を素早く一覧できるものを使用して下さい。(a・bの2条件を満たしていれば紙に印刷されたものである必要はありませんが、教壇から見ていると、スマホで条文を引いている方の中には、指定の条文に辿り着くのにかかる時間がかかっている方が多いようです。課金を厭わず学修するために最適な六法を利用して下さい。)

・なお、定期試験では印刷された六法以外の参照は禁止されます。

【Outline (in English)】

Participants in this course will primarily learn about the following legal issues; definition of a merchant, business transfer, trade name, commercial registration, commercial agency, and intermediary business.

LAW200AB

会社法

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、実務的な法学教育を意識して、企業、特に株式会社が法律上どのように規整されているのか概観するとともに、実務では実際に企業はどのように運営されているのかということについて考察する。

卒業後にすぐ役立つ会社実務の基礎的知識の習得、金融商品取引法と並んで企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのか、その概要を理解する。
- ② ビジネスに必要な様々な用語やスキームを理解し、新聞の経済面を楽しく読み解くことができるようにする。
- ③ 就職活動に役立つ専門知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

会社、特に株式会社は、現代の日本経済になくしてはならない存在であり、ほとんどの学生が、現在その組織の中に組み込まれている、あるいは卒業後組み込まれていくにもかかわらず、これを規律する法律である会社法は、刑法や民法などに比べてとっつきにくいという印象が強く、どうしても敬遠されがちである。そこで、本講義では、会社とはどういうものなのか、そして現代社会において如何なる機能を果たしているのかといった会社全般に関する総論的なことを説明した後、会社の中でも最もよく利用され、最も重要な機能を果たしている株式会社に焦点を絞って、株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのかといった株式会社組織全般の法規制の内容を分かりやすく説明する。会社法は学生には馴染みがないので、実際に話題となっている企業買収事例や企業不祥事などの時事問題や判例を紹介しながら具体的に会社法が果たす役割や問題についてわかりやすく説明する予定である。

なお、大講義では、ともすれば教える側の一方通行になりがちであるが、本講義では、ただ単に法律上の手続きや規制の内容を覚えるだけではなく、学生が自分の頭で考えながら理解することを目標に、「何故そうした法規制が必要なのか」、「どうしてそういうことが問題となるのか」といった問題意識を絶えず念頭におき、学生との質疑応答を交えながら進めて行くつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、双方向のオンライン型ライブ授業に切り替えることがあります。授業方法の変更等については、授業支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、随時チェックするようにしてください。

なお、レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載しますので、各自用意するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	会社法総論	会社の経済的機能と会社法について概説する
第 3 回	会社の概念・種類	会社の定義、および会社法上認められている会社の種類・意義について概説する
第 4 回	会社の権利能力	会社の権利能力について、八幡製鉄献金事件などの判例を交えながら概説する。
第 5 回	株式会社—総説—	株式会社とはどういうものを言うのか、その特質について概説する。
第 6 回	株式会社の機関総論	株式会社の機関、機関設計について概説する。
第 7 回	株主総会 1	株主総会とはどういうものか、その概要について概説する。
第 8 回	株主総会 2	株主提案権・決議要件・株主総会決議の瑕疵について解説する。
第 9 回	経営機構	株式会社の経営機構の概要について概説する。
第 10 回	取締役・取締役会	取締役会の機能・権限、取締役の資格・報酬等について概説する。
第 11 回	取締役の権限・代表取締役	取締役の権限、代表訴訟の意義・権限について鍵説する。
第 12 回	指名委員会設置会社・監査監査役・監査役会・会計監査人等委員会設置会社	各経営機構について、コーポレート・ガバナンスの視点から概説する。
第 13 回	役員の責任	取締役等株式会社の役員の責任について、判例を交えながら概説する。
第 14 回	役員の対第三者責任	役員の対第三者責任について概説する。
第 15 回	株主代表訴訟	株主第三者割当・多重代表訴訟について概説する。
第 16 回	株式と株主	株式と株主について解説する。
第 17 回	株式の種類と内容	株主平等原則、種類株式の概要について解説する。
第 18 回	キャッシュ・アウト、全部取得条項付株式	全部取得条項付株式の概要と問題点、およびキャッシュ・アウト制度について概説する。
第 19 回	株式譲渡	株式譲渡に関する法規整の概要について概説する。
第 20 回	株式の併合・分割・無償割当	株式の併合・分割・無償割当について解説する。について概説する。
第 21 回	募集株式の発行と不正な株式発行等	募集株式の発行と不正な株式発行について、判例を交えながら概説する。
第 22 回	新株予約権	新株予約権に関する法規制について概説する。
第 23 回	社債	社債に関する法規制について概説する。
第 24 回	企業買収・企業再編	テーマに基づく講義
第 25 回	合併	合併に関する法規制について概説する。
第 26 回	会社分割	会社分割に関する法規制について概説する。
第 27 回	株式交換・株式移転	株式交換・株式移転に関する法規制について、具体的な事例を交えながら概説する。
第 28 回	事業譲渡・事業の譲受け	事業譲渡・事業の譲受けに関する法規制について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特にしなくても良いので、その分、前回の講義の復習をきちんとすること。また、新聞の経済面を毎日読んで、企業に関する情報—例えば、株主総会が開催され、そこで取締役の解任が議論されたとか、株主が取締役に対する損害賠償を提起したとか、どこの会社とどこの会社が合併するといった記事—toに注目し、何が問題となっているのか自分なりに考えてみる（準備学習）。こうした知識が頭にあるだけで、会社法の講義は楽になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・田中亘「会社法【第 3 版】」（2021 年）東京大学出版会
- ・必ず最新の六法を持参すること

【参考書】

- ・神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編「会社法判例百選【第 4 版】」有斐閣
- ・浜田道代・岩原紳作編「会社法の争点」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

年度末の定期試験 (50%) と学期中の小テスト (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to understand the rules of the Companies Act, especially in relation to:

- (a) incorporation of a company,
- (b) corporate governance,
- (c) corporate financing,
- (d) M & A.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① understand the system of Japanese company law
- ② understand the economic aspects of newspapers
- ③ acquire knowledge useful for job hunting

【Learning activities outside of classroom】

Before /after each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least 2 hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%), and term-end examination (50%)

LAW200AB

会社法

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、株式会社法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本科目では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「会社法」で何を学ぶか？	・会社の意義 ・会社法の基本的な構造
第 2 回	株式会社制度の特徴	・組合契約と会社の異同 ・株式会社と合同会社の異同
第 3 回	株主の権利	・自益権と共益権 ・種類株式
第 4 回	株式の譲渡と担保化の方法	・株式譲渡の効力要件と対抗要件 ・株式の担保化の方法
第 5 回	株式会社の機関	・機関の構成と権限分配
第 6 回	株主総会制度	・招集手続 ・議事運営 ・総会検査役の役割
第 7 回	株主の議決権行使	・議決権 ・書面決議 ・代理人による議決権行使 ・利益供与
第 8 回	瑕疵のある株主総会決議とその効力	・株主総会決議取消の訴え ・株主総会決議の不存在・無効
第 9 回	取締役	・取締役の地位 ・取締役の義務
第 10 回	監査役	・監査役の地位 ・監査役の職務権限
第 11 回	取締役会制度	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第 12 回	会計監査人	・会計監査人の地位と権限
第 13 回	指名委員会等設置会社/監査等委員会設置会社	・取締役と執行役の地位 ・取締役会と 3 委員会の権限 ・執行役の権限 ・監査等委員会
第 14 回	検査役	・選任の方法 ・検査役の権限

第 15 回	春学期のまとめ	・第 1 4 回までの講義内容のまとめ
第 16 回	取締役の会社に対する義務	・善管注意義務と忠実義務 ・競業取引規制 ・利益相反規制
第 17 回	取締役の報酬	・取締役の報酬 ・その他の役員の報酬
第 18 回	取締役の会社に対する責任	・任務懈怠責任 ・任務懈怠責任の免除
第 19 回	取締役の任務懈怠責任	・任務懈怠責任の要件 ・任務懈怠責任の免除
第 20 回	株主代表訴訟・多重代表訴訟	・役員等の責任を追及する訴えを提起すべき旨の請求 ・代表訴訟の提起 ・代表訴訟の却下と担保提供命令
第 21 回	取締役の第三者に対する責任	・会社法 429 条 1 項の責任 ・会社法 429 条 2 項の責任
第 22 回	募集株式の発行	・企業の資金調達手段 ・授權資本制度 ・募集株式発行の手続き
第 23 回	募集株式発行の瑕疵を争う手続	・募集株式発行の差止め ・株式発行無効の訴え ・取締役の責任
第 24 回	株式会社の設立	・株式会社の設立手続 ・発起人の権限と責任 ・設立無効の訴え
第 25 回	企業の再編と買収	・企業買収の意義 ・買収の手法
第 26 回	企業再編行為	・合併 ・会社分割 ・株式交換／株式移転
第 27 回	企業再編の手続とその瑕疵	pp.396-432 ・企業再編の手続 ・企業再編行為の瑕疵を争う手続
第 28 回	敵対的買収	・敵対的買収の意義 ・敵対的買収に対する防衛策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくテキストを予習してくること、また、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This class will provide an overview of the major legal issues related to Japanese corporate law.

LAW300AB

民事訴訟法 I

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第 1 審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方等）	ガイダンスを行った後、民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
	民事紛争解決制度としての民事訴訟	
	民事訴訟審理の基本構造と基本概念	
第 2 回	訴えの提起（1）その 1	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 3 回	訴えの提起（1）その 2	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 4 回	訴えの提起（2）その 1	訴訟要件、訴えの利益
第 5 回	訴えの提起（2）その 2	訴訟要件、訴えの利益
第 6 回	訴えの提起（3）	当事者、当事者の確定
第 7 回	訴えの提起（4）	当事者能力、訴訟能力
第 8 回	訴えの提起（5）	訴訟上の代理、法人等の代表者
第 9 回	訴えの提起（6）	当事者適格、第三者の訴訟担当
第 10 回	訴えの提起（7）	裁判所・裁判官、管轄
第 11 回	訴えの提起（8）	訴え提起の効果（送達を含む）、二重起訴禁止
第 12 回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則
第 13 回	口頭弁論（2）	弁論主義①（総論、第 1 テーゼ）

第 14 回 口頭弁論（3） 弁論主義②（第 2 テーゼ、裁判上の自白）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めますが、予習復習に際して基本となる教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）を指定しておきます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

＜入門書＞本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）

＜本格的な体系書として＞

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

＜各テーマに関する詳細な検討について＞

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

＜判例集＞ 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）

・中島弘雅＝岡仲浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

・山本和彦『最新重要判例 250 民事訴訟法』（弘文堂、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70% and Mid-term report : 30%

LAW300AB

民事訴訟法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事訴訟審理の基本構造と基本概念の復習（「民事訴訟法Ⅰ」の学修内容の確認）	ガイダンスを行った後、「民事訴訟法Ⅰ」における学修内容を踏まえて、改めて民事訴訟手続の基本構造について確認を行う。
第2回	口頭弁論（4）	口頭弁論における当事者の行為、訴えの変更・反訴、共同訴訟・独立訴訟参加・補助参加
第3回	口頭弁論（5）	裁判所による口頭弁論の指揮、釈明権・釈明義務
第4回	口頭弁論（6）	口頭弁論期日の実施とその準備、争点整理手続、送達
第5回	口頭弁論（7）	証拠調べ（証拠法）総論
第6回	口頭弁論（8）その1	証拠調べ各論
第7回	口頭弁論（8）その2	証拠調べ各論
第8回	口頭弁論（9）	自由心証主義、証明責任
第9回	終局判決による訴訟の終結（1）	判決の種類、判決の成立・確定、処分権主義
第10回	終局判決による訴訟の終結（2）その1	確定判決の効力：既判力
第11回	終局判決による訴訟の終結（2）その2	確定判決の効力：既判力
第12回	終局判決による訴訟の終結（2）その3	確定判決の効力：既判力 訴訟承継との比較

第13回 裁判によらない訴訟の 訴訟上の和解、請求の認諾・放棄、訴えの取下げ
 第14回 上訴、非常救済手続 控訴、上告、抗告、特別上訴、再審

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「学習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めますが、予習復習に際して基本となる教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法〔第3版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018年）を指定しておきます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」においてPDFファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

＜入門書＞本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
 ＜本格的な体系書として＞

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第7版、2020年）
 ＜各テーマに関する詳細な検討について＞

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）
 ＜判例集＞ 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第5版、2015年）

・中島弘雅＝岡仲浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例 250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

・なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70% and Mid-term report : 30%

LAW300AB

民事訴訟法Ⅲ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、すでに民事訴訟法の基礎を学習していることを前提に、民事訴訟法における応用的な論点や判例について重点的に学習することで、民事訴訟法に対する理解を深めることを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」及び「同（労働法中心）」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・民事訴訟手続全体における論点や判例の位置付けを明確にすることができる。

・民事訴訟法における論点・判例又は関連する社会問題について理解をするとともに、その問題の所在や議論状況について説明をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行っていくことを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方） 民事訴訟手続に関する全体像の復習	ガイダンスを行った後、民事訴訟法の基礎に関する復習を行う。
第 2 回	訴えの利益—特に確認の利益に関する判例を中心に（1）	各種類型に関する訴えの利益に関する問題状況を概観した上で、遺言無効確認の訴えの確認の利益に関する判例を読み解く。
第 3 回	訴えの利益—特に確認の利益に関する判例を中心に（2）	将来の権利関係確認の訴え等の確認の利益に関する判例を読み解く。
第 4 回	訴訟担当に関する判例	明文のない任意的訴訟担当の規律に関する一連の判例について検討する。
第 5 回	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する判例	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する一連の判例について検討する。
第 6 回	弁論主義と釈明権	弁論主義と釈明権の関係、法的観点指摘義務に関する判例の検討を行う。
第 7 回	既判力（1）—客観的範囲、相殺の抗弁	既判力の客観的範囲に関する民事訴訟法上の規律を確認した上で、特に相殺の抗弁と弁済の抗弁の比較、一部請求論に関する判例を読み解く。
第 8 回	既判力（2）—時効的範囲、主観的範囲	既判力における基準時の概念、既判力の時効的範囲に関する判例を読み解く。

第 9 回	既判力（3）—その他の判決効（争点効、反射効）	既判力以外の判決効に関する判例を読み解く。
第 10 回	交通事故訴訟に関する諸問題—処分権主義、一部請求論、損害額の認定（1）	不法行為訴訟としての交通事故訴訟に関する具体的事例を通じて、民法及び民事訴訟法の基礎知識について検討を行う。
第 11 回	交通事故訴訟に関する諸問題—処分権主義、一部請求論、損害額の認定（2）	一部請求に関する最判平成 10 年 6 月 12 日民集 52 巻 4 号 1147 頁・最判平成 20 年 7 月 10 日判時 2020 号 71 頁について検討する。
第 12 回	債権者代位訴訟に関する諸問題—訴訟担当、既判力、訴訟参加（1）	債権者代位訴訟に関する具体的事例を通じて、債権者代位権に関する平成 29 年改正民法における規律を踏まえつつ、民法及び民事訴訟法の基礎知識を確認し、主張立証の構造を検討する。
第 13 回	債権者代位訴訟に関する諸問題—訴訟担当、既判力、訴訟参加（2）	債権者代位訴訟に関する最判昭和 48 年 4 月 24 日民集 27 巻 3 号 596 頁について検討を行う。
第 14 回	複雑訴訟についての応用論点の検討	複雑訴訟における応用論点や判例について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示を初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関する指示は、各回の講義の際に行います。

・各回で扱う分野の基礎知識について、事前に復習を行うことが必要です。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい（PC やタブレットによる閲覧は認めますが、講義中のスマホによる閲覧は認めません）。

【参考書】

<基礎知識確認用の自習教材として>
山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）
<本格的な体系書として>
・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）
・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）
<本講義で取り上げる各テーマに関する詳細な検討について>
・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）
・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）
<判例集> 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。
・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）
・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）
・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）
・山本和彦『最新重要判例 250 民事訴訟法』（弘文堂、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

・「期末試験の成績（60%）」及び「講義中に適宜実施するレポート等の課題への取り組み及び講義中の質疑応答等に関する平常点（40%）」を総合して評価します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.
-The goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.
 (2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.
 -Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 -Your overall grade in the class will be decided based on the following ;
 Term-end examination: 60% and in class contribution: 40%

LAW300AB

破産法 I**倉部 真由美**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
 「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置される。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと一般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況进行处理のための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、手続の側面と消費者破産を中心に説明する。破産手続における契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）については、破産法Ⅱで扱うため、破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倒産の世界へようこそ	ガイダンス
第 2 回	裁判所で行われる倒産手続	裁判所で行われる倒産手続の概要を紹介する。
第 3 回	私的整理／倒産 ADR	裁判所の外で行われる私的整理と倒産 ADR について扱う。
第 4 回	破産手続の基本的な流れ	チャート等を用いて、これから学ぶ破産手続の流れがどのように進むものなのかを解説する。
第 5 回	破産手続の開始 (1)	破産能力、破産手続開始申立て、開始決定を扱う。
第 6 回	破産手続の開始 (2)	各種保全処分を扱う。
第 7 回	破産管財人と破産財団	破産管財人、破産財団と取戻権を扱う。
第 8 回	破産債権、財団債権、債権の種類と優先順位	財団債権、破産債権その他の債権の種類と優先関係を扱う。
第 9 回	破産債権の届出・調査・確定	破産債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第 10 回	破産財団の管理・換価・	破産管財人が破産財団を管理・換価するための手法とプロセスを扱う。
第 11 回	配当	債権者に換価金を配当する方法とプロセスを扱う。
第 12 回	破産手続の終了	破産手続が終了する場面を扱う。

第 13 回 個人破産と免責	消費者についての破産手続開始申立て、同時廃止、自由財産、免責と復権等を扱う。
第 14 回 総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第 6 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW300AB

破産法Ⅱ

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと一般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況进行处理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、破産手続における法律関係・契約関係の処理といわれる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）を中心に説明する。手続に関する部分と消費者破産については、破産法Ⅰで扱うが、破産法ⅠとⅡは関連性が強く、破産法Ⅰで扱った内容に言及することが多い。破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。破産法Ⅰを受講していない場合は、予めテキストを通読して自習しておくこと。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／破産手続の概観	ガイダンス。破産手続を概観し、破産法Ⅰを簡単に復習する。
第 2 回	破産財団をめぐる契約関係 (1)	双方未履行双務契約を扱う。
第 3 回	破産財団をめぐる契約関係 (2)	賃貸借契約を扱う。
第 4 回	破産財団をめぐる契約関係 (3)	請負契約を扱う。
第 5 回	別除権 (1)	別除権の意義と行使方法、破産手続における取扱いを扱う。
第 6 回	別除権 (2)	担保権消滅請求許可制度を扱う。
第 7 回	相殺権 (1)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 8 回	相殺権 (2)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 9 回	否認権 (1)	否認権の意義と種類、行使方法を扱う。
第 10 回	否認権 (2)	否認権の意義と種類、行使方法の続きを扱う。
第 11 回	役員の責任追及	役員の責任追及について扱う。

第12回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第13回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第14回	総括	第13回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第5版〕』（有斐閣、2018年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂、2015年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on treatment of contracts, the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW300AB

民事再生法

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再建型倒産手続の一般法について定める民事再生法の基礎を理解する。

「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置されている。

【到達目標】

再建型倒産手続の一般法である民事再生手続の意義、手続の流れ、全般的な仕組みを理解する。破産法と民事再生法の主たる相違点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産といえば、自己破産をイメージして、債務者の財産を換価し債権者への平等に配当する手続を思い出すかもしれないが、わが国にはこのようないわゆる清算型の手続だけではなく、再建型の手続も存在する。民事再生法は、再建型倒産手続について定める一般法であり、利害関係人の利害を調整しつつ、主として債務者を再生することにより、将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする手続である。本講義では、民事再生法の意義、手続の流れ、全般的な仕組みを、適宜、破産法と比較しながら解説する。

なお、本講義では、破産法Ⅰ・Ⅱで扱った内容に言及することが多いため、破産法Ⅰ・Ⅱを予めまたは並行して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／再建型倒産手続の概観	ガイダンス。再建型倒産手続を中心に倒産処理制度を概観する。
第2回	手続の開始	再生手続開始申立て、申立権者、開始決定、各種保全処分を扱う。
第3回	手続の機関	再生裁判所、再生債務者、監督委員、管財人、債権者集会、債権者委員会を扱う。
第4回	債権の種類と優先順位	共益債権、再生債権など債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第5回	債権の届出・調査・確定	再生債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第6回	担保権の取扱い	別除権の意義と取扱い、不足額責任主義の適用される場面を扱う。
第7回	担保権に対する制約	担保権実行中止命令と担保権消滅許可制度を扱う。
第8回	否認権	否認権の行使に関する民事再生法上の特別な取扱いを扱う。
第9回	再生計画の立案・認可	再生計画を立案・提出できる者、再生計画の内容、再生計画認可要件を扱う。
第10回	手続の終了	再生手続の終了を扱う。
第11回	個人再生	小規模個人再生手続、給与所得者等再生手続及び住宅資金貸付債権に関する特則を扱う。

第 12 回	民事再生と会社更生	民事再生と会社更生を比較して紹介する。
第 13 回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第 14 回	総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
- ・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

- ・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）
- ・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
- ・松下淳一『民事再生法入門』（有斐閣、第 2 版、2014 年）
- 判例について
- ・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選＜第 6 版＞』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of Civil Rehabilitation Act in Japan.

Students are expected to understand concepts and the procedure under Civil Rehabilitation Act and recognize differences between Bankruptcy Act and Civil Rehabilitation Act

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW100AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、講義形式で行う。オンデマンド形式で講義動画を毎週配信する予定である。動画配信による講義であるところ、週によって講義時間の長さが異なる可能性がある。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講義をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半、過失
第 10 回	責任 III（佐野）	責任能力、違法性の意識の可能性
第 11 回	不作為犯論（佐藤）	不作為犯の意義と作為義務
第 12 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯
第 13 回	共犯 I（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆幫助
第 14 回	共犯 II（佐野）	共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくが良い。さらに、2回のレポートの前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第7版（授業開始までに改訂された場合には、新版を用いる）、2018、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート50%、期末レポート50%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。なお、昨年度レポートの質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるもので、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
また、昨年度のレポートでは、「～について説明せよ」と聞かれれば調べて回答できるが、自分で問題点を見つけて検討を加える力が身に付いていないように感じられた。受講人数のためにオンライン授業ではあるが、受け身ではなく、自分で考えながら動画を視聴して欲しい。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に伴い、PCや通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term and term-end reports. The overall grade will be based on the mid-term report (50%) and term-end report (50%).

LAW200AB

刑法総論Ⅱ

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法総論の分野について、刑法総論Ⅰで学修したことを前提に、さらに踏み込んだ議論を学修する。重要判例や議論状況を正確に把握することで、具体的な問題や発展的な問題についても自ら解決の方向性を示す能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

刑法総論Ⅰで学修した基本的な考え方を前提に、重要判例を丹念に読むことで、基礎的な知識に肉付けを行うと共に、理論・実務における発展的な問題の考え方を身につける。具体的には、主に刑法総論に関する近時の重要判例を題材とし、先例や学説との関係でその意義と射程を正確に理解することで、刑法総論の各分野の知識を深めつつ、交錯領域等の問題について、その捉え方を具体的に学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での実施を予定している。
詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス、刑法総論Ⅰの復習
第2回	構成要件論	早すぎた構成要件の実現
第3回	違法論・責任論（1）	質的過剰防衛・量的過剰防衛
第4回	違法論・責任論（2）	誤想防衛・誤想過剰防衛
第5回	違法論・責任論（3）	責任能力判断
第6回	違法論・責任論（4）	原因において自由な行為を論じるにあたって
第7回	違法論・責任論（5）	原因において自由な行為を巡る諸学説
第8回	正犯共犯論（1）	刑法総論Ⅰの復習等
第9回	正犯共犯論（2）	正犯性
第10回	正犯共犯論（3）	共謀の射程・共犯からの離脱
第11回	正犯共犯論（4）	承継的共犯
第12回	正犯共犯論（5）	共犯と他領域の交錯
第13回	罪数論	法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪
第14回	さいごに	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習が求められる。特に刑法総論Ⅰで学んだ内容や、教員の事前に指定する判例について、事前に確認することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論〔第7版〕』（有斐閣、2018）及び六法（小型のもので可）は毎回参照できるようにすること。追加資料がある場合は適宜配布する。

【参考書】

基本書等については受講者に委ねるが、初回に多少の案内を行う。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験実施が難しい場合は期末レポート）で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講している学生と、受講せずレジュメだけ見ていると思われる学生とでは、評価に大きな開きがある。レジュメは講義の補助資料であり、レジュメだけでは具体的な考え方は身につかないので、毎週講義を受講すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the advanced materials on the general elements of crime and the criminal defenses.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、講義形式で行う。

オンデマンド形式で講義動画を毎週配信する予定である。動画配信による講義であるところ、週によって講義時間の長さが異なる可能性がある。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講義をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半、過失
第 10 回	責任 III（佐野）	責任能力、違法性の意識の可能性
第 11 回	不作為犯論（佐藤）	不作為犯の意義と作為義務
第 12 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯
第 13 回	共犯 I（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆幫助
第 14 回	共犯 II（佐野）	共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくといい。さらに、2回のレポートの前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第7版（授業開始までに改訂された場合には、新版を用いる）、2018、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート50%、期末レポート50%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。なお、昨年度レポートの質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
また、昨年度のレポートでは、「～について説明せよ」と聞かれれば調べて回答できるが、自分で問題点を見つけて検討を加える力が身に付いていないように感じられた。受講人数のためにオンライン授業ではあるが、受け身ではなく、自分で考えながら動画を視聴して欲しい。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に伴い、PCや通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term and term-end reports. The overall grade will be based on the mid-term report (50%) and term-end report (50%).

LAW200AB

犯罪学

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、犯罪をコントロールする方法を研究する刑事学のうち、犯罪の現状、すなわち、犯罪の原因や発生状況を分析することを目的とする。このような犯罪学は、刑法学における犯罪の成立要件の解釈や刑事政策学における犯罪予防の方策の研究に対して、基礎となる犯罪の現状認識を提供し、合理的かつ有効な研究を可能とするものである。

【到達目標】

前半の授業により、我が国における犯罪の現状について、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、その現状を理解することができる。

後半の授業により、なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を学ぶ。

両者を総合して、犯罪対策、刑事政策のベースとなる正確なデータと理論的な仮説を調査し、自ら批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での実施を予定している。

詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、教材等の説明、犯罪学の意義。
第2回	犯罪統計の読み方	犯罪統計の種類と意義、分析の注意点など、犯罪統計の基本用語。
第3回	我が国の犯罪の全体像	我が国の治安に対するイメージ、認知件数・検挙件数の推移。
第4回	犯罪者の処遇に関する近年の動向	刑事手続きの各段階における処遇の現状。
第5回	個別の犯罪の検討(1)	殺人の件数の推移、被害者との関係、処遇の動向、強盗の件数の推移、手口、処遇の動向。
第6回	個別の犯罪の検討(2)	窃盗及び覚せい剤事犯、女性犯罪、高齢者犯罪。
第7回	個別の犯罪の検討(3)	再犯者による犯罪の推移。
第8回	個別の犯罪の検討(4)	少年の犯罪・非行に対する手続の概観、少年犯罪・非行の件数の推移。
第9回	犯罪の分析の刑事政策へのつながり	犯罪のイメージと実態、犯罪者処遇への示唆、刑事手続・処遇以前への対応の重要性。
第10回	犯罪原因論の歴史の概観	古典派犯罪学、犯罪生物学、犯罪心理学、犯罪社会学。
第11回	犯罪原因論の分析手法(1)	古典派犯罪学の意義、初期の犯罪生物学の評価、新しい犯罪生物学。
第12回	犯罪原因論の分析手法(2)	深層心理と犯罪、性格と犯罪、知能と犯罪、近時の心理学的アプローチ。

- 第13回 犯罪原因論の分析手法 初期の社会学的アプローチ，社会過程アプローチ，緊張理論，葛藤理論。
- 第14回 犯罪原因への新しいアプローチ ラベリング論，コントロール理論，環境犯罪学，ニュークリミノロジー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。また、犯罪等に関する報道等に注意し、授業やデータに照らして考えてみることも望ましい。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和3年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ（https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00049.html）でも閲覧可能）。

【参考書】

やや古いが犯罪学全体についての定評ある教科書として、瀬川晃『犯罪学』（1998，成文堂）。

犯罪統計の分析に関する詳細かつわかりやすい解説として、浜井浩一編著『犯罪統計入門』（第2版，2013，日本評論社），同編著『刑事司法統計入門』（2010，日本評論社）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験実施が難しい場合は期末レポート）で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the basics of criminology. The first half of the class will focus on learning how to read statistics while the second half will introduce the main theories and their evolution.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

刑事政策

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「犯罪学」が犯罪現象と犯罪原因を取り扱うのに対し、刑事制裁の内容を中心に、刑事司法制度における犯罪対策の在り方を学修する。

具体的な犯罪対策と、それを基礎付ける刑罰論を学修することにより、法解釈学にとどまらない幅広い視点から犯罪現象を捉える能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

古くより対立の大きい問題（例えば死刑や保安処分）や、近時法改正の進んでいる問題（例えば没収追徴や執行猶予）について、抽象的な議論に止まらず、具体的な制度に関する知識に根ざした議論が展開できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での実施を予定している。

詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス、犯罪学との関係
第2回	刑罰論1	刑罰目的論についての議論状況の確認
第3回	刑罰論2	刑罰とその他の制度との関係、非犯罪化
第4回	量刑理論	量刑の手續と基準、裁判員裁判との関係
第5回	死刑	死刑制度の現状、死刑選択基準、死刑存廃論
第6回	自由刑、財産刑	制度の現状、単一刑論、労務場留置、日数罰金制
第7回	没収追徴	没収追徴制度の現状、法的性質、組織犯罪に関する法改正
第8回	司法内処遇	微罪処分、起訴猶予、執行猶予
第9回	施設内処遇（1）	沿革、再犯と処遇
第10回	施設内処遇（2）	矯正処遇の現状
第11回	施設内処遇（3）	受刑者の法的地位
第12回	社会内処遇	仮釈放、保護観察
第13回	保安処分	刑罰との相違、措置入院制度、医療観察法
第14回	さいごに	まとめ（刑事制裁の内実と刑罰目的論の関係）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書にとどまらず、授業内で紹介する参考文献をも読むことで、刑事政策を巡る諸問題について主体的に考え、意見を持つことが望ましい。

本授業の予習・復習時間は、それぞれ毎週約2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第2版〕』（成文堂、2018）

【参考書】

法務省『令和 3 年版 犯罪白書』(冊子版の他、法務省のホームページ https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00049.html)でも閲覧可能)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(試験実施が難しい場合は期末レポート)で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the way in which we control and prevent crimes within the criminal justice system. The issues this course addresses include the penal theories, the forms of criminal sanction and the civil commitment.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

雇用社会(労働関係)の紛争を解決する法領域が労働法です。雇用社会(労働関係)とは労働者が会社に雇われ、指示に従って働いて報酬を得る社会、市民社会の一部です。

労働法総論では労働法の生成や各分野一箇別の労働関係法、労働組合と使用者の集団的労使関係法、雇用保障法一の概要や紛争解決制度を学修します。

労働契約法では採用拒否、内定取消、配転・出向(人事異動)や解雇といった労働契約の形成・展開・終了に関する紛争の法的解決について学びます。その法理には判例が反映されています。判例を学ぶことは欠かせませんまた、解雇規制緩和議論や人事異動しない正社員(多様な正社員)といったホットな論点もあります。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 この講義を学修することによって、労働法の意義・目的を把握し、本講義の法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
- 2 理解した論理に関連する事例について自分なりに考えることができる。
- 3 上記のことを文章で表現できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の諸問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は「労働法総論」と「労働契約法」を連続して進めます。
- ・授業支援システムを活用して出席をチェックします。
- ・春学期はおそらくすべてオンラインで授業をすることになるでしょう。通常の授業時間で Zoom を利用する。URL などは、学習支援システムでお知らせします。

◎授業の進め方については、初回のガイダンスで話します。ガイダンスも Zoom にておこないます。学習支援システムを見ておいてください。

◎ Zoom 授業の方法

・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で受講するようお願いします。

・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムにて連絡します。お知らせした URL などは変更しないつもりです。

・学習支援システムに登録したメールアドレス宛てに、メールを送信することもあります。受講生自ら学習支援システムに常にアクセスして確認してください。

◎講義終了後にミニテストを出題するつもりです。また、授業支援システムの「課題」を通して、課題をだすこともあります。

◎リアクションペーパー等に対するフィードバックについて

・質問等は、学習支援システムの「課題」欄に「リアクションペーパー(質問)」用意しますのでそれを使ってください。Zoom にチャット機能があります。答えるよう努めますが、見逃したり話の途中でうまく返答できないことも考えられます。なお、個別の質問にはオフィスアワーを利用する方法もあります。

◎リアクションペーパーによる質問は、回答が必要と思われるものについて、次の授業開始前に、受講生全員にフィードバックする形で回答します。

◎レジュメ等

レジュメや資料は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／労働法の生成と理念	ガイダンスと近代社会での労働法の理念について学ぶ。
第 2 回	労働紛争解決制度	不当解雇問題や賃金の未払い問題、男女雇用差別問題などを解決する制度。労働審判制度や公的紛争解決制度を取り上げる。
第 3 回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行システムの内容と変容。労働法見直しの必要性の背景を知る。
第 4 回	労働条件決定の仕組み－労働契約	指揮命令に従って働く内容は労働条件といわれる。労働条件の決定は労働契約にある。
第 5 回	労働条件決定と就業規則	就業規則の法的性質/就業規則による労働条件の不利益変更。
第 6 回	労働条件決定と労働協約、労使協定など	労働協約や労使協定といった自分の労働条件が決まる、修行縛東以外のものを取り上げて学ぶ。
第 7 回	労働契約の締結	労働契約の成立。採用、内定、試用。
第 8 回	労働契約の期間	有期労働契約について学ぶ。
第 9 回	労働契約の権利・義務	労働契約上の権利義務。労働契約法に見る労働契約の原則。
第 10 回	人事異動－業務命令、配転	業務命令という権限と配転・同一使用者の下での人事異動の法理。
第 11 回	人事異動－出向、転籍	出向・転籍・異なる使用者の間での異動。
第 12 回	労働関係の終了－解雇以外の終了	労働契約の終了。その背景を考え、法的規制のありようを考える。終了原因からみると解雇によらない終了もあることを知る。
第 13 回	労働関係の終了－解雇	解雇。解雇の法規制について学ぶ。
第 14 回	労働法総論・労働契約法のまとめ	個別的労働関係法の今日的課題に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・シラバスを見て、授業で扱うテーマを知り、テキストとレジュメ（授業支援システムを通じて事前に配布）を最低限読んでおく。ノートにまとめておくと、授業内容がより理解できる。
- ・授業の中で、気づいた必要箇所を書き加える。そののちテキストを使用して復習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020）

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 9 版）』（2016 年、有斐閣）
- ・金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ【第 4 版・第 2 刷】』エイデル研究所 2019
- ・金子編集代表『基礎から学ぶ労働法Ⅱ【第 2 版】』エイデル研究所 2016
- ・六法はコンパクトなものでかまわないが、労働基準法施行規則などが掲載されているものを選ぶ。具体的には、開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

（定期試験）（60 %）

- ・定期試験を実施します。現時点では、穴埋め問題と記述問題の双方を出題しようと考えています。

- ・定期試験を最も重視します。受験しなかった者の評価はしません。

- ・記述問題に関して、概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準としていいます。

（ミニテスト）（30 %）

- ・講義内容について、理解・把握の確認を目的に簡単なテストをおこないます。

- ・択一式問題を 2, 3 問で、授業内 10 分程度。

（課題・質問）（10 %）

- ・課題はテーマについて、「考え・まとめる」力の向上をと願って、出題します。

- ・質問は大いにしてほしいので、評価対象に入れました。その内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・語尾が聴き取りづらいことがあるとの意見があった。マイクを使い、最後まではっきりとしゃべることを心がけることで対応している。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンもしくはパソコン（リモート授業だからですが、学習支援システムでミニテストを行う予定もあります。注意してください。スマートフォンだとうまく繋がらない事情も生じます。）

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

The student attending this class learns Japanese Labor Law. The class constitutes the introduction to Labor law and Labor Contract Act.

The introduction to Labor law - The student learns Generation of labor law (Employment law, Labor relations law) and Dispute settlement system.

Labor Contract Act - The student learns the rule of adoption, transfer and dismissal.

(2) 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the introduction to Japanese Labor law and Labor Contract Act.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Mini exam. of each class meeting: 30%、Short reports : 10%

LAW200AB

労働基準法

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理についての基本的な問題に自分なりに考えることができるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理に関する事例について文章で回答できる。
4. 1～3で獲得した知識を使って、労働関係の諸問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・ 秋学期は、対面で実施しようと考えています。しかし、コロナの状況は予断を許しません。Zoom を利用しておこなうこともあります。

・ 本講義は春学期の「労働法総論・労働契約法」に続く科目です。

・ 授業支援システムを活用して出席チェックを行います。

◎授業の進め方

初回ガイダンスでも話します。ここでは概要を記します。

（なお、初回ガイダンスは Zoom にておこなうこともあります。この点は、学習支援システムを使ってお知らせします。）

● Zoom の場合。

・「ビデオの停止」「ミュート」で受講するようお願いします。

・ Zoom ミーティング ID やパスワードは、学習支援システムにて連絡します。

・必ず、学習支援システムの「お知らせ」をチェックしてください。

・講義終了後にミニテストを予定しています。授業支援システムの「テスト/アンケート」欄を使います。

・授業支援システムの「課題」を通して、課題をだすこともあります。注意してください。

●対面の場合

・教室での講義です。スクリーンを使ってレジュメ・資料を見られるようにします。また、学習支援システムの「教材」欄にアップしますので、それを見ることができます。

・授業終了後、ミニテストを実施する予定です。学習支援システムの「テスト/アンケート」欄を使います。

・課題をだすこともあります。授業支援システムの「課題」欄を使います。

◎リアクションペーパー等を使用時のフィードバック

・質問は、学習支援システムの「課題」欄に、回ごとの「リアクションペーパー（質問）」を用意しました。授業時間内での質問です。質問への回答は、次の授業開始時に、行います。すべての質問にはお答えできない場合があります。ご理解ください。

・期限後の質問は、「授業内掲示板」を利用してください。

・ Zoom 授業では、チャット機能を使っても質問は可能です。ただし、見逃したり話の途中でうまく返答できないことも考えられます。ご了承ください。

・個別の質問にはオフィスアワーを利用してください。

◎レジュメ等

レジュメや資料は、学習支援システム「教材」欄に事前にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・労働基準法上の実効性確保の手段	・講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。 ・労働基準法が定める基準を守るための手段について学習する。
第 2 回	労働基準法の適用範囲・労働関係の当事者 (1)	労働基準法の効力が及ぶ範囲について。 労働基準法上の「労働者」の概念など
第 3 回	労働基準法の適用範囲・労働関係の当事者 (2)	労働基準法上の「使用者」の概念など
第 4 回	総則	均等待遇原則、強制労働の禁止等
第 5 回	賃金 (1)	賃金の定義、賃金支払規制
第 6 回	賃金 (2)	休業手当、最低賃金規制
第 7 回	賃金 (3)	賞与（ボーナス）、退職金
第 8 回	労働時間規制 (1) －原則と例外－	労働時間規制とは、 例外－適用除外、高度プロフェッショナル労働制
第 9 回	労働時間規制 (2) －労働時間の定義、労働時間の原則と弾力的運用－	●労働時間の定義 ●変形労働時間制・フレックスタイム制
第 10 回	労働時間規制 (3) －みなし労働制	●事業場外労働のみなし時間制
第 11 回	労働時間規制 (4) －時間外労働の規制	●みなし労働制としての裁量労働 ●例外としての時間外労働 ●割増手当のしくみ ●時間外労働規制のありよう
第 12 回	休息 (1) －休憩時間、休日－	労働時間規制のもう一つの側面
第 13 回	休息 (2) －休暇・休業・休職－	年次有給休暇を中心した法的問題
第 14 回	労働基準法のまとめ	労働安全衛生法にも触れつつ、労働基準法の現代的課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に教科書の該当部分と配付プリントに十分目を通しておく。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 9 版）』（2016 年、有斐閣）
・金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ（第 4 版・第 2 刷）』（エイデル研究所 2019）
・金子編集代表『基礎から学ぶ労働法Ⅱ（第 2 版）』（エイデル研究所 2016）
・六法はコンパクトなものでかまいませんが、労働基準法施行規則などが掲載されているものをご購入してください。具体的には、開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(定期試験) (60 %)

・定期試験を実施します。現時点では、穴埋め問題と記述問題の双方を出題しようと考えています。

・定期試験を最も重視します。受験しなかった者の評価はしません。

・記述問題に関して、概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準としてしています。

(ミニテスト) (30 %)

・講義内容について、理解・把握の確認を目的に簡単なテストをおこないます。

・択一式問題を 2, 3 問で、授業内 10 分程度。

(課題・質問) (10 %)

・課題はテーマについて、「考え・まとめる」力の向上をと願って、出題します。

・質問は大いにしてほしいので、評価対象に入れました。その内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

話しの最後が聞き取りにくいときがあるとの指摘を受け、語尾をきちんと話すよう心掛けています。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンもしくはパソコン（対面授業中に学習支援システムでミニテストを行う予定のため）

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

The objective of this course is to lecture on basic subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

1. About a Labor Standards Act;

2. A case law concerning the Labor Standards Act

(2) 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the introduction to Japanese Labor Standard Act and cases.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, Mini exam. of every class meetings: 30%, Short reports : 10%

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属する科目であり、労働法総論では、労働法全体の基本的仕組みや労働法の基本理念・原理に関する最近の議論の状況を踏まえ、昨今の労働法の改正動向を紹介し、日本的雇用慣行の変化が労働法の法制度や理論にどのような影響を与えているのか、という点について講義を行う。

・労働契約法については、労働契約法の全体の概観をしたうえで、労働契約の締結から終了にいたる過程で発生する労働契約をめぐる法的問題を学習する。労働契約上の労働条件の決定の仕組みを理解したうえで、採用や配転・出向、就業規則による労働条件の決定と変更、解雇規制の問題のほか、最近の企業の雇用管理の変化と年俸制などの賃金制度をめぐる最近の問題を取り上げる。

【到達目標】

・労働法全体の仕組みを正確に理解し、説明することができる。

・労働法の基本的考え方、理念・原理に基づき、労働法の問題を思考することができる。

・労働契約法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法制全体を説明することができる。

・労働契約上の労働条件決定の仕組みを理解し、採用・試用期間、配転・出向、就業規則による労働条件の決定と変更、解雇、賃金などをめぐる応用的な問題について自分で解決方法を思考することができる。

・労働相談を受けたときに、自分でその問題を調べ、整理、思考して課題解決策を見出し、自分なりの答えをアドバイスすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

当初はオンラインで授業をはじめますが、状況に応じて対面またはハイフレックス型で授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	労働法総論-日本型雇用の変容と労働法の改編	労働法とはなにか、労働法の基本理念と原理を踏まえ、最近の雇用・労務管理の変化と労働法制の動向、労働法理論の新しい問題を扱う。
第 2 回	個別的労働紛争処理法	使用者と労働者との間で発生する個別的労働関係紛争を処理・解決する法制度について勉強する。
第 3 回	労働契約法・労働基準法の適用範囲	労働法上の保護の対象となる労働者とは何か、使用者と何か、という労働法の入り口の問題を講義する。
第 4 回	労使対等決定原則と労働憲章	労働契約上の労働条件決定に関する労使対等決定原則と思想・信条の自由などの労基法の労働憲章について学ぶ。

第 5 回	労働契約の終了	労働契約法の様々な問題のなかめ石となる解雇法制と退職、解雇の金銭解決制度などの労働契約の終了をめぐる法的問題を講義する。
第 6 回	労働契約の締結	労基法上の労働条件明示義務、採用内定、試用期間などの労働契約の締結をめぐる法的問題を理解する。
第 7 回	労働契約の期間	労基法上の労働契約の期間に関する規定と有期労働契約をめぐる法的問題を労働契約法の規制を含めて講義する。
第 8 回	就業規則による労働条件の決定と変更①	労基法上の就業規則法制を踏まえたうえで、労働契約上の労働条件を決定する就業規則の法的性質と労働契約法の仕組みについて学ぶ。
第 9 回	就業規則による労働条件の決定と変更②	就業規則による労働契約上の労働条件の不利益変更をめぐる問題について判例法理を整理し、労働契約法の仕組みを理解する。
第 10 回	労働契約上の権利・義務	労働契約の主たる権利・義務と個別的労働条件の決定と変更に関して配転・出向を素材に講義する。
第 11 回	労基法上の賃金規制と最低賃金法	労基法上の賃金とは何か、賃金保護規定、休業手当、最低賃金制度などについて講義する。
第 12 回	能力・成果主義的賃金制度と最低賃金法	年功的賃金制度、年俸制、能力・成果主義的賃金制度など伝統的な賃金制度と最近の賃金制度の変容を扱う。
第 13 回	労働災害	労働災害と補償制度の仕組み、過労死・過労自死問題について学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業をまとめ・解説し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。
 ・指定教科書であるベーシック労働法（第 8 版）の該当部分を必ず読むこと。授業でも随時使用する。また、裁判資料などあらかじめ配布、授業支援システムに掲載されたものは必ず読んでくること。

【テキスト（教科書）】

指定教科書：浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法』（第 8 版）（有斐閣、2020 年）。六法は必ず持参してくること（ただし、タブレット等を用いても構わないが、定期試験の時には参照できないことに注意）。

【参考書】

授業で使う裁判資料等は当日配布するか、事後に授業支援システムにアップする。

【成績評価の方法と基準】

対面またはオンライン授業のいずれの形態になるかに応じて、前者の場合は試験で後者の場合は課題レポートで成績評価する。最終的な決定は学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや授業改善アンケートの結果を踏まえ、継続的に授業の改善を行う。

【その他の重要事項】

授業中にスマホやタブレットで参考資料を見ることは禁じないが、私用で用いることは厳禁し、また、試験中は禁止。

【Outline (in English)】

・ General Labor Law theory introduces recent trends in labor law reforms and lectures on what of influence the changes of Japanese employment practices have for legal system and theory.

・ Regarding the Labor Contract Law, we learn the legal issues concerning labor contracts that arise in the process from the conclusion of labor contracts to the termination, specifically the problems such as recruitment and relocation, decision and change of working conditions by work rules, restrictions on dismissal etc.

・ The goals of this course is to understand exactly the global image of labor law and labor contract law.

・ Before each lecture, students must read the resume and documents which a teacher gave.

・ Grading will be decided based on the examination(100%).

LAW200AB

労働基準法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・労働基準法は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属する科目であり、主に労働時間に関する法的問題を取り扱う。2007 年から労基法は幾度も改正され、労働時間の弾力化や多様化が進んでいるが、その一方正規従業員の労働時間の短縮はいっこうに進んでおらず、過労死や過労自殺が大きな社会問題となっている。労働時間法制度の現状と問題点を具体的問題を素材にしながら体系的に学ぶ。また、労基法の労働時間以外の主要論点についても、ここで取り上げて実務上の留意点についても講義する。

・労働基準法を学ぶことで、会社等に就職したときに不当な扱いを受けても、自分の権利や利益を守ることができる。

【到達目標】

・労働基準法の意義・目的を理解し、労基法の全体の仕組みを説明できる。

・労働時間法制度の理念・目的を踏まえて、労働時間規制の意義を理解できる。

・労働時間に関する具体的なテーマについて、学説・判例の現状を理解し、その法的解決の方法を説明できる。

・労働時間をめぐる法的問題に直面したときに、必要な参考文献や資料を収集し、それを整理・理解したうえで、解決方法を思考できる。

・労働時間に関する法的問題を相談されたときに、適切な解決策をアドバイスすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・対面授業で開講する予定であるが、状況に応じてハイフレックス型またはオンライン型の授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	労働基準法総論	労働基準法の理念・目的と全体の仕組みを概観し、最近の労働基準法の改正動向を講義する。
第 2 回	労働時間の短縮と政策－法定労働時間の意義と例外	労働時間短縮の意義と時間政策の推移・現状を総括し、労基法の法定労働時間などの時間規制の意義について考えてみる。
第 3 回	時間外労働・休日労働	時間外労働・休日労働の法的規制の仕組みと残業義務をめぐる学説判例の到達点を学ぶ。
第 4 回	労働時間の概念と起算点	労基法上の労働時間とは何かを労働時間の算定方法を具体的テーマとして判例法理の到達点を踏まえて学習する。
第 5 回	労働時間の弾力化	労働時間の弾力化措置として、1 ヶ月単位の変形労働時間制、1 年単位の変形労働時間制およびフレックス・タイム制について講義する。について講義する。

第 6 回	労働時間のみなし制	事業場外労働と裁量労働制について労働時間のみなしという特別な計算方法を理解する。
第 7 回	休憩・休日	労基法上の休憩・休日に関する法規制の仕組みとそれに関する法律問題の実務を学習する。
第 8 回	年次有給休暇	労基法上の年次有給休暇の意義とその法的問題点について、最近の法改正と裁判実務について講義する。
第 9 回	労働時間の適用除外と高度プロフェッショナル制度	管理監督等に対する時間規制の適用除外と最近論議されている高度プロフェッショナル制度の導入問題について考える。
第 10 回	年少者・妊産婦等の労基法上の保護	年少者・女性労働者の労基法上の保護と育児・介護休業制について学習する。
第 11 回	労働災害と災害補償制度	労働災害の現状・労働者災害補償保険法の仕組みと業務上災害の認定方法について実務的知識を身につける。
第 12 回	過労死・過労自死と安全配慮義務	最近の過労死・過労自死と民事上の安全配慮義務について裁判実務の動向を講義する。
第 13 回	最近の労働基準法のトピックス	労働基準法をめぐる改正動向とホットな問題について講義する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業を振り返り、まとめと解説をするとともに、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

・指定テキストのほかに、随時授業の際に配布または授業支援システムにアップされる参考資料をあらかじめ読んでくること。なお、テキストは授業で随時使用する。また、六法は必ず持参すること（タブレット等でも良い）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキスト：浜村・唐津・青野・奥田『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）のほか、随時参考資料や裁判例を授業支援システムにアップする。

【参考書】

授業中、タブレットやスマホは資料参照のために使用してよいが、私用は厳禁。また、試験中の使用は禁止。

【成績評価の方法と基準】

主として定期試験の評価（90 %）によるが、リアクションペーパーの提出（10 %）も加味する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等に記載された意見・要望を参考に随時改善する。

【Outline (in English)】

・ This lecture,the Labor Standards Law,mainly deals with legal issues concerning working hours. Since 2007, the Labor Standards Law has been revised many times, the working hours are becoming flexible and diversified. But on the other hand reduce of working hours of regular employees has not progressed, and The death from overwork and overworked suicide is a big social problem. We learn the current state and problems of working hours legislation systematically while using concrete problems as materials.

・ Students can follow own right and profit by learning this lecture even if they receive unfair treatment when they found a job.

・ Before each lecture, students must read the resume and documents which a teacher gave.

・ Grading will be decided based on the examination(100%).

LAW300AB

労働組合法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しており、労働組合法の基本理念・原理を学んだ上で、憲法 28 条の定める団結権、団体交渉権、団体行動権の保障とそれをめぐる労働組合法の法制度および主要な問題を講義する。とりわけ、労組法の骨格といえる不当労働行為制度を中心に、労働組合の内部問題、組合活動、労働協約、争議行為などをめぐる最高裁判例を取り上げて、具体的な問題点を検討する。

【到達目標】

・労働組合法の意義、目的を正確に理解し、労働組合法全体を説明することができる。
・労働組合法の主要問題に関する基本的考え方と最高裁判例の意義を理解し、体系的に思考することができる。
・労働組合法に関する具体的問題については、その法的論点を把握し、その問題の解決を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業を基本として開講する予定であるが、状況に応じてハイフレックス型または対面型授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	労働組合法総論	労働組合法の意義・目的および全体の仕組みを理解した上で、基本的考え方の整理を行う
第 2 回	憲法 28 条の労働基本権保障	憲法 28 条の保障する団結権・団体交渉権・団体行動権の規範的意義と法的効果を学ぶ
第 3 回	公務労働と団結権保障	国家公務員や地方公務員の争議行為を禁止する現行法制の問題点について、とくにストライキ権の意義の面から考察する
第 4 回	労働組合法上の労働者と使用者	労働組合法上の労働者・使用者概念の拡張について、最高裁判例を中心に学ぶ。
第 5 回	労働組合と統制処分	労働組合の組織と運営をめぐる法的問題を解説する。とくに労働組第 14 回 企業組織の変動と労働契約 企業の合併・事業譲渡・分割にともなう労働契約の承継にあり方について学習する。 [準備学習等] 同上 合法上の労働組合の要件である組合の自主性と民主性と労働組合の統制処分について検討する。

第 6 回	労働組合の組織強制	労働組合の組織強制手段であるユニオン・ショップ協定の法的効力と限界およびチェック・オフについて学習する。
第 7 回	不当労働行為制度の意義と不利益取扱い	労組法の労働組合保護の中心的制度である不当労働行為制度の意義と労組法 7 条 1 号の不利益取扱いをめぐる学説・判例の議論状況を理解する。
第 8 回	支配加入	労組法 7 条 3 号の支配加入の意義・成立要件・法的救済のあり方について学ぶ。
第 9 回	組合活動	企業内組合活動の正当性について、労組法 7 条の不当労働行為と関連付けながら、学説判例の議論の状況を整理する
第 10 回	団体交渉	日本における労使協議制と団体交渉制度の法的仕組みおよび労組法 7 条 2 号の団交拒否と誠実交渉義務について検討する。
第 11 回	争議行為・使用者の葬儀対抗行為	労働組合の行うストライキ等の争議行為の正当性と刑事・民事免責および使用者の行うロックアウトについて学習する。
第 12 回	労働協約による労働条件の決定	労働条件決定の仕組みのうち、集团的労働条件決定としての労働協約の法的性質・規範的効力・一般的拘束力について学ぶ。
第 13 回	労働協約による労働条件の不利益変更	集团的労働条件の変更としての労働協約による労働条件の不利益変更について判例法理と学説の議論を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業をまとめ、解説するとともに、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。
・指定教科書であるベーシック労働法（第 8 版）の該当部分を必ず事前に読むこと。また、裁判資料など授業中に配布したプリントは必ず授業が終わった後、確認して読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定教科書：浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）。6 法は必ず持参してくる。ただしスマホ・タブレット等を用いてもかまわないが、定期試験の時は参照できないことに注意。

【参考書】

授業で使う裁判資料等は当日配布し、その後、授業支援システムにアップする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の具体的な方法と基準は、授業形態に依るので、授業開始日に学習支援システムで提示する。対面式授業の場合は定期試験（100 %）で、リアルタイム授業の場合にはレポート課題（100 %）の評価により成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえ、継続的に授業の改善を行う。

【Outline (in English)】

・ In this lecture, after learning the basic ideas and principles of the labor union law, we learn on the right of organization, collective bargaining and collective action protected by Article 28 of the Constitution and the legal system and major problems of the labor union law surrounding those rights. In particular, focusing on the unfair labor practice system which can be said to be the framework of the labor union law, we take up the cases of the Supreme Court concerning internal labor union problems, union activities, collective agreements, dispute acts, etc. and discuss specific problems.
・ The goals of this course is to understand exactly the global image of labor law and the main point at issue.
・ Before each lecture, students must read the resume and

documents which a teacher gave.

・ Grading will be decided based on the examination(100%) or the evaluation of report(100%).

LAW300AB

労働法特論

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第 2 回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカatalogについて学習する。
第 3 回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第 4 回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第 5 回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第 6 回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第 7 回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第 8 回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第 9 回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第 10 回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第 11 回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第 12 回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第 13 回	外国人	外国人労働者の就労と適用される労働法について学習する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。

・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。

・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 点）

・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web テスト（30 点）

・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 70%
- b. Online quiz : 30%

LAW300AB

社会保障法 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。しがたって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2. 生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2 で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第 2 回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第 3 回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第 4 回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第 5 回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第 6 回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第 7 回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第 8 回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第 9 回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第 10 回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第 11 回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第 12 回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第 13 回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。
第 14 回	総合研究	社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第 16 版）』（信山社、2022 年 4 月刊行予定）
 - ・菊池馨実『社会保障法【第 2 版】』（有斐閣、2018 年）
- このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

試験（70 点）

- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（30 点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law. The outline is as follows:

- 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
- 2. Japanese Public Assistance Act;
- 3. Welfare law for people with disabilities;
- 4. Elderly Welfare law;

5. Child Welfare Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
- B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 70%
- b. Online quiz : 30%

LAW300AB

社会保障法Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2 で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第 2 回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第 3 回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第 4 回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 5 回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 6 回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第 7 回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 8 回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 9 回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第 10 回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用する諸概念について説明する。
第 11 回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第 12 回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第 13 回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第 14 回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・課題プリントに解答すること（覚えるべきことが多いことによる措置）。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」(<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html>)
- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第 15 版）』（信山社、2021 年 4 月刊行予定）
- ・菊池馨実『社会保障法【第 2 版】』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（70 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（30 点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法 I を履修していることがのぞましい。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.

The outline is as follows:

- 1. Japanese Health Insurance Act;
- 2. Japanese Pension Insurance Law;
- 3. Japanese Unemployment Insurance Law.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 70%
- b. Online quiz : 30%

LAW300AB

社会政策

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策」の講義では、講学上の「社会政策」領域のうち、古くから議論されている労働時間や雇用・失業、賃金などの労働問題に関する政策上の課題を対象とする。これらの問題について、どのような政策上の手当がなされ、それがどのような問題に直面し、どのような解決策が考えられているのかについて、統計データなどをもとに解説することになる。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目である。また、「文化・社会と法コース」の履修することが望ましいとされている科目でもある。このように多様な学生のニーズに応えられるものとなっている。

【到達目標】

1. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、今の社会でどのような点が問題となっているか正確に理解できる。
2. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、今後のあるべき国家像をイメージしながら、問題の解決方法について自分なりの考え方をまとめることができる。
3. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、2. でまとめられた自分なりの考え方を説得的に文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法についての説明。
第 2 回	社会政策上の課題	社会政策が直面している問題について説明する。
第 3 回	社会政策の歴史	社会政策発展の歴史について学習する。
第 4 回	長期安定雇用の歴史的検討	社会政策と密接に関係する日本の特徴的な雇用慣行について歴史的に考察。
第 5 回	長期安定雇用の現状	社会政策と密接に関係する日本の特徴的な雇用慣行に関する現状と課題について。
第 6 回	解雇規制の現状と課題	解雇規制について。とりわけ、解雇の金銭解決制度の是非を取り上げる。
第 7 回	解雇規制以外の失業予防策	解雇規制以外の失業の予防について、その現状と課題を説明する。
第 8 回	雇用保険制度の現状と課題	失業した場合の所得保障政策である雇用保険制度について、その現状と課題について学習する。
第 9 回	労働時間規制の根拠と現状の規制水準	労働時間規制の根拠について確認した上で、日本の労働時間規制の現状について学習する。
第 10 回	時間外労働の規制と課題	時間外労働に関する規制の現状と課題について学習する。とりわけ 36 協定の問題点を中心に取り上げる。
第 11 回	過労死・過労自殺	過労死・過労自殺と長時間労働の問題について。
第 12 回	自律的労働時間制度の是非	構想されている新たな労働時間制度について。
第 13 回	教育訓練と社会政策	労働者の職業能力の向上の必要性について

第 14 回 労使関係と社会政策 使用者と労働組合の関係に関する歴史と現状、課題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

久本憲夫「日本の社会政策（改訂版）」（ナカニシヤ出版、2015 年）3,200 円＋税。
その他必要な場合には講義中に案内する。

【成績評価の方法と基準】

試験（100 点）
・期末試験として 1 回実施する。
・基本的な知識の確認と、問われた問題に対する私見を論理的に解答できているかを、この試験の評価基準とする。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と **Zoom** を利用可能な端末。
・レジュメ等は **PDF** データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

・講義内容は、雇用・社会保障分野に政策上の大きな展開があれば、それを取り上げることがある。
・講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Social Policy.

The outline is as follows:

- 1. History of Social Policy;
- 2. Japanese employment practices and Social Policy;
- 3. Dismissal regulations;
- 4. Working hours regulation.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. You can understand exactly what is the problem in today's society on the themes that have been discussed for a long time in "social policy" such as working hours, wages, and employment stability.
- B. You can summarize your own way of thinking about how to solve problems while imagining the ideal national image of the future on themes that have been discussed for a long time on "social policy" such as working hours, wages, and employment stability.
- C. You can persuasively explain your own way of thinking summarized in B on the themes that have been discussed for a long time on "social policy" such as working hours, wages, and employment stability.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

LAW300AB

雇用・福祉政策

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「雇用・福祉政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、比較的新しい問題である非正規労働や雇用平等といった労働問題や、社会保障に関する政策上の課題など、雇用や社会保障の交錯領域の問題を対象とする。具体的には、非正規労働問題、女性労働の問題、少子高齢社会などの問題を切り口に、労働問題、社会保障問題について説明することになる。

講義では、これらの問題についてどのような政策上の手当がなされ、それがどのような問題に直面し、どのような解決策が考えられているのかについて、統計データなどをもとに解説することになる。

法学学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目である。また、「文化・社会と法コース」の履修することが望ましいとされている科目でもある。このように多様な学生のニーズに応えられるものとなっている。

【到達目標】

1. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、今の社会でどのような点が問題となっているか正確に理解できる。
2. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、今後のあるべき国家像をイメージしながら、問題の解決方法について自分なりの考え方をまとめることができる。
3. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、2. でまとめられた自分なりの考え方を説得的に文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、**Zoom** を使用する。

・講義は、**PowerPoint** を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法説明。
第 2 回	非正規労働者をめぐる問題の現状。	就労形態の多様化（非正規化）に関する問題を、総論的に説明。
第 3 回	労働者派遣制度の現状	労働者派遣制度の制度枠組みについて学習する。
第 4 回	労働者派遣制度の課題	労働者派遣制度が直面する課題について学習する。
第 5 回	均等・均衡処遇問題の現状	正規労働者と非正規労働者との間の均等・均衡処遇問題に関する現状について。
第 6 回	均等・均衡処遇問題の課題	近年の法政策を EU 等の諸外国の施策との比較で検討する。
第 7 回	女性の社会参加と雇用平等	性別による雇用差別の是正について学習する。
第 8 回	女性の貧困問題	女性問題を通じた貧困問題について考察する。
第 9 回	少子社会の現状	少子社会の問題点について、統計データ等で確認する。
第 10 回	少子社会に対する対策	少子社会問題に対する対応策とその効果について検証する。
第 11 回	公的保険制度の概要	年金と健康保険制度の概要について。
第 12 回	賃金と社会政策	最低賃金制度について。
第 13 回	社会的排除と社会的包摂(1)	社会的排除論について。
第 14 回	社会的排除と社会的包摂(2)	今後の社会政策のあり方を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。

2. 学期中のレポート課題について、与えられたテーマについて授業外で学習し、考察する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】
久本憲夫『日本の社会政策（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2015 年）3,200 円＋税。
その他必要な場合には講義中に案内する。

【成績評価の方法と基準】
試験（100 点）
・期末試験として 1 回実施する。
・基本的な知識の確認と、問われた問題に対する私見を論理的に解答できているかを、この試験の評価基準とする。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】
・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】
・講義内容は、雇用・社会保障分野に政策上の大きな展開があれば、それを取り上げることがある。
・講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on Social Policy.
The outline is as follows:
1. Social policy for non-regular workers in Japan;
2. Social policy for a declining birthrate;
3. Wage policy;
4. Social policy for the future.

2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A. Understand exactly what is the problem in today's society regarding relatively new themes of "social policy" such as non-regular work, equal treatment, and social issues with a declining birthrate.
- B. With regard to relatively new themes on "social policy" such as non-regular work, equal treatment, and social issues with a declining birthrate, you can summarize your own way of thinking about how to solve the problems while imagining the ideal national image in the future.
- C. Persuasively explain in sentences your own way of thinking summarized in B on relatively new themes in "social policy" such as non-regular work, equal treatment, and social issues with a declining birthrate.

3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise (two-credits)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Term-end examination: 100%

LAW300AB

国際空間法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家領域以外の空間に関する国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。

グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国家領域以外の空間に関わる国際法の規律を理解する。また、本分野における国際法上の諸制度の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上での教材配付と、対面授業、Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業を組み合わせる。（基本的には、全般的な解説は配布教材によって行い、対面・Zoom 授業では重要トピックについての理解を深めることを目指す。）

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。Zoom 授業の際、ビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。各回の授業形態（下記）は、感染状況・社会情勢等により変更の可能性がある。詳細は授業内および学習支援システム上で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の歴史的展開と全体像
第 3 回	海洋法（2）	海域の具体的制度（基線、内水、領海、国際海峡）
第 4 回	海洋法（3）	海域の具体的制度（排他的経済水域、大陸棚）
第 5 回	海洋法（4）	海域の具体的制度（公海、深海底）
第 6 回	海洋法（5）	海洋環境、海洋科学的調査
第 7 回	海洋法（6）	紛争解決
第 8 回	授業前半のまとめ	授業前半の復習・質疑応答
第 9 回	授業後半の総説	国家領域以外の空間（海洋を除く）の制度の概観
第 10 回	空域	領空、国際空域、航空犯罪等
第 11 回	宇宙（1）	宇宙空間の法的地位
第 12 回	宇宙（2）	宇宙活動に対する責任と管轄権等
第 13 回	国際化地域	南極等

第14回 授業全体のまとめ 授業全体についての復習・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第3版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第4版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40％）。

詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえるようにしたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline (in English)】

This course provides students with a basic understanding of international law regulating areas and spaces other than territories attributed to States, such as the sea, air and outer space, and the Antarctic. Students are expected to read the assignment before each class. Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB

国際安全保障法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における暴力の規制は、国際法にとって一貫して（しかし問題の諸相を変化させつつ）重要な課題であり続けている。この授業では、紛争の平和的解決および武力の規制に関わる国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

紛争の平和的解決、国際社会の平和と安全の維持に関わる国際法について理解することが目標となる。同時に、本分野における国際法の歴史的展開と今日の実態を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上での教材配付と、対面授業、Zoomを用いたリアルタイムオンライン授業を組み合わせる。（基本的には、全般的な解説は配布教材によって行い、対面・Zoom授業では重要トピックについての理解を深めることを目指す。）

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら進める。Zoom授業の際、ビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。各回の授業形態（下記）は、感染状況・社会情勢等により変更の可能性ある。詳細は授業内および学習支援システム上で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第2回	紛争の平和的解決（1）	総論的検討
第3回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第4回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第5回	武力行使禁止（1）	武力行使の制限・禁止の歴史的展開
第6回	武力行使禁止（2）	武力不行使原則の射程
第7回	集団安全保障	国連の集団安全保障体制等
第8回	国連平和維持活動（PKO）	PKOの意義と問題点、歴史的変遷

第9回	自衛権（1）	個別的自衛権
第10回	自衛権（2）	集団的自衛権
第11回	自衛権以外の武力行使 正当化の主張	在外自国民保護、人道的干涉
第12回	武力紛争法	交戦法規
第13回	武力紛争非当事国の法 的地位	「中立」の問題
第14回	軍備管理、軍縮	軍備管理、軍縮

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第3版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第4版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40％）。

詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえるようにしたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline (in English)】

This course explores the international law relating to the settlement of disputes, armed conflicts, and the threat and use of force. Students are expected to read the assignment before each class. Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB

国際人権法

佐々木 亮、建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権規約、ヨーロッパ人権条約、子どもの権利条約等の人権条約によって人権を保護する国際人権法について、国際人権法の誕生の歴史や各人権条約の仕組みや国内適用にあたっての憲法上の課題について学ぶ。

実際に国際人権法がどのような人権保障を行っているか、国際的および国内的な解釈や判例を通じて現状を理解する。

【到達目標】

①国家を越えて、人権を国際社会において保障することの意義及びそのための仕組みを理解する。

②国際人権法の国内実施制度について理解する。多様な人権の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期に、国際人権法の概要や国際的人権保障制度を中心に学んだ後、秋学期に、人権条約の国内適用の現状を国内法や判例を通じて学ぶ。

春学期は教室での対面授業を基本とし、必要に応じて Zoom を使用してオンラインで実施する。秋学期は Zoom を使用してオンラインで実施する。

教材は、レジュメ配布、また PPT を使用する。Zoom の URL およびレジュメについては、前日に配付・通知する。

質問は、授業の際に、または Hoppi の掲示板に書いてください。なるべく1週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入・国際人権法を学ぶ意義	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や学び方を概観する。
2	国際人権法の思想的基礎と法源	国際人権法の発展と形成の歴史をたどり、その根底にある哲学的基礎と国際人権保障の根拠となる法規範について学ぶ。
3	国際人権法が保障する権利と人権の普遍性・不可分性・相互依存性	社会的弱者を含む全ての人の基本的権利を保護するための法としての国際人権法の基本原則、及び、主要な人権条約によって保障されている権利と、それら諸権利の法的性格を検討する。
4	国連による人権の保護促進（1）：人権条約と履行監視制度	世界レベルの主要な人権条約の履行監視制度について検討する。
5	国連による人権の保護促進（2）：人権理事会の活動	国連人権理事会の活動と人権保障におけるその意義、人権条約との異同を検討する。
6	地域的人権保障	国際人権保障における地域的国際機構の役割とその意義について検討する。

7	国際人権基準の発展 (1)：人種差別の撤廃・先住民族の権利	事例検討を通して、人種差別を受けない権利や先住民族の権利が、国際人権法上どのように保障されているのかを考察する。	22	私生活の尊重と国際人権法および憲法 13 条、24 条。	ヨーロッパ人権条約では「私生活及び家庭生活の尊重」が規定されている。日本の法制度では馴染みのないこれらの権利について学び、憲法 13 条及び 24 条の解釈との関連を考える。
8	国際人権基準の発展 (2)：ジェンダー差別の撤廃と SOGI への権利	事例検討を通して、性別や性的指向に基づく差別を受けない権利が、国際人権法上どのように保障されているのかを考察する。	23	生殖医療と国際人権法	日本では生殖医療のあり方を定める法が存在しない。そのため、日本では認められていないか明確ではない生補医療ー代理懐胎や受精卵の提供などーに関しては、外国で実施する人々もいる。しかし、生殖医療は、人の生命や胚の価値に関わる重要なものであることから、国際的な基準の可能性について考える。
9	国際人権基準の発展 (3)：子どもの権利と未来世代への責任	事例検討を通して、子どもの最善の利益を実現するための権利が、国際人権法上どのように保障されているのか、未来世代の権利をどのように捉えることができるかを考察する。	24	LGBT と国際人権法ーヨーロッパ人権裁判所判決を例に。	LGBT の権利保護は、国によって大きく異なる。婚姻までは全面的に認めている EU 諸国から、同性愛関係を死刑とするイスラム諸国まで、その保護の状況は多様である。国際人権法における LGBT の権利保護を学び、日本における権利保護の可能性を考える。
10	国際人権基準の発展 (4)：気候変動と人権・持続可能な社会に生きる権利	地球規模課題としての気候変動に起因する人権侵害の事例を検討し、持続可能な社会の実現のために、国際人権法がいかなる意義を有するかを考察する。	25	人種差別撤廃条約とヘイトスピーチ：京都地裁と大阪高裁の判決、川崎市人権条例などを例に考える	人種差別撤廃条約が加盟国においてどのように適用されているか。また現在の国際社会における人種差別の撤廃の直面する課題について学ぶ禁止委員会は、我が国に対してどのような勧告を行っているかを理解し、その実現に向けた問題と課題を検討する。
11	国家の保護を受けられない人々の人権：難民の保護	国家による人権保障の枠組から排除された存在としての「難民」に注目し、国際的な難民保護の仕組みや日本の難民認定制度の問題点を検討する。	26	障がい者の権利と国際人権法	障がい者権利条約の意義を考える。日本における同条約の適用の現状を踏まえ、障がい者の権利保護の改善に衝いて考える。
12	人権の普遍性と文化多様性	「国際人権基準と両立しない文化的慣行を維持することも人権なのか」という問いについて考えながら、国際人権法及び人権の普遍的性格を再問する。	27	感染症 (Covid-19) と国際人権法ー生命権、健康権を中心に。	Covid-19 は、国際的な広がりを持つ感染症 (パンデミック) のため、その対処については WHO などの国際的な統制が必要となる。日本の対応を踏まえて、国際的な感染症対策の観点からどのような人権保護が必要かを考える。
13	国際人権法の調査とその情報源	国際人権法の実態についてより詳しく調べるために有用な情報源の使い方について学ぶ。	28	安全保障をめぐる国際人権法と憲法ー国際刑事裁判所と国連「平和への権利」宣言	安全保障は、一国の主権の権限であるが、しかし、第二次世界大戦後には、平和への権利を初め、人権保護の観点から各国の武力行使は原則として禁止されている。国際的な安全保障制度と、日本の憲法 9 条との関係を考える。また国際刑事裁判所の仕組みを学ぶ。
14	国際人権法の活用と人権擁護者	人権侵害被害者の救済のために、国際人権法をどのように活用し得るのか、人権擁護のために私たちには何ができるのかを考える。			
15	イントロダクション なぜ国内の人権保護に国際人権法が必要か	秋学期の内容の紹介 映画「ニュルンベルグ裁判」(抜粋)を視聴し、国際人権法の登場した背景について考える。			
16	憲法と国際法ー国内における国際人権法の法規範の性質とは	憲法と国際法の関係が、時代によって変遷してきた事について、比較法の観点もまじえて学ぶ			
17	国内裁判所における人権条約の適用ー国内人権との架橋	国内法制度 (立法、行政、司法) において、人権条約をどのように実施するのに関する実践と解釈の両面から学ぶ			
18	女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護 (1) なぜ、女性の人権が問題となるのかー公的生活と労働	日本における女性の人権の現状について理解し、女性差別撤廃条約の観点からどのような保障が可能かを考える			
19	女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護 (2) ー家族および私生活	歴史的に女性は公的な生活ー政治や労働ーに参画する権利が制約され、私的な空間のみで生きてきたが、家族や婚姻においても、家制度の下で女性の権利は非常に制約されてきた。現在でもその影響は残っているが、人権条約によってどのような改善が可能かを学ぶ。			
20	子どもの権利条約と日本の子どもの権利の現状と課題 (1)	子どもの権利条約の内容及び国内適用の問題を考える。児童虐待、貧困、施設収容、学校などに関して、子どもの権利をどのように保護しうるかを考える。			
21	子どもの権利と親の権利の交錯	子奪取条約 (ハーグ条約) について学び、子どもの最善の利益について考える。また共同親権について考える。			

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布レジュメを読んで疑問点を明らかにしておく。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメを配付します。

【参考書】

戸波ほか編著『ヨーロッパ人権裁判所の判例 I』信山社、2008 年、
「ヨーロッパ人権裁判所の判例 II」信山社、2019 年。
山下泰子ほか編『コンメンタール 女性差別撤廃条約』尚学社、2010 年。
国際法、憲法のテキスト。

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート (前期と後期) (100 %)

【学生の意見等からの気づき】

映画や DVD による授業の希望があったので試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

< Course outline >

Learn about international human rights law that protects human rights through human rights treaties such as the International Covenant on Human Rights, the European Convention on Human Rights, and the Convention on the Rights of the Child. .

< Learning Objectives >

Understand the current state and problem of international human rights law through interpretations and precedents.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports at the end of each semesters (100%).

LAW300AB

国際組織法

猪瀬 貴道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際組織のうち政府間組織に関する法制度（国際（公）法的分野）を中心に取り上げる。まず国際組織に関する法制度の基本的な考え方について学び（総論）、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。その後、具体的な国際組織の活動と法的課題について取り上げて問題解決を考える。この科目は「行政・公共政策と法コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

国際組織に関する法制度の基本構造（基本的考え方、法規範の原則と例外、手続や制度など）について基礎的な知識を修得する。

その上で、国際組織が関わる法的課題の実際について、関連条約や先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。

具体的には、授業の後半で取り上げる具体的分野（「グローバル経済」「地球環境」「安全保障」「個人の保護」など）について、授業の前半で学ぶ「国際組織の法的地位」「国際組織と加盟国との関係」などの観点から、関連条約の条文や事例などに基づいて整理して適切に説明でき、その課題について指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について、授業については原則として講義方式で実施し、関連する条約の条文や国際組織による文書、事例などを参照しながら基本構造について教員が解説する。各授業回の資料は、学習支援システム（Hoppii）または学習管理システム（Google Classroom 等）によって事前に配布することを予定している。理解度チェックの小テストによって知識修得状況を確認する。

受講人数等に応じて授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパーによって学生の理解状況を確認しながら進める。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体の内容、授業の進め方と注意事項の確認をして、国際組織の定義について取り上げる。
2	国際組織の萌芽	主権国家を中心とした国際社会の構造の中から誕生した国際組織の萌芽の形態について学ぶ。
3	国際組織の発展	国際組織の歴史的な発展について国際聯盟期～第二次世界大戦後の国際連合体制について学ぶ。
4	国際法と国際組織法	国際法全体の体系の中で国際組織に関する法制度がどのように位置づけられるのか確認する。
5	国際組織の設立・活動・解散	国際組織を設立するための設立条約について取り上げ、国際組織の設立・活動・解散について学ぶ。
6	国際組織の法的地位	国際法・国内法の観点から、国際組織の法的地位（法主体性、法人格、特権・免除など）について学ぶ。

7	国際組織と加盟国	国際組織と加盟国との関係について、加盟国の地位の変動、加盟国の権利・義務などについて学ぶ。
8	国際組織の内部構造	国際組織の一般的な組織構造を確認して、意思決定手続きなどについて整理する。
9	国際公務員制度	国際組織を支えている国際公務員について人事制度や役割、課題について学ぶ。
10	国連による安全保障・平和維持活動	国際組織による具体的活動として、国連による安全保障と平和維持活動について学ぶ。
11	グローバル経済と国際組織	グローバル経済体制における国際組織の役割や活動について WTO を中心に取り上げる。
12	国際組織による地球環境問題対策	気候変動など地球環境問題における国際組織の機能について特徴と課題を学ぶ。
13	国際組織による個人の保護	難民保護、人権保障、公衆衛生など個人が関わる問題について国際組織が果たす役割と課題について学ぶ。
14	国際組織の役割と課題	科目全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本科目の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。参考例としては、準備学習としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない（下記の参考書のなかから 1 冊手元において授業内容を確認しながら受講することが望ましい）

【参考書】

横田洋三（監修）『入門 国際機構』法律文化社（2016 年）
 佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣（2005 年）
 家正治（編・著）『講義国際組織入門』不磨書房（2003 年）
 庄司克宏『国際機構 新版』岩波書店（2021 年）
 山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会（2018 年）
 他の国際法科目を受講している場合、そのテキスト等も活用すること。個別の参考資料については授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度チェック小テスト（以上、20 %）、期末試験（国際組織法の現状、課題に関する論述型筆記試験またはレポート課題）（80 %）により評価する。

期末試験（論述型筆記試験またはレポート課題）の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を基本点として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

以上を基本的な評価方法・基準としたうえで、授業への能動的な参加および各授業回のリアクションペーパーを加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に従って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また細かな知識の修得だけではなく基本的な考え方の修得を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）および学習管理システム（LMS:Google Classroom を使用予定）を活用して資料配布や連絡指示などを行う。また、感染状況によってはオンライン授業・在宅授業の可能性もあるため、対応した情報機器（パソコン等）および通信環境をできるだけ整備してほしい。

【Outline (in English)】

This course introduces basic knowledge about International Organizations (Inter-Governmental Organizations) to students taking this course.

The goal of this course is to take a basic knowledge of the law of international organizations and a ability of explaining contemporary issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process, mini tests of each class meeting (20%), term-end examination (or report) (80%), and in-class contribution (additional points).

LAW300AB

国際刑事法

安藤 貴世

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国際法の一分野である国際刑事法の基本構造を理解し、国際刑事法に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。特に、主として国家間関係を規律する法である国際法体系において、個人がいかなる法的地位を有し得るかという点について、国際犯罪の処罰という観点から理解することを目指す。この科目は「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

(1) ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所 (ICC) にいたる国際社会における個人の処罰の歴史を理解する。

(2) 国際犯罪の基本的な類型について学び、その処罰の枠組みについて理解する。

①コア・クライムと称される国際社会における最も重大な犯罪（ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略犯罪）について概要を確認したうえで、国際的な刑事裁判所（ICTY, ICTR, ICC）の基本構造および活動について学ぶ。またシエラレオネやカンボジアなどに設置された国際混合法廷についても、設置の経緯や活動内容等を理解する。

②国際テロリズム、海賊行為、その他の国際犯罪（例として薬物犯罪、金融犯罪）などの概要を確認し、これらの処罰の法的構造についても理解する。

(3) 上記 (1)、(2) をもとに、国際刑事法に関わる国際社会の今日の問題について考察し、自らの言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする（原則として対面にて実施予定）。

授業の具体的な進め方などに関する詳細は、初回の授業において説明する。

課題等に対しては、以下の方法でフィードバックを行う。

・リアクションペーパー：授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・小テスト：授業の初めに前回の授業で課された小テストに関する解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の概要説明、参考文献紹介、成績評価に関する説明
第 2 回	国際刑事法とは	国際刑事法の発展・特色
第 3 回	国際社会における個人の処罰の歴史	戦間期の動き、ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所 (ICC) 設立まで
第 4 回	国際犯罪の種類	国際犯罪の 3 類型
第 5 回	国際裁判所における個人の処罰 (1)	旧ユーゴ国際刑事裁判所 (ICTY)、ルワンダ国際刑事裁判所 (ICTR)
第 6 回	国際裁判所における個人の処罰 (2)	国際刑事裁判所 (ICC)：設立経緯、対象犯罪、管轄権行使の要件など
第 7 回	国際裁判所における個人の処罰 (3)	国際刑事裁判所 (ICC (続き))：裁判例、ICC の課題など

第 8 回 その他の訴追方法 国際混合法廷（カンボジア、シエラレオネなど）

第 9 回 国際刑事司法協力 犯罪人引渡制度の概要、意義

第 10 回 国際テロリズム (1) テロリズムの定義、テロリズム防止関連諸条約の概要

第 11 回 国際テロリズム (2) テロリズムの処罰方式の特徴、現代のテロリズムへの対処枠組み

第 12 回 海賊行為 海賊行為の定義、処罰方式、海賊問題の現状

第 13 回 その他の国際犯罪 薬物犯罪、金融犯罪など

第 14 回 試験、まとめと解説 全体の総括としての試験およびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：授業に関連する資料を事前に配布する場合があるので、それを十分に読んだうえで授業に臨む。

復習：各回の授業後に、講義内容についてノートを見つつ十分に復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

条約集を準備すること。岩沢雄司ほか編『国際条約集 2022 年版』（有斐閣、2022 年）を推奨するが、これ以外のものでも可。出版年度は最近のものであれば、2022 年版でなくとも構わない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（1 回）（80 %）。

授業内容に関する課題（小テスト（短答式クイズ）、リアクションペーパーなど、3～5 回）（20 %）

詳細は初回の授業において説明する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する参考資料などを配布するが、受講者はノートを取り、講義内容についてその都度復習することが重要である。

【Outline (in English)】

Course outline:

The objective of this course is to understand the basic structure of International Criminal Law. Through this course, students will learn and understand the legal status of individuals in International Law which is the set of rules among nations.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to understand and explain the historical evolution of international crimes and international criminal tribunals, principle of individual criminal responsibility, and legal structure of punishment of individuals who are responsible for international crimes, such as genocide, war crimes, crime against humanity, international terrorism and piracy.

Learning activities outside classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend each two hours to understand the course content.

Grading Criteria:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, quizzes and reaction papers: 20%

LAW200AB

日本法制史 I

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数異なることはよくあるからである。

なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。

法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにいたった社会である。

しかし、そうはいっても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。

この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。

講義では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。

現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治 29 年（1896 年）となっていて 19 世紀の産物であることがわかる。商法も明治 32 年（1899 年）と 19 世紀の産物である。刑法は、明治 40 年（1907 年）制定だから、何とか 20 世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治 13 年（1880 年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。

このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領主支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。

この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。

しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」のみとは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。

講義では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方・試験等についての説明 日本法制史 I の授業は、4 月 23 日に開始します。当日は、半年間の授業の進め方、テキスト等について記載したプリントを配布します。 4 月 30 日は休講日ですので、5 月に入ってから、動画で 30 分間講義をして、質問を受け付け、次の授業までの課題を出すという形で授業を進めていきます。 質問に対する回答は、次の授業で動画または文書で行います。 テキストをもとに授業をしますので、シラバスに書いてある川口由彦「日本近代法制史第二版」（新世社）を必ず用意してください。 単位認定方法は、学期末の筆記テストを予定していますが、その時期になっても教室で試験ができないことが考えられます。その場合は、学習支援システムを用いたテストを検討します。 時期区分について 伝統ヨーロッパの「市民社会」と法
第 2 回	日本近代法史概観	
第 3 回	19 世紀近代法とは何か	
第 4 回	19 世紀のイギリス近代法	判例法主義の歴史の実態
第 5 回	19 世紀のフランス・ドイツ近代法	法典主義の歴史の実態
第 6 回	固有名詞としての「維新法」	明治初期の法的混乱
第 7 回	律型法典と西欧型法典 1	criminal からの civil の分離・独立
第 8 回	律型法典と西欧型法典 2	東洋型罪刑法定主義と西欧型罪刑法定主義
第 9 回	律型法典と西欧型法典 3	教育刑と応報刑－その歴史的文脈
第 10 回	近代法の形成 1	太政官制と内閣制
第 11 回	近代法の形成 2	「統治権」と「主権」
第 12 回	近代法の形成 3	ボアソナードと旧民法
第 13 回	近代法の形成 4	法典論争－大分裂の謎
第 14 回	近代法の形成 5	法典調査会と明治民法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第 2 版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100 %（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

LAW200AB

日本法制史Ⅱ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

制定法主義を最も特徴的に表現する六法が成立する頃、日本社会は急速に変化の様相を呈していく。この時期は、行政・軍事官僚システムや司法官僚システムが自律性を高めていく時期で、明治末から大正にかけて重大な法的変化が生じるようになる。

司法・行政・立法の連携構造や公法・私法関係の変容を理解し、法を立体的にとらえられるようにすることが授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

日本法制史Ⅰでは、明治期に六法典を中心とする日本近代法が成立する過程を述べた。

これらの法の作成に際して参照された外国法は、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、オランダ、ベルギー等多岐にわたるが、これらの様々な外国法は、日本人法律家の手によって吟味され、選択的に輸入されたものであった。

この選択のあり方を規定したのが、当時の日本がおかれた国際的位置（不平等条約改正のための西欧型法典の速やかな作成）と、国内の規範状況であった。国内の規範状況とは、江戸時代に形成された国家と社会の関係、及び広範に日本社会を覆った慣習規範と西欧的規範の接合・すりあわせのあり方に他ならない。

このように形成された規範構造は、明治末から早くも再編成され、大正・昭和期に大きな変更を加えられることとなる。

日露戦争を契機に、都市商工業に富を吸いあげられた農村の疲弊が顕著となり、その救済が特別法により行われるようになっていく。また、ネイションステイタス化が強調され、これに応じて、教育・社会事業等の分野に新たな立法が展開されることとなるのである。現代法の中で肥大化してあらわれる福祉法制や教育法制の原像がここに垣間見られる。

政治的にも、明治天皇の死によって憲法システムは動揺をきたし、新たな国家機構の構築が模索されていった。

明治憲法体制は、本来、法的装置と法外的装置の組み合わせによって機能するようになっていたが、「天皇の意思」がシステム上大きな後退をみるとともに、特別法による憲法機構の再構築という新たな展開がみられるようになるのである。

また、社会的矛盾が拡大し、都市市民運動、労働運動、借地借家運動、小作運動などが広く見られるようになり、これに応じて言論規制は後退する。これら社会運動の展開に対応するため、調停法の制定や選挙法の改正、治安政策の再編成が行われ、社会的主張が大幅に国家法の世界に流れ込むこととなった。もっとも、これは、同時に国家的統合の触手がより深く社会の底部に及ぶことを意味していた。

この時期には、給与生活者世帯や単身者世帯が増加し、「他人」同士の社会的接触の程度が高まって、「家族」をめぐる法は大きな変動の中におかれる。民法制定当初から不安定だった「家」秩序は、決定的な解体過程に入り、民法・家族法の改正論が展開することとなり、これが、第二次大戦後の「家」制度解体につながるのである。

このような変化の様相を考察し、今日の法構造に直接接続する史的文脈を描出する。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等についての説明
第 2 回	明治期近代法史概観	法典体制の成立
第 3 回	明治天皇と法 1	和協の詔勅と大臣罷免
第 4 回	明治天皇と法 2	対外戦争と大元帥
第 5 回	明治天皇と法 3	軍令の成立
第 6 回	明治天皇と法 4	伊藤博文・梅謙次郎と植民地法制
第 7 回	刑法大改正	明治 40 年刑法の成立
第 8 回	大正天皇と法 1	天皇機関説の行方
第 9 回	大正天皇と法 2	国家・天皇・政党
第 10 回	大正天皇と法 3	宮中某重大事件
第 11 回	選挙法と治安対策	「普通選挙」と治安維持法による国家・社会システムの再編
第 12 回	法の「民衆化」	各種調停法と陪審法の制定
第 13 回	昭和天皇と法 1	内閣瓦解
第 14 回	昭和天皇と法 2	軍縮と軍部

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川口由彦『日本近代法制史 第 2 版』（新世社）

【参考書】
高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
論述式筆記試験 100 %（テキスト・講義内容から出題。持ち込み不可。）
教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】
It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

LAW200AB

ドイツ法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類において（ヨーロッパ）大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。ところが、ヨーロッパ法なるものがどのようなものであるかについては、どこか遠く漠然としたイメージにとどまっているのではないのでしょうか。法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、古代ローマ、中世ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	ヨーロッパ古代の法と社会（1）	ローマ市民法の世界
第 3 回	ヨーロッパ古代の法と社会（2）	古典期ローマ法曹と法学
第 4 回	ヨーロッパ古代の法と社会（3）	古代ローマ法
第 5 回	ヨーロッパ古代の法と社会（4）	古ゲルマンの法と社会
第 6 回	ヨーロッパ中世の法と社会：フランク王国の時代（1）	部族法典

- 第 7 回 ヨーロッパ中世の法と ユスティニアヌス法典
社会：フランク王国の
時代（2）
- 第 8 回 ヨーロッパ中世の法と フランク王国の法と法制
社会：フランク王国の
時代（3）
- 第 9 回 ヨーロッパ中世の法と 封建社会：身分の成立と展開
社会：封建社会（1）
- 第 10 回 ヨーロッパ中世の法と 中世法の理念と現実
社会：封建社会（2）
- 第 11 回 ヨーロッパ中世の法と ヨーロッパ法システムへの転換
社会：封建社会（3）
- 第 12 回 ヨーロッパ中世の法と ボローニャ大学とローマ法のルネ
社会：近世の胎動 サンス
（1）
- 第 13 回 ヨーロッパ中世の法と 中世ローマ法学と条例理論
社会：近世の胎動
（2）
- 第 14 回 ヨーロッパ中世の法と カノン法：教皇権と法の合理化
社会：近世の胎動
（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004 年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳、関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003 年）。

ウルリッヒ・マンテ（田中実・瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008 年）。

K.W. ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999 年）。

柴田光蔵『法律ラテン語辞典』（日本評論社、1985 年）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、クイズ（20 %）、小レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もありません。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from ancient Rome to middle age, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

ドイツ法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類において（ヨーロッパ）大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。ところが、ヨーロッパ法なるものがどのようなものであるかについては、どこか遠く漠然としたイメージにとどまっているのではないのでしょうか。法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、近世、近・現代ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	ヨーロッパ近世の法と 社会：ローマ法の継受	学識法曹とローマ法継受 （1）
第 3 回	ヨーロッパ近世の法と 社会：ローマ法の継受	帝室裁判所と宗派対立 （2）
第 4 回	ヨーロッパ近世の法と 社会：ローマ法の継受	糾問訴訟と魔女裁判 （3）
第 5 回	ヨーロッパ近世の法と 社会：ローマ法の継受	ローマ法の相対化 （4）

- 第 6 回 ヨーロッパ近世の法と 身分制議会と絶対主義国家
社会：近代の胎動
(1)
- 第 7 回 ヨーロッパ近世の法と パンデクテンの現代的慣用
社会：近代の胎動
(2)
- 第 8 回 ヨーロッパ近世の法と 自然法論と人間理性
社会：近代の胎動
(3)
- 第 9 回 ヨーロッパ近世の法と 啓蒙主義と法典編纂
社会：近代の胎動
(4)
- 第 10 回 ヨーロッパ近・現代の 歴史法学派
法と社会 (1)
- 第 11 回 ヨーロッパ近・現代の パンデクテン法学と私法実証主義
法と社会 (2)
- 第 12 回 ヨーロッパ近・現代の 近代公法学の誕生
法と社会 (3)
- 第 13 回 ヨーロッパ近・現代の 近代法システムの完成と揺らぎ
法と社会 (4)
- 第 14 回 ヨーロッパ近・現代の 19 世紀ヨーロッパ法の継受から
法と社会 (5) 20 世紀アメリカ法の受容へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004 年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳・関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003 年）。

K.W. ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999 年）。

U. ファルクほか編（小川浩三ほか監訳）『ヨーロッパ史のなかの裁判事例：ケースから学ぶ西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2014 年）。その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、クイズ（20 %）、小レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もありえます。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from early modern to 20th century, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

イギリス法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

1 イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、判例法、慣習法の世界を理解する。

2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。

3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	イギリス法の基礎 (1)	判例法主義
第 3 回	イギリス法の基礎 (2)	コモン・ローとエクイティ／連合王国のつくり
第 4 回	イギリス法の基礎 (3)	法の支配と議会主権
第 5 回	初期ブリテン島の法と慣習／コモン・ローの諸起源	中央と地方の裁判所、旅する裁判官
第 6 回	コモン・ロー上位裁判所	王座裁判所、民訴裁判所、財務府裁判所の成立と発展

第 7 回	コモン・ロー訴訟手続 (1)	令状体系と訴訟方式：手続法が実体法に先んじた世界
第 8 回	コモン・ロー訴訟手続 (2)	訴答術と陪審：裁判における法律家と素人の役割
第 9 回	大法官府裁判所とエクイティ	コモン・ロー裁判所で救済されない事件への対応とその方法／エクイティはイギリスに固有のものだろうか？
第 10 回	国王評議会系列の裁判所	コモン・ローでもエクイティでもない、国王の大権的裁判権に基づく裁判所とは？
第 11 回	カノン法と教会裁判所	教会法と世俗の法、裁判権をめぐるローマ教皇と国王の争い
第 12 回	司法審査制度	上訴、誤審、再審、弾劾裁判
第 13 回	法律専門職と法曹教育	大学法学部と法曹学院、その関係と役割
第 14 回	法源	判例、慣習、制定法と法の解釈、法改革運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。

戒能通弘・竹村和也『イギリス法入門』（法律文化社、2018 年）。

幡新大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009 年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。

青山ほか編『イギリス史 1～3』（山川出版社）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、クイズ（20 %）、小レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもあると思いますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of English Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture.

Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

イギリス法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、個別の法分野における法の形成および発展の過程を、政治・経済・文化などの背景を踏まえて考察していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

1 判例を中心に、個別の法分野を政治や経済などの背景を踏まえて歴史の観点から考察することを通じて、法（ルール）の形成・発展のプロセスだけでなく、様々な法分野の重なりや、現代に至るまでの、あるいは現代とは異なる法の枠組みを理解する。

2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本法を客観的に考察・検討することができるようになる。

3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 不文憲法の国	授業概要の説明 マグナ・カルタ、権利請願、権利章典の役割と意義
第 2 回	議会主権と国王大権	国王は勝手に課税できるのだろうか？ 議会はそれを止められるのだろうか？
第 3 回	人権と法の支配	国王による恣意的な拘束は認められるのだろうか？
第 4 回	国籍と外国人の人権	植民地政策のもとでの帰化や国籍付与

第 5 回	引受訴訟と契約法	約束や契約はなぜ守らなければならないのだろうか？
第 6 回	契約と損害賠償	契約に拘束力を与える根拠 得べかりし利益と予見可能性 (日本民法 416 条との関係)
第 7 回	不法行為法	工作物と厳格責任、過失による製造物責任
第 8 回	信託の起源：ユース	土地をめぐるコモン・ロー上の権利と利益取得権（エクイティ上の権利）、どちらが保護されるのだろうか？
第 9 回	ユースから信託へ	女性は財産を保有できるのだろうか？ できるとしたらどのような？
第 10 回	商慣習とコモン・ロー	海外貿易におけるルール（商慣習）と国内法の関係
第 11 回	コピーライトとコモン・ロー	新しい利権の誕生、保護の対象は誰の何？
第 12 回	使用者と被用者をめぐるルール	誰が他者の過失に責任を負うのだろうか？ 請負人の法的地位（日本民法 716 条との関係）
第 13 回	救貧政策から福祉国家へ	救貧法、チャリティ
第 14 回	刑事法と警察組織	私訴、自力救済、聖域・聖職者の特権、刑罰と死刑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組んでください。更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。
J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 II 部〔各論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。
小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。
青山ほか編『イギリス史 1～3』（山川出版社）。
その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60 %）、クイズ（20 %）、小レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念はありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the relationship between English legal system and its background: social, economical and political force.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history from case studies 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

法社会学

北村 隆憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（遠隔オンライン授業の方法により実施します。ただし、1 回目の授業は、ズームにより遠隔対面授業を行う予定。毎回、授業ビデオと関連書類をシステムにアップするので、受講生は毎回それらを学習して、レポート課題を提出してもらうことになります）法社会学は、法規も含めて様々な法的な制度やメカニズムが、実際の社会・文化の中でどのように機能しているのかについて、経験科学的な方法を用いて研究する社会科学の一分野であり、「文化・社会と法コース」に属する。法社会学は他の実定法分野と異質な研究目標と研究方法を有するので、単に知識の提供にとどまらず、法に対する「見方」「考え方」の相違についての認識を持ってもらうことに、本講義の重要な目的の一つがある。今回は、エスノメソドロロジーと会話分析という社会学のアプローチを使って、日常的コミュニケーションと法的場面における様々なコミュニケーションを検討する。

【到達目標】

法的場面における様々なコミュニケーションについて理解し、自分でも概要を分析できるようにする。法的コミュニケーションの特徴と機能について分析・理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、授業ビデオとスライド資料を利用しておこなう。必要な資料は授業前に配布する。また、授業の内容や課題や質問に対しては、個別にメールで対応して質疑や議論のフィードバックを行う。また、提出された課題については、そこでの問題点への対応を含めて次回の授業でフィードバックされるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	法的コミュニケーションと法社会学	法的コミュニケーションとは何か。法社会学的観点から理解する。
第 2 回	法的コミュニケーションの詳細	法的コミュニケーションのメカニズムについて学習する
第 3 回	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーション	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーションの諸特徴と応用
第 4 回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替）	順番交代と会話の関係について
第 5 回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替と行為連鎖）	行為連鎖のメカニズムについて。
第 6 回	行為連鎖について考える	順番交代のルールと行為連鎖のメカニズムの関係
第 7 回	修復のメカニズムとは何か	修復の秩序
第 8 回	修復のメカニズムと法的コミュニケーション	修復のメカニズムと法的コミュニケーション
第 9 回	陪審制度における法的コミュニケーション	司法への国民参加市民の司法参加について理解する
第 10 回	裁判員制度における法的コミュニケーション	陪審と裁判員ビデオの視聴と分析的コミュニケーション

第 11 回	優先性のメカニズムと法	優先性の秩序とは何か？
第 12 回	会話と優先性	優先性の秩序と法規範の関係
第 13 回	成員カテゴリーと法	成員カテゴリーとコミュニケーション
第 14 回	法における成員カテゴリーと結合活動	成員カテゴリーと結合活動の法的関連性
第 15 回	成員カテゴリーと適用規則	成員カテゴリー化装置の概要
第 16 回	成員カテゴリー化と法的コミュニケーション	成員カテゴリー化装置が法的コミュニケーションにどのような関連性を持つか
第 17 回	反対尋問におけるコミュニケーション	反対尋問のコミュニケーションの意義
第 18 回	反対尋問におけるコミュニケーションと会話の秩序	ケネディースミス・レイプ事件における反対尋問
第 19 回	反対尋問の具体例と相互行為分析	ブラックの反対尋問のメカニズム
第 20 回	反対尋問と成員カテゴリー分析	日本における反対尋問コミュニケーションの実例
第 21 回	市民の司法参加と評議のコミュニケーション	日本の反対尋問教育について
第 22 回	評議のコミュニケーションにおける常識	陪審評議のコミュニケーションと常識の利用
第 23 回	常識とは何か？	裁判員評議における常識の利用
第 24 回	評議における常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する
第 25 回	学校型コミュニケーションの諸特徴	実際の評議データから「常識」を発見する：特にその相互行為的特徴を学習
第 26 回	学校型コミュニケーションと法的コミュニケーション	オウム説法のコミュニケーションと教育場面のコミュニケーションの比較
第 27 回	評議における裁判官の発言	教育場面のコミュニケーションと法的コミュニケーションの異同
第 28 回	緊急通報電話	評議における裁判官のコントロールの技法
		緊急通報電話の特徴の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のレジュメを復習する。授業の進行に合わせてテキストの該当部分を読む。課題を行う本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料は大学のウェブシステムで配布する。

【参考書】

エスノメソドロジー—人びとの実践から学ぶ (ワードマップ) 単行本 (ソフトカバー) 前田 泰樹 (編集), 水川 喜文 (編集), 岡田 光弘 (編集) 新曜社 (2007/8/3)

【成績評価の方法と基準】

評価は、毎回の課題レポート提出に対する評価に基づいて行う (100 パーセント)。課題レポートは原則として授業日後 1 週間の締め切りを付す。2 度を超えるレポート不提出の場合には、単位が与えられないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業ビデオの音声をより聞きやすいものとした。また、スライドをより見やすく理解しやすいものに改善した。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加するための PC と通信環境については受講生が責任をもって準備をしてください。

【Outline (in English)】

The sociology of law, or "law and society" studies, is a research field in which to study how the law actually works in a variety of settings in our society by collecting and examining various kinds of data from social scientific perspectives. This year the class focuses particularly on how communications in law-related situations are conducted, including examinations in court, jury deliberations, lawyers' interviews/counseling with their clients, mediations and legal negotiations, and examines the data from the perspective of ethnomethodology and conversation analysis as a research method.

LAW300AB

英米法Ⅰ

小山田 朋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法の中でも現代アメリカ法を扱います。「日本の高校生がアメリカに留学し、ハロウィンの日に仮装をして近所の家に行ったら射殺された」事件や、「コーヒーをこぼしたおばさんから訴えられたマクドナルド社が3億円の賠償を命じられた(?)」事件を聞いたことがあるかもしれません。この授業では、これらの事件を扱います。そして、これらの事件などをきっかけにわが国でも広まったアメリカ法のイメージや誤解について解説します。

授業が終わる頃に、アメリカ法について、またわが国の法について、イメージが変わっているかもしれません（これまでの受講生からはそのような声が寄せられました）。

受講生が、一市民として生活する上で、日本法とアメリカ法ではどのような違いがあるか考え、わが国の法についても新しい発見をすること、がこの授業の目的です。「文化・社会と法コース」ともとても強い関連を持ちますが、他のコースも含めすべてのコースに属している科目です。

なお、英語はまったく使用しません。

【到達目標】

わが国との比較から、アメリカ法の特徴をつかむこと、それによって、わが国の法のあり方への理解も深めることができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせた開講となります。初回のZOOMのURL等は、4月5日までに学習支援システムの「お知らせ」に提示します。また各回の授業形態に変更がある場合等も学習支援システムの「お知らせ」に提示しますので、定期的に確認して下さい。①解説を付した課題の資料を配付するので各自学習する、②対面あるいはオンラインでの授業を受ける、③学期に2回程度、理解を確認するクイズやアンケートを行う、という方法を予定しています。

講義だけでなく、理解を助ける映像も使います。特に、陪審制については、実際の陪審裁判を記録したビデオや映画等の教材も使って、裁判への素人の参加について考えてみたいと思います。

また、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や、リアクションペーパーに書かれた学生からの疑問点やコメントをとりあげ、解説します。

なお、英語はまったく使用しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とアメリカ法を学ぶ意味
第2回	陪審制とは？	映画『12人の怒れる男』を見る
第3回	陪審制の説明	映画の解説と「服部くん事件」 (ハロウィンの日に射殺された高校生留学生)
第4回	陪審制の長所と短所	陪審制の長所と短所を分析する
第5回	陪審裁判にはどんな課題があるか？	陪審裁判の映像を見る
第6回	陪審裁判の課題について	陪審裁判の映像を見て、解説する

第7回	陪審裁判の課題と制度	陪審裁判の課題についてどのような制度があるか？
第8回	わが国との比較	わが国の裁判員制度との比較 (裁判員になりたい?)
第9回	懲罰的損害賠償とは？	マクドナルド事件（コーヒーが熱くて3億円?!）
第10回	懲罰的損害賠償と陪審	「マクドナルド事件の陪審はクレイジーなのか？」について映像を見る
第11回	懲罰的損害賠償の長所と短所	映像の解説と分析
第12回	アメリカの建国	なぜイギリスから独立したのか？
第13回	アメリカの建国と憲法	どのような国家を目指したのだろうか？ 今日のアメリカの理解につなげる
第14回	まとめ	全体のまとめと疑問点の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカ法の授業は初めて受講する学生ばかりですから、基礎知識は必要ありません。また、英語はまったく使用しないので、英語についての準備も必要ありません。

授業では、数回に一度、授業内容を振り返ったり、学生からの疑問点に答える時間を設けるので、疑問点や理解できなかった部分について意識しておくといいいでしょう。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はレジメを配布して行い、テキストは指定しません。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法』（有斐閣）
 （とても読みやすい本です）
 そのほか授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

理解を確認するクイズを成績評価の対象とします（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で理解を確認したりするための時間を取ってきましたが、その時間のおかげで、理解できていなかった部分がわかったり、より理解を確実にすることができたという、学生からの感想がありました。また、これまでに、難しかったとの声があった箇所については、より分かりやすい解説を心がけています。また、これまでの学生からの希望を受けて、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や学生からの疑問点やクイズの準備方法などを解説する時間を設けるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

準備するものはありません。

【その他の重要事項】

授業の初回および2回目、講義の進め方、成績評価についてなど説明します。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn some aspects of modern American law, and compare them with Japanese law by studying some famous cases.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of American law and to understand Japanese law more deeply.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare and understand the course content.

Final grade will be calculated according to Mid-term quiz (50%) and term-end quiz (50%) .

LAW300AB

英米法Ⅱ

小山田 朋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法の中でも現代アメリカ法を扱います。「黒人などのマイノリティについて大学入試で優先的に合格とする制度は平等なのか」や、「同性の2人が結婚するのは権利なのか」という問題について、アメリカの最高裁判所は判決を出してきました。「同性婚は憲法上の権利だ」という2015年の判決については、わが国でも新聞等で報じられました。

もちろん結論もインパクトがありますが、「大学とは何か?」「結婚とは何か?」ということが判決文の中で論じられているのは、新鮮だと思います。

また、近年注目されている製造物責任法や AI と法についても扱います。

受講生が、わが国との比較を通して、アメリカ法への理解だけでなく、わが国の法についても新しい発見を得ることがこの授業の目的です。「文化・社会と法コース」ともっとも強い関連を持ちますが、他のコースも含めすべてのコースに属している科目です。

なお、英語はまったく使用しません。また、英米法Ⅰを履修している必要はありません。

【到達目標】

わが国との比較から、アメリカ法の特徴をつかむこと、それによって、わが国の法のあり方への理解も深めることができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせた開講となります。初回のZOOMのURL等は、9月15日までに学習支援システムの「お知らせ」に提示します。また、各回の授業形態に変更がある場合等も学習支援システムの「お知らせ」に提示しますので、定期的に確認して下さい。①解説を付した課題の資料を配付するので各自学習する、②対面あるいはオンラインでの授業を受ける、③学期に2回程度、理解を確認するクイズやアンケートを行う、という方法を予定しています。

講義だけでなく、理解を助ける映像も使います。特に、陪審制については、実際の陪審裁判を記録したビデオや映画等の教材も使って、裁判への素人の参加について考えてみたいと思います。

また、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や、リアクションペーパーに書かれた学生からの疑問点やコメントをとりあげ、解説します。

なお、英語はまったく使用しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とアメリカ法を学ぶ意味
第2回	奴隷制はどのようになくなったか?	映画『グローリー』を見る
第3回	奴隷制と憲法の関係	映画の解説と憲法
第4回	奴隷制と判例	奴隷制を最高裁はどう扱ったか?
第5回	奴隷制と憲法改正	憲法改正による変化
第6回	人種差別	人種差別はどのように残ったか?
第7回	人種差別と判例	最高裁は人種差別をどう扱ったか?

第8回	現代の人種差別：ア ファーマティブ・アク ション	アファーマティブ・アクション（大学に優先的に合格させる）は望ましいか?
第9回	現代の人種差別：陪審	陪審と人種差別の問題（O.J. シンブソン事件：白人ばかり／黒人ばかりの陪審でいいか?）
第10回	同性婚をめぐる判例	同性婚についての判決
第11回	同性婚をめぐる判例の分析	同性婚についての判決と反対意見を比較する
第12回	製造物責任の裁判	製造物責任法の裁判のビデオを見て解説する
第13回	AI と法	自動運転車をめぐる法的問題と議論の紹介
第14回	まとめ	全体のまとめと疑問点の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカ法の授業は初めて受講する学生ばかりですから、基礎知識は必要ありません。

また、英語はまったく使用しないので、英語についての準備も必要ありません。

授業の受講の間には、数回に一度、授業内容を振り返ったり、学生からの疑問点に答える時間を設けるので、疑問点や理解できなかった部分について意識しておくといでしょう。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はレジメを配布して行い、テキストは指定しません。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法』（有斐閣）

（とても読みやすい本です）

そのほか授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

理解を確認するクイズを成績評価の対象とします（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で理解を確認したりするための時間を取ってきましたが、その時間のおかげで、理解できていなかった部分がわかったり、より理解を確実にすることができたという、学生からの感想がありました。また、これまでに、難しかったとの声があった箇所については、より分かりやすい解説を心がけています。

また、これまでの学生からの希望を受けて、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や学生からの疑問点やクイズの準備方法などを解説する時間を設けるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

準備するものはありません。

【その他の重要事項】

授業の初回および2回目で、講義の進め方、成績評価についてなど説明します。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn some aspects of modern American law, and compare them with Japanese law by studying some famous cases.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of American law and to understand Japanese law more deeply.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare and understand the course content.

Final grade will be calculated according to Mid-term quiz (50%) and term-end quiz (50%).

LAW300AB

アジア法Ⅰ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。春学期のアジア法Ⅰでは、総論としてアジアの法制度の特質を概観した上で、東南アジアに属する各国の法制度を中心に上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的にを行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	総論（アジアの法制度）	アジアの法制度の特質 アジアの法制度を理解する上での留意点
第3回	フィリピンの法制度①	フィリピンの概観 フィリピンの歴史と法制度の変遷 現在のフィリピン憲法
第4回	フィリピンの法制度②	フィリピンの統治構造 フィリピンの人権
第5回	マレーシアの法制度①	マレーシアの概観 マレーシアの歴史と法制度の変遷 現在のマレーシア憲法
第6回	マレーシアの法制度②	マレーシアの統治構造 マレーシアの人権
第7回	シンガポールの法制度	シンガポールの概観 シンガポールの歴史と法制度の変遷 現在のシンガポール憲法
第8回	タイの法制度①	タイの概観 タイの歴史と法制度の変遷 現在のタイ憲法
第9回	タイの法制度②	タイの統治構造 タイの人権
第10回	インドネシアの法制度①	インドネシアの概観 インドネシアの歴史と法制度の変遷 現在のインドネシア憲法

第11回	インドネシアの法制度②	インドネシアの統治構造 インドネシアの人権
第12回	ベトナムの法制度	ベトナムの概観 ベトナムの歴史と法制度の変遷 現在のベトナム憲法
第13回	カンボジアの法制度	カンボジアの概観 カンボジアの歴史と法制度の変遷 現在のカンボジア憲法
第14回	まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

作本直行編『アジア諸国の憲法制度』（経済協力シリーズ 182、アジア経済研究所、1997年）
大村泰樹・小林昌之編『東アジアの憲法制度』（経済協力シリーズ 187、日本貿易振興会アジア経済研究所、1999年）
安田信之『東南アジア法』（日本評論社、2000年）
鮎谷正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）
稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）
加藤和英「仏暦 2560 年（西暦 2017 年）タイ王国憲法について」（『タイ国情報』第 51 巻別冊第 1 号、日本タイ協会、2017 年 5 月、巻頭 1～18 ページ）
知花いづみ・今泉慎也『現代フィリピンの法と政治—再民主化後 30 年の軌跡』（アジ研選書 53、アジア経済研究所、2019 年）
青木まさ編『タイ 2019 年総選挙—軍事政権の統括と新政権の展望』（電子書籍 PDF 版）（情勢分析レポート 32、アジア経済研究所、2020 年、https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Josei/032.html、2022 年 2 月 1 日閲覧）
鮎谷正訓編集代表・島田弦編著『インドネシア—民主化とグローバル化への挑戦』（アジア法整備支援叢書、旬報社、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the legal system in Asia and the legal system of each country belonging to Southeast Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW300AB

アジア法Ⅱ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。秋学期のアジア法Ⅱでは、東アジアに属する各国・地域の法制度を中心に上げますが、南アジアに属するインドの法制度、さらにイスラム法も取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的にを行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	インドの法制度①	インドの概観 インドの歴史と法制度の変遷 現在のインド憲法
第 2 回	インドの法制度②	インドの統治構造 インドの人権
第 3 回	イスラム法	イスラム法と聖典 イスラム法学と法学派 イスラム法の淵源
第 4 回	韓国の法制度①	韓国の概観 韓国の歴史と法制度の変遷 現在の韓国憲法
第 5 回	韓国の法制度②	韓国の統治構造 韓国の人権
第 6 回	北朝鮮の法制度	北朝鮮の概観 北朝鮮の歴史と法制度の変遷 現在の北朝鮮憲法
第 7 回	モンゴルの法制度	モンゴルの概観 モンゴルの歴史と法制度の変遷 現在のモンゴル憲法
第 8 回	中国の法制度①	中国の概観 中国の歴史と法制度の変遷 現在の中国憲法
第 9 回	中国の法制度②	中国の統治構造 中国の人権
第 10 回	香港の法制度	香港の概観 香港の歴史と法制度の変遷 現在の香港基本法

第 11 回	マカオの法制度	マカオの概観 マカオの歴史と法制度の変遷 現在のマカオ基本法
第 12 回	台湾の法制度①	台湾の概観 台湾の歴史と法制度の変遷 現在の台湾統治基本法
第 13 回	台湾の法制度②	台湾の統治構造 台湾の人権
第 14 回	まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）
 稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）
 金永完『中国における「一国二制度」とその法的展開—香港・マカオ・台湾問題と中国の統合』（国際書院、2011 年）
 大河原知樹・堀井聡江『イスラム法の「変容」—近代との邂逅』（イスラムを知る 17、山川出版社、2015 年）
 蔡秀卿・王泰升編著『台湾法入門』（法律文化社、2016 年）
 孝忠延夫・浅野宜之『インドの憲法〔新版〕—「国民国家」の困難性と可能性』（関西大学出版部、2018 年）
 田中信行編『入門中国法〔第 2 版〕』（弘文堂、2019 年）
 尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』（日本評論社、2020 年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the legal system of India, the Islamic law, and the legal system of each country and region belonging to East Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW300AB

社会安全政策論 I

谷山 敬一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
 また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
 その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用したわかりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。
 出席した皆さんから講義中に質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。
 講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とし、メールで返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察概要、社会安全政策論の定義等
第 2 回	犯罪情勢	日本の犯罪情勢に係る統計、安心と安全の違い等
第 3 回	犯罪予防	犯罪予防総論・各論
第 4 回	犯罪捜査	捜査の概要、司法制度改革、捜査の高度化のための取組等
第 5 回	犯罪被害者支援	犯罪被害者を取り巻く状況、日本における被害者等施策の推移等
第 6 回	特別講義	実務の現状
第 7 回	女性等を守る施策	性犯罪対策、ストーカー対策、DV 対策等
第 8 回	子どもを守る施策	児童虐待対策、児童ポルノ対策等
第 9 回	少年非行対策	少年法の概要、少年非行情勢、少年非行への対策等
第 10 回	特殊詐欺対策	特殊詐欺の発生状況、手口の詳細、対策等
第 11 回	サイバー犯罪対策	サイバー犯罪の現状、対策等
第 12 回	組織犯罪対策	暴力団とは、暴力団による犯罪情勢、対策等
第 13 回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等

第 14 回 汚職・企業犯罪対策 贈賄等の汚職事件、企業による不正活動、対策等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に関心を持って下さい。
 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018 年）、警察白書、犯罪白書 等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。
 その他、講義ごとに参考資料を明示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度を平常点として評価します。
 また、学期末にレポートを提出してもらいます。
 成績評価に当たっては、それぞれ 50 % を配分します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として、事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷し、事前に目を通しておいてください。

【その他の重要事項】

講師は現役の警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。
 刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline (in English)】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent 18 years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.

(Learning Objectives)

People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.

Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society.

In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.

(Learning activities outside of classroom)

Please be widely interested in media reports on security events. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.

The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.

50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW100AB

法思想史

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。
 近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。授業各回のあとで、内容確認のため、オンラインクイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	第二章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第三章公と知識人	明治期の「市民社会」＝公共圏のありか
第五回	第四章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第五章初期明治憲法理論 第12章天皇機関説事件の法思想	穂積八束・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第六章明治民法	日本とドイツの法典論争
第八回	第七章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第八章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第九章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第十章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第十一章国粋主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第十三章総動員体制（新体制）の構築と法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第十四章戦時体制下の法思想 第15章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について
 森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016年
 西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017年
 中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019年
 西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020年
 戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020年
 授業では触れられないかもしれないが、
 オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002年
 小嶋祐馬『中国思想史』KKベストセラーズ、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)とオンラインクイズ(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

学習支援システムが使えるように。

【Outline (in English)】

This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.

Before each lesson participants should read the relevant capitals by themselves.

Grade evaluation is based on answers to quizzes after each lesson and term-end reports

LAW200AB

行政法入門Ⅰ

濱西 隆男

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。しかしながら、市場及び国民生活に対する公的な介入としての行政のメカニズムに即して、行政法は独自の体系を構築している。

II 本講義は、行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅱとともに、行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

III 行政法入門Ⅰにおいては、具体的には、行政法の基礎、行政組織法の基礎、行政活動（作用）法入門（前半）を取り扱う。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

I 知識面

① 行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

② 行政法の基礎的な理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要について、確実な知識を身に付ける。

③ 具体的には、次のものを取り扱う。

行政法の体系、法治主義と法の支配、行政法の基本原則、行政組織法の基礎
行政処分

II 能力面

① 行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 教室における対面での一般的な講義形式による（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講生は、教科書を購入し、学習支援システムから配信されるレジュメと相互参照しながら、講義と自習を通じて、学習する。

III ただし、新型コロナウイルス感染症の著しい蔓延により、教室における対面での講義が困難になった場合には、学習支援システムを通じて、音声付きのパワーポイント資料と詳細なレジュメの配信の2本立てに切り換える。

IV 受講生に対するフィードバックは、授業中に提出させる課題について、次の授業の中で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 行政法とは何か	授業の進め方 行政法の特徴、
第2回	行政法基礎（1）	行政の種類と法源
第3回	行政法基礎（2）	行政法の原理
第4回	行政組織法入門	行政機関と公務員
第5回	行政作用法入門（1）	行政作用の種類

第6回	行政作用法入門（2）	行政機関の一般的活動①（行政立法）
第7回	行政作用法入門（3）	行政機関の一般的活動②（行政計画）
第8回	行政作用法入門（4）	行政機関の個別的活動①（行政処分の特色）
第9回	行政作用法入門（5）	行政機関の個別的活動②（行政処分の瑕疵）
第10回	行政作用法入門（6）	行政機関の個別的活動③（行政契約）
第11回	行政作用法入門（7）	行政機関の個別的活動④（行政指導）
第12回	行政手続入門（1）	行政手続①（意義）
第13回	行政手続入門（2）	行政手続②（手続の種類）
第14回	行政手続入門（3）	行政手続③（手続のデジタル化）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを熟読すること。また、適宜、プリントを配布するので、それも必要に応じて参照すること。さらに、わからない用語等があれば、法律学辞典等を調べることに。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第2版〕』（有斐閣、2020年）2,750円
（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版の使用は推奨しない。）

【参考書】

高橋滋『行政法（第2版）』（弘文堂、2018年）3,500円

【成績評価の方法と基準】

I 授業中に実施する課題の提出に与える平常点（40％）と期末試験の結果（60％）の合計点で成績評価を行う。

II 受講生に対するフィードバックは、授業中に提出させる課題について、次の授業の中で講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者の変更があった。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる環境を整備する必要がある。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

(1) As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law II, this lecture handles many materials about the administration. Basic theory of administrative Law, introduction to administrative organization law, introduction to administrative operations (first half). This lecture is for all courses.

(2) Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

(3) Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

(4) Grading will be decided based on short reports conducting in the class meeting (40%) and term-end examination (60%).

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

濱西 隆男

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅰとともに、全てのコースに置かれている。行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

II 実定法、特に行政法の講義内容が抽象的なものとなりがちであることに留意し、行政法の複雑な仕組みを平易に説明した図・グラフ、重要判例の事案の理解に資する図・説明文、行政実務に用いられている文書等を多く用い、行政法全体の体系に関する基礎的な理解及び基礎知識が1年間4単位の講義を通じて修得できることを目指す。

III 具体的には、次の内容を取り扱う。

行政の実効性確保

情報公開、個人情報保護

国家補償法入門、国家賠償、損失補償

行政訴訟法入門、行政訴訟

【到達目標】

I 知識面

①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

②行政法の基礎的に理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要についても、確実な知識を身に付ける。

II 能力面

①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 教室における対面での一般的な講義形式による（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講生は、教科書を購入し、学習支援システムから配信されるレジュメと相互参照しながら、講義と自習を通じて、学習する。

III ただし、新型コロナウイルス感染症の著しい蔓延により、教室における対面での講義が困難になった場合には、学習支援システムを通じて、音声付きのパワーポイント資料と詳細なレジュメの配信の2本立てに切り換える。

IV 受講生に対するフィードバックは、授業中に提出させる課題について、次の授業の中で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 行政の実効性確保入門 行政の実効性確保の機能(1)
第2回	行政の実効性確保入門	身体と物に対する有形力の行使(2)
第3回	行政の実効性確保入門	金銭に対する有形力の行使と金銭の賦課(3)
第4回	行政情報入門(1)	行政情報の収集
第5回	行政情報入門(2)	行政情報の提供

第6回	行政情報入門(3)	行政情報の管理
第7回	行政救済法入門(1)	行政救済法の類型
第8回	行政救済法入門(2)	行政機関による救済
第9回	行政救済法入門(3)	裁判所による救済①(申請に対する処分)
第10回	行政救済法入門(4)	裁判所による救済②(不利益処分)
第11回	行政救済法入門(5)	裁判所による救済③(行政処分以外の行政機関の行為)
第12回	国家補償入門(1)	公務員の行為に係る損害賠償責任
第13回	国家補償入門(2)	営造物に係る損害賠償責任
第14回	国家補償入門(3)	損失補償責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを予め熟読すること。また、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials〔第2版〕』（有斐閣、2020年）2,750円

(最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版の使用は推奨しない。)

【参考書】

高橋滋『行政法(第2版)』(弘文堂、2018年) 3,500円

【成績評価の方法と基準】

I 授業中に実施する課題の提出に与える平常点(40%)と期末試験の結果(60%)の合計点で成績評価を行う。

II 受講生に対するフィードバックは、授業中に提出させる課題について、次の授業の中で講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者の変更があった。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる環境を整備する必要がある。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(1)As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law I, this lecture handles many materials about the administration. Introduction to administrative operations (last half), Freedom of Administrative Information and Protection of Personal Data, State Compensation, Appeals and Suits against Administration. This lecture is for all courses.

(2)Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

(3)Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

(4)Grading will be decided based on short reports conducting in the class meeting(40%) and term-end examination(60%).

LAW200AB

外国書講読（独語）Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法律学の学問的視野を広める土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治とその近代日本への影響であり、関連するドイツ語文献を読んでもみる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念を、日独の比較の中で理解する。ドイツ語を履修していない場合も、概要をある程度把握できるように関連文献を使って予習する。最終的にドイツ語文献を自分で読んでみようという意欲がわくだけの語学力を身につけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。対面授業が難しい場合には、zoom を用いて実施する。テキストは学習支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は授業内、学習支援システムで受け付け、応答する。なお、大学院法学研究科の類似授業との乗り入れで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋法継受について	全体の概略的説明と、場合によってはテキストの変更（以下変更無い場合の予定）
2	317 頁	ドイツ方針受容の帰結
3	318 頁	ドイツ法ブーム
4	319 頁	ドイツ法学と穂積
5	320 頁	概念法学？
6	321 頁	末弘法学
7	322 頁	その後
8	323 頁	ドイツ民法との対比
9	324 頁	結論：はじめに
10	325 頁	憲法史
11	326 頁	官僚制と軍制
12	327 頁	教育システム
13	328 頁	軍事文化
14	329 頁	アメリカ化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容についてできるだけ日本語の資料などをもとに、自分で調べる。授業以外には 1 時間程度、予習（復習）する。

【テキスト（教科書）】

Paul Christian Schenk, Der deutsche Anteil an der Gestaltung des modernen japanischen Rechts- und Verfassungswesens, Franz Steiner, 1997 の予定だが、参加者と相談の上決定する。昨年度は、Gerhard Robbers, Einfuehrung in das deutsche Recht（ドイツ法入門）をとりあげた。

【参考書】

川口由彦『日本近代法制史』、大野・森元・吉永『近代法思想史入門』など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを授業支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初学者でも可。

【Outline (in English)】

This Seminar gives the basis for any courses. Its aim is to enlarge the perspectives of the law students. What we read together here is German articles or parts of books, whose objects are German law or politics and their influence to modern Japanese idea of law. We will read not only the texts themselves, but also another related texts for deeper understanding of the contents of texts.

Students and teacher read together German Text about legal, political or social topics and translate it into Japanese. The aim is to understand their basic concepts and to acquire skills for reading German text by oneself.

Before each lesson participants should read the relevant text by themselves.

LAW200AB

外国語講読（英語）Ⅰ

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

基本的に対面授業を予定しているが、感染状況・社会情勢等により、Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業に変更する可能性がある。Zoom 授業の場合、受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

一例として、ASIL Insights, <https://www.asil.org/insights>（米国国際法学会の HP 上で国際法に関連する時事的なトピックについて解説・分析したもの）。

受講生の関心に応じてテキストは変更する可能性がある。

教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law. Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

基本的に対面授業を予定しているが、感染状況・社会情勢等により、Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業に変更する可能性がある。Zoom 授業の場合、受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

一例として、ASIL Insights, <https://www.asil.org/insights>（米国国際法学会の HP 上で国際法に関連する時事的なトピックについて解説・分析したもの）。

受講生の関心に応じてテキストは変更する可能性がある。

教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law. Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB

会社法入門

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法学部法律学科の入門科目として、会社法、金融商品取引法とはどのようなものなのかその全体像を理解することを目的とするものである。すなわち、「企業」とか「会社」は身近な存在であるにもかかわらず、これを規律する会社法は、条文の数が多いだけでなく、特殊な用語や定義があり、その全体像を把握しようと思っても簡単ではない。そこで、会社法・金融商品取引法への橋渡しをすることが本講義の目的である。

この科目は、全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 会社法とはどういうものか、その全体像を理解する。
- ② 会社法の基本的な用語・概念—たとえば取締役、社長、監査役、株主、M&A—を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ③ 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題—たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？—について、関心も持つようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。ただ、オンライン授業では、どうしても教える側の一方通行になりがちであることから、学生が自分の頭で考えながら理解することができるようになることを目標に、学生との質疑応答を交えながら講義を進めていくつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルス感染防止の観点から、大学の方針に従い、今年度はすべて双方向型オンライン・ライブ授業を行います。学習支援システムに、詳細なレジュメと、受講性が自習すべきテキストの該当箇所を指示しますので、お知らせメールが来たら、授業支援システム上の「教材」からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	会社法とはどのようなものか。
第 2 回	会社法概説	会社の経済的機能と会社法について概説する。
第 3 回	会社の意義	会社の意義について概説する。
第 4 回	会社の種類	会社法上認められている会社の種類について概説する。
第 5 回	株式会社とは？	株式会社とはどのようなものなのか。そのシステムについて概説する。
第 6 回	株主と経営者との関係	株主と経営—所有と経営—の関係について、概説する。
第 7 回	会社法と金融商品取引法	株式会社と証券市場の関係、上場の意義、会社法と金融商品取引法の関係について概説する。
第 8 回	コーポレート・ガバナンスとは？	コーポレート・ガバナンスとは？その意義について概説する。
第 9 回	株式会社の設立	株式会社はどのように設立されるのか概説する。

第 10 回	企業はどのように経営されているのか？	企業はどのように経営されているかについて概説する。
第 11 回	経営者の責任	経営者の責任について概説する。
第 12 回	コーポレート・ファイナンス	株式会社はどのように資金を調達しているのかについて概説する。
第 13 回	M&A(1)	M&A とは？ その意義と方法について概説する。
第 14 回	M&A(2)	企業が買収されそうになったときの防衛策について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はしなくても良いので、復習を必ずすること。また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持つこと（準備学習）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・田中亘「会社法〔第 3 版〕」（2021 年 3 月）東京大学出版会
- ・必ず新しい六法を用意してください。

【参考書】

- ・浜田道代・岩原紳作編「会社法の争点」有斐閣
- ・神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編「会社法判例百選（第 4 版）」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

全講義オンライン授業になりますので、Zoom を利用できる環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the management system of the company and the method of financing the company.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① understand the system of Japanese company law
- ② understand the economic aspects of newspapers
- ③ acquire knowledge useful for job hunting

【Learning activities outside of classroom】

Before /after each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least 2 hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW200AB

会社法

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、株式会社法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本科目では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「会社法」で何を学ぶか？	・会社の意義 ・会社法の基本的な構造
第 2 回	株式会社制度の特徴	・組合契約と会社の異同 ・株式会社と合同会社の異同
第 3 回	株主の権利	・自益権と共益権 ・種類株式
第 4 回	株式の譲渡と担保化の方法	・株式譲渡の効力要件と対抗要件 ・株式の担保化の方法
第 5 回	株式会社の機関	・機関の構成と権限分配
第 6 回	株主総会制度	・招集手続 ・議事運営 ・総会検査役の役割
第 7 回	株主の議決権行使	・議決権 ・書面決議 ・代理人による議決権行使 ・利益供与
第 8 回	瑕疵のある株主総会決議とその効力	・株主総会決議取消の訴え ・株主総会決議の不存在・無効
第 9 回	取締役	・取締役の地位 ・取締役の義務
第 10 回	監査役	・監査役の地位 ・監査役の職務権限
第 11 回	取締役会制度	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第 12 回	会計監査人	・会計監査人の地位と権限
第 13 回	指名委員会等設置会社/監査等委員会設置会社	・取締役と執行役の地位 ・取締役会と 3 委員会の権限 ・執行役の権限 ・監査等委員会
第 14 回	検査役	・選任の方法 ・検査役の権限

第 15 回	春学期のまとめ	・第 1 4 回までの講義内容のまとめ
第 16 回	取締役の会社に対する義務	・善管注意義務と忠実義務 ・競業取引規制 ・利益相反規制
第 17 回	取締役の報酬	・取締役の報酬 ・その他の役員の報酬
第 18 回	取締役の会社に対する責任	・任務懈怠責任 ・任務懈怠責任の免除
第 19 回	取締役の任務懈怠責任	・任務懈怠責任の要件 ・任務懈怠責任の免除
第 20 回	株主代表訴訟・多重代表訴訟	・役員等の責任を追及する訴えを提起すべき旨の請求 ・代表訴訟の提起 ・代表訴訟の却下と担保提供命令
第 21 回	取締役の第三者に対する責任	・会社法 429 条 1 項の責任 ・会社法 429 条 2 項の責任
第 22 回	募集株式の発行	・企業の資金調達手段 ・授權資本制度 ・募集株式発行の手続き
第 23 回	募集株式発行の瑕疵を争う手続	・募集株式発行の差止め ・株式発行無効の訴え ・取締役の責任
第 24 回	株式会社の設立	・株式会社の設立手続 ・発起人の権限と責任 ・設立無効の訴え
第 25 回	企業の再編と買収	・企業買収の意義 ・買収の手法
第 26 回	企業再編行為	・合併 ・会社分割 ・株式交換／株式移転
第 27 回	企業再編の手続とその瑕疵	pp.396-432 ・企業再編の手続 ・企業再編行為の瑕疵を争う手続
第 28 回	敵対的買収	・敵対的買収の意義 ・敵対的買収に対する防衛策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくテキストを予習してくること、また、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This class will provide an overview of the major legal issues related to Japanese corporate law.

POL200AC

比較政治論 I

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近代政治の基本的分析枠組（国民国家、民主主義、資本主義）を設定し、欧米日本における近代政治の形成・発展を比較検討する。

【到達目標】

現代政治の諸問題を、歴史的空間的比較の視座（比較歴史制度発展論）から、理論的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式によって行う。

二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治類型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。
第一二回	福祉国家と資本主義の多様性	福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。

第一三 福祉国家の影 福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。

第一四 試験 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にアップロードされた教材について予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

現在準備中のため、授業開始時に指示する。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に学習支援システムに教材をアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の内容は、秋学期の比較政治論 II と連続しています。

【Outline (in English)】

This course is to compare the developments of the nation state, democracy, and capitalism in major industrial societies.

POL200AC

比較政治論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治変化について、欧米日を中心に検討する。

なお比較の方法、基準については、比較政治論Ⅰで紹介するので、できるだけⅠを履修のうえで本講義を受講すること。

【到達目標】

本講義では、20 世紀型国民国家パラダイムともいうべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980 年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する

第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	スカーフ問題	仏独英におけるムスリム系女性のスカーフ問題への対応を比較検討する。
第一二回	多文化主義という選択肢	多文化主義は社会的分岐、並行社会を招くという議論を検討する。
第一三回	民主主義の可能性	民主主義に関する悲観的見解が支配的となる今日、改めて民主主義の可能性について検討する。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アップロードされた教材を参考に予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点は調べ、なお不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

現在準備中のため、決まり次第連絡する。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に教材を学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

比較政治論ⅡはⅠを前提としているので、できるだけⅠを履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course is to clarify the transformation of the 20th century paradigm of politics by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization.

POL200AC

ジェンダー論Ⅰ

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見見過してきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学べきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？ ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 家族とは何か、家族の変化について説明する。夫婦別姓や同性婚についても考察する。
第4回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。 ここでは性別役割分業について理解する。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第8回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来するためにはどうすべきかを考える。
第11回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。

第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを理解する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019 年）
・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NVEC 実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html> 三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。
意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。なお、対面授業の実施方法は、受講者数や教室環境に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加（8）	日本におけるクォータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、事前配布される授業の資料に目を通し、わからない用語や気になる事柄があれば調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算など）
- ・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して 2 本分）

詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンライン授業で Webex を用いましたが、使い慣れない学生も多かったようなので、今年度は Zoom の使用を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

資料の事前配付や課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (80%) and short reports (20%).

LAW300AB

知的財産法 I

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は基本的には民法の特別法に位置付けられ、その意味ではやや応用的な科目ではあるものの、表現活動全般において問題となり得る法律であるため、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る身近な法律であり、その基礎的な理解を身に付けておくことは、受講生にとって将来的に公私両面にわたって意義を有するものといえる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

2021 年度の受講者数に基づき、2022 年度の授業形式はオンライン授業となる。具体的には、Zoom を録画したもの及び音声付きパワーポイント（のどちらか好きな方）を学習支援システムを通じてご視聴いただくオンデマンド形式の講義を予定している。詳細は学習支援システムを通じて改めて案内する。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	著作権法総説・権利の客体 (1)	著作権法の概要、著作物の定義（総説）
第 3 回	権利の客体 (2)	著作物の定義（創作性要件など）
第 4 回	権利の客体 (3)	著作物の具体例、特殊な問題など
第 5 回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第 6 回	著作者人格権	公表権・氏名表示権・同一性保持権など

第 7 回 著作権 (1)	各支分権について
第 8 回 著作権 (2)	著作権の制限
第 9 回 著作権 (3)	保護期間など
第 10 回 著作権に関する取引	著作権の譲渡、利用許諾など
第 11 回 著作権隣接権	実演家の権利など
第 12 回 侵害と救済 (1)	侵害成立のための要件（依拠性・類似性）、間接侵害など
第 13 回 侵害と救済 (2)	民事的救済（差止め・損害賠償など）及び刑事罰など
第 14 回 まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、著作権法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

鳥並良ほか『著作権法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2021）、田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法などの科目を履修済みか、並行して履修することが望ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

著作権法と特許法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く理解することができるため、できれば秋学期の「知的財産法Ⅱ」を本講義に続けて受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Copyright Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Copyright Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

LAW300AB

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学べる応用的な科目と位置付けることができる。特に「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき科目のひとつである。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容について

は必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は対面の場合は出席票、オンラインの場合はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	特許法の概要・権利の客体 (1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第 3 回	権利の客体 (2)・特許の要件 (1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第 4 回	特許の要件 (2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第 5 回	権利の主体 (1)	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済など
第 6 回	権利の主体 (2)	職務発明など
第 7 回	権利取得の手続	出願、出願公開、審査、補正など
第 8 回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要

第9回 特許権 (1)	特許権の内容・存続期間など
第10回 特許権 (2)	特許権の制限、法定通常実施権など
第11回 特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第12回 侵害と救済 (1)	文言侵害・均等侵害・間接侵害など
第13回 侵害と救済 (2)	抗弁事由、民事的救済など
第14回 まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第4版〕』（弘文堂、2019）、鳥並良ほか『特許法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021）、駒田泰士ほか『知的財産法Ⅰ 特許法』（有斐閣、2014）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験100%）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート100%）。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法、行政法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

特許法と著作権法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く学習することができるため、できれば春学期の「知的財産法Ⅰ」と連続で受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Patent Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Patent Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

POL200AC

日本政治論Ⅰ

中嶋 一成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の日本政治や社会を形成してきた歴代政権の施策や政権像を追うとともに、野党や有権者の投票行動も取り上げながら、現代の日本政治を理解するための基礎を学ぶ。政治という幅広い概念の中から、有権者として必要な知識を身につける

【到達目標】

自らが有権者として政治の主人公であることを自覚し、かつ、政治が自分の生活に多大な影響を与えていることを理解し、国家、地域、社会と自らの関係性を考えられるようになる。国政、地方政治を問わず、自らの知識、経験、考察を通じ、先入観や固定観念を排し、虚偽の情報・伝聞に惑わされず、何が真実であるかを、自らの力で見極められるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、新型コロナウイルスの感染状況や学生の希望なども考慮しながら、オンラインによる授業とすることもありうる。シラバスをはじめ授業計画の変更などは、学習支援システムでその都度、提示する。主要テーマごとに計3回の小レポートを求める。リアクションペーパーの毎回提出は必須としないが、氏名を伏した上で授業の中で取り上げることもありうる。授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーや小レポートを取り上げ、全体に対し講評や解説をし、フィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本政治の現状と課題	政治とは何か。現代日本の政治に求められているものは何か、浮かび上がっている課題を考える
2	戦後政治①～日米関係	岸内閣での日米安全保障条約締結と佐藤内閣の沖縄返還を取り上げ、日米関係の原点を考える
3	戦後政治②～政権運営	「列島改造論」の田中内閣、「戦後政治の総決算」の中曽根内閣、「政治主導」の民主党政権、「官高党低」の安倍内閣を比較し、政権とリーダーシップの在り方考える
4	戦後政治③～行政機構	行政改革を政権の旗印にした中曽根内閣、橋本内閣、小泉内閣を例に、行政改革が何をもたらしたのかを検証する
5	戦後政治④～消費税	大平内閣の売上税構想から竹下内閣での消費税導入までの経緯を振り返るとともに、現在まで消費税制度の変遷、問題点を探る
6	自民党の政権維持システム①	一時期をのぞいて、結党以来、自民党がどのように政権を維持してきたのかを学ぶ
7	自民党の政権維持システム②	政権維持のために構築してきたシステムの変容と、それがもたらす功罪を考える

8	連立政権と非自民政権	自民党としては初となる中曽根政権時代の新自由クラブとの連立と、現在の公明党との連立を取り上げ、経緯や性質の違いを考えるとともに、2度にわたる「非自民政権」にも触れる
9	野党	「批判ばかり」と揶揄される野党の役割は何か。現状とその課題を探索
10	有権者の意識①	選挙制度の変遷や公職選挙法の改正をたどり、各制度の問題点や各党候補者の選挙戦略・選挙運動に与える影響を分析する
11	有権者の意識②	報道機関が実施する世論調査やSNSによる世論形成にも触れつつ、有権者はいかに政党や候補者を選んでいるのか、候補者たちはどのように票を集めるのかを取り上げる
12	地方政治	低投票率が目立つ自治体の首長や議員選挙。地方政治の在り方と、どんな課題に直面しているのかを考える
13	政治と民意	維新の会が進めた「大阪都構想」の住民投票と、沖縄の米軍普天間飛行場の代替施設建設をめぐる住民投票や選挙結果を例に、示された民意と政治の関係性を考察する
14	試験・まとめと解説	授業全般を通して学習したことに関し試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々、新聞の政治記事を読んで何が起きているかを把握する。地方、中央問わず興味が持てる、あるいは持てそうな議員を見つけて、公式HPや新聞などをチェックするなどして、定点観測する。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回必ず使用する教科書はない

【参考書】

「戦後政治史 第四版」（石川真澄、山口二郎共著、岩波新書、2021年3月）

「平成政治史」（大嶽秀夫著、ちくま新書、2020年、1000円）

「自民党―「一強」の実像」（中北浩爾著、中公新書、2017年、880円）

「検証 安倍イズム～胎動する新国家主義」（柿崎明二著、岩波新書、2015年、800円）

「政権交代とは何だったのか」（山口二郎著、岩波新書、2012年、880円）

「戦う民意」（翁長雄志著、角川書店、2015年、1540円）

＊沖縄の米軍普天間飛行場移設問題に関して、あまり知識がない学生は必読。なお、電子版の入手は容易、1100円）

「地方選」（常井健一著、KADOKAWA、2020年、1700円）

【成績評価の方法と基準】

3回の提出を求める課題ごとの小レポートで40%、期末試験が40%、リアクションペーパーを含む平常点が20%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを利用し、その後の授業に生かす。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

出席を取る。一定数以上の講義に出席せず、小レポート提出や期末試験を受けても特別な事情がない限り、単位取得を認めない。小職は共同通信社政治部で20年以上にわたり、政治取材を続け、ここ10年は国政、地方選を問わず、どの候補者が当選するかを判断する総括責任者として主に選挙の現場から政治を見てきた。授業では日本の政治を体系的に俯瞰、分析するだけでなく、学生も有権者として政治の重要なアクターになることを踏まえ、渦中にある当事者の視点や気づき、学生との対話も交えながら授業を行う

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a basic ability to grasp Japanese politics with certainty.

At the end of the course, students are expected to be aware that you are the main character of politics as a voter, and understanding that politics has a great influence on your life, you will be able to think about your relationship with the nation, region, and society. Regardless of national politics or local politics, through your own knowledge, experience, and consideration, you should be able to eliminate prejudices and stereotypes, avoid being confused by false information and hearsay, and determine what is true by yourself.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the lecture content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 40%、three times short reports : 40%、in class contribution(including re-acion papers): 20%

POL200AC

日本政治論Ⅱ

藤田 直央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治とは、私たちはどんな社会を目指すのかという目標をどう定め、実現するかを探る営みである。その政治を今の日本に生きる私たちが実践するにはどうすればいいか。そうした問題意識を、戦後から今日にかけての度重なる選挙を通じた「国民の選択」が日本政治にもたらした変化を学ぶことで身につける。

【到達目標】

歴代最長の安倍内閣と野党の分断に象徴される、今の自民党「一強」政権。それが生まれるに至った経緯を、政権交代が繰り返された1990年代以降を中心に学んで理解する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今の政治の動きや、今後の日本にとってどんな政治のあり方が望ましいのかについて考えを深められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業前に課題資料を読み、講義・質問、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げフィードバックします。新聞記者らしく自分の取材体験を交えて話し、「今週の政治の動き」といった形で時事問題も解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 政治とは私たちの選択	政治とは私たちが目指す社会について合意を探る営み。近年の政権交代や目下のコロナ禍について考える。この授業の進め方も説明
2	日本政治の課題	少子高齢化、格差、過疎化、そしてコロナ禍。高まる中国・北朝鮮との緊張。課題山積だが上がらない投票率
3	自民党・長期政権と二度の下野①	1955年の結党から93年の最初の下野までの「55年体制」と、「政権交代可能な二大政党制」を掲げた政改革を概観
4	自民党・長期政権と二度の下野②	冷戦構造が崩れた1990年代の激動。94年の社会党との連立による政権復帰から、99年に始まった公明党との連立まで
5	自民党・長期政権と二度の下野③	「自民党をぶっ壊す」。2001年から06年までの小泉内閣での官邸主導、劇場型政治。
6	自民党・長期政権と二度の下野④	2006年から09年まで安倍（一次）、福田、麻生と内閣が転々。衆参ねじれ国会の混乱から自民党の二度目の下野へ
7	民主党政権の混迷①	1990年代以降の政治改革の帰結と、鳩山内閣の普天間移設問題にみる政権交代の危うさ。

8	民主党政権の混迷②	菅内閣の東日本大震災対応。野田内閣の消費増税解散と民主党分裂。政治主導とマニフェスト政治の限界
9	安倍内閣、歴代最長の理由①	日本政治の変質の帰結。1990年代の政治・行政改革が、小泉内閣や民主党政権を経て歴代最長の安倍内閣に至った。逆に民主党は分裂で一強多弱
10	安倍内閣、歴代最長の理由②	日本政治最大のイベントである衆院解散とは何かと、それが安倍内閣でどのように運用されたかを考える
11	ポスト安倍の日本政治	菅・岸田両内閣。コロナ対策に追われながら内政・外交の中長期的課題にどう取り組むか
12	今後の争点①憲法改正	改憲になぜ自民党はこだわるのか、なぜ歴代最長の安倍内閣で実現できなかったか、いまの各党の主張と現実味。手続きとしての国民投票の課題
13	今後の争点②外交・安全保障	米中対立の中で日本はどうするか。沖縄復帰と日中国交正常化から50年の節目に、様々な角度から
14	まとめ	授業を振り返りつつ、夏の参院選の結果をふまえてまとめ。期末レポートについて説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コロナ禍ははじめ現在進行形の課題に政府がどう対応しようとしているか、国会でどんな議論がされているかについて、新聞記事を読んで把握しておく。SNS等で関心を持った国会議員や政党の主張や経歴をウェブサイトなどでさらに掘ってみる。この授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必ず使う教科書はありませんが、時事問題との関連では参考書に挙げた「岸田ビジョン」に言及することが多いので、ざっと目を通すことをおすすめします。ほか、毎回の事業の前に読むべきものを新聞記事を中心に示します。

【参考書】

・岸田ビジョン（岸田文雄著、講談社＋α新書、2021年、860円）
 ・戦後政治史 第三版（石川真澄・山口二郎著、岩波新書、2010年、940円）
 ・政権交代とは何だったのか（山口二郎著、岩波新書、2012年、880円）
 ・自民党（北岡伸一著、中公文庫、2008年、1026円）
 ・日本は「右傾化」したのか（小熊英二・樋口直人編、慶応大学出版会、2020年、2000円）
 ・ナショナリズムを陶冶する ドイツから日本への問い（藤田直央著、朝日新聞出版社、2021年、1650円）
 ・防衛事務次官 冷や汗日記（黒江哲郎著、藤田直央編、朝日新聞出版、2022年、935円）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（出席確認を兼ねて当日中）で60%、期末レポートで40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の授業に生かします。最後の授業では、学生たちからの意見をもとに授業の進め方の反省会もします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand that politics is setting and trying to realize the goal of our society generally, and to learn basic contemporary issues for us to practice politics in Japan especially.

POL100AC

日本政治思想史 I

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史 I」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。

【到達目標】

現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を想定しています。適宜、小レポートやアンケートの提出を求めることで双方向性を確保します。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方や評価の方法について。
第 2 回	江戸時代とは何か	「名」と「身分」
第 3 回	武士について	軍人と「ならずものの道徳」
第 4 回	儒学について	東アジアのグローバル政治哲学
第 5 回	伊藤仁斎	儒学の日本化
第 6 回	新井白石	日本の儒学化
第 7 回	荻生徂徠（1）	「礼楽」の政治思想——方法、学問、言語
第 8 回	荻生徂徠（2）	「礼楽」の政治思想——アーキテクチャによる支配
第 9 回	本居宣長（1）	「みやび」の（反）政治思想——方法・学問・言語
第 10 回	本居宣長（2）	「みやび」の（反）政治思想——「美」の逆説
第 11 回	海保青陵	「市場」の政治思想
第 12 回	横井小楠・吉田松陰	「危険思想」としての儒学
第 13 回	福澤諭吉（1）	「社交」の政治思想
第 14 回	福澤諭吉（2）	「愛国心」と「やせ我慢」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

【参考書】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、小テスト・アンケートの提出状況（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

covid19 の流行状況の変化に伴い講義形態の変更がありえますので、学生ポータルで最新の情報を入手するように注意してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1600 to 1868, focusing on some Confucian Thinkers and Native-Learning(Kokugaku) thinkers.

POL100AC

日本政治思想史Ⅱ

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史Ⅱ」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。

【到達目標】

「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながらすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思います）が提示する様々なる「日本」像について考えていきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を行う予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	進行方法や成績評価について
第2回	福澤諭吉と田口卯吉	「文明論」の衝撃
第3回	植木枝盛と中江兆民	反〈上から目線〉の政治思想
第4回	徳富蘇峰と陸羯南	それでも〈上から目線〉の必要について
第5回	竹越三又と山路愛山	〈史論〉の復権
第6回	内村鑑三と新渡戸稲造	〈キリスト教 made in Japan〉の破壊力
第7回	高山樗牛と北村透谷	〈美的反逆〉の系譜
第8回	「国民道徳」と井上哲次郎	道徳憲法としての「教育勅語」とその新しさ
第9回	柳田国男と折口信夫	「民俗学」の登場：私たちは私たちのことをよく知っているのか？
第10回	和辻哲郎と津田左右吉	「日本」について改めて
第11回	権藤成卿と大川周明	〈偽史〉の政治学
第12回	「講座派」と三木清・戸坂潤	〈マルクス主義〉の降臨
第13回	京都学派	〈超克せよ〉と近代は言う
第14回	丸山眞男	〈作為せよ〉と近代は言う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

【参考書】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90 パーセント）、講義への積極的な貢献度（10 パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1868 to 1945, focusing on various thinkers who tried to embrace "Western Impact" in various ways.

LAW200AB

法律学特講（知的財産法の今日的課題）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、知的財産法に関する諸問題のうち、著作権法・特許法・標識法以外のものの中から、その時々により重要と思われる課題を個別的に採り上げ、どのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例や関連する他の法制度にも触れながら学んでいく。

今年度も、近時その重要性をますます高めつつある営業秘密の保護を中心に採り上げる。雇用の流動性が高まりつつある今日、その反面として、退職従業員による営業秘密の流出といった案件を報道において目にする機会もまた多くなっている。営業秘密の保護は、知的財産法のひとつである不正競争防止法において規定されているものであるが、これは、市場において競争を行っている事業者のみならず、その従業員や役員といった個人にも関係してくる規律であるため、これについて一定の理解を身に付けておくことは社会に出た際に少なくない意義を有するものである。

この授業は、以上のような営業秘密に関する規律を中心に、不正競争防止法のうちのいくつかの規定等を学ぶことを目的とするものである。民法（不法行為法）や労働法を学んだ上での応用科目といった意味合いを有するが、情報の秘密管理といった事柄は幅広い分野に関連し得るため、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」などの各コースにおける学習の最終段階において受講すべき科目のうちのひとつとして位置付けられる。

【到達目標】

不正競争防止法における営業秘密の保護に関する規律などを中心に、関連する知的財産法上の規律について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、営業秘密保護の規律などを理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、営業秘密保護などが問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、不正競争防止法における営業秘密の保護（及びデザイン保護に関する法制度等）をテーマとし、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像に占める本講義の位置
第 2 回	営業秘密の不正利用 (1)	不競法 2 条 1 項 4～10 号総説、営業秘密の定義（秘密管理性等）
第 3 回	営業秘密の不正利用 (2)	営業秘密の定義（有用性、非公知性等）
第 4 回	営業秘密の不正利用 (3)	不正利用行為
第 5 回	営業秘密の不正利用 (4)	適用除外、救済手段など
第 6 回	営業秘密の不正利用 (5)	営業秘密に関する問題演習、答案の書き方の解説など
第 7 回	限定提供データの不正利用	不競法 2 条 1 項 11 号～16 号の概説
第 8 回	商品形態模倣行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 3 号の制度趣旨、保護の要件
第 9 回	商品形態模倣行為の規律 (2)	保護の要件、適用除外
第 10 回	商品形態模倣行為の規律 (3)	請求主体、救済手段など
第 11 回	意匠法概説 (1)	登録意匠制度とは、意匠の定義
第 12 回	意匠法概説 (2)	意匠の定義、登録要件
第 13 回	意匠法概説 (3)	登録要件、意匠権・意匠権侵害概説など
第 14 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料や解いてくるべき課題などを出す場合があるので、取り組んだ上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい（意匠法は一般的な六法には掲載されていないので、留意されたい。詳細は開講時に改めて指示する）。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）、茶園成樹編『意匠法〔第 2 版〕』（有斐閣、2020）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解の度合いを見計らいながら授業を進めるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や労働法、民事訴訟法、知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trade Secret Protection and Design Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trade Secret Protection and Design Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史 I

上村 剛

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この「ヨーロッパ政治思想史 I」は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。ヨーロッパにおける政治学・政治思想の歴史を学びます。政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。

【到達目標】

「ヨーロッパ政治思想史 I」は、おもに、ヨーロッパの古代・中世の政治思想史を扱います。現代の政治学の用語・概念のほとんどが、すでに古代ギリシア・ローマに登場していることから明らかなように、古代の政治思想は、近現代の政治学にもきわめて大きな影響を及ぼしており、後者を理解するためにも非常に重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。2022 年 2 月時点では対面による講義の予定です。しかし、コロナの感染拡大状況によってはオンデマンドの動画による講義に変更される可能性もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の方針、評価方法などについて
第 2 回	政治思想の「はじまり」と古代ギリシア	民主主義の源流を探る
第 3 回	ソクラテスとプラトン (1)	『ソクラテスの弁明』とソフィストについて
第 4 回	プラトン (2)	『国家』や『法律』の政治論
第 5 回	アリストテレス (1)	『ニコマコス倫理学』
第 6 回	アリストテレス (2)	『政治学』
第 7 回	ポリュビオスとローマの政治	共和政と混合政体について
第 8 回	キケロ	共和政ローマの終焉と自然法について
第 9 回	キリスト教の政治思想	政治と宗教の関係
第 10 回	セネカとタキトゥス	皇帝の下での政治と歴史叙述
第 11 回	アウグスティヌス	神の国と地の国の関係について
第 12 回	トマス・アキナス	中世における政教関係と法律の分類
第 13 回	イタリアの都市国家	世俗権力の自立と中世の終焉
第 14 回	ルネサンスとマキャヴェッリ	共和政論の復活と近代の予見

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

政治思想史を学ぶためになにより重要なのは、講義を聴くことでも、教科書や研究文献を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いません。

【参考書】

必ずしも全て内容が一致するわけではないが、この講義と近い内容を持ち、理解を促進させてくれるものとして、宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年、ならびに川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史 視座と論点』岩波書店、2013年の2冊があります。（授業中に用いるわけではなく、購入は必須ではありません。）

【成績評価の方法と基準】

授業後に提出するコメントシート 15%、学期末のレポート（2000字以上 3000字以下）85%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義のスピードや難易度に留意して授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

万が一オンデマンド講義になった場合には、それなりの容量のある動画を視聴できるネット環境が必要です。

【Outline (in English)】

Explores history of political thought, especially of the ancient Greek and Rome and the middle ages.

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史Ⅱ

上村 剛

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。ヨーロッパにおける政治学・政治思想の歴史を学びます。政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。

【到達目標】

「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、おもにヨーロッパにおける初期近代の政治思想史を扱います。とくに、宗教改革後の凄惨な宗教対立が、ヨーロッパの政治思想・政治学にきわめて大きな影響を及ぼしたことについて適切に理解することが、この授業の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。2022年2月時点では対面による講義の予定です。しかし、コロナの感染拡大状況によってはオンデマンドの動画による講義に変更される可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方針、評価方法などについて
第2回	宗教改革の政治思想	ルターとカルヴァン
第3回	フランスの内乱とボダン	抵抗権、寛容、主権
第4回	グロティウス	国際関係と自然法
第5回	ホッブズとイングランド革命	『リヴァイアサン』
第6回	ハリントン	混合政体、古代の知恵と近代の知恵
第7回	ジョン・ロック	自然法と『統治二論』
第8回	スピノザと寛容論	『神学政治論』、ビュール・ペール、『寛容書簡』
第9回	モンテスキュー	三権分立と政体の規模と風土との関係
第10回	スコットランド啓蒙	ヒュームとアダム・スミス
第11回	ルソー	『人間不平等起源論』と『社会契約論』
第12回	アメリカ革命	ペイン『コモン・センス』、連邦憲法の制定、人民主権
第13回	フランス革命とその対応	憲法制定権力と理性、保守、フェミニズム、『永遠平和のために』
第14回	近代の幕開け	トクヴィル、功利主義、J・S・ミル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治思想史を学ぶためになにより重要なのは、講義を聴くことでも、教科書や研究文献を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。

【参考書】

必ずしも全て内容が一致するわけではないが、この講義と近い内容を持ち、理解を促進させてくれるものとして、宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年、ならびに川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史 視座と論点』岩波書店、2013年の2冊があります。（授業中に用いるわけではなく、購入は必須ではありません。）

【成績評価の方法と基準】

授業後に提出するコメントシート 15%、学期末のレポート（2000字以上 3000字以下）85%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義のスピードや難易度に留意して授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

万が一オンデマンド講義になった場合には、それなりの容量のある動画を視聴できるネット環境が必要です。

【Outline (in English)】

Explores history of political thought, especially of the early modern Europe.

POL200AC

比較福祉国家Ⅰ

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<この授業は、現代政治科目群に属する科目である。>
福祉国家のかたちは国際的に多様である。では、福祉国家はどのように多様であり、また、何がその多様性を生み出しているのだろうか。「福祉国家Ⅰ」では、これらの点を説明しようと提示されてきた理論・視点を、データ分析の実質的な要素もとり入れて学習する。さらに、福祉国家の今日の状況について、「福祉国家と経済のグローバル化」という観点から考察する。

【到達目標】

- ① 福祉国家の国際的な多様性を説明する代表的な理論について説明できる。
- ② 福祉国家・福祉レジームの類型を、その分析枠組みと合わせて説明できる。
- ③ 用意されたデータを使って、上記の分析枠組みを用いた考察ができる。
- ④ 福祉国家に対する経済的グローバル化の影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※「比較福祉国家Ⅰ・Ⅱ」は、オンライン授業です。

- 毎回、電子ブック形態の教材をオンデマンドで配信します（教材のURLは、学習支援システムのお知らせで連絡します）。
- 各回の学習概要の説明や課題へのフィードバックを、Zoomでおこないます（出席は任意）。
- 学修状況の確認を目的とする小課題を出し、指定する期日内の提出を求めます（提出先は、学習支援システム）。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントの形で、個別적으로는メールやオフィスアワーでおこないます。
- この授業用に設けたデータサイト：Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>)を用いた分析・考察をおこなう回があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要や評価方法などの説明を受ける。
第2回	北欧型福祉国家	「福祉国家」の概念について確認したのち、代表的な「福祉国家」とされることの多い北欧の福祉国家を、経済と福祉の関連に注目して考察する。
第3回	福祉国家と経済分野のグローバル化（1）	経済のグローバル化が福祉国家にどのような変化をもたらしているのを、ドイツの事例を扱った映像資料を使って考察する。
第4回	福祉国家と経済分野のグローバル化（2）	前回の学習を踏まえて、福祉国家に対する経済的グローバル化の影響を、構造的に分析する。

第5回	社会保障のグローバルな次元	ILO の World Social Protection Data 等を使って、国際的な社会保障の今日的状況をグローバルな見地から考察する視点を学ぶ。
第6回	福祉国家の多様性を説明する理論（1）近代化説	近代化説の福祉国家観を学習し、それを高度経済成長期の日本の事例で検証する。
第7回	福祉国家の多様性を説明する理論（2）権力資源動員論	権力資源動員論に基づく福祉国家の国際的多様性はどのように説明されるのかを学習した上で、その説明を日本の「福祉元年」の事例で検証する。
第8回	福祉国家の多様性を説明する理論（3）新制度論	新制度論の視点を学習したのち、選挙制度が有権者の再分配に関する投票行動に及ぼす影響について理論的に考察する。
第9回	福祉国家の類型（1）福祉レジームと脱商品化	「福祉レジーム」の概念を学習した上で、福祉レジームを分類する基準のひとつめとして「脱商品化」指標の構成を学習する。
第10回	福祉国家の類型（2）社会的階層化	福祉レジームを分類する基準のふたつめとして「社会的階層化」を学習する。また、「社会的階層化」との関係で、ミーンズテスト、選別主義と普遍主義、「再分配のパラドクス」についても考察する。
第11回	福祉国家の類型（3）福祉レジームの三類型	データを使って「脱商品化」指標と「社会的階層化」指標に基づく国際比較をおこなう。その結果を参照しつつ、E・アンデルセンの提示した福祉レジームの三類型を学習する。
第12回	ジェンダー・家族・福祉国家（1）家族主義と脱家族化	ジェンダーと福祉国家の関係を、男性稼ぎ主モデル、家族主義、脱家族化の概念を交えて考察する。
第13回	ジェンダー・家族・福祉国家（2）家族政策の国際比較	家族主義・脱家族化にかかわる家族政策の国際比較を、福祉レジームと関連付けて考察する。
第14回	振り返りと総括	春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出された課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。
この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

電子ブック形態の電子教材を毎回配信する。

【参考書】

・OECD, Social policies and data (<https://www.oecd.org/els/soc/>)
・ILO, Social Protection (<https://www.social-protection.org/gimi/guess/WSPR.action>)
その他、授業・教材の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起（10%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

※インターネットに接続できるPCないしタブレット。
※学習支援システムへの登録（授業に関するお知らせ配信・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

This course will provide students with the conceptual knowledge and comparative methods to understand and analyze international diversity of welfare state. It also introduces a viewpoint to understand the relationship between welfare state and economic globalization.

POL200AC

比較福祉国家Ⅱ

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<この授業は、現代政治科目群に属する科目である。>

20世紀の第3四半期までに福祉国家を形成した諸国では、1980・90年代以降の福祉国家再編の過程を経て、「新しい福祉国家」が「新しい福祉国家の政治」とともに姿を現しつつあるとされる。では、それらは具体的にはどのようなものなのだろうか？ 本授業では、社会政策・福祉政策学の分野で提示されてきた理論や視点を、諸国の社会保障分野における制度、政策に当てはめて考察することを通して、上記の問いにアプローチする。

【到達目標】

- ① 福祉多元主義の観点から諸国の福祉制度、政策を比較・考察できる。
- ② 政府間財政関係の観点から、社会支出に関する財政統計を分析できる。
- ③ 福祉三角形のモデルを応用して、福祉国家再編の政治を分析できる。
- ④ 福祉ガバナンスの視点を諸国の福祉制度、政策に当てはめて考察できる。
- ⑤ 諸国の年金改革を、高齢期の所得保障という観点から国際比較できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※「比較福祉国家Ⅰ・Ⅱ」は、オンライン授業です。

- 毎回、電子ブック形態の教材がオンデマンドで配信されます（教材のURLは、学習支援システムの「お知らせ」で連絡します）。
- 各回の学習概要の説明や課題へのフィードバックが、Zoomでおこなわれます（出席は任意）。
- 学修状況の確認を目的とする小課題に、指定される期日内に取り組みます（提出先は、学習支援システム）。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントで、個別적으로는メールやオフィスアワーでおこなわれます。
- この授業用に設けたデータサイト：Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>)を用いた分析・考察をおこなう回があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明を受けたのち、秋学期の学習テーマを理解する。
第2回	福祉国家の行財政(1) サービス供給	福祉サービスの供給面を学習する。
第3回	福祉国家の行財政(2) 企画・規制と政府間関係	福祉サービスの企画・規制面について、政府間財政関係（中央・地方関係）の視点と合わせて学ぶ。
第4回	福祉国家の行財政(3) 政府間財政関係の国際比較	政府間財政関係の観点から社会保障制度の国際比較をおこなう。

第 5 回	福祉国家の行財政 (4) 政府間財政関係	COFOG に基づく政府財政統計の体系を学習することを通して、福祉国家の政府間財政関係について学習する。
第 6 回	福祉国家の行財政 (5) 政府間財政関係の国際比較	政府間財政関係について、統計数値の制度的背景を分析する視点を学ぶ。
第 7 回	【歴史の窓】 同業組合と互助・共済——社会保険の源流	ヨーロッパの同業組合に関するビデオを視聴し、互助・共済活動の歴史を学ぶ。
第 8 回	福祉国家の財源と所得再分配 (1) 財源構成	福祉国家の財源について、所得再分配機能との関係を中心に学習した上で、OECD 諸国の財源構成を比較する。
第 9 回	福祉国家の財源と所得再分配 (2) 税・不平等・社会保障	財源構成と所得分布 (所得の不平等、貧困率) の関係を、OECD の国際統計を使って国際比較する。
第 10 回	福祉多元主義	福祉多元主義の歴史的背景を学んだのち、福祉多元主義に基づいた福祉国家再編を福祉三角形のモデルを使って分析する。
第 11 回	福祉国家再編の国際的動向	福祉国家再編の国際的動向として、Privatization (民営化・民間化)、市場化、脱家族化の三つを取り上げて考察する。
第 12 回	福祉ガバナンス	福祉ガバナンスについて、「ガバメントからガバナンスへ」の見方および福祉多元主義との関係を軸に理解する。
第 13 回	医療保障のガバナンス	福祉ガバナンスの理念型を学習した上で、イギリス・ドイツ・アメリカの医療保障にその類型を当てはめて考察する。
第 14 回	高齢期の所得保障	高齢期の収入源について国際比較したのち、年金改革の国際的動向について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で出された課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。
この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

電子ブック形態の電子教材を毎回配信する。

【参考書】

・IMF Data, Government Finance Statistics
・OECD, Social policies and data (<https://www.oecd.org/els/soc/>)
・ISSA, Social Security Country Profiles (<https://www.issa.int/country-profiles>)
・European Observatory on Health Systems and Policies (<https://www.euro.who.int/en/about-us/partners/observatory>)
・厚生労働省『世界の厚生労働 (海外情勢報告)』
その他、授業・教材の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容 (90%)、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起 (10%)、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

※インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
※学習支援システムへの登録 (授業に関するお知らせ配信・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

This course will provide students with the conceptual knowledge and methods to understand and analyze welfare institutions and policies of modern welfare states. Specific social policy areas, such as health and pension will be focused and recent reforms will be discussed comparatively.

ECN200AC

経済政策 I

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策 (公共政策)」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評 (多かった間違いや興味深い回答の紹介など) を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

八田達夫, 2008, 『ミクロ経済学 I』 東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー, 2019, 『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』 東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃, 2015, 『公共経済学』 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200AC

経済政策Ⅱ

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法
1		
3	データで見る日本経済	名目 GDP と実質 GDP
2		
4	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法
3		
5	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法
4		
6	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
7	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
8	雇用問題 3	若年者の雇用問題
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアン の交差図、乗数効果
1		
10	IS-LM モデルの構築	IS 曲線の導出
2		
11	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定とコントロール
3		
12	IS-LM モデルの構築	LM 曲線の導出
4		
13	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果とクラウディング・アウト
1		
14	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果
2		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策Ⅰを履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線や供給曲線、及び弾力性の概念等を学習済みなら、必ずしも経済政策Ⅰを履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学Ⅰ（第4版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】**Course Outline**

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

POL100AC

行政学

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。国際比較や公民の対比も適宜、実施する。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる 26 のトピックを、1 回の授業で 1 つずつ取り上げ、逐次解説を行う。以上を通じて、行政学を構成する制度論、政策論、管理論という 3 つの領域をカバーする。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の冒頭でフィードバックを行う。2 度のレポート課題と、年度末に 1 度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第 2 回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第 3 回	官僚制②	政官関係について論じる。
第 4 回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第 5 回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第 6 回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第 7 回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第 8 回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第 9 回	地方自治②	府県関係について論じる。
第 10 回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第 11 回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第 12 回	政策類型	政策の類型について論じる。
第 13 回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第 14 回	政策決定①	政策決定と合理性について論じる。
第 15 回	政策決定②	利益・制度・アイディアについて論じる。
第 16 回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第 17 回	政策評価	政策評価について論じる。
第 18 回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。

第 19 回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第 20 回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第 21 回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第 22 回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第 23 回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第 24 回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第 25 回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第 26 回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第 27 回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。
第 28 回	まとめ	1 年間の講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読 15 分、新聞閲読毎日 15 分 × 7 日 = 115 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円

【参考書】

講義のなかにおいて、必要に応じて適宜、言及する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー（10%）

課題レポート（20%）

定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン受講できるようなデバイス／周辺環境。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan. The lecture will also include international comparisons and civic contrasts as needed.

POL200AC

マス・コミュニケーション論 I

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションの特徴・役割などに関する基本的な概念と理論を学び、実際行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。

【到達目標】

- 1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。
- 2) 現代社会におけるマスコミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。
- 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 毎回、授業内容のチェック及び意見・感想などをワークシートに記入してもらいます。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要：マス・コミュニケーションとは？	授業の構成とマス・コミュニケーション論を学ぶ意義について紹介します。
2	マス・コミュニケーションの歴史と機能	マス・コミュニケーション、マス・メディアの歴史と関連概念の変遷について学びます。
3	表現の自由と規範理論	マス・メディアの在り方に関する規範理論を学びます。
4	メディアからみるメディア	映画・ドラマなどで描かれたメディアの姿から、今のメディアについて語ります。
5	ニュースの社会学	報道の過程に影響を及ぼす社会的要因を通じて、マス・メディアと社会の関係を考察します。
6	2つのパラダイム (1)	コミュニケーション学の2大パラダイムの中、主流・伝統パラダイムを学びます。
7	2つのパラダイム (2)	マルクス主義に基づく批判的パラダイムを学びます。
8	オールド・メディアとニュー・メディア	インターネットなどニュー・メディアの特徴について学びます。
9	マス・コミュニケーションと民主主義	民主主義のためのメディアの役割について学びます。
10	マス・コミュニケーション効果理論	マス・コミュニケーションの効果に関する理論を学びます。

11	オーディエンス論	批判的理論の伝統の中発展してきたオーディエンスに関する理論を学びます。
12	選挙とコミュニケーション	参議院選挙の前に、コミュニケーションと選挙の関係、日本の選挙報道について学びます。
13	メディア倫理	倫理問題が問われるケースから、倫理性を判断するために考慮すべき基準・原則を学びます。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス (2010) 『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 30%（出席・ワークシート・ディスカッション参加など）

テスト 40%（オープンブック形式）

書評 15%

期末レポート（選挙報道の感想） 15%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。オンライン授業での試行錯誤に照らして、オンデマンドとリアルタイム両方を活用しながら、学生同士の議論をより活発にさせたいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces basic concepts and theories about the characteristics and roles of mass communication, in order to provide grounds on that students can develop analytical and critical viewpoints on communication and media phenomena.

POL200AC

マス・コミュニケーション論Ⅱ

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションⅠから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、自分の興味のあるテーマのケース研究を行うことを目的とします。

【到達目標】

- 1) コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。
- 2) 自分の興味のあるコミュニケーション・メディア現象を紹介するケース研究を行い、3-4 ページのレポートを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 毎回、授業内容のチェック及び意見・感想などをワークシートに記入してもらいます。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要・課題案内	授業で紹介するコミュニケーション学の分野について紹介し、期末プロジェクトのケース研究について案内します。
2	国際コミュニケーション：概念と理論 (1)	国境を越えて行われるコミュニケーション現象を語る理論の中、主流パラダイムの流れを学びます。
3	国際コミュニケーション：概念と理論 (2)	文化帝国主義など、国際コミュニケーションを語る批判的理論を学びます。展過程について学びます。
4	【TOPIC】 グローバル・オーディエンスとファン活動	海外のコンテンツを消費するオーディエンスについて学び、積極的なファン活動の様子とその影響力について議論します。
5	メディア・イベントと国際報道	海外の出来事を報道する国際報道の特徴を国際的なメディア・イベントを中心に議論します。
6	メディア経済と統治	メディア産業の特徴と役割について学びます。
7	広告と消費社会	現代社会における広告の役割と位置づけについて議論します。
8	【TOPIC】 フェイクニュース	フェイクニュースに関する番組を視聴し、その原因と対策について考察します

9	児童とコミュニケーション	テレビ討論や政治広告など、政治とコミュニケーションに関する理論を学びます。
10	コミュニケーションと多様性	ジェンダー、人種、社会的マイノリティーなど、コミュニケーションと多様性の問題について話します。
11	世界のメディア・システム	日本とは違う、海外のメディア・システムとその背景について学びます。
12	ケース研究発表 (1)	レポート提出の前に、これまで分かった内容を発表し、質疑応答・悩み相談などを行います。
13	ケース研究発表 (2)	レポート提出の前に、これまで分かった内容を発表し、質疑応答・悩み相談などを行います。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス (2010) 『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 30%（出席・ワークシート・ディスカッション参加など）

テスト 30%（オープンブック形式）

ケース研究 40%（発表 10%, 期末レポート 30%）

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。オンライン授業での試行錯誤に照らして、オンデマンドとリアルタイム両方を活用しながら、学生同士の議論をより活発にさせたいと思います。

【Outline (in English)】

With the foundation of the theories and concepts studied in Mass Communication I, this course introduces concepts and theories in specific fields of communication studies. At the end of the semester, students will develop their own interests into case studies.

POL100AC

日本政治史 I

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史といふけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

幕末・維新から第二次大戦での敗北にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこないたい。

第 2 回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第 2 回	幕藩体制の動揺	徳川幕藩体制後期の変動と諸改革。維新への条件
第 3 回	明治国家の成立	維新政府と民権運動。長州支配の淵源と政党の結成
第 4 回	憲法制定、議院開設	体制モデルの相剋。イギリス・モデル対ドイツ・モデル
第 5 回	初期議会と政党政治	議会政治、政党政治事始め。議会制における政党の定位・役割
第 6 回	政党政治の展開	原 敬内閣まで。試される政党の力
第 7 回	憲政の常道	政友会と民政党。二大政党制の経験
第 8 回	都市化と政治	「男子普通選挙」制の導入、社会主義運動。社会変動期における政治課題
第 9 回	国際政治と内政	ワシントン会議、ロンドン軍縮会議と国内政治。国際協調と国内民主化の連関、

第10回 政党政治の凋落	国家改造運動、テロ事件、「満州事変」。政と軍
第11回 新体制運動	国家総動員と翼賛政治。政党政治の終焉
第12回 戦争のなかの政治	日中戦争の拡大と対米開戦決定過程。戦争のはじめ方
第13回 敗戦への道程1	沖縄戦から対米英和平工作まで
第14回 敗戦への道程2	ポツダム宣言受諾にいたる政治過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

鶴見俊輔ほか編著『日本の百年』1～9、筑摩書房（ちくま学芸文庫）2007-2008年。

沖縄県文化振興会史料編纂室編『沖縄県史』各論編第5巻（近代）編集工房東洋企画、2011年。

升味準之輔『日本政治史』1～3、東京大学出版会、1988年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、出席状況をふくむ平常点等（30％）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2022年2月8日）

新型コロナウイルス禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本Webシラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 1 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of modern Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of modern Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL100AC

日本政治史Ⅱ

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史といふけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第二次大戦末期から対日講和にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこないたい。

第2回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第2回	前史	沖縄戦、ヒロシマ、ナガサキと戦後政治
第3回	対日占領のはじまり	立案過程と究極目標
第4回	統治体制の変革	象徴天皇制への道
第5回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄
第6回	早期講和と安保問題	芦田メモと昭和天皇の沖縄メッセージ
第7回	戦後政党政治の起動	いわゆる本土と沖縄
第8回	対日政策の転換	交錯する二つの論理
第9回	講和論争	国務省 vs. 米軍部、全面講和論 vs. 片面講和論
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	潜在主権方式（第3条）を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考える
第14回	補論	戦後政治史と昭和天皇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

「日本の政治と外交Ⅰ」および「日本の政治と外交Ⅱ」をも履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

升味準之輔『日本政治史』4、東京大学出版会、1988 年。

河野康子『日本の歴史 24 戦後と高度成長の終焉』講談社（講談社学術文庫）、2010 年。

中野好夫・新崎盛暉『沖縄戦後史』岩波書店（岩波新書）1976 年。

新崎盛暉『沖縄現代史 新版』岩波書店（岩波新書）2005 年。

櫻澤 誠『沖縄現代史：米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社（中公文庫）、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、出席状況をふくむ平常点等（30 %）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2022 年 2 月 8 日）

新型コロナウイルス禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 2 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of post-war Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of Japan after World War II.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL200AC

公共哲学Ⅰ

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「理論・歴史・思想」の分野に属する科目である。

近年において「公共性」論や、公共性と密接に関連する「市民社会」論に対する注目が集まっている。これらの議論の背景に存在する哲学・思想を探究することは、公共哲学の重要な課題の一つである。公共哲学Ⅰでは、現代社会において、公共性や市民社会といった概念がいかなる意義を果たしているかを学ぶ。

【到達目標】

「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念について、現代における公共哲学の諸理論においてどのような意義が与えられているかを理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

原則として対面形式で行う予定ではあるが、コロナ感染状況や大学の方針等によって複数回のオンライン授業を設ける可能性がある。具体的なスケジュールは Hoppi を通じて連絡するため、よく確認すること。

質疑応答については、講義中にそのための時間を設けるほか、講義前後に受け付ける。また、Hoppi を通じた質問も受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第 2 回	公共性・市民社会の概念史	公共性や市民社会といった用語がいかなる歴史を持つかを簡単に見る
第 3 回	ハーバマスと公共哲学	現代の公共哲学において最も重要な知的源泉となっているユルゲン・ハーバマスの議論を見る
第 4 回	ハンナ・アレントと公共哲学	ハーバマスと並んで現代の公共哲学に大きな影響を与えているハンナ・アレントの議論を見る
第 5 回	リベラリズムの公共哲学	自由と正義を社会の基本原則として捉えるリベラリズムの思想をジョン・ロールズを中心に見る
第 6 回	リバタリアニズムの公共哲学	リベラリズムにおける自由の要素をより徹底したリバタリアニズムの思想をロバート・ノージックを中心に見る
第 7 回	コミュニタリアニズムの公共哲学	リベラリズムの対抗思想たるコミュニタリアニズムの思想をマイケル・サンデルを中心に見る
第 8 回	ここまでのまとめ	講義前半の振り返りと質疑応答の時間を設ける
第 9 回	民主主義と公共哲学	民主主義と公共性の関係について、熟議民主主義論を中心に見る
第 10 回	市場と公共哲学	市場と公共性の関係について見る

第 11 回	多文化社会と公共哲学	多文化社会状況において要求される寛容と公共性の関係について見る
第 12 回	性と公共哲学	公／私二元論の最大の批判者であるフェミニズムの問題意識を見る
第 13 回	地域社会と公共性	地域社会を通じて生み出される公共性を見る
第 14 回	ここまでのまとめ	講義後半の振り返りと質疑応答の時間を設ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。教科書については、事前に該当箇所を示す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

山脇直司『公共哲学とは何か』（ちくま新書、2004 年）
 山岡龍一／斉藤純一編『公共哲学』（放送大学教育振興会、2010 年）
 平井亮輔編『正義—現代社会の公共哲学を求めて』（嵯峨野書院、2004 年）
 桂木 隆夫『公共哲学とはなんだろう』（勁草書房、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

講義に対する理解度を学期末試験で確認する（100 %）。
 大学の方針等により、レポート提出で代替する可能性がある

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、過度に一方的にならないように気をつけたいので、質疑応答の機会を設けた際は積極的に質問をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

This lecture aims to understand what kind of the terms and concepts such as publicness and civil society have.

POL300AC

外国語講読（独語）Ⅰ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治哲学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約 2 ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第 2 回	導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 3 回	導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 4 回	1.1 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 5 回	1.1 節精読 (Kriteriale Bestimmungen)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 6 回	1.1 節精読 (Kriteriale Bestimmungen)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 7 回	1.1 節精読 (Reduktive Strategien)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 8 回	1.1 節精読 (Normative Perspektiven)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 9 回	1.2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 10 回	1.2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 11 回	1.2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 12 回	1.2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論

第13回 1.2 節精読 ドイツ語の文章講読および日本語

で議論

第14回 まとめ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elif Özmen "Politische Philosophie. Zur Einführung" (2013 Junius)

の内の導入部を選んで精読します。

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなくて、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on ethics.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AC

外国語講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治哲学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学に関わる概念や議論についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

演習形式で、ドイツ語の文章を精読します。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項および/または訳を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第3章のテーマ導入と導入部精読	問題設定とドイツ語の文章講読および日本語での議論
第2回	第3章の導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第3回	第3章の導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第4回	3.2 節の精読（熟議民主主義パラダイム）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第5回	3.2 節の精読（熟議民主主義パラダイム）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第6回	3.2 節の精読（討議理論）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第7回	3.2 節の精読（討議理論）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第8回	3.2 節の精読（コミュニケーション的行為）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第9回	3.2 節の精読（理想的な合理的発話状況）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第10回	3.2 節の精読（コミュニケーションの合理性）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第11回	3.2 節の精読（法治国家）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第12回	3.2 節の精読（人権）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第13回	3.2 節の精読（根拠付けの問題）	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elif Özmen "Politische Philosophie. Zur Einführung" (2013 Junius)

の内の第 3 章を精読します。

必要箇所をコピーして配布する予定です。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて自分が何が分かっているか、どこが分からないかを区別できる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなくて、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして解説しつつ議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。

春学期を履修していなくても、この科目を履修することはできるようになっています。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on political philosophy.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

LAW200AB

法学特講（こども行政と法）

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や自治体は、子どもの成長を支援し、子どもを育成するために、児童手当法などに基づく手当を給付したり、児童福祉法などに基づく措置を実施したりしている。また、国や自治体は、子どもの保護のために、青少年保護条例や未成年者喫煙防止法などに基づく規制権限を行使する場合もある。子どもの育成・保護のために適切な法制度が設けられ、行政活動が適法に行われることが社会の発展にとって重要なことである。

授業では、子どもの育成・保護のための法制度・行政活動の概要を理解するとともに、制度の抱える問題について学ぶ。その目的は、法的問題を正確に認識したりその解決に向けて積極的に取り組んだりすることのできる能力を身につけることにある（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

①児童手当などの、子どもに関する社会手当、②障害児に対する社会手当、③保育所の利用と法的規制、④認可外保育施設の利用と法的規制、⑤児童虐待の発見と児童の保護、⑥青少年保護条例について、各制度の概要と抱える問題を、それぞれ、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	主要な論点
第 2 回	子どもに関する社会手当 (1)	子どもに関する社会手当の概要
第 3 回	子どもに関する社会手当 (2)	児童手当
第 4 回	子どもに関する社会手当 (3)	児童扶養手当
第 5 回	子どもに関する社会手当 (4)	特別児童扶養手当
第 6 回	障害児に対する社会手当	障害児福祉手当
第 7 回	児童福祉 (1)	各種の保育と保育実施施設
第 8 回	児童福祉 (2)	保育所の利用
第 9 回	児童福祉 (3)	保育所の法的規制
第 10 回	児童福祉 (4)	認可外保育施設の利用
第 11 回	児童福祉 (5)	認可外保育施設の法的規制
第 12 回	児童福祉 (6)	児童虐待の発見と児童の保護
第 13 回	青少年の保護と育成	青少年保護条例のイメージ

(1)

第14回 青少年の保護と育成 青少年保護育成条例と関連法の関係 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、まとめノートを作成し、理解度を深めるとともに、授業で紹介される参考文献を用いて積極的に学びを深める。授業外の学習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ。テキストは使用しない。

【参考書】

授業内で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）が、感染症り患リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症り患リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docxの形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【Outline (in English)】

Some Acts of Parliament and bye-laws provide acts of executive agencies necessary for bringing up or protecting children, in order to work towards these goals. This course is designed to overview those laws and executive functions, and also to learn problems of those laws.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Sketch out an Act concerning child allowances (that is the Child Allowance Act 1971) and define its problems;
- ・ Sketch out an Act concerning child rearing allowances (that is the Child Rearing Allowance Act 1961) and define its problems;
- ・ Sketch out an Act concerning special child rearing allowances (that is the Act on Special Child Rearing Allowance 1964) and define its problems;
- ・ Sketch out an Act concerning disabled child welfare allowances (that is also the Act on Special Child Rearing Allowance 1964) and define its problems;
- ・ Sketch out an Act concerning the use of nursery centres (that is the Child Welfare Act 1947) and define its problems;
- ・ Sketch out an Act concerning the use of the other nursery facilities which are established without administrative approval (that act is also the Child Welfare Act 1947), and define its problems;
- ・ Sketch out Acts concerning detection and protection of children who have suffered for child cruelty or child abuse (those are the Child Welfare Act 1947, the Child Abuse Prevention Act 2000, and the Civil Code 1896), and also define its problems; and
- ・ Sketch out bye-laws concerning protection of young people and define its problems.

It would be normal to take 4 hours following up every lesson by organising notes taken and reading reference book(s) presented in class.

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW200AB

法学特講（政策と法）

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれ市民の生活は各種の法によって規律されている。適切な法によって公共の問題が解決されることが望ましいが、法に不備や欠陥があり、そのため、既存の法を解釈・適用すると不都合が生じる場合があり、また、既存の法を解釈・適用しても紛争を適切に解決することができない場合がある。法の不備・欠陥を補う、社会の重要な手段が政策である。政策のあり方そのものも重要な論点であるが、既存の法の抱える問題を発見することが政策を検討するため必要である。

授業では、総論として解説される政策制度化の「骨組み」について理解するとともに、政策の制度化にあたり生じうる一般的な問題を学ぶ。また、個別のテーマに沿ってとりあげられる既存の法の概要と抱える問題を学習する。総論では法学だけでなく、政治学の観点から解説がされることがある（第6回～第8回）。個別テーマでは主に行政法学的な観点から解説がされる。受講者は、授業後、それぞれの問題について、授業内で提示される手がかりや文献を参照しながら必要となる解決策・政策を考えるべきである。これらを通じて、法の抱える問題を正確に認識したり、その問題に対処するために必要となる解決策を積極的に検討したりすることのできる能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

- ①立法事実の把握、各種の法的手段・仕組みとその機能、法的手段・仕組みの実効性確保のための考慮事項、法律案の成立における内閣法制局・議院法制局の役割それぞれについて説明することができる。
- ②秘密保護、暴力団対策などのために制定されている法の概要と抱える問題を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	科目の概要
第2回	総論 (1)	国と自治体の法務 政策の制度化の手順
第3回	総論 (2)	立法事実の把握
第4回	総論 (3)	各種の法的手段・仕組みとその機能
第5回	総論 (4)	法的手段・仕組みの実効性
第6回	総論 (5)	内閣提出法律案と議員提出法律案
第7回	総論 (6)	法律案の成立と内閣法制局・議院法制局
第8回	総論 (7)	条例による政策の制度化

第 9 回 個別的検討 (1)	各種の秘密保護制度 特定秘密保護法の概要
第 10 回 個別的検討 (2)	特定秘密保護法の抱える問題
第 11 回 個別的検討 (3)	斜面地マンションの建築への対処
第 12 回 個別的検討 (4)	暴力団対策に関する法律とその抱える問題
第 13 回 個別的検討 (5)	暴力団対策に関する条例の概要とその抱える問題（東京都暴排条例を素材として）
第 14 回 個別的検討 (6)	ストーカー行為等規制法の概要と抱える問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、政策の制度化に当たり生じうる一般的な問題の解決策や、既存の法の抱える問題に対処するために必要と思われる政策についての自らの考えを論理的に展開できるよう、授業内容や自分の考えをまとめる。授業外の学習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ。テキストは用いない。

【参考書】

授業内で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症リスク回避のために通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア (Adobe Acrobat Reader [無料] など)、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア (Microsoft Word など) が必要となる。

【Outline (in English)】

Some statutes and bye-laws have defects or flaws, so application of laws would cause trouble and sometimes could not end dispute. Defects/flaws are corrected and amended by the public entities' development of policies. A goodness or badness of policy-making or policy decisions might be important, but it is required to find out defects or flaws in statutes and bye-laws so as to enact policies. This course is design to understand general matters which arise on the legislation of policy objectives and to learn (the way of finding) defects/flaws of a particular Act of Parliament and a certain range of bye-laws.

After completing this course, concerning general matters on the legislation of policy objectives, you should be able to:

- ・ Explain legislative fact and offer an analysis of it, and also explain importance of it in making an Act of Parliament and a bye-law;
- ・ Explain how/what kind of legal measures could/should be provided and composed in Acts of Parliament and bye-laws, and besides, explain how they should influence the public;
- ・ Explain and offer an analysis particular issues which need considering in making Acts of Parliament and bye-laws so as to ensure effectiveness of them;
- ・ Explain roles of people working in making Acts of Parliament and bye-laws (people like a parliamentary counsel); and
- ・ Explain process of making Acts of Parliament and bye-laws.

After following through this course, as concerns a particular Act of Parliament and a certain range of bye-laws, you should be able to, for example:

- ・ Sketch out the Act on the Protection of Specially Designated Secrets 2013 (c.108), with identifying problems of that Act and offering solutions to them; and

・ Sketch out the Act to Prevent Illegal Activities by Members of Organised Crime Groups (like hoodlums or mobster) 1991 (c.77) and provide an overview of bye-laws made in order to exclude that Members from our society, with identifying problems of the Act 1991 and bye-laws and also offering solutions to them.

It would be normal to take 4 hours on independent learning in order to follow up every lesson by understanding in-class lecture and collecting your thoughts.

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅰ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれた英国の文献を精読する。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれた英国の法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

英国の大学の学部生向けに書かれた、同国の憲法・行政法等について解説している教科書（後掲のもの）から、'Brexit': The UK's Withdrawal from the EU を含む European Union Law and National Law を読む予定。

毎回1ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。COVID - 19 の伝播状況から通学できない場合に Webex を利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む①
第3回	輪読	文献を読む②
第4回	輪読	文献を読む③
第5回	輪読	文献を読む④
第6回	輪読	文献を読む⑤
第7回	輪読	文献を読む⑥
第8回	輪読	文献を読む⑦
第9回	輪読	文献を読む⑧
第10回	輪読	文献を読む⑨
第11回	輪読	文献を読む⑩
第12回	輪読	文献を読む⑪
第13回	輪読	文献を読む⑫
第14回	輪読	文献を読む⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は3時間を、復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。輪読する文献の複写物を配布する。

【参考書】

Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (14th edn, Routledge 2021) 208 - 222.

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をしている場合、合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読している文献の英語が難しいとの意見もある。それでも、授業内での学習のほか、予習・復習を行えば、理解できると評価されている。そのため、予習・復習の手助けを今後も適切に行っていくたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、予習したもの（word [あるいは pages, txt] 形式のファイル）を、学習支援システムを用いて提出する。受講者が準備すべきものは、(1) 学習支援システムと Webex を利用するための通信環境、(2) Microsoft Word など「.doc,.docx,.dot,.pages,.txt」の形式で保存できるソフトウェア、(3) PC あるいはスマートフォンである。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read British textbook such as Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (14th edn, Routledge 2021) intensively.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Read English-language British literature on law correctly, using your dictionaries; and
- ・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれた英国の文献を精読する。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれた英国の法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

英国の大学の学部生向けに書かれた、同国の公法や法制度一般を解説している教科書（後掲の参考書）を読む。中でも **Judicial Review** の部分を購読する予定。

毎回 1 ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。COVID - 19 の伝播状況から通学できない場合に Webex を利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第 2 回	輪読	文献を読む①
第 3 回	輪読	文献を読む②
第 4 回	輪読	文献を読む③
第 5 回	輪読	文献を読む④
第 6 回	輪読	文献を読む⑤
第 7 回	輪読	文献を読む⑥
第 8 回	輪読	文献を読む⑦
第 9 回	輪読	文献を読む⑧
第 10 回	輪読	文献を読む⑨
第 11 回	輪読	文献を読む⑩
第 12 回	輪読	文献を読む⑪
第 13 回	輪読	文献を読む⑫
第 14 回	輪読	文献を読む⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。その辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は 3 時間を、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。輪読する文献の複写物を配布する。

【参考書】

Emily Allbon and Sanmeet Kaur Dua, Elliott & Quinn's English Legal System (20th edn, Pearson 2019) 714 - 723.

Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (14th edn, Routledge 2021) 641 - 645.

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をしている場合、合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読している文献の英語が難しいとの意見もある。それでも、授業内での学習のほか、予習・復習を行えば、理解できると評価されている。そのため、予習・復習の手助けを今後も適切に行っていくたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、予習したもの（word [あるいは pages, txt] 形式のファイル）を、学習支援システムを用いて提出する。受講者が準備すべきものは、(1) 学習支援システムと Webex を利用するための通信環境、(2) Microsoft Word など「.doc,.docx,.dot,.pages,.txt」の形式で保存できるソフトウェア、(3) PC あるいはスマートフォンである。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read British textbook such as Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (14th edn, Routledge 2021) intensively.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Read English-language British literature on law correctly, using your dictionaries; and
- ・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

POL100AC

政治過程論 I

山口 二郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。

【到達目標】

現代政治の基本的な構図を理解すること。
 テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。
 市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な枠組みとして、民主政治における主要なアクター（政党、官僚制、圧力団体、メディア）などの特徴と行動原理について説明する。さらに政治決定過程を分析するための理論枠組み（エリート支配、多元主義、政策コミュニティ）の概念について説明する。

具体的な問題として、これらのアクター分析や概念設定が戦後日本政治の文脈において、いかなる形をとって来たのかレヴューする。1990年代以降の日本における様々な改革を取り上げ、それらが目指した課題、改革策の議論、決定、実施の過程を明らかにする。最後に、2009年に起こった政権交代の意義について考え、これからの日本の政党政治、民主主義の可能性を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 政治学を学ぶことの意味	・今という時代 戦後日本的なものの終わり 雇用と家族の変化 生きづらさの構図 ・学問が役に立つとはどういうことか 原発事故の教訓 批判的知性の必要性和学問の自由 専門知と一般知の関係 ・リスクの拡大とセキュリティの確保
第2回	はじめに2 政治とはいかなる活動か	→the last resort としての政府 自発的秩序形成能力と自然状態 権力の必要性 ・政治学とはどんな学問か 学問が役に立つとはどういうことか 実学思考の落とし穴 騙されることの責任 懐疑主義と理想主義
第3回	1 政府とは何か ①問題解決の3つの方法	共同体 市場 政府 それぞれの長所と短所

第4回	1 続き ②政府の得意分野 ③政府はなぜ嫌われるか	世の中の前提条件を整える 様々なルールの必要性 力はなぜ必要か 共同体との対比 市場との対比 嫌われても必要な政府 自然の法則には逆らえない 何が自然で何が人工的なものか？ 当たり前を疑うところから民主主義が始まった ルールは常に公平か？ ルールと世の中の力関係 黙っていても無視される 絶対的ルールと相対的ルール 人間の多様性と共存の必要性 どのように決めるのが望ましいのか 多数決はなぜ必要か 多数決の限界はどこにあるのか → 法の支配と立憲主義 多数とは誰のことか？ = 誰が社会に境界線を引くのか？ 市民は選挙の時だけ自由（ルソー） 代表民主政治と直接民主政治 政治参加の様々な形態＝動くことの大切さ 権利を生かすこと
第5回	2 参加と民主主義 ①自然の法則と人工のルール ②誰が何のためにルールを決めるのか	性悪説 → ホッブズ、マキャヴェリの世界 権力と強制 性善説 → アナーキズムとユートピア 人間の矛盾と限界 所与性の拒絶と理想の探求 理想主義の落とし穴 なぜ革命は裏切られるのか 懐疑的理想主義、楽観的現実主義の必要性 巨大社会と民主政治 メディアの必要性 イメージとステレオタイプ 判断における知性と感情 デマゴーグと民主主義 多数の専制と自己破壊的政治 世論の質をいかに担保するか 言葉の機能：約束と言葉 Double Think と New Speak わかりやすさと単純化 人はなぜ自己破壊的選択をするのか 民主政治を担う市民をいかに育てるか 地方自治 中間団体 直接的接触（コミュニケーション）と熟議
第6回	2 続き ③多数決と民主主義	生きることはそれ自体が最高の価値 生きることの意味は人それぞれ異なる 崇高な生き方を押しつけることの危うさ 多様性と寛容＝権力・多数派からの自由 生産力の上昇と経済的自由の登場 自由の特権化と複数の自由の衝突 自由からの逃走 自を使うことの大切さ：メディア社会と自己抑制
第7回	2 続き ④民主主義はどこにあるか	
第8回	3 人間の不完全性と民主政治 ①人間の本性をめぐる ②政治における理想と現実	
第9回	3 続き ③私たちはいかにして物事を知るか	
第10回	3 続き ④民主政治と衆愚政治	
第11回	3 続き ⑤政治と言葉 ⑥市民教育と民主政治	
第12回	4 民主政治における重要な価値 ①生命	
第13回	4 続き ②自由	

第 14 回 4 続き
③平等

原初的平等のイメージ
自由の普遍化としての平等
平等と強制、画一化
自由と平等の緊張関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介された参考書をなるべくたくさん読む

毎日、新聞を読む

講義の前日までにパワーポイント資料を授業支援システムにアップするので、ダウンロードしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 『今を生きるための政治学』（岩波書店）、2013 年、

【参考書】

開講時にリストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末試験を総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】

なるべく双方向的な議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する

授業支援システムから資料を各自ダウンロードすること

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand the modern democracy. It also explains how democracy works and how we should engage in democratic politics.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles, and submit an mid-term essay.

3 Grading

Grading will be made based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

POL100AC

政治過程論Ⅱ

山口 二郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。

【到達目標】

現代政治の基本的な構図を理解すること。

テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。

市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

戦後日本政治を題材に、日本における民主政治の形成と展開についてまず歴史的な概観を試みる。第 2 次世界大戦の敗戦から 2010 年代までの 70 年の日本政治を、政治体制、政策、政党システムなどの政治学の概念を用いて解説する。

次に、政治学の分析概念を用いて、日本における政策形成過程を分析する。特に、1990 年代以降の日本における様々な改革を取り上げ、それらが目指した課題、改革策の議論、決定、実施の過程を明らかにする。最後に、2009 年に起こった政権交代の意義について考え、これからの日本の政党政治、民主主義の可能性を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1 戦後日本の政治体制 ①憲法制定過程	戦後日本の政治体制の基礎はいかに形成されたか
第 2 回	1 戦後日本の政治体制 体制をめぐる政治の展開	constitutional politics の日本的展開を分析する
第 3 回	1 戦後日本の政治体制 ②高度成長時代の政治	1960 年代という転機を分析する
第 4 回	1 戦後日本の政治体制 経済成長と多面的政治過程	55 年体制における政策形成の特徴を分析する
第 5 回	1 戦後日本の政治体制 ③戦後政治体制の動揺	1990 年という転機を分析する
第 6 回	1 戦後日本の政治体制 90 年代の政治過程	90 年代の改革政治を分析する
第 7 回	1 戦後日本の政治体制 政権交代と日本政治	2009 年の政権交代と 10 年代の政治を概観する
第 8 回	2 政治システムの改革 ①政治の循環システム	政治システムという概念の解説
第 9 回	2 政治システムの改革 ②入力システムの改革	政治参加のシステムをめぐる問題点と改革
第 10 回	2 政治システムの改革 ③変換システムの改革	変換システムとしての行政官僚制とその問題点
第 11 回	2 政治システムの改革 ④出力システムの改革	出力システムとしての官僚制とその問題点
第 12 回	2 政治システムの改革 中央地方関係の改革	出力システムとしての中央地方関係とその問題点

- 第13回 3 グローバル化と民主 国家の衰弱と国家権力の強化
政治 リスクの巨大化
①グローバル化は何を
変えたか
- 第14回 3 グローバル化と民主 先進国における民主政治の劣化現
政治 象をどう理解し、どのような対策
②民主主義は生き残れ を考えだすか
るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に使うパワーポイントの原稿を前日までに授業支援システムにアップするので、ダウンロードすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎『今を生きるための政治学』岩波書店、2013年
石川真澄、山口二郎『戦後政治史』岩波書店、2010年

【参考書】

開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験による。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の機会を確保したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで講義資料を各自ダウンロードすること

【その他の重要事項】

政治過程論Iを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic knowledge about post-war Japanese politics. It deals with the development of post-war Japanese politics, dynamics of policy process and participation. It also covers such current issues as deterioration of democratic politics in advanced countries.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles and try to read recommended books as much as possible. Mid-term essay is requirement for credits.

3 Grading

Grading will be made based on mid-term essay(30%) and end-term examination.

LAW200AB

民事手続法入門

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続のなかから、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の基礎を理解する。

本科目は、入門として全てのコースに配置される。

【到達目標】

- ・具体的な民事紛争に対処するイメージをもちながら、訴え提起の準備から始まり、権利の実現に至るまでの一連の手続の流れを理解することができる。
- ・民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続として、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の意義・目的、流れ、仕組みを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事紛争は、いつ何をきっかけに生じるかわからない。例えば、交通事故にあり、治療費がかかったが、加害者が損害を賠償してくれない、アルバイト先が給料を払わないといったことは、学生の皆さんのまわりでも起こりうることである。

本講義では、民事紛争を処理・解決するために用意されている様々な手段・手続の中から、裁判所で行われる訴訟手続を中心に扱う。具体的な事例を想定しながら、できる限り実際の紛争処理の流れに沿って解説していく。

授業外での質問には個別に対応するほか、必要に応じて、授業中に共有してコメントする。課題についてのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民事手続法の世界へようこそ	ガイダンス
第2回	民事紛争と民事手続法	民事紛争を解決するために利用することができる手続を概観する。
第3回	民事裁判の特徴と概要	裁判所の組織、管轄、裁判官・書記官・弁護士など法廷の人々、民事裁判の大まかな流れを扱う。
第4回	訴え提起の準備／民事保全	訴えを提起する前に行われる準備、民事保全手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第5回	訴えの提起	訴えの提起、当事者を扱う。
第6回	訴えの種類と利益／訴訟物	給付・確認・形成の訴えの内容とそれぞれの利益、訴訟物の意義を扱う。
第7回	審理	審理、弁論主義、釈明権、口頭弁論の意義と内容を扱う。
第8回	争点整理手続	争点整理手続の意義・目的、種類と内容を扱う。
第9回	証拠調べ	証拠、証明責任、証拠調べ、証拠の収集のために使われる手続を扱う。
第10回	訴訟の終了・判決	当事者による訴訟の終了、判決の意義と効力について扱う。

第 11 回 民事執行手続の概要	民事執行手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第 12 回 不動産執行	不動産執行の手続の流れを扱う。
第 13 回 動産執行	動産執行の手続の流れを扱う。
第 14 回 債権執行	債権執行の手続の流れを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、レジュメを配布する。また、必要な資料も適宜配布する。
携行するサイズの六法を持参すること。

【参考書】

民事訴訟の流れを理解するために早い時期に一読をお勧めするもの・山本和彦『よくわかる民事裁判—平凡吉訴訟日記〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）
・福永有利=井上治典『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）
いわゆる民事手続法全般を網羅的に扱っているもの
・佐藤鉄男ほか『民事手続法入門〔第 4 版〕』（有斐閣、2012 年）
・中野貞一郎『民事裁判入門〔第 3 版補訂版〕』（有斐閣、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. We will focus primarily on Civil procedure law and Debtor-creditor law. Students are expected to understand the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Grading will be decided based on the final examination 100%.

LAW200AB

法学特講（大陸法思想史）

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」に属する授業である。
ヨーロッパ大陸法（特にドイツ法）を理解するにあたり重要な法律家、哲学者に関する講義を通じて、大陸法思想を理解することを目的とする。

【到達目標】

1. 大陸法がいかなる共通の基盤を有しているか理解できること
2. ドイツ法思想史において「法」と「法律（制定法）」がどのように区別されて論じられていたかを理解できること
3. 日本法が大陸法から何を学び、何を学ばなかったかを理解するための視座を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
原則として対面形式で行う予定ではあるが、コロナ感染状況や大学の方針等によって複数回のオンライン授業を設ける可能性がある。具体的なスケジュールは Hoppi を通じて連絡するため、よく確認すること。
質疑応答については、講義中にそのための時間を設けるほか、講義前後に受け付ける。また、Hoppi を通じた質問も受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	古代ギリシアの法思想	古代ギリシアにおける法思想についてみる
第三回	キリスト教の法思想	キリスト教における法思想についてみる
第四回	カントの法思想	ドイツ観念論の哲学者であるイマニエル・カントについてみる
第五回	ヘーゲルの法思想 (1)	ドイツ観念論の哲学者である G・W・F・ヘーゲルの市民社会論についてみる
第六回	ヘーゲルの法思想 (2)	ヘーゲルの国家論についてみる
第七回	ここまでのまとめと質疑応答	ここまでのまとめと質疑応答
第八回	歴史法学の法思想 (1)	歴史法学を代表する F・C・v・サヴィニーの民族精神論についてみる
第九回	歴史法学の法思想 (2)	サヴィニーの法源論についてみる
第十回	歴史法学後の法思想	サヴィニー以後の議論をみる
第十一回	ハンス・ケルゼンの法思想	ワイマール期の法哲学者であるハンス・ケルゼンについてみる
第十二回	カール・シュミットの法思想	ワイマール期の憲法学者であるカール・シュミットについてみる
第十三回	ここまでのまとめ	ここまでのまとめと質疑応答の機会を設ける
第十四回	学期末試験と解説	学期末試験を行った後、模範解答等の説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。教科書については、事前に該当箇所を示す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西村清貴『法思想史入門』（成文堂、2020 年）、2200 円

【参考書】

勝田有恒／山内進編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』（2008 年、ミネルヴァ書房）

勝田有恒／森征一／山内進編著『概説 西洋法制史』（2004 年、ミネルヴァ書房）

西村清貴『近代ドイツの法と国制』（2017 年、成文堂）

【成績評価の方法と基準】

講義に対する理解度を学期末試験で確認する（100 %）。大学の方針等により、レポート提出で代替する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

板書について工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等のために Hoppi を利用する。

【Outline (in English)】

This lecture aims to understand Europe (especially Germany) law thoughts through discussion by lawyers and philosophers.

LAW200AB

法学特講（英米法思想史）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、「文化・社会と法コース」との関連が深い授業です。法思想史のうち、「英米系の法思想史」を概観します。

法も人間が「権利のための闘争」の中で生み出してきた共同の文化遺産である以上、人類の長い思想の物語（narratives）に裏づけられています。

法の意義と意味を深く知り、より生産的な実定法解釈を実践するために、単なる思想の理解や知識の獲得を目的とするだけでなく、その現代日本法における意義も考えながら「自分で思索できる」ようになることを目指します。

英米法思想の観点から、法・正義・人権などについて原理的に考えていきましょう。「人は哲学を学ぶことはできない…ただ哲学することを通じてのみである」（カント『純粹理性批判』B866）。

なお、「大陸法思想史」および「英米法」と併せて履修すると効果的です。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) 主要な思想を「自分の言葉で」説明できる。
- (3) 諸思想を踏まえたうえで、現代日本法の諸問題にアプローチできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書を前提に、レジュメ等を配布して講義する予定です。

授業内容は、主に「コモン・ロー主義と制定法主義」という図式の下で、(1) イギリス近代まで、(2) アメリカ近代まで、(3) 現代の英米法思想、を扱う予定です。

適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

*授業計画はあくまで予定で、履修者や時間の関係等で変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英米法思想史を学ぶ意味と意義
第 2 回	英米法と英米法思想	コモン・ローと法思想
第 3 回	イギリスの自然法論と法実証主義①	E. クック vs. Th. ホップズ
第 4 回	イギリスの自然法論と法実証主義②	J. ロック vs. D. ヒューム
第 5 回	イギリスの自然法論と法実証主義③	W. ブラックストーン vs. J. ベンサム
第 6 回	イギリスの分析法と歴史法学	J. オースティン vs. H. メイン
第 7 回	イギリス・アメリカの憲法思想①	マグナ・カルタ、権利章典、『ザ・フェデラリスト』など
第 8 回	イギリス・アメリカの憲法思想②	独立宣言、合衆国憲法、プラグマティズム法学など
第 9 回	現代英米正義論①	J. ロールズ
第 10 回	現代英米正義論②	R. ドゥオーキン、A. セン
第 11 回	現代英米正義論③	R. ノージック、M. サンドルなど

- 第12回 現代英米正義論④ H.L.A. ハート vs. R. ドゥオーキン
- 第13回 英米と大陸の法思想的 英米におけるカント、デリダなど対話
- 第14回 まとめ：日本法の一源 日本法思想との対話
流としての英米法思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) テキストとレジュメ・資料の指定範囲を予習・復習する。
 - (2) 下記の参考書を活用して、自分なりに補習する。
 - (3) 用語や関連する論点等を各自で図書館やデータベースを活用して調べる。
- *本授業の準備・復習時間は「各2時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

深田三徳ほか編著『よくわかる法哲学・法思想（第2版）』（ミネルヴァ書房、2015年）

【参考書】

竹下賢ほか編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
田中成明ほか『法思想史（第2版）』（有斐閣、1997年）
中山竜一ほか『法思想史』（有斐閣、2019年）
田中英夫『英米法のことば』（有斐閣、1986年）
大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016年）
戒能通弘『近代英米法思想の展開』（ミネルヴァ書房、2013年）
金井光生『裁判官ホームズとプラグマティズム』（風行社、2006年）
中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
田中英夫編集代表『英米法辞典』（東京大学出版会、1991年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。
平常点・リアクションペーパー（20%）+期末試験またはレポート課題（80%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ・資料等を改良

【その他の重要事項】

「大陸法思想史」および「英米法」も科目履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

We learn the history of Anglo - American legal ideas. And we think thoughtfully those ideas in comparison to Japanese legal ideas.

LAW300AB

行政組織法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や都道府県・市町村などの行政主体が実際に行政活動をするには、大臣、副大臣、局長・部長・課長（室長）、徴収職員、知事・市町村長、副知事・副市町村長、消防吏員などの行政機関がなければならない。多数の行政機関の体系的な機構を行政組織という。その設置・名称・構成・所掌事務などを規律する法が、狭義の行政組織法である（以下、狭義の行政組織法を「行政組織法」という）。

行政機関は、行政主体のために行政事務を担当する自然人をその地位で捉えたものであり、その意味で観念的存在であって、そのため現実の行政活動の遂行には、行政主体のために働く自然人も必要である。その自然人のうち、行政主体と勤務関係にある者を公務員という。公務員を規律する法が、公務員法である。

また、行政活動の遂行には、庁舎・その土地、事務用品などの物品もなければならず、また、行政目的の達成には、道路・河川・保健所などの物的施設の提供・管理も不可欠である。これらの物品・物的施設のような、行政主体により直接に公の目的に供される有体物を公物という。公物に関する法が、公物法である。

行政組織法では、行政主体や行政機関の意義・種別、行政機関相互の関係なども検討されるが、これらは行政法入門でとりあげられているため、授業では、これらとの重複を避ける。学習するのは、現行法上の行政組織の編成であり、また、公務員法と公物法の概要である。それらの学びを通して、国や地方公共団体の抱える法的問題を把握したり、その法的問題に対処したりする能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

内閣・内閣府・外局などの、現行法上の行政組織の編成について説明することができる。

公務員の意義、種類、勤務関係、権利と義務について説明することができる。

公物の意義、種類、管理権、使用権について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料・教材コンテンツ型授業に当たり、レジュメと資料のほか、実際の対面式授業において解説すべき事項を記載した講義ノート（いずれもPDF形式のもの）を各回、毎週水曜3限に、学習支援システムを用いて配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、コメント等を学習支援システムを通じて提出することも求められる。コメント等の提出期間は、上記レジュメ等の配布開始から1週間とする予定。コメント等のうち、学習の便宜上受講者において共有すべきものと認められる場合には、そのコメント等の内容あるいは要旨とそれに対する担当教員の意見等を講義ノートに記す（そのほか、必要に応じて学習支援システムを用いて個別に返信することもある）。質問は授業掲示板で受け付ける。フィードバックは学習支援システムを用いて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	行政組織法・公務員法・公物法のイメージと本授業での学び
第2回	行政組織法(1)	内閣

第3回	行政組織法(2)	内閣府
第4回	行政組織法(3)	省
第5回	行政組織法(4)	外局等
第6回	行政組織法(5)	地方公共団体の行政組織の編成
第7回	公務員法(1)	公務員の意義と種類 人事行政機関
第8回	公務員法(2)	勤務関係
第9回	公務員法(3)	公務員の権利
第10回	公務員法(4)	公務員の義務(職務専念義務、法令及び上司の命令に従う義務)
第11回	公務員法(5)	公務員の義務(争議行為等の禁止、政治的行為の制限など)
第12回	公物法(1)	公物の意義と種類
第13回	公物法(2)	公物管理権の主体と内容
第14回	公物法(3)	共用物の使用関係

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

後掲の参考書のいずれかを用いて予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

テキストは用いず、各回配布するレジメ等を使用する。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 III(第5版)』(有斐閣、2019年)
塩野宏『行政法 III(第5版)』(有斐閣、2021年)
藤田宙靖『行政組織法』(有斐閣、2005年)
室井力編『新現代行政法入門(2)』(法律文化社、2004年)

【成績評価の方法と基準】

レポートによる(100%)。出題・提出のため学習支援システムを用いる。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムが利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア (Adobe Acrobat Reader [無料] など)、(3) レポート課題の提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア (Microsoft Word など)、(4) 上記 (1) から (3) までのものを利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to understand a contemporary composition of the executive branch, to provide an overview of law on civil service, and to sketch out law on tangible things used directly by public entities or made available to the public (about tangible things, see Art. 85 of the Civil Code).

After completing this course, you should be able to:

- Explain a contemporary composition of the executive branch, such as Cabinet, Cabinet Office, Ministry;
- Explain a notion, sorts, and recruitment (including working conditions) of civil servants, and also spell out their rights and obligations; and
- Explain a notion and sorts of the tangible things used directly by public entities or made available to the public, and also expound public entities' power to administer them and individual's rights to use them.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an essay (100%) in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

都市法

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

都市空間の利用を制御し都市空間の整備や保全を規律するのが都市法である。都市空間の利用は、私人だけでなく国や地方公共団体によっても行われる。都市空間の整備・保全は主として国や地方公共団体が行うが、私人がこれに関与することもある。この授業は、このような都市法について、できるだけ身近な問題を取り上げながら、検討することを目的とする。

具体的には、都市計画、開発規制、建築規制、土地収用、都市計画事業(土地区画整理、市街地再開発等)、都市問題に関連して生じる紛争の解決を取り上げる。いずれのテーマも、一見とすると、人の生活に直接関係がないようにみえる。しかし、各自が居住する地域を思い巡らせれば容易に分かるように、個人の居宅、マンション、商店、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設は、日々、行われており、また、道路や公園の整備は個人の生活に深く関係する。この授業は、具体的には、これらの法律問題について検討するものである。

この授業の受講者は、都市法を学ぶことを通して、都市空間の利用を制御する法、都市空間の整備や保全を規律する法を修得し、また、それらの問題点を把握し、さらに、都市法を利用してよりよい生活環境を享受するためにいかなる行動をとるべきかを判断できるようになることが期待される。

なお、この科目は「行政・公共政策と法コース」に属する。

【到達目標】

- ①都市法と都市問題の関係について説明することができる。
- ②新たな建築を行う場合に当該建築物がどのような建築規制を受けることとなるかを調べ確認して説明することができる。
- ③都市計画の内容や決定・変更の手続について説明することができる。
- ④都市計画制限について説明することができる。
- ⑤土地収用について、事業認定や収用裁決の適否を含め、説明することができる。
- ⑥区画整理・再開発について、その仕組みやメリット・デメリット、それらに伴う紛争解決のあり方について、説明することができる。
- ⑦都市計画事業について、その概略を説明することができる。
- ⑧建築紛争や開発調整について、具体例を含めて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義形式により、テキストを利用して行う(プリント配布なし)。ただし、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、テキストを解説した動画を受講者向けに提供する(オンデマンド配信)ので、入国や通学が困難な者、体調不良の者、感染に不安を感じる者は、適宜、各自の判断で、これを利用すること(復習のための利用も可)。いわゆるハイフレックス授業は実施しない。

上記の動画配信に加え、小テスト(任意)実施、リアクションペーパー(任意)回収、期末レポート(必須)回収等のために、Google クラウドルームを利用する。登録方法は Hoppii で授業開始日までに案内する。利用方法は、初回の授業で案内するほか、Google クラウドルームにも掲載する。教室で対面授業を受ける場合でも、オンデマンド配信を利用する場合でも、同じように小テスト受験・リアクションペーパー提出が可能ようにする。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことにより行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、個別に点数を開示し、必要に応じて担当者が個別にコメントすることにより行う。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によって授業の進め方と方法に変更が生じた場合、その内容を Google クラスルームで周知する。質問については、口頭によるほかは、授業内容に関する質問は、原則としてリアクションペーパーに記載し、それ以外に関する質問は、Google クラスルームを介して行うこと（Hoppii の掲示板は利用しないこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国土利用と都市法制（1）	都市問題と都市法 都市法とは何か
第 2 回	国土利用と都市法制（2）	国土利用計画法 都市計画法
第 3 回	国土利用と都市法制（3）	マスタープラン 都市計画提案制度
第 4 回	都市空間の制御（1）	開発と建築 開発規制
第 5 回	都市空間の制御（2）	建築基準法 建築物概念
第 6 回	都市空間の制御（3）	用途地域制
第 7 回	都市空間の制御（4）	建築物の高さ制限 日影規制
第 8 回	都市空間の制御（5）	道路に関する規制
第 9 回	都市空間の制御（6）	建築確認
第 10 回	都市空間の制御（7）	地区計画 建築協定
第 11 回	都市空間の形成（1）	土地収用の対象とプロセス
第 12 回	都市空間の形成（2）	土地収用と損失補償
第 13 回	都市空間の形成（3）	都市計画事業
第 14 回	都市空間の形成（4）	土地区画整理事業 市街地再開発事業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『都市法講義』（法政大学生協書籍部のみで販売）

【参考書】

- ・生田長人『都市法入門講義』（2010 年，信山社）
- ・稲本洋之助・小柳春一郎・周藤利一『日本の土地法 [第 3 版]』（2016 年，成文堂）
- ・碓井光明『都市行政法精義Ⅰ』（2013 年，信山社），『都市行政法精義Ⅱ』（2014 年，信山社）
- ・逐条解説建築基準法編集委員会（編）『逐条解説建築基準法』（2012 年，ぎょうせい）
- ・原田大樹『例解行政法』（2013 年，東京大学出版会）
- ・安本典夫『都市法概説 [第 3 版]』（2017 年，法律文化社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただし、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は、推奨しない。

【Outline (in English)】

Urban Law controls use of urban space and regulates maintenance and conservation of urban space. This course covers urban planning, development regulations, building regulations, land acquisition, and urban planning projects (land readjustment, urban redevelopment, etc.).

Students who take this course are expected to master legal method to resolve urban problems by Urban Law. They are also expected to become able to find what actions should be taken to enjoy a better living environment by Urban Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法に関する基礎的知識と判断能力を得るために、貧困と児童虐待に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、生活保護法の概要を説明することができる。

また学生は、ホームレス、貧困母子家庭、生活保護、児童虐待に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。一部はオンデマンド授業で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。

なお、学年暦の変更等により、オンデマンド授業の日程を一部変更する場合があります。また、最新の教材採用等を理由に、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	社会保障法のイメージ、授業の進め方、授業の受け方などについてシラバスに基づいて説明する。
第 2 回	貧困 1 ～現代における孤立死	生活保護制度に関する水際作戦および姉妹の孤立死を扱う。
第 3 回	児童虐待 1 ～助けてといえない人たち	今、見えないところで何が起きているのか、隠れた現代的な社会問題としての児童虐待、DV を扱う。
第 4 回	貧困 2 ～母子家庭	貧困率の高い母子家庭について考察する。
第 5 回	児童虐待 2 ～職権保護の緊迫する現場	虐待を受けている子どもの緊急保護の実態を扱う。
第 6 回	貧困 3 ～女性の貧困	近年注目される女性の貧困について扱う。
第 7 回	児童虐待 3 ～保護された子どもたち	施設に保護された子どもについて、施設内の日常と子どもの苦悩を扱う。
第 8 回	貧困 4 ～現代のホームレス	ネットカフェ難民など現代のホームレスの問題を取り上げる。
第 9 回	児童虐待 4 ～里親制度	里親制度を理解するために里親委託率全国 2 位の静岡市を扱う。
第 10 回	貧困 5 ～10 代の貧困	10 代の貧困とその社会構造を考察する。
第 11 回	児童虐待 5 ～虐待された子どもを育む高校	虐待された過去を持つ子どもを社会がどう育むべきか、ある高校を扱う。
第 12 回	貧困 6 ～世界の貧困	フィリピン、バングラディッシュの貧困を取り上げる。
第 13 回	児童虐待 6 ～性的虐待	その特性のために、顕在化しづらい性的虐待を扱う。

第 14 回 貧困 7 ～所得格差 所得格差をグローバルに考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従って予習および復習をして下さい。

また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第 15 版』（信山社、2021 年）

加藤智章ほか『社会保障法 第 7 版』（有斐閣、2019 年）

菊池馨実『社会保障法 第 2 版』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の仕方を工夫したいと思います。また、資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of poverty and child abuse.

The aim of this course is to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of social security law, especially poor law and child abuse act.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%,

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）**大原 利夫**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法の基礎的知識と判断能力を得るために、障がい者福祉に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、特別支援学校、ハンセン病、盲導犬、サリドマイド薬害、障がい者排斥思想、脳死、吃音、顔の異形、出生前診断等に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。一部はオンデマンド授業で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。

なお、学年暦の変更等により、オンデマンド授業の日程を一部変更する場合があります。また、最新の教材採用等を理由に、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～シラバスの説明	シラバスに基づき、授業の内容、すすめ方を説明する。
第 2 回	導入 1～ボランティア	社会保障法におけるボランティアと社会事業について考察する。
第 3 回	障がい者福祉 1～視覚障がい	視覚障害者と盲導犬について扱う。
第 4 回	導入 2～社会保障法と人物	児童福祉の分野において功績を遺した澤田美喜を扱う。
第 5 回	福祉 1～介護労働	福祉の現場における介護人材について扱う。
第 6 回	障がい者福祉 2～特別支援学校	特別支援学校の分教室を取り上げて、障がい者と健常者の関係性について考察する。
第 7 回	障がい者福祉 3～顔の異形	顔のアザなど、顔の異形と障がいについて扱う。
第 8 回	障がい者福祉 4～T4 作戦	障がい者に対する差別を扱う。
第 9 回	障がい者福祉 5～障がいと薬害	サリドマイド薬害について扱う。
第 10 回	福祉 2～出生前診断	出生前診断と障がいについて扱う。
第 11 回	福祉 3～社会事業	福祉と社会事業について扱う。
第 12 回	福祉 4～脳死	脳死の判断基準について扱う。
第 13 回	福祉 5～高福祉社会と低福祉社会	高・低福祉社会について考えるために諸外国を扱う。
第 14 回	障がい者福祉 6～吃音	多くの人が悩んでいるとされる吃音等について扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は不要です。指示に従って復習をして下さい。また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第 15 版』（信山社、2021 年）

加藤智章ほか『社会保障法 第 7 版』（有斐閣、2019 年）

菊池馨実『社会保障法 第 2 版』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of disability welfare. The goals of this course are to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of disability law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%.

LAW200AB

外国書講読（仏語）Ⅰ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代フランスの政治思想と憲法理論との連関について示唆に富むフランス語原典の前半部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランスの政治思想・憲法理論そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランスの政治思想と憲法理論との連関性を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

授業は対面式を予定しているが、新型コロナウイルス感染が再拡大し、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回授業の中で授業ガイダンスの一環として説明する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定
第 2 回	序章 近代国家からポストモダン国家へ	本書の全体的な見取り図について輪読する（1）
第 3 回	序章 近代国家からポストモダン国家（2）	本書の全体的な見取り図について輪読する（2）
第 4 回	第 1 章 国家機構の再構成 序節 国家のアーキテクチャの危機	国家モデルと国家の保護領域の終焉について輪読する
第 5 回	第 1 章 国家装置の再構成 第 1 節 相互依存関係の強まり	枠付けされる国家、競争を受ける国家、包含される国家について輪読する
第 6 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 2 節 国家作用の再定義（1）	（1）保証人としての国家について輪読する
第 7 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 2 節 国家作用の再定義（2）	（2）監視者としての国家について輪読する
第 8 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 2 節 国家作用の再定義（3）	（3）保護者としての国家について輪読する

第 9 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 3 節 国家の特殊性の緩和（1）	（1）脱神話化された国家について輪読する
第 10 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 3 節 国家の特殊性の緩和（2）	（2）凡庸化された国家について輪読する
第 11 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 3 節 国家の特殊性の緩和（3）	（3）改革される国家について輪読する
第 12 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 4 節 国家構造の断片化（1）	（1）多中心型国家について輪読する
第 13 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 4 節 国家構造の断片化（2）	（2）地域化された国家について輪読する
第 14 回	第 1 章 国家機構の再構成 第 4 節 国家構造の断片化（3） 及び春学期のまとめ	（3）分節化された国家について輪読し、春学期に翻訳した全体の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Jacques Chevallier, L'État post-moderne, L.G.D.J., 2017 (ISBN 978-2-275-05763-7)

※本書は希望する学生には必要部分のコピーを配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60 %）と質疑その他の授業への積極的参加度（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多い場合、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説の時間を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳及び教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline (in English)】

Reading of a first half of French text concerning French political and constitutional theories.

LAW200AB

外国書講読（仏語）Ⅱ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代フランスの政治思想と憲法理論との連関について示唆に富むフランス語原典の後半部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランスの政治思想・憲法理論そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランスの政治思想と憲法理論との連関性を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

授業は対面式を予定しているが、新型コロナウイルス感染が再拡大し、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は秋学期開始時の第 1 回授業の中でガイダンスの一環として説明する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定
第 2 回	第 2 章 法の変容 序節 法的近代性の危機 (1)	(1) 近代法の基礎について輪読する
第 3 回	第 2 章 法の変容 序節 法的近代性の危機 (2)	(2) 基礎の動揺について輪読する
第 4 回	第 2 章 法の変容 第 1 節 法化社会の到来 (1)	(1) 裁判化について輪読する
第 5 回	第 2 章 法の変容 第 1 節 法化社会の到来 (2)	(2) 主観主義化について輪読する
第 6 回	第 2 章 法の変容 第 2 節 法的規制の破裂 (1)	(1) 多元的な法について輪読する
第 7 回	第 2 章 法の変容 第 2 節 法的規制の破裂 (2)	(2) 秩序ある多元主義について輪読する
第 8 回	第 2 章 法の変容 第 3 節 プラグマティックな進め方 (1)	(1) 契約化について輪読する
第 9 回	第 2 章 法の変容 第 3 節 プラグマティックな進め方 (2)	(2) 交渉型の法について輪読する

第 10 回	第 2 章 法の変容 第 3 節 プラグマティックな進め方 (3)	(3) ソフトローについて輪読する
第 11 回	第 2 章 法の変容 第 4 節 合理化の動き (1)	(1) デバイスの合理化について輪読する
第 12 回	第 2 章 法の変容 第 4 節 合理化の動き (2)	(2) プロセスの合理化について輪読する
第 13 回	第 3 章 政治的関係の再定義	民主主語とコミュニケーションの変容について輪読する
第 14 回	終章	終章を輪読するとともに、本書全体について意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Jacques Chevallier, L'État post-moderne, L.G.D.J., 2017 (ISBN 978-2-275-05763-7)

※本書は希望する学生にはコピーを配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60 %）と質疑その他の授業への積極的参加度（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生がいる場合は、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳や教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline (in English)】

Reading of a second half of French text concerning French political and constitutional theories.

LAW200AB

会社法入門

篠川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、会社法を体系的に学ぶために必要な基礎的知識を講義形式で学ぶ授業です。この科目は全てのコースに属しています。

より具体的な授業目的は以下の2つです。

(a) 3 年次以降、商法関連科目のうち会社法分野に属する科目（会社法・企業結合法・金融商品取引法など）の体系的履修を予定する学生が、これらの科目への導入として、会社法に関する基礎的知識を獲得すること。

(b) 必ずしも会社法等の商法関連科目の体系的履修を予定していない学生が、公法・民事法・社会法分野においても無視し得ないプレーヤーである営利企業について、その組織や行動はいかなる法原理によって動機付けられているかを理解するための助けとなる知識を獲得すること。

【到達目標】

〔1〕 株式・コーポレートガバナンス・取締役会・増資・代表訴訟・M&A など、会社法に関する基礎的な用語の意味が説明できるようになる。

〔2〕 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題——たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？——について、関心を持って考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

(1) 講義形態で行います。授業参加者がテキスト等の資料を読んだことを前提に、ポイントを絞った解説をします。

(2) Hoppii の教材・小テスト・アンケート・レポート等の機能を利用した課題提出やオンデマンド授業（動画ファイル配信）を中心としますが、リアルタイム配信も活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	「会社法」とは、どのような法分野か？	・講義の進め方 ・「商人」と「商行為」 ・商法と民法の違い ・講義の全体像
2	営利事業はどのように成長していくのか？	・あるベンチャー企業の決算公告から ・「企業価値」という考え方
3	営利事業に共同して出資すると、法律関係はどうなるのか？	・組合契約 ・法人化した組合＝持分会社 ・企業形態とは 〔教科書「序章」参照〕
4	出資者としての権利の価値をどうやって金銭化するのか？	・細分化された持分＝株式 ・株主有限責任の原則 ・所有と経営の分離
5	株式会社制度の特徴と意義	・株式と資本 ・営利社団法人 ・所有と経営の分離 ・株主有限責任 〔教科書「第1章」参照〕

6	株主総会の役割と実際の運営はどのようになっているか？	・株主総会の権限 ・総会の招集と運営 ・株主総会決議の瑕疵 〔教科書「第2章」1・2 参照〕
7	コーポレートガバナンスとはどういうことか？	・株式会社における株主経営者間の利害対立構造 ・法令による取り組み ・ソフト・ローによる取り組み 〔教科書「第1章」1－3「会社法の役割」参照〕
8	「取締役会」とはどのような仕組みか？	・取締役会の権限と役割 ・代表取締役の権限 ・選定業務執行取締役の権限 ・業務執行取締役と使用人（従業員）の関係 〔教科書「第2章」3 参照〕
9	監査役・会計監査人による「監査」とはどのような職務か？	・監査役の地位と職務 ・監査役会の職務 ・会計監査人の地位と職務 〔教科書「第2章」4 参照〕
10	監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社におけるガバナンスとはどのようなものか？	・監査等委員会設置会社における業務執行の監督 ・指名委員会等設置会社における業務執行の監督 〔教科書「第2章」5・6 参照〕
11	株式会社の役員が任務を怠った場合の法的責任はどのように追及されるか？	・任務懈怠責任 ・株主代表訴訟 ・役員に対する第三者責任 〔教科書「第2章」7 参照〕
12	株式会社が資金調達をする場合にどのような規律が必要か？	・株式会社の資金の原資 ・新株発行による資金調達の方法 〔教科書「第3章」1・2 参照〕
13	どのような手続で株式会社を設立するか？	・設立手続の概要 ・定款 ・出資の履行 ・会社機関の具備 ・設立登記 〔教科書「第7章」参照〕
14	会社の事業再編の方法にはどのようなものがあるか？	・事業譲渡 ・合併 ・株式移転／株式交換 ・会社分割 〔教科書「第6章」参照〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを利用して配布するレジュメ・資料等には必ず目を通してから参加して下さい。また事前課題については、「とりあえずやってみて、さっと提出する」程度の取り組み方で構いません。（選択肢を選ぶタイプの小テストは「何度でも提出できる」ように設定しますが、これは「正解に至るまで納得できない」タイプの方のための設定ですので、正解するまでやり直す必要はありません。）また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持ちながら本講義に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中東正文ほか『会社法〔第2版〕』（有斐閣ストゥディア・2021 年）ISBN978-4-641-15084-3

【参考書】

田中亘『会社法〔第3版〕』東京大学出版会（2021 年）
 高橋美加ほか『会社法（第3版）』弘文堂（2020 年）
 伊藤靖ほか『会社法〔第5版〕（LEGAL QUEST）』有斐閣（2021 年）
 上記はいずれも定評のある会社法の教科書です。比較的アクセス容易な文献や資料の紹介がなされていますので、より詳細な参考資料を知りたいという場合にはちょっと覗いてみて下さい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（事前・事後の小テスト等の課題の提出状況を含む） 20 %
 定期試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる動画配信と資料配付を受けることが可能な情報機器

【その他の重要事項】

受講者は「契約法Ⅰ」を履修済みであることを前提として講義を進めます。「契約法Ⅰ」の単位未修得でも履修は可能ですが、頑張って再履修して下さい。

【Outline (in English)】

Participants in this course will learn about the following topics for an introduction to corporate law.

- (1) Corporate Governance
- (2) Corporate Finance
- (3) Mergers and Acquisitions

LAW300AB

金融商品取引法Ⅰ

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、身近なものとなっている株取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要について理解することにより、企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引法の全体構造を理解する。
- ② 近年、専門的な知識もないままに株式取引や FX 取引等を行う学生が多く被害も後をたたない。そこで、本講義では、金融商品取引に関する正しい知識を身につける。
- ③ 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

金融商品取引法というのは、有価証券だけではなく広く金融商品を横断的に規制する法律である。最近では、インターネットや銀行等で気楽に株式等の金融商品に投資したり、コンビニで本や弁当を買うように気楽に株式等を売買できるようになるなど金融商品取引は学生にとっても身近な存在になりつつある。また、NISA や iDeCo(イデコ) といった長期分散投資制度の普及と超低金利を反映して、急速に、金融商品取引への関心が高まっている。しかし、他方において、映画ファンドやミュージック・ファンドなど趣味と投資を兼ねた投資商品や FX、暗号資産（旧仮想通貨）といった商品が多数開発され、十分な知識や投資意識がないままこれに参加し、多額の被害を蒙るケースも多発している。金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。そこで、本講義では、まずこうした金融商品に関する基本的な概念や取引システムをわかりやすく説明するとともに、一般投資家を保護するために法は具体的にどのような規制を行っているのかといった金融商品取引法の内容について、判例の分析を交えながら概説をする。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、日本銀行の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染防状況によっては、双方向のオンライン型ライブ授業に切り替えることもあります。授業方法の変更等については、授業支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、随時チェックするようにしてください。

なお、レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載しますので、各自用意するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	金融商品取引法とはどのような法律なのか、1 年間の授業の進め方等について説明をする。
第 2 回	金融商品取引法の意義および目的	金融商品取引法の意義および目的についてわかりやすく解説する。
第 3 回	金融商品取引法の制定・改正経緯	金融商品取引法制定前の法律である証券取引法制定の背景、改正の経緯とその背後にある理念・目的について概説する。
第 4 回	有価証券の意義 1	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する

第 5 回	有価証券の意義 2	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する。
第 6 回	ファンド規制	最近話題となっているファンドとはどういうものをいうのか、そのファンドを金融商品取引法はなぜ規制しようとしているのか、其の背後にある政策などを踏まえながら概説する。
第 7 回	デリバティブ取引の意義	デリバティブ取引とはなにか、其の意義についても概説する。
第 8 回	金融商品取引業・金融商品取引仲介業	証券会社や銀行など金融商品取引に関わる専門家の業務の内容について概説する。
第 9 回	日本銀行の見学	日本銀行の見学
第 10 回	発行市場における規制 1	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 11 回	発行市場における規制 2	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 12 回	継続開示規制 1	流通市場における開示規制の概要について解説する。
第 13 回	継続開示規制 2	流通市場における開示規制の概要について解説する。適時開示規制。
第 14 回	大量保有規制	上場会社における大量保有規制、いわゆる 5 % ルールの概要について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・特に予習は不要であるが、復習は必ずすること。新聞の経済面には毎日目を通すこと（準備学習）。
・会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）」(成文堂)

【参考書】

初回の講義のときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）と平常点（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the entire structure of the Financial Instruments and Exchange Act.
- ② Acquire correct knowledge about financial instruments transactions.
- ③ Understand the economic aspects of newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW300AB

金融商品取引法Ⅱ

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近年しばしば耳にする公開買付（TOB）やインサイダー取引、相場操縦といった金融商品取引上の不正行為規制の意義および概要について理解する。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引に関する不正行為の意義と規制の内容を理解する。
- ② 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

最近では、投資に関心を持つ学生も増えて、簡単にコンピュータを利用して株取引やFXなどを行っているが、金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。特に、インサイダー取引とは何かを知らずに違法行為当事者になったり、掲示板等を通じて虚偽の情報や噂を流すなど無意識に違法行為を犯している場合がある。そこで、本講義では、金融商品取引法上の不公正取引の意義と概要について、判例の分析を交えながら概説をするとともに、トラブルに巻き込まれたときの対処方法等についても論ずるつもりである。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、東京証券取引所の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載するので、各自用意すること。授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次回の授業で回答する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	公開買付規制 1	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 2 回	公開買付規制 2	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 3 回	不公正取引概説	不公正取引一般について概説する。
第 4 回	風説の流布	風説の流布に関する規制の概要を実際に判例上問題となった事案を中心に概説をする。
第 5 回	偽計取引に関する規制	ライブドア事件で有名になった偽計取引をもちいた不公正取引の規制の概要について概説する。
第 6 回	相場操縦規制 1	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。
第 7 回	相場操縦規制 2	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。

第 8 回	短期売買差益返還義務について	短期売買差益返還義務に関する規制の概要とその規制の意義について解説する。
第 9 回	インサイダー取引規制 1	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 10 回	インサイダー取引規制 2	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 11 回	損失補てん・損失保障の禁止	損失補てん・損失補償の禁止に関する規制の概要を実際に判例で問題となった事案の検証を交えながら概説を行なう。
第 12 回	東京証券取引所の見学	証券取引所を見学し、株取引の模擬売買を体験する。
第 13 回	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割について概説する。
第 14 回	投資者保護基金と金融 ADR 制度	紛争処理の制度と金商業者の破綻処理を制度、ADR 制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は不要であるが、復習は必ずしてくる。新聞の経済面には毎日目を通すこと。会社法の講義を受講することが望ましい（準備学習）。

なお、金融商品取引法の全体像がわからないと本講義は理解できないので、必ず金融商品取引法Ⅰを受講してください。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）」（成文堂）

【参考書】

・松岡啓祐「最新金融商品取引法講義【第 5 版】（中央経済社）
・川村正幸・品谷篤哉、山田剛志、芳賀良「金融商品取引法の基礎」（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

小テストと定期試験（90 %）、平常点（10 %）で成績を判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the entire structure of the Financial Instruments and Exchange Act.
- ② Understand the economic aspects of newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW200AB

法学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いわゆる企業法務とは何か、法律学科で学んだ内容を活かして企業等で働くとは実際にはどういうことなのかといった事柄を、本学の卒業生を中心としたゲストスピーカーの先生方からお話を伺うことを通じて学んでいくものです。

我が国では、社会の成熟・複雑多様化が進展するに伴い、個人や企業、あるいは団体（地方公共団体や学校法人・NPO 法人など）を取り巻く権利義務関係も、より複雑かつ精密なものとなりつつあります。これを受けて、社会における法の支配の必要性はますます高まっていて、社会のあらゆる場面において、法律に準拠した判断を行うことによって紛争を未然に防止し、あるいは適正かつ迅速に解決することが要請されているのが現状です。

これに伴って、企業・団体に設けられた法務部は、その重要性に対する社会的認識が日増しに高まるとともに、その活動も急速に充実化しつつあります。このような法務部が取り扱う諸問題（契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等）が、実際に企業等でどのように扱われているのか、その実態を法務部等の最前線で現に活躍しておられるゲストスピーカーの先生方から学ぶのが、この授業の目的です。

なお、ここでいう「法務」は、必ずしも狭義の法務部の仕事には限定されるものではありません。法務の仕事を他の部署が担っている会社も少なくないですし、また法務部のみが法的な思考をしていればそれで足りるというものでもないからです。法的素養を活かして働くという事柄に関心を持つ皆さんが幅広く受講して下さることを期待しています。

以上のように、法律学科での学びが将来どのように活かされるかを知るための講義ですので、法律学科に設けられた 6 つのコースすべてに関係するものと位置付けられます。

【到達目標】

受講生が、我が国における法務部の取り扱い問題とそれに関係する法律の解釈適用の実情を理解し、卒業後の進路のひとつとしての法務部、あるいは法的素養を活かしつつ企業等で働くということに関する具体的イメージを獲得すること。また、企業・団体の法務部が、法律の専門的素養を活かすことができる職場であり、かつ、社会的にも有用でやり甲斐のある職場であることを理解すること。

さらに、そのような職場を目指すために、在学中にどのような法分野を学習しておくべきかについて、主体的に捉えることができるようになることも、この授業の目標とするところです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、本学の卒業生を中心に、企業・団体の法務部等において実務経験を有する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、講義をしていただく形で授業を進めます。

講義していただく内容は、企業・団体の法務部等で実際に取り扱った事例に即したものとなります。事例の具体的な分野としては、契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等が想定されます。そして、取り上げられた事例がどのようにして処理ないし解決されていったかということを、実務の機微に触れる形でご紹介いただきます。ゲストスピーカーの先生によっては、受講生を指名して質問をされる場合があります。

以下、過去の実績をベースに仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番ともに変更される可能性があります。

ゲストスピーカーの先生方への質問は、当日お答えいただくほか、必要に応じて後日、学習支援システムを通じてフィードバックします。また、期末の試験又はレポートに関しても、学習支援システムを通じて講評を公開する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	担当教員によるこの授業に関する説明
第 2 回	企業法務とは何か？ （企業法務総論）	ゲストスピーカーによる講演
第 3 回	企業の資金調達の実態	ゲストスピーカーによる講演
第 4 回	インサイダー取引及び 贈収賄の企業内実務	ゲストスピーカーによる講演
第 5 回	会社法と株主総会の運 営について	ゲストスピーカーによる講演
第 6 回	企業と契約	ゲストスピーカーによる講演
第 7 回	人事・労務関係	ゲストスピーカーによる講演
第 8 回	企業の訴訟対応の実際	ゲストスピーカーによる講演
第 9 回	競争法関係	ゲストスピーカーによる講演
第 10 回	コンプライアンス・ コーポレートガバナ ンス	ゲストスピーカーによる講演
第 11 回	国際政治と企業法務	ゲストスピーカーによる講演
第 12 回	不動産売買におけるト ラブルとその対処等	ゲストスピーカーによる講演
第 13 回	営造物管理瑕疵等につ いて	ゲストスピーカーによる講演
第 14 回	知っておきたい経済と 金融の見方	ゲストスピーカーによる講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的には必要ありませんが、事前準備を求められたテーマについては、事前配布資料の読み込みなどが必要となる場合があります。

復習については、各回の話題で特に興味を持った点について、各自自分なりに調べてみることを推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

経営法友会 企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト——ありのままの法務』（商事法務，2016）。

このほか、必要に応じて各回に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義後に、学習支援システムを通じて、講演に対する感想文（比較的短いもの）を提出してもらう予定であり、これによって平常点を評価します（60 %）。なお、ゲストスピーカーの講義回の出席数が半数に満たない場合、単位を付与しません（いわゆる「足切り」）。

このほか、期末試験（又は期末のレポート）によっても評価します（40 %）。試験・レポートといっても、毎回の講義から得られる細かい知識を問うものではありませんので、あまり身構えずに取り組んでいただければと思います。

ただし、毎回の感想文にせよ、期末試験・レポートにせよ、自身の将来の働き方にどのように活かせるかを考えつつ、真剣にゲストスピーカーのお話を聞いたということが読み手に伝わるような文章であることが、最低限求められます。大半の学生にはわざわざ注意するまでもない事柄ですが、一部、こちらの予想がまったく及ばないような低水準の感想文・答案が見られたので、念のため注意喚起しておきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は、多様な分野にわたるゲストスピーカーのお話を幅広く聴講することを通じて、受講者の見聞や興味関心を広げることにより、今後の進路選択等に役立ててもらおうということを狙いとしています。そのため、受講者が自身の興味関心のあるテーマの回のみをつまみ食いの聴講するという受講の仕方は、推奨されるものではありません。それゆえ、上記「成績評価の方法と基準」欄にも記載したとおり、出席数による足切りを実施しています。こうした授業の性質をよく理解した上で受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This omnibus course covers the basics of "corporate legal affairs". Most of the speakers are the graduates of this university.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of "corporate legal affairs".

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on:

— Short reports(60%)

— Term-end examination (or report) (40%)

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）

半田 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール（文民統制）の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。

【到達目標】

日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とします。仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）」にアクセスできます。仮登録後の授業は教科書の『変貌する日本の安全保障』（半田滋著・弓立社）や「学習支援システム」にアップする「お知らせ」「教材」を活用して授業を進めます。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、回答します。またメールなどでいただいた疑問についても回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（日本国憲法と自衛隊）	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲としています。自衛隊とはどのような存在なのでしょうか。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。自衛隊の全体像を勉強します。
第 2 回	日米安全保障体制とは	日米安全保障条約により、米国は日本に基地を置くことが認められています。基地の存在が日本の主権侵害につながる例もあります。米軍駐留の意味について学びます。
第 3 回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	国土面積の 0.6% に過ぎない沖縄県に米軍専用施設の 7 割が集中しています。米海兵隊のための辺野古新基地の建設をめぐる、沖縄県は政府と鋭く対立しています。米軍基地の現状と問題点を学びます。

第 4 回	多様化する自衛隊の活動	自衛隊は、日本が他国から侵略されることがないので防衛出動をゼロ。その一方で災害派遣や福島第一原発の事故には出動し、災害救援隊の色彩が強まっています。自衛隊の国内における実像に迫ります。
第 5 回	国連平和維持活動（PKO）の現実	冷戦後、自衛隊は PKO への参加を開始しました。すでに 14 回の派遣実績があります。南スーダン PKO では「違憲」との批判がある安保法制が適用されました。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第 6 回	ソマリア沖の海賊対処／拡大するジブチの自衛隊海外拠点	現在、自衛隊の海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のために初めてアフリカのジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いはいくつでしょうか。
第 7 回	テロ、イラク特別措置法による海外派遣	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるのです。何が起きていたのか検証します。
第 8 回	中国の軍事力強化とその狙い	巨大経済圏・安全保障構想「一带一路」を進める中国。海軍力を強め、外洋進出を図る一方で、米軍の南シナ海進出は阻止する構えです。中国の狙いはいかか。日本の安全に影響があるのか学びます。
第 9 回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢は変化したといえるのでしょうか。北朝鮮の核・ミサイルが日本の安全保障にどのようにかわるのか学習します。
第 10 回	弾道ミサイル迎撃システムの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入しています。導入を断念したイージス・アショアに代わり、イージス・システム搭載艦 2 隻の建造が決まりました。問題点を探ります。
第 11 回	首都圏に配備されたオスプレイ	防衛省は千葉県にオスプレイ 17 機を配備します。米軍と合わせるもと日本を飛ぶオスプレイは合計 53 機に。欠陥機と呼ばれるオスプレイ配備の理由とその問題点を探ります。
第 12 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その 1	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の中身をみていきます。
第 13 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その 2	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。中国による台湾の武力統一への警戒を強める米国と日本の敵基地攻撃能力の保有を考えます。
第 14 回	テスト	これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。書籍、資料は持ち込み可とし、スマホ、パソコンは不可とする予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画」を改定し、空母保有を打ち出すなど日本の安全保障政策は大きく変化しています。今年12月には「敵基地攻撃能力の保有」が決定される見通しです。一方、中国は台湾を武力で統一するのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半田滋『変貌する日本の安全保障』（弓立社）＝授業やテストに活用します。

【参考書】

防衛省『令和3年版防衛白書 日本の防衛』＝あくまで参考資料です。

【成績評価の方法と基準】

テストにより、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料はポータルサイト（Hoppiiの学習支援システム）にアップします。そのために必要な機材（パソコン、スマートフォン、プリンターなど）を準備してください。

【その他の重要事項】

東京新聞記者として防衛省・自衛隊、在日米軍の取材を30年以上、続けてきました。現在も防衛ジャーナリストとして、安全保障に関する論考を書籍や雑誌、インターネット番組（デモクラシータイムス『半田滋の眼』など）で発表しています。現場から見える安全保障の実像をみなさんと共有していきます。

【Outline (in English)】

I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control, of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・月曜日に授業動画を学習支援システムにアップロードする。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を翌週木曜日正午までに提出する。
- ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。
- ・授業動画に使用したスライド（一部）は、翌週以降に学習支援システムにアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第2回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第3回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第4回	都市施設1	都市施設の概要、道路
第5回	都市施設2	公園緑地
第6回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第7回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第8回	地域特性に相応しい土地利用規制1	補助的地域地区、地区計画
第9回	地域特性に相応しい土地利用規制2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第10回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第11回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第12回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第13回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第14回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
 ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

・学習支援システムを通じて、授業実施週にオンデマンド教材（動画）、翌週にスライド資料を配布する。

【参考書】

1. 饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
 2. 伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
 3. 高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）
 4. 住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）
 5. 武田重明ほか著「小さな都市から都市をプランニングする」（学芸出版社）
- 1～3 は基本事項の解説等、4.5 は参考事例の紹介

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出席する課題の合計（70 %）、レポート課題（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。

①授業ごとに出席する課題の評価は下記になる。

・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

②レポート課題について

・出題は、6月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
 ・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。

（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）

・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
- 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・月曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする。
- ・受講者は、各自オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を木曜日正午までに提出する。
- ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第2回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第3回	防災まちづくり1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第4回	防災まちづくり2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している災害等への対応について理解する。
第5回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第6回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第7回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第8回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第9回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第10回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第11回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

- 第12回 草の根まちづくり概論 地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。
- 第13回 草の根まちづくりの事例1 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。
- 第14回 草の根まちづくりの事例2 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

・学習支援システムを通じて、授業週にオンデマンド教材（動画）、翌週にスライド資料を配布する。

【参考書】

伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）

饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）

三船康道+まちづくりコラボレーション著「まちづくりキーワード事典」（学芸出版社）

住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）

高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）ほか

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出席する課題の合計（70％）、レポート課題（30％）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。

①授業ごとに出席する課題の評価は下記になる。

・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点から

の意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を

踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述され

ていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

②レポート課題について

・出題は、6月中の講義の中で行う（実施日は未定）。

・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。

（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）

・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛けられている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポー

トの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要な環境が必要となる。

【その他の重要事項】

・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める。

・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

コミュニティ政策（日本）

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。なお、本講義は、一昨年度までの「コミュニティ論Ⅰ」を改称したものです。

【到達目標】

コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ政策論の基礎理論を端的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説 コミュニティ政策というものの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的理解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質 続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営でしてきたことを解明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から1970年代の様子を概観する。
第6回	1980年代のコミュニティ政策とその転換	1980年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が支柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子で、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会施設の変容についても触れる。

第7回	日本型自治体内分権の成立	1990年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第8回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は2000年前後から特有の弱体化過程に入っていると私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第9回	日本型自治体内分権の類型的特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第10回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとって、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第11回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第12回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。
第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本の政策においてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今年度も講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、課題を何度か出すことを予定していますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけではなく、課題を解答するために必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
 名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
 名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）
 名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、何度か出題する課題を採点して判定します。採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につきません。なお、何度かの課題ごとに採点して、それを積算して成績評価をしますので、1度でも提出を怠るとかなりのハンディとなります。課題には毎回解答を提出するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

ここ2年間、ほとんどオンライン授業であったため、頻繁に課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。課題を見ていると、学期中にグツと力をつけてくる受講者が何人かいて、励みになります。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.

POL200AC
コミュニティ政策（理論・国際比較）
名和田 是彦
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策（理論・国際比較）」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

なお、本講義は、一昨年度までの「コミュニティ論Ⅱ」を改称したものです。

【到達目標】

日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の側面を考察することができるようになること。

具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経たのちコミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域的まとまり論の概略とドイツの政治制度概説	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。また、本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度について入門的概説を行う。
第 2 回	ドイツの都市内分権制度 その 1 プレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、プレーメン市の都市内分権の歴史の経緯を扱う。
第 3 回	ドイツの都市内分権制度 その 2 プレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	プレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第 4 回	ドイツの都市内分権制度 その 3 プレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、プレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第 5 回	ドイツの都市内分権制度 その 4 プレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、プレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第 6 回	ドイツの都市内分権制度 その 5 ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	プレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。
第 7 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 1 概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。

第 8 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 2 ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回に引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今度はニーダーザクセン州にしほり、その「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第 9 回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐる行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第 10 回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としていないわけではない。ドイツの「市民社会」重視政策を見る。
第 11 回	地域的まとまり論の理論史 その 1 ギールケの「領域社群」論	理論的予備考察も終えたところで、本格的な理論編に入る。本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社群」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第 12 回	地域的まとまり論の理論史 その 2 マックス・ヴェーバーの「領域団体」論	ギールケとプロイスによって完成された「領域社群」概念を、社会科学的な分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明する。
第 13 回	地域的まとまり論の理論構成	理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。
第 14 回	まとめと展望	本講義をまとめるとともに、都市内分権以外に日本でコミュニティ政策として行われている政策についても、のこされた研究課題として触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。

名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021 年）

名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社）

名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）

特に最後のものは、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】

何度が課題を出し、それを採点することによって成績評価を行います。上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不明だったたりすることが、よくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。

なお、何度かの課題ごとに採点して、それを積算して成績評価をしますので、1 度でも提出を怠るとかなりのハンディとなります。課題には毎回解答を提出するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

この 2 年間はほぼオンライン授業で、講義資料も充実させ、また頻繁に課題を出して次の回に論評するということをやったので、受講者の反応も比較的よく分かりました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。また、学期中にグッと力をつけてくれるのがわかる受講者も何人かおり、励みになります。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.

POL300AC

外国書講読（中国語）Ⅰ

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→ 文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→ 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：感想提出後に学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います
第 2 回	中国語教材の読解	文献の読解。
第 3 回	中国語教材の読解	同上
第 4 回	中国語教材の読解	同上
第 5 回	中国語教材の読解	同上
第 6 回	中国語教材の読解	同上
第 7 回	中国語教材の読解	同上
第 8 回	中国語教材の読解	同上
第 9 回	中国語教材の読解	同上
第 10 回	中国語教材の読解	同上
第 11 回	中国語教材の読解	同上
第 12 回	中国語教材の読解	同上
第 13 回	中国語教材の読解	同上

第 14 回 試験・総括

今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

課題（50 %）、授業内での議論への参加（50 %）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

- ①入国できない留学生のため、教室で同時配信する予定です。
- ②学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

POL300AC

外国語講読（中国語）Ⅱ

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→ 文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→ 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：感想提出後に学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていたら持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います。
第 2 回	中国語教材の読解	文献の読解。
第 3 回	中国語教材の読解	同上
第 4 回	中国語教材の読解	同上
第 5 回	中国語教材の読解	同上
第 6 回	中国語教材の読解	同上
第 7 回	中国語教材の読解	同上
第 8 回	中国語教材の読解	同上
第 9 回	中国語教材の読解	同上
第 10 回	中国語教材の読解	同上
第 11 回	中国語教材の読解	同上
第 12 回	中国語教材の読解	同上
第 13 回	中国語教材の読解	同上

第 14 回 試験・総括

試験および今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

期末課題（50 %）、授業内での議論への参加（50 %）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

- ①入国できない留学生のため、教室で同時配信する予定です。
- ②学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

LAW300AB

知的財産法Ⅲ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち、「ブランド」の保護などに関連する、いわゆる「標識法」に分類される法制度（商標法及び不正競争防止法の一部）について一通り学ぶことを目的とする。これらの法律はいずれも民法の特別法に位置付けられるほか、消費者法や行政法、独占禁止法とも関連を有するものであり、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき応用的な科目のひとつである。

【到達目標】

知的財産法のうち、いわゆる標識法に分類される法制度について、一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、標識法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、標識法が問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法・商標法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講義では、標識法に関する法制度としてどのようなものが設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じて変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	標識法概説・不正競争防止法総説	標識法の概説、不正競争防止法の全体像
第 3 回	混同惹起行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 1 号の趣旨及び要件
第 4 回	混同惹起行為の規律 (2)	不競争 2 条 1 項 1 号の要件
第 5 回	混同惹起行為の規律 (3)	不競法 2 条 1 項 1 号の要件及び効果
第 6 回	著名表示冒用行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 2 号の趣旨及び要件
第 7 回	著名表示冒用行為の規律 (2)	不競法 2 条 1 項 2 号の要件及び効果

第 8 回 不競法のその他の関連 不競法 2 条 1 項 19 号等の概説規定

第 9 回 商標法総説

商標法の全体像

第 10 回 商標の登録要件 (1)

積極的登録要件

第 11 回 商標の登録要件 (2)

消極的登録要件

第 12 回 商標権の保護範囲

商標権の内容、商標の類似性など

第 13 回 商標権の制限

権利行使が制限される場合について

第 14 回 まとめ

授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料等を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。

詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や消費者法、行政法、経済法、民事訴訟法、知的財産法（特許法・著作権法）などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心掛けたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trademark Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trademark Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

LAW200AB

法律学特講（憲法哲学）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」と密接な関連を有する科目です。

本講義では、諸々の市民の法的な物語群（narratives）に支えられた共同の文化作品として「憲法」を捉えて、人間の存在の constitution に照応した国家の constitution として、憲法をナラティブ論の観点から哲学的解釈学的に解明し、立憲主義の普遍的な精神的基礎を哲学的人間学的に探究します。

その際は、憲法物語として、多彩なテキスト（文芸作品、宗教聖典、戦争文学、東日本大震災と福島原発事故の記録 etc.）を読解しながら、「法の支配」「立憲主義」の思想を読み取り、多様な人間の平和的共生のための「希望」のよすがとして、公布・施行 70 年を経過した 1946 年日本国憲法の記憶を thoughtful に思索していきます。

単なる実定法解釈学以上の憲法の魂に触れたい人、せっかく大学に入ったのだから本格的な学芸としての法の醍醐味を味わいたい人、または、大学に来てしまった者の責任として「学芸としての法」をじっくり思索したい人の受講を求めます。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) テキストの基本的な読解ができる。
- (3) 立憲主義をめぐる主要な思想を「自分の言葉で」物語ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態です。教科書に加えてレジュメ等を配布します。

本講義は実験的なものです。毎年度、授業の後半に取り上げるテキストは異なります。今年度は、『聖書（Holy bible）』を中心に引き上げ、憲法ナラティブズの観点から読解していく予定です（次年度以降は、『クルアーン』、『仏典』等を順次取り上げる予定）。

ただし、下記【授業計画】はあくまで予定であり、コロナ禍との関係上、また、受講者との対話的応答の中で、内容は変更する場合があります。大学の授業は学生のみならずとともに思索しながら、その都度の対話的探究の中で共同制作していくものですから。

そのために、適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：「憲法哲学」ということ	憲法物語群（ナラティブズ）と立憲的信
第 2 回	法とナラティブズ①	法と文学
第 3 回	法とナラティブズ②	法と物語の哲学
第 4 回	法とナラティブズ③	法と哲学的解釈学
第 5 回	小括	言霊と神話と法
第 6 回	憲法物語①	ユダヤ教聖書（ヘブライ語聖書）概説
第 7 回	憲法物語②	創世記ほか
第 8 回	憲法物語③	大預言書ほか
第 9 回	憲法物語④	ヨブ記ほか

第 10 回 憲法物語⑤

キリスト教聖書（ギリシア語聖書）概説

第 11 回 憲法物語⑥

4 福音書

第 12 回 憲法物語⑦

使徒言行録・初期キリスト教文献など

第 13 回 憲法物語⑧

記紀神話・神道神典

第 14 回 まとめ：全世界の国民「ナラティブ」としての 1946 年の平和的生存権 日本国憲法と、カフカ「法の前で」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 該当箇所の予習・復習をする
 - (2) 図書館を徹底的に活用する（参考書など）
 - (3) 本講義や関連科目の学びを自分の生き方や将来の職業にいかす
- *本授業の準備・復習時間は「各 2 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

島蘭進『宗教を物語でほどく——アンデルセンから遠藤周作へ』（NHK 出版新書、2016 年）

【参考書】

聖書協会共同訳『聖書』（日本聖書協会、2018 年）*手元にあると有益

H. アーレント（大久保和郎訳）『エルサレムのアイヒマン（新版）』（みすず書房、2017 年）

大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016 年）

大和田雅人『憲法とみやぎ人』（河北新報社、2018 年）

奥平康弘『「憲法物語」を紡ぎ続けて』（かもがわ出版、2015 年）

H.-G. ガダマー（巒田収ほか訳）『真理と方法（全 3 巻）』（法政大学出版局、1986-2012 年）

金井光生『フクシマで日本国憲法〈前文〉を読む』（公人の友社、2014 年）

来栖三郎『法とフィクション』（東京大学出版会、1999 年）

小森陽一『ことばの力 平和のちから』（かもがわ出版、2006 年）

柴田哲雄『フクシマ・抵抗者たちの近現代史』（彩流社、2018 年）

R. ドゥオーキン（小林公訳）『法の帝国』（未来社、1995 年）

夏目漱石『私の個人主義』（講談社学術文庫、1978 年）

野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005 年）

林田清明『《法と文学》の法理論』（北海道大学出版会、2012 年）

渡邊二郎『構造と解釈』（ちくま学芸文庫、1994 年）

東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。

平常点・リアクションペーパー（20 %）+ 期末試験またはレポート課題（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

「この授業の学習内容が他の法律学や日々の生活にリンクすることも多く、今後の就職や人生にも有益で、難解だが面白かった」等のアンケートを踏まえて、一層レジュメや資料等を改良した。

【Outline (in English)】

We read the constitutional narratives as major literary works etc., because a Constitution is also a constitutional narrative. We think thoughtfully The Constitution (of Japan) who is supported by peoples' narratives representing constitutional faiths.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（現代の政治理論）

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に對峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。
- 2 今日の政治的諸課題について理解する。
- 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	フリードリヒ・ニーチェ 1	文体の技法、キリスト教道徳への批判
3	ニーチェ 2	近代デモクラシーへの批判
4	ニーチェ 3	末人と超人
5	ニーチェ 4	大いなる政治
6	ハンナ・アーレント 1	活動、自由、公的空間：人はいかに共に生きるべきか
7	アーレント 2	全体主義への批判：人間の本性の破壊に抗して
8	アーレント 3	人間の条件：「活動＞仕事＞労働」のヒエラルヒー、その近代における転倒
9	アーレント 4	公的空間の再興：いかにして、またそもそも、それは可能なのか
10	ジョン・ロールズ 1	正義論の構想：ベトナム戦争や人種差別への反対、功利主義の克服
11	ロールズ 2	正義の二原理：リベラル・デモクラシーと社会福祉国家の擁護
12	ロールズ 3	正義論をめぐる論争：新自由主義による批判を中心に
13	ロールズ 4	正義論の国際社会への適用：永遠平和のための正しい戦争、人道的介入と核武装
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995 年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）、リアクションペーパー（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

It is often said that political theory is born in an age of crisis. In terms of confronting those crises and aiming to solve them, political science has been compared to medical science since ancient times. In this course, we will study some representative contemporary political theories, which confronted, for example, the crisis of two world wars, the human standardization in mass society, the discrimination or elimination of minority, terrorism, populism in democratic society, etc. I will try to ask critical questions on the issues which the contemporary political theories are still confronting. Especially, the question to ask is whether these theories can solve the problems, and if not, what it means to us.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に對峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。
- 2 今日の政治的諸課題について理解する。
- 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	カール・シュミット 1	政治的なものの概念：友と敵の区別、臨戦体制または戦争国家へ
3	シュミット 2	リベラル・デモクラシーと近代社会への批判：議会のお喋り、娯楽社会化と人間のサル化
4	シュミット 3	権威国家の擁護：独裁と両立する“真のデモクラシー”
5	シュミット 4	ナチズムへの加担
6	アレクサント ^ル ・コ ジェーヴ 1	欲望の自我：動物的欲望と人間的欲望
7	コジェーヴ 2	生死を賭けた承認をめく ^る 闘争
8	コジェーヴ 3	主人と奴隷の弁証法から血塗られた革命へ
9	コジェーヴ 4	歴史の終わり：賢者によるホモ・サピ ^エ ・エンズの飼育国家
10	ミシェル・フーコー 1	“真理”を語る者は誰か？：近代批判としての系譜学的問い
11	フーコー 2	規律=訓練テクノロジー：権力への自発的服従
12	フーコー 3	司牧者権力と生政治：知と権力の結託による生の監視
13	フーコー 4	近代への抵抗：新しい主体の可能性
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995 年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）、リアクションペーパー（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

It is often said that political theory is born in an age of crisis. In terms of confronting those crises and aiming to solve them, political science has been compared to medical science since ancient times. In this course, we will study some representative contemporary political theories, which confronted, for example, the crisis of two world wars, the human standardization in mass society, the discrimination or elimination of minority, terrorism, populism in democratic society, etc. I will try to ask critical questions on the issues which the contemporary political theories are still confronting. Especially, the question to ask is whether these theories can solve the problems, and if not, what it means to us.

LAW200AB

憲法Ⅳ**國分 典子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）

佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）

野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）

辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）

高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）

元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）

渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

など

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価します。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB

憲法Ⅲ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的变化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）
 辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）
 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）
 元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）
 渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）
 長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
 など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB

法律学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）

安田 和史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デジタルコンテンツ白書 2021」（デジタルコンテンツ協会）の調査によると、2020 年の日本のコンテンツ産業の市場規模は 11 兆 6975 億円で、前年比 9.3 % のマイナスだった。COVID-19 問題により、コンテンツのカテゴリごとに大きく明暗が別れた結果となった。コンテンツビジネスは、流通や収益構造などに大きな変化があらわれており、毎年キープレイヤーが入れ替わっている。また、コンテンツビジネスは多岐の分野にわたるが、授業では大きな変化が見られているゲーム市場、出版市場、および、近年エンタテインメント化が進む広告をテーマに、法的な課題等を交えて解説を行う。また、授業では、ゲストスピーカーとして各分野の専門家および実務家を招致し、受講者の理解を深めたいと考えている。

（なお、ゲストスピーカーのスケジュールによりシラバスの順番が入れ替わる場合がありますのでご了承ください。また、COVID - 19 の影響により、インタビュー動画の配信になったり、LIVE 配信を行う場合がありますのでご了承ください。）

この授業は、知的財産法に分類される法律のうちコンテンツビジネスに関連するものを中心として学ぶことを内容とするが、知的財産法を横断的に取り扱うことになる。従って、知的財産法Ⅰ～Ⅲ【武生昌士】および法律学特講（知的財産法の今日的課題）【武生昌士】を受講している（あるいは、将来受講する）と全体的な理解が深まるようになると思われることから推奨する。

「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「行政・公共政策と法コース」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る。

【到達目標】

コンテンツビジネス（ゲーム、出版、広告）にかかる法的問題について理解し、それを解消するための考え方を身につける。授業では、判例や実務的な解決手段等を紹介するが、問題解決の手段はそれだけに留まらない。この授業あるいはそれ以外で得た知識をフル活用して、自分であればどのような解決手段を提案できるかということと考えられるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、コンテンツビジネス市場についてゲーム、出版、広告を主要なテーマに掲げ、最新技術の動向を交えながら、コンテンツと法に関する解説を行う。また、ある程度ビジネス環境等の理解ができたところで、法的問題について海賊版サイト問題や、ゲームのチートに関する法的な問題など、皆さんに身近なケースを紹介しながら解説し理解を深める。知識を深めるということも重要であるが、問題解決のための考え方を養ってもらいたい。

授業形態は、講義形式で行う。ゲストスピーカーを承知する場合がある。また、教室を使うことが可能であれば体験学習やワークショップを行うことも考えている。

講義の後にリアクションペーパーを回収する。その中で、質問等がある場合には記載してもらい、翌週の冒頭で質問に回答する。

第1回と第14回を対面とし、その他を ONLINE としているが、コロナの状況や受講生の希望、ゲストの希望により変更する可能性がある。

詳細は、学習支援システムを通じてお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンテンツビジネスの実相と知的財産の概要	初回講義では、講義の進め方および講師の紹介、成績評価の方法などについて説明を行う。また、現在のコンテンツ市場について、解説を行う。
2	コンテンツビジネスの実相と知的財産～プロテクト技術と知的財産法～	ゲームは、ゲーム機側とソフト側双方にプロテクトがかけられており、違法なソフトは起動しない技術的な工夫がされている。しかしながら、このような手段を回避するための装置やプログラムを提供する者が存在しており、この対応として著作権法や不正競争防止法の規定が用いられる。近年においては、民事対応のみならず、不正競争防止法による刑事対応および、関税法における水際措置が効果を上げている。授業では、ゲームの技術的保護と関連法に関する具体例を中心に解説する。
3	コンテンツビジネスの実相と知的財産～通信規格・メモリ等のインフラ～	ゲーム機やソフトウェアの流通において、メモリーや通信関連技術、ファイル圧縮技術等の標準化が不可欠となる。標準化は、複数の企業が所有する特許権をプールすることで成立する。これらの特許は FRAND 宣言され、公正、合理的かつ非差別的な条件（FRAND 条件）でライセンスされることになる。しかしながら、FRAND 条件の前提があったとしても、特許権者とこれらの特許を使用する者との間でライセンス交渉が行われるにあたり、具体的な条件等について折り合わず紛争が起きている。FRAND に関する問題は、日本のみならず国際的な問題であることから、日米欧の現状について解説する。
4	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（1）～	オンラインゲーム市場は、コンテンツ市場の中でも極めて好調である。ソーシャルモデルとフリーミアムモデルによる相乗効果もあり、高収益化に成功している。他方で、オンラインゲームは悪質なユーザーによる「チート」行為の被害が深刻化している。チート行為は、ゲーム内の秩序を破壊し、企業に経営上の被害をもたらす。授業では、チート行為の一部が、知的財産法による法的対応が可能であり、民事対応による損害賠償請求や刑事対応が効果をあげていることについて解説する。

5	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（2）～	ゲームアプリは、Apple の App Store や google の Google Play 等を通じてダウンロードされており、その総数は、其々 200 万以上とも言われている。このように競争が激しいゲームアプリ市場において、自社のゲームコンテンツを知的財産権等により保護することは極めて重要である。AR 技術・スマホの位置情報技術を用いたゲームアプリが世界中で大ヒットしているが、関係各社は技術やキャラクターについての知的財産権による保護に余念がなく現在のところ同種のゲームアプリの追随を許していない。また、スタートアップ系の企業に勢いのあるゲームアプリ業界であるが、知的財産権のクリアランスが不十分であれば、将来の経営リスクになる。授業では、具体的な紛争事例等を交えながら、ゲームアプリの知的財産権による保護について解説する。	9	令和 2 年著作権法改正の効果と海賊版対策。	海賊版サイトは、毎年のように姿や国を変え、コンテンツ事業者を翻弄している。講義では、まず新たな対抗手段として導入された令和 2 年著作権法改正について解説する。法改正により国内を拠点とする多くの海賊版サイトが運営拠点を変更した。これらの実態を明らかにするとともに、今後さらにどのような対抗手段が可能かについて検討する。
6	コンテンツビジネスの実相と知的財産～x R 関連の専門家からのインタビュー 1～	バーチャルリアリティ（VR）技術の動向について、解説をするとともに、同分野に詳しい専門家を招致して理解を深めたい。内容及びゲストについては、第 1 回講義のときにお知らせする。	10	「コンテンツを工学する」とは何か？	コンテンツ市場の成長に工学的なアプローチが不可欠になっている。海外市場を見据えた取り組みや、海賊版対策、新たなプラットフォームの構築などにおいて国内のスタートアップ企業がしのぎを削っている。これらの最新動向について解説する。
7	コンテンツビジネスの実相と知的財産～出版市場のデジタル化と流通の変化～	デジタル出版が可能となったことで、出版社を介さずに、直接出版をすることが可能になった。出版社を介した出版の場合、作家に入る印税は 10 % である。他方で、大手の電子出版サービスを利用すると、70 % が作家に入ることになる。このような事実から、出版社が将来的に不要になるのではとの考え方も成立し得るが、プロの作家は必ずしもそのようには考えていない。この問題をひも解くために、作品の創作において出版社がどのような役割を担っているのかという点、および、法的立場を明らかにした上で、「デジタル出版時代には出版社は不要か？」という点を考察する。	11	コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約 1～	広告は、法的な制約を受けており、その枠組みの中でクリエイターが制作を行っている。具体的には、他人の知的財産権等をはじめとする権利を侵害しないように留意する必要がある他、広告に関連する法的規制も受けている。さらに、倫理上の制約等も存在している。授業では、これらの法的規制および広告コンテンツの創作との関係について 2 回に渡って解説する。
8	コンテンツビジネスの実相と知的財産～海賊版サイトに対する出版社の戦い～	インターネット上の違法コンテンツについては、米国 DMCA に準拠した方式（我が国ではプロテクト法）による削除申請をサイト事業者にすることで削除される場合がある。また、これらはサイトによっては検出から削除まで自動化されており一定の効果を上げていて作業効率も上がっている。講義では、毎年新しい試みが行われている出版社による海賊版対策の実際と法的対抗手段について解説する。	12	コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約 2～	前回の続き
			13	コンテンツビジネスの実相と知的財産～WEB マーケティングにおけるブランド等名称の重要性と知的財産法による保護～	WEB 広告などを中心に行われているマーケティングにおいてリコメンドを行うにあたりブランド等の名称の重要性が増している。ブランド名称を不正に利用されないためにどのような対抗手段が考えられるか具体的なケースを参酌しながら解説を試みる。
			14	コンテンツビジネスの実相と知的財産 まとめ	コンテンツビジネスの実相と知的財産について総括する。また、この講義の時点で起きている注目すべき事例などがあれば解説を行う。その他、期末レポートの課題について説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメの内容について十分に復習すること。事前配布した資料については、授業当日までに内容について検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、レジュメを必要に応じて配布します。なお、プロジェクターには投影できても、事情により配布できない資料もありますのでご了承ください。

【参考書】

経済産業省 商務情報政策局（監修）『デジタルコンテンツ白書 2022』一般財団法人デジタルコンテンツ協会（2022 年 8 月）
総務省『令和 2 年版 情報通信白書』※総務省ウェブサイトで無料で取得可能。
『逐条解説 不正競争防止法』※経産省ウェブサイトで無料で取得可能。
前田健他編著『図録 知的財産法』（弘文堂、2021 年 02 月）

その他、鳥並良ほか『著作権法入門〔第3版〕』（有斐閣、2021）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第3版〕』（有斐閣、2021）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2021）、茶園成樹編『不正競争防止法〔第2版〕』（有斐閣、2020）、土肥一史『知的財産法入門〔第16版〕』（中央経済、2019）、藤野仁三（著、編集）＝FRAND研究会（編集）『標準必須特許ハンドブック SEP HANDBOOK〔第2版〕』発明推進協会（2021年4月）など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー [30%]+期末レポート [60%]+平常点 [10 %]

期末レポートが未提出の場合は、成績を与えません。

リアクションペーパーの回収は期限厳守。公欠を除き、事後提出は認めません。

期末レポートの課題は、12月初旬に学習支援システムから提示します。

リアクションの提出は、学習支援システムを使用します。

平常点は、リアクションの内容や授業への積極的な取り組みなどを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コンテンツビジネスと知的財産法の問題の中でも、現在ニュースなどで報じられている問題や、皆さんの身近で起きている問題、皆さんが抱えている疑問などについては、質問をしてもらえれば、可能な限り講義で取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布します。授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードします。

【その他の重要事項】

知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけます。

【Outline (in English)】

Lectures on content business and intellectual property law.

LAW200AB

法律学特講（芸術振興の法と政策－アート・ロー入門－）

澤田 悠紀

授業形式：講義 | 開講セメスター：サマーセッション/Summer Session

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アリストテレスは「芸術は自然を模倣する」と述べ、オスカー・ワイルドは「自然は芸術を模倣する」と述べたとされる。自然のみならず、社会もまた必ずしも私たちの外にあるのではなく、私たちの見方によって自己の内に築き上げられるものからなるとすれば、社会につき斬新な見方を提供する作品とじっくりと向き合うことは、いわゆる"社会科学"的なものの見方を相対化し、それを新たな角度から検討しなおすことを可能にする。

この授業では、芸術と法の交錯領域における様々な事例を紹介しながら、社会の見方の多様性に触れ、現代社会における理想的な法のあり方を自ら思考していくための基礎を養う。

この科目は、「文化・社会と法コース」に属している。

【到達目標】

①表現をめぐる国内外の様々な事案について学ぶ。

③「芸術とはなにか」「法とはなにか」について熟考する。

③今後、表現にまつわる社会的な問題に遭遇した際、どのような解決が図られ得るか、自ら思考することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義・フィールドワーク・プレゼンテーションの組み合わせにより進める。「その他の重要事項」を参照。シラバスに生ずべき変更については学習支援システムにて通知するので、随時確認のこと。授業内にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方・扱うトピックの紹介など
第2回	芸術と憲法	表現の自由
第3回	芸術と民法	作品の使用・収益・処分
第4回	芸術と刑法	贋作・盗品・盗作
第5回	芸術と著作権法	創作・模倣
第6回	芸術と文化財保護法	保存・活用
第7回	芸術と国際条約	戦争・略奪・返還
第8回	フィールドワーク	建築・美術に触れて考える
第9回	フィールドワーク	世界遺産に触れて考える
第10回	フィールドワーク	自然と人のダイアローグ
第11回	フィールドワーク	課題の作成と提出
第12回	プレゼンテーション1	第1グループ報告
第13回	プレゼンテーション2	第2グループ報告
第14回	ディスカッション	全員での討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要ないものの、復習は必ず行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

適宜、授業内において参考となるべき資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（20％）＋討論参加による授業への貢献（10％）＋プレゼンテーション（40％）

【学生の意見等からの気づき】

「法」という存在について、新たな発見や問題意識がもたらされるような授業にします。

【学生が準備すべき機器他】

ビジュアル（写真・映像・PPT など）を使用したプレゼンテーションをリアルタイムでスクリーンシェアできるパソコン・タブレット・スマートフォン等

【その他の重要事項】

学習支援システムに必要事項を随時アップするので、常にチェックを怠らないこと。

なお、Zoom は原則マイク・カメラをオフで行いますが、討論開始時と終了時（各 1

分程度）・お名前を呼ばれた際・プレゼンテーションの際には、カメラをオンにさせていただきます。絶対にカメラをオンにたくないという方は、履修を慎重に検討してください。

【Outline (in English)】

This course lets students explore a diverse array of art law disciplines. Students will examine the functioning of law and policy in the field of arts, paying special attention to how they shape our perception of society.

ECN100AC

財政と金融 I

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

最終授業で、13 回までの講義内容を振り返り、授業内で行った課題に対する講評や解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則、公平な税とは、課税と経済効率
第 14 回	全体のまとめと復習	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の行政官として官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN100AC

財政と金融Ⅱ

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。
最終授業で、13 回までの講義内容を振り返り、授業内で行った課題に対する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題Ⅰ	超高齢社会と社会保障 (1)
第 3 回	社会保障の財政問題Ⅰ	最低生活の保障、年金問題 (2)
第 4 回	社会保障の財政問題Ⅱ (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題Ⅱ (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	全体のまとめと復習	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の行政官として官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

For 2020 spring semester, classes will start on 22 April (Wednesday)(4th period). Please register using 学習支援システム（履修するためには、4月20日までに学習支援システムで仮登録をして下さい）。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム（教材や授業のやり方などについては学習支援システムを見て下さい - お知らせ、教材などを参照）。

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance

6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance
10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, Global Governance Futures, Routledge, 2022.

・ Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.

・ Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.

・ 西谷真規子・山田高敬（編著）『新時代のグローバル・ガバナンス論 制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021 年

・ 鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017

・ 笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016 年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on various issues related to global governance.

【Outline (in English)】

As written above.

POL300AD

国際NGO論 I

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の支援においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけではなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらう機会を作ります。

授業終了後に「テスト/アンケート機能」や「課題機能」を使った授業の振り返りを提出してもらいます。振り返りについては、次の授業の冒頭で主なコメントの紹介や質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の狙いおよび春学期の授業計画の説明と、国際協力の背景
第 2 回	日本の NGO の概要	NGO とは何か、日本の国際 NGO の特徴と課題
第 3 回	NGO と ODA	政府が行う ODA の概要と NGO による支援の違い
第 4 回	開発効果	援助理論の変遷と、ODA 援助効果/CSO 開発効果およびイスタンブール原則
第 5 回	MDGs と SDGs	貧困削減や環境保全など世界が共通に目指す国際目標である MDGs と SDGs の背景と課題
第 6 回	教育	途上国の教育問題を理解するために、「世界一大きな授業」を実施する
第 7 回	ソマリア難民救援	ソマリアを題材に、飢餓の原因と NGO による緊急救援活動
第 8 回	アフガニスタンの復興と NGO	アフガニスタンを題材に、緊急救援から復興にいたる経緯と NGO の取組
第 9 回	貧困と地域開発	バングラデシュの貧困、開発、NGO、ソーシャルビジネス（外部講師）
第 10 回	難民問題	世界の難民問題と日本の難民受け入れの状況

第 11 回 農村開発	カンボジアにおける農村開発プロジェクトの事例研究
第 12 回 保健医療 I	カンボジアにおける保健状況と NGO による母子保健プロジェクトの成果
第 13 回 保健医療 II	東ティモールにおける学校保健プロジェクトの事例研究
第 14 回 まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、1、2 回のレポート提出を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・シェア＝国際保健協力市民の会ウェブサイト

<https://share.or.jp/index.html>

- ・国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブサイト

<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の提出及び内容（60 %）、レポート（10%）、試験または代替レポート（30%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。グループに分かれての議論やワークショップに対する要望が多いので、授業にできるだけ議論する場を取り入れます。そのため、この授業を取る学生は、グループディスカッションで積極的に発言することを求めます。

【その他の重要事項】

ソマリア、カンボジアでの 4 年半の現地駐在を含め、35 年間におよぶ NGO 職員としての経験をもとに、市民による国際協力とは何かを講義します。

【Outline (in English)】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important. In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

国際 NGO 論 II

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の支援においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- （1）地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- （2）一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけではなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらう機会を作ります。

授業終了後に「テスト/アンケート機能」や「課題機能」を使った授業の振り返りを提出してもらいます。振り返りについては、次回の授業の冒頭で主なコメントの紹介や質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	HIV/AIDS I	HIV/AIDS の概要とアジアにおける事例
第 2 回	HIV/AIDS II	アフリカにおける HIV/AIDS の状況と NGO によるプロジェクトの事例
第 3 回	環境	ラオスにおける森林プロジェクトの事例と地球環境問題
第 4 回	在日外国人支援	在日外国人の健康問題に取り組む NGO の事例
第 5 回	国内における緊急救援	東日本大震災における国際協力 NGO の活躍と課題、および防災について
第 6 回	NGO 間のネットワーク	ネットワークの意義と NGO 間の連携
第 7 回	NGO と企業との連携	NGO と企業との連携の意義および課題と事例
第 8 回	BOP ビジネス	途上国における BOP ビジネスと、NGO と企業との連携
第 9 回	NGO の組織運営とアカウントビリティ	NGO の組織の特徴と、NGO 活動を支える組織運営の概要
第 10 回	NGO の財務とファンドレイジング	NGO の財務構造とファンドレイジング（資金集め）
第 11 回	プロジェクト立案入門編	ひとつのエピソードをきっかけに、問題分析から事業立案を体験するワークショップ

第12回 政策提言	地球規模の課題に対する提言活動の事例として、対人地雷廃絶の取組
第13回 働く場としての NGO	NGO の職場環境や待遇と、NGO で働くことの意義
第14回 まとめ	秋学期全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、1、2 回のレポート作成を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス女学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力 NGO と 3・11、国際協力 NGO センター、早稲田大学出版部
- ・シェア＝国際保健協力市民の会ウェブサイト
<https://share.or.jp/index.html>
- ・国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブサイト
<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の提出及び内容（60 %）、レポート（10%）、試験または代替レポート（30%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。グループに分かれての議論やワークショップに対する要望が多いので、授業にできるだけ議論する場を取り入れます。そのため、この授業を取る学生は、グループディスカッションで積極的に発言することを求めます。

【その他の重要事項】

ソマリア、カンボジアでの 4 年半の駐在を含め、35 年間におよぶ NGO 職員としての経験をもとに、市民による国際協力とは何かを講義する。

【Outline (in English)】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important. In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

国際文化交流 I

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をしたうえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際文化関係の基層となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が不正であるのか、何が問題であるのかを考える。

授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。

【到達目標】

国際関係論で取り上げられる文化は他の学問領域における文化とは異なり、国際政治に影響を与えるものとしての文化である。その点をまず理解することが必要である。その上で、普遍に捉えられる国際関係に、文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が不正なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的には対面で行います。ただし、感染状況によりオンライン授業が大学から指示された場合には、Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、授業当日に Zoom を用いてディスカッションなどのオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」を見てください。対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。授業後、授業支援システムを使つての小テストを行います。締め切りは授業当日の 23：55 です。成績評価は小テストの平均値（50 %）と期末レポート（50 %）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：国際関係における文化の問題	国際関係という政治経済を中心とする領域において、文化がどのように扱われるのか。
第2回	ナショナリズムと国民国家	国家の成立と文化の関係をナショナリズムの観点から理解する。
第3回	伝統とは何か：伝統の創造	国家と文化の関係において重要な「伝統」の操作について。
第4回	帝国主義と文化政策	国民国家とはことなる帝国における支配政策が被支配民族の文化をどのように扱うのか。
第5回	文化国際主義	国家を超えようとする国際主義は、どのように多様な国際社会の文化を扱おうとするのか。
第6回	近代化へのアンチテーゼ、文化相対主義	帝国主義支配への反省から、人類文化の普遍性に挑戦する文化相対主義の考え方とは何か。

第 7 回	文化変容の理論、文化触変論	国際交流、異文化接触によって、文化はどのように変容するのか。
第 8 回	文化帝国主義批判	欧米文化の不当な影響力を批判する文化帝国主義批判とは何か。
第 9 回	文明の衝突論	ハンチントンの文明の衝突論の内容とそれへの批判。
第 10 回	原理主義	冷戦後の宗教の重要性和原理主義の国際社会への影響を考える。
第 11 回	欧米諸国の対外文化政策	国家が文化を用いて対外政策を組み立てるといった観点から、欧米諸国の外交における文化の位置づけを考える。
第 12 回	日本の対外文化政策	明治以降の近代日本は、どのように外に対して自らの文化を表象してきたのか。
第 13 回	地域形成のための域内文化協力	EU 統合に見られる新しい欧州人アイデンティティ形成に向けての EU 文化政策とは何か。
第 14 回	ユネスコと文化政策	世界遺産登録というユネスコの人類規模の文化政策はどのような意味があるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、与えられた課題にこたえる小テストに回答する必要があります。回答のためには、自ら情報を集めて、考察し、回答を考えることが求められます。また、授業の各回で参考文献を紹介するので、関心のあるテーマについて、自ら進んで勉強を進めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 50 %、期末レポート 50 %。（レポートは 1 回）。授業への参加は、第 1 回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低 1 冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。

小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

This lecture deals with the various issues related culture in International Relations. It follows historical course of cultural issues appeared, including relationship between nation state and culture, cultural relations between Capital country and its colonies during imperialism period, problems of cultural dependency voiced in the process of decolonization, focusing on unfairness and real problems raised.

The students are expected to understand the issue of culture that is the base of nation and an important factor of dynamism of international politics.

POL300AD

国際文化交流Ⅱ

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。

授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には対面で行います。

ただし、感染状況によりオンライン授業が大学から指示された場合には、Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、授業当日に Zoom を用いてディスカッションなどのオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」をご覧ください。

対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。

授業後、授業支援システムを使つての小テストを行います。締め切りは授業当日の 23 : 55 です。成績評価は小テストの平均値（50 %）と期末レポート（50 %）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際移民の時代	国際移民を歴史的に概観し、グローバル化と移民の関係を理解する。
第 2 回	在日韓国朝鮮人の移民の原因	帝国主義の時代の遺産である旧植民地出身者の中で最大集団である在日韓国朝鮮人の形成を歴史的に理解する。
第 3 回	在日韓国朝鮮人の社会生活、文化	戦後日本において、在日韓国朝鮮人がどのように生きてきたのか、その社会的貢献を含めて理解する。
第 4 回	アジア系新移民	1970 年代以降のアジア系の新移民について、その原因や置かれた状況を理解する。
第 5 回	日系移民	1990 年代にアジア系に取って代わった中南米からの日系移民の原因と現状を理解する。
第 6 回	フランス、ドイツの移民問題	フランスとドイツの移民問題、移民政策の基本を理解する。

第7回	イギリスの移民問題、多文化主義	イギリスの移民問題、多文化主義の思想を理解する。
第8回	アメリカの移民問題、多文化主義	アメリカの移民問題、多文化主義を理解する。
第9回	カナダの多文化主義	カナダの移民問題、多文化主義を理解する。
第10回	オーストラリアの多文化主義	オーストラリアの移民問題、多文化主義を理解する。
第11回	在日外国人が抱える諸問題	在日外国人の人々が抱えている様々な問題を広く把握する。
第12回	日本の移民政策の変化と現状	日本政府の移民政策を歴史的に見ると同時に、現状の課題を考える。
第13回	地方自治体の外国人政策の変化と現状	地方自治体で行われている外国籍住民への政策を神奈川県を例に見る。
第14回	民間NPOによる外国人支援	外国人支援を行っている民間団体、NPOの活動の特徴、限界などを見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、出された課題に対して小テストに回答していただきます。回答にはある程度自分で調べる作業が必要になります。その後、情報を比較検討して、自分の考えをまとめる作業が必要です。また、授業で取り上げる様々なテーマについて、参考文献を自ら読み進め、理解を深めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加50%、期末レポート50%。（レポートは1回）。授業への参加は、第1回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低1冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。

小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This lecture deals with problems related to migration and multicultural situation in the recipient society, focusing on Japanese situation, but it also deals with immigration and human rights policy in other developed countries.

The students are expected to understand international migration as an unavoidable phenomenon of the present world and see it from objective viewpoint and international human rights protection. Then, they are also expected to acquire knowledge to think by themselves possible government migrant policies in Japan.

POL300AD

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を取り巻くアジアの国際環境は険しくなる一方です。米国と中国の覇権争いは、外交・安全保障から経済・技術にも及んでいます。台湾や朝鮮半島の冷戦構造も残ったまま。成長センターとして期待されたASEAN諸国でも「民主化の挫折」が続いています。日本や中国をはじめ、「アジアの平和」はどうして築けないのでしょうか。戦争と平和を軸とする現代アジアの政治・外交の流れをつかんで、今のアジアが直面する諸問題を考える基礎的な視点をもつことを目指します。

【到達目標】

21世紀のアジアを理解するために

- ①アジアの戦争と平和の経験を学んで、国際政治の基礎を把握する
- ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
- ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムという「分断国家」の現状を比較してアジア特有のナショナリズムの意味を理解する
- ④日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として対面で、毎回30分の動画を事前に視聴したうえで1時間の対面授業を行う。

前半は戦後アジアの国際関係を、欧州と比較しつつ「戦争」を軸に考察する。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など個別争点を取り上げる。受講生を指名して質疑応答で授業を進めることもある。授業に沿ったテーマを選んでプレゼンを行うことも歓迎する。ニュースの背景解説も行い、国際問題をファクトに基づいて「議論する力」を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「東アジアのパラドックス」／政治と軍事、経済と文化／地政学とナショナリズム
第2回	「帝国」と「冷戦」／21世紀のパワースhift	大日本帝国の戦争と植民地支配の遺産／パワーの定義
第3回	米国はアジアなのか？「極東」、「東アジア」「インド太平洋」シフトとは？	米国にとっての東アジア／日本の戦略的価値／朝鮮戦争とベトナム戦争
第4回	中国：分断国家から超大国へ	中華アイデンティティー／「一帯一路」
第5回	中国と日本：歴史、領土、外交、経済	米中国交正常化と日中関係／日米中トライアングル
第6回	韓国：民主化とナショナリズム	半島国家の地政学 南北統一の展望 日韓関係
第7回	北朝鮮：化石体制の行方	金王朝とスターリニズム／核兵器開発と6者協議／拉致問題
第8回	ベトナム戦争からカンボジアと平和：「戦場から市場へ」	独立と民族解放のベトナム戦争／ドイモイと市場経済／対中、対米関係

第 9 回	A S E A N：成長のは ざままで	アジア金融危機と開発独裁の問題 点／中進国のワナ／
第 10 回	民主化と開発：フィリ ピンとミャンマー	開発独裁から民主化したフィリピン やインドネシア、軍政のタイ、 ミャンマーの経験は？
第 11 回	南シナ海と領土紛争	A S E A N 地域フォーラムなど多 国間協調の意義と限界
第 12 回	米中新時代？ 冷戦の 再現？	米国の「アジア回帰」と中国の 「一帯一路」や海洋戦略／
第 13 回	日本の選択・	日米安保体制とは／朝鮮半島有事 シナリオ／対中戦略は？
第 14 回	講義内容のまとめと論 述試験	21 世紀の東アジアと日本につい て総括する。授業内で行った試験 や小レポート等、課題に対する講 評や解説も行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配る参考文献リストから一冊は精読すること。アジアで日々起きている問題について、その背景、現状、対応を説明できるように、ニュースサイトを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。授業支援システムや google クラウドを使ってレジュメや資料などを配布します。
参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

佐橋亮『米中対立』（中公新書）
毛利和子 『日中漂流』（岩波新書）
服部龍二 『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
同『日中国交正常化』（中公新書）
阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』（上下）
イアン・ブルマ 『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
若宮啓文 『和解とナショナリズム』
木宮正史『日韓関係史』
ドン・オーバードーフアー 『二つのコリア』（共同通信）
吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

最終授業までに提出するレポート（2000 字程度）にプレゼンなど授業参加を加味して評価します。
レポートのテーマ選択とプレゼンについては授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序は、できるだけ現実の国際社会の動きに合わせていくので、必ずアジアに関する国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipad などネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】

朝日新聞での 30 年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。
中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。
中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。
国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。
By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
対面授業は最低 7 回以上行う。
授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティヌスのペスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとペスト	ペスト／疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのペストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

Final grade will be calculated according to term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別に ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD

中東の政治と社会Ⅱ

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域の関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	US と中東	UA の中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

Final grade will be calculated according to term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the

relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens

through which politics and public affairs can be viewed.

POL300AD

日本の政治と外交 I

高橋 和宏

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦後日本の政治外交上の主要な 이슈を内政と外交との連関という視点から検証し、その現代的な意味を考える。具体的には、①占領・講和期の政治・安全保障（憲法制定、再軍備、サンフランシスコ平和条約と旧安保条約）、②安全保障政策の転換点（安保条約改定、沖縄返還、1980 年代の日米同盟、湾岸戦争とカンボジア PKO）、③戦後処理外交（日中関係、日ソ（ロ）関係、日韓関係、歴史認識問題）の 3 点を検討課題とする。

【到達目標】

戦後日本の政治・外交上の主要な論点を正確に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。映像資料を活用することで、より深い歴史理解を促す。初回の授業は対面では行わず、Zoom を用いたリアルタイムのオンライン授業とする。Zoom の情報は学習支援システムに掲示する。各回の授業の最後に小テストを課す。この小テストは学習支援システム上から回答するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。小テストへのフィードバックは、次の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、参考文献の紹介
第 2 回	占領・講和期の政治・安全保障 (1)	ポツダム宣言受諾・憲法制定・再軍備
第 3 回	占領・講和期の政治・安全保障 (2)	サンフランシスコ平和条約と旧・安全保障条約
第 4 回	安全保障政策の転換点 (1)	安保条約の改定と安保闘争
第 5 回	安全保障政策の転換点 (2)	沖縄返還
第 6 回	安全保障政策の転換点 (3)	1980 年代の日米同盟
第 7 回	安全保障政策の転換点 (4)	湾岸戦争とカンボジア PKO
第 8 回	戦後処理外交 (1)	日中国交正常化
第 9 回	戦後処理外交 (2)	1980～90 年代の日中関係
第 10 回	戦後処理外交 (3)	2000 年代以降の日中関係
第 11 回	戦後処理外交 (4)	日韓国交正常化
第 12 回	戦後処理外交 (5)	国交正常化後の日韓関係
第 13 回	戦後処理外交 (6)	日ソ国交正常化と北方領土問題
第 14 回	総括	これまでの議論を総括し、戦後日本政治外交の論点を俯瞰的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をよりよく理解するために、参考書を授業の予習・復習に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版増訂版）』有斐閣アルマ、2014年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

また、各回の授業冒頭で前回の授業の小テストの解説を行い、学生に自らの理解度を確認させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前の資料配布や授業各回に行う小テストの回答のために学習支援システムを利用するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野】

<専攻領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史

<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交
<主要業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course examines Japanese politics and diplomacy in the postwar era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered

- 1) political and security issues during the occupation era such as the establishment of the Constitution, negotiations over the Peace Treaty and the Japan-U.S. Security Treaty,
- 2) turning points of Japan's security policy such as amendment of the Security Treaty, negotiation for Okinawa reversion, and dispatch of corps to UN peacekeeping operations,
- 3) normalization of diplomatic relations and remaining problems with China, Russia, and South Korea, and historical issues concerning World War II.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the small tests(50%) and term-end examination(50%).

POL100AD

旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ

溝口 修平

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀末にソ連が崩壊したことによって、15の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。本講義では、ソ連崩壊後のロシア政治を中心に扱う。

比較政治学の理論的研究を参照しながら、ロシアの政治制度がどのようなものかを考えるとともに、ロシアとウクライナをめぐる問題がなぜ発生したのかを理解することを目指す。

【到達目標】

1. ロシアの政治制度の基本的特徴を説明できる。
2. 比較政治学の理論的研究に基づいて、ロシアの特殊性と他地域との共通点を説明できる。
3. ロシアとウクライナの関係の歴史的背景、ウクライナ危機の原因を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回配布する資料に基づいて講義形式で行います。リアクションペーパーを配布して授業内容の理解度を確認するとともに、質問等については翌週の授業でフィードバックします。

授業は原則として対面で行いますが、場合によってはオンライン授業を併用する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	ロシアの体制転換	ソ連崩壊後のロシアにおける憲法制定と政治制度の特徴について
3	執政制度	ロシアの大統領制の特徴について
4	市場と国家（1）	ソ連末期からの市場経済化とその結果について
5	市場と国家（2）	現在のロシアの企業と国家の関係について
6	議会制度と政党システム	議会制度の特徴と政党システムの変化について
7	中央・地方関係	連邦制の特徴とその変化について
8	ロシアと旧ソ連諸国の関係	在外ロシア人、移民問題について
9	ロシアとウクライナの関係（1）	ロシアとウクライナの関係の歴史、ソ連崩壊後の変化について
10	ロシアとウクライナの関係（2）	ウクライナ危機について
11	ロシアとウクライナの関係（3）	クリミア併合とドンバス紛争について
12	ロシア政治の現状（1）	ウクライナ危機後のロシアについて
13	ロシア政治の現状（2）	プーチン体制の支持基盤の変化について
14	ロシア政治の現状（3）	ロシアの憲法改正について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30 %）

期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクション・ペーパーを配布し、そこで出された質問に次の授業でできる限り答えるようにしています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

＜研究テーマ＞旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

＜主要研究業績＞

①「大統領任期延長の正統性―旧ソ連諸国における長期独裁政権の誕生」『国際政治』第 201 号、114-129 頁、2020 年。

②『ロシア連邦憲法体制の成立―重層の転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016 年。

③『連邦制の逆説？ ―効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016 年（共編著）。

など

【Outline (in English)】

The former Soviet countries have experienced various courses of political and economic transformation after the collapse of the Soviet Union. In this course, we will explore several aspects of post-Soviet Russian politics in detail. The course puts emphasis on studying the above topics from theoretical perspectives. We will deal with the following questions: What are the peculiarities of Russia's presidential system? Why has President Putin been so popular for a long time? Students will be required to pass both midterm and final exams.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が一致団結して感染拡大防止に取り組むことの重要性は明白だが、米中の対立や先進諸国の思惑の違いなどで、国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけて！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がっており、国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO 等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本の ODA にはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本の ODA の代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO 等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009 年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本の ODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013 年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018 年、『開発政治学を学ぶための 61 冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40 %）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけて！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たとされる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。

- 12 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② 日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
- 13 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ 2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱 (1992 年制定、2003 年改訂)」と比較しながら読み解く。
- 14 授業内容の振り返りと総括 これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4 サイズで 2 枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つーく 善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。
小坂井敏晶、2017 年、『答えない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (60 %) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (40 %) によって成績を評定する予定 (最終試験は行わない) であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目) ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オセアニアは、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの三地域からなるが、この名称、区分はヨーロッパからの外来者によるものであり、いずれの島も欧米諸国や日本による植民地化や占領の経験を持つ。また、現在の国や非自治地域の単位から見渡すと、大半を占めるのは小さな島嶼である。しかも、これら島嶼は太平洋に生存を依存しており、海からの視点で島じまを捉える必要がある。島尾敏雄は日本列島を「ヤポネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアの島嶼と歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本からのオセアニアへの関心は小さく、あったとしても情報に偏りや不正確が目立つ。ところが、オセアニアの島嶼には日本に注目し、日本と草の根の交流を行ってきた人びともいる。経済大国、技術大国として援助を求めるだけではない。なぜだろうか。

オセアニアの島嶼の現状をみると、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に現れている。例えば、海面上昇や巨大台風による被害、核実験による放射能被害は、島の人々の離散、社会、文化の消滅の危機をもたらす。彼らは極小国家、非自治地域であるがゆえに、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵や共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、問題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、オセアニア島嶼への人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を中心に学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

- ①オセアニアの島嶼の政治や社会の特徴、抱える問題を、歴史的な文脈のなかで理解することができる。
- ②オセアニアの島嶼から国際関係の歴史、基本的な概念や構造、動態を見つめ直し、これら島嶼が抱える問題から現代世界の諸問題に通じる視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①授業はオンラインで行う (ただし【その他の注意事項】を確認すること)。レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
- ③オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。 受講生の本授業への関心についてアンケートをとる。
第 2 回	「オセアニア」とは？	オセアニア研究に基づく呼称、範囲、概念を学ぶ。

第 3 回	現代日本におけるオセアニア認識	日本および受講者のオセアニア認識の特徴を確認し、本授業のオセアニア島嶼へのアプローチを確認する。
第 4 回	オセアニアの問題につながる日本①	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 5 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 5 回	オセアニアの問題につながる日本②	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 6 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 6 回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々が現在自らのアイデンティティーのよりどころとする航海や漁労を学ぶ
第 7 回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々が現在自らのアイデンティティーのよりどころとする、巨石文化を学ぶ。
第 8 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々の「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第 9 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化、現在の脱植民地化の問題との関連を学ぶ。
第 10 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化の実態を、具体的な事例から学ぶ。
第 11 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZAC 軍などを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦経験を学ぶ。
第 12 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第 13 回	受講生の関心に基づいたテーマ	受講生の関心を踏まえて決めたテーマについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
- ②オセアニア関連の HP など参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
- ③予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真島編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため記入する内容は無い。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。

- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。
- ・沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わって来たため、地域住民の経験をどう記録し、歴史として次世代に継承するか、そのための聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるのか、の経験に基づく「地域研究」の方法を紹介する。
- ・社会情勢の変化、これに伴う大学の方針によって授業形態が変化する場合は通知する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2. Final Report:50%

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅱ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの三地域からなるが、この名称、区分はヨーロッパからの外来者によるものであり、いずれの島も欧米諸国や日本による植民地化や占領の経験を持つ。また、現在の国や非自治地域の単位から見渡すと、大半を占めるのは小さな島嶼である。しかも、これら島嶼は太平洋に生存を依存しており、海からの視点で島じまを捉える必要がある。

島尾敏雄は日本列島を「ヤポネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアの島嶼と歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本からのオセアニアへの関心は小さく、あったとしても情報に偏りや不正確さが目立つ。ところが、オセアニアの島嶼には日本に注目し、日本と草の根の交流を行ってきた人びともいる。経済大国、技術大国として援助を求めるだけではない。なぜだろうか。

オセアニアの島嶼の現状をみると、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に現れている。例えば、海面上昇や巨大台風による被害、核実験による放射能被害は、島の人々の離散、社会、文化の消滅の危機をもたらす。彼らは極小国家、非自治地域であるがゆえに、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵や共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、問題に取り組んできた。

本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、日本が最も深いかわりを持つミクロネシアを中心に学ぶ。本年度の「オセアニアの政治と社会Ⅰ」を受講していることを強く推奨する。

【到達目標】

- ①オセアニアをミクロネシアと日本との関わり合いを通じて学ぶ。
- ②ミクロネシアと日本との関係を、歴史から、そして歴史に学び、国際関係や日本の近現代史を捉え直す。
- ③ミクロネシアと日本の関係を踏まえ、太平洋島嶼の一員としての日本の立場性、役割について基礎的な知識を身につけ、自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①授業はオンラインで行う（ただし【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
- ③オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションー 三つのネシアとミクロ ネシア	授業の進め方、注意事項の説明。 「オセアニアの政治と社会Ⅰ」と の関連づけ。受講生の本授業テーマ についてアンケートをとる。

第 2 回	ミクロネシアと日本との 関係の現在	ミクロネシアと日本との現在の関係のトピックスを紹介し、第 3 回 以後のテーマの意義を確認する。
第 3 回	法的な側面からみた南洋 群島統治の特徴	日本の植民地法制度のなかで南洋 群島統治の特徴を確認する。
第 4 回	「南洋群島」時代のミ クロネシア①ー委任統 治制度	委任統治として行われた日本による ミクロネシア統治を、一次世界 大戦後の世界の植民地支配体制の 再編のなかで学ぶ。
第 5 回	「南洋群島」時代のミ クロネシア②ー 植民地 社会の特徴	現地住民人口の 2 倍もの日本人が 移住し、なかでも沖縄出身者が多 かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第 6 回	「南洋群島」時代のミ クロネシア③-チャモ ロとカロリニアンを経 験	チャモロとカロリニアンの植民地 経験を、日本の教育政策を中心に 学ぶ。
第 7 回	The Typhoon of Warーミクロネシア の第二次世界大戦経験 ①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われ た南洋群島での戦争を、沖縄戦と 比較し関係づけながら、オセア ニアの島嶼についての戦争経験を理 解する。
第 8 回	The Typhoon of Warーミクロネシア の第二次世界大戦経験 ②	南洋群島での戦争を生き抜いてき た人々が戦争経験をどう伝えよう としているか、非体験者としての その継承を考察する。
第 9 回	「核の海」ミクロネ シアー核実験の開始と住 民の犠牲	度重なる核実験を実施したアメリ カ、アメリカの核の傘のもとにあ る日本、核による軍事植民地化を 強いられたミクロネシア、につい て学ぶ。
第 10 回	「核の海」ミクロネ シアー戦略的信託統治	「核の海」を生み出したアメリカ による戦略的信託統治と、ミクロ ネシアの人々の離散、脱植民地化 への取り組みを学ぶ。
第 11 回	「核の海」ミクロネ シアー「ビキニ事件」	冷戦体制下の日米関係、日本への 原子力発電の導入、日本から世界 に広がった反核運動を「ビキニ事 件」から学ぶ。
第 12 回	ミクロネシアと日本の 関係再開	「ミクロネシア協定」から始まる、 戦後日本とミクロネシアとの関係 を学ぶ。
第 13 回	ミクロネシアと日本- 受講生の関心にに基づ いて	受講生の関心を踏まえ決めたテー マについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業を総括し、私たちとオセア ニアの島嶼との関係を改めて考え る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
- ②オセアニア関連の HP などを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
- ③予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』2012 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本ー日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①リアクションペーパー、適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。
 ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため記入する内容は無い。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。
- ・沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わって来たため、地域住民の経験をどう記録し、歴史として次世代に継承するか、そのための聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるのか、の経験に基づく「地域研究」の方法を紹介する。
- ・社会情勢の変化、これに伴う大学の方針によって授業形態が変化する場合は通知する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/ Japanese as a member of Pacific Islands/ Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Final Report:50%

POL300AD

国際機構論 I

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations I”, students will learn about the definition, roles, categories, functions, and history of international organizations. They will learn about the role of the United Nations (UN) and how various UN agencies tackle key global issues, including international peace and security, economic and social development, human rights, and humanitarian assistance. UN’s activities to support the achievement of the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) will be examined. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the conditions and circumstances that led to the creation of international organizations as well as their role in the world. Their understanding will be particularly enhanced on the unique role of the UN as well as their strengths and limitations by examining the function of its principal organs and various UN agencies. The students will also understand how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to international organizations	Definition and roles of international organizations
2	Types of international organizations	Different categories and functions of international organizations
3	Background of international organizations	History of international organizations
4	The League of Nations	The League of Nations, success and shortcomings

5	Foundation of the United Nations (UN) System	Charter of the UN; purposes and principles of the UN
6	UN System and its structure	UN structure, its principal organs and decision making
7	UN General Assembly	Role of UN General Assembly
8	Conflict prevention and Security Council	UN's role in conflict prevention
9	Peacekeeping and Security Council	UN's role in peacekeeping
10	Peacebuilding	UN's role in peacebuilding
11	Economic and social development	UN's role in economic and social development
12	Humanitarian assistance	UN's role in humanitarian assistance
13	Human rights	UN's role in human rights, Human Rights Council
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

・United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations (42nd Edition). United Nations Publication, New York, 2017.

・Clive Archer, International Organizations, Fourth edition. London and New York: Routledge, 2015.

・国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、関西学院出版会、2018

【参考書】

・植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018年）
 ・山田哲也『国際機構論入門』（東京大学出版会、2018年）
 ・横田洋三（監修）『入門 国際機構』（法律文化社、2016年）
 ・最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）
 ・渡部茂己・望月康恵（編著）『国際機構論 総合編』（国際書院、2015）
 ・吉村祥子・望月康恵（編著）『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）
 ・Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, Hylke Dijkstra, International Organizations, third edition. Palgrave MacMillan, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Class participation(30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international organizations.

【Outline (in English)】

As written above.

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会 I

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ラテンアメリカ地域の多様性を学び、この地域の政治と社会を理解するための基本的な視点を学ぶことを目的とする。そのためにまず、ラテンアメリカの政治史を振り返り、いくつかの国を取り上げて地域の多様性を学ぶ。これを基礎として、現在のラテンアメリカ諸国が直面する課題とそれに対してどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会の多様性ならびに地域の特徴について説明できるようになる。
2. ラテンアメリカ地域内の関心を持った国について、その政治および社会の特徴と課題を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第2回	政治体制の変遷	植民地支配からの独立、ナショナリズム、ポピュリズム、軍政
第3回	民主化・経済危機の1980年代	民主化の要因と南米諸国の民主化について理解する
第4回	新自由主義の時代	新自由主義がもたらした問題群
第5回	地域的多様性①	アルゼンチンの政治と社会の特徴を理解する
第6回	地域的多様性②	ブラジルの政治と社会の特徴を理解する
第7回	地域的多様性③	メキシコの政治と社会の特徴を理解する
第8回	地域的多様性④	中米諸国の政治と社会の特徴を理解する
第9回	地域的多様性⑤	カリブ海諸国の政治と社会の特徴を理解する
第10回	現代社会の課題①	貧困と格差
第11回	現代社会の課題②	先住民運動と文化的多様性
第12回	現代社会の課題③	組織犯罪と暴力
第13回	現代社会の課題④	政治の左傾化と社会運動
第14回	試験・まとめと解説	春学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%

授業内課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際には、学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to study the diversity of the Latin American region and to learn the basic perspectives for understanding the politics and society of this region. To this end, we will first look back at the political history of Latin America and study the diversity of the region by focusing on several countries. Based on this, we will consider the challenges that Latin American countries are facing today and how they are tackling them.

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際関係とラテンアメリカとの連関について学び、ラテンアメリカ地域の政治と社会を理解するための視点を学ぶ。そのためにまず、アメリカ合衆国との関係を中心としたラテンアメリカの国際関係史を振り返る。これを基礎として、地球規模の様々な課題に対してラテンアメリカ地域がどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会を特徴づけてきた国際関係要因について説明できるようになる。
2. 関心を持った地球規模課題とラテンアメリカ地域との関わりについて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第 2 回	国際関係史①	植民地支配からの独立と経済発展
第 3 回	国際関係史②	米国の覇権主義の拡大
第 4 回	国際関係史③	経済危機とネオリベリズムの台頭
第 5 回	国際関係史④	ポスト冷戦期の地域協調
第 6 回	中間まとめ	国際関係におけるラテンアメリカ
第 7 回	地球規模課題とラテンアメリカ①	軍縮・非核地帯
第 8 回	地球規模課題とラテンアメリカ②	武力紛争と平和
第 9 回	地球規模課題とラテンアメリカ③	人権
第 10 回	地球規模課題とラテンアメリカ④	移行期正義
第 11 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑤	地球環境問題
第 12 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑥	貧困問題
第 13 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑦	社会運動
第 14 回	試験・まとめと解説	秋学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

畑恵子・浦部浩之編『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論、2021 年。
その他の参考資料は授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%

授業内課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は春学期開講の「ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ」を履修済みであることを前提に進める。未履修の場合は、初回授業時に提示する参考文献を第 2 回講義時までに読んでおくこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the linkage between international relations and Latin America, and learn perspectives for understanding the politics and society of the Latin American region. To this end, we will first review the history of Latin American international relations, with a focus on relations with the United States. On this basis, we will consider how the Latin American region is addressing various global issues.

POL300AD

国際経済論Ⅰ

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T A や E P A などが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題 (13 回を予定) (30 %) と、授業内に行う期末試験 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

POL300AD

国際経済論Ⅱ

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第 2 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 3 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 4 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 5 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 6 回	金融政策と為替レート	オーバーシュート・テイングモデル
第 7 回	長期の為替レート決定①	購買力平価
第 8 回	長期の為替レート決定②	実質為替レート
第 9 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 10 回	国際通貨制度	歴史の概観
第 11 回	金融のグローバル化と	リスクと銀行危機
第 12 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 13 回	発展途上国と通貨危機	国際金融システム改革
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
 なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
 高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

LAW200AB

商法入門Ⅰ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの影響により、春学期は対面とオンラインでの開講となる。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	「商法入門」で何を学ぶか？	・商法の意義 ・商法適用
第 2 回	商法総則（1）	・商人と営業 ・商業登記 ・商号
第 3 回	商法総則（2）	・商業帳簿 ・商業使用人 ・代理商
第 4 回	会社（1）	・会社の意義 ・会社の設立
第 5 回	会社（2）	・株式制度
第 6 回	会社（3）	・株主総会制度
第 7 回	会社（4）	・取締役と取締役会
第 8 回	会社（5）	・監査役と監査役会
第 9 回	会社（6）	・委員会型会社制度
第 10 回	商行為（1）	・商法行為の概念と類型
第 11 回	商行為（2）	・約款の効力とその規制
第 12 回	商行為（3）	・企業間の売買（商事売買）
第 13 回	商行為（4）	・運送営業と運送取扱営業
第 14 回	商行為（5）	・倉庫営業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編『現代商法入門（第 10 版）』2018 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講にともない、成績評価は、期末レポート試験の結果に基づいて行うこととする。期末試験試験の成績基準は、100%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Commercial law and Practice

LAW200AB

商法入門Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	保険制度 (1)	・ 保険の仕組み ・ 保険契約の概念と類型
第 2 回	保険制度 (2)	・ 損害保険契約 (1)
第 3 回	保険制度 (3)	・ 損害保険契約 (2)
第 4 回	保険制度 (4)	・ 損害保険契約 (3)
第 5 回	保険制度 (5)	・ 生命保険契約 (1)
第 6 回	保険制度 (6)	・ 生命保険契約 (2)
第 7 回	保険制度 (7)	・ 傷害疾病定額保険契約 (1)
第 8 回	保険制度 (8)	・ 傷害疾病定額保険契約 (2)
第 9 回	手形・小切手 (1)	・ 手形・小切手の機能
第 10 回	手形・小切手 (2)	・ 手形行為 ・ 手形の振出
第 11 回	手形・小切手 (3)	・ 手形の裏書き
第 12 回	手形・小切手 (4)	・ 手形保証 ・ 手形の支払い
第 13 回	手形・小切手 (5)	・ 遡求
第 14 回	手形・小切手 (6)	・ 手形上の権利の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第 10 版）』 2018 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Commercial law and Practice

LAW200AB

法律実務入門 I

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律実務家をめざす人のための入門講座です。法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと感じます。弁護士や裁判官、検察官といった「法曹三者」についてはある程度理解していても、自分の将来の進路としては少し難しすぎると考える学生も多くいて、結局は法律実務家の道をあきらめてしまうのでしょうか。しかし、世の中には、法曹三者以外にも、実に様々な法律実務家が存在し、彼らは立派に自立して社会的に有益な活動をしています。こうした法律実務家のことをほとんど知らない学生に、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことがこの授業の目的です。この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

※ コロナが収まらない状況から、今年度春学期もオンライン授業が予定されます。そこで、オンラインを念頭に置いて記します。

・通常の授業時間帯に Zoom を利用して実施します。

・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（4 月 8 日（金）2 限目）に Zoom にて説明します。

・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。

・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の様子が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoom の設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力願います。

・主催者側が講義内容を録画することはありません。個別の通信回線不調を理由とした講義の再実施にも応じられません。オンライン講義のリスクとして引き受けてください。

・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムを通じて事前に周知いたします。「お知らせ」にアクセスして入手しておいてください。

・2 回目以降、各回の講義終了後に主に選択式のミニテストを実施します。期限までに解答してください。（解答時間は、授業時間内（～12：20）で先生の講義終了後 10 分程度と考えています。）

・質問は、Zoom のチャットを利用する方法と学習支援システムの「課題（リアクションペーパー（質問））」の方法があります。「課題（リアクションペーパー（質問））」は時間制限を設けています。授業時間終了前 15 分程度です。ミニテストと重なりますが、ご了承ください。

※ 質問等への回答について、チャットでの質問については、講師の先生が口頭で回答します。学習支援システムの「課題（リアクションペーパー（質問））」への回答については、前年度の経験では多数の場合が多いので 15 分程度に絞ってそれについて講師の先生に回答をお願いし、寄せられた回答を、授業支援システムの「お知らせ」欄にアップして対応します。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	この講義の目的と全体構成について	担当者によるこの講義の目的や授業の進め方についての説明
第 2 回	法律実務家を目指す諸君へ	法政士業の会長による講義
第 3 回	弁護士の職務と役割	弁護士による講義
第 4 回	裁判実務について	裁判官による講義
第 5 回	検察官の職務と役割	検察官による講義
第 6 回	法科大学院の仕組みと機能	法科大学院教授による講義
第 7 回	法曹三者の職務について	担当者による講義と授業内中間試験
第 8 回	地方公務員の職務と役割	地方公務員による講義
第 9 回	労働基準監督官の職務と役割	労働基準監督官による講義
第 10 回	公認会計士の職務と役割	公認会計士による講義
第 11 回	弁理士の職務と役割	弁理士による講義
第 12 回	社会保険労務士の職務と役割	社会保険労務士による講義
第 13 回	不動産鑑定士の職務と役割	不動産鑑定士による講義
第 14 回	法律実務家を目指すことについて	担当者による総括と定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありませんが、各講師の授業についてのレジュメを配布します。「授業支援システム」の「教材」欄を参照してください。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

◎ ミニテスト、中間・定期試験および平常点・質問によって評価します。

（講義後に実施するミニテスト）

・2 回目以降の講義終了後に主に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点 70 点）

・解答時間は、各回の講義終了後 10 分程度を考えています。授業終了時刻内で終わるように時間配分するつもりです。

（中間・授業内定期試験）

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準にします（各 10 点、合計 20 点）

（平常点・質問）

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点 10 点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義ですが、実務家の講師選択に対する注文もあります。講師の幅を広げてみることを考えないと思っています。

従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭さ、マイク設備の不備－は、改善されています（対面授業の場合）。

過去において学生の私語や授業途中の無断（注意無視の）退席など、講師の先生に対する失礼な行動も散見されました。学生のモラルに問いかけつつ、厳粛に対応する必要も感じています。なお、オンライン授業でも私語をミュートをわざわざ外して行った受講生がいました。厳粛に対処する必要性を痛感しています。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンもしくはパソコン（オンライン授業ですから。それだけではなく、学習支援システムでミニテストを行う予定のためです。場所によってはうまくつながらずミニテストができなかったということもあります。そうならないように注意してください。）

【Outline (in English)】**(1) 【Course outline】**

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, Patent attorney, Certified Public Accountants, Labor standards inspectors, etc.

This course contents from 11 guest speakers of above Law practitioners.

(2) 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term and Term-end examination: 20%、Short reports after each class meeting: 70%、in class contribution: 10%

LAW200AB

法律実務入門Ⅱ

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文字通り法律実務家をめざす人のための入門講座です。春学期の「法律実務入門Ⅰ」の続編です。

法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと思います。この科目は法律実務家から直に職務を伺うことにより、近い将来の進路を真剣に考えるきっかけとし、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことを目的としています。

秋学期は、弁護士の様々な仕事をより具体的なテーマに即して講義をしていただきます。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※ 外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を進めます。

※ コロナがどうなるかわかりませんが、「対面」で実施するつもりです。

※ 予定変更などで「学習支援システム」の「お知らせ」を使用して連絡することが多いと思います。ご注意ください。

●対面方式の授業の進め方

・金曜日の2限目に所定の教室で行います。

・教材（レジュメ等）は、「学習支援システム」の「教材」欄にアップロードいたします。

・出席カードによる出席チェックを行います。

・講義終了後授業終了時刻までの時間（10分程度）で、ミニテストを実施します。ミニテストは、「授業支援システム」の「テスト/アンケート」を活用します。オンライン授業の場合を参照してください。

・質問については、対面ですので、講師の先生の意向によります。直接質問してみてください。その際、学生番号・氏名を述べてから、質問願います。

・そのほかの質問方法として、「授業支援システム」の「課題」欄に設けた「リアクションペーパー（質問）」を用意しました。授業時間内で記入するように時間制限します。また、質問が多い場合は回答いただく質問をこちらで選ばせていただきます。いずれも、講師先生の回答に要する時間となるべく早く回答いただくためです。ご理解ください。回答は「学習支援システム」の「お知らせ」欄にアップします。

●オンライン授業の場合

・通常の授業時間帯に Zoom を利用して行います。

・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。

・先に触れましたが、講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員ではありません。そのため、この講義の模様が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなります。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoom の設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力お願いいたします。

・主催者側が講義内容を録画することはありません。個別の通信回線不調を理由とした講義の再実施にも応じられません。オンライン講義のリスクとして引き受けてください。

・Zoom のミーティング ID やパスワードは、「学習支援システム」を通じて事前に周知いたします。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムに事前にアップロードいたします。

・第2回以降の講義終了時に、授業時間内のミニテストを実施します。時限終了時刻（12：20までに解答してください（解答時間は10分程度）。

・質問等は、授業内で Zoom のチャットを利用するか、学習支援システムの「課題」欄に用意した「リアクションペーパー（質問）」を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講座の目的を考える－秋学期を迎えて	担当者による本講義の目的と内容
第2回	知的財産権と弁護士	弁護士による講義
第3回	家事事件と弁護士	弁護士による講義
第4回	会社再建と弁護士	弁護士による講義
第5回	民事調停と弁護士	弁護士による講義
第6回	大学教員の活動について	担当者による講義と中間試験
第7回	人権裁判と弁護士	弁護士による講義
第8回	司法書士の職務と役割	司法書士による講義
第9回	税理士の職務と役割	税理士による講義
第10回	企業経営者から見た法律実務家の必要性	経営者・企業法務担当者による講義
第11回	会社顧問弁護士の役割	弁護士による講義
第12回	労働者側弁護士の役割	弁護士による講義
第13回	「働き方」としての弁護士	弁護士による講義
第14回	総括－法律実務家を目指すことを問う	科目担当者によるまとめと授業内定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

◎ ミニテスト、中間・定期試験および平常点・質問によって評価します。

（講義後に実施するミニテスト）

・2回目以降の講義終了後に主に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点70点）

・解答時間は、各回の講義終了後10分程度を考えています。授業終了時刻内で終わるように時間配分するつもりです。

（中間・授業内定期試験）

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準にします（各10点、合計20点）

（平常点・質問）

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点10点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義であるが、実務家の講師選択に対する注文もある。講師の幅を広げてみることも考えたい。

なお、従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭さ、マイク設備の不備－は、昨年度新教室に移動したことによって改善された。

後部座席の学生の私語や学生の授業途中の退席などの指摘もある。学生のモラルに問いかけつつ、対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンもしくはパソコン（対面授業であっても、授業中に学習支援システムを使ってレジュメ等を利用する可能性があります。また、ミニテストは、学習支援システムを使います、そのため必要になります。）

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, etc.

This course contents from 11 guest speakers of Lawyers, Judicial scrivener, Tax Accountant, etc.

(2) 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term and Term-end examination: 20%, Short reports after each class meeting: 70%, in class contribution: 10%

POL300AC

外国書講読（英語）Ⅰ

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通じて、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。

【到達目標】

語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に文献を読み、当日、日本語訳・要約ならびに討論を行う。なお、講義の進捗状況や受講者の到達度に従い、その都度テキストを指定する。

随時、リアクションペーパー等の提出を受け、それに基づいて講義を補足する。

感染症の状況によっては、遠隔で実施することもありうる。学習支援システムにおいて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読	文献を読み、議論する。①
第 2 回	文献講読	文献を読み、議論する。②
第 3 回	文献講読	文献を読み、議論する。③
第 4 回	文献講読	文献を読み、議論する。④
第 5 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑤
第 6 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑥
第 7 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑦
第 8 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑧
第 9 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑨
第 10 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑩
第 11 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑪
第 12 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑫
第 13 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑬
第 14 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定範囲の文献を事前に必ず読むこと。積極的に討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に相談の上、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

語学的な向上と、政治学的な知見を総合的に、平常点により評価。

【学生の意見等からの気づき】

初回につき該当せず。

【その他の重要事項】

感染症の状況に応じて、対面または遠隔で実施する。対面で実施する場合にも、遠隔での参加も可能なように手配する。

【Outline (in English)】

This class aims to improve your grammatical skills and vocabularies, and to help you to have advanced knowledges in political studies. As this is a joint-class with a grauate school, you will be most welcome if you are planning to go on to school.

POL300AC

外国書講読（英語）Ⅱ

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通じて、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。

【到達目標】

語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に文献を読み、当日、日本語訳・要約ならびに討論を行う。なお、講義の進捗状況や受講者の到達度に従い、その都度テキストを指定するので、具体的な進行についてはここでは記載しない。随時、リアクションペーパー等の提出を受け、それに基づいて講義を補足する。感染症の状況によっては、遠隔により実施する。学習支援システムにおいて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読	文献を読み、議論する。①
第 2 回	文献講読	文献を読み、議論する。②
第 3 回	文献講読	文献を読み、議論する。③
第 4 回	文献講読	文献を読み、議論する。④
第 5 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑤
第 6 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑥
第 7 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑦
第 8 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑧
第 9 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑨
第 10 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑩
第 11 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑪
第 12 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑫
第 13 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑬
第 14 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定範囲の文献を事前に必ず読むこと。積極的に討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に相談の上、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

語学的な向上と、政治学的な知見を総合的に、平常点により評価。

【学生の意見等からの気づき】

初回につき、該当せず。

【その他の重要事項】

感染症の状況に応じて、対面または遠隔で実施する。対面で実施する場合にも、遠隔での参加も可能なように手配する。

【Outline (in English)】

This class aims to improve your grammatical skills and vocabularies, and to help you to have advanced knowledges in political studies. As this is a joint-class with a grauate school, you will be most welcome if you are planning to go on to school.

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引ながら原書の文章を読めるようにします。

課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。受講者の関心が一致すれば、教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・昨年度の春学期は、『ル・モンド』の抜粋とエミール・ゾラの短編などを読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension. The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC

外国語講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら原書の文章を読めるようにします。

課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。受講者の関心が一致すれば教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・昨年度の秋学期はエミール・ゾラの「我弾劾す」を読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL200AC

ヨーロッパ政治史 I

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行うとともに、授業の前提としてヨーロッパに成立した「国民国家」という枠組について説明する。
2	自由主義的議会政治	19 世紀のヨーロッパ政治を概観し、そこにおける中心的な理念としての自由主義と、それを基礎とする議会政治の枠組みについて説明する。
3	民主主義の挑戦	20 世紀に入って選挙権がすべての成人（男子）に拡大されたことで、19 世紀の政治モデルがどのような困難に直面し、どのような解決が模索されたか、概観する。
4	オランダ・ベルギー (1)	オランダやベルギーの政治発展を、「柱」という観点から検討する。
5	オランダ・ベルギー (2)	オランダやベルギーの政治発展を、「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する。

6	北欧諸国 (1)	北欧諸国の政治発展を、「社会的亀裂」という観点から検討する。
7	北欧諸国 (2)	北欧諸国の政治発展を、「福祉国家」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足の内容を講じる。
9	ドイツ (1)	ドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する。
10	ドイツ (2)	ドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する。
11	イギリス (1)	イギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する。
12	イギリス (2)	イギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足の内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。
中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。

授業内課題 26%：主にリアクション・ペーパー。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.

"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC

ヨーロッパ政治史Ⅱ

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う。
2	戦後ヨーロッパの政治変動	第二次大戦後のヨーロッパ政治と、そこにおける政治変動の「波」を概観する。
3	デモクラシーの変容から融解へ？	戦後ヨーロッパ型のデモクラシーがどのように変容してきたかを概観する。
4	フランス (1)	フランスの政治発展を、「議会主権体制」という観点から検討する。
5	フランス (2)	フランスの政治発展を、「半大統領制」という観点から検討する。
6	イタリア (1)	イタリアの政治発展を、「自由主義と政治的クライエントリズム」という観点をから検討する。
7	イタリア (2)	イタリアの政治発展を、「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足の内容を講じる。

9	南欧諸国 (1)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「権威主義体制」という観点から検討する。
10	南欧諸国 (2)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「民主制への移行」という観点から検討する。
11	中欧諸国 (1)	中欧諸国の政治発展を「社会主義体制からの体制変動」という観点から検討する。
12	中欧諸国 (2)	中欧諸国の政治発展を「民主制の定着」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。
中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。

授業内課題 26%：小テスト、リアクション・ペーパーなどを実施する。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.

"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

LAW300AB

人権と企業社会 I

土屋 仁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：オースタムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代資本主義社会の経済活動は、企業によって支えられ、企業の活動は、社会全体に大きな影響力を与えています。現代社会における企業活動には、営利を追求するだけでなく、社会の一員として、労働、環境、消費等に関わる社会的な問題を解決するための行動が求められています。そこで、現代社会が抱える問題に企業が対応する意義や必要性について理解を深めつつ、人権保障の観点から問題を考察する力を身に付けます。「企業・経営と法コース」のコース配当科目③憲法科目に位置づけられます。

【到達目標】

- ① 企業活動における関係当事者の権利を理解する。
- ② 人権保障の観点から、企業活動に求められる対応や取組みを理解する。
- ③ 法的な観点から問題を把握し、考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

企業活動における利害関係者の権利を理解したうえで、国内外の具体的な事例について、関連する判例や学説をもとに、講義形式で授業を進めていきます。

授業内で取り組んだ課題等（テスト／レポート）については、学習支援システム等を用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業社会の形成と企業の社会的責任	日本型企業社会の特徴と、社会の一員としての企業の責任について学びます。
第 2 回	企業活動による人権保障の重要性	企業活動における人権保障の重要性について、人権の私人間効力の観点から学びます。
第 3 回	ステークホルダーの権利と法規範	企業活動に関わる利害関係者として、労働者、消費者、地域住民等の権利について学びます。
第 4 回	国際社会におけるビジネスと人権	国際法の中でも経済分野に焦点を当て、自由貿易体制の維持と人権保障について学びます。
第 5 回	環境保護に対する国内外的取組	気候変動や公害の輸出の問題について、環境権の観点から企業活動における環境保護の必要性について学びます。
第 6 回	長時間労働の是正と過労死等の防止	長時間労働の是正と過労死等の防止の観点から、労働者の権利保障について学びます。
第 7 回	雇用分野における女性の活躍の推進	雇用分野における男女格差の是正について、ジェンダー平等やポジティブアクションの観点から学びます。
第 8 回	消費者問題の特徴と消費者の権利	消費者被害の現状を把握し、消費者契約の特徴について、消費者の権利の観点から学びます。

第 9 回	食品の安全性の確保	消費者の生命権・健康権の観点から、商品・サービスにおける安全性確保の必要性について学びます。
第 10 回	営利的表現としての広告・表示	営利的表現としての広告・表示について、事業者の表現の自由と消費者の知る権利の観点から学びます。
第 11 回	AI ネットワーク社会における自己決定	プロファイリングに基づくマーケティングの問題点について、消費者の自己決定の観点から学びます。
第 12 回	ビックデータの利活用と個人情報の保護	プライバシー権の観点から、企業が保有するビックデータの利活用における個人情報保護について学びます。
第 13 回	巨大 IT 企業と競争市場の維持	企業が活動する市場に焦点を当て、営業の自由の観点から、巨大 IT 企業に対する規制について学びます。
第 14 回	試験 (レポート)・まとめと解説	授業内容についての試験 (レポート) を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。
講義時にレジュメ・資料を配布します。
講義の際には、六法を持参してください。

【参考書】

元山 健・建石真公子編『現代日本の憲法 [第 2 版]』(法律文化社、2016 年)
『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅰ 第 7 版』(有斐閣、2019 年)
『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅱ 第 7 版』(有斐閣、2019 年)
『(別冊ジュリスト) 労働判例百選 第 9 版』(有斐閣、2016 年)
『(別冊ジュリスト) 環境法判例百選 第 3 版』(有斐閣、2018 年)
『(別冊ジュリスト) 消費者法判例百選 第 2 版』(有斐閣、2020 年)

【成績評価の方法と基準】

各講義の小テスト (40 %)、レポート (60 %) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が能動的に参加できるように、受講者自身が問題と向き合い考える時間 (小テスト・小レポート) を設けます。受講者数によって、グループディスカッション等を行う場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

In Modern capitalism, business activities have great influence on society. As a member of society, business enterprises need to take actions with social problems related to labor, environment, and consumption, etc. The aim of this course is to help students learn about the significance of business activities to protect the human rights.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

The overall grade for the class will be determined based on the following.

short tests(each class): 40%, short reports(3 times): 60%

POL200AC

アメリカ政治史Ⅰ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本年度は、19 世紀末から現代までのアメリカ史について講義します。

【到達目標】

われわれの目に映る現代のアメリカ合衆国は、どのような経緯を経ていまの姿をとるようになったのかを検討するのが本授業の目的です。合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ史を辿ります。アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると 생각합니다。また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での対面授業を行なう予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。
オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどを記したリアクションペーパーを提出してください。それについては、次回までに HOPPII をとおして回答します。
(すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します)
毎回リアクションペーパーを書いてもらいます。そこに書かれた質問・コメント等については、次回の授業までに回答します。
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカ史を学ぶということ
第 2 回	初期アメリカ史 1	植民地時代
第 3 回	初期アメリカ史 2	独立と建国
第 4 回	19 世紀アメリカ史 1	共和政とデモクラシー
第 5 回	19 世紀アメリカ史 2	南北戦争とその後
第 6 回	世紀転換期 1	ポピュリズム
第 7 回	世紀転換期 2	米西戦争と海洋帝国
第 8 回	革新主義の時代 1	革新主義の政治
第 9 回	革新主義の時代 2	革新主義の思想
第 10 回	第一次大戦	孤立主義と国際主義
第 11 回	戦間期	1920 年代の社会
第 12 回	ニューディール 1	ニューディール政策
第 13 回	ニューディール 2	国家の変容と新しい自由主義

第14回 顧みれば 20世紀前半のアメリカ史の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示しますので、それを読むようにしてください。

とりわけ、教科書は、読んでいることを前提にして授業しますので、授業中にはその内容について触れない場合もあります。ですから、教科書は必読です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

齋藤眞・古矢旬『アメリカ政治外交史 第二版』（東京大学出版会、2012年）

（齋藤眞『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会、1975年）でも構いません。ただし、第11章、第12章、終章が欠けています）。購入は必須ではありませんが、この教科書を読んでいることを前提に授業をおこないます。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

資料は、コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）

Grading will be decided on the term-end examination only.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅱとセットになっています。できるだけ、両方の科目とも履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

U.S. Political History from Late-19th century to the Present Day

POL200AC

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。

本年度は、19世紀末から現代までのアメリカ史について講義します。

【到達目標】

われわれの目に映る現代のアメリカ合衆国は、どのような経緯を経ていまの姿をとるようになったのかを検討するのが本授業の目的です。合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ史を辿ります。アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると 생각합니다。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での対面授業を行なう予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。

オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。

受講者は、毎回、質問・コメントなどを記したリアクションペーパーを提出してください。それについては、次回までに HOPPII をとおして回答します。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	トルーマン・ドクトリン	冷戦の発生
第2回	冷戦期のアメリカの「国体」	国体としてのニューディール体制の確立
第3回	アイク政権とケネディ政権	冷戦の進行
第4回	対抗文化の時代	「国体」への異議申し立て
第5回	ニューディール体制の自壊？	「国体」の衰退
第6回	レーガンの登場	保守主義の台頭
第7回	新国際秩序の模索	冷戦の終焉
第8回	第三の道？	民主党の変容
第9回	アメリカの世紀	唯一の超大国
第10回	9・11後のアメリカ	新保守主義の外交
第11回	Yes I Can	オバマ政権下のアメリカ政治

第12回 トランプの登場 アメリカ社会の分断
 第13回 America Now アフター・トランプ
 第14回 「アメリカの世紀」再訪 アメリカは「帝国」だったのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示しますので、それを読むようにしてください。

とりわけ、教科書は、読んでいることを前提にして授業しますので、授業中にはその内容について触れない場合もあります。ですから、教科書は必読です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

齋藤眞・古矢旬『アメリカ政治外交史 第二版』（東京大学出版会、2012年）
 （齋藤眞『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会、1975年）でも構いません。ただし、第11章、第12章、終章が欠けています）。
 購入は必須ではありませんが、この教科書を読んでいることを前提に授業をおこないます。

【参考書】

授業中適宜紹介します。
 資料は、コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100%）
 Grading will be decided on the term-end examination only.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

U.S. Political History from Late-19th century to the Present Day

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（政治学の原典を読む）

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある学生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる学生であっても、政治学科に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学科生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、高校の政治・経済ないしは倫理の資料集や用語集でとりあげられていて、受験勉強で覚えるなどして聞いたことはあるが実際に手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。さしあたりハーバースマスやロールズなどを念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は演習科目ではないが、授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
3	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
4	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
5	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
6	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
7	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
10	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
11	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
12	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
13	ハーバースマス	『後期資本主義における正統化の問題』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

ハーバーマス『後期資本主義における正統化の問題』岩波書店
 ロールズ『正義論』紀伊國屋書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken
 bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.
 English Keyword: classical works of political science

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（政治学の原典を読む）

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある学生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる学生であっても、政治学科に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学科生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、高校の政治・経済ないしは倫理の資料集や用語集でとりあげられていて、受験勉強で覚えるなどして聞いたことはあるが実際に手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。さしあたりハーバーマスやロールズなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は演習科目ではないが、授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ロールズ	『正義論』
3	ロールズ	『正義論』
4	ロールズ	『正義論』
5	ロールズ	『正義論』
6	ロールズ	『正義論』
7	ロールズ	『正義論』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	ロールズ	『正義論』
10	ロールズ	『正義論』
11	ロールズ	『正義論』
12	ロールズ	『正義論』
13	ロールズ	『正義論』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

ハーバーマス『後期資本主義における正統化の問題』岩波書店
 ロールズ『正義論』紀伊國屋書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keyword: classical works of political science

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（日韓比較政治思想）

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包容し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（前期）	講義全般についての紹介 オリエンテーション
第二回	近現代の日韓における	関連内容の紹介・説明 状況について
第三回	日韓関係をめぐる市民	関連内容の紹介・説明 社会の論理と心理について①
第四回	日韓関係をめぐる市民	関連内容の紹介・説明 社会の論理と心理について②
第五回	日韓における人間と道	関連内容の紹介・説明 徳認識について①
第六回	日韓における人間と道	関連内容の紹介・説明 徳認識について②
第七回	日韓におけるナショナル	関連内容の紹介・説明 リズムの諸問題について①
第八回	日韓におけるナショナル	関連内容の紹介・説明 リズムの諸問題について②

- 第九回 歴史的視座から見た日 関連内容の紹介・説明
韓における西欧認識に
ついて①
- 第十回 歴史的視座から見た日 関連内容の紹介・説明
韓における西欧認識に
ついて②
- 第十一回 日韓の学問世界におけ 関連内容の紹介・説明
る普遍的ものの追求に
ついて①
- 第十二回 日韓の学問世界におけ 関連内容の紹介・説明
る普遍的ものの追求に
ついて②
- 第十三回 現代の日韓における態度 関連内容の紹介・説明
決定の諸問題について
①
- 第十四回 現代の日韓における態度 関連内容の紹介・説明
決定の諸問題について
②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史教育研究会編『学びつながら日本と韓国の近現代史』東京、明石書店、2013年
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)
三谷太一郎『日本の近代とは何であったか―問題史的考察』岩波新書1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年
白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版社、1995年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、
2012年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、
2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験(60%)
感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。
近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。
社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包容し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(後期)	講義全般についての紹介 オリエンテーション
第二回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について①	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について②	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について③	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓におけるリベリズムとデモクラシーについて①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓におけるリベリズムとデモクラシーについて②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるリベリズムとデモクラシーについて③	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓における市民社会について①	関連内容の紹介・説明

- 第九回 日韓における市民社会 関連内容の紹介・説明について②
- 第十回 日韓における市民社会 関連内容の紹介・説明について③
- 第十一回 日韓における文化多元 関連内容の紹介・説明主義について①
- 第十二回 日韓における文化多元 関連内容の紹介・説明主義について②
- 第十三回 国際関係としての日韓 関連内容の紹介・説明について
- 第十四回 日韓友好関係の意義と 関連内容の紹介・説明可能性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史教育研究会編『学びつながら日本と韓国の近現代史』東京、明石書店、2013年
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)
三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書 1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年
白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に理解することを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」がおり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの一形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体例として取り上げるテーマについても、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程概論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第8回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義

第 9 回	政党における政策形成	テーマに沿った講義 の事例研究
第 10 回	政策形成と選挙制度の 関係	テーマに沿った講義
第 11 回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第 12 回	選挙制度史	テーマに沿った講義
第 13 回	日本の選挙制度	テーマに沿った講義
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50％）、学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて、衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点において国会でリアルタイムに議論されている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five laws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に理解することを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】

法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」があり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの一形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立つても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体例として取り上げるテーマについても、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第 2 回	代議制民主政治論	テーマに沿った講義
第 3 回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第 4 回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第 5 回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第 6 回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第 7 回	立法政策と立法事実論	テーマに沿った講義
第 8 回	法制度設計の政治性と倫理	テーマに沿った講義
第 9 回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析

第10回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第11回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（4）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（5）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて、衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点において国会でリアルタイムに議論されている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

外国語講読（朝鮮語）Ⅰ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。

この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。

語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。

また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（前期）レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三 文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四 文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。
必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。感染症の拡散による事態が解消するまでは、Web上の文書にて対応する場合があります。)

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。
Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年
和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点；参加度（＝受講態度・授業内での発表 40%）＋レポートなどの提出物（60%）
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

POL300AC

外国語講読（朝鮮語）Ⅱ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。
この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。
語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。

また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(後期) レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三 文献購読 回	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四 文献購読 回	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。
必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。感染症の拡散による事態が解消するまでは、Web上の文書にて対応する場合があります。)

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。
Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年
和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点；参加度（＝受講態度・授業内での発表 40%）＋レポートなどの提出物（60%）
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.
Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソクラテスについて II

昨年度、この特殊講義では「ソクラテスについて」と題する講義をした。以下は、昨年度の講義概要と目的である。（わずかに語句を修正してある。）

////////////////////////////////////

「西洋哲学史I」にて解説したように、ソクラテスは著作を残さなかった。そのため、歴史上のソクラテスの哲学を直接に知ることはできない。ただ、ソクラテスの近くにいた人たちがソクラテスについて残した著作を手掛かりにソクラテスの哲学を推測することができるだけである。

ソクラテスの哲学を考える際に、プラトンの著作が重要視されるのは当然である。しかし、その他の人々の著作はどれだけ信用することができるか。この問題については19世紀から20世紀にかけて学者たちの論争もあったが、今日でも意見がまとまっているわけではない。

この授業では、プラトンをはじめとしてプラトン以外の著作家たちの作品もあらためて読み直し、ソクラテス解釈上、許される論点をさぐり、ソクラテス解釈・理解を前進させることを目的とする。

////////////////////////////////////

今年度のこの授業は昨年度の続篇である。講義概要と目的も変わらない。

昨年度は調査すべき資料の量に対して時間に余裕がなかったが、限られた範囲で次のことが収穫であった。

1. ソクラテスを若者に接する人物としてみた場合、クセノポンのソクラテスはプラトンのソクラテスと大きく相違するとは考えられないこと（この点は欧米の多くの研究者たちの主張とは印象が異なる）、つまり、教育者としてのソクラテスは当時の人々の中であって、ある特徴的な型を有する個性的な人物であると想像できる。

2. その「ある型」としてクセノポンのソクラテスから気づかされることは、ソクラテスはまず克己節制の人でありその重要性を強く自覚していたことである。この特徴は、プラトンのソクラテスにおいても『パイドン』（快苦の考察を長く行ってきたことを示唆する登場人物ソクラテス）、『国家』（魂の機能の三区分別における節制の特別な役割を語る登場人物ソクラテス）などに反映されているのではないかとさえ思われる。

今年度は、昨年度に調査できなかったテキスト（主としてクセノポンとプラトンのテキスト）をとり上げ、ソクラテスの実像にすこしでも近づきたい。

【到達目標】

関連テキストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテスの人物と哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	昨年度のまとめ ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第 2 回	クセノポンとソクラテス	クセノポンの人物とソクラテスを知る条件と制限
第 3 回	クセノポンのソクラテス 1	『ソクラテスの思い出』から 1
第 4 回	クセノポンのソクラテス 2	『ソクラテスの思い出』から 2
第 5 回	クセノポンのソクラテス 3	『ソクラテスの思い出』から 3
第 6 回	クセノポンのソクラテス 4	クセノポン『ソクラテスの弁明』から
第 7 回	クセノポンのソクラテス 5	クセノポン『饗宴』から
第 8 回	プラトンのソクラテス 1	初期作品から 1
第 9 回	プラトンのソクラテス 2	初期作品から 2
第 10 回	プラトンのソクラテス 3	中期作品から 3
第 11 回	プラトンのソクラテス 4	プラトン作品に登場するソクラテス像（変化と全体像）
第 12 回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 1	両者の相違点と近似点
第 13 回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 2	彼らはソクラテスに何を見ていたのか
第 14 回	ソクラテスの人物と哲学 まとめ	ソクラテスは何者であったと考えられるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書）その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート（40%）② 期末レポートの内容（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) Last year we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and challenged the Socratic Problem anew. This year we renew the subject and read mainly the texts of Xenophon and Plato to grasp Socrates' personality and thoughts.

(Learning Objectives) The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way Socrates thinks and estimation of his personality and thoughts.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ドイツ実存思想の系譜」です。

19 世紀半ば、支配的だったヘーゲル哲学への対抗から、人間存在を〈実存〉という概念で捉え直す新たな思想が、キルケゴールによって生み出されました。少し遅れて、通底する問題意識を有するニーチェが登場するものの、両者の著作は当時理解されず、黙殺に近い扱いを受けました。ところが、その真価が見出されるのは、20 世紀初頭になってからでした。彼らの思想は、ハイデガーの存在論や、ヤスパースの実存哲学に大きな影響を与え、継承されていくこととなります。講義では、こうしたドイツにおける実存思想の基本構図と展開を考察していきます。

〈実存〉とは、特定の状況の内に現に巻き込まれている、有限な個的存在としての自己、現実を生きる私たち一人一人の存在のことです。そして同時に、〈私〉を思考することは、私ならざるもの、様々な位相で直面する〈他者〉、〈他なるもの〉を思考することでもあります。受講者は、人間存在を多面的に探求する実存思想についての理解を深め、〈実存〉概念の今日の可能性を学ぶこととなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① 実存をめぐる哲学の展開とその基本構想を学ぶ。
- ② 歴史的背景や思想状況との関連を視野に入れながら、20 世紀ドイツの実存思想が持つ、問題意識や独自性を理解する。
- ③ 現代に生きる自分たちにとって、〈実存〉としての人間存在という概念が持つ意義を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	実存思想の誕生とその前史
第 2 回	キルケゴール (1)	〈実存〉概念の成立と主體的真理
第 3 回	キルケゴール (2)	実存的〈瞬間〉における神との対峙
第 4 回	ニーチェ (1)	〈神の死〉とニヒリズム
第 5 回	ニーチェ (2)	パースペクティヴィズムと〈力への意志〉
第 6 回	ハイデガー (1)	〈存在の問い〉と基礎存在論
第 7 回	ハイデガー (2)	〈世界-内-存在〉と〈ひと〉
第 8 回	ハイデガー (3)	〈死への先駆〉と決意性
第 9 回	ヤスパース (1)	〈限界状況〉における実存の生成
第 10 回	ヤスパース (2)	他者との〈実存的交わり〉
第 11 回	ヤスパース (3)	〈暗号解説〉の形而上学
第 12 回	ハイデガーのニーチェ論	存在忘却としての近代主観性の原理
第 13 回	ヤスパースのニーチェ論	実存的パースペクティヴの多元性の空間
第 14 回	講義全体の総括	実存概念の展開と今日的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

最も基本的・概説的なものとして、以下二点だけ挙げておきます。

松浪信三郎『実存主義』（岩波新書、1962 年）

茅野良男『実存主義入門』（講談社現代新書、1968 年）

その他、各論については多岐に渡るので、授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50％）と、学期末の課題レポート（50％）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with German existential philosophy. Under the influence of Kierkegaard and Nietzsche, contemporary philosophy has discussed human existence as the finite individual. Based on this concept, Heidegger constructed "fundamental ontology" through the structural analysis of human being as Existenz. Also Jaspers' "philosophy of existence (Existenzphilosophie)" projected a unique metaphysics that can create the existential plurality. The student will obtain basic knowledge about the thinking of existential philosophers by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to

- (1) learn basic knowledge about the history and development of German existential philosophy.
- (2) understand historical diversity and contemporary potential of concept of the "Existenz".

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and final paper (50%).

PHL300BB

哲学特講（3）－1

松本 力

授業コード：A2216 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ることで、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになります。

【到達目標】

デカルトにとっての理性とは何か。理性をもちいて到達する「考える私」の確かさとは何か。そしてデカルトにとっての神が、私たちの認識においてどのような役割を果たしているか。これらを考察することで、デカルト哲学の中心的概念を理解し、説明できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を配布資料をもとに読み進め、毎回、授業内容についての理解度を確認するための「課題」に答えてください（オンライン授業では、Hoppii 上で行います）。質問があれば、この「課題」への答えに書き込むこと。質問への回答は、次の授業回の冒頭（オンラインであれば「お知らせ」）で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覚すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱う箇所を、配布資料を参考に読み進め、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト 省察 情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】

野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）によりデカルト哲学の重要概念の理解度を、最終的に確認する。また、各回の「課題」（30％）に答えることを平常点とする。

【学生の意見等からの気づき】

「課題」提出前には、必ずテキストと配布資料を読んでおくこと。また、「課題」の提出後も、疑問点があれば質問すること。自分の中で理解できていること、理解できていないことを確認しながら読み進めることが求められます。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Meditations on First Philosophy of Descartes.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the thought of Descartes.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria/Policies
Final grade will be calculated according to the following process Short reports(30%), and Term-end examination(70%).

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。
今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の回到答する。受講報告についても同様に次の回到答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき その 1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき その 2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき その 3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容 その 1	序論、第 1 部、第 2 部
第 6 回	前年度までの内容 その 2	第 3 部の第 4 章まで
第 7 回	第 3 部 通時言語学	第 5 章 類推と進化
第 8 回	第 3 部 通時言語学	第 6 章 民間語源
第 9 回	第 3 部 通時言語学	第 7 章 膠着
第 10 回	第 3 部 通時言語学	第 8 章 通時的な単位、同一性、現実性
第 11 回	第 3 部と第 4 部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第 12 回	第 4 部 言語地理学	第 1 章 言語の多様性について 第 2 章 地理的多様性の複雑化 第 3 章 地理的多様性の原因 第 4 章 言語的な波の伝搬
第 13 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題	第 1 章 通時言語学の 2 つの観点 第 2 章 最古の言語と原型 第 3 章 再建
第 14 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題 まとめ	第 4 章 人類学と先史学での言語の証拠 第 5 章 語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直ししながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500 円

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 80%

short reports to each lecture: 20%

PHL300BB

哲学特講（４）－１

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『純粋理性批判』を読む ― 自然科学と形而上学 ― 『純粋理性批判』では自然科学の限界が示されます。その一方で、神、自由、永遠の魂、といった形而上学の対象が仮象であるとされます。しかしこれらの形而上学の対象には存立の余地が残るともされます。これにより、科学技術文明の暴走が引き起こす諸問題――核戦争の脅威、地球温暖化による気候変動、食糧危機など――に対してわれわれはどのような対応をすべきなのか、考えを深めます。

【到達目標】

<思考力>

- (1) カントの『純粋理性批判』の基本的内容が理解できる。
- (2) 自然科学の本質について批判的に考えることができる。
- (3) 神・自由・不死の理念の意義について考えることができる。
- (4) 科学文明が抱える諸問題への対処法を論ずることができる。

<作文力・発言力>

- (5) 哲学的・論理的な文章を的確に読み解くことができる。
- (6) グループの中で、意見を的確に発言でき、聞き取れる。
- (7) 説得力のある論理的な文章を書くことができる。
- (8) レポートの文章全体の（段落）構成が的確にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業冒頭で、前回の作文課題を中心に復習をします。（フィードバック）
- (2) 毎回の授業テーマについて、プリントやプロジェクターを用いた解説がなされます。
- (3) 毎回の作文課題について、グループワークで理解を深めます。
- (4) 授業後に毎回の課題作文を「学習支援システム」で提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題の発端	形而上学という問題について考える
第2回	天動説から地動説へ	カントのコペルニクスの転回について考える。
第3回	分析判断と総合判断	アприオリな総合判断について考える。
第4回	空間と時間	カントに独特な空間・時間論について考える。
第5回	直観と思考	純粋悟性概念（カテゴリー）について考える。
第6回	自然科学の対象	自然科学的な知識の本質について考える。
第7回	推理と理念	理念の導出、および真理と仮象について考える。
第8回	魂の不死	思考する自我の存在について考える。
第9回	自由と必然性	自由と必然性との両立について考える。
第10回	神の存在	神の存在証明の不可能性について考える。
第11回	現象の統一	諸現象の統一性について考える。
第12回	哲学と数学	哲学的知識と数学的知識の区別を考える。
第13回	理性の関心と道徳	理性のもつ関心と、道徳的世界について考える。
第14回	自然科学の限界と、形而上学の意義	『純粋理性批判』の意義について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習（2時間）：授業プリント（原則的に前日に配布）と参考書で各回の授業の内容を把握する。

復習・宿題（2時間）：（1）各回の授業の課題作文を「学習支援システム」で提出する。（2）興味関心の湧いた箇所については、カント自身の『純粋理性批判』や『プロレゴメナ』の該当箇所を読んで理解を深める。

【テキスト（教科書）】

プリントやプロジェクターを使って解説します。

【参考書】

カント著『純粋理性批判』（平凡社ライブラリー、光文社古典翻訳文庫、他）／カント著『プロレゴメナ』（岩波文庫、他）／中島義道著『『純粋理性批判』を噛み砕く』（講談社）／御子柴善之著『カント 純粋理性批判』（角川選書）／ヨハン・シュルツ著『カント『純粋理性批判』を読むために』（梓出版社）

【成績評価の方法と基準】

カントの『純粋理性批判』について、および自然科学や形而上学について、科学技術文明の諸問題についての理解度、グループワークへの積極的参加度、および課題作文やレポートの完成度などの到達目標にかんして次の2つの側面から評価します。

(1) 授業への参加態度、および毎回の課題作文の出来ぐあい。

(2) セメスター末の期末レポートの点数

これらのうち(1)を7割、(2)を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline (in English)】

Reading Kant's *Critique of Pure Reason* - on Natural Science and Metaphysics - That there is a limit to the natural science and that it is impossible to demonstrate the existence of God, the absolute freedom and the eternal soul are discussed in *Critique of Pure Reason*. According to Kant however these metaphysical objects may have room for subsistence. We make pursuit of these Kant's discussions and think about the way to cope with the danger caused by the acceleration of the scientific technological civilization: the atomic war, the climate change, the food crisis, etc.

【Goal】

< Thinking Power >

(1) To understand the fundamental matters of Kant's *Critique of Pure Reason*.

(2) To think critically about the essences of natural science.

(3) To think about the significance of the ideas like God, Freedom and eternal Soul.

(4) To discuss the ways of coping with the problems of scientific technical civilization.

< Composition and Communication Ability >

(5) To interpret philosophical logical texts correctly.

(6) To say and hear opinions accurately in group discussions.

(7) To write logical texts persuasively.

(8) To write essays or reports in appropriate manners.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time, using the delivered (pdf) papers and the books for reference.

The brush-up (2 hours): (1) To try to write for the stated tasks on "Hoppii". (2) To review the lesson and accordingly to read *Critique of Pure Reason*.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the level of understanding (A) Kant's *Critique of Pure Reason*, (B) the natural science and the metaphysics, (C) the problems of scientific technical civilization, 2. the level of attendance and the attitude, 3. the perfection level of essays or reports. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the essays or reports, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final essay or report.

PHL300BB

哲学特講（4）－2

近 堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら、カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に『純粋理性批判』を読み、関連文献を参照しながら、現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第2回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第3回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第4回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第5回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的感性論」
第6回	『純粋理性批判』を読む (2)	「空間概念の形而上学的究明・第一の議論」
第7回	『純粋理性批判』を読む (3)	「空間概念の形而上学的究明・第二の議論」
第8回	『純粋理性批判』を読む (4)	「空間概念の形而上学的究明・第三および第四の議論」
第9回	『純粋理性批判』を読む (5)	「空間概念の超越論的究明」
第10回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第11回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第12回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第13回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第14回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと分析哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版社、2018年。

近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、見洋書房、2018年。

トム・ロックモア『カントの軌跡のなかで——二十世紀の哲学』、牧野英二監訳、法政大学出版社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental problems of Kant's philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の近代哲学を代表する三木清の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ※すべての回において「対面式」で実施する予定です。
- （１）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
 - （２）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
 - （３）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
 - （４）講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	「序」と「序論」1 出発点、2 人間と環境	三木清『哲学入門』（岩波新書）pp.1-15 以下の回のページ数はすべて岩波新書版による
第 3 回	「序論」3 本能と知性、4 経験	『哲学入門』 pp.16-32 の解説
第 4 回	「序論」5 常識、6 科学	『哲学入門』 pp.33-51
第 5 回	「序論」7 哲学	『哲学入門』 pp.52-69
第 6 回	「第一章 知識の問題」1 真理	『哲学入門』 pp.71-84
第 7 回	「第一章 知識の問題」2 模写と構成	『哲学入門』 pp.85-102
第 8 回	「第一章 知識の問題」3 経験的と先験的	『哲学入門』 pp.103-116
第 9 回	「第一章 知識の問題」4 物 関係 形	『哲学入門』 pp.117-137
第 10 回	「第一章 知識の問題」5 知識の相対性と絶対性	『哲学入門』 pp.138-153
第 11 回	「第一章 知識の問題」6 知識の倫理	『哲学入門』 pp.154-166
第 12 回	「第二章 行為の問題」1 道徳的行為	『哲学入門』 pp.167-184
第 13 回	「第二章 行為の問題」2 徳	『哲学入門』 pp.185-198
第 14 回	「第二章 行為の問題」3 行為の目的	『哲学入門』 pp.199-209 三木の思想の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は準備 1 時間・復習 4 時間の計 5 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として三木清『哲学入門』（岩波新書）の 2000 年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。教科書指定してあるので、受講希望の場合は必ず購入すること。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。

※すべての回において対面式で実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。

※すべての回において対面式で実施する予定です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論 第 2 号』、2014）

②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）

③「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading "An Introduction to Philosophy" by Kiyoshi Miki. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳は、人間の絶対的な価値を意味し、あらゆる人間を尊重する根拠になるものです。近年は日本でも、クローン技術を規制する法律などで、この概念が使用されています。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があるため合意に至っていません。そこで授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、応用倫理学の議論も考慮しながら、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は、たしかに西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では厳しい批判もあり、人間の尊厳の実が問い直されています。受講生には、選択的人口妊娠中絶や尊厳死など応用倫理学の諸問題を手がかりに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずですが。

【到達目標】

第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。

第二に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死など、応用倫理学の諸問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。

第三に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言することが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、尊厳概念の必要性	授業の概要と方法、どうして尊厳概念が必要なのか説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	尊厳概念へのアプローチと拷問	尊厳概念を解明する方法と、「拷問」という尊厳侵害の実例を考察する
第 5 回	グループディスカッション (1)	胎児の障がい理由とした人工妊娠中絶について、受講生と議論する
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	胎児の障がい理由とした人工妊娠中絶について、その問題点を説明する
第 7 回	カントの尊厳概念	「道徳的行為」の可能性を重視した、カントの尊厳概念を説明する
第 8 回	マルセルの尊厳概念	人間の弱さと「兄弟愛」を重視した、マルセルの尊厳概念を説明する
第 9 回	マルガリートの尊厳概念	屈辱なき「良識ある社会」を構想した、マルガリオートの尊厳概念を説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	障がい理由とした尊厳死について、受講生と議論する
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	障がい理由とした尊厳死について、その問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点、および人間の「卓越性」を重視するカスの尊厳概念を説明する
第 13 回	パンデミックと人間の尊厳	新型コロナウイルスの流行について、人間らしく生きるための課題を説明する
第 14 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は発展的な内容を含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

マイケル・ローゼン『尊厳』、岩波新書、2021 年
 松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年
 金子晴勇『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年
 その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末レポートによって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、応用倫理学の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

This course elucidates the concept of human dignity. Human dignity means the absolute value of human being. And it is also ground to respect a human being. Recently in Japan, human dignity came to be mentioned by laws to regulate the use of the new biotechnology. However, there is no agreement about what human dignity means. Therefore, considering arguments of western philosophy and applied ethics, this course presents meanings of human dignity. Being a concept which derives from western thoughts, human dignity came to attract attention as a basis of fundamental human rights after World War II. But there is severe criticism against this concept. In this course you will discuss with human dignity in various contexts of applied ethics and finally think about human absolute value.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Students will be able to explain the content of the concept of human dignity.

B. Students will be able to understand the issues of applied ethics, such as selective abortion and death with dignity, and explain the significance of the concept of dignity in these issues.

C. Students will be able to verbalize and express their thoughts on selective abortion and death with dignity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀のユダヤ人哲学者ハンナ・アーレントが追究した「全体主義以後の民主政治」を学び、その現代的意義を考える。

【到達目標】

ナチスによるユダヤ人大量殺戮に行き着いた「全体主義」に含まれる諸問題を、アーレントがどのように理解したか説明できる。
 アーレントの思想とその影響圏にある政治哲学に立脚しながら、現代の政治状況を批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が学習支援システムからプリントアウトする）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、授業方法、成績評価の説明
第 2 回	アーレントの半生	少女期と大学生活の伝記的な紹介
第 3 回	ナチズムの経験	迫害と抵抗を介した問題意識の形成
第 4 回	「全体主義」の誕生	「大衆社会」という精神的病巣
第 5 回	ナチス高官の「良心」	凡庸な殺人者が犯した法外な罪
第 6 回	「労働／仕事／活動」	社会批判のための三つの基礎概念
第 7 回	古代の「公的生活」	政治的活動における言論の役割
第 8 回	「野蛮」としての現代	「大衆社会」を成立させた歴史的條件
第 9 回	過去を取消す「赦し」	「活動」を営む者たちに必要な態度
第 10 回	未来をつくる「約束」	正当な「権力」を発生させる基盤
第 11 回	未完の政治哲学構想	「活動」の視点からの歴史分析
第 12 回	アーレントの晩年	哲学の非政治的伝統との対決
第 13 回	「公共性」を活性化させる視点	新たな世代の「誕生」の意義
第 14 回	期末レポート	「全体主義」の批判と「民主政治」の条件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトし、要点や疑問を整理して、授業に持参する。

講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

ハンナ・アーレント著『人間の条件』ちくま学芸文庫 1994 年
 M・カノヴァン『ハンナ・アーレントの政治思想』未来社 1995 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Hannah Arendt's political thought against "totalitarianism". It deals with six themes as follow: 1. the Jewish discrimination and Nazism that Arendt experienced in her youth, 2. the "mass society" as the precondition for "totalitarianism", 3. the political ideal of the public sphere as "vita activa" of ancient Greece, 4. the potential abilities of the democratic "action" as "forgiveness" and "promise", 5. Arendt's criticism for the non-political tradition in the European philosophy and discovery of Kant's theory of reflective judgement as a model of deliberative discussion, 6. the significance of the human being existence in a genuine democratic society. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the matters of our liberal-democratic society which is confused by globalization and populism. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

酒井 健

授業コード：A2223 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの思想家ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）とミシェル・フーコー（1926-1984）の性愛の哲学を考察する。作品としてはバタイユの『エロティシズム』（1957）とフーコーの『性の歴史』第1巻の『知への意志』（1976）を対象にする。バタイユとフーコーを基本から理解していき、フランス現代思想の継承を探る。

【到達目標】

- ①フランス現代思想の基本的問題点（たとえば近代文明への批判）を理解していく。
- ②バタイユとフーコーの基本概念（たとえばバタイユの「禁止」と「侵犯」、フーコーの「知」「生権力」）を理解していく。
- ③性の問題をめぐる近代人の在り方を理解していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストのプリントをまとめて配布したうえで、講義形式で進める。毎回課題を出し、リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業のはじめにフィードバックする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	この授業の概要およびバタイユとフーコーの思想の全体操を説明
第2回	バタイユ第1回	『エロティシズム』の「まえがき」
第3回	バタイユ第2回	『エロティシズム』の「序論」その1
第4回	バタイユ第3回	『エロティシズム』の「序論」その2
第5回	バタイユ第4回	『エロティシズム』の第1部第1章のその1
第6回	バタイユ第5回	『エロティシズム』の第1部第1章のその2
第7回	バタイユ第6回	『エロティシズム』の結論
第8回	フーコー第1回	『知への意志』第1章
第9回	フーコー第2回	『知への意志』第2章
第10回	フーコー第3回	『知への意志』第3章
第11回	フーコー第4回	『知への意志』第4章
第12回	フーコー第5回	『知への意志』第5章その1
第13回	フーコー第6回	『知への意志』第5章その2
第14回	まとめ	バタイユからフーコーへ思想伝達の全体を総括しレポート課題を提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 入門書など関係の文献を読んでおくこと。
- (2) 事前に次の授業で扱うテキストの箇所をしっかりと読んでおくこと。
- (3) 各回の授業で重要な箇所と概念を解説するので各自復習して理解を深めること。
- (4) 予習、復習の段階で理解が困難な箇所、疑問に思う点があればメモしておいて、リアクションペーパーに記しておく。
- (5) 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

バタイユ著『エロティシズム』酒井健訳、ちくま学芸文庫、2003 年。
フーコー著『知への意志』（『性の歴史』第 1 巻）渡辺守章訳、新潮社、1986 年

【参考書】

- ①『バタイユ入門』酒井健著、ちくま新書、1996 年。
- ②『バタイユ エコノミーと贈与』佐々木雄大著、講談社叢書メチエ、2021 年。
- ③『フーコー入門』中山元著、ちくま新書、1996 年。
- ④『フーコーの言説』慎改康之著、筑摩選書、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 上記の「到達目標」に記した 3 点をどれで達成できているかを基準にする。
- (2) 毎回のリアクションペーパー（40%）、期末レポート（60 %）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ①毎回しっかり出席すること。
- ② hoppii からの連絡事項をしっかり確認しておくこと。

【Outline (in English)】

Course outline】

The purpose of this course is to learn the philosophy of Georges Bataille and Michel Foucault on the sexuality.

【Learning Objectives】

Especially at the end of this course, students are expected to a good comprehension of their work : L'érotisme of Bataille and La volonté de savoir

(premier volume de L'histoire de la sexualité). That is mainly by the reading of Japanese translation of these work.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be based on the following.
Reaction paper in each class meeting:50 % and report on a subject presented at the end of this course:50%.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーは、戦後に「技術」についての一連の論考を発表した。この技術論を読み解いてみると、それが一つの「真理」についての理論でもあることがわかる。この授業では、この一つの卓抜な真理論でもある技術論とはどのようなものかを理解することを目指す。

【到達目標】

- ①ハイデガーの真理論の概要を理解する。
- ②ハイデガーの技術論の概要を理解する。
- ③ハイデガーにおいて両者が重なるゆえんを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。質問への回答は資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	ハイデガーの技術論と真理論	ハイデガーの思想における位置づけを確認する
第 3 回	前期の真理論①	『存在と時間』の概要
第 4 回	前期の真理論②	『存在と時間』の真理論
第 5 回	前期の真理論③	『存在と時間』における実存と真理の関係
第 6 回	中期の真理論①	講演「真理の本質について」の真理論
第 7 回	中期の真理論②	講演「真理の本質について」における真理と自由の関係
第 8 回	中期の真理論③	講演「真理の本質について」における真理と非真理の関係
第 9 回	後期の技術論①	「物」論
第 10 回	後期の技術論②	技術本質論
第 11 回	後期の技術論③	真理論としての技術論
第 12 回	ハイデガーの技術論への応答①	ボルグマンの解釈
第 13 回	ハイデガーの技術論への応答②	フィーンバークの解釈
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

M. ハイデガー著・細谷貞夫訳、『存在と時間』、ちくま学芸文庫、1994 年
M. ハイデガー著・辻村公一・H. ブフナー訳、『道標』、創文社、1985 年
M. ハイデガー著・森一郎訳『技術とは何だろうか』、講談社（講談社学術文庫）、2019 年
M. ハイデガー著・関口浩訳『技術への問い』、平凡社（平凡社ライブラリー）、2013 年
森一郎『核時代のテクノロジー論』、現代書館、2020 年
その他の参考書は適宜授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Martin Heidegger's theory of truth and that of technology.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand Heidegger's theory of truth and that of technology.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL300BB

哲学特講（7）－2

大森 一三

授業コード：A2225 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは「哲学における悪の問題」です。古代から現代に至るまで、哲学者たちがどのように「悪」を論じ、考えてきたのかを考察しながら、その特徴と固有の課題を考察してゆきます。また、現代におけるさまざまな現象や社会的問題と「悪」との関連を考察してゆきます。

【到達目標】

学生一人ひとりが、哲学・倫理学史の中で、「悪」がどのように考えられ、あるいは考えられてこなかったを理解すること。そして今日、哲学的・倫理的観点から「悪」を問う際には、どのような論点と課題があるのかを理解することが、本講義の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では講義とディスカッションによる相互交流形式をとります。講義に際しては、関連する思想の基本的なポイントを理解し、ディスカッションに際しては、具体的な社会的事例などを通して、問題を複眼的に捉える訓練を行ってゆきます。

また、授業内でレポートを作成していただき、翌週の授業ではそのレポートの紹介を行いながら議論を進めてゆきます。講義の内容は、西洋哲学の起源である古代ギリシャから現代に至るまで、様々な哲学者たちがどのように「悪」を論じてきたのか、その思想と社会的・時代的な背景も含めて考察してゆきます。また、現代的な問題とも関連する場合には、適宜、授業内で紹介してゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介・講義の進め方など
第 2 回	「悪」の歴史的源泉についての考察	古代ギリシャ思想における「悪」の考察
第 3 回	中世キリスト教思想における「悪」	ヘレニズムから教父哲学における「悪」の考察
第 4 回	宗教と「悪」の問題	中世から現代に至るまでの宗教と「悪」の問題について
第 5 回	近代哲学における「悪」	17,18 世紀の哲学者たちにおける「悪」について
第 6 回	カント倫理学における「悪」	カントの「根源悪」概念についての考察
第 7 回	ドイツ観念論における「悪」	ヘーゲル・フィヒテ・シェリングにおける「悪」
第 8 回	中間報告	これまでの講義を踏まえた総括
第 9 回	生の哲学における「悪」	19 世紀の哲学者たちと「悪」について
第 10 回	「世界大戦の時代」における「悪」	20 世紀の体験と 20 世紀の思想家たちにおける「悪」について
第 11 回	「暴力」と「悪」の問題	暴力論と「悪」の問題の関係性についての考察
第 12 回	応用倫理学における「悪」の問題	生命倫理、医療倫理、環境倫理など、現代の応用倫理学における「悪」の問題についての考察
第 13 回	ケア・エシックスにおける「悪」の問題	「ケア・エシックス」は悪をどのように理解するのか

第14回 本講義のまとめ あらためて全体像を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した関連テキストを是非、自分で読み進めてください。また、ディスカッションのために準備をしておく必要がある場合は、事前に資料の紹介も含め、その旨を伝えます。

【テキスト（教科書）】

講義内容が多岐にわたるため、特定のテキストは定めません。必要資料は授業内で紹介します。また、一部コピー等も配布します。

【参考書】

授業内で随時紹介しますが、各哲学者の邦訳原典が主な参考書です。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート (50%)、ディスカッションでの発言の評価 (20%)、期末レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をできるだけ多く取り、相互交流的な授業を心がける

【学生が準備すべき機器他】

授業内レポートの提出は hoppi で行います。時間の制限がありますので、授業内および授業後に速やかに取り組めるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The theme of this lecture is "The Problem of Evil in Philosophy". We will examine how philosophers have discussed and thought about "evil" from ancient times to the present, and consider its characteristics and specific issues. We will also examine the relationship between "evil" and various contemporary phenomena and social problems.

【Learning Objectives】

The goal of this lecture is for each student to understand how "evil" has been considered or not considered in the history of philosophy and ethics, and to understand what issues and challenges exist when we question "evil" from a philosophical and ethical perspective today.

【Learning Activities Outside of Classroom】

I encourage you to read the relevant texts introduced in class on your own. If you need to prepare for the discussion, we will inform you of this in advance.

【Grading Criteria】

In-class report (50%), evaluation of comments made during discussion (20%), final report (30%).

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学Ⅰ

木島 泰三

授業コード：A2226,A3672 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初期近代における宇宙論の転換の哲学的側面」というテーマで、「17世紀科学革命」における世界観の転換とそれがもたらした様々な哲学的問題について、宇宙論の転換を中心に学んでいく。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、初期近代における宇宙論の転換とそれに関連する哲学的諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	ソクラテス以前からプラトンまでの古代ギリシャの自然観	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学と、自然哲学を批判したソクラテスおよびそれを受け継いだプラトンの思想を学ぶ
第3回	古代における天文学の発展	一度ギリシャ以前の時代に戻り、古代天文学と宇宙論の発展をプトレマイオスまでたどる
第4回	アリストテレスの目的論的自然観	中世において支配的な自然学となったアリストテレスの自然学について学ぶ
第5回	中世からルネサンスにかけての、プトレマイオス天文学の発展と宇宙論に関連する哲学的・神学的議論	中世イスラム世界、およびルネサンス期欧州におけるプトレマイオス天文学の発展、およびルネサンス期の宇宙論に関連する哲学・神学の思想を学ぶ
第6回	コペルニクス革命とその後の天文学・宇宙論の展開	コペルニクスによる地動説の提起と、その後それを批判ないし継承したティコ、ケプラー、ガリレオ、ブルーノらの思想を宇宙論との関連で学ぶ
第7回	17世紀科学革命と近代力学の成立	コペルニクス革命に端を発した自然観の転換としての17世紀科学革命について、近代力学の成立を中心に学ぶ
第8回	デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	17世紀科学革命によって成立した機械論的自然観を哲学的に基礎づけた哲学者としてのデカルトの思想について学ぶ
第9回	スピノザの神即自然＝無限実体	機械論的自然観に基づく新たな宇宙像を独特の仕方で徹底させたスピノザの思想を無限実体の概念を中心に学ぶ
第10回	デカルトとモアの論争(1)	デカルトとイギリスの哲学者・神学者であるヘンリー・モアの論争を、「神の無限性」と「宇宙の無限性」をめぐる問題を中心に学ぶ
第11回	デカルトとモアの論争(2)／マルブランシュとラフソンにおける空間の無限性	デカルトとモアの論争に続き、デカルトの思想を受け継いだマルブランシュとモアの思想を受け継いだラフソンにおける、「神の無限性」と「空間の無限性」の関連を学ぶ
第12回	ライプニッツのモナドロジー	デカルトおよびスピノザの批判から独特の宇宙像を提起したライプニッツの思想を学ぶ

第 13 回	ライプニッツとニュートンの論争 (1)	ライプニッツと（クラークを介した）ニュートンとの論争を、神および宇宙の問題を中心に学ぶ
第 14 回	ライプニッツとニュートンの論争 (2) / ニュートン後のニュートン主義	ライプニッツとニュートンの論争について引き続き学び、その後、ニュートン後の 18 世紀のニュートン主義について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

近世初期の宇宙論の転換と哲学思想の関連を論じた古典として、アレクサンデル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（横山雅彦訳、みすず書房）／『コスモスの崩壊：閉ざされた世界から無限の宇宙へ』（野沢協訳、白水社）[同一の原著の別の訳] を挙げておく。

近世初期の天文学の転回を幅広い視野で論じた古典として、トマス・クーン『コペルニクス革命』（常石敬一訳、講談社学術文庫）を挙げておく。

17 世紀科学革命全般については、『一七世紀科学革命』（東慎一郎訳、岩波書店）が概観を提供している。

その他、各回講義に関連する参考書は講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1) の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う (40 %)。加えて、期末レポートによる (2) の到達度の評価を行う (60 %)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppii にアクセス可能な端末が必要となる。講義資料を PDF ファイルで配布する場合があります、pdf 閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Considering philosophically on the change of cosmology in the early modern age". You can learn on various philosophical problems about the change of worldview and the subsequent various philosophical problems through the Scientific Revolution of the Seventeenth Century.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on philosophy and history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and, (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%) .

PHL300BB

哲学特講（8）－2／科学哲学Ⅱ

中 釜 浩一

授業コード：A2227,A3673 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「私」の哲学的分析

「私」という語は、誰もがごく普通に用いる人称代名詞である。だが、その語が一体何を指示しているのかは決して明らかではない。この問題を考えることは、「自己の正体と自己知の本性」の問題への一つのカギである。この問に対する現代の代表的哲学者達の見解を検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「私」に関する分析哲学的アプローチを理解することで、伝統的な「自己と自己知」に関する問題への現代的取り組みを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	自己と「私」
第 2 回	一人称の問題 (1)	カスタネーダの議論 (1)
第 3 回	一人称の問題 (2)	カスタネーダの議論 (2)
第 4 回	一人称の問題 (3)	アンスコムの議論 (1)
第 5 回	一人称の問題 (4)	アンスコムの議論 (2)
第 6 回	想像力と自己 (1) B.	ウィリアムズの議論 (1)
第 7 回	想像力と自己 (2)	ウィリアムズの議論 (2)
第 8 回	想像力と自己 (3)	ウィリアムズの議論 (3)
第 9 回	想像力と自己 (4)	ウィリアムズの議論 (4)
第 10 回	自己同定の問題 (1)	シュローサーの議論 (1)
第 11 回	自己同定の問題 (2)	シュローサーの議論 (2)
第 12 回	自己同定の問題 (3)	エヴァンズの議論 (1)
第 13 回	自己同定の問題 (4)	エヴァンズの議論 (2)
第 14 回	まとめ	「私」は何を指示するのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。

言語哲学の種々の参考書を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

バークリー「人知原理論」、シュローサー「自己知と自己同一性」（勁草書房）、サール「マインド」（ちくま学芸文庫）

Qusassim Cassam (ed.)Self-Knowledge, Oxford Univ. Press.

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出 70 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

従来型の講義と板書、および小レポートとその解説による説明が最も有効である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the Problems of the self approached by modern philosophers of language.

Learning Objectives: To acquire a deeper understanding of self and to learn more about methods of analytical philosophy.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write a short paper concerning the subject.

Grading Criteria: short reports: 70%, term-end report: 30%

LIT300BC

日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、作品を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の近代文学の概説	その前史と西洋近代文学の影響
第 2 回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第 3 回	北村透谷のロマン主義	人生相渉の論争。日清日露戦争期の文学の状況
第 4 回	島崎藤村と自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第 5 回	大逆事件と石川啄木	徳富蘆花「謀叛論」、石川啄木「時代閉塞の現状」、永井荷風「花火」
第 6 回	夏目漱石の文学と批評	「現代日本の開化」「私の個人主義」
第 7 回	白樺派と大正デモクラシー	白樺派の思想と批評
第 8 回	平塚らいてうと与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第 9 回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛と佐藤春夫の論争
第 10 回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	関東大震災後の文芸復興。純文学と通俗小説に関する論争
第 11 回	プロレタリア文学と中野重治	「政治と文学」論争のはじまり
第 12 回	小林秀雄の登場	日本における近代文芸批評の確立
第 13 回	伊藤整と横光利一	純粋小説論争
第 14 回	日本浪漫派と文学報国会	戦争期の文学者の言説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Course Outline: This course presents an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature through the writings of individual critics and currents of criticism.

Learning Objectives: The goal is for students to develop their own ability to undertake literary criticism.

Learning Activities Outside of the Classroom: None.

Grading Criteria/Policy: Short reports (50%), in-class contribution (50%).

LIT300BC

日本文芸批評史 B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、作品を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の戦後文学の概説	欧米と日本の比較
第 2 回	戦争末期の言論	そのとき批評はどうあらわれたか
第 3 回	敗戦と占領下の批評	文学者は戦後の状況をどう批評したか
第 4 回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第 5 回	「政治と文学」論争	『近代文学』vs. 中野重治の論争。両者への福田恒存の批判
第 6 回	戦後派の登場	戦争体験を経て作られた批評精神。三島由紀夫、大岡昇平
第 7 回	第三の新人	戦後派への抵抗。高度成長下の時代精神
第 8 回	吉本隆明と江藤淳	吉本隆明『転向論』、江藤淳『成熟と喪失』など
第 9 回	秋山駿の徒手空拳	生活者（普通の人間）の批評とは
第 10 回	ポストモダンとニューアカデミズム	柄谷行人、蓮實重彦、中沢新一、浅田彰
第 11 回	加藤典洋の批評	ポストモダンへの違和感
第 12 回	文学者たちの運動	文学者の反核署名、反戦署名運動。その後の論争
第 13 回	フェミニズム文学論	斉藤美奈子や上野千鶴子の批判
第 14 回	現代文学の批評	現在の世の中と文学の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[昭和篇]（岩波文庫）。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Course Outline: This course presents an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature through the writings of individual critics and currents of criticism.

Learning Objectives: The goal is for students to develop their own ability to undertake literary criticism.

Learning Activities Outside of the Classroom: None.

Grading Criteria/Policy: Short reports (50%), in-class contribution (50%).

LIT300BC

日本語学特殊研究 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2558 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the ancient and medieval periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT300BC

日本語学特殊研究 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2560 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the early modern to contemporary periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT200BC

中国文芸史 A

長谷川 真史

授業コード：A2561 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に強い影響を及ぼした中国古典（特に漢詩）を毎回取り上げ、中国文学がどのように日本に流入し、日本がどのようにそれらを吸収し自国の文化に取り入れていったかを、文学作品の鑑賞を通して紹介する。また、原文とその注釈を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関する基礎的な事柄を確認する。

【到達目標】

中国古典文学（詩・韻文・散文、日本漢文を含む）の語法を知り、読解能力を高めることを目標とする。また、文学作品の鑑賞を通して、アジア漢字文化圏に生きる一員として必要不可欠「教養」を身につけ、日本文化・日本文学との関わりから、現在に生きる中国古典の有りようについての「問い」をもち、考える端緒を得ることを目標とする。

The main goal is to improve reading comprehension by learning the grammar of classical Chinese literature (including poetry, verse, prose, and Japanese Chinese). In addition, through appreciation of literary works, the aim is to receive the “education” indispensable to someone living in the Asian *kanji* cultural sphere. From the relationship with Japanese culture and literature, another goal is to pose “questions” about the state of the Chinese classics as they live in the present, and to find hints as to how to think about them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本として、状況に応じてオンラインに切り替える場合もある。基本的に講義形式で授業を行い、随時レポート課題を出す。中間レポートについては授業時間内に全体でリフレクションを行う。

期末レポートについては個別に総評を行う。

This lecture is based on face-to-face contact and may be switched online depending on the situation.

Basically, classes are given in a lecture format, and report assignments are given as necessary.

Interim reports will be reflected on as a whole during class hours.

Term-end reports will be reviewed individually.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（教養としての漢詩）	漢詩の基礎知識（漢字の中古音と平仄）についての概説
第 2 回	「詩」の源流について	『詩経』とその注釈・翻訳についての概説
第 3 回	近体詩と古体詩について	陶淵明「飲酒」解説：古詩の解説
第 4 回	近体詩について①	杜牧「江南春」解説：絶句の規則についての概説
第 5 回	近体詩について②	杜甫「春望」解説：律詩の規則についての概説
第 6 回	対句の構造について	杜甫「登高」解説：全対格についての概説
第 7 回	中間レポートガイドライン解説	レポート「漢詩をつくろう」：漢詩作成キットの解説
第 8 回	楽府について	李白「子夜呉歌」「秋浦歌」解説：古楽府と新楽府についての概説
第 9 回	版本とテキスト	李白「静夜思」解説：異同と校勘についての概説
第 10 回	日本文学との関わり①	白居易「香炉峰」詩解説：『白氏文集』と平安文学についての概説
第 11 回	日本文学のとの関わり②	菅原道真「不出門」解説：平安知識人と漢文についての概説
第 12 回	期末レポートガイドライン解説	中国古典学のレファレンスとリテラシーについての概説とレポート作成についての解説
第 13 回	漢詩と日本人①	明治時代の文学者と漢詩についての概説
第 14 回	漢詩と日本人②	井伏鱒二の翻訳詩についての概説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに記載した事項や書籍、文学作品について下調べをして「問い」をもって講義に臨むことが望ましい。
分からない言葉については辞書で調べることを。

人名や地名などについてはインターネット等を利用して調べてもよい。

授業前後、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

It is advisable to conduct a preliminary survey of the items, books, and literary works described in the syllabus and attend the lecture with “questions.”

Check a dictionary for words you do not understand.

You may search for personal names and place names using the Internet or the like.

The standard preparation and review time is about 3 hours each before and after class.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

This class does not use textbooks. (Materials are distributed as appropriate.)

【参考書】

【研究書】松浦友久『校注唐詩鑑賞辞典』（大修館書店）、松枝茂夫『中国名詩選』上中下（岩波文庫）興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）

【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和大字典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

Final report (50%), interim report (20%), class attendance (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに切り替える場合に、インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

漢和辞典（電子辞書も可）を手元においておくことよい。

If online, a device that can connect to the Internet and browse. A computer or tablet is preferable, but care should be taken so that students can also take classes on their smartphones.

It is recommended to have a *Kan-Wa* dictionary (Chinese-character dictionary with explanation in Japanese) at hand. (An electronic dictionary is acceptable.)

【その他の重要事項】

出席を重視する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。欠欠、やむを得ず欠席する場合などは事後報告でも構わないので、証明書類等を提出すること。

全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートを認めない。

Grade evaluation emphasizes attendance. Unavoidable circumstances such as accidents and illnesses are taken into consideration. Submit a certificate if you are absent for some sort of official reason or if you are unavoidably absent. It may be submitted after the fact.

As a general rule, the term-end report will not be accepted unless at least two-thirds of the total number of classes are attended.

【Outline (in English)】

This is a lecture course on the Chinese classics that had a strong influence on Japan, surveying how Chinese literature made its way to Japan, and how Japan absorbed it and incorporated it into its own culture. Also, while reading original texts and annotations of them, we will check basic matters related to *kanji* (Chinese characters), grammar, rhetoric, etc.

LIT200BC

中国文芸史 B

長谷川 真史

授業コード：A2563 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古典の文章を題材として、原文を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辭などに関してより高度な事柄を確認する。また、古抄本をテキストとして利用することで、テキストクリティークやリテラシー、レファレンス事項についても学習していく。さらに、典故となる経書・史書も読み込むことで、背景となる思想や社会文化についても深く掘り下げ、作品を中国文学史の観点から立体的に確認していく。

【到達目標】

中国古典文学の語法を深く理解し、読解能力をより高めることを目標とする。また、中国文学研究に必要とされる作業として、原文に当たって根拠と自信をもって読み込むことができるようになることが狙いである。加えて、より高度な専門的知識として、リテラシーやレファレンス能力を習得し、自ら問いをもって研究調査を行っていくための基盤をつくることも視野に入れる。The main goal is to deepen understanding of the wording of classical Chinese literature and improve reading comprehension. In addition, as a skill required for Chinese literature research, the aim is to be able to read the original text with evidence and confidence. It is also a goal to acquire literacy and reference abilities as more advanced specialist knowledge, in view of creating a foundation for conducting research by voluntarily asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本として、状況に応じてオンラインに切り替える。

基本的に講義形式で授業を進め、随時レポート課題を出す。

レポートは授業時間内に全体でリフレクションを行う。

This class is based on face-to-face contact and may be switched online depending on the situation.

Basically, classes are given in a lecture format, and report assignments are given as necessary.

Reports will be reflected on as a whole during class hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中唐文学における「尤物」論の展開と白居易「長恨歌」「李夫人」の版本及び旧抄本についての概説
第 2 回	陳鴻「長恨歌伝」読解①	『管見抄』本「長恨歌伝」及び「長恨歌」の概説
第 3 回	陳鴻「長恨歌伝」読解②	「長恨歌」制作の由来についての概説
第 4 回	白居易「李夫人」読解①	神田本『白氏文集』『新楽府』についての概説
第 5 回	白居易「李夫人」読解②	漢武帝と李夫人の「愛と死」についての概説
第 6 回	白居易「李夫人」読解③	『漢書』郊祀志・外戚伝との関係についての概説
第 7 回	白居易「李夫人」読解④	「新楽府」の創作意図についての概説
第 8 回	『漢書』外戚伝読解①	李夫人の入内の場面についての解説
第 9 回	『漢書』外戚伝読解②	李夫人の死の場面についての解説
第 10 回	『漢書』外戚伝読解③	李夫人反魂の場面についての解説
第 11 回	期末レポートのガイドライン解説	中国古典文学のレファレンス、リテラシーについての概説、レポート作成についての解説
第 12 回	『春秋左氏伝』における尤物①	叔向とその母のいさかいの場面についての解説
第 13 回	『春秋左氏伝』における尤物②	叔向の母の「尤物」論についての解説
第 14 回	『春秋左氏伝』における尤物③	叔向の結婚とその結末についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- （1）難解な語句は必ず辞書で調べる。手元の辞書で見つからない場合、『大漢和辞典』等で調べる。『大漢和』は「索引」と「語彙索引」とがあり、よみで調べるができる。
 - （2）人名、地名など固有名詞はインターネットなどでもよいので確認する。
 - （3）訓読・現代日本語訳する。
 - （4）内容について考察する。
- （1）（2）は最低限調べ、ひと通り訓読した上で授業に臨むことが望ましい。

授業前後含め、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

(1) Be sure to look up difficult words in a dictionary. If you cannot find it in your dictionary, look it up in the *Daikanwa jiten* (Comprehensive dictionary of Chinese characters). This dictionary has both an index and a vocabulary index that can be searched using Japanese syllabary.

(2) Confirm proper nouns such as personal names and place names. You may use the Internet.

(3) Read the text and translate it into modern Japanese.

(4) Consider the contents.

It is recommended that you do (1) and (2) at a minimum and read the text thoroughly before attending the class.

The standard preparation and review time for each class is about 3 hours, including before and after class.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

This class does not use textbooks. (Materials are distributed as appropriate.)

【参考書】

【研究書】近藤春雄『新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、岡村繁（新釈漢文大系）『白氏文集』シリーズ（明治書院）、川合康三『白楽天詩選』上下（岩波文庫）

【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和辞典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

Final report (50%), interim report (20%), class attendance (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに切り替える場合、インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

漢和辞典（電子辞書も可）を手元に用意しておくことよい。

If online, a device that can connect to the Internet and browse. A computer or tablet is preferable, but care should be taken so that students can also take classes on their smartphones.

It is recommended to have a *Kan-Wa* dictionary (Chinese-character dictionary with explanation in Japanese) at hand. (An electronic dictionary is acceptable.)

【その他の重要事項】

成績評価については、出席を重視する。やむをえない事情で欠席する場合は事前か事後に必ず報告する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出を認めない。

Attendance is important for grade evaluation. If you are absent due to unavoidable circumstances, be sure to submit a certificate before or after. Unavoidable circumstances such as accidents and illnesses are taken into consideration.

As a general rule, the term-end report will not be accepted unless at least two-thirds of the total number of classes are attended.

【Outline (in English)】

While reading original classical Chinese texts, we check more advanced matters regarding *kanji* (Chinese characters), grammar, rhetoric, etc. Also, we learn about text critique, literacy, and reference matters. Furthermore, by reading allusions and historical books, we aim for a deep understanding of the underlying ideas and social culture, and grasp the works comprehensively from the perspective of Chinese literary history.

LIT300BC

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解説を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界とともに眺めてゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解説（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説
第 9 回	版本の歴史（2）	・中世までの印刷の歴史について
第 10 回	版本の歴史（3）	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998 年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999 年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005 年・2007 年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010 年）
- このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (80%); performance in class (20%).

LIT300BC

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何を考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメントつきの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。（中沢けい）
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1 冊の本には多様な著作権者の権利が交錯しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。
第 5 回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鵜飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	仲俣暁生（編集者）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第 13 回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用するのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分（%）」：レポート 30 % 平常点 70 %

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意下さい。

中沢けい

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られて、情報の比較ができにくい中において、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講義のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権 2	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作人格権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての実例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発進、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	総括	編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。ただし、オンラインが想定されていますので、各回にコメントや感想を求める可能性があります。この場合、これを平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインになったときは PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course aims for an understanding of intellectual property rights. We live while taking advantage of various rights. It is necessary to understand the intellectual property rights around you and confirm your stance of protecting them. Based on examples I have experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field as it differs from the law.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the protection of intellectual property.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the newspaper, and/or watched TV while thinking about the issue of intellectual property.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年度：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。

同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代において、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違って来る。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見ると。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。

第 10 回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。 総括	SNS 時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の助けになると思います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域（現職）＞ 日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。

文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。

＜主要研究業績（社歴）＞

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline (in English)】

Course Outline: If you think the news is the same in all of the media, you would be wrong. Each media has its own stance. Newspaper articles are not neutral, and neither is television. Students learn the difference between the news on each media, how different they are, and why such differences exist.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have gained the ability to understand the essence of incidents by selectively choosing media.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read several newspapers, to be familiar with the headlines, and to have watched a number of current affairs programs.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT100BC

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古文や漢文に親しみながら、その基本的な知識を確認・修得していくことを目指します。具体的には、『源氏物語』や『枕草子』にも引かれるような有名な漢籍故事などを和文化した説話物語集である『唐物語』を取り上げ、読んでいきます。いくつかの話を紹介・鑑賞し、文法の確認などを行いつつ、古文読解の力をより高めていくことを目指します。あわせてその話の基になった漢籍の出典も比較しつつ読むことで、漢籍故事についての理解を深め、漢文の文法の確認も行います。古文・漢文の基礎を学び直したいという人に向けての講義です。

【到達目標】

- ①古文においては、原文を正確に読み、かつ味わうことができる能力の涵養を最終目標とする。
- ②漢文においては、文法を理解し、訓読を正確に行う力を養って読解力を高めていくこと、頻出する言葉や作品・作者についての知識を深めることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師作成のプリントなどの教材を配布し、講義を行う。
- ・毎回、理解度の確認のための小課題やコメントシートの作成を課す。フィードバックは各授業時のはじめ・ホピ上での解答の公開・第14回のまとめの時に適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明
第2回	『唐物語』第二話を読む①	白楽天の話を取り上げる
第3回	『唐物語』第二話を読む②	第二話に関連して白楽天の詩「琵琶引」やそれを引用した『枕草子』の紹介を行う
第4回	『唐物語』第五話を読む	司馬相如についての話を取り上げる
第5回	『唐物語』第七話を読む	宋玉についての話を取り上げる
第6回	『唐物語』第十四話を読む	陵園妾についての話を取り上げる
第7回	『唐物語』第十五話を読む①	李夫人についての話を取り上げる
第8回	『唐物語』第十五話を読む②	第十五話に関連して白楽天の詩「李夫人」とそれを引用した『源氏物語』についての紹介を行う
第9回	『唐物語』第十七話を読む	呂后についての話を取り上げる
第10回	『唐物語』第十八話を読む①	楊貴妃についての話を取り上げる
第11回	『唐物語』第十八話を読む②	第十八話に関連して白楽天の詩「長恨歌」を読む
第12回	『唐物語』第十九話を読む	朱買臣の話を取り上げる
第13回	『唐物語』第二十五話を読む	王昭君の話を取り上げる

第14回 まとめと確認

授業を振り返ってのまとめや復習・フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、次回授業時に取り上げる話を入ししやすいテキストであらかじめ読み、内容を確認しておくこと。また出て来る人物や故事についても調べておくこと（二時間）。また授業後には授業時に出た課題を復習し、授業内容を整理復習すること（二時間）。古文・漢文を読むためには文法はもちろんのこと、文学史・歴史等の知識も必要となるので、授業で取り上げた作品以外にも視野を広げて読んでいくと、一層理解や関心が深められる。下記に挙げた参考書などを少しずつ継続して読んでいくなどしてほしい。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布する。

【参考書】

- ・小林保治全訳注『唐物語』（講談社学術文庫、2003年、1,485円）、小林保治編著『唐物語全訳』（笠間書院 1998年 9709円）
- ・古語辞典・漢和辞典などは使いなれたものでよいので、手元に置いて参考にする。可能であれば複数の辞書を見比べたりなどすると、より理解が深まる。
- ・寺田隆信著『物語 中国の歴史』（中公新書 800円＋税）

【その他文法などの参考書】

- 古文…
- ・松尾聰『古文解釈のための国文法入門』（ちくま学芸文庫、2019年 1,700円＋税）
- ・小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,400円＋税）
- ・小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫 2010年、1,500円＋税）
- 漢文…
- ・塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,200円＋税）
- ・前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫 2018年、1,700円＋税）
- ・鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院 2018年 1,200円＋税）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内容を踏まえて作成する課題やコメントシートによる評価（70％）
- ・学期末までに提出するまとめ課題による評価（30％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本文鑑賞が中心になってしまったこともあり、文法など基礎的なことの確認の比重が少なくなってしまった。このことを反省点とし、こうした知識習得につながるように、教授内容の吟味の徹底を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to develop the basic knowledge for reading Japanese classical literature and Chinese classical literature. First we will read *Kara monogatari* (12th century), which is an adaptation of Chinese classics, and then compare it with the original Chinese classical works that it is based on. By reading both, we will appreciate the literary expression of each. To get an accurate interpretation, a correct knowledge of the grammar is indispensable, so we will also check the grammar each time. **Learning Objectives:** By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of the classical grammars of Japanese and Chinese.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese and Chinese classic literatures through reading carefully.
3. A deep understanding of the background of the works, their formation and peripheral knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and read the references related to the topic. Your study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the content and prepare questions to ask in the next lecture. Your study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (70%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を理解する。。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてH o p p i i上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城 国風土記の神話
第2回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第3回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第7回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	神々と出会う《人》	同前
第13回	神々と出会う《時》	同前
第14回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google版を除く）

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回60点）に平常点（40点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture deals with the myths of ancient Japan.

Learning Objectives: To understand the reason why we created a mode of thought called myth, and the meaning of this creation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

万葉集読解の基礎的方法を身に着ける。ことばの面白さと重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きただでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みしました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。授業形態は「対面あり」となっていますが、当面はオンライン zoom 授業で行います。新型コロナ感染の状況が落ち着いてきた場合には「対面」授業を行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義概要
第2回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第3回	額田王	恋と言霊の姫王
第4回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第5回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第6回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第7回	同前	同前
第8回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第9回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第10回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第11回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第12回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第13回	大伴家持	倭歌の離陸
第14回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回,60点）と平常点（40点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will explore humanity in ancient Japan, through the study of *Man'yōshū*.

Learning Objectives: To acquire basic methods for reading *Man'yōshū*. To understand how interesting and important words can be.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代中期の同時代に活躍した清少納言と紫式部に注目し、前期には『枕草子』の日記的章段を中心に、後期には『紫式部日記』のいくつかの場面を中心に読んでいく。才女として比較される二人だが、その文章や物の見方にはそれぞれの特徴が現れている。歴史的背景や風俗・習慣などの基礎知識を押さえつつ、原文の表現を深く味わうことでそれぞれの作品の持つ魅力や意義を探っていく。そしてその上で二作品に共通するものを抽出し、一条朝の女流文学の文学史における意義についても考究していく。

【到達目標】

- ①古典の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義について学ぶ。
- ②作品の持つ文学史的意義について深く理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを教材として配布する。
- ・理解度をはかるため、毎回リアクションペーパーの提出を課す。
- ・フィードバックとしては質問への回答や意見の紹介などを次の授業時あるいは 14 回目の授業時、及びホピ上で行う。
- ＊対面講義を基本とするが、状況により叶わない場合はオンラインにて授業を行う。その際にはホピを通じて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／清少納言について	授業方法や内容などについてのガイダンスを行う。 また『枕草子』の作者清少納言についても説明を行う。
第 2 回	『枕草子』の時代	第一回に引き続き、清少納言についてと作品成立の時代背景などを確認する。
第 3 回	『枕草子』の章段・諸本・評価について	『枕草子』の章段の分類についてや、諸本・後世の評価などについて説明を行う。
第 4 回	『枕草子』を読む①	第七十八段 「頭中将のすずろなるそら言を聞きて」を読んでいく。＊章段数は小学館新編日本古典文学全集本に拠る
第 5 回	『枕草子』を読む②	第八十九段「無名といふ琵琶」を読んでいく。
第 6 回	『枕草子』を読む③	第九十八段「中納言まゐりたまひて」を読んでいく。
第 7 回	『枕草子』を読む④	第百二段「二月つごもりごろに、風いたう吹きて」を読んでいく。
第 8 回	『枕草子』を読む⑤	第百三十段 「頭弁の、職にまゐりたまひて」を読んでいく。
第 9 回	『枕草子』を読む⑥	第百三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（前半部）を読んでいく

第 10 回 『枕草子』を読む⑦

第百三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（後半部）を読んでいく。

第 11 回 『枕草子』を読む⑧

第百七十七段「宮にはじめてまゐりたるころ」を読んでいく。

第 12 回 『枕草子』を読む⑨

第二百八十段「雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて」を読んでいく。

第 13 回 『枕草子』を読む⑩

第二百二十四段「御乳母の大輔の命婦、日向へくだるに」を読んでいく。

第 14 回 全体のまとめと確認

授業全体を振り返ってのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては各授業前に、授業で取り上げる章段を参照可能なテキストで読み、内容を把握しておくこと、『枕草子』に登場する人物たちの人間関係などを頭に入れておくこと（二時間）。復習としては、授業内容を改めて整理し、用語や本文の意味などの確認をし、関連する文献などを読んで理解を深めること（二時間）。

【テキスト（教科書）】

授業時に講師作成のプリントを配布する。

【参考書】

松尾聡・永井和子校注・訳『枕草子』（小学館新編日本古典文学全集 18 小学館 4903 円（税込））、萩谷朴校注『枕草子』上・下（新潮日本古典集成新装版、2860 円（税込） 2017 年）、上坂信男・神作光一ほか訳注『枕草子』上中下（講談社学術文庫、1529 円、1595 円、1485 円（税込）、1999 年、2001 年、2003 年）、赤間恵都子『歴史読み枕草子ー清少納言の挑戦状』（三省堂 1650 円（税込） 2013 年）。

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（60%）と学期末レポートにおける評価（30%）、授業時における積極的な姿勢（質問や発言をするなどの積極性や課題への取り組み姿勢）に対する評価（10%）とを合算して成績をつける。評価の基準は到達目標の①が80%、②が20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

教員を目指す人にも役立ち、古文を学び直したい人に分かりやすい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Makura no sōshi* ("The Pillow Book") written by Sei Shōnagon. By reading the text carefully, students will understand what the work achieved. They will also acquire knowledge about the history, customs and practices of the Heian period, which is essential to understanding Japanese classical literature.

Learning Objectives: By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of classical Japanese grammar.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese classical literature through close reading.
3. A deep knowledge of issues required for reading Japanese classical literature, such as history, gender, and customs.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and references related to the topic. Study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the contents, and prepare questions to ask in the next lecture. Study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Students' overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (60%), attitude and positiveness of efforts in class (10%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古B

栗山 元子

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代中期の同時代に活躍した清少納言と紫式部に注目し、前期には『枕草子』の日記的章段を中心に、後期には『紫式部日記』のいくつかの場面を中心に読んでいく。才女として比較される二人だが、その文章や物の見方にはそれぞれの特徴が現れている。歴史的背景や有職故実を押さえつつ、原文の表現を深く味わうことでそれぞれの作品の持つ魅力や意義を探っていく。その上で時代を共にする二作品を比較することから窺える共通性をも考究していく。

【到達目標】

- ①古典の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義について学ぶ。
- ②作品の持つ文学史的意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師によるプリントを教材として配布し、講義を行う。
- ・毎回理解度をはかるためのリアクションペーパーを作成し、提出してもらう。
- ・フィードバックとしては、質問への回答や意見などの紹介を次の授業時あるいは 14 回目のまとめの時間あるいはホピ上にて行う。
- ＊対面講義を基本とするが、状況により叶わない場合はオンラインにて授業を行う。その際にはホピを通じて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業方法や計画についての説明を行う
第 2 回	『紫式部日記』を読む①	日記冒頭部
第 3 回	『紫式部日記』を読む②	若宮の誕生
第 4 回	『紫式部日記』を読む③	若宮の出産儀礼
第 5 回	『紫式部日記』を読む④	道長のよろこび
第 6 回	『紫式部日記』を読む⑤	水鳥に我が身をよそえる
第 7 回	『紫式部日記』を読む⑥	五十日の祝い
第 8 回	『紫式部日記』を読む⑦	御冊子づくり
第 9 回	『紫式部日記』を読む⑧	紫式部の憂鬱
第 10 回	『紫式部日記』を読む⑨	紫式部の孤独感
第 11 回	『紫式部日記』を読む⑩	斎院方の女房への思い
第 12 回	『紫式部日記』を読む⑪	才女批評
第 13 回	『紫式部日記』を読む⑫	自らを省みる

第 14 回 まとめ

授業内容のまとめとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては各授業前に、授業で扱うあたりを参照可能なテキストで読み、内容を把握しておくこと、『枕草子』とも共通する『紫式部日記』に登場する人物たちの人間関係などを頭に入れておくこと（二時間）。復習としては、授業内容を改めて整理し、用語や本文の意味などの確認をし、関連する文献などを読んで理解を深めること（二時間）。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを授業時に配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』（『紫式部日記』は中野幸一校注・訳、4903 円 1994 年 小学館）、中野幸一編『正訳 紫式部日記 本文対照』2420 円、勉誠出版）、萩谷朴校注『新装版 新潮日本古典集成 紫式部日記 紫式部集』（2970 円、1980 年）、『新日本古典文学大系 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』（伊藤博校注 5500 円 2021 年 岩波書店）。

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（60%）と学期末レポートにおける評価（30%）、授業時における積極的な姿勢（質問や発言をするなどの積極性や課題への取り組み姿勢）に対する評価（10%）とを合算して成績をつける。評価の基準は到達目標の①が80%、②が20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

教員を目指す人にも役立ち、古文を学び直したい人にも分かりやすい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Murasaki Shikibu nikki* ("The Diary of Murasaki Shikibu," the author of *Genji monogatari* ["The Tale of Genji"]). By reading the text carefully, students will understand what the work achieved. They will also acquire knowledge about the history, customs and practices of the Heian period, which is essential to understanding Japanese classical literature.

Learning Objectives: By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of classical Japanese grammar.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese classical literature through close reading.
3. A deep knowledge of issues required for reading Japanese classical literature, such as history, gender, and customs.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and references related to the topic. Study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the contents, and prepare questions to ask in the next lecture. Study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Students' overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (60%), attitude and positiveness of efforts in class (10%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古C

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2663 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸にして歌人やその周辺歌に着目し、萬葉集や三代集など典拠となる歌集の表現を分析することで、和歌の正確な解釈が出来るようになり、当時の人々の世界観に、専門的な技能をもって迫る能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	天智天皇（1）	天智天皇に始まる百人一首
第 5 回	天智天皇（2）	歌語「苦」について
第 6 回	持統天皇（1）	大和三山「天の香具山」
第 7 回	持統天皇（2）	萬葉集と新古今和歌集
第 8 回	猿丸大夫（1）	歌語「鹿」について
第 9 回	猿丸大夫（2）	動物の鳴き声について
第 10 回	小野篁（1）	貴種流離の人
第 11 回	小野篁（2）	説話における篁
第 12 回	在原兄弟（1）	行平詠、地名が持つ音について
第 13 回	在原兄弟（2）	業平詠、見立て技法について
第 14 回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男著・ちくま文庫）、『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20 %）と、定期試験結果（80 %）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read *Hyakunin isshu*.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read *Hyakunin isshu*; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古D

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2664 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸に、その周辺歌や歌人の表現を学びながら、和歌の詠まれた背景や表現を自ら調査、分析し、当時の文学に関して自分の考えをまとめることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	小野小町（1）	掛詞技法について
第 5 回	小野小町（2）	美女の人生
第 6 回	陽成院	古代の筑波山
第 7 回	藤原敏行（1）	古代の人々の「夢」について
第 8 回	藤原敏行（2）	歌枕「住の江」について
第 9 回	素性法師（1）	男女の逢会について
第 10 回	素性法師（2）	動詞「来」について
第 11 回	三条右大臣	「言にしありけり」から「名にし負はば」へ
第 12 回	紀友則（1）	枕詞について
第 13 回	紀友則（2）	助動詞「らむ」について
第 14 回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男・ちくま文庫）・『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20 %）と、レポート（80 %）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read *Hyakunin isshu*.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read *Hyakunin isshu*; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の歌人飛鳥井雅有を取り上げ、彼の文化的事績について考察します。飛鳥井雅有は、『新古今和歌集』の撰者飛鳥井雅経の孫で、蹴鞠にも秀でた歌人です。鎌倉で生まれた公卿で、朝廷からも鎌倉幕府からも信頼され、たびたび京と鎌倉を往還する人生を送りました。

当時の文化、歌壇状況や両統迭立期という政治状況等を踏まえつつ、『嵯峨のかよひち』『春のみやまち』を読み解き、作者の視点、作品の主題・表現等に関する考察を進めます。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基礎的な知識を習得する。
- ②紀行文学の特質を理解する。
- ③朝暮関係、また両統迭立という政治情勢を理解した上で、作品を読解し、その特質を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。前週に提出されたリアクションペーパーに記入された受講生の質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	飛鳥井雅有について	飛鳥井雅有の事績に関する概説
第 3 回	『嵯峨のかよひち』	作品概説
第 4 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家の『古今和歌集』講義
第 5 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家・阿仏尼による『源氏物語』講義
第 6 回	『嵯峨のかよひち』	『弘安源氏論議』
第 7 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家と藤原為氏の関係
第 8 回	『嵯峨のかよひち』	「蹴鞠の家」「和歌の家」としての飛鳥井家
第 9 回	『嵯峨のかよひち』	まとめ
第 10 回	『春のみやまち』	作品概説
第 11 回	『春のみやまち』	持明院統と大覚寺統の関係
第 12 回	『春のみやまち』	東宮（伏見天皇）との交流
第 13 回	『春のみやまち』	鎌倉下向の記
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回、授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。双方向授業を目指し、討論の時間を設けたり、学習支援システムのクリッカーを用いたりする予定です。

また、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材を配布するよう努めます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第 1 回・第 2 回授業はオンライン式の授業です。第 1 回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the poet Asukai Masaari and his works, *Saga no kayoji* and *Haru no miyamaji*.

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of diary literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の宮廷に仕えた女房による日記文学に焦点をあて、それらの作品の特質を考察し、その面白さを学びます。

当科目では『とはずがたり』巻一～三をとりあげます。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることとなりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。

『とはずがたり』という舞台において、作者はいかなる手法で自己を演出したのでしょうか。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、宮廷で繰り広げられる男女の愛憎を赤裸々に描いた本日記を精読し、その特徴や文学史的位置づけについて考察します。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②和歌や物語の享受の様相を理解する。
- ③歴史的背景を理解した上で作品を解釈する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。前週に提出されたリアクションペーパーに記入された受講生の質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史の解説
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院・「雪の曙」との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	王朝物語撰取の様相
第5回	『とはずがたり』巻一	後嵯峨院崩御、父の発病・死去
第6回	『とはずがたり』巻一	皇子出産、「雪の曙」の子の出産
第7回	『とはずがたり』巻一	中世王朝物語との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	当時の政治状況、粥杖事件
第9回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との出会い
第10回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」からの起請文
第11回	『とはずがたり』巻二	「六条院の女楽」・御所出奔
第12回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」との関係
第13回	『とはずがたり』巻三	『源氏物語』からの影響
第14回	『とはずがたり』巻三	説話文学からの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式の授業です。第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *Towazugatari* (*The Confessions of Lady Nijō*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世D

阿部 亮太

夜間時間帯

授業コード：A2668 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

軍記物語の主要作品を読みます。

中世日本では戦乱が相次ぎ、それらの事件に取材した軍記物語が多く創られました。本授業では、それらのなかから主要な作品の原文を読みます。そして、各作品の特徴や、それらの生み出された歴史的背景を理解することで、軍記物語というジャンルを概観し、中世文学の一側面を捉えてみたいと思います。

【到達目標】

1. 軍記物語を原文で読み、その内容（構想・構成・表現の特徴等）を理解し、説明する力を身につける。
2. 作品の成立する歴史的背景（当時の思想・文化等）を的確に把握した上で、作品世界を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Read the original text of Japanese war tales and understand and explain their content (plot, composition, characteristics of their expression, etc.).
2. Understand and explain each story's world based on a proper understanding of the historical background (the thought and culture of the period, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回、作品の解題と本文の読解を行います。授業終盤にはコメントカードを記入、提出していただきます。そこで受けた質問などには、次回授業の冒頭で回答する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「軍記物語」概説	授業の進め方の説明と「軍記物語」の概説
第 2 回	『保元物語』①	『保元物語』 解題・講読。
第 3 回	『保元物語』②	『保元物語』 講読。
第 4 回	『平治物語』①	『平治物語』 解題・講読。
第 5 回	『平治物語』②	『平治物語』 講読。
第 6 回	『平家物語』①	『平家物語』 解題・講読。
第 7 回	『平家物語』②	『平家物語』 講読。
第 8 回	『平家物語』③	『平家物語』 講読。
第 9 回	『平家物語』④	『平家物語』 講読。
第 10 回	『曾我物語』	『曾我物語』 解題・講読。
第 11 回	『太平記』①	『太平記』 解題・講読。
第 12 回	『太平記』②	『太平記』 講読。
第 13 回	『太平記』③	『太平記』 講読。
第 14 回	まとめ 授業内試験	秋学期授業のまとめと授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品の一部を扱うため、前後の文脈は各自で確認してください。また、原文を読むため、高等学校国語科（古典）程度の古典文法や、高等学校社会科（日本史）程度の基礎知識を理解しておくといでしょう。予・復習は各 2 時間程度とします。

Since we will work with passages from literary works, get acquainted with the content before and after. To read the original text, you will need to have basic knowledge of classical grammar at high school level of Japanese language (classical Japanese) and basic knowledge of Japanese history at high school level of social studies (Japanese history). Preparation and review will require about 2 hours.

【テキスト（教科書）】

毎回の授業でプリントを配布します。

【参考書】

- ・日下力氏『角川ソフィア文庫 保元物語 現代語訳付き』（角川書店 2015）
- ・日下力氏『角川ソフィア文庫 平治物語 現代語訳付き』（角川書店 2016）
- ・佐伯真一氏『三弥井古典文庫 平家物語』上・下（三弥井書店 1993・2000）
- ・青木晃氏・池田敬子氏・北川忠彦氏『東洋文庫 真名本曾我物語』1・2（平凡社 1987・88）
- ・兵藤裕己氏『岩波文庫 太平記』一-六（岩波書店 2014-16）
- ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010）
- ・『日本古典文学大辞典』1-6（岩波書店 1983-85）
- ・『日本古典文学大事典』（明治書院 1998）
- ・久保田淳氏編『日本古典文学辞典』（岩波書店 2007）

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するコメントカード 40 % と、期末試験 60 % で評価します。
The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%); and term-end examination (60%).

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese war tales.

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世 A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。

江戸時代中期、18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。さまざまなジャンルに触れつつ、知識を基盤としてそれと戯れる笑いの技法のさまざまなをふまえて実際に作品を読み解くことで、表現技法の多様性とこの時代の文芸の特質を探る。

★江戸時代前期については近世 C（宮本祐規子先生）を、江戸時代後期（19 世紀）については近世 B（伊與田麻理江先生）で学べます

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100 分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 時代背景	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第 2 回	川柳	現代にも通じる「うがち」の手法を知り、句を読み解く。
第 3 回	洒落本①	江戸の遊里事情を知り、作品のさまざまなを読む。
第 4 回	洒落本②	江戸人の美学、「通」の概念を考える。
第 5 回	黄表紙①	赤本、黒本・青本という草双紙を「戯作」化したこのジャンルの基本的な性格を学ぶ。
第 6 回	黄表紙②	一例としてかちかち山の後日談『親敵討腹鼓』前半を読解する。
第 7 回	黄表紙③	一例としてかちかち山の後日談『親敵討腹鼓』後半を読解する。
第 8 回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第 9 回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、さまざまな作品を読み解く。
第 10 回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第 11 回	見立絵本①	こじつけで視覚的にも言語的にも遊ぶ見立絵本を知る。
第 12 回	見立絵本②	貝の図鑑をパロディ化したさまざまな「かい」の絵本『絵本見立仮譬集』を読み解く。
第 13 回	見立絵本③	妖怪図鑑ならぬ変な人間図鑑『画本纂怪興』を読み解く。
第 14 回	まとめ	この時代の文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクション・ペーパーは終了後 10 分程度かけましょう。期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに 4 回程度の小課題を出します。本授業の準備学習は 30 分・復習時間は平均して 3 時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル〔インターナショナル新書〕、2019）

黄表紙について、見立絵本についてのまとまった解説があります（とくに見立絵本はこの授業で扱う作品を解説しています）ので、参照すると課題にとりくむにあたって役立つでしょう。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー（Hoppii 40 %）、計 4 回の課題の得点（60 %）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。

グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪、擬人化・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

教室の対面授業をメインとしますが、オンライン（双方向）併用も想定して実施します。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。

図書館のデータベースのうちジャパナレッジは随時使えるようにしておきましょう。（授業内で接続方法は案内します）

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらい各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing comic works from late 18th-century Edo (modern Tokyo) to discover the diversity of literary style, vocabulary and expressions in them.

Learning Objectives: The main goal of this course is to become familiar with each genre of literature of the time, understanding the skills applied in them and the various means of expression they make use of. Students also learn how to utilize digitalized materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. 4 short reports are also required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

伊與田 麻里江

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世後期の読本（よみほん）を読む。本授業では、曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』を、特にキャラクターの作られ方（人物造型）に焦点をあてながら分析していく。現在でもよく知られるこの作品がどのように創作されているのか、作者の馬琴の創作意識や小説理念に触れながら学んでいく。また、『南総里見八犬伝』を題材とした草双紙、浮世絵、歌舞伎も適宜紹介する。

【到達目標】

- ①読本というジャンルの特質を知ることができる。
- ②『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる。
- ③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業後にはリアクションペーパーを提出してもらう。また、曲亭馬琴の創作方法をより深く理解するために、創作課題にも挑戦してもらう（計2回）。リアクションペーパーで寄せられた質問や意見は次の授業で共有し、適宜解答する。また、提出された創作課題についても適宜フィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	授業の進め方、課題の内容、成績評価などについての説明を行なう。
第 2 回	読本について	読本とはどのようなジャンル？ 合わせて『南総里見八犬伝』の近代における評価も紹介する。
第 3 回	『南総里見八犬伝』の構想	なぜ、『南総里見八犬伝』の主人公（八犬士）は八人なのか？ - 『南総里見八犬伝』の構想を考える。
第 4 回	伏姫	伏姫の過酷な運命はどのように定まったのか？ - 『水滸伝』の利用と「名詮自姓」という文学理論を考える。
第 5 回	犬塚信乃①	『八犬伝』前半の主人公信乃はどのように誕生しているのか？ - 伏姫との関わりを考える。
第 6 回	犬塚信乃②／犬川荘介	信乃と荘介はどのようなキャラクターなのか？ - 概念を人物化する方法を考える。
第 7 回	犬飼源八	八犬士同士はどのように出会うのか？ - 「芳流閣の決闘」を読む。
第 8 回	犬山道節	なぜ道節は火遁の術を捨てるのか？ - 馬琴の「武士道」を考える。
第 9 回	犬田小文吾／船虫①	なぜ小文吾は相撲が得意なのか？ - 江戸時代の相撲文化との関係を考える。
第 10 回	犬坂毛野	なぜ毛野は女装するのか？ - 異性装の人気の理由を考える。
第 11 回	犬江親兵衛	なぜ親兵衛は登場回数が少ないのか？ - 再び、概念を人物化する方法を考える。
第 12 回	犬村大角／船虫②	大角と船虫はどのように出会うのか？ - 庚申山の場面を読む。
第 13 回	船虫③	船虫はなぜ高く評価されたのか？ - 馬琴の「悪」の描き方を考える。
第 14 回	総括 期末試験	簡単な総括のあと、期末試験を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）事前に配布したテキストを読む。また適宜、課題に取り組む。
（復習）授業資料やノートを見ながら授業内容を振り返る。
＊本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『浮世絵師の絵で読む八犬伝』（徳田武著、勉誠出版、2017）
『八犬伝の世界－八犬伝のふるさと』（館山市立博物館、2019）
『南総里見八犬伝名場面集』（湯浅佳子編、三弥井書店、2007）

その他、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーへの取り組み、課題（計2回）60 %
期末試験 40 %

＊リアクションペーパーは到達目標のうち、〈①読本というジャンルの特質を知ることができる〉〈③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる〉に、課題は〈②『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる〉に、期末試験は〈①読本というジャンルの特質を知ることができる〉〈『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる〉〈③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる〉にそれぞれ対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

浮世絵などのデジタル資料を hopii に共有し授業時間に適宜参照してもらうことがあります。タブレットなどをご用意ください（スマートフォンも可）。ただし、タブレットを所持していない学生にも配慮するつもりです（配付資料にも図版を掲げるなど）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問は授業後に受け付けます。リアクションペーパーに記載していただいてもかまいません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the *yomihon* (full-length novels of the Edo period), and reads *Nansō satomi hakkenden* (Kyokutei Bakin, 1814-42).

Learning Objectives: By the end of the course, students should have attained the following:

- Knowledge of the literary genre *yomihon*.
- A solid understanding of characterization in *Nansō satomi hakkenden*, obtained through doing assignments.
- An appreciation of the historical importance of Kyokutei Bakin's works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to read distributed text materials. And after each class, students will be expected to review the last class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a term-end examination (40%), and assignments and in-class contribution (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世C

宮本 祐規子

夜間時間帯

授業コード：A2671 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：※本授業は、水曜 5 限から火曜 5 限に変更となりました。受講を予定されていた皆様には、急な変更となり、大変申し訳ございません（4.12）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世前期小説の浮世草子は、井原西鶴を創始者とした、当代を切り取ることを意識した小説ジャンルである。浮世草子の成功により、井原西鶴は、元禄期を代表する作者として評価されている。それでは、西鶴らしさ、西鶴の面白さ、とは一体何なのだろうか。

本授業では、近世文化・古典作品の享受・小説のテーマ設定・登場人物・他作者との比較など、テーマを設定して読むことで、近世文学の多様さと面白さを知る。

【到達目標】

- ①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
- ②井原西鶴を中心に、江島其磧、太宰治といった後続作者の小説も紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

1. To learn about the literature and culture of the Kyoto-Osaka region when it began to blossom, early in the early modern period.

2. While focusing on Ihara Saikaku, to introduce novels by subsequent authors such as Ejima Kiseki and Dazai Osamu, to understand how interesting and varied early modern literature is.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代と近世小説の特徴	江戸と上方、実用書から小説まで
第 2 回	井原西鶴から八文字屋本	井原西鶴と後続作者ー江島其磧、八文字屋自笑
第 3 回	浮世草子と古典	『好色一代男』と『源氏物語』
第 4 回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』の新しい読み
第 5 回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『世間胸算用』『日本永代蔵』
第 6 回	浮世草子の女性たち	『好色五人女』のヒロイン
第 7 回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』『武道伝来記』
第 8 回	浮世草子の怪異	『西鶴諸国はなし』の闇
第 9 回	浮世草子と裁判	『本朝桜蔭比事』と現実社会
第 10 回	浮世草子と手紙	書簡体小説『万の文反古』
第 11 回	浮世草子と中国文学	『二十四孝』と『本朝二十不孝』
第 12 回	浮世草子と西鶴以後①	西鶴から太宰治『新釈諸国噺』
第 13 回	浮世草子と西鶴以後②	八文字屋本と江島其磧
第 14 回	まとめ 期末試験 解説	まとめ 期末試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には、配布する資料に事前に目を通すことを求める。

授業内だけでなく次週のレポート提出や、創作課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Before class, students read the materials to be distributed in advance. There may be assignments and creative exercises given for submission by the next class. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 45 %（小課題、リアクションペーパーなどを含める）

試験 55 %

Performance in class 45% (including short assignments, reaction papers, etc.); exam 55%.

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げた作品をより深く学べるように、授業後に各自で読むことのできるような論文・資料なども紹介していく。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。昨年度受講した者は、初回授業のリアクションペーパーで申し出ること。各回授業テーマは変更しませんが、取り上げる作品内の章を変更します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of literature of the Edo period (*kinsei bungaku*). *Ukiyo-zōshi* was one of the major literary forms of this period. Due to the success of *ukiyo-zōshi*, Ihara Saikaku has been evaluated as a representative author of the Genroku period (1688-1704). We read early modern novels from various perspectives.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1910～20 年代の大衆文化を題材にした谷崎潤一郎の短編小説を取り上げる。日本を代表する小説家である谷崎潤一郎は、当時最先端の文化や芸術を作品に積極的に取り入れた。そのサブ・カルチャー的な世界観や、尖端的なジェンダー・セクシュアリティ表現、メディアを横断した活動の実態を学ぶことで、近現代の文化や社会に対する批評眼を養う。また作品読解を通して、戦前の検閲や既成道徳とはいかなるものであったかも学び、文学がいかなる力を持ちうるかを考察を深める。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ※オンライン（ZOOM）	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	「秘密」①	戦前随一の盛り場である浅草がいかなる文学的トボスとして描かれているか読み取る。
第 3 回	「秘密」②	語り手が行う異性装の表現を取り上げ、近代におけるジェンダーの問題を考察する。
第 4 回	「人魚の嘆き」①	2 種類の単行本を取り上げ、挿絵と文章の繋がり考察する。また、それぞれに適応される表現規制（検閲）についても学ぶ。
第 5 回	「人魚の嘆き」②	戦前期の谷崎作品にみられる西洋人コンプレックスの問題と、人魚モチーフのつながりについて考察する。
第 6 回	「魔術師」①	同時代に流行した催眠術（メスメリズム）の暴力性を、文学はいかに描いたか検証する。
第 7 回	「魔術師」②	大正期の谷崎がしばしば主題化する、中性的な存在が近代社会に対して持ちうる批評性を考察する。
第 8 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 9 回	「人面疽」①	作中で描かれた映画女優と身体表象の問題について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第 10 回	「人面疽」②	ヴァルター・ベンヤミンの理論を援用しながら、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第 11 回	大正活映と谷崎潤一郎	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第 12 回	「青塚氏の話」①	観客の能動的な映画受容に着目し、同時代的な映画ファンの様相と欲望の問題性を明らかにする。
第 13 回	「青塚氏の話」②	映画が拡散する情報と物語の展開を連関させて読み解き、作品の現代的な批評性を析出する。
第 14 回	総括	授業内容の復習と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・谷崎潤一郎『人魚の嘆き・魔術師』（1978、中公文庫）

※同書籍の初版本は国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧できる（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946081>）。

また春陽堂から復刻版も刊行されているが、授業では中公文庫を使用する。ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11） 銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
 - ・五味潤典嗣『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
 - ・山中剛史『谷崎潤一郎と書物』（2020、秀明大学出版会）
 - ・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』（2022、水声社）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 50 %
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）： 50 %
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

初回のみ ZOOM を用いて授業を行います。アドレスは Hoppii から配信します。

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定です。必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will focus on Tanizaki Jun'ichirō's short stories about popular culture of the 1910s and 20s. Tanizaki Jun'ichirō, one of Japan's leading novelists, actively incorporated the latest culture and art into his works. By learning about its subcultural elements, gender and sexual expression, and cross-media activities, students develop a critical eye for modern and contemporary culture and society. They also learn about pre-war censorship and established morality.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret the primary sources in history.
- Explain about censorship by the Home Ministry.
- Use knowledge of modern culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%), in-class contribution (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ｂ

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（GHQ 検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：アダプテーションとは何か	授業内容と進め方に関する説明。文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第 2 回	「蛇性の姪」	大正活映時代の谷崎が『雨月物語』をいかに翻案したのか、シナリオを分析する。
第 3 回	「春琴抄」①	1930 年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第 4 回	「春琴抄」②	映像を具体的に確認し、原作と比較する。
第 5 回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味と問題性について考察する。
第 6 回	「盲目物語」	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第 9 回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第 10 回	「記」①	女性同性愛の表象について、谷崎による戦前の小説と、戦後の映画版ではいかなる差異がみられるか分析する。
第 11 回	「記」②	ナチス政権下のドイツを舞台とした映画化を取り上げ、日本版と比較検討する。
第 12 回	「鍵」	特殊な文体と構成をもつ長編が、映画化にあたりいかに再編されたか考察する。
第 13 回	「瘋癲老人日記」	同時代のセクシュアリティのあり方を背景に、谷崎が切り結んだ問題を明らかにする。
第 14 回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

授業資料は Google Classroom にもアップします。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11） 銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
 - ・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
 - ・北村匡平『スター女優の文化社会学 戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）
 - ・田中純一郎『日本映画発達史』3～5 巻（1976、中央公論社）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定ですので、必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichirō's novels were made into movies. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actresses' performance. We discuss the new aspects of the film adaptation of literature and its ripple effects, as well as the representation of actresses reflecting social situations.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret primary sources in history.
- Explain about censorship by GHQ/SCAP.
- Use knowledge of postwar culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%), in-class contribution (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2675 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学に於ける人権の考察

近代文学を読んでいると、現在の日本と非常によく似ている点があると思う。現代も明治大正時代も激しい競争社会だ。学校教育はもちろんだし、テレビやインターネットをはじめとしたメディアには、競争に勝ち抜いて社会的成功を収めた人、その結果人々の注目を集め賞賛を勝ち獲った人々であふれている。しかしそういう人々からだけこの社会が成立しているのではないことはみんなわかっている。しかしそういう競争社会から脱落した人、ついていけない人、もともと競争の外側にいる人など、所謂「勝ち組」の人生から見放された場合、何によって自分を支え、どう生きていったらいいのか、その答えは用意されていない。自分を語る言葉を失ったまま生きるしかない。

そういう意味で私たちが生きる日本社会はあまりにも〈個〉であることを軽んじてきたように思う。もちろん戦後憲法の基礎は一人ひとりの個人だ。しかし戦後民主主義が風化してしまった後、一人ひとりに内面化されず、法（個人の法的権利）よりも〈同調圧力〉といった実体のないグロテスクな権力が日本社会を支配していることは、このコロナ下で私たちが痛切に経験していることだ。みんなが同じでなければならないし、この社会に役立たなければならないし、「同じ」であることを拒むと居場所を失ってしまう。

この点では「立身出世」「良妻賢母」という生き方を国民に強制し、社会的に役に立たない人間や社会に順応できない人間には価値がない、と評価していたのは近代日本も同じだ。このような近代の残酷な人間観に対して、人間の普遍的な価値——人権の問題についてたえず問いかけてきたのが日本の近代文学だったと思う。

今回の授業では、「立身出世」「良妻賢母」といった規範を拒否した人間達が、〈個〉としての自己の存在理由について問いかけた作品を読んでいきたい。〈私〉の存在理由はどこにあるのか、なにが存在理由を生み出すのか、このような非常にラディカルな問題を、森鷗外、樋口一葉、志賀直哉、芥川龍之介らの作品の中に考えていきたい。とくに授業のまとめとして、最後に夏目漱石の「こころ」の「下」を通して夏目漱石が人権の問題をどのように考えたのか、その文学的達成について明らかにしていきたい。もちろん文学の授業なので、一つひとつの作品を丁寧に読むことをしっかり行いたい。取り上げる作品は中学や高校で学んだものも多い。〈読み〉という読み手の主体的な働きかけによって作品像と同時に作家像も大きく転換する。読み手の意識に都合のいい部分を抜き出して作品を語るのではなく、〈読み〉を通して作品そのものに深い批評性があることを理解してもらいたい。

【到達目標】

- ① 文学の批評性を理解する。
- ② 近代文学の歴史的意義について学ぶ。
- ③ 〈読み〉——テキスト分析の基本を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行う。

- ①授業で扱うテキストは一週間前に配布。
- ②感想・意見はリアクションペーパーに書いてもらい、授業冒頭で発表する。
- ④授業は、a) テキストの基本構造をおさえる、b) テキストの批評性について考察する、c) 作者の文学史的意義について考察する、という手順ですすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—なぜ「近代文学に於ける人権論の考察」なのか—北村透谷「漫罵」を通して考える	・授業のテーマについての主旨説明 ・授業の進め方、評価についての説明
第 2 回	志賀直哉「城の崎にて」第 1 回 作品構造について	・「城の崎にて」を読む—「范の犯罪」をプレテキストとして
第 3 回	志賀直哉「城の崎にて」第 2 回 批評と評価	・「城の崎にて」の存在論と日本近代（「城の崎にて」のポストモダニズム） ・志賀直哉の文学史的意義を再考する
第 4 回	芥川龍之介「奉教人の死」第 1 回	・「奉教人の死」を読む—その方法の実験を中心に

第 5 回	芥川龍之介「奉教人の死」第 2 回	・「奉教人の死」の存在論と他の芥川作品との関連について ・芥川龍之介の文学史的意義を再考する
第 6 回	森鷗外「高瀬舟」第 1 回	・「高瀬舟」を読む—「高瀬舟縁起」の眼鏡を外す
第 7 回	森鷗外「高瀬舟」第 2 回	・「高瀬舟」の存在論と他者の問題 ・森鷗外の文学史的意義を再考する
第 8 回	樋口一葉「十三夜」第 1 回	・「十三夜」を読む—ラディカルな近代小説としての一葉文学
第 9 回	樋口一葉「十三夜」第 2 回	・「十三夜」の存在論—日本近代のジェンダー問題再考 ・樋口一葉の文学史的意義を再考する ・なぜ夏目漱石「こころ」、そして「下」なのか ・「こころ」全体の枠組みを押さえる ・「K」の物語を読む ・複雑な語りの構造を押さえる ・語り手「私」＝「先生」の物語を読む ・明治の精神に殉ずるという欺瞞について
第 10 回	夏目漱石「こころ」下第 1 回	・まとめ—なぜ「こころ」なのか、漱石の他作品との関係から漱石の近代日本の思想上の達成を考える ・夏目漱石の文学意義意義を再考する ・授業の理解度を確認する ・終了後問題についての解説を行う
第 11 回	夏目漱石「こころ」下第 2 回	
第 12 回	夏目漱石「こころ」第 3 回	
第 13 回	夏目漱石「こころ」第 4 回	
第 14 回	テスト	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習
・授業で扱う作品を事前にしっかり読みこんでほしい。（二回以上は読むこと）
- 復習
・授業のノートを参照しながらもう一度作品を読みなおしてみる。

【テキスト（教科書）】

すべて授業で扱うテキストは学習支援システムを通して事前に配布する。（ただし「こころ」もテキストは同様に配信するが、各自本を購入し全文を読んでおいてほしい。

【参考書】

- ・西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）文学作品をどう読めばよいのかということについて貴重なヒントを与えてくれる。難解だが専門領域を超えて文学研究者が読まなければならない必読書。
- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点（50 %）（特にリアクションペーパーでの発言を重視する）
- ② 試験（50 %）学期末に行う。授業で学んだ内容について問う。

【学生の意見等からの気づき】

読みの方法論を教えてほしいという要望をよく耳にしました。今年度は方法論を意識した授業を心がけたいと思っています。また講義形式とはいえ、リアクションペーパーなどを通し、できるだけ一方通行的な授業にならないよう心がけたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Consideration of Human Rights in Modern Literature
When we read modern literature, we find that the human problems depicted in the works are very similar to those in Japan today. The similarity is that those who deviate from the goal of a competitive society to achieve social success, or those who cannot keep up with society, do not know what to do to support themselves or how to live if they are abandoned by society. It can be said that it was modern literature that challenged the cruel modern view of human beings that such socially useless people have no value, and constantly questioned the issue of human rights, which is a universal value of human beings. In this class, we consider representative writers of modern literature, such as Higuchi Ichiyō, Natsume Sōseki, Mori Ōgai, Shiga Naoya, and Akutagawa Ryūnosuke, from this point of view.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand the critical nature of literature, to learn about the historical significance of modern literature, and to learn about the basics of textual analysis. Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the works to be covered in the class well in advance. (Read them at least twice.)

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on what you write in reaction papers for each lecture (50%), and an end-of-semester examination, in which you will be asked about what you learned in class (50%).

LIT200BC
日本文芸研究特講（5）近代D
梅澤 亜由美
夜間時間帯
授業コード：A2676 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2 単位 配当年度：1～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1890 年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

- 1、指定された資料を用いての事前学習
- 2、教員による講義、および学生同士の意見交換
- 3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第 2 回	内田百閒『件』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 3 回	佐藤春夫『西班牙犬の家』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 4 回	泉鏡花『外科室』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 5 回	志賀直哉『冬の往来』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 6 回	岡本かの子『過去世』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 7 回	梶井基次郎『Kの昇天』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 8 回	江戸川乱歩『人でなしの恋』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 9 回	谷崎潤一郎『富美子の足』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 10 回	夢野久作『殺人リレー』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第 11 回	芥川龍之介『地獄変』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 12 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 13 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 14 回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→ 登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→ 語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
- ・【事後学習】講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する。
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。

【テキスト（教科書）】

- 以下に、テキストをあげます。手に入りにくいものは、こちらでも準備します。第 1 回の講義で、詳しく説明します。
- ・内田百閒『件』（『ちくま日本文学 001 内田百閒』ちくま文庫）
 - ・佐藤春夫『西班牙犬の家』（『怪奇探偵小説名作選 4 佐藤春夫集』ちくま文庫）
 - ・泉鏡花『外科室』（『外科室・海城発電 他五篇』岩波文庫）
 - ・志賀直哉『冬の往来』（『ちくま日本文学 021 志賀直哉』ちくま文庫）
 - ・岡本かの子『過去世』（『越年 岡本かの子恋愛小説集』角川文庫）
 - ・梶井基次郎『Kの昇天』（『ちくま日本文学 028 梶井基次郎』ちくま文庫）
 - ・江戸川乱歩『人でなしの恋』（『江戸川乱歩作品集 I 人でなしの恋・孤島の鬼』岩波文庫）
 - ・谷崎潤一郎『富美子の足』（『谷崎潤一郎フェティシズム小説集』集英社文庫）
 - ・夢野久作『殺人リレー』（『夢野久作全集 8』ちくま文庫）
 - ・芥川龍之介『地獄変』（『地獄変・偷盗』新潮文庫）

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回課題（50 パーセント）、②学期末課題（50 パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

他の人の意見を聞くのが刺激になるという声が多いので、可能なかぎり意見交換の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、PC、タブレット、スマホなど。PDF のファイルを見るのに、利用します。

【その他の重要事項】

※秋学期の授業となります。2022 年 9 月の状況によっては、授業内容の変更もあり得ます。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。
※学期末課題は、以下の 2 つから 1 つを選んでもらう予定です。
①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。
②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。
なお、学期末課題の提出は 11 回授業終了後、12 月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1890’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (50%); final paper (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代の自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	男たちの「妊娠小説」	夏目漱石、長塚節などの作品を読む
第 10 回	女たちの「妊娠小説」(1)	水野仙子、森しげ、与謝野晶子などの作品を読む
第 11 回	女たちの「妊娠小説」(2)	村田沙耶香、田中兆子、川上未映子などの作品を読む
第 12 回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第 13 回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、山崎明子・藤木直実編『〈妊娠〉アート論』（青弓社）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先：fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」成立までの鷗外と作品の概要
第 3 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	テクスチュアルハラスメント概念についての紹介
第 4 回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげ（鷗外夫人）の代表作「波瀾」の概要
第 5 回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」の概要
第 6 回	鷗外・しげの間テキスト性	鷗外夫妻の作品の相互性について
第 7 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	森しげの最後の作品「お鯉さん」の概要
第 8 回	雑誌『三越』と鷗外・しげ	三越百貨店機関誌および百貨店文化と鷗外夫妻との関わりについて
第 9 回	鷗外と与謝野晶子	鷗外と与謝野晶子との影響関係
第 10 回	与謝野晶子と『台湾愛国婦人』	愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』と与謝野晶子
第 11 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 12 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	「鷗外の怪談」鑑賞の続きと解説
第 13 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下に発表された鷗外作品の概略
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

永井 弥人

授業コード：A2681 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりました。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。春学期では、井上寅軒が物した九州旅行記『鴻爪餘録』（大正15年発行）を扱います。漢学の専門家ではなく、実業界の方の手に成る著作ですが、それだけに、判りやすい漢文で書かれています。また、内容も、国内の旅行記ですので、親しみを覚えやすいかと思います。※毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻す練習です。

江戸、明治の頃は、漢作文に向けた導入的練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習を行うことにより、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】

- ・訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。
- ・漢文の基本的な句法（文法）を理解する。
- ・簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1 復文の答え合わせと解説。
- 2 テキストを講師が朗読。
- 3 テキストの解説、訳。
- 4 全員で朗読。

※授業中のご質問は、解説の切れ目回りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説 香椎宮 宮崎宮（前）	テキスト等の解説。香椎神宮と箱崎宮を廻る紀行文。
第2回	復文1 宮崎宮（後）都府樓址（前）	箱崎宮と太宰府跡を廻る紀行文。
第3回	復文2 都府樓址（後）菅廟（前）	太宰府跡と天満宮を廻る紀行文。
第4回	復文3 菅廟（後）熊本城（前）	天満宮と熊本城を廻る紀行文。
第5回	復文4 熊本城（後）	熊本城を廻る紀行文。
第6回	復文5 隈府（前）	隈府を廻る紀行文。
第7回	復文6 隈府（後）	隈府を廻る紀行文。
第8回	復文7 西郷南洲故宅	西郷隆盛の旧居を廻る紀行文。
第9回	復文8 川口雪蓬逸事	西郷隆盛の旧友川口雪蓬についてのエピソード。
第10回	復文9 麿府所見	鹿児島市を廻る紀行文。
第11回	復文10 青島	宮崎県青島を廻る紀行文。
第12回	復文11 鵜戸宮 宮崎神宮	鵜戸神宮と宮崎神宮を廻る紀行文。
第13回	復文12 隼人國	「隼人」と薩摩藩に関する所感。
第14回	試験 まとめと解説等	試験 まとめと解説等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを一読しておいて下さい。授業後、出来ればその日の内に、一通り復習しておく、実力が向上するかと思います。2 回目の授業以降、復文練習を行いますので、事前に解答を作成しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

講師が訓点・添え仮名（送り仮名）を付けた教材を配布。

【参考書】

- ・漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解（三省堂） 漢字源（学研） 新字源（角川） 辺りがお勧めです。
- ・文法書 『漢文を読むための助字小字典』 内山書店

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60 % 課題（学期中頃、復文課題。） 20 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・毎回出席調査票を用いて出席を取る予定です。

・授業の進行は多少ズレが生じる可能性があります。もし早めに予定を消化した場合は、別のテキストを読みます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire reading skills in classical Chinese.

Learning Objectives: The goal of this course is to reach the elementary level for reading classical Chinese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (70%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文B

永井 弥人

授業コード：A2682 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりまして。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。

秋学期では、長谷川九華の『大磯紀勝』（明治 31 年発行）を扱います。春学期の井上寅軒同様、九華も専門の漢学者ではなく、実業界の人士です。相州大磯の名勝を繊麗な筆致で書き綴り、漢学界の耆宿依田学海がこれまた見事な評文を附しております。ご堪能頂けるのでは、と密かに期しております。

※ 毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻す練習です。

江戸、明治の頃は、漢作文に向けた導入の練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習を行うことにより、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】

- ・ 訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。
- ・ 漢文の基本的な句法（文法）を理解する。
- ・ 簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1 復文の答え合わせと解説。
- 2 テキストを講師が朗読。
- 3 テキストの解説、訳。
- 4 全員で朗読。

※授業中のご質問は、解説の切れ目回りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説 鶏山積翠	テキスト等の解説。鶏足山の描写。
第 2 回	復文 1 麗園幽棲	高麗山公園の描写。
第 3 回	復文 2 花水緩流	花水川の描写。
第 4 回	復文 3 唐原落雁	唐土ヶ原を廻る考察。
第 5 回	復文 4 粧坂秋雨（前）	化粧坂の描写。
第 6 回	復文 5 粧坂秋雨（後）	化粧坂の描写。円山稲荷の描写。
	圓山秋月	
第 7 回	復文 6 松林避暑	長者林の描写。
第 8 回	復文 7 虎池奇石（前）	虎池の石を廻る文章。
第 9 回	復文 8 虎池奇石（後）	復文 8 虎池奇石（後）照崎浴潮
	照崎浴潮	
第 10 回	復文 9 鵲澤勝蹟（前）	鵲立沢を廻る文章。
第 11 回	復文 1 0 鵲澤勝蹟（後）	鵲立沢を廻る文章。
第 12 回	復文 1 1 薬師古像	楊谷寺の薬師如来像を廻る考察。
第 13 回	復文 1 2 立野遠眺	立野山の描写。
第 14 回	試験 まとめと解説等	試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを一読しておいて下さい。授業後、出来ればその日の内に、一通り復習しておくと、実力が向上するかと思います。

2 回目の授業以降、復文練習を行いますので、事前に解答を作成しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

講師が訓点・添え仮名（送り仮名）を付けた教材を配布。

【参考書】

- ・ 漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解（三省堂） 漢字源（学研） 新字源（角川） 辺りがお勧めです。
- ・ 文法書 『漢文を読むための助字小字典』 内山書店

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60 % 課題（学期中頃、復文課題。） 20 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・ 毎回出席調査票を用いて出席を取る予定です。
- ・ 授業の進行は多少ズレが生じる可能性があります。もし早めに予定を消化した場合は、別のテキストを読みます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire reading skills in classical Chinese.

Learning Objectives: The goal of this course is to reach the elementary level for reading classical Chinese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (70%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文C

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2683 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。

有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments). The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第 2 回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第 3 回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第 4 回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち榮辱を知る」の成語を学ぶ。
第 5 回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。齊物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第 6 回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第 7 回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第 8 回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第 9 回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第 10 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第 11 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分の精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第 12 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Be sure to prepare for the materials distributed in advance.

Chinese-Japanese dictionaries and kanji dictionaries are used for preparation.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）

高校時代に使用した国語便覧など。

A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.

High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1 回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校国語の副教本（便覧・要覧）

など。

・また、オンライン授業になった場合は Hoppii を使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン（オンデマンド）になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合は Hoppii を利用し、zoom などは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文D

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2684 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話テキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments).

The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第 2 回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分で精読する。
第 3 回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第 4 回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第 5 回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなったのかを理解する。
第 6 回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第 7 回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第 8 回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを学ぶ。
第 9 回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第 10 回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第 11 回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の典拠となった部分を精読する。
第 12 回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。
Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。
A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.
High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本（便覧・要覧）など。
・また、オンライン授業になった場合は Hoppii を使うので、使用できるような環境を整えておくこと。
・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.
・High school supplementary textbook.
・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン（オンデマンド）になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合は Hoppii を利用し、zoom などは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語A

王安

授業コード：A2685 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異なってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
- (2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
- (3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第 2 回	第 2 章	ことばの記号性
第 3 回	第 3 章	ものの見方と意味
第 4 回	第 4 章	プロトタイプとカテゴリー
第 5 回	第 5 章	イメージ・スキーマ
第 6 回	第 6 章	イメージ・スキーマと比喩
第 7 回	第 7 章	意味のネットワーク
第 8 回	第 8 章	メタファー（隠喩）
第 9 回	第 9 章	メトニミー（換喩）
第 10 回	第 10 章	概念メタファー
第 11 回	第 11 章	方向性のメタファー
第 12 回	第 12 章	色とことば
第 13 回	第 13 章	構文と意味
第 14 回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（2 時間）
2. 授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（1～2 時間）
3. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3 時間）

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美 ひつじ書房 1200 円

【参考書】

○『言葉のしくみ』高橋英光 2010 北海道大学出版会

○『ファンダメンタル認知言語学』2014 野村益寛 ひつじ書房
 ○『新編 認知言語学キーワード事典』2013 辻幸夫編 研究社
 『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』初山洋介 研究社
 『日本語研究のための認知言語学』初山洋介、研究社
 『認知言語学とは何か』高橋英光 野村益寛 森雄一 くろしお出版
 『認知意味論：言語から見た人間の心』ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
 『認知意味論のしくみ』初山洋介著、研究社
 『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】

課題 40% + リアクションペーパー 20% + 期末レポート 40% = 100% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下の点について工夫したいと思います：

- ・来年度もオンライン授業になった場合、授業資料をもっと早く学習支援システムにアップすること；
 - ・授業形態について変更がある場合はもっと早く知らせを出すこと。
- 以下の点は良い評価を頂きましたので継続していきたいと思います：
- ・チャット欄を利用して、全員ディスカッションを行う
 - ・たくさんの用例を見せながら説明を行う

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社
 「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバースペクティブ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社
 第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
 「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through the Japanese, English, Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject's construe is reflected in the meaning and structure of the language.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the basic concepts and ideas of cognitive linguistics.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class, students will be expected to spend three or four hours understanding the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Overall grade in the class will be decided based on the following parts:

- Assignments: 40%
- Reaction paper: 20%
- Term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの 5 頁～22 頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第 1 話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第 2 話と第 2 話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第 3 話導入と第 3 話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第 4 話と第 5 話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第 6 話と第 7 話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第 8 話と第 9 話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第 10 話と第 11 話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第 12 話と第 13 話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第 14 話と第 15 話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第 16 話と第 17 話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第 18 話と第 19 話
第 14 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（12）	テキストの第 20 話と第 21 話 大レポートの注意事項 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説【増補版】』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの 158 頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%) と学期末の大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture introduces the method for reading the poems of *Man'yōshū*. We use the textbook cited in the Japanese syllabus.

Learning Objectives: Through the process of reading *man'yō-ka*, which were written in *kanji* (Chinese characters) over a thousand years ago, students learn the *uta-kotoba* (words for *man'yō-ka*) of Old Japanese. By reading the textbook and listening to the instructor's commentary, students learn how to discover problems, collect materials, set out arguments, and draw conclusions. Students acquire the ability to think flexibly from different perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignment (comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end report (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 5 0 %。レポート 5 0 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次の授業に応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞 第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 5 0 %。レポート 5 0 %。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and insequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇 A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能楽（能と狂言）」の基本を学んでいく。能楽は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。本講義では、能楽の基本的な知識を学びながら、を古典文学や中世文化を下敷きにした作品を鑑賞していく。

【到達目標】

本講義では、能と狂言の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば「幽玄」、狂言と言えば「おかし」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第 2 回	能楽の基本	能と狂言の違い
第 3 回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代まで
第 4 回	能楽の形式	能楽の諸要素
第 5 回	能《敦盛》を読む①	『平家物語』と能
第 6 回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第 7 回	狂言《棒縛》を読む	太郎冠者と次郎冠者
第 8 回	能《井筒》を読む①	『伊勢物語』と能
第 9 回	能《井筒》を読む②	作品を読む
第 10 回	狂言《千切木》を読む	わわしい女
第 11 回	能《紅葉狩》を読む①	鬼女伝承と能
第 12 回	能《紅葉狩》を読む②	作品を読む
第 13 回	狂言《節分》を読む	狂言が描く鬼
第 14 回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%。学期末レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく動画を見る時間を多く作りたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Noh and Kyogen.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇 B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典芸能の中心に俊寛の物語を取り上げる。絶海の孤島に流罪となった俊寛の物語は、能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎といった多くの古典芸能の素材となった。これらの芸能が描く俊寛を横断的に鑑賞し、この物語の魅力と各芸能の類似点・相違点を学んでいく。

【到達目標】

- ◆能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎の古典芸能の基本知識を習得し、それぞれの芸能の特色を自身で分析できる。
- ◆古典文学と古典芸能の関係について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	古典文学と古典芸能
第 2 回	俊寛の物語の背景	平氏政権時代の日本
第 3 回	『平家物語』を読む①	鹿ヶ谷の陰謀
第 4 回	『平家物語』を読む②	鬼界島
第 5 回	能《俊寛》①	能の基礎知識
第 6 回	能《俊寛》②	熊野詣と《酒宴》
第 7 回	能《俊寛》③	赦免状と足摺
第 8 回	狂言《柑子》	俊寛の物語の語り
第 9 回	人形浄瑠璃《平家女護鳥》①	人形浄瑠璃の基礎知識
第 10 回	人形浄瑠璃《平家女護鳥》②	物語の鑑賞
第 11 回	人形浄瑠璃《平家女護鳥》③	能との違い
第 12 回	歌舞伎《俊寛》①	歌舞伎の基礎知識
第 13 回	歌舞伎《俊寛》	人形浄瑠璃との違い
第 14 回	補足	近代文学の俊寛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%
学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちの要望を受けて、能楽以外の古典芸能を交えて、授業を構成した。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the classical Japanese performing arts through stories and plays about Shunkan, a tragic figure of *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*).

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of the classical Japanese performing arts.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, Ningyō Jōruri, and Kabuki. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として、対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。資料の配布・公開、毎時小課題（リアクションペーパー等）の提出、および質問に対するフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	【オンライン】導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第 3 回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第 4 回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える。
第 5 回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第 6 回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第 7 回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第 8 回	舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第 9 回	管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第 10 回	催馬楽	御遊などで歌われる催馬楽について学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。
第 11 回	仏教と音楽	法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係について考える。
第 12 回	声明から語り物へ	後の語り物芸能に影響を与えた、和讃や講式などの声明の曲種について学び、その音楽性と文学性について考える。
第 13 回	平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
第 14 回	春学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、授業内もしくは Hoppii 上での課題回答、および質問事項等の入力必須とします。質問については、まず自分自身で調べてみた上で行ってください。準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または Hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小課題、および質問内容 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内で PC を利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、Hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we center on the question “What is Japanese music?” by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of “Japanese music” in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks/Questions (60%).
- Final report (40%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりや分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として、対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。資料の配布・公開、毎時小課題（リアクションペーパー等）の提出、および質問に対するフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	【オンライン】導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	和歌を歌う	歌会始における歌披露を鑑賞し、現代における和歌の歌唱例について考える。
第 3 回	上代における歌唱事例	記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学び、それぞれのうたがどのように、また何のために歌われたのか考える。
第 4 回	和歌のレトリック 1	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第 5 回	和歌のレトリック 2	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第 6 回	歌合における音楽と歌唱	歌合の歴史を概観しながら、歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第 7 回	「誦ず」と「うたふ」	『源氏物語』における歌謡の発声場面で用いられる二つの動詞（誦ず、うたふ）に注目し、その使い分けについて考える。
第 8 回	『源氏物語』と催馬楽	『源氏物語』における催馬楽の歌唱場面に注目し、演奏上の特性や文学的効果について考える。
第 9 回	催馬楽の音楽的性質	催馬楽における二重の同音性について学ぶ。同じ旋律で歌われる催馬楽同士の関係について考える。
第 10 回	催馬楽と唐楽・高麗楽の先後	催馬楽と同じ旋律をもつ唐楽・高麗楽曲との関係について注目し、同音関係の生じた経緯について考える。
第 11 回	平家語りの音楽とことば	『平家物語』における朗詠や今様などの音楽描写について注目し、琵琶法師が語る「音楽」の意味について考える。
第 12 回	越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第 13 回	あらためて、うたを歌うとは	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。
第 14 回	秋学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、授業内もしくは Hoppii 上での課題回答、および質問事項等の入力必須とします。質問については、まず自分自身で調べてみた上で行ってください。準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または Hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小課題、および質問内容 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内で PC を利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、Hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks/Questions (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌A

四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を隔週で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
可能な限り教室での対面授業といたします。やむなくオンライン授業となった場合は、オンラインでのライブストリーミングを基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行うことがあります。
第 2 回	講義 1：詩の共和国を眺望する	古今東西のさまざまな詩の形や詩人たちの系譜を概観する
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：声の詩、文字の詩	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第 5 回	演習 2：詩を訳してみる	国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義 3：物事の詩、心の詩	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。
第 7 回	演習 3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：宴と孤心	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第 9 回	演習 4：ミニ連詩	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第 10 回	講義 5：AI(人工知能)に詩は書けるか？	AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。
第 11 回	演習 5：AI詩で遊ぶ	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのAI詩を作ってみる。
第 12 回	講義 6：詩の自由と抵抗	詩による現実への抵抗、現実からの解放について学ぶ。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめと解説	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をする。現代詩相談室も合わせて実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（6回）の授業では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことを基に推敲した上で、その週の課題として提出します。
講義の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年

四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 80 %
平常点/Class Participation 20 %

【学生の意見等からの気づき】

去年が初めての授業でしたが、思った以上に演習が好評で、自ら詩を書き、クラスメイトの詩を読むことを楽しんでいる様子でした。今年も引き続き獲れたてのぴちぴちした詩を教室で分かち合っていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とします。
講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。
第2回	講義1：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第3回	演習1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第4回	講義2：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第5回	演習2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第6回	講義3：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第7回	演習3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第8回	講義4：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第9回	演習4：国際詩祭をプロデュースする	実際の国際詩祭の記録を参考に、もしも自分たちがプロデュースするのなら、どんな詩祭を実現したいか、企画立案する。
第10回	講義5：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代のミャンマーの詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第11回	演習5：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第12回	講義6：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第13回	演習う6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第14回	まとめ：詩とは何か	後期の授業のまとめと現代詩相談室。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（全6回）では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことをもとに推敲したうえで、その週の課題として提出します。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』滯標 2020年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 80 %
平常点/Class Participation 20 %

【学生の意見等からの気づき】

去年が初めての授業でしたが、思った以上に演習が好評で、自ら詩を書き、クラスメイトの詩を読むことを楽しんでいる様子でした。今年も引き続き獲れたてのびちびちした詩を教室で分かち合っていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸A

三井 喜美子

授業コード：A2697 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巖谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】 明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を理解することができる。巖谷小波「こがね丸」を音読すること。児童文学の創作をし、合評会で意見交換をすることができる。

【授業時間外の学習】 講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。講義後の感想を必ず **hoppii** に投稿し出席確認すること。児童文学短編を創作し相互評価すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解することができる。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えることができる。また、代表的な作家の業績をとらえることができる。実際に児童文学の創作をし、**Hoppii** のシステムを使って相互評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。対面かオンラインかは随時学習支援システムで伝達する。講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、相互評価をすること。**Hoppii** の授業内掲示板に授業後の感想を書き、講師とコミュニケーションをとると同時に、出席確認をすること。具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出された感想（リアクションペーパーに代わる **Hoppii** の投稿）からいくつかり取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまで作品を読了しておくこと	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の発展を考察することができる
第 4 回	児童文学の面白さとは 翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそく と人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の求めたものの 文壇作家の児童文学	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介の作品と作家像 「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる
第 11 回	創作の相互評価と合評会	童心主義とは何かを理解する 実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1
第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える

第 14 回 坪田譲治その他 大正から昭和へ作品の変化を理解することができる
大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず **Hoppii** に投稿し出席確認をとること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること。**Hoppii** の相互評価を活用する予定
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学
『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。感想の投稿をもって出席とする
平常点（授業への参加態度と授業感想）40 %
児童文学（掌編）の創作 20 %と合評 20 %
期末レポート 20 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。
学生同士の交流を取り入れること。
スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は学習支援システムの相互評価を活用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of the course is for students to be able to understand the history and significance of Japanese children's literature. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to understand the major Japanese children's literature from the Meiji era to the present. Students will read aloud Iwaya Sazanami's *Koganemaru*. Students will also create an original children's story and exchange opinions in an evaluation session.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class session, students are expected to read the works discussed in the lecture. After class, they are to post their comments on Hoppii and confirm their attendance. During the course, students must create their own children's story and evaluate their classmates' works. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: Participation (attitude and comments) (40%); creation of children's short story (20%); evaluation of classmates' works (20%); short essay (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の内容を受けて、秋学期では昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批評的に見据えていくことを視座として、児童文学を考えいくことができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のブリオバトル風に紹介する

【到達目標】 取り上げる作家・作品・ジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価をグループで議論することができる。

【授業時間外の学習】 地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルは Zoomで行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】
現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価を議論することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。授業形態は状況に応じて随時判断し、学習支援システムを使って伝達する。個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。新たな児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。詳細はホッピー（学習支援システム）にて連絡するので、確認をすること・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（Hoppii に投稿した感想）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 ビブリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉「ぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新美南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本ビブリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観 また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のビブリオバトル
第 9 回	幼年文学	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に
第 12 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる

第 13 回 少年少女小説と YA 児童と大人の狭間の読者論的理解

第 14 回 ファンタジー ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルを Zoomで行う。フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】
別冊太陽特集絵本 ○〇年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。投稿感想をもって出席とする
授業への参加態度と感想文及び授業進行過程での回答 4 0 %、
推薦絵本プレゼンテーション 2 0 %
推薦絵本の書評 2 0 %
レポート 2 0 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】
教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】
OHC の使用

【その他の重要事項】
絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline (in English)】
Course Outline: Following the contents of the spring term, this course's lectures focus on the author Miyazawa Kenji and the different genres that make up children's literature. Students will understand the characteristics of each genre. Students will recommend and evaluate a children's book of their choice.
Learning Objectives: Students will be able to understand the characteristics and historic meaning of each author, their works, and the different genres. They will introduce children's books to each other, following with its evaluation and group discussion.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read as many children's books as possible in their local libraries or bookstores and find a book they wish to introduce to others. A "Bibliobattle" of books they recommend will be conducted on Zoom. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.
Grading Criteria/Policy: After each session, students must post their comments on Hoppii and confirm their attendance as well as communicate with others. Class participation and comments (40%); presentation on recommended book (20%); participation in the "Bibliobattle" (20%); report (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初めの文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることが目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『おもろさうし』の鷺 1	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の鷺の用例をみていく。
第 2 回	『おもろさうし』の鷺 2	おもろの中で「鷺をつかむ」という用例がある。その用例を詳しくみていく。
第 3 回	鷺をとる	「鷺をとる」というおもろの意味を考えていく。
第 4 回	鷺の霊能 1	おもろ世界の鷺は霊能を持つ存在である。それが具体的にどのようなものかをみていく。
第 5 回	鷺の霊能 2	おもろ世界の鷺は不可視のものをみる、とされる。その意義を考えていく。
第 6 回	鷺の地名	おもろ世界では鷺のつく地名がある。その地名を考察していく。
第 7 回	鷺と王権	おもろ世界の鷺と王権は深く結びついている。そのことを考察していく。
第 8 回	鷺と戦い	鷺、鷺羽には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察していく。
第 9 回	船と鷺	おもろ世界では船が猛禽類とダブルイメージされることがある。そのことを考察していく。
第 10 回	琉球船と猛禽類	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第 11 回	『遺老説伝』の鷺羽	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある鷺羽の事例をみていく。
第 12 回	鷺のイメージ・神話・矢羽根	巨大な鷺のイメージがいかに形成されたかを神話、鷺の尾羽が矢羽根として珍重されていた事象などから考察していく。
第 13 回	鷺のイメージ・鳥の墓	南西諸島には宇佐八幡の唱導文芸、百合若大臣が伝わっている。その物語に登場する鷹のイメージを考察していく。
第 14 回	鷺之鳥節の鷺	八重山諸島で現在も愛される鷺之鳥節の鷺のイメージを考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の鷺」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年、本体 2500 円）を教科書として使用する。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008 年）
『『おもろさうし』と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013 年）
『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015 年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内 2 つを選んで、それぞれ 300 字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考に。最低 6 回は出席すること。
・期末試験で 70%、平常点で 30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期は同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The *Omoro sōshi* is the first written compilation of sacred songs and poems collected by the Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklore in the *Irō setsuden* and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn how Ryukyuan sacred songs and literature are related to the cultures of the surrounding areas and developed their own unique styles.

Learning Objectives: The goal is to understand the difference between Ryukyuan and Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。日本神話における隼人の重要性を認識することを到達目標とする。

【到達目標】

・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えたと興味深い事象が認識できる。
・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第 2 回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第 3 回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第 4 回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第 5 回	ヨ 2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第 6 回	ヨ 3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第 7 回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第 8 回	カゲ（影）	カゲは霊力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第 9 回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第 10 回	このはなのサクヤビメとなよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第 11 回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第 12 回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第 13 回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第 14 回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年、本体価格 2500 円）を教科書とする。

【参考書】

『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011 年）
『うたの神話学』（福寛美、森話社、2010 年）
『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2 問を選び、それぞれ 300 字以上記述する、という形にする。
・平常点も留意する。最低 6 回は出席すること。
・試験を 70%、平常点を 30%として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期ともに同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The myths and folklore of the Nansei Islands are closely related to those of Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, we will learn about the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be looked at in detail.

Learning Objectives: The goal is to recognize the importance of the Hayato in Japanese mythology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸C

阿部 美菜子

夜間時間帯

授業コード：A2701 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄の古典語

【到達目標】

沖縄の祭祀歌謡集である『おもろさうし』を読み進める。主に、『おもろさうし』にあらわれる「オモロ語」と本土の大和語を比較することを通して、日本語学の基礎知識を習得すると共に語学的な研究法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	『おもろさうし』とは（1）	『おもろさうし』の概説（成立、内容、歌形、読み方など）
第3回	『おもろさうし』とは（2）	『おもろさうし』の概説（『おもろさうし』をめぐる謎、歴史的背景など）
第4回	沖縄語と大和語	日本語の中の沖縄語
第5回	オモロ語の表記・音韻	『おもろさうし』の仮名遣い、音韻
第6回	文法の基本事項（1）	動詞
第7回	文法の基本事項（2）	形容詞
第8回	対語（1）	対語の定義、対語間の語義
第9回	対語（2）	対語間における「沖縄語」と「大和語」
第10回	調査方法	文献や辞典類の見方
第11回	語学的研究法（1）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第12回	語学的研究法（2）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第13回	オモロ精読（1）	オモロを読む過程で、問題点を探す
第14回	オモロ精読（2）／まとめ	オモロを読む過程で、問題点を探す／春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読むこと。講義を聞き流すだけではなく、各回の内容について自らの考えを深化させることを心がけてほしい。
※本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is intended to deepen knowledge and understanding about the classical language of Okinawa. In addition, I aim at improving students' "power to think" about Japanese.

Learning Objectives: The goal of this course is to deepen understanding about the classical language of Okinawa.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short reports (40%); term-end examination (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸D

阿部 美菜子

夜間時間帯

授業コード：A2702 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄の古典語

【到達目標】

沖縄の歌謡（『おもろさうし』『琉歌』）を読むことを通して、沖縄の古典語の基礎知識を習得すると共に、語学的な研究法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	南島歌謡概説	『おもろさうし』『琉歌』など、沖縄古語を伝える文献について
第3回	音数律	対語間における音数
第4回	オモロ語と大和語	オモロ語はどこまで通じるか
第5回	漢語	『おもろさうし』中の漢語の使用状況、外来語との関係
第6回	動詞	オモロ語「かける」
第7回	形容詞	オモロ語「愛し」／美を表現するオモロ語
第8回	オモロ精読（1）	「王府オモロ」を読む
第9回	オモロ精読（2）	「地方オモロ」を読む
第10回	オモロ精読（3）	「特殊オモロ」を読む
第11回	「琉歌」講読（1）	「歌人」に注目して読む
第12回	「琉歌」講読（2）	『おもろさうし』と比較しながら読む
第13回	「琉歌」講読（3）	「和歌」と比較しながら読む
第14回	まとめ	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is intended to deepen knowledge and understanding about the classical language of Okinawa. In addition, I aim at improving students' "power to think" about Japanese.

Learning Objectives: The goal of this course is to deepen understanding about the classical language of Okinawa.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short reports (40%); term-end examination (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第2回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在
第3回	日本意識の芽生えと発展	プレゼンテーションの準備 「中華思想」との接触 中世の日本意識
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	プレゼンテーションの準備（続） キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回 テキスト pp. 10-17
第7回 テキスト pp. 18-23
第8回 テキスト pp. 64-69、70-77
第14回 テキスト pp. 104-111
その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみなならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第 7 回	60～70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第 8 回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 10 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue” と第 12 章 “The Child Learns”
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 2 回 テキスト pp. 182-187

第 6 回 テキスト pp. 214-219、266-271

第 7 回 テキスト pp. 248-253

第 11 回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりの在り方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各自で1度はフィールドワークに行ってもらう予定。毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。そのフィードバックは次の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学（アニメ、マンガなども含む）には舞台があり、何らかの役割を果たしていることに気付く。
第2回	東京の概要を知る	首都「東京」が江戸時代の城下町をベースに成り立っていることを学ぶ。
第3回	古地図を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第4回	現在の東京を知る	23区の1区ごとの位置と特徴の概要を学ぶ。
第5回	江戸の中心「江戸城」を知る	江戸城について現在と比較しながら歴史や文化を学ぶ。
第6回	城下町「江戸」の概要を知る	下町と山の手について学ぶ。
第7回	下町の中心「日本橋」を知る	日本橋の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第8回	上野を知る	上野の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第9回	浅草を知る	浅草の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第10回	新宿を知る	新宿の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第11回	渋谷を知る	渋谷の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第12回	巣鴨を知る	巣鴨の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第13回	法政大学周辺を知る	法政大学周辺の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第14回	23区内のうち1つの町を選び、特徴を各自で調べる	事前学修をブラッシュアップし、反省点等をまとめ、最終レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（1～2時間）
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。

宿題：復習したことをノートにまとめる。その他、適宜宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）

安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60 %

・中間レポート（宿題）20 %

・期末レポート 20 %

これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、時間帯が遅い授業のためか、遅くても参加しようとするまじめな受講生が多く、またリアクションペーパーなどを見ると、自分の意見をしっかりと持ち、それを伝えようとする姿勢も顕著です。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使えば使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。

<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）（A3862）を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、「文化史2」（A2582）（夜間）は履修不可。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史2」（A2582）を履修登録する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまたま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIN100BD

英語学概論 A

准 名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2 セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1 年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4 月11 日です。コロナの状況で授業形態（対面かズーム）が変更する場合は、Hoppii で前の週末までにお知らせします。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいてください。毎週 Hoppii 「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が月曜日4 限ですので、必ず、前日までには Hoppii をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までには Hoppii でお知らせします。Hoppii から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1 回	オリエンテーション 毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2 回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3 回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4 回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5 回	形態論 (2)	形態論と形態素
第6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppii にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppii にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行いたいと思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に Hoppii に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要の場合は、授業後に Hoppii にアップします。
・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (10%), and attendance (20%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第3回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習：母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説：子音の仕組み
第5回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第11回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第12回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第13回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 40%
平常点 40%
レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その 1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その 1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験：英語の接続詞の種類分け
第 8 回	今日の文法理論その 3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その 4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100 %。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論 B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.
(Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.
(Learning activities outside of classroom) Reaction papers
(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くとき一般的に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対して初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、**本科目**は**教室での「対面授業」を毎回実施する予定**です。しかし、新型コロナウイルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方向的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト／アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論 2	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論 3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第 13 回	意味論 1	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論 2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通して、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。試験形態は定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況などに左右されるため、試験期間が近づいてきたら (A) と (B) のどちらになるかを改めてお知らせします。

2. プラスアルファの加点

上記 1 の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々加点をいたします。

(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等）の一言感想だけのものを提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追いつかなくなる」という意見が出されたため、近年は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めてきましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてく」という相反する意見が出されてきました。また、1 つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができていたシラバスの「授業計画」の内容を近年はすべてカバーすることができていません。従って、今年度は各回の授業で取り上げる学習項目をもう一度全体的に見直し、かつ授業中に学生の理解度を細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、「授業計画」の内容をきちんと網羅できる授業を目指していきます。

2. 昨年度はリアクションペーパーや質疑応答などで学生から質問やコメントをもらう機会を作ることが少なくなってしまう、「授業中の教員・学生間の双方向的なやり取り」を上手く達成できませんでした。この点を反省し、今年度は学生の授業に対する意見を吸い上げる機会を例年のように積極的に設けていこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりでいる学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

2. 「対面授業」に出席できない受講生（e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生）は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください（ハイフレックス授業の準備が必要になるため）。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。

3. 本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を2グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:

(a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.
(b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.

(c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of that day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of that day's class before class.

(b) Review

You should get the content of that day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in that day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（対面・リモート）は HOPPII で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ボライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やボライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてきてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までは Hoppii を見てください。毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第2回	語用論とは何か	語用論とボライトネスについて概説
第3回	第1章：ボライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第4回	第1章：ボライトネスの背景（2）	ボライトネスについて
第5回	第2章：ブラウン&レビソンのボライトネス理論（1）	効率と配慮について
第6回	第2章：ブラウン&レビソンのボライトネス理論（2）	ボライトネスと言語文化について
第7回	第3章：敬語とボライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第8回	第3章：敬語とボライトネス（2）	敬語と距離感について
第9回	第4章：距離とボライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第10回	第4章：距離とボライトネス（2）	呼称と指示語について
第11回	第5章：ボライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第12回	第5章：ボライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第13回	第6章：終助詞の意味とボライトネス	話者が直観的にしていることについて
第14回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思っています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
滝浦真人（2008）『ボライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方ー日本語と敬語のゆくえ』（角川新書）
「ボライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜日 4 限です。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と「役割語」
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	do の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language. (Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria/Policy) Particiton (30%); Final (70%)

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 | 曜日・時限：土 2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティ／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。あわせて、実際に方言（沖縄方言を予定）を語学として勉強してみる機会も一回設けてみたい。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。

課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。

基本的に対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば ほか
第 3 回	周囲論的／逆周囲論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布 ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント ほか
第 6 回	うちなぐち会話の練習	沖縄方言を、語学の一つとして勉強してみる
第 7 回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差 ほか
第 8 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るか ほか
第 9 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か ほか
第 10 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか ほか
第 11 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言 ほか
第 12 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ ほか
第 13 回	言語意識、パーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか ほか
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013 年、1,800 円＋税）
https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/
 履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

(1)『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか 編著、ミネルヴァ書房、2016 年、2,800 円＋税）

(2)『実践方言学講座 第 1 巻 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子 編著、くろしお出版、2020 年、4,300 円＋税）

(3)『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991 年、1,893 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %

・最終レポート 70 %

いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term. In addition, we would like to have an opportunity to actually learn a dialect (Okinawan dialect is planned) as a language.

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to see and think in sociolinguistic and dialectological terms.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria/Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

In all cases, emphasis will be placed on the quality of the content rather than the quantity. Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIN200BD

応用言語学

近藤 隆子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用言語学の分野の中でも、特に言語習得を中心に扱います。母語話者、第二言語学習者がどのようにことばを習得していくのか、さまざまな研究を通して学びます。また、教室での第二言語習得モデルについて学び、日本の教室環境における英語学習について考えていきます。

【到達目標】

1. ことばはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語獲得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

2. 教室での第二言語習得に影響を与える要因について学び、日本の教室で英語を教える際に必要な知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前に教科書の指定範囲と配布資料を読み、質問等をまとめてきてください。授業は基本的に教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式で行いますが、ペア・グループワークの時間を設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていたいただきます。

小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明、母語獲得と第二言語習得についての導入
第 2 回	母語の獲得過程 1	幼児は親の真似をして母語を獲得していくのか？ 母語獲得では共通した発達過程や獲得順序があるのか？
第 3 回	母語の獲得過程 2	言語インプットと生得的な言語獲得装置、UG を仮定しない言語獲得過程を考えてみる
第 4 回	母語の獲得過程 3	母語での音声の獲得過程、人類のことばの獲得
第 5 回	第二言語の習得過程 1	第二言語習得の 4 つの特徴、発達過程が存在する、JLEs の Yes/No 疑問文（一般動詞）の発達過程、JLEs の wh 疑問文の発達過程、JLEs の無生物主語構文の発達過程
第 6 回	第二言語の習得過程 2	JLEs の疑問文と非定文での did の発達過程、JLEs の疑問文と非定文での does の発達過程、JLEs の現在進行形の発達過程、JLEs の名詞単数形・複数形の発達過程、JLEs の関係代名詞節の発達過程、JLEs の定冠詞の発達過程
第 7 回	第二言語の習得過程 3	JLEs の to 不定詞の発達過程、JLEs の現在完了形の発達過程、項目別習得難易度順序が存在する
第 8 回	第二言語の習得過程 4	学習者の母語の特性から影響を受ける、さまざまに異なる母語からの転移、母語の転移かどうかははっきりと判断できない誤りもある
第 9 回	第二言語の習得過程 5	最終到達度において個人差が顕著である、教室での第二言語習得と臨界期仮説・最終到達度、第二言語での語彙の習得
第 10 回	外国語学習と脳の働き	ブローカ言語野とウェルニッケ言語野、さらに詳しい脳内の言語地図、右脳で外国語学習？
第 11 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 1	教室での第二言語習得モデル、（第二言語）インプット
第 12 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 2	明示的指導、インプット処理指導法、タスク活動、内的学習者要因・外的学習者要因

第 13 回 教室での第二言語習得に関する基礎的知識 3 UG (Universal Grammar)、母語知識、一般問題解決能力、アウトプット

第 14 回 まとめ ことばの習得、教室での第二言語習得とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲や配布資料を事前に読んでから、授業に臨む必要があります。また、授業で説明された内容について理解できているかを確認するための課題が毎回出されるため、授業の復習をしながら、課題に答える必要があります。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白畑知彦『英語教師がおさえておきたいことばの基礎的知識』（大修館書店 2021 年）2200 円（税抜）
その他、随時資料を配布します。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 40%、課題 45%、平常点 15%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に必ず出席してください
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition and second language acquisition in the classroom.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand basic concepts of first language acquisition and second language acquisition as well as language acquisition in the classroom.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. The required study time is four hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on unit tests (40%), homework assignments (45%), and in-class contribution (15%).

LIT200BD

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈人造人間〉の系譜】

人間が〈人間〉を人工的に作り出す——しばしばタブーと見做されてきたこの営みは、しかしだからこそ、さまざまな文学作品や映画作品において繰り返し描き出されてきました。このモチーフの時代や文化、メディアを超えた変奏の系譜をたどることによって、〈人間〉や〈生命〉、〈身体〉や〈精神〉、〈科学〉や〈自然〉をめぐる想像力の社会的・文化的文脈を解説することができるのではないでしょう

うか。
 この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々な姿を変えて変奏されてきた〈人造人間〉というモチーフの系譜をたどりま

【到達目標】

文化的・メディア的越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。

文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。

ドイツ・英米・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生みなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介／「比較文学」とは？
第 2 回	導入：〈人造人間〉とは何か	〈人造人間〉を分類する
第 3 回	〈人造人間〉の起源？	ピュグマリオン、オリンピア、 ：ピュグマリオンの系譜（1）
第 4 回	〈人造人間〉の起源？	映画におけるピュグマリオン：映 ：ピュグマリオンの系譜（2）
第 5 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ（1）	ホムンクルス、フランケンシュタインの怪物と近代
第 6 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ（2）	〈人造人間〉の両義性：映画『巨 人ゴーレム』『大魔神』
第 7 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ（3）	戦後日本アニメと巨大ロボット： 『鉄人 28 号』から『新世紀エヴァ ンゲリオン』へ

第 8 回	〈人造人間〉は人間を映し出す？（1）	「万国のロボットよ、団結せよ」： チャベック、アシモフ、映画『アイ、ロボット』
第 9 回	〈人造人間〉は人間を映し出す？（2）	〈人間＝アンドロイド〉？：デカルトから映画『A. I.』へ
第 10 回	〈プロテゼ〉：傷痕 軍人とサイボーグのあいだ（1）	〈切断された手〉のイメージ： ヴァイマル映画における戦争のトラウマと『この世界の片隅で』
第 11 回	〈プロテゼ〉：傷痕 軍人とサイボーグのあいだ（2）	トラウマはホラーのなかで〈昇華＝消化〉される？：『アンダー ルシアの犬』から『アダムズ・ ファミリー』へ
第 12 回	〈プロテゼ〉：傷痕 軍人とサイボーグのあいだ（3）	義肢で超人的な力を手に入れる： ハインラインから映画『アイアン マン』へ
第 13 回	人間を超える〈人造人間〉？	〈シンギュラリティ〉イメージ化の諸相
第 14 回	〈インター〉から〈トランス〉へ（春学期のまとめにかえて）	時代・文化・メディアを超えて行 なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約 2 時間を標準とします。
 授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通しておい

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
 学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
 ——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2 回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもありえます。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
 授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
 オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"The Genealogy of 'artificial humans'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "artificial human" motif as it has been transformed in literature and film produced in the different cultures of Germany, Britain, the United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD

比較文学 B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈感染〉イメージの変奏】

古来から繰り返し猛威を振るい人々に襲いかかってきた伝染病は、歴史を通じて様々な文学作品や映画作品で主題化され続けてきました。広範囲の人々に襲いかかる〈感染〉のイメージはまた、多くの人々に犠牲を強いる戦争、ひいては文化の伝播や大衆現象などを表す比喩としても用いられてきました。

この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々な姿を変えて変奏されてきた〈感染〉というモチーフの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディア的越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。

文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。

ドイツ・英米・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り／今学期の講義内容の概要
第 2 回	導入：〈感染〉とは何か	伝染病をめぐる医学史と〈感染〉イメージ
第 3 回	〈ペスト〉の意味論 (1)	〈ペスト文学〉の系譜：ボッカチオ、デフォー、カミュ
第 4 回	〈ペスト〉の意味論 (2)	共同体に下される神罰：ゲーテ、映画『フィレンツェのペスト』
第 5 回	〈ペスト〉の意味論 (3)	戦争という不条理：カミュ『ペスト』
第 6 回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？ (1)	ストーカーから映画『吸血鬼ノスフェラトゥ』へ
第 7 回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？ (2)	〈吸血鬼〉の変容：映画『ドラキュラ』から『トワイライト』へ
第 8 回	〈ゾンビ〉の意味論 (1)	映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』からマシスン、映画『アイ・アム・レジェンド』へ
第 9 回	〈ゾンビ〉の意味論 (2)	ゾンビは〈内在化〉する？ 新しい〈ゾンビ小説〉・〈ゾンビ映画〉
第 10 回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する (1)	大衆社会、第一次世界大戦、催眠術

第 11 回	〈洗脳〉——思考が 〈感染〉する (2)	〈私が見ているのは現実?〉：映 画『カリガリ博士』と『シャッ ター アイランド』
第 12 回	メディアとプロパガン ダ (1)	映像は思考をコントロールする? ：初期映画と〈催眠〉言説
第 13 回	メディアとプロパガン ダ (2)	映画がリアリティを動揺させる— 〈マインド・ゲーム・フィルム〉
第 14 回	〈トランスカル チャー〉・〈トランスメ ディア〉(まとめにか えて)	時代・文化・メディアを超えて行 なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約 2 時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）
で配布する場合があるので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観るこ
とは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなど
を利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもら
う可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノー
トを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）： 60 %
学期末レポート： 40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件と
なります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席す
る場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してく
ださい）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、そ
れ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業
開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で
行なう予定です。また、2 回目以降は対面授業を想定しているもの
の、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることも
あります。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備し
ておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメー
ルで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援
システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Variations of the Imagery of 'Contagion'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "infection"
motif as it has been transformed in literature and film
produced in the different cultures of Germany, Britain, the
United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required
assignments after each class meeting. Your study time will be
more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the
following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIN200BD

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島
に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背
景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化につい
て概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、
世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現
代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語の特徴を簡潔に説
明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察すること
ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資
料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も
配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。 DVD などの映像教
材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらな
る議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	英語外面史	英語外面史の概観
第 3 回	英語外面史と地名	英語外面史と地名との関係
第 4 回	世界語としての英語	世界における英語の分布
第 5 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 6 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 8 回	古英語の形容詞・副詞・代名詞	古英語における形容詞・副詞・代名詞の語形変化
第 9 回	古英語の動詞活用	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行って
ください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松浪有（編）『英語の歴史』大修館書店

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。
期末試験 4 0 %、平常点 4 0 %、レポート 2 0 %

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に
開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。
4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。 DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の動詞	中英語における動詞活用
第 3 回	中英語の文法	中英語に特徴的な文法
第 4 回	中英語の語彙	中英語期における借入語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	初期近代英語の語彙	初期近代英語期における借入語
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法	後期近代英語期に特徴的な文法
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松浪有（編）『英語の歴史』大修館書店

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える－英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。
期末試験 4 0 %、平常点 4 0 %、レポート 2 0 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。
4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD

英文学史 A

丹治 愛

授業コード：A2903 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

- ・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
- ・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
- ・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— <i>Beowulf</i>	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 2 回	中世後期—— <i>Chaucer, The Canterbury Tales;</i> <i>Malory, Le Morte d'Arthur;</i> Langland, <i>Piers Plowman</i>	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— <i>More, Utopia</i>	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的狀況を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— <i>Spenser, The Faerie Queene;</i> Shakespeare: <i>The Sonnets</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的狀況を学習する。
第 5 回	Shakespeare 映画を見て、ディスカッション	Shakespeare 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— <i>Shakespeare, Richard II; King Lear; As You Like It</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的狀況を学習する。
第 7 回	17 世紀—— <i>Bunyan, Pilgrim's Progress;</i> <i>Milton, Paradise Lost; Paradise Regained</i>	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— <i>Defoe, Robinson Crusoe</i>	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— <i>Wordsworth & Coleridge, Lyrical Ballads</i>	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 10 回	19 世紀前半（詩）—— <i>Blake, Milton, Wordsworth, The Prelude</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的狀況を学習する。
第 11 回	Austen 映画を見て、ディスカッション	Austen, <i>Sense and Sensibility</i> を見て、その内容について議論する。

第 12 回	19 世紀前半（小説）（1） —— Austen, <i>Sense and Sensibility</i> ; <i>Pride and Prejudice</i> ; <i>Northanger Abbey</i>	19 世紀前半の歴史の出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2） —— Austen, <i>Emma</i> ; <i>Mansfield Park</i> ; <i>Persuasion</i>	19 世紀前半の歴史の出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。
Shakespeare の作品をふくめて 2 冊の作品。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 5 0 %
期末試験 5 0 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生とのコミュニケーションの要素を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

質問は授業中に積極的におこなってください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This lecture treats the history of English and British literature from the era of the Old English (the early Medieval period) to the early 19th century, with the background of such historical incidents as the Unification of England, the Norman Conquest, the Hundred Years' War, the English Reformation (the Establishment of the Church of England), the Rise as a Maritime State, the English Revolution, the Formation of the Parliamentary System, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the Formation of the United Kingdom. In particular, this lecture selects works having relevance to the English national identity, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

英文学史 B

丹治 愛

授業コード：A2904 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

- ・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
- ・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
- ・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
対面授業とオンライン授業を併用する（2 週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半—— Austen, <i>Pride and Prejudice</i> , <i>Sense and Sensibility</i>	19 世紀前半の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば—— Emily Brontë, <i>Wuthering Heights</i>	19 世紀なかばの歴史の出来事とともに、文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば—— Dickens, <i>Christmas Carol</i> , Eliot, <i>Silas Marner</i> ,	19 世紀なかばの歴史の出来事とともに、文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	19 世紀末—— Hardy, <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	19 世紀末の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 6 回	19 世紀末—— Morris, <i>News from Nowhere</i>	19 世紀末の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 7 回	20 世紀前半（1）—— Gissing, <i>The Private Papers of Henry Ryecloft</i>	1900 年代の歴史の出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 8 回	映画 <i>Howards End</i> を見てディスカッション	映画 <i>Howards End</i> を見て、その内容について議論する。
第 9 回	20 世紀前半（2）—— Forster, <i>Howards End</i> ; <i>Maurice</i>	1910 年代の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（3）—— Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> ; <i>Between the Acts</i>	戦間期の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 11 回	20 世紀後半（1）—— Osborne, <i>Look Back in Anger</i> ; Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	第二次大戦後の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 12 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、ディスカッション	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、その内容について議論する。
第 13 回	20 世紀後半（2）—— Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i>	20 世紀後半の歴史の出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。

第 14 回 期末試験とまとめ 学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

授業であつかう作品のうち 2 つ。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパーと中間レポートなどの平常点 5 0 %
期末試験 5 0 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生とのコミュニケーションの要素を増やしていきたい。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This lecture follows the history of English and British literature from the 19th century to the latter half of the 20th century, with the background of such historical incidents as the rapid urbanization as a result of the Industrial Revolution, the decline of rural areas inversely proportional to it, the development of imperialism and the expansion of colonies, the spread of the national degeneration theory, the outburst of two World Wars, the formation of a welfare state, the diffusion of the British disease and the appearance of Thatcherism as the reaction to it. This lecture selects works with relevance to the national identity of England, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なバースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいとどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに取り扱われるのか、どんなふうに関心があるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年は、昨年度と同様、（1）なんでもいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、（2）レポートは 3 作品、3 本とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタン英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのユーモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ソーローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソーとロマンス	ホーソーの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe、*Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあけておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 3 作品を読んだレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むづかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content. [Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむづかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかをとり上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

- 第 12 回 トマス・ピンチオンと ポスト=モダンな意識とは何か。
ジョン・バーズ
- 第 13 回 アメリカン・ドラマ 演劇とミュージカル。
- 第 14 回 同時代作家たち アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全4巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2) 作品3冊を読んでのレポート（40％）、(3) 期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史A」からの継続履修がかなり望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性。
第 7 回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性。
第 8 回	小説の登場人物について	round character と flat character (E・M・フォースターの『小説の諸相』)
第 9 回	会話と語法について	学校文法のおさらいから。
第 10 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 11 回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルドダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について—— 話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がここから望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・18世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第2回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ピカレスク小説について学習する。
第3回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第4回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第5回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第6回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称的語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第7回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第8回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第9回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第10回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第11回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第12回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre</i> & <i>Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre</i> & <i>Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第13回	Dickens, <i>Oliver Twist</i>	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第14回	以後の社会小説 期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史 8 小説Ⅰ』『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ B

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19世紀末から21世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・19世紀後半から21世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（19世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして19世紀末までの小説の展開を概観する。
第2回	社会小説の完成—— <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	社会小説と啓蒙主義との関連について学習する
第3回	世紀末のゴシック（1）恐怖小説とファンタジー—— <i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> , <i>Dracula</i> , <i>The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第4回	世紀末のゴシック（2）ミステリーとSF—— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーとSFについて学習する。
第5回	唯美主義—— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第6回	主観的・内的リアリズム—— <i>Heart of Darkness</i> , <i>The Secret Agent</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第7回	モダニズムとは何か	モダニズムとはどういう運動だったのかを概観する。
第8回	モダニズム—— <i>Mrs Dalloway</i>	<i>Mrs Dalloway</i> をテキストにして、モダニズムの主観的・内的リアリズムについて学習する。
第9回	芸術家小説—— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> , <i>Sons and Lovers</i> , <i>To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第10回	映画 <i>Never Let Me Go</i> を見てディスカッション	映画 <i>Never Let Me Go</i> を見て、その内容について議論する。
第11回	ディストピア—— <i>Nineteen Eighty-Four</i> ; <i>Never Let Me Go</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> と <i>Never Let Me Go</i> をテキストにして、ディストピアについて学習する。
第12回	ポストモダン・メタフィクション—— <i>Atonement</i>	<i>Atonement</i> をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
第13回	世紀末からポストモダニズムへ	世紀末からポストモダニズムへの展開を、啓蒙主義との関連で概観する
第14回	期末試験とまとめ	全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』『講座英米文学史 10 小説Ⅲ』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。

リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の 真実
第 3 回	品詞	学校英文法の見直し
第 4 回	実際の英語	実際に英語の問題を解いてみよう
第 5 回	英語の文型	5 文型の分析
第 6 回	英語における主語	意味上の主語とは何か
第 7 回	代表的な統語構造—その 1	名詞構文
第 8 回	代表的な統語構造—その 2	動名詞
第 9 回	代表的な統語構造—その 3	不定詞
第 10 回	代表的な統語構造—その 4	分詞
第 11 回	英語の動詞（1）	他動詞の特徴
第 12 回	英語の動詞（2）	自動詞の特徴
第 13 回	英語の助動詞	助動詞の性質
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二（編）『大学で教える英文法』（くろしお出版）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40 %、平常点 40 %、レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

英語学講義B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。Bの授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第2回	現代英語の特徴	現代英語の特徴
第3回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第4回	英語の動詞	非定形動詞について
第5回	形容詞＋to不定詞構文	現代英語の形容詞＋to不定詞構文の多様さ
第6回	to不定詞を使った構文ー(1)	現代英語のto不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第7回	to不定詞を使った構文ー(2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第8回	動名詞、分詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第9回	結果構文	結果構文の特徴を理解する。
第10回	二重目的語構文	二重目的語構文の特徴を理解する。
第11回	There構文	There構文の特徴を理解する
第12回	英語構文と文法化	英語における文法化の例
第13回	文法化	文法化のメカニズムについて
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二『大学で教える英文法』（くろしお出版）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。
期末試験40％、平常点40％、レポート20％

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

言語学講義 I A／言語と論理 1（言語学講義 I） A

石川 潔

授業コード：A2913,A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、音声および統語論の面から比較します。

【到達目標】

母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

でも、言語間には共通性もあることを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、自分で視聴すべきサイトへのリンクも含まれており、それらのサイトは自分で訪れ、視聴したり、サイトでの実験を経験してください。

リアクションペーパーを求めますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	鼻音 1	鼻音についての誤解
第 3 回	鼻音 2	母音挿入
第 4 回	母音挿入は防げるか（その 1）	母音の無声化の利用
第 5 回	母音挿入は防げるか（その 2）	「有声」子音の後ろの場合
第 6 回	「有声」と「無声」（その 1）	半濁点、VOT
第 7 回	「有声」と「無声」（その 2）	知覚における VOT の categorical perception
第 8 回	音節についての、よくある誤解	子音・母音の結合ではないこと、および強勢の話
第 9 回	英語における強勢	英語の強弱リズム
第 10 回	強弱リズムによる音の弱化	弱化した音の聞き取り実習
第 11 回	5 文型って、わかった？（私は、わかりませんでした。）	5 文型（および 7 文型）の矛盾
第 12 回	言語学的な捉え方 1	X-bar Theory の基本
第 13 回	言語学的な捉え方 2	英語と日本語の比較
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる…はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックには大変な労力を要していたのですが、それに良い側面と悪い側面があることを感じました。教育効果を考えると、フィードバックに回していた労力のかなりの部分を、講義の本体の理解度を上げることに回した方が良いと判断しています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese phonetics and syntax.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese.
 (Learning activities outside of classroom) Visit the specified websites and experience perception- and experimnt-demos.
 (Grading Criteria /Policy) Particitation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義 I B／言語と論理 1（言語学講義 I）B

石川 潔

授業コード：A2914,A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配信教材と講義で、二重に説明を行う予定です。

リアクションペーパーを求めますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 1）
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 2）
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味（基本編）
第 14 回	文理解	文中における曖昧語の理解の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはずです。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加点となります）。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックには大変な労力を要していたのですが、それに良い側面と悪い側面があることを感じました。教育効果を考えると、フィードバックに回していた労力のかなりの部分を、講義の本体の理解度を上げることに回した方が良いと判断しています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成要素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	語、句、文の意味
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
 『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物にタイポがないように気をつけます。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	構文解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物はタイポがないよう気をつけます。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD

英語音声学 A

田中 邦佳

授業コード：A2917 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音素的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験： 80%
課題： 20%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につきありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Students are required to study at least four hour outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 B

田中 邦佳

授業コード：A2918 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につきありません。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や質問会への参加で理解できているかどうかの確認に有効だったとのコメントがありました。しっかり基礎を固められるよう、今年度も例をおりまぜながら、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIN100BD

英語音声学B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

授業の最初に質問への回答や復習を行うことで理解が促進されたようです。また、授業中に紹介した具体例により理解が深まったと好評でしたので、今年度も良い例が提供できるように努力したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

小野 綾子

授業コード：A2923 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、言語学の全体像（音声学を除く）を学ぶ入門講座です。言語学について初めから考えたい人に向いています。対象言語は日本語です。用語や学説に関してはさまざまな考え方があります。言語学と日本語学では、言語分析の方法が異なることがあります。そのため、ここで参考書として挙げた本の内容とも異なる記述があることを了承ください。この授業を通してひとつの見方を知るだけでなく、自分で興味をもち、ぜひ他の本や論集を読んでほしいと思います。

【到達目標】

言語学の基礎を学ぶことで、言語学の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使って説明し、参考としてハンドアウトを送ります。成績評価はテストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1、2 講	言語学とは何かを知る
第 2 回	言語の特性 言語の対象 第 3、4 講	諸言語の言語的特徴を知る
第 3 回	言語の類型 言語学の諸分野 テキスト第 10、11 講	言語学の分野を知る
第 4 回	形態論 1 第 12、13 講	語の成り立ちと関係について知る
第 5 回	形態論 2 第 14、15 講	形態論の語彙と歴史について知る
第 6 回	統語論 1 第 16、17 講	文の統語的な構造と文法について知る
第 7 回	統語論 2 第 18、19 講	生成文法についての基本を知る
第 8 回	意味論 1 第 20、21 講	言語が表す意味とは何かを知る
第 9 回	意味論 2 第 22、23 講	文の成り立ちとその捉え方について知る
第 10 回	語用論 1 第 24 講	会話が成立する条件について知る
第 11 回	社会言語学 第 25 講	話されている言語の変種について知る
第 12 回	言語の変化 第 26 講	言語の歴史をさかのぼり、言語の変化について考える
第 13 回	世界の中の言語 まとめ	言語の位置づけについて知る
第 14 回	まとめとテスト	これまでのまとめを行う これまでのまとめを行いテストをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回の途中で問題演習をやってもらいます。内容については、受講生の人数とレベルにあわせて変更するかもしれません。本授業の準備学習・復習時間について復習に4時間が望ましいです。

【テキスト（教科書）】

佐久間淳一、加藤重広、町田健（2020）『言語学入門』（研究社）

【参考書】

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』
渡辺実（2013）『日本語概説』

【成績評価の方法と基準】

テスト 80%

授業参加 20%

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なもの

ZOOMをダウンロードしておいてください

【その他の重要事項】

テキストや参考文献以外に様々な文献を扱います。テキスト以外の内容については、授業中にしか話しません。その内容については文献名以外のハンドアウトは配りませんので、授業に参加してください。授業は基本的に以下の構成で行います

第1部 テキスト

第2部 他文献の内容（必ずしもテキストの範囲ではありません）

【Outline (in English)】

This course introduces fundamentals of linguistics to students taking this course. At the end of this course, students are to gain knowledge of linguistics. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%, in class contribution 20%

LIN200BD

英語・言語学特殊講義B

小野 綾子

授業コード：A2924 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語表現の向上を目指すクラスです。レポートや論文で分かりやすい表現とはどのようなものか、日本語の特徴を伝えながらテキストを進めていきます。テキストはレポートの書き方中心になっていますが、後半は参考文献を中心に進めます。

【到達目標】

日本語の文章表現の向上とともに、日本語のしくみを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1コマの授業構成は以下です。

第1部 テキスト

第2部 発展（日本語文法）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	書き言葉の基礎を知る
	テキスト第1課	書き言葉
第2回	第2課	文の意味を明確に書く方法を探る
	文の意味	
第3回	第3課	名詞節の使い分けについて
	「こと」と「の」	
第4回	第4課	語や接の名詞化をし、シンプルな文を目指す
	文の構造	
第5回	第5課	レポートや論文で使う語彙の使い分けについて考える
	語彙	
第6回	第6課	文頭と文末の呼応について知る
	文の内容	
第7回	第7課	助詞相当語の使い分けを学ぶ
	文の表現	
第8回	第8課 その1	助詞の全体像を知る
	「は」と「が」	
第9回	第8課 その2	「は」と「が」について学ぶ
	「は」と「が」	
第10回	第9課	他動詞、自動詞、使役形、受身形について知る
	書き手の視点	
第11回	第10課	ル形、タ形、テイル形、テイタ形の働きと使い分けについて考える
	文の時間的なつながり	
第12回	第11、12課	指示詞の役割と使い分けを知る
	文中の語、前後関係について	接続詞、接続表現について学ぶ
第13回	第13、14課	「のだ」文の使い方について知る
	文の関係について	意見を述べるときの文末表現について知る
	効果的な意見の述べ方について	
第14回	まとめ	日本語文法のまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に10分ほど問題演習の時間をとります。復習に時間を使ってください。

復習は4時間ほどが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

小森万理、三井久美子『レポート・論文を書くための日本語文法』（2021）

【参考書】

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』東京大学出版会。

銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改訂版』（2019）国書刊行会。

渡辺実（2013）『日本語概説』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%、授業参加 20%

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。メールは以下へお願いします。ayako.ono.58@hosei.ac.jp

もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに関するもの

ZOOMをダウンロードしておいてください

【その他の重要事項】

この授業評価は主にレポートで行います。持病がありレポート提出が難しい学生は、大学事務局に相談し、障害学生支援センターへの登録をおすすめします。そこから教員へ連絡があると、教員は個々の事情に合わせ負担のない課題を出すことができます。

レポートに関して、再試験はありませんので、お気をつけください。テキストにはルビがあり非常に簡単に見えますが、レポートや論文の書き方の基礎を知るのに良いと思われます。TRY, 練習 1,2 は簡単なので省略することがあります。授業前半でテキストのステップ 1,2 を確認し、実践問題の解説をします。後半は参考文献などを用いて日本語文法研究に関する少し高度な内容になります。テキストは受講前に一度見ておくことをおすすめします。なお、第2部の発展についてはハンドアウトは配布しませんので授業参加をしてください。ハンドアウトはテキストに関する分だけです。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese writing style to students taking this course.

At the end of this course, students are to acquire knowledge Japanese modes of expressions. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%, in class contribution 20%

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

迫 桂

授業コード：A2967 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代女性英語作家による小説や短編、さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、セクシャリティー、家庭、自立、選択、身体、階級等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。

イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。

グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。

各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。

一つの作品の読解を終えるごとに、800字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学（批評）との関連を学ぶ。
第2回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第3回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第4回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	第二波フェミニズムの関心事や課題を学ぶ。作品紹介。

第 5 回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	作品についてディスカッションを行う。
第 6 回	女性の自立と教育 作品（映）：An Education (2009)	講義と作品についてのディスカッション。特に、女性と教育について考える。
第 7 回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	セクシャリティーと階級、アイデンティティーの関係について考える。作品の形式面を考える上で重要なこととして、教養小説のジャンルについて学ぶ。
第 8 回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第 9 回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	エイジングという観点から、女性のライフコースについて考える。
第 10 回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	作品についてディスカッションを行う。
第 11 回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Bridget Jones's Diary (2001)	ポストフェミニズムとその歴史文脈について学ぶ。
第 12 回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Bridget Jones's Diary (2001)	作品についてディスカッションを行う。
第 13 回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第 14 回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

（目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2 時間）

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。
2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。
3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。
4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法

平常点：

①ワークシート、ディスカッションへの参加度：50 %

授業準備ができているか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験：50 %

作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

- After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).

Final grades will be decided on the following:

In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end examination (50%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

迫 桂

授業コード：A2968 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代英語女性作家による小説や短編さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、人種、身体、階級、エイジング、生殖等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。また、語りの形式やジャンル（推理小説や SF など）の役割についても考えます。

イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。

グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。

各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。一つの作品の読解を終えるごとに、800 字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学（批評）との関連を学ぶ。
第 2 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第 3 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2 週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。

第 4 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	Contemporary women's writing における帝国の遺産、人種とアイデンティティーについての探究の試みを学ぶ。現代文学出版における人種、ジェンダー、市場の原理についても考える。
第 5 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第 6 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第 7 回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	ジェンダーと人種がアイデンティティーをどう形成するかを考える。イギリス帝国の歴史の現代的意義についても考える。
第 8 回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	作品を詳細に読み、ディスカッションを行う。
第 9 回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	エイジング、病い、ケアのテーマに推理小説というジャンルが果たしうる役割について考える。
第 10 回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	作品についてディスカッションを行う。
第 11 回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品：Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	SF やファンタジーのジャンルがフェミニズムの思想・議論の発展や表現に果たしうる可能性について考える。
第 12 回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品：Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第 13 回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第 14 回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

（目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2 時間）

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語翻訳を読んでも構いません。映画作品は英語字幕付きで視聴可能です。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。

2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性をある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。

3. 作品読解に必要なと思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。

4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書く。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。（書き込みができませんが、図書館で借りてもよいです）

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：平常点

①ワークシート、ディスカッションへの参加度：50%

授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験：50%

作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

- After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).

Final grades will be decided based on the following:

In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end examination (50%).

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか

②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか

③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか

④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。

②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。

③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる4つの問い
第2回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第3回	作品解釈と歴史的コンテキスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第4回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第5回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第6回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第7回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第8回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第9回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第10回	作品鑑賞と解釈の実践：『ビノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第11回	作品鑑賞と解釈の実践：『ビノキオ』②	感想からレポートへ：5つのステップ
第12回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第13回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5つのステップ
第14回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）

②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。

J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。

林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。

丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。

大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。

筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。

ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %

期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %

※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2 回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもあります。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (50%)

2) Final exam (50%)

LIT200BD

文学研究方法論 B

小島 尚人

授業コード：A2970 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか

②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか

③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか

④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。

②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。

③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもある。事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第 2 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と实例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第 3 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第 4 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評①	理論の概要と实例を知る ベクデル・テストを使いこなす
第 5 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評②	エルサの物語をどう読むか ブルートのジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第 7 回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 8 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と实例を知る オリエンタリズムとは
第 9 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第 10 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と实例を知る クラリッサの见えないタクシー
第 11 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ、ふたたび	他者を読み、自分を読みかえる経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）
- ③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50%
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50%
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 A」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final paper (50%)

LIN200BD

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。で、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPTを使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、事前に HOPPII で連絡します。
それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	第 0 章：英文法の型について 0-1: 英文法は空手の型のようなもの。 0-2: 用語に惑わされず、英語そのものをかぶること。	学生のプレゼンテーション、英語の考え方について考える。
第 3 回	第 0 章：英文法の型について 0-3: 翻訳は、魔法のように出来上がる。 0-4: 分は入れ子構造をしている。 0-5: 「寄せ集める」と「組み上げる」は同じではない。	学生のプレゼンテーション、英語の構造について考える。
第 4 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-1：英語の Yes は「はい」ではない。 1-2：英語がガツンと否定する。	学生のプレゼンテーション、否定について考える。
第 5 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-3: 英語の記述は命題に収まろうとする。 1-4: 事実でない想いは、直説法では語らない。	学生のプレゼンテーション、仮定法について考える。

第 6 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-5:助動詞は現実の不確かさに文を合わせる。 1-6:will は現在形である。 1-7:なぜ will が未来形に拔擢されたか。	学生のプレゼンテーション、助動詞について考える。
第 7 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-8:would, could, might, should は人を好む。 1-9:後悔とは、済んだことを仮想法で思うこと。 1-10:Do は事実をたたき込む。	学生のプレゼンテーション、助動詞（過去形）の意味について考える。
第 8 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-1:英語文は日本語文と作りが違う 2-2:日本語に「人称代名詞」はない。	学生のプレゼンテーション、日本語と英語の呼称について考える。
第 9 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-3:SVO は強い力であつながれている。 2-4:英語文は構造に収まりたがる。 2-5:日本語は、背骨を持つ代わりに根を下ろす。	学生のプレゼンテーション、文型について考える。
第 10 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-6:「ここはどこ？」は英語にならない。 2-7:英語のような日本語も、結局英語に似ていない。 2-8:日本語には〈内なるワタシ〉がいる。	学生のプレゼンテーション、文の構造について考える。
第 11 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-9:英語空間は記号を動かすゲームのようだ。 2-10:SVO のどこに来るかで品詞がきまる。	学生のプレゼンテーション、品詞について考える。
第 12 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること 3-1:自動詞も、他動詞も負けず文を伸ばす。 3-2:Where と What に負けず文を伸ばす。 3-3:分は補語だけで自立する。	学生のプレゼンテーション、疑問詞について考える。
第 13 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること。 3-4:am/are/is は be とは違う。 3-5:be の領分と do の領分がある。 3-6:「英語の 5 文型」を疑う。	学生のプレゼンテーション、be 動詞について考える。
第 14 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること 3-7:SVO と C は協調しつつせめぎ合う。 3-8:日本語は、構文の校則がとてつもない。 3-9：英語は屈折をやめて背骨を強くした。 3-10:主語付きの出来事も O にする。	学生のプレゼンテーション、英語の歴史を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤良明『英文法を哲学する』（アルク）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 80 %、課題 20 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターと、連続して履修してください。

・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class.

The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

LIN200BD		
英語の文法力Ⅱ		
椎名 美智		
授業コード：A2978 曜日・時限：月 3/Mon.3		
秋学期授業/Fall・2 単位 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力をアップさせる勉強をします。		
【到達目標】 英語と日本語の違いを知り、その奥に潜む考え方の共通点と相違点を深く考えて、英語の感覚を身につけます。英語の体幹を強化して、社会に出てから、自分で英語的に考えて、英語を使えるようになる力をつけます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】 基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。事前に HOPPII で連絡します。連絡事項や課題は前日までに HOPPII にアップロードするので、必ず見てから授業に臨んでください。 テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。可能ならば、少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。 毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-1:英語の動詞は自・他の間を行き来する。 4-2: 1 つの動詞が「文型」を横切って使われる。	学生の発表、英語の文型と動詞について考える。
第 3 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-3:補語か付加語か、that is NOT the question. 4-4:7 文型は必要ない。	学生の発表、補語と付加語について考える。
第 4 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-5:be 動詞を失うことで枝になる。 4-6:補語は主語を着脱する。	学生の発表、be 動詞と補語について考える。
第 5 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-7:文構造は生きている。 4-8:部分から、また全体が生まれてくる。 4-9:時のよどみを英語にする。	学生の発表、文構造、時制について考える。
第 6 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-1:出来事は時を進み、時から抜ける。 5-2:継続と完了のアスペクトを感じ取る。	学生の発表、アスペクトと相について考える。
第 7 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-3:「いる」と「ある」が be と have に対応する。 5-4:英語のテンスは「現在」と「過去」の 2 つだけ 5-5:受け身になる動詞とらない動詞がある。	学生の発表、英語の時制、動詞について考える。
第 8 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-6:have は do に似せて be をかたる。 5-7:have は主語を要する動詞ではなかった。	学生の発表、have と be について考える。
第 9 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-8:完了と継続以外にも、時相はあるだろう。 5-9：「TO 不定詞」は未来を向く。 5-10:TO 不定詞の「未然」の相を開拓する。	学生の発表、to 不定詞について考える。
第 10 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-1:見つめ合わず、一緒に同じ方を見る。 6-2:自然は否定を知らない。 6-3:コトバは夢にも根ざしている。	学生の発表、英語の叙述の仕方について考える。
第 11 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-4:除実以前に感嘆がある。 6-5:日本語は、主観的な思いの積み上げを許容する。	学生の発表、日本と英語の叙述、主観性・客観性について考える。
第 12 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-6:1 語文にも、文構造と法がある。	学生の発表、文末満の文について考える。
第 13 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-7:隠喩は深い真実だ。 6-8:隠喩法は言語研究を推進する。	学生の発表、隠喩について考える。
第 14 回	授業の振り返り	秋セメスター全体の授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説など
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 佐藤良明（2022）『英文法を哲学するー英語がまるで違って見える！』（アルク）		
【参考書】 久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを HOPPII にアップロードします。		
【成績評価の方法と基準】 学期末試験・レポート 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】 毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。		
【学生が準備すべき機器他】 課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。		
【その他の重要事項】 ・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターを続けて履修してください。 ・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。		
【Outline (in English)】 The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.		

The goal of this class is to be able to think in English.
Students need to read and review the chapter before and after the class.
The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

BSP200BD

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまゝの何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に合ったデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように1枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明
第2回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第3回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第4回	ヒストグラム	ヒストグラム
第5回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第6回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフ
第7回	散布図	散布図
第8回	円グラフ	円グラフ
第9回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第10回	データを表にする	データを表にする
第11回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第12回	平均値と中央値	平均値と中央値
第13回	標準偏差	標準偏差
第14回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題（ポスター）

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

- ・授業での課題の未提出が4回に達した場合
- ・期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。
初回は、オンライン授業を予定しています。PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

※

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, students will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data. Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to do the followings:

- (1) Reading various types of graphs.
- (2) Making graph data according to specific cases.
- (3) Reporting data objectively in writing.
- (4) Summarizing some data in a poster

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 40%, Class Assignment 60%

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ディスカッション		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品など
第十回	電磁波、経皮毒	どの程度有害か？
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテキストから現在の社会を問い直す視座を拓く。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第2回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第3回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるディスカッション①）
第4回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第5回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第6回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第7回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第8回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるディスカッション②）
第9回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第10回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第11回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第12回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第13回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるディスカッション③）
第14回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）
ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (30%)
- 2) Group presentation (30%)
- 3) Final exam (40%)

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 7 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 8 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 9 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 10 回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第 11 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 12 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %
期末テスト 70 %
原則 4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppi を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを表現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則 4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppi を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：定員 30 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第 2 回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第 3 回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第 4 回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第 5 回	Americalization	Family and national identity
第 6 回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第 7 回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第 8 回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第 9 回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第 10 回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第 11 回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第 12 回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第 13 回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"
第 14 回	Student Presentations (2)	Student presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
- 2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.
Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.
King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Presentations: 20%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

ARS200BD

Comparative Culture(3)

小島 尚人

授業コード：A2989 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:
 1. Explain the ways in which the counterculture movement challenged the established norms of American society
 2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
 3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第2回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第3回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第4回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第5回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第6回	Race	From Civil Rights to Black Power
第7回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第8回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第9回	Sexuality	The gay liberation
第10回	Environmentalism	Rachel Carson, <i>Silent Spring</i>
第11回	International Counterculture	Counterculture in Japan and the UK
第12回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第13回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第14回	Student Presentations (2)	Student presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
- 2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
 Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
 David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
 David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.
 Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
 Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
 Presentations: 20%
 Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
 履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3113,A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。

考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第 2 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (1)	文化交流基盤の形成
第 3 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (2)	縄文文化形成への道程
第 4 回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第 5 回	弥生文化と対外交流 (1)	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第 6 回	弥生文化と対外交流 (2)	稲作技術と集落遺跡
第 7 回	弥生文化と対外交流 (3)	倭人の対外交渉のはじまり
第 8 回	弥生文化と対外交流 (4)	『魏志』倭人伝の世界
第 9 回	弥生文化と対外交流 (5)	玉生産と対外交流
第 10 回	古墳文化と対外交流 (1)	前方後円墳と船載鏡
第 11 回	古墳文化と対外交流 (2)	ヤマト王権の対外交渉
第 12 回	古墳文化と対外交流 (3)	渡来系技術と遺物
第 13 回	古墳文化と対外交流 (4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第 14 回	考古学からみた交流史	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』（1）～（3）（新版）有斐閣、鈴木公雄（1988）『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】

成績の 70 % は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の購読を推奨する。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials. Students will be able to understand archaeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final report (70%) and normal score (30%).

HIS200BE

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容の説明
第 2 回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第 3 回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第 4 回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第 5 回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第 6 回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第 7 回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第 8 回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第 9 回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第 10 回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第 11 回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第 12 回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第 13 回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第 14 回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代人の生活はしばしば「都市的」と形容される。生活の都市化によって、われわれは都市を基軸とする社会的分業がもたらす様々な日常の便利さや快適さを享受するとともに、都市ならではの問題にも直面する。日本列島で初めてそれらを民衆レベルまで含めて体験することになったのは、中世の人々であると言っていだろうか。本授業では、16 世紀前半から 17 世紀前半の京都を描いた「洛中洛外図屏風」を素材として、そこに描かれるものを一つ一つ読み解きながら、中世から近世に至る都市景観の変化や、都市に住む人々の生活のあり方について考える。

【到達目標】

「洛中洛外図屏風」の読解を通じて、画像史料読解の基礎を学ぶとともに、都市に関連するトピックを中心として、日本中世・近世史の基礎的な概念や考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に「洛中洛外図屏風」に描かれている場面の読み方や調べ方を例示し、その後は担当者（受講人数によってはグループ）を決めて、担当箇所には何ごどのように描かれているか、調べて分かったこと、考えたことを発表してもらい、参加者全員で討論する。併せて教員側からは関連資料を提示しながら解説（フィードバック）する。昨年度は最古の「洛中洛外図屏風」である歴博甲本を扱ったが、今年度はそれ以後に製作された上杉本と林原本を中心に扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「洛中洛外図屏風」について	ガイダンス 授業の進め方と利用史料について
第 2 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む ①	右隻を読む
第 3 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む ②	左隻を読む
第 4 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ①	右隻第一～三扇を読む
第 5 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ②	右隻第四～六扇を読む
第 6 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ③	左隻第一～三扇を読む
第 7 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ④	左隻第四～六扇を読む
第 8 回	小括 I	戦国期の京都の都市景観
第 9 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ①	右隻第一～三扇を読む
第 10 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ②	右隻第四～六扇を読む
第 11 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ③	左隻第一～三扇を読む
第 12 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ④	左隻第四～六扇を読む
第 13 回	小括 II	近世初期の京都の都市景観
第 14 回	まとめ	京都の変貌 中世から近世へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
報告担当者は、担当箇所について何が描かれているか、そして描かれているものに関する語彙や背景知識を十分に調査検討し、史料を読み込むことが求められる。もちろん担当者以外も予習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

「洛中洛外図屏風」歴博甲本については、国立歴史民俗博物館のウェブサイトで公開されている画像（https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_1.html）
https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_r.html）を利用し、「洛中洛外図屏風」上杉本・林原本については配布プリントを利用する。また適宜プリントを利用する。

【参考書】

石田尚豊監修ほか『洛中洛外図大観』小学館
京都国立博物館編『洛中洛外図 都の形像』淡交社
高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集 日本都市史』東京大学出版会

高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市 史料の魅力、日本とヨーロッパ』東京大学出版会

笠松宏至ほか編『日本思想体系 22 中世政治社会思想 下』岩波書店
『日本都市史・建築史事典』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、期末試験（またはレポート）40 % で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらをなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【その他の重要事項】

対面での授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によってはオンライン（ZOOM 利用）に切り替える。

【Outline (in English)】

The life of modern people is often described as "urban". Through the urbanization of life, we enjoy the various conveniences and comforts of everyday, and also face the problems unique to the city. It can be said that it was the medieval people who first experienced them in the Japanese archipelago, including at the people's level. In this class, using "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", which depicts Kyoto from the first half of the 16th century to the first half of the 17th century, as a material, while reading each one drawn there, changes in the cityscape from the Middle Ages to the early modern period, Think about the way people live in the city.

【Goal】

Through reading comprehension of "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", you will learn the basics of reading comprehension of image historical materials, and also learn the basic concepts and ideas of Japanese medieval and modern history, focusing on topics related to cities.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

The reporter is required to thoroughly research and examine what is drawn about the part in charge, and the vocabulary and background knowledge about what is drawn, and read the historical materials. Of course, it is required to prepare for other than the person in charge.

【Grading criteria】

Evaluate with a normal score of 60% and a final exam (or report) of 40%. We expect active participation in the class.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の維持管理	外堀
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990 年）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992 年）
松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、政治史を中心に天皇の観点から読み解く。その際、明治・大正・昭和、三代の天皇についての人間像や歴史的な役割を重視する。近年、天皇個人に関する歴史的解明が進んだことから、君主制の各国比較など議論が活発である。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史と立憲君主制について歴史的に理解する。②制度と人間、双方に注目しながら歴史を再考する。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	近世の朝廷と幕府	近世の天皇・朝廷と幕府について最新の研究動向をもとに論じる
第 3 回	明治天皇 1 天皇	幕末維新の政治を孝明天皇・明治天皇の観点から再考する
第 4 回	明治天皇 2 天皇と日本の近代化	明治日本の近代化について天皇の観点から見直す
第 5 回	明治天皇 3 天皇と立憲政治	憲法制定と立憲政治の歩みを天皇の観点から見直す
第 6 回	明治天皇 4 天皇と戦争	西南戦争・日清戦争・日露戦争、明治国家が経験した大きな戦争を天皇との関わりから論じる
第 7 回	明治天皇 5 天皇のまなざしと支配	近代天皇の支配原理とは何か。「臨・覧・聴」という天皇の行為から読み解く
第 8 回	大正天皇 1 大帝の相続者	明治の終焉と大正新政、大日本帝国はいかに引き継がれたのかを大正天皇の観点から見直す
第 9 回	大正天皇 2 デモクラシーと天皇（1）	第一次大戦後の世界的なデモクラシーの潮流のなか、日本の政党政治はいかに成立したのか。天皇の観点から見直す
第 10 回	昭和天皇 1 デモクラシーと天皇（2）	昭和初期、政党政治と天皇はどう向き合ったのかをみていく
第 11 回	昭和天皇 2 デモクラシーと天皇（3）	政党政治の危機と終焉に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第 12 回	昭和天皇 3 天皇と軍事	昭和期の軍部の台頭に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第 13 回	昭和天皇 4 昭和の大戦と天皇	天皇は対米開戦をいかにして受け入れ、終戦を決断したのか、最新の研究動向をもとにみていく
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『明治天皇紀』全 13 巻、『大正天皇実録 補訂版』第 1～6 巻、『昭和天皇実録』全 19 巻、伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、同『昭和天皇伝』（文芸春秋）、古川隆久『大正天皇』（吉川弘文館）、同『昭和天皇』（中公新書）、『天皇の歴史』全 10 巻（講談社学術文庫）、吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅰ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

This course examines the modern era of Japan, focusing on political history. I will explain while paying attention to the personalities and historical roles of the three emperors, namely Emperor Meiji(1852-1912), Emperor Taisho(1879-1926), and Emperor Showa(1901-1989). A particular emphasis in this course is a correct and historical understanding of modern Japanese history and the constitutional monarchy.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Historical understanding of modern Japan and constitutional monarchy.
 - B. Rethinking history while paying attention to both institutions and humans.
 - C. Get clues to think about the continuity of history.
- (Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第 2 回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第 3 回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第 4 回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第 5 回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第 6 回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第 7 回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第 8 回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第 9 回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第 10 回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第 11 回	満州事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第 12 回	満州事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第 13 回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第 14 回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS300BE

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「続日本紀の史科学」と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 3 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対するわたしの理解
第 4 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第 5 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 6 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 7 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 8 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 9 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第 10 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の「奥行」
第 11 回	慶雲元年の公廩銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 12 回	慶雲元年の公廩銀（2）	公廩銀から見えてくるもの
第 13 回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。 ” 自分で考える ” がキーワードです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. This course introduces “shokunihongi” and the way of wrestle Japanese history to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand how to make a new approach to problems. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read one of reference books introduced to tell the difference between it and my lecture. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS300BE

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】

①くずし字の読解能力を身につける。

②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書解読入門	近世史科学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など

辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ベリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近代史科学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第 3 回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第 4 回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第 5 回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第 6 回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第 7 回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第 8 回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第 9 回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第 10 回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第 11 回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第 12 回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第 13 回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門〔増補版〕』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史 30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全 5 巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials. (Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。

具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解読し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第2回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第3回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第4回	外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第5回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第6回	太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第7回	太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第8回	太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第9回	終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第10回	終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第11回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第12回	冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書を読み、日本のアジア外交を考える。
第13回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (1)	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第14回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (2)	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくことと便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50 %）、試験（50 %）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS200BE

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。

また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。

史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。

現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアルアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レイストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	授業内テストと春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テストを実施します。その成績評価を 80 %、平常点として 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することとに心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また初回の授業で E メールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80%, in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	水問題	水問題と学習の意義
第 2 回	河川史 1	黄河
第 3 回	河川史 2	長江
第 4 回	河川史 3	渭水
第 5 回	河川史 4	洛水
第 6 回	運河史 1	運河の構造
第 7 回	運河史 2	運河の発展
第 8 回	穀倉	穀物の運搬と保管
第 9 回	船舶史	船舶の種類と発展
第 10 回	水軍史	水上の軍事行動
第 11 回	農業史	灌漑と水車
第 12 回	庭園 1	庭園の種類と発展
第 13 回	庭園 2	皇室庭園
第 14 回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200BE

西洋古代史

後藤 篤子

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ケルト人の歴史と文化、および彼らがローマの支配下に組み込まれる過程について学び、「外国支配」への抵抗と同化、異文化接触による社会と文化の変容など、現代世界にも通じる諸問題について考えます。

【到達目標】

・古代ケルト人の社会と文化について基本的知識を習得する。
・ガリアのケルト社会がローマの支配下に組み込まれていく歴史的過程を説明できる。
・ガリアの社会と文化がローマとの接触によりどのように変容したかを考察できる。
以上を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、毎回、質疑応答の時間を設けます。講義の概要と関連史料・図版等を記載したレジュメは、各回の授業の数日前には学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りのよい所でリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業時で全体講評と質疑応答、場合によっては討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「ケルト人」とは
第2回	古代ケルト人の起源	ハルシュタット文化について
第3回	古代ケルト人の移動	古代ケルト人の移動とそのインパクト
第4回	ラ・テーヌ期のケルト人	ラ・テーヌ文化の形成と発展
第5回	古代ケルト人の宗教 (1)	古代ギリシア・ローマの文献史料から
第6回	古代ケルト人の宗教 (2)	考古学的知見から
第7回	ローマとの接触	ローマ属州「プロヴィンキア」成立前後の状況
第8回	ローマによる征服	カエサルによるガリア・コマタ征服と『ガリア戦記』が描くガリア社会
第9回	ローマ支配の確立	アウグストゥスによるガリア諸属州の組織化
第10回	ローマ支配への同化と抵抗	1世紀のガリア史概観
第11回	ガロ＝ローマ文化の出現 (1)	都市景観に見る「ローマ化」の進展とガリアの特徴
第12回	ガロ＝ローマ文化の出現 (2)	農村地帯の状況
第13回	ガロ＝ローマ文化の出現 (3)	ローマ支配下ガリアの宗教世界
第14回	春学期のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨む前に学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに必ず目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類からレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べてみる。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでもに凝る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決を図る。本授業の事前学習・復習は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

バリー・カンリフ『図説ケルト文化誌』、蔵持不三也訳、原書房、1998年。
木村正俊『ケルトの歴史と文化（上）・（下）』、中公文庫、2018年（増補新版）。
後藤篤子「ローマ属州ガリア」、『世界歴史大系・フランス史1』（山川出版社、1995年）第2章。
その他の参考文献は、講義レジュメで紹介しています。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的取り組み） 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度の「授業改善アンケート」は、回答率が極めて低く、講義内容も変わりますので、あまり参考にできませんでしたが、2021 年度は講義レジュメを学習支援システムにアップするのが遅れがちだったことが最大の反省点で、今年度は受講生に十分な予習時間を取ってもらえるよう、余裕をもってアップすべく努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the history of the ancient Celts and the influence of ancient Rome on them.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire fundamental knowledges concerning the ancient Celts and to be able to consider the problem of acculturation.

Learning Activities outside of Classroom : Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋中世史

大貫 俊夫

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパと聞いてどのようなイメージを持つだろうか。勇壮な騎士、ユーモラスなロマネスク美術から魅力的な時代だと思う人もいれば、暴力にあふれ不潔でキリスト教を盲信する時代だと思う人もいだろう。本講義では、史料を読み解きながら中世ヨーロッパにまつわるファクトとフィクションの関係を見定め、過去を知ることの意味を一緒に考える。

【到達目標】

1. 中世ヨーロッパ史に関する基礎的知識を習得できる。
2. 中世ヨーロッパ史に関する歴史観が構築されるプロセスを理解できる。
3. ファクトとフィクションを成り立たせる上で史料が果たす役割を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式だが、一部自分で資料を読解する作業も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	中世は暗黒時代だった①	中世は本当に暗黒時代だったのか説明します。
第 3 回	中世は暗黒時代だった②	中世は本当に暗黒時代だったのか説明します。
第 4 回	中世の人々は地球は平らだと思っていた	中世における世界認識について説明します。
第 5 回	農民は風呂に入ったことがなく、腐った肉を食べていた	中世における衛生観について説明します。
第 6 回	人々は紀元千年を恐れていた	中世における終末観について説明します。
第 7 回	中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた	中世における戦争の実態について説明します。
第 8 回	中世の教会は科学を抑圧していた	中世における宗教と科学の関係について説明します。
第 9 回	1212 年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ	中世の十字軍について説明します。
第 10 回	ヨハンナという名の女教皇がいた	中世におけるジェンダー観について説明します。
第 11 回	中世の医学は迷信に過ぎなかった	中世における医学について説明します。
第 12 回	中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした	魔女について説明します。
第 13 回	ベスト医師のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた	中世に起こったベストについて説明します。
第 14 回	修道士は黙々と祈りの生活を送っていた	中世の修道士の生活について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に教科書の指定された箇所を読んでくる。
 復習：授業内容を振り返り小レポートを執筆する。
 本授業の準備・復習時間は 1 回あたり 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック著／大貫俊夫監訳『中世ヨーロッパ フィクション』（平凡社、2021 年）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

各回の小レポート（20 %）
 期末レポート（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

What do you think of medieval Europe? For some, it was a fascinating time of brave knights and humorous Romanesque art; for others, it was a time of violence, filth and blind faith in Christianity. In this lecture, we will look at the relationship between fact and fiction in medieval Europe, reading historical documents and considering together the meaning of knowing the past.

Learning Objectives:

The goals of this course are to acquire a basic knowledge of medieval European history, understand the process by which historical perspectives on medieval European history are developed, and understand the role of historical sources in the construction of fact and fiction.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to read the assigned sections of the textbook before class and write a short report after class.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE

西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppii で提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア帝国の形成（1）	ビョートル 1 世と帝国の形成
第 2 回	ロシア帝国の形成（2）	ビョートルからエカチェリーナへ
第 3 回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ 2 世とロシア帝国の発展
第 4 回	19 世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第 5 回	19 世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ 1 世と帝国の安定化
第 6 回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル 2 世の「大改革」
第 7 回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第 8 回	近代ロシアの成熟	19 世紀末のロシア帝国
第 9 回	近代ロシアの危機	ニコライ 2 世のロシア帝国
第 10 回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第 11 回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第 12 回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第 13 回	全体のまとめ（1）	近代ロシアの特徴（1）
第 14 回	全体のまとめ（2）	近代ロシアの特徴（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】

和田春樹編『世界各国史 22 ロシア史』（山川出版社、2002 年）。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全 3 巻（山川出版社、1994-97 年）。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50 %）と学期末レポート（50 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations.

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Assignments (50 %), term paper (50 %)

HIS200BE

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。

・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第 2 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 3 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 4 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国（1）	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国（2）	アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明『東欧における地域とエトノス』歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.

・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40 %）および筆記試験（60 %）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2 冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価しないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3152,A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。
 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
 考古学的方法が発達する過程が理解できる。
 考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
 授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。
 筆記試験等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、期末試験の成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

※本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく考古学的研究方法の内容及成立過程について講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

Students will be able to explain the academic development process of archaeology, especially in Japan.

Students will be able to understand the process of development of archaeological methods and the relationship between archaeology and related sciences.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤 紀恵

授業コード：A3153,A2274 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことに、どのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体は A) 史学史篇と B) 実践篇にわけられる。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】

この授業は3つの目標掲げる。

- ①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
- ②歴史学が今、直面する課題について考える。
- ③歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。最後に、4000字のレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第2回	過去と向き合う	村上春樹『猫を捨てる』を題材に、過去と向き合う意味を考える。
第3回	歴史修正主義を考える	映画『否定と肯定』から歴史修正主義を考える。
第4回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第5回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三分が生まれた経緯を考える。
第6回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第7回	史学史篇④ アナールの挑戦	1970年代に日本に大きな影響を与えたアナールの挑戦について考える。
第8回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	1980年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第9回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第10回	史学史篇⑦ グローバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。
第11回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第12回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第13回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第14回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テキストを読んだり、事前準備を求められることが多い。報告は、グループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業をすることになる。担当週に向けて集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】

・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019。
 ・ジョー・グルディ、D・アーミテージ（平田雅弘・細川道久訳）『これが歴史だ！ 21世紀の歴史学宣言』刀水書房、2017。
 ・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003。ほか。
 初回に参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告（40 %）＋レポート（60 %）
 レポートは本文 4000 字＋脚注＋参考文献表

【学生の意見等からの気づき】

毎回のグループ報告に際しては、学生から活発な質問が寄せられた。二年生から四年生まで、日本史、東洋史、西洋史の多様な分野を学ぶ学生から構成されていたことがよかったと思う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn? This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.

The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%) and the final report (60%).

HIS200BE

日本史特講Ⅰ

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は、支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。8 代将軍徳川吉宗の親裁によって実施された「享保改革」がそれである。この授業では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医業分野の政策に注目し、この政策が強力に推し進められた要因について考える。近世日本が、自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】

享保改革期に実施された医業政策の内容と展開要因を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義します。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚（続）
第 4 回	享保改革期の医業政策 (1)	政策実施の背景：都市社会の形成と薬材需要の高まり
第 5 回	享保改革期の医業政策 (2)	政策実施の背景：医学界の新機軸「古医方」の出現
第 6 回	享保改革期の医業政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医業政策 (4)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 8 回	享保改革期の医業政策 (5)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医業政策 (6)	和薬種改めの実施（続）
第 10 回	享保改革期の医業政策 (7)	和薬種改めの実施（続）
第 11 回	医業政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医業政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題（続）
第 13 回	医業政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題（続）
第 14 回	医業政策の展開要因 (4)	「にせ薬種」問題（続）／享保改革期医業政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを介して配布する資料（教材）の予習と復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（毎回資料配付）。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）

安田 健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社（1987 年）

田代和生『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会（1999 年）

新村 拓『日本医療史』吉川弘文館（2006 年）

大石 学『徳川吉宗－日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012 年）

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

教材配布のために学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅳのテーマと関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

From the early to mid 18th century, the Edo Shogunate implemented a series of policies aimed at re-strengthening of dominance.

In this course, we will focus on the policy on drug distribution that Shogun Yoshimune Tokugawa showed enthusiasm among the policies implemented at that time, and consider the factors that strongly promoted this policy.

(Learning Objectives)

Be able to explain the content of the drug distribution policy implemented in the middle of the 18th century and the factors behind it.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代を中心とする中世社会の特質について理解するため、都市（宿、港町のような町場を含む）と仏教を題材として取り上げる。そして、都市および交通路の実態と仏教の役割、それぞれの関わりについて、最近の研究動向をふまえ、具体的な事例を基に考察する。合わせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の方法を習得する。

【到達目標】

都市、交通路、仏教という側面から、中世社会の特質について理解し、自分なりに説明することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7 章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章毎に「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章毎（序章は除く）に計 6 回の小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本中世史研究の対象としての都市と仏教	履修のガイダンスと概説
第 2 回	鎌倉の交通路と都市市民（1）	都市鎌倉の道路・海路と都市市民の居住形態
第 3 回	鎌倉の交通路と都市市民（2）	小テスト 1
第 4 回	東アジアの中の日本中世仏教（1）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示
第 5 回	東アジアの中の日本中世仏教（2）	小テスト 2
第 6 回	鎌倉の都市市民と仏教信仰（1）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり
第 7 回	鎌倉の都市市民と仏教信仰（2）	小テスト 3
第 8 回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（1）	中世都市を特徴づける中国文化の受容形態
第 9 回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（2）	小テスト 4
第 10 回	西大寺流の全国展開と交通路（1）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり
第 11 回	西大寺流の全国展開と交通路（2）	小テスト 5
第 12 回	一遍時衆の遊行と宿・港町（1）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり
第 13 回	一遍時衆の遊行と宿・港町（2）	小テスト 6
第 14 回	中世の都市と仏教	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。ノート等を見直して復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章毎にプリント（PDF ファイル）を配布する。

【参考書】

新城常三『鎌倉時代の交通』（吉川弘文館、1967 年）
 佐藤信・吉田伸之編『新体系日本史 6 都市社会史』（山川出版社、2001 年）
 藤原良章『中世のみちと都市』（山川出版社、2005 年）
 榎原雅治『中世の東海道をゆく』（中央公論社、2008 年）
 『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史 21 鎌倉時代 4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013 年）
 その他は、授業時に章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数 100% で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

徳川吉宗（8代将軍）は、いわゆる「享保改革」の主導者として著名である。だが、特に行財政面で実績をあげたと評価されるこの将軍が早期に着手したのは、実は将軍家蔵書（御文庫）の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、吉宗は 20 年以上にわたって、御文庫内のあらゆる分野の書物の校合、校勘を行わせたこととなる。この授業では、この事業の目的について理解を深めるところから、18 世紀中期に現れた吉宗政権の歴史的意義を考える。

【到達目標】

徳川吉宗が将軍家文庫（御文庫）中の書物の校合・校勘に着手したという事実をもとに、吉宗政権の特徴を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義します。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 3 回	将軍家の文庫 (1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第 4 回	将軍家の文庫 (2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 5 回	将軍家の文庫 (3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	吉宗と書物 (1)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態
第 7 回	吉宗と書物 (2)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 8 回	吉宗と書物 (3)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 9 回	吉宗と書物 (4)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）
第 11 回	吉宗と書物 (5)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 12 回	吉宗と書物 (6)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 13 回	吉宗と書物 (7)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 14 回	まとめ	吉宗政権の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962 年）
 福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980 年）
 辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）
 大石 学『徳川吉宗—日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012 年）
 小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013 年 3 刷）
 その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容は難しくなりますが、テキストを用意し、講義の振り返りができるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Yoshimune Tokugawa, the 8th shogun of the Tokugawa family, spent more than 20 years working on proofreading to make the texts of all kinds of books in the library of the Edo Shogunate accurate. In this course, we will consider why such work was done. Then, based on that conclusion, we will discuss the character of political power when Yoshimune Tokugawa was in the position of shogun.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・公家・ジェンダー・被差別民等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治維新像の変遷	戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。
第 2 回	天皇と明治維新	近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。
第 3 回	公家の明治維新	公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。
第 4 回	大名の明治維新	大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。
第 5 回	武士の明治維新	旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。
第 6 回	志士の明治維新	幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。
第 7 回	外交儀礼と明治維新	明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。
第 8 回	宗教と明治維新	明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。
第 9 回	書物・記録と明治維新	幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。
第 10 回	文明開化と明治維新	文明開化について違式註違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。
第 11 回	遊女の明治維新	吉原の明治維新を芸妓妓解放令を中心に解説する。
第 12 回	被差別民の明治維新	被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。
第 13 回	記憶にみる明治維新	明治維新の顕彰による集合的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。
第 14 回	まとめと成果確認	達成度を確認するための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。
準備・復習時間は講義 1 回につき 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12（有志舎、2010 年～2018 年）
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012 年）
井上清『明治維新』（日本の歴史 20、中央公論新社、2006 年）
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995 年）
井上勲『王政復古』（中公新書、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）・ショートレポート（20 %）・授業に対する取り組み方（10 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解説、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解説し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解説、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解説し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特徴
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

資料（配布資料）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前資料の配布、オンライン授業での課題のフィードバックなどは学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主として日本史を素材にしながら、「歴史学とは何をする学問なのか」という問題を考えていくことを目的とする。

歴史学は、過去を研究対象とし、過去の実事を明らかにしていく。では、現代に生きる私たちにとって、現代から何十年も、あるいは何百年も昔の過去を知ることには、いったいどのような意味があるというのだろうか。過去を知っても、現代に活かせる教訓をただちに得られるとはかぎらない。なぜならば、過去と現代とでは状況が異なっているからである。また、過去を知っても、それで未来が見通せるわけでもない。なぜならば未来は、過去 ⇒ 現在という連続線上の先にあるわけではないからである。では、過去を知ることには、何ら意味も、価値もないのだろうか。

確かに、ただ単に過去を知るだけでは、何の意味もない。せいぜい「娯楽になる」といったことだけだろう。しかし、私たちは過去——とりわけ現代から近い過去（近現代史）を知り、それによって現代に生起しているさまざまな問題の「起源」を明らかにすることで、現代の問題をよりいっそう理解することができるようになる。また私たちは、過去——とりわけ現代から遠く離れた過去（古代史や中世史）を知り、その過去を現代と比較してみると、現代を見ているだけでは「当たり前」すぎてわからない、現代の問題に気づくことができるようになるのだ。

このように、私たちは過去を知ること、自分たちが生きている現代をより深く知ることができるようになる。そしてここにこそ、歴史学という学問の存在意義があるのだ。よく誤解されるのだが、歴史学は単に「過去を知るだけ」の学問ではない。過去を知り、そしてその過去を使って現代における問題の起源を探ったり、あるいは過去と現代とを比較したりすることによって「現代を知っていく」という学問なのである。本講義では、このことを解説していく。

具体的には、以下のような三部構成で講義を進めていく。まず第1～3回では、歴史学とは何を目的とする学問なのか、ということとあらためて示し、また、歴史学の研究はどのように進めていくのか、といった、歴史学のいわば「型」を解説していく。次いで第4～8回では「過去を知ることで現代を知る」ことを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較しながら具体的に説明していく。そして第9～13回では、この「過去を知ることで現代を知る」ことをよりいっそう理解することができるよう、戦国時代から近代にいたるさまざまな事柄を歴史学的手法を使いながら分析し、議論していく予定である。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。配布プリントを使って解説する。出席カードやリアクションペーパー記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学はリベラルアーツである——「当たり前」から自由になるアーツ。	何百年も昔の過去を知って、現代に生きる私たちに何か役に立つのか。過去を知れば、教訓や得たり、未来を見通したりすることができるのか……。ここでは、歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか、といった、歴史学のパーパス（存在意義）を説明していく予定である。
第 2 回	歴史学の研究はどのように進めていくのか。	疑問はいかにして得るのか、データ（史料）はどのように扱うべきか、そして、なぜ他者と論じ合う必要があるのか……。ここでは、「疑問を持ち、データを集めて分析し、自分なりの仮説を立て、他人と議論してこの仮説を修正していく」という、歴史学の基本的な「型」を伝授していく予定である。

第 3 回	歴史学が直面する問題とは何か。	歴史学の研究成果は、なぜ一部のマニアだけのものになりつつあるのか……。ここでは、専門化・細分化し、一般人はもとより他分野の研究者にとっても難解すぎて理解不能になっている歴史学の現状を説明し、なぜこういった事態にいたっているのかを考えていく予定である。
第 4 回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか。	戦国時代、将軍はどこで、何をしていたのか……。戦国期においても、将軍はなお「日本列島全体の存在」であった。それゆえ戦国日本を知るためには、将軍を理解することが欠かせない。そこでここでは、戦国時代に活躍した将軍七人をとりあげ、その生涯を概説していく予定である。
第 5 回	なぜ足利将軍はすぐには滅亡しなかったのか。	足利将軍が戦国末まで存続しえた理由は何か……。ここでは、前回に引きつづいて戦国期将軍たちの生涯を概観するとともに、「大名たちにとって、将軍にはいかなる利用価値があったのか」という問題を考えていくことで、将軍がすぐに滅亡しなかった謎を解明していく予定である。
第 6 回	「信長包囲網」がうまくいかなかったのはなぜか。	義昭や毛利・武田・上杉・本願寺といった反信長の連合は、なぜ織田信長の封じ込めに失敗したのか……。ここでは、現代でも当てはまる「対等な者同士が団結しつづける」ことの困難さを、心理学や社会学の知見も援用しながら考えていく予定である。
第 7 回	戦国社会について、どのような「全体の見取り図」を描けるのか。	戦国期日本列島は、全体としてどのような姿をしていたのだろうか……。ここでは、戦国社会の「構造」（＝骨組み）に注目していくことで、全体の見取り図を描き出していく。そしてそのうえで、戦国社会と現代世界とをくらべ、現代世界の特徴をあぶり出していく予定である。
第 8 回	戦争はなぜ起きるのか、協調が成立するのはなぜか——大名同士の「つき合い方」から考える。	なぜ戦国大名間では大規模な戦争が繰り上がったのか……。ここでは、「情報の非対称性」をはじめとする、戦争を引き起こす諸要因を紹介するとともに、戦国大名たちが近隣の者同士でそれなりに協調しあうことができたのはなぜか、といった問題を考えていく予定である。
第 9 回	「文化の相違」は、いかなる問題を引き起こすのか——キリスト教の伝来と禁教から考える。	キリスト教が戦国末に禁止されるのはなぜか……。ここでは、戦国の人たちがキリスト教という「異文化」をどのように「誤解」したのか、そしてその誤解を正さんとして宣教師たちが何をしたのか、といったことを見ていくことで、現代でもしばしば紛争を引き起こす「文明の衝突」を考える予定である。
第 10 回	天皇はなぜ生き残ったのか——英仏の王権と比較する。	武家政権は、なぜ天皇を存続させたのだろうか……。ここでは、「歴代武家政権と天皇との関係」を「中世における英・仏王権と教会との関係」と比較しながら考察し、「権威があったからだ」といったことで片づけられがちな、天皇存続の謎を解き明かしていく予定である。
第 11 回	「主君押込め」とは、どのようなメカニズムなのか。	「家臣たちが主君を押込める」という行為はどのような論理に基づくのか……。ここでは、室町・戦国から江戸時代末における「主人と従者の関係」を考えることで、私たちには自明すぎて気づきにくい、現代社会におけるさまざまな組織の「トップと現場」の関係を問い直していく予定である。
第 12 回	ボトムアップの問題点は何か。	現場の指揮官がトップの指示通りに動かないことは是なのか非なのか……。ここでは、戦国大名の軍隊、江戸時代の藩、戦前の軍部、終戦直後の半導体やデジカメ開発などの事例をとりあげながら、現代における組織のあり方についてあらためて考えていく予定である。
第 13 回	権力集中は何がきっかけで起きていくのか——ショック・ドクトリン。	権力とは何であり、権威との違いは何か。また権力は何が「きっかけ」で強化されるのか……。ここでは、戦国大名の強力な権力がどう形成されていったのか、という問題などを考えることで、「コロナ対策として政府への権限を強めるべき」という見方について考察していく予定である。

第 14 回 まとめ

これまでのまとめ、または試験を実施する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

山田康弘『足利義輝・義昭——天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、2019年）。その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数 70%、レポート 20%、平常点 10% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline (in English)】

Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

The goals of this course are to learn historical research.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10%

HIS200BE

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。

甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。

文字史料を読み込む力をつける。

家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里頭文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）との関連を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造	宝貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える実例紹介	鬲卣・鬲尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第 14 回	授業内テストとまとめ・秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。
 絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト（80 %）、平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。
 現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また E メールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に移行した場合、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。提出された課題はクラス内で（匿名で）共有します。期末レポートについては個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第 2 回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第 3 回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から 9 世紀
第 4 回	中世国家の展開	10～14 世紀
第 5 回	交易の時代前期	15～16 世紀前半
第 6 回	交易の時代後期	16 世紀前半～17 世紀
第 7 回	近世国家群の展開と再編	18～19 世紀前半
第 8 回	植民地支配の進展	19 世紀後半
第 9 回	東南アジア経済の再編成	19 世紀後半～1930 年代①
第 10 回	ナショナリズムの勃興	19 世紀後半～1930 年代②
第 11 回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940 年代～1950 年代
第 12 回	冷戦への主体的対応	1950 年代半ば～1970 年代半ば
第 13 回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970 年代半ば～1990 年代
第 14 回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史 10 講』（岩波新書、新赤版 1883）2021 年、岩波書店
 通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第 1 版、河原正博、1978 年は使用しません。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
 池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
 その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末レポート（60%）
 期末レポートの詳細は別途配布します。
 期末レポートについては第 10 回の授業が終わるころまでに予定しているテーマと関連する文献を報告していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポート作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」（<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>）を参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時には Zoom を使用します。

【その他の重要事項】

第 7 回までは東南アジア全域を扱います。
 第 8 回以降も東南アジア全域を扱いますが、とくにベトナムに焦点を当てます。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Grades will be based on the written assignments (including final papers and in-class writing assignments). Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国经济史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたりアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013 年。（第 4・5 章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016 年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70 %

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end report(70%) and in-class contribution(30%).

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都在置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第 3 回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第 4 回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第 5 回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第 6 回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第 7 回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第 8 回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第 9 回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第 10 回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第 11 回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第 12 回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第 13 回	白磁	定窯と景德鎮窯
第 14 回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）には目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE

西洋史特講 I

後藤 篤子

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ帝国の歴史と社会を考えるうえでの諸問題についてガリアを事例として学び、帝政後期における「キリスト教化」、「ローマ」と「ゲルマン」の関係、ローマ支配の後退に対する種々の対応等の問題について考察します。

【到達目標】

3～5世紀のガリアが置かれた歴史的状況の概略を説明できる。

「バグダエ」や「ゲルマン大侵入」の実態等、ローマ帝政後期のガリアに関する学界での論争点について、諸家の見解を対比して自らの考察を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、毎回、質疑応答の時間を設けます。講義の概要と関連史料・図版等を記載したレジュメは、各回の授業の数日前には学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りのよい所でリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業時で全体講評と質疑応答、場合によっては討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「バクス・ロマーナ」期のガリア社会概観
第2回	「3世紀の危機」とガリア	「ガリア帝国」をめぐって
第3回	ローマ帝政後期の体制	「大きな政府」の出現
第4回	4世紀のガリア	政治史概観
第5回	「移動宮廷」の影響	4世紀ガリアにおける社会的流動性とガリア=セナトル貴族層の形成
第6回	ローマ帝国の「キリスト教化」の影響	ガリアへのキリスト教の浸透
第7回	5世紀のガリア	政治史概観
第8回	「ゲルマン大侵入」をめぐって	同時代史料に見る「蛮族大侵入」と、その実態をめぐる諸説の検討
第9回	ローマ帝国における「民衆運動」？	「バグダエ」をめぐって
第10回	ローマ帝国の「衰退」への対応 (1)	シドニウス・アポリナリスの書簡から
第11回	ローマ帝国の「衰退」への対応 (2)	シドニウス・アポリナリスの場合
第12回	「西ローマ帝国の滅亡」	ローマ支配の終焉とガリア=セナトル貴族層の動向
第13回	ローマ支配終焉後のガリア	ゲルマン諸王国と司教たちのネットワーク
第14回	秋学期のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨む前に学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに必ず目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類からレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べてみる。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでもに凝る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決を図る。本授業の事前学習・復習は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

後藤篤子「古代末期のガリア社会」、『岩波講座・世界歴史7』（岩波書店、1997年）所収。その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的取り組み） 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度の「授業改善アンケート」は回答率が極めて低く、講義内容や授業方法（2021年度はグループ別発表を実施）も変わりますので、あまり参考にできませんでした。

ただ、講義レジュメの事前配布が遅れがちだったことは反省していますので、今年度は受講生が十分な予習時間を取れるように、早目のアップに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the issues of imperial Rome, such as the so-called third-century crisis, social mobility in the fourth century, Christianization, and various reactions to declining Roman rule, focusing on Gaul.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire historical knowledge of the late Roman Gaul and to be able to consider the issues described in Course Outline.

Learning Activities outside of Classroom : Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大貫 俊夫

授業コード：A3169 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世盛期（11世紀末～13世紀）に広まった宗教的心性を踏まえて、当時新たに展開した修道制について論じる。特に修道士が世俗社会といかに交流していたのかを詳述する。

【到達目標】

1. キリスト教修道制について理解できる。
2. 修道制を通して盛期中世社会における宗教的心性を理解できる。
3. 修道制と世俗の社会生活との相互関係について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第2回	古代～初期中世の西欧修道制の展開	キリスト教修道制の起こりを説明します。
第3回	ベネディクトゥスの『戒律』	中世ヨーロッパの修道制の基礎といえるベネディクトゥスの『戒律』について説明します。
第4回	盛期中世の宗教的心性①	盛期中世における新しい宗教的心性の特徴を説明します。
第5回	盛期中世の宗教的心性②	盛期中世における新しい宗教的心性の特徴を説明します。
第6回	盛期中世における修道制の多様性	盛期中世に誕生した新しい修道制の類型について説明します。
第7回	シトー会の成立と組織的特徴	盛期中世を代表するシトー会について、その成立と組織的特徴に絞って説明します。
第8回	シトー会と農村社会の関わり	シトー会と農村社会の関わりについて説明します。
第9回	シトー会と都市社会の関わり	シトー会と都市社会の関わりについて説明します。
第10回	プレモンテ会とカルトゥジオ会	シトー会以外の修道会としてプレモンテ会とカルトゥジオ会について説明します。
第11回	異端運動の展開	修道制の情勢と表裏一体の存在として誕生した異端運動について説明します。
第12回	托鉢修道会の成立とその役割	13世紀に成立した托鉢修道会について説明します。
第13回	托鉢修道会と大学	托鉢修道会と大学教育について説明します。
第14回	修道院神学とスコラ学	シトー会、托鉢修道会が貢献した神学の新しい動向について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返り小レポートを執筆する。
本授業の復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

G. コンスタブル『十二世紀宗教改革－修道制の刷新と西洋中世社会』（慶應義塾大学出版会、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

各回の小レポート (20 %)

期末レポート (80 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the newly developed monasticism of the High Middle Ages (late 11th-13th centuries) in the light of the prevailing religious mentality of the period. In particular, we will discuss how the monks interacted with secular society. Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Christian monasticism, understand religious spirituality in medieval society through monasticism, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

篠原 琢

授業コード：A3170 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった……。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社会主義体制下も含めて、それぞれの国家の「民族的」性格が強調されたため、この種の歴史観は、当然の前提とみなされることが多かった。

果たして帝国の 19 世紀史をそのように捉えることは妥当だろうか。授業では「中央ヨーロッパ」という歴史的世界の検討を行い、「帝国から国民国家へ」という歴史の方向性を具体的に見直す。ハプスブルク君主国の成立過程を概観した後、さらに若干の理論的・史学史的考察を行い、昨年度から引き続き「長い 19 世紀史」のなかで帝国史の再検討を行う。中心的に検討の対象とする地域は、ペーメン（チェコ）諸邦とガリツィア（今日のポーランド南東部からウクライナ西部にかけての地域）である。

【到達目標】

18 世紀末から第一次世界大戦期までの「長い 19 世紀史」におけるハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝國的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業中、史料や文献を使って、グループ・ディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校世界史と指導要領 の中のハプスブルク君主国	高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。
第 2 回	ヨーロッパ史の中の「中央ヨーロッパ」	「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。
第 3 回	ハプスブルク君主国の形成	ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観したのち、ペーメン国王・ハンガリー国王に選出されるまでを扱う。

第 4 回	30 年戦争期の国家変動	16 世紀初頭から 17 世紀にかけて、君主と諸身分（議会）との緊張関係は、宗教改革の影響を受けつつ、深刻化していった。オスマン帝国の拡大もこの時期の国家建設に大きな影響を与えている。30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。
第 5 回	帝国建設への道	啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。ハプスブルク朝による国家建設過程を考える。
第 6 回	ネイション形成の段階論	ナショナリストにとってネイションは太古より存在するものではあっても、歴史研究者には新しい現象である。ネイション形成の「段階論」を検討する。
第 7 回	「国民再生」National Renaissance をどのように考えるか	19 世紀に「国民再生」と位置づけられてきた現象をネイション形成の段階論にしたがって具体的に整理する。
第 8 回	「できごと」としてのネイションー National Indifference 概念の挑戦	ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。
第 9 回	1848 年革命再考	1848 年革命を帝国の国家再編、凝集力の強化という視点から観察する。
第 10 回	「諸国民の社会」の形成	ネイション（国民社会、National society）の形成をベーメン、ガリツィアを比較しながら考える。
第 11 回	帝国の「文明的使命」と植民地主義的想像力	帝国は凝集力を高めるなかで「多様性のなかの統一」という国家理念を掲げていった。この理念を詳細に検討すると同時に、それが「植民地主義的」な想像力に支えられていたことを分析する。
第 12 回	帝国と第一次世界大戦	帝国解体論が登場したのは第一次世界大戦がはじまってしばらくしてからのことだった。総力戦体制のなかで、帝国が崩壊する過程を分析する。
第 13 回	第一次世界大戦の終結と「民族自決論」	第一次世界大戦後のヨーロッパ秩序は帝國的編制に基づいていた。「民族自決論」、国民国家をその文脈のなかで捉え直す。
第 14 回	「小さな帝国」論	第一次世界大戦後の国民国家と帝国との連続性を考え、まとめの考察とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に指示する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ・ディスカッションの結果をレポートとして提出する：30%
期末に提出する最終レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の指摘に基づいて、授業テーマの理解の基礎となる通史的解説を充実させた。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的に同期型のオンライン授業として行う。史料・資料は Hoppii で配布する。オンライン（Zoom）で授業を行うため、授業に関心のある学生は必ず仮登録は行うこと。

【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ近代史、ナショナリズム、国民国家などに関心のある方の受講を歓迎します。英文の論文を授業中に検討し、グループ・ディスカッションの材料としますので、意欲的な方々の参加をお待ちしています。

【Outline (in English)】

Course Outline and objectives:

Habsburg Monarchy was a mere amalgam of defferent territories acquired and inherited by the house of Habsburgs through marriages and wars. Therefore it was anachronistic existence by itself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern state. The Long Nineteenth century was for it a process of decay leading to an inevitable dissolution, a process driven by nationalism, nationality conflicts... Such an argument is based on a view which presupposes a centralized homogeneous nation-state as a normality of modern state, and depicts history the Habsburg monarchy as an anormality deviated from the "normal" development of European modernity. As its succeeding states in Central and Eastern Europe legitimates their existing by stressing their "national" characters, such vision of history often constructed basic pattern of historical narrative. Can we still understand history of the Monarchy in such a way? In this course, first, we will briefly sketch a historical region "Central Europe", then the building of the Habsburg monarchy from the Middle age to the Enlightenment. After summarizing historiography of Habsburg monarchy and more important theoretical problems, we will investigate some of the most essential topics of the Monarchy in "the long 19th. century".

Following the course last academic year, the main object of the analyse is history of Bohemian Lands and Galicia (today, south-eastern part of Poland and western Ukraine).

Learning Objectives and the Goal:

By studying history of the Habsburg Monarchy in the long nineteenth century, students will be required to review more general topics such as nation building, nationalism, civil society and imperial order. The goal of the course is to get critical approach to the teleological notion of the European modernity.

Grading Criteria:

Group discussion in the class: 30%

Final report: 70%

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視角から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第7回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第8回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第9回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第10回	緊張と排除（1）	魔女
第11回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第12回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第13回	ディスカッション（2）	近代と排除
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

二〇一九年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、分厚すぎて受講生はあまり活用していないことに気がきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思い改善しました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%), participation to the discussion (20%), and the final report (40%).

HIS200BE

西洋史特講V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2021 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で育まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次回の授業冒頭でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸——伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、ほぼ対面で授業を行うことができました。また、学生の希望を聞いて「市ヶ谷を歩く」という特別セッションを行いました。都市史への理解を深めたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Final report (60%), and short essays and in-class contributions (40%)

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥 由香子

授業コード：A3173 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国ではバイデン政権の誕生とともに、初めて女性が副大統領に就任した。カマラ・ハリス氏が副大統領に選ばれた 2020 年はまた、連邦レベルでの女性参政権が認められて 100 年の節目であった。本講義では 19 世紀後半からのアメリカ史をたどり、アメリカ政治における女性とジェンダーについて考察を深める。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。一方、アメリカ合衆国のなかには、人工妊娠中絶が厳しく規制される州、一夫多妻制が行われているコミュニティがあるなど、決して「アメリカの方が進んでいる」という一言では片付けられない側面もある。結局のところ、連邦レベルでの女性参政権の付与は、アメリカ政治をどのように変えたのだろうか。アメリカ政治をジェンダーの視点から分析すると、どのような変化が起きてきたのだろうか。なお、現代アメリカの政治情勢に鑑み、人種問題や中絶問題に関する事柄を多く扱うことになる。

【到達目標】

アメリカの政治文化における政治とジェンダーについての基礎的な知識を得る。英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、リアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と教育	女性参政権運動はどのように始まったのか。
第 3 回	ハル・ハウスの女性たち	参政権のない女性たちはどのように政治に関わったのか。
第 4 回	第一次世界大戦と女性参政権	アメリカ女性はなぜ戦争に協力したのか。
第 5 回	フェミニズムと産児制限運動	妊娠や出産をめぐる規制はどのように変化してきたのか。
第 6 回	ニューディールと女性たち	アメリカ女性は社会福祉にどのように関わっていたのか。
第 7 回	第二次世界大戦と女性の戦争参加	第二次世界大戦はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 8 回	冷戦と女性	軍産複合体はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 9 回	ジム・クロウ法への挑戦	黒人女性は何をどのように変えようとしたのか。
第 10 回	フェミニズムと女性の社会進出	1970 年代のフェミニズムはどのような法改正を要求したのか。
第 11 回	妊娠中絶をめぐる戦い	なぜアメリカで妊娠中絶は政治の争点になったのか。
第 12 回	女性の政治進出	ガラスの天井とは何か。女性の政治進出は何をどのように変えたのか。
第 13 回	同性婚論争	同性婚の権利はどのようにして認められたのか。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、授業内で取り上げる文献に関する課題を行ってもらいます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。また、教科書を活用し、南北戦争期以降アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、授業内で行う小テスト（持ち込み不可）でアメリカ史に関する基本的な事項に関する定着を図ります。

【テキスト（教科書）】

梅崎透、坂下史子、宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021 年）
そのほかの資料については、適宜配布する。

【参考書】

リンダ・K・カーパー、ジェーン・シェロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウイメンズアメリカ 資料編』（2000）

エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著、石井紀子 [ほか] 訳『女性の目からみたアメリカ史』（2009）
有賀夏紀、小檜山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（2010）

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）： 30 %
小テスト： 30 %
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では特に中絶問題や同性婚論争への関心が高く、今年度は身体をめぐる政治についてより広範に取り扱う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline (in English)】

This course explores how women became enfranchised in the United States and how their formal participation in federal politics shaped twentieth-century American society.

Students will gain basic knowledge of politics and gender in the United States. They will also learn how to interpret English-language primary sources.

This will be a lecture course. Every week students will submit response papers in Japanese. Some of the reading materials are available only in English.

Approximately four hours of study and preparation are required. Students need to do weekly readings and submit response papers as some of them will be discussed in class. Students are also expected to study on their own for weekly quizzes in Japanese.

A breakdown of the final grade will be:

Weekly Assignments:30%

Quizzes:30%

Final Exam:40%

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる規範の生成と変成を考えます。宗教や人種の問題も出てくるでしょう。しかし 2022 年度は、ジェンダー規範にあらためて注目し、その存在が近代におけるアメリカ女性の生き方にどのような影響を与えてきたか学びます。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画などを歴史史料としてとりあげ、ヴィジュアルな歴史理解の獲得に努めます。

【到達目標】

ジェンダー規範の歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易ではありません。授業での学習を通し、その困難に丁寧に向き合い、「ウェル・ビーイング」の基盤形成に不可欠な性規範への理解を深め、他国の例も引きながら、異文化体系への感性を高めることを目標とします。

また、課題図書 of 読書レポートを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉使い学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は行います。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設けます。提出してもらった読書レポートにはコメントを付けて返却します。図像史料の読み解きはバウポイント画像などを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近代アメリカの歴史と文化を学ぶ視点	一学期を通して学ぶ視点を提示します。「有用なる過去」の概念を紹介します。
第 2 回	ビュリタニズムの遺産	英領北米植民地における多元社会構築の原理を、ビュリタンの入植の歴史を事例に探ります。
第 3 回	アメリカの宗教と寛容の文化	連邦憲法修正第一条の成り立ちを振り返りながら、アメリカにおける寛容の意味を考えます。
第 4 回	黒人奴隷制社会の誕生	近代アメリカ史における最大の逆説と言われる黒人種奴隷制度に注目し、その英領植民地への導入の歴史を学びます。
第 5 回	合衆国独立の論理	近代アメリカ史の画期となる独立革命の歴史を振り返りながら、しかし、18 世紀の西洋政治思想の文脈において「独立」が何を意味し得たのか、あらためて検討し直します。
第 6 回	合衆国連邦憲法の成立	アメリカ合衆国が国家の体裁を整える最大にして最古の文書、連邦憲法の機能を歴史的脈に据えて考えます。
第 7 回	近代アメリカにおける女性の経験：「共和国の母」が生まれるまで	植民地時代から建国にかけて生成された近代アメリカの女性像を検討します。
第 8 回	アメリカ女権運動の黎明：セネカフォールズにおける「所感の宣言」	19 世紀半ばに始まった政治権利を求める女性運動の歴史を、その目的と手段に着目し学びます。
第 9 回	個人主義とコミュニティアニズム	19 世紀前半のアメリカでは既存の性規範への挑戦がさまざまなコミュニケーションで試みられました。その理由と担い手たちの主張を検討します。
第 10 回	南部社会論の系譜	映画『それでも夜は明ける』が描くアメリカ南部
第 11 回	反奴隷制運動と社会改革の時代	宗教覚醒に始まった 19 世紀アメリカ社会改革運動において女性が果たした役割と、その動きが南北戦争を惹起する力の一つとなった歴史を確認します。
第 12 回	南北戦争	未曾有の内戦を経ることで国民国家への変貌を遂げたアメリカ合衆国の戦前/戦後を考えます。
第 13 回	二つのゲティスバーグ演説	近代から現代への橋渡しとなった世紀転換期における南北戦争の記憶を探ります。

第 14 回 19 世紀女権運動と「新しい女」の誕生

20 世紀転換期のアメリカに生まれた「新しい女性」が求めたものとは何だったのか。一学期の締めくくりとして考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一学期の間に 2 本の読書レポートを課します。テキストとなるのはアメリカ文学の古典と呼ばれるものです。歴史の史料として小説が持つ意味を考える作業にもなります。このほか、白地図への書き込みを通したヴィジュアルな歴史理解の醸成も図ります。

【テキスト（教科書）】

ナサニエル・ホーソン『緋文字』（岩波文庫、1992）、シオドア・ドライサー『シスター・キャリー 上・下』（岩波文庫、1997）

【参考書】

遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2022）

【成績評価の方法と基準】

提出物を期限までに必ず提出すること。読書レポートは、テーマ設定のオリジナリティ、形式、論理性、文章の練度の各視点から評価します。授業におけるリアクションペーパーの議論も評価の対象とします。

配点は以下。白地図（20 %）、読書レポート（70 %）、リアクションペーパー（10 %）。

【学生の意見等からの気づき】

バウポイントによる教材提示は、情報量が増えて考える時間が不足するとい意見が聞かれるので、板書も取り入れつつゆっくり議論を進めることにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

他国の歴史と比較しながらアメリカ合衆国の歴史の特性を考えたいので、日本史や中世史を学ぶ学生の参加も歓迎します。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, the gender norms and their influence on life and experience of American females will be examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to different gender norms of different countries in this class.

In this class, students will learn a layered meaning of gender difference having been molded in American society since the colonial period. Also in preparing book reports, students are expected to learn academic writing.

Two book reports are required. One is on Scarlet Letter and the other on Sister Carrie, Both of them are the classics of American Literature. Students are expected to learn how to read novels as historical documents. Besides these two reports, students must submit a few historical maps during the semester. Good reaction papers are welcomed.

Book reports are evaluated in following points: originality of themes, format, logics, and coherence.

Map studies (20%), Book reports (70%), Reaction papers (10%)

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに明治 41 年を追体験する。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようにすることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	明治 41 年 1 月の弥彦と啄木	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第 3 回	明治 41 年 2 月の弥彦と啄木	東京と地方など
第 4 回	明治 41 年 3 月の弥彦と啄木	近代の恋愛事情など
第 5 回	明治 41 年 4 月の弥彦と啄木	近代スポーツと学校の役割など
第 6 回	明治 41 年 5 月の弥彦と啄木	明治の文学者など
第 7 回	明治 41 年 6 月の弥彦と啄木	学歴エリートの世界など
第 8 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木	健康、保養思想の受容と定着など
第 9 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木	近代スポーツの広がりなど
第 10 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木	明治の大学生など
第 11 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木	日米野球と国際交流など
第 12 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木	園遊会と社交文化など
第 13 回	明治 41 年 12 月の弥彦と啄木	青年の日常など
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通して置く。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特には用いない。

【参考書】

『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their 1908 diaries, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近代日本において都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察し、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、近代都市がいかにして形成されてきたのか、明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャー等、多角的な観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、テーマごとに講義を進めながら、近代日本の都市形成と諸制度について、考えていく。

毎回、リアクションペーパー（小レポート）を提出する。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小レポート）から良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的・進め方。歴史学の方法。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	近世から近代へ	都市人口
第 3 回	都市計画（1）	都市計画（1）
第 4 回	都市計画（2）	都市計画（2）
第 5 回	都市計画（3）	都市計画（3）
第 6 回	都市計画（4）	都市計画——事例
第 7 回	都市財政	都市財政
第 8 回	都市と交通	電車事業
第 9 回	都市と社会問題	都市と貧困
第 10 回	都市と災害	都市と災害
第 11 回	都市とインフラ（1）	都市とインフラ（1）
第 12 回	都市とインフラ（2）	武家地から住宅街へ
第 13 回	都市とインフラ（3）	武家地からビジネス街へ
第 14 回	試験、まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを、積極的に読むこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

適宜、資料レジュメを配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出するリアクションペーパー（小レポート）（40％）と、学期末の試験1回（60％）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study how modern cities have been formed from diverse perspectives. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as urban planning and social problems and infrastructure, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。

近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	中国考古学の現状
第 2 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第 3 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第 4 回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第 5 回	中国王朝の曙	二里头遗址と出土遺物
第 6 回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遗址と出土遺物
第 7 回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第 8 回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第 9 回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第 10 回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第 11 回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第 12 回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第 13 回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第 14 回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵马俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100％。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド、中央アジア、中国の美術史を学びます。

【到達目標】

アジアの物質文化、思想を理解し、さらに日本文化とアジアの文化の関係を知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半にプリントを使用しその日のテーマについて話し、後半にスライドを用いて学んだ内容を復習するように講じていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教、仏教美術の基本	上座部仏教と大乘仏教、その美術
第 2 回	B.C.4c.-A.D.2c. の北西インド	仏像出現以前、以後の北西インド
第 3 回	古代インド絵画史	アジャンタ石窟壁画
第 4 回	中央アジア絵画史	キジル、ホータンの壁画
第 5 回	古代中国の死生観	漢、三国時代の出土物
第 6 回	魏晉の絵画と理論	魏晉の絵画と絵画理論
第 7 回	南北朝期の墓葬美術	南北朝期の出土物と絵画
第 8 回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第 9 回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第 285 窟の造形に中国人の精神世界をみます
第 10 回	敦煌の美術：大乘仏教の世界へ	画卷形式から大画面形式の壁画へ
第 11 回	敦煌の美術：唐	日本の精神文化にも大きな影響を与えた観音、阿弥陀信仰の美術
第 12 回	密教美術	曼荼羅の世界
第 13 回	大唐長安の栄華	唐の墓室からの出土物、壁画、日本の正倉院宝物から唐の文化を学びます
第 14 回	期末試験	5 枚のスライドを見て解説してもらいます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書に挙げた『世界美術大全集 東洋編』小学館を中心に読むことで、授業後 4 時間以上復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全 18 巻各国・時代別有 小学館 1997 - 2001、
『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、
『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全 3 巻 平凡社 1983 - 1985、
『中国石窟 敦煌莫高窟』1 巻 - 3 巻 平凡社 1980 - 1981、高田修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、
『日本美術全集 3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、小テスト 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces Art History of India, Central Asia and China to students taking this course.

(Learning Objectives)By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Asian Material Culture, Asian Thought and the Relationship between Japanese and Asian Culture.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。提出されたペーパーについては次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫），講談社，2016 年。
菊地達也編著、『図説イスラーム教の歴史』，河出書房新社，2017 年。
・工具書
大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』，岩波書店，2002 年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（50％）、期末試験（50％）
ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。
期末試験は論述試験となる予定です。
毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。
授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に
文章で示すことを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートからは、期末試験に関する詳細の開示をもっと
早くしてほしいという声がありました。これを受けて、期末試験に向けてど
のような準備をするべきか早い段階で指示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定ですが、必要と判断し
た場合には学習支援システムを利用する場合もあり得ます。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は
速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正
式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませてお
いてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam"
as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean
world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian
Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the
region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own
understanding of the creation and development of Islam, including its
historical background, and to be able to present their understanding in
writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed
each class, and key words related to the contents of the next session
will be indicated. Reading through the references and reviewing the
submitted papers will serve as review. And researching the key words
in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam
will be about each student's views. Students will be graded on the basis
of their own views and interpretations, and on their ability to present
them logically in writing.

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半では近現代イギリス史の概説を、後半では専門的な研究に踏み込んで、第
一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされ
た国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現
代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら
考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新
聞や日記を利用する。

【到達目標】

イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦に
ついての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのア
プローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家
と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また各
回ごとにリアクションペーパーでの質問・感想・意見などの提出を求めます。
またいただいた回答については、次の回に解説や応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリスの地理について
第2回	イギリス史概説①	産業と帝国
第3回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第4回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモ ンウェルス
第5回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第6回	イギリスにおける銃後の 動員①	ロイド＝ジョージと経済政策
第7回	イギリスにおける銃後の 動員②	大量生産と女性の労働
第8回	イギリスにおける銃後の 動員③	賃金とストライキ
第9回	総力戦と社会①	労働と管理
第10回	総力戦と社会②	都市の変貌
第11回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第12回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第13回	まとめ	得たものと失ったもの
第14回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望
ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40パーセント、平常点60パーセント。平常点には、リアクシ
ョンペーパーの回答も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンラインになった場合は、資料配布などを学習支援システムに
て行いますので、アクセスできる環境を準備しておいてください。zoom など
でのオンライン配信は行わない予定です。それについて考慮する必要は
ありません。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives] To acquire expertise to give an account of outline
of British modern history, and social, economic change in Great War
Britain. [Learning activities outside of classroom] Reading books
about British history and handouts before and after class. [Grading
Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion)
: 60%, Term-end exam : 40%.

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GIS の活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』, 古今書院
 ・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』, 大明堂
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』, 大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-, 大明堂
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
 平常点3割、課題3割、試験4割とする。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の欠課からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine". Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology.

Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF

地誌学概論（2）

南 春英

授業コード：A3409 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようにすることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努めます。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第 3 回	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
第 4 回	身近な事例①	原宿：歴史と若者の街
第 5 回	世界の多様性①	生活と環境
第 6 回	世界の多様性②	世界の食肉文化
第 7 回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第 8 回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第 9 回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第 10 回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第 11 回	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
第 12 回	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
第 13 回	地域差	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ 2 時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていき

たい。

可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社

河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房

菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店

国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版

高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店

帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院

帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々＜ 9 ＞ 世界各地の生活と環境』帝国書院

藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）： 40 %、期末試験（持ち込み不可）： 60 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%).

GEO200BF

地球科学概論Ⅰ

宍倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：「地球科学概論Ⅰ」の受講者は原則として秋学期の「地球科学概論Ⅱ」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 60 名程度とし、第 1 回の授業において 60 名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、合否は第 2 回授業までに教員より連絡する。
また地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

【Learning Objective】

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

穴倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 9 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第 12 回	侵食と堆積 3	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第 13 回	グループワーク（気象災害）	水害や土砂災害など気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回 防災教育と地球科学 地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>
穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
矢守克也「巨大地震のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

[Learning Objective]

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to tsunamis, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。配布資料は学習支援システムにもアップロードする。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（特に地形）を概説する。
第 3 回	岩石と自然景観	岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。
第 4 回	堆積物と環境変遷	様々な地層から読み取れる自然環境の変遷を学ぶ。
第 5 回	河川がつくった暮らし（1）	多摩川水系を例に、地形発達と水利用を考える。
第 6 回	河川がつくった暮らし（2）	米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 7 回	自然災害と社会（1）	土石流を中心に、地形発達と災害を考える。
第 8 回	自然災害と社会（2）	富士山周辺を例に、火山災害と社会を考える。
第 9 回	自然環境と人間生活（1）	天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。
第 10 回	自然環境と人間生活（2）	熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。
第 11 回	自然環境と人間生活（3）	琉球列島を事例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。
第 12 回	海外の自然環境（1）大陸河川	大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 13 回	海外の自然環境（2）島嶼	海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 14 回	まとめ	自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校まで使用していたもので構わない）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントシート（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-report (30%), final report (50%) and short comments (20%).

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の動植物を取り上げ、その分布や生態を気候や地質、地形、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていれば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な動植物が分布することを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから動植物の分布を考えられるようになること、あるいはその分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを出題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。オンライン授業は、ミーティングアプリ Zoom を用い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	動植物の地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	動植物の分布と生態	動植物の分布に影響を及ぼす要因について解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴。世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第 6 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴。フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例のもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第 13 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + α （小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは代替レポート + 小レポートで採点する。小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習は 5 月中に行う（変更あり）。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of vegetation geography.

Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant region from the text and map book. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質と構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、観察や実験の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか。講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第 10 回	実験実習①（変更あり）	土壌の性質と構成を野外で観察。
第 11 回	実験実習②（変更あり）	様々な土壌を診断。
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは。東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第 13 回	野菜の地理学	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか。野菜の伝播について解説。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に課題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは期末レポート（100 点満点）+ 小レポートなど（50 点満点）で採点する。小レポートは、毎回の授業の最後に課題して締切日時までに提出するという方法で行う。なお、小レポートの提出をもって出席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：11 月中旬に東京近郊あるいは室内で行う。

オンライン授業の場合、実験実習はオンラインで行うことを予定する。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of soil geography.

Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant word and region from the text and map book. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：月 1/Mon.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、261p。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、144p。
 森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社、200p。
 マーク＝マスソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善、198p。
 古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社、301p。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会、320p。
 水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房、318p。
 富田啓介（2017）：『はじめての地理学』。ベレ出版、284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年次に「地学実験」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：月 1/Mon.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版，261p。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院，144p。
 森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社，200p。
 マーク＝マスソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善，198p。
 古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社，301p。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会，320p。
 水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房，318p。
 富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版，284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「I」の初回授業（4 月 1 回目）で実施する。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course. The goals of this course are to understand today's issues such as global warming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。講義を踏まえて、それぞれ選定したテーマでフィールドワークを行い、現地でサンプリングしたものを実験室で分析し、その結果を解析してレポートとして提出し、基本的な調査・研究方法についても身に着ける。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

また、具体的な地域の水のサンプリングから分析までを行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。
 ・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。
 その他 授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席 3 割・課題 4 割・試験 3 割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem. Acquire basic knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information.

In addition, you will learn how to perform from sampling to analysis of water in a specific area, spatially analyze the results, and then express it as a thematic map, and acquire the basic ability to tackle specific water environment problems.

From the perspective of water balance and water cycle as basic hydrology, we will take up a wide range of characteristics of water, such as how the properties of water react with the environment of the place and become an existence that conforms to the place. In addition, guidance will be given on how to organize, analyze, and express water environment information from a hydrographic and geographic perspective. In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer.

Collect and organize information on the overall water environment. Especially for newspaper articles, cut out and summarize the abstract according to the specified format. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 30% for attendance, 40% for assignments, and 30% for exams, but there is a possibility that the points will be revised by adding the experimental reports and quizzes conducted during class to the evaluation.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。講義を前提に、それぞれにテーマを選定してフィールドワークを行い、サンプリングしたものを実験室で分析し、結果を解析し、レポートを作成することで、この分野の調査・研究を行う総合的な能力を育成する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。

特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果のGISを用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第2回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第3回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第6回	雪水学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第7回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第8回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第9回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第10回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第11回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第12回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全磷
第13回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第14回	総合的な解析・考察	GISによる分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2019):『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625
 ・新井 正（1994）：『水環境調査の基幹』、古今書院、168p、¥2,625。
 授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験3割、課題4割、試験3割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行わない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習(2)・地学実験・地理情報システム(GIS)などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

Acquire basic knowledge of research subjects in marine and limnology, hydrography, and hydrology, and acquire the ability to apply them in tackling specific issues.

In particular, (1) reviews on various water environment problems, (2) collection of specific materials, (3) survey / research methods, (4) organization of survey results / collected data, (5) analysis of various data, (6) representation of results using GIS, etc. Acquire specific abilities.

By deepening learning in this field, we will focus on the relationship between human activities and the ideal way of rivers and lakes in the process of the water cycle on the earth that exist in various forms in the complex area of rocky area, hydrosphere, air zone, and biosphere. We will introduce the theory and application of water balance and water cycle, and deepen our consideration while tackling specific issues.

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. Collect and organize information on the overall water environment. Especially for newspaper articles, cut out and summarize the abstract according to the specified format. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensively evaluate experiments, assignments, and exams in class. In principle, the score will be 30% for experiments, 40% for assignments, and 30% for exams, but there is a possibility that the score will be revised by conducting experiment reports and quizzes for each class.

HUG200BF

社会経済地理学(1)

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして、どのようなモノが資源として利活用されているのか、そしてその利活用にどのような問題があるのかを考えます。

【到達目標】

本授業を通じて、地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また、それらの様々な資源が社会経済的にどのように利活用されているのかを把握し、その有効性や問題点を考察することで、地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で、自然環境や文化、歴史、景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして、それらの事象の有効性や問題点を考察し、地域の今後の動向について考えます。

講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業内ならびに授業外で課題を課します。それら授業内外における課題のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

なお、今年度の本授業は対面形式での実施を基本としますが、状況によっては Zoom によるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地域の資源とは？	講義の方針・進め方について／自然環境・文化・歴史・景観など
第2回	地域の現状①	自然環境の変化
第3回	地域の現状②	農村地域における問題点
第4回	地域の現状③	地方都市における問題点
第5回	地域と産業①	「衣」に関する地場産業
第6回	地域と産業②	「食」に関する地場産業
第7回	地域と産業③	「住」に関する地場産業
第8回	地域の活性化①	「景観」を活かしたまちおこし
第9回	地域の活性化②	「文化」・「歴史」を活かしたまちおこし
第10回	地域の活性化③	「食」を活かしたまちおこし
第11回	地域と観光①	自然環境・風土の観光利用(グリーン・ツーリズム)
第12回	地域と観光②	自然環境・風土の観光利用(エコ・ツーリズム、ジオパーク)
第13回	地域と観光③	施設・作品の観光利用
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示する課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外の課題では、簡単な調査を行ってもらいます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・石川義孝・井上 孝・田原裕子編（2011）：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。
- ・伊藤喜栄・藤塚浩編（2008）：『図説 21 世紀日本の地域問題』古今書院。
- ・伊藤 実（2011）：『成功する地域資源活用ビジネス―農山漁村の仕事おこし―』学芸出版社。
- ・大野 晃（2008）：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター。
- ・片柳 勉・小松陽介編著（2013）：『地域資源とまちづくり―地理学の視点から―』古今書院。
- ・加藤正明（2010）：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP 研究所。
- ・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編（2011）：『都市と農村―交流から協働へ―』日本経済評論社。
- ・藤塚浩・高柳長直編（2016）：『図説 日本の都市問題』古今書院。
- ・矢作 弘・小泉秀樹編（2005）：『シリーズ都市再生 3 定住型都市への模索―地方都市の苦闘―』日本経済評論社。
- ・『日本の地誌 1～10』朝倉書店。 など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

【Outline (in English)】

This course introduces various regional problems and efforts towards regional revitalization to students taking this course. The goals of this course are to understand the causes of regional problems, and the merits and demerits of the efforts from the point of view of geography.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPT を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	環境問題を考える視角	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します
第 6 回	環境問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します「対面/face to face」
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中での出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】**Course outline**

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

佐々木 達

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の構造再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『国説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50％）、試験（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第2回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第3回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第4回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第5回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第6回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第7回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第8回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第9回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第10回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第11回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。

第12回	中央アジア（1） 全域・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第13回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第14回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ2時間、小レポートに関しては3時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ（アジア）』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂, 242p.

岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p.など。

講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み3割、課題3割、試験4割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）

ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies.

Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia.

In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography".

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer.

I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review.

For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report.

Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30% of efforts, 30% of tasks, and 40% of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO200BF

世界地誌（4）

伊藤 達也

授業コード：A3446 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を旨とします。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。

【到達目標】

韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国（1）	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国（2）	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係（1）	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係（2）	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義（1）	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義（2）	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥（1）	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥（2）	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱えている環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

古田博司（2018）『「統一朝鮮」は日本の災難』飛鳥新社
 浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社
 百本和弘（2015）『韓国経済の基礎知識』日本貿易振興機構
 裴 海善（2014）『韓国経済がわかる 20 講』明石書店
 大西 裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
 古田博司（2014）『醜いが、目をそらすな、隣国・韓国！』WAC
 辺 真一（2014）『大統領を殺す国 韓国』角川書店
 浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国』NHK 出版新書
 内山清行（2013）『韓国 葛藤の先進国』日経プレミアシリーズ
 朴 正雄著／本田務・青木謙介訳（2004）『韓国経済を創った男鄭周永伝』日経 B P
 洪夏祥著／宮本尚寛訳（2003）『サムスン経営を築いた男李健熙伝』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テンボの良い授業を目指します。

【Outline (in English)】

Course outline

The main aim is to recognize the economical feature and the problem of the Asian countries. I focus on inside and social and financial change of South Korea where has a strong relationship with Japan. I deepen understanding of a theme by using audiovisual materials, ex PPT.

Learning Objectives

The goal is a general and proper understanding of South Korea.

Learning activities outside of classroom

Learn in advance about the basic geography of Korea (city, road, river, mountain, etc.). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy

The evaluation is based on a regular test of 70% and a normal score of 30%.

GEO200BF

世界地誌（5）

吉村 郊子

授業コード：A3447 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフリカについて、自然・生態・文化・社会・歴史・現代における諸課題や他地域とのかかわり等、さまざまな観点から学びます。そして、地誌学や地域研究、人類学等の関連諸分野の手法を参照しつつ、アフリカの特色と多様性について理解を深めましょう。さらには、アフリカのみならず、さまざまな地域や対象・事象を理解し、総合的にとらえるために必要な視座と思考力を養ってほしいと思います。

【到達目標】

アフリカの特色と多様性について、理解を深めます。その際、地誌学や関連諸分野の手法も学びつつ、多様な世界とそこで生じている問題を的確に捉え、考えるために必要な視座と思考力を養いましょう。そうして理解し、考えた内容を言葉等で表現し、論理的に伝えることができるようになってほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、講義形式で進めます。授業回によっては、映像等も活用する予定です。その他、必要な資料がある場合は適宜、配布します。受講生には、授業後に学習支援システムまたはペーパーを通して、感想等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。なお、それらに対するフィードバックは、授業内または学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明した後、アフリカのイメージをふり返る。
第 2 回	アフリカの概要 1	地形・気候・植生等、アフリカの自然環境的な側面を概観し、学ぶ。
第 3 回	熱帯雨林における自然と人のかかわり	湿潤な熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史について考える。
第 4 回	アフリカの概要 2	人口・言語・文化・歴史等、アフリカにおける人の営みの側面を概観し、学ぶ。
第 5 回	半砂漠における自然と人のかかわり	乾燥帯に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史や変容について考える。
第 6 回	狩猟採集民の暮らしの特色と多様性・歴史と変遷	これまでの授業内容をふまえつつ、多様な要素・観点から本テーマについて考える。
第 7 回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 1. 乾燥サバンナにおける自然と人のかかわり	ドメスティケーションについて学んだ後、牧畜民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第 8 回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 2. 湿潤サバンナにおける自然と人のかかわり	農耕民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第 9 回	自然環境と植民地支配、近年の環境変動	アフリカの自然環境と植民地支配やその変遷について学ぶ。また、補足的なトピックスとして、近年の環境変動と砂漠化や、それに対する人びとの取り組み等にも目を向ける。
第 10 回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり 1	これまでの授業内容をふまえ、参照しつつ、本テーマについて学び、考える。
第 11 回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり 2	前回に続き、本テーマについて学び、考える。
第 12 回	アフリカにおける現代的な課題 1	これまでの授業内容をふまえつつ、アフリカにおける現代的な課題を取りあげて、学ぶ。
第 13 回	アフリカにおける現代的な課題 2	前回に続き、本テーマについて学び、考える。
第 14 回	アフリカの特色と多様性（まとめ）	これまでの授業内容をふまえて、本テーマについて総合的に捉え、考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容をふり返って復習する他に、ふだんから関連書籍や多様な資料・情報等にも目を向けて、視野を広げてください。そのうえで、準備学習や復習を重ねつつ、課題やテストに取り組んでください。本授業の準備学習・復習および課題への取り組み時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『世界地誌シリーズ 8 アフリカ』 島田周平・上田元編, 朝倉書店, 2017 年, 定価 3,740 円（税込）
＊準備学習・復習・課題への取り組みに際して、必要です。積極的に活用してください。

【参考書】

授業の内容と進捗状況に応じて適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート課題（30 %）と平常点（ミニ課題と授業内の小テスト： 70 %）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な資料を活用し、工夫しつつ、わかりやすい授業の進行を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

全授業回のうち半数以上は教室での対面授業を、それ以外の回はオンライン授業を予定しています。

なお、オンライン授業では、学習支援システムや Zoom ミーティング（リアルタイム配信授業）を利用する予定です。小テストや課題の提出においても、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

質問があれば、授業中または授業終了時に声をかけてください。

なお、現時点では、授業形態が未定となっている回があります。また、実際の授業の進捗状況に応じて、回によっては対面／オンラインの授業形態を変更する場合もありますことを、ご了承ください（変更する場合は、事前にお伝えします）。

上記を含めて、授業の概要と進め方を初回に説明します。学生のみなさんは、その内容を確認したうえで受講について考え、決めてください。

【重要】 以下、4/5 に追記。

初回の授業ガイダンスの実施方法を、下記の通り変更しました。

変更前：対面（教室）→ 変更後：オンライン（Zoom）

変更理由：仮登録の人数が、教室での参加可能人数を大幅に超えたため。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces Africa from various perspectives such as nature, ecology, culture, society, history, transitions and other issues. Students will learn about the diverse of Africa and acquire the knowledge and methods of some disciplines such as regional geography, area studies, anthropology, and so on.

Learning objectives: The goals of this course are, first, to understand Africa properly with its characteristics and diversity, second, to learn methods of regional geography, area studies, anthropology and other related disciplines, and third, to develop the skill to discuss and express logically.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following; Mid-term report(30%), short tests and reports(70%).

GEO200BF

世界地誌（6）

加賀美 雅弘

授業コード：A3448 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、東ヨーロッパにおける国境の変化と民族集団の動向を明らかにし、これをもとにヨーロッパ地誌を考える。具体的には、東ヨーロッパにおける近代以降の国家形成とそれに連動して生じてきた少数民族問題を背景にして、「民族の記憶」と「経済の地域間格差」に着目しつつ現代ヨーロッパの民族問題に関する考察を行う。

【到達目標】

近代以降のヨーロッパにおける国家と民族集団の動向に着目し、地域統合を進める EU における地域的課題について考察することによって、ヨーロッパを動的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課スリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次の授業で解説する。また、出された質問に対する回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像、進め方などを説明する。また、地域としてのヨーロッパの概要を解説する。
第2回	ヨーロッパ理解の視角	ヨーロッパ地誌学の視点について解説する。
第3回	EUによるヨーロッパ統合（1）	第二次世界大戦からヨーロッパ統合までの経緯を解説する。
第4回	EUによるヨーロッパ統合（2）	ヨーロッパ東西分断からヨーロッパ統合までの経緯を解説する。
第5回	EUによるヨーロッパ統合（3）	地域統合の可能性と課題について解説する。
第6回	記憶としての民族問題（1）	東ヨーロッパの国家成立と少数民族集団について解説する。
第7回	記憶としての民族問題（2）	近代以降の東ヨーロッパにおける民族移動について解説する。
第8回	記憶としての民族問題（3）	東ヨーロッパにおける民族迫害とその記憶について解説する。
第9回	記憶としての民族問題（4）	ユーゴスラヴィア紛争とその記憶について解説する。
第10回	記憶としての民族問題（5）	ドイツ・チェコ国境地域における記憶について解説する。
第11回	地域間格差と民族問題（1）	ヨーロッパのロマ問題について解説する。
第12回	地域間格差と民族問題（2）	東ヨーロッパにおけるロマの社会的特性について解説する。
第13回	地域間格差と民族問題（3）	ヨーロッパにおけるロマの地域問題について解説する。
第14回	まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し、ヨーロッパの地域的特性についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『国境で読み解くヨーロッパ境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終時限に実施する試験：40%、授業中に課スリアクションペーパーの内容：60%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

For the study on regional geography of Europe we will grasp change of borders and trend of the ethnic groups in Eastern Europe. Specifically, with attention to the nation formation since modern Europe and the ethnic minority problems that have arisen on borders, we will consider the actual situation of Eastern Europe, focusing on "ethnic memory" and "regional disparity of economy". The goal of this lecture is systematical understanding of Europe with geographical contexts. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examination taken in the last class (40%), reaction paper in every class (60%)

GEO300BF

地理学読図演習（1）**山口 隆子**

授業コード：A3449 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図や地質図、植生図、気候図から、環境に関する情報を読み取るとともに作図方法を学ぶ。

【到達目標】

地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行ない、提出する。提出された課題は、すべてコメントをつけて返却する。

11～14 回については、6 月下旬もしくは 7 月上旬の週末（1 日）につくば（国土地理院地図と測量の科学館、地質標本館、筑波実験植物園）を訪問する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	気候・気象データ	気候・気象データを統計解析し、作図する。
第 3 回	アイソプレス	アイソプレス図を作成し、考察する。
第 4 回	器差補正	移動観測結果を作図し、考察する。
第 5 回	1:25,000 地形図における起伏の把握	等高線を読み取り、尾根と谷を把握し、地形断面図を作成する。
第 6 回	ハザードマップの作成	等高線の見取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第 7 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第 8 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（2）	水文環境の応用として、ダムの集水マップを作成する。
第 9 回	植生図	植生図の読図方法について学ぶ。
第 10 回	地質図	東京の立体地質図を作成し、考察する。
第 11 回	現地踏査（1）	国土地理院で地図と測量について学ぶ。
第 12 回	現地踏査（2）	地質標本館で地質図について学ぶ。
第 13 回	現地踏査（3）	筑波実験植物園で世界の生態区の代表的な植物について学ぶ。
第 14 回	現地踏査（4）	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

授業時間内にできなかった課題は宿題とする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りを実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。

【Outline (in English)】

Learn how to read and draw information about the environment from topographic, geological, vegetation, and climatic maps. The goals of this course are to read the environment from topographic and climatic maps. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Assignments that cannot be completed during class time will be assigned as homework. Final grade will be calculated according to the following process work effort(50%), and submission of assignments(50%).

GEO300BF

地理学読図演習（2）

宇津川 喬子

授業コード：A3450 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般図および自然科学や人文地理学の主題図から特定の地域に関する情報を読み取る技術を養い、その地域の地理的な特徴を捉え、他者に伝える能力を身につける。

【到達目標】

- 1) 地形図や地質図、空中写真等から自然環境に関する情報を正確に得られるようになる
- 2) 土地利用図や用途地域マップ等から都市・街に関する情報を正確に得られるようになる
- 3) 複数の地図を用いて、ある地域について複合的に捉え、地理的な特徴を述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。第 9～12 回については、11 月下旬もしくは 12 月上旬の週末に現地踏査（日帰り）を行う。行先は授業内で決定する。

提出された課題に対するフィードバックは適宜授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、グループ分け
第 2 回	地域の自然地理環境を読む (1)	地形図、地質図、空中写真等を用いた読図を行う
第 3 回	地域の自然地理環境を読む (2)	植生図、土壌図等を用いた読図を行う
第 4 回	地域の人文地理情報を読む	土地利用図、用途地域マップ等を用いた読図を行う
第 5 回	地域の地理的特徴を読む	複数の地図を用いた読図を行う
第 6 回	グループ作業 (1)	希望する現地踏査の候補地をグループごとに検討し、地図を準備する
第 7 回	グループ作業 (2)	準備した地図を判読し、候補地の地理的な特徴をまとめる
第 8 回	グループ作業 (3)	グループ別に候補地を紹介し、現地踏査の行先を決定する
第 9 回	現地踏査 (1)	読図結果を現地で確認する
第 10 回	現地踏査 (2)	読図結果を現地で確認する
第 11 回	現地踏査 (3)	読図結果を現地で確認する
第 12 回	現地踏査 (4)	読図結果を現地で確認する
第 13 回	現地踏査の振り返り (1)	現地踏査でわかったことをグループごとにまとめる
第 14 回	現地踏査の振り返り (2)	グループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（適宜レジュメを配布する。授業で用いる地図類は必要に応じて毎回の講義内で配布する）

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
- ・現地踏査に参加していない場合は評価の対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること）
- ・授業内課題（50 %）とレポート（50 %）の合計得点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、30 cm 程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】

現地踏査 (1)～(4) は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施します。日程は初回授業に調整します。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地理学読図演習（1）を履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This course focuses on map reading using general and thematic maps with fieldwork to understand the perspective and basis knowledge of physical and human geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tasks (50%) and final report(50%).

GEO300BF

自然地理学特講（2）

飯泉 佳子

授業コード：A3452 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地表水の動態・水質変化と水循環について学ぶ。陸水学、水文学に関わる様々な現象や社会情勢などについて、国内外の具体的な事例を交えながら幅広い知識を修得する。

【到達目標】

水循環の過程における地表水のあり方を人間活動との関連に基づき理解し、地球上にさまざまな形で存在する水の量と循環について修得し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PowerPoint やプリントを活用して講義を進める。試験、課題、レポートなどに対しては、授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	湖の成因と湖盆形態	世界と日本の湖、湖・沼の定義
第 2 回	湖の水収支	水位変動、浸透湖
第 3 回	湖水の流動と循環	湖流、静振
第 4 回	湖水中の光条件	湖水の色、透明度
第 5 回	湖の水温構造	水温成層、温帯湖・熱帯湖
第 6 回	試験 (1)	到達度の確認
	湖の水質組成	pH、炭酸、塩分
第 7 回	回答	試験内容の解説
	湖の生産と富栄養化	湖の遷移、栄養塩
第 8 回	湖沼と河川の流域水循環	流域の土地利用、水収支
第 9 回	河川の流況と降雨・流出過程	ハイドログラフ、直接流出、基底流出
第 10 回	河川の水系と水温・水質	ホートンの法則、河川の水温と水質変化
第 11 回	気候変動と水資源・水環境	温暖化 hiatus と水温変化
第 12 回	気候変動と自然災害	災害、防災・減災
第 13 回	試験 (2)	到達度の確認
第 14 回	回答とまとめ	試験内容の解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

森和紀・佐藤芳徳『図説 日本の湖』朝倉書店 2015 年 第 1 版
村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄（監修）『川と湖を見る・知る・探る—陸水学入門—』地人書館 2011 年 第 1 版
上記に加え、授業の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）
平常点は、課題とレポートにより評価します
総合的に判断し、60 点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、定規などを使用する。詳細は、授業の中で指示する。

【Outline (in English)】

Main targets of this class are water cycle, chemical and physical dynamics of surface water. At the end of the course, students are expected to obtain widely limnological and hydrological basics and recent specific cases. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term and term-end examination (70%), and assignments and reports (30%).

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。
学習支援システムを通じて小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念—距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節 チューネン理論の意義について考えます。
第 2 回	産業立地論の古典 (1) —チューネンの農業立地論	→ テキスト：第 1 章 2 節 (1) ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。
第 3 回	産業立地論の古典 (2) —ウェーバーの工業立地論	→ テキスト：第 1 章 2 節 (2) 中心地論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 4 回	産業立地論の古典 (3) —クリスタラーの中心地理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 5 回	集積と外部経済の理論	グローバリ化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション—ICT およびコンテンツ産業を中心に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業—前グローバル化期までの日本を事例に	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介しします。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成—対外直接投資と多国籍企業の事業展開	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追い、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 13 回	大都市のものづくり産業	全体を振り返り、到達度を確認します。
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。
このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年。
小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。
竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年。
貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。
杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。
青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。
菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。
加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年。
矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018 年。
サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。
サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。
フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題（60 %）と最終の到達度確認テスト（40 %）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。フアイリングする小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities. The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF

人文地理学特講（2）

佐々木 達

授業コード：A3456 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済現象の地域性とはどのように作り出されるのかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて基礎的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理の見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらし産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。
本講義の理解度や学生の要望に応じて、複数回のリアクションペーパーと授業内で質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第 2 回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第 3 回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものであることを学習する。
第 4 回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第 5 回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第 6 回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第 7 回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第 8 回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第 9 回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第 10 回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第 11 回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第 12 回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第 13 回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第 14 回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』, 旬報社, 2021 年
伊藤達也・小田宏伸・加藤幸治編著『経済地理学への招待』, ミネルヴァ書房, 2020 年
竹中克行編著『人文地理学への招待』, ミネルヴァ書房, 2015 年
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第 9 版』, 東洋経済新報社, 2014 年
松原宏編著『地域経済論』, 古今書院, 2014 年
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』, 新評論, 2013 年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、試験（50 %）に基づいて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is introduced the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understand the framework of economic geography

2. To explain the transformation mechanism of the region (society / economy)

3. To explain the basic framework of industrial location.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

HUG300BF

人文地理学特講（3）

小原 文明

授業コード：A3457 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は地理学（主として都市地理学，経済地理学，社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ，都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか，都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど，都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて，都市開発に関わる諸事象を題材にして，地理学，とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また，都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから，隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず，都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ，土地利用や土地所有，地価・地代，立地，デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び，その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本講義では，授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ，適宜，授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

なお，本授業は基本的には対面形式で実施しますが，状況によっては Zoom によるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第 2 回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第 3 回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第 4 回	土地所有①	土地所有の変遷
第 5 回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第 6 回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第 7 回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第 8 回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第 9 回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第 10 回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第 11 回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第 12 回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第 13 回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橋川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to

students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF

社会経済地理学（4）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第2回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素と構造を解説します
第3回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第4回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第5回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第6回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第7回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第8回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第9回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第10回	ジオツーリズムの特徴と展望 —国内外の事例	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、国内外の事例をもとに解説します
第11回	日本の自然ツーリズム（1） —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第12回	日本の自然ツーリズム（2） —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本の自然ツーリズム（3） —ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第14回	まとめと解説・試験	まとめについて解説し、試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
(財)日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス、D. 著、内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の 60 % で、毎時間の講義内容の理解度を問うミニレポートと今回の講義内容に関するミニ予習課題の記載内容を合わせて平常点（全体の 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples. At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of ecotourism. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の本流である（と私は考える）文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするパークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史 (1)	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史 (2)	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史 (3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史 (4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらった課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline (in English)】

The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the classic Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の主流である（と私は考える）文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の復習と補足
第2回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第3回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第4回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第5回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第6回	風水論 (1)	景観創造の主観の解説
第7回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第8回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第9回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第10回	文化概念の再考	構築主義へ
第11回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第12回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第13回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第14回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980.

◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575.

◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520.

また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらった課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

GEO300BF

自然地理学特講（4）

近藤 博史

授業コード：A3488 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上では未知な生物を含めて現在 870 万種もの生物が存在すると言われている。それら生物は様々なスケールで環境に影響を与え、また環境は生物に影響を与えている。生態学とは、生物と環境が関係する自然全体を理解する学問であり、基礎的なものから応用的なものまで様々な分野から構成されている。この授業では、生態学の基礎知識と概念を身につけ、実際に自然環境で起こっている現象の解明や諸問題を解決する為の知識と思考力を養う。

【到達目標】

生態学の基本的理論を理解することができる。
様々な地域やスケールにおける生態系の仕組みを理解することができる。
世界の様々な場所で起こっている環境諸問題の背景を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義期間の前半において、生態学を学ぶ上で重要な考え方や基本的理論を解説する。後半では、身近で起こっている現象や世界レベルでの事例について、最新の研究成果を取り上げつつ、生態学的に解説していく。
毎回の授業では、プリントを配布し、スライドを用いて講義を行う。必要に応じて学生に意見を求め、ディスカッションを行う。
授業の終わりには、毎回の授業に関連したテーマで簡単な課題を出題し、次の授業時に提出してもらう。
今までで生態学（生物学含む）に関する学問に触れたことがなかったり、数式や専門用語などを覚えるのが苦手だったりする学生でも興味を持ってもらえるように授業を行う。
自然地理学的、および人文地理学的背景を取り上げつつ、それらと生態系との関わりなど、地理学の分野で学んできたことを活かせるような授業を行う。
授業に関する質問・相談などがある学生については、毎回の課題内に質問とコメント欄を設けるので、そこに適宜記入し提出すること。提出された内容については、次回授業までに全て回答し、学生に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	生態学の分野について、生態系の生態学とはどういう学概念、生物圏問か
第 2 回	生物多様性とは	種の分布、生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性、生物多様性の評価
第 3 回	生物の進化について	突然変異と自然選択、性比の決定、個体群の遺伝的構成の維持と変化
第 4 回	生物の生活史と繁殖戦略	生物の生活史、繁殖戦略、r-K 戦略、生存曲線、生物密度と分布、環境収容力
第 5 回	生物間相互作用	生物間の相互作用、エネルギーや栄養の循環、ニッチ、競争、共存、生態系機能

第 6 回	森林の生態学	森林の遷移・更新、自然攪乱と人為攪乱、樹木の共存、種子散布など
第 7 回	身近な自然の生態学	田んぼ、ため池、草原、雑木林の生態系について
第 8 回	都市域の生態学	都市の空間構成、都市化と環境負荷、環境との共生、生態系サービス、コケの生態など
第 9 回	島の生態学	生物の種数平衡、移入、定着、絶滅、固有種
第 10 回	外来種について	外来種の問題、外来種の分布拡大、国内外来種など
第 11 回	海の生態学	海洋の微生物・プランクトン・海藻・魚類・海洋哺乳類などの分布・行動・進化、有機物生産、物質循環
第 12 回	生態系の保全について	生態系サービスの保全、持続的利用、レジリエンス、環境問題
第 13 回	生態系の管理について	森林再生、移入種駆除、生態系の復元、生態系管理と生態系サービス
第 14 回	まとめ	総括、重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に当日の授業のテーマに関する内容・キーワードについて簡単に調べておくことを推奨します。

普段の毎日の生活の中でも生態学的な事例はたくさん起こっています。授業の内容に関する生態学的な事例を見つけたらメモなどをしておくとレポートやディスカッションなどに役立ちます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。ただし、毎回の授業に必要な資料を配布します。

【参考書】

参考書は授業中に随時紹介しますが、入門としては以下の参考書が良いでしょう。

1. 生態学入門, 日本生態学会編, 東京化学同人
2. アメリカ版大学生物学の教科書第 5 巻生態学, デイヴィッド・サダヴァ他著, ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小レポート課題の合計点（50 %）で成績評価を行います。

小レポート：授業中にその回の内容に関わる簡単なテーマを出題し、次回までに提出するという方法で行います。（A4 半分程度の量）
また、授業中の質疑応答や発言などは随時記録し、授業参加度として平常点（+a）を加算する場合もあります。

【学生の意見等からの気づき】

・講義後のディスカッション・個別対応について
受講学生から質疑応答の時間を増やしてほしいという意見が多かったため、できるだけ講義中や講義後に時間を設けるようにします。
また、個別対応もできる範囲で受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示します。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室、もしくはメールで随時対応します。

また、授業に関する質問や要望のある学生は、不定期で行う小レポートに記入してもよい。

【Outline (in English)】

"Course outline and Learning Objectives"

The earth has 8.7 million species of plant and animal, including unknown creatures, according to a one of the studies. Those organisms affect the environment on various scales, and the environment affects organisms. Ecology is one of the natural sciences which studies the interactions among organisms and their environment. In this lecture, all students can learn the basic knowledge and concept of ecology, cultivate ecological knowledge and skills to elucidate and solve various problems and phenomena occurring in the natural environment.

"Learning activities outside of classroom"

Before each class, students will be expected to have looked up the relevant "theme" and "contents" from the syllabus. Your required study time is at least one hour for each class meeting. "Grading Criteria /Policy"

Final grade will be calculated according to the following process, total score of several small reports (50%)and term-end examination (50%).

HUG300BF

人文地理学特講（４）

伊藤 達也

授業コード：A3489 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状、問題点を、特に経済的側面から解説していきます。そしてトータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【到達目標】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状を適切に理解することになります。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。授業とは別に「地域地誌」レポートを作成してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際化社会	国際化社会の中での社会変容について説明します
2	国民経済と国家	現代における国家の役割について説明します
3	地域経済の成立	地域経済の成立メカニズムについて説明します
4	地域経済の成長原理	地域経済の成長メカニズムについて説明します
5	名古屋の成立	17 世紀初頭、城下町名古屋の成立について説明します
6	近代名古屋の出発	明治期の名古屋について説明します
7	名古屋の経済成長前期	明治後半の名古屋の産業（軽工業）発展について説明します
8	名古屋の経済成長後期	大正から昭和初期の名古屋の産業（重工業）発展について説明します
9	名古屋の歴史（DVD）	名古屋の産業発展と都市発展について、DVD で学習します
10	名古屋大都市圏の成立	戦後の経済発展の中での名古屋大都市圏の成立について説明します
11	東京一極集中の中の名古屋	名古屋大都市圏の現状について説明します
12	名古屋の社会地域構造	名古屋大都市圏の社会地域構造について説明します
13	名古屋の課題	現在の名古屋大都市圏の特徴と課題について説明します
14	1 日エクスカッション	東京を巡ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の一環で、レポートを作成します。テーマは授業中に説明しますが、「○○地域の地誌」の予定です。本授業の準備。復習時間に各 1 時間をあて、レポート作成に 2 時間をあてます。

【テキスト（教科書）】

使用しません。関連資料は授業中に配布します。

【参考書】

名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版 図説名古屋圏』古今書院
 佐藤正明（2005）『ザ・ハウス・オブ・トヨター自動車王豊田一族の百五十年』文芸春秋
 砂川幸雄（1998）『森村市左衛門の無欲の生涯』草思社
 城山三郎（1994）『創意に生きるー中京財界史ー』文春文庫
 中田 実・谷口 茂編（1990）『名古屋ー第二の世紀への出発ー』東進堂
 楳西光速（1962）『豊田佐吉』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（70 %）とレポート（30 %）で行い、両者の合計が 100 % です。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, current situation, and problems of the Nagoya metropolitan area, especially from the economic aspect. And we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole.

Learning Objectives

The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, and current situation of the Nagoya metropolitan area. Then, we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole. Learning activities outside of classroom

Create a report as part of the lesson. The theme will be explained during class, but it is planned to be "Regional geography of XX area". Preparation for this class. One hour each for review and two hours for report writing.

Grading Criteria /Policy

Grades are given in the final exam (70%) and report (30%), and the total of both is 100%.

GEO300BF

地理学史

中俣 均

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、A.Humboldt以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】

近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどこいったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいくつかの人物や業績について、適宜具体的に取り上げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになろう。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントンの気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relpf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しない。

【参考書】

- ◎杉浦芳夫 (1999)：地理学の歴史 歴史の地理学。
『AERA MOOK 地理学がわかる』（朝日新聞社）
- ◎手塚章 (1988)：地理学の伝統と革新。
中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1 地理学への招待』（古今書院）
- ◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史 人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する（100%）。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心に応じてできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the brief history of Human Geography. The aims and goals of this course is to know the history of Modern Geography. Students are expected to place their own concern to history of Modern geography. Final grade will be calculated according to Term-end examination(100%).

PSY100BG

心理学概論／心理学 1（心理学概論） 1

福田 由紀

授業コード：A3601,A2254 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第 2 回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第 3 回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第 4 回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第 5 回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第 6 回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第 7 回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第 8 回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第 9 回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第 10 回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第 11 回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第 12 回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第 13 回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 錯視を体験する。
- 第 2 回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第 3 回 自動的にに行っている日々の行動を省察する。
- 第 4 回 自分の記憶術を振り返る。
- 第 5 回 行間を理解することを体験する。
- 第 6 回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第 7 回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第 8 回 日常のストレス状態を省察する。
- 第 9 回 保存課題を体験する。
- 第 10 回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第 11 回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第 12 回 性格テストを体験する。
- 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストを Hoppii を通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編 培風館 2010 年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」約 8 割、「授業を受けてよかった」が約 9 割と回答してくれました。ありがとうございます！ 対面授業と変わりませんね！ 例年と異なるところは、自由記述の件数が多いことです。Zoom や Hoppii など質問のやり取りなどをした結果、ハードルが下がったかな。さて、自由記述を見ると以下の通りでした。

＊オンデマンド授業の短所

・通常は集中が続かないけど、10 分から 20 分くらいの短い動画を数本だったのよかった

・（オンデマンドだとできないと思っていた）実験もできた・・・などなど

＊オンデマンド授業の長所

・何度でも見直せる

・わかりやすかった・・・などなど

です。また、宿題の FB が好評でした。そして、宿題と小テストの分量もちょうど良いとのこと。このまま続けますね。

最後に、話し方のスピードについて、ちょっと遅い、というコメントも。動画の設定を変えると速くも遅くもできます。それもオンデマンド授業の良いところですね。ということで、昨年よりパワーアップしたかな。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC 科目には「心理学 I/II (100 番台)」、「心理学 LA/LB (200 番台)」、総合科目「人間行動学 A/B (300 番台)」、教養ゼミ I/II「心理的ウェルビーイングを考える A/B (300 番台)」などがあります。

それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

＊宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学

＊櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）

＊浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学

シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている 2 年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG

心理学史／心理学 1（心理学史） 2

高砂 美樹

授業コード：A3602,A2255 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料は hoppii に事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。また授業内でクイズ形式の課題が与えられ平常点に組み入れられます。この課題の解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣
アルマ
高砂美樹 2021 心理学史ははじめの一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（pptx）は Hoppii にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

PSY100BG

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

緑川晶・山口加代子・三村将（編）（2017）、公認心理師カリキュラム準拠臨床神経心理学、医歯薬出版株式会社、東京。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

80 人の受講者のうち 22 名から回答者を頂きました。授業の工夫では 4-5 の段階が、91 %以上の評価でした。授業の理解は3以上の大半の人が含まれましたが、理解できなかった人と学習時間をしなかった人が同じ割合でみられ、授業外の課題学習などを工夫したいと思います。自由記述では、「毎回の小テストと復習があるのが良かった」、「脳については難解なイメージがあったが、想像以上に面白くてさらに興味が湧いた」などのコメントの一方で、「授業始めに ZOOM の接続に時間がかかってしまうことが多かったと思う」などのコメントも寄せられました。Zoom 接続の問題は学生アシスタントの人ともっと協力して、技術のスキルアップを図ろうと思います。脳について、この授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く、やや取りつきにくいかもしれません。皆さんの意見を聞いて達成度テスト、Zoom の録画などがかなり知識の習熟度や理解に役立っていることが確認できました。授業内容も昨年に比べ、今話題になっていることを取り入れました。「最近の研究について資料が載っており、授業と関連したもので興味深かった」というコメントはうれしかったです。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】新型コロナウイルスに関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】

From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology. To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation each class .on to health and clinical practice. It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson. Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY200BG

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究方法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、高次な認知機能に関連した情報処理を中心に概説していく。加えて、認知心理学は実験的な研究方法を重視しているため、講義の中ではこの研究方法についても解説する。人間の感覚情報処理が実験を主な研究方法の 1 つとして研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

認知心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する（受講者数確認のため、第 1 回はオンライン授業として授業動画をアップロード予定）。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	認知心理学の歴史についての解説
第 2 回	注意の機能 (1)	情報処理における「注意」の機能についての解説
第 3 回	注意の機能 (2)	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第 4 回	記憶の機能 (1)	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第 5 回	記憶の機能 (2)	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第 6 回	感情の機能 (1)	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第 7 回	感情の機能 (2)	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第 8 回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第 9 回	感覚間協応	共感覚を含めた感覚の特性同士の関連についての解説
第 10 回	問題解決と推論	問題解決および推論を行う過程についての解説
第 11 回	意思決定	選択や選好を含めた意思決定の過程についての解説
第 12 回	感性とデザイン	感性の認知とその工学デザインへの応用に関する解説
第 13 回	認知の障害	記憶の障害を中心に認知機能の障害について解説
第 14 回	期末試験と全体の総括	期末試験を行ったうえで、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版] ——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加の度合いなどの平常点を評価の 50%とし、50%を学期末に行う期末試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

[Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (50%) and term-end examination (50%).

PSY100BG

認知科学入門

北原 真冬

授業コード：A3621 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を話す、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成することで、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。初回の授業は時間割通りにリアルタイムで Zoom を用いたオンライン授業を行います。授業に関する重要な説明および講義を行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明, 「認知科学」とはどんな学問か, 認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴, 認知科学の誕生, 認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚, 感覚の範囲, 物理量と心理量の関係, 感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性, 形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚, 高次知覚過程（パターン認識, トップダウン処理とボトムアップ処理, 文脈効果）, 顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体, 音の大きさ・高さ・音色の知覚, 聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意, 音声の知覚, 視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか, 言語知識, 言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分, 短期記憶と長期記憶, 日常生活と記憶, 記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識, 心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）, 命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考, 推論, 問題解決
第 12 回	情動	情動とは, 情動と脳, 情動を認知するためのメカニズム, 情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か, 社会的条件の影響, 対人認知, 認知科学の今後の展望
第 14 回	試験, 授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）. 新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版.

鈴木宏昭（2016）. 教養としての認知科学 東京大学出版会.
内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）.
はじめての認知科学 新曜社.
大津由紀雄・波多野諠余夫（編著）（2004）. 認知科学への招待 ―心の研究
の面白さに迫る― 研究社.
都築誉史（編）（2002）. 認知科学パースペクティブ ―心理学からの 10 の
視点― 信山社.
大島尚（編）（1986）. ワードマップ：認知科学 新曜社.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%の割合で評価する予定
です。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、ま
たは期末テストを未受験の場合は単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の
授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

Outline: This course introduces students to cognitive science, an
interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the
mental processes that enable people to engage in everyday activities
such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and
interacting with others.

Learning objectives: Students are expected to be able to (i) master the
history of cognitive science, (ii) be familiar with basic architecture of
the mind, and (iii) explain the main points in relation to their own
experience in everyday life.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend
2 hours of reading and reviewing class materials every week.

Grading criteria: Overall grade will be decided based on the following
― class participation 30%, midterm 20%, and final 50%. Students must
not be absent from class more than 4 times without proper reasons.
Students must take the final exam to get the credit of this course.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのラ
イフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児
期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変
化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶ
だけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社
会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できる
ようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論
したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実
際に活かすことができるようになることを目標とする。

- （1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- （2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- （3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を
適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を
期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須
である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可
能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、
受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。
課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、 さらには、主要な理論の存在について 認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期 に起きている神秘ともいえる変化につ いて 理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感 覚や知覚が年齢とともにどのように変 化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は 明確でないことや、感情のメカニズム について知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということ の意味や、認知と感情、行動の関係に ついて学ぶ。
第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉 の獲得や言葉の使用など、言葉の発達 の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係をを中心に、基本 的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関 係を築くこと、維持することなど、ま た、友人関係のトラブルへの対応など について学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の 概念や、それをどのように測定するか という点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無 気力になってしまう原因などを考え、 意欲的に学習するためのメカニズムを 知る。

第 11 回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各 2 時間（合計 4 時間）をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。

『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020

『発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021

『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ 10 回（正答かどうかによって配点が異なる）と課題 2 回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は 70%。課題の評価は 30 %。ただし、成績評価の対象はミニクイズを 6 回以上かつ課題を 2 つとも締め切り内に提出した人のみ。それ以外の場合は成績を評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
 ・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
 ・ Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
 ・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学ぶ-教える関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。また、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更されることもありますので、Hoppii からお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明、教育心理学の目標・対象・研究方法、教育心理学への 3 つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達、道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達、他者理解の発達、円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者、知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習、読解力、書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム、いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程、伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法、素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知、学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい、ADHD など
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第 2 回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第 3 回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム 3！
- 第 4 回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第 5 回 読書の効用を 3 つ挙げてください。
- 第 6 回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたいと思いますか？ 自分の意見を書いてください。
- 第 7 回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？
- 第 8 回 小集団に分かれての授業形式の良い点を 2 つと悪い点を 2 つ挙げてください。
- 第 9 回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が 2 か所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？
- 第 10 回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形

A から F の中から 1 つ選んでください。

第 11 回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたらいいと思いますか？

第 12 回 模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。

第 13 回 期末レポートの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」 原田・福田・森山（編） 大学教育出版 印刷中

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業では、対面+リアルタイムでの Zoom 参加+動画を配信しました。「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約 9 割の方が回答してくれました。ありがとうございます！コメントを見ると、動画の配信が評価されていました。何度でも視聴できる、動画の質が高いなど。同時に、動画が見られるのに、なぜ、対面+Zoom をするのか？という疑問もありました。これは、動画の質が高かった！？ための疑問かな（笑）。などと、自分にとって良いように解釈するのではなく、対面+Zoom での良さや追加情報など、対面等してよかったと思ってもらえるような授業展開にしないといけませんね。工夫の余地有ります。今回の結果をもとにして、よりパワーアップしたいと思います。

【その他の重要事項】

授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んできてください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about educational psychology
- B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の 1 章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識に持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に 2 回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学〔第 2 版〕 実践の理論、理論の実践」 藤田哲也（編）(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」 藤田哲也（編）(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろうている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート（60%）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2020 年度分を載せます：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」の評価は 4.51 と、及第点でした。「理解度」は 4.32 と昨年と同程度でした。ただ、「授業外学習時間」での最頻値が昨年は週 1 時間～2 時間未満 (50%) だったのが今年は週 30 分～1 時間未満 (71%) と下がってしまいました。受講生数が約 2 倍になっていることも一因かもしれませんが、もう少し予習に力を入れてくれるよう早期の介入をしたいと思います。自由記述には肯定的意見しかなかったの、その他の授業方法はこのままでよからうと思っています。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2 回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
- 2.Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方のできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因 1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因 2：既有知識	スクリプト、視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開 1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの新たな展開 2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第 13 回	状況モデルの新たな展開 3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 モーラの概念を使えるようにする。
- 第 2 回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第 3 回 類似語を選定する。
- 第 4 回 規則語と例外語の例を書く。
- 第 5 回 ガーデンパス文を修正する。
- 第 6 回 Sacks の実験材料を読み、質問に答える。
- 第 7 回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第 8 回 行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
- 第 9 回 Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。
- 第 10 回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第 11 回 小説を読んだときの体験を書く。
- 第 12 回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。

第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。
*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012 年

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約 9 割の方が回答してくれました。ありがとうございます！！また、科目基礎科目ですが、福田の研究分野の専門科目の性格が色濃く、かつ、他学科の受講生が約半数であるにもかかわらず、「理解できた」が 9 割弱。すごい数字です。皆さんが一生懸命取り組んだおかげですね。自由記述については、上記の「心理学概論」を参考にして下さい。また、レポート対テストの論争も Web 上で最後の授業時にやりましたね。そのようなプラス α も楽しかったです。
みなさんが言語心理学に興味をもち、もっと学習したい！と思ってもらったら、教師冥利につきますね。

【その他の重要事項】
文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline : This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.
Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:
- A. deepen their understanding about psychology of language
- B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically
Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG
産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】
企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。
講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。
毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。
【重要】新型コロナウイルス状況に応じて、この授業は対面とオンラインを組み合わせる形で実施します。授業内容にも変更があります。学習支援システムのこの授業科目のトップページで案内しますのでご確認ください。授業には Google Classroom を使います。授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせしますので、登録して受講してください。
学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>
Google Classroom： <https://classroom.google.com/>
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャндаイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティー
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介し、これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率など）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5 大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力—報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話をうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（/質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。

○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。

○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○鳥宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。

○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト

○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社

○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫

【成績評価の方法と基準】

○毎回行われるクイズで成績を評価します（100%）。

○授業を欠席したときには授業内クイズを補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内クイズの得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍 2 年目ということもあり、受講生の皆さんも慣れてきたようで、Google クラスや確認テスト、動画配信も受講しやすかったという声が多く聞かれ、ホッとしました。教科書については学期当初にかなりのドタバタがあり、申し訳ありませんでした。オンデマンド型の動画・教材配信には高評価をいただきましたが、来年度は対面でオンラインには乗せられない動画教材を使って授業をやりたいです。

【その他の重要事項】

○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。

○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria/Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり
第 14 回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題 100%で評価します。出席はとりません。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports:100%

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記から見た蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	北方領土問題の前史（フロンティアをめぐる日露関係）を学ぶ
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021 年、法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料を PDF ファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%で評価します。出席はとりません。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書をもとに説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports: 100%

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2～4（経営学科のみ）3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 経営学科の学生のみ 2 年次から履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ①社会人との交流が適切に行えること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持て臨めること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	採用活動の事例	具体的な企業の採用活動事例を紹介します。
第 5 回	ゲスト（大手メーカー新人）	新卒 1 年目で働く男性社員をゲストに呼び、学生生活、就職活動、1 年目の仕事の様子について紹介してもらいます
第 6 回	ゲスト（専門職の若手女性）	資格職の仕事やキャリアについて、あるいは女性の働き方について紹介してもらいます
第 7 回	ゲスト（転職の多いベテラン男性）	5 回ほど転職経験のある中年男性に様々な業界や転職について話を伺います
第 8 回	ゲスト（大手金融機関）	金融機関にも様々な職種がありますが、不動産関係を扱う管理職に話を伺います
第 9 回	ゲスト（保険業界と公共機関）	新卒時に大手生命保険会社に入社し、その後公務員の仕事に就いた 30 歳くらいの男性から話を伺います
第 10 回	ゲスト（大手化学メーカー）	現場の営業の仕事と本社のスタッフでの仕事について話を伺います。
第 11 回	ゲスト（旅行業界と人材紹介業界）	大手旅行代理店での仕事と、その後転職された人材紹介業界についてお話してもらいます
第 12 回	ゲスト（フリーランス）	組織に雇われて仕事をするのではなく、フリーランスで仕事を続ける 50 代の男性に話を伺います
第 13 回	ゲスト（商社）	商社の仕事、とりわけ海外での仕事について話を伺います
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー——自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験か期末レポート（50 %）、平常点（50 %：小レポート等含む）
- ・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
- ・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピー、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。
- ・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。
- ・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report(50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

- ①各回の内容は前年度のもので。ゲストは毎年変更しています。
 - ②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
 - ③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
- 携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
- 関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN300FB

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏 『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンズ, S. P. 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「学習支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『経営学総論 I/II』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

経営組織論Ⅱ

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本の経営の特徴
第6回	組織文化②	社会変化に抵抗する組織文化の問題点
第7回	事例研究②	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	働き方の変化（第四次産業革命とSDGs）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第11回	事例研究④	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第12回	変化と適応①	組織変革を阻む要因とその対応方法
第13回	変化と適応②	学習棄却（アンラーニング）の意味と方法
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
 (2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
 (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40％
 (2) 振り返りレポート（4回）：40％
 (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「学習支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
 (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
 (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
 (4) ツイッター

<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

人的資源管理Ⅰ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：「人的資源管理Ⅰ／Ⅱ」の学習範囲「人的資源管理Ⅰ／Ⅱ」について	「人的資源管理（HRM）」の目的と担い手、等
2	人的資源管理（HRM）の考え方①：HRMの目的	経営学の中でのHRMの位置づけ、HRMの目的、等
3	人的資源管理（HRM）の考え方②：人事部とライン管理者	HRMの担い手、人事部とライン管理者の権限配分、人事部不要論の検討、等
4	人的資源管理（HRM）の考え方③：人事管理と人的資源管理	人事管理からHRMへ、HRMの考え方、人事管理とHRMの相違、等
5	採用管理①：採用計画と要員計画	採用管理のプロセス、採用管理と要員管理、要員管理のアプローチ、等
6	採用管理②：中途採用と新卒採用	中途採用の目的、新卒採用の合理性、企業特殊技能と採用、等
7	採用管理③：人材募集の方法	多様な採用ルート、RJP（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）、等
8	人材育成①：HRMとHRD	HRMとHRD（人材育成）、技能の性格と人材育成、人材育成の方法、等

9	人材育成②：分業と教育訓練	分業と教育訓練、多能工と単能工、幅広いOJTと知的熟練、等
10	人材育成③：OJTとoff-JT	OJTとoff-JT、教育訓練の測定、OJTが機能する条件、等
11	人材育成④：教育訓練投資	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用、人材の定着と教育訓練、等
12	雇用区分①：正社員と非正社員	雇用区分を分ける理由、正社員と非正社員の相違、非正社員の基幹化、等
13	雇用区分②：多様な就業形態の活用	柔軟な企業モデル、派遣社員・請負社員の活用、等
14	雇用区分③：正社員の多様化	正社員の多様化、限定正社員、雇用区分の合理性、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これををともに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	配置転換①：配置転換の機能	配置転換の種類、配置転換の機能、日本企業における配置転換、等
2	配置転換②：配置転換と人材育成	幅広い仕事経験と技能、配置転換の人材育成機能、配置転換の範囲、等
3	配置転換③：個人選択型の配置転換	個人選択型の配置転換、自己申告制度、社内公募制度、個人選択型への転換の背景と課題、等
4	社員格付け制度①：格付け基準の多様性	社員格付け制度と賃金制度、格付け基準の条件と多様性、2重のランキング・システム、等
5	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化	年功制から職能資格制度へ、「能力主義」から「成果主義」へ、社員格付け制度の変化、等
6	昇進管理①：昇進の機能と実態	昇進の機能、「トーナメント移動」としての昇進、キャリアツリー、等
7	昇進管理②：「遅い」選抜	選抜のタイミングと機能、「遅い」選抜、日本型ファスト・トラック、等

8	昇進管理③：昇進の変化と専門職制度	組織のフラット化と昇進機会、「部下のいない管理職」、専門職制度の導入と変化、等
9	人事評価①：人事評価の設計と運用	人事評価の機能、人事評価の設計と運用、絶対評価と相対評価、等
10	人事評価②：評価基準の選択	多様な評価要素、「成果主義」と人事評価、目標管理制度、等
11	賃金管理①：賃金管理の機能	賃金管理の機能、動機づけ要因としての賃金、労使関係の安定と賃金管理、等
12	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	賃金の総額管理と個別管理、能力給と職務給、「年功的」賃金プロファイルの普遍性、等
13	福利厚生・退職管理①：福利厚生	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能と変化、等
14	福利厚生・退職管理②：退職管理	定年制、雇用調整と解雇、退職金と企業年金、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）： 30 %

期末試験： 70 %

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

税務会計論 I

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、毎回、講義スライドと小テスト（第 1 回～第 14 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎 (1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第 2 回	法人税の基礎 (2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第 3 回	課税所得計算の基礎 (1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第 4 回	課税所得計算の基礎 (2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第 5 回	売買損益等の計算 (1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第 6 回	売買損益等の計算 (2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第 7 回	その他の収益の計算 (1)	受贈益、受取配当等（前半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 8 回	その他の収益の計算 (2)	受取配当等（後半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 9 回	売上原価の計算 (1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第 10 回	売上原価の計算 (2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第 11 回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第 12 回	固定資産の減価償却 (1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第 13 回	固定資産の減価償却 (2)	耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
第 14 回	繰延資産の償却	税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終試験の実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）。

【参考書】

・大下勇二著『税務会計 I・II』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
 ・渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
 ・成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 14 回）を受けてもらい、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 定期試験期間内の最終試験を受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 14 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、定期試験による最終試験 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I/II、2 年次の会計学入門 I/II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I/II、国際会計論 I/II を履修し、会計学の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をはば理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with corporate income tax and the basic framework of tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts and principles of corporate income tax and basic structure of taxable income compared to accounting profit. This course also enhances the development of students' skill in tax accounting practice.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN300FB

税務会計論Ⅱ

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方を学習します。

【到達目標】

新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、講義スライドと小テスト（全 14 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第 2 回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 3 回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 4 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第 5 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第 6 回	不良債権の償却の課税問題 (1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第 7 回	不良債権の償却の課税問題 (2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第 8 回	固定資産の減価償却-その 2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第 9 回	固定資産の減価償却-その 2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第 10 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人税制（グループ法人単体課税制度と連結納税制度）の特徴とその考え方を学習する。
第 12 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて学習する。
第 14 回	企業活動の国際化と課税問題 (3)	移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終試験の実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）

【参考書】

・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
 ・成松洋一著『法人税法 理論と計算』（最新版）税務経理協会
 ・渡辺淑夫著『法人税法』（最新版）中央経済社

・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 14 回）を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
- 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
- 3) 定期試験期間内の最終試験を受けてもらい、これを成績に反映します。

成績評価の配分は、小テスト（全 14 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、定期試験による最終試験（50%）です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。会社の法人課税の今日的な問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan. In this course, after learning the basics of taxable income of corporate income tax in "Tax Accounting I", we will take up various problems of current corporate income taxation (case study).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

ECN300FB

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業に必要な教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・本人・代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	インセンティブ問題 (3)	・賃金制度への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト、参考資料等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2 ～ 3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学期中に 2 ～ 3 回程度で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・今年度は原則対面授業でもあり、そうした問題を減らすよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の一部を Zoom をで行う可能性があること、また Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980 ～ 89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN300FB

組織経済学 I (2018 年度以前入学者)**奥西 好夫**

経営学科専門科目 3～4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業に必要な教材 (ハンドアウト) は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**
なし / No**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・本人・代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	インセンティブ問題 (3)	・賃金制度への応用

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト、参考資料等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2～3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験 (期末試験) として行う可能性がある。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学期中に 2～3 回程度で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・今年度は原則対面授業でもあり、そうした問題を減らすよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の一部を Zoom をで行う可能性があること、また Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」(I は秋学期、II は春学期)でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい (ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

MAN300FC

日本経営史Ⅰ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
 ・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
 ・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
 ・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
 ・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
 ①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
 ②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（3 回を予定／提出期限あり）をこなす。
 ③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。なお、期末課題は短期間のみ公開（数日程度）することを想定している。
 ・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
 ・授業動画は、100 分 ×14 回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
 ・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥次郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬幸平
9	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
14	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
 ・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
 ・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
 ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007 年）。
 ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
 ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
 ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
 ⑥柏谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
 ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
 ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。
 ⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。
 ・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
 ・科目の性格上、課題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
 ・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
 ・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
 ・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
 ・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
 ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
 ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

・Business History of Modern Japan.
 ・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
 ・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.
 【Learning Objectives】
 ・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
 ・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
 ・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.
 ・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
 ・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
 ・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（3 回を予定／提出期限あり）を何度かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。なお、期末課題は短期間のみ公開（数日程度）することを想定している。
・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
・授業動画は、100 分 ×14 回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
3	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
4	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業家活動：鈴木商店と金子直吉
5	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
6	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
7	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
8	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
9	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
10	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
11	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
12	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
13	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
14	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大きな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007 年）。
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。

⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。
⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 %で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代には日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

・Business History of Modern Japan.
・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.
【Learning Objectives】
・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.
・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

・Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
・When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style.
There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol
selection type.

MAN300FC

企業評価論Ⅰ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析をしたいと思った時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために財務諸表の見方を解説します。最後に収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 企業特性を反映した財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン（オンデマンド）で行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム（Hoppii）でお知らせしますので、授業開始前に必ず Hoppii にて授業登録を行ってください。授業内容の理解度を確認するために、授業の最後に練習問題（課題）を出題しますので、動画の確認後、Hoppii で提出してください。練習問題（課題）の解答解説は、次の授業回の動画で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業分析・評価のフレームワーク	企業分析・評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ROE の基本分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	期末テスト	期末テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に出題される練習問題（課題）に取り組んでください。また次の授業前に前回の授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年
 ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年
 乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。
 桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（課題）の提出（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用します。インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。寄せられた質問とそれに対する回答は Hoppii 上で共有します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

Students are required to do the exercises (assignments) given in class to check the understanding of the topic. They are also required to review the contents of the previous class before the next class since the contents of each class are highly related. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

The course grade is based on the following criteria: Assignments to be submitted after class via Hoppii (50%), Final exam (50%).

MAN300FC

企業評価論Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率ならびに株主の視点に立った投下資本利益率である ROE の基本分解を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、利益率・回転率・スプレッド・レバレッジの各比率や指標と ROE の関係を体系的に理解することを目指します。続いて、これらの財務比率（過去の実績）に基づいて、予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 投下資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン（オンデマンド）で行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム（Hoppii）でお知らせしますので、授業開始前に必ず Hoppii にて授業登録を行ってください。授業内容の理解度を確認するために、授業の最後に練習問題（課題）を出題しますので、動画の確認後、Hoppii で提出してください。練習問題（課題）の解答解説は、次の授業回の動画で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ROE の基本分解
4	収益性の分析（1）	ROE の上級分解（1）：純事業資産 利益率・有利子負債のコスト・レバ レッジの関係を理解する
5	収益性の分析（2）	ROE の上級分解（2）：純事業資産 利益率・純金融資産利益率・レバレッ ジの関係を理解する
6	収益性の分析（3）	ROE の上級分解（3）：純金融資産の 保有が ROE に与える影響を理解する
7	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成 長率を理解する
8	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解す る
9	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて予測貸借対照表 を作成する
10	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて予測損益計算書 を作成する
11	貨幣の時間的価値と割引 計算・資本コスト	貨幣の時間的価値および資本コストの 推定方法を学習する
12	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学 習する
13	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株 主価値を推定する方法を学習する
14	期末テスト	期末テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に出題される練習問題（課題）に取り組んでください。また次の授業前に前回の授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年
ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015 年
乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。
桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（課題）の提出（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用します。インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。寄せられた質問とそれに対する回答は Hoppii 上で共有します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

Students are required to do the exercises (assignments) given in class to check the understanding of the topic. They are also required to review the contents of the previous class before the next class since the contents of each class are highly related. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

The course grade is based on the following criteria: Assignments to be submitted after class via Hoppii (50%), Final exam (50%).

MAN300FC

経営分析論Ⅰ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはば焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅱでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下における意思決定モデルを考察する。最終段階では「創出した会計情報の価値」を算出し、経済合理的意思決定のプロセスを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

コロナ状況下による授業形態情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針は、第 1 回目の授業（Zoon）を除き、キャンパス内での対面授業を予定しております。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および比率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第 14 回 成長性および総括 代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016 年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%
受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析論Ⅱ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、現実のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、株価関連指標より学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報を入力し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016 年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.

- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999 年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012 年.
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003 年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析Ⅰ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析をしたいと思った時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために財務諸表の見方を解説します。最後に収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 企業特性を反映した財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン（オンデマンド）で行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム（Hoppii）でお知らせしますので、授業開始前に必ず Hoppii にて授業登録を行ってください。授業内容の理解度を確認するために、授業の最後に練習問題（課題）を出題しますので、動画の確認後、Hoppii で提出してください。練習問題（課題）の解答解説は、次の授業回の動画で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業分析・評価のフレームワーク	企業分析・評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ROE の基本分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	期末テスト	期末テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に出題される練習問題（課題）に取り組んでください。また次の授業前に前回の授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年
 ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年
 乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。
 桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（課題）の提出（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用します。インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。寄せられた質問とそれに対する回答は Hoppii 上で共有します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

Students are required to do the exercises (assignments) given in class to check the understanding of the topic. They are also required to review the contents of the previous class before the next class since the contents of each class are highly related. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

The course grade is based on the following criteria: Assignments to be submitted after class via Hoppii (50%), Final exam (50%).

MAN300FC

経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率ならびに株主の視点に立った投下資本利益率である ROE の基本分解を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、利益率・回転率・スプレッド・レバレッジの各比率や指標と ROE の関係を体系的に理解することを目指します。続いて、これらの財務比率（過去の実績）に基づいて、予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 投下資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン（オンデマンド）で行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム（Hoppii）でお知らせしますので、授業開始前に必ず Hoppii にて授業登録を行ってください。授業内容の理解度を確認するために、授業の最後に練習問題（課題）を出題しますので、動画の確認後、Hoppii で提出してください。練習問題（課題）の解答解説は、次の授業回の動画で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ROE の基本分解
4	収益性の分析（1）	ROE の上級分解（1）：純事業資産 利益率・有利子負債のコスト・レバ レッジの関係を理解する
5	収益性の分析（2）	ROE の上級分解（2）：純事業資産 利益率・純金融資産利益率・レバレッ ジの関係を理解する
6	収益性の分析（3）	ROE の上級分解（3）：純金融資産の 保有が ROE に与える影響を理解する
7	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成 長率を理解する
8	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解す る
9	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて予測貸借対照表 を作成する
10	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて予測損益計算書 を作成する
11	貨幣の時間的価値と割引 計算・資本コスト	貨幣の時間的価値および資本コストの 推定方法を学習する
12	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学 習する
13	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株 主価値を推定する方法を学習する
14	期末テスト	期末テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に出題される練習問題（課題）に取り組んでください。また次の授業前に前回の授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015 年

乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（課題）の提出（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用します。インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。寄せられた質問とそれに対する回答は Hoppii 上で共有します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

Students are required to do the exercises (assignments) given in class to check the understanding of the topic. They are also required to review the contents of the previous class before the next class since the contents of each class are highly related. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

The course grade is based on the following criteria: Assignments to be submitted after class via Hoppii (50%), Final exam (50%).

MAN300FC

経営分析Ⅲ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／ 2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはば焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅱでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下における意思決定モデルを考察する。最終段階では「創出した会計情報の価値」を算出し、経済合理的意思決定のプロセスを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

コロナ状況下による授業形態情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針は、第 1 回目の授業（Zoon）を除き、キャンパス内での対面授業を予定しております。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および比率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第 14 回 成長性および総括 代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016 年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%
受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析Ⅳ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／ 2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、現実のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、株価関連指標より学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報を入力し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016 年.
- 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.

- 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999 年.
- 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
- 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
- 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012 年.
- 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
- 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
- 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003 年.
- 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FD

日本経営論 I

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科のみ）3～4 年 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 市場経営学科の学生のみ 2 年次から履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特長性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較 1(労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較 2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較 3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較 4(1980 年代以降の米企業システム①)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較 5(1980 年代以降の米企業システム②)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較 6(1980 年代以降の米企業システム③)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の経営についての海外での議論 1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
11	日本の経営についての海外での議論 2(特殊論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論 3(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論 4(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。毎週レジュメを授業中に配布する。なお、参考文献は、毎週の講義中で提示する。

【参考書】

- ①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直 (2018)『現代日本経済第 4 版』有斐閣
- ②金容度 (2021)『日本の企業間取引』有斐閣
- ③小池和男 (1991)(2005)『仕事の経済学』東洋経済新報社、第 1 版及び第 3 版
- ④ジェイムス・アベグレン (2004)『日本の経営』日本経済新聞社
- ⑤ウィリアム・オオウチ (1981)『セオリー Z』CBS ソニー出版
- ⑥ William Lazonick(2009).Sustainable Prosperity in the New Economy,Upjohn Institute
- ⑦鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004)『ビジネスの歴史』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70 %）、授業内小試験（30 %）である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion on business management in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The Learning Objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN300FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科のみ）3～4 年 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 市場経営学科の学生のみ 2 年次から履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
2	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
8	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
9	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
10	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
11	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
12	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
13	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
14	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、授業中に案内し、中で重要な文献は、学習支援システムの「教材」にも掲載するので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、授業中に案内し、中で重要な文献は、学習支援システムの「教材」にも掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 IC 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 70 %、授業中小テスト 30 % (1 回 10 % ×3 回)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion on the inter-firm relationships in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The Learning Objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科のみ）3～4 年 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 市場経営学科の学生のみ 2 年次から履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第 4 回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第 5 回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第 6 回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第 7 回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第 8 回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第 9 回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第 10 回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第 11 回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第 12 回	債券と金利の関係（2）	スポットレート、バーレート、LIBOR
第 13 回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第 14 回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2020 - 2021 年版』、2020 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2020 年、ビジネス教育出版社

④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科のみ）3～4 年 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 市場経営学科の学生のみ 2 年次から履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引（1）	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論（1）	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論（4）	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『わかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

産業組織論Ⅰ

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。
I では、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・ものの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いる。宿題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、講義内容の理解を深める。
学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
2	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
3	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
4	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
5	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
6	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
7	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
8	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が増えれば競争はどのように変わっていくか？
9	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
10	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
11	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
12	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
13	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実に競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
14	問題演習	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %

中間試験 15 %

期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (50%) and homework (40%) and mid-term exam (10%).

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の実証手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的な取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。必要に応じて、ワークシートを用いて参加者に自主的に考察する時間を設ける。学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
2	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
3	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
4	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
5	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
6	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどうに決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
7	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響
8	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
9	垂直的な取引制限（1）	垂直的な取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
10	垂直的な取引制限（2）	様々な垂直的な取引制限と市場競争との関係を理論分析する
11	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
12	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれらが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンや SNS のビジネスモデル）
13	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介
14	事例研究	これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %

中間試験 15 %

期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (50%) and homework (40%) and mid-term exam (10%).

COT300FD

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム（Hoppii）と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材（講義資料）の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
2	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
3	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
4	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
5	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
6	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
7	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
8	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
9	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
10	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
11	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
12	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器を PC へ接続するためのインターフェースについて説明する。
13	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
14	デジタル機器とデジタル家電	PC やスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15 %)：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15 %)：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2～3 回程度出題します。

期末考査 (70 %)：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I/II

プログラミング言語 I/II

ネットワーク論 I/II

情報学発展 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

COT300FD

情報技術論Ⅱ

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材 (講義資料) の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ソフトウェアとプログラ	ソフトウェアの特性について解説する。
2	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
3	プログラミング言語の概	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
4	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
5	LAN とその発展	LAN や小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
6	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
7	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
8	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
9	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
10	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
11	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
12	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
13	経営組織と情報化	経営組織・活動の情報化について概観する。
14	応用と展望	IoT (モノのインターネット) や AI (人工知能) 等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15 %) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15 %) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2～3 回程度出題します。

期末考査 (70 %) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ

情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

ECN300FD

経営のための経済学

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の 3 点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取って、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業の経営に関して、より深く考える必要があることについて考えます。
2	個人と企業の意思決定 (1) 便益と費用	様々な意思決定の場面における便益と費用を確認し、望ましい意思決定のあり方について学びます。
3	個人と企業の意思決定 (2) 時間とリスク	現在の結果と将来の結果の関係について学びます。また、将来の結果が不確定である場合の考え方について学びます。
4	個人と企業の意思決定 (3) ゲーム理論	ほかの人たちの動きを考慮したときに望ましい意思決定のあり方と、そのときにどのような結果が実現することになるのかについて学びます。
5	取引と交渉	どのようなときに取引をするのか、取引は何をもたらすのかについて学びます。
6	取引と情報	相手が知っていることを自分が知らなかったり、自分が知っていることを相手が知らなかったりすることが取引にどのような影響をおよぼすのかについて学びます。
7	取引と組織	どのような取引をどのような相手とするとどのようなことが起こるのかを検討することを通じて、組織のあり方について学びます。
8	採用 (1) シグナリング	学歴評価を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
9	採用 (2) スクリーニング	コース別採用を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
10	人材 (1) インセンティブ契約	成果給の仕組みを例に、労働者の努力に関する情報の問題と待遇上の工夫について学びます。
11	人材 (2) 人的資本投資	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	資金調達 (1) 負債	企業が必要な資金を調達する手段として負債を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。

13 資金調達 (2) 株式

企業が必要な資金を調達する手段として株式を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。企業が財務危機についてどのように考え、対応したらよいのかについて学びます。

14 倒産と企業再建

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012 年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第 2 版）』日本経済新聞出版（2021 年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004 年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000 年）
などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

レポート（2 回）100 % で評価します。ただし、出席を前提として授業を進めますので、リアクションペーパーの提出がなかったり、実質的に授業へ参加していなかったりした場合には、成績評価の対象から外すことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの授業中に回収したリアクションペーパー等への記載内容を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目 A 群）を履修していることが望ましいですが、履修していなくても理解できるように配慮します。
- 2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
- 3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】

In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.

You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.

B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.

Final grade will be decided based on mid-term report (50%) and term-end report (50%).

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第 4 回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第 5 回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第 6 回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第 7 回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第 8 回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第 9 回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第 10 回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第 11 回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第 12 回	債券と金利の関係（2）	スポットレート、バーレート、LIBOR
第 13 回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第 14 回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2020 - 2021 年版』、2020 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2020 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引（1）	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論（1）	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論（4）	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Advanced)

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

【Goal】

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and objectives
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.
 Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

【Grading criteria】

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

【Changes following student comments】

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Others】

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

【Prerequisite】

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Advanced)

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

【Goal】

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and objectives
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.
Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

【Grading criteria】

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

【Changes following student comments】

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Others】

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

【Prerequisite】

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Standard)

MEADOWS ALAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

【Goal】

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and objectives
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.
 Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

【Grading criteria】

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

【Changes following student comments】

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Others】

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

【Prerequisite】

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Standard)

MEADOWS ALAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

[Goal]

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and objectives
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

[References]

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.

Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

[Grading criteria]

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

[Changes following student comments]

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Others]

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

[Prerequisite]

None.

LAN100ZA

English Test Preparation for IELTS

Marcus LOVITT

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

English Test Preparation for IELTS is designed to teach language skills, effective test-taking techniques, and strategies for the IELTS examination.

【Goal】

This course is designed for students who are interested in improving their English test scores or who want to study in the United Kingdom, Australia or New Zealand in the future. Its purpose is to help you attain advanced command of English, which shall be reflected in your IELTS test scores.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 4”.

【Method(s)】

Students will learn effective strategies for increasing scores in each section of the IELTS through class discussion and exercises throughout the course. These include becoming familiar with the test format, understanding question types, and learning how to expand speaking and writing responses. Personal advice on methods of individual study (which is strongly recommended) will be given as required. As this is a skills-based course, emphasis will be placed on practical skills rather than class lectures. To this end, students will also participate in regular vocabulary and idiom quizzes, as peer review activities. Feedback on coursework will be given during class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	・ Learn the characteristics of the IELTS exam and how it differs from other standardized tests
2	Writing I	・ Introduction to the writing section. The class will look at question types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
3	Speaking I	・ Introduction to the speaking section. The class will study question types, scoring and test strategies ・ Practice for Speaking Part 1 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
4	Listening I	・ Introduction to the listening section. We will cover questions types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
5	Reading I	・ Introduction to the reading section. The class will cover question types, scoring and strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
6	Writing II	・ Practice for writing task 1. The class will study language for summarizing data. ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
7	Mid-term examination; Speaking II	・ This class will consist of a short exam to test student progress ・ Practice for speaking part 2
8	Listening II	・ The class will undertake listening and summarizing exercises ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz

9	Reading II	・ The class will do exercises for the reading section and practice techniques such as skimming and scanning ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
10	Writing III; Speaking III	・ Practice for writing task 2. The class will study opinion techniques, paraphrasing etc. ・ Practice for speaking parts 2 & 3 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
11	Listening III; Reading III	・ Practice for listening tasks 3 & 4 ・ Practice for reading section (timed exercises, etc.) ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
12	Writing IV; Speaking IV	・ Review of the writing and speaking sections
13	Listening IV; Reading IV	・ Review of the listening and reading sections
14	Final Examination and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Pauline Cullen, Amanda French, et al. The Official Cambridge Guide to IELTS Student's Book with Answers with DVD-ROM. Cambridge English (Feb 27, 2014)

【References】

1. Essential Words for the IELTS: With Downloadable Audio by Lin Lougheed Ph.D. Barrons Educational Series. Third edition (December 1, 2016)
2. Cambridge Univ Press. IELTS 14 Academic Student's Book with Answers with Audio: Authentic Practice Tests (Jun 20, 2019)

【Grading criteria】

Assessment will be based on the following:

1. Class participation and homework (30%)
2. Mid-term exam / practice test (30%)
4. Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Prerequisite】

None.

CAR100ZA

Professional Communication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Communication is one of the key skills employers look for in potential employees. The rapid diversification of global communications and the collapse of traditional professional working practices in the first two decades of the 21st century have made these skills even more salient; modern employers increasingly demand transferrable skills, interdisciplinary knowledge and an ability to address a diverse audience. At their very heart, these competencies are enhanced by an ability to understand, construct and manipulate written information in order to use them in a variety of situations.

【Goal】

Graduates with a good command of English are likely to end up in the global job market, so this course aims at giving students a competitive edge in their chosen career path. This course will help students prepare for the English-language job hunting process and provide an overview of the key professional communication styles, as well as a chance to see how these have a real application in the professional world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

The first half of the course will look at the English-language job hunting process, from analysing a job advertisement to creating a CV (résumé) and cover letter. Students will learn how to make their application documents stand out from the crowd and then participate in a mock interview for the job. These documents and skills can be used in a real-life job, or internship, application. The second half of the course then aims to build familiarity in some of the key forms of professional communication, such as press releases, emails and business documents. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Job Hunting: Writing a CV I	Explanation of the features of a good CV (résumé)
3	Job Hunting: Writing a CV II	Producing an English language CV (résumé)
4	Job Hunting: The Cover Letter I	Explanation of the features of a good cover letter
5	Job Hunting: The Cover Letter II	Writing an original cover letter
6	Professional Writing: Style and Tone	Putting ideas into words quickly and concisely
7	Job Hunting: Preparing for an Interview	What will they ask?
8	Mock Job Interviews	Students will participate in a mock job interview with the instructor
9	Formal Emails	Striking the right tone in communication
10	Editing	Common errors and ways to improve written English
11	Press Releases	The basics of how to prepare information for publication
12	Reports	Communicating business information
13	Agendas and Minutes	Outlining standard layouts of everyday documents
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.

Garner, B. (2012). *Harvard Business Review guide to better business writing*. Boston, US: Harvard Business Review Press.

Marsen, S. (2020). *Professional writing (fourth edition)*. London, UK: Palgrave Macmillan.

Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation (10%), assignments (25%), CV and cover letter (20%), mock interview (20%), final exam (25%).

【Changes following student comments】

Past students have commented that they prefer a face-to-face job interview as it gives them a more realistic experience. The instructor will try to organise face-to-face interviews but in the case of a large class, the interviews may need to be done online because of time constraints.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

PRI100ZA

Statistics

Yuji OGIHARA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this course, students learn basic concepts and skills of statistical methods and data analysis.

[Goal]

The objective of this course is twofold. First, students learn basic concepts in statistics (e.g., mean, standard deviation, standard error, normal distribution, t-test and regression analysis). Second, practical skills for visualizing data and conducting appropriate statistical tests are introduced and students practice them using statistical software.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This is an introductory course on statistical methods and data analysis. It explains the basic ideas behind statistical testing and covers various statistical methods for survey and experimental data. Each class combines a lecture with hands-on exercises (free statistical software are used). In addition, an assignment is given after every class. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted assignments. Students are encouraged to ask questions and to be actively involved in the class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of course and requirements
2	Descriptive Statistics (1)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., mean, median, mode)
3	Descriptive Statistics (2)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., standard deviation, variance, standard error)
4	Correlation	The relationship between two variables
5	Population and Sample	Random sampling and distribution of population
6	Probability Distribution	Probability distribution and Z-score
7	Hypothesis Testing and Statistical Tests	Testing your hypothesis using statistical tests and sampling distribution
8	Regression Analysis (1)	Single regression analysis
9	Regression Analysis (2)	Multiple regression analysis
10	T-test (1)	Testing if the difference is significant
11	T-test (2)	Related and unrelated t-tests
12	Analysis of Variance	Introducing ANOVA
13	Categorical Data Analysis	Introducing categorical data analysis
14	Summary & In-class Exam	Overall summary and in-class exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are encouraged to review their lecture notes and handouts after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

[References]

References will be introduced in class.

[Grading criteria]

Students will be evaluated on the basis of assignments given in each class (50%) and in-class exam (50%). No credit will be given to students with more than two unexcused absences.

[Changes following student comments]

None.

[Others]

This course is strongly recommended for students interested in various disciplines in social sciences.

Those who take and pass this course may be given priority in the enrollment of some of the psychology courses.

[Prerequisite]

None.

LANe100ZA

Translation

Sarah ALLEN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Changes following student comments】
Not applicable.【Equipment student needs to prepare】
Dictionary【Prerequisite】
None.

【Outline and objectives】

To improve Japanese-to-English translation and intercultural communication skills. Major emphasis will be placed on: 1) non-verbatim translation, 2) logical clarity, and 3) language accuracy and 4) intercultural communication.

【Goal】

Students will learn to how to: (1) choose the appropriate English when translating from Japanese to English (2) use natural, idiomatic English (3) convey information and meaning accurately, logically, and in the proper register.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This introductory-level course in Japanese-to-English translation will be conducted in a workshop style. Methods will include both sight translation and written translation. In sight translation, students will be called on, individually and in groups, to orally translate a text from Japanese to English on the spot. This will be followed by feedback, discussion, and write-up. Students will also complete translation exercises and submit written translations for homework and peer review. Material will be taken from newspaper and magazine articles, essays, and short literary and academic texts. Feedback on homework assignments will also be given in class in the form of discussion and examples.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Explanation of the course, short practice
2	What is a Translation?	Background & history of Japanese-to-English translation; short practice
3	Sight Translation (1)	In-class oral translation (1); identifying difficult areas
4	Sight Translation (2)	In-class oral translation (2); transitions
5	Translation Skills	What skills constitute competence?
6	Peer Review	Evaluating and editing; criteria
7	Kinds of Meaning (1)	Review; mid-term take-home exam
8	Sight Translation (3)	In-class oral translation (3); sentence structure
9	Sight Translation (4)	In-class oral translation (4); grammar
10	Kinds of Meaning (2)	Types of meaning and ambiguity; register
11	Sight Translation (5)	In-class oral translation (5); idiomatic usage
12	Sight Translation (6)	In-class oral translation (6); editing decisions
13	Discourse Genres	Tenses, clauses, complex sentences, style, structure
14	Summary	In-class final exam and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are asked to read and complete all assignments before class and come prepared to share their translations and participate in class discussions and critique. Students may be asked to resubmit translation work after discussion and critique. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Handouts will be provided by the lecturer.

【References】

Hasegawa, Yuko. *The Routledge Course in Japanese Translation*. New York: Routledge, 2011.

Other references will be given in class.

【Grading criteria】

(1) Participation 20% (2) Homework 30% (3) Mid-term 25% (4) Final exam 25%

FRI100ZA

Introduction to Programming

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the role of programming within the context of data science and IT and practicing basic and intermediate level of programming with various examples.

【Goal】

Students will learn Python and familiarize themselves with how to run various programming functions in the language.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, practice learning and Q&A sessions (including individual instructions). Students are required to review what they have learned in the last class and submit the assignment given to them every week (assignments will be a summary and programming practice).

At the beginning of every class, feedback for the previous class is given, and a brief review will be conducted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Chapter 1. The Overall Picture of Programming	Students will learn the role of programming within the context of data science and IT
3	Chapter 2. Programming Language & Software	Students will learn basic programming language used in Python and familiarize with how to use software (e.g., anaconda & Jupyter notebook).
4	Chapter 3. Data Type & Variables	Students will learn types of data, how to make variables, and how to "print" some results using Python.
5	Chapter 4. Data Structure	Students will learn data structures and practice format & print
6	Chapter 5. Coding "If" function	Students will learn "if" coding in Python and practice print "if" coding in various examples.
7	Chapter 6. Coding "String," "List," & "If"	Students will learn "string," "list," & "if" codings with advanced examples.
8	Review & Simulation	Students will learn what the class has covered during the first half of the semester, and students will take simulation test.
9	Chapter 7. Coding "While," & "For" (1)	Students will learn coding "while," and "for" and practice them with examples.
10	Chapter 8. Coding "While," & "For" (2)	Students will learn coding "while," and "for" with advanced utilization & examples.
11	Chapter 9. Practice Diverse Functions	Students will learn a set of functions and get used to using them with examples.
12	Chapter 10. A Variety of Data Structures (a)	Students will learn tuple, dictionary, and set coding.
13	Chapter 11. A Variety of Data Structures (b)	Students will practice tuple, dictionary, and set coding by using multiple examples.
14	Final Exam & Wrap-up	The instructor will summarize what we have learned throughout the semester, and students will take a final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. For example, students need to solve some practice problems assigned in class or summarize the assigned chapters for understanding Python.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

Python Basics: A Practical Introduction to Python 3 (English Edition) David Amos, Dan Bader, Joanna Jablonski, Fletcher Heisler, Real Python (2022/1/24),

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly assignment (20%); Simulation (30%); Final exam (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Laptop (*downloaded with 'anaconda' and 'jupyter notebook')

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Drama Survey

Tony DANI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course provides the student with an academic and practical backdrop to contemporary dramatic practice, with particular emphasis given to the study of devised theatre and improvisation.

【Goal】

By the end of this course, students will have:

1. Experienced various techniques required to create an original character through observation and improvisation.
2. Increased their self-confidence and their ability to work as a team.
3. Learnt how to use their imagination - more effectively - as a tool for creating and performing their own scene or scenes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

1. This course will employ a number of teaching methods relevant to the subject, ranging from activity based classes, group discussions, research assignments and culminating in student performances.
2. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System and/or Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction, Overview and Homework Task	Selection procedure. Please note that students taking this course will also be required to prepare an introductory task for the following week. Full details will be given
2	Presentation of Homework	Individual presentations
3	Follow on task from previous week's presentations given.	Students will explore ways to dramatize moments or aspects from each other's lives as presented in the previous week's individual presentations.
4	Introduction to Improvisation in Theatre	Acting improvisation activities will be taught and students will have the opportunity to practice those activities with their classmates
5	Improvisation and the Actor	Students - working in groups - will create an improvised scene to present to the rest of the class
6	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at building trust, focus and a group dynamic
7	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at exploring how an actor can create a character through observation & other techniques
8	Character Development	Students will be required, for homework, to observe someone in as much detail as possible and that observation will then form the basis of their character development in successive classes
9	Character Development Research	Students will present their character observations in action at the start of class. Students will then be taught how to transform their observations into the creation of an original character
10	Character Development Towards Performance	Students will be given a partner with whom they will devise an original scene or scenes which explore the relationship between their 'characters'

11	Character Development Rehearsals	Students will be taught a series of rehearsal techniques which help explore and analyse their characters and their evolving scripts
12	Character Performances Rehearsals	Students will rehearse their evolving scripts
13	Character Performances	Performances will be given to the class
14	Final Performance Feedback	Wrap-up & Review. Performance Team feedback from your instructor will be given on your final performances in class or via my Google Classroom page. There will also be an opportunity for peer group and self evaluations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete any homework tasks given prior to or following certain classes.

Please note: due to the practical nature of this course, the syllabus is subject to change and therefore students should be prepared for a certain amount of flexibility in terms of class content, delivery and schedule. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Material - when necessary - will be provided by the instructor and distributed in class.

【References】

A list of related references - when necessary - will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Character development research assignment: 30%

Final presentation performance: 30%

Final presentation performance script: 20%

Participation: 20%

【Changes following student comments】

I think that for some of the students as well as myself, the challenges faced during this term were to do with achieving the goals of a course which was partly online and partly face to face. Despite these challenges, my students handled it remarkably well. I am planning to incorporate certain elements of my online course into my face to face classes this spring term. For example, using Google Classroom as a centralized interface through which my students can communicate with myself and each other outside of class and additionally, using it to submit assignments and other homework. Finally, from some of my student's comments, I could also see how important my feedback - and that of their fellow students - was to them throughout the course. Therefore, I will continue to offer and extend opportunities for feedback directly in class or via email, Google Classroom and video.

【Others】

My Drama Workshop and Drama Survey courses can be taken as independent courses or as ones which compliment, and feed into, each other. Also, please note that, with prior arrangement and availability, students can consult with their course instructor directly after class.

【Prerequisite】

None.

PHL100ZA

Religious Studies

Robert SINCLAIR

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The primary purpose of this course is to expose students to some of the major questions in the scholarly study of religion. What is religion? What do religious symbols mean? Why do religions exist? How should we account for the differences among religions? Can or should we make judgments about religions, especially given our own commitments and biases? How does or should religion relate to morality? What is the relation of religion to culture? The selected readings will provide an introduction to the many approaches found in the study of religion, and provide examples of the various theories that arise when considering the complexity of religious experience. We will further discuss the early development of religion, and provide overviews of major and minor religions from Islam to Scientology.

【Goal】

The course aims to:

1. promote an enquiring, critical and sympathetic approach to the study of religion.
2. introduce students to the challenging and varied nature of religion, and to the ways in which this is reflected in experience, belief and practice
3. help students to identify and explore questions about the meaning of life, and to consider such questions in relation to religious traditions

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related materials, and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Topics: What is Religious Studies, Leading questions and concerns. Activity: Selection Exam
2	Religion: An Overview	Suffering and Evil, Explaining Death, Importance of Order and Ritual.
3	The Early Development of Religious Studies	Philosophy, Theology, and Religious Studies, Biblical Criticism, Anthropology and Religion, Negative Views of Religion
4	Recent Approaches to Religious Studies	Phenomenology and Religious Studies, Philosophy of Religion, Anthropology of Religion, Sociology of Religion, Psychology of Religion, Theories and Methods
5	Early Traditions	Prehistoric Religions, Animism and Anthropomorphism, Death and Hunting Rituals, Oral Traditions, and Religion, The Neolithic Revolution and the Rise of Historic Religions
6	Jewish and Christian Traditions	The History and Teachings of Judaism, The Rituals of Judaism, Judaism Today, The History and Teachings of Christianity, The Institutionalization and Politicization of Christianity, The Protestant Reformation, Christian Rituals, Christianity Today
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	Islamic Religious Traditions	The History and Teachings of Islam, The Life of Muhammad and the Rashidun Caliphs, The Modern Period: Reform and Recovery, Islamic Rituals

9	Hinduism	History and Teachings of Hinduism, Classical Hinduism, Hinduism Today, Rituals
10	Buddhism	History and Teachings of Buddhism, The Four Noble Truths, The Core of All Buddhist Traditions Theravada (Hinayana), Mahayana, Vajrayana, Buddhist Rituals
11	Confucianism, Taoism, and Buddhism in China	The History of Chinese Religious Thought, Confucius, Taoism, Buddhism in China, Chan (Zen) Buddhism, Rituals in Chinese Traditions
12	Zoroastrianism, Shinto, Baha'i, Scientology, Wicca, and Seneca Traditions	Zoroastrian Rituals, History and Teachings of Shinto, History and Teachings of Baha'i, Wiccan Rituals, History and Teachings of the Seneca
13	Conclusions	Defining Religion, Secularization, Contemporary Atheist Views, Resurgent Islam, Medical Science and Religion, Religion and Mental Health
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will attend lectures, read related materials, and have two written examinations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Readings will be distributed in class or posted/linked online. Students should download them, print them out, and bring the required readings to class each week.

【References】

The Religion Toolkit: A Complete Guide to Religious Studies by John Morreall and Tamara Sonn, 2011, Wiley-Blackwell. (RT)

【Grading criteria】

Selection exam worth 10%: conducted during the first class.

Midterm exam worth 30%: The midterm exam will test your knowledge of the chapters discussed in the first half of class.

Final Exam worth 45%: The final exam will test your knowledge of the chapters discussed in the second half of class.

Continuous Assessment worth 15%: Class Participation and Group Discussion of Exercises

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Students are expected to bring readings to class in either paper or electronic formats.

【Prerequisite】

None.

HIS100ZA

History of Modern Europe

Markus WINTER

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The world we live in is a world of sovereign (nation-)states. It seems as if the states as we know them today have always been there, at least in some form. This course will examine this view and look at the major developments in Western history from the 18th to the 20th century that shaped our modern world:

The emergence of modern states, 1789, the idea of the nation and nationality; the Industrial Revolution; colonisation and imperialism; the idea of 'balance of power'; the onset of mass democracy; and two world wars.

【Goal】

1) Gain an in-depth understanding of the origin of European state-and-nation-building, its impact on the world, and how it still shapes our perceptions today; 2) Identify the major intellectual, economic, and political developments from 1789-1945; 3) understand how 'modernity' and 'modern life' took shape in Western Europe and why; 4) Train your academic writing and speaking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course has three components: 1) The main component of the class is a series of lectures. 2) Each class will begin with a discussion part where students will pre-discuss the week's topic. 3) Lastly, at the end of the course, depending on the number of students, you will be asked to sit a final exam or give a brief presentation.

Feedback will be given to each individual student's graded work in writing.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	A State in the Middle Ages?	The creation of the sovereign state - what is 'sovereignty'?
2	Varieties of Absolutism	How 'absolute' was absolutism? The Tilly Thesis
3	1789: the Watershed	The French Revolution: causes, triggers and ramifications
4	1789: the Aftermath	The triumph of absolutism after 1789? Napoleon; liberalism; the 'Holy Alliance'
5	The Concert of Europe	The post-Napoleonic order: Balance of Power; the Great Powers; the system of Bismarck; the German question; the question of nationalism
6	Europe - an Anomaly?	Modernity; capitalism; the Industrial Revolution; Europe - an anomaly?
7	Review & Mid-term Exam	A short exam on the topics covered in the readings & the lectures so far
8	Nationalism and the Nation-State in the Nineteenth Century	The forging together of state and nation; the meaning of nationalism: the Gellner Thesis
9	Heart of Darkness	Colonisation; Orientalism; the internationalisation of the European order
10	Social Change	This lecture will look at the other side of the coin - the social changes created by all the previously studied political developments, such as changing gender and family roles, as well as the rise of the modern consumer economy
11	The Collapse of the Concert of Europe	Setting the stage for World War I: the growing complexity of the international system
12	'The Great War': World War I	Strategies, objectives & the uncertain outcome; 'total war'; the Treaty of Versailles

13	The Rise of Totalitarianism & World War II	Strategies, objectives & ramifications; the disenchantment of the world: the Holocaust
14	Great Expectations: Beyond the Nation-State?	The beginnings of a supranational European institutional order [DEADLINE: submit your final essay in both hard copy & digital copy]

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Please conduct background research in preparation for the in-class discussion on each week's assigned topic. 2) In the case of no final exam: Brief presentation, due at the end of the term: Pick any European country you like and write about one specific aspect of its historical development that we address in this class. Preparatory study and review time for this class is ca. 1 hour per week.

【Textbooks】

Merriman, John. (2010). *A History of Modern Europe* (Volume Two): From the French Revolution to the Present. New York: Norton & Company.

【References】

<http://legacy.fordham.edu/Halsall/mod/modsbook13.asp> A very useful collection of primary sources, such as letters from Marie Antoinette, the Declaration of the Rights of Man, or writings from von Metternich. Ordered according to topic (see menu bar on the left) & <http://avalon.law.yale.edu/default.asp> Similar to the Fordham collection, but listed chronologically.

【Grading criteria】

Participation: 20%; Mid-term exam: 30%; Final Presentation or Final Exam: 50%

【Changes following student comments】

Each lecture will start with a ca. 20 minute pre-discussion of the main themes of the week.

【Prerequisite】

None.

HIS100ZA

History of Modern East Asia

Chris Hyunkyung PARK

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course employs two perspectives to understand the histories of modern China, Japan, Korea, and Taiwan in the context of tradition and globalization from the late 19th century to the present. It examines the struggles of these four countries to preserve or establish their boundaries, identities, and cultures in a rapidly emerging modern world order. The course also looks at how individuals respond to and are shaped by the variety of modernity(ies).

The main questions that will be asked and addressed are:

What and why does the history of East Asia matter where capitalism has reached into all corners of the world and the term 'globalization' has become a cliché?

What are the major transformations and lines of continuity in East Asian history?

What factors in the historical development of modern China, Japan, Korea, and Taiwan explain changes and continuity?

[Goal]

This course has some basic goals including: 1) To familiarize students with some fundamental concepts of reconciliation, peace, and coexistence in a range of historical contexts; 2) To encourage students the capacity to analyze and to interpret historical theories and case studies in the local and global context of East Asia (China, Japan, Korea(s), and Taiwan) to ensure a transnational perspective; and 3) To help students develop an in-depth understanding of national, regional, and global dimensions in the makings of modern East Asia and interactions by shedding particular lights on human agency, nongovernmental organization, and local dynamics in East Asia to think critically about historical narratives.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course highly encourages students to engage in discussion and debate, and the capacity to interpret historical theories and case studies in the local and global context.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Please check your university email account and Hoppii regularly to keep yourself updated.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course & self introduction	Explanation of the course
2	Space and time in the making of East Asia: Decline of Chinese hegemony and rise of world capitalism	Theories and concepts
3	Nationalism, modernization & reform I	Lecture and discussion
4	Nationalism, modernization & reform II	Lecture and discussion
5	Japan builds an empire: Revolution or reactionary reform?	Lecture and discussion
6	Colonial modernity and Imperial Subjects I: Settler's colonialism	Lecture and discussion
7	Colonial modernity and imperial Subjects II: Diaspora(s) and Migrants	Review essay due

8	Contested histories: The Pacific War and its legacies	Lecture and discussion
9	Marxist-Leninist revolution in East Asia I: North Korea (case studies)	Lecture and discussion
10	Marxist-Leninist revolution in East Asia II: Mao's revolution in China (case studies)	Lecture and Discussion: "Edgar Snow, Red Star Over China: The Classic Account of the Birth of Chinese Communism."
11	East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building I	Lecture and discussion
12	East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building II	Lecture and discussion
13	East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building III	Lecture and discussion
14	Conclusion: A history of East Asia in Global Perspective	Group presentation and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

It is important to note that all assignments must be completed to pass the course, and all assignments must be completed on time or be marked down accordingly (for papers, five points per day late).

In addition to preparing for discussions, students are expected to read and review class materials before each class. It requires at least 2-3 hours to prepare for this class.

[Textbooks]

None.

[References]

Rebecca E. Karl, Mao Zedong and China in the Twentieth-Century World: A Concise History (Durham: Duke University Press, 2010)
Anita Chan, Richard Madsen, & Jonathan Unger, Chen Village: Revolution to Globalization (Berkeley: University of California Press, 2009)
Leo T.S. Ching, Becoming Japanese: Colonial Taiwan and the Politics of Identity Formation (Berkeley: University of California Press, 2001)
Andrew Gordon, A Modern History of Japan from Tokugawa Times to the Present (New York: Oxford UP, 2014)
John W. Dower, Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II (New York: W.W. Norton & Company, 1999)
Bruce Cumings, Korea's Place in the Sun: A Modern History (New York: W.W. Norton, 2005)

[Grading criteria]

Class Participation and Discussion: 30%, Presentation & Review Essay: 30% (in class presentation 15%, and a review essay 15%), Final Group Project: 40% (a group presentation 15%, and a final group report 25%)

[Changes following student comments]

n/a

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

The additional readings will be distributed before class.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Music Appreciation

Cathy Lynn COX

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

What is music, how is it made, and what does it mean to 'appreciate' it? In this course we will investigate these and other questions surrounding music-making and musical experiences. Each week students will participate in directed listening and other activities as we explore various genres of music with an emphasis on Western music traditions.

【Goal】

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop listening skills;
- (3) develop ability to interpret, appreciate, and critique music in a variety of forms and contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course is taught through a combination of lectures, guided listening sessions, musical activities, and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements; selection evaluation
2	Music and Language	Music as a sound-based means of communication closely linked to poetry and oral storytelling traditions.
3	Melody	Investigation of modes & scales, melodic range, melodic contour, and melodic motion through analysis and creative activity.
4	Movement and Gesture	Musical expression linked with physical movement and the body.
5	Time and Rhythm	Music as a time-based artform that may be pulsed or unpulsed. Introduction to concepts of tempo, meter, beats, and syncopation.
6	Timbre	Describing the 'sound' of sound: differences among instruments, voices, playing styles.
7	Texture	How different voices or instrument parts are woven together to create the fabric of music, layers of different sounds.
8	Studio production	Hearing and understanding contemporary sound production techniques.
9	Repetition and Form	Understanding various approaches to large-scale musical structure
10	The Art of Performance	Improvisation, interpretation, cover-versions and mashups.
11	Music Analysis 1	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
12	Music Analysis 2	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
13	Music Analysis 3	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
14	Review and Wrap-Up	Review of topics and materials

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing and creative tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

【References】

Schafer, R. M. (1992). *A Sound Education: 100 Exercises in Listening and Sound-Making*. Indian River, ON: Arcana Editions.Small, C. (1998). *Musicking: The Meanings of Performing and Listening*. Middletown, CT: Wesleyan University Press.

【Grading criteria】

In-Class Discussion and Activities: 20%,
Questionnaires for Weekly Reading and Reflection: 30%
Short Essay Assignments: 30%,
Group Presentation: 20%

【Changes following student comments】

Integrated opportunities for music-making activities.

【Equipment student needs to prepare】

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

【Others】

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

【Prerequisite】

None

ART100ZA

Drama Workshop

Tony DANI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course provides the student with an introduction to the experiences of an actor in training and will focus on the performance of a section of a play or movie.

[Goal]

By the end of this course, students will have:

1. Experienced various techniques required to assist in the theoretical and practical analysis of dramatic text on its textual and subtextual levels.
2. Increased their self-confidence and their ability to work as a team.
3. Learnt how to create an original character based on the given and implied information from the given text.
4. Learnt how to stage their play by way of scenery, music, effects and the theatrical technique of 'blocking'.
5. Learnt the rudimentary approaches to directing and being directed.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

1. This course will employ a variety of teaching methods relevant to the subject, ranging from activity based classes, group discussions, research assignments and culminating in student performances.
2. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System and/or Google Classroom.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Selection procedure. Please note that students taking this course will also be required to prepare an introductory task for the following week. Full details will be given
2	Student Introductions and First Task	Introductory task presentations
3	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at building trust, focus and a group dynamic
4	Casting & Partner Announcement	Student pairings will be announced and each pairing will receive their play scripts. Initial script analysis groundwork will commence during the class and continue as homework
5	Text Workshop: the Actor in Training 1	How to work from a script into performance
6	Text Workshop: the Actor in Training 2	Continued: how to work from a script into performance
7	Read-through Commences	Each group will have the opportunity to hear each other's scenes with an initial reading clearly expressing an understanding of the script, the characters and their relationship to each other
8	Read-through Continues	Read-through continues
9	Rehearsals	Students will have the opportunity to rehearse their scripts. Guidance will be given on rehearsal and text analysis techniques
10	Rehearsals (Continued)	Students will have the opportunity to continue to rehearse their scripts
11	Technical Run-Through	Students will have the opportunity to practice their scripts with set, costume, makeup, sound, props and music
12	First Set of Performances	The first group of students will perform to the class
13	Second Set of Performances	The second group of students will perform to the class

14 Self and Peer Group Evaluations

Wrap-up & review. Students will have the opportunity to share their self and peer group evaluations with their fellow students and teacher in class. The evaluations will then be submitted at the conclusion of the class

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete any pre and post class homework tasks. Please note: due to the nature of this course, the syllabus is subject to change and therefore students should be prepared for a certain amount of flexibility in terms of class content, delivery and schedule. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Material will be provided by the instructor and distributed in class.

[References]

A list of related references - when and if necessary - will be provided by the instructor.

[Grading criteria]

Introductory assignment: 10%

Script analysis & development research assignment: 30%

Participation: 20%

Final presentation performance: 30%

Final presentation performance self-evaluation: 10%

[Changes following student comments]

A key strategy of my classes for the 2021/22 Fall Term - necessitated by the Covid 19 pandemic - was to employ the use of video and video apps. In particular, 'Flipgrid App' was very useful as a way to enable students to present their their creative work in progress to me, to their classmates and for them to self evaluate. Having their work on video also meant that they could view in their own time and as many times as they wished. If classes return to face to face from this spring, then I am still planning to incorporate the use of video into the course. Finally, from some of my student's comments, I could also see how important my feedback - and that of their fellow students - was to them throughout the course. Again, video was an excellent medium through which to offer feedback. Therefore, I will be continuing to give feedback and encouraging student to student feedback when and where possible in the upcoming term both on video, through Google Classroom and, of course, face to face in the classroom.

[Others]

My Drama Workshop and Drama Survey courses can be taken as independent courses or as ones which compliment, and feed into, each other. Also, please note that, with prior arrangement and availability, students can consult with their course instructor directly after class.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Manga Studies

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class will provide an introduction to the field of manga studies. Here we will explore how manga operates as a type of media, analyzing manga from a multidisciplinary perspective. This means that we will look at manga from a variety of different perspectives, including its modes of reading/viewing, economics, aesthetics, and political history while considering its place in Japanese society and abroad. We will learn what makes manga specific as a type of media and how that allows us to delve into its particularities. This includes examining how manga mediated different shifts in Japanese society, as we explore the differences in the major manga genres, and how they cover various topics, from gender to memory. Beyond the local, we will ask what manga made outside of Japan can tell us about global the spread of media. We will also ask what manga, a media form that developed from paper and print, can tell us about other issues regarding the digitalization of our world as it moves into new formats for the 21st century.

【Goal】

In addition to teaching the students information about manga, its surrounding cultures, and business practices, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn the specific history of manga; 2) how to analyze manga as media; 3) examine how manga interacts with other media and society; 4) explore how to critically engage with manga.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analyses on certain themes and specific manga. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Manga or comics?
2	Manga's Visuals	Manga's visual language
3	Making Manga's History	Are there pre-modern manga?
4	Pre-war Manga	Manga in Meiji and Taisho Japan
5	Post-war Manga	Tezuka Osamu's legacy
6	Media Influences	Manga, cinema, and anime's interactions
7	Genres I	Industrial genres: mainstream manga
8	Genres II	Shōjo manga and gendered expression
9	Genres III	Gekiga and existential themes
10	Genres IV	Alternative manga
11	Digital Manga	Effects of changing formats
12	Global Manga	Manga made outside of Japan
13	Student Presentations I	Feedback and preparations for final paper
14	Student Presentations II	Feedback and preparations for final paper, wrap-up of semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Berndt, Jaqueline, editor. *Manga, Comics and Japan: Area Studies as Media Studies*. Vol. 156, Orientaliska Studier, 2018, <https://orientaliskastudier.se/tidskrifter/156-2/>.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final exam 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Visual Arts

Aquilaes HADJIS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The advent of digital photography and the present ubiquity of high speed internet and camera phones has sent most of us into a frenzy of image production and consumption. We simply recognize when a particular picture or video “hits the spot”, but how is that effect achieved? Is everyone a photographer now? Are our memes real art?

This course invites participants to answer those questions through a practice-based inquiry into image making in both “documentary” and “artistic” modalities.

【Goal】

What special conditions make an image get closer to being seen as “art” or at least “artistic”? Is the way we document our daily life on social media the same as a “real” documentary? How often do you look at the images you post online afterwards, and have you ever printed them?

This course aims to foster a critical eye towards camera use and the imagery it generates. Among other topics, it will explore basic techniques in image making which the participants will experience practically during the semester, including camera operation (full manual operation) and the basic handling of subjects and locations (lighting, composition, editing) gaining insight into what documentary or art photography is/isn't. Students will learn the basics of ‘making’ photographs and gain practical experience in working with real-life subjects. Drawing upon these experiences, students will prepare a final project based on a theme and methodology to be decided in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course uses a practice-based learning approach centered around the production of still photography with some video. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students' basic understanding of image making using examples from many eras and contexts. Students create an Instagram account for the course and post one photograph daily in response to a weekly class project. Final submission comprises a project portfolio, a written project statement, and evidence of participation (i.e., weekly assignments, class discussion).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introducing the course and expectations
2	What Can your Camera Really Do?	Learning about sensors, compression, and manual camera settings.
3	Lighting, Lenses and Beautification.	Seeing how lighting, composition and art direction sculpt scenes and subjects and the effects of lenses.

4	Photography and Film as Documents	Discussing early instances of photography as a documentary medium and a source of legal evidence.
5	The Genesis and Afterlife of Images	Exploring photography's relationship with appropriation, influence and iconography and symbolic frameworks
6	Is the Document the Work Itself? Images as Things.	Discussing the relationships between documentary photography and art and the physical qualities of photo prints and book art
7	Past & Contemporary Documentary Photographers	Discussing the evolution of the themes and methods of documentary photography through key practitioners.
8	Past & Contemporary Art Photographers	Discussing the evolution of the themes and methods of fine art photography through key practitioners.
9	Project Proposals	Discussing and preparing project proposals. First Presentation.
10	The Logic of Images	Exploring and developing strategies for addressing a theme throughout multiple images across time.
11	Editing is Key	Discovering the power of editing as a second moment of creation where we recognize (or falsify) patterns, narratives and motivations.
12	Peer Review: The Gaze of Others	Assembling and reviewing of project drafts with peer groups.
13	Final Project Review and Submission	Reviewing final portfolios and technical challenges prior to submission.
14	Final Presentation and Wrap-up	Final students' presentation on their projects and feedback session.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must regularly take photographs and or videos, and concentrate on organizing them coherently in groups. Every week students are expected to participate in a camera-based assignment, which will be discussed in class. In order to track progress, students are expected to create a new Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 12 weeks = 84 images). They are also expected to use the photobook resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are about 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be distributed in class.

【References】

Barthes, Roland (1993) *Camera Lucida: Reflections on Photography*, Vintage Classics.
 Batchen, Geoffrey (2011) *Photography Degree Zero: Reflections on Roland Barthes's Camera Lucida*, MIT Press.
 Berger, John (2013) *Understanding a Photograph*, Penguin Books.
 Fontcuberta, Joan (2014) *Pandora's Camera*, Mack.
 Gibson, David (2014) *The Street Photographer's Manual*, Thames & Hudson.
 Heng, Terence (2016) *Visual Methods in the Field: Photography for the Social Sciences*, Routledge.
 Lubben, Kristen (2014) *Magnum Contact Sheets*, Thames & Hudson.

Meyerowitz, Joel and Westerbeck, Colin (2017) *Bystander: A History of Street Photography*, Lawrence King.

Sontag, Susan (1977/2008) *On Photography*, Penguin Classics.

Krivine, Andrew (2020) *Too Fast to Live Too Young to Die: Punk & Post Punk Graphics 1976-1986*, Pavilion.

Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to daily posts (or multiple image posts for a project) to Instagram for weekly photo projects (minimum of 84 images total for projects). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Main Project: Each student must produce a portfolio (booklet) of 8-12 images selected from photographs made of one subject (or theme) during the course. Students are free to choose their subject but it must be discussed with the instructor and peers. A written project statement will be required. A template for the portfolio will be provided but students' proposals about using other templates or presenting video (or alternative printed formats) will be considered by the instructor on a case by case basis.

Presentation: each student must make short presentations (3-5 minutes) when they settle the plan for the project and when they conclude it. Additional casual presentations connected to assignments may be requested.

The final grade is based on: Participation 30%, Class Presentations 20%, Main Project 50%.

[Changes following student comments]

Changes have been made to help students to produce photographs of a higher conceptual and practical skill as well as design and present their projects.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop, a camera (mobile-phone cameras are the minimum) and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to a better camera, please bring it and the instructor will show you how to use it. For several of the assignments you will need to print out your images as contact sheets and booklets. Convenience store laser prints are acceptable.

[Others]

Students are expected to come to class on time, participate and show interest in class topics, and develop enthusiasm about the subject of their projects.

The instructor is a practicing artist and filmmaker whose work across disciplines (visual arts, music, installations, film and photography) has been shown at venues, publications and exhibitions around the world.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Fine Arts

Suzanne Carol MOONEY

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Drawing is at the root of expression and communication in fine art. Through this course, students gain a fundamental understanding of art, while also pushing the boundaries of drawing beyond a traditional understanding of the medium. The skills being taught start with traditional drawing methods, and throughout the course, the definition of drawing is expanded to include elements of photography, digital imaging, and computer code.

Fine art is often dismissed as purely subjective and beyond comprehension or academic interrogation. Through a structured, methodical approach to image-making, supported by a comprehensive introduction to basic theory, and examples of these methods in practice, students will gain the ability to hone in on an area of interest and apply drawing and image-making as a means of research or expression.

[Goal]

Learning how to 'look' is the biggest obstacle to successful drawing. Before even considering how to reproduce the appearance of an object or form, one must see beyond the obvious and the expected. Through active engagement in guided practical class activities and the production of an individual portfolio, students will gain an understanding of the potential of fine arts as a communicative tool, in addition to aesthetic experience and self-expression.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students engage in weekly practical exercises supported by lectures introducing relevant artists and their works. Exercises take the form of drawing activities that ask students to visually explore an object/subject.

Working towards an individual approach, students produce a portfolio of drawings. In addition to a final portfolio of drawings, students are required to keep a weekly sketchbook and take part in presentations and discussions in class.

Students will receive direct feedback and critique in class, combined with regular written feedback or grades for assignments submitted online. For major assignments, a grading rubric will be provided and explained in detail.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & doodling	Introduction to course content. Explanation of requirements and expectations. Short lecture on the history of drawing. Practical exercise: first drawings.
2	Gesture drawing	Observing and rendering a subject in terms of line and feeling. Learn how to use quick sketching techniques. Ignore details to make drawings that capture the weight and pose of an object or person. Practical exercise: Gesture drawing.
3	Mark-making & tactility	Observing and rendering a subject in terms of controlled marks. Instruction on getting the full range of marks from your tools. Practical exercise: Mark-making.
4	Light & dark	Observing and rendering a subject in terms of light, shade and erasure. Positive and negative space Understanding light and form. Instruction on how to use dark and light shading to render form. Practical exercise: Shading.

5	Drawing in 3D	Exploring three-dimensional space with line: Wireframe drawing; Isometric drawing and linear perspective. Beginning a drawing without a drawing surface. Practical exercise: Perspective drawing.
6	Lines, angles, mathematics and logic	Study of the use of mathematics art. Practical exercise: Two-point perspective and patterns.
7	Light as a tool for drawing	Making drawings using time and light. Considering photography in drawing and also the relationship between time and light in drawing image. Practical exercise: Drawing with light and drawing with shadows.
8	Pixel drawing	Understand pixels and digital image data. Learn about correct scaling for screen and for print. Use layers to build complex digital images. Practical exercise: Editing scanned images.
9	Vector drawing	Using computer software/apps for making scalable drawings in a digital environment. Understand the difference between vector graphics and pixels, and the application of vector graphics in drawing, illustration and design. Practical exercise: Basics of vector drawing.
10	Visual coding	Code and creative programming in generative drawing. Instructional lesson in basic computer coding for generative drawing and motion graphics. Practical exercise: Editing and writing simple drawing programs.
11	Portfolio preparation	Group discussions reviewing drawings produced so far.
12	Presentation preparation	Preparation for making video presentations about one artist and the role of drawing within their practice. Individual consultations and group work in preparation for individual video presentations.
13	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
14	Portfolio review/ The bigger picture	Individual presentations(continued) and considering the application of drawing beyond this course. Class discussion.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are required to complete practical activities outside of class time.

In addition to class activities and regular notebook work, students will be required to spend time every week working towards their portfolio before the final review.

Research on an artist selected by the student will also be expected.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Winter, Roger (2008) On Drawing Rowman & Littlefield Publishers
Berger, John (1977) Ways of Seeing, Penguin Books. • Dexter, Emma (2005) Vitamin D: New Perspectives in Drawing. Phaidon Press.
The Drawing Projects: An Exploration of the Language of Drawing. Black Dog Publishing.
On Drawing, Roger Winter. Rowman & Littlefield Publishers, 2008

[Grading criteria]

Participation and attitude - 25%

Tasks - 30%

Completed portfolio - 30%

Presentation - 15%

[Changes following student comments]

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

A sketchbook (A3) and notebook (A5-A4) with plain white paper.

Loose sheets of paper for quick sketching.

Basic drawing materials:

Pencils (ex. 2B, 4B, 6B)

Black ball-point pen

30cm ruler

Soft eraser

Charcoal or chalk pastels

A computer will be required for some classes.

Additional materials will be specified throughout the course as required.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Visual Communication Design

Gary MCLEOD

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 土 2/Sat.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Few images seen on walls and in public spaces are randomly created. Many are designed to grab our attention and make us want to do something, whether it be desire a car, a drink, a movie, or to share in an idea such as a political message or charity. Images always carry messages and this course explores such messages through the practice of making them.

【Goal】

During this course, we will learn how visual messages are conveyed through the acquisition of essential skills (e.g. use of grids, balance, rhythm, typography). We will also develop a working understanding of the impact that images have upon contemporary society. In doing so, the course aims to encourage students' critical awareness of the surrounding visual environment.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Blending theory and practice to introduce the basics of Visual Communication Design, the first part of the course looks at how and why we “read” images in different ways. The second part looks at supporting students through the process of designing a poster. To develop a contextual understanding of the subject, students also create a dedicated Instagram account for posting pictures of advertisements seen around Tokyo. Final submission comprises a final project (poster) and evidence of participation (Instagram posts). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given via dialogue and discussion of work in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Sight and Perception	Introducing the course and expectations.
2	Visual Cues	Looking at the many cues that the brain receives when looking at images and how to use them.
3	Visual Theories	Exploring theories associated with the act of seeing.
4	Visual Persuasion	Discussing the use of persuasion and the commonality of propaganda.
5	Visual Stereotypes	Exploring stereotypes within the contemporary visual landscape.
6	Visual Analysis	Analyzing images using Lester's six perspectives.
7	Visual Literacy	Discussion of advertisements in Tokyo.
8	Layout	Exploring the value of different layouts in design.
9	Typography	Exploring the history and use of typefaces for design.
10	Images	Looking at ways to reproduce/scale/multiply images within designs.
11	Colour	Exploring colour as a communicative decision for design.
12	Constructive Feedback	Getting feedback on poster designs.
13	Peer Review	Making final amendments and adjustments to designs.
14	Taking Responsibility	Discussing the future of advertisements.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to download and read assigned readings prior to lectures. Students are also expected to create a new Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 13 weeks = 91 images). The project will require a number of hours spent outside of class in order to make the work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Lester, Paul Martin (2014) *Visual Communication: Images with Messages*, Wadsworth Cengage Learning.

Additional handouts and reading materials will be will be uploaded on H'etudes or distributed in class.

【References】

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 01: Format*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 02: Layout*, 2nd Edition, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2005) *Basics Design 03: Typography*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2006) *Basics Design 04: Image*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2007) *Basics Design 05: Colour*, Fairchild Books.

Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.

Frascara, Jorges (2004) *Communication Design: Principles, Methods, and Practice*, Allworth Press.

Triggs, Teal and Atzmon, Leslie (2017) *The Graphic Design Reader*, Bloomsbury.

Additional references will be provided by the instructor in class.

【Grading criteria】

Participation: this applies to class-activities, assigned readings and daily posts to Instagram. More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Final Project: each student must produce and exhibit one poster design (A2 size) relating to a topic chosen in class.

The final grade is based on: Participation 40% and Final Project 60%.

【Changes following student comments】

Changes reflect feedback and suggestions. Thank you.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a laptop, a camera, a workbook (e.g. blank sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Students will also need access to a printer and know how to use it. Paper and other basic art materials may also be requested on a weekly basis.

【Others】

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and show interest.

【Prerequisite】

None.

LIN100ZA

Contrastive Linguistics

Geraldo FARIA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this course, you will learn how Contrastive Linguistics is defined as an academic subject. By drawing on topics related to variations within a language (i.e. dialects) or between related languages, this course provides an accessible and engaging overview of Contrastive Linguistics.

【Goal】

The development of practical skills through the acquisition of a basic knowledge of Contrastive Linguistics. Three main skills are emphasized: 1) finding similarities and differences between dialects or related languages; 2) compiling data for documentation and analysis; and 3) gaining basic knowledge of under-documented and endangered languages.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples from target languages are presented for discussion and analysis. This course contains assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements
2	Concepts	Contrasts and similarities between dialects of a language and related languages
3	Diachronic Changes of a Language/Dialect 1	Examination of changes (sound variations): comparisons and contrasts
4	Diachronic Changes of a Language/Dialect 2	Examination of changes (lexical variations): comparisons and contrasts
5	Contrastive Descriptions	From speech sounds to discourse, seven types of contrasts will be examined
6	Phonological Contrasts	Various techniques will be introduced to examine intralingual and interlingual data. Midterm review quiz.
7	Contrasts between Writing Systems	Synchronic and diachronic examination of writing systems.
8	Morphological Contrasts	Diachronic and synchronic comparisons of data will help students to better understand two variants of intralingual and interlingual data
9	Lexicological Contrasts	Variations of word meanings intralingually and interlingually
10	Phraseological Contrasts	Variations of collocations will be examined cross-dialectally
11	Syntactic Contrasts	Structuring sentences across languages is examined to better describe and produce well-formed sentences in a second language
12	Textual Contrasts	Contrasting recorded diachronic oral stories
13	Presentations	Students will give short academic presentations
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class.

They should also organize their notes in the form of a notebook or computer file.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

【References】

Austin, Peter and Julia Sallabank. *The Cambridge Handbook of Endangered Languages*. Cambridge University Press, 2011 ISBN 9780521882156

Moravcsik, Edith. *Introducing Language Typology*. Cambridge University Press, 2013 ISBN 9780521193405

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the university library.

【Grading criteria】

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

【Changes following student comments】

No feedback yet received.

【Equipment student needs to prepare】

Quick researches online are at times required; therefore, a laptop or smartphone may be used for such searches.

【Others】

A willingness to tackle language-related puzzles.

【Prerequisite】

None.

EDU100ZA

Language Education in the Digital Era

Robert PATERSON

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course will aim to teach students the current best practices in educational technology for language learning with reference to teaching professionals. As such, we will explore pedagogical approaches to using technology as well as the actual educational technology apps and eco systems that can be used.

[Goal]

By the end of the course students should be able to:

- 1 - understand the Google educational eco systems for teachers and students,
- 2 - be able to use the Google apps and approaches for their project work in (4) below,
- 3 - work collaboratively in teams using the apps and tools in (2) above to complete the work in (4) below,
- 4 - create and design an appropriate project website that hosts students' multimedia work,
- 5 - maintain a personal reflective blog for the duration of the course and share it with the class and teacher.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Some classes will have a mini demonstration of various ed-tech tools by the teacher followed by time for students to repeat the same actions by themselves. Other classes will teach various research techniques using technology, followed by longer periods of research time for students to gather information. All classes will have homework - sometimes design work, sometimes research work, sometimes written work, and sometimes commenting on the work of others. At the beginning of class feedback for the previous classes homework will be given by the teacher. All assignments will be done on Google Docs/Slides/Sites/Blogs and checked online at the start of the next class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Class Intro & Intro to Educational Technology	Students will be introduced to the class themes and told what apps / log ins and devices they need to take the course.
2	Schools of Thought in Educational Technology	This class will be an overview of the different philosophical and pedagogical schools of thought on educational technology in schools and colleges / universities.
3	Google in Education 1	This course will provide an overview of Google's apps and tools for education and the educational benefits it offers.
4	Google in Education 2	This course will provide a further overview of Google's apps and tools for education and the educational qualifications Google offers.
5	Other Ed-tech Players in Education	This course will provide an overview of other 3rd party apps and tools for education and the educational qualifications these other groups offer.
6	Educational Technology Pedagogies 1	This week we will explore in detail the first set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.
7	Educational Technology Pedagogies 2	This week we will continue to explore in detail the second set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.

8	Mobile Language Learning	Here we will examine mobile language learning - i.e. how mobile devices like tablets and smart phones can be used. We will cover the pros and cons of using these devices and the apps on them.
9	SNS in Education	Here we will examine SNS language learning - i.e. how SNS apps can be used. We will cover the pros and cons of using different SNS accounts and how to use them educationally.
10	Project Work 1	Here we will start the team project work. Each team will have a full digital portfolio of apps and tools and will have made a multimedia website using Google Sites.
11	Project Work 2	Continuation of Project week 1 above including guidance on how to give engaging presentations.
12	Project Work 3	Continuation of Project week 1 above.
13	Final Project Presentations 1	In these last two weeks the student groups will present their findings to the others in the class.
14	Final Project Presentations 2 & Feedback	Detailed feedback on all the course work.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

There will be some homework readings almost every week as well as the weekly blog writing and project work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbooks - all materials will be supplied by the teacher.

[References]

No reference books - all materials will be supplied by the teacher

[Grading criteria]

Participation - 10%

Weekly blog work - 10%

Other weekly homework - 10%

In class performance - 10%

Final project work - 60% (website design - 10% / slideshow - 10% / video - 10% / presentation performance - 10% / written report - 20%)

[Changes following student comments]

Previous students from the academic 2021 year, gave the course very good feedback so I plan to keep it much the same.

[Equipment student needs to prepare]

All students will need a personal Gmail account as the Hosei ones have many things turned off. Also having your own laptop would be very useful. Alternatively, a tablet and smart phone would be okay.

[Others]

This course should be fun as you will be learning many things about technology in education that is not commonly taught to students. So come with an open mind and be ready to learn.

[Prerequisite]

None.

LIN100ZA

Second Language Acquisition

Tomoko SHIGYO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The course provides an overview of second language (L2) learning; in particular, it provides basic studies and theories of how languages are learned from different perspectives such as first language (L1) acquisition and individual differences (ID). It also covers issues on characteristics of L2 learners and learning through the observation of L2 classrooms and discussion about it.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

- (1) Learn important concepts, perspectives, and theories in second language learning, including influence by first language acquisition and its studies
- (2) Understand basic factors influence on of second language learning
- (3) Explain basic factors that influence building theoretical frameworks of L2 learning.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course looks at how languages are learned: based on the lecture giving explanation of terms of SLA in the first half of the course, students are to make a presentation of core issues on L2 learning in the classroom with their L2 learning experiences in the second half of the course.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Language Learning in Early Childhood	First language acquisition Explaining first language acquisition - The behaviorist perspective - The innatist perspective - Interactionist/ development perspective
3	Second Language Learning (1)	Learner characteristics Learning conditions Studying the language of second language learners - Contrastive analysis, error analysis, and interlanguage - Developmental sequences
4	Second Language Learning (2)	More about first language influence Vocabulary Pragmatics Phonology Sampling learners' language
5	Individual Differences in Second Language Learning (1)	Research on learner characteristics - Intelligence - Language learning aptitude - Learning styles - Personality - Attitudes and motivation - Motivation in the classroom - Identity and ethnic group affiliation - Learner beliefs
6	Individual Differences in Second Language Learning (2)	Individual differences and classroom instruction Age and second language learning Age and second language instruction
7	Explaining Second Language Learning (1)	The behaviourist perspective The innatist perspective The cognitive perspective

8	Explaining Second Language Learning (2)	Second language applications: interacting, noticing, processing, and practising - The interaction hypothesis - The noticing hypothesis - Input processing - Processability theory - The role of practice Natural and instructional settings Classroom comparisons: Teacher-student interaction
9	Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom (1)	Observation schemes - Classroom comparisons: Teacher-student interaction - Classroom comparisons: Student-student interaction - Corrective feedback in the classroom - Questions in the classroom Ethnography
10	Observing Learning and teaching in the Second Language Classroom (2)	1 Get it right from the beginning 2 Just listen ... and read 3 Let's talk 4 Get two for one 5 Teach what is teachable 6 Get it right in the end Reflecting on the popular ideas: Learning from research
11	Second Language Learning in the Classroom (1)	Reflection & Summary
12	Second Language Learning in the Classroom (2)	
13	Popular Ideas about Language Learning Revisited	
14	Consolidation of Second Language Learning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.
Students are expected to complete weekly reading assignments

【Textbooks】

Lightbown, P. M. & Spada, N. (2013). How languages are Learned. 4th. Oxford University Press. ¥ 2,099

【References】

1. Benati, A. G. & Angelovska, T. (2016). Second Language Acquisition: A Theoretical Introduction to Real-World Applications. Bloomsbury Academic.
2. VanPatten, B., Smith, M. & Benati, A. G. (2019). Key Questions in Second Language Acquisition: An Introduction. Cambridge University Press.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (20%)
2. Presentation (30%)
3. Presentation material (10%)
4. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in Hoppi.

【Prerequisite】

None.

EDU100ZA

Comparative Education

Machiko KOBORI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is for students intending to explore motivational issues to learn second languages (L2s) within the context of comparative education. It provides basic understandings of conceptual frameworks of L2 motivation and a historical overview of the development of the L2 motivational studies focusing on social, cognitive and educational aspects of motivational psychology. Its purpose is to give an insight into significant variables of L2 motivation as core elements in L2 education from a global perspective. It explains how they are affected by globalisation and local settings related to L2 learners such as their ethnic backgrounds, age, L2 learning conditions, etc., especially in the teaching of English (foreign languages). This course also studies how to put the related knowledge into practice: it gives an insight into collections of the related research studies ranging worldwide and is expected to stimulate debate on how to deal with motivational aspects effectively in L2 education.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

- (1) Learn important concepts, perspectives, and theories in L2 motivation.
- (2) Understand basic factors that influence L2 motivation.
- (3) Explain basic factors that influence building theoretical frameworks of L2 motivation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on Comparative Education
2	The Conceptualisation of Motivation	Issues in defining motivation and its fundamental challenges
3	The Development of the L2 Motivational Studies (1)	Issues in the classical studies
4	The Development of the L2 Motivational Studies (2)	Issues in the social-psychological period
5	The Development of the L2 Motivational Studies (3)	Issues in the cognitive-situated period
6	The Development of the L2 Motivational Studies (4)	Issues in the process-oriented and socio-dynamic periods
7	L2 Motivation in Practice	Issues in teaching strategies and approaches
8	L2 Motivation in Context	Issues in demotivating influences
9	L2 Motivation Research from a Global Perspective (1)	Issues in cross-sectional studies
10	L2 Motivation Research from a Global Perspective (2)	Issues in longitudinal studies
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of Comparative Education	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to choose one of the related topics and write a reflective paper.
3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge University Press.

【References】

1. Apple, T. M., Silva, Da D., & Fellner, T. (eds.). (2017). *L2 selves and motivations in Asian contexts*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
3. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (eds.). (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
4. Dörnyei, Z. et al. (2006). *Motivation, language attitudes and globalisation: A Hungarian perspective*. Multilingual Matters.
5. Ushioda, E. (2013). *International perspectives on motivation: Language learning and professional challenges*. Palgrave Macmillan.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notices of class activities and tasks will be given in order to allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA

French A I

Masamichi SUZUKI

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

Mr.Okamura (French BI) and I will use the same text book (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g. role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation - Initiation 1 Bonjour.	Greeting
2	Initiation 2 Je suis français.	Self introduction
3	Lesson 1 Il s'appelle comment?	Introduction; Asking questions about people
4	Lesson 2 Qu'est-ce qu'elle fait dans la vie?	Asking about jobs
5	Lesson 2 Vous parlez anglais?	Expressions about jobs
6	Lesson 3 Vous connaissez Omar Sy?	Do you know...?
7	Lesson 3 Quelle langue est-ce qu'on parle au Canada?	What language do they speak?
8	Lesson 4 Qu'est-ce que vous aimez?	Expressing likes and dislikes
9	Lesson 4 Qu'est-ce que vous préférez, la mer ou la montagne?	Expressing preferences
10	Lesson 5 Qu'est-ce que vous aimez faire le week-end?	Expressing what one likes to do
11	Lesson 5 Tu voudrais faire quoi ce week-end?	Expressing what one wants to do
12	Lesson 6 Vous aimez le golf?	Explaining preferences

13	Examination Lesson 6 Comment est-ce qu'elle est?	Examination Describing a person

14	Review of examination Lesson 6 Elle n'est pas sérieuse.	Review of examination Describe a person

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Review of greetings and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of introductions and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for jobs and preparation for the next lesson

5th week: Homework and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Review of expressions of likes and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Homework and preparation for the next lesson

10th week: Review of expressions for phone conversation and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for favorite activities and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of description of persons /

Preparation for the next lesson

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Spirale nouvelle édition 『新スパラルー日本人初心者のためのフランス語教材』, Gaël Crépieux, Philippe Callens, 高瀬智子, 根岸純, アシェット・ジャポン (Hachette Japon), 2015 年

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』 久松健一、駿河台出版社、1999 年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%. If the term-end examination is not possible to organize, the grade will be given on the basis of the accumulation of assignments. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral or writing class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

The covid 19 situation has caused some problems on a larger or smaller scale: confusion of schedule because of the alternation of online classes and face-to-face classes, awkwardness of class activities especially on oral level because of distance between students in the classroom, etc. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

【Others】

Students should also attend Mr.Okamura's course French BI.

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA

French A II

Masamichi SUZUKI

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

[Goal]

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

The students must make an effort to reach the level A1 of CEFER.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

As in the spring semester, Mr. Okamura (French BII) and I will use the same text book (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning of the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g. role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, Lesson 7 Quel âge avez-vous?	Speaking about oneself
2	Lesson 7 Vous avez quels cours le mardi matin?	University life
3	Lesson 8 Est-ce que vous avez une voiture?	Describing objects
4	Lesson 8 Excusez-moi, vous avez un stylo, s'il vous plaît?	In the class
5	Lesson 9 Le Louvre, qu'est-ce que c'est?	Describing sights
6	Lesson 9 Est-ce qu'il y a un restaurant italien dans le quartier?	Asking for directions
7	Lesson 10 Madame, qu'est-ce que vous faites demain?	Asking about activities
8	Lesson 10 Qu'est-ce que vous lisez en ce moment?	Asking for more details
9	Lesson 11 Est-ce que vous faites du sport?	Speaking about one's activities
10	Lesson 11 Quels sports est-ce que les hommes font en général en France?	Interview

11	Lesson 12 Tu habites avec ta famille?	Speaking about one's family
12	Lesson 12 Qu'est-ce que vous avez fait?	Past tense 1
13	Examination Lesson 13 Où allez-vous ce week-end?	Examination Asking about one's plan
14	Review of examination Lesson 13 Est-ce que vous êtes sorti ce week-end?	Review of examination Past tense 2

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1st week: Homework and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of expressions for sightseeing and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for directions and preparation for the next lesson

5th week: Review of expressions for activities and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Homework and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Reviews of expressions for family members and preparation for the next lesson

10th week: Reviews of expressions for E-mail and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for destination and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of the past tense

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

The same textbook that is used during the first semester:

Spirale, Nouvelle édition, Gaël Crépieux, Philippe Callens, Tomoko Takase, Jun Negishi, Hachette, 2015

[References]

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999 年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

[Grading criteria]

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%.

If the term-end examination is not possible to organize, the grade will be given on the basis of the accumulation of assignments.

The students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral class activities. Active participation in role-playing is important.

[Changes following student comments]

The covid 19 situation has caused some problems on a larger or smaller scale: confusion of schedule because of the alternation of online classes and face-to-face classes, awkwardness of class activities especially on oral level because of distance between students in the classroom, etc. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

[Others]

The students should also attend Mr.Okamura's course French BII .

[Prerequisite]

None.

LANf100ZA

French B I

Tamio OKAMURA

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。時間のゆるすかぎりフランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

【Goal】

フランス語初級文法の修得。初級レベルのオーラル能力。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

French AI と連動し、教科書『Spirale Nouvelle édition』に関する文法を学習し、練習問題を解く。また『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を使用し、体系的な文法学習を補う。各課終了ごとに小テスト (10 ～ 20 点満点) を行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	講義の趣旨や計画に関する説明。 Initiation(導入)。 -主語人称代名詞 -動詞 aller -男性形と女性形
2	Initiation のつづき	-動詞 être -動詞 aller
3	Leçon 1	-動詞 faire -否定文
4	Leçon 1	-疑問文
5	Leçon 2	-所有形容詞
6	Leçon 2	-名詞・形容詞の男性形／女性形
7	Leçon 3	-動詞 connaître -人称代名詞 on-定冠詞
8	Leçon 3	-定冠詞 1
9	Leçon 4	-動詞 préférer
10	Leçon 4	-定冠詞 2
11	Leçon 5	-不定法
12	Leçon 5	-vouloir の条件法現在
13	Leçon 6	-形容詞の男性形／女性形 2 -trouver の用法
14	期末テストと総括	期末テスト

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

前回の復習。ときどき宿題。各課終了ごとに小テストを出すのでその準備をすること。Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラール日本人初学者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』（アシェット・ジャポニ、2015 年）
『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』（白水社、2003 年）

【References】

講義内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 50% + 期末試験 50%

具体的な方法と基準は、French AI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French AI と交互にレリーしながら使用するので、必ず French AI と合わせて履修すること。なお BI では『フランス語トレーニング・コース』も使用する。初回から 2 冊の教科書を使用するので、生協で購入しておくこと。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100ZA

French B II

Tamio OKAMURA

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

日本人教師とフランス人教師が行う授業です。テーマに即した会話のパターンを聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年)
3	Leçon 7	科目について話す 時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Review & Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	詳しくきく
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	習慣について話す
13	Test & Wrap-up	期末テスト
14	Révisions	期末テストの返却と答えあわせ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

宿題（書く練習をする） Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラール 日本人初学者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』(アシェット・ジャボン)

『新版 3段階式フランス語トレーニング・コース』(白水社)

【References】

授業内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 %

具体的な方法と基準は、French BI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French A II と交互にレリーしながら使用するので、必ず French A II と合わせて履修すること。初回から教科書を使用するので、生協で購入しておくこと。
2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANs100ZA

Spanish A I

Taiga WAKABAYASHI

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

Please note that the first week will be offered online to avoid overcrowding the classroom. The Zoom URL for the first class will be announced on Hoppii Learning Assistant System before the semester begins.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
	Alphabet	The Spanish alphabet
2	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
3	Gender, Singular and Plural	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
4	Definite and Indefinite Articles	Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
5	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
6	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
7	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
8	Mid-term Exam	Practice of self-introduction in Spanish
	Self-introduction	Asking and telling the place of origin
9	Conjugation of the Verb “estar”	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition
	Expression of Existence	The phrase “Hay ...” which expresses “There is ...”
10	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
11	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
12	Expression of Time I	Expression of time to say “at ... o'clock”
	Numbers I	Numbers from 1 to 12

13	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary using a dictionary.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）、2011 年、2,310 円（税込）
ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』（小学館） is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish A II

Taiga WAKABAYASHI

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
 Day/Period : 金 5/Fri.5
 Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
 Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives (“mi”, “nuestro/a”, “tu”, “vuestro/a”, “su”) Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity (“tener que ...”)
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns (“me”, “nos”, “te”, “os”, “lo/le/la”, “los/les/las”)
5	Verb “gustar”	Use of the verb “gustar” which expresses “like (to) ...” or “love (to) ...”
6	Other Verbs of “gustar” Type	Verbs of “gustar” type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun “se”
8	Mid-term Exam Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say “It’s ... o’clock” and “do ~ at ... o’clock” Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
12	Months	Names of months in Spanish
13	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

14 Final Exam & Wrap-up Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）、2011 年、2,310 円（税込）
 ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』（小学館） is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BII と同セメスターで履修すること。
 2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish B I

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Guidance to the class
	Alphabet	Spanish alphabet
	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
2	Gender, Singular and Plural of Nouns	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish
3	Definite and Indefinite Articles	Singular and plural form of nouns Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
4	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
5	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
6	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
7	Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
8	Conjugation of the Verb “estar”	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition
	Expression of Existence	The phrase “Hay …” which expresses “There is …”
9	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
10	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
11	Expression of Time I	Expression of time: “at … o’clock”
	Numbers I	Numbers from 1 to 12
12	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
13	Numbers II	Numbers from 13 to 30 Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam

14 Review and Final Exam

Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』 (小学館)

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010 年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用したのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish B II

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives (“mi”, “nuestro/a”, “tu”, “vuestro/a”, “su”) Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity (“tener que …”)
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns (“me”, “nos”, “te”, “os”, “lo/le/la”, “los/les/las”)
5	Verb “gustar”	Use of the verb “gustar” which expresses “like (to) …” or “love (to) …”
6	Other Verbs of “gustar” Type	Verbs of “gustar” type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun “se”
8	Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say “It’s … o’clock” and “do ~at … o’clock” Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense) Months	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense Names of months in Spanish
12	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

13	Differences between Indefinite and Preterite Past Tenses	Proper use and differentiation of the indefinite / preterite tenses Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Work to be done outside of class": "Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』(小学館) 等

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010 年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用するのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA

Chinese A I

Yuko TAKADA

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This is for learners with little or no prior knowledge of the Chinese language, or for those who wish to review basic skills.

【Goal】

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

Topics include:

- Pronunciation of Chinese as romanized in *Pī nyī n* (拼音)
- Greetings and farewells
- Introducing oneself, friends and family
- Basic grammar of contemporary Chinese

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Giving basic personal information
- Communicating through simple questions and answers
- Basic grammar terminology and structures.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and overview.
2	Lesson 1	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pī nyī n</i> (拼音) 1
3	Lesson 3	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pī nyī n</i> (拼音) 3
4	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
5	Lesson 5	Greetings and introducing oneself
6	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
7	Lesson 7	Basic grammar terminology and structures 2
8	Lesson 9	Basic grammar terminology and structures 4
9	Lesson 11	Basic grammar terminology and structures 6
10	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
11	Lesson 13	Sentences with a predicate verb “shì” (是) 2
12	Lesson 15	Sentences with a predicate verb “yǒu” (有) 2
13	Lesson 17	The action-measure complement

14 Examination & Generalization
Wrap-up Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*. Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級 改訂版)

【References】

Materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Grading will be based on weekly tests (30%) and term-end exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

【Changes following student comments】

Using e-learning every week

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA

Chinese A II

Yuko TAKADA

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This is for learners who have already attended the Chinese AI course.

【Goal】

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

Topics include:

- Numbers/time/dates
- Description of daily activities

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Communicating through simple questions and answers
- Following instructions in the target language.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Lesson 19	Perfect aspect
2	Lesson 21	Past experiences
3	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
4	Lesson 23	Adverbs
5	Lesson 25	Comparative sentences 2
6	Lesson 27	Nominal predicate sentences 2
7	Lesson 29	Adjectival clause
8	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
9	Lesson 31	Modal complement
10	Lesson 33	Resultative complement
11	Lesson 35	Potential complement
12	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
13	Lesson 37	Imperative sentences
14	Examination & Wrap-up	Generalization Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*. Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級)

【References】

Materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Grading will be based on weekly tests (30%) and final exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

【Changes following student comments】

Using e-learning every week

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA
Chinese B I
Shota WATANABE
Credit(s) : 1 Semester : 春学期授業/Spring Year : 1～4
Day/Period : 木 4/Thu.4
Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Spring 学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。

・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。

・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第三課あるいは第四課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文 (二) [这是什么?]、動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?]、動詞述語文 (五) [这儿有邮筒吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]

12	復習	Spring 学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・予習／復習の時間は毎回 1 時間を標準とする。

・After every class, students review the items you have already learned.

In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店) 2010 年

【References】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華 (他) 2019 『実用現代漢語語法 (第三版)』 北京：商務印書館

・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 東京：同学社

・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』 東京：東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。

小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

・必ず Chinese A I と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・After every class, students review the items you have already learned.

In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading criteria】

・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100ZA

Chinese B II

Shota WATANABE

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) Fall 学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:
(1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
(2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
(3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
(4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]
・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。
・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答すること随時フィードバックを行う。

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	既習項目 (第一課~第二十課) の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	Fall 学期の学習項目の総復習

13 HSK2 級問題 HSK2 級問題の紹介・解説

14 総括 これまでの学習内容の総括を行う

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・予習／復習の時間は毎回 1 時間を標準とする。
・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)
・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]
大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

[References]
有用な文法書として以下のものをあわせておく。
・劉月華 (他) 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
・相原茂 (他) 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同学社
・守屋宏則 (他) 2019『やさしく かわいい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

[Grading criteria]
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

[Changes following student comments]
文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ設けるよう心掛けたい。

[Equipment student needs to prepare]
デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

[Others]
・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
・必ず Chinese A II と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

[Prerequisite]
None.

[Outline (in English)]
[Outline]
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]
The goals of this course are as follows:
(1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
(2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
(3) Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
(4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)
・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Grading criteria]
・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LIN100ZA

English in the Movies

Megumi KOBAYASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Movies are not just a source of entertainment, but can also serve as a great resource to raise awareness about language as well as its sociocultural contexts. In this course, you will be introduced to various aspects of language through movies, drawing examples primarily from English. Some topics include: language and society, regional dialects, accent stereotypes, language and gender, and language play, etc.

【Goal】

Upon completion of this course, students will:

- 1) Be familiar with some basic (socio) linguistic aspects of English and other languages
- 2) Become aware of various dialects of English and how they are used in movies
- 3) Have a more analytical perspective on language presented in movies

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

You will be assigned a set of reading materials in advance, which will provide some background information about the topic in focus. A comprehension quiz based on the reading will be given at the beginning of the class to make sure you have a basic understanding of the topic. Then the topic is explored with an additional lecture and presentations of selected movie clips, accompanied by pair/group work and discussions to promote further understanding. Toward the end of the semester, students will analyze a movie of their choice and present it in class. Feedback for assignments will be given either individually (paper/LMS) or shared during the class. Actual lesson plans and contents may be modified based on the number of students enrolled and their preferences/progress.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Course guidance, pre-course questionnaire
2	US vs UK English	Major two dialects of English (e.g., Love Actually)
3	Language and Social Class	Situation in the UK (My Fair Lady)
4	Language and Identity	Follow up of lesson 3 (My Fair Lady)
5	Language and Stereotypes	Accent representation in Disney movies (e.g., Lion King), race issues
6	Language and Ethnicity	World Englishes in movies (e.g., My Big Fat Greek Wedding)
7	Language and Gender	Female vs male speech (e.g., Legally Blond)
8	Language and Code	Language play, secret message (e.g., Harry Potter series)
9	Non-verbal Communication	Gestures, body language (e.g., Inglorious Basterds)
10	Language and Translation	Art of translation, misunderstanding between speakers of different languages (e.g., Lost in Translation, Spanglish)
11	Presentation (1)	Students groups will give presentations
12	Presentation (2)	Students groups will give presentations
13	Presentation (3)	Students groups will give presentations
14	Review	Submitting individual movie report, overall review of the course content

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the reading assignments before class. Much of the preparation for the end of the term presentation, as well as writing a reflection paper, must be done outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading assignments and handouts will be provided by the instructor.

【References】

N/A (Suggestions for further readings will be provided in class).

【Grading criteria】

The final grade will be based on the following criteria: class participation 20%, quizzes 25%, reflection paper 25%, presentation 30%.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

N/A

【Prerequisite】

None

SOC100ZA

Cultural and Ethnic Diversity in Japan

Kyung HEE HA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course discusses and examines cultural and ethnic diversity in Japan as institutional, interpersonal and internalized experiences.

[Goal]

At the end of this course, you should be able to:

- Explain such concepts as race/ethnicity, nationalism, minority and diversity
- Explain historical and contemporary issues faced by the indigenous Ainu and Ryukyuan people, former colonial subjects and their descendants, as well as recent immigrants, refugees and asylum seekers
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Understand and analyze a complex set of privileges we live with and how differently we are situated in the society accordingly
- Envision different ways to realize equality and equity

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on 1 presentation on weekly readings. Further directions will be given in class. Verbal and written feedback will be given on assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Myth of Homogenous Japan	Course overview, racial/ethnic composition of contemporary Japanese society
2	Context and Background	"Introduction: social division and exclusionism in contemporary Japan:
3	Japan's Outcast Group: Buraku	Ian J. Neary, "Chapter 4: Burakumin in contemporary Japan" (pp. 59-83)
4	Guest lecture	Burakumin today (Tami Kamikawa, Buraku Heritage)
5	Japan's Indigenous Peoples	Richard M. Siddle, "Chapter 2: The Ainu Indigenous people of Japan" (pp. 21-39)
6	(Post-)colonial minority	Joel Matthews, "Chapter 2: Historical structures of exclusion and the colonial Korean (Zainichi) diaspora in modern Japan"
7	State and Societal Discrimination	Wooki Park-Kim, "Chapter 3: Ethnic "Korean schools" confront discrimination, hate speech and hate crime: exclusionism from "above and below" in contemporary Japan" (Conference with Chosun Uni students: TBD)
8	Newer Immigrants	Eriko Suzuki, "Chapter 7: Expanding exclusion: from undocumented residents into "imposter" residents"
9	Post-1990s: Dawn of "multicultural coexistence" (tabunka kyosei) policy	Chikako Kashiawzaki, "Multicultural Discourse and Policies in Japan: An Assessment of Tabunka Kyo-sei," The Gakushuin Journal of International Studies (2016), 3: 1-15.
10	Tabunka Kyosei examined	Workshop: Are the existing programs really accessible and inclusive?

11	Tabunka Kyosei assessment	Group presentation on the findings and analyses
12	Refugees and Asylum Seekers	Eri Ishikawa, "Chapter 8: On the refugee and asylum seeker situation in Japan from the standpoint of social exclusion"
13	Guest Lecture	On their experience of being asylum seekers in Japan
14	Mixed Japanese	Lawrence Yoshitaka Shimoji and Chiho Ogaya, "Chapter 6: Exclusionism targeting international marriage couples and their children"

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Weekly reading and group project. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Complete all readings prior to attending class in order to make meaningful contribution to discussion.

[Textbooks]

Cultural and Social Division in Contemporary Japan Rethinking Discourses of Inclusion and Exclusion, Edited By Yoshikazu Shiobara, Kohei Kawabata, Joel Matthews, Routledge, 2020, 6510 yen (kindle). Other reading materials will be distributed by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Active Participation: 40%

Group Presentation: 30%

Final Exam: 30%

[Changes following student comments]

The instructor will distribute assessment sheets to incorporate students' feedback.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

Students are allowed 2 absences. These include medical reasons, job interviews, family emergency and train delays. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If you miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. You must complete all the assignments to pass the course. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester. Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated.

[Prerequisite]

None.

PSY100ZA

Developmental Psychology

Sayaka AOKI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course introduces basic topics/theories of developmental psychology, specifically focusing on how “typical” individuals develop from infancy to adolescence as well as sharing characteristics of individuals following “atypical” development. Students will also develop skills for analyzing social phenomena and reflecting their own personal experiences from the perspective of developmental psychology.

[Goal]

Through this course, students are expected to:

- understand how “typical” individuals develop from infancy to adolescence, in different aspects (cognitive and social/emotional)
- learn some fundamental theories proposed by developmental psychologists, such as Piaget and Bowlby
- acquire some knowledge about developmental disorders and childhood mental disorders, including autistic spectrum disorders, attention deficit and hyperactivity disorder (ADHD), learning disorders, Down's syndrome, etc.
- develop skills of analyzing social and personal experiences from perspectives of developmental psychology
- build abilities to apply what one learned in classrooms to understand real-world psychological phenomena
- increase skills for expressing ideas about human behavior in English, through oral discussions and reflection papers

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Each week, students will learn concepts/theories of developmental psychology through a lecture and an oral discussion. When sharing ideas during oral discussions, students are expected to integrate knowledge acquired through the lecture as well as their own insight from daily life experiences. At the end of each class, students are asked to write a brief reflection paper, which is graded and returned by the beginning of the next class, with a comment from the lecturer. In the reflection paper, students are also encouraged to ask questions, which are shared anonymously and answered in the next class. Exams are held in the middle and at the end of the semester.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Course overview
2	Human's early development	Development in infancy and early childhood
3	Cognitive development (1)	Piaget's theory
4	Cognitive development (2)	Vygotsky's theory
5	Cognitive development (3)	Development of information processing
6	Social emotional Development (1)	Development of social interaction
7	Mid-term exam & Review	Assessing the degree to which students understand the subject
8	Social emotional Development (2)	Development of emotional recognition and expression
9	Social emotional Development (3)	Theory of attachment
10	Atypical development (1)	Intellectual disability/Learning disorder
11	Atypical development (2)	Autistic spectrum disorders
12	Atypical development (3)	Attention-deficit and hyperactivity disorder (ADHD)
13	Atypical development (4)	Other childhood disorders and review
14	Final exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the course slides uploaded on the course website prior to attending the classes. Time to spend for preparatory study, review, and homework completion for this class is 2 hours each week.

[Textbooks]

No textbook is used. Reading assignments, including journal articles and book chapters, along with links to websites, will be uploaded on the course website.

[References]

Kipp & Shaffer (2013) *Developmental psychology: Childhood and adolescence*, 9th edition. Wardsworth publishing.

[Grading criteria]

Mid-term exam 35%; Final exam 35%;

Reflection paper 20%; Participation and discussion 10%

[Changes following student comments]

For some students, it seems difficult to learn a lot of new concepts. Therefore, to understand the contents fully, students are encouraged to ask questions when they are unsure about what they listened to/read. This class seems to facilitate one's learning a lot, especially for students who like to learn from discussion and reflection.

[Prerequisite]

None.

CUA100ZA

Media Studies

Zeliha MUGE IGARASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

What are the effects of computers, cell phones, and television in our lives? Does the way we receive news or other information alter our perceptions of current events? Do our relationships with friends change depending on how we communicate with them, whether by phone, email, Facebook, Twitter, or LINE?

The way we interact is mediated by communication technologies. This class is an introduction to media studies focused on how media has evolved and how it has come to shape and transform the way we communicate.

【Goal】

1. Introduce the history of major media and communication technologies.
2. Provide students with theoretical frameworks to understand and interpret media's effects.
3. Build fundamental skills of media literacy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each course begins with a historical introduction for a better understanding of mass communication and its evolution.

We will discuss a variety of media forms (print, sound, film, internet), their evolution, and their impact on culture.

The last few weeks will focus on changing trends in media culture by looking at topics such as advertising, online gaming, and virtual reality. Classes will include analyses of various media forms throughout the semester.

Students are always encouraged to share their views and interesting media content during class or through the Google Classroom stream.

Students are always welcome to send in questions by e-mail, these will be addressed at the beginning of each class.

Individual feedback on assignments and examinations will be provided through Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Description of the course.
2	Introduction to Mass Communication	Introduction to the field of mass communication.
3	Media Literacy	An introduction and exercises analyzing various types of media.
4	Texts and Print	The historical evolution of the printing press and its significance.
5	News and Journalism	Early history of news journalism and its transformation.
6	Sound and Recording	Early history of sound recording and the music industry.
7	Intellectual Property and Piracy	Piracy and the music industry. Copyright, fair use, and sampling.
8	Early Film	The history of early film. From photography to motion pictures.
9	Contemporary Film	Genre theory and product standardization.
10	The Internet	The history of information revolution and online cultures.
11	Video Games	Gaming cultures and the virtual world.
12	Discussion Session	1. Internet addiction 2. Relation between democracy and the internet.
13	Advertising	Brand logic and persuasive strategies.
14	Final Exam & Wrap-up	In-class final exam and review.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete assigned readings before each class and regularly review current news in the fields of media and technology (suggested sources to be provided by the instructor). Preparatory study and review time for this class is two hours per week.

【Textbooks】

The text book is available at the library but readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

【References】

Campbell, Richard, Christopher R. Martin, and Bettina Fabos. 2017. Media & culture: mass communication in a digital age. 11th edition. Bedford/St. Martin's.

【Grading criteria】

Participation 15%
Reports 20%
Discussion Session 15%
Midterm Exam 25%
Final Exam 25%

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

POL100ZA

Introduction to Development Studies

Norio USUI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Why do we need to extend aid to developing countries? If needed, how can we support growth and development of recipient countries? Do we really know what prevents growth and development (poverty reduction) in developing countries? If not, how can we know them, and then how to develop aid strategy based on the identified constraints? If development aid contains lending, how can we assess debt repayment capacity of a recipient country? Can projects financed by our aid attain expected goals? How can we measure the impact of an aid-funded project that can be attributed to the project? The course aims to answer these critical questions in development aid policy. After reviewing the traditional development paradigms — Structural adjustments and Washington consensus (confusion), the course focuses on the emerging 3rd generation of development paradigm, which emphasizes “diagnostics” and “evaluation” in formulating an effective development aid policy. A unique feature of the course is its intensive uses of case studies to deepen students’ understanding.

[Goal]

Students who have taken this course should be able to:

- (1) understand how development aid is designed to resolve challenges in developing countries;
- (2) understand how development paradigms have been evolving and how the changes in development paradigms have affected development organizations’ operational strategies;
- (2) develop analytical skills to analyze development challenges and formulate an effective aid (and development) strategy.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The intent of this course is to expose the student to a range of ideas and issues in aid and development policy through an interactive learning process. Students will be provided an opportunity to learn, think and discuss broadly and deeply about aid and development issues through lectures, discussions, group work, presentations and homework. Comments will be provided to assignments. Good works will be presented in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Guidance	Course guidance and introduction to development studies
2	Why are we so rich but they so poor? Why is development aid needed?	Poverty reduction requires growth, which can be constrained by lack of financial resources, recipient's capacity, and poor governance
3	Two gap theory (1st generation paradigm)	'Ghost' of the financing gap
4	Original and augmented Washington consensus (2nd generation paradigm)	Is everything important to grow and develop?
5	Growth diagnostics (3rd generation paradigm)	A new approach focusing on only binding constraints
6	How the growth diagnostics work?	Case study 1: Pakistan
7	How the growth diagnostics work?	Case study 2: Philippines
8	Aid inflows induce the Dutch disease?	A dilemma of aid
9	How to measure project impact?	A dilemma of 'before and after comparison
10	Randomized control trials (RCTs)	How to create treatment and control groups?
11	How the impact evaluation work?	Case study 1: Philippines' conditional cash transfer
12	How the impact evaluation work?	Case study 2: Mosquito nets for Malaria prevention

- 13 Recap: Core features of the new development (aid policy) paradigm
- 14 Final exam & wrap up

Final exam & wrap up Final exam & wrap up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required, but students are highly recommended to review readings from the reference listed below. Necessary reading material will be provided during the class.

[References]

- Banerjee, A., and E. Duflo (2012), Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty, PublicAffairs. (for Classes 9-12)
- Rodrik, D. (2006), “Goodbye Washington Consensus, Hello Washington Confusion? A Review of the World Bank’s Economic Growth in the 1990s: Learning from a Decade of Reform. (for Class 4)
- Hausmann, R., D. Rodrik, and A. Velasco. (2005), “Growth Diagnostics”, John F. Kennedy School of Government, Harvard University (for Classes 5).
- Felipe, J., N. Usui, and A. Abdon (2011), “Rethinking the Growth Diagnostics Approach: Questions from the Practitioners”, Journal of International Commerce, Economics and Policy, 2 (2): 251-276. (for Classes 5-7)
- N. Usui, “Aid Induced Structural Change in Developing Countries: An Extension of the Two-Gap Model”, Singapore Economic Review, 41 (2): 53-66, 1998. (For Class 8).
- N. Usui, “Searching for Effective Poverty Interventions: Conditional Cash Transfer in the Philippines”. 2011, Asian Development Bank. (for Class 11).

[Grading criteria]

The following criteria will be used to evaluate students:

- Class contribution (ex. Questions, Presentations, Discussions) 30%
- Reaction papers and homework 30%
- Final Exam 40%

[Changes following student comments]

Student requests and comments will be taken into consideration.

[Others]

Week 1 attendance is mandatory to register for this class.

Including attendance in week 1, more than 2 unexcused absences will result in failure of this course. An overall score of 60% or more is needed to pass this course.

[Prerequisite]

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

SES100ZA

Introduction to Environmental Science

Ayami OTSUKA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This is an introductory course in environmental studies: the course introduces students to the basic knowledge of environmental science and environmental policy. Students will learn basic principles around natural scientific mechanism of specific environmental problems, such as water, waste, energy, climate change, and biodiversity, that are considered as most pressing of our time. The lectures will also emphasize the socio-economic mechanism that are often at the root of the environmental problems. Through the case studies, the course also aims to introduce students to the UN 2030 Agenda for sustainable development on these issues. Mini tours on environmental facilities on/off campus will be arranged to help students connect the theories with the reality, if the situation allows.

【Goal】

Students will be able to

- explain basic scientific mechanisms of major environmental problems;
- explain the root mechanism why such environmental problems occurs; and
- gain perspectives needed to critically think about and seek solutions for these problems and bring sustainable society.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted in mixture of lecture-based learning and more active involvement of students in class discussions etc. Mini discussions, mainly based on the assignments, are conducted in lectures throughout the course. Feedback on students' work (on assignments and reflections, etc.) is given in class and/or through the Hosei Learning Management System. Field work and/or a tour of environmental facilities is planned, although this may be changed depending on the situation around Covid-19. Please note that the teaching approach may vary according to the university/GIS policy.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Guidance	Setting the context: what is environment, environmental problems, and environmental/sustainability studies?
2	Human activity and environmental problems	Origin of Environmental pollution in Japan
3	General mechanism of environmental problems	From environmental economics perspectives
4	Rise of environmental policies	Environmental policies (in Japan and abroad)
5	Water issues	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered
6	Land and biodiversity	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered
7	Waste management	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered
8	Air Pollution	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered
9	Climate change/Energy	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered

10	Environmental Management	Environmental management systems and CSR activities by business community
11	Linking knowledge and practices	Tour of environmental facilities
12	Environmental assessment	Environmental impact assessment, life cycle assessment, and environmental valuation
13	A road to sustainable development?	Balance between economic, social and environmental issues
14	Final exam & wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to work on reading and/or research assignments in preparation for the lectures and to review class materials after each class. The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook for this course. Handouts and other relevant materials will be distributed by the instructor.

【References】

Robertson, Margaret (2021). Sustainability Principles and Practice (3rd edition). Oxon and New York: Routledge.
Cunningham, William, and Cunningham, Mary Ann (2018). Environmental science: a global concern (14th ed.), McGraw-Hill Education

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Participation and attitude (35%)
2. Evaluation of assignments/quizzes (25%)
3. Final Exam (40%).

Students are required to meet satisfactory grade for each element to receive a grade.

【Changes following student comments】

· The method of discussion will be changed from groupwork to more frequent group discussions based on student comments from class questionnaire.

· The language used during the tour of environmental facilities will likely be Japanese. Alternative contents will be given for those who chose not to participate in the tour due to language barriers and/or holding permission to fully take online lectures for Covid-19 reasons. Details will be explained in the class.

【Prerequisite】

None.

MAN100ZA

Principles of Business Management

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Principles of Business Management is an introductory course that brings students up to date on how business models are structured through the development of management science in the 21st Century. In this course we will also look at how companies develop and manage their strategic goals to meet long-term goals.

[Goal]

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. The skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give them a better understanding of the world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Principles of Management and Globalization	Introduction to the principles of management and globalization.
2	Mission, Strategy, Objectives and Organizational Structure	Discuss the mission, strategy, objective and organizational structure of a company.
3	Organisational Culture	Discuss the different types of organisation cultures.
4	Leadership	Discuss the different types of leadership styles.
5	Business Models I	What is disruptive Technology? Discuss about different business models using case studies of companies.
6	Business Models II	Analyse more examples of how Design Thinking was applied.
7	Decision Making and Control	Discuss how decisions are made and internal controls are in place to have a favourable outcome.
8	Review of Class Materials	Review of class materials.
9	Cashflow Management	Discuss the importance of cashflow and analyse a company's cashflow statement.
10	Organisational Behaviour	Discuss the types of organisational behaviour in a company.
11	Motivation	How do companies motivate employees? Discuss the different theories on how to motivate employees.
12	Human Resource Management	Discuss the role of human resource and discuss the strategies used by human resource to manage employees to meet long-term strategy.
13	Discussion and Review	Review of class materials
14	Wrap-up & Review of Class Materials	Review of class materials.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles are highly recommended. Homework will be given. Slides and related articles should be read before class.

[Textbooks]

Reference on reading materials will be provided in class. Electronic slides will be provided.

[References]

Reference on reading materials will be provided in class.

[Grading criteria]

15% Quizzes
15% Projects / homework
35% Midterm exam
35% Final examination

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

None.

[Prerequisite]

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2022 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: understanding the interdisciplinary nature of tourism and its importance
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy

8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures. To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2022 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: understanding the interdisciplinary nature of tourism and its importance
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy

8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Considering the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA

Information Studies

Alfons JOSEF SCHUSTER

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 2/Wed.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Information study is an interdisciplinary science with a wide range of interests and goals. A major element in the field is concerned with fundamental information processes such as the acquisition and collection of information, the classification and storage of information, the manipulation and retrieval of information, as well as the analysis, dissemination, usage, and maintenance of information. Although information has attained a very important role in the world around us, it is a concept that is very difficult to define. This course tries to familiarize students with the history and evolution of the field of information study. Students completing the course will recognize the aims and goals of fundamental information processes. They will learn to analyze, evaluate, and appreciate the value information study provides, and they will understand today's information society and modern technology from an information perspective.

【Goal】

By the end of the semester, students should: (i) be familiar with the history and evolution of the field of information study, (ii) understand fundamental information processes, (iii) have acquired an understanding about the notion of information from various points of view, and (iv) be able to reason about modern society and modern technology from an information perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, assignments, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, each class provides an opportunity for students to engage actively in a discussion related to current issues in information studies.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and course requirements.
2	Information Society and Information Revolution (1)	A brief introduction to information society and the information revolution.
3	Information Society and Information Revolution (2)	A brief introduction to information society and the information revolution.
4	The Language of Information	Understanding data, information and knowledge. A roadmap of information concepts.
5	Mathematical Theory of Information	Shannon's interpretation of information.
6	Physical Information	Life and entropy.
7	Biological Information (1)	Genetic code and genetic engineering.
8	Biological Information (2)	Brains and artificial neural networks.
9	Economic Information	Interpretations of information from the point of view of game theory.
10	Information Ethics	Responsibility in information environments.
11	Modern Information Environments (1)	Complex systems, the Internet, cyberspace.
12	Modern Information Environments (2)	Big data, machine learning, and artificial intelligence.
13	Information Future	Possible directions of information culture and information society.
14	Examination & Wrap-up	Outlook. Final tips; final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

(1) Reading. Students are expected to read the course textbook and other materials carefully in order to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class.

(2) Assignments. Students are given several assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Luciano Floridi, Information: A Very Short Introduction (Oxford: Oxford University Press, 2010) ISBN-13: 978-0-19-955137-8.

【References】

In addition to Floridi's book, we use newspaper and journal articles, science fiction short stories, videos, as well as other materials in this course.

【Grading criteria】

Assignments: 50%

Final Exam: 50%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA

Information and Society

May Kristine Carlson

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Information is now a fundamental feature of the human experience: we consume, produce, and use it to make important decisions. In this course, we will be approaching information studies from the lens of human-computer interaction, data visualization, and analytics. We will be introducing the students to various aspects of information and society: our changing views, how we utilize it, the effects of technological advancements, and our responsibility.

【Goal】

At the end of this course, the students are expected to apply critical thinking to exercise responsible digital citizenship. They should be able to discuss how information affects them as individuals and as a society, evaluate information credibility, and exercise caution in presenting information.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class will be kicked off with a short, retention check quiz. This will be followed by lectures, discussions, and activities covering the topics given in the weekly schedule. Each class will close with knowledge shares from students. Feedback will immediately be provided.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	An overview of the entire course will be introduced starting with the question, “What is information?”
2	Evolution of Information	A historical overview of the evolution of information will be presented: how was it disseminated and how has it grown through time.
3	Information Stakeholders	Custodianship, ownership, and access will be discussed.
4	Argumentation and Information	Critical thinking concepts such as fallacies will be reviewed. Examples where information was used for faulty argumentation will be presented.
5	Human Factors of Information Consumption	Cognitive biases will be reviewed and methods on how these biases were used to influence information consumption will be presented.
6	Information and Public Opinion	Landmark cases where information has swayed public opinion, both for the good and for the bad, will be discussed.
7	Midterm Reflection	Students will write a one-page reflection on the lessons learned thus far and will be given five minutes to present their reflection in class.
8	Big Data and AI	Big data in key sectors such as healthcare, education, and national security will be introduced. Enablers of big data (e.g., increased computing power, internet) will also be discussed.
9	Data and AI Ethics	Examples of algorithms and practices used with information and how they can potentially threaten the society will be presented.
10	Information Security	Information security (confidentiality, integrity, and accessibility) along with its related concepts (cybersecurity, cryptography) will be introduced.

11	Digital Footprint	Landmark cases where digital footprints were used, both for the good and for the bad, will be discussed.
12	Future of Information	Expert predictions on how the future will change as we advance in the knowledge economy will be explored.
13	Responsible Digital Citizenship	Protective and ethical measures to prevent misinformation and promote healthy information activism will be debated.
14	Final Examination and Wrap-up	An open-book closed-response timed exam will be administered.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the relevant material for the week prior to class to promote lively discussion. Students may optionally prepare short reports for knowledge sharing in advance. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All reference materials will be made available at the start of the term.

【References】

These texts are recommended but not required:

Tufte, E. R. (1990). Envisioning information. Graphics Press.

Mackenzie, I. S. (2013). Human-Computer Interaction. An Empirical Perspective.

O’Neil, C. (2016). Weapons of Math Destruction: How Big Data Increases Inequality and Threatens Democracy.

【Grading criteria】

Quizzes: 30%

Participation: 30%

Midterm Reflection: 20%

Final Examination: 20%

【Changes following student comments】

None

【Prerequisite】

None

SOC200ZA

American History and Society

Robert SINCLAIR

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture and society of the United States, focusing primarily on events of the 20th and 21st century. A central theme will be the idea of America as a place of unlimited possibility and opportunity. This idea presents the United States as a new type of social experiment, where true freedom is available and where everyone can look to a better future. As we examine this perspective on America, we will further explore the conflict between American ideals and social reality as seen in the tensions between continuity and change, individualism and community, consensus and diversity.

【Goal】

Students will acquire knowledge about various aspects of America and American life, including its history, geography and political system, as well as its economic, educational, social and foreign policy. Students can then expect to (1) acquire general knowledge of the society and people in contemporary America, (2) learn how America developed from a small British colony into a major superpower, and (3) examine the new realities facing America and its global influence.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related material and have two written examinations. Concerning assignments, students will receive feedback in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	America, idea vs. reality, organization of the course, selection exam
2	History (1)	Birth of a Nation, American Revolution and Constitution, Civil War, Reconstruction, Gilded Age
3	History (2)	Progressive Era, The New Deal, rise as a superpower, The Cold War, recent developments
4	Land and People	Native Americans, African Americans, immigration
5	US Political Institutions	The US Constitution, Federal Government, branches of government
6	US Religious Culture	US religions, church and state, religion and education
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	US Education	The American education system, education and democracy, recent problems
9	US Economy	Economic Liberalism, social class and economy, the contemporary economy
10	US Foreign Policy (1)	Current attitudes, history of American foreign policy until WWI
11	US Foreign Policy (2)	History of American foreign policy to recent times
12	US Social Services	History of social services, organization, public vs. private services
13	US Culture: Arts, Sports and Leisure	History, the arts, sporting activities and leisure
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Contemporary America. 4th edition, Russell Duncan and Joe Goddard, 2013, Palgrave Macmillan.

American Civilization: An Introduction, 7th Edition, David Mauk and John Oakland, 2017, Routledge.

【References】

A - Z of Modern America, Alicia Duchak, 1999, Routledge.

Oxford Guide to British and American Culture, Jonathan Crowther, 2005, Oxford University Press.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) and two exams (75%).

【Changes following student comments】

Some of the topics and readings covered in the class have been changed.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA

Sociology of Work and Employment

Allen KIM

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is broadly concerned with the sociological analysis of work and society. Frequently, the first question we ask when we meet someone is “What do you do?” For many, the routine cycle of getting up, getting dressed, going to work and returning home to repeat the cycle the following day is common in contemporary industrialized economies. We devote many hours on the job. Work has powerful effects on both economic and social wellbeing. This course explores the sociological study of both the structure and nature of work, major economic changes including globalization, and concerns of workers such as earnings, promotions, personal finance, the “gigged” society, unemployment and the balance between work and family. We will examine broad topics including: education, the social organization of work, employment trends, inequalities at work, and the purpose of work as it relates to opportunity and rewards. Critical reading of texts, cogent writings, articulate oral presentations, and full participation in dialogue are all mandatory. Class assignments will measure your ability to grasp and apply the sociological perspective from readings and from information emerging from class discussions. Analytical projects provide opportunities to pursue interests in greater depth.

[Goal]

Through this course, students will acquire the basic sociological tools to analyze the development and impact of work and employment by learning the key concepts and theories used in social analysis and applying them in written assignments and discussions. Through the various assignments in this class, students will develop critical thinking, writing, discussion, and research skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Lectures are conducted weekly to introduce students to key concepts, theories, and research related to each topic. Students will interview professionals outside of the classroom setting. Short discussions are also integrated into the lectures to help students learn and apply the concepts and theories. In addition, there are also formal small group discussions for which students have to prepare in advance. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	The “Sociological Imagination”	Work and Society
2	Basic Concepts & Theories (1).	Major sociological perspectives
3	Contours of Work	Broad changes and trends of work
4	Industrialization and its Consequences	Rapid social and economic changes
5	Bureaucratic Organizations & Globalization	Mcdonaldization and stratification
6	New Ways of Working	“Gigged society”?
7	Workplace Culture and Socialization	Professionalization
8	Rewards, Perils and Pressures of Work	Concerns of workers
9	Income Inequality	Economic and social wellbeing
10	Unemployment and Income	Disappearance of work and meaning
11	Gender, Family and Work	Balancing work and life
12	Presentations	Class presentations
13	Money and Work	Financial literacy and retirement
14	Occupational Analysis	Interview reports

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to completing assignments and preparing for discussion, students are expected after each class to review class materials, and prepare for their occupation projects and interviews. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials and reading materials will be uploaded or distributed via email.

[References]

TBA

[Grading criteria]

The grade will be calculated as follows: Mini-think Journal (50%), Occupational Analysis Poster (25%), Interview a Professional Report (25%).

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

This is an intermediate level sociology course. A background in the discipline is highly recommended. Students who intend to register for this course are required to attend the first class. A screening test based on the lecture and discussion will be conducted.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Sociology of Law

Kelesha NEVERS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Every aspect of our lives is directly or indirectly regulated by various laws. In this course, students are introduced to the study of law and society from a multidisciplinary and comparative perspective. We will discuss why people (and corporations and other institutions) obey or do not obey laws, and how they act when resolving disputes. We will also study in-depth the ways in which law shapes society, how society influences law, and effectively bringing about social changes.

[Goal]

Upon completion of this course, students should have a better understanding of the role of law in society, and its impact (or lack of it) on individuals as well as society as a whole. Students will learn to analyze and apply abstract principles, and organize new information and their thoughts. Through group discussion and student presentations, students will develop their skills of communication and cooperation, as well as experience the importance of peer-learning.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Throughout the semester, we will discuss specific topics related to law and social change, and the impact of law on society. Students will be expected to read materials concerning the basic concepts and ideas in sociology of law, attend and participate in classroom discussions, and complete assignments based on the readings. Students will also be required to make presentations, and engage actively in class discussion. Students also demonstrate their acquisition and mastery of the course content upon completion of the assessments. For assignments, discussions, and exams feedback is given in the form of comments which is available on the classroom online dashboard; during the lectures, students will also receive feedback to further clarify and develop conversations that arise from the lectures.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General introduction to the topics, objectives, and goals for the semester.
2	Learning the Basics	What is law? Sources and types of law. Functions of law. What is sociology of law concerned with?
3	Why Do (or Don't) We Obey the Law?	Incentive, Punishments and their effects; Evolution of Law
4	Theoretical Perspectives	Functionalism; Marxist/Conflict; Critical Legal Studies
5	Lawmaking	What is the relationship between law and society? What is the relationship between social structure, culture, and law?
6	Midsemester Exam	This proctored exam consists of a short essay, multiple choice, and fill-in the blank questions.
7	Sanctions and Social Control	Is law a tool for domination? How and why the law is mobilized
8	Conflict Resolution and Litigation	The process through which legal disputes emerge? Court and Social Change
9	Law and Social Change	How does law impact society? Should social change precede law reform?
10	Topics on Law and Social Change	Law as the cause of social change. Can we solve social ills by changing the law?
11	Topics on Law and Social Change	Can legal change effectively bring about social change?

12	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students.
13	Presentations and Wrap-up	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students. We will also use this time to address any questions.
14	Final Exam and Wrap-up	The proctored exam will consist of multiple choice, fill-in the blank, and short essay type questions.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to do the reading assignments before coming to class. In addition, reviewing class materials after every class will be a great benefit to your learning. Students should also allocate sufficient time to preparing for their assessments and presentations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials will be provided by the instructor and distributed in class. Readings will be taken from the following book(which you are not required to purchase): Vago, Steven and Barkan, Steven E. (2018). Law and Society (11th edition). New York, NY: Routledge.

[References]

Readings: These materials are posted on the classroom dashboard; any changes to this list will be announced in class and online.

Encyclopedia of Law & Society: American and Global Perspectives - Sociology of Law, Sage Publication, Inc., pages 2-6; The Common Place of Law - Transforming Matters of Concern into the Objects of Everyday Life, Susan S. Silbey and Ayn Cavicchi, pages 556-565; Why People Obey the Law, Tom R. Tyler, Yale University Press, Pages 3-4, 6-7, 19-27; Law in Classical Social Theory - Durkheim and Marx; Contemporary Social Theory and Law - Critical Legal Theory; Lawmaking - Making Hate a Crime - Social Movement to Law Enforcement; Law and Social Change - Social Control; Law and Social Change - Discrimination, the Law - and Blacks in America

[Grading criteria]

Attendance and Preparation for class: 10%

Attendance will be taken each day. A preparation sheet is online - select a topic that interests you and sign-up for when you will lead the discussion for that topic of the day.

Participation: 25 %

Individual and group reflections during class, short written responses where you are asked to define key concepts and/or provide commentaries on videos and article excerpts on the discussion forum, feedback on the presentations

Midsemester Exam: 20 %

This exam covers all the materials discussed up until that point of the semester/midsemester assessment. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

Presentation: 20 %

This is a real-world current event analysis presentation. Students will work with a team to select and present on a topic of interest. The goal is to expand on theories and research discussed throughout the semester to take a position on an issue and discuss the impact on society.

What you need to submit:

Submit PowerPoint slides (10-15 slides maximum) that summarizes/current event, the class material that relates to the topic/current event, and any new research you discovered. The PowerPoint presentation should have a reference page with citations/links of those references (e.g. journal articles, newspaper articles, video links). Your presentations will be recorded and upload online, and will receive feedback from the instructor and students.

Final exam: 25 %

This exam covers all the materials discussed throughout the semester. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

[Changes following student comments]

In order to diversify opportunities for learning, a variety of approaches for the different learning styles are integrated throughout the semester. Feedback from the students will also be incorporated into the lessons and assignments.

[Equipment student needs to prepare]

Internet access (smartphone, tablet, computer).

[Others]

The schedule and format for this course is subject to adjustments (given the number of students who will eventually enroll in this class, students' interests, and/or university policies, etc.).

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Sociology of Violence

Yuki NAKAMURA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In theory and in practice, it is necessary to understand violence to grasp the essential aspects of how individuals and societies work. Violence will be presented as social phenomena to explain the structural and individual aspects of it. The course will examine the different levels of violence through the theories of Zygmunt Bauman, Norbert Elias, Michel Foucault and Johan Galtung among others. It will focus on classical and contemporary sociological theories to familiarize students with traditional topics of concern as well as contemporary key issues.

[Goal]

Students will learn how to connect the methodologies and theories introduced in class by connecting them to current political issues and topics. As members of society, it is indispensable for students to understand themselves and their surroundings. Therefore, the main aim of the course will be to develop in students what C. Wright Mills called the “sociological imagination.”

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Each class will be divided into two parts: the introduction of the topic and the active learning section. By the end of the course, students will have developed the ability to connect social theories with real world problems.

Feedback will be given directly to every student after each task in verbal and/or written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is Violence?
2	Sociological Theory of Violence: Functionalist Theory	Violence will be analyzed from the functionalist perspective
3	Sociological Theory of Violence: Interactionist Theory	Violence will be analyzed from the interactionist perspective
4	Sociological Theory of Violence: Control Theory	Violence will be analyzed from the perspective of Control Theory in Sociology
5	Modernity, State Monopoly and the Civilizing Process	Norbert Elias' and Max Weber's work will be briefly discussed to show how processes of modernization enable the state to systematically control violence
6	Structural Violence and Perpetrator-less Crimes	Social injustice and perpetrator-less crimes will be presented as a form of structural violence throughout the theories developed by Johan Galtung
7	Bureaucracy and Violence	Bureaucracy and the Milgram experiment will be discussed to show how certain social mechanisms enable large-scale atrocities
8	The Problem of Agency	Reinterpretations of the Milgram experiment that emphasize individual action and its unintended consequences will be reviewed
9	Review and Mid-term Examination	Review and Mid-term Examination
10	Case Study: Homicide in Honduras	Recent developments and consequences of the high murder rate in Honduras will be analyzed with the theories and ideas that were presented during the first half of the course

11	The Lesser Evil	Depending on the method and circumstance, counter-measures for crime, terrorism, war and inequality may also be considered as violence. Academic arguments supporting the “lesser evil” view will be addressed
12	Perpetrators, Victims and Bystanders	The relationship between perpetrators, victims and bystanders will be explored by analyzing how social interactions change depending on the situation
13	The Problem of Accountability	The concept of “structure of unaccountability” developed by Masao Maruyama will be presented in relation to the way violence is done in large-scale organizations
14	Final Exam and Conclusion	Final Exam and Conclusion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Read the materials explained during class.

[Textbooks]

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

[References]

Arendt, Hannah. Eichmann in Jerusalem: A Report on the Banality of Evil. New York: Penguin, 2006.
Baert, Patrick. Social Theory in the Twentieth Century. Polity Press, 2004.
Bauman, Zygmunt. Liquid Evil. Malden, MA: Polity, 2016.
———. Modernity and the Holocaust. Cambridge: Polity, 1989.
Foucault, Michel. Discipline and Punish: The Birth of the Prison. Vintage, 2009.
Galtung, Johan. “Violence, Peace, and Peace Research” Journal of Peace Research. Vol. 6, No. 3: pp. 167-191. Sage Publications, 1969.
Goldhagen, Daniel Jonah. Hitler's Willing Executioners: Ordinary Germans and the Holocaust. New York: Vintage, 1997.
Kekes, John. Against Liberalism. Ithaca: Cornell UP, 1997.
Vetlesen, Arne Johan. Evil and Human Agency: Understanding Collective Evildoing. Cambridge, UK: Cambridge UP, 2005.
Zimbardo, Philip. The Lucifer Effect: How Good People Turn Evil. Rider, 2009.
Zizek, Slavoj. Violence: Six Sideways Reflections. New York: Picador, 2008.

[Grading criteria]

40% mid-term exam, 40% final exam, 20% participation and course work

[Changes following student comments]

None

[Others]

Students are recommended to have taken other courses on sociology.

[Prerequisite]

None

SOC200ZA

Gender, Sexuality and Society

Daiki HIRAMORI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments (one-minute papers), neighbor discussions (think-pair-share), and comment sheets, are used to accommodate the diversity in student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are welcome to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is gender? What is sexuality?
2	Sex Differences and Gendered Bodies	Is sex difference nature, culture, or both?
3	Gender Theory and Theorists	What are major gender theories?
4	Gender Relations	What does it mean to consider gender as a social structure?
5	Personal Life	What is gender identity?
6	Work, Economy and Globalization	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	The Invention of Sexuality	What is the “social construction” of sexuality?
9	The Challenge of Diversity	How do perversity and diversity relate to sexuality?
10	Sexuality, Intimacy, and Politics	When does who you sleep with become political?
11	Private Pleasures and Public Policies	What is sexual democracy?
12	LGBTQ in Japan by the Numbers	Is Japan “tolerant” of non-normative gender and sexuality?
13	Latest Research in the Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How to measure gender and sexuality on surveys? What can researchers do once they measure gender and sexuality on surveys?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

【References】

The structure of this course relies heavily on the following books: Connell, Raewyn. 2021. *Gender: In World Perspective*. 4th ed. Medford: Polity. Weeks, Jeffrey. 2016. *Sexuality*. 4th ed. New York: Routledge. Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 15%

In-class quizzes: 15%

Midterm exam: 35%

Final exam: 35%

【Changes following student comments】

Not applicable. This course is taught for the first time by this instructor.

【Equipment student needs to prepare】

None. You are welcome to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA

Media Effects

Zeliha MUGE IGARASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Media such as news, movies, and the Internet affect us both individually and socially. On the one hand media shapes our everyday lives at the individual level through our inspirations, career goals, and consumption patterns. On the other hand, at the social level, media can influence our perceptions on political decisions, leaders, economic performance, our global allies and/or enemies.

This course examines both of these individual and social effects of media, offering students a toolbox of terms and theories in order to recognize, analyze, and personally manage the pervasive effects of media in our lives.

【Goal】

Students will learn basic theories of media effects research.

These will allow students to recognize and analyze methods used by different types of media that they encounter in their everyday lives.

Through their group presentations, student will have the opportunity to put media effects in perspective and to discuss these with their classmates. Theme such as violence, sexuality, consumer desire, nationalism, gender, and culture industries will be analyzed in detail.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course focuses on the impact of the mass media on individuals and society. An overview of the history of media effects research will be presented and dominant theories in the field will be introduced.

Each course consists of both a lecture and discussion. Classes will also often include the textual reading of a particular media such as advertisements, TV shows, films, or web pages.

Students should be eager to participate in class discussion and share their ideas and experiences. Students are required to submit three assignments and to present one of these in class.

General feedback will be provided at the beginning of each class whereas individual feedback on assignments and quizzes will be provided through Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Description of the course.
2	Media as Medium	"The medium is the message" (McLuhan)
3	Media Effects	Introduction to media effects.
4	Media Influence	Brief historical overview of media influence on individuals and society.
5	Media Theory I	Cultivation Theory
6	Media Effect: Case Study I	Effect of Media. Violence and Sexuality. Assignment #1 due. Student presentations.
7	Media Theory II	Agenda setting and framing.
8	Student Presentations	Presentations on cultivation theory, agenda setting and framing.
9	Media Theory III	Uses and gratifications.
10	Media Effect: Case Study II	Anime, manga, and gaming in Japan. Student presentations on uses and gratifications.
11	Society Culture and Mass Media	Culture industries.
12	Media Effect in Japan	Idols and Japanese entertainment industry.
13	Group Discussion	Group discussion on media effects.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review class materials, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

【Textbooks】

There is no single textbook required for this course. Readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

【References】

- Jennings Bryant, Susan Thompson, and Bruce Finklea. (2013). Fundamentals of Media Effects. Second Edition. Waveland: Illinois.

- Potter, James. (2012). Media Effects. Sage Publications: UK, India, Singapore.

【Grading criteria】

Participation 10%

Presentation 10%

Group Discussion 10%

Assignments 45%

Final Exam 25%

【Changes following student comments】

None.

【Others】

Students are encouraged to take Media Studies and/or Cultural Studies before registering for this course.

ART200ZA

Asian Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class will examine popular culture across Asia, focusing on the region of East Asia, specifically media and cultural practices in South Korea, China, Taiwan, and Japan. Over this semester we will examine how various media — music, film, TV dramas, and internet videos — are part of local cultural practices in each place. This will include an examination of their histories in the area, their connections to society, and what cultural practices they accompany. However, instead of focusing exclusively on different countries, we will concentrate on how these cultural products work across borders, operating transnationally. By close examination of the production, distribution, and consumption of these media across East Asia, students will gain insight into connections beyond the countries they are usually associated with. In other words, this class will analyze the links between these countries that are facilitated by the media. With this in mind, this class will ultimately consider how media flows across national boundaries and engages with cultural regionalism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary East Asian societies and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine popular culture from Asia; 2) explore the histories of various popular cultural products from Asia; 3) examine how cultural practices cross national boundaries and interact; 4) consider how these cultural products engage with regionalization in Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and animation. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their presentations and exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is Asian Popular Culture?
2	Transnational Flows of Music	Influences and interactions of American pop music in Japan and Korea
3	Transnational Production of Music	Transnational K-pop production
4	Commonality of Film Practices	Images of urban Asia in 1990s film
5	Film Adaptation Across Borders	Film adaptations in Asia: Dialogue with global media
6	Sharing an Imaginary Beyond Nations	Contemporary animation across Asia
7	Fan Practices of Asian popular culture	Japanese cosplay practices around the world
8	Online Fan Cultures Across Asia	Online fandom and media in North Asia
9	Dynamic Influences on TV Programs	Transnational components of Asian TV formats
10	Communities of Craft Across Borders	Asian illustrators producing transnational imagery
11	Regional Relations through Media	Adapting Japanese Manga across Asia
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Hunt, Leon, and Leung Wing-Fai. *East Asian Cinemas: Exploring Transnational Connections on Film*. Tauris, 2008.

Iwabuchi, Koichi, et al. *Routledge Handbook of East Asian Popular Culture*. 2017.

Etc.

【Grading criteria】

Minimum absences 10%

Speaking up during class discussions 20%

Presentation 30%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Japanese Popular Culture

Akiko MIZOGUCHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Popular culture pervades our everyday experiences. Drawing on visual and cultural studies, we will look at the historical and theoretical study of visual culture as described in a book written for North American university students in the first few weeks. Then, we will look at the research involving specific examples of Japanese popular culture.

[Goal]

Students will learn to critically engage with, analyze and address various modes of Japanese popular culture in the global context.

Students will become familiar with theories of visual and cultural studies.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will combine lectures, discussions, and student presentations. In addition to reading critical and theoretical texts, students are expected to experience, or refer back to their past experiences with, cultural objects and practices in question, and analyze them in a global context in their final papers. Students will also conduct research for the final paper. Feedback to the reaction comments will be given in the beginning of each class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Defining visual and cultural studies
2	Theories 1: Images, Power, and Politics	Image and ideology, how we negotiate the meaning of images
3	Theories 2: Viewers Make Meaning	Reception and the audience
4	Theories 3: Spectatorship, Power and Knowledge	Appropriation and cultural production, gender and the gaze
5	Theories 4: Postmodernism, Globalization and Popular Culture	Producer's intended meanings, reflexivity and postmodern identity
6	Topics in Japanese Popular Culture 1	The Imperial Family and the media in postwar Japan
7	Topics in Japanese Popular Culture 2	Sports as popular culture Students hand in the topics of their final research projects
8	Topics in Japanese Popular Culture 3	Takarazuka and kabuki
9	Topics in Japanese Popular Culture 4	“Shōjo” in popular culture
10	Topics in Japanese Popular Culture 5	Anime fandom in the global context

11	Topics in Japanese Popular Culture 6	Japanese fashion (designer fashion and street fashion)
12	Research Workshop 1	Student presentations of final paper projects. Feedbacks 1
13	Research Workshop 2	Student presentations of final paper projects. Feedbacks 2
14	Summary	Revisiting basic theories of visual and cultural studies in relation to Japanese popular culture

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to complete reading assignments so that they are ready for class discussions. Students will be asked to speak about the weekly articles at least once during the semester.

Also, students will conduct research, write, and make class presentations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Sturken, Marita and Lisa Cartwright. *Practices of looking: an introduction to visual culture*, 2nd ed. NY: Oxford University Press, 2009. (The assigned sections will be made available on Hoppii. Students will not be required to purchase a copy.)

[References]

Tobin, Joseph J. ed., *Re-Made in Japan: Everyday Life and Consumer Taste in a Changing Society*. New Haven and London: Yale University Press, 1992.

Richie, Donald. *The Image Factory: Fads & Fashions in Japan*. London: Reaktion Books, 2003.

Martinez, D.P. (ed.). *The Worlds of Japanese Popular Culture: Gender, Shifting Boundaries and Global Cultures*. Cambridge: Cambridge University Press, 1998.

Craig, Timothy J. (ed.). *Japan Pop!: Inside the World of Japanese Popular Culture*. NY: M.E. Sharp, 2000.

Yano, Christine R. *Pink Globalization: Hello Kitty's Trek across the Pacific*. Durham and London: Duke University Press, 2013.

[Grading criteria]

The final grade will be determined by evaluation in the following areas: (1) Participation: Contribution to class discussion (25%) and comment cards (25%), (2) Presentation of the final paper project (10%), (3) Final paper (minimum 700 words) (40%).

[Changes following student comments]

While I will continue providing a few minutes at the end of the class for the students to write reaction comments and upload them in the designated area on Hoppii, as long as they upload them by noon Tuesday (the next day), they will be treated equally. This will allow equal treatment for all students, including slow-writers.

[Others]

Do not miss the first class as a selection process may occur.

[Prerequisite]

None.

ART200ZA

Music and Culture

Cathy Lynn COX

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

What is the relationship between music and culture? How does culture shape music? How does music express culture? In this course we will investigate these and other questions surrounding music as a culturally defined phenomenon. Each week students will participate in directed listening or music-making activities related to a specific topic, drawing on examples from various musical traditions and practices from around the world.

【Goal】

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop an awareness and appreciation of various musics of the world;
- (3) develop an ability to recognize the role of music in their own cultural identity;
- (4) think critically about the complex cultural workings within a piece of music or musical practice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is taught through a combination of lectures, documentary-viewings and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Music and Culture / Music and Identity	Overview of the course and requirements; selection evaluation (questionnaire)
2	Basic Concepts of Music 1	Approaches to understanding melody, modes and scales.
3	Basic Concepts of Music 2	Ways of thinking about rhythm, timbre, texture
4	Music and Ritual 1	The role of music in religious rituals and traditions; Music as an expression of spirituality
5	Music and Ritual 2	Music and modern-day rituals; reflections on personal uses or experiences of music as ritual.
6	Music and Ethnicity 1	Expression of ethnic identity through traditional forms of music-making
7	Music and Ethnicity 2	Complex expressions of ethnic identity or national culture through contemporary forms of music-making
8	Music and Gender 1	Traditional gender roles for music-making; Culturally defined roles of 'masculine' and 'feminine' as expressed in music.
9	Music and Gender 2	Counter-cultures, subcultures and culture-clashes involving music and gender.
10	Music and Globalization 1	Impacts of global trade and human migration on music; musical diasporas.
11	Music and Globalization 2	Music as an expression of local traditions and community vs. music as a global commodity.
12	Group A Presentations	Final presentations by students in Group A with follow-up discussions
13	Group B Presentations	Final presentations by students in Group B with follow-up discussions

14 Final Review and Wrap-Up review of topics and materials

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

【References】

Bakan, M. (2007). *World Music: Traditions and Transformations*, Second Edition. New York: McGraw-Hill.

Cornelius, S. and M. Natvig. (2018). *Music: A Social Experience*, Second Edition. New York: Routledge.

Milioto Matsue, J. (2016). *Music in Contemporary Japan*. New York: Routledge.

【Grading criteria】

Class Discussion and Activities: 20%,
Questionnaires for Weekly Reading and Reflection: 30%,
Short Essay Assignments: 30%,
Group Presentation: 20%

【Changes following student comments】

- More time added for learning and review of technical terminology;
- Number of topics decreased to allow for deeper focus;
- More opportunities added for practical music-making.

【Equipment student needs to prepare】

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

【Others】

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA

Performance Studies

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class will explore performance studies, an interdisciplinary field which uses various conceptions of performance to analyze the world around us. To perform can mean many things: to execute (to perform an action), to bring about (to perform a ritual: "I hereby pronounce the official beginning of the Olympics"), to judge ("how well did she perform at the Olympics?"). This includes performance in the traditional sense, such as in the theater, but also in everyday life, in our societies and daily practices of living, how we think about ourselves and our relationship to society: how are we performing when we use SNS or when we change our behavior with friends or family? How can thinking about the world as a series of performances allow us to analyze the news, public elections, gender, branding, and technology. Throughout the class we will be using Richard Schechner's textbook, developed to introduce Performance Studies, to guide the course. We will look at an overview of the major approaches used in the field, examine their theories, and explore how they can reveal important insights about our world.

【Goal】

In addition to teaching the students about the fundamentals to performance studies, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn various methodologies and theories about performance; 2) explore how to apply these concepts to other subject matter beyond the theater; 3) to learn how to articulate what, where, how, and why we are performing; 4) learn how to conduct analyses on various topics by applying the concepts from performance studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as video clips and images. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Schechner's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is performance studies?
2	What is Performance?	Performance beyond the theatrical stage
3	Conceptualizing Performance	Ways of examining performances around us
4	Ritual Practices	Types of rituals across cultures
5	Modern Rituals	Regular practices in modern society
6	Playing and Performance	Thinking about "playing" beyond games
7	Philosophies of Play	Gradients of playfulness in various contexts
8	Performativity of Language	How are words active on us
9	Performativity of Gender	How gender is constituted as practice
10	Ways of Performing	Types of acting and their implications on us
11	Shifting Frames of Reference	Stages in everyday life and how they effect us
12	Intercultural Performances	Performance on the global stage
13	Student Presentations	Student presentations

14 Student Presentations II Student presentations; final paper submission

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Schechner, Richard. *Performance Studies: An Introduction*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【References】

Bial, Henry. *The Performance Studies Reader*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

[Goal]

Frederich Nietzsche once said, "it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book," and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Principles of Good Writing	The foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	The importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Digital Ethics I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
10	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Digital Ethics II	Current debates regarding standards and ethical codes
12	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

13 AI and the Future of Writing Will the machines take over?

14 Final Presentations and Assessment Student presentations and take-home assessment

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

[References]

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
 Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
 Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
 DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
 Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

[Changes following student comments]

The collaborative working sessions have been split to allow students more out-of-class working time on the project.

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

[Goal]

Frederich Nietzsche once said, “it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book,” and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Principles of Good Writing	The foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	The importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Digital Ethics I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
10	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Digital Ethics II	Current debates regarding standards and ethical codes
12	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?

14 Final Presentations and Assessment Student presentations and take-home assessment

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

[References]

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

[Changes following student comments]

The collaborative working sessions have been split to allow students more out-of-class working time on the project.

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

SHS200ZA

Science and Technology Studies

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims at helping students to learn the confluence of major technological forces—cloud computing, big data, artificial intelligence, and the Internet of things—in driving a new digital society. In doing so, students will understand how digital-age companies such as Amazon, Google, Netflix, and Spotify are creating whole new industries and business models.

【Goal】

Students will understand the role of digital technologies in determining the capabilities of both incumbents and digital-born companies. To do so, students will learn how companies have transformed their business models and how they have embedded new technologies in their organizational fabric. This will be covered from the era of post-industrial society to the digital society.

Also, using multiple case studies, students will be able to explore and analyze how specific organizations have led their own digital transformation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit a summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students' own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Post- and Pre-Industrial Society	The class first covers how the pre-and post-industrial societies had emerged. The class pays particular attention to the role of data processing, data-bases in leading the development of manufacturing.
3	Chapter (1): Punctuated Equilibrium and Economic Disruption	This class covers the impact of science and technology on economic systems, and how it creates economic disruption and new stability in a society.
4	Chapter (2a): Digital Transformation	This class covers the definition, scope, and applications of digital transformation.
5	Chapter (2b): Digital Transformation and Case Studies	This class covers digitalization and the impact of the Internet using case studies and compares how incumbents and digital-born companies deal with digital transformation.
6	Chapter (3a): The Information Age	This class will cover technology innovations (e.g., cloud computing, big data, artificial intelligence, machine learning, deep learning, the Internet of Things).
7	Chapter (3b): The Information Age and Case Studies	We will cover how modern companies incorporate new digital technologies to create/modify their new business model.

8	Chapter (4a): The Elastic Cloud	This class covers the rise of cloud computing, its business value, benefits, and risks.
9	Chapter (4b): The Elastic Cloud and Case Studies	This class covers specific companies that have made exponential growth with using cloud computing and examines risks involved in cloud computing via discussions.
10	Chapter (5a): Big Data and Analytics	This class covers the definition / size/ speed/ structure of big data and a brief history behind it.
11	Chapter (5b): Big Data and Analytics and Case Studies	This class covers specific applications of big data using case studies and discusses challenges in handling big data for modern enterprises.
12	Chapter (6, 7a): The AI and IoT	This class covers the definition of AI / Internet of Things (machine learning, neural networks) and the overall field of AI today.
13	Chapter (6, 7b): The AI and IoT and Case Studies	This class covers how AI and IoT are deployed and improved an organization's workflow using case studies and discusses some challenges associated with them.
14	Wrap-up and Finalizing chapter 1-6	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Digital Transformation: Survive and Thrive in an Era of Mass Extinction (English Edition), Thomas M. Siebel, RosettaBooks (2019/7/9), 3,257yen (hardcover).

【References】

1. Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press.
2. Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%);
Group presentations (40%); Group discussions (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Art and Design

Suzanne Carol MOONEY

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Art and design play important roles in society. This is true not only for the 21st century, as art and design have been formative in the shaping of the history of societies throughout the world for centuries. This course introduces students to the fields of art and design, identifying and exploring the differences and the overlaps between them.

【Goal】

Through this course, students will learn about the relationship between art and design and society, while also gaining an understanding of concepts relating to aesthetics, media studies, art history and contemporary art and design. Through the ideas introduced in this course, students will become more aware of the impact of art and design in the world around them, and equip them with the knowledge and vocabulary to engage in discussions related to the topics raised.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

In addition to attending lectures on art and design, students will engage in weekly tasks in response to the subjects of the lectures. As the first half of the course concludes, the students are expected to choose a topic for their final presentation.

The presentation of the project will be a combination of oral presentation, slides(optional) and presentation of preparatory notebook work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	A fundamental introduction to categorisations of Art and Design
2	The functions of art	What does/should art do? What should art not do? Considering aesthetics, entertainment politics, ritual and other functions of art in society.
3	The functions of design	The purpose of design and the various roles within its production. Considering branding, products, and their impact on society.
4	Authorship in art and design	From the author as genius to the anonymous company designer, considering the importance of authorship in art and design
5	Art objects	Exploring art objects as commodities
6	Beyond function	Creativity in design and how design is not always functional
7	Mid-term presentations	Students present their proposed topic of the term project
8	Focus on media art	Art beyond the art object: technology in art
9	Focus on technology in design	Cutting-edge technology and new materials in design
10	Innovation	Innovation in art and design in the 21st century:
11	Entertainment becomes art	Examples in computer games, cinema, etc.
12	Consumer culture	Understanding what we want and why we want it
13	Final Presentations	End of term presentations and discussion 1
14	Final Presentations	End of term presentations and discussion 2

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used.

The instructor will provide handouts, as well as access to reading materials.

【References】

Manoich, Lev (2002) *The Language of New Media*, MIT Press. Berger, John (2012/1972) *Ways of Seeing*, Penguin. Lidwell, William, et al. (2010) *Universal Principles of Design*, Rockport. Meggs, Philip, Purvis, Alston (2016) *Meggs' History of Graphic Design*, Wiley.

【Grading criteria】

Participation:

Includes classroom activities, assigned readings, weekly submitted tasks/responses, and regular contribution to your workbook (2 pages per week).

Final Presentation: Students choose examples of innovative art or design they have engaged with directly. The presentation should include key points such as innovation, value, authorship, the user/viewer experience, and its appeal to them and to the general public. In addition to the presentation itself, preparatory work in a notebook will also be assessed to form the final grade.

Students are free to choose their subject but must present the chosen topic in class during the first half of the semester.

Final assessment is based on:

Active participation 60% (including weekly tasks = 50% and mid-term presentation = 10%), Final Project 40% (Presentation = 30% preparatory notebook work = 10%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a computer, a notebook (e.g. sketchbook/notebook), and general stationery (e.g. pen, pencil, glue, tape).

Students will also need access to a camera or scanner to share digital images of their notebook work online.

【Prerequisite】

None.

PSY200ZA

Applied Psychology

Sayaka AOKI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course focuses on how psychology is applicable to our own life. Students will acquire new perspectives to analyze and conceptualize themselves and world. They will also acquire various psychological skills that can be useful to improve the quality of their daily life.

【Goal】

Upon completion of this course, students will have

- (1) learned some psychological concepts and theories that are applied to tackle the issues in various settings in our life, including schools and workplaces
- (2) acquired a basic knowledge about how one's psychological characteristics are assessed and mental and behavioral problems are treated, and
- (3) developed an array of skills that can be used to understand one's psychological characteristics and handle mental and behavioral problems in daily life

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and in-class activities students are expected to be engaged in. At the end of each class, students complete a brief reflection paper, which will be graded and returned with feedback comments from the lecturer by the beginning of the next class. In the middle of the course, students are also asked to work on a small project, which is directly related to the contents of the final exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of the course	How psychology is applicable in real settings
2	Assessment (I)	Overview of psychological assessment - How do we know ourselves?
3	Assessment (II)	Psychological tests (i)
4	Assessment (III)	Psychological tests (ii)
5	Assessment (IV)	Questionnaire
6	Assessment (V)	Interview
7	Assessment (VI)	Observation
8	Intervention (I)	Overview of psychological intervention - How do we change ourselves?
9	Intervention (II)	Cognitive behavior therapy
10	Intervention (III)	Dialectic behavior therapy
11	Intervention (IV)	Emotional control
12	Intervention (V)	Behavioral management
13	Intervention (VI)	Motivation control
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to print out and read over the slides for the class in advance, which are uploaded on the class website. Reading assignments, links to relevant websites for the next class, will be also included in the last slide. Students are also expected to consider the answers for the essay questions in the final exam which are shared in the beginning of the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No specific textbooks are used; class materials are uploaded in the class website.

【References】

Braden, J. P. (2013). Psychological assessment in school settings. In J. R. Graham, J. A. Naglieri, & I. B. Weiner (Eds.), *Handbook of psychology: Assessment psychology* (pp. 291 – 314). John Wiley & Sons, Inc..
 Spiegler, M. D., & Guevremont, D. C. (2015). *Contemporary behavior therapy*, 6th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

Beck, J.S. (2021). *Cognitive behavior therapy, Basics and beyond*, 3rd ed. Guilford Press.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) active participation, preparation, and engagement (10%); (b) Reflection papers and assignment (40%); (c) Final exam (50%)

【Changes following student comments】

For the final exam, students are expected to start preparation well in advance, as they need to develop their own answers through experiences of practicing what they learned in the classes in on their own lives. For this purpose, the questions are shared in the beginning of this course.

【Equipment student needs to prepare】

Class materials are uploaded on the class websites

【Others】

None

【Prerequisite】

None

PSY200ZA

Quantitative Research Methods

Yu NIIYA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The goal of this course is to introduce the students to various quantitative research methods used in the social sciences. When making important decisions, be it choosing a strategy to increase the sales of a product, implementing an intervention program to boost people's well-being, or selecting a school program to increase students' learning, people can rely on their intuition and experience, or they can base their decisions on facts: data. In this course, students will develop skills to obtain valid and reliable data through experimental and survey methods. The course will also cover topics related to research ethics, some basic statistics, and APA-style writing.

【Goal】

This course provides an overview of the 'how's and 'why's of quantitative research in social sciences, and it covers such topics as design, ethics, and APA-style writing and such strategies as field experiments and surveys. Students will develop the ability to design, conduct, evaluate, and report empirical studies. By developing hypotheses and critically assessing information, students will improve on their critical thinking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Method(s)】

The course consists of lectures, in which general ideas and methods of research will be presented, and hands-on applications of the methods, in which student's research projects will be planned and presented. Although some of the class time will be set aside for planning students' research, the majority of it will be done as assignments to be completed outside class. Feedback for research will be given during class time. Comments for papers will be given via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is research? Why should we care?
2	The Fundamentals of Research	How do we define variables? How do we measure them? What is good research? How do I know if I can trust the findings?
3	Common Experimental Designs	Evaluating causal claims with experiments: random assignment and control
4	Understanding Research Paper	Understanding the structure of a research paper
5	Experimental Research I	Designing and conducting a field experiment
6	Experimental Research II	Identifying the various threats to internal validity Writing clear questions: closed vs. open ended questions
7	Data Analyses I	Understanding the basics of inferential statistics and comparing means with t-tests
8	Correlational Research I	How are the two variables associated? How can we write clear questions?
9	Correlational Research II	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
10	Correlational Research III	Creating a questionnaire
11	Sampling Issues and Validities	How generalizable are my findings?
12	Data Analyses II	Computing reliabilities and correlations
13	Data Analyses III	Data analysis workshop using a statistical software
14	Students Poster Presentations	Poster presentations of group research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will have to complete the assigned homework on time to successfully complete the class. They will be asked to do the readings, create research materials, collect data, etc. outside the class. Please bear in mind that the course will require that students spend a considerable amount of time outside class (at least 2 hours every week, sometimes more). Most work will be done in small groups, suggesting that students need to be flexible in finding time to meet other students during the week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks required.

【References】

Morling, B. (2017). *Research methods in psychology: Evaluating a world of information* (3rd ed.). New York, NY: W.W. Norton & Company.

Harris, S. R. (2014). *How to critique journal articles in the social sciences*. Los Angeles, CA: Sage.

The reference books will be available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two research papers (20% and 30%), a poster presentation (20%), and the quality and timeliness of group work done outside class (30%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course very demanding but rewarding. Some students aimed to accomplish at a higher level while others were somewhat struggling to meet the requirements. I will provide office hours and other consulting time outside the class to meet the need of individual students.

【Equipment student needs to prepare】

For some weeks, students will be asked to bring laptop computers. Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students who have successfully completed Statistics will be given priority during enrollment.

Students must take and pass this course if they wish to enroll in the Self and Culture seminar. Students who plan to enroll in other seminars in social sciences are also strongly encouraged to take this course.

【Prerequisite】

none

ECN200ZA

Macroeconomics II

Alberto Javier INIGUEZ Montiel

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will provide students with more knowledge of the core theories in macroeconomics, particularly on the economics of open economies, unemployment, monetary growth and inflation, and the model of aggregate demand and supply. Moreover, the role of fiscal and monetary policy to stimulate the economy will be discussed.

To prepare students for embarking confidently on their journey in the world of economic analysis and for seriously analyzing the economic signals and data we all face daily to be able to justify views and opinions with sound economic reasoning.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Apply macroeconomic knowledge to analyze contemporary macroeconomic issues and real-world problems.
2. Interpret macroeconomic issues and problems from the theoretical perspectives.
3. Assess macroeconomic theories in terms of their policy implications.
4. Articulate macroeconomic debates clearly, using both analytical tools and an intuitive approach.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be mainly conducted through lectures, with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students are expected to read the required material prior to the lecture to discuss and solve problems in class. Assignments and related feedback will be given via the learning-management system. Additionally, midterm-exam and in-class-assignment feedback will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course (Syllabus) Independence and the Gains from Trade (Ch3)	Introduction to the course International trade Absolute and comparative advantages
2	Consumers, Producers, and the Efficiency of Markets (Ch7) Application: International Trade (Ch9)	Consumer surplus Producer surplus Market efficiency The determinants of trade The winners and losers from trade
3	Application: International Trade (Ch9) International economics (Wheelan, 2019)	The effects of a tariff How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.250-257)
4	Open-economy macroeconomics (Ch31)	The international flows of goods and capital The prices for international transactions A first theory of exchange-rate determination
5	International economics (Wheelan, 2019) Theory of the open economy (Ch32)	How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.257-265) Supply and demand for loanable funds and the foreign-currency exchange
6	Theory of the open economy (Ch32)	Equilibrium in the open economy How policies and events affect an open economy
7	Review & midterm exam	Assess students' performance for the 1st half of the course (week 1-6).
8	Money Growth and Inflation -1 (Ch30)	The classic theory of inflation

9	Money Growth and Inflation -2 (Ch30)	The cost of inflation Case study
10	Aggregate demand and aggregate supply -1 (Ch33)	Economic fluctuations The aggregate demand curve The aggregate supply curve
11	Aggregate demand and aggregate supply -2 (Ch33)	The aggregate supply curve Two causes of economic fluctuations Problems
12	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How monetary policy influences aggregate demand
13	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How fiscal policy influences aggregate demand
14	Review & final exam	Assess students' performance for the 2nd half of the course (week 8-13).

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the relevant material (textbook/articles/cases) and to participate in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, N. Gregory. Principles of Economics, 9th Asia Edition. Cengage, 2021. (ISBN-13: 9780357562833). Digital version. You must buy a MindTap access code as well to submit your assignments. (Required; sold as a bundle)

【References】

Blanchard, O. *Macroeconomics*, 8th Edition, Pearson, 2021. (ISBN: 978-0-13-489789-9)

Wheelan, C. *Naked Economics: Undressing the Dismal Science*, Fully revised and updated, WW Norton & Company, 2019. (ISBN: 978-0-393-35649-6)

【Grading criteria】

1. Participation: 10%
2. Homework: 20%
3. Midterm exam: 35%
4. Final exam: 35%

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Equipment student needs to prepare】

A calculator and a ruler are required.

【Others】

None

【Prerequisite】

Macroeconomics I (except for students who entered 2012 - 2015. All students who entered 2012 - 2015 can take this course.)
Students who have taken other economics courses need to discuss with the instructor for permission.

ECN200ZA

Microeconomics II

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is the second part to an introductory course in microeconomics. (See prerequisite below.)

In this semester, we will continue covering fundamental concepts and principles in microeconomics. This time, we will focus on producer and consumer theory and the labor market. In the first half of the semester, we will study firm behavior and market structures. In the second half of the semester, we will discuss consumer theory. The labor market and income determination will also be examined.

【Goal】

The intention of this course is to integrate theory and application. At the end of the course, students should grasp and be able to discuss fundamental concepts in microeconomics, i.e. how different market structures affect producers and consumers and how the labor market works. Students should be able to examine issues related to consumption, production, the labor market, income inequality, and poverty.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course	Introduction to the course Costs of production (Chapter 13)
2	Producer Theory (1) Producer Theory (2)	Firms in competitive markets (Chapter 14)
3	Producer Theory (3)	Problem sets and practical applications (Chapters 13 and 14)
4	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (1)	Monopoly (Chapter 15)
5	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (2)	Monopolistic competition (Chapter 16)
6	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (3)	Oligopoly (Chapter 17)
7	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (4)	Problems sets and practical applications (Chapters 15, 16, and 17)
8	Review & Mid-term Exam	Review & In-class written exam
9	Consumer Theory (1)	Preferences and optimization (Chapter 21)
10	Consumer Theory (2)	Solving selected problems and applications in Chapter 21
11	Labor Economics (1)	Labor demand and supply Equilibrium in the labor market (Chapter 18); Determinants of wages Economics of discrimination (Chapters 19, 20)
12	Labor Economics (2)	Problem sets and practical applications (Chapters 18, 19, and 20)
13	Discussion and Review	Discussion and review
14	Final Exam & Wrap-up	Review & In-class written exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Readings - Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs.

2. Short assignments - Students are at times given assignments to strengthen their understanding of the application of the concepts. Assignments will be presented and discussed in class.

3. Student Group Presentation - Students form groups to make a presentation on current issues relating to Japan's fiscal situation. Topics may include: Japanese government debt, tax measures, debt service, social security expenditures, or other government expenditures. Specific guidelines will be given in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, Gregory. N. (2015) *Principles of Microeconomics*, 7th edition, Cengage Learning.

【References】

Other materials, if any, will be given by the instructor or shall be announced in class.

【Grading criteria】

Assignments and Class Participation: 25%

*The two lowest-graded assignments will not be included in the calculation of the final grade.

Student Group Presentation: 15%

Midterm Exam: 30%

Final Exam: 30%

【Changes following student comments】

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.

【Others】

This course requires students to have a good understanding of mathematics and graphic analysis.

【Prerequisite】

Microeconomics I, Understanding Microeconomics or an equivalent introductory course in microeconomics or economics.

LIN200ZA

Teaching Pronunciation

Katsuya YOKOMOTO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course will cover the theoretical and practical aspects of pronunciation teaching. We will look at pronunciation variations, and explore possible obstacles that adults and children come across in speech perception and production. We will discuss how teachers can help students learn and understand the articulation of English sounds.

[Goal]

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Understand and explain the articulation of individual sounds in English,
- (2) Understand and explain the basic rules about the connected speech, rhythm, and intonation in English,
- (3) Understand the common challenges that learners encounter in learning pronunciation in English, and
- (4) Apply the knowledge about the English pronunciation and learners' difficulties into pronunciation teaching.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is offered through lectures and discussions in class. Handouts are provided in class, and students are expected to participate in all class activities actively. Individual members' contributions to group work are vital to successful learning. Please make sure to complete preparatory study to maximize your contributions to class members and therefore learning outcomes. Good comments in group discussions will be introduced to the class for further discussions, and comments and explanations for tests will be given either in class or in a recording. Written feedback on microteaching will be given to individual students.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching	Variations in English Priorities in pronunciation teaching
2	The consonant system	Phonetic symbols of English consonants How to pronounce consonants in English
3	Teaching English consonants	Microteaching: Consonants Practical issues in teaching English consonants
4	The vowel system	Phonetic symbols of English vowels How to pronounce vowels in English
5	Teaching English vowels	Microteaching: Vowels Practical issues in teaching English vowels
6	Review: Teaching consonants and vowels	Review and midterm exam
7	Connected speech	What is connected speech? Reduction and linking in English
8	Teaching connected speech	Microteaching: Connected speech Practical issues in teaching connected speech
9	Stress	Word stress in English Sentence stress in English
10	Teaching stress	Microteaching: Word/Sentence stress Practical issues in teaching stress in English
11	Prominence and teaching prominence	Roles of prominence in English Practical issues in teaching prominence in English
12	Intonation in English	What is intonation in English? Expressing different meanings using intonation

13	Teaching prominence and intonation	Microteaching: Prominence and Intonation Practical issues in teaching intonation in English
14	Review: teaching beyond individual sounds	Review and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read handouts thoroughly and think about the questions and issues in the handouts before class. Students are also expected to refer to recommended readings when necessary as preparatory study for class discussion. If you miss a class, please make sure to contact your classmates or the instructor about lectures, discussions, and assignments. Students are expected to spend 2 hours for preview and 2 hours for review.

[Textbooks]

No textbook will be used.

[References]

Levis, J. M. (2018). Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation. Cambridge University Press.
 Murphy, J. (2013). Teaching pronunciation. TESOL International Association.
 Murphy, J. (Ed.). (2017). Teaching the pronunciation of English: Focus on whole courses. University of Michigan Press.
 Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M., & Griner, B. (2010). Teaching pronunciation: A course book and reference guide. Cambridge University Press.

[Grading criteria]

Participation (20%), Microteaching (20%), Midterm exam (30%), and Final exam (30%)

Students are expected to attend every class. When you have legitimate reasons for being absent, please notify your instructor of your absence prior to class. Being absent three times without reasonable notice will result in the failure of this course. Students will choose a teaching focus (e.g., consonants) for microteaching, and rubrics for microteaching will be provided in advance.

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Not applicable

[Others]

Students who are interested in teaching English and/or teaching pronunciation are welcome.

[Prerequisite]

None

LIN200ZA

Semantics and Pragmatics

Nobumi NAKAI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Semantics is the study of meaning in language. Pragmatics is the study of the ways people use language in actual conversations. The aim of this course is to provide students with an essential understanding of semantics and pragmatics, with examples drawn from English and Japanese.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) Have a general understanding of the interface between semantics and pragmatics.
- (2) Understand key concepts and major theories in the fields.
- (3) Survey the wide range of semantic and pragmatic phenomena in all their richness and variety.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course begins by covering some essential issues of semantics. In subsequent lectures, we will discuss how the identification of the semantic contribution of words and sentences gets us only partway to understanding what an utterance means. The course is a combination of lectures, group discussions, and review exercises. Feedback will be given during class discussions as necessary.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview of <i>Semantics and Pragmatics</i>
2	An Overview of Semantics	Describes the components of linguistic meaning and introduces lexical and compositional semantics.
3	Lexical Semantics (1): The Meanings of Words	Examines the different ways that word senses could be represented in the mind of a language user and discusses the types of reference that words can have.
4	Lexical Semantics (2): Word Relations	Discusses the kinds of meaning relationships that exist between words.
5	Compositional Semantics (1): The Meanings of Sentences	Introduces propositions, truth values, and truth conditions, and discusses relationships between propositions.
6	Compositional Semantics (2): Putting Meanings Together	Introduces the Principle of Compositionality in more detail and discusses different ways that lexical meanings combine to give rise to phrasal meanings.
7	Practice (1)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
8	Language in Context	Explores several ways in which context can affect the meaning of utterances, and introduces the idea of felicity in discourse.
9	Rules of Conversation	Discusses why conversation needs to follow rules, and introduces Grice's maxims for cooperative conversation.
10	Drawing Conclusions	Shows ways in which language users may employ context to convey or derive meaning that is not part of an utterance's entailed meaning.
11	Speech Acts	Outlines many of the jobs that speakers accomplish with language and the ways in which they accomplish them.
12	Presupposition	Discusses another precondition for felicity.

13	Practice (2)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
14	Examination & Wrap-up	Semester-end exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the relevant reading materials carefully in advance so that they can actively participate in discussions. Practice problems will be assigned occasionally. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All reading materials will be provided in the classroom.

【References】

The following books will be helpful for a general understanding of the fields.

(1) Cruse, Alan (2010)

Meaning in language: An introduction to semantics and pragmatics, Oxford UP.

(2) Riemer, Nick (2010)

Introducing semantics, Cambridge UP.

(3) Saeed, John I. (2015)

Semantics, John Wiley Inc.

(4) Birner, Betty J. (2012)

Introduction to pragmatics, Wiley-Blackwell.

(5) Senft, Gunter (2014)

Understanding pragmatics: An interdisciplinary approach to language use, Hodder Arnold/Routledge.

(6) Loebner, Sebastian (2012)

Understanding semantics, Hodder Arnold/Routledge.

【Grading criteria】

Student evaluations are based on class participation (25%), in-class assignments (25%), and a final exam (50%). More than two unexcused absences will result in failure of the course. Attendance at the first class is mandatory.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA

Psycholinguistics

Mako ISHIDA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication - how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

【Goal】

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What do we do when we communicate?
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	The basic components of language 4
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Perceptual Restoration 1	Ambiguity and implicature
9	Perceptual Restoration 2	Vocabulary and the Sapir-Whorf hypothesis
10	Perceptual Restoration 3	Speech production
11	Perceptual Restoration 4	Speech perception
12	Neuroscience 1	Basic brain anatomy and function
13	Neuroscience 2	Auditory and optical illusions
14	Checkpoint	Review and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

【References】

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

【Grading criteria】

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of materials.

【Changes following student comments】

No particular change.

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested in human speech communication are welcome.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA

Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes

Chie SAITO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The course will explore how linguistic landscapes reflect complicated relationships between language and society. Linguistic landscapes are defined by Landry and Bourhis (1997) as “the visibility and salience of languages on public and commercial signs in a given territory or region.” Linguistic landscapes is a concept in sociolinguistics to study languages visually used in multilingual societies. We may not perceive Japanese society as multilingual. However, when you look at language use on public signs, you will realize that you are surrounded by more than just one language. Because the function of linguistic landscapes is not only as an informational indicator but also as a symbolic marker, you can observe our ever-changing society through an investigation of language use in signs. In the course, students will learn about the basic concepts of linguistic landscapes through lectures and literature reviews and will deepen their understanding by conducting their own research.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to meet the following objectives:

- (1) Becoming aware of the presence of different languages and its meanings in public space,
- (2) Understanding how social, political, economic, and technological elements are embedded in linguistic landscapes,
- (3) Becoming familiar with the basic theories and methodologies of linguistic landscapes, and
- (4) Applying the knowledge to conduct individual research projects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, discussions, and student presentations. To begin with, the key concepts of linguistic landscapes will be explained. Next, the theories and methodologies of linguistic landscapes will be discussed through literature reviews. During the course, all the literature and extra materials are provided in class or on the course website. The students are encouraged to read the literature before attending a class. Interactive class participation is highly encouraged. Students will be required to carry out small-scale research projects in the field of linguistic landscapes and share their findings in class at the end of the course. Feedback is given both in class and through e-mail. Attendance at the first class is mandatory.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description and requirements
2	Signage in Tokyo (1)	Terminology (what is linguistic landscapes?)
3	Signage in Tokyo (2)	Methodology (how to classify and analyze signs)
4	Signage in Tokyo (3)	Tendency of LL in Tokyo (Multilingual or monolingual?)
5	Previous research (1)	Linguistic landscapes in Seoul, Korea
6	Previous research (2)	Linguistic landscapes in Bangkok, Thailand
7	Previous research (3)	Linguistic landscapes in Kuala Lumpur, Malaysia
8	Previous research (4)	Linguistic Landscapes in Brussels, Belgium
9	Previous research (5)	Linguistic Landscapes in Montreal, Canada
10	New perspectives on linguistic landscape (1)	The use of Japanese in LL in overseas
11	New perspectives on linguistic landscape (2)	Errors in the use of English in LL
12	Student presentations (1)	Student in-class presentations
13	Student presentations (2)	Student in-class presentations

14	Student presentations (3) Summary	Student in-class presentations Review the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the handouts beforehand for class participation and discussion. For giving presentations in class and writing end-term reports, students are required to conduct field research outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All handouts are posted on the course website.

【References】

Backhaus, P. (2007). *Linguistic landscapes. A comparative study of urban multilingualism in Tokyo*. Clevedon: Multilingual Matters.
 Gorter, D., Marten, H. F., & Van Mensel, L. (Eds.). (2011). *Minority languages in the linguistic landscape*. Springer.
 Shohamy, E., & Gorter, D. (Eds.). (2008). *Linguistic landscape: Expanding the scenery*. Routledge.
 Shohamy, E. G., Rafael, E. B., & Barni, M. (Eds.). (2010). *Linguistic landscape in the city*. Multilingual Matters.
 庄司博史, ペート・バックハウス, & フロリアン・クルマス. (2009). 『日本の言語景観』. 三元社.
 内山純蔵 (監), 中井精一, ダニエル・ロング (編). (2011) 『世界の言語景観 日本の言語景観-景色のなかのことは』. 桂書房刊.

【Grading criteria】

Class participation and attitude: 20%

Reflection paper: 20%

Presentation: 30%

Research report: 30%

【Changes following student comments】

Student constructive feedback will be taken into consideration.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA

Business Negotiation

Takamasa FUKUOKA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Changes following student comments】

The lecturer will provide more business negotiation tips.

【Prerequisite】

None.

【Outline and objectives】

Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

【Goal】

The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.

Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schuster, 2013.

Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%).

MAN200ZA

General Topics II: Business Ethics

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Business Ethics covers a variety of contemporary case studies which demonstrates the dynamics between what could be called opportunity and misconduct. Over the years this has led to conflicts of interest, even more regulation to try and separate rule-makers from the rule-enforcers and the players and, where that fails, often catastrophic results ensue. This course aims to provide students to understand and deal with the fundamentals of ethics. We will look at various case studies to observe how companies operated within the grey area and/or have not acted responsibly in a highly competitive environment. This course will then delve into how companies have internal control processes in place to ensure that such fraud does not occur. Students are encouraged to gain awareness of the interconnectedness of organizations and nations in a globalized world and how their actions as managers will affect different stakeholders, nations and the world as a whole.

【Goal】

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. Skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to Business Ethics
2	Types of Fraud	Discuss types of corporate fraud
3	Continuing Monitoring and Investigation	Discuss methods of continuing monitoring and investigation
4	Risk Management - Sarbanes Oxley (SOX)	Discuss risk management and the key principles of SOX
5	Enterprise Risk Management	Discuss the principles of enterprise risk management
6	Review of Materials	Review of materials
7	Regulatory Failure	Discuss regulatory failure using case study
8	Auditors: Guardians or Helpers of Fraud	Discuss the role of auditors and their impact on fraud
9	Companies which have Gone Under Due to Fraud	Analyse case studies on companies with unethically-behaved employees
10	Bedazzled	Discuss how companies are setup to defraud the tax man
11	Pharmaceutical Fraud	Discuss ethical behaviour in the pharmaceutical industry
12	Cryptocurrency and CDO	Discuss the impact of cryptocurrency on ethics
13	Discussion and Review	Discussion and Review
14	Wrap-up, Review of Class & In-class	Wrap-up, review of class & in-class written exam
	Written Exam	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles is highly recommended. Homework will be provided. Slides and related readings are recommended before class.

【Textbooks】

Electronic slides will be provided.

【References】

Reading references will be provided in class.

【Grading criteria】

15% Quizzes

15% Projects / homework

35% Midterm exam

35% Final examination

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA

Organizational Behavior

Junko SHIMAZOE

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this course, students learn (1) why modern organizations behave as they do, (2) how the behavior emerges from inside the organization, and (3) how exogenous forces influence formation of the behavior. Since studies of organizations are fundamentally cross-disciplinary, this course approaches organizations from sociological, social psychological, public policy, and psychological perspectives about organizational behavior. For the same reason, examples covered in this course include organizations in the public, private, and non-profit sectors. At the end of this course, students will develop a multifaceted view of their own to explain various problems of modern organizations.

[Goal]

This course has three goals. First, students are expected to understand the scientific approach to study organizations. For example, what does it mean to study organizational behavior in a scientific manner? What are the objects of studying, organizational structure, performance, routines, or interactions among people and organizations? How is it possible to explain the relationship between behavior of people and organizational behavior? Second, students are expected to understand “organic aspects” of organizations. Organizations are more than machines whose structures and rules repeatedly generate intended results. Members interact with each other and in organizational contexts, from which unintended outcomes may emerge. In addition, organizations are influenced from temporal, geographical, and other environmental conditions. It is important for students to understand organizations as evolving and interactive actors with members and other organizations. Finally, students are expected to become able to explain problems caused by modern organizations in their own words. Regardless of their career after graduation, organizations are everywhere in modern life, and students may encounter minor to major issues caused both in and by organizations. It is essential for students to apply concepts that they learn in this course to organizational behavior that they observe in real life.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Finish them before class.

Active participation in class is required. In this course, we will use lectures by the instructor, audiovisual materials, discussion, and group presentations. The contents covered in class will go beyond assigned readings of the week. In the case of being unable to come to the class, send an e-mail in advance to the lecturer unless the reason is that you are sick.

In this course, students work together to study and make a presentation about organizational accidents. In the group presentation, explain the probable causes of the accidents and their implications to society using the knowledge from this course. Do not simply repeat what the internet sources, books, or other authorities say about the problems. Build your own explanation based on what you learn in this course.

Students will receive feedback on their presentations in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	- Syllabus - What is OB? - Why does OB matter? - Diversity and its challenges
2	Diversity in an Organization	
3	Individual Differences #1	- Values - Personality
4	Individual Differences #2	- Perception - Work attitudes and behaviors
	Attitudes and Behaviors	- Psychological contract - Relationships at work - OCB

5	Motivating Work Environment	- Job design - Goal setting - Performance appraisals - Performance incentives
6	Motivation	- Maslow's Hierarchy - EPG theory - Theory X, Theory Y
7	Stress and Emotion at Workplace	- Stress - Stress process - Workplace stressors - Role demands - Outcomes of stress - Individual differences in experiences and managing stress - Organizational approaches to managing stress - Emotions - Emotional contagion - Emotions at work - Emotional labor
8	Groups and Teams	- Groups - Development stages - Cohesion - Problems of too much cohesion - Teams - Team roles - Types of teams - Designing effective teams
9	Decision Making	- Decision making - Ideal process - Reality - Game plan?
10	Organizational Accident and Learning	- Organizational accident - Risk vs. uncertainty - Normal accident - Organizational learning - Barriers to organizational learning - high-reliability organization
11	Power in an Organization	- Power - Sources and conditions of power
12	Leadership	- Knowledge management - Intellectual capital - Organizational memory
13	Organizational Culture	- Traits for leadership - Types of leadership - Process and forces of organizational change - Organizational culture - Types of organizational culture - Why culture matters - Weakness of the strong culture - Strength of the adaptive culture - Organizational socialization - Outcomes
14	Group Presentations	- Presentations - Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Students have to finish them before they come to the class. Students are also required to understand distributed materials in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

University of Minnesota Libraries. (2017). Organizational Behavior (University of Minnesota Libraries Publishing Edition). Minneapolis: online textbook available at <https://open.lib.umn.edu/organizationalbehavior/>. (Original author removed at request of original publisher.)

[References]

N/A

[Grading criteria]

- Class participation (15%)
- Group presentation (40%)
- Final paper (45%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Prerequisite]

None

MAN200ZA

Brand Management

Takamasa FUKUOKA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.

Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Class participation (20%)

Assignment (20%)

Final exam (60%)

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA

Marketing Research

Kayhan TAJEDDINI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 6/Thu.6

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will provide an introduction to market research as a business decision-making tool. The primary goal of this course is to equip students with an understanding of how market research can help them make business decisions and how they can transform research findings into actionable business insights. The course also aims to help students gain the ability to evaluate and interpret research designed and conducted by outside providers. During the course, we will discuss a wide range of research methods, including in-depth interviews, focus groups, surveys and modeling, and their application to the services and non-profit sectors. We will also discuss data sources and data collection methods. Students will have the opportunity to define a business problem, develop a research plan, collect and analyze data and present findings and their implications as a class project.

This course aims to help students:

- (1) Discuss what market research is and how, why, and when it's useful.
- (2) Identify a range of market research tools (e.g., focus groups, interviews, surveys), consider their strengths and weaknesses, and discuss when it would (and wouldn't) make sense to use each.
- (3) Use these tools to solve business problems and craft business strategies.

【Goal】

At the completion of this course, students are expected to be able to:

- (1) Understand the importance of marketing research
- (2) Formulate a research problem
- (3) Design a questionnaire
- (4) Collect respondent data
- (5) Enter respondent data into a computerized spreadsheet
- (6) Analyze respondent data with statistical software
- (7) Write a research report
- (8) Make a in-class presentation about the findings

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	This session introduces the role of marketing research and the outline of this course.
2	Overview of Marketing Research Process	This session gives an overview of the process of marketing research and an introduction on research design.
3	Secondary Data and Research Question	This session explains the role of secondary data and how to clarify research question from secondary data.
4	Measurement	This session discusses measurement and measurement scales.
5	Data Gathering Instrument	This session introduces two important groups of data gathering instrument: (1) Survey and interview (2) Questionnaire.

6	Sample	This session discusses sample method and sample size.
7	Midterm Exam Basic Statistics	Midterm exam This session offers a crash course in basic statistics useful in marketing research.
8	Statistical Software	This session offers a crash course in how to use SPSS effectively.
9	Analyzing and Interpreting Data	This session introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Preparation and description (2) Exploring and displaying.
10	Analyzing and Interpreting Data	This is a follow up session of week 9 and introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Hypothesis testing (2) Measures of association.
11	Presenting Findings	This session discusses how to present findings by oral presentation and written report.
12	Review and Case Study	This session reviews the course contents by studying a complete case.
13	Student Presentation	Reserved for students to present their work.
14	Course Review Final Written Exam & Wrap-up	Course Review Final written exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Attendance is required at all scheduled class sessions, presentation and examinations. Students are expected to conduct their own project, write a report, and make a presentation. The project should begin after lecture 3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

- Naresh K. Malhotra (2015) *Essentials of Marketing Research: A Hands-On Orientation*, Prentice Hall, New Jersey.

- Alvin C. Burns, Ann Veeck, Ronald F. Bush (2016) *Marketing Research (8th Edition)*, Prentice Hall, New Jersey.

Students will be advised in the first week on whether they need to purchase the textbook(s).

【References】

Burns A. C. & Bush, R. F. (2014): *Marketing Research (7th Edition)* Prentice Hall, New Jersey.

【Grading criteria】

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

This course is self-contained. Basic knowledge in statistics is desirable but not necessary.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA

Entrepreneurship and New Ventures

Sean MICHAEL HACKETT

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This is an active learning course centered on the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. It is positioned as an entry point for students who think that they might want to start their own business “someday,” and want to learn about the startup process now. Specifically, the course is designed to help students develop a better understanding of how to generate and identify business opportunities, define potential business concepts, refine the business concepts through creativity and business modeling, translate the business concepts into minimum viable product definitions informed by design thinking and lean startup customer development approaches, and then prepare to drive sales of the product through an online presence.

[Goal]

The learning goal of this course is to acquire academic and practical knowledge about the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. The primary learning objective of this course is to develop an entrepreneurial mindset. Additional learning objectives for this course include developing critical thinking, communication, leadership, teamwork, and ethical reasoning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course is lecture and discussion-based, has an assigned reading every week, requires the use of an online journal, and uses group-driven experiential exercises to reinforce key concepts.

Preparation. Students must complete the assigned reading and write a journal entry about the reading before each class.

Class. In the first half of each class, there is a lecture. After the lecture, students break into groups in order to complete experiential exercises that are aimed at applying key concepts from the lecture and the assigned reading.

Review. After each class students are required to complete a journal entry describing their key takeaways from the class.

The Final Deliverable in the course is a Business Model Canvas and Executive Summary.

Feedback. Feedback is provided via the grade book feature in the Learning Management System (LMS) used by the Professor. Additionally, when warranted, comments are provided by the Professor via the LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	The Fundamentals of Entrepreneurship	This session is an overview of the course.
2	Nuts & Bolts and Hypotheses Associated with Registering a Business in Tokyo	In this session we will discuss the basic requirements for registering a business in Tokyo. We will also consider the hypotheses founders must develop as they go through the registration process.
3	Opportunity Recognition & Evaluation	In this session we will consider how to evaluate whether an idea is just a thought exercise or it is a genuine business opportunity appropriate for us to pursue.
4	Creativity & Entrepreneurship	In this session we will consider when creativity is essential for an organization, and when it is unwelcome.
5	Segmenting, Targeting, Customer Value Propositioning, and Positioning	In this session we will discuss positioning (the effort to influence consumer perception of a brand or product) and customer value propositioning for targeted customer segments.
6	Business Models	In this session we will discuss business models.

7	Design Thinking & New Product Development	In this session we will discuss the design thinking process as it is applied to new product development.
8	Lean Start-Ups & The Business Model Canvas	The reading on Lean Startups for this session changed the way that entrepreneurship is taught and practiced.
9	Customer Experience	In this session we consider how good customer experience design and good website design can translate into more sales.
10	Leveraging the Cloud and Integrations	In this session we will learn about software as a service and web services automation and integration.
11	Go-To-Market Strategy	In this session we will consider the go-to-market strategy which is “an action plan that specifies how a company will reach customers and achieve competitive advantage.”
12	Social Media Marketing and Search Engine Optimization	In this session we will use a case study to explore the potential for using social media marketing and search engine optimization to compete against large enterprises.
13	Counterfeiting & System D	In this session we will discuss the logic of counterfeiters and the challenge of competing against them and System D (the informal economy).
14	Course Wrap Up	This session is a review of the course.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Before each class, participants complete the assigned reading(s) and then write their journal entry in the online journal tool provided by the professor. After each class, students summarize their key takeaways in another online journal entry. In accordance with MEXT guidelines for 2-credit courses, I recommend allocating at least 150 minutes to read the assigned reading, reflect, and write the pre-class journal entry before each class, and at least 150 minutes to review, reflect, and write the post-class journal entry after each class.

[Textbooks]

An online coursepack of readings from the repository at Harvard Business School Publishing will be created by the professor. The cost of the coursepack is approximately US \$42.50. Students who want to earn points for assignments that use coursepack readings must purchase the readings directly from Harvard Business School Publishing using the URL associated with the coursepack. (Note: Payments for the coursepack can be made with either a credit card or a debit card).

[References]

If you want to read a book before taking the class, I recommend The Lean Startup and/or The Startup Way, both by Eric Ries.

[Grading criteria]

LMS registration: REQUIRED

Class participation & attitude: 39 points (29%)

Journal entries: 48 points (36%)

Group Experiential Exercises: 22 points (16%)

Final deliverable: 25 points (19%)

Total available points: 134 (100%)

(% is rounded)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

- A credit or debit card to pay for the online coursepack.
- A PC & internet connection.

[Others]

- IMPORTANT: This course does not use HOPPII. Instead, this course uses CANVAS, a global Learning Management System (LMS). If you would like an invitation to join this course on CANVAS, then, as a first step, please complete the APPLICATION FORM which is located at <https://hackettlabs.com/gis/>
- ESOP students bring an important international dimension to Department of Global and Interdisciplinary Studies (GIS) courses like this one. As long as seats are available, I welcome ESOP students who want to take this course.

[Prerequisite]

None

MAN200ZA

Creative Industries

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this class, we will explore different elements of contemporary creative industries and their surrounding cultures in Japan. This will include examining the differing conceptions of creativity they enable, and how this is connected to changes in media technologies and business strategies. Over the course of the semester we will explore the history of the idea of creative industries, examining specific industries in Japan. We will be focusing on the areas that are currently promoted locally and globally as key cultural industries in Japan. This includes anime, manga, toys, and the character business, exploring how these industries interacted and influenced one another. We will then move on to see how this connects to other industries, such as tourism. Lastly, we will examine the Japanese fashion industry in detail. For each of these commercial industries, we will analyze their production, distribution, and consumption as we examine different approaches to branding and creativity.

【Goal】

In addition to teaching the students information on the cultural production, economics, and marketing of the creative industries, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) critically engage with the concept of creativity; 2) learn the history of different creative industries and their shifts in business strategies and marketing; 3) explore how these shifts reflect societal changes in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analyses on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What are Japan's creative industries?
2	Anime's Business	History and technology
3	Structure	
3	Media-mix and Marketing I	Case study I
4	Media-mix and Marketing II	Case study II
5	Media-mix and Marketing III	Anime tourism
6	(Re)Conceptualizing Creativity I	Creativity and branding
7	(Re)Conceptualizing Creativity II	Robots and creativity
8	Smartphone Games	Production and problematics
9	Kawaii Culture	Local and global branding successes
10	Fashion I	Fashion and lifestyle branding
11	Fashion II	Branding Japanese Americana
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Steinberg, Marc. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. University of Minnesota Press, 2012.

Marx, W. David. *Ametora: How Japan Saved American Style*. Basic Books, 2015.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

TRS200ZA

Tourism Development in Japan

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

Up until the end of 2019, inbound tourism to Japan was experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists had brought opportunities and challenges to tourism managers, yet from 2020 there has been a refocus on domestic tourism due to the global coronavirus pandemic.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2022 and beyond.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Appreciate some of the key organizations involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at prefectural level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Considering the current state of Japanese tourism and recent trends
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management theory, and an introduction to some of the key institutions involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring destination management, sustainability and the economic potential of tourism for local and regional development 'off the beaten track'
5	Tourism Marketing	Consider various approaches to tourism marketing planning and analyzing prefectural marketing approaches
6	Japan and Asia	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.

7	Tourism Resources: Events	Analysing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites and how they are utilized for tourism purposes
9	Inbound Tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Also a consideration of the management challenges of varying motivations and behaviors of different visitor groups.
10	Case Study	In-depth focus on sustainable destination management through a case study
11	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the potential recovery from the coronavirus pandemic.
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and cultural tourism related to anime, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:

Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York
 Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility)*. Routledge: London

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

[Changes following student comments]

To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA

General Topics II: Japanese Taxation

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

There are two certainties in life - death and taxes. This course focuses on the latter and how modern taxation systems have come into being. From ancient times with taxes at borders, to how Marco Polo discovered taxation through gold exchange to the current day comparing different tax regimes of Japan, the US and UK and how each has different effects on regions and on demographics. We also explore tax as state aid, how tax breaks can lead to retaliation in trade wars and what the new rules that tax policy-makers and multinationals are expected to comply with - Base Erosion and Profit Shifting. The course also looks at tax as a social leveller (or not) and how mobility and connectivity has allowed individuals to shop the world for tax regimes. We will also cover the basic terminology and mechanics of how corporate and personal taxation is calculated.

【Goal】

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. Skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

During the course, each class is composed of a partial lecture on key concepts and in-class exercises including small group discussions and class presentations to help students learn and apply the concepts. Students will obtain feedback through Hoppii when they submit their work. Students will also obtain verbal feedback after their class presentations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	History of taxation up to the present day.	In this lecture we will discuss the role of the Tax office in Japan and the challenges ahead given the Japanese demographics and the global economy.
2	Introduction to income taxation and corporate taxation.	In this lecture we will define the residence of an individual and the scope of charge and key terms such as “Income Chargeable to Tax” and answer key questions such as: What is tax? What is “income”? When is “Income derived”? Where is income derived from? In this lecture we will also understand the rationale on why they are imposed and how they are calculated.
3	Introduction to inheritance taxation.	In this lecture we will also understand the rationale on why inheritance tax and how they are imposed and how they are calculated.
4	Introduction to Japanese Corporate Taxation.	In this lecture we will introduce key terms and how to calculate allowable deduction. We will also discuss the different types of prohibitions.
5	Introduction to Capital Gains taxation.	In this lecture we will understand the concept of Capital Gains taxation and how it is calculated.
6	Tax, deficit and balancing the books.	In this lecture, we will look at allowable deductions.

7	Base Erosion and Profit Shifting.	As business models of businesses change and technology becomes the main driver of alot of businesses, the old international taxation rules no longer apply. International companies earning multimillion dollar business plan their tax so efficiently that they pay little or no tax. So the Organisation for Economic Co-operation and Development is an intergovernmental economic organisation with 36 member countries, founded in 1961 to stimulate economic progress and world trade came up with a new set of rules of overhaul of the tax regime. In this lecture we will cover the 15 action plans.
8	Discussion and Review.	Discussion and Review.
9	Review of class and in-class written exam.	Review of class and in-class written exam.
10	The Impossible Trinity.	In this lecture we will see how taxation is used as a tool by the government to manage the economy. We will also discuss how taxation interacts with capital mobility and exchange rate management.
11	Keynesians vs Monetary.	In this lecture we will explain how taxation is vital economic policies and elaborate how the governments use Keynesian and monetary policies to determine their taxation policies. In this lecture we will also look at consumption taxation and how it works.
12	How low is low? 17% 12? 0%? From Hong Kong to the Carribean.	In this lecture we will look at countries with a low taxation rate and how they try to maintain competitive and attract foreign direct investment. We will also look at how Japan tries to attract foreign direct investment too.
13	Discussion and Review.	Discussion and Review of the various taxes covered during this course.
14	Review of class and in-class written exam.	Review of class and in-class written exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Readings- Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs.
2. Short assignments- Students are at times given assignments to strengthen their understanding of the application of the concepts. Students are expected to hand in their homework in the following class. In case of absence, students should hand in homework during the next class.
3. Case Study Analysis- Students form small groups to make a presentation on a case study based on specific theories or concepts discussed in class. Specific guidelines will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Other materials will be given by the instructor or shall be announced in class.

【References】

Other materials will be given by the instructor or shall be announced in class.

【Grading criteria】

Class Participation 25% (Attitude 8%, Assignments 8.5%, Recitation 8.5%)

*The two lowest-graded assignments will not be included in the calculation of the final grade.

Case Study Analysis: 15%

Midterm Exam: 30%

Final Exam: 30%

【Changes following student comments】

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】
None.

EDU200ZA

English Teaching in Primary School

Machiko KOBORI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of their second language learning (SLL), referring to primary modern foreign languages (PMFL), in particular, English as a foreign language (EFL). Its purpose is to give an insight into a range of SLL theories to primary pupils from psychological, educational and linguistic perspectives. It also explores modern EFL pedagogy for them with consideration to make consistency in the second language (L2) education from the primary to secondary levels. It looks at practical issues of their SLL such as the global movement towards primary L2 education. The students will be encouraged to develop their own perspectives on the teaching of English in primary school.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand the core issues of theories of primary pupils' SLL.
2. Explain different perspectives of the core issues of L2 education in primary school.
3. Examine the connection between the core issues of primary pupils' SLL and PMFL pedagogy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on English Teaching in Primary School
2	Rationales of English Teaching in Primary School	Issues in the placement of primary modern foreign languages (PMFL) in the primary curriculum
3	SLL of Young Learners (1)	Issues in learning and development
4	SLL of Young Learners (2)	Issues in learning languages
5	SLL of Young Learners (3)	Issues in teaching four skills: the spoken language
6	SLL of Young Learners (4)	Issues in teaching four skills: words
7	SLL of Young Learners (5)	Issues in teaching four skills: grammar
8	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching learning to learn
9	Primary L2 Education (2)	Issues in pedagogical approaches for primary pupils
10	Primary L2 Education (3)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to choose one of the related topics and complete daily tasks.
3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.

【References】

1. Annamaria Pinter. (2006). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.
2. Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
3. Curtain, H. & Dahlberg, A. C. (2005). *Languages and children: Making the match*. Pearson.
4. Ellis, G., Brewster, J., & Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
5. Nikolov, M. (2009). *Early learning of modern foreign languages: Process and outcomes*. Oxford University Press.
6. 『創造的な学びを育む初等英語教育—時代を超えて生き続ける理論と実践—』(2022) 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) 朝日出版社.
7. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語活動・外国語編』 開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notices of class activities and tasks will be given in order to allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA

Political Theory

Kazuhiro WATANABE

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this course we explore major political thoughts from antiquity to the present in view to gaining a comprehensive knowledge and understanding of historical developments of key political ideas that have shaped the world we live in.

【Goal】

Upon completion of this course, students should: 1) have a basic understanding of political thoughts by major figures in the Western history; 2) have familiarity with important political ideas and theories in connection with their historical backgrounds; and 3) have an ability to look at issues in current world politics in a historical perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course we begin with the legacy of the ancient Greeks and proceed through contemporary political theories mostly in chronological order. Each class consists of a lecture and class/group discussion to follow. There will be some in-class/take-home tasks to facilitate students' understanding of the topic. Good comments in reaction papers will be introduced in the class and used for further discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of course and requirements
2	Ancient Greek	Polis and politics: Plato and Aristotle
3	Hellenistic to Roman	From Republic to Empire: Cicero, Seneca, and other Hellenistic philosophers
4	Early and Medieval Christian Thoughts	Corpus Christianum: Augustine and Aquinas
5	Renaissance and Reformation	Civic humanism and fall of the Catholic church: Machiavelli, Luther, and Calvin
6	Absolutism versus Social Contract Theories	Rise of modern political principles: Bodin, Hobbes, Locke, and Rousseau
7	Enlightenment, Liberalism, and Republicanism in England and Scotland	Formation of modern political principles: Harrington, Bentham, Hume, and Mill
8	Enlightenment, Liberalism, and Republicanism in France	Development of modern political principles: Montesquieu and Voltaire
9	American Independence and French Revolution	Turn of modern political principles: Jefferson, Hamilton, Burke, and Tocqueville

10	German Philosophy and Nationstate	Ethical life: Kant, Fichte, and Hegel
11	Socialism	The age of ideologies: Marx, Lenin, Trotsky, Stalin, and Bernstein
12	Contemporaries I	Egalitarian Liberalism: Rawls, Nozick, and Sandel
13	Contemporaries II	Libertarianism and Communitarianism: Nozick and Sandel
14	Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In addition to completing reading assignments and preparing for discussion beforehand, students are expected to review class materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no textbooks for this course. Class materials, including weekly handouts and other reading materials (typically excerpts from major classic texts or introductory books), will be uploaded on Hoppii.

【References】

Klosko, G. (2012). *History of political theory: An introduction Volume I: Ancient and Medieval* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press.

Klosko, G. (2013). *History of political theory: An introduction Volume II: Modern* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press. A full bibliography will be given to students at the beginning of the course.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation including quizzes, discussions, and reaction papers (40%), in-class/take-home tasks (30%), and final essay (30%). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More detailed instructions will be given for assignments so that students do not misunderstand the scope and focus of them. Also, more effective measures are to be implemented to facilitate classroom discussions.

【Others】

Students who intend to take this course are required to attend the first class. A screening survey will be conducted in the class if necessary. Students should register their email address with Hoppii immediately after they decide to take this course, or before the second class of the semester at the latest. Visit Hoppii regularly for updates and class resources, as well as for the submission of assignments.

【Prerequisite】

There is no prerequisite for this course.

POL200ZA

Japanese Politics

Jeffrey JAMES HALL

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course provides an introduction to Japanese politics, economics, and society. It has four main focuses: 1) the emergence of Japan's postwar political system and the dominance of the Liberal Democratic Party, 2) Japan's rapid economic growth and its subsequent decline, 3) the role of citizen activism, interest groups, and bureaucracy in Japan's politics, and 4) major foreign policy issues facing Japan.

[Goal]

The goal of this course is to provide students with a broad overview of the issues and main questions surrounding the Japanese political, economic, and social system.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be structured around lectures. Each student will be expected to attend each week's class. There will be in-class discussions, so students are expected to express their opinions or ask relevant questions.

Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

All assignments will be submitted via the Hoppii online system.

Feedback: In the case of assignments submitted on Hoppii, important feedback will be included online when the assignment is graded.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Japan: The Emergence of The Modern State	Syllabus and requirements are introduced, together with some historical background on the emergence of the modern Japanese state
2	Historical Overview of Japanese Politics I	Meiji Period Politics
3	Historical Overview of Japanese Politics II	Late Meiji and Taisho democracy
4	Historical Overview of Japanese Politics III	The Pacific War and Japanese politics 1
5	Historical Overview of Japanese Politics IV	The Pacific War and Japanese politics 2
6	Historical Overview of Japanese Politics V	The American occupation
7	The politics of postwar Japan	Postwar politics in Japan 1 - discussing the rise of the LDP
8	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Midterm exam
9	The politics of postwar Japan 2	Discussing the power of the LDP and how it held power for so many years
10	The politics of postwar Japan 3 / Documentary	Discussing the changes in Japanese domestic politics since the 1990s. We will also watch a documentary about election campaigns in Japan.
11	Foreign Policy Issues (1)	A discussion of recent issues in Japanese foreign policy
12	Foreign Policy Issues (2)	A discussion of the U.S.-Japan alliance and Japan's foreign policy
13	Foreign Policy Issues (3) - Documentary	We will watch a documentary about Japanese political activism (and the Okinawa base issue)
14	Foreign Policy Issues Today	Most current foreign policy issues in 2022 and a look at major issues that will emerge in the future.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Before each week's class, students are expected to read an assigned article (10 to 20 pages in length) and for some of the weeks.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Readings will be uploaded to Hosei's Online Management System (Hoppii).

[References]

The following books are not required reading, but can be useful as references.

Curtis, G. L. (1999). *The logic of Japanese politics: Leaders, institutions, and the limits of change*. New York: Columbia University Press.

Hayes, L. D. (2009). *Introduction to Japanese Politics*. New York: Routledge.

Samuels, R. J. (2008). *Securing Japan: Tokyo's grand strategy and the future of East Asia*. Ithaca: Cornell University Press.

Samuels, R. J. (2013). *3.11: Disaster and Change in Japan*. Cornell University Press.

Shinoda, T. (2013). *Contemporary Japanese politics: Institutional changes and power shifts*. New York: Columbia University Press.

Smith, S. A. (2016). *Intimate rivals: Japanese domestic politics and a rising China* / Sheila A. Smith. New York: Columbia University Press.

Stockwin, J. A. (2008). *Governing Japan: Divided politics in a resurgent economy*. Malden, MA: Blackwell Pub.

[Grading criteria]

Weekly Discussion Question Responses (at least 200 words each, to be submitted on Hoppii): 40%

Midterm exam: 30%

Final Report: 30%

[Changes following student comments]

The weekly discussion question response grade has been increased to not make the grade too reliant on a single test or paper.

[Others]

Students who have completed General Topics II: Japanese Politics can not take this course.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA

American Politics and Foreign Policy

Jeffrey JAMES HALL

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the inner workings of American domestic and foreign policy. It will utilize historical and contemporary examples to help students understand how the United States rose to power and why it has acted in certain historical circumstances. Students will be expected to formulate their own opinions on the topics introduced so they can debate and discuss major issues.

The contents of each week may be changed from the syllabus, especially in the case of unexpected or important political events that take place during the semester (such as an election or Supreme Court decision).

【Goal】

- 1) Students are expected to develop an understanding of basic structure of the United States government.
- 2) Students are expected to gain knowledge of the ways in which different branches of the United States government interact and impact foreign policy.
- 3) Students are expected to understand and critically analyze how governmental and non-governmental factors (lobbyists, voter sentiment) influence American politics and foreign policy.
- 4) Students are expected to understand some of the political ideals that have influenced American politics since the country's founding.
- 5) Students are expected to develop their ability to engage in academic research and writing through the completion of short essays.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be structured around lectures.

There will also be discussion questions for each week's lecture topic. Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

Feedback: Assignments will be submitted on Hoppii, and feedback will be included.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the founding of the United States
2	Foundations	The United States Constitution – The Federalists and debates over tyranny & democracy
3	Historical Background of American Political System 1	Explaining the functioning of the U.S. government through historical examples.
4	Historical Background of American Political System 2	Explaining the functioning of the U.S. government through historical examples.
5	Historical Background of American Political System 3	Explaining the functioning of the U.S. government through historical examples.
6	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Exam: short-answer questions and a short-essay (online test via Hoppii)
7	Civil Rights and Racial Discrimination	A discussion of the civil rights movement in the United States and continuing issues
8	America as a Super Power - The Cold War	A discussion of America's domestic and foreign policy in the Cold War period
9	America's Role in Asia	Focus on relations with Japan and the Cold War in Asia
10	The end of the Cold War - a Unipolar world?	A discussion of America's politics after the Cold War.

11	Politics in America today / Documentary 1	A short discussion of political campaigning in America today. We will view a documentary about presidential campaigns.
12	Politics in America today / Documentary 2	A focus on present day politics in America, with the viewing of a documentary about smaller scale politics.
13	Trump's America	Discussion of the 2016 election America under President Trump
14	Biden as President	We will look at Biden's presidency so far, and what to expect in the future.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to have completed the readings before class. Expect roughly 15-20 pages of reading per week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All course reading materials will be uploaded to the course website.

【References】

The following books will prove to be good reference materials.

Herring GC. (2008). *From Colony to Superpower, U.S. Foreign Relations since 1776*. Oxford University Press.

Grover WF, Peschek JG. (2009). *Voices of Dissent, Critical Readings in American Politics*. Addison-Wesley Longman.

Ikenberry, G. J. (1999). *American foreign policy: Theoretical essays*. New York: Longman.

Wasserman, G. (2015). *The Basics of American politics*. Boston: Pearson.

Cox, Michael, and Doug Stokes. (2012). *US Foreign Policy*. Oxford: Oxford UP.

【Grading criteria】

Weekly Written Discussion Responses (Submitted on Hoppii): 40%

Midterm exam: 30%

Final exam(report to be submitted on the course website): 30%

【Changes following student comments】

Documentary responses will replace reading responses to reduce the reading load for two weeks.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Students who have completed General Topics II: American Politics and Foreign Policy can not take this course.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA

Religion and Politics

Christopher Michael KAVANAGH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the complex relationships between religion and politics drawing on cross-cultural case studies that range from the premodern to the contemporary period. The course takes a cross-disciplinary approach examining research from anthropology, sociology, psychology, and history. "Religion," as defined in the course, refers not only to doctrinal beliefs and formal institutions also to informal supernatural beliefs, ritual practices, and the various subcultures and social aspects associated with religious communities. The principal aim of the course is to explore how religions as cultural systems interact and affect political systems and nation-states. By the end of the course, students will have a firm understanding of the complex relationship that religious groups, institutions, and larger traditions have with political systems.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to: (1) analyze and discuss the roles that religion has played historically and cross-culturally in politics and public life; (2) understand the complex and diverse ways that religion and politics can interact; (3) critically evaluate scholarly research and media accounts that explore issues of religion and politics; (4) compare and contrast various theoretical models of religion and politics and the associated arguments.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This courses will be taught primarily through a combination of lectures, class discussion, and small group discussion. Each class will include a lecture followed by a class/group discussion based on related readings. Students will also need to complete reaction papers assigned to help reflect on the topics of selected classes. Students will also be required to select a topic and prepare an oral presentation on one of the topics covered during the classes. Presentations should be submitted with a script and students will receive written feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Religion and Politics: Course Introduction and Overview	Introduction to the course and review of the syllabus.
2	Defining Religion and Politics	An examination of the debates surrounding how to define religion and politics and the associated theoretical approaches.
3	The evolutionary role of religion in society	Exploring the role of religion in human societies from a cultural evolutionary perspective. Discussing its potential role in enabling large scale cooperation.
4	Religion and the State: Compatibility, Conflict, and Convergence	An examination of the varied relationships between religions and states, drawing on historical and contemporary examples.
5	Secularization Thesis	A critical assessment of the secularization thesis and the evidence presented for and against the position.
6	Resurgent Religiosity	An examination of contemporary claims of resurgent religiosity and growth in alternative religious beliefs.
7	Mid-term Exam	Mid-term Exam
8	Religious Identity & Intergroup Conflict	Exploring the role of religious identity in conflicts through two case studies: 1. Buddhist nationalism and Hindu minority identities in Sri Lanka. 2. The role of Catholic & Protestant identity in the Northern Irish 'Troubles'

9	Religious Activism and Social Protest	Exploring the ability for religion to function as a source of activism including as an anti-state counter-hegemonic, emancipatory force.
10	Online Gurus, Conspiracy Cults, & New Political Movements	Reviewing new interactions between religion and politics in the contemporary world, especially in the online sphere.
11	State Religion & War	Examining the nature of state religions through a case study of State Shinto & Buddhist institutions involvement in WW2.
12	Religious Extremism & Terrorism	A critical examination of the role that religious doctrines and personal beliefs play in terrorism.
13	Religion and Social Issues: Evolution, Abortion, and Same-Sex Marriage	Investigating the role that religion plays in controversial social issues. Focusing on debates surrounding the teaching of evolution, abortion, and same sex marriage.
14	Final Exam & Wrap-up	Course wrap up and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete their weekly reading assignments and reaction papers, participate in class discussions, and prepare a 15-20 minute oral presentation on a topic of their choice. Preparatory study/reading and review time for this class is estimated to be at least 4 hours per week.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor.

[References]

Haynes, J. (Ed.). (2008). Routledge handbook of religion and politics. Routledge.
Fox, J. (2018). An introduction to religion and politics: Theory and practice. Routledge.
These books are useful references but not necessary to purchase.

[Grading criteria]

Presentation 20%
Mid-term exam 25%
Final exam 25%
Weekly in-class participation 15%
Reaction Papers & Homework 15%

[Changes following student comments]

Reaction papers have been added to help students process the readings. The structure of group discussions has been altered to facilitate more interaction in discussions. In-class oral presentations of weekly readings have been removed.

[Equipment student needs to prepare]

Students do not need any specialist equipment beyond access to a PC/laptop & the internet. Students will need to complete readings before each class and submit reaction papers online via Google Classroom. At various points in the semester, students should be prepared to participate in discussions of ideas and concepts covered in readings.

[Prerequisite]

None.

ECN200ZA

Development Economies

Delgado Narro Augusto Ricardo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 6/Tue.6

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This is an introductory course to the field of Economic Development. This course aims to understand the main issues of development economics, analyze the economic problems of developing countries, and discuss strategies for achieving inclusive growth and reducing poverty and extreme inequality. This understanding will help the students answer key questions: Why do some countries achieve high levels of economic development and others do not? What are the policies governments can implement to change the growth path of their countries? This course will start from a “macro” perspective and later introduce a “micro” viewpoint of the problems to explore the social-economic factors that affect economic development. This course will cover economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, informality, and more.

[Goal]

1. Understand: (1) why some emerging countries have been successful in catching up with rich countries in per capita income, while others are let behind, (2) why half of humanity remains poor, and many of them are living with less than \$2 per day, and (3) why environmental degradation and resource exploitation are commonly associated with income growth.
2. Understand: what can be done to promote development through policies. Learn to analyze the economic and social impacts of specific initiatives.
3. Use data to conduct development analyses such as growth diagnostics, poverty assessments, impact analysis of development projects.
4. Encourage students to explore alternative paths of economic development that promote the well-being of individuals and communities.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course will be mainly conducted through lectures where we will study theory and applications. Students are encouraged and expected to participate in classes. Depending on the number of students we may have presentations or a final essay. Feedback will be given to students at the end of each presentation/essay. Please note that the teaching approach may vary according to the established sanitation level and following the university rules in this regard.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview - Why study development economics?
2	Growth and Development	-Distribution and Economic Growth: Theory and Evidence. -Inequality and growth: Theory and evidence.
3	Theory 01. Exogenous Economic Growth Theory	What makes countries grow? What are some of the characteristics of high growth economies? Harrod-Domar and Solow Neoclassical Growth Model.
4	Theory 02. Endogenous Economic Growth Theory	What are the critics to the Exogenous Growth Theory models? Models: AK, Cass, Romer, and Lucas growth theories.
5	Theory 03. Non-classical Economic Growth Theory	What are the critics to the Endogenous Growth Theory models? Demand side growth theories. Trade and economic growth.
6	Theory 04. Economic Convergence	What is economic convergence? Absolute Economic Convergence. Relative Economic Convergence. Clubs of Convergence. Middle-Income Trap.

7	Review & Midterm Exam	Assess students' understanding of the 1st half of course materials (Week 1-6)
8	Inequality and Poverty	Definitions of inequality. Definitions of poverty. Income mobility: Theory and evidence. Social welfare: Theory and evidence. How is inequality related to poverty and development?
9	Food	Definitions of nutrition?. Nutrition-based poverty trap. Hidden traps.
10	Population	Relationship between population and poverty. Population and development. Causes of rapid population growth, the effects of growth population and policy implications.
11	Education	Education and development economics. Impact of education over the income inequality and poverty.
12	Health	Health and development economics. Impact of health over the income inequality and poverty. Health systems and conditions in developing countries.
13	Informality	Definition of Informality, Shadow Economy, and Hybrid Economy.
14	Final Exam & Wrap-up	Assess students' understanding of the 2nd half of course materials (Week 8-13)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned materials (text-book/articles/cases) and to participate in class discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Ray, Debraj. (1998), Development Economics, Princeton University Press.

I highly recommend to buy this book for better understanding and complement our classes.

[References]

Additional references will be provided in the class.

[Grading criteria]

1. Class participation: 20%*
2. Essay or Presentation: 20%**
3. Midterm exam: 30%
4. Final exam: 30%

* Class participation includes class attendance and participation.

** To be decided in class.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

[Prerequisite]

None

SES200ZA

Environment and Development

Gregory Gene TOTH

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 6/Mon.6

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

We will first define “development” and “environment” from the most prominent perspectives (noting theory) and trace their formations, the overlapping portions of which will guide our exploration of related ethics and norms and their translation into international law. From this base, we will analyze the intersection of environment and development in various sectors and international efforts. After noting detractors, we will look forward towards the continued evolution (including potential divergence and convergence) of these concepts.

[Goal]

The purpose of this course is to introduce students to topics related to environment and development, including the contextual background and recent trends. Students will develop critical thinking and policy analysis skills through discussion of the various topics, as well as understandings of elements related to: international relations, international law, sustainability, socio-economic and political division, and related theory and philosophy.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]

The course follows a lecture-discussion method. After the material for each unit has been introduced, students will have an opportunity to ask questions and make comments about the material. Feedback will be provided directly during discussion sessions in the form of leading (Socratic-esque) questions and in summaries of the common trends in the completed assignments. Individualized feedback will be given in response to final assignment and upon request.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Development Theory	Classical / contemporary in the context of the National, Regional, and International
3	The Environment	Values/Valuation, Eastern/Western perspectives, converging ethics
4	Environmental Law	Philosophical underpinnings, North/South perspectives, converging norms
5	Sustainable Development	United Nations et al., and implementing the precautionary principle
6	Official Development Assistance	Premises and politics, USAID, JICA, etc.
7	Global Institutions	World Bank, International Monetary Fund, etc.
8	Foreign Direct Investment	Purposes, pluses, and protections
9	Trade and Development	World Trade Organization, environmental impacts and protections
10	Agriculture and Development	World Food Program, Food and Agriculture Organization, sustainable technology, etc.
11	Anti-globalization and Post-development	Beyond detraction, proposed alternatives, theories, successes, and false starts
12	Environmental Law (revisited)	Fragmentation and convergence in environment and development (compatibility)
13	Presentations	Group format, Zoom presentations
14	Conclusion	Course retrospective (remaining presentations, as necessary)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; preparation of discussion talking points and questions; group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There are no textbooks for this course.

[References]

Various references will be noted within the course materials.

[Grading criteria]

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (30/30%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

[Equipment student needs to prepare]

None

[Others]

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course.

[Prerequisite]

None.

SES200ZA

Society and Environmental Change

Ayami OTSUKA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course considers various interactions between human being and the surrounding environment, including living forms within it. Such interaction eventually forms various cultures, and those cultures advanced human society in history. However, we have allowed the unprecedented Great Acceleration to occur, while we were enjoying such advancement. In this course, culture is considered as one of the domains as well as base layers of a society, and students are introduced to various culture and its environmental implications, which in turn affects the culture of the society. By looking at the connections to political and economic aspects, resolutions to building a sustainable society will be explored.

【Goal】

Students will be able to

- understand oneself as being shaped by the interaction between the socio-cultural context and resulting environmental changes;
- gain knowledge about the historical background on how the current unsustainable society has been shaped;
- acquire knowledge and insights about environmental implications on which our “sophisticated” lives are based; and
- acquire the basic concept and perspectives for future visioning for achieving sustainable society.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted in mixture of lecture-based learning and more active involvement of students in class discussions. Students also have the opportunity to work in a group project towards the end of the course. More specific instructions are given in class for group work. Feedback to students' work (on assignments and group work, etc.) is given in class and/or through the Hosei Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course guidance	What is environment? What is culture & society?
2	Our everyday life and the environment	Conceptual development of environment and history of environmental problems
3	Background issues for change 1	Population, economic development and limits to growth
4	Background issues for change 2	Urbanization and cultural transformation
5	Background issues for change 3	Sustainable development and globalization
6	Food culture and its environmental implications	Shrimp, Tuna, and Mushroom, etc.
7	Fordism as cultural imperialism	Fordism and consumerism, “Auto-pia,” fast-fashion, etc.
8	Counterculture and future visioning	Back-casting and typologies of social futures
9	Different cultures	Forest, Ladakh, and green capital and Islamic society
10	Social futures I	Transition town, de-growth, and benefits of inconvenience
11	Social futures II	Smart cities/Society 5.0 and rural revitalization
12	Designing sustainable society I	Group work
13	Designing sustainable society II	Student presentation
14	Wrap-up of the course	Course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading and other assignments will be given as preparation for classes. Students are also expected to review class materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. There will be additional group work for group presentation.

【Textbooks】

No textbook is specified. Handouts and other relevant materials will be distributed by the instructor.

【References】

Giddens, Anthony and Sutton, Phillip W. (2017). Sociology (8th edition), Cambridge: Polity Press.

Mulligan, Martin (2018). An Introduction to Sustainability: Environmental, Social and Personal Perspectives (2nd edition). Oxon and New York: Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & attitude (35%)
2. Portfolio of assignment reports and group presentation (30%)
3. Final report (35%).

Students are required to satisfy at least 2/3 of each element to pass. The group project is assessed on an individual basis, which combines your self- and peer evaluation.

【Changes following student comments】

n/a

【Prerequisite】

None.

PHL300ZA

Readings in Philosophy

Robert SINCLAIR

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The three main objectives of the course are to introduce: (i) some of the real-world problems of global justice and the moral and philosophical challenges they present, (ii) some of the main positions and arguments that philosophers have proposed in response to these problems, and (iii) the philosophical method of analyzing and evaluating these different perspectives and arguments. A larger aim is to show how philosophy can help provide analytical tools for both clarifying and addressing the problems of humanity. Some of the topics we will discuss include: world poverty and economic inequality, human rights and sovereignty, nationalism and cultural diversity, just war and humanitarian intervention, and boundaries and immigration.

[Goal]

Students will (1) develop a deeper understanding of the basic issues, concepts and viewpoints found in global ethics and global political philosophy, (2) explore how philosophical ideas apply to real life events and (3) learn to think critically and express their opinions accurately. The class provides students with the moral background for their studies in the related fields of political science, international relations and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related materials and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is this thing called global justice? Global justice as normative inquiry, Organization of the course, selection exam
2	World Poverty	Moral responsibility and global poverty, utilitarianism and rights-based approaches
3	Global Economic Equality	Global egalitarianism, justice as fairness, resources versus capabilities
4	Against Global Egalitarianism	Questioning global Egalitarianism, Rawls's laws of peoples
5	Nationalism and Patriotic Sentiments	The problem of nationalism, cosmopolitanism, patriotism and partiality
6	The Universality of Human Rights	The nature of human rights, universal rights, liberal rights
7	Review & Midterm Exam	Review
8	Human Rights: State Sovereignty, Culture and Gender	Possible conflicts between human rights and sovereignty, culture and gender
9	Just Wars and Humanitarian Intervention	Just war theory, military intervention
10	Borders: Immigration, Secession and Territory	Ethics of immigration, secession and territorial rights
11	Climate Change Justice: Sharing the Burden	Climate justice, subsistence, per capita emissions, who pays?
12	Global Democracy: Cosmopolitan Versus International	Problems with democracy, Alternatives? Cosmopolitan versus international
13	Conclusion	Real world problems, the need for a global theory of justice
14	Final Exam & Wrap-up	Review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

What is This Thing Called Global Justice? Kok-Chor Tan, 2017, Routledge.

All required readings for the class are from this text. Any other class materials will be made available by the instructor. Students do not need to purchase the text.

[References]

International Ethics: Concepts, Theories, and Cases in Global Politics, 4th Edition, Mark R. Amstutz, 2013, Rowman and Littlefield.

The Global Justice Reader, edited by Thom Brooks, 2008, Wiley-Blackwell.

Global Ethics: An Introduction, Heather Widdows, 2014, Routledge.

More difficult, but useful, discussions of these issues can be found in the following articles from the Stanford Encyclopedia of Philosophy (<http://plato.stanford.edu/>): global justice, international distributive justice, globalization, cosmopolitanism, citizenship and many others.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) midterm exam (35%) and final exam (40%).

[Changes following student comments]

Some small changes have been made to the topics covered in the class.

[Others]

This course is intended for the those new to the philosophical study of global justice, presupposing little or no background in philosophy.

[Prerequisite]

none.

ART300ZA

Advanced Topics in Contemporary Art

Akiko MIZOGUCHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Since the early 20th century we have witnessed a number of artistic movements: the birth of conceptual art, abstract expressionism, the rise of pop art and minimalism, the extension into earth, body, the movement toward performance, video, installation, and public art. Amidst all these transformations, how does contemporary art continue to make meanings, communicate, become significant to us? This course looks at various topics in contemporary art and closely examines how art functions in our society. Artistic practices in Europe, North America, Japan and other Asian countries are mainly examined.

【Goal】

Students will learn major movements, artists and terms in contemporary art.

Students will understand the key developments from the modern art to the contemporary.

Students will become active and discerning participants/viewers of contemporary art, equipped with basic analytical frameworks.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes combine lectures, video clips, discussions, and student presentations. In addition, students are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the class (determined by the instructor). Students will then make presentations and write their research papers.

Feedbacks to the reaction comments will be given in the beginning of the next class.

Feedbacks to the presentations will also be given.

Students need to be aware that some works shown in class may address controversial issues such as homophobia, racial prejudice, and may include nudity.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course (A selection process may occur)
2	Modern to Contemporary	Challenges to Perspective, Impressionism
3	Conceptual Art, Fluxus, Minimalism	Marcel Duchamps, Yoko Ono, Donald Judd, Felix Gonzalez=Torres, Joseph Kosuth
4	Abstract Expressionism, Action Painting, Postwar Figurative Art	Jackson Pollock, Mark Rothko, Francis Bacon
5	Pop Art, Neo-Pop	Richard Hamilton, Andy Warhol, Roy Lichtenstein, Jeff Koons
6	Video Art	Nam June Paik, Bill Viola
7	Postmodernism, Performance	Cindy Sherman, Yasumasa Morimura, John Cage, Yoko Ono, Matthew Barney, Saeberg
8	Feminist Art, Race-Conscious Art, Queer Art	Judy Chicago, Mary Kelly, Carolee Schneemann, Barbara Kruger, Adrian Piper, Coco Fusco, Dumb Type
9	Appropriation Art, Simulationism Neo Expressionist Painting, Graffiti Art	Sherrie Levine, Julian Schnabel, Jean-Michel Basquiat, Keith Haring
10	Relational Art, Participatory Art	Gillian Wearing, Felix Gonzalez=Torres, Yoko Ono, Rirkrit Tiravanija, Yuki Kobayashi
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Summary	Summary and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to keep up with the readings and must be prepared for class discussions. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Readings will be made available on Hoppii.

【References】

References will be made available on Hoppii.

【Grading criteria】

Final grades are determined by contribution to class discussions and reaction comments (minimum 50 words due by 3pm Thursday (the next day)) (30%), a project paper based on a field trip to an art exhibition and research (40%), a presentation of the project (10%) and the final exam on image identifications (20%).

In the presentation, each student will introduce two artworks they encountered at the exhibition and explain why they liked them. S/he will conduct research on these works to write the paper. (The class schedule with the web links to the images and readings will be updated regularly throughout the semester.)

【Changes following student comments】

I have made the reaction comments due by 3pm on Thursday (the next day). This will achieve equity especially for slow-writing students.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA

Art in the Real World

Suzanne Carol MOONEY

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Despite art being a part of human culture and civilisation for millennia, the art world is often looked upon as something disconnected from everyday life. In this course, we will examine how art and everyday life are intertwined. This will be followed by study on the forms art takes in contemporary society, the value of art, spaces for art, and case studies on how artists live and work in contemporary society.

【Goal】

Through this course, students will gain an understanding of the role of contemporary art in society.

An important aspect of this study is to comprehend the processes of creation and the thinking behind public exhibitions, the multifaceted approaches of artists, and the infrastructure of the world of contemporary art in Japan and abroad, and how the art world is connected to the "real" world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Method(s)】

In addition to lectures on relevant topics, students will take part in practical exercises to gain first-hand knowledge and experience of the processes involved in contemporary art-making. Students are guided through the practical creative processes of making original artworks such as:

- Drawing to communicate
- Collating images to create narrative
- Combining text and images to change meaning

Students will also research an artist working now, in the 21st century, and will make a presentation on the results of this research.

In addition to the above, students must keep track of their weekly learning by collating images and text in a class notebook, 2 pages (minimum) per week that are relevant to the course material.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

For this class, preparatory study is 2 hours and review time is 2 hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the class outline and explanation of expectations. Workshop and group discussion on what art is and why it is important.
2	Art as communication	Sharing experiences through drawing. Practical activity to explore the communicative qualities of images.
3	Worthless art(?)	Artists with subversive approaches to value: Marcel Duchamp, Andy Warhol, Jeff Koons, Tracy Emin, etc.
4	Art with value	Group and class discussion on artworks with value for the 21st century
5	Connecting with the land	Connecting art practices with pre-historic art and ritual. Artists who work directly in the landscape: Robert Smithson, Richard Long, Christo and Jean Claude, Nancy Holt, etc.
6	Originality: It's all been done before	Tracing the thread of an idea in art; redefining originality
7	Art as action	Performance art and happenings, activism as art, and the importance of documentation
8	A working artist	A visit from (or case study of) an artist, discussing their works and career

9	Text and Images: Making meaning	Study of examples from art and online media. Practical exercises in making meaning
10	Outside of the gallery system	Artist-led initiatives and unconventional art spaces in Japan and abroad
11	Curation as practice	How curation creates meaning. Planning a fictional exhibition.
12	Student Presentations I & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
13	Student Presentations II & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
14	Final discussion and review	Presentation of notebooks and group discussion on art in the real world

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare a notebook and basic writing and drawing materials. Reading and preparation activities will be assigned on a weekly basis.

Students are also expected to visit at least one art exhibition and conduct research in preparation for a presentation (suggestions will be provided).

Students are also expected to use their notebook to keep a record ideas, samples of artworks, and other experiences throughout the semester. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Lecture slides/notes/other materials will be provided online.

【References】

Berger, John. *Ways of Seeing*, Penguin Books (1972)

Sontag, Susan. *On Photography* (1977)

Benjamin, Walter. *Art in the Age of Mechanical Reproduction* (1935)

Debord, Guy. *The Society of the Spectacle* (1967)

Krauss, Rosalind. *Sculpture in the Expanded Field* October, vol. 8, 1979, pp. 31 – 44.

Shifman, Limor. *Memes in Digital Culture*, The MIT Press (2013)

Foster, Hal. *Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism*. London: Thames & Hudson (2004)

【Grading criteria】

Participation:

This applies to class activities, assigned readings, exhibition visit and regular contribution to the group discussions.

Weekly submitted responses:

This is a requirement to submit weekly assignments. Examples of weekly assignments are: Pages from your workbook; a written response to class contents, evidence of activities completed in class that week.

Presentation: each student must make a short presentation on a working artist within the context of the course.

The final grade is calculated as follows:

Active participation 30%

Weekly submitted responses 40%

Presentation 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a class notebook (e.g. A5-A4 sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, scissors). Access to a computer, as weekly responses and submissions will be digital only. Details of other items required will be given as required.

【Others】

You do not need to be "good at art" or have previous practical experience in art to take this class.

What is essential for this class is to be curious and open-minded about what art can be, and to be willing to engage in discussions on topics that are new and, at times, challenging.

Students are expected to be punctual. As many of the topics are open for debate, participation in group and class discussions will be expected of all students.

Weekly responses must be submitted before the next weeks class, through an online system.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA

Film Studies

Andree LAFONTAINE

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the study and analysis of film. Over the course of the semester you will be exposed to key critical and theoretical approaches in film studies (genre, auteur theory, realism, formalism, etc.), in addition to gaining further knowledge into world cinema history and major film movements. All films screened in class are in their original language with Japanese subtitles.

【Goal】

(1) Students will learn the basic terminology of film form in order to describe and analyze films. (2) Students will learn the key concepts of film authorship and genre. (3) Students will gain an understanding of film history and major film movements. (4) Students will learn, practice, and improve their film writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1” and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class consists of a lecture (50%), film clips (30%), and discussion (20%). There will also be two film screenings. Feedback on quizzes will be provided in class; feedback on written assignments will be sent via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: What is Film Studies?	Course overview and class discussion over questions such as "What is film?"; "What makes a film experience meaningful?"; "Why do we watch films?" etc.
2	Early Film History and Approaches to Film	A selection of early shorts (Lumière, Edison, Méliès) and film excerpts (D.W. Griffith, Edwin S. Porter, Mack Sennett).
3	Classical Hollywood, the Studio System, and Mise-en-scène	<i>Cleopatra</i> (Cecil B. DeMille, 1934, US); <i>Casablanca</i> (Michael Curtiz 1942, US).
4	Soviet montage, Russian Cinema, and the Kuleshov Effect	<i>Potemkin</i> (Sergei Eisenstein, 1925, USSR); <i>October</i> (Sergei Eisenstein, 1927, USSR).
5	Cinematography, Composing the Frame, and Authorship	Selection of Alfred Hitchcock clips.
6	Narrative Form I and Information Control	<i>Citizen Kane</i> (Orson Welles, 1941, US).
7	Narrative Form II, Camera Angle	<i>Do the Right Thing</i> (Spike Lee, 1989, US); <i>Seven Samurai</i> (Akira Kurosawa, 1954, Japan).
8	Editing, and Camera Movement, and the Long Take	Clips from <i>Touch of Evil</i> (Orson Welles, 1958) and <i>Spectre</i> (Sam Mendes, 2015).
9	New Hollywood and the Blockbuster Economy	Selections of short clips from early Martin Scorsese films. For their mid-term, students will watch a film in class and write a scene analysis to be submitted the following week.
10	Art Cinema and the Festival Circuit	Selection of clips from Michelangelo Antonioni films; <i>The Great Beauty</i> (Paolo Sorrentino, 2013, Italy).
11	Genre I: Melodrama, Colour, Affect	<i>Written on the Wind</i> (Douglas Sirk, 1945, US); <i>Far From Heaven</i> (Todd Haynes, 2002, US).
12	Genre II: Film Noir and Lighting	<i>Double Indemnity</i> (Billy Wilder, 1944, US).
13	Sound, Cinephilia, Discontinuity Editing, and the French New Wave	<i>Cléo de 5 à 7</i> (Agnès Varda, 1962, France).

14 Semester Recap and Final Exam Screening For their final, students will watch a film in class and write an analytical essay.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All readings will be provided by the instructor and made available online.

【References】

David Bordwell, Kristin Thompson and Jeff Smith, *Film Art: An Introduction* (McGraw-Hill, 2019); Kristin Thompson and David Bordwell, *Film History: An Introduction* (McGraw-Hill, 2018); Maria Pramaggiore and Tom Wallis, *Film: A Critical Introduction*, second edition (Pearson, 2008).

【Grading criteria】

Quizzes (5x10%): 50%

Scene analysis: 20%

Final Exam: 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

This is a paper-free class. Students will need to access class materials and submit assignments online. No electronic device is required in class, and students should refrain from using them during lectures, screenings, and class discussions.

【Prerequisite】

None.

SOC300ZA

Social Theory: Perspectives on Inequality

Yuki NAKAMURA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 5/Fri.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Social inequality has always been a part of human society, and social scientists have invested much effort into “figuring out” why there is social inequality and how social inequality is sustained and reproduced. Earlier efforts focused mostly on socioeconomic inequality, while later endeavors explored racial, gender, sexual inequalities and their interconnections. These efforts resulted in classical and contemporary social theories on inequality. In this course, students will learn these theories, which are interesting in and of themselves, but more importantly, they will learn to think about inequality deeply and sophisticatedly.

【Goal】

In mastering the social theories covered in this course, students will hone their critical thinking skills, develop their own theories of various aspects of society and the world and consider solutions to lessen inequality. Students will acquire the skills to engage with complex ideas and think systematically and logically, and remaining aware of social injustices and problems. By the end of the course, students should be able to form and support their opinions with ease.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught through a combination of lectures interwoven with short discussions, student presentations based on readings, and post-presentation discussions.

After the active learning section, the instructor will give feedback to each student personally in verbal or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview of theories to be covered. Nature of the class. Course requirements.
2	The Trio in Classical Theories (1)	Karl Marx on social class
3	The Trio in Classical Theories (2)	Max Weber on social stratification
4	The Trio in Classical Theories (3) Yet Another View?	Emile Durkehim on the division of labor in society Ralph Dahrendorf's theory of the origin of inequality
5	Norms and Inequality The Cultural Turn in Social Theory?	Pierre Bourdieu's <i>Distinctions</i> and the significance of taste and lifestyle
6	Presentation and Discussion: A "Common Sense"	Student presentation and discussion on Davis and Moore's structural-functionalist theory and Tumin's critique
7	Theory and its Critique Race, Ethnicity and Inequality (1)	Theories related to racial inequality: The work of W.E.B. Du Bois, Michael Omi & Howard Winant, Joe Feagin
8	Race, Ethnicity and Inequality (2)	Theories related to racial inequality: Critical Race theories (CRT)
9	Student Presentation and Discussion	Student presentation and discussion of CRT
10	The "F" word: "Classic" Feminist Theories on Gender Inequality	What is feminism? Liberal Feminism: <i>the</i> feminist theory? Mary Wollstonecraft, John Stuart & Harriet Taylor Mill, and Betty Friedan
11	It's All Together Now: Race, Class and Gender	Black Feminist Standpoint Theory: Patricia Hill Collins Intersectional Theories: understanding multiple inequalities

12	Global Inequality	Dependency Theory and World-Systems Theory: Fernando Henrique Cardoso, Enzo Faletto and Immanuel Wallerstein
13	Basic Concepts and Theories	Student presentation based on theories introduced in class.
14	Theories on Inequality: One More Time	What have we learned? Where to go from here? Short presentation and discussions of "favorite concepts"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Since the class is centered on reading and discussion, students are expected to do the readings before class and also review materials after each class. Every effort will be made to keep the amount of readings reasonable and enjoyable. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

【References】

Grabb, Edward G. 2007. *Theories of Social Inequality*. 5th edition. Toronto, Canada:Thomson Nelson.

【Grading criteria】

Presentations (22%), reading assignments (40%), take-home examination (30%), class participation (8%).

【Changes following student comments】

Students were positive about the course, despite the rather heavy workload. However, to encourage students to engage more with the class materials, short discussions have been integrated into the lectures from 2017.

【Others】

If you like to read, think and discuss, this is the course for you. If you have taken and liked courses in political theory, philosophy, cultural anthropology or other sociology courses, it's likely that you find this course enjoyable as well.

Also, students who have passed *Introduction to Sociology* will be given admission priority. All students who intend to enroll in this class have to attend the first class.

【Prerequisite】

None

SOC300ZA

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki HIRAMORI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are welcome to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course introduction, logistics
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	The Social Construction of Sperm	How does science construct a romance based on stereotypical male-female roles?
4	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
5	Transnational Adoption	What does identity construction for transnationally adopted children look like?
6	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
7	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
8	Carceral Geography	How is the prisonization of Black men's living and working space deployed across societies?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work I	What is sex work? What is the difference between human trafficking and sex work?
12	Human Trafficking and Sex Work II	Who are migrant sex workers? What are some issues faced by them?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable. This course is taught for the first time by this instructor.

【Equipment student needs to prepare】

None. You are welcome to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA

Migration and Diaspora

Chris Hyunkyung PARK

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Scholarship on diaspora has drastically increased in the last three decades, and the issues pertaining to immigration and exile, as well as nation-state, nationalism, citizenship, identity and belonging have been explored and examined through a lens of diaspora in various academic disciplines. The course will address various issues that constitute diaspora such as the process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities, as well as identity formation, cultural hybridization, and cultural/knowledge productions – all of which are informed by race, gender, sexuality, class, religion, language and others.

In so doing, the class will first locate the roots of diasporas. As early historical references of the Jewish diaspora and the Black diaspora suggest, the displacement of people and communities from the original homeland often involved both internal and external forces that rendered them “exiles” or “slaves” against their will. Similarly, more recent diasporas emerge as a result of conflicts, wars, colonization, decolonization and globalization that result dispersion of people as “immigrants,” “refugees” and “adoptees.” Situating diaspora in broader projects of nation-building and empire-building, the course will ask and complicate the questions not simply about who, but also when, how, and under what circumstances people become diaspora, as well as how they (re)construct diasporic subjectivity and identity. Finally, the course will have a special focus on women’s experiences and voices.

[Goal]

At the end of this course, students should be able to:

- Explain such concepts as nationalism, citizenship, identity and belonging
- Explain historical and contemporary issues faced by various displaced people categorized as “immigrants,” “refugees,” and “adoptees” in their process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Use intersectionality as a lens of analysis to discuss issues pertaining to identity formation

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on a project and present findings and analyses on a topic of their choice. Further directions will be given in class.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Students are expected to regularly check (at least once or twice a week) their university email account and Hoppii for course announcements and updates.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview & Self-introduction	Introduction and course expectations.
2	Definitional questions	Theories and concepts: Migrant categories, return migration, migrants to citizens, diasporas and transnational communities.
3	Identity/ies for diasporic subjects	Why the poorest don't migrate: examining systems, links, chains, routes, networks and diverse migrant motivations.

4	"Military Wives"	Japanese women's departure, becoming American, the "modernized subjects"
5	"To Save the Children"	Origin of international adoption
6	Militarized process of "Leaving"	How "refugee" subjects are created and mobilized through spaces and modernity.
7	War, racism and incarceration	Japanese American internment experience during WWII
8	Forced identity	Representation of "Good" & "Grateful" minority
9	Racialized as "Invisible Asians"	Korean adoptees' experience
10	Orphan with two mothers	Film: Liem, Deann Borshay, First Person Plural (2000)
11	Diasporic homecoming	Homecoming experiences: Japanese Brazilians v. Japanese Americans
12	Between home and homeland	Film: Yang, Yonghi. Dear Pyongyang (2005)
13	Group presentation I	Student presentation
14	Group presentation II	Student presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on online course management system.

[References]

Espiritu, Y. *Home bound Filipino American lives across cultures, communities, and countries*. UC Press, 2003.

[Grading criteria]

Participation: 30%

Reading and Writing Assignments: 20%

Presentation on Weekly Reading: 20%

Group Project: 30%

Students are not allowed for more than 2 unexcused absences. These exclude absences due to medical reasons, job interviews, but include those due to family emergency and train delays. If students arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If students miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. Students must complete all the assignments to pass the course. If students have special need, exceptions may be made. Contact the instructor no later than Week 3.

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

Changes to the above class schedule may take place.

Students who intend to enrol in this class are expected to have passed or taken Understanding Society or Introduction to Sociology.

This prerequisite may be waived through consultation with the instructor.

SOC300ZA

Feminist Theory

Daiki HIRAMORI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course focuses on vibrant intellectual conversations engendered by the production of feminist theory in the contemporary moment. This course is divided into the following four sections: (1) theorizing feminist times and spaces, (2) theorizing intersectionality and difference, (3) theorizing feminist knowledge and agency, and (4) imagine otherwise/solidarity reconsidered. Through this course, students will learn the ways feminist theorizing moves across disciplines and at times intentionally defines and destabilizes disciplinary categorization.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of feminist theory (remembering/understanding), (2) apply feminist theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of feminist theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are welcome to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course introduction, logistics
2	Theorizing Feminist Times and Spaces I	Amrita Basu, “Globalization of the Local/Localization of the Global: Mapping Transnational Women’s Movements”
3	Theorizing Feminist Times and Spaces II	The Combahee River Collective, “A Black Feminist Statement”
4	Theorizing Feminist Times and Spaces III	Emi Koyama, “The Transfeminist Manifesto”
5	Theorizing Intersectionality and Difference I	Jennifer C. Nash, “Re-Thinking Intersectionality”
6	Theorizing Intersectionality and Difference II	Heidi Hartmann, “The Unhappy Marriage of Marxism and Feminism: Towards a More Progressive Union”
7	Theorizing Feminist Knowledge and Agency I	Nancy C.M. Hartsock, “The Feminist Standpoint: Toward a Specifically Feminist Historical Materialism”
8	Theorizing Feminist Knowledge and Agency II	Patricia Hill Collins, “Defining Black Feminist Thought”
9	Theorizing Feminist Knowledge and Agency III	Donna Haraway, “Situated Knowledges: The Science Question in Feminism and the Privilege of Partial Perspective”
10	Theorizing Feminist Knowledge and Agency IV	Judith Butler, “Performative Acts and Gender Constitution: An Essay in Phenomenology and Feminist Theory”
11	Imagine Otherwise/Solidarity Reconsidered	Chandra Talpade Mohanty, “‘Under Western Eyes’ Revisited: Feminist Solidarity through Anticapitalist Struggles”
12	Chicana Feminist Theory	Chela Sandoval, “U.S. Third World Feminism: Differential Social Movement I”
13	Theory in Action I	Preparation and feedback for final paper

14

Theory in Action II

What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

The readings are excerpted from the following books: McCann, Carole R., Seung-kyung Kim, and Emek Ergun, eds. 2021. *Feminist Theory Reader: Local and Global Perspectives*. 5th ed. New York: Routledge. Sandoval, Chela. 2000. *Methodology of the Oppressed*. Minneapolis: University of Minnesota Press. Further reference may be provided based on students’ areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 40%

[Changes following student comments]

Not applicable. This course is taught for the first time by this instructor.

[Equipment student needs to prepare]

None. You are welcome to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed “Race, Class and Gender I.”

ART300ZA

Special Topics I: Photography and Culture

Gary MCLEOD

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

How can photography help to understand the world around us? Can it support or shape the way in which we interact with it? This course looks at the role of photography in an increasingly digital and time-poor society. Through “rephotography”, a set of visual practices for expanding conversations about place over time, the course explores the dual pressures upon today’s camera users to evidence and record reality while embodying authentic acts of personal expression.

[Goal]

Students carry out an independent rephotography project from conception to publication under a broader research agenda to visually record time and place in Tokyo. Through producing a photo book, students will develop critical perspectives toward contemporary image-making while learning to articulate research methodologies and give constructive feedback.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course uses a practical approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ understanding of contemporary photography and improve critical skills regarding the production of images (i.e. visual literacy). Students produce and print a contact sheet of 36 photographs every week which is used for discussion in class. Final submission comprises a photo book and evidence of participation (12 submitted contact sheets). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given through ongoing dialogue between students and instructor during production of the contact sheets and photobook.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Slow Glass	Introducing the course and expectations.
2	Looking Again	Photographing the campus ‘in’ time.
3	The Landscape of Rephotography	Discussing rephotography as a diverse set of visual strategies.
4	Re-entering the Past	Discussing the relationship between rephotography and place.
5	Now and Again	Discussing the relationship between rephotography and time.
6	Conversations with the future	Sharing ideas for visually exploring time and place in Tokyo.
7	Photo Book Research	Analysing photo books in the university library.
8	Developing Strategies	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of strategies.
9	Developing Sequences	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of sequences.
10	Refining Selections	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of selections.
11	Expanding Horizons	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of outcomes.
12	Draft Photobook	Making preparations for producing a booklet.
13	Photobook Review	Reviewing reflection and notation in workbooks.
14	Final Photobook Review	Making final improvements to books prior to submission.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must regularly take photographs throughout the semester. Every week students are required to bring a contact sheet containing 36 photographs made during the week before, which will be discussed in class. They are also expected to use the photo book resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be will be uploaded on Hoppii or distributed in class.

[References]

Batchen, Geoffrey (2008) *William Henry Fox Talbot*, Phaidon.
 Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.
 Flusser, Vilém (2014) *Gestures*, University of Minnesota Press.
 Ruetz, Michael (2008) *Eye on Infinity*, Steidl.
 Ritchin, Fred (2013) *Bending the Frame*, Aperture.
 Sagami, Tomoyuki (2018) *YKTO*, Steidl.
 Tomiyasu, Hayahisa (2018) *TTP*, Mack Books.
 Watanabe, Toshiya. (2018) *Thereafter*, Steidl.
 Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to weekly contact sheets (minimum of 12) More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
 Photo book: each student must produce a small photo book (min. 96 pages) that communicates ideas relating to the city and time.
 The final grade is based on: Participation 40% and Photo book 60%. As a variety of predictable and unpredictable factors are involved in the process of creating a photobook, evaluation considers a blend of concept, research, originality, visual communication ability and tenacity.

[Changes following student comments]

Changes have been made in response to student feedback, thank you.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop with photo-editing software and a camera. Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to a better camera (and wish to use it), please bring it and the instructor will show you how to use it.

[Others]

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and show interest.

[Prerequisite]

None.

LIT300ZA

Fact and Fiction in the Movies

Catherine Marie MUNROE HOTES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will examine how reality is depicted on film, from the advent of cinema to contemporary forms of online media. We will look at how the tropes of documentary fiction and non-fiction were developed and changed with new technologies.

【Goal】

Students will learn documentary film theory and narrative film theory with particular emphasis on how cinematography, mise-en-scène, sound, editing and other techniques are used by filmmakers in both fiction and non-fiction films to give the impression of realism. We will also discuss the ethics of depicting the lives of real people and events on film. Students will learn to engage critically with media and learn how to determine fact from fiction.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Lecture, readings, film analysis, quizzes, group work, exam, and essay writing.

Lectures take a hybrid form that actively encourages student participation in discussion.

The participation mark will include attendance, mini-quizzes that will evaluate comprehension of assigned readings, group work and peer evaluation of in-class group work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction & Introduction to Documentary Theory	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements. Selection of Lumière Brothers short films
2	Kino Pravda	Man with a Movie Camera (Dziga Vertov, 1929)
3	Docudrama	Nanook of the North (Robert J. Flaherty, 1922)
4	Ethnographic Filmmaking	How to Build an Igloo (Douglas Wilkinson, 1949) If You Want to Get Married... You Have to Learn How to Build an Igloo! (Allen Auksaq, 2011)
5	Indigenous Perspectives	Alanis Obomsawin readings and clips Film Terminology Quiz
6	Docufiction, Direct Cinema, Cinéma Vérité	Chronique d'un été (Jean Rouch & Edgar Morin, 1961) Lonely Boy (Roman Kroiter & Wolf Koenig, 1962)
7	First Person Narration	Waiting for Fidel (Michael Rubbo, 1974)
8	Review & Mid-term Exam	Examination on material read, viewed and discussed during weeks 2-7
9	Historical Dramas: Fact vs. Fiction	Readings and clips from Braveheart (Mel Gibson, 1995) and The Favourite (Yorgos Lanthimos, 2018)
10	Biographical Films (BioPics)	Readings and clips from Frida (Julie Taymor, 2002), Becoming Jane (Julian Jarrold, 2007)
11	Re-enactment of True Events	The Docudrama: Clips from <i>The Thin Blue Line</i> Reading: "Play It Again, Sam (Re-enactments, Part One)" Short quiz.
12	How Real is Reality TV?	A Selection of Video Clips and Readings Class Debate

13	Edutainment, Infotainment, "Soft News", Clickbait	Group presentation of research done on a selected film
14	Final Discussion: How to Discern Fact from Fiction in Online Media	Class Discussion Final Paper Due

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading academic texts and answer comprehension questions (4 hours each week). The estimated preparation time includes watching video clips.

【Textbooks】

This is a paperless class. The films and academic readings, and other materials will be made available using online resources or shared files.
Nichols, Bill. Introduction to Documentary. 3rd ed. Bloomington: Bloomington UP, 2017. (available as an ebook)

【References】

Bordwell, David. The Way Hollywood Tells It: Story and Style in Modern Movies. Berkeley: U of California P, 2006.

Bordwell, David, Kristin Thompson and Jeff Smith. Film Art: An Introduction. 12th ed. New York: McGraw-Hill, 2019

【Grading criteria】

Participation (30%); film terminology quiz (20%); mid-term exam (20%); essay(30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Others】

Enrollment is limited to 3rd and 4th year students.

【Prerequisite】

None

CUA300ZA

Comparative Media

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Grading criteria】

Participation and speaking up during class discussions 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

【Outline and objectives】

In this class we will explore how different media operate, exploring how various mediums — such as animation, cinema, visual art, comics, and literature — allow us to see and understand the world in different ways. By using theories and methods developed for each media, we will gain a better understanding of how each media operates, and what it allows us to see or hides from our view. In order to keep some common ground, we will compare each of these media to a particular type of animation: anime. While comparing and contrasting these media, we will be analyzing specific films and anime works, detailing how they touch on topics such as societal critique, politics, gender, technology, spectatorship, geopolitics, and consumerism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary media and society, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to analyze various media; 2) examine the specific operations of each media; 3) learn how to analyze the media's relationship to society; 4) explore how to conduct in-depth analyses of specific media works.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and animation. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their presentations and exam. In class, feedback is given using some comments in relation to student comments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Comparing media
2	Exploring Contemporary Visual Arts	Post-modernity and its relationship to media
3	Live-Action Cinema	Cinema and the problems of "realism"
4	Usages of Cinema and TV	Media and its relationship to warfare
5	Serialized Media	Analyzing episodic narratives
6	Reading Animation	Methods for interpretation in relations to other media
7	Comics and Sequential Media	Considering adaptations: Comics vs. live action films
8	Manga adaptation	Manga vs. anime versions
9	More real than reality	Reality TV and voyeurism
10	Spectators and Media	Gender and viewership across media
11	Literature: Old Media, New Media	Fantasy and self-hood as presented in different mediums
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading material will be provided via Hoppii.

【References】

References to different online articles and other media will be provided in class.

CUA300ZA

Media and Globalization

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

With Disney films and anime becoming popular all over the world, it is hard not to see animation as a dominant form of global media. But how can we explore animation in its global position? Focusing on animation from the U.S., Japan, as well as Europe and parts of Asia, in this class we will closely examine the particularities of animation, exploring different thematic topics that intersect with globalization. Throughout the semester we will be engaging with the aesthetics of animation, analyzing its history, production processes, and global presence. In the first section of the class, we will learn how animation functions as a certain type of technology, how it operates transnationally, and how this is representative of contemporary globalization. In the second section of the class, we will examine specific topics that are relevant to globalization, including the spread of culture, the ethics of globalization, and global environmental destruction. Utilizing the methods learned in the first section of the class, we will analyze how specific animations and genres grapple with these topics.

【Goal】

In addition to teaching students information about animation and globalization, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine animation as a particular type of media; 2) explore many of the problems of globalization through the example of animation; 3) learn how to apply those methodologies to analyze how certain animations engage with the problems of globalization.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Media's part in globalization
2	Media Flows Across the World	Different ways of thinking about globalization
3	Transnational Production of Media	Animation production across national borders and Regions
4	Global History of Media	Transnational influences from Russia, US, and Japan
5	Global Expansion of Animation	Differences and similarities of consuming media in various locales
6	Animation as Global Technology	Effects of technology in the ways we see and think about globalization
7	Globalized Aesthetics	Implications of anime's globally recognizable stylistics
8	Animating Characters Differently	Disney's techniques vs. anime's techniques and their relationship to culture
9	Dislocation of Transnational Media	How different animations consider ways to exist in an interconnected world
10	Local Folklore Gone Global	Traditional cultures in conflict with globalization
11	Ecology as a Global Issue	Environmentalism in various types of animation
12	A Technological Globe	Imagining a global world in cyberpunk animation

13 Student Presentations Feedback and Discussion

14 Student Presentations Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Stevie Suan, *Anime's Identity: Performativity and Form Beyond Japan*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2021.

Additional readings will be provided by the instructor.

【References】

Appadurai, Arjun. *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization*. University of Minnesota Press, 1996.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

CUA300ZA

Media and the Nation

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this class, we will explore how various media intersect with the idea of the nation in Japan. This will include engaging with the intersection of different media during the formation of the modern Japanese nation-state in the late 1800s. From this point of departure, we will move forward through Japanese history, exploring different media and how they operated in Japanese society at different times. We will examine print culture, from newspapers and wood-block prints, to comics and magazines, as well as moving-image media such as animation and live-action TV and film. Exploring their history, we will analyze some of their shifts over time, and how they reflect changes in their relationship to images of the nation in Japan. This includes how subcultural “otaku” media became official symbols of Japanese national culture, both locally and globally. After addressing this topic in detail, we will then return to more mainstream media, such as films and TV dramas and their relationship to shifts in Japanese society.

【Goal】

In addition to teaching the students about modern Japanese history, society, and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine various media and their connection to Japanese society; 2) examine the specific dynamics of each media and their connection with the nation of Japan on a local and global scale; 3) develop how to analytically engage with the history of Japan and these media through the methodologies learned in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Nations and media
2	Imagined Communities	Newspapers and the early nation-state
3	Making National Arts	Theater and hanga's transformations in Meiji Japan
4	Wartime Media	Animation and film during the Taisho and Showa periods
5	Post-war Shifts	Shifting gender dynamics in popular genres from the 1960s and 1970s
6	From Niche to Mass	Anime and manga's rise to national fame from 1980s to early 2000s
7	Media Stereotypes	Creating an image of otaku in the 1980s to early 2000s
8	Otaku in Transition	Shifting images of otaku in film in the 2000s
9	Otaku Consumption/Production	Conceptualizing different types of consumption patterns of otaku
10	National Visibility of Fujoshi	Rise of female otaku consumers in early 2000s
11	Post-Bubble TV	Celebrity and lifestyle in TV dramas in 1990s and 2000s

12	Making Japan's Food	Contemporary "food focused TV" in imagining the nation
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Anderson, Benedict. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. Verso Ed., 1985.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

CUA300ZA

Media Research

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This course aims at helping students historicize and contextualize the socio-political and economic influences that media technology has had on our everyday lives and how that influence manifested itself in media representations. The study of media technology as material culture through its production, dissemination and uses has become more urgent as new forms of media are created faster than ever. In this course, students will analyze how media technology has developed throughout history and will further examine the pros and cons, social embracement and anxieties associated with each technology and their representations. Students will apply what they learn about the development of media technology and how it has been represented from a historical and socio-economic perspective and reflect it in their research projects.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to,

- understand the history of media technology and its institutional development through their research projects
- learn theories regarding the development of media technology and learn how the technological development of media and its institutions has informed human perception, anxieties, body, gender and politics throughout history
- improve critical thinking ability about how the historical development of media technology has changed the institutional landscape as we know it and demonstrate that understanding by constructing strong arguments during class discussions

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course will cover the historical development of media technology through required readings and watching relevant media examples. The class will be centered on student discussions related to the required readings and topics and the instructor will guide the discussions accordingly.

Comments/feedback for assignments (tests and reports, etc.) are given during office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of media technology
2	Print culture	Printing press, nationalism, and communities
3	Photography	First photography, stereoscopic images, and historical understandings
4	Film	Invention of cinema, sound technology and aura
5	Film	Animation technology
6	Telephone	Telegraph wire, telephone and fear of connection
7	Radio	War and radio, commercialization and fan culture
8	Review & research project	Review & research project
9	Television	Postwar development, shifting concepts of time & space
10	Computers	Mediated technologies and fear
11	Video games	Reconfiguring spaciality and senses
12	Internet	Communities, democracy and networks
13	Digital divide	Wealth and technology, internet and human rights
14	Final research project & wrap-up	Final research project & wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students must read required readings before class. Each class will have about 30-80 pages of reading per class.

[Textbooks]

No text book required.

[References]

Anthony R. Fellow “Before the American experience”
 Benedict Anderson “Imagined communities”
 Shelton A. Gunaratne “Paper, printing and the printing press”
 “A brief history of photography”
 Walter Benjamin “The history of photography”
 Laura Schiavo “From phantom image to perfect vision”
 Geoffrey Batchen “Seeing and saying”
 Wheeler W. Dixon & Gwendolyn Foster “The invention of the movies”
 Charles O'Brien “Sound's impact on film style”
 Chris Pallant “Disney innovation”
 Bendazzi Giannalberto “Silent pioneers in animation”
 Paul Starr “The first wire, “New connections: Telephone, cable and wireless”
 Schantz “Telephonic film”
 Dean Juniper “The First World War and radio development”
 Randall Patnode “What these people need is a radio”
 Charlene Simmons “Dear radio broadcaster”
 Mitchell Stephens “History of television”
 John P. Robinson and Steven Martin “Of Time and Television”
 Michael Curtin “Organizing difference on global TV”
 Morrison & Krugman “A look at Mass and computer mediated technologies”
 Dinello “Machines out of control”
 Leonard Herman “Early home video game systems”
 Eugenie Shinkle “Video games, emotion and the six senses”
 William Galston “Does the Internet strengthen community?”
 Don Tapscott “The net generation and democracy”
 Natalie Fenton “The internet and social networking”
 Gene Marks “If I were a poor black kid”
 Toure “On Gene Marks ‘If I were a poor black kid’”
 Joanna Goode “Mind the gap”
 Kevin O'Brian “Top 1% of Mobile Users Use Half of World's Wireless Bandwidth”
 Vinton G. Cerf “Internet Access Is Not a Human Right”

[Grading criteria]

Class participation (10%)

Class readings summaries/presentation (or equivalent evaluation)(20%)

Speaking up during class discussions (20%)

Midterm research project (20%)

Final research project (30%)

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class. They must bring hard copies of the required readings to class.

[Others]

The content of this syllabus may be subject to change.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Impact of Artificial Intelligence

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Artificial Intelligence (AI) has a profound impact on the business world in many ways, changing the way cities are run, the way we live and socialise through to the way we do business. This course focuses on how businesses use AI to make their businesses more profitable and customer experience better. In case-studies we will cover during this course we will analyse the impact and thereby also understanding businesses better. We will also observe that businesses employ data scientists to analyse data. These scientists use machine learning as part of their implementation of AI. So in the later part of the course we will delve deeper into Machine Learning so that we can better understand what data scientists do. Hence we are able to understand the “mechanics” of AI.

【Goal】

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. The skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. Method of instruction will be a mixture of lecture, group presentation and discussions. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to Artificial Intelligence.
2	Robotics in Business	Introduction to Robotics in Business.
3	AI to Improve Customer Experience	Discuss on how AI improves customer experience.
4	AI to Allow Entrepreneurship	Discuss on how AI encourages entrepreneurship.
5	Review of Class Materials	Review of class materials.
6	AI to Drive Business Performance	Discuss how AI drives business performance.
7	AI in Healthcare	Discuss how AI drives in healthcare industry.
8	Hacking, Fraud and Cybercrime	Discuss the impact on hacking, fraud and cybercrime.
9	Machine Learning In Business and Regression Revisited	Revise the regression. Discuss machine learning in business.
10	Hands on Demonstration of R Language	Perform demonstration of R language.
11	Hands on Demonstration on Microsoft Machine Learning	Perform demonstration on microsoft machine learning.
12	AI and Current Affairs	Discuss AI and current affairs.
13	Discussion and Review	Discussion and review.
14	Wrap-up & Review of Class Materials.	Review of Class Materials.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class. Also, in addition to the preparation for the final presentation, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles are highly recommended.

【Textbooks】

Electronic slides will be provided.

【References】

References will be provided in class slides.

【Grading criteria】

15% Quizzes
15% Projects / homework
35% Midterm exam
35% Final examination

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

PSY300ZA

Cultural Psychology

Takafumi SAWAUMI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives and major research findings of cultural psychology. The course will introduce general theories and perspectives underlying cultural psychology, explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition. The course will also explain the mechanisms underlying cultural differences and examine the process of acculturation and biculturalism in an increasingly diverse world. Throughout this course, students will learn how culture shapes the way we think and behave and how we, at the same time, shape these cultures.

【Goal】

One of the aims of this course is to introduce students to the perspectives, research methods, and findings of cultural psychology. Another equally important aim of this course is cultivating students' abilities to understand and deal with variations in psychological processes across cultural and ethnic groups, as well as to gain an understanding of the cultural groundings of their own experiences and actions. By the end of this course, students will be able to demonstrate understanding of how cultural systems influence individuals' psychological processing, including development, self-concepts, motivation, emotion, and cognition. They will also be able to critically engage and analyze cultural products, such as books, films, and advertisements.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Instructional methods include lectures, films, discussion over assigned readings, and small group activities. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is cultural psychology?
2	Culture and Socialization I	Development of the cultural mind
3	Culture and Socialization II	Education practices
4	Culture and the Self I	Cultural differences in self-concepts
5	Culture and the Self II	Consequences for self-consistency and egoism
6	Culture and Motivation I	Goals and theories underlying motivation
7	Culture and Motivation II	Cultural differences in motivation, control, and choice
8	Review and Midterm Exam	What have we learned so far? Multiple choice questions and short-essays
9	Culture and Emotion	Universality and cultural variation in emotions
10	Culture and Cognition I	Cultural differences in cognition
11	Culture and Cognition II	Where do cultural differences come from?
12	Acculturation and Biculturalism I	Time course of acculturation and factors that influence acculturation
13	Acculturation and Biculturalism II	The bicultural self
14	Review and Final Exam	What have we learned so far? Multiple choice questions and short-essays

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes. Students are required to do the assigned readings and submit reaction papers during the term. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

Heine, S. J. (2015). *Cultural Psychology*. New York: W. W. Norton.

Cohen, D., & Kitayama, S. (2019). *Handbook of Cultural Psychology*. Second edition. New York: Guilford Press.

Both reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail.

【Grading criteria】

Final grades are based on two exams (25% each), reaction papers for assigned readings (25%), and class participation (25%).

【Changes following student comments】

Students found this class difficult but appreciated the challenge. I hope to continue engaging students with materials through various hands-on activities and discussions.

【Prerequisite】

Students must have taken and received credits in at least one (preferably both) of the following courses: Social Psychology I, Social Psychology II.

PSY300ZA

Community Psychology

Toshiaki SASAO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course has been designed to provide a rigorous undergraduate-level introduction to the theories and methods of community psychology. Community psychology is concerned with person-environment interactions and the ways society impacts individual and community functioning. The field focuses on social issues, social institutions, and other settings that influence individuals, groups, and organizations. Community psychology aims to optimize the well-being of individuals and communities with innovative alternative interventions designed in collaboration with affected community members and with other related disciplines inside and outside of psychology. Students are expected to gain a comprehensive understanding of working knowledge and skills in community psychology, as practiced around the world.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to develop an understanding of the role of social-historical factors in the development of community psychological perspectives while dispelling the popular myth about the field;
- (b) to gain a working knowledge of different theoretical approaches for prevention of social and psychological problems in the community and begin to think about how these can be practically implemented and evaluated;
- (c) to critically analyze the community psychological literature; and
- (d) to appreciate professional careers and practices in community psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including lectures, class discussion, film discussion, and small group work. The requirements of the course include: (a) active participation, preparation, and engagement in class, (b) "Experiencing a Different Cultural Ecology (a field exercise, if classes held face-to-face)", (c) Biography Paper, (d) Learning Logs (x2), (e) a take-home final. Feedback will be provided via individual face-to-face sessions and/or the Hoppi System.

Required Readings

Students are expected to come to class fully prepared to participate in class discussion and other activities. In order to do so, students are required to have read the readings for each module prior to coming to class sessions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Overview	Provides a course overview, expectations, & requirements
2	Community Psychology (CP): History, Values, & Assumptions	Introduces and discusses key historical events, values and assumptions in CP practice and research
3	Embracing Social Change	Discusses the nature of social change and theories
4	Empowerment	Introduces several empowerment models and theories of empowerment
5	Community and Citizen Participation	Discusses theoretical frameworks for community and citizen participation
6	Ecological and Environmental Approaches (1)	Introduces ecological models for understanding life space
7	Ecological and Environmental Approaches (2)	Discusses ecological interventions and a video presentation
8	Midterm Review	In-Class Review and/or Film Review

9	Appreciating and Affirming Human and Cultural Diversity	Discusses models of human diversity and interventions around the world
10	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (1)	Discusses key concepts in prevention science
11	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (2)	Introduces "best practices" in prevention interventions
12	Stress & Coping Approaches	Compare and contrast several clinical approaches to stress and coping with CP approaches
13	Social Justice Approaches	Introduces the idea of social justice for community psychology
14	Emerging Trends in Community Psychology	Ends the course with discussion on several recent trends and future directions in CP research and practice

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments (if any), and are prepared to engage in class activities and discussion. The course requirements and assignments are explained above in the Method(s) section, but depending on the level of students' preparation and interest, chances are that some of the requirements may be subject to change slightly, if not entirely. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

[Textbooks]

Class readings will be available online. Some of the chapters will be drawn from the following textbooks, and from American Journal of Community Psychology, American Psychologist, Journal of Community Psychology, etc.

Kelly, J.G. et al. (2004). *Six community psychologists tell their stories: History, contexts, and narratives*. Binghamton, NY: Haworth Press.

Jason, L. A. et al. (2019). Introduction to community psychology. Downloadable free of charge from <https://press.rebus.community/introductiontocommunitypsychology/>

[References]

Additional references will be introduced in class.

[Grading criteria]

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) Active Participation, Preparation, and Engagement (10%); (b) "Experiencing A Different Ecology" (25%); (c) Biography Paper (15%); and (d) Learning Logs (30%), and (e) Take-Home Final (20%).

[Changes following student comments]

From time to time during class sessions, ideas and opinions are solicited from students re the class structure and format.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

Please note that successful completion of general psychology, social psychology, clinical psychology, and/or a few psychology-related courses may be assumed and desirable, but not required.

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA

Clinical Psychology

Keiko ITO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 6/Mon.6

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Major topics include definition, psychological assessment methods, psychotherapy approaches, along with the history of treatment and the role of science in clinical psychology. The course also explores some of the most common mental illnesses.

[Goal]

Major Course Objectives.

By the end of the course, you should be able to:

- Demonstrate an understanding of how clinical psychologists approach mental health from a biological, cognitive, and social perspective.
- Explain the importance of the scientist-practitioner model of clinical psychology.
- Describe the types of questions clinical psychologists ask and realize that appropriate research methods must be employed in order to answer them.
- Identify the major tasks and responsibilities of clinical psychologists as health care professionals.
- Engage with the ethical framework for the practice of psychology.
- Identify diversity issues as they relate to clinical psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Through a series of lectures, readings, exercises, films, and group projects, this course introduces and provides a broad overview of the field of clinical psychology. 1. Final Project -presentation

The final project is to be completed in small groups of students (if you want to do it individually, you must clear it with myself). The goal of the final project is for students to research and present information about the topic of clinical psychology in class by using power-point slides. Projects will focus on and cover the specific topic of clinical intervention. Possible examples of the projects include: Person-centered therapy, Psychodynamics therapy, Humanistic & Existential Psychotherapies, Behavior therapy, Cognitive-Behavioral therapy, Child & Family therapy, Couple therapy, Psychopharmacology, etc.

The topic could be a specific issues in clinical psychology other than intervention, but those who wants to do so must consult myself in advance.

2.Movie Report: A list of movies will be provided in class.

3. Exams: There will be no exam, but a brief final paper will be assigned.

4. Research Article Summary: In order to help you develop your understanding of psychological findings and methodology, you will be required to complete a brief (2 to 5 pages) summary of a research article. Articles appropriate for this paper can be found on the website or in library. Use an article of interest to you as long as it is appropriate to the course content and relevant to the field of clinical psychology. Insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Guidance.	What do clinical psychologists think and what models do we use?
2	History	The history of psychiatry and clinical psychology.
3	Group project discussion / Library research	Assessment of psychopathology and personality
	Overview of Assessment (1)	Projective tests personality test
4	Overview of Assessment (2)	Intelligence testing
		Neuropsychological assessment, behavioral assessment
		DSM & ICD 10
5	Major Psychiatric Disorder (1)	Anxiety disorder(includes panic/ OCD / PTSD)
6	Major Psychiatric Disorder (2)	Mood disorder (depression / bipolar)

7	Major Psychiatric Disorder (3)	Schizophrenia
8	Developmental Disorders	ADHD Learning disorder Autistic syndrome
9	Culture Issues in Clinical Psychology	Multicultural counseling Therapists' culture identity development
10	Stress management	Stress and its coping methods
11	Clinical Interventions/ Therapies	Psychoanalytic Therapy, Person Centered Therapy, CBT, Behavior Therapy, and other psychological interventions
12	Group Project Presentation (1)	Topics in clinical psychology and its intervention (2)
13	Group Project Presentation (2)	Topics in clinical psychology and its intervention (3)
14	The Road to Becoming a Clinical Psychologist	Wrap up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

· Class Preparation: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class.

· Group Project: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their group members to discuss/ prepare project assignment.

· Movie assignments: Write reflection essays on the movie.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

· Class handouts will be provided in class.

· Supplemental readings will be provided in class.

· There will be an instructions session for how to find the research article assignment and articles to use in class.

· The APA Ethics Code including 2010 amendments can be downloaded for free directly from the APA website: <http://www.apa.org/ethics/code/index.aspx>.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Reaction Papers: 10%

Movie Report (2): 10%

Group (or individual) Project: 35%

Research Article Summary: 10%

Final Report: 15%

Total: 100%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Not in particular (there will be a power point presentation in class).

[Others]

Dates and contents of a class may change somewhat depending on our progress in covering the material.

Office hours (contact by email).

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA

Psychology of Morality

Christopher Michael KAVANAGH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the major theoretical perspectives and empirical research on the psychology of morality. In recent decades there has been a renaissance in research exploring morality and its associated psychological aspects. Accordingly, this course will focus primarily on psychological research on morality from a variety of fields (including cognitive psychology, comparative psychology, social psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology) but will also include discussion of related work in philosophy, animal behavior, economics, and neuroscience. The course is intended to provide an introductory overview to the psychology of morality while also addressing core questions, such as: What is morality? Where does it come from? Do humans have core innate moral intuitions or are they socially learned and culturally dependent? Is there evidence of morality in any other species? By the end of the course, the students will have a greater appreciation of potential answers to these questions and then ongoing debates that surround them.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to: (1) recognise and understand the key terms and major theoretical approaches in the psychology of morality; (2) discuss relevant studies and identify the strengths and weaknesses in their methodology and theoretical models; (3) compare and contrast different psychological theories of morality and discuss their application to selected scenarios; (4) critically evaluate the key theoretical approaches and their potential relevance to everyday life and moral judgments.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be taught primarily through a combination of lectures and group discussion. In the first part of the class the lecture will introduce key topics and theories and the group discussions will focus on related readings and issues of debate. Reaction papers will be assigned for selected topics in order to encourage engagement with relevant issues. Over the course of the semester, students will be required to prepare an oral presentation that discusses the research on a topic of their choosing covered on the course. The mid term and final exams will consist of questions that will evaluate the lecture content and core readings. Exams will be conducted on and feedback will be provided through Google Classrooms.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Psychology of Morality	Introduction to the course and review of the syllabus. Defining morality.
2	What is morality?	Introducing key psychological theories of morality, including classical approaches & moral foundations theory.
3	Where does morality come from?	Exploring the evolutionary origins of morality and comparative research on morality in non-humans.
4	Morality and religion	Examining the complex relationship between religion and morality and the impact of concepts like supernatural punishment and High Gods.
5	Person Centred Morality	Exploring how a person centred approach to morality might offer an alternative to deontological and utilitarian perspectives.
6	Developmental Psychology and Morality	Addressing the evidence for innate moral intuitions in infants.
7	Mid-Term Exam & Review	Mid-Term Exam & Review

8	Emotions and Moral Judgments	Examining the role that emotional responses, especially disgust, play in determining moral judgments and the social intuitionist model
9	Mind Perception and Moral Judgement	Reviewing how perception of intentionality & agency impact moral judgements and the Dyadic Morality model
10	Empathy: For & Against	Exploring the arguments for and against empathy as a core component of ethical moral systems.
11	The role of punishment in morality	Examining the role of punishment in moral systems and how it influences psychological responses
12	Moral Responsibility, Free Will & Determinism	Addressing the various perspectives on free will and how they impact concepts of moral responsibility.
13	Morality, Genetics, and Politics	Exploring the role that moral sentiments play in determining political beliefs and whether there is evidence these are impacted by genetic factors.
14	Final Examination & Wrap-up	Final Exam & Course Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare an oral presentation on a topic of their choice. Reaction papers will be assigned for specific weeks and can be submitted online via Google Classroom. Preparatory study and review time for this class will be at least 4 hours per week.

【Textbooks】

All readings will be distributed by the instructor.

【References】

Joshua Greene (2014). *Moral Tribes: Emotion, Reason and the Gap Between Us and Them* (English Edition), Penguin Books.
Valerie Tiberius (2014). *Moral Psychology: A Contemporary Introduction*(First Edition), Routledge Contemporary Introductions to Philosophy).

These books are not necessary to buy but provide good introductions to the topics covered on the course.

【Grading criteria】

Presentations 20%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Weekly in-class participation 15%

Reaction papers & Homework 15%

【Changes following student comments】

The lecture schedule has been revised to make related topics come closer together. In-class presentation of readings have been removed in order to facilitate more active group discussions. Reaction papers have been added to facilitate engagement with weekly topics.

【Equipment student needs to prepare】

There is no specialist equipment required beyond a PC/laptop and access to the internet. Some classes may be held online. Weekly readings and reaction papers will be distributed via Google Classroom.

【Others】

None.

【Prerequisite】

You must have taken and received credits in at least 2 courses in psychology.

CUA300ZA

Qualitative Research Methods

Allen KIM

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to qualitative research methods. The course begins with research problems, questions and design considerations. The course follows with training, through lecture, group work and hands-on experiences, in data collection methods commonly used in qualitative research—field observation, interviews, and the use of documents and archival data. Students will undertake a pilot research study as part of the course requirements. This includes designing a research question, doing a literature review, creating a questionnaire, observing a field setting, analyzing field notes, and presenting on preliminary research findings. The exercises are intended to develop the mindset required to think through, design, and execute a qualitative study.

[Goal]

Provide students with an appreciation for and the basic steps of qualitative research design. Acquaint students with a diversity of qualitative methods and associated theoretical, ethical, and pragmatic issues. Instruct students on how to conduct qualitative research that is descriptively rich, theoretically illuminating, and personally meaningful. Each student will be able to create her/his own research questions, decide a research site/community, conduct original research, and present their findings.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation about student projects, practical fieldwork issues, and lectures on other fieldwork techniques. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Qualitative research methods
2	Research Design	Types of research
3	Designing and QR set up	Beginning of individual project. Conceptual frameworks, research validity in data gathering
4	Starting a study	Entry into the field; developing rapport; role of the researcher; confidentiality; collecting background information, sampling
5	Literature Review	Reviewing existing scholarly work
6	Writing Research Proposal	Research questions, site, methods, contribution
7	Presentation and Data Collection Procedures	Research proposal presentation (summary of existing literature & introduction of research question) Write a summary of issues/challenges in data collection and bring to class for discussion
8	Interviews: Fieldwork I	Types of interviews (structured to unstructured). How to design interview questions; how to conduct interviews
9	Observations: Fieldwork II	Taking notes, types of observation. Analyzing social settings. How to observe and focus. Discuss fieldwork, share challenges.
10	Documents and internet data	Definition, review of sources and types of data, methods of collection and analysis.
11	Integrating, synthesizing data. Coding and Coding categories	Reflexivity and organizing data

12	Student Presentation I	Student presentations on mini-research proposal and feedback
13	Student Presentation II	Student presentations on mini-research proposal and feedback
14	Wrap up and Writing tips	Writing Qualitative Research Method Tips

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should come to class having read and prepared to discuss assigned readings. The course will also require students to conduct participant-observational fieldwork outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used for the course. Readings will be provided through the online course management system.

[References]

References will be shared in class.

[Grading criteria]

Field I, II, III Assignments: 60%
Research Proposal/Presentation 40%

Three or more unexcused absences will result in an incomplete grade (marked “E” on grading sheet). Please provide documentation if you need to be absent from class for medical reasons, job interviews and family emergency. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. 5 absences will result in “not passing.”

[Changes following student comments]

Weekly assignments have been updated.

[Equipment student needs to prepare]

None. You may use laptop or tablet to take notes.

[Others]

Slight modifications may be expected. Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester. Student attendance is critical because each lecture builds on the previous week. Missing out on critical components of the research process will put you behind in being able to design and implement a full project.

[Prerequisite]

None.

LIN300ZA

Syntactic Theory

Peter EVANS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The study of syntax (in particular that of English) via investigation and experiment.

【Goal】

Two goals. First, an insight into the nature of syntax. Secondly, a better grasp of how to go about understanding any phenomena that at first seem baffling, or in other words the acquisition of some aspects of scientific method via the careful examination of language.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

We use a textbook that does not presuppose a knowledge of linguistics but does assume that the reader has an intellectual curiosity and an appetite for language-related exercises and real thinking. This will be very much a “300-level” course, or anyway a course for thinking adults.

Students both submit work for assignments and get comments on this work via “Hoppii”.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Linguistics and syntax reintroduced
2	Phrase Structure Rules	Sentence-generation rules; phrase structure rules; tree diagrams
3	Hypothesized Grammars	Grammars as hypothesized by linguists; testing hypothesized grammars
4	Comparing Rules and Theories	Comparing rules that have different implications; comparing grammars that seem to have the same implications
5	Constituency	What constituency is and how to test for it
6	Trees and Tree Relations; Category	Syntactic trees; proforms; antecedents; c-command; categories of words (parts of speech) and of phrases, and category determination
7	Revising Grammars	Refresher in logic; experimentation; bug-fixing and refinements
8	Introducing the Lexicon; Features, Heads and Phrases	The categorial and the subcategorial; features and feature inheritance; exocentric phrases; theta-roles; modification

9	Complements and Adjuncts	Diagnostics for, and complications in, the distinction between complements and adjuncts
10	Complement Sentences (i)	Embedded sentences; the complementizers <i>that</i> and <i>whether</i> ; clauses versus sentences
11	Complement Sentences (ii)	Finiteness and the Tense feature; TP and CP
12	Invisible Lexical Items	Hidden subjects; dummy subjects; thematic structure
13	Noun Phrase Structure	Noun phrases with quasi-objects and subjects; N-bar and noun complements and modifiers/adjuncts
14	X-bar Theory	Preposition phrase modifiers and P-bar; generalizing across T-bar, N-bar, and P-bar for an abstract X-bar; implications of X-bar for language acquisition

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading with maximum concentration (without background music or other distractions), hard thinking, doing the various exercises, and probably also discussion with classmates of the content and exercises. Allow two hours a week for this. Also, weekly assignments, which consolidate what has been covered in class. An assignment might, as an example, ask students to think through the implications of two candidate syntax trees (diagrams of constituent structure) for the same one sentence, and thus to point out why one of the candidates should be discarded. Allow two hours a week for the assignment too.

【Textbooks】

Richard K Larson, *Grammar as Science* (Cambridge, MA: MIT Press, 2010; ISBN 978-0-262-51303-6)

【References】

No additional reading is required.

【Grading criteria】

Work done for assignments: 100%

【Changes following student comments】

Dropping the section on formal arguments, dropping the exercises-only weeks, and evaluating by weekly assignments alone. This frees up a lot of class time: we can slow down in some places but nevertheless cover a considerable amount of material.

【Others】

● <http://tinyurl.com/theoretical-syntax> makes each class slideshow available to anyone, anywhere.

● Though the course has no formal prerequisite, students will need an interest in language and an appetite for a rigorous approach and for hard thinking.

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

Morphology: Building Words

Peter EVANS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The formation of words, with particular reference to English. At first the subject may sound like etymology (the history of words), but it is not: native speakers have a considerable unconscious knowledge of word formation, even without any historical awareness.

[Goal]

As morphology is part of linguistics, the ultimate purpose of this course is that of linguistics: to help give you some insight toward the aim of understanding how the human mind works. As for “employability skills”, you’ll get practice in reading comprehension, gathering information and developing hypotheses; and you’ll also get a heightened and informed sensitivity to language that should help you in careers as diverse as law and copywriting.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Using weekly slideshows, we’ll go through the textbook, which is neither long nor hard to read. Rather than encouraging the mere learning of facts (sure soon to be forgotten), textbook and course both emphasize exercises, so that the reader is a *participant* in morphology rather than a mere spectator. Students both submit work for assignments and get comments on this work via “Hoppii”.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Morphemes, words, lexemes and other confusables; benefits of morphology
2	Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon	Conventions of published dictionaries versus the hypothesized structure of the mental lexicon; the published dictionary as resource
3	Lexeme Formation (i)	Morphemes, prefixes and suffixes, bound bases, formatives, etc
4	Lexeme Formation (ii)	Compounding: headedness, endo-/exocentricity, subordinate/attributive/coordinative compounds
5	Lexeme Formation (iii)	Conversion, infixes, internal stem changes, reduplication, etc
6	Productivity and Creativity	How a prefix or suffix may be newly added to a word or stem inconspicuously and successfully; how new words are created jokily (but rarely with lasting success)

7	Lexeme Formation (iv)	Infixes, circumfixes, parasynthesis, internal changes, reduplication, templatic morphology, subtractive processes
8	Inflection (i)	What inflection is; inflection for number, person, gender, case; accusative vs ergative case systems
9	Inflection (ii)	Inflection for tense, aspect, voice, mood, etc; inflectional classes; inflection versus derivation
10	Typology	How languages differ in morphology, and how they resemble each other
11	Words and Sentences	The relationship between morphology and syntax in certain kinds of construction; clitics; phrasal verbs
12	Sounds and Shapes	The relationship between morphology and phonology in allomorphs; lexical strata (different phonological and morphological rules for different large sets of words)
13	Theoretical Challenges (i)	What morphological rules are; “lexical integrity” (the immunity of morphology from syntactic operations)
14	Theoretical Challenges (ii)	Blocking, affix ordering, bracketing (tree) paradoxes, affixal polysemy

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading the relevant pages of the textbook, doing exercises from the textbook (and its “challenges”), revising with the slideshow, finding other examples and real or apparent counterexamples. Allow two hours a week for this. Also, weekly assignments, which consolidate what has been covered in class. As an example, the assignment for the fourth week in 2021 asked about each of the five compounds *backup singer*, *know-nothing*, *military intelligence*, *rotgut*, and *drunk driver*: students were asked to provide the (syntactic) category of each of the two compounded words, and of the resulting compound; and to say whether the compound was subordinative, attributive, or coordinative, whether it was left- or right-headed, and whether it was endocentric or exocentric. Allow two hours a week for the weekly assignment too.

[Textbooks]

Lieber, Rochelle. *Introducing Morphology*. 3rd ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2022. ISBN 978-1-108-95848-6.

[References]

Bauer, Laurie, Rochelle Lieber, and Ingo Plag, *The Oxford Reference Guide to English Morphology*. Oxford: Oxford University Press, 2013.

Dixon, R. M. W. *Making New Words: Morphological Derivation in English*. Oxford: Oxford University Press, 2014.

Marchand, Hans. *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation: A Synchronic-Diachronic Approach*. Munich: C.H. Beck’sche Verlagsbuchhandlung, 1969.

Mattiello, Elisa. *Extra-Grammatical Morphology in English: Abbreviations, Blends, Reduplicatives, and Related Phenomena*. Berlin: De Gruyter Mouton, 2013.

Schmid, Hans-Jörg. *English Morphology and Word-Formation: An Introduction*. 3rd ed. Berlin: Erich Schmidt, 2016.

[Grading criteria]

Work done for assignments: 100%

【Changes following student comments】

Evaluation not by examination but instead by weekly assignments. This frees up a lot of class time, thereby allowing us to cover the course material in less of a rush.

【Equipment student needs to prepare】

Students aren't obliged to bring a computer, tablet, or smartphone. But their classroom use is welcome at particular times and for particular class purposes (which of course don't include websurfing, emailing, tweeting, etc).

【Others】

● <http://tinyurl.com/gis-morpho> makes each class slideshow available to anyone, anywhere.

● Though the course has no formal prerequisite, students will need an interest in language, of course; also, a very basic understanding of linguistics (word categories, etc).

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

English in Asia

Megumi KOBAYASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how English is used in Asia. The characteristics or features of English in selected countries in Asia are explored from the perspectives of World Englishes with special reference to socio-historical contexts and educational policies.

【Goal】

Upon completion of this course, students will:

- 1) Become aware of some of the major varieties of Asian Englishes.
- 2) Be able to understand some historical contexts for how English came to be used in Asia.
- 3) Be able to understand some educational contexts for how English is taught in Asia.
- 4) Be familiar with the idea of World Englishes.
- 5) Be able to reflect on their own use of English more objectively.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

You will be assigned a set of reading materials in advance, which will provide some background information about the issues in focus. A comprehension quiz based on the reading will be given at the beginning of the class to make sure you have a basic understanding of the topic. Then the topic is further explored with additional lectures as well as through pair/group discussions. Audio-visual materials (including movies) will also be introduced to provide actual samples. Toward the end of the semester, students will select a topic/country of their interest and make a presentation in class. Feedback for assignments will be given either individually (paper/LMS) or shared during the class. Actual lesson plans and contents may be modified based on the number of students enrolled and their preferences/progress.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Course guidance and introduction to English in Asia
2	World Englishes	Overview of World Englishes; English in UK and US
3	English in India	Languages in India, historical background and the role of English, Samples of Indian English (e.g., English Vinglish)
4	English in Singapore	Languages in Singapore, historical background and the role of English, samples of Singlish
5	English in the Philippines	Languages in the Philippines, historical background and the role of English, samples of Filipino English (e.g., Bride for Rent)
6	English in Thailand	Historical background and the role of English in Thailand, English education, samples of Thai English
7	Mid-term review	Review of Englishes in Asia, introduction to the final presentation
8	English in China/Hong Kong	Historical background and the role of English in China, English education, samples of Chinese English (e.g., Rush Hour)
9	English in Korea	Historical background and the role of English in Korea, English education, samples of Korean English (e.g., Please Teach Me English)
10	English in Japan	Historical background and the role of English in Japan, English education, samples of Japanese English (e.g., Last Samurai)
11	Presentation (1)	Groups of students will give presentations

12	Presentation (2)	Groups of students will give presentations
13	Presentation (3)	Groups of students will give presentations
14	Review	Submit final report, review of the overall content

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the reading assignments before class. Much of the preparation for the end of the term presentation must be done outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading assignments and handouts will be provided by the instructor.

【References】

Kachru, B.B., Kachru, Y., Nelson, C.L. (Eds.) (2006). *The handbook of world Englishes*. Malden, MA, USA: Blackwell.
Murata, K., and Jenkins, J. (Eds.) (2009). *Global Englishes in Asian contexts: current and future debates*. New York, NY: Palgrave.
Crystal, D. (2003). *English as a global language* (2nd ed.). Cambridge, UK: Cambridge University Press.

【Grading criteria】

The final grade will be based on the following criteria: class participation 20%, quizzes 25%, reflection paper 25%, presentation and report 30%.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Having a basic understanding of English dialects and sociolinguistics would be useful.

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

Language Policy

Geraldo FARIA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this course, you will learn how Language Policy is defined as an academic subject. This course will cover major concepts behind language policies. By drawing on various topics related to language variation (e.g. social class and gender), this course will provide an accessible and engaging overview of Language Policy.

[Goal]

The understanding of language policies that cause and result in linguistic mechanisms utilized by particular members of a given society so as to distinguish themselves from societal members. The broad goal of this course is to promote social understanding and justice in schools, communities, and corporations.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples of policies or general concepts will be presented for discussion, activity, and analysis. This course will contain assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements
2	Concepts	Language overview and policies that affect its use by members of a given society
3	Language Planning	Language policies prescribed by governments to standardize language use
4	Language and Social Class	Social stratification and linguistic differentiation within a society
5	Language and Geography	National languages (standard registers) versus dialects
6	Designing a Project Related to Language Policy	Preparation for a study (requirements, data, analysis, text production, and presentation)
7	Language and Gender	Constraints (types, consequences, and formation of gender-neutral language) imposed by the gender of speakers. Mid-term review quiz
8	National Policies on Foreign Language Studies	Implications of governmental regulations on the choice of foreign language studies
9	Multilingualism	The language of minority groups within a larger society
10	Endangered Languages and Fieldwork Studies	Assimilation, language death, linguistic and societal implications / Language policy research models
11	Migrations and Pidginization of Languages	Human migration and its effects on language (second language, linguistic transition, and the language of the next generation)
12	Profession-specific Registers	Specialized language as a means to distance groups from non-specialists
13	Presentations of group projects	Students will give short academic presentations, followed by feedback
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class. They should also organize their notes in the form of a notebook or a computer file. Students must choose a topic, and prepare a presentation with a handout, which will be delivered in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

[References]

Crystal, David. *The Cambridge Encyclopedia of Language*. Third Edition. Cambridge University Press, 2010 ISBN 9780521516983

Finegan, Edward. *Language: Its Structure and Use*. Harcourt Brace Jovanovich, 1992 ISBN 0729512681

Johnson, David. *Language Policy*. Palgrave MacMillan, 2013 ISBN 9781403911858

Pereltsvaig, Asya. *Languages of the World*. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9780521175777

Yule, George. *The Study of Language*. Fifth Edition. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9781107044197

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the library.

[Grading criteria]

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

[Changes following student comments]

No feedback yet received.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop or smartphone may be used to research an in-class assignment. Students may choose to take notes using their laptops.

[Others]

An enthusiasm to investigate (in)formal language policies that affect social justice globally.

[Prerequisite]

None

MAN300ZA

International Business

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Learning and applying the principles of international business. Globalization and international business will continue to impact international activities and influence local outcomes. In this course, students will learn concepts, processes and strategies of international business management. Emphasis will be on issues impacting international business and how companies conduct business to compete successfully in the global market.

【Goal】

The goal of this course is to understand the environment of international business, and its advantages and disadvantages. Students will develop analytical and critical thinking skills by analyzing business cases relating to international business.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lecture and discussions. Feedback is given during class time or through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction to the course
2	Key Concepts of International Business	What is international business?
3	Globalization of Markets and Internationalization of the Firm	Dimensions and drivers of market globalization
4	The Environment of International Business	Ethics and cultural environment of international business
5	Case Studies: Harley Davidson and Siemens	Discussion of case studies and presentations
6	Government Intervention	Rationale and instruments of government intervention
7	Case Studies: Airbus, Boeing and Russell Corporation	Discussion of case studies and presentations
8	Emerging Markets, Developing Economies and Advanced Economies (1)	Understanding emerging markets
9	Emerging Markets, Developing Economies and Advanced Economies (2)	Potential, risks and challenges of emerging markets
10	International Monetary and Financial Environment	Exchange rates, currencies, monetary and financial system.
11	Strategy and Organization in the International Firm	Integration-responsiveness framework.
12	Case Studies: Lenovo and Nissan	Discussion of case studies and presentations
13	International Business Issues	Debates of current issues in international business
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the understanding of the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Download and print out the handouts before each class. Read the assigned chapters in the textbook and complete any assignments given. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cavusgil, Tamer S., Knight, Gary and Riesenberger, John. *International Business: The new Realities*, 4th Edition, Prentice Hall, 2016.

【References】

Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), assignments (20%), case study presentation (15%) and final exam (45%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested to take this course, must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

Students who have taken business or economic courses are preferred.

【Prerequisite】

None

ECN300ZA

International Economics

Ayako SAIKI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class is an advanced level course of that focuses on the concept of international economics. In this class, I introduce the state of the economy as we stand now, and then we learn basic concepts and theoretical underpinning about trade.

【Goal】

The goal of this section is to understand the theoretical explanations of why various types of trade occur and how countries gain from trade. For example: (i) how the global supply chain works; (ii) how/why Japan's trade patterns have changed over time; (iii) why trade creates (often temporary) income inequality, etc. We aim to the level that you can explain why certain news related to trade – for example, the Trade war, Japan's trade deficit, why the same goods are traded across borders (e.g., Japan exports and imports automobiles at the same time).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

There is no textbook for this class. The PDF version of the PowerPoint File (with some space for you to write memos) will be posted on Hoppii in two days in advance. In the subsequent class, we may have a brief (5-10 minutes) discussions of the previous class, drawing on the real-world examples. At the beginning of class, feedback/questions for the previous class from students (if there are any) will be provided. I may ask some students to make comments, so I strongly recommend having a clear understanding and thinking of the actual applications of what we have learnt in the previous class. Some knowledge of Economics will help, but if you find something that you are not familiar with, please Email me at ayako.saiki.67@hosei.ac.jp

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	The class structure, grading scheme, etc., will be explained.
2	State of the World Trade	We will review the current status of the world economy, especially focusing on trade and the supply chain disruption.
3	The Era of Mercantilist	Up to the 18th century, many European countries took mercantilist policy, which often led to conflicts among states. We learn what occurred during that period, and the reason behind the idea.

4	Advantage, relative and absolute	Relative advantage is a core concept behind the basic trade model. We'll learn the difference between absolute and relative advantages.
5	Ricardian Model	Ricardian Model is the first model which gave justification to trade between countries. We study the model.
6	Heckscher-Ohlin Model	Heckscher-Ohlin Model, which considers differences in factor abundance among countries as a driver of the world trade, will be covered.
7	Discussion/Review	We'll review what we have learnt and the limitation of the models. Active discussion is strongly encouraged. All students will be asked to contribute to the discussion.
8	New Trade Model (1)	We study “the second generation” models of trade using increasing returns to scale and network effect.
9	New trade model (2)	We study the importance of intra-industry trade (trade of same goods), vertical integration, global supply chains in the world trade and their theoretical underpinning.
10	The impact of trade on income distribution	Often, some argue trade (or globalization) worsens inequality. We will review the empirical evidence and theoretical explanation.
11	Trade and exchange rate	We study how trade affect exchange rate, and vice versa.
12	Trade policy	We study various tools countries employ to govern international trade (preferential trade agreement, tariffs, import quotas), and how WTO handles them.
13	The infant industry argument	Many East Asia countries, including Japan and China, took and/or taking protectionist policies in the early phase of their economic development. We will learn how developing countries often protect certain industries and how such policies benefits/harms economic development, and what is the key ingredients of success.
14	Final Exam and Review	Close-book final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Please make sure you have your slide printed out (I prefer you to not to use laptop), and review what you have learnt, which might be on a quiz (not-pre-announced mini test). Also, if you have a particular subject matter you want to have a discussion, please let me know so that I can incorporate into the actual class. If you have any questions, please feel free to contact me via Hoppii or via Email.

【Textbooks】

There is no textbook. The PPT slide is the only required material (I will make PPT self-explanatory as much as possible). Students who want to study further, or need some textbook as a reference, recommended books are as follows:

【References】

There will be handout which will be distributed as the course progresses. But here is some interesting link you might want to check from time to time.

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO> (IMF: World Economic Outlook

)

- <https://www.cia.gov/the-world-factbook/> (CIA World Factbook)

The Economist, The Financial Times would be helpful to learn about the current status of the world economy.

Also, if you want to study this subject further, I recommend these two books:

(1) Caves, Frankel and Jones, "World Trade and Payments," Pearson College Division (Used in Kennedy School of Government, Harvard university (MA Level))

(2) Krugman and Obstfeld, "International Economy: Theory and Policy". (any version is fine)

Both are available at amazon.com, but make sure you purchase from Book Depository because there are many "fake" books sold by individual seller.

【Grading criteria】

There will be four "quizzes" (non-pre-announced mini-test). So I recommend you come to the class with a good understanding of what you have learned in the previous classes.

The grading will be based on the final exam (50%), quizzes (10% x 3=30%) and class participation (20%).

In the class participation, I check your understanding of the previous class, as well as the active engagement in each class via comments, your thoughts, your own experiences, etc.

【Changes following student comments】

In the previous year, many students gave me feedbacks that the course was too theoretical for non-Econ major students. While some theoretical explanations are necessary, I will try to make it more approachable for non-Econ students. Also, since this year's class will be held on-campus, I would like to increase the amount of free discussion during the class.

【Others】

* Academic Integrity

You are expected to be honest in all of your academic work. Allegations of alleged academic dishonesty will be subject to sanctions, including failing.

* Disability Statement

If you are a student who needs accommodations, please talk with me or go to students and present your letter of accommodation as soon as you can. In order to provide special accommodations for test etc, I need the documentation over 48 hours in advance; accommodation cannot be made retroactively. The same goes for quizzes. You cannot excuse for missing a quiz ex post (after the quiz). If you have questions about documenting a disability or requesting accommodations, please contact the Administration Office and talk to me immediately as the class starts.

Please note that if I noticed you are clearly doing something else (games, SNS, etc.), or if you are talking to other students, I would ask you to leave the class since it disturbs other students. It is also prohibited to take a photo of the blackboard. I recommend using pen and pencils instead of laptops.

【NONE】

There are no prerequisite class(es).

MAN300ZA

International Finance

Ayako SAIKI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The course is an advanced class to learn key concepts of international finance. We cover topics such as foreign exchange market, exchange rate fluctuation, exchange rate regime, national income, the balance of payments, money flows and price levels; capital flows and rapidly internationally integrating financial markets; monetary and fiscal policy in open economies; international macroeconomic interdependence and policy coordination; supply relationships, inflation, and nominal anchors for monetary policy; currency unions, the determination of exchange rates in international money markets; and international portfolio diversification.

[Goal]

You should be able to apply theories we learn in the class in a real-world phenomenon, such as exchange rate movement, balance of payment crisis, financial globalization. The actual goal is to be able to understand the semi-annual IMF's World Economic Outlook, Chapter 1-3 for example)

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This class consists of lecture and discussion based on real-world examples. At the beginning of the class, we will review what we have learnt in the previous class via discussions. Feedback will be given to your answer to my questions during the discussions to make sure all of you understand the materials. I may ask individual students about their impression, and sometimes materials we have covered, in the class. This is an important component of the entire grade (30%). There will be NOT preannounced mini test (called quiz), which should be easy to answer as long as you have an enough understanding of the previous class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the class	The class structure, grading scheme, etc., will be explained.
2	The current issues related to International Finance	Using materials from The Economist/The FT/The IMF's World Economic Outlook, etc., we will see the current relevant and important topics.
3	Bretton Woods System	We will study about Bretton Woods System, which is a foundation of today's exchange rate and balance of payment arrangements.
4	Exchange Rate Regime (1)	The evolution of exchange rate regimes among advanced countries after the Nixon Shock – the shift from fixed exchange rate and floating exchange rate – will be discussed.
5	Exchange Rate Regime (2)	We will learn various exchange rate system in the world, and pros/cons of different exchange rate regimes.
6	Fixed, float, middle regime [Discussion Session]	In this discussion class, we will discuss pros and cons of different exchange rate regime. IMPORTANT: Please read Frankel (1999) in advance. See below for the link to the paper. I will ask you which exchange rate regime is suitable for a imaginary country.
7	Exchange Rate Determination (1)	We will study the most basic, yet powerful, tool to understand a determinant of exchange rate, which is Purchasing Power Parity.
8	Exchange Rate Determination (2)	We will briefly discuss other types of theory to understand determinants of exchange rate policy.

9	Financial Globalization: Opportunity and Crisis	We will learn how the global financial markets are strongly connected, and its pros (such as being able to borrow from abroad) and cons (contagious financial crisis)
10	Impossible Trinity	Impossible Trinity is one of the most important theoretical concept to understand the policy trilemma that monetary policymakers face.
11	Financial Globalization: Benefits and Risks	The benefits and risks of financial globalization, especially for emerging and developing countries (EMDEs) will be discussed.
12	The dollar's dominance in International Financial Market	We learn how much/how long the dollar has been the global key currency, and discuss if it is sustainable in the backdrop of the rise of China as an economic superpower.
13	Euro and currency union	There are several currency unions in the world, but they are mainly in developing countries in Africa or Caribbean islands. The Euro was the first major attempt of advanced nations to build a large currency bloc. We will learn the historical background of the Euro, and discuss whether if it was a success or failure, drawing upon actual experiences (e.g., European sovereign debt problem)
14	Final exam and review	Closed-book exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

You will need 2 hours each for preparation/review. Please make sure you have your slide printed out (I prefer you to not to use laptop), and review what you have learnt, which might be on a quiz (not-pre-announced mini test). Also, if you have a particular subject matter you want to have a discussion, please let me know so that I can incorporate into the actual class. If you have any questions, please feel free to contact me via Hoppii or via Email.

[Textbooks]

There is no textbook. Slides for the next class (as well as PDF notes with space for a memo) will be uploaded two days before, which I recommend printing out

[References]

Required reading: No Single Currency Regime is Right for All Countries or At All Times, by Jeffrey Frankel (1999) <https://www.nber.org/papers/w7338>

Students who want to study further, or need some textbook as a reference, recommended books are as follows:

Caves, Frankel and Jones, "World Trade and Payments," Pearson College Division (Used in Kennedy School of Government, Harvard university (MA Level))

Krugman and Obstfeld, "International Economy: Theory and Policy". (any version is fine)

Both are available at Amazon, but make sure you purchase from Book Depository because there are many "fake" books sold by individual seller.

I also strongly recommend you read the Economist (The UK version), the IMF's World Economic Outlook, to make yourself understand the current status of Global Economy.

[Grading criteria]

There will be four "quizzes" (non-pre-announced mini-test, which is easy enough for you to answer if you understand the previous class). So I recommend you come to the class with a good understanding of what you have learned in the previous classes. The grading will be based on the final exam (40%), quizzes (10% x 3=30%) and class participation (discussion, etc.)(30%).

[Changes following student comments]

At the beginning of the class, we will have discussions (or I may ask you to answer my question) about what we have learnt in the previous class. If you find something in the class to be confusing, I strongly encourage you to raise your hand and ask questions. This will help other students too, and this will give you some score for the participation.

[Equipment student needs to prepare]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. During the class, using laptop is permitted, but not recommended. Students are expected to bring the hard-copy of PDF (which will contain three slides per page) and take notes.

[Others]

Chatting in the class with your classmates and usage of the smartphone (including photographing the blackboard) are prohibited. If I find it is disturbing other students, I will ask you to leave the class. Usage of laptop is not permitted, but not encouraged.

(1) Attendance is important in this course. There will be four quizzes (not pre-announced mini tests) during the semester.

(2) Using smartphone during the class and talking to your classmates are strictly prohibited, and I may ask you to leave the classroom if I find it disturbing to other students.

(3) Academic Integrity

You are expected to be honest in all of your academic work. Allegations of alleged academic dishonesty will be subject to sanctions, including failing.

(3) Disability Statement

If you are a student who needs accommodations, please talk with me and present your letter of accommodation as soon as you can. In order to provide test accommodations, I need the documentation over 48 hours in advance; accommodation cannot be made retroactively. If you have questions about documenting a disability or requesting accommodations, please contact the Administration Office and talk to me immediately as the class starts.

[None]

There are no prerequisite class.

FRI300ZA

Digital Transformation

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims at learning three domains of business strategy, “customer”, “competition”, “data” as individual topics in relation to digital transformation. Then students will explore and analyze the meanings / applications of three domains for modern companies (including both incumbents and digital-born companies) through a textbook and multiple case studies.

【Goal】

In this course, by participating a series of group presentations and group discussions, students will (1) discover the macro/ micro mechanisms in digital transformation, (2) learn to suggest solutions to dilemmas that modern companies have, (3) synthesize emerging opportunities derived from big data and create positive organizational strategies, products, services, and experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understandings, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students' own critical perspective on each case of digital transformation.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Chapter (1a): Digital Transformation	This class covers what digital transformation is and what historical background is behind.
3	Chapter (1b): Five Domains of Strategy	This class covers the role of customers, competition, data, innovation, and value in leading digital transformation of companies.
4	Chapter (2a): Customer Networks	This class covers customer network model, marketing funnel, and relevant customer behaviors
5	Chapter (2b): Customer Network Strategy Generator	This class covers core behaviors of customer networks which generates new marketing communications, customer experiences, and new product/service innovations
6	Case Study of BTS	This class proceeds with open discussion about how BTS (K-pop) makes success from the perspective of digital networks.
7	Chapter (3a): Business Platform	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how This class covers the nature / types of business platforms and analyzes how digital impacts platforms.
8	Chapter (3b): Competitive Benefits of Platforms	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how Apple, Google, and Microsoft have built their businesses on platform business models.

9	Chapter (3c): Value Train Analysis in Business Platforms	This class aims to understand value trains in platform businesses and identifies differences between traditional market and digital platform.
10	Chapter (4a): Big Data and Analytics	This class covers the definition of big data (in terms of data structure, volume, velocity) and studies tools that can make data into assets.
11	Chapter (4b): Big Data in Business	This class specifically covers how modern enterprise turns big data into business value.
12	Big Data in Practice (1): Representative Cases (Netflix & Airbnb)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Netflix and Airbnb.
13	Big Data in Practice (2): Representative Cases (Fitbit & WaltDisney Parks & Resorts)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Fitbit and WaltDisney Parks & Resorts.
14	Wrap-up & Finalizing Chapters 1-4	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press, 3,492yen (hardcover).

【References】

Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Group discussions (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

FRI300ZA

Digital Transformation

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims at learning three domains of business strategy, “customer”, “competition”, “data” as individual topics in relation to digital transformation. Then students will explore and analyze the meanings / applications of three domains for modern companies (including both incumbents and digital-born companies) through a textbook and multiple case studies.

【Goal】

In this course, by participating a series of group presentations and group discussions, students will (1) discover the macro/ micro mechanisms in digital transformation, (2) learn to suggest solutions to dilemmas that modern companies have, (3) synthesize emerging opportunities derived from big data and create positive organizational strategies, products, services, and experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understandings, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on each case of digital transformation.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Chapter (1a): Digital Transformation	This class covers what digital transformation is and what historical background is behind.
3	Chapter (1b): Five Domains of Strategy	This class covers the role of customers, competition, data, innovation, and value in leading digital transformation of companies.
4	Chapter (2a): Customer Networks	This class covers customer network model, marketing funnel, and relevant customer behaviors
5	Chapter (2b): Customer Network Strategy Generator	This class covers core behaviors of customer networks which generates new marketing communications, customer experiences, and new product/service innovations
6	Case Study of BTS	This class proceeds with open discussion about how BTS (K-pop) makes success from the perspective of digital networks.
7	Chapter (3a): Business Platform	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how This class covers the nature / types of business platforms and analyzes how digital impacts platforms.
8	Chapter (3b): Competitive Benefits of Platforms	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how Apple, Google, and Microsoft have built their businesses on platform business models.

9	Chapter (3c): Value Train Analysis in Business Platforms	This class aims to understand value trains in platform businesses and identifies differences between traditional market and digital platform.
10	Chapter (4a): Big Data and Analytics	This class covers the definition of big data (in terms of data structure, volume, velocity) and studies tools that can make data into assets.
11	Chapter (4b): Big Data in Business	This class specifically covers how modern enterprise turns big data into business value.
12	Big Data in Practice (1): Representative Cases (Netflix & Airbnb)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Netflix and Airbnb.
13	Big Data in Practice (2): Representative Cases (Fitbit & WaltDisney Parks & Resorts)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Fitbit and WaltDisney Parks & Resorts.
14	Wrap-up & Finalizing Chapters 1-4	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press, 3,492yen (hardcover).

【References】

Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%);
Group presentations (40%); Group discussions (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA

Digital Marketing

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims at understanding the application of human-mimicking technologies (AI, NLP, sensors, robotics, augmented reality, etc.) to create, communicate, deliver, and enhance value across the customer journey.

【Goal】

Students will first understand the current challenges that marketers to deal with in a modern society (e.g., generation gap, COVID-19, digital divide). Based on that, students will learn the role of human-like technologies in addressing such challenges and marketing customers effectively. In this line, predictive marketing, contextual marketing, and augmented marketing will be covered. Finally, students will practically learn how to apply what they have learned and how to devise feasible solutions by performing their own group projects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students' own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Chapter 1: Marketing 5.0	This class covers the definition of marketing 5.0 enabled by a group of technologies that emulate capabilities of human marketers.
3	Chapter 2: Marketers' Challenges (Generation Gap)	This class covers five different generations and corresponding marketing strategies in general.
4	Chapter 3: Marketers' Challenges (Prosperity Polarization)	This class covers characteristics of today's polarized society (jobs, ideologies, lifestyle, and markets) and explores why inclusivity and sustainability matters.
5	Chapter 5: COVID-19 as the Digitalization Accelerator	This class covers what changes have brought out due to COVID-19 and what types of new strategies are required to provide new customer experiences.
6	Chapter 6: Human-Like Technologies	This class covers the concepts and features of human-like technologies including natural language processing, sensor, robotics, mixed reality.
7	Chapter 7: The New Customer Experience	This class covers the future landscape of service industries that combine service robots and human employees to serve customers.
8	Chapter 8: Data-Driven Marketing	This class covers the definition of data-driven marketing and the requirements to perform data-driven marketing.

9	Chapter 9: Predictive Marketing	This class covers the definition of predictive marketing, what predictive marketing can do, and why it is necessary in a fast-changing digital market.
10	Chapter 10: Contextual Marketing	This class covers newly emerging marketing strategy that develops humans' situational awareness by scanning environments. This can help marketers provide personalized services to customers.
11	Chapter 11: Augmented Marketing (Customer Tiering Model)	This class covers the future of human-machine collaboration and explores future directions of robotics development to devise effective marketing strategies.
12	Project 1: Project Analysis Methods	This class covers methodologies and examples of marketing projects. It includes problem identification, analysis, and finding feasible solutions.
13	Project 2: Planning for Group Projects	In this class, students (each group) will present which type of marketing strategy they will focus on to analyze the real-world case
14	Project 3: Final Presentation of Group Projects & Wrap-Up	In this class, students (each group) will give their case analysis based on a specific marketing strategy. After the presentation, subsequent discussion and feedback will follow.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Marketing 5.0: Technology for Humanity (English Edition) , Philip Kotler, Hermawan Kartajaya, Iwan Setiawan, Wiley(2021/1/27), 2,972yen (hardcover)

【References】

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Final project (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA

Supply Chain Management

Kayhan TAJEDDINI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Global supply chains interact with all facets of business and society. In this interdisciplinary course, students will gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations. Students will explore the interrelationships between global supply chains, logistics operations, society, and the environment. The study of business operations will be set in the context of social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade. Students will examine the impacts of current trade systems on both production and consumption regions and the human and environmental consequences of trade patterns.

[Goal]

1. For students to gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations through understanding how modern, global supply chains and logistics networks operate.
2. For students to understand the multi-disciplinary facets of how a global supply chain can be viewed, analyzed, and operated.
3. For students to explain multiple key social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade, and apply them to the analysis of supply chains.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introductory Session Operations and Productivity	Course description, objectives and expectations. Operations strategy in a global environment
2	Project Management	Demand forecasting in a supply chain
3	Design of Goods and Services	Concepts for product and service design that include a supply chain perspective
4	Managing Quality, Statistical Process Control	The use of statistical techniques to control a process or production method
5	Process Strategy and Sustainability	The development and implementation of process strategy the development
6	Capacity and Constraint Management, Location Strategies	Incorporating capacity issues into management
7	Midterm Exam	Midterm Exam
8	Layout Strategies	How to develop an economic layout
9	Human Resources, Job Design, and Work Measurement	How human resources, job design, and work measurement affect the organizational effectiveness
10	Supply-Chain Management	Main components of supply chain management
11	Outsourcing as a Supply Chain Strategy	Manage, improve and optimize the supply chain by hiring a third-party company
12	Inventory Management	

11	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP	Understanding the difference between ERPs and MRPs in managing different levels of performance and capabilities
12	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations	Different types of production system
13	Maintenance and Reliability	The importance of maintenance and reliability management in any well-functioning production
14	Course Review Final Exam	Course review Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete regular reading assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Jay Heizer, Barry Render, 2011, Operations Management, 10e
Principles of Operations Management, 8e
Pearson Education, Inc. publishing as Prentice Hall
ISBN-13: 9780135107263

[References]

Chopra, Sunil and Peter Meindl, *Supply Chain Management*, Sixth Edition, Person Education, Inc., Upper Saddle River, NJ, 2015.
Johnsen, Thomas, Mickey Howard, and Joe Miemczyk, *Purchasing and Supply Chain Management: A Sustainability Perspective*, Routledge, 2014.

[Grading criteria]

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

[Changes following student comments]

Student requests and comments will be taken into consideration.

[Prerequisite]

None

MAN300ZA

Services Marketing

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by globalization and advances in technology, organizations and customers are experiencing closer and more interactive relationships than before, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by technological developments. Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

[Goal]

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: introducing the characteristics of services and the challenges of service marketing
2	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
3	The Experience Economy	Analyzing the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
4	Managing the Consumer Experience	Exploring different influences on the service experience, and the various stages of service delivery
5	Service Systems and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption
6	Buyer Decision Making	Examining the influences on decision-making and how organizations can manage these
7	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services
8	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation
9	Service Quality	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy

10	Service Delivery	Examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
11	Case Study	Exploring the impact of the coronavirus pandemic on tourism and possible recovery paths
12	Group Presentations	Student group presentations
13	Marketing, Sustainability & Corporate Social Responsibility (CSR)	Analyze organizational approaches towards sustainability and more responsible business approaches
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
 Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill
 Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

[Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

The Week 10 lecture on service delivery now includes staff intercultural sensitivity. The Week 11 case study on post-coronavirus tourism has been updated.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

Although not essential, students are strongly encouraged to have taken at least one other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Corporate Social Responsibility

Sairan HAYAMA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce and explore the diversified perspectives and understandings on Corporate Social Responsibility (CSR). We are going to develop an understanding of CSR in the global context and learn why and how modern corporations are managing CSR in their business activities. The major topics dealt with in this course will be Defining CSR, CSR Concepts and Theories, Cases For and Against CSR, Responsibilities to Stakeholders, CSR in the Marketplace, CSR in the Workplace, and etc.

【Goal】

The goal of this course is to help students build the basic understanding of CSR, know how CSR is applied in different arenas of business and explore CSR management in companies. Students will be able to define CSR and explain the meanings of CSR strategic practices in modern corporations after taking this course.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The class format consists of lecture and discussion, group work, class presentation, assignments, quizzes, and exams. In order to develop a global vision and analytical thinking, students will be encouraged to discuss their findings from the course materials and compare their own personal cultural views with those of their peers. Therefore, regular attendance is required for this course. Feedback will be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Introduction	Confirm the course syllabus and give instructions regarding readings and preparation for class meetings.
2	CSR in a Global Context	Introduce the key concepts in corporate social responsibility, the essential issues relevant to the responsible management of businesses. Textbook: pp.3-25 (lecture & discussion)
3	The Cases for and against CSR -1	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
4	The Cases for and against CSR-2	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
5	CSR Concepts and Theories -1	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.66-96 (lecture & discussion)
6	CSR Concepts and Theories -2	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.104-127 (lecture & discussion)
7	Responsibilities to Stakeholders -1	Who are the stakeholders? How should companies respond to these stakeholders? Textbook: pp.133-164 (lecture & discussion)
8	Responsibilities to Stakeholders -2	What are the responsibilities of companies for stakeholders? Textbook: pp.168-198 (lecture & discussion)
9	Case Study -1 Mid-term Exam	Company A regards employees as No.1 stakeholders and adopt stakeholder-oriented management philosophy and implement CSR positively.

10	CSR in the Marketplace	How to improve the bottom line by implementing an engaging, authentic, and business-enhancing CSR program that helps staff and business thrive. Textbook: pp.213-250 (lecture & discussion)
11	Case Study -2	Company B- BOP business in Africa. A case study on the business designed for people who live at the bottom of the base pyramid.
12	CSR in the Workplace	Discuss human rights and work-life balance issues in the workplace. Textbook: pp.253-289 (lecture & discussion)
13	Case Study -3	Company C - family friendly company. A case study on the work-life balance implementations.
14	Case Study -4 Final Exam (Presentation)	Company D - corporate citizenship in the community. A case study on corporate citizenship and sustainable development.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have their own text material copies and prepare for each class by reading through the materials to be covered before coming to class. The textbook is available in the library but you are recommended to have your own textbook. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Andrew Crane, Dirk Matten and Laura J. Spence (2014), *Corporate Social Responsibility: Readings and Cases in a Global Context*, Routledge.

【References】

1. Andrew Crane & Dirk Matten (2016), *Business Ethics: Managing Corporate Citizenship and Sustainability in the Age of Globalization*, Oxford Univ. Printing.
2. Charlotte Walker & John D. Kelly edited (2015), *Corporate Social Responsibility? : Human Rights in the New Global Economy*, University of Chicago Press.
3. Jeremy Moon (2015), *Corporate Social Responsibility: A Very Short Introduction*, Oxford Univ. Printing.
4. J.Okpara & S.O. Idowu edited (2016), *Corporate Social Responsibility: Challenges, Opportunities and Strategies for 21st Century Leaders* (CSR, Sustainability, Ethics & Governance), Springer.
5. Peter Baines (2015), *Doing Good By Doing Good: Why Creating Shared Value is the Key to Powering Business Growth and Innovation*, Wrightbooks.

【Grading criteria】

participation and attitude 30%, presentation and report / homework 30%, mid-term 20 %, final exam 20%

【Changes following student comments】

Students taking this course are required to have basic business management knowledge.

【Others】

A formal document of proof is necessary when you are absent from the class meetings because of recruiting interviews which are on an assigned date by the company. Absences for free selection group interviews will not be given consideration since the class has priority.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA

Corporate Social Responsibility

Sairan HAYAMA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce and explore the diversified perspectives and understandings on Corporate Social Responsibility (CSR). We are going to develop an understanding of CSR in the global context and learn why and how modern corporations are managing CSR in their business activities. The major topics dealt with in this course will be Defining CSR, CSR Concepts and Theories, Cases For and Against CSR, Responsibilities to Stakeholders, CSR in the Marketplace, CSR in the Workplace, and etc.

[Goal]

The goal of this course is to help students build the basic understanding of CSR, know how CSR is applied in different arenas of business and explore CSR management in companies. Students will be able to define CSR and explain the meanings of CSR strategic practices in modern corporations after taking this course.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The class format consists of lecture and discussion, group work, class presentation, assignments, quizzes, and exams. In order to develop a global vision and analytical thinking, students will be encouraged to discuss their findings from the course materials and compare their own personal cultural views with those of their peers. Therefore, regular attendance is required for this course. Feedback will be given verbally, non-verbally or in written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Introduction	Confirm the course syllabus and give instructions regarding readings and preparation for class meetings.
2	CSR in a Global Context	Introduce the key concepts in corporate social responsibility, the essential issues relevant to the responsible management of businesses. Textbook: pp.3-25 (lecture & discussion)
3	The Cases for and against CSR -1	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
4	The Cases for and against CSR-2	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
5	CSR Concepts and Theories -1	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.66-96 (lecture & discussion)
6	CSR Concepts and Theories -2	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.104-127 (lecture & discussion)
7	Responsibilities to Stakeholders -1	Who are the stakeholders? How should companies respond to these stakeholders? Textbook: pp.133-164 (lecture & discussion)
8	Responsibilities to Stakeholders -2	What are the responsibilities of companies for stakeholders? Textbook: pp.168-198 (lecture & discussion)
9	Case Study -1 Mid-term Exam	Company A regards employees as No.1 stakeholders and adopt stakeholder-oriented management philosophy and implement CSR positively.
10	CSR in the Marketplace	How to improve the bottom line by implementing an engaging, authentic, and business-enhancing CSR program that helps staff and business thrive. Textbook: pp.213-250 (lecture & discussion)

11	Case Study -2	Company B- BOP business in Africa. A case study on the business designed for people who live at the bottom of the base pyramid.
12	CSR in the Workplace	Discuss human rights and work-life balance issues in the workplace. Textbook: pp.253-289 (lecture & discussion)
13	Case Study -3	Company C - family friendly company. A case study on the work-life balance implementations.
14	Case Study -4 Final Exam (Presentation)	Company D - corporate citizenship in the community. A case study on corporate citizenship and sustainable development.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to have their own text material copies and prepare for each class by reading through the materials to be covered before coming to class. The textbook is available in the library but you are recommended to have your own textbook. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Andrew Crane, Dirk Matten and Laura J. Spence (2014), *Corporate Social Responsibility: Readings and Cases in a Global Context*, Routledge.

[References]

1. Andrew Crane & Dirk Matten (2016), *Business Ethics: Managing Corporate Citizenship and Sustainability in the Age of Globalization*, Oxford Univ. Printing.
2. Charlotte Walker & John D. Kelly edited (2015), *Corporate Social Responsibility? : Human Rights in the New Global Economy*, University of Chicago Press.
3. Jeremy Moon (2015), *Corporate Social Responsibility: A Very Short Introduction*, Oxford Univ. Printing.
4. J.Okpara & S.O. Idowu edited (2016), *Corporate Social Responsibility: Challenges, Opportunities and Strategies for 21st Century Leaders* (CSR, Sustainability, Ethics & Governance), Springer.
5. Peter Baines (2015), *Doing Good By Doing Good: Why Creating Shared Value is the Key to Powering Business Growth and Innovation*, Wrightbooks.

[Grading criteria]

participation and attitude 30%, presentation and report / homework 30%, mid-term 20 %, final exam 20%

[Changes following student comments]

Students taking this course are required to have basic business management knowledge.

[Others]

A formal document of proof is necessary when you are absent from the class meetings because of recruiting interviews which are on an assigned date by the company. Absences for free selection group interviews will not be given consideration since the class has priority.

[Prerequisite]

None.

TRS300ZA

Cultural Tourism

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

The phenomenon of cultural tourism exists in many forms and is regarded as one of the oldest forms of tourism. Defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros & McKercher, 2015: p.6), this course will analyze the 4 elements within the definition: (i) Tourism, (ii) Utilization of Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism (CT)	What is ‘culture’? Introduction to definitions of culture, different forms of CT and the diverse range of tangible & intangible CT resources.
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the socio-cultural impacts of CT on host communities, culture & creativity as well as the economic impacts of CT
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries’ tourism portfolios
6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the impact of socio-political attitudes in how culture is interpreted and this subjectivity of history: whose version of history prevails?

7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
12	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
13	Film- and TV-inspired Tourism	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources; also the importance of accurate & artistic representations of local culture
14	Future of Cultural Tourism & Course Wrap Up	Considering how CT has evolved, and possible future trends

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher’s website (more details to be provided in class). Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge

Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

【Grading criteria】

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students’ group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses, such as the 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

Digital Marketing

Youyung HYUN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course aims at understanding the application of human-mimicking technologies (AI,NLP, sensors, robotics, augmented reality, etc.) to create, communicate, deliver, and enhance value across the customer journey.

[Goal]

Students will first understand the current challenges that marketers to deal with in a modern society (e.g., generation gap, COVID-19, digital divide). Based on that, students will learn the role of human-like technologies in addressing such challenges and marketing customers effectively. In this line, predictive marketing, contextual marketing, and augmented marketing will be covered. Finally, students will practically learn how to apply what they have learned and how to devise feasible solutions by performing their own group projects.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students' own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Explanation of course theme, content, grading, participation and attendance requirements
2	Chapter 1: Marketing 5.0	This class covers the definition of marketing 5.0 enabled by a group of technologies that emulate capabilities of human marketers.
3	Chapter 2: Marketers' Challenges (Generation Gap)	This class covers five different generations and corresponding marketing strategies in general.
4	Chapter 3: Marketers' Challenges (Prosperity Polarization)	This class covers characteristics of today's polarized society (jobs, ideologies, lifestyle, and markets) and explores why inclusivity and sustainability matters.
5	Chapter 5: COVID-19 as the Digitalization Accelerator	This class covers what changes have brought out due to COVID-19 and what types of new strategies are required to provide new customer experiences.
6	Chapter 6: Human-Like Technologies	This class covers the concepts and features of human-like technologies including natural language processing, sensor, robotics, mixed reality.
7	Chapter 7: The New Customer Experience	This class covers the future landscape of service industries that combine service robots and human employees to serve customers.
8	Chapter 8: Data-Driven Marketing	This class covers the definition of data-driven marketing and the requirements to perform data-driven marketing.
9	Chapter 9: Predictive Marketing	This class covers the definition of predictive marketing, what predictive marketing can do, and why it is necessary in a fast-changing digital market.

10	Chapter 10: Contextual Marketing	This class covers newly emerging marketing strategy that develops humans' situational awareness by scanning environments. This can help marketers provide personalized services to customers.
11	Chapter 11: Augmented Marketing (Customer Tiering Model)	This class covers the future of human-machine collaboration and explores future directions of robotics development to devise effective marketing strategies.
12	Project 1: Project Analysis Methods	This class covers methodologies and examples of marketing projects. It includes problem identification, analysis, and finding feasible solutions.
13	Project 2: Planning for Group Projects	In this class, students (each group) will present which type of marketing strategy they will focus on to analyze the real-world case
14	Project 3: Final Presentation of Group Projects & Wrap-Up	In this class, students (each group) will give their case analysis based on a specific marketing strategy. After the presentation, subsequent discussion and feedback will follow.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Marketing 5.0: Technology for Humanity (English Edition) , Philip Kotler, Hermawan Kartajaya, Iwan Setiawan, Wiley(2021/1/27), 2,972yen (hardcover)

[References]

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press

[Grading criteria]

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Final project (20%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

[Prerequisite]

None.

EDU300ZA

English Teaching in Primary School: Advanced

Tomoko SHIGYO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of the curriculum development of the teaching of English in primary school based on second language learning (SLL) theories to primary pupils. Its purpose is to cultivate skills to implement second language (L2) education in primary school appropriately. It particularly looks at how to design English classes to facilitate literacy skills (reading and writing) of primary pupils with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels. The students are encouraged to develop their own perspectives on designing English classes and practice modern EFL pedagogy such as content and language integrated learning (CLIL) and using picture books.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand how children learn to read and write.
2. Understand how to link picture books with curriculum.
3. Develop curriculum of CLIL using picture books.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Developing a lesson plan, micro-teaching and final assignment are required for the completion of this course; students are to create their lesson plans and demonstrate their English lessons based on the plans. They are required to reflect on their lessons in class and to revise their lesson plans based on the reflection in the final assignment. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Issues in Children Learning L2: Literacy (1)	Phonological awareness and children's development
3	Issues in Children Learning L2: Literacy (2)	For starting to read and write in English
4	Issues in Children Learning L2: Picture books	Development of Children's literacy-picture books
5	Issues in Children Learning L2: Stories (1)	Learning through stories
6	Issues in Children Learning L2: Stories (2)	Language and stories
7	Lesson Planning (1)	Curriculum development (1)

8	Micro-teaching (1)	Micro-teaching (1), review and discuss(1)
9	Issues in Children Learning L2: CLIL	Introduction of CLIL
10	Issues in Children Learning L2: CLIL with picture books	CLIL and picture books
11	Issues in Children Learning L2: Assessment	CLIL and assessment
12	Lesson Planning (2)	Curriculum development (2)
13	Micro-teaching (2)	Micro-teaching (2), review and discuss(2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School: Advanced	Reflection & Summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week before attending class, students are expected to have completed the assigned readings. Students are required to choose a topic, prepare a presentation, and write a reflective paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cameron, L. (2001). Teaching Languages to Young Learners. Cambridge University Press.

【References】

1. Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge.
2. Dale, L. and Tanner, R. (2012). CLIL Activities: A resource for subject and language teachers. Cambridge University Press.
3. Mehisto, P. (2008). Uncovering CLIL: Content and language integrated learning in bilingual and multilingual education. MacMillan Education, Limited
4. Jalongo, M. R. (2004). Young children and picture books. Naeyc.
5. Fresch, M. J. and Hakins, P. (2009). The power of picture books: Using content area literature in middle school. NCTE.
6. 『小学校英語に児童文学を一絵本・ナーサリーライム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ』（2021）吉田真理子・佐藤佳子・執行智子 春風社
7. 『創造的な学びを育む初等英語教育一時代を超えて生き続ける理論と実践』（2022）津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会（編）朝日出版社
8. 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (30%)
2. Micro-teaching (30%)
3. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in Hoppi.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA

International Relations of the Asia-Pacific

TAKESHI YUZAWA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : ○ 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course will explore the nature of international relations in the Asia-Pacific. It will mainly examine and discuss the following: (1) factors for stability and peace in the Asia-Pacific region after the end of the Cold War; (2) roles for the great powers in the region: the United States, China, and Japan; (3) problems and prospects for regional security and economic cooperation; (4) the evolution of regional institutions; (5) the prospects for regional order.

【Goal】

The course objectives are: (1) to develop students' ability to effectively use IR theories to analyze and explain developments in regional affairs; (2) to enable students to analyze the foreign policies of the major powers and selected regional countries; (3) to enable students to assess the developments of regional institutions; (4) to enable students to examine and assess the status and prospects for regional order.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is composed of twelve lectures. In each class, a background lecture on a pre-selected topic will be provided to students. After a lecture, there will be a discussion. While the lectures will provide an overview of the topics in question, the discussions will give students an opportunity to examine policies in more depth.
Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course outline
2	The United States and the Asia-Pacific	Examining US foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
3	China and the Asia-Pacific I	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
4	China and the Asia-Pacific II	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
5	Japan and the Asia-Pacific I	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
6	Japan and the Asia-Pacific II	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
7	Mid-term Review	Review of major topics covered by week 2 to 6
8	Mid-term exam and review	Written test and review
9	The Development of ASEAN	Investigating the processes behind the development of ASEAN
10	Economic Cooperation and Integration in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional economic cooperation
11	Security Cooperation and Multilateralism in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional security cooperation
12	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific I	Examining prospects for regional order
13	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific II	Examining prospects for regional order
14	Review and Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have pored over assigned readings before attending the lectures. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read the journal articles and the book chapters specified in the reading list.

【References】

Yahuda, Michael. *The International Politics of the Asia Pacific*. Fourth and revised edition. Routledge, 2019.
Connors, Michael K., Davison Rémy and Dosch, Jorn (eds), *The New Global Politics of the Asia-Pacific*. Third edition. Routledge, 2017.
Dent, Christopher M. *East Asian Regionalism*. Second edition. Routledge, 2016.
Shambaugh, David and Yahuda, Michael (eds), *International Relations of Asia*. Second edition. Rowman & Littlefield Publishers, 2014.
Pekkanen, Saadia, Ravenhill, John and Foot, Rosemary (eds), *The Oxford Handbook of the International Relations of Asia*. Oxford University Press, 2014.
Wallis, Joanne and Carr, Andrew (eds), *Asia-Pacific Security: An Introduction*. Georgetown University Press, 2016.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), Mid-term Examinations (45%), Final Essay (45%)

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

none.

【Prerequisite】

GIS students wishing to take part in this course are required to have completed "Introduction to International Relations or World Politics".

Non-GIS students wishing to take part in this course should have a basic knowledge of International Relations theories and adequate English skills to complete the course work and assignments.

POL300ZA

Advanced Comparative Politics

Nathan GILBERT QUIMPO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course seeks to broaden and deepen the students' knowledge of comparative politics. Integrating theories, concepts and approaches in comparative politics and case studies, the course blends country-to-country and thematic approaches. Comprehensive country studies help students in seeing similarities and differences among states and regimes around the world and in grasping and applying key theories and concepts. The course also provides students with a more thorough understanding of the contemporary discourses and debates on key topics studied in "Introduction to Comparative Politics," such as states and political systems, democratic and authoritarian regimes; political development; political culture; political processes; and the impact of globalization. The course also offers deeper discussions on some important issues or themes that may have been only cursorily covered in introductory politics or comparative politics courses, such as constitutions, branches of government, subnational government, elections and political parties. Government and politics, together with brief histories, of the following countries will be studied and compared: Japan, United Kingdom, Germany, United States, France, Russia, China, India, Mexico, Nigeria, Iran and possibly also Turkey.

【Goal】

The course aims to raise the students' knowledge and understanding of comparative politics to a more advanced level; to help them gain a stronger and more thorough grasp of the theories, concepts and approaches in comparative politics; and to help them develop their skills in examining real-world problems and issues more incisively and in presenting their positions more cogently, using theories and methods in comparative politics.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course will consist mainly of lectures and open discussion. Students will be asked - and encouraged - to express their views on topics being discussed. Audio-visual aids (video clips, photos, maps illustrations) will be used to help make issues and events much more concrete and vivid to students, and to help stimulate discussion and debate. Feedback on assignments will be provided during class discussions, by email or through individual consultations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Comparing government and politics; political systems (McCormick, ch. 1, 2)
2	Politics in Japan	Political systems (continuation); Ch. 6, McCormick + recent article on Japan
3	Politics in the United Kingdom	Ch. 3, McCormick + recent article on UK
4	Politics in Germany	Ch. 4, McCormick + recent article on Germany
5	Politics in the United States	Ch. 5, McCormick + recent article on US
6	Politics in France	Ch. 7, McCormick + recent article on France
7	Review & Exam	Assess to what degree students understand topics discussed; midterm exam
8	Politics in Russia	Ch. 12, McCormick + recent article on Russia
9	Politics in China	Ch. 13, McCormick + recent article on China
10	Politics in India	Ch. 8, McCormick + recent article on India
11	Politics in Mexico	Ch. 9, McCormick + recent article on Mexico
12	Politics in Nigeria	Ch. 10, McCormick + recent article on Nigeria

13	Politics in Iran	Ch. 14, McCormick + recent article on Iran
14	Politics in Turkey; Exam	Ch. 11, McCormick + recent article on Turkey; final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Before class, students should study the required readings and work on the assignment (individual or group) to be submitted. After class, and especially before an exam, students should review their notes, as well as check the notes provided by the instructor. Preparatory study is 4 hours for each class session, but group work may entail an additional 30 minutes.

【Textbooks】

John McCormick. 2020, *Cases in Comparative Government and Politics*, London: Red Globe Press,

【References】

- Andrew Heywood, 2019, *Politics*, 5th edition, London: Red Globe Press.
- G. Bingham Powell, Jr., Russell J. Dalton, Kaare W. Strom, 2018. *Comparative Politics Today: A World View*, 12th edition, Essex: Pearson.
- Articles from journals, newspapers or magazines and chapters from other books.

【Grading criteria】

Participation; fulfillment of assignments: 40% of overall course mark.

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%.

【Changes following student comments】

Nothing in particular.

【Others】

It is recommended that participants have taken at least a basic course in politics or an introductory course in comparative politics in previous semesters.

Use of mobile phones, laptops and other electronic devices in the classroom during class is prohibited (exceptions only in special cases). Students attending classes online should use desktops or laptops, not mobile phones.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA

Globalization and Political Change

Jenny De Asis BALBOA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims to shed light on the current global political trends and transformations. In the second half of the decade of 2010s, we had seen an unexpected stream of political changes. It includes the election of Trump as US President and its costly legacy in the domestic and global politics, the rise of populist and authoritarian leaders in Europe and Asia, the UK's vote for Brexit and the uncertainty after the referendum, the resurgence of far right movements in the US and Europe, the emergence of post-truth politics, and deniers of science and history. Those events are thought to be the negative consequences of globalization, notably the deepening of inequality, the cultural clash, and the divide of values, which led to social and economic fragmentation and political turbulence. The perceived consequences of globalization—particularly the inequality, the deep cultural and values divide, and the global threats on national security—prompted various political actions and shifts that have profound implications on the political structure. Recently, the COVID-19 pandemic and the health and economic crisis it generated significantly changed our lives, while deepening the economic equality and tensions that we experienced before, and potentially exacerbating global divisions. These issues need thorough examination and reflection since they significantly affect our future, the future of democracy, and the rules-based international order. At the same time, we need to understand our options, as well as the appropriate choice of policy actions to counter the negative impacts of the social, economic and political changes.

【Goal】

In examining globalization and political change, the course aims to answer three questions: 1) What are the impact and consequences of globalization? 2) What are the recent trends in global politics? and 3) What is the future of globalization and politics?

Globalization has provided opportunities for international cooperation and for minor voices to be heard; however, it has also become a significant source of domestic and global friction and instability. Globalization has both positive and negative consequences. We need to understand how we can benefit from its positive impact, and as much as possible, work on how the positive benefits can be spread. Meanwhile, we also need to carefully study the negative impact, how they can be managed, reduced, or even eliminated.

This course will help you develop deeper understanding of contemporary political issues, and strengthen your ability in analyzing the political impact of crucial global events. In relation to these, we will engage in exercises that will improve your critical thinking skills, as well as help you effectively communicate your ideas and personal reflections of reading materials and current events. You will be writing reflective essays for your mid-terms and final examinations. We will also have Active Learning Tasks composed of class debates and individual student report to apply what you learned, and enhance your presentation skills.

To receive credit from the class, you need to attend the lectures, participate in the Active learning tasks, and pass the mid terms and final examinations, which require you to read and reflect on the materials provided.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The class combines lectures with active learning tasks, such as debates and discussions. To make the class more lively and interesting, you are encouraged to participate actively and share your opinion regarding the topic of the day and the reading materials. The first half of the course tackles the nature, impact and consequences of globalization. The second half of the course examines the recent trends and future direction of globalization and politics.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Insightful comments from reflective essays will be introduced in class and used in deeper discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Week-by-week explanation of the course Explanation of class policy, Active learning tasks, and grading system. Overview lecture and Definitions of globalization
2	Impact and Consequences of Globalization (a)	Debates on the nature and consequences of globalization.
3	Impact and Consequences of Globalization (b)	Globalization and inequality/Individual Report topics are discussed and decided
4	Impact and Consequences of Globalization (c)	Global rift, resistance and backlash/Individual Report topics are discussed and decided
5	Active learning task 1	Class Debate on the Impact of Globalization
6	Recent Trends in Global Politics (a)	Illiberal democracy
7	Recent Trends in Global Politics (b)	Populist and authoritarian leaders
8	Recent Trends in Global Politics (c)	Brexit and the far right movement in Europe
9	Recent Trends in Global Politics (d)	Post-truth politics
10	Active learning task 2: Group 1	Individual student report
11	Active learning task 2: Group 2	Individual student report
12	The Future of Globalization and Politics	Globalization in the Post-Covid World/Social Protection as a Critical Agenda in the Post-Covid world/ New Normal
13	New Policy Strategies	Strategies to counter populism, illiberalism and deniers of history and science
14	Review and examination	Wrap-up discussion Final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class is at least 2 hours each for every meeting. The students are expected to read the assigned materials prior to class and conduct research for the active learning tasks.

【Textbooks】

Class materials will be provided by the Instructor.

【References】

Arendt, Hannah. 1967. Truth and Politics. The New Yorker. February 25, 1967. Accessed at <https://www.newyorker.com/magazine/1967/02/25/truth-and-politics>

Frieden, Jeffry. 2017. The Politics of Globalization and Backlash: Sources and Implications. Conference Paper, American Economics Association, January 6, 2018.

<https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>

https://scholar.harvard.edu/files/jfrieden/files/the_political_economy_of_the_globalization_backlash.pdf

Huntington, Samuel. 1991. Democracy's Third Wave. Journal of Democracy. Spring 1991.

Huntington, Samuel. 2011. "The Clash of Civilizations?" In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. (pp. 159-166)

Kyle, Jordan and Brett Meyer. 2020. High Tide? Populism in Power, 1990-2020. Tony Blair Institute for Global Change. Accessed at <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>

Milanovic, Branko. 2016. Global Inequality. Cambridge, Massachusetts, London: The Belknap Press of Harvard University Press. Chapters 1& 3.

Milner, Helen. 2018. Globalization and its Political Consequences: The Effects on Party Politics in the West. APSA Conference Paper, 2018. https://scholar.princeton.edu/sites/default/files/hvmilner/files/milner_globalization_political_consequences.pdf

Rodrik, Dani. 2000. "Has Globalization Gone Too Far?". In The Global Transformations Reader. David Held and Anthony McGrew (Eds). Polity Press. Chapter 28.

Sen, Amartya. 2004. "How to Judge Globalism." In The Globalization Reader. Frank Lechner and John Boli (Eds). Blackwell Publishing

Sen, Amartya. 2004. "Universal Truths: Human Rights and Westernizing Illusion". In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics.

Zakaria, Fareed. 1997. The Rise of Illiberal Democracy. Accessed at <https://www.foreignaffairs.com/articles/1997-11-01/rise-illiberal-democracy>

【Grading criteria】

Grading Criteria:

- 1) Midterms examination - 30%
- 2) Final examination - 40%
- 3) Active Learning Tasks - 20%
- 4) Class participation - 10%

Notes:

a) For the active learning tasks, other than applying what you learned in class, the activities also aim to enhance your presentation and team work skills. Excellent mark will be given to well-prepared, interesting presentations.

b) Class participation – excellent mark will be given to those who raise relevant issues, contribute in class discussions in ways that reflect the reading materials, and treat the opinions of others with respect.

【Changes following student comments】

The active learning tasks may change depending on class size.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA

Peace Building

Aigul KULNAZAROVA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course explores the emerging field of peacebuilding in international relations, with a focus on the social, economic and political dynamics of war and peace, conflict prevention and resolution, use of force, and other issues. The course is designed for upper-level undergraduate students specializing in global studies, international relations, security and similar programs. Building on lectures, discussions and conceptual/analytical reflections on the weekly readings, it aims to enhance understanding of critical issues and challenges related to international peacebuilding processes, as well as their transformation in today's global politics. Course readings are mainly selected from academic journals and research monographs. This is a student-centered course in which the student learning experience forms the core of each class.

【Goal】

By the end of the course, successful students will be able to link theory with policy issues. In particular, they will be able to:

- Explain various conceptual and theoretical frameworks of peacebuilding in international relations;
- Analyze the legal, political and ethical aspects of armed conflicts and their resolution in accordance with international law;
- Identify links between humanitarian interventions and prospects for sustainable peacebuilding;
- Understand the growing role of humanitarian factors as well as their specific challenges and constraints in post-conflict peacebuilding;
- Integrate knowledge, skills and competences in peace and conflict studies, international relations, international law, and the emerging field of peacebuilding;
- Enhance independent research skills, including academic writing, critical thinking and analytical presentation skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The teaching methods of this course will combine lectures and discussions with active learning tools designed for each class. In addition, feedback will be provided after student presentations, discussions, and group work ("good", or "what needs to be improved", etc.). Detailed written comments on the discussion paper and the final exam will be provided individually. These comments will be emailed or posted on the designated course website within 1-3 weeks of submission. The class will meet once a week for 100 minutes. Please note that the learning approach may vary from face-to-face to virtual and vice-versa depending on the pandemic situation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Explanation of the course syllabus: weekly readings, assignments, grading requirements, etc. What is peacebuilding? Elements of peacebuilding
2	Peace and Peacebuilding in International Relations	Positive and negative peace Theoretical diversity (realism, liberalism, constructivism, cosmopolitanism, critical theory) Practical approaches to peace: preventive diplomacy, peacemaking, peacekeeping and peacebuilding Academic writing/analytical presentation workshop: basic techniques
3	Conflicts	Definition of armed conflicts under international law Civil conflicts in the post-Cold War period Conflict analysis and conflict complexes
4	Prevention	What is conflict prevention? Early warning signs Instruments for conflict prevention
5	Mediation and Negotiation	Mediation Negotiation Peace agreements
6	Use of Force	General prohibition of the use of armed force Special cases of the use of armed force in response to mass atrocities: - UN Security Council: Chapter VII - UN General Assembly: "Uniting for Peace"
7	Humanitarian Intervention	Political and legal issues of humanitarian interventions - de lege lata and de lege ferenda Moral and ethical aspects of humanitarian interventions Structural problems of humanitarian interventions
8	Coercion and Enforcement	Sanctions Peacekeeping operations Peace enforcement: R2P Case study: The "New UN Peacekeeping" in Cambodia
9	Peacebuilding: International and Regional Frameworks	Role of international organizations The UN in peace processes Regional peacebuilding architectures
10	Peacebuilding: Local Contexts and Development	Role of "The Local" in peacebuilding Resources and processes Dilemmas of humanitarian relief

11	Peacebuilding: Human Security, Human Rights and Governance	Human security - human rights synergy: article 28 of the UDHR Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994 Human security - peacebuilding nexus
12	Peacebuilding: Women and Security	Feminist approaches to peace and peacebuilding Human security, women's security and gender justice UN Security Council resolution 1325
13	Challenges of Peacebuilding for the 2020s	New forms of violence Terrorism, revolution and unconventional warfare Gendering international affairs Climate challenges Global health: era of pandemics? Peer evaluation of final presentations
14	The Future of Peacebuilding and Final Exam	Group discussion of course topics Peer evaluation of final presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class is 2 hours per week. In addition, each assignment will require 2 to 5 hours of preparation each week, including discussion papers, final exam and other activities.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. Handouts and readings such as journal articles, primary and other texts will be posted on the course website through Hoppii.

[References]

- Richard K. Betts, *Conflict After the Cold War: Arguments on Causes of War and Peace*, 5th ed. (Routledge, 2017).
- Henry F. Carey, *Peacebuilding Paradigms: The Impact of Theoretical Diversity on Implementing Sustainable Peace* (Cambridge University Press, 2020).
- Mary Kaldor, *New and Old Wars*, 3rd ed. (Cambridge : Polity , 2012).
- Aigul Kulnazarova and Vesselin Popovski, *The Palgrave Handbook of Global Approaches to Peace* (Palgrave Macmillan, 2019).
- Roland Paris, *At War's End: Building Peace after Civil Conflict* (Cambridge University Press, 2004).
- Oliver P. Richmond, *Peace in International Relations* (Routledge, 2006).
- Peter Wallensteen, *Understanding Conflict Resolution*, 5th ed. (Sage, 2019).

[Grading criteria]

Participation and learning attitude: 20%

Participation does not mean only attendance. It includes both consistent attendance and good preparation for class discussions based on weekly readings, lecture topics, and contributions to group activities. Active participation in class discussions, as well as critical assessment of the assigned course reading and peer interpretations are essential to ensure the success of the course and its learning outcomes.

Discussion paper: 40%

In addition to regular reading, each student will be required to discuss 1-2 journal articles as per the weekly schedule. Starting from the third week, the last 40 minutes of each session will be devoted to at least two presentations (15-20 minutes each) based on your discussion papers. Each student should critically discuss selected journal article(s) and submit core points on 3-4 double-spaced pages within one week of the presentation. The discussion paper should focus on the theoretical knowledge and empirical evidence related to the argumentation of the article(s), assess whether the author succeeds in his/her goals, and establish links to other course topics. The second week will include an academic writing workshop and detailed instructions on how to write a discussion paper and prepare an analytical presentation.

Final exam: 40%

The final exam consists of short and long critical essays and will be conducted in an open book format for a fixed period of time. This requires students to work independently, using their own words and drawing on course lectures, handouts, and reading materials (no external sources should be consulted). Detailed instructions will be provided a week before the exam.

[Changes following student comments]

This course turned out to be somewhat difficult due to the fact that students were not so accustomed to participatory and active learning methods, in particular critical thinking, independent reading and writing in accordance with academic standards and specific techniques of each discipline, class discussion and peer interpretations, etc. Therefore, while continuing to adhere to my teaching philosophy of participatory and active learning, I have changed some assignments/requirements and added an academic writing/analytical presentation workshop to gradually help students improve their learning skills and habits. I look forward to achieving these goals together!

[Equipment student needs to prepare]

PC for class use when needed (no smartphones and other digital devices will be allowed without permission)

[Others]

Final grade:

Please note that your final grade will be calculated based on your participation, learning attitude, discussion paper and final exam (see, "Grading Criteria"). In no case will your final grade be assessed for just one component. In addition, failure to complete one of the components will result in course failure. Remember that your final grade is the accumulation of points earned during the semester. Please plan your learning goals ahead of time, including your expected grade.

Course syllabus:

This is an abridged version of the syllabus for prior reference. A detailed syllabus with weekly readings and assignments will be shared at the beginning of the semester.

Previous course participation:

Although no prerequisites are required for the course, previous participation in international relations, international law, international security, human rights, global politics, and/or development is recommended.

[Prerequisite]

No course prerequisites are required.

POL300ZA

International Development Policy

Ippeita NISHIDA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

International development policies have been formulated along two domains, one by the donor coordination group (i.e. providers of Official Development Aid), traditionally represented by the OECD-DAC and another at the multilateral agenda setting forum such as the United Nations. While both serve the purpose of advancing the lives of people and discussions are mutually-related, each has distinct interests and constraints. In this course, we aim to understand how international development policy/agenda is being formulated and what the current (and future) issues are. Specifically, students will explore (1) the rationale and evolution of development policies by the donor community, (2) the more holistic and people-centered agenda setting at the United Nations and (3) current policy issues related to development, such as impact of COVID-19, debt-sustainability and great power rivalry between China and the U.S., etc.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To enable students to assess the development policy debates from multiple aspects.
- 2) To make students able to differentiate development agenda formulation process at different stakeholder groups.
- 3) To equip students with the holistic understanding of the on-going issues that affect on the process of global development, through groupwork.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class will have lectures and interactive discussions, as well as group presentations. Active participation is expected. Students will undertake a final exam and have occasional short papers to write. Insightful comments from papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

The course is composed of three parts. The first part (weeks 3-6) will have lectures on debates among traditional donors. In the second part (weeks 7-9), lectures will cover key discourses of the United Nations adaptation of the Sustainable Development Goals. The third part (weeks 10-13) will examine current policy issues that are related to development and students will be tasked to do research and make group presentations. Except the first day, in principle, this class will adopt the face-to-face format, to allow students' direct interaction. Yet, it may use the online platform when necessary (in such case, students will be notified in advance).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course outline, facts and trends -online-
2	Overview of Discourse	History and institutions

3	Foreign Aid	Concept of helping others and use of “aid” in foreign policy
4	ODA	Concept of “Official Development Assistance (ODA)”
5	ODA Policy in Practice	Case studies of respective countries. Role of OECD-DAC.
6	Issues of Aid	Aid financing, Shaping development debate, rise of new donors, state fragility, etc.
7	Multilateral Forum	United Nations, UN for development, People-centric approach
8	SDGs	Formulating the “Sustainable Development Goals (SDGs)”
9	Synthesis Discussion	Reconciling states' interests and global agenda
10	Current Policy Issues 1	Group Presentation: Impact of COVID-19 on Global Development
11	Current Policy Issues 2	Group Presentation: State Debt, Development and State Sovereignty
12	Current Policy Issues 3	Group Presentation: Belt and Road Initiative (BRI) and Development
13	Current Policy Issues 4	Group Presentation: Free and Open Indo-Pacific (FOIP) Strategy and Development
14	Final Exam & Wrap-up	In-class or take home. Review of the learnings.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading and writing assignments. Groupwork for presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read handouts and suggested articles/chapters from the references.

【References】

Students are encouraged to read following references to further their understandings.

OECD (2006), *DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee*

(available online at www.oecd.org/dac/1896808.pdf)

Lancaster, Carol (2007), *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago Press

UN Document, A/RES/70/1, 21 October 2015 *Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development* (available online at <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>)

Sachs, Jeffrey D (2015), *The Age of Sustainable Development*, Columbia University Press

Wickstead, Myles A. (2015) *Aid and Development: A Brief Introduction*, Oxford University Press

Hynes, W. and S. Scott (2013), *The Evolution of Official Development Assistance: Achievements, Criticisms and a Way Forward*, OECD Development Co-operation Working Papers, No. 12, OECD Publishing

(available at <http://dx.doi.org/10.1787/5k3v1dv3f024-en>)

【Grading criteria】

Class Participation: 20%

Occasional Assignment Papers: 25%

Group Presentation: 20%

Final Exam: 35%

【Changes following student comments】

Constructive comments and feedback from students are always welcomed and will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

None in the class.

But, access to PC/electric device and Wi-Fi may be required, when class is held on-line (e.g. first class).

【Others】

In order for students to successfully complete the class, basic understandings of the development thoughts as well as international relations are needed. Thus, GIS students wishing to register for this class are recommended to have taken “Introduction to Development Studies” and/or “Development Studies”. Also, knowledge of international relations, international organizations and foreign policy will be of benefit.

【Prerequisite】

None(see "Others" for recommended classes).

SES300ZA

International Environmental Policy

Gregory Gene TOTH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 6/Mon.6他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ☐ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The world continues to face global environmental challenges – climate change, deforestation, biodiversity loss and pollution, among others. As a response, different international initiatives are being implemented, resulting in a variety of agreements, laws, regulations and other policy mechanisms. This course focuses on international environmental policy (IEP), and explores the motivations, challenges and opportunities of IEP actions, taking into consideration the role of multilateral organizations (e.g. the United Nations), governments, corporations, NGOs and local communities. The course includes in-depth analysis of particularly relevant IEP arrangements in the areas of agriculture, forestry, biodiversity, climate, urbanization and trade.

【Goal】

The main goals of the course are to:

- provide a basic understanding of current global environmental problems
- develop critical thinking regarding international policy mechanisms to tackle environmental problems
- enhance students' ability to understand the risk, uncertainty and complexity embedded in IEP
- to cultivate students' capacity to critically assess the motivations, challenges and opportunities related to IEP actions
- learn to work collaboratively with other classmates in the elaboration and presentation of a group project.
- improve basic professional skills regarding self-organization, planning, time management, and respect for diversity in points of view.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course consists of short lectures and interactive class discussions and presentations in which students address, from a critical perspective, the topics covered each week (prepared prior to class). At the end of the course, students have the opportunity to present their (group) project and discuss it in class. Feedback will be given through class discussion and in response to submitted assignments and individual requests.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Environment	Background of global environmental issues and efforts to curb them; local and indigenous communities
3	Environmentalism	History of environmental movement and significant milestones
4	Policy	What and how of policy analysis
5	Env. Policy -Government I	Role of global institutions, e.g., United Nations; WTO; etc.; Sustainable Development
6	Env. Policy -Government II	Deeper exploration of environmental treaties, agreements, conventions, etc., e.g., Convention on Biological Diversity, carbon credits
7	Env. Policy -Government III	International Environmental Law in action
8	Env. Policy - Private	Corporate Social Responsibility; Environment, Social, and Governance; Greenwashing
9	Env. Policy -Nongovernment	Importance of non-governmental organizations, e.g. CGIAR (Consultative Group on International Agricultural Research); Certification schemes
10	Agroforestry	Policy analysis of sustainable farming model and development impacts; carbon sequestration

11	Review	Preparations for presentations; question and answer
12	Student Presentations I	Students present their (group) project and discuss it with the class
13	Student Presentations II	Students present their (group) project and discuss it with the class
14	Conclusion	Reflections on the course and the way forward for int. env. policy

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; Preparation of discussion talking points and questions; Group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Global Environmental Politics 8th Edition,
by Pamela S. Chasek (Author), David L. Downie (Author)
(available and recommended in electronic format)
ISBN 9780367227623 / ASIN : B08P63C8G3
Published by Routledge

【References】

Various references will be noted within the course materials.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (35/25%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

Computer

【Others】

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course of the semester.

【Prerequisite】

none

POL300ZA

Global Political Economy

Nathalie CAVASIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 1/Wed.1

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

We will examine the structure of the contemporary global political economy. Students will be introduced to the theories, debates and paradigms using case studies to develop an understanding of the global political economy. Students will also debate on the new political economy landscape of the Covid-19 pandemic and its effect on the global supply chain, on climate change and energy policy among others topics. Specific attention will be put on the role of China and its increased participation in the global political economies, the geopolitical situation in the world with Russia and also on the recent trends regarding India's new enthusiasm in the new globalization regime.

[Goal]

Students through the assignments that are based on current events in the world (analysis with back-up from recent news) will be able to learn to express their opinions and develop their critical thinking skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Each week, in addition to readings to be done, written assignments will be assigned. These written assignments are mandatory. Each student will also write a report every three weeks on a topic from the news in relation with the course contents topics. In addition, there will be an individual essay with presentation (topic to be decided later with the supervision of the professor) a book review project to be written and a take-home assignment for the final assignment. Students will receive written feedback (eventually oral feedback and mini-discussion with the professor in class) by the professor.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Theories of global political economy (Chap. 1&2 of the Textbook)
2	Understanding the evolution of the world economy	Evolution of the world economy from the industrial revolution (Chap.3&4)
3	Post-war global economy	The global economy: from 1945 to today (Chap.5)
4	International trade patterns	International trade (Chap.6)
5	- Transnational production systems - Discussion on the impact of transnational corporations	Transnational production (Chap.7)
6	How the global financial system operates Decision on the topics for the essay-presentation project	The global financial system (Chap. 8)
7	- International Division of Labor - Analyzing women in the world economy	The international division of labor (Chap.9)
8	Understanding the notion of development today	Economic development (Chap. 11)
9	Discussion and debate Essay - Submission (group 1)	Gender (Chap. 10)

10	What are the most challenging environmental issues today in the world? Essay-Presentation (group 1) Essay - Submission (group 2) Ideas on global political economies	Global environmental changes (Chap. 12)
11	Essay-Presentation (group 2) Looking at the security in political economy Essay - Submission (group 3)	Security (Chap. 14)
12	Essay-Presentation (group 3) How the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning Essay - Submission (group 4) Submission of the book review	Theoretical perspectives on global political economy (Chap. 13)
13	Essay-Presentation (group 4) Mini-Oral presentation of the book review	Governing the global political economy I (Chap. 15)
14	Discussion on how the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning Mini-Oral presentation of the book review Submission of the last assignment (critical review of an academic paper)	Governing the global political economy II (Chap. 15)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Be always ready by preparing the pages of the readings given in advance before coming to the next class. Additional homework will be assigned such as preparing an update with a current affair in the world related to the discussion/class contents. It is expected to read newspapers and news magazines several times a week. Students will need to update themselves with current news to stay informed about key issues and debate both within Japan and in the world. Students should prepare the work for the essay and book review at the date defined in the course agenda table. Preparatory study and review time for this course are an average of 2 hours each week.

[Textbooks]

O'Brien R., and Williams M., *Global political economy: evolution and dynamics*, London, Red Globe Press, 2016.

Additional materials will be distributed in class by the professor.

[References]

Examples of on-line websites to access the news:

- The New York Times
- The Financial Times
- The Guardian
- The Economist
- Foreign Affairs
- The Wall Street Journal
- Time
- Nikkei Asia
- Foreign Policy

[Grading criteria]

Participation and attitude(15%)

Participation (news debriefing report and one news report presentation, book presentation) (20%)

Book Review (20%) (Submission on Class 13)

Essay (30%) (Submission from Class 9 to to 12(according to group number))

(Final: Written assignment- critical review of an academic paper) to be submitted during the class 14 (15%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

The professor may request that you use a computer, tablet or smartphone in order to access the Internet to prepare for the discussion or fact-check during the class. Otherwise such devices cannot be used.

【Others】

Taking photos in class (the slides or notes on the board or in the class) is not allowed unless requested by Hosei University. Recording in class is not allowed.

【Prerequisite】

N/A

POL300ZA

International Law

Kiyoshi ADACHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with a basic understanding of international law, with a particular emphasis on the impact that international law instruments and practices have on national laws and policies. The course begins with an introduction to general principles of international treaty and customary law, examining important cases and doctrines that have developed over time. The first part of the course will conclude with a framework of analysis that students may consider in assessing both the respective merits and limitations of international law instruments. The second part of the course will look at how international law has attempted to shape the world we live in by examining selected areas where it has tried to influence human behavior, including security, human rights, the environment, health, trade/investment and other commercial issues, and the global commons.

【Goal】

At the end of the course, students should have a basic understanding of international law instruments, with an emphasis on recognizing the impact and limitations of treaties in their historical, economic, social and political contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted using lectures, group discussion and exercises, and one negotiation simulation exercise. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using comments from submitted reaction papers. Students will need access to the Internet in order to retrieve the cases, treaties and articles. Writing assignments will include a case brief and a term paper.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Law	How Does International Law Differ from National Law? Sources of International Law Codified Treaty Law - By Whom, and How, are Treaties Made? Case Law - the Role of the International Court of Justice Customary International Law - The <i>Paquete Habana</i> case A Brief History of Treaties The Vienna Convention
2	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention
3	Treaties	Assignment - Writing a Case Brief. What Constitutes a Treaty?
4	Treaties Related to Security Issues	Treaties and Wars - Versailles, Potsdam and San Francisco The UN Charter Treaties Limiting Arms (Nuclear Arms, Chemical/Biological Weapons, etc) Bilateral and Multilateral Approaches
5	Treaties Related to Humanitarian Issues	The Geneva Conventions The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol Group Exercise: Applying the Refugee Convention A Framework for Analyzing Treaties and Explanation of the Term Paper

6	Human Rights	Universal Declaration of Human Rights International Covenant on Civil and Political Rights International Covenant on Economic and Social Rights Convention on the Rights of the Child Convention on the Elimination of All forms of Discrimination against Women
7	Health-related Treaties	The UN Drug Control Conventions (1961, 1971 and 1988) Case Study - The Curious Case of Cannabis Framework Convention on Tobacco Control
8	Mid-Term Examination	In-Class Examination and review
9	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues
10	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues Case Study: Plain Packaging of Tobacco Products in Australia Explanation of the Group Simulation Exercise
11	Group Simulation Exercise	Negotiating a Bilateral Trade Agreement
12	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC
13	Global Commons	Law of the Sea - UNCLOS Outer Space, Antarctica
14	Wrap-Up and Presentations of Term Paper	Student Presentations The Possibilities and Limits of International Law

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to attend classes and read weekly assignments ahead of the session for which it is assigned.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Klabbers, *International Law*, Cambridge University Press.
case readings, treaty text, articles as assigned

【References】
Additional reference material will be provided in class.

【Grading criteria】
1 Case Brief Writing Assignment 10%
1 Mid-Term Examination 35%
1 Term Paper 35%
Group Work and Participation 20%
Class attendance will be reflected in the score for group work and participation.

【Changes following student comments】
n/a

【Prerequisite】
None.

SOC300ZA

Law in a Globalizing World

Kelesha NEVERS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 6/Wed.6

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

As nations and peoples continue the trend of globalization, legal issues become increasingly more complex. This course provides an overview of this trend, investigating similarities, differences, changes, and challenges experienced by an array of stakeholders as new issues arise and views on existing issues converge in some ways and diverge in others. Specific discussion topics include, but are not limited to, human rights, crime, the environment, international institutions, and conflict of laws.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to discuss and analyze the legal aspects of specific problems in a globalizing world. Through discussion and debate, students will develop their ability to grasp and analyze different opinions, as well as predict counter-arguments. Through the creation of a final report and related presentation, students will enhance their ability to develop and logically present their ideas, while reflecting on peer feedback.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be taught through a combination of lecture- and seminar-style classes. Students are required to attend class prepared to participate in discussion. Students are also required to make one main and one or more smaller presentations and submit a final report on the topic of their main presentation, which should reflect class discussion and peer feedback. Instructor feedback will be given during class discussions, through commentary on errors and correct responses found in the assignments, and in response to individual requests. Assignments submitted on the online dashboard will receive individualized comments on the strengths and weaknesses of the submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance and general introduction to the role of law in a globalizing world. Overview of the discussion topics.
2	What is Law? What is Globalization?	Defining law and globalization; What are the causes and impacts of globalization? International organizations
3	How does globalization of the law affect national legal systems?	Hard law versus soft law; international organizations; reputational harm
4	Freedom of Expression and Religion	Comparative analysis of free speech and the right to worship (or not) as one chooses.
5	Right to Life	Comparative analysis -death penalty; International declarations
6	Gender Issues	How does globalization change/impact gender roles? Empowerment; disenfranchisement
7	Crime and Enforcement	Comparison of criminal justice systems; Are we more or less safe in a globalizing world?
8	Humanitarian Law	Crime and punishment in war time
9	Right to a Healthy Environment	Global treaties and other agreements protecting the environment; sustainable development
10	What does the future hold for globalization?	Fragmentation / Convergence; inevitability vs nationalization.
11	Outline of presentation	Meet to discuss and provide feedback on the presentation online

12	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.
13	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.
14	Wrap-Up the semester	Discussion and provide feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete the reading assignments and prepare before class. Students are also required to do independent and collaborative work for their assignments. Preparatory study and review time for this class are two hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The readings are available online.

【References】

Reading materials are available on the classroom dashboard.

【Grading criteria】

Detailed requirements concerning assignments will be given in class. The final grade is calculated based on preparation (20 %), participation (20 %), presentation (30 %), outline and final summary (30 %).

【Changes following student comments】

N/A.

【Equipment student needs to prepare】

Internet access (smartphone, tablet, laptop).

【Others】

Slight alterations might be made to this syllabus, taking into account the number and specific interests of students who decide to take this course.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

Financial Statement Analysis

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Financial Statement Analysis course is to study the dynamics of practical accounting - students are expected to learn how the environment affects the financial statements and how to glean information from the financial statements. In order for students to understand the corporate environment, students will cover topics on introduction to corporate taxation as well as contemporary issues such as corporate fraud, enterprise risk management, and Sustainability Reporting.

【Goal】

Students will be able to become familiar with reading and analyzing corporate financial statements. A fictitious company based on the real-world corporate financial statements are used for case studies in this course allowing students to see practical uses of ratios, taxation and International Accounting Financial Statements (IFRS) accounting standards to analyze corporate financial numbers. Furthermore, students will consolidate their understanding on how corporate environment will be affected by the impact of fraud, income tax, international taxation, enterprise risk management and sustainability reporting.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Method of instruction will be a mixture of lectures and discussion on issues arising from the completion of question practice.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revision of Basic Accounting Concepts	Revision of double entries and review of the financial statements format.
2	Revision of Basic Accounting Concepts	Revision of double entries and review of the financial statements format.
3	Using Financial Statements for Short-Term Analysis (1)	Apply ratios for a short-term financial analysis. Apply the technique of short-term financial analysis to the real corporate financial numbers.
4	Practical Analysis of Financial Ratios 1	Question practice on the use of financial ratios.
5	Practical Analysis of Financial Ratios 2	Question practice on how double entries affect the use of financial ratios.
6	Impact of Working Capital on Financial Ratios	Discuss the impact of working capital on financial ratios.
7	Impact of Working Capital on Financial Ratios	Question practice on working capital on financial ratios.
8	Revision on Ratios and How Impact Financial Ratios and Financial Statements.	Question practice.
9	Review of Lectures 1-8	Review of previous lectures 1-8.
10	Preparation of Cashflow Statement	Preparation of Cashflow Statement.
11	Review on the Preparation of Cashflow Statement	Review on the Preparation of Cashflow Statement.
12	Introduction to Income Tax	Discuss the tax system in Japan and how it impacts corporate behaviour

13	Corporate Fraud, Internal Controls and Sustainability Reporting	Corporate Fraud, Enterprise Risk Management and Sustainability Reporting.
14	Wrap Up & Review of All Lectures	Review of all lectures

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class. Also, in addition to the preparation for the final presentation, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Electronic handouts and reading material will be provided.

【References】

None

【Grading criteria】

Projects / homework 20%,
Quizzes 15%, Mid-term exam 30%, and final examination 35%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

Students are expected to have taken Accounting: A6282.

ECN300ZA

Stock Investment

EYO Shiaw Jia

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 金 2/Fri.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This is an advanced level finance course that focuses on the concepts of stock investment: characteristics of stocks, the market, stock valuation and dividend policy. Students will also apply investment theories into practice based on a virtual stock market simulation.

【Goal】

The end goal of the class is to apply the strategies of stock investment into an actual stock portfolio based on a virtual stock market simulation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and discussions. Feedback is given during class, using tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction to the course
2	Basics of Stock Investing (1)	Setting up your virtual account Common approaches and risks
3	Basics of Stock Investing (2)	Snapshot of the market
4	Basics of Stock Investing (3)	Investing for growth and income
5	Investment Strategies (1)	Technical analysis (SMA, MACD)
6	Investment Strategies (2)	Technical analysis (Momentum, Volume and RSI)
7	Investment Strategies (3)	Analyzing industries
8	Investment Strategies (4)	Decoding company documents
9	Investment Strategies (5)	The Intelligent Investor
10	Portfolio Report	Discussion on portfolio report
11	Financial Markets and Institutions	Types of financial markets
12	Distribution to Shareholders	Dividends versus capital gains
13	Stock Market Discussion	Stock market booms and crashes
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Read the chapters in the assigned reference book as well as textbook. Update and monitor your stock portfolio constantly. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Mladjenovic, Paul. *Stock Investing For Dummies*, 2016.

Graham, Benjamin. *The Intelligent Investor: The Definitive Book On Value Investing*, 2016 (Revised Edition).

Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 3rd Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2014.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), portfolio report (40%), and one final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

LIT400ZA

Seminar: British Culture and Literature I

Mitsutoshi SOMURA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4, 金 5/Fri.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Study in this seminar is interdisciplinary. Literature, society, and culture are directly or indirectly associated with each other. Culture is about the way of living for a particular group of people or society, including their ideas, customs and social behavior. Politics and economy in society affect culture very much, and vice versa. Britain is 'a foreign country - they do things differently,' so comparison will be made between two cultures, British and Japanese. Cultural issues in Britain concerning nation, migration, globalisation, family, religion, gender, ethnicity, class, and so on always become more political and controversial because of the plurality of their identities. Bearing these in mind, students will understand Britain in human terms, read modern literary works closely by referring to critical terms and theories, and cultivate an appreciation for literature. Students will read literary works, study modern British culture, conduct research, and write an essay.

【Goal】

Students will (1) further knowledge of the developments of society and culture in Britain after the 1980s, (2) learn how to read and appreciate literature in English, and (3) improve research and writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The seminar consists of lectures, students' presentations and discussion. Students are required to read the materials, make preparations for class, and deliver PowerPoint presentations both on the assignments and his/her essays in progress. Students will continue to research into a topic he/she chooses and complete an essay at the end of the academic year. Feedback is given by Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Britain after the 1980s	Students' presentations, inquiries and discussion
3	Country and People 1	Students' presentations, inquiries and discussion
4	Country and People 2	Students' presentations, inquiries and discussion
5	Religion	Students' presentations, inquiries and discussion
6	Politics	Students' presentations, inquiries and discussion
7	Government and Regions	Students' Presentations, inquiries and discussion
8	Economy	Students' presentations, inquiries and discussion
9	Class	Students' presentations, inquiries and discussion
10	Welfare	Students' presentations, inquiries and discussion
11	Education	Students' presentations, inquiries and discussion
12	Family	Students' presentations, inquiries and discussion
13	Media	Students' presentations, inquiries and discussion
14	Course Review	Course review, students' inquiries, and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete assignments as instructed and prepare for class. Continue to research into his/her topic and write an essay. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Textbooks and reading materials will be specified at the beginning of the seminar.

【References】

Higgins, Michael, Clarissa Smith and John Storey. (eds.) (2010). *The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.
 Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn.). Cambridge: Polity Press.
 Oakland, John. (2016). *British Civilization: An Introduction* (8th edn.). London: Routledge.
 Stevenson, R. (2004). *The Oxford English Literary History Series*, v.12. *1960-2000: The Last of England?*. Oxford: OUP.
 Davies, Alistair and Alan Sinfield. (eds.) (2000). *British Culture of the Postwar: An Introduction to Literature and Society 1945-1999*. London: Routledge.
 Childs, Peter and Mike Storry. (eds.) (2017). *British Cultural Identities* (5th edn.) London: Routledge.
 For detailed timeline in Britain 1947-2005 : http://www.bbc.co.uk/history/british/timeline/present_timeline_noflash.shtml

【Grading criteria】

Grades are based on class participation (50%), and a writing assignment (50%). More than two unexcused absences can result in failure of the course.

【Changes following student comments】

More time will be given for class discussion.

【Prerequisite】

Students should have completed *Introduction to English Literature*, *UK: Society and People* and *Contemporary British Culture*. If you haven't, contact the instructor.

LIT400ZA

Seminar: British Culture and Literature II

Mitsutoshi SOMURA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 4/Tue.4, 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Study in this seminar is interdisciplinary. Literature, society, and culture are directly or indirectly associated with each other. Culture is about the way of living for a particular group of people or society, including their ideas, customs and social behavior. Politics and economy in society affect culture very much, and vice versa. Britain is 'a foreign country - they do things differently,' so comparison will be made between two cultures, British and Japanese. Cultural issues in Britain concerning nation, migration, globalisation, family, religion, gender, ethnicity, class, and so on always become more political and controversial because of the plurality of their identities. Bearing these in mind, students will understand Britain in human terms, read modern literary works closely by referring to critical terms and theories, and cultivate an appreciation for literature. Students will read literary works, study modern British culture, conduct research, and write an essay.

【Goal】

Students will (1) acquire knowledge of the developments of society and culture in Britain after the 1980s, (2) learn how to read and appreciate literary works in English, and (3) improve research and writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The seminar consists of lectures, students' presentations and discussion. Students are required to read the materials, make preparations for class, and deliver PowerPoint presentations both on the assignments and his/her essays in progress. Students will continue to research into a topic he/she chooses and complete an essay at the end of the academic year. Feedback is given by Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
	Reading Literature	
2	Cultural Timeline after the 1980s 1	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
3	Cultural Timeline after the 1980s 2	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
4	Heritage and Britishness	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
5	Literature 1	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
6	Literature 2	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
7	Literature 3	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
8	Literature 4	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
9	Cinema	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
10	Television and Radio	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
11	Popular Music	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
12	Art, Fashion and Architecture	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
13	Sports	Students' presentations, inquiries and discussion
	Reading Literature	
14	Course Review	Course review, students' inquiries, and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete assignments as instructed and make preparations for class. Continue to research into his/her topic and write an essay. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Textbooks and reading materials will be specified at the beginning of the seminar.

【References】

Higgins Michael, Clarissa Smith and John Storey. (eds.) (2010). *The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.
Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn.). Cambridge: Polity Press.
Oakland, John. (2016). *British Civilization: An Introduction* (8th edn.). London: Routledge.
Stevenson, R. (2004). *The Oxford English Literary History Series*, v.12. *1960-2000: The Last of England?* Oxford: OUP.
Davies Alistair and Alan Sinfield. (eds.) (2000). *British Culture of the Postwar: An Introduction to Literature and Society 1945-1999*. London: Routledge.
Childs Peter and Mike Storry. (eds.) (2017). *British Cultural Identities*. (5th edn.) London: Routledge.
For detailed timeline in Britain 1947-2005: http://www.bbc.co.uk/history/british/timeline/present_timeline_noflash.shtml

【Grading criteria】

Grades are based on class participation (50%), and the academic essay (50%). More than two unexcused absences can result in failure of the course.

【Changes following student comments】

More time will be given for class discussion.

【Prerequisite】

Students should have completed *Introduction to English Literature*, *UK: Society and People* and *Contemporary British Culture*. If you haven't, contact the instructor.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English I

Yutai WATANABE

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar is concerned with the phonetic features of English(es) both in the Inner and Expanding Circles, while also shedding light on the speakers' language attitudes and ideologies. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) Dynamic Model of Postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester is devoted to the features of L2-accented English and native-speakerism in the Expanding Circle.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) recognise the phonetic features of NZE and L2-accented English, and
- (3) get used to analysing sound recordings for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	(1) Outlining the course contents and instructional methodologies (2) APA style: In-text citations and references (3) Hosei and GIS libraries, and online resources
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phonemes and allophones
3	Models of World Englishes (Part 1)	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model of English
4	Models of World Englishes (Part 2)	(1) Limitations of Kachru's (1985) model (2) McArthur's (1987) model (3) Modiano's (1999) model (4) Svartvik & Leech's (2006) model
5	Dynamic Model of Postcolonial English	(1) Outline of the model (2) Brief review of the model (Buschfeld & Kautzsch, 2017)
6	Sound Change of NZE in Progress (Part 1)	(1) Rhoticity (2) /l/ vocalisation (3) TR-affrication (4) Flapping /t/
7	Sound Change of NZE in Progress (Part 2)	(1) TH-fronting (2) Short front vowels (3) The NEAR/SQUARE merger
8	NZ Accents in Films	Phonetic features observed in NZ films
9	English in the Expanding Circle	(1) Scandinavian-accented English and English in Scandinavia (2) Spanish-accented English and English in Spain/Latin America (3) Japanese-accented English

10	Attitudes towards L1 and L2 English	(1) Japanese students' attitudes (Sasayama, 2013) (2) Thai students' attitudes (McKenzie et al., 2016) (3) Norwegian students' attitudes (Rindal & Piercy, 2013)
11	Indexicality of L2 Accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers (McKenzie, 2015)
12	English in International Contexts	(1) English in international organisations (2) English in pop culture
13	Native-speakerism and ELF	(1) Native-speakerism (Holliday, 2006) (2) Disadvantages of native-speakerism in ELT (Kirkpatrick, 2007) (3) EFL vs. ELF (Seidlhofer, 2011)
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. They also need to listen to and analyse sound recordings. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

Hay, J., MacLagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.

Swan, M., & Smith, B. (Eds.). (2001). *Learner English: A teacher's guide to interference and other problems* (2nd ed.). Cambridge University Press.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.

Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have studied, or be currently studying, 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English II

Yutai WATANABE

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

English is the most common international language in business, education and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester focuses on the use of English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions in the users' ideologies and attitudes towards L1 English as the target in teaching/learning and English as a lingua franca (ELF). Through the process of individual or collaborative research, we also discuss a variety of sociolinguistic issues: societal multilingualism and individual plurilingualism, Euro-English, CEFR and linguistic landscapes, etc.

[Goal]

By the end of the course, students will:

- (1) learn the current use of English in the Expanding Circle,
- (2) understand the tenet of English as a lingua franca,
- (3) develop a critical view of monolinguals as the norm, and
- (4) get used to collecting and analysing data for research purposes.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. All students are expected to write a short or extended essay on their chosen topic towards the end of the 3rd or 4th year, respectively.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course contents and instructional methodologies
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Review	Review of previous studies
4	Euro-English and Attitudes towards English in Mainland Europe	(1) Euro-English (Jenkins et al., 2001) (2) Conceptualising English in Europe (Motschenbacher, 2016) (3) EU teachers' views on ELF (Groom, 2012) (4) German and Swedish teachers' attitudes (Mohr et al., 2019)
5	English Education in Japan	(1) <i>The Suggested Course of Study in English</i> (2) CEFR and private-sector English tests for university admission (3) Sample analysis of high school textbooks (4) English as a medium of instruction (EMI) in universities

6	Current Use of English in Japan	(1) Business and employment (2) Media and show business (3) Linguistic landscapes
7	Preparation for Seminar Papers	Questions and suggestions
8	Overview of Further Studies	Further studies and references
9	Students' Presentation (Part 1)	Oral presentation and discussion
10	Students' Presentation (Part 2)	Oral presentation and discussion
11	Students' Presentation (Part 3)	Oral presentation and discussion
12	Editing (Part 1)	Support for writing papers
13	Editing (Part 2)	Support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

[References]

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%) and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

[Changes following student comments]

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

[Equipment student needs to prepare]

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

[Others]

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have studied, or be currently studying, 200-level linguistics courses with a good understanding.

[Prerequisite]

No prerequisite is required.

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko KOBORI

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4, 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 education, especially in the language classroom, such as L2 motivation and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. Its purpose is to give an insight into the educational theory, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation. It also provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners, and examining, reflecting on and discussing significant aspects of successful language teaching and learning. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their career paths in the related educational fields within the global context.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
2. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
3. learn the challenging issues in language teaching and learning
4. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.
5. practice basic ideas for effective L2 teaching.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a seminar paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on seminar I
2	Studies of Effective Teaching (1)	Issues in the theory of L2 teachers
3	Studies of Effective Teaching (2)	Issues in teaching methodology
4	Studies of Effective Teaching (3)	Issues in the theory of creating teaching materials
5	Studies of Effective Teaching (4)	Issues in the theory of teaching conditions
6	Studies of Effective Teaching (5)	Issues in the theory of planning lessons
7	Studies of Effective Teaching (6)	Reviews and discussion (1)
8	Studies of L2 Motivational Strategies (1)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (1)
9	Studies of L2 Motivational Strategies (2)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (2)
10	Studies of L2 Motivational Strategies (3)	Issues in the practice of creating teaching materials (1)
11	Studies of L2 Motivational Strategies (4)	Issues in the practice of creating teaching materials (2)
12	Studies of L2 Motivational Strategies (5)	Issues in the practice of planning lessons

13	Studies of L2 Motivational Strategies (6)	Reviews and discussion (2)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and discussion (3)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Kyriacou, C. (2009). *Effective teaching in schools: Theory and practice*. Oxford UP.

【References】

1. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge UP.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
5. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.
6. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

【Others】

1. Students are required to practice L2 teaching as seminar activities targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
2. Information about schedules of the seminar activities are provided and discussed in the class: visiting and running language courses/classes in schools, etc.
3. The courses presented below to be recommended to take:
 - a. Language Education in the Digital Era
 - b. Second Language Acquisition

【Prerequisite】

At least one of the courses presented below:

1. TESOL I, II, III, & IV
2. Comparative Education
3. English Teaching in Primary School
4. English Teaching in Primary School advanced

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko KOBORI

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 4/Tue.4, 火 5/Tue.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 education, especially in the language classroom, such as L2 motivation and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. Its purpose is to give an insight into the educational theory, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation. It also provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners, and examining, reflecting on and discussing significant aspects of successful language teaching and learning. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their career paths in the related educational fields within the global context.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
2. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
3. learn the challenging issues in language teaching and learning
4. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.
5. practice basic ideas for effective L2 teaching.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a seminar paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPIL, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on Seminar II
2	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Review of the theoretical perspective of motivation and learning (1)
3	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Review of the theoretical perspective of motivation and learning (2)
4	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (1)
5	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (2)
6	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Reviews and discussion
7	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Research Design (4)	Essay writing: presentation and discussion (1)
11	Research Design (5)	Essay writing: presentation and discussion (2)
12	Research Design (6)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	Theories and research studies in L2 education: review and discussion (1)

14 Consolidation (2) Theories and research studies in L2 education: review and discussion (2)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.

【References】

1. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
2. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPIL.

【Others】

1. Students are required to conduct their own research investigation to complete their seminar paper.
2. Students are required to practice L2 teaching targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
3. The courses presented below to be recommended to take:
 - a. Language Education in the Digital Era
 - b. Second Language Acquisition

【Prerequisite】

1. Seminar: Language Teaching and Learning I
2. At least one of the courses presented below:
 - a. TESOL I, II, III, & IV
 - b. Comparative Education
 - c. English Teaching in Primary School
 - d. English Teaching in Primary School advanced

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Diana KHOR

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Getting acquainted Discussion of the goals of this seminar and the responsibility of each seminar member Explanation of seminar research, decision on topic, and individual research
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussion presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

Students have been fully satisfied with the course, saying that it was intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

【Others】

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Diana KHOR

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality".

Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Getting re-acquainted Reflection on what students have learned in the Spring semester
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions

14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K.(eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it is intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Others]

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture I

Yu NIIYA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3, 月 4/Mon.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In the spring, the seminar will meet once a week for 2 periods whereas in the fall, it will meet twice a week on two different days. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings that examine the differing consequences of helping with a self- vs other-oriented motivation. Students will discuss what benefits and costs helping have to each of these motivations, whether these motivations help matters in the quantity and quality of help provided, and whether the cultural dimensions of independence vs. interdependence map onto the self- vs other-motivation for helping. Through readings and discussions, students will gain a deeper understanding of human psychology that governs prosocial interactions.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) to develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) to develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar; and
- (d) to develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Theories on compassionate goals	Discussing theories and research on two fundamental interpersonal goals
3	Self- versus other-oriented motivation	Discussing the theoretical framework of self- vs. other-oriented social motivation
4	Consequences of self- and other-oriented motivation	Identifying the consequences of self- and other-oriented motivation to help
5	Does the difference between self- and other-oriented motivation really matter?	Questioning the dichotomy between self- and other-oriented motivations
6	Impression management motives	Discussing the consequences of helping others with the motivation to appear good
7	Benefits of compassion to self	Understanding how helping others can benefit the self
8	Midterm synthesis	Group presentations on what students have learned so far
9	Benefits of compassion at work	Discussing how compassion can increase work productivity
10	Is interdependence associated with self- or other-oriented compassion?	Distinguishing the self- and other-oriented motivation from interdependent cultural construct

11	Is independence associated with self- or other-oriented compassion?	Distinguishing the self- and other-oriented motivation from independent cultural construct
12	How can we improve prosocial motivation? Part 1	Discussing ways to improve prosocial motivation 1
13	How can we improve prosocial motivation? Part 2	Discussing ways to improve prosocial motivation 2
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Fourth year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their honor's thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Zaki, J. (2021). The war for kindness: Building empathy in a fractured world. Robinson.

【References】

Harris, S. R. (2014). *How to critique journal articles in the social sciences*. Los Angeles, CA: Sage.

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on weekly reaction papers (25%), active participation in class discussion (25%), leading the discussion (20%), midterm presentation (10%), and a final research paper (20%).

【Changes following student comments】

Some students felt rushed during the discussion. We will meet 2 periods in a row to allow more time for in-depth discussion.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Prerequisite】

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture II

Yu NIIYA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 月 4/Mon.4, 金 3/Fri.3

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on the empirical literature in social and cultural psychology. In the fall, the seminar will meet twice a week. Both days will be devoted to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting the results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills learned during the spring term;
- (b) to analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- (c) to write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussion, presentations, and small group projects. Students will receive feedback on their research design in class, during the discussion. They will also receive written feedbacks on their papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Shares course expectations and goals
2	Developing a Research Proposal: A Review	Reviews the process of developing a research proposal
3	Refining Your Research Proposal (1)	Reviews and shares student research proposals
4	Refining Your Research Proposal (2)	Reviews and shares student research proposals
5	Preparing for Research Implementation	Discusses the procedural matters for implementing research
6	Research Debriefing & Feedback (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
7	Research Debriefing & Feedback (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
8	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Analyzing and Interpreting Data (3)	Shares and gets feedback on data analyses
11	Writing and Presenting an APA Research Paper (1)	Reviews APA writing and engages in peer review
12	Writing and Presenting an APA Research paper (2)	Reviews APA writing and engages in peer review
13	Writing and Presenting an APA Research paper (3)	Reviews APA writing and engages in peer review
14	Research Presentation	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare their research outside class and bring materials to discuss in class. Third students will formulate research questions and hypotheses, review relevant literature on the topic, design an experimental study, prepare research materials, and write up a research proposal; fourth year students will collect and analyze data, and write up a research paper. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website. Additional references will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on active participation in class discussion (30%), progress on their research project (30%), and a research proposal for third year students or a final research paper for fourth year students. For the latter, students are required to go through at least three rounds of revisions, graded as follows: 5% for the first draft, 10% for the second draft, 25% for the final draft.

【Changes following student comments】

The seminar meets twice a week to allow students to keep their full concentration and to show their peak performance throughout the 100 minutes.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Prerequisite】

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

POL400ZA

Seminar: International Relations I

TAKESHI YUZAWA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis new rising stars, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states, most notably China. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2023). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables. Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course outline
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Debate 4/Final Research Proposal Presentation (Fourth-year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (20%), Mid-Term and Final Presentations (35%), Research Proposals (45%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" or "World Politics" .

POL400ZA

Seminar: International Relations II

TAKESHI YUZAWA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis new rising stars, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states, most notably China. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

-

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2023). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Presenting revised research proposals
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (50%), Newspaper Content Analysis (25%), Role Play (25%).

Fourth year students: Role Play (10%), Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (90%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John MELVIN

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the seminar.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the seminar; The importance of sustainability & adopting sustainable approaches.
2	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism marketing
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: destination management

8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study: differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to take both a trip and undertake field work.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have taken some of the following Business & Economy courses: Introduction to Tourism Studies; Introduction to Business; Principles of Marketing; Marketing in Japan; Tourism Development in Japan; Event Management; Marketing Management. Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John MELVIN

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the Fall semester; reflection on what students have learned in the Spring semester
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Considering second case study: tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism management
11	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: tourism management

12	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: tourism management
13	Presentations on Students' Research Projects 1	Presentations and discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations and discussions on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to go on a trip and undertake field work.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 3/Tue.3, 火 4/Tue.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Innovation Theories, Entrepreneurs and New Ventures, and Business Plan

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the seminar
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	Innovation and entrepreneurship in Japan
4	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (1)	Patterns of industry innovation Innovation diffusion theories
5	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (2)	Case studies
6	Entrepreneurs and New Ventures (1)	How to be an entrepreneur
7	Entrepreneurs and New Ventures (2)	Case studies
8	Entrepreneurs and New Ventures (3)	Launching your own venture
9	Business Ideas, Business Model and Business Plan (1)	Platforms for business plan
10	Business Ideas, Business Model and Business Plan (2)	Incubators
11	Business Ideas, Business Model and Business Plan (3)	Accelerators
12	Presentation of Business Plan (1)	Final presentation and discussion
13	Presentation of Business Plan (2)	Final presentation and discussion
14	Presentation of Business Plan (3)	Final presentation and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a final paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Prerequisite】

Students who passed the interview process for the seminar.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 火 1/Tue.1, 火 2/Tue.2

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Business Model, Financing for Start-ups, Industry Analysis and Social Entrepreneurship,

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Review of theories we have learnt
2	Business Model	Business model analysis for the entrepreneurs
3	Business Model Canvas	Case studies
4	Financing for Start-Ups (1)	Financing instruments for start-ups
5	Financing for Start-Ups (2)	Venture capital deal sourcing and screening
6	Financing for Start-Ups (3)	China's venture capital and tech startup landscape
7	Financing for Start-Ups (4)	Valuation for venture capital
8	Industry Analysis	Porter's Five Forces
9	Competitive Advantage	The sources and dimensions of competitive Advantage
10	Social Entrepreneurship (1)	Social innovation and social entrepreneurship
11	Social Entrepreneurship (2)	Case studies
12	Social Entrepreneurship (3)	Case studies
13	Final Presentation (1)	Presentations and discussion
14	Final Presentation (2)	Presentations and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a term paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Sairan HAYAMA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn “practical wisdom” by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Confirmation of the goals of this seminar and the responsibility of each seminar member
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・ Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
・ Students need to make good preparations for individual / group study.

・ Students are encouraged to join the summer training camp.

・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year student) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa FUKUOKA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1) academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking, (4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Overview of the course guidelines for the fall semester and confirm the syllabus
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point

12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present for what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year student) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Gregory KHEZRNEJAT

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ☐ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	An overview of the goals and structure of the course
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Rubin, Jay, editor. *The Penguin Book of Japanese Short Stories*. Penguin Random House, 2018.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Gregory KHEZRNEJAT

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ☐ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	An overview of the goals and structure of the course
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the spring semester, considering the semester's themes, methods, and focus. Discussion of the aims of the seminar and the responsibilities of each seminar member.
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.

Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.

Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.

Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.

Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.

Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawai'i Press, 2019.

Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

【Changes following student comments】

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build off of what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the fall semester, considering the semester's themes, methods, and focus. Discussion of the aims of the seminar and the responsibilities of each seminar member.
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project

9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durnham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

[Changes following student comments]

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留學生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回 グループ発表
講師全員（1）

第十二回 グループ発表
講師全員（2）

第十三回 グループ発表
講師全員（3）

第十四回 授業のまとめと講評
講師全員

調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート： 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

2021 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2021 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回 グループ発表
講師全員（1）

第十二回 グループ発表
講師全員（2）

第十三回 グループ発表
講師全員（3）

第十四回 授業のまとめと講評
講師全員

調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2021 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	25%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○			◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わり合いの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。また、コロナ感染状況によっては対面授業も実施する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA(国際エネルギー機構) の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンラインの場合は毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。また、コロナ感染状況によっては対面授業も実施する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンラインの場合は毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。また、コロナ感染状況によっては対面授業も実施する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンラインの場合は毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

CST100NC

ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5 回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5 回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2 回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1 回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1 回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2 回）、トンネルと地質情報（2 回）、構造物基礎と地質情報（1 回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2 回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1 回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形的特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記 14 回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識 (1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識 (2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義 (1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
		「地球の動き／地震」の解釈の歴史的変遷、現状を理解する。

4	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
	代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	
5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
	岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	
6	ダムと地質情報 (1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
7	ダムと地質情報 (2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
8	特別講義 (2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
	「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	
9	トンネルと地質情報 (1)	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
10	トンネルと地質情報 (2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
11	構造物基礎と地質情報	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
	橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	
12	のり面と地質情報 (1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
	掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	
13	のり面と地質情報 (2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
	のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	
14	地すべりと地質情報	地すべり地形的特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。
	地すべり地形的特徴と安定計算方法を習得する。	
	講義全般をまとめる。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書 6 章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点（100 点満点）を算出する。
可否の基準は、100-90 点を S、89-87 点を A+、86-83 点を A、82-80 点を A-、79-77 点を B+、76-73 点を B、72-70 点を B-、69-67 点を C+、66-63 点を C、62-60 点を C-とし合格とする。59-0 点または欠席 4 回以上を D、未受講、採点不能を E とし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

【Outline (in English)】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the fundamentals of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉ですが、実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては 9 割の人が都市で生活している現在、私たちの目にふれるものはすべて人間が「デザインされたもの」といってよいでしょう。

この授業では、そうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらおう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom による遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4 月 13 日	ガイダンス	授業登録人数の確認、授業の進め方と注意事項など。
4 月 20 日	自己紹介	教員の経歴
4 月 27 日	自宅制作のスタジオ・課題	自画像と似顔絵
5 月 11 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5 月 18 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 2	自分の作品をプレゼンテーションする。
5 月 25 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 3	自分の作品をプレゼンテーションする。
6 月 1 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？ 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
6 月 8 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？ 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6 月 15 日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。「生活様式の変化と持続可能な都市の模倣」を講義
6 月 22 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6 月 29 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7 月 6 日	都市の観察 1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に考えてみる。
7 月 13 日	都市の観察 2 フィンランド	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。
7 月 14 日	予備日	時間が足りなかった講義を

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。
最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。
フランス在住の千田勝氏、また場合によってはもう一人ゲスト講師を招待した講義を行う可能性がある。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.
We humans have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.
In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.
We will see such the world around us from the perspective of design.
And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉ですが、実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間が「デザインされたもの」といってよいでしょう。

この授業では、そうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらいます。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoomによる遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4月13日	ガイダンス	授業登録人数の確認、授業の進め方と注意事項など。
4月20日	自己紹介	教員の経歴
4月27日	自宅制作のスタジオ・課題	自画像と似顔絵
5月11日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月18日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月25日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	自分の作品をプレゼンテーションする。
6月1日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか? ダ・ヴィンチの功績をみる。
6月8日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6月15日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。「生活様式の変化と持続可能な都市の模倣」を講義
6月22日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月29日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7月6日	都市の観察1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に考えてみる。
7月13日	都市の観察2 フィンランド	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。
7月14日	予備日	時間が足りなかった講義を

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。

フランス在住の千田勝氏、また場合によってはもう一人ゲスト講師を招待した講義を行う可能性がある。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We humans have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインとは人間の生活を肯定的にとらえ、また人間の生活をより良くしていくものである。それは人間が誕生し、自分たちどこに住めばよいかと考えたときからすでに始まっていると言えるだろう。

古くから営々と続く人間のものづくりから最先端のデザイン事例までを観察することから、それがなぜ生まれたのか、何が必要とされているのかを考え、ものの見方を養う。

授業内容は、いわゆるプロダクトデザインのみならず、芸術、建築、各種デザイン、映画、文学から社会現象まで、幅広いジャンルを歴史、現在に至るまでを、縦横に取り上げ、人間の創造活動全般を研究対象とする

【到達目標】

1) 「創造したい」という気持ちを持つ。
2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom による遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4 月 7 日	ガイダンス	授業の進め方と注意事項など。
4 月 14 日	自宅制作のスタジオ・課題 1	自分の顔を観察する。それを紙の上に再現してみる。自分の顔のデッサン。
4 月 21 日	自宅制作のスタジオ・課題 2	描いたデッサンを元に、自分の似顔絵を描く。デフォルメして、顔の特徴を人にわかりやすく伝える。
4 月 28 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 1	描いたデッサンを元に、自分の似顔絵を描く。デフォルメして、顔の特徴を人にわかりやすく伝える。
5 月 12 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 2	Zoom で自分の作品を説明す
5 月 19 日	2020 年～21 年にかけてのデザイン・建築での新しい動き	TA の人の自己紹介、最近のデザイン界の動き、GW の課題など。
6 月 2 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか? ダ・ヴィンチの功績をみる。
6 月 9 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6 月 16 日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。現在パリで進行中の持続可能な社会をテーマにしたプロジェクトを紹介する。
6 月 23 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6 月 30 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7 月 7 日	都市の観察 1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に見て考える。

7 月 14 日 都市の観察 2 フィンランド フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

未定

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。
最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。
千田勝氏のレクチャーに関しては状況によっては開催できない、もしくはスケジュール変更の可能性あり。

【Outline (in English)】

What "design" is? Design takes a positive view of life. Design improves human being's life. It has already begun since the birth of mankind.

We will see not products but also art, architecture, literature, graphic design films and movements. Especially urban facilities like transportation, from ancient time to present, what we, human beings have created?

This lecture gives you new way of perspective.

DES100ND

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色をもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】

講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。
・「対面授業」を予定しているが、授業の内容や必要により「オンライン授業」も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちと HVC 表現	光と色の三原色 色の三属性 HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々な色票 様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史

8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンポジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンポジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40%）、および各課題の完成度（60%）を考慮し総合的に評価する。
※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】

・「対面授業」を予定しているが、授業の内容や必要により「オンライン授業」も利用するため学習支援システムを確認すること。
・初回ガイダンスで発想練習を実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	VforVendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo

2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst

3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major area of study

Now, you have freedom to choose topics which you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The hand-brain connection Slide design
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	Course Review	Feedback The Rule of 3, Number 5, and Letter V

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major

Now, you have freedom to choose any topic that you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

【その他の重要事項】

N/A

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【その他の重要事項】

N/A

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	90%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	V for Vendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Researching your topic
 2. Preparing presentation slides and handout
 3. Practicing your presentation
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines
34% Presentation: content and style
34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose presentation topics related to their major area of study

Now, you have freedom to choose any topic which interests you

【学生が準備すべき機器他】

You will need in every class of this course:

- 1.notebook computer / tablet

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、対面で行える場合には定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。リモートで行う場合にはノートPCが必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50％）並びに作図課題（50％）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。

9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。
12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50％）並びに作図課題（50％）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、対面で行える場合には定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。リモートで行う場合にはノートPCが必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通じたコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【学習・教育到達目標との関連】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量的評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴

14 演習課題（3）持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表
課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量的評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は以下の通り

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を巡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子＋森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art.

By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を巡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子＋森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art.

By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子＋森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art.

By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

ADE100NB

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

（以下、教科書の「はじめに」より）

本書の2章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった20世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる4つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさに関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

1. 鉄筋とコンクリート
2. 壁構造とラーメン構造
3. 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
4. 鉄骨の形状と接合方法
5. ガラスの構成
6. 木造の基礎・床組・軸組・小屋組

（以下、教科書の「はじめに」より）

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない1枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう1枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、各回のテーマに関する解説に続いて、hoppii（学習支援システム）の「テスト/アンケート」を利用して、授業内オンラインテストを実施します。解説は教科書に沿って進めるので、重要なポイントにマークをするなどして、教科書に書かれていることをよく理解してください。その上で、教科書を参照しながら、テストに解答し、重要なポイントを再確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋 (1) : 鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書 2 章 1 節～2 節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋 (2) : コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書 2 章 3 節（平面の構成）
4	住吉の長屋 (3) : 屋根の架構法など	教科書 2 章 4 節～5 節（断面と立面の構成）
5	サヴォワ邸 (1) : 鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書 3 章 1 節～3 節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸 (2)	教科書 3 章 4 節～6 節（1 階・2 階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸 (3) : これまでのまとめ：鉄筋コンクリートによる造作（開口部など）	教科書 3 章 7 節～9 節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ：鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸 (1) : 鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書 4 章 1 節～2 節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸 (2) : 鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書 4 章 3 節～4 節（鉄のフレームと床・屋根）
11	ファンズワース邸 (3) : ガラスのディテール。カーテンウォールのディテールなど	教科書 4 章 5 節～7 節（ガラスの壁・階段・設備コア）

- 12 白の家 (1) : 教科書 5 章 1 節～3 節 (白の家
木造軸組構造による建 と木造軸組構造の概要)
築架構の概要。ツーバ
イフォー構法、パネル
構法などの概要
- 13 白の家 (2) : 教科書 5 章 4 節～5 節 (基礎と
軸組、床組、軸組部材 床組)
の名称と役割
- 14 白の家 (3) : 教科書 5 章 6 節～8 節 (軸組・
小屋組、軸組構造の枠 小屋組・各部の構成)
廻り、壁、床、天井の
仕上げ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」(安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008 年) ※

※この教科書は 1 年次配当科目 (必修科目) である「デザインスタジオ 1 (建築)」でも使用します

【参考書】

●安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984 年

●GA ディテール No.1 / ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸／1945 - 50, A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976 年

●篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984 年

●篠原一男、住宅論、SD 選書 No.49、鹿島出版会、1970 年

(5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999 年

●安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ: 3D モデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020 年

●内田祥哉他、建築構法 (第五版)、市ヶ谷出版社、2007 年

●建築構造ポケットブック (第 4 版)、共立出版、2006 年

●加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／ショワジー『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第 32 巻 3 号、日本図学会、1998 年 9 月

●佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709 (2002 年 1 月 7 日号)

●サヴォワ邸／1931 / フランス／ル・コルビュジエ、バナナブックス、2007 年

●Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Fondation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999

●Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999

▼参考ホームページ

○ファンズワース・ハウス (アメリカ・イリノイ州)

: <http://www.farnsworthhouse.org/>

○フランス国立モニュメントセンター:

<http://www.monuments-nationaux.fr/>

○ル・コルビュジエ財団 (パリ):

<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>

○ル・コルビュジエ アーカイブ (大成建設):

<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します (100 %)。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。「眠くならないような演出」として、何か手を動かすような演習を交えるようにします。なお、授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム (hoppii) を用いた「テスト」(演習) を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。

また、授業時に、学習支援システムを通して、3D モデルの CG データ (スケッチアップのファイル) などの資料を配布します。CG データを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CG データを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする 4 つの住宅のうちの「サヴォワ邸」(フランス・パリ近郊) と「ファンズワース邸」(アメリカ・シカゴ近郊) は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。

教科書では、4 つの住宅の図面・模型・CG (Computer Graphics) の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CG の制作にもチャレンジしてください。3 年次以上秋学期配当科目 (選択科目) である「デジタルスタジオ」は、実在の建築の CG を制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。

【Outline (in English)】

This course aims to provide students, who have started construction studies, with knowledge of fundamental physical structures. Through understanding the relationship between form and spacial composition as well as framework and details in construction, students will learn the fundamental structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, wooden frame structure, and steel frame structure.

DES100ND

デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「今日におけるデザインの基礎講座」です。デザインが対象とする領域と事象の幅が大きく広がった現在において、「デザインという営為の基礎を成す考え方＝理論」と「個別解としてのデザインそれぞれを成り立たせている考え方＝理論」、すなわち「デザインの理論」を理解します。人間がより良く、希望をもって生きられる社会であるためにデザインが必要とされている中で、「ものごとをデザインする」という姿勢で、デザインと主体的に関わる姿勢を涵養することを目的としています。

【到達目標】

- ・今日の社会におけるデザインの基本的な位置づけや、デザインが社会の中でどのように理解され機能しているかを理解します。
- ・具体的なデザインの実践内容と担い手の想いなどを理解します。
- ・自らの活動にデザインの方法論を反映させていくための素地をつくります。
- ・デザインに対する省察的な態度を身につけ、デザインの担い手としての意識を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインがどのような目的意識と意図のもとで、どのような「社会システム」として構築されているのか、社会において何が課題とされ、それに対してデザインとしてどういった提案ができるのか、デザインには何が期待されているのか、などの考察を促すために、多様なデザインの事例紹介を軸とした講義形式になります。様々な分野のグッドデザイン賞の受賞事例を事例に、そこから読み取れる目的性、意義、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々状況に則したものを選択していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」に関する説明（歴史、概念など）
2	社会の変化とデザインの変化	社会の変化と、デザインの対象及び目的の拡張との関係に関する考察
3	最新グッドデザイン賞から見るデザインの諸相	最新グッドデザイン賞受賞対象から見えてくること
4	産業構造の変化とデザイン	製造中心から情報化・サービス化への移行に伴うデザインの展開
5	デザインの本質	今日のデザインに期待されることの本質
6	最新グッドデザイン大賞	グッドデザイン大賞とその候補デザインを通じて見えてくるもの
7	社会課題とデザイン	地域社会の活性を指向したデザイン
8	社会課題とデザイン	福祉的な視点とアプローチを伴ったデザイン
9	社会課題とデザイン	環境施策とデザイン
10	社会課題とデザイン	サービス提供としてのデザイン
11	社会課題とデザイン	社会改革とデザイン
12	デザインへの批判的省察	デザインと「ユーザー」との関わり
13	デザインへの批判的省察	「人間中心」という今日のデザインにおける基礎的な考え方に対する批判的考察
14	最終まとめ	総括およびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・つねに社会の動向、人々の関心、情報の流れを意識して捉えるようにしてください。デザインはそれらと密接不可分であり、「デザインは社会の変化と軌を一にする」「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインが関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／デザインがどのように関わるか探ってみる」という視点を持ち続けてください。
- ・授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。
- ・2022年10月～11月に東京都内で開催する予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。様々な領域と分野に広がっているデザインの最新の実践例に触れることができます。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通じて1～2回程度課すレポートの提出を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して成績を決めます。レポートとして課す内容は、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しいテーマを想定しています。なお、テストは行わない予定です。

評価の内訳：

レポート提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施を予定しているため、対応できる通信環境と情報端末を用意してください。

【その他の重要事項】

- ・担当講師がグッドデザイン賞の事業運営に携わっているため、本授業で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞という固有の制度を通じたことがベースになる点を、前提条件として予め承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方や価値を定める絶対存在ではありません。すなわち「グッドデザイン賞に選ばれていること＝デザインに関する絶対的な正解や正論である」ではありません。あくまでもデザインについて理解し考えを深めていく上での、ひとつの相対的な見方と考え方が、グッドデザイン賞というフィルターを通じて提示されると認識して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。その上で、自分自身はそのようなデザインのあり方に対してどのように考えるか、自身の思考を巡らせるきっかけとしてももらいたいと考えます。
- ・逆に言うと、グッドデザイン賞という制度に対する根本的な疑問や不信感を持っていて、アレルギーを感じるような人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦めません。
- ・実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習は実施しません。
- ・レポートを課す際は、原則的に提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。
- ・当シラバスで記した授業計画に関して、取り上げるテーマの順番はその時々社会情勢などを反映して入れ替わることがあります。

【Outline (in English)】

This course provides a basic course in contemporary design. Participants will learn about the concepts that form the basis of design in this day and age, along with the individual principle components of design — that is, the “theory of design,” through various subjects of design, case studies, and more. In doing so, the goal is not master design-technic, but to foster within each participant the perspectives necessary to uncover social challenges and link them to solutions, as well as an awareness of design as a way to proactively build a more livable and hopeful society for all.

ADE200NB

建築生理心理 1

川久保 俊

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築物は我々にとって重要な生活基盤、社会インフラである。特に住宅建築物は、我々の安全を守り、休息する場を提供し、子孫を育む重要な生活の場である。建築に関わる全ての関係者は、建築物を利用する側の「人」の立場から建物との関わりを捉え、建築物に「住まう」ために要求される各種条件を本質的に理解しておくことが必要である。そこで、本授業では住環境の概念、住居の備えるべき各種条件、居住者としての身体特性、身体の各部位の役割などを紹介し、建築生理心理の基礎を学習する。

【到達目標】

- ・住居が備えるべき諸条件を学ぶ。
- ・我々の人体反応の基礎を習得する。
- ・住環境が様々な場面で人体に影響を及ぼすことを学ぶ。
- ・居住者の健康を維持増進する上で、住環境を適切に整備することが重要であることを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎	◎		○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint 等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問は Hoppii の掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	環境の分類、住環境の概念	環境の分類と住環境の概念整理。住環境の構成要素
3	都市・地域環境とその評価	住宅を取り巻く周辺環境の整備の意義。都市・地域環境の評価
4	住居の備えるべき条件(0)	伝統的住居に施された生活の工夫。住居が備えるべき各種要件の概要の理解
5	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性」	日常安全（防犯、交通安全、生活安全など）
6	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性（続）」	災害安全（火災、風水害、地震など） 公害防止、伝染病防止、自然環境の担保（通風、採光など）
7	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性」	WHO による健康の定義、シックハウス問題、アスベスト問題、ヒートショック問題
8	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性（続）」	自宅の健康性評価。各種疾病の有病割合。オッズ比
9	住居の備えるべき条件(3) - 「利便性」	日常生活利便性、施設利便性、交通利便性、社会サービス利便性
10	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性」	適切な環境制御。光環境、音環境、空気環境、温熱環境
11	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性（続）」	非定常汚染質濃度、非定常室内温度の計算
12	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性」	環境／社会／経済のトリプルボトムライン、世代間倫理、持続可能性の評価
13	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	環境配慮技術、サステナブルデザイン
14	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義の中で膨大な数のキーワードに触れるため、帰宅後その内容を頭の中で整理、消化し、次の講義までに復習をしてくること。また、講義中に重要な部分については計算問題やレポートを課すので、期末テストに備えて十分に応用能力を養っておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

参考書を複数例示するので、自身に合う参考書を入手して適宜予習・復習することをお勧めする。

【参考書】

「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）。
「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）。
「しくみがわかる建築環境工学: 基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。
「からだの地図帳」高橋長雄（講談社）。
「形と比例」岩中徳次郎（美術出版）。
「驚異の小宇宙・人体Ⅱ、脳と心」NHK 取材班（NHK 出版）。
「見えない空間性能」荒木睦彦（彰国社）。
「やさしい美術解剖図」J・シェパード（マール社）。
「心理学雑学事典」渋谷昌三（日本実業出版社）。

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（約 50%）および講義中に課す演習課題（約 50%）によって判断する予定。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはレポート（100%）による評価に切り替える可能性もある。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きいため、基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはオンライン形式と併用する可能性があるため、定期的に Hoppii 上のアナウンスを確認すること。

【Outline (in English)】

Buildings are important infrastructure for us. Residential buildings, in particular, are important places of life that protect our safety, provide places to rest, and nurture our descendants. It is necessary for all parties involved in the construction to understand the relationship with the building from the standpoint of the people who use the building, and to have an essential understanding of the various conditions required to "live in" the building. Therefore, this class introduces the concept of the living environment, various conditions that a house should have, physical characteristics as a resident, roles of each part of the body, etc., and learns the basis of building physiological psychology.

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class has to be seen as a place of discussion and exchange about Architecture. The aim is to stimulate students to speak in English and to increase their conversation ability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (14 classes) students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

At the end of each themes, the following assignment will be explained in detail.

All conversation to be in English, all presentation materials to be submitted by PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of the 'analysis tool' students will give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn the different graphic representations used by the architect. In the continuity of class 1 the students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and to prepare or research graphic representations including: sketches, diagrams, axonometric, perspectives, site plan, plans, sections, details. One of the representations to be made by the students and to illustrate a key feature of the building – Students to elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Based on previous classes teachings, the students will present a project from a selected list of Architects. Alvaro Siza OMA Lacaton & Vassal BIG SANAA Toyo Ito Jean Nouvel
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, the students will give their impressions, their feelings according to the spaces crossed with the help of photographs or to illustrate key moments.

Class 8	City roaming part 2	-
Class 9	Micro Architecture part 1	The students will be asked to find a micro building which has been created in a left over space within the city. Please prepare PPT with photographs, simple site plan (hand sketch is ok) and explanation of building particularity.
Class 10	Micro Architecture part 2	-
Class 11	Habitat part 1	After a discussion on the definition of the habitat, the students will search and investigate examples of housing which reconsider the stereotype of the house. Students will present at least 2 projects of housing (single or collective) and will explain how and why it reassess the question of the habitat.
Class 12	Habitat part 2	-
Class 13	Architecture and Literature part 1	The students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading at home the text will be discussed in class and the students will identify a clear program which they will use for the second part of the class.
Class 14	Architecture and Literature part 2	The students will present their architectural translation of the text using previous classes teaching. Evaluation will be made on the quality of the presentation, the visuals and the consistency of the approach.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For each of the 7 themes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

1.50% Preparation of presentation materials

2.25% Discussion participation

3.25% Diligence, Enthusiasm

【学生の意見等からの気づき】

Comment after 2020 semester: some of the themes to be conducted in small group of students.

【その他の重要事項】

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class has to be seen as a place of discussion and exchange about Architecture. The aim is to stimulate students to speak in English and to increase their conversation ability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (14 classes) students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

At the end of each themes, the following assignment will be explained in detail.

All conversation to be in English, all presentation materials to be submitted by PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of the 'analysis tool' students will give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn the different graphic representations used by the architect. In the continuity of class 1 the students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and to prepare or research graphic representations including: sketches, diagrams, axonometric, perspectives, site plan, plans, sections, details. One of the representations to be made by the students and to illustrate a key feature of the building – Students to elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Based on previous classes teachings, the students will present a project from a selected list of Architects. Alvaro Siza OMA Lacaton & Vassal BIG SANAA Toyo Ito Jean Nouvel
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, the students will give their impressions, their feelings according to the spaces crossed with the help of photographs or to illustrate key moments.

Class 8	City roaming part 2	-
Class 9	Micro Architecture part 1	The students will be asked to find a micro building which has been created in a left over space within the city. Please prepare PPT with photographs, simple site plan (hand sketch is ok) and explanation of building particularity.
Class 10	Micro Architecture part 2	-
Class 11	Habitat part 1	After a discussion on the definition of the habitat, the students will search and investigate examples of housing which reconsider the stereotype of the house. Students will present at least 2 projects of housing (single or collective) and will explain how and why it reassess the question of the habitat.
Class 12	Habitat part 2	-
Class 13	Architecture and Literature part 1	The students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading at home the text will be discussed in class and the students will identify a clear program which they will use for the second part of the class.
Class 14	Architecture and Literature part 2	The students will present their architectural translation of the text using previous classes teaching. Evaluation will be made on the quality of the presentation, the visuals and the consistency of the approach.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For each of the 7 themes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

1.50% Preparation of presentation materials

2.25% Discussion participation

3.25% Diligence, Enthusiasm

【学生の意見等からの気づき】

Comment after 2020 semester: some of the themes to be conducted in small group of students.

【その他の重要事項】

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class has to be seen as a place of discussion and exchange about Architecture. The aim is to stimulate students to speak in English and to increase their conversation ability.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 10%

(D) 専門基礎学力

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力 90%

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (14 classes) students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

At the end of each themes, the following assignment will be explained in detail.

All conversation to be in English, all presentation materials to be submitted by PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of the 'analysis tool' students will give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn the different graphic representations used by the architect. In the continuity of class 1 the students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and to prepare or research graphic representations including: sketches, diagrams, axonometric, perspectives, site plan, plans, sections, details. One of the representations to be made by the students and to illustrate a key feature of the building - Students to elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-

Class 5 Contemporary architecture part 1

Based on previous classes teachings, the students will present a project from a selected list of Architects.

Alvaro Siza

OMA

Lacaton & Vassal

BIG

SANAA

Toyo Ito

Jean Nouvel

-

Class 6 Contemporary architecture part 2

Class 7 City roaming part 1

From a pre-selected route, the students will give their impressions, their feelings according to the spaces crossed with the help of photographs or to illustrate key moments.

-

Class 8 City roaming part 2

Class 9 Micro Architecture part 1

The students will be asked to find a micro building which has been created in a left over space within the city.

Please prepare PPT with photographs, simple site plan (hand sketch is ok) and explanation of building particularity.

-

Class 10 Micro Architecture part 2

Class 11 Habitat part 1

After a discussion on the definition of the habitat, the students will search and investigate examples of housing which reconsider the stereotype of the house. Students will present at least 2 projects of housing (single or collective) and will explain how and why it reassess the question of the habitat.

-

Class 12 Habitat part 2

Class 13 Architecture and Literature part 1

The students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading at home the text will be discussed in class and the students will identify a clear program which they will use for the second part of the class. The students will present their architectural translation of the text using previous classes teaching. Evaluation will be made on the quality of the presentation, the visuals and the consistency of the approach.

Class 14 Architecture and Literature part 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For each of the 7 themes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

1.50% Preparation of presentation materials

2.25% Discussion participation

3.25% Diligence, Enthusiasm

【学生の意見等からの気づき】

Comment after 2020 semester: some of the themes to be conducted in small group of students.

【その他の重要事項】

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

COS200NC

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となる Excel の高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excel の効率的な使用法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになるとともに、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	60%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。1 週講義の後、翌週は前週の講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとして Excel を使用する。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Excel の基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介、講義で使用する Excel の基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第 2 回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第 3 回	関数の近似と補間	テーラー展開、補間について解説する。
第 4 回	演習	第 3 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 5 回	微分	差分近似、3 点差分公式、5 点差分公式について説明する。
第 6 回	演習	第 5 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 7 回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第 8 回	演習	第 7 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 9 回	非線形方程式	ニュートン・ラフソン法、2 分法、はさみうち法
第 10 回	演習	第 9 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 11 回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第 12 回	演習	第 11 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 13 回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第 14 回	演習	第 13 回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に演習課題の実施。数回の課題の提出を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excel ではじめる数値解析、森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価 40%、期末試験 60% で総合的に評価する。4 回以上欠席したものは単位の取得を認めない。
期末試験は、自分で行った演習課題を参照、PC 持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めた結果、授業評価は総じて好評であったが、プログラミングが難しいとの意見があった。プログラミング能力を向上させるためには、プログラミングを行う回数が重要と考えるため、演習を増加させたい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

- 1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.
- 2) Utilization of Microsoft Excel.
- 3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.

HUI200ND

インタフェースデザイン

土屋 雅人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、各種電子機器の操作は複雑なヒューマンインタフェース（以下インタフェース）を通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインが製品の評価を決める重要な要素になっている。インタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、その体系的なデザイン手法を学習する。

【到達目標】

インタフェースデザインに必要なヒューマンファクターを理解する。
インタフェースの設計方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

インタフェースデザインは、ひとつひとつの操作を積み重ねる時間軸を持つことが特徴である。そのため、一連の操作を通して問題点を把握し、新たなデザインを提案するプロセスの実験が重要である。本授業では、身近な機器を題材にして、インタフェース設計ガイドラインやユーザビリティ評価手法等を導入し、「身体的」「認知的」「感性的」側面から、インタフェースデザイン方法論を体感的に学習する。授業の中では、前半にインタフェースの問題抽出と解決方法を事例を通して解説し、後半で自ら実製品のインタフェースデザインを演習的に体験する。複数の演習課題に対して、その特徴的なレポートを抽出し、授業の中で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方、授業評価について説明する。
2	インタフェースデザインとは	インタフェースデザインの概論、歴史、手法等について解説する。
3	身の回りのインタフェース	事例を通してインタフェースデザインの重要性を解説する。
4	アンソロポメトリ	インタフェースに係わる人間工学的課題を解説する。
5	視覚・反応	視覚感覚の特性について解説する。
6	認知・判断1	人の認知について解説する。
7	知覚・認知・判断2	事例を通して人の情報処理の流れを解説する。
8	記憶・意思決定	記憶の特性と意思決定の特徴について解説する。
9	インタフェースデザインプロセス	インタフェースデザインのプロセスを解説する。
10	ユーザビリティ評価	事例を通してユーザビリティ評価を解説する。
11	ヒューマンエラー1	ヒューマンエラーの事例について解説する。
12	ヒューマンエラー2	ヒューマンエラーの構造について解説する。
13	インタフェースデザインの課題	課題の発表、評価を行う。
14	インタフェースデザインの将来	次世代の入出力デバイス等今後の方向性を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別講義では、講師の指示する課題を授業時間外に対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会

ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版

デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版

ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業態度を総合して評価する。

授業の中でのインタフェースデザイン技術に関する課題を課し、その内容を評価に加える。

平常点（20 %）＋課題合計（40 %）＋試験（40 %）＝合計 100 %

【学生の意見等からの気づき】

指示した場合を除き、ノートパソコンによる講義録メモや、デジタルカメラによる授業資料撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【Outline (in English)】

Electronic devices need complicated human interfaces to perform high level functions in recent years, and interface design is becoming more important for the evaluation of products. Through various examples of interface design, we will study the human factors which are necessary for the design and learn systematic design methods.

MTL200ND

材料と構造のデザイン

竹内 則雄

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（要素）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（要素）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、レジメを用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次回の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分
2	空間の力（2）	前回の講義内容についての演習
3	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
4	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
5	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
6	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
7	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
8	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
9	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
10	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
11	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
12	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
13	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
14	柱のデザイン（2）	前回の講義内容についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて事前に講義で使用するプリントを配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目とををし、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを pdf ファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 2/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学、材料力学、構造力学、応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（30%） 各テーマ毎に行う演習とその課題（レポート）をとおして、基礎的な理解度を評価する
理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。
演習状況（20%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の 2/3 に満たない学生は評価の対象外 (E) とする。なお、1 時間目に 30 分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。

【評価基準】

履修の手引きに記載されている S～E までの 12 段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、指摘事項を確認し、復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments
 - 2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements
 - 3)Assessment of the safety of structures and machine elements
- (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

MEC300ND

熱と流れのデザイン

田中 豊

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身のまわりの物体は、運動したり、変形したり、状態（温度、圧力、体積など）が変化したりする。また製品をデザインするためには、こうした物体の力学的な特性や状態変化を十分に理解しておくことが重要である。

本授業のテーマは、まず最初に、このような物体の運動や変形、状態の変化を、自然科学や技術の変遷の中で、「熱」や「流れ」の力学として考える。次に、熱と流れに関する課題を取り上げ、シミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したりする。さらに、具体的な実習課題を通して、熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことを学ぶ。

【到達目標】

- ・物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解できること。
- ・熱と流れに関する課題を計算やシミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したり説明したりできること。
- ・熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業の前半では、まず熱と流れの力学に関する自然科学や技術の変遷を紹介し、物体の変形にともなう力学的な諸問題を「流体」や「流れ」という概念でとらえ、流れの性質や数学的な表現を解説する。

次に授業の後半では、物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念でとらえ、熱の特徴的な性質、熱力学の法則やパワーサイクルの考え方を概観する。

講義授業回毎に与えられたリアクションペーパーや演習問題を記入・作成し、提出する。また「流れ」と「熱」に関する理解度を確認するための2回の試験を行ない、途中までの理解度を評価する。

授業の最後では、熱と流れの可視化手法や測定手法を紹介し、数値シミュレーション結果の処理を行うための基礎事項を解説する。さらに具体的な実習課題や例題演習を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物体の運動と状態の変化	物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解する。熱や流れの力学を自然科学や技術の変遷の中で理解する。単位系とその考え方を理解する。 ・力学の学問体系 ・流れと熱の力学史 ・流体力学と熱力学 ・単位系とその考え方
2	流体の性質、静水力学	変形しながら運動する物体（流体）に特徴的な性質を理解する。 ・圧力 ・密度と比重 ・粘性と圧縮性 ・静水圧 ・パスカルの原理と力増幅装置 ・浮力
3	流れの基礎事項	流れの数学的な表現の中で重要となる連続の式と運動量保存則について、力学的な視点で理解する。 ・ニュートン力学 ・連続の式（質量保存則） ・オイラーの運動方程式
4	エネルギー保存則とベルヌーイの式	前回に引き続き、流れの数学的な表現の中で重要となるエネルギー保存則を理解する。さらに圧力の測定方法や流れの表現方法（可視化手法）についても理解する。 ・エネルギー保存則 ・ベルヌーイの定理 ・動圧と静圧 ・ピトー管と圧力の測定法 ・流れの可視化と表現法

5	流体の運動量・レイノルズの相似則	流体の運動量や特徴的な性質である粘性と圧縮性について、その役割や基礎事項について理解する。 ・流体の運動量と運動量理論 ・粘性の役割 ・非圧縮・粘性流れの基礎方程式 ・流れの相似則とレイノルズ数 ・層流と乱流 ・圧縮性流れの基礎方程式
6	管路内流れと損失	工学的な流れの基本となる管路内流れについて、その基礎事項を理解する。 ・管路内流れ ・管摩擦損失 ・境界層
7	物体周りの流れ	流体中に置かれた物体に働く力や流れの様子についての基礎事項を理解する。 ・物体周りの流れ ・抗力と揚力 ・第1回～7回のまとめ ・理解度確認試験1
8	物質の熱力学的特性	物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念として理解する。 ・物体の状態変化 ・熱エネルギーと仕事 ・圧力と体積と温度
9	熱エネルギーの利用と熱の伝達	物体内の熱の伝わり方に関する基礎事項を熱の利用の観点から理解する。 ・伝熱 ・輻射 ・放射 ・伝導 ・対流 ・断熱
10	理想気体の状態変化と仕事	理想気体の状態変化と仕事に関する基礎事項を熱と仕事の等価性の関係で理解する。 ・理想気体の状態変化 ・熱と仕事
11	熱エネルギーの状態変化と仕事	熱と仕事とエントロピーに関する基礎事項を理解する。 ・熱と仕事とエントロピー ・熱力学の法則 ・準静的変化 ・可逆変化と不可逆変化
12	熱力学の法則とパワーサイクル	熱力学の法則と熱エネルギーを利用したパワーサイクルの考え方について理解する。 ・様々なプロセス ・熱力学の法則
13	様々な熱機関のパワーサイクル	身の周りの様々な熱機関をパワーサイクルの観点で理解する。 ・オットーサイクル ・ディーゼルサイクル ・スターリングサイクル ・ブレイトンサイクル ・ランキンサイクル ・ヒートポンプ
14	熱と流れの可視化・計測手法・画像処理まとめ	熱と流れの可視化や計測手法に関する基礎事項を例題と実習を通じて理解する。 ・熱と流れの可視化と例題実習 ・計測手法と例題実習 ・画像処理と例題実習 ・第8回～14回のまとめ ・理解度確認試験2 ・授業改善アンケートの記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認
返却されたリアクションペーパーの復習
配布・回収・返却した演習問題の復習
講義資料の内容の事前の確認と事後の復習
理解度確認試験の自己採点と評価結果の見直し・復習
レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜、プリントや演習問題を配布する。
すべての教材や演習問題、リアクションペーパーは授業支援システムを用いて電子媒体で配布する。

【参考書】

細井：教養・流れの力学，東京電機大学出版局
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：流体力学
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：熱力学

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーや演習問題（10 %）

授業中に配布されたリアクションペーパーや演習課題を，教員からの指示に従い，記入・回収し，結果を確認して，次回に返却する。その提出状況と記入結果を各回 5 点満点で評価する。各回の授業内容の理解と記入状況が評価の基準である。

・理解度確認試験（50 %）

2 回の理解度確認試験の結果を，それぞれ，100 点満点で評価する。理解度確認試験 1 では，第 1 回～7 回で行われた授業内容の「流れ」に関する力学的な理解が評価の基準である。理解度確認試験 2 では，第 1 回と第 9 回～13 回で行われた授業内容の「熱」に関する力学的な理解が評価の基準である。

・レポート課題（必要に応じて加点する）

第 1 回～14 回のレポートの提出状況と内容を各 5 点満点で評価する。実習課題のレポートでは，第 1 回～13 回で得られた知識を活用し，自らシミュレーション結果を可視化できること，また得られた知見を製品のデザインに活かせるようになったかが評価の基準である。

・最終的な成績評価は，上記のすべての結果から総合的に判断評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の解答例の詳細な解説を行ってほしい旨の意見があったので，時間の許す限り解答例の解説を行う。

リアクションペーパーへの記入例は，講義終了後，授業支援システムを使って電子的にアップする。

【学生が準備すべき機器他】

大学から配布されたノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

2021 年度より開講学年が 2 年から 3 年に，開講期が秋学期前半（C 期）から春学期前半（A 期）に変更になった。

【Outline (in English)】

This course introduces fluid dynamics and thermodynamics to students taking this course. Liquids and gasses can both be classified as fluids. The first half of the lecture deals with fluid properties, fluid statics and fluid dynamics. The second half of the lecture deals with thermodynamics. Thermodynamics is the study of a substance's energy-related properties. The properties of a substance and the procedures used to determine those properties depends on the state and the phase of the substance. By the end of the course, students learn to utilize the properties related to fluid dynamics and thermodynamics to product design through practical tasks.

SSS200ND

オペレーションズリサーチ

野々部 宏司

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。OR の幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Microsoft Excel のソルバー機能（Excel ソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。
- ・ 安定マッチングを理解している。
- ・ Excel を用いて簡単なシミュレーションを行うことができる。
- ・ 待ち行列理論の基礎を理解している。
- ・ 不確実性下での意思決定について、代表的な意思決定原理を理解している。
- ・ リスクのもとでの多段階意思決定にディシジョンツリーを利用することができる。
- ・ AHP を利用した意思決定を行うことができる。
- ・ ゲーム理論の基礎を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「階層的意思決定法（AHP）」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。

理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方について説明した後、例題を示しながら授業で扱う内容の概説を行う。
2	数理最適化（線形計画法）	数理最適化とその代表的な手法である線形計画法について学ぶ。意思決定問題を最適化問題として定式化し、Excel ソルバーを用いてその問題を解く練習を行う。
3	数理最適化（整数計画法）	線形計画法よりも適用範囲が広い手法である整数計画法について、バイナリ変数の活用方法を含めて学ぶ。Excel ソルバーを用いた演習を行う。
4	割当て問題	数理最適化の応用例として割当て問題を取り上げ、例題を用いた演習を行う。また、安定マッチングについて学ぶ。
5	シミュレーション（決定論的シミュレーション）	問題解決や意思決定のためのシミュレーションについて学ぶ。決定論的シミュレーションの演習を Excel を用いて行う。
6	シミュレーション（確率的シミュレーション）	確率的シミュレーションについて、モンテカルロシミュレーションを中心に学ぶ。Excel を用いた演習を行う。
7	待ち行列（シミュレーション）	数理モデルを通して混雑や待ちの現象を解析し問題解決に役立てる手法として、待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくにシミュレーションを用いた分析を行う。
8	待ち行列（理論的解析）	待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくに M/M/1 待ち行列システムを中心に理論的解析について学ぶ。
9	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	不確実性やリスクのもとでの意思決定原理について、代表的なもの（マクシミン原理、マクシマックス原理、ミニマックス後悔原理、ラプラスの原理、期待値原理、期待値・分散原理、最尤未来原理、要求水準原理）とそれらの性質について学ぶ。

10	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	リスクのもとでの意思決定（とくに多段階の意思決定）に用いられる代表的なツールであるディシジョンツリー（決定木）、および人が感じる満足度を数値によって表す概念である効用について学ぶ。
11	AHP（階層的意思決定法）	評価基準が複数存在する中で、複数の代替案から 1 つ（もしくは幾つか）を選択したり代替案を順位づけたりするためのツールとして AHP（階層的意思決定法）について学ぶ。
12	ゲーム理論（非協力ゲーム）	ゲーム理論（複数の意思決定者が合理的な行動をとる状況を論理的に取り扱うための方法論）の基礎知識として、非協力ゲームの初歩について学ぶ。
13	ゲーム理論（混合戦略）	非協力ゲームの混合戦略について学ぶ。
14	演習課題（最終課題）	授業内容の復習を行い、各自で設定した問題に対して、OR の手法を適用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 事前学習（基礎知識の習得）
 - ・ 授業内容の復習
 - ・ 演習課題の実施と提出
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- ・ 藤澤克樹・後藤順哉・安井雄一郎：「Excel で学ぶ OR」, オーム社, 2011.
 - ・ 今野浩・後藤順哉：「意思決定のための数理モデル入門」, シリーズ〈オペレーションズ・リサーチ〉5, 朝倉書店, 2011.
 - ・ 森雅夫・松井知己：「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店, 2004.
 - ・ 松井泰子・根本俊男・宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」, 東海大学出版会, 2008.
 - ・ 高橋幸雄・森村英典：「混雑と待ち」, 朝倉書店, 2001.
 - ・ 藤田忠・熊田聖：「意思決定科学」, 第 2 版, 泉文堂, 2001.
 - ・ 宮川公男：「意思決定論—基礎とアプローチ」, 中央経済社, 2005.
 - ・ 渡辺隆裕：「図解雑学ゲーム理論」, ナツメ社, 2004.
 - ・ 逢沢明：「ゲーム理論トレーニング」, かんき出版, 2003.
- など、その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- ・ 演習課題（第 13 回まで）： 70%
- ・ 最終課題： 30%

ただし、授業を 4 回以上欠席した場合は評価の対象外（E 判定）とする。特別な理由がない限り 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間を有効に活用するため、基礎知識の習得や Excel を用いる演習の準備等については、一部を事前学習として課すことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ edu2020 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
- ・ 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces several topics in Operations Research (OR). OR provides mathematical tools for problem-solving and decision-making in real-world situations.

The goal of this course is to gain fundamental knowledge and skills in OR.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on assignments in each class (70%) and the final report (30%).

DES300ND

デザインケーススタディ

土屋 雅人、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。

前半、後半各7回ずつで教員が変わります。

本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、市場ニーズの分析手法（デザインマーケティング）と今日のデザインの社会的意義（デザインファンクション）を学びます。

第一部：デザインマーケティング

第二部：デザインファンクション

【到達目標】

デザインマーケティングおよびデザインファンクションの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は二部構成となり、第一部は1回目より7回目まで、第二部は8回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第一部：デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

第二部：デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、グラフィック／プロダクト／タイムベースの3つのデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。

「第一部：デザインマーケティング」（担当土屋）ではノートPCを使いますので、必ず持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発想法 土屋雅人	この授業の要点、注意事項の説明をします。 アイデア発想法と整理法を学習します。
2	感性価値 土屋雅人	価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
3	ニーズ分析1 土屋雅人	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
4	ニーズ分析2 土屋雅人	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
5	ニーズ分析3 土屋雅人	多変量解析（主成分分析）を学びます。
6	ニーズ分析4 土屋雅人	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を用いたニーズ分析を学びます。
7	ニーズ分析5、授業内試験 土屋雅人	多変量解析を用いたサービスコンセプトの創出を学びます。 授業内試験を行います。

8	グラフィックデザイン1 大西景太	広告、ブランディングなどグラフィックデザインの事例を解説します。
9	グラフィックデザイン2 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
10	プロダクトデザイン1 大西景太	デザインとクリエイション、マネジメント、テクノロジーの関りを解説します。
11	プロダクトデザイン2 大西景太	持続可能社会に向けたデザインの事例を解説します。
12	タイムベースデザイン1 大西景太	CM、MV、TV コンテンツ、アニメーション制作の事例を解説します。
13	タイムベースデザイン2 大西景太	web やアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
14	タイムベースデザイン3、授業内試験 大西景太	AR、VR、MR に関するデザイン事例を解説します。 授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインマーケティング」「デザインファンクション」講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であることから、デザインシンキングの視点から多面的な学習をしてください。授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）。

成績は平常点40%課題30%、試験30%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（Windows10）を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the analysis method of market needs (design marketing) and the social significance of design (design function) while giving examples of actual products and services in the area of complicated design development.

Part 1: Design Marketing

Part 2: Design Function

MAN300ND

情報システムデザイン

田岡 賢輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

企業活動で IT 利活用を推進して行くために、主として次のテーマについて考え、具体的な手法を習得する。

1. 情報システムを構成する要素とそれぞれの位置づけ、役割を理解する
2. 企業の実際のビジネスにおいて情報システムがどのように適用されているか？
3. 企業の実際の情報システムにおいてシステムデザインはどのように行われているか？
4. 効果的・効率的な情報システムの構築にはどのようにシステムデザインを行えばよいか？
- 5.AI、IoT、ビッグデータ等の新しい考えを情報システムにどう組み入れてゆくか？ また現在の社会の動向・課題にどう情報システムが応えてゆけるか？

【到達目標】

企業において情報システムデザインを行う一員として、企業の業務要件を正確に表現できるモデルを作成する。さらに作成したモデルを最新のテクノロジーを活用し、効率的・効果的な情報システムとして構築できる手法を習得する。また常に変化する IT 環境と社会のニーズに対して、課題を捉えて整理し、どう対応すべきか自ら方針を策定出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報システムデザインを推進する方法を事例紹介・ケース演習・ケーススタディ等を通し、実務的な視点を加えながら検討する。受け身の講義だけではなく、出来るだけ自分で考えて双方向で議論し、演習やレポート提出は、個人単位とグループを組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システムデザインのための概念 業務をモデル化して理解する	・授業の進め方 ・情報システムデザインのための概念：モデル化 ・業務のデータモデルとプロセスモデルによる表現と理解
第 2 回	情報システムを構成する要素とその位置づけを理解する	情報システムを構成する要素と位置づけ ・ハードウェア ・ソフトウェア ・ミドルウェア ・アプリケーションソフトウェア
第 3 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (1)	企業における種々のビジネス活動とその他の情報システムを下記題材について理解する ・営業活動 ・顧客管理
第 4 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (2)	企業における種々のビジネス活動とその他の情報システムを下記題材について理解する ・生産管理 ・財務会計
第 5 回	情報システムデザインの概要	・要件定義 ・基本設計 ・詳細設計
第 6 回	業務要件の理解と整理 (1)	それぞれについての概要を理解する 営業活動支援に關しての業務要件を理解して整理する
第 7 回	業務要件の理解と整理 (2)	生産管理に關しての業務要件を理解して整理する
第 8 回	基本設計-機能編 (1)	整理した業務要件から必要となる機能を洗い出して整理する
第 9 回	基本設計-機能編 (2)	機能を処理とデータの流れという形で理解して整理する
第 10 回	基本設計-データ編	要件を満たし機能を実現するためのデータを洗い出してデータベース設計を行う
第 11 回	基本設計-UI 編	要件を満たし機能を実現するためのユーザーインターフェース設計を行う

第 12 回	情報システムの開発手法	開発手法について新しい考えも含め理解する ・ウォーターフォール型 ・アジャイル開発 ・プロトタイプ開発
第 13 回	AI 等の活用等、情報システム技術の最前線について	新しい IT が情報システムにどのようにかかわるかを理解する ・ AI ・ IoT ・ビッグデータ
第 14 回	今日の社会環境における情報システムの課題	今日の社会環境において情報システムが抱える課題を理解する ・情報産業の現状と課題 ・新技術対応へ向けての IT 人材像 ・社会のニーズと情報システムの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途授業で指示

本授業の準備学習・課題への対応時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の組み合わせを予定

1. 授業でプリントを配布
2. 授業支援システムよりダウンロード

【参考書】

「高校数学でわかるディープラーニングの仕組み」(ベレ出版 ISBN978-4-86064-602-8)

「BAM～可視化経営の実践～」(日経 BP 社、ISBN-4: 86130-227-7)

【成績評価の方法と基準】

下記により総合的に評価する。

1. 平常点（授業中の参加の度合、貢献度） 50%
2. 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施、グループワークの実施方法等について、学生からの意見等を活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、エクセル、その他インターネット上のツール等を活用するためノート PC 必須
情報共有と課題に授業支援システムを活用

【Outline (in English)】

In this course students will learn about the following system design methods, used to promote usage/effectiveness of information systems in enterprises.

1. Elements of information systems and their roles.
2. How information systems are applied to actual businesses.
3. How design is practiced in information systems at enterprises.
4. What is effective and efficient design for information systems.
5. How new technologies like AI, IoT and Big Data are introduced in information systems. And how information system responds to current social needs.

DES300ND

プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AB 期 14 回の授業で、オンラインによる開講を基本とする。（金曜日 5 限）この授業では、プロダクトデザイン（以下 PD）の創造性にとって重点な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。人間の創造行為としての PD の歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PD と人間工学、PD に多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD 企画の理解。PD の形状・造形の理解。PD と素材、素材表面処理の理解。PD の量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

AB 期 1 4 回でオンラインによる講義を基本とする。（金曜日 5 限）講義ノートを必ずとる事。プロダクトデザインと基礎技術：PD 設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈：現代のプロダクデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プロダクトデザインとは何か
2	デザイン・建築・現代美術史 概論	デザインの黎明から現在までを俯瞰する
3	家具のデザイン ①	家具デザインの歴史
4	家具のデザイン ②	家具デザインを支える技術
5	生活機器のデザイン ①	生活のためのデザイン
6	生活機器のデザイン ②	地場産業・伝統技術とデザイン
7	工業製品のデザイン ①	工業デザインの歴史
8	工業製品のデザイン ②	工業生産の素材と技術
9	歴史文化の文脈とデザイン ①	地域のためのデザイン
10	歴史文化の文脈とデザイン ②	日本人のためのデザイン
11	人間とデザイン ①	人間のためのデザイン
12	人間とデザイン ②	デザインの価値・デザインの意味
13	プロダクトデザインの隣接領域 ①	工芸とデザイン
14	プロダクトデザインの隣接領域 ②	現代美術とデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する
各回の講義ノートをまとめ講義ノートを充実させる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン
心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版
プロダクトデザイン 101 のアイデア、スー・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社
世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社
他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で 4 回以上の欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー 4 点、遅刻-2 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）
評価： 出席（30%）筆記試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn basic theory behind fundamental requirements in product design (PD) creativity.

MEC200ND

メカニカルデザイン（2019年度以降入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係性を定める機構（メカニズム）に焦点をあて、幾何学や一般力学の基本原則を元に学ぶ。さらに、それらのメカニズムを利用したメカニカルシステムを、材料特性、加工、生産性などの多角的視点により具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料、加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1) と 2) の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

動きをとまらぬあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ。講義は対面を主体に実施するが、状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに 設計基礎	・機械設計とは何か、身近な機械機構、 材料と加工法の事例紹介 ・図面と CAD を用いた機械設計と設計プロセス
第 2 回	機械要素	・機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格） ・構造と材料の選定について
第 3 回	伝達機構 カム機構	・機械要素：ギヤ ・柔軟伝達機構 ・カム機構
第 4 回	リンク機構 液体伝達機構 アクチュエータ	・リンク機構、緩衝装置 ・液体伝達要素 ・アクチュエータ ・中間課題
第 5 回	材料 構造	・様々な材料を利用したメカニカルデザイン ・機械の様々な構造
第 6 回	機械加工・工具 移動機構	・様々な部品の機械加工方法や道具の紹介 ・移動機構
第 7 回	応用的なメカニカルデザイン 期末課題	・応用的なメカニカルデザインについて紹介する。 ・期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は随時で紹介する。
参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は、学内あるいは VPN 接続により、電子書籍で閲覧可能です。
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（30 %）
課題提出（70 %）
により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が、「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが、イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし、学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training.

HUI300ND

スマートマシンデザイン（2019年度以降入学生）

梅舘 拓也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT やロボットなどの先端工学を応用した次世代の機械であるスマートマシンの実践的な設計方法を学ぶ。具体的には、各種マイコン（Arduino, M5Stack, Mbed など）でのさまざまなセンサやアクチュエータ扱い方を、ウェブ教材と実際の電子部品を用いた実習形式で学ぶ。

【到達目標】

各種センサ、アクチュエータ、マイコンを使った電子回路設計、コーディングを習得し、生徒自らが今後の技術開発の展望を描けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

解説と実習を交互に行う。また、解説の理解度をはかるために下記のものの提出を要求する：講義を基に作った電子工作作品のコードや回路などをまとめたレポート課題の提出（6回）、本授業使った課題提出（1回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業内容のご説明と電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad の使い方の説明	本授業の大まかな流れを説明します。また、電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad の使い方のログイン方法、使い方を解説します。
2	Tinkercad を使った演習	Tinkercad 上で、Arduino、N 型の MOSFET、抵抗、外部電源、豆電球を使って、豆電球を 5 秒ごとに点滅させてみる演習を行います。
3	Tinkercad とマイコン実機を使ったアクチュエータの駆動方法の解説	電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad を使ってアクチュエータの使い方を解説します。
4	Tinkercad とマイコン実機を使ったアクチュエータの駆動する実習	電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad を使ってモータの使い方の実習を行います。
5	Arduino でアクチュエータ（つづき）とセンサの使い方の解説	マイコンアクチュエータの駆動方法（前回の続き）とマイコンでのセンサ値の読み取り方法を解説します。
6	Tinkercad 上で可変抵抗とスライドスイッチでモータの回転方向・速度を制御する実習	スイッチの状態と可変抵抗の抵抗値をマイコンで読み取り、その値を基にモータが正転逆転、回転速度が変わる回路を Tinkercad 上で作る実習を行います。
7	Arudino を使って割り込みとエンコーダ読み取り方法を解説	割り込みを使ってエンコーダの回転角度を読み取る方法を解説します。
8	実機マイコンを用いた L チカとシリアル通信を行う実習	実機マイコンを使って L チカとシリアル通信を行う実習を行います
9	Tinkercad, マイコン実機で PD 制御を実行の仕方についての解説	古典制御の最大の成果である PD 制御を、マイコン上でどのようにコーディングするかに関して学びます。
10	P 制御を Tinkercad で行う実習	Tinkercad 上で、エンコーダ付きモータを使って P 制御を実行する演習を行います。
11	対面授業「ソフトロボティクスとは何か？」	講師が今まで行ってきた研究をケーススタディとして、ソフトロボティクスという今急成長している研究分野を紹介します。
12	最終課題「本授業を習ったことを使って作成する課題」の解説と、わからなかったことを聞く質問タイム	マイコン実機に関して、動かない、書き込みが上手く行かないなどのトラブルを対面で解決します。
13	マイコンから出力された値を Processing で描画の方法と PCB ボードの作り方	マイコン実機からシリアル通信経由で出力される値を基に、さまざまな図形を PC 上で描画する方法を学びます。
14	P 制御をマイコン実機を使ってやってみる実習	マイコン実機を使って P 制御を行ってみてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2, 4, 6, 8, 10, 14 回の実習として出題する課題のレポートを提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。加えて、それぞれ独自に取り組む課題（自分でなにか作ってたものを解説する動画 or IF2 以上の論文/IROS/ICRA 予稿を著者になったつもりで解説する動画など）の提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業スライドを PDF として配布するので、特別テキストの購入の必要はありません。

【参考書】

Prototyping Lab 第 2 版 — 「作りながら考える」ための Arduino 実践レシピ (Make: PROjECTS)

【成績評価の方法と基準】

出席、課題提出に基づいて採点します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

AtomLite, モータドライバ IC, LED, 可変抵抗など法政大学で配布したものを用います。また、これとは別に Mbed マイコン, Arduino 互換マイコンも希望者に配布する予定です。

【その他の重要事項】

本講義の履修に際しては線形代数と微積分に関する知識が必要。

履修条件として、2 年次に「メカトロニクス」、「メカトロニクス演習」、「ロボットデザイン」、「機械の機構と設計」、「福祉工学」のうち少なくとも一つの科目を受講済みであること。

【Outline (in English)】

You can learn practical methods for designing and developing smart machines. Smart machines are next-generation devices that advanced engineering applies (e.g., IoT devices and robotics). Specifically, students will learn how to handle various sensors and actuators on microcontrollers (Arduino, M5Stack, Mbed, etc.). The lecture and hands-on experiments are provided using a web-based microcomputer and electric-circuit emulator (i.e., Tinkercad), and also hardwares.

FRI300ND

ゲームプログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境 **Unity** を用いて、実際に 3D シーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、3D オブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG 技術を用いて自分のアイディアに基づくゲームや 3D コンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境 **Unity** を利用することにより、3D ゲームやインタラクティブな 3D コンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境 **Unity** の操作方法を学び、3DCG ゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲームプログラミングとは	ゲーム制作の要素 1. グラフィクス 2. サウンド 3. UI 4. プログラミング
2	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とプレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、プレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの3次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定と GUI およびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース (GUI) を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。
11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。

12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡と IF 条件節	主オブジェクトを追跡する LookAt() 関数の使い方について学ぶ。また、IF 条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java 等）の基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。
講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20 %）＋講義内での演習（40 %）＋最終作品（40 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込む PC によって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface.

HUI300ND

AR プログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

拡張現実感 (Augmented Reality: AR) と呼ばれる、現実世界と CG による仮想世界を融合できる最先端技術を利用することにより、インタラクティブで直観的な 3 次元情報を提示したり、3D 絵本やキャラクタなどをあたかも現実の物体であるかのように提示することが可能になる、本授業では、このような AR 技術を利用したコンテンツを実現する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、ゲーム開発統合環境「Unity」と AR ライブラリ「EasyAR SDK for Unity」を用いて、AR 技術を利用したコンテンツを、実際にプログラミングしながら具体的に理解し、各自のアイディアに基づいてオリジナルの AR 作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自ノート PC を持参し、講義の中で、実際にプログラミングをしながら、拡張現実感の世界を理解し、様々な機能を実装できるようにする。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として各自のオリジナル作品を披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	3D-CG と現実との融合	仮想現実感、複合現実感、拡張現実感とは？ アニメから現実へ。
第 2 回	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールと操作方法について学ぶ。
第 3 回	Unity 入門 (1)	キューブ型の物理オブジェクトを積み上げて、3 次元ブロックを作成する。
第 4 回	Unity 入門 (2)	ボールに力を与えて、ブロックを崩すプログラムを作成する。
第 5 回	Unity 入門 (3)	マウスクリックによりシューティングしてブロックを崩すプログラムを作成する。
第 6 回	Unity 入門 (4)	マウスクリックによりボールをつぎつぎに出現させ、
第 7 回	Unity 入門 (5)	カメラ（プレイヤー）視点からシューティングするプログラムを作成する。スクリプトによりオブジェクトを動的に生成して 3 次元ブロックを出現させるプログラムを作成する。
第 8 回	作品発表	これまで学んだことを使ってオリジナル作品を制作し、発表する。
第 9 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (1)	Unity 状態で AR コンテンツを作成できる EasyAR SDK for Unity について概説し、サンプルプログラムを動作させてみる。
第 10 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (2)	Unity 入門で作成した 3 次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第 11 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (3)	Unity 入門で作成した 3 次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第 12 回	Mecanim 入門	Unity のキャラクタアニメーション作成ツール「Mecanim」の基礎について学ぶ。
第 13 回	MMD4Mecanim の AR コンテンツへの応用	MMD4Mecanim により作成したキャラクタアニメーションを AR コンテンツとして提示する方法を学ぶ。
第 14 回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3DCG プログラミングの基礎を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Unity 入門書全般

【成績評価の方法と基準】

演習の提出状況 (60%) と最終作品作品 (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種開発環境のインストール作業やその意義についてわかりやすく解説する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を持参すること。Web カメラが必須である。また、操作性を向上のため、マウスを持参した方がよい。

【Outline (in English)】

Augmented Reality(AR) technology with its ability to fuse real and virtual worlds through CG allows us to receive interactive and intuitive three-dimensional information from virtual objects in front of our eyes. In this class, students will understand how to create contents with AR technology by using the cross platform engine Unity and the AR SDK.

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

後期

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリパースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ることと、内容の拡充を図っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

- 福祉工学の基本理念を理解する
- 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
- 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電氣的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電氣的現象について講義する。
4	生体計測 3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ること、内容の拡充を図っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○					◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

後期	回	テーマ	内容
	1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
	2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
	3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
	4	生体計測 3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
	5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋義肢など工学的技術を用いたものまで解説する。
	6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
	7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
	8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
	9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
	10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
	11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
	12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
	13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
	14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリパースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ることと、内容の拡充を図っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。

(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める。
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体的樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（60 %）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧を受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事业・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。

(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める。
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のヤード建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（60 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及び UR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事业・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。

(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割について説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める。
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、特定の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザイナーデンプラン（60 %）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びUR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？ ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？ 建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？ 建築でも土木でもない新しい分野とは？ アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？ 住まいとその設計との間のギャップとは？ 今日コミュニティはどのような意味をもっているか？ こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパースペクティブを形成するのには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを構成する。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
 - 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
 - 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
- 以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎				◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするとところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しが特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を 6 回の講演に参加することで徐々に身に付ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で 6 回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの不用意な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。6 回のレポート（講演メモ・講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90 %）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10 %）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 7 名の講師を選定し招聘している。2021 年度よりデザイン工学部 3 学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes: What are the latest problems in structures? How are architect organizations formed around the world? How much effort is required to complete an entire building? Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering? What exactly is urban design? What gap exists between a house and its planning? What are the implications for today's community? Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。

12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 - ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
 - ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 30%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 40%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。

10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
 ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
 ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
 ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
 ※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
 ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
 ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004 年）
 ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010 年）
 ★統計学基礎（統計検定 3 級・2 級対応）日本統計学会
 ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017 年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
 テスト2：40パーセント。
 課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
 講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念とその必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度について理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて3つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントについて	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメント概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネージメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版 BID の概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの線的な事例と課題について	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市、長岡市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポートにより評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

- ・レポート 85 %
- ・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習

2. まち育てについて事例を把握しレポート作成

3. HPなどで事例検索

4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85 %

演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動し、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことを狙いとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍している2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略について	タウンマネジメントの概念とその必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて3つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメントについて	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネジメント事例（都市施設とインフラの視点）について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメントについて理解する。
9	タウンマネジメントの先進的な取り組みについて	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みとその課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市の事例）
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）について	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）について	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

- 2つのテーマに関する提出レポート、発表により評価する。
- ・レポート 85 %
- ・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものづくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	25%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3. 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3, 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものづくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめた今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3, 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

ADE200NB

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の建築や都市の歴史に関するものです。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解することができるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらい
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ボンベイとオステリア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、バザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼路教会、ヴォールト天井、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィッラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラーディオ、ミケランジェロ
12	バロック建築 1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとボッロミーニ
13	バロック建築 2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集』彰国社 【推薦図書】
陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社
吉田銅市『西洋建築史』森北出版株式会社
ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社
コストフ『建築全史』住まいの図書館

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（30％）、期末試験（70％）の合計で評価し、60 点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

ADE200NB

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面で行います。様々な情報は逐一「Hoppii」を利用し、履修者の大学メールアドレスに送信しますので確認するようにしてください。以下に概要と目的を示します。
日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に着けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎			○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説	建築史の意義と目的、日本とアジアの講義全体の流れを理解する。
2	日本建築の特質	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練とは？
3	古代の形式化	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋－柱－端－箸－梯。
4	外来文化の受容	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、仏教建築が求めた意味を探索。
5	和様・大仏様・禅宗様	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の霊廟と宗教建築	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、霊柩車、天海。
7	江戸時代の都市計画に隠された風水を読み解く。	ここまでの内容による中間試験。
8	日本の都市	日本都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地	見えない都市、新たな都市解説の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上がらせる
11	日本住宅の源流	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建築との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

13	文化財建造物の保存と修復	保存の意義、移築保存、選定－解体－組立－再生へ。
14	総合質疑	これまでの講義を総合的に考え、日本の建築の歴史とは何だったのかを探索。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末記述試験の両方において 60 点以上を合格とする。
中間試験 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員は PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas. Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the midterm examination and term-end examination.

ADE200NB

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎	○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画 2」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3 課題の補足解説
第 2 回	滞在する／パビリオン	環境の中の距離・寸法
第 3 回	住む 1／住戸・住宅	図式化による空間の理解
第 4 回	住む 2／住宅 + α	用途や動作で規定される空間 室と場面
第 5 回	働く／オフィス・ワークスペース	ワークプレイス 知的生産性と環境
第 6 回	育てる 1／幼稚園・保育園・こども園	成長と環境 DS3 課題の補足解説
第 7 回	育てる 2／幼稚園・保育園・こども園	プログラムと建築 制度と建築
第 8 回	育てる 3／幼稚園・保育園・こども園	こどもと社会
第 9 回	知る 1／図書館	情報媒体の進化と建築の変化
第 10 回	知る 2／図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第 11 回	知る 3／図書館	知の広場としての図書館
第 12 回	教える・学ぶ 1／学校・ラーニングセンター	学びと環境
第 13 回	教える・学ぶ 2／学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第 14 回	災害と建築／避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12 章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

・講義内の演習課題（50%）

・レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PC の使用は必須である。
資料配布は pdf で行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12 色程度）と細ペン（0.3 ～ 0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS3 に関連した項目を取り扱うため、DS3 と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAE にレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

Architectural planning is a normative theory in architectural design, which is based on various determinants such as human body dimensions, movement characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for students who are new to architectural design, and will help them understand the relationship between architectural space and its determinants, using familiar examples as clues, and learn the basics of applying determinants appropriately in architectural design.

ADE200NB

建築計画2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う1／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う2／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う3／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る1／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る2／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る3／美術館・博物館	第4世代の美術館
8	住の多様性1	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性2	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性3	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット1／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット2／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット3／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12 章」 朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PC の使用は必須である。

資料配布は pdf で行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。

講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS4 に関連した項目を取り扱うため、DS3 と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAE にレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

Architectural planning is a normative theory for architectural design, which is based on various determinants such as human body dimensions, movement characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

In this course, students will further develop the knowledge gained in "Architectural Planning 1", understand the relationship between architectural spaces and broader social systems and institutions, and learn methods to contribute to society through architectural design.

ADE300NB

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構 造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの 最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁－ 1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100 %）による

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実

教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらに応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、ブラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の種類、EP シェル、HP シェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B. フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1 方向、2 方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第 2 版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題： 40 %（A ～ D の 4 段階評価で、未提出は D 評価）

定期試験： 60 %（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5 回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

ADE200NB

建築生理心理2

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理事象と身体との係わり、身体と建築物、建築空間、建築環境との係わりを深く理解する。特に、温熱環境、空気環境、音環境、光環境などの住環境が人体生理心理に及ぼす影響について学習する。

【到達目標】

・環境物理要素（建築物、建築空間、建築環境）とそれらに対する人体反応を明確に理解する
・建築士試験問題に関わる内容も多分に含まれることから、実務に役立つ知識・情報を習得する

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	データの取得、取扱い方法	実測、実験、シミュレーション、質問紙調査、サンプル数、バイアス、欠損値の取扱い
3	データの分析方法の基礎	欠損値処理、単純集計、クロス集計、各種回帰分析、主成分分析、因子分析、検定
4	健康維持増進に資する住環境（1）	健康維持増進の意義、ゼロ次予防、一次予防、住環境要素との係り
5	健康維持増進に資する住環境（2）	エビデンスに基づく健康阻害要因の把握
6	健康維持増進住宅の設計方法	住まいの健康診断、健康維持増進住宅設計ガイドライン
7	人体寸法とモジュール	各種人体寸法、モジュール、モジュラー・コーディネーション
8	生体電気とその計測・応用	生体電気、EEG、ECG、EMG、センサーによる信号測定と建築環境への応用
9	温熱・空気環境の基礎	環境側四要素と人体側二要素、各種温熱快適性指標（SET*、PMV など）の原理
10	音・振動環境の基礎	人の聴覚の機構、音の原理、音の三要素、音の生理的・心理的作用、騒音・振動防止計画、快適音響空間
11	光・視環境の基礎	人の視覚の機構、色の原理、色の三要素、色の生理的・心理的作用、効果色、安全色、建築における色彩計画
12	対象と空間の知覚、印象評価	心理学に基づく対象知覚と空間知覚、奥行知覚、錯視現象、建築物における錯視利用の実例
13	快適空間設計	間取りの設計、廊下、寝室、ダイニングキッチン、水廻りの
14	サステナブルデザイン	環境品質、環境負荷、環境効率、CASBEE、持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に配布した資料にしっかりとノートをとっておき、帰宅後にその内容を毎回復習してからその次の講義に臨むこと。講義の内容で特に重要な部分については理解を深めるために適宜講義中に演習を課すので、当該部分については期末試験までしっかりと理解し、前提条件等が変わっても対応できるような応用力を身につけておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）
「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）
「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
「しくみがわかる建築環境工学: 基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（50%）および講義中に課す演習課題（50%）によって判断する予定。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはレポート（100%）による評価に切り替える可能性もある。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きい。基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはオンライン形式と併用する可能性があるため、定期的にHoppii上のアナウンスを確認すること。

【学生が準備すべき機器他】

講義はプロジェクターにより関連情報を映写しながら進める予定。講義前半では貸与パソコンを用いた演習も予定している。

【Outline (in English)】

To deeply understand the relationship between physical phenomena and the body, and between the body and buildings, building spaces, and building environments. In particular, the effects of living environments such as the thermal environment, the air environment, the sound environment, and the light environment on human physiological psychology are studied.

ADE300NB

音・振動環境

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。
- ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。
- ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。
- ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築物の用途ごとに相応しい音環境を形成しなければならない。そこで本講義では「音」の基本から学び、吸音、遮音の原理などを通して目的の空間用途への適応手法を理解する。また、近代文明の発達に伴って増加した公害（騒音、振動）などの評価法などを学ぶ。講義内容や課題に対する質問は Hoppii の掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	音波の定義と成立	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方
3	音波のエネルギー的取り扱いと dB 尺度	音の強さ、音圧、dB 尺度、エネルギー密度、音の種類、スペクトル、ホワイトノイズ
4	dB 尺度の運用	dB の合成、分解、対数の基礎、対数公式の運用、レベルの合成・分解、レベルの計算方法および演習
5	音の伝搬と距離減衰	空間における音の伝搬および減衰過程
6	各種の音源からの距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰
7	音の回折・屈折	障壁による減衰、防音手法、障壁による音の回折減衰、空気吸収による音の減衰
8	音を知覚する構造（１）	聴覚器官としての耳の機構、特性、外耳、中耳、内耳
9	音を知覚する構造（２）	音の三要素、ウェーバー・フェヒナーの法則、等ラウドネス曲線、心理音響効果
10	騒音	騒音の定義、種類、分類、測定方法、等価騒音レベル
11	騒音防止計画	音源対策、配置計画、遮音計画、吸音計画、吸音と遮音の違い
12	吸音の機構	吸音の特性、吸音率、吸音機構の種類と特性、施工上の注意、多孔質の吸音機構とその材料・構法、板状吸音機構とその材料・構法。ヘルムホルツの共鳴吸音機構とその材料・構法
13	遮音の機構	透過損失、質量則、二重壁の意味、コインシデンス効果、パネルの遮音効果
14	振動現象	振動の発生と伝搬のメカニズム、代表的な振動測定方法、振動加速度レベル、振動レベル、レベル計、周波数分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
「建築の音環境設計」日本建築学会設計計画パンフレット 4（彰国社）
「建築・環境音響学」前川純一著（共立出版）
「建築と環境の音響設計」前川純一訳（丸善）
「わかりやすい環境振動の知識」後藤剛史、濱本卓司（鹿島出版会）

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（50%）および講義中に課す演習課題（50%）によって判断する予定。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはレポート（100%）による評価に切り替える可能性もある。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きい。基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってはオンライン形式と併用する可能性があるため、定期的に Hoppii 上のアナウンスを確認すること。

【Outline (in English)】

It is very important to consider the sound environment that is realized in the design of buildings, such as houses that do not suffer from external noise, concert halls with good sound, and classrooms with a good voice. Sound evokes a wide range of sensory stimuli, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must accurately correspond to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities in the handling of sound and vibration, students learn the basics of vibration phenomena in the latter half of the lecture. The purpose of this course is to acquire basic knowledge about sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements corresponding to spatial form and architectural use.

ADE300NB

都市建築史（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則、対面とします。お知らせ等は「Hoppii」で周知するので確認するようにしてください。
なお、新カリ「都市建築史」と旧カリ「近現代建築史」は読替の授業であり、授業内容も同じで、春学期開講期となります。
以下に概要と目的を記述します。
日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニーランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではなく、都市や建築の本質を見ようとする姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」
本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われた都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さらに、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立しているのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライドを見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。
授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築について、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛外図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築について、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、宇宙観。
5	絵巻物から読む都市世界Ⅰ 近世以前の都市について、絵巻物から比較する。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しながら、劇場に秘められた世界観を見ていく。
6	絵巻物から読む都市世界Ⅱ 近世以前の都市について、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会からの開放、中世都市の空間と人々の暮らし
7	東京の古代地形と文化的景観	神田明神から見えたもの、どこから江戸城は見えたのか、地形を読み込んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロックとアールデコの対決、摩天楼対決、田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新世界 近代における民間側の都市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴としての塔、大阪新世界から浅草・上海を経て北京へ！

10	山下啓次郎と明治の刑務所 近代日本のアジアの関係を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明治に課せられた課題、文明国としての日本の誇示、近代デザイン
11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の東京の都市美に課せられた役割を建築的に解説する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われゆく水辺空間、露店収容建築、水上居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論についてディズニーを通して考える。	ディズニーランド、ラブホテル、マクドナルド、パチンコ、サティアン、ビーンスフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。
 2. 配布プリントの意味を再読する。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. 配布プリントの意味を再読する。
 8. これまでの配布プリントを再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20 %、期末記述試験 80 %。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回 PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas. Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the term end.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞・組織・器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係ならびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。

13 反応速度と触媒 化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。

14 酸・塩基と酸化還元 酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 %として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

【Learning Objectives】

Students will acquire knowledge about the current relationship between humans and nature, including changes in ecosystems caused by human activities, benefits received from living organisms and ecosystems, and the current status of nature and biological conservation activities, as well as understand the basic concepts of chemistry required in design engineering and the role of chemistry in design engineering. In addition, students will deepen their understanding of the possibilities of the design engineering field and acquire the thinking methods necessary to solve familiar problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to check the syllabus contents in advance, prepare for the lecture materials to be made available on the class support system, do the exercises in the class, and review the exercises performed. The standard preparation and review time per class is 2 hours each, for a total of 4 hours.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation standard is a maximum of 100 points, with a score of 60 points or higher being considered a passing grade. The final evaluation will be based on the sum of 30% for in-class exercises and 70% for the final exam. Students who are absent more than four times will not receive credit.

NAS100NC		
バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）		
大山 聖一、小林 卓也		
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。		
【到達目標】 人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連 デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連 デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】 基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞・組織・器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係ならびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量の概念と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。
13	反応速度と触媒	化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。
14	酸・塩基と酸化還元	酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。		
【参考書】 「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。		
【成績評価の方法と基準】 評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 %として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。		
【学生の意見等からの気づき】 個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。		
【学生が準備すべき機器他】 講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。		
【その他の重要事項】 現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。		
【Outline (in English)】 【Course outline】 In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering. 【Learning Objectives】 Students will acquire knowledge about the current relationship between humans and nature, including changes in ecosystems caused by human activities, benefits received from living organisms and ecosystems, and the current status of nature and biological conservation activities, as well as understand the basic concepts of chemistry required in design engineering and the role of chemistry in design engineering. In addition, students will deepen their understanding of the possibilities of the design engineering field and acquire the thinking methods necessary to solve familiar problems. 【Learning activities outside of classroom】 Students are required to check the syllabus contents in advance, prepare for the lecture materials to be made available on the class support system, do the exercises in the class, and review the exercises performed. The standard preparation and review time per class is 2 hours each, for a total of 4 hours. 【Grading Criteria /Policy】 The evaluation standard is a maximum of 100 points, with a score of 60 points or higher being considered a passing grade. The final evaluation will be based on the sum of 30% for in-class exercises and 70% for the final exam. Students who are absent more than four times will not receive credit.		

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞・組織・器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係ならびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量の概念と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。

13 反応速度と触媒 化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。

14 酸・塩基と酸化還元 酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 %として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

【Learning Objectives】

Students will acquire knowledge about the current relationship between humans and nature, including changes in ecosystems caused by human activities, benefits received from living organisms and ecosystems, and the current status of nature and biological conservation activities, as well as understand the basic concepts of chemistry required in design engineering and the role of chemistry in design engineering. In addition, students will deepen their understanding of the possibilities of the design engineering field and acquire the thinking methods necessary to solve familiar problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to check the syllabus contents in advance, prepare for the lecture materials to be made available on the class support system, do the exercises in the class, and review the exercises performed. The standard preparation and review time per class is 2 hours each, for a total of 4 hours.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation standard is a maximum of 100 points, with a score of 60 points or higher being considered a passing grade. The final evaluation will be based on the sum of 30% for in-class exercises and 70% for the final exam. Students who are absent more than four times will not receive credit.

CST100NC

生態学概論（2019年度以降入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得するとともに、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。講義には Power Point を使用するとともに、適宜資料ファイルをアップロードする。また、各回授業時には出席確認をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンдрーム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
6	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャー	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小レポート 30 %、期末レポート 40 %
上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

習得すべき知識の復習と確認を、講義の最終回や試験だけでなく、授業時間内にも何回か行うこととする。復習に取り組みやすいよう、授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要に応じて指示する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn basic knowledge on ecology necessary for solving various problems in design engineering.

MEC200ND

メカトロニクス

木村 文信

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学（メカニクス）と電気電子工学（エレクトロニクス）の合成語で、機械を電気回路で賢く制御するシステムのことである。メカトロニクスを修学するにあたり、機械のしくみ、電気回路の動作だけでなく、ソフトウェアによる制御やシステム全体としての設計や運用など、広い専門知識が必要とされる。本授業では、メカトロニクスの各要素技術に関して、その概念を理解し、分野全体のイメージを把握することを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点で以下のことを理解することを目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成を把握する方法。
- 2) 機械要素の種類と用途。
- 3) 電気・電子回路部品の種類と用途。
- 4) アクチュエータ・センサの原理。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション、板書および口述によって進められる。授業の内容が理解できているかを確認するため、各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある。

【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を解説し、それを踏まえ、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第 2 回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスの各要素を理解する上で必要となる数学や物理（力学・電磁気学）を解説する。
第 3 回	アナログ電子回路－受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第 4 回	アナログ電子回路－能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する。
第 5 回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムで用いられるアクチュエータの概要と分類を解説する。また、システムを構成する際の選定基準について説明する。
第 6 回	アクチュエータの原理	主に電磁アクチュエータを対象として、動作原理について解説する。加えて、駆動に必要な信号などの計算方法を述べる。
第 7 回	センサの概要	メカトロニクスシステムを構成するために必要なセンサについて、概要と分類を説明し、システム構築のためのセンサの選定方法について述べる。

第 8 回	各種センサの計測原理	様々なセンサの紹介を行い、どのような原理で計測を行っているかを、出力信号の処理方法とともに解説する。
第 9 回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第 10 回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのようにに変換されるかについて解説する。
第 11 回	機構の基礎	機械を構成する要素部品（機構部品）について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第 12 回	機械の設計	機構部品を組み合わせ、機械的なシステムを構築する手法について説明し、そのシステムの運動伝達の計算方法を解説する。
第 13 回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴等を説明する。
第 14 回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に力学、電磁気学分野）を復習して望むとよい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・三浦宏文（監修）「ハンディブック メカトロニクス」オーム社
- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・松本潔「設計者に必要なメカトロニクスの基礎知識」日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を 40%、期末試験もしくは最終課題の評価を 60% として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が速いために理解が追い付けないことが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。

【Outline (in English)】

"Mechatronics" is a multidisciplinary engineering field that includes mechanical engineering and electrical engineering to produce intelligent systems that control machines via electronic and information technologies. To understand mechatronics, a wide range of disciplines are required. In this lecture, students will acquire knowledge of each of the fundamental technologies of mechatronic systems and skills to apply it to real systems.

ELC300ND

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1 つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムチェックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本の Society5.0, ドイツの Industrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical Systems などの System of Systems を、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

- A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
- B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
- C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
- D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習 (1) >
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習 (2) >

5 システムの安定性

システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
フィードバック制御器の 1 つとして PID コントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。

6 システム制御のモデリング

7 システムの安全性

< 課題演習 (3) >
システムの安全性の概念の 1 つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
システムモデルから、詳細設計を行い、制御プログラムを自動生成をする手法について理解する。実際の生産設備やロボットシステム制御を、映像や 3 次元シミュレーションモデルで視覚的に学ぶ。

9 確率システム

< 課題演習 (4) >
様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
Internet of Things によるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。

10 統計的データ解析

11 システムの信頼性

< 課題演習 (5) >
信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
システムの故障の原因やその影響を、システムチェックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。

12 信頼性解析

13 ネットワークの性質

< 課題演習 (6) >
ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。

14 ネットワークの構造

ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。
< 課題演習 (7) >

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

機械工学便覧「生産システム工学」日本機械学会（2005 年）丸善
橋本、石井、小林、大山共著「Scilab で学ぶシステム制御の基礎」（2007 年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曾共著「システム工学 第 2 版」（2006 年）森北出版
大橋、島海、白山共著「システム理論Ⅱ」（2016 年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視して、それに提出された課題演習の得点を総合して評価する。（期末試験はなし）
2. 平常点は、授業への出席状況や質問票の提出を反映する。

3. 成績評価は 100 点満点とし、平常点と課題演習の得点は各 50 % の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンで Excel やシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。
3. 課題演習は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、35 年を超える勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

【Outline (in English)】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

The goals of this course are to A,B,C and D:

- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.

MTL300ND

素材と機能

中丸 啓

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロダクトやサービスを扱う際に様々な形で活用される素材のうち、特にスマートマテリアルと呼ばれる外部からの物理刺激に対して特性を変化を起こす素材について学びます。

またマイコンなどと組み合わせ素材の物性を活用する技法やそれらを用いたインタラクション設計について実習を行います。授業を通じてデザイナーとして素材を活用したプロダクトやサービスを魅力的にプレゼンテーションできるようにする基礎スキルの習得を目指します。

【到達目標】

・素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのようなスマートマテリアルが存在し、どのような原理で動作しているのかを理解できるようにします。

・素材の機能を理解するためのツールについて学びます。物性の測定装置や実利用の際に抑えるポイントについて学びます。

・素材の特性をデジタルプロダクトに活用するために物性を活用したインタラクションの基礎を実習形式で身につけます。

・素材の特性を活かしたプロダクトやサービスのアイデアやコンセプトを魅力的に伝えるプロトタイピングとプレゼンテーションスキルの基礎を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

座学と実習を織り交ぜた形式を予定しております。

スマートマテリアルの紹介やその原理や先行活用事例の紹介を座学で行います。

教室で扱える素材に関しては実際にマイコンなどと接続し、その物性を活用したインタラクション設計を学習し、課題ではそれらを活用した題材に対してプロトタイプを行います。学習と実習の相互のプロセスで現象の理解とスキルの習得を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	素材と機能	スマートマテリアル とインタラクション領域のイントロダクションを行います。企業での活用事例などを紹介します。
2	素材と機能 スマートマテリアルの紹介	スマートマテリアルの様々な事例を紹介し、インタラクションの形をグループワーク形式で議論します。
3	マテリアルインタラクション 1	素材の電気特性について学びます。またそれを活用することでインタフェースを作れることなどを体感します。
4	マテリアルインタラクション 2	マイコンと導電素材を活用して簡単な入力インタフェースを作ります。
5	マテリアルインタラクション 3	アウトプット機能としてセンサ特性をディスプレイ上で表現する手法を学びます。

6	マテリアルインタラクション 4	アウトプット機能としてセンサ特性をディスプレイ上で表現する手法を学びます。
7	素材とデザイン	素材を用いた企画やプロダクトを作るためのリサーチ手法などを紹介します。
8	素材とデザイン 2	素材を用いた企画やプロダクトを作るためのリサーチ手法などを紹介します。
9	素材と機能の企画	ビジネス現場でのケーススタディなどを扱います。
10	素材と機能の企画 2	ビジネス現場でのケーススタディなどを扱います。
11	マテリアル活用技法の紹介	素材やプロセス技術のアクセスの仕方やノウハウについて座学で学びます。
12	マテリアルインタラクション実習	最終報告会に向けてシナリオボードを作ります。
13	最終成果報告会 前半	最終課題の提案を各自プレゼンテーションします。
14	最終成果報告会 後半	プレゼンテーションの後半とさらに本領域を学びたい方向けのトピックスを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題やトピックスに応じて WEB など作品やツールの使い方を随時学んで行くことが臨まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。受講人数に応じて授業で使うツールキットの配布を検討しています。

【参考書】

基本的にはウェブで集められる情報を扱います。領域が多岐にわたるので授業内で参考となる情報をサイトを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義での課題 40%
3. 最終課題 60%

【学生の意見等からの気づき】

内容が技術、デザイン、ビジネスと異なる領域を横断していますが、受講生の興味も多岐にわたっていたこともあり次年度も単一トピックを掘り下げるよりは様々な領域に触れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

マイコンなどを活用したプロトタイプなどを行うため、PC が必要となります。講師が企業所属のためオンラインでの座学と実際に教室でモノを見る機会を設けるオフラインのハイブリッド形式で進めてきます。

【その他の重要事項】

担当講師はメーカーの R&D 部門にて素材やデバイスの開発などに関わってきました。また海外のデザインスクールへの留学経験や新規事業の立ち上げ経験などがあり、現在も企業で新規素材を活用した技術開発や新規事業を担当しています。そのため、素材を活用したプロジェクトで工学とデザインがどのように関わっているかにフォーカスを当てた授業を予定しております。マイコンなどを扱いますが、基本的に初めて扱う方を想定しています。電気回路の基礎（オームの法則や電子デバイスの機能）がわかっているとより好ましいです。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

MAN200ND

コストマネジメント

飯塚 隼光

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専攻分野を問わず、コストマネジメントはみなさんがビジネスにかかわるうえで欠かせないスキルです。本授業では、コストの基本的な考え方や分析の方法を学びます。

【到達目標】

- ・コストマネジメントに必要なビジネスの考え方を正しく説明できること。
- ・コストの考え方を正しく説明できること。
- ・コストマネジメントのための基本的な分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は2部構成で行われます。

前半は講義で、それぞれの論題について講義します。（オンラインと対面のハイブリッド方式）

後半は実際の企業のケースをベースに教育目的に作成したケースを用いてディスカッションをしていただきます。課題を析出し、解決策を見つけ、それを発表するという一連の流れを学習して頂きます。（対面方式）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・コストとは何か	本授業の目的、そもそもコストマネジメントで扱うコストとは何なのか。
2	原価計算の方法	原価には様々な分類が存在します。その計算方法は多様で難しい部分もありますが、その考え方について学びます。
3	CVP 分析	多くの企業で実践されているコストマネジメントの基礎ともいえるコストマネジメントについて学びます。
4	予算	多くの企業で実践される管理会計手法。どうやって編成するのか、問題点は何なのか。
5	組織と業績評価	コストマネジメントをする上で、その組織が何に責任を持つのか、どう評価するべきなのか。
6	BSC	組織内の活動をどう繋ぐのか、ゴールをどうやって伝えるのか。
7	原価企画	日本を代表する管理会計手法。メーカーに就職する場合にはぜひ知っておきたい。
8	品質原価計算	品質原価計算はそもそも会計専門家によって生み出されたものではありません。その難しさとは
9	アメーバ経営	アメーバ経営とはどのようなものなのか。メリットとデメリット。
10	コストマネジメント×IOT	IOT がコストマネジメントに与える影響とは。
11	グループワーク①課題の析出	以降3回にわたって、教育用に作成したケースをベースにグループワークを行う。まず初めにケースからどのように課題を析出するのか。
12	グループワーク②解決策の検討	①で析出した課題に対してどのような解決策がとりうるのか。
13	グループワーク③発表	自分たちの考えを伝えるためにはどのような発表をするべきなのか。
14	これからのコストマネジメント	管理会計に本当に求められているところはどこなのか。研究成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前半部分は講義形式で行います。学習したことを復習しておいてください。本授業の最終的なゴールは実際の事例をベースに作成した教育用のケースの課題を析出し、解決策を導くことです。グループワークを実施しますので、グループ内で検討するといった時間が必要になるかと思います。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子（2008）『管理会計』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

日ごとのレポート 40%、最終発表 60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間の活用などにより、学修内容について理解を深められる場をさらに充実させたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業後半にはプレゼンテーションをしてもらいます。そのために必要な機材（パソコン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Regardless of the applied field, cost management is an essential sector of any organization. In this course students will learn about the fundamental concepts and approaches towards cost.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習、討論を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定信頼性を SN 比 で評価する。

9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7 つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 **2 時間** を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山栄子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：50%、演習レポート：50%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。

12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの課題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山肇子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点： 50%、演習レポート： 50%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には Taguchi Methods として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして SN 比で評価することができる。SN 比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である SN 比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禰子：ベシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：50%、演習レポート：50%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

SSS300ND

プロジェクトマネジメント（S D）

村上 季史、永田 義昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

【到達目標】

プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに **Activity List・WBS・CPM・EVM** などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てりリードしていける能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は全部で 14 回で構成します。

第 1 回～第 2 回 プロジェクト・マネジメントの概要について解説します
第 3 回～第 6 回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます
第 7 回～第 13 回 プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します
第 14 回 グループ課題の発表と相互評価を行います
なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を 6 週間かけて進める宿題の形とします。授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（プロジェクトとは何か）	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクト CHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習 プロジェクト CHARTER をつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます。 ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは？ ・コミュニケーション力の高い人とは？ ・コミュニケーション上手になるためには？ ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習

6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか
7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープと WBS 作成について学びます。 ・スコープとは何か ・WBS の作成手順 ・演習 Activity List と WBS をつくる
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の分類 ・チームと役割
9	スケジュールプランニング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習 納期短縮アイデアを考えよう
10	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
11	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習 入札ゲーム
12	品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・品質目標を実現するための 3 つのポイント
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各グループによる相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いてください。個人課題は 1 時間程度要する内容を基準とします。
また、グループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。
なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験をなるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありませんが、講義資料は PDF で授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

(1)「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著（技術評論社）
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
(2)「改訂 3 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」日本プロジェクトマネジメント協会・著（日本能率協会マネジメントセンター）
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
(3)「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第 6 版」Project Management Institute 著（PMI 東京支部）
現在最も世界的に影響力のある標準体系の解説書です。PMP（Project Management Professional）資格受験のための必須の教科書です。

【成績評価の方法と基準】**(1) 授業課題と演習 (60%)**

授業の課題提出や教室内・オンラインでのグループ演習を行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんど不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。

また、講義に関する質問やコメントを記したりアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。

(2) グループ課題の発表 (40%)

この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。

「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計 40 点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は PDF の形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

【その他の重要事項】

種々のプラント建設プロジェクトを経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

【Outline (in English)】

In this course on system design, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by facing common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute and control such projects as well as how they differ to real world duties through classes and practice.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

大西 亮

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、1 年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の4つのコース「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「世界のなかの日本—日本を軸に異文化交流について考える」。今年度のコーディネーターは国際文化学部教員の大西亮が担当する。

【到達目標】

1. 本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2. SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3. コロナ禍により異文化交流が困難な状況だからこそ、国際文化情報学（intercultural communication）を多角的に捉えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

■本授業は「対面」形式を基本とする。コロナウイルスの感染状況が悪化するなどした場合は Zoom による授業に切りかえることがある。

■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて可能ながざり回答する。あわせて、次回授業のなかでもフィードバックを行なう予定。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にフィードバックすることはしない。

■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4/8 大西亮（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）この授業で何を学ぶか	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明する。
2	4/15 前川裕（法政大学名誉教授）「文化と翻訳—樋口一葉『たけくらべ』の英訳をめぐる」	翻訳とは単に言葉の移植ではなく、文化の移植を伴うものである。日本文学を英訳する場合に起こる問題点について、表示義（denotation）と共示義（connotation）という概念を中心に解説し、最終的には翻訳とは何かを考える。
3	4/22 廣松勲（国際文化学部教員）「文学における日本表象：D・ラフェリエルの日本」	海外文学において日本を描いた作品は少なくない。本授業ではラフェリエルの小説『吾輩は日本作家である』を題材にしつつ、どのように或る国・地域を物語化できるのかについて論じたい。
4	5/6 大野ロベルト（国際文化学部教員）「ジャパノロジストたちの見た日本」	明治初期および第二次大戦後を中心に、多くのジャパノロジスト（日本学者）が日本を訪れた。彼らは日本に何を期待し、日本に何をもらい、また世界に向けて何を発信したのか。現代にまでつづく「日本らしさ」の源流をさぐる。
5	5/13 鈴木靖（国際文化学部教員）「シルクロードの出土文物から明らかにした狂言のルーツ」	1900 年、シルクロードの仏教石窟で、11 世紀ごろに封印されたと思われる小さな隠し部屋が発見された。この隠し部屋から見つかった唐代の謎の古文書を通じて、狂言の代表作『附子』や「鏡男」のルーツを明らかにする。

6	5/20 月野楓子（沖縄国際大学教員）「＜日系人＞を通して考える日本・沖縄・ラテンアメリカのつながり」	留学やビジネスで海外との往来が盛んになる一方、国内に暮らす多様なルーツを持つ人々についての理解は未だ十分とは言えない。日本の移民の歴史を振り返りながら、足元にある「異文化」理解の可能性を考える。
7	5/27 衣笠正晃（国際文化学部教員）「近代日本人による海外体験」	幕末以降の日本人による海外体験を「洋行」「留学」をキーワードとしてとり上げる。異郷の地において彼らが何と出会い、何を感じ考えたのか、さらにそうした異文化体験が帰国後の彼らに何をもたらしたのかを考察する。
8	6/3 シルビア・リディア・ゴンサレス（神田外語大学教員）「＜記憶＞の再現をめぐるドラマ―「折り鶴の声」の方法論めぐって―」	さまざまな証言をおりまぜながら広島と長崎の原爆をめぐる記憶の再構築を試みた外国人研究者によるドキュメンタリー映像を題材に、ジャーナリズムと大衆文化の観点から過去の歴史の再構築の方法について考える。
9	6/10 奥石哲哉（国際文化学部教員）「中世黒死病から見ることば・異文化交流の世界」	中世の黒死病の影響をつぶさに見る中で、それがヨーロッパの言語状況に及ぼした影響、東西の異文化交流、日本語と英語の対称性について論じ、さらには、世界的な規模で言語・文化に関して考察する意義について触れる。
10	6/17 寺尾隆吉（早稲田大学教員）「日本文学をスペイン語圏へ」	21 世紀に入ってから以降、村上春樹の人気に引かれてスペイン語圏全体で日本文学の翻訳が加速している。グローバル化するスペイン語圏の出版業の現状を踏まえつつ、スペインとアルゼンチンにおける安部公房の翻訳・出版を中心に、日本文学の国際化に向けたこれまでの取り組みと今後の課題を展望する。
11	6/24 浜田和範（慶応義塾大学教員）「＜世界一貧しい大統領＞と日系移民」	「世界一貧しい大統領」の愛称で世界に知られた元ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカは折に触れ、若き日の日系移民との交流を語っている。南米、特にウルグアイにおける日系移民の活動を学ぶことで、文化交流の諸相を考察する。
12	7/1 北文美子（国際文化学部教員）「フォークロアと社会：日本とアイルランドを較べて」	日本とアイルランドに民話には「人がさらわれる」というテーマの物語が散見されます。神隠しとも呼ばれる伝承は何を伝えているのでしょうか。日本とアイルランドの物語を比較しながら、社会における意味を考えます。
13	7/8 牧内博幸（前ドミニカ共和国大使）「現場から学ぶ緊急時を生き抜く知恵と力」	1996 年 12 月 17 日から 97 年 4 月 22 日までの 126 日間、在ペルー日本大使公邸でゲリラによる人質拘束事件が続いた。事件の解決にあたる中で学んだ教訓を、今後時代をリードする若者にお伝えする。
14	7/15 大西亮（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	海外や現場を訪れて直接体験することが難しい今、国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
- ・授業後課題を毎回課す。授業日後 3 日以内に短い文章で提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

●理念・目的

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/>

●ディプロマポリシー

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/>

【参考書】

- ・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。
- ・鈴木靖/法政大学国際文化学部編（2013）『国境を越えるヒューマニズム』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

授業後課題の提出 60%、最終レポート 40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14 回の講義について論じるものである。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には登録すること。
- ・コロナウイルス感染状況により、Zoom による授業に切りかえる場合があるため、パソコン等のインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

本授業の一部は、外部講師がその専門分野に応じて講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

【Outline (in English)】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures. The theme of this course is for this year – Focus on Japan in the world – engaged in aspects of different cultural ideas, current issues and communication "from the eyes of The Japanese".

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Short reports : 60 %、term-end reports 40%

PRI200GA

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、統計を学ぶために最低限必要な確率の知識、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】

- ・ 確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・ データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・ 基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・ データを解釈する方法を身につける
- ・ 確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。次の回の始めの時間で、その宿題の解説を行い、理解度を確認します。

また、小テスト・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うために、小テストに関しては授業中に詳しい解説の時間を確保します。期末試験に関しては、学習支援システム上に解説資料を掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと確率の基礎 1	授業の進め方についての説明・組合せ論的確率の意味
第 2 回	確率の基礎 2	場合の数
第 3 回	確率の基礎 3	場合の数の応用
第 4 回	確率 1	確率の定義と例
第 5 回	確率 2	確率の計算
第 6 回	統計の基礎 1	数値データの表現方法
第 7 回	統計の基礎 2	データの代表値とその性質
第 8 回	統計の基礎 3	分散と標準偏差
第 9 回	2次元データの分析 1	散布図と相関係数
第 10 回	2次元データの分析 2	回帰分析
第 11 回	確率分布 1	確率変数と期待値
第 12 回	確率分布 2	二項分布
第 13 回	確率分布 3	正規分布
第 14 回	期末試験・まとめ	期末試験と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、1 回の分量を少なめにしますので次の授業までに必ず自分で解いてきて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。

"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が好評でしたので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

【Learning Objectives】

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Master basics of data visualization
- Understand basic statistics
- Understand some ways of interpret results of data analytics
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is four hours.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人と社会の営みを理解する、もう一つの視点

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 『家族』も『人間』もシステム？

コンピュータや SNS ばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気にしない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかない時に問題として顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な対象をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きはぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何がかわるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを見える作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

社会、またはあなたが直面する一見複雑に見える問題に対して：

- ・それはどのような要素からなっているか
- ・その本質は何か、何を目的としているのか
- ・複数の要素間の相互関係はどうなっているか
- ・その問題は、解決可能な幾つかの小さな問題に分けて考えることができるか
- ・どのようにすれば解決に近づくことができるか

を、システムの考え方をを用いて、問題の構造を理解して、複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導くまでの道筋を、自分で組み立てられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約 15 分）
- (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
- (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20 分）

講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭 (1) で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義 (2) につなぐ。各自の内容理解を小演習 (3) で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

※新型コロナウイルス状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の基本方針の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第 3 回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第 4 回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第 5 回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第 6 回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第 7 回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第 8 回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第 9 回	社会というシステム ～個人から社会へ（パソンの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第 10 回	社会のシステム論 (1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第 11 回	社会のシステム論 (2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第 12 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マツウラナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40 %）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きはぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会コース、表象文化コースの専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。
デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。
この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。
情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】
デジタルとは何かについて理解する。
デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。
デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。
現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。
授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。
具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。
次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。
各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。
おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】
奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1
<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>
いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %
「評価基準」
平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。
レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。
期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。
また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】
PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.
Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.
Grading Criteria
Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.
Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.
The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2022 年度の本授業では、「エコロジー（＝生態学 ecology）ってなに?！」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（＝エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

《授業の目的》

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（＝エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・『精神の生態学』概要 ・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』 (1)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第 2 版、新思泉社、2000 年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008 年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30％）・小テスト（30％）・平常点（40％）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2022, we will consider the question of "**What is the relationship between communication and its environment?!**" and we will examine the problems of "communication".

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine the issue of communication.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

FRI200GA

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報産業の現状と展望

～国内外の放送サービスを通して今の情報産業を見つめ、将来を展望する～
「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させ、社会を発展させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支える IT 産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得＝デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT や AI と共に、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？ それらのメディアの進展を展望するのも本授業のテーマとする。

【到達目標】

- ・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
- ・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
- ・インターネットの進展に伴う IT 産業の理解
- ・放送と通信が連携しているメディアサービスの理解
- ・放送メディアが目指しているサービスの理解
- ・AI や IoT をはじめとする様々な新情報サービスの理解
- ・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
- ・各種マスメディアの今後の展望についての理解
- ・国内外のメディア動向の理解
- ・国が進める施策の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
コロナ禍の影響を受けていますが、授業については対面授業を基本としつつ、状況によってリモート授業の実施も検討します。授業方法としては学習支援システムの掲示板や課題の項目を使用して、毎週皆さんに実施内容をお伝えして進めていきます。必ず、学習支援システムの掲示板や課題の確認をお願いします。対面での授業を実施する際は、以下に掲載している方法で進めることとなります。

基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用して PC でのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介。現在、自身の仕事でデジタル TV 事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、皆さんの意見を聞きながら授業を進めます。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年 5 月末に開催されている NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開が実施された場合、持ち出し授業としてそこに参加します。参加方法については、その時のコロナ禍の状況によって検討します。さらに、8K 技術などの放送外利用として、NTT が進める IOWN 構想などを題材に、将来の通信サービス環境やその世界観を取り上げます。合わせて、NHK が進めるスーパーハイビジョン（8K）やダイバースビジョン、インテグラル立体等の最新映像技術やサービスも紹介します。東京オリンピックに関連するメディアサービスも紹介予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる

第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第 3 回	放送局のコンテンツビジネス（オリンピックで NHK が取り組んだサービス等を紹介）	NHK が進めるオンデマンドサービスや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャスト、同時再送信を通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES（家電の国際見本市）の展示内容等からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	SXSW や NAB（全米放送機器展）の展示内容等からピックアップして、業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NTT が 2030 年をターゲットに進める IOWN 構想について	NTT が 2019 年 6 月に公表し、2030 年の実現をめざしている IOWN 構想について紹介
第 7 回	情報化社会の今後	IOWN 構想等が実現することで情報化社会の世界がどのようになるのか今後を考える
第 8 回	放送メディアの今後（技研公開があった場合は持ち出し授業とする）	メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	ネットサービスやビッグデータなどの情報活用や、ドローン、Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について 5G や SDGs も含め考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	多様化する端末の UI、AI、IoT について	スマート化する端末やそれに搭載される UI（ユーザインターフェース）や AI、さらに物等への搭載が進む IoT の活用について考える
第 12 回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？ について考える
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第 14 回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）、合わせて、今回は NHK 等の番組を多く授業で視聴利用する。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。日常的に流れているテレビやインターネットのニュースをよく見ること。その上で自分の考えをまとめておくこと。

【成績評価の方法と基準】

コロナ禍の関係で、対面での授業が中々実施出来ない状況下においては、学習支援システムで提示する課題とリモート授業に基づいて、質問や感想文、レポートを提出してもらい、その内容によって評価するものとする。基本、対面授業をベースとし、毎回の授業に関する質問や感想文および 2 回のレポート提出はマストとし、その上で内容を判断して評価を行う。また、対面授業が実施できるようになった場合でも、これまでと同じように以下の内容で評価する。

平常点 6 割、レポート 4 割で評価。レポート提出は必須。レポート提出は NHK の技研公開があった場合は 6 月上旬に 1 回と 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート 1 回の計 2 回とする。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義終了後に、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えて理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただ、リモート授業については、PC での参加を要望。画面が大きい方が共有資料が見やすいため。

【その他の重要事項】

プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かりやすくビジュアル化した授業を実施する予定。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will look at the information industry based on the transmission path (broadcasting, communication), using the services of broadcasting contents both in Japan and abroad, and grasp the current state of various media services. And we will look into the future. Based on the Internet environment, what kind of impact will the development of personal communication media represented by smart terminals, IoT and AI have on broadcasting, newspapers, and magazines of the conventional mass media? I also think about the progress of those media.

【Learning Objectives】

The goal is to understand the following.

- Global media trends.
- Changes in TV media.
- Internet progress
- Broadcast and communication cooperation service
- The service that broadcasting aims for
- Future outlook for various mass media
- Media literacy
- ICT(Information and Communication Technology) policy in

Japan

【Learning activities outside of classroom】

Always be interested in newspapers, television, internet information, etc., and deepen your understanding of the current media service development on a daily basis. To deepen your understanding through review of the questions answered in class and the materials to be distributed. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is based on 60% of normal points and 40% of reports. Submission of two reports is mandatory. Normal points are evaluated based on the impressions of the lesson submitted after the lesson and the content of the questions.

FRI200GA

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回講義のミニレポート提出者から抽選で履修者を決定します。抽選の結果は秋学期の履修登録期間までに学習支援システムのお知らせで通知します。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、リアルタイムオンライン講義で実施します。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、EC などのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。

9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介いたします。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート： 70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2. 平常点： 15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3. ミニレポート 15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的にチャット等を利用し声をかけてください。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン講義で実施するため、Zoom 等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義はリアルタイムオンラインで実施します。リアルタイムオンライン講義の内容の録画、公開はしません。リアルタイムで受講環境が確保できない場合は、各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半を PDF で配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。また、リアルタイムで講義を受講できない場合であっても、各回のミニレポートの期限内（講義日の当日）の提出をもって受講の履歴として確認することとします。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria /Policy

Students will be required to take a final exam or submit a report to receive credit. Grades will be based on the following ratio:

1.Final exam or report: 70%.

Students are required to logically describe their own opinions on topics related to Internet culture through lectures. You will be informed during the lecture whether you will be given an exam or a report.

2.Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3.Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA

表象文化概論

深谷 公宣、大嶋 良明、岡村 民夫、グアリーニ レ
ティツィア

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを示します。各講義では、文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4 人の教員による 4 分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

初回は zoom で行い、担当教員が各自の講義について詳しく解説します。

第二回～第十三回までは、各担当教員が3回ずつ対面（一部リアルタイム・オンライン）で講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。

第十四回は zoom で実施し、講義のまとめを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第 2 回	身体とその臨界（1） 担当：深谷公宣	フリーク・ショウにおける身体イメージの系譜をたどる。
第 3 回	身体とその臨界（2） 担当：深谷公宣	文芸作品に見られる幽霊、妖精、動物、変身、仮面について概説する。
第 4 回	身体とその臨界（3） 担当：深谷公宣	天使の「身体」について考える。／ケーススタディ：映画『ミスター・ロンリー』分析
第 5 回	電子音楽とコンピュータ（1）担当：大嶋良明	電子音楽の発展史を概観し、電子楽器やコンピュータとの関連性を学ぶ。
第 6 回	電子音楽とコンピュータ（2）担当：大嶋良明	テルミン（Theremin）、ハモンドオルガン、モーグシンセサイザーなど電子楽器の系譜を学ぶ。
第 7 回	電子音楽とコンピュータ（3）担当：大嶋良明	電子音楽の学際的研究拠点 CCRMA が及ぼした影響とその功績を、デジタルシンセサイザーの開発研究とコンピュータ音楽の制作環境を中心に学ぶ。
第 8 回	ショットと編集（1） 担当：岡村民夫	映画のショットの誕生（リュミエール兄弟） フィックスの力（小津安二郎） 移動撮影の力（溝口健二）
第 9 回	ショットと編集（2） 担当：岡村民夫	サイレントのモンターージュ（S. エイゼンシュテイン） トーキー的モンターージュ（アルフレッド・ヒッチコック）
第 10 回	ショットと編集（3） 担当：岡村民夫	短すぎる／長すぎる（ジャン＝リュック・ゴダール） 構成としての編集（ハウ・シャオシェン）
第 11 回	メディアにおける家族（1） 担当：レティツィア・グアリーニ	文学における母性の表象について考える。 母娘関係にまつわる作品を取り上げる。

第 12 回	メディアにおける家族（2） 担当：レティツィア・グアリーニ	父親像について考える。 ヘゲモニック男性性や「イクメン」の表象について概説する。
第 13 回	メディアにおける家族（3） 担当：レティツィア・グアリーニ	異性愛規範と家族の表象について考える。 新たな家族像を提示する作品を取り上げる。
第 14 回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の講師が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。

各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を 25 点満点で示し、合計で 100 点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスにかならず出席してください。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

・ Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

・ Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

・ Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下 3 点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

22 年度、この科目は、7 回の「対面」授業と 7 回の講義動画の配信（オンデマンド）の組み合わせによりすすめる。下述のとおり、教室の収容人数を超えた場合、選抜を行う。

おおむね 2 回の授業で 1 つのテーマを扱い、各テーマの 1 回目はオンラインで基本的な内容を理解し、2 回目に対面授業を行って、補足説明や解説、質疑、受講生のコメント紹介などを行う。対面授業は第 3 回よりほぼ 1 回おきに行う（第 8 回はふりかえりレポート課題のためオンライン、11 回テーマは 1 回のみで対面と、イレギュラーな回もあることに注意してください）。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で。

*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNS などの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？

第 3 回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第 4 回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第 5 回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第 6 回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第 7 回	情報（ニュース）-2	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第 8 回	ふりかえりレポート-1	第 1 回～第 7 回のふりかえりレポート
第 9 回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR） ／近年の推奨コミュニケーションの問題
第 10 回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第 11 回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第 12 回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第 13 回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第 14 回	まとめ ふりかえりレポート-2	1. 情報源＝メディアを識別して扱う 2. 「ファクトチェック」を行う 3. メディアと感情 4. メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016 年
- ・ダニエル・ブーニユー『コミュニケーション学講義——メディア・テクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベラ出版、2000 年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1』北樹出版、2005 年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018 年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約 40 %）、ふりかえりレポート（2 回：約 60 %）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。ただし、7 ～ 8 割以上の小課題の提出、2 回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの4つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【受講者の選抜】

初回授業は対面授業を実施しない。学習支援システム等で資料を掲示する。受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

- (1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
- (2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
- (3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

- (1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
- (2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
- (3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方に関するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。特に、21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。

第一部「近現代美術の歴史と理論」と第二部「現代社会の課題と美術」の 2 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部「近現代の芸術史と理論」では、芸術について学ぶ上での基礎となる 18 世紀から 21 世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

第二部「現代社会の課題と芸術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

過去から現在に至る美術史、現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解すること、身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトにて授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

ウェブサイトをみながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。

授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトにて授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4/13	オリエンテーション	社会と美術について 講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
4/20	近現代美術の歴史と理論 1 近代美術の誕生（古典主義、ロマン派、写実主義、印象派）	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によって幕が落とされました。その頃に起こった古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派の芸術は、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では近代社会の変化を参照しながら、これらの芸術運動について学んでいきます。
4/27	近現代美術の歴史と理論 2 アバンギャルドの時代 I（フォービズム、表現主義、キュビズム）	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
5/11	近現代美術の歴史と理論 3 アバンギャルドの時代 II（未来派、ダダイズム、シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス）	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュルレアリズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
5/18	ワークショップ 1（遠近法）	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の講義内容に関する確認をします。
5/25	近現代美術の歴史と理論 4 戦後アメリカ美術（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート）	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
6/1	近現代美術の歴史と理論 5 60 年代 市民運動と新しい動向	1960 年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。

6/8	近現代美術の歴史と理論 6 多文化の時代（ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート）	1980年代に、アメリカのコマール・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
6/15	ワークショップ 2	戦後アメリカ美術、60年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。
6/22	現代社会の課題と美術 1 政治への課題	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争など、プロパガンダ、社会主義リアリズム、戦時中から現在までの文化政策の変化など政治課題と美術について学びます。
6/29	現代社会の課題と美術 2 ジェンダーとアート	社会的・文化的な性差別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
7/6	現代社会の課題と美術 3 環境問題と美術	私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアプローチを考察します。
7/14	現代社会の課題と美術 3 環境問題と美術	私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアプローチを考察します。
7/20	ワークショップ 3	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。

国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディア論」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

メディア論

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。

授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業計画
9/26	メディアの歴史 1 絵と文字	今からおおよそ 6 万 6000 年前に人類は言語能力を獲得したと言われています。（諸説あり）その後、絵や文字を使って記録するようになりました。ここでは文字の誕生とその発達の歴史について学びます。
10/5	メディアの歴史 2 文字の進化	活字誕生以前の印刷技術、紙の誕生、活字の誕生と書体とフォントについて学びます。文字の発明により、私たちは様々な情報を記録として残すことが可能になりました。その後、記録を残すための技術が発達していきます。
10/12	ワークショップ 1	タイポグラフィについて 書体とフォント フォントデザイン
10/19	メディアの歴史 3 計算・通信・検索	メディアと歴史をテーマに、コンピュータの発明につながる技術と計算・通信・検索のもたらす社会の変化について学びます。
10/26	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	社会の近代化とともに登場した新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアの起源について学びます。
11/9	ワークショップ 2	ワークショップ・未来のコミュニケーション
11/16	メディア論 1 マクルーハンのメディア論	「メディアはメッセージ」や「グローバルヴィレッジ」などなどメディアに関する新しい概念を発信したマクルーハンの理論やチョムスキーのメディアについてのメッセージについて学びます。
11/23	メディア論 2 インターネット	1995 年以降のインターネットの進化について、地域社会を取り巻くメディアの役割と課題について学びます。
11/30	ワークショップ 3	ワークショップ・インターネット
12/9	メディアと表象 1 デジタルコンテンツの誕生	1877 年のトーマス・エジソンによる録音技術の開発以降、アナログレコードやテープレコーダー、さらにデジタル技術の発展。
12/16	メディアと表象 2 プロパガンダ・コマーシャル	2000 年代から拡大した MP3 プレーヤーやインターネットでの音楽配信サービスに至るまでの歴史について学びます。
12/21	メディアと表象 3 メディアとアミューズメント	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて 日本におけるクリスマスの受容の歴史について、また料理番組やレストラン批評、ネットでの料理の検索など料理をめぐるメディア論について学びます。
1/13	ワークショップ 4	メディアと社会をめぐるディスカッション ワークショップ・デジタルのイメージ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば美術展や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987 年

吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣、2004 年

ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【Outline (in English)】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

Focusing on the three themes of "History of Contemporary Media," "Media Theory," and "Media and Representation," we will consider and discuss issues and issues from keywords in each area.

1. Media history

Learn about the history and history of the media from ancient times to the present.

2. Media theory

We will clarify the media that work in society and their problems.

3. Media and representation

Read and understand various expressions from the perspective of the media.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of media and society from the past to the present. This lecture aims to find universal and social issues from everyday issues.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimental and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどのようなことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ポッティチェリ、ティツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象の形式と内容について、カメラの視線と人種という 2 つの点から考える。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史的変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史的変遷を振り返る。
13	漫画と身体	日本の漫画の身体表象の特徴の事例を考察する。手塚治虫、萩尾望都、大友克洋など。
14	まとめ：モードと身体	「モード」について考察することにより、授業全体を振り返る。ボードレール「現代生活の画家」など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
蓮實重彦『監督 小津安二郎 [増補決定版]』（ちくま学芸文庫）
ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）
鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
ダムタイプ『メモランダム 古橋梯二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート 50 % : 身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- ・ Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.
- ・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.
- ・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.
- ・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

LIT200GA

比較文化

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」の基礎を学ぶとともに、それらの理論を映画、オペラ、日本人論、和歌、俳句、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】
比較文化にあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎週、課題テキストを読み、あるいは前回の授業で鑑賞した作品を分析して、SQ（Study Questions）への答えを次回授業前に提出することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈だからです。授業内では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。オリエンリズムについて理論的な説明を行う。
2	オペラ『蝶々夫人』台本分析	オペラ『蝶々夫人』の台本にみられる日本人像を分析した後、オペラの映像を抜粋で鑑賞する。
3	オペラ『蝶々夫人』映像分析	先週鑑賞した映像にみられる日本人像を、オリエンリズムの観点から分析する。
4	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本人論の古典といわれる『菊と刀』をとりあげ、その方法論および論の立て方にみられるオリエンリズムを分析する。
5	アニメ『リトル・マーメイド』にみるジェンダー観	アニメ『リトル・マーメイド』の抜粋を鑑賞し、そこにどのようなジェンダー観が見られているか考える。
6	アニメ『リトル・マーメイド』と家父長制	上記作品にみられたジェンダー観がどのように家父長的価値観を反映しているのかを分析し、他の類似した事例をとりあげて議論する。
7	アニメ『アナと雪の女王』にみるジェンダー観	『リトル・マーメイド』と比較しつつ、ディズニーアニメにおける女性像・男性像の変遷を、ジェンダー論を用いながら分析する。
8	言語と構造主義（1）欧米の詩	ヤコブソンの「詩的原理」論を応用しながら、現代のポップカルチャーにまでみられる欧米の「韻律」を考える。
9	言語と構造主義（2）和歌と連歌	ヤコブソンの「詩的原理」を大枠として、欧米の韻律と比較しながら日本の和歌における修辞法を考える。
10	連歌とハイパーテキスト詩	ロマン主義的な作者観と対比しつつ、中世の連歌活動と現代のハイパーテキスト詩を比較考察する。
11	モダニズムと俳句	英米詩の革新運動であったイマジズム運動をとりあげ、俳句からの影響と相違を考察する。

12	能とイエイツ	欧米演劇のモダニズム運動における能の影響を、イエイツの能受容を中心に考察する。
13	文化人類学と「娯楽」（1）理論編	ギアツ、ターナーらの諸理論をとりあげ、文化活動、娯楽活動に関する彼らの定義を比較する。
14	文化人類学と「娯楽」（2）応用編	様々な娯楽活動をとりあげ、上記の諸理論をそれらの分析に応用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・視聴覚教材や課題として出されたテキストに関する毎週の課題（Study Question）を、Hoppii に提出する。締め切り厳守。
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】
エドワード・サイード『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・毎週の課題（授業の復習課題と予習課題）：60%
・授業への積極的な参加（ディスカッション）：10%
・期末レポート：30%
・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、学生の回答例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
感染状況により、学期中にオンライン授業（オンデマンド型）になる可能性もあります。その場合は第五回授業の課題として各自にアニメ映画「リトル・マーメイド」（1989）を視聴してもらいます（オンラインでレンタル可）。レンタル代（媒体によって異なるが、300円前後）は学生の負担となります。

【その他の重要事項】
履修を希望する学生は、初回授業の課題を必ず期日までに提出してください。履修希望者の数によっては、初回課題に基づいて選抜を実施します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course, students will learn how to analyze various socio-cultural issues, especially issues related to gender, orientalism, structuralism, and theatre anthropology.
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze literary and theatrical works in various theoretical frameworks.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments: 60%
Active Participation in class discussion: 10%
term paper: 30%

PHL200GA

現代思想

森村 修

サブタイトル：Bullshit Jobs・くそどうでもいい仕事の理論——デヴィッド・グレーバー「アナキスト人類学」研究

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2022年度は、アナキズム人類学者デヴィッド・グレーバー（1961-2020）の『ブルシット・ジョブ くそどうでもいい仕事の理論』（2018/邦訳 2019）を基本的なテキストに用いて、21世紀の資本主義における仕事/労働について哲学的に考察する。

【到達目標】

- (1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
- (2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション——	・授業の概要説明 ・デヴィッド・グレーバーとは誰か？
2	アナキスト人類学とは何か①	・アナキスト人類学とは何か
3	アナキスト人類学とは何か②	・マルセル・モース『贈与論』 ・資本主義批判
4	ブルシット・ジョブ①	序章 ブルシット・ジョブ現象について①
5	ブルシット・ジョブ②	第一章 ブルシット・ジョブとはなにか？
6	ブルシット・ジョブ③	第二章 どんな種類のブルシット・ジョブがあるのか？
7	ブルシット・ジョブ④	第三章 なぜ、ブルシット・ジョブをしている人間は、きまって自分が不幸だと述べるのか？（精神的暴力について、第一部）
8	ブルシット・ジョブ⑤	第四章 ブルシット・ジョブに就いているとはどのようなことか？（精神的暴力について、第二部）
9	ブルシット・ジョブ⑥	第五章 なぜブルシット・ジョブが増殖しているのか？
10	ブルシット・ジョブ⑦	第六章 なぜ、ひとつの社会としてのわたしたちは、無意味な雇用の増大に反対しないのか？
11	ブルシット・ジョブ⑧	第七章 ブルシット・ジョブの政治的影響とはどのようなものか、そしてこの状況に対してなにをなしうるのか
12	グレーバー価値論①	・新しいアナキズムとは何か
13	グレーバー価値論②	・人類学的価値理論
14	デヴィッド・グレーバー思想の継承	・新しいアナキズムの哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- (1) デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ』、岩波書店、2020年
- (2) デヴィッド・グレーバー『負債論——貨幣と暴力の5000年』2020年

【参考書】

※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート（30％）、授業内レポート（30％）、平常点（40％）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The aim of this course is to help students philosophically examine the relationship between our lives and works/labors in 21st century capitalism, using "Bullshit Jobs" written by anarchist anthropologist David Graeber.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically..

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 60%.

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうということが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。可能であれば、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていきたい。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する
2	「文化とコミュニケーション」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
4	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
5	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
6	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
7	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦に関するケース
8	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦に関するケース
9	事例研究⑥ 社会的少数者に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
10	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相
11	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相

12	事例研究⑨ マスメディア報道における交流の諸相	メディア報道における交流の諸相
13	受講生による事例報告	文化の体現者であるということと、異文化を理解するという点における問題点を考得しながら報告する
14	討論・議論	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元(他)(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション-多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書

久米昭元・長谷川典子(2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書

八代京子 ほか(2001)『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

提出物 20 %

事例報告 20 %

期末レポート 20 %で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations
3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 20%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 40%

SOS200GA

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには **Global, Transnational** などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係学の視点を方法を習得し、現代世界の事象、問題について批判的な考察を加え、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、 Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。
3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（ nation state ）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（ nation state ）及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。

5	帝国主義と国際関係①「つながる/つなげられる」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
6	帝国主義と国際関係②「へだてる/へだてられる」	世界の一体化が生み出した世界の「分断」を、現代世界のグローバリゼーションとの関係性理解する。
7	帝国主義と国際関係③国際関係研究への視座	「植民地」、「帝国主義」を対象とする当時の研究から、国際関係認識や分析を学ぶ。
8	近代国際関係と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①近代国際関係の再編	人類初の「総力戦」と国際関係再編との関係を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係②国際組織と安全保障	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
13	第一次世界大戦と国際関係③植民地支配体制の再編	委任統治制度を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業内容はテキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して **50%**。セメスター末のレポート **50%**。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の **60%** 以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では **Zoom** を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・本授業では、高校で世界史を選択した/しないは関係なく、また日本近現代史の知識も必要です。ただし高校時代に使った教科書や用語集ではなく、授業で紹介する参考文献、資料を使用しましょう。現代世界を理解するためには歴史から考えることは必然。ではどんな風に？ 授業をお楽しみに。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Final Report:50%

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係学の視点を方法を習得し、現代世界の事象、問題について批判的な考察を加え、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊する戦間期を踏まえ、第二次世界大戦の特徴から国際関係のなかで捉える。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合の設立、人権の重視、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設を中心に、植民地なき植民地体制が今なおもたらす問題を学ぶ。

5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT 体制、冷戦的思考から冷戦体制の特徴を学ぶ。戦後国際関係研究の特徴をみる。
6	冷戦と国際関係②—核開発	東西両陣営の核開発競争から国際関係を捉え、現在に続く核問題を学ぶ。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した事例を中心に冷戦体制の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A 会議、非同盟運動、新国際経済秩序など南北問題をめぐる第三世界の動きから国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題”解決”をめぐる	南北問題”解決”をめぐる「開発」、「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—核軍縮、東西両陣営内の変動	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	冷戦体制の崩壊過程と崩壊後に持ち越された国際関係の問題を学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、9.11 やグローバル化の諸問題から理解する。
13	グローバル化と「国際関係」を問う	受講生の関心に基づきトピックスを定める。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	秋学期の授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①テキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを 1 つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002 年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003 年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して 50%。セメスター末のレポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・「国際関係学概論Ⅰ」未受講生はⅠのシラバスを参照し、テキストの関係箇所を読みましょう。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Final Report:50%

SOC200GA

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人々の自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第 3 回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第 4 回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第 5 回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第 6 回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第 7 回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第 8 回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第 9 回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第 10 回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第 11 回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第 12 回	観光開発と国家	ハワイにおける「楽園」の創造
第 13 回	環境破壊と国家	グローバル化のなかの森林資源
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013 年。

ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013 年。

ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007 年。

小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan. At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

LIN300GA

世界の言語Ⅱ

内山 政春

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています。「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して、この授業ではアジアの言語、特に東アジア漢字文化圏各国（日本、南北朝鮮、中国、台湾、ベトナム）の言語を中心に上げたいと思います。しかしそれに限らず、言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら、みなさんの学習言語が何語であれ、その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています。人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です。

【到達目標】

言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的、英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）。そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること。以上のことを目標にして履修してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないますが、S A 先の言語に関して言及するときは、該当する学生に質問することもあるでしょう。毎回のみなさんの感想や質問は、次回以降にファイルにまとめて配布する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語と方言—ひとつの「ことば」とは—	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類—やさしい言語と難しい言語—	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素—同じ「音」と異なる「音」—	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字—文字は「音」をあらわすものか—	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺 1	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺 2	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	台湾の言語	・「多言語国家」としての台湾
9	朝鮮語とその周辺 1	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
10	朝鮮語とその周辺 2	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがい ・語彙と文法
11	アルタイ諸言語	・アルタイ諸言語と日本語 ・少数民族語としてのアルタイ諸言語 ・文字と文化

12	ヨーロッパの諸言語	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用
13	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント
14	まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

S A 先の言語はもちろん、その他の外国語にも、そして日本語にも、ことばと名のつくものに広く関心を持ってください。関連する本を積極的に読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

特に指定はしませんが、各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください。

【成績評価の方法と基準】

従来の対面授業では、毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが、今回は授業では出席確認のみにし、感想や質問は Hoppii で提出してもらうことにしようと思います。その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです。リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200 字）、毎回の内容を総合して評価します（100%）。100 点満点で 60 点以上を合格とします。

あまりにも出席が少ない場合、リアクションペーパーの内容があまりにも投げやりな場合には、毎回の提出評価の対象から外すこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」などという意見がありました（遅刻者を判別するために私は数年前の授業でそのようなことを行なっていました）。授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると、他の学生の迷惑にもなり、授業の進行も遅れがちになります。授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです。それが守れない人、また私語をする人は、他の学生に迷惑となりますので、受講しないでください。

【学生が準備すべき機器他】

教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます。

【その他の重要事項】

順序と内容に若干の変更がある可能性があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.

This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".

< Learning Objectives >

The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to submit a reaction paper after class.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on your reaction papers.

LIN300GA

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes（世界の英語たち）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という2つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んでいきます。その後、学期後半では、標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深めます。更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史の変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要１：受講者の選抜について】

・本授業は【対面】で実施する予定で（ただし、初回授業を除く）、使用する教室の定員は22名の予定です。

・よって、受講希望者多数の場合は、初回授業で選抜を実施します。受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、選抜・導入アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

【重要２：初回授業の授業形態について】

・受講者数が定まらない初回授業は、三密回避のために、【Zoom リアルタイム配信】で授業を実施します。Zoom 情報は、授業支援システムでお知らせします。

・リアルタイム配信の授業への参加が難しい場合は、【事前に担当教員までメール連絡】をしてください（用件に加え、学年、学籍番号、氏名、明記のこと）。授業終了後、初回授業当日の録画を配信するとともに、授業開始前にメール経由で初回授業の代替となる課題（授業内容に関連する簡単なクイズとアンケート【暫定】）を提示します。この課題を当日中に提出することで、初回授業に参加とカウントします。

【重要３： Google Classroom の使用について】

・課題の提示や提出、フィードバックなどには、「授業支援システム」ではなく、「Google Classroom」を使用します。法政大学の Gmail アカウントで利用が可能です。

・Google Classroom のクラスページへのアクセス方法は、学期開始前までに「授業支援システム」でお知らせします。

・履修を希望する場合は、授業開始前までに「Google Classroom」上で当該クラスへの【参加を済ませておく】ようにしてください（一度登録しても、後から参加を取り消すことが可能ですので、履修を迷っている場合でも参加登録して問題ありません）。

【その他】

・授業は、PPT とオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。

・授業毎に提出するコメントに、個別にフィードバックを行います。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第 2 回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users (グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第 3 回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English (英語の地球規模の普及)
第 4 回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations (英語の多様化、グループプレゼン準備)
第 5 回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada (英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第 6 回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand (英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第 7 回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia (英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第 8 回	グループ・プレゼンテーション（4）	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea (英語変種（4）：フィリピン、中国、香港、韓国の英語)
第 9 回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology (植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー)
第 10 回	講義・ディスカッション（5）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction (共通語としての英語（ELF）でのコミュニケーション（1）：導入)
第 11 回	講義・ディスカッション（6）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making (ELF でのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第 12 回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems (ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第 13 回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (4): CS for facilitating communication (ELF でのコミュニケーション（4）：コミュニケーション上を促進する方略)
第 14 回	期末試験（あるいは期末レポート）、および総括	期末試験の実施（あるいは期末レポートの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
＜準備学習＞

1. リーディング課題（第 3 回、10 回授業開始時まで；全 2 回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
2. フィールドワーク（第 2 回、10 回、13 回授業開始時まで；全 3 回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。ただし、第 3 回のフィールドワークは感染症の状況によっては実施しない可能性あり。

3. グループ・プレゼンテーション準備（第 5 ～ 8 回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

1. 授業毎振り返りコメント（第 2 ～ 14 回；全 13 回予定）：第 2 回以降、授業毎に学習内容を振り返るコメントを書き、次回授業開始前までに Google Classroom の指定のフォームに提出する。
2. その他、期末試験（あるいは期末レポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第 2 回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。

→ 久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考: アマゾンにて新書 902 円、Kindle 770 円)

・その他、テーマごとに参考文献を紹介します。配布資料やスライドは、原則英語です。

・授業の PPT は、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.
11. 末延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.
15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎本園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎本園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京: アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろんな英語をリスニング』 東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.
6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.
7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accent>
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点: 5%>

・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ディスカッションに積極的に貢献して下さい。

・遅刻 2 回（ただし、電車遅延は除く）で、欠席 1 回とみなします。

<試験: 50%>

学期末（第 14 週）に試験（あるいは期末レポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

<その他授業内外課題: 45%>

・授業毎振り返りコメントやリーディング課題、フィールドワーク、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

・グループ・プレゼンテーションの際は、各自で持参した PC を使用することが望ましいですが、それが難しい場合は、こちらで共有 PC を用意します。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. What does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.

[Learning Objectives]

1. Students can understand and summarize characteristic features of varieties of English (phonological and grammatical features, etc.).
2. They can understand and summarize how people from multilingual backgrounds communicate with one another in English as a lingua franca.
3. They can understand and explain the problematic nature of standard language ideology and native-speakerism.
4. On the basis of their understanding of the above points, they can make a critical observation of the role of "English" in the globalized world and "English" communication abilities necessary in such a world.

[Learning Activities outside of Classroom]

< Preparation >

1. Reading Assignment (by the beginning of Sessions 3 & 10): Read the assigned reading materials.
2. Fieldwork and Report (by the beginning of Sessions 2, 10 & 13): Carry out fieldwork three times.
3. Digital record your conversation in ELF, transcribe part of the recording, and analyze the use of communication strategies observed in the conversation (this activity may be cancelled depending on the COVID situation).
4. Preparation for a Group Presentation (by the beginning of Session 5/6/7/8): Prepare presentation slides for your group presentation about varieties of English.

< Revision >

1. Weekly comments (Sessions 2-14): Reflect on what you've learned in each session, and write comments in a designated form on Google Classroom. Submit the comment by the beginning of the next session each week.
2. Preparation for final exam (or term-end paper): Prepare for the final exam (or term-end paper) by reviewing what you've learned in each of the sessions.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class contribution (5%): Active contribution to class will be evaluated. Students are expected to contribute to discussion actively.
2. Final exam/term-end paper (50%): Exam answers (or term-end paper) will be evaluated in their contents.
3. Other tasks (45%): Weekly comments, reading assignment, fieldwork reports, group presentations will be evaluated in their contents.

COT200GA
メディア表現法
大嶋 良明
配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組み。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- ・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- ・レイヤー、マスク、フィルタの技法
- ・カラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論

- ・ DTP に向けてのスキナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・デジタル写真のリタッチ
- ・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

- ・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
 - ・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
 - ・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
 - ・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
- なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるカラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	カラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などカラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性,30%）、クリティーク（課題作品の相互批評,15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。**Photoshop**の応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語を JavaScript とする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云える C 言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScript や C 言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】
プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、(1) プログラミング言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。
春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if 文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for 文、while 文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	標準入出力、外部ファイル	JavaScript ではあまり扱わないが、他言語で一般的に利用される標準入出力や外部ファイル入出力の概念を学習する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を復習し、課題を提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】
必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機/パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。
オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜 Zoom あるいは Webex を用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席・または資料等を閲覧すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.
(Learning Objectives)
To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).

FRI200GA

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
オンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにもなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT (Internet of Things) とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する

14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指定する。

【参考書】

授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、Excel でデータ分析ができる環境を前提としている。
オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。
詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
(Learning Objectives)

- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.

- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.

- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end presentation (30%) and report (30%).

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ面白い

おそらくあなたが体験という言葉から連想するのは、可笑しい体験、驚いたこと、つらかったこと、忘れられない事など、ほとんどが非日常的な体験であろう。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさにこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のださまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かな感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようになる。

● 「体験」から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(experience) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、“あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせで展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験するということ
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の見方から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

※新型コロナ感染状況によって授業方法やグループワーク内容を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。その場合も制作など実践の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともしながら体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ 1	からだは『空間を体験する』
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験 experience から、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ 2	カフェ、オフィス、学校、[場所]のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックスリアリティ MR、代替現実 SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験 -revisit-	生かされた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50 %)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50 %)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P Cおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.

By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of “experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Processing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにおける生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）： 簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）： 基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）： 変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出 【制作課題 2：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】制作物の実装方法の構想発表。マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Processing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」、オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津 貴之 (監修)「Generative Design with p5.js ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新境地地平」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アートー Processing による実践ガイド」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性、20%)、中間課題 (30%)、最終課題 (40%)、相互批評 (10%) を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで IoT や Maker ムーブメントなどの動向も十分に取り入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2022/5/2

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art - The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art - Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music - Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music - Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly presentations - 70%
 2. Weekly quizzes - 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La migración. Latinos en Japón
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura.Debate.
4	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas,refranes, etc.
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares de Japón(Obon) y del mundo hispano
10	Aplicación	La coca no es cocaína.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La NavidadEl Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen (Presentación del cuento redactado por ellos mismos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente ninguno

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final (Presentación del cuento redactado por los mismos alumnos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUENTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente ninguno.

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	EL español en el mundo.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura. Debate.
4	Aplicación	Música y danzas del mundo hispano: flamenco, música y danza de los andes, etc.
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	La gastronomía del mundo hispano
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	Patrimonio de la Humanidad
9	Aplicación	El Camino de Santiago
10	Aplicación	Fiestas populares de Japón y del mundo hispano
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La Navidad El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

COT200GA
情報コミュニケーションⅡ
和泉 順子
配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化研究と成果発表の方法を身に付ける
【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】
文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法的訓練を行う。
【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】
本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】
SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。
1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. 個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版 (1996)、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】
授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。
最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。
Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.
The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.
(Learning Objectives)
- To acquire a methodology for research and study of cultural information.
- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

DES200GA
情報コミュニケーションⅢ
稲垣 立男
配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ビクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。

【到達目標】
作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深め、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作活動全般にも通じるクリエイティブな造形表現に必要な知識や感覚、技術を養います。
絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルでの写真加工やデザイン制作が初めての人も難しく考えずに、積極的に手や体を動かすことで作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では視覚言語の基本となる
1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィについて）
2. ビクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
の3つのテーマで、課題制作を進めます。
課題に取り組む際には課題の意義や進め方について講義します。また課題制作のためのポイントとなる点や描くための材料や道具、ソフトの使い方について説明をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会（フィードバック）を行います。
対面での授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染の状況次第でオンデマンド授業になる場合も想定しています。
対面授業の場合
実習室のアドビイラストレーターとフォトショップを使って実習を行います。
オンデマンド授業の場合
オンデマンド実習に必要な道具や材料です。手描きと PC を使用する場合どちらでも構いません。また、課題によって使い分けなくても構いません。
絵を描くための PC ソフトを一つ準備してください。
イラストレーター、パワーポイント、キーノート（Mac）のどれか。
その他 フォトショップ など
対面、オンデマンドどちらにも必要なもの
手描きの道具
絵を描くための描画材（鉛筆、色鉛筆、マーカー、ペン、絵具類など）
絵を描くための紙類（スケッチブックや画用紙、コピー用紙など）
授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
Google Classroom、Google Form（課題提出と課題に関するすべてのフィードバック）
Miro（コラボレーション）
オンデマンドの場合の授業形式
ウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載し、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。
授業の方法
授業時間になると授業支援システムを通じて Google site（ウェブサイトの）リンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。
課題と授業内レポート
受講後、Google Form で課題と授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了の数日後です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes
【授業計画】 授業形態：対面/face to face
回 テーマ 内容
4/11 オリエンテーション 授業の概要

4/18	ロゴタイプとシンボル 1	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ 基本的な図形の書き方とシンボルマーク
4/25	ロゴタイプとシンボル 2	講義 フォントと書体 ワークショップ ロゴタイプの制作
5/9	ロゴタイプとシンボル 3	課題 ロゴマークの制作
5/16	ビクトグラム 1	講義 ビクトグラムとは ワークショップ ビクトグラムの模写
5/23	ビクトグラム 2	講義 オリンピックのビクトグラム ワークショップ スポーツ・文化をテーマとしたビクトグラムの作成
5/30	ビクトグラム 3	大学構内の案内用サインの作成
6/6	インフォグラフィック 1	講義 インフォグラフィックについて ワークショップ 気になったポスターをコピーする
6/13	インフォグラフィック 2	講義 ZINE について 課題 ZINE の制作 1 デザインのアイディア
6/20	インフォグラフィック 3	課題 ZINE の制作 2 作品制作
6/27	レイアウト 1	講義 インフォグラフィックを元としたイラストの作成 課題制作 パンフレット表紙レイアウト 1 デザインのアイディア
7/4	レイアウト 2	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 2 作品の制作 1
7/11	レイアウト 3	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 3 作品の制作 2
14	作品の講評	課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。
また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジカメ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室［特別講義］確かな力を身につけられる ～学び、考え、作る授業～」SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）
評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトは以下の通りです。
Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）
課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

初心者の皆さんには、各ソフトを使っの作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。

※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。

初回のガイダンスに必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline (in English)】**Outline and objectives**

This practical lesson is an introductory and experimental valuable lesson on information design. Basic training related to design and art such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.

Learning Objectives

Through each lecture held in parallel with the production of the work, we will deepen the understanding of the design concept and visual language and provide basic training on visual expression that facilitates communication between people. In addition, we will cultivate the knowledge, sense, and skills necessary for creative modelling expression that is familiar to all creative activities.

People who are not good at drawing or are new to digital photo processing and design production will experience the joy of making by actively moving their hands and body without thinking difficult.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

FRI300GA

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないと言っても過言ではないだろう。ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。Javascript や CSS の技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす(完成例としては <http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html> を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。

【到達目標】

ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどのようなものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 40% 最終課題（迷路の課題） 50%

課題は授業内で適宜指示する。

最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】

プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.

At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.

Each student is required to review his or her work after the class.

In addition, you are required to create your own original maze page as a final project. Please do so by the deadline (one week after the last class).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Ordinary points 10%, Assignments 40%, Final assignment (maze assignment) 50%.

Assignments will be given in class as needed.

The final assignment will be used as a substitute for the regular exam, so no exam will be given. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class based on this grading method are considered to have passed the class.

COT300GA

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、**Maker**ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Maker ムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduino マイコンによるセンサー入力の実践方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。
作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。**作りながら考える、考えながら作る**をモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、 Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino 入門	Arduinno とは何か、 Maker ムーブメントにおける Arduino の役割を学ぶ。開発環境 Arduino IDE の使い方を学ぶ。音楽に特化した Arduino 互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduino ライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備として Arduino から音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリ Mozzi とその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせてセンサーからの信号に反応して音に変化する仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作 (1) : 音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、 Arduino で打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作 (2) : 楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。
7	日用品を打楽器に	さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。
8	シークエンサーの製作 (1)	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
9	シークエンサーの製作 (2)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
10	電子楽器の相互接続: MIDI	MIDI による電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。 【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化 (1)	LCD ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化

12	表示の高機能化 (2)	LED ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力：さらに多彩なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、 Arduino によるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduino マイコンの開発環境はフリーソフトで **Windows**、**Mac**、**Linux** いずれの環境でも利用可能です。また実習で使う **Arduino** は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

Make 関連の書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。**Maker** ムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる2冊と電子楽器の自作についての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著)、Mike Petrich(著)、金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン (2015)、ISBN:978-4873117263

【**Arduino** +音楽】

中西宜人、「**Arduino** ではじめる手作り電子楽器」、工学社 (2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり+デバイスアート】

小林茂(著)、「**Prototyping Lab** 第2版ー「作りながら考える」ための **Arduino** 実践レシピ」、オライリージャパン (2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、課題 (30%)、学期末に提出する作品発表 (30%)、合評 (10%) により評価します。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。初年度の授業を通して、受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要な **PC**、**Arduino** など共通の電子部品と配線材は用意します。
課題作成時および提出時には貸与 **PC** または個人 **PC** が必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は **IT** 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by **Arduino** micro-controllers. Students will become well familiar with the **Arduino IDE** (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA

こころの科学

甲 洋介

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の想い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「あなたのこころがはたらいている、という実感」を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、ふだん私たちは、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりにも当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その”存在”に気づかされる。よく観察すると、世の中は「こころ」によって予想外の現象が実に多く発生している。

● 「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる
- ・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな観点を与えるのか、その意義を簡潔に述べることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「こころ」のはたらきとして、感情がわく、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、に着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。

※新型コロナ感染状況によって授業の進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいてないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学

5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたらかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれない	感情の果たす役割、感情の障害
10	脳からみた、こころ 人工物ではたらく、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能
11	環境に拡がる、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	総合討議と、まとめ	「こころ」について再考する ～こころの哲学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

- ・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018
- ・環境に拡がる心―生態学的哲学の展望（河野哲也著、勁草書房）2005

【成績評価の方法と基準】

- ・コメントシート 討議への参画、小レポートを含む平常点 5 0 %
- ・課題レポートまた期末試験 5 0 %

を総合的に評価し、評定を決める。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind by re-examining your real-world experiences in your "mind".

By the end of the course, students should be able to explain overview of fundamental elements of science of the mind including attention, emotion, concept learning, problem solving, mistake, and affordance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FRI300GA

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるのである。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、**占いや数当てゲーム**などの初歩的なものからはじめ、最終的には**マインスイーパー**や**テトリス**などの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。

2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることができる）。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188>

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業ではコンピュータプログラミングの入門用語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「占い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Jaascript の基礎について学ぶ
2	占い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる

5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する教科書を使用する

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方ぜひ受講してみてください。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

Students will prepare and review the textbook and practice their own work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Ordinary points 10%, Assignments 90%.

Assignments will be given in class as appropriate. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれませんが。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

「無意識」とは何か

私たちは夢を見ることがあります。それでは夢はわたしたちが見たいときに、いつも見ることができるのでしょうか？ なかなかそうはいきません。また、どうして言い聞いなどが起きるのでしょうか？ 正しいことを言おうとしたのに、変なことを言うってしまうのは、なぜでしょうか？ 食欲や睡眠欲のような生理的な欲求は別にして、思わずしてしまうことや、嫌いだと思う前に避けてしまうのはなぜでしょう？ これらは「無意識」のせいだと、精神分析学の創始者ジークムント・フロイト（1856-1939）と言います。

2022 年度は精神分析学によって発見された「無意識」を哲学的に考えていきます。フロイトによって創始された精神分析学は、20 世紀後半フランスのジャック・ラカン（1901-1981）によって構造主義的な精神分析学として引き継がれます。本授業では、主にラカンの学説を取り上げながら、無意識の構造を哲学的に分析していきます。

【到達目標】

- ・精神分析学を学ぶことによって、意識と無意識の関係の基礎を学ぶことができる。
- ・無意識の構造について、哲学的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生 1 人ひとりが自分の「意識と無意識/からだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。

【授業の方法】

授業は、基本的には、『ラカンの仕事』の解説に即して授業する予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	・精神分析学前史 ・ジークムント・フロイトは何をしたか？
2	精神分析学とは何か①	・フロイトによる無意識の発見
3	精神分析学とは何か②	・『夢判断』 ・『精神分析学入門』
4	ラカンの精神分析学①	・初期の著作 (1926-33)
5	ラカンの精神分析学②	・鏡像段階 (1936)

6	ラカンの精神分析学③	・現実原則の彼岸 (1936)
7	ラカンの精神分析学④	・ローマ講演 (1953)
8	ラカンの精神分析学⑤	・「盗まれた手紙」 (1956)
9	ラカンの精神分析学⑥	・「文字（手紙）という審級」 (1957)
10	ラカンの精神分析学⑦	・エディプス・コンプレックス
11	ラカンの精神分析学⑧	・精神病
12	ラカンの精神分析学⑨	・「主体の転覆」 (1960)
13	ラカンの精神分析学⑩	・『アンコール』 (1972-73)
14	ラカンの思想の展開	・ラカンの精神分析学以後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・資料として提示しているテキストを事前に読んで、レジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) ビチュ・ベンヴェヌート『ラカンの仕事』、青土社、1994 年
〔古本でしか手に入らないので、必要に応じて、配布する〕
- (2) Bice Benvenuto & Roger Kennedy, The Works of Jacques Lacan: An Introduction, Free Association Books, 1986.

【参考書】

- (1) 新宮一成『ラカンの精神分析』、講談社現代新書、1995 年
 - (2) 向井雅明『ラカン入門』、ちくま学芸文庫、2016 年
- ※ その他については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・討議への参加 (30%)・授業内発表レジュメ (30%)・期末課題レポート (40%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
- ※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

- ・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
- ・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているの、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What is the "unconscious"?

We all have dreams. But do we always see them when we want to? It's not so easy. And why do we say things wrong? Why do we have desires and needs? These are the result of the "unconscious," according to Sigmund Freud (1856-1939), the founder of psychoanalysis.

In 2022, we will philosophically consider the unconscious discovered by psychoanalysis. Psychoanalysis, founded by Freud, was succeeded by the French structuralist Jacques Lacan (1901-1981) in the latter half of the 20th century. In this class, we will philosophically analyze the structure of the unconscious, focusing mainly on Lacan's theories.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the basics of the relationship between consciousness and the unconscious and to be able to explain the structure of the unconscious philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%,Short reports : 30%, in class contribution: 40%

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。

ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】

- ・ PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
- ・ より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
- ・ セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形態や授業計画、授業実施方法の変更については、状況に合わせて変化する事が予想される。学習支援システムでその都度提示する。初回授業には必ず出席または閲覧し、授業の進め方を確認すること。講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウィルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性和その手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作権者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策 (2)	CSIRT の必要性和その適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に必要としない。

【参考書】

特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) と課題（またはレポート）(30%)、期末テストの成績 (50%) を併用した評価を行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。

基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。

オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。

授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.

(Learning Objectives)

- To acquire the necessary information security knowledge for the use of personal information devices such as PCs.

- To be able to plan measures to achieve higher security.

- Understand what social systems are in place to protect security.

ks and related information technologies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end exam (50%).

BIO200GA

文化と生物

川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美、鈴木 忠

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。

内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はあらかじめ、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。

講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11 回までは、講義が中心ですが、特に、5-8 回は、討議などといったアクティブラーニングの手法もちいします。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12 回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。

メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実態と対策、③害虫被害の実態と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物と生態系 (1) 生物と生態系 担当教員：松崎	生態系とは、共生による生物進化、地球環境の改変、ヒトと生態系
8	(II) 生物と生態系 (2) 生態系における寄生と共生 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置、生態系改変、宿主操作、食文化との関わり

9	(III) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：鈴木	生き物の体系と、私達人間が含まれる「動物」とは何か？を考える。①生き物とは何か、②動物とは、③生態系の中の動物の食物連鎖における位置、④新たな動物学の研究。
10	(III) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：鈴木	①生き物に名前をつけるということ、②生き物を名前をつけて認識する、③分類学とは何か。
11	(III) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけるということ 担当教員：鈴木	①名前とはなにか、②学名とは何か、③新種はいつみつかるか、④どの様に新種に名前をつけるか
12	(III) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：鈴木	①船で海で未知な生物を捕獲する、②深海で未知な生物を捕獲する、
13	(IV) 生物の進化を推定する (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：鈴木	生物の塩基配列情報から、実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）DNA 情報をテキスト配列として、操作して、様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらったレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらった様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.

The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information. Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA

文化と環境情報

佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。講義が中心ですが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法もちいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。メールの添付などの方法もちいて課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 持続可能な社会づくりと食文化 (1) 2020 SDGs 担当教員：中西	講義内容のあらすじ 「2030 SDGs（ニエゼロサンゼロ エス ディーゼズ）」を通じて、17 の大きな目標を我々の世界が達成していく。現在から 2030 年までの道のりを体験し、SDGs の本質を体感する。 ① 2030SDGs カードゲーム、② 17 の目標、③ 196 のターゲット、④ 232 のインジケーター、⑤ SDGs の本質
2	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (2) ワークショップ 担当教員：中西	なぜ、私たちの世界にとって SDGs が必要であるのか、SDGs があることでどのような可能性が広がるのかについて、ダイアログを活用したワークショップを通して理解を深める ① 2030SDGs、② SDGs の必要性、③ SDGs の可能性、④見える化、⑤ SDGs の本質
3	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (3) SDGs de 地方創生 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGs を「まちづくり」や「地方創生」の身近な「プロジェクト」に引き寄せながら「自分事として体感」する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生 ×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」、②まちづくり、③地方創生、④人口減少

4	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (4) 連鎖関係や地球の限界、その他 担当教員：中西	世界や日本で起こっている様々なできごとの連鎖関係や地球の限界（プラネタリーバウンダリー）、エコロジカルフットプリント、バイオキャパシティー、アースオーバーシュートデーなどとの関連について理解を深める。 ①連鎖、②プラネタリーバウンダリー、③エコロジカルフットプリント、④バイオキャパシティー、⑤アースオーバーシュートデー
5	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (5) SDGs を題材にしたイノベーション 担当教員：中西	金沢工業大学が開発した THE SDGs Action card-game「X（クロス）」を通して、SDGs を題材にイノベーションを体験する。トレードオフカードはSDGs の 17 個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、トレードオフを手持ちのリソースカードカードを使って解決していく。 ① X(クロス)、②トレードオフ、③社会問題解決、④イノベーション
6	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (6) SDGs と食の視点 担当教員：中西	SDGs の目標の一つに「3. すべての人に健康と福祉を－健康的な生活に不可欠な栄養－」がある。生産から流通、製造、加工、教育、消費まで幅広い分野にかかわり、我々の生命活動を支える食の視点から、持続可能な社会について理解を深める。 ①フードマイレージ、②食品ロス、③栄養、④健康、⑤安全
7	(II) 感染症と日本社会 (1) エイズと社会 担当教員：塚田	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
8	(II) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
9	(II) 感染症と日本社会 (3) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
10	(III) 食環境と文化 (1) 食生活の変遷 担当教員：中西	①世界における微量栄養素欠乏症、②栄養改善の手法－栄養補給、栄養強化、食の多様性、③栄養強化食品の開発
11	(III) 食環境と文化 (2) 味わう・塩梅 担当教員：中西	①美味しいは、何でできている？ ②美味しさの東西比較、③ユネスコ無形文化遺産「和食：日本人の伝統的な食文化」
12	(IV) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。 さらに、新潟市佐渡の「潟普請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。
13	(IV) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬と温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。
14	(IV) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進める CEPA（コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動）について学ぶ。 さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPAにかかわる文化を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらったレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらった様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。
受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.

The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

HUI300GA

文化情報空間論

甲 洋介

サブタイトル：『拡張された人間』『超える人工物』『仮想の空間』
配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会の重要な主題の一つとして、『知を変えする人工物』『人間と社会の拡張』の問題を取り上げる。

● 人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える

人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然的な世界と言えなくなりつつある。むしろヒトが作り出した人工的世界の中で生きている、と考えるほうが自然だろう。

● 人工物が姿を変える Society 5.0 の後、どこに向かう？

人工物は、文具や玩具のように人間から独立した分りやすいモノだけではない。身体に装着する義足やコンピュータを埋込んだ衣服、脳波で作動させる道具やクルマなど、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物もある。暮らしの至るところに埋め込まれた知的人工物に、やがて気がつかなくなると言われる。またスマート住宅のように人々を包む環境として存在する人工物もある。

● 本講義を通じて履修者は、「人間と人工物の一体化と拡張」という一見矛盾する2つの現象と、今後発展する方向性を、まず「人工物の科学」(H.A. サイモン)を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、「都市」や「社会」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。また、人間の拡張と『持続可能な社会』の両立は今日的な検討課題となりうるだろう。

【到達目標】

・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を理解する。
・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、まず「現在」を人間と知的な人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、

- ①人間と独立したモノとして存在するいまの人工物、
 - ②人間の身体や能力と一体化して作動し、人間を拡張する人工物、
 - ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
- の3つの存在形態について検討を加える。

これらの人工物が日常生活に埋め込まれることによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか。幾つかの生活場面を取り上げ、人間と社会の拡張を具体的にデザインすることに取り組む。

※新型コロナウイルス感染状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の学習効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし ～サイバーパンクSFを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット

6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義と討議を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・システムの科学 第3版 (H. サイモン著、パーソナルメディア) 1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press, English Edition) 2019 が良い。J.E.Laird による序文が追補された。
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

・Society 5.0 (内閣府・科学技術政策) https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
・「攻殻機動隊」(監督：押井守、ワーナー) 他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートまたは試験 (50 %).
・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）(50 %)
を総合して評価する。
期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
こころ、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせ受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline (in English)】

This class addresses the "Augmented Human", "Virtual Society" and "Intelligent Artifacts", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis and augmentation of human, society, and artifacts. By the end of the course, students should be able to (a) explain basic concepts and framework of the augmentation of human and the intelligence of artifacts, and (b) discuss the design of the symbiosis of the "Augmented Human/Society" and "Intelligent Artifacts". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA					
コンピュータ音楽と音声情報処理					
大嶋 良明					
配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位					
旧科目名：					
旧科目との重複履修：					
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring					
人数制限・選抜・抽選：					
備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい					
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。			7 リズムマシン (2) 【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。 【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。 【講義と実習】シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。		
【到達目標】 コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようにする。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようにする。			8 シンセサイザーと MIDI(1) 【講義と実習】シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。			9 シンセサイザーと MIDI(2) 【講義と実習】シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。		
【授業の進め方と方法】 ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスター内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。			10 インタラクティブ・アート：音と時間構造 【講義と実習】ルーバー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			11 インタラクティブ・アート：音と映像の連携 【講義と実習】音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			12 ネットワーク環境への拡張 【講義と実習】OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			13 フィジカル・コンピューティングとの連携 【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。 学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。		
回	テーマ	内容	14 まとめ		
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
2	Pd の基礎	【講義と実習】パッチ (Pd のプログラム) を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。	【テキスト（教科書）】 実習内容を記したプリントを配布する。		
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。	【参考書】 参考書・参考資料等 【Pure Data】 美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424 松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804 中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821 【音響モデリング】 Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410		
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。	【成績評価の方法と基準】 平常点 (30 %)、課題 (30 %)、最終課題の評点 (40 %) で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。		
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。	【学生の意見等からの気づき】 講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。		
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。	【学生が準備すべき機器他】 情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、Arduino、Kinect、Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。		

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理 (特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識)、マルチメディア処理 (音楽音響、電子透かし) 分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代において様々な変化が起こっている人と人の繋がりが方や、人と物・事との繋がりが方の事例を考察していきながら、人にとって家庭や仕事場とは別に必要とされる“第三の居場所（サードプレイス）”は、今後はどのような形態のものになり、どのような役割を持つものになるのかを考えていきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、これからの“第三の居場所（サードプレイス）”を考えていくことで、現代社会における人と人、人と社会の繋がりを再考察できることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

授業は対面を基本に行いますので、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。
※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。受講者の中にオンライン受講者がいる場合は、ハイフレックス形式でオンライン配信も行います。
②毎回の授業後には、授業内容に関するリアクションの提出してもらいます。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。その中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要なリアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
③課題は、中間と最終の計 2 回のレポート提出を行ってもらいます。提出されたレポートは、講評会の形で発表と講評を行います。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第 2 回	考察 1 「サードプレイス」	「サードプレイス」を考える
第 3 回	考察 2 「住まい方」	「これからの住まいの在り方」を考える
第 4 回	考察 3 「シェアリング」	「シェアリングエコノミー」を考える
第 5 回	考察 4 「サブスクリプション」	「サブスクリプション社会」を考える
第 6 回	考察 5 「キャッシュレス」	「キャッシュレス社会」を考える
第 7 回	グループディスカッション 1	中間レポートのためのグループディスカッション
第 8 回	中間レポート講評会	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換
第 9 回	考察 6 「ネットワーク」	「ネットワーク」を考える
第 10 回	考察 7 「ソーシャルネットワーク」	「ソーシャルネットワーク」を考える
第 11 回	考察 8 「人と人との繋がりがり方」	「人と人との繋がりがり方」を考える
第 12 回	考察 9 「ダイアログとモノログ」	「ダイアログとモノログ」を考える
第 13 回	グループディスカッション 2	最終レポートのためのグループディスカッション
第 14 回	最終レポート講評会	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションの提出は、授業後に授業支援システムで行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●事前に映像資料（20 ～ 30 分）を各自で授業時間外に視聴してもらう事があります。

●本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『インターネットの心理学』バトリシア・ウォレス（NTT 出版/2018 年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版/2002 年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005 年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018 年）、『サードプレイス＝コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013 年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤 環著＋訳（医学書院/2015 年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と受講態度、並びに各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（60%）。また、課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（40%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者各自がテーマを自身に引き寄せて考察できるように、扱う事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine the various ways in which people are connecting with each other in today's world, and consider what kind of form and role the "third place," which is necessary for people apart from their homes and workplaces, will take in the future.

The goal of the class is for participants to be able to reconsider how people are connected to each other and how people are connected to society, while considering "third places" in the present age.

There will be times when students will be required to watch video materials (20-30 minutes) online as part of their learning outside of class time. Students will also be required to submit their reactions to the class within 3 days of the class. In addition, each student is expected to complete assignments outside of class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grades will be based on 60% of normal points and 40% of assignments.

Students are required to submit all assignments.

DES200GA

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：情報編集論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：定員 40 名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「デザインする」という制作側の方法論を使いながら「情報の意味」を考え、「情報を編集する」ということを学んでいきます。
 授業内で扱う題材は、受講者のみなさんが普段何気なく見ている広告（ポスターや新聞、雑誌等の静止画広告）やコマーシャル（映像広告）、商品パッケージ（販売される商品を入れている箱や袋）に設定し、それぞれがどのような意図で作られているのかを制作する側の視点で考察していきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、情報を伝える側として「情報の編集」を考えることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

授業は対面を基本に行いますので、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。
 ※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。受講者の中にオンライン受講者がいる場合は、ハイフレックス形式でオンライン配信も行います。
 ②毎回の授業後には、授業内容に関するリアクションの提出してもらいます。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。その中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要なリアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
 ③課題は、発表会を行い、講評を行います。また、提出された課題内容は、全受講者で共有できるように授業支援システム内で閲覧できるようにします。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「情報の編集」を考える
第 2 回	デザインする 1	「デザインする」とは何か？
第 3 回	デザインする 2	「デザインする」を考える
第 4 回	広告と情報 1	「自分が最近気になる広告」を持ち寄って考える
第 5 回	広告と情報 2	「広告」という情報
第 6 回	広告と情報 3	「広告」とは何か？
第 7 回	映像広告と情報 1	「自分が最近気になる映像広告」を持ち寄って考える
第 8 回	映像広告と情報 2	「映像広告」という情報
第 9 回	商品パッケージと情報 1	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考える
第 10 回	商品パッケージと情報 2	「商品パッケージ」という情報
第 11 回	映像と情報	「映像」という情報を考えてみる
第 12 回	写真と情報	「写真」という情報を考えてみる
第 13 回	芸術と情報	「芸術」という情報を考えてみる
第 14 回	まとめ	「情報の編集」をもう一度考えてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業リアクションの提出は、授業後に授業支援システムで行うこととします。
- 課題は、各自が授業外で行うこととします。
- 本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。
- ※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「Design Rule Index —デザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と受講態度、並びに各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（60%）。また、課題に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（40%）。※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で応用できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

In this class, we will learn how to "edit information" from the methodology of "designing".
 The goal of the class is for students to be able to effectively "edit information" as a communicator of information.

Students are expected to submit their reactions to the class within three days of the class. In addition, each student is expected to complete assignments outside of class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grades will be based on 60% of normal points and 40% of assignments. Students are required to submit all assignments.

FRI200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：ジュディス・バトラーの思想——性的マイノリティの挑戦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどうして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を根底で支えている「人生・生・生命 (Life)」に焦点を当てて考えてみます。その際に、私たちが日常生活を営むとき、自分が「生きていること」に、それほど意識を向けていません。

でも、突然、病気になったり怪我をしたりすると、自分が「生きている」という当たり前のことがとても重要なことであることに気づきます。私たちの「生活 (Life)」も「無事に生きている」からこそ営めるのです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、ジュディス・バトラー (1956-) の思想を取り上げ、性的マイノリティを通じて、私たちの「生」と「性」、さらには社会のあり方について哲学的に考えてみることを試みます。

【到達目標】

- (1) 21世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など ・ジュディス・バトラーとは誰か
2	序 なぜバトラーなのか？	・バトラー思想のキーワード (弁証法・パフォーマンス・ヴィヴィティ)
3	第一章 主体①	・ヘーゲル哲学とコジェーヴ
4	第一章 主体②	・構造主義とポスト構造主義
5	第二章 ジェンダー①	・女性性という問題
6	第二章 ジェンダー②	・メランコリーとしてのジェンダー
7	第三章 セックス①	・物質としての身体
8	第三章 セックス②	・ラカン精神分析における女
9	第三章 セックス③	・ファルス「である」こと、ファルスを「もつ」こと
10	第四章 言語①	・傷つける言葉
11	第四章 言語②	・呼びかけとしての言葉
12	第五章 精神①	・権力と精神
13	第五章 精神②	・バトラー以降

14 バトラー思想のまとめと ・バトラーの残したものの批判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・サラ・サリー『ジュディス・バトラー』竹村和子他訳、青土社、2005年
- 【テキストが手に入りにくい場合は、必要に応じてこちらで準備する】

【参考書】

- ・授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (30%)、授業内レジュメ (30%)、平常点 (40%)
- ※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする
- ※要注意【変更】
- リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

- ・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。
- ・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture". Therefore, we will first focus on "Life", which underlies "I" or "self". When we go about our daily lives, we do not pay much attention to the fact that we are alive.

However, when we suddenly get sick or injured, we realize that the fact that we are alive is very important. Our life is possible because we are "alive". So what is life? At the end of the course, students are expected to think about our life, and between philosophically.

In this class, we will focus on **the philosophy of Judith Butler** (1956-). From the standpoint of sexual minorities, she philosophizes about the relationship between our lives and sexuality, as well as about society and politics.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.
- B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria / Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャリー・エンゲイジド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の 3 つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題

自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面からオンラインへ変更する場合には教員からお知らせしますので、ご確認ください。実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。

次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

Zoom（ミーティング）

Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）

Miro（コラボレーション）

Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/26	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
10/3	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ 講義とディスカッション	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など (対面もしくはブレイクアウト ルームでの) ディスカッション
10/10	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ 作品制作	スピーチについて 環境問題のテーマを考える

10/17	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ プレゼンテーション 1	スピーチによるプレゼンテーションとディスカッション
10/24	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ プレゼンテーション 2	スピーチによるプレゼンテーションとディスカッション
10/31	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 講義とディスカッション	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など
11/7	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 プレゼンテーション	映像によるプレゼンテーション
11/14	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 作品制作 1	映像による作品制作とディスカッション 1
11/21	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 作品制作 1	映像による作品制作とディスカッション 2
11/28	ワークショップ 3 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義とディスカッション	ジェンダー、貧困問題、表現の自由など
12/5	ワークショップ 3 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 作品制作	インスタレーション・オブジェなどによるプレゼンテーション
12/12	ワークショップ 3 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス プレゼンテーション	作品制作 1 インスタレーション・オブジェなどによる作品制作とディスカッション 1
12/19	ワークショップ 3 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス プレゼンテーション	作品制作 2 インスタレーション・オブジェなどによる作品制作とディスカッション 2
1/18	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための 10 のポイント』フィルムアート社、2015 年

アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって』フィルムアート社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)

2. 課題とレポート (50%)

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応 (重要)

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト (Google site) のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。(当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。)

2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。

3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site (ウェブサイト) のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像 (YouTube、30 分程度のものを 2、3 本)、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline (in English)】

Course outline

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

Learning Objectives

In this practical lesson, we will practice the following three themes.

1. Environmental problems and society

2. Symbiotic society

3. Political issues

We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈からだ〉の美学—写される〈からだ〉・加工される〈自己〉、そして構築されるセクシュアリティ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「美学=感性学 (aesthetics)」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス (performance)」の「美しさ」を追求することです。

2022年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ (Body Studies)」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「セクシュアリティとパフォーマンス」というテーマで、特定のアーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティを問題にしていることを考察します。

【到達目標】

- (1) アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ること、[「前衛芸術」]のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる。
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- ①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行います。
- ②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していきます。
- ③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えています（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用① ——フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用② ——フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み
8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと——セルフ・ポートレート
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること——スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉ってキレイだけじゃバイよね？ ①——アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・〈はだか〉ってキレイだけじゃバイよね？ ②——アートと検閲
12	浮世絵・春画からみた〈からだ〉①	・春画はアートかポルノグラフィか？

13	浮世絵・春画からみた〈からだ〉②	・春画における身体表現
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パフォーマンス・スタディーズは、1980年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらしこむことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、特定のテキストは用いません。

授業内で配布するテキストの抜粋などを用いて、事前に読んできてもらうことを考えています。

【参考書】

- (1) Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014. (マargo・デメッロ『ボディ・スタディーズ——性、人種、エイジング、健康／病の身体学への招待』、晃洋書房、2017年)
- (2) 早川閑多『春画』、角川ソフィア文庫、2019年
- (3) タイモン・スクリーチ『春画——片手で読む江戸の絵』、講談社学術文庫、2010年

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

- ①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25%）

- ②期末レポート（75%）

【評価基準】

- ①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評 (critique)」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準 (criterion)」が前提されている必要がある。
- (1) 自分自身の「評価規準」が明確であること。
- (2) 自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
- (3) 自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
- (4) 自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていることこの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

- ・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズや Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇氣をもつ学生の参加を望む。
- ・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。
- ・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性 (presentation)」は「表象 (representation)」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「[「現場性」]・「直接性」]・「現在性」]に特化した「パフォーマンス性 (performativity)」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

【受講上の注意】

- ・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
- ・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜すること考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of aesthetics. In 2022, we will try to approach from the viewpoint of Body Studies how Body has been expressed while paying attention to the beauty of the body.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn about the basics of "performance studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution (40%).

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピイがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価される。評価基準は平常点 20 %、レポート 80 % とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age. The goals of this course are to acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background. A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。

この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテキストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイト授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。

授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/27	オリエンテーション	授業計画について
10/4	現代美術の基礎知識 1 メディアとアート（絵画・彫刻・ドローイング・写真・映像・インスタレーション）	美術の様々な技法やメディアについて確認してみましょう。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。
10/11	現代美術の基礎知識 2 20 世紀の美術（未来派・ダダ、シュルレアリズム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート）	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60 年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。
10/18	現代美術の基礎知識 3 21 世紀の美術（新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート）	1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。次に、ミレニアム前夜にイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深めます。2010 年代からソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
10/25	ワークショップ 1	現代美術の基礎知識 単元のまとめ ワークショップ・ドローイング
11/1	身体とパフォーマンス 1 現代美術とパフォーマンス（アクション、ハプニング、インスタレーション、パフォーマンスアート）	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960 年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70 年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
11/8	身体とパフォーマンス 2 身体とパフォーマンス（パフォーマンス・アート、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏）	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
11/15	身体とパフォーマンス 3 音とパフォーマンス（現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック）	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んでいきます。

11/22	身体とパフォーマンス 4 言葉とパフォーマンス (ビート・ゼネレー ション、スポークン・ ワード、ラップ・ ミュージック)	テキストによる美術表現やパ フォーマンスアートと現代詩の世 界を比較します。
11/29	ワークショップ 2	身体とパフォーマンス 単元のま とめ ワークショップ・音と言葉のパ フォーマンス
12/6	社会と関わるアート 1 スライス・オブ・ライ フ ー日常を描くー	スライス・オブ・ライフは、映画 や小説、演劇の世界でありふれた 日常を描くことを指しますが、日 常を切り取る手法は絵画や映像な どの美術作品にも存在します。こ の講義では、日常をテーマとして フィールドワークを重ねて作品化 するアーティストの手法について 考察します。
12/13	社会と関わるアート 2 アートと文化研究	12/14 アートと文化研究 『文化研究』(カルチュラル・スタ ディーズ) やパフォーマンス研究 (パフォーマンス・スタディーズ) は人種や民族、ジェンダーやなど の社会的な課題や日常、アイデン ティティなど様々なテーマとした 学際的研究アプローチについての 理解を深めます。
12/20	社会と関わるアート 3 社会と関わるアート	ソーシャリー・エンゲージド・ アートのような社会に対する直接 的なアプローチのみならず、どの ような時代の芸術作品もその作品 が作られた社会と深く結びついて います。各時代の社会と関わる アートに関する事例について学ん でいきます。
1/10	ワークショップ 3	社会と関わるアート 単元のまとめ ワークショップ・コラボレーショ ンワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020

『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15 名)。希望者多数の場合
 は選抜します。初回授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル（銀塩 + デジカメ、レフ、ストロボ）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム（ハンディカム）

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・Jingle（短い 15 秒程度の CM 的映像）
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題：line、pattern、texture】

3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング（2 週間）】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD、DVD など）の構成法を理解する。 実習：Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ（2 週間）】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース 制作	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題：Web 写真アルバム（2 週間）】
7	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース 実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

マルチメディア全般について以下の2冊を参考書として挙げる。

参考書 (1) CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書 (2) CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1 以上の2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社（2006）、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性を含む、30%）、クリティークなど授業参加による平常点（20%）、中間課題（30%）ならびに最終課題（20%）を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年度までは 3～4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。
写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA

メディア表現ワークショップ2

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。事例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students

can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work. The goals of this course are to learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc. Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA

メディア表現ワークショップ3**グアリーニ レティツィア**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旅行をテーマにしている実習授業です。ガイドブック、ブログ、写真、漫画、ポッドキャストなど、様々なメディアにおける旅の語り方を分析します。また、受講者が自らガイドになって、好きなメディアで成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】

- 1) 様々なメディアを使った表現方法を学ぶ。
- 2) グループワークに必要なコミュニケーション能力のスキルを身につける。
- 3) 抽象的なアイデアを具体的に落とすスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

制作実習をします。お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。

グループディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第 2 回	9/30 ガイドブックを分析する	様々なガイドブックを比較しながら、いいガイドブックの作り方について考える。
第 3 回	10/7 ブログを分析する	様々な旅行ブログを比較する。
第 4 回	10/14 写真を分析する	様々な旅行雑誌や本を比較しながら分析する。
第 5 回	10/21 漫画を分析する	旅行をテーマにした漫画を分析する。
第 6 回	10/28 ポッドキャストを分析する	様々なポッドキャストを比較しながら、いいポッドキャストの作り方について考える。
第 7 回	11/11 課題制作	グループでブレインストーミングを行う。
第 8 回	11/18 課題制作	企画書を作る。
第 9 回	11/25 プレゼンテーション	受講者がそれぞれのプロジェクトについてプレゼンテーションを行い、クラスのメンバーからアドバイスをもらう。
第 10 回	12/2 課題制作	作品に取り組む。
第 11 回	12/9 課題制作	問題点を洗い出ししながら、引き続き作品に取り組む。
第 12 回	12/16 課題制作	作品の内容を練り、完成に近い状態まで進む。
第 13 回	12/23 プロポージアル制作	プレゼンテーションの準備
第 14 回	1/20 プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、授業外でも教材を考察し、作品の制作に取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

授業ごとに参考書や作品について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークとプレゼンテーション 50 %、課題制作の作品 50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではスマートフォンや PC といったデバイスを活用し、SNS を役立てる。

作品制作を行う際もスマートフォンや PC の準備が必要です。

【その他の重要事項】

協同作業も多いので、休まず出席すること。

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の教材を使うこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the way travel is narrated in various media such as guidebooks, blogs, photos, manga, podcasts, etc. Students will also create their own travel content and present their results in the media of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Understand how different media apply different communication strategies.
- b) Acquire the communication skills necessary for group work.
- c) Acquire the skills to make abstract concepts more concrete and understandable.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects.

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Group work and presentation: 50%

Final project: 50%

ART200GA

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スタジオジブリ結成以前の高畑勲・宮崎駿のアニメ映画を、欧米のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習する。

【到達目標】

1950 年代～1980 年代前半の日本のアニメの映画の・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができる。また、ストーリーづくりだけでなく、ストーリーをどのように表現するかが大事であるということを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

毎週、アニメ映画の制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことをコメントシートないし宿題に書いてもらう。それらのフィードバックは授業および hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを 15 分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第 2 回	初期東映動画	『白蛇伝』
第 3 回	高畑勲の初監督映画とその影響	『わんぱく王子の大蛇（おろち）退治』 『太陽の王子 ホルスの大冒険』
第 4 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えたアニメ映画	『長靴をはいた猫』 ポール・グリモー レフ・アタマールノフ
第 5 回	『ルパン三世』第一シリーズ	『宝石横取り合戦』 「ジャジャ馬娘を助けだせ！」
第 6 回	『パンダコパンダ』二部作	『パンダコパンダ』 『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』
第 7 回	高畑勲のテレビシリーズ 監督第一作	『アルプスの少女ハイジ』
第 8 回	海外ロケーション 主人公に対する距離	『母をたずねて三千里』
第 9 回	心象の表現 宮崎駿のテレビシリーズ 監督第一作	『赤毛のアン』 『未来少年コナン』
第 10 回	宮崎駿の映画第一作	『ルパン三世カリオストロの城』
第 11 回	高畑勲の日本帰郷	『ジャリン子チエ』 『ゼロ弾きのゴーシュ』
第 12 回	『アニメージュ』とともに	漫画『風の谷のナウシカ』と映画『風の谷のナウシカ』
第 13 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた実写映画	溝口健二 オーソン・ウェルズ ジョン・フォード 黒沢明
第 14 回	まとめ	学んできたことを振り返って補い、レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫

宮崎駿『出発点』徳間書店

叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿 奇異なもののボエジー』みすず書房

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲 アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とレポート（50 %）。

平常点は出席だけでなく、コメントシートや宿題を通して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

なおコメントシートや宿題のフィードバックは、hoppii や授業を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。

初回にオンラインで選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline (in English)】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work before the foundation of Studio Ghibli, through the position of their style and the history of film, in comparison with occidental animation films.

【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 80's.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%, in class contribution: 50%

ART200GA

ポピュラー音楽論**大 高 徹**

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2022 年度は春学期開講とする。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本における大衆音楽文化の形成を学ぶ。幕末から太平洋戦争終結までに現れた「人々」のための音楽動向を、近代日本音楽史、メディア研究、文化産業論、国際関係史などの観点を変えて検討し、J-ポップの原型となる大衆的な音楽文化環境がいかに成立したのかを理解する。現在との連続性を知るために、近年の音楽動向についても随時参照し、日常的に接している音楽を歴史的な観点で捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】

・音楽史を、作品/演奏の様式だけでなく、制度やイデオロギー、産業や消費行動などの社会的要素を変えた観点から理解できる。
・近代日本の音楽をめぐる諸問題について理解し、現代とのつながりや、他地域の音楽文化との関連を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。リアクションペーパー等で質問を受け付け、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の目的と概要の説明
2 回	軍楽隊	軍隊を介した西洋音楽の導入とプラスバンドの普及について
3 回	唱歌	音楽教育と学校で教授される歌の成立について
4 回	俗謡・演歌師	江戸町人文化から連続する巷のはやりうたと明治後期の大道芸人について
5 回	番外編 1:「音楽」からの性愛の排除	官製「音楽」による性愛の排除が現代の音楽文化に与えている影響について
6 回	文化改良運動、歌劇	大正期に興隆する民間主体の芸術運動、とくに西洋風歌曲の創作について
7 回	童謡、新民謡	大正期におこった子供および地域のための歌の創作について
8 回	レコードの到来	レコードメディアの誕生とその日本への伝来について
9 回	流行歌の誕生	歌を売るビジネスの確立と、その音楽スタイルについて
10 回	「洋楽」の大衆化	大正教養主義～レコード産業の発展にともなう洋楽の普及について
11 回	番外編 2: 音楽著作権ビジネスの確立	1960 年代の音楽ビジネスモデルの転換について
12 回	戦時下の文化統制	文化統制下における音楽実践について
13 回	軍歌・軍国歌謡	音楽普及において軍歌が果たした役割と、15 年戦争期に流行した軍国歌謡について
14 回	まとめ	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み直しながら音源を聴く。配布資料掲載の参考文献を読む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート 70%。テーマは授業内で提示する。
リアクションペーパー 30%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

【Outline (in English)】

This course deals with the formation of popular music culture in modern Japan. Examining the trends in music for the "people" that emerged from the end of the Edo period to the end of the Pacific War, we will understand how Japanese popular music culture has been established.

【Grading Criteria /Policy】

Report assignment:70 %

Reaction paper for each class 30 %

Preparatory study and review time for this class are 2 hours.

ART300GA

コミックス論

野田 謙介

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2022 年度は春学期開講とする。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で日本のマンガが人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本のアニメ・マンガを原語で楽しむために日本語を学ぶ外国の若者は、おどろくほど多いです。しかしながら海外における日本マンガ受容の実態を、わたしたちは本当に知っていると言えるのでしょうか。あるいは、そもそも日本語における「マンガ」という表記はどこまでをその範疇にふくめ得るのでしょうか。

本授業では、マンガを理論的、歴史的、社会的な側面から概観します。そうすることによって、わかったつもりになっていたマンガについて学生諸君が主体的に、また自覚的・客観的にとらえなおせるようになることをめざします。

【到達目標】

- ◆マンガの歴史について基礎的な知識を身につける。
- ◆マンガが自明な概念でないことを理解し、社会的な観点から説明できるようになる。
- ◆普段なにげなく読んでいたマンガについて、その表現の仕組みを理論的に指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。毎回アクションペーパーの提出をお願いします。リアクションペーパーや提出課題は適宜授業内でとりあげ、フィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：マンガ、マンガ、漫画、コミックス？	マンガの呼称と現状
2	マンガの読み方 I	マンガの三要素について
3	マンガの読み方 II	時間・運動・音について
4	マンガの読み方 III	世界制作の方法
5	マンガの歴史	起源について
6	マンガの歴史：日本編 I	戦前
7	マンガの歴史：日本編 II	戦前から 80 年代まで
8	マンガの歴史：日本編 III	80 年代以降
9	マンガの歴史：日本編 IV	コミケ
10	マンガとアニメーション	マンガ版とアニメ版の『ナウシカ』比較
11	マンガの歴史：海外編 I	日本マンガの受容史
12	マンガの歴史：海外編 II	米・仏のマンガ史
13	マンガの読み方 IV	翻訳について
14	まとめ	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。また、課題を提出してもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】

各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）、提出物（30%）、授業内発言（10%）。

文化を相対化する視点と自覚的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

【Outline (in English)】

We often hear that Japanese manga is quite popular in foreign countries. In fact, there are many young people who learn Japanese to enjoy Japanese anime and manga in their original language. However, do we really know the actual situation overseas? First of all, what is "Manga" in Japan?

This course provides an overview of manga from a theoretical, historical, and social points of view, giving clues for rethinking the manga that has been considered to be self-evident.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- have a basic knowledge on the history of manga.
- understand that manga is not an obvious concept, and explain it from a social perspective.
- point out the mechanism of expression of manga, which we usually read unconsciously.

You may be asked to read the assigned works as a preparatory activity and answer the questions orally in class. You may also be asked to submit assignments.

Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in-class remarks: 10%

The evaluation criterion will be whether or not the student has acquired the perspective of relativizing own culture and the means of reading manga consciously. Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will be considered to have passed the class.

LIT300GA

世界の中の日本文学

グアリーニ レティツィア

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。とりわけ、1) 移動する日本文学、2) 文学における震災、3) 文学に見るコロナ禍、三つの視点から世界文学における日本文学の位置付けについて考えながら、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) 現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
- 2) 日本文学のテキストを分析できるようになる。
- 3) 文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションやプレゼンテーションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4/8 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	4/15 移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	4/22 バイリンガルな文学 ：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	5/6 バイリンガルな文学 ：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	5/13 移動する女性作家たち	大庭みな子、関口涼子、須賀敦子の作品を取り上げる。
第6回	5/20 温又柔を読む	温又柔のエッセイを読んで、ディスカッションを行う。小レポート（1）を提出する（800-1,200 文字程度）。
第7回	5/27 文学における震災	震災文学論について考える。
第8回	6/3 多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第9回	6/10 小林エリカ、川上未映子の震災文学	小林エリカ、川上未映子の作品を取り上げる。
第10回	6/17 世界から見た震災	ラウラ・今井・メッシーナの作品について考える。小レポート（2）を提出する（800-1,200 文字程度）。
第11回	6/24 日本文学に見るコロナ禍	コロナ文学について考える。
第12回	7/1 コロナ文学	コロナ文学のさまざまな作品を読んで、ディスカッションを行う。
第13回	7/8 世界から見たコロナ禍	パオロ・ジョルダノ『コロナの時代の僕ら』を読んで、ディスカッションを行う。
第14回	7/16 まとめ	世界の中の日本文学／日本文学の中の世界について考える。小レポート（3）を提出する（2,000 文字程度）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 つの小レポートの提出が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて PDF でテキストを配布します。

【参考書】

郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』（三元社、2013 年）
山出裕子『移動する女性たちの文学—多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010 年）
木村朗子『震災後文学論—あたらしい日本文学のために』（青土社、2013 年）

木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018 年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021 年）
高橋 源一郎、斎藤 美奈子『この30年の小説、ぜんぶ一読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークとディスカッション 10%
小レポート（1）：温又柔「日本語圏の「新しい」台湾人として書く」（2013）についての小レポート（800-1,200 文字程度） 25%
小レポート（2）：対談「ラウラ・今井・メッシーナ × 山崎彩」についての小レポート（800-1,200 文字程度） 25%
小レポート（3）具体的な文学テキストを取り上げた小レポート（2,000 文字程度） 40%
小レポートについて授業内で詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world. In particular, we will consider the position of Japanese literature in world literature from three perspectives: 1) Japanese literature on the move, 2) the earthquake in literature, and 3) the COVID-19 pandemic in literature.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

a) Have basic knowledge about contemporary Japanese literature.

b) Analyze texts of Japanese literature.

c) Understand the relationship between literature and society.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and presentation: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012 年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」（S J = Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」とは、一般学生の S A に相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとっての S A とも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考える目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8 日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。

第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。現在の J R 飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。人形淨瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形について、映像で確認する。この地域の特色ある文化活動として、通巻 1000 号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ 椋嶋十・西尾実・森田草平 3 人の文化人について、母校教育の観点も含めて取り上げる。早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。
第 5 回	飯田線建設史①	
第 6 回	飯田線建設史②	
第 7 回	満州移民の歴史①	
第 8 回	満州移民の歴史②	
第 9 回	満州移民の歴史③	
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	
第 14 回	まちづくりや自然との共生	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから 2 週間後）。

従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナの状況を見ながら実施可否を判断したい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3 で 1 枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生に、かつては自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 2,000 冊以上、映像 DVD 約 350 点所蔵）に収められている。コロナの状況も見ながら、可能な大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 %を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに S J 国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、「個別を極めることを通して普遍に至る」というアプローチは、他の分野にも応用が利くと思われる。

また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、真の国際人にとって重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。対面授業が不可の場合は、zoom を使用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

6 月末から 7 月上旬までには今年度の S J の実施可否を判断する。可能となった場合は、ボランティア補助員や一般参加者の募集を開始する。

【選抜の有無】

留学生、および S J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人数を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.

Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSa300GA

スペイン語圏の文化 I

久木 正雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：スペイン語圏の文化 I（多言語国家スペイン）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は
抽選とする

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学への SA に参加する 2 年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】

スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーション、ディスカッション、学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内でを行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説（先史時代～中世）	スペインの自然環境（地勢と気候）と、先史時代から古代・中世までのスペイン史（イベリア史）への理解を得る。
3	スペイン史概説（近世・近代）	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説（現代）	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州国家体制へと至るスペイン現代史（20 世紀）に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々（前近代）	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々（近現代）	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。

8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高（編著）『概説 近代スペイン文化史—18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784623066759。

【参考書】

- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013 年、本体価格 860 円、ISBN9784582856743。
- 田澤耕『物語 カタルーニャの歴史—知られざる地中海帝国の興亡増補版』中公新書、2019 年、本体価格 920 円、ISBN9784121915641。
- 立石博高『スペインにおける国家と地域—ナショナリズムの相克』国際書院、2002 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784877911140。
- 立石博高『歴史のなかのカタルーニャ—史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020 年、本体価格 2,750 円、ISBN9784634151628。
- 立石博高・内村俊太（編著）『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750344157。
- エドゥアルド・メンドサ（立石博高訳）『カタルーニャでいま起きていること—古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018 年、本体価格 1,600 円、ISBN9784750347578。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディスカッションへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
・この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化 II」との直接の連続性はない。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of various aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of histories, societies and cultures of Spain and its regions, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

LIT300GA

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ⅴ）**北 文美子**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】

それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。対面授業です。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー（課題）としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2 回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3 回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4 回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5 回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6 回	バーナード・ショーと地方主義	『ビッグマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8 回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9 回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10 回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11 回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12 回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布します。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクション・ペーパー（40％）

試験（60％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

(Learning Objective) By the end of the semester, students are expected to make themselves familiar with the history of British and Irish Literature and to acquire an understanding about the relation between social, cultural and historical backgrounds and literary works.

(Learning activities outside of classroom) Students should read the relevant literary material beforehand, and spend more than one hour preparing for each class.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Exam 60%

ARSa200GA

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界 5 大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知る。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
- (3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3 コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	I. カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニク島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	I. カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	I. カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	II. カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	II. カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	【移動するエキリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	III. マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	III. マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係

10	III. マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

- 授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。
 - ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002 年。
 - ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013 年。
 - ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003 年。
 - ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
 - ・鶴戸聡著、『アラブ・フランコフォニーと越境の文学』『反響する文学』（土屋勝彦編、名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号）、風媒社、2011 年。
 - ・梶茂樹・砂野幸稔編著、『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるといふこと』三元社、2009 年。
 - ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナルリズムの変遷』松籟社、2007 年。
 - ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
 - ①平常点（コメントシートなど）： 30 %
 - ②期末レポート： 70 %
- ・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた講義を行うが、説明が緩慢にならないように、映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつける。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としない。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

PSY200GA

異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考ええる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。また教室定員（コロナ定員）200 人を超えた場合は、受講者選抜を実施する。選抜を実施する場合は、第 1 回授業においてその方法等を指示する。授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD 等があれば適宜紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。

第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第 11 回	道徳判断に必要なとされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第 13 回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（％）」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

ART200GA

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

舞踊や芸能などの身体表現活動をモチーフとした映画作品を紹介し、そこに見られる異文化の問題を、宗教、性、人種、階級といった観点から解説する。本授業ではそれらの問題を「文化スキーマ」に由来するものと捉え、スキーマがもたらすステレオタイプとその越境の可能性について考えたい。

【到達目標】

- ・映像作品における文化的要素を意識して捉え、理解することができる。
- ・文化的要素がどのようにしてステレオタイプや偏見などの固定化された見方を生み出すのかについて、理解することができる。
- ・舞踊や芸能が果たす文化的役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講者は授業の最後に、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付して返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・『フットルース』、『ハウマーナ』	・授業の概要、進め方の説明 ・キリスト教と舞踊の関係性について考える。
2	『ダーティ・ダンシング』、『屋根の上のバイオリン弾き』	・ユダヤ人の伝統的コミュニティについて考える。
3	『ダンシング・ハバナ』	・キューバ革命が市民にもたらした影響について考える。
4	『フラッシュ・ダンス』、『ムラータ』	・「ムラータ」の表象について、性、人種、階級の点から考える。
5	『ビリー・エリオット』、他	・イギリス（およびアイルランド）における労働者階級の歴史・生活・文化について考える。
6	『ムーラン・ルージュ』	・19 世紀バリーに始まるレビューの文化とボヘミアニズムについて、デジタル時代の視点から考える。
7	『エリザベート』	・19 世紀のオーストリア＝ハンガリー帝国とボヘミアニズムについて、レビューの視点から考える。
8	『ホワイト・ナイツ』、『タップ』	・19 世紀に始まるクラシック・バレエとタップダンスを軸に、政治イデオロギーと冷戦について考える。
9	『ミス・サイゴン』	・ベトナム戦争とアメリカ文化について考える。
10	『王様と私』	・19 世紀に始まる近代化の諸問題について考える。
11	『花の生涯』	・京劇の歴史とその政治的背景について考える。
12	『祇園の姉妹』、『舞妓はレディ』	・日本のゲイシャについて考える。
13	『西便制一風の丘を越えて』、『曽根崎心中』	・韓国の「恨」と日本の「情」について考える。
14	まとめ	・授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された映画は可能な限り観るように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

【映画関連】

- ・ジャン・ミシェル＝フロドン『映画と国民国家』（岩波書店）
- ・佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（NTT 出版）
- ・栗林輝夫他『シネマで読むアメリカの歴史と宗教』（キリスト教新聞社）
- ・岩本憲児他編『新・映画理論集成〈1〉歴史・人種・ジェンダー』（フィルムアート社）
- 【舞踊・芸能関連】
- ・ジェラルド・ジョナス『世界のダンス—民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
- ・邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
- ・渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
- ・三隅治雄『踊りの宇宙—日本の民族芸能』（吉川弘文館）
- ・舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
- ・矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
- ・加藤雅彦『ウィンナ・ワルツ—ハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）
- ・宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）
- ・魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
- ・矢内賢二『芸術教養シリーズ 9 歌、舞、物語の豊かな世界 日本の芸術史 文学上演篇 I』（幻冬舎）
- ・赤松紀彦『芸術教養シリーズ 11 中国の伝統文芸・演劇・音楽 アジアの芸術史 文学上演篇』（幻冬舎）
- ・赤松紀彦『芸術教養シリーズ 12 朝鮮半島、インド、東南アジアの詩と芸能 アジアの芸術史 文学上演篇 II』（幻冬舎）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

学期末レポート 50 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業で扱う映画作品や進行順序は事情により変更する場合がある。

【Outline (in English)】

・ Course outline: This course is designed to help students understand intercultural issues in terms of religion, gender, race, and class, through dance or entertainment films which show characteristic body movements and their social background. By taking the intercultural conflicts derived from "cultural schemata," which often result in stereotypical misunderstandings, this course aims to explore how to transgress such schemata.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to interpret cultural elements seen in films, and understand how such elements lead to stereotypes or prejudices. Through the interpretation and understanding, they will be able to recognize a crucial role in a society that dance and entertainment culture play.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many films as possible, particularly those mentioned in class.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final Paper 50%.

LIT300GA

実践翻訳技法

大野 ロベルト

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講者の人数制限および選抜もありうる。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

完璧な翻訳は存在しない。だからこそ、翻訳は楽しい。この授業では、英語を日本語に、日本語を英語に置き換えることをひたすら繰り返しながら、言葉の仕組みについて学び、またその仕組みが文化ごとにどのように異なるのかを考える。なお、本授業はあくまでも言葉についての理解を深めるための授業であり、職業的な翻訳家の養成を目指すものではないが、そのような志望をもつ学生にとっても有益な内容であることは言うまでもない。

【到達目標】

日本語と英語を中心に、言語の仕組みや文化との相関について理解し、具体的な言葉で説明できるようになる。翻訳はもちろん、比喩などの文彩についても学び、実践を重ねることで、言語運用能力の本質的な向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った簡単な講義のあと、個人やグループで翻訳課題に挑戦し、その成果を発表してもらう。教員やクラスメイトからの講評を受けて、ディスカッションを繰り返しながら理解を深めてゆく。また授業外の時間を使って、個人での翻訳プロジェクトを進めてもらう。具体的には、ある程度の分量のテキストを翻訳し、推敲を重ね、一つの作品に仕上げることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や選抜の方法について説明する
2	人称の翻訳	日本語の特徴とされる人称について考える
3	文彩の翻訳 1	隠喩と直喩について学ぶ
4	文彩の翻訳 2	換喩と提喩について学ぶ
5	文彩の翻訳 3	誇張法や撞着語法について学ぶ
6	韻文の翻訳 1	音声について考える
7	韻文の翻訳 2	文字表現について考える
8	韻文の翻訳 3	古典文学について考える
9	散文の翻訳 1	文体について考える
10	散文の翻訳 2	文体模写を実践する
11	散文の翻訳 3	言葉を社会化してみる
12	翻訳とメディア	多様なテキストの翻訳について考える
13	個人プロジェクト	プロジェクトに関する発表
14	まとめ	ふりかえり、講評と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文学を中心に活字に触れる習慣をつけ、言葉への感度を高める。個人プロジェクトは授業時間外に責任をもって進めること。本授業の準備学習・復習時間は週4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要な資料は教員が配布する。ただし使い慣れた辞書は必須。紙・電子・アプリなど、形態は問わない。

【参考書】

授業内でその都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のクラス内の課題 50 %、個人プロジェクト 50 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

・受講者の人数制限および選抜もありうる。

・発表・ディスカッションに積極的になれない者は履修しないこと。

【Outline (in English)】

This course invites the students to participate in the rigorous yet fulfilling challenge of translation. Students are to tackle different assignments each week to appreciate various aspects of language and its relation to culture, while working on their own projects outside the classroom that are to be handed in by the end of the term.

Students will be able to renew their knowledge on language and how it relates to each culture. This class offers an opportunity to vastly improve the command of both English and Japanese, by working individually and in groups.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting, and working on their individual projects.

The grading criteria is as follows: 50% weekly in-class assignments, 50% individual project. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

SES200GA

持続可能な社会

中西 由季子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数によっては選抜する。初回授業に出席すること。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs の実現には、持続可能な社会づくりが重要である。
SDGs とは何かをカードゲームや対話を通して体感しながら、持続可能な社会づくりを構成する「6 つの視点」を軸にして、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、その課題解決に向けて考察する。

【到達目標】
1. サステナブルとは何かを理解し、説明できる。
2. SDGs とは何か理解し、説明できる。
3. グループワークや対話を通して、批判的に考える力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度を身につける。
4. 自ら課題を見出し、その解決に向けての対策を考案することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
カードゲームやブロックによる表現、対話（ダイアログ）を伴うワークショップ形式を中心とした講義・演習授業を実施する。各回授業後には、Google Form によるリアクションペーパー提出を求めます。適宜、課題提出を求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	持続可能な社会とは	持続可能な社会 サステナブル 脱炭素社会
第 2 回	SDGs 概要	MDGs から SDGs へ SDGs とは
第 3 回	SDGs を体感する	「2030SDGs カードゲーム」を通して、SDGs を体感する。
第 4 回	SDGs と地方創生	「SDGs de 地方創生」を体験し、SDGs と地方創生の関わりを体感する。
第 5 回	2030 年の社会	ブロックを使って、2030 年の希望する社会を表現し、対話する
第 6 回	貧困と飢餓	世界および日本における貧困と飢餓の現状と展望
第 7 回	レジリエンス	レジリエンスとは レジリエンスを高める ブロックを使って表現、対話
第 8 回	アンコンシャス・バイアス	システム思考 バイアス ハラスメント ジェンダー平等
第 9 回	地球の限界	気候危機 地球 1 個分の生活
第 10 回	自然災害一命を守る行動	風水害 24 を体感し、自然災害時に潜む危機を知る
第 11 回	農業と環境課題	農業・肉食と環境
第 12 回	食品ロス削減	「食べ残し No ゲーム」をとおして、つくる責任・使う責任について対話する
第 13 回	プラスチック課題	海洋プラスチック プラスチックごみ削減
第 14 回	SDGs ウォッシュ	SDGs ウォッシュ・グリーンウォッシュの概念を理解し、判断力を身につける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各回のテーマに関する関連資料（新聞記事・書籍など）を読む。
授業後に示されるリアクションペーパー、課題等を期日までに提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
持続可能な地域づくり方——未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン
寛裕介
英治出版 (2019/5/9)
ISBN-10 : 4862762514
ISBN-13 : 978-4862762511

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、各回毎のレフレクションペーパー 50 %、課題 20 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業には、主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用います。グループワーク時に PC を用いることがあります。
レフレクションペーパーおよび課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Creating a sustainable society is important for the realization of SDGs. While experiencing what the SDGs are through card games and dialogue, we will find issues related to the creation of a sustainable society centered on the "six perspectives" that make up a sustainable society, and work toward solving those issues.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings,
1.To understand and explain what sustainable means.
2.To Understand and explain what SDGs are.
3. To acquire the ability to think critically, multilaterally and comprehensively, to communicate, to cooperate with others, to respect connections, and to participate willingly through group work and dialogue.
4. To identify problems and devise measures to solve them.
Expected learning activities outside of classroom will be collecting information, leading papers, doing homework, preparing your presentation. It will be taken for 2 hours each lecture.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Usual performance score 50%, Reports 50%.
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

石森 大知、北 文美子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が高いものであることを理解するでしょう。

本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞することで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。

・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。

・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は学習支援システムの授業内掲示板に質問を書き込んでください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

・第3回の授業（4月21日）については休講とし、5月14日（土）5時限、補講日を利用し、同外部講師による授業を行います。日程に注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、経済研究所、所長代理）	総合商社とは何か
第3回	小林義己氏（㈱ANA 航空総合研究所、主席研究員）	コロナの先にある未来

第4回	藤下超氏（NHK、国際放送局専任局長）	テレビ報道の今と未来
第5回	小田原治氏（株式会社INPEX、理事兼フェロー経営企画本部、本部長補佐）	INPEXのエネルギー・トランスフォーメーションについて
第6回	三木陽介氏（毎日新聞社、採用研修センター室長）	記者入門（記事を書いてみよう！）
第7回	田中義樹氏（株式会社テレビ朝日広報局お客様フロント部）、吉平将英氏（テレビ朝日広報局お客様フロント部）	テレビを取り巻く環境の変化、そこに生まれるビジネスチャンス
第8回	畑中晴雄（花王株式会社、ESG戦略部、部長）	花王のESG戦略と具体的な取組
第9回	代島裕世氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYAのSDGsビジネス
第10回	シムカート・ビョルン氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン、キャンペーン・コーディネーター）	気候変動から人権を守るボランティア活動
第11回	神野齊氏（株式会社明石書店、編集部、部長）	出版の今—縮む世界と広がる世界
第12回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力事業におけるインターンシップについて
第13回	片貝 悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、プロフェッショナルサービス第一本部、エンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニア
第14回	大城勝浩氏（株式会社朝日広告社、デジタルメディアセンター、センター長）	広告会社のホンシツ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、確りと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席&コメントシート）60%」と「期末レポート40%」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当たったりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

- ・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。

・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団
体で勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分
析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：情報倫理学
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2022 年度の本授業では、「エコロジー（＝生態学 ecology）ってなに?！」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（＝エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

《授業の目的》

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人」と人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（＝エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第 2 版、新思案社、2000 年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008 年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30％）・小テスト（30％）・平常点（40％）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思えます。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2022, we will consider the question of "What is the relationship between communication and its environment?! " and we will examine the problems of "communication".

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine the issue of communication.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

LAW200HA

民法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第 3 回	民法総則 (1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第 4 回	民法総則 (2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第 5 回	民法総則 (3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第 6 回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第 7 回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第 8 回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。
第 9 回	契約 (1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。

第 10 回 契約 (2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。
第 11 回 事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第 12 回 不法行為 (1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第 13 回 不法行為 (2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第 14 回 試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第 2 版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600 円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い（実施できない場合は期末レポート）、成績評価はこの期末試験（又は期末レポート）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid term report (50%), term end examination (50%), and in class contribution

LAW200HA

民法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法律入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第 3 回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第 4 回	婚姻 (1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第 5 回	婚姻 (2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第 6 回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第 7 回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第 8 回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第 9 回 養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第 10 回 親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第 11 回 相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第 12 回 遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第 13 回 配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第 14 回 試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民事法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第 2 版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600 円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い（実施できない場合は期末レポート）、成績評価はこの期末試験（又は期末レポート）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例をつづじて、刑法のわたしたちの社会における意義と役割とをまなびます。

現在、わたしたちは、様々な「分断」に直面しています。国と国との間で、また社会においても人種、思想、地域、年代、収入等のちがいが、意見や価値観の深刻な対立が生じています。対立する相手を「敵」とみて、徹底的にはげしく罵倒したり、排除しようとする動きが SNS 等でもみられます。こうした「分断」は、場合によっては大きな紛争にも発展し、大勢の人々の心身に大きな被害をも生じさせかねません。こうした「分断」を解消するには、どうしたらよいのでしょうか。それには、対立する相手とは絶対に分かりあえないとあきらめるのではなく、相手の立場も尊重し、その意見にも耳をかたむけて、その価値観を理解しようとして、対話を重ねることが必要なのではないのでしょうか。

犯罪の加害者と、その被害者（遺族含む。）及び被害者に同情・共感する多くの人々との間でも、深刻な「分断」が生じているように思えます。加害者は、ルールに反し、被害者を生み出した以上、ともかく、重く罰するべきだ。それにもかかわらず、法では、加害者をさばけなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！このように考える人も少なくないのではないのでしょうか。犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く罰しさえすれば、社会はよくなるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳をかたむけることも必要なのではないのでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ようにみえるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者がわるいのだ、として、これを徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰化を一方的に主張しようとするのは、果たして公正でしょうか。むしろ、社会における「分断」の 1 つを一層深めるだけではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要をまなぶことは、様々な「分断」を乗り越え、他の人と仲良く共存しながら、わたしたちの誰もが幸せに生きていく社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係をふまえて、刑法の一般原則および犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）および学説の議論を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜もうけます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、原則として、対面授業となります。

各回ごとに、アップされたレジュメを用いて、具体的事例について検討し、各回のテーマごとの理解をはかります。

数回の小テストについては、回答期限後の授業ないし学習支援システムをつうじて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系および「刑法」の意義をまなぶ。
第 2 回	殺人罪①－犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件および刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などをまなぶ。
第 3 回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについてまなぶ。
第 4 回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などをまなぶ。
第 5 回	傷害罪	傷害の意義および傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などをまなぶ。
第 6 回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義および同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などをまなぶ。
第 7 回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などをまなぶ。
第 8 回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについてまなぶ（Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定）。
第 9 回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎をまなぶ。
第 10 回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎をまなぶ。
第 11 回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎および刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係をまなぶ。
第 12 回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則および個別の犯罪の基礎をまなぶ。
第 13 回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎をまなぶ。
第 14 回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎をまなぶ（レジュメ対応とする予定）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。とくに復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。おすすめの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業であつかった基礎知識を問う定期試験 80 %、数回の学習支援システム上での小テスト 20 % の総合評価でおこなう予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は録音聴講形式のオンライン授業でしたが、常に具体例を用いて説明がなされていたのでとても分かりやすく、より理解を深めることができたなどの感想もよせられました。

その一方で、授業開始当初には専門用語が難しすぎるといった指摘もありました。また、録音ならばわからないところは何度も聴いて理解を深められるが、対面授業であれば講義内容の補充が必要になる、といった意見もありました。

原則ほぼ対面授業となる本年度は、一層説明の仕方などに気を配りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルス感染予防の観点から、レジュメを印刷して直接配布をすることはありません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

また、第 1 回は対面・オンライン同時配信の併用、第 8 回は Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式、第 14 回はレジュメ対応にする予定です。これらの点を含めて通信環境等の準備をお願いします。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪についてまなびます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

なお、刑法にかぎらず、法律学は、条文、判例、学説の理解が基本です。これらを十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・経験による見解だけを一方的に主張しても、法律をまなんだことにはなりません。受講にあたり、また定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various divisions and build a society where everyone can live happily while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal law is the goal of this class. [Confirmation question] and [Examination question] are described in the resume. At the end of this course, students are expected to understand answer and its reason for each question and to be able to explain them correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%,mini exam:20%

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【ロ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点等を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第1回の講義で詳しく案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第3回	動物の保護	2019年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。

第4回	水の保護	我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。
第5回	大気汚染の保護	大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。
第6回	土の汚染	土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何か違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。
第7回	廃棄物の処理①	廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。
第8回	廃棄物の処理②	廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。
第9回	廃棄物の処理③ + 会社の罰則（法人処罰）	廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。
第10回	廃棄物の処理④ + 現代社会における環境犯罪対策	工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡す際の罰則について取り扱います。 また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。
第11回	環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み	誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。
第12回	有罪判決と有罪判決後の問題	裁判で有罪判決が受けた場合、さらに争うことが出来るか、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。
第13回	総復習と補足	12回の講義までで終わらなかった箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。 また2022年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。
第14回	試験	学生からの質問に回答した後、評価のための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019年）、ISBN:978-4991111600 を使用する予定です

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井圓編『未来世代の環境刑法 1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）、4200円（税抜）、ISBN:978-4797286748をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します（100 %）。授業への出席は単位修得の前提ですので、出席それ自体を成績評価に加えることは行いません。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【Outline (in English)】

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

The lecture requires 2 hours preparation and review.

Grades are evaluated by examinations.

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。パンデミック禍の感染症予防対策が取られる中、労働と環境がどのように変化するかという点についても検討します。

このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイントを利用し、講義形式で授業を行います。そのほか 1, 2 回程度、ドキュメンタリーといった視聴覚教材を利用します。この場合は、リアクションペーパーの提出を求めます。今年度は、労災事件を担当した弁護士の方講演いただく機会を設ける予定です。

履修人数がそれほど多くないのであれば、講義内において、グループディスカッションをおこなう予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、「労働環境法」はどのような分野を対象とするか。パ	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
	ンデミック下における労働環境法とは	

第 2 回	労働法の基礎知識と労働環境を構築する労働法の仕組み	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第 3 回	過労死や過労自殺の発生原因とその予防について	過労死・過労自殺とはどのようなものか。どのように予防するのか。過労死・過労自殺の事例検討。
第 4 回	労働時間制度の概略・休憩時間、休日	労働時間規制について。法定労働時間と時間外労働 法定休日について。
第 5 回	労働時間制度と休息の確保 休憩時間・休日・休暇、柔軟な労働時間制度と休息	休憩時間・休日・年次有給休暇すなわち休むことについて。変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制と休息について。
第 6 回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか。過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について。
第 7 回	過労自殺について 講演	電通事件を担当した弁護士の話を書く（都合により 7 回から日程が変更される場合があります）。
第 8 回	少子化対策に成功した諸外国のワークライフバランス政策	少子高齢化の問題と女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する少子化を克服することができた国では、どのような政策がとられてきたのかを検討する。
第 9 回	障害・マイノリティと労働環境・障害者雇用	現実に生じている労働力不足に対して、どのような労働政策が行われているのか障害者雇用について検討する。また障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する。
第 10 回	高齢者雇用と外国人労働者	労働力不足と社会保障といった観点から、高齢者雇用と外国人労働者の雇用について検討する。
第 11 回	人格権侵害とハラスメント セクシュアルハラスメントとマタニティハラスメント	セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメントに対する法的規制と判例。
第 12 回	人格権侵害とパワーハラスメント	パワーハラスメントに対する法的規制と判例。
第 13 回	科学技術の発展と就労の変化	加速する IT 技術の発展や通信、運輸の変化によって、労働はどのように変化しているのか。
第 14 回	パンデミックと労働	コロナ感染症の予防対策の中で、失業対策や雇用保障などどのような労働政策がとられたのか検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、予習として、教科書の該当する部分を熟読し講義に臨むよう準備すること。また、指示された判決については、図書館の判例データベース（D1-Law）を利用し実際に判決を読むことが望ましい。復習として、配布されたレジュメ、資料を確認し、理解すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義 第 2 版』（中央経済社 2018 年）3800 円 改定がある場合は、新しいものを準備してください。

六法を用意すること。六法は今年度のものを準備してください。六法についてはガイダンスでも説明します。

【参考書】

浜村彰ほか『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）2090 円

【成績評価の方法と基準】

授業に付随して行われる小テスト（労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベルを予定している）30 % とレポート（「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について論述したもの）70 % による評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

近年の経済的な変動や労働環境の変化もあり、学生の皆さんからは、労働法に対して、とくにアルバイトや労働時間関係など、身近な労働問題に対して強い関心が寄せられている。有給休暇の取得や時間外労働に対する割増賃金未払い、ハラスメントやなど、実用的な法知識についても同様である。このような点についても、各単元において対応することとしたい。

その一方で、コロナ下での解雇やアルバイト雇止めや労働時間の削減など、現在起きている労働問題にも強い関心が寄せられた。このような最新の問題についても、言及することを心掛けたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や質問、理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】

(Course outline) As symbolized by the Dentsu suicide case, the working environment created by working conditions such as working hours, breaks and annual paid vacations poses a very important issue in the workplace.

Measures to address not only conventional issues such as mental and physical health of workers, but also human rights such as power, sexual, and maternity harassment are also required to be considered from the viewpoint of improving the working environment.

In an aging society with a declining birthrate, a work environment with a good work-life balance is required. In addition, rational consideration for workers with disabilities is also an issue that has been required in recent years. These new issues will also be considered from the perspective of improving the working environment. We will also consider how labor and the environment will change as coronavirus infection prevention measures are taken. The aim is to acquire basic knowledge and understanding of laws and precedents that form such a working environment.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1, 2, 3, and 4.

1. To understand the basic regulations and important precedents in labor law, especially those related to labor environment law.

2. To be able to answer basic questions on basic labor law regulations and important precedents related to the "Labor Environment Law".

3. In the next stage, students will be able to answer questions on laws and regulations and important judicial precedents in labor law related to the "Working Environment Law", as long as the questions are not too difficult to those on the examinations for certified social insurance labor consultants and labor standards supervisors.

4. In the next stage, students will be able to answer questions on laws and regulations and important judicial precedents in labor law related to the "Working Environment Law", as long as the questions are not too difficult to those on the examinations for certified social insurance labor consultants and labor standards supervisors. 4.

Students will be able to logically explain the basic laws and regulations and important precedents on labor law that will be covered in "Labor Environment Law".

(Learning activities outside of classroom)

At the end of the lecture, you will be instructed on the relevant part of the next lecture. Students are requested to prepare for the lecture by carefully reading the relevant parts of the textbook and handouts. In addition, when instructed to read judgments, it is advisable to actually read the judgments by using the case law database (D1-Law) in the library, since those in the textbook are digest versions. As a review, it is necessary to understand the definitions of legal terms, outline of important legal systems, and important legal frameworks of judgments by using the distributed resumes, materials, and textbook. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

The evaluation will be based on 30% on the confirmation test (basic questions on basic laws and regulations and important judicial precedents in labor law) given in conjunction with the class, and 70% on the report (a discussion of basic laws and regulations and important judicial precedents in labor law to be covered in "Labor Environment Law").

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【ロ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における自然環境の保全、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・自治体による地域環境政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「揭示版」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度春学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～ そもそも「政策」とは 何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第 2 回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系性と総合性という視点から構図を確認する。
第 3 回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間、農地などの緑資源について検討する。
第 4 回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第 5 回	都市の水辺と地域の総合プロデューサー	都市空間における水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる都市環境政策と自治体の役割について検討する。
第 6 回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。

第 7 回	ヒートアイランドの問題構造と都市政策	21 世紀の都市問題であるヒートアイランドを手がかりとして、公共問題の構造と政策アプローチについて検討する。
第 8 回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道について検討する。
第 9 回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園について検討する。
第 10 回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害をケースとしながら、自治体環境政策における環境規制について検討する。
第 11 回	第 1 世代の自治体環境政策と高度経済成長の時代	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第 1 世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第 12 回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった 20 世紀に対して、21 世紀の課題である地域の「環境再生」と政策について検討する。
第 13 回	第 2 世代の自治体環境政策から現代の景観政策へ	1960 年代後半から 80 年代において、地域空間の質の高めるために登場した第 2 世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
第 14 回	アーバンデザインから考える都市の未来	第 2 世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋積極的な参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

※ 2022 年度春学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

・地域社会や自治体を通して現代社会を理解する機会になるようです。
 ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
 ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思っています。2020 年度については、Zoom のチャット機能をかたり活用し、学習支援システムの「揭示版」を補完的に利用しましたが、2021 年度は対面形式のため、感染リスクに配慮しながら「揭示版」を利用しました。2022 年度も、授業の実施形態に即して対応を検討します。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
 ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
 ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
 ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, control of “Heat island”, sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of regional environmental policy and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about regional environmental policy of local government, and to gain the ability of think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【ロ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、縮小都市やコンパクトシティ、都市と過疎地域の政策連携など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な自治体政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策型思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第 2 回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第 3 回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第 4 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第 5 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第 6 回	地域分散型エネルギーシステムと自治体政策	東日本大震災を契機として全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。

第 7 回	責任共有の政策論理と自治体政策	「環境ガバナンス」にかかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPO など）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第 8 回	持続可能性の多面的構成と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第 9 回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第 10 回	SDGs と自治体政策	国連で採択された SDGs の自治体政策への反映について検討する。
第 11 回	「持続可能な都市」への政策動向	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱や国内の動向を確認した後、政策実践のケースとして、地域交通政策などについて検討する。
第 12 回	21 世紀における都市の持続可能性リスク	災害や感染症などの発作的危機、人口減少社会や地球温暖化などの長期的なリスクを、21 世紀の都市が直面する脆弱性＝都市の持続可能性リスクととらえ、その回避やレジリエンスについて検討する。
第 13 回	縮小都市時代の自治体政策	人口減少社会における「縮小都市」問題を確証し、空き家・空き地対策やコンパクトシティ政策などについて検討する。
第 14 回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋積極的な参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思っています。2020 年度については、Zoom のチャット機能はかなり活用し、学習支援システムの「掲示板」を補完的に利用しましたが、2021 年度は対面形式のため、感染症リスクに配慮しながら、「掲示板」を利用しました。2022 年度も、授業の実施形態に即した対応を検討します。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。

・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine public policy of local government comprehensively towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city and compact city, cooperation policy between urban and rural areas, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community, and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about sustainable policy of local government, and to gain the ability to think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。講義に使用するパワーポイント資料は、事前に学習支援システムを介して配信する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第 2 回	エネルギー消費と産業構造	GDP とエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。

第 3 回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第 4 回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第 5 回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第 6 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第 7 回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第 8 回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第 10 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 11 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 12 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 13 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 14 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし、質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
毎回の講義で使用する資料等を必ず予習・復習をすること。

授業日前に次回講義で使用する資料を学習支援システムを介して配信する。受講生は、学習支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。

エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉（2005）『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎（2011）『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他（2008）『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎（2010）『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10 点

期末試験結果 90 点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、事前に学習支援システムで配布する講義レジュメ内容を予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配信する講義レジュメのプリント。

【その他の重要事項】

学習支援システムを有効に活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: Through learning time trends and current statistic of energy data, to consider the energy policy to be used in future world.

Learning Objectives: To obtain the capability to explain fundamental technologies of energy and relationship between social configuration and utility of energy.

Learning activities outside of classroom: To be required pre- and post- learning of the resume of lecture which will be distributed through the Hoppii. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading criteria: Your overall grade will be decided based on term-end examination 90% and in class contribution 10%.

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決や SDGs に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として SDGs や持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGs などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGs やプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権やバイデン政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題や SDGs など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点と SDGs との関連についても言及し、SDGs に対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第 2 回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議から SDGs まで
第 3 回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要

第 4 回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第 5 回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第 6 回	地球環境ガバナンスの課題（2）：SDGs、プラスチック	SDGs やプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第 7 回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第 8 回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第 9 回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義
第 10 回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（1）	NGO や企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第 11 回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（2）	NGO や企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG 投資など
第 12 回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第 13 回	地球環境政治の見方（1）	リアリズムとリベラリズム
第 14 回	地球環境政治の見方（2）	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワー・トランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第 3 版）』弘文堂、2018 年

【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018 年
 リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガンク編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018 年
 竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会、2020 年
 高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021 年
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010 年
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015 年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015 年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015 年
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016 年
 小西雅子『地球温暖化を解決したい』岩波書店、2021 年
 小西雅子『気候変動政策をメディア議題に』ミネルヴァ書房、2022 年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016 年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019 年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017 年
 蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020 年
 渡邊理絵『日本とドイツの気候エネルギー政策転換』有信堂高文社、2015 年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017 年
 服部崇『気候変動規範と国際レジーム』文眞堂、2021 年
 平田仁子『気候変動と政治』成文堂、2021 年
 舩方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022 年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える 上・下』岩波書店、2017 年
 明日香壽川『グリーン・ニューディール』岩波新書、2021 年
 J. リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK 出版、2020 年

齊藤幸平『「人新世」の資本論』講談社現代新書、2021 年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年
中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年
大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年
三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015 年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年
西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021 年。

今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017 年
山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008 年
鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017 年
西谷真規子編『国際規範はどう実現されるか』ミネルヴァ書房、2017 年
リチャード・ハース『The world (ザ・ワールド): 世界のしくみ』日本経済新聞出版、2021 年

スティーヴン・D. クラズナー編『国際レジーム』勁草書房、2020 年
南山淳、前田幸男編『批判的安全保障論』法律文化社、2022 年
白鳥潤一郎ほか『現代の国際政治』放送大学教育振興会、2022 年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 % で評価する。期末試験については、オンディマンドのためレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。
進度により講義内容を変更することがあります。
課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations
Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
- ・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
- ・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
- ・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.

- ・ Students will be able to understand the impact of the Trump and Biden administrations on global environmental policy.
- ・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業は SDGs を達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまでに以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGs やカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第 2 回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サン トリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第 3 回	株式会社の仕組みと 課題 ケーススタディ②本田 技研工業]	株式会社は誰のもののか ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第 4 回	大企業の機能と専門経 営者の誕生 ケーススタディ③キャ ノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第 5 回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズ キ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車開発
第 6 回	日本の経営の構造 ケーススタディ⑤黒川 温泉（熊本県）	日本の経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第 7 回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥日清 食品	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：カップめん開発

第 8 回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第 9 回	デジタル革命と企業 経営 ケーススタディ⑦ミツ カン	AI・IoT の活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第 10 回	競争戦略とマネジメ ント ケーススタディ⑧ユニ クロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第 11 回	製品開発戦略 ケーススタディ⑨ジブ リ	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：創造力の源泉とは
第 12 回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑩ビー ル業界の企業間競争	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：アサヒが業界トップになった要因
第 13 回	SDGs と ESG 投資	SDGs の概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方
第 14 回	シェアリングエコノ ミー時代の企業経営 とは 日経ストックリーグへ の挑戦	ビリーフドリブン消費者の台頭と 共感を呼ぶ経営とは何か 学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂, 2021 年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂, 2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂, 2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂, 2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂, 2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15 %

期末レポート：85 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年
 「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年
 「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取り組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴やその課題について履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の概念とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営組織の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらう場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN200HA

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（企業内外のステークホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、ミクロ会計のうち、企業を対象とした会計をもとに、環境会計またはサステナビリティ会計を学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析できる能力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、企業会計（財務会計や管理会計）、環境会計、サステナビリティ会計の機能や構造を、環境省やGRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業経営と会計－会計学とは何か－計学を学習することの意義を説明する。
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法	経営分析の必要性和、分析方法を説明する。
第6回	ケーススタディ①	第2回から第5回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第7回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第5回までの講義内容との関係を説明する。
第8回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第9回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。

第10回 環境経営分析	環境会計情報を活用した経営分析の方法を説明する。
第11回 ケーススタディ②	第7回から第10回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第12回 環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第13回 新たな環境会計 サステナビリティ会計	新たな環境会計（マテリアルフロー・コスト会計など）と、サステナビリティ経営のための会計システムを説明する。
第14回 講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、今後の活動（ゼミナール活動など）で必要とされる研究・調査の方法の基礎基本を身に付けてもらうために、配布資料を用いて会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
- ②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってくるください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of corporate accounting, environmental accounting, and sustainability accounting.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める ESG 金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。

第 5 回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第 6 回	ケース 1：再生可能エネルギービジネス	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第 7 回	ケース 2：省エネルギー	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO などを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第 8 回	ケース 3 3R ビジネス 1 / 企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3R からサーキュラーエコノミーに至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第 9 回	ケース 3 3R ビジネス 2 / 企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第 10 回	ケース 4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第 11 回	ケース 5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第 12 回	ケース 6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第 13 回	ケース 7：ESG 投資と環境ビジネス 1 / 企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第 14 回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で 2 時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じて知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50 %）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30 %）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大 6～7 件程度になり、少ない場合は、受講者一人で 1 社を担当してもらいます。

教員は現役の銀行職員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG 評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPO が一般的になってきたのは、ここ 20 年ほどです。

ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会においてますます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPO やボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs 達成に向けて活動する、NPO の実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPO の意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、現代社会の持続可能性と持続可能性について考えます。

- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPO との関係について理解するとともに、SDGs とボランティア、SDGs と市民について考えます。

- ・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができることについて考えます。

- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います（ZOOM のときは、ブレイクアウトセッションを行います）。

- ・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をリアクションペーパーに書き、提出してもらいます。

- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

- ・リアクションペーパーの質問については、次々回の授業の冒頭でコメントし、前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方について ・ボランティア、NPO、SDGs に関する基礎知識
		・説明 ・私たちの生活と、持続可能性

第2回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類(NPO、NGO、CSOなど)
第3回	SDGsの基礎知識～SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と意義 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か?	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題(プラスチックごみ問題)と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例(クリーンアップ等)を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例(希少種保全等)を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・マルチステークスホルダーの重要性
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例(学習支援等)を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例(路上生活者支援)を通して、持続可能性について考える
第12回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する
第13回	授業の振り返りと発表①	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表
第14回	授業の振り返りと発表②と補足	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表 ・補足

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

・各回のレジュメ(パワーポイント資料)配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみること。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。

・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。

・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト(教科書)】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs 市民社会ネットワーク 発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢など)：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で活動をしています。

・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。

・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas.

If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【ロ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業における ルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第 2 回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。

第 3 回 ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン

「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。

第 4 回 認知症と地域福祉

認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。

第 5 回 高齢者と地域福祉

介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。

第 6 回 子ども・家庭と地域福祉①

児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。

第 7 回 子ども・家庭と地域福祉②

子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。

第 8 回 障害のある人々と地域福祉①

これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第 9 回 障害のある人々と地域社会②～

これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第 10 回 社会的孤立・生活困窮者と地域福祉

野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。

第 11 回 多様な性と地域福祉

13 人に 1 人と言われる LGBT への理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。

第 12 回 外国人と地域福祉

日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。

第 13 回 地域福祉の推進主体）～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司

住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心となる団体について、学ぶ地域福祉を推進する NPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。

第 14 回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク

住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27 巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10 巻（朝日新聞）

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
 柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館） 他
 随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業映像の視聴と課題）が 40%、途中に取り入れる小レポート（主に映像に関するもの）が 10%、学期末レポート 50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業は、映像を視聴し、それと共に課題に取り組み、その双方を持って出席とします。

【Outline (in English)】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of “garbage residence”, “hikikomori” (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ただ開講時のコロナ感染状況が判断できないため、各回の授業形態については初回授業前に学習支援システムにおいてアナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コモンズとは何か？	コモンズの定義について説明する。
(1)		
第 2 回	コモンズとは何か？	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
(2)		
第 3 回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第 4 回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 5 回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 6 回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 7 回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 8 回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第 9 回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。

第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたいうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を60%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を40%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 60%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 40%.

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOとNPOについて講義
第2回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第3回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第4回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第5回	NGOケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGOケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議
第9回	日本のNGO 1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査
第10回	日本のNGO 2	日本NGOについてグループ調査発表と講義

第11回	世界の NGO 1	世界 NGO 史について講義と世界の NGO についてのグループ調査
第12回	世界の NGO 2	世界の NGO についてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGO で活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGO の役割	NGO の社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけたていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート 80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性は SDGs の随所に見られる。しかし SDGs で言及されるように、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGs、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGs に関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGs の関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当する SDGs の目標番号【】で記す。学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs 全体】
2	社会開発の概要 2 国連と SDGs	国連の SDGs の枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs 全体】
3	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数 (HDI)、ジェンダー開発指数 (GDI) などの主な国際指標を理解する。【SDGs #1, 2, 3, 4 & 5】
4	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国・国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs #17】
5	社会開発の概要 5 市民、NGO	NGO の活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs #16】

6	社会開発の分野 1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGO の取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs #1 & 11】
7	社会開発の分野 2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECD や ILO のデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs #1】
8	社会開発の分野 3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs #10】
9	社会開発の分野 4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs #8 & 10】
10	社会開発の分野 5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs #3 & 5】
11	社会開発と社会変容 1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs #4】
12	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
13	社会開発と社会変容 2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動と NGO 等による社会開発の役割について考える。【SDGs #8】
14	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行い、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します。
各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布します。
授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化します。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）『SDGs を学ぶ-国際開発・国際協力入門』法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）『SDGs-危機の時代の羅針盤』、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当しています。2020,2021 年度はオンデマンド授業となりましたが、事前に学生に周知した上で、提出したレポートを互いに見合い、コメントし合う機会を設けました。学ぶことが多かったというコメントが多くみられました。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業となっても、レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.

2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).

3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;

2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and

3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

not applicable

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),

2. Final exam(40%), and

3. submission of feedback paper in each class(30%).

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」等を実作する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※ 2021 年度はオンデマンドで授業を行なう予定である。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	俳句の三要素 俳句形式の特質	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第 2 回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第 3 回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第 4 回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第 5 回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第 6 回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第 7 回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第 8 回	漢詩と俳句／俳句と川柳	漢詩の影響を受けた俳句、俳句と川柳の違い／実作（俳句・川柳）
第 9 回	子規の後継者（碧梧桐と虚子）	碧梧桐と虚子、新傾向俳句・自由律俳句、「ホトトギス」黎明期／実作（俳句）
第 10 回	虚子とその弟子たち	「ホトトギス」黄金期、4 S、秋桜子の「ホトトギス」批判、連作、新興俳句運動／実作（俳句）
第 11 回	戦後の俳句	社会性俳句・前衛俳句・伝統回帰／実作（俳句）
第 12 回	現代俳句	鑑賞（平成・令和に詠まれた俳句）／実作（俳句）
第 13 回	国際俳句／海外俳句	外国の歳時記、鑑賞（国際俳句）、鑑賞（海外俳句）／実作（俳句）

第 14 回 文人俳句

鑑賞（文人俳句）

実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家をみつけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回 2～3 句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第 1～3 巻（角川学芸出版）
日原傳『365 日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・提出作品） 40 %
自信作 10 句（春学期に作った自作 10 句） 10 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports: 10%、in class contribution: 40%

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書きいただきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 3 回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 4 回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第 5 回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第 6 回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第 7 回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第 8 回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第 9 回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。

第 10 回 日本人の主情性 一家
庭悲劇のドラマツル
ギー—（1）

歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。

第 11 回 日本人の主情性 一家
庭悲劇のドラマツル
ギー—（2）

歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。

第 12 回 歌舞伎と文楽

歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。

第 13 回 総括

春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。

第 14 回 期末試験（記述式）と
復習

13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、

必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50 %

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50 %

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業は BT0309 教室にて実施する。学習支援システムを利用する。

Zoom 講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いています。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第 3 回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第 4 回	ギリシャ悲劇： ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第 5 回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 6 回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 7 回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 8 回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 9 回	翻案劇とは何か？	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第 10 回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。

第 11 回 歌舞伎の理想美

歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。

第 12 回 演劇の季節感

歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。

第 13 回 伝統とは何か

第 14 回 復習と期末試験

13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。オンラインでも楽しめる動画があります。講義でもご紹介します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50 %

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）
ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50 %

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論Ⅰ」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

CUA200HA

環境人類学 I

橋爪 太作

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀を生きる私たちは、世界規模の気候変動、新型コロナウイルスなどの人間を超えた自然の力に対処することを余儀なくされています。この授業では世界各地の人間と自然環境の関わりについて探求してきた人類学の成果を学ぶことを通じて、私たち自身の自然観を相対化するとともに、人新世と呼ばれる新たな自然と向き合うヒントを探ります。

【到達目標】

本授業では人間と自然の関係をどう捉えるかという問題について、文化人類学が明らかにしてきた多様な事例からアプローチすることで、SDGs、脱炭素など現代の我々が直面する環境問題に対し、グローバルかつクリティカルな思考で取り組む能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は評価に含まれます。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (1)	講義の概要説明と成績評価の説明。
第 2 回	イントロダクション (2)	いま、自然と人間を人類学的に考える意義について論じます。
第 3 回	稲作と焼畑と「日本人」	自然環境が文化に与える影響という環境人類学の古典的な議論から、日本人というアイデンティティの成り立ちを考えます。
第 4 回	最初の豊かな社会	焼畑や狩猟採集などの「原始的」な自然環境利用について紹介します。
第 5 回	理想郷の戦争 (1)	南太平洋ニューギニア高地の人々による伝統的戦争を記録した映画 <i>Dead Birds</i> を観たあと、内容について議論します。
第 6 回	理想郷の戦争 (2)	映画に描かれた事例から、自然の豊かさと社会のあり方の関係について考えます。
第 7 回	自然と政治	焼畑耕作を行う山地民と水田耕作を行う平地民が対立してきた東南アジアの歴史から、自然と政治の関係を考えます。
第 8 回	誤解されてきた景観	西アフリカの森林／サバンナ地帯で調査を行い、人間によって作られる「アフリカ版里山」の存在を明らかにしたフェアヘッドとリーチの研究を紹介します。
第 9 回	シシ神の森の再生 (1)	自然と人間の現代的な関わりについて描いた作品として、宮崎駿監督作品『もののけ姫』を観ます。
第 10 回	シシ神の森の再生 (2)	映画の内容から私たち自身の自然への向き合い方を捉え直します。

第 11 回 廃墟化した世界の中で生きる

第 12 回 多種多様なつながり

第 13 回 不穏な未来と向き合う

第 14 回 まとめ

人間の経済活動により廃墟と化した自然と、にもかかわらずしぶとく生きる人々を描いたアナ・ツィンの著書『マツタケ』について紹介します。現代の人類学が作り上げつつある、自然と人間の関係についての新たな考え方を紹介します。

南太平洋ソロモン諸島のフィールドから、豊かな自然と不穏な未来への予感の中で生きる人々の姿を紹介します。

ここまで紹介した議論を通じて、人新世と呼ばれる生まれつつある新たな自然と向き合うためのヒントを探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20 %)

グループディスカッションへの参加 (6 %)

ディスカッション後の小レポート提出 (24 %)

期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム) と Google クラウドスループを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

-Course outline

Living in the 21st century, we are forced to cope with the forces of nature beyond human control, such as climate change and COVID-19. In this class, we will learn about the findings of anthropological studies that have explored the relationship between humans and the natural environment in various parts of the world, in order to relativize our own view of nature. We will also look for hints on how to deal with the new nature called the Anthropocene.

-Learning Objectives

In this class, we will approach the issue of how to understand the relationship between humans and nature from a variety of examples revealed by cultural anthropology, with the goal of cultivating the ability to tackle the environmental issues we face today, such as the SDGs and decarbonization, with global and critical thinking.

-Learning activities outside of classroom

The material used in class is only an outline. In order to understand what is explained in the class, please take notes each time. Please be sure to read the handouts before the next class.

-Grading Criteria/Policy

Attendance (20%)

Participation in group discussion (6%)

Submission of a short report after the discussion (24%)

Final report (50%)

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

藤原 江美子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、人間と自然の関係について探求してきた人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景のもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深めます。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について社会文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と試験の説明、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	人と森(1) 生業	人間と自然環境との相互関係について、インドネシアにおける人間の生業（とくに焼畑）に着目した研究を紹介します。
第4回	人と森(2) 文化・社会	人間と自然環境との相互関係を、人間の生業と結びつく文化的・社会的側面から理解します。
第5回	人と資源(1)	インドネシアの天然資源開発を例にそこで生じている環境問題について紹介します。
第6回	人と資源(2)	ポリティカル・エコロジーの視点を紹介します。
第7回	中間試験	中間試験を行います。
第8回	人と開発(1)	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第9回	人と開発(2)	多民族地域社会における土地をめぐる人々の軋轢の事例をもとに地域レベルにおける土地開発の影響について理解します。
第10回	人と開発(3)	国家政策と土地の権利をめぐる人々の軋轢の事例をもとに国家レベルにおける土地開発の影響について理解します。
第11回	人と森と資源(1)	コモンズ論の視点を紹介します。
第12回	人と森と資源(2)	環境問題や環境保護運動への様々な視点を紹介します。

第13回 人と森と資源(3) 大量消費社会が生み出す環境問題について講義し、私たちの生活といかにつながっているかを講義します。

第14回 期末試験 期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します。

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii（学習支援システム）と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology II" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations.

Outline and objectives of the course

In Environmental Anthropology II, students will learn about the diverse relationships between humans and the environment based on various cultural backgrounds, referring to ethnographies and theories by anthropologists who have explored the relationship between humans and nature. We will also discuss environmental issues in our daily lives using an environmental anthropological approach, and deepen our understanding of the importance of understanding cultural aspects.

【Goal】

This lecture aims to deepen students' knowledge of the relationship between humans and the environment and their global perspectives, as well as to develop their critical thinking skills by reconsidering familiar environmental issues using a socio-cultural anthropological approach.

【Work to be done outside of class (preparation, review, homework, etc.)】

Students are expected to prepare for and review the material presented in each lecture.

(Preparatory study) Detailed lesson plans will be distributed at the first class, so please refer to them each week and read the literature used in each lecture before the class.

(Review) Questions for the midterm and final exam will be based on the literature used in the lectures and the lecture content. Students are encouraged to take notes during the lecture and to review the literature and lecture notes after the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading method and criteria】

Students will be required to submit a reaction paper during the lecture (30%) and take a written exam at the mid-term and final (70%).

TRS200HA

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【ロ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心はどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために 1992 年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も 2005 年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。

・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながるが多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とした、ふつうの講義形式です。（初回のみ全オンラインとし、履修者が 200 名を超える場合は、オンライン参加も含めて 2 回目以降の受講の方法を柔軟に考えます。）テーマの性格上、PPT を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入の説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	ユネスコの「世界遺産」概説 その 2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）

第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容
第 5 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第 6 回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第 7 回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第 8 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第 1 号のまちの市民活動の歴史、特色
第 9 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第 10 回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第 11 回	精神文化と一体の景観（2）	沖縄の御嶽、富士山
第 12 回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第 13 回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第 14 回	総集編	初回～13 回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第 I 部第 6 章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75 %、毎回の小テスト 25 %。

【学生の意見等からの気づき】

21 年度は休講でしたが、20 年度のオンデマンドスライド教材は、文章の説明がわかりやすい（読みやすい）という声や、画像が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。一方、回によって分量が異なり、ハードな回もあったようで、今年度はその点の改善を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サステイナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 75%, each quiz 25%

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づけられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「環境表象論Ⅰ」と同様の予定です。（初回のみ全オンライン、2 回目以降は教室での対面授業を基本としますが、履修者が 200 名を超える場合は、オンライン参加も含めた柔軟な受講方法を考えます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第 2 回	季節の周期変化と文化的景観	循環する自然に即した生活文化の遺産
第 3 回	有機的に進化する景観（1）	沖縄県竹富島の紹介前編
第 4 回	有機的に進化する景観（3）	竹富島の紹介後編
第 5 回	伝統継承の階層的発流	「文化財」概念の進化への日本民族の好適性
第 6 回	「五感」のエコロジーと文化的景観	「五感」の視点の概説
第 7 回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第 8 回	光と影・闇（2）	丹保文化における「闇・影」、エコの視点からの重要性
第 9 回	音風景とは何か（1）	概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第 10 回	音風景とは何か（2）	前回の続き
第 11 回	「残したい日本の音風景 100 選」から（1）	「自然」の音風景（波、潮騒、滝、風等）の文化的意味
第 12 回	「残したい日本の音風景 100 選」から（2）	生き物の声の音風景と、聴ける場所の環境の価値
第 13 回	「残したい日本の音風景 100 選」から（3）	伝統的な生業に関わる音風景 その他

第14回 総括—人間の「身体 環境表象論Ⅰのポイントも含めた性」(内なる環境) 重 まとめ
視と感覚環境のまじり
くり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰと同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75 %、毎回の小テスト 25 %。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"

・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 75%, each quiz 25%

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

2022年度の授業は、すべて対面での開講を予定しています。ただし、第1回講義は、そのときのCovid-19感染状況に応じた大学の行動方針レベルでの授業形態で実施します。事前に授業形態（対面 or オンライン）を学習支援システムやGoogle classroomで予告しますので、必ず確認してください。また、春学期開講後にも、授業形態を変更する可能性があります。この変更も授業内、学習支援システム、Google classroomで事前に予告します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子とは何か	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量の関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元(1)	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元(2)	COD (化学的酸素要求量) 値およびDO (溶存酸素量) 値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎(1)	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎(2)	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物(1)	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物(2)	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物(3)	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物(4)	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム

第12回 第7章 酵素	酵素, 補酵素, 補欠分子族のはたらき
第13回 第8章 核酸	DNAとRNAの構造, 遺伝子発現のしくみ
第14回 期末テスト, まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト, およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストをオンラインで実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたは Google classroom から各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20％、期末テスト（60分間で解答×1回）：60％、課題レポート（800字程度×2）：20％の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google classroom とにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google classroom のメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回 神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回 感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回 発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回 まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

鈴木 倫太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、受講者が生態学の基礎とともに、地球環境と生態系の成立ちに関する知識の獲得と理解を第一の目的とします。次に、受講者はその理解を基に、人と生態系の繋がり、自己と地球環境との繋がりについて調べ、考察します。また、具体的な事例としてサンゴ礁生態系について取り組みます。本授業の受講者は、これらの過程を経て、現在の地球環境の状況を踏まえ、今後の予測される地球環境と生態系の変化についての情報を理解する能力と、自らの考えを有する力を養うことを目標とします。

【到達目標】

本授業では、以下の点と到達目標とします。

1. 地球環境と生態系の成立ちを理解します。
2. 生態学的基礎知識を獲得します。
3. 生態系と自らの生活との繋がりについて、調べ、考え、理解します。
4. 地球環境と生態系に関する知識を基に、今後の地球環境の変化に対応する考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形態で行い、対面とオンラインのいずれかで実施します。また、講義内容に伴うアクションペーパー、レポート作成と提出を適宜求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと序論	講義内容の紹介と進め方、生態学の考え方。
2	地球環境の形成	地球の歴史と生き物が住む地表環境の形成
3	地球環境の形成と生物	地球の環境の変化と生物の進化
1		バクテリアから人間まで
4	地球環境の形成と生物	生物とは？ 生物学の基礎知識
2		生物が棲む場の条件と形成 大気・海洋
5	生態学 1 生態系	生態系の成立ちと単位 個体群と生物群集
6	生態学 2 物質循環	共生と物質循環 植生・土壌
7	生態学 3 生物多様性	生物多様性 生態系の種類と分布
8	生態学 4 生態系サービス	生態系サービス ー生態系が果たす様々な機能とその恩恵-
9	サンゴ礁の成立ち	サンゴ礁環境の成立ち -なぜ？ サンゴ礁の海は青いのか-
10	サンゴ礁生態系	造礁サンゴの生態とサンゴ礁生態系
11	サンゴ礁環境	地球環境の変化とサンゴ礁生態系の変化
12	地球環境の変化と生態系	地球温暖化と生態系の影響
13	地球環境と生態系保全	生き物を守る理由とは？ 生態系保全の考え方
14	試験・まとめと解説	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料は適宜紹介します。

【参考書】

- ・「生態学入門-生態系を理解する- 第 2 版」原口 昭 編著 生物研究社 2015 年
- ・「トマトはなぜ赤い—生態学入門」三島二郎著 東洋館出版社 1992 年
- ・「小学館の図鑑 NEO 地球」小学館 2021 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法

・期末テスト 60 % (筆記) ・レポート課題の評価 40 %

期末テストでは、講義で取り扱った内容についての理解 (到達点目標 1～4) を問う問題を設定し、その解答する筆記テストを行い、その点数を成績評価の評価点とします。期末テストでの評価は、全体評価点の 60 % とします。

レポートは、講義内容に沿ったテーマを設定し、各自が作成したレポートを提出してもらいます。提出されたレポートは 5 段階で評価し、その点数を成績評価における評価点とします。レポートの評価は、全体評価点の 40% とします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習得だけではなく、生態学の社会への応用と環境保全の現場の事例を紹介しながら、理解を深める授業を実施します。

【実務経験のある教員による授業】

- ・国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 衛星観測研究室 高度技能専門員
 - ・公益財団法人 日本生態系協会 グランドデザイン総合研究所 主任研究員
 - ・公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン) サンゴ礁保護研究センター長
 - ・非営利活動法人 喜界島サンゴ礁科学研究所 研究員 (現在)
- サンゴ礁環境の研究業務、生態系環境保全に関する実務経験があります。授業では、これらの実務経験で得た知識と、生態学の社会貢献の具体的事例についても紹介します。

【Outline (in English)】

The primary aim of this course is to provide students with a basic understanding of ecology and a knowledge of the global environment and the origins of ecosystems. Secondly, building on this understanding to investigate and reflect on the connections between people and ecosystems, and between themselves and the global environment. Furthermore, this course will focus on coral reef ecosystems as a concrete example. Through these processes, the students in this course aim to develop the ability to understand information and to have their own ideas about the current global environment and about the expected future changes in the global environment and ecosystems.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Understanding the formation of the global environment and ecosystems.
2. Acquisition of ecological basic knowledge.
3. Verify the connection with your life.
4. Acquisition of ways of thinking in response to global warming.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination: 60%, reports :40%.

PLN200HA

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことから深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。具体的には（１）気候変動科学のこれまでの経緯、（２）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（３）温暖化予測の概要、（４）大気と海洋の循環と熱収支、（５）炭素循環、（６）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	地球温暖化の概要（１）	いくつかの観測結果を概観する。 世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 3 回	地球温暖化の概要（２）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 4 回	地球温暖化の概要（３）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 5 回	地球温暖化の概要（４）	将来取り得る選択肢についての議論
第 6 回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 7 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 8 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 9 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 10 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第 11 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 12 回	放射平衡	大気・多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 13 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 14 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実態と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。具体には（１）気温の変化とその測定方法、（２）温室効果ガスの増加とその原因、（３）エアロゾルの影響、（４）降水・積雪への影響、（５）海洋への影響、（６）気候変動の予測と不確実性、（７）適応策・緩和策、（８）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	平均気温の変化（１）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第 3 回	平均気温の変化（２）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第 4 回	温室効果ガス（１）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第 5 回	温室効果ガス（２）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第 6 回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第 7 回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第 8 回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第 9 回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第 10 回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第 11 回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。

第12回 緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。
第13回 古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。講義をまとめる。
第14回 まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

三村 起一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような政策を進めなければなりません。

自然環境政策論Ⅰ（春期）では、自然環境にかかる様々な背景事象や対策等について関係法令も含め学ぶことにより、自然環境問題について理解を深めることを目指します。

【到達目標】

保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題、さらにはそれらを解消するための取組について理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

日本における自然環境保全制度について、半期終了後にはその全体像が把握でき、到達目標をかなえるよう、各制度の歴史的背景や課題、具体的な対策やその達成状況等を国内外の実例やエピソードを交え説明し、知識と問題意識の共有を図っていきます。

また、課題提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境の概念、環境問題の難しさ
2	自然環境の保全とは何か	自然環境に関する国内外の動向
3	希少野生生物の保護	種の保存法を中心に各種施策をレビュー
4	外来生物対策	外来生物法、カルタヘナ法について
5	一般鳥獣に関する課題1	鳥獣施策のあゆみ
6	一般鳥獣に関する課題2	鳥獣法について
7	ペットに関する課題	動物愛護法、ペットフード法について
8	国立公園に関する話題1	国立公園制度のあゆみ
9	国立公園に関する話題2	自然公園法について
10	原生的な自然環境の保全	自然環境保全法について
11	自然の再生に関する課題	自然再生法、エコツアーリズム推進法について
12	生物多様性の保全1	生物多様性基本法について
13	生物多様性の保全2	生態系サービス、SATOYAMA活動について
14	春期のまとめと振り返り	我が国の自然環境行政の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用した予習・復習が必要です。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。自主学習により講義テーマに関わる知識の深化や講義で抱いた疑問についての解決を図るとともに、日常的に、メディアや旅行等においても自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めます。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業毎のリアクションペーパー（50%）、期末試験（50%）の2項目で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列とならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【学生が準備すべき機器他】

国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めますので、スマホ、PC 等を持参してください。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of natural environment issues by learning about the background events and countermeasures related to the natural environment, including related laws and regulations.

And then, students will deepen their understanding of the characteristics of the natural environment to be conserved, the current status and issues of problems caused by human activities, and the efforts to resolve them, and acquire the ability to explain the main points.

Students are required to prepare and review the materials introduced in each lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students are also encouraged to use independent study to deepen their knowledge of the lecture topics and to resolve any questions they may have in the lectures, as well as to pay attention to the natural environment on a daily basis, in the media, and when traveling.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short-report : 50%, Term-end examination : 50%

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例

第11回	国際的な取り組み	3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済		企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第13回	生物多様性と政策		生物多様性条約、生物多様性オフセット、ビオトープ
第14回	地域資源の活用とエコツーリズム		エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末課題（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に付けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

多人数の講義であるため、基本的にオンライン（オンデマンド）で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢化社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題

第11回 少子・高齢社会における介護問題、高齢者虐待
健康問題②

第12回 児童虐待 児童虐待の現状と対策

第13回 感染症 性感染症・食中毒

第14回 まとめ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に着けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に着けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。多人数講義のため、オンデマンドで講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について

第10回 生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第11回 生命倫理②	医療訴訟
第12回 生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回 生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回 まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの講義のため、視聴のためのパソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業(Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンラインによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害

第 7 回 精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性 うつについて学ぶ
第 8 回 精神障害④	摂食障害について
第 9 回 精神障害⑤	不安障害
第 10 回 精神障害⑥	統合失調症
第 11 回 精神障害⑦	発達障害と就労問題
第 12 回 精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実 際について（有効な疾患）
第 13 回 精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実 際について（サプリメント）
第 14 回 まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読
むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012 年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促
し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。
オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及
び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入
れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心と
した統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease,
to preserve and promote health, and to enable people to develop
fully and to reach their full physical and mental health status.
In this course, students will learn about mental illness and be
able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental
illnesses so that they can maintain their own mental stability
and be sensitive to the condition of not only themselves but
also those around them, such as family, colleagues, and friends.
Through learning about the symptoms, students will be able to
recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to
maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve
mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental
illness (prevention, early detection and treatment, and
reintegration into society), as well as to remove prejudices
prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the
lecture. Students are expected to read newspapers with an
awareness of related topics. The standard preparation and
review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be
submitted at the end of the term (100%).

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮し
た防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプロ
ーチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がど
うなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。事例やメカニズ
ム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害リスクを低減させる取り組みについて自然・社会の両面から具
体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそ
れを踏まえて人間社会のあり方を見つめなおす。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された
課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバッ
クを行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援シ
ステムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、 防災とは
第 2 回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第 3 回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地 震発生繰り返しモデル、長期評価
第 4 回	地震災害の諸相 (1)	地殻変動、地震動、液状化
第 5 回	地震災害の諸相 (2)	地震火災、津波、津波火災
第 6 回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火 砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、 火山灰
第 7 回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪 雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第 8 回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、 地すべり、土石流
第 9 回	土地利用と社会基盤 (1)	災害危険区域、津波災害警戒区 域、防潮堤、かさ上げ、高台移 転、流域治水
第 10 回	土地利用と社会基盤 (2)	耐震基準と耐震等級、活断層の直 上と近傍
第 11 回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、 特別警報、気象警報・注意報、緊 急地震速報、津波警報・注意報、 噴火警報・注意報
第 12 回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警 戒レベル
第 13 回	災害の歴史・災害経験 の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺 構、活断層の保存
第 14 回	ハザードマップと防災 教育	ハザードマップ、災害図上訓練 (DIG)、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）・期末レポート（60 %）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通して共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点 でみる自然、生物地理とバイオーム
第 2 回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間 活動との関わり
第 3 回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間 活動との関わり
第 4 回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間 活動との関わり
第 5 回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第 6 回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系 の特徴、人間活動との関わり
第 7 回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系 の特徴、人間活動との関わり
第 8 回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、 人間活動との関わり
第 9 回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特 徴、人間活動との関わり
第 10 回	ロシア・中国・朝鮮半島 島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と 生態系の特徴、人間活動との関わり

第 11 回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の 特徴、人間活動との関わり
第 12 回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間 活動との関わり
第 13 回	大洋の島々の自然	主に海洋島の生物と生態系の特 徴、人間活動との関わり
第 14 回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズ ムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末課題（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

CAR200HA

キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Almost all the students will start working after graduation. The students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【到達目標】

This subject aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture will be given in English. However, if the number of students is not big, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make a presentation in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and partly in English speaking countries focusing on career making in the global stage. The details will be announced through the HOPPI.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent three sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who, after graduation, will try to find a job in Japan or at a Japanese company overseas.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.

week 6	International students at Hosei	Students will look at international students studying at Hosei and Hosei students studying overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will learn how people make a job career in Japan and briefly in the overseas students' home countries.
week 8	How to make a job career (2)	Students will have an overview of how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	The employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final examination or essay and comments	A final essay type of examination or essay and comments on it. It depends on the number of students whether they will have an exam or essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance, make clear what they cannot understand, should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each session. The expected time to spend on reading before and after each lecture is two hours.

【テキスト（教科書）】

This subject does not use a particular textbook. Reading materials are provided from time to time prior to the lectures.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and attendance and participation in class discussion (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including work experiences overseas or experiences of working using English in Japan.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years at school. The lecture will be given in English and it will give students a challenging opportunity to learn job careers in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must bring their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties and courses.

【Outline (in English)】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【Outline and objective】

Almost all the students will start working after graduation. The students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【Goal】

This subject aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance, make clear what they cannot understand, should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each session. The expected time to spend on reading before and after each lecture is two hours.

【Grading criteria】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and attendance and participation in class discussion (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【ロ】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガ FTA の締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第 2 回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980 年代の GATT ウルグアイ・ラウンドから近年の FTA に至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第 3 回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第 4 回	アメリカ農業の歴史と現状	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第 5 回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。

第 7 回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第 8 回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的な多様性や農地政策改革に注目して検討する。
第 9 回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和・一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第 10 回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第 11 回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第 12 回	食品安全問題の理論と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと対応する政策の枠組みを、流行している家畜疾病や、生協産直の動向にも注意を払いながら解説する。
第 13 回	災害と農業	東日本大震災、気候変動や新型コロナウイルス感染症等の災害が頻発する中で、農業がどのような影響を受け、またそれらを防ぐためにどのような貢献ができるか考察する。
第 14 回	エピローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002 年（4,200 円＋税）。
- ③山崎亮一『農業経済学講義』、日本経済評論社、2016 年（本体 2,800 円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを適宜導入する等、学生との双方向の授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業の前に学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べものがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べものがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べものがたり」について話し合う。
第3回	「食べものがたり」の風土学	歴史・自然・技術を複合的に理解し、地域の産業を論じる視座を紹介する。
第4回	三澤勝衛の「風土産業論」	風土産業論を提唱した地理学者の視点と今日的意義について論じる。
第5回	事例研究1	ぶどうとワインの Local Food Story を紹介する。
第6回	事例研究1	勝沼の歴史・自然・技術を読み解く。
第7回	事例研究1	Local Food Story 実践プランを作成する。
第8回	地域固有性への評価と地理的表示保護制度	地理的表示保護制度（GI）について学ぶ
第9回	地域固有性が食と農の魅力を引き出す	食文化創造都市について学ぶ。
第10回	事例研究2	長野県の Local Food Story を紹介する。
第11回	事例研究2	「味」は文化財になり得るか？ という問いについて考える。
第12回	事例研究2	食と農とコミュニティについて考える。
第13回	旅と物語	Local Food Story の旅プランを作成する。
第14回	まとめ	食と農と環境をつなぐ物語を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
- その他、随時紹介します。
- ・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
- ・金田章裕『和食の地理学—あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年
- ・池上俊一『パスタでたどるイタリア史』岩波ジュニア新書、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆ Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: normal score: 40%, mid-term report: 30%, final report: 30%.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅲ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題ーアフリカとインドと日本の現場から	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点ー私たちは何者なのか	食するという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境ー下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編ー都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政ー清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係史を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアログ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境ー「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのかー「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か（1）ー胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か（2）ー土と農業	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか（1）ー食の再考	食べもの、食えること関わる現代社会の状況を把握する。
第13回	食べものはどこへ行くのか（2）ー食の可能性	食と農と環境の今後の展望を考える。

第14回 私たちはどこへ行くの 講義内容を総括し、今後の課題を
か 議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関
心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各
2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、
2018年
・湯澤規子『7袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』晶
文社、2019年
その他、随時紹介します。
・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのか―人糞地理学こ
とはじめ』ちくま新書、2020年
・佐藤大介『13億人のトイレ―下から見た経済大国インド』角川新
書、2020年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によっ
て評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な史料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したい
と思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オンデマンド配信で実施する予定ですが、第7回（11月11日）は
リアルタイムオンラインで対話の時間を設けます。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will examine the history of society
and economy from the perspective of "food" and "agriculture,"
with the aim of gaining a perspective on contemporary society
and its future.

◆ Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture
issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based
on fieldwork-based research in regional economics, as well as
knowledge and results from geography, history, anthropology,
sociology, and ethnography.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in
each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels,
movies, news, etc. related to the lecture content and deepen
your consideration. The standard preparation and review time
for this class is 30 minutes each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (50%) and final
report (50%).

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社
会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、雇用をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関し
ては、長時間働くことで健康を害するばかりでなく、人としてのプライベート
ライフをもちにくくさせたり、家庭等の事情で長時間労働を行うことができ
ない一定の労働者をキャリアシステムから排除してしまうなど、さまざま問
題が引き起こしています。近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道
されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。
このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、非正規雇用の問題も近時意識されている問題です。非正規社員であ
ることのデメリットは、単に賃金が安いというだけにとどまらず、仕事を通
してスキルアップするという重要な機会を逸することでもあります。スキル
アップはキャリアアップの前提となるので、この状況が経済的格差をより一
層助長しているといえます。このような非正規社員の問題は看過しえない問
題と認識されるように至り、現在、非正規雇用の問題に関しては、さまざま
な法規制がなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意して
いるのかについて学び、上記のような雇用をめぐる問題を検討しつつ、実際
の労働の現場において、労働者として不利益を被らないために必要となる知
識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授
業計画に示します。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提
出してもらったリアクションペーパーに関しては、次の授業において可能
な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論
を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス及び労働法の概要	授業をどのように行うかについての詳細を示します。雇用に関するルールの概要を学びます。
2	労働法の新たな基本理念	労働環境の変化、そして現状への対処について検討します。
3	労働契約の成立	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
4	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
5	労働時間規制	労働時間規制がどのようになされているにもかかわらず、長時間労働が生じてしまう現状について検討します。
6	長時間労働への対策	長時間労働を防ぐために国はどのような制度を用意したか、その内容と問題点を指摘します。
7	残業代不払をめぐる問題	労基法の労働時間規制を免れるための脱法行為をいかに防ぐかについて、検討します。
8	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
9	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
10	懲戒制度	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、検討します。
11	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について考えます。
12	正規雇用と非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について検討します。
13	雇用差別	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築できるかについて考えます。

14 試験・まとめと解説 授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第6版〕』有斐閣アルマ

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第12版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第9版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を実施します。
平常点（リアクション・ペーパーなど）（10％）と試験の点数（90％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりにすぎないよう、中心的テーマに絞り授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め了承いただきたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related matters.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 90%, Short reports : 10%

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面での授業となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせる。進め。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】 チェックイン
2	「ともに社会をつくる関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】 ファシリテートされた体験を振り返る
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	【講義】 空間のデザイン：フォーメーション、グループサイズ 【演習】 多様な場づくりから学ぶ
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	【講義】 オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】 事例をもとに、オリエンテーションを考える
5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	【講義】 発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】 考えを深める/広める「問いかけ」をし合う
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	【講義】 可視化：書きながら、見ながら話し合う 何をどう可視化するのか 【演習】 議論を可視化する
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	【講義】 意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】 グループでの合意形成を体験
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーション	【講義】 オンラインならではの特徴を理解したうえでのスキルとは 【演習】 オンライン・ファシリテーター体験
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①

10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考える ワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】 プログラムデザインを考える ワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法
共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他
岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」 青木将幸 ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」 鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」 朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムのオンライン事業を予定しているので、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation. as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative. in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

Learning Objectives

The purpose of this class is to acquire knowledge and techniques for facilitation in meetings, discussions, and other participatory settings. Students will become to understand the definition and effects of facilitation, and acquire skills in dialogue and discussion that will enable meetings, workshops, and discussions to proceed in a meaningful way. In addition, students are expected to understand, through case studies, what kind of wisdom and skills are necessary not only in facilitating discussions, but also in supporting and promoting projects and organizations to solve social issues.

The class will be conducted face to face. The class will proceed through a combination of lectures and exercises according to the designated textbook. Assignments will be submitted and feedback will be provided through the "Learning Support System". The students will share their findings and questions in reaction papers and other materials in the class to create a process where they can learn from each other.

Learning activities outside of classroom

Please be aware of how the kinds of discussions (in club activities, seminars, etc.) and workshops you are currently involved in (fun, meaningful, boring, etc.) are conducted. Also, practice the facilitation skills and ideas you learned in class, and bring your insights and questions to the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

The evaluation will be based on the overall evaluation of participation in the exercises, review sheets, reports, and final examinations. In the former case, students will be asked to write their opinions and impressions on the review sheet as well as their attitude, which will also be evaluated.

Participation in the exercise: 30%, review sheet: 10%, report: 20%, final exam: 40%

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面で行うことを想定するが、コロナの影響を受けての大学の方針等によってオンライン形式になることも考えられる。その場合、授業で使用する URL 等は別途連絡をする。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性があるが、これはオンラインでの授業環境を含め、授業の様子を見ながら判断する。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認しておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40%
レポート：60%

【学生の意見等からの気づき】

オンラインよりも対面の方が伝わりやすいという声もあったが、これについては大学の方針等に則りながら、できるだけ双方向のやり取りをしながら授業を進められるように検討していきたい。
また、理解を深めるために、具体的な事例を元にした検討等、イメージしやすいよう伝えていく。

前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support. **【Learning Objectives】**

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴とワークライフバランス上の課題
5	新規学卒採用とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方考える	アルバイトと労働法
8	アルバイトの働き方を改善するには	アルバイト就労の現状
9	職場の問題への向き合い方	職場のトラブルと労働組合の役割
10	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
11	就職活動における客観情報の活用	各種データベースの活用
12	客観情報の活用実践	「就職四季報」の活用実践
13	就職・内定をめぐるトラブル	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
 ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社

・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。

オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

高崎 美佐

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインするためには、一般的な人生の段階と各段階における課題を知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、就学、就職、結婚、子育て等を経て高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、①個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、②個人の生き方やそれに影響を及ぼす社会的な仕組みを検討することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の1～3です。

1. ライフコースの変化を時代背景と関連させて、説明できるようになる
2. 日本のライフコースの特徴を社会的な仕組みと関連させて説明できるようになる
3. ライフコースに影響を及ぼす要因を考察し、言語化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＜授業形態＞
この授業は、対面で行うことを想定しています。

＜授業の進め方＞
講義を中心としますが、受講者のみなさんからトピックを提供してもらったり、発表をしてもらったりします。

＜授業後＞
リアクションペーパーの提出を求めます。
＜課題等に対するフィードバック方法＞
リアクションペーパーに記載された内容・コメントを次の授業内で抜粋して取り上げ、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の概要や進め方についての説明 ・ライフコース論の目的を確認する
2	ライフコースとは ライフサイクルからライフコースへ	・ライフコースの概念 ・ライフサイクルと発達段階モデル ・ライフコースを捉える背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコースを捉える視点：ライフコースへのアプローチ方法
4	出生～児童期	乳幼児期の発達 幼児教育の現状
5	青年期から成人期	・中等教育・高等教育の現状 ・大学から社会への移行
6	成人期（家族形成）①	結婚と結婚をめぐる変化
7	成人期（家族形成）②	出産行動の変化とその背景
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	・日本的な雇用の仕組み ・「正社員」の働き方
10	女性の就業	・女性の働き方の現状とその背景 ・
11	男性の就業	・男性の働き方の現状とその背景 ・
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	高齢期の就業 就業から引退へ
14	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。
ライフイベントやライフコースについての知識を得たり考えさせられたりするようなニュース、新聞・雑誌の記事、書籍などを見つけれられるようアンテナをはってください。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用しません。

【参考書】

安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会
嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社
岩上真珠（2013）『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣

武石恵美子（2016）『キャリア開発論』中央経済社
その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、以下の3つで行います。

①授業参加度（発言とクラスへの貢献）30 %
②リアクションペーパーなどの提出 30 %
③最終課題（レポート 1000～2000 字程度を想定） 40 %
①発表などによるクラス全体の学びへの貢献を指します。
②授業後のリアクションペーパーなどの提出状況を指します。
③最終課題のテーマは12回の授業中に提示します。
※②③は期限厳守です。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンをする、他の受講生の発表を聞くなど主体的な授業参加が求められる。
受講生（40名超）の前でプレゼンする機会が得られる。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡、授業資料の提示は学習支援システムにて行う予定です。連絡事項がある場合は、講義前日（火曜日）17時を目途に授業に関する連絡を行います。確認の上、授業に臨むようお願いいたします。
できればPCを持参してください。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画を調整する可能性があります。
基本的に対面授業ですが、感染状況や授業の内容によっては変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
For designing our career, it is necessary to know the factors that influence the career. In this course, we will focus on major life events and consider that factors through the perspective of a life course.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is following two points.
1. To learn concept of life course
2. To think and learn about what affect individuals life course
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the following three criteria.
1.Usual performance score and in class contributions; 30%.
2.Submission of reaction papers; 30%.
3.Short essay ; 40%.

CAR100MA

生活設計論Ⅰ（社会保障） 基幹科目

上田 将史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生には“想定外”がつきものであり、これがスバイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。

我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し（共助）、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う（公助）ことで、個人の努力（自助）を補完する仕組みを持っています。

昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないのでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。

とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等に比べ福祉施策が遅れていると言われます。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

【到達目標】

- ・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
- ・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
- ・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせ実施する。
- ・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
- ・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第 3 回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第 4 回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。
第 5 回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第 6 回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第 7 回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第 8 回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第 9 回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第 10 回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第 11 回	年金制度	「高齢」、「あるいは「死亡」「障害」など万が一に備える年金制度の概要を理解する。
第 12 回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。

第 13 回 権利擁護

高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。

第 14 回 地域包括ケア、地域共生社会

「4 つの助（自助・互助・共助・公助）」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。

事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント等で作成した資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）、期末レポート（30 %）、各回の課題への取り組み（40 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます（ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等）。

【Outline (in English)】

This course introduces representative social security systems , welfare measures for mental disorders and comprehensive community care system to students taking this course.

The goals of this course are to understand the purpose and function of social security , learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems, and make life plan that can deal with risks.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Mid-term report : 30%、in class contribution: 40%

CAR100MA		
生活設計論Ⅱ（生活設計）		
基幹科目		
林 奈生子		
単位数：2 単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
曜日・時限：木 3/Thu.3 配当年次：1～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
人生 100 年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大切です。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。		
【到達目標】		
本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④仕事を選ぶ際の留意事項 ⑤未来社会の予測 などについて考え学びます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】		
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。		
*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。		
*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。教材は各自で授業に持参してください（授業中の配布は行いません）。		
*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】でも回答します。		
*授業での資料の閲覧、プレゼンテーションには zoom の共有画面を使用します。zoom の URL・ID・パスコードは学習支援システム【お知らせ】に掲示します（授業中のプロジェクターによるスクリーンへの投影は「見づらい」との学生意見が多いため行いません）。		
*第 12 回の研究課題については第 13 回のプレゼンテーションにて学生同士の意見交換を行います。		
*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。		
*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～キャリアデザイン学部卒に期待されること～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、キャリアデザイン学部の皆さんに学んでもらいたいことについてコンサルタントの視点から話します。
2	生活設計の考え方と必要性 ～自分らしく、納得できる人生を歩む～	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナ ンシャルプランの関係 ～人生にも計画が必要な理由～	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
4	ライフイベントとお金 ～人生設計図を作る～	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
5	お金の使い方と価値観の 関係性 ～今の自分を映す家計簿～	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方に反映されるのかを知る。
6	予算の立て方とお金の基本知識 ～何もしなければお金は 奔放（ほんぼう）に動く～	予算を立てることの重要性について学ぶ。お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品 ～お金管理のスタートライン～	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン ～損得の分かれ道～	具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。
9	自身を守る金融知識 ～後悔しないためのポイント～	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
10	消費の中身と心理 ～わたしたちはなぜ衝動 買いをするのか～	買うとは「何を買っているのか」「どのような心理がはたらいているのか」など消費行動とその心理について学ぶ。
11	仕事選びと幸福感 ～自身と仕事のマッチン グはどこで見えるのか～	仕事を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。
12	研究課題「未来予測 2040」	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。第 1 2 回の研究結果を発表し意見交換をする。
13	研究課題のプレゼン テーション	「未来予測 2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。
14	「未来予測 2040」と自身 のライフプラン、まとめ とレポート提出の説明	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上』とのことですので、準備学習・復習各 2 時間とします。		
【テキスト（教科書）】		
特になし。必要な場合は授業で紹介します。		
【参考書】		
必要な場合は授業内で紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
成績評価はレポート提出： 70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）： 30 % とします。		
レポート提出の詳細は次の通りです。		
1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。		
2. 言語：日本語		
3. 字数、フォント、ポイント： 400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5		
4. 提出期間： 2023 年 1 月 12 日 14 時 50 分から 2023 年 1 月 19 日 14 時 50 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。		
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出		
6. 留意事項		
(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。		
(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。		
(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。		
(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。		
(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。		
【学生の意見等からの気づき】		
受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。		
＜講義や演習について＞		
*自分が送りたい人生やそのために必要なことがイメージできた。		
*本当に必要なものが何かを考えるようになった。		
*お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。		
*自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。		
*就職活動で自分の 5 年後、10 年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題の 2040 年がとても身近に感じた。		
*他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。		
＜授業運営について＞		
*ストレスのない授業だった。		
*他の講義と違って「ザ・キャリアデザイン学部の講義」という感じだった。		
*オンライン授業でも前のめりで受講できた。		
*対面授業でないことが残念だった。		

率直な意見を述べて頂いた学生の皆さんありがとうございました。大変貴重な意見を聞かせていただきました。本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそのような授業内容、運営にしたいと考えています。具体的には、対面授業では、従来にも増してグループワーク、意見交換、受講生同士の交流を図ります。オンライン授業でも ①受講生同士の意見交換や交流ができるような運営方法 ②それぞれの環境に合わせた対応－を工夫していきたいと考えています。いずれにしても、今後も受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

zoom の共有画面を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.

【Learning Objectives】

In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

Final grading will be decided based on term-end report (100%).

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）

阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）

マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

EDU200MA

外書講読 A（発達・教育）

展開科目

福田 紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）、SDGs のテキスト、Microaggressions in Everyday Life のテキストから人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重を理解します。特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準 スフィア基準（Sphere Standards）の中の Coor Humanitarian Standard から公共サービスの質と説明責任について人道支援のコンテキストから学びます。

また特に日本での参加の文化を阻害するものについては Conflict Resolution を学びながら考えます。

【到達目標】

- 1）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、ジェンダー等脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2）人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian- Standards-and- Coronavirus-2020- ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。 人権とは。人道支援の国際基準スフィア基準関連の文書を読みます
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か、人道支援とは何か、 人道支援の背景 ～歴史と国際基準
3	Sphere Standard 1 Sphere's structure 4 Principles of Humanitarian Response	スフィアの構造と前提となる人道支援の4原則について

4	What's Sphere ～ Vulnerability and Capacity	「スフィアとは」～脆弱性と能力について
5	Gnder Issues ～ Image and reality	人権問題の共通理解としてジェンダーの課題について
6	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ①	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタ ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。①～③
7	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ②	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタ ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。④～⑥
8	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ③	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタ ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。⑦～⑨
9	Activity ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から CHS の課 題と対応を考えます
10	Microaggressions in Everyday Life 1	前提としての Power, Intersectionality について理解し ます
11	Microaggressions in Everyday Life 2	テキストから Microaggressions の 3つの類型を捉えます
12	Microaggressions in Everyday Life 3	Microaggressions への対応、差別 や暴力を捉える枠組みについて知り ます
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な 知識・スキル・姿勢と参加を阻害す る要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価 値観を超えるため変化の要因やアド ボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおく
てください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整
理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分
の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業
の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝え
ます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/
ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える
1 2 のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 5 0 %
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合
の記録など）2 5 %
レポート 2 5 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアク
ティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを
読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で
掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その
感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有
から生まれる学びがあればと思います。

ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容
理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの
人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反
映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援
としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が
示されています。**Accountability** など、慣れないコンセプトもあるかも
しませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解す
る為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関
係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全
体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業
への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考
慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts
for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach
for Social Justice with International Standard, Agreements and
Methods.

Students are expected to
read the materials/assignments to
translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Chater
and Minimum Standards of Humanitarian Response.

EDU200MA

外書講読B（発達・教育） 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会的な視点から検討するものである。具体的には、本講義の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題や小テストに対する講評や解説も行います。
- * 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義全体の概要説明
第 2 回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第 3 回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第 4 回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会的視点から理解
第 5 回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第 6 回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life skills
第 7 回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第 8 回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第 9 回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第 10 回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第 11 回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第 12 回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第 13 回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第 14 回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、授業の際に説明する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

- ・ [Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration] , UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
- ・ [Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education] ,

Commonwealth of Learning, 2012

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、出席（30 %）により、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture.

PSY200MA

生涯発達心理学 I

展開科目

松浦 千春

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していくことを踏まえて、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】

- (1) 乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べるができる。
- (2) 乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
- (3) 自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・原則オンライン「リアルタイム型」で実施します。状況に応じて「オンデマンド型」を取り入れます。「オンデマンド型」になるときは学習支援システムを通して連絡をします。
- ・資料は学習支援システムを通して配布します。
- ・課題へのフィードバックは、提出された回答の中から複数取り上げ、全体へ行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①概要	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②事例	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①概要	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②事例	幼児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①概要	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②事例	児童期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①概要	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②事例	思春期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 10 回	発達障害①概要	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②事例	発達障害の事例に触れる。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。授業の内容を理解するための準備・復習の時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】

必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題提出（50 %）・試験あるいはレポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

- ・授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。事前に記録してある動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。
- ・授業者は発達支援の臨床が専門のフリーランスです。私設の支援室を設け、0 歳から 15 歳の子どもたちに携わっています。また、都内の小中学校を訪問し、支援者への助言をしたり保護者向の方向けの講演会などで家庭内での具体的な関わり方について提案したりしています。
- ・授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用の幅を拓けてください。

【Outline (in English)】

Course outline : In this class, we will learn about the developmental characteristics of infancy, early childhood, childhood, and adolescence, based on the fact that people develop throughout their lives from birth to death.

Learning Objectives : We will also consider through case studies how we can apply the knowledge we have gained so far in our daily lives, including child rearing and education.

Learning activities outside of classroom : After almost each class, you will be expected to write and sent short report. Before/after each class, you will be expected to spend four hours to understand the content.

Grading Criteria / Policy : Final grade will be calculated according to the following process Short report (50%), term-end report (50%).

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。

秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死に至るまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。

コロナの状況を踏まえて、当面の授業はオンデマンド形式で行う。パワポを説明する講師の動画を視聴して、毎回400字程度の簡単な感想・レポートを提出する形式が中心となる。詳しくは HOPPII をご参照ください。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第 2 回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリウムについて、具体例とともに学ぶ
第 3 回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、プロセスの分離個体化などを学ぶ
第 4 回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第 5 回	精神分析と心理テスト	心理テスト エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第 6 回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第 7 回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第 8 回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第 9 回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第 10 回	成人期の発達とキャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 11 回	初期～中期キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第 12 回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第 13 回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 14 回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
- ・父滅の刃～消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析～（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
- ・エヴァンゲリオンの心理学（樺沢紫苑）
- ・＜ほんとうの自分＞のつくり方（榎本博明）講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60 %）
期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】

青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth.

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective. By doing so, Students themselves can do growth and development.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅰ

展開科目

飯野 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもたちへ教育相談を行っていく上で必要な知識の習得と子どもと関わる現代的な問題の理解をテーマとする。主に乳幼児期から青年期までの発達を理解し、幅広い意味での教育現場で起こる問題を読み解くための考え方を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 教育相談を行っていく上で必要な心理学的知識を習得する。
- (2) 現場で起こっている諸問題を理解する。
- (3) 心理学の知識や見方を用いて教育現場の問題を自分なりに考えることができるようになることの 3 点を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1. 人の発達と教育相談（第 2 回から第 7 回）。
 2. 乳幼児期の諸問題と教育相談（第 8 回から第 11 回）
 3. 児童期から青年期の諸問題と教育相談（第 12 回から第 14 回）
- 原則として毎週の金曜日朝 10 時までに、学習支援システム上に資料・解説動画及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、解説動画を視聴し、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。詳細については随時 Hoppii 上のお知らせに掲載するため、必ず確認すること。毎回の課題内容については、次回以降の資料内で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	教育相談の現場と対象	教育相談はどのような場で、どのような人を対象として行われているのだろうか、教育相談の現場を概観する。
3	人の発達と特徴を知る ①：認知発達	人はどのように世界を認識しているのか、視覚的な認知の発達と特徴を学ぶ。
4	人の発達と特徴を知る ②：アタッチメントと対人関係の発達	人と人が関係を作るとはどのようなことなのか、愛着などの関係性の発達と特徴について学ぶ。
5	人の発達と特徴を知る ③：社会性の発達	「空気が読める」「相手の立場を理解する」とはどのようなことか、メタ認知や社会性の発達について学ぶ。
6	人の発達と特徴を知る ④：自己の発達	「自分はいつも失敗ばかり」「自分はいつも損な役回りで」といった現実を偏って捉えてしまう認識の特徴を学ぶ。
7	人の発達と特徴を知る ⑤：知能の発達	知能（IQ）とはどのようなものか、教育現場でどのように用いられているのかを学ぶ。
8	発達の障害と教育相談	発達障害をはじめとした様々な障害の特徴について学ぶ。
9	乳幼児期の教育相談① ：虐待の理解と対応	虐待の実態と特徴について学ぶ。

10	乳幼児期の教育相談② ：育児相談・発達相談・園内及び就学の相談と支援	子どもの育児や発達についての保護者の相談の実際を学ぶ。また、保育園・幼稚園での支援と学校への入学にかかわる相談について学ぶ。
11	児童期から青年期の諸問題と教育相談①：いじめの理解と対応	学校現場でのいじめについて、その実態と背景について考える。
12	児童期から青年期の諸問題と教育相談②：不登校の理解と対応	学校現場での不登校の問題について、その実態と背景について考える。
13	児童期から青年期の諸問題と教育相談③：反社会的行動の理解と対応及び思春期の進路相談	学校での問題行動とその背景について考える。また青年期における進路相談に関してもふれる。
14	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をまとめ、学校で起こる諸問題の基本的な内容と教育相談の機能について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分自身の小学校や中学校、高等学校などの学校経験から、印象に残っているエピソードを思い出しておく。
- ・子どもに関するニュースに注目し、目を通しておく。
- ・授業中に提示した資料を調べる、前回の課題を復習する時間、課題などに取り組む時間などを含めて本講義の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。
 テキストは指定しない。

【参考書】

- 古屋喜美代・関口昌秀・萩野佳代子（編） 2013 児童生徒理解のための教育心理学 ナカニシヤ出版
 本郷一夫・金谷京子（編） 2011 臨床発達心理学の基礎 ミネルヴァ書房
 浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポート（4 割）と最終レポート（6 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例や実体験を通して相談活動の基礎を学べるようにする。

【Outline (in English)】

This course deals with the child development and educational problem.

The aim of this course is help students acquire an understanding of the fundamental principles of educational counseling.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

飯野 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床教育相談論Ⅰを土台にしながら、どのようなアプローチを使いながら相談を進めていけばよいのかを実践的に学ぶ。特に、子どもの問題を捉えるアセスメントの視点と子どもの問題に多角的にアプローチできる視点を学ぶ。

【到達目標】

理論を踏まえながら、教育相談の実践を理解する。教育相談の流れを、イメージできるようにする。子どもの問題状況を理解し、その状況に合わせて相談の目標を意識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1. 教育相談に関する基本的な技法の理解（第 2 回から第 5 回）。
 2. 教育相談でのアセスメントと対処（第 6 回から第 11 回）。
 3. ケーススタディを通した教育相談の理解（第 12 回から第 14 回）。
 教育相談に関する技法などの講義と、事例を読んで各自で考えたり分析をしたりすることを通して、教育相談に関する諸問題を理解と対応について学ぶ。
 原則として毎週の日曜日朝 10 時までに、学習支援システム上に資料・解説動画及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、解説動画を視聴し、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。詳細については随時 Hoppii 上のお知らせに掲載するため、必ず確認すること。
 毎回の課題内容については、次回以降の資料内で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義の形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	コミュニケーションの基本	相談を行う上で基本的なコミュニケーションの技法について概観する。
3	関係性による相談の変化と相談活動における倫理	誰かに相談するということは、どういうものか体験を通して学ぶ。また、相談を行っていくうえでのプライバシーの保護、守秘義務といった倫理について学ぶ。
4	他者の話を聴く	他者の気持ちを意識しながら、傾聴するとどのようなものかを実習を通して学ぶ。
5	問題が起きている状況を理解する	問題状況を理解するためにどのような情報を収集し、どのように理解すればよいのかを学ぶ。
6	児童・生徒を理解する	児童・生徒を理解するとはどういうことか、基本的な技法について学ぶ。
7	アセスメントの技法① 知能検査	人を理解する技法のひとつである発達・知能検査について学ぶ。IQ を理解する。
8	アセスメントの技法② 性格検査	人を理解する技法のひとつである性格検査について学ぶ。類型論、特性論について知る。
9	障害への支援	特別支援教育など学校で障害児を支援する方法を理解する。
10	関係機関との連携及びケーススタディの方法	教育現場と関係する病院や児童相談所といった機関とどのように連携していけばよいかを、各機関の特徴とともに学ぶ。また次回以降のケーススタディの方法を学ぶ。
11	ケーススタディ①幼児期	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に幼児期の問題について取り扱う。
12	ケーススタディ②児童期及び学校現場	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に学校現場での問題について取り扱う。

13	ケーススタディ③虐待・障害	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に障害にかかわる問題について取り扱う。
14	まとめ	事例のまとめを行うとともに最終レポートを課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだ内容を復習した上で、次の授業に臨むこと。
 授業中に提示した資料を調べる、前回の課題を復習する時間、課題などに取り組む時間などを含めて本講義の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。テキストは指定しない。

【参考書】

鈴木・大橋・能智（編） 2015 ディスコアの心理学 ミネルヴァ書房
 浜谷直人（編） 2009 発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ ミネルヴァ書房
 浜谷直人（編） 2013 仲間とともに自己肯定感が育つ保育—安心のなかで挑戦する子どもたち
 浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出と最終レポートで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

継続して具体的な事例を紹介しながら学べるようにしていきたい。分かりやすく、質問しやすい環境を工夫していく。

【Outline (in English)】

This course deals with the counseling method and case study. It also enhances the development of students' skill in case discussion and problem solves.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ 展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中で生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の録画動画を配信するオンデマンド型で当面行います。HOPPII で毎週必ず確認のこと。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開したらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第 2 回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルツ、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第 3 回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第 4 回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第 5 回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第 6 回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介
第 7 回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第 8 回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第 9 回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第 10 回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第 11 回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第 12 回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第 13 回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する

第 14 回 まとめ

期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
 木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会
 平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート（60％）

期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン配信の授業の動画を視聴できる環境と端末

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- ・career counseling processes, techniques, and resources

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ 展開科目

高橋 浩

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カウンセリングの理論とその支援原理、そしてキャリアカウンセリングの現場での事例紹介を行いキャリア支援への応用について学習する。仕事は人生において大きな割合を占めるため、そこでの困難や障害を克服するための理論と技法はキャリア形成上不可欠といえる。

【到達目標】

- ・カウンセリングの理論とその技法について論理的に説明できる
- ・キャリア上の問題に対するカウンセリング理論の適用方法を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いたリアルタイム型のオンライン授業です。

事前に、提示した資料でカウンセリング理論を学習してもらいます。

授業当日はキャリアカウンセリングの事例を題材にして、カウンセリング理論に基づいたアプローチについて学びます。この時、グループディスカッションや発表などを行う場合があります。

授業後はミニレポートを提出してもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたミニレポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第 2 回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める 6 つのステップについて学ぶ
第 3 回	カウンセリングの実際 傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（～第 10 回） 傾聴、受容、共感を学ぶ
第 4 回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第 5 回	精神分析	精神分析について学ぶ
第 6 回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第 7 回	ブリーフセラピー	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第 8 回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第 9 回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第 10 回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第 11 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ学校での事例検討を行う
第 12 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討を行う
第 13 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討を行う
第 14 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示した各種カウンセリング理論の資料を学習してもらいます。授業後は学習したことについてのミニレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて事前に資料をダウンロードして取得できるようにする。

【参考書】

- ・「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社
- ・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会
- ・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人 労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】

各授業でのミニレポート 40 % 期末テスト 60 %
（オンライン授業ではミニレポートの提出をもって出席とする）

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムでの質疑についてもリアルタイムで取り上げ補足を行った。事前学習を応用して深く検討できるような双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with the counseling theory and its application to career support.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. Be able to explain the theory and technique of counseling logically.
 - B. Be able to explain how to apply counseling theory to career problems.
- (Learning activities outside of classroom) Students are expected to understand counseling theories in text before each class meeting, and also to submit a short report on their lessons and questions after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%, Short reports : 60%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) 展開科目

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケースについて学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの基礎的な事項について理解できる
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
- ①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを利用したオンデマンド方式の授業形式をとり、以下のような進め方になります。

- ・各回の講義資料を学習支援システムに配信します。講義資料にて学習し、各回の課題を期限内に学習支援システムに提出していただきます。提出された課題内容への講評及び履修者の感想、質問への回答（Q & A）を次回以降に配信し全員に共有します。
- ・各回に提出する課題は、小レポートとなります（全 14 回）。
- ・第 10 回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、可能な情勢であれば希望者はアセスメントツールを体験（キャリア情報ルームにて希望者はキャリア・インサイトを受検）していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、現代においてなぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーへの期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要なとされる能力	キャリアカウンセラーに必要なとされる能力（技能）、要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ①	ケースの読み取り方、見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを考察する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを考察。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性への支援④	子育てしながら働く女性の現状と支援について学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の効果的な活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を活用したケースにてそれらへの理解を深める。

第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを考察する。
第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース（管理職編）を考察する。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。
第 14 回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返り及び総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に設定された課題（小レポート）を作成し、学習支援システムに期限内に提出していただきます。各回の学習時間・課題作成時間・復習時間は計 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える 27 のヒント」
 宮脇優子編著 金剛出版 2015 2640 円

【参考書】

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021 2420 円

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み姿勢：小レポート課題の提出状況とその内容）50 %
 期末レポート課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド型授業ではありますが、全体での感想共有や Q & A の共有等により双方向のコミュニケーションを重視した授業を心がけていきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料（powerpoint/音声あり）の読み取り・学習のためにパソコン等のデバイスが必要とします。

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現在に至っている。キャリアカウンセラーとしての 19 年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。
 これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases. By the end of the course, students should be able to do followings:

- － Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
- － Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Term-end examination: 50%, Short reports including the approach attitude: 50%

EDU200MA

学校論 I (キャリア形成) 展開科目

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】

キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、自分自身の学校体験を振り返るとともに、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom で行い、学習支援システムを活用する。学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校(1)就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校(2)小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校(3)中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校(4)高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校(1)多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校(2)グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校(3)不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校(4)問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したり、レポートを執筆したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。
刈谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢（30 %）、課題（50 %）、テスト（20 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでの話し合いや発表の進め方について工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートを記入したり、パワーポイントスライドを共有して発表したりすることもあるのでパソコンで受講すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are able to acquire basic knowledge of a school as a place for career formation and as occupation, reflect their own school experiences, and write a proposal of an ideal school effectively.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成） 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようにすることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Google Classroom でのオンデマンド配信と、Zoom でのライブ型配信とを組み合わせて実施します。初回はオンデマンドで配信します。Hoppii で Google Classroom 等をお知らせ配信しますので、そちらを確認してください。なお授業内容については、受講生のニーズ等に合わせてシラバスから変更がありますので、ご了解ください。
本授業は、講義形式の授業の回と、グループでの事例検討の回とに分かれる。論理的な知識の習得をしたうえで、具体的な分析をおこない、学術的な知見が、現実の具体的な学校現場を理解するうえでどのように有用なのかを理解する。授業では、海外と日本の教育事情の比較や、日本の学校における学力の位置づけ、ヒドゥンカリキュラム、進路多様校の実態、不登校経験者のキャリア形成、家庭教育と学校教育の関係などを学ぶ。
授業後には毎回、リアクションペーパーを書き、その時間ごとに何を理解したのかを表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業実施の方法 イントロダクション～オランダの子どもは幸福？	授業の概要と進め方についての説明
2	「オランダの子どもは幸せ？」	子どもの幸福度が世界1の国はオランダという調査結果があります。この事例をとおして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、と同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
3	学力とは何か	学力は容易に「高い」「低い」と言われますが、果たしてどのような力を「学力」と呼ぶのでしょうか。学校教育において学力はどのような機能をもっているのかを考えます。
4	優等生の生きづらさ	現在の学力論に即せば学力が高いことは「良いこと」とみなされがちです。しかし本当にそうでしょうか。優等生であることがキャリア形成にどのような影響を与えるのか事例を読み解きます。
5	学校文化	学校には社会とは異なる独特の「文化」があり、この文化がヒドゥン・カリキュラムとして人の考え方に大きな影響を与えています。「当たり前」「正しい」と思い込んでいる学校文化を検証します。
6	オレばっか悪もの	学校文化の中で育まれる「良い悪い」の考え方は、本当に適切なものか。適切とは何かを、学校文化の「良さ」に始まらない子どもの事例から考えます。

7	多様な学校	教育の二極化が指摘されるなか、学校の二極化もまた指摘されます。学校の荒れはどのようなメカニズムによって生じるのかを、子どもの視点から考えます。学校には様々な種類があり、それぞれの特徴に即した生徒が進学してきます。「普通科」以外の学校について学びます。
8	発達障害当事者の生きづらさ	発達障害があるということが学校生活にどのような影響を与えるのかを考えます。
9	学校に行けない①不登校	不登校はどのような理論で「語られて」きたのでしょうか。不登校をめぐる言説を学びます。
10	学校に行けない②心の壁	学校に行けない子どもの「心理」はどのようなものなのでしょうか。保健室登校という境界の事例から、学校に行くことの障壁について考えます。
11	学校に行けない③家庭資源の貧困	虐待や貧困などによって「学校に行きたくとも行けない」問題が起きています。学校に行くのが困難になる社会的背景を学びます。
12	学校に行けない④児童養護施設の子どもたちにとっての「学校」	虐待や貧困などにより家庭で暮らせない子どもたちは経済的な問題以外にも学校に通い難い要因を抱えています。児童養護施設で暮らす少女たちの事例から、学校生活を困難にする「他者の目」について考えます。
13	家庭と学校教育	学校教育に様々な影響を及ぼすのが教育資本など家庭教育の状況です。切っても切り離せない学校教育と家庭教育の状況を捉えます。
14	総括・ふりかえり	本講義で考えたことを整理し、理解度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業時の貢献度 50 %、期末試験 50 % （受講生と相談のうえ変更する可能性あり）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの予習状況に個人差があり作業がしづらいという指摘があったため、予習を必須課題とします。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline (in English)】

As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

EDU200MA	
学校論Ⅲ（キャリア教育）	展開科目
児美川 孝一郎	

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

- ① キャリア教育とはなにか、その教育方法はいかにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

※ 2021 年度の本授業は、学習支援システムを活用した資料配信を軸にしながら、Zoom によるリアルタイム・オンライン授業を補佐的に組み合わせて実施する。

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次の授業の最初にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異同について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。

13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。

それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」でなくなってきたのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）

レポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.

Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育） 展開科目

池田 佳代

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類できる。それぞれは、単独で事業を行うだけでなく、協働や助成あるいは委託といった枠組みを通じて、より丁寧に社会のニーズに応じており、事業目的の達成において相互補完関係にある。本授業では、そのような現状について検討するため、本授業では、地域福祉、環境、平和などの分野で活動する市民セクターを取り上げる。また、それを通して、市民の相互支援や共同的成長についても理解を深めていく。関連するキーワード：コミュニティ論、社会運動論、学習論

【到達目標】

市民セクターについて、用語の意味だけではなく、活動内容や形態及びメンバーシップ、他のセクターと連携した事例から社会問題への取り組みについて理解を増やす。それにより、多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。

与えられた情報をもとに、より深く自ら調べ、話し合い、発表し合うことで、より深い理解に到達する（アカデミック・スキル）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

レジュメや映像資料等を示しながら講義を行うほか、グループワーク、そのための準備活動などの主体的な学びの方法を取り入れる。それらの成果物としてレポートなどの提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NPO・NGO・市民活動？	市民セクターの種類・制度・多様性・意義及び行政や企業との協働・助成・委託
第2回	地域福祉の市民セクター（1）	継続の鍵は〇〇：住民による外国から来た子どもの学習支援活動
第3回	地域福祉の市民セクター（2）	なぜリピーターが多いのか：多文化理解に向けたスポーツイベント
第4回	地域福祉の市民セクター（3）	住む家がない、借りられない：長寿社会が生み出した現実
第5回	グループワーク	身近な地域福祉についての報告、討論、発表
第6回	環境分野の市民セクター（1）	地球温暖化防止京都議定書が起爆剤？：未来へのアジェンダ
第7回	環境分野の市民セクター（2）	こんな事業に投資？：大学生の疑問から始まった脱炭素運動
第8回	環境分野の市民セクター（3）	開発の闇を照らす：グローバルな天然資源保護運動
第9回	環境分野の市民セクター（4）	民間が担う政府の仕事：地域NPOによる環境活動支援事業
第10回	グループワーク	気候変動から気候正義へ、今進んでいること：報告、討論、発表
第11回	平和分野の市民セクター（1）	市民グループがなければどうなった？：米軍基地と住民の関係
第12回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器と地域安全保障？：国際的なNGOの連携による成果

第13回 平和分野の市民セクター（3） 生活者の視点が果たす役割？：生活協同組合の平和活動

第14回 グループワーク（授業内試験） 平和運動の課題と可能性：報告、討論、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。文献を読む・レポートを書くなどの個人活動だけでなくグループ単位での学習活動を想定しています。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、グループワークの進め方については参考書に示した『環境メディア・リテラシー 持続可能な社会に向かって』p.48-70 までの記述を読み、理解したうえで参加することが望ましい。

【参考書】

ハード・ガブリエレ著, 2016, 『環境メディア・リテラシー 持続可能な社会に向かって』, 関西学院大学出版会、ほか、授業の中で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70 %
授業内試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

新任なのでまだありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、情報機器（貸与パソコン等）、施設（マルチメディア室等）や資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

状況の変化に応じて、上記の授業計画に一文変更がある可能性があります。変更や連絡は学習支援システムの「お知らせ」で随時連絡します

【Outline (in English)】

This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

EDU200MA		
メディア教育論Ⅰ		
村上 郷子		
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring		
曜日・時限：木 4/Thu.4 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。		
【到達目標】		
多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。		
グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】		
シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。		
アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性（メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他）
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会（言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制）
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値（なにがニュースになるのか）
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ビジュアルの力）
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シチズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論、振り返り

14	研究発表③ プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (3)、全体討論、振り返り
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。		
パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
なし。授業のレジュメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。		
【参考書】		
必要に応じて提示する。		
【成績評価の方法と基準】		
個人の課題（分析）提出物（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20 %）、個人レポート（50 %）によって総合的に評価する。		
【学生の意見等からの気づき】		
グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppii のグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。		
【学生が準備すべき機器他】		
基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。		
【その他の重要事項】		
本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。		
本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。		
最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。		
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。		
状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。		
【Outline (in English)】		
(Course outline) : Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.		
(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.		
(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.		
(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).		

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードとときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表（1）、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表（2）、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表（3）、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30 %）、個人レポート（40 %）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（Hoppii）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline): Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives): Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom): Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy): Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU200MA

教育マネジメントⅠ

展開科目

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な場で行われる教育の中でも、学校教育は、公権力行使の一環として形成される国民教育の枠組みに否応なく位置づけられ、標準性を持ったものとして構築されている。他方、教育という営みは、子どもたちや教師の多様性を踏まえれば、自律的・個性的に営まれる必然性があり、常に標準性との緊張関係を内包している。さらに、グローバル化や高度情報化などの大きな変化を前に、より高度な市民形成が求められる一方で、足元では貧困・格差や教師の多忙化といった課題に直面している。本講義では、まず、これらの緊張関係のただ中にある「学校」という仕組みについて、基本的な法制、データ、制度原理、改革論議などを通して理解を深める。次に、子どもの権利をより良く保障するため、現行の制度内外で行われる取り組み（主には学校や NPO などの組織を単位とする）を取り上げ、その組織マネジメントの特徴並びに可能性と課題を分析する。さらに、全国的な動向との関連の中に「母校」を位置づけた事例研究＝母校研究を行うことで、データ収集・情報編集の基本的な技法を学ぶとともに、各自の学びのキャリアを対象化する。

【到達目標】

- ①学校制度について、基本的な法制、データ、制度原理、改革論議を理解する。
- ②①で得た知識をもとに、特徴的な取り組みの意義と課題を分析できる。
- ③制度・政策、統計データ、学術調査結果を参照しながら、事例を全体傾向の中に位置づけて分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①「学校」という仕組みについて、基本的な法制、データ、制度原理、改革論議などを講義する。
 - ②子どもの権利をより良く保障するため、現行の制度内外で行われる取り組み（主には学校や NPO などの組織を単位とする）を紹介し、共同分析する。
 - ③母校研究を行い、共同分析する。
- 初日はオンライン形式となる（具体的な方法は学習支援システムで連絡する）。それ以降については、対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	第 1 部) 学校制度と権利保障	憲法や子どもの権利条約などで示された権利、特に教育を受ける権利について
第 3 回	学校制度の構造	学校の設置、負担、管理運営、社会的位置づけについて
第 4 回	多様性と標準性	学校制度における標準性と多様性の緊張関係について
第 5 回	多様な教育機会保障の課題	貧困・格差、グローバル化、不登校等、教育機会保障上の課題について
第 6 回	「母校研究」の説明	内容、方法、共通事項、参考資料等について
第 7 回	第 2 部) 教育の革新の可能性	教育委員会の役割
第 8 回	地方教育行政	教育ボランティア
第 9 回	学校と地域	子どもの貧困に対する福祉的支援
第 10 回	子ども・若者支援と学校教育における他・多職種の連携	チーム学校
第 11 回	学校づくりにおける共同	三者会議、学校運営協議会等
第 12 回	学校制度の中の多様性	現行システム内で営まれる学校改革
第 13 回	母校研究事例報告	各自の報告を共有
第 14 回	総括ディスカッション	授業全体のまとめ（母校研究の共有が終わっていない場合はこの回に持ち越す）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定のあった課題を授業前後の所定の時までには実施する。

- ・レジメの再読、まとめ
- ・ワークシートの準備
- ・アテンダンスチェック課題の提出
- ・母校研究の実施

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）と、母校研究の成果を、それぞれ 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to develop students' broad understandings on educational change, through dealing with the education system (especially schooling system), and through co-analysing distinctive initiatives, in addition to through conducting a case study on the school students graduated from.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of this class, students are expected to be able to (i) acquire basic understandings on education system, (ii) analyse distinctive initiatives based on the knowledge gained in (i), and (iii) contextualise and analyse educational initiatives in the context of overall trends, referring to systems and policies, statistical data and the results of academic research.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 50%, Case study report: 50%

EDU200MA

教育マネジメントⅡ

展開科目

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校等の教育組織は、教育改革の対象であるとともに、主体でもある。言い換えれば、マクロな社会要因・政策要因の影響を受けつつ、専門性の下で自律的な判断を下し、学習者の教育を受ける権利の保障をめざし、裁量行使することになる。

本講義では、教育組織マネジメントのこのような特徴を踏まえながら、次の2つの学習を行う。①いくつかの主要教育政策領域について、教育改革の進められ方、内容、実践との関連性という観点から理解する。

②各自が選択した教育組織の事例について、情報を収集しデータを編集して、ミニ事例研究を行う。

【到達目標】

- ①教育改革の作られ方、特に、政策形成・政策決定の過程を理解する。
- ②法令、政策文書、審議会・国会の議事録を探し、分析できる。
- ③教育組織の事例について、情報収集・データ編集をして、分析できる。
- ④現在進められている教育政策を所与の前提とするだけでなく、それを批判的に吟味し、あるべき方向について自分の意見を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

①いくつかの主要教育政策領域について、教育改革の進められ方、内容、実践との関連性という観点から講義を行う。

②各自が選択した教育組織の事例について、情報を収集しデータを編集して、ミニ事例研究を行い、それを共同分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	教育の諸問題	現代の学校が直面する課題を知る
第 3 回	教育改革の進められ方 1	政府における政策形成
第 4 回	教育改革の進められ方 2	国会での議論
第 5 回	教育のマネジメントとガバナンス	市場と参加、GERM の影響力
第 6 回	ミニ事例研究についての説明	方法、まとめ方、提出方法等について説明
第 7 回	教師の多忙化	多忙化の実態と働き方改革
第 8 回	カリキュラム改革	カリキュラム・マネジメント
第 9 回	子どもの貧困	教育と福祉の連携
第 10 回	「学力」問題	学力政策
第 11 回	教育の ICT 化	GIGA スクール等の政策動向、デジタル化の功罪
第 12 回	学校と地域の連携	コミュニティ・スクール、学校参加
第 13 回	ミニレポート発表 1	グループ内での発表
第 14 回	ミニレポート発表 2	代表による全体での発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定のあった課題を授業前後の所定の時までに実施する。

- ・レジュメの再読、まとめ
- ・ワークシートの準備
- ・アテンダンスチェック課題の提出
- ・ミニ事例研究の実施

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）と、ミニ研究の成果を、それぞれ 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to develop students' understandings on educational organisation management, through dealing with policy process and its content in several key educational policy areas, and through co-analysing mini-case studies conducted by each student on an educational organisation.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of this class, students are expected to i) develop understandings on policy process and its content in several key education policy areas, ii) be able to analyse laws, regulations, policy documents, and minutes of government councils and national diet, iii) be able to collect information, compile data and analyse cases of educational organisations, and iv) be able to critically examine current educational policy, rather than just accepting it as a given, forming own opinions on how it should be.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 50%, Term report: 50%

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれませんが。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

- 【到達目標】
- 以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。
- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
 - 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
 - 3) 個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はオンデマンドでのオンライン講義形式で行います。学習支援システムを活用した質疑応答なども取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回の授業においていただいたご質問は翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	キャリア教育政策概観	1990 年代末から今日に至るまでのキャリア教育政策の展開を、進路指導改革や若者支援政策との関連を踏まえて整理し、理解する。
第 3 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 4 回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第 5 回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 7 回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂や道德教科化、外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。
第 8 回	学力テスト政策	国や自治体の学力調査や国際学力調査の結果や、その教育課程への反映状況などを理解する。
第 9 回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第 10 回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第 11 回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第 12 回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第 13 回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1 冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】
資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと学期末レポート、2 つのレポート課題を総合して行います。比率は中間レポート 40 %、期末レポート 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は、基本的にはテキスト資料を配布してそれを読んでいただく形で授業を行いました（授業動画はほとんど使用していません）が、「通学時間や空きコマを有効に使えた」というお声を多くいただいたので、今年度も原則としてその形態で授業を進めていきたいと思っています。また、課題提出や質問受付の期限を学期末間近に固めたぶん、課題を溜め込んでしまったというお声も上がっていましたので、こちらの指示に則ればコンスタントに課題に取り組んでいただけるよう締切日時の設定等の工夫をしていきたいと思っています。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

- 【Learning Objectives】
- Understanding three points below.
- i) Issues of today's education policy
 - ii) Ideals of education policy
 - iii) The importance and roles of each school stages
- 【Learning Activities outside of Classroom】
It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.
- 【Grading Criteria / Policy】
Mid-term Report (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論－教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1)－「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2)－公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3)－「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4)－教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (1)－近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論－体罰は教育的情熱の発露である一の本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において、人々の学びの場や機会が大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、リカレント教育、識字、多文化共生、環境学習など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習にまつわる現代的課題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。実施方法は基本的に「Hoppii と Google Classroom を使ったオンラインによる録画動画配信（オンデマンド型）」で行います。したがって、開講時間（木曜 4 限）に拘束されるものではありません。具体的には以下です。

- ①毎週、授業時間（木曜 4 限）にあわせて、資料を Hoppii の「教材」に、授業動画を Google Classroom にアップロード
- ②木曜～土曜にかけて資料と動画を使って各自で学習
- ③土曜までにリアクションペーパー（考察や疑問点など）を Hoppii の「課題」にて提出（次回授業動画で詳しくフィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりボランティア学習など
第 3 回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目と NPO の登場・その実態と課題、グローバル化社会における NGO の役割など
第 4 回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第 5 回	社会貢献活動を通じた生涯学習	企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿
第 6 回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第 7 回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流の実際の取り組み
第 8 回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	発端としての自然保護教育、公害問題
第 9 回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日的環境教育の展開など
第 10 回	大人の学びと開かれた大学	University extension の歴史的伝統、生涯学習社会における高等教育機関の役割、開かれた大学と地域づくりの可能性など
第 11 回	地域における社会教育・生涯学習施設の役割	多様化する学習施設の現状
第 12 回	公害問題学習の実例／司書・学芸員による学びのプロデュース	公民館・図書館・博物館の歴史・役割資料収集、研究、展示のプロとしての学芸員の姿、文化の発信から交流の拠点としての博物館の模索
第 13 回	生涯学習の学習論と学習を支援すること	生涯学習の学習論の系譜について。ノールズの成人学習論、メジローの認識変容論、エンゲストロームの拡張的学習論など

第 14 回 広がる社会教育・生涯学習の仕事

「民主主義の啓蒙普及」としての社会教育の仕事の歴史や、今日的な社会教育・生涯学習支援のあり方・力量形成など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心を持ち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組みんでも構わない。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木真理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1～7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『くつながり』の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

映像学習時の感想文（10 点 × 3 = 30 点）、期末レポート（70 点）およびリアクションペーパーの内容（+ a）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues (citizen participation, recurrent education, literacy, multicultural coexistence, environmental learning, etc.). In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

【Learning Objectives】

Understand the contemporary problems related to adult education / lifelong learning, understand how adult education / lifelong learning administration / systems have responded to such problems, and practice various adult education / lifelong learning. The goal is to be able to interpret the significance and challenges of lifelong learning.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ Be interested in articles related to adult education and lifelong learning that are dealt with in reference books and newspapers, collect articles, and summarize your impressions and opinions. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ Try to review so that you can deepen your understanding of the terms of adult education and lifelong learning. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ While referring to the contents of the lecture, think about your own way of life for your own self-actualization. The guideline for the time to work is basically different for each person, but it doesn't matter how much you work on it.

【Grading Criteria /Policy】

Impressions during video learning (10 points x 3 = 30 points), term-end report (70 points) and reaction paper content (+ a)

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習①	S. ビンカーらの思想を手がかりに、現代社会の課題と「進歩」について考える。
5	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習②	SDGs とその背景を学ぶことで、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
6	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習③	SDGs ゴール 4（教育）を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
7	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習④	SDGs ゴール 17（パートナーシップ）を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
8	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑤	SDGs に関連する「ポストコロナ社会における環境教育の可能性」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
9	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑥	SDGs に関連する「ポストコロナ社会における学校での新しい学び」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
10	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑦	SDGs に関連する「希望する教育学—持続可能な未来に向けて」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
11	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑧	SDGs に関連する「『知る・わかる・伝える』から多様性と普遍性、理念と価値の共有の教育へ」の視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
13	講座のつくりかた④	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部治・朝岡幸彦編著『知る・わかる・伝える SDGsⅣ 教育・パートナーシップ・ポストコロナ』学文社 2022 年

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』 2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

課題のうち①及び④は授業実施日より 5 日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。

①テキストから課題レポート（ワークシート） 60 %

②学習プログラム作成 20 %

③学習プログラムのポスター作成 10 %

④期末レポート 10 %

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline (in English)】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and plan a learning program. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 60%, learning program : 20%, poster : 10%, final report : 10%.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは、時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば、私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねること、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、背景にある歴史事象と共に説明できる。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いたグループディスカッションを行い、受講生同士で意見交換します。
- ・授業内容の理解を深めるために、学習支援システムを利用したリアクションペーパーを実施します。
- ・提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックし、他の受講生がどのように考えたのか共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の育てと徒弟制	中世の共同体における育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。

なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視して、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンライン講義およびグループディスカッションで、カメラおよびマイクを ON にできる環境で受講してください。
- ・資料の配布や課題提出には学習支援システム等を利用します。

【Outline (in English)】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインで授業を行う。あらかじめ指定した文献や資料をもとにオンデマンドで講義を行うが、知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課す場合があること、授業内容に対する質問を掲示板で授業時間内に受けることから、毎週水曜にアクセスすることを推奨する。
また、講義内容によっては、指定された日時に掲示板を用いて相互の議論を求める場合がある。その場合は事前に告知する。
課題提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返りミニテスト 40 %、期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class review mini-test 40%, final report 60%.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、「教育を、学校と家庭とだけ結びつけて考えない」発想力と、それを支える知識・理解力をパワーアップし、自他のキャリアデザインについて自信をつけます。ステレオタイプ・二番煎じから完全脱却するため、（自分が住む）自治体や地域による支援と教育に焦点を当てて学びます。

【到達目標】

- ・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
- ・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・大事な知識と理解を身の回りのことから徐々に広げ、教育と結びつけて考える力を養います。
- ・どんな社会で生きてゆきたいか——自分なりのビジョンを創り上げます。
- ・オンライン・リサーチ力を身につける——ポストコロナ時代、より重要なスキルに！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

初回のみ zoom とし、対面授業を行いません。ただし新型コロナの感染拡大状況によっては、zoom によるリアルタイム型授業に変更する可能性もあります。zoom URL は学習支援システムを参照のこと。

【進め方】

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるではありません。それを発展させ深めます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」—どう思う？	社会科学の表現作法を理解する
第 3 回	ダメダメ ES に「ツッコミ」を入れる（第 2 章）	ディテールに普遍性が宿ることを理解する
第 4 回	わが子を未熟にする大人（第 3 章）	「親を突き放す優しさ」について考える
第 5 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	教育・襲と内的規準の関係を考察する
第 6 回	「キャリア教育」とどう付き合うか？（第 1 章）	キャリア教育の社会的背景を理解する
第 7 回	学部と職業は関係あるの？（第 4 章）	労働と生活の基礎用語を知る
第 8 回	表やグラフの記述と考察（第 4 章）	「見たらわかるでしょ」は禁物、reader-friendly な書き方を学ぶ
第 9 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？（第 4 章）	ワーク・ライフ・バランスを実存から考える
第 10 回	どうしても働かなきゃダメ？（第 5 章）	「労働の道德化」について理解する
第 11 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？（第 6 章）	AI の社会的インパクトを考察する
第 12 回	社会には扶けてくれる他者がいる（第 7 章）	支援機関の知識を得て、背負える分だけ背負えばよいことを理解する
第 13 回	期末レポートに向けて	オンラインリサーチの方法を学ぶ
第 14 回	どんな社会で生きてゆきたいか（第 8 章）	習得した知識を総合し自己の社会ビジョンを提示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question ををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが 30 %、期末レポートが 70 %

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業と一緒に楽しみましょう。

【Outline (in English)】

In this class the students are to learn "not to think about education only within school and family" and to master basic understandings of relevant knowledge and concepts, in order to be confident of career design. The goal is to grasp social realities/parts deeply based on quantitative and qualitative data and to have your own social vision. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and final term paper 70%.

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本社会では、教育・福祉・労働・生活をはじめとしたさまざまな領域で、歪み・軋みが続いています。では一体、どのように再創造していけばよいのでしょうか。現在、自治体と地域が、生活・就労・学習困難者に対してどのような支援や教育訓練を展開しているのかを具体的に学ぶなかで、それをデザインしてゆきます。

【到達目標】

生活・就労・学習困難者への支援や教育訓練というと、「どんなふうに接したら／教えたらいかが」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に知恵を絞らなくてはならないのは、人・モノ・かね・情報といった諸資源をどのようにネットワーク化すればよいか、です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと視野を広げます。加えて、ポストコロナのこの時代、オンラインリサーチ力はますます重要に。この力を鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

初回は zoom, 第二回目以降は対面で実施します。ただし、コロナ状況によっては、zoom によるリアルタイム授業に切り替える可能性もあります。

【進め方】

毎回、最初の 1/5 が前回リアベへのリプライ・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	森全体を見渡す日
2	自治体による就労支援とは何か	筒井・櫻井・本田編著（2014）の序章を読み、左記を理解する
3	国の福祉政策・労働政策はどう変わってきたか	筒井・櫻井・本田編著（2014）の第2章を読み、左記を理解する
4	シングルマザーを支援する飲食店	前掲書の第9章を読み、福祉と経営を「両立」させることについて議論する
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第3章第3節を読み、生活保護受給者への就労支援について議論する
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるかを理解する
7	就労支援の民間委託	前掲書の第4章を読み、就労支援の民間委託について議論する
8	豊中市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第8章を読み、自治体の福祉部門と労政部門の連携の難しさについて議論する
9	就労支援の「出口」をどう創るか	前掲書の第7章を読み、中小企業支援について理解する
10	地域のニーズを掘り起こす	前掲書の第10章を読み、ニーズを雇用創出と就労につなげる仕掛けを理解する
11	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	前掲書の第5章を読み、協同労働について議論する
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	前掲書の序章を読み、左記について考察を深める
13	誰もが働き、生きていける社会とは	前掲書の終章を読み、左記について議論する
14	期末レポートに向けて	データ提示に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

自分が住む自治体の就労支援政策に関する中間レポート 30 %（添削して全員返却）、左記をブラッシュアップした期末レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline (in English)】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life. Then, how should recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for support of the people with difficulties in work. The goal is to widen your perspective from the micro to meso-and-macro dimensions and to master the way of online research. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木 宏子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は税金を用いて学校を運営するのでしょうか？大学の学費を無償化すると何がおこるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察する力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーの提出を求めます。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決断してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況と講師の健康問題等を踏まえ、原則オンラインでの講義実施（講義時間リアルタイムでの zoom 配信の予定）となります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明をします。課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、基本的に、レポート等の課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。受講人数が多くなった場合などには、授業時間内やオフィス・アワーを別途設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	教育を経済学で考える。受講希望理由書の提出。
第2回	教育の経済学のはじまり	なぜ人は教育を受けるのか？教育の効果やその在り方を経済学的に考える。本講義全般の問題意識。
第3回	教育・学歴の経済学的効果（1）	なぜ大学へ行くのか？「消費」と「投資」。人的資本理論をベースに教育の収益率を考える。
第4回	教育・学歴の経済学的効果（2）	あなたの大学進学が、「あなた」や「社会」にもたらす経済学的メリット。
第5回	教育・学歴の経済学的効果（3）	なぜ大卒者の所得は中高卒者より高いのか？経済学的概念からその理由を考える。
第6回	教育の効果に係る経済学的実証分析（1）	世界における教育経済学の系譜と実証研究の紹介。
第7回	教育の効果に係る経済学的実証分析（2）	教育・職場での学びが賃金や働き方、仕事以外の生活に与える影響。
第8回	中間レポート発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、発表など。
第9回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。
第10回	教育政策の経済学的評価（2）	教育の効果とは何か？学力の伸びとは何か？政策評価手法の基礎。
第11回	教育政策の経済学的評価（3）	日本、世界における教育経済学実証研究における政策評価手法。
第12回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における実証分析の紹介。
第13回	教育は何をもたらすのか？	教育への公費支出の意義、教育費支出の国際比較、教育が社会の効率・公平にもたらす影響。
第14回	講義のまとめ。期末レポートについて。	講義のまとめと、期末レポートの提出に係る質問等の時間を設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。

・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに用いません。

【参考書】

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：45 %程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）

期末レポート：55 %程度

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を学習支援システムより提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

【Outline (in English)】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of schools with taxes? What would happen if education became free for everyone? Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

Learning Objectives:

There are two main goals of this lecture. The first is to deepen the capability to consider various issues related to school education and university education, and to gain an opportunity to reconsider one's own university life. The other is to acquire an economic way of looking at and analyzing things, and to acquire the ability to logically consider not only education but also a wide range of social issues.

Learning activities outside of classroom:

The following preparation and review may be required.

- Find articles and other materials related to the issues discussed in the lecture, summarize the author's arguments, and write a report in which you express your own thoughts.
- Submit reports summarizing your own opinions and answers to the exercises related to the lecture content.
- There is a possibility that you will make a presentation of the above in the lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria:

Usual performance points: about 45% (mid-term report, answers to exercises and reaction papers in the lecture. Active participation such as opinions in lectures.)

Final report: about 55%.

MAN200MA

外書講読 A (ビジネス)

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな専門文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた学術論文まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は格段に広がります。この授業では、当初、平易な経済文献を取り上げた後、「自然実験」と称される、近年、政策決定上重要視される方法を用いた研究論文に挑戦していきます。先端的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を 30 名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第 1 回目の授業に必ず出席してください。なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	経済記事 (1)	新聞の経済記事を読みます。
3	経済記事 (2)	第 2 回目に続いて別の新聞の経済記事を読みます。
4	経済記事 (3)	雑誌の経済記事を読みます。
5	経済記事 (4)	第 4 回目に続いて別の雑誌の経済記事を読みます。
6	Shigeoka(2014)(1)	pp. 2152-2153 を読みます。
7	Shigeoka(2014)(2)	pp. 2154-2157 を読みます。
8	Shigeoka(2014)(3)	pp. 2158-2161 を読みます。
9	Shigeoka(2014)(4)	pp. 2161-2164 を読みます。
10	Shigeoka(2014)(5)	pp. 2165-2168 を読みます。
11	Shigeoka(2014)(6)	pp. 2169-2172 を読みます。
12	Shigeoka(2014)(7)	pp. 2173-2176 を読みます。
13	Shigeoka(2014)(8)	pp. 2177-2182 を読みます。
14	本授業のレビュー	本授業のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、次のとおりです。

- ①授業における発言、提出物: 80%
- ②期末試験: 20%

【学生の意見等からの気づき】

英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

- ・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
- ・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
- ・受講希望者が 30 名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to enable students to read academic literature in English. Our field of vision will be broadened if you can read literature in English. No basic knowledge is required. I am looking forward to your challenge.

*Learning Objectives

The goal is to be able to read academic literature in English on your own. The content of the class will be tailored to each student's level, so even those who have difficulty with English are encouraged to take the class.

*Learning activities outside of classroom

Students are required to read the assigned paragraphs before class. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following. in class contribution: 80%, Term-end examination: 20%.

MAN200MA

外書講読 B (ビジネス) 展開科目

杉原 弘恭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスに必要な知識の基礎を学びつつ、世界標準化してきている英米のビジネス様式の背景を探ります。Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの人が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。また英文契約書が似た意味の動詞を 2 つ並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります。また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供する Bene fi t Corporation という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような対外的な役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進めて行きます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念と背景を英語と共にマスターします。ビジネスに必要な概念をその背景と共にマスターし、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を理解することを目標とします。これらが capable communication, ひいてはのちのちの経営（生涯学習とキャリア形成）の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Reading English Materials on Business です。オンデマンドとし、毎回支援システムの「教材」で配布する講義資料を読み、Reaction Paper（成績評価の項参照）を提出してください。それに対する feedback は主に次の回の冒頭で行います。個別資料は詳細に記述しています。なぜ目で読むことが大事かは第 1 回目の講義でわかります。英語による Communication のための基礎知識、各種用語、短文の原典（原則対訳付き）を学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際ビジネスの背景にある違いは何かから？	Common law と大陸法を知ろう。
第 2 回	英語と日本語の communication 構造	3 層構造を意識する。英文契約書の世界観を知る。
第 3 回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal Arts と Servile Arts の反映を知る。
第 4 回	責任を表す言葉とその源流	アダム・スミスと聖書にみる Accountability.
第 5 回	Management の源流	Drucker と MBO-S、内部統制ほか。
第 6 回	Management とは	Supply/Value chain、Co-creation 共創などを理解する。
第 7 回	組織のアーキテクチャ	アメリカと日本の違い、ほか。
第 8 回	3 つの失敗と組織	市場・政府・ボランティアの失敗、統計の歴史を知る。
第 9 回	21 世紀の会社	会社の基礎知識と Bene fi t Corporation 等を知る。
第 10 回	日米雇用システム比較	雇用慣行の違いと変化、国際法との関係。
第 11 回	21 世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る。
第 12 回	AI と雇用	情報、AI の基礎知識と雇用を知る。
第 13 回	Motivation 3.0 と開発経済	内発的動機づけと内発的発展。
第 14 回	試験・まとめ	試験は、3,4 肢択一式と論述試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがあります。日頃から他に意味はないのか？ Why? What if? (もし〜としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。授業の準備学習・復習時間は 4 時間が標準です。

【テキスト（教科書）】

支援システムの「教材」で、毎回講義録を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「IT パスポート」には、(本講義を含めて)辞書代わりにも使える『よくわかるマスター IT パスポート試験対策テキスト』(FOM 出版)がお奨めです。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義の Reaction Paper の提出 (「テスト/アンケート」を使用、設問下記)80%、最終回の Test(Reaction Paper 方式)20%を予定。

- 1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？ (箇条書き)
- 2) 1) に関する考察・質問・感想・要望など

【学生の意見等からの気づき】

図解の説明を詳しくするほか、資料の読みやすさに留意します。

【その他の重要事項】

関連資格： IT パスポート (一番取得しやすい国家試験で、毎月 PC 受験可能) IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かせます！

【Outline (in English)】

(Course Outline) The aim of this course is to learn the basics of business knowledge and explore the background of English business styles which are becoming the international standard. How many people understood when Steve Jobs said, "Apple tries to be at the intersection of technology and the liberal arts"? The original Japanese translation was incorrect. What is the point of using two verbs with similar meanings in an English contract? Thus, understanding the original English is of paramount importance. In the U.S., there is a new corporate system called a Benefit Corporation, which is a private company that creates public benefit in the environmental and social fields. These companies try to synchronize external roles with employees' intrinsic motivational, Drive and Caring concepts. This course is designed to provide a three-dimensional understanding of the international macroeconomic situation surrounding corporations as well as the human condition by referencing the original English sources.

(Learning Objectives) Students are expected to master the concepts and background necessary for conducting business in English by exploring concepts such as Motivation 3.0, which is the basis of career design. We hope that this will help students grasp the concept of "Capable Communication" and "Management of Lifelong Learning and Career Development".

(How to Learn) In this on-demand course, students are expected to read the lecture materials distributed in the "Resources" section of the Learning Support System and submit a "Reaction Paper" (see "Grading") to the "Tests & Quizzes" section. Feedback will be given on student Reaction Papers at the beginning of each lecture. Individual business documents will be gone over in detail in each lecture. You will find out why it is important to read English documents with your eyes in the first lecture. You will learn the basics of communicating in English, various terms, and read bilingual translations of original short texts.

(Grading Criteria / Policies) Final grade will be calculated according to the following process: Reaction Papers on each lecture (80%), Final Examination (20%).

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。＜まともな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では若年労働市場や働き方の現状と問題点、課題の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。授業はオンライン（オンデマンド方式）で行う予定です。詳しくは初回授業にて指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	正規雇用と非正規雇用	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
3	雇用ポートフォリオと不本意非正規	雇用ポートフォリオ／多様な働き方の現状と課題
4	企業と労働者の双方から見る非正規雇用	調査結果から見る多様な働き方
5	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
6	派遣労働を考える	派遣労働の特徴と問題点
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態、夫婦の生活時間・仕事時間
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）：女性の働き方をめぐる法改正	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）：コース別雇用管理	コース別雇用管理と女性の戦力化
12	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。
 ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
 ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
 ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
 ・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書

・川入博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
 ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
 ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 4 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題を考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの受講環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、中間レポートおよび期末レポートについて等の説明を行うため、必ず確認すること。本授業はオンライン授業（オンデマンド方式）である。各回の授業は木曜 2 限に zoom で実施したうえで、録画を受講者に期間限定で公開する。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

MAN200MA

人材育成論Ⅰ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法と特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅰの概要と方法は、人材育成＝①＜狭義：職業能力の訓練＝OJT＋OFF-JT＋自己啓発＞＋②＜広義：組織内でヒトが育つ環境＝人的資源管理＋組織＞＋③＜最広義：ヒトが育つ社会環境：家庭＋学校＋地域全体社会＋労働市場＞という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業実施日は、4月22日（水曜）3時限としますが、時間非限定形式の開講とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第2回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性
第3回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成： 2 能力開発の方法：OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第4回	技術革新と技能の変化	1 学説：高度化説と単純化説：技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメーション化、ME化段階、IT化段階、AI段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第5回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて：M字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション

第6回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について：失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第7回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第8回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第9回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題：高年齢者雇用安定法の改正 1 「ホワイトカラー」とは：職業大分類の4つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3 国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題
第10回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第11回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の仕事意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第12回	中小企業労働者のキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLBを支える制度及び現状と目標 4 WLB施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第13回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答
第14回	講義のまとめと試験について	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容のかかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましい。

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011年）、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を購入し、併読することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようである。
出席点 30点。中間レポート 20点。期末レポート（もしくは試験）50点。
なお、大きな変更がある場合は、学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

【Learning Objectives】

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.

(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.

【Learning activities outside classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Attendance points 30 points. 20 interim reports. Final report (or exam) 50 points.

If there are major changes, we will contact you via the learning support system.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

(1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。(2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。

(3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。

(4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じた日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。

講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション——人材育成論Ⅱの進め方	講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第 1 回から第 6 回までで、また後半とは第 7 回から第 13 回までを指します。
2	組織のなかで人を育てるということ	第 2 回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題
3	日本企業の人材育成の特徴とは——OJT、Off-JTと人事制度の関係	第 3 回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JT の意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成（ブレイン・マネージャー）
4	大企業の人材育成の事例	第 4 回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルな OJT とインフォーマルな OJT 3 インフォーマルな OJT としての職場学習：仕事管理の PDCA サイクル 4 インフォーマルな OJT としてのキャリア：大企業部長のキャリア事例
5	大企業マネージャーのキャリア形成	第 5 回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルな OJT としてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの

6	タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題	第6回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。
7	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較—日本の位置と特徴	第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。 第7回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3 日本の位置と特徴
8	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	第8回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成
9	企業コミュニティと人事方針及び人材育成—実証データによる英独日比較	第9回では以下のことを学びます。 1 労働者の意識についての国際比較研究（一覧） 2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較 3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？ 4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？—英独日比較 5 考察とまとめ—日本と英独との差異の背景にあるものは何か？
10	ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較—大企業管理職を中心に	第10回では以下のことを学びます。 1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究 2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア 3 リーダーシップの特定と開発— 4 イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観 5 望ましいキャリアコース
11	職業資格の日本の特質—英独との比較を中心に	第11回では以下のことを学びます。 1 日本の職業資格制度の理念と概要 2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連—ドイツの特徴と日本の特徴 3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究 4 教育制度と職業資格との関連—日独比較、日英比較の視点から 5 まとめ—教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性
12	職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化—ドイツとの比較を中心に	第12回では以下のことを学びます。 1 今回のフレームワーク—ドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム 2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 4 まとめ
13	日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意	第13回では以下のことを学びます。 1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見 2 日本の特徴の意味するもの—生涯学習（リカレント教育）に対する含意 3 日本の特徴の歴史的背景—徒弟制の歴史にみる英独日の差異 4 最後に—日本の課題
14	人材育成論Ⅱのまとめ	講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』（仮題）中央経済社（2022年出版予定）を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したpptレジュメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【参考書】

人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

- 1 毎回の授業への参加が30点です。
- 2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は20点です。
- 3 期末に定期試験を実施する予定ですが、新型コロナの感染状況によっては期末レポートになることもあります。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は50点です。

【学生の意見等からの気づき】

各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。

【授業中に求められる学習活動】

C,D

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】

The learning goals of this class are as follows.

- (1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.
- (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
- (3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.
- (4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1 Participation in each class is 30 points.

2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We plan to conduct a regular test at the end of the term, but it may be a term-end report depending on the infection status of the new corona. The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA

産業・組織心理学 I

展開科目

石山 恒貴

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の 3 点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持つようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はリアルタイムの zoom を使ったオンライン形式で行います。講義とグループ討議（zoom のブレイクアウト）を組み合わせて行います。チャットの質問も活用し、双方向性の確保に努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第 2 回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第 3 回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第 4 回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第 5 回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別の
第 6 回	公平性	関係性の重視 公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第 7 回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第 8 回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第 9 回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第 10 回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第 11 回	個人と組織の関係性③エンゲージメント（従業員エンゲージメント、ワーク・エンゲージメント）	組織と個人双方が高めあう関係
第 12 回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第 13 回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第 14 回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているのかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久著

『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版』2020 年、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

小レポート（原則毎回） 48 %

期末レポート（1 回） 52%

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】

zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムにアップします

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。

【Outline (in English)】

Learning objectives

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs..

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the main concepts of industrial/organizational psychology, have a vision of their own career, and be able to think about problems in workplace management and how to improve them.

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 48%、Term-end reports : 52%

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

石山 恒貴

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はリアルタイムの zoom を使ったオンライン形式で行います。講義とグループ討議（zoom のブレイクアウト）を組み合わせて行います。チャットの質問も活用し、双方向性の確保に努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第 2 回	キャリアを理解する①	キャリア形成の概要の理解
第 3 回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第 4 回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第 5 回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第 6 回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第 7 回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習 仕事をもたらす一皮むけた経験
第 8 回	能力を高める②	越境学習とパラレルキャリア
第 9 回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第 10 回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第 11 回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第 12 回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第 13 回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現と境界管理
第 14 回	今日のトピックス②	ダイバーシティの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」と、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002 年 PHP 新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004 年 日経文庫
 石山恒貴・伊達洋駆 越境学習入門 2022 年 日本能率協会マネジメントセンター

【成績評価の方法と基準】

小レポート（原則毎回） 48 %

期末レポート（1 回） 52 %

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】

zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the main concepts of industrial/organizational psychology, have a vision of their own career, and be able to think about problems in workplace management and how to improve them.

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 48%、Term-end reports : 52%

MAN200MA		
キャリア開発論		展開科目
松原 光代		
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring		
曜日・時限：火 2/Tue.2 配当年次：2～4 年		
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本授業では、経済社会の変化に伴う企業の雇用システムの変化を踏まえながら、個人のビジネスキャリアの変化・影響を見ていきます。特に、「Society5.0」という「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」という時代の到来は、これまでの社会とどのような違いがあるのでしょうか？ 最も大きな違いは、これまで私たちにとって当たり前であった「長期雇用」を維持できない企業等が増える、という点です。長期雇用が常態化している時は、組織イニシアチブの辞令に順ずることで、所属組織が社員の職業キャリアを保障してくれるため、自らキャリアを考える必要がありませんでした。しかし、これからの社会は、自分で自分の職業キャリアを考えなければなりません。つまり、私たちのキャリア形成は、社会経済とそれに呼応する企業の雇用システムと不可分なものです。 正社員として就職すれば、何となく将来の生計が保障されていた時代から、「社会の変化 × 自らのキャリア展望 × それに必要な能力（スキル、ネットワーク、知識など）」を常に考えていく社会へと移行するなかで、大学時代にどのような力をつけておくべきか。 本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、経済社会の変化やそれにより生じる現象や課題を理解することを目的としています。		
【到達目標】 本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】 授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。 本授業はオンラインで実施し、「オンデマンド」を中心にして「リアルタイム型」を3 回程度含める予定です。具体的な予定は、第1 回の授業で説明するとともに、学習支援システムで連絡をします。 「オンデマンド」の授業では、原則として、テキストと配布資料による学習、動画での説明を組み合わせて実施します。 毎回出席確認のためのテストもしくはコメントを学習支援システムで提出してください。授業日から3 日以内の提出を出席とみなします。 授業で使用する資料等は「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。 課題等に対するフィードバックに関しては、出席確認のためのテストやコメントは、1～2 週間内にフィードバックします。また、授業内で実施するテスト等は希望者に対してフィードバックします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1 回	オリエンテーションと講義概要	（リアルタイム型を予定） 授業のオリエンテーション、授業概要、レポートの書き方の説明など
第2 回	「キャリア論」とは何かを知る	キャリア形成において配慮すべき点は何かの理解
第3 回	キャリア開発の主体を学ぶ	キャリア開発と個人の能力や所得、組織パフォーマンスとの関係性の理解
第4 回	経営環境とキャリア開発の変化を学ぶ	日本企業が直面するダイバーシティ、デジタルイノベーションとキャリア形成の関連と動向の理解
第5 回	求められる「キャリア自律」を知る	「キャリア自律」の理解
第6 回	「ダイバーシティ経営」について知る	「個の多様性」と「組織パフォーマンス」との関係、インクルージョンの理解
第7 回	「正社員の多元化とキャリア開発」について知る	「正社員」とは何か、その多元化とは何か、キャリア形成への影響とは何かの理解
第8 回	「ワーク・ライフ・バランスと働き方改革」について知る	（リアルタイム型を予定）ワーク・ライフ・バランスを実現しつつキャリアを形成するための個人や組織の役割についての理解
第9 回	「女性のキャリア開発」について知る	内部労働市場論と女性のキャリア支援との関連性の理解
第10 回	「育児期のキャリア開発」について知る	育児と仕事の両立と、育児期の男女のキャリア開発の理解（男性の子育て参加など）
第11 回	「介護責任とキャリア開発」について知る	介護と仕事の両立と、育児との違いに係る理解
第12 回	「再就職者のキャリア開発」について知る	技術の進化の潮流のなかでのキャリアの中断がもたらすであろうキャリアへの影響への理解
第13 回	「非正規雇用とキャリア開発」について知る	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題、同一労働同一賃金に係る理解
第14 回	まとめ：自律性と多様性とは何かを知る	（リアルタイム型を予定）不確実性が高まる時代の到来 × 労働者の多様化におけるキャリア形成を自助、共助、公助の在り方の理解
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業資料は、あらかじめ学習支援システムより提供します。それをプリントアウトして授業に臨むと円滑に進めます。所要時間は 30 分程度です。 また、各授業で小テストや小レポート（400 字以内）を求め、理解度を確認します。こちらの所要時間は 30 分～1 時間程度です。		
【テキスト（教科書）】 武石恵美子著『キャリア開発論』中央経済社（ISBN978-4-502-19841-0）を使います。同テキストがあることを前提にして授業を進めるので、必ず購入等をしてください。		
【参考書】 それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、テキスト内の参考文献が参考になります。また、授業に関連する内容で文献を知りたい方は遠慮なく質問をしてください。		
【成績評価の方法と基準】 成績は、次のように評価して決定します。 ○レポート：5 割 レポートは2 回出す予定です。期末の試験は行いません。 レポートは、論理性をもって説明できるかを評価します。レポートの書き方については、最初の授業で説明します。 なお、剽窃（いわゆる、どこかのサイトからコピー＆ペーストをそのまますること）が判明した場合は「D 評価」とします。どれだけ出席をしていますが D 評価になるので、気を付けてください。 ○授業への参加：5 割 各授業の出席の代替として求める小レポート・小テストの結果も含みます。提出は授業日（火曜日）を含む3 日以内です（木曜日の 23:59 まで）。		
【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更によりフィードバックができませんが、受講者からの質問には丁寧に対応しますので、質問があれば積極的にお願いします。		
【学生が準備すべき機器他】 授業はパワーポイントと音声で実施するので、それを受信できるようにしてください。		
【その他の重要事項】 本授業で単位を取ろうと思っている学生は、1 回目の授業は必ず出席するようにしてください。 また、直接の質問（オフィスアワー）は各授業後としますが、15 分以上の相談を要する場合は、事前にアポイントメントを入れてください。なお、連絡先は第1 回の授業で案内します。		
【Outline (in English)】 This course have two goals. One is to acquire knowledge of the basic theory of business career development, the other is to understand that career development changes in relation to economic and social and corporate personnel management. This course introduces how the employment system of a company is changing due to changes in the economy and society, and the changes and impacts of individual business careers. Students will be expected to print out the materials provided by the learning support system in advance and to participate in this course. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and the term-end report(50%),and in-class contribution (including small reports imposed each class, 50%).		

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野 達

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャンクルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- オンライン授業（同時双方向型）を基本とする。
- ・ZOOM 等のオンラインツールを用いて講義形式で行う。
- ・一部の講義では、可能な範囲でグループディスカッションやグループ・ワークを行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？リーダーシップの定義を紹介する
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	対流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第 12 回	リーダーシップ演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	リーダーシップ演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	講義のまとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること。
授業時間内課題のふりかえり、授業時間外の課題に取り組み提出すること。
(本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

【参考書】

最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)

リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)

M.M. チェーマーズ, リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 (50 %)
- ・授業内課題ワークシート・レポート等 および 授業活動への貢献度 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業（同時双方向型）に必要な機器
- ・情報機器（パソコンもしくは大型のタブレット PC を推奨）
- ・オンライン上でのグループディスカッション等でマイク（Web カメラ付を推奨）を使用する。
- ・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
- ・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline (in English)】

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal.This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics.

In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- － A. Understanding the foundation of leadership theories.
- － B. Understanding the foundation of group dynamics.
- － C. Deepening the understanding of and developing one's Leadership

Styles.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports(Worksheets) and in-class contribution: 50%

MAN200MA

経営統計論 A（心理データ） 展開科目

菊地 史倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差の把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握等で活用されます。実際には、調査対象者の行動データや質問紙等の回答データを集約し、得られたデータに対する統計処理を通じて、仮説の検証や傾向の把握を行っています。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法等を、講義や実習（excel 等のソフトを使用する）を通じて習得します。

【到達目標】

統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。

質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。

代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。

目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。

分析結果を正確に記述（解釈）できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査の一連のプロセスを統計処理のスキルを含めて獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの集計方法（例：サンプル数、平均値、標準偏差）のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈について学習します。その後、目的に応じたデータ分析手法を紹介します。質問紙調査でよく用いられる分析手法として、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析、回答者を分類するためのクラスター分析、質問項目を集約するための因子分析等が用いられており、これらの分析手法を学んでいきます。また得られた分析結果の解釈スキルの獲得を通じて、信頼性と妥当性の考え方について学習します。毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	相関と因果	二つのデータの関係性についての解説と実習
第 4 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 5 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 6 回	平均の比較（1）	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 7 回	平均の比較（2）	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 8 回	因子分析（1）	心理尺度などで用いられる因子分析の解説
第 9 回	因子分析（2）	データを用いた因子分析の具体的な手続きの実習
第 10 回	因子分析（3）	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法の解説
第 11 回	信頼性と妥当性	調査手法や分析結果の質の解説
第 12 回	クラスター分析	回答者の分類方法であるクラスター分析の解説と実習
第 13 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が時間内に終了しなかった場合、次の授業までに取り組んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 3 版]」

田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」

L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 基礎編：重回帰分析からメタ分析まで」

L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 応用編：SEM から生存分析まで」

【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の 2 点から行います。

・授業への積極的な貢献度とミニテスト：60 %

・学期末のレポート課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】

クラス（教室）の収容人数を超える履修希望が見こまれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic statistic skill related to psychology. The goals of this course are to acquire knowledge of questionnaire survey and psychological research method. If students are unable to complete the assignment during the class meeting, you will need to complete it before the next class. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports and in class contribution: 60%, Term-end report: 40%.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本 徹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

黒字決算」、「売上」、「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まずは講義プリント（テキストの要約や学習する章に関連する基本的会計用語・時事問題など）の穴埋めをして、その時間に学ぶ概略を理解してもらいます。その際は各自で会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次にそれに基づいて授業内ミニテストを解いて応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含まれます。なおこの講義は、オンライン・オンデマンド型で実施します。つまりそれぞれがいつ学習するかは問いませんが、授業内ミニテストの期限があるため、それに合わせて計画的に学習することが必要になります。課題の総評等については、適宜ポータルサイトを通じて紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第 2 回	会計の守備範囲	企業会計の対象について学びます。
第 3 回	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
第 4 回	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
第 5 回	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
第 6 回	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
第 7 回	会計を取り巻くルール (1)	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
第 8 回	会計を取り巻くルール (2)	会計基準について学びます。
第 9 回	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
第 10 回	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
第 11 回	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
第 12 回	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
第 13 回	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
第 14 回	本講義のまとめ	本講義の学習内容について要約・整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木一雄『会計学はじめての一步』第 2 版 中央経済社 その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（授業内ミニテスト等）により評価します。期限後の提出については評価しません（大規模なシステム障害以外は、遅れは個人の事情となり考慮しません）ので、期限厳守で早めに取り組む必要があります。また各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とは同じ答案とみなされる場合やテキストなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べ自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.

It'll be also useful in case of job hunting.

The aim of this course is to help students acquire knowledge of corporate accounting.

This goals of this course is to understanding of various accounting.

Befoure/after each class meeting,students will be to spend two hours to understand to the course content Experiment/Practice(one-credot)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

:Short point 100%

MAN200MA

経営統計論 B（企業データ） 展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを体験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めています。受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフト R の基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化（Z 値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定 (3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

①授業における発言、取り組み: 30%

②授業内および期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

*Learning Objectives

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

*Learning activities outside of classroom

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 30%, short and long reports: 70%.

MAN200MA

経営組織論 I

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの講義実施となり、モチベーションの維持が難しく感じる学生もいるかと思います。授業支援システムを用い、講義の都度なぜこの単元について学ぶのか、この単元で何を身につけることができるのかを説明し、講義の中でも具体的な事例を取り上げながら分かりやすく説明することを心がけていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focuses on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A +

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は講義をオンラインで行うこととなりました。毎回授業支援システムで講義の概要について説明した上で、講義内では可能な限り具体的な例を挙げて説明を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A +

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

戦略経営論 I

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要
戦略経営論の基礎として経営戦略に関する主な理論を学ぶ。また、デジタル・トランスフォーメーションや人工知能が戦略形成に与える影響に関する最近のトピックおよび研究結果を学ぶ。

到達目標
・経営戦略に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
・デジタル・トランスフォーメーションに関する基礎用語を説明できる。
・人工知能を活用したデータ・アナリティクスに関する基礎用語を説明できる。
・経営戦略、デジタル・トランスフォーメーション、A I の基礎知識に基づいて企業のビジネスモデルを分析できる

【到達目標】
以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。
・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションと人工知能技術に関する基礎的な用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業の第 1～第 12 回はオンデマンド動画により講義形式で行う。講義動画の視聴および掲示板等での Q&A を中心として進める。第 13 回、第 14 回はリアルタイムで行う。期末試験は学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	戦略的経営とは	戦略的経営の全体的フレームワーク、SWOT 分析
第 3 回	外部環境分析	PESTLE 分析、ファイブフォース分析
第 4 回	内部環境分析	資源ベース視点。VRIO フレームワークによる分析法
第 5 回	事業戦略	基本戦略のフレームワーク、差別化とコスト・リーダーシップの要素
第 6 回	企業戦略	多角化戦略。アンゾフマトリクスを用いた分析法
第 7 回	ビジネスモデル	ビジネスモデルのタイプ、ビジネスモデル・キャンパスを用いた分析法
第 8 回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）	DX の定義・特徴とビジネスへの応用例
第 9 回	DX とダイナミック・ケイパビリティ	ダイナミック・ケイパビリティと DX への応用
第 10 回	人工知能とビジネス・アナリティクス	ビジネスにおける人工知能を用いたデータ分析・データ活用
第 11 回	ビジネス・アナリティクスの実行	ビジネス・アナリティクス実行のための企業能力とプロセス
第 12 回	戦略形成の現代的課題	DX と A I 活用がもたらす戦略形成上の課題
第 13 回	まとめ	第 1～第 12 回のまとめと理解度確認
第 14 回	フォローアップと今後の研究課題	重要事項の解説と今後の研究課題の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
・各回の授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義スライド、予習用教材（学習支援システム上にて配付）

【参考書】
講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】
期末試験（配点 100 %）

実施形式：選択式。参照可
評価基準：
・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションと人工知能技術に関する基礎的な用語を説明できる。

【学生の意見等からの気づき】
・デジタル・トランスフォーメーションや A I 活用といった最新のトピックを追加
【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
・期末試験の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation. It also covers the impact of digital transformation and artificial intelligence on strategy formation.
Learning objectives
Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.
Can explain basis terms of digital transformation and artificial intelligence.
Can analyze a firm's business model using the knowledge of the topics above.
Learning activities outside of classroom
Summarize the key issues in the lectures
Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures
Grading Criteria
Final exam: 100%
Assess whether learners can
1. Explain the basic constructs and theories of strategy formation
2. Explain the basic terms of digital transformation and business analytics
3. Interpret business cases using the framework learned in this course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

戦略経営論の基礎として意思決定、戦略実行に関する主な理論を学ぶ。また、デジタル・トランスフォーメーションや人工知能が意思決定や戦略実行に与える影響に関する最近のトピックおよび研究結果を学ぶ。

到達目標

- ・戦略的意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・リーダーシップに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・人材獲得に関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・アルゴリズムミック・マネジメントに関する基礎的な外見・理論を正確に説明できる。

【到達目標】

- 以下の能力を習得することにより、戦略実行に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。
- ・戦略的意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・リーダーシップに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・人材獲得に関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・アルゴリズムミック・マネジメントに関する基礎的な外見・理論を正確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業の第 1～第 12 回はオンデマンド動画により講義形式で行う。講義動画の視聴および掲示板等での Q&A を中心として進める。第 13 回、第 14 回はリアルタイムで行う。期末試験は学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	アルゴリズムミック・マネジメント	A I による仕事の自動化と拡張、A X
第 3 回	戦略的意思決定 (1)	意思決定の基礎理論、意思決定におけるバイアス、プロスペクト理論
第 4 回	戦略的意思決定 (2)	意思決定デュアルシステム・直感的意思決定・専門的直観
第 5 回	戦略的意思決定 (3)	アルゴリズムミック意思決定
第 6 回	人材マネジメント (H R M) (1)	リーダーシップ
第 7 回	人材マネジメント (H R M) (2)	組織内パワーと組織内政治
第 8 回	人材マネジメント (H R M) (3)	人材の採用と戦力化
第 9 回	アルゴリズムミック H R M (1)	A I を活用したリーダーシップ
第 10 回	アルゴリズムミック H R M (2)	A I を活用した人材の募集と採用
第 11 回	戦略的経営と倫理 (1)	戦略的意思決定における倫理問題
第 12 回	戦略的経営と倫理 (2)	アルゴリズムミック H R M における倫理問題
第 13 回	まとめ	第 1～第 12 回のまとめと理解度確認
第 14 回	フォローアップと今後の課題	重要事項の補足解説、今後の研究課題の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
- ・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド、予習用教材（学習支援システム上にて配付）

【参考書】

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

期末試験（配点 100 %）

実施形式：選択式。参照可

評価基準：

- ・戦略的意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・リーダーシップに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・人材獲得に関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・アルゴリズムミック・マネジメントに関する基礎的な外見・理論を正確に説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

- ・デジタル・トランスフォーメーションや A I 活用といった最新のトピックを追加

【Outline (in English)】

Couse outline

This course covers basic constructs and theories of strategic decision making and strategy implementation. It also covers the impact of artificial intelligence on strategic decision making and strategy implementation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of strategic decision making, leadership, recruiting, and algorithmic management.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

Final exam: 100%

Assess whether learners can explain the basic constructs and theories of strategy formation, strategy implementation, and algorithmic management.

MAN200MA

経営分析論Ⅰ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 1 章 財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第 2 章 財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第 3 章 貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第 4 章 損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ROA と ROE の関係
第 8 回	第 6 章 効率性分析	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析 ・増加運転資本
第 9 回	第 6 章 効率性分析	・増加運転資本
第 10 回	中間レポートの解説	提出レポートを紹介しながら確認する
第 11 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第 12 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 13 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
(例) 本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析（第版）』同文館出版，2019

【参考書】
青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店，2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社，2009

バレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ベンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %）・中間レポート（20 %）・平常点（10 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports : 30%, in class contribution: 10%.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 8 章 損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第 8 章 損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第 9 章 成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章 付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	中間レポートの解説	提出レポートを紹介しながら確認する
第 9 回	補章 貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 10 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の簡便法
第 11 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル
第 13 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
(例) 本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析（第版）』同文館出版、2019

【参考書】

青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社、2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社、2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2009

バレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009

ベンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60 %）・中間レポート（20 %）・平常点（10 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis.

The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。
※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab（みずほフィナンシャルグループ）、株式会社 smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社（D-LAB）、ANA セールス株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、ambie 株式会社（ソニーグループ発スタートアップ企業）、SPACECOOL 株式会社（大阪ガス発スタートアップ企業）、株式会社 stepdays（博報堂グループ発スタートアップ企業）

【到達目標】

- ① 起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ② 産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③ グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④ 自分で考えたプランをプレゼンテーションでできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインでの授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。[Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.]

授業は、1 つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを 3 パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	グループワーク 1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2

第 8 回	グループワーク 2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマ（課題）を提供する大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

※学習時間について、標準的に課題となる事業アイデアやビジネスプラン策定には 3 時間～4 時間程度かかることがある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline (in English)】

In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies). This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.

Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

[Companies that have participated in past classes]

■ Fiscal year 2019 (1st semester / 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, Dai-ichi Life Insurance (D-LAB), ANA Sales

■ Fiscal 2020 (1st semester / 2nd semester)

Kose Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code Co.

■ Fiscal 2021 (1st semester / 2nd semester)

Ezaki Glico, Hosty, Seven-Eleven Japan, ambie (Sony Group start-up company), SPACECOOL (Osaka Gas start-up company), stepdays (Hakuhodo Group start-up company)

■ Learning Objectives

1. Understand and experience the skills and mindset (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.

2. To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn, and to set career goals.
3. Be able to think and express their own views during group work.
4. Be able to present their own plans.

■ Learning activities outside of classroom

Read in advance about new businesses of major companies offering the theme (issue), books by start-up entrepreneurs, company websites, interview articles, related News, etc.

Assume that the group will actually conduct fieldwork*, group discussions, and preparation of materials in order to formulate business ideas and business plans.

*For fieldwork, it is assumed that online conferencing systems such as ZOOM will be used.

*About the learning time, it may take 3 to 4 hours to formulate a business idea or business plan, which is the standard assignment.

■ Grading Criteria /Policy

1. attendance and participation in discussions 60%
2. mini-report 20%
3. business plan (presentation and materials) 20%

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家の経営者）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 smilooops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えたと共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べるができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2022 年度もオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson.Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2)2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを 3 パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2

第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り (テーマ 2)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する (プレゼンテーション)
第 11 回	講義 (テーマ 3)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ (課題) の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り (テーマ 3)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する (プレゼンテーション) アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テーマ (課題) を提供する大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン (発表・資料) 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3： Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline (in English)】

In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies). This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.

Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

[Companies that have participated in past classes]

■ Fiscal year 2019 (1st semester / 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, Dai-ichi Life Insurance (D-LAB), ANA Sales

■ Fiscal 2020 (1st semester / 2nd semester)

Kose Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code Co.

■ Fiscal 2021 (1st semester / 2nd semester)

Ezaki Glico, Hosty, Seven-Eleven Japan, ambie (Sony Group start-up company), SPACECOOL (Osaka Gas start-up company), stepdays (Hakuhodo Group start-up company)

■ Learning Objectives

1. Understand and experience the skills and mindset (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
2. To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn, and to set career goals.

3. Be able to think and express their own views during group work.

4. Be able to present their own plans.

■ Learning activities outside of classroom

Read in advance about new businesses of major companies offering the theme (issue), books by start-up entrepreneurs, company websites, interview articles, related News, etc.

Assume that the group will actually conduct fieldwork*, group discussions, and preparation of materials in order to formulate business ideas and business plans.

*For fieldwork, it is assumed that online conferencing systems such as ZOOM will be used.

*About the learning time, it may take 3 to 4 hours to formulate a business idea or business plan, which is the standard assignment.

■ Grading Criteria /Policy

1. attendance and participation in discussions 60%
2. mini-report 20%
3. business plan (presentation and materials) 20%

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①全回オンラインによる授業となります。初回とゲスト招聘の回（全体のなかで2回程度）は同時双方向型、それ以外は原則としてオンデマンド方式（音声配信型）を予定しています。
- ②オンデマンド方式（音声配信型）の回については、毎回学習支援システムにレジュメ（PDF ファイル）、音声データ（説明の録音）を、授業の週の月曜日にアップします。レジュメをご覧いただきながら音声データを聞く形で授業を受講してください（音声 URL の有効期限は授業日後2週間とします。有効期限内であれば、授業時間中に限らず、ご都合の良い時に受講頂いて結構です）。
- ③同時双方向型の回については、授業時間の5分前にオンライン接続可能な状況（Zoom を予定）としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、簡単な確認テストやリアクションペーパーの提出を求めます。また、レポートの執筆・提出が1回あります。
- ⑤確認テストやリアクションペーパー、レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況やゲストのスケジュールなどによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (同時双方向型)	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第 2 回	社会環境変化と職業 (音声配信型)	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える
第 3 回	デジタル革新と職業 (音声配信型)	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第 4 回	職業と人材のマッチング (音声配信型)	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み
第 5 回	職業と組織・倫理 (音声配信型)	①組織の意義や役割 ②組織の中で働くことと職業倫理について考える
第 6 回	職業キャリアに関する理論 (音声配信型)	①職業キャリアに関する主な理論の概説 ②レポートの説明
第 7 回	日本的雇用システムと職業 (音声配信型)	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第 8 回	職業教育と職業能力評価 (音声配信型)	①職業教育、職業資格と職業能力評価の概説 ②企業における人材育成の現状と課題
第 9 回	職業人の講話 (同時双方向型)	ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 10 回	ジェンダーと職業 (音声配信型)	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第 11 回	販売や営業の仕事 (音声配信型)	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア
第 12 回	人事の仕事 (音声配信型)	①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア

第 13 回	公共的な仕事～公務員を事例として (音声配信型)	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第 14 回	授業の振り返り (音声配信型)	①レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、簡単な確認テストやリアクションペーパーの提出を求めます。レポート（3000字程度を想定）の執筆・提出が1回（6月末め切）あります。本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料（レジュメ）は授業の週の月曜日に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60 %）、確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質問・意見交換（40 %）で評価します。レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうか評価対象とします）。レポート未提出の場合は確実に不可となりますので、必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。また、レポート提出のみでも不可になる可能性が高いため、確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質疑・意見交換にご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.

< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアに関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、（１）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（２）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（１）はオンライン、（２）はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第 2 回	新規卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第 3 回	新規卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規卒市場に関する研究を説明する。
第 4 回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第 5 回	現場主義の改善活動の理論と実証	第 4 回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第 6 回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説する。
第 7 回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第 6 回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第 8 回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第 9 回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第 10 回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかつちゃいるけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第 11 回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第 12 回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第 13 回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第 14 回	様々なキャリア	これまでの授業を振り返り、今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・脇坂明『仕事映画』に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業（40%）と学期末のレポート（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。今回から、映画を使って事例を紹介し、その上で理論や実証を説明するという授業を試みる。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化・ゼーションやスーパー資本主義をますます加速し、GAFA などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・新型コロナウイルスの影響により、本授業はオンラインの「オンデマンド型」で実施します。
- ・具体的には、講義・討論中心の授業ではなく学習支援システムによる授業を行います。（学習支援システムによる教材の提供、課題レポートの提出、フィードバックなど）
- ・授業日当日に講義資料と解説資料を学習支援システムにアップロードします。
- ・その講義資料と解説資料をダウンロードして学習し、そこで提示された課題について課題レポートを提出してもらうことで授業を進行していきます。
- ・課題レポート提出は出席確認のためであり、過度な負荷にならないようにします。
- ・なお、提出された課題レポートについては、よく理解できている点や不十分な点を取り上げたコメントを全員にフィードバックし、授業の理解を深めてもらいます。
- ・そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題

第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナナバー	マイナナバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 14 回	新しい動き：AI/IoT や Society5.0、スマートシティなど	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ

AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の学習時間は準備・復習・課題レポートを含め、各回 2 時間を標準とします。
- ・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

- ・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン, K. ウォレッシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
- ・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月※できれば入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない場合もあるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。

【参考書】

- ・『サステイナブル・コミュニティ持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
 - ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
 - ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
 - ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
 - ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
 - ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
 - ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986 年
- そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、これを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

課題レポートの提出等は、学習支援システムから「テキスト入力」で行ってもらいます（形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません）。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料等のダウンロード、課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.
 ・ To understand the citizenship
 ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
 ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 2-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA

生産システム論

展開科目

小林 哲也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済において大きな影響力を持っている製造業は、かつて圧倒的な国際競争優位を確保していました。しかし、現在では、その競争優位を失いつつある分野も存在します。そこで、本講では、製造業とは何かを理解し、日本産業における競争優位がいかに成立してきたのかを紹介することで、日本において製造業がなぜ重要であるのかを理解することを目的とします。さらに競争優位の源泉の 1 つでもある生産システムに焦点を当てて、その内容を紹介することで、なぜ、日本の製造業がグローバル競争優位を確保できたのかを理解することを本講の目的とします。

【到達目標】

製造業の基本的な概念を理解し、生産システム全体を見ることで、製造業が置かれているポジションを理解します。その結果としてなぜ製造業が日本において重要な産業であるのかを理解します。一方で、日本の製造業が直面している問題を具体的に解説し、グローバル経済の拡大や、少子高齢化の問題など製造業が直面する課題を例示しながら、どのような対応が必要なのかを理解することを目的とします。これらのことを理解することで、日本における製造業のポジショニングとその役割を理解し、日本経済の置かれている現状を理解し、さらに製造業が日本経済に与える影響と重要度を理解することが目標です。これによって、日本経済に与える産業の役割を理解することで、自らのキャリアを自身の力で考え、判断できるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン上でオンデマンド方式によって進めます。具体的には、学生の皆さん自身でアップされた資料を確認してもらい、その内容を皆さん自身に理解していただきます。授業後には、クイズに回答していただく形の授業を展開します。具体的な内容としては、いくつかの製造業を取り上げ、どのような状況にあるのか、その際の課題も紹介します。また、日本経済やグローバル経済における日本製造業が置かれている状況を解説します。さらに、製造業の競争力の源泉でもある生産システムとは何かを歴史的な視点や講師の実務経験に基づく内容も含めて解説します。以上を通じて製造業の概要と生産システムを理解してもらいます。なお、皆さんの授業への参加の状況を図る物差しとして各回に小クイズを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、製造業が置かれている状況を簡単に解説し、現在の産業の状況を理解できるようにします。
第 2 回	日本産業の変遷	日本の産業構造の歴史的変化を振り返り、その中で製造業の役割がどのように変化してきたのかを理解できるようにします。
第 3 回	鉄鋼業	素材型産業の代表例でもあり、他の産業の基盤の 1 つでもある鉄鋼業とは何かを理解できるようにします。
第 4 回	金型産業	素材型産業の代表例でもあり、加工組み立て産業において欠かせない産業の 1 つである金型産業とは何かを理解できるようにします。
第 5 回	自動車産業	日本産業のリーディング・インダストリーでもある自動車産業の状況と競争優位の背景を理解できるようにします。
第 6 回	分業と大量生産	生産システムを理解する上で、基本的な概念となる分業とそれを基にした大量生産の基本的な概念を理解できるようにします。
第 7 回	フォード生産方式	生産システムの基本的考えであり、現在の生産システムの基にもなっているフォード生産システムを理解できるようにします。
第 8 回	大量生産方式の発展	フォード生産システムが競争優位を喪失した背景を、GM の経営手法を例に理解できるようにします。

第 9 回	日本的なシステム	日本自動車産業を例に、「日本的な経営・生産システム」とは何かを理解できるようにします。
第 10 回	製造業のグローバル展開と生産システムの移管	日本製造業のグローバル展開に伴う、日本的な生産システムの海外移転の状況やその際の課題を考えられるようにします。
第 11 回	グローバル競争環境の変化	グローバル経済の拡大によって変化した競争環境が、日本の製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 12 回	情報通信産業が製造業に与えた影響	IT 革命以降、急速に進展してた情報通信産業の発展が、製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 13 回	製造業の労働・人材育成の現状と課題	バブル経済の崩壊以降、長期化する経済の低迷によって深刻化する労働問題と少子高齢化の進展によって課題となる人材育成の問題を生産という観点から理解できるようにします。
第 14 回	競争環境の変化が日本製造業に与えた課題とその対応	競争環境の変化によって、日本製造業の競争優位の源泉に影響を与えたといわれている背景とその課題を理解できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては、シラバスに即して各回の授業について、新聞や雑誌、インターネットなど通じて、各種情報を仕入れておいてください。また、参考文献に目を通しておいてください。
事後学習としては、授業後に小クイズに回答してください。授業内容の理解を測る物差しとしても利用させていただきます。さらに、授業を振り返り、内容を確認、理解しておいてください。また、疑問があれば疑問点を抽出しておいてください。標準的な予習・復習時間は 4 時間以上となります。疑問点は必ず講師に確認してください。質問は担当教員宛にメールで送っていただくか、学習支援システム内で行ってください。その後、担当教員よりフィードバックします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業時に具体的に指示しますが、さしあたり、
三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社
経済産業省『製造基盤白書（ものづくり白書）』
経済産業省『通商白書』
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
ヘンリー・フォード『車のハンドル』中公文庫
アルフレッド・スローン『GM とともに』ダイヤモンド社
フレデリック・F・テイラー『科学的管理法』ダイヤモンド社
安部哲夫他『アメリカに生きる日本的生産システム』東洋経済新報社
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社
などを事前学習として読んでおいてください。

【成績評価の方法と基準】

小クイズによる授業への参加状況 (30%)、期末レポート (70%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「産業」という経済に関係する授業ですが、経済学の基本的な枠組みを学んでいない学生の皆さんも理解できるように、経済学の基本的な考え方を具体的に授業内でも説明するように心がけます。経済関係の用語等が難しいとの意見がありましたので、具体的にわかりやすい説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業の具体的なやり方解説を開講前にアップします。授業開始前までに利用方法を確認して、学習支援システムにある解説を事前に読んで、オンライン授業及び小テストに参加できる環境を整えておいてください。オンラインでの授業となりますので、パソコン、タブレット等、インターネット環境にアクセスできる機器を事前に用意しておいてください。

【その他の重要事項】

講師の過去の勤務先である、経済系シンクタンクでの実務経験を踏まえ、業界動向、関係者に対するインタビュー等を通じて得た知見を学生の皆さんに具体的な事例を踏まえた解説等も行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces Manufacturing industry and production system to students taking this course. And understand the comparative advantage of the manufacturing industry through this course

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the role of industry in the economy.

【Learning activities outside of classroom】 Students will check various information about each lesson through newspapers, magazines, the internet, etc. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report(70%),in-class small quiz(30%).

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ダイナミックにグローバル展開されるビジネスとその背景とはどのようなものかの基礎知識を学びます。また、個々の経営手法を覚えることに終始せず、国際的な企業経営の理解を出発点として現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得することをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に対面授業形式で進めまる予定です。ただ第 1 回は、オンラインで実施します（Zoom によるリアルタイム型オンライン授業の予定）。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち 1 回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、グループディスカッションをしたいと思います。また、月に 1～2 回は課題（テスト）の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論を学ぶということーグローバル社会に生きるためにー	授業の概要説明
第 2 回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第 3 回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第 4 回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第 5 回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第 6 回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第 7 回	国際 M & A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第 8 回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第 9 回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第 10 回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第 11 回	国際協力と国際ビジネス	ODA 事業と国際ビジネスの関係、BOP ビジネス、ソーシャルビジネス
第 12 回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第 13 回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第 14 回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

月 1～2 回提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで

読み解く経営学 2、ミネルバ書房

吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣

江夏健一・桑名義晴編著、IBI 国際ビジネス研究センター著（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 3 訂版』同文館出版

【成績評価の方法と基準】

（1）授業への積極的な貢献 60 %

（2）学期末レポート 40 %

※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。

※（1）の内訳：

各回の授業後に課題への回答提出 17 %

計5回提出する「授業のまとめ」 30 %

授業への積極的なフィードバックなど貢献点 13 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, students will learn the background of global business unfolding all over the world in the rapidly and dynamically transforming business environment. Only memorizing individual business management methods for global business is not required.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected (A) to acquire abilities to grasp the current state of the market and society from a broad perspective, and (B) to obtain important viewpoint as the internationally minded person by learning basic business management theories and methods as well as history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to prepare for short essays which should be submitted total 5 times in the course. Your study time will be about four hours for each class meeting.

(Grading Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, Short essays: 30%, in class contribution: 30%

ECN200MA

日本経済論

展開科目

長谷部 弘道

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要： 1990 年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた 20 年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済の歴史を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本授業では、これらの日本経済の歴史を戦後復興期、高度成長期、石油危機後の安定成長期、バブル成長期とその崩壊の時期、長期不況期、現代の6つの時期区分に分けて解説する。

授業の目的・意義：本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足をつけて今日の日本経済を観察しつつけることができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
- ・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
- ・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業前半 20 分を前回講義のフィードバックとし、後半 70 分は教員による講義、最後の 10 分間は学生間でのディスカッション、質疑応答に充てる。2 日前を目処に、翌週の講義スライドを所定の web スペースにアップロードしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなったうえで、戦後日本経済を歴史的に振り返る意義について講義する。
第 2 回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第 3 回	高度成長のメカニズム 1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第 4 回	高度成長のメカニズム 2	メインバンクシステム、および大企業のカバンス構造の確立（安定株主化）について解説する。
第 5 回	高度成長のメカニズム 3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第 6 回	石油危機と安定成長への転換 1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第 7 回	石油危機と安定成長への転換 2	製造業、そして日本経済を下支えした下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。
第 8 回	バブルの形成と崩壊 1	※中間課題の出題あり バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観する。
第 9 回	バブルの形成と崩壊 2	金融自由化、金融ビッグバンについて解説する。
第 10 回	バブルの形成と崩壊 3	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。

第 11 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 1	1990 年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、あわせて財政赤字の深刻化と東アジアの成長について解説する。
第 12 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 2	長期不況の苦境の中で新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化について解説する。
第 13 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 3	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で予定している講義内容は下記のテキストに沿って行われる。受講生は、以下のような予習・復習を行ってほしい。

【授業前】事前に該当ページに目を通し、分からない用語についてもインターネットや使用書（テキスト）内で示される参考文献などを用いて調べておく（時間配分目安：約 3 時間）。

【授業後】もう一度使用書（テキスト）を読み直し、各自が興味をもった内容に関して授業中に紹介した文献等から理解を深める。その際、大学図書館を活用することが望ましい。なお、授業では視聴覚教材を使用することもある（時間配分目安：約 1 時間）。

【各回の教科書該当ページ】

- 第 1 回：「イントロダクション」（序章＋第 1 章、P1~32）
- 第 2 回：「戦後改革と復興」（第 2 章、P33~50）
- 第 3 回：「高度成長のメカニズム 1」（第 3 章～第 4 章、P51~85）
- 第 4 回：「高度成長のメカニズム 2」（第 5 章～第 6 章、P86~109）
- 第 5 回：「高度成長のメカニズム 3」（第 7 章～第 9 章、P110~135）
- 第 6 回：「石油危機と安定成長への転換 1」（第 10 章～第 11 章、P142~184）
- 第 7 回：「石油危機と安定成長への転換 2」（第 12 章～第 14 章、P185~221）
- 第 8 回：「バブルの形成と崩壊 1」（第 15 章～第 16 章、P226~263）
- 第 9 回：「バブルの形成と崩壊 2」（第 17 章～第 18 章、P264~283）
- 第 10 回：「バブルの形成と崩壊 3」（第 19 章、P284~296）
- 第 11 回：「長期停滞と日本型企業システムの転換 1」（第 20 章～第 23 章、P302~381）
- 第 12 回：「長期停滞と日本型企業システムの転換 2」（第 24 章～第 26 章、P359~427）
- 第 13 回：「長期停滞と日本型企業システムの転換 3」（第 27 章～終章、P428~486）
- 第 14 回：「まとめ」（終章、P461~486）

【テキスト（教科書）】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済【第 4 版】』（有斐閣アルマ、2019 年、2,800 円＋税）

【参考書】

沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』（有斐閣、2016 年、3,700 円＋税）

宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橋川武郎著『日本経営史 江戸時代から 21 世紀へ』（有斐閣、2007 年）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50 %）。

中間レポート：講義内容前半の理解度をチェックする。（20 %）

平常点：授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】

各自、大学で付与される Google アカウントおよび関連アプリを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been a frequent topic of discussion in the media, with terms such as "the lost 20 years" being bandied about. Such discussions seem to be based on an understanding of history as if the Japanese economy had consistently achieved steady economic development up to that point. However, tracing the history of the postwar Japanese economy, the issue of a crisis in the Japanese economy has always appeared repeatedly since the high economic growth. So, what are the actual issues that Japan faces when it traces this historical path and looks at the economic trends of the country? In this class, the history of the Japanese economy will be divided into six periods: the postwar reconstruction period, the high growth period, the stable growth period after the oil crisis, the bubble growth period and its collapse, the long-term recession period, and the present day.

Learning Objectives: This lecture aims to help students understand the context of changes in the postwar Japanese economy, so that they can continue to observe the Japanese economy today with their feet on the ground.

Learning activities outside of classroom

The lecture content scheduled for each session will follow the textbook. Students are expected to prepare for and review the following.

[Before class] Read through the relevant pages in advance, and look up unfamiliar terms on the Internet or in the references provided in the textbook (approximate time allocation: 3 hours).

[After class] Re-read the textbook and deepen your understanding of the contents of interest to you, using the references introduced in class. It is advisable to use the university library for this purpose. Audiovisual materials may be used in class (approx. 1 hour).

[Textbook pages for each session]

Session 1: "Introduction" (Introduction + Chapter 1, p. 1~32)

Session 2: "Postwar Reform and Reconstruction" (Chapter 2, p. 33~50)

Part 3: "Mechanisms of High Growth 1" (Chapters 3-4, p. 51-85)

Session 4: "Mechanisms of High Growth 2" (Chapters 5-6, P86~109)

Part 5: "Mechanisms of Rapid Growth 3" (Chapters 7-9, P110~135)

Part 6: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 1" (Chapters 10-11, P142~184)

Session 7: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 2" (Chapters 12-14, P185~221)

Session 8: "The Formation and Collapse of Bubble 1" (Chapters 15-16, p. 226~263)

Part 9: "Bubble Formation and Collapse 2" (Chapters 17-18, p. 264~283)

Part 10: "Bubble Formation and Collapse 3" (Chapter 19, P284~296)

Part 11: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 1" (Chapters 20-23, P302~381)

Part 12: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 2" (Chapters 24-26, P359~427)

Session 13: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 3" (Chapters 27 to the end, P428~486)

Session 14: "Summary" (last chapter, p. 461~486)

Grading Criteria / Policy:

Final exam: Students will be evaluated on whether they can logically describe the historical transition of the postwar Japanese economy based on historical facts, and whether they can consider the issues of the Japanese economy based on these circumstances through a written exam (50%).

Mid-term exam: To check the level of understanding of the first half of the lecture content. (20%)

Commitment to the class: Students will be evaluated on their comments in class and submission of comment papers (30%).

ECN200MA		
産業論		展開科目
青木 成樹		
単位数：2 単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
曜日・時限：金 2/Fri.2 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。		
本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。		
【到達目標】		
本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。		
①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる		
②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる		
③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる		
④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる		
⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】		
産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回～第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 4 回～第 6 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 7 回～第 12 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。最後の 2 回（第 13 回～第 14 回）は、イノベーションについて学ぶ。		
なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設け Q&A に充てる（対面型の場合）、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形（オンラインの場合）とし、学生との対話に努める。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の比較優位産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
8	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT）産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
12	主要産業の動向（健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
13	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
14	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について学ぶ。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
毎回レジュメ（PPT）を配布致します。		
【参考書】		
以下、順不同（五十音順）		
①入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社（2019 年）		
②岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）		
③大竹文雄『行動経済学の使い方』岩波新書（2019 年）		
④楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）		
⑤経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版		
⑥経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版		

- ⑦小林光・岩田一政『カーボンニュートラルの経済学』日本経済新聞社（2021年）
 ⑧小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010年）
 ⑨H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004年）
 ⑩富山和彦『なゼロローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014年）
 ⑪中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016年）
 ⑫西山圭太『DXの思考法』文芸春秋（2021年）
 ⑬日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年8月発行）
 ⑭原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017年）
 ⑮日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018年）
 ⑯丸幸弘、尾原和啓『ディーブテック』日経 BP 社（2019年）
 ⑰宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018年）
 ⑱三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012年）
 ⑲吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は 11 年目である。最も受講者が多かった年の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」(86.2 %)、「新しい発見があった」(41.4 %)、「進路選択に役立った」(10.3 %)の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記「到達目標」に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わりに質疑応答の時間をとり、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

- ① Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
 - ② Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
 - ③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
 - ④ Understand the interdependence between manufacturing (manufacturing) and services in Japanese industry.
 - ⑤ Understand the meaning and significance of innovation
- < Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 40%, Year-end report 60%

MAN200MA

マーケティング論

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな商品の開発、顧客満足の向上といった企業活動においてなくてはならないマーケティングの理論を学び、実際の企業の活動を理解します。

【到達目標】

授業は、①マーケティングに関する基本的な用語を説明できる②マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する③社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する、の3つを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とします。社会では様々な企業や事業体が活動をしています。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供して、その対価として利益を得て継続的に存続していきます。社会に対して新しい価値を創意工夫して提供していくという活動をマーケティングというフレームワークを使って理解していきます。マーケティングの基本的な考え方やフレームワークを1つずつ取り上げていきます。実社会と密接に結びついた現場の学問ですので事例を出しながら説明していきます。マーケティング論の入門として、幅広く知識を修得するように身近な話題を入れながら、わかりやすく説明したいと思います。可能な限りゲストを迎えて話を聞く機会を設けたいと考えていますが（web上でのミーティングになります）、シラバスに書いてあるゲスト招聘が不可能になる可能性があります。状況が流動的ですので、もし可能な状況になればゲストの授業をweb上で実施します。授業時の質問、コメントに関してはその場で回答する、あるいはHoppiiの掲示板を使ってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解します。
2	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考えます。
3	ポジショニング	競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスを説明します。
4	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていく考え方について説明します。
5	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて考えます。またアイデア発想のワークを行います。
6	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーションについて説明します。
7	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを紹介していきます。価格決めのグループワークでプライシングのポイントを理解します。
8	チャネル（プレイス）	どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのかを考えます。
9	消費者心理と消費者行動	消費者行動の理論的な解説とマーケティングとの関わりについて説明します。
10	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを説明します。
11	マーケティング・リサーチの実際	ゲストスピーカーからマーケティングの実際について話を伺います。（予定：マクロミル）
12	ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを説明します。
13	ブランドマネジメントの実際	ゲストスピーカーからブランドマネジメントの実際の話を伺います（予定：ソニークリエイティブプロダクツ）

14 試験・まとめと解説

web でテストを実施します。ここまでの話を総括して、これから未来のマーケティングを展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。マーケティングはみなさんにとって経験のない分野ですから、話をききながら身の回りで起きていることと結びつけて理解する努力をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示しませんが、参考書に沿った授業内容となります。

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。
フィリップ・コトラー・ケビン・レーン・ケラー『マーケティング・マネジメント基本編 第3版』2013、ピアソン・エデュケーション。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①マーケティングに関する一般の知識を習得したか②マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか③社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか、の3点を試験によって評価する方法で行います。

成績評価は、web での試験 40%、課題が 60%の割合です。

成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用する動画およびスライド資料の配付については学習支援システムを使用しておこないます。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム、googleclassroom を使用します。
クリッカー、web での小テストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PC など手段はいずれでも結構ですので、インターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn the essential marketing theory in business activities such as developing new products and improving customer satisfaction.

【Learning Objectives】

There are three objectives of this class.

(1) To be able to explain the basic marketing concepts.

(2) To acquire general knowledge about marketing and to understand its role and basic theories.

(3) To be able to understand marketing activities practiced in society by linking them to theory.

【Method】

The basic concepts and frameworks of marketing will be discussed and explained one by one. As an introduction to marketing, we will include familiar topics in our explanations. The class will provide opportunities to listen to guest speakers as much as possible. Questions and comments will be answered in class. Feedback will also be provided via Hoppii system.

【Learning activities outside of classroom】

Please read newspapers on a regular basis and pay attention to economic and social trends. Try to understand the class content while having information about new products and company activities. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on examinations and assignments. The weight is 40% for web tests and 60% for reports.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論 展開科目

小川 浩孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、グローバリゼーション、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミックや近年の自然災害多発は、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングのあり方を全員で共に考え、変化を先取りし変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つスキルの基本概念と知識・経験を習得する。

【到達目標】

- 1 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B2B/B2C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- 2 流通業・販売業（あるいは企業経営）に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らして理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- 3 流通サービスやそれに付随するマーケティングの経験豊富な実務者を複数講演者として招き、実務の世界で役立つ知識や事例に触れ、将来の実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。理論と関連付けた理解が十分にできるよう、都度質問に答える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は主にテキストや資料を用いた講義形式で行う。また、講義では質問や意見を聞く双方向のコミュニケーションを重視した運営を行う。また、授業の中ではグループごとに分かれての討議や、演習、課題に答える提出物も適宜求められる。その後は実務家の講演・質疑応答の授業と、それを振り返り理論と照らし合わせる講義形式の授業を交互に行なっていく。科目最終盤では再度テキストや資料を用いた講義に戻り、習得した知識の定着を確かなものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・販売チャンネルとは（1）	国内外における流通・販売チャンネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 2 回	流通・販売チャンネルとは（2）	国内外における流通・販売チャンネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 3 回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。
第 4 回	流通戦略とマーケティング（2）	B2B と B2C マーケティングの共通点と相違点を理解する
第 5 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。
第 6 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。

第 7 回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答（店舗づくり）	店頭の陳列方法や実店舗運営の実務的知識を身につける。
第 8 回	店舗見学とグループディスカッション	実務家の講演をもとに得られた観点を実際に見てきた店舗についてグループで討議し、発表する。
第 9 回	EC の実務家による EC 運営の要点と実店舗との違いと質疑応答	EC と実店舗の違いをマーケティングおよび成果達成の観点から学ぶ
第 10 回	EC サイトの比較とグループディスカッション	人気 EC サイトの作られ方、マーケティングの方法などを比較し、実務家の講演と照らし合わせて知識の定着を図る
第 11 回	広報の実務家による効果的なブランド・事業認知及びイメージの創出と質疑応答	広報の重要性と可能性について学ぶ
第 12 回	ファンレイジングの使い方を実務家から学ぶ。質疑応答。	スタートアップのための最新のマーケティング手法としても注目を集めるファンレイジングプロジェクトの効果的な利用方法を専門家から学ぶ
第 13 回	流通運営における人事評価やチームづくり	テキストを基に、効果的で生産性の高いチームづくりについて理解する
第 14 回	まとめ	全授業のまとめを行い知識が深まり定着したかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いた学習になります。A41 ページくらいの短い提出物が 2 回に 1 回ほどあります。前回の授業の資料を確認し、次の授業に備えます。時間外に店舗見学を行う外出があります。感染拡大状況によりますが、数名のグループで店舗見学に出かけることを予定しています。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『流通チャネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔 監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社
『誰がアパレルを殺すのか』杉原淳一・染原陸美著、日本経済新聞 出版『SHOE DOG(シュードッグ) — 靴にすべてを。』フィル・ナイト著、大田黒奉之訳、東洋経済新報社
『いかなる時代環境でも利益を出す仕組み』大山健太郎著、日経 BP

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%

グループディスカッションやレポート、授業での発表の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度初めての多人数の全オンライン授業において、グループワーク実施の難しさ、一方的な講義になりがちだったことを踏まえて、出来るだけ参加型の授業にすることを心がけます。また、昨年度興味を示す学生が多かった実店舗の運営を実務家から学ぶ機会も設けました。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォン

【Outline (in English)】

Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.

Pandemic and Natural disasters have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.

Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to live with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future after graduation.

The aim of this course is to help students to acquire basic knowledge and understanding of sales and marketing for retail and distribution.

At the end of the course, students are expected to be knowledgeable about basic strategies and tactics for retail/distribution marketing, both theoretically and practically.

Before each class, students will be expected to have reviewed precious class materials and turn in the homework that would be asked at the end of previous class. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process class project/discussion/short report (30%) and in-class contribution (70%).

MAN200MA

流通・サービスビジネス論 展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通ビジネスとサービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通ビジネス、サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】

受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成しますので、流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れる学生を前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア領域の入門科目などのビジネス系の基礎的な授業は最低限履修していることを推奨します。

要所でゲストを招いてビジネスの実際を理解する機会を設けます。それにより理論と実際がどのようにつながるのかを理解していきます。

また、Web の株式売買システムを利用して上場している流通・サービス関連の企業分析を行うワークを組み込みます。取り組みにあたっての特別な知識を必要とはしませんが、課題をこなすためには自宅ないし学校でインターネットにアクセスできる環境があることが前提です。

授業の質問やコメントに関しては、Hoppii の掲示板機能を使ってフィードバックします。

また、オンライン同期型授業時に全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	流通・サービス企業研究の進め方（導入編）	企業研究課題の進め方について解説します。
2	流通ビジネス全体解説（流通の役割・小売業態）	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。 小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
3	チェーンシステム	総合スーパー・コンビニエンスストアを題材にチェーンシステムを理解します。
4	SPA とサプライチェーンマネジメント	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
5	EC ビジネス	インターネットを使った流通ビジネスについて解説します。
6	流通・サービス企業研究の進め方（展開編）	企業研究で分析を発展させるための視点を提供します。
7	ゲストスピーカー	企業から流通やサービスのビジネスの実際を学びます
8	サービス・ビジネス全体解説（サービスの特性とビジネス課題）	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
9	多様なサービスビジネス（人的サービス、物的サービス）	映画的サービスの特徴と課題について説明します。身近なヘアサロン、飲食サービスなどを題材に解説します。物的サービスの特徴と課題について説明します。物的
10	多様なサービスビジネス（コンテンツサービス、金融サービス）	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。金融サービスの特徴を解説します。
11	シェアリングエコノミー・AI とこれからのビジネス	近年、成長著しいシェアリングエコノミーの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。

12	ワークショップ	それぞれの課題をシェアしながら相互にアドバイスしてブラッシュアップするミーティングを開催します
13	企業研究成果のプレゼンテーションと講評	企業研究の成果を全体で共有し、講評します。
14	試験・まとめと解説	web上でテストを実施して、授業全体のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

特に指示はしません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般の知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。

期末の web テスト 40%、小課題への取り組み 10%、企業研究レポート 50%の割合で評価します。

成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

動画や講義用スライドを学習支援システムあるいはにアップロードをします。学習支援システムやメールで質問に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。クリッカー、web でのテストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

＜実務経験のある教員による授業＞

スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた知見に基づいて、実際のビジネスにどのように理論的枠組みが応用できるかを解説します。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course aims to acquire knowledge and theory to understand the distribution business and the service business. Understand the structure and features of the distribution business and service business from an academic framework. Focusing on the future, we aim to deeply understand the business environment and business systems necessary for thinking about your career.

[Learning Objectives]

The goal is for participants to achieve the following three points

- (1) To be able to explain basic terminology related to the distribution and service business
- (2) Acquire general knowledge of the distribution and service business, and understand and explain its management structure.
- (3) To be able to understand actual phenomena and events related to the distribution and service business while linking them to theory.

[Learning activities outside of classroom]

Please read newspapers on a regular basis and pay attention to daily social trends. Many of the distribution and service businesses are familiar to you. Please think deeply about how business is structured and why you shop at these stores. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The following three points will be evaluated

- (1) Ability to explain general knowledge and basic terminology related to the distribution and service business
- (2) To fully understand and explain the structure of the distribution and service business
- (3) Understand the role of distribution and service businesses in society, and be able to explain various real-world commercial issues in relation to distribution theory.

The evaluation method is as follows. Web test: 40%, work on small assignments: 10%, and company research report: 50%. The grade is based on a 100-point scale, with 60 points or higher being considered passing.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

今井 道子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

【到達目標】

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じてキャリアに対する自己理解を深めます④演習を通じてエンプロイアビリティや職場・チーム運営を高めるための各種スキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験（オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可）を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、第 2 回目以降の授業内容についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概論を紹介しします。
第 2 回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。
第 3 回	自己理解 1(特性因子理論より)	演習を通じて RIASEC の理論 (ホランド) を体感し、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 4 回	自己理解 2(発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 5 回	自己理解 3(トランジションへの対応として)	4S 理論 (シュロスバーグ) を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 6 回	職業理解 1(採用)	採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。

第 7 回 職業理解 2(職務)	ジョブ (職務) の概念を会得し、ジョブ (職務) を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。
第 8 回 職業理解 3(職場コミュニケーション)	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。
第 9 回 職業理解 4(起業)	起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。
第 10 回 成長できる仕事選び 1(やりたいジョブ)	自分のやりたいジョブは何かについて考えます。
第 11 回 成長できる仕事選び 2(業界理解)	業界の構造を知り、各業界の特徴を理解します。
第 12 回 成長できる仕事選び 3(就活のプロセス)	就活のプロセスについて理解します。
第 13 回 成長できる仕事選び 4(面接の意義)	自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。
第 14 回 振り返り	13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単なレポートを出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は計 5 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『キャリア開発論』（武石恵美子著:中央経済社）

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (25)、レポート (25)、出席時の授業コメント提出 (50) を基準とします。

期末試験はオープンブック方式（電子機器以外は持ち込み可）で、2 設問です。到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料等を配布します。

【その他の重要事項】

ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つけてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくります。

【Outline (in English)】

. 【Course outline】 This course deals with the creating opportunities for people to think about the differences between those who increase their employment opportunities and those who do not, and thinking about who can create business opportunities, and enhancing their own employability and entrepreneurship

【Learning Objectives】 We will create opportunities to understand methods to deepen our understanding of the labor market and the times, to promote and check our self-understanding, and to increase our awareness of our own social roles and employability. In addition, we aim to provide time to contemplate what it means to be an "expert in people," which is one of our greatest strengths as graduates of the School of Career Design.

【Learning activities outside of classroom】 A brief report may be given. The standard preparation and review time for this class is about 5 hours in total.

【Grading Criteria /Policy】 The final exam will be based on exams (25), reports (25), and submission of class comments upon attendance (50). The final exam will be an open-book exam (students may bring in anything except electronic devices) with two questions. The final exam will be an open-book format (students may bring in their own devices, except for electronic devices), with two questions to see if students have met the objectives.

SOC200MA

外書講読 A (ライフ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルタージュなどの英文を毎回 1 本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的なノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。

【到達目標】

外国語のパスセージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみる。また、A 4 版 1 枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上 2 種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
2	世界の最新情報を英語で入手	現在、世界的に注目されている GAFA 関連の書 'Post Corona' の読み解きを通じて、英語による国際情勢へのアプローチを実践。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルタージュの英語	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ガイドブック&マニュアルの英語	旅行ガイドブックや製品取扱説明書など、実用的な英語に触れ、こうした情報を効率的に使いこなす方法を学ぶ。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
11	TOEIC/TOEFL の活用方法	ETS (Educational Testing Service) が行なう英語試験 TOEFL iBT や TOEIC L&R を参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。

12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表①	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト（教科書）】

各回の授業で資料を配布。

【参考書】

『エコカルチャーから見た世界ー思考・伝統・アートで読み解く』（門脇仁著、ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、平常点 50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】

PC（教室への持参は不要）

【その他の重要事項】

背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline (in English)】

How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

By the end of this course, students are expected to do followings:

-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.

-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.

-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

外書講読B（ライフ）

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEIC スコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回 A4 版 1 ～ 2 枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。

第 11 回

TOEIC の活用法

TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。

2016 年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。海外の商品広告、求人広告、テレビCM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。

これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

第 12 回

メッセージを読み解く

第 13 回

広告の英語

第 14 回

個人発表②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎週、今回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】

グローバルな問題や情報へのアプローチについては、下記の書物をサブテキストとし、授業で指定のあった回に持参すること。
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50 %）、平常点（50 %）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置の PC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

By the end of this course, students are expected to do followings:

-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.

-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.

-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ 展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をとともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーク化の変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する

- 第 11 回 歴史と社会を見る目 (1) コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
- 第 12 回 歴史と社会を見る目 (2) 伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
- 第 13 回 歴史と社会を見る目 (3) ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
- 第 14 回 まとめ・総括 歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70％）、平常点（30％）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

– A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

– B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点（1）	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点（2）	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する

第 12 回 社会史的視点（4）

血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第 13 回 歴史と社会の再生産

第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第 14 回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

– A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

– B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお、2021 年度はオンライン形式での実施予定であり、オンデマンド型とリアルタイム型を併用する予定。初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生”から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生”から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
 ・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
 ・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（40%）・小レポート（10%）・期末試験（50%）と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society. Learning objectives of this course are to understand variation of contemporary family issues and to get ideas about career design of students themselves. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 40%, reports 10% and final exam 50%.

SOC200MA	
若者文化論	展開科目
玉川 博章	
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 配当年次：2～4 年	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の 1960 年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンターテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の 1960 年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンライン授業となり、オンデマンド形式で授業をします。動画ないし資料や論文の各自の購読を組み合わせた形態を予定しています。基本的に講義形式のオンライン化となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。また、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。オンデマンドとなるが毎週更新曜日と課題のメチ（更新から 3-4 日後）はある程度この曜日と固定し週間スケジュールは維持して進行したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第 2 回	文化と消費×消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第 3 回	物語消費論	大塚英志による 1980 年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第 4 回	80 年代のバブル・消費文化	1970～80 年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第 5 回	80 年代における「オタク」と消費文化	1980 年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について
第 6 回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第 7 回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第 8 回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960 年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第 9 回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80 年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第 10 回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980 年代～2000 年代のアニメ・マンガについて
第 11 回	サブカルチャーにおける文化と趣味と消費	ネット時代における若者文化について、これまでの議論を総括しつつ考察する
第 12 回	日本のサブカルチャーとしてのアイドル	アイドル文化が戦後～現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析

第 13 回	コミュニケーションと消費	モノから体験、コミュニケーションへ：ブランド、ネット文化、と変化する消費と若者文化について
第 14 回	まとめ サブカルチャーと後期近代	これまでの授業内容の整理と発展的議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は（メディアミックスする国）なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50 % + 試験（または期末レポート）50 %
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドのため一方通行となるのは仕方ないが、課題フィードバックでの擬似的インタラクションの機会は設けたい

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド方式に対応出来る環境はあたりまえですが必須。

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ②世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン（リアルタイム型）での実施を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 4 回	理論的背景③	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 5 回	理論的背景④	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 6 回	実践的課題	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 7 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 10 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第 12 回	プログラム評価計画の発表①	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 13 回	プログラム評価計画の発表②	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50 %）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30 %）、授業への積極的な貢献（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline (in English)】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

Learning Objectives:

- ・ Understand social and cultural issues relating to intergenerational programs
- ・ Develop skills to design and evaluation intergenerational programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for final report

30 points (%) for group assignments

20 points (%) for active participation in classroom activities

SOC200MA	
身体表現論	展開科目
叶 雄大	
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 2/Tue.2 配当年次：2～4 年	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。	
【到達目標】 感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	
【授業の進め方と方法】 身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する 「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。 フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。	
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes	
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face	
回	テーマ 内容
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方と全体の概要を説明。
第 2 回	ウォーミングアップ 表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第 3 回	身体・感覚① 身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第 4 回	身体・感覚② 感覚の一つを遮断する事で他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第 5 回	身体・感覚③ リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第 6 回	表現力を高める為には 感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第 7 回	コミュニケーション コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第 8 回	声・距離 他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第 9 回	インプロヴィゼーション①基礎 創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第 10 回	インプロヴィゼーション②言語 言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義。
第 11 回	インプロヴィゼーション③非言語 言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。
第 12 回	グループ創作 グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する。
第 13 回	グループ創作と発表 創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第 14 回	まとめと試験 全体のまとめと試験課題（30分程で課題に対して自由筆記のレポート）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各回の授業内にミニレポートを提出。ミニレポートの返却は行わないので、提出前に写真撮るなど記録を残しておく事。本授業の復習・予習時間は、各2時間を標準とします。授業の記録を元に、復習として2時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として2時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。	
【テキスト（教科書）】 特に使用しない。必要に応じて資料を配布。	
【参考書】 特になし	
【成績評価の方法と基準】 実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢70% レポート30%	
【学生の意見等からの気づき】 1限から2限への変更。 昨年度りモートで行った内容も、できる限り対面で実施予定。 感染症対策は昨年と同様に行う。	
【学生が準備すべき機器他】 筆記用具 水分補給用の飲み物など	
【その他の重要事項】 動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用の必要はない）。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。	
【Outline (in English)】 【Course outline】 Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. 【Learning Objectives】 Improving communication skills from consideration of self and others' expressions 【Learning activities outside of classroom】 Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson 【Grading Criteria /Policy】 Class attitude, attendance. Last day free writing report	

SOC200MA

地域文化論

展開科目

緑川 岳志

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会がこれから課題となってくることは何かについて、様々なデータや研究を通じて、一緒に探っていきます。特に歴史、経済、社会、法律の各視点から、生活者の変化、文化の変容を見つめます。授業に参加される方には、それぞれ自分の住んでいる市区町村の「地域政策課長」になって、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち3回となります。対象は、日本国内になります。

【到達目標】

自分の住んでいる街の地域政策をマクロ、ミクロ視点で理解することで、これから必要になる地域文化施策はなにかを提言することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生は、自分の住んでいる市区町村の地域政策課長になっていただき、毎週レポートをまとめて授業に参加いただきます。すべての分析や検討について、地域政策課の課長としての意見が求められます。レポートについては、各自の発表後、授業内でフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＜講義形式＞本講義は地域文化施策をする当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化の歴史と現在	＜講義形式＞地域文化はだれのためのものかを歴史を振り返りながら確認していきます。
第 3 回	地域文化を残す、地域文化を創る	＜講義形式＞地域文化の創成がどのように生まれて、どのように継承されてきたかを確認します。
第 4 回	地域コミュニケーションの成り立ち方	＜講義形式＞地域文化施策に必要な広報活動および生活者同士のコミュニケーションの活性化施策を歴史背景も踏まえて確認します。
第 5 回	地域の課題：高齢者福祉、医療から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、福祉や医療の問題点と歴史的視点も入れてその施策について話し合います。
第 6 回	地域の課題：教育、スポーツから文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、教育やスポーツ振興の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 7 回	地域の課題：防犯、防災から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域の安心安全にまつわる問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 8 回	地域の課題：外国人、異文化住民から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域に生活する外国人との異文化交流の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 9 回	地域の課題：財源の確保	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策を行う際の重要な財源を確保していくアイデアを考えます。
第 10 回	地域の課題：地域文化の広報施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策の広報活動について歴史的視点も入れて話し合います。
第 11 回	SECI モデル（暗黙知と共有知）の活用について	＜講義形式＞地域文化施策に必要な知の共有化について、SECI モデルについて習得します。
第 12 回	地域文化ランキングの指標づくり（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りをしていただきます。

第 13 回 地域文化ランキングワーク ショップ（グループワーク）

第 14 回 期末・まとめ

＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りの発表資料を作成いただきます。
＜最終レポートの提出＞担当した地域の課題と解決策について提言を行います。（レポート型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が住んでいる市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。そのため、セッションおよびグループワークの回は、毎回宿題が課されます。宿題のプレゼンテーションがあり、10 月、11 月のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

「実践ソーシャルイノベーション - 知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO」
著：野中 郁次郎 出版社：千倉書房

【成績評価の方法と基準】

講義への参加および期末試験とワークショップの内容で評価します。

・平常点：35 %

・セッション&ワークショップ：55 %

・期末試験：10 %（期末試験はなく、レポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】

講師は、リクルートや毎日新聞社で地域活性化事業を行ってきた実業家です。他大学では、社会実装を研究テーマとしてマーケティング領域を中心に教員としても従事しています。

論文やネット情報ではなく、リアリティのある現場の話を交えながら講義やワークショップを進めます。

なお、本講座は、土曜日開講で課題・宿題も多いため受講者数は多くありませんのでゼミナール形式でワークを進めております。

受講者数が少ない場合は後半のセッションの「グループワーク」を個人ワークに変更します。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン） およびパワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】

リアルな会議を想定したワーキングを行います。講義自体はオンラインで行います。考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

We will explore what the community is going to be in the future through various data and your research.

In particular, from the viewpoints of history, economy, society, and law, we look at changes in people, changes in culture.

In this lesson, we will become the "Regional Policy Division Manager" of the municipalities where you live and speak and group work.

Learning Objectives:

By understanding the local policies of your city from macro and micro perspectives, you can make recommendations on what local cultural policies will be needed in the future.

Learning activities outside of classroom

You will participate by researching the policies and data of your municipality in advance. Therefore, homework will be assigned for each session and group work session. There will be homework presentations, and the amount of homework will increase, especially at the October and November. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy

Evaluation will be based on participation in lectures, final examinations, and workshop content.

Ordinary marks: 35%.

Sessions and workshops: 55%.

Final report: 10% (there is no final exam)

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本年度は毎回オンデマンド（動画配信）型オンライン授業形式となる予定である。学習支援システムに各回の指示を掲載するので、各自で確認の上、課題を提出するという形式で行う予定。動画は各回 1 週間のみ視聴可能。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第 2 回	自己とはなにか：心理学から見たアイデンティティ	自己に関する諸理論からアイデンティティについて議論する。
第 3 回	自己とはなにか：社会心理学的アプローチ	社会心理学の観点から自己とアイデンティティの研究を解説する。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第 5 回	社会的アイデンティティ（集団間関係）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程に関する研究成果を解説する。
第 6 回	社会的アイデンティティ（集団間葛藤）	集団成員となることで生じる集団間葛藤について、特に解決の観点から解説する。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団内過程）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程について、主に集団内に対する影響について解説する。
第 8 回	グループダイナミクス	社会的促進と社会的手抜ききの心理、及びその解決方法について解説する。
第 9 回	アイデンティティと意思決定	集団の一員としてのアイデンティティが、集団内での意思決定に与える影響について、共有バイアスや集団極性化などを取り上げて解説する。
第 10 回	社会的公正とアイデンティティ	アイデンティティの獲得が不公正感に与える影響について解説する。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第 12 回	差別の正当化とアイデンティティ	自我脅威と差別の正当化の関係について、先行研究を元に解説する。
第 13 回	過激化とアイデンティティ	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 14 回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる予定。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 60 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）40 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は windows P C を利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about the effects of identity and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60% Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけではなく、社会集団的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には余暇活動を研究するための理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本年度はオンデマンド（動画配信）型オンラインでの開講となる。具体的実施法については学習支援システムでその都度提示する。授業各回における課題の提出を必須とする。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第 2 回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第 3 回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第 4 回	産業としての余暇	余暇が与える経済的影響について、統計データを用いて解説する。
第 5 回	余暇の心理：動機について	余暇に関する心理のうち、動機に関する知見を解説する。
第 6 回	余暇の心理：心理的報酬について	余暇活動が持つ心理的報酬としての側面と、その逆機能について解説する。
第 7 回	余暇の心理：欲求と満足	余暇活動に対する満足度の測定方法について解説する。
第 8 回	余暇の心理：発達と社会化	発達過程における余暇活動の影響について解説する。
第 9 回	余暇の心理：損と得	余暇活動に伴う、損失と利得の計算の心理を解説する。
第 10 回	余暇活動としての観光旅行	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第 11 回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 12 回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 13 回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第 14 回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

瀬沼克彰・園田碩哉（編）日本余暇学会（監修）「余暇学を学ぶ人のために」世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 60 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）40 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は P C が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "leisure" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the leisure study.

Goals of this course are that students understand leisure activity in Japan theoretically, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60%

SOC200MA	
NPO論	展開科目
山口 佳子	
単位数：2単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 配当年次：2～4年	
他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。今期もオンラインでの実施となるためグループワークは行わず、ワークシート型の課題を通してNPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかとりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性があります。その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、NPOの社会的役割について理解する。
第4回	コロナ禍におけるNPOの活動について	コロナ禍におけるNPOの活動実態と社会的ニーズについて紹介し、その具体的な活動について理解する。
第5回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第6回	NPOと行政との協働①	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的な事例を紹介する。
第7回	NPOと行政との協働②	実際にNPOで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、NPOの行政との協働における社会的役割を考える。
第8回	アートにおけるNPOの現在①	アートを通じたNPOの活動を学ぶとともに、具体的事例を紹介し、社会的役割について考える。
第9回	アートにおけるNPOの現在②	実際にNPOで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、アートNPOと社会との関わりについて考える。
第10回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートNPOと行政との協働の現場に実際に足を運び、イベント等を体験する。（オンラインでの実施を予定）
第11回	NPOの組織と運営について①	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第12回	NPOの組織と運営について②	NPOが法人化されるまでの具体的な過程について学び、設立の基礎を学ぶ。

第13回	「コロナ後」の社会における、新しい社会貢献の可能性	コロナ禍を経た社会において、新しい価値／新しい社会貢献活動の形を模索すると共に、ワークシートを用いて、自身の興味のあるNPOの活動を考える。
第14回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに興味をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。授業支援システムを用いて随時資料を配布する。

【参考書】

講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60％）と最終課題（40％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつかれませんが、希望者には zoom などで質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】

アートNPOの立ち上げから13年間代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思っています。

www.alfalfalfa.net

【Outline (in English)】

・Course outline : In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples.

・Learning Objectives : The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them.

・Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports & in-class contribution: 60%

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共サービスとは何か？と問いかけられれば、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ZOOM によるオンライン授業（講義形式）を行う。基本はリアルタイムとするが、場合によってはオンデマンドになる場合もある。具体的には学習支援システムで指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明 公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段 公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担 (2)	市場化テスト 公共サービス改革法のインパクト
第 6 回	政府と市場の役割分担 (3)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 7 回	政府と市場の役割分担 (4)	民営化の歴史と現状 (3 公社の民営化、郵政民営化)
第 8 回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化 人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革 能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題 正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状 (1)	資金交付行政
第 12 回	公共サービスの現状 (2)	子育て行政
第 13 回	公共サービスの現状 (3)	水道事業
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておくといい。授業後は講義内容を復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス。
- ・井上雅雄＋立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック 地方自治 [第 3 版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡―再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事―政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末レポートで決定する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になるため、授業の進め方や内容に関する質問等はメールで受け付ける。教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, I would like to think about the future of public service with the students. The goals of this course are to deepen your understanding of public service and enable students to have clear ideas of what public service should be in the future. Preparations for class and the review are necessary for two hours each. Grading will be decided based on term-end report (100%).

SOC200MA	
アート・マネジメント論	展開科目
山口 佳子	
単位数：2 単位	開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses	配当年次：2～4 年
他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現ののちって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかつたりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性があります。その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状	コロナ禍における文化芸術の現状について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実践について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。

第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第 14 回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60%）と最終課題（40%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつかれませんが、希望者には zoom などで質問をしていただく機会は作る予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】

06 年若手アートマネージャーたちが集まり、「アルファルファ」として活動を開始。07 年、平山素子（ダンサー・振付家）の活動サポートを開始。09 年 NPO 法人設立。

クオリティの高い芸術創造活動を続けるアーティストおよびアート NPO、各地の文施設、地域住民らと協働して、広く社会に良質なアートを提供する活動を行っています。同世代のアートマネージャーたちのゆるやかなネットワークにより、柔軟で開かれた活動体制を構築し、アートマネジメントの持続性と、次世代の担い手の育成をめざして活動しています。
<https://alfalfalfa.net/>

【Outline (in English)】

・Course outline : This course introduces the multifaceted social and economic value of the arts in recent years, and it will also clarify their position and significance in modern society.

・Learning Objectives : The goal is to learn about the art frameworks in modern society. In addition to focusing on art managers who connect "art" and "society," we will examine how these "linkers" are developing their activities in local communities and companies.

・Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live houses, music festivals, and local art projects, conduct field research on various aspects of art and its issues in contemporary Japan, and summarize the results in a report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports & in-class contribution: 60%

SOC200MA

文化経営論

展開科目

武田 知也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。

本授業では、この状況で起きたいいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのものの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進行します。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行いますので必ず出席してください。ヴァーチャルあるいはリアルでのフィールドワークを課すことも検討していきます。

具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	文化政策の成り立ち、歴史を概説。オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、オンライン、あるいはリアルでのフィールドワークを行う。特徴や課題を調査、検討する。（フィールドワークの具体的な内容については授業内で指示）
第 7 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 8 回	芸術文化とNPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じたNPOの多彩な活動を学ぶ
第 9 回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？なにをする人たちのなか？アーティストという存在を考える
第 10 回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	芸術文化にまつわる「お金」の構造、仕組みを学ぶ（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第 14 回	授業内試験 まとめと解説	自身と芸術文化の関わりについて考察をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（30 %）と授業内の小レポート（リアクションペーパー）、課題レポートなどの平常点（70%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく数多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭2020（国際芸術祭）などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021 年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again.

In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society.

【Learning Objectives】

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria / Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (30%) and regular marks (70%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200MA		展開科目	
メディア文化論			
堤 信子			
単位数：2 単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 2/Wed.2 配当年次：2～4 年 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：			
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。			
【到達目標】 各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、オンラインを通してのプロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。			
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			
【授業の進め方と方法】 オンライン授業で、リアルタイム型を予定しています。オンラインですが、表現力を磨くための演習も取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。			
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No			
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			
【授業計画】 授業形態：オンライン/online			
回	テーマ	内容	
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。	
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。	
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かをとりあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。	
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かをとり上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関する DVD 視聴などを通して、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。	
第 5 回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ること、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。	
第 6 回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。	
第 7 回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅鞆いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。	
第 8 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。	
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 2	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。	
第 10 回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。	
第 11 回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。	
第 12 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。	
第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 3	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。	
第 14 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 4	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。			
【テキスト（教科書）】 教科書は、使用しない予定です。 配布資料中心です。			
【参考書】 堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」デイスカヴァー 21 堤信子著「旅鞆いっぱいのパリ・ミラノ」本の泉社 「旅鞆いっぱいの京都・奈良」エイ出版社 「旅鞆いっぱいのパリふたたび」実業之日本社 「旅鞆いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社 「東京文具雑貨散歩～旅鞆いっぱいの東京」辰巳出版			
【成績評価の方法と基準】 平常点（授業の感想文や授業態度）50%と 課題レポート50%			
【学生の意見等からの気づき】 オンラインでも、なるべく学生の声を聞けるよう工夫した授業にしていきたいと思っています。 メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2022年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。			
【学生が準備すべき機器他】 パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。			

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

・ By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

・ Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。

今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】

キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から文化マーケティングについて考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを「リアルタイム型」の授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。Zoom でのチャット機能を多用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第 8 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 12 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 13 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 14 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に「リアルタイム型」でのオンライン授業を行う。好評だった双方向性を重視したチャット機能などを多用するものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① 【Course outline】

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

② 【Learning Objectives】

The goals of this course are Learning about culture-oriented marketing thinking and methods.

③ 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

④ 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 30%, in class contribution: 70%

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報にあふれた時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を拾い選んでいくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランドづくりのアプローチを理解し、実践してみる。
- (3) ブランドづくりに必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- ブランド創造における論理、事例紹介を中心に講義を進めていきます。
- リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
- 授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。
- 講義の後半には、現在講師がブランド創造を行なっている事案を題材にした実習を行います。
- 課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第 2 回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第 3 回	ブランド創造史	1980 年から 2020 年まで 40 年間にわたる日本のブランディングの変遷
第 4 回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 ゲスト）株式会社アードディ アートディレクター 小栗卓巳 氏
第 5 回	ブランド創造とコピーライティング	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 ゲスト）株式会社博報堂 コピーライター 坂本美慧 氏
第 6 回	ブランド創造の新しい潮流①	近年の社会環境の変化とコロナ禍におけるサステナブルなブランド創造

第7回	ブランド創造の新しい潮流②	リアルとデジタルの境界線のないメタバースにおけるブランド創造
第8回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおけるPR（パブリックリレーションズ）という方法論 ゲスト）株式会社HASHI クリエイティブディレクター 橋田和明
第9回	ブランド戦略とアイデアの作り方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアの作り方 「ブランド創造実習」課題発表
第10回	ブランド創造と映像	映像を起点にブランドをつくり出す方法論 ゲスト）tentoten inc. 映像ディレクター 北村有司氏
第11回	地域のブランド創造	埼玉県民に愛される「山田うどん食堂」のブランドづくり ゲスト）山田食品産業株式会社 営業部営業企画課 部長 江橋丈広氏
第12回	人を中心にしたブランド創造	アーティスト・タレント・クリエイターとして活動されている方のセルフブランディングの方法論 ゲスト）現在最終調整中です。インスタグラマー、ユーチューバー、ミュージシャン、芸人の方などから1名ゲストとして招待する予定です。
第13回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第14回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- 実習に際して「企画書の書き方」「戦略アイデアの出し方」の補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- これからの「売れるしくみ」の作り方 グラフィック社 石原篤 著
- クリエイティブ合気道 アスキー 箭内 道彦 著
- 嶋浩一郎のアイデアの作り方 ディスカヴァー・トゥエンティワン 嶋浩一郎 著
- カイタイ新書 秀和システム 博報堂ヒット習慣メーカーズ 著・中川 悠 編著
- 佐藤可土和のクリエイティブシンキング 日経ビジネス人文庫 佐藤可土和 著
- 世界のマーケターは、いま何を考えているのか? 廣田周作 著

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

① Course outline

In an era filled with goods and information, what are the criteria people use to buy goods and sort out information? Brands play a significant role in moving people's feelings and producing actions. In this course, students will learn what brands are and how to create a brand from a logical point of view and based on the actual state and condition of brand-making sites. This course aims not only to know how to create a brand in corporate marketing activities but also to learn how students can create their brand as individuals.

② Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) To understand and practice the approach to brand creation.

(3) To learn how to create a "proposal," a consensus-building tool necessary for brand creation.

(4) To understand the importance of self-branding in an age of diversity where there is no right answer and put it into action.

③ Learning activities outside of classroom

● In the regular lectures, pre-assignments and pre/post-class questionnaires will be given as appropriate.

● In addition, the standard preparation and review time for this class will be 2 hours respectively.

● In the practical training, students will be required to do individual work outside of class time, such as research, brainstorming, and proposal creation.

● During the practical training, supplementary lectures on "How to write a proposal" and "How to brainstorm strategic ideas" will be given.

④ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%.

Submissions from practical training assignments: 50%.

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原 義子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関わりから生まれてきた認知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。

そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思ってしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】

- 1、文化を通して産業を考える
- 2、産業を通して文化を考える
- 3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを示しながら、そのスライドについて解説をしていく形で進めます。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。コロナ対応として変則的な授業が必要な場合が起り合えます。学習支援システムや授業内の連絡を聞くようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在一藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土ー流通チャネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化ー観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学ー流通チャネル構造と機会主義ーネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100 準

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントが見られる機器

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.

Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term 'multi-culture', the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

① This course introduces culture and industry to students taking this course.

② The goals of this course are to acquire knowledge about culture.

③ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the reports.

SOC200MA

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きたるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今学期は Zoom を使った「双方向型リアルタイムのオンライン授業」を行います。URL とパスワードは以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています（第一学習社「高等学校 倫理」）。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問は Padlet で行います。

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhe8jn>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」
2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「007は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	A-2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2	海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	A-3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3	プロバガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロバガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008 年) ・ジェームズ・マンガールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013 年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「HEROES」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン ストレレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011 年)

6	B-2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」	・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「IOC 総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きやりーばみゅばみゅ「にんじやりばんばん」(2013 年) ・日清食品「SAMURAI」(2014 年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017 年) ・地味「外国人が日本に来て撮った wtktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年)
7	B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化	・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年) ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014 年) ・フレディ・グレイ死亡事件(2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件(2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言(2015 年)
8	B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951 年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ペルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013 年) ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念CM」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008 年) ・映画「アミスタッド」(1997 年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004 年) ・映画「リンカーン」(2012 年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012 年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013 年) ・映画「グローリー 明日への行進」(2014 年)
9	C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	・日本テレビ「21 世紀への伝言 キング牧師」(2000 年) ・PBS 制作「分断されたクラス」(1985 年) ・ABC 制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003 年-) ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年)
10	C-2：人種差別の起源とその歴史	・映画「スワロウテイル」(1996 年) ・映画「サウダーザ」(2011 年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーフじゃないんだ」(2012 年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013 年) ・リンダ三世「愛犬アンソニー」(2013 年) ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008 年)
11	C-3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	
12	D-1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	

13	D-2：「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	・映画「HAFU」(2013 年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」 ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005 年) ・NY タイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年) モ・モンド社「The DNA Journey」(2016 年) ・アシュラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セიმラヴ」(2013 年) アド・カウンスル「Love Has No Labels」(2015 年-2017 年) アップル社「プライド」(2014 年) ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017 年)
14	D-3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します(100%)。リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内におこないます。テストの方法については授業内で詳しく説明します。

評価の基準は次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカルチャラル・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④メディアコンピテンシーラーニング
- ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線（WEB カメラとマイクは不要です）

【その他の重要事項】

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

【授業中に求められる学習活動について】

A、C、D、E、F

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality".

1.Course outline

This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

2.Learning Objectives

The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society.

3.Learning activities outside of classroom

Use the PDF files uploaded to Hoppi as learning materials according to your own interests and concerns.

4.Grading Criteria /Policy

Evaluated by a final exam using an active learning method.The following five points are to be evaluated.

a.Authentic Learning

b.Cross-Cultural Learning

c.Anti-Bias Learning

d.Media Competency Learning

e.Evidence-Based Learning

In-class questions will be answered via Padlet.

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn>

*This class will cover current issues, so the content of the class may be subject to change.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金 泰植

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人々も射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】

日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にある多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人が尊重される社会の形成のためのアイディアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はリアルタイム型とオンデマンド型を組み合わせで実施する。具体的には学習支援システムで指示をするが、初回は zoom で行う予定である。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題及び、今日のヘイトスピーチの燃料となっている日韓の歴史問題について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学校と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第 7 回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第 8 回	在日中国人	渡航、日本での生活、教育について
第 9 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 10 回	LGTBQ	日本におけるセクシャルマイノリティをめぐる状況について
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について
第 13 回	技能実習生制度について	外国人技能実習生制度の問題点について
第 14 回	マイクロアグレッションについて	マイクロアグレッションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポートの作成とし 70%、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点 30% の配分とする。

レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業においては在日コリアンの問題のみならず、技能実習制や入管にいる外国人の人権の問題、またマイクロアグレッションの概念に関心の高い学生が多かった。これらの問題をうまく繋げて説明できるように心がける。

【その他の重要事項】

初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners. This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan. The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

【到達目標 (Learning Objectives)】 Learn how the multicultural situation in Japan was created. And have ideas for forming a society where everyone is respected.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Prepare to write on the reaction paper after the lesson what you noticed in the lesson and the questions that led to you. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Year-end report 70% Class assignments (reaction paper, etc.) 30%

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

挽地 康彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism) について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は同時双方向型のオンライン授業 (Zoom) となり、授業資料をデータ (PDF) で配信しながら進める。

リアクションや課題等に対するフィードバックは、授業時間内に行う。

Zoom の URL とパスコードは、以下のとおりです。

[https://us02web.zoom.us/j/82256746847?pwd=](https://us02web.zoom.us/j/82256746847?pwd=SkhsbXVBTzVpOStKd05yNWNpc2h2UT09)

SkhsbXVBTzVpOStKd05yNWNpc2h2UT09

ミーティング ID: 822 5674 6847

パスコード: 806717

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	問題提起：不和回避のための分離という思考について
第 2 回	欧州移民政策の変遷	20 世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第 3 回	エスニック・リバイバル	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第 4 回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第 5 回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第 6 回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第 7 回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第 8 回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第 9 回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。

第 10 回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90 年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第 11 回	間文化主義	多文化主義のジレンマを克服するモデルとして、カナダのケベックで注目された間文化主義（interculturalism）について解説する。
第 12 回	コスモポリタニズム	社会学領域のグローバリゼーション論の流れで提起されたコスモポリタニズム論を、国民統合を準拠軸としないポスト多文化主義モデルとして紹介する。
第 13 回	多自然主義	人間中心主義の思潮として多文化主義を批判し、非-西欧の人類学から提起された多自然主義の意義と可能性について検討する。
第 14 回	まとめ／パラダイム・チェンジ	生命科学・認知科学の隆盛のなかで、望ましい多文化社会をどのように構想するべきか。その構え方を最後に示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内容を理解するために準備学習・復習時間として各 2 時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・学期末に提出を求める課題レポートの内容で評価する（100%）。
・レポートの課題は、提出期限の約 1 カ月前に指示する。
・レポート評価の基準は、以下の 3 つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンに zoom のアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本授業は Zoom を用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、4 月 12 日（火）3 限（13:10 ～ 14:50）となる。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
Course outline :
The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.
Learning Objectives :
Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.
Learning activities outside of classroom :
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies :
Evaluation will be based on the content of the assignment report to be submitted at the end of the semester (100%). The report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARSx200MA
アジア社会論Ⅰ
展開科目
日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。
南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの 8 つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は 15 億人を超えており、世界人口の 5 分の 1 以上がこの地域で暮らしています。
講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。
講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】
1、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2、南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3、南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたたの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式で授業を行う。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第 1 回	南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第 2 回	世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第 3 回	南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第 4 回	南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第 5 回	南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第 6 回	映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第 7 回	映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第 8 回	南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第 9 回	グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第 10 回	南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第 11 回	南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第 12 回	南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第 13 回	南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり
第 14 回	まとめとレポート解説	まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
①大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）
②日下部尚徳『わたし 8 歳、職業、家事使用人。－世界の児童労働者 1 億 5200 万人の 1 人』（合同出版、2018 年）

【参考書】
①石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ（シリーズ地域研究のすすめ）』（昭和堂、2020 年）
②白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉（編）『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂、1993 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／ Reaction paper/in-class assignments (56 %)
レポート課題／ Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues.

Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56 %)
Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようににかかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で授業を行う。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
第 2 回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・バングラデシュを中心に）
第 3 回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
第 4 回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
第 5 回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
第 6 回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
第 7 回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
第 8 回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
第 9 回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
第 10 回	南アジアの紛争とその背景	チャッタゴン丘陵問題を事例に
第 11 回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
第 12 回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
第 13 回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。
第 14 回	南アジアの社会問題のまとめとレポート解説	アジアの社会的課題に対して自身がどのようににかかわるべきかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ①日下部尚徳『わたし 8 歳、職業、家事使用人。－世界の児童労働者 1 億 5200 万人の 1 人』（合同出版、2018 年）
- ②日下部尚徳・石川和雅『ロヒンギャ問題とは何か－難民になれない難民』（明石書店、2019 年）

【参考書】

- ①栗屋利江・井上貴子編『インド ジェンダー研究ハンドブック』（東京外国語大学出版会、2018）
- ②大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／ Reaction paper/in-class assignments (56 %)
レポート／ Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.

2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.

2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.

3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56 %)

Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際関係を理解する為に必要となる理論的枠組みについて概説し、どのような問題が現在進行中なのかに関して、データを交えて解説する。合わせて国際関係が私達に与える影響について、心理学の観点から解説する。

【到達目標】

現代の国際情勢を学術的に考えるための視点、知識、スキルの獲得を目指す。更にはそれらを用いる事で現代社会での国際問題に対して学生自身で考え、心理学の視点を応用してそれらに対する問題解決について議論出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本年度はオンデマンド型オンライン授業での開講となる。具体的方法については学習支援システムでその都度呈示する。授業各回における課題の提出を必須とする。リアクション・ペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に行かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	授業全体の概略を説明し、国際関係論の基本的な考え方について解説する。
第 2 回	20 世紀の国際関係と今日の国際関係	20 世紀から現在に至る歴史に焦点を当て、国際関係の変化について解説する。
第 3 回	グローバリゼーション	グローバリゼーションについての理論的分析を解説する。
第 4 回	安全保障	国際社会における安全保障とは何か、地域、伝統的問題と関連づけて解説する。
第 5 回	国際関係の理論	国際関係に関する代表的な理論について解説する。
第 6 回	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	国際レジーム論とは何か、グローバル・ガバナンスの問題点は何かについて、平和実現の問題と関連づけて解説する。
第 7 回	リージョナリズムと EU	リージョナリズム、特に EU の特徴について解説する。
第 8 回	非国家アクターの台頭	国際関係における非国家アクターの影響について解説する。
第 9 回	紛争解決	現代の国際紛争解決について、理論と実践の点から解説する。
第 10 回	国際関係と集団間関係の心理	国際関係の内、特に集団間関係に対する人々の反応について心理学の観点から解説する。
第 11 回	国際関係と集団内関係の心理	国際関係が人々の所属する集団内部に対して与える影響について、心理学の観点から解説する。
第 12 回	国際関係における第三者の影響	国際関係における第三者の影響について、心理学の観点から解説する。
第 13 回	国際関係と個人の心理	国際関係に対する人々の反応について、個人内での心理的反応に焦点を当てて解説する。
第 14 回	まとめと総括	授業全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる。課題の提出と授業に対する積極的な質問、期末の試験の成績に基づき成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 60 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）40 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生からのフィードバックを上 k、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は PC が必要となるので、利用可能環境を整えておくように。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning international relationship, from political and social psychological perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods by using the statistic al data.

Goals of this course are understanding and acquiring perspective knowledge and skills concerning international relationship, and thinking how to use those knowledge for problem solution.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60%

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

塩田 潤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー/フェミニズムの視座から国際関係・国際政治を学ぶ。授業前半では、国際関係論におけるジェンダー分析について説明し、それをふまえて安全保障、戦争と性暴力、グローバリゼーション、移民、環境問題などの具体的なイシューについて検討する。

【到達目標】

- ・国際関係論におけるフェミニスト・アプローチの基礎を理解する。
- ・国際政治および国際社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
- ・ジェンダーの観点をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業はすべてオンラインで行う。
- ・授業はオンデマンド形式（パワーポイントを中心とする講義映像の配信）で行う。毎週、講義動画および講義資料を配信するので、各自で確認すること。
- ・受講者には毎回の授業後、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーにおいて出された質問等へのフィードバックは次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明
第 2 回	ジェンダー/フェミニズム	ジェンダー概念およびフェミニズムとはなにか
第 3 回	フェミニズム理論と国際関係論	ジェンダーから見た国際関係論
第 4 回	「安全保障」とは何か	「国家安全保障」から「人間の安全保障」へ
第 5 回	「安全保障」を問い直す	批判的安全保障論とケアの倫理
第 6 回	戦争システムと家父長制	軍事主義、軍事化とジェンダー
第 7 回	戦時性暴力	「従軍慰安婦」問題
第 8 回	軍隊と女性	女性の軍事化、軍隊内の女性
第 9 回	難民問題	ジェンダーから見る難民・強制移動
第 10 回	グローバリゼーションとジェンダー	グローバリゼーション、新国際分業
第 11 回	ケア労働の越境化	ケア労働と女性移民
第 12 回	環境問題とフェミニズム	気候危機に抗するエコフェミニズム
第 13 回	「ジェンダー平等」の国々の実像	北欧諸国におけるジェンダー平等の歴史と実態
第 14 回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を払っておいってください。海外メディアのチェックなども役立ちます。復習：授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。

宿題など：適宜、指示を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

【参考書】

- ・大澤真理編『公正なグローバル・コミュニティを』岩波書店、2011 年。
 - ・岡野八代『戦争に抗するーケアの倫理と平和の構想』岩波書店、2015 年。
 - ・J. アン・ティックナー『国際関係論とジェンダー』進藤久美子・進藤榮一訳、岩波書店、2005 年。
 - ・シンシア・エンロー『策略』上野千鶴子監訳、岩波書店、2006 年。
 - ・土佐弘之『グローバル/ジェンダー・ポリティクスー国際関係論とフェミニズム』世界思想社、2000 年。
- その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

30 %・・・毎回のコメント・ペーパー

70 %・・・学期末試験

※本授業では学期末試験のみ対面形式で行います。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン形式の試験に変更する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は担当していないため情報を持っていません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受けることができる環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

・質問などに関してはコメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
・シラバスで記載している授業計画は時間の都合などで若干変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces feminist works in International Relations (IR) and explores global issues with gender perspective. After a review of integration of gender analysis into IR theory, this course examines specific current global topics including (national) security, war and sexual violence, globalization, migration, and environmental issues etc.

【Learning Objectives】

・ Understand the basics of feminist approach to IR
・ Acquire feminist perspective on international politics and social trends
・ Develop ability to think about more just global society with gender perspective

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

30% - Short reports for each session

70% - Final examination

※ In this class, only the final examination will be conducted face-to-face. However, the examination may be changed to an online format depending on the situation of the Covid-19 pandemic.

ARSx200MA

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえて理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります。受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。

第 3 回以降は、基本的には対面で授業を行います。ただし、授業 2 回分をあてている地域・国（第 4 回・第 5 回のイングランド社会・文化、第 7 回・第 8 回スコットランド社会・文化、第 10 回・第 11 回のアイルランド社会・文化）については、②はオンライン（オンデマンド）での授業となります。授業が 1 回分のみの地域（ウェールズと北アイルランド）は対面になります。

また、まとめの回についても対面です。

具体的には、以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください。

対面授業の際には、映像などを用いて、より具体的にイメージできるように進めます。

毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。変更がある場合は、学習支援システムで連絡をします（オンラインとしている回を対面に変更することは原則としてありません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っていることやイメージについて、それらがどこから得られているのかを考える。
第 4 回	イングランド社会・文化 ①	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化 ②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。

第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりや EU との関係性について考える。
第 9 回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第 12 回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第 13 回	アイルランドのまとめ	イギリス、EU との関係から、考える。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年 岩波新書。
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ミニレポートなど課題・リアクションペーパーの内容、期限を守った毎回の課題提出等）：50 %

期末試験（論述式）：50 %

* 欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

* 受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

* 初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

Grading criteria: 1) Term-end examination 50%, 2) Short reports and in class contribution 50%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARSx200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげる。＜異＞文化と＜異なる＞国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も言及する予定である）。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります。受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。第 3 回目からは対面で授業実施予定です。コロナの感染拡大などの状況がある場合、第 3 回目以降も、一部オンラインで授業を行う可能性があります。変更がある場合は学習支援システム等で提示します。

授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをすることがあります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第 2 回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団関係について考える。アイルランド島にある二つの国。
第 3 回	＜異なる＞住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 4 回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第 5 回	和平合意と集会的アイデンティティ	どのような仕組みで和平合意が可能になったのか。国籍と帰属意識について考える。
第 6 回	レビュー	前半のまとめを行う。
第 7 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係に浮いて、具体的な例をもとに考える。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニティメディアから考える。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と＜歴史＞	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。
第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を考える。また、紛争の痕跡を「見学する」という観光の意味についても検討する。

第 13 回	北アイルランドと EU、 英国、アイルランド	イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。 まとめ・試験
第 14 回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、学期中数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きた人びと』 2007 年 法政大学出版局。
・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、リアクションペーパーの内容）およびミニレポート等課題： 50 %
期末試験（論述式）： 50 %
*なお、原則として欠席数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。
*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentum peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships.
Grading criteria: 1) Term-end examination 50%, 2) Short reports and in class contribution 50%.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200MA

就業機会とキャリア

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな仕事について考えとともに、現代社会における産業や企業のあり方について学びます。

企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から考えます。日々変化する企業の最新情報にふれることで、自らのキャリアをデザインする力を身につけるとともに、就業機会におけるキャリア選択を考えるキッカケを提供します。

【到達目標】

①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、③自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を到達目標に授業を実施します。
様々な業界や企業、キャリアに対する偏見や先入観をなくして、しっかりと自分自身の力で業界や企業を分析し理解できる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 80 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。講義日が祝日にあたった場合には、ゲストを呼ぶことは困難ですので、中間レポートの作成にあてることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	人材派遣業界	人材業界の仕事学びます。企業の採用活動、学生の就職活動についても情報を提供していただきます。
3	流通産業	我々にとって大変身近な業界である流通産業における働き方を学びます
4	IT 産業	社会基盤を担う IT 産業での働き方や生き方を学びます。
5	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
6	政府系企業	国と密接に関係しつつも公務員でもない機関について、その仕事を紹介いただきます。
7	エンターテインメント産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるエンターテインメント産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	広告産業	テレビだけではなくインターネットへの接触が増加して、産業が変容しつつある広告産業での働き方を学びます。
11	ベンチャー	組織で働く、雇用者として働く以外の選択肢である起業について、ベンチャー起業の経営者の実体験を語っていただきます。
12	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
13	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	まとめ	ゲストの話を総括して、これからのキャリアについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特段の準備を求めることはありませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。
人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

全体を通じてのテキストはありません。
資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】

とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業内で提出する簡単な事前事後のコメントの評価 60 %、まとめと中間のレポート 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

1. レポートを書く時間を確保します。
2. 幅広い業界からゲストを招聘し、授業をアレンジします。

【その他の重要事項】

学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。
これまで、博報堂、ソニーミュージックエンターテイメント、リクルートキャリア、公文教育研究会、マツモトキヨシホールディングス、DHL サプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、キョーリン製薬ホールディングス、日本政策金融公庫、富士通、マクアケ（サイバーエージェント）、東京証券取引所の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。
また、お話をいただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, we will consider various tasks and learn about industries and companies in modern society. From the lecture of the guest speaker, we think about what kind of persons are required in society, working on organization. By acquiring up-to-date information on companies and societies that change every day, we will acquire the ability to design our own careers. Also, through this lesson, you will have the opportunity to think about career selection.

【Learning Objectives】

The three objectives are as follows

- (1) To develop an interest in various work styles and jobs
 - (2) To understand various companies and how to work there.
 - (3) To develop a positive attitude toward one's own career development.
- The goal is to eliminate prejudice and preconceptions about various industries, companies, and careers, and to develop the ability to analyze and understand industries and companies on one's own.

【Method】

Each session will feature guests from a variety of companies with various positions and titles. They will talk about the latest trends in their industries. Each session will consist of 80 minutes of lecture, 10 minutes for Q&A, and 10 minutes for report writing. However, the allocation of time for each lecture is subject to change. Also, the type of business and other details may change due to the instructor's availability. If the lecture falls on a national holiday, it is difficult to invite a guest speaker, so the class may be held for the preparation of the mid-term report.

【Learning activities outside of classroom】

We do not require any special preparation, but please be prepared to ask one or two questions after obtaining information from the Internet, newspapers, etc. in advance. This is a valuable opportunity, so please do not waste it. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation will be based on 60% of brief pre and post comments to be submitted in each class and 40% of final and mid-term reports.

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくといく基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）を取りあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させていただきますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】

- 本授業の目標です。
- ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
 - ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
 - ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。
全体発表の場合は、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日 3 限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝えるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3 つの「きく」。状況にあわせた使い、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と TPO に合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。

第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

【Outline (in English)】

Basic career skills 1

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

【Learning Objectives】

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice (one-credit)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 50%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ 展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
2 年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ること、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。

学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日 3 限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておく とよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの 流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ 方を理解する。文系・理系に関わらず の活躍する職場や、多様な採用経路と その後のキャリア形成についても理解 する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決 めてグループに分かれる。研究する業 界・企業の絞り込みと計画を立てる。業 界の企業間競争、人員構成や雇用区分 について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味があ る職業を確認する。職業の興味から 業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用ス キル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始す る。キャリアセンター訪問して、キャ リアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析す る。

第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、 プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講 話】①	社会人から、就職活動の方法やポイン トを学ぶ。社会人への質問の仕方、対 話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究 の発表	役割分担を決めてプレゼンテーション を実施する。他グループの発表も参考 にし、他業界に興味を拡げることや調 査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期 から現在に至るまでの出来事や転機か ら、自分の強みや弱みの分析、アピー ルポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講 話】②	社会人から、企業におけるキャリア デザインの考え方を学び、自己の棚卸 に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プラン シートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイン トを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動 機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を 用いて、模擬面接を体験する。面接す る側、される側を体験することで、面 接のポイントや書類の書き方の重要性 を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授 業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、
授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自
必要になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 30 %、模
擬面接及び資料内容 30%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行
います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職
業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用して
ください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるように
しておいてください。

【その他の重要事項】

「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず
初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらい授業です。
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジ
ニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントと
して、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。
業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

【Outline (in English)】

Basic career skills II

【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are
necessary for job-hunting and internship activity. Through activities
like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy,
old girl and working person, you can get the images of your working-life
or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-
point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or
businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of
job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way
of work of woman, having an interaction with working person

【Learning Objectives】

The goal of this course are to learn method of investigating business
field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding
through self-analysis and vocational interest test, to learn line of
questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get
the ability of presentation and writing, and to be able to work together
as a team and be proactive in doing.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two
hours to understand the course content
Experiment/Practice (one-credit)
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%, Short reports : 20%, in class contribution:
60%

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語 I)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities. 英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

During this SPRING Semester, we *might* need to use 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom.

Therefore, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice. Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.] Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.
第 5 回	"How are you?" / "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.

第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第 13 回	Speaking examination about all of the topics we studied during the semester.	Speaking examination, re: all of the topics studied during the semester.
第 14 回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.] Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet. Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.] Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞）に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

'Just in case' Online Learning might be needed, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでもください）。

During this Fall Semester/Pandemic, we might have to do 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom. Please prepare your computer, FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor. Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.

第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally answer 2/3/4/5/6/7, to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S./Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2022 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in Fall 2022.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

"Just in case": students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk'.

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet. Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学 (英語Ⅲ)

LANe100MA

Foreign Language Exercise (English Ⅲ) ※ GO
科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしよう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries

Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%
Participation 20%
Presentations 45%

*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

More time devoted to instruction on strategies for making eye contact with audience during presentation and developing speaker confidence.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅳ)

LANe100MA

Foreign Language Exercise
(English Ⅳ) ※GO
科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・スキル（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & asses vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions
Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing

Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review & wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%
Homework-20%,
Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased focus on vocabulary management & discussion skills

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語 V)

LANe100MA

Foreign Language Exercise
(English V) ※ GO
科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer review
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment

第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on effectively linking topic sentences & supporting sentences within paragraphs, paraphrasing & citing outside sources.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄附講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。2022 年度は対面を予定しておりますが、コロナウィルスの感染状況に応じてオンライン・リアルタイム（Zoom を利用）での開講となる可能性もあります。具体的なオンライン授業の方法などは第 1 回の授業で説明します。受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講をしてください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、2022 年度は若手組合員とのグループディスカッションを可能な範囲で組み込む予定である。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄附講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄附講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2021 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2021 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合役員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。 2021 年度実績は住友生命労働。

- 5 【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み
なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2021年度実績は TOTO ユニオン（セラミクス連合）。
- 6 【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み
働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2021年度実績は電機連合。
- 7 【ケーススタディ④】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み
男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聞き、考えてもらう。2021年度実績は通建連合。
- 8 【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共サービスの役割
「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。2021年度実績は自治労。
- 9 【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み
技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聞き、理解してもらう。2021年度実績は JAM。
- 10 【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応
進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、労働分野の開発協力活動などの事例を聞き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。2021年度実績は、国際労働財団。
- 11 【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み
働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
- 12 【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み
労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聞き、学生に理解してもらう。
- 13 【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～
すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
- 14 【論点整理】 「働くということ」と労働組合
ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。
出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Goal】

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
- ・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評価が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心にを行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング (PBL)－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング (PBL)－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショップ (一部英語で実施)	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション－2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング (PBL)－3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
- ・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が 60 点以上を合格とします。

(欠席が 3 回以上の者は成績評価対象外)

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意の PC を理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

MAT200XE

数論

安田 幹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは整数論です。到達目標は、1. 初等整数論として整数の基本的な性質を理解する、2. 初等整数論の一般化としてガウス整数や多項式環の基本的な性質を理解する、です。これらを通して、抽象的な数学概念を具体的な対象に適用する能力を修得します。また初等整数論の情報工学（情報セキュリティ）への応用としてRSA暗号を学びます。

【到達目標】

前半の授業では、初等整数論として、倍数と約数、ユークリッドの互除法、一次不定方程式、素因数分解、合同と剰余類、一次合同式、オイラーの定理、フェルマーの小定理、RSA暗号への応用を学びます。
後半の授業では、初等整数論の一般化のための抽象代数学への入門として、ガウス整数や多項式などの可換環を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルスの感染状況および皆さんの希望を考慮しながら、必要に応じて、オンライン授業やオンライン学習を取り入れる予定です。オンライン学習の回は「学習支援システム」を通じて行う予定です。オンライン学習は講義資料の配布による自習形式を予定しています。
・適宜、小レポートを出題します。
・毎回、リアクションペーパー（形式自由の感想文）を提出して下さい。
・質問やコメント、その他リアクションペーパーに書かれた良い意見等は、問題の無い範囲で紹介し（誤記や誤問などの指摘は速やかに公開して訂正します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初等整数論の基礎	初等整数論の概要、約数、倍数、公約数、公倍数について学びます。
2	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法について学びます。
3	一次不定方程式	一次不定方程式とその解法について学びます。
4	合同と剰余類	合同と剰余類、一次合同式とその解法について学びます。
5	連立一次合同式と中国剰余定理	連立一次合同式とその解法、中国剰余定理について学びます。
6	オイラーの関数とオイラーの定理	オイラーの関数とオイラーの定理について学びます。
7	素数と素因数分解	素数とその性質、素因数分解について学びます。
8	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号について学びます。
9	ガウス整数の割り算	ガウス整数の定義と割り算について学びます。
10	ガウス整数の素因数分解	ガウス整数の素因数分解について学びます。
11	多項式の割り算と因数分解	一変数有理係数多項式の割り算と因数分解について学びます。
12	可換環	可換環の定義と例について学びます。
13	演習	演習を行います。
14	授業のまとめ	講義内容の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします】前回までの講義内容を復習し理解しておいて下さい。適宜、演習問題を中心とした小レポート課題を実施します。小レポートの答えは次回の授業までに提出して下さい。クラスの到達度を見ながら、必要に応じて応用問題を中心とした追加レポートを実施します。また必要に応じて応用問題を中心とした最終レポートを実施します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

代数学Ⅰ 群と環、桂利行、東京大学出版会
群論への30講、志賀浩二、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

小レポートの得点（50%）および期末試験の得点（50%）を基本として合格・不合格の評価を行います。必要に応じて実施する追加レポートおよび最終レポートは、合格者を対象に、小レポートおよび期末試験それぞれの満点を越えない範囲でそれぞれ加算します。

【学生の意見等からの気づき】

定義・定理・証明もきちんと行いますが、学生の皆さんが実際に問題が解けるようになり情報工学に活用できるスキルが身に付くような授業内容となるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is on number theory. The goals are: 1) to learn basic properties of integers, which are usually taught as "elementary number theory," and 2) to learn definitions and properties of Gaussian integers and the ring of polynomials, which are usually taught as the generalization of elementary number theory. We improve our skills on how to apply mathematical abstract concepts to concrete contents. Also, as an application of elementary number theory to engineering (information security) we learn RSA encryption algorithm.

(Specific goals)

In the first half of the course, from the perspective of elementary number theory, we learn multiples, divisors, Euclidean algorithm, linear Diophantine equations, integer factorization, congruence and remainders, linear congruence equations, Euler's theorem, Fermat's little theorem, and application to RSA encryption.

In the second half, we learn an introduction to abstract algebra, focusing on commutative rings such as the ring of Gaussian integers and that of polynomials as the generalization of elementary number theory.

(Work to be done outside class)

One should expect about 4 hours for preparation for the next class and review of the previous one. Please review thoroughly and understand fully the contents of previous lectures. When considering appropriate, we shall carry out assignments (which we call "small reports") consisting of exercises. Please submit your reports (papers) by the next class. Depending on the achievement of the class, if needed, we may carry out additional reports (optional) focusing on more applied (advanced) problems. In addition, if necessary, we may carry out a final report (again, optional) consisting of applied problems.

(Grading criteria/policy)

Pass / fail shall be determined based on the scores of the small reports (50%) and the score of the final exam (50%). The additional and final reports, which may be conducted as needed, shall be added to the scores of those who have passed, within the ranges that do not exceed the full marks of the small reports and the final exam.

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。

Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。

後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。

まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。

各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得

第 6 回 文字列

文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得

第 7 回 日付処理

日付の扱い方を理解・習得

第 8 回 ファイル操作とデータ形式

ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。

第 9 回 構造化データ JSON

JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。

第 10 回 ネットワークからの取得と、周辺ツール

外部から HTTP で取得したデータを取得する方法を理解し、習得する。

また、Maven、Javadoc と、jackson の使い方 (databind) を理解し、習得する。

第 11 回 構造化データとオブジェクト

市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る。

第 12 回 構造化データとオブジェクト

Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する。

第 13 回 これまでの復習

ここまで学習した内容の復習

第 14 回 プログラミング言語の今昔

プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java 本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

「15 時間でわかる Java 集中講座」 宮下明弘、工藤雅人、原田僚著 井上誠一郎監修 技術評論社発行 2680 円

・Java の言語仕様をかりやすく解説している。

「新・明解 Java 入門」 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ発行 2700 円

・プログラミング初心者向けのテキスト

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施する場合

・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験 (50%)

・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)

期末試験を実施しない、または、できない場合

・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、**Eclipse** という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に **Eclipse** がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに **Eclipse** をインストールしておくことをお勧めします。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくともかまいません。また、この場合には **Windows** でなくともかまいません。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、**C** 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、**C++** 言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。

企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている **Java** 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】**【授業の概要 (Course outline)】**

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.
- ・ Data on the Internet can be handled using Java.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(100%)

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。

Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。

後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得

第 6 回 文字列

文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得

第 7 回 日付処理

日付の扱い方を理解・習得

第 8 回 ファイル操作とデータ形式

ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。

第 9 回 構造化データ JSON

JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。

第 10 回 ネットワークからの取得と、周辺ツール

外部から HTTP で取得したデータを取得する方法を理解し、習得する。

また、Maven、Javadoc と、jackson の使い方 (databind) を理解し、習得する。

第 11 回 構造化データとオブジェクト

市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る。

第 12 回 構造化データとオブジェクト

Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する。

第 13 回 これまでの復習

ここまで学習した内容の復習

第 14 回 プログラミング言語の今昔

プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java 本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

「15 時間でわかる Java 集中講座」 宮下明弘、工藤雅人、原田僚著 井上誠一郎監修 技術評論社発行 2680 円

・Java の言語仕様をかりやすく解説している。

「新・明解 Java 入門」 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ発行 2700 円

・プログラミング初心者向けのテキスト

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施する場合

・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験 (50%)

・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)

期末試験を実施しない、または、できない場合

・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、**Eclipse** という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に **Eclipse** がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに **Eclipse** をインストールしておくことをお勧めします。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくともかまいません。また、この場合には **Windows** でなくともかまいません。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、**C** 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、**C++** 言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。

企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている **Java** 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】**【授業の概要 (Course outline)】**

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.
- ・ Data on the Internet can be handled using Java.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(100%)

MAT200XG

複素関数論

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分で学んだ実変数の三角関数、指数関数等を複素変数に拡張するところから始めて、複素関数の微分や積分について学ぶ。とくに応用上大切な有理関数の積分について、負冪を許して冪級数に展開し、閉曲線に沿って項別積分することによって、積分の計算が留数の計算に帰着されることを示す。

【到達目標】

- (1) 複素初等関数の取り扱いに習熟する。
- (2) 留数を計算して複素関数の積分を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	複素数の定義と四則演算	複素数の取り扱いについての簡単な復習。
2	複素指数関数	指数関数の複素変数への拡張。
3	複素三角関数	三角関数の複素変数への拡張。
4	対数関数と無理関数	対数関数の複素変数への拡張。
5	Cauchy-Riemann の方程式	複素微分可能性が複素関数の実部と虚部に課す制約の説明。
6	複素積分	複素関数の積分が複素平面上の線積分として導入されることの説明。
7	コーシーの積分定理	閉曲線に沿った積分が零になるための条件の考察。
8	コーシーの積分表示	積分定理から導かれる正則関数およびその導関数の積分表示式の説明。
9	整級数展開	正則関数のテイラー級数展開、ならびに負冪を許したローラン級数の導入。
10	一致の定理	整級数展開についての補足。関数関係不変の原理。
11	特異点	ローラン級数の主要部の考察。除去可能特異点、極、真性特異点の特徴づけ。
12	留数定理	留数の求め方と複素積分の計算。
13	複素積分の応用	有理関数の無限積分など実積分の計算への応用。
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】計算練習は十分な量を各自でこなしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course we will learn differentiation and integration of functions in one complex variable.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to be capable of performing basic operations on complex functions, and
- (2) to master the method of residues.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:100%.

MAT200XB

応用数学（機械）

清水 朝雄

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な常微分方程式を解くときに必要になる変数分離・変数変換・ラプラス変換・ヘビサイドの演算子法・ミクシンスキーの演算子法などによる方法の導出・計算を、例題を使って講義する。授業内小テストをおこない、学生に解の計算、並びに、解法の導出をさせて、自らの解の計算力、解法の導出力を吟味させることによって、習得の程度を把握させて、常微分方程式に関する解法のテクニックを習得させる。

非対面授業について。Zoom による講義、並びに、授業教材を授業支援システムにアップロードすることで、本学期的本授業は始まる。テキストと授業教材（レジュメ）を参考に演習問題を解いて学習支援システム「課題」欄にレポート提出して下さい。質問はレポートに記して下さい。レポートは pdf ヘイメーシスキャナー、スマートフォンで写真を jpg など手書きのものをデジタル化したファイルで提出して下さい。

【到達目標】

学生が、理工学で基本的な微分方程式を解くための計算を容易にできるようにする。学生が理工学で基本的な微分方程式の解法の導出をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

理工学で基本的な微分方程式の解法の導出並びに計算方法を例題を使って講義する。基本的な微分方程式の計算問題、解法の導出問題を授業内小テストとして解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	微分方程式とその解	微分方程式の解の分類と与えられた関数の満たす常微分方程式を求めることについて講義する
第 2 回	変数分離形・同次形	変数分離形・同次形の微分方程式の求積解法について講義する
第 3 回	完全微分方程式	微分形式の微分方程式が完全である条件と求積解法について講義する
第 4 回	1 階線形微分方程式	ベルヌイの微分方程式の求積解法リッカチの微分方程式の求積解法について講義する
第 5 回	1 階線形微分方程式	グランベールの微分方程式の求積解法クレローの微分方程式の求積解法について講義する
第 6 回	2 階線形微分方程式	同次形の求積解法について講義する
第 7 回	2 階線形微分方程式	非同次形の求積解法について講義する
第 8 回	ラプラス変換の計算法則・ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則	ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則について、講義する

第 9 回	ラプラス変換の計算法則・ラプラス変換に関する微分法則、積分法則	ラプラス変換に関する微分法則、積分法則について講義する
第 10 回	ラプラス変換の計算法則・合成積、不連続関数のラプラス変換	合成積、不連続関数のラプラス変換について講義する
第 11 回	ラプラス変換の計算法則・逆ラプラス変換並びに部分分数	逆ラプラス変換並びに部分分数について講義する
第 12 回	ラプラス変換の計算法則・ヘビサイドの展開	ヘビサイドの展開について講義する
第 13 回	ヘビサイドの演算子	ヘビサイドの演算子の算術について講義する
第 14 回	ヘビサイドの演算子法	ヘビサイドの演算子法の微分方程式への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他も援用して、次週の授業までに質問事項などとしてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000 年）
本体 2600 円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 日新出版（1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業内演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline (in English)】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve ordinary differential equations, by the methods of separation of variables, changing of variables, power series and so on. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. And our course also deal with the ordinary differential equations in the introduction to mathematical physics. The goals of this course are to deduce the general solution formula of ordinary differential equations and to be able to solve exercises of ordinary differential equation problems easily. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class experiment. Your overall grade in the class

decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports 10%.

MAT200XB

応用解析（機械）

清水 朝雄

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題の解法を数学サイドから講義する。解くために必要になる数学的な方法の導出、例題を使つての問題の解の算出法について講義する。特にフーリエ級数による解法を重点的に扱う。授業内小テストをおこない、学生に自分の解の計算力、解法の導出力を自ら吟味させることによって、習得の程度を把握させて、理工学における基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題に関する解法のテクニックを習得させる。非対面授業について、Zoom による講義、並びに、授業教材を授業支援システムにアップロードすることで、本学期的本授業は始まる。テキストと授業教材（レジュメ）を参考に第一回演習問題を解いてレポート提出して下さい。質問はレポートに記して下さい。レポートは pdf ヘイメーシスキャナー、スマートフォンで写真を jpg など手書きのものをデジタル化したファイルで提出して下さい。

【到達目標】

学生が、自ら、フーリエ級数に関する計算力・応用力を向上させることができるようにする。学生が、理工学にあらわれる基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題を容易に解くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フーリエ級数に関する方法の導出、例題を使った計算方法等を講義する。学生にフーリエ級数についての計算、応用、解法の導出についての問題を授業内小テストで解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	周期関数	区分的に滑らかな周期 2π の関数のなす内積空間について講義する。
第 2 回	フーリエ係数	フーリエ係数の定義・計算、奇関数、偶関数の場合のフーリエ係数の計算について講義する。
第 3 回	フーリエ級数	フーリエ級数の定義、性質について講義する。
第 4 回	有限三角級数、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式	フーリエ級数の有限和の性質、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式について講義する。
第 5 回	フーリエ級数の収束	フーリエ級数の基本定理について講義する。
第 6 回	関数項関数	フーリエ級数などの関数項級数の一般的性質について講義する。
第 7 回	フーリエ級数と項別微分、項別積分	フーリエ級数の項別微分、項別積分について講義する。
第 8 回	一般の周期関数のフーリエ展開	一般の周期関数に関するフーリエ級数について講義する。
第 9 回	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数について講義する。
第 10 回	波動方程式の混合問題	波動方程式の混合問題について講義する。

第 11 回 波動方程式の解法

波動方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

第 12 回 熱方程式の混合問題

熱方程式の混合問題について講義する。

第 13 回 熱方程式の解法

熱方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

第 14 回 ラプラス方程式

ラプラス方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他で、次週の授業までに質問事項等としてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000 年）
本体 2600 円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 共著 日新出版（1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline (in English)】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve the partial differential equations with the significance in the introduction to the elementary mathematical physics. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. Our course mainly deal with Fourier series with the applications in the introduction to mathematical physics. The goals of this course are to deduce the general solution formula of partial differential equations and to be able to solve exercises of partial differential equation problems easily. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class experiment. Your overall grade in the class decided based on the following
Term-end examination: 90%, Short reports 10%.

MAT200XD

複素関数論（電気）

塚田 和美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変数の範囲を複素数に拡張した関数を扱う複素関数論の初歩を学ぶ。

【到達目標】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理など複素関数論の基礎的な概念や事実を理解し、基本的な計算を行えること、並びに自身の専門分野に応用できる力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数と四則演算	複素数の四則演算、共役複素数、絶対値、偏角について知る。
第 2 回	複素平面	複素数の代数的性質と複素平面の幾何的性質との対応を理解するとともに図形への応用力を養う。合わせて複素平面の領域に関する基本概念を学ぶ。
第 3 回	複素関数	多項式関数、分数関数などについて複素関数としての性質を理解し、複素関数の扱いに慣れる。
第 4 回	正則関数	複素関数の連続性や微分の定義を学ぶ。正則関数の判定条件として、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 5 回	基本関数の性質 (1)	指数関数、三角関数、双曲線関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 6 回	基本関数の性質 (2)	対数関数、一般のべき関数、逆三角関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 7 回	複素積分	複素積分の定義を理解し、計算方法を習得する。
第 8 回	コーシーの定理とその応用	正則関数に関するコーシーの積分定理を理解し、この定理を利用した積分の計算方法を習得する。
第 9 回	コーシーの積分公式	コーシーの積分公式とその拡張を学び、具体例を通じて理解を深める。
第 10 回	コーシーの積分公式の応用	コーシーの積分公式とその拡張を利用した複素積分の計算例を学び、計算方法を習得する。
第 11 回	べき級数、テイラー展開	べき級数の収束条件、正則関数のテイラー展開について知り、基本関数のテイラー展開を求める。
第 12 回	ローラン展開	孤立特異点でのローラン展開について知る。具体的な関数のローラン展開の求め方を習得する。
第 13 回	特異点と留数定理	特異点の分類、留数の導入、留数定理を知る。留数定理の応用例を学ぶ。
第 14 回	総合演習	講義の要点の復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。授業の復習として、授業で学んだ基本的な概念や事実について自分が納得できるように理解すること、また演習問題を実際に解いてみて理解を確認することも大切である。

【テキスト（教科書）】

複素関数論
辻良平、柳原二郎他共著
森北出版

【参考書】

授業内容に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理を理解し、基本的な計算方法や応用する力が身についたかどうかを期末試験で判断する。
期末試験の結果を 60 %、演習、小テスト等の平常点を 40 %程度とし、総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に実施する。
スライド、板書を効果的に使い、学生がより効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of the complex function theory.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the differentiation and integration of complex functions
- 2) Understanding (complex) exponential, triangular, and logarithmic functions and their calculation
- 3) Understanding Cauchy integral formula and residue theorem, and their applications

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

MAT200XD

応用数学（電気）

鳥飼 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の多くの分野の基礎となる微分方程式の解法を学ぶとともに、簡単な物理現象を微分方程式を使って解析する方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 典型的な1階微分方程式の解法を理解し、物理現象の解析への応用を理解する。
2. 定数係数線形微分方程式の解法を理解し、具体的な問題を解くことができる。
3. ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行うが、講義中に小テストを実施しその解説にあてる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とは何か	微分方程式の導出の例や微分方程式からわかることの例を知る
第2回	1階線形微分方程式（1）	変数分離形微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第3回	1階線形微分方程式（2）	1階線形微分方程式の解の公式を導く
第4回	1階線形微分方程式（3）	完全微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第5回	定数係数2階線形微分方程式（1）	同次方程式と非同次方程式、定数係数2階線形微分方程式の解空間の構造を理解し解法の一般論を知る
第6回	定数係数2階線形微分方程式（2）	定数係数線形同次微分方程式の解法を理解する
第7回	定数係数2階線形微分方程式（3）	消去法を用いて定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第8回	定数係数2階線形微分方程式（4）	定数変化法による定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第9回	線形微分方程式の応用	線形微分方程式の応用を知る
第10回	ラプラス変換（1）	ラプラス変換の定義および基本性質を知る
第11回	ラプラス変換（2）	基本的な関数のラプラス変換の求め方を理解する
第12回	ラプラス変換の応用	ラプラス変換を応用した初期値問題の解法を理解する
第13回	定数係数連立線形微分方程式	定数係数連立線形微分方程式の解法に触れる
第14回	微分方程式の応用	様々な微分方程式の応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に小テストを行う場合がある。その準備として事前に解いておくべき問題を指定するので解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

矢野・石原共著、新装版 解析学概論、裳華房
(黄色い表紙の古い版の「矢野・石原共著、解析学概論（新版）、裳華房」も内容は同一なので使用可能)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)と、講義中に出題されるレポート及び中間試験(40%)で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Differential equations are used in various fields of science and engineering. The aim of this course is to help students acquire an understanding of solving methods of differential equations and analysis methods of simple physical systems by differential equations.

(Learning objectives)

By the end of the course, students are expected to acquire following skills

- Understanding of solutions of ordinary differential equation
- Understanding of Laplace transform and its inverse

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Moreover, additional work is expected in case the report is assigned as homework.

(Grading Criteria)

Term-end examination: 60%, In class contributions including mini exams: 40%

MAT200XD

確率統計（電気）

齊藤 利通、中村 俊博

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気電子工学における各種データ処理やその理解のために、確率統計の基礎力を養成する。

【到達目標】

講義、例題、演習。

対面授業の場合は、各自の演習問題や例題への直接コメントします。オンライン授業の場合は、各自が提出した演習問題へのコメント（フィードバック）を学習支援システム（Hoppii）を通じて行います。詳細は Hoppii の記載事項を熟読してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本事項の講義、基礎問題の演習、質疑応答、節目での復習、総復習等を、学生の理解のレベルに応じて適用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	確率関数	イントロ、ヒストグラム、基本統計量
2	確率関数	二項分布
3	確率関数	ポアソン分布
4	情報理論入門	エントロピー、ハフマンコード
5	確率密度関数	平均、分散、累積分布関数
6	確率密度関数	正規分布、中心極限定理
7	推定－検定	母集団比率、標準正規分布
8	推定－検定	母分散、 χ^2 乗分布
9	推定－検定	母平均、t 分布
10	神経回路	ニューロンモデルと学習、神経統計力学
11	相関	相関係数
12	相関	回帰直線
13	相関	主成分分析
14	総復習	重要事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の復習

【テキスト（教科書）】

和達、十河：キーポイント確率統計、岩波書店、ISBN4-00-007866-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

定期試験

【学生の意見等からの気づき】

重要な基礎事項は、学力不足の学生にも理解できるように説明する。

【Outline (in English)】

Course outline: In order to understand data processing technique and feature extracting technique in electrical and electronica engineering, this lecture studies basic concepts of probability and statistics.

Learning Objectives: Mastering basic concepts in probability and statistics.

Learning activities outside of classroom: Consideration of key concepts in probability and statistics.

Grading Criteria /Policy: Academic/technical skills evaluated in term examination.

PHY200XD

応用物理学

西村 征也

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質点系の力学や流体力学の応用分野の一つである、プラズマ物理について学ぶ。プラズマとは、イオン集団と電子集団が混在する媒質のことであり、工学や理学の様々な分野で重要な役割を演じている。前半では、電磁場中の単一荷電粒子の運動について学ぶ。後半では、プラズマ流体と電磁場の相互作用について学ぶ。

【到達目標】

- ・電磁場中の単一荷電粒子の運動を計算することができる。
- ・プラズマの流体方程式の導出方法を説明することができる。
- ・プラズマの流体方程式を用いて、プラズマ中の波動の分散関係を導出することができる。
- ・プラズマの平衡と不安定性の考え方を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を基本とする。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、プラズマとは	授業内容の説明 プラズマの定義 プラズマの応用分野 水素プラズマの核融合反応
2	サイクロトロン運動	サイクロトロン周波数 ラーマ半径
3	ミラー磁場による捕捉	ミラー力 磁気モーメントの保存
4	磁場閉じ込め	地球磁気圏 磁場閉じ込め装置
5	流体力学の考え方	速度場と圧力場 オイラー微分とラグランジュ微分
6	流体の運動方程式	連続の式と流体の運動方程式の導出 音波の分散関係
7	復習	復習問題 アンケート
8	二流体方程式	イオンと電子の流体方程式 Maxwell 方程式との連立
9	プラズマ振動	プラズマ周波数 ラングミュア波の分散関係
10	MHD 方程式	MHD 方程式の導出
11	アルフベン波	アルフベン波の分散関係
12	平衡と不安定性	平衡・不安定性の概念 不安定性の種類
13	プラズマ研究の最前線	核融合プラズマ 宇宙プラズマ
14	復習	復習問題 アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・多くの数式を用いるので、物理的な概念と数式との関係が理解できるまで、よく復習しておくこと。

・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

プラズマ物理入門（F.Chen 著・内田岱二郎訳 丸善）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces plasma physics as an application field of particle dynamics and fluid dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (80%) and reports (20%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

MAT200XE

応用数学（情報）

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然科学や社会科学における多くの現象が微分方程式によって表現されており、微分方程式に関する知識・解法の修得は現代科学を学ぶ者にとって欠かせないものになっている。当科目では、基本的な常微分方程式の解法を修得する。

【到達目標】

1. 常微分方程式の基本的な解法を身に付ける。
2. その実行に必要な計算力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	常微分方程式	常微分方程式を定義し、その意義について解説する。
第 2 回	常微分方程式の解	常微分方程式の解の存在定理について解説する。
第 3 回	変数分離形	変数分離形の解法について解説する。
第 4 回	同次形	同次形の解法について解説する。
第 5 回	一階線形	一階線形の解法について解説する。また、定数変化法を紹介する。
第 6 回	完全微分形	完全微分形の解法について解説する。
第 7 回	一階微分方程式のまとめと演習	第 1 回から第 6 回までのまとめを行い、演習を実施する。
第 8 回	線形空間・アフィン空間	線形微分方程式を理解する為に必要な線形代数学を復習し、線形写像のファイバーの構造定理について解説する。
第 9 回	線形微分方程式の解空間	線形常微分方程式の解空間の構造について解説する。
第 10 回	微分演算子・斉次形	微分演算子を定義し、これを用いた斉次形定数係数線形常微分方程式の解法について解説する。
第 11 回	逆演算子・非斉次形	逆演算子を導入し、これを用いた非斉次形定数係数線形常微分方程式の解法について解説する。
第 12 回	定数変化法	定数変化法による線形常微分方程式の解法について解説する。
第 13 回	級数解法	常微分方程式の級数解法について解説する。
第 14 回	線形微分方程式・級数解法のまとめと演習	第 8 回から第 13 回までのまとめを行い、演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

常微分方程式の基本的解法の理解度・実践力を期末試験の成績（60%）と提出課題（40%）によって評価する。出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義中に質問することを躊躇する学生が多いのだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

Many phenomena in the natural and social sciences are expressed by differential equations. The acquisition of knowledge related to them is indispensable for those who study modern science.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Understanding the fundamental concepts of ordinary differential equations

2) Solving basic ordinary differential equations, such as variables separable, homogeneous, exact, and linear ones.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XE

応用解析（情報）

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の基礎事項を概説する。基本理論の理解と併せて、微分方程式・積分方程式への応用に必要な計算力を修得する。

【到達目標】

1. フーリエ級数の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
2. フーリエ変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
3. ラプラス変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
4. これらの微分方程式・積分方程式への応用について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フーリエ級数の定義	フーリエ係数・フーリエ級数を定義し、その意義について解説する。
第 2 回	フーリエ級数の性質	フーリエ級数の基本的性質について解説する。
第 3 回	フーリエ級数の計算	フーリエ級数の計算技術について解説する。
第 4 回	複素フーリエ級数・フーリエ級数の収束	フーリエ級数の複素形について解説する。また、フーリエの収束定理・パーセバルの等式について解説する。
第 5 回	フーリエ級数のまとめと演習	第 1 回から第 4 回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第 6 回	フーリエ変換の定義と性質	フーリエ変換を定義し、その性質について解説する。
第 7 回	フーリエ変換の計算	フーリエ変換の計算技術について解説する。
第 8 回	フーリエ変換のまとめと演習	第 6 回から第 7 回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第 9 回	ラプラス変換の定義と性質	ラプラス変換を定義し、その性質について解説する。
第 10 回	ラプラス変換の計算	ラプラス変換の計算技術について解説する。
第 11 回	ラプラス逆変換	ラプラス逆変換を定義し、その性質について解説する。
第 12 回	ラプラス逆変換の計算	ラプラス逆変換の計算技術について解説する。
第 13 回	ラプラス変換・逆変換の応用	微分方程式・積分方程式のラプラス変換による解法について解説する。
第 14 回	ラプラス変換のまとめと演習	第 9 回から第 13 回の内容についてまとめ、演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

フーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の理解度・計算力・応用力を期末試験の成績（60%）と提出課題（40%）によって評価する。出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるのでは非積極的に質問してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts of Fourier series, Fourier transformations, and Laplace transformations.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the fundamental concepts of Fourier series, Fourier transformations, and Laplace transformations.
- 2) Calculating Fourier series, Fourier transformations, and Laplace transformations for basic functions.
- 3) Applying those techniques to solve differential or integral equations. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XF

複素関数論（経営）

神谷 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複素関数とは、複素数を変数とし、複素数値を返す関数のことである。複素関数に対しても極限を用いて微分可能性が定義されるが、特に各点で微分可能である複素関数を正則関数と呼ぶ。正則性は「各点で微分可能である」というだけの性質であるが、実数の場合と異なり実はとても強い条件であり、例えば、正則関数は各点でべき級数に展開できたり、領域の一点の近くの関数の値だけで、全体での振る舞いが決まってしまう。関数の定義域を複素数の世界にまで広げることにより、実数の世界でだけ考えていたときよりも関数の特性が明確になることも多い。例えば、煩雑であったり技巧的であったりした実関数の定積分の積分も、複素領域における特異点の情報を利用することにより、驚くほど簡単に計算できたりする。

この講義では、上に述べた性質を含む複素関数の基本的かつ重要な性質を学び、複素数の一変数関数の微分積分を理解し計算できるようになりたい。

【到達目標】

- (1) 複素数の表し方と計算規則を理解する。
- (2) 有理関数、三角関数、指数関数をはじめ、基本的な複素関数の値や極限を計算できる。
- (3) 正則性、複素解析性、複素線積分、孤立特異点、留数など、基本的な用語の定義を理解する。
- (4) 講義で扱う、正則性と関係する重要な性質（コーシー・リーマンの関係式、コーシーの積分定理、コーシーの積分公式、留数定理など）を理解し、具体的な設定のもとで利用できる。
- (5) 留数定理の利用により、実関数の積分を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

複素数の性質、複素関数、複素関数の微分（指数関数、三角関数、対数関数）、コーシーの積分定理と積分公式、整級数展開（テーラー展開）、ローラン展開、留数定理とその応用を主に講義する。授業は講義と演習を組み合わせる。

資料配布・課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数と四則演算	複素数の四則演算、共役複素数、絶対値、複素平面について説明する。
第 2 回	複素数の極形式、複素数における極限	複素数の極形式、偏角の性質、ド・モアブルの定理を説明する。 また、複素数における極限概念を導入する。
第 3 回	複素関数の導入、複素微分と正則性	複素関数の微分を定義し、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 4 回	基本的な正則関数とオイラーの公式	複素関数としての指数関数や三角関数を定義し、それらを含むいくつかの複素関数について、コーシー・リーマンの関係式を用いてその正則性を調べる。
第 5 回	複素関数の積分	線積分、複素関数の積分を定義しその計算を行う。次の回のコーシーの積分定理についての導入も行う。
第 6 回	コーシーの積分定理	グリーンの定理を用いてコーシーの積分定理を導く。正則関数の複素積分が積分路に依らないことを説明し、その応用についても説明する。

第 7 回 コーシーの積分公式

コーシーの積分公式を学び、積分路変形の原理を用いて様々な複素積分を計算できるようになったことを学ぶ。

第 8 回 べき級数と複素解析関数

べき級数の収束半径について説明し、収束円板における正則性と項別微分定理を導く。また、複素解析性を定義する。

第 9 回 複素解析関数の性質

複素解析性と正則性の同値性を学ぶ。
コーシーの積分公式のより一般的な形を学ぶ。

第 10 回 ローラン展開

孤立特異点をもつ複素関数のローラン展開を述べ、その計算例を与える。

第 11 回 孤立特異点の分類と留数定理

孤立特異点の分類と留数定理を説明する。

第 12 回 留数定理の応用例（簡単な適用、有理関数の積分）

留数定理の適用例を考察する。その中で、有理関数の広義積分を扱う。

第 13 回 留数定理の応用例

有理関数に限らないいくつかの実関数の広義積分を学ぶ。

第 14 回 まとめ

これまでに学んだ複素関数論の全体像を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

大学ですでに学んだ微分積分学を復習しておく。

特に、マクローリン展開は、関数が与えられたときにスムーズに行えることが望ましい。 $e^x, \sin x, 1/(1-x)$ のマクローリン展開は（何度か自身で導いた結果として）覚えていることが望ましい。

各回の復習は、以下の要領で行う。

- (1) 講義で学んだ用語の定義を説明できるようにする。
- (2) 講義で扱った命題・定理の主張を説明できるようにする。定理の利用例を挙げてみる。
- (3) 講義資料に記載の演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

講義資料を学習支援システムで配布する。

【参考書】

「理工系の数理 複素解析」谷口健二・時弘哲治 共著（裳華房、2013 年）
その他の参考書は、講義資料内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題点 30%、期末試験 70% を基本に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は厳密さを重視しすぎたかもしれない。

一部の定理について証明の詳細を講義中には述べないことにし（講義資料まで見れば概ねフォローできるようにするが、講義中には述べない、ということである）、複素関数論の重要事項と積分への応用法を押さえることを第一に講義したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

質問は授業中またはその前後に直接、および随時メールで受け付けます。
「～の計算法がよく分かっていないので方針をもう一度説明してほしい」、「定理の気持ち分からないので、詳しく教えてほしい」、などの要望も歓迎しますが、後々に回るとお互い辛いので、できる限り早い段階で要望を提示してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)

A complex function is a function that takes a complex number as a variable and returns a complex number. Differentiability is also defined for complex functions using limits, and in particular, complex functions that are differentiable at each point are called regular functions. For example, a regular function can be expanded into a power series at each point, and the behavior of the function as a whole can be determined by the value of the function near a point in the domain.

By extending the domain of a function to the world of complex numbers, the properties of the function often become clearer than if it were considered only in the world of real numbers. For example, the integrals of definite integrals of real functions, which used to be complicated and technical, can be calculated surprisingly easily by using the information of singularities in the complex domain.

In this lecture, we would like to learn the basic and important properties of complex functions, including the properties mentioned above, and to be able to understand and calculate the differential and integral of complex univariate functions.

(Learning Objectives)

(1) Understand the representation and calculation rules of complex numbers.

(2) To be able to calculate the values and limits of basic complex functions including rational, trigonometric, and exponential functions.

(3) Understand the definitions of basic terms such as regularity, complex analyticity, complex line integral, isolated singularity, and residue.

(4) Understand important properties related to regularity (Cauchy-Riemann relation, Cauchy's integral theorem, Cauchy's integral formula, residue theorem, etc.) and be able to use them in specific settings.

(5) To be able to integrate real functions by using the residue theorem.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

MAT200XF

数値解析（経営）

小林 健太

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。授業では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について説明する。一つの単元が終わるごとに演習を行い、実際にコンピュータプログラムを作成する。

【到達目標】

さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を交互に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	数値解析の概要、計算環境などの紹介
第 2 回	連立一次方程式 1	行列とベクトル、連立一次方程式の復習、ガウスの消去法の原理の概要
第 3 回	連立一次方程式 2	行列やベクトルのノルム、ヤコビ法の収束について
第 4 回	プログラミング演習 1	連立一次方程式に関する数値計算演習
第 5 回	非線形方程式	二分法、ニュートン法の原理
第 6 回	プログラミング演習 2	非線形方程式に関する数値計算演習
第 7 回	数値積分	中点則、台形則、シンプソン則の誤差評価、周期関数に対する台形則
第 8 回	プログラミング演習 3	数値積分に関する数値計算演習
第 9 回	常微分方程式 1	常微分方程式の解説
第 10 回	常微分方程式 2	オイラー法、修正オイラー法、ルンゲクッタ法の紹介、オイラー法の収束証明
第 11 回	プログラミング演習 4	常微分方程式に関する数値計算演習
第 12 回	偏微分方程式 1	熱方程式の紹介
第 13 回	偏微分方程式 2	熱方程式に対する陽解法、陰解法、クランク・ニコルソン法
第 14 回	プログラミング演習 5	偏微分方程式に関する数値計算演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
線形代数、微積分、微分方程式、プログラミングなど、いずれも大学初年度程度の知識を仮定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、講義資料を電子媒体で配布する。

【参考書】

数値解析について詳しく知りたい場合は以下を参考にすること
森正武「数値解析」（共立出版）
齊藤宣一「数値解析入門」（東京大学出版会）
皆本晃弥「C 言語による数値計算入門」（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

(1) 4～6 回程度のレポート課題（50%）
(2) 期末試験（50%）
を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって理解が難しい箇所は資料を改善したり等の対処を行った。

【学生が準備すべき機器他】

自己の PC や大学の共同設備などプログラミング（C 言語等）をできる環境の準備。

【その他の重要事項】

授業における演習ではプログラミング言語として C 言語を用いるが、レポート課題については好きな言語を用いてよい。ただし、言語によっては使用する機能に制限を設ける場合がある。

【Outline (in English)】

This course introduces Numerical Analysis to students taking this course.

The goal of this course is to learn the computational and theoretical methods to solve mathematical problems in natural science, engineering, and social science, etc.

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Reports (5 to 7 times): 50%

MAT200XF

応用数学（経営）

神谷 亮

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

常微分方程式とは、1 変数の未知関数とその導関数が満たす方程式であり、理工学の様々な場面で登場する。この授業では、基本的な常微分方程式の解法を学ぶ。

【到達目標】

基本的な常微分方程式の解法を理解し、その実行に必要な計算力を身につける。

具体的には次の通りである。

- 1) 種々の 1 階常微分方程式を解けるようになる。
- 2) 定数係数 2 階線形微分方程式を解けるようになる。
- 3) 定数係数連立微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な常微分方程式の解法を講義形式で解説する。講義内容に対応する演習課題を毎回出題してその理解と定着を図る。

課題の出題やそのフィードバックは、学習支援システムを通して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	微分方程式の基礎用語
2	1 階微分方程式 (1)	変数分離形および同次形方程式の解法
3	1 階微分方程式 (2)	1 階線形方程式およびベルヌーイの方程式の解法
4	1 階微分方程式 (3)	全微分方程式の解法
5	2 階線形斉次方程式 (1)	線形方程式の基礎事項、特性解が相異なる 2 実数の場合の解法
6	2 階線形斉次方程式 (2)	複素数、特性解が共役な複素数の場合の解法
7	2 階線形斉次方程式 (3)	特性解が実 2 重解の場合の解法、 n 階方程式
8	線形方程式の一般論	解空間の線形性、解の重ね合わせ
9	2 階線形非斉次方程式 (1)	未定係数法による解法（非同次項が基本解でない場合）
10	2 階線形非斉次方程式 (2)	未定係数法による解法（非同次項が基本解の場合）
11	連立微分方程式 (1)	対角化による解法（固有値が相異なる実数の場合）
12	連立微分方程式 (2)	対角化による解法（固有値が複素数・重複する実数の場合）
13	連立微分方程式 (3)	行列の指数関数による解法
14	総括	総合演習または課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題に取り組む。

必要に応じて微分積分学・線形代数学の復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

磯島伸、村田実貴生、安田和弘 共著『常微分・偏微分方程式の基礎』（培風館）2020 年、2420 円。

【参考書】

泉英明 著『コア・テキスト 微分方程式』（サイエンス社）

バージェス、ボリー 共著『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）

寺田、坂田、曾布川 共著『演習と応用 微分方程式』（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の成果 20 %、期末試験 80 %の割合で、種々の常微分方程式の解法を習得したか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【Outline (in English)】

An ordinary differential equation is an equation that one unknown function and its derivatives satisfy, and appears in various science and engineering scenes. In this lesson, you learn the solution of basic ordinary differential equations.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to solve the following differential equations:

- 1) Various 1st order ordinary equations
- 2) 2nd order linear equations with constant coefficients
- 3) 1st order simultaneous equations with constant coefficients

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to work on the assignments.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Short report (20%), Term-end examination (80%).

APC100YC

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの 12 箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5 回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノート提出してもらう。小テストは 2 回実施し、レポートも 2 回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12 箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について 4 大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。
10	グリーンケミストリの 12 箇条について例を挙げて解説（1）－ 1～6 条	グリーンケミストリの 12 箇条の中の 1～6 条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））

11	グリーンケミストリの 12 箇条について例を挙げて解説（2）－ 7～12 条	グリーンケミストリの 12 箇条の中の 7～12 条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学 1 年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門”萩野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書”環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

The goals of this course are to

- (1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
- (2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BOA100YD

環境と人間

越智 英輔、街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロ的視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響	不活動、加齢、無重力
3	1 環境が人間に及ぼす影響	運動不足
4	2 環境が人間に及ぼす影響	トレーニング環境
5	3 環境が人間に及ぼす影響	暑熱、寒冷、低酸素環境
6	4 環境が人間に及ぼす影響	食栄養環境
7	5 運動・身体活動と環境	1 運動時におけるエネルギー供給機構
8	2 運動・身体活動と環境	2 運動と呼吸調節
9	3 運動・身体活動と環境	3 運動と循環調節
10	4 運動・身体活動と環境	4 運動と内分泌系の働き
11	身近な環境を考える	1 グループ討議
12	身近な環境を考える	2 プレゼン準備
13	身近な環境を考える	3 プレゼンテーション、解決法について
14	試験	配布資料、参考図書から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1) 平常点およびレポートやプレゼンなど: 50%

2) 学期末レポート: 50%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

PPE100YA

植物薬理学**三富 正明**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食糧増産に貢献している植物薬理剤（農薬）について、その開発の歴史、農薬の種類、作用機構、製剤技術、法的規制、農薬の安全性評価、環境評価と規制等について学び、農薬に関する幅広い専門知識を学ぶ。

【到達目標】

農薬に関する専門知識を学び、環境に対する影響、食の安全に関する項目を学習して、植物保護における農薬の必要性和役割を理解する。実現場で正しく農薬を使用できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

初回講義で、農薬の役割、安全性、規制法の概要を解説する。各論として、農薬の種類と作用機構、製剤の種類についての講義を行う。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性菌の出現とその対応策についての講義を行う。更に、環境影響や生態毒性に関する概論を説明して、環境と調和した使用方法について講義する。フィードバックとして、授業の初めに前回の授業内容の再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	農薬の必要性	農薬の歴史、役割、種類、使用法
第 2 回	農薬の法制度	農薬取締法等の解説、農薬登録の仕組み
第 3 回	農薬の安全性評価	食品農薬残留に係わる農薬の安全性評価と法規制
第 4 回	殺菌剤の種類	殺菌剤の作用機構、分類
第 5 回	殺虫剤の種類	殺虫剤の作用機構、分類
第 6 回	除草剤の種類	除草剤の作用機構、分類
第 7 回	植物生育調節剤の種類	植物生育調節剤の作用機構、分類
第 8 回	農薬の製剤	農薬製剤の種類、使用方法
第 9 回	農薬抵抗性害虫・耐性菌	農薬使用に伴う抵抗性害虫・耐性菌の発生
第 10 回	植物保護の新技術	物理的防除、生物的防除、天敵利用による防除、有機農法
第 11 回	農薬と組換え植物	遺伝子組換え植物と農薬の役割
第 12 回	農薬の環境影響と生態影響評価	農薬の土壌、大気、水系における挙動と規制 農薬の生態に対する影響と規制
第 13 回	新規農薬の開発	探索研究、開発手順、知的財産権
第 14 回	期末試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

授業終了後に講義内容の復習を行い、理解を深める。本授業の復習時間は 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】

配布する資料を用いて授業を行うので、教科書は特に指定しない。

【参考書】

難波成任監修「植物医科学」（養賢堂）
梅津憲治著 「農薬と食の安全・信頼」（日本植物防疫協会）
佐藤仁彦、宮本徹編「農薬学」（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）および平常点（30 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が理解しやすいように、配布する資料の記載を工夫する。講義で使用了専門用語を平易に解説して、講義全体の理解が深まるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In the Plant Pharmacology class, students will learn a wide range of basic knowledge about pesticides that contribute to food production. Students will learn about the following aspects related to pesticides.

History of pesticide development, types of pesticides, and mechanisms of action of pesticides, formulation technology, laws and regulations, safety assessment, environmental assessment ,etc.

【Learning Objectives】

In the Plant Pharmacology class, students will learn the expertise of pesticides and aim to reach a level where they can play an active role in the field of agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria /policy】

Your overall grade in the class will be decided based on term end examination (70%) and learning attitude (30%)

PHY100YC

物理学概論 I

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。

【到達目標】

- ・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
- ・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的には対面の開講となるが、コロナ感染状況により、はじめのうちは、オンライン授業となる可能性がある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムで、その都度提示する。本授業の開始日は4月9日とし、この日までに、具体的な授業の方法など学習支援システムで提示する。このような状況ですので、教科書を中心にすすめる予定ですので、必ず、教科書を用意しておいてください。1週間後を締め切りとして、課題レポートをしますが、締め切り後の授業で、解答等の補足説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第2回	質点の運動学(1)	運動を数式で表現する
第3回	質点の運動学(2)	微分・積分を用いた運動の表現
第4回	質点の力学	運動の法則
第5回	質点の運動(1)	自由落下など
第6回	質点の運動(2)	単振動
第7回	仕事とエネルギー	仕事の定義、力学的エネルギー保存則
第8回	演習	力学の演習
第9回	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
第10回	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
第11回	熱と温度(3)	気体の分子運動論
第12回	熱力学(1)	熱力学第一法則
第13回	熱力学(2)	熱力学第二法則
第14回	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書、参考資料等を復習し、例題等を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

試験あるいは総括レポート（60%）と授業での学習状況（課題レポート）等（40%）により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline (in English)】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics and thermodynamics.

PHY100YC

物理学概論 | |

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも、特に電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。また量子力学についても少し説明する。

【到達目標】

電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。1 週間後を締め切りに、レポート課題をだします。締め切り後の授業で、課題の解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	静電場（1）	クーロンの法則
第 2 回	静電場（2）	静電場、電気力線
第 3 回	静電場（3）	ガウスの法則
第 4 回	静電場（4）	静電ポテンシャル
第 5 回	静電場（5）	コンデンサーと静電容量
第 6 回	演習（1）	静電場に関する演習
第 7 回	静磁場（1）	オームの法則
第 8 回	静磁場（2）	電流と静磁場
第 9 回	静磁場（3）	ビオ・サバールの法則
第 10 回	静磁場（4）	アンペールの法則
第 11 回	電磁誘導	ファラデーの法則
第 12 回	電磁波	マクスウェル方程式
第 13 回	演習（2）	静磁場に関する演習
第 14 回	量子力学	光子仮説と量子力学の誕生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学，小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末テストあるいは 総括レポート（60%）と学習状況（課題レポート等）（40%）により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline (in English)】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning electromagnetism.

APC100YB

グリーンケミストリ

加藤 尚之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリは「環境にやさしいものづくりの化学」であり、グリーン・サステナブル・ケミストリとも呼ばれている。地球は誕生から 46 億年かけて生命が快適に住めるような自然環境を築いてきた。人類は約 6,500 万年前に誕生したと考えられているが、人間は産業革命以後わずか 250 年で地球環境を大きく変化させた。またそこには化学反応が大きく関わっている。目的物質だけに目がいて、その結果放出された副生成物は環境汚染物質として公害の原因物質となった。グリーンケミストリでは、化学の観点から環境を捉え、人体や生態系に対するリスクの低減と環境負荷の少ない化学反応の開発やエネルギー問題などについて学ぶ。それを理解するためには、地球がどのように誕生したかを知ることは重要であり、現在地球を取り巻いている様々な環境問題について十分理解することが必要である。

【到達目標】

過去の公害問題を知り、現代の環境問題についてそのメカニズムを化学的に説明でき、解決するための知識を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

日常的に何らかの環境問題が話題となっていることから、見聞きする機会が多い事項である。個々人がもっている環境に対する基礎知識をより深め、化学の観点から環境問題が理解できるように学習する。毎回講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題や課題を与え、初回の講義で前回の問題の解説や課題についてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グリーンケミストリ概説	グリーンケミストリとは、グリーンケミストリにおける 12 原則について解説、地球誕生について解説
第 2 回	過去の公害問題	公害とは、何故起こったのか、現代の環境問題について解説
第 3 回	大気汚染	大気汚染物質とは、それに関係する環境問題について解説
第 4 回	酸性雨	酸性雨のメカニズム、その影響と現状について解説
第 5 回	オゾン層の破壊	発生のメカニズム、光化学反応、生体に及ぼす紫外線の影響について解説
第 6 回	放射線	放射線とは、放射線被曝、半減期について解説
第 7 回	地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、温室効果ガス、地球温暖化の影響について解説
第 8 回	森林の減少・砂漠化	森林減少および砂漠化の原因、人間生活への影響について解説
第 9 回	ダイオキシン	ダイオキシン発生のメカニズム、ダイオキシン汚染の現状と生物への影響について解説
第 10 回	水環境	水について知る、水質汚濁の現状と対策、環境基準と排水基準について解説
第 11 回	環境微生物問題	温泉を知る、温泉での微生物問題について解説
第 12 回	エネルギー問題	エネルギー問題を理解し、現状と未来のエネルギーについて解説
第 13 回	プラスチックとリサイクル	プラスチックとは、プラスチックと環境問題、廃棄物のリサイクルについて解説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業内容の理解度を確保するために、授業内容に則した演習問題を解く。また理解が不十分であったところは、復習として配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ①「グリーンケミストリー 社会と化学の良い関係のために」共立出版、日本化学会編、御園生 誠著
- ②「化学環境学」裳華房、御園生 誠著
- ③「グリーンテクノロジー」丸善、北島 昌夫、山本 靖、佐野 健二共著
- ④「元素と周期律」裳華房、井口 洋夫著

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
期末テスト 40%
レポート 30%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the global environmental problems and to consider how to establish the sustainable environment and energy from the standpoint of chemistry.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to learn past pollution problems, explain chemically the mechanisms of modern environmental problems, and acquire the fundamental knowledge to solve those problems.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review the handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

(Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (20%), term-end examination (40%), reports (30%), and in-class contribution (10%).

BOA100YB

環境と人間

長谷川 敬洋、平塚 二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境はすべての生命の生存基盤であり、私たち人類はその恵みに支えられてこそ健康で文化的な生活を送ることができます。しかし、人類が与える負荷によって限りある地球環境が損なわれつつあり、現在の社会経済活動やライフスタイルを続けると、取り返しのつかない影響を及ぼすことは明白です。こうした状況に対処するには、人間と環境との相互作用について正しく認識し、実際の行動に生かしていく必要があります。

明治中期以降の近代産業の発展に伴い悪化していた私たちの身近な環境は、先人たちの努力によりかなり改善しました。このため、環境問題といっても、遠い世界で起きていること、または自分が扱うには大きすぎる問題であり自分以外の誰かによって解決されるべきものと思いがちです。しかし、私たち一人一人の行動が世界中の環境問題に大きな影響を与えている事実を認識し、自分たちの目が届く範囲のみならず、他国や将来世代の影響を想像できるようになる必要があります。

この講義では、主要な環境問題を知識として学ぶことはもちろん、それらをテーマとして科学的・論理的な思考過程を経て自らの考えをまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

本講義では、次の3つの目標を達成することを目指します。

1. 主要な環境問題について学ぶこと。
2. 課題に直面した時に、科学的知見に基づき是非を判断し、解決策を多角的に模索し、説明できるようにすること
3. 自分とは異なる集団（年代、国、過去・将来世代）の立場を想像できるようにすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

・最初と2回目の講義は、講義全体の概説と環境問題全般について説明します。これらの講義は履修登録前ですので、成績評価には反映しません。

・その後は、5つの環境問題を取り上げます。それぞれのテーマを2週にわたって扱い、1週目は、そのテーマに関する知識を講義により学び、2週目（翌週）は、数名の学生でグループを作り、そのテーマに沿った課題を題材に、グループごとに議論と発表を行います（グループワーク）。

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン（zoom）と対面の併用により授業を行います。なお、グループワークの回は対面授業を基本とします。

・課題やレポート等の提出は、原則として、メールで行います（メールアドレスは、別途、学習支援システムを通じてお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要や進め方を紹介する
2	環境問題の俯瞰	過去から現在に至るまでの環境問題について俯瞰する
3	問題の解決方法	問題解決に活用可能な思考過程や議論の進め方（グループワークの進め方）について学ぶ

4	テーマ別課題1：公害	日本が経験した激甚な公害について学ぶ
5	テーマ別課題1：公害（グループワーク）	グループワークを通じて、公害問題をなぜ防ぐことができなかったのかを考える
6	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル	我々自身が出すごみが、どのような問題を生じさせているか学ぶ
7	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル（グループワーク）	グループワークを通じて、廃棄物・リサイクルが引き起こす問題を考える。
8	テーマ別課題3：気候変動	気候変動問題について、科学的知見や国際交渉について学ぶ
9	テーマ別課題3：気候変動（グループワーク）	グループワークを通じて、脱炭素社会の実現に向けて何をすべきかを考える
10	テーマ別課題4：原発事故	原発事故により生じた放射性汚染について学ぶ
11	テーマ別課題4：原発事故（グループワーク）	グループワークを通じて、福島原発事故の影響を説明する方法を考える。
12	テーマ別課題5：持続可能な開発	持続可能な開発に関する国内外の取組を学ぶ。
13	テーマ別課題5：持続可能な開発（グループワーク）	グループワークを通じて、持続可能な開発に向けた取組を考える。
14	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・課題図書については、あらかじめ、購読してください（電子書籍可）。
・グループワークは、前週の講義内容を基に行いますので、講義資料を手元に用意してください。

【テキスト（教科書）】

書名：FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

著者名：ハンス・ロスリング他

出版社：日経 BP

出版年：2019年

【参考書】

指定しません（必要に応じて、講義において示します）

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績評価は、①講義への貢献50%、②グループワークへの貢献20%、③レポート30%の割合で評価します。

①講義への貢献：講義やグループワークの発表時などにおいて、クラス全体に大きな貢献をする発言（新たな問題を提起するもの、視点を転換するもの、交通整理をするもの、意見集約するものなど）を評価します。なお、オンライン講義における「チャット機能」による発言は、「講義への貢献」になりえることは少ないため、基本的には評価対象外です。

②グループワークへの貢献：グループワーク作業において、グループワーク内での議論への貢献を評価します。

③レポート：レポート課題に対する内容を評価します。

※この他、ボーナスポイントとして、レジュメ発表者には1回につき10ポイントを加点します（レジュメに対する質問等は、上記①「講義への貢献」の一環として評価します。

※なお、最初の2講義は履修登録前ですので、それらの講義の内容は成績評価には反映しません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義アンケート結果（※）を踏まえて、引き続き、グループワークを重要視するとともに、課題図書を設定してより充実した学習効果を目指します。

※昨年度の講義アンケート：受講生の声

設問 1：この授業では、積極的な工夫がされていましたか（5点満点）

本講義の平均：4.20、科目種類別の平均：3.99

設問 2：この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか

本講義の平均：2.00、科目種類別の平均：2.71

※回答 1 ほとんど行っていない

回答 2 週 30 分以上 1 時間未満

回答 3 週 1 時間以上 2 時間未満

設問 3：この授業内容を理解できましたか（5点満点）

本講義の平均：4.00、科目種類別の平均：3.70

設問 4：この授業を履修してよかったと思いますか（5点満点）

本講義の平均：4.20、科目種類別の平均：4.02

設問 5：この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください

・高校ではあまり経験したことのない授業形態だったので、新鮮でとても面白かったです。ファクトフルネスは自分のことを振り返る貴重な時間になりました。

・なかなか学ぶ機会の少ない環境について環境省の先生方から学べる貴重な講義でした。普段あまり本を読まない自分でも factfulness は読みやすく、講義にもマッチしていたので良いと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Outline and objectives]

The environment is the fundamental platform of all lives, and our healthy and cultural lives are fully supported by their grace. The capacity of the environment, however, is being undermined by the burdens of mankind, and continuing socio-economic activities and lifestyles will have irreversible effects on the environment. To cope with this situation, it is necessary to correctly understand the interaction between humans and the environment and apply it to actual actions.

Thanks to the efforts of the past, the environment around us has improved considerably. For this reason, you may feel that environmental problems occur somewhere else in distance, and be solved by someone else other than yourself as issues are too big to deal with. But we need to recognize that each of our actions has a significant impact on the environment around the world. With the recognition, we also have the imagination not only for the environment around us but also for other countries and future generations.

In this lecture, you will not only learn about various environmental issues, rather you will acquire the ability to summarize your ideas with logical thinking and scientific knowledge, and improve your ability of imagination which is important to deal with environmental issues.

[Learning activities outside of classroom]

Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to lectures 50%, Contribution to group works 20%, Reporting assignment 30%.

Additionally, students are able to obtain 10 points per presentation summarizing a chapter of the textbook when he or she presents it at the beginning of each lecture.

PHY100YB

物理学概論 I

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。

【到達目標】

- ・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
- ・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

春学期は 対面での開講となるが、コロナ感染状況により、はじめのうちはオンライン形式になる可能性があります。各回の授業計画の変更については学習支援システムで その都度提示する。本授業の開始日は4月 11 日です。オンライン授業ですので、必ず、教科書を用意してください。1 週間後を締め切りとして、レポート課題をだします。締め切り後の授業で 解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第 2 回	質点の運動学 (1)	運動を数式で表現する
第 3 回	質点の運動学 (2)	微分・積分を用いた運動の表現
第 4 回	質点の力学	運動の法則
第 5 回	質点の運動 (1)	自由落下など
第 6 回	質点の運動 (2)	単振動
第 7 回	仕事とエネルギー	仕事の定義、力学的エネルギー保存則
第 8 回	演習	力学の演習
第 9 回	熱と温度 (1)	熱平衡状態と温度
第 10 回	熱と温度 (2)	経験温度と熱力学的温度
第 11 回	熱と温度 (3)	気体の分子運動論
第 12 回	熱力学 (1)	熱力学第一法則
第 13 回	熱力学 (2)	熱力学第二法則
第 14 回	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

試験あるいは総括レポート（60%）と学習状況（課題レポート）（40%）等により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline (in English)】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics and thermodynamics.

PHY100YB

物理学概論 | |

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも、特に電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。1 週間後を締め切りとして、レポート課題をだします。締め切り後の授業で、解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	静電場（1）	クーロンの法則
第 2 回	静電場（2）	静電場、電気力線
第 3 回	静電場（3）	ガウスの法則
第 4 回	静電場（4）	静電ポテンシャル
第 5 回	静電場（5）	コンデンサーと静電容量
第 6 回	演習（1）	静電場に関する演習
第 7 回	静磁場（1）	オームの法則
第 8 回	静磁場（2）	電流と静磁場
第 9 回	静磁場（3）	ビオ・サバールの法則
第 10 回	静磁場（4）	アンペールの法則
第 11 回	電磁誘導	ファラデーの法則
第 12 回	電磁波	マクスウェル方程式
第 13 回	演習（2）	静磁場に関する演習
第 14 回	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト あるいは 総括レポート（60%）と学習状況（課題レポート等）（40%）により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline (in English)】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning electromagnetism.

MAC300YC

高分子化学

渡辺 敏行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高分子の特徴を理解し、その利用方法を学習する。
様々な高分子の合成法について学ぶ。

【到達目標】

高分子の定義を理解しているか。
高分子の原料と化学構造の関係を理解しているか。
立体規則性を理解しているか。
平均分子量を理解しているか。
重縮合を理解しているか。
重付加、付加縮合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
イオン重合を理解しているか。
開環重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
立体規則性重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
導電性高分子の電気伝導の原理を理解しているか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書および授業支援システムの資料をベースにすすめる。授業中ではレ
ポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子の利用方法	高分子がどのように世の中で活用され ているかを解説する。
2	高分子とは	高分子（ポリマー）とは何か？ その 特徴を学ぶ。高分子の定義、高分子の 化学構造と高分子の用途を知る。
3	高分子化学の歴史	高分子の歴史を伝え、学問としての確 立過程と有機材料として日常生活との 関りを広く理解する。高分子の原料と 化学構造を学ぶ。
4	立体特異性	五大汎用高分子、エンジニアリングプ ラスチックについて学ぶ。立体配置、 立体配座とは、高分子特有の立体規則 性（iso,syndio,atact）を実例に基づ き説明する。
5	高分子の特性・分子量	高分子の特性と平均分子量（Mn,Mw） の考え方を説明し、高分子の分子量測 定法を示す。
6	結晶性と結晶構造	結晶、非晶、液晶の違いについて解説 する。高分子の結晶構造がどのように して決まるかを解説する。高分子の密 度を結晶構造から求める。
7	熱的性質	高分子のガラス転移温度、融解現象に ついて解説する。耐熱性高分子の分子 設計法を熱力学的に理解する。
8	まとめ 1	前半の授業のまとめを行う。
9	重縮合、重付加、付加縮 合	反応度と分子量の関係、化学平衡、重 縮合の速度論、分子量分布、重縮合高 分子の具体例について学習する。重付 加および付加縮合について学習する。
10	ラジカル重合	付加重合（連鎖重合）について学習す る。ラジカル重合の素反応、速度論、 重合度と連鎖移動について学習する。
11	イオン重合	アニオン重合、カチオン重合、イオン 重合の速度論について学習する。
12	遷移金属触媒重合、開環 重合	チーグラマー・ナック重合、開環重合の 特徴、開環重合性、について学習する。

13	ラジカル共重合	ラジカル共重合の速度論的取り扱い、 共重合組成式と Q-e スキームについ て学習する。 共重合によって得られる構造について も学習する。
14	生体高分子&導電性高分 子	生体高分子の化学構造と特徴を学習す る。導電性高分子の電気伝導の原理を 学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に
指定された課題を次回の授業までにレポートとして提出すること。

【テキスト（教科書）】

基礎高分子科学 第 2 版
高分子学会編 東京化学同人
ISBN 9784807909629

【参考書】

高分子化学 合成編 中條善樹、中健介 著
丸善株式会社 ISBN978-4-621-08259-1
液晶・高分子入門 竹添秀男、渡辺順次著、裳華房（2004）

【成績評価の方法と基準】

試験とテストおよびレポートの合計点より総合的に判断する。
（中間試験＋期末試験）80 点満点、（レポート）10 点満点、（平常点）10 点満点

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて演習問題を課す。

【その他の重要事項】

ビデオ教材、Power point、講義実験などにより、理解を深める。

【Outline (in English)】

Understand the characteristics of polymers and learn how to use them.
Learn about synthetic methods of various polymers.

MAC200YC

環境安全化学

大波 英幸、福島 由美子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で直面している様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを理解してもらう。また、身近に存在する化学物質等のヒトの健康や環境に及ぼすリスクやその評価手法を理解することにより、環境汚染問題の解決・防止のための基礎的知識を得ようとするものである。さらに、菌や黴などが関係する水環境衛生学の基礎知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

環境問題の現状と課題を把握するとともに、水環境衛生について知る知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

2人の教員で授業は行う。また、1～5回の5週是水環境衛生学で微生物による水汚染対策について学習し、その期末試験がB評価以上で、且つ全体の成績評価がC以上の場合、「水利用設備環境衛生士」の資格取得優待となる。6～14回の9週は、様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを学習する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水環境衛生序論	微生物が起因する諸問題について解説
第2回	水環境微生物	水利用設備で問題になる菌について解説
第3回	水環境設備（1）	水利用設備の具体的な汚染と対策について解説
第4回	水環境設備（2）	水利用設備の具体的な汚染と対策について解説
第5回	まとめ	その他水利用設備の汚染と対策・全体のまとめ
第6回	ガイダンスと環境安全化学の関連法令など	授業の概要と進め方、および環境安全化学の関連法令等について
第7回	環境汚染（公害問題）と化学物質	日本の公害問題の歴史（原因と影響など）
第8回	地球温暖化（ヒートアイランド）とオゾン層破壊	・地球温暖化などの気温上昇に関連する環境問題の原因と影響 ・オゾン層破壊の原因と影響
第9回	様々な大気汚染	PM2.5、NOx、SOx、酸性雨などの大気汚染の原因と影響
第10回	土壌環境汚染	土壌汚染の原因と影響
第11回	水環境問題	水質汚染・汚濁の原因と影響
第12回	廃棄物問題	廃棄物と残留性有機汚染物質の原因と影響
第13回	エネルギー資源	エネルギー資源と環境問題について
第14回	まとめ	6～13回の講義のまとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
化学と環境について現在各自が問題意識としている点を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント資料等を必要に応じて電子媒体などで配布する。
またテキストに準ずるものについては、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考となる書籍等は授業中に適宜紹介する。

・環境社会検定試験（eco 検定）の公式テキスト：環境に係る問題等が網羅的に示されており入門書としておすすめ。

【成績評価の方法と基準】

1～5回（5週）については、期末テスト等を統合して全体の1/3で成績評価する。

6-14回（9週）については、出席と毎回の演習問題等を総合して全体の2/3で成績評価する。

最終的に両評価を合計して成績判定を行う。

【学生の意見等からの気づき】

膨大な内容をできるだけ分かり易く解説したい。

【その他の重要事項】

講義全体の内容は変わらないが、進行状況によっては講義内容の順番などを変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Understand the cause and effect of various environmental problems occurring on a global scale. Understand the relationship between environmental pollution and chemical substances. Obtain basic knowledge for solving and preventing environmental pollution problems. In addition, acquire the basic knowledge of water environment hygiene related to bacteria and fungus.

MAC200YB

環境安全化学

吉原 利一

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて「公害」と呼ばれた様々な環境問題があった。「公害」の特徴は原因と結果のつながり、および被害者と加害者が明かなことである。しかし現在、我々が直面する温室効果ガスや PM2.5、マイクロプラスチックなどの問題では、一人一人が被害者であると共に問題を生じさせる加害者となっている。また、これらは国境を越えて広がるため、従来とは異なるアプローチが求められている。言い換えれば、これらの問題は単一の因果論としての自然科学ではなく、エネルギー論から地球物理学や遺伝学を含めた総合的な自然科学、そして経済・政治から個人のライフスタイルといった社会科学の知見の統合によってようやく解決できるものなのである。そこで、「環境科学」という学問がある。本講義では、まず人類の発展と共に変遷してきた環境問題を題材に基礎を学ぶ。そして環境を安全に保つこととは何か、我々が現在直面している、あるいは子孫が直面するかもしれない環境問題について解決・回避のために何が必要なのかなどについて考察を深める。また近年、SDGs と呼ばれる国際的な取り組みの一環として様々な分野において環境保全への関心が高まっている。あるいは ESG として、国、企業活動、個人の活動の正当性、継続性を担保するために必須の取り組みとなっている。本講義では、このような近年の環境問題を取り巻く変化に対応しながら、関連した「情報」の収集と分析、および発信のための基礎を習得することを目指す。

【到達目標】

1. 種々の環境問題に関する基礎的な知識を身につける、
2. 歴史的、科学的視点の双方から問題の本質を理解する、
3. 独善を排して問題解決のための方向性を見出す術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義（第 1～11 回） 本シラバスに示した内容に沿って進めていく。予・復習のために、グループディスカッションを除く第 11 回までの講義内容の概要を記した資料を、学習支援システムにアップロードする。
グループディスカッション（第 12～14 回） 7～8 人の小グループに分かれて、与えるテーマについて学生同士意見を交わしてもらい、情報の収集・分析・発信の方法を身につける。また、テーマに関して収集した情報の違いや、同じ情報に接したときでも他我のとらえ方の違いなどを知る。さらに、グループごとに結論をまとめて発表を行う。
なお、できる限り対面での講義を志向するが、コロナウイルスに係る状況次第でオンデマンド方式（ZOOM）による講義を行う。

・レポート

受講生は、課題についてレポートを提出して成績評価を受ける（成績評価の項を参照）。講義回ごとに迅速に評価し、個別にフィードバックを行う。なお、質問は 4 月 1 日以降、メール（宛先：toshihiro.yoshihara.65@hosei.ac.jp）にて随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと概要	授業の概要と進め方、成績評価などについて概説する。また、環境とは何かについて考える。
2	環境を形作るもの	元素、化合物、計量単位などについて。今後の授業において必要な化学の基礎を思い出す。特に近年話題となっているレアアースについて知る。
3	環境と生態系Ⅰ	生態系とは何かについて学ぶ。特に、土地の生産性とは何かを考える。
4	環境と生態系Ⅱ	なぜ多様性が生じたのか、多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅を学ぶ。また、SDGs と LCA について概説する。
5	大気汚染Ⅰ	大気の構造、構成要素と循環、公害と呼ばれたかつての大気汚染について学ぶ。
6	大気汚染Ⅱ	オゾン層の破壊、温室効果ガスと地球温暖化について学ぶ。また、エネルギー問題、食糧問題（フードマイレージ）との関わりを知る。

7	水の汚染Ⅰ	水の物理・化学的性質と生命の発生について学ぶ。また、水の循環、水質とは何か、および水の利用にかかわる問題（水利権、仮想水）について知る。
8	水の汚染Ⅱ	水の汚染、富栄養化、生物濃縮、環境ホルモンについて学ぶ。
9	水の汚染Ⅲ	酸性雨の問題について、森林の役割・衰退と環境への影響について学ぶ。
10	土の汚染Ⅰ	土とは何か、土の構成成分と構造・機能、土の汚染（金属・農薬による汚染）、砂漠化について学ぶ。
11	土の汚染Ⅱ	植物における養分の吸収・蓄積とカドミウム・セシウム等の非必須元素の吸収と蓄積・耐性、およびこれらに関する分子機構について学ぶ。また、植物を使って土をきれいにする方法＝ファイトレメディエーションについて知る。
12	グループディスカッションⅠ	グループディスカッションへの導入（KJ 法について、ディスカッション手法の例示・実際）。
13	グループディスカッションⅡ	ディスカッションの継続、発展（新たな視点の追加）。
14	グループディスカッションⅢ	ディスカッションのまとめと要旨の発表、成績の基礎となるレポートについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回のテーマについて、予習として WEB でキーワード検索を行ったり、講義資料や参考書を読んだりする。また、復習としてレポートを書いて提出する。さらに、講義で得られた知識の確認・深化のために参考書・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

講義において常時使用する教材としてのテキストは指定しない。

【参考書】

吉原利一編 地球環境テキストブック 環境科学 オーム社¥3300 に準拠した形で講義を進める（講義はこの情報を更新する形で進める）。また、各回講義資料に加えて参考となる様々な文献を PDF などとして配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの 2 種類のレポートの提出によって行う。期末の試験は実施しない。講義回ごとに課すレポートは講義資料末尾の演習問題として示すテーマから一つ選択して提示から 2 週間以内に提出する。学期の終わりに課すものは、グループディスカッションの内容を要約した上で、テーマに関する意見の他我の違いを明示する形式とする。レポートの採点においては、①正確な情報と分析に基づくこと（主な出典の明記等）、②テーマに回答した論旨の明確さ・一貫性・新奇性、③文章の読みやすさ（誤字脱字等がないこと、表現力）、の 3 項目をそれぞれ 5 段階で評価し、レポート別にその点数を合計する（最大 15 点）。科目としての成績評価では、講義回ごとのレポートの平均点と学期末のレポートの点数を 50 : 50 として総合する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度講義におけるアンケート結果は全体的に好評だったが、今回は特に評価の高かったレポートの個別フィードバック、グループディスカッションに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器。資料配布等に学習支援システムを使用。

【その他の重要事項】

本講義を担当する教員は、電力中央研究所等において 30 年以上にわたり研究を行っているほか、樹木医としての活動を行っている。これらの経験を活かし、天然記念物の保護活動や東京電力福島原子力発電所事故における帰還困難区域でのフィールドワークを行った経験など、研究者や樹木医を目指す学生の参考となる事例を紹介する。また、投稿論文等に掲載された「自らが得たデータ」を多く引用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Even in developed countries, they had caused many environmental problems so called “pollutions” in their economically/idealistically immature eras. These experiences are now commonly utilized not only to keep their domestic environments, but also to solve similar problems in developing countries. A common issue of such “pollutions” is understandable as a clear relationship between the cause and the result and/or between the perpetrator and the victim. However, such a clear relationship would be disappeared, and at the present time, all humankind is simultaneously a perpetrator and a victim when we face to newly happening environmental problems, such as greenhouse gas problems, PM2.5, and micro-plastics. Thus, we are still seeking for the way to solve them, which may stand on a different approach than ever. Studying the environmental sciences could lead us to the answer. It is not a sole but a total natural science, and sometimes, it includes social sciences like economy, politics, and cultural anthropology. Here, this lecture provides you a basis of “the environmental sciences” (e.g., history of pollutions and how mankind solve the problems). In addition, the lecture may promote you to deepen your mind, what is the safety in environment and how to solve environmental problems at the present time and/or in future we will face in a mean of SDGs.

The learning schedule is showing below.

1. Guidance and Introduction
2. What makes the environment
- 3-4. The environment and the Ecosystem
- 5-6. The pollution of the air
- 7-9. The pollution of the water
- 10-11. The pollution of the soil
- 12-14. Group Discussion (or debate)

[Learning Objectives]

1. To have basic knowledge for the past and the present problems
2. To understand the nature of the problems from the social and the scientific background
3. To know methodology to solve the problems without self-righteousness

[Grading Criteria /Policy]

The grading is based on reports after each lecture. The semester test is not conducted. The reports are graded by following three points of views;

1. Analyzed with a correct data/information (indicate the reference),
2. Written in clear, consistent, and original sentences in response to a theme,
3. Easy to read without wrong character.

MAC200YC

分析化学

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「分析化学」とは化学的な現象や物理的な現象を利用して、物質の組成や状態を探索する方法を学ぶ科目である。それらの現象がどのように分析に生かされているかを勉強してもらいたい。授業では、大学で学ぶ必要のある範囲の基礎分析化学を中心に講義・演習を行い、高級技術者、研究者としての基礎的な分析化学の知識を習得する事を目標とする。さらに環境分析に必要な重要な機器の一部を取り上げて機器分析化学の基礎を習得することも目標とする。

【到達目標】

1. 酸塩基反応と中和滴定について理解し計算することができる。
2. 沈殿形成について、溶解度積の観点から理解でき、計算することができる。
3. 錯形成反応を酸塩基反応として理解でき、滴定の計算をすることができる。
4. 酸化還元反応と滴定について、化学反応を理解し計算することができる。
5. 環境分析に用いる機器の原理と特徴を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5 回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは 2 回実施し、レポートも 2 回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中に実施する演習や発表について、学習支援システムを用いてフィードバックすると共に教員が学生に問いかけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	この科目の授業概要	授業の進め方、予習と復習、評価方法について解説する。 化学における分析化学の役割（化学分析は、社会で何に役立っているかを考える。）について解説する。
2	測定値の精度および正確度、化学式量とモル、溶液と濃度、電解質の溶液とイオンの活量	化学分析における測定値の正しい取扱い方（精度、正確度、標準偏差など）、分析化学で用いる単位、イオンと活量について学ぶ。
3	酸塩基反応と酸塩基滴定（1）	酸塩基の定義とその内容、電離平衡について学ぶ。
4	酸塩基反応と酸塩基滴定（2）	強塩基と弱酸の中和滴定および強酸と弱塩基の中和滴定曲線について学ぶ。
5	酸塩基反応と酸塩基滴定（3）	塩の加水分解、電解質溶液の pH 計算法、指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
6	第 1 回小テスト 沈殿と重量分析（1）	第 1 回小テストを実施する。 沈殿の生成機構、溶解度積について学ぶ。
7	沈殿と重量分析（2）	水酸化物の沈殿と硫化物の沈殿生成を pH の面から考える。アクティブラーニング（演習）を実施する。
8	錯化合物とキレート滴定（1）	配位結合を酸塩基反応ととらえる。キレートの種類を学ぶ。
9	錯化合物とキレート滴定（2）	EDTA のキレート滴定の条件および金属指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
10	第 2 回小テスト 酸化還元反応と酸化還元滴定（1）	第 2 回小テストを実施する。電極電位とネルンストの式、酸化還元滴定の条件について学ぶ。
11	酸化還元反応と酸化還元滴定（2）	酸化還元電位（大小）の理解とその活用について学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
12	機器分析（1）	クロマトグラフィーの原理と特徴について学ぶ。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。
13	機器分析（2）	紫外可視分光光度法、原子吸光分析法及び発光分光分析法の原理と特徴について学ぶ。検量線による濃度計算を行う。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。

14 まとめ

本授業を振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】分析化学は基礎学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の基礎知識が必要となるので高校化学の知識をしっかりと身につけておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

分析化学の基礎 木村優、中島理一郎 共著、裳華房

【参考書】

クリスチャン分析化学Ⅰ 基礎編

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline (in English)】

Analytical chemistry is the study of methods of separation, identification and quantification of the chemical composition and structure of materials through chemical and physical phenomena. This course covers the basis of fundamental analytical chemistry, through the study of treatment of experimental error, acid-base equilibria, solubility equilibria, complexation equilibria, and oxidation-reduction equilibria. It also enhances the development of students' skill in carrying out an analytical chemical experiment. Other topics addressed include the basis of fundamental instrumental analytical chemistry, the basic principles of UV visible spectroscopy and different kinds of chromatography.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Quiz: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

APC200YC

バイオエンジニアリング

稲本 進

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から論ずる。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する
- 5) 生体触媒を改良するためのバイオ技術について習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論、生体触媒の改良に用いられるバイオ技術など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。講義は対面で行い、毎回課題を出します。課題の提出は「学習支援システム」を通じて行い、その答え合わせは次回の講義の中で行う予定です。なお、感染状況が悪化すればオンライン授業を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎（１）	生体を構成する主な物質群、特に糖、アミノ酸、タンパク質、脂質などについて講述する
3	バイオサイエンスの化学的基礎（２）	生体を構成する主な物質、特にDNAやRNAの性質、それらからタンパク質が合成される過程について講述する
4	生体触媒の特徴（１） 酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
5	生体触媒の特徴（２） 微生物、動物細胞、植物細胞、ウイルス	生体触媒としての微生物と動物細胞と植物細胞とウイルスの特徴について講述する
6	酵素・微生物を利用するバイオプロセス：エネルギー関連のプロセスを例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として、バイオエタノール製造、藻類バイオ燃料、バイオ電池について紹介する
7	酵素反応速度論（１） ミカエリス・メンテンの式	ミカエリス・メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
8	酵素反応速度論（２） 酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
9	細胞が関与する生化学反応速度論	微生物の増殖速度とその影響因子について講述する
10	バイオリアクターの形式と操作設計	（１）酵素反応リアクターの各種形式とその特徴、形式別の操作設計の基礎および、（２）生体触媒の固定化法について講述する

11	生体触媒の制御と改良技術（１）代謝制御発酵	バイオインダストリーで重要な代謝制御発酵とそこで用いられる育種技術について講述する
12	生体触媒の制御と改良技術（２）遺伝子組換え技術	生体触媒の改良に使われる遺伝子組換え技術の基礎を講述する
13	生体触媒の制御と改良技術（３）ゲノム科学の進歩	ゲノム編集や次世代DNAシーケンサーなど最新のゲノム科学で用いられる技術の基礎を講述する
14	まとめ	今までの講義内容の補足と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。各回の授業内容に応じて、別途課題を与える。本授業の復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業前に授業支援システムに講義資料をアップするのでダウンロードしてください。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第4版（中村 桂子, 松原 謙一・翻訳）
南江堂
新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
新生物化学工学 第3版（岸本通雅／堀内淳一／藤原伸介／熊田陽一・著）三共出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の課題（約40%）、レポート（約10%）および期末試験（約50%）を総合して評価する。但し、出席が半分以下の場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年、はじめてZoomを用いたオンラインのライブ配信で講義を行なった結果、講義が時間どおりに終わらないこともあったので、講義時間を延長しないようにする。また課題の答え合わせをもう少し時間をかけてやることにする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the basic knowledge about bioprocesses. To this end, students will learn examples of various bioprocesses as well as methods for their quantitative analysis. The course focuses especially on processes for the production of food and medicine from the aspect of biochemical industry.

MAC200YC

物質構造化学

緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】

授業の到達目標

- 1）結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2）結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、3 2 結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3）X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用について学ぶ。具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z 値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallography の見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。

13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用する資料（ppt）は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

- ・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴園
- ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
- ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

APC200YC

機器分析学

高橋 純一

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機器分析は試料物質の構造、状態、および含まれる化学種を把握することを目的とする分析化学の手法である。この授業では、機器分析の中でも「見ること」から「数えること」を範囲とする。主として微量金属元素を対象とする原子スペクトル分析を例にとり、機器の原理・構成と共に、試料のサンプリングから結果の考察に到る流れ、分析設計を学ぶ。現場での分析と分析化学が目指すゴールの違いを理解する。分析の失敗例から機器分析が抱えるその結果および解釈におけるリスクについて学ぶ。

【到達目標】

試料前処理から結果の解釈に到るまでの流れ、分析設計を自分で組み立てられるようになること。分析の依頼者であろうが実行者であろうが、用語について誤解のないように説明できること。分析装置の原理、構成をなぜ知る必要があるのかを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

プロジェクターを使う講義形式をとる。毎回、短い課題を与える。課題回答に対しては、基本的には個別にコメントをつけてフィードバックするが、授業前に前回の説明を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	機器分析の考え方・ガイダンス	分析を実際に行っている現場について概略説明し、なぜ分析しなくてはいけないのかについて講義する。
2	顕微鏡 -表面観察	分析の最初のステップとなる「形態を見る」という点から、顕微鏡について説明する。各種顕微鏡の構造、光学顕微鏡から電子顕微鏡、トンネル顕微鏡へと進展していった経緯について講義する。
3	エックス線技術 -表面分析	エックス線回折、蛍光 X 線、光電子分光法など固体表面の元素分析法について説明する。
4	分析の基本用語	基本用語のうち単位、純度、感度、検量線、検出限界、不確かさなどについて講義する。
5	原子スペクトル分析 原子吸光分析	具体的な分析方法と分析装置の各論として最初に原子吸光分析をとりあげる。
6	原子スペクトル分析 ICP 発光分析	誘導結合プラズマ発光分析の原理、装置構成、分析方法について述べる。
7	原子スペクトル分析 ICP 質量分析・小テスト (1)	誘導結合プラズマ質量分析について説明する。授業時間の一部を使って小テストを実施する。

8 分析設計

9 放射線を使う

10 機器分析を行う際の注意点、心得について

11 実分析例

12 特殊用途に特化した複合分析機器・小テスト (2)

13 分析の失敗例

14 分析結果の考え方

機器分析を実際に行う際のプロセスをどう組み立てるか、という分析設計について説明する。その流れに従って実試料のサンプリングについて述べる。分析から離れて、対象試料としての硫酸について講義する。

シンクロトロンから出る高輝度放射光、原子炉から出る中性子など大型放射線設備を利用する元素分析法について説明する。

危険な試料、危険な操作について述べる。試料容器の扱い方、試料の前処理についても触れる。

工場排水の分析、太陽電池に用いるシリコンの不純物分析、鉄鋼、食品等についての分析例を紹介する。

液体クロマトグラフィーを利用するアミノ酸分析計、キャピラリー電気泳動を用いる DNA シーケンサーについて説明する。合わせて PCR 技術についても述べる。2 回目の小テストを実施する。

毛髪分析、天然水晶の分析、鉄鋼中のリン分析などについて紹介する。なぜ失敗したかが焦点になる。

機器分析が抱える最大のリスク、分析結果を評価する際の問題について実例をあげて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の課題を解いてもらう。授業に使用するパワーポイントファイルを配布するので復習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

G. D. クリスチャン 分析化学Ⅱ機器分析編など

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題、小テスト、最終課題ともにレポート形式で行う。レポートとしての体裁、文章の出来不出来も内容と共に評価する。誤字脱字、意味不明の文章、期限後の提出などは厳しく減点する。覚えているかより考えているかを重点的にみる。授業参画度：毎回の小課題に対する解答を授業参画度として評価する（20 %）。小テスト（各 20 %）。最終課題（40 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始前に課題に対するコメントを説明するか、質疑のための時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The main objective of this lecture is to understand the process of instrumental analysis, from the sample pretreatment to the evaluation of results. The theory of trace elemental analysis will mainly be described through the example of atomic spectrochemical techniques. The different goals between analysis in the field and analytical chemistry in the lab are discussed. It is also important to know that if an unskilled operator handles the instrument without enough care, the analytical result may sometimes provide the wrong and fatal conclusion.

APC200YB

機器分析学

黒田 裕、野口 恵一、加藤 敏代

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、核磁気共鳴分光法（NMR）、円偏光2色性、X線結晶構造解析、電子顕微鏡観察などの計測法及びそれら生体高分子への応用について解説する。

【到達目標】

機器分析法の原理と生物試料への応用の基本的な考えを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書を使用する。パワーポイントファイルを配布し、説明をする。説明に基づいてメモを取ることが期待されている。質問は、授業中及び授業後に受け付ける。オムニバス形式。授業時間の最後に小テストを行い、次回の授業のはじめに解説や授業の補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	蛋白質構造の基礎と計測法	アミノ酸、2次構造、3次構造など（野口）
第2回	核磁気共鳴（NMR）の基本	歴史、原理、装置の構成、試料の調製（加藤）
第3回	NMR スペクトル	NMR スペクトルから読み取る情報（加藤）
第4回	NMR スペクトル解析	低分子有機化合物の構造解析演習（加藤）
第5回	NMR の応用例	定量分析、混合物分析、固体 NMR など（加藤）
第6回	蛋白質立体構造のための分光学（1）	円偏光2色性（CD）、2次構造に固有なCD（猿渡）
第7回	蛋白質立体構造のための分光学（2）	フーリエ分光学、フーリエ変換NMR（猿渡）
第8回	NMRによる蛋白質の立体構造決定	2次元NMR、Distance Geometry（猿渡）
第9回	X線結晶構造解析の基本原理	X線の発生、結晶によるX線の回折（野口）
第10回	X線結晶構造解析の実際	結晶構造解析の方法（野口）
第11回	X線結晶構造解析の応用	蛋白質の構造解析の実例紹介（野口）
第12回	透過電子顕微鏡の基礎	電子顕微鏡の原理と試料調製（野口）
第13回	透過電子顕微鏡の応用	電子顕微鏡観察の実例紹介（野口）
第14回	最近の研究課題から及び後半テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業支援システムで配布したプリント資料を受講後に復習する。宿題・レポートの提出は成績評価に使用する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 1) 「いきなりはじめる構造生物学」(神田大輔著、学研メディカル秀潤社)
- 2) 「分析化学実技シリーズ 機器分析編3 NMR」(田代充・加藤敏代 著、共立出版)

【成績評価の方法と基準】

出席点（25%）、小テストとレポート及び宿題（25%）、前半と後半のテスト（50%、再試験なし）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to learn the basic principles of structure determination of biomacromolecules by NMR spectroscopy, X-ray diffraction method and electron microscopy. It is important for all students to have an understanding of the basis, strengths, precision and limitations of these technique.

APC200YB

バイオエンジニアリング

萩原 知明

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から理解する。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。毎回の授業の最後に小テスト（クイズ）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎	生体を構成する物質の化学的性質について講述する
3	生体触媒の特性（1）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
4	生体触媒の特性（2）微生物・動植物細胞	生体触媒としての微生物や「動植物細胞の特徴について講述する
5	酵素を利用するバイオプロセス（1）異性化糖の製造を例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として異性化糖の製造を紹介する
6	酵素を利用するバイオプロセス（2）固定化酵素・非水系における酵素反応	固定化酵素や非水系における酵素反応を利用するバイオプロセスの例を紹介する
7	微生物を利用するバイオプロセス	微生物を利用するバイオプロセスについて、具体例を紹介する
8	酵素反応速度論（1）カエリス-メンテンの式	ミカエリス-メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
9	酵素反応速度論（2）少し複雑な酵素反応の速度論	二基質反応など、少し複雑な酵素反応系の速度論を講述する
10	酵素反応速度論（3）酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
11	細胞に関連する生化学反応速度	微生物の増殖速度とその影響因子ならに基質と生産物の変化速度の基本的考え方について講述する
12	バイオリアクターの形式と反応操作設計の基礎	酵素反応リアクターの各種形式とその特徴について講述する
13	微生物を利用するバイオリアクターの設計と操作	微生物を利用するリアクターの形式と操作について、特に廃水処理に利用される活性汚泥法を例として、連続培養法の基礎を講述する
14	バイオセンサー	バイオセンサーの原理・特徴とその具体例について講述する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。特に、授業時に実施した小テストの内容については十分に理解しておくことが、単位取得のためには必要である。各回の授業内容に応じて、別途課題を与えることがある。

【テキスト（教科書）】

授業時に資料プリントを配布する。配布した資料は授業後に WEB にてダウンロードできるようにする。

【参考書】

新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィック
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と小テスト（20%）を総合して評価する。30 分を超える遅刻をした授業日の小テストの点は評価に加えない。
期末試験を受験するためには 3 分の 2 以上の出席が必要である。3 分の 2 以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。出席の確認は、カードリーダー（出席管理システム）と小テストへの回答の両方で行う。両方で出席が確認できた場合のみ、出席したものと判定する。

【学生の意見等からの気づき】

小テストに加えて課題を出す、動画を積極的に使用することにより、理解をより深化できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・交通機関の遅延等で授業の出席が遅れた場合は、交通機関の発行する遅延証明書を授業終了時に必ず提出すること。

・3 分の 2 以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。

・「学生証を忘れたのでカードリーダーでのチェックができません。」「カートリーダーと小テストの両方での出席確認が必要だということは知りませんでした。」「小テストへの回答だけで大丈夫だと思っていました。」「出席管理システムのチェックだけで大丈夫だと思っていました。」等の言い訳は一切考慮しない。

【Outline (in English)】

The aims of this class are:

(1)To learn the fundamentals of bioprocess for quantitative analys and design of the process.

(2)To understand the current status of biotechnology application for practical production.

(3)To understand the bioprocess in food and pharmaceutical industries from the view point of biochemical engineering

MAC200YB

分析化学

加治 大哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命物質や環境物質を正しく評価するために必要な分析化学の基礎を学習する。

【到達目標】

データの取り扱い方、化学平衡、抽出分離など、生命科学研究に用いる分析手法の原理を解説し、将来的に研究を遂行していくために必要な知識の習得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

(1) 生命科学や環境科学をはじめ、様々な分野の基礎となる分析化学の基礎を学習する。

(2) 必要に応じてプリントを配布するとともに、スライドによる講義を行う。

(3) 課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方解説
第2回	データの取り扱い(1)	誤差について
第3回	データの取り扱い(2)	誤差の伝搬、有効数字
第4回	化学平衡	平衡の移動
第5回	酸塩基平衡(1)	酸と塩基(1)
第6回	酸塩基平衡(2)	酸塩基平衡(2)
第7回	酸塩基平衡(3)	酸塩基平衡(3)
第8回	溶解度平衡	溶解度積
第9回	錯イオン平衡	安定度定数
第10回	酸化還元平衡(1)	酸化と還元
第11回	酸化還元平衡(2)	ネルンストの式
第12回	酸化還元平衡(3)	酸化還元滴定
第13回	分配平衡	分離・抽出
第14回	分光法	ランベルトベール則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回テーマが変わるので、授業後の復習により知識を確実にすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

黒田六郎他「分析化学」裳華房

R.A. Day Jr., A.L. Underwood 共著「定量分析化学」培風館

宗林由樹・向井浩「新・物質科学ライブラリ⑦基礎分析化学」サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）、試験では講義ノート、講義で配布したプリントおよび関数電卓のみ持ち込み可。（対面式による期末試験を行わない場合、レポート課題により成績評価を行う。）

【学生の意見等からの気づき】

プリントを必要に応じて配る。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

生命機能学科および応用植物学科および環境応用化学科を対象とする。

【Outline (in English)】

This class is learned about a basis of analytical chemistry, for understanding about bioscience and applied chemistry.

MAC300YC

物質機能化学

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。

物質の電子状態について理解する。

物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。

新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものをみて自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房

「固体の電子状態と化学」：P.A.COX 著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版

「分子結晶」：J.D.Wright 著 化学同人

「物性論入門」：石井晃著 共立出版

「現代物性化学の基礎-化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社

「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房

「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」

「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人 等

【成績評価の方法と基準】

授業中に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

MAC300YC

物質変換化学

奥村 和

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のような物質文明に生きる私たちにとって、化学反応を利用した物質変換技術は必要不可欠な技術である。地球温暖化抑制や資源枯渇対策が急務となっている現代社会にとって、効率的に化学物質を製造する技術こそ、地球環境保全に必要な不可欠な技術といえる。実用化されている化学反応のほとんどは触媒反応が採用されている。触媒には反応速度の加速・減速を通して、目的とする特定の反応のみを効率的に促進させる機能がある。従って触媒技術は人間生活に必要なさまざまな化学物質の効率的な製造技術として重要な位置を占めてきた。一方、環境に悪影響を及ぼす化学物質を分解除去する目的にも大いに用いられている。本講義では、実用化されているものから将来の実用化が期待されているものまで、いくつかの化学工業や環境浄化に用いられる触媒技術を取り上げながら解説し、現在社会における触媒を用いた物質変換技術の重要性やその内容を学生が理解することを目的とする。

【到達目標】

触媒を用いた反応プロセスを例に挙げ、触媒の性能（活性、選択性）や反応機構に関する知識や考え方を学生が習得する。触媒の定義、種類、理論、役割、評価法など触媒に関する基礎的な知識や考え方を学生が習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、教室における講義を主体として進行する。授業時間内にレポート等の課題を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつかの解答例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	触媒の種類と歴史	触媒の分類および歴史に関する解説
2	不均一系触媒の概要と解説	アンモニア合成を例にした不均一系触媒の概要と特徴に関する解説
3	触媒反応の方法	触媒反応の方法と触媒活性の評価方法に関する解説
4	吸着 1	吸着のメカニズム、物理吸着と化学吸着の違いと特徴に関する解説
5	吸着 2	吸着等温式、吸着熱、比表面積の計算に関する解説
6	反応速度	速度定数、反応次数、活性化エネルギーなどの求め方に関する解説
7	触媒調製	触媒の調製方法に関する解説
8	キャラクターゼーション技術	触媒の組成や構造などを決定する方法に関する解説
9	石油精製	原油から化学品にいたる石油の分離および反応プロセスに関する解説
10	接触分解と脱硫	石油の接触分解と脱硫における反応、触媒、機構に関する解説
11	金属触媒	金属触媒の特徴と触媒作用に関する解説
12	酸化物触媒	酸化物触媒の活性、生成熱と触媒活性に関する解説
13	環境触媒	自動車排ガス浄化触媒の種類と触媒作用に関する解説
14	均一系触媒反応	均一系触媒の代表例と反応メカニズムに関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が参考書や講義ノートを利用した予習・復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新しい触媒化学＜新版＞』、菊地英一ら著、三共出版、2,940 円

【参考書】

『触媒化学（化学マスター講座）』、江口浩一ら著、丸善出版、3,672 円
『触媒化学 ―基礎から応用まで―』（エキスパート応用化学テキストシリーズ）田中庸裕ら著、講談社、3,240 円

【成績評価の方法と基準】

試験の結果（70 %）を主とし、これに平常点（30 %）を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深めるための復習の機会を充実する。

【Outline (in English)】

Course outline:

For us living in substance civilization like present, material conversion technology using chemical reaction is indispensable technology. For modern society in which global warming prevention and resource depletion countermeasures are an urgent task, technologies for efficiently manufacturing chemical substances are indispensable technologies for protecting the global environment. Most of the chemical reactions that have been put to practical use are catalytic reactions. The catalyst has a function of efficiently promoting only a specific reaction of interest through acceleration / deceleration of the reaction rate. Therefore, catalyst technology has occupied an important position as an efficient manufacturing technology of various chemical substances necessary for human life. On the other hand, it is also used for the purpose of decomposing and removing chemical substances which adversely affect the environment. In this lecture, we will explain from practical use to what is expected to be put to practical use in the future, taking up some chemical industry and catalyst technology used for environmental purification, Understand the importance of conversion technology and its contents.

Learning Objectives:

Taking the reaction process using a catalyst as an example, students will acquire knowledge and ideas about catalyst performance (activity, selectivity) and reaction mechanism. Students acquire basic knowledge and ideas about catalysts such as catalyst definitions, types, theories, roles, and evaluation methods.

Learning activities outside of classroom:

Students will prepare and review using reference books and lecture notes. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy:

The test results (70%) are the main factors, and the normal score (30%) is added to the evaluation.

MAC300YC

物質循環化学

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上においては様々な物質が変質を起こしながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の構造 (1)	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	鉱物の構造 (2)	鉱物の結晶構造について学ぶ。
6	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
7	変成岩	変成岩とその生成機構について学ぶ。
8	堆積岩	堆積岩とその生成機構について学ぶ。
9	地球の変動	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
10	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
11	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
12	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次の回の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「地球・環境・資源—地球と人類の共生をめざして— 第2版」

内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】

現代地球科学入門シリーズ 9 巻「地球のテクトニクス I 堆積学・変動地形学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 11 巻「結晶学・鉱物学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 12 巻「地球化学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 15 巻「地球と生命—地球環境と生物圏進化—」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 16 巻「岩石学」共立出版

【成績評価の方法と基準】

試験、演習問題、授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、可能な範囲で対面授業を実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】

During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society,

APC300YA

バイオマテリアル

湯田坂 雅子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオマテリアルは材料科学と生物学の融合領域を扱うため、材料と細胞あるいは組織との相互作用を理解することが重要である。この授業では、バイオマテリアルの化学・物理、バイオマテリアルに対する生体応答、さらに実用化の現状に関して広く学ぶことによりバイオマテリアル研究開発に役立つ知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

バイオマテリアルサイエンスでは、人工心臓などのようなマクロサイズなものから、薬剤送達システムといったマイクロサイズのものまでを対象として研究・開発が進められている。そこで使われている材料は、金属などの無機物、高分子などの有機物、細胞など多種類に及んでいる。本授業では、こうした現状を理解すること、バイオマテリアルに関する基礎知識を獲得すること、それにより医療の発展に貢献できる能力を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義は主にパワーポイントを使って行い、内容は教科書に沿って進める。リアクションペーパーあるいは課題解答を提出してもらい、それらのフィードバックを次回授業または学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、生体の仕組み	バイオマテリアルサイエンスの概観：分子から細胞、組織、臓器まで。
第 2 回	バイオマテリアル	金属・セラミックス・炭素材料（物理化学的基礎、生体応用に適した特徴）
第 3 回	バイオマテリアル	高分子材料（合成と構造、生体応用に適した高分子）
第 4 回	生体由来バイオマテリアル	細胞外マトリックス、機能的タンパク質からみた細胞と組織の機能
第 5 回	バイオマテリアルの性質	バイオマテリアルの物理的特性（力学、熱、表面）と生体応答
第 6 回	バイオマテリアル形状	バイオマテリアルの成型加工や微粒子作製と生体適合性。
第 7 回	生体応答	生体適合性、炎症反応、免疫応答。
第 8 回	医療機器	人工臓器、医療機器と材料
第 9 回	ドラッグデリバリーシステム	薬物送達システム（DDS）の必要性、DDS 作製、体内動態、薬剤徐放、ターゲティング
第 10 回	再生医療	再生医療の現状
第 11 回	免疫系	免疫細胞の種類と役割。（参考書「図解 免疫学入門」）
第 12 回	バイオマテリアルに必要な解析技術	生物学的解析技術
第 13 回	診断とバイオマテリアル	生化学検査とイメージング
第 14 回	期末試験	授業全般の内容に関して試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする。バイオマテリアルと生体の相互作用では免疫応答がカギとなるので「図解 免疫学入門」にも目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「バイオマテリアルサイエンス 基礎から臨床まで 第 2 版」東京化学同人（山岡哲二、他）、2018 年、価格 2600 円＋税）をテキストとして使用し、このテキストにそって授業を行う。

【参考書】

「図解 免疫学入門」東京化学同人（David Male 著、山本和夫訳）、2018 年、価格 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

主に記述式の試験によって成績評価する。小テスト 5 回と期末試験を 1 回行う予定である。点数配分は、小テストと期末試験（80%）、平常点（20%）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業はテキストに沿って行すが、免疫系については適宜解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助プリントがある場合には、授業支援システムを通じて事前あるいは事後に配布する。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Since bio-material deals with the interdisciplinary area of material science and biology, it is important to understand the interaction between materials and cells or tissues. In this class, students will learn chemistry and physics of bio-materials, response of biological systems to the bio-materials, and recent advances of bio-materials application to medical science. The knowledge obtained from these learning will be useful to develop the research and application of new bio-materials.

MAC300YB

分子エレクトロニクス

照井 通文

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子エレクトロニクスデバイスの基礎：

有機分子の基礎概念、有機機能物質の概観を把握し、具体的なデバイス例にもとづき、構造化技術、有機ナノデバイスの基礎と応用を理解する。

【到達目標】

分子エレクトロニクスデバイス実装例から、「材料としての機能性分子開発」と「デバイスとしての機能発現」、そして「デバイスを実現するための技術開発」を総合的に把握し、関連する物理、化学を理解することを目標とする。具体的には前期量子論生、電磁気学、固体電子論等の基礎を復習するとともに分子エレクトロニクスという実応用例においてどのような意味があるのかを理解する。大学での基礎物理を履修済みであることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

有機物質の多様な物性を理解し、機能性物質としての応用、有機分子デバイスの開発の背景、特に有機分子エレクトロニクスの例を講述する。

分子エレクトロニクスに関連する分野（物理、化学、光学、ナノテクノロジー等）の理解のために適宜演習を行なう。また最近のホットトピックスも交えて講述する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論	教師自己紹介、授業の到達目標およびテーマ、キーワード、授業についての注意。
2	有機デバイスの歴史と概観	導電性有機分子の発見から現在の有機エレクトロニクス機器までの有機機能材料と研究開発の歴史と概観。
3	有機機能物質の構造と性質	物質（分子）の構造と機能の関係。
4	ナノテクノロジー I	ナノテクノロジー概観。
5	ナノテクノロジー II	分子エレクトロニクスとナノテクノロジー。
6	分子観測、計測	走査型探針顕微鏡。
7	ナノ構造作製	分子設計、自己組織化、薄膜作製、ナノ加工技術。
8	単一電子トンネリングデバイス (SET) I	単分子エレクトロニクス概観。クーロンブロッケイド。ナノ電極作製。金属ナノ粒子。
9	SET II	スイッチング素子、フォトクロミック分子。
10	SET III	ワイヤー分子、励起状態とトンネリング。
11	光デバイス I	光物性、液晶、偏光。
11	光デバイス II	電気光学効果とデバイス開発。光変調器。
12	ナノバイオデバイス	新規デバイスアーキテクチャ、バイオ分子。
14	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後の復習だけでなく、これまでに履修している科目の復習をしておくことが重要。これまでの物理、化学等の復習。特に量子力学、電磁気学、固体物理等の入門書などに目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

量子力学（前期量子論）、電磁気学に関するもの。基礎部分の理解が求められるので、流通しているものであれば良い。その他については必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験により評価する。講義中に例題、演習を適宜行う。試験はそれに準じた内容とする。演習そのものは評価に加味せず、試験 100%の配分とする。詳細は導入ガイダンスにおいて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるために演習の時間を設ける。書き取りの時間を適切にする。

【学生が準備すべき機器他】

講義形式で授業を進める。プレゼンテーションツール（パワーポイント等）を使用する。

【その他の重要事項】

授業中の質問は随時可能。質問はメールでも受け付ける。授業中の私語は厳禁であるが、演習等においては周りの受講生と議論することを許している。

【Outline (in English)】

Molecular Electronics Device:

Basic concept of an organic molecule, Overview of Organic functional materials, device fabrication techniques, application of an organic nano-device.

BLS300YB

蛋白工学

常重 アントニオ

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to alter and produce them, with special emphasis on the design of structures with . Starting from a presentation of their basic physicochemical properties. The course will emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】

The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, including those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

As conditions permit, classes will be conducted in the form of presential lectures. Handouts will be available through the Hoppii system. Therefore, in most cases, bringing a personal computer to classes is greatly advised.

As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions.

Submission of reports will be requested and use as feedback.

Active participation of students is encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes. Basic concepts in protein structure.
2	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures. The hydrophobic collapse.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins from scratch. Taming the stabilizing forces in protein constructs. Analyzing examples from nature.
7	<i>De novo</i> Design of Proteins (I).	The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	<i>De novo</i> Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	<i>De novo</i> Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis. Protein production without an organism.
10	Protein Denaturation.	Thermodynamic aspects of protein denaturation.
11	Protein Refolding.	The still unsolved problem of protein refolding.
12	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.

13	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.
14	The Future of Protein Engineering	Beyond the helix bundle motif.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Prior classes, handouts and references will be distributed through the system Hoppii. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.

Quizzes and problems to be solved after classes will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

【テキスト（教科書）】

The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.

改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社 （2012）

【参考書】

Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (or equivalent): 50%; assignments and reports: 25%; active participation in class: 25%.

【学生の意見等からの気づき】

The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

APC300YA

生物有機化学

芝 清隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を構成する「有機化合物」の構造と特徴について学んでいく。特徴としては「横」と「縦」、すなわち「進化」と「多様性」をキーワードとして講義を進める。すなわち、宇宙の誕生、生物の誕生の歴史の中で、なぜいまのような有機化合物が形成されてきたのかに思いを巡らせながら、有機化合物がおりなす「生命システム」そのものを理解していく。同時に、近代科学の進化やいろいろな科学アプローチといった「自然科学」の進化と多様性もおりませた講義とする。授業計画にあるように、タンパク質、脂質、糖などの細胞を作る物質、遺伝情報伝達の仕組み、生体膜、代謝や酵素反応などをトピックとして、教科書に沿って講義を進め、学習支援システムを活用しながら、受講者からのフィードバックも取り入れていく。

【到達目標】

現在の地球上の存在する生物、あるいは細胞が、どのような有機化合物で構成されており、それがどのように合成され、またどのような働きをするかを十分に理解する。加えて、長い宇宙・生物の進化において、なぜこれらの有機化合物が今の姿になっているのかに興味をもち、「物質」の相互作用が創り出す「システム」の創発の重要性を理解する。また、近代科学における実験の重要性についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿った授業をおこなうが、該当する教科書の章はあらかじめ予習していることを前提として進める。教科書とは違って視点での説明をおこなう、関連したトピックを紹介するなどの、理解を深めるための工夫をした授業内容を予定している。授業の初めに、前回の授業で提出された質問票からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞から構成される生命（1）	教科書の第 1 章相当部分。 生物の構成単位としての細胞について考える。細胞とは何か？ 細胞はどのように観察・発見されたのか？ などを、近代科学の誕生と展開の歴史とからめながら学んでいく。
2	細胞から構成される生命（2）	教科書の第 1 章相当部分。 細胞の連続性と多様性、すなわち「横」と「縦」について学びながら、「進化」と「分化」について考えていく。
3	細胞を構成する化学化合物（1）	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子の分類と構造・特徴を学んでいく。宇宙の誕生とともに生成する元素が、どのように有機化合物に利用されているかに注目する。
4	細胞を構成する化学化合物（2）	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子がどのように分類できるか？ どのような特徴をもつか？ どのように機能分担しているかを学ぶ。
5	生命情報とは何か（1）	教科書の第 3 章相当部分。 「遺伝」のしくみが、どのように理解、解明されてきたかを学ぶ。
6	生命情報とは何か（2）	教科書の第 3 章相当部分。 「遺伝情報担体物質」としての「DNA」の発見の経緯を紹介しながら、DNA による遺伝のしくみを学ぶ。
7	生命情報とは何か（3）	教科書の第 3 章相当部分。 DNA の二重らせん構造の発見に続く、分子生物学の進展を紹介しながら、遺伝情報の転写・翻訳について学ぶ。
8	生体膜構造	教科書の第 4 章相当部分。 細胞、あるいは細胞内の微細構造を形成する「脂質二重膜」の構造と構成分子を学ぶ。生命にとっての「区切る」ことの意味を考えていく。

9	細胞と生命情報	教科書の第 4 章相当部分。 ここまで学んできたことをベースとして、生命の誕生と進化について考えていく。
10	細胞とエネルギー	教科書の第 5 章相当部分。 細胞、あるいは生物のエネルギーの取支について学ぶ。
11	酵素と化学反応	教科書の第 6 章相当部分。 生物活動と酵素反応との関係を学んでいく。
12	いろいろな実験法（1）	教科書の第 7 章相当部分。 「実験科学」とは何かを、近代文明の歴史と共に学び、「実験」の重要性を理解する。
13	いろいろな実験法（2）	教科書の第 7 章相当部分。 医療の診断、治療の現場で生物有機化学の知識がどのように使われているかを具体例をもとに紹介する。
14	これまでのまとめとまとめテスト	これまでの授業のおさらいをした後に、まとめテストをおこなう。これまでの小テスト 70 %：まとめテスト 30 % の比率で合計したものを最終成績とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 受講者はあらかじめ、教科書の相当する章を、十分に予習していることを前提に授業をおこなう。

【テキスト（教科書）】

入門 生化学（裳華房）著者 佐藤健
プリント版：2,640 円
電子版：2,508 円
(2021 調べ)

【参考書】

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）（翻訳版）
遺伝子の分子生物学（東京電機大学出版局）（翻訳版）
ただし、いずれも高価なものであるため特に買わなくてもよい。図書室などで必要部分を読めばよい。また、各回の授業に関連した図書・サイトの情報をその都度紹介するので、視野を深めたい学生は参考にするといよい。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に学習支援システムを利用しておこなう小テストの成績を 70 %、また、最終授業でおこなうまとめテストの成績を 30 % の比率として採点し、これらの合計で最終的な成績とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業中におこなう小テストの結果をふまえながら、学生の理解度を把握し、その後の授業内容に反映させる。また、学生からの「これが知りたい」といったリクエストに可能な限り対応して、興味のある事項を紹介していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用した授業中での小テストをおこなう予定ですので、学習支援システムが利用できる環境で出席してください。

【Outline (in English)】

Biochemistry enhances the molecular-based understanding of biological systems and phenomena. Knowledges of biochemistry is necessary to understand the recent advanced-biological science. The aim of this course is to gain knowledges of bio-molecules such as proteins, lipids, sugars, and genetic transcription, bio membrane, metabolism, and enzyme reaction. By the end of the course, students are expected to learn how biomolecules have emerged and been evolving. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: 70 % mini-tests and 30 % final test.

AGC300YA

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、スライドを印刷したプリントを毎回配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）、中間テスト（30％）、期末テスト（60％）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

BLS300YA

遺伝子工学

佐藤 勉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を応用する技術である遺伝子工学は、医療、福祉、食糧生産などの発展に大きく貢献している。生命分野を目指す学生にとって、これらの技術の理解は欠かせない。遺伝子操作技術の基礎はもちろん、最新の技術まで理解し、応用する能力を養う。

【到達目標】

本講義は、分子生物学を基軸とする基礎から最先端までの遺伝子工学の幅広い理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

遺伝子工学の基礎となる分子生物学が十分に理解されていることを前提に講義を行う。従って、分子生物学または関連する講義を既に履修していることが望ましい。パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の進め方・概要
第2回	歴史	遺伝子工学発展の歴史
第3回	DNA 取扱いの基本	制限酵素・リガーゼ・電気泳動
第4回	プラスミド	プラスミドの構造
第5回	遺伝子のクローニング I	様々なプラスミドベクター
第6回	遺伝子のクローニング II	ファージベクター・真核生物へのクローニング
第7回	DNA の増幅と塩基配列決定法	発明と改良の歴史・原理・最新技術
第8回	中間試験と解説	前半の学習内容の試験と解説
第9回	核酸の検出法 I	核酸の標識
第10回	核酸の検出法 II	各種ハイブリダイゼーション
第11回	遺伝子のクローニング III	ライブラリーを用いたクローニング
第12回	タンパク質の生産	発現ベクターとタンパク質の精製方法
第13回	微生物・植物遺伝子工学	微生物・植物への応用
第14回	医療と遺伝子工学	医療への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。遺伝子工学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

バイオ実験の原理（羊土社）

遺伝子工学（講談社）

遺伝子工学の原理（三共出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、中間 (30%) 及び期末 (40%) 試験の結果を成績として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces genetic engineering to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the basic and latest techniques of gene recombination. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS300YB

生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包している生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展してきた1分子計測技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

細胞内における分子の動きに注目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面・オンラインともに板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動 (1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動 (2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動 (3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動 (4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。

14 総括

講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%)・期末試験 (60%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を用いることがある。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology.

MAC100YC

基礎有機化学 I

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。
今年度から新しい教科書になります。それにともない講義の方法も変えます。
これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで今年度から基本的には資料（パワーポイント）を用いず、教科書をもとに講義を進めていきます。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
 - (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。
- 個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

黑板への板書およびスライドによる説明を中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。
授業の理解度をチェックするために理解度チェックテストをその日のうちに学習支援システムで行う。それに応じて翌週に補足説明・復習をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	有機化学の歴史
第 2 回	化学結合と混成軌道（1）	電子配置、化学結合、極性
第 3 回	化学結合と混成軌道（2）	ルイス構造式、分子の形と軌道
第 4 回	有機化合物に関する基礎知識	表記法、構造異性体、参加数、化学反応の基礎知識
第 5 回	酸と塩基	定義、強さの尺度、酸性度、塩基性度、pKa
第 6 回	アルカンとシクロアルカン（1）	アルカンの命名法、立体配座
第 7 回	アルカンとシクロアルカン（2）	シクロアルカンの形、立体配座、異性体
第 8 回	有機立体化学	キラリティー、CIP 則、エナンチオマー、Fischer 投影式
第 9 回	有機ハロゲン化物（1） ：置換反応	命名法、合成法、SN2 置換反応、SN1 置換反応
第 10 回	有機ハロゲン化物（2） ：置換反応	SN2 置換反応、SN1 置換反応
第 11 回	有機ハロゲン化物（3） ：脱離反応	E1 反応、E2 反応、Zaitsev 則
第 12 回	アルケンとアルキン（1）	アルケンの立体配置、求電子付加反応、還元反応、酸化反応
第 13 回	アルケンとアルキン（2）	アルキンの合成、反応
第 14 回	これまでのまとめと理解度確認	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆、渡邊総一郎、古荘義雄著「基礎講座 有機化学」化学同人

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

中間テスト (40%) + 期末試験 (40%)+ 課題・小テスト (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項を確実に理解させることに努める。

【Outline (in English)】

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry I"(spring term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including bonding in organic molecules, nomenclature of organic compounds, stereochemistry, acids and bases, nature and reactions of alkanes, alkenes, and alkynes.

MAC100YC

基礎有機化学 | |

河内 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学ⅠおよびⅡを通して有機化学の基本事項について学ぶ。
今年度から新しい教科書になります。それにともない講義の方法も変えます。
これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで今年度から基本的には資料（パワーポイント）を用いず、教科書をもとに講義を進めていきます。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
 - (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。
- 個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

黒板への板書およびスライドによる説明を中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。
授業の理解度をチェックするために理解度チェックテストをその日のうちに学習支援システムで行う。それに応じて翌週に補足説明・復習をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	芳香族化合物（1）	ベンゼン、共鳴、芳香族性、芳香族求電子置換反応
第2回	芳香族化合物（2）	芳香族求電子置換反応、置換基効果、酸化と還元
第3回	アルコールとフェノール	アルコールおよびフェノールの構造と命名、物理的性質、合成、反応
第4回	エーテルとエポキシド（1）	エーテルの構造と命名、合成、反応
第5回	エーテルとエポキシド（2）	エポキシドの構造と命名、合成、反応
第6回	アルデヒドとケトン（1）	構造と命名、カルボニル基の構造と性質、
第7回	これまでのまとめと確認	第1回から5回までのまとめ
第8回	アルデヒドとケトン（2）	求核付加反応
第9回	エノラートアニオン	ケト-エノール平衡、エノラートアニオン、アルドール反応、アルドール縮合
第10回	カルボン酸とその誘導体（1）	カルボン酸の構造と命名、カルボン酸の合成、カルボン酸誘導体の合成
第11回	カルボン酸とその誘導体（2）	Grignard 反応、還元反応
第12回	カルボン酸エステル・ケトンの反応	Claisen 縮合、Robinson 環形成反応
第13回	アミンと窒素化合物	アミンの構造と命名、性質、塩基性、合成、反応
第14回	これまでのまとめと確認	第8回から13回までのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆、渡邊総一郎、古荘義雄著「基礎講座 有機化学」

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

中間テスト (40%) + 期末試験 (40%)+ 課題・小テスト (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項の理解に努める。

【Outline (in English)】

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry II"(fall term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including synthesis, reactions, structures, and natures of aromatic compounds, alcohols, ethers, epoxides, ketones, aldehydes, carboxylic acids, carboxylic acid derivatives, and amines.

APC200YC

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法や処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2 回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3 回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4 回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5 回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6 回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7 回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8 回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9 回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習：エクセルを用いた吸着等温式の作成））
10 回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11 回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成）
12 回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13 回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14 回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BLS100YB

分子生物学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報はゲノムに組み込まれている。全ての生物は、遺伝情報を利用してタンパク質を合成し、生命活動を営んでいる。この生命活動を理解するためには、遺伝情報に従った分子構築機構を学ぶ必要がある。本講義は、生命活動をゲノムを中心とした分子レベルで理解することを目的とする。

【到達目標】

分子生物学 I では、遺伝情報伝達機構の全体をカバーするとともに、特に DNA の構造、複製の解説に力点を置き、遺伝情報伝達物質としての DNA の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、分子生物学の概要を講義するとともに、DNA 塩基配列情報の理解を深化させるために、講義中に遺伝情報伝達機構についての演習をおこなう。また、分子生物学関連の最新の話題についても解説・討論する。学生の自己学習を奨励する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分子生物学の概要	分子生物学における生命の捉え方について解説する。
第 2 回	分子生物学の歴史	遺伝子の本体としての DNA の発見と構造決定、遺伝情報の流れの解明についての歴史について解説する。
第 3 回	核酸の化学と構造	情報伝達分子である DNA と RNA の化学構造について解説する。
第 4 回	遺伝情報の流れの基本	DNA の塩基配列からみた遺伝子の基本構造について解説する。
第 5 回	転写・翻訳機構	DNA の塩基配列からみた転写・翻訳の仕組みと装置について解説する。
第 6 回	遺伝子発現調節機構	DNA の塩基配列からみた遺伝子発現調節機構について解説する。
第 7 回	中間テスト・解説	分子生物学の歴史・核酸の分子構造・遺伝情報の流れについて理解度を確認し、解説する。
第 8 回	DNA 複製（開始・伸長・終結）	DNA 複製の全体の流れの理解と DNA 複製を担う酵素の役割と構造について解説する。
第 9 回	DNA 複製（開始の調節機構）	DNA 複製開始点の構造と複製開始に関わるタンパク質について解説する。
第 10 回	突然変異と修復	DNA に生じる突然変異の要因と影響およびその修復機構について解説する。
第 11 回	プラスミドとトランスポゾン	プラスミドとトランスポゾンの構造と役割について解説する。
第 12 回	ウイルス	ウイルスの構造と増殖の仕組みについて解説する。
第 13 回	DNA を扱う技術	DNA を扱う上での基本操作と原理について解説する。
第 14 回	最新の分子生物学	これまでの講義のまとめと最新の分子生物学を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。分子生物学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）

分子生物学（講談社）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20 点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

All living things have a secret code inside of them called genomic DNA. This course introduces molecular biology to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand basic information of molecular biology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS100YD

分子生物学 I

片山 映

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報は全てゲノムに組み込まれている。生物は、ゲノムの遺伝情報を利用して蛋白質を合成し、蛋白質が多種多様な生体分子を合成することで、生命活動が営まれる。これら遺伝情報や生体分子の概要と、細胞機能との関連について解説する。

【到達目標】

遺伝子の構造と発現調節機能について、さらに生物を構成する基本物質の構造と機能について概説し、ゲノムから多種多様な生体分子が合成され細胞が構築される過程を統合的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生体の分子構成の全体像を概観し、構成成分それぞれの構造と機能の特性を解説する。生体構成分子に関する授業内容に関連した自己学習を奨励する。また、分子生物学関連の最新の話題についても背景や原理、解析技術について解説・討論する。講義で実施する確認問題、演習、アンケートの内容に応じて、解説等のフィードバックを学習支援システムとオンライン講義にて行う。感染状況に伴う講義計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月7日（木）とし、この日までに具体的なオンライン講義の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命分子の原理	生命分子の起源と進化、細胞の構成成分
第2回	生体高分子	生体を構成する高分子の特性
第3回	核酸の分子生物学	DNA・RNAの構造と機能
第4回	蛋白質の分子生物学	蛋白質の構造と合成と機能
第5回	遺伝情報 (1)	ゲノムの構造
第6回	遺伝情報 (2)	ゲノムの機能
第7回	遺伝情報 (3)	遺伝子発現の制御
第8回	糖質の分子生物学 (1)	糖質の構造と機能
第9回	糖質の分子生物学 (2)	糖質の代謝と合成
第10回	脂質の分子生物学 (1)	脂質の構造と機能
第11回	脂質の分子生物学 (2)	脂質の代謝と合成
第12回	細胞の構造と機能 (1)	原核生物・古細菌
第13回	細胞の構造と機能 (2)	真核生物
第14回	ゲノミクスとプロテオミクス、他	分子生物学的解析法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義で扱う種々の分子の複雑な構造と機能は、いずれもその構成要素の科学的性質によってもたらされるものである。したがってそれらのはたらきを理解するために、生物学と化学の基本的な知識をもつことが必須である。一般教養の関連科目を習得しているレベルが必要である。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞特定の教科書は指定しない。

＜具体的教育方法＞ 視覚的教材を多用して理解を深める方策を導入する。生命現象の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【参考書】

＜参考書＞

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。可能な限り、英語教科書に慣れることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

講義後の演習問題 (50%) と、期末試験 (50%) の結果から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より基礎的な内容や関連した分野の説明も交えて、バックグラウンドから理解できるようにする。

【Outline (in English)】

The genome contains all biological information of an organisms. In life activities, diverse biochemical reactions are caused by synthesized proteins based on genetic information. This lecture will provide the outline of genetic information and biomolecules, and the relation with intracellular biochemical reaction.

BLS100YB

分子生物学 I

山本 兼由

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゲノム上の遺伝子は生物機能を支える情報である。分子生物学Ⅱでは、明らかとされてきた遺伝情報の構造と機能について、関連する科学的発見の流れを具体的に紹介する。この階層性をもつ分子生物学的知識の蓄積を正確に確認し、分子生物学の主旨を理解するとともに、さらに発展しているゲノム科学を展望する能力を養う。

【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業はアクティブラーニングを用いた講義形式で行う。対面授業を基本とする（社会情勢によってはZoomによるリアルタイムオンライン授業を実施予定）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（ノート資料とスライド資料）を用い、授業内で演習を行いながら、進行させる。各授業では宿題を設定する。提出された宿題については、必要に応じて授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	メンデルの発見から
第2回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第7回	まとめ（1）	「遺伝子の構造と機能」と「遺伝情報の維持」のまとめ
第8回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第9回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第10回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第11回	遺伝情報の発現（4）	リボソームと mRNA
第12回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第13回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第14回	まとめ（2）	「遺伝情報の発現」のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学Ⅰ」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学Ⅰ」、「細胞生物学Ⅰ」、「生物物理学Ⅰ」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第4版」（著者：B. アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂）
「エッセンシャル 遺伝学」（著者：D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館）
「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W. ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができるかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30%）、「達成度」（30%）、「理解度」（40%）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト／アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【その他の重要事項】

国立遺伝学研究所の研究員として細菌の分子遺伝学の研究に携わった。その経験から、人類が培った遺伝子機能への理解について重要性和問題点などを具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

[Course outline] Organism manage biological functions and processes with the genetic information on DNA, established by scientific efforts of e.g. Mendel, Morgan, Watson, and Crick. Molecular biology is mainly subject to biochemical and genetic function of DNA, RNA, and proteins. This course introduces you to the related research findings and experiments and the basis for molecular biology, consisting of gene replication and expression. [Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genetic structure and function. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. [Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YD

分子生物学 I

小見 美央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物がみな共通の分子基盤を持っていることを理解し、そのことが可能にした様々な技術を知る。特に遺伝子編集技術に関して、その意義や是非について様々な視点から議論できるようになるために必要な知識の獲得を目指す。

【到達目標】

分子遺伝学/分子生物学の基礎事項について学び、自分の言葉で説明ができるまで理解を深める。学習事項をもとにして、現在世界に大きなインパクトを与えているウイルス感染症をはじめとした身近な生命現象や昨今の生命技術について科学的な見地から解釈・判断・評価できるようになる。また、科学の世界では最新の研究成果は英語で公開されるため、授業内でも英語の情報源を理解し活用する機会を設ける。この授業で学んだことをもとに既存の問題を解決する方法を探索し、提案できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義を中心に進める。プレゼン課題を3つ課す予定。うち2つについては教員による評価だけでなく、学生同士でもフィードバックしてもらう。毎回レスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。対面授業では毎回授業内容に関連した動画を視聴する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	カード仕分けアクティビティ プレゼン課題の紹介
第二回	分子生物学の歴史	遺伝学・分子生物学の歴史
第三回	核酸	DNA・RNAの構造
第四回	ゲノム	ゲノムサイズの比較 ゲノムの内訳
第五回	セントラルドグマ エピジェネティクス	遺伝子改変 ヒストンコード X染色体
第六回	DNA複製	メセルソンとスタール DNAポリメラーゼ テロメア
第七回	DNA修復 転写	複製エラーとDNA損傷 校正と修復 RNAポリメラーゼ
第八回	転写 翻訳	転写後調節 ニールンバーク アミノアシル tRNA 合成酵素
第九回	発現制御（原核細胞）	アクチベーター リプレッサー オペロン
第十回	発現制御（真核生物）	エピジェネティクス Hox
第十一回	細胞分化	全能性と多能性 細胞の運命決定 iPS細胞
第十二回	遺伝子発現制御技術	RNAi CRISPR-Cas9
第十三回	遺伝	メンデルの法則 Dominant, recessive アリル 多型 保因者頻度
第十四回	集団遺伝学	ハーディー・ワインバーク平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業後に1問クイズを出すので、次回授業までにテキストの中から答えを探してくる。授業スライドや関連動画・文献等をHoppiiにアップロードするので適宜復習する。また、プレゼンテーション課題作成のため、セメスターを通して様々なリソースを用いて調べ物をしたり文献を読んだりすることになる。

【テキスト（教科書）】

Cell Biology by the Numbers (<http://book.bionumbers.org/>)

ハードカバーを購入することも可能だが、上記ウェブサイトにて全文無料で公開されており、PDFも無料でダウンロード可能なので購入する必要はない。英語で書かれているが授業内では日本語で解説する。

【参考書】

講談社ブルーバックス カラー図解 アメリカ版 新・大学生生物学の教科書 第1巻~第3巻
理系総合のための生命科学 第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会

【成績評価の方法と基準】

プレゼン課題（25%×2 + 最終40%）、平常点10%。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション課題の相互フィードバックが好評だったので、引き続き今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業においても、スマートフォン、パソコンやタブレットがあると便利ですが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

14回の講義のうち7回はオンラインで実施する予定ですが、対面授業の回数を増やしてほしい等の要望があれば教員に連絡してください。シラバスでは便宜上第7回までを対面、その後オンラインとしています。初回は対面で実施し、以降は履修生と相談しながら決定することとします。

【Outline (in English)】

This course presents some of the basic concepts of molecular biology with an emphasis on the state-of-the-art technologies based on gene editing. Upon completing this course, students will be able to explain and describe the basic concepts of genetic inheritance, classical and molecular genetics, and recent advances in DNA technologies. We will also look at the arms race between viruses and us from the genetics point of view. Students will be able to develop hypotheses to interpret biological phenomena that they encounter in real-life, as well as to critically evaluate and appraise technological developments in this field.

BLS100YB

生物化学 I

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝経路における役割について概説する。エネルギー代謝、物質代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 I では特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第 2 回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構造
第 3 回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第 4 回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第 5 回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第 6 回	中間試験	中間試験
第 7 回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第 8 回	酵素（2）	反応速度論
第 9 回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第 10 回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第 11 回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第 12 回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第 13 回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの新生化学 第 7 版」（廣川書店）

成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【Outline (in English)】

Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction.

BLS100YD

生物化学 I

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は膨大な数の化学反応の集合体である。生物が「生きている」状態を可能にする仕組みを、分子レベルの化学反応、および、細胞レベルの化学反応回路として理解し、生物に関する理解を深める。

【到達目標】

生命の物質的な成り立ちを理解し、生体構成分子の構造と機能から、細胞、組織、器官、個体の各階層で高次の生命機能が発現される仕組みを解析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

最初の数回でアミノ酸などの生体分子の基本的性質について学習する。その後、タンパク質の性質等、応用的な内容について学習する。学生側からの質問は講義中に随時受け付ける。また、指名して質問することもある。質問に対しては、その場でディスカッションするか、または関連事項を含めた解説を行うことによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	水と分子	生命現象と水
2	生体分子の相互作用	生体構成成分を形成する分子間力
3	浸透圧	脂質二重膜に隔てられた分子の挙動
4	酸と塩基	pH とアミノ酸分子の荷電状態
5	アミノ酸とタンパク質の性質	弱酸と弱塩基とアミノ酸の等電点
6	タンパク質の電気泳動	SDS-PAGE や Native-PAGE の原理
7	蛋白質の精製	イオン交換やゲル濾過や疎水性相互作用を利用したタンパク質の分離
8	タンパク質の特定	単離したタンパク質の特定方法
9	反応速度論 1	ミカエリスメンテンの式
10	反応速度論 2	阻害剤と酵素
11	反応速度論 3	電気化学的勾配と膜輸送
12	リボソーム	膜構成成分および膜蛋白による輸送の解析
13	タンパク質とリガンド	薬剤の体内代謝
14	呼吸	嫌気呼吸と好気呼吸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 4 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。

授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書の内容について改善する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Living organisms are aggregates of vast numbers of chemical reactions. In this course, students will understand the mechanisms that make living organisms possible as chemical reactions at the molecular level and chemical reaction circuits at the cellular level, and deepen their understanding of living organisms.

【Objectives】

To understand the material origin of life and the mechanisms by which higher life functions are expressed through the structure and function of the molecules that constitute life at the cellular, tissue, organ, and individual levels.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の担い手である蛋白質について、その立体構造と基本的な構造構築原理、および蛋白質の構造と機能との相関について概要を理解する。

【到達目標】

以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、蛋白質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状蛋白質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、蛋白質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクチンミオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月8日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	蛋白質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	蛋白質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局在と一次構造、系統解析
第5回	蛋白質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と α ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	β シート、 β バレル、 β ターンの構造的特徴
第8回	繊維状蛋白質の三次構造	コイルドコイル、ケラチン、コラーゲン、絹フィブロイン
第9回	球状蛋白質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	蛋白質の四次構造、天然変性蛋白質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクチンミオシン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクチンミオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

「レーニンジャーの新生化学 第5版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続し、大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 I I**曾和 義幸**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに、構造予測についても触れる。
5	生体エネルギー論	生体熱力学の全体像を概説する。
6	リガンド結合 1	タンパク質のリガンド結合について概説する。
7	リガンド結合 2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する。
8	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
9	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する。
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について、基本的な原理を概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%)・期末試験 (60%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を用いることがある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function.

PHA300YC

分子薬理学

小藤 智史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬理学とは薬が作用するメカニズムを解明する学問である。初めに、生理機能の概要を学ぶ。次に、これまでに学習してきた生物化学・分子生物学等の知識を基礎として、「薬」が私たちの体でどのように働き、生理機能の恒常性の維持に寄与するのかについて、分子レベルのミクロな視点と個体レベルのマクロな視点で学び、生命現象を総合的に理解することをめざす。

【到達目標】

体の仕組みおよび薬が作用するメカニズムを分子・個体レベルで正しく理解し、人に説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、PC 制御プロジェクターと配布資料を用いる。理解度を確認したり、わからなかった点、気づいた点などを記載するリアクションペーパーを提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	薬理学総論	薬理学とは何か、薬物と受容体との関係および濃度-反応曲線を学ぶ
2	自律神経・体性神経系に作用する薬	自律神経系の形態と機能について理解し、自律神経系と体性神経系に作用する薬物について学ぶ
3	中枢神経系に作用する薬	中枢神経系に作用する薬物について学ぶ
4	循環器系に作用する薬	循環器系に作用する薬物について学ぶ
5	消化器に作用する薬	消化器に作用する薬物について学ぶ
6	利尿薬と泌尿器・生殖器系に作用する薬	利尿薬と生殖器系に作用する薬物について学ぶ
7	中間試験・まとめと解説	範囲:第 1 回から第 6 回。教科書・資料等の持ち込み不可
8	呼吸器系・血液に作用する薬	呼吸器系と血液に作用する薬物について学ぶ
9	代謝性疾患とその治療の治療薬	糖尿病・脂質異常症治療薬の作用機序を学ぶ
10	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬の作用機序を学ぶ
11	感覚器・感染症治療薬	感覚器に作用する薬物と感染症治療薬の作用機序を学ぶ
12	抗癌薬	抗癌薬の作用機序を学ぶ
13	復習	第 1 回から第 12 回までの内容を復習する。その際に、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
14	期末試験・まとめと解説	範囲:全講義の内容。教科書・資料等の持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講前にシラバスや教科書の該当する章を読み講義内容を把握しておいて下さい。受講後は講義時に配布された資料や自筆ノートを見直したり、教科書等を使用して復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

はじめの一步の薬理学 第 2 版 石井邦雄・坂本謙司著（羊土社, 2020 年 01 月 14 日発行, 本体 2,900 円＋税）

【参考書】

人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（6 月に実施。30 点満点。）

期末試験（7 月に実施。60 点満点。）

平常点（リアクションペーパーの提出等。10 点満点。）

で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年、毎回授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ解説をしたところ、好評だったので、本年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Pharmacology is the study to learn the mechanisms by which drugs work. First, we will overview the physiological functions. Next, students will learn how drugs work in our bodies and contribute to the maintenance of homeostasis of physiological functions based on the molecular level and the whole body level. In this class, we aim to understand the biological responses against drugs in our bodies by using basic knowledges of biochemistry, molecular biology and so on.

BLS300YB

構造生物学

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質や核酸の高次立体構造の研究における X 線結晶構造解析、NMR 解析、クライオ電顕解析による構造解析法を中心に概説する。さらに立体構造情報に基づいた構造の推定や分子間相互作用などの応用研究、そして、これらの方法論に加えて、構造を解くことで何が分かるかを学ぶ。

【到達目標】

本講義全体を通して、生体高分子、特に蛋白質の高次構造から、特徴・機能・性状について学び、その構造解析法を理解する。それをふまえて、構造生物学から得られた知見をどのように解釈し利用していくかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。毎回、授業のはじめに前回の授業の課題の講評と解説を行う。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	蛋白質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介し、蛋白質研究の歴史を紹介する。
2	蛋白質の一次構造と二次構造	蛋白質を理解するための最も基本的な情報として、一次構造と二次構造の知識を得る。
3	蛋白質の二次構造のモデル作成	分子模型を用いて二次構造モデルを実際に作成し、二次構造の理解を深める。
4	蛋白質の高次構造	蛋白質の実体を理解するために不可欠となる高次構造について紹介する。
5	構造解析法 1	X 線結晶構造解析法による解析法について紹介する。
6	構造解析法 2	NMR 解析法について紹介する。
7	構造解析法 3	電子顕微鏡による解析法やその他の構造解析法について紹介する。
8	核酸の構造	核酸（主に DNA）の構造とそれに結合する蛋白質について紹介する。
9	酵素	酵素の構造生物学的知見を紹介する。
10	膜蛋白質	膜蛋白質の構造生物学的知見を紹介する。
11	電子密度マップへの蛋白質モデル構築	各自のパソコンを用いて、結晶構造解析より得られた電子密度マップに原子モデルを構築する。
12	立体構造情報の利用 1	立体構造情報、主に PDB ファイルの詳細を解説し立体構造の可視化方法（ソフトウェア）を紹介する。
13	立体構造情報の利用 2	立体構造情報を利用したデータベースを紹介する。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定した参考書などを参照し、毎回配布するプリントと小テストを復習してください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する

【参考書】

有坂文雄著「バイオサイエンスのための蛋白質科学入門」（裳華房，2006）

神田大輔著「いきなりはじめる構造生物学」（秀潤社，2011）

田中勲・三木邦夫訳 「構造生物学」（化学同人，2012）

【成績評価の方法と基準】

生体高分子の立体構造とその構造解析法について理解し、構造生物学から得られる知見と生命現象とを結びつけて理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（第 11 回で使用）

【Outline (in English)】

I will outline the structure determination methods by X-ray crystal structure analysis, NMR analysis and cryo-electron microscopic analysis in the analysis of higher order tertiary structures of biopolymers, especially proteins and nucleic acids.

Furthermore, you learn applied research such as structure prediction based on three-dimensional structure information and intermolecular interaction, and learn what you can understand by solving the structure with these methodologies.

PPE100YD

植物医科学概論

鍵和田 聡、津田 新哉、石川 成寿、廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学の考え方や技術、食の安全や環境保全・社会経済との関わりを学び、植物保護の原点を探る。

【到達目標】

植物医科学という新しい学問分野の概要を把握し、植物医科学分野の専門科目を学ぶための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物病とその歴史、植物医科学の意義、植物病の種類、病気の診断技術、植物病害の治療・防除・予防技術などについて最新の成果も交えながら広く解説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物医科学とその重要性	食料・環境問題と植物医科学、その重要性
第 2 回	植物の生育障害と症状の特徴	植物の生育障害の種類、原因、症状、病名
第 3 回	菌類病	微生物病の種類、菌類の分類、生活環、菌類病の種類と特徴
第 4 回	細菌病	細菌の分類、細菌病の種類と特徴、ファイトプラズマ病
第 5 回	ウイルス病、線虫害	ウイルスの分類、ウイルス病の種類と特徴、ウイロイド病、線虫害の種類と特徴
第 6 回	発生病と被害解析	発病の条件、伝染方法、発病動態とその環境、被害解析
第 7 回	生理障害	生理障害の種類、肥料に関わる障害、薬害、環境条件、管理作業
第 8 回	害虫と雑草	害虫の種類、生態的特徴、被害とその解析、加害様式、雑草の種類、特徴、防除対策
第 9 回	診断の意義と工程	診断の意義と重要性、診断の工程、問診と診断の実際
第 10 回	分離と接種による診断	微生物の分離と維持、接種、微生物の同定技術
第 11 回	血清診断、遺伝子診断	血清診断の種類と各技術の特徴、遺伝子診断の種類と各技術の特徴
第 12 回	薬剤防除	農薬の種類、選択、製剤化、使用法、安全性評価、関連法令
第 13 回	IPM	植物の病虫害と防除法、総合的病害虫管理（IPM）
第 14 回	植物医科学の社会的役割	植物防疫に関わる法令、病虫害の発生予察、植物検疫、食の安全

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書に沿って講義を進める。講義内容に該当する部分をよく読むことにより予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

植物医科学の世界（大誠社）

【参考書】

植物医科学（上）（養賢堂）
その他適宜講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 30%）、試験（約 70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿って丁寧に説明を行う。

【その他の重要事項】

応用植物科学科必修科目。
樹木医補資格関係専門科目。
植物病診断・防除の現場の実務経験のある教員により、その経験を踏まえた技術の詳細を紹介する。

質問など不明点あれば、鍵和田まで問い合わせること。オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

This course introduces the concepts and technologies of ‘clinical plant science’, and its relationship with food safety, environmental conservation and social economy. Participants understand the outline of a new discipline field, ‘clinical plant science’, and acquire the foundation for learning special subjects in the field of clinical plant science. It explains plant disease science and its history, significance of clinical plant science, kinds of plant diseases, diagnostic technology of diseases, treatment, control and prevention technology of plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PPE200YD

植物病学概論**濱本 宏**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり TED などのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中にオンラインのアンケート機能等を用いて、理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「テスト/アンケート」あるいは「課題提出」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第 2 回	ウイルス・ウイロイド病 (1)	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第 3 回	ウイルス・ウイロイド病 (2)	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第 4 回	細菌・ファイトプラズマ病 (1)	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類と性状
第 5 回	細菌・ファイトプラズマ病 (2)	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第 6 回	菌類病 (1)	植物病原菌類の分類・性状
第 7 回	菌類病 (2)	植物菌類病の病徴と伝染様式
第 8 回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第 9 回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第 10 回	植物感染生理 (1)	病原性：病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第 11 回	植物感染生理 (2)	抵抗性：原微生物に対する宿主の抵抗性の機構
第 12 回	植物感染生理 (3)	植物感染生理とゲノミクス・バイオテクノロジー
第 13 回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除に活かされる植物病学の知見
第 14 回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

新刊書を予定している（授業開始前に連絡する）

【参考書】

植物病理学（眞山滋志、難波成任編），文永堂出版，2010.
Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.
Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点 20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、授業支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

【Grading Criteria/Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的变化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートをとり、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検讨すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第 2 回	植物の構造（2）	植物の細胞
第 3 回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第 4 回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第 5 回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第 6 回	二次代謝産物	代謝経路と機能
第 7 回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第 8 回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第 9 回	植物の遺伝子組換え	植物の全能性、および遺伝子組換え植物の作成法
第 10 回	受精と初期発生	植物の受精と初期発生のメカニズム
第 11 回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第 12 回	植物ホルモン	植物ホルモンの作用
第 13 回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第 14 回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1 題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1 題）を行う。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学－分子から個体へ」 幸田ら、三共出版

「植物生理学概論」 桜井ら、培風館

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約 15%）、レポート課題と補習問題（約 15%）、期末試験（約 70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

BLS100YB

生物学概論 I**清水 隆**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。前期（生物学概論Ⅰ）では生物学の基本、生物学史、細胞学、遺伝学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論Ⅰ」と「生物学概論Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語チェックを実施します。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション はじめに（序章）	授業内容の説明および評価方法 科学哲学入門
2	生物学の基本（1章）	生物学の歴史と方法 生物の多様性・共通性・階層性 遺伝学の基礎
3	細胞のプロフィール① （2章）	細胞を見る技術 細胞を構成する物質
4	細胞のプロフィール② （2章）	細胞小器官の機能 細胞膜の構造と機能
5	遺伝情報の伝達と制御① （3章）	遺伝子としての DNA
6	遺伝情報の伝達と制御② （3章）	転写・翻訳のしくみ タンパク質の構造と機能
7	中間試験	序章～3章の理解到達度判定
8	序章～3章のまとめ	試験結果に基づいた解説 触媒としての酵素 エネルギーの循環
9	細胞活動の源①（4章）	呼吸 エネルギー産生
10	細胞活動の源②（4章）	光合成 代謝経路のネットワーク
11	細胞活動の源③（4章）	タンパク質の多様な機能 細胞の形態維持と運動
12	細胞活動を担うもの① （5章）	オパロン説 細胞の形態維持と運動
13	細胞活動を担うもの② （5章）	
14	期末試験	4章・5章の理解到達度判定
14	4章・5章のまとめ	試験結果に基づいた解説 遺伝子組換え作物の現在の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと

最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと

② 復習：重要用語をまとめ、次回小テストの準備をすること

③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版」和田勝 羊土社 2020 3200 円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

① 用語チェック（10 %） ② 提出課題（10 %） ③ まとめ試験（2回で 80 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BLS100YB

生物学概論 I**清水 隆**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。後期（生物学概論Ⅱ）では発生学、免疫学、生態学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論Ⅰ」と「生物学概論Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語集の作成をします。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 多細胞生物への道①（6章）	授業内容の説明および評価方法 細胞間の結合様式と役割 細胞間の情報交換
2	多細胞生物への道②（6章）	ホルモンの受容と応答（Gタンパク質共役型）
3	多細胞生物への道③（6章）	血糖値の維持 ステロイドホルモンと受容
4	多細胞生物への道④（7章）	DNAの複製 細胞周期 突然変異
5	多細胞生物への道⑤（8章）	減数分裂 生殖細胞
6	多細胞生物への道⑥（8章）	受精 初期発生と器官形成
7	多細胞生物への道⑦（8章）	細胞間コミュニケーションと分化
8	中間試験	6章～8章の理解到達度判定
9	個体を守る免疫①（9章）	非特異的生体防御 特異的生体防御
10	個体を守る免疫②（9章）	体液性免疫 細胞性免疫 性感染症の予防と対策
11	細胞死・個体の死（10章）	細胞の老化と再生 早老症 寿命と遺伝子
12	さまざまな疾病（10章） 個体としてのまとめ（11章）	血友病 コレラ がん 恒常性の維持
13	個体としてのまとめ（11章）	神経伝達のしくみ 外部環境の認識 刺激と応答 向精神薬の作用機序
14	生態系・進化のしくみ（12章）	古生物学概論 進化のしくみ 生物多様性はなぜ重要か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめること
- ③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版」和田勝 羊土社 2015 3200円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 提出課題（20％）
- ② まとめ試験（2回で80％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

COT100YB

計算機科学概論 I

豊田 太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、研究や学術活動において、コンピュータとインターネットは、情報の収集および処理の必須ツールです。秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットの仕組みから、主要なアプリ、プログラミング（Python 3）の扱い方まで理解し身に着けるのが当授業の大きな目的です。

【到達目標】

秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作、プログラミングを学びます。受講者が、進学後に研究室配属されてこれらを自在に扱えるようになる準備を完了するのが目標です。本講義では、主要なアプリとプログラミング（Python3）を実際に使って身に着けることが主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習を主体とする授業です。キーボード操作によってコンピュータとインターネットを扱うことを体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。

課題の提出・フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	勉強と研究の違い、PC とは何か、貸与 PC で何ができるのか
第 2 回	インターネットと情報ベース	学術資料と文献の調べ方、“論文”とは何か
第 3 回	主要アプリの使い方 (1)	Word, Excel, Powepoint を使ってやりとりゲームをしよう
第 4 回	主要アプリの使い方 (2)	Word, Excel, Powepoint を使ってやりとりゲームを予想しよう
第 5 回	主要アプリの使い方 (3)	Word, Excel, Powepoint を使ってやりとりゲームを発展させよう
第 6 回	主要アプリによる演習	Word, Excel, Powepoint を使ってオリジナルのやりとりゲームをつくる
第 7 回	Python3 の紹介と導入	Python3 の説明、環境設定、簡単な使い方
第 8 回	Python3 の簡単な使い方	エディタを用いた文字表示
第 9 回	Python3 による計算	関数電卓としての使い方を説明する
第 10 回	Python3 によるグラフ表示	グラフ表示のやり方を説明する
第 11 回	Python3 で方程式を解く	ニュートン法を説明する
第 12 回	Python3 でデータをまとめる	平均、標準偏差、直線回帰を説明する
第 13 回	Python3 による演習 (1)	Python3 でランダムウォークを体験する
第 14 回	Python3 による演習 (2)	Python3 で統計力学を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学習順を考慮した内容が多い授業です。前回の授業を前提として次の学習（演習）があります。遅刻（授業途中からの参加）や欠席が不理解の原因となる場合があります。不明・不理解あるいは操作が追いつかないなどの場合は、助けを求めるなど、後回しにせずその時点で要求してください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして提出してもらい、評価の対象とします。

最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%, 平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には理解/操作不能のままにせず、自身で調査したり質問をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講義ですので、実際に自身の手を動かして積極的に操作してください。

【Outline (in English)】

For utilizing computer and internet, students are expected to understand and learn them and used to them practically by softwares and programing training through this course. The goals of this course are to understand fundamentals of computer and internet, to practice major softwares of Microsoft windows, and to learn the elementary skills of programming using Phython 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

COT100YB

計算機科学概論 I

豊田 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータを自在に扱って研究や学術活動を進めることができるようになる準備を完了するのが当授業の大きな目的です。特に、画像解析を中心にした簡単なプログラミングについて理解しプログラムを作成します。

【到達目標】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、進学後に研究室配属された際にこれらを自在に使えるようになる準備を完了するのが目標です。特に、画像解析の基本操作など、および関連するプログラミングの基礎の習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習が主体の授業です。生命科学部学生にとっての実用を目的とした基本的スキルの学習が中心となります。プログラミングによる画像データ処理を体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	コンピュータとインターネット、画像情報の基本
第 2 回	ImageJ の導入	ImageJ の貸与 PC への導入、環境設定
第 3 回	ImageJ の静止画解析 (1)	イメージ（静止画）の解析（二値化など）を説明する
第 4 回	ImageJ の静止画解析 (2)	イメージ（静止画）の解析（粒径分布）を説明する
第 5 回	ImageJ の動画解析 (1)	ImageJ での動画の扱いを説明する
第 6 回	ImageJ の動画解析 (2)	動画解析（トレース）を説明する
第 7 回	Python3 の導入と簡単な使い方	Python3 の導入、環境設定。簡単な使い方。
第 8 回	Python3 と ImageJ の連携	画像解析結果を統計処理したりグラフ表示したりする方法を説明する
第 9 回	Python3 と ImageJ の連携の演習	画像解析とそのアウトプットを演習する
第 10 回	Python3 でアプリをつくる	簡単なアプリのつくり方を説明する。
第 11 回	Python3 で数字認識アプリをつくる (1)	数字認識の機械学習アプリを説明する。
第 12 回	Python3 で数字認識アプリをつくる (2)	教師データの使い方を説明する。
第 13 回	Python3 で数字認識アプリをつくる (3)	数字認識アプリを実装させてみる
第 14 回	総合演習	画像認識のアプリをつくる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
春期授業を前提としていますが、講義の途中など必要な際に、春期の復習も行います。したがって春期の計算機科学概論 I を未受講の人でも、学習できるように配慮します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして提出してもらい、評価の対象とします。
最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%，平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなりやすいです。理解/操作不能となった場合には講義中に挙手して、TA の支援を仰いでください。理解/操作不能のままにしておかないこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講座ですので、遅刻による講義途中からの参加は学習の進行に大きな障害となる場合があります。

【Outline (in English)】

For utilizing computer, students are expected to perform image analysis through using Python 3. The goals of this course are to understand fundamentals of digital data of images and to practice image analysis software, Image J, and related programming skills by Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

BLS200YB

発生生物学

小林 麻己人、川岸 万紀子

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発生生物学は、古代ギリシアにルーツをもち、古来より生物学者の興味をそそる学問分野である。しかし、20 世紀末の分子生物学ツールの導入により、個体発生のメカニズムが分子レベルで明らかになるにつれ、その制御システムはヒトの疾患・癌・老化などに密接に関連することがわかり、単に学問的だけでなく、医療や農業などの産業にも重大な情報をもたらすものになった。本授業では、発生生物学の概要を、分子レベルの切り口も含め紹介し、再生・進化・医学・農学など他分野とのつながりにも言及する。

【到達目標】

近年における発生生物学の全容と発展、さらには他分野、特に医学と農学とのつながりの理解を目指す。具体的には、1）受精から老化に至る、発生生物学の全体像をイメージできる、2）その中で特に、体軸形成・細胞分化・誘導シグナル・ゲノム遺伝子の発現、の重要性をそれぞれで活躍する代表的な遺伝子・タンパク質の名前を習得しながら理解する、3）発生工学的及び実験胚発生学的手法が、現在の生命科学の発展にいかに関与してきたか、を理解する、4）医学・薬学・農学において、発生生物学に関連する知識や技術がいかに重要であるかを理解し、自身のキャリアに活かす、ことを到達目標とする。その上で、受講後も継続して自主学習する受講生がでてくることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

大枠としては、発生の基本概念、分子レベルでの理解、他分野への応用、の順で授業を進めるが、きっちりとは分けず、それぞれを織り交ぜる。方法は、プリント配付と PC プロジェクター映写の併用を考えているが、板書も含め、状況や内容に応じて、工夫を施す。受講者とのやりとりを期待する。前半の動物の発生および医学との関連性を小林が担当し、後半の植物の発生および農学との関連性を川岸が担当する。

各授業の進め方であるが、いずれの授業においても最後に小テストを行い、学生の理解度を確認する。その解答解説は、次の授業の初めに行う。また、3 日間の集中形式で行うものであるが、各日の最終授業で中間試験を行い、その 1 日全体における理解度を確認する。その解答解説は翌日の最初の授業で行う。なお、中間試験の際にアクションペーパー提出も同時に課する予定である。解答解説時に合わせて紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	動物の発生と体軸形成	ヒトの発生、ゼブラフィッシュの発生、植体軸形成
第 2 回	体軸形成のしくみ	受精、β カテニン、Wnt 経路、がん、Nodal、中胚葉誘導、ニューコープセンタール、抗 BMP4、オーガナイザー、神経誘導
第 3 回	細胞運命と遺伝子破壊	着床前診断、体外受精、細胞運命、原腸形成期、細胞分化、分化万能性、転写因子、ノックアウトマウス、ノックダウン
第 4 回	遺伝子機能とモデル動物	遺伝子機能、発生工学、ヒト突然変異、モデル動物、オルガノイド
第 5 回	中間試験 1	前半の学習内容
第 6 回	トランスジェニック動物と遺伝子発現	トランスジェニック動物、過剰発現解析、異所的発現解析、診断、創薬、進化、レポーター動物、コンディショナルノックアウトマウス、イメージング
第 7 回	再生と老化と今後の医療	再生、再生医療、老化、カロリー制限、健康寿命、機能性食品、早老症、Nrf2 経路
第 8 回	植物の発生と進化	植物の進化系譜、被子植物、植物の遺伝情報
第 9 回	植物の細胞と成長	被子植物の受精、胚発生、後胚発生、栄養成長と生殖成長
第 10 回	中間試験 2	中盤の学習内容
第 11 回	植物遺伝子工学	緑の革命、植物の遺伝子組換えとゲノム編集、農作物の品種開発 1
第 12 回	植物の環境応答と農作物の改良	植物の環境応答、よりよい植物をつくる、農作物の品種開発 2
第 13 回	まとめ	全体の学習内容の復習

第 14 回 最終試験

全体の学習内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に準備学習は必要としない。分子生物学や細胞生物学の基礎的理解があれば十分。膨大な範囲からの抜粋になるため、授業では全てを詳細に説明することはできない。したがって、興味をもった箇所に関しては、授業後の自主学習を期待する。

【テキスト（教科書）】

指定せず

【参考書】

ギルバート発生生物学第 10 版（阿形・高橋訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
ウォルバート発生生物学第 4 版（武田・田村訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
老化生物学（McDonald 著・近藤訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
新・生命科学シリーズ 植物の成長（西谷著）
裳華房社

【成績評価の方法と基準】

最終試験の成績で評価する。加えて、小テスト、及び、中間試験、の結果も加味する。要素毎の配分は、最終テスト（70%）、小テスト（10 回、2%ずつ）、中間テスト（2 回、5%ずつ）である。各テストは「到達目標」に合わせ、発生生物学の基礎的事項に加え、他分野、特に医学と農学とのつながり、に関わる問題を授業で教えた内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講師は筑波大学医学医療系の教員及び農業・食品産業技術総合研究機構の研究員であり、本科目は夏休み中（8 月 25 日-27 日）に集中講義として開講される。3 日間連続 5 限（4 限）の講義となるため、集中して学習できるメリットと逆にデメリットもある。その点を十分理解した上での受講を望む。

【Outline (in English)】

Developmental biology is an academic field that arouses the interest of a number of biologists from ancient days. At the end of the 20th century, the mechanisms of individual occurrences in developmental biology become clear at the molecular level and are understood to be closely related to human diseases, cancer, aging, and so forth. Therefore, studying developmental biology brings valuable information for medical and agricultural application. In this lecture, we introduce the outline of developmental biology and refer to connections with other fields such as regeneration, evolution, medicine and agriculture.

MAC200YB

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な米国の教科書を用いて物理化学の初歩を学ぶ。一見、各論的な化学の背後には普遍的な原理や法則が存在することを納得し、それらによって原子や分子の性質が合理的に説明されることを理解する。一方で、あらゆる原理や法則は、定量的実験によってその真偽が確かめられてきたことにも留意する。また、物理化学に関する例題、とくに計算問題に対して、単位や有効数字を意識しながら解答に到達できるまで習熟することも大事な目標である。

【到達目標】

原子、分子、物質（モル）の概念に慣れ親しむ。元素の性質とその周期律が原子の電子構造に関わっていること、とくに最外殻の原子価電子の配置が鍵となることを知る。化学結合にはイオン結合と共有結合があり、オクテット則に基づいたルイス構造を描くことで、精密な理論がなくとも、結合の性質、共鳴、電子の偏りを議論できること、それらは物質の物理的性質にも密接に結びついていることを把握する。さらに、電子対反発理論から分子やイオンの構造を予言でき、この理論が原子価結合理論での混成軌道による化学結合の説明と相補性を持つことを理解し、いくつかの実例でそのことを検証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。YouTube で講義録画をストリーム配信します。毎回、授業が終わってから、自宅で Hoppii のテスト課題を解いて提出して頂きます。テスト課題の公開までには授業日から数日かかることがあります。テスト課題の提出締切後に、正解とコメントと得点が Hoppii 上で自動フィードバックされます。

（1）4 月に入ってから対面授業の場合
ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）を教科書として使用します。主にパワーポイントを使って説明し、式変形の詳細などには黒板書きも利用します。パワーポイントの全内容を、4 スライド分 1 ページにまとめて配布します。ときどき質問を投げかけて、答えや解答方針を口頭で説明してもらいます。

（2）4 月に入ってからハイフレックス授業の場合
オンライン参加の学生には Zoom の画面共有を用いて、教室内の学生にはプロジェクターでパワーポイントのスライドを示します。黒板で文字や数式を書き示すこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業を始めるに当たり、測定と単位	1.4~1.6 節、アンケート、教科書の説明、13 回分の講義の紹介、SI 単位系、SI 接頭語、単位の変換
2	元素と周期表、分子と化学式、化学反応式	2.1~2.4 節、周期表に基づいて元素を分類する、化学反応式の両辺で原子を釣り合わせる
3	モルと物質質量、実験式と分子式、化学反応での化学量論計算	3.1~3.7 節、モルと物質質量の概念、分子量、化合物の組成を決める、限定物質を見定める
4	原子模型と原子スペクトル（4 月 28 日はオンデマンド視聴の予定）	7.1~7.3 節、水素原子のスペクトルおよび光の波長と振動数、ボーアのモデルから遷移エネルギーを計算する
5	物質波、波動力学、量子数	7.4~7.5 節、物質波の考え方と電子の波動性を理解する、離散的な電子エネルギー、電子の軌道を量子数で識別する
6	原子中の軌道、原子の電子配置、周期表	7.6~7.8 節、電子スピンによって原子の磁性が生ずる、主殻と副殻に電子を詰めていく、周期表の周期と族、電子配置を予測する
7	電子の空間分布、化学結合、周期表と元素の特性	7.9~7.10 節、原子軌道の密度分布、原子核の正電荷が内殻電子によって遮蔽される、イオン化エネルギーと電子親和力の定義
8	化学結合の種類、ルイス記号（6 月 2 日はハイブリッド授業の予定）	8.1~8.4 節、イオン結合と共有結合、価電子をルイス記号で表す、オクテット則とは？
9	共有結合とルイス構造	8.5, 8.7 節、オクテット則に基づきルイス構造を描く、結合の性質と結合次数を関連付ける

10	極性分子、電気陰性度、共鳴	8.6, 8.8, 8.9 節、原子が共有結合電子を引き付ける力、双極子モーメントの定義、ルイス構造による共鳴構造を図解する
11	共有結合と分子の形、VSEPR 理論	9.1, 9.2 節、分子の形を分類分けする、電子群の数と取りうる分子構造との関連性、VSEPR 理論で分子やイオンの形を予言する
12	分子の極性、原子価結合法	9.3~9.5 節、分子の極性を予言する、化学結合は原子軌道同士の間で形成される、軌道単位図
13	混成軌道、多重結合、共鳴	9.6 節、混成軌道と VSEPR 理論、 σ 結合と π 結合を区別する、多重結合を説明する、分子内の各原子が利用する混成軌道を判別する
14	分子軌道論、全講義のまとめ	9.7 節、分子軌道論の概念を学ぶ、二原子分子の結合と軌道相互作用を説明する、後半の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Hoppii にアップロードされている教材の該当箇所を読んで予習・復習をして、さらに、授業後には課題テストに解答して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）」、小島憲道 監訳、東京化学同人、税抜 3200 円 できるだけ早めに購入してください。購入方法は専任の先生の方針や指示に準じます。

【参考書】

「P.Atkins・J.Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第 8 版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

自宅等からのオンライン参加の学生については、ハイフレックス授業への出席を必須とします。オンデマンドビデオの視聴だけの参加は認めません（4 月 28 日の第 4 回は除く）。

期末試験（40%）、授業後の課題テスト（40%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では電卓のみ持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度後期に上記内容の講義を行ったところ、「もっと前に習いたかった」という意見が出たので、「物理化学概論 I」と「同 II」でお互いの内容を交換することとした。続いて、2016、2017 年度は本質的な改善を求める意見は見当たらなかった。ブラディの教科書は概して好評であった。2018 年度の途中で、期末試験での主評価だけでは試験範囲が広すぎて平均点が極めて低くなる恐れがあると懸念し、急速、中間試験を「持ち込みなし」に変え、期末試験と中間試験の二つで成績を等配分で評価することとした。2019 年度は特段の意見はなかった。2021 年度は極めて好評だった（高校で学習した化合物について様々な観点で知ることができた。暗記していた事柄の理屈を知ることが出来、興味をもって受講できた、など）課題テストのフィードバックでは、正解であっても復習用に解説を付けて欲しいとの意見があったので、2022 年度はできるだけ対応する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークにつながった PC が必要です。

Hoppii に登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。

【その他の重要事項】

授業に遅刻したり、授業中に中座したりしないでください。対面授業の場合は、忘れずに電子出席登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Students will receive education about the basic fields of chemistry. You can develop not only study skills required in university-level science courses but critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge. Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, and the basics of chemical bonding.

Students will be expected to have completed the required assignment tests after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 40 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at Hoppii.

MAC200YB

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平衡状態の熱力学は化学の根本理論の一つであり、19世紀末、その基本概念については現代の姿にまでおよそ達していた。アボガドロ数個の粒子の集団が演ずる自然現象を、たった8個の状態関数だけで定量的に記述できるということが、熱力学の特質であり、学ぶ者にとっての醍醐味であるとも言える。この授業では、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーといった状態関数およびエネルギーの移動形態である仕事と熱に焦点を当てて、それら諸量の本質の意味を理解し、練習問題を通して相転移や化学平衡現象への応用力を養う。

【到達目標】

(1) 熱力学の基本概念である系と外界を設定し、それらの間のエネルギー移動の形態を知る。(2) 熱力学第一法則と第二法則に慣れ親しみ、熱機関の発達や永久機関の不合理性と関連付ける。(3) 閉鎖系のエントロピー増加則と熱力学第二法則に関する数学的表現を、微分・積分形の両方で使いこなせるよう習熟する。(4) 熱化学を様々な実例に応用できるよう、標準生成エンタルピーや絶対標準エントロピーの運用手順を把握する。(5) 8つの状態関数とそれらの変化量に関わる数学的表現を学ぶ。(6) 化学反応に関わる自然現象を追究するに当たり、ギブズ自由エネルギー変化を評価することの有用性を実感し、気相化学反応や相転移現象を例にして開放系の熱力学理論の初歩を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。YouTube で講義録画をストリーム配信します。毎回、授業が終わってから、自宅で Hoppii のテスト課題を解いて提出して頂きます。テスト課題の公開までには授業日から数日かかることがあります。テスト課題の提出締切後に、正解とコメントと得点が Hoppii 上で自動フィードバックされます。

(1) 9月に入ってから対面授業の場合

主にパワーポイントを使って説明し、式変形の詳細などには黒板書きも利用します。パワーポイントの全内容を、4スライド分1ページにまとめて配布します。ときどき質問を投げかけて、答えや解答方針を口頭で説明してもらいます。

(2) 9月に入ってからハイフレックス授業の場合

オンライン参加の学生には Zoom の画面共有を用いて、教室内の学生にはプロジェクターでパワーポイントのスライドを示します。黒板で文字や数式を書き示すこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介、熱力学の歴史と必要性、その意義や恩恵	2回目以降の授業内容の紹介、熱力学を学ぶ理由、熱力学の系譜
2	熱力学の基本概念、系の種類と状態関数	系と外界、8つの状態関数、可逆過程と不可逆過程、相転移、等温変化、断熱変化
3	エネルギー保存則、熱力学第一法則	内部エネルギー、熱と仕事、体積の膨張と収縮、PV 仕事の表現、状態関数の微小変化
4	化学反応とエンタルピー	標準生成エンタルピー、標準反応エンタルピー、定圧過程下のエンタルピー変化と熱、物性表の見方、熱測定、発熱と吸熱
5	温度とエントロピー、熱力学第二法則の分子論的説明	量子準位への粒子配分、ボルツマン分布、熱力学的宇宙のエントロピー増加、自由膨張
6	熱力学第二法則の基礎と応用	クラウジウスの記述、ケルビン卿の記述、循環過程と熱機関、熱容量の定義、定積熱容量と定圧熱容量
7	熱機関とカルノーサイクル	蒸気機関、ヒートポンプ、カルノーサイクルの4ステップ、断熱膨張
8	化学反応とエントロピー	化学反応のエントロピー変化と自発性、等温定圧過程でのギブズ自由エネルギー変化、熱力学の基本方程式

9	化学反応とギブズ自由エネルギー	自由エネルギーの圧力依存性と温度依存性（理想気体）、標準生成ギブズ自由エネルギー、PV 仕事と有効仕事
10	化学反応に関する諸量、化学ポテンシャル	化学量論係数、反応進行度、反応エンタルピーと反応エントロピーと反応ギブズ自由エネルギー、化学ポテンシャル
11	化学平衡の法則（1）	反応の自発性、理想溶液の定義、モル分率と反応商、化学平衡の法則、平衡定数、混合によるエントロピー増加
12	化学平衡の法則（2）	気相化学反応、圧平衡定数と標準反応ギブズ自由エネルギー、ドルトンの法則、アンモニアの合成反応
13	相転移と化学ポテンシャル（1）	状態図、気液平衡線、クラペイロン・クラウジウスの法則
14	相転移と化学ポテンシャル（2）	1成分系の化学ポテンシャルの温度依存性、同じく圧力依存性、蒸気圧の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】式変形や具体的計算に必要な高校生レベルの数学、とくに指数・対数関数と微分・積分を復習しておきます。前週のプリントの内容を授業前に見て、記憶を呼び覚ましておきます。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。熱化学や化学平衡の最終式や実例に関しては、高等学校の「化学」の教科書に載っていることが多いので、高校時代の教科書や問題集を見返すことには意義があります。

【参考書】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（下）」、小島 監訳、東京化学同人
「P.Atkins・J.Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

自宅等からのオンライン参加の学生については、ハイフレックス授業への出席を必須とします。オンデマンドビデオの視聴だけの参加は認めません（オンデマンドビデオ視聴を特に指示している回は除く）。

期末試験（40%）、授業後の課題テスト（40%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では電卓のみ持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度には、「抽象的な法則の説明が多いのでもっと実例をあげて欲しい」との意見が出された。試験答案をみると、繰り返し言及したことについても抜け落ちている学生が多いので、内容を少し平易にし、要点のみ伝える必要があると感じている。2017年度以降の3年間は特段のコメントはなかった。2021年度はハイフレックス授業になったが、総じて好評だった。コメント例は次の通り。

・内容は難しかったが、授業の録画が公開されているので、復習するときに何度も見直して勉強できてとても良かった。
・対面で授業を行っている数少ない講義の一つで、毎週水曜日がとても楽しかった。

【学生が準備すべき機器他】

自宅ではネットワークにつながった PC が必要です。

Hoppii に登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。対面で授業に出席の際は、忘れずに電子登録してください。

【その他の重要事項】

前期の物理化学概論 I を履修していなくても問題ありません。関数電卓は必需品なので準備しておいてください。

【Outline (in English)】

Equilibrium thermodynamics is the basic theory of chemistry, the fundamental concepts of which had reached their present form at the end of the 19th century. Any system containing the vast number of particles can be satisfactorily described by eight state functions alone. This aspect of thermodynamics has been fascinating many scientists for more than 150 years. A request will be made to pay particular attention to the state functions called internal energy, enthalpy, entropy, and free energies, as well as the energy transferred between the systems as heat and work. The main objective of this class is to acquire the knowledge of these quantities and learn the problem solving skills on phase transitions and chemical equilibrium.

Students will be expected to have completed the required assignment tests after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at Hoppii.

BAM200YB

生理病理学**丸井 朱里**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生理学」とは、主に生体の機能や作用についての学問であり、さまざまな病理・病態を理解する上での基礎となる学問である。「生理学的」という言葉は、生体内での正常な過程を意味し、しばしば「病理学的」という言葉の対語として用いられる。本講義では、生理学の基礎的な内容について幅広く取り扱い、生理機能についての体系的な理解を目指す。また、生活習慣病などの、身近な疾病に関する病理・病態についても取り上げる。

【到達目標】

生理学の基礎的な内容について体系的に理解すること。また、生理機能の異常により生じるさまざまな疾患の病理・病態について理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

神経系、骨格系、循環・呼吸系、内分泌系などの生理機能について、基礎的な内容を解説する。それぞれの生理機能の異常により生じる疾患の病理・病態についても紹介していく。授業終盤に、講義の理解度を把握するために小テストもしくはミニレポートを各回実施する。また講義後には質問や感想を提出してもらい、学生の理解度を考慮しながら講義を進めていく。適宜、課題に対する講評や解説について全体にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生理学、病理学の基礎	恒常性の維持、生活習慣病
2	血液と体液	体液区分、血液細胞
3	循環系	心臓の循環調節
4	呼吸系	ガス交換と呼吸運動の調節
5	消化系	消化器の運動・吸収
6	尿の生成、排泄	腎機能、体液調節
7	代謝	基礎代謝、代謝測定
8	体温調節	熱収支、概日リズム、性周期
9	内分泌系	ホルモンの種類と作用
10	脳	ヒトの脳、睡眠
11	筋収縮	骨格筋、心筋、平滑筋
12	神経系	神経系の基礎、自律神経系
13	感覚系	視覚・聴覚などの感覚器
14	期末試験	これまでの講義内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。各回の小テストやミニレポートは成績評価に用いられません。内容理解・復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

特になし。講義内容に関連する資料を適宜配布する。

【参考書】

やさしい生理学 彼末一之・能勢博 編 南江堂
はじめの一步のイラスト病理学 深山正久 編 羊土社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）、期末試験（60 %）、平常点（10%）の成績により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の量やスピードに注意する。

【Outline (in English)】

Physiology is an academic discipline for understanding of function of organisms, is a basis for understanding of various pathologies. The term “physiological” means a normal body condition, and is often used as a term opposite to the term “pathological”. In this lecture, we deal with fundamental contents of physiology broadly and aim at systematic understand of physiological functions. We will also cover the pathology related to familiar diseases.

BLS300YB

細胞情報学

川岸 郁郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての細胞は、自らをとりまく環境や細胞内の環境変化を感知し、それに対して適切な応答を引き起こす「シグナル伝達」という能力を備えている。本講義では、細胞生物学 I, II, 生物化学 I, II, 分子生物学 I, II, 生物物理学 I, II, および細胞構造機能学 I, II, 蛋白質構造機能学 I, II, ゲノム構造機能学 I, II で学んだ内容を踏まえ、真核細胞・原核細胞における細胞外刺激受容と細胞内シグナル伝達の分子機構およびその研究方法について、具体例（とくに感覚応答系）とともに学ぶ。

【到達目標】

細胞内シグナル伝達の基礎的概念および基本的な研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

あらゆる細胞は細胞外からのシグナルを受け取りそれに応答する。その仕組みを理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、シグナル伝達の原理について概説し、真核細胞および原核細胞におけるシグナル伝達の分子機構について解説する。とくに感覚応答系については詳述する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	受容体と細胞内シグナル伝達系
第2回	受容体-序論	受容体の分類と構造・機能
第3回	受容体-1	イオンチャネル共役型受容体
第4回	受容体-2	Gタンパク質共役型受容体
第5回	受容体-3	酵素共役型受容体
第6回	中間テスト-1	ここまでの講義内容に関するテスト
第7回	受容体下流の経路-1	二次メッセンジャー
第8回	受容体下流の経路-2	蛋白質キナーゼカスケード
第9回	受容体下流の経路-3	アダプター、足場タンパク質など
第10回	中間テスト-2	ここまでの講義内容に関するテスト
第11回	真核細胞の感覚応答系-1	視覚
第12回	真核細胞の感覚応答系-2	嗅覚・味覚
第13回	真核細胞の感覚応答系-3	その他の感覚
第14回	原核細胞の環境応答系	二成分制御系等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第2版 B. Alberts 他著 南江堂
ストライヤー 生化学 第7版 東京化学同人
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。
＜評価基準＞細胞内シグナル伝達機構の基本概念を理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニターする。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

Signal transduction in a cell or between cells is essential for any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn general mechanisms underlying cellular signal transduction, with considerable emphasis on animal and bacterial environmental sensory systems, and approaches to study them, based on the knowledge gained from the lectures, Cell Biology I, II, Biological Chemistry I, II, Molecular Biology I, II, Biophysics I, II as well as Cell Structure and Function I, II, Protein Structure and Function I, II, and Genome Structure and Function I, II.

BLS300YB

神経科学**高田 耕司**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを含む動物の中樞・末梢の神経系は、個体と外界をつなぐ情報処理システムです。神経系によって、環境の変化を感知し、生理機能が調節されます。生命を維持し、種を存続させるための行動も神経系の働きによるものであり、記憶・学習・情動・意思決定などの認知・精神機能も神経系によって営まれます。この授業において受講生は、まず、神経系の「組織学的成り立ち」と「生理学的機能」および神経細胞が有する「情報伝達の機構」について学びます。次に修得した基礎知識にもとづいて、記憶のメカニズム、危険薬物の作用、神経変性疾患、精神疾患などの学習を進め、生物学と医学の両面から、神経系が司る身体および精神の活動の理解を深めます。

【到達目標】

- 1：脳・神経系の全体像が説明できる。
- 2：神経系の細胞群の特徴と機能が説明できる。
- 3：神経の伝導と膜電位の関係を説明できる。
- 4：シナプスにおける神経伝達の分子機序が説明できる。
- 5：神経伝達物質とその受容体の種類と特性について説明できる。
- 6：神経系への危険薬物の作用と精神疾患との関連について説明できる。
- 7：記憶や学習のなりたちや機序について説明できる。
- 8：うつ病、双極性障害、神経変性疾患と神経系の関係について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各授業時の冒頭に配付する資料に沿って講義を進め、解説にはパワーポイントと板書を併用します。また、予習および復習を目的とした複数の課題を提示し、学習支援システムを通じて提出を求めます。提出期限後には、リクエストに応じて課題の解説等のフィードバックを行います。質問に対しては授業時に随時返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系 1	中枢神経系の構成と構造
2	神経系 2	末梢神経系の構成と構造
3	神経系の細胞群	神経細胞とグリア細胞
4	生体膜の役割 1	伝導・伝達と静止電位の形成機序
5	生体膜の役割 2	等価回路による膜電位の表現
6	生体膜の役割 3	活動電位による興奮の伝導
7	シナプス伝達 1	シナプス伝達概論：神経伝達物質
8	シナプス伝達 2	イオンチャネル型受容体による伝達
9	シナプス伝達 3	代謝調節型受容体による伝達
10	シナプス伝達 4	報酬回路－危険薬物と精神疾患
11	脳の高次機能 1	学習と記憶のなりたち
12	脳の高次機能 2	学習と記憶のメカニズム
13	脳の高次機能 3	気分障害と不安障害
14	脳の高次機能 4	神経変性疾患とプロテオスタシス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業時には次週に向けた予習および復習用の課題を発表します。受講者は約 1 時間の自習によって解答を用意し、学習支援システムを通じて提出します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考書欄を参照ください。

【参考書】

授業で使う配付資料の大半の図表は下記の書籍から引用します。同書は図書館に蔵書されており、予習・復習に役立ちます。
カンデル神経科学 Fifth Edition 金澤・宮下監修（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成度（授業内容の理解度）は筆記による期末試験で、学習意欲は授業時の態度（平常点）と提出された課題の内容で評価します。成績は、定期試験 70%、平常点・課題 30% で算出します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートにおいて「オンデマンド授業なので復習しやすかった」および「面白かった」との意見を 4 名の学生（受講生の 1 割弱）からもらいました。スライドの内容と説明の仕方をさらに洗練することで、同様の受講生が増えるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の遠隔授業の場合は、学習支援システムおよび Google drive を利用します。インターネット環境と資料印刷のためのプリンターが必要です。

【Outline (in English)】

Central and peripheral nervous systems are the information processors to connect an individual animal with outside world. Animals sense environmental changes and regulate their physiological functions by the nervous systems, resulting that animals survive for prosperity of the species. Cognitive functions such as memory and learning, as well as mental activity, are driven by the central nervous system of human. The aim of the course "Neuroscience" is to help students acquire an understanding of the fundamental structure and function of the nervous system including the molecular mechanism of neuronal signal transduction. After the students have studied these basic themes, this course deals with several scientific topics including neuronal actions of dangerous drugs, mechanisms of memory, and pathogenesis of neurodegenerative and mental diseases.

BAM300YB

分子免疫学

金山 剛士

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然免疫と獲得免疫について概要を学び、免疫系全体の仕組みと個別の分子機構を理解する。また、免疫細胞の種類とその役割、分化経路を学ぶ。免疫に関連する疾患の発症メカニズムと免疫系を標的とした治療法について学ぶと同時に、フローサイトメトリーやオミックス解析といった免疫研究の技術原理を基礎から最新のものまで幅広く学ぶことで、免疫学・血液学・医学における一般的な素養を身につけることを本授業の目的とする。

【到達目標】

基本的な免疫系の機構と、個別の免疫細胞の役割や分化機構についておおまかに理解する。様々な疾患やその治療法における免疫の関わり、あるいは免疫系を解析するための技術原理について学ぶことで、免疫学や医学における基礎的な素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントで作成された資料および配布資料にて内容を説明する。授業中に行う 10～20 分程度の小テスト、あるいは A4 用紙 1 枚程度のレポートを出題することで授業の理解を深める。最後の授業で期末試験を行い、下記基準に沿って成績評価を行う。期末試験：40 %、小テスト/レポート：40 %、出席・授業態度・発現内容など：20 %。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	免疫学概説	免疫系の概要と免疫学の歴史
2	免疫系と造血系	獲得免疫と自然免疫の違い、免疫細胞の産生機構
3	自然免疫（1）	単球、マクロファージ、顆粒球
4	自然免疫（2）	NK 細胞、自然リンパ球
5	自然免疫（3）	樹状細胞
6	獲得免疫（1）	T 細胞
7	獲得免疫（2）	B 細胞、形質細胞
8	獲得免疫（3）	肥満細胞、NKT 細胞
9	免疫関連疾患とその治療（1）	感染症・癌とワクチン
10	免疫関連疾患とその治療（2）	炎症と生物製剤、アレルギーと抗アレルギー薬
11	免疫関連疾患とその治療（3）	癌・免疫不全と骨髄移植、癌と CAR-T 細胞療法・免疫チェックポイント阻害薬
12	免疫学の基本的な研究手法（1）	文献検索、遺伝子改変マウス、動物モデル、抗体作製
13	免疫学の基本的な研究手法（2）	フローサイトメトリー、オミックス解析技術
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業に必要な準備・復習のための授業時間外学習は 4 時間程度を基本とする。A4 用紙 1 枚程度で表現可能なレポート、あるいは前回授業内容に関する小テストを授業中に課す。作成するレポートは文献検索や、個人のアイデア創出が求められる内容となる。レポートは原則、出題された 2 週後の授業終了時までに提出。小テストやレポートの講評を通じて理解度の確認を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

免疫ペディア（羊土社）他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度、表現力、発想力を重視し、レポート・小テスト（約 40 %）、期末試験（約 40 %）、授業中の発言・質問などの授業への貢献（20 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォン等、Web 検索及びオンライン時授業時に必要なデバイス。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to foster the fundamental knowledge of immunology. You will learn the molecular mechanisms of innate and adaptive immunity and the role and differentiation pathway of immune cells. You will also learn the pathogenesis of immune-related disorders, the mechanisms of therapies targeting immune system and basic principles of techniques for researches in immunology and medical science.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn history of immunology and to understand the molecular and cellular mechanisms of immune system and the relationship of immune system in diseases and therapies.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

[Grading criteria/policies]

Your overall grade in the class will be decided as follows.

Term end examination: 40 %, Short test or reports: 40 %, in class contribution: 20 %

BLS300YB

バイオイメーjing

佐甲 靖志

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小さな生物試料を見る顕微鏡技術は古い歴史を持ちつつ発展し、様々な展開を見せています。生物顕微鏡技術の基礎から最先端まで、原理と応用例を紹介します。

【到達目標】

生物学の広い分野において必須の研究機器となっている光学顕微鏡の原理と、最新の発展・応用例を学ぶことによって、自身の研究で顕微鏡を使うとき、あるいは顕微鏡を使った先端研究論文を読むときに、正しい判断ができるようになることを目指します。生物試料を見ることに、どんな意義と技術的な限界があるのか、"Seeing is believing."を越えた理解を身につけてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義

期末試験の他に、中間レポートを課します。レポート問題や講義に関する質問はメールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と目的について、光学顕微鏡技術の歴史など。
第 2 回	光学顕微鏡概説 1	位相差顕微鏡、微分干涉顕微鏡、蛍光顕微鏡など基本的な光学顕微鏡技術の解説。
第 3 回	光学顕微鏡概説 2	各種レーザー顕微鏡など、あたらしい顕微鏡技術の概説。
第 4 回	超解像顕微鏡 1	顕微鏡の分解能はどのように決まるか。普通の顕微鏡では達成できない高分解能を達成する技術の紹介。
第 5 回	超解像顕微鏡 2	超解像顕微鏡の続き。光を使って顕微鏡下で粒子を操る方法について。
第 6 回	分子薬理学とイメージング	多くの薬は細胞膜上の受容体に作用することで機能する。本講義では、G タンパク質共役型受容体を例に、薬の作用メカニズムについて概説し、イメージングを用いた最近の研究について解説する。
第 7 回	膜受容体の動態・機能解析	1 分子計測法によって、細胞膜蛋白質の反応や構造のダイナミクスを追跡する方法。
第 8 回	フォトンカウンティング計測 I	フォトンカウンティング検出器を用いたイメージングと計測法（FCS、FLIM等）について
第 9 回	フォトンカウンティング計測 II	フォトンカウンティング計測で蛋白質の構造ダイナミクスを計測する方法
第 10 回	発生生物学におけるバイオイメーjing I	動物の身体は、頭—尾、背—腹、左—右の軸に非対称な構造を持っている。この非対称性がどのように形成・維持されるのか、分子、細胞、胚のスケールで概観する。
第 11 回	発生生物学におけるバイオイメーjing II	バイオイメーjingが、どのように古典的実験手法を補い発生現象の理解に貢献してきたか、特に近年発展がめざましい発生動態の定量計測を基礎とした研究を概観し、新しい研究分野の発展の方向性を探る
第 12 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing I	アクチンミオシン系を中心に、タンパク質分子モーターの分子の特性と機能を概説し、動作原理解明研究の為の 1 分子イメージング技術について紹介する。
第 13 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing II	タンパク質分子モーター 1 に引き続き、動作原理解明研究に関する 1 分子イメージング技術を紹介する。
第 14 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing III	分子モーターの産業利用への試みについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 もしも、自分の研究課題で、顕微鏡を使ったらと想像し、講義に望んでください。概説部分については中間レポートを課します。また、授業中に参考文献を提示することがありますので、読んで理解してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

【参考書】

1. 限界を超える生物顕微鏡（見えないものを見る）宝谷絃一・木下一彦編 日本分光学会・学会出版センター
2. 改訂顕微鏡の使い方ノート 野島博編 羊土社
3. 光と色の 100 不思議 左巻健男監修 桑島幹・川口幸人編著 東京書籍
4. 新・生細胞蛍光イメージング 原口徳子・木村宏・平岡泰編 共立出版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (20%), 期末テスト (80%) の合計で判定します。

【学生の意見等からの気づき】

現場の若手研究者との双方向なやりとりを通じて、バイオイメーjingの実際を学んでもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

分子生物学、細胞生物学、生化学などの基本知識、また、高校生レベルの光学・数学の知識を前提にしています。

【Outline (in English)】

The technology of optical microscopy to see small biological things has developed with an old history, and is continuously developing with various innovative ideas. We will introduce principles and application examples of biological optical microscopies from the fundamentals to the cutting edge.

BLS100YB

生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 II では多種の酵素による反応過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念 1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念 2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝 1	解糖系について
6	糖代謝 2	糖新生について
7	糖代謝 3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝 1	脂肪酸分解
11	脂質代謝 2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成 1	明反応
14	光合成 2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 ノートや参考書を用いた復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】

成績評価法：期末テスト: 60%, レポートや中間テスト: 40%

評価基準：細胞内で起こっている糖、脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes.

BLS100YB

生物物理学 I

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半では流体力学を概説し、生命科学において重要な役割を果たす液体のふるまいについて学ぶ。

【到達目標】

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第 2 回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する。
第 3 回	力学 1	単位系について解説する。
第 4 回	力学 2	運動について解説する。
第 5 回	力学 3	力と運動方程式について解説する。
第 6 回	力学 4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第 7 回	力学 5	過減衰系の運動について解説する。
第 8 回	まとめと演習 1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第 9 回	流体力学 1	静力学について解説する。
第 10 回	流体力学 2	表面張力について解説する。
第 11 回	流体力学 3	非粘性流体の流れについて解説する。
第 12 回	流体力学 4	粘性流体の流れについて解説する。
第 13 回	流体力学 5	レイノルズ数による流れの特徴づけについて解説する。
第 14 回	まとめと演習 2	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

ゼロからの力学 I, II, 岩波書店,
Essential 細胞生物学 原書第 2 版, 南江堂

【成績評価の方法と基準】

レポートや中間テスト (40 %) と期末試験 (60 %) の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of key principles of fluid mechanics.

BLS100YB

生物物理学 I

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。また、基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。

【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	タンパク質の構造解析について概説する。
5	生体熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
6	生体熱力学の基礎 2	熱力学第一法則を概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう。
8	生体熱力学の基礎 3	熱力学第二法則を概説する。
9	生体熱力学の基礎 4	ギブスの自由エネルギーについて概説する。
10	生体熱力学の基礎 5	化学ポテンシャルについて概説する。
11	生体熱力学の基礎 6	反応ギブズエネルギーについて概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞のエネルギー通貨	ATP の構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する。
14	まとめと演習 2	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

【参考書】

Essential 細胞生物学 第 2 版, 南江堂

細胞の分子生物学 第 5 版, ニュートンプレス

物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%)・期末試験 (60%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が読みにくいという指摘があったので注意する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用することがある。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline (in English)】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology.

BLS100YB

細胞生物学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位での生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
2	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通した核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社
エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂

他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50 %・中間試験（1と2）20 %・レポート課題 15 %・平常点 15 %の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPoint 図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を充進させる為には望ましくないと判断しました。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業内での質問を随時受け付ける。
財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS100YD

細胞生物学 I

小見 美央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞とは何か、生命とは何か、全ての生物に共通しているものは何なのか。細胞の構造、細胞内小器官の機能、生体膜と膜タンパク質といった基本事項を学び、現在世界に大きなインパクトを与えている、ウイルスと人類の戦いを細胞生物学の視点から理解する。

【到達目標】

細胞の構成を学び、生命が機能する仕組み、生命体とウイルスとの違いを統合的に理解する。本講義では主に動物細胞を扱う。私たちにあって最も身近な生物であるヒトを例にとり、ウイルスが体内で増殖する機構や体の防御機構について細胞生物学の視点から理解を深めていく。また、科学の世界では最新の研究成果はほぼ全て英語で公開されるため、科学を正しく理解するためには英語で書かれた情報源を進んで探索し理解する力が不可欠であることから、講義内でも英語のリソースを読む機会を設ける。学生がインプットした知識を問題解決に向けてアウトプットすること、ひいては問題解決のために必要な知識を自力で見極め、探索し、アウトプットできるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行う。適宜、参考資料として動画や外部ウェブサイトを紹介しながら講義を進める。プレゼン作成課題を3つ課す予定（対面授業の回数によってうち一つは他の課題に変更する可能性もある）。プレゼンは教員だけでなく学生同士でも共有し、フィードバックしあう。毎回の講義の後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	なぜ生物学を学ぶのか プレゼン課題のテーマ 生物とは何か 細胞発見の歴史
第2回	細胞とは何か	細胞の構造
第3回	輸送	細胞膜 受動輸送、能動輸送 エンドサイトーシス
第4回	エネルギー産生に関わるオルガネラ	解糖系 クエン酸回路 酸化のリン酸化 糖新生
第5回	オルガネラ	単膜系オルガネラとその機能 細胞内共生説
第6回	細胞骨格	細胞骨格の種類 細胞間接着
第7回	メンブレントラフィック	モータータンパク質と積み荷
第8回	細胞周期	体細胞分裂 減数分裂
第9回	細胞間シグナル伝達	神経 初期発生
第10回	細胞内シグナル伝達	イオンチャネル Gタンパク質
第11回	免疫	自然免疫と獲得免疫
第12回	獲得免疫	細胞性免疫と液性免疫
第13回	自然免疫	自己と非自己の識別 拒絶反応
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の最後に1問クイズを出すので、次回授業までにテキストの中から答えを探してきてもらう。また、授業で用いたスライドおよび授業内で紹介する参考動画、オンライン授業の場合は講義の動画を Hoppii にアップロードするので適宜必要に応じて利用する。さらに、セメスターを通してプレゼン作成のため様々なリソースを使い調査することが求められる。

【テキスト（教科書）】

Cell Biology by the Numbers (<http://book.bionumbers.org/>)

ハードカバーを購入することも可能だが、上記ウェブサイトにて全文無料（英語）で公開されており、PDF が無料でダウンロード可能。授業では日本語で解説する。

【参考書】

ブルーバックス カラー図解 新・大学生生物学の教科書 第1～3巻（「Life: The Science of Biology Twelfth Edition」の抜粋和訳版）
理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編
Essential 細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts

【成績評価の方法と基準】

プレゼン課題（25%×2+最終40%）および平常点（10%）で評価する。（対面授業の回数に応じて、プレゼン課題のうち1つを別形態の課題に変更する可能性あり。）

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドに関して、図が多すぎて字が少なすぎるとの指摘があったため、バランスを改善します。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業においてもスマートフォンとパソコンまたはタブレット端末があると便利ですが、必須ではありません。資料配布や課題提出には Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

14回の講義のうち7回はオンラインで実施する予定ですが、対面授業の回数を増やしてほしい等の要望があれば教員に連絡してください。シラバスでは便宜上第7回までを対面、その後オンラインとしています。初回は対面で実施し、以降は履修生と相談しながら決定することとします。

【Outline (in English)】

This course provides a firm foundation in basic cellular biology with an emphasis on eukaryotic cell structures. Topics include organelles, membranes, membrane proteins, and cytoskeletons. Upon completing this course, students will be able to diagram the structure of eukaryotic cells, describe structures and functions of organelles, understand concepts such as signal transduction, intracellular transport, and function of the cytoskeleton. We will also discuss the arms race between viruses and us, and in the end, students will be able to comprehend the current situation of COVID-19 pandemic from cellular biology-point of view.

BLS100YB

細胞生物学 I

川岸 郁朗

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の基本単位である細胞の構造を理解する。とくに、生体膜と細胞骨格の構造と性質およびそれらが関与する細胞機能について理解する。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成、および細胞としての反応性や細胞単位生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

細胞は生物の基本単位であり、その構造と機能を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、おもに真核生物の細胞の構造について、とくに生体膜と細胞骨格に重点を置いて概説する。さらに、生体膜と細胞骨格が関与する代表的な細胞機能として、細胞のシグナル伝達や細胞運動のメカニズムについて概説する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	生命の階層性、細胞とは（大きさ、形）、細胞小器官の構造、細胞内区画化の意義
第2回	生体膜-1	脂質二重層
第3回	生体膜-2	脂質二重層の流動性
第4回	生体膜-3	膜蛋白質
第5回	これまでの復習-1	中間テスト
第6回	膜輸送-1	生体膜の透過性
第7回	膜輸送-2	受動輸送、イオンチャネル
第8回	膜輸送-3	能動輸送
第9回	細胞のシグナル伝達-1	受容体
第10回	細胞のシグナル伝達-2	細胞内シグナル伝達因子
第11回	これまでの復習-2	中間テスト
第12回	細胞骨格-1	微小管
第13回	細胞骨格-2	ミクロフィラメント、中間径フィラメント
第14回	細胞骨格-3	細胞骨格の動態、モータータンパク質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 羊土社
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価基準＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞の構造、とくに生体膜と細胞骨格の構造と機能について理解しているか、その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか、よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタできるようにする。ただし、小テストの点数は成績評価には含めない。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向性を確保する。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand basic structural features of the cell, a smallest unit of any organisms, with much emphasis on structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

PRI100YB

生物統計学

谷合 弘行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的推測の基本的な考え方を理解し、データ分析における標準的な手法を習得します。

【到達目標】

まず、記述統計の手法を習得し、得られたデータの傾向などを読み取る操作ができるようになります。

そして、統計的推測の仕組みを理解することで、データを生成しているであろう構造についての推定や検定について考えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

統計学とは得られたデータへ我々が与える解釈に関する方法論のことですが、統計的手法は多岐にわたります。本講義ではそれら手法を多く紹介して慣れることよりも、それらの基礎にある考え方の理解を目指します。

授業は板書とプリント配布を併用して行います。試験は資料持ち込み可ですが、問題としては基本的なものを予定しています。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	準備としての確率論 (1)	確率の意味、積分
2	準備としての確率論 (2)	分布、期待値、分散
3	準備としての確率論 (3)	二項分布、正規分布
4	準備としての確率論 (4)	条件付き確率、共分散
5	準備としての確率論 (5)	正規分布の意味
6	統計モデルと統計量	母集団と標本、最小二乗法
7	統計的推定 (1)	推定量の良さ、最尤推定量
8	統計的推定 (2)	信頼区間、母平均の区間推定、標本数の決定
9	統計的推定 (3)	カイ二乗分布、t 分布、母分散未知での推測
10	仮説検定 (1)	検定の考え方、検定の良さ
11	仮説検定 (2)	母平均に関する検定（母分散既知/未知）
12	回帰分析 (1)	線形回帰、重回帰
13	回帰分析 (2)	線形回帰の応用
14	その他の話題	その他の話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義で話されたことで興味を持ったことがあれば、参考書などを参照して復習しながら理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

藤澤洋徳（2006）『確率と統計』、現代基礎数学 13、朝倉書店。

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験（資料持込可）の結果のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めてもらうための例題をさらに増やし、かつ時間も割いて丁寧に解いて見せるように改善する予定です。難易度も若干下げる予定です。

【Outline (in English)】

We will learn the basic idea of statistical inferences and master standard methods in data analysis.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命情報はゲノムに刻み込まれている。生命活動を分子レベルで理解するためには、ゲノムを構成する遺伝子の働きとネットワークを理解することが不可欠である。本講義は、生命活動をゲノムの構造と機能の面から理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では生物がもつゲノムの遺伝子構成とそれぞれの機能についての包括的な理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、ゲノム構造と機能について、特にゲノムの構造に力点を置き、生物がもつゲノムの遺伝子構成から、細胞形成まで解説する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲノムの捉え方	ゲノム構造機能学 I の概要・授業の進め方について解説する。
第 2 回	原核生物の遺伝子構造	原核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 3 回	真核生物の遺伝子構造	真核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 4 回	オペロンの構造 1（転写制御）	ラクトースオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 5 回	オペロンの構造 2（転写翻訳装置による制御）	トリプトファンオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 6 回	遺伝子ネットワーク	ストレス応答機構を中心に遺伝子ネットワークについて解説する。
第 7 回	ウイルスの構造と増殖	主に溶菌性ファージの構造とその増殖メカニズムについて解説する。
第 8 回	中間テスト・解説	遺伝子・オペロンの構造、転写ネットワーク・ウイルスについての理解度の確認と解説。
第 9 回	宿主ゲノムとウイルス DNA	溶原性ファージの溶菌・溶原決定機構について解説する。
第 10 回	ファージの誘発と宿主の感染防御機構	プロファージの誘発機構と宿主のウイルス感染防御機構について解説する。
第 11 回	プラスミド	プラスミドの構造と機能について解説する。
第 12 回	レトロウイルス・トランスポゾン	レトロウイルスやトランスポゾンなど可動性遺伝子因子の機能について解説する。
第 13 回	DNA 組換え機構	DNA 組換え（相同組換えと部位特異的組換え）機構について解説する。
第 14 回	癌化・老化・寿命とゲノム	癌化・老化・寿命に関係する遺伝子について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。ゲノム構造と機能の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。
細胞の分子生物学（ニュートンプレス）
生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）
組換え DNA の分子生物学 遺伝子とゲノム（丸善）
分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20 点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

A genome is the complete set of genetic information in an organism. This course introduces genomic science to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the function and structure of the genomes in organisms. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I I

皆川 周

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象に関わる全ての遺伝情報はゲノムに搭載される。本講義では、ゲノムの構造と機能、および機能発現制御について解説します。分子生物学の基本概念に基づき、「ゲノムの構造機能」について「遺伝子の構造機能」とともに紹介します。さらに、全ゲノム情報から展開される「ポストゲノム」について展望していきます。

【到達目標】

ゲノムの構造について、染色体からゲノム上の塩基配列までを統合的に理解する。加えて、ゲノムの機能について、ゲノム複製とゲノム情報発現を分子レベルで理解する。これらのゲノムの知識から、ヒトを含めた多種生物ゲノムの全遺伝情報解説からゲノム構造解析、さらなるゲノム機能解析への変遷について正しく理解する。その上で、現在展開されている新しいゲノム生物学の学術的意義や応用的展望を正しく考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して、学習ノートで授業内容の理解度を深め、演習問題により学習到達度を確認していきます。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲノム生物学の勃興	分子生物学からゲノム生物学へ
第 2 回	遺伝子の構造機能（1）	DNA 複製
第 3 回	遺伝子の構造機能（2）	DNA 情報発現
第 4 回	ゲノム情報（1）	分子生物学のゲノムへの挑戦
第 5 回	ゲノム情報（2）	DNA 構造の解説
第 6 回	ゲノム情報（3）	ゲノム情報の解説
第 7 回	ゲノム情報（4）	ゲノムの全遺伝情報
第 8 回	ポストゲノム（1）	オミクス解析
第 9 回	ゲノムの構造機能（1）	機能的 RNA と ENCODE
第 10 回	ゲノムの構造機能（2）	エピジェネティックスの概要
第 11 回	ゲノムの構造機能（3）	真核生物染色体の階層構造
	ゲノムの構造機能（4）	原核生物の核様体
第 12 回	ゲノムの構造機能（5）	エピジェネティックスの分子機構
第 13 回	ポストゲノム（2）	ゲノム解読の超高速化
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各授業の学習は、学習ノートによる復習と演習問題で確認します。また、本科目を受講するには、専門科目「ゲノム構造機能学 I」「生体分子分析学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることを想定しています。また、「細胞構造機能学 I」「蛋白質構造機能学 I」も修得し、本講義と関連する内容も理解していることを想定します。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ゲノム 4」（著者： T.A. ブラウン 監訳：石川冬木・中山潤一 メディカルサイエンスインターナショナル）
「細胞の分子生物学 第 6 版」（著者： B. アルバート・A. ジョンソン・J. レービン・D. モーガン・M. ラフ・K. ロバーツ・P. ウォルター 監訳：中村桂子・松原謙一 ニュートンプレス）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習の取り組み（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

講義用並びに復習用の配布資料の改訂。

【Outline (in English)】

[Course outline] Genome is defined as the complete sequence of nucleotides in an organism and includes both genes and the noncoding sequences. This course introduces the structure and function of genome and the regulation of genome expression, based on the basis for molecular biology. The latter looks at a view of epigenomics followed by genomics.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genomic replication and expression.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS200YB

細胞構造機能学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その構造を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、原核生物および真核生物の細胞の構造、構造を維持するための仕組み、細胞周期や幹細胞および細胞研究方法について学ぶ。その際、生物の階層構造に留意し、複合的な視点から生命現象を捉えることを目指す。

【到達目標】

生物の基本単位である細胞の構造や機能を理解する。とくに、細胞の構造を維持する仕組みや細胞の機能発現および細胞研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

まず細胞の基本構造について概説する。次に、細胞周期や減数分裂について解説する。さらに、細胞の構造を維持するための細胞骨格や細胞外マトリクスに関して解説する。最後に幹細胞や細胞研究方法について最新の知見をまじえて概説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、試験やレポート等の詳細な講評はオフィス・アワーを活用する。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞とは	生物の階層性および細胞の基本機能／原核細胞と真核細胞の基本構造の比較
2	核の構造と機能	真核細胞の核の構造や核膜、核輸送
3	細胞周期-1	細胞周期のチェックポイント
4	細胞周期-2	がん、アポトーシス
5	減数分裂	有性生殖や減数分裂の仕組みや役割
6	細胞接着	細胞間接着因子や細胞外マトリックス
7	中間テスト	これまでの講義内容の復習
8	中間テストの復習	中間テストのポイントと重要点について解説
9	細胞間シグナル伝達	細胞間にシグナルを伝達する仕組み
10	細胞極性と非対称性	細胞に極性ができる仕組みとその役割
11	体細胞、生殖細胞、幹細胞	体細胞と生殖細胞、幹細胞の違いと細胞の全能性、多能性
12	iPS 細胞	人工多能性幹細胞の発見、作製法、応用例
13	細胞研究法-1	細胞分画、トレーサー実験
14	細胞研究法-2	光学顕微鏡、電子顕微鏡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書等で復習し、理解を深める。授業中に不定期に出される課題に対して、指定の期日までにまとめてレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第 5 版 B. Alberts 他著 南江堂

細胞の分子生物学 第 6 版 B. Alberts 他著 ニュートンプレス
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50 %・中間試験 20 %・レポート課題 15 %・平常点 15 %の成績を総合して評価する。

＜評価基準＞原核細胞と真核細胞の構造や細胞構造を維持するための機構や細胞研究法について理解しているか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure of a prokaryotic and eukaryotic cell, a cell cycle, a stem cell, and a method of a cell study.

The goals of this course are to understand the structure and function of the cell.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS200YB

細胞構造機能学 I

山本 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、タンパク質や脂質、糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって、細胞の構造と機能を学び、生命現象を理解することは生命科学研究に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造（真核生物、細菌、ウイルス）、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象や生命科学研究の手法について学ぶ。

【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。

- 1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役割
 - 2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
 - 3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み
 - 4) これらに関連した疾病とその機序
 - 5) 様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
- また、知識の詰込みのみにならないよう、授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次の講義で解説する。基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめるに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
2	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
3	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
4	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコマパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
5	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
6	中間テスト	これまでの講義内容の理解度の確認
7	中間テストおよび講義の復習	中間テストの解説、重要ポイントの確認・復習（細胞膜、タンパク質の選別と輸送の総括）
8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
11	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
12	バクテリアの細胞骨格と運動	原核生物の細胞構造（細胞膜・細胞壁・骨格）と運動、細胞内寄生体と新興再興感染症
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

【参考書】

- ・THE CELL 細胞の分子生物学 第6版
- ・細胞の物理生物学 第3版
- ・リップニコット イラストレイテッド生化学 第7版
- ・数でとらえる細胞生物学

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

中間テスト（45%）、期末テスト（45%）、平常点（10%）を元に総合的に評価する。

＜評価基準＞

到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また、答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び、考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。

細胞構造機能学 I、蛋白質構造機能学 I、ゲノム構造機能学 I で学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。
大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells and understanding life phenomena are essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures, and methods of life science research.

【Learning objectives】

The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.

- (1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
- (2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
- (3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
- (4) Diseases related to the above and their mechanisms.
- (5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.

In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.

Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.

【Grading criteria /Policies】

＜ Evaluation method ＞

Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).

＜ Evaluation criteria ＞

Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.

In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS200YB

生体分子分析学 I

今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体を構成する高分子の中で、特に核酸に関する分析法を学ぶ。核酸の分離精製、電気泳動、塩基配列解析法などの基本的分析法を中心に、その手法、用途、原理、応用などを学習する。一連の講義を通じて、核酸研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

核酸分析法の原理や基本を理解することにより、自身で実験データから情報を読み取り、実験計画を立てられる思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

状況によりオンラインでの開講となる可能性がある。
授業方法について決定次第、学習支援システムからお知らせする。
毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	核酸の分子特性	核酸の構造と分子特性
第 2 回	核酸の抽出	ゲノム DNA とプラスミドの抽出法
第 3 回	核酸の分離	アガロースゲル電気泳動、パルスフィールドゲル電気泳動
第 4 回	塩基配列の解説	サンガー法、マクサム・ギルバート法
第 5 回	転写開始点の決定	プライマーエクステンション法や S1 マッピングなど
第 6 回	PCR の基礎	PCR の原理、 T_m 値、Wallace 法、酵素の種類
第 7 回	PCR の応用	変異導入、qPCR
第 8 回	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
第 9 回	遺伝子多型の解析	RFLP など遺伝子多型解析法
第 10 回	ハイブリダイゼーション法	サザンハイブリダイゼーション法など
第 11 回	転写解析	ノーザン解析やレポーターアッセイ
第 12 回	核酸とタンパク質の相互作用	FISH 法やゲルシフトアッセイ
第 13 回	タンパク質結合配列の解析	フットプリント法など
第 14 回	ゲノム解析	ショットガン法による全ゲノム配列の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回、授業後に演習問題を解いて提出する他、講義で話した内容について復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて印刷資料または PDF ファイルを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合には、期末試験を 70%、毎週行う演習問題の採点を 30%として成績を評価する。

状況により成績評価の方法と基準が変更になった場合には、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces analysis methods of DNA and RNA. The aim of this course is to help students understand the fundamental principles of methods frequently used in biological research.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to interpret raw data of the biological analyses and plan the research strategies.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process. Short reports of each class (30 %) and term-end examination (70 %)

BLS200YB

生体分子分析学

林 勇樹

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体高分子、特に蛋白質にフォーカスを当てた分析学を学ぶ。まずは蛋白質の構造、性質に関して基本的なことを学習する。それを踏まえて、蛋白質の分離精製、定量、電気泳動法など基本的分析法、そして蛋白質の構造解析、可視化、質量分析、蛋白質間相互作用解析など、最先端の装置を用いた分析法について学ぶ。一連の講義を通じて、蛋白質研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
背景の生化学、物理化学、熱力学を理解し、蛋白質に関する基礎を身につけた上で、蛋白質を扱った実験の内容を理解できるようになる。そして、実際に実験をするときに、どのようにして実験を進めるか、自分で立案、計画できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義の形式は基本的にはすべて zoom で行う予定であるが、一部オンデマンドになる可能性もある。講義の形式に変更がある場合は連絡するので hoppii を毎週確認すること。
パワーポイントスライドなどのプレゼンテーションを行う。適宜、演習やレポート課題などを課す。講義情報を随時、学習支援システムで周知する。基本的には授業計画に則って授業を進行するが、学習状況、理解度、進捗状況に応じて、内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要説明 蛋白質に関する基本的な用語、性質、特徴について概説する。
第 2 回	蛋白質の物理化学的な性質について	蛋白質を構成するアミノ酸残基間に働く相互作用について説明する。 続いて、蛋白質特有の性質である、フォールディングと変性について説明する。
第 3 回	蛋白質の電気泳動	蛋白質研究において基本的な実験手法である SDS-PAGE、Native-PAGE、Blue-Native PAGE、二次元電気泳動について説明する。
第 4 回	蛋白質の検出技術	代表的な蛋白質検出手法である Western blotting について説明する。。
第 5 回	蛋白質の精製	さまざまな蛋白質の精製方法について説明する。
第 6 回	蛋白質の定量方法	さまざまな蛋白質の定量方法について説明する。
第 7 回	蛋白質間相互作用解析	Two-hybrid, SPR, FRET、ITC 等、蛋白質間相互作用解析法について述べる。
第 8 回	酵素反応速度論	触媒活性を持つ蛋白質「酵素」の活性測定方法について説明する。
第 9 回	蛋白質の構造解析その 1	蛋白質の一次構造、二次構造の解析方法について説明する。
第 10 回	蛋白質の質量分析	蛋白質の質量を調べる方法について説明する。
第 11 回	蛋白質の立体構造解析	蛋白質の三次構造、四次構造を解析する方法について説明する。
第 12 回	脂質分析	生体を構成する脂質について概説する。 食品分野、医療分野における脂質分析の解説を行う。
第 13 回	糖鎖分析	「第 3 のバイオポリマー」である糖鎖について概説する。
第 14 回	まとめ	本講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】紹介するテキストや参考書による学習。講義で用いたプリントによる復習など。

【テキスト（教科書）】
特になし。プリントやプレゼンテーションスライドの簡易版を授業支援システムで配布する。または、授業中に適宜紹介する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（適宜行う小テスト、小レポートなど、授業参加態度、小テスト、レポート、演習、）と、テスト（状況によっては課題レポート）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義中のディスカッション、小テスト、レポートなどで学生からの意見や要望を集める。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うスライド資料の簡易版を学習支援システムにアップロードする。印刷して持参したり、各自の端末（PC、タブレット、スマートフォン等）で閲覧するなど、利用して頂きたい。

【その他の重要事項】
最先端の蛋白質研究情報なども提供する。

【Outline (in English)】
This course will show you how to analyze biopolymers, especially proteins. This course covers protein properties and structure, protein purification, protein quantitative analysis, electrophoresis, protein structural analysis, mass spectrometry, protein-protein interaction analysis. The course aims to enable students to get a basic knowledge and understanding about protein research.

BLS200YB

分子微生物学

皆川 周

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微生物は生命科学の理解に大きな影響を及ぼしている。分子微生物学では、人類が「微生物を認知」し、発見された「微生物の多様な機能」に対する「遺伝的な分子構造機能」「生理的な分子構造機能」を通し、近年明らかとされている「ゲノム機能」を紹介する。それぞれを契機とした生命科学へのインパクトも具体的に紹介する。

【到達目標】

「コッホの原則」に基づいた微生物の認識から、「ドメイン説」「コアゲノム／パンゲノム」を介した現代生物学における微生物の位置付けを正確に認識する。さらに、講義中に紹介するウイルス、細菌、古細菌、真菌の多様な遺伝機能と生理機能について分子レベルで理解する。その上で、微生物間相互作用や環境ゲノムを正しく考察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して学習ノートで授業内容の理解度を深め、演習問題により学習到達度を確認していきます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	認知（1）	微生物の発見
第2回	認知（2）	微生物の分類
第3回	多様性（1）	多様な微生物
第4回	多様性（2）	元素循環
第5回	多様性（3）	抗生物質
第6回	遺伝機能（1）	ドメイン説
第7回	遺伝機能（2）	微生物の分子遺伝学
第8回	遺伝機能（3）	微生物の遺伝機能
第9回	生理機能（1）	微生物の環境応答
第10回	生理機能（2）	微生物の分子機能の応用
第11回	ゲノム機能（1）	微生物のゲノム全塩基配列の決定
第12回	ゲノム機能（2）	微生物の水平伝播
第13回	ゲノム機能（3）	環境ゲノム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各授業で取り組む学習ノートで、それぞれの講義内容の復習を推奨します。各授業の復習は、各授業の演習問題で到達度を確認していきます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ブラック微生物学 第2版」（著者：J. G. ブラック 監訳：林英生・岩本愛吉・神谷茂・高橋秀実 丸善）

「微生物学 第5版」（著者：R. Y. スタニエ・J. L. イングラム・M. L. ウィーリス・P. R. バインター 共訳：高橋甫・斎藤日向・手塚泰彦・水島昭二・山口英世 培風館）

「微生物の地球化学」（著者：T. フェンチェル・G. M. キング・T. H. ブラックバーン 訳：太田寛行・難波謙二・諏訪裕一・片山葉子 東海大学出版部）

「培養できない微生物たち」（著者：R. R. コールウェル・D. J. グリメス 監訳：清水潮）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習の取り組み（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の見直し。各講義のポイントの明確化。

【Outline (in English)】

[Course outline] Microbe are major group in living organism on the earth. This course introduces you to the research findings and experiments, representing the discovery of diverse microbes, the molecular function of genetic and physiological mechanisms in microbes, and the structure and function of microbial genomes.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genetic and physiological functions in bacteria, archaea, fungi.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS300YB

バイオインフォマティクス

今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、情報学的手法は、あらゆる分野で活用されており、生命科学でも欠かれない技術となっている。また、この技術発展に伴い、以前はできなかった様々な解析が可能となった。本講義は、生命科学分野における情報処理技術の活用とその生物学的な原理、そして、これによりどのようなことができるのかを解説する。

【到達目標】

バイオインフォマティクスの発展により、生命科学研究がどのように変わったのか、また、これにより何が可能になり、現在、広く用いられている手法にはどのようなものがあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義ではまず、分子進化の基礎について解説する。その後、系統解析や相対性解析など、様々な情報学的手法について説明する。状況により、講義は学習支援システムにアップロードした資料を用いて、Zoomによって行う可能性がある。毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	バイオインフォマティクスの形成、歴史、意義等の概論
2	分子進化	遺伝子やタンパク質の分子進化と分子時計
3	系統解析	系統解析の原理や方法
4	系統樹の種類	系統樹の種類や特徴
5	相対性解析	BLAST や ClustalW を用いた相対性の解析
6	集団の進化①	生物集団に含まれる遺伝子頻度の解析法
7	集団の進化②	生物集団における遺伝子頻度と適応度の関係
8	集団の進化③	生物集団の進化による遺伝子頻度の変化
9	ゲノム解析	次世代シーケンサーの原理と方法
10	アノテーション	塩基配列からの遺伝子予測や機能予測
11	ゲノム配列からの特徴抽出	GC 含量、GC Skew など、ゲノム配列から得られる様々な情報
12	ゲノム構造比較	ドットプロット法
13	様々なゲノム	メタゲノムやパンゲノムなど、様々なゲノム解析法
14	トランスクリプトーム	マイクロアレイや RNA-Seq など、網羅的な転写解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回、授業後に演習問題を解いて提出する他、講義で話した内容について参考書等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- 1「バイオインフォマティクス入門」日本バイオインフォマティクス学会編（慶應義塾大学出版会）
- 2「よくわかるバイオインフォマティクス入門」藤博幸編（講談社）
- 3「はじめてのバイオインフォマティクス」藤博幸編（講談社サイエンティフィク）
- 4「進化で読み解くバイオインフォマティクス 入門」長田直樹著（森北出版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、毎週の演習問題の採点を 30%として理解度を総合的に評価する。対面での期末試験が実施できない場合は、演習問題やオンラインテストによる評価へ変更する可能性がある。この場合の評価方法は、期末試験の実施可否が決定次第、学習支援システムよりお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline (in English)】

Course outline

Bioinformatics is a combined field of biology, computer science and mathematics. It is necessary and useful method in current biological research. The aim of this course is to help students understand the fundamental principles of bioinformatics and what can be done by using it.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to interpret on what biological basis bioinformatic analyses are performed and what do the data indicate.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process. Short reports of each class (30 %) and term-end examination (70 %)

BMS300YB

ケミカルバイオロジー

影近 弘之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケミカルバイオロジーは、化学、特に人工的な化合物を用いた生命科学研究であり、化学、生物学、医学、薬学など他分野にまたがる学際研究分野である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野の研究手法を理解するための有機化学、分光学の基礎を学んだ上で、ケミカルバイオロジーの研究手法やその応用分野である創薬を志向した医薬化学研究について学ぶ。

【到達目標】

ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学、分光学などの基礎的な知識を習得するとともに、ケミカルバイオロジー研究や創薬を志向した医薬化学研究の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学（構造、反応、合成）、分光学（光物性）などの基礎知識を講義する。ついで、これらの化学的知識と技術が、生命科学研究にどのように生かされているか、また、その応用研究としての創薬を志向した医薬化学研究についても概説する。なお、講義中の演習などで理解度を確認し、それを勘案して授業計画を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分子の構造と機能 1	授業説明と有機化合物の構造と性質
2	分子の構造と機能 2	有機化合物の異性体と機能、有機反応と生体内反応
3	光と物性	蛍光とその応用
4	蛍光ラベル化法 1	蛍光ラベル化法の先端研究の論文を読む
5	蛍光ラベル化法 2	蛍光ラベル化法概論
6	バイオイメーjing 1	蛍光センサーの基礎
7	バイオイメーjing 2	蛍光センサーの構造と機能
8	バイオイメーjing 3	Bioorthogonal な反応の基礎とその応用
9	中間試験	1 回～ 8 回の理解到達度判定
10	ケミカルバイオロジーと創薬 1	化合物ライブラリー
11	ケミカルバイオロジーと創薬 2	医薬品開発とメディシナルケミストリー
12	ケミカルバイオロジーと創薬 3	Activity-based protein profiling の基礎と応用
13	ケミカルバイオロジーと創薬 4	メディシナルケミストリーの基礎
14	ケミカルバイオロジーと創薬 5	生理活性物質の設計と合成・創薬最先端研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】与えた課題についてのレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

「入門ケミカルバイオロジー」（オーム社）
 蛋白質核酸酵素増刊「ケミカルバイオロジー」長野哲雄他編（共立出版）
 「ケミカルバイオロジー:成功事例から学ぶ研究戦略」長野哲雄・萩原正敏監訳（丸善出版）
 「創薬化学」野崎正勝、長瀬博（化学同人）
 「ライフサイエンスのための基礎化学」影近弘之、平野智也訳（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート及び中間試験（20%）、期末試験（60%）を基準として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学の苦手な人にも理解できるように心がける。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology and medicinal chemistry including some topics of recent research.

BLS300YB

バイオエナジェティクス

常重 アントニオ

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.

（本科目は、グローバル対応科目である）。

【到達目標】

The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussions, and inquiries are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.

To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately, and their solutions will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

As COVID-19 pandemic situation persists, classes can also be delivered in online format.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about?
2	Basic Thermodynamics.	Concept of "free energy", enthalpy, and entropy. Systems in equilibrium.
3	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
4	Redox reactions (2)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems.
5	Redox reactions (3)	Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose?
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	Use of inhibitors of the electron transport chain. P/O ratio.
13	Role of ATP.	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions.

14 Recapitulation of previous lectures.

Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

【テキスト（教科書）】

The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.

"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.

「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」, 日本物理学会 集 (2000) の一部を利用する。

【参考書】

Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available through the support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (30%). Final test or its equivalent (50%).

【学生の意見等からの気づき】

Should the COVID-19 pandemic situation persist, the online course has been also implemented for the present academic year.

Quizzes and short test will be discussed in class to consolidate learned concepts.

【学生が準備すべき機器他】

In case of online classes, laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection will be required. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

BME300YB

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第 2 回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第 3 回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第 4 回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第 5 回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第 6 回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第 7 回	中間テストの解説	中間テスト-1 の解説と結果に基づいた補足
第 8 回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第 9 回	ES 細胞・iPS 細胞	ES 細胞や iPS 細胞を中心とした幹細胞や Muse 細胞などの最新のトピックス
第 10 回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第 11 回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第 12 回	再生医療	最新の再生医療技術について
第 13 回	中間テスト-2	中間テスト-1 以降の理解到達度確認
第 14 回	中間テストの解説	中間テスト-2 の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 30 %・中間試験（1 と 2）20 %・発表点 30 %・平常点 20 % の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれの食料となる作物（穀物、野菜類、果実類）にはどのような種類があるのか、そしてそれぞれの作物の生育特性を学ぶ。また、これらの作物が世界と日本国内とでどのように栽培されているのかを知り、栽培上の問題点を学ぶ。

【到達目標】

食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性を理解する。そしてこれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てるので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第 2 回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第 3 回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第 4 回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第 5 回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第 6 回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第 7 回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第 8 回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第 9 回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第 10 回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第 11 回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第 12 回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第 13 回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第 14 回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題をを中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われる、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第 2 版 朝倉書店
・「図説園芸学」第 2 版 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn the types of food crops (grains, vegetables, fruits) and the growth characteristics of each crop. Also, we learn about the cultivation styles and problems of these crops both in the world and in Japan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each lecture: 28%

PPE100YD

植物病原菌類学**廣岡 裕吏**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原菌類の基礎知識（形態・生態・生理的特徴や分類体系等）を修得する。「樹木医補」資格取得のメニュー科目でもある。

【到達目標】

植物病原菌の植物への寄生能力を知ること、植物医科学の応用技術を修得できる。あわせて、樹木医補等の資格に適応する技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、菌類とヒトや文化との関わり、菌類の働きを学び、次いで、植物医師（技術士、樹木医）の基礎となる植物病原菌類の分類・形態・生態等を学習する。また、本講義を植物医科学基礎実験・応用実験の内容に反映できるよう、様々な植物菌類病の症状や病原菌類の観察方法などについても理解を深める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要と授業の進め方
第 2 回	菌類とは (1)	菌類とヒトや文化とのかわり
第 3 回	菌類とは (2)	自然界での菌類の働き（森林を例として）
第 4 回	菌類の分類	生物界の中での菌類の位置とその特徴
第 5 回	原生動物界の菌類	変形菌・根こぶ病菌の特徴とその病害
第 6 回	クロミスタ界の菌類	水を泳ぐ卵菌類の特徴とその病害
第 7 回	菌界の菌類 (1)	ツボカビ・接合菌の特徴とその病害
第 8 回	菌界の菌類 (2)	子囊菌類の特徴とその病害
第 9 回	菌界の菌類 (3)	担子菌類の特徴とその病害
第 10 回	菌界の菌類 (4)	不完全菌類（分生子果不完全菌類）の特徴とその病害
第 11 回	菌界の菌類 (5)	不完全菌類（不完全糸状菌類）の特徴とその病害
第 12 回	菌類の多様性 (1)	植物内生菌について
第 13 回	菌類の多様性 (2)	培養法に基づいた菌類の解析
第 14 回	菌類の多様性 (3)	非培養法に基づいた菌類の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントを提示するのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

菌類のふしぎ（東海大学出版会）、植物病原菌類の見分け方（大誠社）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）、菌類の生物学（共立出版）など、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足すると結果が大半を占める。菌類の形態的多様性に魅せられたとのアンケートも多く寄せられており、菌類の恩恵（利用場面）も含めて講義を広げる。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for study of the plant pathogenic fungi. The goals are to obtain the basic knowledge of plant pathogenic fungi such as morphology, ecology, physiological characteristics, classification system, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination・Short reports: 80%, in class contribution: 20%.

PPE100YD

植物病防除学

石川 成寿

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の診断と防除は、植物医科学の教育・研究の基本である。本授業では、植物病を防除することの重要性を認識し、いかなる手法で植物病が防除されるのかを学ぶ。

【到達目標】

植物病の病因である、微生物、害虫、雑草などを、具体的にどのような手法で防除するのかを、体系的に理解する。具体的には、「耕種的防除」、「物理的防除」、「化学的防除」、「生物学的防除」、「生態防除」などの基本的な防除手法に関する仕組みと具体例を知り、それらを組み合わせた、総合的有害生物管理法（IPM）などの最新技術についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学習支援システムのお知らせ、シラバスに最新情報に留意する。植物医科学概論における植物病の基礎についての学びと並行して、植物病の防除の歴史や防除法について学ぶ。防除方法としては、耕種的、物理的、化学的、生物学的な予防・防除手法について、本学科で、研究中の最先端の防除方法を交えて解説する。また、新しい防除法についても、トピックとして積極的に取り上げる。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植物病の要因と植物病の被害、防除の必要性について学ぶ。
第 2 回	防除の歴史	植物病防除の歴史について学ぶ。
第 3 回	物理的病害虫防除	物理的防除方法の実際を学ぶ。
第 4 回	耕種的防除技術	耕種的防除方法の具体事例により学ぶ。
第 5 回	賢い化学的防除方法	環境にも配慮した化学的防除方法を学ぶ。
第 6 回	イネ育苗期の防除	最重要作物であるイネの育苗期にも発生する病害の最新防除を学ぶ。
第 7 回	イネ病害の診断と防除	イネ本田で発生する病害の診断方法と防除方法を学ぶ。
第 8 回	ムギウイルス病に対する抵抗性育種	二条大麦のウイルス抵抗性育種について学ぶ。
第 9 回	生態防除	植物病の弱点を巧みに突く、生態防除方法を学ぶ。
第 10 回	総合防除	防除方法の長所を組み合わせる効率的な防除方法を学ぶ。
第 11 回	トマト病害の防除	最重要作物であるトマトに発生する病害の診断と防除方法を学ぶ。
第 12 回	イチゴ炭疽病から日本一の産地を守る	本病防除の問題点、現状を分析し、具体的な防除方法を学ぶ。
第 13 回	応用植物科学科での防除方法研究の紹介	本学科で行っている最先端の防除方法を学ぶ。
第 14 回	生物的防除（生物農薬開発の実際）	生物農薬（タラロマイセスフラバス水和剤）の開発経緯を材料に生物防除の実際を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、website など）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに毎回教材を掲載する。

【参考書】

植物医科学（上）（難波成任監修・養賢堂）

植物病原菌類の見分け方Ⅰ、Ⅱ（大誠社）

これで防げるイチゴの炭疽病、萎黄病（農文協）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：70%、平常点 30%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生に理解しやすいように、写真を含めたパワーポイントで説明するとともに、教材を学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

農業試験場、病害虫防除および農業改良普及所における実践的な業務経験や生物農薬開発・上市に携わった経験を活かした指導を行う。また、特許出願中の最新防除技術も教材に用いて、進行形の技術開発を紹介する。

【Outline (in English)】

Diagnosis and control are the basis of plant pathology. In this lecture, We will learn how to control(Biology control, Agricultural control, Biological control, Chemical control, Weed control etc.) plant diseases. The report will be used to judge whether the student understands the purpose and content of the experiment (70%), and the evaluation will be made comprehensively including normal points such as experimental attitude (30%).

AGC100YD

土壌科学

亀和田 國彦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌は、「地球の皮膚」とも称され、地球の陸域にごく薄く分布します。陸上の植物は、直接に、また、人類を含めて動物は、植物を介してその生命の維持を土壌中の養分に依存し、この点で、我々はミミズと同じく土壌の生き物と言えます。

植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、土壌の基本的な構造と機能ならびに植物への養分供給能力や環境との関わりをとおして、土壌の役割を学びます。

【到達目標】

まず、土壌の構造と機能を学び、それら性質が、地理的分布と生成因子に関連づけられていることを理解します。つづいて、それら性質が、植物への養水分供給能力と植物の生育に大きく影響することを理解します。そのような植物と土壌との関わりをなかで、植物の健全な生育を支えるために、土壌の性質がどうあるべきかを学び、不良土壌の判断と改良対策を示すことができ、植物医科学分野に有効な知識を習得します。

さらに、土壌をケミカルリアクターまたはバイオリアクターとして捉え、植物の健全な生育を実現しながら、地域生態系と地球環境を長期的に維持するための土壌の役割と、それを実現するための管理手法のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。
学習支援システムにより資料を提供する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地球と土壌	土と土壌 土壌機能概観 土壌と文明
第 2 回	土壌の生成と分類	風化と土壌の生成 土壌の生成因子と土壌の種類 分類体系
第 3 回	土壌の材料	一次鉱物と二次鉱物の種類 風化と二次鉱物の生成 粒形組成 腐植の生成と性質
第 4 回	土壌の物理性	三相分布 土壌空気 水の保持と水分張力
第 5 回	土壌の化学性	化学性を構成する各種性質 pH 酸化と還元 イオン吸着 リンの吸着 土壌溶液
第 6 回	土壌の荷電特性	定荷電と変位荷電 特異吸着
第 7 回	土壌の生物性	土壌生物の種類と機能 土壌生物を介する物質循環 微生物バイオマス
第 8 回	水田土壌	酸化還元に伴う物質の形態変化 水田土壌の生成分類と特徴
第 9 回	森林土壌と畑地土壌	水分と養分の移動速度 養分の流亡 畑地の層位分化 土壌類型区分と利用形態の違いによる特徴付け 環境容量
第 10 回	土壌中養分の可給性	pH の変化に伴う各種養分の可給性の変化 リンの難溶化 窒素の無機化と有機化 土壌の緩衝能力

第 11 回	土壌診断	土壌分析 分析値の評価と対策 容量因子と強度因子 土壌改良 改良資材の特徴と選択 事例と演習
第 12 回	土壌診断演習	腐植の集積と分解 炭素循環 窒素の有機化と無機化 窒素循環 リンの循環 カリウムの循環 原始地球と石灰
第 13 回	物質循環	人間社会が土壌に与える影響 我が国の農耕地土壌の実態と変化の趨勢 土壌調査 地球環境の変動が土壌に与える影響
第 14 回	環境と土壌	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

土壌サイエンス入門 第 2 版 木村直人・南條正巳編、2018、文永堂出版
土壌学概論 犬伏和之編、2020 年、朝倉書店
土壌学の基礎 松中照夫、2012 年、農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、毎回提出のリアクションペーパーを含む平常点 40 %による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問や提案を受け、できる限り次の授業で回答し反映する。

【その他の重要事項】

春学期開講の植物栄養学を併せて受講することにより、理解が深まる。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The soil called “The skin of the Earth” exists as the surface of Planet Earth. This thin veneer of living material is only 18 centi-meters thick in average of the earth, but it has critical influence on what happens on the surface of the Earth. Soil is our life-support system. It provides anchorage for roots; holds water long enough for plants to make use of it; and holds nutrients, making them accessible to support life. Our life is “Soil animal” as same as “earthworm”. There exist myriad micro-organisms, that accomplish suites of biochemical transformations from fixing atmospheric nitrogen to the decomposition of organic matter, other organisms and organic matter. Most biodiversity is in the soil, not above ground. You study a number of soil function and capability of the soil.

[Learning Objective]

First, you will learn the structure and function of soil and understand that its properties are related to geographical distribution and growth factors.

Next, you understand that these properties have a great influence on the ability of supplying nutrients and water of plants. In such a relationship between soil and plants, you will learn what the properties of soil should be in order to support the healthy growth of plants. Based on such knowledge, you will show the judgment of soil quality and improvement. These knowledge and judgment are effective abilities in botanical science.

Furthermore, you think about the role of soil to maintain the regional ecosystem and global environment over the long term while realizing the healthy growth of plants by regarding the soil as a chemical reactor or bioreactor, and how it should be the management method for realizing it.

[Learning activities outside of classroom]

Review the lecture contents based on the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class.

[Grading criteria / policy]

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2022/5/2

The grading is by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal score including the reaction paper submitted each time.

PPE200YD

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕吏、平田 賢司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせる診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第 2 回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第 3 回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第 4 回	害虫の診断 (1)	診断と同定、害虫診断法
第 5 回	害虫の診断 (2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第 6 回	主要害虫の診断	主要害虫の形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 7 回	植物ダニ類の診断	形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 8 回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第 9 回	主要な植物寄生性線虫 (1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 10 回	主要な植物寄生性線虫 (2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 11 回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第 12 回	血清学的診断法	ELISA 法など
第 13 回	遺伝子診断法	PCR 法など
第 14 回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「植物医科学 (上)」(養賢堂)；植物医科学実験マニュアル (大誠社) 等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (約 20%)、課題や試験 (約 80%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination・Short reports: 80%、in class contribution: 20%

PPE200YD

植物生理生態学

佐野 俊夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では植物の発生・成長・分化といった植物の基本的生理機能を理解し、そして、環境変化に対応して生育する植物の生態機能を学ぶ。これらの植物の正常な生理生態を理解して初めて植物の病害、生理障害等の植物の異常状況が理解できる。特に、移動することができない植物には、環境変化に対応して応答する機構が発達しており、その機構を理解するため、植物ホルモンの作用機構を中心に学ぶ。

【到達目標】

植物が様々な環境変化（水、光、接触、乾燥など）に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。これはまた、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本についても知ることもある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てるので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物細胞の特徴	植物細胞の特徴と細胞観察のための顕微鏡技術について説明する
第 2 回	植物細胞の成長と植物成長	植物細胞がどのように成長することで、植物個体が成長するのかを説明する
第 3 回	植物細胞の分裂	植物細胞分裂と分裂にかかわる細胞骨格、微小管の機能を説明する
第 4 回	組織、個体における物質輸送	水、イオン、生体高分子の細胞間の移動、および組織間の移動のしくみを説明する
第 5 回	光合成と地球環境	光合成しくみ、光合成様式の違いによる植物の生存戦略を説明する
第 6 回	中間試験	第 5 回目内容までの中間試験、まとめと解説
第 7 回	植物ホルモン（1）、オーキシンの作用	植物ホルモンであるオーキシンの化学的性質、および植物での作用機作を説明する
第 8 回	植物ホルモン（2）、サイトカイニンの作用	サイトカイニンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 9 回	植物ホルモン（3）、ジベレリンの作用	ジベレリンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 10 回	植物ホルモン（4）、エチレンの作用	エチレンの生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 11 回	植物ホルモン（5）、アブシシン酸の作用	アブシシン酸の生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 12 回	花成とフロリゲン	花成をもたらす環境刺激とその植物内での信号伝達経路を説明する
第 13 回	形質転換と遺伝子組換え作物	植物の形質転換に用いられる Ti プラスミドと、作出された遺伝子組換え作物について説明する
第 14 回	植物の環境応答	植物生育のストレスとなりうる環境要因とそれに対する植物の応答を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける道端、庭等に生育する植物は常に環境に対応しながら成長しているので、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、講義プリントを配布する。

【参考書】

・「植物の成長」裳華房

・「植物の生態－生理機能を中心に－」裳華房
・「植物生理学」第 2 版 三村徹郎 化学同人
・「テイツ ザイガー 植物生理学・発生学」培風館

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評であることから続けている。また、穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させると、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first understand the basic physiological functions of plants such as development, growth and differentiation, and learn the ecological functions of plants that grow in response to environmental changes. In particular, as plants can not move, they have developed mechanisms that respond to environmental changes. In order to understand its mechanism, we learn about the action mechanism of phytohormones.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each lecture: 28%

PPE300YD

雑草学

佐野 俊夫、横山 昌雄

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑草は作物生育を阻害したり、景観を損ねる植物の総称である。本講義ではまず、どのような植物が雑草と呼ばれ、どのような生育特性により、作物の生育に打ち勝ち、作物生育を阻害するかを学ぶ。そして、これらの雑草を防除するためにはどのような方法があるのか、化学的方法、生態学的方法について学ぶ。

【到達目標】

雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

雑草生育と除草剤作用機作の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を横山が説明します。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第 2 回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第 3 回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第 4 回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第 5 回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機作を説明する
第 6 回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第 7 回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第 8 回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第 9 回	雑草になる植物（1）畑地・果樹園	農地により雑草の種類は異なり、畑地、果樹園での例を紹介する
第 10 回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第 11 回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第 12 回	雑草の化学的防除法（1）	農薬として最初に使われた 2,4-D と、除草剤の変遷を説明する
第 13 回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第 14 回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態学的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回講義プリントを配布する。

【参考書】

松中昭一、さらわれものの草の話、岩波ジュニア新書
山口裕文、雑草学入門、講談社
浅井元朗、植調 雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特に予定していない。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Weeds are a generic term for plants that hamper crop growth and damage the landscape. In this lecture, we first learn what kind of plants is called weeds and what kind of its growth characteristics inhibit crop growth. Then, we will learn about methods to manage these weeds chemically and ecologically.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports recorded given during each lecture: 28%

PPE200YD

植物医科ビジネス論

高橋 修一郎、宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても論議する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第 2 回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第 3 回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第 4 回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第 5 回	農業ビジネス	農業ビジネスの実際を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第 6 回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第 7 回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて 10 年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第 8 回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第 9 回	農業機器ビジネス	農業における IoT、ICT を活用について解説する。
第 10 回	機能性食品ビジネス	植物由来の機能性食品ビジネスについて解説する。
第 11 回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第 12 回	バイオテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第 13 回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

講師・講義により、PC が必要となる場合がある。必要な場合には前週の講義にてアナウンスする。オンライン講義の場合、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business.

AGC200YD

フードセーフティ論

川本 伸一、濱松 潮香、八戸 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食品の安全性確保に重要な危害要因（化学物質、自然毒、微生物、放射能など）の特性とリスク低減対策の概要について学ぶ。また、対策の基本となるリスク分析の考え方を理解する。これらの知識をもとに、食品安全や食料安全保障についての理解を深める。

【到達目標】

食品安全は単に食品衛生上の技術問題の解決だけでは達成できないことを理解する。行政とフードチェーン（生産・加工・流通・販売・消費）に係わる全ての関係者（ステーキホルダー）の意思疎通および連携・協力が食品安全問題の解決には必要不可欠であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

農作物の残留農薬、カビ毒汚染問題や有害微生物による大規模食中毒事件の発生など食品安全問題は消費者の関心が高い。食品安全を確保するためには、従来の食品衛生上の品質管理手法に加え、国際的な取組としてのリスク分析導入によるリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションが重要である。政策上も重要な課題となっている食品安全について、その背景と現状、将来の方向性について論議する。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	食品安全総論 (1)	食品安全に関する国際認識と国際機関、日本の食品安全行政（関連法令・関連省庁）
第 2 回	食品安全総論 (2)	危害要因とリスク、リスク分析
第 3 回	食品安全各論 (1)	食中毒の発生状況、微生物性食中毒 (1)
第 4 回	食品安全各論 (2)	微生物性食中毒 (2)、寄生虫食中毒
第 5 回	食品安全各論 (3)	食品の微生物制御と衛生管理
第 6 回	食品安全各論 (4)	自然毒（植物性・動物性）、有害化学物質（かび毒、アクリルアミド等）
第 7 回	食品安全各論 (5)	農薬
第 8 回	食品安全各論 (6)	食品添加物、食物アレルギー、放射線照射食品、遺伝子組み換え食品
第 9 回	食品安全各論 (7)	食品表示、JAS 規格
第 10 回	食品安全各論 (8)	放射能の基礎知識
第 11 回	食品安全各論 (9)	食品の放射能汚染 1（農業における汚染）
第 12 回	食品安全各論 (10)	食品の放射能汚染 2（加工食品の汚染）
第 13 回	食品安全各論 (11)	原発事故後の農産物放射能汚染への緊急対応
第 14 回	食品安全各論 (12)	食品安全行政とレギュラトリーサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
マスコミに取り上げられる食品安全問題に関してはその内容、背景などの理解に努める。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

食品衛生学 補訂版（新スタンダード栄養・食物シリーズ 8）

ISBN コード（ハイフンなし）： 9784807916795

出版社：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（講義ごとの小テスト等 20%、出席率 40 %）及び最終総合レポート（各教官からの複数課題に関するレポート作成、40 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the measures and characteristics of hazards (chemical substances, natural poisons, microorganisms, radioactivity etc.), and also the concept of risk analysis important for securing food safety. The aim of this course is to help students deepen the understanding of food safety and food security, based on these knowledge.

Final grade will be calculated according to the following process. Each lecture's short report (20%), Attendance rate for all lectures (40%) and a final comprehensive report (40%).

PPE200YD

植物バイオテクノロジー概論

川合 伸也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物バイオテクノロジーは、最先端の生命科学を基盤として、21 世紀における人類の食料の確保、燃料や薬品などの有用物質の生産、木材や繊維の生産、地球環境の保全と改善などに幅広く役立つ画期的な生物工学技術である。本授業では、植物バイオテクノロジーの背景、基礎、応用についての専門基礎的な知識を広く身につける。

【到達目標】

1 細胞融合・遺伝子組換え植物の作製法の原理を理解できる。
2 個別の遺伝子組換え作物が開発された背景、導入された遺伝子と新たな形質との関係を理解できる。
3 New Plant Biotechnology として、植物のゲノム編集、ウイルス・ベクターの利用の利点を理解できる。
4 食品の安心と安全の違いと科学的な安全性評価を理解できる。
Learners who successfully complete this course will be able to:
・Recognize breeding methods of transgenic plants and cell fusants
・Recognize down- and up-regulations of plant genes and gene disruption methods
・Recognize genome editing methods and application of virus vectors
・Recognize principles and mechanisms of genetically modified foods and phytoremediation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン配信授業形式で行う予定である。オンライン授業ではライブ配信と録画のオンデマンド配信を予定している。
リアクションペーパー提出や課題等の提出は「学習支援システム」と Google classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入編 Introduction	遺伝子組換え作物の栽培の現状と、遺伝子組換え作物と慣行栽培や有機栽培との比較 Statistics of genetically modified foods, comparison to non-genetically modified foods, and regulations.
第 2 回	基礎編 1 Basics 1	組織培養と細胞融合と遺伝子導入系（パーティクルガン法） Structure of plant cell, totipotency of plant cell, dedifferentiation and redifferentiation, tissue culture and plant hormones, cell fusion and cybrid, principles of plant genetic engineering, and particle gun.
第 3 回	基礎編 2 Basics 2	遺伝子導入系（アグロバクテリウム法）と導入された遺伝子の選択系と複製系とカルスからの個体再生系 Transformation methods with binary vectors of Agrobacterium, including the selection and regeneration systems.
第 4 回	基礎編 3 Basics 3	アグロバクテリウム法とパーティクルガン法の比較、マーカーフリー組換え体の作出法 comparison between Agrobacterium and Particle gun methods, and Selective marker-free transgenic plants.

第 5 回 基礎編 4
Basics 4

第 6 回 応用編 1-1
Application 1-1

第 7 回 応用編 1-2
Application 1-2

第 8 回 応用編 1-3
Application 1-3

第 9 回 応用編 1-4
Application 1-4

第 10 回 応用編 2-1
Application 2-1

第 11 回 応用編 2-2
Application 2-2

第 12 回 応用編 3
Application 3

ゲノム編集 (ZFN と CRISPR-Cas9) と遺伝子発現抑制法 (遺伝子破壊法と RNAi) と CRES-T 法による遺伝子発現抑制、T-DNA tagging とその利点
Principles and applications of reverse genetics and genome editing, and T-DNA tagging method.
第一世代組換え食品：エチレン合成制御による果実の成熟制御と Bt などによる害虫抵抗性
Control of fruit riping by down-regulation of ethylene synthesis, insect tolerance.
第一世代組換え食品：除草剤耐性作物 1・・・耐性化機構の分類とグリフォセート耐性、グルフォシネート耐性、スルフォニルウレア系除草剤耐性と選択的遺伝子置換、プロモキシル耐性、2,4-D 耐性、イソキサフルトール耐性
Herbicide tolerance (glyphosate, glufosinate, sulfonylurea, 2,4-D).
第一世代組換え食品：ウイルス抵抗性及びディフェンシン生産作物、barstar と barnase を用いた雄性不稔作物
Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS, R gene, chitinase, plant defensin) and Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS
第二世代組換え食品：ゴールデンライス、ビタミン E 強化ダイズ、油脂の改変、デンプンの改質、スギ花粉症緩和米、経口ワクチン含有作物
The second generation of genetically modified foods (Golden Rice, oleate rich soy bean, tryptophan rich rice, ferritin-containing rice, rice to repress cholesterol, low allergen-containing rice, 花色と改変 1・・・植物色素の種類と青色の発現機構とデルフィニジン合成による花色改変
Alternation of flower color (pigments of flower, pH theory, metal chelete theory, copigment theory, anthocyanidin biosynthetic pathway, delphinidin, F3'5'H, blue carnation and rose).
花色と花型の改変 2・・・オーロン合成による花色の改変と花の ABC モデルと花型の改変、FT と TFL による開花制御
Control of flowering (leafy, FT, TFL, and ALSV) and flower shapes (leafy, needly, ABC model, superman)
ストレス耐性植物（低温耐性）・・・ホスファチジルグリセロールの改変と脂肪酸の改変と適合溶質と活性酸素除去、(乾燥・浸透圧耐性、重金属耐性)・・・適合溶質と活性酸素除去、鉄欠乏耐性、亜硫酸ガス耐性植物
Stress tolerance 1(cold, drought, freezing, salinity, high temperature, inhibition of photosynthesis, compatible solutes, GPAT, phosphatidyl glycerol, light

第 13 回	応用編 4 Appliction 4	植物による環境浄化・・・水銀浄化と 重金属超蓄積植物、ファイトケラチ ン、ハロゲン置換炭化水素や芳香族化 合物浄化作物、排気ガス浄化作物 Air pollution tolerant plants, tolerance to iron-deficiency (mugineic acids) and Phytoremediation (phytochelatin, mercury tolerance, arsenic tolerance, heavy metal tolerance, volatile enviro
第 14 回	総括 Conclusion	全体の復習と練習問題の解説 Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】参考書などによる予習および復習が必要である。授業のパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードしておくので各自ダウンロードして予習するとともに、授業にはダウンロードした PC を持参する。分子生物学や遺伝子工学の基礎を既に理解しているという前提で授業内容を組んでいるので、授業中に簡単には説明するが、それらの分野の知識が足りないと自覚したら、自習する。
In addition to the class, students are recommended to prepare for the class using pre-distributed Power Point files.

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。パワーポイント資料が実質的な教科書である。パワーポイントのファイル自体を授業支援システムから各自ダウンロードして勉強する。なお、授業の終盤には、出題する可能性の高い問題をアップロードしておく。

None

【参考書】

*植物の生化学・分子生物学 (Buchanan, B.B. ら 編, 杉山 達夫 監修), 学会出版センター, 2005.

*Wikipedia 遺伝子組み換え作物 (川合が大部分を書き込み編集したので、授業内容の理解に役立つ。(http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88%E4%BD%9C%E7%89%A9)

【成績評価の方法と基準】

試験 100%。配布のプリント、参考書など、ノート、プリントアウト等の紙類及び通信機能のない電子辞書の持ち込み可。また、授業最終回には、試験の傾向と対策についての説明を行う。

test (100%). At the exam, you can bring and read books, printouts and notes.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ゆっくり話すようにする。
- ・アンケートでは授業レベルはこのままで良いという意見と高度すぎるという意見に分かれているので、解説を増やすとともに授業内容の厳選を行う。
- ・量が多過ぎる(範囲が広すぎる)という批判があるが、この授業は概論であり、所々内容を深く講義することはあっても、広く浅く講義せざるを得ない。予習復習したり発展的に勉強したりする上で書籍をできるだけ購入しなくてもすむように関連情報も載せているし、リンク先もパワーポイントファイルに埋め込んである。
- ・特に重要なスライドについては、授業中に注意喚起

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業用のパワーポイント資料をアップロードしているので、パワーポイントまたは互換性のあるソフトウェアをインストールしてあるパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

講義内容は必要に応じて変更することがある。質問等は授業中や授業終了後に行うことが望ましいが、メール (skawai@cc.tuat.ac.jp) でも受け付ける。その際、用件と所属をタイトルに記入すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with basics and applications of plant biotechnology and plant molecular biology. The topics covered are both principles of plant transfection and cell fusion methods and their applications. Students will learn to recognize the statistics of genetically modified foods in Japan and the world, stress tolerance, phytoremediation, and flower color alternation.

GNM300YD

植物メディカルゲノム学

大島研郎、濱本宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、シーケンシング技術の向上に伴い、植物や植物病原体のゲノム情報が急速に蓄積されつつある。本授業では、ゲノム解読・ポストゲノム解析の手法や、ゲノムデータベースの利用法を学ぶとともに、ゲノム情報が様々な分野に応用されていることを理解することを目的とする。

【到達目標】

ゲノム解読の手法やゲノムの構造的特徴を理解するとともに、ゲノムデータベース等を活用するためのスキルを身につける。また、トランスクリプトーム解析など、ゲノム情報を利用した網羅的解析の手法を理解する。植物病の防除・診断技術へゲノム情報を活用するための知識・技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面授業と Zoom を併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。各回の授業の終わりに課題を提示し、提出された解答で理解度を確認しながら進める。また、授業内に前回の課題について講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の説明
第 2 回	ゲノム配列の解析法（1）	ゲノム解読の手法
第 3 回	ゲノム配列の解析法（2）	次世代シーケンサー
第 4 回	ゲノム配列の解析法（3）	ゲノムデータベース
第 5 回	ゲノム機能解析（1）	ゲノム解析の実例
第 6 回	ゲノム機能解析（2）	タンパク質の機能解析
第 7 回	ゲノム機能解析（3）	タンパク質間相互作用解析
第 8 回	遺伝子組換え技術（1）	アグロバクテリウム法
第 9 回	遺伝子組換え技術（2）	トランスポゾン、DNA 鑑定
第 10 回	遺伝子組換え技術（3）	ゲノム編集技術
第 11 回	遺伝子発現解析（1）	マイクロアレイ解析
第 12 回	遺伝子発現解析（2）	プロテオーム解析
第 13 回	遺伝子発現解析（3）	エピジェネティクス
第 14 回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業内で提示された課題を解き、解答を提出する。また、講義資料、例題などを復習し、良く理解しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第 2 版（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、レポート課題 (36%)、平常点 (14%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器（貸与パソコン）を活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、課題の提示や講義資料の配布を行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the genomics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of sequencing of genomes. It also enhances the development of students' skill in the applied biology by using genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた防御システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業と Zoom を併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う（URL など詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
- ・各回の終わりに簡単な小テスト（穴埋め問題など）を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
- ・授業の初めに前回の小テストの答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第 2 回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第 3 回	細菌の分子生物学	細菌の DNA 複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第 4 回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第 5 回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ベクトバクテリウム属細菌
第 6 回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュートモナス属細菌
第 7 回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第 8 回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第 9 回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第 10 回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第 11 回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第 12 回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術
第 13 回	植物の防御システム	植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？
第 14 回	細菌と植物の分子攻防	植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。
- ・小テストを解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第 2 版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学 第 2 版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との 5 億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）、および小テストなどの平常点（40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (40%) and a term-end examination (60%).

PPE200YD

植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準について概説する。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について説明する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を説明する。また病徴発現のメカニズムを解説する。
9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。

10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての確定法と防除方法について説明する。
13	植物ウイルスの生物学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のうち量の多いもの、講義をより深く理解する助けとなる参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

AGC200YD

微生物生態学

堀 知行

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
土壌や水界などのあらゆる環境に多種多様な微生物が生息している。これらの微生物は主要元素の循環に重要な役割を担っており、地球環境の恒常性の維持に不可欠である。加えて、微生物は植物や動物の生存にさまざまな影響を及ぼしている。本授業では、微生物と地球環境との関係性、微生物と高等生物との相互作用を研究する微生物生態学について、微生物の性質と分類、微生物と高等生物との共生、極限環境での微生物の生存戦略、環境微生物解析手法、微生物利用の可能性を中心に講義し、SDGs への貢献など今後の研究展開について考える。

【到達目標】
微生物の基礎的知識を得るとともに、自然・工学的環境に生息する多種多様な微生物の特徴を理解する。環境微生物解析手法について理解を深めるとともに、地球環境の恒常性や保全に果たす微生物の役割について学び、今後の微生物利用の展開を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
スライドを使った通常の講義（対話形式）とする。オンラインでの開講を基本とするが、詳細は開講前に学習支援システムを参照のこと。フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第 1 回	微生物生態学とは	微生物とは？ 生命の 3 ドメイン 栄養と代謝
第 2 回	微生物細胞の構造と機能	生体高分子 細胞膜と輸送 細胞壁の特徴
第 3 回	微生物の生息環境	水界、土壌、極限環境 バイオフィルム環境
第 4 回	微生物群集の構造と機能	微生物の系統学 培養できない微生物とその解析法
第 5 回	微生物の一次生産	一次生産と光栄養 植物プランクトンとブルーム
第 6 回	微生物の有機物分解	有機物分解と炭素循環 高分子有機化合物の分解
第 7 回	嫌気環境の微生物呼吸	いろいろな電子受容体 メタンと微生物
第 8 回	窒素循環と微生物	硝化と脱窒 アノモックス 窒素固定
第 9 回	硫黄循環と微生物	硫黄酸化と硫酸還元 海底堆積物の微生物
第 10 回	金属と微生物	鉄酸化と鉄還元 バクテリアリーチング
第 11 回	植物・動物と微生物の共生	菌根菌 根粒菌 微生物と動物・昆虫
第 12 回	微生物を用いた環境浄化	バイオレメディエーション 水処理・浄化
第 13 回	微生物利用の将来	地球環境と微生物活性 循環型社会に向けた微生物利用
第 14 回	理解度確認	授業内容の理解度確認 レポート課題説明または試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。専門用語などについて、配布する授業資料や参考書などを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
・Block 微生物学 Michael T. Madigan 他著 室伏きみ子他監訳 オーム社 2003 年 18000 円

・微生物の地球化学 元素循環をめぐる微生物学 T.Fenchel 他著 太田寛行他訳 東海大学出版部 2015 年 3200 円
・授業の際に、それぞれの話題に則した学術論文などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に実施する小テストによる平常点（4 0 %）ならびにレポート課題または期末試験（6 0 %）をもとに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するためのパソコンまたはタブレット等。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
A variety of microbes co-exist in natural environments, such as soil and water ecosystems. These microbes play important roles in the key element cycles in the environments, being indispensable to maintain the homeostasis of the earth. In addition, they have various influences on the existence of plants and animals. In this class, I lecture on microbial ecology, including the character and classification of microbes, the symbiosis of microbes with plants and animals, the microbial behavior in extreme environments, the microbial community analyses, the possible use of microbes for the global issues, e.g., SDGs. The learning objectives are (i) to gain the fundamental knowledge about microbes, (ii) to understand the distinctive characters of various microbes in natural and engineered environments, (iii) to expand an understanding of analytical tools in environmental microbiology and (iv) to learn the roles of microbes in maintenance of the homeostasis and environment of the earth. The standard learning activities outside of classroom are assumed to be 4 hours of the preparation and review for one class. Reviewing important information, such as technical term, using the textbook and references is necessary. The grading criteria/policy is to comprehensively evaluate the achievements based on the quiz performed in each class (40%) and the final examination and/or term paper (60%).

BOA300YD

環境昆虫学

安田 耕司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ること、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることによって生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第 2 回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について
第 3 回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第 4 回	農作物や果樹等の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第 5 回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第 6 回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第 7 回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第 8 回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第 9 回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第 10 回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第 11 回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第 12 回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について
第 13 回	農業生態系に生息する昆虫について	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第 14 回	講義内容の補足、まとめ、試験	講義内容についての補足説明と全体のまとめ、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010
4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、レポート（20 %）、小テスト（20 %）

ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単な内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Insects inhabit a variety of environments, from native nature to agricultural land and urban environments. Students learn what kind of morphological and ecological traits insects have evolved in diverse environments and how they live their lives there. By learning about the characteristics of insects, students understand that healthy environments and ecosystems are essential for insects and our human lives, and also that insects are an important component of such an environment.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in class contribution(20%).

PPE300YD

媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式を説明する。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。
10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。

11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化について説明する。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とそれを説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20% で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のうち量の多いもの、講義をより深く理解する助けとなる参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occurring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD

植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術や ICT を活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わる ICT 技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能（AI）などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

農業や植物医科学における ICT の利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基礎をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の探索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説などガイダンス
第 2 回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第 3 回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第 4 回	農業 ICT に必要な情報を取得する技術	フィールドサーバーやドローンなど現場からデータを取得する技術
第 5 回	農業 ICT で実際に現場作業する技術	無人トラクター、自動収穫機など
第 6 回	そのほか農業/植物医科学関連 ICT 利用	トレーサビリティなど
第 7 回	農業 ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農業登録情報、その他オープンデータ紹介
第 8 回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI 育種の紹介など
第 9 回	植物医科学で有用な website 等の紹介と活用	今昔の関連 website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第 10 回	植物医科学におけるデータベースの活用演習	PC/インターネットを用いて実際に植物医科学関連データベースを調査する
第 11 回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎となる統計処理
第 12 回	データ解析の手法（2）	統計処理に用いるソフトウェア
第 13 回	データ解析の手法（3）	画像解析技術の基礎と手法
第 14 回	総合討論	ICT と植物医科学の接点に位置する最新 Topics の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】

資料配布を基本とする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題： 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際に PC を利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PC を持参する。

【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

【Learning Objectives】

To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD

植物感染生理学**鍵和田 聡**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】

植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	植物感染生理学とは
第 2 回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第 3 回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第 4 回	植物の動的抵抗性 (1)	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第 5 回	植物の動的抵抗性 (2)	抗菌性物質
第 6 回	菌類病の感染生理 (1)	細胞壁分解酵素
第 7 回	菌類病の感染生理 (2)	宿主特異的毒素
第 8 回	細菌病の感染生理 (1)	侵入、認識、増殖
第 9 回	細菌病の感染生理 (2)	発病因子、病原性遺伝子
第 10 回	ウイルス病の感染生理 (1)	侵入、複製
第 11 回	ウイルス病の感染生理 (2)	移行、ジーンサイレンシング
第 12 回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第 13 回	防除戦略 (1)	プラントアクチベーター、生物防除
第 14 回	防除戦略 (2)	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約 20%）、期末試験（約 80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD

植物臨床医科学

石川 成寿

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践的な診断事例や防除事例、新たな防除戦略などを学び、それらを検証することにより、植物医師として必要不可欠な診断・治療に関する知識と技術を修得する。

【到達目標】

実践例を学ぶ中から、自ら植物医師として困難に立ち向かうことを潔しとする倫理観を身につけ、チームの作り方・動かし方も修得し、チーム体制の総合力にて解決する方策を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

コロナ禍の状況にあるので、学習支援システムのお知らせ、シラバスに最新情報に留意する。学習支援システムに参考 PPT、レポート課題名を掲示するので、その指示に従うこと。本授業は、植物医学分野における臨床的な診断・防除技術について事例をもとに講義する。その結果を考察することにより、臨床的知識や技術を修得させる。内容は、実践的な物理的防除技術、環境制御による防除、天敵類や拮抗微生物による生物防除、宿主植物の抵抗性を利用した防除など。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植物臨床医科学とは
第 2 回	研究事例 1 空気伝染性病害について学ぶ	イチゴの空気伝染性病害の診断と防除
第 3 回	研究事例 2 土壌伝染性病害について学ぶ	イチゴの土壌伝染性病害の診断と防除
第 4 回	研究事例 3 産地の存亡にかかわる植物病について学ぶ	イチゴ炭疽病の猛威から日本一の産地を守る
第 5 回	研究事例 4 イネの重要病害を学ぶ	イネ病害の診断と防除
第 6 回	研究事例 5 ユニークな特産物の病害について学ぶ	地域特産物病害の診断と防除
第 7 回	研究事例 6 二条大麦品種育成について学ぶ	オオムギ萎縮病抵抗性品種育成
第 8 回	研究事例 7 主要品目であるトマトの病害を学ぶ	トマト病害の診断と防除
第 9 回	研究事例 8 環境に配慮した植物病防除を学ぶ	環境に配慮した総合的病害虫管理
第 10 回	研究事例 9 生態防除方法を学ぶ	イチゴ病害虫に対する生態防除
第 11 回	研究事例 10 イネ育苗期病防除病害を学ぶ	イネ育苗期に発生する病害に対する生物防除
第 12 回	研究事例 11 イチゴ病害抵抗性育種の最先端を学ぶ	イチゴ炭疽病、萎黄病に対する遺伝子解析による最先端育種の現状
第 13 回	研究事例 12 農業現場における作物病害の実際を学ぶ	現場指導機関の技術者から植物病の防除の現状
第 14 回	研究事例 13 生物農薬開発方法を学ぶ	生物農薬タラロマイセス フラバス水和剤の開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。対面授業の場合は配布する。

【参考書】

これで防げる いちごの炭疽病、萎黄病（石川：農文協）、樹木医ことはじめ（堀江編集、大誠社）。また、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

植物医師としての臨床的知識や対処法を修得しているかについて、各回に提出する「演習レポートあるいは感想文（80 %）」、「平常点（20 %）受講態度（対面授業において）」などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書にはない実践事例を中心とした講義であり、外来講師の実践例も興味深く、他の科目とは異なる臨場感のある講義であるとの反応が多い。技術士補、樹木医補等の資格取得との対応も考慮し、今後とも引き続き臨場感を持ってもらえるような解説を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍の改善が増られない場合、学習支援システムの Zoom により講義を進める。

【その他の重要事項】

農業試験場、病害虫防除および農業改良普及所における実践的な業務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will acquire knowledge and practical techniques (diagnosis methods, control methods, etc. on plant diseases (fungal disease, bacterial disease viral diseases and physiological diseases) in the field. The report will be used to judge whether the student understands the purpose and content of the experiment 80%), and the evaluation will be made comprehensively including normal points such as experimental attitude (20%).

PPE300YD

生物制御化学

中牟田 潔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は様々な化学物質を用いて、体内環境を維持するとともに、同種個体間や異種個体間のコミュニケーションを行っている。本授業は昆虫をおもな対象として、ホルモンなどが体内環境をどのように維持するのか、さらに信号化学物質（セミオケミカル）がコミュニケーションをどのように仲介しているのか、また、それらの物質を利用した害虫管理等について理解する。

【到達目標】

到達目標を以下の3つにおく。①昆虫のイメージを正しく把握して昆虫に親しみを持てるようにする。具体的には、分類群と形態、生理生態の多様性を知り、そこに至った進化の概要を把握することにより、昆虫への親近感が持てるとともに昆虫と人間の関わりを深さを理解する。②昆虫の摂食、成長、繁殖、休眠など基本的な生物現象が、ホルモンやセミオケミカルによる化学的制御によって成り立っていることを知る。③植食性昆虫に対する「二次代謝物質」による植物の化学防衛、およびそれを巡る昆虫－植物間の多彩な「共進化」を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

昆虫をおもな対象として、「到達目標」を達成できることを念頭においた講義を主体とする。

理解の助けとして、多様性の高い昆虫のイメージ造りに役立つスライド画像や動画などをできるだけ活用する。また、研究の実際をイメージできるように、授業に関連して教員自身が直接・間接に経験した研究事例を随時織り込んでわかりやすく紹介する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	本授業で扱う「生物制御化学」とは何かを、制御主体（生物およびヒト）から考える。
第2回	化学物質による生理・生態の制御	昆虫に限らず、生物には細胞間、個体間、異種個体間など、さまざまなレベルで化学コミュニケーションが存在することを知る。
第3回	セミオケミカル(1)：フェロモンとアレロケミカル	セミオケミカルは個体間の化学コミュニケーション言語であり、①同種個体間で作用するフェロモン②異種間で作用するアレロケミカルよりなることを知る。
第4回	セミオケミカル(2)：方法論	セミオケミカルの機能や化学構造を明らかにするための、生物学的手法および有機化学的手法、さらに両者を組み合わせた手法を知る。
第5回	植食性昆虫の寄主探索におけるセミオケミカル	植物を餌とする昆虫が寄主植物を探索・発見する過程には様々なセミオケミカルが関与していることを知る。

第6回 種間関係を仲介する炭化水素

昆虫の体表にある脂質は乾燥や病原菌の感染を防ぐ働きをもつが、体表炭化水素が共生者の認識や捕食者を避けるためのカムフラージュなど種間関係を仲介していることを知る。

第7回 中間まとめ

ここまでの授業の理解度をテストする

第8回 フェロモン(1)：機能によるフェロモンの分類

フェロモンは受容後の情報伝達経路によって①「プライマーフェロモン」：ホルモ的な経路（階級分化など）②「リリーサーフェロモン」：神経的な経路（性誘引、警報、集合など）に分けられることを知る。

第9回 フェロモン(2)：合成フェロモンの利用

合成性フェロモンの害虫防除への利用には、①モニタリング、②大量誘殺、③誘引・殺虫、④交信かく乱があることを知る。

第10回 フェロモン(3)：「フェロモン剤抵抗性」の出現

交信かく乱法において最も注目すべき課題：静岡県下で茶樹害虫「チャノコカクモンハマキ」で確認された「フェロモン剤抵抗性」は世界で唯一の事例であり、解決策も見いだされたことを知る。

第11回 フェロモン(4)：侵略的外来アリの制御化学

わが国で問題になる2種の侵略的外来アリ、アルゼンチンアリとヒアリを取り上げて、生態と防除について概説した後、化学的防除について、一般的なバイト剤と殺虫剤の利用に加えて環境負荷の小さいフェロモン利用の可能性も探る。

第12回 アレロケミカル(1)：シノモン植物－植食者－天敵の三者間相互作用

信号を発する種、それを受け取る種の双方にとって有利な相互作用を仲介するシノモンを、植物－植食者－天敵の関係を例に知る。

第13回 アレロケミカル(2)：アロモンとカイロモン

昆虫は化学物質を用いて自己の防衛を行っている。これらの物質はアロモンの一種である。また、昆虫の中には他の生物が出す化学物質を感知し、自己に有利な物質として利用している（カイロモン）。ここではアロモンとカイロモンの例を紹介する。

第14回 期末まとめ

授業の理解度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1. 受講前および受講期間中に教科書などで次の分野の基礎を学んでおく：「有機化学」、「昆虫学」、「動物分類学」、「植物分類学」

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用：毎回の講義時に用いる資料は学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

1. 「最新応用昆虫学」田付・河野編著、朝倉書店、2009
2. 「昆虫生理生態学」河野・田付編著、朝倉書店、2007
3. その他、講義において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間まとめ、期末まとめにて実施する試験によって「到達目標」に掲げた 3 つの項目ごとに基本的な事項の理解ができているかどうかを評価する

要素ごとの配分と評価基準

- ・ 中間試験、期末試験 (それぞれ 45%): 得点による
- ・ 平常点 (10%): 授業への参加姿勢

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

The lectures for this course will encompass concepts of insect physiology and chemical ecology and their application for insect pest management. Students will understand the function and chemical structure of hormones that regulate the condition of the body. And they also understand “pheromones” which mediate intraspecific communication and “allelochemicals” mediating interspecific communication. Furthermore, students will understand the application of semiochemicals in insect pest management.

Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination: (45 %)Term-end examination: 45 %, and in-class contribution (10%).

PPE300YD

植物医科学法論

福盛田 共義

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 植物医科学、植物防疫の考え方を理解し、関連の法制度について知る。
- 2 植物医科学、植物防疫をめぐる国際的な動きを理解する。
- 3 病害虫および鳥獣による被害とその防除について知る。
- 4 農業に関する行政制度、安全性確保対策について知る。
- 5 植物検疫制度とその実施について知る。

【到達目標】

植物医科学、植物防疫に関する基本的な考え方及び知識を身につける。植物防疫制度、農業取締制度及びリスクアナリシスの基礎的な概念について理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義（対面授業）を中心とし、機会に応じ DVD など視聴覚機材を使用する。授業の中で2回的小レポート課題を実施する。

講義資料及び小レポート課題は学習支援システムにも掲載する。

第14回目の授業において、まとめと試験を行う。

なお、フィードバック方法として、第14回目の授業において、それまでの授業の中で行った小レポート課題に対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	植物医科学と植物防疫	植物医科学と植物防疫の基本的な考え方、植物防疫を支える組織、関係法令、国際条約。
2 回目	植物医科学と関係法令	植物防疫法、農業取締法の概要。
3 回目	植物医科学とリスクアナリシス	SPS 協定、リスクアナリシスの概念、食品安全分野及び植物防疫分野への適用。
4 回目	発生予察	発生予察事業、指定有害動植物、調査・予測手法、発生予察情報の種類と実際。
5 回目	有害動植物の防除 1	防除をめぐる現状と課題、防除基準・防除暦・要防除水準、最近の病害虫の発生動向。
6 回目	有害動植物の防除 2	総合的病害虫・雑草管理 (IPM)、農林航空事業、薬剤抵抗性対策
7 回目	有害動植物の防除 3 及び小レポート課題①	マイナー作物向け防除対策、農産物輸出促進のための防除対策、野生鳥獣被害防除対策。
8 回目	農業	農業の歴史、農業の生産・開発の動向、農業取締制度の歴史、農業取締法の規定のポイント。
9 回目	農業の安全性 1	リスクアナリシスの農業安全性への適用、ポジティブリスト制度。
10 回目	農業の安全性 2	農業の登録審査、登録拒否の基準、表示制度、使用規制、適正使用に係る各種施策。
11 回目	植物検疫 1	植物検疫の歴史、輸入植物検疫及び輸出植物検疫。
12 回目	植物検疫 2 及び小レポート課題②	国内植物検疫、緊急防除
13 回目	植物検疫 3	輸出入木材梱包材の検査、船舶の検査等多様な植物検疫、植物検疫リスク管理情報の収集・分析
14 回目	植物医科学法論のまとめ、小レポート課題の講評 及び 試験	講義全体の総括、2 回の小レポート課題の講評・解説、及び、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

次回講義のテーマに関連する農林水産省、厚生労働省、食品安全委員会等のホームページや、参考資料の該当部分をみておくこと。

また、毎回の授業後、教材を十分に復習しておくこと。関連する新聞報道等に注意を払って調べてみる。2 回的小レポート課題に対応すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

毎回、教材プリントを配布する。

あわせて、教材を学習支援システムにも掲載する。

【参考書】

農業概説 2021（日本植物防疫協会）

【成績評価の方法と基準】

2 回的小レポート課題で 4 0 %、試験で 6 0 % の評価配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

「社会で活きる植物医科学」の観点から、適宜、病害虫防除、農業安全性確保及び植物検疫に関する現場での実例、国の政策の動き、国際的な動向等を紹介して、理解を深めてもらえるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basis of Plant Protection Act, Agricultural Chemical Regulation Law, Food Sanitation Act and Food Safety Basic Law.

Also, this course introduces the concept of Risk Analysis about Food Safety and Pest Risk Analysis to students.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to explain the susytem of Plant Protection, Agricultural Chemical Regulation and Risk Analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected spend four hours to master the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and short reports (40%).

PPE300YD

ポストハーベスト論**廣岡 裕吏、宮ノ下 明大**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害について理解し、品質を維持するための流通、貯蔵、防除技術を学ぶことを目的とする。

Term-end examination: 80%、in class contribution: 20%

【到達目標】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害の現状を理解する。そして、その予防、防除に関する技術、方法を学ぶ。また、青果物の商品価値とそのコストとのバランス、穀物病害虫を中心にした植物検疫の現状を踏まえて理解し、食品安全に関わる考え方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は主に小テストやリアクションペーパーを用いながら、パワーポイントを使って行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/青果物の品質と機能	青果物の品質と機能
第 2 回	ポストハーベストと害虫①	ポストハーベストと害虫：植物検疫の目的としくみ
第 3 回	ポストハーベスト害虫②	米の害虫と防除法
第 4 回	ポストハーベスト害虫③	貯蔵害虫の新しい殺虫技術：高圧炭酸ガス・低エネルギー電子線
第 5 回	ポストハーベスト害虫④	チョコレート・カップ麺製品の害虫と侵入防止法
第 6 回	ポストハーベスト害虫⑤	香辛料の害虫と侵入防止法
第 7 回	食品に対する異物混入⑥	粉体食品の害虫とアレルギー
第 8 回	植物検疫の現場と害虫問題	中国への精米輸出とカツオブシムシ、ペルー産マンゴウの輸入解禁
第 9 回	青果物の品質変化①	生理的な 4 つの要因
第 10 回	青果物の品質変化②	青果物の輸送・貯蔵方法
第 11 回	青果物の品質変化③	品質保持能力の高い青果物の作出と青果物の品質を保つ加工
第 12 回	ポストハーベストとカビ①	カビによる腐敗
第 13 回	ポストハーベストとカビ②	カビ毒
第 14 回	ポストハーベストとカビ③	カビとその診断・予防・防除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、スーパーマーケット等に陳列されている青果物やその包装形態は、本講義で紹介する身近な品質保持のための実例であり、買い物の際などに観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評である。また、授業の前に前回の復習の時間を確保する、穴埋め式の資料を用いることで、授業内容の理解が深まるとのコメントが多い。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the distribution, storage and control technique to maintain good quality of harvested fruits, vegetables and crops from physiological deterioration, fungi and pests. The goals are to receive the knowledge of these studies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

PPE300YD

植物生理病学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物生理病（生理障害）の具体例とそれを引き起こす環境要因を学ぶ。そして、植物生理病の診断方法およびその対処方法に関する知識を習得する。植物病には菌類などの伝染性病原体による病気のほかに、不適切な生育環境（土壌、大気、水分、農業など）を原因とする生理障害（生理病）がある。本講義では、植物栄養学、肥料学の内容をベースに、過不足により生理障害の原因となる土壤無機栄養素の性質と植物体内での利用について主に佐野が、これらの障害を引き起こす環境要因（土壌汚染、水質汚染、大気汚染）について主に亀和田が解説する。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、肥料バランス感覚を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てるので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第 2 回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第 3 回	土壤無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第 4 回	土壤無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第 5 回	土壤無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第 6 回	土壤無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第 7 回	土壤無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第 8 回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第 9 回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第 10 回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第 11 回	土壤無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第 12 回	土壤無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第 13 回	土壤無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第 14 回	土壤無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協

植物生理学 第 2 版 三村徹郎 化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first learn environmental factors causing plant physiological diseases (physiological disorders), and then, diagnostic methods for these disorders.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each class: 28%.

ASS100YD

国際食料需給論

黒川 哲治

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料は、生命維持のためだけでなく、健康的で文化的な生活を営むうえで欠かせない要素である。しかし、世界の食料需給は不均衡状態にあり、食料の分配も偏在的である。そこで本講座では、主として食料経済学の視点から、日本を含む世界の食料需給の動向を概観した後、農産物や食品の流通や貿易、今日の食料をめぐる課題について検討し、理解を深めていく。

【到達目標】

- ①統計資料をもとに、日本および世界の食料問題について自ら考察し、論理的に説明できるようになる。
- ②日本を含む世界全体における食料問題の現状について理解を深め、問題点を指摘できるようになる。
- ③経済学の観点から、食料需給とそれに影響を及ぼす要因の因果関係を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式（対面を基本としたハイフレックス型）で進める。新型コロナウイルスの影響により、遠隔講義を強いられた場合は、Zoom を利用したリアルタイム配信型で実施する。また、講義期間中に課す小課題に対する解説は、可能な限り、翌回の講義で行うこととする（時間的に厳しい時は最終回に実施する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	フードシステム、食料の需要と供給
第 2 回	世界の食料需要の要因①	世界の人口
第 3 回	世界の食料需要の要因②	経済成長、所得
第 4 回	世界の食料供給要因①	世界の農地面積
第 5 回	世界の食料供給要因②	食料生産における技術革新、品種改良
第 6 回	食料自給と食料安全保障	各国の食料自給率と食料安全保障
第 7 回	食料貿易理論①	リカードの比較生産費説
第 8 回	食料貿易理論②	余剰分析でみる自由貿易のメリット
第 9 回	食料貿易理論③	関税や輸入数量制限の影響
第 10 回	3 大穀物の需給状況	3 大穀物（コメ・麦・トウモロコシ）、大豆
第 11 回	食料の輸出入と環境問題①	フードマイレージ、バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント
第 12 回	食生活の変遷とその影響	食の外部化、中食と外食
第 13 回	食品の製造と流通	卸売市場、市場外流通、食品製造業&食品小売業の特徴と現状
第 14 回	食料需給の新たな動向	応援消費、エシカル消費、フードテック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に 2 時間、復習に 2 時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識の理解を図る。
2. 新聞やニュースを見たりして、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

・高橋正郎・清水みゆき（2016）『食料経済（第 5 版）』オーム社
 ・薬師寺哲郎・中川隆（2019）『フードシステム入門』健帛社
 ・時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（2019）『フードシステムの経済学（第 6 版）』医歯薬出版

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30 %）と、期末試験（70 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験の際に電卓が必要な場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Food is essential not only to sustain life but also to allow us to have a healthy and cultural life. However, the supply and demand for food remain unbalanced, and food distribution is uneven. In this class, we will survey the trends in food supply and demand in different countries, including Japan. We will then examine food issues, especially focusing on food distribution and international trade in agricultural products. Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

PPE100YD

植物管理技術論

松崎 守夫、山口 弘道

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、普通作物の栽培を中心とした農学の基礎的な知識を学ぶ。一般的な知識として、作物の生活史、収量形成過程等について学ぶ。その後、各作物の栽培、利用等について学ぶ。

【到達目標】

作物生産、収量形成等に共通する知識を学ぶ。さらに、イネ、麦類、豆類等の作物の特性、栽培法や、それらと関連した品質、機械、土壌肥料等の知識についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義により授業を行ない、毎回授業後に小テストを行なう。小テストの提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。評価は、平常点、学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体の構成説明
2	序論・作物生産概論	栽培学的重要性と、作物の種類、形態、生活史等の生理的側面
3	収量形成概論	収量形成過程の考え方と調査方法
4	イネの生理生態	イネの形態、生活史、生理的特性等
5	イネの栽培 1	イネの栽培管理等
6	イネの栽培 2	米の品質・利用、その他（飼料用イネ、直播栽培等）
7	耕地利用概論	環境、作付体系が作物生産に及ぼす影響
8	麦類	麦類の種類、品種、生理と栽培・利用
9	豆類	豆類の種類、品種、生理と栽培・利用
10	イモ類	イモ類の種類、品種、生理と栽培・利用
11	工芸作物	主要な工芸作物の種類と特徴、栽培法等
12	雑穀・飼料作物	トウモロコシを中心とした雑穀、飼料作物について
13	総合まとめ	講義全体のまとめ
14	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎セミナー 新版作物栽培の基礎（堀江武編著）、農文協、2004

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、学期末テスト 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で小テストを行うようにする。

【Outline (in English)】

We learn agricultural knowledge mainly on the cultivation of common crop. As general knowledge, we learn about the crop's life cycle, yield formation and etc. For each crop, we learn about cultivation, use and etc.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports given during each lecture: 40 % and Term-end examination: 60 %.

BSC100YD

教職化学

田 艶

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、化学の基礎的な概念について学びます。

【到達目標】

化学の基本的な概念や原理に関する基礎知識を確実なものとし、物質の性質、構造、反応に関する規則性について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、教職系の基礎化学として、化学に関する基本的な概念を体系的に概説する。具体的には、元素の性質と分類、化学結合、物質の状態、反応速度、化学熱力学、酸と塩基、酸化と還元反応（電池と電気分解）、無機化合物の構造と性質、有機化合物の分類及び命名法、有機化合物の反応、高分子化合物の基礎について学ぶ。環境と化学においては、環境問題とエネルギー資源について、放射線の化学においては、放射線の基礎知識、放射線の利用等について学ぶ。課題及び質問・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	化学と物質、科学的方法、物質の分類、物質の物理的性質と化学的性質、測定、数値の取扱い
第 2 回	物質とその構造 I	元素と元素記号、原子の構造、原子番号と質量数、同位体と分子量、物質量とアボガドロ数
第 3 回	物質とその構造 II	電子の配置及び周期律
第 4 回	化学結合	オクテット則、イオン結合、共有結合、金属結合、分子間力
第 5 回	物質の状態と気体の性質	熱運動と熱平衡、状態の変化、状態図、固体・液体・気体の状態、理想気体と気体の法則
第 6 回	反応速度	反応速度に影響する因子、反応速度の表し方、遷移状態と活性化エネルギー、触媒
第 7 回	化学熱力学と平衡	化学熱力学及び反応の方向性
第 8 回	酸と塩基	酸塩基の強弱、解離、中和、及び緩衝作用
第 9 回	酸化と還元	酸化還元反応、電池、電気分解
第 10 回	無機化合物の構造と性質 I	典型元素及びその化合物
第 11 回	無機化合物の構造と性質 II	遷移元素及びその化合物
第 12 回	有機化合物及び高分子化合物	有機化合物の構造と命名、有機化合物の反応、及び高分子化合物の合成、高分子化合物の分子量、高分子化合物の利用
第 13 回	環境と化学	環境汚染、気候変動とエネルギー資源
第 14 回	放射線の化学	放射線の種類、性質、単位、半減期、核分裂と融合、放射線の利用、人体への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

第 1 回目：予習なし。授業内容の復習と演習問題

第 2 回目～第 14 回目：テキスト及び配布資料等による予習、授業内容の復習と演習問題

【テキスト（教科書）】

長谷川正・國仙久雄・吉永裕介 共著『理科教育力を高める基礎科学』（裳華房）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

必要に応じて小テストやレポート等を複数回行う。その合計を 50 点満点で評価する。期末テストの結果を 100 点満点で採点し、その採点を 50 点満点で換算した値と小テスト等の評価点の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容及び難易度に関して、アンケートを実施し、要望に応じて随時調整する。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces the basic concepts in chemistry to students taking this course.

Learning Objectives : The goals of this course are to understanding essential concept of chemistry.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination(50%), Short reports and in class contribution(50%)

BOA100YD

基礎植物害虫学

大井田 寛

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 30 %、平常点 20 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で欠席確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】

This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.

The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.

Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、attend classes: 20%

ASS100YD

グリーン経済学

黒川 哲治

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題はますます深刻さを増し、私たちの生活の様々な部分に影響を落としている。特に、食料生産は自然環境に影響される部分も多く、喫緊の課題と言える。そこで本講義は、環境経済学の視点から、その基礎理論を講義後、代表的な個別問題を取り上げ、原因・現状・施策等を概観していくことで、環境問題への理解を深めていくことを目的とする。

【到達目標】

1. 環境経済学の基礎理論を理解し、それを用いて個別の問題を考察できるようになる。
2. 環境問題に関する最新情報や施策などを知り、自然科学および社会科学の両視点から考察し、自らの見解を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。新型コロナの状況にも依るが、対面を基本としつつ同時 WEB 配信するハイフレックス型で実施する。なお、全面的に遠隔授業となった場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信型で実施する。また、講義期間中に課した小課題については可能な限り翌日に解説する（時間的に困難な場合には最終回にまとめて解説する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学から見た食・農と環境の関係
第 2 回	分析のためのツール①	ミクロ経済学の基礎
第 3 回	分析のためのツール②	余剰分析（消費者余剰、生産者余剰）
第 4 回	分析のためのツール③	市場の失敗と外部性
第 5 回	分析のためのツール④	税による外部性の是正
第 6 回	分析のためのツール⑤	補助金による外部性の是正
第 7 回	分析のためのツール⑥	費用便益分析
第 8 回	環境の経済的便益の測り方①	回避支出法、代替法、ヘドニック価格法
第 9 回	環境の経済的便益の測り方②	仮想市場法（CVM）
第 10 回	環境の経済的便益の測り方③	コンジョイント分析
第 11 回	廃棄物問題①	廃棄物の現状、食品廃棄物、家電廃棄物
第 12 回	廃棄物問題②	廃プラスチック問題、マイクロプラスチック問題
第 13 回	廃棄物問題③	デポジット制度の理論と実例
第 14 回	総まとめと振り返り	各回の講義内容を振り返り、小課題に対する解説等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
予習に 2 時間、復習に 2 時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識の理解を図る。
2. 新聞やニュースを見て、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

3. 数学（中学～高校 1 年程度）を用いるので、不安な者は事前に見直しておく。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・三橋規宏（2013）『環境経済入門（第 4 版）』日本経済新聞出版
- ・日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
- ・栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ（第 4 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30 %）と、期末試験（70 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験で電卓が必要となる場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

We face today global environmental problems such as global warming that cannot be addressed by one country alone; international cooperation is necessary. The purpose of this course is to therefore survey the history of environmental issues and their current status and to understand the international measures to tackle them, with a focus on global conventions.

As such, students are required to read a newspaper or watch TV programs and have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class. In addition, Some of the material in this class will be explained using high school level mathematics, therefore students who are terrible at the subject should revise beforehand.

Finally, Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%).

AGC100YD

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な 17 種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。

栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。

さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。
学習支援システムにより、資料を提供する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観
第 2 回	光合成と呼吸	高等植物の光合成 葉緑体での ATP 合成 カルビン回路 光呼吸 CO ₂ 濃縮機構 (C ₄ 植物, CAM 植物) デンプンとショ糖の生合成 光合成の生態学的考察 植物の呼吸 解糖 ミトコンドリアでの ATP 合成 呼吸の生態学的考察
第 3 回	植物による水の吸収	植物根の構造 根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支 土壌-植物-大気連続体
第 4 回	植物による養分吸収と物質輸送	根と土壌 根圏 受動的および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式 光合成産物の分配 環境への応答 養分欠乏への対処法 土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第 5 回	窒素とイオウ	

第 6 回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第 7 回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能
第 8 回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第 9 回	微量元素	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第 10 回	ケイ素とアルミニウム	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性
第 11 回	土壌溶液と養液栽培	土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断 植物の養分吸収速度と施肥方法 化学肥料の種類と性質 有機質肥料 施肥法 (種類, 時期, 位置, 量) 肥料取締法の違い 利用可能な農地 生産力の持続 流亡 集積 脱窒 固定 難溶化 有機化
第 12 回	肥料と施肥	地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環 (炭素, 窒素, リン, カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応
第 13 回	地力保全と食料生産	
第 14 回	物質循環と環境	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

植物栄養学 第 2 版 間藤・馬・藤原編, 文永堂出版, 2011
新植物栄養・肥科学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著, 朝倉書店, 2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ, エドゥアルド・ザイガー, イアン・M・モラー, ガス・マーフィー編集, 講談社, 2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%, 毎回提出のリアクションペーパーを含む平常点 40 %による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Animals as well as human rely on plants for food for energy and many other nutrients. The "plant nutrition" required by plants is the most basic environmental factor to ensure the healthy growth of plants.

As a plant nutrition, 17 essential elements are known, and 14 elements other than carbon, hydrogen and oxygen are absorbed from soil through roots.

You understand the functions of the 17 essential elements required for plant growth in relation to plant physiologic phenomena such as photosynthesis and metabolism in the body. You will learn the mechanism of nutrient absorption by plant roots and the dynamics of nutrients in soil, and understand the concept and method of nutrient water management for plant growth control.

【Learning Objectives】

The disorders of plant growth due to deficiency or excess of nutrients is as important as plant disease. Understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil, and acquire the knowledge necessary for the field of botanical science.

Furthermore, you will study the nutrient cycle in the regional ecosystem centered on plants, and consider the ideal way of soil conservation to maintain both the growth of plants and environmental conservation.

【Learning activities outside of classroom】

Review the lecture contents based on the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class.

【Grading criteria / policy】

The grading is by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal score including the reaction paper submitted each time.

PHY100YD
教職物理学

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は力学法則に、また車を動かす動力や気象現象は熱移動の法則に支配されている。一方、現代社会に不可欠な電子機器やコンピュータなどは電磁気学や量子力学の法則を応用したものである。これらの現象の基礎を理解するために、典型的な例を取り上げ、方程式を正しく立て、それを解くプロセスを学ぶ。

【到達目標】
力学、電磁気学、熱学、量子力学に関する基礎的な概念を学ぶ。それぞれの典型的な例において基礎方程式を解き、得られた結果の物理的な意味を理解するプロセスを学ぶ。これらを通して物理学的な探求能力や論理力を養うとともに、物理学の現代社会への関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	運動の表現	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第 2 回	運動の法則	運動の三法則を概説し、運動方程式について理解する。
第 3 回	物体の落下運動	運動方程式を解き、物体の落下や放物運動について学ぶ。
第 4 回	万有引力の法則	万有引力の法則とケプラーの法則を学ぶ。
第 5 回	単振動	運動方程式を用いて、バネにつながれた質点の運動を学ぶ。
第 6 回	仕事とエネルギー	仕事の定義や力学的エネルギー保存則について学ぶ。
第 7 回	物体の衝突	物体の衝突について学ぶ。
第 8 回	熱力学の第 1 法則	熱と温度、熱機関について学び、熱力学第一法則を理解する。
第 9 回	熱力学の第 2 法則	熱の流れ、エントロピーについて学び、熱力学第二法則を理解する。
第 10 回	電場	クーロンの法則、電場、ガウスの法則、電位について学ぶ。
第 11 回	電流と磁場	電流と磁場の関係、ビオ・サバールの法則やアンペールの法則を学ぶ。
第 12 回	電磁誘導の法則	電流の時間変化と起電力の関係を学び、電磁誘導の法則を理解する。
第 13 回	光の粒子性と波動性	光電効果と光の粒子性、光の干渉と光の波動性について学ぶ。
第 14 回	量子力学の基礎	量子力学が形成されるまでの過程を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する、教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】
物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房
物理学 小出昭一郎 裳華房

【成績評価の方法と基準】
期末テストと平常点により 総合的に判断（100 %）する。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにします。

【Outline (in English)】
Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics, thermodynamics and electromagnetism.

BOA200YD

応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場合で求められる。本授業では、IPM や IBM を構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第 2 回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第 3 回	化学的防除 1	薬剤の特性、作用機作など
第 4 回	化学的防除 2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第 5 回	生物的防除 1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第 6 回	生物的防除 2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第 7 回	生物的防除 3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第 8 回	物理的防除 1	遮断法、光などの手段による防除
第 9 回	物理的防除 2	熱、音などの手段による防除
第 10 回	耕種の防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第 11 回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBM の概念と方法
第 12 回	グループディスカッション	IPM の実践について
第 13 回	発生予察	発生予察の方法と利用
第 14 回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
 後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
 仲井まどか・日本典秀編 バイオロジカル・コントロール 第 2 版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 30 %、平常点 20 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.

The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.

Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, attend classes: 20%

ASS200YD

食料・地域政策論

黒川 哲治

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料生産を担う日本の農業は現在、農業者人口の減少や耕作放棄地の増加など、様々な困難に直面している。このままでは、人が生活していくうえで必要とされる「衣・食・住」の「食」が危うい。そこで本講座では、主として農業経済学・農業政策論の観点から、農業・農村に関わる諸問題およびそれらに対する各種政策や取り組み事例について概観することで、日本の農業が直面する様々な問題について理解を深めることとする。

【到達目標】

- ①日本の農業が直面する種々の問題を理解し、問題の本質を説明できるようになる。
- ②農業経済学の基本的な概念や枠組みを用いて、問題を考察できるようになる。
- ③日本の農業農村が直面する様々な問題に対し、自らの見解を構築できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。新型コロナの状況に依るが、対面を基本とし同時 WEB 配信も行うハイフレックス型で行う。遠隔講義を強いられた場合には、Zoom によるリアルタイム配信で講義を行う。また、講義期間中に課す小課題に対しては、可能な限り翌回（時間的に厳しい場合には最終回）で解説を行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	食料・農業・農村の危機的状況
第 2 回	日本の農業政策の変遷	食料・農業・農村基本計画、生産調整
第 3 回	日本の農業農村問題① 農業従事者	農業者の分類と人口推移、新規就農者、担い手不足
第 4 回	日本の農業農村問題② 農地	農地の減少、耕作放棄地、不在地主
第 5 回	日本の農業農村問題③ 野生鳥獣害	鳥獣保護法、鳥獣被害額
第 6 回	都市農村交流	田園回帰、交流人口と関係人口、地域おこし協力隊
第 7 回	都市農業	都市農業の特徴、市民農園、地域支援型農業
第 8 回	地域における新たな食料問題	食品アクセス問題、買い物難民
第 9 回	地域における食料問題の新たな解決法	食品ロス、フードバンク、フードドライブ
第 10 回	アグリビジネス	株式会社の農業参入、ゲノム編集食品、代替肉
第 11 回	スマート農業	AI を活用した次世代型農業
第 12 回	農業・農村と環境①	農業の多面的機能、多面的機能支払い
第 13 回	農業・農村と環境②	環境保全型農業、環境直接支払い、生態系サービスへの支払い (PES)
第 14 回	まとめ	講義内容の振り返り、重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に 2 時間、復習に 2 時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を拡充する。
2. 新聞やニュースを見たりして、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・藤田・内藤・細野・岸上（2018）『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房
- ・荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学（第 5 版）』岩波書店
- ・檜原正澄・江尻彰（2006）『現代の食と農をむすぶ』大月書店

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30 %）と、期末レポート（70 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験の際に電卓（スマホの電卓機能は不可）が必要な場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Agriculture, essential to food production in Japan, currently faces difficulties such as a decrease in the number of farmers and an increase in abandoned arable land. Such a state will make it difficult to ensure that there is enough food to sustain human life. This course will give students an overview of the issues related to agriculture, rural areas, and agricultural policy in Japan, from the perspective of agricultural economics and agricultural policy.

Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

BOA200YD

自然再生学概論

大井田 寛、黒川 哲治、安田 耕司、橋本 智美

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然は人間が生きていくために欠かせない存在である。しかし、開発などによって自然生態系が破壊されている。それゆえ、良好な自然を次世代へ継承するためには、自然環境の保全・再生・創出など、生態系を人為的に復元する必要がある。そこで本科目は、自然再生の背景や理念、自然環境の評価方法や再生技術など、自然再生士補として必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

自然再生の意義や理念を理解し、自然再生士合格に必要な最低限の知識や技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各方面における専門分野の担当者によるオムニバス講義形式で進める。授業は、適宜、資料を配布のうえ、対面を基本としたハイフレックス形式で行う（ただし、外部講師はリアルタイム・オンライン型になる可能性がある）。また、授業内で適宜、質問を受け付ける他、課題やレポートの解説・講評を行う。なお、新型コロナの影響により遠隔授業となった場合は、Zoomを用いたりリアルタイム配信で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（黒川）	科目の内容や進め方の紹介、自然再生士の資格取得に関する説明
第2回	自然再生の背景と理念（黒川）	自然再生推進法、自然再生の理念と基本原則
第3回	自然再生事業における取り組み（黒川）	釧路湿原・自然再生事業でみる自然再生の取り組み
第4回	生物多様性と生態系サービス（安田）	生物多様性と生態系サービスの関係、生物多様性保全の意義
第5回	環境・生態系に対する人間活動の影響（安田）	環境に対する人間活動の影響と二次的自然
第6回	農業生態系とその特徴（安田）	二次的自然としての農業生態系の成り立ち、特徴、変遷
第7回	農業生態系の保全（安田）	農業生態系の保全に向けた様々な取り組みや農法
第8回	自然再生技術（橋本）	自然再生における計画・設計、施行・管理
第9回	生活環境の保全（柴田）	都市環境の現状から見た快適な暮らしの基盤の構築
第10回	人間の暮らしに及ぼす植物の癒し効果（柴田）	ガーデニング、寄植え等の作業や香り等の直接的な効果
第11回	里山の再生と気候変動（小林）	林床植物、ミツバツツジ、風倒木適応
第12回	環境評価法と指標生物（大井田）	指標生物の種類、調査法、調査の実例
第13回	行政主導による国内外の自然再生（黒川）	日本・韓国・米国の行政による取り組み事例
第14回	民間主導による国内外の自然再生（黒川）	民間企業やNPOによる自然再生の取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回で配布される資料をもとに、講義のポイントをまとめておく（1時間）。図書館で関連図書を探したり、WEBサイトで関連情報を調べ、講義内容の更なる理解に努める（3時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

最新の知識を伝えるために、必要に応じて資料を配布する。各回の参考書は各担当者が紹介する。参考までに、自然再生士に関する文献として以下を挙げる。
・亀山章・倉本宣・日置佳之（2013）『自然再生の手引き』一般財団法人日本緑化センター
・一般財団法人日本緑化センター（2013）『自然再生ガイドライン（改訂2版）』一般財団法人日本緑化センター
・一般財団法人日本緑化センター（2012）『自然再生副読本 自然再生事例集1』一般財団法人日本緑化センター

【成績評価の方法と基準】

「講義内容が理解できているか」「自然再生士補として必要とされる基礎知識を修得しているか」の2つの観点から、各担当者がレポートや小テストにより評価し、それらを総合し100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Nature is indispensable for human survival; yet, natural ecosystems are being destroyed in the name of development. In order to regain ground and pass down a healthy ecosystem to future generations, we must actively conserve, regenerate, and create what is being depleted. In this course, students will study the background and philosophy of nature restoration, and learn about assessment methods and the technology of nature restoration. They will gain knowledge indispensable to become nature restoration promoters.

Students are expected to summarise the contents of the lecture with the handout distributed in advance. Students are also needed to search for reference books at Hosei university library and to find out the related information about the lecture content on the WEB, into achieving further their understanding.

Each instructor will grade reports or mini-tests of students who take the course. Then final grade will be evaluated twofold: whether you can understand the contents of the lesson and whether you can obtain the essential knowledge for passing the examination of assistant nature restoration.

PPE200YD

ホーティカルチャー論

津田 新哉、紺野 祥平、池田 敬、鈴木 栄

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーおよび種子から流通まで 1	ホーティカルチャーおよび農業に関して基本的な定義と、野菜の成長ステージ別に、様々な野菜の特徴などを解説する
2	種子から流通まで 2	1 回目引き続き、野菜の成長ステージ別に、野菜の生理生態の特性などを解説する
3	野菜生産 1（施設栽培および養液栽培）	野菜が生産される方法に関して、露地と施設を比較し、また施設での特異的な環境および栽培手法について野菜生産の視点から解説する。
4	野菜生産 2（植物工場）小テスト 1	施設がさらに高度化した植物工場について、野菜生産の視点から解説する。
5	果樹栽培と生理特性 1	果樹の種類について触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび果実を生産する上で重要な開花や結実に関する生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性 2	果実の生長、発育や成熟に関する生理特性や、翌年の果実生産に必要な花芽の分化・発育について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
7	果樹生産と温暖化	現在の果樹生産が抱える最も大きな問題が地球温暖化の影響である。温暖化が果樹栽培に与える影響や将来予測、また、温暖化対策技術や対策研究について紹介する。
8	果樹の育種	永年作物で遺伝的にヘテロ性が高い果樹について、その原産地や、交雑育種を中心とした新しい品種を開発する技術について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性 1	花きの品質を構成する 3 大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性 2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。

13	花きの観賞性 3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について解説する。
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013
農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014
農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 % と定期テスト（各分野 25 %、計 75 %）の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

BAB200YD

教職生物学

齋藤 理佳

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の概要としては、「授業者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。
目的としては、この授業によって生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たな自分の知識として広げていくこと。

【到達目標】

講義の前半は、細胞、DNA、遺伝子を中心とした「ミクロな生物学」を学び、後半については、神経系や感覚系を中心とした「マクロな生物学」を学び、それら全般を理解できることを目的とする。なお、専門的な理解の他にも、再生医療や NIPT（出生前診断）などの最新の情報、および歴史的な背景までも幅広く理解できる。加えて身近な話も盛り込むことにより、「生物学」が身近で面白い学問であることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は進める。特に「生物学」が身近で面白い学問であることを講義形式の授業で理解してもらうために、パワーポイントや DVD などの動画を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業形式の授業も取り入れる。小テスト及び課題は学習支援システムを通じて行う。提出翌週の講義の冒頭において正解を提示するとともに解説も併せることによるフィードバックを行うことにより、さらに理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ヒトの誕生から死まで	全ての生物は細胞からできていることを理解する
2	細胞の種類と構造	再生できる細胞とできない細胞
3	細胞のはたらき	ES 細胞、iPS 細胞およびがん細胞
4	遺伝学の基礎	なぜ正確に遺伝情報は伝わるのか
5	DNA 及び構造、複製と変異および修復について	二重らせん構造は正確に遺伝情報が分配されるしくみをもっているが、その複製のメカニズムと情報修正のための機能を学ぶ
6	遺伝子とそのはたらき	遺伝の正体である遺伝子について学ぶ
7	遺伝に関わる疾患	遺伝子疾患は、遺伝子の異常が原因になって起きる疾患であるが実際にどのような疾患がありその原因遺伝子はそこにあるかを学ぶ。
8	染色体の構造と機能	真核生物では遺伝子情報は DNA に保存され、DNA は染色体に含まれている。その染色体の構造と機能を学ぶ。
9	生殖と発生	生物の生殖について学ぶと共に、出生前診断（NIPT）、および iPS 細胞を用いた再生医療についても学ぶ。
10	刺激の受容と反応 I	神経系と感覚系の一般的な性質
11	刺激の受容と反応 II	時に五感（体性感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚）に関して学ぶ。
12	個体の制御 I	脳の構造と機能を学ぶとともに、脳を形成している神経細胞とグリア細胞と特徴についても学ぶ。
13	薬理学	薬の作用/副作用、及び薬と受容体の関係、競合阻害など薬理学の基礎を学ぶ。
14	恒常性（ホメオスタシス）について及び試験・まとめと解説	自律神経とホルモンについて学ぶとともに試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。
また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

- 1) ケイン生物学
M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人
- 2) Essential 細胞分子生物学原著第 3 版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂
- 3) Essential Cell Biology 4th edition 原著第 4 版
B.Alberts et al.(著)、Garland Science
- 4) The cell 細胞の分子生物学原著第 5 版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】

授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する
成績評価については、「ミクロ」「マクロ」の両側面及び最新の生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含み平常点及び授業内課題併せて 40%、期末試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Biology is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants.

【Learning Objectives】

You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and in-class contribution(40%), term-end examination (60%).

PPE200YD

実践植物遺伝学

柳澤 貴司、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、品種改良を目的とした農作物の育種学（１～７回）や分子遺伝学（８～１４回）の基礎的な知識と方法を学ぶ。

【到達目標】

水稻、麦類等の農作物の品種改良の基礎となる手法や実際の方法について知る。

これにより育成された品種の農業への貢献を知る。

また、分子生物学的知見を活用した育種法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面事業を予定しており、授業では主に資料を配布してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	育種とは	育種の歴史、農作物の品種改良の意義、古典的な遺伝学、遺伝子型と表現型について学習する。
第 2 回	遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良を行う以前の作物の歴史について学習する。
第 3 回	育種組織と育種目標	公的機関の組織的な品種改良の歴史と現況および実施されてきた品種改良について学習する。特に農作物に求められる収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分の改良について学習する。
第 4 回	育種操作	育種機関で実施されてきた人工交配、組織培養、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第 5 回	圃場での選抜手法	生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、生産現場での選抜や試験の意味や必要性について学習する。
第 6 回	室内での選抜手法	遺伝子 (DNA) の変異を検出するマーカー、種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験についての意味や必要性について学習する。
第 7 回	品種登録と品種の普及	品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度、消費者に届くまでについて学習する。
第 8 回	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第 9 回	作物の遺伝子解析手法	DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。

第 10 回 DNA マーカー

連鎖解析に用いる DNA マーカーの歴史と原理、応用例について学習する。

第 11 回 遺伝子の機能解析

「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバーズジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。

第 12 回 遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術

遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。

第 13 回 ゲノム解析の新技術

マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。

第 14 回 ゲノム研究における新知見

サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNA やタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新知見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

MAC100YC

化学熱力学 I

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学熱力学はあらゆる工学の基礎であるとともに、近年のエネルギー、環境、資源問題との関わりも深く、非常に重要な基礎科目である。しかし多くの学生にとって難解で取つきにくい学問でもある。本講義では化学熱力学の基礎重要事項を集中して丁寧に講義し、さらに演習問題を数多くこなすことで、化学熱力学の重要概念を理解できるようにする。

【到達目標】

熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則を理解する。

熱力学関数の定義、求め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学を学ぶ上で最低限必要な基本事項について学習した後に、化学熱力学の基礎事項である熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則、エンタルピー、エントロピーの基本概念について丁寧に解説する。授業毎に課題を設定し、演習問題に取り組むことで、化学熱力学に慣れ、重要概念を理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回目	イントロ、基本用語、単位換算	熱力学の概要、基本用語を学び、単位換算の演習を行う。
第 2 回目	熱力学第一法則と閉じた系のエネルギー収支	熱力学第一法則、閉じた系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第 3 回目	流れ系のエネルギー収支	流れ系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第 4 回目	機械的エネルギー収支式とベルヌーイの法則	機械的エネルギー収支式、ベルヌーイの法則を学ぶ。
第 5 回目	熱容量	熱容量とは何か、及び、定容熱容量、定圧熱容量の定義を学ぶ。
第 6 回目	顕熱、潜熱、反応熱	顕熱、潜熱、反応熱について学ぶ。
第 7 回目	反応プロセスのエネルギー収支	反応プロセスのエネルギー収支式について学ぶ。
第 8 回目	これまでのまとめ	これまでの授業のまとめと中間試験を行う。
第 9 回目	理想気体の法則	理想気体の法則について学ぶ。
第 10 回目	理想気体のエネルギー	理想気体の等温変化、断熱変化について学ぶ。
第 11 回目	実在気体	実在気体の圧力-体積-温度の関係、及び、フガシティーについて学ぶ。
第 12 回目	カルノーサイクルと熱機関の効率	カルノーサイクルと熱機関の効率について学ぶ。
第 13 回目	エントロピー	エントロピーについて学ぶ。
第 14 回目	熱力学第二法則	熱力学第二法則について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業では、入門的なことを丁寧に述べるため教科書の一部のみを講ずる。そのほかの部分についても学ぶこと。

【テキスト（教科書）】

「第 2 版 演習 化学工学熱力学」大竹伝雄、平田光徳共著、丸善出版

【参考書】

物理化学のテキスト（例えば アトキンス 物理化学（上） 東京化学同人）
化学熱力学のテキスト（例えば 原田義也 化学熱力学 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の終わりには演習（計算問題）を行うため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

Chemical thermodynamics can be defined as the science of energy. This course will introduce students to the basics of chemical thermodynamics, such as the first law of thermodynamics, the second law of thermodynamics, and entropy.

MAC100YC

化学熱力学 I

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①熱力学関数を用いて、熱力学的諸性質を記述する。
- ②理想的なサイクルを組み立てている諸過程について学ぶ。
- ③化学平衡（反応平衡）を数学的に記述する方法を理解する。

【到達目標】

化学熱力学 I で学んだ 3 つの基本法則（第 1、第 2、第 3）をベースに、熱力学をより理論的に取り扱うことができるようになること。種々の熱力学関数を導出し、熱力学の概念を一般化するとともに、現実的な課題を取り扱う方法を思考することができるようになること。具体的には、化学プロセスおよび化学装置の設計や最適運転法について、その基となる考え方を提案できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

熱力学 I で学んだ「自由エネルギーが最小で平衡となる」という考え方を相分離、溶液の性質や、化学反応に適用し、実用的なレベルで計算を行う。無味乾燥な数式の羅列にならぬように、演習問題を抱負に取り入れながら、理論の具体的な活用法について学ぶ。

本講義は、教室での対面式、またはハイフレックス（対面式＋オンラインライブ配信）方式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	熱力学 I の復習 (I)	教科書第 1 章：速度論と平衡論の違いを中心に、熱力学の存在意義を考える。
第 2 回	熱力学 I の復習 (II)	教科書第 2、3 章：例題を使って、熱力学の第 1 法則を復習する。
第 3 回	熱力学 I の復習 (III)	教科書第 4、5 章：P-V-T 関係の例題を解く。
第 4 回	熱力学 I の復習 (IV)	教科書第 6 章：例題を使って、熱力学の第 2 法則を復習する。
第 5 回	エンタルピーとエントロピーの計算および自由エネルギーと内部エネルギーの計算	教科書第 7 章：エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、内部エネルギーについて、熱力学関数間の関係を明らかにする。
第 6 回	水蒸気表と熱力学線図	教科書第 7 章：水蒸気表と熱力学線図の利用法について、例題で学ぶ。
第 7 回	定圧比熱と定容比熱	教科書第 7 章：定圧比熱と定容比熱を含め、状態量の相互関係について学ぶ。
第 8 回	理想的なサイクルを組み立てている過程	教科書第 8 章：3 つの過程（等温圧縮（膨張）、断熱圧縮（膨張）、等圧変化）の違いについて学ぶ。
第 9 回	サイクル	教科書第 8 章：理想的なサイクル、クリアランスのあるサイクル、多段圧縮（膨張）、Joule-Thomson 膨張について学ぶ。

第 10 回 流れ過程

教科書第 8 章：流れ過程の圧縮膨張に続いて、ヒートポンプの計算を行う

第 11 回 相平衡の条件と相律

教科書第 9 章：相の概念と平衡の概念を理解し、相間に成り立つ関係式（相律）を学ぶ。

第 12 回 フガシチー、活量、活量係数

教科書第 9 章：実在気体の取り扱いについて学ぶ。

第 13 回 化学平衡と平衡定数

教科書第 10 章：化学反応系での平衡を平衡定数を導入して、定量的に取り扱う。

第 14 回 平衡組成の計算

教科書第 10 章：系が平衡に到達した後の組成を取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に課題を科す他、適宜、演習問題のレポートを科す。

【テキスト（教科書）】

化学熱力学 I で用いた

大竹伝雄、平田光穂共著：第 2 版演習 化学工学熱力学、丸善を教科書として用いる。

【参考書】

1. アトキンス：物理化学（上）第 10 版、東京化学同人
2. 原田義也：化学熱力学、裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施の有無により、以下の 2 つの場合のいずれにより総合的に評価する。

1. 期末試験が実施できる場合：課題レポート（50%）と試験（50%）
2. 期末試験の実施が困難な場合：課題レポート（100%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を振り返るために、不定期にミニレポートの提出を求める。このミニレポートに寄せられた意見を参考に、毎週の講義を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

演習問題を解くために、必ず毎回の講義に電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

熱力学では多くの抽象的な概念が定義されている。その理解のために行う問題の演習は、受講者にとって極めて重要であり、積極的に参加すること。

【Outline (in English)】

1.Outline and objectives

① To state the properties of thermodynamics by using the thermodynamic functions.

② To learn various processes by constructing ideal thermodynamic cycles.

③ To understand how to state chemical (reaction) equilibria mathematically.

2.Learning Objectives

Students are required to handle thermodynamic problems more theoretically using three basic principles (1-st, 2-nd, and 3-rd laws). Students are also requested to derive various thermodynamic functions to understand the basic concept, through which they can solve realistic engineering problems on chemical thermodynamics. Eventually, students may be able to design and operate chemical apparatus in chemical plants and factories.

3.Learning activities outside of classroom

All the students must submit their papers on homework problems given in class or through HOPPII system.

4. Grading Criteria /Policy

A grading system depends on infection situation of the COVID-19;

1. when we have the final exam: Final exam 50% + HW problems 50%
2. when we do NOT have the final exam: HW problems 100%

MAC100YC

応用化学基礎

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

新入生であることから、少人数グループによる共通のテーマに対して、共同作業によるグループプレゼンテーションを通じて学生間での信頼感を深めること。さらには、各自興味あるテーマについて個々にプレゼンテーションを行なうことで、大学では自らが積極的に自己啓発しなければならないことを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	全体の概要と自己紹介
2	研究室紹介1	研究室の見学および研究内容の紹介
3	研究室紹介2	研究内容の紹介
4	研究室紹介3	研究内容の紹介
5	論文購読	化学系論文の購読を行う。
6	パワーポイント使用法1	人前での発表手段のパワーポイントの使用法を習得する。
7	パワーポイント使用法2	人前での発表手段のパワーポイントの使用法を習得する。
8	テーマ設定	グループ毎のテーマ設定を行う。
9	プレゼンテーション	グループのテーマについて発表を行う。
10	テーマ設定	各自興味あるテーマの設定を行う。
11	プレゼンテーション	各自興味あるテーマについて、パワーポイントで発表およびディスカッションを行う。
12	キャリア教育1	キャリア教育を行う。
13	キャリア教育2	キャリア教育を行う。
14	キャリア教育3	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校化学の基礎を十分理解する必要がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のプレゼンテーション内容、および的確なディスカッション内容を総合して決める

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MAC100YC

応用化学基礎

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

エネルギー関連教材を用いて課題調査法、発表資料の作成法、発表方法を学ぶ。

自己紹介を例としたプレゼン、実験レポートの書き方および簡単な英語文献の読み方の指導を受けた後、配布された文献を読んで内容について、それぞれプレゼンを行い、その内容についてグループで質疑応答を行う事を繰り返す。それらの実践により大学生として基本的に必要な能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、目的の説明、履修講義に関する提案
第 2 回	大学における生活指導	学生相談室の心理カウンセラーによる講話
第 3 回	代替エネルギー	風力エネルギー、太陽光発電など代替エネルギーに関する話題提供
第 4 回	太陽光発電に関する資源問題	・代替エネルギーに関する調査発表 ・太陽光発電に関する資源問題に関する話題提供と調査分担
第 5 回	課題調査の発表（1）	太陽電池材料の調査内容の発表（シリコン系材料、13-15 族系化合物半導体）
第 6 回	調査結果の発表（2）	太陽電池材料の調査内容の発表（化合物半導体、色素増感）
第 7 回	資料講読（1）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 8 回	資料講読（2）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 9 回	資料講読（3）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 10 回	資料講読（4）	機能性無機材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 11 回	資料講読（5）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 12 回	資料講読（6）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第 13 回	キャリア教育（1）	大学卒業後のキャリア育成準備
第 14 回	キャリア教育（2）	大学卒業後のキャリア育成準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】エネルギー関連課題の調査、大気・エネルギーに関する配付テキストの事前調査、プレゼン資料の作成

【テキスト（教科書）】

独自のテキストを配付する。

【参考書】

実感する化学、上巻・地球感動編、廣瀬千秋訳、NTS。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容、レポートの提出、平常点をもとに総合的に評価する。（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関して学生同士で討論する時間を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

The goals of this course are to acquire basic knowledge, research ability, and presentation skills necessary for learning university education.

Final grade will be evaluated according to the in-class contribution of research presentation, and the submission of research reports.

MAC100YC

応用化学基礎

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連したテキストの精読を行い、自ら参考文献を調べたりグループ調査などにより自分が理解した内容について **powerpoint** を用いたプレゼンテーションにより発表すると同時に他の参加者を交えた討論を行う。授業の初めに、前回の授業の議論内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明、担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	総合的な学修指導	心身両面から健康的に学修を進めるための指導を専門家からのガイダンスも交えて行う。
第 3 回	プレゼンテーション演習 (1)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第 4 回	プレゼンテーション演習 (2)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第 5 回	文献検索演習	化学や周辺学問領域に関する学術情報検索方法としてオンラインデータベースなどへのアクセス方法などを専門家の講義なども交えながら学ぶ
第 6 回	現代化学に関するディスカッション (1)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関するディスカッション (2)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関するディスカッション (3)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関するディスカッション (4)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関するディスカッション (5)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関するディスカッション (6)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 12 回	現代化学に関するディスカッション (7)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 13 回	キャリア教育 (1)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講義も交えて学ぶ

第 14 回 キャリア教育 (2)

化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講義も交えて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストを十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために配布印刷物、**powerpoint** などによる資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、オンラインジャーナルの指定および学習支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

各授業回におけるプレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。（各回 100/14%）

【学生の意見等からの気づき】

好評であったため、引き続き英語文献の内容理解に重点をおく

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる資料の配布、課題の提出を行うため、履修者はシステムの利用に習熟しておく必要がある

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学論文の読解力を養うため、与えられた論文の内容を一人ずつ発表する。化学に関するテーマに沿って各自が調査研究を行い発表する。発表に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明。
2	メンタルヘルスケア	学生相談室主任心理カウンセラーによる、メンタルヘルスケアに関する講義。
3	高分子化学入門	身近な高分子化合物について学ぶ。
4	実験	高分子化合物に関する基礎的な化学実験を体験する。
5	化学論文の読み方（1）	化学論文の構成について学ぶ。
6	化学論文の読み方（2）	化学論文で使われる専門用語や表現について学ぶ。
7	論文検索	学術論文の検索法について学ぶ。
8	プレゼンテーション資料の作成法	パワーポイントの基本的な使用法について学ぶ。
9	プレゼンテーション（1）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第1グループ）。
10	プレゼンテーション（2）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第2グループ）。
11	プレゼンテーション講評	プレゼンテーションについて全体の講評を行う。
12	まとめ	全体のまとめ
13	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
14	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
配布資料を読み、与えられた課題を調べ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

配布資料

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料の充実

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%) and the in-class contribution (50%).

MAC100YC

応用化学基礎

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーションの準備、など多くの実践を繰り返すことにより、大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学生と信頼関係を築くために、できるだけ対話形式で講義を行う。学生に文献検索の方法を伝授するとともに、プレゼンテーションの技術を教授し、そのスキルを磨くように配慮する。

本講義は、教室での対面式、またはハイフレックス（対面式＋オンラインライブ配信）方式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	科目登録と履修の方法 エンジニアの役割 研究倫理教育	入学後直ちに行う必要がある科目登録の重要性を議論する。また、資格取得、文系と理系の役割分担、起業などについて議論する。技術者・研究者として備えるべき、倫理観について学ぶ。
第 2 回	化学英語。 最終報告課題の公表。	化学の基礎的な事項を、英語を通して理解する。また、第 11～12 週で行う最終プレゼンテーションの課題を公表する。
第 3 回	Nature Chemistry 誌を用いた文献検索の 演習、および報告課題 の公表。	Nature Chemistry 誌へのアクセス方法、文献の検索方法を教授する。最終プレゼンテーション用の課題を公表する。
第 4 回	化学基礎の演習（1）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 5 回	化学基礎の演習（2）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 6 回	化学基礎の演習（3）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 7 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（1）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 8 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（2）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 9 回	単位の換算・次元解析 （1）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 10 回 単位の換算・次元解析
（2）

工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 11 回 課題報告（1）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 12 回 課題報告（2）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 13 回 キャリア教育（1）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

第 14 回 キャリア教育（2）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
事前に配布する英語、計算問題などのプリントを学習しておくこと。

後半のプレゼンテーション課題では、パワーポイントの利用が必須なので、その利用方法について習熟しておくこと。1 回目のプレゼンテーションでは、化学に関する最新の原著論文の紹介、2 回目のプレゼンテーションでは選択課題の中から自由研究に基づく成果を報告する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

講義資料は配布する。

【参考書】

特に必要ない。

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み態度（50%）と2回のプレゼンテーションを含む演習問題の出来（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は少人数のゼミ形式の講義であり、今後の学生生活に確実に役に立つスキルが身につくように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

後半の講義では、ノート型パソコンを用いたプレゼンテーションが大きなウェイトを占めるので、パソコンの基本的な使用法の理解が前提となる。

【その他の重要事項】

受講者全員が、パワーポイントを使った発表を少なくとも2回経験するので、このソフトウェアに習熟していることが望ましい。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、日米の文化の違い、あるいは大学の違いなどを実感できるように配慮している。また、技術者・研究者として必要な倫理観についても、実例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This course is a first-year education program, aiming to provide learning skills for students by training academic writings and oral presentations.

2.Learning Objectives

Students learn basic skills in the university, including how to obtain necessary information, how to register classes, and how to make scientific presentations.

3.Learning activities outside of classroom

All the students must make two presentations, the one on a new article from Nature Chemistry and the one on his/her current interest. Students must prepare presentation files outside the class. Students are also required to answer many questions from the instructor in class.

4. Grading Criteria /Policy

Two presentations 50 %

Positiveness in class 50 %

MAC100YC

応用化学基礎

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代化学は、基礎分野では生物学、物理学との境界・融合領域で著しい進展を達成しており、応用分野では環境、エネルギー問題の解決に欠くことの出来ない存在となっている。本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行う。また、初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

この講義では、学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連した文献の精読を行い、自ら参考文献を調べ、自分が理解した内容を powerpoint を用いたプレゼンテーションおよび討論を行うことにより、プレゼンテーション技術を習得するとともに、大学での学習の基本姿勢を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明。自己紹介。集合写真の撮影。授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	化学研究成果の社会発信	化学研究成果の社会発信としての学術論文、特許、学会発表について学ぶ。
第 3 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 4 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 5 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 6 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第 12 回 現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション

履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
大学 1 年生向けキャリア教育を行う。
大学 1 年生向けキャリア教育を行う。

第 13 回 キャリア教育（1）

第 14 回 キャリア教育（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストおよび資料を十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために powerpoint による資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

出席回数、プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表能力の養成を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な補助資料は、授業支援システムを通して配布を行う。また、プレゼンテーションに当たっては貸与パソコンを用いて資料作成を行う。

【その他の重要事項】

本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行います。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

森 隆昌

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

課題ごとに学生自身によるプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回目	イントロダクション	授業の進め方に関する説明。
第 2 回目	キャリア教育	キャリア教育を行う
第 3 回目	英文教材輪読 1	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第 4 回目	英文教材輪読 2	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第 5 回目	英文教材輪読 3	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第 6 回目	英文教材輪読 4	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第 7 回目	英文教材輪読 5	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第 8 回目	英語文献調査・要約	与えられた課題に合致する英語文献を自ら調査し、その内容を要約する。
第 9 回目	文献紹介 1	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第 10 回	文献紹介 2	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第 11 回	文献紹介 3	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第 12 回	文献紹介 4	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第 13 回	キャリア教育 2	キャリア教育を実施する。
第 14 回	キャリア教育 3	キャリア教育を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 輪読の準備・予習。
英語文献の要約・プレゼン資料の作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（資料の内容、発表の内容）とディスカッション（質問の数、内容、回答の内容）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。少人数によるセミナー形式の授業を体験させることにより、高校までの受動的な学習方法から大学での能動的かつ自律的な学習方法へと意識を切り替えることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

研究室所属後に行われる研究成果報告、英文教材輪読、英文雑誌紹介の準備として、実験データ解析・発表、英文化学教科書輪読、英字記事等紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の進め方を説明し、化学に関する英文教材を指定する。
第 2 回	カウンセラー講習	カウンセラーによる講習を行う。
第 3 回	不純物添加によるセラミックスの着色 (1)：	セラミックスの着色のために添加する物質やその混合比を決める。準備
第 4 回	不純物添加によるセラミックスの着色 (2)：	セラミックスに酸化物を添加・混合し、成型する。合成
第 5 回	不純物添加によるセラミックスの着色 (3)：	焼成によって得られる着色セラミックスの評価を行う。評価
第 6 回	セラミックスの着色実験の発表 (1)：前半	PowerPoint のスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第 7 回	セラミックスの着色実験の発表 (1)：後半	PowerPoint のスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第 8 回	英字記事調査、和文要約作成	科学技術に関する英文記事を選び、それを読解し、和文要約（A4 用紙 1 枚程度）を作成する。
第 9 回	英字記事紹介 (1)：前半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第 10 回	英字記事紹介 (2)：後半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第 11 回	英文教材輪読 (1)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第 12 回	英文教材輪読 (2)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第 13 回	キャリア教育 (1)	キャリア教育を行う。
第 14 回	キャリア教育 (2)	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 環境問題に関する一般的な知識の習得、文献等の調査および PowerPoint のスライド作成は授業外に行う。また、英文教材中の不明な単語の発音と意味を調べておき、内容を理解し、授業内に音読と和訳をできるように準備しておく。英文新聞記事の内容理解・関連情報の調査・英文新聞記事の和文要約作成も授業外に行う。

【テキスト（教科書）】

化学に関する英文教材は第 1 回目の授業時に指定する。英文記事は法政大学図書館 HP 等からダウンロードする。

【参考書】

無機化学や物理化学に関する教科書、酸化物材料（またはセラミックス材料）の応用に関する文献。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行った演習問題、スライドによる口頭発表と討論内容、英文教材の音読と和訳、英文記事の和文要約・口頭発表・討論内容から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

研究室で行っている研究に関連した内容にも触れる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（PowerPoint 使用）。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学情報の取り方について学ぶ
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、大学における学習・生活について、本授業の進め方
第 2 回	大学カウンセラーによる講演会	大学生活について
第 3 回	化学文献・情報・ツール	化学文献、化学情報、化学関連のツールについて
第 4 回	化学ツールを使いこなす (1)	ChemDraw の使い方をマスター する (1)
第 5 回	化学ツールを使いこなす (2)	ChemDraw の使い方をマスター する (2)
第 6 回	化学ツールを使いこなす (3)	PowerPoint の使い方をマスター する (1)
第 7 回	化学ツールを使いこなす (4)	PowerPoint の使い方をマスター する (2)
第 8 回	化学ツールを使いこなす (5)	Word によるレポートの作成法 (1)
第 9 回	化学ツールを使いこなす (6)	Word によるレポートの作成法 (2)
第 10 回	化学ツールを使いこなす (7)	その他のツールについて
第 11 回	プレゼンテーション (1)	PowerPoint による資料のまとめと発表 (2)
第 12 回	プレゼンテーション (2)	PowerPoint による資料のまとめと発表 (2)
第 13 回	キャリア教育 (1)	キャリア教育に関する講演
第 14 回	キャリア教育 (2)	キャリア教育に関する講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配布資料を事前に読む。課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配付資料

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（80％）、課題・制作物（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業へ参加できるための工夫をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（必要なときは持参することを事前に指示する）

ChemDraw, PowerPoint

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	無機化学への導入、無機材料、原子の構造
第2回	原子（2）	原子核の崩壊、原子の構造
第3回	原子（3）	水素の発光スペクトル
第4回	原子（4）	ボーアの原子モデル
第5回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第6回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第7回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第8回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第9回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第10回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第11回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第12回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第13回	電子配置	電子配置、構成原理
第14回	共有結合	等核二原子原子、異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

【参考書】

- ・無機化学－その現代的アプローチ：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。
- ・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。
- ・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】

中間試験、期末試験、演習問題、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、可能な範囲で対面授業を実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

MAC100YC

応用化学入門

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境応用化学科の専門科目を理解する上で必要な数学と物理・物理化学・情報処理の基礎について焦点を絞り学ぶ。

【到達目標】

数学の式と物理・化学の式の関係、物理・化学における単位とその換算、物理量の次元、化学におけるグラフの描き方、微分の考え方、座標変換、自然法則と微分方程式の関係などを理解し、化学に現れる様々な現象を定量的に理解し、厳密に記述するための前提となる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

大学での化学の専門科目を学ぶために必要な物理・数学・物理化学、情報処理の基本的な事項をPC上での数値計算を中心とした実習形式で学ぶ。また演習問題を解き、学習支援システム上にレポートを提出する。さらに関連事項についての宿題も課す。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学的観点の文書作成	科学的文書の作成、情報機器、計算機器の使用法
2	数値の取り扱い	科学的な数値の取り扱い
3	化学における式	数学の式と物理・化学の式、物理量の単位と次元、単位換算の方法
4	化学における変数と関数	データの視覚化、物理化学における定量的な問題の解き方
5	統計による考え方	基本統計量の計算
6	数値的微分法	速度・加速度・1次元における運動方程式、差分、二階微分
7	小テスト	前半の復習・総合演習
8	小テスト講評・科学的プレゼンテーションの技法	小テストの結果を題材とした統計処理の復習に関する解説・スライド作成の解説と実習
9	関数の局所近似	テイラー展開と近似式
10	非線形方程式の解法	二分法、割線法、ニュートン法の原理
11	偏微分と化学への応用	熱力学な量の変化、偏微分を用いた表現法
12	相関係数と最小二乗法	相関係数、最小二乗法
13	非線形方程式への最適化	ゴールシーク、ソルバーの利用した非線形方程式への最適化、高度なデータ処理と既習の原理との関係
14	総合演習	全ての授業回の内容に関する復習と総合演習を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の内容を復習する。

授業中に解説された例題の続きと宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを毎回、学習支援システムを通じて配布する

【参考書】

化学系学生のための Excel/VBA 入門 - Office 2007 対応 -, 寺坂宏一, コロナ社
 アトキンス物理化学〈上〉P.W. Atkins, Julio de Paula(著), 千原秀昭, 中村亘男(訳), 東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容の達成度を測定するために課す授業内演習課題と宿題（60%）、小テストと最終回の総合演習の成績（40%）を統合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回事前に配布するオリジナル教材による授業実施が好評であるため、引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、各学生が大学貸与のノート PC を使用して授業に参加する。学習支援システムで説明のファイルを事前配布し、レポートを学習支援システムに提出する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of selected topics about basic knowledge on Mathematics, Physics, Physical Chemistry, and Information Technology required for understanding other classes in the Department of Chemical Science and Technology.

MAC200YC

物理化学 I

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基いているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】
量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理 1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理 2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理 3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論：原理 1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式である Schrodinger 方程式の導出を行う。
第5回	量子論：原理 2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論：原理 3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論：手法と応用（1-3）	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動速度を Schrodinger 方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】
＜教科書＞ P. W. Atkins 著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」 第10版、東京化学同人。

【参考書】
＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

【成績評価の方法と基準】
基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを課題、小テストおよび最終試験の結果によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
物理化学 I の内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】
講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】
＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。
＜継続的改善＞ 質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。
物理化学 I の授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】
This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

MAC200YC

物理化学 I

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次春学期の物理化学 I での既習事項にもとづいて、量子物理化学の応用事項の解説を行う。

【到達目標】

量子物理化学の基礎を理解し、水素原子の電子状態が記述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

アトキンス物理化学を教科書にして使用する。この本に沿って板書で基本事項を説明する。その後、講義内容に対応した演習問題を解いてもらう。原則として授業時間内に提出のこと。また、学習内容を定着させるために、宿題も課すが内容はその日の講義内容を理解していれば解ける問題である。課題は学習支援システムに提出する。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	物理化学の復習	量子力学の基本原理解および並進運動についての復習を行う。
第 2 回	量子論：手法と応用 (1)	振動運動に対する量子力学の適用を行う。
第 3 回	量子論：手法と応用 (2)	量子力学的振動子のエネルギー・波動関数などについての性質を学ぶ。
第 4 回	量子論：手法と応用 (3)	2 次元の円周上の粒子の回転運動について古典的取扱いの復習と量子論的考察を行う。
第 5 回	量子論：手法と応用 (4)	量子力学的回転運動のエネルギー・角運動量について学ぶ。
第 6 回	量子論：手法と応用 (5)	3 次元球面上の粒子の回転運動の量子力学的取り扱いおよび必要な数学的知識について学ぶ。
第 7 回	量子論：手法と応用 (6)	3 次元の回転運動についての波動関数・エネルギーの性質について学ぶ。
第 8 回	量子論：手法と応用 (7)	粒子の回転運動に基づく角運動量について詳述し、スピン角運動量の概念について導入する。
第 9 回	原子構造と原子スペクトル (1)	原子スペクトルに観察に関する歴史的背景とボーア模型にもとづく水素型原子軌道の古典的な取り扱いについて学ぶ。
第 10 回	原子構造と原子スペクトル (2)	水素型原子の電子構造について波動方程式を解いて波動関数と固有エネルギーを導出する。
第 11 回	原子構造と原子スペクトル (3)	水素原子中の電子の波動関数エネルギーおよび原子スペクトルとの対応について説明する。
第 12 回	原子構造と原子スペクトル (4)	水素原子軌道における動径関数の性質を学ぶ。
第 13 回	原子構造と原子スペクトル (5)	原子オービタルの概念を導入し、s,p,d,f 軌道の性質について紹介する。
第 14 回	原子構造と原子スペクトル (6)	多電子系の量子力学の初歩を導入するとともに多電子原子の性質について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 1 教科書を読んで予習する。

2 前回の部分のノート・配布資料・教科書を読んで復習する。

3 宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins, 「Physical Chemistry」9th ed., Oxford University Press.

【参考書】

物理化学演習 片岡・山田 三共出版

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題・復習テスト（40%）および期末試験の結果（60%）を総合評価する。基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを、演習・宿題・復習テスト、期末試験によって総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原理だけでなく、具体的な実験手法や現象との対応の紹介も取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は学習支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

予備知識と講義内容の理解度を確認するため日常的に演習問題と宿題を出す。これらは自分で解けない時は教員や教務助手、TA に質問して、理解してから解答すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of principles of advanced issues on quantum physical chemistry based on the contents of Physical Chemistry I opened during the spring semester in the second grade year.

MAC200YC

無機化学 I

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀、特に量子力学の発見と成立は人類の物質観を一変し、物質の本質的な理解に基づく発明・発見が、現在に続く爆発的な物質文明の進展をもたらした。しかし、その利得と負債の双方が 21 世紀のわれわれの肩に重くのしかかっているのも事実である。21 世紀の物質科学という観点から無機化学を洗い直し、清新な視点から、物質文明の来し方行く末を遠望し、かつ学生諸氏が今後社会人として活力ある未来を築くための基礎になるような授業にしたいと思っている。無素化学 I では、特に基礎的な物質理解に重点を置き、はじめに周期律に現れる各元素の性質の美的な振る舞いを示し、結晶の周期構造と物性・無機化合物の一見複雑な構造を理解するための強力な考え方などを中心に講義する予定である。

【到達目標】

構成元素の周期表における位置を見て、その無機化合物の特性が推定できる化学的感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	無機化学工業、無機化学の学習範囲
第 2 回	結合と構造	結合の分類と物質構造の関係
第 3 回	原子のボーアモデル	ボーアモデルによる原子の電子構造、エネルギー量子化の理解
第 4 回	シュレディンガー方程式と水素原子	水素原子のシュレディンガー方程式を各量子数が導入される
第 5 回	多電子系原子の電子構造	多電子系元素原子における電子構造の構成原理
第 6 回	分子の電子構造	分子軌道法、等核分子の電子構造
第 7 回	分子の電子構造	異核分子の電子構造
第 8 回	周期律表と元素の性質 1	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 9 回	周期律表と元素の性質 2	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 10 回	周期律表と元素の性質 3	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 11 回	酸・塩基 1	アクリル酸・オキシ酸
第 12 回	酸・塩基 2	ブレンステッド酸・塩基
第 13 回	酸・塩基 3	ルイス酸・塩基、かたい酸・塩基、やわらかい酸・塩基
第 14 回	酸化・還元	酸化電位、電池

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
1 年秋学期に履修する「無機化学概論」の内容を把握しておくこと。
今回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。

オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

< 参考書 >

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。

「アトキンス・無機化学 第 6 版 (上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。

「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験 (85 %)。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出 (15 %)。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間とする。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics of elements in the periodic table, such as ideas on chemical bonding, acid-and base, and redox reactions. By the end of the course, students should be able to acquire a chemical sense that can estimate the characteristics of the inorganic compound, on looking at the positions of the constituent elements in the periodic table.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC

無機化学 I I

石垣 隆正

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学 I で導入された物質科学的観点を発展させ、無機固体物質の材料科学的応用の基礎事項を原理から学んで行く一方、持続可能な社会の形成に重要な環境・エネルギー関連のトピックも取り上げて行きたい。

【到達目標】

持続可能な可能な社会形成に重要な環境とエネルギーは表裏一体の関係にある。環境にやさしいエネルギー材料、環境を保全する無機材料に関する基礎科学を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	溶液化学から固体化学へのいざない、無機材料への応用
第 2 回	固体の周期的構造	結晶の周期性がもたらす孤立原子との劇的な違いとは
第 3 回	固体物質の結晶構造 1	結晶構造の構成原理と代表的な結晶構造
第 4 回	固体物質の結晶構造 2	2 成分固体物質の代表的な結晶構造
第 5 回	固体物質の結晶構造 3	複合固体物質の代表的な結晶構造
第 6 回	格子欠陥と非化学量論性 1	欠陥の分類と熱力学
第 7 回	格子欠陥と非化学量論性 2	格子欠陥と電子伝導特性
第 8 回	格子欠陥と非化学量論特性 3	固体中の原子の拡散
第 9 回	固体電解質	イオン伝導性の基礎と固体電解質の構造
第 10 回	化学電池、燃料電池	電池の原理・材料
第 11 回	固体の電子物性 1	バンド構造と固体の物性
第 12 回	固体の電子物性 2	固体の電気伝導性、半導体の種類
第 13 回	半導体の特性	光伝導、熱電特性、ホール効果
第 14 回	半導体の接合	電子デバイスの基礎原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
前期に履修する「無機化学 I」の内容を理解して受講することを望む。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。
オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤、石垣、佐々木、野田著。
「アトキンス・無機化学 第 6 版（上）・（下）」田中他訳、東京化学同人。
「固体化学 第 2 版」田中著、東京化学同人。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

Perspective of materials science acquired through learning “Inorganic Chemistry: I” is intended to improve. Basic principles of inorganic solid-state chemistry is learned to understand applications on energy-related and environmental materials, which are indispensable for establishing sustainable society.

The environment and energy that are important for the formation of a sustainable society are two sides of the same coin. By the end of the course, students should be able to acquire basic science on environment-friendly energy materials and inorganic materials that protect the environment.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC

有機化学 I

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学 I および II」が既習であることを前提とする。

テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習に役立てること。

確認問題（課題として成績評価の対象）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電子構造と結合・酸と塩基	有機化合物の結合形成および酸性度について学ぶ（1、2章）。
2	アルケン（1）	アルケンの構造と性質、反応を学ぶ（5、6章）。
3	アルケン（2）	アルケンの反応について詳細を学ぶ（6章）。
4	アルキン	アルキンの構造と性質、反応を学ぶ（7章）。
5	芳香族化合物（1）	芳香族性および芳香族求電子置換反応の基礎について学ぶ（8、19章）。
6	芳香族化合物（2）	芳香族求電子置換反応の詳細および多置換ベンゼンの合成について学ぶ（19章）。
7	中間試験	授業時間内に試験を行う（成績評価の対象）。
8	有機化合物の構造決定	質量分析法、赤外分光法、紫外・可視分光法、NMR 分光法について学ぶ（14、15章）。
9	ハロゲン化アルキルの置換反応	S_N1 反応および S_N2 反応について学ぶ（9章）。
10	ハロゲン化アルキルの脱離反応	$E1$ 反応および $E2$ 反応について学ぶ（10章）。
11	有機金属化合物	有機リチウム試薬、有機マグネシウム試薬を用いた反応について学ぶ（12章）。
12	アルコール・エーテル・エポキシド	アルコール・エーテル・エポキシドの構造と性質、反応を学ぶ（11章）。
13	アミン	アミンの構造と性質、反応を学ぶ（11、20章）。
14	まとめ	全体のまとめと補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習） 各回のテーマに沿って教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。教科書の問題を解くことが望ましい。

（復習） 講義ノート、資料を見ながら教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

（宿題） 配布された確認問題（成績評価の対象）を解き、次回授業開始前に提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice（著）、ブルース有機化学（第7版）[上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝（著）、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry（著）、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史（著）、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之（著）、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（20%）と中間・期末試験（80%）により、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC

有機化学 I I

杉山 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学 I および II」、「有機化学 I」が既習であることを前提とする。テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習に役立てること。

確認問題（課題として成績評価の対象）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルデヒドとケトン (1)	アルデヒド、ケトンと求核試薬の反応について学ぶ (17章)。
2	アルデヒドとケトン (2)	イミンおよびエナミン、アセタールの生成反応について学ぶ (17章)。
3	アルデヒドとケトン (3)	アルデヒド、ケトンの様々な反応について学ぶ (17章)。
4	カルボン酸とその誘導体 (1)	カルボン酸およびニトリルの反応について学ぶ (16章)。
5	カルボン酸とその誘導体 (2)	酸ハロゲン化物および酸無水物の反応について学ぶ (16章)。
6	カルボン酸とその誘導体 (3)	エステルおよびアミドの反応について学ぶ (16章)。
7	中間試験	授業時間内に中間試験を行う
8	エノールとエノラートイオン	ケト・エノール互変異性、 α 炭素の修飾反応について学ぶ (18章)。
9	エノラートイオンの反応 (1)	エノールの生成と α 炭素のアルキル化について学ぶ (18章)。
10	エノラートイオンの反応 (2)	カルボニル縮合反応について学ぶ (18章)。
11	エノラートイオンの反応 (3)	エノールを経由した種々の反応について学ぶ (18章)。
12	合成高分子	高分子化合物の合成について学ぶ (26章)。
13	ベリ環状反応	分子軌道法の基礎とベリ環状反応について学ぶ (27章)。
14	まとめ	全体のまとめと補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

(準備学習) 各回のテーマに沿って教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。教科書の問題を解くことが望ましい。

(復習) 講義ノート、資料を見ながら教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

(宿題) 配布された確認問題（成績評価の対象）を解き、次回授業開始前に提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学 (第 7 版) [上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝 (著)、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry (著)、マクマリー有機化学 第 9 版、東京化学同人

・山口泰史 (著)、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之 (著)、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題 (20%) と中間・期末試験 (80%) により、本学の定める基準に従い、S ~ E の 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC

コンピュータ利用化学

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学を学び、研究する上で必要なコンピュータ技術を学ぶことを目的とする。
特に、コンピュータシミュレーションにより化学現象を理解する方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・化学におけるコンピュータシミュレーションの重要性・有用性を理解する。
- ・コンピュータシミュレーションの基本的な方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各自の PC を用いて、実習形式により授業を進める。レポート課題や宿題に
ついては、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	化学におけるコンピュータ利用の重要性について紹介する。
第 2 回	量子力学の基礎	量子力学の基礎を復習する。
第 3 回	分子軌道法の基礎	分子軌道法の基礎を復習する。
第 4 回	量子化学計算用アプリのインストール	シミュレーションに必要なアプリを各自の PC にインストールする。
第 5 回	分子のモデリング	様々な分子をコンピュータ上に作成する方法を学ぶ。
第 6 回	シミュレーション演習	分子のモデリングに関する演習。
第 7 回	分子の構造最適化	分子の自然な構造をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 8 回	シミュレーション演習	分子の構造最適化に関する演習。
第 9 回	分子振動	分子振動をシミュレーションする方法と結果の可視化について学ぶ。
第 10 回	シミュレーション演習	分子振動のシミュレーションに関する演習。
第 11 回	分子軌道のエネルギーと波動関数	分子のエネルギー準位と波動関数をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 12 回	シミュレーション演習	分子軌道のエネルギーと波動関数のシミュレーションに関する演習。
第 13 回	発展的内容	量子化学の発展的内容に関するシミュレーションについて学ぶ。
第 14 回	総合演習	授業内容に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後、その日のうちに授業内容を必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

はじめの授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) とレポート課題や宿題 (60%) により総合的に評価する。評価する際のポイントは

- ・学んだことをきちんと再現できる
 - ・学んだことを応用することができる
- である。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に実習形式で進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、あるいは同等のスペックを有する PC。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to learn the computer technology necessary for studying and researching chemistry. In particular, students will learn how to understand chemical phenomena through computer simulations.

MAC200YC

電気化学

片山 英樹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気化学系は、電子移動反応を通じた化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換の場として、また化学情報と電気信号の相互変換の場として、人工系そして生体系で重要な役割を担っている。人工系では、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどがあり、生体系では代謝、光合成、神経伝達などがある。これらを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。この講義では、電位が熱力学量（平衡論）、電流が反応速度（速度論）を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

電気化学における平衡論と速度論を十分に理解するとともに、電気化学測定に必要な基礎知識、電気化学の応用分野について理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講を基本とし、教科書に沿って進めます。内容の理解を深めるため、教科書に掲載されている演習問題を授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	電気化学の概要	講義を始めるに当たり、電気化学が用いられる分野を紹介する。
2 回	電気化学系の姿 1	電気分解を例に挙げ、固体と液体の界面での挙動について概説する。
3 回	電気化学系の姿 2	電気分解の進み方とそれに伴う固体と液体の界面での挙動の変化について説明する。
4 回	物質のエネルギーと平衡 1	化学変化とエネルギーの関係について説明する。
5 回	物質のエネルギーと平衡 2	化学平衡とエネルギーの関係について説明する。
6 回	標準電極電位 1	電位と電位差の違い、標準電極電位が持つ意味を説明する。
7 回	標準電極電位 2	ネルンストの式を導出するとともに、式の持つ意味を説明する。
8 回	電解電流 1	電位によって決定される電流について説明する。
9 回	電解電流 2	物質輸送によって変化する電流について説明する。
10 回	電解液 1	物質や電解液の導電性について説明する。
11 回	電解液 2	イオンの移動度と電解液の導電性の関係について説明する。
12 回	電気化学測定	電気化学測定に必要な基礎知識について説明する。
13 回	腐食電気化学 1	腐食科学における電気化学について概説する。
14 回	まとめ・試験	電気化学の基礎知識に対する到達度試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
 予習ではテキストを事前に読み、授業内で行う演習問題について復習することで授業内容を確認・理解する。

【テキスト（教科書）】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」（丸善）および配布資料（web 添付）

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、レポート課題（10 %）、期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

教科書を中心とし、重要な部分やわかりにくい部分は PPT 資料での説明も行います。また、詳細な計算などについては必要に応じて板書も併用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中で演習問題を解くため、計算機が必要です。

【Outline (in English)】

The aims of this subject are to understand the fundamentals of electrochemistry, which deals with the interaction between electrical energy and chemical change. Also, through the fundamentals of electrochemistry, we will deeply understand the necessary basic knowledge for electrochemical measurements and the application fields utilizing electrochemistry.

MAC300YC

反応工学

小堀 深

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は化学工業における装置設計やプロセス構築を行う学問である。そこには様々な単位操作が存在するが、なかでも反応装置は化学プロセスの中心に位置する、いわば化学プラントの心臓部に当たる重要な部分である。この反応装置を設計するための工学分野が「反応工学」である。受講生は化学工学の基礎（収支・平衡・速度）を十分理解し、装置設計に対して「数値データ」として明確に表現できなければならない。本講では反応装置を中心に述べるが、見方を変えれば同一手法で大気（地球）環境や生体科学分野等に発展させることが可能である。

【到達目標】

- (1) 反応装置に関する物質収支、熱収支が計算できる
- (2) 装置のスケールアップを理解し、その解析手法が理解できる。
- (3) 場面に則した反応装置の設計が出来る。
- (4) 反応工学手法を用いることで、大気環境、海洋環境あるいは地球環境等、いわゆるグリーンケミストリー分野への展開ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする。

- (1) 基本的な考え方や基礎方程式の誘導について授業中に行う
- (2) 適宜、簡単な練習問題を解く
- (3) 毎回講義の最後に理解度確認テスト（小テスト）を実施する
- (4) 授業の初めに、前回の小テストの結果からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学工学入門	化学工学の基本概念である収支・平衡・速度の初歩を実例を通して学ぶ。
第 2 回	流れ、ベルヌーイの定理	身の回りや生体に見られる流れ現象を例として、流れについての基本的な原理や法則を理解する。
第 3 回	流れ、層流と乱流、摩擦損失	流れの状態を表す無次元数の導入と、摩擦によるエネルギー損失の計算を学ぶ。
第 4 回	熱の移動	熱移動は、伝導、対流、放射によるが、その物理的プロセスに関する基本を理解する。
第 5 回	熱交換器	熱の移動で得た知識を応用し、熱交換器の解析を数式を用いて定量的に理解する。
第 6 回	反応工学とは	反応工学の基礎概念を確認し、応用への基礎を固める。
第 7 回	反応速度の定義、温度依存性	反応速度の表現法を学び、定常状態と非定常状態、さらに反応速度の温度依存性について理解する。
第 8 回	反応速度の導出法	積分法や微分法など、反応速度を導出する方法を学ぶ。
第 9 回	反応器設計の基礎式	様々な反応器を設計する前提としての基礎式の導出と応用を理解する。
第 10 回	回分反応器の設計	回分反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 11 回	連続槽型反応器の設計、管型反応器の設計	連続槽型反応器と管型反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 12 回	複雑な反応器の取り扱い	反応器の多段化、リサイクル反応器などを定量的に理解する。
第 13 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が逐次的に起こる場合	発汗による体温調整と、化学反応で促進される物質移動について理解する。
第 14 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が同時に起こる場合	生体肺における酸素移動の解析を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

第 1 回 予習:教科書の「化学工学入門」を通読 復習:テストの見直し

第 2 回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

第 3 回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

第 4 回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し

第 5 回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し

第 6 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 7 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 8 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 9 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 10 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 11 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 12 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 13 回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

第 14 回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

【テキスト（教科書）】

化学工学、酒井清孝、朝倉書店、2005 年、3600 円＋税

【参考書】

反応工学、橋本健治、培風館、1993 年、2900 円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業後理解度確認テスト（100）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはそれに類するもの

【Outline (in English)】

【Course outline】

Overall rate of chemical reactions is affected not only by individual reactions but also by mass and heat transfer. This lecture will cover reaction engineering, which are essential for the design of chemical processes and the determination of reaction rates.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to grasp the overall phenomena occurring in reactors, analyze individual processes quantitatively, select reactor type suitable for the target, and make simple design quantitatively.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

A comprehension test will be given at the end of each lecture, and the final grade will be calculated based on the total of these scores.

MAC300YC

量子化学

野口 真理子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子力学の原理を用いて、水素型原子および多電子原子の電子構造を記述し、それぞれの原子スペクトルを理解する。さらに、二原子分子、多原子分子の電子構造の量子力学的取り扱いについて演習を交えながら学習する。この講義により、学生は、これまでに学んだ量子力学の原理が、化学において原子や分子の構造や反応を理解するために重要な役割を果たしていることを学ぶ。

【到達目標】

量子力学の考え方をを用いて、原子および分子の電子構造を記述できる。関連する演習問題を正しく解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」と 10 章「分子構造」（第 8 版ではそれぞれ第 10 章、11 章）を取り扱う。オンラインでの開講となる。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンラインでの開講方法は、以下の通りである。オンライン会議システムである Zoom を用いて、同時双方向形式で講義を行う。講義では、PowerPoint で作成したスライド資料を用いて、量子化学について解説する。同資料を学習支援システム上に公開するため、それを用いて学習してもらう。授業内容と関連した演習問題を講義内で解く時間を設け、解答してもらい、その場で解説を行う。必要に応じて、課題や内容についての質問は、授業時間内に随時受け付けるとともに、学習支援システムの掲示板を活用して質問できるようにする。当日または後日授業内で解説やさらなる質問の機会を設けることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、水素原子スペクトル（教科書 9 章）	この講義の進め方について説明する。水素の原子スペクトルとスペクトル系列について学ぶ。（教科書 9 章、9A）
第 2 回	水素型原子の電子構造	水素型原子のシュレディンガー方程式の解法について学ぶ。（教科書 9 章、9A・1）
第 3 回	原子軌道関数とそのエネルギー	水素型原子の波動関数（原子軌道関数）の特徴について学ぶ。（教科書 9 章、9A・2）
第 4 回	ヘリウム原子の電子構造	最も単純な多電子原子であるヘリウム原子のシュレディンガー方程式とその近似的解法について学ぶ。（教科書 9 章、9B・1）
第 5 回	多電子原子の電子構造	電子のスピン、パウリの原理、フントの規則について学び、多電子原子の電子配置について理解する。（教科書 9 章、9B・1、9B・2）
第 6 回	多電子原子の化学的性質の周期性	多電子原子の電子配置と、原子の化学的性質（イオン化エネルギーおよび電子親和力）の周期性の関係を理解する。（教科書 9 章、9B・2、9B・3）
第 7 回	原子のスペクトル	水素型原子および多電子原子のスペクトルと、原子の電子配置とエネルギーの関係を理解する。（教科書 9 章、9C・1、9C・2）
第 8 回	9 章のまとめ	教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」において重要な問題の解説を行う。
第 9 回	原子価結合法	原子価結合法の概要を二原子分子と多原子分子を例に理解する。（教科書 10 章、10A・1、10A・2）
第 10 回	分子軌道法の原理	電子を一つ含む最も単純な分子である水素分子イオンを例にとり、分子軌道法の原理について理解する。（教科書 10 章、10B・1、10B・2）

第 11 回 等核二原子分子の構造

多電子分子の中で最も単純な等核二原子分子を分子軌道法で取り扱い、その電子配置を理解する。（教科書 10 章、10C・1）

第 12 回 異核二原子分子の構造

異核二原子分子として HF 分子を例に、極性結合を分子軌道法で記述し、分子軌道エネルギーの近似解を得る方法を理解する。（教科書 10 章、10D・1、10D・2）

第 13 回 多原子分子の構造

ヒュッケル近似を用いて、多原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を求める手順を学ぶ。さらに、ヒュッケル法を応用すれば、共役ポリエンのいくつかの性質を説明できることを理解する。（教科書 10 章、10E・1、10E・2）教科書 10 章「分子構造」において重要な問題の解説を行う。

第 14 回 10 章のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】事前に教科書を読み、掲載されている問題は可能な限り解いておく。

【テキスト（教科書）】

Peter Atkins・Julio de Paula 著、中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河隆隆 訳、アトキンス物理化学（上）第 10 版、東京化学同人

【参考書】

D. A. McQuarrie・J. D. Simon 著、千原秀昭・江口太郎・齋藤一弥 訳、マッカーリ・サイモン物理化学 上 分子論的アプローチ、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

講義での学習状況および参加度（30 %）、試験またはその代わりにレポート課題（70 %）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布および課題提出のために、学習支援システムを活用する。そのため、学習支援システムにアクセス可能な情報機器（パソコンまたはスマートフォンなど）を準備する必要がある。

【その他の重要事項】

質問は、学習支援システム上で随時受け付ける。

【Outline (in English)】

You will be a able to understand about quantum mechanics for chemistry after you take all these lectures. I will explain about the hydrogen-like atom, multi-electron atoms, and their molecular structures.

MAC300YC

錯体化学

田所 誠

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

錯体化学は、分子を取り扱う無機化学の中で最先端の分野であり、有機金属化学・生物無機化学・錯体物性科学に分けられる。本講義では、「錯体がなぜきれいな色をしているのか」「磁石はなぜくっつくのか」など、皆さんの基礎的な疑問に基づいて、錯体化学の基礎を知ることができる。そのために、配位立体化学・配位子場理論・分子磁性・錯体分光についての考え方や理解を深めることを目標とする。また、トピックスとして錯体がどのように生体系と関係づけられるのか、応用面ではどのように用いられているのかなど、「生物無機化学」や「錯体物性科学」の最前線も紹介したい。

【到達目標】

錯体化学を学ぶことによって、化学分野ではなじみの薄い金属を含む固体物性科学の基礎や考え方を学ぶことができる。分子レベルの配位子場理論による考え方は、錯体による色の変化の起源、磁石としての相互作用のあり方、触媒反応のメカニズム、生体金属酵素の反応の基礎、場合によっては電子伝導性の基礎なども学ぶことができる。本授業ではこのような物性化学の詳細までの講義は行わないが、その考え方の基礎を錯体を通して学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は出席と講義にて行う。板書の量が多いのでノートを必ず用意しておくこと。また、より高学年における無機化学であることを念頭におき、できるだけ自発的な学習と、授業外での知識の吸収・興味の発展を期待する。授業中にできればトピックスとしてはじめの 15 分ぐらい最先端話をしたいが、前回授業の復習問題なども踏まえて基礎的な授業にするつもりである。配布する資料のとおりに進んでいくので、授業を休んで資料がもらえなかったときは、友達に借りてコピーしてもらうこと。また、かならず出席はしておくこと。出席率に応じてテストの時に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	錯体化学とは	・配位化学 ・分析化学と錯体 ・金属イオンの効果
2	Werner 型錯体	・配位説 ・配化合物の異性体（溶媒異性・イオン化異性・配位異性・連結異性）
3	Werner 型錯体	・配化合物の異性体（立体効果・共生理論・Pearson の法則） ・連結異性の応用
4	Werner 型錯体	・立体異性（平面 4 角形・6 配位 8 面体・鏡像異性体） ・光学分割
5	原子価結合モデル	・原子価結合法 ・混成と軌道の占有
6	結晶場理論	・結晶場の理論とスピンの磁性 ・高スピンと低スピン ・磁化率とスピン軌道相互作用
7	結晶場理論	・配位子場安定化エネルギー（水合エンタルピー・イオン半径） ・分光化学系列 ・各種配位構造と結晶場の分裂
8	結晶場理論	・Jahn-Teller 効果 ・配位子の π 結合性 ・分光化学系列の理論
9	配位子場理論	・分子軌道での取り扱い ・配位子場理論での π 結合
10	錯体の電子スペクトル	・配位子場遷移 ・項という考え方 ・スピン軌道相互作用とスペクトル
11	錯体の電子スペクトル	・微視的状态の分離 ・基底状態のエネルギー項
12	錯体の電子スペクトル	・Hund の規則の定量的な解釈 ・選択律 ・弱い場と強い場（相関図）
13	錯体の電子スペクトル	・分裂エネルギー準位図（Orgel 図） ・田辺-菅野の図

14 錯体の反応

- ・置換不活性
- ・トランス効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】通常、テストは自筆ノート持込可にしてあるので、授業中に黒板に書いてあることを、先生の説明をよく聞いて、口頭の内容もメモをすることを進める。復習を重点的に行い、ノートに書いてあることを中心に勉強し、さらに参考書などで知識を確認して、重要点をメモしておくことが望ましい。テストは必ず説明問題で答えさせるので、解答の文章を予めノートに自分で用意しておく時間に余裕ができる。通常、授業では演習問題も含めるため、配位子場理論までで終えることが多い。

【テキスト（教科書）】

主に授業中配られるプリント中心に行う。

一部の授業は、「現代無機化学」（裳華房）田所誠著 p67-p88 にて行う。

【参考書】

「基礎無機化学」F.A. コットン・G. ウィルキンソン・P.L. ガウス（培風館）
「無機化学（下）」シュライバー・アトキンス第 4 版（東京化学同人）「無機化学（下）」ダグラス・マクダニエル第 3 版（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 (60%) と平常点 (40%) で評価する。授業中に行った小テストからも試験を出すので復習しておくこと。試験に出るポイントを指摘して、説明させる文章問題のみ出題する。必ず、最終回あるいは最終回前の講義には出席すること。テスト問題に関する重要なアドバイスをする。解答は皆さんが同じような解答ばかりだと、暗記しただけと見なし、減点がある。自分のオリジナルな解答を書くこと。図だけであったり、ノートの丸写しは × 必ず説明や理由について文章で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは、錯体化学をこれまで習ってこなかったもので、理解することが難しいという意見が多く聞かれた。そのため、より簡単に要点を絞って、皆さんに錯体とは何かを伝えていきたいと考えている。また、授業中に演習問題を行うことで、教えた知識を完全なものにすることを目指す。そのため、錯体スペクトルまでは進まないことが多いので、配位子場理論までしっかり勉強させることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、ipad を黒板代わりに授業を行う。

【その他の重要事項】

平常点だけで単位がもらえると考えているようであるが、試験問題も解かないと落ちることがある。期末試験の 1 発勝負なので必ず、試験では解答を日本語文章で書けることが要求される。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces Coordination Chemistry to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Coordination stereochemistry, Ligand field theory, Molecular magnet and Coordination spectroscopy.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments after the lecture. Your study time will be more than two hours for the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in the class contribution 40%, and term-end examination 60%.

MAC300YC

化学統計力学

藤森 裕基

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する原子、分子、電子等の量子力学的エネルギー状態を基に、統計学的手法を用いて物質の熱力学的性質、巨視的物性をミクロな立場から説明する学問体系である統計力学の基礎について講義および演習を通じて学習する。

【到達目標】

ボルツマン分布と分配関数について理解する。
分配関数と各種熱力学関数の関係を理解する。
具体的な各種熱力学関数を自ら計算する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面授業で行うが、場合によっては **zoom** 等を用いたオンライン授業やオンデマンド授業で行う場合もある。詳細は学習支援システムで連絡する。

演習や小テスト（またはアクションペーパー）に関しては、授業時間内または翌週の授業の際に取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・ボルツマン分布 1	統計的ものの見方、配置と重み
2	ボルツマン分布 2	ボルツマン分布の導出
3	分子分配関数 1	分配関数の重要性
4	分子分配関数 2	並進運動・回転運動からの寄与
5	分子分配関数 3	振動・電子状態からの寄与
6	分子のエネルギー 1	エネルギーの基本式
7	分子のエネルギー 2	並進運動・回転運動からの寄与
8	分子のエネルギー 3	振動・電子状態・スピンからの寄与
9	正準アンサンブル 1	アンサンブルの概念
10	正準アンサンブル 2	平均エネルギーの導出
11	内部エネルギー	内部エネルギーの計算と熱容量の導出
12	エントロピー	エントロピーと分配関数
13	熱力学関数	熱力学関数の導出
14	演習・テスト	演習およびテストによりこれまでの理解度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。教科書および参考書を基に準備学習、復習等を行うこと。学習支援システムを通じて、小テスト等を行う場合もある。

【テキスト（教科書）】

<教科書> アトキンス「物理化学（第 10 版）」下 東京化学同人

【参考書】

マッカーリ化学数学 Donald A. McQuarrie (著), 藤森裕基 (訳), 松澤秀則 (訳), 筑紫格 (訳) (丸善)

【成績評価の方法と基準】

到達度目標をクリアできているかどうかを演習や小テスト及び期末テスト（またはレポート）により確認する。成績は授業内の演習や小テスト（40%）及び期末テスト（またはレポート）（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習や小テスト（またはアクションペーパー）の解答を見ながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

統計力学は、量子力学とともに物質のマクロな性質および分光学の基礎を学ぶうえでも必要不可欠な学問分野である。質問は授業時随時受け付ける。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of statistical mechanics used in chemistry. It also enhances the development of students' skill in simple numerical method.

MAC300YC

物質設計化学

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質設計を考えるうえで必要となる基本的な概念・知識を習得し、さまざまな物質の性質の発現原理についての理解を深める。

【到達目標】

物質の性質についての諸原理についてこれまで必修の授業で学んだ内容との関連性を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書などに沿ってスライドおよび板書にて物質の性質に関する背景について解説する。宿題を解き提出する。授業の初めに、前回の授業での議論内容および提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物質設計化学の導入	これまで受講した基礎分野の必修科目との対応づけから物質設計の概念について学ぶ
2	物質の結合	原子間の結合の種類
3	金属結合	自由電子モデル、ドゥルーデモデル
4	金属の性質	電気伝導
5	金属の性質	フェルミ分布・状態密度
6	金属の性質	熱容量
7	金属の性質	熱伝導・熱電変換材料との対応
8	半導体の性質	光吸収・発光と電子デバイスとの対応
9	イオン結合	電気陰性度・イオン結合
10	分子間力	ファンデルワールス力、水素結合
11	多電子原子の電子状態	一般の原子の性質、周期律、可視紫外分光、変分法、摂動法、XPS との対応
12	分子の電子状態	ボルンオッペンハイマー近似、分子の電子構造、赤外吸収・Raman 分光との対応
13	共有結合	分子・高分子の電子状態と結合
14	物質と磁場	磁性の基礎・核磁気共鳴、電子スピン共鳴の原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】物理化学 I, II, 無機化学 I, II, 化学熱力学 I・II, 有機化学 I, II の復習
宿題への解答

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins 著, (千原・中村訳)「物理化学」(上/下) 第 8 版, 東京化学同人

【参考書】

溝口正著, 「物質科学の基礎 物性物理学」, 裳華房

【成績評価の方法と基準】

宿題の評価 (66%) を中心に期末試験の採点結果 (34%) にもとづき評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 年春学期までの必修の授業内容の復習を中心に物質の性質との対応づけを行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、授業支援システムで資料を配布する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic concept and knowledge required for Material Design, including deep understanding of a principle of emerging various materials properties.

MAC300YC

エネルギー環境化学

打越 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー資源の供給や地球環境の破壊といった課題に焦点を当てつつ、環境化学におけるエネルギー面の問題を広く議論する。また、これらの問題の背景や各種エネルギー資源の長所や短所を知り、現代社会におけるエネルギーの重要性の理解を促す。さらに化学の知識に立脚した技術的対応法や社会システム上の検討課題についても学び、今後のエネルギー社会のあるべき姿を考える機会とする。

【到達目標】

地球環境問題やエネルギー資源問題の歴史的背景および自然界が人間圏に課す制約、そしてエネルギー利用に関わる様々な物理化学的技術の現状について理解を深めることにより、地球環境とエネルギー資源の諸問題への対応を、幅広い視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその内容に沿って講義を進める。学生からの疑問、質問は、翌週の授業で取り上げ解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週 /100 分	人間活動と環境のかかわり	環境化学とは、人間の活動と環境変動、公害・環境問題の歴史
第 2 週 /100 分	地球上の資源	各種エネルギー資源、鉱物資源、生物資源
第 3 週 /100 分	資源エネルギー問題	資源・エネルギーと経済・産業の関係、日本の資源事情、世界の電力供給とエネルギー問題、省エネルギー
第 4 週 /100 分	地球大気の変異	大気汚染、地球温暖化、異常気象
第 5 週 /100 分	水質汚染と土壌汚濁	地球の水事情、河川や湖沼の汚染、海洋汚染、土壌汚染の要因、土壌汚染の対策及び浄化技術
第 6 週 /100 分	飲料水と食品と環境	地球における水問題、食料供給の危機、バイオテクノロジーと食料問題、食品汚染
第 7 週 /100 分	化学物質による汚染	重金属、農薬、界面活性剤、製品に使用されている化学物質
第 8 週 /100 分	放射能汚染	原子力発電の仕組み、放射線が人体に及ぼす影響、原発事故
第 9 週 /100 分	プラスチックの利用と環境	世界のプラスチック生産量と廃棄量、海洋プラスチックごみ問題
第 10 週 /100 分	ごみ・廃棄物問題とリサイクル	廃棄物の分類と処理、食品ロス、廃棄物の減量・再利用・リサイクル
第 11 週 /100 分	汚染物質の毒性と生体内での代謝	重金属の毒性、化学物質の免疫毒性、毒性評価法
第 12 週 /100 分	内分泌攪乱物質	内分泌攪乱現象、内分泌攪乱物質問題に関する国内外の取り組み
第 13 週 /100 分	経済と環境	経済活動による環境への負荷、法律の整備、環境修復と環境アセスメント、企業の取り組み

第 14 週 全体のまとめ
/100 分

地球環境とエネルギー資源問題の解決に寄与する化学の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布する資料を参考に講義の内容をよく復習し、分からなかった点を次の講義で質問すること。

【テキスト（教科書）】

なし（関連資料を配布する）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席チェックを兼ねた毎週の簡単な課題テスト（30%）と期末試験（70%）の合計点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Energy issues in environmental chemistry are widely discussed with a focus on issues such as the supply of energy resources and the destruction of the global environment. In addition, we will learn the background of these problems and the advantages and disadvantages of various energy resources, and deepen our understanding of the importance of energy in modern society. It will also be an opportunity to learn chemistry knowledge and technical measures based on issues to be considered in the social system, and to think about the ideal future energy society.

MAC300YC

触媒化学

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠の物質であり、われわれの生活環境の中で、物質生産と環境対策に幅広く利用されている。本講では、工業的に使われている触媒、環境対策用触媒を中心に、触媒の特徴と機能、触媒反応、触媒調製法について基礎から説明する。

【到達目標】

①触媒とプロセスの関連を習得すること、②触媒機能・触媒反応を理解すること、③環境問題に対して触媒が果たしている役割を理解することを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って説明する。講義の理解度を確認するため、適宜小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。トピックに関して、適宜レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、触媒とはなにか	科目内容の説明、触媒の化学工業、環境対策における重要性、触媒の分類など
2	触媒の歴史と役割	触媒化学の科学と技術、その発展、日本における利用
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面科学（表面構造・電子状態）
4	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その1	固体表面での素過程、吸着とその速度論
5	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その2	脱離とその速度式、吸着脱離平衡
6	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その3	固体触媒反応の反応速度論：定常状態近似・律速過程
7	触媒反応機構	素反応の組立、反応機能決定法、メカニズムと速度式
8	固体反応場の構造と物性：その1	触媒機能を支配する因子、反応場の構造
9	固体反応場の構造と物性：その2	反応場の構造とそのキャラクターゼーション：化学的方法、機器分析
10	中間テスト	前半部の復習と理解の確認
11	触媒の調整と機能評価：その1	触媒調製法とその原理
12	触媒の調整と機能評価：その2	触媒反応活性の評価法
13	環境・エネルギー関連触媒	環境触媒（自動車触媒、脱硫触媒、二酸化酸素固定触媒、光触媒）、エネルギー関連触媒（燃料電池、水素製造、光触媒、色素増感太陽電池）
14	光触媒反応	半導体光触媒の科学と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・触媒化学を理解するには、2年次までに履修するさまざまな基礎科目の内容を身につけておく必要があります。「無機化学概論」、「化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解して受講することを望みます。

・各回に勉強する内容を、教科書で予習して講義に臨んで下さい。
・重要な内容を小問で演習します。講義後にアップロードするので復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

「触媒化学」（応用化学シリーズ6）上松、中村、内藤、三浦、工藤 共著、朝倉書店（2004）。

【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。

「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。

「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80 %）、小問（10 %）、レポート（10 %）により評価。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に関して講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

独立行政法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

Catalysts are indispensable for accelerating chemical reactions, have been widely used and utilized in our life, both in materials production and environmental issues. This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics and functions of catalysts, surface catalytic reactions on solid-state catalysts, and fabrication methods, especially of solid-state catalysts, such as industrially utilized catalysts and environmentally-related catalysts.

At the end of the course, students are expected (1) to learn the relationship between catalysts and processes, (2) to understand catalytic functions and catalytic reactions, and (3) to understand the role that catalysts play in environmental problems.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (80%), and in-class contribution(20%).

MAC200YC

環境化学工学概論**森 隆昌**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は工業製品を製造するために必要な基礎知識、理論を学ぶ学問である。本講義では化学工学の基本となる 1. 物性、2. 収支、3. 流動、4. 熱の考え方を理解し、各単位操作の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

物質収支、エネルギー収支を理解する。

流動の基礎理論を理解する。

伝熱の基礎理論を理解する。

蒸留の基礎理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、物性、収支、流動、熱の基礎理論について講義するとともに、各単位操作の基礎について演習を交えて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回目	イントロ、化学工学を学ぶための基礎知識	化学工学とは 化学工学に必要な物理量と単位、単位換算
第 2 回目	物質収支	定常状態（物理プロセス）の物質収支
第 3 回目	物質収支	定常状態（反応プロセス）の物質収支
第 4 回目	物質収支	非定常状態の物質収支
第 5 回目	流体輸送	輸送機器、物質収支
第 6 回目	流体輸送	エネルギー収支、ベルヌーイの定理
第 7 回目	流体輸送	ハーゲン・ポアズイユの式
第 8 回目	これまでの授業のまとめ	習熟度・理解度のチェック、試験
第 9 回目	熱の移動	伝導伝熱
第 10 回目	熱の移動	対流伝熱
第 11 回目	熱の移動	熱交換器
第 12 回目	物質移動	単蒸留
第 13 回目	物質移動	連続精留
第 14 回目	物質移動	蒸留塔の設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 レポート課題を解いて授業時に提出する。

【テキスト（教科書）】

ビギナーズ化学工学 林順一・堀河俊英著 化学同人

【参考書】

化学工学のテキスト

移動現象（輸送現象）に関する参考書

伝熱に関する参考書

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では計算問題を解くため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

Chemical engineering is has to do with industrial processes in which raw materials are changed or separated into useful products. In this course students will learn the basic principles of chemical engineering, such as material balance, fluid flow, heat transfer, and mass transfer.

MAC300YC

環境化学工学応用

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式、またはハイフレックス（同時双方向方式のライブ配信）で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動 および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	流動（1）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（2）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（3）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。
第7回	流動（6）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokes の方程式について概説する。
第8回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（2）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（4）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（5）：熱交換器	熱交換器の設計方程式を導出する。

第13回 伝熱（6）：輻射伝熱 輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。

エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。

第14回 伝熱（7）：対流と輻射による伝熱 複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎（日刊工業新聞社）

藤田重文著：化学工学Ⅰ（第2版）、岩波全書（絶版）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期試験 50%

但し、定期試験が実施できない場合には、レポート課題100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目している系の数学的取り扱い避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】

1.Course outline

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

2.Learning Objectives

Students understand the behavior of the fluid from the view point of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plant devices, including heat exchangers.

3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

4.Grading Criteria /Policy

It depends on the COVID-19 infection situation, i.e.,

- a. When we have the final exam: Final exam 50% + Homework 50%
- b. When we do not have the final exam: Homework 100%

MAC300YC

無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbs の相律、Gibbs の相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第 2 回	擬一元系状態図 (1)	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO ₂ の p (圧力)- V (体積) 図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第 3 回	擬一元系状態図 (2)	CO ₂ の p (圧力)- V (体積) 図と CO ₂ の T (温度)- p (圧力) 図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第 4 回	二元系状態図 (1)：	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第 5 回	二元系状態図 (2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第 6 回	二元系状態図 (3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第 7 回	中間テスト	前半の演習の理解度をチェックする。
第 8 回	二元系状態図 (4)：てこの原理	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第 9 回	二元系状態図 (5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。
第 10 回	二元系状態図 (6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化に関する理解を深める。
第 11 回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解説する。

第 12 回 熱力学計算の実際 (1) 蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、
：レアメタルの分離・回収
：レアメタルの分離・回収を理解する。

第 13 回 熱力学計算の実際 (2) 水素-水蒸気混合雰囲気における
：酸素濃淡電池
熱力学計算の実際 (3) 平衡酸素分圧を計算し、酸素濃淡電池の起電力を計算する。

：固体微粒子の熱力学的安定性
固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。

第 14 回 熱力学計算の実際 (4) 非酸化物/酸化物界面における蒸
：非酸化物材料の高温
気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・アトキンス 物理化学（上）第 10 版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に出題する演習問題、授業への取り組み姿勢、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、可能な範囲で対面授業を実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagram for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.

BLS100YC

教職生物学

齋藤 理佳

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の概要としては、「授業者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。
目的としては、この授業によって生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たな自分の知識として広げていくこと。

【到達目標】

講義の前半は、細胞、DNA、遺伝子を中心とした「ミクロな生物学」を学び、後半については、神経系や感覚系を中心とした「マクロな生物学」を学び、それら全般を理解できることを目的とする。なお、専門的な理解の他にも、再生医療や NIPT（出生前診断）などの最新の情報、および歴史的な背景までも幅広く理解できる。加えて身近な話も盛り込むことにより、「生物学」が身近で面白い学問であることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は進める。特に「生物学」が身近で面白い学問であることを講義形式の授業で理解してもらうために、パワーポイントや DVD などの動画を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業形式も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ヒトの誕生から死まで	全ての生物は細胞からできていることを理解する
2	細胞の種類と構造	再生できる細胞とできない細胞、
3	細胞のはたらき	ES 細胞、iPS 細胞およびがん細胞
4	遺伝学の基礎	なぜ正確に遺伝情報は伝わるのか
5	DNA の構造、複製と変異および修復について	二重らせん構造は正確に遺伝情報が分配されるしくみをもっているが、その複製のメカニズムと情報修正のための機能を学ぶ
6	遺伝子とそのはたらき	遺伝の正体である遺伝子について学ぶ
7	遺伝に関わる疾患	遺伝子疾患は、遺伝子の異常が原因になって起きる疾患であるが実際にどのような疾患がありその原因遺伝子はそこにあるかを学ぶ。
8	染色体の構造と機能	真核生物では遺伝子情報は DNA に保存され、DNA は染色体に含まれている。その染色体の構造と機能を学ぶ。
9	生殖と発生	生物の生殖について学ぶと共に、出生前診断（NIPT）、および iPS 細胞を用いた再生医療についても学ぶ。
10	刺激の受容と反応 I	神経系と感覚系の一般的な性質
11	刺激の受容と反応 II	時に五感（体性感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚）に関して学ぶ。
12	個体の制御 I	脳の構造と機能を学ぶとともに、脳を形成している神経細胞とグリア細胞と特徴についても学ぶ。
13	薬理学	薬の作用/副作用、及び薬と受容体の関係、競合阻害など薬理学の基礎を学ぶ。
14	恒常性（ホメオスタシス）について及び試験・まとめと解説	自律神経とホルモンについて学ぶと共に試験・まとめと解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。

また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

1) ケイン生物学

M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人

2) Essential 細胞分子生物学原著第 3 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂

3) Essential Cell Biology 4th edition 原著第 4 版

B.Alberts et al.(著)、Garland Science

4) The cell 細胞の分子生物学原著第 5 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】

授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する

成績評価については、「ミクロ」「マクロ」の両側面及び最新の生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含み平常点及び授業内課題併せて 30%、期末試験 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Biology is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants. You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

MAT200XG

フーリエ変換

西村 滋人

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ解析とは、周期関数を三角関数を用いて表現する理論で、波動現象全般を解析する基本的な手法として多方面で活用される。この授業では、フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換の基礎とその基本的な応用例を学ぶ。

【到達目標】

1. 周期関数をフーリエ級数に展開することができるようになる。
2. フーリエ変換の仕組みと工学的な意味を理解する。
3. ラプラス変換を計算して微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書による講義。演習も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	周期関数	三角関数の周期についての復習
2	フーリエ級数	三角関数の直交性および周期関数の三角関数による表示
3	フーリエ級数の計算例	フーリエ係数の計算についての例題の解説
4	正弦展開と余弦展開	奇関数ないし偶関数のフーリエ展開
5	Gibbs 現象	不連続点付近でのフーリエ級数の挙動についての注意
6	フーリエ級数の収束	Dirichlet 積分核、パーセバルの等式など
7	演習 1	講義前半のまとめ
8	複素フーリエ級数	周期関数の複素指数関数による冪級数表示
9	フーリエ変換	周期的でない関数の取り扱い
10	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の様々な公式の紹介
11	ラプラス変換	定義および初等関数のラプラス変換の計算
12	逆ラプラス変換	原関数の復元と微分方程式への応用
13	演習 2	講義後半のまとめ
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換はいずれも関数を積分変換して自然現象を解析する手法である。そのため、毎回の授業後には、その回の講義内容について、簡単な計算問題を解いて積分の計算に十分に習熟しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大石進一「フーリエ解析」（理工系の数学入門コース新装版）（岩波書店）
 国分雅敏「ラプラス変換」（数学のかんどころ 13）（共立出版）

【成績評価の方法と基準】

学力試験 80 % レポート課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces Fourier series and Fourier transforms.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to calculate Fourier series expansion of periodic functions,
- (2) to apply methods of Fourier transform in engineering, and
- (3) to solve ordinary differential equations by using Laplace transform.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:80%, Short reports:20%.

MAT200XG

空間の幾何

中村 真帆

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は数学教職科目「幾何」を念頭におく測地天文系の専門科目である。授業では立体の数学と測地を中心に、衛星測位や特殊相対論で使用する幾何数学を学ぶ。

【到達目標】

本授業が、現代科学で駆使される科学観測や物理学の理解への橋渡しとなることを目指す。修了後に速やかに様々な科学観測や衛星測位、特殊相対論などを学べるようになっていくことを目指す。そのため、主に衛星測位の原理を理解すること、特殊相対論などを学ぶための幾何の基礎知識の獲得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では宇宙や地球観測の事例を幅広く紹介し、様々な分野において共通に使われる幾何の知識を有用な道具として学べるようにする。具体的には現代において地球や宇宙がどのように観測されているかを、測地と空間幾何の観点から学ぶ。

可能な限り基礎的な幾何の練習問題を用意し、これを確実に身に付けていくことで学習を進める。

毎回授業アンケートや感想を出席の確認に提出してもらっており、授業の進め方の希望や特に興味のある話題などを書いてもらい、授業に取り入れるようにしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地球・宇宙の数学的記述	地球や宇宙の観測において必要となる数学について概観する
第 2 回	三角関数とベクトル	測地で用いる三角関数とベクトルについての復習
第 3 回	三角測量と基準	三角測量における基準について学ぶ
第 4 回	三角形と多角形	測地における三角形や多角形の用い方を学ぶ
第 5 回	球面幾何と緯度経度	球面幾何による緯度経度の表し方を学ぶ
第 6 回	地球座標系と地球楕円体	地球上のある地点を表す様々な方法を学ぶ
第 7 回	幾何変換	様々な幾何変換とその方法を学ぶ
第 8 回	地図の投影	地図の投影方法について学ぶ
第 9 回	球面幾何と天球座標	天球座標の表し方について学ぶ
第 10 回	天体の位置決定と天文航法	宇宙空間での天体の位置決定の方法と天文航法について学ぶ
第 11 回	天体の距離決定	宇宙空間で天体の距離をどのように測定しているかについて学ぶ
第 12 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 13 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 14 回	まとめ	各回の課題から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】課題として幾何数学の前提となる基礎知識を確認してもらうことがある。準備としてこれまでに高校や一般教養科目で学んできた数学を、目的をもって復習することで、授業内容の理解が深まるように進めたい。

【テキスト（教科書）】

日本測地学会のテキストを中心とする

<http://www.geod.jp/web-text/index.html#gsc.tab=0>

【参考書】

必要に応じて講義で示す

【成績評価の方法と基準】

課題として出す練習問題を確実に解けるようになること。

まとめではこれから出題する。

評価基準は課題が 30% 期末試験が 70% とし、期末試験の合格点は 60 点以上とする。

課題の提出状況に応じて成績をプラス a する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を可能な限り提供したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと計算用紙は必須

【その他の重要事項】

数学的な厳密さより、数学の実践的な使用方法を学ぶ。講義は時間に限りがあり、すべての重要事項を盛り込むことは難しい。授業内容は変更になることもある。

【Outline (in English)】

In this class, we learn space geometry by understanding the practical geodesy and elements of global navigation satellite system (GNSS).

This class aims to be a bridge to the understanding of scientific observation and physics used in modern science.

In the lecture, we will introduce a wide range of cases of space and earth observation so that we can learn the knowledge of geometry commonly used in various fields as a useful tool. Specifically, we will learn how the earth and the universe are observed in modern times from the viewpoint of geodesy and spatial geometry.

Being able to solve the exercises that are given as assignments, and questions will be asked from these in final exam.

The evaluation criteria are 30% for assignments and 70% for final exams, and the passing score for final exams is 60 points or higher.

MAT200XG

対称性と構造

長谷 正司

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016 年度のノーベル物理学賞の受賞者の 1 人であるホールデンは、1 次元格子の格子点に、電子（のスピン）を奇数個づつ置く場合と偶数個づつ置く場合で、性質が大きく異なることを示した（ホールデン予想）。多くの人が疑問を抱いたが、その後の研究の進展により、その予想が正しいことが証明された。実は、対称性を考慮すると、その予想が妥当であることが容易に理解できることも分かった。

対称性は色々な分野で重要な概念である。対称性を理解するためには、群論という数学を理解することが重要である。本授業では、できるだけ例を挙げながら、群論に関して学ぶ。

【到達目標】

本授業を履修し理解することで、学生は、群の定義に始まり、どのような群が存在し、どのような性質を持つかを理解することができる。対称性の概念は、多くの人が特に意識せずに使っている。例えば、正三角形は重心まわりに 120 度回転させると元の正三角形と重なるなどである。群論を理解すれば、対称性を体系立てて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。原則的には対面授業である。課題等については翌週の授業の中で講評する。講義期間中に節目での小テストも行う。授業計画の変更等があれば、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	対称性が重要な役割を果たす物理について紹介する。また、正四面体などを例に挙げて、どのような対称性があるかを示して、対称性という概念に慣れよう。
2	群の公理、数の集合	群の公理を学ぶ。また、実数全体の集合などを使って、群の公理の理解を深める。
3	2 面体群	2 面体群について学ぶ。また、2 面体群を用いて、可換ではない対称性の群について学ぶ。
4	部分群と生成元	ある群では、その部分集合も群（部分群）になることがある。部分群について学ぶ。また、部分群に関する幾つかの定理を学ぶ。
5	置換	置換の集合も群となることを学ぶ。また、偶置換と奇置換の概念について学ぶ。
6	同型写像	見た目では異なる 2 つの群も、群の性質としては同じであることがある（同型）。同型と同型写像について学ぶ。また、同型写像に関する幾つかの定理を学ぶ。
7	中間まとめ	今までに学んだことをまとめる。
8	プラトンの立体とケイリーの定理	5 つの凸な正多面体（プラトンの立体）の回転対称性のなす群がどの群と同型かを学ぶ。また、関連する定理を学ぶ。
9	行列群	行列の集合も群になり得ること、どのような行列群が存在するかを学ぶ。
10	群の直積	群の直積の概念と関連する定理を学ぶ。
11	ラグランジュの定理	ラグランジュの定理と関連する定理を学ぶ。
12	分割	分割の概念と関連する定理を学ぶ。
13	コーシーの定理	小さな位数（8 まで）の群は、どのような群と同型になるかを学ぶ。
14	まとめ	授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義内容の理解を深めるため、授業ノートと配布資料を勉強することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

対称性からの群論入門、M.A. アームストロング（著）、佐藤信哉（訳）、丸善出版。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験得点 75%、講義期間中の小テストを含む平常点 25%。

【学生の意見等からの気づき】

例を多用しながら、分かり易い授業になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline (in English)】

The concept of symmetry is important in various fields. It is important to study group theory in order to understand symmetry. In the lectures, I will explain group theory using various examples. The goals of this course are to understand group theory and symmetry. Students will be expected to study a lecture notebook and documents distributed in lectures. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (75%) and mid-term examination (25%).

COT111KA-CS-100

情報科学入門

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムでチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の発表会	第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
 川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
 山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
 和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
 デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
 阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
 猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
 John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-100

情報科学入門

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムでチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の発表会	第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
 川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
 山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
 和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
 デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
 阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
 猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
 John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-102

コンピュータシステム入門 1

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上での様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	通信の概念	コンピュータ間の通信の概念と基本的な仕組みについて学ぶ。
7	通信のしくみ	無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
8	マルチメディアとは	コンピュータ上で様々な情報を表現するマルチメディアについて、その概念と歴史について学ぶ。
9	メディアデータ処理の基本	量子化などのメディアデータ処理の基本を学ぶ。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像	視覚や色、デジタル画像のフォーマットについて学ぶ。
13	情報の表現：動画	動画のフォーマットとその処理について学ぶ。

14 メディアデータの活用 メディアデータの活用と今後について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%), 課題 (10%), 講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports: 10%, in class contribution: 10%

COT111KA-CS-102

コンピュータシステム入門 1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上で様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	通信の概念	コンピュータ間の通信の概念と基本的な仕組みについて学ぶ。
7	通信のしくみ	無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
8	マルチメディアとは	コンピュータ上で様々な情報を表現するマルチメディアについて、その概念と歴史について学ぶ。
9	メディアデータ処理の基本	量子化などのメディアデータ処理の基本を学ぶ。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像	視覚や色、デジタル画像のフォーマットについて学ぶ。
13	情報の表現：動画	動画のフォーマットとその処理について学ぶ。

14 メディアデータの活用 メディアデータの活用と今後について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%), 課題 (10%), 講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports: 10%, in class contribution: 10%

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門 2

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

西原清一（監修）、第三版入門マルチメディア、CG-ARTS 協会、2013。
ISBN 978-4-8443-7542-5

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門 2

村上 健一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoT の概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

西原清一（監修）、第三版入門マルチメディア、CG-ARTS 協会、2013、ISBN 978-4-8443-7542-5

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI110KA-CS-103

離散構造 1

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率 (3)	離散型確率分布、期待値、分散

14 まとめ 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 定期試験 60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-103

離散構造 1

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率 (3)	離散型確率分布、期待値、分散

14 まとめ 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 定期試験 60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。学期の途中に認定試験を行う。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念 (1)
第 2 回	グラフ (2)	グラフの基礎概念 (2)
第 3 回	グラフ (3)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 4 回	グラフ (4)	木、木の探索 (1)
第 5 回	グラフ (5)	木、木の探索 (2)
第 6 回	グラフ (6)	オートマトン
第 7 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 8 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 9 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 10 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 11 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 12 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 13 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 14 回	総括	グラフ、論理学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz 著，成嶋弘監訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－」，オーム社，1995 年。（注：離散構造 1 の教科書）

【参考書】

C. L. Liu 著，成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」，オーム社

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。ただし，認定試験への合格を定期試験の受験資格とする。平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- ・ At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Grading will be decided based on term-end examination (100%). You need to pass the mastery test before term-end examination.

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。学期の途中に認定試験を行う。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念 (1)
第 2 回	グラフ (2)	グラフの基礎概念 (2)
第 3 回	グラフ (3)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 4 回	グラフ (4)	木、木の探索 (1)
第 5 回	グラフ (5)	木、木の探索 (2)
第 6 回	グラフ (6)	オートマトン
第 7 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 8 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 9 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 10 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 11 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 12 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 13 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 14 回	総括	グラフ、論理学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz 著，成嶋弘監訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－」，オーム社，1995 年。（注：離散構造 1 の教科書）

【参考書】

C. L. Liu 著，成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」，オーム社

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。ただし，認定試験への合格を定期試験の受験資格とする。平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- ・ At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Grading will be decided based on term-end examination (100%). You need to pass the mastery test before term-end examination.

COT111KA-CS-111

論理回路入門

李 亜民

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要な論理ゲートやブール代数、カルノー図などを用いた回路設計と動作検証シミュレーションの方法について学びます。

【到達目標】

すべてのデバイス装置の基礎となる論理回路について学びます。また、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要なブール代数を理解します。さらに三つの論理ゲート（AND、OR、NOT）のみを用いて、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダー、エンコーダー、N進カウンタや交通信号制御システムなど様々なデジタル回路を設計します。実際のハードウェア設計に用いられる Intel Altera Quartus II と ModelSim を使用し、回路設計及び動作検証シミュレーションを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

AND ゲートや OR ゲート、NOT ゲート、ブール代数、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダー、エンコーダーなどの簡単なデジタル回路設計から始まり、N進カウンタや交通信号制御システムなどの複雑な回路設計も行います。また、設計した論理回路の動作検証シミュレーションの方法についても学びます。論理回路設計とシミュレーションには、Intel Altera Quartus II と ModelSim という EDA ツールを使用します。講義の冒頭で、前回の宿題の答えを説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	0 と 1 の表現、論理ゲートの構成	0 と 1 の表現、NOT、NAND、NOR、AND、OR ゲートの NMOS 型、CMOS 型、TTL 型実装
2	ブール代数とド・モルガンの法則	ブール代数の定理とド・モルガンの法則、NAND ゲートのみで構成した回路
3	論理回路設計及び動作検証の方法	テストベンチ、Intel Altera Quartus II（回路設計）と ModelSim（動作検証）の使い方
4	論理式の積和標準形と和積標準形	最小項と最大項、論理式の積和形と和積形の変換及び動作検証
5	カルノー図と論理式の簡単化	カルノー図、半加算器と全加算器の設計とシミュレーション
6	マルチビット加算回路	リプルキャリリアダーとキャリールックアヘッドアダーの設計とシミュレーション
7	減算器と加減算回路	2 の補数、加算器を利用した減算と加減算回路の設計とシミュレーション
8	符号なし数と 2 の補数の乗算回路	符号なし数と 2 の補数の乗算、ウォレスツリー乗算器の設計とシミュレーション
9	マルチビット マルチプレクサと ALU	マルチプレクサ、7 セグメント LED 点灯回路、ALU の設計とシミュレーション

10	デコーダーとエンコーダー	デコーダーとプライオリティエンコーダーの設計とシミュレーション
11	ラッチとフリップフロップ (FF)	記憶できる回路 RS ラッチ、D ラッチ、DFF、JKFF、TFF とレジスタ・ファイル
12	Mealy 型と Moore 型順序回路	順序回路の構成、状態遷移図と交通信号制御システムの設計とシミュレーション
13	N進カウンタと 7 セグメント LED	DFF、JKFF、TFF を用いた計数器と 7 セグメント LED 点灯回路の設計とシミュレーション
14	まとめとクイズ	論理回路の復習とクイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各週につき 4 時間。講義資料を事前に目を通します。また、レポート（宿題）を完成します。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第 2 版 2017

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 70 % + 最終課題 (テスト) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題のヒントを調整します。

課題の量を調整します。

サンプルレポートを用意します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC をクラスに持ち込みます。

【Outline (in English)】

The objective for this lecture is to understand the fundamentals of logic operation, Boolean Algebra, logic gates, and their use in implementing the combinational circuits and sequential circuits. All the circuits will be designed in schematic and simulated with EDA tools. The contents include operations of AND, OR, and NOT gates, Boolean algebra, and designs of full adder, multiplier, multiplexer, decoder, encoder, latches, flip-flops, counter, and traffic light system. Students will be expected to spend more than four hours to study each theme per week. Grading will be decided based on the homeworks (70%) and final project report (30%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

久東 義典

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験

各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

波多野 大督

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験

各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようにプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第 1 回から 2 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用 (1) — タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用 (2) — Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括—内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末 (90%) 試験と課題の取組/提出状況 (10 %) により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

久東 義典

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようにプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第 1 回から 2 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用 (1) — タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用 (2) — Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括—内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末 (90%) 試験と課題の取組/提出状況 (10 %) により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

波多野 大督

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようにプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第 1 回から 2 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用 (1) — タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用 (2) — Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括—内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末 (90%) 試験と課題の取組/提出状況 (10 %) により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようにプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用(1) — タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2) — Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括 — 内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末 (90%) 試験と課題の取組/提出状況 (10 %) により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門 3

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	復習 (1)	1～4 の内容の復習を扱う
6	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
7	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
8	モジュールシステムとライブラリ	言語機能を拡張するモジュールシステムとライブラリについて学ぶ
9	復習 (2)	6～8 の内容の復習を行う。
10	データサイエンス基礎 (1)	データ集計の方法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (2)	データの可視化の手法を学ぶ

12 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (1) (3)

13 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (2) (4)

14 復習 (3) 10～13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する (100%)

- 試験（中間、期末）

- 課題の取り組み

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanism in modern programming language, such as mechanism for object orientation, and also experience data science programming.

・ At the end of the course student will expected to understand basic usage for object orientation and other advanced language mechanism in programing languages and also experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.

・ Your overall grade will be decided based on the following (100%).

- mid- and end-term examinations

- assignments

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門 3

小林 郁夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	復習 (1)	1～4 の内容の復習を扱う
6	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
7	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
8	モジュールシステムとライブラリ	言語機能を拡張するモジュールシステムとライブラリについて学ぶ
9	復習 (2)	6～8 の内容の復習を行う。
10	データサイエンス基礎 (1)	データ集計の方法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (2)	データの可視化の手法を学ぶ

- 12 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (1)
(3)
13 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (2)
(4)
14 復習 (3) 10～13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Python ではじめよう！
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する (100%)
- 試験（中間、期末）
- 課題の取り組み

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn advanced mechanism in modern programming language, such as mechanism for object orientation, and also experience data science programming.
- ・ At the end of the course student will expected to understand basic usage for object orientation and other advanced language mechanism in programing languages and also experience programming required for data science and AI.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Your overall grade will be decided based on the following (100%).
- mid- and end-term examinations
- assignments

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門 3

細部 博史

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモर्फイズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	復習 (1)	1～4 の内容の復習を扱う
6	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
7	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
8	モジュールシステムとライブラリ	言語機能を拡張するモジュールシステムとライブラリについて学ぶ
9	復習 (2)	6～8 の内容の復習を行う。
10	データサイエンス基礎 (1)	データ集計の方法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (2)	データの可視化の手法を学ぶ

12 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (1) (3)

13 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (2) (4)

14 復習 (3) 10～13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する (100%)

- 試験（中間、期末）

- 課題の取り組み

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanism in modern programming language, such as mechanism for object orientation, and also experience data science programming.

・ At the end of the course student will expected to understand basic usage for object orientation and other advanced language mechanism in programing languages and also experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.

・ Your overall grade will be decided based on the following (100%).

- mid- and end-term examinations

- assignments

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門 3

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	復習 (1)	1～4 の内容の復習を扱う
6	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
7	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
8	モジュールシステムとライブラリ	言語機能を拡張するモジュールシステムとライブラリについて学ぶ
9	復習 (2)	6～8 の内容の復習を行う。
10	データサイエンス基礎 (1)	データ集計の方法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (2)	データの可視化の手法を学ぶ

12 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (1) (3)

13 データサイエンス基礎 統計処理の基礎を学ぶ (2) (4)

14 復習 (3) 10～13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する (100%)

- 試験（中間、期末）

- 課題の取り組み

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanism in modern programming language, such as mechanism for object orientation, and also experience data science programming.

・ At the end of the course student will expected to understand basic usage for object orientation and other advanced language mechanism in programing languages and also experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.

・ Your overall grade will be decided based on the following (100%).

- mid- and end-term examinations

- assignments

PRI210KA-CS-161

データ構造とアルゴリズム

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠である。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学ぶ。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学ぶ。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学ぶ。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装を課題として取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートとその実行時間を解析する手法を学ぶ。
3	マージソートと漸化式による実行時間評価	マージソートとマージソートの実行時間を評価する手法を学ぶ。
4	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューを学ぶ。
5	リスト・木構造	基本的なデータ構造であるスリストと木構造を学ぶ。
6	ヒープソート	ヒープソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	クイックソート	クイックソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
8	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ挿入ソート、マージソート、ヒープソート、クイックソートのプログラミングを行い、実行時間を比較する。
9	ハッシュ表	重要なデータ構造のひとつであるハッシュ表を理解する。
10	二分探索木	重要なデータ構造のひとつである二分探索木を理解する。
11	講義の復習	今までの講義で学んだ内容を復習する。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解するとともに Dijkstra 法における動的集合の扱いを学ぶ。

13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法を用いて、地下鉄駅間の最短距離を求めるプログラムを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 2012 年

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (80%), および、演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点 (20%) で評価。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの解説を多くしてほしいとの要望に対応。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports and in-class contribution: 20%

PRI210KA-CS-161

データ構造とアルゴリズム

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠である。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学ぶ。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学ぶ。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学ぶ。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装を課題として取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートとその実行時間を解析する手法を学ぶ。
3	マージソートと漸化式による実行時間評価	マージソートとマージソートの実行時間を評価する手法を学ぶ。
4	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューを学ぶ。
5	リスト・木構造	基本的なデータ構造であるスリストと木構造を学ぶ。
6	ヒープソート	ヒープソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	クイックソート	クイックソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
8	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ挿入ソート、マージソート、ヒープソート、クイックソートのプログラミングを行い、実行時間を比較する。
9	ハッシュ表	重要なデータ構造のひとつであるハッシュ表を理解する。
10	二分探索木	重要なデータ構造のひとつである二分探索木を理解する。
11	講義の復習	今までの講義で学んだ内容を復習する。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解するとともに Dijkstra 法における動的集合の扱いを学ぶ。

13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的なアルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法を用いて、地下鉄駅間の最短距離を求めるプログラムを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 2012 年

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (80%), および、演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点 (20%) で評価。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの解説を多くしてほしいとの要望に対応。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports and in-class contribution: 20%

PRI210KA-CS-251

最適化

佐藤 裕二

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-251

最適化

佐川 浩彦

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI310KA-CS-261

アルゴリズムの設計と解析

黄 潤和

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to enhance students' knowledge of data structure and skills of applying associated algorithms. This course will cover the content review of learned data structures and algorithms related tree and graph, and plus algorithm analysis and design techniques.

【到達目標】

The objectives of this course are to make students firmly laying good foundation of data structures and algorithms, and one-step further comprehensively understanding of algorithm analysis, and having design skills and techniques as general problem solving strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- Review data structures and algorithms learned previously
- Introduce some contents on algorithm analysis techniques
- Learn some design techniques for problem solving
[Feedback] Students are given questions to think about and answer in-class and exercises to do as home work. Solutions to the questions and the exercises will be explained in the next class, and students will do self-checking and evaluation of their exercises and make corrections or re-do to the exercises they make mistakes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Fundamentals of the Analysis of Efficiency	- what is an algorithm? - how to design? - how to analyze?
2	Basic algorithm analyses (1): Divide and Conquer	- Merge sort - quick sort
3	Basic algorithm analyses (2): Dynamic Programming	- Fibonacci numbers - Coin exchange
4	Trees structure and analysis (1)	- Binary Trees - Tree traversal - Arithmetic expressions
5	Trees structure and analysis (2)	- AVL Tree
6	Trees structure and analysis (3)	- 2-3-4 Tree
7	Trees structure and analysis (4)	- red-black trees
8	Mid-term exercises	- Work in class (1) do exercises (2) explain solutions
9	Fundamentals of Graph	- DFS(Depth-first searching algorithm) and BFS (Breadth-first searching algorithm)
10	Weighted Graph	- Shortest path algorithms

11	Single source shortest paths	- Dijkstra Algorithm
12	Minimal spanning trees	- Prim's algorithm - Kruskal's algorithm
13	All-pairs shortest paths	- Matrix production - Floyd-warshall algorithm
14	Review	- The contents of L1-L13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read related contents and topics from the Internet
本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

"Introduction to The design and Analysis of Algorithms", Anany Levitin, Publisher: Pearson, ISBN-13: 978-0-13-231681-1

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (14%)、授業内ミニテストで (26%)、授業内期末テストで (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Interested in students' requirements and put efforts accordingly

【Outline (in English)】

The goal of this course is to enhance students' knowledge of data structure and skill of applying associated algorithms. This course will cover the content review of learned data structures and algorithms related tree and graph, and plus algorithm analysis and design techniques.

COT211KA-CS-201

プログラミング 1(C/C++)

廣津 登志夫、佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語 C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if 文、for 文を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は反転学習の形態を取るので、事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第 2 回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第 3 回	標準入出力	C 言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第 4 回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第 5 回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第 6 回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continue により繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第 7 回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第 8 回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ

第 9 回 関数

sizeof 演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第 10 回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第 11 回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第 12 回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第 13 回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第 14 回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読み出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、必ず、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋，“新 明解 C++ 入門”，ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4

【参考書】

柴田望洋，“新・明解 C 言語 入門編”，ソフトバンククリエイティブ. 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

二年間実施した反転学習（事前に説明・演習を行い、講義の多くを課題プログラミングに充てる方式）について、学習効率や理解の面で良好な反応であったので、対面・オンラインに関わらず今年度も同じ形態で講義を進める。予習、講義中・GBC の質問をフルに活用して、効果的に学習を進めて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には **Zoom** による画面共有を使用するので、講義での指示に従い **Zoom** に接続すること

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic skills for writing programs in Programing Language C/C++. They not only study the grammar of Programing Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts and functionality of C and C++. They also expected to build program using C-level core functionalities, such as control flow, function call, data structure and pointer.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT211KA-CS-202

プログラミング 2(C/C++)

相島 健助、廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング 1(C/C++) の後続科目として、C++を用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング 1(C/C++) と同様に、反転学習の形態を取る。事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第 2 回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第 3 回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第 4 回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第 5 回	定値オブジェクト、friend 関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。friend 関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第 6 回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現し方などを理解する。

第 7 回 仮想関数とポリモーフィズム

virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。

第 8 回 抽象クラス

純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。

第 9 回 ヒープメモリとポインタ

ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。new 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。

第 10 回 例外処理

例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。

第 11 回 クラステンプレート

クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。

第 12 回 ベクトルライブラリ

可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。

第 13 回 ベクトル以外のコンテナ

リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。

第 14 回 関数ポインタ

関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、必ず、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。

講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, "新・明解 C++ で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1

【参考書】

柴田望洋, "新版 明解 C++ 入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (1 年秋に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts and functionality of object-oriented programming using C and C++. They also expected to build program using object-oriented manner, such as class, inheritance and encapsulation.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT211KA-CS-201e

プログラミング演習 1(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度規模の大きいプログラムを書くことを通じて、高度なソフトウェアをプログラミングすることに対する理解を深める。プログラミング言語の文法だけでなく、実行環境や開発環境を含めた汎用的なプログラミング環境に慣れ、実際のプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

前段科目である「プログラミング 2(C/C++)」で学んだプログラミング技術を用いて、目的に応じた中規模のソフトウェア（アプリケーション）が作成できるようになること。ソフトウェア開発の考え方や手順を理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、文書処理のプログラムを通じて、既に使用として定まったフォーマットのデータの処理方法を学ぶと同時に、基本的な文書処理の手順についてのプログラミングを行う。後半は、ユーザ操作によりパズルを解くアプリケーションの作成を通じて、問題に対応したデータ構造の作り方やソフトウェアのモジュール化について学ぶ。課題についての質問状況に応じて、内容の補足説明などのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	開発環境 (Cygwin, Linux) の理解
2	文書処理プログラミング (1)	「人工無能」の基本インタラクショナルルーチンとマルチバイト文字の処理
3	文書処理プログラミング (2)	汎用アルゴリズムライブラリによるソートの実現
4	文書処理プログラミング (3)	n-gram の実現
5	文書処理プログラミング (4)	マルコフ連鎖を用いた文生成
6	文書処理プログラミング (5)	形態素解析を用いた文生成
7	文書処理プログラミング (6)	実装による実効性能の検討
8	パズルアプリケーションの実装 (1)	基本的なユーザ操作と表示の実装
9	パズルアプリケーションの実装 (2)	段階的な機能拡張 エラー処理やサイズ等の制約の緩和の実現
10	パズルアプリケーションの実装 (3)	ソフトウェアの部品化による再実装
11	パズルアプリケーションの実装 (4)	ライブラリを利用したソフトウェアの改良
12	パズルアプリケーションの実装 (5)	自動解法とアニメーション表示による高度化
13	パズルアプリケーションの実装 (6)	Wrapper クラスの設計と実装による発展的改良
14	まとめ	講義の演習全体の総括と質問への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
準備学習として、前段科目であるプログラミング 2(C/C++) の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、講義中に完了しなかったプログラミング課題およびレポート作成に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

説明資料をオンライン配布する

【参考書】

柴田望洋, "新・明解 C++入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4. (1 年秋科目教科書)

柴田望洋, "新・明解 C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN: 978-4-7973-9716-1. (2 年春科目教科書)

富永和人, 権藤克彦, "例解 UNIX/Linux プログラミング教室: システムコールを使いこなすための 12 講", オーム社, 2018. ISBN: 978-4-274-22210-8.

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。各回で出題するプログラム課題に対する取り組み (40%)、およびレポート課題 (60%) から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++)、プログラミング 2(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。
本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an introductory course to understand C/C++ programming Language. With writing middle-scale software using actual development environment, students will deepen their understanding for the scheme and processes of the software development.

[Learning Objectives]

Students expected to build middle-scale program using object-oriented manner.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to program the exams.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; final report (60%), and homework (40%).

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回	非決定性有限オートマトン (2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第 7 回	中間試験	
第 8 回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第 9 回	チューリングマシン (1)	1. 決定性チューリングマシン
第 10 回	チューリングマシン (2)	1. 非決定性チューリングマシン
第 11 回	文法 (1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第 12 回	文法 (2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4.2 分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第 13 回	文法 (3)	1. 文法演習
第 14 回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で 40 %。期末試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回	非決定性有限オートマトン (2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第 7 回	中間試験	
第 8 回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第 9 回	チューリングマシン (1)	1. 決定性チューリングマシン
第 10 回	チューリングマシン (2)	1. 非決定性チューリングマシン
第 11 回	文法 (1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第 12 回	文法 (2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4.2 分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第 13 回	文法 (3)	1. 文法演習
第 14 回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で 40 %。期末試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT211KA-CS-211

コンピュータ構成と設計入門

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機の基本構成要素であるプロセッサ (CPU)、メモリ、入出力装置の機能と動作、またそれぞれの要素間の相互関係をソフトウェア、ハードウェアの両観点から理解する。特に、計算機がプログラムを実行する際の各要素の役割、プログラムの実行を高速化する技術について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、大きく分けて 2 つのテーマを扱う。まず、前半の授業では、計算機内部におけるデジタルデータの取り扱いについて学ぶ。これはすなわち、計算機が数値表現や数値同士の計算をどのように扱っているのか、"2 進数"や"浮動小数点数"、"加算器"といったキーワードを基に学習し、計算機が扱うデータについて理解できるようになることを目標とする。次に、授業後半では、計算機の構成要素である CPU、メモリ、入出力装置について計算機全体の中のそれぞれの役割を学ぶ。最終的には、これらの理解を併せ、我々が作成したプログラムが計算機でどのように実行されるのか、各自が説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を基にした講義が主となる。特に前半の進数変換や数値の計算は、手を動かさなければ理解が進まないと思うので、適宜、演習問題の配布やレポート課題等も予定している。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、データの表現、位取り記数法	本講義の概要とその進め方、評価法、演習との関係など / 2 進数と 10 進数 / N 進数への変換法
第 2 回	整数の計算機内部表現	符号絶対値表現 / 補数表現 / 嵩上げ表現
第 3 回	加減算器、論理演算、シフト	論理回路の復習 / 符号付き整数の加減算 / 演算のオーバーフロー / 論理演算とシフト
第 4 回	算術論理演算回路 (ALU)	ALU の構成 / 正負判定、0 判定など
第 5 回	実数の計算機内部表現	浮動小数点表現 / 表現出来る値とエラー検出
第 6 回	計算機の構成と動作原理	CPU の構造 / バスの構造 / 命令サイクルとパイプライン
第 7 回	中間試験	中間試験実施予定
第 8 回	計算機の命令	具体的な計算機の機械語命令
第 9 回	基本命令セット 1	命令形式 / 基本的な命令 / 簡単なプログラム
第 10 回	基本命令セット 2	算術論理演算命令 / 分岐命令 / アセンブリ言語
第 11 回	機械語命令形式と機械語の実行	アドレッシングモードの実現 / サブルーチンの実現
第 12 回	割り込み	割り込みの概念 / 割り込み要因・動作 / OS の役割・機能 / 割り込み用命令と割り込みベクトル
第 13 回	メモリ	メモリ階層 / キャッシュの動作 / キャッシュアルゴリズム

第 14 回 マルチコア/プロセッサ 並列処理 / ネットワーク / キャッシュとネットワーク シュコヒーレンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容に疑問点を残さないよう復習をすること。授業の理解を深めるため、適宜、演習問題やレポート課題等の配布を行なう。各回の講義は前回までの内容が理解できていないとついて行けなくなるので、疑問点を残さないよう努力すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、毎回授業資料を Hoppii 上で配布する。

【参考書】

「コンピュータの構成と設計」、パターソン・ヘネシー著、日経 BP
「コンピュータアーキテクチャ」、馬場敬信、オーム社、
「プロセッサを支える技術」、Hisa Ando, 技術評論社
など

【成績評価の方法と基準】

不定期な講義内レポート課題 30%、中間試験 30%、期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けますので気軽にメールしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the operation of CPUs, memories, and I/O devices and interrelationship among them from the viewpoints of the hardware and software.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to help students acquire an understanding of the roles of each computer element when a program is executed and methods for accelerating program execution.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

COT311KA-CS-341

コンパイラ

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンパイラをはじめとする計算機言語処理系は、情報科学の分野でもっとも重要なソフトウェアの一つである。本講義では、コンパイラの基本概念について説明するとともに、コンパイラの各構成要素における理論と技法について説明する。また、簡単な言語に対するコンパイラの実現を例題として、コンパイラの全体像の理解を深める。

【到達目標】

- (1) コンパイラの基本概念を説明できる。
- (2) 与えられた字句定義および構文定義から、対応するプログラミング言語の構文を説明できる。
- (3) 字句、構文定義からそれぞれ字句解析および構文解析プログラムを作成できる。
- (4) プログラムの構文要素に対するコードの生成方法が理解できる。
- (5) 簡単な言語に対するコンパイラを実現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンパイル処理は、いくつかのフェーズ (Phase) と呼ばれるプロセスで構成される。各フェーズの実装方法は、オートマトンをはじめとする言語の理論によって裏付けられている。講義前半（第1～9回）では、各フェーズに対して、(1) フェーズを裏付ける理論の学習、(2) 理論に対するプロセスの実装方法（アルゴリズム）の学習、というステップで理解を深めていく。講義後半では、前半で学んだそれぞれのフェーズを統合することで、一つのコンパイラを構成できることを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	コンパイラと計算機言語処理系の概要
2	言語と文法	文脈自由文法と解析木
3	字句解析	正規表現とオートマトンによる字句解析の定式化
4	字句解析器の実装	字句解析プログラムの導出
5	構文解析	下向き構文解析
6	構文解析器の実装	再帰降下構文解析器の導出
7	意味解析	名前の解決処理、型、静的意味検査
8	中間コード生成	中間コードの種類と生成の基礎
9	実行時環境	実行時記憶、活性レコード（関数フレーム）、手続き呼び出しのプロセス
10	通訳系（インタプリタ）	VM(Virtual Machine)
11	コンパイラの実装 (1)	式のコンパイル
12	コンパイラの実装 (2)	変数機能の実現
13	コンパイラの実装 (3)	制御構造のコンパイルと関数機能の実現
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回では配布する資料を読み授業に備える。また、資料内の例題プログラムは事前に入力し実行すること。授業後は、課題のプログラミングおよびレポート作成に取り組む。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したオンラインテキストおよび配布する印刷物

【参考書】

中田育男、コンパイラの構成と最適化、(2 版、2009)、朝倉書店
佐々政孝、プログラミング言語処理系、(1989)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

試験 (60%)、レポート課題 (30%)、講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レポート問題の解説時間を多めにとる

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC、ネットワーク接続、学習支援システム利用

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn compilers and compilation process.
- ・ At the end of the course students will understand the overall structure of a compiler as a system through realizing a simple language,
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Grading will be decided based on mid- and term-examinations (60%), reports (30%), and in-class contribution(10%)

COT211KA-CS-202e

プログラミング演習 2(C/C++)

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C/C++を活用できるように、大きく 2 つのテーマについてプログラミング演習を行う。まず、実際のデータ処理としてクラスタリングを題材にする。続いて、コンピュータを自在に制御するのに必要なシェルを題材にする。

学生は、本演習を通して、実データを扱うための技術とコンピュータを適切に制御する技術の習得を学ぶ。

【到達目標】

クラスタリングにおける階層的手法と分割的手法について、そのアルゴリズムと適用法の違いを理解し、プログラミングで実装できる。また、シェルの仕組みを理解して、簡単なシェルであれば実装できる。C 言語におけるデータ型、演算子、式、制御の流れ、関数、ポインタと配列、構造体、入出力などの理解が深まり、規模も大きく複雑なプログラミングに耐えうる実践のスキルを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2 次元点集合のクラスタリングを題材とし、階層のおよび分割的クラスタリング手法の様々なアルゴリズムを順に学び、C 言語プログラミングにより実装していく。また、簡単なシェルを実装する。その過程で、C 言語の理解を深め、実践的プログラミングスキルを獲得する。原則として、週単位で小課題が出され、授業時間外に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	Linux 上の C 言語プログラミング開発環境の設定、クラスタリングの対象となる 2 次元点集合の生成
第 2 回	階層的クラスタリング (1)	Single linkage 法の理解と実装
第 3 回	階層的クラスタリング (2)	Complete linkage 法の理解と実装
第 4 回	階層的クラスタリング (3)	Group average 法の理解と実装
第 5 回	階層的クラスタリング (4)	重心法の理解と実装
第 6 回	分割的クラスタリング (1)	k-means 法の理解と実装
第 7 回	分割的クラスタリング (2)	Multi-start 探索法の理解と実装
第 8 回	シェルの実装 (1)	シェル
第 9 回	シェルの実装 (2)	システムコール
第 10 回	シェルの実装 (3)	プロセス
第 11 回	シェルの実装 (4)	字句・構文解析
第 12 回	シェルの実装 (5)	シェルの実装
第 13 回	最終課題 (1)	最終課題レポートの作成
第 14 回	最終課題 (2)	最終課題レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1] C 言語の復習

[2] データ構造とアルゴリズムの復習

[3] 週単位の小課題および最終課題への取り組み

[4] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて教員が電子的に配布する。

【参考書】

[1] カーニハン、リッチー著：「プログラミング言語 C」, 第 2 版, 共立出版, 1989 年。

[2] 柴田望洋著：「新・明解 C 言語 入門編」, ソフトバンククリエイティブ, 2014 年。

【成績評価の方法と基準】

小課題 50%, 最終課題レポート 50%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In order to make use of C/C++, programming exercises will be given on two major topics. First, clustering will be used as a subject for actual data processing. Secondly, we will discuss shells, which are necessary to control a computer freely. Through these exercises, students will learn the skills to handle real data and to control computers appropriately.

The goal of this course is to understand the differences in algorithms and applications of hierarchical and partitioned clustering methods to be able to implement them and to understand the mechanism of shells, and be able to implement simple shells.

Students will be expected to spend four hours to implement exercises.

Grading will be decided based on small assignments (50%) and the final report (50%).

MAT247KA-CS-252

統計学 2

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 MATLAB を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた MATLAB プログラミングの習得
- [4] 計算問題や MATLAB プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLAB プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40 %、期末試験 60 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLAB を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLAB プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

MAT247KA-CS-252

統計学 2

小西 克巳

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 MATLAB を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた MATLAB プログラミングの習得
- [4] 計算問題や MATLAB プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLAB プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40 %、期末試験 60 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLAB を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLAB プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PRI210KA-CS-207

情報基礎学 A

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ。

【到達目標】

計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量、領域計算量、多項式時間帰着などを学ぶとともに、P, NP, PSPACE, EXP などの重要な計算量のクラスを理解する。また、SAT の NP 完全性の証明などを通じて P vs NP 問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を通して、計算の複雑さの理論の基本を理解してもらう。重要なポイントでは演習を行い、講義で学習した内容を実感することで理解を深める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び、チューリングマシン、万能チューリングマシンの概念を理解する。
3	計算可能性の理論と対角線論法	チューリングマシンの停止性判定問題を例に計算可能性の理論と対角線論法について学ぶ。
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する。
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて、具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ。
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量、領域計算量など、計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ。
7	階層定理	時間階層定理、領域階層定理の証明とその意味を理解する。
8	時間計算量のクラス、領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXP など時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ。
9	P 対 NP 問題	P 対 NP 問題と、関連の深い概念である NP 完全性、NP 困難性について学ぶ。
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ。
11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより、多項式時間帰着に対する理解を深める。
12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ。

13 Cook-Levin の定理と 論理式の充足可能性問題 (SAT) SAT の NP 完全性 が NP 完全問題であることを理解する。

14 計算の複雑さと暗号理論 計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須。また、講義期間中に複数回出す課題を提出すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから配布する。

【参考書】

Michael Sipser 著、太田 和夫、田中 圭介、阿部 正幸 訳、計算理論の基礎 [原著第 2 版] 2. 複雑さの理論、共立出版 ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、レポート 20%、定期試験 80%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。また、チューリングマシンの演習等においては貸与 PC を利用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.

Learning objectives: Students will learn time complexity, space complexity, complexity classes (such as P, NP, PSPACE, EXPTIME, etc.), polynomial-time reduction, etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report & Contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

PRI310KA-CS-208

情報基礎学 B

雪田 修一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算と論理の基礎をプログラミングを通じて学ぶ。また、近年の発展が著しいトピックを具体的な言語や処理系で体験する。

【到達目標】

命題論理、述語論理、計算可能性などの基本知識を習得し、SAT ソルバーなどの近年の発展分野の動向を知る。Lisp、Minisat、Prolog などの基本的なプログラミングができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

体系的な知識を伝えると同時に適宜プログラミングにより抽象概念を実装する演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この科目の目的と目標	講義の目指すもの、想定される受講者の興味・関心を明確にし、科目選択のための情報を提供する。
第 2 回	計算可能性	計算の概念、計算不可能な問題の存在を実例を通して理解する。
第 3 回	ラムダ計算	計算の重要なモデルであるラムダ計算の基本を知る。
第 4 回	Lisp	ラムダ計算をプログラミング言語として実現している Lisp に触れる。
第 5 回	Lisp 演習	Lisp が得意とする典型的な問題を取り上げ、演習を行う。
第 6 回	命題論理と SAT	命題論理の基本を学び、SAT (Satisfiability Problem、充足可能性問題) の困難性について理解する。
第 7 回	SAT ソルバー	近年の発展著しい SAT ソルバーの概要を理解する。
第 8 回	SAT ソルバー演習	SAT ソルバーで具体的な問題を扱う演習を行う。
第 9 回	述語論理の意味論	述語論理の基礎を理解し、意味論の代表的な方法とその意義を学ぶ。
第 10 回	証明論	証明とは何か、代表的な理論を理解する。
第 11 回	不完全性定理	ゲーデルの不完全性定理について大掴みな理解をする。
第 12 回	Prolog	1 階述語論理を扱うプログラミング言語 Prolog の基本を理解する。
第 13 回	Prolog 演習	Prolog が得意とする問題を演習する。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材を用いて、全トピックの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン教材の毎回の予習。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用する。URL は初回に開示する。

【参考書】

各回のキーワードで検索にかかる URL はいずれも重要な最新の情報源である。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの課題 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

レポート作成の手引きを提示する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline (in English)】

We study fundamental theory of computation with concrete examples. The series of lectures cover natural deduction, lambda calculus with lambda calculator, SAT solvers with mini-sat, and logic programming with Prolog.

COT211KA-CS-212

コンピュータ構成と設計

李 亜民

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では RISC-V 命令セットアーキテクチャ、アセンブリ言語プログラム、シングルのマルチサイクル CPU のデータパスと制御ユニット設計、パイプライン CPU のデータパスと制御ユニット設計（内部フォワーディングとパイプラインストール）、整数乗除回路、浮動小数点演算装置 FPU、メモリ、キャッシュ、仮想メモリ、TLB、入出力システム、コンピュータの性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）について学びます。この講義では、MIPS ISA と MIPS CPU の設計についても説明します。

【到達目標】

コンピュータの物理的な仕組みと設計方法の理解。ハードウェアレベルのプログラミング言語であるアセンブリプログラミングについても学び、プロセッサの基本動作を理解します。さらに、シングルサイクル CPU、マルチサイクル CPU、パイプライン CPU、FPU、キャッシュ、TLB、マルチスレッド CPU、マルチコア CPU などを設計します。そして、現代のコンピュータにおいて高速化の鍵となっている記憶階層についての理解、外部記憶その他の周辺装置や高性能コンピュータ構成と設計についても理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

RISC-V シミュレータ Rivasim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/rivasim/>) と MIPS シミュレータ AsmSim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/asm/>) を使用して、アセンブリプログラムを開発します。コンピュータを構成するプロセッサ内部のデータの流れ（データパス）とその制御ユニットに関して、具体的な構成方法と設計の原理を理解します。さらに Intel Altera Quartus II と ModelSim という実際のハードウェア設計にも使われている EDA ツールを使用して RISC-V および MIPS プロセッサを設計し動作検証シミュレーションを行います。講義の冒頭で、前回の課題について説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	RISC-V 命令セットアーキテクチャ (1)	RISC-V 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（算術、論理、シフト演算命令）及び Rivasim シミュレータの使い方
2	RISC-V 命令セットアーキテクチャ (2)	RISC-V 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（関数の呼び出し、条件分岐、無条件ジャンプ、メモリ load、store 命令）
3	コンピュータの基本的な回路設計	回路図と Verilog HDL を用いた基本的な回路（バレルシフタや ALU など）設計
4	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (1)	RISC-V シングルサイクル CPU の構成とレジスタファイルの設計とシミュレーション
5	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (2)	RISC-V シングルサイクル CPU のデータパスと制御ユニットの設計とシミュレーション

6	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (3)	RISC-V シングルサイクル CPU + メモリ + テストプログラム、整数乗除/剰余回路 (RV32M)
7	RISC-V マルチサイクル CPU 設計 (1)	RISC-V マルチサイクル CPU のデータパスの設計とシミュレーション
8	RISC-V マルチサイクル CPU 設計 (2)	RISC-V マルチサイクル CPU の制御構造とコンピュータの設計とシミュレーション
9	RISC-V パイプライン CPU 設計	RISC-V パイプライン CPU（内部フォワーディングとパイプラインストール）の設計とシミュレーション
10	浮動小数点数と FPU 設計	IEEE 754 浮動小数点数と FPU の設計とシミュレーション
11	メモリ階層とその管理	メモリ階層（SRAM、DRAM、キャッシュ、仮想記憶、MMU、TLB）の設計とシミュレーション
12	入出力システム	入出力システム（入出力割込み、キーボードと VGA のインターフェースコントローラ）の設計とシミュレーション
13	性能評価と高性能コンピューティング	性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）
14	MIPS CPU 設計とまとめ	MIPS 命令セットアーキテクチャ及び AsmSim シミュレータの使い方と MIPS CPUs 設計とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。講義資料を事前に目を通すこと。また、レポート（宿題）を完成させて提出すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

1. コンピュータの構成と設計：ハードウェアとソフトウェアのインタフェース RISC-V 版, Morgan Kaufmann. 2017.
2. Computer Principles and Design in Verilog HDL, Wiley, 2015.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 70 % + プロジェクトレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の難易度を調整します。
設計サンプルを追加します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC をクラスに持参してください。

【Outline (in English)】

The objective of this lecture is to understand the fundamentals of the computer system and its design method. The contents of the lecture contain RISC-V instruction set architecture, assembly language programming, datapath and control unit design of single-cycle and multiple-cycle CPUs, design of pipelined CPU with internal forwarding and pipeline stall mechanism, memory, caches, virtual memory management, TLB (Translation lookaside buffer), input/output interface controller, interrupt, computer performance evaluation, superscalar, multithreading, multicore, interconnection network, and supercomputers. The CPUs will be designed in schematic and/or Verilog HDL and simulated with EDA tools. The MIPS ISA and MIPS CPUs design will be also taught in this lecture. Students will be expected to spend more than four hours to study each theme per week. Grading will be decided based on the homework (70%) and a project (30%).

PRI210KA-CS-351

情報理論

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法、通信路における誤り訂正の方法等を理解する。

【到達目標】

エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関しての理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性、Elias 符号	ハフマン符号のコンパクト性、および算術符号の一種である Elias 符号を理解する。
8	符号構成法の復習	いくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い、誤り訂正符号の概念を理解する。
12	謝り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と、その符号化法、復号法を理解する。
13	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

14 公開鍵暗号

公開鍵暗号の概念と、RSA 暗号について理解する。また、暗号を利用したプロトコルについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Web からの配布による。

【参考書】

情報理論 ―基礎から応用まで―、中川聖一著（近代科学社）

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、課題の出来 20%、定期試験 80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を利用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce basic concepts of information theory.

Learning objectives: You will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, and error correction etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading Criteria: Short report & contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

COT211KA-CS-245

プログラム設計

栗田 太郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム設計の基本概念と原理原則を理解した上で、構造化プログラミング、構造化分析設計、データ中心設計、ソフトウェアのテスト、オブジェクト指向分析設計、デザインパターン、契約による設計、形式手法、形式検証等について学び、実践的なプログラム設計とプログラミングに向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、プログラム設計の基本事項、原理原則、構造化プログラミング、構造化分析設計、オブジェクト指向分析設計等について理解し、他者に説明ができるようになる。そして、数千行のプログラムの設計や、各種言語や記法を用いた思考や設計の表現、他者の設計表現のレビュー、ソフトウェアやプロジェクトの品質特性との紐づけ等を行い始めることができるようになる。さらに、プログラム設計に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でプログラム設計に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、プログラム設計についての基本的な知識や発展的な事項、とくに設計に関する考え方や態度について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、プログラムや設計書、記法の品質、とくに分かりやすさや、説明の仕方等について学んでいく。

また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プログラム設計の概要	オリエンテーションの後、プログラム設計の概要と歴史。2 回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェアおよびその開発とプログラム設計	ソフトウェアおよびその開発の全体像とプログラム設計との関係性について紹介する。
3	プログラム設計の原理原則と構造化プログラミング	プログラム設計に関する基本的な用語の説明の後、よく知られた原理原則や構造化プログラミングについて紹介する。
4	構造化分析設計 1	構造化分析設計の基礎について具体例を交えながら説明する。
5	構造化分析設計 2	構造化分析設計の演習を行う。各自が設計した流れ図等を、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
6	データ中心設計	データの取り扱い、データ中心設計、各種表記方法について紹介する。

7	プログラムのテストとレビュー	ソフトウェアのテストの全体像とプログラムのテストとレビューの技法について紹介する。単体テストとレビューの演習も行う。
8	ワークショップ 1	第 7 回までの内容を用いる設計とプログラミングの演習を行う。グループで討議し、より良い設計について対話を通して考えていく。
9	オブジェクト指向分析設計 1	オブジェクト指向分析設計の基礎についてその基本概念を具体例を交えながら説明する。
10	オブジェクト指向分析設計 2	オブジェクト指向分析設計の演習を行う。各自が設計したクラス図等を、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
11	デザインパターン	オブジェクト指向分析設計におけるデザインパターンについて解説する。その他のパターンについても紹介する。
12	契約による設計と形式手法・形式検証	契約による設計と、プログラムの証明等のための形式手法・形式検証について紹介する。
13	ワークショップ 2	第 12 回までの内容を用いる設計とプログラミングの演習を行う。グループで討議し、よりよい設計について対話を通して考えていく。
14	まとめ	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1 回につき、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Brian W. Kernighan, P. J. Plauger: プログラム書法 (第 2 版), 共立出版 (1982).

Brian Kernighan, Rob Pike: プログラミング作法, アスキー (2000).
トム・デマルコ: 構造化分析とシステム仕様 (新装版), 日経 BP 出版センター (1994).

バートランド・メイヤー: オブジェクト指向入門 (第 2 版) - 原則・コンセプト -, 翔泳社 (2007).

バートランド・メイヤー: オブジェクト指向入門 (第 2 版) - 方法論・実践 -, 翔泳社 (2008).

Eric Gamma, Richard Helm, Ralph Johnson, John Vlissides: オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン (改訂版), ソフトバンククリエイティブ (1999).

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

レポート課題: 30%, 最終課題: 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業においても閲覧しやすい、また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC 等

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and various methods for program design, including structured programming, structured analysis and design, data-oriented design, software testing, object-oriented analysis and design, design pattern, design by contract, formal methods, and formal verification. Students are expected to learn the basics of these issues and methods, and to build up their ability to apply them in practice.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Explain what is written in the course outline.
2. Design programs of thousands of lines using several notations.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%

Short reports: 30%

In-class contribution: 30%

COT311KA-CS-242

オペレーティングシステム

山田 浩史

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーティングシステム (OS) の基本概念と実装技術、およびその内部構造についての基礎知識を学ぶ。OS は、裸のままでは扱いにくいハードウェアを抽象化し、より扱いやすい仮想的なコンピュータをユーザに見せるソフトウェアである。Linux や Windows 8 がその代表格である。OS はハードウェアとアプリケーションを繋ぐ要のような役割を担っており、コンピュータが動作する仕組みを知るには OS の理解が必須である。

【到達目標】

OS の概念、実装技術、および内部構造についての基礎知識を身につけることを目標とする。また、OS の理解を通じて、コンピュータの動作原理についての理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

OS の基本概念を講義していく。具体的には、プロセスやスレッド、スケジューリング、同期、仮想記憶、割り込み処理、ファイルシステムといった内容について講義を行う。また、進捗を見つつ、理解を深めるために適宜プログラミング演習を行ってレポートを課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	OS の基本概念について学ぶ。
2	I/O デバイスと割り込み	I/O デバイスや割り込みを OS がどのように制御するかについて学ぶ。
3	ファイルシステム (1)	OS のディスク管理方法について学ぶ。ファイルという考え方やファイルの管理方法について学ぶ。
4	ファイルシステム (2)	前回の続き。
5	システムコールと保護	システムコールの基本概念、OS によって達成される保護について学ぶ。
6	プロセスとスレッド	プロセスとスレッドの基本概念、違いについて学ぶ。
7	演習 (1)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
8	スケジューリング	OS の CPU 管理方法について学ぶ。スケジューリングの基本概念について学ぶ。
9	相互排除と同期 (1)	相互排除の基礎を学ぶ。クリティカルセクション、ロック等の考え方を学ぶ。
10	相互排除と同期 (2)	前回の続き。
11	演習 (2)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
12	仮想記憶 (1)	OS のメモリ管理方法について学ぶ。仮想/物理アドレス、ページング、スワッピングについて学ぶ。

13 仮想記憶 (2)

前回の続き。

14 演習 (3)

これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習時に課されたレポートを行う。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

河野健二著、オペレーティングシステムの仕組み、朝倉書店
Abraham Silberschatz 著、Operating System Concepts 9th Edition.
詳解 Linux カーネル 第 3 版、オライリー・ジャパン

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習課題の解説分量を増やすようにする。

【その他の重要事項】

C 言語を用いたプログラミングをこなせることが必須である。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of operating systems, such as their concepts, designs, and implementation. The operating system is a fundamental software layer that controls applications and underlying hardware. It abstracts bare-metal hardware and provides intelligent interfaces to applications.

COT311KA-CS-243

型システムと関数型言語

雪田 修一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

型システムと関数型プログラミングの諸概念を代表的な言語である **Haskell** を用いて学ぶ。**Functor, Applicative, Monad, Monoid** などの概念を多数の具体例の計算を通して理解する。

【到達目標】

学生は関数型言語の型システムとその上で実行される入出力や状態をもつ計算の仕組みを理解し、副作用のない純粋な関数型の計算から副作用を隔離する機構である **Monad** を適切に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Haskell によるプログラミング体験を通じて型システムの実際を知る。型推論の意義と問題点を理解する。授業中にプログラミングを行うため **PC** を持参する必要がある。授業中の議論に受講生の積極的な参加を求める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と方法を説明する。履修すると判断した場合は次回までに Haskell の開発環境を構築しておく。 教科書 chapter 1.
第 2 回	Believe the Type	Type variable, type class を学ぶ。
第 3 回	Syntax in Functions	Pattern matching, guards, where, let, case などの用法を学ぶ。
第 4 回	Hello Recursion!	Recursion に親しむ。Quick sort を例にとる。
第 5 回	Higher Order Functions	Curried function, lambda expression, fold, (\$) などについて学ぶ。
第 6 回	Modules	Module の扱いと作成方法を学ぶ。
第 7 回	Making Our Own Types and Type classes	新しい type や type class の作成方法を学ぶ。Functor という type class に触れる。型の型である Kind を理解する。
第 8 回	Input and Output	Pure な世界と副作用のある世界の分離を monad 機構で実現する。
第 9 回	More Input and More Output	乱数の扱いに触れる。簡単なゲームを作成する。
第 10 回	Functionally Solving Problems	逆ポーランド電卓、経路探索などへの簡単な応用。
第 11 回	Applicative Functors	Functor をさらに強化する機構について学ぶ。
第 12 回	Monoids	Monoid は様々な場面で登場する計算パターンであることを学ぶ。
第 13 回	A Fistful of Monads	Monad 則について学ぶ。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材をもとに全てのトピックのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題への取り組み。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Learn You a Haskell for Great Good!,
Miran Lipovaca,
No Starch Press.
Kindle 版もある。PDF is freely available.

【参考書】

Haskell - the craft of functional programming (3rd edition)
Simon Thompson
Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

期内レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業に必要なソフトウェアをうまく使えない学生がいた。躓きの主な原因は OS、ファイルシステム、シェルなどの基本が分かっていない所にあることを発見した。これらについては別の基礎科目で扱われているが適宜補足が必要であることを痛感した。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を授業中に使用する

【Outline (in English)】

We study a type system and functional programming with Haskell. The concepts of functor, applicative, monad, and monoid are treated with concrete examples. Students will be able to write their own functors and monads. They will also be able to trace recursive calls typical in the "fold" design pattern. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-244

ソフトウェア工学

栗田 太郎

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトウェア工学の基本概念とその重要性を理解した上で、ソフトウェア開発プロセス、アジャイル開発とスクラム、要求の獲得と分析、要求の仕様化、仕様書の記述、形式手法と形式仕様記述、検証と妥当性確認、ソフトウェアの実現、レビューとテスト、プロジェクトと品質のマネジメント等について学び、実践的なソフトウェア開発やシステム開発、他者と協働するチーム開発に向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、ソフトウェア工学の基本事項、様々な開発プロセス、開発の各工程における様々な技法、背景にある考え方等について理解し、他者に説明できるようになる。そして、受講後のソフトウェア開発において、様々な有機的な知識に基づいた、開発の特性に合わせた技法の組み合わせや開発計画の立案、実践等を行い始めることができるようになる。さらに、ソフトウェア工学やシステム工学に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でソフトウェア工学に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、ソフトウェア工学についての基本的な知識や発展的な事項、とくに複数人で行う実開発の理想と現実について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、様々な技法の実践、仕様書をはじめとする文書の品質、品質やプロジェクトのマネジメント、様々なトレードオフ等について考えていく。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ソフトウェア工学の概要	オリエンテーションの後、ソフトウェア工学の概要と歴史、技術者と倫理、2 回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェア開発プロセス 1	ソフトウェア開発プロセスの概要、その種類と特性について解説する。
3	ソフトウェア開発プロセス 2	プロセスの開発と改善に関する演習を行う。各自がデザインしたプロセスモデルを、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
4	アジャイル開発プロセス 1	アジャイル開発とスクラムの基礎について解説する。
5	アジャイル開発プロセス 2	スクラムに関する演習を行う。振り返り等の関連事項についても紹介する。

6	要求工学 1	要求工学の概要を紹介するとともに、システムおよびソフトウェアの開発の全体像と要求工程との関係性について解説する。
7	要求工学 2	要求を抽出・分析するための様々な技法について説明する。関連して、人間中心設計についても紹介する。
8	ワークショップ 1	第 7 回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、要求工程における課題を整理していく。
9	仕様書の記述と検証	要求の仕様化と仕様の記述・検証について解説する。検証と妥当性確認の違いについても述べる。
10	形式手法と形式仕様記述	厳密な仕様を記述するための形式手法、形式仕様記述言語等について事例を交えて解説する。
11	ソフトウェアの実現とテスト	ソフトウェアの実現とテストに関する技法や課題について説明する。レビューについても触れる。
12	プロジェクトと品質のマネジメント	プロジェクトマネジメントとシステムの品質について説明する。セーフティーやセキュリティについても触れる。
13	ワークショップ 2	第 12 回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、仕様書等の記述と品質の課題を整理していく。
14	まとめ	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1 回につき、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Ian Sommerville: Software Engineering (10th Edition), Pearson (2015).

玉井 哲雄: ソフトウェア工学の基礎, 岩波書店 (2004).

Roger S. Pressman, Bruce R. Maxim: 実践ソフトウェアエンジニアリング (第 9 版), オーム社 (2021).

中谷 多哉子, 中島 震: ソフトウェア工学, 放送大学教育振興会 (2019).

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).

マイケル・ジャクソン: ソフトウェア要求と仕様 - 実践, 原理, 偏見の辞典 -, エスアイビー・アクセス (2014).

SQuBOK 策定部会: ソフトウェア品質知識体系ガイド (第 3 版) - SQuBOK Guide V3 -, 日科技連出版社 (2020).

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

レポート課題: 30%, 最終課題: 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業においても閲覧しやすい、また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC 等

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and various techniques for software engineering, including software development process, agile development and scrum, requirements elicitation and analysis, requirements specification, formal specification, verification and validation, software implementation, review and testing, project management, and quality management. Students are expected to learn the basics of these issues and techniques, and to build up their ability to apply them in practice.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Explain what is written in the course outline.
2. Plan and use software engineering methods in small projects.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%

Short reports: 30%

In-class contribution: 30%

COT311KA-CS-311

並列分散処理

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、そして今後の情報基盤アーキテクチャの根幹を成す「並列処理」と「分散処理」についてその基礎から学ぶ。

スマートフォンや携帯ゲーム機からパソコン・スーパーコンピュータに至るまで、現在使われている殆どの計算機システムは、複数の処理列を同時に実行させて処理を進める並列分散処理の構成になっている。本講義では、並列・分散システムの基盤技術を俯瞰することにより、ハードウェアから OS・アプリケーションに至るまでの様々なレイヤにおける並列・分散処理について学ぶ。

【到達目標】

本講義では、並列分散処理に関わるハードウェアやソフトウェアがいかにして並列化を実現しているか、またそれに伴う諸問題についても理解することを最終的な目標とする。その過程で、プロセス・スレッドレベルでの簡単な並列プログラミング手法についても修得する。学生は本講義を通じて、OS やプロセッサ、またよりスケールの大きいクラスタレベルの並列化技術について知識を得るだけでなく、プロセス・スレッドのプログラミング技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は主に配布資料を用いた講義形式により行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

進み具合に応じて数回の理解度チェック課題を課す。

また中間課題として課す演習においては、並列分散処理ライブラリ等を利用したプログラミングを行うことから、C/C++の基本的なプログラミング知識を有することを前提とする。

試験は期末のみを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	並列分散処理の目的と歴史的経緯	並列分散処理についてのイントロダクション。 それらの歴史的な技術の変遷を辿り技術領域を明らかにする。
第 2 回	OS レベルの並列化 1（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	OS が行う並列処理技術として、プロセス・スレッドを用いたマルチタスク実行が挙げられる。まずプロセスとスレッドの概念について学ぶ。
第 3 回	OS レベルの並列化 2（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	第 2 回に引き続き、プロセスとスレッドを理解する上で欠かせない、OS の仮想メモリ技術について学ぶ。
第 4 回	OS レベルの並列化 3（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	プロセスとスレッドをユーザが生成するためのプログラミング技術について学ぶ。
第 5 回	命令レベルの並列化 1（命令依存、スーパースカラ）	プログラム実行を高速化する技術として、CPU が命令レベルで実行を並列化するスーパースカラ等の技術がある。まず、命令の並列実行と命令依存の関係について学ぶ。

第 6 回	命令レベルの並列化 2（命令依存、スーパースカラ）	スーパースカラや VLIW といった複数命令を同時実行する技術、またそれらを効率化するコンパイラ技術等について学ぶ。
第 7 回	プロセッサレベルの並列化 1（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	複数のプロセッサを用いて並列処理するマルチプロセッサ環境における問題点として、メモリコンシステンシおよびキャッシュコヒーレンシの概念について学ぶ。
第 8 回	プロセッサレベルの並列化 2（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における同時メモリアクセスの問題を解決する、同期やセマフォといった技術について学ぶ。
第 9 回	プロセッサレベルの並列化 3（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における複数キャッシュのコヒーレンシ問題を解決するスヌープキャッシュ等の技術について学ぶ。
第 10 回	ネットワークと通信プロトコル 1	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主にネットワークのトポロジと、それによる性能差について学ぶ。
第 11 回	ネットワークと通信プロトコル 2	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主に通信プロトコルについて学ぶ。
第 12 回	高信頼化・高性能化技術（RAID）	よりスケールの大きい分散システムとしてストレージ機器の並列分散化である RAID を例に挙げ、システムの信頼性について学ぶ。
第 13 回	時刻同期（時計、スナップショット）	分散システムにおける時刻同期の難しさと、それによる問題、解決策について学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、並列分散処理に関する様々な技術をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は講義前に Web 配布するので、必要に応じて予習しておくこと。
前述したように数回のレポート課題を課す予定なので、その場合にはしっかりとレポートを作成すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義資料は講義前に Hoppin にアップロードする。

【参考書】

参考書は必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを 60%、中間レポート・出席レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 40%の配点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けるので 気軽にメールすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, most computer systems, such as mobile phones, PCs, and supercomputers, use technique of parallel and distributed processing for high-speed and multi-task processing. This course introduces the basic techniques of "parallel processing" and "distributed processing" for various layers (from a hardware layer to an OS/application layer).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand how parallel and distributed systems are realized and performed and to be able to point out problems in these systems.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policies]

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report and in-class contribution (40%), term-end examination (60%).

HUI312KA-CS-321

新ネットワーク理論

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではネットワーク科学と呼ばれる情報科学の分野としては比較的新しいテーマを取り扱う。現在の科学技術の多くの部分は 19 世紀から 20 世紀にかけて還元要素法に基づいて築き上げられてきた学問に基づくが、ネットワーク科学では離散構造（離散数学）で学ぶグラフに対して複雑系という概念を導入し、これまでは解明が難しかった自然現象や生命現象を新たなアプローチで解き明かそうとするものである。具体的には、それぞれの動作は単純だが、それらが集団となって行動するときに創発的な複雑な振舞いを見せるような系について、新たな科学での方法論について学ぶ。

【到達目標】

複雑系は比較的新しい学問分野であり、単純な動きをする多数のエージェントによる少ない資源をめぐる競争において、フィードバックにより相互に影響を及ぼし合いながら形成される複雑な系（ネットワーク）としてシステムを捉える。複雑系の中にどのような普遍性があるのかを理解することを一つの目標とする。さらに発展的な目標として、現実あるいは仮想的な世界にどのように応用できるかについても考える力をつけることが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義はニール・ジョンソンの「複雑で単純な世界」とバラバシの「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」を用いて複雑系に見られる事象や基礎的な概念を理解する。講義が中心とするが、複雑系に関するトピックを NetLogo を用いたマルチエージェントプログラムにより実現することで、理解を深める。最新の科学技術に関する話を聞き、補足的な情報を自分で調べ、全体的な理解を深めることが求められるため、話からノートを作成し自分で資料化する力をつけること。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	複雑な要素・複雑な現象	1. 複雑性の意味 2. 創発現象の予測 3. 複雑性だらけの毎日 4. 八つの条件
第 2 週	NetLogo 紹介	1. NetLogo とは？ 2. NetLogo の世界 3. NetLogo の GUI 4. NetLogo プログラミング
第 3 週	秩序ポケットの出現	1. 秩序と無秩序の間 2. 情報のフィードバック 3. 宇宙と乱雑さ 4. 乱雑さと偏り
第 4 週	カオスとフラクタル	1. 複雑系のダイナミクス 2. 時系列の規則性とランダムネス 3. 複雑系のモデル化
第 5 週	群衆の行動の予測	1. 「二重択一」問題 2. 週末の夜の過ごし方 3. 意思決定の科学 4. 群衆と反群衆

第 6 週 金融市場の動向の予測

1. 金融市場とフィードバック
2. 標準モデルの限界
3. 株式市場の類似挙動
4. 暴落の分類学
5. 予測可能ポケット

第 7 週 複雑性とネットワーク

1. 動的ネットワーク
2. ネットワークの生態学
3. 栄養取り回しモデル
4. 不変な構造

第 8 週 最適ネットワーク

1. ルート選びのジレンマ
2. 輸送・供給・経営・人体
3. 渋滞税による制御
4. スーパーハブ
5. ハブの適正限界

第 9 週 六次の隔たり

1. 六次の隔たり
2. ミルグラムの実験
3. 社会的ネットワークの大きさ

第 10 週 弱い絆の強さ

1. 強い絆と弱い絆
2. 弱い絆の強さ
3. ランダムネットワーク

第 11 週 ネットワーク構造

1. 構造の定量化
2. クラスタリング係数
3. エルディッシュ数
4. ワッツ＝ストロガッツのモデル

第 12 週 スケールフリーネットワーク

1. ハブとコネクター
2. 80 対 20 の法則
3. べき乗則
4. スケールフリー性

第 13 週 無秩序と秩序の相転移

1. 相転移
2. 自己組織化
3. 成長するネットワーク
4. 優先的選択
5. 適応度モデル

第 14 週 感染症とネットワーク科学

1. 感染とネットワーク構造
2. コミュニティの相互作用
3. 感染症流行解析
4. 癌成長のモデル化と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

講義後に配布する講義資料を元に、講義中にとったノートとその内容の双方を確認し、補足的な調査を行う、という基本的な理解の手順を復習として行うこと。

課題やレポートが出たものについては必ずメ切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容はスライドで提示し、講義を進めるので各自でノートを取る講義後にスライドを元にした参考資料を CIS Moodle から提供する

【参考書】

以下の参考文献は講義初回でも紹介する

「複雑で単純な世界」 ニール・ジョンソン (著), 阪本 芳久 (翻訳)
「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」 アルバート・ラズロ・バラバシ (著), 青木 薫 (翻訳)

Wilensky, Uri; Rand, William. An Introduction to Agent-Based Modeling: Modeling Natural, Social, and Engineered Complex Systems with NetLogo (MIT Press)

「ガイドツアー 複雑系の世界」メラニー・ミッチェル
「つながり 社会的ネットワークの驚くべき力」ニコラス・A・クリスタキス／著 ジェイムズ・H・ファウラー／著 鬼澤忍／訳

「スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 辻 竜平 (翻訳), 友知 政樹 (翻訳)

「スモールワールド ネットワークの構造とダイナミクス」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 栗原 聡 (翻訳), 福田 健介 (翻訳), 佐藤 進也 (翻訳)

「複雑な世界, 単純な法則 ネットワーク科学の最前線」マーク・ブキャナン, 阪本 芳久

「複雑ネットワークの科学」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「複雑ネットワークとは何か複雑な関係を読み解く新しいアプローチ」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「SYNC」ステイヴン・ストロガッツ

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 80%, 課題レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 20%の配分で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合がある。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【その他の重要事項】

本講義で取り扱うのはグラフに基づく理論的なネットワークで、インターネットやイントラネットなどの実際に稼働しているネットワークの制御・運用等の技術に触れるものではないので、科目選択においては注意すること。

本講義は担当教員の企業での情報科学・ネットワーク科学に関する研究・開発の経験を元に複雑系やネットワーク科学に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces a knowledge and technologies related network science. Network science is a new research area based on the graph theory, that is used to express the problems of complex systems. Students are expected to expand their knowledge and to understand new area of the computer science topics during this lecture.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts of complex systems and universality found in it.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to understand the contents of that week's contents.

[Grading Criteria /Policy]

Final grade will be calculated according to the following process; final exam (80%), and report and in-class contribution (20%).

COT211KA-CS-206

情報・ネットワークセキュリティ入門

上田 浩

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するための情報セキュリティ対策の基礎を解説する。

【到達目標】

高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。

更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まずは、情報化時代に生きる学生、社会人として必要な情報セキュリティに関する知識、被害にあわないための情報セキュリティ対策の基本について、(独) 情報処理推進機構がまとめたテキストをベースに説明する。

次に、情報セキュリティ対策を構成する主要な情報セキュリティ要素技術の基本的メカニズムを説明する。

最後に、実際の情報サービスを構成する、サーバ、ネットワーク、クライアントのそれぞれが、実際に直面する脅威の説明とその対策技術の概要について説明する。

授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報セキュリティリテラシー（1）	(1) 本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、試験の扱いなどの説明 (2) 情報セキュリティ読本を使用し、第1章「今日のセキュリティリスク」、第2章「情報セキュリティの基礎」の説明
2	情報セキュリティリテラシー（2）	情報セキュリティ読本を使用し、第3章「見えない脅威とその対策」を説明 * マルウェア－見えない化が進む * 共通の対策 * 標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 * フィッシング詐欺への対策 * ワンクリック不正請求への対策 * 無線 LAN に潜む脅威とその対策
3	情報セキュリティリテラシー（3）	情報セキュリティ読本を利用し、第4章「組織の一員としての情報セキュリティ対策」を説明 * 組織のセキュリティ対策 * 従業員としての心得 * 気を付けたい情報漏洩 * 終わりの無いプロセス

4	情報セキュリティリテラシー（4）	情報セキュリティ読本を使用し、第5章「もっと知りたいセキュリティ技術」を説明 * アカウント、ID、パスワード * 攻撃手法 * 脆弱性を悪用する攻撃 * ファイアウォール * 暗号とデジタル署名
5	情報セキュリティリテラシー（5）	情報セキュリティ読本を使用し、第6章「情報セキュリティ関連の法規と制度」を説明 * 情報セキュリティの国際標準 * 情報セキュリティに関する法律 * 知的財産を守る法律 * 迷惑メール関連法 * 情報セキュリティ関連制度
6	セキュリティ要素技術（1）	「暗号技術体系、AES などの共通鍵暗号、RSA などの公開鍵暗号」の説明 * 暗号とは * 共通鍵暗号 ブロック暗号とストリーム暗号 * 公開鍵暗号 RSA 暗号 * ハッシュ関数 * デジタル署名 * 暗号の分類、特徴のまとめ * 日本政府の暗号技術に対する体制 * 暗号の利用場面
7	セキュリティ要素技術（2）	「公開鍵基盤（PKI）とその応用」の説明 * 暗号技術の再確認 * PKI（公開鍵基盤）が提供する機能、サービス、効果 * PKI を支える技術 * PKI を構成するコンポーネント * PKI の例 * PKI 応用システム
8	セキュリティ要素技術（3）	「バイオメトリクス認証技術」の説明 * バイオメトリクス認証とは * 本人確認におけるバイオメトリクス認証の位置づけ * 各種バイオメトリクス認証方式の概要紹介 * バイオメトリクス認証プロセス
9	セキュリティ要素技術（4）	* バイオメトリクス認証の将来動向 「耐タンパー性、情報ハイディング技術」の説明 * 暗号技術の再確認 * 暗号機能が適切に機能するには * 耐タンパー性とは * 暗号モジュールの安全性評価 * 秘密分散技術 * 情報ハイディング技術（ステガノグラフィ、電子透かし）

- 10 サーバのセキュリティ (1) 「サーバ側の技術的対策、物理的対策」の説明
* 情報サービスシステムの基本モデル
* サーバの適切なアクセス制御のために
* サーバの情報漏えい防止のために
* サーバの情報の完全性保証のために
* 物理的アクセス制御 (入退室管理)
- 11 サーバのセキュリティ (2) 「Web アプリケーションのセキュリティ」の説明
* Web アプリケーション
* Web アプリケーション開発と情報セキュリティ
① バッファオーバーフロー
② クロスサイトスクリプティング
③ SQL インジェクション
* フィッシング
* ファーミング
* 安全な Web サイトをつくるために
- 12 ネットワークのセキュリティ (1) 「SSL、VPN などのネットワークサービスのセキュリティ技術」の説明
* インターネットの歴史
* IP v 4 概要とそのセキュリティ
* IP v 6 概要とそのセキュリティ
* SSL(Secure Socket Layer)
* VPN (Virtual Private Network)
* 無線 LAN 概要とそのセキュリティ
- 13 ネットワークのセキュリティ (2) 「不正アクセスと対策技術」の説明
* 不正アクセスとは
* 技術的対策
・ FireWall
・ Intrusion Detection System
* サービス妨害とその対策
・ Denial of Service
・ Distributed Denial of Service
- 14 クライアントのセキュリティ 「クライアント (PC) の脅威と対策技術」の説明
* クライアント PC の課題
* クライアント PC 向けマルウェア
・ ウイルス
・ ワーム
・ トロイの木馬
・ 悪意のモバイルコード
・ 混合攻撃
・ スパイウェアとしての追跡クッキー
・ データロガーなどの攻撃ツール
* クライアント PC における情報漏えい
* シンクライアント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①テキストに指定した「情報セキュリティ読本 五訂版: IT 時代の危機管理入門」の内容は、社会人には必須の情報セキュリティの常識、是非熟読していただきたい。

- ② TV、新聞等で報道される情報セキュリティに関する事件・事故・課題などについても関心を持ち、現社会の状況を理解しておいていただきたい。
- ③本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ①情報セキュリティ読本 五訂版: IT 時代の危機管理入門 (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行
②講義で使用する資料 (各回の講義前にネット経由配布)

【参考書】

- ①情報セキュリティ教本 ー組織の情報セキュリティ対策実践の手引きー (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行

【成績評価の方法と基準】

課題 (50%)、テスト/アンケート (50%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムオンライン授業を望む声が少数あったため、課題に対するフィードバックを強化する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の大学における全学レベルの情報システム・情報セキュリティに関する研究開発の経験に基づき実践的なセキュリティ技術に関する講義を行う。

実務経験

- ・大学の情報システム・ネットワークの管理運用
- ・ネットワークトラフィックの計測と分析
- ・クラウドシステムの企画と運用
- ・情報セキュリティポリシーの策定と運用・普及

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will learn basic knowledge about information security. More precisely, you will learn vulnerability and risk of the computer system, and learn countermeasures against cyber attacks.

Learning Objectives:

The goals of this course are to obtain basic knowledge to use information systems effectively and safely, understand concrete actions against cyber attacks including malware.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process Assignment (50%), Online test/quiz (50%).

COT311KA-CS-204

プログラミング 3(Java)

細部 博史

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、Java 言語によるプログラミングの基本を学ぶ。

【到達目標】

Java 言語によるプログラミングの基本を理解する。特に Java 言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎を修得する。さらに具体的な情報システムを構築するプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に Java 言語の基本構文を扱い、その後、Java 言語によるオブジェクト指向プログラミングに関して、クラス、インスタンス、継承、カプセル化等を扱う。これらに並行して、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Java とは？	授業のガイダンス、Java 言語の初歩
2	基本構文	Java 言語の基本構文
3	メソッド	メソッドの利用
4	復習 (1)	復習と発展課題 (1)
5	クラスとインスタンス	クラスとインスタンスの利用
6	再帰	再帰の利用
7	ジェネリクスとコレクション	ジェネリクスとコレクションの利用
8	復習 (2)	復習と発展課題 (2)
9	継承	クラスの継承
10	カプセル化	オブジェクトのカプセル化
11	例外とファイル処理	例外の利用とファイル処理
12	復習 (3)	復習と発展課題 (3)
13	復習 (3) (続き)	復習と発展課題 (3) (続き)
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと発展課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 第 7 版, SB クリエイティブ, 2019. ISBN 978-4815600846

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、平常点 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング 1 (C/C++), プログラミング 2 (C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students will learn basics of programming in the Java language with the view of constructing information systems. The goal of this course especially includes acquiring the knowledge of the syntax of Java, the foundation of object-oriented programming, and technology for constructing concrete information systems. The students are expected to spend typically 8 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

COT311KA-CS-204

プログラミング 3(Java)

黄 潤和

必修区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、Java 言語によるプログラミングの基本を学ぶ。

【到達目標】

Java 言語によるプログラミングの基本を理解する。特に Java 言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎を修得する。さらに具体的な情報システムを構築するプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に Java 言語の基本構文を扱い、その後、Java 言語によるオブジェクト指向プログラミングに関して、クラス、インスタンス、継承、カプセル化等を扱う。これらに並行して、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Java とは？	授業のガイダンス、Java 言語の初歩
2	基本構文	Java 言語の基本構文
3	メソッド	メソッドの利用
4	復習 (1)	復習と発展課題 (1)
5	クラスとインスタンス	クラスとインスタンスの利用
6	再帰	再帰の利用
7	ジェネリクスとコレクション	ジェネリクスとコレクションの利用
8	復習 (2)	復習と発展課題 (2)
9	継承	クラスの継承
10	カプセル化	オブジェクトのカプセル化
11	例外とファイル処理	例外の利用とファイル処理
12	復習 (3)	復習と発展課題 (3)
13	復習 (3) (続き)	復習と発展課題 (3) (続き)
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと発展課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 第 7 版, SB クリエイティブ, 2019. ISBN 978-4815600846

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、平常点 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング 1 (C/C++), プログラミング 2 (C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students will learn basics of programming in the Java language with the view of constructing information systems. The goal of this course especially includes acquiring the knowledge of the syntax of Java, the foundation of object-oriented programming, and technology for constructing concrete information systems. The students are expected to spend typically 8 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

HUI212KA-CS-231

ヒューマンコンピュータインタラクション

細部 博史

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人とコンピュータの対話とその媒介手段についての理解を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) とユーザインタフェース (UI) を学ぶ。

【到達目標】

UI の設計・開発・評価に必要な考え方を身に付け、実際にグラフィカルユーザインタフェース (GUI) のプログラミングと評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人とコンピュータの対話を意味する HCI とその媒介手段である UI について学ぶ。最初に HCI の基本として、その概要と歴史、人のインタフェース特性、人と人工物のインタフェースを学ぶ。次に具体的な UI に関して、現在一般的な UI のデバイスとハードウェア、代表的 UI である GUI の概要を学んだ後、イベント駆動とオブジェクト指向の考えに基づく GUI のプログラミングに関する演習を行う。GUI のプログラミングには Python 言語を用いる。さらに UI の使いやすさの評価方法を学んだ後、先の演習で作成した GUI の評価に関する演習を行う。最後に GUI に限らない HCI の様々な手法と今後の HCI について学ぶ。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HCI とは？	授業のガイダンス、HCI の概要と歴史
2	人のインタフェース特性	人の感覚、言語能力、記憶、情報処理
3	人と人工物のインタフェース	アフォーダンス、ユーザモデル、デザインモデル
4	UI のデバイス	キーボード、マウス、ディスプレイ等のデバイス
5	UI のハードウェア	1 ビット・多ビットの入出力、シリアルフィン多フェース、デバイスドライバ、入出力サブシステム
6	GUI	GUI の画面、特徴、短所と対策
7	GUI プログラミング	イベント駆動とオブジェクト指向による GUI のプログラミング
8	GUI プログラミング演習	GUI プログラミングの演習
9	UI 評価	UI の使いやすさの評価方法
10	UI 評価演習 (1)	先の演習で作成した GUI の評価
11	UI 評価演習 (2)	先の演習で作成した GUI の評価 (続き)
12	HCI の手法	GUI に限らない HCI の手法
13	次世代 UI	GUI に限らない今後の HCI
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムとレポートを作成すること。

準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

椎尾一郎, ヒューマンコンピュータインタラクション入門, サイエンス社, 2010. ISBN 978-4781912608

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、平常点 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【Outline (in English)】

Students will learn human-computer interaction (HCI) and user interfaces (UIs) with the view of understanding how and by what means humans and computers interact. The goals of this course especially include acquiring the knowledge and skill of the design, development, and evaluation of UIs and becoming able to actually develop and evaluate graphical user interfaces (GUIs). The students are expected to spend typically 4 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

COT211KA-CS-241

データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門 [第 2 版]
増永良文著
サイエンス社
(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)
IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)
その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

COT211KA-CS-241

データベース

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関係モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門 [第 2 版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)

IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221

人工知能

赤石 美奈

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景についての知識を学びます。
第 2 回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第 3 回	探索プログラム	探索手法を実際プログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第 4 回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第 5 回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha \beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第 6 回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。

第 7 回 強化学習

世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。

第 8 回 中間試験

本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。

第 9 回 分類木

複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。

第 10 回 ニューラルネットワークの基礎

ニューラルネットワークの基本原則を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。

第 11 回 ニューラルネットワークのプログラミング

ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学びます。

第 12 回 自然言語処理

形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。

第 13 回 命題論理、述語論理

命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。

第 14 回 まとめ

人工知能についての最近の話題も含めて、研究動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第 2 版
谷口忠大
講談社, 2020 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版, 2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用 (任意項目)
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence neccessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

HUI213KA-CS-221

人工知能

藤田 悟

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景についての知識を学びます。
第 2 回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第 3 回	探索プログラム	探索手法を実際プログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第 4 回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第 5 回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha \beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第 6 回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。

第 7 回 強化学習

世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。

第 8 回 中間試験

本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。

第 9 回 分類木

複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。

第 10 回 ニューラルネットワークの基礎

ニューラルネットワークの基本原則を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。

第 11 回 ニューラルネットワークのプログラミング

ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学びます。

第 12 回 自然言語処理

形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。

第 13 回 命題論理、述語論理

命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。

第 14 回 まとめ

人工知能についての最近の話題も含めて、研究動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第 2 版

谷口忠大

講談社, 2020 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版

Stuart Russel, Peter Norvig

共立出版, 2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用 (任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence neccessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

COT311KA-CS-204

プログラミング 4(Java)

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To learn important programming techniques for making practical information systems using Java APIs of GUI, file operations, multi threads, socket-based communications, and Web server-client programming.

【到達目標】

Students should master basic knowledge and skills for practical GUI implementation, file I/O programming, file text programming, thread programming, typical animation control, basic server-client network programming, and typical Web programming techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will start from GUI programming using Java Swing and JavaFX, then file I/O operations and network programming using sockets and threads, to Web programming using Java Servlet and JSP. When learning the associated programming knowledge, students will do related programming drills, and complete many programming exercises. In each class, students are requested to make practice of given programs and then complete homework within a week. Students are encouraged to ask questions and inform their problems encountered in doing programming drills in class, and send their questions after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Basic Java programming review and course teaching guidance
2	GUI Basic	Simple GUI by Swing and AWT
3	GUI Event	Java event handling and graphic panels
4	GUI Component and Layout	Various Java Swing components and layouts
5	GUI by JavaFX (I)	JavaFX components and layouts
6	GUI by JavaFX (II)	JavaFX controls and events
7	GUI and Animation	GUI review, and GUI-based animation programs
8	File Operations	File I/O, streams, read and write
9	Multi-Thread Programming	Thread, multi threads, thread programming, and animations
10	Basic Network Programming	HTTP, Web server access APIs, and socket communications
11	Threaded Network Programming	Server-client sockets programed using threads
12	Web Programming - Servlet	HTML, HTTP, servlet APIs, session, and program
13	Web Programming - JSP	Java sever pages, JSP APIs, and JSP programming

14 General Review Review of GUI, file, thread, and network programming

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do preview before class and do review and assignment after class. Eight hours will be necessary to do the preview, review and assignment/homework in each week.

【テキスト（教科書）】

Lecture notes and programs made by this instructor.

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 活用編 第 5 版, 2016.

【成績評価の方法と基準】

Learning performance (10%), homework (40%), final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations and hints in doing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Bring Note PC to the class.

【その他の重要事項】

Submit homework before the deadline.

Ask the teacher and TAs when having any questions in teaching content and programming.

【Outline (in English)】

In this course, students will learn programming knowledge and techniques covering GUI with Swing and JavaFX, basic animation programming, file operations, thread usage, socket programming for file transfer and group communications, and Web programming with servlet and JSP. In each class, this instructor will first teach necessary programming techniques together with related programs, and then students will do programming drills. Students will be requested to complete the program assignment after each class.

COT211KA-CS-342

コンピュータネットワーク

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course attempts to provide the unified knowledge about computer networks and important Internet protocols as well as basic network programming techniques. Students can learn various TCP/IP protocols and wired/wireless networks.

【到達目標】

Students are expected to understand fundamental architecture and technologies in computer networks and the Internet, and master basic network programming skills using Python.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course covers general technologies of computer networks and the Internet, and network programming techniques. The network technologies are taught in a top-down approach, that is, starting from application protocols in the top layer, then going to the middle in transport and interconnect layers, and finally moving to the bottom of link and physical layers in networks. Not only the paper-based homework, students will also do network programming using Python, namely in a way of learning by doing. Students are also requested to summarize the main content learnt in each class.

I will take up the tasks (quizzes and reports, etc.) imposed in the class, and will give feedback to students in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Communications and Networks	Communication history, general networking technologies, and packet-based communications
2	Network Interconnections and Models	OSI reference model, Internet reference model, components, architecture and IP address
3	Internet Application Protocols	Application Protocols: Server-Client, FTP, TFTP, TELNET, DNS, etc.
4	HTTP and Web Access	HyperText Transfer Protocol and basic Web server access programming
5	Email Protocols and Programming	Email related protocols (SMTP, POP, IMAP) and basic email sending/receiving programming
6	Internet Transport Technologies	Purpose and functions of transport protocols, and Internet transport protocols UDP and TCP
7	Socket Programming I	User datagram protocol and related socket programming
8	Socket Programming II	Transmission control protocol and related socket programming

9	IP Datagram Routing & Processing	IPv4 and IPv6 protocols, and IP addressing schemes
10	IP Datagram Fragmentation and Control	Datagram routing techniques, MTU, ARP, ICMP and DHCP
11	IPv6 and Network Management	IPv6 protocol, network management utilities, SNMP, packet analyzer/sniffer
12	Wired Communications and Networks	Transmission media, modulation, QAM, LAN, Ethernet, Token Ring, ADSL
13	Wireless Communications and Networks	Access point, ad-hoc network, WiFi, BlueTooth, ZigBee, WiMax, etc.
14	Summary and Emerging Networks	Summary of network technologies and emerging networks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the teaching content after each class, do the homework assigned in each class after the class, and submit each homework before its deadline. 本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

Computer Networking: Principles, Protocols and Practice, Olivier Bonaventure, 2011.

Data Communications and Networking, Fourth Edition, Behrouz A. Forouzan, McGraw-Hill, 2012.

Learning Python Network Programming, M. O. Faruque Sarker and Sam Washington, Packt Publishing, 2015.

マスタリング TCP/IP 入門編, 第5版, 竹下 隆史, 村山 公保, 荒井 透, 荻田 幸雄, 2012.

Related materials on the Internet.

【成績評価の方法と基準】

Learning Performance (15%), Homework (35%) and Final Test (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations of homework answers.

【学生が準備すべき機器他】

Note PC

【その他の重要事項】

All programming will be done in Python. Students must have the certain Python programming knowledge and skills.

【Outline (in English)】

The course covers the network technologies and important protocols with following both ISO network 7-layers model and the Internet reference model. The students are expected to well understand how a general network and the Internet work. Concrete physical networks, such as Ethernet, token ring, Wi-Fi and bluetooth will be also taught. Basic network programming will be done using Python.

COT311KA-CS-343

サービスコンピューティング

佐治 信之

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支える Web システムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、脆弱性対策、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元の PC 上で簡単な Web サイトを動作させながら個々の Web 技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス事例を通じて、サービス改善やサービス創出の課題理解に役立つ、顧客体験の視点、社会的受容性、情報技術の考え方の基礎を身につける。

【到達目標】

Web システムの基本技術について理解し、HTTP、HTML、CSS などの役割を説明できる。

Web システムにおけるブラウザと Web サーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Web セキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Web システムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

様々なサービスの実情、課題、サービスモデルについて基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Web システムの仕組みを、HTML やプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易の Web システムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景（課題等）と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向や IT(情報技術) との関係について紹介する。
第 2 回	Web の基本技術 1	Web を支える基本技術として、Web サーバから Web ブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	Web の基本技術 2	Web サーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースの Web サーバを立ち上げる。
第 4 回	Web の基本技術 3	簡単な Web サイト構築と動作確認を行う。
第 5 回	Web セキュリティ 1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Web を支える暗号通信について学ぶ。
第 6 回	Web の状態管理	Cookie、Session を用いて状態を保持した Web システムの構築手法を学ぶ。

第 7 回	データベースと Web サーバ	データベースと Web サーバを使って、動的な Web ページを作成する技術について学ぶ。
第 8 回	Web セキュリティ 2	Web 構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第 9 回	DOM と AJAX	Web 文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いた Web ページの更新方式として AJAX を学ぶ。
第 10 回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XML の基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第 11 回	サービスコンピューティング基盤技術	インタフェースの重要性、クラウドコンピューティングと NoSQL 等の様々な最新技術について学ぶ。
第 12 回	サービスイノベーション 1	サービス事例（決済、物流、店舗等）を通じて、サービスイノベーション、今後の方向性と課題、技術との関わりについて知る。
第 13 回	サービスイノベーション 2	サービス事例（続）、各種サービスモデル、サービスドミナントロジックに代表されるサービスサイエンスについて学ぶ。
第 14 回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる

【参考書】

講義内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験の成績 (50%程度)
- ・レポート (20%程度、内容未定)
- ・講義出席 (30%程度、平常点、講義内小テスト、講義貢献度)

【学生の意見等からの気づき】

実際の Web サイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用

Web サイト使用には各自のノート PC を用いる

【Outline (in English)】

* Course outline

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, vulnerability management, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, through recent service trends and case studies, students will learn about the fundamentals of the user experience perspectives, social acceptability, and the information technology, useful for understanding issues in service improvement and service creation.

* Learning Objectives

Learn about the basic technologies of Web systems.

Acquire the knowledge to explain the roles of browsers and Web servers, server architecture, browser manipulation methods, Web security, and other major Web technologies.

Understand the basics of various service practices, issues, and service models.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria / Policy

Examination scores (about 50%)

Report scores (about 20%)

Attendance at class, including online sessions (about 30%, active involvement, in-class tests)

COT310KA-CS-253

オペレーションズリサーチ

小西 克巳

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な意思決定問題に対する数理モデルの構築やその解決を扱うオペレーションズリサーチについて学ぶ。問題を定式化するための知識、および、それらを解くための最適化手法や機械学習手法について学び、意思決定問題の抽象化や既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【到達目標】

様々な意思決定問題の抽象化ができ、既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、必要に応じて演習も行う。
提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の構成と進め方に関するガイダンスおよびオペレーションズリサーチの概説
2	モデル化と数理計画問題	オペレーションズリサーチにおけるモデル化と数理計画問題の概要
3	線形計画法	線形計画法の概要、シンプレックス法の原理とシンプレックス法による線形計画問題の解法
4	整数計画法	双対問題、相補性条件
5	多変量解析	多変量解析の基礎と応用
6	主成分分析	主成分分析の基礎、教師なし学習としての主成分分析
7	クラスタリング	データのクラスタリング手法、教師なし学習とクラスタリング
8	これまでの復習と演習	第1回～7回までの復習と演習
9	ネットワーク最適化	最短経路問題などのネットワーク最適化問題と解法
10	ゲーム理論 (1)	ゲーム理論の概要
11	ゲーム理論 (2)	単純な問題とその解法、安定結婚問題
12	マルコフモデル	マルコフモデルの基礎
13	待ち行列理論 (2)	待ち行列モデルの理論
14	総復習と演習	第1回～13回までの復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考資料の予習、復習、課題への取り組み。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義にて指示。

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成状況を確認する期末試験の成績を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（適宜指示する）

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of operations research to students and aims to help students acquire an understanding of mathematical formulation of the problem and methods to solve these problems. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 100%

COT311KA-CS-301

オブジェクト指向プログラミング

雪田 修一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンを Java 言語を通じて学ぶ。

【到達目標】

GOF の 23 のパターンのうち特に多く使われている 12 のパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉を設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、1 つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Iterator パターンと Adapter パターン	最も優しい 2 つのパターンを取り上げ、講義の目的と方法を説明し、履修すべきか判断するための材料を提供する。教科書の Introduction に相当。
第 2 回	Template Method パターンと Factory Method パターン	抽象化の重要性を 2 つのパターンを通じて意識化する。
第 3 回	Singleton パターンと Prototype パターン	インスタンス生成の仮想化、抽象化について学ぶ。
第 4 回	Builder パターンと Abstract Factory パターン	オブジェクトの生成を抽象化するための Factory パターンについて学ぶ。
第 5 回	Bridge パターンと Strategy パターン	直交する抽象化階層を理解する。
第 6 回	Composite パターンと Decorator パターン	入れ子の構造の定石を学ぶ。
第 7 回	Visitor パターンと Chain of Responsibility パターン	Double dispatch の手法を体験する。
第 8 回	Facade パターンと Mediator パターン	異なるインターフェースを結合するパターンと様々なインターフェースの集まりに単純なインターフェースを提供するパターンについて学ぶ。
第 9 回	Observer パターンと Memento パターン	GUI ライブラリーで基本となるパターンを学ぶ。
第 10 回	State パターンと Flyweight パターン	有限状態マシンに対して、状態の追加がストレスなくできるパターンについて学ぶ。
第 11 回	Proxy パターンと Command パターン	メソッド呼び出しを抽象化してローカル、リモートの区別をクライアントプログラムから隠すためのパターンを学ぶ。

第 12 回 Interpreter パターン 簡易プログラミング言語の作成パターンについて学ぶ。

第 13 回 オブジェクト指向の一般原理 (1) Liskov substitution, Open closed, Dependency inversion などの原理を学ぶ。

第 14 回 オブジェクト指向の一般原理 (2) Composition over inheritance, Interface segregation, Least knowledge などの原理を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

増補改訂版 Java 言語で学ぶデザインパターン入門、結城浩、SoftBank Kindle 版もある。

【参考書】

Head First Design Patterns, E. Freeman, free online version is available.

【成績評価の方法と基準】

期レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

レポートの採点基準を事前に公示し、授業時間内で実例を交えて説明する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

【Outline (in English)】

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on GOF's famous 23 patterns.

Students will be able to write OOP systems using the patterns. They will also be able to explain the effects of abstraction that are at the core of the patterns. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-262

情報検索

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報検索の基盤となるアルゴリズム、手法、評価方法を理解することを目標とする。情報検索とは、google などの検索サービスの根幹となる技術であり、現在の情報アプリケーションの中で最も重要な技術の一つである。この技術は、全文検索と呼ばれる技術を基盤とし、様々な技術を加えて進歩してきた。本講義では、それらのうち中心的な技術の数理的な意味を理解することを目標とする。また、リコメンデーションなどの応用的な話題も紹介する。

【到達目標】

単に google などのしくみを理解するだけでなく、大量のテキスト情報を扱うアプリケーションを扱うための基本スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

卒業研究などで実践的に役立つ技能の習得のために、取り上げる手法は、実際のデータが処理できる簡単なプログラミング例と関連付けて学びます。紹介する手法を簡単に実行するために、MATLAB などのプラットフォームや java のライブラリなどを利用します。演習課題を通して、処理手法の基礎を身に付けることを目標とします。課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った試験や小レポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義の意義とどのような内容をカバーするかを説明します。
2	情報検索概論	情報検索とは何かについて学びます。
3	検索キーワードと索引付け	情報検索に利用する検索キーワードの選定方法と、それを用いて、文書を索引付けする方法を学びます。
4	キーワードのスコア	検索キーワードのスコア付けの方法として TF/IDF 法などを学びます。
5	検索結果の改善法	検索結果の改善方法として、関連性フィードバックやクエリ拡張について学びます。
6	文書の信頼性尺度	文書の信頼性尺度として Pagerank について学びます。
7	簡単な検索演習	これまでに学んだことを実際にプログラミングする演習を行います。
8	画像の検索	画像検索の現状について説明します。残念ながら、純粋に画像の性質を使った検索ではなく、周囲の文字情報が用いられているようです。講義では、画像それ自体の情報を用いて検索をする場合に、利用可能な特徴量について説明します。それにより、画像間の類似度を定義します。
9	検索結果の評価	検索結果の評価尺度や評価方法について学びます。

10	商品の類似性、利用者の類似性	利用者の嗜好情報、購買履歴などのデータから、商品の類似性、利用者の類似性を計算する方法を理解します。
11	リコメンデーション	商品や利用者の類似性に基づき、利用者にリコメンデーションの商品を決定する方法を学びます。
12	クラスタリング	大量の多次元のベクトルであらわされた利用者の嗜好情報から、似た嗜好をもつグループをクラスタ化する方法を学びます。
13	XML ストリームデータ検索	インターネット情報を連続的に流れる XML データから、必要なデータだけを抽出する方法について学びます。
14	まとめ	課題の講評などを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する課題を復習として出題する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

書名: Introduction to Information Retrieval
 著者名: Christopher D. Manning/Prabhakar Raghavan/Hinrich Schütze
 出版社: Cambridge University Press
 出版年: 2008
 備考: <http://nlp.stanford.edu/IR-book/information-retrieval-book.html> で内容を確認することができる。
 日本語版は「情報検索の基礎」(共立出版)
 書名: 集合知プログラミング
 著者名: Toby Segaran
 出版社: オライリー・ジャパン
 出版年: 2008

【成績評価の方法と基準】

定期試験の点数 (60%) と課題 (40%) を総合して決定する。いずれかを行わなかったものは不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい概念が多いため、説明のための具体例や演習の例題を多く示すことにする。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を用いて演習を行う。学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「統計学 1」(旧カリキュラムの「確率と統計」でもよい)、「線形代数の応用 2」を履修しておくこと。

【Outline (in English)】

This course covers algorithms, techniques, and evaluation methods for information retrieval. The information retrieval is a fundamental technique to search engines such as google, which is one of the most important techniques in current information applications. Since this kind of technique is based on full-text search, it is now successfully applied to other content-based searching. The purpose of this course is to understand mathematical aspects of the information retrieval. In addition, this course covers more advanced contents such as recommender systems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2022/5/2

Grading will be decided based on term-end examination (60%)
and lab reports (40%).

HUI411KA-CS-322

ユビキタスコンピューティング

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers ubiquitous computers, devices, networks, applications and key technologies in ubiquitous systems and services. Students are expected to learn a systematic knowledge on ubiquitous computing as well as various ubiquitous applications

【到達目標】

This course attempts to provide a unified overview of the broad field of ubiquitous computing. Students are expected to understand ubiquitous devices from RFID, sensors, wearables, various ubiquitous networks, as well as key technologies including context-awareness, smart u-things, IoT, security, privacy, etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course will first give general introductions of ubiquitous computing, essential devices, important networks and representative services, and then check various ubiquitous devices including RFID, e-tag, sensors, handhelds, wearable devices, robots, IoT, etc. as well as their typical applications. The context as a special kind of information in ubiquitous computing will be described in details and related context-aware computing technologies, systems and application will be presented. Various key issues in ubiquitous computing smartness, intelligence, security, safety, trust and related social issues will be discussed. In each class, a student is requested to write a summary of main content learnt in the the class. Students are also requested to write four reports corresponding to the four parts of this course. Students are encouraged to ask questions in class and via email after class. All questions will be answered and feedback promptly in class or after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Ubiquitous Computing	What is ubiquitous computing? History & features of ubiquitous computing related visions & technologies
2	Introduction to Ubiquitous Computers, Networks and Services	Various ubiquitous computers devices, pervasive networks and smart services
3	RFID Technologies and Applications	RFID categories, working mechanisms, standards, technologies, systems and applications
4	Sensors and Sensor Networks	Various sensors, their features, interconnections and applications
5	Handheld Devices, Wearables and Robots	Handheld devices, wearable devices, and robots in Ubicomp

6	Context and Context-Aware Computing	Context classifications, features and models, and context-aware computing
7	Context-Aware Technologies, Systems and Applications	Architectures of context-aware systems, and context-aware applications
8	Smart u-Things and Ubiquitous Intelligence	Classifications of smart things, and their techniques and intelligence
9	Internet of Things (IoT)	Characteristics of IoT, their system models, typical applications, and technical challenges
10	Security, Safety and Trust in Ubiquitous Computing	Features and technologies of ubiquitous security, safety and trust
11	Social Issues in Ubiquitous Computing	Privacy, green/eco, social issues and ethic problems in ubiquitous computing
12	Ubiquitous Activity Recognition	Activity categories of human and animal, data collection using ubiquitous devices, activity recognition algorithms and applications
13	Ubiquitous Emotion Recognition	Affective computing, sentiment analysis, vital sign sensors, emotion recognition
14	Emerging Ubiquitous Technologies	New ubiquitous technologies and applications

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the content after each class, well prepare the requested report after class, and submit each report before its deadline. 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

・ Related materials on the Internet

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポート (20%), 4 回のテーマごとのレポート (40%), テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Provide more representative ubiquitous research.

【Outline (in English)】

The course consists of four parts, ubiquitous devices, ubiquitous networks, ubiquitous technologies, and ubiquitous applications in IoT, smart things and daily life assistance. The students are expected to have a comprehensive understanding on various aspects in ubiquitous computing.

FRI313KA-CS-232

コンピュータグラフィックス

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックス（CG）は、代表的なゲームや映画、テレビ番組などの身近なところから、建築物の設計や医療機器など幅広く必要とされるようになっている。このように様々な分野で利用されている CG 技術について、その基礎技術と最新技術について理解を深めること、また基本的なアルゴリズムを実装出来るようになることを目標とする。

【到達目標】

CG の基本的な要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムの作成を通して実際に CG を生成できるようになることを目標とする。本講義を通して CG 技術の全体像を理解し、実際に実装もすることで、より深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を行う。プログラミング言語は C++ もしくは Python を用いる。レンダリングソフトウェアとして POV-Ray もしくは Mitsuba を用いる。必要に応じて他の CG 関連言語・ツールを用いる。

課題の提出は Moodle で行い、質疑応答および提出された課題の解説・フィードバックは授業内および Slack で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、導入	CG の概要
2	カメラモデル	透視投影、平行投影、射影変換
3	2 次元座標	2 次元座標系、アフィン変換、同次座標
4	3 次元座標	3 次元座標系、同次座標
5	ビューイングパイプライン	モデリング変換、視野変換、投影変換、クリッピング
6	形状モデル	ワイヤフレーム、サーフェス、ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2 次曲線、パラメトリック曲線／曲面
8	ボリウム表現	ボクセル、メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法、Z バッファ法、レイトレーシング法
10	シェーディング、影付け	シェーディング、影付け
11	テクスチャ	テクスチャマッピング、バンプマッピング
12	アニメーション	キーフレーム、手続き型アニメーション
13	シミュレーション	剛体、弾性体、流体
14	まとめ	まとめ、最新研究の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じて PC でのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS 協会, 2015, 税抜 3,600 円 (電子版あり)

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (60%), 試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

事前に、CG のための幾何学を履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Techniques of computer graphics (CG) are widely used on various fields, such as, Movies, Video games, CAD, medical devices, and so on. In this course, students will study basic technologies of CG, and will acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【到達目標（Learning Objectives）】

Goals of this course are to understand three fundamental elements of CG (modeling, rendering, and animation), and to acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students should spend at least 4 hours for preparation and review of this course.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Practices and Tasks (60%), Examinations (40%)

HUI312KA-CS-332

パターン認識と機械学習

伊藤 克亘、佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識の理解を目的として、機械学習の基礎、Deep Learning の考え方とその適用法、パターン認識の基礎および機械学習に基づくパターン認識を学ぶ。

【到達目標】

機械学習の基礎、Deep Learning の基本的な考え方を理解し、具体的実装法を修得する。
パターン認識の基礎を理解し、機械学習を用いた具体的実装法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、機械学習の基礎を理解する。具体的には、機械学習と人工知能の関係、機械学習の分類（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）を学び、機械学習技術をパターン認識や時系列予測問題に適用した事例紹介を行う。次に、パターン認識と最も関連性の高い、ニューラルネットワークを用いた教師付き学習を学ぶ。具体的には、単層パーセプトロン、多層パーセプトロンの紹介から始めて、Deep Learning の基本的な理論を学びながら、演習を通して、畳み込みニューラルネットワークの実装と実験を行いながら理解を深める。授業後半では、パターン認識の分類を学び、特にデータに基づくパターン認識法を学ぶ。一般的な手法として、統計的パターン認識の考え方を学ぶ。画像や音声など具体的なデータを対象に Python や MATLAB を用いてパターン認識の理解を深める。最後に、パターン認識技術に応用したデータ生成などの技法について学ぶ。演習や実験を通して講義内容の理解を深める。
課題は、主要なものを発表させ、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	機械学習とは	ガイダンス、人工知能と機械学習、機械学習の分類
第 2 回	教師付き学習 (1)	単層パーセプトロンと多層パーセプトロン
第 3 回	教師付き学習 (2)	誤差逆伝播法、深層学習 (1)
第 4 回	教師付き学習 (3)	深層学習 (2)、リカレントニューラルネットワーク
第 5 回	強化学習 (1)	Q-Learning、遺伝的アルゴリズム
第 6 回	強化学習 (2)	対話型進化、クラシファイアシステム
第 7 回	強化学習 (3)	群知能
第 8 回	パターン認識	パターン、認識、識別
第 9 回	データに基づく識別	k-NN 法、パーセプトロンによる識別、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第 10 回	統計的パターン認識	ベイズの定理、事後確率最大化基準による識別
第 11 回	空間的パターン認識	文字認識、キーワード認識、DNN、GMM
第 12 回	時系列パターン認識	文字認識、キーワード認識、RNN
第 13 回	パターンとノイズ	特徴量空間、前処理、CNN、PCA
第 14 回	パターン認識の関連技術	クラスタリング、GAN

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] プログラミング (Python, MATLAB) の復習
- [4] 統計学 1、統計学 2、最適化を履修していることが望ましい
- [5] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を moodle など学内 Web サイトに公開する。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識」、第 2 版、オーム社、2019 年。
- [2] 斎藤康毅著：「ゼロから作る Deep Learning」、オライリー・ジャパン、2016 年。
- [3] F. Chollet 著、果籠悠捕監訳、「Python と Keras によるディープラーニング」、マイナビ出版 2018 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%、定期試験 60%、受講態度 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規内容のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、電子メールや moodle へのアクセス等ネットワークを利用する。

【Outline (in English)】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

COT211KA-CS-205

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声コンピューターで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3 年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理 (音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ (音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門

著者名: 青木直史

出版社: CQ 出版社

出版年: 2006

書名: Digital Signal Processing First, Global Edition

著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder

出版社: Prentice Hall

出版年: 2016

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20% 程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2021b (もしくは R2022a) をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf

この授業に必要な Toolbox は、

Image Processing Toolbox

Signal Processing Toolbox

Statistics and Machine Learning Toolbox

である。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by yourself. Most of these methods are based on mathematics. In this lecture, as an introduction, in order to get used to programming mathematical algorithms, it is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding of these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

COT211KA-CS-106

プログラミング演習 2(python)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用的なソフトウェアアプリケーションの設計方法を学ぶとともに、プログラミング言語 Python を用いてシステムの実装を行う。演習を通して、思考を具現化する道具としての実際のコンピュータの利用法を体験する。

【到達目標】

1. 応用的なプログラミング言語の機構（オブジェクト指向機能、ライブラリ機構など）を利用できる。
2. 代表的なソフトウェア構成を応用してシステムを実装できる。
3. プログラミング言語の問題解決の道具としての側面を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、python の代表的な応用の一つとしてデータ処理を取りあげる。次に、応用的なソフトウェア開発課題として Web アプリケーションを段階的な課題を通して最終的な実装を得る。

必要となる新しい概念やプログラミング言語の知識等は都度講義を行う。

授業中に、TA に指定した回数だけ課題の確認を行うことを義務とする。

課題の進み具合によっては、GBC の TA に質問・相談することを義務とする。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。TA に対する質問などで重要なものは授業で解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、レポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。

最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・準備	Python により、プログラミングの基本を復習する。 データ処理の基礎となる numpy の基本について学ぶ。
2	データサイエンス基礎 (1)	データ集計の方法を学ぶ (pandas)
3	データサイエンス基礎 (2)	データの可視化の手法を学ぶ (matplotlib)
4	データサイエンス基礎 (3)	統計処理の基礎を学ぶ (1)(numpy, scikit-learn)
5	データサイエンス基礎 (4)	統計処理の基礎を学ぶ (2)
6	データサイエンス基礎 (5)	機械学習を用いたデータ分析入門
7	データサイエンス基礎 (6)	機械学習を用いたデータ分析応用
8	Web アプリケーションの作成 (1)	ブラウザ上で、ユーザーから入力を得てサーバーで計算した結果をブラウザ上で表示するなど、CGI による動的コンテンツの方法を学ぶ。

9	Web アプリケーションの作成 (2)	Form と呼ばれる CGI のユーザー入力部分を簡便に実現する仕組みを学ぶ。
10	Web アプリケーションの作成 (復習)	データを収集し、加工してブラウザに返す課題に挑戦する。 Collection の扱いについて復習する。
11	データベース	Python に標準で備わっている DBMS である sqlite3 を用いて、単語帳データベースを構築する。
12	復習	データベースと CGI に関する課題に取り組む。
13	Document Object Model	DOM の考え方を理解し、document の論理構造と rendering の分離を CSS で行う方法を学ぶ。
14	相互レビュー	レポート課題を題材に、相互レビューの方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

プログラム課題は授業時間外に各自で取り組む。

講義時間は、主に新しい概念や知識の説明および確認、質問の時間とする。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料

【参考書】

書名: たのしいプログラミング Python ではじめよう!

著者名: Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

出版社: オーム社

出版年: 2014

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%)、最終課題 (50%) で評価する。

ただし、各回で出題するプログラム課題を授業で発表した場合には加点する。また、それらの課題の取り組みを考慮する場合がある。指定された回数だけ授業中に TA に課題の確認をしなかった場合は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を持参すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn how to design software applications. In addition, students use the programming language Python to implement the system. Through the exercise, students experience practical computer programming as a tool to embody thinking.

Students are expected to work on the exercises for about 4 hours before and after each class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, final project : 50%.

HUI312KA-CS-331

デジタル信号処理

高村 誠之

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原則を理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理を Python で実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、Python や MATLAB を用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム 1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム 2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタル IIR フィルタ	インパルス不変
13	FIR フィルタ	FIR フィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

- 萩原 将文, デジタル信号処理 第 2 版・新装版, 森北出版, 2020.
- 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.

【参考書】

- 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
 - 原島 博, 信号解析教科書 -信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (60%), レポート課題 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノート PC を必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での医用画像処理や三次元映像技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング (MATLAB)、微積分法の応用: フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。
また、積分法の基礎と応用、複素関数論 1, 2, 交流回路と電磁波: 周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, short reports (including in-class drill): 50%

HUI312KA-CS-333

画像処理**花泉 弘**

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせで各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2 値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理 1	テクスチャと同時生起行列
11	領域処理 2	領域分割処理手法について
12	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
13	図形要素の検出	ハフ変換などの紹介
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理（改訂新版）、勘画像情報教育振興協会、2015
ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (60%) とレポートの成績 (40%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでもることを勧める。

レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。

本講義では担当教員の 2 次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

【Outline (in English)】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

HUI312KA-CS-334

音声情報処理

大石 康智

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声コンピュータで扱う基礎的な能力を身に付けることを目標とします。

コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。本講義では、まず音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介しします。

次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。

最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介しします。

【到達目標】

MATLAB を用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。

音声関係の web/cloud API やツールを利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介する。また、実際の音声データを扱う。

簡単にプログラミングするために MATLAB を利用する。

API は python で利用することを想定する。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートは、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識
9	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント推移/デルタパラメータ

10	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/基本周波数検出/歌声の f0
11	長い発話の認識	長い発話が伝える情報/発話の単位/感情と態度/個性/声質とスピーチスタイル
12	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法
13	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出
14	まとめ	全体の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名：Theory and Applications of Digital Speech Processing

著者名：L. R. Rabiner, R. W. Schafer

出版社：Pearson

出版年：2011

書名：MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2019

書名：Python で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2018

【成績評価の方法と基準】

最終課題 (60%)、定期試験 (40%) で評価する (受講人数が少ない場合は、定期試験を実施しない)。ただし、講義内の課題を授業で発表した場合には加点する。また、講義内の課題の取り組み状況を考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング (MATLAB)」 「デジタル信号処理」 「統計学 2」 を履修していることを期待する。また、「音と光」 「情報理論」 「パターン認識と機械学習」 「科学技術計算」 「オペレーションリサーチ」 を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」 も並行して履修することが望ましい。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。R2021a かそれ以降が望ましい。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>
https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)

本講義は担当教員の企業研究所での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the basic skills to handle speech on a computer. Computers can be used to generate speech and to process recorded speech. The technology that makes this possible is digital signal processing. In this lecture, we will first introduce speech modeling methods based on the mechanism of speech production and auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques. Finally, we introduce speech-related web/cloud APIs as applied technologies for speech processing. By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To utilize techniques of digital signal processing and speech processing
- To utilize speech-related web/cloud APIs and tools

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students are required to select some of the assignments they were unable to solve during the exercise time and complete them as homework. Students are also required to write a report on their final assignment including outside the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Final report (60%), Term-end examination (40%), and in-class contribution. (If the number of students is small, the term-end examination will not be held.)

COT311KA-CS-302

プログラミング演習 3(MATLAB)

花泉 弘

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の研究を進めるにあたり、論文を読むのは必須であるが、その内容を理解して自分の研究に生かすためには、論文中の数式に従って追試を行うことが効果的である。この演習では、こうした論文中の数式に基づいてプログラムを作成して動作させ、著者のアイデアを深く理解することを目的とする。

【到達目標】

この科目の単位を取得した者は、論文を読む際にそこに書かれた数式に基づいてプログラムを作成し著者の示す結果を追試できるスキルを獲得しており、併せて、追試し易い論文（報告書）の書き方についても学んでいる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

4つの課題に対して MATLAB を用いてプログラムを作成し、動作確認を行った上で報告書として提出、発表も行う。最初の2つについては、説明資料を配布するが、3つ目は数式の載った論文を配布する。さらに、4つ目は最終課題として、それまでの内容に劣らないテーマを各自で見つけて演習を行う。4つ目の課題については、最初の授業の際に各自のテーマについて紹介してもらう。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や課題の概略について説明する。 MATLAB 開発環境の確認。
2	演習 1-1	課題 1 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
3	演習 1-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
4	演習 1-3	各自がそこまでにを行った内容についての発表。
5	演習 2-1	課題 2 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
6	演習 2-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
7	演習 2-3	各自が行った内容についての発表。
8	演習 3-1	課題 3 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
9	演習 3-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。

10	演習 3-3	各自が行った内容についての発表。
11	演習 4-1	各自の選択したテーマの紹介。終了後は各自プログラム作成等を行う。
12	演習 4-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
13	演習 4-3	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
14	まとめ	最終課題の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間だけでは時間が不足するので、自宅でも課題に取り組むこと（本授業では、毎週 4 時間を標準としている）。わからないことについては、参考になる論文や本を探してみるのもよい訓練になる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

MATLAB に付属する文書。
課題ごとにいくつか論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度 (20%)、提出されたレポートの質 (50%)、課題発表の質 (30%) を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

とにかくプログラムを書くことが重要である。数式や説明文を見てプログラムを書くことに習熟してほしい。

【Outline (in English)】

Reading papers and understanding authors idea are very important in advancing students own researches. Actually, it is effective to follow-up the ideas according to mathematical expression in the paper. The aim of this exercise is to deeply understand the idea of the author by creating some programs based on mathematical expressions in these papers, by making it work, and by confirming action.

Students who have earned credits for this subject have acquired the skills to create a program based on the mathematical formulas written in the dissertation and to retest the results shown by the author. At the same time, they also acquire the skill to write a report with easiness to retest. Class hours alone are not enough, so students need to study at home. The standard for outside classroom work of this exercise is 4 hours per week. If you don't understand something, it's a good training to look for useful papers and books. Student scores are measured based on attitude in the class, the evaluation with reports (40%) and presentation for the final task (60%).

COT311KA-CS-352

科学技術計算

岩沢 美佐子

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では材料開発や構造解析といった科学技術的課題の解決に計算機シミュレーションは必須である。そこで使われる計算技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学技術計算の基礎である微分法、積分法、方程式の解法を理解する。
- ・数値計算手法をプログラムとしてコーディングできる。
- ・プログラムを実行し、結果を可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、実際に様々な課題について問題を解くことで必要な技術を身に付ける。それを通して、コンピュータ科学、ネットワーク等の様々な情報科学分野を専攻する者を対象に、最近の計算技術を活かした解析手法修得の基礎となる数値解析の考え方や方法について基礎知識を学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学技術計算の基礎	科学技術計算を学ぶ上での前提知識
2	差分化とその誤差	数値微分と数値計算における誤差の評価
3	数値積分法の比較（1）	台形公式、シンプソン法による数値積分
4	数値積分法の比較（2）	重み付き積分法による数値積分
5	代数方程式の解法（1）	二分法、Newton 法による方程式の解法
6	代数方程式の解法（2）	連立 1 次方程式の解法
7	行列問題の解法	実対称行列の対角化
8	データ解析（1）	数値補間法
9	データ解析（2）	最小二乗法によるフィッティング
10	常微分方程式の解法（1）	オイラー法にて常微分方程式を解く
11	常微分方程式の解法（2）	ルンゲ・クッタ法にて常微分方程式を解く
12	常微分方程式の解法（3）	2 階常微分方程式を解く
13	常微分方程式の解法の評価	常微分方程式の解法の応用とまとめ
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、授業中に出了課題はできるようにする。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

計算物理学 I・II、小柳義夫監訳、朝倉書店

【参考書】

授業で指示

【成績評価の方法と基準】

提出課題、レポート等の評点（60 %）と期末試験（40 %）の総点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心掛ける

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、学習支援システム

【Outline (in English)】

The computer simulation is important in solution of scientific problem. This courses introduces a basis of computational approach to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand the numerical methods of differentiation, integration and equations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Problems and reports: 60%

LAW200CA
日本国憲法
川鍋 健
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半：日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。
後半：日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話しします。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のものです。この言葉はどのようにして生まれ、日本に到来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定よりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。それ自体の制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。

第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。
第 14 回	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。
第 15 回	ガイダンス：自己決定権と障害者の自由	この授業の概要と目的についてお話しします。また、ここでは、自己決定権と障害者の自由について学びます。
第 16 回	母親となる権利	ここでは、母親となる権利について学びます。
第 17 回	同性愛の自由	ここでは、同性愛の自由について学びます。
第 18 回	性同一性障害者の自由	ここでは、性同一性障害者の自由について学びます。
第 19 回	再婚の自由	ここでは、再婚の自由について学びます。
第 20 回	治療拒否の自由	ここでは、治療拒否の自由について学びます。
第 21 回	ダンスの自由	ここでは、ダンスの自由について学びます。
第 22 回	ポルノ鑑賞の自由	ここでは、ポルノ鑑賞の自由について学びます。
第 23 回	忘れられる権利	ここでは、忘れられる権利について学びます。
第 24 回	プライバシー権	ここでは、プライバシー権について学びます。
第 25 回	景観権	ここでは、景観権について学びます。
第 26 回	嫌煙権	ここでは、嫌煙権について学びます。
第 27 回	自然の権利	ここでは、自然の権利について学びます。
第 28 回	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前半：樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017 年。
後半：棟居快行、松井茂記、赤坂正浩、笹田栄司、常本照樹、市川正人『基本的人権の事件簿』第 6 版、有斐閣、2019 年。

【参考書】

岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。
・第 1 問を 4 0 %、第 2 問を 6 0 %計 1 0 0 %で評価します。
・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業 1 回の質問に対して、0 ～ 2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、ためらわずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は履修者はいませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

後半の授業については、教員の方で指名して、履修した学生さんとの質疑応答を予定しています。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

We will learn the general theory and the system and practice of the government and human rights of the Japanese Constitution.

LAW200CA
民法一部
菅 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。秋学期は、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法について学ぶ。常に、契約法との関連性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

民法総則と物権（民法典第1編と第2編第1、2、3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則及び物権法について、レジュメに従って授業を進める。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法総論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1） 心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体～権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説
第15回	総則⑫	契約の効力発生時期
第16回	総則⑬	時効（1）時効制度論
第17回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第18回	物権①	物権制度論
第19回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第20回	物権③	所有権の効力（2）、物権的請求権
第21回	物権④	所有権の取得
第22回	物権⑤	共同所有関係
第23回	物権⑥	占有権（1）概要
第24回	物権⑦	占有権（2）占有訴権
第25回	物権⑧	物権変動（1）不動産
第26回	物権⑨	物権変動（2）對抗要件主義
第27回	物権⑩	物権変動（3）動産
		物権変動（4）公信の原則
第28回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）

山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）15 %と学期末に行われる「春学期最終課題」及び「秋学期最終課題」による評価 85 %。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【その他の重要事項】

「法学 A」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the spring semester is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. The aim of the autumn semester is to introduce you to property law.

Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report: 85%)

LAW300CA
民法二部
菅 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。秋学期は、保証、債権譲渡、抵当権など金融法について学ぶ。

【到達目標】

①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。
③事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶことによって、金融法に関する知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期間内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か
第 2 回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第 8 回	契約法各論④	使用貸借、賃貸借
第 9 回	契約法各論⑤	賃貸人と賃借人の権利義務関係
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第 13 回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第 14 回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為
第 15 回	債権総論①	債権総論序説
第 16 回	債権総論②	債務不履行
第 17 回	債権総論③	損害賠償
第 18 回	債権総論④	受領遅滞、弁済の提供
第 19 回	債権総論⑤	債権者代位権
第 20 回	債権総論⑥	詐害行為取消権
第 21 回	債権総論⑦	分割債務、不可分債務
第 22 回	債権総論⑧	連帯債務
第 23 回	債権総論⑨	保証債務、連帯保証
第 24 回	債権総論⑩	債権譲渡
第 25 回	債権総論⑪	相殺、弁済、債務引受
第 26 回	担保物権①	抵当権
第 27 回	担保物権②	法定地上権、仮登記担保
第 28 回	担保物権③	譲渡担保、所有権留保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期及び秋学期の最後にそれぞれ出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学 A」または「民法1部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

In the spring semester the course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. In the autumn semester the course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session.

Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW200CA
商法一部
笹久保 徹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、 前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社・ 監査等委員会設置会社	指名委員会等設置会社等に関する解説
第 15 回	春学期学習内容の確認	春学期の復習・補習
第 16 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 17 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 18 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 19 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 20 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 21 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 22 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 23 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 24 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 25 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 26 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 27 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 28 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。
予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・大石眞ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
商法二部
笹久保 徹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持てもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的な概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。
第 15 回	春学期学習内容の確認	春学期の復習・補習。
第 16 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 17 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 18 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 19 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 20 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 21 回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第 22 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 23 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 24 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 25 回	寄託	寄託の解説。
第 26 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 27 回	交互計算	交互計算の解説。
第 28 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
- ・大石真ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA

経済法

山田 務

開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容・事例、日本経済における役割と最近の課題について講義を行う。また、その他の主要な経済法分野として、①各種事業に対する政府による直接的な法規制、②消費者取引の適正化のための法規制、③国際通商の適正化のための法規制の内容について講義を行う。これらを通じて、学生が、経済の発展、国民生活の安定のための各種の経済法の役割、課題について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

独占禁止法及びその他の主要な経済法について、その内容及び日本経済における基本的役割、最近の課題について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。適宜、質疑応答の機会を設ける。

授業後、学習支援システムを用いて、①理解度確認のための課題の提示を行うとともに、②学生からの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行う。

14回講義のうち、1回は公正取引委員会の職員による講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要（1）	講義の内容、独占禁止法の目的
2)	独占禁止法の概要（2）	独占禁止法・競争政策の歴史、日本経済における役割・課題
3)	独占禁止法の概要（3）	独占禁止法の全体像（禁止行為、違反行為に対する措置等）
4)	独占禁止法の基礎となる経済理論	参考となるミクロ経済学の考え方
5)	独占禁止法の基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場」「市場支配力」等の用語
6)	カルテル、入札談合規制（1）	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7)	カルテル、入札談合規制（2）	禁止行為の内容、最近の事件
8)	カルテル、入札談合規制（3）	カルテル等の発見・抑止のための施策
9)	事業者団体規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10)	私的独占規制（1）	大企業の市場支配的行為の内容、禁止行為
11)	私的独占規制（2）	最近の事件
12)	合併・株式保有等の規制（1）	合併・株式保有の目的、経済分析、禁止される合併等
13)	合併・株式保有等の規制（2）	合併等の審査手続き、最近の事例
14)	公正取引委員会の運用	違反事件の調査、措置
15)	独占禁止法の概要	春学期のまとめ
16)	不公正な取引方法規制（総論）	不公正な取引方法の内容

17)	不公正な取引方法規制 (各論 1)	垂直的取引制限に係る行為
18)	不公正な取引方法規制 (各論 2)	価格設定・取引先選択に関する行為
19)	不公正な取引方法規制 (各論 3)	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為
20)	不公正な取引方法規制 (各論 4)	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為
21)	不公正な取引方法規制 (各論 5)	不公正な競争手段を用いる行為
22)	公正取引委員会職員による講義	独占禁止法の運用状況、競争政策の課題
23)	事業に対する直接的法規制 (1)	政府による直接的事業規制の概要、目的、問題点
24)	事業に対する直接的法規制 (2)	電気通信事業法等、主な事業法の概要
25)	消費者取引適正化のための法規制 (1)	法規制の概要、主な法律 (消費者契約法、特定商取引法)
26)	消費者取引適正化のための法規制 (2)	主な法律 (景品表示法)
27)	国際通商の適正化のための法規制 (1)	自由貿易のメリット・問題点、WTO による国際貿易のルール
28)	国際通商の適正化のための法規制 (2)	二国間・多国間の経済連携協定等

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

書籍、新聞、雑誌等で、独占禁止法・経済法に関する記事を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書で関連部分及び課題・質問事項に係るフィードバック内容を読み、講義内容の理解を確かなものにする。

以上の授業時間外の学習時間は、毎回 4 時間程度

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務

菅久修一「独禁法の講義をはじめます」商事法務

川濱昇他「ベーシック経済法 (独占禁止法入門)」有斐閣

公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委 HP

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加状況、課題の回答状況等) (50 点) 及び期末試験 (50 点) により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び課題や質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度及び問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法及びその他の経済法の内容、課題等について講義を行う。

【Outline (in English)】

・ This course introduces overview of Antimonopoly Act and other economic laws and their role in the Japanese economy.

・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of economic laws, such as the purpose of the laws, and the contents of regulations, and recent issues.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.

・ Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%, in class contribution:50%

LAW300CA
労働法
小林 大祐
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は 3 つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人 (労働者)、働かせる人 (使用者) あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。

◆労働法の特徴と構造を理解する。

◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

◆この授業は講義形式です。

◆原則として、対面授業です。ただし、計 10 回ほどオンライン授業とする予定です。詳細は、初回の授業時にお伝えします。

◆授業内で質問に回答いただくことがあります。

◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働法の意義と体系、紛争解決制度
第 2 回	労働法のプレイヤー	労働者、使用者、労働組合、過半数代表、労使委員会
第 3 回	労働契約	労働契約上の権利・義務
第 4 回	労働条件の決定 (1)	労働協約
第 5 回	労働条件の決定 (2)	就業規則
第 6 回	賃金に関する規制と最低賃金法概論 (1)	日本の賃金制度、賃金支払い 4 原則など
第 7 回	賃金に関する規制と最低賃金法概論 (2)	最低賃金制度など
第 8 回	労働時間に関する規制と休息権 (1)	労働時間の定義、三六協定、休日、休憩など
第 9 回	労働時間に関する規制と休息権 (2)	弾力的労働時間制度、みなし労働時間制度、高度プロフェッショナル制度、適用除外
第 10 回	労働時間に関する規制と休息権 (3)	年次有給休暇など
第 11 回	労働災害の予防と補償 (1)	労働安全衛生、労災補償制度
第 12 回	労働災害の予防と補償 (2)	労災保険制度、労災民訴

第 13 回	労働者の人権、平等、人格権（１）	労働憲章、個人情報・プライバシー保護など
第 14 回	労働者の人権、平等、人格権（２）	男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ハラスメントなど
第 15 回	労働契約の成立をめぐる法的問題	採用内定（内々定）、試用など
第 16 回	人事制度をめぐる法的問題	配転、出向、転籍、昇進、昇格、降格
第 17 回	服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題	懲戒処分など
第 18 回	労働契約の終了をめぐる法的問題（１）	解雇以外の労働契約終了事由
第 19 回	労働契約の終了をめぐる法的問題（２）	解雇
第 20 回	非典型雇用（１）	有期労働者の保護など
第 21 回	非典型雇用（２）	有期・パート労働者の均等待遇など
第 22 回	非典型雇用（３）	派遣労働者の保護と均等待遇など
第 23 回	雇用保険制度	失業等給付、育児休業給付、求職者支援制度など
第 24 回	特定分野の雇用政策	若年者雇用、高齢者雇用、障害者雇用、外国人雇用
第 25 回	労使関係法総論	労働基本権、労働組合、労働委員会など
第 26 回	団体交渉と団体行動（１）	団体交渉義務、争議行為の正当性など
第 27 回	団体交渉と団体行動（２）	組合活動、労働争議の調整制度など
第 28 回	不当労働行為	不当労働行為の主体・成立要件・救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2 時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2 時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）

【参考書】

【判例集】

・村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）

【六法】

・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022 年版』

・旬報社『労働六法 2022 年版』

【成績評価の方法と基準】

◆小テスト：30 %

◆期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained : the sources and regulation of terms and conditions of employment, the prevention and compensation of industrial accidents, the discrimination and equality in employment, the protection of worker's personality, the formation and termination of employment, the rights and duties of parties during employment, the protection of certain categories of worker, the forms of collective organisations, the collective bargaining, the disputes acts and the unfair labour practices.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 70%、Short examinations in class: 30%

MAN300CA
経営学
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的及び発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（半期それぞれ最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）、競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）、企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるマイクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：「経営学」と「経済学」	春学期
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメ ント
3	経営戦略の成立と種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	春学期の総括	春学期の内容のおさらい
15	イントロダクション：秋学期	企業戦略と戦略的行動
16	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
17	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
18	多角化①	多角化の内的・外的要因
19	多角化②	製品プロダクト・ポートフォリオ
20	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
21	参入	内部成長、M&A、提携

22	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
23	寡占の企業間競争①	同質財市場
24	寡占の企業間競争②	製品差別化
25	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
26	戦略的行動③	略奪価格と柔道エコノミクス
27	戦略的行動③	設備投資における戦略的コミットメント
28	秋学期の総括	秋学期の内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明するが、マイクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。必ず、春学期・秋学期の課題を提出し、期末試験を受験してください。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。必ず、春学期・秋学期の課題の提出し、期末試験を受験してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: competitor and competition, value creation, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, vertical boundaries of the firm: vertical integration, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topics.

The goal of this course is understanding, based on the economic theory, the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展させることができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけでなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣双書、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけでなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣双書、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を理論的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を理論的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金貸付
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective.

ECN200CA
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。
現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口を3区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018年	名目GDP、実質GDPの動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた30年	1991年のバブル崩壊から現在まで、5期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策（1）	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策（2）	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策（1）	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策（2）	MMT理論に関して考察する。
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策（2）	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括 1	第1回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
 - ②小崎・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.

I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	租税の理論、物品税の帰着
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	公債の負担
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学 15 講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics.

ECN200CA
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 B は、日本経済論 A をより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深掘する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。

学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケジュール
2	少子化に関する基礎理論（1）	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論（2）	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数（1）	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数（2）	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策（1）	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策（2）	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場（1）	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場（2）	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働（1）	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働（2）	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行（1）	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行（2）	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第4次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

レポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】

Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.

Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリーンの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進捗を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーンのモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等（70%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. The goal of this lecture is to understand the basic principle of international trade theory.

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第 2 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 3 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 4 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 5 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 6 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートモデル
第 7 回	長期の為替レート決定①	購買力平価
第 8 回	長期の為替レート決定②	実質為替レート
第 9 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 10 回	国際通貨制度	歴史の概観
第 11 回	金融のグローバル化と	リスクと銀行危機
第 12 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 13 回	発展途上国と通貨危機	国際金融システム改革
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第 10 版）下：金融編 丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムバズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（40%）、期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. The goal of this lecture is to understand the basic principle of international finance.

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定をしていかなければなりません。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学びます。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて学びます。後半では、日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となりました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を 10 回程度出します。私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
11	プライマリーバランス	プライマリーバランスの考え方
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式
14	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとの授業もわかりやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%の評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問への答えや提出された課題の採点の活動を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形で作ります。印刷環境を整えて、自分で講義ノートに書き混みを入れながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government needs to cope with the several issues of a huge government debt, increases in the social security costs coming from the aging and low birth rate, and the economic policy against the low growth. In this course, students understand these issues which the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy. Students should be able to consider these roles and Japanese government finance logically and normatively.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

- (1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社
- (2) 小塩隆士（2016）『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社
- (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0 %)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

The long-pending problems of the Japanese government are the huge national debt, the increasing cost of social security, and the fiscal policies to tackle the slumping economy. The main aims of this course are two-fold. Its first half deals with the situations where the government interventions in markets are required. Its second half would help the students understand the functions and features of the Japanese government.

Before/After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following
Short tests in classes (100%), Examinations (0%).

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の制度や現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、一国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となってしまいました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を 10 回程度出します。私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
2	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
3	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
4	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

財政学 A の内容を前提に話を進めますので、財政学 A の履修を強く推奨します。経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業もわかりやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将寛 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100% 評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形で作ります。印刷環境を整えて、自分で講義ノートに書き混みを入れながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider the effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析 (代表ケース)
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税のしくみ、租税原則
第 7 回	消費税の歴史・制度	導入の歴史、消費税に関わる制度、軽減税率
第 8 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 9 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 10 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 11 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 13 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 14 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社
(2)小塩隆士 (2016)『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社
(3)麻生良文、小黒一正、鈴木将寛 (2018)『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0 %)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline (in English)】

Based on the understanding of the institutions and the current situation of the Japanese government which students have learned in Public Finance A, students will learn microeconomic and macroeconomic theories which are applied to the topics such as taxation, public debt, and the effect of the increase in public investment.

Before/After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Short tests in classes (100%), Examinations (0%).

ECN200CA

金融論 A

武田 浩一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の直前になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第 2 回	イントロダクション：金融とは何か	金融とは何か
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味

第 5 回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第 6 回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第 7 回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第 8 回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第 9 回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第 10 回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第 11 回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第 12 回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第 13 回	マネーストック	マネーストックとは何か
第 14 回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣、2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示される小テストやレポートで主に評価します（80 %）。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況や Zoom ミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	交換の利益	経済学における交換の便益
3	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	貨幣の時間価値 3	年金、コンソル債の価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	最終課題（テスト実施）	金融の役割、証券の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、FT 等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 %として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の直前になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第 2 回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第 3 回	金融市場	短期金融市場について
第 4 回	債券市場と株式市場	長期金融市場について

第 5 回	外国為替市場	外国為替市場について
第 6 回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第 7 回	資産証券化	資産証券化とは何か
第 8 回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第 9 回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第 10 回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーデンス政策について
第 11 回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第 12 回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第 13 回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第 14 回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣、2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示される小テストやレポートで主に評価します（80 %）。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況や Zoom ミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論 A の知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論 A で学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論 B ではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①：金融の機能	金融市場概要
2	金融論 A の復習②：金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論 A の復習③：不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	情報の非対称性、契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T 等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006 年）
ISBN 4-535-04117-2, 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance. Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
経済の数理 A
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。実数の公理、集合と位相、実数列と級数、実数列の極限を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実数 (1)	はじめに、四則演算
第 2 回	実数 (2)	順序
第 3 回	実数 (3)	連続の公理、実数体
第 4 回	複素数	複素数体
第 5 回	ユークリッド空間	内積、ノルム
第 6 回	位相の導入 (1)	有限集合、可算集合、非可算集合
第 7 回	位相の導入 (2)	距離空間
第 8 回	位相の導入 (3)	コンパクト集合
第 9 回	位相の導入 (4)	連結集合
第 10 回	実数列と級数 (1)	収束列、部分列
第 11 回	実数列と級数 (2)	コーシー列
第 12 回	実数列と級数 (3)	上極限、下極限
第 13 回	実数列と級数 (4)	級数、正項級数
第 14 回	実数列と級数 (5)	冪級数、絶対収束

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房、2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会、1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店、1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館、2002 年）
- [5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976 [初版 (1964 年) の邦訳, W. ルディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち, 講義内容に最も近い教科書は [2], [6] です.

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価.

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します.

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが, 詳細は学習支援システムを通じてお知らせします. 最大 7 回までのオンライン授業を予定しています.

【Outline (in English)】

In this course the axioms of real numbers, basic topology, numerical sequences and series, and the limit of sequences are lectured.

ECN200CA
経済の数理 B
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します. 関数の連続性, 集合の濃度, 集合論の公理を丁寧に解説します. 計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です. また, 数学の奥深さを知ってもらうために, 難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します.

【到達目標】

受講者に求められるのは, 自分の頭で考え, 論理を粘り強く追って行く根気です. 本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに, 「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います. 経済分析への応用を常に念頭に置きますので, 公務員・公認会計士試験, 大学院受験の対策としても本講義を活用することができます.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち, 経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連. 国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連.

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です. それまでに導入した概念に基づき, 新たな概念を構築する形で講義は進みます. 動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い, 板書を中心に授業を進めます. 随時, 演習問題と宿題を課し, 採点の上, 返却します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	連続性 (1)	関数の極限
第 2 回	連続性 (2)	連続関数
第 3 回	連続性 (3)	連続性とコンパクト性
第 4 回	連続性 (4)	連続性と連結性
第 5 回	集合の濃度 (1)	全射, 単射
第 6 回	集合の濃度 (2)	濃度の大小
第 7 回	集合の濃度 (3)	二項関係
第 8 回	整列集合と選択公理 (1)	整列集合
第 9 回	整列集合と選択公理 (2)	選択公理
第 10 回	整列集合と選択公理 (3)	整列可能定理
第 11 回	集合論の公理 (1)	ラッセルのパラドックス
第 12 回	集合論の公理 (2)	外延性公理, 集合
第 13 回	集合論の公理 (3)	非順序対, 合併, 無限公理
第 14 回	集合論の公理 (4)	分出公理, 共通部分, 冪集合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます. 授業内での問題演習を重視し, 必要に応じて, 適宜, 宿題を課します. 毎回の講義につき, 予習 1 時間, 復習 2 時間, 宿題 1 時間の学習が必要になります.

【テキスト（教科書）】

使用しません.

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相 (増補新装版)』(裳華房, 2020 年)
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』(東京大学出版会, 1980 年)
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店, 1968 年)
- [4] 丸山徹『経済数学』(知泉書館, 2002 年)

[5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998
[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976[初版(1964 年)の邦訳, W. ルディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち, 講義内容に最も近い教科書は [1], [3] です.

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価.

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します.

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが, 詳細は学習支援システムを通じてお知らせします. 最大 7 回までのオンライン授業を予定しています.

【Outline (in English)】

In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって, 古典的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち, 「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課し, 「学習支援システム」を通じて採点する. 授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す. 原則, 対面授業を想定しているが, オンライン授業でも不利にならないように配慮する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2 つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2 つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013)「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」新生社

中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2 つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016)「R による実証分析 一回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN300CA
西洋経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第 2 回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視野から検証する
第 3 回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第 4 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 5 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 6 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第 7 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第 8 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（1）	17 世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第 9 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（2）	グローバルヒストリーからみた 17 世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第 10 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 11 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 12 回	大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第 13 回	大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐる E・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第 14 回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に 4～7 時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る 26 の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が 50%、各回の授業内課題点 50 %で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったので、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history.

ECN300CA
西洋経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19 世紀から 21 世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・ 19 世紀と 20 世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・ 基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・ レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グローバリゼーションと 19、20 世紀	19、20 世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに 1815～1880 年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945 年が減速期、1945 年以降が第二の加速期であることを理解する
第 2 回	19～20 世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第 3 回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21 世紀の移民史を経済側面から議論する。
第 4 回	19～21 世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840 年～1913 年）と、第二波（1950 年～2000 年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第 5 回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第 6 回	産業で辿る 19～21 世紀 (1)、工業化を支えた条件と製鉄＋鉄道、	1840 年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄＋鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第 7 回	産業で辿る 19～21 世紀 (2)、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占／寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第 8 回	産業で辿る 19～21 世紀 (3) 自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーディズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第 9 回	最終レポートの形式を指導	19 - 20 世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第 10 回	1950、60 年代の世界	1950、60 年代の世界経済情勢を概観する
第 11 回	1970 年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970 年代の経済情勢をみる
第 12 回	1980 年代の世界	1980 年代の世界経済の動向を概観する。
第 13 回	1990 年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990 年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第 14 回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に 4～7 時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017 年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013 年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016 年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』(経済界、1990 年)
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト 50 %、最終レポート 50 %で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は 1 年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1 年次の「企業と経済・基礎」(ミクロ・パート)からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第 2 版』を使って授業を進める。この講義では、昨年好評だった「Zoom による動画配信」のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第 2 回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解 (独占価格公式) の導出と図解①
第 3 回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解 (独占価格公式) の導出と図解②
第 4 回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 v s 外部市場調達など。
第 5 回	寡占企業①	クールノー競争 (数量競争)
第 6 回	寡占企業②	ベルトラン競争 (価格競争)
第 7 回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争 (先手・後手の区別)
第 8 回	ゲーム理論の基礎①	3 つのモデルの比較 (余剰分析)
第 9 回	ゲーム理論の基礎②	ナッシュ均衡
第 10 回	ゲーム理論の基礎③	サブゲーム完全均衡
第 11 回	交渉とオークション①	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第 12 回	交渉とオークション②	展開型交渉ゲーム
第 13 回	交渉とオークション③	ナッシュ交渉問題
第 14 回	交渉とオークション④	オークション①基礎 オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第 2 版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第 2 版』勁草書房 2021

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT 出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（65 %）、レポートの合計点（30 %）、リアクションペーパーの合計点（5 %）で考えている。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45° 線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1 回課題を出すので、1 週間を日途に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後に、授業内で正解の解説を行う。コロナの感染状況がかなり悪ければ、zoom による授業に切り替える可能性がある。その際は、授業支援システムの「お知らせ」により周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に板書により解説した図解をノートのファイルにして授業支援システムの「教材」にアップしておく。各自、ノートのファイルをダウンロードして、自分で再現できるようになってほしい。そのため、2 時間程度は必要かと思う。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末に出す課題の解答を授業支援システムの「課題」にアップしてもらいその素点に関して 85%、1 回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level, and interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第 3 回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第 4 回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第 5 回	財務諸表分析	有価証券報告書
第 6 回	収益性の分析	資本利益率
第 7 回	安定性の分析	株主資本比率
第 8 回	デュボン・システム	株価と財務比率
第 9 回	株価の分解	EPS と PER
第 10 回	配当利回り	株価と DPS
第 11 回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第 12 回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第 13 回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第 14 回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
現代ファイナンス入門 B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第 2 回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第 3 回	アクティブ運用	成功の条件
第 4 回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第 5 回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第 6 回	確定利付証券	元本、クーポン
第 7 回	金利期間構造	期間構造仮説
第 8 回	リスク管理	金融工学の機能
第 9 回	分布	離散型と連続型
第 10 回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第 11 回	標準偏差と VaR	正規分布
第 12 回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第 13 回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第 14 回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

MAN300CA

会計学応用 I（財務会計） A

竹口 圭輔

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

会計学応用 I（財務会計）A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門<第4版>』日本経済新聞社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、自己登録（科目コード：K6114）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting.

This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how firms communicate through financial statements.

MAN300CA
会計学応用Ⅰ（財務会計）B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

会計学応用Ⅰ（財務会計）B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末試験・レポート（50 %）により総合的に評価する。
※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6115）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記入門」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

MAN300CA
会計学応用Ⅱ（管理会計）A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ベヘビヤ、大綱的利益計画
第 6 回	C V P 分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	C V P 分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品の C V P 分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的方法による原価予測
第 11 回	全部原価計算方式による C V P 分析	C V P 分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	A B C / A B M	原価構造の変化、A B C の計算構造、アクティビティ分析
第 13 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第 14 回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武脇誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA
会計学応用Ⅱ（管理会計）B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	R O I と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工が販売か
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計の利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	N P V 法と I R R 法の比較、再投資の仮定
第 13 回	B S C、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武脇誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10%、期末試験 90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCEL での演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。
※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。事情により Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境を自身で用意してもらいます。詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC 上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディア ン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法

12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワットソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

homeworks(30%) and final report(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を利用します。必要に応じて USB メモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ。
※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。事情により Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境（統計パッケージ R のインストール含む）を自身で用意してもらいます。
詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・ K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定

- 14 まとめ
- ・授業のまとめと復習
 - ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。
毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については
・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
計量経済学については
・山本拓「計量経済学」新世社、1995
・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
統計学の参考書には以下をあげます。
・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

final report(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を使うので、必要に応じて USB メモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第 4 回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第 5 回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第 6 回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第 7 回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第 8 回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第 9 回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第 10 回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第 11 回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第 12 回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原

松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣

竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（60%）が中心となる。授業時リアクションペーパーまたはオンライン小テスト（平常点 40%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

この講義は一部をオンラインで実施する予定である。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の日本の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第 3 回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第 4 回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第 5 回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第 6 回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第 7 回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第 8 回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第 9 回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第 10 回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第 11 回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第 12 回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第 13 回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第 14 回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、オンデマンド授業の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

この講義は一部をオンラインで実施する予定である。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。

インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第2回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第3回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第4回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第5回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第6回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第7回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第8回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第9回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する

第13回 株式持合

企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する

第14回 課題

今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Bの学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社

宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
リスク・マネジメントA
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボデイ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式及びオンライン形式での講義。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

最低 5 回程度のオンライン回を設ける予定である。未定回については、学習支援システムを通じて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期イギリスにおける「規模の経済」の発見。
3	市場経済の中の企業	市場を前提とした産業革命期の企業活動。
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新。
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネスの興隆
6	大量生産への途	製造業における互換性生産の出現など
7	見えざる手から見える手へ＋中間レポート提出	アメリカにおける大企業の出現
8	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究テーマの調整と簡単な調査指導。
9	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織の発達など。
10	経営者企業の成立	経営者企業の出現、米国大企業の国際化・多角化。
11	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現とその背景。
12	ヨーロッパ大企業の組織と戦略	ヨーロッパ大企業の特徴。
13	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性。
14	両大戦間期日本のビジネス＋期末レポート提出	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究と毎回の確認小テスト。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式及びオンライン形式での講義。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

最低 5 回程度のオンライン回を設ける予定である。未定回については、学習支援システムを通じて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の方針。
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」と政府の関与が生み出したもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	「豊かな社会」と政府の関与が生み出したもの（2）	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡	大企業下の産業集積と金融センターの興亡。
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究と毎回の確認小テスト。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA
企業経営論 A
井上 祐樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は事業を行う存在であるため、事業創造無しには企業は始まらないし、また存続していくことができない。本講義では企業経営における重要な要素として事業創造に焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際に自分達でビジネスアイデアを考えてみることで、事業創造に関する各種理論を体感的に身に付けることを目指す。

【到達目標】

- ①経営に関するいくつかの理論を理解し、それを実際のビジネス構築に活かす形で活用できるようになることを目指す。
- ②ビジネス構築に関するいくつかの実用的なツールを活用できるようになる。
- ③複雑な事業創造過程において、論点やロジックを整理し、適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとにオリジナルのビジネスアイデアを考案する。
- (b) 毎回の講義において、事業創造に関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定したビジネスアイデアに関して、その課題にどのように取り組むかを検討し、それによってビジネスアイデアを改良していく。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、チームごとの最終成果発表の内容およびチームへの貢献度によって評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、事業創造とアントレプレナーシップ	ガイダンスを中心に、事業創造とアントレプレナーシップに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答する。
②	グループの発表と初期のビジネスアイデアの設定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、新しいビジネスアイデアの提案と明文化までを行う。
③	様々な種類のイノベーション（講義・演習）	イノベーションと一口に言っても、様々な形態や種類のイノベーションが存在する。それらを理解するとともに、自分達のビジネスのイノベーションとは何かを定義する。
④	様々な種類のイノベーション（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、イノベーションに関する色々な考え方を学ぶ。

- ⑤ サービスビジネスと価値共創（講義・演習）
製品とは違って、サービスビジネスには独自の要素が存在する。またどんな製品型ビジネスにも、潜在的にサービスビジネスが存在している。そういった観点を理解し、自分達のビジネスのサービス価値とは何かを定義する。
- ⑥ サービスビジネスと価値共創（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、サービス価値に関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑦ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（講義・演習）
企業は自社を中心としたエコシステムを構築するか、あるいは他者のエコシステムのうえで事業活動を行うことが多くある。自社でエコシステムを構築する際に重要になるのが、プラットフォーム戦略の考え方である。これらの観点を理解するとともに、自社を中心としたエコシステムを構築するためのビジネスの設計を実施する。
- ⑧ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、エコシステムとプラットフォームに関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑨ データ収集・分析と事業改善への活用（アンケートの設計）
データを活用することは、自社のビジネスの価値を検証したり、戦略を立てたりすることに有効である。本講義では自社のビジネスの価値を検証するための独自のアンケートを作成し、そのデータを収集する。
- ⑩ データ収集・分析と事業改善への活用（データの分析と解釈）
前回の講義で収集したデータを分析し、その結果を自社ビジネスの改善に活かす。
- ⑪ デザイン思考の実践（講義・演習）
デザイン思考は革新的な事業を生み出すための一つの有名な方法論あるいはプロセスである。デザイン思考の内容を理解し、実際に自社ビジネスに適用してみる。また、インタビュー調査を行い、情報を収集する。
- ⑫ デザイン思考の実践（発表・全体討議）
インタビュー結果をまとめて、解釈し、ビジネスの改善を実施する。
- ⑬ 最終発表準備
これまでの検討してきた内容の一貫性を持った発表資料の作成を行い、次回の最終成果発表に備える。
- ⑭ 最終成果発表
これまでの集大成として、ブラッシュアップされたビジネス内容をプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回パワーポイント形式の資料を配布する。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質： 50 点

全体討議への積極的参加： 20 点

最終発表の評価： 30 点

※ただし、合計得点が 60 点を超えている場合でも、最終発表を行わなかった場合には不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。講義の性質上、講義中に寝ることができないので、睡眠を取ってくることを。

【Outline (in English)】

Without business creation, the firms will not even start the work. This lecture teaches you about knowledge and theories about business creation. As the feature of this lecture, the students will create new business models with learning those knowledge and theories.

MAN300CA
企業経営論 B
井上 祐樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの考え方として、企業活動とは「イノベーション」を生み出し、それを製品化・サービス化して消費者に届ける、一連の活動と捉えることができる。すなわち、企業経営において「イノベーションをどうマネジメントするか」は非常に重要な部分を占めることとなる。本講義では企業経営におけるイノベーションに焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際の企業を分析対象として行うことで、理論と実社会との対応関係を体感的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ①イノベーションに関するいくつかの理論を理解し、その視点から現実の企業を分析できるようになることを目指す。
- ②イノベーションに関するいくつかの実用的な指標やツールを活用できるようになる。
- ③企業をある視点から分析し、それを適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとに興味がある企業をいくつか選択する。
- (b) 毎回の講義において、イノベーションに関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定した企業に関して、その課題にどのように取り組むかを検討する。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、代わりに毎回のグループワークの発表成果とそこへのグループワークにおける貢献度を主な評価基準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	ガイダンスを中心に、イノベーションに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答してもらう。
②	グループの発表と調査対象となる企業の選定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、今後の講義で調査対象とする企業を選定する。
③	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（講義・演習）	歴史的に有名なイノベーションと、それに付随した変化を学ぶ。また、企業はイノベーションとともに去るといったメカニズムを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
④	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

⑤	産業とイノベーション／イノベーションの測定（講義・演習）	イノベーションの創出は産業の違いによってどのように影響されるか、イノベーションをどうやって数値化するかを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑥	産業とイノベーション／イノベーションの測定（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
⑦	アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（講義・演習）	アントレプレナーシップの定義や重要性について学ぶ。また、イノベーションを生み出すための企業内の資源の利活用について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑧	アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（発表・全体討議）	イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業との関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑨	イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（講義・演習）	イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業との関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑩	イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
⑪	イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（講義・演習）	イノベーション関連する知的財産権とその重要性、およびそのマネジメントについて学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑫	イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
⑬	イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（講義・演習）	イノベーションと規制や制度の関係性、およびイノベーションと経済成長の関係について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
⑭	イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。講義の性質上、講義中に寝ることができないので、睡眠を取ってこよう。

【Outline (in English)】

The activities of firms can be seen as sequent function which generate innovations, embodies them as products and services, and deliver it to consumers. Therefore, "innovation management" is significant for all firms. This lecture especially focuses on the innovation management in the field of business management and teaches you the theories about innovations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（第 2 版）（日本経済新聞出版）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質：80 点

全体討議への積極的参加：20 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

CAR200CA
企業実務研究 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（1）
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（2）
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第 1 回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第 1 回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第 1 回講義に必ず出席すること。

第 2 回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第 2 回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第 3 回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第 4 回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 5 回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第 6 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 7 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 8 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 9 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 10 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 11 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 12 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 13 回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第 14 回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第 3 版、日経 BP 社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に履修登録すること。2 単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

MAN300CA
国際会計制度 A
倉井 潔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
8	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
9	IFRSの基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
10	IFRSの基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
11	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
12	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
13	実践・財務分析③	9～12回を踏まえて、財務分析を改善する
14	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎 第 4 版』平松一夫 中央経済社 2015 年
『エッセンシャル IFRS（第 5 版）』秋葉賢一 中央経済社 2016 年
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015 年 ほか

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度 B と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

- ① Differences between accounting systems
- ② Understand the impact of ① on accounting information.
- ③ Corporate financial analysis

MAN300CA
国際会計制度 B
倉井 潔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度 A に引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンス・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計 外貨換算会計	退職給付会計、株式報酬取引。 外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
5	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
6	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
7	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
8	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化
9	IFRS 財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
10	IFRS 財務諸表分析（2）	第 9 回の続き

11	IFRS 財務諸表分析 (3)	第 10 回の続き
12	IFRS 財務諸表分析 (4)	第 11 回の続き (プレゼン資料提出)
13	各国の会計制度 (1)	欧州圏の会計制度 期末レポート課題提示
14	各国の会計制度 (2)	アジア圏の会計制度 最新トピック紹介

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度 A を参照

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度 A と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

Continuing from the International Accounting System A course, this course deals with comparison of accounting standards of each country and financial analysis of foreign companies and Japanese companies.

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

- ① Differences between accounting systems
- ② Understand the impact of ① on accounting information.
- ③ Corporate financial analysis

ECN300CD
金融ビジネス論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第 1 回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第 2 回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第 3 回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第 4 回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第 5 回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第 6 回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第 7 回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第 8 回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第 9 回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第 10 回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第 11 回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第 12 回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第 13 回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第 14 回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CD
金融ビジネス論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第 1 回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第 2 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第 3 回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第 4 回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第 5 回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第 6 回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第 7 回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第 8 回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第 9 回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第 10 回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第 11 回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第 12 回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第 13 回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第 14 回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
開発経済論 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な時間非整合性などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点し、返却します。

2021 年度までは、学習支援システム上の授業支援ボックスを使って返却していましたが、2021 年度末に廃止されてしまうので、2022 年度からの新しい試みとして、Google Classroom を通して返却する予定です。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合は、各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	貧困の罠	資産動学、S 字曲線
第 2 回	ランダム化比較試験 1	相関、因果、セレクション・バイアス
第 3 回	ランダム化比較試験 2、栄養 1	栄養不足による貧困の罠は存在するのか？
第 4 回	栄養 2、健康 1	なぜ栄養に投資しないのか？
第 5 回	健康 2、時間非整合性 1	なぜ病気の予防に投資しないのか？
第 6 回	時間非整合性 2	コミットメント、あと押し
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定、マラリアの所得減少効果
第 9 回	教育 1	2 期間モデル、条件付き補助金

第10回	教育 2、ランダム化比較試験と回帰分析 1	幻の S 字曲線、最小二乗法
第11回	ランダム化比較試験と回帰分析 2	OLS 推定量の一致性、内生性、トリートメント効果
第12回	出産 1	誰が、なぜ、大家族を選択するのか？
第13回	出産 2	重回帰、欠落変数、メロドラマは出生率を減少させるか？
第14回	復習および期末試験	第 8 回から 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

池田新介 (2012)「第 3 章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社
大垣昌夫、田中沙織 (2018)「第 6 章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣
ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル (2013)『善意で貧困はなくなるのか？ 貧乏人の行動経済学』みすず書房
高野久紀 (2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012)『貧乏人の経済学』みすず書房
森田果 (2014)「第 18 章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
もし、感染症対策として教室内試験を実施できなくなってしまう場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision for households in developing countries. We will also study theoretical models of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, which are useful for studying the decision.

ECN200CA
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A、B、開発経済論 A では、開発途上国の貧困家計が直面するリスク、不完全情報が捨象されていました。開発経済論 B では、リスクおよび不完全情報に関する理論モデルをまず学びます。そして、その理論モデルに基づいて、保険市場、信用市場、土地賃借市場における家計の選択を学びます。さらに、その選択を理解するのに有用な操作変数法という実証分析手法も学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、定額地代ではなく分益小作、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点し、返却します。

2021 年度までは、学習支援システム上の授業支援ボックスを使って返却していましたが、2021 年度末に廃止されてしまうので、2022 年度からの新しい試みとして、Google Classroom を通して返却する予定です。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合は、各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスク 1	リスク対処戦略、リスク分散戦略
第 2 回	リスク 2	期待値、期待効用
第 3 回	リスク 3	状態空間分析、無差別曲線
第 4 回	保険市場 1	保険会社の等期待利潤線、独占的な保険会社
第 5 回	保険市場 2	完全競争保険市場
第 6 回	保険市場 3	状態空間分析における確実性同値額、リスクプレミアム
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ
第 9 回	アドバース・セレクト	中古車市場、情報レント
シオン 1		

第 10 回	アドバース・セレクト ション 2	保険市場、完全情報の場合
第 11 回	アドバース・セレクト ション 3	保険市場、不完全情報の場合
第 12 回	信用市場 1	インフォーマル金融、マイクロファイナンス
第 13 回	信用市場 2、分益小作	実証分析、2 段階ランダム化比較試験、操作変数法
第 14 回	復習および期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサシメントとし、各講義の前に予習として読みます。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社
神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
もし、感染症対策として教室内試験を実施できなくなってしまう場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

In Introductory Development Economics A, B, and Development Economics A, we omit risk and asymmetric information poor households in developing countries face. In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first. Then, based on the theoretical model, we will study insurance, credit, and land markets. We will also study instrument variable method, an empirical methods which is useful for studying the markets.

POL200CA
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義動画・講義資料での授業を基本としたうえで、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論の射程	イントロダクション
第 2 回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第 3 回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第 4 回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第 5 回	合理的選択論と国際関係	国際関係学におけるパラダイムシフト
第 6 回	国内制度と対外行動	政治制度（民主主義・権威主義）、観衆費用、民主主義的平和
第 7 回	リーダーと対外行動	評判（reputation）と信頼（credibility）、リーダーの個人的性質、結集効果
第 8 回	事例分析	キューバ危機・フォークランド紛争
第 9 回	戦略的相互依存関係	アクター、利益、環境、交渉モデル
第 10 回	国際制度と国家の対外行動	アナーキー、法化（legalization）、国際制度と同盟
第 11 回	事例分析	国際連盟と国際連合、集団安全保障体制
第 12 回	国家間のネットワークと波及効果	民主主義の波及、ネットワークの諸概念
第 13 回	国際法と国際規範	規範と法化、規範の拡散、事例：人権規範
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）. 定価 880 円（本体 800 円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、期末試験で行う（100%）。期末試験は、指定の日・時間内に教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline (in English)】

This course explores major concepts in the field of international relations and intends to provide students with some theoretical tools that help interpret and analyze causal relations and mechanisms on phenomena of international relations. The class starts by introducing the basic concepts such as anarchy and sovereignty and moves onto introducing the key theories. The goal of this class is to expose students to the core literature of the field of international relations and to help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of international relations

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論 B では、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス・国際関係論 A の復習
第 2 回	戦争の原因論	情報の非対称性，コミットメント問題，イラク戦争
第 3 回	戦争の拡大・介入・終結	戦争の持続期間，対外介入の決定要因と効果
第 4 回	大量破壊兵器・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第 5 回	勢力均衡と同盟	勢力均衡と情報の非対称性，同盟の種類，同盟のジレンマ
第 6 回	民主主義的平和論	民主主義の波，商業的平和論，観衆費用，政党間競走モデル
第 7 回	非伝統的安全保障・内戦 1	内戦の原因論（民族，貪欲と不満），交渉モデル
第 8 回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦・
第 9 回	非伝統的安全保障・内戦 2	対外介入の決定要因とその効果，平和維持活動，対外援助
第 10 回	非伝統的安全保障・テロリズム	政治制度，貧困，交渉の失敗，対テロ戦略の効果
第 11 回	経済制裁	経済制裁の種類とその効果
第 12 回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発
第 13 回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制，selectorate theory
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

東大作 (2020)『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

山本吉宣・河野勝 (2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、期末試験で行う（100%）。期末試験は、指定の日・時間内に教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムで連絡する。

【Outline (in English)】

This course explores major concepts in the field of international relations and intends to provide students with some theoretical tools that help interpret and analyze causal relations and mechanisms on phenomena of international relations. The class pays particular attention to the issues of international security that include interstate wars, the proliferation of mass destruction, alliance and balance of power, civil wars, and terrorism. The goal of this class is to expose students to the core literature of the field of international security and to help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of international relations.

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第 2 回	贈与と再分配の世界	経済人類学の入り口を垣間見る
第 3 回	贈与と互酬性	一般交換と限定交換
第 4 回	贈与と禁止	レヴィ＝ストロースの学説
第 5 回	贈与・循環・所有	サーリンズとモースの学説
第 6 回	『贈与論』にみる人とモノ	異なる所有観の発見
第 7 回	贈与から考える人とモノ	モース派の人類学と譲渡不可能性の概念
第 8 回	贈与から考える女性の労働①	2 人のフェミニスト人類学者の論争から
第 9 回	贈与から考える女性の労働②	権利から関係性へ
第 10 回	交換の類型学	互酬、再分配、市場
第 11 回	再分配と集団の境界	ミクロネシアの儀礼経済から考える①
第 12 回	再分配の中心	ミクロネシアの儀礼経済から考える②
第 13 回	再分配と階層性	ミクロネシアの儀礼経済から考える③
第 14 回	負い目と権力	贈与と再分配の違いをめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	互酬・再分配と市場交換の接合①	貨幣経済と暮らしの変容
第 3 回	互酬・再分配と市場交換の接合②	首長国ビジネスの誕生
第 4 回	互酬・再分配と市場交換の接合③	初物献上の変容から考える
第 5 回	互酬・再分配と市場交換の接合④	首長の金策と島民の金策
第 6 回	貨幣の人類学①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 7 回	貨幣の人類学②	貨幣の意味を変える方法
第 8 回	貨幣の人類学③	国境を越える貨幣とその読み替え
第 9 回	長期秩序による読み替え	グローバル時代の文化研究①
第 10 回	外来のものを飼いならす	グローバル時代の文化研究②
第 11 回	まなごしを活用する	グローバル時代の文化研究③
第 12 回	まなごされる文化と生きた文化	グローバル時代の文化研究④
第 13 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ①	「いのちの贈与」をめぐる
第 14 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ②	地域通貨のリアルをめぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology B, modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic theories and concepts of environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic theories and concepts of environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ビグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn the economics of waste and recycling.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観 -	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて -	廃棄物経済学的主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル -	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系 -	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法 -	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政 -	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面 -	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会 -	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果 -	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則 -	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法 -	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル -	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn the economics of waste and recycling.

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第 2 回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド①		
第 3 回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
オンデマンド②		
第 4 回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第 5 回	産業の立地①	立地論の基礎
オンデマンド③		
第 6 回	産業の立地②	工業立地論と事例
オンデマンド④		
第 7 回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第 8 回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
オンデマンド⑤		
第 9 回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
オンデマンド⑥		

第 10 回 経済の空間構造③ 都市の理論・モデルと実際

第 11 回 国土政策と地域経済① 日本の地域構造と地域間格差
オンデマンド⑦

第 12 回 国土政策と地域経済② 国土政策と地域政策の系譜と現状
オンデマンド⑧

第 13 回 都市・地域開発と政策 都市・地域問題の現状と新たな政策
オンデマンド⑨

第 14 回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン
桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンデマンド授業の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
オンデマンド⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド⑥		

第 10 回 産業集積のダイナミズム 産業のグローバル化

第 11 回 自動車産業の集積① オンデマンド⑦ 系列、近接性、JIT 生産システム

第 12 回 自動車産業の集積② オンデマンド⑧ 日本的生産システムの海外展開

第 13 回 ハイテク産業の集積 オンデマンド⑨ シリコンバレーモデルと産学連携

第 14 回 講義の小括・まとめ 経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンラインの小テスト（平常点 40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

ECN200CA
アメリカ経済論 A
下斗米 秀之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準などで国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、経済大国として世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済におけるアメリカの役割について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、14 回のうち 7 回をオンラインとする。オンラインの場合には事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。対面授業の際に、学生からの質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点	アメリカ経済の特色。
第 3 回	20 世紀転換期のアメリカ	産業構造の変化、農民・労働運動、貿易・国際収支構造の変化。
第 4 回	「グレートファミリー」とその支配	新興の企業家とその支配力。
第 5 回	第一次大戦と 1920 年代の光と影	第一次大戦と大量消費社会の形成。
第 6 回	大恐慌とニューディール	世界大恐慌とニューディール政策。
第 7 回	第二次世界大戦とアメリカの世紀	パクス・アメリカナの形成。
第 8 回	米ソ冷戦と開発援助	東西冷戦の時代と開発援助競争。
第 9 回	保守の時代とレーガノミクス	パクス・アメリカナの動揺と新自由主義政策。
第 10 回	ニューエコノミーと IT 革命	1990 年代のアメリカ経済と IT 革命。
第 11 回	バブルと世界金融危機	IT バブルと住宅バブル、リーマン・ショック。
第 12 回	多極化する世界	新興国の台頭とアメリカ経済。
第 13 回	「トランプ」現象と米中対立の行方	「トランプ現象」の背景と課題、米中対立と 21 世紀の覇権国。
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。河崎信樹、河音琢郎、藤木剛康『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30 %）期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深める映像資料などを用いることとする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

可能な限り、秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

アメリカ経済史、国際経済史

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, culture, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the role the U.S. has played in the global economy.

ECN200CA
アメリカ経済論 B
下斗米 秀之
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは不可欠である。本講義では、春学期に学んだアメリカ経済の歴史を踏まえたうえで、現代アメリカ経済の理解に不可欠な移民や医療、格差や貧困など、特に重要だと思われるトピックを取り上げて、アメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、14 回のうち 7 回をオンラインとする。オンラインの場合には事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。対面授業の際に、学生からの質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ経済の特色	特殊アメリカの地理的、社会的、制度的要因。
第 2 回	アメリカ経済成長の源泉	巨大な市場と大量生産方式。
第 3 回	自由企業体制 1	近代企業の生成と発展。
第 4 回	自由企業体制 2	アメリカ企業の戦略と組織、IT 産業の変化。
第 5 回	アメリカ経済史と移民労働者	アメリカ経済史における移民問題。
第 6 回	今日の移民問題：移民の分極化	高度技能移民と不法移民。
第 7 回	技術政策と研究開発	産官学の研究開発体制の成立と変遷。
第 8 回	アメリカの教育	教育制度とその歴史
第 9 回	アメリカの医療制度	医療保険制度改革。
第 10 回	アメリカの金融	金融危機とその歴史。
第 11 回	アメリカの環境問題	環境問題の歴史と現状。
第 12 回	格差社会と貧困	所得格差の実態と格差社会。
第 13 回	コロナ禍のアメリカ経済	COVID-19 とアメリカ経済。
第 14 回	試験と解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。本授業の準備・復習時間として、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史―「問題大国」の出現』有斐閣、2017 年。

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。
河崎信樹、河音琢郎、藤木剛康『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30 %）期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深める映像資料などを用いることとする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

可能な限り、春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline (in English)】

For those of us who live in a global capitalist economy, it is essential to understand the trends of the United States, which leads the world as

an economic superpower. In this lecture, based on the history of the U.S. economy studied in the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
伊東 林蔵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命期から第二次世界大戦終結までのヨーロッパ経済の歴史を、主にドイツを中心に考察していく。その中でも産業革命におけるイギリスの覇権、第二次産業革命におけるアメリカとドイツ自体の台頭、ソ連や日本の経済発展の中で、ドイツが覇権を追求し、挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調し、欧州統合に向かう過程を考察する。

【到達目標】

ヨーロッパにおいてドイツとはどのような位置を占め、ヨーロッパの経済体制をどのように形成してきたか理解を深める。
現代ヨーロッパの最も「大きな物語」である欧州経済統合は、戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたか理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・春学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
・春学期は学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信するので、授業時間にあわせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何故、歴史から学ぶのか？ 「ヨーロッパのドイツ」 本講義の全体的テーマ 留意点等
第 2 回	イギリス産業革命	「産業革命」とは何か？ 技術革新 工場制の成立 資本主義 「悲観論」と「楽観論」等
第 3 回	ヨーロッパ大陸の産業革命	後発資本主義国 ドイツ関税同盟と産業革命 「大ドイツ」か「小ドイツ」か？ 1848 年の革命 フランスは停滞した農業国家か？ 等
第 4 回	「ボックス・ブリタニカ」	大英帝国の覇権と海軍力 自由貿易帝国主義 ジェントルマン資本主義 選挙法改正運動 工場法 社会主義の誕生等
第 5 回	第二次産業革命	ドイツ帝国成立 1873 年大不況 集中と大企業の出現 新産業の登場 金融資本の成立 アメリカの台頭 ドイツの社会政策等
第 6 回	世紀転換期における自由主義の変容	労働運動の隆盛 社会帝国主義 イギリス自由党の社会改革 新自由主義 (New Liberalism) 改革等
第 7 回	第一次世界大戦前夜	ヴィルヘルム二世の世界政策 独占体制の成立 コーポラティズムの形成 中小企業の発展 中東欧への進出 大陸ヨーロッパ統合構想等
第 8 回	第一次世界大戦	総力戦体制 国家介入の拡大 女性の社会進出 戦災 アメリカの参戦等
第 9 回	ヴェルサイユ条約とヴァイマル共和国の成立	領土割譲 賠償金 ヴァイマル憲法の成立 労使協調 賠償不履行政策 ハイパーインフレーション等
第 10 回	ヴェルサイユ・ヴァイマル体制	相対的安定期 賠償履行政策 産業合理化 カルテルとコンツェルン アメリカナイズーション 中間層の危機意識 大衆消費社会の萌芽等
第 11 回	ヨーロッパ経済統合の起源？	中欧思想 汎ヨーロッパ運動 生存圏構想 国際粗鋼共同体 IG オイローバ等

第 12 回	大恐慌	再建金本位制の崩壊 ブロック経済 新自由主義 (Neo-Liberalism) の起源等
第 13 回	ナチズム体制の成立	強制的均整化 第一次四ヶ年計画と景気回復 第二次四ヶ年計画と戦時経済体制 アウタルキー等
第 14 回	第二次世界大戦	電撃戦 軍需と重化学工業 強制労働 戦後構想等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

・原輝史/ 工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
・馬場哲/ 山本通/ 廣田功/ 須藤功著『エレメンタル欧米経済史』見洋書房 2012.
・小野塚知二『経済史』有斐閣 2018.

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。
授業内容の理解度を問う期末レポートが成績評価の 100%を占めるので、課題内容、提出期限等には充分注意すること。
典拠を示さずに他者の文献（インターネット上の資料を含む）をコピーし、レポートに貼り付けて提出する事例がみられる。発見した場合は「不可」となるので、絶対に行わないこと。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画への短期間における視聴集中に対処する。
図像資料の引用により学生の理解度を高める。
参考文献の引用方法について分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】

In this course, We will consider the European economic history from the Industrial Revolution to the end of World War II, mainly in Germany. Among them, we will focus on the long process towards European integration in that Germany pursued supremacy, frustrated, and cooperated as "Germany in Europe".

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
伊東 林蔵
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦末期から現在までのヨーロッパ経済を、ドイツを軸として、欧州統合への収斂とその経緯の歴史として捉える。

【到達目標】

諸々の反証を抱えながら、後知恵として見れば、「収斂」していくように欧州統合が成立した歴史的経緯を理解する。同時に現在 EU が抱える諸問題の背景にいかなる歴史的要因が存在するのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・秋学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。

- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
- ・毎回の授業に当たり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業として、今学期の導入説明を学習支援システム上に掲載。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
- ・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦中の戦後構想	亡命社会民主党、保守反対派、連合国の戦後ヨーロッパ統合構想等
第 2 回	第二次世界大戦終結と連合国の対独占領政策	アメリカ・イギリスの占領政策 「弱いドイツ」か「強いドイツか」 ドル条項 フランスの妥協 ソ連の占領政策等
第 3 回	戦後復興	マーシャル・プラン アーベルスハウザー・テーゼ 通貨改革等
第 4 回	東西ドイツ分割	冷戦体制の成立等
第 5 回	ドイツの高度経済成長	社会的市場経済 ライン資本主義 「社会主義の優等生」 イギリスの停滞等
第 6 回	欧州経済統合	欧州石炭鉄鋼共同体 ベネルクスの関税同盟構想 イギリスの自由貿易圏構想 ドイツの EEC 加盟等
第 7 回	福祉国家論	福祉国家の諸類型 高度経済成長・グローバリズム・脱工業化との関係等
第 8 回	高度経済成長の終焉	1966/67 年不況 ニクソン・ショック オイル・ショック 「経済成長の弱さ」等
第 9 回	新自由主義 (Neo-Liberalism) の台頭	サッチャリズム レーガノミクス コール政権等
第 10 回	社会主義体制の動揺	東欧の諸改革
第 11 回	東欧革命	東西ドイツ統一 ソ連の解体等
第 12 回	統一ドイツの諸問題	「失われた 10 年」 東ドイツ地域の経済再建 ハルツ改革等
第 13 回	EU の成立	EU の機構
第 14 回	現在のドイツと EU	「新たな経済の奇跡」 メルケル政権 移民問題 脱原発 イギリスの EU 離脱等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/ 工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008.
- ・川越修/ 河合信晴編『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016.

・田中素香/ 長部重康/ 久保広正/ 岩田健治著『現代ヨーロッパ経済』第 5 版、有斐閣 2018

・工藤章/ 藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。授業内容の理解度を問う期末レポートが成績評価の 100%を占めるので、課題内容、提出期限等には充分注意すること。典拠を示さずに他者の文献（インターネット上の資料を含む）をコピーし、レポートに貼り付けて提出する事例がみられる。発見した場合は「不可」となるので、絶対に行わないこと。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画への短期間における視聴集中に対処する。図像資料の引用により学生の理解度を高める。参考文献の引用方法について分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】

We will consider the European economic history from the end of World War II to the present as the history of convergence to European integration and its crisis, mainly in Germany.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史の経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。コロナの状況によっては、オンデマンドまたはズーム開催になる可能性がある。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーター産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではアジアの状況に大きな影響を与えたポイントとなる出来事を学ぶ。中盤では ASEAN 諸国の成立と現状を学ぶ。後半は第二次世界大戦後の ASEAN の発展史を学ぶ。コロナの状況によっては、オンデマンドまたはズーム開催になる可能性がある。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ 1	各経済統計による概観
6	タイ 2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア 1	各経済統計による概観
8	マレーシア 2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア 1	各経済統計による概観
10	インドネシア 2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン 1	各経済統計による概観
12	フィリピン 2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する

第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 宿題およびレポート（70 %）
 2. 期末テスト（30 %）
- 両者の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline (in English)】

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the countries in Europe and the United States.

ECN200CA
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済成長の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、農民・農村問題、雇用・格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第 2 回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第 3 回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第 4 回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する
第 5 回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第 6 回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第 7 回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第 8 回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第 9 回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第 10 回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第 11 回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第 12 回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第 13 回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第 14 回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 宿題およびレポート（70 %）
 2. 定期試験（30 %）
- 両者の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline (in English)】

This lecture introduces the factors behind China's economic growth from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., official statistical data published by the Chinese government, survey data etc.). The topic targets focus on individuals, households, enterprises and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise production and innovation, industrial concentration and industrial structural transformation, residents with rural hukou and problems in rural areas and income inequality, and understand the facts and problems of the Chinese economy at the microeconomic levels.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
布川 恭子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。

提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	旅行 (1)	「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第 3 回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第 4 回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第 5 回	都市 (1)	現在完了で表現する
第 6 回	都市 (2)	道を尋ねる 交通手段
第 7 回	中間口頭試験	オンラインにより 1 対 1 で口頭テストを行う
第 8 回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第 9 回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第 10 回	余暇	ドイツと日本の働き方と休暇の違い
第 11 回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第 12 回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第 13 回	授業内試験と解説	筆記試験
第 14 回	環境	エコロジー問題
	試験答え合わせ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】

In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
布川 恭子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。

提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行っており、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決 学生のバイト事情
第 7 回	中間口頭試験	オンラインで 1 対 1 で行う
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	試験と解説	筆記試験
第 14 回	総復習	秋学期のまとめ テスト答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2－コミュニケーション活動で学ぶドイツ語－. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】

In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく、ツールとしては Google クラウドスライドを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については週別に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第 2 回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第 3 回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第 4 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	ゴミの種類に関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第 5 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第 6 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第 7 回	家族の形-1	家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第 8 回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第 9 回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、ボックス
第 10 回	週末の過ごし方-1	関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 <i>où, dont</i> ）、靴の買い方
第 11 回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談

第 12 回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）
第 13 回	全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャボニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）100 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの導入により受講が効率化できた。弱点の補強などにも役にたった。

【学生が準備すべき機器他】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。オンラインで行う回があるので、各自、パソコン、タブレットなど対応できるようにすること。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】

TCourse outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%, Usual performance score: 33%

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく、ツールとしては Google クラウドを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第 2 回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第 3 回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第 4 回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第 5 回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第 6 回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第 7 回	体と健康-1	語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第 8 回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第 9 回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第 10 回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為

第 11 回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第 12 回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。
第 13 回	全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）100 %

【学生の意見等からの気づき】

Google クラウドの使用で、課題の受け渡しが非常にスムーズに行えた。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】

Course outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%, Usual performance score: 33%

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。他学部からも履修が可能です。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを読み、的確に内容を把握し、きれいな日本語で訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問やニュース、映画など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書けます。ロシア語資格は珍しいため面接などに武器となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態（対面、オンライン）についてのアンケートを実施。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでも提示します。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策過去問などを解く。また、視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、映像紹介、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、映像紹介、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級-1）、会話	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞、会話練習
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級-2）、テキスト読解	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）、テキスト解説
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）

第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級-1）1	関係代名詞
第12回	ロシア語能力検定試験対策（3級-2）	数詞（数詞と名詞の変化）、比較級
第13回	テキスト読解と視聴覚	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第14回	テキスト読解	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテスト）50パーセント、提出物の評価（課題や宿題等の提出）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。この授業で試験対策に効率良く取り組むことで合格し履歴書に記載できた、自信にもつながったといった意見がありました。その他に、実際にコミュニケーションで使えるロシア語をロールプレイで身につける学習も進めていきます。毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指してください。

なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is for students who have taken beginner Russian. Complete the acquisition of basic Russian grammar, and can read and translate various texts by looking up a dictionary. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on a resume as a qualification. Develop listening and reading skills and acquire practical conversation skills. Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies about Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10 月のロシア語能力検定試験の合格を目指す。並行して中級文法を習得しながら、幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。映画やニュースなどでリスニングを重ね、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

10 月のロシア語能力検定試験（4 級 3 級）の合格を目指す。（資格として履歴書に書ける。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器になります。）

中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは 10 月開催のロシア語能力検定試験（4 級 3 級）の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後は多様な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を習得。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 2 回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第 3 回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第 4 回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第 5 回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第 6 回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 1）、会話練習
第 7 回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 2）、会話練習
第 8 回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第 9 回	テキスト読解と和文露訳 1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第 10 回	テキスト読解と和文露訳 2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））

第 11 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、映像資料のリスニング
第 12 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキンやチェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
第 13 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキーやトルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第 14 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（学生の要望を反映）、映像資料のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当初の目標であるロシア語能力検定試験に向けて、基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

また、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアの映画やニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れ、ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げてみましょう。

【テキスト（教科書）】

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291 が望ましい））
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
『大学のロシア語 1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013 年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテスト）50 パーセント、提出物の評価（課題や宿題等の提出）50 % で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。この授業で試験対策に効率良く取り組むことで合格し履歴書に記載できた、自信にもつながったといった意見がありました。その他に、実際にコミュニケーションで使えるロシア語をロールプレイで身につける学習も進めていきます。
毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。
コロナが終息した後に、ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。
授業形態（対面・オンライン）の変更については初回の授業で受講生にアンケートを取り、その結果も鑑みて事前に学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

Aim to pass the Russian Language Proficiency Test in October. While learning intermediate grammar at the same time, read a wide range of textbooks and deepen my understanding of Russian history and culture. By listening to movies and news, I will improve your Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing." Acquire practical conversation skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課 (中国人口政策の移り変わり)	読解
第 3 回	第 2 課 (74 年を経て内山書店が里帰り)	読解
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課 (病院食、なぜ不人気?)	読解
第 6 回	第 4 課 (高速鉄道に『マナーモード車両』現る)	読解
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課 (お年寄りに快適なスマートライフを)	読解
第 9 回	第 6 課 (人生の選択が多様化)	読解
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課 (初の『顔認識裁判』最終判決)	読解
第 12 回	第 8 課 (三星堆遺跡にまつわる裏話)	読解
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2022 年度版』朝日出版社、2022 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課 (90 年代生まれの新たな消費生活)	読解
第 3 回	第 10 課 (中国はタバコをやめられるか)	読解
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課 (貴安新区、最貧地域が起こした奇跡)	読解
第 6 回	第 12 課 (現代中国のペット事情)	読解
第 7 回	1 1、1 2 課のまとめ、発表	読解
第 8 回	第 1 3 課 (洪水一過の鄭州—ネットからこぼれ落ちた都市)	読解
第 9 回	第 1 4 課 (今も伝えられるタンカ芸術)	読解
第 10 回	第 1 5 課 (我が民宿の幸福度)	読解
第 11 回	1 3、1 4、1 5 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2022 年度版』朝日出版社、2022 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。2019 年試行のキャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria / Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習③	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで 1～2 頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria / Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN300CA
現代社会と情報 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポート（および知的財産管理技能検定）の内容を活用します。

【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1) 情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題」試験のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。試験は3回ありますが提出課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系前半（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者 CIO、コンプライアンス、OR や IE など
第3回	ストラテジ系前半（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール、情報ツールなど
第4回	ストラテジ系前半（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例等
第5回	ストラテジ系前半試験	ストラテジ系前半の確認となる試験と復習など
第6回	ストラテジ系後半（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系後半（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系後半（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系後半（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリなど
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介等とマネジメント系の一部
第11回	ストラテジ系後半試験	ストラテジ系後半の確認となる試験と復習など、マネジメント系を一部含む
第12回	情報倫理（ネットワーク倫理、情報化社会）および全会の計算を伴う問題について	計算問題および情報セキュリティ、情報社会における法と企業または個人の責任、情報倫理など
第13回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について、全体の計算を伴う問題について
第14回	情報倫理および計算問題試験	情報倫理および情報産業の確認および全体から計算を伴う問題の試験と復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料と演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「IT パスポート」の参考書および問題集が参考書になります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使い 3 回試験をします。試験結果点数の換算方法などの詳細についてガイダンスファイルを必ず参照してください。成績評価は 100 点満点に換算して 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに掲載されるガイダンスファイルを参照しない方がいらっしやいます。必ず参照してください。

【その他の重要事項】

- ・学習支援システムに掲載する最新の「ガイダンスファイル」を参照してください。成績や欠欠についての質問は、最初にまず「ガイダンスファイル」を参照してください。
- ・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
- ・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解/納得/了承」してから、本登録してください。
- ・情報処理技術者試験「IT パスポート」とは、情報処理の促進に関する法律（昭和 45 年法律第 90 号）に基づき、経済産業大臣が実施する情報処理に関する業務を行う者の技術の向上に資するため、情報処理に関して必要な知識及び技能を問う、日本の国家試験です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to can answer questions about strategy and management on the IT Passport exam of the Japan Information-Technology Engineers Examination.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Your overall grade in the class will be decided according to the three examination (100%).

ECN300CA
現代社会と情報B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoomを用いて実施する。毎回、テストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドオロネ、ギャドレ『サービス産業学説』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』 視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』 視聴
4	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『スティーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』 視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル—Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレット・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』 視聴
7	ビッグデータと人工知能	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excelでわかるディープラーニング超入門』、レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

8	デジタルエコノミー	ソロー・パラドクス、デジタル経済の計測、エレファント・カーブ、デジタル・サテライト勘定
9	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』 視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
10	個人情報の保護（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』、年金記録問題、マイナンバー
11	個人情報の保護（2）	個人情報保護とデータ利活用
12	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、匿名データ、特異値
13	公的マイクロデータの利活用（2）	一般用マイクロデータ、相関マイクロデータ
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint ファイルの Pdf ファイルに変換したものを授業支援システムにアップする。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline (in English)】

The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution, and sharing of information and knowledge, which has brought about major changes in the economy and society. On the other hand, with the accumulation and use of a large amount of personal information, anxiety about personal information protection has become apparent. Discuss how micro data (data on which individual information is recorded) should be used for the benefit of society as a whole while protecting personal information.

ECN300CA
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論Aでは産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式である。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス- 基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（1）調査方法	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（2）経営指標と特化係数	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計調査	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（商業、サービス業）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性、サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
9	月次産業統計調査と指数	経済産業省生産動態統計調査、鉱工業生産指数、商業動態統計調査、第三次産業活動指数、季節調整
10	産業連関表（1）レオンチェフ	ワシリー・レオンチェフ、DVD『13プラス』視聴
11	産業連関表（2）産業連関表のしくみ	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接統表、地域間表

- 産業連関表（3）産業 産業連関分析（輸入外生モデル）
連関分析（輸入外生モデル）
- 産業連関表（4）産業 産業連関分析（輸入内生モデル）
連関分析（輸入内生モデル）
- 産業統計の未来、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円

【参考書】

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2580 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必須ではないが、授業において Excel を用いた計算方法を紹介する）

【Outline (in English)】

Economic statistics A deals with industrial statistics. I will explain the flow from the administrative record about the business to the input-output table through the business register, economic census, and various industrial statistics.

ECN300CA
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論 B では世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、小テストを実施する。家計簿アプリを用いた結果についてレポートを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）年齢・時間・コーホート	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）ベティ＝クラークの法則	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差、
7	家計調査（1）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法
8	家計調査（2）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（3）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	家計簿アプリを用いた学生の消費支出調査の分析結果	家計簿アプリ、学生の消費支出調査
11	消費者物価指数（1）	指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
12	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
13	消費者物価指数（3）	実質化、要因分解

14 消費動向指数、まとめ 実質化、1 か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円

【参考書】

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2850 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト及びレポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

電卓

【Outline (in English)】

Economic statistics B deals with household statistics. Starting from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of census, household survey, and consumer price index.

PHL300CA
日本文化論
黒田 俊太郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本近代文学というジャンルの小説群から、いくつかの短編小説を取り上げ、読んでいく。

小説を読んで〈おもしろい／つまらない〉と感ずることがある。そして、それはテーマや思想といった、内容（何が書かれていたか）に向けられていることが多いだろう。だが、小説の形式（どのように書かれていたか）や小説の書かれた歴史的背景に目を向けるという方法があることも知っておきたい。

それは単に形式や背景の〈おもしろさ〉に気づくためではなく、それらと一心同体の関係にある内容を見つめなおすことでもある。

この授業では、小説を読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、それらの方法論を用いながら分析的に読むことを実践してもらう。またそうした実践を通して、日本の近代（化）についても考えてもらいたい。

【到達目標】

・短編小説に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]）
 ・短編小説に内在する「問い」についての学習者同士や教員との対話を通して、私たちが人生において向き合わねばならない本質的問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
 ・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指示された短編小説や関連する先行研究を読んでもらう。授業では、各短編小説や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連する課題にも必ず取り組んでもらう。また課題についてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的
第 2 回	志賀直哉の文学/「小僧の神様」	作品・テキスト・語り手①
第 3 回	志賀直哉の文学/「小僧の神様」	作品・テキスト・語り手②
第 4 回	視点・視点人物	同時代言説①
第 5 回	視点・視点人物	同時代言説②
第 6 回	芥川龍之介の文学/「舞踏会」	インターテクスチュアリティ①
第 7 回	芥川龍之介の文学/「舞踏会」	インターテクスチュアリティ②
第 8 回	田山花袋の文学/「少女病」	古地図を参照する①
第 9 回	田山花袋の文学/「少女病」	古地図を参照する②
第 10 回	太宰治の文学/「女生徒」	典拠研究①
第 11 回	太宰治の文学/「女生徒」	典拠研究②

第 12 回 中河與一の文学/「天の夕顔」 恋愛小説と全体主義①

第 13 回 中河與一の文学/「天の夕顔」 恋愛小説と全体主義②

第 14 回 まとめ 半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ 2 時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ・出席は毎回取る。
- ・全 14 回中 10 回以上の出席を単位修得の最低条件とする。
- ・遅刻は欠席 0.5 回とカウントする。
- ・課題提出は締め切り順守（基本は授業内の提出）。
- ・事前課題等を指示する場合は必ず取り組むこと。
- ・提出物 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に際しては、インターネット回線とパソコン、カメラ、マイクを用意してください。パソコンがない場合は、スマホやタブレットを代用してもかまいません。

また授業中も、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the methods to read novels analytically and practice reading some modern Japanese short stories by employing these methods. Through these practices, students are also expected to learn about the modernization of Japan and consider how people tried to cope with it.

POL300CA
政治過程論
岡崎 加奈子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身に付け、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業において、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。また、小テストおよび課題レポートを複数回予定している。小テスト・課題については解説・講評をおこない、知識と理解の定着をはかる。

授業形態は、対面授業でおこなう。ただし、新型コロナウイルスの影響等で各回の形態について変更の可能性はある。変更がある際には学習支援システムにより周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	政治過程論とは何か
第2回	現代社会と政策	現代社会の特徴と政策について
第3回	権力とは何か	権力と政治について
第4回	代表制	民主主義と代表制について
第5回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第6回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第7回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第8回	政党制	政党の発達と政党制
第9回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第10回	自治体のしくみ	自治体の政治過程と地方分権改革
第11回	自治体の財政・政策	自治体の財政・政策とその課題
第12回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第13回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第14回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価をおこなう。平常点は、毎回の授業への取り組みや課題提出（60％）、レポート（20％）、小テスト（20％）により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

POL300CA
国際政治論
曹 海石
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第 2 回	東西冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第 3 回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第 4 回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第 5 回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第 6 回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第 7 回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第 8 回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第 9 回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第 10 回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第 11 回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第 12 回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第 13 回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の三大新聞紙以外に、中国の人民日報海外日本語版や韓国の朝鮮日報海外日本語版などを読むことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996 年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004 年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010 年。
- 4、鐔木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992 年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988 年。
- 6、国分良成など『日中関係史』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度「平常点」30%、レポート課題20%、期末テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire international politics

PHL300CA
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。次に国際的な背景といえる中華思想、貴族思想としての小中華思想、宗教思想としての神仏習合思想など重要なトピックを講義する。武士の思想としての忠誠と反逆は重点をおいて詳細に検討する。さらに政治思想としての公権授受思想、合議の思想、徳治主義などを考察する。思想史に関するいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

現代に影響を及ぼしている日本における基層の倫理・宗教・政治思想を学ぶ。各時代の国際環境の中で影響をもった外来思想の意味を考える。日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想としての忠誠と反逆について理解を深める。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係の考察など歴史的思考力の獲得をめざす。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題回答のメモ（字数 300 字程度）と文章化された一つの課題回答ペーパー（600 字程度）を授業中に毎回 hoppii に提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序
2	小中華思想	中国文化と国粹主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家思想、平家一門の繁栄、清盛の思想変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士、主従思想
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本の政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想
14	蒙古襲来と神国思想	内政と外交、防衛体制と権力集中、神国思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道德思想史』（岩波書店、1977 年改版）

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加平均で評価する（90 %）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を副次的に考慮して（10 %）、総合評価を行う。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Consider the traditional thought that is the basis of Japanese thought. For example,the Chinese thought,and Shinbutsu-shugo thought as a religious thought, loyalty and rebellion as samurai ideas ,the idea of giving and receiving public rights as a political idea, the idea of consensus, and Tokuchi principle. At the end of the course, students are expected to acquire historical recognition method.Students must submit a short paper for each assignment.Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働需要 1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要 2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要 3、経済成長の指標	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要 4	所得分配
第5回	経済成長 1	国民総生産、購買力平価
第6回	経済成長 2	ソロー・モデル
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長 3	貯蓄率、労働成長率の変化
第9回	経済成長 4	一人あたり資本の成長率、技術水準の変化
第10回	経済成長 5	相関と因果、回帰分析、条件付き収束、成長会計、発展会計
第11回	二重構造と労働移動 1	産業構造転換の記述統計、レイス・モデル
第12回	二重構造と労働移動 2	ハリス＝トダロ・モデル
第13回	二重構造と労働移動 3	トダロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』 日本評論社

ジェトロ・アジア経済研究所他編 (2015) 『テキストブック開発経済学 第3版』 有斐閣

戸康康之 (2015) 『開発経済学入門』 新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去4年間ありません。

【Outline (in English)】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A では、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門 B では、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	貿易 1	比較優位、絶対優位
第 2 回	貿易 2	2 財 1 時点モデル
第 3 回	貿易 3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第 4 回	貿易 4、金融 1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第 5 回	金融 2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第 6 回	金融 3	企業の利潤最大化、資本制約
第 7 回	まとめと解説、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	金融 4	1 財 2 期間モデル（消費者かつ生産者）
第 9 回	金融 5	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル
第 10 回	金融 6	実証分析
第 11 回	起業 1	信用制約、一般均衡
第 12 回	起業 2	貧困の罠
第 13 回	起業 3	実証研究
第 14 回	まとめと解説、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

ハ・ナシ、ー、テ・ュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず 書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去 4 年間ありません。

【Outline (in English)】

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

*

SES200CA
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第13回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

HSS300CA
人間とスポーツ
杉本 龍勇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】

スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。
レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツと経済の関連性	マクロ経済およびミクロ経済におけるスポーツの経済効果かんする概要について
第2回	現代社会とスポーツの関わり	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第3回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第4回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第5回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第6回	スポーツのビジネス化のプロセス	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツビジネスにおけるブランディング戦略	スポーツビジネスにおけるブランディングの意義および戦略について
第11回	スポーツ産業概要	スポーツ産業に属する各業種の概要について
第12回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第13回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

【教室における対面授業が可能な場合】

平常点： 50%

試験（論述）： 50%

【オンライン授業のみで開講する場合】

平常点ならびにレポート提出： 50%

試験（オンライン形式）： 50%

注意点：

授業状況によって、試験を中止し、レポートのみの評価に変更することもあり得る。その場合は、学習支援システムに情報をアップするので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。
またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

教室における対面授業が可能な場合、プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。
オンライン授業のケースでは、オンラインミーティングアプリを使用し、ライブによる講義を実施する予定。毎講義については録画をし、試験前にオンデマンドとして配信する予定。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。
学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。
またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports, in particular, health care promotion by sports activities, structure of sports business (ex.professional sports, sports event and more)and consumer behavior.

Your required study time without lecture is at least one hour to collect und understand news and information about sports economics and business.

Grading will be decided based on score of examination (50%) and participation on lectures (50%).

LANe300CA
時事英語セミナー A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus

11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.

Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe300CA
時事英語セミナー B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

HIS300CA
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について深い知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかなするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード資料、(時に動画等)）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。課題の内1つの回答（600字程度）を完成（文章化）させ、他の課題のメモ（300字程度）とともに毎回授業中に提出してもらう予定である。授業後採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、將軍絶対化
2	武家統一政権と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禪秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始	守護連合、足利義教の恐怖政治、將軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国戦国の開始ー北条早雲を中心にー	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿 21 箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐる、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の 2 面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

14 信長と南蛮文化 宗教勢力との対決、木綿と鉄砲、中世文化の否定、南蛮寺、神格化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価（相対平均）が中心（90 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（10 %）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保つようにしたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット。授業中に課題を提出するために必須。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代・中世・近世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is deepen understanding of the formation of Japanese life culture. It is formed from the Muromachi period to the early modern period. This course deals with these period. Through activities that discuss several themes related to cultural history, students will be expected to have historical recognition methods that make sense based on facts. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
経済学史 A
山本 英子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学史は、経済学を歴史的視点から捉えて、経済学の各理論がどのように成立し発展してきたのかについて学ぶ科目である。経済史とは別の領域であり、経済思想および経済理論の歴史として学修する。この経済学史 A では、黎明期の経済思想から古典派経済学及びマルクス経済学までの各理論の関連の理解をめざす。経済学を学ぶのであれば、18 世紀のアダム・スミスが何を批判して何を主張していたのかなど、過去の主要な経済学者については知っておくべきであろう。経済学史の授業では、経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことで、そうした知識を修得していく。

【到達目標】

・重商主義と、それを批判したアダム・スミスを始祖とする古典派経済学と、マルクス経済学までの、全体的な発展の経緯を理解して説明できる。

・これらの時代の各経済学者たちが、それぞれどのような問題に直面し、どのような思想に基づき、どのような論争を行いながら経済学理論を導いていたのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面の講義となる。理解の定着のための授業内小テストを 3 回実施し、次の授業時に小テストの解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学史で何を学ぶのか、歴史的視点から見る経済学についての解説
第 2 回	重商主義に至るまでの経済思想	アリストテレス、アキナス、マン、ベティ、ロック、コルベール
第 3 回	三大バブル	ロー（ミシシッピ・バブル）
第 4 回	商業社会と奢侈論争	マンデヴィル、ヒューム、ケネー（重農主義） 小テスト①
第 5 回	18 世紀の古典派経済学（1）	スミス『道徳感情論』（公平な観察者、同感）
第 6 回	18 世紀の古典派経済学（2）	スミス『国富論』①（全体の構成、分業、価値論）
第 7 回	18 世紀の古典派経済学（3）	スミス『国富論』②（見えざる手、資本蓄積、重商主義批判）
第 8 回	18 世紀の古典派経済学（4）	スミス『国富論』③（小さな政府、植民地問題） 小テスト②
第 9 回	スミスの時代の諸学説	ステュアート（重商主義）、フランスとイタリアの主観価値学説
第 10 回	19 世紀初頭の諸学説	功利主義、空想的社会主義、先駆的な理論提起
第 11 回	19 世紀の古典派経済学（1）	マルサス（人口問題）、リカード（投下労働価値説、差額地代論、比較優位）
第 12 回	19 世紀の古典派経済学（2）	J.S. ミル（生産分配峻別論、賃金基金説） 小テスト③

第 13 回 マルクス経済学 弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第 14 回 授業の総括 授業内試験（春学期に学んだ内容の理解度の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を再読してまとめながら理解し、紹介する文献等を読むことが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとする。

【参考書】

初回授業で全体的な参考書を紹介する。各回の授業でも関連する著作や文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（5 % ×3 回：15 %）、最終回の授業内試験（85 %）を基本としつつ、授業への取り組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【その他の重要事項】

通年で春学期の「経済学史 A」は前編、秋学期の「経済学史 B」は後編となるが、一方だけの受講も可能である。どちらも高度な経済数学の知識は必要としないが、基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学を理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the history of economic thought that studies the development of economic theories, especially from early economic thoughts to classical economics of the 19th century. The aim of this course is to understand the relationship between mercantilism and classical economics for which Adam Smith laid the foundation.

ECN200CA
経済学史 B
山本 英子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学史は、経済学を歴史的視点から捉えて、経済学の各理論がどのように成立し発展してきたのかについて学ぶ科目である。経済史とは別の領域であり、経済思想および経済理論の歴史として学修する。この経済学史 B では、経済学史 A の内容に続く 19 世紀後半から 20 世紀に焦点を当てて、新古典派経済学、ケインズ経済学、新自由主義経済学までの変遷の理解をめざす。経済学を学ぶのであれば、20 世紀の J・M・ケインズが何を批判してどんな理論を提起していたのかなど、過去の主要な経済学者については知っておくべきであろう。経済学史の授業では、経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことで、そうした知識を修得していく。

【到達目標】

・新古典派経済学、ケインズ経済学、その後の新自由主義までの経済学の、全体的な進展と影響を理解して説明できる。
・19 世紀後半から 20 世紀の経済学者たちの思想、理論、提起された経済政策の違いを理解しながら、各経済学者の業績を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面の講義となる。理解の定着のための授業内小テストを 3 回実施し、次の授業時に小テストの解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	19 世紀末～20 世紀の経済学史的展望
第 2 回	新古典派経済学（1）	ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー（限界革命）
第 3 回	新古典派経済学（2）	エッジワース、パレート（効率的な資源配分
第 4 回	新古典派経済学（3）	マーシャル（部分均衡論、余剰分析） 小テスト①
第 5 回	20 世紀諸初頭の諸学派	ドイツ歴史学派、オーストリア学派、ローザンヌ学派、制度学派、ケンブリッジ学派
第 6 回	厚生経済学	ピグー、カルドア、アロー
第 7 回	ケインズ経済学（1）	ケインズ経済学の形成と影響 小テスト②
第 8 回	ケインズ経済学（2）	『一般理論』① 概要、古典派経済学批判
第 9 回	ケインズ経済学（3）	『一般理論』② 有効需要の理論、利子理論
第 10 回	ケインズ経済学（4）	『一般理論』③ ケインズの結論 小テスト③
第 11 回	ポスト・ケインズの諸学説	新古典派総合、経済成長理論
第 12 回	資本主義の変容	シュンペーター（創造的破壊）
第 13 回	自由主義の進展	ハイエク（自生的秩序）、フリードマン（新自由主義、マネタリズム）
第 14 回	授業の総括	授業内試験（秋学期に学んだ内容の理解度の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を再読してまとめながら理解し、紹介する文献等を読むことが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとする。

【参考書】

初回授業で全体的な参考書を紹介する。各回の授業でも関連する著作や文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（5 % ×3 回：15 %）、最終回の授業内試験（85 %）を基本としつつ、授業への取り組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【その他の重要事項】

通年で春学期の「経済学史 A」は前編、秋学期の「経済学史 B」は後編となるが、一方だけの受講も可能である。どちらも高度な経済数学の知識は必要としないが、基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学を理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the history of economic thought, which studies the development of economic theories in the late 19th and 20th centuries, including marginal revolution, Keynesian economics, and opinions on liberalism. The aim of this course is to understand the influences and relationships between theories of the era.

ECN200CA
公共経済論 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

本講義は、対面で行う。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念（総費用、可変費用、限界費用、平均費用）について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と公平性について。

13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験（100%）により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】

① 本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

② 本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③ 本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④ 授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the benefits of a market economy through the theory of perfect competition. First, we will study the theory of consumer behavior and corporate behavior, which are the basis of market analysis. We will study the utility maximization problem of consumers and the profit maximization problem of firms, which are the basis for the analysis of consumer and firm behavior, and understand the mechanism of consumer and firm behavior. Next, students will learn that the market equilibrium, which examines the consequence of the market transaction, achieves desirable transactions from the perspective of economic welfare. Finally, we will study the exchange economy, a more general framework for market analysis, and summarize the advantages of the market mechanism after understanding the basic theorems of welfare economics.

The goal of this course is to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and to consider the desired relationship between markets and government in modern society. In this lecture, we will focus especially on the advantages of the market economy.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Be sure to do the practice exercises as a review of the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA
公共経済論 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、市場の欠点（失敗）を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用し、公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

【到達目標】

公共経済論 A に引き続き、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係を、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。本講義は、すべて対面にて実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システム（Hoppii）を通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出量取引の役割について。
6	ゲーム理論の基礎 (1)	戦略形ゲームとは。
7	ゲーム理論の基礎 (2)	最適反応とナッシュ均衡について。
8	ゲーム理論の基礎 (3)	応用 (共同出資ゲーム等)。
9	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
10	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
11	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part1。
12	公共財 (4)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part2。
13	メカニズムデザイン入門	クラークメカニズムによる公共財供給について。

14 講義総括と問題演習 秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とする。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教室における試験 (100%) により評価を行う。ただし、新型コロナウイルスの感染状況に依存し、評価方法が変わる場合がある。その場合は、学習支援システム (Hoppii) および講義内にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

単なる理論学習だけでなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the shortcomings (failures) of markets and how to design economic institutions and policies aimed at eliminating them. First, we will learn about market failures caused by the existence of externalities. We understand that the implementation of economic policies through the internalization of externalities is the key to solving these problems. Next, we will study the market failures caused by the existence of public goods. Finally, students will learn about the importance of designing economic institutions that take into account the incentives of economic agents. By applying the mechanism design theory, students will learn how to solve the problem of free-riding on public goods.

Continuing from Public Economics A, the goal of this course is to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and to consider the desired relationship between markets and government in modern society. In this class, we will focus on the role of governments for defects of the market economy.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デボジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020)『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
一方井誠治 (2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 5 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第 6 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 7 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 8 回	生物多様性	生態系サービス
第 9 回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 10 回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	環境金融、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂 (2019)『わかへる 環境法 増補改訂版』信山社
神山智美 (2018)『自然環境法を学ぶ』文真堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
日本経済史 A
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 明治維新（1868 年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成－成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。
- (2) 単なる「史実」の「羅列」ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する 3 つの「商品」——資本・労働・土地——とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

【到達目標】

到達目標は以下の 2 点である。

- (1) 日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになること。
- (2) その際、具体的「史実」とその「理論－論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 講義スタイルの基本的

(a) 正当な理由にもとづいて教室での受講ができない受講生を考慮に入れ、Zoom も併用する対面講義（ハイフレックス）です。

(b) その具体的な講義スタイルは、(2) 以下で説明する手順を取り入れたハイブリッド講義です。

(c) したがって、Hoppii 経由で事前に配布した複数の資料だけでなく、講義中にも資料を共有したり、チャット機能を用いて同時配布することから、オンラインで受講する学生はもとよりですが、教室で受講する受講生も、教室には適切な端末機器を携帯することを強く推奨します。

(d) 以下で示す授業計画からも分かるように、ハイフレックス講義を前提としながら、オンライン方 による「中間のまとめ」とそれに基づいて自由に声が出せる質疑応答を定期的に組み入れた、双方向的な講義です。

(2) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」を用いて教室あるいはオンラインで参加する受講生で共有し、講義の共通「素材」として使用します。

(3) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できます。

(4) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に Hoppii の教材欄を通じてアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができます。

(5) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできます。

(6) 講義の最後に 10 分ほどの「今日の質問コーナー」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックします。

(7) 最終授業では、これまで定期的に行われてきた「質疑応答」や(6)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義と「日本」資本主義	「日本」という資本主義的地勢と国民経済形成：資料「資本の原型 Ver.1」配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第 2 回	明治維新の「政治」的意義を経済学からみる	明治維新政府の経済的特徴：王政復古・版籍奉還・廃藩置県 → 「学習ガイド A-1」を配布
第 3 回	明治維新と資本主義形成との関係	封建的規制の廃止の経済的意味：資料「資本の原型 Ver.1」と「学習ガイド A-1」による明治初期の資本主義的制度形成を整理
第 4 回	第 1 回～第 3 回までの講義の小括と質疑応答	明治初期の制度改革についての質疑応答
第 5 回	地租改正の経済的意味	財政的視点から地租改正を整理し、私的所有権の確立という法的側面を「展望」する：資料「明治初期財政」の配布
第 6 回	秩禄処分	財政的視点から秩禄処分を整理し、それを資本形成（長期）的視点から位置づける：資料「資本の原型 Ver.2」配布
第 7 回	第 5 回と第 6 回の講義の小括と質疑応答	地租改正と秩禄処分という初期資本主義形成にとって大きな制度改革を確実に理解するための質疑応答
第 8 回	通貨金融制度の形成	地租改正・秩禄処分の「意味」を踏まえて、明治初期を貨幣的側面から整理する：「学習ガイド A-2」配布
第 9 回	大隈財政と松方財政および日本的「産業革命」について	「財政」政策の資本制形成能力と技術導入の「日本」的特殊性：「学習ガイド A-3」および「学習ガイド A-4」配布
第 10 回	第 8 回と第 9 回の講義の小括と質疑応答	財政が資本主義的な諸制度形成をどのような関係を中心とした質疑応答
第 11 回	明治期の産業構造の整理と転換期としての二つの「戦争」	工業の近代化の「日本」的あり方と二つの戦争の経済史的意味を整理する：「学習ガイド A-5」および「学習ガイド A-6」配布
第 12 回	いわゆる「農工商資金循環」論の紹介	農業セクターから工業セクターへの資金移動をこれまでの講義の総括を展望する：「資本の原型 Final」配布
第 13 回	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」(1)	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」という視点から総括的に論じ直し、質疑応答の素材とする
第 14 回	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」(2)	配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評し、質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を共同で作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第2刷、2015年、2800円＋税：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excelなどのような機能をマウントしたPCあるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年

『敗北と憶想』航思社、2019年

「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021年

【Outline (in English)】

(1) Our class aims at understanding the specific period from the Meiji Restoration (1868) to the WWI as the "formation-establishment" process of Japanese Capitalism.

(2) (1) is, however, composed not simply of chronologically "sorting out" the historical facts but rather of theoretico-historical grasping of the productive factors of capitalism such as capital, labour, and land in relation to the establishment of the modern social institutions of course including the State called "Nippon".

ECN300CA
日本経済史 B
長原 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。

(2) 単なる「史実」の羅列ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。

(3) 戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

【到達目標】

到達目標は以下の2点である。

(1) 日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。

(2) またそのさい、「史実」とその「理論－論理」的理解を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 講義スタイルの基本的

(a) 正当な理由にもとづいて教室での受講ができない受講生を考慮に入れ、Zoomも併用する対面講義（ハイフレックス）です。

(b) その具体的な講義スタイルは、(2)以下で説明する手順を取り入れたハイブリッド講義です。

(c) したがって、Hoppii経由で事前に配布した複数の資料だけでなく、講義中にも資料を共有したり、チャット機能を用いて同時配布することから、オンラインで受講する学生はもとよりですが、教室で受講する受講生も、教室には適切な端末機器を携帯することを強く推奨します。

(d) 以下で示す授業計画からも分かるように、ハイフレックス講義を前提としながら、オンライン方による「中間的まとめ」とそれに基づいて自由に声が出せる質疑応答を定期的に組み入れた、双方向的な講義です。

(2) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それをZoomの「画面共有」を用いて教室あるいはオンラインで参加する受講生で共有し、講義の共通「素材」として使用します。

(3) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できます。

(4) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後にHoppiiの教材欄を通じてアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができます。

(5) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできます。

(6) 講義の最後に10分ほどの「今日の質問コーナー」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックします。

(7) 最終授業では、これまで定期的に行われてきた「質疑応答」や(6)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1890 年恐慌の意義と戦間期の恐慌を位置づける	戦間期の恐慌を「予め」まとめる：資料「景気循環」および秋学期全体で用いる統計資料の配布を開始する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第 2 回	「戦間期」の俯瞰的な局面区分	第一次世界大戦から第二次世界大戦を日本における具体的な経済的出来事を示しながら局面区分する：資料「時期区分」を配布する。
第 3 回	一度「恐慌論」に戻ってみて——景気循環の仕組み	本来経済理論で講義すべき「恐慌論」を資料「恐慌」を用いて集中的に講義し、そのうえで次回からの戦間期における恐慌の反復の経済的意味を整理する。
第 4 回	「戦間期」における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。また資料「1_ [1910 年代初期]」と「2_ [大戦フ ーム]」を配布する。
第 5 回	「戦間期」日本経済の世界的背景	第一次大戦後の世界構造を整理する：資料「3_1 [世界経済の新局面]」を配布する。
第 6 回	「戦間期」日本経済の新局面 (1)	第一次大戦後の日本経済の新局面を整理する：資料「3_2 [日本経済の新局面]」を配布する。
第 7 回	「戦間期」日本経済の新局面 (2)	産業構造の変化（重化学工業化と都市化）：資料「3_2 [日本経済の新局面]」と当該期の経済統計の集中的理解を深める。
第 8 回	「戦間期」日本経済の新局面 (3)	戦間期における政策体系を金融的側面（1920 年恐慌 → 関東大震災 → 救済政策 → 1927 年金融恐慌）から整理する：資料「4_1_1 ~ 3 [金融再編]」を配布する。
第 9 回	第 6 回～第 8 回の講義をめぐる質疑応答	戦間期における日本経済の新局面を「史実」とその理論的解釈をまとめ、質疑応答を行う。
第 10 回	井上財政と「昭和恐慌」	20 年代を通じた再建金本位制への復帰努力とその失敗：資料「4_1_3 [金融再編]」の配布
第 11 回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 12 回	「高橋財政」の政策体系 (2)	資料「5_1 [高橋財政]」の配布 「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 13 回	戦前と戦後の連続性と断続制	資料「5_2 [高橋財政]」の配布 「高橋財政」と「戦時統制経済」、そして戦後経済成長との連続性と非連続性
第 14 回	秋学期の総括と戦後日本経済（論）の初発的特徴を理解するためのディスカッション	レポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのアクション・ペーパーの総括的講評を行い、レポート作成のための準備を促すために資料「傾向と対策」を配付する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

記述式の学期末試験（レポート）によって成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウントした PC あるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年
「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021 年

【Outline (in English)】

(1) Our class aims at historically trace the development of Japanese Capitalism and and the necessary changes associated with it in the inter-war phase based and then to define the former as the part of the preliminary stage for the world-wide transformation from the fordism to the post-fordism.

(2) (1) is, however, composed not simply of hronologically “sorting out” the historicals facts but rather of theoretico-historical grasping of the establsihment of Japanese Finance Capitalism and the social institutions closely associated with it.

(3) (1) and (2) also aim at having a bird’s-eyes view of the Japanese Economy after the WWII.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンラインで行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴァント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）

ラース・マグソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）

米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial

supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?". In replying to them, mercantilism was to be formed.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17 世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17 世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18 世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18 世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンラインで行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します。またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A / B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が日を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）

ラース・マクスソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）

米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ビグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2019、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編[第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	名目 GDP と実質 GDP
4	データで見る日本経済 3	物価指数の概念と作成方法
5	データで見る日本経済 4	失業率の概念と作成方法
6	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
7	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
8	雇用問題 3	若年者の雇用問題
9	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線や供給曲線、及び弾力性の概念等を学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN300CA
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や荒廃農地の増加、農産物輸入額の増加などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学の手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	食の安全	GAP、HACCP
第 5 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 6 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 7 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 8 回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第 9 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術
第 10 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 11 回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第 12 回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
第 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

荏開津典生・鈴木宣弘 (2020) 『農業経済学 第 5 版』岩波書店

【参考書】

生源寺眞一 (2013) 『農業と人間』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines food and agriculture in Japan.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on food and agriculture and to comprehend Japanese agriculture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的な手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第 2 回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閑/中耕農業
第 3 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 4 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第 8 回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第 9 回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第 10 回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第 11 回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第 12 回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第 13 回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第 14 回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版。その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

The goals of this course are to comprehend forestry and fisheries in Japan and to acquire methods of economic analysis on resource management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何かー定義と歴史的展開ー	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題 わが国の医療提供体制	診療報酬制度の課題 医療提供体制の概要
8	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改革	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改革による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 18 版）』有斐閣、2021 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

「コンテンツ教材の視聴状況（参考資料）、毎回実施される確認テストの受験状況と点数」（50 %）と「学期末試験の点数」（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケートの意見では教材の事前配布を望む声が強かった。

教材の事前配布により、コンテンツ視聴等に影響が出ることも懸念されるが、受講生の便宜を図るため、極力、事前配布としたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉えるべきものである。本講義では Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19 を見据えた政策対応と今後の展開	Covid-19 に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて 2 時間、講義後に講義資料を参考に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。
「コンテンツ教材の視聴状況（参考資料）、毎回実施される確認テストの受験状況と点数」（50 %）と「学期末試験の点数」（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では教材の事前配布を望む声が強かった。
教材の事前配布により、コンテンツ視聴等に影響が出ることも懸念されるが、受講生の便宜を図るため、極力、事前配布としたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to give deeper comments and discussion on the topics that are adopted Social Policy A.

Considering the situation of the Covid-19 Pandemic, we would like to focus on the topics especially in the fields of medical service.

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特長的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021 年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。

・講義内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内での演習等を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education.

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。
・授業内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内で演習の機会を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net under COVID-19 is also discussed.

ECN300CA
金融各論 I A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面による講義形式で行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義では数値例をもとに。講義ではアサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義が行われる日に提出してもらい。次回の最初にクイズの要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	イミュニゼーション
4	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
5	リスク資産評価 2	複数期間モデル
6	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
7	株式収益率の分析	シミュレーション
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	数値例を用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ボータブル・アルファ戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）

手嶋宜之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年 Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

【成績評価の方法と基準】

講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. We focus on asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面による講義形式で行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義が行われる日に提出してもらう。次回の最初にクイズの要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga 『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）

R・ブリーリー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、藤井 真理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス 第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方とも学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義は昨年一昨年と、「Zoomによる動画配信」方式が好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパー（レポート含む）と課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールが裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第14回	オークション②	ファーストブライズおよびセカンドブライズ・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021
および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
- ⑤ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

"Game theory" is used as a powerful analytical tool in many fields of economics, and is also applied as a basic theory in corporate organizations and many business scenes. In the spring lecture A, students will systematically learn "Game Theory and its application" from the basics to a more advanced content. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN300CA
情報経済論 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル＝エージェントの理論；モラルハザード
 (III) プリンシパル＝エージェントの理論；アドバース・セレクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主體的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義は昨年一昨年と、「Zoomによる動画配信」方式が好評だったことから、その経験も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第2回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第4回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェンツ）
第6回	モラルハザード④：複数エージェンツの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第7回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第8回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第9回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第10回	不完備契約①	関係特殊投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第11回	不完備契約②	関係特殊投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在

第12回	不完備契約③	「資産所有（財産権）」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権
第13回	不完備契約④	「資産所有（財産権）」アプローチ ②企業の境界の決定
第14回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021
 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。
 課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
- 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

(I) Uncertainty and Economics of Information

(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard

(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection

(IV) Theory of Incomplete Contracts

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content.

ECN300CA
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、財政赤字により、多額の政府債務が積み上がっています。国から補助金をもらっている地方自治体も財政の効率化が必須です。この授業の履修者はこうした問題を経済学の観点からどのようにとらえたら良いかについてを学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を論理的に考えるられるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論を理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見かたを身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのようにとらえたら良いかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となりました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせてポイント解説をした音声配信します。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を毎回出して、私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場 (1)	市場の失敗、パレート効率。
第 2 回	政府と市場 (2)	政府の抱える問題。自治体と分権化。
第 3 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第 4 回	財政データ (1)	歳入と歳出の分類。財政指標の見方。
第 5 回	財政データ (2)	決算カードの見方。
第 6 回	財政データ (3)	自治体の破綻と財指標のデータとの関係。
第 7 回	財政の役割	国と地方の役割分担。
第 8 回	所得再分配機能	所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 9 回	経済安定化機能	経済安定化機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 10 回	資源配分機能	資源配分機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 11 回	分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理。
第 12 回	分権化定理 (2)	分権化定理と地方公共財の便益のスピルオーバー。
第 13 回	コースの定理	便益のスピルオーバーとコースの定理。
第 14 回	投票の理論	中位投票者の定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

林宜嗣 (2021)『新・地方財政』有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配付し、解説の音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞くことを推奨します。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local government system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments' debt due to their deficits. We have to get our governments' expenditures efficient. Students learn how to consider those issues from the standpoint of economics.

Learning objective:

Students should be able to consider issues on local public finance logically on their own. Students should also understand several theories of public finance and local public finance and learn how to obtain and evaluate municipal data.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN300CA
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政 A での講義をもとに、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、それらを経済学からとらえた場合、どのように評価できるのかについて、履修者のみなさんは学びます。

【到達目標】

地方財政 A で学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが目標です。さらに統計の数字を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、その特徴と近年の傾向を理解します。履修者自身が経済学の立場からこれらに横たわる問題について考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となっていました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせてポイント解説をした音声も配信します。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を毎回出して、私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税と地方税固有の原則	税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税のしくみ。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税の均等割と所得割。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税の仕組み。都道府県間のばらつきの程度。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税。
第 8 回	固定資産税 (2)	公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金のしくみ。国庫支出金と便益のスビルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税のしくみ。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。
第 14 回	再考：公共財	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて地方財政 A と財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

林宜嗣 (2021)『新・地方財政』有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配付し、解説の音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞くことを推奨します。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of the local public finance A. Students learn local government taxes and bonds, and subsidies and grants from the central government to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand how local taxes are imposed in our life and to understand characteristics of local bonds, subsidies, and grants from the central government to local governments on the basis of these statistics. Students should be able to consider issues lying on these systems of local public finance from standpoint of economics.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, we will examine the current situation and issues of the Japanese social security system.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics.

ECN300CA
産業組織論 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れをを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に zoom による授業を行う。日、時限は、授業支援システムの「お知らせ」によりその週の月曜日に周知する。その録画ファイルと授業時に作成したノートをアップする。録画ファイルのリンク先および授業支援システムにノートのアップの有無を授業支援システムの「お知らせ」を通じて周知する。zoom による授業に参加できなかった学生には、これらでの確認をお願いする。その上で、春学期に 1 回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。授業内容の質疑応答は、zoom による授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）

第 13 回 完全競争モデルでの市場均衡 市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第 14 回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例 完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、zoom による授業の図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、授業後、授業の録画ファイルや授業時作成のノートを用いて、説明の筋道をフォローし、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が 9 割、1 回の練習問題解答の提出状況に 1 割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大きく示すことで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire theoretical understandings of competitive market model. Competitive market model is often used as a benchmark model, for evaluating competitive policy or regulatory policy to specific industries. For this sake, microeconomic theoretical understandings for competitive market are inevitable.

ECN300CA
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に zoom による授業を行う。日、時間は、授業支援システムの「お知らせ」によりその週の月曜日に周知する。その録画ファイルと授業時に作成したノートをアップする。録画ファイルのリンク先および授業支援システムにノートのアップの有無を授業支援システムの「お知らせ」を通じて周知する。zoom による授業に参加できなかった学生には、これらでの確認をお願いする。その上で、春学期に 1 回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。授業内容の質疑応答は、zoom による授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第 2 回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第 3 回	独占モデル	限界収入関数の説明
第 4 回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第 5 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第 6 回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第 7 回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第 8 回	クールノ複占モデル	企業 2 社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第 9 回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第 10 回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第 11 回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価

第 12 回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）
第 13 回	クールノ複占モデル（応用例Ⅱ）	垂直統合の合理性の根拠をクールノ複占モデルを用いて明らかにする。
第 14 回	産業組織論 B の復習	産業組織論 B の復習および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の録画ファイル、ノートの閲覧を通じて説明の筋道をフォローすることで復習を行ってほしい。秋学期に 1 回程度課題を授業支援システムの課題にアップするので、解答作成し、授業支援システムの「課題」にアップしてほしい。zoom による授業内の図への説明、ノート、録画ファイルによる復習により理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請があれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、期末課題を解答して授業支援システムにアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に 90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1 回）の提出状況に 10 % のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

zoom の電子ノート共有による図解で、書き入れる箇所が多くなると見づらくなる恐れがある。そうした図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understanding a seller monopoly model and cournot duopoly model. These models are often used for evaluating the effects of competitive policy or regulatory policy on market performance of specific industry. Microeconomic theoretical understandings for two models (as basic models) are required to describing market performance of real industry.

ECN300CA
金融各論Ⅱ A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
金融各論Ⅱ B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内外の負債による資金調達と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80 年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90 年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第 4 回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第 5 回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第 6 回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第 9 回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第 13 回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する
第 14 回	課題作成	今までの内容を確かめるために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターし、必要なデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくつくり話すように。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FP などの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn theories and practices of debt finance. The goal of this course is to understand cash flow and present value as well as the roles of various debt instruments in corporate finance. Students are expected to draw yield curve, to calculate credit risk premiums of corporate bonds. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
企業金融論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

B では、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて株式のリスクとリターンを関係する。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第 2 回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第 3 回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第 4 回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第 5 回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第 6 回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第 7 回	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
第 8 回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第 9 回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第 10 回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第 11 回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第 12 回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第 13 回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ
第 14 回	課題	データをダウンロードし、効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターし、割り当てられたデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、F P などの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

M B O , 株式持合, 役員報酬, 中小企業金融, コミットメント・ライン, 銀行ガバナンスと銀行リスク, 会社法の経済分析, 来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In course B, we first learn theories and practice of equity finance. The goal of this course is to understand the risk of equity investment as well as the impacts of equity financing on the stock price. Students are expected to calculate abnormal return around equity finance. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
数理統計学 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 A」では、統計学の基礎となる確率論を学びます。（既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん、将来実証的な分析を行いたいと考えている皆さんは、是非履修してください。）

【到達目標】

確率論の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

確率論を基礎から勉強し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	確率と統計の考え方
第 2 回	記述統計	データの代表値と視覚化
第 3 回	Excel による解析 (1)	基本操作と分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析 (2)	度数分布表、2 変数の関係
第 5 回	確率 (1)	標本空間と確率
第 6 回	確率 (2)	条件つき確率と独立性
第 7 回	確率 (3)	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布 (1)	離散型確率変数
第 9 回	確率変数と分布 (2)	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布 (3)	連続型確率変数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散、標準偏差 (Excel による実習)
第 12 回	基本的な分布 (1)	主な離散分布 (Excel による実習)
第 13 回	基本的な分布 (2)	主な連続分布 (Excel による実習)
第 14 回	基本的な分布 (3)	正規分布 (Excel による実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）
藤本竜著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %)

レポート (50 %)

※就職活動を行う 4 年生には、平常点について別途配慮します。

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics A", you will learn the theory of probability, which is the basis of mathematical statistics.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the basic idea of probability theory through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

ECN300CA
数理統計学 B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

【到達目標】

統計学の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。実習等のフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布 (1)	標本と標本平均
第 2 回	標本分布 (2)	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布 (3)	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布 (4)	中心極限定理と正規分布による近似
第 5 回	正規分布から派生する分布 (1)	カイ 2 乗分布, t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布 (2)	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布 (3)	カイ 2 乗分布, t 分布, F 分布
第 8 回	推定 (1)	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定 (2)	正規母集団と二項母集団の推定
第 10 回	推定 (3)	点推定の規範
第 11 回	検定 (1)	検定の考え方
第 12 回	検定 (2)	検定における検出力
第 13 回	検定 (3)	正規母集団に関する検定
第 14 回	検定 (4)	二項母集団に関する検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・・・・1 時間

Excel を含む実習・・・・・・2 時間

授業の復習・・・・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）

加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）

田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）

石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）

藤本竜著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %)

レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics B", you will learn the basic method of statistical inference (estimation / hypothesis testing) based on the knowledge of "Mathematical Statistics A".

【Learning Objectives】

The goal is to understand the basic idea of statistics through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

ECN300CA
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。

【参考書】

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 2.『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30 %、学期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN300CA
国際金融論 B
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、实体经济との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レートと实体经济	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと实体经济	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機（1）	通貨危機の歴史
10	通貨危機（2）	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30 %、学期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN300CA
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社、2013 年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various marketing practices, and the role of public policy on monopoly market, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN300CA
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』（有斐閣、2017年）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合には、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various management strategy (eg. collusive behavior, vertical restraints, and so on) in oligopolistic competition, and the role of public policy on such strategies.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

LANe200CA
ビジネス英語初級 A
JOHN LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
ビジネス英語初級B
JOHN LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	Individualism and Group Spirit (1)	Chapter 5 in textbook
Week 3	Individualism and Group Spirit (2)	Essay 1
Week 4	Coping with Language and Culture Shock (1)	Chapter 7 in textbook
Week 5	Coping with Language and Culture Shock (2)	Essay 2
Week 6	Negotiations: Cultural Differences (1)	Chapter 9 in textbook
Week 7	Negotiations: Cultural Differences (2)	Essay 3
Week 8	Marketing, Advertising, and Distribution (1)	Chapter 12 in textbook
Week 9	Marketing, Advertising, and Distribution (2)	Essay 4
Week 10	Women in the International Workplace (1)	Chapter 14 in textbook
Week 11	Women in the International Workplace (2)	Essay 5
Week 12	Changes in Employment Systems (1)	Chapter 15 in textbook
Week 13	Changes in Employment Systems (2)	Essay 6
Week 14	Review	Review previous chapters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ARS200xCA
世界の文化と思想 A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承1」

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられる。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ベルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ベルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に3回小テストを実施し（事前に Hoppii で周知）、その結果に関して翌週の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 1	授業内容の紹介。アンケート。アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に海岸地帯）。
第 2 回	イントロダクション 2	アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に山岳地帯）。
第 3 回	最初の「アメリカ人」	いつ頃、どんな人たちが、どのように、無人の南北アメリカ大陸に足を踏み入れたのか
第 4 回	文明形成期 1	農耕の発達を待たずして登場した最初の神殿（先土器時代）
第 5 回	文明形成期 2	巨大神殿群の興亡と世界遺産チャビン・デ・ワンタル（教員の研究成果紹介を含む）
第 6 回	文明の様々な展開 1	最初の王国モチェ
第 7 回	文明の様々な展開 2	巡礼と地上絵のナスカ
第 8 回	高原の大国	ティティカカ湖のほとりに栄えたティワナク、北の覇者ワリ
第 9 回	インカ統一前夜 1	黄金伝説のシガンとチムー
第 10 回	インカ統一前夜 2	北海岸の大国チムー
第 11 回	インカ 1	インカの基本的特徴
第 12 回	インカ 2 帝国の興亡	なぜ、どのように急拡張し、そして滅びたのか
第 13 回	インカ 3 日々暮らし	年中行事、生まれてから死ぬまで、職業、食と酒など
第 14 回	スペイン対インカ	スペインによる征服期の人物・出来事など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。参考書欄の冒頭に挙げた文献（細谷編 2012）で講義各回に対応する章に目を通すことも勧める。これらを総合すると約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppii で資料を適宜配布する。

【参考書】

・細谷広美（編）『ベルーを知るための 66 章』明石書店（2012）：春学期講義内容の全域をカバーしており、かつ最も簡潔で易しい。オススメ。
・関雄二『アンデスの考古学（新版）』同成社（2021）：春学期の大半を詳細にカバーする。日本語で読めるアンデス考古学の概説書としては最も詳細。

・大貫良夫、加藤泰建、関雄二（編）『古代アンデス - 神殿から始まる文明』朝日新聞出版（2010）：日本の調査団による研究成果のまとめ。
・ピース, F・増田義郎『図説インカ帝国』小学館（1988）：豊富な写真が素晴らしいインカ入門の良書。
・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き2頁にまとめられており読みやすい。
・古代アメリカ学会 <https://americaantigua.org/>
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期中に Hoppii 上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を3回実施し、点数が高い方から2回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で1回欠試しても不利になりにくい）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価方法を変更した

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストは Hoppii 上で行うため PC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布も Hoppii 上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

毎回 Hoppii で配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノート PC やタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day I"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1)obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2)understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

ARS200xC A
世界の文化と思想 B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承 2」

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられる。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ベルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ベルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に3回小テストを実施し（事前に Hoppii で周知）、その結果に関して翌週の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介（春学期授業のまとめ含む）。アンケート。
第 2 回	スペインによる征服 1	征服期
第 3 回	スペインによる征服 2	植民地時代
第 4 回	現代のベルーと古代の遺産 1（盗掘編）	盗掘をめぐる諸問題
第 5 回	現代のベルーと古代の遺産 2（博物館編）	博物館をめぐる諸問題
第 6 回	日本の研究者とベルー社会 1（1960-80 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 1（様々なエピソード）
第 7 回	日本の研究者とベルー社会 2（1990 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（博物館建設のエピソード）
第 8 回	日本の研究者とベルー社会 2（2000 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（教員の事例紹介等）
第 9 回	古代アンデスの食文化 1（紀元後）	様々な時代・地域の食文化
第 10 回	古代アンデスの食文化 2（紀元前）	教員の研究成果紹介
第 11 回	自然災害とアンデス文明	古代のエル・ニーニョ現象の被害と対応策
第 12 回	古代アンデスの戦争	様々な時代・地域の戦い方、武器などについて
第 13 回	古代アンデスの巡礼	スペイン人征服者の見た巡礼、考古学者の見出した巡礼
第 14 回	古代アンデスの世界観	教員の研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期「世界の文化と思想 A」の初回配布資料（秋学期の Hoppii 教材にもアップロードしておく）に目を通し、少なくとも UNESCO 世界遺産に登録されているベルー国内の遺跡の地図上・年表上の位置を頭に入れておく。各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。これらを総合すると約 4 時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppii で資料を適宜配布する。

【参考書】

・大貫良夫『アンデスの黄金 - クントゥル・ワシの神殿発掘記』中公新書（2000）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。
・関雄二『アンデスの文化遺産を活かす - 考古学者と盗掘者の対話』臨川書店（2014）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。

・高野潤『インカの食卓 - 古代から続く大地の恵み』平凡社（2011）：秋学期後半の参考となる。著者は写真家であり、貴重な写真が満載。そして学者顔負けの内容。
・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き 2 頁にまとめられており読みやすい。
・レンフルー & バーン『考古学 - 理論・方法・実践』東洋書林（2007 年）：アンデスに限らない考古学の概説書。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期中に Hoppii 上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を 3 回実施し、点数が高い方から 2 回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で 1 回欠試しても不利にならない）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教材としてのドキュメンタリー番組をバランス良く使用する。成績評価方法を変更した。

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストは Hoppii 上で行うため PC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布も Hoppii 上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

春学期「世界の文化と思想 A」から継続する内容であるため、これを履修済みであることが望ましい（応相談）。毎回 Hoppii で配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノート PC やタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day II"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1) obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2) understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で受講者は、地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習	これまでの学習の理解度をチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおりに）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the diversity, principles, and interconnectedness of the global environment and deepen their understanding of the interrelationship between human activities and the natural environment. In order to achieve this, students will study the formation of the earth and the mechanisms of the natural environment in a comprehensive manner.

SES300CA
地球環境論 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	総復習	演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出（50%）、小試験またはレポート（50%）とし、合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が 50% を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」として、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand relation between the natural environment and human activities.

In order to achieve this, students will study the mechanisms of using natural resources with current technologies in our life.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report on each class (50%), and the term-end report or examination (50%).

LANe200CA
ビジネス英語初級 A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- 13 Student individual presentations Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
- 14 Semester review and group discussions A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
ビジネス英語初級 B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
			【参考書】 None		
			【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
			【学生の意見等からの気づき】 Not Applicable		
			【学生が準備すべき機器他】 None		
			【その他の重要事項】 None		

LANe200CA
ビジネス英語初級 A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
ビジネス英語初級 B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
			【参考書】 None		
			【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
			【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行い、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %。期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

ECN300CA
国際貿易論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関 (World Trade Organization, WTO) の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関である WTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書・スライドを用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがあります。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT, WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	日本の酒税に関する紛争の帰結	同種の産品、代替の弾力性とは何か
8)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
9)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
10)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
11)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
12)	補助金相殺関税	補助金相殺関税とは何か
13)	日本による補助金相殺関税の分析	補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO の問題	紛争処理システムと安全保障の例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

進度は出席学生に応じて変化させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduce the history and role of World Trade Organization (WTO). The goal of this course is to understand the importance of WTO.

ECN300CA
国際貿易論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析します。特に、国際貿易と知的財産権保護の関係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義します。

【到達目標】

知的財産権と国際的な取引に関して理解する事を目標とする。特に国際貿易にとって重要な、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の内容と影響について議論できることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書を主に用いて、知的財産法（著作権法、特許法）と国際取引との関係について講義を行います。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析します。主に英文学術雑誌に公刊された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義します。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることが前提です。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要であり、トピックに応じて、ディスカッションを要求する事があります。・課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモنزとアンチコモنزの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の歴史
10)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の特徴
11)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と貿易	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の貿易に与える影響
12)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の負の効果	保護と貿易の負の関係の可能性
13)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と研究開発	保護が研究開発活動に与える影響
14)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と途上国	知的財産権保護と途上国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業支援システムにより文献を配布します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）及び期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの資料をより活用し解説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduce the key idea of intellectual property rights (IPRs) and international trade. The students should be able to understand the effects of IPRs on international transactions.

LANe300CA
ビジネス英語中級 A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about and discuss issues relating to globalization (global capitalism) through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected the economies, societies, and businesses of developed nations, especially Japan, as well as those of developing ones?

【到達目標】

To research and think critically about business and its impact on society and the environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the fashion industry and present their findings in class at the end of the semester.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations, explanations, self-introductions
2	What is globalization?	Pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	Learning about the fast fashion industry's business model (Zara)
4	Sustainable fashion	Sustainable, ethical brands (The 30-year t-shirt); the true cost of fast fashion
5	History of the global garment industry	The travels of a t-shirt in the global economy (1): the roots of today's global supply chains
6	The circular economy	The travels of a t-shirt in the global economy (2): a business model for the secondhand economy
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	The fashion industry and the environment	Alternative fabrics and the rise of sustainable global fashion brands
9	The future of fashion	COVID-19's impact on the fashion industry (Gucci)
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion

12	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
13	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the impact of global capitalism in the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

Eugene K. Choi, UNIQLO and Tadashi Yanai (ch 19) in Handbook of East Asian Business, T. Lai and H. Yu, eds., Routledge, 2015.

Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
ビジネス英語中級 B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about work and the workplace in Japan. Specifically, they will consider why we work, Japanese business culture and management practices, work-style reforms, new ways of working, social issues caused by changing economic and demographic circumstances, etc.

【到達目標】

To become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the Japanese workplace and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Culture and the workplace	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	Japanese-style management (lifetime employment, seniority-based wages, enterprise-based unions)
5	What is Abenomics?	Abenomics and the third arrow
6	Work-style reforms	Reforming the Japanese way of working; overwork
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Womenomics	Women and the workplace; international comparisons
9	Social issues and the Japanese workplace	Ikumen; unemployed and marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
13	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion

14 Final wrap up and Discussion: reassessing the review Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.

Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.

Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.

Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.

Parissa Haghiriian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.

Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance. (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
ビジネス英語中級 A
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investment strategy and analysis. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will work in small teams to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations for investment recommendations. These same tasks will be repeated, but because financial markets change daily, the content within these tasks will constantly change. Due to the course focus on communicative task practice, business concept learning will be restricted to only the most basic elements. The teacher will provide guidance and structure for business communication tasks until students become comfortable and build fluency. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Investments	Market History Diversification Concept Equity Indexes Charting Profit and Loss
3	Task 1: The Morning Call	Summarize Current Financial News Current Market Data Perform Morning Call
4	Task 2: Research Report	Current Equity Ratings (FAANG Stocks) Portfolio Management Charting Profit and Loss
5	Task 3: Presentation	Investment Recommendation Hedging Language Being Concise Presentation: Recommend Investments in FAANG

6	Consumer Staples (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
7	Consumer Staples (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
8	Consumer Staples (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Consumer Staples
9	Japan Stocks (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
10	Japan Stocks (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
11	Japan Stocks (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Japan Stocks
12	Healthcare (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
13	Healthcare (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
14	Healthcare (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Healthcare

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading business news and research reports, Preparation of presentation content, Rehearsing for Morning Calls (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 40%: Attendance and Equal support of team tasks

Evaluation 60%: Quality of Morning Calls, Research Reports, and Presentations

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in business.

LANe300CA
ビジネス英語中級B
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investment strategy and analysis. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will work in small teams to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations for investment recommendations. These same tasks will be repeated, but because financial markets change daily, the content within these tasks will constantly change. Due to the course focus on communicative task practice, business concept learning will be restricted to only the most basic elements. The teacher will provide guidance and structure for business communication tasks until students become comfortable and build fluency. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Investments	Market History Diversification Concept Equity Indexes Charting Profit and Loss
3	Task 1: The Morning Call	Summarize Current Financial News Current Market Data Perform Morning Call
4	Task 2: Research Report	Current Equity Ratings (Information Technology) Portfolio Management Charting Profit and Loss

5	Task 3: Presentation	Investment Recommendation Hedging Language Being Concise Presentation: Recommend Investments in Information Technology
6	Consumer Discretionary (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
7	Consumer Discretionary (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
8	Consumer Discretionary (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Consumer Discretionary
9	Cryptocurrency (1)	Perform Morning Call Blockchain Research Report
10	Cryptocurrency (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
11	Cryptocurrency (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Cryptocurrency
12	Financials (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
13	Financials (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
14	Financials (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Financials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading business news and research reports, Preparation of presentation content, Rehearsing for Morning Calls (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 40%: Attendance and Equal support of team tasks
Evaluation 60%: Quality of Morning Calls, Research Reports, and Presentations

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in business.

MAN300CA
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは添削・採点した上で翌講義の冒頭に返却する。講義の構成は、①前回の講義内レポートの返却と解説（15 分）、②その回の講義（70 分）、③その回の講義内レポートの作成（15 分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	二つの系列の監査と監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第 4 回	近代監査の発展過程	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に 19 世紀（英国）以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	日本の監査制度の成立と発展	旧商法に基づく監査役制度、旧証券取引法に基づく公認会計士監査の成立と時代的背景について学習する。
第 6 回	旧商法に基づく監査役監査制度の成立と展開	監査役の意義と八久和厘について、時代的背景と変遷過程、および現代的意義と課題について理解する。

第 7 回	旧商法特例法に基づく会計監査人監査の意義	会計監査人監査が必要となった背景について、旧商法と旧証券取引法に基づく監査との関連から理解する。
第 8 回	会社法監査の成立と展開	監査役、会計監査人、および委員会設置会社における監査委員の意義について、特にそれぞれの権限と責任の観点から理解する。
第 9 回	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開過程について学習する。
第 10 回	金融商品取引法に基づく企業内容開示制度と財務諸表監査の意義	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第 11 回	公認会計士法における公認会計士監査制度の意義と課題	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 12 回	公認会計士法における監査法人制度の意義と課題	監査法人制度の概要と現代的課題について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 13 回	監査基準における監査人の人的要件	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第 14 回	監査人の法的責任と免責要件	監査人に課せられる法的責任について、刑事、民事、行政の各責任の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭に返却する前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田二郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施、計 70 点満点とする。42 点以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of audit made pursuant to the securities law and company's act in Japan.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN300CA
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して 2% の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に 800 なのか?」、「貸倒引当金の設定率は 2% でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。講義の構成は、①前回の講義内レポートの返却と解説（15 分）、②その回の講義（70 分）、③その回の講義内レポートの作成（15 分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の概念的枠組みを、「会計アタマ」と「監査アタマ」という視点から提示する。
第 2 回	「監査アタマ」で考えるアサーションと監査要点、監査証拠	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	企業の内部統制概念の変遷過程と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第 4 回	リスク・アプローチによる監査の基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性和意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第 5 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本構造	リスク評価手続と運用評価手続の目的と属性について理解する。
第 6 回	監査上の重要性概念	監査上の重要性概念と監査リスク、監査の有効性と効率性、監査意見の性質との関係について理解する。
第 7 回	実証手続の意義と効用	監査手続全体の体系における実証手続の位置づけと属性について理解する。

第 8 回	監査結果の報告と監査報告書の改革	監査報告書の基礎的な機能と限界、および監査報告書の改革について学習する。
第 9 回	除外事項と監査意見、追記情報の種類と意義	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係、および追記情報について学習する。
第 10 回	継続企業の前提に関する監査人の検討	いわゆる「GC 注記」の制度導入の経緯と背景、および財務諸表監査における位置づけと課題について学習する。
第 11 回	内部統制報告制度における内部統制監査の意義と課題	内部統制監査について、制度導入の経緯と背景、および現代的課題について理解する。
第 12 回	四半期報告制度の意義と四半期レビュー	四半期報告制度の必要性和導入の背景、および四半期レビューの特質について学習する。
第 13 回	財務諸表監査の品質と品質管理	財務諸表監査の品質とは何か、またこれを管理するための仕組みについて学習する。
第 14 回	監査をめぐる国際的動向	国際会計士連盟のミッション、日本の監査法人と海外のアカウンティング・ファームの連携の意義と現状について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭で返却する前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施、計 70 点満点とする。42 点以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the audit procedures performed and audit report for financial statements by independent auditors. Basically, they will made pursuant to the International Standards on Auditing, issued by International Federation of Accountants (IFAC).

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN200CA
会計学入門Ⅰ（財務会計）A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下のような方法で進めていきます。

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動（1）	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動（2）	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN200CA
会計学入門 I（財務会計） B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下の方法で進めていきます。

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析（1）	資本利益率
7	収益性の分析（2）	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

ECN200CA
マクロ経済学A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何かを理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の対面授業を行います。
- ・講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック、新古典派の投資理論
7	設備投資と在庫投資 (3)	ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny> ）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
（複数回実施する試験により評価します）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。（パソコンは必須ではありません）

【その他の重要事項】

- ・秋学期の「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。
- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。

【Outline (in English)】

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society from an independent perspective.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of macroeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN200CA
マクロ経済学B
檜野 智子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の対面授業を行います。
- ・講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム
3	経済政策の有効性 (3)	非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、デマンドプル・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長とは何か、経済成長の源泉、経済成長理論
11	経済成長理論 (2)	成長会計、収束の概念
12	経済成長理論 (3)	内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期の「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の 1～6 章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny> ）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
（複数回実施する試験により評価します）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。（パソコンは必須ではありません）

【その他の重要事項】

各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。

【Outline (in English)】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of macroeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN200CA
ミクロ経済学A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基礎知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（＝ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。
本講義は、すべての回を対面にて実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論 (1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論 (2)	企業の意味決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論 (3)	限界費用と平均費用、企業の意味決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論 (4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論 (5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論 (6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論 (7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定 (1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定 (2)	リスクに対する態度（危険回避、中立、愛好）について。
11	戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームについて（さまざまな例の提示）。
12	戦略形ゲーム (2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム (3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

・「需要と供給の理論」の講義資料は、学習支援システムに掲載する。
・第 9 回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

- 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
- 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
- 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

教場試験（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。「試験直前のみに勉強する」という無意味なことは、やめてください。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will acquire the basic knowledge needed to analyze real-world problems from the perspective of microeconomics. First, we will review the theory of supply and demand, which is a basic concept in the market transaction theory. Next, we will study "game theory" as a tool for analyzing interdependence among multiple entities. In this lecture, students will learn about the application of strategic-form games and a few equilibrium concepts (i.e., Nash equilibria).

The objective of this lecture is to acquire the ability to analyze the interdependence between people, companies, nations, and other entities in the modern economy from a microeconomic perspective.

Students are required to prepare for and review the contents of this lecture for at least four hours per week. Students are expected to solve practice problems before and after the lecture to check their understanding.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture and Hoppii.

ECN200CA
ミクロ経済学B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学Aに引き続き、経済問題・経済現象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

ミクロ経済学Aに引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学Aの講義内容を前提として、講義を行う。本講義は、すべての回を対面にて実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学Aとの関連について。
2	戦略形ゲームの応用(1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用(2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調(1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調(2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム(1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム(2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム(1)	2 回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム(2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。
12	繰り返しゲーム(3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1。

13	繰り返しゲーム(4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年
学習支援システムにて、補助資料を配布する。

【参考書】

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

教場試験（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。「試験直前のみに勉強する」という無意味なことは、やめてください。

【その他の重要事項】

- ①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
- ②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。
- ③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, following Microeconomics A, students will acquire the basic knowledge needed to analyze economic problems from the perspective of microeconomics. First, we will apply the theory of strategic-form games to the Cournot oligopoly market and the voluntary provision of public goods. These two applications are very famous in economic theory. Second, to examine the relationship between group rationality and individual rationality, we study the concept of Pareto optimality and apply it to the above two games. Third, we will learn sequential games and their applications. Students will learn the formulation of extensive-form games. Finally, students will learn about repeated games by applying the basic knowledge that they have acquired so far.

Continuing from Microeconomics A, the objective of this course is to understand the game theory, which analyzes interdependent relationships among various economic agents in the modern economy.

Students are required to prepare for this class and review the content of this class for at least four hours per week. Students have to solve problem sets before and after the lecture to check their understanding.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture and Hoppii.

ECN300CA
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出、財市場の均衡
第6回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	金融市場の均衡
第7回	開放経済	開放経済（小国）モデル
第8回	開放経済	為替レート：名目対実質為替レート
第9回	開放経済、中間試験	為替レートの決定要因
第10回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ、時間的視野、総需要

第11回 景気変動へのイントロダクション 総供給、総需要・総供給モデルを使った短長期分析

第12回 総需要1：IS-LMモデルの構築 財市場とIS曲線

第13回 総需要1：IS-LMモデルの構築 貨幣市場とLM曲線

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総需要2：IS-LMモデルの応用	財政、金融政策
第2回	総需要2：IS-LMモデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第3回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第4回	経済成長	資本の蓄積、定常均衡
第5回	経済成長	貯蓄、資本の黄金律水準
第6回	経済成長	人口成長、経済ショック、データ
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第8回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率
第9回	中間試験	中間試験

第10回 経済変動の動学モデル 動学モデルにおける総需要・総供給

第11回 経済変動の動学モデル 動学モデルを使った政策分析

第12回 政府負債と財政赤字 財政の持続可能性

第13回 消費 消費者行動の理論

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2018年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN200CA
マクロ経済学A
松尾 朋紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDP について（1）	GDP とは
第3回	GDP について（2）	GDP を見る・分析する
第4回	GDP について（3）	予備・質問の受付：GDP について
第5回	GDP についての総括	確認テスト1：GDP について
第6回	長期モデル1（1）	総供給と総需要
第7回	長期モデル1（2）	財市場の均衡
第8回	長期モデル1（3）	予備・質問の受付：長期モデル1
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2（1）	貨幣と貨幣需要
第11回	長期モデル2（2）	貨幣市場の均衡と政策の効果
第12回	長期モデル2（3）	予備・質問の受付：長期モデル2
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018 年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces economic indicators and basic macroeconomic models to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis
 2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods
- (Learning activities outside of the classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%、Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
マクロ経済学B
松尾 朋紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション/ 短期モデル（1）	ガイダンス/短期モデルにおける 財市場
第2回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第3回	短期モデル（3）	短期モデルによる政策効果分析
第4回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第5回	人々の将来予想と経済 変動（1）	家計の将来予想
第6回	人々の将来予想と経済 変動（2）	企業による価格設定
第7回	人々の将来予想と経済 変動（3）	企業の将来予測
第8回	人々の将来予想と経済 変動の総括	確認テスト2：人々の将来予想と 経済変動
第9回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造と生産関数
第10回	経済成長モデル（2）	ソロー・スワン経済成長モデル
第11回	経済成長モデル（3）	人口成長と技術進歩の役割
第12回	経済成長モデルの総括	確認テスト3：経済成長モデル
第13回	日本経済とマクロ経済 学	最近の日本経済
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces economic indicators and basic macroeconomic models to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis
2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%, Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済現象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。シラバス執筆時点（1月中旬）では対面で講義をおこなう予定である。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・数 学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学 準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線 による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産 要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の 導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スピードが上がりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。シラバス執筆時点（1月中旬）では対面で講義をおこなう予定である。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、数学準備	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オークション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	不完全競争市場 (1)	独占市場
6	不完全競争市場 (2)	数量競争寡占市場
7	不完全競争市場 (3)	価格競争寡占市場
8	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
9	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
10	ゲーム理論 (6)	繰返しゲーム、カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピグー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN200CA
財政学 A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第 14 回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- （1）井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- （2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- （3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- （4）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- （5）林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題 I	超高齢社会と社会保障
	(1)	
第 3 回	社会保障の財政問題 I	最低生活の保障、年金問題
	(2)	
第 4 回	社会保障の財政問題 II (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題 II (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1) 井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

(3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社

(4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社

(5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論

(6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ビグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2019、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200CA
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	名目 GDP と実質 GDP
4	データで見る日本経済 3	物価指数の概念と作成方法
5	データで見る日本経済 4	失業率の概念と作成方法
6	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
7	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
8	雇用問題 3	若年者の雇用問題
9	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線や供給曲線、及び弾力性の概念等を学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200CA
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第 2 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 3 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 4 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 5 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 6 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートینگモデル
第 7 回	長期の為替レート決定①	購買力平価
第 8 回	長期の為替レート決定②	実質為替レート
第 9 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 10 回	国際通貨制度	歴史の概観
第 11 回	金融のグローバル化と	リスクと銀行危機
第 12 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 13 回	発展途上国と通貨危機	国際金融システム改革
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

(1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語能力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「書く」「話す」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

- ①日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
- ②自分をアピールするための効果的な内容と方法を理解し、適切な形式を用いて表現できる。
- ③コミュニケーションの場面に応じて言葉を適切に使い分けられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 日本での就職活動	授業運営に関する説明／ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	E メール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・準備：事前課題

・復習：講義内容や活動の振り返り、課題・提出物の作成

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2022』日本学生支援機構
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/afieldfile/2020/12/17/guide2022_all.pdf)

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

課題：50 %（ワークシート、振り返りシート、エントリーシートの作成など）
模擬面接：20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし（アンケート未実施）

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for international students to acquire the knowledge and Japanese language skills necessary for job searching in Japan.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

- ①敬語の性質と使い方を的確に理解し、場と状況に応じて適切に使い分けられる。
- ②人の紹介、電話対応、メール作成などの日本語コミュニケーションを適切に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 尊敬語	授業運営に関する説明／ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト／ あいさつと紹介	復習テストの実施／ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：次回の活動のためのワークシートの作成など

復習：課題の作成、クイズおよびテストの準備など

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018 年、1,980 円（税込）(<https://www.kokusho.co.jp/np/isbn/9784336062222/>)

【成績評価の方法と基準】

テスト：20 %、プレゼンテーション：10 %、課題：50 %、平常点：20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for international students to acquire the Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japanese companies.

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
			【参考書】 None		
			【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
			【学生の意見等からの気づき】 Not Applicable		
			【学生が準備すべき機器他】 None		
			【その他の重要事項】 None		

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- 13 Student individual presentations Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
- 14 Semester review and group discussions A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
			【参考書】 None		
			【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
			【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		

LANe300CA
Business Communication II A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about and discuss issues relating to globalization (global capitalism) through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected the economies, societies, and businesses of developed nations, especially Japan, as well as those of developing ones?

【到達目標】

To research and think critically about business and its impact on society and the environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the fashion industry and present their findings in class at the end of the semester.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations, explanations, self-introductions
2	What is globalization?	Pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	Learning about the fast fashion industry's business model (Zara)
4	Sustainable fashion	Sustainable, ethical brands (The 30-year t-shirt); the true cost of fast fashion
5	History of the global garment industry	The travels of a t-shirt in the global economy (1): the roots of today's global supply chains
6	The circular economy	The travels of a t-shirt in the global economy (2): a business model for the secondhand economy
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	The fashion industry and the environment	Alternative fabrics and the rise of sustainable global fashion brands
9	The future of fashion	COVID-19's impact on the fashion industry (Gucci)
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion

12	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
13	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the impact of global capitalism in the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

Eugene K. Choi, UNIQLO and Tadashi Yanai (ch 19) in Handbook of East Asian Business, T. Lai and H. Yu, eds., Routledge, 2015.

Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 - (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.
- Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA

Business Communication II A

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about and discuss issues relating to globalization (global capitalism) through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected the economies, societies, and businesses of developed nations, especially Japan, as well as those of developing ones?

【到達目標】

To research and think critically about business and its impact on society and the environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the fashion industry and present their findings in class at the end of the semester.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations, explanations, self-introductions
2	What is globalization?	Pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	Learning about the fast fashion industry's business model (Zara)
4	Sustainable fashion	Sustainable, ethical brands (The 30-year t-shirt); the true cost of fast fashion
5	History of the global garment industry	The travels of a t-shirt in the global economy (1): the roots of today's global supply chains
6	The circular economy	The travels of a t-shirt in the global economy (2): a business model for the secondhand economy
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	The fashion industry and the environment	Alternative fabrics and the rise of sustainable global fashion brands
9	The future of fashion	COVID-19's impact on the fashion industry (Gucci)
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

11	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
12	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
13	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the impact of global capitalism in the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
 (2) Reading recent business news
 (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

Eugene K. Choi, UNIQLO and Tadashi Yanai (ch 19) in Handbook of East Asian Business, T. Lai and H. Yu, eds., Routledge, 2015.

Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.
 Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.
 This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about work and the workplace in Japan. Specifically, they will consider why we work, Japanese business culture and management practices, work-style reforms, new ways of working, social issues caused by changing economic and demographic circumstances, etc.

【到達目標】

To become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the Japanese workplace and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Culture and the workplace	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	Japanese-style management (lifetime employment, seniority-based wages, enterprise-based unions)
5	What is Abenomics?	Abenomics and the third arrow
6	Work-style reforms	Reforming the Japanese way of working; overwork
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Womenomics	Women and the workplace; international comparisons
9	Social issues and the Japanese workplace	Ikumen; unemployed and marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
13	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion

14 Final wrap up and Discussion: reassessing the review Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.

Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.

Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.

Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.

Parissa Haghiriian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.

Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA

Business Communication II B

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about work and the workplace in Japan. Specifically, they will consider why we work, Japanese business culture and management practices, work-style reforms, new ways of working, social issues caused by changing economic and demographic circumstances, etc.

【到達目標】

To become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the Japanese workplace and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Culture and the workplace	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	Japanese-style management (lifetime employment, seniority-based wages, enterprise-based unions)
5	What is Abenomics?	Abenomics and the third arrow
6	Work-style reforms	Reforming the Japanese way of working; overwork
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Womenomics	Women and the workplace; international comparisons
9	Social issues and the Japanese workplace	Ikumen; unemployed and marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion

13	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
 (2) Reading recent business news
 (3) Preparing for class activities
 Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:
 Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.
 Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.
 Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.
 Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.
 Parissa Haghirian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.
 Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.
 Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.
 This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II A
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investment strategy and analysis. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will work in small teams to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations for investment recommendations. These same tasks will be repeated, but because financial markets change daily, the content within these tasks will constantly change. Due to the course focus on communicative task practice, business concept learning will be restricted to only the most basic elements. The teacher will provide guidance and structure for business communication tasks until students become comfortable and build fluency. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Investments	Market History Diversification Concept Equity Indexes Charting Profit and Loss
3	Task 1: The Morning Call	Summarize Current Financial News Current Market Data Perform Morning Call
4	Task 2: Research Report	Current Equity Ratings (FAANG Stocks) Portfolio Management Charting Profit and Loss
5	Task 3: Presentation	Investment Recommendation Hedging Language Being Concise Presentation: Recommend Investments in FAANG

6	Consumer Staples (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
7	Consumer Staples (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
8	Consumer Staples (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Consumer Staples
9	Japan Stocks (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
10	Japan Stocks (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
11	Japan Stocks (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Japan Stocks
12	Healthcare (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
13	Healthcare (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
14	Healthcare (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Healthcare

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading business news and research reports, Preparation of presentation content, Rehearsing for Morning Calls (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 40%: Attendance and Equal support of team tasks

Evaluation 60%: Quality of Morning Calls, Research Reports, and Presentations

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in business.

LANe300CA
Business Communication II B
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investment strategy and analysis. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will work in small teams to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations for investment recommendations. These same tasks will be repeated, but because financial markets change daily, the content within these tasks will constantly change. Due to the course focus on communicative task practice, business concept learning will be restricted to only the most basic elements. The teacher will provide guidance and structure for business communication tasks until students become comfortable and build fluency. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Investments	Market History Diversification Concept Equity Indexes Charting Profit and Loss
3	Task 1: The Morning Call	Summarize Current Financial News Current Market Data Perform Morning Call
4	Task 2: Research Report	Current Equity Ratings (Information Technology) Portfolio Management Charting Profit and Loss

5	Task 3: Presentation	Investment Recommendation Hedging Language Being Concise Presentation: Recommend Investments in Information Technology
6	Consumer Discretionary (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
7	Consumer Discretionary (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
8	Consumer Discretionary (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Consumer Discretionary
9	Cryptocurrency (1)	Perform Morning Call Blockchain Research Report
10	Cryptocurrency (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
11	Cryptocurrency (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Cryptocurrency
12	Financials (1)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
13	Financials (2)	Perform Morning Call Research Report Presentation Preparation
14	Financials (3)	Perform Morning Call Presentation: Recommend Investments in Financials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading business news and research reports, Preparation of presentation content, Rehearsing for Morning Calls (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 40%: Attendance and Equal support of team tasks
Evaluation 60%: Quality of Morning Calls, Research Reports, and Presentations

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in business.

LAW200CA
日本国憲法 A
川鍋 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。

【到達目標】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話しします。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のものです。この言葉はどのようにして生まれ、日本に到来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定ぶりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。その自体の制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。
第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。

第 14 回 これまでの授業のまとめ これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017 年。

【参考書】

岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。
・第 1 問を 40%、第 2 問を 60% 計 100% で評価します。
・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業 1 回の質問に対して、0～2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんからは授業内容についての意見や質問が多く出ました。今年度もそのような運営ができればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

We will learn in this class general theories (partially including the domain of human rights) and the system and practice of the government of the Japanese Constitution.

LAW200CA
日本国憲法 B
川鍋 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：自己決定権と障害者の自由	この授業の概要と目的についてお話します。また、障害者の自由について考えます。
第 2 回	母親となる権利	ここでは、母親となる権利について学びます。
第 3 回	同性愛の自由	ここでは、同性愛の自由について学びます。
第 4 回	性同一性障害者の自由	ここでは、性同一性障害者の自由について学びます。
第 5 回	再婚の自由	ここでは、再婚の自由について学びます。
第 6 回	治療拒否の自由	ここでは、治療拒否の自由について学びます。
第 7 回	ダンスの自由	ここでは、ダンスの自由について学びます。
第 8 回	ポルノ鑑賞の自由	ここでは、ポルノ鑑賞の自由について学びます。
第 9 回	忘れられる権利	ここでは、忘れられる権利について学びます。
第 10 回	プライバシー権	ここでは、プライバシー権について学びます。
第 11 回	景観権	ここでは、景観権について学びます。
第 12 回	嫌煙権	ここでは、嫌煙権について学びます。
第 13 回	自然の権利	ここでは、自然の権利について学びます。
第 14 回	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

棟居快行、松井茂記、赤坂正浩、笹田栄司、常本照樹、市川正人『基本的人権の事件簿』第 6 版、有斐閣、2019 年。

【参考書】

・岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。

・第 1 問を 40 %、第 2 問を 60 % 計 100 % で評価します。

・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話しますが、授業 1 回の質問に対して、0～2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度が 1 年目で、まだアンケート結果を受けていません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

この授業では、教員の方で指名して、履修した学生との間で質疑応答を行います。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

We will learn the system and practice of the human rights of the Japanese Constitution.

LAW200CA
民法一部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との関連性に意識が向けられる。

【到達目標】

民法総則（民法第1編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15%）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report: 85%)

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従い、授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則⑫	契約の効力発生時期
第2回	総則⑬	時効（1）時効制度概論
第3回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15%）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an examination of personal

property law in the context of commercial transactions. Learning outcomes will be an understanding of how property law interrelates with contract law, and an understanding of basic concepts of the general civilian idea of 'contract' and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report: 85%)

LAW300CA
民法二部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

- ①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
- ②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か
第 2 回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第 8 回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第 9 回	契約法各論⑤	質貸人と質借人の権利義務関係
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第 13 回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第 14 回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学 A」または「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session.

Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW300CA
民法二部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

【到達目標】

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第 2 回	債権総論②	債権の効力（１）強制履行・債務不履行
第 3 回	債権総論③	債権の効力（２）損害賠償
第 4 回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第 5 回	債権総論⑤	責任財産の保全（１）債権者代位権
第 6 回	債権総論⑥	責任財産の保全（２）詐害行為取消権
第 7 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（１）分割債務・不可分債務
第 8 回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（２）連帯債務
第 9 回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（３）保証債務・連帯保証債務
第 10 回	債権総論⑩	債権譲渡
第 11 回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第 12 回	担保物権①	抵当権
第 13 回	担保物権②	法定地上権
第 14 回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【Outline (in English)】

This course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・大石眞ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・大石真ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
商法二部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
- ・大石眞ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
商法二部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第 2 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 3 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 4 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 5 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 6 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 7 回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第 8 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 9 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 10 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 11 回	寄託	寄託の解説。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 13 回	交互計算	交互計算の解説。
第 14 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
- ・大石眞ほか監修『デリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
経済法 A
山田 務
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発達を確保するために、事業活動の基本的ルールを定めたもので、競争政策を実施するための基本的法律でもある。経済法の中で中心的な独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容・事例、日本経済における役割と最近の課題について講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。適宜、質疑応答の機会を設ける。

授業後、学習支援システムを用いて、①理解度確認のための課題の提示を行うとともに、②学生からの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要（1）	講義の内容 独占禁止法の目的
2)	独占禁止法の概要（2）	独占禁止法・競争政策の歴史、日本経済における役割・課題
3)	独占禁止法の概要（3）	独占禁止法の全体像（禁止行為、違反行為に対する措置等）
4)	独占禁止法の基礎となる経済理論	独占禁止法を理解する上で参考となるミクロ経済学の考え方
5)	独占禁止法的基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場支配力」等の基本的用語
6)	カルテル、入札談合規制（1）	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7)	カルテル、入札談合規制（2）	禁止行為の内容、最近の事件
8)	カルテル、入札談合規制（3）	カルテル等の発見・抑止のための施策（課徴金制度、官製談合防止制度等）
9)	事業者団体に対する規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10)	私的独占規制（1）	大企業の市場支配的行為の内容、禁止行為
11)	私的独占規制（2）	最近の事例
12)	合併・株式保有等の規制（1）	合併・株式保有の目的、合併等の経済分析、禁止される合併等の内容
13)	合併・株式保有等の規制（2）	合併等の審査手続き、最近の事例
14)	公正取引委員会の法運用	違反事件の調査、違反に対する措置

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍、雑誌、新聞、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。

以上の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務

菅久修一「独禁法の講義をはじめます」商事法務

川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣

公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、課題の回答状況等）（50点）及び期末試験（50点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び課題や質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法・競争政策の内容、課題等について講義を行う。

【Outline (in English)】

・ This course introduces overview of Antimonopoly Act and its role in the Japanese economy to students taking this course.

・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.

・ Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%, in class contribution:50%

LAW300CA
経済法 B
山田 務
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、経済法 A に続いて、独占禁止法の主要な違反行為である「不公正な取引方法」に対する規制内容について講義を行う。
 後半は、その他の主要な経済法分野として、①各種事業に対する政府による直接的な法規制、②消費者取引の適正化のための法規制、③国際通商の適正化のための法規制の内容について講義を行う。
 これらを通じて、学生が、経済の発展、国民生活の安定のための各種の経済法の役割、課題について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

独占禁止法及びその他の主要な経済法について、その内容及び日本経済における基本的役割、最近の課題について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。適宜、質疑応答の機会を設ける。

授業後、学習支援システムを用いて、①理解度確認のための課題の提示を行うとともに、②学生からの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行う。

1 4 回講義のうち、1 回は公正取引委員会の職員による講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要	講義の内容、独占禁止法の概要（経済法 A のまとめ）
2)	第 1 部独占禁止法	不公正な取引方法の内容
	1. 不公正な取引方法規制（総論）	
3)	2. 不公正な取引方法規制（各論 1）	垂直的取引制限行為（メーカーによる小売業者の販売価格の拘束、競争者との取引を制限する行為等）
4)	3. 不公正な取引方法規制（各論 2）	価格設定・取引先選択に関する行為（コスト割れ販売、差別価格、取引拒絶）
5)	4. 不公正な取引方法規制（各論 3）	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為 ①デジタルプラットフォームと納入業者・出品者との取引 ②大規模小売業者と納入業者との取引等
6)	5. 不公正な取引方法規制（各論 4）	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為 ①完成品メーカーと部品メーカーとの取引 ②サービス業における委託取引等
7)	6. 不公正な取引方法規制（各論 5）	不公正な競争手段を用いる行為（欺瞞的な取引、競争者の取引の妨害行為）
8)	7. 公正取引委員会職員による講義	独占禁止法の運用状況、競争政策の課題

9)	第 2 部その他の経済法的法規制（1）	政府による事業規制の概要、目的、問題点
10)	2. 事業に対する直接的法規制（2）	電気通信事業法等の各種事業法の概要
11)	3. 消費者取引適正化のための法規制（1）	法規制の概要 主な法律（消費者契約法・特定商取引法）
12)	4. 消費者取引適正化のための法規制（2）	主な法律（景品表示法）
13)	5. 国際通商の適正化のための法規制（1）	自由貿易のメリット、問題点 WTO による国際貿易のルール
14)	6. 国際通商の適正化のための法規制（2）	二国間・多国間による経済連携協定 国際的な競争制限行為に対する独占禁止法の規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍、新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・その他の経済法に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。

上記の授業時間外の学習時間は、毎回 4 時間程度

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

菅久修一「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務
 菅久修一「独禁法の講義をはじめます」商事法務
 川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣
 公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、課題の回答状況等）（50 点）及び期末試験（50 点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び課題や質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まながら、独占禁止法及びその他の経済法の内容、課題等について講義を行う。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act and other economic laws and their role in the Japanese economy.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of economic laws , such as the purpose of the laws, and the contents of regulations, and recent issues.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%, in class contribution:50%

LAW300CA
労働法 A
小林 大祐
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として対面授業です。ただし、計5回ほどオンライン授業を予定しています。詳細は、初回の授業時にお伝えします。
- ◆授業内で質問に返答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義と体系
第2回	労働法のプレイヤー	労働者、使用者、労働組合、過半数代表、労使委員会
第3回	労働契約	労働契約上の権利・義務
第4回	労働条件の決定（1）	労働条件を決める仕組み、労働協約
第5回	労働条件の決定（2）	就業規則、労使慣行
第6回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（1）	日本の賃金制度、賃金支払い4原則など
第7回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（2）	最低賃金制度など
第8回	労働時間に関する規制と休息権（1）	労働時間の定義、三六協定、休日、休憩など
第9回	労働時間に関する規制と休息権（2）	弾力的労働時間制度、みなし労働時間制度、高度プロフェッショナル制度、適用除外
第10回	労働時間に関する規制と休息権（3）	年次有給休暇など
第11回	労働災害の予防と補償（1）	労働安全衛生、労災補償制度
第12回	労働災害の予防と補償（2）	労災保険制度、労災民訴

- 第13回 労働者の人権、平等、労働憲章、個人情報・プライバシー権（1） シー保護など
- 第14回 労働者の人権、平等、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ハラスメントなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

【参考書】

- ◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
- ・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
- ・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、両方履修を推奨します。
- ◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained: the sources and regulation of terms and conditions of employment, the prevention and compensation of industrial accidents, the discrimination and equality in employment, the protection of worker's personality, the rights and duties of parties during employment,

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

LAW300CA
労働法 B
小林 大祐
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として、対面授業です。ただし、計5回ほどオンライン授業とする予定です。詳細は、初回の授業時にお伝えします。
- ◆授業内で質問に回答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働契約の成立をめぐる法的問題	採用内定（内々定）、試用など
第2回	人事制度をめぐる法的問題	配転、出向、転籍、昇進、昇格、降格
第3回	服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題	懲戒処分など
第4回	労働契約の終了をめぐる法的問題（1）	解雇以外の労働契約終了事由
第5回	労働契約の終了をめぐる法的問題（2）	解雇
第6回	非典型雇用（1）	有期労働者の保護など
第7回	非典型雇用（2）	有期・パート労働者の均等待遇など
第8回	非典型雇用（3）	派遣労働者の保護と均等待遇など
第9回	雇用保険制度	失業等給付、育児休業給付、求職者支援制度など
第10回	特定分野の雇用政策	若年者雇用、高齢者雇用、障害者雇用、外国人雇用
第11回	労使関係法総論	労働基本権、労働組合、労働委員会など
第12回	団体交渉と団体行動（1）	団体交渉義務、争議行為の正当性など

第13回 団体交渉と団体行動（2） 組合活動、労働争議の調整制度など

第14回 不当労働行為 不当労働行為の主体・成立要件・救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

【参考書】

- ◆判例集
村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、合わせての履修を推奨します。労働法Bは、労働法Aの内容を前提に進めるので、注意してください。

◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained: the formation and termination of employment, the rights and duties of parties during employment, the protection of certain categories of worker, the forms of collective organisations, the collective bargaining, the disputes acts and the unfair labour practices.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

MAN300CA
経営学 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013. 他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, and its sustainability, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

MAN300CA
経営学 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長, M&A, 提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）

小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA
Principles of Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter13、Chapter14、Chapter19、Chapter20、Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 13, 14, 19, 20 and 21 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?

9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will cover the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA

Principles of Economics A

JESS DIAMO N D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter13、Chapter14、Chapter19、Chapter20、Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 13, 14, 19, 20 and 21 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand.Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income

8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%
 期末試験：70%
 宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
 Homework: 30%
 Final Exam: 70%
 Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will cover the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

ECN200CA

Principles of Economics B

JESS DIAMO N D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson のマクロ経済学の基本をカバーする Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 21, 23, 24, and 25 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our study of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money

12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%
 期末試験:70%
 宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
 Homework: 30%
 Final Exam: 70%
 Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will cover the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

ECN200CA
Principles of Economics B
JESS DIAMO N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson のマクロ経済学の基本をカバーする Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 21, 23, 24, and 25 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank

14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN300CA

International Economics A

倪 彬

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out

13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
 (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

ECN300CA
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

ECN300CA

International Economics B

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩 / Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons

12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

In the first half, we will talk the basic concepts and models in international finance, such as balance of payment, exchange rate, business cycles, short run and long run models. In the second half, we will discuss how these concepts have been used in the real world practice, such as the exchange rate system adopted by emerging economies. We will touch on recent topics in international finance as well.

ECN300CA
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility

14 回目 Review

To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

In the first half, we will talk the basic concepts and models in international finance, such as balance of payment, exchange rate, business cycles, short run and long run models. In the second half, we will discuss how these concepts have been used in the real world practice, such as the exchange rate system adopted by emerging economies. We will touch on recent topics in international finance as well.

ECN300CA
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China
3. Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppi).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics, International Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
2. Final report 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline (in English)】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA

Area Studies A

馬 欣欣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China
3. Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?

6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China
7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics, International Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
2. Final report 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline (in English)】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA

Area Studies B

馬 欣欣

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

【到達目標】

1. Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
2. Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
3. Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China

8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance.

Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

【参考書】

- Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
- Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
- Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
- Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
- Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
- Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

- Homework and presentation in active discussion 70%
- Final test 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline (in English)】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

ECN300CA

Area Studies B

馬 欣欣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩 / Tama
毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

【到達目標】

- Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
- Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
- Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

- Interactive: With a strong emphasis on student participation.
- Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
- Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
- Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
- Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China

7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China	【Outline (in English)】 This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China	
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?	
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stock market; the problem in financial market in China	
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China	
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China	
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics	
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance.

Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
2. Final test 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoint document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

LANe200CA
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel

10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe200CA

Business Research Seminar A

中谷 安男

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam

9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
 Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe200CA
Business Research Seminar B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand advanced business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe200CA

Business Research Seminar B

中谷 安男

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
 Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand advanced business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点後に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第 6 回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第 12 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第 13 回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第 14 回 期末試験および解説 第 8 回から第 13 回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁を推奨）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a) mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA
簿記Ⅱ B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B および簿記Ⅱ A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点後に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第 4 回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第 5 回	本支店会計演習	未達事項の処理、本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の反復演習
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	連結会計 (1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第 9 回	連結会計 (2) 連結 1 年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結 1 年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第 10 回	連結会計 (3) 連結 2 年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結 2 年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第 11 回 連結会計 (4)
成果連結①
会社間取引と債権債務の相殺消去

内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム

第 12 回 連結会計 (5)
成果連結②
未実現利益の消去

期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法

第 13 回 連結会計 (6)
連結会計総合演習

連結会計に関する集中的な問題演習

第 14 回 期末試験および解説

第 13 回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a) mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

ECN300CA
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、COVID-19 による影響で経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、春学期にタイを中心としたアセアンの現状から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係にあるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力をつけられる形式の講義内で試みます。（ファシリテーション手法の理解）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第 3 回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	タイのバンコクと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピピ島の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第 11 回	サンプル 3：ラノーン県の魅力と将来性	今後、発展するための施策とは？

第 12 回	クラビ県、プーケット、ラノーン県の比較	分析から見出せるものは何か？
第 13 回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 14 回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でタイのアセアンの位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日、プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

ECN300CA
地域経済論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、COVID-19 による経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、後期にメキシコを中心とした中南米の現状から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力を身につける形式の講義を試みます。（ファシリテーション手法の理解）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のメキシコ経済の状況	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第 3 回	メキシコの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	メキシコの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年取との差からの分析
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：ゴールドライアングルの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析

- 第 11 回 サンプル 3：他の地域 今後、発展するための施策とは？との産業構造の差と将来性
- 第 12 回 メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較 分析から見出せるものは何か？
- 第 13 回 確認討議② 前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
- 第 14 回 最終試験 確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でメキシコの中南米での位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由設定とします。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Method までを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation

8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館 1700 円＋税

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方—IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)
『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class participation in activities

50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館 1700 円＋税

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20% In-class activities

80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業ではまず、論文の構成とパラグラフの書き方を学ぶ。次に、先行研究の読み方と文献の引用方法を学んだ後、序論と研究方法の書き方を学ぶ。最後に受講生が考えた論文内容を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、序論・方法の書き方を理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方ー IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参するか、こちらで用意したパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

英語セミナー B と関連する授業内容のため、英語セミナー B も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to prepare students to write and communicate in English for their professional studies, and consequently for their future professional needs in real life and work.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナー A に引き続き、英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業では、研究結果の書き方を学んだ後、考察や結論、要約の書き方を学ぶ。最後に受講生が作成した論文を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、結果・考察・結論の書き方が理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参するか、こちらで用意したパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

英語セミナー A と関連する授業内容のため、英語セミナー A も履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to prepare students to write and communicate in English for their professional studies, and consequently for their future professional needs in real life and work.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的話題で総合力を高める。英語を聴き、表現する。英検 2 級以上に適する。

【到達目標】

時事的教科書で聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。新聞やビジネス文書の読解も行い、短時間に要点を理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

英語と日本語。少人数なら学生英語プレゼン。受講者多数なら初回選抜試験。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概説	授業内容・評価方法の概略説明、演習
2	テキスト問題演習 1	U1 CHALLENGES OF TEACHING (Before You Watch 等)
3	問題演習 2	U1 (Discussion Qs) *資格試験 (TOEIC 等)
4	問題演習 3	U2 STUDENTS KEEPING MEMORY(Watch the News) U2(DQs) *資格試験
5	問題演習 4	U3 BITTER TASTE (Watch News) *新聞、Pr(プレゼン)1
6	問題演習 5	U3(DQs 等) *資格試験、Pr2
7	問題演習 6	U4 ROBOTS(Watch News) Pr3
8	問題演習 7	U4(DQs) *資格試験、Pr4
9	問題演習 8	U5 TOILET DESIGNS *新聞、Pr5
10	問題演習 9	U5(DQs) *資格試験、Pr6
11	問題演習 10	U6 TELEWORKING *新聞
12	問題演習 11	U6(DQs) *資格試験
13	問題演習 12	試験 (既習範囲・応用問題) と解説
14	問題演習 13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWSLINE 5 (金星堂), 2022, ￥2400+税. (初回必ず出席し履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ ELLLO のウェブサイト, NHK 講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 平常点：課題提出・授業積極性・プレゼン等 70 %
定期テスト：30 %

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す

【Outline (in English)】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題で、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力があり、積極的な学生に適する）。簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストでリスニングを中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので、自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

英語で話し合う機会がある。少人数であれば、学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明、英語記事の内容・意見の発表）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容の概略説明 *U7 LEARNING TO LOVE (Before You Watch 等) *U7(Discussion Questions < =DQs >) *資格試験
2	テキスト問題演習 1	*U8 ADVOCATE(Watch the News) *新聞記事 *U8(DQs) *資格試験
3	テキスト問題演習 2	*U9 CLAY ARTIST (Watch the News) *新聞記事、プレゼン 1 *U9 (DQs) *資格試験 *プレゼン 2
4	テキスト問題演習 3	*U10 BOARD GAME (Watch the News) *新聞記事、プレゼン 3 *U10(DQs) *資格試験、プレゼン 4
5	テキスト問題演習 4	*U11 TATAMI(Watch the News) *新聞記事、プレゼン 5 *U11 (DQs) *資格試験 *プレゼン 6
6	テキスト問題演習 5	*U12 RUNWAY (Watch the News) *新聞記事 *U12(DQs) *資格試験 *U13 BLACK LIVES (Watch the News) *新聞記事
7	テキスト問題演習 6	*定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題)
8	テキスト問題演習 7	
9	テキスト問題演習 8	
10	テキスト問題演習 9	
11	テキスト問題演習 10	
12	テキスト問題演習 11	
13	テキスト問題演習 12	
14	テキスト問題演習 13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆ テキスト予習・復習 (= Online 映像 plus+Media の視聴, script の理解)。教科書の予習、復習は毎週計 4 時間必要。

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWSLINE 5 (金星堂), 2022, ￥2,400+税. (秋学期のみの人は履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座

【成績評価の方法と基準】

◆ 定期試験 = 70%, 授業積極参加 (=解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline (in English)】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics

ECN300CA
世界経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第 2 回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視点から検証する
第 3 回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第 4 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 5 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 6 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第 7 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第 8 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（1）	17 世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第 9 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（2）	グローバルヒストリーからみた 17 世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第 10 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 11 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 12 回	大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第 13 回	大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐる E・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第 14 回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に 4～7 時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る 26 の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が 50%, 各回の授業内課題点 50 % で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったため、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history.

ECN300CA
世界経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19 世紀から 21 世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・ 19 世紀と 20 世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・ 基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・ レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グローバリゼーションと 19、20 世紀	19、20 世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに 1815～1880 年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945 年が減速期、1945 年以降が第二の加速期であることを理解する
第 2 回	19～20 世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第 3 回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21 世紀の移民史を経済側面から議論する。
第 4 回	19～21 世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840 年～1913 年）と、第二波（1950 年～2000 年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第 5 回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第 6 回	産業で辿る 19～21 世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄＋鉄道、	1840 年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄＋鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第 7 回	産業で辿る 19～21 世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占／寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第 8 回	産業で辿る 19～21 世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーディズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第 9 回	最終レポートの形式を指導	19 - 20 世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第 10 回	1950、60 年代の世界	1950、60 年代の世界経済情勢を概観する
第 11 回	1970 年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970 年代の経済情勢をみる
第 12 回	1980 年代の世界	1980 年代の世界経済の動向を概観する。
第 13 回	1990 年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990 年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第 14 回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするとともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に 4～7 時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017 年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013 年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016 年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990 年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト 50 %、最終レポート 50 %で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

MAN300CA
財務諸表論 A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

財務諸表論 A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 4 版 >』日本経済新聞社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting.

This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how firms communicate through financial statements.

MAN300CA
財務諸表論 B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

財務諸表論 B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末試験・レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

ECN200CA

Demography A

菅 幹雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand basic concepts and measures
2. Understand age-specific rates and probabilities
3. Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feeded back.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table

13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand basic concepts and measures
2. Understand age-specific rates and probabilities
3. Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population

14 Summing Up Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

Demography B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand fertility rate
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbakced.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand fertility rate
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下のような方法で進めていきます。

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動（1）	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動（2）	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN200CA
会計学入門B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下の方法で進めていきます。

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析（1）	資本利益率
7	収益性の分析（2）	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN300CA
管理会計 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	C V P 分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	C V P 分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品の C V P 分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第 11 回	全部原価計算方式による C V P 分析	C V P 分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	A B C / A B M	原価構造の変化、A B C の計算構造、アクティビティ分析
第 13 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第 14 回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA
管理会計 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	R O I と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工が販売か
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計の利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	N P V 法と I R R 法の比較、再投資の仮定
第 13 回	B S C、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

HSS300CA
スポーツ経済論
杉本 龍男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】

スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。
レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツと経済の関連性	マクロ経済およびミクロ経済におけるスポーツの経済効果かんする概要について
第2回	現代社会とスポーツの関わり	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第3回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第4回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第5回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第6回	スポーツのビジネス化のプロセス	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツビジネスにおけるブランディング戦略	スポーツビジネスにおけるブランディングの意義および戦略について
第11回	スポーツ産業概要	スポーツ産業に属する各業種の概要について
第12回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第13回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

【教室における対面授業が可能な場合】

平常点： 50%

試験（論述）： 50%

【オンライン授業のみで開講する場合】

平常点ならびにレポート提出： 50%

試験（オンライン形式）： 50%

注意点：

授業状況によって、試験を中止し、レポートのみの評価に変更することもあり得る。その場合は、学習支援システムに情報をアップするので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。
またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

教室における対面授業が可能な場合、プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。
オンライン授業のケースでは、オンラインミーティングアプリを使用し、ライブによる講義を実施する予定。毎講義については録画をし、試験前にオンデマンドとして配信する予定。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。
学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。
またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports, in particular, health care promotion by sports activities, structure of sports business (ex.professional sports, sports event and more)and consumer behavior.

Your required study time without lecture is at least four hour to collect and understand news and information about sports economics and business.

Grading will be decided based on score of examination (50%) and participation on lectures (50%).

LANe200CA
Business Communication IA
JOHN LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA

Business Communication I A

JOHN LACEY

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication IB
JOHN LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook
Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)

Week 13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA

Business Communication I B

JOHN LACEY

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook

Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)
Week 13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ECN200CA

Japan and ASEAN Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
3	PARADIGM	Akamatsu paradigm
4	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
5	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
6	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
7	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
8	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
9	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
10	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
11	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
12	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
13	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
14	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
15	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA

Japan and ASEAN Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩 / Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN

2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.
8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data

10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.
8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations;
9	VIETNAM	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
10	MALAYSIA	Digging in the Data Country Summary; Presentations;

11	INDONESIA	Country Summary; Presentations;
12	THAILAND	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
13	PHILIPPINES	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
14	EPILOGUE	Digging in the Data Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA
Multi-National Enterprises A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Defining MNE -Syllabus -Manual for project - Pre-Course Survey
2	THE STRUCTURE	Organizational approaches; OLI Framework -Small group case analysis -Trending news & research - Recap
3	BUSINESS STRATEGIES	Theory and Cases -Trending news -Case Seminar - Recap
4	MARKET ENTRY DECISIONS	Where/How/When; Cases -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	FINANCIAL MANAGEMENT	Theory and Cases -Case seminar -Trending news - Recap

6	CONTROL MECHANISM	Global-local matrix; Cases -Small group Case analysis -Trending news - Recap
7	KNOWLEDGE MANAGEMENT	Cases Debate 1 -Trending news - Recap
8	MNEs FROM EMERGING COUNTRIES	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
9	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
10	TRANSACTION COST ECONOMICS	Taxation and transfer pricing regulations -Trending news -Case seminar - Recap
11	IMPACT OF MNEs	On host and home countries Debate 2 -Trending news -Case seminar - Recap -Trending news
12	ADVANCED TOPICS	Monopoly concerns, Corruption, Corporate Social Responsibility -Trending news -Case seminar - Recap
13	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%
5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA
Multi-National Enterprises B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Things we covered in Spring -Syllabus -Manual for project
2	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	New Paradigm; Geopolitical headwinds; COVID realities -Small group case analysis -Trending news & research - Recap
3	Re-DEFINING MNEs	Characteristics; New Shifts; Objective of a multinational business -Trending news -Case Seminar - Recap
4	CORPORATE GOVERNANCE	What/How/When; Cases The Significance of Three Sets of People -Small group case analysis -Trending news - Recap

5	GLOBAL TRADE	International Trade Flows; Framework; Key Factors -Case seminar -Trending news - Recap
6	OUTSOURCING	Global-local matrix; Non-Equity Mode of Investments; Case Study of iPhone. -Small group Case analysis - Trending news - Recap
7	OWNERSHIP	Who Owns an MNE? Location (Domicile) Legal Bases Cases (Logitech/ Bud) -Trending News - Recap
8	SUSTAINABILITY	Friedman Paradigm; Close-Loop Supply Chain Cases (Nike; Ikea) -Trending news -Debate 1 - Recap
9	UNDERSTANDING THE COMPLEXITY	Cases (SONY & APPLE) -Trending news -Recap
10	GLOBAL MARKETING	4Ps; Dabate 2 - Trending news - Recap
11	STRUCTURE OF AN MNE	Functional; Divisional; Matrix; -Small group case analysis -Trending news - Recap
12	STRATEGY ANALYSIS	Porter's 5 Forces: BCG quadrant; -Trending News - Recap
13	MARKET ENTRY	Multi-Domestic; Globally-Integrated. Entry Strategies (Broadbrush; Beachhead) Cases (Dentsu; Denso; Walmart; McCormick) -Trending News - Recap
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research - Epilogue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%
5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.

2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN218CA
演習
岸 牧人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎概念，基礎理論，会計制度の枠組みを理解する。その上で，以下の視点から各自の研究テーマを選定し，卒業論文の作成を行う。

1. 企業内容の開示情報と経済社会
2. 内部会計情報とマネジメント
3. 公認会計士監査に関する現代的課題

【到達目標】

企業財務や公認会計士監査に関する現代的課題に対して，理論的・論理的に考察するスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. テキストの内容について輪番でプレゼンを行う。
2. マネジメント・ゲーム（日本総合研究所開発）をチーム対抗形式で行う。
3. アカウンティング・チャレンジをチーム対抗形式で行う。
4. 各自の研究テーマについてプレゼンを行う。
5. 簿記リーグをチーム対抗形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スケジュール（年間，春学期）の決定，役職の決定，各チームメンバーの決定，研究テーマの探索
第 2 回	マネジメント・ゲーム #1 テキスト#1	マネジメント・ゲーム（会社設立，第 1 期，第 2 期），テキスト第 1 章のプレゼン
第 3 回	アカウンティング・チャレンジ#1 個人研究プレゼン#1	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦，各自の研究テーマの発表
第 4 回	マネジメント・ゲーム #2 テキスト#2	マネジメント・ゲーム（第 3 期，第 4 期），テキスト第 2 章のプレゼン
第 5 回	アカウンティング・チャレンジ#2 チーム研究プレゼン #1	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦，チーム研究の研究テーマの発表
第 6 回	マネジメント・ゲーム #3 テキスト#3	マネジメント・ゲーム（第 5 期，第 6 期），テキスト第 3 章のプレゼン
第 7 回	アカウンティング・チャレンジ#3 チーム研究プレゼン #2	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦，チーム研究のプレゼン
第 8 回	簿記リーグ#1 テキスト#4	簿記リーグ春学期 1 回戦，テキスト第 4 章のプレゼン
第 9 回	マネジメント・ゲーム #4 チーム研究プレゼン #3	マネジメント・ゲーム（第 7 期，第 8 期），チーム研究のプレゼン

第 10 回	アカウンティング・チャレンジ#4 テキスト#5	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦, テキスト第 5 章のプレゼン
第 11 回	マネジメント・ゲーム #5 チーム研究プレゼン#4	マネジメント・ゲーム (第 9 期, 第 10 期), チーム研究のプレゼン
第 12 回	アカウンティング・チャレンジ#5 テキスト#6	アカウンティング・チャレンジ 5 回戦, テキスト第 6 章のプレゼン
第 13 回	マネジメント・ゲーム #6 チーム研究プレゼン #5	マネジメント・ゲーム (総括と分析), チーム研究のプレゼン
第 14 回	簿記リーグ#2 テキスト#7	簿記リーグ春学期 2 回戦, テキスト第 7 章のプレゼン
第 15 回	秋学期イントロダクション 夏合宿の成果発表	秋学期スケジュールの決定, 各チームメンバーの決定, 夏合宿でのプレゼンのレビュー
第 16 回	4 年生卒業論文プレゼン#1	4 年生による卒業論文のプレゼン (テーマと問題意識, 研究方法)
第 17 回	アカウンティング・チャレンジ#1 テキスト#8	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦, テキスト第 8 章のプレゼン
第 18 回	マネジメント・ゲーム #1 チーム研究プレゼン #6	マネジメント・ゲーム (会社設立, 第 1 期, 第 2 期) チーム研究のプレゼン
第 19 回	簿記リーグ#1 テキスト#9	簿記リーグ秋学期 1 回戦, テキスト第 9 章のプレゼン
第 20 回	アカウンティング・チャレンジ#2 4 年生卒論プレゼン#2	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦, 4 年生による卒業論文のプレゼン
第 21 回	マネジメント・ゲーム #2 チーム研究プレゼン #7	マネジメント・ゲーム (第 3 期, 第 4 期) チーム研究のプレゼン
第 22 回	簿記リーグ#2 テキスト#10	簿記リーグ秋学期 2 回戦, テキスト第 10 章のプレゼン
第 23 回	アカウンティング・チャレンジ#3 4 年生卒論プレゼン#3	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦, 4 年生による卒業論文のプレゼン
第 24 回	マネジメント・ゲーム #3 チーム研究プレゼン #8	マネジメント・ゲーム (第 5 期, 第 6 期), チーム研究のプレゼン
第 25 回	アカウンティング・チャレンジ#4 2 年生個人研究プレゼン#1	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦, 2 年生による個人研究プレゼン (前半)
第 26 回	マネジメント・ゲーム #4 4 年生卒論プレゼン#4	マネジメント・ゲーム (第 7 期, 第 8 期), 4 年生による卒業論文のプレゼン
第 27 回	簿記リーグ#3 2 年生個人研究プレゼン#2	簿記リーグ秋学期 3 回戦, 2 年生による個人研究プレゼン (後半)
第 28 回	マネジメント・ゲーム #5 年間の振り返りと新年度の方針決定	マネジメント・ゲーム (総括と分析), ゼミ活動全般に関する振り返りと新年度の方針決定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プレゼンテーションの準備に関する資料収集, 分担決め, 打ち合わせ等本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

新井清光, 川村義則『新版現代会計学』(第 2 版), 中央経済社, 2018 年。

【参考書】

『会計法規集』(開講時の最新版)

【成績評価の方法と基準】

アカウンティング・チャレンジの成績 20%, ビジネス・ゲームの総括と分析の内容 20%, 個人研究プレゼンの内容 20%, チーム研究プレゼンの内容 20%, 簿記リーグの個人成績 20%

【学生の意見等からの気づき】

演習科目につき実施していない。

【Outline (in English)】

This seminar introduces corporate financial accounting, managerial accounting, and auditing. Each member of this seminar should have their own research question, and write a graduation thesis.

ECN218CA
演習
小黒 一正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは日本経済が直面する課題とし、少子高齢化、政治システム、世代間格差、財政・社会保障、金融政策、労働市場等を巡る問題を考える上で参考になる日本語・英語のテキストを輪読しつつ、その解決策を討論する。

【到達目標】

経済学の視点から、日本経済が直面する課題の現状と問題を分析し、その解決の方向性について議論するための基礎的な知識や方法論を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、経済学の概念・理論の理解を深める観点から、テキストを輪読する。後半は調査分析を行う共通テーマを設定し、ゼミ生からの報告と質疑を中心に授業を進める。また、ゼミ生は ISFJ 日本政策学生会議に参加し、政策提言の報告を目指すこととする。課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガバナンス	演習の狙い、春学期スケジュールの説明、輪読テキストの決定
第 2 回	輪読 (1)	担当学生による発表と質疑
第 3 回	輪読 (2)	担当学生による発表と質疑
第 4 回	輪読 (3)	担当学生による発表と質疑
第 5 回	輪読 (4)	担当学生による発表と質疑
第 6 回	輪読 (5)	担当学生による発表と質疑
第 7 回	輪読 (6)	担当学生による発表と質疑
第 8 回	輪読 (7)	担当学生による発表と質疑
第 9 回	輪読 (8)	担当学生による発表と質疑
第 10 回	輪読 (9)	担当学生による発表と質疑
第 11 回	輪読 (10)	担当学生による発表と質疑
第 12 回	輪読 (11)	担当学生による発表と質疑
第 13 回	輪読 (12)	担当学生による発表と質疑
第 14 回	総括	サブゼミ等
第 15 回	後期ガバナンス	春学期の復習、秋学期スケジュールの確認
第 16 回	調査分析 (1)	共通テーマ候補の提案とプレゼン
第 17 回	調査分析 (2)	共通テーマの決定、関連文献の検討
第 18 回	調査分析 (3)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 19 回	調査分析 (4)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 20 回	調査分析 (5)	担当学生による関連文献の報告と質疑

第 21 回	調査分析 (6)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 22 回	調査分析 (7)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 23 回	調査分析 (8)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 24 回	調査分析 (9)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 25 回	調査分析 (10)	共通テーマ全体の総括と討論
第 26 回	その他 (1)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 27 回	その他 (2)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 28 回	総括	サブゼミ等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決定する。

【参考書】

参考書は適宜指示するが、自らの興味に応じて以下の書籍も読んでほしい。

フリードマン『資本主義と自由』日経 BP 社

中田真佐男『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社

二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社

麻生良文『公共経済学』有斐閣

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

加藤久和『世代間格差』ちくま新書

田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社

野口悠紀雄『消費増税では財政再建できない』ダイヤモンド社

小黒一正『財政危機の深層—増税・年金・赤字国債を問う』NHK 出版

小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 % を超える』PHP 研究所

小黒一正『2020 年、日本が破綻する日』日経プレミアシリーズ

小黒一正・小林慶一郎『日本破綻を防ぐ 2 つのプラン』日本経済新聞出版社

ラインハート・ロゴフ『国家は破綻する——金融危機の 800 年』日経 BP 社

日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000 万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』新潮社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

山重慎二『家族と社会の経済分析：日本社会の変容と政策的対応』東京大学出版会

小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

田近栄治・佐藤主光『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社

鈴木亘・八代尚宏『成長産業としての医療と介護』日本経済新聞出版社

池尾和人『現代の金融入門（新版）』ちくま新書

池尾和人『連続講義：デフレと経済政策 アベノミクスの経済分析』日経 BP 社

白川方明『現代の金融政策—理論と実際』日本経済新聞出版社

翁邦雄『ポスト・マネタリズムの金融政策』日本経済新聞出版社

小宮隆太郎・日本経済研究センター『金融政策論議の争点』日本経済新聞出版社

吉川洋『デフレーション—“日本の慢性病”の全貌を解明する』日本経済新聞出版社

岩田一政『デフレとの闘い』日本経済新聞出版社

佐藤主光『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社

太田 聡一『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社

大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣

深尾京司『失われた 20 年』と日本経済』日本経済新聞出版社

井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

ブキャナン・ワグナー『赤字の民主主義 ケインズが遺したもの』日経 BP 社

飯塚信夫・加藤久和『EViews による経済予測とシミュレーション入門』日本評論社
Jones, *Macroeconomics*, 2011, W. W. Norton & Company.
Wooldridge, *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 2008, South-Western.
Kotlikoff, Leibfritz, and Auerbach, *Generational Accounting Around the World*, 1999, Univ of Chicago Press.
Keen, Bodin, and Summers, *The Modern Vat*, 2002, International Monetary Fund.
Persson and Tabellini, *Political Economics*, 2002, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業内評価（例：全体への議論の参加）70 %および報告・発表の評価 30 %によって総合的に判断する。無断欠席は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to consider the problems facing the Japanese economy. Specifically, based on our readings from the textbooks, we will formulate and discuss potential solutions to such problems as the declining birthrate, aging population, political system, intergenerational disparity, public finance, social security system, monetary policy, and the labor market.

ECN218CA
演習
平井 俊行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献の輪読を通じてゲーム理論の基礎概念・考え方・使い方を学習します。また、プレゼンテーションの技術の向上も目指します。

【到達目標】

ゲーム理論についての基礎的な知識の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆時点（2022 年 1 月中旬）では対面での講義が基本となっています。

輪読を中心に進めます。適宜、最終報告書の準備についても報告してもらいます。詳細は第 1 回の講義で連絡します。履修者による報告が講義の中心になりますので、フィードバックは当然その場でおこなわれます。履修者相互のフィードバックを歓迎します。

報告は完璧である必要はありませんが、自分が理解したこととできなかったことを区別して報告するよう心掛けてください。質問者についても同様で、自分がどこまで理解してどの部分がなぜわからなかったかをきちんと伝えるよう努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
打合せ	春学期のゼミの進行について	自己紹介・グループ分け・担当箇所決め
個人発表①	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
輪読①	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
輪読②	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
輪読③	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
輪読④	最終報告書の準備①	実際のゲームの状況についての報告①
輪読⑤	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
輪読⑥	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑦	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑧	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
輪読⑨	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑩	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
個人発表②	最終報告書の準備②	実際のゲームの状況についての報告②
総括	春学期のまとめ	春学期の内容の総括
打合せ	秋学期のゼミの進行について	テキストの選定・グループ分け・担当箇所決め
個人発表③	最終報告書の準備③	実際のゲームの状況についての報告③
輪読⑪	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
輪読⑫	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
輪読⑬	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬
輪読⑭	輪読⑭	実際のゲームの状況についての報告④
輪読⑮	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑭
輪読⑯	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑮
輪読⑰	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑯
輪読⑱	最終報告書の報告①	実際のゲームの状況についての最終報告①

輪読⑨	最終報告書の報告②	実際のゲームの状況についての最終報告②
輪読⑩	最終報告書の報告③	実際のゲームの状況についての最終報告③
個人発表④	最終報告書の報告④	実際のゲームの状況についての最終報告④
総括	秋学期まとめ	1 年間の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてください。自分の担当箇所でも予習をして議論ができるように準備をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回講義で指示する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

(ゼミでの報告も含めた) 平常点 70 %, 最終レポート 30%。ただし、最終レポートを提出しない場合、未受験と同様に扱います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this seminar is to learn the basic concepts, ideas, and techniques of game theory through reading textbooks. Students are expected to acquire basic knowledge and ideas of game theory and techniques to think and present logically. (Learning Objectives) By the end of the academic year, students are expected to:

- A) acquire basic knowledge and techniques of game theory;
- B) become able to give a presentation clearly.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class, students are expected to spend four hours for preparation/reviewing.

(Grading policy) Class participation (including the performance at presentations) 70%; Final report 30%

(

ECN218CA
演習
岡部 雅史
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1-株式投資能力の向上を目指す。
- 2-プレゼンソフトを用いた発表能力の向上を目指す。

【到達目標】

- 1－株式投資シミュレーションを約 10 ヶ月行い、収益を上げることを目指す。
- 2-株式投資戦略・結果をプレゼンテーションすることを目指す（各人 6 回・通年）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

投資スキル向上のための株式投資シミュレーション訓練(毎年 10 ヶ月) プレゼンスkill向上のため、各人 6 回の投資結果発表を行う（パワポ使用）

論文提出者がある場合、卒業論文作成の指導

フィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 投資チーム編成	ゼミの進め方の説明 成績評価詳細の説明 チーム編成の決定 投資口座 ID 作成
2	春学期シミュレーション投資スタート	一般銘柄：1 人・チーム ETF 限定投資：1 人・チーム
3	春学期第 1 週投資結果分析	発表 1
4	春学期第 2 週投資結果分析	発表 2
5	春学期第 3 週投資結果分析	発表 3
6	春学期第 4 週投資結果分析	発表 4
7	春学期第 5 週投資結果分析	発表 5
8	春学期第 6 週投資結果分析	発表 6
9	春学期第 7 週投資結果分析	発表 7
10	春学期第 8 週投資結果分析	発表 8
11	春学期第 9 週投資結果分析	発表 9
12	春学期第 10 週投資結果分析	発表 10
13	春学期第 11 週投資結果分析	発表 11
14	春学期投資結果まとめ	一般銘柄、ETF 限定銘柄の投資結果についてのまとめ
15	秋学期投資方針考察 秋学期シミュレーション投資スタート	春学期の投資結果振り返り

16	秋学期第1週投資結果 発表 12 分析	
17	秋学期第2週投資結果 発表 13 分析	
18	秋学期第3週投資結果 発表 14 分析	
19	秋学期第4週投資結果 発表 15 分析	
20	秋学期第5週投資結果 発表 16 分析	
21	秋学期第6週投資結果 発表 18 分析	
22	秋学期第7週投資結果 発表 18 分析	
23	秋学期第8週投資結果 発表 19 分析	
24	秋学期第9週投資結果 発表 20 分析	
25	秋学期第10週投資結果分析 卒論指導1	一般銘柄投資結果まとめ 卒論テーマの決め方
26	秋学期第11週投資結果分析 卒論指導2	ETF 限定投資結果まとめ 論文のゴール設定
27	投資コンテスト結果 分析 卒論指導3	コンテスト結果の分析を行う 説得力を増すためのデータ取扱
28	秋学期投資結果まとめ	年度最終ゼミ 今年度通期のまとめ ゼミ内最優秀トレーダーの表彰

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に金融・環境・医療・食品・国際紛争などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ゼミにて通達する。

【参考書】

適宜ゼミにて通達する。

【成績評価の方法と基準】

各人6回の投資結果プレゼン発表 および株式投資シミュレーションにおける、ゼミ内順位を基準に総合的に評価を行う。総合評価の詳細については初回ガイダンスの際に説明する。
学部行事（ディベート大会、プレゼン大会、株式投資コンテスト）に参加し、顕著な功績があれば該当チーム全員に加点し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ運営 および 成績評価基準について、希望があれば逐次見直しを図ります。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

新型コロナの感染状況によっては zoom 講義になる場合があります。その場合はお知らせに揭示します。

【Outline (in English)】

The aim of this class is improvement of the ability for, 1-Japanese stock investment, & 2-announcement, using various kinds of media.

ECN218CA
演習
奥山 利幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を中心に経済学を学び、各自の興味に沿った論題を扱った先行研究の問題意識・分析方法・結果（発見と含蓄）をサーベイし、新たな論題を創造する力と、その解決のための分析力を培い、最終的には、その成果を進級論文・卒業論文として執筆し、発表します。

【到達目標】

プレゼン力、ディスカッション能力、経済学概念・理論の理解、現実へのその応用力、文献知識、論文作成力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに即して教科書や参考書から発表して行きます。レジュメの作成、プレゼンやディスカッションの練習、そして、進級論文や卒論にむけた論題探しに役立てて行きます。

進級論文の指導は、6月より開始し、取り扱う先行研究を春学期中に確定させます。秋学期には、先行研究のレジュメ、共通理解や相違点、今後の課題について整理していきます。

例年、学生研究報告大会に3名のゼミ生が発表しています。大会の出場については、独自の分析が必須になります。大会出場者には、そのためのアドバイスを行います。

ゼミにおけるパフォーマンスについては、論文指導時、また、学期途中に中間評価を示し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ・ガイダンス	ゼミスケジュール、課題、論文
2	経済学の基本用語と問題意識	基本用語、産業連関表、ミクロ経済学、マクロ経済学
3	競争市場	需要曲線、供給曲線、厚生経済学の基本定理群、政策の効果
4	外部性、公共財	外部性、コースの定理、ビゲー税、公共財、サミュエルソン条件、リンダール均衡
5	情報	逆選択、モラル・ハザード
6	非凸性、ゲーム理論 (1)	費用逓減、独占均衡、自然独占、ゲーム理論、ナッシュ均衡
7	ゲーム理論 (2)	展開形ゲーム、不完備情報、ベイジアンゲーム、完全ベイジアン均衡
8	寡占	クールノー均衡、シュタッケルベルグ均衡、共謀、カルテル
9	差別化	価格差別化、商品差別化、独占的競争、ホテリングの定理、サロップ理論
10	メカニズム・デザイン入門	社会的選択関数、メッセージ、メカニズム、ナッシュ遂行
11	社会的選択	社会的厚生関数、アローの不可能性定理
12	消費者 (1)	無差別曲線、限界代替率、予算制約、最適消費計画
13	消費者 (2)	所得消費曲線、価格消費曲線
14	消費者 (3)	代替効果、所得効果、ギッフェン財
15	生産者 (1)	生産関数、限界生産性、平均生産性、等量曲線
16	生産者 (2)	費用関数、限界費用、平均費用
17	生産者 (3)	短期 vs. 長期、損益分岐点、操業中止点、供給曲線
18	均衡 (1)	マーシャル分析、ワルラス分析 (1) 純粋交換経済
19	均衡 (2)	ワルラス分析 (2) 生産経済
20	均衡 (3)	エッジワース分析 (コア)
21	厚生 (1)	厚生経済学の第1基本定理
22	厚生 (2)	厚生経済学の第2基本定理
23	不確実性	くじ、期待効用、保険、条件付商品、総量リスク
24	遂行 (1)	支配戦略遂行、ナッシュ遂行、マスキンの単調性
25	遂行 (2)	クラークメカニズム、ハーヴィッツ定理

26	進級論文発表 (1)	発表 (2 年生)
27	進級論文発表 (2)	発表 (3 年生)
28	卒論発表	発表 (4 年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの用意、教科書の予習・復習、論文論題関係先行研究のサーベイ、論文作成授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

奥山利幸『ミクロ経済学 新装改訂版』学術図書出版社
※ 2022 年 2 月出版予定

【参考書】

岡田章『ゲーム理論』有斐閣
ステイグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済
武隈慎一『ミクロ経済学』新世社
チャン『現代経済学の数学的方法』シーエービー出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、進級論文 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミを益々活性化させるために、一緒に精力的に活動して行きましょう。

【その他の重要事項】

2 年次より中級レベル以上のミクロ経済学を学ぶことで、学力が飛躍的に向上します。2 年生の多くは、最初の数ヶ月間、かなり苦勞しますが、秋学期に発表する進級論文は、相当、質の高いものになる 2 年生が少なくありません。その飛躍たるもの、指導している教員自身が驚く程です。難しくても「ついて行く」姿勢を持っている限り、毎年、毎年、1 年を振り返ったときに自らの成長を感じるはずですよ。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course deals with intermediate microeconomics. It also enhances the development of students' skill in microeconomic applications and communication/presentation.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to write and present a term paper. By the end of the course, students should be able to analyze and explain actual economic phenomena.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Furthermore, before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria/Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term paper:40%, in class contribution:60%

ECN218CA
演習
山崎 達朗
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

山崎達朗ゼミ 4 年生対象の卒論指導である。
ことばやその背後にある文化に関して幅広く種々の現象や考え方について学習するとともに、ことばと文化について特定のテーマの調査研究を実施し、分析や考察の結果を論文にまとめる。

【到達目標】

山崎ゼミ生の卒論作成を前提とする。ことばや文化・習慣を学習したり考察することにより、ことばへの関心や思考力が深まり、自国文化や他の文化の尊重や見直しができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を前提とする。ゼミ活動として、

1. 文献の読解と意見発表、2. 論文テーマのリサーチ・論文執筆・プレゼン

リアクションペーパーを求め意見を授業や活動に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	* ガイダンス	ゼミの目標、活動方針や内容の説明
2	*「言語と文化」1 * 言語分析の基礎 1	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 1） ② 言語学（言語学の分野）
3	*「言語と文化」2 * 言語分析の基礎 2	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 2） ② 言語学（音声学と音韻論）
4	*「言語と文化」3 * 言語分析の基礎 3	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 3） ② 言語学（統語論）
5	* 論文調査の方法	専門ゼミガイダンス（文献・資料検索）
6	* 論文作成の基礎	過去の研究論文テーマ
7	*「言語と文化」4 * 論文作成の心得	① 文献や論文の読解・討議（カタカナ語） ② 論文作成の方法と注意（剽窃防止など）
8	*「言語と文化」5 * 論文作成のスコープ	① 文献や論文の読解・討議（外来語・和製英語） ② 研究論文テーマについて
9	*「言語と文化」6	① 文献や論文の読解・討議（PC 語） ② 研究論文リサーチ
10	*「言語と文化」7	① 文献や論文の読解・討議（社会方言） ② 研究論文リサーチ
11	*「言語と文化」8	① 文献や論文の輪読・討議（日英語対照） ② 研究論文リサーチ
12	*「言語と文化」9	① 文献や論文の輪読・討議（語用論・社会言語学） ② 研究論文リサーチ・執筆

13	* 学生研究報告大会に向けて 1	研究論文リサーチ・執筆
14	* 学生研究報告大会に向けて 2	研究論文リサーチ・執筆
15	* 学生研究報告大会に向けて 3	研究論文リサーチ・執筆
16	* 学生研究報告大会に向けて 4	研究論文リサーチ・執筆 大会申し込みについて
17	* 学生研究報告大会に向けて 5	研究論文リサーチ・執筆
18	* 学生研究報告大会に向けて 6	大会プレゼン演習 1 (パワーポイント発表・講評・討議)
19	* 学生研究報告大会に向けて 7	大会プレゼン演習 2 (パワーポイント発表・講評・討議)
20	* 学生研究報告大会に向けて 8	大会プレゼン演習 3 (パワーポイント発表・講評・討議)
21	* 卒論作成 1	学生研究報告大会審査員コメントの振り返り
22	* 卒論作成 2	研究論文作成 1
23	* 卒論作成 3	研究論文作成 2
24	* 卒論作成 4	研究論文作成と修正 1
25	* 卒論作成 5	研究論文作成と修正 2
26	* 卒論作成 6	研究論文作成と修正 3
27	* 卒論作成 7	研究論文作成と修正 4
28	* ゼミ活動のまとめ	1 年間の活動の実績や反省点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

*『言語学』山崎達朗、『経済志林』第 75 巻 1 号 (2007) で言語分析の基礎を説明。

* その他適宜、論文などのハンドアウトを配布する。

【参考書】

*『はじめての英語学』, 長谷川瑞穂編著, 研究社 (¥2500+税)。

*『社会言語学』, 岡本佐智子, アルク (¥2200+税)。

* An Introduction to Language, V. Fromkin et al., Heinle.

*『現代の英語学』, 石黒昭博ほか, 金星堂。

*『新版大学生のためのレポート・論文術』, 小笠原喜康, 講談社現代新書 (¥740+税)。

【成績評価の方法と基準】

* 論文（調査・プレゼンテーション・執筆）100 %

* 大学の評価基準に従い、合計点 60 % 以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文献の調査や論文の書き方が適切にできるようにする

【Outline (in English)】

This course is exclusively designed for seniors of Tatsuroh Yamazaki seminar. Students will do research on topics related to sociolinguistics and applied linguistics, such as loan words, sales talk and English education in Japan. Based on this research, students write papers and make presentations.

ECN218CA
演習
杉浦 未樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、商品流通をめぐる日本と経済が抱える問題を学び、商品開発にかかる経験・実践のスキルを調査・発表・産学協同事業を通して修得することを目的とします。商品開発について基礎理論と歴史を理解し、実践的な学習手法から議論に耐えうる知見・経験を身に付けます。加えて、実践的な学びを通じて、情報収集・チームワーキング・プレゼン力など、実社会での問題解決にも有用なスキルを習得します。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

現在、われわれを取り巻く経済・ビジネスの環境は、非常に早いスピードで変化しており、そのような中、自ら主体的に考え行動していく人材が求められています。ゼミを通じて、自ら問題を解決するスキル・姿勢を身に付けましょう。

【到達目標】

下記の能力を身に付けます。

- 1) 日本企業に対し、商品開発の分野で、具体的・実現可能性のある提案を行う。
- 2) 資料収集・情報整理を効率的に行い、アウトプット（企画書・プレゼンテーション）を出せる。
- 3) 自分のアイディアを体系的に発表することができる。
- 4) 異なる意見のある中で、積極的かつ協調的なディスカッション・提案を行う。
- 5) 意見発表や、企業とのコミュニケーションを通じ、社会人マナーを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員からのレクチャーも行いますが、全般的にアクションラーニング的に行います。内容は、若干高度なものが含まれますが、適宜教員から説明します。

前半の回では商品開発をテキスト中心に、年後半では実際に商品開発のプロセスをチームを編成して行います。

毎回の授業では、前半で、テキスト・資料についてのレジュメ（内容のまとめ）発表、あるいは、教員によるレクチャーを行います。後半では、前半の内容につき、ディスカッション・実習（自ら作業）を行います。

具体的内容として、年後半では、3、2 年生それぞれ実践的な提案のためのグループ作業を行います。3 年生は全国約 15 大学の 30 ゼミが参加する商品開発コンペ『S カレ』に参加します。2 年生は個人での商品開発コンセプトの策定プログラム、および、特定の日本企業様に対する商品企画ワークショップを行います。フィールドバックは、以上の課題の中で、授業中または個人・グループ指導として都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの内容・進め方、および、新年でのスケジュールの説明。教員・学生の自己紹介。

第 2 回	商品開発を学ぶ①	テキスト第 1 章「商品企画プロセス」、第 2 章「インタビュー法」を学ぶ。グループで事前作成のレジュメに沿って輪読。マーケティングリサーチについて説明、発表準備	第 17 回	商品開発の実践② (情報収集・調査)	同上。ただし、基礎的な情報収集から、より商品に直結した調査に進みます。
第 3 回	商品開発を学ぶ②	テキスト第 3 章「観察法」第 4 章「リードユーザー法」を学ぶ。3 年生「自分のマーケティングアプローチ発表」①	第 18 回	商品開発の実践③ (コンセプト設定)	ここまで集めた情報・分析結果をもとに、提案する商品コンセプトを決定します。(3 年生は S カレ向け、2 年生はワークショップ向け)
第 4 回	商品開発を学ぶ③	テキスト第 5 章「アイデア創出」第 6 章「コンセプト開発」を学ぶ。3 年生自分のマーケティングアプローチ発表」②	第 19 回	商品開発の実践④ (コンセプト検証)	前回決定したコンセプトにつき、ディスカッション、各種実査(技術・コスト実現性)などを行います。(3、2 年生の目的は同上)
第 5 回	商品開発を学ぶ④	テキスト第 7 章「プロトタイプング」を学ぶ。「自分のマーケティングアプローチ発表」③、S カレのテーマ決め。2 年生 アパレル・ファッション業界文献輪読	第 20 回	商品開発の実践⑤ (プレゼン資料作成とプレゼン準備)	ここまで調査・分析した内容をプレゼン資料にまとめていきます。(3、2 年生の目的は同上)
第 6 回	商品開発を学ぶ⑤	テキスト第 8 章「市場規模の確認」第 9 章「競合・技術の確認」を学ぶ。3 年生、S カレのテーマ決め。2 年生 2 年生 アパレル・ファッション業界文献輪読	第 21 回	商品開発の実践⑥ (プレゼン練習の実施)	作成したプレゼン資料を、実際にプレゼン。相互にフィードバックを行います。(3、2 年生の目的は同上)
第 7 回	商品開発を学ぶ⑥	テキスト第 10 章「顧客ニーズの確認」第 11 章「販促提案」を学ぶ。2 年、「アパレル業界のサバイバル」発表。3 年生、S カレ基礎インタビュー、調査計画	第 22 回	S カレ準備 (3 年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案 (2 年生) ①	3 年生は、引き続き S カレに向けた準備を行います。2 年生は、順次ワークショップの成果を企業様にプレゼンします。
第 8 回	商品開発を学ぶ⑦	テキスト第 12 章「価格提案」第 13 章「チャネル提案」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」発表。3 年生、S カレ基礎インタビュー、調査計画発表	第 23 回	S カレ準備 (3 年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案 (2 年生) ②	同上
第 9 回	商品開発を学ぶ⑧	テキスト第 14 章「企画書作成」、第 15 章「プレゼンテーション」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」テーマに発表。3 年生、S カレ基礎インタビュー、調査計画発表	第 24 回	S カレ 事前演習	S カレ・冬カン(冬に行う最終大会)に向けた準備。 3 年生が中心となり、企画書・プレゼンの練習を行う。 4 年生、2 年生を含み、相互にフィードバックを行う。
第 10 回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画①	教科書で学んだ知見についてまとめ(主に前半部)を行う。および、3 年生は S カレ進行状況発表、2 年生はアパレル産業をめぐるグループ調査計画。	第 25 回	S カレ 振り返り	よび、全体の進め方について、振り返る。良かった点、反省点、要修正点を発表する。2 年生を含めフィードバックを行います。
第 11 回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画②	教科書で学んだ知見についてまとめ(主に後半部)を行う。また、引き続き、3 年生は S カレ、2 年生はアパレル産業をめぐるグループ調査計画。	第 26 回	2 年生の商品コンセプト発表①	2 年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います
第 12 回	企業に対する商品提案のための調査と、業界調査②	3 年生、2 年生それぞれの S カレ、アパレル調査発表グループに対する、教員からの個別指導	第 27 回	2 年生の商品コンセプト発表②	2 年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います。
第 13 回	半期のまとめのグループ発表①	3 年生 S カレ提案発表、2 年生アパレル調査発表	第 28 回	全体としての振り返り	1 年間のゼミを振り返り、各自の発表・コメントを行う。 4 年生の卒論発表、就活体験会、3 年生から、2 年生へのアドバイスをを行う。
第 14 回	半期のまとめのグループ発表①	3 年生 S カレ提案発表、2 年生アパレル調査発表			
第 15 回	S カレ 事前演習	3 年生は、S カレのため、他ゼミ・他大学との、合同の事前演習を行います。2 年生も学習、3 年生支援のために参加します。			
第 16 回	商品開発の実践① (情報収集・調査)	3 年生は S カレの準備、2 年生は個人の商品コンセプトプログラムと、商品開発ワークショップの準備を進めます。主に、情報収集・調査を行います。			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
発表担当者は、事前にレジュメをワード／パワーポイントで作成し、授業において自ら説明・発表します。
自ら理解するだけでなく、他人に分かりやすいまとめ方・発表の仕方を習得することも目的とします。
商品開発では、授業外でインカレの大会に参加します。
その準備にも一部、授業外の時間が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】
西川英彦・廣田章光「1 からの商品開発」碩学舎 2012 年

【参考書】
調査・分析の仮定で、企業の状況、競合商品の状況、その他各種情報収集のため、ネットの検索を高い頻度で行います。
2 年生のアパレル・ファッション業界の文献として
斉藤孝浩 「アパレルサバイバル」、日本経済新聞社 2019 年
仲村和代、藤田さつき 「大量廃棄社会—アパレルとコンビニの不都合な真実」、光文社新書、2019 年
スーザンストラッサー「欲望を生み出す社会—アメリカ大量消費社会の成立史」、2011 年

【成績評価の方法と基準】
ゼミの活動の参加意欲、態度 60 %

各種発表での充実度 **40 %** （3年生はSカレ、2年生は個人の商品コンセプト策定プログラム、チームでの商品開発ワークショップ）

【学生の意見等からの気づき】

去年に引き続き、レクチャー（座学）もありますが、基本的に各回・通年で、アクションラーニング的に、チームでのディスカッション・作業・発表を多く行います。

また、レクチャーにおいても、皆さんの意見を多くきくため、双方方向での授業を心掛けます。

3年生が参加するSカレについては、高い積極性が求められます。苦勞する分、充実感も大きいと思います。

2年生の企業向けの商品開発ワークショップでは、実際の企業の方々とを相手にするため、社会人としての振る舞いが求められます。

厳しい面もありますが、自ら能動的に動く楽しみを見つけてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で実習を行いますので、基本的に毎回PC（／タブレット＋キーボード）を、各自持参してください。また、マイクロソフト社オフィス（特にワード・パワーポイント）が使用できるようにしてください。（互換ソフトも可能ですが、他人とのファイルやり取りもあるので、できるだけ純正のオフィスをお願いします。）

ただし、機種の性能的には、高いものでなくても構いません。

【Outline (in English)】

The aims of this seminar are 1. to have systematic understanding of the basic theory and history of product development, 2. to acquire pragmatic skills for presenting product management, 3. to make a product development proposals through groupwork. The third-year students of this seminar are expected to join the Inter-university product development competition 'Student innovation college'.

ECN218CA
演習
小沢 和浩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済データの様々な分析手法を習得することを目的とする。演習では Excel のマクロプログラムや VB などを利用することもある。また、統計解析手法や地理情報システム (GIS) を用いる。また、プレゼンテーション技術の向上も目的とする。

基本的なデータ解析法を身に付けながら、各自身近な研究テーマを持つ。各自の研究成果は年に数回の発表を行う。

【到達目標】

- ・データの特徴をつかむ基本理論と手法の理解
- ・データマイニングなどの手法を用いたデータ解析手法の習得
- ・データ解析に必要なプログラミング技法の習得
- ・プレゼンテーション技術の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は対面での演習を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。前もって「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。また毎週の課題のほかに各自の研究テーマに関する発表会を年に数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトによる統計処理の概説とデータベースの操作	データベースの作成、利用、クロス集計表について理解する
第 2 回	経済データの可視化	データの代表値とばらつきといった基本的な統計量を理解し、ヒストグラムを作る
第 3 回	データの関連性	散布図と相関を使って 2 変数データの関連性を理解する
第 4 回	確率論の基礎	確率の定義、数学的な確率と統計的な確率を理解する
第 5 回	確率分布 (1)	一様分布、ベルヌーイ分布、二項分布を理解する
第 6 回	確率分布 (2)	正規分布と標準正規分布について理解する
第 7 回	確率分布 (3)	t 分布、 χ^2 分布、F 分布について理解する
第 8 回	母集団と標本の関係	母集団と標本抽出、不偏性と不偏分散について理解する
第 9 回	中心極限定理	中心極限定理について理解する
第 10 回	統計的な推定 (1)	最尤推定法、区間推定、母平均の推定について理解する
第 11 回	統計的な推定 (2)	母比率の推定、母分散の推定について理解する
第 12 回	統計的検定 (1)	正規母集団母平均の検定
第 13 回	統計的検定 (2)	母比率、母分散の検定について理解する
第 14 回	回帰分析 (1)	回帰分析について理解する
第 15 回	経済統計の作成過程	経済統計の種類と分類を理解する
第 16 回	経済統計の作成過程	統計の作成過程を理解する

第 17 回	人口統計	人口統計からの将来予測
第 18 回	家計	家計に関する統計調査を理解する
第 19 回	食料統計	食料統計の種類と入手法を学ぶ
第 20 回	物価・地価の統計	物価指標や地価統計の種類と入手法
第 21 回	労働統計	日本の労働統計諸事情
第 22 回	産業統計	変わる産業構造。主要な産業統計を理解する
第 23 回	企業統計	企業統計と経営状態の把握
第 24 回	国民経済	経済循環と国民経済計算の諸勘定
第 25 回	産業連関	産業連関表を理解する
第 26 回	景気	景気循環と景気統計
第 27 回	財政	財政の仕組みと統計
第 28 回	金融	デフレ不況と金融政策
	国際収支	国際収支と関連統計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習。

課題は毎週課されるので必ず提出すること。

また各自研究テーマを持ち、年に数回の成果発表をする。

【テキスト（教科書）】

講義の初めに紹介する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題を必ず提出することが必要（70%）

演習への参加度、発表会のプレゼンなど（30%）

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

This course aims at learning various analysis methods for economic data. In the exercises, Excel macro programs and VB may be used. It also uses statistical analysis methods and geographic information systems (GIS). It also aims to improve presentation skills.

ECN218CA
演習
河村 真
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ミクロ経済学の消費者の理論に関する理解を深める。自分で消費者の理論に基づき政策の効果を予測できるようになることを目標とする。秋学期は、統計学の入門レベルの教科書の練習問題をエクセルを用いて解き、具体的にデータが与えられた際に自分で仮説検定の結論を導けること、回帰分析の推定結果を評価できるようになることを目標とする。

【到達目標】

春学期には、具体的な消費者への課税または補助の例を探し、消費者の理論に基づき、これら政策の各商品またはサービスの消費量への効果を正しく予測できるようになることを目標とする。秋学期については、平均、標準偏差などの解釈を相対頻度分布の作成を通じて直感的に理解してもらう。正規分布、カイ二乗分布、t-分布を乱数発生させて再現することにより分布を理解する。T 分布、F 分布を用いた仮説検定および回帰分析の推定結果の評価を自分で行えるようにすることなどが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面授業で行うことを考えている。春学期は各回の教材を用意し、講義したい。感染状況が対面を許さない場合、zoom による講義で代替する。各回の講義の質問等は、授業または、zoom による授業の際に回答または対応する。春学期第 10 回終了後に、消費者理論の復習のため、課題を出し、1 週間を期限として授業支援システムの課題にアップする。次の講義で回答の解説を行う。(zoom を通じての場合もある。)春学期の最後にも各自探した例による課題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。秋学期最初の授業で、幾人かの解答を紹介し、課題の解答のポイントを解説する。秋学期は、すべての時限で実習授業である。(zoom による授業の場合もある。この場合、教員が作業を zoom で流し、各自作業の再現をしてもらう。リアルタイムで教員が各自の作業を確認する。質問等はその場で回答する。再現結果を求めたエクセルファイルを各自、授業支援システムを通じて提出をお願いする。当日完了しない学生のために、zoom で作業の動画ファイルを保存し googledrive にアップしておく。秋学期の最後の授業で行う回帰分析のレポートは、その時間内に質問等対応する。レポートの提出期間は 2 週間前後を考えている。最終授業終了後レポート提出までの質問等には、個別にメールでやり取りするかまたは zoom を使って対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	市場機構と需要・供給 (1)	例を用いた需要－供給分析の復習
第 2 回	市場機構と需要・供給 (2)	例を用いた需要－供給分析の復習
第 3 回	効用関数と無差別曲線	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線
第 4 回	効用関数と無差別曲線 (特殊なケース)	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線 (特殊なケース)
第 5 回	予算制約集合	課税または補助金による予算制約集合の変化の予測 (実例を用いて)
第 6 回	消費者の主体的均衡	消費者の主体的均衡の導出
第 7 回	消費者行動と需要曲線 (1)	消費者の主体的均衡に基づく (個人または世帯の) ある財またはサービスの需要曲線の導出
第 8 回	消費者行動と需要曲線 (2)	所得が変化した際の消費者の主体的均衡の変化を通じて予測される需要曲線の変化 (所得効果)
第 9 回	物品税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測 (1)	物品税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第 10 回	所得税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測 (2)	所得税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第 11 回	消費者理論の応用 I	消費者理論の応用例である労働供給 (余暇と消費の選択) モデルとそれに基づき求められる個人 (世帯) の労働供給曲線
第 12 回	消費者理論の応用 II	労働供給モデルを用いて、所得税税率の労働供給に与える効果の予測。

第 13 回	各自採してきた具体例による課題の作成 (1)	財、サービスの需要量（需要曲線）または労働供給量（労働供給曲線）に影響を与える租税、補助金の変化の具体例を各自で探す。
第 14 回	各自採してきた具体例による課題の作成 (2)	各自採してきた租税または補助金の変更が消費者理論または労働供給モデルに基づき消費量の変化または労働供給の変化を予測し、課題として提出
第 15 回	記述統計Ⅰ（平均、標準偏差）	エクセルを用いて、数値例で平均、中央値、標準偏差などを各自で求める
第 16 回	記述統計Ⅱ（ヒストグラム、累積頻度分布、標準化）	前回の数値例でヒストグラムの作成および累積頻度分布の作成および標準化した相対頻度分布の作成
第 17 回	大数の法則（シミュレーションによる確認）	VBA を使い、乱数を発生させ、相対頻度分布を作成。サンプル数が大きくなれば、真の値に近いサンプル数の比率が相対的に大きくなるような分布になることを確認する。
第 18 回	シミュレーションによる正規分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、正規分布を再現させる。
第 19 回	シミュレーションによるカイ二乗分布および t -分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、カイ二乗分布および t -分布の再現。正規分布、カイ二乗分布、 t -分布の関係を著間的に理解する。
第 20 回	他の分布（ポアソン分布）	VBA を用いてポアソン分布を再現する。
第 21 回	検定の簡単な理論、正規分布を用いた検定の例	正規分布を用いた検定の練習問題を解く。
第 22 回	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の例	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の練習問題を解く。(例えば、平均値の有意差検定など)
第 23 回	F -分布を用いた検定の例	F 検定を用いた検定の練習問題を解く。
第 24 回	2 変数の関係-散布図と相関係数-	数値例（データの例）を用いてエクセルを使い、散布図の作成と相関係数を求める。さらに、その読み方。
第 25 回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の説明。相関関係と因果関係
第 26 回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の係数および標準誤差の導出の説明、数値例（データ）とエクセルを用いて、係数の推定値、標準誤差、 t -値を求めてみる。
第 27 回	回帰分析-重回帰-	重回帰モデルの推定を、数値例（データ）とエクセルの回帰分析のツールを用いて、係数の推定値、標準誤差および t -値を求めてみる。他の検定も紹介する。
第 28 回	回帰分析の課題の作成	各自、回帰分析に必要な相関が強そうな複数のデータを収集し、回帰分析を行い、推定結果の解釈をレポートとして作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に関しては、教員の講義の内容を次の週までに復習をしておいてもらえばよい。春学期の課題の作成に充てる最後の 2 回は、講義時間内で完了できないかもしれないので時間外にさらに 2-3 時間が必要と思う。秋学期は、毎回、実習で、教員が行った結果を再現させる作業は、時間内で完了可能と思われる。ただし、最後の回帰分析のレポートは、データの収集や回帰分析の結果の解釈の説明を理解するために、授業時間外に多めの時間が必要かもしれない。個人により違いがあるが 3-4 時間必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の中間の課題 20%、春学期期末の課題 30%、秋学期の授業時間内の実習状況の評価 30%、秋学期末回帰分析のレポート 20%で評価を付ける。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答があまり出ないので、質疑応答が活発になるように工夫が必要と思われる。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー、カリキュラムの目的やねらいに基づき第三者チェックを行いました。以下の点についてご確認ください。
到達目標の記述が、「『授業の概要と目的（何を学ぶか）』に記載した授業の目的・意義をいくつかの事項に具体化した、現実的な学習目標を記載します。」というガイドラインからすると抽象的に過ぎるように思われます。より具体性をもたせて記述してください。

【Outline (in English)】

In spring semester, basic understandings for consumer theory in microeconomics could be acquired by lecture and solving several practices.

In autumn semester, understanding for basic statistics has been acquired by solving problems, textbook have offered, using excel or VBA.

ECN218CA
演習
阿部 俊弘
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学を基礎として、理論的な研究とデータ分析のための手法を身に付けていく。また、英語論文も活用し、様々な研究手法を学んでいく。

* 各回の授業形態で未定としているものについての詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ①統計学・計量経済学の基礎を身に付ける。
- ②身の回りのデータについて仮説検証等の分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果のプレゼンテーションをする。
- ④他人の発表にコメント・質問・議論をする。
- ⑤グループまたは個人で研究を行い、思考能力および専門知識を身につける。
- ⑥英語の論文を読んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・身の回りのニュース・経済現象等について発表・議論し理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定	R/Python を用いて統計学を学んでいく
データ	基本統計量の計算・可視化	平均・分散・相関・ヒストグラム・散布図
可視化	確率密度関数の表示	ソフトウェアによる関数の図示
乱数発生 1	乱数発生について	正規分布の乱数発生・図示
乱数発生 2	様々な分布の乱数発生	t 分布等の乱数発生・図示
信頼区間	信頼区間についての復習	分布を用いた信頼区間
統計的仮説検定	統計的仮説検定についての復習	分布を用いた仮説検定
パラメータ推定	分布のパラメータ推定	モーメント法・最尤法
回帰分析の概要	回帰分析の基本	単回帰分析モデルについて
単回帰モデルの推定	最小二乗法による単回帰モデルのパラメータ推定	単回帰分析モデルのパラメータ推定

単 回 帰 パ ラ メ ー タ の 信 頼 区 間	パラメータの信頼区間	単回帰分析モデルのパラメータの 信頼区間
単 回 帰 パ ラ メ ー タ の 検 定	単回帰モデルの仮設検 定	帰無仮説と対立仮説を用いる
単 回 帰 モ デ ル の 評 価	単回帰モデルを評価す る	様々な評価法を学ぶ
単 回 帰 分 析 の 応 用	データを用いた回帰分 析の応用	実データを用いて分析を行う
重 回 帰 モ デ ル の 概 要	単回帰モデルの拡張	重回帰モデルが必要な例について
重 回 帰 モ デ ル の パ ラ メ ー タ 推 定	回帰係数の信頼区間と 仮設検定	単回帰と同様にして行えることを 確認していく
最 尤 法 を 用 い た パ ラ メ ー タ 推 定 1	最小二乗法と最尤法	最小二乗法と最尤法による推定の 比較を行う
最 尤 法 を 用 い た パ ラ メ ー タ 推 定 2	推定パラメータの従う 分布	推定したパラメータがどのような 分布に従うのか学ぶ
論 文 の 輪 読 1	論文の構成	研究論文はどうやって書くのかを 学ぶ
論 文 の 輪 読 2	データの紹介	論文のデータについてどのような ものであるのか調べる
論 文 の 輪 読 3	データ解析のための理 論	論文で使われている理論を紹介す る
論 文 の 輪 読 4	データ解析 1	データチェックを行う
論 文 の 輪 読 5	データ解析 2	理論で学んだ手法を用いてデータ 解析を review する
論 文 の 輪 読 6	論文のまとめ	全体としてどのようなことを行っ たかまとめる
デ ー タ の 取 得 1	多変量データ	多変量データの取得を行う
デ ー タ の 取 得 2	時系列データ	時系列データの取得を行う
デ ー タ 解 析	データ解析の実践	これまで得たデータを用いてデー タ解析を行う
ま と め	これまでの内容につい てまとめる	まとめとして、発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 予習・復習を行う
- ・ 身の回りの現象・データについて統計的な視点を持つ
- ・ 本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間を目安とする

【テキスト（教科書）】

学生と相談して決める

【参考書】

確率統計演習 1 確率、国沢 清典
確率統計演習 2 統計、国沢 清典

【成績評価の方法と基準】

課題について (40%)、課題の提出状況・発表内容・議論への参加 (60%)
による。

【学生の意見等からの気づき】

実データを意識した実践的な内容にしていきます

【学生が準備すべき機器他】

Python や R を使用するので PC が必要となります。

【Outline (in English)】

We learn methodology for theoretical research and data analysis based on Statistics. We also make use of research publications to learn various statistical methods.

ECN218CA
演習
JESS DIAMO N D
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス、投資に関するテキストの輪読を通じて、現実の投資を行う能力を身につける。さらに、輪読や研究報告を通じて、自分の考えをわかりやすく他人に伝えられるようなプレゼンテーション能力を培っていく。

In this seminar we learn the critical skills of investing. We begin by following a textbook treatment of finance, followed by group and individual projects. We also learn how to effectively communicate idea through presentations.

【到達目標】

リスクとリターンの関係や企業の価値創造について、正しく理解し、他人に説明できるようになる。他人の考えを理解し、それに対し自分の考えを伝える能力を身につける。

The goal of the seminar is to understand the relationship between risk and return as well as the process of value creation by firms. We also use the seminar to learn how to communicate our ideas clearly to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

学生が主体となって、テキストの輪読、研究発表を行う。通常の講義とは異なり、教員から進んで授業を行っていくようなスタイルではない。フィードバックはプレゼンテーション後、またはプロジェクト提出後先生と会って個人的に行う。

The seminar focuses on the presentations and projects of students, with limited instruction from the professor. Regular feedback will be given after presentations and projects on an individual basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explanation of schedule and requirements.
2	Probability and Statistics	Introduction to Basic Probability
3	Probability and Statistics	Introduction to Basic Statistics
4	Financial Statements	The Balance Sheet
5	Financial Statements	The Income Statement and Cash Flow Statement
6	Asset Pricing	Present Value and Discounted Cash Flow
7	Asset Pricing	Relative Value and Earnings Power Value
8	Databases	Using Mergent Online
9	Databases	Using Nikkei NEEDS
10	Excel	Basic Excel Functions and Data Analysis
11	Excel	Financial Models in Excel
12	Review for Test	Review of Past Topics in Preparation for Test

13	Test	Test Covering All Material Covered
14	4th Year Graduation Thesis Interim Presentations	Interim Presentations of Graduation Thesis by 4th Year Students
15	Corporate Finance: Chapter 1	The Corporation and Financial Markets
16	Corporate Finance: Chapter 2	Introduction to Financial Statement Analysis
17	Corporate Finance: Chapter 3	Financial Decision Making and the Law of One Price
18	Corporate Finance: Chapter 4	The Time Value of Money
19	Corporate Finance: Chapter 5	Interest Rates
20	Zemi Interview Preparation	Preparation for Interviews and Test of New Zemi Applicants
21	Corporate Finance: Chapter 6	Valuing Bonds
22	Corporate Finance: Chapter 7	Investment Decision Rules
23	Corporate Finance: Chapter 8	Fundamentals of Capital Budgeting
24	Corporate Finance: Chapter 9	Valuing Stocks
25	Corporate Finance: Chapter 10	Capital Markets and the Pricing of Risk
26	Student Presentations	Final Project
27	Student Presentations	Final Project
28	Summary	Annual Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We will visit companies to learn about their business models. Students are expected to spend 4 hours reviewing per lesson reviewing class material.

【テキスト（教科書）】

Berk, J. and DeMarzo, P., 2019. Corporate Finance, Global Edition: Pearson Education.

【参考書】

Thorndike, W.N., 2012. The Outsiders: Harvard Business Review Press

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、プレゼンテーションに基づいて、成績評価を行う。Grading will be based on the degree of student participation and quality of presentations and group work.

Participation: 50%

Presentations and Group Work: 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【その他の重要事項】

高校レベルの数学の知識を有していると輪読するテキストの内容の理解がよりスムーズにできると思われる。英語を読むこと（話せなくても）を苦にしない学生であることが望ましい。

A proficiency in high-school-level mathematics will be an advantage. The seminar is conducted in English, so language proficiency is requirement.

ECN218CA
演習
武田 浩一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文献の輪読で経済に関する基本的な見方を学習しながら、グループあるいは個人で研究を行い研究成果のプレゼンテーションを行い、チーム制の投資シミュレーションを通じて経済やビジネスの動向に関する洞察力を養います。希望があれば、参加者の自主的な企画の下で、年 1～2 回の合宿や、経済を学ぶのに有益な施設の見学などを行います。演習において積極的な発言が求められますので、有意義な議論を行うためにもミクロ経済学などの演習の基礎となる科目を並行して受講することを勧めます。失敗を恐れずに難しい課題にもチャレンジしてその経験から真摯に学ぶことによってスキルが大きく伸びていくことをよく認識した上で、未経験の課題にも果敢に粘り強く取り組んでください。

【到達目標】

この演習では、経済についての深い理解と、卒業後にどんな道に進んでも役に立つ思考力、表現力、実行力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義を履修する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上で資料をよく読んでください。経済のテキストの輪読、個人・グループ研究のレポート・論文の作成、プレゼンテーション、投資の計画策定・シミュレーション実行・成果レビュー、ディスカッションなどを行います。個人・グループ研究に本格的にとりかかる前に、経済に関する研究の進め方や論文の書き方などについて基本事項を確認します。

それぞれの課題に取り組む際には、専門知識が全くない初学者がいきなり何となく我流で取り組むと、課題への本質的な理解が浅いレベルで取り組みが停滞しやすく、大学生として十分に有意義な成果があがる前に壁に当たって行き詰まってしまうおそれがあります。各課題への取り組みから単なる自己満足にとどまらない成果を上げるためには、各課題において自分の力で筋道立てて考えることや考えたことを他人に分かるように表現することを可能にする最低限の基礎力を身につけることに地道に取り組みながら、学んだ基礎知識を応用して自分の興味や関心があることに粘り強く段階を踏んで取り組む姿勢をきちんと身につけるように努めることが非常に重要になります。

各課題のフィードバックは毎回の演習講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	ゼミナールの基本的な学習方針の説明
第 2 回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第 1 回
第 3 回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第 2 回
第 4 回	投資シミュレーション	チームの投資の基本構想と計画の発表
第 5 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 1 回
第 6 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 2 回
第 7 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 3 回
第 8 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 4 回
第 9 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 1 回
第 10 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 5 回
第 11 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 1 回
第 12 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 2 回
第 13 回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第 1 回
第 14 回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第 2 回
第 15 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 2 回
第 16 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 1 回
第 17 回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第 1 回
第 18 回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第 2 回
第 19 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 3 回
第 20 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 2 回
第 21 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 3 回
第 22 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 3 回
第 23 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 4 回
第 24 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 5 回
第 25 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 4 回
第 26 回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第 1 回
第 27 回	投資シミュレーション	チームの投資結果のレビューと投資成果の報告
第 28 回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第 2 回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献には事前に目を通し、もし分からないところがある場合には、自分で調べたり輪読の時間やその前後に質問したりして、分からないままに残さないことが重要です。個人・グループ研究や投資シミュレーションにおいては、ゼミの時間外に各自でテーマの設定、研究計画の策定、調査の実施、調査結果の分析や考察、論文の執筆、シミュレーション投資の実行、プレゼンテーションの準備などを着実に進める自律的な研究姿勢が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読テキストは、ゼミ生と相談の上で最終的に決めます。

【参考書】

・宇井貴志ほか編『現代経済学の潮流 2021』東洋経済新報社、2021 年
・大宮登ほか著『キャリアデザイン講座 第 3 版』日経 BP 社、2019 年
その他は講義の中で個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年生の評価は、授業内評価 75 %と、論文・レポート評価 25 %からなります。4 年生の評価は、論文評価 100 %になります。授業内評価では、平常点、輪読の報告内容の充実度、演習で学習した内容の理解度、および毎回の発言回数とその内容が評価の重要な要素となります。

論文やレポートの評価では、調査の綿密さ、説明の分かりやすさ・丁寧さ、主張の独創性・論理性・説得性、が評価の重要な要素となります。

高い評価を受けるためには、ゼミの課題に積極的に取り組み、設定された学習目標への到達度を高めることが求められます。無断での授業の欠席は厳禁です。欠席および 10 分程度以上の遅刻早退は、事前に事由を教員に説明することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

論文やレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なスキルの強化を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ないます。

【Outline (in English)】

This course will help the students prepare for the thesis. The course aims to show the way to conduct economic research and construct a proposal which follows what you have learned. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (75%), and reports and the thesis (25%).

ECN218CA
演習
後藤 浩子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家における安全と暴力コントロール」
今年度は、暴力コントロールと社会秩序形成という観点から、近代の国家と社会の特質を分析します。そして、この分析をもとに、現存する諸国家がそれぞれ歴史的変化のなかで帯びるに至った特徴を探究します。

【到達目標】

基本文献として、D.C. ノース他『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』（NTT 出版、2017 年）を精読することによって、「自然国家」から「アクセス開放型秩序」への変容プロセスを理解します。そして、これを土台にして、各自が個人研究のテーマを設定し、歴史学的研究の手法を身に着け、最終的にゼミ内で各自の研究成果を共有することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習 2 時限中 1 時限は、共通テキストである『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』を精読します。グループに分かれて用語などの説明・解釈を確認し、その後、各人が各章の論旨をまとめたレポートを書き、さらに深めるべき個別研究のテーマを設定します。残りの 1 時限では、（1）学生が興味をもったテーマについて分析し議論するセッション（2）ゼミ論文作成のための中間発表と論文指導（3）グループに分かれての学生研究発表大会用共同研究・製作活動、のいずれかを行ないます。

テキスト講読のフィードバックは授業中に教員から直接口頭で伝え、個人研究のフィードバックは、提出された各人の草稿ファイルを教員が添削し返送するという形で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介・テキスト精読の方法とゼミ論文への取り組み方の説明
第 2 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』序文
第 3 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-1,1-2「社会秩序の概念：暴力、制度、組織」
第 4 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-3,1-4「自然国家とアクセス開放型秩序」
第 5 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-5「自然国家からアクセス開放型秩序への移行」
第 6 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-6,1-7「因果関係に関する信念について」
第 7 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-1,2-2「アクセス制限型秩序の特徴」

第 8 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-3,2-4「自然国家の類型と特権、権力をめぐるエリートのダイナミクス」	第 26 回	個人研究論文の完成	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 6 章「厳密な意味での移行」6-5,6-6,6-7,6-8「アクセス開放への移行：英仏独比較」
第 9 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-5,2-6「規模と暴力の問題、自然国家のダイナミクス」	第 27 回	個人研究論文の完成	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 7 章「社会科学にとっての新たな研究課題」7-4,7-5,7-6「発展と民主政へのアプローチ」
第 10 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-7,2-8,2-9「成熟した自然国家への移行」	第 28 回	個人研究論文の完成	マン・ツー・マンでの論文添削と研究内容の指導
第 11 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 3 章「自然国家の事例：英国」3-1,3-2,3-3「裁判所、法概念、財産法」	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各回でのテキスト読解に必要な、関連する事項や史実を調べるため、そして個人研究論文執筆のためなど、本演習の準備・復習時間は各 8 時間を標準とします。		
第 12 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 3 章「自然国家の事例：英国」3-4「庶子封建制」	【テキスト（教科書）】 D.C. ノース他『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』（NTT 出版、2017 年）		
第 13 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 3 章「自然国家の事例：英国」3-5,3-6「庶子封建制と所有権の非属人化」	【参考書】 テーマの展開に応じて適宜指示します。		
第 14 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	グループ別研究計画発表	【成績評価の方法と基準】 学生が毎回提出する講読テキストの要旨に反映される内容理解度（60%）とゼミ論に示された問題探究能力と達成度（40%）で評価します。		
第 15 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-1,4-2「アクセス開放型秩序の特徴」／グループ別研究ポスター発表準備	【学生の意見等からの気づき】 テキスト読解に不可欠な歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。		
第 16 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-3「アクセスの開放を支える制度と信念におけるインセンティブ」／グループ別研究ポスター発表準備	【Outline (in English)】 【Course Outline】 "Violence Control and Security in Modern States " This seminar cultivates curiosity about European history, introducing students to historical studies as an academic discipline. This year, we will analyze the formation of modern states and societies from the perspective of violence control and reorganization of social order. Then, based on this analysis, we will explore the characteristics each existing nation state has taken on in the process of historical changes from a primitive tribal state.		
第 17 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-4「包摂と市民の拡大」	【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to understand Douglass North's theory of the state and the institutional approaches.		
第 18 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-5, 4-6「アクセス開放型秩序における暴力の制御」	【Learning Activities Outside of Classroom】 Before/after each seminar, students will be expected to spend eight hours for preparation of text reading and individual research.		
第 19 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-7,4-8「短期的、長期的安定を保つ要因：適応効率性」	【Grading Criteria /Policies】 Final grade will be calculated according to the following: the degree of understanding of the course content reflected in the abstracts of the text reading submitted after each seminar (60%) and the degree of research ability and achievement (40%) shown in term papers.		
第 20 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-9,4-10「制度の作用、レントシーキングの理論」			
第 21 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-11,4-12「民主政と再配分」			
第 22 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-1,5-2「個人性と非属人性」			
第 23 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-3,5-4「エリートに対する法の支配」			
第 24 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-5,5-6,5-7「軍へのコントロールの確立」			
第 25 回	今年度のゼミ研究のまとめ	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 6 章「厳密な意味での移行」6-1,6-2,6-3,6-4「アクセス開放の制度化」			

ECN218CA
演習
小林 克也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、講義で学んだ経済学の知識を基礎に、経済学の初級から中級程度の知識と応用力を身につけるための輪読をします。それに必要な計算練習もします。日経新聞の中から記事を選んでその考察の報告、英文記事の輪読することで社会について考えることも目的です。

【到達目標】

経済学の知識と応用力を身につけることが目標です。2・3年生はレポートの書き方やプレゼンテーションの技術を身につけます。4年生は研究テーマを自分で見つけて分析し、その結果を卒業論文としてまとめます。また英字新聞の経済面で使われる英語に慣れることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面で実施します。経済学の教科書の輪読をします。自分で選んだ日経新聞記事についての考察を報告し、議論をします。4年生は卒業研究について複数回、中間報告をします。Financial Timesの中から記事を選んで輪読をします。みなさんと私とのあいだで質問や議論を教室でします。報告や課題に対する指導や質問への回答は教室で直接私が伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	輪読と報告 (1)	テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 2 回	輪読と報告 (2)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 3 回	輪読と報告 (3)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 4 回	輪読と報告 (4)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 5 回	輪読と報告 (5)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 6 回	輪読と報告 (6)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 7 回	輪読と報告 (7)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 8 回	輪読と報告 (8)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 9 回	輪読と報告 (9)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 10 回	輪読と報告 (10)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 11 回	輪読と報告 (11)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 12 回	輪読と報告 (12)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 13 回	輪読と報告 (13)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 14 回	輪読と報告 (14)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。夏休みの共同課題の説明。
第 15 回	輪読と報告 (15)	共同課題の報告 1 回目。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 16 回	輪読と卒業研究報告 (1)	共同課題の修正版の報告。英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 17 回	輪読と卒業研究報告 (2)	共同課題の再修正の報告。英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 18 回	輪読と卒業研究報告 (3)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 19 回	輪読と卒業研究報告 (4)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 20 回	輪読と卒業研究報告 (5)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 21 回	輪読と卒業研究報告 (6)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 22 回	輪読と卒業研究報告 (7)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 23 回	輪読と卒業研究論文報告 (8)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 24 回	輪読と卒業研究報告 (9)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 25 回	輪読と卒業研究報告 (10)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 26 回	輪読と卒業研究報告 (11)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 27 回	輪読と卒業研究報告 (12)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 28 回	輪読と卒業研究論文報告 (13)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや新聞、英字新聞の報告者予定の方はあらかじめ報告準備をすることが必要です。また報告当番でないときも、予めテキストや記事に目を通しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の最初で輪読するテキストを皆さんと相談して決めます。日経新聞、Financial Times の記事。

【参考書】

三土修平『初歩からの経済数学』日本評論社。
鈴木孝弘『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』オーム社
授業の最初で選んだ輪読のテキストに関連する参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は平常点 30%とレポート 20%、共同課題 20%、報告内容 30%、計 100%。4 年生は卒業論文 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが論理的思考ができるようになるように私から質問をしながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業の準備をする際、PC やインターネット、印刷が利用できる環境は必要です。これらを準備できない場合は、大学の機器を利用して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this seminar is to acquire the knowledge and application skill of economics by reading a textbook in turn. Students also practice mathematical calculation for economics and read articles of Nikkei and Financial Times in turn.

Learning objective:

Students should acquire the skills of economic knowledge and its application. Sophomores and juniors learn how to write academic reports and how to make a presentation. Seniors find a research theme, analyze it, and write a graduation theses. All students should get use to English economic words in newspapers and academic articles.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade of sophomores and juniors will be calculated by in-class contribution 30%, a report 20%, assignments 20%, and presentations 30%. That of seniors will be calculated by a graduate theses 100%.

ECN218CA
演習
近藤 章夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、都市・地域における産業・企業の立地を対象にしながら、文献輪読、統計分析・資料分析、現地調査（フィールドワーク）を軸に研究の多様なアプローチを学習する。

【到達目標】

上記のテーマを通じて、経済地理学、都市・地域経済学の思考方法を学び、自らの問題関心に沿って研究を遂行する能力を養うことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者の発表や討論が中心となる。また、自らが問題を設定し、積極的かつ自主的に現地調査や個人研究を企画・実施していくことが望ましい。受講者の関心や希望をふまえつつ、①重要文献の輪読、②現地調査の実習（夏期地域調査）、③個人・グループ自由研究の発表、を軸に進めていく。特に、現代経済・ビジネスと都市地域経済に関わる幅広い教養と有益なアプローチの習得に主眼をおく。課題やリアクションペーパーなどを授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	オリエンテーション、年間計画
第 2 回	イントロダクション②	文献・資料の探し方、役割分担
第 3 回	春学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 4 回	春学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 5 回	春学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 6 回	春学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 7 回	春学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 8 回	春学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 9 回	春学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 10 回	春学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 11 回	春学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 12 回	春学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 13 回	春学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 14 回	春学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括
第 15 回	イントロダクション	秋学期計画、夏期調査の中間報告
第 16 回	秋学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 17 回	秋学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 18 回	秋学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 19 回	秋学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 20 回	秋学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 21 回	秋学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 22 回	秋学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 23 回	秋学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 24 回	秋学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 25 回	秋学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 26 回	秋学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 27 回	秋学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 28 回	秋学期ゼミ活動⑬	4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習、事後の復習・課題への積極的な取り組み、ゼミ正規時間以外の課外活動への積極的関与等が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、授業への貢献度（発表・課外活動等含む）評価（30%）、レポート評価（30%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【その他の重要事項】

この演習は状況によっては一部をオンラインで実施する予定である。学期中は学習支援システムなどを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn various approaches to research based on literature review, data analysis, and fieldwork, while focusing on the location of industries and companies in cities and regions.

ECN218CA
演習
KALENGA N JOHN
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar provides you with a good learning environment to improve your study skills. You practice various activities such as critical thinking, data analysis, leading small groups, presenting your research findings, and more. Through these activities, you acquire the knowledge and ability to write your graduation thesis and plan successfully your career.

【到達目標】

The goals of the seminar are to improve students' abilities and skills to analyze the data, write academic essays and thesis, develop critical thinking, and deepen their knowledge of economics. Additionally, to develop their leadership skills in a multicultural workplace.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

During the academic year of 2022, I use the hybrid method that combines both online lectures through zoom and face-to-face lectures in the classroom at the Tama Campus. All students are expected to prepare their individual presentations, group presentations, group conversations, and more.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lecture 1	Introduction to seminar	Self-introduction; guidelines; The writer of graduation thesis; leadership and planning.
Lecture 2	Introduction Global economic history	Northern Europe 1; Choosing a research topic; How to write the title; The 3 parts of thesis.
Lecture 3	College writing Workshop Global economic history 1	Northern Europe 2 Use of library resources; Individual presentations 1;
Lecture 4	Global economic history 2 College writing Workshop 2	Southern Europe Bibliographical essay; Group presentations 1 Individual presentations 1
Lecture 5	College writing Workshop 3 Global economic history	Eastern Europe; Plagiarism and academic honesty; Individual presentations 1
Lecture 6	Global economic history 3 Critical thinking 1	The United States; The basics of citation Self-understanding; Individual presentations 2

Lecture 7	Global economic history 4 Critical thinking 2	Canada APA citations for the social sciences; Design your life; Individual presentations 2
Lecture 8	Global economic history 5 Critical thinking 3	Latin America All reference styles The standard for thinking; Individual presentations 2 Group presentations 2
Lecture 9	Global economic history 6 Critical thinking 4	Japan; The art of making intellectual decisions; Individual presentations 3
Lecture 10	Global economic history 7 Critical thinking 5	China; The parts of thinking; Individual presentations 3
Lecture 11	Global economic history 8 Critical thinking 6	MENA; Becoming a fair-minded thinker; Individual presentations 3
Lecture 12	Global economic history 9 Critical thinking 7	South Asia and Australia; Analyzing and evaluating thinking; Individual presentations 3
Lecture 13	Global economic history 10 Critical thinking 8	Sub-Saharan Africa Strategic thinking Group presentations 3
Lecture 14	Global economic history 11	Concluding remarks
Lecture 15	Global economic history	Guidelines; Leadership and planning
Lecture 16	Global economic history Workshop 1	Group presentations 1 Individual presentations 1
Lecture 17	Global economic history Workshop 2	Individual presentations 1 Group conversations 1
Lecture 18	Academic writing 1 World Development1	College research The three parts of a thesis; Economic growth; Individual presentations 1
Lecture 19	Academic writing 2 World Development2	The writer; Individual presentations 2; Macro-Measurement
Lecture 20	Academic writing 3 Western Europe and the Transformation 1	College writing 1 Group presentation 2 The Driving Forces; Individual presentations 2
Lecture 21	Academic writing 4 Western Europe and the Transformation 2	College writing 2; Individual presentations 2
Lecture 22	Academic writing 5 The Interaction Between Asia and the West1	College writing 3 Group conversations 2; European - Asian Interaction; Individual presentations 2
Lecture 23	Academic writing 6 The Interaction Between Asia and the West2	College writing 4 International trade agreements; Individual presentations 2
Lecture 24	Academic writing 7 The Pioneers of Macro-Measurement	Writing well1 Individual presentations 3
Lecture 25	Academic writing 8 The Pioneers of Macro-Measurement	Writing well 2 Macro-Measurement in the 19th and 20th centuries; Individual presentations 3

Lecture 26	Modern Macro-Measurement	Tool of Economic Policy; Writing well 3; World Economic Growth; Individual presentations 3
Lecture 27	The World Economy in 2030	Projections of Population Writing well 4 Per capita GDP Group presentations 3
Lecture 28	Final evaluation	Concluding remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are encouraged to prepare outside class some group presentations, reading assignments, and partial thesis presentations, approximately five hours per week.

【テキスト（教科書）】

Joerg Baten, A history of the global economy 1500 to the present, Cambridge: Cambridge University Press, 2016.
Gregory Clark, A Farewell to Alms: a brief economic history of the world, Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 2007

【参考書】

1. Bassham et al., Critical thinking: a student's introduction, 4th ed., New York: McGraw-Hill, 2011
2. Charles Lipson, Doing honest work in college: how to prepare citations, avoid plagiarism, and achieve real academic success, Chicago: The University of Chicago Press, 2004.
3. Richard Paul and Linda Elder, Critical Thinking: Tools for taking charge of your professional and personal life, New Jersey: Pearson Education Inc., 2014.

【成績評価の方法と基準】

The final evaluation is based on the following: attendance and contributions to seminar activities: 30%; partial thesis presentation: 30%; group presentations: 40%; total: 100%.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Please prepare a Personal Computer with a good internet connection and webcam. You must turn on the web camera when attending online lecture through zoom.

【その他の重要事項】

N/A

ECN218CA
演習
坂本 憲昭
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を中心とした情報システムを理解する。具体的には、現代社会で必須な情報システムおよび IT システムの概要や案画時の注意点などの基礎知識を習得する。

【到達目標】

実社会において、簡単な情報システムを新規導入する際の案画ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

システム設計における上流工程である要求定義の実践（プレゼンテーションスキルの向上を含む）「よのなか」に不可欠となった情報システムについて学ぶ。具体的な問題設定に対して、どのような機能や処理をもたせたシステム構成とするかを演習する。提案書を作成し、プレゼン用ソフトウェアを用いて提案を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ツアー計画課題および目的を決定する
第 2 回	ツアー計画課題	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 3 回	プレゼンテーション講義	プレゼンの講評を受け修正する
第 4 回	バーコード講義	バーコードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 5 回	QR コード講義	QR コードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 6 回	バーコード課題演習	グループごとにバーコード課題に取り組む
第 7 回	スライド作成	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 8 回	プレゼン実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 9 回	Excel 基礎演習（絶対参照ほか）	Excel 実習（絶対参照ほか）
第 10 回	Excel 演習（乱数、時系列処理ほか）	Excel 実習（乱数、時系列処理ほか）
第 11 回	Excel 実習	Excel 課題に取り組み
第 12 回	待ち行列講義	待ち行列の基礎を学ぶ
第 13 回	Excel による待ち行列演習	Excel で待ち行列をシミュレーションする
第 14 回	パークに関する Excel による待ち行列課題	グループごとに課題に取り組み
第 15 回	知的財産権	知的財産権の講義をおこなう
第 16 回	商標権、著作権	商標権、著作権を中心に講義をおこなう
第 17 回	知的財産権に関する報道例の紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 18 回	知的財産権に関する課題	課題に取り組みグループごとに事例調査とスライドを作成する
第 19 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 20 回	特許権講義	特許権の講義をおこなう
第 21 回	特許事例紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 22 回	パークに関する特許事例調査	グループごとに事例調査とスライドを作成する
第 23 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 24 回	特許アイデア発想課題	グループごとに特許アイデア発想の課題をおこなう
第 25 回	特許アイデアの文書化	グループごとに成果物のとりまとめとスライドを作成する
第 26 回	パークに関するテーマ調査	グループごとに調査テーマを決定して調査をおこなう
第 27 回	調査結果の集約とスライド作成	グループごとにスライドを作成する
第 28 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとに課題の取り組みをします。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員による自作資料を使います。

【参考書】

- ・ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業 1,2(増補改訂版), 翔泳社
- ・社内プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社
- ・社外プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】

課題の成果物とプレゼンテーション内容の合計点を 100 点満点とし、60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

他グループの発表時に、その内容を参考にして自分たちのプレゼン内容をより良いものに改善するような時間の使い方を取り入れます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand IT-centric information systems. Specifically, students will acquire basic knowledge such as an overview of information systems and IT systems that are essential in modern society and points to note when drafting.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Final grade will be calculated according to the reports (100%) and in-class contribution.

ECN218CA
演習
佐柄 信純
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済理論の本格的な理解と英文読解力の向上を目指します。LaTeXによる報告資料の作成にも力を入れます。LaTeXは無料のソフトウェアであり、インターネットや市販の解説書から容易に入手することができます。パソコンの予備知識は特に必要ありません。Microsoft社の製品をできるだけ使わないという方針の下に、何かと不具合の多いPowerPointよりも綺麗に報告資料を作る技を伝授します。

【到達目標】

卒論は組版用のソフトウェアであるLaTeXで作成します。また、TOEIC®か経済学検定試験で優秀な成績を修めた学生には、卒論の規定枚数が減免されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2部構成でゼミを運営します。第1部ではWilliam Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999をテキストに、英文作成の基本技術を学びます。英語の授業と同じ形でゼミを進めるので、受講者は毎回の予習が必要になります。こまめに辞書を引く習慣を付けて下さい。『リーダーズ英和辞典』か『ランダムハウス英語辞典』が入っている電子辞書を推奨します。第2部では、ミクロ経済学、ゲーム理論、経済数学の分野からテーマを選び、日本語の文献を輪読します。取り上げるテーマは毎年変わります。ゼミ生は「ビジネス数学」、「数学」または「経済の数理」を履修し、優秀な成績で単位を取得することが求められます。報告用ノートの提出を義務付け、報告後にコメントを書き添えた上、報告者に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	英文講読、テキスト輪読	報告 1
2	英文講読、テキスト輪読	報告 2
3	英文講読、テキスト輪読	報告 3
4	英文講読、テキスト輪読	報告 4
5	英文講読、テキスト輪読	報告 5
6	英文講読、テキスト輪読	報告 6
7	英文講読、テキスト輪読	報告 7
8	英文講読、テキスト輪読	報告 8
9	英文講読、テキスト輪読	報告 9
10	英文講読、テキスト輪読	報告 10
11	英文講読、テキスト輪読	報告 11

12	英文講読、テキスト輪読	報告 12
13	英文講読、テキスト輪読	報告 13
14	英文講読、テキスト輪読	報告 14
15	英文講読、テキスト輪読	報告 15
16	英文講読、テキスト輪読	報告 16
17	英文講読、テキスト輪読	報告 17
18	英文講読、テキスト輪読	報告 18
19	英文講読、テキスト輪読	報告 19
20	英文講読、テキスト輪読	報告 20
21	英文講読、テキスト輪読	報告 21
22	英文講読、テキスト輪読	報告 22
23	英文講読、テキスト輪読	報告 23
24	英文講読、テキスト輪読	報告 24
25	英文講読、テキスト輪読	報告 25
26	英文講読、テキスト輪読	報告 26
27	英文講読、テキスト輪読	報告 27
28	英文講読、テキスト輪読	報告 28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文購読の予習に3時間、発表の準備に4時間、宿題提出のための復習に3時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

William Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999

【参考書】

開講時に文献リストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席を最重視する。ゼミ報告、レポート、課題に取り組む態度などを総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。前期・後期それぞれ必要に応じて、最大7回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is twofold. First, the profound understanding of economic theory. Second, the substantial improvement of the reading and writing of English.

ECN218CA
演習
馬 欣欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学部で学んでいくために必要な知識を身につけることが目的です。学術資料の探し方、レポートの書き方のほか、グループディスカッションや研究発表などを通じて、面白いテーマを見つけ（問題発見能力）、自分の考えを持って、理論的・実証的検証し（問題解決能力）、そして他人に伝えるスキル（コミュニケーション能力）を育成します。

【到達目標】

経済現象に関する様々なことに疑問を持ち（問題発見）、自ら調べ、自分の答えを見つけ（問題解決）、伝える能力（コミュニケーション）の能力を身につけることが到達目標です。書籍・雑誌・新聞・インターネットなど様々な情報がある中で、多様な情報収集の方法を活用でき、発表・討論する能力を身につけることを目的とします。

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP12」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読し、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などを行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと自己紹介	授業内容と進め方の説明、教員と学生の自己紹介
第 2 回	文献サーベイの方法①	図書館の利用
第 3 回	文献サーベイの方法②	学術論文検索
第 4 回	情報収集の演習①	学術論文引用と文献リストのまとめ方
第 5 回	情報収集の演習②	新聞記事の検索とまとめ
第 6 回	個人プレゼンテーション（1）	パワーポイントを使用し、「私の好きな本（絵・映画など）」について発表
第 7 回	個人プレゼンテーション（2）	パワーポイントを使用し、「私の好きな本（絵・映画など）」について発表
第 8 回	グループ作業（1）	関心のあるテーマについて情報収集とグループの決定
第 9 回	グループ作業（2）	パワーポイントを使った研究報告のプレゼンテーションと質疑応答（1）
第 10 回	グループ作業（3）	パワーポイントを使った研究報告のプレゼンテーションと質疑応答（2）

第 11 回	ディベート①	ルールの確認、チームおよびテーマの決定、情報収集、作戦計画
第 12 回	ディベート②	実践—論理的な議論
第 13 回	ディベート③	実践—論理的な議論
第 14 回	ディベート大会交流会	最優秀賞、学んだことの整理と今後の課題
第 15 回	学術研究の演習①	研究課題を探す
第 16 回	学術研究の演習②	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 17 回	学術研究の演習③	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 18 回	学術研究の演習④	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 19 回	学術研究の演習⑤	政府統計データの使用
第 20 回	学術研究の演習⑥	学術論文（レポート）の書き方
第 21 回	学術研究の演習①	レポートの作成
第 22 回	学術研究の演習②	研究発表
第 23 回	学術研究の演習③	研究発表
第 24 回	グループ研究の演習①	グループ研究課題を検討
第 25 回	グループ研究の演習②	グループレポートの作成
第 26 回	グループ研究の演習③	グループ研究発表
第 27 回	海外・日本国内大学合同演習	海内・日本国内大学合同研究発表会
第 28 回	共同研究交流会	最優秀賞（共同研究・個人研究）、学んだことの整理と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットなどから、経済の動向や関心のある経済問題の動向を理解しておくことは必要です。また、ディベート、研究発表に向けた資料収集などが適宜、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし、毎回 4 時間以上です。It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is 4 hours or more each time.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of presentations and their preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を行い、学生の意見に関するフィードバックを行い、また改善要望に対応し、講義内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国所得格差と貧困の実証分析
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国労働雇用・賃金、家計消費に関する実証研究

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S.(2022)“Self-employment in Urban China:Entrepreneurship or Disguised Unemployment?” China & World Economy, 30(1),166-195.
- 4.Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.

5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96-115

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop the basic skill necessary for students studying in the Faculty of Economics. In addition to learn how to search for academic materials and write reports, students will learn how to find interesting themes (problem finding skills), how to verify them theoretically and empirically (problem solving skills), and how to communicate them to others (communication skills) through group discussions and research presentations. In particular, this course aims to cultivate the "logical thinking skills" and individual/joint research skills to conduct "theoretical and empirical research on Economics issues" by student themselves.

ECN218CA
演習
酒井 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、以下の 3 つを課題として掲げる。

- 1) 専門性の高い文献を読み込む経験をする。
- 2) その論点と内容を整理して人にわかりやすく伝える。
- 3) 整理された論点に基づいて議論を行う。

講読する文献のトピックとしては、労働経済学における実証分析を中心に応用経済学全般を取り上げる予定である。

データを統計的に分析する方法を学ぶことも本演習の目的である。

【到達目標】

学生が、未知の内容に直面した際に、専門的な文献に当たり、そのことについて、学術的な研究においては何がわかっているのか（何がわかっていないのか）把握できることを到達目標とする。どのような専門文献に当たるべきかを理解し、「専門的な論文を読んだ」と言えるようになることが最終的な目標である。議論を展開する際のデータの「示し方」を習得することも副次的な到達目標として挙げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

与えられた文献について、各自で（もしくはグループごとに）その内容をまとめ、報告を行う。その後全員で議論を行う。特に、データに基づいて議論することを心掛ける。後半には、グループごとにトピックを選んで分析を行うことが中心となる。

年間を通して秋のインゼミを一つの目標として活動する。

課題等に関するフィードバックは、基本的に授業内で口頭あるいは面談の形でおこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方
2	演習 (1)	講義：プレゼンの仕方等 文献講読：担当学生による報告 1
3	演習 (2)	文献講読：担当学生による報告 2
4	演習 (3)	文献講読：担当学生による報告 3
5	演習 (4)	文献講読：担当学生による報告 4
6	演習 (5)	文献講読：担当学生による報告 5
7	演習 (6)	指定されたトピックについてディベートを行う
8	演習 (7)	他のゼミと研究交流
9	演習 (8)	分析テーマの選定
10	演習 (9)	文献講読：担当学生による報告 6
11	演習 (10)	ゲスト・スピーカーによる報告等
12	演習 (11)	文献講読：担当学生による報告 7
13	講義 (1)	文献講読が特に遅れていなければ、統計資料の扱い方等に関して講義する。
14	演習 (12)	分析の進捗状況を報告
15	演習 (13)	春学期学習内容の補足
16	演習 (14)	分析の中間報告 1
17	演習 (15)	分析の中間報告 2
18	演習 (16)	文献講読：担当学生による報告 8
19	演習 (17)	文献講読：担当学生による報告 9

20	演習 (18)	文献講読：担当学生による報告 10
21	演習 (19)	文献講読：担当学生による報告 11
22	演習 (20)	文献講読：担当学生による報告 12
23	演習 (21)	分析の中間報告 3
24	演習 (22)	他のゼミとの研究交流
25	演習 (23)	文献講読：担当学生による報告 13
26	講義 (2)	文献講読：担当学生による報告 14
27	演習 (24)	文献講読：担当学生による報告 15 (もしくは他のゼミとの研究交流)
28	講義 (3)	文献講読が特に遅れていなければ、社会政策等に関するトピックについて講義する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習は、グループによる課題取組等が中心となり、毎回の準備・復習に標準で 4 時間程度を要するものとする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』(有斐閣、2015 年)
- ・山口慎太郎『子育て支援の経済学』(日本評論社、2021 年)

【成績評価の方法と基準】

[平常点：70%、報告及びレポートの内容：30%] を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者の履修履歴がまちまちであることを鑑み、経済学の基礎知識の復習も適宜行う。また、資料の探し方や分析結果の示し方といったことについても初歩的な段階から指導する。
- ・授業外で時間調整をすることが難しいとの意見があることから、授業内でも最低限のグループ作業をする時間を確保したい。
- ・時事的なトピックについても、授業内で知識補給を行うことを心がける。

【Outline (in English)】

The objectives of this seminar are to 1) learn how to read academic papers, 2) investigate and discuss a variety of issues mainly by relying on statistics, and 3) report properly analyzed topics. Topics this seminar covers include such as, but not limited to, labor economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution (70%), and presentations and assignments (30%).

ECN218CA
演習
胥 鵬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは企業金融・コーポレート・ガバナンス、あるいは興味のあるトピックス。楽しく課題に取り組み、笑顔でプレゼンを行い、グループで論文を仕上げる。

【到達目標】

企業金融・コーポレート・ガバナンスの理論と実務を勉強し、データの収集分析に挑み、分析結果にものを語らせるようグループ論文を仕上げる。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループあるいは個別に、2 年生は 3 年次予定の課題の仮説、仮説検定のためのデータおよび手法に関するエッセイ作成し、3 年生は課題に取り組み論文を作成する。4 年生は卒論を作成する。ゼミ勉強の合間には様々な親睦活動やゼミ合宿を実施する。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

原則として対面授業を実施する。ゼミ生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、諸君が提示した具体例を取り上げつつ、ゼミ生参加によるゼミ生のためのゼミを進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理論	企業金融とコーポレート・ガバナンスの理論を学ぶ
第 2 回	実務	企業金融とコーポレート・ガバナンスの実務を学ぶ
第 3 回	データ	理論や実務の証拠となりうるデータの収集方法について学ぶ
第 4 回	データから証拠へ	研究とはデータを加工・処理して証拠として提示することについて学ぶ
第 5 回	論 = 仮説	経済学の研究とは、自分が主張しようとする「論 = 仮説」を裏付ける証拠を提示するプロセスについて学ぶ
第 6 回	企業金融「論」	企業金融に関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 7 回	コーポレート・ガバナンス「論」	コーポレート・ガバナンスに関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 8 回	グループ分け	グループ分けし、グループで only one の花を咲かせるゼミ研究を目指す。
第 9 回	グループ討論	only one になるテーマを目指してグループ内で討論
第 10 回	グループ問討論	only one になるテーマを目指してグループ間で討論

第 11 回	研究テーマ決定	グループ内とグループ間の討論を経て only one のグループ研究テーマを決定
第 12 回	研究計画	論文計画を作成
第 13 回	論文計画プレゼン	各自の研究テーマについて、オンライン・ワンを強調しつつ研究目的などの計画について、プレゼンを行なう
第 14 回	コメント	ゼミ同士・教員がコメントする。
第 15 回	文献収集	研究計画に沿って詳細な文献を収集
第 16 回	文献閲読	収集した文献を精読する
第 17 回	データ検討	研究計画に沿って研究の証拠となるデータについて検討する。
第 18 回	データ収集	学内のデータベースを活用して、必要なデータを収集する
第 20 回	手法検討	データをどのように加工・処理して証拠として提示することができるかについて、分析手法を検討する。
第 21 回	データ分析	検討した手法で収集したデータを分析する
第 22 回	中間論文執筆	分析結果をまとめ中間論文を完成する
第 23 回	中間論文プレゼン	中間論文をプレゼンする
第 24 回	中間論文コメント	ゼミ生同士・教員が中間論文に対してコメントする
第 25 回	論文改訂	コメントを参考に論文を書き直す
第 26 回	切磋琢磨	切磋琢磨で互いに学びあい、よい論文を目指す
第 27 回	再度コメント	教員などが再度コメントする
第 27 回	論文完成	再度コメントを参考に論文を仕上げる
第 28 回	完成論文プレゼン	グレードアップした論文をプレゼンし、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

論文資料を随時配布する

【参考書】

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

必要なデータや資料は自分で調べる

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、ゼミ活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

一緒に楽しく勉強しよう！

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

We learn theories and practices of corporate governance and corporate finance. Students are expected to write project papers with group collaborations. Have fun when we challenge tasks and smile when you make presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN218CA
演習
菅 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、法律学の学習、法理論の習得、法的議論の実践を通して、多様性を重んじ、公正と正義にかなった思考方法を身につける。

【到達目標】

・広く現代社会を見渡し、多角的に分析し、発見された問題の解決に向けて、十分な文献・資料調査を通して、考え抜く姿勢と力の習得を目指す。

・法的知識、法的思考様式、法的論理構成力の習得を目標とする。

・民法の枠を超えた、法学一般、刑法、憲法についても学び、法学検定試験受験に備える。

・二年生は法学検定試験ベーシック＜基礎＞、三年生は法学検定試験スタンダード＜中級＞に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、3部構成をとる。

①知識習得：

教科書、実際の判例、学術論文を使用し、民法を中心とした法律学の基礎理論、基礎知識を習得する。

②読解分析、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベート：

担当者（グループまたは個人）によってプレゼンテーション、及び、問題提起を行う。それを受けて、全員参加によってディスカッションを行う。終了後、各発表者は、ゼミ内での議論を踏まえ、要約文を作成・提出する。

③法学検定試験問題練習：

ゼミ生が毎回順番に教師役となり、解答、解説を行う。

※春学期の最終回、秋学期の最終回には、振り返りレポートを提出し、各自の成長度に関するフィードバックに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・本講義で行うこと、課題、問題意識、概要の共有 ・ディスカッション
第 2 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①権利能力、法人制度 ②臓器売買 ③刑法問題番号 1～10 番
第 3 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①権利能力なき社団、物 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 1 ③刑法 11～20 番
第 4 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①心裡留保、虚偽表示 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 2 ③刑法 21～30 番

第 5 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①錯誤、詐欺、強迫 ②文化の尊重と正義 ③刑法 31～40 番
第 6 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①消費者契約法の規定による取消、代理制度 ②ゼミ生選択課題 ③刑法 41～50 番
第 7 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①表見代理 ②ゼミ生選択課題 ③刑法 51～60 番
第 8 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①不動産物権変動、登記制度 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 61～70 番
第 9 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	① 177 条の第三者、動産物権変動 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 71～80 番
第 10 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①担保物権 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 81～90 番
第 11 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①抵当権 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 91 番～最後
第 12 回	①民法演習 ②読解分析 ③法学検定試験問題練習	①法定地上権 ②介護事故判例の評釈 ③法学入門問題番号 1～20 番
第 13 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①譲渡担保制度 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（1） ③法学入門 21～40 番
第 14 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①ディベート練習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（2） ③法学入門 41 番～最後
第 15 回	卒業論文指導	4 年生による卒業論文中間発表
第 16 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①履行不能、債権制度 ②議論 ③憲法 11～20 番
第 17 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①損害賠償制度 ②議論 ③憲法 21～30 番
第 18 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権者代位権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 31～40 番
第 19 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①連帯債権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 41～50 番
第 20 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権譲渡 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 51～60 番
第 21 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①有価証券 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 61～70 番
第 22 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①弁済の提供、受領遅滞 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 71～80 番

- 第23回 ①民法演習 ①弁済
②ディベート ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③憲法81～90番
- 第24回 ①民法演習 ①相殺
②ディスカッション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③憲法91番～最後
- 第25回 ①民法演習 ①民法総則総合
②プレゼンテーション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③民法総復習
- 第26回 ①民法演習 ①物権制度総合
②プレゼンテーション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③刑法総復習
- 第27回 映画を用いた法的議論 社会における「障害」について
- 第28回 ①ディベート ①ゼミ生選定課題
②ディベート ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③法学入門総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業①については、毎回必ず、各自、資料（授業支援システムを使ってアップロードする）を事前に予習してから参加すること。自分がわからないところを認識（自覚）してから授業に臨むこと。

・授業②については、各自、毎日の生活の中で、深く考察すべきと考える法的問題、社会的問題の発見に努めること。発見された問題の分析のため、必要な情報を収集すること（裁判例データベースの利用：法情報学）。丹念に準備を整えた上で、報告を行うこと。

・授業③については、各自、予習してからゼミに臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『民法演習サブノート』（弘文堂）
法学検定試験委員会編『2022年法学検定試験問題集スタンダード＜中級＞コース』（商事法務）
六法全書（どちらの出版社でも可）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
池田真朗『スタートライン債権総論』（日本評論社）
池田真朗編『民法 Visual Materials』（有斐閣）
大村敦志『基本民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣）
大村敦志『もうひとつの基本民法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
山田卓生『私事と自己決定』（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

報告内容の充実度（まとめ方、報告態度、文献検索、判例検索）、及び、議論への参加度・意欲・貢献度（質問、議論整理、議論展開）、並びに、提出課題の内容によって行う。

毎回の出席、及び、課題提出の期間厳守は、単位取得のための必要最小限の要件である。

【学生の意見等からの気づき】

前年同様、学生の積極的参加を促し、責任感を育む。

【その他の重要事項】

- 1 年次配当科目「法学 A・B」を、履修済み、又は、履修中であること。
- 2 年次配当科目「民法一部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。
- 3 年次配当科目「民法二部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

【Outline (in English)】

Students are required to make active participation in the legal reasoning and discussion. By the end of this course students are expected to be able to acquire a balanced sense of fairness and justice. The purpose of the spring semester is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code and also the property law, paying close attention to their functions in the Market. The aim of the autumn semester is to introduce you to obligation law. Classes will be conducted in a seminar format. Homework assignments should be done regularly before each session.

Grading Criteria (Regular participation: 90%, Final report: 10%)

ECN218CA
演習
鈴木 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ゲーム理論とその応用。
2. 企業と組織の経済学。契約理論。
3. 応用ミクロ経済学。

について、2 年次、3 年次を通して、系統的に学習する。それを、学生研究報告大会での研究発表や、卒論執筆などに反映させる。

【到達目標】

ゲーム理論、契約理論、組織の経済学の「基礎的な原理」を学び、その本質的なアイデアや視点を理解し、それを使って現実の諸問題を自分なりに考察・分析し、説明出来るようになることが主たる目標である。4 年次には、卒論を書くことが強く望まれる。（この場合のテーマや分析方法の選択などは、各人の自由である。ゲーム理論的手法を使った卒論に限らなくても良い。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

昨年は、オンラインと対面が半々程度の割合であった。オンラインでは、担当者が授業教材に関する PPT を作成し、Zoom で画面共有の上、プレゼンしてもらい、質疑応答や、教員による解説を行う形式であった。報告のための PPT 作成 ⇒ 対面か Zoom によるリアルタイムゼミが基本の流れである。今年も基本、対面授業を予定しているが、なお不安定な新型コロナの感染状況によっては、昨年の方式に切り替えて、柔軟に対応していく予定である。フィードバックの際は、電子メールを頻繁に用いるので、各自、環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ I1 章 I:『ひたすら読むエコノミクス』	打ち合わせ＋導入
第 2 回	I2,3 章＋a	一人の意思決定＋ゲーム理論入門
第 3 回	I4 章＋a	市場の成功と失敗
第 4 回	I5 章＋a	不確実性と情報＋補足
第 5 回	I6 章＋a	モラルハザードとインセンティブ設計＋補足
第 6 回	I7 章＋a	逆淘汰とインセンティブ設計＋補足
第 7 回	I8 章＋a	マーケットデザイン＋補足
第 8 回	I9 章＋a	組織のデザイン＋補足
第 9 回	H3,4 章 (I4 章) H:『現代政策分析』	第 1～8 回で把握した「全体像」をもとに理解の掘り下げ：カルドア・ヒックス基準、市場の成功と失敗
第 10 回	H4 章 (I4 章)	市場の成功と失敗（続き） （理論モデルによる安全競争市場の全体像の把握）
第 11 回	オークション入門 (I8 章前版補充)	オークションの理論と実際

第 12 回	N6 章＋a (I8 章後半補充) N:『ゲーム理論で解く』	「恋愛・就職・結婚」をゲーム理論で解く、マッチング・アルゴリズム
第 13 回	評判 (名声) の担い手としての企業 (I9 章補充)	「コミットメント問題」と評判、実際の企業の例
第 14 回	行動ゲーム理論入門	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際ほか。
第 15 回	K4 章 (行動ゲーム理論続き) K:『行動ゲーム理論』	利他性、不平等回避、互惠性の理論、罪回避の理論。
第 16 回	打ち合わせ M1 章 M:『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』	打ち合わせとイントロダクション
第 17 回	M2 章	戦略と均衡
第 18 回	M3 章	展開形表現
第 19 回	M4 章	交渉ゲーム
第 20 回	M5 章	情報とゲーム
第 21 回	M6 章	オークション
第 22 回	M7 章	公共財
第 23 回	M8 章	市場取引
第 24 回	M11 章	金融とリスク管理
第 25 回	M13 章	契約と誘因
第 26 回	M15 章	進化ゲーム、知識の階層
第 27 回	E1 章 E:『実験経済学への招待』	実験経済学入門
第 28 回	E2 章	報恩と報復、行動ゲーム理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は十分に時間をかけてレジュメ作成の準備をし、責任を持って報告できるようにする。それ以外の人も、ゼミ内で積極的に発言できるように予習・復習を行う。学生研究報告大会での論文作成に向けて、関連する文献を各自で読み込む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通年
鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第 2 版』勁草書房 2021 年
春学期
I:伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣
H:林敏彦『現代政策分析』放送大学テキスト
N:中山・武藤・船木（編）『ゲーム理論で解く』有斐閣
K:川越敏司『行動ゲーム理論』NTT 出版
秋学期
M：梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
E：西條辰義（編著）『実験経済学への招待』NTT 出版

【参考書】

組織の経済学：
1. ミルグロム＋ロバーツ 『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT 出版
2. マックミラン 『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
ゲーム理論：
3. 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫
4. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣
学際的テキスト：
5. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
6. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表の出来 (70%)、普段のゼミへの積極的な参加の程度 (発言内容、回数)(20%)、その他円滑なゼミ運営への貢献など (10%) を総合的に判断する。学生研究報告大会での論文発表は、大きな加点対象となる。★演習は対面授業で行うことが学部の方針であるが、新型コロナの感染状況によっては、昨年同様、学習支援システムや Zoom を通じて、柔軟にゼミを進めていく。各自、学習支援システムの「お知らせ」や「教材、課題」に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミについては、現在のやり方を維持・継続して行くことが基本となる。そのうえで、今後は、学生研究報告大会での継続的な論文発表、プレゼン技術の練磨、討論機会の増加、個々の学生の進路への対応など、さらに改善可能な点については、努力して行きたい。

【Outline (in English)】

1. Game theory and its application.
2. Economics of Firms and Organizations, and Contract Theory.
3. Applied Microeconomics.

Students will systematically learn these topics through the second and third years. This will be reflected in research presentations and graduation thesis writing. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN218CA
演習
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究

【到達目標】

本演習の目標は大きく分けて3つあります。まず、受講生によるテキスト（産業組織論、企業経済学、統計学および計量経済学等）の輪読をととして、応用ミクロ経済学の基本的な実証分析の方法を学ぶことです。次に、学習した分析ツールを応用し、各自の関心のある具体的な市場・産業、経済制度、政府規制、あるいはその他の社会・経済問題（広く（ミクロ）経済学に関することであれば可）に関するデータに基づく実証的研究を行うことです。最後に、分析結果を論文にまとめるとともに効果的なプレゼンテーションを行うための準備、書き方、話し方及び態度を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習の前半は、受講生によるテキストの輪読を行い、個別・グループ研究のテーマ決定および研究の実施に必要な知識を身につけます。演習の後半は、個別・グループ研究を実施するための時間です。具体的には、研究の進め方について担当教員と打ち合わせをしたり、実際に研究作業を進めます。また、研究成果を発表する場として、学内・学外のゼミとのインゼミを実施します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」等を通じて行う予定。各回の授業形態については対面を基本とするが、授業内容や進捗状況を踏まえて、オンライン授業となる場合がある（春・秋それぞれ最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介 春学期の進め方確認 輪読テキスト決定
2	データ分析の基礎①	記述統計（講義・演習）
3	データ分析の基礎②	仮説検定（講義・演習）
4	データ分析の基礎③	回帰分析①（講義・演習）
5	データ分析の基礎④	回帰分析②（講義・演習）
6	輪読と個別・グループ研究の実施①	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
7	輪読と個別・グループ研究の実施②	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
8	輪読と個別・グループ研究の実施③	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
9	輪読と個別・グループ研究の実施④	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
10	輪読と個別・グループ研究の実施⑤	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析

11	輪読と個別・グループ 研究の実施⑥	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
12	輪読と個別・グループ 研究の実施⑦	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
13	輪読と個別・グループ 研究の実施⑧	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
14	春学期まとめ	半年間の総復習
15	輪読と個別・グループ 研究の実施⑨	秋学期の進め方確認 輪読テキスト決定
16	輪読と個別・グループ 研究の実施⑩	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
17	輪読と個別・グループ 研究の実施⑪	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
18	輪読と個別・グループ 研究の実施⑫	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
19	輪読と個別・グループ 研究の実施⑬	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
20	輪読と個別・グループ 研究の実施⑭	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
21	輪読と個別・グループ 研究の実施⑮	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
22	輪読と個別・グループ 研究の実施⑯	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
23	輪読と個別・グループ 研究の実施⑰	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
24	輪読と個別・グループ 研究の実施⑱	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
25	輪読と個別・グループ 研究の実施⑲	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
26	輪読と個別・グループ 研究の実施⑳	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
27	輪読と個別・グループ 研究の実施㉑	テキストの輪読 研究成果最終報告
28	秋学期まとめ	1年間の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（輪読）学生は各講義前に教科書の該当箇所の精読、演習問題がある場合は、問題の解答を準備する必要がある（2時間程度）。（研究）学生はグループ研究・個人研究の完成に向けて、分析手法の学習と練習・参考文献の収集と精読・分析用データの整備・分析の実施・分析結果の取りまとめ・プレゼンテーションの準備と練習を計画的に行う必要がある（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

第1回目の演習で決定します。

【参考書】

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社、2017年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
加藤久和『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社、2019年）。
田中隆一『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』（有斐閣、2015年）。
中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社、2017年）。
丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017年）。
他

【成績評価の方法と基準】

平常点、輪読や研究報告の準備と内容およびインゼミ等のイベントへの参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例研究を通じて、仮説の設定、データの収集、分析手法の選定、仮説の検証、結果の解釈という一連の流れを体験しながら、経済学の実証的研究の方法論を学べるように努めたい。さらに、PCスキルを向上できるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回ノートPCを持参することが必要です。

【その他の重要事項】

与えられた課題を指示に従って適切に提出しない場合、単位を認めません。受講者の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得ます。

【Outline (in English)】

This seminar focuses on applied microeconomics and microeconometrics.

The three goals of this seminar are as follows. First, students understand empirical tools of applied microeconomics through lectures, discussions, and exercises, with textbooks. Then, using the toolkits, students conduct empirical studies based on their own research interests. Finally, students complete research papers based on the empirical results and acquire effective presentation skills.

Before each class meeting of reading circle session, students will be expected to have thoroughly read relevant chapter(s) from textbooks, and to solve the problem sets in exercise sections (about two hours required). For research project, students will be expected to learn empirical methods, survey related works, prepare datasets, conduct analysis, and complete thesis, systematically (about two hours required).

The grade will be based on report, homework, in and out of class presentation, and in-class contribution (100%).

Students should bring their laptops to every session.

ECN218CA
演習
竹口 圭輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、企業の様々な行動に焦点をあて、財務諸表分析や企業価値評価、戦略分析など種々のアプローチを用いて、企業行動あるいは企業と資本市場との関係を分析・考察していくことである。その際、財務・統計データだけでなく、新聞・雑誌等の資料や学術論文・研究書、さらにはインタビューなど多様な方法による調査研究を通じて、データ収集・分析・考察の手法を総合的に学んでいく。

【到達目標】

ゼミ活動の大半はグループワークを中心とするため、作業の分担、意見の摺り合わせ、報告、ディスカッション等を通じて個々のコミュニケーション・スキルやリーダーシップ、さらにはプレゼンテーション・スキルの向上も目指す。ただし、チーム作業だけでなく論文の執筆等を通じて、物事を深く考える力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にグループワークで活動を行う。具体的な分析テーマや方法については、種々の事情を考慮して個別に相談して決めていく。課題や成果物についてのフィードバックは基本的に授業中に行うが、授業外の時間帯においても適宜、質問や相談等に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	年間スケジュールの確認と方針決定
2	春学期プロジェクト (1)	テーマ設定
3	春学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
4	春学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
5	春学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
6	春学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
7	春学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
8	春学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
9	春学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
10	春学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
11	夏プロジェクト (1)	テーマ設定
12	夏プロジェクト (2)	プレゼン・討議
13	夏プロジェクト (3)	プレゼン・討議
14	夏プロジェクト (4)	夏合宿に向けての準備
15	秋学期プロジェクト (1)	テーマ設定
16	秋学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議

17	秋学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
18	秋学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
19	秋学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
20	秋学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
21	秋学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
22	秋学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
23	秋学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
24	秋学期プロジェクト (10)	プレゼン・討議
25	秋学期プロジェクト (11)	プレゼン・討議
26	秋学期プロジェクト (12)	プレゼン・討議
27	卒論報告会 (1)	プレゼン・討議
28	卒論報告会 (2)	プレゼン・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ授業時間中における研究報告や討議に向けての調査・分析・すりあわせ・資料作成など、準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 4 版>』日本経済新聞社、2020 年

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・各プロジェクトの成果物（論文・プレゼン等） 50 %
・報告・討論、ゼミ運営、各種ゼミ活動へのコミットメントの程度 50 %
を基準に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This seminar is designed to analyze and examine corporate behavior and the relationship between firms and capital markets using various approaches such as financial statement analysis, corporate valuation, and strategic analysis. By doing so, students will learn comprehensive methods of data collection, data analysis, and consideration through research, incorporating not only financial and statistical data, but also newspaper and magazine articles, research papers, academic papers, and interviews.

ECN218CA
演習
八木橋 毅司
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、1) 経済学の全般的な知識の習得、2) エビデンスに基づいた議論を通じて各々の将来のキャリアにも役に立つ学術スキルを身につけることです。

【到達目標】

2・3年生は、レポート/論文の書き方、ディスカッション、プレゼンテーション、実証分析の手法の習得、英語文献の精読等を通じて、さまざまな学術スキルを身につけます。

4年生は学術的に質の高い卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP13」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数演習形式で教員・学生による発表を中心に進めます。発表に関しては教員・クラスメートからの積極的なフィードバックのもとで授業をすすめます。課題等の提出・フィードバックの一部は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお授業形態につきましては、通常は対面を基本としますが、その時々でのコロナの蔓延状況に応じてズームを用いたハイフレックスまたは完全オンライン方式（上限 50 %）を採用する可能性があります。各講義回の形態については学習支援システムや一斉メールなどを通じて事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	ゼミの運営についての説明、教員と学生の自己紹介。ポスター作成のテーマ発表。
2	履歴書・レジュメ、メールマナー	見た人から高評価を得るためのコツなど。ポスター作成のグループ発表。
3	ポスター作成の基礎（1）	ズームの使い方、図表の作成など。文献報告のテーマ公募。
4	ポスター作成の基礎（2）	パワーポイントの使い方など。文献報告のテーマ発表。
5	ポスター作成	グループごとのテーマについてのポスターを作成する。文献報告の方法についての説明。
6	ポスター発表	グループごとのテーマについてのポスターを公表・評価。文献報告のグループ発表。
7	文献報告の基礎（1）	研究論文の読み方、先行研究の正しい引用方法、図書館・インターネットの利用など。プレゼン・ディスカッションのテーマ公募。
8	文献報告の基礎（2）	文献報告の補足事項・コツなど。プレゼン・ディスカッションの方法について説明・テーマ発表。文献報告用の参考文献リスト提出・共有。

9	フィールドワーク（1）	学生の希望をもとに見学を実施。プレゼン・ディスカッションのグループ発表。研究計画の取り組み開始。
10	文献報告	グループごとに割り当てられたテーマについて発表する。研究計画の提出・共有。
11	プレゼン・ディスカッションの基礎（1）	プレゼンを通じ自分の主張を説得的に展開する仕方を学ぶ。
12	プレゼン・ディスカッションの基礎（1）	有意義なディスカッションの方法について学ぶ。
13	特別講義（1）	学生の希望をもとに特別講義を実施
14	グループによるプレゼン・ディスカッション	特定のテーマに基づいて、グループごとのプレゼンテーション・ディスカッション・評価を行う。
15	授業のガイダンス	授業の進め方についての説明。研究テーマのプロポーザルの説明。研究計画書提出
16	レポート・学術論文の基礎（1）	アイディアのまとめ方・トピック選定などについて。サブゼミのグループ発表
17	レポート・学術論文の基礎（2）	データの探し方・活用。サブゼミについてのガイダンス。
18	フィールドワーク（2）	学生の希望をもとに見学を実施。
19	サブゼミ	大まかなテーマで分けられたグループにおいて互いの研究トピックについてディスカッションを実施。研究概要の提出。
20	特別講義（2）	学生の希望をもとに特別講義を実施
21	フィードバック（1）	研究概要をベースに教員によるフィードバックを実施。
22	フィードバック（2）	研究概要をベースに教員によるフィードバックを実施。教員からのフィードバックを踏まえ論文のドラフトを完成させる。
23	学術プレゼンテーションの基礎	学術プレゼンの心得。他人の書いたもの・発表内容に対する批評などについて。
24	フィールドワーク（3）	学生の希望をもとに見学を実施。
25	プレゼンテーション（1）	執筆された論文をベースに個人による発表・評価を実施。
26	プレゼンテーション（2）	執筆された論文をベースに個人による発表・評価を実施。
27	卒論発表	4年生の卒論発表を実施。プレゼンテーションにおける討論者コメントを反映させた論文（最終稿）およびポスターの提出
28	ポスター発表・評価	個人によるポスター発表・評価を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で必要に応じて説明します。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生：課題内容（60 %）、質疑応答等による貢献（25 %）、出席状況（15 %）の合算により決定します。無断欠席は禁止です。評価 C で単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。
4年生：卒業論文内容（60 %）および報告（40 %）の合算により決定します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

ズームによる講義を行う場合、カメラは基本的にオンのままとしていただきますので、自宅から受講される方は安定したインターネット接続環境をあらかじめ整えておいてください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

4 年生は卒論を書くことを前提に履修してください。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

The objective of this class is to 1) gain deep understanding of Economics and 2) be able to discuss Economic topics based on evidence. The goal is to acquire academic skills that would help students in developing their future career.

【Learning Objectives】

Second/third-year students learn how to write academic papers, discuss research, conduct presentation and empirical analysis, and reading materials in English

【Learning Activities Outside of Classroom】

Average workload for each class is as follows: class preparation time of 2 hours and review time of 2 hours

【Grading Criteria/Policy】

Second/third-year students: Assignments 60%, Class Participation 25%, Attendance 15%

Fourth-year students: Presentation 40%, Dissertation 60%

ECN218CA
演習
武智 一貴
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションとディスカッションの際に重要なものは、テーマを十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミでの発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積まなければ高められない。この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを数多く実践することにより、他者に対して自分の考えを効果的に伝える技術を習得する。

【到達目標】

- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
- ・求められたとき、いつでも自分の考えを述べるができる。
- ・4 年生は学術的な基盤を持った卒業論文を書くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・グループごとにパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションの内容に関連したディスカッションを行う。
- ・課題の提出・フィードバックなどは学習支援システムにより行う。
- ・卒業論文については、テーマの選択・先行研究の調査・論理の構築について適宜議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	プレゼンテーションとディスカッション 1	WTO の歴史について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
4	プレゼンテーションとディスカッション 2	WTO の制度について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
5	プレゼンテーションとディスカッション 3	WTO の条文の構成について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
6	プレゼンテーションとディスカッション 4	WTO の基本政策について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
7	プレゼンテーションとディスカッション 5	WTO の原則と例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
8	プレゼンテーションとディスカッション 6	WTO の附属書について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
9	プレゼンテーションとディスカッション 7	WTO 紛争処理について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

10	プレゼンテーションとディスカッション 8	内国民待遇違反について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
11	プレゼンテーションとディスカッション 9	内国民待遇違反の日本の例について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
12	プレゼンテーションとディスカッション 10	セーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
13	プレゼンテーションとディスカッション 11	日本のセーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
14	プレゼンテーションとディスカッション 12	アンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
15	プレゼンテーションとディスカッション 13	日本のアンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
16	プレゼンテーションとディスカッション 14	補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
17	プレゼンテーションとディスカッション 15	日本の補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
18	プレゼンテーションとディスカッション 16	教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
19	プレゼンテーションとディスカッション 17	SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
20	プレゼンテーションとディスカッション 18	日本が関係する SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
21	プレゼンテーションとディスカッション 19	一般例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
22	プレゼンテーションとディスカッション 20	貿易と環境に関する WTO 紛争について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
23	プレゼンテーションとディスカッション 21	安全保障の例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
24	プレゼンテーションとディスカッション 22	知的財産権保護について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
25	プレゼンテーションとディスカッション 23	TRIPS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
26	プレゼンテーションとディスカッション 24	WTO 紛争処理システムの限界について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
27	プレゼンテーションとディスカッション 25	サービス貿易について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
28	プレゼンテーションとディスカッション 26	GATS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備・復習時間は事前の資料チェック・スライドチェック、報告のまとめなど目安として4時間です。

【テキスト（教科書）】

不正貿易報告書 2021 年版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション内容・形式及びディスカッション内容 100 %

【学生の意見等からの気づき】

報告内容のみならず報告の仕方についても学習の対象とします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce basic presentation and discussion skills to student. The goal of this course is to talk about economic idea in students' own words.

ECN218CA
演習
田村 晶子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論をテキストでしっかり理解し、海外の経済データソースも使った実証分析を行えるようにします。自分たちの興味のあるテーマをグループで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養います。4 年生は、勉強の成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

国際経済学の理論をしっかりと理解し、経済データを使って確認することができる。自分の興味がある内容につき、グループで協働しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。他の学生の報告を聞き、コメントし、討論することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際経済学のテキストの輪読を行い、内容について練習問題を解き、次の授業で解説します。年 4 回のグループプレゼンを行い、ゼミ生全員でプレゼンを評価し、次回授業で今後の改善点を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第 2 回	文献やデータの使い方	データベースの使い方を学ぶ
第 1 回プレゼンターマ決定		
第 3 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
第 1 回プレゼンアウトライン報告		
第 4 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
英文文献の輪読・討論		
第 5 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
英文文献の輪読・討論		
第 6 回	第 1 回プレゼン	第 1 回プレゼンを各自コメント
第 7 回	第 1 回プレゼンの評価	プレゼンの反省と次回のテーマ決定
第 2 回プレゼンターマ決定		
第 8 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
第 2 回プレゼンアウトライン報告		
第 9 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
卒業論文テーマ報告		
第 10 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
英文文献の輪読・討論		
第 11 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
英文文献の輪読・討論		
第 12 回	第 2 回プレゼン	第 2 回プレゼンを各自コメント
第 13 回	第 2 回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論
英文文献の輪読・討論		
第 14 回	夏合宿準備	夏合宿での勉強内容の決定
第 15 回	秋学期の予定の確認	予定確認とプレゼンテーマ決定
第 3 回プレゼンターマ決定		

第 16 回	卒業論文のテーマ報告 第 3 回プレゼンアウト ライン報告	卒論テーマとプレゼンアウトライ ン報告を行う
第 17 回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 18 回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 19 回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 20 回	第 3 回プレゼン	第 3 回プレゼンを各自コメント
第 21 回	第 3 回プレゼンの評 価、第 4 回プレゼン テーマ決定	新ゼミ生選抜面接を合わせて行う
第 22 回	国際経済テキスト輪読 第 4 回プレゼンアウト ライン報告	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 23 回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 24 回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 25 回	第 4 回グループプレ ゼン	第 4 回プレゼンを各自コメント
第 26 回	第 3 回プレゼンの評価 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論 を行う
第 27 回	卒業論文報告	4 年生の卒論報告を各自コメント
第 28 回	ゼミのまとめ	1 年間のゼミを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際経済学テキスト輪読では、毎回、必ず全員が事前にテキストを予習し練習問題を提出してから、ゼミに出席する。グループプレゼンは、各グループで授業外でサブゼミを行って準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

4 時限用の国際経済学のテキスト、5 時限用の国際経済に関する報告書や論文等を、4 月のゼミの始まる前までに決定します。

【参考書】

4 回行うグループのプレゼンなどで、必読参考文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は、毎回の授業と合宿への積極的な参加（20 %）、テキストなどの輪読報告（30 %）、グループプレゼンでの報告と他グループへのコメント（30 %）、輪読の予習復習の練習問題の成績（20 %）、により評価します。4 年生は、卒業論文の報告（40 %）と卒業論文内容（60 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

Students will be able to fully understand the theory of international economics using textbooks and perform empirical analysis using overseas economic data sources. Students develop the ability to present themes of your interest in groups. Senior students summarize the results of their studies in a graduation thesis.

ECN218CA
演習
倉井 潔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは企業行動分析です。新聞やテレビで目にする企業のことを、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。就職活動をする時に、どの会社が「良い会社」なのかをどうやって調べますか。企業には戦略があります。ゼミではそうした戦略と企業のパフォーマンスとのつながりを、皆さんの力で明らかにしてください。分析手段のひとつとして財務情報を用いますが、戦略分析、資本市場分析、企業評価手法、マクロ経済分析、企業の社会的責任など、企業行動の理解のためには財務会計以外の領域も扱います。

【到達目標】

新たな知識の獲得だけではなく、その知識を応用する力を実践しながら身につけていきましょう。共同作業やプレゼンテーションを通じて、社会で活躍するスキルの向上と、生涯を通じて信頼できる仲間を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に行います。メンバーの知識水準に応じて、ゼミの前半では財務会計や基本的な戦略フレームワークの学習を行い、徐々に実際の企業の分析に移ります。自身の関心を積極的に知らせてください。ゼミ中の質問や提出された課題には、直接またはメール等でフィードバックを行います。

4 年生は卒業論文の執筆に向けて定期的に教員と面談することとし、提出後の論文に対して評価を行います。

今年度の開講形式について
コロナの感染状況にもよりますが、全てオンラインで受講できる状態にしつつ、月に 1 回程度は対面講義も並行できればと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミ生の関心確認
2	分析手法の基礎（1）	財務分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
3	財務分析の実践	プレゼン発表
4	分析手法の基礎（2）	戦略分析、マクロ経済分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
5	戦略分析の実践	プレゼン発表
6	テーマ設定	春学期のテーマ設定
7	グループワーク	プレゼン発表 1
8	グループワーク	プレゼン発表 2
9	グループワーク	プレゼン発表 3
10	グループワーク	プレゼン発表 4
11	グループワーク	プレゼン発表 5
12	グループワーク	プレゼン発表 6
13	グループワーク	プレゼン発表 7
14	グループワーク	プレゼン発表 8
15	テーマ設定	秋学期のテーマ案
16	グループワーク	プレゼン発表 9

17	グループワーク	プレゼン発表 10
18	グループワーク	プレゼン発表 11
19	グループワーク	プレゼン発表 12
20	グループワーク	プレゼン発表 13
21	グループワーク	プレゼン発表 14
22	グループワーク	プレゼン発表 15
23	グループワーク	プレゼン発表 16
24	グループワーク	プレゼン発表 17
25	グループワーク	プレゼン発表 18
26	グループワーク	プレゼン発表 19
27	グループワーク	プレゼン発表 20
28	グループワーク	プレゼン発表 21

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持つこと。例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。

本講義の予習時間は各回 2 時間、復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミの中で適宜指示する。

【参考書】

ゼミの中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表（50%）やインゼミなど各種ゼミ活動への参加（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

メンバーの関心に沿ったテーマ設定、適切な参考文献や講演会等の案内を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is corporate behavior analysis. How much do you know about the companies you see in newspapers and television? How do you find out which company is a "good company" when you are looking for a job?

Companies have a strategy. In this seminar, please clarify for yourself the connection between strategy and corporate performance.

We use financial information as one of the means of analysis. In addition, we also deal with areas other than financial accounting for understanding corporate behavior, such as strategic analysis, capital market analysis, corporate valuation methods, macroeconomic analysis, and corporate social responsibility.

ECN218CA
演習
山崎 友紀
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミにおいて、学生たちは一年間をかけて基本的には一人が一つの研究テーマに取り組む。「こどもの理科教育」、「水熱反応に関する実験研究」、「地域の環境問題」などに絡んだ研究を実施する。テーマの詳細は教員と相談して決定する。

【到達目標】

「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法について学ぶことを目標とする。プレゼンテーション能力、マネージメント能力、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

出席必須で、指導教員との研究打ち合わせを密に持ちながら、自分の力で研究を遂行する。研究のスケジュールは、研究テーマによって異なるので、研究の進展にあわせて適宜動的に見直される。研究の進捗については毎回の授業でチェックを行う。質問には個別に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ガイダンス」	ゼミの方針、予定の説明。メールの書き方やエクセルの基本的な使い方を紹介する。
2	「安全教育」と「テーマ探索」	ゼミにおける安全教育
3	「図書館ガイダンス」	図書館でのガイダンス
4	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	図書館ガイダンスの応用学習
5	「研究テーマ、研究方針の決定」	テーマについて熟考
6	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 1
7	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 2
8	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 3
9	「報告とディスカッション」	これまでの研究中間報告 1
10	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 4
11	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 5
12	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 6
13	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 7
14	「報告」・「議論」・「まとめ」	これまでの研究中間報告 2
15	「課題報告」	夏休みの研究の成果報告
16	「調査」または「実験」	秋学期の計画と研究はじめ
17	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 1
18	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 2
19	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 3
20	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 8
21	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 9
22	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 10
23	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 11
24	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 12

25	ゼミ中間発表会	ゼミ研究発表、全員参加
26	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 13
27	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 14
28	年間の総まとめ、発表	各自プレゼンおよびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ活動で指導する。テーマに沿った予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点、研究への取り組み、期末の研究論文を総合的に評価し、60 % 以上を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションの機会をより多く設ける。

【Outline (in English)】

In this seminar, each student basically works on one research theme over the course of a year. Students will conduct research related to "science education for children," "experimental research on hydrothermal reactions," "local environmental issues," and so on. The details of the theme will be decided in consultation with the instructor.

ECN218CA
演習
芝田 幸一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏ラテンアメリカの文化・社会・歴史などを広く学び大まかな全体像を得る。その上で、各自が関心を持った特定の地域・時代・事柄等について、主体的に問題を見つけながら深く掘り下げる。これらの過程で、自らにインプットしたものを、効果的にアウトプットする技術を学ぶ。必要に応じてスペイン語スキルを向上させる。

【到達目標】

ラテンアメリカについての基礎的教養を身につける。自ら課題を掘り出し、各種資料（スペイン語等外国語文献を含む）を入手・分析した上で、論文形式でまとめ、わかりやすく口頭発表できるようになる。伝えたい事柄によって、文・写真・概念図・地図・グラフ・表などを、効果的に使い分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、基本的に学年暦・時間割通りに実施する。毎週 Hoppii を確認すること。春学期：2 年次は主にテキスト輪読による要約発表。3 年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。秋学期：2 年次はテキスト輪読による要約発表、論文の検索（若干の講義と実習あり）、各自の研究テーマ絞り込み、研究の構想・中間発表など。3 年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。4 年次に履修継続する者は、春・秋学期を通して基本的に担当教員による個別指導下で卒業論文の作成を進め、必要に応じてゼミ内で中間発表等を行う。全ての口頭発表に対して講評という形でフィードバックがある。3 年次の課題レポートの中には、講評に基づいて修正と再提出が求められるものもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ運営等について。
第 2 回	プレゼンテーション	自己紹介。第 4 回以降の発表担当者と発表順などを決定。
第 3 回	ラテンアメリカ概説	教員による講義
第 4 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカ地域の特徴等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 5 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの歴史等）。3 年：研究	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 6 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの政治等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 7 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの経済等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 8 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの社会等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 9 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの文化等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 10 回	2 年：読解と要約（メキシコ等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 11 回	2 年：読解と要約（中米地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 12 回	2 年：読解と要約（カリブ海地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 13 回	2 年：読解と要約（アンデス諸国等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 14 回	春学期のまとめ	発表、講評、夏季休暇中の課題説明等。
第 15 回	ガイダンス	秋学期の運営について、発表担当者と発表順などを決定。
第 16 回	2 年：読解と要約（ラブラタ地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。

第 17 回	2 年：読解と要約（ブラジル等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 18 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカと日本）。3 年：研究。※このあたりで図書館ガイダンスを実施する可能性あり。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 19 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 20 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 21 回	研究テーマの検討、文献検索等。	講義と実習
第 22 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 23 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 24 回	4 年生による特別セミナー	発表、質疑応答等。
第 25 回	入ゼミ面接、その他	面接、発表、講評等。
第 26 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 27 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評など。
第 28 回	秋学期のまとめ	発表、講評、春季休暇中の課題説明等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期： 2 年次は主にテキストの精読と要約作成。図書館およびインターネットでの文献検索。3 年次は春の課題レポートの要約作成、論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4 年次は卒業論文の作成と必要に応じて中間発表。全学年に共通してプレゼンの準備（パワーポイント資料作成含む）。

夏休みの課題： 2 年次は感想文またはレポート。3 年次はレポート。

秋学期： 2 年次は今後執筆するレポートの仮テーマ・章立て・文献リスト等を作成。3 年次は夏の課題レポートの要約作成とプレゼンの準備、最終課題レポートの作成。2・3 年次ともに論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4 年次は卒業論文の作成とその発表。

春休みの課題： レポート（2 年次のみ）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（発表内容によっては更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】

ゼミ内で相談のうえ決める。

【参考書】

『地図で見るラテンアメリカハンドブック』ダベース、O.、F. ルオー、原書房、2017 年（ISBN978-4-562-05428-2）、2800 円＋税
『ラテンアメリカ世界のことばと文化』畑恵子・山崎真次編著、成文堂、2009 年（ISBN978-4-7923-7084-8）、3000 円＋税
『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』国本伊代・中川文雄編著、新評論、2005 年（ISBN4-7948-0679-5）、3200 円＋税
『新版 ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫他監修、平凡社、2013 年（ISBN 9784582126464）、7000 円＋税
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021 年（ISBN978-4-621-30585-0）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2・3 年：発表と提出物（80%）＋平常点（20%）

4 年：卒業論文（90%）＋平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

4 月に自己紹介プレゼンテーションを行うことで、ゼミ生間やゼミ生と教員間の相互理解を深め、かつプレゼン能力向上を促す。春学期に小テストを実施する（対面授業実施時）。レポート作成の機会を増やす。希望者に対しては更なるスペイン語学習の機会を用意する。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

スペイン語スキルを上げたい学生は、「スペイン語セミナー A・B」等の科目も併せて履修すると良いだろう。

4 年次にゼミ履修を継続する学生は、単位付与のために卒業論文の提出が必要である。早めに（3 年次の年度末～4 年次の 4 月前半）ゼミ担当教員に連絡をとり、4 月末を目途に「卒業論文作成計画書」を提出すること。

【Outline (in English)】

[Course outline] This seminar course explores the culture, society and history of Latin America and introduces academic writing and the fundamentals of academic research. [Learning Objectives] Through the seminar, participants are expected to A)explain the socio-cultural characteristics of Latin America and its historical background, and B)make academic papers and oral presentations on their own research topic. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, participants will spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on submitted papers and oral presentations (80%), and in-class contribution (20%).

ECN218CA
演習
ブー トウン カイ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、テキストを輪読して国際金融論の基礎的な知識と経済分析手法を身に付けた後、文献の調査を通じて現実における金融や国際金融の現状や問題を知り、研究テーマを設定し経済学的手法やデータを用いて分析し、解決策を検討する。

【到達目標】

金融論や国際金融論の基礎的な知識及び経済学的手法を修得し、それらを用いて現実の金融や国際金融の様々な問題を特定し、分析できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前期では経済学と金融論のテキストの輪読を中心にゼミを進める。後期では、国際金融論のテキストを輪読しながらグループに分けて国際金融論の文献を調査し、研究テーマの検討・決定をする。そして決定したテーマに沿ってデータや資料を収集し、分析を行い、答えを探る。毎回はゼミ生による報告と討論を中心に進める。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミメンバーの紹介、前期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 2 回	輪読（1）	ゼミ生による報告と討論
第 3 回	輪読（2）	ゼミ生による報告と討論
第 4 回	輪読（3）	ゼミ生による報告と討論
第 5 回	輪読（4）	ゼミ生による報告と討論
第 6 回	輪読（5）	ゼミ生による報告と討論
第 7 回	輪読（6）	ゼミ生による報告と討論
第 8 回	輪読（7）	ゼミ生による報告と討論
第 9 回	輪読（8）	ゼミ生による報告と討論
第 10 回	輪読（9）	ゼミ生による報告と討論
第 11 回	輪読（10）	ゼミ生による報告と討論
第 12 回	輪読（11）	ゼミ生による報告と討論
第 13 回	輪読（12）	ゼミ生による報告と討論
第 14 回	輪読（13）	ゼミ生による報告と討論
第 15 回	前期の総括	これまでの流れを振り返り、今後の予定を確認する。
第 16 回	イントロダクション	前期のゼミ内容を振り返り、後期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 17 回	研究テーマ設定（1）	国際金融に関する研究テーマ候補の検討
第 18 回	研究テーマ設定（2）	研究テーマの決定、研究計画の作成
第 19 回	調査分析（1）	各グループによ先行文献調査結果の報告と討論
第 20 回	調査分析（2）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論

第21回 調査分析 (3)	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第22回 調査分析 (4)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第23回 調査分析 (5)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第24回 調査分析 (6)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第25回 調査分析 (7)	各グループによる分析結果の報告と討論
第26回 調査分析 (8)	各グループによる分析結果の報告と討論
第27回 調査分析 (9)	各グループによる分析結果の報告と討論
第28回 調査分析 (10)	研究成果の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回学んだことをきちんと復習し、理解できるように努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『独習！ ビジネス統計』、松浦寿幸（著）、東京図書 2012 年。

【参考書】

- 『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』、勝悦子（著）、有斐閣 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

出席（35%）、プレゼンテーション・ゼミへの貢献（意見や討論）（35%）、学期末課題（30%）の結果に基づいて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の意見を聞きながら楽しく有意義なゼミを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成やデータ分析などのためにコンピュータを頻繁に使用するので、大学のコンピュータを利用するのもよいが、ゼミ生が自らパソコンをもつと便利になる。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of international finance and methods for economic analysis. The students will acquire necessary knowledge and skills through a process of reading and understanding textbooks, practicing by solving problems, handling data in Excel, and doing research.

The students are assigned to several groups and every week some of the groups are required to make presentations on given topics in the textbooks.

Grading is based on the students' presentations, discussion, and final report performance.

ECN218CA
演習
長原 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習の最終目的は 4 年次における卒業論文の作成です。当ゼミは、本年度は、4 年生のみです。したがって

- (1) 卒論テーマを最終的確認と再設定する。
- (2) 卒論の報告会を反復的組織する。
- (3) 他のゼミ生のプレゼンテーションに対する応答を纏めて、対抗プレゼンテーション（批判会）を行う。
- (4) こうした作業を通じて自分の卒論のテーマをブラッシュアップし、具体的に組み立てる。
- (5) 以上を踏まえて、卒論を完成させる。

【到達目標】

- 1 自立した学習能力
- 2 プレゼン能力
- 3 「報告」文書の作成能力

以上 3 点の能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- (0) 対面・Zoom を同時並行的に駆使し、ゼミ生全体の卒論テーマの共有をはかる。
 - (1) 卒論に向けた準備の報告（輪番制で PowerPoint などを用いたプレゼンが必須です）
 - (2) (1) のための参考文献のリストの作成にもとづいた各ゼミ生独自の文献一覧表の作成と事前提出が義務となっています。
 - (3) 教員は、前回の報告を次の冒頭で、補足解説を含めて、ゼミ生全員の課題としてフィードバックする。
 - (4) (1)～(3) に併行して、全員のテーマを考慮に入れつつ、教員が提案したゼミ全体のテーマである。現代資本主義に関する論文や著書を輪読する。
 - (5) ゼミ専用の Email ネットワークによって随時「相談」「質問」に応ずる。
- *毎日が各ゼミ生からの提起と各ゼミからの「応答」、そして教員による両者への対面的フィードバックとしてゼミは組織されています。それはゼミ専用の Email ネットワークを通じて「回覧」できる状態にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	今年度における輪読テキストの選定と報告スケジュールの設定
第 2 回	卒論制作のノウハウ	卒論制作の手引
第 3 回	過去の優秀な卒論の紹介	過去の優秀な卒論の紹介
第 4 回	ゼミ生が卒論制作のために選択したテキストの「読解」とそのプレゼン	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 5 回	ゼミ生が卒論制作のために選択したテキストの「読解」とそのプレゼン	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 6 回	ゼミ生が卒論制作のために選択したテキストの「読解」とそのプレゼン	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン

第 7 回	ゼミ生が卒論制作のために選択したテキストの解説(4)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 8 回	ゼミ生が卒論制作のために選択したテキストの解説(5)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 9 回	卒論課題設定報告と教員によるコメント(1)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう（学年に照応した）
第 10 回	卒論課題設定報告(2)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう（学年に照応した）
第 11 回	卒論課題設定報告と教員によるコメント(3)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう（学年に照応した）
第 12 回	卒論中間報告と教員による方向性の再確認(1)	ゼミ生全員によるコンパクトな卒論制作のための集中的な中間報告を行う
第 13 回	卒論中間報告教員による方向性の再確認(2)	ゼミ生全員によるコンパクトな卒論制作のための集中的な中間報告を行う
第 14 回	秋学期に向けての方針を確認するブレイン・ストームを行う。	ゼミ生全員による達成度自己チェックの報告（反省会）
第 15 回	春学期と夏休みの期間の到達度 (1)	到達度チェック (1)
第 16 回	春学期と夏休みの期間の到達度 (2)	到達度チェック (2)
第 17 回	春学期と夏休みの期間の到達度 (3)	到達度チェック (3)
第 18 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による講評	各自の到達度の整理と講評
第 19 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (1)	卒論制作のより具体的な報告 (1)
第 20 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (2)	卒論制作のより具体的な報告 (2)
第 21 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (3)	卒論制作のより具体的な報告 (3)
第 22 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (4)	卒論制作のより具体的な報告 (4)
第 23 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (5)	卒論制作のより具体的な報告 (5)
第 24 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック (6)	卒論制作のより具体的な報告 (6)
第 25 回	完成間近の卒論のプレゼン集会 (1)	大きな教室をもちいた卒論のプレゼンテーション (1)
第 26 回	完成間近の卒論のプレゼン集会 (2)	大きな教室をもちいた卒論のプレゼンテーション (1)
第 27 回	Tutorial による公開批評 (1)	全員の卒論を教員の公表をもちいて最終的に共有する (1)
第 28 回	Tutorial による公開批評 (2)	全員の卒論を教員の公表をもちいて最終的に共有する (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 卒論制作に必要な資料・史料の蒐集
- 2 テキストの輪読は、当該書籍だけでなく、その理解に必要な関連文献の積極的な読解をも含めて報告レジュメの作成を行なう。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各学期の第 1 回目に 4 年生の卒論の「暫定的テーマ」と「暫定的タイトル」を確認し、ゼミ生全員の「テーマ」を互いのテキストとして共有する。

【参考書】

それぞれの受講生の卒論のテーマに即して、そのつど個別に、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 4 年生のみ

成果としての卒論の提出と評価 (100%)

※ 当ゼミには 2 年生・3 年生は所属していない。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 知識と情報の反復的な整理をおこなうこと

(2) 日常的な関係性の確立

【学生が準備すべき機器他】

対面ゼミでも資料の共有など PC を活用するので、各人が PC あるいはタブレットを持参することが要請されている。

【その他の重要事項】

ありません。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

(1)『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年

(2)『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年

(3)『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

(4)『敗北と憶想』航思社、2019 年

「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021 年

【Outline (in English)】

(1) All the seminararians are required to write a graduation thesis.

(2-1) Therefore our seminars are organized only for (1) like below.

(2-2) Seminararians are to organize a reading circle for (1), which includes the professor.

(3) Not only to sort out the previous academic studies concerned but also to collect the necessary materials, and then make presentations.

(4) To make suggestive proposals towards the presentations of the other seminararians.

(5) To make a concrete plan for the graduations thesis through (1)-(4).

(6) To complete the graduation thesis.

ECN218CA
演習
池上 宗信
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究として、受講者各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックについて学ぶ。
 キャパシティビルディングとして、開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析を学ぶ。
 データ分析では、経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学ぶ。
 各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用する。

【到達目標】

本講義の目標は、各自が目標をたて、文献を読み、データを分析し、学んだことをスライド、ノート、論文にまとめ、口頭発表でできるようになること。
 データ分析における 1 つ目の目標は、各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになること。
 2 つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探すことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

研究として、各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックを選択し、中間発表をしつつ、論文を作成、発表、提出する。
 研究の過程において、論文計画書、論文中間報告書、論文草稿を提出し、担当教員、他のゼミ生からのフィードバックとして質問・コメントをもらう。また、他の学生の文書について質問・コメントを提出する。
 また、キャパシティビルディングとして開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析について、輪読、演習しながら学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの扱い方	R の使い方、データの読み込み、加工
2	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
3	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
4	中間発表 1	論文テーマの中間発表 1。
5	回帰分析の基礎	最小二乗法
6	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
7	まとめと解説、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
8	中間発表 2	論文計画書の提出。論文テーマの中間発表 2。
9	相関関係と因果関係	相関関係と因果関係
10	外生変数と内生変数	外生変数と内生変数
11	ランダム化比較試験	選択性バイアス
12	操作変数法	2 段階最小二乗法
13	中間発表 3	論文中間報告書の提出。論文テーマの中間発表 3。

14	まとめと解説、期末試験	第 9 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。
15	固定効果	パネルデータ
16	差の差の分析	並行トレンドの仮定
17	不連続回帰デザイン	連続性条件
18	中間発表 4	論文テーマの中間発表 4。
19	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件
20	貧困と不平等、零細自営業者や小農の経済学	不平等の貧困に与える影響。
21	まとめと解説、中間試験	第 15 回から第 20 回までの内容を復習。中間試験
22	中間発表 5	論文草稿の提出。論文テーマの中間発表 5。
23	貧困の罌、貯蓄	信用制約
24	金銭供与、マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果。
25	共同体、マイクロ保険	理論と実証研究の結果。
26	投資産供与、術供与、卒業プログラム	金銭供与との比較。
27	まとめと解説、期末試験	第 22 回から第 26 回までの内容を復習。期末試験。
28	最終発表	論文の提出。論文テーマの最終発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャパシティビルディングのための輪読・演習では、発表・演習担当者だけでなく、受講者全員が、予習として事前に内容を読み、質問、議論したいことを事前にまとめてから授業に参加する。
 授業時間内に各自の研究を発表し、他の学生、教員からコメントをもらう。
 授業時間外に各自の研究を進める。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

星野匡郎、田中久稔（2016）『R による実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社

【参考書】

アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
 今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

キャパシティビルディングのための発表、演習、討論 50%。各自の研究論文、発表 50%。

【学生の意見等からの気づき】

2018-2021 年度において、キャパシティビルディングの多くの時間をデータ分析に使いました。データ分析を学ぶための主な参考書は、2019 年度は今井（2018）、2020-2021 年度は星野・田中（2016）でした。

【Outline (in English)】

Each of us will also study and write a research paper on a question in Development Microeconomics.
 We will study Development Microeconomics, how to write a research paper, make a presentation, analyze data as our capacity development.
 We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.
 We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

ECN218CA
演習
ROBERT D STROUD
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

【到達目標】

Students will analyze project management and leadership skills, as well as apply those skills to their own communication and actions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2nd and 3rd year students:

Students will discuss and practice different methods of leading and managing teams of their own, and report on discoveries about themselves. This will then be applied to real team projects within the course, with self and peer-reflection activities to follow. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

For 4th year students:

A graduation thesis will be written in English across the spring and fall semesters. Students will undertake homework assignments related to research and writing the thesis and meet online/face-to-face with the teacher 5-7 times during each semester to present their work and get feedback on their progress via Google Classroom. 4th year students are not required to attend seminar classes with 2nd and 3rd year students if they do not wish to.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Seminar introductions / semester outline (subject to change)	- Self-Introductions/Ice Breakers - Seminar outline
2	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
3	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
4	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
5	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
6	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
7	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
8	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
9	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
10	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics

11	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
12	Final presentations	- Students give their final presentations
13	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentations
14	Zemi meeting and discussions	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting
15	Seminar introductions / layout	- Students are introduced to the coming semester
16	Personal research projects / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
17	Personal research projects / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
18	Personal research projects / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
19	Personal research projects / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
20	Personal research projects / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
21	Personal research projects / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
22	Personal research projects / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
23	PML camp preparation	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
24	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
25	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
26	Final presentations	- Students give their final presentations
27	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentation
28	Final meeting and changes for next year	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly online homework (1-2 hours) to complete project work. 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No textbooks - all materials will be provided.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

For 2nd and 3rd year students:

Project work, possible field trips, and presentations - 70%
Classwork/Homework assignments and participation - 30%

For 4th year students:

Graduation thesis (written in English) - 100%

(not required, but available for 3rd year students who apply and are successful)

【学生の意見等からの気づき】

Surveys given to the students will be used to make adjustments for the course in the future.

【学生が準備すべき機器他】

- Notebook and pens
- Laptop computer/tablet (if available)

If the course is conducted online, a laptop computer or tablet is highly recommended. Although the course is entirely accessible via smartphone, students may find difficulties accessing multiple platforms during online class if joining the class with a smartphone.

【その他の重要事項】

none

【Outline (in English)】

Students will undertake various projects in teams to improve their collaboration skills and ability to plan projects.

ECN218CA

演習

西澤 栄一郎

開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークを柱とする環境問題の調査とその解決策の提案

【到達目標】

- ①現地調査の方法を身につける。
- ②地域の人々に対して貢献する。
- ③活動内容を報告書にまとめ、現地で報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

このゼミは、8月にフィールドワーク（現地調査）を行うことを特徴としています。ある地域を選び、その地域のまちづくりと環境に関わることを調べ、提言をまとめます。調査を通して参加者がその地域について理解を深めるだけでなく、その地域の人々に対して貢献することを目指しています。経済学部のゼミなので、調査にあたっては、環境問題の経済的な側面や、環境と経済との関わりについて重視できればと考えています。

COVID-19の影響で実際に現地を訪問できない場合は、オンラインで対象地域の人から聞き取りをするなど、代替策を講じます。なお、課題等の提出・フィードバックは主として授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対象地とテーマの検討	各自の提案について議論する
2	対象地とテーマの決定	提案の中から一つに絞る
3	関連文献の収集	テーマに関する文献を調べる
4	関連文献の講読①	テーマに関する文献を全員で読む
5	関連文献の講読②	内容について議論する
6	関連文献の講読③	対象地域に関する文献を読む
7	関連文献の講読④	対象地域に関する理解を深める
8	現地調査の課題設定	具体的な調査課題を決める
9	現地調査内容の検討	訪問先と調査内容を決める
10	現地日程の検討	具体的なスケジュールを決める
11	現地調査の仮説設定	文献などから仮説を立てる
12	事前調査のまとめ	理解したことを文章にまとめる
13	調査項目の確定	調査票を作成する
14	報告書の構成の検討	事前学習の知見も盛り込む
15	報告書案の検討①	原稿を持ち寄って議論する
16	報告書案の検討②	修正したものをさらに検討する
17	報告書の結論の検討	結論について議論する
18	発表会準備①	パワーポイントを作成する
19	発表会準備②	発表の練習をする
20	報告書の最終調整①	書式を統一する
21	報告書の最終調整②	原稿を完成させる
22	今年の現地調査の反省	反省点を来年の調査に活かす
23	卒業論文の中間報告	4年生の報告について議論する
24	環境問題の文献講読	幅広い知識を得る
25	来年の方針の検討	来年の調査に向けて準備する
26	調査方法の文献講読	アンケートの方法を学ぶ
27	論文の書き方講座	図書館でガイダンスを受ける
28	卒業論文の報告	4年生の最終報告を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の準備や報告書の作成はさまざまな作業を伴います。それらの作業は適宜行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜決めて読んでいきます。

【参考書】

現地調査の基本文献として、2冊挙げます。

- ①轟亮・杉野勇編(2021)『入門・社会調査法〔第4版〕』法律文化社
 ②滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会編(2015)『フィールドワーク心得帖〔新版〕』サンライズ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)と課題(50%)で評価します。4年生は卒業論文を主に評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの回答がなかったため、該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students conduct fieldwork and make a proposal on the environmental and resource issues. The goals of this course are to acquire methods of field work, to make a report and a presentation on their activities, and to contribute the community where they visit for the fieldwork. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to conduct assignment and make reports. Grading will be based on Term-end thesis(50%) and in-class contribution(50%).

ECN218CA
演習
新田 誠吾
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、二つのテーマがあります。一つは、小説、劇、マンガ、アニメ、映画といった作品を分析、考察します。もう一つは、社会で起きている事象を分析することで、私たちが生きる世界への理解を深めます。演習と並行して、各自が設定したテーマについて、論文にまとめ、発表を行います。

【到達目標】

1. 「物語る」手法について理解し、分析できる。
2. 現代日本の社会現象、課題について考察できる。
3. ファシリテーターとして、有益な議論を導くことができる。
4. 自分の考えを論理的にまとめることができる。
5. 自分の考えを表現でき、他人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を行います。専門書の講読、資料検索、グループ研究、発表、ディベート、論文作成を行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。必要な情報はメンバー全員で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自分のことをゼミのメンバーに伝える	演習の進め方とゼミ生の自己紹介（春休み課題）
2	私たちの世界は物語で溢れている。	恩田陸『蜜蜂と遠雷』
3	何がドラマになるのか	恩田陸『蜜蜂と遠雷』
4	マンガの技法(1)	登場人物の設定
5	マンガの技法(2)	作品の世界観とは
6	ファシリテーションとは何か	みんなの意見を引き出すファシリテーターとは？
7	論文の書き方(1)	テーマとは「問い」である。
8	論文の書き方(2)	資料検索
9	論文の書き方(3)	図書館ガイダンス
10	論文の書き方(4)	引用の仕方
11	論文の書き方(5)	注、参考文献の書き方
12	グループ論文中間報告	第2回コンテンツ報告会
13	グループ論文中間報告	第2回コンテンツ報告会

14	グループ論文中間報告 進級論文中間報告 ふりかえり	2, 3 年生による報告
15	作品鑑賞 第 3 回コンテンツ報告会	映像作品を観る
16	グループ研究発表 (1)	2 年生の発表
17	グループ研究発表 (2)	2 年生の発表
18	物語の技法 (1)	小説の輪読
19	3 年生の研究発表 物語の技法 (2)	小説の輪読
20	3 年生の研究発表 物語の技法 (3)	小説の輪読
21	3 年生の研究発表 卒業論文指導 物語の技法 (4)	小説の輪読
22	3 年生の研究発表 新ゼミ生の選考	選考面接
23	3 年生の研究発表 (1)	発表と質疑応答
24	卒業論文指導 3 年生の研究発表 (2)	発表と質疑応答
25	第 4 回コンテンツ報告会 3 年生の研究発表 (3)	発表と質疑応答
26	卒業論文指導 3 年生の研究発表 (4)	発表と質疑応答
27	卒業論文指導 3 年生の研究発表 (5)	発表と質疑応答
28	ふりかえり	ゼミの総括と来年度に向けた企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題、発表、論文作成にきちんとした準備が必要です。そのため週に 4 時間程度必要です。

【テキスト（教科書）】

新田誠吾 (2019). はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！
レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

【参考書】

参考書については、授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

2, 3 年生：平常点（参加度、課題、グループワーク等）が 40%、成果物（論文、発表）が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。ただし翌年度のゼミ履修には 70%以上必要です。なお、正当な理由なくゼミを 6 回以上欠席した場合は、単位は認定しません。

4 年生：卒業論文について、①テーマ選定、②資料検索とアウトライン作成、③第 1 次原稿チェック、④完成稿チェックの少なくとも 4 回の卒論指導を受ける必要があります。完成稿のゼミ内提出期限は、例年通り 12 月 26 日です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学生から高い評価を受けました。今後も論文指導や発表に力を入れていきます。

【Outline (in English)】

In this seminar, there are two themes. One is to analyze and discuss contents such as novels, plays, comics, animations, and movies. The other is to deepen our understanding of the world in which we live by analyzing the events occurring in society. At the same time, each student will write a paper and give a presentation on the theme they have chosen.

ECN218CA
演習
明城 聡
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場調査と統計学を利用した経済データ分析

【到達目標】

本演習では、受講生それぞれが独自に選んだ課題テーマについて調査するとともに客観的な視点で経済分析することを目指します。各自が関心のある特定の財市場や経済制度、あるいは経済政策などを研究テーマに選び、それについて調査をすすめるとともにミクロ経済学や統計学の知識を応用して分析を行うものとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2 年生は主に統計学と計量経済学のテキストを使って勉強を行います。これは個別の課題テーマを調べる際に必要な知識を身につけるための演習です。

3 年生は個別のテーマについて調査分析を行って論文を執筆します。調査方法や分析手法などについて担当教員と相談したり、他の受講生と協力して作業を進めるための作業が主な内容になります。そして秋の懸賞論文や研究報告大会などで研究成果を発表します。4 年生は卒論を書きたい人のみ履修となります。必要に応じて論文指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・シラバスの配布 ・演習概要の説明 ・その他、連絡事項
2	課題テーマの抽出 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
3	課題テーマの抽出 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
4	課題テーマの抽出 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
5	課題テーマの抽出 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
6	課題テーマの調査と分析 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
7	課題テーマの調査と分析 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
8	課題テーマの調査と分析 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
9	課題テーマの調査と分析 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析

10	課題テーマの調査と分析 (5)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
11	課題テーマの調査と分析 (6)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
12	課題テーマの調査と分析 (7)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
13	課題テーマの調査と分析 (8)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
14	課題テーマの調査と分析 (9)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
15	課題テーマの調査と分析 (10)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
16	課題テーマの調査と分析 (11)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
17	課題テーマの調査と分析 (12)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
18	課題テーマの調査と分析 (13)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
19	課題テーマの調査と分析 (14)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
20	課題テーマの調査と分析 (15)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
21	課題テーマの調査と分析 (16)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
22	課題テーマの調査と分析 (17)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
23	課題テーマの調査と分析 (18)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
24	課題テーマの調査と分析 (19)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
25	課題テーマの調査と分析 (20)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
26	課題テーマの調査と分析 (21)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
27	課題テーマの調査結果の報告 (1)	・調査結果の報告
28	課題テーマの調査結果の報告 (2)	・調査結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が関心のあるテーマを選べるように日頃から新聞やニュース等に目をとおすようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習の第1回の時点で連絡します。

【参考書】

演習の第1回の時点で連絡します。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生は

・学習時間における準備や発言 (30%)

・個別テーマの調査や報告内容 (70%)

などに応じて成績をつけます。

4年生は卒論の評価で成績をつけます (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ分析にPCが必要なので、各自ノートPCを利用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this seminar, students are required to investigate a specific market, economic system and/or economic policy, and then study it by conducting a statistical data analysis.

It is also necessary to write a thesis using results of the data analysis.

ECN218CA
演習
朴 宗玄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、日本と韓国を含む世界諸地域に関する幅広いテーマを取り上げ、地理学の視点から「社会」「文化」「地域」の特徴を研究する。本ゼミでは、おもに次の三つを柱に、地域の見方、調べ方、読み方を学習する。まず「地域」「地理学」の視点から、個々の関心を持つ地域とテーマを決め、それに関する先行研究をサーベイする。サーベイした先行研究をまとめて発表することで、論文の書き方とプレゼンテーションの方法を身につける。次に地域と個々のテーマに関する統計資料を調べる。どのような統計資料が存在し、それをどのように活用するのかを調べる。先行研究などを参考にして、どのような分析方法で統計データを扱うのか分析方法論を学習する。そして最後にフィールドワーク（地域調査）を実施する。

【到達目標】

授業の到達目標は、様々な側面から地域・都市を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習では、①統計処理、②先行研究のレビュー、③フィールドワーク、④発表、4つを柱で学習する。春学期では、地理学関連の先行研究のレビューや日本をはじめ世界各国の統計を扱い、地域の特徴を学習する。秋学期では、フィールドワークと発表を中心に、地理学の方法論を学習する。さらに、春学期・秋学期ともに、新宿区新大久保駅周辺のコリアンタウン地域に対する定期的なフィールドワークを行う。フィードバックは、発表やレジュメなどへ改善点、コメントなどを個別指導によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	先行研究のレビュー 1	人文地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
2	先行研究のレビュー 2	経済地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
3	先行研究のレビュー 3	都市地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
4	先行研究のレビュー 4	商業地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
5	先行研究のレビュー 5	企業地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
6	統計処理方法論 1-基礎	統計の基礎を使い、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
7	統計処理方法論 2-特化係数	特化係数を使う、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
8	統計処理方法論 3-多変量解析基本	多変量解析の方法を理解し、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
9	統計処理方法論 4-多変量解析応用	多変量解析を地理学でどのように応用しているのかを学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。

10	統計処理方法論 5-多変量解析解釈	多変量解析の結果を用いて、解釈方法を学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
11	統計処理方法論 1	国勢調査統計の扱い方を学習する。
12	統計処理方法論 2	政府機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
13	統計処理方法論 3	民間機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
14	まとめ	地域分析全般をまとめる。
15	フィールド調査方法の学習と準備 1-先行研究	先行研究から、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
16	フィールド調査方法の学習と準備 2-海外調査	先行研究から、海外調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
17	フィールド調査方法の学習と準備 3-国内調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
18	フィールド調査方法の学習と準備 4-グループ調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
19	フィールドワーク 1：一回目の調査	東京を事例に、第一回目の現地調査を行う。
20	結果解釈とプレゼンテーション 1：一回目の調査	第一回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
21	フィールドワーク 2：二回目の調査	東京を事例に、第二回目の現地調査を行う。
22	結果解釈とプレゼンテーション 2：二回目の調査	第二回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
23	フィールドワーク 3：三回目の調査	東京を事例に、第三回目の現地調査を行う。
24	結果解釈とプレゼンテーション 3：三回目の調査結果	第三回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
25	報告書作成 1-まとめ方	調査した地域の調査結果を分析する方法を学習する。
26	報告書作成 2-報告作成方法	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書作成方法を学習する。
27	報告書作成 3-グループワーク	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書にまとめ、グループワーク方法を学習する。
28	まとめ	ゼミで学んだ内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計データの処理、先行研究の検索などを事前に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容や授業中の質問・意見等の受講態度、レポートの添削結果や課題演習の結果などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The goal of the seminar is to promote students to develop geographical thinking as well as academic writing, researching and analytical skills, based on reading geographical articles, analyzing statistical data and presenting research findings.

ECN218CA
演習
橋本 到
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自主的な学習によって、フランスの現代やその礎となる文明・文化について理解を深め、物事を深く考える力を養うとともに、「日本」や身の回りの問題を見直し、提言を発信する能力を身につける。
各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

文化的・学術的な議論ができるようになる。情報検索・収集・整理を持続的・効率性に行えるようになる。物事を幅広く柔軟に考え、適切に分析・洞察できるようになる。それらを発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪読発表、グループ研究、個人研究、レクチャーを組み合わせて。輪読発表、グループ発表とも年度初頭の計画に基づき行いが、その準備が各自の課題になる。それぞれの発表はその場で相互評価の方法も取り入れ、改善点など指摘し、あわせて、授業外でも個人研究を進められるよう面談を行い一人一人の捗状況に合わせた指導も行う。年度末の進級論文に対してはコメントを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの場を作る。ゼミの進め方の確認など。	自己紹介、ガイダンス、グループ決め、輪読アナウンス1班、毎回報告1
第2回	興味を広げる、フランスについて知る。グループ内で発想を出し合う。	輪読（アナウンス2班+発表1班）、レクチャー1、毎回報告2、グループ研究1
第3回	興味を広げる。論文の書かれ方について知る。グループで作業分担などを決める。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、論文講読1、毎回報告3、グループ研究2
第4回	興味を広げる。グループでリサーチする（1）。	輪読（アナウンス4班+発表3班）、グループ研究3、毎回報告4
第5回	興味を広げる。プレゼンについて考える。グループでリサーチする（2）。	輪読（アナウンス5班+発表4班）、毎回報告5、グループ研究4
第6回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス6班+発表5班）、論文講読2、毎回報告6
第7回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス1班+発表6班）、レクチャー2、毎回報告7
第8回	興味を広げる、フランスについて知る。グループでリサーチする（3）。	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告8、グループ研究5
第9回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、レクチャー3、毎回報告9
第10回	フランスについて知る。グループでリサーチする（4）。	輪読（アナウンス4班+発表3班）、レクチャー4、グループ研究6
第11回	探求した内容を発表する（1）。	輪読（発表5班）、3年次発表1
第12回	探求した内容を発表する（2）。	3年次発表2、4年次発表1

第13回	興味を広げる、探求した内容を発表する（3）。	4年次発表2、毎回報告10
第14回	興味を広げる、グループ研究の途中経過を完成に近づける（1）。	毎回報告11、グループ研究・第1回プレゼン・リハーサル
第15回	フランスについて知る、グループ研究を完成させる1	ガイダンス、レクチャー5、輪読（アナウンス1班）、グループ研究発表（1班～5班）
第16回	フランスについて知る、卒論にむけた準備（4年）1	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告12、4年次卒論中間発表1
第17回	グループ研究を完成させる2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、毎回報告13、グループ研究7
第18回	卒論にむけた準備（4年）2、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、4年次卒論中間発表2、毎回報告14、グループ研究8
第19回	卒論にむけた準備（4年）3、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス5班+発表4班）毎回報告19、4年次卒論中間発表3
第20回	興味を広げる、フランスについて知る、グループ研究を完成させる4	輪読（アナウンス1班+発表5班）、レクチャー6、毎回報告16、グループ研究9（発表先発組・オープンゼミ）
第21回	学年末に向けたまとめの準備1、グループ研究を完成させる5	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告17、グループ研究10（発表後発組・オープンゼミ）、1次応募選考
第22回	学年末に向けたまとめの準備2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、3年次発表1、毎回報告18
第23回	学年末に向けたまとめの準備3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、3年次発表2、毎回報告19
第24回	興味を広げる、フランスについて知る。学年末に向けたまとめの準備4	輪読（アナウンス5班+発表4班）、3年次発表4、毎回報告20
第25回	面接の挙措などの学び——次年度の入ゼミ生を面接する	2018年度、2次応募者選考作業
第26回	集めた情報を論文として構成する（2年）1。	輪読（発表5）、レクチャー7、毎回発表21、2年次発表1。
第27回	集めた情報を論文としてまとめる（2年）2	2年次発表2
第28回	映像を通してフランスを知る。	毎回報告22、フランス映画視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

親睦行事、研究報告大会など各種学部行事、グループ活動におけるサブゼミ、合宿、休暇中のゼミなどが、必要に応じて行われます。また、卒業論文作成のための継続的な作業を行います。授業時間外の準備には標準的に4時間をかけてください。

【テキスト（教科書）】

授業で指示します。輪読で使うテキストは、ゼミ生が班ごとに選書し、教員の了承を得たものとします。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

一）個人研究の第二回発表と進級（学年末）論文 65 %
二）平常点 35 %（毎回報告・輪読など各種発表 20 % ゼミにおける討論への参加度 10 % ゼミへの貢献 5 %）
※4年生については、卒論 100 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

個人でパソコンやタブレット端末が持ち込める人は、ゼミの時間内に活用してもらいたい。

【その他の重要事項】

ゼミの場が活性化されるかどうかは、ゼミ生の自発的な活動にかかっています。適切に行動すること。教務的な連絡事項は、グループウェアである LINEBAND を通じて行います。また、ゼミからの連絡には目を通し、必ず返事すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen the understanding of modern France and to develop different capacities (discussion, suggestions, dissemination) for different issues.

The objective of this class is to cultivate the ability to think and present ideas, and to submit a graduation thesis accordingly.

— Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

— Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Mid-term report+term-end report (65%), Usual performance score (35 %) ※ Grades of 4th grade are evaluated only by the graduation thesis (100 %)

ECN218CA

演習

馬場 敏幸

開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では、課題に対し、自分で情報を集め、アイデアを生み出し、まとめ、表現する能力が必要となります。その際チーム行動を取れることも重要です。本ゼミでは、主体的にそれらを行えることを目指し、実践訓練を通じ学びます。

先生の研究テーマはアジア経済、開発経済論、科学技術論などですが、ゼミでは学生の自主性を尊び、様々なテーマを取り扱うことが可能です。

【到達目標】

各自が自らで考え、企画し、調べ、まとめ、発表する。そうした一連のプロジェクトの流れを体得し、リーダーとして引っ張っていけるようになって欲しい。また、一步踏み出す勇気を手にして欲しい。こうしたグループワーク、研究実行、発表までを各人が主体的に行うことができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

コロナの状況を鑑みつつもできるだけ対面講義の授業進行を考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎知識の習得	講義の前半では、話題書や学問書の輪読を通じて知識習得、まとめ、発表の基礎的能力を身につけます。得た知識を元に、シンポジウム、ディベートなども行います。2年生各1～2名に対し、3年生各1名をメンターとして指名し、調査・研究活動などのノウハウを伝授します。 習得を目指す能力：情報検索法、アイデア発想法、アイデア収束法、論理的思考法、レジュメ作成法、論文作成法、プレゼンテーション法など
2	基礎知識の習得	基礎知識習得
3	基礎知識の習得	基礎知識習得
4	研究活動初期	各グループが決めた内容をプレゼン準備・発表まで行う
5	研究活動初期	研究継続
6	研究活動初期	研究継続
7	研究活動初期	研究継続
8	研究活動初期	研究継続
9	研究活動初期	研究継続
10	研究活動初期	研究継続
11	研究活動初期	研究継続
12	研究活動初期	研究継続
13	研究活動初期	研究継続
14	前期総括	前期の総括と夏休みの課題
15	研究論文の執筆	夏休み終了まで研究した内容を論文にまとめます

16	研究論文の執筆	研究論文執筆継続
17	研究論文の執筆	研究論文執筆継続
18	研究発表準備	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
19	研究発表準備	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
20	研究発表準備	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
21	発表検討	各グループの発表を相互に検討しあいます
22	発表検討	各グループの発表を相互に検討しあいます
23	発表検討	各グループの発表を相互に検討しあいます
24	研究資料完成	発表資料を完成させます
25	研究資料完成	発表資料を完成させます
26	研究報告	研究報告を行います
27	研究報告	研究報告を行います
28	卒業論文報告会	卒業論文報告会を開催します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主研究の推進。本授業の事前学習は 5 時間、事後学習 5 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示

【参考書】

適時指示

【成績評価の方法と基準】

受講態度、講義の中での発表、課題への取り組み態度や内容などを勘案して評価を行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ対応もあるが対面授業を中心にできればと考えています。

【その他の重要事項】

4 年次に卒論を書く気がない 2～3 年は受講しないでください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to research, do presentation in group work. As outside studies, I hope two hours before classroom and two hours after classroom. Grading is based on daily attitude (40%) and presentation tests (60%).

ECN218CA
演習
荒木 祥太
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済理論と計量分析に基づいた卒業論文を執筆できるように、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学の基礎を学習する。

【到達目標】

オリジナリティのある卒業論文を執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と問題演習・パソコンを使った実習を行う。授業のフィードバックは適宜、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	統計学①	変数と観測値，記述統計①図表を用いる方法
第 2 回	統計学②	記述統計②数値を用いる方法
第 3 回	統計学③	確率
第 4 回	統計学④	離散確率変数
第 5 回	統計学⑤	連続確率変数
第 6 回	統計学⑥	標本抽出と点推定
第 7 回	統計学⑦	区間推定①
第 8 回	統計学⑧	区間推定②
第 9 回	統計学⑨	仮説検定①
第 10 回	統計学⑩	仮説検定②
第 11 回	統計学⑪	分散分析
第 12 回	統計学⑫	回帰分析①
第 13 回	統計学⑬	回帰分析②
第 14 回	統計学⑭	回帰分析③
第 15 回	計量経済学①	観察データを使った計量経済学的アプローチ
第 16 回	計量経済学②	最小二乗法の性質
第 17 回	計量経済学③	重回帰分析の基本
第 18 回	計量経済学④	重回帰分析の応用
第 19 回	計量経済学⑤	操作変数法①
第 20 回	計量経済学⑥	操作変数法②
第 21 回	計量経済学⑦	パネルデータ分析①
第 22 回	計量経済学⑧	パネルデータ分析②
第 23 回	経済理論の実証分析に向けて①	短期経済モデルの復習①
第 24 回	経済理論の実証分析に向けて②	短期経済モデルの復習②
第 25 回	経済理論の実証分析に向けて③	乗数の推定における地域データの利用
第 26 回	論文講読①	地域財政乗数と高齢化論文①
第 27 回	論文講読②	地域財政乗数と高齢化論文②
第 28 回	論文講読③	地域財政乗数と高齢化論文③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

[1] 山本庸平『統計学 15 講』新世社，2017 年。

[2] 田中隆一『計量経済学の第一歩-実証分析のススメ』有斐閣，2015 年。

【参考書】

[1] Mankiw, N. Gregory (著), 足立英之 [ほか] (訳) 『マンキューマクロ経済学 1 入門篇 (第 4 版)』東洋経済新報社, 2017 年.
[2] Nakamura, Emi, and Jon Steinsson. "Fiscal stimulus in a monetary union: Evidence from US regions." *American Economic Review* 104.3 (2014): 753-92.
[3] 別所俊一郎. "地域財政乗数と高齢化 (特集 人口高齢化のもとでの財政金融政策の有効性)." *フィナンシャル・レビュー* 2021.2 (2021): 15-31.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance students' basic economics, statistics, and econometrics skills.

ECN218CA
演習
平瀬 友樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、R や Python を用いたデータ解析についてのスキルを身につけることにある。

【到達目標】

グループまたは個人での専門論文執筆を通して、思考能力および専門知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

ここ数年は、学内の懸賞論文へのチャレンジやプレゼン大会の出場という目的を掲げて、ゼミ活動を行ってきた。また、この他にも必要に応じて学外の懸賞論文にもチャレンジする場合もある。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	自己紹介およびグループ分け
2	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションをやってみよう
3	ディベート	ディベートとグループ・ディスカッションの違いについて
4	プレゼン	プレゼンをしてみよう
5	文章講座	論文やレポートの書き方について
6	回帰分析とは何か	回帰分析の理論と PC の操作について
7	t 検定について	t 検定の考え方と応用
8	重回帰分析	重回帰分析をしてみよう
9	先行研究	重回帰分析を使った先行研究を読んでみよう
10	重回帰分析の応用	多重共線性など注意すべき問題について
11	その他の統計学的分析	因果関係の分析へ
12	演習	グループ別での執筆活動
13	夏休みの計画	後期の懸賞論文に向けて・計画作り
14	総復習	前期の振り返り
15	はじめに	後期の進め方について
16	プログラミングとは何か	R を使ってみよう
17	R による分析の実際	R を使って前期の復習
18	PC を使った統計分析	Python の操作方法を覚えよう
19	より高度な統計分析に向けて	R と Python の違いを理解しよう
20	ロジスティック回帰分析とその応用	ダミー変数を被説明変数にした場合
21	傾向スコアを用いた分析	コードを実際にかいてみよう
22	マッチング、傾向スコア、そして IPW 推定量	複雑なコードを読めるようになる

23	パネルデータ分析	個別効果と変量効果
24	より高度な分析について	DiD 分析、サバイバル分析、そして操作変数法
25	時系列データ分析の基礎	系列相関について
26	時系列データ分析の応用	VAR モデルについて
27	研究テーマの決定	懸賞論文に向けての準備
28	総復習	振り返りと今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題について締め切りは厳守。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および課題の成果 (50%) によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はない

【学生が準備すべき機器他】

各自で windows パソコンを準備すること。

【その他の重要事項】

長期休みには補習として二週間に 1 本程度の割合で動画配信を行っている。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the fundamentals of data science to the students. In detail, this course is to help students acquire basic skills for data analysis with R or Python.

ECN218CA
演習
廣川 みどり
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方を習得する。どのような問題があるのか、どのようにそれを考えたらいいいのか。輪読、議論を通し、理論をしっかり修得し、それを応用する能力を身につける。

【到達目標】

各自が自分で考えるべき問題を見つけ、その解決に対処できるようにする。経済学の考え方を身につけ、その視点から問題をながめ、既存の文献やデータに依拠しつつ、問題解決についての自分の結論を出せるようにする。4 年の終わりまでに「経済学部を卒業しました」と明るく言える人材となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(i) テキストの輪読と、(ii) ゼミ論・卒論を目指し必要なツールの修得を行うと共に、(iii) 効果的なプレゼンの技術やディベートの方法を学ぶ。基本的には対面の授業とするが、コロナの状況を勘案しつつ、適宜オンライン授業を組み込む。また、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題については、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学と自分との関わり、日経新聞の読み方
2	演習	今年度のテーマの選定、各人の研究テーマの見つけ方
3	演習	研究テーマを形にする方法、文献の取り扱い
4	演習	ミニ報告と輪読 (1)
5	演習	ミニ報告と輪読 (2)
6	演習	ミニ報告と輪読 (3)
7	演習	ミニ報告と輪読 (4)
8	演習	効果的なプレゼンを考える
9	演習	ミニ報告と輪読 (5)
10	演習	ミニ報告と輪読 (6)
11	演習	ミニ報告と輪読 (7)
12	演習	ミニ報告と輪読 (8)
13	演習	ミニ報告からレポート・論文へのつなげ方
14	春学期のまとめ	春学期の内容の総括と夏合宿の課題の選定
1	イントロダクション	春学期の内容の復習と秋学期の方向性の確認
2	演習	輪読およびレポート作成・報告 (1)
3	演習	輪読およびレポート作成・報告 (2)
4	演習	輪読およびレポート作成・報告 (3)
5	演習	輪読およびレポート作成・報告 (4)

6	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告(1)、研究テーマの軌道修正
7	演習	ディベートの方法、材料集め
8	演習	ディベートとその振り返り
9	演習	輪読およびレポート作成・報告(5)
10	演習	輪読およびレポート作成・報告(6)
11	演習	輪読およびレポート作成・報告(7)
12	演習	輪読およびレポート作成・報告(8)
13	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告(2)、および論文の仕上げ方について
14	年間の内容のまとめ	年間の内容の総括と春合宿の課題の選定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、一回につき各 8 時間を標準とする。
・春学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5 時間）、(2) ゼミ報告の準備（1.5 時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（3.5 時間＝1 日 30 分*7 日）

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日（準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間）
・秋学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5 時間）、(2) ゼミ報告の準備、ゼミ論執筆（3 時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（2 時間＝1 日 15~20 分*7 日）(2) と (3) の時間配分はゼミ論・卒論の進捗度合いによる）

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日（準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間）

【テキスト（教科書）】

開始時に指示する。

【参考書】

各人の知識、理解、興味に応じて適宜指示していく。また、新聞記事も適宜取り上げる。

【成績評価の方法と基準】

平常点。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。

(2) PDF の閲覧と Word を使えるように準備すること。また今後の課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮って Word に貼り付けて提出という形も想定している。

(3) コロナの状況によっては、zoom を通じてのリアルタイムのやりとりもありうるため、アプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

演習の時間以外に、合宿、サブゼミへの参加も全て求められるため、注意してほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic idea of Economics and ability of their application. By the end of this course, students should be able to

(1) understand the way of thinking in Economics,

(2) develop academic skills, and

(3) find his/her own theme and analyze further.

Before/after each class, students will be expected to spend eight hours for preparation and review. Final grade will be determined by class contribution(100%).

ECN218CA
演習
濱秋 純哉
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方やデータ分析の手法を身に付ける。

【到達目標】

- ①経済学、統計学、計量経済学の基礎的な知識を身に付ける。
- ②関心のある社会問題について、仮説検証型のデータ分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果を分かりやすくプレゼンテーションする。
- ④他人の発表に建設的なコメントや質問を行ったり、議論したりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・ミクロ経済学、及び経済データを分析する際に用いる統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。

・他大学とのインゼミに向けた論文の作成や、各人の関心のあるトピックについて分析を行うことを通じて、データを用いた仮説検証の方法を学ぶ。

・各人が関心のあるニュースや新聞記事について、他のゼミ生の前で発表し、ディベート形式で議論し理解を深める。

・長期休暇中に課題が課され、休暇明けにその理解度を確認するためのテストが行われるが、テスト後に解答例を示したり、よくある間違いの例を示したりしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定
2	ミクロ経済学①	ミクロ経済学の基本解説
3	ミクロ経済学②	需要と供給の基本原理解
4	ミクロ経済学③	消費者行動
5	ミクロ経済学④	個別需要と市場需要
6	ミクロ経済学⑤	不確実性と消費者行動
7	ミクロ経済学⑥	生産
8	ミクロ経済学⑦	生産費用
9	ミクロ経済学⑧	利潤最大化と競争市場における供給
10	ミクロ経済学⑨	競争市場の分析
11	ミクロ経済学⑩	市場支配力を持つ企業の価格戦略
12	ミクロ経済学⑪	独占的競争と寡占
13	ミクロ経済学⑫	ゲーム理論と競争戦略
14	ミクロ経済学⑬	生産要素市場
15	統計学①	母集団と標本
16	統計学②	統計的推論
17	統計学③	相関係数と因果関係
18	統計学④	「確率」とは
19	統計学⑤	期待値と平均
20	統計学⑥	分散と標準偏差
21	統計学⑦	確率変数の独立性
22	統計学⑧	正規分布、カイ二乗分布、t 分布、F 分布
23	統計学⑨	推定量の性質（不偏性、一致性、効率性）
24	統計学⑩	大数の法則と中心極限定理
25	計量経済学①	単回帰分析

26	計量経済学②	最小二乗法
27	計量経済学③	重回帰分析
28	計量経済学④	内生性の問題への対処

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読に際しては、予習と復習を欠かさずに行うこと。予習では疑問点を明確にし、ゼミでその点を質問できるように準備すること。
- ・新聞やニュースに関心を持ち、報道されている内容について経済学に基づいて考える習慣を付けること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・星野匡郎・田中久稔『R による実証分析―回帰分析から因果分析へ―』、オーム社。

【参考書】

- ・西森見『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』、日本経済評論社。
- ・神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社。
- ・八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ』、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』、東洋経済新報社。
- ・ピンダイク&ルビンフェルド『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、中経出版。
- ・スティーブン・レヴィット他『レヴィット ミクロ経済学基礎編』、東洋経済新報社。
- ・ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト『ALL ミクロ経済学』岩本康志（監訳）・岩本千晴（訳）、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ（第3版）』、東洋経済新報社。
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』、有斐閣。
- ・吉田耕作『直感的統計学』、日経 BP 社。
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』、東京大学出版会。
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』、有斐閣。
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする 12 のレッスン』、有斐閣アルマ。
- ・浅野正彦・中村公亮『はじめての RStudio ―エラーメッセージなんかこわくない―』、オーム社。
- ・濱田悦生著・狩野裕編『データサイエンスの基礎』、講談社。

【成績評価の方法と基準】

長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）に出される課題についての筆記試験 50%、平常点（課題の提出状況、発表内容、議論への参加、他大学とのインゼミや論文への貢献、卒論の完成度等）50%による。

【学生の意見等からの気づき】

過去にゼミで輪読したテキストが難しいという意見があったので、テキストをより分かりやすいものへと変更し、基礎から応用まで段階を踏んで学習できるよう留意している。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの輪読やデータ分析を行う際に、ノートパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

メール（メーリングリスト）で重要な連絡を行うことがあるので、メールチェックを欠かさないこと。

【Outline (in English)】

Students will learn the concepts of economics and the methodology of a data analysis.

ECN218CA
演習
古澤 直人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本史研究を学ぶ。方法としては、史料から事実を復元する訓練を繰り返す。そして、根拠に基づいた議論を展開できるようにする。さらに、アカデミックライティングを学ぶ。

【到達目標】

史料を読む学問的な手続きを学ぶ。研究史を理解する。①問題設定、②研究史整理、③論証、④結論という論の立て方を学ぶ。①～④の各プロセスでの日本史研究の力量を一定水準以上にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

はじめに基本的な学問の方法論を学ぶ。次に、各人のレポートの構想を吟味する。関係史料を持ち寄って精読する。それを報告という形に構成してプレゼンテーションをする。関連論文を読む。関連論文も同様の吟味を行う。さらに、関係史料を集め、その読みを訓練する。修正した報告を行う。使用史料を再吟味する。最終報告に仕上げる。提出課題についてはその都度採点のうえ必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今年のゼミの紹介と研究法について	論文の書き方、歴史の調べ方
2	レポート構想報告 1	研究史・問題関心・章立て 1
3	レポート構想報告 2	研究史・問題関心・章立て 2
4	レポート構想報告 3	研究史・問題関心・章立て 3
5	レポート関係史料を読む 1.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
6	レポート関係史料を読む 1.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
7	レポート関係史料を読む 1.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
8	レポート関係論文を読む 1.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
9	レポート関係論文を読む 1.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
10	レポート関係論文を読む 1.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
11	レポート中間報告 1.1	レポート作成作業の提示と修正 1
12	レポート中間報告 1.2	レポート作成作業の提示と修正 2
13	レポート中間報告 1.3	レポート作成作業の提示と修正 3
14	卒業論文中間報告	卒業論文中間報告
15	歴史学会の現状	春学期・夏休みまでの成果の提示
16	レポート第 2 回中間報告 2.1	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 1
17	レポート第 2 回中間報告 2.2	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 2
18	レポート第 2 回中間報告 2.3	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 3

19	レポート関係史料を読む 2.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
20	レポート関係史料を読む 2.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
21	レポート関係史料を読む 2.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
22	レポート関係論文を読む 2.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
23	レポート関係論文を読む 2.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
24	レポート関係論文を読む 2.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
25	レポート最終報告 1	完成したレポートの報告 1。
26	レポート最終報告 2	完成したレポートの報告 2
27	レポート最終報告 3	完成したレポートの報告 4
28	卒業論文報告	完成した卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミメンバー全員があらかじめ報告者の史料に目を通す。授業の担当報告者のレジュメにそって授業で示された応答や論点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

日常的な報告や報告に対するコメント等の評価が 80% で、最終報告および進級レポートを 20% として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論が成立するように授業を構成したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、windows パソコン（学生への貸与の制度もあります）

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Learn Japanese history research. As a method, the training to restore the facts from historical materials is repeated. And make it possible to develop evidence-based discussions. In addition, learn academic writing. Understand research history. Learn how to formulate theories of (1) problem setting, (2) research history organization, (3) argument, and (4) conclusion. Raise the ability of Japanese history research in each process (1) to (4) to a certain level or higher. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test.

ECN218CA
演習
松波 淳也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学についての基本的な知識を習得し、研究発表、卒業論文作成の準備を行う。

【到達目標】

環境経済学の基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法や研究発表の方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面講義（ハイブリッド）、オンライン講義（ZOOM）で進める。主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストおよび研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。フィードバックは、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ
第 15 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究に基づき、研究テーマを確認する
第 16 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 17 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 18 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 19 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 20 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 21 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 22 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 23 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 24 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 25 回	先行研究の輪読⑩	先行研究（応用研究）の輪読
第 26 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 27 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 28 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含意）についてレジュメにする。自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

大沼あゆみ・柘植隆宏、『環境経済学の第一歩』、有斐閣、2021 年。

【参考書】

時政錫・葦田雅弘・今泉博国・有吉範敏、『環境と資源の経済学』、勁草書房、2007 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic knowledge about environmental economics and prepare for research presentations and graduation thesis writing.

ECN218CA
演習
宮崎 憲治
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミの目的は、学生が経済学を用いて日常生活を説明し、社会人基礎力を身に付け、自分の適性にあった仕事をみつけれられるようになることである。

【到達目標】

企業が要求する基礎能力（読み・書き・プレゼン等）を向上させるだけでなく、就職活動中の面接で、経済学部生として経済学をしっかり勉強したと自信をもっていえるように訓育したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

そのために、経済学部生の学生がゼミナール活動で経済学の基本知識を獲得し、グループワークを通じてプレゼン能力、文章表現能力、ディベート能力を向上させるよう指導したい。具体的に、経済学の教科書をもちいて「学生」が順番に講義する。今年度、マクロ経済学の教科書を用いる。また、各グループが興味を持った課題について講義する。今年は、論文の書き方、コミュニケーション能力、疑似科学などである。文章力向上のため、2年生は個人のテーマについて進級論文を、3年生はグループ論文を、4年生は卒業論文を執筆する。他にも、2、3年生は、インゼミ大会ディベート部門およびプレゼンテーション部門に出場する。就職活動対策として、4年生が3年生に対して模擬面接を実施する。更に春休みと夏休みにゼミ合宿を実施する。フィードバックとして前期2回、後期2回の理解度テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ディベート技術	ディベート技術について講義する
第2回	ミクロ経済学（1）	ミクロ経済学について講義する、消費者の理論
第3回	ミクロ経済学（2）	ミクロ経済学について講義する、企業の理論
第4回	ミクロ経済学（3）	ミクロ経済学について講義する、部分均衡理論
第5回	ミクロ経済学（4）	ミクロ経済学について講義する、一般均衡理論
第6回	ミクロ経済学（5）	ミクロ経済学について講義する、情報の非対称性
第7回	ミクロ経済学（6）	ミクロ経済学について講義する、ゲーム理論
第8回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第9回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第10回	コミュニケーション能力（1）	コミュニケーション能力について講義する、話し方
第11回	コミュニケーション能力（2）	コミュニケーション能力について講義する、聞き方
第12回	グループ論文中間報告（1）	3年生の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第13回	グループ論文中間報告（2）	3年生の次の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第14回	グループ論文中間報告（3）	3年生の最後の3分の1がグループ論文の中間報告をする

第15回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をする
第16回	進級論文中間報告 (1)	2年生の3分の1が進級論文の 中間報告をする
第17回	進級論文中間報告 (2)	次の2年生の3分の1が進級論文の 中間報告をする。
第18回	進級論文中間報告 (3)	最後の2年生が進級論文の中間 報告をする
第19回	マクロ経済学 (1)	マクロ経済学について講義する。 消費関数
第20回	マクロ経済学 (2)	マクロ経済学について講義する。 投資関数
第21回	マクロ経済学 (3)	マクロ経済学について講義する。 45度分析
第22回	マクロ経済学 (4)	マクロ経済学について講義する。 ISLM分析
第23回	マクロ経済学 (5)	マクロ経済学について講義する。 ADAS分析
第24回	マクロ経済学 (6)	マクロ経済学について講義する。 成長理論
第25回	就職活動セミナー	OBOGを招いてセミナーを開く
第26回	インゼミ大会準備 (1)	インゼミ大会に備えディベートの 準備をする
第27回	インゼミ大会準備 (2)	インゼミ大会に備え3年生の3 分の1がプレゼンの準備をする
第28回	インゼミ大会準備 (3)	インゼミ大会に備え3年生の次の 3分の1がプレゼンの準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ生を3つのグループに分けて互いに競わせる。最も成績がよいグループをS評価に、次のグループをA評価に、最後のグループをB評価にする。ゼミ活動を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

**【Outline (in English)】
(Course outline)**

The purpose of this seminar is to enable students to use economics to explain their daily lives, to acquire basic social skills, and to find a job that suits their aptitude.

(Learning Objectives)

In addition to improving the basic skills required by companies (reading, writing, presentation, etc.), this seminar wants to train students to be able to say with confidence that they have studied economics well as economics students during job interviews.

(Learning activities outside of classroom)

Read the textbook in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Divide the seminar students into three groups and have them compete against each other. The group with the highest grade will receive an S grade, the next group will receive an A grade, and the last group will receive a B grade. Overall evaluation of the seminar activities (100%).

ECN218CA
演習
石 碩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の歴史・社会・文化・文学について幅広く学び、各自が関心を持ったテーマについて調査・発表を行う。

【到達目標】

以下の2点を到達目標とする。

- ①中国の歴史・社会・文化・文学について基礎的な知識を身につけること
- ②自身の関心のある事柄をテーマとした上で、日本語もしくは中国語の文献を調査し、小論文の作成および口頭での発表ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期は主として課題や図書を決めたうえでグループごとにプレゼンを行う。これと並行して自身で選択したテーマについての小論文の作成を進める（夏休み中に仕上げて秋学期の初回授業までに提出）。秋学期は主として受講者が決めたテーマによる研究発表を行う。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	面談	・履修希望者との面談
第2回	ガイダンス	・春学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第3回	文献の調べ方 レジュメの作り方	・文献の調べ方について ・レジュメの作り方について
第4回	テキストの輪読・発表 ①	・輪読 ・研究発表
第5回	テキストの輪読・発表 ②	・輪読 ・研究発表
第6回	テキストの輪読・発表 ③	・輪読 ・研究発表
第7回	テキストの輪読・発表 ④	・輪読 ・研究発表
第8回	テキストの輪読・発表 ⑤	・輪読 ・研究発表
第9回	テキストの輪読・発表 ⑥	・輪読 ・研究発表
第10回	テキストの輪読・発表 ⑦	・輪読 ・研究発表
第11回	テキストの輪読・発表 ⑧	・輪読 ・研究発表
第12回	小論文の書き方①	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第13回	小論文の書き方②	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第14回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・夏課題について
第15回	ガイダンス	・秋学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第16回	夏課題の合評①	・夏課題の合評を行う

第 17 回	夏課題の合評②	・夏課題の合評を行う
第 18 回	研究テーマを決める①	・発表のテーマを決める
第 19 回	研究テーマを決める②	・発表のテーマを決める
第 20 回	研究発表①	・研究発表を行う
第 21 回	研究発表②	・研究発表を行う
第 22 回	研究発表③	・研究発表を行う
第 23 回	研究発表④	・研究発表を行う
第 24 回	研究発表⑤	・研究発表を行う
第 25 回	研究発表⑥	・研究発表を行う
第 26 回	研究発表⑦	・研究発表を行う
第 27 回	研究発表⑧	・研究発表を行う
第 28 回	秋学期のまとめ	・春学期のまとめ
		・来年度のテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、テキストを精読し、分からない語句などについて調べる。
担当者は発表の準備（レジュメ・PPT など）をして来る。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅邦弘『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房

【参考書】

教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・発表：60 %

平常点：40 %

【学生の意見等からの気づき】

学年を越えたグループワークと個人発表をバランスよく行いたい。

【その他の重要事項】

本演習とあわせて、中国語・中国文化関連科目を履修することが望ましい。

ただし、中国語の履修経験は必須ではない。

【Outline (in English)】

Learn about the history, society, culture and literature of China broadly and conduct surveys and presentations on subjects of which they are interested.

ECN218CA
演習
宮脇 典彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析の基本的な 3 分野（マーケティング、アカウンティング、ファイナンス）を学び、データ解析やプログラミング技法を身につける

【到達目標】

- ①経営分析の基本となるマーケティング、アカウンティング、ファイナンスの知識を、基本的なテキストを輪読することにより 3 年間で身につける（輪読するテキストのテーマは毎年交代）。
- ②データ解析の手法やプログラミング技法を習得する。
- ③調査能力とプレゼンテーション力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

- ① グループ別にテキストに沿って輪読する。
- ② コンピュータを用いた実習を行う。
- ③ 個々人が興味あるテーマを選び、プレゼンテーションを行い、全員で討議する。

輪読、コンピューター実習およびプレゼンテーションは、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	1 年間のスケジュールと内容の確認
第 2 回	経営分析・情報処理（1）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（1）
第 3 回	経営分析・情報処理（2）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（2）
第 4 回	経営分析・情報処理（3）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（3）
第 5 回	経営分析・情報処理（4）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（4）
第 6 回	経営分析・情報処理（5）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（5）
第 7 回	経営分析・情報処理（6）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（6）
第 8 回	経営分析・情報処理（7）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（7）
第 9 回	経営分析・情報処理（8）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（8）
第 10 回	経営分析・情報処理（9）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（9）
第 11 回	経営分析・情報処理（10）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（10）
第 12 回	経営分析・情報処理（11）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（11）
第 13 回	経営分析・情報処理（12）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（12）

第 14 回	卒業論文（1）	4 年生による卒業論文中間発表・全員による質疑応答
第 15 回	経営分析・個人発表（1）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（1）
第 16 回	経営分析・個人発表（2）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（2）
第 17 回	経営分析・個人発表（3）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（3）
第 18 回	経営分析・個人発表（4）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（4）
第 19 回	経営分析・個人発表（5）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（5）
第 20 回	経営分析・個人発表（6）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（6）
第 21 回	経営分析・個人発表（7）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（7）
第 22 回	経営分析・個人発表（8）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（8）
第 23 回	経営分析・個人発表（9）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（9）
第 24 回	経営分析・個人発表（10）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（10）
第 25 回	経営分析・個人発表（11）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（11）
第 26 回	経営分析・個人発表（12）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（12）
第 27 回	経営分析・個人発表（13）	テキスト輪読・個別テーマを 2, 3 年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（13）
第 28 回	卒業論文（2）	4 年生による卒業論文最終発表・全員による質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3 年生

グループ毎のサブゼミ・・・2 時間

個人発表の準備・・・2 時間

4 年生

グループ毎のサブゼミ・・・2 時間

卒論作成・発表準備・・・2 時間

【テキスト（教科書）】

テキストは、履修生と相談の上決定します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

2・3 年生

グループ別の輪読講義 50 %

個人発表 50 %

4 年生

グループ別の輪読講義 30 %

卒論中間発表 20 %

卒業論文および発表 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでは、学生の自主的な運営を尊重するよう心がけています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn the basic three fields of business analysis (marketing, accounting, and finance), and acquire data analysis and programming techniques.

【Learning Objectives】

1.Acquire knowledge of marketing, accounting and finance by reading the basic texts over a three-year period (the theme of the texts to be read changes every year).

2. Learn data analysis techniques and programming techniques.

3.Improve research ability and presentation ability.

【Learning activities outside of classroom】

2nd and 3rd grade

Sub-seminars for each group—2 hours

Preparation for personal presentation— 2 hours

4th grade

Sub-seminars for each group — 2 hours

Preparation of graduation thesis / preparation for presentation —2 hours

【Grading Criteria /Policy】

2nd and 3rd grade

Reading in turns by group (50%)

Individual presentation(50%)

4th grade

Reading in turns (30%)

Interim presentation of graduation thesis (20%)

Bachelor thesis and presentation (50%)

ECN218CA
演習
富永 靖敬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、政治学方法論、また実証的な国際関係論（主に安全保障に関するテーマ）を体系的に学ぶことを通し、国際関係論に関する独自の学術研究を完成させることを目的とする。春学期には基本文献、海外ジャーナルを中心に輪読を行い、秋学期の前半では各自で選択したテーマについての先行研究の調査（発表）、また後半では個々の研究成果の発表を行う。

【到達目標】

単に興味のあるテーマについて調査した内容を発表するのではなく、政治的な現象についてパズルを見つけ、独自の仮説を立てた上で、質的・量的データを用いて実証する過程を通して、論理的かつ説得的に議論を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者各自（またはグループ）の発表を中心に授業を進める。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。また4年次で履修する学生には、卒業論文作成のため、個別指導を中心に行い、さらに、授業内で発表の機会を複数回設けることにより他学生・教員からのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
2	基本文献の輪読（1）	報告と議論
3	基本文献の輪読（2）	報告と議論
4	基本文献の輪読（3）	報告と議論
5	基本文献の輪読（4）	報告と議論
6	基本文献の輪読（5）	報告と議論
7	基本文献の輪読（6）	報告と議論
8	研究論文の輪読とテーマの選定（1）	報告と議論
9	研究論文の輪読とテーマの選定（2）	報告と議論
10	研究論文の輪読とテーマの選定（3）	報告と議論
11	研究論文の輪読とテーマの選定（4）	報告と議論
12	研究論文の輪読とテーマの選定（5）	報告と議論
13	研究論文の輪読とテーマの選定（6）	報告と議論
14	研究論文の輪読とテーマの選定（7）	報告と議論
15	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
16	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
17	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
18	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
19	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。

20	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
21	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
22	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
23	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
24	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
25	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
26	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
27	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
28	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の作成は長時間の作業が必要となるため、授業外の時間を有意義に使うことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ（真淵勝監訳）『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。
Friden, Jeffrey A., Lake, David A., and Schultz, Kenneth A. 2016. World Politics: Interests, Interactions, Institutions, Third Edition, New York: W.W.Norton & Company.

【成績評価の方法と基準】

輪読発表や各個人の研究発表など授業内での発表を60%、最終レポートを40%として成績評価を行う。4年生は100%卒業論文にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生主導でゼミ運営を行う。

【その他の重要事項】

発表しない者でも、担当者の発表に対して積極的にコメントして議論すること。ただし、問題点を指摘する場合には、改善方法も提示するなど、建設的な議論になるよう心懸けること。

【Outline (in English)】

The course is an intensive workshop that aims to provide students with a solid understanding of the study of international relations with a particular focus on international security issues. Distinct from a lecture-based course, this class requires students to actively engage in collaborative work, discussion, and presentation. Through detailing the cases, students are required to learn why and how a particular political phenomenon occurs and to bring that knowledge to creating generalized arguments. During the course, an opportunity to learn how to test those arguments through data analysis is also provided.

ECN218CA
演習
湯前 祥二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目標は次の2つです。(1) 生活の道具として、金融工学を修めること。(2) 研究および論文作成の手法を身につけること。いずれも、実社会での活動に直結しています。

【到達目標】

金融工学について理解し、実際の金融商品の価値を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融工学は実際の学問です。(a) こみいった金融商品に値段をつけたり、(b) リスクを管理したり、(c) 最も良い投資配分を考えたりします。最近では個人向けに、一見、魅力的な金融商品が多く登場していますが、金融工学の知識があれば、その中身を冷静に調べて、よしあしを判断することができます。

一方、論理的に考え、レポートにまとめ、人を納得させる技術は、実社会の企画書、報告書の作成、およびプレゼンテーションといった場面で必須です。

輪読、研究発表、討論、問題演習、実地見学を行います。ただし、参加者の意見を反映させます。

並行して、年度を通して、新聞記事を使って時事問題を討論します。この他、参加者の意見を聞いて、モンテカルロ法実習（プログラミング）等を取り扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読①	金融工学の基礎を身につけます。
第2回	輪読②	金融工学の基礎を身につけます。
第3回	輪読③	金融工学の基礎を身につけます。
第4回	輪読④	金融工学の基礎を身につけます。
第5回	輪読⑤	金融工学の基礎を身につけます。
第6回	輪読⑥	金融工学の基礎を身につけます。
第7回	輪読⑦	金融工学の基礎を身につけます。
第8回	輪読⑧	金融工学の基礎を身につけます。
第9回	輪読⑨	金融工学の基礎を身につけます。
第10回	輪読⑩	金融工学の基礎を身につけます。
第11回	輪読⑪	金融工学の基礎を身につけます。
第12回	輪読⑫	金融工学の基礎を身につけます。
第13回	輪読⑬	金融工学の基礎を身につけます。
第14回	輪読⑭	金融工学の基礎を身につけます。
第15回	輪読、研究発表、問題演習①	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第16回	輪読、研究発表、問題演習②	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第17回	輪読、研究発表、問題演習③	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第18回	輪読、研究発表、問題演習④	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第19回	輪読、研究発表、問題演習⑤	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第20回	輪読、研究発表、問題演習⑥	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第21回	輪読、研究発表、問題演習⑦	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第22回	輪読、研究発表、問題演習⑧	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第23回	輪読、研究発表、問題演習⑨	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第24回	輪読、研究発表、問題演習⑩	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第25回	輪読、研究発表、問題演習⑪	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第26回	輪読、研究発表、問題演習⑫	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第27回	輪読、研究発表、問題演習⑬	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第28回	輪読、研究発表、問題演習⑭	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読では、発表担当者はもちろん、受講者全員が発表部分を熟読し、内容を理解しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。数式の展開も、実際に自分で手を動かして確認してください。発表担当者は、未解決の疑問点を残さないようにしてください。発表担当者以外は、質問を簡潔にまとめておいてください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子誠一、佐井りさ (2012), 証券アナリストのための数学再入門, とくま総合サービス。

【参考書】

藤林宏、矢野学、角谷大輔、袖山則宏 (2009), EXCEL で学ぶファイナンス (2) 証券投資分析 第3版, 金融財政事情研究会。

デービッド・G・ルーエンバーガー (2015), 金融工学入門第2版, 日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

(1) 論文およびレポート 25%, (2) 発表 25%, (3) 討論への参加状況 25%, (4) 運営・活動への参加状況 25%, により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with specific issues concerning asset management and risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports: 25%,
Presentation: 25%,
Discussion: 25%,
in class contribution: 25%.

ECN218CA
演習
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar whose theme is Japanese business and society, students will learn about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society. They will also improve their academic and professional skills by preparing and making an academic presentation at the competition hosted by the faculty of economics (経済学部大会).

【到達目標】

The goal of this seminar is for students to develop three types of skills: (1) critical thinking skills through in-class discussions of Japanese business and society, (2) academic skills through active learning in the form of empirical research projects, fieldwork, and presentations, and (3) leadership skills by directly engaging in seminar management. It is hoped that this seminar will stimulate students' intellectual curiosity and provide a space for them to build lasting friendships with those they meet in and through the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) To explore why and how Japanese business developed and its impact on society through readings, discussions, and fieldwork.

(2) To complete a group research project and present the findings at the faculty of economics presentation competition in December.

*Because of the spread of Covid19, the course contents and methodology are subject to change. According to the most recent university policy, classes will be held in person. If, however, the spread of Covid19 precludes conducting in-person classes, this course will be taught online via zoom.

*Feedback will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	First semester introduction	Discussing the goals of the course and possible research topics
2	Introduction and academic skill building (1)	Learning how to prepare for this class; research/fieldwork topics discussion; videos
3	Academic skill building (2)	What is research? Learning about different types of sources; activity to build critical thinking skills; videos
4	Academic skill building (3); Library tour	Selecting a research topic; using library resources and databases; videos and discussion

5	Academic skill building (4)	Making effective use of statistical information in presentations; lecture and discussion on why we should study Japanese business history
6	Academic skill building (5); theme-focused, student-led discussion	Learning about research methodologies and approaches
7	Academic skill building (6); theme-focused, student-led discussion	Research, data analysis, and dissemination
8	Academic skill building (7); theme-focused, student-led discussion	Organizing your presentation; parts of an academic presentation; making an outline
9	Academic skill building (8); theme-focused, student-led discussion	Incorporating non-verbal communication skills; bibliography and conclusion
10	Academic skill building (10); theme-focused, student-led discussion	Preparing for joint presentation event (tentative)
11	Academic skill building (11); theme-focused, student-led discussion	Preparing presentation and peer review
12	Joint presentation event	Responding to and giving feedback; group discussion
13	Final preparations	Incorporating feedback; student-led activity and group discussion
14	Wrap up and review	Submission of final assignments (slides and genko first draft); final discussion
15	Second semester introduction	Introduction; discussion of findings of summer fieldwork activities
16	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 1)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review)
17	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 2)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review); submit second genko draft (1)
18	Debate preparation	Student-led activity (preparing for class debate on a topic related to Japanese business and society)
19	Debate	Class debate on a topic related to Japanese business and society
20	Japanese business and society(case study 3)	Reading and discussion; selecting criteria for new seminar student selection
21	New seminar student selection	Seminar student selection

22	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; students submit revised presentation genko draft due; writing resume for pamphlet
23	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; PPT and resume finalization; feedback on presentation genko
24	Finalizing presentations, peer review	Student presentation practice; student-led activity; practicing non-verbal presentation skills
25	Final preparation for 経済学部大会	Student presentation practice; peer review
26	Preparing for final class; converting presentations into mini movies	反省会; wrap up; movie making for new seminar students
27	Welcome party for new seminar students	Introducing the seminar: student presentations, mini movies, Q&A, etc.
28	Final evaluations; wrap up	Submission of final assignments and completed feedback forms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to do their reading assignments and prepare their presentations in groups outside of class. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 企業家に学ぶ日本経営史、テーマとケースでとらえよう、宇田川勝・生島淳（編）、有斐閣ブックス、2001.
- (2) 戦後日本の企業家活動、法政大学インベーション・マネジメント研究センター、宇田川勝（編）、文眞堂、2004
- (3) アカデミック・スキルズ、大学生のための指摘技術技法入門、慶應義塾大学出版会、2006
- (4) アカデミック・スキルズ、データ収集・分析入門社会を効果的に読み解く技法、慶應義塾大学出版会、2013

【参考書】

Additional references will be provided via the course website and/or library databases.

【成績評価の方法と基準】

Grades are based on (1) participation in all classroom activities, field trips, presentations, preparation, etc. (70%); (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (30%).

All students are required to make a presentation at the competition in December in order to pass this course. They must also conduct a fieldwork project and submit their course feedback survey on the last day of class.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback is ALWAYS welcome! I try my best to incorporate your suggestions and am committed to improving this seminar.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC to class.

【Outline (in English)】

The objective of this seminar whose theme is Japanese business and society. In the seminar, students will learn about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society. They will also improve their academic and professional skills through various learning activities, namely by preparing and making an academic presentation in December at the competition hosted by the faculty of economics (経済学部大会).

Students are expected to do their reading assignments and prepare their presentations in groups in as well as outside of class. Grades will be based on their (1) participation in classroom activities, field trips, presentations, preparation (70%); (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (30%).

ECN218CA
演習
山田 快
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツやそれに関連する事象に焦点を当て、心理学の観点からその多様な意味や役割、可能性などについて調べ・学び・考えていきます。

【到達目標】

主体的な取り組みを基礎に、スポーツに関わる諸問題を取り上げ、それについて調べ、理解し、考えることを通して、自分なりの見解（スポーツ観）を見出していきます。また、自らの見解を表出して他者とディスカッションすることで、スポーツを人生や社会に活かすための知識と姿勢を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループ（または個人）で研究テーマを設定し、そのことについて調べ、まとめていきます。まとめた内容を発表し、メンバーとディスカッションすることを通して、研究テーマに対する理解を深めていきます。また、オフィス・アワーで課題への取り組みに対するフィードバックを行ったり、良例を積極的に授業内で取り上げたりすることによって、議論や理解を深めることに役立てます。最終的に、以上の取り組みから得た知見を論文化し、総括します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、役職を分担する	年度の活動計画を確認し、役職を決定する。
2	スポーツ心理学を知る	研究動向をはじめ、スポーツ心理学の基礎を学ぶ。
3	研究テーマを洗い出す①	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
4	研究テーマを洗い出す②	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
5	研究テーマを決定する	多様なキーワードから共通点を見出し、研究テーマを設定する。
6	先行研究を概観し、発表する①	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
7	先行研究を概観し、発表する②	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
8	先行研究を概観し、発表する③	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
9	研究計画を立てる①	研究計画を立案し、検討を重ねる。
10	研究計画を立てる②	研究計画を立案し、検討を重ねる。
11	研究計画を発表し、再考する①	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
12	研究計画を発表し、再考する②	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
13	調査方法を学ぶ①	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
14	調査方法を学ぶ②	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
15	調査データを分析する①	収集したデータの分析方法を学び、実践する。

16	調査データを分析する②	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
17	分析結果を考察する①	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
18	分析結果を考察する②	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
19	分析結果を考察する③	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
20	研究論文を執筆する①	一連の研究活動を論文にまとめる。
21	研究論文を執筆する②	一連の研究活動を論文にまとめる。
22	研究論文を執筆する③	一連の研究活動を論文にまとめる。
23	研究論文を執筆する④	一連の研究活動を論文にまとめる。
24	研究成果を発表する①	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
25	研究成果を発表する②	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
26	研究成果を発表する③	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
27	研究成果を発表する④	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
28	年度の活動を総括する	年度の活動を振り返り、次年度に活かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からスポーツに興味と関心をもってテレビや雑誌、インターネットなどの多様な情報媒体を活用しながら、知識の収集と修得に努めてください。また、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう、計画的に資料の準備を進めてください（1回の授業につき、4時間以上を目安に主体的な学習活動に励むこと）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（50％）を主な基準とし、そこに発表（30％）と進級・卒業論文（20％）の出来を加えて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ活動の醍醐味である他者とのディスカッションをより活発にするため、チームビルディングなどを活用して、良好なメンバー同士の関係性と雰囲気、体制づくりに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCやAV機器などの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

学生自身が主体的に授業を運営していくことがゼミの本分です。受身ではなく、積極的な姿勢で学習活動に励んでください。

【オフィス・アワー】

授業後、随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course focuses on researching sport or health from the perspective of psychology. The goal of this seminar is to deepen student's insights through discussions with another students. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on participation activeness (50%), presentations (30%), and the quality of thesis (20%) in the lab.

ECN218CA
演習
梅津 亮子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、管理会計の専門知識およびマネジメント手法を習得することを目的とします。管理会計を学習する前提として経営学全般の知識も必要となりますので、まずは組織の仕組みや組織のマネジメントに関する基礎知識を吸収してもらいます。その上で、原価計算や管理会計の上級の学習内容を積み上げていきます。

【到達目標】

1. 管理会計の専門的な知識を習得し、様々な経営課題に対してそれらの知識を応用展開することができる、2. 進級論文や卒業論文の作成を通じて、論理的な思考力、表現力、発想力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本演習では、管理会計、原価計算および経営学の領域について年間数冊のテキストを読みこんでいきます。テキストの担当箇所について各自レジュメを作成して、報告してもらいます。テキストの輪読・報告・議論を通じて、各自、卒業研究として取り組みたいテーマを見つけていくこと。レポート課題等については、演習の中で講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間計画の説明
第 2 回	基礎知識の習得 1	テキスト 1 担当箇所の割り当て、輪読と解説、議論
第 3 回	基礎知識の習得 2	輪読と解説、議論
第 4 回	基礎知識の習得 3	輪読と解説、議論
第 5 回	基礎知識の習得 4	輪読と解説、議論
第 6 回	基礎知識の習得 5	輪読と解説、議論
第 7 回	資料検索・収集	資料検索、データベースの利用
第 8 回	原価計算の基礎 1	テキスト 2 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 9 回	原価計算の基礎 2	レジュメ作成・報告・議論
第 10 回	原価計算の基礎 3	レジュメ作成・報告・議論
第 11 回	原価計算の基礎 4	レジュメ作成・報告・議論
第 12 回	研究計画書の作成	研究テーマの設定、研究計画書の作成・報告
第 13 回	ゼミ合宿 1	テキスト 3 合宿の準備・実施
第 14 回	ゼミ合宿 2	テキスト 4 合宿の準備・実施
第 15 回	夏休みの研究報告 1	レポートの提出と報告 1
第 16 回	夏休みの研究報告 2	レポートの提出と報告 2
第 17 回	管理会計入門 1	テキスト 5 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 18 回	管理会計入門 2	レジュメ作成・報告・議論
第 19 回	管理会計入門 3	レジュメ作成・報告・議論
第 20 回	管理会計入門 4	レジュメ作成・報告・議論
第 21 回	管理会計入門 5	レジュメ作成・報告・議論
第 22 回	中間報告会	進級論文の中間報告、卒業論文の中間報告
第 23 回	管理会計応用 1	テキスト 6 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・ディスカッション
第 24 回	管理会計応用 2	レジュメ作成・報告・議論
第 25 回	管理会計応用 3	レジュメ作成・報告・議論
第 26 回	管理会計応用 4	レジュメ作成・報告・議論
第 27 回	管理会計応用 5	レジュメ作成・報告・議論
第 28 回	論文報告会	進級論文の報告、卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめテキストを読んでくること。専門用語などは調べておくこと。本演習の準備・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への貢献度 40％、レポート 30％、報告内容 30％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
(Course Outline)The aim of this course is to discuss the strategic issues in management accounting.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire specialized knowledge in management accounting and write graduation theses.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Grading will be decided based on in-class contribution:40%,Reports:30%,Presentation:30 %.

ECN218CA
演習
杉本 龍男
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの経済的役割およびスポーツビジネスの状況を把握し、スポーツの経済効果やマーケティング戦略について理解する。

【到達目標】

多くの具体例を題材にし、スポーツの多様な経済効果とスポーツビジネスの構造および現状について理解する。そしてスポーツの経済効果を高める考え方や方法について具体的に述べられるようにすること、またスポーツ商品に対する戦略的なマーケティング思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代社会におけるスポーツの環境、社会的役割、経済的役割についての資料を収集する。そして収集した資料を基にレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。またスポーツビジネスの現場見学などを行い、実践的な側面についても学ぶ。様々なスポーツの現状を理解した上で、スポーツの経済効果やスポーツビジネスについて検討・研究を進めていく。

毎回の授業内で、レポートの添削やプレゼンテーションに対するアドバイスなどのフィードバックを行う。また授業以外でも、学習支援システム等を利用して、同様のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方について説明
第2回	スポーツの社会的意義	テーマについての講義
第3回	政策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第4回	政策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第5回	財政負担軽減策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第6回	財政負担軽減策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第7回	財政負担軽減策としてのスポーツ3	プレゼンテーションおよび討論
第8回	スポーツ産業の構造1	テーマについての講義
第9回	スポーツ産業の構造2	プレゼンテーションおよび討論
第10回	スポーツ産業の構造3	プレゼンテーションおよび討論
第11回	スポーツにおける消費者行動1	テーマについての講義
第12回	スポーツにおける消費者行動2	プレゼンテーションおよび討論
第13回	スポーツにおける消費者行動3	プレゼンテーションおよび討論
第14回	スポーツにおける消費者行動4	プレゼンテーションおよび討論
第15回	スポーツイベントの経済効果1	テーマについての講義
第16回	スポーツイベントの経済効果2	プレゼンテーションおよび討論
第17回	スポーツイベントの経済効果3	プレゼンテーションおよび討論

第18回	スポーツイベントの経	プレゼンテーションおよび討論
第19回	CRS としてのスポー	テーマについての講義
第20回	CRS としてのスポー	プレゼンテーションおよび討論
第21回	スポンサーシップ 1	テーマについての講義
第22回	スポンサーシップ 2	プレゼンテーションおよび討論
第23回	スポンサーシップ 3	プレゼンテーションおよび討論
第24回	プロスポーツの経営 1	テーマについての講義
第25回	プロスポーツの経営 2	プレゼンテーションおよび討論
第26回	プロスポーツの経営 3	プレゼンテーションおよび討論
第27回	スポーツ種目のマーケ	テーマについての講義
第28回	スポーツ種目のマーケ	プレゼンテーションおよび討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ全般に関する資料および文献の収集
 スポーツの経済効果に関する具体的事例に関する資料および文献収集
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul
 Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
 「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark
 S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
 「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
 「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・
 アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
 「スポーツマーケティング交換課程の経営」

スポーツマネジメント研究会 編訳「スポーツマネジメント」ボ
 ニー L・パークハウス編著 大修館書店
 「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G. ピッツ・D.K ストット
 ラー編著 白桃書房
 「Sport in Consumer Culture」 John Horne 著 Palgrave
 macmillan

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%
 レポートの内容 40%
 プレゼンテーションの内容 40%

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンテーションのバランスを計りたい。また、より盛ん
 なディスカッションを促すようなプレゼンテーションとなるような
 工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

【教室における対面授業の場合】

PowerPoint や Keynote などのプレゼンテーションソフトを使用し
 て発表してもらう。
 コロナウィルス感染拡大の状況により、キャンパスへの登校に支障
 がある場合は、オンライン（ライブ形式）での授業参加も認める。
 【オンライン授業に移行せざるを得ない場合】
 Zoom などのオンデマンドミーティングアプリを使用し、プレゼ
 ンテーションを進める。
 ミーティング前には、メール等によってミーティングに関する情報
 を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is acquire knowledge about economic impact
 of sports and strategies of sports marketing to understand
 current status of sports business and economic influence of
 sports.

ECN218CA
演習
池田 雅美
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に認知心理言語学、言語科学などの知見に基づく英語の効果的な
 習得を目指すとともに、学習者自身の英語力の習得データに関する
 実証的研究方法、分析方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 言語学、第二言語習得に関する英語で書かれた原書を正確に理
 解し、要約し、検討・分析する能力を習得する。
- (2) 自分の意見や考えを先行研究や調査結果を踏まえて根拠に基づ
 いて、英語で相手に分かりやすく説明する能力を習得する。
- (3) ゼミ生全員が 3 年終了時に TOEIC ® 800 点、4 年終了時に
 TOEIC ® 900 点の取得を到達目的とする。
- (4) 3 年終了時までに統計処理に基づく実証的研究方法の基礎を習
 得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
 「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
 「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) SLA に関する英文の専門書を扱う。ゼミ生は自分の発表担当
 箇所を熟読し、概要と自分の意見を加えた英文のレジメを作成し、
 英語で発表する。次にその内容に関して正確な知識の確認を踏まえ、
 全員で問題点に関して議論する。(2) 実証的な研究方法の基礎を統
 計処理演習を通じて習得していく。各自が PC を活用して実際に統
 計処理の基礎（アンケート集計法、t 検定、相関係数、因子分析な
 ど）を習得できるように演習する。(3) プレゼン用多読課題とし
 て Phoenix from the Flames をなどを扱う。(4) リアクションペー
 パーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらに議論を
 深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの運営方法と学習 方法の説明	ゼミの運営方法、予習方法、進級 論文の作成予定作成方法の概要の 説明 (担当教員、前年度ゼミ長)
第2回	第二言語習得研究の傾 向	SLA の歴史的発達と進展状況の 概説, SLA, CORE1900, 統語処 理 test
第3回	形態素の習得, パラグ ラフの構成 (1)	形態素の習得の原理とメカニズ ム, SLA, 談話処理 test, Functions of Topic Sentence
第4回	音韻の習得, パラグラ フの構成 (2)	音韻処理のプロセス, SLA, 各自 の進級論文の概要, Function of Supporting Sentences
第5回	語彙の習得, パラグラ フの構成 (3)	語彙処理のプロセス, SLA, CORE1900, 各自の進級論文の 概要, Function of Concluding Sentence
第6回	統語の習得, パラグラ フの展開型 (1)	統語処理のプロセス, SLA, 各自 の進級論文の概要, Facts & Example
第7回	第二言語習得における 誤りの分析, パラグラ フの展開型 (2)	誤りの分析のプロセス, SLA, 各自 の進級論文の概 要, Comparison & Contrast

第 8 回	第二言語習得における学習者要因, パラグラフの展開型 (3)	学習ストラテジーと動機づけ, SLA, 各自の進級論文の概要, Chronological Order
第 9 回	年齢と第二言語習得, パラグラフの展開型 (4)	年齢要因と臨界期仮説, SLA, CORE1900, 各自の進級論文の概要, Hypothesis Testing
第 10 回	クラスルーム・リサーチと第二言語習得, パラグラフの展開型 (5)	クラスルーム・リサーチとアクション・リサーチ, SLA, Problem Solution
第 11 回	英語教育学と第二言語習得, パラグラフの展開型 (6)	英語教育学を支える第二言語習得理論, SLA, 各自の進級論文の概要, Cause & Effects
第 12 回	リスニングとオーラル・コミュニケーション, パラグラフの展開型 (7)	リスニングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, 各自の進級論文の概要, Cognitive Analysis
第 13 回	スピーキングとオーラル・コミュニケーション, 照応関係 (1)	スピーキングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, 各自の進級論文の概要, Anaphora
第 14 回	リーディング, 照応関係 (2) 照応関係 (2)	リーディングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, Cataphora
第 15 回	ライティング, 談話標識の機能 (1)	ライティングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, CORE1900, Conjunction
第 16 回	実証的研究の方法, 談話標識の機能 (2)	数量的リサーチ, SLA, CORE1900, Reverse Conjunction
第 17 回	実証的研究の方法, 談話標識の機能 (3)	質的リサーチ, SLA, Core 1900, Addition
第 18 回	統計処理の方法 (a), 未知語の推測 (1)	統計処理の方法 (t 検定, 分散分析, 多重比較など) の演習, SLA, Word Formation-based Inference
第 19 回	統計処理の方法 (b), 未知語の推測 (2)	統計処理の方法 (相関係数, 因子分析など) の演習, SLA, Context-based Inferences
第 20 回	実証的研究の計画と方法, 推論 (1)	研究計画の立案とリサーチデザインと分析・考察の方法, SLA, CORE1900, Bridging Inferences
第 21 回	普遍文法理論と第二言語習得研究, 推論 (2)	普遍文法理論の適用可能性, SLA, Elaborating Inferences
第 22 回	認知言語学と第二言語習得研究, 研究方法 (1)	認知言語学の適用可能性, SLA, 研究テーマの設定
第 23 回	第二言語語彙処理研究, 研究方法 (2)	第二言語語彙処理研究との関連性, SLA, CORE1900, 研究テーマと関連する先行研究の収集
第 24 回	第二言語音韻処理研究, 研究方法 (3)	第二言語音韻処理研究との関連性, SLA, 収集した情報・データ・研究成果の整理・比較分析
第 25 回	第二言語文処理研究, 研究方法 (4)	第二言語文処理研究との関連性, SLA, 研究論文の構成・章立て・筋立て・アウトラインに関する考察
第 26 回	第二言語意味処理研究, 研究方法 (5)	第二言語意味処理研究との関連性, SLA, 研究論文のアウトラインに基づく各章の執筆
第 27 回	認知心理言語学研究 (a) 研究方法 (6)	第二言語統語処理のメカニズム, SLA, CORE1900, 研究論文の論旨の推敲・文章の推敲
第 28 回	認知心理言語学研究 (b) 研究方法 (7)	第二言語統語処理のプロセスとストラテジー, SLA, 研究論文の問題点、及び今後の展望の執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究論文、原書、刊行物、著書などを熟読し、発表ハンドアウトにまとめ、発表する。(2) Core1900 を課題学習し、90%以上習得する。(3) TOEIC® の問題集を課題学習し、その成果を英語で発表する。(4) 実証的研究法に基づく統計処理方法の基礎を習得する。(5) Phoenix from the Flames の多読とプレゼン原稿を作成する。授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) Introducing Second Language Acquisition, Muriel Saville-Troike, Karen Barto (2016), (CUP) (2) Phoenix from the Flames, (2015) (National Geographic Learning) Masanori Terauchi, et al (3) 『英語教育学の実証的研究法入門 Excel で学ぶ統計処理』(2012) 寺内正典 (編集代表) 中谷安男 (編) (研究社) (4) 『第二言語習得研究の現在』(2004) (大修館書店) 小池生夫 (編集主幹) 寺内正典、木下耕児、成田真澄 (編著) (5) 『速読速聴・英単語 Core 1900』松本茂 (監修) (Z 会)

【参考書】

参考文献

『応用言語学事典』(2003) (研究社) 小池生夫 (編集主幹) 寺内正典 (チーフ編集コーディネーター)
『言語科学の百科事典』(2006) (丸善) 鈴木良次、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 編著

【成績評価の方法と基準】

評価方法・評価基準

(1) 「研究発表」[40 %] (2) 「レポート」「進級論文」[40 %]
(3) 「テスト」 [20 %]

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生個々人の学習要因とストラテジーの差異を出来るだけ正確に理解するとともに、一人一人の個性も尊重しながら学習あるいは、その他の各種の悩みなどのカウンセリングを行なうことの重要性を認識した。

【学生が準備すべき機器他】

DVD と Video と Laptop PC などを選択活用する。
研究発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参などが必要になる。
貸与パソコン、貸与タブレット「学習支援システム」などの活用が必要な状況が生じた場合は、その旨お知らせいたします。また、使用上の留意点なども合わせてお知らせします。

【その他の重要事項】

自分の発表個所以外も事前にきちんと予習しておくこと、授業の理解度は、リアクション・ペーパーで確認する。
進級論文 (3 年生は全員必修) の指導に関しては、ゼミ全体での論文計画書の発表会だけでなく、個人の必要に応じて、より丁寧な個人指導も行う。
特に 4 年生に関しては、卒論計画書を 2 回提出させ、当該計画書に基づいて発表させ、ゼミ生間で互いに修正案を検討させる。その後、教師が改善・修正のためのコメントを行う。なお進行状況に応じてこのサイクルを計 3 回行わせ、漸次、計画的に卒論が完成できるように支援していく。

【Outline (in English)】

To learn empirical research methods and analysis methods regarding the acquisition data of learners' own English proficiency, while aiming to effectively acquire English, based mainly on the knowledge of cognitive psycholinguistics and linguistic science,

ECN218CA
演習
飯野 厚
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を運用する力の向上、異文化間コミュニケーションの体験と学習。SDG s に関連する国内・国際社会の諸問題について調べ、発表し、解決策を提案し、議論する。

【到達目標】

異文化間コミュニケーションを専門的に理解し、英語力の研鑽に努めながら、英語を使用して国内外のさまざまなシーンで異文化理解・国際協力が実践できる。

・英語でプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートができる。

・英語を使った行動の実践（国内・国際ボランティア、インターンなど）

・CEFR B2 レベルの英語力（TOEIC 2 年終了時 600 点（B1）、3 年 700 点、4 年 800 点（B2）、TOEFL71 点、英検準 1 級）

・進級論文：自分の英語の対話分析、4 年生履修者は卒業論文必須。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2・3 年

ゼミ時間：さまざまな話題を用いたプレゼンテーション（グループ割当制）&ディスカッション&ディベート（討論 → 発表 → 討論）
・サブゼミ・オンライン対話：ゼミ時の討論の仕上げとしてオンライン対話を通して外国に住む英語話者と論じ合う。半期 10 回以上（2 年・3 年）

・ポイント制英語自主学習（POint System English Self-access Study[POSSES]）：毎月メニューから自分で選んで英語の勉強を実行し、30pt となるように自己申告する。270pt/年（前年度 2 月から 12 月までの間）。自主学習として意欲的に取り入れてほしい。

4 年

ゼミに年間 10 回以上参加する。卒論の執筆指導を行う。前期から月に 1 度以上の授業出席か個別指導を受た上で完成の認めをもらって提出する（1 月第 1 週締切）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	ゼミ進行方法、内容説明 各種英語力テスト（Speaking） DMM 英会話ガイダンス
2	Guidance Presentation DMM Guide Brainstorming for Group topics	2 年自己紹介プレゼン self-intro 3 年春休み学習体験プレゼン
3	Topic 1 Benefits and risks of SNS (Unit 1)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 2 Gender equality (Unit 2)	Presentation, Discussion and Role-play 4 年卒論プロポーザル提出 research proposal

5	Topic 3 Effectiveness of eco-friendly activities (Unit 3)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 4 Advantages and disadvantages of online games (Unit 4)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 5 Advantages and disadvantages of Democracy (Unit 5)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 6 Hopes and Fears around Casinos (Unit 6)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 7 Should High Schoolers Work Part-time? (Unit 7)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 8 Unit 8 Pros and Cons of Economic globalization (Original in teams)/Topic 9 Team A; Topic 10 Team B (Original in teams)/Topic 11 Team A; Topic 12 Team B	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Review of Interaction by transcribing	Examine the videoconferencing and
12	Compiling progress report	Progress report writing
1	Presentation	Individual speech about learning experiences during summer vacation
2	Reflection of previous Skype lessons	Make individual plans on how to improve Skype lessons
3	Topic 11 Human or AI? (Unit 9)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 12 Gap-year or Job hunting (Unit 10)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
5	Topic 13 chosen by Group 1	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 14 chosen by Group 2	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 15 chosen by Group 3	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 16 chosen by Group 4	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 17 Big Government or Limited Government? (Unit 11)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 18 Severe Punishment or Rehabilitation? (Unit 13)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 19 Open Borders or closed societies? (Unit 14)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	Topic 20 Tax hikes: Direct or Indirect (Unit 15)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work

13	Review of Interaction by transcribing	Examine the progress in speaking by reviewing VTR
14	Consolidating Point System of English Self-access Study[POSSES]	Individual interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・サブゼミのオンライン対話は授業と同じ扱いなので週1回（25分）は必ず実施。
・ポイント制英語学習を計画的に進める。成果は法政Gメール連動のGドライブにアップロードし、現物を保存し教室のフォルダに保存もする。
・プレゼンテーション準備は必ず事前に打ち合わせと練習をすること。1週間前にスライド完成が原則。
・ゼミ合宿やゼミの集まりなど行事参加は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

"Take a Stance—Discussing Today's Controversial Issues 2"(Cengage)

【参考書】

『異文化間コミュニケーション入門』ちくま書房
『英語研究論文の書き方』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

1. 50% 授業内活動、発表準備度、発表の質
 2. 30% 授業前課題、サブゼミの活動評価、課題レポート、%実施した自主課題の量と質
 3. 20% 自主英語学習ポイント 25
- 2または3の取り組み極端に少ない場合は単位認定しません。
評価Cで単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

トピックの設定はある程度教員が指定するが、学生が自ら設定できる余地を作る。義務となっているサブゼミは50分程度の時間を要するので、通常ゼミ授業を若干早めに終了する。

【学生が準備すべき機器他】

・スカイプを用いてサブゼミ方式でネイティブと1対学生2名の討論を毎週空き時間に行う。学期に10回程度設け、英語で議論力の充実を図る。録音/録画の提出が義務。
・サブゼミは各自のパソコンで実施するため、オンラインソフトの設定も含め事前に準備する（年4回のスピーキングテストを含むオンライン実習費を徴収する）

【その他の重要事項】

・授業出席に関してはガイダンスで説明。・提出物は100%実施が原則。
・4年生は卒論を書くことを前提に履修する。・4年生は前期中5回は授業に出席する。・卒論はプロポーザル認定（5月）のあと、6月以降月前期に1度、後期に2度書いたものをメール送付 → 添削 → 返却 + 面談。・卒論作成のため、飯野のAcademic Research Seminarの履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Students will enhance their communicative competence as they practice and learn about cross-cultural communication. They will also learn how to conduct research and how to practice presentation, discussion, and the proposal of solutions particularly on domestic and global issues related to SDGs.

ECN218CA
演習
伊東 林蔵
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ近現代史を学習するゼミである。政治経済分野のみならず、文化・社会問題などに至るまで、参加者の関心にしたがって幅広くヨーロッパ史を探究する。前年度は政治に重きをおいたドイツ近現代史の研究文献を輪読したが、今年度は、参加者が直観的に取り組めるヨーロッパの社会・生活に関する文献を輪読したいと考えている。
主なテーマは、独裁体制下や戦時期の民衆生活、欧州統合における民衆運動の蓄積、大衆消費社会の誕生などである。

【到達目標】

ヨーロッパ近現代史を政治・経済だけではなく、社会・生活・文化といった身近で共感を持ちやすい視点から捉えることで、独裁体制、世界大戦、欧州統合、大衆消費社会といった周知の重要なテーマについて、講義により受動的に習得した知識だけを頼りにするのではなく、自らの経験や価値観を援用して能動的に議論に参加し、他者の意見を踏まえて自身の仮説を論証していく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

恒例通り、ゼミの参加者は4～6人の班ごとに分かれる。毎週全員が輪読文献を批判的に読んでくるが、輪番で2班がレジュメを作成してゼミで報告する。司会や議論のテーマ設定は報告班が担当し、全員が議論に参加する。

以上はあくまで予定であり、ゼミ生の希望に沿って開講後に調整する。本年度は、基本的に対面授業となる。
毎回の授業にあたり、その都度、Hoppiiに掲載される指示に従うこと。

初回の授業は、4月12日（火）に320教室で行われる予定であるが、教室に関しては昨年度のゼミ生の人数を考えると手狭であるため、教室変更を申請する予定である。また、コロナ・ウイルスの感染状況によっては授業形式も変更になるため、Hoppii上の連絡を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	ゼミの概要、参加者の自己紹介など
2	第一次大戦中の生活	講義、文献講読、議論
3	第一次大戦中の生活	講義、文献講読、議論
4	戦間期の大衆文化	講義、文献講読、議論
5	戦間期の大衆文化	講義、文献講読、議論
6	ナチ体制下の大衆生活	講義、文献講読、議論
7	ナチ体制下の大衆生活	講義、文献講読、議論
8	第二次世界大戦中の生活	講義、文献講読、議論
9	第二次世界大戦中の生活	講義、文献講読、議論
10	欧州統合の社会史	講義、文献講読、議論
11	欧州統合の社会史	講義、文献講読、議論
12	大衆消費社会	講義、文献講読、議論
13	大衆消費社会	講義、文献講読、議論
14	まとめ	講義、文献講読、議論

15	研究報告	個人研究報告、討論
16	研究報告	同上
17	研究報告	同上
18	研究報告	同上
19	研究報告	同上
20	研究報告	同上
21	研究報告	同上
22	研究報告	同上
23	研究報告	同上
24	研究報告	同上
25	研究報告	同上
26	研究報告	同上
27	研究報告	同上
28	研究報告	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ヨーロッパ近現代史の関連文献を自分で開拓、また新聞等を通じ日頃から時事問題への関心を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じて指示、配布する。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点が 100 % であり、4 年生は卒業論文の提出が前提となる。平常点は、班ごとに作成したレジュメによる報告、授業中の発言、授業運営への貢献度から構成される。

【学生の意見等からの気づき】

専門領域に没入することなく、大局的なテーマに直観的に取り組めるようにヨーロッパ近現代社会・生活史を扱うことにする。授業の初めに前提となるヨーロッパ近現代史の概説を講義する。その際、イメージしやすいように図像を多く用いる。ゲスト講師による講演会・懇談会などを数カ月に一度開く。

【Outline (in English)】

In this seminar, we will study and discuss various topics of social and economic history in modern and contemporary Europe.

ECN218CA
演習
菅 幹雄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析、テキストマイニングを学び、これらの技法を実際の統計へ応用する。

【到達目標】

統計データを用いて実証分析を行い、発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

4 時限目：春学期は統計検定過去問 3 級、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析を学んだ後、3 年生と 4 年生が研究発表を行う。秋学期は統計検定過去問 2 級、テキストマイニングを学んだ後、2 年生、3 年生が研究発表、4 年生が卒業論文発表を行う。
5 時限目：パソコンを用いた統計に関する演習を行う。学生の発表についてコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【4 時限目】 ガイダンス／【5 時限目】 PC 演習	ガイダンス／ 1 つの変数の記述統計
2	統計検定 3 級過去問 (1)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (1)／ 2 つの変数の記述統計
3	統計検定 3 級過去問 (2)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (2)／母集団と標本
4	統計検定 3 級過去問 (3)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (3)／統計的仮説検定
5	統計検定 3 級過去問 (4)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (4)／ 2 つの平均値を比較する
6	統計検定 3 級過去問 (5)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (5)／ QGIS(1)
7	統計検定 3 級過去問 (6)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (6)／ QGIS(2)
8	統計検定 3 級過去問 (7)／ PC 演習	統計検定 3 級過去問 (7)／ QGIS(3)
9	先行研究のサーベイのやり方／ PC 演習	先行研究のサーベイのやり方／ QGIS(4)
10	研究発表（3・4 年生）	産業連関分析 (1) 仮想 3 部門
11	研究発表（3・4 年生）	産業連関分析 (2) 輸入外生モデル
12	研究発表（3・4 年生）	産業連関分析 (3) 輸入内生モデル
13	研究発表（3・4 年生）	産業連関分析 (4) RAS 法
14	まとめ	まとめ
15	ガイダンス／ PC 演習	ガイダンス／統計の基礎知識
16	統計検定 2 級過去問 (1)／ PC 演習	統計検定 2 級過去問 (1)／確率論の基礎
17	統計検定 2 級過去問 (2)／ PC 演習	統計検定 2 級過去問 (2)／ 回帰分析の基礎
18	統計検定 2 級過去問 (3)／ PC 演習	統計検定 2 級過去問 (3)／推測統計の基礎

19	統計検定 2 級過去問 (4) / PC 演習	統計検定 2 級過去問 (4) / 相関関係と因果関係
20	統計検定 2 級過去問 (5) / PC 演習	統計検定 2 級過去問 (5) / 外生変数と内生変数
21	統計検定 2 級過去問 (6) / PC 演習	統計検定 2 級過去問 (6) / 主成分分析と因子分析
22	統計検定 2 級過去問 (7) / PC 演習	統計検定 2 級過去問 (7) / 判別分析とクラスター分析
23	研究発表のやり方 / PC 演習	研究発表のやり方 / テキストマイニング
24	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
25	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
26	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
27	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
28	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2700 円（税別）

星野匡郎, 田中久稔『R による実証分析—回帰分析から因果分析へ—』オーム社、2700 円（税別）

末吉美喜『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円（税別）

【参考書】

清水雅彦、菅幹雄『経済統計』培風館、3630 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、研究発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

統計検定の過去問の学習を春学期に集中させていたのを、春学期に 3 級、秋学期に 2 級に分けた。

【Outline (in English)】

Learn statistics, geographic information system software (QGIS), input-output analysis, text mining, and apply these techniques to actual statistics.

ECN218CA
演習
高橋 秀朋
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファイナンス・証券投資という担当教員の専門分野を通じて、PC 能力および文章表現能力の向上を目指し、大学卒業後にできるだけ実践可能な能力を身につけることにある。

【到達目標】

本演習の目的は、証券投資や資産運用に応用可能な基本的なフレームワークを身につけて、それを実践可能なレベルに到達することである。また、グループワークによる論文（レポート、ショートペーパー等）執筆活動やプレゼンを通じて、文章力・表現力を向上させることも主要な目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は 2 年生は基本的な知識の習得をメインとし、3 年生はすでに学習した内容を発展させることを目的とした学習を行う。具体的には、2 年生はアカウンティング、ファイナンスの基本を習得し、3 年生はリスク管理、コーポレートファイナンスに注目した、より実践的な演習を行う予定である。

演習履修者は通読するテキストの担当がそれぞれに割りあてられる。担当者は演習前までにハンドアウト資料を作成し、順に発表することとしたい。最初の 1 時限目は 2 年生が主となる基礎から入門レベルの学習、2 時限目は 3 年生が主となる発展的知識の学習となる。そのため、3 年生が利用するテキストは 2 年生が利用するテキストの上位互換となる。この他、2/3 年生ともに月 1 回程度でアサインメントが課され、テキストの内容理解に関する演習回を月 1 回程度設ける。

なお、卒業論文、レポート（外部への研究発表等）については、事前に提出の上、別途プレゼンテーションの機会を設けて講評、フィードバックを行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業実施方針の説明	春学期の演習の進め方についての説明、ファイナンスを学習する意義、担当の割り振りを行う
2	貨幣の時間価値	現在価値、将来価値
3	投資意思決定基準	正味現在価値、IRR
4	キャピタルバジェッティング	企業による投資意思決定
5	キャピタルバジェッティング応用	複雑なキャッシュフローを持つ投資案
6	演習 1	第 1 回～第 5 回までの知識の確認
7	割引率の選択	割引率、成長率が企業価値に与える影響
8	企業価値評価	財務諸表から企業価値を計算する
9	演習 2	日本企業の財務諸表を利用して企業価値を計算し、株価の過大/過小評価を議論
10	リスク	リスク指標と株式リターンの記事統計量
11	リスク分散化	ポートフォリオ理論

12	CAPM	投資信託のパフォーマンスを評価する
13	CAPM の応用	CAPM で企業価値評価における割引率を求める
14	演習 3	日本の投資信託のデータを利用してファンドのアルファを計算する
15	秋学期の授業実施方針の説明	秋学期の演習の進め方についての説明、目的、担当の割り振りを行う
16	効率的市場仮説	3 つの EMH、無裁定理論
17	債券、株式評価	企業の CF、配当から証券の価値を計算する
18	演習 4	数値例を利用した企業価値評価
19	コーポレートファイナンスの基本	資本構成と企業価値
20	資本構成が企業価値に与える影響	実証的エビデンスをもとに、税の影響やエージェンシー理論など
21	配当政策	配当と自社株買い
22	演習 5	配当と自社株買いに関するケーススタディ
23	オプションの基本	オプションのペイオフ
24	オプションの価格付け 1	オプションの価格付け（二項モデル）
25	オプションの価格付け 2	ブラックショールズモデル
26	シミュレーションベースのオプション評価	モンテカルロ法を用いたオプション評価、ポートフォリオインシュアランスなど
27	演習 6	実際のオプションのデータを利用してオプション指標を計算する
28	グループワーク報告	4 年生の卒論報告など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の目的は、学習した内容を実践できることが求められる。そのため、毎回の演習で扱う範囲の理解だけでは十分とは言えず、指定テキストの章末問題を利用して自ら知識の拡充をはかることが求められる（週 2 時間）。また、テキストの章末問題だけでは応用ができないので、講義では適時演習回を設け、より現実的な課題をグループワークを通してこなしてもらうことで、自分の知識の再確認を行ってもらう。それらの内容をまとめて提出するための時間も確保すること（平均して、週 1 時間）。そのほかに、月 1 回のアサインメントがあるので、その準備の時間も確保すること（平均して、週 1 時間）。

【テキスト（教科書）】

2 年生: Simon Benninga and Tal Mofkadi, Principles of Finance with Excel, 3rd ed. (Oxford Univ Pr, 2017)

3 年生: Simon Benninga, Financial Modeling, 5th ed. (Oxford Univ Pr, 2022)

【参考書】

2 年生: 手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）

3 年生: 藤崎達哉『実践デリバティブ: Excel でデータ分析』（オーム社、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼン内容の評価 50%、演習回での内容評価 30%、アサインメント評価 20%、その他課外活動+アルファ（合計で 100%を超えない範囲）で評価する。なお、無断欠席（報告担当回に代理を立てられなかった場合も含む）を 1 回でもした場合、平常点として減点対象とする。また、無断欠席を 2 回した場合は評価が自動的に「不可」となる。欠席は理由を明記して、ゼミ当日の 14 時半までに担当教員にメールなどの直接連絡が取れる手段で連絡すること。第三者から伝達および不明瞭な理由による欠席は、どのような理由であろうとも無断欠席と同じ扱いになる。理由を明記した上での欠席でも平常点（減点）として評価に反映される。2 年次の学生に関しては報告時の欠席や無断欠席等で評価が「B」以下になった受講生は原則として 3 年次におけるゼミ活動が困難と判断し、進級を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

各自が PC を持参して、演習中も EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【Outline (in English)】

This seminar-styled course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis and corporate finance using data and simulation-based analyses. This course also provides opportunities to improve writing and PC skills to achieve the goal that students can write short academic reports or papers based on their acquired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare the course content. Students are also required to spend one hour for reviewing the content after each class and another one hour for solving some quizzes useful to deepen their understanding. Final grade will be calculated according to the following process: in-class presentations (50%), discussions (30%), and assignments (20%).

ECN218CA
演習
藤田 貢崇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「科学ジャーナリズム」または科学に関連する諸課題に取り組み、自ら課題を見出し、課題を発表するためのスキルや表現手法を身につけます。各自の具体的なテーマや詳細は教員と相談して決定します。また、一般向けの科学解説記事の翻訳・執筆に取り組み、発表スキルの習得を行います。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマについて、調査する手法、調査結果をまとめる方法を習得すること。また、自らの意見を明確にしながら、調査結果を発表する様々な手法（プレゼンテーション・文章による表現・音声による表現・映像による表現など）を習得すること。

また、英語の文章を理解し、伝わりやすい日本語に翻訳できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員との連絡を密に持ちながら、自らの力で研究を遂行します。各自の研究スケジュールは研究テーマによって異なるが、出席（オンラインによる課題の提出）は必須となります。

具体的な演習内容は、①科学ジャーナリズムの時事的な話題、②ジャーナリズムとは何か、③人に伝えるための文章の書き方、④文章以外に表現する方法（音声・映像）についてなどです。受講生が自ら調べ、表現することができるように指導していきます。

課題や質問等に対するフィードバックは、その都度、あるいは次の回の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要を説明する
2	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの社会における必要性を考える
3	記事を書いてみようⅠ	ジャーナリストの表現手法の基本である文章術を学ぶ
4	記事を書いてみようⅡ	前回の内容をもとに、実際に執筆してみる
5	自らのテーマを見つける	各自が知りたいこと、調べたいことを明確にする
6	情報検索や調査の方法	図書館の情報検索サービスなどの利用方法を身につける
7	翻訳手法の習得Ⅰ	読み手を意識した翻訳手法を学ぶ
8	いろいろな表現手法Ⅰ	文章以外にも、いろいろな表現手法があることを学ぶ
9	調査・研究活動Ⅰ	各自のテーマに沿って、調査・研究の具体的な計画を作成する
10	調査・研究活動Ⅱ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、必要な文献を明確にする
11	調査・研究活動Ⅲ	各自のテーマに沿って、調査・研究を行う
12	調査・研究活動Ⅳ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、どのような表現手法があるかを検討する

13	海外のジャーナリズム	海外の科学ジャーナリズムについて学ぶ
14	翻訳手法の習得Ⅱ	よりわかりやすい翻訳文を作成するための手法を学ぶ
15	中間発表	表現手法を含めて、各自の課題の進捗状況を報告する
16	夏課題の報告会	各自の課題の進捗状況を報告し、問題点を明らかにする
17	ジャーナリズムをより深く知る	ジャーナリズムに関する論文・書籍を輪読する
18	翻訳手法の習得Ⅲ	翻訳文と原文を詳細に比較し、より適切な訳文を作成する手法を身につける
19	表現手法の工夫	映像を活用した表現手法を知る
20	調査・研究活動Ⅴ	映像を活用した表現手法を知る
21	調査・研究活動Ⅵ	各自のテーマに沿って、調査・研究の表現手法について決定し、その制作計画を立てる
22	調査・研究活動Ⅶ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の特性を生かした内容になっているか、計画を再検討する
23	調査・研究活動Ⅷ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
24	翻訳手法の習得Ⅳ	完成した翻訳文の校正を行い、適切な訳文を作成する。
25	調査・研究活動Ⅷ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
26	調査・研究活動Ⅹ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
27	調査・研究活動ⅩⅠ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
28	成果報告会	1年間の研究課題を報告する（2・3年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、4週間に1度程度、担当教員に現状を報告するための面談（30分程度）を受けなくてはなりません。このときに、研究の上での様々な相談することができます。受講者は課題意識を持ちながら、新聞などの情報源に日常的に触れるように留意してください。

原稿や訳文の作成に関して、時間外に作業を行うことが必要となる場合があります。本授業の準備学習および復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1年間を通じて使用するテキストはありません。

【参考書】

科学ジャーナリズムの手法（化学同人）
他は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習で課される課題の提出状況（70％）、平常点（30％）として評価し、60%の得点率を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人で取り組む研究を充実させるように工夫します。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムに関心を持ち、自ら情報発信をしてみたい学生の参加を望みます。偏った意見を取り上げるのではなく、公正・中立な立場で研究課題に取り組む姿勢が大切です。

止むを得ず演習に出席することができない場合には、必ず連絡すること。

【授業内の取り組み】

ジャーナリズムに大切なことは、多様な考え方です。演習では、事前に時事的な話題（例えばBSE問題、臓器移植、原子力問題など）を指定し、受講者それぞれの考え方を簡単に発表する場を設けます。

【Outline (in English)】

This course deals with the science journalism and science education. The goals of this course are to understand the importance of journalism. Your required study time is at least four hour for each class meeting. Grading will be decided based on short reports of each class.

ECN218CA
演習
篠原 隆介
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目的：ミクロ経済学・ゲーム理論を応用した、経済現象の分析および現代社会における経済政策と経済制度の有効性に関する考察

概要：ミクロ経済学とゲーム理論を学習した上で、それを応用し、経済政策・制度の分析を行う。政策・制度の分析については、公共経済学の教科書を用いて、学習する。習得した知識に基づき、研究テーマを設定し、春学期末に中間成果報告会を、年度末に最終研究成果の報告会を行う。

【到達目標】

ミクロ経済学・ゲーム理論を理解すること。練習問題演習をすることも重要だが、それ以上に、これら経済理論を応用し、身近な問題に対する分析能力を養うことが最も重要な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

次の3段階のステップを踏む:①教科書に基づき理論の学習を行う。②その後、練習問題を解く。③そして、最終的には、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用して研究活動を行う。

課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の運営方法について
2	報告と議論	報告と質疑応答 1
3	報告と議論	報告と質疑応答 2
4	報告と議論	報告と質疑応答 3
5	報告と議論	報告と質疑応答 4
6	報告と議論	報告と質疑応答 5
7	報告と議論	報告と質疑応答 6
8	報告と議論	報告と質疑応答 7
9	報告と議論	報告と質疑応答 8
10	報告と議論	報告と質疑応答 9
11	報告と議論	報告と質疑応答 10
12	報告と議論	報告と質疑応答 11
13	研究成果中間報告会-Part 1	学生による中間報告 (主に 3 年次学生による報告)
14	研究成果中間報告会-Part 2	学生による中間報告 (主に 2 年次学生による報告)
15	イントロダクション	秋学期の運営方法について
16	報告と議論	報告と質疑応答 12
17	報告と議論	報告と質疑応答 13
18	報告と議論	報告と質疑応答 14
19	報告と議論	報告と質疑応答 15
20	報告と議論	報告と質疑応答 16
21	報告と議論	報告と質疑応答 17
22	報告と議論	報告と質疑応答 18
23	報告と議論	報告と質疑応答 19
24	報告と議論	報告と質疑応答 20
25	報告と議論	報告と質疑応答 21
26	報告と議論	報告と質疑応答 22
27	研究成果最終報告会-Part 1	学生による中間報告 (主に 3 年次学生による報告)
28	研究成果最終報告会-Part 2	学生による中間報告 (主に 2 年次学生による報告)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ報告の準備、練習問題を解くことによる復習、春学期と秋学期に行われる研究報告のための準備。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のゼミにてゼミ生と相談の上、決定する。教科書の候補は、参考書欄に掲載したものも含まれる。

【参考書】

- ・井堀利宏 (2019)『入門ミクロ経済学 (第 3 版)』新世社
- ・岡田章 (2014)『ゲーム理論・入門 新版-人間社会の理解のために』有斐閣
- ・坂井豊貴 (2013)『マーケットデザイン: 最先端の実用的な経済学』筑摩書房
- ・寺井公子, 肥前洋一 (2015)『私たちと公共経済』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60 %) とゼミでの報告・課題 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分かり易く教えることを心がけます。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学 AB」を未修のゼミ生は、履修することをお勧めします。より進んだ学習を望む場合には、「公共経済論 AB」の履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

This seminar will study microeconomics and game theory and then apply them to analyze economic policies and institutions. This year, we will focus on learning microeconomics and game theory but consider several topics on industrial organization and public economics as examples of economic policies and institutions. Each student will set a research theme, conduct research based on microeconomics and game theory, and report the results of their research once each in the spring and fall semesters. The most important goal is to understand microeconomics and game theory and then to acquire the ability to analyze problems in modern economic society. Students must prepare and review for this class for at least four hours per week. Grading will be based on ordinary points (60%) and reports and assignments in the seminar (40%).

ECN218CA
演習
菅原 琢磨
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策、社会保障政策を中心に、さまざまな社会問題、社会現象とその対応をテーマとして幅広くあつかう。ゼミの後半では医療経済学や社会保障論の標準的テキストを輪読することで、経済学部生としてあるべき専門知識を併せて修得する。

【到達目標】

- 大きく以下の 3 点を柱とし、各々の能力の獲得を目標とする。
- ①多様な社会問題に関する自由な報告・議論を通じて、社会常識・一般教養の拡充と、プレゼン・コミュニケーション能力強化を図る社会人基礎力の鍛錬
 - ②専門領域の基本テキスト輪読、報告による専門知識の習得と深化
 - ③ゼミ論文作成による分析・処理能力、思考力の強化

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 演習は概ね 2 部構成とする。
- ①受講者が関心を持った時事的問題、社会問題について報告（毎回数名、ランダムに指名）、教員のファシリテートのもと参加者全員で議論。採り上げられたトピックスをもとに実践的な問題解決思考の訓練をおこなう。
 - ②専門分野の標準的テキストを輪読、各回担当者（グループまたは個人）は内容を報告、質疑をおこなう。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	演習の目的と内容、進め方、春学期計画について
第 2 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読①	テキスト第 2 章 「健康と保健医療サービスの需要」
第 3 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読②	テキスト第 3 章 「需要、弾力性、健康」
第 4 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読③	テキスト第 4 章 「生産、健康、保健医療サービス」
第 5 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読④	テキスト第 5 章 「保健医療サービス供給の費用」
第 6 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑤	テキスト第 6 章 「基本的な市場モデル」
第 7 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文のテーマ選定
第 8 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑥	テキスト第 7 章 「供給者誘発需要と代理関係」
第 9 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑦	テキスト第 8 章 「市場の失敗と政府」
第 10 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑧	テキスト第 9 章 「経済評価の理論基盤」
第 11 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑨	テキスト第 10 章 「費用の測定の問題」
第 12 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑩	テキスト第 11 章 「経済評価での便益の測定」
第 13 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑪	テキスト第 12 章 「経済評価の実施手順」
第 14 回	春学期のまとめ	インゼミ論文中間報告 春学期総括、質疑応答
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習内容、進め方について

第 16 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑫	テキスト第 13 章 「選択のための枠組みとしての経済評価」
第 17 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑬	テキスト第 14 章 「契約」
第 18 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑭	テキスト第 15 章 「市場の構造」
第 19 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文報告準備
第 20 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑮	テキスト第 16 章 「病院などの保健医療供給者の行動と動機」
第 21 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑯	テキスト第 17 章 「規制の経済学」
第 22 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑰	テキスト第 18 章 「インセンティブと代理関係」
第 23 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑱	テキスト第 19 章 「保健医療システム」
第 24 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑲	テキスト第 20 章 「世界の保健医療システム」
第 25 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑳	テキスト第 21 章 「国家への依存」
第 26 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読 (21)	テキスト第 22 章 「民間保険システム」 テキスト第 23 章 「社会保険システム」
第 27 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読 (22)	テキスト第 24 章 「複合システム」
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期総括、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回のパートについては、報告者のみならず全員が事前に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。
- ・秋（11月）に他大学とのインターゼミナールを実施する予定である。
- ・各回の報告ならびにゼミ論文作成のために、サブ（自主）ゼミが必要となることもある。
- ・社会環境にもよるが、例年は夏期休暇（9月）、春期休暇（3月）中に合宿をおこなう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・後藤励／井深陽子『健康経済学－市場と規制の間で』有斐閣、2020 年。
（学生と相談のうえ、他のテキストを採用することもある）

【参考書】

- ・西村周三・田中滋・遠藤久夫『医療経済学の基礎理論と論点』勁草書房、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に評価する。特に参加意欲（発言や質問）（50 %）、担当報告の出来（30 %）、その他、円滑なゼミ運営（合宿やインゼミへの参加を含む）（20 %）への貢献を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
演習の内容は受講生とも相談のうえ、適宜、変更する場合がある。
演習に必要なテキスト等は各自、準備すること。

【Outline (in English)】

In this seminar, a wide range of topics that relate to the social problem are widely investigated. Acquisition of basic knowledge of health economics and social security policy is also required.

ECN218CA
演習
結城 笙子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の実験を自分自身で計画・実施し、実験心理学についてより深く学ぶ。

これまでにおこなわれた心理学の実験研究についての情報収集をおこない、計画をたて、実際に実験をおこない、結果を解析・発表する、という一連の過程を体験することで、実験心理学の方法論を学習するとともに、たとえばささやかで小さなことであっても、世界でまだ誰も知らない新しい発見をすることを目指す。

【到達目標】

第一に、実習を通じて、文献の探索・読解能力、科学的・論理的な思考法、心理実験をおこなうための基礎的な技法、データの解析法、プレゼンテーションの方法および論文（論理的な文章）の正しい書き方を身につけることを目指す。

第二に、新しい心理学の知見を自ら発見・検証するための方法論を身につけることで、人の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

個人の興味をもとにした研究テーマ（個人プロジェクト）を中心として進める。具体的には、演習の授業時間には、毎回、自身のテーマに関連する文献の発表と議論を通じて教員および他の受講生からのフィードバックを受け、実験方法や最新の心理学の知見について学ぶ。授業時間外では、各自個人テーマに沿った実験研究を自ら計画・実施し、論文としてまとめる。また、受講生の関心や余力によって、グループでの研究プロジェクトや課外での活動もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画の立案	ゼミでの取り組み、演習の進め方について、自己紹介、発表スケジュールの決定・研究計画の立案
2	実験心理学基礎と計画発表	実験研究を行うための方法論についてのガイダンス・研究計画の発表
3	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
4	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
5	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
6	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
7	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
8	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
9	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
10	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動

11	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
12	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
13	研究発表	研究実施状況の中間報告
14	春学期総論	春学期の研究総括・研究発表についての議論
15	秋学期研究計画	夏季の課題への取り組みに関する発表、秋学期の研究計画
16	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
17	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
18	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
19	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
20	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
21	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
22	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
23	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
24	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
25	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
26	研究結果の解析	研究結果の解析および研究発表準備
27	進級論文発表	進級論文の研究報告および議論
28	進級論文発表・卒業論文発表	進級論文・卒業論文の研究報告および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

授業時間外で行うこととしては、自分自身の研究プロジェクトの計画及び実施、学術論文の精読と発表の準備、他者の研究プロジェクトへの実験参加が挙げられる。これらの体験を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解することを目指す。

【テキスト（教科書）】

文献の探し方等、全員に共通して教示する部分については、教員の作成した資料を配布する。また、個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【参考書】

個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【成績評価の方法と基準】

発表およびディスカッションへの寄与(20%)、自身の個人研究プロジェクトへの取り組みや他の研究プロジェクトへの実験・調査参加協力と課題の提出(40%)、進級論文・卒業論文の内容(40%)を目安に、総合的に評価する。授業への無断欠席があった場合は単位を認定しない。やむを得ない理由で授業を欠席した際は、欠席を補うための取り組みと課題の提出を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業時間および授業時間外の研究活動にPCを使用する。無料の統計解析アプリケーション R・R Studio がインストールできるPCを用意すること(大学の貸出PCにはインストールされている)。Google Classroom を用いて情報を共有する。また、COVID-19の流行状況によっては、ZOOMを使用してオンラインでの授業をおこなう可能性がある。

【その他の重要事項】

心理学の基礎的な知識を持つことを前提とするため、心理学 A/B の授業の単位取得もしくは本年度の聴講を必須とする。

【Outline (in English)】

In this course, students learn the research methods used in modern psychology by reading research papers on psychology, summarizing and presenting their findings, and discussing them with other students. Furthermore, students experience the importance and interest of psychological experiments by planning and conducting their own original experiment and writing research papers.

Note: This course assumes that students have a basic knowledge of psychology. Therefore, it is required that students have already received credit for Psychology A/B, or attend the course in parallel with this course.

ECN218CA
演習
高尾 直知
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉が構築する世界に身を置き、深く考え、自らの言葉で考えを表現する。

【到達目標】

1. 文章を正確に読み、内容を正しく理解する。
2. 文化や歴史を理解し、人間の心の機微に触れる。
3. 作品に誠実に向き合い、知識や感性、想像力を働かせ、深く考える。
4. 考察したことを文章で的確に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 英文記事の読解、それをもとにした英語プレゼンテーション・ディスカッション
2. 英語で書かれた小説の精読およびディスカッション
3. 4年生は卒論指導を個別に行う

[授業や課題等に対するフィードバック方法]

毎回のコメントは次の授業時間に返却するもしくは「学習支援システム」で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、評価の説明。
2	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション①	Sara O. Jewett, "A White Heron" (1) 他
3	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション②	Sara O. Jewett, "A White Heron" (2) 他
4	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション③	Kate Chopin, "Her Letters" (1) 他
5	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション④	Kate Chopin, "Her Letters" (2) 他
6	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑤	Kate Chopin, "Her Letters" (3) 他
7	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑥	Kate Chopin, "Her Letters" (4) 他

8	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑦	Kate Chopin, "A Pair of Silk Stockings" (1) 他
9	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑧	Kate Chopin, "A Pair of Silk Stockings" (2) 他
10	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑨	Mary Freeman, "A New England Nun" (1) 他
11	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑩	Mary Freeman, "A New England Nun" (2) 他
12	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑪	Mary Freeman, "A New England Nun" (3) 他
13	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑫	Mary Freeman, "A New England Nun" (4) 他
14	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑬	前期まとめの議論 他
15	イントロダクション 2	授業の内容、進め方、評価の説明。
16	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑭	Kate Chopin, The Awakening 1-2 章 他
17	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑮	Kate Chopin, The Awakening 3-5 章 他
18	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑯	Kate Chopin, The Awakening 6-8 章 他
19	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑰	Kate Chopin, The Awakening 9-11 章 他
20	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑱	Kate Chopin, The Awakening 12-14 章 他
21	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑲	Kate Chopin, The Awakening 15-17 章 他
22	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑳	Kate Chopin, The Awakening 18-20 章 他

23	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ⑳	Kate Chopin, The Awakening 21-23 章 他
24	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉑	Kate Chopin, The Awakening 24-26 章 他
25	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉒	Kate Chopin, The Awakening 27-29 章 他
26	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉓	Kate Chopin, The Awakening 30-32 章 他
27	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉔	Kate Chopin, The Awakening 33-34 章 他
28	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉕	まとめの議論 他 ㉖

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 英語プレゼンテーションの準備：全員が意見を述べる準備をする。発表者以外の参加者は意見や感想や疑問などを英語で comment にする。Comment は提出する。
- 2) 英語小説精読の予習：英語の意味がわからなかったり、日本語にできなかったり、あやふやだったりする箇所を明確にしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するほか、授業内で適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 50%
2. 期末レポート 50%
- 4 年生は卒業論文を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく充実した時間を全員で作りに上げて行けたらと考えております。

【その他の重要事項】

1. 参加者はかならず前後期の初回時の授業に出席してください。
2. 授業内容については参加者の状態に柔軟に対応します。意見や要望をいつでも遠慮なくお聞かせください。

【Outline (in English)】

Put yourself in the language used in the textbook, think deeply, and express yourself in your own words.

ECN218CA
演習
張 欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文学、中国文化を学び、中国の文化、歴史、社会への理解を深めます。

【到達目標】

勉強や研究を重ね、自らの中国認識を構築していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①中国文学、中国文化に関する共通テキストの輪読・ディスカッション
- ②中国文学、中国文化に関する調査・研究の経過報告および卒論製作のための報告
- ③授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の概要の説明、輪読の割り当て、自己紹介
第 2 回	輪読 1	『ワイルド・スワン』 1
第 3 回	輪読 2	『ワイルド・スワン』 2
第 4 回	輪読 3	『ワイルド・スワン』 3
第 5 回	輪読 4・発表	『ワイルド・スワン』 4・学生による発表
第 6 回	輪読 5・発表	『ワイルド・スワン』 5・学生による発表
第 7 回	輪読 6・発表	『ワイルド・スワン』 6・学生による発表
第 8 回	輪読 7・発表	『ワイルド・スワン』 7・学生による発表
第 9 回	輪読 8・発表	『ワイルド・スワン』 8・学生による発表
第 10 回	輪読 9・発表	『ワイルド・スワン』 9・学生による発表
第 11 回	輪読 10・発表	『ワイルド・スワン』 10・学生による発表
第 12 回	輪読 11・発表	『ワイルド・スワン』 11・学生による発表
第 13 回	輪読 12・発表	『ワイルド・スワン』 12・学生による発表
第 14 回	輪読 13・発表	『ワイルド・スワン』 13・学生による発表
第 15 回	輪読 14・発表	『ワイルド・スワン』 14・学生による発表
第 16 回	輪読 15・発表	『ワイルド・スワン』 15・学生による発表
第 17 回	輪読 16・発表	『ワイルド・スワン』 16・学生による発表
第 18 回	輪読 17・発表	『ワイルド・スワン』 17・学生による発表
第 19 回	輪読 18・発表	『ワイルド・スワン』 18・学生による発表

第20回 輪読 19・発表	『ワイルド・スワン』19・学生による発表
第21回 輪読 20・発表	『ワイルド・スワン』20・学生による発表
第22回 輪読 21・発表	『ワイルド・スワン』21・学生による発表
第23回 輪読 22・発表	『ワイルド・スワン』22・学生による発表
第24回 輪読 23・発表	『ワイルド・スワン』23・学生による発表
第25回 輪読 24・発表	『ワイルド・スワン』24・学生による発表
第26回 輪読 25・発表	『ワイルド・スワン』25・学生による発表
第27回 輪読 26・発表	『ワイルド・スワン』26・学生による発表
第28回 まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を十分に調べます。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ワイルド・スワン』上・下、講談社 2017 年、3080 円

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

2～3 年次履修者：平常点 60%、レポート等 40%。

4 年次履修者：卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されません。

【学生の意見等からの気づき】

中国の文化・社会・歴史等に関する知識をより詳しく紹介します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire understanding of Chinese literature/culture/society. At the end of the course, students are expected to have their own perspective of Chinese culture and community. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end report 40%, in class contribution 60%.

ECN218CA
演習
中谷 安男
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップについて英語のテキストとディスカッションを通して深く学ぶ。グローバルマーケティングに関する知識を深め積極的に新たな事業提案に取り組む

【到達目標】

・英語力向上 TOEIC 2 年 730 点 (B レベル) 3 年 860 (A レベル)

・国際ビジネスに関する書物の多読を通してクリティカル・シンキング能力を向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

クラス・ディスカッション
プレゼンテーション
フィールドワーク

4 年生は定期的に卒論の中間発表を行い評価する。

卒論提出前に複数回のフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1	プレゼン 1 クラス討議 1
2	演習 2	プレゼン 2 クラス討議 2
3	演習 3	プレゼン 3 クラス討議 3
4	演習 4	プレゼン 4 クラス討議 4
5	演習 5	プレゼン 5 クラス討議 5
6	演習 6	プレゼン 6 クラス討議 6
7	演習 7	プレゼン 7 クラス討議 7
8	演習 8	プレゼン 8 クラス討議 8
9	演習 9	プレゼン 9 クラス討議 9
10	演習 10	プレゼン 10 クラス討議 10
11	演習 11	プレゼン 11 クラス討議 11
12	演習 12	プレゼン 12 クラス討議 12
13	演習 13	プレゼン 13 クラス討議 13
14	演習 14	プレゼン 14 クラス討議 14
15	演習 15	プレゼン クラス討議 15
16	演習 16	プレゼン クラス討議 16

17	演習 17	プレゼン クラス討議 17
18	演習 18	プレゼン クラス討議 18
19	演習 19	プレゼン クラス討議 19
20	演習 20	プレゼン クラス討議 20
21	演習 21	プレゼン クラス討議 21
22	演習 22	プレゼン クラス討議 22
23	演習 23	プレゼン クラス討議 23
24	演習 24	プレゼン クラス討議 24
25	演習 25	プレゼン クラス討議 25
26	演習 26	プレゼン クラス討議 26
27	演習 27	プレゼン クラス討議 27
28	演習 28	プレゼン クラス討議 28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Market Leader Extra (3E) Intermediate: Course book.
Pearson Education ESL・『英語教育学の実証的研究法入門』寺内正典&中谷安男 研究社
・4 年『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男 中央経済社

・『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【参考書】

『国際ビジネスコミュニケーション』丸善書店

Intelligent Business: Coursebook、By Johnson, C. Pearson
Longman

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %

平常点 20 %

論文 40 %

研究発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

より討議を増やす

【学生が準備すべき機器他】

PC DVD

【Outline (in English)】

We learn effective business communication for leaders and
global marketing.

ECN218CA
演習
侃 彬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論やエビデンスを英文テキストでしっかり理解し、また経済データソースも使った実証研究を行えるようにする。グループワークで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養う。

【到達目標】

国際経済学の資料を英語で読むことが出来る。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。さらに、自らデータを用いて検証出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者によるテキストの輪読、及び教員による解説、演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	演習 1：イントロ	演習の目的、各種割り当て（プレゼンの順番など）
2	演習 2	1: Introductory Trade Issues:
3	演習 3	2: The Ricardian Theory of Comparative Advantage
4	演習 4	3: The Heckscher-Ohlin (Factor Proportions) Model
5	演習 5	4: Economies of Scale and International Trade
6	演習 6	5: Trade Policy Effects with Perfectly Competitive Markets
7	演習 7	6: Trade Policies with Market Imperfections and Distortions
8	演習 8	7: Political Economy and International Trade
9	演習 9	8: Free Trade Agreement
10	演習 10	9: Introductory Finance Issues
11	演習 11	10: National Income and the Balance of Payments Accounts
12	演習 12	11: The Whole Truth about Trade Imbalances
13	演習 13	12: Interest Rate Parity
14	演習 14	13: Exchange Rate Regime
15	演習 15	データ分析 12 のレッスンに関する紹介
16	演習 16	第 1 章 データから仮説を探る
17	演習 17	第 2 章 データに親しむ
18	演習 18	第 3 章 データを見る
19	演習 19	第 4 章 データを加工する
20	演習 20	第 5 章 関係性を読み解く
21	演習 21	第 6 章 1 つの原因で結果にせまる:単回帰分析
22	演習 22	第 7 章 複数の原因で結果にせまる:重回帰分析
23	演習 23	第 8 章 ダミー変数を使いこなす
24	演習 24	第 9 章 パネルデータに親しむ

25	演習 25	第 10 章 個票データに親しむ
26	演習 26	第 11 章 個票データで回帰分析する
27	演習 27	第 12 章 質的な結果を回帰分析する
28	演習 28	最終締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおくこと。また、テキスト以外の資料も各自で図書館等で取得しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Krugman, Melitz, and Obstfeld, *International Economics* ; 柏木 吉基著『「それ、根拠あるの？」と言わせないデータ・統計分析ができる本』日本実業出版社；畑農鋭矢, 水落正明著「データ分析をマスターする 12 のレッスン」有斐閣アルマ Basic 星野匡郎, 田中久稔著「R による実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

【参考書】

教科書以外、発表内容に関連するプリントを配ります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、発言、輪読報告、グループプレゼン、また、合宿への参加で総合的に評価します。三年生のみには卒論を書くためのレポートを作成してもらいます。具体的に：

(1) 授業での発言、積極さ 30%

(2) プレゼン 40%

(3) レポート 30%

また、四年生に関して、履修するには卒論の提出が義務付けられています。卒論の執筆は個別指導を行いますが、最終成績は提出論文の質に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

The object is to understand the theory and evidence in international economics. Using data analysis as well as group discussion, the students are expected to extract information from real data and cultivate the habit of thinking like an economist.

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

POL200EB, POL200EC

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホブズ、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学んでいく。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたリアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第 2 回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
第 3 回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
第 4 回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
第 5 回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
第 6 回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
第 7 回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
第 8 回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
第 9 回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
第 10 回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
第 11 回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
第 12 回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
第 13 回	日本の農業政策	農業政策と農業構造問題
第 14 回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておくことが望ましい。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第 6 版]』日本評論社、2020 年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』東洋経済新報社、2019 年。
3. 宮崎勇、本庄真、田谷禎三『日本経済図説 (第 5 版)』岩波新書、2021 年。
4. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた受講生の意見を講義に反映させていく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy. The goals of this course are to understand Japan's economic structure. Grading will be decided based on Term-end report(70%), in class contribution(30%).

LAW200EB, LAW200ED

憲法**天本 哲史**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、個人の基本的な人権や国の統治の仕組みを中心に、憲法の基礎を学ぶことを目的とします。この授業では、日本国憲法の条文解説だけではなく、現代社会の具体的な憲法の論点も扱います。

【到達目標】

- ・ 憲法の基礎的な知識を身につける。
- ・ 基本的人権の統治機構を理解し、それを説明できる。
- ・ 憲法の知識を基礎にして、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明します。
第 2 回	憲法とは何か・憲法の歴史	憲法の意義と憲法の歴史を解説します。
第 3 回	国民主権	国民主権と象徴天皇制等を解説します。
第 4 回	平和主義	戦争放棄と自衛権等を解説します。
第 5 回	人権とその限界	人権の意義と人権の限界を解説します。
第 6 回	幸福追求権・法の下の平等	幸福追求権（新しい人権を含む）と平等の意味を解説します。
第 7 回	自由権	自由権を解説します。
第 8 回	社会権	社会権を解説します。
第 9 回	参政権・国務請求権	参政権・国務請求権を解説します。
第 10 回	国民の義務・三権分立	国民の義務を解説します。三権分立の意義を解説します。
第 11 回	国会・憲法改正	国会（立法権）を解説します。憲法改正を解説します。
第 12 回	内閣	内閣（行政権）を解説します。
第 13 回	裁判所	裁判所（司法権）を解説します。
第 14 回	財政・地方自治・まとめ	財政と地方自治を解説します。授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

Students will learn the basics of the Constitution, focusing on basic human rights and governance mechanisms.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of the Constitution.
- ・ Students can understand and explain the basic human rights and the separation of powers.
- ・ Students can consider social issues based on their knowledge of the Constitution.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

LAW200EB

民法（総則）

松田 佳久

サブタイトル：民法（入門）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する。内容は次のとおりである。売買契約の有効な成立、債務不履行、契約解除、代理、所有権の移転など。私たちの生活に欠くことのできない知識をこの講義で得ることができ、そのような知識を得ることを目的としている。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

Webex でオンタイムで授業を行います。授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、Webex でオンタイムの授業に臨んでください。Webex でオンタイムの授業は、授業支援システムの「教材」に URL を UP しておきますので、そこから入ってください。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立 1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立 2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立 3	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立 4	代理
6	売買契約の有効な成立 5	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務 1	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務 2	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務 3	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務 4	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務 5	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務 6	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転 1	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転 2	動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
- 視聴後に各自で内容を復習すること
- 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が 100 %。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には 1 4 回の Webex でオンタイムでの授業をきちんと受けることが必要です。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、Webex でオンタイム授業に臨むためのパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。

○授業視聴には小六法を必ず準備すること。

○民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law. The contents are as follows. Effective establishment of sales contract, default, contract cancellation, agency, transfer of ownership, etc. The knowledge that is indispensable to our lives can be obtained in this lecture, and the purpose is to obtain such knowledge.

LAW200EB

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する。この講義の内容は次のとおりである。売買契約における所有権移転、債権の回収と債権の確保、連帯債務、保証債務、抵当権、賃貸借契約など。この講義では私たちが社会生活を送るうえで欠くことのできない知識を得ることができる。そしてこの講義はそのような知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生じるさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

Webex でオンタイムで授業を行います。授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、Webex でのオンタイムの授業に臨んでください。Webex でのオンタイムの授業は、授業支援システムの「教材」に URL を UP しておきますので、そこから入ってください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているのもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の賃貸借契約 1 物の賃貸借契約 2	総説、賃貸借契約（基本的な法律関係） 賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了）
9	物の賃貸借契約 3	借地借家法（借地関係、借家関係）
10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	総説、事務管理
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
15	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2020 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって 100 % 評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているのもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には 1 4 回の Webex でのオンタイム授業を受ける必要があります。わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、Webex でのオンタイムでの授業を受講できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているのもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property".he contents of this lecture are as follows. Transfer of ownership in sales contracts, collection of receivables and securing of receivables, joint debt, guarantee debt, mortgages, lease contracts, etc. This lecture will give us the knowledge that is indispensable for living a social life. And this lecture aims to acquire such knowledge.

ECN200EB, ECN200ED

ミクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：ミクロ経済学Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
- (2) 一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。
- (3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

- (1) 身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。
- (2) ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。
- (3) 数値計算によって効用最大化問題が解ける。
- (4) 一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

2022 年度もオンライン授業実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想法を紹介します。（機会費用、比較優位など。）
2	経済学に必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。課題①の出題
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。課題②の出題
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。課題③の出題
5	家計の行動（3）	効用について図解します。課題④の出題
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。課題⑤の出題
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。課題⑥の出題
8	所得効果	所得効果について図解します。課題⑦の出題
9	価格効果	価格効果について図解します。課題⑧の出題
10	効率性と公平性	一般均衡理論の基づいて効率性と公平性に関する議論をします。課題⑨の出題

11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。課題⑩の出題
12	純粋交換経済（1）	純粋交換経済について説明します。課題⑪の出題
13	純粋交換経済（2）	純粋交換経済について図解します。課題⑫の出題
14	純粋交換経済（3）	純粋交換経済で、厚生経済学の定理を確認します。課題⑬の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありません。毎回、課題を出題するので復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

宮澤 和俊、焼田 党 [2019]「財政学（ライブラリ今日の経済学 12）」新世社 ￥2,750

【成績評価の方法と基準】

対面による学期末試験（80 %）および、13 回の課題（20 %）で評価します。それ以外では一切評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) the theory of consumer behavior.

ECN200EB, ECN200ED

マクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：マクロ経済学Ⅰ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、マクロ経済学上の問題について概観することです。とくに、国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また、財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45 度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM 分析を用いて、財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS 分析を用いて、失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半では、とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半、財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線と総供給曲線を用いた分析を行います。

2022 年度はオンライン授業実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想を紹介しします。
2	GDP	GDP について解説します。 課題①の出題
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。 課題②の出題
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。 課題③の出題
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。 課題④の出題
6	財市場の分析— IS 曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示す IS 曲線を導出します。 課題⑤の出題

7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ、利子率の決定を解説します。 課題⑥の出題
8	貨幣市場の分析— LM 曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示す LM 曲線を導出します。 課題⑦の出題
9	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利子率を導出します。 課題⑧の出題
10	IS-LM 分析と財政・金融政策（1）	財政政策の効果について IS-LM 曲線を用いて図解します。 課題⑨の出題
11	IS-LM 分析と財政・金融政策（2）	金融政策の効果について IS-LM 曲線を用いて図解します。 課題⑩の出題
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。 課題⑪の出題
13	物価水準の決定— 総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれる AD 曲線を定義した後、導出します。 課題⑫の出題
14	物価水準の決定— 総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれる AS 曲線を定義した後、導出します。 課題⑬の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありません。毎回課題を出題するので、復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面による学期末試験（80 %）と 13 回の課題（20 %）のみで評価します。それ以外では一切評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

SOS200EB, SOS200EC

組織論

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	組織とは何か	組織の定義
第 2 回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第 3 回	組織デザイン①	分業と調整
第 4 回	組織デザイン②	組織構造
第 5 回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第 6 回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第 7 回	公共組織論①	公共組織の特徴と管理
第 8 回	公共組織論②	公共組織の事例研究
第 9 回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第 10 回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第 11 回	資源依存理論	依存とパワー
第 12 回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第 13 回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第 14 回	新制度派組織論	同型化、正当性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the fundamentals of organizational theory. The course is mainly composed of the followings:
1)Organization design
2)Management of organizations
3)Organizations in external environments

ECN300EB

財政学 I

古市 将人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財政学入門の入門	財政学とはどんな学問か。
第 2 回	公的部門の役割	財政の 3 機能論
第 3 回	外部性と政府活動	外部性の意義とその射程
第 4 回	公的部門とメリット財	メリット財、準公共財
第 5 回	経費論と財政民主主義	予算制度、経費膨張論
第 6 回	予算制度と予算編成論	予算編成過程
第 7 回	公共事業と財政投融资	公共事業、財政投融资
第 8 回	2000 年代の予算編成過程	予算と決算の違い
第 9 回	財政政策入門の入門	国民経済計算、GDP
第 10 回	経済成長と再分配	経済成長率、再分配
第 11 回	財政政策と公債原則	公債原則
第 12 回	社会保障制度論	セーフティネット、生活保護制度
第 13 回	社会保障制度とその役割	普遍主義、選別主義
第 14 回	雇用セーフティネット	雇用保険、求職者支援制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を 2 時間程度復習すること。履修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次回の論点を事前に 2 時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第 3 版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30 %）とテスト（70 %）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the basic theory of public finance.
- Explain the description of fiscal policy.
- Describe the history of Japanese public finance.
- Understand the role of the public sector in the economy.

Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

ECN300EB

財政学Ⅱ

古市 将人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や国家財政と地方財政の制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財政学と地方財政	財政学、地方財政論
第 2 回	再分配政策	社会的余剰、リスクシェアリング
第 3 回	格差の計測方法	ジニ係数
第 4 回	教育財政	外部性、教育財政
第 5 回	教育財政の理論と制度	財政移転、垂直的不均衡
第 6 回	地方財政論入門	地方自治、自治体決算
第 7 回	地方財政の理論と制度	地方交付税
第 8 回	租税論入門	超過累進課税
第 9 回	所得課税論	比例税、超過負担
第 10 回	消費課税論	一般消費税、消費税負担
第 11 回	公的年金制度論	賦課方式、不確実性
第 12 回	日本の公的年金制度	基礎年金、マクロ経済スライド
第 13 回	医療保険・介護保険入門	再分配、情報の不確実性
第 14 回	財政制度の評価	財政民主主義、潜在能力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を 2 時間程度復習すること。履修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次の論点を事前に 2 時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第 3 版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30 %）とテスト（70 %）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the role of redistributive policy.
- Explain the basic theory of taxation.
- Describe the history of Japanese public finance.
- Understand the role of the social security system in Japan.

Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

POL300EB

行政学

谷本 有美子

サブタイトル：政策過程論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ちと行政学の展開	政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説した上で、その学問領域としての行政学の展開について概説する（テキスト第 2-3 章参照）
第 3 回	現代の政府体系	政府概念や政府体系の構造等、現代行政の枠組みを形成する基本的なしくみ・制度について概説する（テキスト第 4 章参照）

第 4 回	日本の内閣制度と国地方関係	日本の内閣制度と国地方関係について、行政改革や分権改革の動向を交えながら詳説する（テキスト第 5 章参照）
第 5 回	行政組織と行政管理	日本の行政組織とそのシステムについて概説した上で、1990 年代以降の行政改革の影響について検討する（テキスト第 8 章参照）
第 6 回	公務員制度と人事行政	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事行政のしくみについて詳説する（テキスト第 9 章参照）
第 7 回	行政活動と政策	行政活動のプログラムである政策の構造や政策体系に加え、その形成過程や理論モデルについて詳説する（テキスト第 11 章参照）
第 8 回	政策作成と決定	行政による政策案作成から政府案としての決定に至るプロセスを俯瞰した上で、予算案・法律案の調整過程を検討する（テキスト第 8 章及び第 12 章参照）
第 9 回	政策の執行	政策執行の基準や、実施体制・手法について実践的に検討する（テキスト第 13 章参照）
第 10 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 11 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説した上で、フィードバックの実際を検討する（テキスト第 14 章参照）
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見	行政課題と社会課題とのつながりについて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・2022 年度政府予算の重点政策を調べる
 ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

森田朗（2022）『新版 現代の行政〔第 2 版〕』（第一法規）

【参考書】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）
 今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブックス基礎行政学』（北樹出版）
 金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）
 西尾勝『行政の活動』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末のレポート試験（60 %）と小レポートの提出状況等（40 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【Outline (in English)】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To understand the basic system, mechanism, and nature of public administration

-B. To examine the policy making process in public administration and the connection with politics

-C. To acquire the ability to think practically about the problems of modern administration from the standpoint of a sovereign.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Students will be expected to check the priority policies of the 2022 government budget and after class collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class. In addition, read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following Term-end report (60%), short reports (40%).

LAW300EB

行政法Ⅰ

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、このような行政活動に対する法的規律等を学習します。この授業を学習の前半とし、後半は「行政法Ⅱ」で学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方を説明します。行政と行政法の概念を解説します。
第 2 回	行政と行政法	行政法の法源とその種類を解説します。
第 3 回	行政法の法源	行政法の法源とその種類を解説します。
第 4 回	法律による行政の原理	法律による行政の原理を解説します。
第 5 回	行政組織	行政主体と行政組織を解説します。
第 6 回	行政立法	行政立法の意義と法的統制を解説します。
第 7 回	行政行為①	行政行為の意義を解説します。
第 8 回	行政行為②	行政裁量と附款を解説します。
第 9 回	行政行為③	行政行為の瑕疵を解説します。
第 10 回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査を解説します。
第 11 回	行政上の制裁	行政罰、その他の制裁を解説します。
第 12 回	行政指導①	行政指導の意義を解説します。
第 13 回	行政指導②	行政指導の法的統制を解説します。
第 14 回	行政計画	行政計画の意義と法的統制を解説します。
第 15 回	行政契約	行政契約の意義と法的統制を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（有斐閣、第 7 版、2020）、宇賀克也他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第 7 版、2017）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. Students will learn the basic theory of administrative law. This class is the first half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

LAW300EB

行政法Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「行政法Ⅰ」の延長線上に位置し、行政活動をどのような手段（手続）で行うのか、私人は行政活動からどのように救われるのかを学習します。また、行政法の法理論をより深く理解する上で学ぶべき行政情報管理や公務員等に関連する法分野も併せて広く学習します。

【到達目標】

- ・行政活動の行政過程と司法的救済を理解する。
- ・行政活動からの救済とその複合的な組み合わせを理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 行政手続法①	この授業の進め方の説明をします。行政手続の意義を解説します。
第 2 回	行政手続法②	行政手続法を解説します。
第 3 回	行政不服審査法①	行政不服申立ての意義を解説します。
第 4 回	行政不服審査法②	行政不服審査法を解説します。
第 5 回	行政事件訴訟法①	行政事件訴訟の意義を解説します。
第 6 回	行政事件訴訟法②	抗告訴訟と仮の権利救済を解説します。
第 7 回	行政事件訴訟法③	当事者訴訟等と客観訴訟を解説します。
第 8 回	国家補償法	国家賠償法と損失補償を解説します。
第 9 回	情報公開法	情報公開法を解説します。
第 10 回	個人情報保護法	行政機関の個人情報保護法を解説します。
第 11 回	公文書管理法	公文書管理法を解説します。
第 12 回	公務員法と公物法	公務員法と公物法を解説します。
第 13 回	地方自治法①	地方自治の本旨の意義を解説します。
第 14 回	地方自治法②	執行機関と地方議会を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり宇賀克也『行政法概説Ⅱ』（有斐閣、第 7 版、2021）、宇賀克也他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第 7 版、2017）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. Students will learn the basic theory of administrative law. This class is the second half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

LAW300EB

政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（「学問を実際に使う」）ことを目指します。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討を試みます。

皆さんからの質問やコメントなどに次の授業で答える予定です。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「政策か、制度か」	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第 2 回	政策の決定方法（1） 「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第 3 回	政策の決定方法（2） 「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第 4 回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第 5 回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第 6 回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach
第 7 回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）（、中間試験）
第 8 回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミゼーション戦略、限定合理性、ヒューリスティック

第 9 回	政策実現の手法（1） 「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第 10 回	政策実現の手法（2） 「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第 11 回	政策実現の手法（3） 「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第 12 回	政策・制度の担い手 「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第 13 回	政策・制度と市場 「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第 14 回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ（、期末試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

執筆中のテキストを教科書として指定する予定です。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40 %）および期末試験（60 %）の予定です。（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討します。）

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当します。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOS300EB

人的資源論

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源論の歴史的背景を踏まえた上で、企業がいかに関人を活用し価値を創造しようとしているのかについて、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から、人的資源論の基本的知識と実践を学ぶ。

【到達目標】

人的資源管理論の歴史的背景を理解し、基本的知識を身に付ける。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造的・組織的背景への理解を深め、社会的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	人事管理・人的資源管理発展史1	科学的管理と人事管理
第3回	人事管理・人的資源管理発展史2	人間関係管理
第4回	人事管理・人的資源管理発展史3	行動科学的管理
第5回	人事管理・人的資源管理発展史4	人的資源管理
第6回	人事管理・人的資源管理発展史5	戦略的人的資源管理
第7回	人事管理・人的資源管理の主要理論	主要理論を概観する
第8回	ジェンダーダイバーシティ	ジェンダー・ダイバーシティ論とその背景、企業における女性の働き方について考察する
第9回	人的資源管理の組織と制度1	人的資源管理をめぐるさまざまな概念について理解する
第10回	人的資源管理の組織と制度2	日本における人的資源管理の歴史と労働市場の変容
第11回	人的資源管理の組織と制度3	制度・キャリア・報酬
第12回	人的資源管理の組織と制度4	人的資源管理と国際化
第13回	管理とは何か	人的資源管理論をめぐる労働者観・人間観について
第14回	まとめ	授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にレジュメや参考書に目を通しておく、復習では、配布資料やノートを整理しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや配布資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

岡田行正（2008）『新版 アメリカ人事管理・人的資源管理史』同文館出版、3200 円

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著（2018）『価値創発（EVP）時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房、2800 円

その他、授業内で適宜参照する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

進行によって若干の内容変更の可能性はある。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory while taking account of the historical background of the development of the theories.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

MAN200EB

社会・イノベーション論Ⅰ

糸久 正人

サブタイトル：産業と企業の理論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅰでは、1) イノベーションが実現される基本的前提としての社会の仕組、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組を理解する
・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組としての分業と協業
第 3 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 4 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 5 回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性
第 6 回	両利き経営の難しさ	企業活動としてオペレーションとイノベーションの必要性和難しさ
第 7 回	制約理論：流れづくりのマネジメント	流れづくりを効率的に行うためのボトルネックの考え方とその解消方法
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	標準化戦略Ⅰ	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：競争ベースの標準化
第 11 回	標準化戦略Ⅱ	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：コンセンサスベースの標準化
第 12 回	プラットフォーム戦略と独占問題	あるレイヤーでプラットフォームになるための戦略、および GAFA 問題
第 13 回	ゲスト講師	ゲスト講師を招き、特定のトピックに関する理解を深める

第 14 回 小括

前期の小括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論Ⅱを併せて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the first semester, we focus on 1) social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2) innovation activities of firms.

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

サブタイトル：産業と企業の理論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅱでは、1) 政策とイノベーション、2) イノベーションの実践、3) 新たな技術と社会的価値について学びます。

【到達目標】

- ・政策とイノベーションの関係について理解する
- ・イノベーションを実践するための基本的知識を理解する
- ・新たな技術と社会的価値について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	規制とイノベーション	政府の規制とイノベーションの関係について理論と現実の両側から理解する
第 2 回	イノベーションと知的財産	イノベーションと知的財産の保護およびオープン化
第 3 回	欧州を中心としたイノベーション政策	欧州を中心とした汎国家的なイノベーション政策
第 4 回	ソーシャルイノベーション	社会課題をビジネスの枠組で解決するソーシャルイノベーション
第 5 回	デザイン思考とイノベーション	イノベーション活動におけるデザインの意味と重要性
第 6 回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費活動の実態
第 7 回	人工知能とその応用	人工知能およびロボットと人間社会の関係、自動車産業における Connected, Autonomous, Shared, Electric をベースとしたサービス化などについて考える
第 8 回	競争力の概念と構成要素	表の競争力、裏の競争力といった多面的な競争の概念と、QCDF などの構成要素
第 9 回	品質管理とコスト管理	QCDF のうちの Q と C、すなわち正確性のための品質管理と効率性のためのコスト管理
第 10 回	生産計画とフレキシビリティ	QCDF のうちの D と F、すなわち生産計画にもとづく納期管理とフレキシビリティの追求
第 11 回	生産システムの歴史	フォード方式から TPS、インダストリー 4.0 までの生産システムの歴史
第 12 回	アーキテクチャ論と国際競争	アーキテクチャ（設計思想）からみるものづくり論と国際競争

第 13 回 製品開発マネジメント 製品開発を効率的に行うためのマネジメント

第 14 回 総括 社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目をつけることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

前期の社会・イノベーション論Ⅰを受講していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the second semester, we focus on 1)policy and innovation, 2)practice of innovation, and 3) new technologies and social values.

MAN200EB

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では、資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、1) 中小企業とは何か？ 2) 中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？ 3) 中小企業の一形態であるベンチャー企業とは何か？ というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。また、多摩地域の中小企業経営者をゲストに招き、現場の活きた知識の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主にパワーポイントを活用した講義形式で行います。ゲスト講師の回にはリアクションペーパーの提出を求められます。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第 2 回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第 3 回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第 4 回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第 5 回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第 6 回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第 7 回	中小企業のケース（1）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 8 回	中小企業のケース（2）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 9 回	中小企業のケース（3）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 10 回	中小企業のケース（4）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 11 回	中小企業のケース（5）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 12 回	中小企業のケース（6）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 13 回	中小企業政策	中小企業政策を概観し、中小企業の活性化について考える
第 14 回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of the Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is “Problem driven,” which claims that SMEs have difficulties growing due to limited resources. The other is 2) “Contribution driven,” which claims SMEs’ potentiality and advantages because of its flexibility. This course deals with general theories on SMEs, considering these two different arguments. We discuss the following subjects; 1) What is a small business? 2) Why do SMEs have problems and potentiality/advantages? 3) What is a venture business? Additionally, we invite guest lecturers from SMEs in the Tama area to acquire a comprehensive understanding of SMEs.

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

サブタイトル：地域産業論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：ベルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と事例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩地モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、次回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榎原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭 (著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社

中村剛治郎編 (2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題評価による平常点 70 点、レポート 30 点

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

ECN300EB

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

サブタイトル：特講（地域と産業）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきか考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるということとは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデーターのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアン の明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉 (著)『稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった 10 の鉄則』NHK 出版新書
 木下 斉 (著)『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房
 富山 和彦 (著)『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書田村正紀 (著)『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房
 アナリー・サクセニアン (著)、本山 康之 (監修、監修)、星野 岳穂 (監修、監修)、酒井 泰介 (翻訳)『最新・経済地理学』
 アナリー・サクセニアン (著)、山形 浩生 (翻訳)、柏木 亮二 (翻訳)『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回アクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。そして、産業・労働を取り巻く状況を社会動態として捉え、人々の意識や相互関係に着目する社会学の枠組みについて理解し、これまで社会学が「働くこと」をめぐっていかに考察してきたのかを理解するとともに、今日のグローバル化の影響について検討する。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	産業社会学とはどのような学問か	産業社会学、労働社会学、労働経済学、人的資源論など多様な学問領域の特徴を理解し、産業社会学の方法について学ぶ
第 3 回	経済と社会をめぐる社会学的研究の系譜	社会学における古典理論（デュルケム、ウェーバーなど）、社会関係資本、社会的紐帯などを含む経済社会学の基礎概念について学ぶ
第 4 回	産業化と社会変動	そもそも産業とは何なのか？ 分業、工業化、脱工業化に伴う技術・組織・社会関係・地域社会の変動などについて考察する
第 5 回	職場組織と人間関係	ホーソン実験など職場の人間関係論をめぐる議論を学び、欲求充足、モラル、感情労働などについて理解する
第 6 回	技術革新と労働	テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなどの議論から技術革新と労働・管理の変容を考える
第 7 回	労働者意識とイデオロギー	技術や官僚制化をめぐる労働の疎外と人間化、帰属意識、仕事のやりがいや価値観など、労働の主体性について考える

第 8 回	労資関係と労使関係	働くことを取り巻く利害関係や制度としての労資関係/労使関係について、その重層性を理解する
第 9 回	労働組合と労働運動	労働組合の類型と機能、および日本の労働組合の特徴を理解し、今日的な労働組合運動のあり方について考える
第 10 回	日本の産業社会学（1）	日本の産業社会学の系譜から、生活共同体としての労働社会、経営家族主義、産業化と日本の特質などを理解する
第 11 回	日本の産業社会学（2）	いわゆる日本型雇用システムの特徴を理解し、その変容と多様な働き方について考える
第 12 回	グローバル化と労働（1）	新国際分業や多国籍企業、経済産業再編成とサービス化、資本と労働の移動の相互関係などについて学ぶ
第 13 回	グローバル化と労働（2）	アジアおよび日本における移民労働者と労働の変容について考察する
第 14 回	まとめ	授業のまとめと期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。グローバル化や社会格差の拡大、雇用の流動化、労働をめぐる不安定性やリスクの拡大など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

現代の産業社会が直面する、産業と労働に関わる諸問題について、その背景と実態を理解し、問題解決のためにどのような対策・制度政策が求められているのかについて考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	産業社会と雇用
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	雇用を問い直す3	オルタナティブな働き方について考える
第5回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働時間について2	長時間労働・過労死問題について考える
第7回	労働環境について1	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第8回	労働環境について2	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第9回	労働環境について3	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第10回	グローバル化について1	日本の外国人技能実習制度を考える
第11回	グローバル化について2	日本の外国人技能実習制度を考える
第12回	グローバル化について3	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第13回	グローバル化について4	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. It deals with various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy.

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営と CSR	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theories of international business
- 2) Basic frameworks of international business
- 3) Advantages/disadvantages of international business
- 4) Social responsibility of multinational companies

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。そこでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies in developed and emerging countries.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を前提として、経済政策のあり方について学びます。とくに（1）政府の市場への介入（2）景気安定化政策を取り上げて、経済政策のあり方について学びます。

【到達目標】

- （1）ミクロ経済政策の効果について、図を用いて説明することができる。
- （2）マクロ経済政策である財政政策と金融政策の効果の違いについて、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はミクロ経済学の観点から政策効果について分析を行います。後半はマクロ経済学の観点から財政政策・金融政策の効果の違いについて図解します。

必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、政府の役割	ガイダンスを行った後に、政府の役割について説明します。
2	ミクロ経済政策	市場の失敗を確認した後に、政府の介入について議論します。
3	公共財（1）	私的財と公共財の違いについて説明します。
4	公共財（2）	公共財について図解します。
5	情報の非対称性（1）	情報の非対称性について図解します。
6	情報の非対称性（2）	ゲーム理論との関連について説明します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	マクロ経済政策	マクロ経済政策について解説します。
9	45度線分析（1）	45度線分析を図解します。
10	45度線分析（2）	45度線分析における「望ましい状態」を定義した後、政策について解説します。
11	財政政策と金融政策（1）	IS-LM 分析の枠組みで財政政策を図解します。
12	財政政策と金融政策（2）	IS-LM 分析の枠組みで金融政策を図解します。
13	財政政策と金融政策（3）	AD-AS 分析の枠組みで財政政策を図解します。
14	財政政策と金融政策（4）	AD-AS 分析の枠組みで金融政策を図解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50 %, 期末試験 50 %, 両方受験すること。）で評価します。それ以外では一切評価しません。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to learn about economic policy based on the basic theories of both microeconomics and macroeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) government intervention in the market;
- (2) stabilization policy.

ECN200EB

金融システム論**八木 勲**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実践的な知識を身につける。

また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーデンス効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの利活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第 4 版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・ペイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100 %）。具体的な実施形態は後日授業内でお知らせする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

一部の授業回数で試験的に導入した事後確認用授業資料（虫食い版）が好評だったので対象範囲を広げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料を PDF で配布したり、時期によってはリアルタイムオンラインで授業を実施したりするので、それに対処できる情報関連機器が必要です。

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、数理的な説明が入ってくることもあります。

【Outline (in English)】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

The objective of this course is to obtain a basic framework of theories of domestic and international finance, knowledge of how the financial system works, and the latest technological trends applied to the financial system.

Before/after each class, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(100%).

SES200EB

環境経済学 I

島本 美保子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし、環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。環境問題の対象領域として森林資源や農産物を取り上げ、これらの持続可能性と貿易の関係について学習します。

【到達目標】

始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材＋小テストを用いて、各自の理解のスピードに応じた学習が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係 最低限の経済学知識① 市場経済とは。需要曲線
第 2 回	最低限の経済学知識②	供給曲線、余剰分析
第 3 回	最低限の経済学知識③	外部不経済効果、ビゲー税
第 4 回	環境と貿易＜事例 1＞	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
第 5 回	環境と貿易＜事例 1＞	なぜ貿易は推進されるのかを、平易な貿易理論で解き明かす
第 6 回	環境と貿易＜事例 1＞	林産物貿易と森林の持続可能性について実証的・理論的に解き明かす
第 7 回	環境と貿易＜事例 2＞	農産物貿易① 地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係
第 8 回	環境と貿易＜事例 2＞	農産物貿易② 農産物貿易と農村・アグリビジネスについて
第 9 回	環境と貿易＜事例 2＞	レントシーキングとグローバル企業（集合行為論、グローバル企業のロビイング）
第 10 回	環境と貿易理論編 1	生産段階で外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
第 11 回	環境と貿易理論編 2	貿易と持続可能性、分配
第 12 回	環境と貿易制度編 3	GATT/WTO と TPP
第 13 回	環境と貿易制度編 4	国境炭素税等

第14回 まとめ

持続可能性のための国際秩序について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、石油など鉱物資源の問題について幅広い知識を身につけておくこと。
本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】

主な参考文献は

島本美保子(2015)「熱帯林を中心とした国際的な森林保全」, pp.53-74, 亀山康子・馬奈木俊介編『シリーズ環境政策の新地平5 資源を未来につなぐ』第3章, 東京:岩波書店, 2015年9月8日。
島本美保子著(2010)『森林の持続可能性と国際貿易』, 岩波書店
田代洋一編著(2016)『TPPと農林業・国民生活』, 筑波書房, など

【成績評価の方法と基準】

70%期末試験、オンディマンド教材を学習した後の小テスト10点を3回の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していないのでなし。

【学生が準備すべき機器他】

オンディマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Under the theme of "environment and trade," which is one of the major issues in the macro field of environmental economics, we will foster the ability to analyze the relationship between environment and the economy. We will focus on forest resources and agricultural products as areas of environmental concern and learn about the relationship between their sustainability and trade.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire the ability to think economically and logically about the relationship between the environment and trade. It is important to learn more about the current state of the international system of environment and trade. Finally we will be able to provide a normative consideration of what sustainable resource management should be.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Three times of short quiz after learning on-demand materials : 10% each

SES300EB

環境経済学Ⅱ

島本 美保子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学びます。後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）それぞれの理論的背景や歴史について学習します。具体的な環境問題として気候変動やエネルギー選択を題材とします。

【到達目標】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学び経済と環境の両立について経済学的に論じることができるようになることを目標とします。

後半は環境の経済学的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、経済理論的な部分はオンディマンド教材＋小テストで、それぞれの学習速度に応じた学修ができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	気候変動問題とは
2	気候変動問題1	気候変動問題1
2	気候変動問題2	気候変動問題についての国際交渉 気候変動枠組条約、京都議定書
3	気候変動問題3	パリ協定などの動向、民間の動き、RE100、ESG投資
4	マクロ経済学の基礎1	国民経済計算
5	マクロ経済学の基礎2	消費関数、乗数効果
6	グリーンニューディール	先進国でのグリーンニューディールへの動き
7	気候変動問題3	日本で脱炭素化が停滞する背景－原発問題
8	気候変動問題4	日本で脱炭素化が停滞する理由（再エネ、発送電分離）
9	グループディスカッション	気候変動についてのグループ討論
10	ピグー税の理論	ピグー税理論の復習 環境税1
11	環境税2	環境税の経済学的な説明、直接規制との関係、導入事例など
12	排出量取引1	排出権取引の経済学的な説明
13	排出権取引2	発展過程、気候変動問題への適用状況を紹介
14	資金問題の決着	規範的法人税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動や廃棄物問題といった環境問題について幅広い知識を習得しておくこと。またマクロ経済情勢について新聞記事などを読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】

主な参考書は、
明日香壽著 (2021)『グリーン・ニューディール』、岩波新書。
平口良司・稲葉大著 (2020)『マクロ経済学入門の「一歩前」から応用まで』、有斐閣ストゥディア、など

【成績評価の方法と基準】

70 % 期末の試験、オンディマンド教材を視聴した後に行う小テスト 10% を 3 回の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していなかったためなし。

【学生が準備すべき機器他】

オンディマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

First, our aim of this course is to help students understand about the relationship between macroeconomics and the environment while focusing on the Green New Deal. Second, we will learn about the theoretical background and history of environmental tax and emission trading. Climate change and energy selection are the subjects of specific environmental issues.

【Learning Objectives】

In the first half, the goal is to learn about the relationship between the macro economy and the environment while focusing on the Green New Deal, and to be able to discuss the balance between the economy and the environment economically.

In the second half, the goal is to learn about the economic methods of the environment. First, we will learn about global warming issues from both the natural sciences and social sciences as materials for these methods. After that, we will be expected to understand the theory of environmental tax and emissions trading, which are economic means, and to be able to independently judge what kind of policy is appropriate to control global warming.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Three times of short quiz after learning on-demand materials : 10% each

SES200EB

環境政策論

馬場 健司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策とは、人間活動の帰結として発生する環境問題を解決するため、あるいは未然に回避するため、立案、決定、実施し、そして評価を行っていくものである。環境ガバナンスとは、政府や地方自治体、NGO など様々なアクターの相互作用により、社会が環境を管理する能力や仕組みを構築することを指す。本講義では、環境政策を理解する上で基本となるキー概念や日本の環境政策の歴史、主として地方自治体におけるいくつかの政策課題について、理論や枠組みとその事例により習得する。

【到達目標】

環境問題に関する専門的な知見を修得し、取り上げられた政策課題の特徴や構造について説明でき、さらに有効な政策について一定の提言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行う。授業内で提示する課題に対する小レポートの提出を 4 回程度求め、その内容について質疑応答する機会を設けて、全体に対してフィードバックを行う。一部に映像・ビデオを適宜上映する。進行状況により予定を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境政策論でのキーワード、キー概念について学習する。
第 2 回	環境政策の歴史	特に戦後からの日本の環境政策の変遷について学習する。
第 3 回	環境基本法・条例・計画	環境政策の根幹となる環境基本法、および地方における環境基本条例などについて学習する。
第 4 回	地方自治体における環境基本条例・計画の事例	全国各地の地方自治体における環境基本条例・環境基本計画の事例を取り上げて理解を深める。
第 5 回	自然共生型社会の構築に向けた諸施策	現在の環境政策の大きな課題の 1 つである自然共生型社会の構築について学習する。
第 6 回	循環型社会の構築に向けた諸施策	現在の環境政策の大きな課題の 1 つである循環型社会の構築について学習する。
第 7 回	環境リスクと環境影響評価	様々な環境リスクの未然防止手段としての環境影響評価（環境アセスメント）について学習する。
第 8 回	地方自治体における環境影響評価条例の事例	全国各地の地方自治体における環境影響評価条例等の事例を取り上げて理解を深める。
第 9 回	気候変動問題をめぐる国際的な動向	現在の環境政策の大きな課題の 1 つである気候変動問題について国際的な視点から学習する。
第 10 回	気候変動影響と適応策	現在の環境政策の大きな課題の 1 つである気候変動問題の適応策について学習する。

第 11 回	気候変動緩和 (カーボンニュートラル) 策	現在の環境政策の大きな課題の 1 つである気候変動問題の緩和 (カーボンニュートラル) 策について学習する。
第 12 回	地方自治体における気候変動政策の事例	全国各地の地方自治体における気候変動政策 (地球温暖化対策実行計画, 気候変動適応計画等) の事例を取り上げて理解を深める。
第 13 回	環境政策過程における各アクターの役割	環境政策過程において行政や企業、市民団体、その他ステークホルダーがどのように関与しているのか各アクターの役割について学習する。
第 14 回	環境問題の解決に向けて (まとめ)	環境政策論で学んだことを通じて、持続可能社会の構築に向けた環境問題の解決のあり方について総合的に学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

環境政策に広く関心を有していること。また、日頃からインターネット、新聞等で情報を収集しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とする。

【テキスト (教科書)】

資料配布は学習支援システム等を利用する。

【参考書】

- ・森島寿ほか『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014)
- ・倉坂秀史『環境政策論第 3 版』(信山社、2014)
- ・北村喜宣『自治体環境行政法第 7 版』(第一法規、2015)
- ・田中充『地域からはじまる エネルギー政策の実践』(ぎょうせい、2014)
- ・田中充・馬場健司編著『気候変動適応に向けた地域政策と社会実装』(技報堂出版、2021)

【成績評価の方法と基準】

- ・達成目標の評価基準として、小レポートを 60%、期末レポートを 40% のウェイトで最終成績を評価する。
- ・欠席の多い受講態度 (授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席) は、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する。
- ・授業方式 (対面またはオンライン) は学習支援システムにより周知する。
- ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・担当教員は、公益財団法人の研究所において地方自治体の環境政策やエネルギー政策、気候変動政策について調査、分析を担当した実務経験を持っており、得られた知見を初學者向けにアレンジして講義の中で活用している。

【馬場健司】

<専門領域>環境政策論、合意形成論

<研究テーマ>自治体環境政策過程、環境問題解決の社会的意思決定<主要研究業績>

・Tanaka, M. and Baba, K.,Eds., Resilient Policies in Asian Cities; Adaptation to Climate Change and Natural Disasters, Springer, 2019. ISBN:978-981-13-8598-8

・Baba, K. et al., Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation, Frontiers in Sustainable Cities, 3, 1-15, 2021.

・"IPCC AR5 WGII Ch.24" (contributing author, 2014)

以下のサイトも参考にされたい

https://researchmap.jp/Kenshi_Baba/?lang=japanese

【Outline (in English)】

Environmental policy is formulated, decided, implemented and evaluated to solve or prevent the problems arising as a consequence of humankind activities. Environmental governance means that a society develops an ability to manage the environments by interaction of multiple actors. The aim of this coursework is to acquire the basic framework to understand the policy generally and transition of environmental policy, and attain theory, framework and practice regarding specific policy issues in some local governments in Japan.

SES200EB

環境自治体論

馬場 健司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

再生可能エネルギーの導入に伴う生態系や景観、地域資源の配分トレードオフなど、地方自治体が地域社会で環境政策を実施していく上で様々な利害対立が起こる場合が少なからずある。このような環境コンフリクトの解決策を提案できるよう、交渉学をベースとした各種の合意形成手法等を理論と演習で学修する。

【到達目標】

地域社会における環境コンフリクトの構造について理解し、その有効な解決策や環境政策の実施方法、コミュニケーションのあり方について一定の提言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行う。資料を基にした講義とグループワーク (ロールプレイングゲーム等) を用いた演習を行う。フィードバックは演習後の振り返り等を通じて行う。一部に映像・ビデオを適宜上映する。進行状況により予定を変更する場合がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義・演習の進め方、環境コンフリクトの事例として再生可能エネルギー導入の立地問題について学習する。
第 2 回	交渉学の基礎 1	BATNA, ZOPA, 配分型交渉等の基礎的な概念について学習する。
第 3 回	交渉シミュレーション 1	2 者間単一イシューロールプレイングゲームの演習を行い、実施結果を振り返って学習する。
第 4 回	交渉学の基礎 2	win/win の落とし穴、1 対 1 から多者間交渉へ向けた基礎的な概念について学習する。
第 5 回	ファシリテーションの基礎	グループ・プロセスにおけるファシリテーションの役割について学習する。
第 6 回	ファシリテーションの演習	ファシリテーションの演習と振り返り
第 7 回	熟議型手法の基礎	熟議型手法として、討論型世論調査やコンセンサス会議などの手法について学習する。
第 8 回	熟議型手法の演習 (1)	生物多様性を題材とした討論型世論調査の擬似的な演習を行う。
第 9 回	熟議型手法の演習 (2)	生物多様性を題材とした討論型世論調査の擬似的な演習の結果をまとめて発表する。
第 10 回	ステークホルダー分析手法	気候変動適応等を題材としたステークホルダー分析手法について学習する。
第 11 回	交渉シミュレーション 2(1)	再生可能エネルギー導入の立地問題をめぐる合意形成のあり方について学習する。

第 12 回	交渉シミュレーション 2(2)	気候変動政策を題材とした 6 者間複数イシューロールプレイングゲームの準備を行う。
第 13 回	交渉シミュレーション 2(3)	気候変動政策を題材とした 6 者間複数イシューロールプレイングゲームの演習を行い、結果をまとめて発表する。
第 14 回	環境コンフリクトの解決における自治体の役割（まとめ）	環境自治体論で学んだことを通じて、環境コンフリクトの解決に向けた自治体の役割のあり方について総合的に学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境政策に広く関心を有していること。また、日頃からインターネット、新聞等で情報を収集しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

資料配布は学習支援システム等を利用する。

【参考書】

- ・松浦正浩『実践！交渉学』（筑摩書房、2010）
- ・フィッシャー&ユーリー（金井他訳）『ハーバード流交渉術』（三笠書房、1990）
- ・ローレンス・E・サスカインド他（城山他訳）『コンセンサス・ビルディング入門』（有斐閣、2008）

【成績評価の方法と基準】

- ・達成目標の評価基準として、小レポートを 60%、期末レポートを 40% のウェイトで最終成績を評価する。
- ・科目の性質上、すべての回に出席してグループワーク（ロールプレイングゲーム等）の演習を行うことが求められる。
- ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する。
- ・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムにより周知する。
- ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要となる。

【その他の重要事項】

・担当教員は、公益財団法人の研究所において地方自治体の環境政策やエネルギー政策、気候変動政策について調査、分析を担当した実務経験を持っており、得られた知見を初学者向けにアレンジして講義の中で活用している。

【馬場健司】

<専門領域>環境政策論、合意形成論
<研究テーマ>自治体環境政策過程、環境問題解決の社会的意思決定
<主要研究業績>

・Tanaka, M. and Baba, K.,Eds., Resilient Policies in Asian Cities; Adaptation to Climate Change and Natural Disasters, Springer, 2019. ISBN:978-981-13-8598-8

・Baba, K. et al., Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation, Frontiers in Sustainable Cities, 3, 1-15, 2021.

・"IPCC AR5 WGII Ch.24" (contributing author, 2014)

以下のサイトも参考にされたい

https://researchmap.jp/Kenshi_Baba/?lang=japanese

【Outline (in English)】

We sometimes experience the conflicts of interests in local community when the local governments implement environmental policies, for example, among renewable energy introduction and conservation of the other local environmental resources such as ecosystems and landscapes. The aim of this coursework is to acquire the capability of proposing problemsolving for the environmental disputes with consensus building methods by lecture and exercise.

EVN200EB

エネルギー論

鞠子 茂

サブタイトル：特講（エネルギー論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー関する基本的な知識とカーボンゼロ社会の実現可能性を講義する。

【到達目標】

エネルギーを通じて人間社会の成り立ち、エネルギーの利用技術、エネルギー社会のあり方について議論できる能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポと配布資料を使った講義。毎回課題を課し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・エネルギーとは何か	授業の概要や進め方について説明し、エネルギーとは何かについて講義する
2	生物学的エネルギー論	生物としての人間にとってエネルギーとは何かを論じる
3	人間文明におけるエネルギー利用の歴史	人類がエネルギー革命を繰り返しながら文明を築いてきた歴史を解説する
4	情報化社会の発展とエネルギー消費	情報化社会がエネルギー消費形態に与える影響について概説する
5	エネルギー構造における現状と課題	化石燃料依存社会の問題点と今後の課題について講義する
6	エネルギー問題の解決に向けたエネルギー転換	エネルギーシフトは資源枯渇と環境破壊に福音となるのかを論じる
7	原子力利用における光と影	原子力発電の歴史を紹介し、抱える諸問題について解説する
8	自然エネルギーのメリットと限界	太陽光・太陽熱・風力・水力・地熱を利用した発電について学ぶ
9	排熱を抑え廃熱を再利用する技術	排熱を抑えるエネルギー変換技術や廃熱の再利用技術を紹介する
10	グリーン社会の実現に向けたエネルギー政策	カーボンゼロ社会の構築に向けたグリーン成長戦略について解説する
11	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題について講義する
12	これからのエネルギー技術開発	エネルギー技術の開発の現状と方向性について解説する
13	社会システムの中のエネルギーとその選択	カーボンニュートラルを実現するための知恵を生炭素循環機能から学ぶ
14	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料等を使って標準で 4 時間の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔評価配分〕 期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn energy generating technologies, using fossil/nuclear fuels and renewable energy, and consider sustainable energy policy. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: final exam (70%) and in-class contribution (30%).

EVN200EB

気候変動論

縫村 崇行

サブタイトル：特講（気候変動論）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学の視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

通常の座学（LC）に加えて、グループワークやディベート（GW）を適宜とりいれます。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論します。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確な把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	気候変動の見方（LC・GW）
第 2 回	IPCC の現状認識	IPCC の紹介・考え方・認識（LC・GW）
第 3 回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介（LC・GW）
第 4 回	地球の構造	地球表層部に限定した一気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係（LC・GW）
第 5 回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係（LC・GW）
第 6 回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環（LC・GW）
第 7 回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類世の提案（LC・GW）
第 8 回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル（LC・GW）
第 9 回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨（LC・GW）
第 10 回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界（LC・GW）
第 11 回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論（LC・GW）
第 12 回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいて IPCC の指針と COP などの国際協調の動き（LC・GW）
第 13 回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」（LC・GW）
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業内容のふりかえりと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。

・問題発掘課題を事前に実施して授業内のディスカッションに備えること。
・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）、2018 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoom を視聴しながらノートテイクもできるネット・PC 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course provides clear, concise and up-to-date information for the fundamentals of climate change.

The goal of this course are to understand about climate change, focusing on particular interest to explain the climate change science, the international climate change legal and policy framework.

Students will be expected to be interested in recent climate change and related social problems. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LAW200EB

社会保障法Ⅰ

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。
学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）
事例を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういった医療を受けられるのか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40 %）および期末試験（60 %）の予定です。
（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。
学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）
事例を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか— —全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか— —サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40 %）および期末試験（60 %）の予定です。
（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論**中筋 直哉**

サブタイトル：市民運動論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の 1 つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答に学習支援システムを時間指定で使用する。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	現代世界における集合行動の意味
9	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
10	グローバルな市民運動 2	越境するアソシエーション
11	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
12	展開的講義 1	ジェンダーをめぐる社会問題
13	展開的講義 2	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のいくつかを読むことが必須。授業の中盤に A4×1 枚程度のリポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の定期試験が 55 %。授業参加についての総合的評価が 10 %。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりしていねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of contemporary social movements for making activity and social policy.

(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and Writing a report.

(Grading Criteria /Policy)Positivity to lecture 10%,Report:35%,Final Exam:55%.

ECN200EB

地方財政論

早崎 成都

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方財政論とはその名の通り、「地方」政府の財政を検討する研究分野である。本講義では地方財政を理解する上で極めて重要な、以下の二つのテーマを設定する。第一のテーマは、中央政府の財政と地方政府の財政の関係、いわゆる政府間財政関係であり、第二のテーマは地方政府の財政そのもの、とりわけ、地域住民の選好や活動を踏まえた予算の決定のあり方である。歴史的に、中央政府と地方政府は様々な問題をめぐって対立してきた。これらの政府間にどのような対立があり、その対立はどのように克服されてきたのか。地方自治は「民主主義の学校」と称されることもあるが、住民との距離が近い地方政府における財政をめぐる意思決定は、どのような問題を抱えてきたのか。受講者はこれらの問題群を日本と諸外国の経験を踏まえながら考察することとなる。

【到達目標】

この講義を通して、受講者は地方財政をめぐる諸問題について理論的・実証的に分析することが出来るようになる。そのことは住民として、会社員として、公務員として等どのような形で地方財政に関わる際に役立つであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、学生の質問は積極的に受け付ける。授業終了後に質問・感想ペーパーを提出してもらいが、それへのフィードバックを次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「地方」財政論とは
第 2 回	財政の目的と基本原則	財政の機能や税制についての原則
第 3 回	中央政府と地方政府の対立 (1)	中央政府と地方政府の課税権限をめぐる問題
第 4 回	中央政府と地方政府の対立 (2)	中央政府から地方政府への介入－支出・起債制限に着目して
第 5 回	政府間財政関係 (1)	諸概念の整理
第 6 回	政府間財政関係 (2)	財政再建と政府間財政調整
第 7 回	政府間財政関係 (3)	補助金による誘導とその問題点
第 8 回	地方分権は解決策か？	どのような分権のあり方が望ましいのか？
第 9 回	地方財政をめぐる政治 (1)	カリフォルニア州の納税者の反乱
第 10 回	地方財政をめぐる政治 (2)	共和党州政府のメディケイド拡大
第 11 回	地方財政をめぐる政治 (3)	革新自治体とその余波
第 12 回	地方財政の現代的課題 (1)	移民と地方財政
第 13 回	地方財政の現代的課題 (2)	コロナ禍の下での地方財政
第 14 回	本講義のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の理解の促進のため、文献課題を予習課題として課す。予習の際は、事前に配布する講義資料に目を通すとともに課題の文章を読んでき、復習については演習問題を講義資料の末尾に付すのでそれに取り組み、また授業内で理解できなかった点について資料等を注意深く読み、解決すること（わからなかった点については質問してくれればよい）。予習・復習時間は各 2 時間かけることを標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、毎度文献課題をアップロードする。課題文献のリストについては秋学期の授業の初回で資料として配布する。

【参考書】

下記の本は初学者向けに書かれた優れたものである。
沼尾波子ほか『地方財政を学ぶ』有斐閣、2017 年。
高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』、2020 年。
なお、より深く学習したい人向けには授業内でその都度文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%)、レポート (20%)、毎回の授業終了後に提出する質問・感想ペーパー (30%) の得点を合計し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により記載できません。

【Outline (in English)】

Local public finance, as the name suggests, is a field of study that discusses issues of local government tax and spending. This course sets the following two themes, which are central to understanding of local public finance. The first one is the relationship between a central government's budget and a local government's budget, so called "intergovernmental financial relations." The second one is how to determine a local government's budget given preference and activities of its residents. There have been many conflicts between central government and local governments over taxing and spending. What kind of conflicts are there and how have they resolved these conflicts? How is local government tax and spending policy determined in the political process? Students will investigate these questions by looking at Japan and other countries' historical experiences. Through this course, students will be able to analyze issues related to local public finance both theoretically and empirically. Perspectives you obtain in this course will help you analyze problems related to local public finance, be as a resident, employee, or a civil servant.

POL200EB

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の府県間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	地方自治制度の比較（欧米諸国と日本）	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治制	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960 年代以降の都市自治体为抓手けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する

第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第 9 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 10 回	21 世紀の中央地方関係と自治体の自律性	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実には自治体が直面している課題について考察する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 13 回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールを活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
 ・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

・大森彌／大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』（第一法規）
 ・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
 その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【Outline (in English)】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a “ Citizen ”, the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To acquire basic knowledge about the history, theory, and system of local autonomy

-B. To acquire an citizenship literacy that allows you to understand the recent movements of local government and make decisions based on your own consideration.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the situation of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are considered be related to the local governments.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%).The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

POL300EB

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がっており、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増しています。

この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける
- ・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体が担う行政と政策形成のしくみ ー総合計画を中心にー	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを越えた観点からの共通対応を検討する

第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 5 回	生活困窮者自立支援施策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 6 回	子ども・子育て支援政策と地域ニーズの反映	子ども子育て関連施策の運用事例を取り上げながら、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策の必要性を検討する
第 7 回	開かれる学校運営と多様な学びの保障	自治体において長が運営する総合教育会議が設置され、地域社会に開かれた学校運営が求められる現状を理解した上で、近年法制化された多様な学びの保障について、地域レベルでの展開可能性を考える
第 8 回	環境政策をめぐる多様なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持ったNPO等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第 9 回	公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策	高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第 10 回	都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第 11 回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第 12 回	外国人住民の生活課題と多文化共生のとりくみ	政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する

- 第 13 回 市民社会から提起される政策課題 地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対し NPO や住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
- 第 14 回 自治体が果たすべきこと 災害対応のように地域住民の命や生活を守るといふ行政活動の本質を捉えながら、自治体が何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

- ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
- ・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
- ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内の小レポート提出状況（20 %）を加味し、総合的に判断します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【Outline (in English)】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen’s participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer’s request.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire basic knowledge of mechanisms and systems related to the policy process of local governments.
- B. To acquire citizen literacy that can judge the role that local governments should play and the ideal way of public services from the viewpoint of financial resources and tax collection.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the policies of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%).The term-end exam may change to the report according to the university’s class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ZOOM を利用してオンライン授業で進める。

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コロン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円＋税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円＋税。
 ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。
 岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論

- トルコ—新自由主義・受講生報告と教員を交えた議論
親イスラーム政党・外交
- 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉
- イランのイスラーム統治体制の現状
- イラク「政治体制を巡る迷路」
- ヨルダン——紛争との共生
- 中東・イスラーム研究の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円＋税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円＋税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ECN200EB

国際経済論 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論 I では、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心に説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。秋学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

ボックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。
その中でアメリカが果たしてきた役割、また、現在のアメリカの地位についても理解することができる。また、EU の成立と発展、南北問題といわれるグローバル経済の不均衡について、相互関係の中で理解できる。
それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行いますが、感染状況によって、オンラインに切り替えます。オンラインの場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。
事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、毎回、講義後に小課題を提出します。次回の講義時に、その課題に対する講評や解説も行うことで復習をし、次の講義を始めるという形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済
2 回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴とアメリカの国際経済秩序への関わり
3 回	アメリカと国際経済秩序①	戦後構想とボックス・アメリカナのための基本的枠組み
4 回	アメリカと国際経済秩序②	ボックス・アメリカナの変容と変動相場体制
5 回	アメリカと国際経済秩序③	レーガノミックスからニュー・エコノミーへ
6 回	アメリカと国際経済秩序④	アメリカ経済の「再生」と新たなグローバル経済秩序
7 回	EU ①	EEC 成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
8 回	EU ②	92 年欧州統合と EU 停滞する欧州 マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
9 回	EU ③	EU の発展と動揺 加盟国の拡大 EU の発展と統合の深化 イギリスの離脱
10 回	南北問題①	植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD

11 回	南北問題②	NICs と累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題 新興市場諸国と南北問題の今 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
12 回	南北問題③	WTO 体制とグローバル経済 今日のグローバル経済
13 回	WTO 体制とグローバル経済	今日のグローバル経済
まとめ	今日のグローバル経済	今日のグローバル経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。
講義の後に、課題を提出するとともに、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間、合計で 4 時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021 年。
『現代国際金融論』（第 4 版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

授業後に提出する小課題	30 %
レポート	20 %
定期テスト	50 %

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムでのオンライン授業の場合、復習のために、録画もしてほしいということでしたので、昨年は録画も行って公開することにした。ただし、公開期間は限定することにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論 I、II を履修することが望ましい。
この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論 II を履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論 II を履修することが必要である。もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論Ⅱでは、国際経済論Ⅰの学習を踏まえたうえで、貿易と外国為替取引、国際投資、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることができる。
それを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式でします。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。
事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、毎回、講義後に小課題を提出します。次回の講義時に、その課題に対する講評や解説も行うことで復習をし、次の講義を始めるという形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2 回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の意味
3 回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOSモデルの紹介と説明
4 回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファークーブ
5 回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
6 回	外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
7 回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
8 回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
9 回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
10 回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
11 回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
12 回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機
13 回	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論とお現状
まとめ	今日のグローバル経済	グローバル経済の不均衡とその特徴について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。

講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。
『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された小課題、レポート、期末試験によって行います。

授業後に提出する小課題	30 %
レポート課題	20 %
定期テスト	50 %

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムのオンライン授業として昨年度は行った。復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにした。ただし、公開期間は限定して行った。今年度、オンラインの場合は、同様の措置をとることにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。
この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I**鈴木 智之**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基づいて、日々の社会的現実の成り立ちを社会的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不全感」の理由を言語化できるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「テキスト教材」によって講義を進める。
リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。
毎週、月曜日の昼までに、その週の「教材」を学習支援システムにアップするので、その日の内に確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎 (1)	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎 (2)	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎 (3)	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎 (4)	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル (1)	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル (2)	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル (3)	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル (4)	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序 (1)	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序 (2)	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序 (3)	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序 (4)	動機の語彙と「心の闇」
第14回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 「心の闇」と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の「レポート（論文試験）」のみを評価の対象とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。リモート環境であっても、相互作用秩序の形成を協働的に達成することが求められています。お互いに、この「場」を大事にして、日々の実践を積み重ねましょう。

【Outline (in English)】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze sociologically the interactional order in social life.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end report(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムから、毎週テキスト資料を配布する形で講義を進める。
リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。
リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第2回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第3回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第4回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメル「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第5回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第6回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第7回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第8回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第9回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第10回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第11回	物語としての自己（3）	病いの語り
第12回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第13回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第14回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に応じて、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみ出版、2002 年
他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート（論文試験）によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

よく「先生、単位下さい」という学生さんがいますが、「単位」は「あげる／もらう」ものではありません、「取得する」ものです。教員の役割は学生が単位を「取る」ために超えなければならない「ハードル（障害）」を設定することだと思います。これを乗り越えて（つまり、いやというほど勉強して）この科目の単位を取りに来てください。

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end report(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家（state）」という社会制度についてマックス・ヴェーバー、チャールズ・ティリー、ノルベルト・エリアス、マイケル・マン、ピエール・ブルデュー、アントニー・ギデンズ、ミシェル・フーコーらの国家論をとりあげ、歴史社会学的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か：その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）：正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）：国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）：国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）：ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）：官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）：国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）：間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）：「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）：官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）：国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）：社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャーの権力について
14	国家と情報管理：国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline (in English)】

In this course we will learn different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the arguments of Max Weber, Charles Tilly, Norbert Elias, Michael Mann, Pierre Bourdieu, Anthony Giddens, Michael Foulcaut, and so on. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀以降の国家の歴史を検討しながら、「国家（state）」という社会制度について歴史社会学的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）：	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	ナショナリズムの発生 国家とナショナリズム（2）：	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家論的アプローチ 国家とナショナリズム（3）：	ナショナリズムの「民族化」について
5	ナショナリズムの「民族化」 国家と資本主義（1）：	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義経済 国家と資本主義（2）：	マルクス主義の国家論について
7	マルクス主義の国家論 国家と民主主義（1）：	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	アメリカ政治学理論 国家と民主主義（2）：	ティリーの民主主義論について
9	民主主義にとっての国家 国家の社会福祉（1）：	福祉国家の発生について
10	福祉国家の発生 国家と社会福祉（2）：	現代福祉国家の「危機」について
11	福祉国家の「危機」？ 国家のグローバル化：	メイヤーらの新制度主義について
12	世界社会と国家 国家の「崩壊」：	アフリカの新家産制国家論について
13	アフリカからの視点 国民国家とグローバル化：	グローバル化と国民国家の変容について
14	「衰退」か「復権」か 国民国家の現在：	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline (in English)】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the history of the state since the 20th century. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC300EC

理論社会学

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学における理論的思考と論理展開の仕方を学ぶ。具体的には、社会システム理論にもとづいて、現代のグローバル化の進展にともなう社会構造と人間生活の変化を考察する。

【到達目標】

社会学の基礎知識を一定程度習得していることを前提にして、社会学における理論的思考や論理展開の仕方を理解できるようになる。それにもとづいて、自分自身で、具体的な現代の社会現象について、理論的思考や論理展開を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で行う。最後にそれを踏まえた討議の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要や到達目標を概説する
第2回	国民社会から世界社会へ	グローバル化の時代の「社会」の単位のあり方を学ぶ
第3回	機能分化	社会構造の分化形態としての機能分化について学ぶ
第4回	包摂と排除	機能分化した社会における個人の社会への包摂と排除の様態を学ぶ
第5回	アイデンティティ	機能分化した社会におけるアイデンティティの様態を学ぶ
第6回	多元主義	機能分化した社会における意味や価値の体系の多元化について学ぶ
第7回	多元化のパラドックス	意味や価値の体系の多元化がもたらすパラドキシカルな結果について学ぶ
第8回	中間単位	個人と世界社会のあいだに成立しうる中間的な単位の様態について学ぶ
第9回	グローバル化の展望	グローバル化の今後の進展の方向性について理論的に考察する
第10回	社会変動の観察と記述	社会システム理論から見た社会変動の観察と記述の仕方を学ぶ
第11回	システム認識論	社会システム理論における社会現象の認識方法を学ぶ
第12回	総括討議（1）	講義から見出された理論的テーマについて討議する（その1）
第13回	総括討議（2）	講義から見出された理論的テーマについて討議する（その2）
第14回	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は、授業内容の咀嚼と理解が重要なので、復習を中心に学習を進めること。各回の宿題をきちんとこなすことが、授業内容の理解と習得の鍵となる。また授業内で、参考文献等が示された場合には、できるだけ読んで理解の深化に努めること。予習・復習および宿題のために、各週4時間の学習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない

【参考書】

日本社会学会『社会学理論応用事典』（丸善、2017年）

その他の必要な文献については、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）：各回の宿題の内容に、リアクションペーパーの内容を加味して評価する。

期末試験（30％）：授業内容に関する理解度を、筆記試験によって評価する。授業内試験で行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の担当はないので、学生の意見等からの気づきはない。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

毎回の宿題に対する取り組みが重要です。コンスタントな学習を心がけましょう。

【Outline (in English)】

We learn the way of theoretical thinking and argumentation in sociology. We consider how social structure and human life are changing in current globalization process from the perspective of social systems theory. The goals of this course are to acquire the ability of abstract theoretical thinking in sociology, and to apply it to various current concrete social phenomena. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Assignments: 70%, term-end examination: 30%.

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント／スペンサー	三段階の法則、社会進化論、軍事型社会／産業型社会
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣

那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣

新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトゥルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で作成し、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC

歴史社会学Ⅰ

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

・社会学的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてのどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを介したオンデマンド学習と Zoom を利用したリアルタイム型授業を組み合わせながら授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エビローク	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の 2 度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20 % ×2 回）＋学期末試験（60 %）により評価をおこなう。なお、2 本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

・「暗記科目としての「歴史」」を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを介したオンデマンド学習と Zoom を利用したリアルタイム型授業を組み合わせながら授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる「現場」を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	〈近代化〉と何なのか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エビローク	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の 2 度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20 % ×2 回）＋学期末試験（60 %）により評価をおこなう。なお、2 本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events. Students are expected to be able to think deeply about historical positivism, narrative theory on history, historical revisionism, collective memory, and the classical theory of social change.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス (1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダースのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス (2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき (1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき (2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき (3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ (1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ (2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ (3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ (4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力 (1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力 (2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力 (3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定 (1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定 (2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定 (3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか (1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか (2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか (3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか (4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか (5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか (1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか (2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか (3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか (4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会を<モデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

原典講読

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

感情の社会学において古典的名著となったアーリー・ホックシールド『管理される心』を講読することを通じて、ホックシールドの提示する感情の社会学理論と社会学研究の方法を理解する。

【到達目標】

『管理される心』の講読を通じて、本書が提示する感情の社会学理論や研究方法を学ぶとともに、関連する社会現象・問題をより深く洞察する上での手がかりを得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読・議論を中心とした演習形式の授業です。アーリー・ホックシールド『管理される心』を中心に講読しますが、あわせて、この本に関連する他の論考も補完的に読んでいくことを通じて、ホックシールドの社会学理論を掘り下げて理解するとともに、その現代的意義や限界についても考えてみたい。

参加者には、事前に割り振られた担当章・論文について、レジュメを作成し、授業で報告することが求められます。また、報告者以外の参加者についても、毎回全員が所定の箇所を読んで参加し、担当者の報告後、その回の内容についての議論に参加することが期待されます。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。

授業計画は概ね以下の内容を予定しています（ただし、授業の展開等により若干の変更可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方について解説する
2	指定文献の講読 (1)	テキストの第 1 章を読む
3	指定文献の講読 (2)	テキストの第 2 章を読む
4	指定文献の講読 (3)	テキストの第 3 章を読む
5	指定文献の講読 (4)	テキストの第 4 章を読む
6	指定文献の講読 (5)	テキストの第 5 章を読む
7	指定文献の講読 (6)	テキストの第 6 章を読む
8	指定文献の講読 (7)	テキストの第 7 章を読む
9	指定文献の講読 (8)	テキストの第 8 章を読む
10	指定文献の講読 (9)	テキストの第 9 章を読む
11	関連する論考の講読 (1)	教育分野の論考
12	関連する論考の講読 (2)	労働分野の論考
13	関連する論考の講読 (3)	医療・福祉分野の論考
14	総括	レポートの提出と相互討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は毎回必ず、事前に該当箇所を読み、自分なりに理解したうえで授業に参加する。報告者はレジュメを含め指定箇所についての報告と議論の準備をしてくる。期末レポートの作成に向けては、各自計画的に講読・執筆等を進めることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

A.R. ホックシールド（石川准・室伏亜希訳）『管理される心』（世界思想社、2900 円+税）。追加文献については、授業で指示する。

【参考書】

授業で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40%、担当箇所の報告 30%、期末レポート 30%
（毎回出席し議論に参加することを原則とします）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムや Zoom を使用する。

【その他の重要事項】

初回授業時に詳細を説明するとともに、報告担当日等を決定するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the theory and methods of sociology of emotions presented in *The Managed Heart* by Arlie Russell Hochschild. At the end of the course, students are expected to gain deeper understanding of relevant social issues through the sociology-of-emotions lens. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 40%, Presentations: 30%, Term paper: 30%.

SOC300EC

社会学総合特講 A

鈴木 智之

サブタイトル：社会学総合特講 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「語ること、聴くこと、伝えること」をテーマとして、「他者の経験」への接近としての社会学的研究の方法を論じる。

【到達目標】

社会学は、他者との出会いの場であり、研究は他者の経験（生）に触れ、これを引き受けながら、また別の他者に伝達する営みとして成立する。この講義では、「他者」への接近の技法としての社会学の位置づけを学び、その上で、実際の出会い（調査）において、いかにしてその経験への接近と理解、そして伝達が可能になるのかを、「語る」と「聴くこと」に照準化して論じる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で進めるが、学期中に何回か「課題」を示し、その回答を用いながら、「聴くこと」「語ること」の上にどのような認識が可能なるのかを考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	なぜ社会学的研究において「他者 - 経験」が問われるのか
第 2 回	理解の 2 つの形式	ナラティブモードとは何か
第 3 回	接触と変換	なぜ他者の生に「触れる」ことが必要なのか
第 4 回	他者の語り	構築と応答のあいだ
第 5 回	聴くことの力	鷲田清一『聴くことの力』から
第 6 回	見知らぬものと出会う	木村大治『見知らぬものと出会う』から
第 7 回	分からないものと出会う	インタビュー調査から問いを立てるために
第 8 回	物語の分岐	偶発的な展開を理解する
第 9 回	他者の生を報告する	伝言ゲームとしての社会学
第 10 回	他者をなぞる	石野由香里『他者の発見』から
第 11 回	自己を語る	オートエスノグラフィーの可能性
第 12 回	病いの語り	A.W. フランク『傷つた物語の語り手』再読
第 13 回	サバイバーズナラティブ	語りの条件が損なわれた語り
第 14 回	語りと生	他者の経験に触れる営みとしての社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

J. ブルーナー『可能世界の心理』みすず書房
 鷲田清一『聴くことの力』
 石野由香里『他者の発見』早稲田大学出版会
 木村大治『見知らぬものと出会う』

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版
浜日出夫（編）『サバイバーの社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

学期中に4回程度の「小レポート」（課題）の提出を求め、評価対象とする（40 %）

学期末に最終レポートの提出を求める（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度はじめて担当する科目なので、特になし。

【その他の重要事項】

なるべく新しいことを学びつつ、また受講生とのコミュニケーションのなかで講義を行いたいので、講義の内容な構成には変更が生じることがあります。

【Outline (in English)】

On narrating, listening, and transmitting. We investigate the possibility of sociological research as approach to others' experience.

At the end of the course, students are expected to be able to understand and challenge the problems confronted in research. After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-term reports(40%) and the term-end report(60%).

SOC300EC

社会学総合特講 B

鈴木 智道

サブタイトル：社会学総合特講Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代思想／現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する思想家（社会学者？／歴史家？）ミシェル・フーコーの諸著作の読解を通して、その社会的な意義を考えていく。本授業では、実際にそれぞれの文献の一部にあたりながらその「筆致」を体感しつつ、フーコーの思考の道筋を追体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが対峙しようとしていた「問題」について、受講者との議論を通して探索することを目的とする。
なお、本科目は「歴史社会学Ⅰ」の中上級編（＝もうひとつの「歴史社会学」という位置づけにもある）。

【到達目標】

・フーコーの思想のもつ、とりわけその社会的な射程について理解を深める。
・それを導きの糸としながら、自分のこれまでのものの見方／社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員による講義（解説）と受講者による議論を交互に組み合わせながら授業を進める。ただし、授業計画は、授業の展開により若干の変更の可能性がありうる。

なお、本科目の履修にあたっては、担当教員が別に担当している「歴史社会学Ⅰ」を今年度春学期までに受講し、単位修得済であることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～なぜいまフーコーなのか？	概要の説明・スケジュール確認
第 2 回	フーコーに立ち向かう前に	フーコーの生涯・思想遍歴・方法
第 3 回	『狂気の歴史』を読む	『狂気の歴史』の精読と解説
第 4 回	『狂気の歴史』を読解する：議論①	「理性」と「排除」をめぐる
第 5 回	『言葉と物』を読む	『言葉と物』の精読と解説
第 6 回	『知の考古学』を読む	『知の考古学』の精読と解説
第 7 回	『言葉と物』・『知の考古学』を読解する：議論②	「エビステメー」と「言説」をめぐる
第 8 回	『監獄の誕生』を読む	『監獄の誕生』の精読と解説
第 9 回	『監獄の誕生』を読解する：議論③	「権力」をめぐる
第 10 回	『性の歴史Ⅰ・知への意志』を読む	『知への意志』の精読と解説
第 11 回	『性の歴史Ⅰ・知への意志』を読解する：議論④	「セクシュアリティ」をめぐる
第 12 回	『生政治の誕生』（『ミシェル・フーコー講義集成 8』）を読む	『生政治の誕生』の精読と解説
第 13 回	『生政治の誕生』を読解する：議論⑤	『生政治』をめぐる
第 14 回	まとめ～フーコーの向こう側	レポートの合評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読了した上で授業にのぞむこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は、学習支援システムを通して配布する。

【参考書】

ミシェル・フーコー：

『狂気の歴史—古典主義時代における—』新潮社、1961 年＝新装版：2020 年

『言葉と物—人文科学の考古学—』新潮社、1966 年＝新装版：2020 年

『知の考古学』河出文庫、1969 年＝2012 年

『監獄の誕生—監視と処罰—』新潮社、1975 年＝新装版：2020 年

『性の歴史Ⅰ・知への意志』新潮社、1976 年＝1986 年

『ミシェル・フーコー講義集成 8・生政治の誕生』コレージュ・ド・フランス講義 1978-79 年度 筑摩書房、2008 年

その他の参考書については、開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終レポートの水準（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更により該当なし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to read carefully some of the M. Foucault's works, and to discuss how they have made a great impact on contemporary sociology. Students are expected to deeply comprehend what he said and contemplated, and then come face-to-face with your own viewpoint toward society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the final paper (50%).

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかを「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第 2 回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第 3 回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第 4 回	確率分布について	統計分布について説明する
第 5 回	統計的推測 (1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第 6 回	統計的推測 (2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際を学ぶ
第 7 回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第 8 回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第 9 回	クロス集計 (1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第 10 回	クロス集計 (2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第 11 回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第 12 回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第 13 回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第 14 回	まとめ	授業のふり返しを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット & ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

The goal of this course for you is to know how to grasp statistical distribution, how to make basic statistical inference on population, and how to construct and test a research hypothesis. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours. The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

EDU200EC

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性を理解する。近代的教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回は提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」／教育を受ける権利と子どもの権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子ども（観）の歴史	前近代の産育／ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ベスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	進歩主義教育の展開	デュルケム/デューイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第 10 回	発達の諸理論 (1)	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論 (2)	バンデューラ/ボウルビー/クライン
第 12 回	発達の諸理論 (3)	M. ミード/A. フロイト/エリクソン
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子どもと教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笠一郎ほか編、1977、『日本子どもの歴史1～7』第一法規。ジョージ・バターワース、ハリス・マーガレット、1997、『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート (50%) と期末テスト (50%)、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいので録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and developmental theories to students taking this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- ・ Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,

- ・ Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,

- ・ Compare and contrast the modern educational system and others.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

[Grading Criteria]

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。憲法、教育基本法の教育を受ける権利について理解し、説明することができる。子ども・若者をめぐる諸問題と、社会や大人の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第 2 回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第 3 回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第 4 回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第 5 回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第 6 回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第 7 回	学校のガバナンス	学校経営とアカウンタビリティ
第 8 回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第 9 回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第 10 回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第 11 回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第 12 回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第 13 回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第 14 回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）／佐藤晴雄,2017,『コミュニティ・スクールの成果と展望:スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ディダクティカ編,2012,『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房／田中正博,佐藤晴雄,2013,『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート（50%）と期末テスト（50%）、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいので録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the education reform in present-day Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
- ・ Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
- ・ Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

【Grading Criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

SOC200EC

家族社会学Ⅰ

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声が開かれるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会学的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの教材配信（音声ビデオ・資料等）を中心とするが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次回の授業でフィードバックを行う。この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは（1）	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは（2）	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族（1）	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族（2）	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族（3）	歴史社会学的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2 回）により評価する。

（ただし、受講者数によって評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families. At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class assignments: 20%, Reports (mid-term & final) : 40%×2.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題を取りあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの教材配信（音声ビデオ・資料等）を中心とするが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次回の授業でフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、文献等を読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2 回）により評価する。
（ただし、受講者数によって評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care. At the end of the course, students are expected to understand the theoretical developments and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class assignments: 20%, Reports (mid-term & final) : 40%×2.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学 I

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。

【到達目標】

具体的な社会問題について、一般的に言われる図式だけでなく、渦中にある人たちの葛藤や苦しみに目を向けるとともに、その問題の解決に向けて何がありうるのか、論理的に構想する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、災害支援や高齢者介護と呼ばれる現場についてである。どのような問題を取り上げる際にも、現場でどのような問題が起きているか、それについて公的な制度でどのような対処や対応が考えられてきたか、その限界はどこにあったのか、さらにどのような個別の取り組みが現場でなされたのか、という点を踏まえて論じていく。

必要に応じて、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者をはじめとして、支援や介護の現場にいる人たちの講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第 2 回	震災とボランティア	ボランティア論再考
第 3 回	「災害弱者」の存在	避難所での状況
第 4 回	復興から「取り残される」人たち	仮設住宅での状況
第 5 回	支援活動の曲がり角	長期的支援段階
第 6 回	公的援助システムの限界と継続する支援活動	組織維持とミッションとの対立と共存
第 7 回	新たな連帯に向けて	コミュニティ経済
第 8 回	「高齢者」とは誰のことか	歴史的観点から
第 9 回	家族ゆえの困難	家族介護者への照準
第 10 回	認知症を生きる	当事者の視点から
第 11 回	介護の転換 (1)	生活リハビリ
第 12 回	介護の転換 (2)	在宅老所運動
第 13 回	介護の転換 (3)	共生ケア
第 14 回	生活モデルへの転換	新たなケアシステム構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

三井さよ 2018『はじめてのケア論』有斐閣

三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と論文試験（80 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの提出など、必要に応じて、授業支援システムを使うことがある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology. At the end of the course, students are expected to be able to think about caring and supporting as social matters. Your study time will be more than two hours for a class.

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模案がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人たちの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状态を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨床的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人たちとともに考える臨床社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	臨床社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第 2 回	障害者解放運動の歴史 (1)	「青い芝の会」の問いかけ
第 3 回	障害者解放運動の歴史 (2)	家族を問い直す
第 4 回	障害者解放運動の歴史 (3)	福祉的配慮を問い直す
第 5 回	障害は誰にあるのか	コミュニケーションを問い直す
第 6 回	性的マイノリティ	異性愛ジェンダー秩序を問い直す
第 7 回	当事者研究の台頭	学問のあり方を問い直す
第 8 回	就学運動から	学校／学ぶを問い直す
第 9 回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第 10 回	生命倫理を考える	人間の定義について
第 11 回	性愛とセックス・ワーク	性愛について問い直す
第 12 回	当事者による講演	当事者の観点から
第 13 回	加害／被害とは何か	刑罰の見直しと修復的司法
第 14 回	新たな地域社会へ	排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一 2007『母よ！ 殺すな』生活書院

安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸 2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院

「支援」編集委員会編 2011『支援 vol.1』～2022『支援 vol.11』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）とレポート（80 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well.

SOC200EC

社会心理学Ⅰ

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、感情、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的事象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）。有斐閣。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となります。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC300EC

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、制度アプローチ、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミクスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
5	活動理論と分業	人びとのあいだで分割される活動とその課題
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
9	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・Donald・Norman（1990）『誰のためのデザイン？』。新曜社。
- ・レイヴ&ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となります。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。

そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。

今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の2点を到達目標とする。

- （1）エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に着けて理解することができる。
- （2）自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正解のコメントといったものはありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ（1）	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ（2）	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁（1）	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁（2）	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係（1）	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係（2）	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金（1）	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金（2）	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差（1）	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差（2）	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン（1）	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン（2）	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならどうするか」を簡単でいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえでも）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

得点の配分は、2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

長引くコロナ禍の影響もあってか、若い学生の皆さんから「自分たちの世代はこの高齢化社会において冷遇されている」という意見をレポートやコメントカードでよく見かけました。その意見は部分的には正しく、ある部分では誤りです。なぜ現代において「老い」のことを社会全体で考える必要があるのか、コロナ禍の社会における問題の例をより多く授業中に紹介する事例として盛り込むようにしました。

【Outline (in English)】

This course introduces social problems concerning the aging society. The aim of this course is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（被害構造論、社会的ディレンマ論）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、秋学期の「環境社会学Ⅱ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備をしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件（1）	事件の概要
5	足尾鉍毒事件（2）	別紙銅山との比較
6	水俣病事件（1）	事件の概説
7	水俣病事件（2）	漁民の視点
8	水俣病事件（3）	支援者の視点
9	水俣病事件（4）	チッソの視点
10	水俣病事件（5）	行政の視点
11	水俣病事件（6）	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論（1）	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論（2）	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100%）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎度が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という 2 つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備をしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学（1）	小樽（1）
5	「共存」の社会学（2）	小樽（2）
6	「共存」の社会学（3）	小樽（3）
7	「共存」の社会学（4）	竹富島
8	「共存」の社会学（5）	セントルイス（1）
9	「共存」の社会学（6）	セントルイス（2）
10	「共存」の社会学（7）	気候変動
11	「共存」の社会学（8）	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論（1）	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論（2）	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100 %）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎回の論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらいうりアクション・ペーパーを担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代の日本と世界の農業・農村の多様な実情と問題を極力具体的な事例を示して紹介し、それらが急激な都市化とグローバリゼーションの渦中で営まれている私たちの日常生活、特に食生活とどのように関連しているかを、主に社会学の視点から検討することを目的とする。受講生には、自らの食生活を地域から地球規模に至る諸社会のダイナミックな変化と結びつけて考える知的センスを獲得してもらうことをめざす。なお、講義内容には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の農業と農村に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

この授業では、私たちの食生活が、どのような社会関係（多様な人と人との関係）によって支えられているかを、日本と世界の両面から、主に社会的な視点から学ぶ。したがって、自分自身の日頃の食生活を意識的に自己点検し、食品が生産されてから自分が口に入れるまでの間に、どのような壮大で複雑な社会関係（生産者と消費者の関係、農村住民と都市住民の関係、食品加工業者・流通業者を介した関係、外食産業やファーストフード、コンビニ業界との関係、コマースやメディアと消費者との関係、食料輸出国の生産者と輸入国の消費者との関係など）が連動して生起しているかを、受講生自らが調べて考える能力を実践的に会得できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の農業・農村の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせたりレポートを作成させて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	農業とは何か？（1）	都市の消費者がイメージする農業は現実の農業と同じか？
第 2 回	農業とは何か？（2）	世界と日本の農業の歴史と現状、ポスト減反政策のゆくえ
第 3 回	農村とは何か？（1）日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？	日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？
第 4 回	農村とは何か？（2）	世界の農村・農業社会学は何を明らかにしてきたか？
第 5 回	食の社会学（1）	私たちは何をどのように食べているのか？
第 6 回	食の社会学（2）	食を支える都市・農村関係、食を支える国際関係
第 7 回	農業と食の安全学（1）	食品の安全性はどのように保障されているのか？
第 8 回	農業と食の安全学（2）	食糧生産と環境問題のジレンマ（森林減少と気候変動）
第 9 回	食品ロスの社会学（1）	社会問題としての飢餓と飽食、飽食の末の棄食（食品廃棄）
第 10 回	食品ロスの社会学（2）	格差社会と食品ロス、食のサーキュラー・エコノミーおよびシェアード・エコノミーの可能性
第 11 回	食をめぐる産業連関の地殻変動（1）	農業・農村・都市間関係のイノベーション、農業のデジタル化
第 12 回	食をめぐる産業連関の地殻変動（2）	都市農業の新たな展開、農村農業の国際化
第 13 回	食文化の多様性と現代社会のダイバーシティ	地域と世界の新たなつながり
第 14 回	（まとめ）私たちの食生活と農業・農村・都市の未来	社会学的想像力の働かせ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の日常の食生活を研究対象として調査させ、適宜レポートさせる。つまり、自分自身の食生活を観察者の立場に立ってフィールドワークさせる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

エイミー・グプティル&デニス・コブルトン,2016『食の社会学:パラドクスから考える』(原題"Food and Society") (NTT 出版)

Jean-Pierre Poulain,2017,The Sociology of Food (Bloomsbury)

T. スタンダーヂ・新井崇嗣訳, 2017『歴史を変えた 6 つの飲物』(楽工社)

大原悦子,2016『フードバンクという挑戦—貧困と飽食のあいだで』(岩波書店)

S. クロイツベルガー他・長谷川圭訳, 2013『さらば、食料廃棄—捨てない挑

戦』(春秋社)

マイケル・ウッズ, 高柳・中川監訳,2018『ルーラル：農村とは何か』(農林統

計出版)

その他多数

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (20 %)、最終レポート (70 %) および授業ごとのリアクションペーパーの内容 (質問やコメントの質) (10 %) を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面でもオンラインでも、極力豊富に講義資料を配布もしくは配信し、学生の理解を深めるよう鋭意努力します。

【Outline (in English)】

This class introduces social aspects of agriculture and rural societies showing concrete cases in the midst of rapid urbanization and globalization in Japan and the world. It also enhances the development of students' intellectual sense of thinking about their everyday life, especially their eating habits, in connection with the dynamic changes of societies from the regional to the global scale. Grading will be decided based on the Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

SOC200EC

地域環境論

池田 寛二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の地域社会とそれを取りまく環境の急激な変化を社会学的に読み解く。なお、講義内容には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の地域と環境に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

受講生が、自らが生活している地域社会がどのような環境条件にささえられていて、どのような環境問題に直面しているかについて、意識的に目を向け、考え、実践できる想像力と行動力を体得することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の地域と環境の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。また、受講生に身近な地域における環境の実情について、初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）を課題として提示し、その結果をレポートさせる。ただし、この授業は講義科目であり、ここで言う「フィールドワーク」とは、受講生が独自に取り組む課題であって、グループディスカッションやディベートを伴うものではない。したがって、アクティブ・ラーニングには該当しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域とは何か？ 地域環境とは何か？
第 2 回	地域社会とはどんな社会なのか？（1）	community とは何か？
第 3 回	地域社会とはどんな社会なのか？（2）	日本の地域社会の歴史と現在（農村的 地域社会のとらえ方：「むら・村落・ 町・市町村・都市の中のむら」…）
第 4 回	地域社会とはどんな社会なのか？（3）	日本の地域社会の歴史と現在（都市的 地域社会のとらえ方：「宮処・都・ 市・大都市・アーバンズム」…）
第 5 回	地域社会とはどんな社会なのか？（4）	世界の地域社会の概況（アジア、ヨー ロッパ、アメリカ、アフリカを中心に）
第 6 回	地域社会における人口と環境	人口と環境の相関性（I=P・A・T、 「コモンズの悲劇」、エコロジカル・ フットプリント）
第 7 回	都市への人口集中と環境	都市への急激な人口集中は環境をどう 変えたか？（ヒートアイランド、都市 鉱山…）
第 8 回	高度科学技術文明と地域環境	情報通信技術と生命技術のイノベー ションは地域社会とその環境をどのよ うに変えるのか？（AI 農業、自動運転 …）
第 9 回	グローバル化と地域環境	グローバル化は地域（ローカルな社 会）とその環境をどう変えたか？
第 10 回	リスク社会と地域環境	現代の地域と環境はどのようなリスク に対処しなければならないのか？
第 11 回	廃棄物と地域環境	現代の地域社会は廃棄物を適切に管 理・処理できているのか？（東京多摩 地域を事例として）
第 12 回	エネルギーと地域環境	現代の地域社会は持続可能なエネル ギー需給システムを構築できているの か？（原発と再エネを中心に考える）
第 13 回	気候変動と地域環境	極端気象の常態化を抑止するために地 域社会に求められている課題は何か？ （脱炭素社会は地域からしか構築でき ない）
第 14 回	まとめ：地球環境と地域環境	地球環境は地域環境からしか変えられ ない（地球工学・国連至上主義・「人新 世」言説の批判的検討）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は授業支援システムで予め配信するので、準備学習をしておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料の中で多数指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20 %）、最終レポート（70 %）および授業ごとのリアクションペーパーの内容（質問やコメントの質）（10 %）を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline (in English)】

This course deals with the environmental problems in the sociological perspective. By the end of the course, students should be able to have better understandings on the climate crises and other regional and global environmental and social change in contemporary social world. Grading will be calculated according to the Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

SOC100EC

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中での文化の継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜ伝統的な文化や芸能がかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面での講義となる。ただし入国できない留学生や基礎疾患がある学生など個別に対応する必要がある学生については、学部からの指示に基づいて対応する。具体的には講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために、対面での講義の場合は視聴覚資料を用いる。また対面に参加できない学生に対しては、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。毎回提出してもらうリアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム(3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混濁が生み出す「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生みだす「伝統」(2)	アイヌ舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化」が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く連関しているので、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。また毎回の授業後に、Hoppii でレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵木悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。
牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。
武田俊輔,2019,『コモンスとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（28%）、期末レポート（72%）。

【学生の意見等からの気づき】

対面を前提とした講義となることとあわせ、学生の反応や直接のリアクションにより対応した形で、講義を進めていく。

【Outline (in English)】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan. It analyzes the impact of community development through traditional culture on the local residents, the bearers, and the culture itself.

The purpose of this lecture is to enable students to analyze and understand the following three points from a sociological perspective.

(1) What are the difficulties involved in passing on traditional culture in the face of declining populations and aging populations in regions and communities?

(2) Why do residents and bearers of traditional culture and performing arts feel that they are essential?

(3) What problems arise when traditional culture is used for tourism and community development, and what is the resilience of people who take advantage of such circumstances to pass on their culture?

The contents of each class are deeply interrelated, so please review the contents of the previous lecture before coming to class. Students will be expected to submit their short report via Hoppii after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 72%, Short reports : 28%

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、人間の文化（生活様式）の多様性と普遍性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などの事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化の理解を深め、視野を広げることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用して進めていく。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、隣接の研究分野との関連性、(2) 授業のトピックス、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、暦と年中行事（季節儀礼）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	人生儀礼（誕生、成人式、婚姻儀礼）
5.	通過儀礼	人生儀礼（葬送儀礼の構造、現代社会の樹木葬）
6.	家族と親族	家族のかたちと住まい
7.	宗教と世界観	神話
8.	宗教と世界観	風水の環境認識および実践
9.	生業形態と文化	狩猟採集社会の文化の継承と変容
10.	生業形態と文化	牧畜社会の動物観、文化の継承と変容
11.	生業形態と文化	農業と「文化的景観」、「世界農業遺産」
12.	嗜好品文化	コーヒーの栽培、飲用、「伝統」の再考
13.	文化の展示、まとめ	人類学・民族学博物館と文化の展示、まとめ
14.	レポートの提出と解説	期末レポートの提出、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）の内容を中心とする平常点（遅刻や早退をした場合に減点）50%と期末レポート 50%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布、リアクションペーパー・課題の提出は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の授業関連の連絡事項をよく確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on final paper (50%), and the quality of the students' reaction papers (50 %).

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

サブタイトル：現代社会と宗教

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態についての詳しい情報は、学習支援システムで通知します。
① PDF 版で教材資料を提示します。②各回の授業後には課題が出ます。テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）の確認の課題または小テストになる場合もあります。③翌回の授業では、全体に対して課題に関するフィードバックを行ないます。小テストの場合は解答を提示します。④中間レポートを学期半ばに提出します。提出期限については後日、授業内や学習支援システムを通じて通知します。課題図書は参考書に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足解説
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会
12	社会のなかの宗教 1	日本人の宗教意識

13	社会のなかの宗教 2	宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ
14	社会のなかの宗教 3	アメリカの宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関係する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。資料はプリントアウト出来れば幸いです。出来なくてもアップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。提出期限は課題の種類によって変わることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内での教材は学習支援システムにアップします。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文眞堂 2018 年（2600 円＋税）
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出される毎授業後の課題や小テストの結果を 70 % ②学期半ばに提出する中間レポートの内容を 30 % とする割合で総合的に判断・評価します。中間レポートは参考書に掲げた『グローバル現代社会論』を課題図書とします。生協でも扱っています。提出期限を過ぎたものは受け取りませんのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題や中間レポートを提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively.

Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), and assignments after each class (70%).

HSS200EC

スポーツ文化論

水上 博司

サブタイトル：スポーツ社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スポーツ空間論」の「コートの中」と「コートの外」という空間概念を用いて、スポーツ・レジャー・レクリエーション空間をより豊かに創造するための考え方を学ぶ

【到達目標】

「スポーツ空間論」の主要な概念である「コートの中」と「コートの外」の意義と役割を学び学生一人一人のスポーツへの価値認識と実際のスポーツ行動や他者への配慮（リスペクト）など、スポーツ空間だけではなく、日常生活のあらゆる場面において、本講義で扱った空間概念を意義を意識し、活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面方式（7 回）とオンライン方式（7 回：zoom）の両方を用いて授業を進めます。指定テキストは「スポーツクラブの社会学：『コートの中』より愛をこめ』の射程から」（青弓社）です。各回の講義では、指定テキストから約 10 ページ程度を教材にして学習を進めていきます。加えて、授業担当者が作成したパワーポイント資料（PDF）を Google classroom を用いて配布します。受講生のみなさんは、指定テキストの各回の指定ページを事前に読み、合わせて事前に配布されたパワーポイント資料（PDF）を用いて事前学習をします。ただ、実際の講義では、最初に学生のリアクション・コメントの紹介と講義回の指定テキストの範囲を読む時間とります。そのあと授業者による講義です。実際の講義では、テキスト、事前配布資料（PDF）、そして映像資料を活用し授業を行います。オンライン授業でも同じような時間配分で行います。講義の終了 10 分から 15 分程度の時間を利用し、リアクションコメントを Google classroom から入力し、送信してもらいます。これで各回の講義が終了となります。なお最終授業はレポートの課題内容を提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この講義がどういう目的で開講されるのか、どのようなテキストを使って、どのように講義をすすめていくのか、また各回の講義の受講の仕方から成績評価の基準について詳細に説明します。
第 2 回	スポーツの文化的価値	スポーツやレジャーやレクリエーションの楽しさと成立の条件
第 3 回	遊び（プレイ）理論	遊び（プレイ）の理論のスポーツ・レジャー・レクリエーション
第 4 回	スポーツ・レジャー空間	「コートの中」と「コートの外」というスポーツ・レジャー空間
第 5 回	コミュニケーションとスポーツ空間	コミュニケーション空間としての「コートの中」と「コートの外」の意味
第 6 回	「コートの外」の意味	現代スポーツ・レジャーと「コートの外」の意味
第 7 回	能力主義とスポーツ空間	商業主義の浸透と能力主義の拡大がもたらす「コートの外」空間の喪失
第 8 回	チームワークの功罪	タテマエの参加とホンネの参加
第 9 回	クラブワークの提唱	多元的社会関係の創造：チームワークからクラブワークへ
第 10 回	スポーツリーダー論	新たなリーダーシップ論：バトンタッチの難しさ
第 11 回	コーチ・マネージャー・オーナー	苦悩する社会とリーダーの類型論
第 12 回	スポーツ実践空間の創造	「権力・権威から影響へ」を実践する社会空間の創造
第 13 回	ゲームズマンシップの提唱	ゲームズマンシップとライフスタイルにおける体験や経験の意味
第 14 回	最終レポート課題の提示	講義の総括と最終レポート課題の提示とその取り組み方についてレクチャーします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業担当者が作成したパワーポイント資料（PDF）を Google classroom を用いて事前に配布します。受講生のみなさんは、指定テキストの各回の指定ページを事前に読み、合わせて事前に配布されたパワーポイント資料（PDF）を用いて準備（事前学習）をします。受講後にはリアクション・コメントの提出に向けて講義の振り返りの復習（事後学習）をします。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水上博司／谷口勇一／浜田雄介／迫俊道／荒井貞光 『スポーツクラブの社会学：「コートの外」より愛をこめ』の射程』 青弓社 2020 年

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎講義時のリアクション・コメントの内容（80%）、最終レポート（Final Report）（20%）

【学生の意見等からの気づき】

テキストに沿って授業を行いますので、テキストを授業外に読んでくる事前学習と授業内でもテキストをざっと読めるような時間を確保したいと思います。また、各界のリアクション・コメントの一部は学生の皆さんに紹介して、他の学生がどのような考えや意見を持っているのかを共有したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では資料をペーパーで配布をしない（環境保護の観点から）ので、Google classroom から事前配布の資料を見ながら授業ができるような情報機器（PC やタブレット端末、スマホ）の準備をお願いします。またリアクション・コメントの提出のためにはスマホが便利だと思います。

【その他の重要事項】

Google classroom のアプリ

◆ Outline (in English)

◆ Course outline

Learn the concept of creating a richer sports, leisure, and recreation space by using the space concepts of "inside the court" and "outside the court" in "Sports Space Theory".

◆ Learning Objectives

In this course, students will learn the significance and roles of "inside the court" and "outside the court", which are the main concepts of "Sport Spatial Theory", and will be able to recognize the value of each student's sport, actual sporting behavior, and respect for others. The students will be able to recognize the significance of the spatial concepts covered in this lecture and utilize them in all aspects of their daily lives.

◆ Learning activities outside of classroom

The designated textbook is Sports club Sociology:Range of "With Love from 'outside the Court'" (Seikyusha). In each lecture, we will use about 10 pages from the designated text as learning materials. I would like to set aside time for students to read the textbook outside of class time for prior study, and also to read the textbook briefly in class. A PowerPoint presentation (PDF) prepared by the class instructor will be distributed in advance using Google classroom. Students are expected to read the designated pages of the textbook in advance, and prepare for the class by using the powerpoint document (PDF) distributed in advance (prior learning). After the lecture, students will review the lecture in order to submit reaction comments (post-learning). The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Reaction and comments at each lecture: 80%, Final Report :20%

SOC200EB, SOC200EC

国際社会学 I

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会学的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は 4 月 13 日から講義を開始します。方法は学習支援システムに教材として PPT をアップし、課題あるいはテスト/アンケートに答えるという方法で進めます。また、この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とは何か る社会現象か	国際移民の時代をキーワードに考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移住システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民現象を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会	難民に対する政策変遷と実態について考えます。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをミクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます。
10	移住第 2 世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移住第 2 世代をめぐる諸問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	まとめと解説	概念のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

1. 梶田孝道編、2005、『新・国際社会学』名古屋大学出版会。
2. 塩原良和、2012、『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂。
- 3.S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳、2009=2011、『国際移民の時代（第 4 版）』名古屋大学出版会。
4. 樽本英樹編、2018、『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。
5. 小井土彰宏編、2017『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会。
6. 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。
（参考文献一覧は授業関連サイトにアップする予定です）

【成績評価の方法と基準】

テストへの回答 85 %（配点は講義ごとに異なります）、課題への提出 15 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確保するため、毎回テスト/アンケートにリアクションを求めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンあるいはパワーポイントが聞き取れる機材を用意してください。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will study the main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

Learning Objectives

As social transformation caused by globalization progresses today, students will learn to analyze and be able to explain various modern issues from the perspectives and approaches of global sociology.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Tests in classes (85%) and reports on assigned subjects (15%).

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。ハイブリッド形式での取り組みを前提としていますが、完全オンラインとは形式が異なることをご注意ください。リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業内掲示板に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容－改革・開放 40 年－	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19 世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その 1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その 2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その 3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港――一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000 年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。

【参考書】

参考文献一覧は学習支援システムを通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 % および課題 15 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト/アンケートあるいは課題のいずれに問題を設定するのか、明確に示す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will learn about international migration as well as current globalization and issues concerning East Asia.

Learning Objectives

Students will understand the realities of globalization in East Asia and the formation of transnational social spaces

Learning Activities Outside Class

The standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

The final examination (85%) and assignments (15%)

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

二村 まどか

サブタイトル：国際関係論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な 3 つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を 3 つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』（原書房、2017）

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）： 30 %、期末テスト（課題）： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

POL300EB, POL300EC

国際関係論Ⅱ

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Ⅰで学んだ理論や概念をふまえつつ、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題を突きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コソヴォ紛争、9.11 アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。
リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動 (PKO) の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コソヴォ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11 後の世界について
9	9/11 とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	テロとの戦いと空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	テロとの戦いと大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』(原書房、2017)
藤原帰一、大芝亮、山田哲也編『平和構築・入門』(有斐閣コンパクト、2011)

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）： 30 %、期末テスト（課題）： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially

focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices regarding them.

SOC200EC

国際社会と民族

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における「民族」をめぐる問題について、理論的・歴史的な視点から捉えるとともに、その今日的なあり方や課題について考える。

【到達目標】

「民族」をめぐる問題を、「国民国家」や国際社会との関係のなかで読み解き、それを理論的にも分析、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

受講者は理解度をチェックするために授業後に小テストを受けること。

フィードバックについては、小テストの結果をふまえて、適宜、授業内で補足説明を行う。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と進め方、成績評価についての説明
第 2 回	民族問題とは	「民族」をめぐる問題とは何か考える
第 3 回	国際社会と国民国家	国際社会と国民国家の成り立ちについて考える
第 4 回	エスニシティ、ネーション、ナショナリズム	基本的な概念について整理する
第 5 回	ナショナリズム論のアプローチ (1)	近代主義について考える
第 6 回	ナショナリズム論のアプローチ (2)	反近代主義について考える
第 7 回	エスニック・リバイバル	エスニシティへの回帰について考える
第 8 回	トランスナショナルなネーション／ナショナリズム	国家や国境を越える／またがるネーションやナショナリズムについて考える
第 9 回	中間試験	授業内容の理解度チェック
第 10 回	ケーススタディ (1)	クルド人について考える
第 11 回	ケーススタディ (2)	日本文化論／日本人論について考える
第 12 回	ケーススタディ (3)	日本における在日コリアンについて考える
第 13 回	ケーススタディ (4)	日本における日系南米人について考える
第 14 回	グローバル化とナショナリズム	自国第一主義について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポートの作成。

各回の授業の復習として Google フォームを使った小テストに回答すること。

授業の準備・復習は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

ゲルナー, E., 2000, 加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店。
アンダーソン, B., 2007, 白石隆・白石さや訳『定本 想像の共同体』書籍工房早山。

スミス, A. D., 1999, 巢山精司他訳『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会。

ホブズボウム, E.・T. レンジャー, 1992, 前川啓治他訳『創られた伝統』紀伊國屋書店。

ブルーベーカー, R., 2016, 佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店。

宮島喬・吉村真子編, 2012, 『移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局。

そのほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (25 %)

中間試験 (25 %)

期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果から理解度の低かった内容について説明を改善する。

【Outline (in English)】

This course aims to study about "ethnicity", "nation" and "nation-state" relation with international society, from a theoretical and historical perspectives.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

The goals of this course are to A, B, and C.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test: 25%, Mid-term examination: 25%, Term-end report: 50%

GDR200EC

開発とジェンダー

吉村 真子

サブタイトル：国研：開発とジェンダー

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、開発とジェンダーについて、様々な観点から議論、分析することを目的とします。

●開発とジェンダーについて構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマと目的
第 2 回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第 3 回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第 4 回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第 5 回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第 6 回	開発途上国の伝統と少女	伝統的慣習や「女子割礼」
第 7 回	イスラームとジェンダー	イスラーム・コミュニティにおける女性や「ヴェール論争」
第 8 回	開発政策とジェンダー	国連などの開発政策におけるジェンダーの議論
第 9 回	グローバル経済とジェンダー	多国籍企業の途上国進出と女性労働者：「器用な指先」
第 10 回	ヒトの移動とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第 11 回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第 12 回	開発途上国の女性の身体	生理の貧困、リプロダクティブ・ヘルスなど
第 13 回	開発途上国のセクシュアリティ	開発途上国のセクシュアル・マイノリティ
第 14 回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダー、女性のエンパワーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、自分で関心をもって開発とジェンダーについて調べてほしいと思います。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、ミニ・レポートの事前提出など、課題について調べてもらうことも予定しています。

●本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局（2004）；
宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；
田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）など。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60％）、②ミニ・レポートなどの課題（20％）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20％）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, sexuality, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the gender issues with development.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSA200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

サブタイトル：地域研究（西欧）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多源性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程をみる。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が抱える問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。2020 年における英国の EU 離脱によって、ヨーロッパ統合の流れは初めて後退することになった。こうした歴史も踏まえて、ヨーロッパの諸地域を比較し、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日における問題点を具体的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。
・授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	ヨーロッパの地理的概念と文化、ヨーロッパ意識をめぐる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷としての位置
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成（2）	キリスト教文化圏の形成、三大教派誕生の背景と特徴
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦	第一次・第二次世界大戦
第 6 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、記憶の場
第 7 回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断
第 8 回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合前史、統合への共通意思と理念・実像
第 9 回	ヨーロッパ統合（2）	欧州憲法条約の起草・批准過程とリスボン条約の発効に至るまで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合（3）	EU の拡大と深化、ユーロ危機、現代的課題
第 11 回	ヨーロッパ統合（4）	英国の EU 離脱と現在への影響
第 12 回	21 世紀のヨーロッパ（1）	ヨーロッパ域内の多様性、移民・難民政策に関する議論
第 13 回	21 世紀のヨーロッパ（2）	2022 年のヨーロッパ（気候変動問題、新型コロナウイルス、選挙等）と今後の展望
第 14 回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50％）と学期末レポート（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨーロッパの情勢に関して、2022 度も最新の記事や映像資料を積極的に紹介し、説明を充実させたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend various histories and social issues related to Europe, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on final paper (50%) and in-class contribution (50%).

ARSe200EC

地域研究（アジア）

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

●アジア社会について構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業のテーマと目的
第 2 回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第 3 回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第 4 回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第 5 回	アジア社会の多様性	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第 6 回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第 7 回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第 8 回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第 9 回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第 10 回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第 11 回	経済援助	開発援助、ODA、NGOs など
第 12 回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第 13 回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第 14 回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べてほしいと思っています。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、授業前にミニ・レポートを提出してもらうことも予定しています。

●またアジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室外でアジアに触れることを目的に、「ミニ・レポート」は「文字メディア以外でふれたアジア」を課題にする予定です。

●なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60％）、②ミニ・レポートなどの課題（20％）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20％）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit short papers and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the social sciences issues on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2)Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSe200EC

地域研究（中国）

綿貫 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、中国・日本および東アジア地域の「変容」について近世・近代の史料などにに基づき分析・考察する。

【到達目標】

中国や東アジア地域の各国・各地域ごとに異なる「歴史認識」問題を「共時的」に解析・検証していくための視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員による各キーワードごとの歴史概説を学修しつつ、グループ討論も適宜おこなう。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「東洋史」とは何か（1）	導入
2	「東洋史」とは何か（2）	「世界史」と「西洋史」「東洋史」
3	「東洋史」とは何か（3）	「東洋」と「東洋史」の範囲
4	近代日本の歴史教育と東アジア認識（1）	明治初年における日本の歴史教育と「東洋史」
5	近代日本の歴史教育と東アジア認識（2）	近代日本の歴史教育と東アジア認識
6	近代日本の歴史教育と東アジア認識（3）	近代日本と白鳥庫吉の「東洋史学」
7	近代日本の歴史教育と東アジア認識（4）	近代日本と朝鮮史像の形成
8	近世東アジア世界の歴史（1）	近世東アジア世界と日本
9	近世東アジア世界の歴史（2）	明清交替と近世東アジア世界の変容
10	近世東アジア世界の歴史（3）	「華夷変遷」
11	近世東アジア世界の歴史（4）	近世東アジア世界の変容と日本長崎
12	近世東アジア世界の歴史（5）	近世東アジア世界の商業ブーム（1）
13	近世東アジア世界の歴史（6）	近世東アジア世界の商業ブーム（2）
14	近世東アジア世界の歴史（7）	近世東アジア世界における「対外認識」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考論文や図書の渉猟）
 2. グループ発表・討論の準備と再確認
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

関連する論文や書籍等はテーマごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「歴史認識」問題の理解のための視座の構築または整理（書評または小論文 60％）、これに平常点（積極的な参画度など 40％）を加えて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。
グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続・発展させていきたい。
授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

歴史研究者としての立ち位置から、史料を元にした分析や討論などの「リテラシー」を伝えるとともに、多様性にたいする理解を当たり前のようにもてるようにする。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The aim of this lecture is to analyze and examine the "transformation" of China, Japan, and the East Asian region based on historical documents in the early modern and modern periods, taking into account the history of China, which has formed a single world with its own unique view of cultural order.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goal of this course is to form a perspective for analyzing and examining "historical perception" issues that vary from country to country and region to region in China and East Asia in a "synchronic" manner.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

1. Reading (searching for reference papers and books)
 2. Preparation for and review of group presentations and discussions
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Reports(60%), in-class contribution(40%).

SOC300EC

特講 (地域・都市社会学の再構築)

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では日本における地域社会学・都市社会学を学史・調査史的にさかのぼりつつ、それらが問題化し得なかった地域社会についての分析の可能性について論じる。それによって戦後日本の地域社会学・都市社会学のメインストリームとは異なる形で、地域社会を分析する視点を、学生が獲得することが目的である。その際には、文化や習俗を扱いつつ社会学とは違う角度からそれらを論じてきた民俗学や文化（都市）人類学、さらに地域社会学や都市社会学とは縁が薄かったメディア論、さらに海外の日本研究といった分野の視点も導きの糸となるだろう。

【到達目標】

- ・日本の地域社会学・都市社会学の流れやそれが論じ損ねてきた未発の可能性について、理解を深めること。
- ・社会学に限らず、民俗学や文化（都市）人類学の議論にも目配りしつつ、地域社会について分析する上での視点を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを中心とした講義形式で行う。なお受講者数によっては授業内での受講生の発表を課する場合もある。また毎回のリアクションペーパーの提出を求める。次の回の講義内で、リアクションペーパーに見られる質問や感想、コメントについて代表的なものをとりあげて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この講義の目的や進め方、課題について説明する。
第 2 回	都市社会学のメインストリームからの地方都市の消失	戦後における都市社会学からの地方都市社会論の展開と消失、それによって失われた都市社会学の可能性について論じる。
第 3 回	家連合論から見た地方都市社会構造の系譜	近世以来の地方都市の社会構造を見る上で重要な聚落的家連合論のアプローチについて論じる。
第 4 回	都市民俗学・都市人類学から見た地方都市	民俗学や文化人類学における地方都市論について論じる。
第 5 回	町内社会内部の関係性	近世以来の地方都市の中心を占めてきた町内社会について論じる。
第 6 回	町内連合間の関係性と自営業者のネットワーク	町内社会間同士の関係性で構成される地方都市の関係性について論じる。
第 7 回	共有資源が生み出す都市の社会関係	コモンズ論の観点から地方都市の社会関係を論じる。
第 8 回	農村社会学・地域社会学のメインストリーム	戦後農村社会学・地域社会学の展開とそこから見過ごされたものは何かについて論じる。
第 9 回	モノと技術が媒介する村落社会の関係性	モノや農業技術を通して再生産される村落社会における社会関係について論じる。

第10回	集落における住民とインターン者の交渉	限界集落における移住者と集落の関係性、また移住者が外部からもたらすネットワークが集落に与える影響について論じる。
第11回	メディアが媒介する村落社会の関係性と公共性（1）	郷土芸能を通じた戦後日本の「地方」の表象の構築について論じる。
第12回	メディアが媒介する村落社会の関係性と公共性（2）	戦後日本における「農村」の表象とその構築プロセスについて論じる。
第13回	Japanese Studies の村落研究の系譜と現在	海外の日本研究の系譜について紹介すると共にそれが現代日本の地域社会を考える上で示唆するものについて考察する
第14回	この講義のまとめ	この講義全体を通して明らかにしたことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。

武田俊輔,2019,『コモンスとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, and Sebastian Polak-Rottmann(eds),2020,Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery,Routledge.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーが 28%、期末レポートが 72%となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will trace back the history of regional and urban sociology in Japan historically, and discuss the possibility of analyzing regional societies that sociological researches in these fields have not been able to make into problems. The purpose of this course is that students will acquire a perspective for analyzing regional society that differs from the mainstream of regional and urban sociology in postwar Japan. For that purpose, the perspectives of folklore studies, cultural (urban) anthropology, media studies, and overseas Japanese studies will also provide clues.

Students are expected to submit their reaction paper via Hoppii after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 72%, reaction paper after each class: 28%

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

サブタイトル：記号論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは thought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようになることを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者は講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」**を作成します。これを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説します。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリブライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリブライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の実験を考える。
12	小括「メディアテキスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリブライ（3）
13	メディアと権力	メディア環境のポリティクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を必ず熟読してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、分りにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

毎回の講義後に、テキストや参考文献を参照しながら講義ノートを整理することも必須です。その際、事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の 60 % の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の 40 % の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand how the media as a technology and institution that enables human recognition and existence is thought, and what kind of thought is needed about the media today.

Learning objectives:

The primary goal of this course is to understand how and what events they are experiencing through the media. The second goal is to be able to think practically about the possibilities and problems of today's media environment.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

SOC300EC, SOC300ED

社会問題とメディア

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な社会問題とメディアとの関係についての分析視角を提示する。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアという観点から社会問題や日本社会の歩みについての理解を深めることに加えて、自らの問題関心に沿って分析を行うための方法論を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、Zoom のチャット機能で随時、質問を受け付ける。また、授業終了後にも Google フォームによって質問を受けつけ、次回の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	社会病理学とモラルパニック論	社会問題を分析するための視座として、社会病理学およびモラルパニック論について考える
第 2 回	社会問題への社会構築主義アプローチ	社会問題を分析するための視座として、社会構築主義アプローチについて考える
第 3 回	リスク社会におけるメディア報道	リスク社会におけるメディア報道のあり方を考える
第 4 回	メディアが描く犯罪（前編）	メディアによる犯罪の描き方にはどのような問題があるのかを考える
第 5 回	メディアが描く犯罪（後編）	メディアがどのように犯罪被害者および加害者を描くのかを事例に即して考える
第 6 回	メディアが描く貧困	現代社会における貧困の現状を踏まえつつ、メディア報道の問題点について考える
第 7 回	貧困報道をめぐるジレンマ	メディアが貧困を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 8 回	排外主義とメディア	現代的な排外主義の特質を踏まえつつ、それとメディアとの関係について考える
第 9 回	排外主義をめぐるメディアのジレンマ	メディアが排外主義を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 10 回	原発問題とメディア	日本の原発導入過程においてメディアが果たした役割を考える
第 11 回	「原発安全神話」とメディア	「原発安全神話」とは何か、メディアがそれといかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	大衆社会論の出現とその背景	戦後日本社会における大衆社会論の出現とそこにおけるメディアの位置づけについて考える
第 13 回	管理社会論の出現とその限界	戦後日本社会において管理社会論がどのように登場し、メディアといかなる関係にあったのかを考える
第 14 回	消費社会論とその陥穽	戦後日本社会において消費社会論がいかに高揚し、いかに失墜したのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書および講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、Zoom のチャット機能や、Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能な環境。スマートフォンではなくパソコンで接続することが望ましい。

【Outline (in English)】

The goal of this lecture is for students to deepen their understanding of social issues and the history of Japanese society from the perspective of the media, as well as to acquire the methodology to conduct analysis in line with their own problematic interests. It is recommended to read the textbook and the books introduced during the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated by the sum of tests (30%) to be given during the semester and reports (70%) to be submitted at the end of the semester.

HUI300ED

認知科学

中井 彩香

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動，すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。記憶や注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、判断や意思決定、デザインなどについて知ることによって、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解する。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。第1回と第8回の授業はZoomを使用したりリアルタイム授業、それ以外の回の授業はオンデマンド授業で実施する予定である。学習支援システムを用いた質問への回答と、全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と目標を理解する
第2回	認知科学とは	私たちの「知」の捉え方を知る
第3回	感覚、知覚・認知	外界の情報の受け取り方を理解する
第4回	記憶	記憶のメカニズムを理解する
第5回	注意	注意の働きを理解する
第6回	問題解決と推論	問題解決と推論の過程を理解する
第7回	前半のまとめ、中間試験	前半のまとめ、中間試験を行う
第8回	判断と意思決定	判断と意思決定を学ぶ
第9回	判断と意思決定に関する認識	判断と意思決定に関する認識を学ぶ
第10回	判断と意思決定への働きかけ	生活の中での判断と意思決定への働きかけを学ぶ
第11回	感情と認知	感情と認知の関係について学ぶ
第12回	社会的認知	日常生活における認知を学ぶ
第13回	デザインと認知科学	デザインと認知科学の関係について学ぶ
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半のまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業前には、授業資料をダウンロードし、目を通しておく。授業後には、授業内容を振り返り、要点をまとめる。また、授業内で授業内容に関する参考文献やウェブサイトが紹介された場合、それらを用いて学びを深める。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、配布資料に基づいて授業を進めます。

【参考書】

講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、中間試験 25%、期末試験 25%として総合的に判断する。平常点には、授業内や授業外で取り組む課題の提出状況と内容も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の使用できる PC（第 1 回と第 8 回の授業は Zoom を使用したリアルタイム授業、それ以外の回の授業はオンデマンド授業で実施する予定です）、学習支援システムを利用できる環境を準備してください。

【Outline (in English)】

Our daily life is made up of various intellectual activities (i.e., cognitive functions) that we are not aware of. This lecture will focus on the mechanisms of cognitive functions that support human life. Students will learn basic cognitive characteristics such as memory and attention. In addition, students will learn about judgments, decision making, and design to gain a deeper understanding of the relationship between our daily lives and cognitive functions.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

サブタイトル：情報メディア論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法の入門講義である。情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合には、期末試験によって評価する。一方、オンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。いずれの場合でも最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法律学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「メディア社会学基礎 C」を履修したのちに履修することが望ましい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するのか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合は、期末試験によって行う。一方、オンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。いずれの場合も、最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates points of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスは『公共性の構造転換』（1962）において、18 世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18 世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了時に提出してもらおうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派 第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18 世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19 世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19 世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐる
10	ハーバーマスのコミュニケーションの行為論	近代化による生活世界の合理化と植民地化

11	アーレントの公共性論 と複数性	全体主義と画一性への批判
12	闘技民主主義と熟議	ムフの思想とミニ・パブリックス
13	地域における社会運動 の実践	ゲスト講師による講演
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（65 %）と期末レポート（35%）。昨年度よりレポートの比重を重くし、採点を厳格化するので、単位取得はやや難しくなる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

春学期は動画配信によるオンデマンド授業を予定している。Hoppii によるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the history of the idea of publicness and its contemporary significance.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(65%) and final report(35%).

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と CommunicationⅡ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実中存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む“壁”がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐって
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不従従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイング
13	政治教育の可能性	教育における中立性とは
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

【秋学期もオンライン授業になる場合】 春学期と同様、リアクションペーパー（65 %）と期末レポート（35%）。昨年度よりレポートの比重を重くし、採点を厳格化するので、単位取得はやや難しくなる。

【秋学期は対面授業を行う場合】

リアクションペーパー（20 %）と期末試験（80%）。適宜提出を求めるリアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】**Course Outline and Objectives**

This course introduces the reality of publicness and social issues.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(65%) and final report(35%).

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

サブタイトル：Communication Design

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である（株）博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個々が自律的に創発しあう関係構築に関与できるようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【講義の構成】**

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。

- I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

対面を基本とし、毎回出席をとります。コロナウイルス禍の状況により、講義を zoom によるオンライン形式で行うことがあります。その場合、チャット／アンケート／ブレイクアウトルームなどを活用し、リアル講義時のエッセンスを維持することを目指します。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人／グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（生活者発想の視点から）
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（観察調査の視点から）
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（統計データの視点から）
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理的とは何か）
6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理を組み立てる構造）
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（ロジックチャートの作り方）
8 回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップのやり方）
9 回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップによるアイデア創造）
10 回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップによる課題テーマ解決）
11 回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（コンセプトを創造する）
12 回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（キャッチコピーの書き方）

13 回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14 回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきが得られる構成となっています。学生諸君がここでの学びを、普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待します。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』(日本経済新聞社,2010)
博報堂生活総合研究所『生活者の平成 30 年史』(日本経済新聞社,2019)
博報堂生活総合研究所『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』(宣伝会議,2021)

【成績評価の方法と基準】

【成績評価について】

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。
【出席確認について】
出席確認は、①対面あるいは zoom 上での出席確認 と ②講義の翌日 24 時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき” の2つが揃った者を「出席」と認めます。なお、対面あるいは、zoom への講義開始後 30 分以降の入室と、講義終了 30 分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日 24 時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていただきます。
加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

①配布したレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となります。あらかじめ紙で出力したレジュメと筆記用具を用意して受講してください。レジュメのファイルと受講用 URL は、講義前日までに学習支援システムの「お知らせ」上で周知・配布します。
②オンラインでの講義の場合は、パワーポイントを画面共有して進めるので、受講はスマートフォンよりも、文字を視認しやすい PC 上での受講を推奨します。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。
その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.
What I want you to learn from the lecture is the following:
1.Realize how difficult and fun it is to “think” and “create,” which are important in the act of communication.
2.Experience the perspectives and skills of communication professionals to enable you to build autonomous and emergent relationships.
3.Acquire basic knowledge and skills by effectively communicating your ideas. In addition to creating posters to be used in the final presentation, simple preliminary assignments will be given in some lectures. The standard preparation and review time for this class is two hours. This lecture is structured so that students can gain a great deal of insight by practicing what they learn in class in their daily lives. I hope that students will apply what they have learnt here in their everyday seminar activities and in their papers and reports. Students will be evaluated on ordinary points (80%) which are based on their attendance and the paper assignment.

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

稲増 龍夫

サブタイトル：メディア文化論Ⅱ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポストモダン社会の深化と、ネットメディアの発展が相関している構図を多元的に析出し、今を映したビビッドな現代社会論を目指します。

【到達目標】

日常的に接しているメディア文化現象を素材に、ポストモダン社会論とネットメディア論がいかにシンクロしているかを理解し、テクノロジーの文脈で語られてきたネットメディアの社会学的背景を概観します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、全員参加の「白熱教室」＝ソクラテスの対話形式を導入します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概略と進め方のオリエンテーション
2	ポストモダンとは何か	すみわけ社会と分断社会の相克
3	高度消費社会の実相	現代広告における「差異化」の文法
4	アイデンティティの変容	「自分探し」の現代的構図
5	第1回白熱教室	ミニレポートと討論
6	価値の相対化と「正義」の解体	アメコミヒーローの変遷
7	アイドル工学	アイドル文化の日本的特性
8	メディアとしてのテレビゲームとARの位相	双方向のベクトルの進化とリアリティの変容
9	第2回白熱教室	ミニレポートと討論
10	インターネットの社会的変革力	インターネットの歴史とそのポストモダン性
11	グーグル化する社会におけるプライバシー問題	個人情報と私企業に提供して得られる便益とその危険性
12	ネット時代の著作権と二次創作の時代	モダンの時代に確立した著作権の変容を解説
13	第3回白熱教室	動画投稿サイトによって生まれた新たなメディア制作者としてのYouTuberに注目する
14	白熱教室 (補講)、	総括とミニレポート

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今という時代のメディア文化の変容に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

3 + 1 回の白熱教室で評価をおこない (100 %)、定期試験はおこないません。毎回の出席は取りませんが、白熱教室に参加するには出席が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

ネットに関する最新の動向をフォローしている受講者から「話題が古い」という指摘がありました。情報番組ではないので、最新情報ではなく、理論的文脈に沿った現象を取りあげています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline (in English)】

Study of Contemporary Media Culture. The purpose of this class to solve modern media culture phenomenon from the perspective of postmodern society theory. The evaluation is judged by the report(50%) and the contribution to the debate(50%) participating in several general discussions.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。毎回課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	＜広告知＞の発展	広告表現開発における＜広告知＞の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の 広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の 広告消費・文化	選択基準としての＜私＞の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第 12 回	現代の日本と世界の 広告	現代の広告表現の動向と課題
第 13 回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第 14 回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED

広告・P R 論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PR を中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PR プランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR 産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR 業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PR の基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PR の意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PR とメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	広告ビジネスの概要	広告・PR とは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第 2 回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第 3 回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第 4 回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第 5 回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第 6 回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第 7 回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第 8 回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第 9 回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PR の事例分析
第 10 回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第 11 回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第 12 回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について
第 13 回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第 14 回	広告の未来	広告・PR の未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

金井 明人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを、情報科学の理論を用い、総合的に把握し、解析することを目指す。特に、情報理論、システム理論、物語論および認知科学・人工知能の方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、様々な状況におけるコミュニケーションを、特に、情報と認知、物語の観点から考察する。また、情報理論のモデルだけでなく、物語論的観点から、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルについても扱っていく。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義をする。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報科学と物語、コミュニケーション	本授業のガイダンス
第 2 回	コミュニケーションの実験調査	コミュニケーションに関する実験調査を行う
第 3 回	物語とコミュニケーション	物語とコミュニケーションの関係を議論する
第 4 回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットにおける通信の理論を議論する
第 5 回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第 6 回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第 7 回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何か議論する
第 8 回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでのまとめ
第 9 回	情報システムとコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について
第 10 回	物語論とコミュニケーション	物語の解析を、情報科学的な観点から行なう
第 11 回	中間論文課題を基にした議論	論文例を提示し、それを基にした議論を行う
第 12 回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係を議論する
第 13 回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係を議論する
第 14 回	まとめと授業内論文	これまでの授業のまとめとそれを基にした論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。毎回の復習をし、それをふまえて中間論文課題を提出すること。また、中間論文は、提出後に論文例を提示するので、それをふまえて、その後の授業に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを毎回配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と中間論文課題 (50%)・最終授業内論文課題 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回数も1～2回だけあります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングからの観点を重視しますので難解に感じられる回数もあると思いますが、デジタル機器やインターネットの基になっている内容ですので、深く探究してください。また、デジタルだけでなく、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline (in English)】

This course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze communication from the viewpoint of information theory. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm paper: 50%, term paper: 50%

HUI200ED

認知映像論

金井 明人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの映像作品においては、物語が重要な役割を担っている。本授業では映像を物語とその認知の観点から分析する。物語による認知的効果は、必ずしもストーリーのみにはならず、編集や撮影、音などの様々な技法が重要になるため、これらの側面も重視する。また、映像の歴史と認知の関係・影響も議論していく。映画をメインに扱う予定であるが、他の種類の映像もとりあげる。また、映像がもたらす違和感や切断に特に注目するので、この種の効果に強い関心を持つことが重要になる。「わかりにくい」映像、「見づらい」映像を多く扱うが、「わかりにくさ」「見づらさ」は認知的な要因が大きく影響しているので、それがなぜ生じるのかを考えてみてほしい。

【到達目標】

映像作品（主に実験的作品）に数多く実際に接し、それらの作品を基に、映像と物語に関する認知プロセスの分析・解析ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる物語とその効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、通常時は授業開始 30 分後以降の教室への入室は禁じる。課題時は、さらに短期間で入室を禁じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の内容について
第 2 回	映像と認知科学	映像と認知科学の関係について
第 3 回	映像とストーリー	ストーリーを認知するプロセスについて
第 4 回	映像とノンストーリー	映像認知におけるストーリー以外の側面について
第 5 回	第 1 回レポート課題	第 1 回レポートの対象映像の上映
第 6 回	映画の歴史・認知	第 1 回レポート課題映像の解説
第 7 回	映像認知プロセスの調査・分析	第 1 回レポート課題をふまえ、映像認知プロセスを解析
第 8 回	映像と物語による効果の発生要因	認知的効果の発生要因について
第 9 回	第 2 回レポート課題映像	第 2 回レポートの対象映像の上映
第 10 回	映画の歴史・認知再考	第 2 回レポート課題映像の解説
第 11 回	映像と物語による効果の発生要因再考	第 2 回レポート課題をふまえ、認知的効果の発生要因を再考
第 12 回	透明な映像、反映する映像	様々な映像の技法と、認知の関係について
第 13 回	映像環境について	映像とその環境による認知的効果の差異について
第 14 回	まとめと授業内論文	授業内容をまとめる論文の授業内での執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするので、テキストなどの自習によって、各自、授業の補足を行なうこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

小方孝・川村洋次・金井明人 (2018) 『情報物語論：人工知能・認知・社会過程と物語生成』白桃書房

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートの提出 (66%) に加え、最終回の授業内で論文課題 (34%) がある。全ての提出が成績評価の前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映中は、一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。映像環境の構築にご協力お願い致します。

【学生が準備すべき機器他】

プリントは授業支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

レポート課題映像の上映時は、対面の場合は早い時間に教室を閉め切るの
で遅刻しないこと。

【Outline (in English)】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition. This course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze cognitive process regarding the film and narrative. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
First midterm paper: 33%, Second midterm paper: 33%, term paper: 34%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

水野 剛也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点をしぼり、その特質や問題点をもつばら歴史・思想の観点から総合的に論じることである。本講であつかう媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。

本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどうのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。本年度は昨年度までとは違う教員が担当するため、内容・方針・評価基準も大幅に異なる点を通告しておく。

また、感染症の流行の影響で対面授業ができないため、基本的に毎週、オンライン課題を与え、それにより評価を決定する。

最後に、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない。

【到達目標】

ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点をしぼり、その特質や問題点をもつばら歴史・思想の観点から総合的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週、文献を提示し、ジャーナリズムの一般的イメージ、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムの規範、ジャーナリズムの権力監視、ジャーナリズムの逸脱、といった題材についてオンライン課題を与える。

なお、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ジャーナリズムの一般的イメージ	ジャーナリズムの一般的イメージ
第 2 回	ジャーナリズムの定義 1	ジャーナリズムの定義
第 3 回	ジャーナリズムの定義 2	ジャーナリズムの定義
第 4 回	ジャーナリズムの定義 3	ジャーナリズムの定義
第 5 回	小括	これまでのまとめ
第 6 回	ジャーナリズムの規範 1	ジャーナリズムの規範
第 7 回	ジャーナリズムの規範 2	ジャーナリズムの規範
第 8 回	ニュース価値	ニュース価値
第 9 回	ジャーナリズムの権力監視 1	ジャーナリズムの権力監視
第 10 回	ジャーナリズムの権力監視 2	ジャーナリズムの権力監視
第 11 回	ジャーナリズムの逸脱 1	ジャーナリズムの逸脱
第 12 回	ジャーナリズムの逸脱 2	ジャーナリズムの逸脱
第 13 回	ジャーナリズムの再定義	ジャーナリズムの再定義
第 14 回	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない）、その上で各種の課題を与えるため、準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするものの、受講者によってはそれ以上の時間を要する。新聞閲読の習慣のない者の受講はすすめない。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、適宜、読むべき文献を提示する。

また、受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲覧していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない。

【参考書】

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism* (Guardian Books, 2003).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール、加藤岳文・斎藤邦泰訳、『ジャーナリズムの原則』（日本経済評論社、2002年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井真二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から見た米国史』（松柏社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

その場限りの単発の成果ではなく、日々の継続的な努力を重視する。

一例として、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲覧していることを前提とし、その上で各種の課題を与える。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない。

評価は、基本的に毎週提示するオンライン課題により決するが、任意の追加課題を与える可能性もある。その場合は、通常のオンライン課題＝100%とした上で、個別に適度なエクストラ・クレジットを追加して与える。

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【その他の重要事項】

本年度は昨年度までとは違う教員が担当するため、内容・方針・評価基準も大幅に異なる。

受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、いわゆる一般総合紙）を閲覧していることを前提とするため（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない）、この習慣のない者の受講はすすめない。

主言語は日本語であるが、英語の課題・参考文献もあり、かつ課題自体にも英語を用いるものがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the high-level practice of academic, constructive discussion by reading as much quality English-language literature on journalism and mass media studies as possible.

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ

飯田 裕美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースはスマホで読めるもの？でもそれは毎日、記者が人に会って取材をし、複数のチェックや議論を経て世に出ています。「ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ」で学習した内容を踏まえ、いま日本のメディアの現場では、記者が何に悩み、何を狙っているのかを紹介、ニュースのありかたを実際の作り手と一緒に考えていきます。

【到達目標】

ニュースとは何か、何が伝えられ、何が伝えられていないかを考える力をつけます。今起きていることに関するニュース記事を読み、記者の話を聞き、ジャーナリズムを舞台にした映画も扱いながら、報道と民主主義のかかわりや、権力の監視という役割がどの程度実践されているか、ジェンダーやマイノリティの問題がどう扱われてきたかなどを読み解きます。メディアを批判的に見るだけでなく、これから必要な報道を自分で考えられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講師は大学にありますが、オンライン授業を予定しています。記事や資料を使った講義のほか、各分野で活躍する記者を招き「いま起きていること」に即して諸課題を考えていきます。生ニュースに対応して、シラバスの順番・内容を変更する場合があります。出席者にリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ニュース記事の現在	何が問われているか（オリエンテーション含む）
第2回	事件をどう伝えるか	被害者の匿名・実名、改正少年法
第3回	国際報道	特派員の仕事
第4回	映画で考えるジャーナリズム①	民主主義とのかかわり
第5回	新型コロナと私たち	時代を記録する
第6回	災害取材	将来の被害を防ぐために
第7回	映画で考えるジャーナリズム②	取材のリアル
第8回	政治報道	各紙の違いは
第9回	スポーツ報道	テレビ中継に映らないこと
第10回	映画で考えるジャーナリズム③	権力との攻防
第11回	地方紙の役割	「伝える」ととどまらず
第12回	女性はどう描かれてきたか	多様性の価値
第13回	映画で考えるジャーナリズム④	メディア自身を検証する
第14回	まとめ	ニュースの見方、変わりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々発行されているメディアの記事を読み、気になる記事を授業に持ち寄ってもらうことを予定しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物で60%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にカメラオン・マイクオンでリアル参加できるインターネット環境・機器

【その他の重要事項】

講師は通信社で記者17年、デスク7年、編集委員・論説委員などの実務経験があります。いま実際にメディアの内部で何を考えているかの視点を皆さんにお伝えします。

【担当教員の専門分野等】

通信社記者・デスク（社会部）、編集・論説委員（生活報道部）、人事部採用担当、管理職。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to raise students' awareness about how the media sends daily news and what the journalists think about their stories.

Learning Objective : By the end of the course, students should be able to read articles not only critically but also independently, thinking what media have to report.

Grading Criteria / Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, in class contribution and reaction paper: 60%

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 <ゲスト講師登壇予定>
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実践について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類（30%）

期末試験（70%）

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

SES200EC, SES200ED

都市空間とデザイン I

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：都市景観論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ふつうの街の景観を理解し、消費者・有権者として参加できるようになること。

【到達目標】

建築デザインを言語化するための学習を中心として、ヨーロッパ古典建築から近代建築までを概観し、海外の知見とともに戦後日本の具体的な事例を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はスライドや映像を用いる。授業計画は若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	通年の流れと概念の説明	都市景観を読み解くとは？
2	古典建築 1	ギリシア、ローマの建築
3	古典建築 2	ロマネスク～バロック
4	古典建築 3	19 世紀建築と西洋建築史まとめ
5	近代建築 1	アメリカ／西欧の近代建築運動
6	近代建築 2	世界への波及と日本の近代建築
7	都市空間への展開 1	建築物から都市空間へ
8	都市空間への展開 2	都市空間の変遷
9	現代日本の都市空間	現代日本の都市空間
10	都市景観と保全 1	アメリカの都市美運動
11	都市景観と保全 2	イギリスの都市計画
12	都市景観と保全 3	まちづくり活動と景観
13	都市景観と保全 4	都市計画と景観まちづくり
14	全体のまとめ	全体のまとめと期末レポートの出題 or テスト対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし、その多くを都市を観て考える

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアベ： 26 %、中間レポート： 24%、期末考査： 50%

【学生の意見等からの気づき】

都市景観に対し多くの気づきが可能となるよう授業内容を工夫したい。

【その他の重要事項】

建設系コンサルタント等勤務経験者が都市空間等の背景について説明する。

【Outline (in English)】

"urban landscapes" as popular culture. This class aim to be able to think about it. Other point will be explained at the beginning of the class.

SES200ED

都市空間とデザインⅡ

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：景観文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ほくらにとって近未来に可能な「美しい街」に参加すること

【到達目標】

日常的に目にする都市景観の裏側にある思想や文化、仕組みなどを学習する。変容させる可能性はどこにあるのか、授業を通して考える力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はスライドや映像を用いる。授業計画は若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代日本の都市空間／建築デザイン	前期のまとめや、講義の目標、履修上の注意など
2	都市空間の概説	様々な都市空間をみていく
3	近代の都市計画史 1	都市計画の誕生と変容
4	近代の都市計画史 2	都市計画の成熟
5	都市空間における広場	広場の伝統、広場の再生
6	都市空間における街路 1	街路の文化、人間の場所
7	都市空間における街路 2	歴史的な町並みの保全
8	生活空間のデザイン 1	近隣住区論と住宅団地、そしてリノベーション
9	生活空間のデザイン 2	都市空間とストック活用
10	都市美 1	丸の内通り
11	都市美 2	アメニティの考え方
12	場所、空間の把握 1	場所を捉える
13	場所、空間の把握 2	場所を使う
14	全体のまとめ	まとめと期末レポート or テスト解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。身近な街を読み解く日常を希求したい。適宜 Google map や講義資料内の参考文献を参照すること。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
随時紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

リアベ：26 %、中間レポート：24%、期末考査：50%

【学生の意見等からの気づき】

都市景観に対し多くの気づきが可能となるよう授業内容を工夫したい。

【その他の重要事項】

建設系コンサルタント等勤務経験者が都市空間等の背景について説明する。

【Outline (in English)】

"urban landscapes" as popular culture. This class aim to be able to think about it. Other point will be explained at the beginning of the class.

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

サブタイトル：メディア史Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。その後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、解説をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第 2 回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第 3 回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第 4 回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第 5 回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第 6 回	メディア表象としての近代	アクションペーパーへのリブライ（1）
第 7 回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第 8 回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第 9 回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第 10 回	敗戦の記録と記憶	アクションペーパーへのリブライ（2）
第 11 回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第 12 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その1）	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第 13 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その2）	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第 14 回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分りにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、配布資料や参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の 60 % の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の 40 % の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand the history of media as a technology and institution that enables human recognition and existence, and also consider media as "record and memory".

Learning objectives:

The goal of this course is to help students understand that the media associated with political, economic, social and cultural transformations are essential to the experience of the event.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

SOC200ED

メディアコンテンツ論

西田 善行

サブタイトル：コミュニケーション論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】

受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだ映像について、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について（テキスト 1 章）
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて（テキスト 2 章）
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト 3 章）
5	映像の技巧と意味④	アートディレクションについて（テキスト 4 章）
6	映像の技巧と意味⑤	語りについて（テキスト 5 章）
7	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方、中間レポートの提示
8	映像分析の実際①	歴史的分析（テキスト 8 章）
9	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト 9 章）
10	計量言語分析とは	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析の応用	応用した成果と方法の解説・期末レポートの提示
12	言説分析とその応用	言説分析の原理とその成果
13	中間レポートの解説	中間レポートの成果の紹介・解説
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回学習支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

【参考書】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税

これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間（2000 字程度）と学期末（4000 字程度）に 2 回の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。①レポート（2 回）＝ 80 % ③毎回の課題＝ 20 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、学習支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も学習支援システムで行います。受講する学生は、2 回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。課題作成時にパソコンを使用します（特に後半の軽量言語分析時）。

【その他の重要事項】

この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに学習支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline (in English)】

Students will learn about the image and discourse theory.

At the end of the course, students are expected to analyzing the image and discourse.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report , term-end report (80%), and each time short report(20%).

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。前回までに提出されたりアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生 1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生 2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生 3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 4	VR と AR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。

平常点は、授業への参加の姿勢やリアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の準備	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法 1	UX グラフを用いた UX 評価
4	ユーザ調査で用いる手法 2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法 3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法 4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施 1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施 2	RQ の作成
9	ユーザ調査の実施 3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施 4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析 1	KJ 法による分析
12	結果の分析 2	SCAT による分析
13	結果の分析 3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint)、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施することもあるため、全ての回への出席が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual points, including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅰ

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のつづき、機能、役割を主に社会学、経営学の視点から分析・考察することを目的とします。具体的に組織と組織間関係（企業と企業間関係／企業紐帯）に焦点をあて、企業グループ内部・外部との関係性、外資系企業、ベンチャー企業における組織間関係の特徴、組織間関係の海外移転などを実際のデータを用い平易に学びます。就活における業界＆企業情報の読み方、選択の仕方にも大いに参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク、組織間関係からの分析および理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解
- 3 企業紐帯の形成・展開と数理モデルを用いた分析・考察

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。社会学、経営学を中心に企業紐帯と業績の関係を検証します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1) 外部環境	SDGs とパンデミック、Society 5.0 などについて紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2) 2つの組織	階層型組織とネットワーク型組織について考察します。
04	産業・企業におけるネットワーク現象 (1) 産業、企業	産業間連携、組織間関係／企業紐帯を考察します。
05	産業・企業におけるネットワーク現象 (2) 業界、日本と海外の企業グループ	業界地図、製造業／非製造業、日本／海外の企業グループを検証します。
06	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (1) 分析対象	分析対象としての個別企業ならびに企業グループを考察します。
07	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (2) 分析枠組み	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	企業紐帯と業績の研究 (1) 製造業	製造業グループ（電機、自動車）の事例を学びます。
09	企業紐帯と業績の研究 (2) 非製造業	非製造業グループ（金融）の事例を学びます。
10	企業紐帯と業績の研究 (3) 非製造業	非製造業グループ（小売）の事例を学びます。
11	企業紐帯と業績の研究 (4) ベンチャー業界	ベンチャー企業ならびに同グループの事例を学びます。
12	企業紐帯と業績の研究 (5) 外資系企業	在日外資系企業の事例を学びます。
13	企業紐帯と業績の研究 (6) 海外企業	海外企業（本邦系、非本邦系）の事例を学びます。
14	総括と質疑および議論	各講義に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文眞堂、2017 年。

【参考書】

『日経 2022 業界地図』日本経済新聞社、2021 年。ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、期中ポート 30 %、期末レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture analyzes and considers the social structure in Japan, mainly focusing on networks and organizations (companies, corporations), and the structures, functions, and roles of networks and organizations from the perspectives of sociology and business administration. The purpose is. Specifically, focusing on the relationship between organizations (company-to-company relationship / corporate ties), the relationship between the inside and outside of the corporate group, the characteristics of the inter-organizational relationship in foreign-affiliated companies and venture companies, and the inter-organizational relationship. You can easily learn about the overseas transfer of relationships using actual data. I think that it will be helpful for selecting the industry & company in job hunting.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

境 新一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のつづ構造、機能、役割を分析・考察することを目的とします。具体的には社会科学分野（主に社会学を中心に、経営学、経済学、法学）の視点から、SNS も含めた社会ネットワークに関する現象を理論と実証の両面から検証します。さらにスモールワールド・モデル、弱い紐帯の強さ、閾値理論などの数理社会学に関わるモデル、仮説も紹介します。最後に、ネットワーク論と意思決定論を基礎とするアイデア発想法の枠組み理解と具体的な課題で演習を行います。就活における業界・企業の情報の読み方、選択の仕方に参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワークを対象とした主要な社会科学の分析枠組みから分析および理解
- 2 社会ネットワークの諸仮説と数理社会学のモデルの理解
- 3 ネットワーク論と意思決定論をふまえたアイデア発想法の全体像の理解と演習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会ネットワーク論と分析対象と分析枠組、理論と背景	分析対象／ミクロ・メゾ・マクロ、分析枠組み／行動・過程・構造、社会ネットワークならびに関連するの理論と背景を理解します。
03	社会ネットワークと主要な社会科学分野の関連性	主要な社会科学（経済学、経営学、社会学、法学）の分析視点を理解します。
04	分析視点1 経済学の視点	個人・組織・市場・産業、政策、貿易、部分最適と全体最適、対象の数理モデル的理解をすすめます。
05	分析視点2 経営学の視点	営利社団、所有と経営の分離、組織と管理、意思決定、利益と成長、対象の実態的理解をすすめます。
06	分析視点3 社会学の視点	個人・組織・地域・市場・ネットワーク、集団や社会の均衡、公共善／公益の実現を理解します。
07	分析視点4 法学の視点	社会規範、制度、個人と法人、企業法（民商法など）、利害の調整を理解します。
08	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証1	数理分析、グラフ理論、ネットワーク&ブロックモデル、統計学等の分析枠組みを理解します。
09	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証2	スモールワールド・モデル、なぜ世界は広く、世間は狭いのか、理解します。
10	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証3	弱い紐帯の強さモデル、転職に成功するにはどうすればよいか、を理解します。
11	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証4	閾値理論 なぜ流行が起こるのか、理解します。
12	アイデア発想法1 ブレインマップの枠組み	ネットワーク論と意思決定論を基礎とするブレインマップの枠組みを理解します。
13	アイデア発想法2 ブレインマップの演習	課題を提示し、ブレインマップの演習を行います。
14	アイデア発想法3、総括と質疑および議論	ブレインマップの演習の成果発表を行い、講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一、谷 真哉、榎本 正『新事業創造のための発想法（仮）』文眞堂、2022年 6 月に新刊予定。

【参考書】

数理社会学会監修・編著『社会を〈モデル〉でみる 数理社会学への招待』勁草書房、2014 年。

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文眞堂、2017 年。

ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、期中ポート 30 %、期末レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to analyze and consider the structure, function, and role of networks and organizations, focusing mainly on networks and organizations (corporations, corporations) in Japan. Specifically, from the perspective of the social science field (mainly sociology, business science, economics, law), we will examine phenomena related to social networks, including SNS, from both theoretical and empirical perspectives. In addition, we will introduce the small world model, the strength of weak ties, models related to mathematical sociology such as threshold theory, and hypotheses. Finally, exercises will be given on understanding the framework of idea-creating methods based on network theory and decision-making theory, and on specific tasks.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっています。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という3つの論点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境の特徴を具体的事例を通じて社会的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解を獲得することが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的把握」の3セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 2	ソーシャルメディアと情報行動の変容
8	個人化する情報環境 3	パーソナライズされる広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 4	個人化の中での「群」：祭りと炎上
10	情報環境の再帰的把握 1	「再帰的把握」とは何か？
11	情報環境の再帰的把握 2	メディアだらけの社会にどう向き合うか
12	情報環境の再帰的把握 3	テクノロジー的生活形式にどう向き合うか
13	情報環境の再帰的把握 4	経験の断片化・非同期化にどう向き合うか
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of today's digital information environment sociologically and to form opinions about the future of digital media.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人・モノ・空間の連関の分析などについて学び、さらに UX デザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論や調査法を具体的な事例と共に学んでいきます。

- ・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
- ・各回の授業で 10 分程度の短いグループディスカッションを行うことがあります。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析 1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析 2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析 3	ソーシャルメディアのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析 4	セクションのまとめ
6	人・モノ・空間の分析 1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の分析 2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の分析 3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間分析 4	セクションのまとめ
10	ユーザー調査の方法 1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法 2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法 3	ペルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法 4	セクションのまとめ
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくことと理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user experience of digital media technology.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire analytical framework for studying the relation between digital media and its users and to learn the techniques of user research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題を考えることで、情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習を前提に進め、質疑や議論を行います。提出された課題にすることで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きるメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第 4 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）
第 14 回	未来を考える	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understanding social media and media literacy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

サブタイトル：メディア経営論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルメディアにより可視化された生活者の口コミ分析は、メディアに関わる企業だけでなく、マーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業では、ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を理解し、社会に与える影響を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業にはグループワークがあります。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行います。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要と目的
第 2 回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第 3 回	概論	ソーシャルメディアと消費行動モデル
第 4 回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 5 回	概論	情報拡散の構造
第 6 回	概論	ビッグデータとインサイト
第 7 回	概論	ソーシャルリスニング
第 8 回	分析	ビッグデータの観察技法
第 9 回	分析	データの収集
第 10 回	分析	データの分析
第 11 回	分析	関連情報の収集
第 12 回	分析	関連情報の分析
第 13 回	分析	リスクの検討
第 14 回	まとめ	試験、分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。個人やグループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

博報堂生活総合研究所（2021 年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【参考書】

桶谷功（2008 年）『インサイト実践トレーニング』ダイヤモンド社
佐藤尚之（2011 年）『明日のコミュニケーション「関与する生活者」に愛される方法』アスキー新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

HSS100IA

スポーツコーチング論 I

平野 裕一

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。さらに理解したものを実践で使えるようにすることも学ぶ。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングの現状、多様な文脈、コーチに求められるもの、コーチの学び
・セルフコントロール、コミュニケーション、リーダーシップ、多様な思考法
・様々な人に対するコーチング、コーチングにおけるリスクマネジメントを理解する。
一方で、理解した内容をコーチング実践の中で活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者を2つのグループに分ける。
1つのグループでは、授業の前半の時間にコーチングにおける思考・判断、態度・行動を講義形式で学び、後半の時間にコーチ役と選手役をつくって屋外でコーチングを実践し、その後それぞれの役からみたコーチング実践についてコメントする。コーチ役はスポーツスキルから1つを選びそのスキルを向上させるためのドリルを3つ作る。3週にわたり1つずつドリルを実践してコーチ役を終え、選手役と交替していく。
もう1つのグループは逆順で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義と実習の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	・スポーツの意義と価値 ・1 巡目コーチの1 回目実践	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	・日本のコーチングの今 ・1 巡目コーチの2 回目実践	グッドコーチに向けた「7つの提言」
4	・多様なコーチング文脈 ・1 巡目コーチの3 回目実践	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	・コーチに求められるもの ・2 巡目コーチの1 回目実践	コーチの主な機能（職務）
6	・コーチの学び ・2 巡目コーチの2 回目実践	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	・コーチのセルフコントロール ・2 巡目コーチの3 回目実践	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	・コーチのコミュニケーション ・3 巡目コーチの1 回目実践	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	・コーチングとリーダーシップ ・3 巡目コーチの2 回目実践	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	・多様な思考法に基づくコーチング ・3 巡目コーチの3 回目実践	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法

11	・発育発達と女性アスリート のコーチング ・4 巡目コーチの1 回目 実践	・成長期の子どものコーチングの特徴 ・女性アスリートのコーチングの特徴
12	・障がいのある人の コーチング ・4 巡目コーチの2 回目 実践	・アダプテッド・スポーツ ・インクルーシブ・スポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13	・リスクマネジメント ・4 巡目コーチの3 回目 実践	・暴力的指導のリスクマネジメント ・スポーツ事故のリスクマネジメント
14	総括	・専門的知識への移行 ・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3 回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
(授業の各回には学習支援システムの「教材」に資料をアップロードする)

【参考書】

・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3 点 × 1 2 回 = 3 6 点）
・講義に関する期末テスト（6 4 点）
で総合1 0 0 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching in the classroom and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In the practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student players.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to use these findings in the coaching practice on the court.

【Learning activities outside of classroom】

Student coach selects one of the sport skill and creates 3 drills to improve the selected skill of student players.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to each coaching practice (36%) and term-end exam (64%)

HSS100IA

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法に関するこれまでの科学的知見を学ぶ。これらを理解することでトレーニング実践あるいはトレーニング指導を効率的、効果的なものにする。

【到達目標】

・トレーニングを実施する手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づくトレーニング目標の設定、手段・方法の選択、計画の立案、実践での留意点、効果の評価および実施手順の改善についての各理論を理解する。
・体力、技術トレーニングの内容・方法として、運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数およびトレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法についての講義を進める中で、トレーニングを実施する際に必要となる具体的な変数の算出およびトレーニング効果を示す図の理解記述などをアクティブ・ラーニングで行う。理解記述の結果は次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論 ・遺伝とトレーニング	・スポーツ・運動の構造を設計する意義 ・遺伝とトレーニングの関係
2	・トレーニングの目標論 ・全身持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の目標の立て方 ・全身持久力の要因とトレーニングの内容・方法
3	・トレーニングの手段論 ・高強度インターバルトレーニング (HIIT)	・トレーニングを実施する際の手段の選び方 ・高強度インターバルトレーニングの内容・方法と効果
4	・トレーニングの方法論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の手段の配置 ・筋持久力の要因とトレーニングの内容・方法
5	・トレーニングの計画論 ・筋力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方 ・筋力の要因とトレーニングの内容・方法
6	・トレーニング実践論 ・パワートレーニング	・トレーニングを実施する際の実施における留意点 ・パワーの理解、その要因とトレーニングの内容・方法
7	・トレーニング改善論 ・暑熱順化トレーニング	・トレーニングを実施後、改善するための方法 ・暑熱順化の原理とトレーニングの内容・方法
8	・スピードトレーニング	・スピードの分類、それぞれの要因とトレーニングの内容・方法
9	・バランスのトレーニング	・バランスの要因とトレーニングの内容・方法
10	・柔軟性のトレーニング	・柔軟性の要因とトレーニングの内容・方法
11	・高地トレーニング	・高地トレーニングの変遷、理論背景とトレーニングの内容・方法
12	・ウォーミングアップとクールダウン	・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、内容・方法
13	・技術トレーニングの考え方、基本原則①	・技術トレーニングの原理、効果高めるための基本原則
14	・技術トレーニングの基本原則②	・技術トレーニングを実施する際の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂
 ・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
 ・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版
 ・「パワーズ運動生理学」Scott Powers、メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価の方法と基準】

・講義中でのトレーニング効果を示す図の理解記述を3点 × 14回 = 42点
 ・期末テストを58点
 として評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】**【(Course outline)】**

This class deals with the physical and skill training science for exercise and sport. In addition to the training PDCA cycle, training variables(intensity, volume, frequency, and period) are introduced for each physical element. On the skill training, changes in the nervous system and principles of the training are introduced.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to utilize them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply the understandings into their sport fields.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to the figure introduced in each class (42%) and term-end exam (58%)

HSS200IA		
スポーツリスクマネジメント		
木下 訓光		
サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】		
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義		
開講時期：春学期授業/Spring 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位		
曜日・時限：木 2/Thu.2		
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。		
【到達目標】		
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曾有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】		
・すべての回の対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遅延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなかった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。		
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。		
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。		
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。		
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。		
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。		
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。		
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」ースポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死的外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」ー競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。		
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。		
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。		
④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特に定めず		
【参考書】		
第 1 回：『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵		
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可		
第 2 回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第 1 章～第 6 章）『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵		
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵		
第 3 回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵		
第 3 回および第 4 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009 年 26 巻 11 号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）		
第 5 回：		

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第6回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェッカー心臓突然死を未然に防ぐために－、pp.570-573）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界－、pp.153-162。）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第8回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)

第9回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuu/index/saigai/rakurai.pdf)

『雷対応マニュアル』（J リーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)

第10回：

高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）、（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－、（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：

『臨床雑誌 内科：特集：感染症 2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書 jp よりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第14回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵

『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなるが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller.'Risk Management In Sport: Issues And Strategies'(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）

※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

① 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.

【Learning objectives】The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

【Grading criteria/policy】The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). A quiz (mini test) will be provided occasionally in the classroom. The score of the quiz might be added to that of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS200IA		
スポーツリスクマネジメント		
木下 訓光		
サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】		
カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義		
開講時期：春学期授業/Spring 配当年次／単位：2 年次／2 単位		
曜日・時限：木 2/Thu.2		
備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象		
※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる		
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の変異や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。		
【到達目標】		
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破綻的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曾有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】		
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遅延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。		
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。		
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。		
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。		
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。		
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。		
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。		
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」ースポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」ー競技スポーツ参加の可否判断	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
9	環境とスポーツ	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
11	スポーツ選手と減量	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
13	スポーツにおける感染症管理	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。		
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。		
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。		
④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特に定めず		
【参考書】		
第 1 回：『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵		
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可		
第 2 回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第 1 章～第 6 章）		
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵		
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵		
第 3 回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵		
第 3 回および第 4 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）		
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）		
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009 年 26 巻 11 号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）		
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）		
第 5 回：		

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第6回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェッカー心臓突然死を未然に防ぐために－、pp.570-573）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界－、pp.153-162。）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第8回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)

第9回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuu/index/saigai/rakurai.pdf)

『雷対応マニュアル』（J リーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)

第10回：

高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）、（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－、（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：

『臨床雑誌 内科：特集：感染症 2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書 jp よりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第14回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵

『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなるが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller.'Risk Management In Sport: Issues And Strategies'(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）

※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

① 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.

【Learning objectives】The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

【Grading criteria/policy】The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). A quiz (mini test) will be provided occasionally in the classroom. The score of the quiz might be added to that of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN1001A

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（CSRおよびソーシャルマーケティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

ECN1001A

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

旧科目名：スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とス ポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文 化の産業化
2	スポーツマーケティング の考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーション シップマーケティング
4	マーケティング戦略の考 え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業 のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマ ネジメント（プロ・ス ポーツ）	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマ ネジメント（スポーツ消 費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマ ネジメント（ブランディ ング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマ ネジメント（マーケティ ング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（市場 動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（コ ミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブラ ンドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（CSR およびソーシャルマーケ ティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

HSS100IA

スポーツコーチング論 A

平野 裕一

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。さらに理解したものを実践で使えるようにすることも学ぶ。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングの現状、多様な文脈、コーチに求められるもの、コーチの学び
・セルフコントロール、コミュニケーション、リーダーシップ、多様な思考法
・様々な人に対するコーチング、コーチングにおけるリスクマネジメントを理解する。
一方で、理解した内容をコーチング実践の中で活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者を2つのグループに分ける。
1つのグループでは、授業の前半の時間にコーチングにおける思考・判断、態度・行動を講義形式で学び、後半の時間にコーチ役と選手役をつくって屋外でコーチングを実践し、その後それぞれの役からみたコーチング実践についてコメントする。コーチ役はスポーツスキルから1つを選びそのスキルを向上させるためのドリルを3つ作る。3週にわたり1つずつドリルを実践してコーチ役を終え、選手役と交替していく。
もう1つのグループは逆順で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義と実習の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	・スポーツの意義と価値 ・1 巡目コーチの1 回目 実践	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	・日本のコーチングの今 ・1 巡目コーチの2 回目 実践	グッドコーチに向けた「7つの提言」
4	・多様なコーチング文脈 ・1 巡目コーチの3 回目 実践	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	・コーチに求められるもの ・2 巡目コーチの1 回目 実践	コーチの主な機能（職務）
6	・コーチの学び ・2 巡目コーチの2 回目 実践	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	・コーチのセルフコントロール ・2 巡目コーチの3 回目 実践	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	・コーチのコミュニケーション ・3 巡目コーチの1 回目 実践	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	・コーチングとリーダーシップ ・3 巡目コーチの2 回目 実践	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	・多様な思考法に基づくコーチング ・3 巡目コーチの3 回目 実践	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法

11

・発育発達と女性アスリートのコーチング
・4 巡目コーチの1 回目
実践

12

・障がいのある人のコーチング
・4 巡目コーチの2 回目
実践

13

・リスクマネジメント
・4 巡目コーチの3 回目
実践

14

総括

・アダプテッド・スポーツ
・インクルーシブ・スポーツ
障がいのある人のコーチングの特徴

・暴力的指導のリスクマネジメント
・スポーツ事故のリスクマネジメント

・専門的知識への移行
・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕陸、荒井弘和共編、培風館
(授業の各回には学習支援システムの「教材」に資料をアップロードする)

【参考書】

・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3 点 × 1 2 回= 3 6 点）
・講義に関する期末テスト（6 4 点）
で総合1 0 0 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching in the classroom and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In the practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student players.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to use these findings in the coaching practice on the court.

【Learning activities outside of classroom】

Student coach selects one of the sport skill and creates 3 drills to improve the selected skill of student players.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to each coaching practice (36%) and term-end exam (64%)

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3
備考（履修条件等）：※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につけることに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。4K での精緻な映像に始まって 8K の現実と遜色ない映像の世界は、スポーツにこそ最高の技術を使った伝達の価値を見いだせると語っているようだ。世界のメガイイベントに備えるメディアの新たな動きを確認した上で、スポーツメディアの近未来を考える機会としたい。

【到達目標】

一時は戦意高揚のために、その後は商業化の波に乗って、W 杯サッカーやオリンピックというメガイイベントを契機としながらスポーツメディアはさまざまな歴史を重ねてきた。講義を経て獲得できるのは、活字、電波、写真、モバイルと進化を遂げてきたアイテムの成り立ちと必然性。しかし製品そのものに関心をとどめておくだけでは足りない。変化が促されたのは、それを求めた社会があつてこそのことである。となれば、時代を画すにつれて社会そのものがどう変わってきたのかに視点は向けられなければならない。加えて現在の状況、そしてこれから。講義の過程で認識したいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアが今さしかかっている曲がり角をいかに乗り越えようとしているのか。一人一人がメディアと化したこの時代に、何がどう変化しているのか。ストーリーミング、OTT、SNS、見逃し配信など、多様なルートを通して、スポーツがそれ自身どこに向かうのかを膨張してきたのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知るとはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかノウハウにもつながる。
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。※ウィルスの影響次第で、オンライン授業を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近いところで踏ん張っている。その組織と情報提供の実際を目にして、報道の中でのスポーツの占める位置を確認する。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとはば時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	メディアの仕組み①（プリント/活字）	スポーツメディアは、メディアの中の一部分である。そこを知るには、プリントメディアの世界の常識と理念から始めなければならない。後に電波メディアも大きな影響を受けた、プリントメディアの取材から報道までのありようを見る。

4	メディアの仕組み②（音声/映像）	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	プリント（活字）メディアの中のスポーツ	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げてきた。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらプリントスポーツメディアの特徴を知る。
6	メディアとスポーツ事業	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。
7	スポーツ中継（1）～仕組みと制度～	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えにくい部分を、音声実況の歴史からテレビ中継までをハードウェアを中心に確認する。
8	スポーツ中継（2）～人と思想～	ラジオとテレビ。そこにあるのは、媒介する機材やルートの違いだけではない。方法論や考え方を見比べることで、スポーツ報道がいかに社会の要請を受けて変化したのかが見えてくる。時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツ番組（スタジオ制作）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
12	メガイイベントとメディア	オリンピックを主催する IOC も、W 杯サッカーを主催する FIFA も、映像メディアに強い関心と影響力を持ってきた。歴史的流れの中でメガイイベントとメディアの関係に習熟する。
13	スポーツメディア世界の今	放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そこでひらめいた読後感はさまざまなシーンで有用になる。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かおう。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず。

【参考書】
「メディア文化研究への招待」ポール・ホドキンソン著 土屋武久訳 ミネルヴァ書房 2016 年
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会 2011 年
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房 2012 年

【成績評価の方法と基準】

「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
対面形式：「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
※オンライン時：指定期限内に学習支援システムの「課題」欄を経由して提出する。
※ハイブリッド時：集中力の差を考慮して、対面で参加する学生とオンラインの学生との間に異なる課題を設定する。

オンラインで受講しているにもかかわらずライブ参加がなく、課題だけを提出する登録受講生の評価は、原評価の半分とする（最高点 1. 5）。ライブ参加の場合も、短時間で切り上げて講義から退出した場合には得点が下がる可能性がある。

配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.5 点刻み ×13）。

最終講義内に実施する期末論文試験（ターム / フリーズ問題 20 点、小論文 50 点）には必ず取り組むこと。

すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。

通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する（既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと）。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき 3 回まで。自分の都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題より負荷の高いものになる。期末時の追加レポートを選択せず、オンライン参加のないままの講義内課題に学習支援システムからの回答提出も選択できる。その場合、相当な理由があった場合には最高点 2 点とする。全講義終了後、レポートを選択するか、その都度講義内課題を選択するかは受講者の判断で行うことができる。両方を同時に選択することはできない。

単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

テレビを見ない世代が増えている中で、ウィルスの影響で激減した競技スポーツに人々はどんな反応を残すのだろうか。メガイイベントがどうなるか未確定の中の講義だけに、常に未来形で「現代」を追いかけたい。

スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早くなりがちだが、講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで、受講者が確認できるような手立てを講じる。

【その他の重要事項】

スポーツジャーナリストとしての 40 年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。

今年はカタールで FIFA ワールドカップの開催される年。冬季五輪を主催した IOC とそのライバルと目される FIFA とが、それぞれのメディア戦略にどのような違いを見せるのか。レースや試合の報道といった一次情報はもとより、それを支える組織の考え方に関心を向けてもらいたい。

【Outline (in English)】

To be familiar with the sports philosophies of existing media such as printed media, broadcasting, Internet and tablets that play prominent roles in recent years.

While understanding the trajectories and current situation from the origin of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand medias world where remarkable changes are anticipated.

You could have an enough chance to get acquainted with the near future of the sports media.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3～4 年次／3 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実案を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
17	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する

19	調査課題の仮説の設定	第 18 回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施	第 19 回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査結果の発表	第 20 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の調査票の妥当性の確認	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う
25	定量調査の実施	定量調査を実施する
26	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の集計、分析、仮説検証	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の集計、分析結果の考察、結果のまとめ	第 22 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

旧科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なる

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる。
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を变えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツビジネスの概要について学ぶ スポーツマネジメントの定義：スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM)、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】について学習する。

- 13 ケーススタディー これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。これまでの授業の総括を行う。
- 14 授業総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、
リアクションペーパーの内容 (30 %)
小テスト (30 %)
レポートの内容 (40 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing). The goals of this class are: 1.You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Explain what management knowledge can change in sports. The grade evaluated by contents of reaction paper (30%), Quiz (30%), Evaluate by the content of the report (40%).

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる。
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を变えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義：スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM)、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】について学習する。
13	ケーススタディー	これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。
14	授業総括	これまでの授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、リアクションペーパーの内容（30 %）小テスト（30 %）レポートの内容（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing). The goals of this class are: 1.You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Explain what management knowledge can change in sports. The grade evaluated by contents of reaction paper (30%), Quiz (30%), Evaluate by the content of the report (40%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ。
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える。
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う。
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ。
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる。
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ。
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する。
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る。
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。

専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
2	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
3	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
4	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
5	事前調査の実施	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる。
6	事前調査結果の発表	第 5 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる。
7	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う。
8	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う。
10	定量調査の実施	定量調査を実施する。
11	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
12	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
13	調査の集計、分析結果の考察	第 12 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

ARSk100JB,ARSk100JC

地域問題入門**野田 岳仁**

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on reaction papers(40%) and term-end examination (60%).

ARSx100JB

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 11 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 12 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 13 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW100JC

社会問題論

高良 麻子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目
科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基礎科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。
基本的には対面授業で実施するが、ゲストスピーカーの都合によっては、オンラインにて実施する。また、大学の授業方針にもとづき授業形態の変更がある場合には、学習支援システムで伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第4回	社会問題①	少子高齢化
第5回	社会問題②	ワーキングプア
第6回	社会問題③	子どもの貧困
第7回	社会問題④	ホームレス
第8回	社会問題⑤	ひきこもり
第9回	社会問題⑥	性暴力
第10回	社会問題⑦	過疎地域
第11回	社会問題⑧	難民
第12回	社会問題⑨	自殺
第13回	社会問題におけるマスメディア	マスメディアの役割
第14回	社会問題の連鎖	社会問題の連鎖 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

PSY100JB,PSY100JC

心理学（2021 年度以降入学者）

前田 基成

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目
科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基礎科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を中心に授業を行います。必要に応じて映像資料を用います。また、小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第2回	心理学のあゆみ	心理学の歴史について学習する。
第3回	感覚と知覚	視覚の心理について学習する。
第4回	発達	人間の発達の心理について学習する。
第5回	学習	新しい行動を身につける学習の心理について学習する。
第6回	記憶	感覚・短期・長期記憶など記憶の心理について学習する。
第7回	動機づけ	やる気と意欲の心理について学習する。
第8回	対人関係の心理	日常見られる人間関係の心理について学習する。
第9回	集団の心理	集団からのさまざまな影響過程の心理について学習する。
第10回	心の深層	意識されない深層心理について学習する。
第11回	性格	性格理論、性格の形成、性格検査について学習する。
第12回	心とからだ	精神と身体とのつながりについて学習する。
第13回	進化と人間行動	日常的な行動に及ぼす進化の影響について学習する。
第14回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】

必要時に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点 80 % と授業中の小テスト 20 % を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルス感染症の感染動向によってオンライン授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The goals of this course are to explain the research results and concepts of psychology, and acquire the psychological perspective necessary to think positively about modern society. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 80%, Quiz: 20%.

PSY100JB, PSY100JC

心理学（2020 年度以前入学者）

前田 基成

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を中心に授業を行います。必要に応じて映像資料を用います。また、小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	心理学のあゆみ	心理学の歴史について学習する。
第 3 回	感覚と知覚	視覚の心理について学習する。
第 4 回	発達	人間の発達の心理について学習する。
第 5 回	学習	新しい行動を身につける学習の心理について学習する。
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶など記憶の心理について学習する。
第 7 回	動機づけ	やる気と意欲の心理について学習する。
第 8 回	対人関係の心理	日常見られる人間関係の心理について学習する。
第 9 回	集団の心理	集団からのさまざまな影響過程の心理について学習する。
第 10 回	心の深層	意識されない深層心理について学習する。
第 11 回	性格	性格理論、性格の形成、性格検査について学習する。
第 12 回	心とからだ	精神と身体とのつながりについて学習する。
第 13 回	進化と人間行動	日常的な行動に及ぼす進化の影響について学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】

必要時に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点 80 % と授業中の小テスト 20 % を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルス感染症の感染動向によってオンライン授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The goals of this course are to explain the research results and concepts of psychology, and acquire the psychological perspective necessary to think positively about modern society. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 80%, Quiz: 20%.

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉国家の機能と役割について学ぶ。

日本、アメリカ、ドイツの3か国の子どもの貧困対策の展開を比較検討し、日本の福祉国家の課題を明らかにする。

【到達目標】

1) 福祉国家の分配、再分配制度について理解する。

2) 日本、アメリカ、ドイツの子供の貧困対策の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1) アメリカとドイツの子どもの貧困対策に関しては、原文の資料を読んで、概要をまとめてもらいます。

翻訳アプリなどを活用して、内容の要点の把握に努めてください。

2) オンライン授業形態も随時取り入れます。注意してください。

3) 受講生からの報告や提出物に対しては、代表的なものについては授業の中でコメントをし、その他については授業支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	福祉国家の概要/授業ガイダンス	役割と機能
第2回	日本の福祉国家の特徴(1)	再分配と貧困対策の実態
第3回	日本の福祉国家の特徴(2)	相対的所得貧困の推移 格差拡大の指標
第4回	日本の福祉国家の特徴(3)	コロナ対応の「日本モデル」
第5回	日本の福祉国家の特徴(4)	岸田政権の成長と分配施策 子どもの貧困対策
第6回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(1)	アメリカ救済計画、アメリカ家族計画 富裕層課税強化と GAFA 規制
第7回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(2)	子ども税額控除の拡大
第8回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(1)	ドイツにおけるコロナ対応策：社会保険パッケージ法とその効果
第9回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(2)	ドイツにおけるコロナ対応策：求職者基礎保障の資産要件撤廃
第10回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(3)	子ども基礎保障創設に向けた動き
第11回	原資料の検討	アメリカ：子ども税額控除拡大による 子供の貧困削減効果
第12回	原資料の検討	ドイツ：子ども基礎保障創設の狙いと効果
第13回	アメリカとドイツの施策展開についての報告	受講生によるまとめの報告
第14回	講義まとめ	全体の振り返りと、受講生のまとめへの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①各自が原文資料を読み込み、発表の準備を行います。

②本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

個人発表 30%・期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

外国の施策展開について学びたいという声にこたえます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to learn about the function and role of the welfare state through a comparison of three countries: Japan, the United States, and Germany.

【Learning Objectives】 The goals of this class are 1) To understand the distribution and redistribution systems of the welfare state, 2) Identify new developments in child poverty measures in Japan, the U.S., and Germany.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the presentation(30%) and term-end report(70%).

ENG200JB

社会的包摂論

水野 雅男

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてベアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第 2 回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第 3 回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第 4 回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第 5 回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第 6 回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第 7 回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第 8 回	障害者の能力①	エイブルアート
第 9 回	障害者の能力②	障害者スポーツ
第 10 回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第 11 回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第 12 回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第 13 回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第 14 回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

ENG200JB

地域計画論

今井 裕久

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの地域で、その将来像が構想（デザイン）され、それを実現するために様々な計画（プラン）が策定・実践されてきた。その計画主体には、国や自治体だけでなく、民間企業や個人の起業家も含まれる。本講義では、こうしたさまざまな主体による地域へのアプローチを学び、今日的な計画論とその実践を探りながら、あるべき姿を受講生と共に探る。

【到達目標】

地域とは何か、計画を立てるとはどういうことか、その利点・限界は何かを学ぶ他、計画プロセスの多様性、そのイノベーション、実践や成果の評価、見直しの在り方等について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では地域計画に関連する制度や事例について解説を行い、授業間の課題を通じて、受講者には調査・図表の作成などを行い、提出してもらう。提出物へのフィードバックは、各回の授業のはじめ及び最終回に実施する。また個人課題と併せ、グループワークなどを通じ他者とのコミュニケーションや合意形成といったまちづくりに必要なテーマについても演習等を通じて取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計画とは何か？	授業の目的や進め方について説明するとともに、そもそも「計画」とは何かを問う。
第 2 回	地域計画の変遷とこれから	社会の変化に応じた地域計画の変遷を学び、これからの計画を考える。
第 3 回	地域計画における課題 (1)	地域計画において生じうる価値観の相克についてケーススタディを通じて紹介し、それに対する考え方を議論する。
第 4 回	地域計画における課題 (2)	引き続きケーススタディを通じて、多様な価値観の相克とそのなかでの計画づくりを考える。
第 5 回	システム思考による地域分析	システム思考の考え方を解説し、SWOT を用いた地域分析を行う。
第 6 回	システム思考による地域計画のはじまり	地域分析を生かして地域計画を作成する方法を解説し、それぞれで計画づくりを行う。
第 7 回	システム思考による地域計画	システム思考による地域計画を、具体例を通じて解説する。
第 8 回	地域計画のケーススタディ (1)	地域計画を策定・実践について、具体例を通じて学ぶ。
第 9 回	地域計画のケーススタディ (2)	別の具体例を使って、地域計画の策定・実践について学ぶ。
第 10 回	地域計画の表現と対話～土地利用とマッピング	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回は地図を使う。
第 11 回	地域計画の表現と対話～グラフやループを使って	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回はグラフやループを使う。
第 12 回	マルチステークホルダーによる計画づくり①	地域の複雑な利害関係や構造を探りつつ、そこでどのようなマネジメントが最適かを探る。
第 13 回	マルチステークホルダーによる計画づくり②	地域マネジメントを理解した上で、具体的なケースワークを行う。
第 14 回	提出課題の共有・まとめ	受講生から提出された課題を通じて地域計画のポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に配布する教材を参考に、常に自分の生活の中にある「計画」に目を向け、理解を深めることが課題作成の役に立ちます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内にレジメと参考資料を配布する。

【参考書】

保井美樹・泉山壘威編著『エリアマネジメント・ケーススタディ（仮題）』学芸出版社、2021 年 4 月

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 35 %、各講義の演習レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義となる可能性があることや、提出が必要な演習課題等は情報機器（ノート PC、タブレット等）が不可欠です。

【Outline (in English)】

There are lots of Plans made to tackle unknown problems and realize ideal regional future. Among those are done by not only national and local governments but also private organizations and entrepreneurs. In this lecture, we first learn various approaches to regional planning as well as recent change happening worldwide, discuss future planning with students.

Students will be expected to have completed the required assignments or reports after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 35%, Short reports after each class: 65%

MAN200JB

コミュニティビジネス論

山藤 竜太郎

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル」と「ビジネス」の対立は、経営学における CSR（Corporate Social Responsibility）や CSV（Creating Shared Value）についての議論でも見られる。

しかし、企業が社会から切り離されて行動することは不可能であり、事実、企業が競争する能力は、企業が立地し事業を展開する地域の状況などに強く依存している。企業と社会は互いに強く依存するものであって、企業の成功と社会の福祉とをゼロ・サム・ゲームとして捉えないという視点が要請される。別な言い方をすれば、成功する企業には健全な社会が必要で、健全な社会には成功する企業が欠かせないのである。ソーシャルとビジネスは排他的な関係ではなく、むしろ相互依存的な関係なのである。

こうした視点から、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスについて学習することを通じて、「コミュニティ・ビジネス」の意義について理解することを目指す。

【到達目標】

1. 受講生がソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスの定義や要件を理解できるようにする。
2. 受講生がソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスの意義や経営課題について理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

毎回の講義前に教科書を読んだ上で、小テストに回答する必要がある。小テストにおける優れた回答や質問等は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、テキスト、成績評価方法について理解する。
第 2 回	「ソーシャル」と「ビジネス」の関係について	「ソーシャル」と「ビジネス」の関係について理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスの区分	ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスの区分について理解する。
第 4 回	欧米の社会的企業論の系譜と日本の導入状況	欧米の社会的企業論の系譜と日本の導入状況について理解する。
第 5 回	ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスに関する基礎知識	ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネスに関する基礎知識について理解する。
第 6 回	地域福祉のファンドレイジング	地域福祉のファンドレイジングについて理解する。
第 7 回	被災地が育むソーシャル・アントレプレナーシップ	被災地が育むソーシャル・アントレプレナーシップについて理解する。
第 8 回	再誕を支えるコミュニティ	再誕を支えるコミュニティについて理解する。
第 9 回	就学前施設における保育リーダーとマネジメント	就学前施設における保育リーダーとマネジメントについて理解する。
第 10 回	喫茶店「ホリデー」の就労移行支援と経営	喫茶店「ホリデー」の就労移行支援と経営について理解する。
第 11 回	韓国の社会的企業の発展がもたらした効果	韓国の社会的企業の発展がもたらした効果について理解する。
第 12 回	地域福祉におけるコミュニティ・ビジネスの位置と役割	地域福祉におけるコミュニティ・ビジネスの位置と役割について理解する。
第 13 回	コミュニティ・ビジネス概念の再検討	コミュニティ・ビジネス概念の再検討について理解する。
第 14 回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。

この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

諫山正監修、平川毅彦、海老田大五朗編（2018）『コミュニティビジネスで拓く地域と福祉』ナカニシヤ出版、2,200 円＋消費税。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%+期末レポート 50%

具体的な講義方法と基準等は、ガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

講義後の小テストでは予習時間の確保につながらなかったため、事前学習した内容について講義前の小テストで確認することによって予習を促す。フィードバックを求める意見があるため、小テストの内容について可能な限り講義でフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等のために学習支援システム等を利用するため、パソコンやスマートフォン等の情報機器と hosei-wifi 等のインターネットへの接続環境が必要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations.

【Learning Objectives】

1. Students will be able to understand the definition and requirements of community business and social business.

2. Students will be able to understand the significance of community business and social business and their management issues.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to be actively exposed to news about community business and social business.

The standard preparation and review time for this class is two hours each, for a total of four hours.

【Grading Criteria /Policy】

50% quiz + 50% term-end report

ARSx200JB

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員3名（水野・図司・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1 地域を2回の講義で構成し、1 回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2 回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第 2 回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 3 回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 4 回	サイクリングによるローカルイノベーション①（水野）	サイクリングツアーの動向についてレクチャー
第 5 回	サイクリングによるローカルイノベーション②（水野）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 6 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 7 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 8 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 9 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 10 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第 11 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 12 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第 13 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 14 回	総括（水野・図司・野田）	6 事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する3名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB

アジア地域開発論（2021 年度以降入学者）

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：福コミ：1～4・臨心：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせで実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第 4 回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第 5 回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第 6 回	アジアの実際を学ぶ①	現地から実況中継①
第 7 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第 8 回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第 9 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第 10 回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第 11 回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第 12 回	アジアの実際を学ぶ②	現地から実況中継②
第 13 回	課題発表	講義課題に関する意見交換
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：50 %、課題提出（発表含む）：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.
 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW200JB

アジア地域開発論（2020 年度以前入学者）

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
 科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)
 配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせで実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第 4 回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第 5 回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第 6 回	アジアの実際を学ぶ①	現地から実況中継①
第 7 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第 8 回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第 9 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第 10 回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第 11 回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第 12 回	アジアの実際を学ぶ②	現地から実況中継②
第 13 回	課題発表	講義課題に関する意見交換
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW300JB

社会福祉原理

平野 寛弥

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠を学ぶとともに、現在の福祉政策に向けられる批判や直面する課題について検討する。

【到達目標】

福祉政策やひとの“福祉”についての知識を深めるとともに、様々な観点からそれらのあり方を検討し、自分なりの見解を持つことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を題材にしつつ、現実を捉える際の視点や枠組みを提供する。その意味では知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視している。

また、授業でのコメントや質問については、できる限り今回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である。

なお、授業計画は、進捗状況や受講者の関心に合わせて適宜修正することがあるので、あらかじめご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 現代社会における福祉政策	現代社会における福祉政策の動向とその背後にある様々な理論、思想や哲学の存在を知る。
第 2 回	福祉政策の歴史的展開① 救貧法から福祉国家の形成へ	イギリスの福祉政策の歴史（16 世紀半ばから 20 世紀前半）について概観する。
第 3 回	福祉政策の歴史的展開② 戦後福祉国家の黄金時代	戦後の福祉国家の展開をイギリスを事例に概観する。
第 4 回	福祉政策の歴史的展開③ 福祉国家の危機と再編	1970 年代後半から 80 年代にかけて、先進諸国が直面した福祉国家の危機とそれに伴う福祉国家再編の動きを概観する。
第 5 回	現代の福祉国家① 先進福祉国家（西欧・アメリカ・日本）	20 世紀後半に成立した先進諸国における福祉国家の諸類型について理解する。
第 6 回	現代の福祉国家② 新興福祉国家群（東アジア・東欧・南米など）	先進諸国に続いて経済発展を遂げた新興諸国における福祉国家の特徴について理解する。
第 7 回	福祉政策の理論・思想① 産業化論と福祉レジーム論	福祉政策の発展を説明する代表的な理論とされる産業化論と福祉レジーム論について理解する。
第 8 回	福祉政策の理論・思想② シティズンシップ論	福祉政策の理論的根拠の一つとされる「シティズンシップ」概念について理解する。
第 9 回	福祉政策の理論・思想③ ジョン・ロールズとアマルティア・セン	福祉政策の哲学的基礎付けを提供したとされるジョン・ロールズとアマルティア・センの議論について理解する。
第 10 回	福祉政策をめぐる論点① 貧困：絶対的貧困と相対的貧困、剥奪	現代の福祉政策におけるイシューの一つである貧困について理解する。
第 11 回	福祉政策をめぐる論点② 社会的排除と包摂：排除言説と包摂戦略の類型	現代の福祉政策におけるイシューの一つである社会的排除とそれに対する包摂戦略の諸類型について理解する。
第 12 回	福祉政策をめぐる論点③ 自立／依存：ケアと自律、パターナリズム	現代の福祉政策におけるイシューの一つである自立と依存という二分法の是非、またそこに密接に関わるケアと自律について理解する。
第 13 回	福祉政策をめぐる論点④ 再分配と承認：ジェンダー・人種・エスニシティ	現代の福祉政策におけるイシューの一つである再分配と承認の関係性、および「ひと」野福祉にとっての両者の重要性について理解する。

第 14 回 福祉政策をめぐる論点⑤ 現代の福祉政策における最も重要な自由とセキュリティ
自由とセキュリティ
ティ：監視国家、リパタ ティの関係性について理解する。
リアン・パターナリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本科目の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。PowerPoint を用いた講義であり、ハンドアウトを配布して授業を行う。

【参考書】

個別のテーマに関するものについては各授業時に適宜紹介するが、授業全体を通じて関連するものとしては以下の 2 冊を挙げておく。
『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』（田村哲樹・松元雅和、乙部延剛、山崎望著、2017 年、有斐閣）
『現代福祉国家と自由：ポスト・リベラリズムの展望』（金田耕一著、2000 年、新評論）

【成績評価の方法と基準】

①評価方法 各授業時のリアクションペーパー（30 %）、期末レポート（70%）
②採点基準：
＜リアクションペーパー＞

各回の講義内容の理解度を評価するとともに、そのうえで各自の見解を論理的・説得的に展開できているかどうかを評価する。

＜期末レポート＞

各自の関心のあるテーマにそってまとめてもらう予定のため、選択したテーマについての理解度とともに、それについての自身の見解の説得力を吟味する。また、レポートの文章の論理構成についても重視する。

【学生の意見等からの気づき】

授業でのコメントや質問については、できる限り次の授業の冒頭にて共有・回答していく。

【その他の重要事項】

・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし、情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, you learn about the historical development of welfare policy and its theoretical and ideological basis, and examine the criticisms of and challenges facing contemporary welfare policy. By doing so, you will deepen your understanding of welfare policy and people's "welfare," and to examine these policies from various perspectives in order to formulate your own views.

[Learning Objectives]

1. Understanding welfare policy from two perspectives below;
– its historical development
– its theoretical and ethical foundation
2. Examining controversial arguments and issues over welfare policy in modern times

By achieving these objectives, you will deepen knowledge of welfare policy and people's "welfare" and to develop one's own views.

[Learning activities outside of classroom]

Review the contents of the previous class and check your understanding. Read the references given in the class that you find interesting. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

(1) Evaluation method: Reaction paper at each class (30%), final report (70%)

(2)Grading criteria

< Reaction papers >

– the level of understanding of the content of each lecture
– whether the students are able to develop their own views logically and persuasively.

< Final report >

Students will be asked to write a report on a theme of their own interest.

The following are the specific grading items for final report.

- the level of understanding of the chosen theme
- whether the report is based on facts and correct information
- the persuasiveness of their own views
- the logical structure of the report

SOW300JB

医療政策論

小磯 明

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業での意見交換を通じて、医療政策の重要性を認識する

【到達目標】

医療政策とは何か、を理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で開催する。授業への学生の積極的な参加を促すために、リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。授業形態が変更になる場合、それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に必要ないが、医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教材書は使用しない。毎回、教材資料を配布する

【参考書】

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房、2013 年。
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房、2016 年。
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社、2017 年。
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社、2019 年。
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %、レポート提出 50 %。レポートは 1 回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。基本は対面授業を考えているが、必要に応じてオンライン授業とする場合もある。その場合、成績評価の具体的方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

諸外国の事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する

【その他の重要事項】

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある

【Outline (in English)】

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.

At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least two hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 50%, in class contribution: 50%.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのようにに関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支脈をなす文化財政政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第 2 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 3 回	文化政策の誕生と発展	戦前の社会教育と文化政策・戦後の社会教育と文化政策・社会教育と生涯学習
第 4 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 5 回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 6 回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第 7 回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第 8 回	近年の国の文化政策の動向	文化政策推進会議設置・文化振興マスタープラン策定・文化芸術基本法制定
第 9 回	地方自治体の文化政策の取り組み	地域文化遺産の保護・文化振興条例の制定
第 10 回	地域史を考える	地域の歴史や文化を学ぶ目的とその変遷
第 11 回	地域文化遺産の保存と活用 (1)	地域文化遺産
第 12 回	地域文化遺産の保存と活用 (2)	エコミュージアム
第 13 回	地域文化遺産の保存と活用 (3)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline (in English)】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community. The goals of this course are to understand the involvement of government in cultural activities. Students should be interested in articles related to regional cultural policy published in newspapers and magazines. Your study time will be more four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, Term-end report (70%), and in-class contribution (30%) .

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めたいこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク (FW)	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然の・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第 2 回	オリエンテーション 2 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第 3 回	SDGs について	SDGs 関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第 4 回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第 5 回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第 6 回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第 7 回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第 8 回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第 9 回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等
第 10 回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第 11 回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取り組み、企業の取り組み
第 12 回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO 等）の取り組み、身近な環境に関する市民の取り組み事例 (DVD 視聴等)
第 13 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第 14 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2021）『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト 改訂 8 版』。その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史 (2014)『環境政策論 (第 3 版)』信山社、竹本和彦編 (2020)『環境政策論講義：SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編 (2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著 (2011)『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点 70 %、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去 10 年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワーク単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった 2020 年度以外、全体ワークでは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
新型コロナウイルス感染リスク次第ではグループワーク形式の取組みは見合わせます。
オンライン実施等の可能性を考慮し、共通テキストをベースに講義を進行します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
- get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
- willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1. Find out about environmental issues of your interest.
 2. Try participating in environmental activities, if possible.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

- ・ Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
- ・ Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

ARSk300JB

地方自治論

中嶋 学

科目分類・科目群(福祉・環境): 専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都道府県、市町村、特別区といった自治体が地域における政治と行政を担っており、地域の課題・問題を解決するために、政策を作成し、実施しています。しかし、近年、自治体が解決を求められている子育て・教育、高齢者福祉、まちづくりなどの課題・問題の多くは、複雑な要因が絡み合い、既存の解決策が通用しない「厄介な問題（wicked problem）」であり、その解決のために、自治体は、企業、NPO、住民と連携・協働することが必要になります。この講義では、地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加し、それぞれの専門性を活かして連携・協働するための仕組み、つまり、政策を形成・実施する体制を、どのようにデザインし、どのようにマネジメントするかについて学習します。

【到達目標】

- ・ 地方自治論の基礎的な知識を習得する。
- ・ 自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて論理的に思考するための概念・枠組みを習得する。
- ・ 概念・枠組みを活用し、自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1 回の授業で 1 つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。

授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもありえます。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施も考慮します。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第 2 回	地方自治の担い手①	首長、議会、公務員、住民の役割についての説明。
第 3 回	地方自治の担い手②	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第 4 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	取引費用理論についての説明。
第 5 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	エージェンシー理論についての説明。
第 6 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	資源依存理論についての説明。
第 7 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	組織エコロジー理論についての説明。
第 8 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	制度理論についての説明。
第 9 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	ネットワーク理論についての説明。
第 10 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	組織（間）信頼についての説明。
第 11 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑧	組織（間）学習についての説明。

第 12 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑨	合意形成についての説明。
第 13 回	子育て・教育に関する政策形成・実施体制	組織間関係論の観点による子育て・教育に関する政策の考察。
第 14 回	高齢者福祉に関する政策形成・実施体制	組織間関係論の観点による高齢者福祉に関する政策の考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 時間程度かけて授業時に配布する資料を読んでください。該当箇所の学習に 1 時間程度割くことができれば、授業の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

授業中に資料を配布します。

【参考書】

・北村亘・青木栄一・平野淳一（2017）『地方自治論－2 つの自律性のはざまで』有斐閣
・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック 地方自治 [新版]』北樹出版
・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山 俊哉（2020）『公共政策学の基礎 [第 3 版]』有斐閣
・渡辺深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

・期末レポート 70 %
(データなどの客観的な事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察がみられるか、レポートの形式が適切かを評価します)
・小レポート 30 %
(授業内容への理解が示されているか、自分なりの考察が記述されているかを評価します)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Local governments face complex problems (e.g., health and human services, economic development), which no single organization can address. For example, the well-being of mentally ill children and youth depends on comprehensive, integrated, and individualized services including mental health treatments, social services, education, and vocational services, rather than a single excellent service in any of the service areas. Thus, local governments need work with business and non-profit sectors to make and implement public policy; and, goal-directed inter-organizational networks, composed of three or more organizations to collectively achieve a common goal, have become a prevalent organizational arrangement. Such goal-directed inter-organizational networks address complex problems, by integrating resources, information, expertise, and perspectives possessed by differently-endowed organizations. In public administration and policy research, they are known as “collaborative networks.” While the involvement of diverse organizations does enhance the capacity of collaborative networks to address complex problems, it also brings about negative consequences — namely difficulties of cooperation and coordination resulting from the differing (sometimes, even conflicting) goals, strategies, perceptions, and ways of working among diverse network participants. Because of the cooperation and coordination challenges, it is recognized that network management is essential to produce satisfactory network outputs and outcomes.

【到達目標（Learning Objectives）】

This class is designed with an emphasis on two objectives: (1) understanding key concepts in inter-organizational theory and (2) applying the concepts for designing and managing collaborative networks.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course material.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on mid-term paper (30%) and final paper (70%)

ECN300JB

地域経済論

図司 直也

科目分類・科目群(福祉コミュニティ): 専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数: 2～4 年次／2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀:○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第 1 次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中で、の地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第 1 次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第 2 回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第 3 回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第 4 回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第 5 回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第 6 回	農業・農村の現場から	第 1 次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第 7 回	林業・山村の現場から	第 1 次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第 8 回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980 年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第 9 回	産業構造の転換と地域経済構造	1980 年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第 10 回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第 11 回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第 12 回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。
第 13 回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各 2 時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

VTR など交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.

【Learning Objectives】 Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」

どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題である。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】

- ・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
- ・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
- ・社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。

授業後課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行うことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第 11 回	家族の変容と改革	1990 年代の改革
第 12 回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第 13 回	移民と福祉	難民危機 (2015 年)
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ベースに合わせて、文献を読む。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解すること。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の家庭学習を必要とする。

・山崎史郎『人口減少と社会保障』を、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

菊池馨実『社会保障再考』（岩波新書 2019 年）
 斎藤義彦『ドイツと日本 「介護」の力と危機』（ミネルヴァ書房 2012 年）
 田中拓道『福祉政治史』（勁草書房 2017 年）
 二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』（旬報社 2014 年）
 平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』（ミネルヴァ書房 2003 年）
 水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』（岩波書店 2012 年）
 山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書 2017 年）
 パット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房 2000 年）

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2. 筆記試験の得点（7 割）、平常点（3 割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

板書があまりシステマチックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

(2)Learning Objectives

(a) Students should be able to explain the historical development of the Welfare States in the 20th Century.

(b) Students should be able to explain Philosophie, goal, and dominant Theory of welfare in each era.

(c) Students should be able to explain the important words, for example, “social inclusion”, “social exclusion”, and “the right of life” in the historical context.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to read the reference books and theses in the bibliography in pace with progress of the lecture. Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) Grading Criteria

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination (essay-type):70% and in-class contribution: (30%).

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の実践①	学生による斬新な取り組みを検討
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力の現場から①	現場から実際に学ぶ①
第 10 回	国際協力の現場から②	現場から実際に学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力の実践②	学生による斬新な取り組みの発表
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline (in English)】

【Course Outline】 With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）のあり方について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということや常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	・講義ガイダンス、 ・「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	自治・分権と地域経営	・各回講義の要点解説 ・「地方自治」「地方分権」の今日的課題
第3回	住民参加と地域経営	・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権 ・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創（共創）型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成 ・具体的課題から合意形成を考える
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性 ・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI制度等の民間活用の施設整備）
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営

第13回 人口減少時代の地域経営 ・ストック活用のまちづくり

・リノベーションまちづくり

第14回 講義の総括 ・レポートの提出と発表 ・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー 50%

②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション 50%（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介と考察が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to provide students with a basic understanding of the following issues and to raise their awareness of the issues and policies for dealing with each theme.

- ・ Basic legal systems related to regional management, and an overview and characteristics of representative systems
- ・ The relationship between national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ How to manage local communities by utilizing existing local resources

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction papers based on the lecture and subsequent plenary discussions and mini-workshops 50%.

(2) Reports and presentations based on selected assignments 50% (Report assignments will be presented in the first half of June)

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広がっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのようにに生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

- ①グローバル／ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。必要に応じて国内外のゲストも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する（A 事例）。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する（B 事例）。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する（C 事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となりますので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよび講義後ショートレポート課題（50 %）、平常点（50 %）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

市ヶ谷や小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールを確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(50%), in class contribution(50%).

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群(福祉ユニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	社会環境変化への対応② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	社会環境変化への対応③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	企業の不正と防止策について
9	CSV またはプロジェクトマネジメントケーススタディ	企業の実務家によるゲストセッションを予定
10	コミュニケーション技術について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	SDGs を正しく理解する（カードゲームを実施）
12	演習②	地域活性化等を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.1
13	演習③	地域活性化等を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.2
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全 5 回の事前課題レポート（A4 1 枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGs の主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 10 点 ×5 回、最終レポート 50 点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高 10 点）。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of te company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leader-ship on work shop.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

社会の課題解決に必要な資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドと参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第 6 回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第 13 回	お金の地産地消	地域で活躍する財団の意義
第 14 回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストは資料持ち込み可

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしています。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 ・自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPO に関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からでもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO 組織の運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介 1「持続可能な地域づくりとエコロジーカフェの実践」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介 2「外国にルーツをもつ人を支え、ともに生きる実践」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO の活動事例紹介 3「スポーツやアートによるインクルーシブな社会づくり」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 9 回	NPO に関する自由研究企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。

第 10 回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズングや自主勉強会等のアプローチを取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第 11 回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPO の多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第 12 回	NPO に関する自由研究発表会 1	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 13 回	NPO に関する自由研究発表会 2	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 14 回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちににとって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介した NPO の主催するイベントへ参加したり、NPO 活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50 点、（２）中間レポート（NPO 活動計画書）10 点、（３）期末試験（自由研究企画書及び発表）40 点。
 平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。
 なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトの関心分野を理解し、どのくらい協力して取り組めたか
- (注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくりやす。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
 (注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 10%, in class contribution: 50%

MAN300JB

協同組合論

阿高 あや

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、世界と日本の協同組合の特質と役割について歴史的視点と現在社会の両面から社会経済的検討を行うことで、協同組合の独自性を把握し、今後の社会経済のあり方を考究するものである。また、身の回りの協同組合を思い浮かべながら講義に臨むなど、学んだことと自らの実生活・実社会を関連付けることが、本講義の深い理解に直結する。

【到達目標】

- ・協同組合の特性と歴史的展開を概説することができる
- ・協同組合を知ることで、株式会社や NPO や行政等の組織的特徴も同時に学ぶことができる
- ・地域や国際社会にある協同組合を判別し、その役割を説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式であるが、適宜、受講生との口頭でのコミュニケーションを求める。授業内での質問に対する回答や、毎回の授業後のリアクションペーパーにおいて、自分なりの授業の受け止めと実生活・実社会との関連付けが表明されるようなコメントが本講義の理解に直結する。毎週、インライン形式でのリアクションペーパーを求めるが、それに対しては朱書きでフィードバックを行なっている。授業終了後は質問時間とするがメールで回答することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ：協同とは	公共私三大セクター：各セクターの目的・資本・運営主体の比較と社会的・連帯経済について把握する
第 2 回	基礎編①協同組合とは	協同組合の定義・価値・原則について：協同と共同・協働の違いや自助・共助・公助／協同組合の原則について学ぶ
第 3 回	基礎編②イギリス・ロバート・オウエンとロッテ・デール公正先駆者組合	イギリスにおける資本主義の台頭と協同組合の発祥：イギリスの協同組合の台頭について学ぶ
第 4 回	基礎編③ドイツ・ライファゼン農協と無形文化遺産への登録	ドイツにおける協同組合について：ライファゼン農村信用組合やシュルツェ・デーリチエ農工商組合について学ぶ
第 5 回	基礎編④日本における共同体と二宮尊徳	結・講・手間替えなど日本型共同体組織と二宮尊徳の報徳思想について学ぶ
第 6 回	基礎編⑤賀川豊彦と生協・共済運動	賀川豊彦の理念とその影響について学ぶ
第 7 回	発展編①日本の農協	JA グループの総合事業と正准組合員の相違を学ぶ（ゲストスピーカー予定）
第 8 回	発展編②日本の生協	日本における消費者運動と女性のエンパワメントを事業化した生協の組合員活動を学ぶ（ゲストスピーカー予定）
第 9 回	発展編③日本の漁協	水産業の仕組みと現状から JF グループの役割を学ぶ（ゲストスピーカー予定）
第 10 回	発展編④日本の森林組合	林業の現状と JForest グループの機能や SDGs との関わりを学ぶ
第 11 回	発展編⑤日本の労働者協同組合	新しい協同組合である働く人の協同組合と地域での協同労働を学ぶ
第 12 回	発展編⑥協同組合間の協同について	国内の協同組合間協同の事例と ICA(国際協同組合同盟) の役割について学ぶ
第 13 回	総論編①協同組合と SDGs の相関	国連「持続可能な開発目標（SDGs）」と協同組合との相関を学ぶ
第 14 回	総論編②協同組合の今日的課題	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
- ・毎回の講義の前に、家の光協会の公式 YouTube チャンネルにて【阿高あやのざっくりわかる協同組合】全 13 回を視聴をお願いする予定です。（各 8 分程度）

・前回内容のコメントをリアクションペーパーとして作成し、提出を要請します。（30 分程度）

【テキスト（教科書）】

日本協同組合連携機構編「1 時間でよくわかる SDGs と協同組合」、家の光協会、2019 年、660 円

【参考書】

日本協同組合連携機構編「新・協同組合とは」、JA 全中、2018 年、730 円

【成績評価の方法と基準】

平常点として毎回のリアクションペーパー（60 %）、小テスト（20 %）、期末レポート（20 %）。リアクションペーパーでは「各種の協同組合の設立目的と機能の理解度」をはかる。第 2 ～ 6 回ではその回で学んだ協同組合の歴史、特質、役割、他組織との相違点などに関するミニテストを用意する。期末レポートでは、「協同組合とどのように接していくかを主体的に考える力を身に付け」られるかをはかる。期末レポートは自分の身の回りの地域や国際社会から任意で協同組合を一つ見つけ、①その協同組合の概要（立地、規模、沿革）、②目的・理念、③事業内容、④地域の持続可能性との関連などについて 3,000 字程度で論じる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材を多用する。

【その他の重要事項】

対話を重要視する講義です。日本を代表する協同組合の実践家から複数名のゲストスピーカーを招く予定です。第一次産業、地域おこし、食品流通、環境、非営利組織などの業界研究にもなります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture interprets the characteristics and roles of co-operatives in comparison with history and modern society. It also learns the uniqueness of co-operatives and explores the ideal way of a better organization. Students can reach a deeper understanding by attending lectures in relation to real life and co-operatives.

【Learning Objectives】

- ・ Be able to outline the characteristics and historical development of co-operatives.
- ・ It is possible to explain the characteristics of various corporate forms such as corporations and NPOs.
- ・ Be able to categorize co-operatives in the community and explain their role.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
- ・ Please watch the video below.
<https://youtu.be/ID43NkZIK5M>
https://youtu.be/PgrXg5Z_AKA

【Grading Criteria /Policy】

- ・ As a normal point, we will impose a reaction paper (60%), a quiz (20%), and a term-end report (20%) each time.
- ・ The reaction paper measures "understanding of the purpose and function of establishing various cooperatives".
- ・ In the 2nd to 6th classes, a mini-test will be conducted on the history, characteristics, and roles of the co-operatives learned in that session.
- ・ For the term-end report, select one cooperative at will, and discuss (1) outline (location, scale, history), (2) purpose / idea, (3) business content, and (4) the relationship with regional sustainability in 3,000 characters.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週（今年度は4月19日だけイレギュラーなので注意）、第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月12日 4時限

第2・3回：4月19日 4・5時限

第4・5回：5月10日 4・5時限

第6・7回：5月24日 4・5時限

第8・9回：6月7日 4・5時限

第10・11回：6月21日 4・5時限

第12・13回：7月5日 4・5時限

第14回：7月19日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた ICF の考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスアップテーション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなごのススめ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70％）、レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB

人権活動論

寺中 誠

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第 2 回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての権利と依存
第 3 回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第 4 回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第 5 回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA 等
第 6 回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第 7 回	依存と人権 II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第 8 回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第 9 回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で
第 10 回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第 11 回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第 12 回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のブレについて。
第 13 回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第 14 回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知れた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】

申恵ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60 %）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】

【Outline】

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

【Learning Objectives】

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

【Learning activities outside of classroom】

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

【Grading Criteria】

60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB

農山村とコミュニティ

図司 直也

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりに意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下で内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第 2 回	むらの変化―過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第 3 回	むらの変化―都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第 4 回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第 5 回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第 6 回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 7 回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 8 回	農の担い手―農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第 9 回	開発と環境―景観形成・commons	景観形成・commonsに関する取り組み
第 10 回	消費される農村と地域づくり	グリーンツーリズムの展開と課題
第 11 回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第 12 回	新しいコミュニティづくりの試み―地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第 13 回	新しいコミュニティづくりの試み―「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%, 期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

VTR など交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.

【Learning Objectives】 You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第 2 回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第 3 回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第 4 回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第 5 回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 6 回	市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 7 回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第 8 回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第 9 回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第 10 回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。

第 11 回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第 12 回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／地域密着型）の紹介と解説。
第 13 回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（大都市／地域交流型）の紹介と解説。
第 14 回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文獻などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30 点 中間レポート：20 点 期末レポート：50 点

平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1 回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、NPO・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Mid-term report : 20%、Term-end report : 50%

CMF300JB

コミュニティスポーツ

遠藤 華英

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域・国・国際レベルで展開されているスポーツ政策に関するトピックについて取り上げる。地域社会のスポーツ振興に関する課題や最新の動向を政策的な視点で概説した上で、社会課題の解決に向けたスポーツの役割とは何か、どのような可能性を有しているのかといったテーマに迫る。

【到達目標】

日本のスポーツ振興政策の現状やトレンドを理解し、スポーツ振興 やスポーツを活用した地域の課題解決施策について客観的・合理的な見解を述べることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にはパワーポイントを用いた講義形式で行う。授業毎に小レポート（リアクションペーパー）の提出のほか、少人数グループによるアクティブラーニング（AL）も適宜行う。また、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みてオンライン形式に切り替えることもある。本授業では、オンライン・対面形式、それぞれの良さを活かした授業を行う予定である。各回の課題に対するフィードバックは翌週の講義および hoppi 上で行う。また、最終課題に対するフィードバックも hoppi を介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要と進め方
2	スポーツとは何か？ スポーツが有する価値とは？	スポーツが関連する政策領域を捉え、政府がスポーツ振興に公的資金を費やす理由とスポーツの価値を考える（AL）
3	日本のスポーツ政策の動向	日本のスポーツ政策の現状と課題
4	オリンピック・レガシー	過去のオリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
5	パラリンピック・レガシー	過去のパラリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
6	するスポーツ①	成人のスポーツ実施に影響を与える要因を学び、今後のスポーツ推進策を考える（AL）
7	するスポーツ②	子ども・青少年のスポーツ実施の現状と課題、および諸理論
8	するスポーツ③	中学・高校・大学スポーツの現状と課題、日本の部活動改革の方向性
9	みるスポーツ①	国内外におけるスタジアム・アリーナ改革の動向
10	みるスポーツ②	メディア媒体の多様化および ICT 技術の進展に伴うスポーツ観戦スタイルの変化
11	スポーツによるコミュニティ形成①	地域コミュニティスポーツとトップスポーツの好循環について考える（AL）
12	スポーツによるコミュニティ形成②	スポーツガバナンスを考える
13	スポーツによるコミュニティ形成③	SDGs(持続可能な開発) とスポーツの結節、スポーツを通じた国際協力の動向
14	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメやノートを復習して、次回の授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しない。必要に応じて、資料配布・文献紹介を行う。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席確認 毎時間確認する
- ②試験方法 レポート

③評価基準 平常点 20%/小レポート 30%/レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

聴講生の興味・関心に応じ、授業で扱うテーマ以外のスポーツ政策・ビジネスに関しても最新の情報を提供できるようにします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deal with the topics on sport policies deployed at the regional, national, and international level. By the end of the course, students learn the challenges and latest trends related to sport development in local/global communities, and consider the possibility that sports will contribute to solving social problems.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to identify sports policy issues and develop their own solutions.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts. Your required study time is an hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report(50%), Short reports(30%), and in-class contribution(20%).

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で行われています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks.Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%) ,and in-class contoribution (30 %) .

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(30%) and term-end examination (70%).

ENG300JB

住民参加の手法

杉崎 和久

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。

この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】

住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。

授業は、原則として対面で行う。ただし、一部講義、オンラインツールを用いた手法を体験する際にはリアルタイムオンラインで行うこともある。なお、レポートについての講評や解説は授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第 2 回	住民参加の事例紹介 1	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第 3 回	住民参加の事例紹介 2	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第 4 回	住民参加の事例紹介 3	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。さらにオンラインツールの試行を行う。
第 5 回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第 6 回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第 7 回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第 8 回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第 9 回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第 10 回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第 11 回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第 12 回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法 1	オンラインツールを用いた対話の体験する
第 13 回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法 2	オンラインツールを用いた対話を効果、課題を検討する
第 14 回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】

中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷まちづくりセンター「参加のデザイン 道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献（70％）、中間レポート（30％）
・授業への貢献は、講義ごとにワークへの参加状況やアクションペーパーの内容などを踏まえて行います。
・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】

地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、原則として対面で行う。
しかし、一部オンラインツールを用いた講義をリアルタイムオンラインで行う。オンラインツールを用いた講義では、グループワークを行うことがある（zoom のブレイクアウトルームを使用）。そのため、オンラインでの受講が可能な web カメラやマイクなどの情報機器が必要になる。また、グループワークでの入力作業も予定しているのでパソコンがあることが望ましい。

【その他の重要事項】

・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
・講義では対話を重視していることから、対面、オンラインを問わずグループワークを多く行う。特にオンラインの場合には、名前表記、カメラオンにすることを前提とする。
・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the citizen participation method.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the characteristics of the citizen participation method and to acquire the ability to operate.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on mid-term report (30%), and in-class contribution (70%)

In-class contribution is evaluated by attendance at the lesson and the contents of the reaction paper of each lesson.

SOW300JB

ボランティアアクション（2020 年度以前入学者）

高井 大輔

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及び NPO の意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第 2 回	ボランティアの概念 - ボランティアアクションとは何か -	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第 3 回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第 4 回	SDGs の意味と意義 - SDGs とは何か -	SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の内容と意義を理解する
第 5 回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第 6 回	事例から学ぶ① - 福祉サービスとボランティアアクション -	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える
第 7 回	事例から学ぶ② - 営利事業とボランティアアクション -	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第 8 回	NPO 法人制度の内容とその歴史	NPO 法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第 9 回	事例から学ぶ③ - 個人的な活動から組織化へ -	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第 10 回	事例から学ぶ④ - NPO 法人の組織運営 -	実際の NPO 法人を事例として、NPO 法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第 11 回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSR や行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第 12 回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第 13 回	事例から学ぶ⑤ - 多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション -	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、「協働」の可能性を考える
第 14 回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があるため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (50 %)
- ・平常点 (授業の出席、授業内課題の提出など) (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB

ボランティアアクション（2021 年度以降入学者）

高井 大輔

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：福祉コミ：2～4・臨心：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及び NPO の意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第 2 回	ボランティアの概念 - ボランティアアクションとは何か -	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第 3 回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第 4 回	SDGs の意味と意義 - SDGs とは何か -	SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の内容と意義を理解する
第 5 回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第 6 回	事例から学ぶ① - 福祉サービスとボランティアアクション -	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える
第 7 回	事例から学ぶ② - 営利事業とボランティアアクション -	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第 8 回	NPO 法人制度の内容とその歴史	NPO 法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第 9 回	事例から学ぶ③ - 個人的な活動から組織化へ -	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第 10 回	事例から学ぶ④ - NPO 法人の組織運営 -	実際の NPO 法人を事例として、NPO 法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第 11 回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSR や行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第 12 回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第 13 回	事例から学ぶ⑤ - 多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション -	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、「協働」の可能性を考える
第 14 回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があるため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (50 %)
- ・平常点 (授業の出席、授業内課題の提出など) (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

SOW300JB,SOW300JC

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ② SHG の役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進捗、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。また SHG とは何か
第2回	知的障がいのある人の地域生活	SHG の定義を学ぶ 障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第5回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者の SHG	アルコール依存症者の SHG について学ぶ
第12回	これまでの学びの振り返りと発表テーマ設定	ここまでの学びを踏まえて注目した内容に関して発表テーマを設定する
第13回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第14回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」（久保絃章 著）相川書房 2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参画度合いなどの平常点（20％）、リアクション（30％）、レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じた学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4 サイズ・20 シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.

People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50 %

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

中條 桂子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多文化社会を形成する要因とその問題について「外国人労働者問題」や「教育問題」など生活面から検討し、多文化背景を持つ人々の生活課題とその福祉援助について考える。

【到達目標】

グローバル化の視点から、多文化ソーシャルワークの概要を理解する。多文化背景を持つ人々の実情を知り、生活課題について理解を深める。多文化背景を持つ人々への支援においてソーシャルワーカーが持つべき価値観・視点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワーカーの支援では「言葉で支援すること」も大事な支援の一つである。本授業では多くのグループワークを通して、他者の意見を聞く態度や自身の考えを伝えることの大切さを学び、さらに講義で現状の理解を深めていく。対面式での開講を予定している。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション グループワーク：外国人のイメージ	授業内容の概要と目標、評価方法の説明。外国籍・多文化背景を持つ人へのイメージから、自身が偏った見方をしていないか振り返る。
第 2 回	講義：日本に滞在している多文化背景の人々	データをもとに日本にいる多文化背景を持つ人々の状況や在留資格に関して学び、どのような問題があるかを考える。
第 3 回	グループワーク：言語習得について	居住先の言語に精通していない場合に、直面する諸問題を考える。
第 4 回	講義：入国管理手続きの煩雑さ等を知る	授業用の事例を通してオーバーステイについて考える。
第 5 回	講義：多文化背景を持つ人の生活課題 1（医療・教育）	医療と教育の面からどのような課題を抱えているかを学ぶ。
第 6 回	グループワーク：労働について（技能実習制度を中心に）	技能実習生・介護職について調べてきたことをもとに話し合う。
第 7 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 2（就労）	在留資格と就労を振り返る。スクールソーシャルワークの歴史から児童労働を取り上げ、現在の不就学について考えてみる。
第 8 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 3（DV・児童虐待について）	DV や虐待に関する支援について調べてきたことをもとに、多文化背景の人への援に目を向ける。
第 9 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 4（難民）	日本の難民受け入れに関して調べてきたことをもとに話し合い、現状を理解する。
第 10 回	講義：多文化ソーシャルワークの実践 1	ソーシャルワークのグローバル定義をもとに理念を学ぶ。
第 11 回	講義：多文化ソーシャルワークの実践 2	現在までの歩みを知り、今後に向けて何ができるのか、また何をすべきかを考える。
第 12 回	グループワーク：（事例検討）支援に求められる視点を理解する	自分が支援機関の職員であると仮定し、チーム体制による支援について考えながら、事例検討をする。
第 13 回	グループワーク：多文化背景を持つ人々に対するまなざしの変化	授業を通して、自身の偏った見方などに気付けたか、またそれらはどのように変化したかを話し合い、多文化ソーシャルワークに必要な事を共有する。
第 14 回	試験	学習した内容の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間程度を要します。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークや授業への積極的参加や発言 (30 %)、課題のレポート (30 %)、試験 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況によりオンラインに切り替わった時はもちろんですが、授業の事前準備等のために使用できる機器（パソコン、スマートフォン等）があるとよいでしょう。

【その他の重要事項】

講師の医療相談員・スクールソーシャルワーカーとしての実践をもとに、多文化背景を持つ人々への支援に関して、授業用事例を織り交ぜて講義をしていきます。実際の支援状況を知っていただき、さらにグループでの話し合いを通して、グローバル社会と言われる日本の現状を振り返ってみましょう、そして、一人一人に何が必要で、なにができるのかを具体的に考えてみましょう。

【Outline (in English)】

This course examines the complexity of social work practice in a multicultural society from the perspective of immigrants and their education and everyday life. By the end of the course, students are expected to explain the basic concepts of ethnic sensitive social work, and to discuss the significance of social workers in their understanding of social difference, oppression, and justice.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be determined on the following:

In-class Contribution: 30%; Short Essays: 30%; Term-end Examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリー ブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとして 何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第 10 回	ソーシャルワーカーとして 何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。

社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
 本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】The goal is to understand the view of life and death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution(20%).

PSY300JB,PSY300JC

家族心理学

松本 聡子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説を行ない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜行う予定です。秋学期は対面での開講となりますが、授業形態に変更が生じた場合、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要説明
第 2 回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第 3 回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第 4 回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第 5 回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第 6 回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第 7 回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第 8 回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第 9 回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第 10 回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第 11 回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第 12 回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第 13 回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第 14 回	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 30 %

学期末試験 70 %

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. By taking this course, students should be able to apply the basic knowledge and psychological perspectives to understand various family issues. Before/After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand and review the course content. Grading will be decided based on the reports (30%) and final exam (70%).

PSY300JB,PSY300JC

コミュニティ心理学（2018 年度以降入学者）

丹羽 郁夫

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：福祉：2～4・臨心：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点を持ちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第 3 回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第 4 回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第 5 回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第 6 回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第 7 回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第 8 回	介入の 6 レベル	マレルによる介入の 6 レベルについて講義。
第 9 回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第 10 回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第 11 回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第 12 回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第 13 回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第 14 回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べる事が求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べる事が求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次の 2 冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学』（植村勝彦・高島克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2006 年 2,500 円+税）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007 年 2,400 円+税）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現状を維持します。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline (in English)】

Course outline

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Students can explain a viewpoint and various intervention methods of the community psychology.

-Students become able to plan a proof study based on community psychology.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the Term-end examination (100%).

PSY300JB,PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。受講者の反応に従って、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 3 回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第 4 回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第 5 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第 6 回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第 7 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第 8 回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第 9 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第 10 回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第 11 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第 12 回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第 13 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第 14 回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40 %

期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

PSY300JB,PSY300JC

教育心理学特講

大瀧 玲子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を交え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実践について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ
12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ

14 総括

授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹網誠一郎 著
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）

授業参加およびリアクションペーパー等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces educational psychology to students taking this course.

Learning Objectives:

The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology.

Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

Your overall grade in the class will be decided based of the following

Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY200JC

心理療法

津村 麻紀

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。またいくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実践について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていきます。理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第 2 回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第 3 回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第 4 回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第 5 回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第 6 回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第 7 回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的精神療法の理論と方法について概説する。
第 8 回	心理療法（2） 精神分析的精神療法、プ リーフセラピーなど	主な心理療法の中で、精神分析的精神療法、プリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第 9 回	心理療法（3） 認知行動療法、対人関係 療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第 10 回	心理療法（4） 日本で生まれた心理療法 ：森田療法、内観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第 11 回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第 12 回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第 13 回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。
平常点およびリアクションペーパー： 30 %
学期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline (in English)】

This course will provide an overview of the psychotherapy including the basic concept, history, objects, and specific methods. The objectives of this course is to enable students to understand the basics of psychotherapy and to explain the psychotherapeutic practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PSY300JC

臨床心理学特講

末武 康弘

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解します。あわせて、それらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	Binswangerらの現存在分析およびFranklのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をRogersの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をWolpeやBeckの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本のエスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多面的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC

精神分析学**中 康**

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業で、質疑応答やディスカッションを含めるようにし、その中で必要なフィードバックを行う。またリアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスレルの磁気術、催眠術
第 2 回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナ O、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第 3 回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第 4 回	精神性の発達論①	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着
第 5 回	精神性の発達論②	思春期青年期、性器統裁、対象選択、超自我の構造的変化、Blos による思春期の発達論
第 6 回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第 7 回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第 8 回	精神分析療法と精神分析的な精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析的な心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第 9 回	契約	治療契約について
第 10 回	退行	治療的退行について
第 11 回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第 12 回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、平常点 (リアクション・ペーパーを含む)(30%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、PC を使用して zoom を介して行う。

【その他の重要事項】

精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC

児童精神医学

関谷 秀子

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができて上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に P C プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史①	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史②	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	児童精神医学の歴史③	乳幼児期・幼児期の発達について。
第 5 回	子どもの精神発達①	マラーの発達理論。 マラーの発達理論。
第 6 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 7 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 8 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 9 回	不登校①	小学生の不登校
第 10 回	不登校②	思春期の不登校
第 11 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 12 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 13 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 14 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 15 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%), リアクションペーパー (20%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

PSY300JC

認知行動療法

金築 優

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC

グループアプローチ

大竹 直子

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

グループ・アプローチについての理論を理解するとともに、体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回の授業において、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半は毎回異なったメンバーとグループを組み、グループ・ワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があり得ます。）

また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる(1)	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる(2)	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験 (1)	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験 (2)	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	まとめ	講義と演習
14	最終試験	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんと安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。（プリントを配布します。A 4 版のファイルをご準備ください。）

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

- ①最終試験 60%
- ②平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「授業にエネルギーを遣う」「自分について話すことに最初は戸惑った」との声や、「回数を重ねることに楽しみになってきた」「自己理解が深まった」「人と話すことが怖くなくなった」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY300JC

精神生理学特講

望月 聡

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころの働きと脳がどのように関係しているかを明らかにしようとする「神経心理学」を概説します。人間の脳損傷によって生じうる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)を詳しく紹介し、それらの障害からどのような心理学的・認知神経科学的メカニズムが明らかになるか解説します。

神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎、さらに健常者を対象としたニューロイメージングによる知見も取り上げます。

【到達目標】

- 1) 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。
- 2) 脳神経系の構造及び機能について概説できる。
- 3) 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。
- 4) 人の感覚・知覚等の障害について概説できる。
- 5) 人の認知・思考等の障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で進めます。毎回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	神経心理学の目的と方法についての概要を学びます。
第 2 回	脳の構造	脳の解剖学的基礎について学びます。
第 3 回	知覚・認知	視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認などを学び、知覚・認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 4 回	空間、身体	半側空間無視、身体失認を学び、空間認知、身体認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 5 回	行為	失行、行為制御障害を学び、行為表出と制御に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 6 回	記憶	短期記憶障害、ワーキングメモリ障害、エピソード記憶障害、意味記憶障害、手続き記憶障害を学び、記憶に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 7 回	言語 (1) 聞く・話す	失語を学び、口頭言語に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 8 回	言語 (2) 読む・書く、計算	失読、失書、計算障害を学び、文字言語と計算に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 9 回	脳の側性化	左右半球の情報処理の違いを学び、半球優位性のメカニズムを理解します。
第 10 回	注意	注意障害を学び、注意に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 11 回	遂行機能（実行機能）	遂行機能（実行機能）障害を学び、計画性や問題解決に関わる脳のメカニズムを理解します。

第 12 回 社会的認知

社会的認知の障害を学び、社会性に関わる脳のメカニズムを理解します。

第 13 回 感情、動機づけ

感情の認知や表出の障害、動機づけや意欲の障害を学び、感情や動機づけ・意欲に関わる脳のメカニズムを理解します。

第 14 回 授業内試験・まとめと解説

筆記試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでに他の科目で学んできた心理学の生物学的な側面について復習をしておくと、授業内容の理解が深まります。
授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がもっと深まります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（30%）および期末試験（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が少し難しいと感じられる人もいますが、さまざまな領域の心理学の知見を結びつけたり、心理学の基礎的な面と臨床的な面をつなぐための大切な学問領域でもありますので、頑張って受講してもらいたいと思っています。興味を持って受講していただけるような内容や説明の仕方を心がけます。

【その他の重要事項】

「神経・生理心理学」とあわせての受講を推奨します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course provides an overview of neuropsychology, which aims to clarify how the brain is related to psychological functions. I will introduce in detail the cognitive, behavioral, and emotional disorders (higher brain dysfunction) that can be caused by brain injury, and explain what psychological and cognitive neuroscience mechanisms can be revealed from these disorders.

It will also cover the basics of neuropsychological assessment and intervention methods such as cognitive rehabilitation, as well as neuroimaging findings in healthy subjects.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students are expected to be able to:

- 1) Explain higher brain dysfunction and necessary support.
- 2) Outline the structure and function of the cerebral nervous system.
- 3) Outline the mechanisms of physiological responses such as memory and emotion.
- 4) Outline disorders of sensation and perception in humans.
- 5) Outline disorders of cognition and thought in humans.

[Learning activities outside of classroom]

Reviewing the biological aspects of psychology that you have studied in other courses will help you understand the content of the class better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Evaluation will be made on the basis of the reaction papers submitted after each class (30%) and the final exam (70%).

PSY300JC

認知心理学特講

望月 聡

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「知覚・認知心理学」では扱わなかった認知心理学の応用的側面、他の心理学あるいは他の学問領域とのつながり（認知科学）にかかわる発展的なテーマ・トピックスをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての広く応用的な視点を身につけます。

【到達目標】

- 1) 人の認知・思考等の機序及びその障害について発展的に理解できる。
- 2) 認知心理学と他の心理学のつながりについて概説できる。
- 3) 認知心理学と他の学問領域とのつながりについて概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針・授業内容の説明
第 2 回	認知と学習・言語	メタ認知 メタ認知的知識 メタ認知的技能 自己調整学習 認知地図 生成文法 認知言語学 言語理解 言語産生
第 3 回	認知と身体	身体認知 身体図式と身体イメージ 身体所有感 幻肢 身体化認知 (embodied cognition) 心身問題
第 4 回	認知と運動・行為	運動制御 運動主体感 視覚誘導型行為／記憶誘導型行為 アクション スリップ ミラーニューロンシステム 自由意志
第 5 回	認知と感情	認知評価理論 自己意識的感情 感情の認知 感情の制御 認知が感情に及ぼす影響 感情が認知に及ぼす影響
第 6 回	認知と個人差	知能 知能検査 認知機能検査 情動的知性 認知スタイル パーソナリティ認知
第 7 回	認知と社会	社会的認知 対人認知 印象形成 帰属過程 社会的推論 ステレオタイプと集団認知 行動経済学 メディア
第 8 回	認知の発達	視覚認知の発達 記憶と概念形成の発達 語彙の獲得 文法能力の獲得・発達 非認知能力 実行機能 認知機能への加齢の影響
第 9 回	認知と障害	認知神経心理学 高次脳機能障害 失語 失読 失書 失行 実行機能障害 認知症 神経発達症 精神疾患における認知機能の障害 認知機能改善療法
第 10 回	認知と臨床心理学	認知臨床心理学 注意バイアス・記憶バイアス・推論バイアス・解釈バイアス 認知療法 認知行動療法 メタ認知療法 認知バイアス修正法

第 11 回	認知と脳神経科学	認知神経科学 脳機能計測技術 ニューロイメージング 認知の生理心理学・精神生理学
第 12 回	認知と情報科学・工学	計算論 人工知能 ニューラルネットワーク コネクションイズム ブレイン・マシン・インターフェイス VR AR
第 13 回	認知と進化・文化	進化心理学 動物の認知（比較認知科学） 認知生態学 認知人類学 文化心理学 文化的自己観
第 14 回	まとめと解説	授業全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がもっと深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（60%）および期末レポート課題（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「知覚・認知心理学」を履修済みであることを前提とします。

「知覚・認知心理学」とあわせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, we will take up applied aspects of cognitive psychology that were not covered in "Perceptual and Cognitive Psychology," and developmental themes and topics related to the connection with other psychology or other academic fields (cognitive science) to acquire a broad and applied perspective on human perception and cognitive functions.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students are expected to be able to:

- 1) Expand understandings of the mechanisms of human cognition and thought and their disorders.
- 2) Outline the connections between cognitive psychology and other psychologies.
- 3) Outline the connections between cognitive psychology and other disciplines.

[Learning activities outside of classroom]

Reading through the material in advance as preparatory study will help you understand the class content better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books if you are interested in the material to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Evaluation will be based on the status and content of the reaction papers submitted after each class (60%) and the final report assignment (40%).

SOW200JB

ケアマネジメント論

柴崎 祐美

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケアマネジメント概念を国際的な視点から理解し、わが国におけるケアマネジメントの実態とその課題について学習します。

【到達目標】

- ・ケアマネジメントの定義や構造、機能を理解し、説明することができる。
- ・介護保険制度におけるケアマネジメントの具体的なプロセスを説明、展開することができる。
- ・児童福祉、障害者福祉分野等、さまざまな対象や場面で展開されるケアマネジメントの特性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体としつつ、適宜、映像教材の視聴、演習、グループディスカッションを実施します。

授業の始めに前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、ケアマネジメントの背景	授業の進め方と評価方法、ケアマネジメントの背景の説明
第 2 回	ケアマネジメントの概念および定義	国際的な概念の理解、日本における定義の理解
第 3 回	ケアマネジメントの構造、機能	ケアマネジメントの構成要素と機能の概略の理解
第 4 回	ケアマネジメントの過程	ケアマネジメントの過程の理解
第 5 回	自立支援	自立の捉え方、エンパワメント、ストレングスモデルの理解
第 6 回	ニーズの把握と目標設定	生活ニーズとサービスニーズの構造を整理し、社会資源に結びつける過程を検討
第 7 回	ケアマネジメントにおける家族の位置づけ	社会資源及び支援対象者としての家族の位置づけの確認。介護負担軽減への支援方法の検討
第 8 回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置、コミュニティワークとの関係
第 9 回	介護保険制度とケアマネジメント①	認知症高齢者のケアマネジメントに関する事例検討、演習
第 10 回	介護保険制度とケアマネジメント②	介護予防ケアマネジメントと地域支援事業に関する事例検討、演習
第 11 回	介護保険制度とケアマネジメント③	高齢障害者のケアマネジメントの連続性、相談支援専門員との連携に着目した事例検討、演習
第 12 回	児童福祉とケアマネジメント	医療的ケアを要する児童の地域生活支援の事例検討、演習
第 13 回	ケアマネジメントの価値と倫理	ケアマネジャーの倫理綱領、ケアプラン作成時の倫理的ジレンマ
第 14 回	試験・まとめと解説	ケアマネジメントの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
- ・利用者の生活を取り巻く環境、法制度は変化しています。日ごろから新聞記事や文献・雑誌等から関連する情報収集に努めてください。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じてプリントや資料を配布します。

【参考書】

- ・白澤政和（2018）『ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法』中央法規出版。
- ・社会福祉士養成テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』（出版社は問わない、最新刊を参照することが望ましい）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー等）30%、小レポート（ケアプラン作成演習）20%、筆記試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡、課題提出は「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire understand the concept of care management from international perspective and learn about the actual condition and issues of care management in Japan

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- － Explain the definition, structure, and function of care management.
- － Explain and implement the process of care management in long-term care insurance.
- － Explain the characteristics of care management implemented in welfare for children, the person with disabilities, etc.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 20%、in class contribution: 30%

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会（コミュニティ）の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み (7)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を話かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society. The goals of this course are to acquire the ability to create a cultural environment, such as the law related to the creation of a cultural environment and basic knowledge such as the preservation and utilization of cultural heritage. Students should look at the projects and attempts being made to create a historic and cultural environment in their area. Also, be sure to visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目は、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください。

初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目は、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください。

初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目は、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目は、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの問題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に、表計算ソフト、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットとメディアリテラシ	インターネットの歴史と仕組み、電子メールについて学ぶ
第 2 回	エクセルその 1	Excel の概要と用語、基本的な使い方について学ぶ
第 3 回	エクセルその 2	データの移動・コピーと数式の使い方
第 4 回	エクセルその 3	関数の使い方と条件分岐について学ぶ
第 5 回	エクセルその 4	グラフの描画とデータ処理の基本を学ぶ
第 6 回	エクセルその 5	総合課題を通して関数の応用を学ぶ
第 7 回	エクセルその 6	総合課題の続きとして、フィルタとデータの自動生成について学ぶ
第 8 回	World Wide Web	WWW(ホームページ)の仕組みとサーチエンジンについて学ぶ
第 9 回	パワーポイントその 1	PowerPoint の基本的な使い方と発表操作について学ぶ
第 10 回	パワーポイントその 2	アニメーションや表、グラフの扱い方について学ぶ
第 11 回	パワーポイントその 3	総合課題を通じ、実用的なスライドの作成について学ぶ

第 12 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの安全性について、匿名性や情報の保護について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 2	インターネットにおける著作権やウィルス、ネット犯罪について学ぶ
第 14 回	総括	I・IIを通して学んだ内容について総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの問題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に、表計算ソフト、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットとメディアリテラシ	インターネットの歴史と仕組み、電子メールについて学ぶ
第 2 回	エクセルその 1	Excel の概要と用語、基本的な使い方について学ぶ
第 3 回	エクセルその 2	データの移動・コピーと数式の使い方を学ぶ
第 4 回	エクセルその 3	関数の使い方と条件分岐について学ぶ
第 5 回	エクセルその 4	グラフの描画とデータ処理の基本を学ぶ
第 6 回	エクセルその 5	総合課題を通して関数の応用を学ぶ
第 7 回	エクセルその 6	総合課題の続きとして、フィルタとデータの自動生成について学ぶ
第 8 回	World Wide Web	WWW(ホームページ)の仕組みとサーチエンジンについて学ぶ
第 9 回	パワーポイントその 1	PowerPoint の基本的な使い方と発表操作について学ぶ
第 10 回	パワーポイントその 2	アニメーションや表、グラフの扱い方について学ぶ
第 11 回	パワーポイントその 3	総合課題を通じ、実用的なスライドの作成について学ぶ

第 12 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの安全性について、匿名性や情報の保護について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 2	インターネットにおける著作権やウィルス、ネット犯罪について学ぶ
第 14 回	総括	I・IIを通して学んだ内容について総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。

4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。

プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF 、 SUMIF 、 AVERAGEIF 、 COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、 Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、 Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ【第3版】
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム **Hoppii** への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word・Excel・PowerPoint・Zoom** が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 **HP** の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウイルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社 第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウイルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社 第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンスー予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンスー分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの 3 つのみである。これら 3 つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し
3	配列 ー表操作	配列。
4	双六ゲーム ー内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本設計	問題の定義 [仕様]
7	オセロゲーム ー 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンスー予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンスー分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの 3 つのみである。これら 3 つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し。
3	配列 ー表操作	配列。
4	双六ゲーム ー内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本設計	問題の定義 [仕様]
7	オセロゲーム ー 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI100LA		
情報処理演習 I		
2017 年度以降入学者		
河内谷 幸子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 単位数：2 単位 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。 Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。 初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。		
【到達目標】 他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。 web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。 表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1		
【授業の進め方と方法】 この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。 基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。 対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、 Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 html によるホームページ作成について実習する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 学習支援システム Hoppii で指示します。		
【参考書】 実習 情報リテラシ [第 3 版] 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著 出版：サイエンス社		
【成績評価の方法と基準】 学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】 対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。		
【学生が準備すべき機器他】 オンライン授業の備えて、 Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。		
【その他の重要事項】 コンピュータが苦手でも履修できます。 この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。 授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。		

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。

当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。

プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF 、 SUMIF 、 AVERAGEIF 、 COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、 Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、 Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ【第 3 版】

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム **Hoppii** への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word・Excel・PowerPoint・Zoom** が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 **HP** の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills.

This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。

4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。

プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF 、 SUMIF 、 AVERAGEIF 、 COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、 Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、 Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ【第 3 版】
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム **Hoppii** への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word・Excel・PowerPoint・Zoom** が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 **HP** の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名見耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報技術のより広いスキル・知識の習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報技術のより広いスキル・知識の習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておく必要があります。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報技術のより広いスキル・知識の習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報技術のより広いスキル・知識の習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。

第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20 %）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第 2 回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第 3 回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第 4 回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第 5 回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第 6 回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第 7 回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 9 回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第 10 回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第 11 回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第 12 回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。

第 13 回 HTML5

HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。

第 14 回 まとめ

講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、G U I の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。

第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン I D とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20 %）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第 2 回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第 3 回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第 4 回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第 5 回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第 6 回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第 7 回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 9 回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第 10 回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第 11 回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第 12 回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。

第 13 回 HTML5

HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。

第 14 回 まとめ

講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、やりたい事ができるようになる（＝実践的な実務能力を身につける）ことです。情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時検索して見つけられるようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的操作方法を習得します。

＜オンラインでの開講について＞

2 月現在、大学の方針では対面授業が可能（※）ですので、原則対面授業とします。ただし、新型コロナウイルス感染拡大（COVID-19）に伴うオンラインでの開講を余儀なくされる可能性は否定できません。また、対面授業が可能であっても、将来的にオンラインミーティング等を使いこなすことも、この授業の目的に沿います。その意味で、皆さんの環境を調査しつつ、一部の授業をあえてオンラインで開講する計画です。ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、上記の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office2019（Word・Excel・PowerPoint）や Google の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。

＜オンライン開講について＞

前述のとおり、もし授業がオンラインでの開講になっても、授業の目的や到達目標が変わることはありません。ただし、環境が整わない場合などは、基本操作を実際に演習することが困難な場合があります。そのため、学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能ないようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
- (2) 毎回の授業は、講義と演習を組み合わせで行います。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報を検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

＜オンラインでの開講になった場合＞

前述のように、オンライン開講を余儀なくされた場合は、その時々状況に合わせて授業計画を柔軟に変更していかなくてはなりません。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。授業開始日前に学習支援システムを確認してください。

また、オンライン開講をする場合でも、原則授業時間は対面授業と同じ時間にリアルタイムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Windows の基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 情報教室 PC へのログイン方法の確認。自身の PC を使用する場合、使い方の確認。 WindowsPC の基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。
第 2 回	電子メールとネットの基本 USB メモリの取扱方法 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較。 USB メモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。 ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox の利用と、注意点。 教科書によるネットリテラシーの復習。 Windows の基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。 応用的な文章作成方法。 Word で絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excel でできることを知る（頭出し）。 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認） 計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。 Excel でグラフを作成する。 Excel の表やグラフを Word に貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第 3 回	Zoom の基本操作 ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用	
第 4 回	Word(1)	
第 5 回	Word(2)	
第 6 回	Word(3) Excel(1)	
第 7 回	Excel(2)	
第 8 回	Excel(3)	

第 9 回 Excel(4)	Excel でのリスト管理（データベース）。 Excel とワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第 10 回 PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としての PowerPoint ファイルの作成。
第 11 回 PowerPoint(2)	簡易 DTP としての PowerPoint の利用。 Word Excel との連携。
第 12 回 Office ソフト総合演習	Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第 13 回 Google のサービスと Office ソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題を行う。
第 14 回 総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業で扱った内容を、次回までに必ず復習しておいてください。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。

【テキスト（教科書）】

『情報リテラシー 教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体 1900 円）

【参考書】

- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体 1800 円）
- ・『レポート・論文作成法』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、それまで（高校も含む）の経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。初心者であっても、真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要最低限のゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 50%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出はその課題について 0 点。提出遅れは減点）（配点比重 30%）
- ・総合課題（配点比重 20%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・読まなければならない授業内容の説明が多いという意見があったので、授業内容のレジュメの量を減らし、口頭での説明の比率を上げます。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワークは続けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスを良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・指定された時までに USB メモリー（容量 1 GB 以上が望ましい）を入手し、持参すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅からのネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、対面授業の時にも自身のパソコンを持参することを推奨する（必須ではありません）。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.

< Learning Objectives >

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

< Learning activities outside of classroom >

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

The learning time outside of classroom should be at least four hours per class.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end assignment:20%, Every class assignments:30%, In class contribution:50%.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム (Hopii) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word) : 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン : 1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン : 2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン : 3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン : 4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己PRのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム (Hopii) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピューターでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（Davinci resolve/パワーポイント）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション (授業方針と計画・評価方法について)	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法

④	電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用の基礎理解操作方法	メールアカウントの設定とメールソフトについて
⑤	アプリケーションソフト習得～MS Word (1)	基礎的な日本語入力
⑥	アプリケーションソフト習得～MS Word (2)	表組みと描画など
⑦	アプリケーションソフト習得～MS Word (3)	アウトラインプロセッサについて
⑧	アプリケーションソフト習得～MS Excel (1)	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得～MS Excel (2)	計算式と関数① 再計算機能と相対・絶対番地について
⑩	アプリケーションソフト習得～MS Excel (3)	計算式と関数② 条件判断関数の基本とその応用
⑪	アプリケーションソフト習得～MS Excel (4)	マクロ・VBA 基礎
⑫	ドローイングソフト習得～inkscape ①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得～inkscape ②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション～prezi ①	prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15 %
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15 %
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70 %

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.

■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.

■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction / analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.

【Learning Objectives】

We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (Davinci resolve / PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour foreach class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Fostering awareness of rights and protection in information 15%
- ・ Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
- ・ 70% of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回の授業は動画配信（音声付き）を配信するので、それを視聴したのちに各回の課題レポートの作成に取り組んでください。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内（6 日間）において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。授業動画は、通常毎週木曜日（休講期間を除く）に配信予定です。配信から 6 日以内（具体的な日程は授業中に指示します）に学習支援システム上で提出してください。また、提出されたレポート内容等のフィードバックは翌々週の授業内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方や行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを見自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業では授業聴講時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によって受講、学習をしてください。		

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回の授業は動画配信（音声付き）を配信するので、それを視聴したのちに各回の課題レポートの作成に取り組んでください。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内（6 日間）において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。授業動画は、通常毎週木曜日（休講期間を除く）に配信予定です。配信から 6 日以内（具体的な日程は授業中に指示します）に学習支援システム上で提出してください。また、提出されたレポート内容等のフィードバックは翌々週の授業内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを見分けて自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。			
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。			
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。			
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。			
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業聴講時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によって受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回の授業方式が変更になる場合があります。また、課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方や行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業では授業時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によって受講、学習をしてください。		

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回の授業方式が変更になる場合があります。また、課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。			
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。			
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。			
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。			
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によって受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招 2017 年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのように、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立から 142 年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

- ・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
- ・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者 2 名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の Hoppii のコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（科目責任者＝小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（浜村彰）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20 世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）

8	大内総長とその時代～ 法政大学と日本近現代 史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。(横内正雄)
9	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
10	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度はオリンピック 5 回連続出場の銀・銅メダリスト三宅宏実さん（キャリアデザイン学部卒）をお招きします。お楽しみに！
11	近年の発展～法政大学 と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。(職員・各学部教員)
12	近年の発展～法政大学 と日本近現代史⑥、そ して未来へ	前回に引き続き 2000 年に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだ後、法政大学の展望を総長にお聞きします。(各学部教員・廣瀬克哉総長)
13	「自由と進歩」と法政 大学憲章～「法政らし さ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。(科目責任者＝小林ふみ子)
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。廣瀬克哉総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。(廣瀬克哉総長・科目責任者＝小林)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。
一昨年オープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。
その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の Hoppii のコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 12 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、授業支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

- ・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。
- ・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

IDN200LA

法政学の探究 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

古俣 達郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「学生（法政大学の学生＝法大生）」の歴史と文化に焦点をあてます。法政大学で学生生活を過ごすなか、ふと疑問に思ったことや関心を抱いたことを日本近現代史、大学史などの学問的な観点から検証します。具体的なテーマとして、体育会・文化系団体・サークルの由来、自主法政祭の歴史、留学生の変遷、法政大学におけるジェンダー、そして、外濠・神楽坂を中心とした周辺地域の特徴などを挙げるすることができます。法政大学の歴史を通して、日本の近現代や日本の大学のあり方を捉え直す機会となるでしょう。

また、2020 年度に開設された HOSEI ミュージアムの展示コンテンツやデジタルアーカイブをはじめ、映像資料なども活用し、様々な資料から「法政学」を探究します。

【到達目標】

1. 法政大学の歴史はもろもろのこと、日本近現代史や大学の歴史に関する基礎的な知識を得ることができます。
2. 身近なテーマを学問的な「問い」へと発展させる視野を養います。
3. 調査研究の前提となるテーマ設定の具体化や各種資料の調査方法・読解方法について学ぶことができます。
4. 演習形式が中心となるため、各学部の専門ゼミ履修への準備になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に則り、講義形式と演習形式を組み合わせで進めます。第4回では HOSEI ミュージアムで見学調査を行い、第7・14回では上映された映像について議論を行います。なお、受講生は授業内で報告（1回）を行う必要があります。報告（発表）や質問、リアクションペーパー等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業の目標、スケジュール等を説明します。
第2回	法政大学の歴史－東京法学社創立から大学昇格まで－	法律学校時代の法政大学の歴史を主に「学生」の観点から振り返ります。
第3回	法政大学の歴史－大学昇格から現在まで－	大学昇格後の法政大学の歴史を主に「学生」の観点から振り返ります。
第4回	HOSEI ミュージアムでの学び	HOSEI ミュージアムを訪問し、展示内容から法政大学に関わる様々なテーマについて知見を得ます。
第5回	デジタルアーカイブの使い方	HOSEI ミュージアムデジタルアーカイブをはじめ、各種デジタルアーカイブ、データベースの使用方法を学びます。

第6回	テーマ設定方法と報告の基礎を学ぶ	「問い」の立て方、テーマ設定の方法をはじめ、レジュメの作成やプレゼンテーション方法など、報告の基礎を学びます。
第7回	映像から学ぶ法政大学	法政大学を舞台にした映画『横道世之介』を鑑賞し、そこで描かれた学生像について議論します。
第8回	体育会・文化系団体・サークルに関するテーマ設定と資料紹介	体育会・文化系団体・サークルに関するテーマ設定を科目担当者とともにを行います。
第9回	その他、学生活動や学生の歴史に関するテーマ設定と資料紹介	上記（体育会・文化系団体・サークル）以外の学生活動や学生の歴史に関するテーマ設定を科目担当者とともにを行います。
第10回	地域などに関するテーマ設定と資料紹介	主に外濠・神楽坂など法政大学の周辺地域に関するテーマ設定を科目担当者とともにを行います。
第11回	体育会・文化系団体・サークルをテーマとした報告	体育会・文化系団体・サークルをテーマとした受講生の報告を行います。
第12回	その他、学生活動や学生の歴史をテーマとした報告	上記（体育会・文化系団体・サークル）以外の学生活動や学生の歴史をテーマとした受講生の報告を行います。
第13回	地域などをテーマとした報告	主に地域などをテーマとした受講生の報告を行います。
第14回	映像上映と総括	法政大学創立百周年記念映画『オレンジのその情熱と…』を鑑賞し、科目担当者による総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習では、HOSEI ミュージアムに展示されているコンテンツ、同デジタルアーカイブの調査や授業内で紹介された文献の読解を行います。復習では、毎回科目担当者が配布した資料と授業支援システムにアップロードされた資料を読み直します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回、科目担当者が資料を配布します。

【参考書】

『法政大学八十年史』（1961年）、『法政大学百年史』（1980年）、『法政大学と戦後五〇年』（2004年）、『法律学の夜明けと法政大学』（1992年）、唐澤富太郎『学生の歴史－学生生活の社会史的考察』（1955年）

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業内の報告（各50%）にて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学部を超えた交流の機会となるよう、受講者が自由に発言できる「場」を形成したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

報告用の PC などの機器は科目担当者が用意します。

【その他の重要事項】

関連科目「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提としますので、同科目の既修者か、それと同等の前提知識を得てから受講してください。後者の場合、大学公式 HP に掲載されている「HOSEI MUSEUM」が参考になります。

【Outline (in English)】

This course explores the history and culture of Hosei students. We examine questions and interests in student life from an academic perspective. Students will learn the modern and contemporary history of Japan, the history of Universities through the history of Hosei University.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Usual performance score: 50%, Classroom presentations: 50%

IDN200LA

法政学の探究 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

古俣 達郎、高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 年の歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました。

「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探究することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できるようになるはずです。

【到達目標】

本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の潮流や雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

科目責任者の教員が毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、毎回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者含む）が、分担して担当します。

授業の最後に毎回、リアクションペーパーを書いていただきます。受講生の声を反映した参加型・双方向型授業になるよう努めます。なお、質問やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業中に行います。

*各回のオンラインでの実施形式・実施方法は学習支援システムを通じて、事前にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を復習する。（科目責任者＝高柳俊男、古俣達郎）

2	世界を知りつくした本学の祖 箕作麟祥	本学の前身である和仏法律学校の初代校長の箕作麟祥は、明治期の有数の啓蒙家であった。彼は、洋学を学んで、西洋の法律や歴史を日本に紹介し、日本の「民権」のために活躍した。彼の仕事を振り返って、そこから学ぶものを探りたい。（南塚信吾）
3	本学草創期を支えた日本近代法の父 ボアソナード	フランス人法学者のボアソナード（1825-1910 年）は、明治政府顧問として来日し、近代法典の整備と法学教育に尽力した。ボアソナードの事績と薫陶を受けた教え子たちの活動を紹介し、その歴史的意義を考える。（村松玄太）
4	「民法の父」・和仏法律学校初代総理 梅謙次郎	日本民法典起草者の一人であり、帝国大学法学部教授、法政大学の初代総理（総長）であった梅謙次郎について、韓国（大韓帝国、1897-1910 年）政府の法律顧問として活動していた頃の足跡を辿る。（李英美）
5	能楽研究の開拓者である野上豊一郎	法政大学は古典芸能の「能楽」と深い結び付きがあるが、その縁は、戦後間もなく総長を務めた野上豊一郎が創出したものである。今回は、野上と能楽との出会いから、彼が残した功績を概観する。（伊海孝充）
6	夏目漱石門下生たちに学んで作家になった椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久保田彦穗）は、とくに動物物語の作者として広く知られる。初の詩集を出し、学生結婚もした法政大学時代をはじめ、戦前戦後にわたる椋の歩みを時代の中で振り返る。（高柳俊男）
7	「女性である前にまず人間であれ」 野上弥生子と法政大学	日本を代表する作家野上弥生子。法政大学女子高等学校名誉校長もつとめた弥生子は同校の生徒たちに「女性である前にまず人間であれ」という言葉をのこした。弥生子の思想と人物像を探るとともに、その日記に記された法政大学の逸話を紹介する。（古俣達郎）
8	戦争の中を生きた学友たち～久納好孚を例に	終戦直前のわずか 10 ヶ月足らずの間に 5,845 名もの戦死者を出した「特攻」。その第一号となったのが、本学に学んだ学友の一人・久納好孚であった。彼はなぜ「特攻」を志願したのか。その短い生涯を辿りながら、戦前戦中の本学の歴史と学友たちの生きざまを追体験してみたい。（鈴木靖）
9	城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一、乾孝～生涯学習の時代を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授の城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一らは、本学を舞台に教育科学研究会や保育問題研究会を組織したが、そのねらいは現場の教員と研究者とが共同して教育実践を研究することにあつた。キャリアデザイン学部へと引き継がれるこの伝統を明らかにしたい。（笹川孝一）
10	「不安の時代」を代表する思想家	西田幾多郎を中心とする「京都学派」随一の俊才とされ、昭和前期のアカデミズムとジャーナリズムの双方で幅広く活躍しながら、第 2 次大戦直後に悲劇的な獄死をとげた哲学者・三木清の生涯と思想を紹介・検討する。（衣笠正晃）

11	法政スポーツの伝統を 探る	法政スポーツは 100 年以上の歴史をもつ。HOSEI ミュージアムで開催された展示「HOSEI スポーツの原点」をもとに、その歴史と伝統を振り返る。(北口由望)
12	高度経済成長と戦後思想の変容－藤田省三の 射程	「焼け跡・闇市」の原風景から出発した日本の「戦後」は、政治的安定化と経済的繁栄とともに劇的に変わって行く。そのなかで行われた戦後思想の変容について、思想家藤田省三（1927-2003）の議論を中心に考察する。(趙星銀)
13	法政大学の歴史と人物	『法政大学百年史』（1980 年）、『法政大学と戦後五〇年年』（2004 年）など、長年にわたり法政大学の歴史の編纂に携わられている飯田泰三法政大学名誉教授をお招きし、法政大学の歴史並びに法政大学の歴史を形作った様々な人物についてお話いただく。(飯田泰三)
14	学生の目と教員の目から 見る法政大学	学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2 つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。 (小倉淳一、明田川融、古俣達郎)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、開館したばかりの HOSEI ミュージアムの展示および同ミュージアムデジタルアーカイブ (<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>) には、授業で取り上げた人物や事象に関するコンテンツが豊富に含まれていますので、準備学習・復習に活用してください。その他、授業に関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみてください。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。講義担当者がプリントを適宜配付します。

【参考書】

各担当教員が、その都度お知らせします。

本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学 1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、学期末のレポート 60 %を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場（もしくは学習支援システム）でお知らせします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

なお、レポートの作成に際しては、必ず文献に当たるよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

学術的でありながら、同時に自らの生き方の参考になるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。学習支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提に進めますので、原則として同科目の既修者か、それと同程度の前提知識がある方が受講対象者になります。

「大学を知ろう <法政学>への招待」とこの「法政学の探究 LA」を履修し、さらに学びを深めたい方には、より演習に近い少人数の科目として、「法政学の探究 LB」（春学期）も用意されています。

【Outline (in English)】

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review.

Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, and term-end report 60%.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：小原文明、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義テーマにより、講師が交代する場合があります。複数の講師（ゲストスピーカー）で実施予定です。

毎回リアクションペーパーを提出していただきます。最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習等の総括の他、期間中の試験に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性	生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ
2	人生とお金	人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性などを学ぶ
3	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
4	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
5	ライフプランを描く①	ライフプランの全体像について学ぶ
6	ライフプランを描く②	ライフプランの重要性、人生の3大費用、キャッシュフローの分析などを学ぶ
7	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
8	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点
9	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ
10	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ

11	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法などを学ぶ
12	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用法などを学ぶ
13	トラブルに強くなる	学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ
14	ライフプランを描く③、総括	ライフプランの作成・演習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習時間は、各 2 時間を想定します。
配布資料および web 上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回程度）（20%）および最終レポート（60%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2022 年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

また、2021 年度はオンラインの授業形式で実施しましたが、2022 年度は状況に応じて、対面での直接質問対応やディスカッションができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】

In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have “Financial Literacy” including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions. By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student

・ To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management

・ To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.

This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.

【Learning Objectives】

a)Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.

b)Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review. Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary

【Grading Criteria /Policy】

The score is calculated based on three subjects.

a)Attendance report contribute 20%

b)Mini exam contributes 20% (few times during the course)

c)Culminating report 60%

Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1～2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。
授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらおう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらおう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらおう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。
④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。

⑤ 忠度の最期の事

一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。

⑥ 敦盛最期の事

⑦ 逆櫓の事

⑧ 大坂越の事・嗣信最期の事

⑨ 那須与一の事

⑩ 壇の浦合戦の事・遠矢の事

⑪ 先帝御入水の事

⑫ 能登殿最期の事

⑬ 腰越の事

⑭ 全体のまとめと試験

四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかりと再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。776 円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50 %）と、『平家物語』について自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50 %）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多いため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

【Learning Objectives】

You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike". The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Gradeing Policy】

Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。
この授業はオンデマンドでの開講となる。毎週火曜日の 15 時に学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。
レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次回の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。

④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑭	その後の義経伝説	義経伝説は平泉で終わるわけではない。義経が平泉を脱出してさらに北へと向かったとする伝説、北海道からさらに大陸へと向かう義経の伝説などにも注目していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50％）と、義経伝説に関して自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50％）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

【Learning Objectives】

Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation / review time for this lesson is 4 hours per lesson.

【Grading Policy】

The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『竹取物語』を読む－おとぎ話の根源を探って

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多くであろう。また、2013年にはアニメ映画化もされて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実をいうと、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫からは想像できないようなかぐや姫の姿が随所に見られるのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】

『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。
なお、状況の変化により行動方針レベルが見直された場合は、授業形態を変更することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『竹取物語』を読む	かぐや姫の登場
③	『竹取物語』を読む	求婚者に対する無理難題
④	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅰ 石作皇子
⑤	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅱ庫持皇子
⑥	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅲ 右大臣阿倍御主人
⑦	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅳ大納言大伴御行
⑧	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅴ中納言石上麻呂足
⑨	『竹取物語』を読む	帝の求愛Ⅰ 興味から執着へ
⑩	『竹取物語』を読む	帝の求愛Ⅱ 愛情の深化
⑪	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅰ 天人の迎えな予告
⑫	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅱ 地の人々の抵抗
⑬	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅲ 月への帰還

⑭ 『竹取物語』を読む 遣された人々それぞれの嘆き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。
また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

『竹取物語（全） ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（角川ソフィア文庫 2011）
その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90%）。平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。
したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。
また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the Tale of Taketori students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The of Taketori.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『更級日記』を読むーある中流貴族の女性の人生

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『更級日記（さらしなにつき）』は、平安時代後期に生きた一人の中流貴族の女性が、晩年になってから自分の人生を振り返って書き記したものである。

物語に憧れた少女時代から、短期間の宮仕えを経て結婚し、やがて夫との死別後は寂しい生活を送る中で、とうとう夢見た生活を手に入れることができなかったことをしみじみと思う作者の姿が描かれている。

本授業では、『更級日記』の読解を通して、現代にも通じる人生の「理想と現実」を見てみたい。

【到達目標】

『更級日記』の本文を物語の展開に沿って紹介し、この物語の持つ特性や、当時の貴族社会の価値観を考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

なお、状況の変化により行動方針レベルが見直された場合は、授業形態を変更することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『更級日記』を読む	夢見る少女、都へ行く
③	『更級日記』を読む	物語への憧れⅠ『源氏物語』への耽溺
④	『更級日記』を読む	物語への憧れⅡ姉との語らいの中で
⑤	『更級日記』を読む	姉の死
⑥	『更級日記』を読む	父の不遇
⑦	『更級日記』を読む	観音のお告げ
⑧	『更級日記』を読む	はじめての出仕
⑨	『更級日記』を読む	結婚の理想と現実
⑩	『更級日記』を読む	物詣での日々Ⅰ周囲の無理解への苦悩
⑪	『更級日記』を読む	物詣での日々Ⅱ若き日を内省して
⑫	『更級日記』を読む	安定した日常Ⅰ穏やかな夫婦関係
⑬	『更級日記』を読む	安定した日常Ⅱ子どもへの期待
⑭	『更級日記』を読む	夫の死ー人生を顧みて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

『更級日記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（角川ソフィア文庫 2007）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90%）。平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to literary work called "Sarashina Nikki" students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about "Sarashina Nikki."
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：伊勢物語を、在原業平のイメージを中心に、和歌と物語の関係を考える

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察する。また 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】

和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。
現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125 段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋① 3 段から 6 段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋② 3 段から 6 段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り① 7 段から 9 段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り② 7 段から 9 段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較
7	斎宮との恋① 69 段から 71 段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋② 69 段から 71 段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。

9	惟喬親王との関わり① 政治と友情の関係 82 段 83 段、85 段	
10	惟喬親王との関わり② 非主流派のつながりと悲しみ。享 82 段 83 段、85 段	受者の共感。
11	高子との恋③ 65 段、 76 段、95 段	フィクション化していく恋物語。 物語への接近。
12	古今集との関わり 60 段、106 段	共通する歌の扱いの比較。歌集と 歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
13	業平の風流とは	人々が業平に求めたもの。万葉 集、大伴田主との比較
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792 円

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子
「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.

Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.

I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

Lecture format using texts with modern translations.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension. Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu. Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that. However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：享受者の意識・興味の変化を中心に伊勢物語を大和物語や能と比較し読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明 学習支援システムを使つてのオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	作品理解のため平安時代当時の制度、和歌、歌物語とはどういうものか等の背景説明
第 2 回	筒井筒 24 段	幼馴染との初恋の成就という現代一夫多妻制度下の理想少女マンガでもありそうな理想像の恋とは
第 3 回	紀有常との友情 16 段 38 段	筒井筒との関係から、男性貴族同士の関係性、そこから見える業平像を読み取る。
第 4 回	大和物語「沖つ白波」① 現実味への興味	筒井筒からの変化。業平という縛りが無くなった物語の変化。
第 5 回	大和物語「沖つ白波」②	筒井筒の理想に対してリアルな追求。

第 6 回	堤中納言物語「灰炭」	次代の変化による享受者の興味の純愛譚からお話へ変	変化を考える
第 7 回	能「井筒」時代をへて	演劇としての抽出。理想が、幻とも演劇に抽出される要素とはなにか	して演じられることの意味
第 8 回	母との関わり 伊勢物語 58 段、84 段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり	
第 9 回	兄行平の造形 伊勢物語 79 段、87 段、101 段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。	
第 10 回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり	
第 11 回	業平の死 125 段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較	
第 12 回	業平不在の章段 24 段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。	
第 13 回	まとめ	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか	
第 14 回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見ていると、イメージがでやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792 円

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出の学期末のレポート。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000 字相当のもの。これがほぼ評価の 100%。
作品の表現に対する読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本古典文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：伊勢物語を、特に在原業平のイメージを中心に、和歌と物語の関係を考える

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察する。また 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】
和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。
現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125 段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋① 3 段から 6 段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋② 3 段から 6 段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り① 7 段から 9 段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り② 7 段から 9 段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較
7	斎宮との恋① 69 段から 71 段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋② 69 段から 71 段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。

- 9 惟喬親王との関わり① 政治と友情の関係
82 段 83 段、85 段
- 10 惟喬親王との関わり② 非主流派のつながりと悲しみ。享
82 段 83 段、85 段 受者の共感。
- 11 高子との恋③ 65 段、 フィクション化していく恋物語。
76 段、95 段 物語への接近。
- 12 古今集との関わり 共通する歌の扱いの比較。歌集と
60 段、106 段 歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
- 13 業平の風流とは 人々が業平に求めたもの。万葉
集、大伴田主との比較
- 14 テスト 事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792 円

【参考書】
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子
「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.
Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.
I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was
You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.
Lecture format using texts with modern translations.
Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.
Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.
Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu. Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that. However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：享受者の意識・興味の変化を中心に伊勢物語を
大和物語、能と比較し読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明 学習支援システムを使つてのオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	作品理解のため平安時代当時の制度、和歌、歌物語とはどういうものか等の背景説明
第 2 回	筒井筒 24 段	幼馴染との初恋の成就という現代一夫多妻制度下の理想少女マンガでもありそうな理想像の恋とは
第 3 回	紀有常との友情 16 段 38 段	筒井筒との関係から、男性貴族同士の関係性、そこから見える業平像を読み取る。
第 4 回	大和物語「沖つ白波」① 現実味への興味	筒井筒からの変化。業平という縛りが無くなった物語の変化。
第 5 回	大和物語「沖つ白波」②	筒井筒の理想に対してリアルな追求。

第 6 回	堤中納言物語「灰炭」	次代の変化による享受者の興味の純愛譚からお話へ変	変化を考える
第 7 回	能「井筒」時代をへて	演劇としての抽出。理想が、幻とも演劇に抽出される要素とはなにか	して演じられることの意味
第 8 回	母との関わり 伊勢物語 58 段、84 段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり	
第 9 回	兄行平の造形 伊勢物語 79 段、87 段、101 段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。	
第 10 回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり	
第 11 回	業平の死 125 段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較	
第 12 回	業平不在の章段 24 段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。	
第 13 回	まとめ	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか	
第 14 回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見ていると、イメージがでやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792 円

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出の学期末のレポート。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000 字相当のもの。これがほぼ評価の 100%。
作品の表現に対する読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第 2 回	芥川龍之介「羅生門」①	「語り」と「枠物語」について
第 3 回	芥川龍之介「羅生門」②	テキストという考え方について
第 4 回	芥川龍之介「羅生門」③	間テキスト性について
第 5 回	芥川龍之介「羅生門」④	草稿について
第 6 回	葉山嘉樹「セメント樽 政治と文学についての中の手紙」①	
第 7 回	葉山嘉樹「セメント樽 下部構造と文学についての中の手紙」②	
第 8 回	葉山嘉樹「セメント樽 書簡体の力についての中の手紙」③	
第 9 回	葉山嘉樹「セメント樽 ストーリーとプロットについての中の手紙」④	
第 10 回	夏目漱石『こころ』①	作家論と作品論について
第 11 回	夏目漱石『こころ』②	視点と焦点化について
第 12 回	夏目漱石『こころ』③	ジェンダーおよびフェミニズム批評について
第 13 回	夏目漱石『こころ』④	読者に視点について

第 14 回 総括

まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫

葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫

夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、コロナの状況を鑑み、あまりに人数が多すぎる場合は抽選とさせていただきます。特別な理由がない限り、初回の授業は必ず参加するようにしてください。

なお初回の講義は教室の密を避けるためオンデマンド形式で行う予定ですので、アドレス等を通知する必要があるため早めの仮登録を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第 2 回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第 3 回	中島敦「山月記」②	イメージと象徴について
第 4 回	中島敦「山月記」③	異化について
第 5 回	中島敦「山月記」④	リアリティについて
第 6 回	志賀直哉「城の崎にて」①	「私小説」について
第 7 回	志賀直哉「城の崎にて」②	文化批評について
第 8 回	志賀直哉「城の崎にて」③	風景を描写することについて
第 9 回	志賀直哉「城の崎にて」④	伝記批評について
第 10 回	森鷗外「舞姫」①	「近代文学」の制度について
第 11 回	森鷗外「舞姫」②	文体について
第 12 回	森鷗外「舞姫」③	都市論について
第 13 回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第 14 回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島敦『山月記・李陵』岩波文庫

志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫

森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、コロナの状況を鑑み、あまりに人数が多すぎる場合は抽選とさせていただきます。特別な理由がない限り、初回の授業は必ず参加するようにしてください。

なお初回の講義は教室の密を避けるためオンデマンド形式で行う予定です。アドレス等を通知するため早めの仮登録を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらおう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けが、個別に答えるのではなく、次の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か？	魅惑の日本古典
3	お金の話 1	漱石を読む コトバかカネか？『こころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 2	漱石 明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用	谷崎論 官能の哲学
7	性的人間	もてない男の栄光 さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。
10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。
11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『歯車』を読む。可能性、パラレルワールド。

12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【参考書】

『必読 150』太田出版

それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準はレポート 80 %、平常点 20 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiyo, Tanizaki, postwar literature etc. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for the report and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナルリズムというフィクション 想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方 SF の想像力
14	授業内試験か質疑応答	授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for the report and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映像で読む戦前文学

佐藤 未央子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和 20 年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる〈近代〉化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア（写真・雑誌・映画等）との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／※オンライン (ZOOM)
第 2 回	泉鏡花「義侠血」	数々の演劇や映画の題材となった「滝の白糸」「天守物語」
第 3 回	島崎藤村「破戒」	泉鏡花作品について、メディアミックスの観点から分析する。
第 4 回	日露戦争と従軍記者	自然主義文学が作り出した制度とその問題について、プライバシー的な観点も含めて考察する。
第 5 回	夏目漱石「それから」	国木田独步や田山花袋が戦争をいかに報道し、描き出したか考察する。
第 6 回	芥川龍之介「羅生門」	近代社会が生んだ「エリート」と「遊民」が抱いたジレンマについて考察する。
第 7 回	中間総括	戦後の黒澤明による映画化を取り上げ、いかなる要素が前景化したか考察する。
第 8 回	志賀直哉「流行感冒」	これまでの学習を確認する。
第 9 回	佐藤春夫「女誠扇綺譚」	志賀の実体験を基にした短編とそのドラマ化を題材に、パンデミックの表象について考察する。
第 10 回	内田百閒「アジンコート」	日本統治下の台湾を文学はいかに描いたか、植民地表象の問題を明らかにする。

第 10 回	内田百閒「アジンコート」	関東大震災で被災した作家たちの言説や小説、映像を確認し、いかなる表現がなされたか確認する。
第 11 回	横光利一と川端康成、映画『狂った一頁』	新感覚派の作家たちが映画を通して挑んだ表現について考察する。
第 12 回	映画『オリンピア』と村野四郎「体操詩集」など	モダニズム文学のいちジャンルとしてのスポーツ文学が、オリンピックをいかに捉えたか読み解く。
第 13 回	谷崎潤一郎「細雪」	戦前から戦後にかけて執筆された「細雪」にかけられた、二重の言論統制の実態について分析する。
第 14 回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・十川信介『近代日本文学案内』（2008、岩波文庫）
・海野弘『モダン都市東京 日本の 1920 年代』（2007、中公文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』1、2 巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）： 50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

初回のみ ZOOM を用いて授業を行います。アドレスは Hoppii から配信します。

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定ですので、必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Japanese literature 1890s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema. We discuss how writers described modernity and consider the critical qualities of prewar works.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explained with specific examples that literary works have been established in relation to various media.

- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LIT100LA

日本文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映像で読む戦後文学

佐藤 未央子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、昭和20年代から平成初期までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQの占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、60年代には飛躍的な経済成長を遂げ、2000年代には匿名性の高い情報化社会が完成するが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の70年を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／〈戦後〉を語るということ
第2回	田村泰次郎「春婦伝」と映画化をめぐる問題	GHQ占領下において、小説の映画化にかけられた規制の内実＝〈表現の不自由〉を学ぶ。また、女優山口淑子（李香蘭）の来歴も確認する。
第3回	坂口安吾「墮落論」「白痴」	坂口安吾が提唱した〈墮落〉概念の史的意義を学ぶ。また、戦後の焼け跡表象も分析する。
第4回	太宰治「斜陽」「人間失格」	作中で語られる「道徳革命」の意味を読み解くとともに、作家自身と作品の距離について考察する。
第5回	林芙美子「下町（ダウン・タウン）」「浮雲」	価値観が変容していく戦後社会の中で、女性がいかに生き抜こうとしていたか、小説と映画を参照して検討する。
第6回	石原慎太郎「太陽の季節」「狂った果実」	新たな価値観を持つ無軌道な若者たちを描いた石原作品の、文壇と映画界への波及力を検討する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	安部公房「他人の顔」	安部公房と勅使河原宏が協働した映画化において、原爆被害者の女性を前景化させた演出の意義について検討する。

第9回	川端康成とドナルド・キーン	キーンの翻訳や批評活動の意義を確認したうえで、川端が語る「美しい日本」の内実を検証する。
第10回	三島由紀夫「金閣寺」「憂国」「太陽と鉄」	戦後の国家や天皇のあり方に対する三島の問題提起について、小説に加えた映像表現や言論活動を通して検討する。
第11回	寺山修司「田園に死す」、唐十郎「唐版 風の又三郎」	1960年代におけるアングラ演劇・映画が描き出した都市空間と反権力性について、作品を鑑賞して考察する。
第12回	松本清張とメディア・ミックス	戦後社会の裏面を描き、小説・映画化ともに広い支持を得た清張作品の批評性を考察する。
第13回	村上春樹「風の歌を聴け」「ノルウェイの森」「トニー滝谷」	「デタッチメントからコミットメントへ」と言われる村上の政治的スタンスとその発言の意義について、小説と映像を通して確認する。
第14回	総括・授業内試験	授業内容のまとめと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。授業資料は Google Classroom にもアップします。

【参考書】

・磯田光一『戦後史の空間』（2000、新潮文庫）
・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』3巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考に授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and postwar societies. We visually confirm 70 years of post-war Japan by referring to Japanese movies and plays, which received increasing international recognition after the war.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Acquire knowledge of Japan's international position and cultural situation after the war.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。

授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- 。今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- 。「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 。異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解
第 3 回	神話と変身（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第 5 回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	メルヘンと変装（1）	ペロウ『ロバの皮』読解
第 7 回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第 9 回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画（1）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画（2）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較
第 12 回	変身物語と映画（3）	課題、ディスカッション カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第 13 回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較
第 14 回	まとめ	課題、ディスカッション 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

【参考書】

カフカ『変身』

【成績評価の方法と基準】

課題提出（60％）と学期末試験（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

—
(Learning Objectives)

- To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.
- To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.
- Improve the ability to understand different cultures.

—
(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ゲーテ『イタリア紀行』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセイ、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考える。

【到達目標】

- 文学の題材と形式の関係を知ること。
- 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての旅について
第 2 回	『オデュッセイア』精読（1）	第十一歌（ハデス）
第 3 回	『オデュッセイア』精読（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	冥界への旅（1）	『オルペウスとエウリュディケ』読解
第 5 回	冥界への旅（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	近代文学とギリシャ神話（1）	T. マン『ベニスに死す』第 3 章読解
第 7 回	近代文学とギリシャ神話（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	教養小説と「旅」（1）	ゲーテ『イタリア紀行』「ローマ」読解
第 9 回	教養小説と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	ロマン主義と「旅」（1）	アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』第一章 読解
第 11 回	ロマン主義と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第 12 回	映画と流行歌における「旅」	W. ヴェンダース <i>Lisbon Story</i> 等

第13回 映画と流行歌における 課題、ディスカッション
「旅」

第14回 まとめ 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

【成績評価の方法と基準】

課題提出（60％）と学期末試験（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

PDF入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。
手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature. In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

（Learning Objectives）

- To know the relationship between literary material and form.
- To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "travel" as a clue.
- Improve the ability to understand different cultures.

（Learning activities outside of classroom）

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

（Grading Criteria /Policies）

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます（作品は日本語で読みます）。春学期は「テキスト解釈」を扱います。詩や小説をはじめとして、いくつかのジャンルから課題文を選びます。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要・課題説明
2	寓話（1）	ラ・フォンテーヌ『寓話』
3	寓話（2）	テキスト解釈
4	戯曲（1）	モリエール『才女気取り』
5	戯曲（2）	テキスト解釈
6	論述文（1）	エミリー・デュシャトレ「幸福論」
7	論述文（2）	テキスト解釈
8	詩（1）	ビクトル・ユゴー『静観詩集』
9	詩（2）	テキスト解釈
10	小説（1）	フローベール『ボヴァリー夫人』
11	小説（2）	テキスト解釈
12	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題（1）	2016年度の課題の背景
13	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題（2）	2016年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて事前に授業資料を配布するようにします。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では春学期の続きとして、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます。課題は「総括」「小論文」という論述文です。前半は課題に関連する文学作品と作家について、後半は 2 種類の論述文の書き方について、解説します。

尚、秋学期のみの受講も可能です。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期授業内容・課題説明
2	エミール・ゾラ（1）	「我弾劾す」
3	エミール・ゾラ（2）	『ボヌール百貨店』
4	モーパッサン（1）	『ペラミ』
5	モーパッサン（2）	『女の一生』
6	フローベール（1）	『ボヴァリー夫人』
7	フローベール（2）	『純な心』
8	「総括」（1）	基本的な構成方法
9	「総括」（2）	文学の課題（ゾラ、モーパッサン、フローベール）
10	「総括」バカロレア課題	2016 年の課題解説
11	「ディセルタション」（1）	基本的な構成方法
12	「ディセルタション」（2）	文学の練習問題解説
13	「ディセルタション」バカロレア課題	2016 年の課題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。
本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国とは 授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第 3 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。
第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。

第 9 回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第 10 回	杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第 11 回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第 12 回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003 年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999 年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000 年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975 年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987 年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は振り返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で原文を読む場合は振り返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background · culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.
Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in “kundoku”. Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a “kundoku” method using “kaeriten”, so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第 9 回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第 10 回	「人虎伝」を読む（2）	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

第 11 回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。

第 12 回 「人虎伝」を読む（4） 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
明治書院『中国古典小説選 搜神記・幽明録・異苑他』
明治書院『新釈漢文大系 史記八（列伝一）』
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
平凡社『東洋文庫 搜神記』
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies.

Do it in a lecture format. In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第 3 回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第 4 回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第 5 回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第 6 回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオオクニヌシの部分を読む。
第 7 回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第 8 回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。
第 9 回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。

第10回 説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第11回 説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第12回 『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第13回 復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回 試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』
中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著
小学館『日本古典文学全集 今昔物語』
小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
小学館『日本古典文学全集 枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.

Do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第 3 回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄—中国—（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第 6 回	流浪する英雄—中国—（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第 7 回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第 8 回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第 9 回	戦の天才とその末路—中国—（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の 1 人である楽毅の話を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。
第 11 回	戦の天才とその末路—日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。

第 12 回 戦の天才とその末路—日本—（2）『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記 五（世家上）』
 明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』
 明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』
 小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』
 岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』
 岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.

Decide on a theme, do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国関係により理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較して、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的な参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めしながら進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第 9 回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。

第10回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第11回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第12回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。
第13回	日韓の現在の問題について比較 6	日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
第14回	日韓問題について直接意見交換など	意見交換をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%

課題・授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

日韓文化・歴史を含めて日韓における問題を、より知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

< Learning Objectives >

Our goal is to comprehensively understand various problems in Japan and South Korea and to stand as a starting point for solutions.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者たちのトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思っています。

【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第3回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第4回	日韓のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第5回	日韓のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第6回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第7回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第8回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第9回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。

第10回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第11回	日韓問題比較 3	日韓の宗教問題などを比較してみます。
第12回	日韓問題比較 4	日韓の企業問題などを比較してみます。
第13回	日韓文化比較 6	在日コリアン問題を調べてみます。
第14回	総合問題などの意見交換	意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法（平常点〔課題、授業感想など〕）50%、
期末レポート 50%
（発表など積極的な授業参加なども参考にします）
合計 100%

課題や授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

日韓の様々な文化・問題についてもっと知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

< Learning Objectives >

The goal of the class is to create an opportunity for active exchanges with the future of Japan and South Korea.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：都市と文学

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では都市の成立と文学との関係をテーマとして、明治期～現代までの作品を取りあげる。近現代文学の成立と普及にあたって、背景となる都市空間の成立と発展は、密接な関係にある。鉄道の発達による郊外の開拓は文学作品においても空間的な広がりがもたらされた。中心地から郊外までを含めた地理的広がりや文学の関係を作品の読解を通して捉えてゆきたい。

【到達目標】

・作品の時代背景・都市空間の理解を通して、作品の理解をより深めていく。
・自らの生きる都市空間が文学作品も含めた歴史の重なりの上にあることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式（資料配信型）でおこなう。授業の要点についてまとめた音声付きのパワーポイントと、該当作品の本文をまとめた資料を事前に配布する（毎週金曜日を目安）。各作品ごとにリアクションペーパーに相当する短い課題（感想など）を学習支援システムを通じて提出してもらう。次回授業ではその中から適宜紹介し解説やフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明
第2回	都市の成立と文学	明治期以降を概説
第3回	鉄道の発達と文学	田山花袋
第4回	鉄道の発達と文学	泉鏡花
第5回	郊外の成立と文学	国木田独步
第6回	京都の近代化と文学	菊池寛
第7回	大阪と文学	大阪を舞台とする文学作品
第8回	焼け跡と文学	焼け跡表象の文学作品
第9回	復興と高度成長	1950～70年代の文学作品
第10回	戦後の郊外文学	黒井千次
第11回	80年代の都市文学	村上春樹
第12回	バブル期開発と文学	日野啓三『夢の島』
第13回	バブル期開発と文学	日野啓三「岸边にて」
第14回	総括	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定したテキストについては事前に読んでおくことを要請します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料の配布をおこなう。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（リアクションペーパーなど授業への参加度）40 %
 ・期末レポート 60 %
 以上を考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・その他事務連絡等は、学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

This course introduces representation of the cities and modern literature to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to develop an understanding of the cities and modern literature.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：戦後～現代の同時代文学を読む

安藤 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では戦後から現代までの年代ごとの同時代文学の系譜をたどり、文学作品のみならず、背景となる現代史的事象についても理解を深めることを目指す。

【到達目標】

・これまでの文学史ではあまり扱われてこなかった戦後～現代の作品を通じて、自らにより近い過去の歴史や社会を知る手がかりとする。
 ・各作品の読解を通じて現在の視点から読み取れるものは何かさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式（資料配信型）でおこなう。授業の要点についてまとめた音声付きのパワーポイントと、該当作品の本文をまとめた資料を事前に配布する（毎週金曜日を目安）。各作品ごとにリアクションペーパーに相当する短い課題（感想など）を学習支援システムを通じて提出してもらう。次回授業ではその中から適宜紹介し解説やフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	日本の同時代文学	戦後以降の過去を知る
第 3 回	1960 年代	高度成長と文学
第 4 回	1960 年代	ベトナム戦争と文学
第 5 回	1970 年代	不穏な時代と文学
第 6 回	1970 年代	都市的不安と文学
第 7 回	1980 年代	ポストモダンと文学
第 8 回	1980 年代	バブル期と文学
第 9 回	1990 年代	バブル崩壊後の文学
第 10 回	2000 年代	想起される近過去
第 11 回	2000 年代	格差社会と文学
第 12 回	2010 年代	新しい労働文学
第 13 回	2020 年代	コロナ禍と文学
第 14 回	総括	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定したテキストについては事前に読んでおくことを要請します。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料の配布をおこなう。

【参考書】

斎藤美奈子『日本の同時代小説』（岩波新書、2018 年）。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（リアクションペーパーなど授業への参加度）40 %

・期末レポート 60 %

以上を考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・その他事務連絡等は、学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

The aim of this course is to help students acquire modern literature after 1945.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to develop an understanding of modern history and modern literature.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：言葉の知識と背景を深める

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小論文やレポートなど文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな文章表現を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
- ・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
- ・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
 - ・提出された課題（600～800 字程度）について添削・指導をおこなう。
 - ・提出された課題の中で優秀なものについては、適宜紹介し講評する（番号・氏名は伏せる）。
 - ・新聞記事やコラム、エッセイを通して文章表現を学ぶ。
 - ・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。
- *実践や添削をおこなう授業であるため、受講人数を 25 名程度に抑えます。希望者多数の場合は抽選を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	自己紹介文	自分自身についての言語化
第 3 回	自己紹介文	添削と講評
第 4 回	原稿執筆の基礎	書式とルール
第 5 回	原稿執筆の基礎	段落構成等
第 6 回	原稿執筆の基礎	課題に沿った実践
第 7 回	原稿執筆の基礎	添削と講評
第 8 回	論文の書き方	論理的な文章とは
第 9 回	論文の書き方	時事的な文章の紹介
第 10 回	論文の書き方	課題に沿った実践
第 11 回	論文の書き方	添削と講評
第 12 回	文章表現とネットリテラシー	注意点の概説
第 13 回	意見の言語化	これまでの内容を踏まえての実践
第 14 回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、授業内での提出物 30 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・受講者人数を 25 名程度に制限するため、希望者多数の場合は抽選を実施します。
- ・受講者名簿を作成する都合上、授業初回の前日までに仮登録をしてください。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

The aim of this course is to help students acquire written expression.

到達目標 (Learning Objectives)

The goals of this course are to verbalize your mind.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、火曜 5 限の関口雄士担当「文章論」(留学生を主な対象とするクラス)の受講をおすすめします。もちろん、自信があれば参加は妨げません。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。

II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。

III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。

授業は I → II → III を 3 回で 1 セットとし、全 14 回の授業で 4 セットおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第 2 回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 4 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第 5 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第 6 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 7 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第 8 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第 9 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 10 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。

第 11 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第 12 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 1）	課題①・②の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 2）	課題③・④の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。（本授業における準備・復習時間は2時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
（各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※ 以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約30名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：複数の「文章論」クラスへの仮登録
・「文章論」の授業は複数あります。対象学部学年、曜日時限を確認してください。
・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。
・留学生クラスと、通常の3クラスに併せて仮登録している学生については、留学生クラスとなる場合があります。
4：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
※大学からの連絡は大学のメールアカウントでおこないます。

【Outline (in English)】

This class is designed to develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is not intended mainly for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory" (a class mainly for international students) taught by Takashi Sekiguchi on Tuesday 5th period. Of course, participation is not precluded if you are confident.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。自信があれば、前述するような学生が通常クラスに参加することも可能です。また、留学生以外がこのクラスに参加することも可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。

II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。

III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。

授業はI → II → IIIを3回で1セットとし、全14回の授業で4セットおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第 2 回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 4 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第 5 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第 6 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 7 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第 8 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第 9 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。

第10回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。
第11回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第12回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第13回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	課題①・②の内容を中心にまとめをおこなう。
第14回	これまでに学習した内容のまとめ（その2）	課題③・④の内容を中心にまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。
普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。
（本授業における準備・復習時間は2時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
（各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約30名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
・当選者は、学習支援システムの指示に従ってください。
※大学からの連絡は大学のメールアドレスでおこないます。こまめにチェックしてください。

【Outline (in English)】

This class is designed to help students develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is mainly for international students. In addition to international students, Japanese students who have lived abroad for a long time are recommended to take this class. If they are confident, the aforementioned students can also join the regular class. It is also possible for non-international students to participate in this class.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。
このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜5限の関口雄士担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）の受講をおすすめします。もちろん、自信があれば参加は妨げません。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。
II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。
III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。
授業はI → II → IIIを3回で1セットとし、全14回の授業で4セットおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第2回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第4回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第5回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第6回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第7回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第8回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第9回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第10回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。

第 11 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第 12 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 1）	課題①・②の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 2）	課題③・④の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。（本授業における準備・復習時間は 2 時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
（各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※ 以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約 30 名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：複数の「文章論」クラスへの仮登録
・「文章論」の授業は複数あります。対象学部学年、曜日時限を確認してください。
・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。
・留学生クラスと、その他のクラスに併せて仮登録している学生については、留学生クラスとなる場合があります。
4：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
※大学からの連絡は大学のメールアカウントでおこないます。

【Outline (in English)】

This class is designed to develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is not intended mainly for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory" (a class mainly for international students) taught by Takashi Sekiguchi on Tuesdays during 5th period of the spring semester. Of course, participation is not precluded if you are confident.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二～三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

論文や批評については構成上のアドバイスをもっと欲しいという意見があったため、今期はより注力していきます。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
2021 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせてスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

論文や批評については構成上のアドバイスをもっと欲しいという意見があったため、今期はより注力していきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word をインストール）

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
2021 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようなようにされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

春学期は「課題提出型」の授業となる。具体的な授業内容、授業で使用する資料などは学習支援システムで提示する。

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「課題提出型」授業は以下のように行なう。

1. 講義資料、資料をまとめた PPT を読む
2. 授業曜日の課題に対する解答を提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門 1	言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	第二言語習得研究 5	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は「課題提出型」の授業となる。本授業の開始日は 4 月 12 日とし、この日までに具体的な授業の課題などを、学習支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

テキスト名 1：『日本語教師トレーニングマニュアル 3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233 円＋税

テキスト名 2：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

***テキスト名 2 は秋学期にも使用する。

【参考書】

参考文献は PPT で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出した課題の内容で 100 %評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 言語習得 1	第一言語とは？
第 2 回	第 1 言語習得 2	第一言語習得とは？
第 3 回	第 1 言語習得 3	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第 1 言語習得メカニズム 1	第一言語習得のメカニズム
第 5 回	第 1 言語習得メカニズム 2	主な言語発達理論（基礎編）
第 6 回	第 1 言語習得メカニズム 3	主な言語発達理論（応用編）
第 7 回	母語獲得とインプットの役割 1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 10 回	異文化理解 1	カルチャーショック
第 11 回	異文化理解 2	ジョハリの窓
第 12 回	異文化トレーニング 1	異文化トレーニング方法 1
第 13 回	異文化トレーニング 2	異文化トレーニング方法 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待さ

れる。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

【参考書】

PPT の参考文献に示した。

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。
- ・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Fall semester course has two parts:

- The first half of this course is an overview of the first language acquisition.
- The second half is understanding Japanese language history and grammar.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

輿石 哲哉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、コミュニケーションの手段として言語を用いてはいませんが、話すときにどこの器官をどう使っているのかとか、相手のことばをどのように解釈しているのかとか、そもそもどのようにして言語が話せるようになるのかとか、具体的な問題をほとんど意識したことはありません。この授業では、このように通常意識されない言語に関しての、さまざまな問題を考えていきます。

【到達目標】

1. 言語について記述するときの方法を知ること。
2. 言語について記述する際に、ある記述が他の記述と比べてどう優れているか知ること。
3. 世界の様々な言語の共通の特徴や多様性について知ること。
4. 言語学の様々な分野を知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【4 月 16 日加筆】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。基本的に授業スケジュールに変更はありませんが、変更がある場合は、学習支援システムで提示します。本授業の開始日は、4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

可能な限り履修者とのインターアクションのある授業を目指したいと思いますが、履修者数により講義形式が主体になることもあります。毎回、前回の復習、次回にやることについて、具体的に示し、履修者に事前、事後の学習を奨励していきます。また、必要に応じて、授業中に小テストを課すことも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の内容についてお話するとともに、2 回目の授業に際しての問題提起を行います。
2	言語学の「深みのなさ」について	言語の研究の独特のところとして、意味に関する研究をとりあえず棚上げにして、形式面での体系を考えていくことで、言語の仕組みがわかる、という側面があります。そのことについて授業で考察します。
3	言語と音声（1）	言語を音声の観点から見ていきます。どのようにして発話が可能になるのか等について考察します。
4	言語と音声（2）	前回に引き続き、言語と音声の関係について学んでいきます。
5	私が English teacher でないわけ—音声はどのように言語で用いられるか	音声はそれぞれの言語でどのように用いられているのか、授業で考察します。

6	言語と記号	言語は記号であると言われますが、どのような観点からそう言われるのか、授業で考察します。
7	英語に漢字があったら？ 一言語と文字との関係は？	言語を書き留める時の文字の働きについて、授業で考察します。
8	世界の言語の語順について (1)	世界の言語は多様性がありながら、少数のパターン化が可能です。このことについて、語順をテーマにして、授業で考察します。
9	世界の言語の語順について (2)	前回に引き続き、世界の言語の語順について学んでいきますが、それに関連して生成文法の生得仮説を紹介します。
10	言語の立体性について	言語は時間軸に沿って平面的に進んでいますが、それを解釈する場合は立体的な構造を付与して考えざるを得ません。このことについて、授業で考察します。
11	「狼と羊の話」の言語学	言語の詩的機能について、言語と社会の関係について、授業で考察します。ロシア・フォルマリストの考え方が中心です。
12	「うちのお父さんは今いらっやいません」一言語と社会の関係は？	言語と社会の関係について、授業で考察します。
13	期末テスト	これまで学んだところの理解度を見るため、試験を行います。
14	総括	テストについてコメントし、併せて総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初に授業内容のスライドを公開しますので、それを見て授業に臨んでください。さらに、授業後、授業支援者システムにて必ず毎回フィードバックを行いますので、未知であった用語等について、調べておくことが大切です。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。大学設置基準により、本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布いたします。

【参考書】

千野栄一 (1980). 『言語学のたのしみ』. 東京：大修館書店。
 千野栄一 (1975). 『言語学の散歩』. 東京：大修館書店。
 泉井久之助 (1968). 『ヨーロッパの言語』. 東京：岩波書店。
 Mihalicek, V. and C. Wilson (eds.) (2011). *Language Files*. [11th edition.] Columbus, OH: The Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

出席を重視いたします。最終試験を 100%。欠席は基本的に認めませんので、注意してください。原則として、5 回欠席したら、不合格となります。場合によっては、プロジェクト等を課す場合もありますが、その際は事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業自体がなかったため、気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンがあるといろいろ便利です。特に言語学的な知識をいろいろなサイトから得るだけでなく、発音記号のフォントを使ったり、言語学で重要な樹形図を描くことができたりと、いろいろ勉強の可能性が広がります。

【その他の重要事項】

言語学は用語等が特殊でとっつきにくいところがありますが、その基本的な考え方を知ることは、言語の分析のみならず他の文化事象に関わる点が多く、これまでにない知見を皆さんに提供してくれるでしょう。なお、トピックを含め、授業に関しての具体的なことは、実情に合わせて変更・修正いたします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目はリベラルアーツ 1 群に属す選択必修科目です。春学期のみの開講で、担当者が毎年交代する科目です。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

We human beings use language as a means of communication. However, when we come to think how we use our organs to speak, how we interpret speech, how we learn to speak; we realise that we are not at all conscious of actual challenges. The objective of this course is to consider these problems which are totally dropped out of our consciousness.

【到達目標（Learning Objectives）】

They are four-fold:

1. to know the basic methodology for linguistic descriptions,
2. to compare linguistic descriptions to decide which are the good ones,
3. to know the wide varieties of human languages,
4. to know various subfields of linguistics.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強勢の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。授業中に配布したプリント及び自分で取ったノートの内容を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介し、また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介し、

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論、社会言語学および心理言語学のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し、どう言語を扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第 2 回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第 3 回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第 4 回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第 5 回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する
第 6 回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第 7 回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第 8 回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第 9 回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する
第 10 回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えると要素について解説する
第 11 回	言語のバリエーション	「社会言語学」について概観する
	：社会言語学 1	

- 第 12 回 言語の変化：社会言語学 2 言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する
- 第 13 回 文理解：心理言語学 1 文を理解するときのしくみについて解説する
- 第 14 回 文産出：心理言語学 2 文を話すことができるしくみについて解説する
(授業内試験をする可能性あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋留美 他 (2021)『やさしい言語学』

【参考書】

佐久間淳一 他 (2007)『言語学入門』研究社

千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、

必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いていだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようになることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを、日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで、理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野、歴史・比較・地理言語学、社会言語学、認知言語学、対照言語学および第二習得論のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し、言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	漢字圏の言語 1	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	印欧の言語 2	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	アジアの言語 3	グリムの法則
第 5 回	歴史言語学の成果	「歴史言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 7 回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 8 回	社会言語学の成果	「社会言語学」でわかったことを紹介する
第 9 回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する

第10回	対照言語学の成果	「対照言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する
第11回	第二言語習得について	「第二言語習得」の概説と、それでわかったことを紹介する
第12回	文字論	「文字論」について解説する
第13回	言語研究の歴史	言語学の成立とその変遷について概説する
第14回	「ことば」を考えると きの問題等 (授業内試験をする可 能性あり)	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

風間喜代三 (1978) 『言語学の誕生』 岩波新書

上山あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』 くろしお出版

佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社

ステイーブンソン／江村他訳 (2010) 『図説 ことばの世界—欧米の言語史—』 青山社

千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂

町田健・初山洋介 (1995) 『よくわかる言語学入門—解説と演習』 パベルプレス

【成績評価の方法と基準】

課題： 30%

平常点： 20%

期末試験： 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language. In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.

3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.

4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアから中世初期までの西洋哲学史に即して、自然、世界、神、「私」といった問題がどのように考えられてきたのか、それらについての知識を得るためにどのような方法がとられてきたのかを学びます。

世界はなぜこのようなものとしてあるのか。個人の多様性の奥にある普遍性はどのようなものなのか、なぜそのような普遍性が可能と言えるのか。そして「私」とは何か。

こういった問題に関する西洋哲学の基礎を理解し、それを通じて、現代の私たちが知識を探究し、自身で論理的に考えるための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 真理、自然、神、自己といった問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学史における普遍性や多様性の考えがどのような根拠で成立し、発展してきたのかについて、内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解したことを、授業内容を踏まえ、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出してください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックします。また、人数次第で中間の小テストを実施します。なお、この授業は秋学期の「哲学Ⅱ」へ続くので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	世界があることへの驚異と探究 哲学とは？
第 2 回	世界はどのように成り立っているのか？	古代ギリシアにおける「コスモス」の誕生と自然の根源の探究
第 3 回	古代ギリシアの真理・善・美 ①	ソクラテスの「不知」と魂の世話
第 4 回	古代ギリシアの真理・善・美 ②	プラトンの知識論と魂の不死
第 5 回	古代ギリシアの真理・善・美 ③	プラトンの愛、美、真実在
第 6 回	アリストテレスの知識論	体系とは何か？ アリストテレスの論理学と知の区分
第 7 回	アリストテレスの自然学	四原因と運動変化について
第 8 回	アリストテレスの魂論	能力の発揮について
第 9 回	初期ストア派の「理」の学と自然哲学	ロゴスと自然の探究の意味
第 10 回	絶対に確かな真理はあるのか？	懐疑主義の脅威

第 11 回 新プラトン主義の宇宙 世界の「流出」と「三つの存在者」論

第 12 回 自己の内面の探究 ① プロティノスのエクスタシスと「一者」への回帰

第 13 回 自己の内面の探究 ② アウグスティヌスによる「私」の時間論

第 14 回 自己の内面の探究 ③ アウグスティヌスによる愛と三位一体の理論、学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、1～3 巻、中央公論新社、2007～2008 年。

・熊野純彦、『西洋哲学史』、全 2 巻、岩波新書、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）25%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）55%（中間テストを実施しない場合は 75%）、の割合とします。

なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、ぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the ancient period to the early medieval period, on how they consider the nature, the world, God and the self, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of the course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as truth, nature, God, self, etc. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words. Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近世までの西洋哲学史に即して、自然、世界、神、「私」といった問題がどのように考えられてきたのか、それらについての知識を得るためにどのような方法がとられてきたのかを学びます。世界はなぜこのようなものとしてあるのか。個人の多様性の奥にある普遍性はどのようなものなのか、なぜそのような普遍性が可能と言えるのか。そして「私」とは何か。こういった問題に関する西洋哲学の基礎を理解し、それを通じて、現代の私たちが知識を探究し、自身で論理的に考えるための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 真理、自然、神、自己といった問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学史における普遍性や多様性の考えがどのような根拠で成立し、発展してきたのかについて、内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解したことを、授業内容を踏まえ、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出してください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックします。また、人数次第で中間の小テストを実施します。なお、この授業内容は春学期の「哲学Ⅰ」から連続しているので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	中世哲学の発展と世界の見方の変化
第 2 回	神の存在は証明可能か？	アンセルムスとトマス・アクィナスによる神の存在証明
第 3 回	存在とは何か？	ドゥンス・スコトゥスによる「ある」ことの普遍性と特異性
第 4 回	宇宙と無限	ニコラウス・クザーヌスによる宇宙像と神を知る方法
第 5 回	コスモスの解体と「幾何学的宇宙」の発見	世界認識の刷新と「近世哲学」の始まり
第 6 回	デカルト哲学の成立	「学校」哲学への懐疑、数学研究、「考える私」と神の発見
第 7 回	デカルト哲学の体系性	基礎としての形而上学と自然学の展開
第 8 回	デカルト哲学の発展	観念、実体、情念の理論の革新性
第 9 回	パスカルの哲学批判	「考える葦」、憎むべき「私」、そして「考える肢体」
第 10 回	マルブランシュの物体的認識論	明晰な自然界と闇の「私」

第 11 回 スピノザの幾何学的哲学 至福と真理の探究法

第 12 回 スピノザ『エチカ』の「神または自然」と意志なき人間の倫理

第 13 回 ライプニッツの真理論 論理と理由の探究

第 14 回 ライプニッツの「この実体の力」、「表現」、世界の調和、すばらしき世界」 学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

- ・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、1～3 巻、中央公論新社、2007～2008 年。
- ・熊野純彦、『西洋哲学史』、全 2 巻、岩波新書、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）25%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）55%（中間テストを実施しない場合は 75%）、の割合とします。

なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、ぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the medieval period to the early modern period, on how they consider the nature, the world, God and the self, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of the course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as truth, nature, God, self, etc. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words. Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学

第 13 回 哲学の基本問題 5 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第 14 回 哲学Ⅰのまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年

その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思いますが、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるために、何よりもまず、テキスト・資料を深く読み込んで欲しいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・实在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に関心がある学生にとっては、この授業は興味深く、楽しかったようです。

また、授業で使用するレジュメと説明もわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・イデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） イデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） イデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学

第 13 回 哲学の基本問題 5 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第 14 回 哲学Ⅰのまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思いますが、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるために、何よりもまず、テキスト・資料を深く読み込んで欲しいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第 10 回 哲学の根本問題について 7 カントと近代哲学の難問（カント哲学の意義と問題点）

第 11 回 哲学の根本問題について 8 超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学

第 12 回 哲学の根本問題について 9 超越論的哲学の展開 2 世界信念

第 13 回 現代世界と哲学について ニヒリズム
ニーチェの対応法
「生きること」それ自体に意味はあるのか？

第 14 回 哲学Ⅱのまとめ 世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に関心がある学生にとっては、この授業は興味深く、楽しかったようです。また、授業で使用するレジュメと説明も分かり易かったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%). Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、わたしたちを導く教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

哲学映画《星の王子さま》《ソフィーの世界》と《マトリックス四部作》とを、高画質のDVD映像で上映します。《星の王子さま》では、哲学の基本的性格について、《ソフィーの世界》では西洋哲学の歴史について、《マトリックス四部作》では、哲学の基本問題について学びます。その際に担当教員による詳細な哲学的解明をメインにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学Ⅰのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の問い	《星の王子さま》と哲学の問い
第 3 話	哲学の定義	哲学的思考と哲学の暫定的定義
第 4 話	古代哲学の歴史	古代ギリシアの哲学
第 5 話	中世・近世哲学の歴史	中世・近世の哲学
第 6 話	現代哲学の歴史	現代の哲学
第 7 話	現実世界の基本問題	現実世界について
第 8 話	現実と虚構をめぐる基本問題	現実と虚構の区別について
第 9 話	行為の基本問題	行為の因果性について
第 10 話	自由の基本問題	運命と自由意志の関係について
第 11 話	生命の基本問題	生命に目的はあるか？
第 12 話	虚構と現実の関係の基本問題	虚構と現実の相互関係
第 13 話	《マトリックス解説篇》《マトリックス三部作》の哲学的解明	
第 14 話	哲学Ⅰのまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読したり、授業内で紹介された関連文献を調べたりして、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。使用DVDはAVライブラリーで視聴できます。

【参考書】

納富信留他編著『よくわかる哲学・思想』、ミネルヴァ書房、2019 年
濱井修監修『倫理用語集』、山川出版社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の授業内試験（70%）を基準として、平常評価（30%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当事項なし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with the philosophical principle of culture.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least one hour for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投影テキストでできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、現代哲学の学習を通して深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すため、マルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。哲学的な映像を、高画質のDVD映像で毎回、上映します。授業時課題レポートの講評は次回授業時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学Ⅱのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の基本性格 1	哲学の暫定的定義と方法
第 3 話	哲学の基本性格 2	哲学の懐疑
第 4 話	哲学の基本問題について 1	現実世界について
第 5 話	哲学の基本問題について 2	科学的世界像について
第 6 話	哲学の基本問題について 2	言語について
第 7 話	哲学の基本問題について 3	個人の自由について
第 8 話	哲学の基本問題について 4	幸福について
第 9 話	哲学の基本問題について 5	我執について
第 10 話	哲学の基本問題について 5	道徳について
第 11 話	哲学の基本問題について 6	死について
第 12 話	現代世界と哲学について	現代世界の精神状況について
第 13 話	現代日本と哲学について	現代日本の精神状況について
第 14 話	哲学Ⅱのまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を毎回、事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用テキストはスクリーンにプロジェクターで投影し、学習支援システムでも公開します。

【参考書】

納富信留他編著『よくわかる哲学・思想』、ミネルヴァ書房、2019 年
濱井修監修『倫理用語集』、山川出版社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の授業内試験を基準 (70%) として、平常評価 (30%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当項目なし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with the fundamental problems of contemporary philosophy. (Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least one hour for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材などによる学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材などによる学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 — 現実世界について	
5	哲学の根本問題について 2 — 科学的世界像について	
6	哲学の根本問題について 3 — 言語について	
7	哲学の根本問題について 4 — 個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 — 幸福について	
9	哲学の根本問題について 6 — 我執について	
10	哲学の根本問題について 7 — 道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 — 死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくつかの論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界
- ・大陸合理論における世界
- ・イギリス経験論における世界
- ・近代ドイツ哲学における世界
- ・19～20 世紀哲学における世界
- ・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① (さまざまなアルケー、有)
第 3 回	哲学の基本問題 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・ソクラテス以前の哲学者たち② (ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース) ・ソクラテス（無知の知）
第 4 回	哲学の基本問題 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・プラトン①（イデア論）
第 5 回	哲学の基本問題 4 ：古代ギリシャ哲学 (4)	・プラトン②（知識とは何か）
第 6 回	哲学の基本問題 5 ：古代ギリシャ哲学 (5)	・アリストテレス（四原理、デユナミスとエネルゲイア） ・プロティノス（一者、流出説） ・近代への過渡期

第 7 回	哲学の基本問題 6 ：大陸合理論	・デカルト（実体、神、精神と物体） ・スピノザ（実体、属性、様態） ・ライプニッツ（モノドロジー、最善世界説）
第 8 回	哲学の基本問題 7 ：イギリス経験論 (1)	・ロック（経験と観念） ・ヒューム（因果律の否定）
第 9 回	哲学の基本問題 8 ：イギリス経験論 (2)	・バークリ（物質的実体の否定）
第 10 回	哲学の基本問題 9 ：近代ドイツ哲学 (1)	・カント（感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断）
第 11 回	哲学の基本問題 10 ：近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ（自我と非我） ・シェリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（絶対者、弁証法）
第 12 回	哲学の基本問題 11 ：19～20 世紀哲学	・ショーペンハウアー（意志と表象） ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティヴ） ・ハイデガー（世界-内-存在） ・ウィットゲンシュタイン（対象と事実、言語批判、語りえぬもの）
第 13 回	哲学の基本問題 12 ：現代分析哲学 (1)	・その他の現代形而上学
第 14 回	哲学の基本問題 13 ：現代分析哲学 (2) ～哲学 I のまとめ	・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ° world ° and some related logical problems of ° world ° (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」、および、「心」に関するいくつかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心
- ・大陸合理論における心
- ・イギリス経験論における心
- ・近代ドイツ哲学における心
- ・19～20 世紀哲学における心
- ・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（ブシケウ、ハデス、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・プラトン②（魂の正しさ）
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：大陸合理論	・デカルト（我思う、ゆえに我あり） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノアド）

第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：イギリス経験論	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学 (1)	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：19～20 世紀哲学	・シュテイルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス） ・ジェームズ（純粹経験） ・フッサール（志向性）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学 (1)	・ウイトゲンシュタイン①（独我論の貫徹および消去）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学 (2)	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学 (3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学 (4)	・ウイトゲンシュタイン②（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: 'mind' and some related ethical problems of 'mind' (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグループディスカッション、ディベートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅰのオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』 アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』 ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾の統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学Ⅰのまとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グループワーク用の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的な主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的な主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

- 13 現代日本と哲学について カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観
 14 哲学Ⅱのまとめ カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラトーン—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリストテレス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4	グローバル化時代の哲学
	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探究する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

ただし、最初の三回の授業は、受講者数による密を避けるため、そして教室変更の可能性があるため、学習支援システムのオンライン授業（資料配布型）で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 —哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 —哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 —近代①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 —近代②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 —現代①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 —現代②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 —死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 —死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 —現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 —人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 —古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志

第 13 回 哲学の歴史 6 —中世 証空：浄土教における無限者との一体化

第 14 回 哲学Ⅰのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。対面授業では、教室で、適宜プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンター	講義全体の概観とシラバスの解説 ション
第 2 回	哲学の基本的性格—哲	哲学することの動機 学の暫定的定義と方 法、哲学の懐疑
第 3 回	哲学の根本問題につい	カントの認識論 て 1—科学的認識と 行為の因果性について
第 4 回	哲学の根本問題につい	カント：道徳と宗教 て 2—道徳、自由、幸 福について
第 5 回	哲学の根本問題につい	ヤスパース：包摂者論 て 3—現実世界と人 間存在について
第 6 回	哲学の根本問題につい	ヤスパース：理性と交わり て 4—真理について
第 7 回	哲学の根本問題につい	古代ギリシャの存在論 て 5—哲学的世界像 について
第 8 回	哲学の根本問題につい	ヘーゲルの弁証法 て 6—現実世界の運 動について
第 9 回	哲学の根本問題につい	伊藤仁斎の「仁」の思想 て 7—近世日本の道 徳観
第 10 回	現代日本と哲学につい	夏目漱石：現代日本批判と自己本 位
第 11 回	現代日本と哲学につい	夏目漱石：道と天 て 2

第 12 回	現代世界と哲学につい	小林秀雄：信じられる自己、言 て 1
第 13 回	現代世界と哲学につい	葉、物、美 て 2
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	小林秀雄：西洋と日本、自己を超 える存在 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教室で、適宜、プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12 月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシア哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して、哲学が教養知の原理であることを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に不定期の資料配信によるオンライン形式で進める。（不定期というのは、一週間に一度から10日に一度程度の間に資料を配信し、課題やコメントを提出することで出席とみなす予定である）。さまざまな哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めていってもらいたい。できるだけわかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅰのオリエンテーション	序論：足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1—哲学の出発点 1	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2—哲学の出発点 2	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3—哲学の出発点 3	懐疑・驚き・絶望（デカルト・ヤスパーズ）
7	哲学の歴史 4—哲学の究極	愛についての考察・イデア論とプラトニック・ラヴ
8	哲学の歴史 5—哲学とは何か・まとめ	愛の三つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1—哲学と科学 1	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2—哲学と科学 2	対象の違い：部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3—哲学と科学 3	方法の違い：仮説と真理・分析と反省
12	哲学の基本問題 4—哲学と科学 4	事実と価値・手段と目的
13	哲学の基本問題 5—哲学と科学 5	主体知と客体知：相補性

14 哲学Ⅰ まとめと学期 まとめと学期末レポート
末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40%) と、学期末試験 (レポート) (60%) によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業はわかりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、ひきつづき、哲学の面白さ、楽しさをじっくり伝えていきたい。哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面の場合、授業中の私語には厳しく対処する。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に不定期の資料配布によるオンライン形式で進める。（不定期というのは、一週間に一度から10日に一度程度の間に資料を配信し、課題やコメントを提出することで出席とみなす予定である）。さまざまな哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めていってほしい。できるだけわかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か？ 哲学と科学と宗教と
2	哲学の基本的性格	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場
3	哲学の基本的性格 2 ——宗教の予備学習から 1	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 ——宗教の予備学習から 2	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 ——哲学と宗教 1	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 3 ——哲学と宗教 2	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 4 ——哲学と宗教 3	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 5 ——哲学と宗教 4	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 6 ——哲学と宗教 5	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	哲学の根本問題について 7 ——哲学と幸福論 2	幸福論——哲学と善き生について
11	哲学の根本問題について 8 ——哲学と幸福論 2	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について ——哲学と幸福論 3	正義と幸福——ソクラテスの場合

- 13 現代日本と哲学について ソクラテスの後継者たち——禁欲
て——幸福論の系譜 主義と快楽主義
14 哲学Ⅱのまとめ まとめと学期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40%) と、学期末試験 (レポート) (60%) によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業はわかりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、ひきつづき、哲学の面白さ、楽しさをじっくり伝えていきたい。哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面の場合、授業中の私語には厳しく対処する。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムによるオンライン授業である。資料・教材配布型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？
べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）
べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40% くらい）と学期末のレポート（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【学生が準備すべき機器他】

レポートは学習支援システム上で提出してもらい、提出可能なファイル形式はワードもしくは PDF の二つのみとする予定であるから、レポート提出時までにこのどちらか一つは作成できるように準備しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on the report in the middle of the semester (about 40%) and the report at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交錯する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムによるオンライン授業である。資料・教材配布型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か？
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

第 11 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチェット）及ぶのか？（1）

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）及ぶのか？（2）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学か？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40% くらい）と学期末のレポート（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

レポートは学習支援システム上で提出してもらい、提出可能なファイル形式はワードもしくは PDF の二つのみとする予定であるから、レポート提出時までにこのどちらか一つは作成できるように準備しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on the report in the middle of the semester (about 40%) and the report at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？	倫理学とは何か？（1）
第 5 回	私は何をなすべきか？	絶対的な善とは何か？（2）
第 6 回	私は何をなすべきか？	アリストテレス倫理学（3）

第 7 回 私は何をなすべきか？ 快楽主義とストア派の倫理学（4）

第 8 回 私は自分の義務をなす 功利主義
べきか？（1）

第 9 回 私は自分の義務をなす 自由とは何か？
べきか？（2）

第 10 回 私は自分の義務をなす カント倫理学
べきか？（3）

第 11 回 私は法にかなったこと 法実証主義
をなすべきか？（1）

第 12 回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？（2）

第 13 回 私は法にかなったこと 自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3）

第 14 回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.

Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるのか？（1）
第 2 回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学か？（2）
第 3 回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争か？（3）

第 4 回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？利があるのか？（1）
第 5 回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？利があるのか？（2）
第 6 回	私は生命を操作する権	動物倫理学利があるのか？（3）
第 7 回	私は生命を操作する権	生命倫理利があるのか？（4）
第 8 回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス）及ぶのか？（1）
第 9 回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理及ぶのか？（2）
第 10 回	人間の責任はどこまで	世代間倫理及ぶのか？（3）
第 11 回	環境は保護しなければ	環境倫理学とは何か？ならないのか？（1）
第 12 回	環境は保護しなければ	持続可能な社会とは何か？ならないのか？（2）
第 13 回	環境は保護しなければ	21 世紀の倫理学に向けてならないのか？（3）
第 14 回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書については、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30%；レポート 70%

授業への貢献度とは、毎授業後に提出されるコメントペーパーです。レポートは学期末に、課題を提示します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4 月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第 2 回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第 3 回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第 4 回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第 5 回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）
第 6 回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）
第 7 回	私は生命を操作する権	生命倫理学 利があるのか？（4）
第 8 回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
第 9 回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
第 10 回	人間の責任はどこまで	世代間倫理 及ぶのか？（3）
第 11 回	環境は保護しなければ	環境倫理学とは何か？ ならないのか？（1）

第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ 2 1 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点 35 %；レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、Zoom での授業だったので、すこし感想の雰囲気がちがいますが、次のようなコメントがありました。

「秋学期間ありがとうございました。春学期につづき、哲学対話などがあったので、受動的に授業を受けるだけでなかったのよかったです。倫理学を学んで、自分の考えの幅が広がった気がします。」授業で「哲学対話」を取り入れたので、コメントにはそのことがふれられています。以下のコメントは、その点についてもっと述べてくれています。「ふつう」とは？ ということをテーマにして哲学対話をやったのです。

「秋学期は「ふつう」についての哲学対話が特に心に残っています。改めて考えてみると考えるほど疑問が生まれて難しい問題だと思いました。最近でもテレビや話しの中でふつうというワードが出てくると「ふつうって何？」と今まで疑問に思うことのなかったことを疑問に思うようになり、日常生活に新たな疑問が生まれました。家族でもよく話す話題になって「ふつう」の哲学対話は生活に影響を与えました。」

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 65%, in class contribution: 35%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないます（今年度は、大学側からの要請によりオンデマンド授業）。毎週、各自でオンデマンド授業（動画）を視聴し、それに対してリアクションペーパーを提出してもらいます（毎週期限あり）。

リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？：自由意志と責任
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体の多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）

今年度は大学側の要請によりオンデマンド授業での実施になります。そのため、毎回のリアクションペーパーの評価割合を大きくします。きちんと毎回オンデマンド授業を試聴してから、期限までにリアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください（ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています）。

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】

※ 例え倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないで OK です。（基本的に初学者向けの授業です）

※ 単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【Outline (in English)】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第2回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第3回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第4回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第5回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）

- 第 6 回 私は生命を操作する権 動物倫理学
利があるのか？（3）
- 第 7 回 私は生命を操作する権 バイオテクノロジーの倫理
利があるのか？（4）
- 第 8 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（1）
- 第 9 回 人間の責任はどこまで 科学技術の倫理
及ぶのか？（2）
- 第 10 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理
及ぶのか？（3）
- 第 11 回 環境は保護しなければ 環境倫理学とは何か？
ならないのか？（1）
- 第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）
- 第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）
- 第 14 回 まとめ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると感じます。

Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject.(Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

倫理学 I を受けてから受講すると、より理解しやすくなります。
※ 単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits.This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【Outline (in English)】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・「現に問うているのは誰か？」 ・ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・「世界内存在としての私」
第 3 回	人間とは何か？（3）	・「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」 ・倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	・法実証主義 ・法と倫理

第 12 回 私は法になかったこと ・社会契約論

をなすべきか？（2） ・国家と個人

第 13 回 私は法になかったこと ・自由主義・共同体主義

をなすべきか？（3） ・政治と倫理

・社会と個人

第 14 回 まとめ ・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（30 %）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？

第 12 回 環境は保護しなければ ・持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ ・21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ ・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（30 %）に加え、小テスト（30 %）やリアクション・ペーパー（40 %）などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイドガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）——快樂主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義の幸福主義の立場について考える。
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由意志	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）——社会契約論	ホッブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %）定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正義論とはなにか、正義論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」という評価をとおこす可能性について考える。
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。

- 第 7 回 私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学 動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
- 第 8 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス） ヨナスの責任概念を中心に相互性について考える。
- 第 9 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理 科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
- 第 10 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理 世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
- 第 11 回 環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？ 世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
- 第 12 回 環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？ 「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
- 第 13 回 環境は保護しなければならないのか？（3）——21 世紀の倫理学 なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
- 第 14 回 まとめ ※別途定期試験を実施する これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
 加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
 ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
 浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年
 など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %）定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、最初の三回の授業は、受講者数による密を避けるため、そして教室変更の可能性があるため、学習支援システムのオンライン授業（資料配布型）で行う。大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想

第 10 回 私は自分の義務をなす カント倫理学① 「道徳法則」べきか？（1）

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法になかったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。対面授業では、適宜、教室でプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（2）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学
か？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12 月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようにしたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	概念の定義
5	概念 (3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立っているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考え「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりますと願っています。論理学は、その手助けをします。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】

学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何をも学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはオンライン形式によるプリントを用いた講義ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく解説していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席（＝課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論 1、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4、概念の種類	概念の種類・問題演習について
7	命題論 1、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式について
8	命題論 2、命題の種類	定言命題の基本形式
9	命題論 3、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4、問題演習	問題演習
11	推理 1、直接推理	対当関係による推理
12	推理 2、対当関係	対当の四角形と解説

13 推理 3、対当による推 問題演習

理

14 前期のまとめと試験 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合は、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination:60%,Submit assignment:30%,Usual performance score:10%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】

学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「私を愛しているのなら、電話をくれるはず。電話をくれた！私を愛しているのね♡」かどうか……。学生は、特にアリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事柄を配布プリントを用いて解説した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か？
2	変形による直接推理 1、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理 2、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理 3、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の公理と規則 1	定言三段論法の公理と 6 つの規則
7	三段論法の規則 2、媒概念不周延の誤謬	定言三段論法の規則（2）媒概念不周延の誤謬

8	三段論法の規則 3	定言三段論法の規則（3）大概念・小概念不当周延の規則、その他の規則
9	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
10	仮言三段論法の解説と演習	混合仮言・純粹仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination:60%,Submit assignment:30%,Usual performance score:10%

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業と練習問題に積極的に取り組んでください。論理学は、自分で問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト (筆記試験) 2. 意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現 (続き) 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト (筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題 (宿題) または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績 (40%) と期末小テスト成績 (40%) と平常点 (20%) に基づき評価。2 回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたずねる問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2 回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から、学期後半は論理トレーニングを行うようにしました。参加者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は、自分で問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.

2. The application of the valid rules of inference such as De morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は、対面授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性

6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法定言三段論法の規則	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法概念、種類、定言三段論法三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
7	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
8	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
9	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第1格から第4格）
10	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
11	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
12	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
13	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円（ISBN ISBN-10: 4872620321）。
なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）で購入してください。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、がく石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされておりあります。このシステムを活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic I" deals with "traditional logic" derived from Aristotle and aims to help students acquire the ability to identify correct reasoning. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for correct reasoning. (2) Students can develop an attitude of thinking logically and calmly. For example, they can use the rules of direct reasoning and indirect reasoning to make correct inferences. (3) Acquire the ability to communicate logically. Homework: Read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward participation, evaluation of assignments, etc.) and (2) spring semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、対面授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよびF・ベーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ベーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第2回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ベーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第3回	デカルトとライプニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライプニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第4回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第5回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第6回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第7回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第8回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。

第9回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第10回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第11回	帰謬法	教科書およびその他の練習問題を解く。
第12回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第13回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第14回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化的考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
 復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)
 なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）で購入してください。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、到達目標で示された以下の基準に従って評価されます。すなわち①広い視野で論理学を捉えることができているかどうか（30%）。②真理表と帰謬法を自在に使えるようになっているか（40%）。③論理的に議論を組み立てることができているかどうか（30%）。成績評価は、S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)とし、合格はS、A、B、Cとなります。

S：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の様々な質問に答えるために、希望者の方にオンラインで面談時間（オフィスアワー）を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時として予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on scientific thinking, cognition, and history. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for thinking about science, cognition, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and "reductio ad absurdum". Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homeworks: To read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). To review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward participation, evaluation of assignments, etc.) and (2) autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しくし思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明して行きます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説を各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでいきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・換位法についての説明

第 12 回 命題の変形による直接推理について 換質換位法及び本格的な推理についての説明

第 13 回 練習問題で推理を身につけよう。 命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。

第 14 回 授業内の学期末試験：まとめと解説 論理的な正しい思考ができるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社、2013 年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20 点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80 点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

講義では、多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった、楽しかった」等、書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20 %), term-end examination (80 %).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。

さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学ぶのです。

本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理学的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。

第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明
第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んで下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社・2013 年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末の授業内試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

講義については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」と書いてくれていました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明して行きます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20 %), term-end examination (80 %).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。

2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%), Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題（条件文）： 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 14 回	授業内試験・まとめ	1. 接続表現（続き） 2. 練習問題 小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2 回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2 回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、練習問題を自分で解けるようになると、楽しいと感じるようですので、是非とも積極的に授業と練習問題に取り組んで見てください。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

- (A) ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
(B) 論理的に冷静に考える態度を身につける。
(C) 論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使います。
(2) 各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確認小テストの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回の振り返り、確認小テストの気づきを、フィードバックします。
(4) 最終授業で全体を振り返る総合確認テストをペーパーで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える

9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体（第1～13回）の総合確認テストによる総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト（教科書）】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る伝統的論理学——』（春風社）

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

伝統的論理学の基礎的知識、論理的に考える態度、論理的推理力に関して次の2方面から評価する。
(1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
(2) 全体についての総合確認テストの点数
そして(1)を70%、(2)を30%の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【Outline (in English)】

Elements of the traditional European Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

【Learning Objectives】

- (A) To acquire a basic knowledge of the traditional European logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.
(1) To be able to use Euler diagrams to make correct deductions in accordance with traditional logic.
(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in accordance with traditional logic.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.
The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的論理学、命題論理学および述語論理学の初歩。
近代の科学的知識の論理について、ペーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学ぶ。そして、ブール論理学から始まる現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得する。また、論理代数、真理表、ベン図などの多様な表現方法で命題論理学の理解を深める。これにより、近代科学の論理や 19 世紀以降の命題論理の基礎について学ぶことができる。

【到達目標】

近代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩を学ぶ。

- ① 哲学的論理学によって、近代科学の本質を考えることができる。
- ② 命題論理学によって論理学的真理の意味を考えることができる。
- ③ 述語論理学によって個物どうしの関係について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者は

- (1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
- (2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
- (3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
- (4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ペーコンの考えたこと	(1) 授業について (2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 一 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件 (5) 等値 —論理代数を用いて考える—
6	問題を解く	(1) 複合命題の反例となる命題 (2) 複合命題に対応する事象の確率 (3) 複合命題の論理代数化

7	恒真命題（1）	(1) 恒真命題 (2) 恒偽命題・総合命題 (3) 恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	(1) 恒真命題の判定（真理表と帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定（帰謬法） (2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ（I）	(1) 命題関数 (2) 限量記号 (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（II）	(1) 対当推理を考える (2) 多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《予習》 回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日に PDF で配布が原則）で概観しておく。
《復習》「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）
※第 2 回 (3)～第 3 回および第 10～14 回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

近代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の 2 方面から総合評価する。
(1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
(2) 最終回に行う全体についての試験の点数
これらのうち (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。
- (3) 問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【Outline (in English)】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:
At first we learn the logical thoughts of modern European philosophers, beginning with F. Bacon and R. Descartes: in what way the knowledge of modern sciences is logically formed. In the second place we learn the elementary logic of our times, from the Boolean propositional logic down to the predicate logic. We use some means of expression like logical algebra, truth-chart and Venn diagram and apprehend the logic clearly. Therefore we can learn the essential philosophical logic of modern sciences and the elements of the propositional logic. Students will learn the rudiments of philosophical logic of modern science, modern propositional logic, and predicate logic.

- (1) To be able to think about the nature of modern science through philosophical logic.
- (2) To be able to think about the meaning of logical truth through propositional logic.
- (3) To be able to think about the relations between individualities through predicate logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理： 矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理： 小反对当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理： 換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理： 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1 （定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2 （定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3 （定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4 （仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (65%)、授業内容確認小テストの成績 (25%)、平常点 (10%) により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業と練習問題に積極的に取り組んでください。論理学は、自分で問題が解けるようになると、充実感を得て楽しくなる科目です。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%), Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みは取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング(1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング(2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第13回	論理トレーニング(6)	1. 接続表現（続き） 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40%）と期末小テスト成績（40%）と平常点（20%）に基づき評価。2回的小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたずねる問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から、学期後半は論理トレーニングを行うようにしました。参加者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は、自分で練習問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in-class (20%).

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第3回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960 年代	文化大革命の始まり
第7回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

第12回	中世ヨーロッパ 5：	黒死病や戦争などの影響、国家体 危機と変容	制と社会の変容について
第13回	中世から近世へ：ルネ サンス	ルネサンスの展開について	
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返 り、近代西洋への展望を示す	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代 1：	ヨーロッパにおける近世国家の特
	近世国家の誕生と宗教	質と宗教改革について
第3回	近世という時代 2：	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民
	ヨーロッパの対外進出	地支配について
第4回	近世という時代 3：	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独
	第二次英仏百年戦争と	立について
	アメリカ独立	
第5回	近代の西洋 1：フラ	フランス革命の開始とその展開に
	ンス革命	ついて
第6回	近代の西洋 2：フラ	フランス革命の影響と意義、革命
	ンス革命の影響	後の西洋世界について
第7回	近代の西洋 3：工業	「産業革命」とそのインパクトに
	化	ついて
第8回	近代の西洋 4：国民	国民国家の形成とそれが引き起こ
	国家とナショナリズム	した諸問題について
第9回	近代の西洋 5：帝国	西洋諸国による世界の分割と植民
	主義の時代	地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋 1：第一	総力戦としての第一次世界大戦、
	次世界大戦とロシア革	ロシア革命の展開について
	命	
第11回	現代の西洋 2：戦間	戦間期における経済危機とファシ
	期から第二次世界大戦	ズムの台頭、第二次世界大戦につ
	へ	いて
第12回	現代の西洋 3：分断	冷戦による西洋世界の分断、ヨー
	と統合	ロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋 4：脱植	西洋諸国による帝国支配の終焉と
	民地化の諸相	それが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%
- ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

受講生みなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world.

2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史 I

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界 4：共和制から帝国へと至るローマの歩み	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第11回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教世界の発展と十字軍展開について

第12回	中世ヨーロッパ 5：	黒死病や戦争などの影響、国家体 危機と変容	制と社会の変容について
第13回	中世から近世へ：ルネ サンス	ルネサンスの展開について	
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返 り、近代西洋への展望を示す	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代 1：	ヨーロッパにおける近世国家の特
	近世国家の誕生と宗教	質と宗教改革について
第3回	近世という時代 2：	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民
	ヨーロッパの対外進出	地支配について
第4回	近世という時代 3：	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独
	第二次英仏百年戦争と	立について
	アメリカ独立	
第5回	近代の西洋 1：フラ	フランス革命の開始とその展開に
	ンス革命	ついて
第6回	近代の西洋 2：フラ	フランス革命の影響と意義、革命
	ンス革命の影響	後の西洋世界について
第7回	近代の西洋 3：工業	「産業革命」とそのインパクトに
	化	ついて
第8回	近代の西洋 4：国民	国民国家の形成とそれが引き起こ
	国家とナショナリズム	した諸問題について
第9回	近代の西洋 5：帝国	西洋諸国による世界の分割と植民
	主義の時代	地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋 1：第一	総力戦としての第一次世界大戦、
	次世界大戦とロシア革	ロシア革命の展開について
	命	
第11回	現代の西洋 2：戦間	戦間期における経済危機とファシ
	期から第二次世界大戦	ズムの台頭、第二次世界大戦につ
	へ	いて
第12回	現代の西洋 3：分断	冷戦による西洋世界の分断、ヨー
	と統合	ロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋 4：脱植	西洋諸国による帝国支配の終焉と
	民地化の諸相	それが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%
- ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

受講生みなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史 I

2017年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界 4：共和制から帝国へと至るローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第11回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

第12回	中世ヨーロッパ 5	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 30%
Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代 2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

西洋史 I

2017年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教世界の発展と十字軍展開について

第12回	中世ヨーロッパ 5：	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
*出席管理は厳格に行う。
・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルスの流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods. < Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 30%
Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代 2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観を支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配布プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実にして検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80％）、レポート（20％）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かな多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一しょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95% 相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5% 相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
小口 雅史	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 4/Fri.4	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係性、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007 年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア 世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏どどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95% 相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5% 相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係性、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。

11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ですのでパソコン、スマホ、タブレットなど、Zoom や学習支援システムを利用できる環境を整えてください（いずれか 1 つ用意すれば充分です）。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Final exam（70 %） Reaction paper（30 %）

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界における日本の近世・近代の時代区分に関する諸説を検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。
9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。

10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日の課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ですのでパソコン、スマホ、タブレットなど、Zoom や学習支援システムを利用できる環境を整えてください（いずれか 1 つ用意すれば充分です）。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Final exam（70 %） Reaction paper（30 %）

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界のなかの日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95% 相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5% 相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係性、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス- 東アジア 世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア 世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際 環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と 国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through

various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配布プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実にして検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80％）、レポート（20％）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

PHL100LA

宗教論 I

2017年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋思想の根底にあり、また日本の宗教文化とは異質なキリスト教の思想を学ぶと同時に、それによって日本的思考の特性を反照的に明らかにする。そして私たちが抱える現代の諸問題解決のためのヒントを旧約・新約聖書の中の記述及びそれに基づいたキリスト教思想の中に見出す。

【到達目標】

ユダヤ教及びキリスト教の全体像を掴むことができる。実際に旧約聖書、新約聖書に何が書かれているかを知ることができる。それらを読むことによって、現代社会が抱える様々な問題を解明、克服するヒントを掴むことができる。また、ユダヤ教やキリスト教といういわゆる一神教のものの考え方をすることで、それとは対照的な日本人の無意識の宗教観に気づくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。提出されたリアクションペーパーへのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。投稿された質問や意見に対するフィードバックは、掲示板上で返信(Re)という形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	思想としてのキリスト教を学ぶことの意義。
2	キリスト教とはどのような宗教か	キリスト教の全体像
3	旧約聖書とは何か①	イスラエルの歴史
4	旧約聖書とは何か②	一神教と偶像崇拜批判
5	新約聖書とは何か	イエスとは誰か
6	新約聖書とは何か②	キリスト教教会の発展
7	キリスト教における「祈り」とは何か	「祈り」の現象学的分析
8	ジェンダーを巡る問題	キリスト教は性差別、性の多様性の問題にどのように答えるか

9	家族を巡る問題	キリスト教における家族観はどのようなものか、現代的な家族の問題についてどのように答えるか
10	富と貧困を巡る問題	経済格差が拡大する現代社会において、キリスト教は貧困の問題についてどのように答えるか
11	グローバル化・多文化を巡る問題	経済社会的にグローバル化が進行する現代社会において価値観の衝突を回避することは可能か
12	環境破壊を巡る問題	環境破壊の元凶をキリスト教思想に見出すことは可能か
13	生命操作を巡る問題	生命操作技術の発展はキリスト教の人間観と矛盾するか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

使わない。

【参考書】

芦名定道・土井健司・辻学共著『改訂新版 現代を生きるキリスト教』（教文館、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価（100 点満点とし、60 点以上が合格）は、期末のレポート課題の点数（配分 90 %）とリアクションペーパーの点数（配分 10 %）で行う。レポート課題の評価基準は、レポート提出の形式的条件（表題をつける、字数制限など）を満たしているか、授業の到達目標であるユダヤ教・キリスト教の人間観、世界観およびそれらの現代的意義について深く理解しているか、それらについて自分の意見が論理的に述べられているかの 3 点である。リアクションペーパーの評価基準は授業内容を理解できているか、自分の意見が述べられているかの 2 点である。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの字が小さすぎるという指摘があったので、できるだけ情報を制限して大きなポイントで表示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業資料を配布するので、PC、タブレット、スマートフォンなどの機器を準備しておくこと。

【Outline (in English)】

(1)Course outline

What is the significance of learning Christianity, which is different from Japanese religious culture? In a modern society where secularization progresses and traditional religions are declining, can Christianity still find clues to solve the problems faced by modern society? We will consider the above problems by returning to the words and actions of Jesus in the Bible.

(2)Learning Objectives

You can get a complete picture of Judaism and Christianity. By reading the Old Testament as a Jewish history book and the New Testament that shows the thought of Jesus, you can get hints for solving and overcoming various problems in modern society. Also, by knowing the so-called monotheistic ideas of Judaism and Christianity, we can notice the Japanese unconscious view of religion in contrast.

(3)Learning activities outside of classroom

The standard preparatory study / review time for each class is 4 hours. It is required to read as much as possible the references presented during class to prepare and review.

(4)Grading Criteria/Policy

Grades are evaluated based on the test scores (allocation 90%) at the end of the term and the reaction paper scores (allocation 10%).

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」という問いに対して現象学的観点から解き明かしてゆく。人々の生活の中に深く浸透している宗教的な儀式、慣習、そして人々の考え方の中に少なからず影響を与えている宗教的な観念、心理などを「宗教現象」（その宗教性を意識しているいにかかわらず）として捉え、その意味は何なのかを知る。

【到達目標】

到達目標は、「宗教」は何か危険なもの、「信仰」をもつ人は何か異質な人、という多くの日本人が漠然としてもっている宗教理解の一面性を批判する力、いかなる宗教であれそれを客観的に公正に評価することができる力、さらにはその知識を自分の生き方に活かす力を身に着けることにある。したがって、成績評価の基準は日常的経験の中に潜む宗教現象の意味を的確に分析、批判できるようになったかどうかにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。毎回リアクションペーパーを提出しそれをもって出席確認とする。遠隔授業となった場合には、オンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	宗教研究の方法	「宗教学」とはどのような学問か。神学、宗教哲学との違いは何か
2	比較宗教学の方法	様々な宗教を分類・類型化する
3	宗教現象学の方法	「宗教現象」の基本的な枠組みとしての「聖と俗」、「ハレとケ」
4	聖なる言葉（1）	「祈り」とは何か
5	聖なる言葉（2）	「物語」とは何か
6	聖なる言葉（3）	「神話」という物語は何を語るのか
7	宗教的世界観	我々はどこから来て、今どのような世界に生き、死後どこへ行くのか
8	聖なる行為（1）	儀礼とは何か
9	聖なる行為（2）	通過儀礼、イニシエーションとは何か
10	聖なる行為（3）	祝祭とは何か （ハレ・ケ・ケガレのダイナミズム）
11	穢れと禁忌	穢れと禁忌が生み出す社会的差別の問題

12	宗教と呪術	シャーマニズムとは何か
13	宗教と近代科学 (1)	①占星術と天文学 ②科学革命を成しえた西欧におけるキリスト教という宗教の役割
14	宗教と近代科学 (2)	科学の時代における宗教の意義とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ①ファン・デル・レーウ『宗教現象学入門』（1979 年、東京大学出版会）
- ②ミルチャ・エリアーデ『聖と俗』（1994 年、法政大学出版局）
- ③ウィリアム・E・ペイドン『比較宗教学』（1995 年、東京大学出版会）
- ④佐々木宏幹『宗教人類学』（1995 年、講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

最終授業日後にレポートを提出してもらう。その内容と（90 %）と投稿の内容（10 %）によって成績評価をする。ただし、投稿回数すなわち出席回数が、全授業回数の 3 分の 2 を下回るとレポート提出資格を失うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎとの批判もあるので、よりシンプルにします。

【Outline (in English)】

(1)Course outline

This course deals with the question "what is religion?" from a phenomenological point of view. The students taking this course learn the meaning of religious phenomena like rituals or customs that have deeply penetrated into people's lives, and like religious ideas or psychology that have a considerable influence on people's views of life and sense of values.

(2)Learning Objectives

You are able to accurately analyze and criticize the meaning of religious phenomena hidden in your daily experience. And you can evaluate any religion objectively and fairly.

(3)Learning activities outside of classroom

The standard preparatory study / review time for each class is 4 hours. It is required to read as much as possible the references presented during class to prepare and review.

(4)Grading Criteria/Policy

Grades are evaluated based on the test scores (allocation 90%) at the end of the term and the reaction paper scores (allocation 10%).

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
第 2 回	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
第 3 回	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
第 4 回	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
第 5 回	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
第 6 回	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
第 7 回	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
第 8 回	日本の宗教観 (1)	神道と仏教
第 9 回	日本の宗教観 (2)	無宗教と現代
第 10 回	宗教現象の分析 (1)	神とカミガミ
第 11 回	宗教現象の分析 (2)	祈り
第 12 回	宗教現象の分析 (3)	祭礼
第 13 回	宗教現象の分析 (4)	現代の問題
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the genesis and forms of religions.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire an overview on the genesis and forms of religions and to deepen our understanding of existing religions.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の	宗教論とは何か説明
第 2 回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
第 3 回	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
第 4 回	聖なることば (1)	祈りを中心に
第 5 回	聖なることば (2)	神話を中心に
第 6 回	宗教的世界観 (3)	聖なる空間および他界について
第 7 回	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
第 8 回	聖なる行為 (2)	通過儀礼が意味するもの
第 9 回	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
第 10 回	理性と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
第 11 回	理性と宗教 (2)	呪術と宗教
第 12 回	理性と宗教 (3)	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
第 13 回	理性と宗教 (4)	近代科学革命のなかで
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with major religious phenomena.

(Learning Objectives)

The goals of this course is to understand the role religion played in the history from ancient to modern.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「彫刻の意味」を学ぶ。ひいては、彫刻作品のイメージと概念を通して、芸術を理解していくことが目的となる。

【到達目標】

この授業の到達目標は、芸術の意味を理解し、評価 S, A, B, C に達することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。なお春学期は、オンデマンド授業なので、質問等に対するフィードバックは授業掲示板のメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 彫刻の意味	春学期の予定、勉強の仕方と評価の方法、彫刻芸術の美学について。
第 2 回	記念物と護符 1	神殿、墳墓と彫刻。
第 3 回	記念物と護符 2	教会堂と彫刻。
第 4 回	人間のイメージ 1	古代彫刻のヴィーナスのイメージ、視覚的イメージと内触覚的イメージ。
第 5 回	人間のイメージ 2	エジプト彫刻、ギリシア彫刻の男女のイメージ、ルネサンスのヒューマニズムのイメージ。
第 6 回	空間の発見 1	空間の量感とマッサ（量塊）の違い、触覚空間と視覚空間、エジプト彫刻の空間忌避。
第 7 回	空間の発見 2	ギリシア彫刻の正面性、ゴシック彫刻の運動のイリュージョン、ルネサンス彫刻の絵画的性。
第 8 回	中間試験	これまでの学習からの論述問題。
第 9 回	マッサの実現 1	絵画から区別される重量の感覚、触覚的感性を刺激する材料、触知の感覚。
第 10 回	マッサの実現 2	肉付けと直彫りの本質的相違、彫刻の可触的なヴォリュームと重量感。
第 11 回	運動の錯覚 1	彫刻と運動の矛盾、運動のイリュージョン。
第 12 回	運動の錯覚 2	リズムと運動、身ぶりとしての運動、ロダンの試み、運動の過渡。
第 13 回	運動の錯覚 3	動く彫刻、モビール、線の彫刻の運動性と空間概念の創造。
第 14 回	期末試験	まとめの論述問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作のテキストを学習支援システムにて提供する。

【参考書】

ウィトコアー『彫刻』（中央公論美術社）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、中間と期末の2回の試験を総合して100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You learn the meaning of sculpture. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of sculpture works.

The goals of this course are to S, A, B, and C.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the process mid-term examination (50%) and term-end examination(50%).

The passing marks are more than 60.

ART100LA

芸術B

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「彫刻の意味」を学ぶ、ひいては、彫刻作品のイメージと概念を通して、芸術を理解していくことが目的となる。

【到達目標】

この授業の到達目標は、芸術の意味を理解し、評価 S, A, B, C に達することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。また質問等に対するフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習、秋学期の学習の仕方。
第2回	光の衝突 1	印象主義者としてのロダンの試み、ブランクーシの試み。
第3回	光の衝突 2	限定空間と環境空間。光のイメージと光の詩。マッスを拒否する彫刻。
第4回	光の衝突 3	彫刻芸術の特質と限界。
第5回	ジャコメッティの芸術 1	幼年時代、形成期。
第6回	ジャコメッティの芸術 2	パリでの修業期。
第7回	ジャコメッティの芸術 3	抽象彫刻期。部族芸術の影響。
第8回	ジャコメッティの芸術 4	平板彫刻：肖像とオブジェ。
第9回	ジャコメッティの芸術 5	シュルレアリスムのオブジェ。
第10回	ジャコメッティの芸術 6	広場の彫刻。
第11回	ジャコメッティの芸術 7	偏執狂と残酷彫刻。空虚の表現。
第12回	ジャコメッティの芸術 8	見ることの探究：絵画と彫刻。
第13回	ジャコメッティの芸術 9	戦後の探究：立っている女、歩く男。空間（無）の彫刻。
第14回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作のテキストをプリントして配布する。

【参考書】

ウィトコアー『彫刻』（中央公論美術社）

【成績評価の方法と基準】

期末の到達目標に関する試験で 100 %成績評価する。その際、100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You learn the meaning of sculpture. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of sculpture works.

The goals of this course are to S, A, B, and C.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the process: term-end examination(100%). The passing marks are more than 60.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の美術の作品や歴史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学などの関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。

その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものがあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
3	絵画が表すリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を、第一次世界大戦に着目しながら描き出す。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれがアートに与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。
10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係において考える。
11	大正デモクラシーと太平洋戦争期の芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。

12	日本戦後の前衛芸術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代の関係を考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	多様化する現代の芸術	絵画や彫刻、写真、インスタレーション、映像、デジタルテクノロジー、またそれらの組み合わせで成立する現代の芸術について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

Following the transformation of art in the modern age in relation to that of society and the cultural climate, students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society. Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student's achievement. (100%)

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界と芸術のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	ヨーロッパ中心主義の終わり？	モダニズム - ポスト・モダニズムの考えを紹介しながら、ヨーロッパ中心主義を問う作品について考察する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	グローバリゼーションと多文化主義	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	「他者」とは誰か？	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14 (2017) について考える。

9	地域社会と芸術祭	2000年代以降、全国各地で開催されるようになっている芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
11	2022年の同時代性 1	2022年に開かれる第59回ヴェネツィアビエンナーレや第15回ドクメンタで取り上げられたアーティストや作品、議論を紹介する。
12	2022年の同時代性 2	人新世に関する議論を紹介し、エコロジーとアートの関係を考察する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	2023年以降の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Documenta, art fairs and art museum privatization, students are encouraged to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. By approaching contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today, students will also gain an insight into the globalized society of today. They are also recommended to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student's achievement. (100%)

ART100LA

芸術 A

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第3回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第4回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第5回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第6回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第7回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第8回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第9回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第10回 彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第11回 万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第12回 ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第13回 欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第14回 まとめ	授業を通しての総括を実施する。 また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート1本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：50%

期末レポート：50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

実際に日本で鑑賞できる作品や展覧会を紹介し、鑑賞の機会を提供するようにしています。

【その他の重要事項】

第1回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.
- 2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.
- 3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA

芸術B

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。
レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

- 第 9 回 黎明期の日本の美術館 日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
- 第 10 回 美術館の役割（展示・作品収集） 美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。
- 第 11 回 美術館の役割（保存修復） 美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
- 第 12 回 美術館の役割（調査研究・教育普及） 調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
- 第 13 回 美術館の外の美術 パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
- 第 14 回 まとめ 授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）：50%

期末レポート：50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。
ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会に関する紹介、解説を充実させています。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

The goal of the course is following:

1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).

2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).

3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LIT200LA

日本文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：絵画化された『源氏物語』

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたかを考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
- ③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
- ④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	絵巻とは (1)	絵巻の歴史について
第 3 回	絵巻とは (2)	絵巻に見られる技法について
第 4 回	絵巻とは (3)	絵巻の鑑賞方法について
第 5 回	『源氏物語絵巻』 (1)	『源氏物語絵巻』 概説
第 6 回	『源氏物語』 第一部概説	『源氏物語』 第一部の解説
第 7 回	『源氏物語』 第一部概要	『源氏物語』 第一部のあらすじ
第 8 回	『源氏物語絵巻』 (2)	『源氏物語絵巻』 蓬生巻について
第 9 回	『源氏物語』 第二部概説	『源氏物語』 第二部の解説およびあらすじ
第 10 回	『源氏物語絵巻』 (3)	『源氏物語絵巻』 柏木巻 (一) について
第 11 回	『源氏物語絵巻』 (4)	『源氏物語絵巻』 柏木巻 (三) について
第 12 回	『源氏物語絵巻』 (5)	『源氏物語絵巻』 横笛巻について
第 13 回	『源氏物語絵巻』 (6)	『源氏物語絵巻』 鈴虫巻 (二) について
第 14 回	総括	授業のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにすること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。レポートは【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回提出してもらうリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。リアクションペーパーに記入された質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式の授業です。第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

This course deals with *The Tale of Genji illustrated Scrolls* (源氏物語絵巻, designated a National Treasure) and the other works (including Manga) painted *The Tale of Genji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA

日本文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：説話のメディア展開

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①説話文学の特質について理解する。
- ②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ③能・歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要
第2回	説話について	説話文学に関する解説
第3回	道成寺にまつわる説話	説話集に収められた道成寺説話
第4回	絵巻について	絵巻の鑑賞方法に関する解説
第5回	道成寺縁起絵巻 (1)	『道成寺縁起絵巻』鑑賞
第6回	道成寺縁起絵巻 (2)	『道成寺縁起絵巻』解説
第7回	道成寺縁起絵巻 (3)	熊野信仰について
第8回	道成寺縁起絵巻 (4)	『道成寺縁起絵巻』の異本について
第9回	能について	能の歴史・鑑賞の仕方に関する解説
第10回	能『道成寺』(1)	能『道成寺』を読む
第11回	能『道成寺』(2)	能『道成寺』解説
第12回	能『道成寺』(3)	能『道成寺』鑑賞
第13回	道成寺物について	日本伝統芸能における「道成寺」の解説
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末締切のレポート（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回提出してもらったアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する質問やコメントは、次以降の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式の授業です。第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the picture scrolls *Dojoji Engi* and the Noh program *Dojoji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art and performing arts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA

日本文学と文化LC

2017年度以降入学者

サブタイトル：能（謡曲）と仏教

今泉 隆裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）には、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されている。どのような状況下で、どのようなことが、この芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の状況に影響を受けたためにそれらの形式が確立されたのか。さらに、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではないであろう。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そのうち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲をおもに扱う。また離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する可能性がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。

と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか。また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか。その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナウィルスの状況から講義ができない期間は課題提出とします。また、状況が改善され次第、授業形態は、講義形式とします。

課題やアクションペーパーに記入された内容、および質問など全体でも共有したほうが良いものについては講義内で適時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	能楽入門① 授業展開	能楽入門 ※1回目は人数確認のためオンラインとします。
		基本的な用語などについて解説する（5回程度）。DVD映像を参照して説明していく。
2	能楽入門② 舞台	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（1）

3	能楽入門③ 舞台	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（2）
4	能楽入門④ 歴史	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（3） 基本用語解説（1）
5	能楽入門⑤ 用語	上記、能楽入門つづき 基本用語解説（2）
6	夢幻能について① （幽霊能について）	夢幻能のなかでも幽霊を主人公 （シテ）とするものを取り上げ、 その特徴について論じる（9回 程度）。 ・本講義の概要について
7	夢幻能について② （幽霊能〈求塚〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞① 作品概要・及び鑑賞
8	夢幻能について③ （幽霊能〈求塚〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞② 〈求塚〉にみるシテ（幽霊）とワ キ（僧ワキ）との関係
9	夢幻能について④ （幽霊能〈求塚〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞③ ・宗教学からみた能〈求塚〉の幽 霊の特殊性／僧ワキの機能につい て
10	夢幻能について⑤ （幽霊能〈船橋〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鵜飼〉ほか幽霊能の鑑賞 ① 作品概要・及び鑑賞
11	夢幻能について⑥ （幽霊能〈船橋〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鵜飼〉② 〈鵜飼〉にみるシテ（幽霊）とワ キ（僧ワキ）との関係
12	夢幻能について⑦ （幽霊能〈鵜飼〉につ いて）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鵜飼〉③ ・宗教学からみた能〈求塚〉の幽 霊の特殊性／僧ワキの機能につい て
13	夢幻能について⑧ （幽霊能〈鵜飼〉につ いて、まとめ）	上記、夢幻能について（つづき） 前期まとめ1
14	夢幻能について⑨ （幽霊能について、ま とめ）	上記、夢幻能について（つづき） 前期まとめ2、および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992 年）など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と、学期末の授業内レポートを持って評価する。

目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。平常点はリアクションペーパーの記入状況で判断する。また、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。

講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を了解していないものが散見される。

能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

※取り上げるテーマは進捗等、都合により変更されることがあります。

※授業形態は対面してありますが、コロナの状況に応じてオンラインとなることもあります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

The goals of this course are to Understand Nogaku.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20 %).

LIT200LA	
日本文学と文化 L D	2017 年度以降入学者
サブタイトル：能（謡曲）と仏教	
今泉 隆裕	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 5/Fri.5	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。
俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）には、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されている。どのような状況下で、どのようなことが、この芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の状況に影響を受けたためにそれらの形式が確立されたのか。さらに、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではないであろう。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そののち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲をおもに扱う。また離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化 L C」（旧「文学 I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化 L D」（旧「文学 II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。
と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか。また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか。その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

課題やリアクションペーパーに記入された内容、および質問など全体でも共有したほうが良いものについては講義内で適時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	能楽入門（補足①） ※受講人数を確認するため 1 回目はオンラインとする。	入門的事項の補足説明と「日本文学と文化（前期）」（旧「文学 I」）の内容をおさらいする（2 回程度）。ただし、連続して講義を受けていない学生が多い場合は、内容を変更して対応したい。
2	能楽入門（補足② 歴史）	上記、能楽入門つづき

3	夢幻能について① （神能について）	夢幻能のなかでも神を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる（4 回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・夢幻能（神能）の特徴とその機能について ・シテ（神）とワキ（大臣ワキ）との関係 ・宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能についてなど
4	夢幻能について② （神能〈高砂〉について）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉鑑賞①／作品解説
5	夢幻能について③ （神能〈高砂〉について）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉鑑賞②／本説（典拠）と能との比較検討 ・シテ（神）とワキ（大臣ワキ）との関係
6	夢幻能について④ （神能〈高砂〉について、神能について、まとめ）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉鑑賞③／宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能についてなど
7	親子物狂能について①	春学期でみた勧進興行との関連で寺社の霊験譚として、離ればなれになった親子の再開を描く親子物狂能とその特色などについて論じる（6 回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・講義概要
8	親子物狂能について② 〈隅田川〉概要	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉鑑賞①／鑑賞
9	親子物狂能について③ 〈隅田川〉鑑賞	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉鑑賞②／本説（典拠）と能との比較検討
10	親子物狂能について④ 〈隅田川〉について	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉鑑賞③／〈弱法師〉と俊徳丸説話、さらにその淵源
11	親子物狂能について⑤ 〈隅田川〉以外の親子物狂能について	上記、親子物狂能について（つづき） そのほかの親子物狂能 鑑賞①／本説（典拠）と能との比較検討
12	親子物狂能について⑥ 〈隅田川〉以外の親子物狂能について	上記、親子物狂能について（つづき） そのほかの親子物狂能 鑑賞②／親子物狂能と仏教との関係（まとめ）
13	能楽の近代について① 能楽の歴史・補足	近代化の中で一時期廃れていた能楽がいかに復活したかについて論じ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える（2 回程度）。
14	能楽の近代について② 能楽の歴史・補足、まとめ	上記、能楽の近代について（つづき） 後期まとめ、および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992年）など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常点 20 %とする。平常点はリアクションペーパーの記入状況などで判断する。

また、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を理解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

※取り上げるテーマは進度等、都合により変更されることがあります。
※授業形態は対面としていますが、コロナの状況により、オンラインに変更することもあります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

： The goals of this course are to Understand Nogaku.

： Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

： Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20 %).

LIT200LA

日本文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「隣の爺」と呼ばれる昔話・伝承について学ぶ。日本の昔話には、善良な爺と邪悪な爺の対立構造をもつ物語が多い。それらは物語をいくつかり取り上げ、このタイプの特質とそれぞれ作品の成立背景について考える。最終的には、昔話における老人の特徴についても言及したい。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、「隣の爺」譚がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。また、基本的な話柄を確認するために「まんが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	「隣の爺」型の物語	昔話の分類と研究
第 3 回	「花咲か爺」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 4 回	「花咲か爺」と近世文学	五大昔話と出版
第 5 回	「花咲か爺」の要素	物語のプロットについて
第 6 回	「舌切り雀」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 7 回	「舌切り雀」の説話	『宇治拾遺物語』と昔話
第 8 回	「舌切り雀」の要素	物語のプロットについて
第 9 回	「福富草子」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 10 回	「福富草子」の御伽草子	放屁譚と絵巻物
第 11 回	「福富草子」の要素	物語のプロットについて
第 12 回	老人と昔話①	神仏と老人
第 13 回	老人と昔話②	報恩譚と老人
第 14 回	まとめ	昔話とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。授業にのぞむ前に、扱う話を一読していただくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 70 %

学期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

古文を扱うことも多いが、専門外の学生には配慮をする。

【Outline (in English)】

This course introduces folktales known as "Old men living next door to each other. (隣の爺) to students taking this course. The goals of this course are to understand how those were formed. Students will be expected to read my works before classes. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on reaction papers (70 %), and Term-end report(30 %).

LIT200LA

日本文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の鬼に纏わる伝承・物語について学ぶ。日本の鬼は人間に危害を加える〈悪〉として捉えられるモノであるが、その姿や出現する場所は様々であり、時には人間に幸いをもたらす〈善〉なる存在としても描かれることがある。本講義では、その鬼の多様性を学ぶと同時に、人間は鬼に何を投影したのかを考えていく。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の鬼がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なう湯が、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。また、基本的な話柄を確認するために「まんが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	日本の鬼の特徴	日本の鬼の伝承・物語
第 3 回	「桃太郎」の概説	話の概要と様々な話柄
第 4 回	「桃太郎」と江戸文学	江戸時代文学に描かれる桃太郎像
第 5 回	「桃太郎」の意味	「桃」の呪術性と従者・鬼の存在
第 6 回	「羅生門の鬼」の概説	話の概要と様々な話柄
第 7 回	「羅生門の鬼」の登場人物	源頼光と四天王
第 8 回	羅生門という場と鬼	他の文芸作品との比較
第 9 回	「地獄めぐり」の概説	話の概要と様々な話柄
第 10 回	「地獄めぐり」の地獄描写	『往生要集』と地獄絵
第 11 回	「安達ヶ原の鬼」の概説	話の概要と様々な話柄
第 12 回	「安達ヶ原の鬼」と見る禁	鬼の出現の仕方
第 13 回	心の鬼	鬼と人間の内面
第 14 回	まとめ	現代社会で「鬼」を考える意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。授業にのぞむ前に、扱う話を一読していただくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 70 %

学期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

映像などを用いて、専門外の学生も理解しやすいように工夫する明をしていく。

【Outline (in English)】

This course introduces folktales of Oni to students taking this course. The goals of this course are to understand how those were formed. Students will be expected to read works before classes. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on reaction papers (70%), and Term-end report(30 %).

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を観賞しながら、原作小説を講読します。2021 年に劇場公開された以下の 6 作品を取りあげる予定です。

文学表現と映像表現を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を解読する力の獲得を目指します。

竹宮ゆゆこ『砕け散るところを見せてあげる』（SABU 監督）

西加奈子『漁港の肉子ちゃん』（渡辺歩監督）

村上春樹『ドライブ・マイ・カー』（濱口竜介監督）

佐藤正午『鳩の撃退法』（タカハタ秀太監督）

瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』（前田哲監督）

中山七里『護られなかった者たちへ』（瀬々敬久監督）

* 劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンルの小説を深く読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的に表現することができるようになります。

加えて、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を観賞しながら、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品はすべて文庫化されていますので、事前に読んだ上で授業に臨む形がベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読 (1)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
3	映画観賞 (1)	小説の講読 & 分析 & 考察
4	原作小説の講読 (2)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
5	映画観賞 (2)	小説の講読 & 分析 & 考察
6	原作小説の講読 (3)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
7	映画観賞 (3)	小説の講読 & 分析 & 考察
8	原作小説の講読 (4)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
9	映画観賞 (4)	小説の講読 & 分析 & 考察
10	原作小説の講読 (5)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
11	映画観賞 (5)	小説の講読 & 分析 & 考察
12	原作小説の講読 (6)	原作の映画鑑賞 & 分析 & 考察
13	映画観賞 (6)	小説の講読 & 分析 & 考察
14	春学期授業のまとめ	春学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直すことで、作品の理解を深めるよう努めてください。

レポート提出のための事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う以下の文庫本。

- ・竹宮ゆゆこ『砕け散るところを見せてあげる』（新潮文庫 nex）
- ・西加奈子『漁港の肉子ちゃん』（幻冬舎文庫）
- ・村上春樹『ドライブ・マイ・カー』（文春文庫『女のいない男たち』収録）
- ・佐藤正午『鳩の撃退法』（小学館文庫）
- ・瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』（文春文庫）
- ・中山七里『護られなかった者たちへ』（宝島社文庫）

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。

必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストや宿題はありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。

専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

本授業は曜日や時限を設けないオンライン授業となります。履修は抽選になります。春学期の抽選期間に必ず申し込みを行ってください。

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

We read the original novel after having watched movie work that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2021.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 titles after carefully selecting from the works released in 2021.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We aim to acquire the ability to read novels from the perspective of "what literature-specific expressions are."

Reading novels in a variety of genres representing contemporary Japanese literature, you will be able to extract, organize, analyze, and express in their own words various elements from the works as complex linguistic structures.

Please read the works carefully, take notes on what you notice, and summarize your questions.

Grading will be decided based on report 100 %.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：新海誠の文学世界

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 3 位、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えました。2019 年には最新作『天気の子』が封切られ、前作同様の評価を得ました。そして今秋、最新作『すずめの戸締まり』が公開予定で、期待が高まります。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人との繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。アニメーションというジャンルの枠を超えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとらえ直す必要があります。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作のノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者による映画版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的」に観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンごとに分析的に解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他人の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーションを合わせた形で行います。新海誠作品を初期から最新作まで（場合によっては作品の一部を）を観賞し、各シーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのはシーンを構成する一つひとつのカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーションや科白や対話）です。本授業では新海作品の言葉に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用しあい、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく見ていきます。

新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
2	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
3	『ほしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
4	『雲のむこう、約束の場所』	装置としての SF
5	『秒速 5 センチメートル』	風景と速度をめぐる物語
6	『星を追う子ども』	異界への移動と帰還
7	『言の葉の庭』	映像美学を支える文学性
8	『小説 言の葉の庭』	ノベライズの方法
9	短編作品 & CM 作品	新海誠のアザーワークス
10	『君の名は。』前半	すれ違いと入れ替わりの趣向をめぐる
11	『君の名は。』後半	共苦する魂のゆくえ
12	『天気の子』前半	オリンピック後の未来はいかに描かれたか
13	『天気の子』後半	人身御供としての構成
14	『すずめの戸締まり』	最新作について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アニメーションを観たり小説を読む際に、ただ受動的に観賞するのではなく、作品の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。実在する場所が物語のシーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

榎本正樹『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ』（KADOKAWA、2021 年）

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライズ作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速 5 センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』とも、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>

その他の参考書・参考文献や参考サイトは別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストや宿題はありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた新海監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。

可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

本授業は曜日や時限を設けないオンライン授業となります。履修は抽選になります。春学期の抽選期間に必ず申し込みを行ってください。

アニメーションや現代日本文学に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

履本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. In 2019, his latest work "Weathering With You" was released. And a new film "Suzume no Tojimari" will be released this fall. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints. The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher animation as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation. Please watch the films we will discuss in class repeatedly, take notes on what you notice, and summarize your questions. Grading will be decided based on report 100 %.

LIT200LA

外国文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をともしない楽器にのせて語られました。

春学期では、ミュージカルの名作として愛され続けている『レ・ミゼラブル』を原作を参照しつつ分析します。さらに最も人気の高いオペラの一つである『カルメン』を扱います。次にシェークスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない見込みですので、on demand 方式を採用することになりそうです。学習支援システムでその方法をお知らせします。教材や資料は同じく学習支援システムに載せます。皆さんは資料の情報を参考にしながら作品（のさわりとなる部分）を鑑賞し、教材に示された問題点、着眼点などについて考えてください。それぞれの作品ごとに課題として 400 字ほどの書き物を学習支援システムを通して出すことになります。私は同じく学習支援システムを通してお返しします。

まずはヴィクトル・ユゴーによる『レ・ミゼラブル』の原作を概観したうえで、ミュージカルを鑑賞し、分析します。次にほぼ同時期に書かれた小説かつ戯曲をもとに創られたオペラ『カルメン』を扱います。さらに『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を、元ネタとのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。2021 年にスビルバーグ監督による映画が公開されましたが、この授業では主に 1961 年の映画版を取り上げます。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の影が映っていることを見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『レ・ミゼラブル』1 そもそもこれはどのよ うな作品か	ヴィクトル・ユーゴー：ロマン主 義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
2	『レ・ミゼラブル』2 ぶつかる二人の主要人 物	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャン とジャヴエール
3	『レ・ミゼラブル』3 ハッピーエンドのカッ プルともう一人（two anthers）	コゼットとマリウス エポニヌという存在 ジャン・ヴァルジャンという存在
4	『レ・ミゼラブル』4 フランス語版のドラマ	フランスのテレビ局製作：ジェ ラルド・ドバルデュー主演
5	『カルメン』1 小説とオペラ	原作はメリメの中編小説。書いた のは役人。 オペラを作曲したのはフランス人 ビゼー。 序曲と冒頭 「ハバネラ」 「ミカエラの歌」 Femme fatale （運命 の／致命的な女） VS 清純派
6	『カルメン』2 スペインという異郷	「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊 りが旺盛 歌手も踊る（というよりも踊れない 歌手はお呼びでない）：「鈴を 打ち鳴らす」
7	『カルメン』3 闘牛場の外で	「闘牛士の歌」 「行進曲」 最終場面：中の祝祭と外の破局
8	『ロミオとジュリ エット』1 誰もが聞いたことはあ るあの作家、あの 作品、 誰もが見たことのある あの場面	ウィリアム・シェイクスピアの戯 曲：元ネタと著作権という考え方 映画版：ゼフィレリ監督 1968 年 冒頭とバルコニーの場面
9	『ロミオとジュリ エット』2 どう描くか、演出によ る違い	決闘の場面 最終場面 ゼフィレリ版とルールマン版 (1966 年)
10	『ロミオとジュリ エット』3 バレエ：セリフがない シェイクスピア演劇	セルゲイ・プロコフィエフのバレ エ音楽 冒頭 「騎士たちの踊り」 (シンセサイザーなどによる ELP 版)
11	『ロミオとジュリ エット』4 原作と最後が大きく違 うオペラ	決闘の場面／最終場面 シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面
12	『ウエストサイド物語』 1 誰もが見たことのある あの振り付け	決闘の場面 最終場面 現代への翻案 『ロミオとジュリエット』との 比較： 登場人物と設定の共通点と違い ジャズ的表現：裏拍； 冒頭場面 "Tonight" "America"(The Nice による編 曲)

- 13 『ウエストサイド物語』 悪魔の？ 魅惑の？ 減 5 度
2 決闘場面
移民グループの対立 "Cool"
14 『ウエストサイド物語』 最終場面
3 永遠のテーマ
どこが、そしてなぜ
「原作」と異なるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV
ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思ひます。
ただし現在の状況ではそれなかなか難しいことだと考えられます。
インターネットで視聴できるものは私のほうから紹介しますが、
皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-4:原作の小説を読む。主要登場人物についてまとめる。映画版や
ドラマ版を選んで視聴する。

5-7：原作の小説を読む。オペラ版を選んで視聴する。

8-11：原作の演劇を読む。映画版やバレエ版を選んで視聴する。

12-14：映画版を視聴する。舞台版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。資料、教材を学習支援システムで
配ります。

【参考書】

【参考書 / References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書
1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400 字ほどの書き物
を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価
の合計で成績を出します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示
すようにします。

【その他の重要事項】

当科目の履修にあたっては抽選がありますので、「お知らせ」等をよ
く確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with occidental literature, especially works
adapted for music. Literature, which expresses its objects
by signs, and music, which appeals to sentiments by way of
sequences of sounds, are closely related to each other. Stories
were once sung accompanied by musical instruments.

The works dealt with during the spring term will be:

"Les Misérables" (musical), "Carmen"(opera), "Romeo and
Juliet" (movie, ballet, opera), "West Side Story" (musical).

Through this course students are expected to get knowledge
to appreciate analytically and critically literary and musical
works.

Students should read beforehand relevant works. They need
also to submit an assignment after having studied each work,
for which they must spend at least two hours.

Final grade will be calculated according to the total score of
their assignments (100%).

LIT200LA

外国文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。モーツァルトとサリエリのライバル関係を描いた演劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペラ、モリエールの『ドン・ジュアン』、ボーマルシェの『フィガロの結婚』などの戯曲を分析します。その次に、ミュージカルとして人気を博しているルルー原作の『オペラ座の怪人』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない見込みですので、on demand 方式を採用することになりそうです。学習支援システムでその方法をお知らせします。教材や資料は同じく学習支援システムに載せます。皆さんは資料の情報を参考にしながら作品（のさわりとなる部分）を鑑賞し、教材に示された問題点、着眼点などについて考えてください。それぞれの作品ごとに課題として 400 字ほどの書き物を学習支援システムを通して出すことになります。私は同じく学習支援システムを通してお返しします。

秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファールの『アマデウス』を軸に、その中に登場するヨーロッパの 17 世紀から 18 世紀の文学作品、またそれにちなむ音楽作品を扱います。『アマデウス』は作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評価されたので、知っている方も多いことでしょう。まず、この作品の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作となった文学作品を概観し、分析します。分析の方法論も学びます。『オペラ座の怪人』は 20 世紀の初めにフランスのミステリー作家ガストン・ルルーによって発表された小説作品ですが、英語によるミュージカルで今では人気を博しています。美と醜、歴史的な建物に潜む謎など、ある意味では定番の数々のテーマを分析します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画；「神に愛されたる者」の物語
2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライバル関係
3	『フィガロの結婚』1 原作者はどんな人か オペラへの翻案	ボーマルシェの戯曲：政治的な意味合い ダ・ポンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2 ケルビーノというトリックスター	「自分で自分がわからない」「もう飛ばまいぞこの蝶々」映画『アマデウス』におけるサリエリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3 『アマデウス』版と譜面	第 2 幕の最終場面の 7 重唱 結婚式の場面 第 3 幕の山場と急転換 第 4 幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』とはどんな作品か	ボーマルシェ自身が台本を書いたサリエリのオペラは当時のお手本オペラ
7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ドン・ジュアン』1 唯物論者にして快楽主義者？	女たらしの伝説 無神論の誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古典主義の時代 冒頭の場面 貧者との対話の場面
8	『ドン・ジュアン』2 父親という法、掟	騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
9	オペラ『ドン・ジョヴァンニ』1 グロテスク：おぞましくも滑稽	ダ・ポンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲、「女のリスト」
10	『ドン・ジョヴァンニ』2 超自然をどう演出するか	村の娘の誘惑 騎士隊長の像
11	『ドン・ジョヴァンニ』3 再び『アマデウス』 歴史上の謎をどう演出するか	晩餐 最終場面のさまざまな演出：映画『アマデウス』版とロゼー版 精神分析：科学か 20 世紀の骨相学か 『アマデウス』の最終場面
12	『オペラ座の怪人』1 これはオペラではない、オペラ劇場を扱った作品。	原作者のガストン・ルルーとは？ 小説『オペラ座の怪人』 2004 年の映画版ミュージカル
13	『オペラ座の怪人』2 読み手／観客を惹きつける設定	ミュージカル：人気スターと新進の歌手、謎と恐怖
14	『オペラ座の怪人』3 捕り物という定番クライマックスと余韻を残す最終場面	ミュージカル：表の二枚目と裏のヒーロー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。ただし現在の状況ではそれなかなか難しいことだと考えられます。インターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-2：原作の演劇を読む。

3-5：原作の演劇を読む。オペラ版を選んで視聴する。

6：サリエリについて調べる。

7-10：ドン・ファンの伝説について調べる。モリエールの『ドン・ジュアン』を読む。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を選んで視聴する。
 11：モーツァルトの晩年について調べる。
 12-14：原作の小説を読む。映画版、ミュージカル版を選んで視聴する。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムの「教材」を通して資料などを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』福井建築、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】

当科目の履修にあたっては抽選がありますので、「お知らせ」等をよく確認してください。

【Outline (in English)】

As in the spring semester, this course deals with occidental literature, especially works adapted for music.

The works dealt with during the fall term will be : "The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Le Fantôme de l'opéra", one of the most popular musicals, originally written by Gaston Leroux.

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work, for which they must spend at least two hours.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA

外国文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日 原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者には漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から 3 回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

※第 1 回目の授業はオンラインで行ないます。

※第 2 回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第 2 回	近体詩の規則①／桜の詩鑑賞	正岡子規「聞子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第 3 回	近体詩の格律②／春遊の詩鑑賞	二四不同二六対、反法・粘法の説明。／杜牧「江南春」、永井荷風「墨上春遊」などを鑑賞。
第 4 回	近体詩の格律③／晩春の詩鑑賞／実作指導	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について。／白居易「三月三十日題慈恩寺」、吳錫麒「送春」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第 5 回	ほととぎすの詩鑑賞／実作指導	杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鶉」などを鑑賞。／実作
第 6 回	牡丹の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」などを鑑賞。／実作

第7回	薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作
第8回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作
第9回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作
第10回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第11回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第12回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第13回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第14回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書に挙げたような漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）50 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA

外国文学と文化 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『唐詩選画本』を読む

日 原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その訓み下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「辺塞詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の訓み下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞してゆく。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第1回目の授業はオンラインで行ないます。

※第2回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の形式について。	漢詩の形式の解説。『全唐詩』『三唐詩のテキストについて 体詩』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。
第2回	鑑賞（五言絶句）	賀知章「題袁氏別業」
第3回	鑑賞（五言絶句）	駱賓王「易水送別」
第4回	鑑賞（五言絶句）	李白「静夜思」
第5回	鑑賞（五言絶句）	王維「班婕妤」
第6回	鑑賞（七言絶句）	王勃「蜀中九日」
第7回	鑑賞（七言絶句）	王翰「涼州詞」
第8回	鑑賞（七言絶句）	李白「峨眉山月歌」
第9回	鑑賞（七言絶句）	王昌齡「閨怨」
第10回	鑑賞（五言律詩）	杜甫「旅夜書懷」
第11回	鑑賞（五言律詩）	張謂「同王徵君洞庭有懷」
第12回	鑑賞（七言律詩）	崔顥「黃鶴樓」
第13回	鑑賞（五言古詩）	李白「子夜吳歌」
第14回	鑑賞（七言古詩）	杜甫「貧交行」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書に挙げたような漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者がプリントを用意する。

【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』（角川書店）
小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』
同『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業支援システムを使って提出する課題）50 %

期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA

外国文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ（1）

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものでは決してありません。楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから 18 世紀までのオペラを講義形式で扱います。配布 PDF の他、視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。授業はオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	イントロダクション ルネサンスの舞台芸術 (1)	授業紹介 ルネサンスと宮廷音楽劇
②	ルネサンスの舞台芸術 (2)	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
③	オペラの誕生 (1)	カメラータ・フィオレンティーナとオペラの誕生、モンテヴェルディの生涯
④	オペラの誕生 (2)	モンテヴェルディ作曲、ストリッジョ台本のオペラ
⑤	バロック・オペラ (1)	ヴェネツィア・オペラとカストラートの隆盛
⑥	バロック・オペラ (2)	モンテヴェルディ作曲、プゼネッロ台本のオペラ
⑦	バロック・オペラ (3)	ヘンデルの生涯と作品
⑧	バロック・オペラ (4)	ヘンデル作曲、ハイム台本のオペラ
⑨	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (1)	アルカーディア・アカデミーとオペラ
⑩	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (2)	メタスタジオ台本、ヴィンチ作曲のオペラ
⑪	オペラ・セーリアの改革 (1)	グルックとカルツァピージについて

⑫	オペラ・セーリアの改 革（２）	グルック作曲、カルツァビー台 本のオペラ
⑬	オペラ・ブッフアとイ ンテルメッツ	ベルゴレージ作曲のインテルメ ツ
⑭	授業のまとめ	期末課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内、または GoogleClassroom で指示します。GoogleClassroom のコードは、授業支援システム (Hoppii) で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

GoogleClassroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内、または GoogleClassroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（期限内に提出された課題含む）（約 70 %）と期末課題（約 30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能（大学の Office 365 に入っています）を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via GoogleClassroom; GoogleClassroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (70%) and the final assignment (30%).

LIT200LA

外国文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ（２）

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、19 世紀から 20 世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では 18 世紀から 20 世紀にかけてのイタリア・オペラを扱います。プリント（オンラインの場合 PDF）の他、視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。授業はすべてオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	オペラ・ブッフア	18 世紀までのオペラの簡単な歴史とオペラ・ブッフアについて
②	古典派オペラ（１）	モーツァルト作曲のオペラ（１）生涯と作品 作品解説
③	古典派オペラ（２）	モーツァルト作曲のオペラ（２）作品鑑賞
④	古典派オペラ（３）	モーツァルト作曲のオペラ（３）作品解説
⑤	古典派オペラ（４）	モーツァルト作曲のオペラ（４）作品鑑賞
⑥	ロマン派オペラ（３）	ロッシーニ作曲のオペラ（１）生涯と作品 作品解説
⑦	ロマン派オペラ（４）	ロッシーニ作曲のオペラ（２）作品鑑賞
⑧	ロマン派オペラ（５）	ドニゼッティ作曲のオペラ（１）生涯と作品 作品解説
⑨	ロマン派オペラ（６）	ドニゼッティ作曲のオペラ（２）作品鑑賞
⑩	ロマン派オペラ（７）	ヴェルディ作曲のオペラ（１）生涯と作品
⑪	ロマン派オペラ（８）	ヴェルディ作曲のオペラ（２）作品鑑賞
⑫	ロマン派オペラ（９）	ヴェルディ作曲のオペラ（３）作品解説
⑬	世紀末から 20 世紀にかけてのオペラ（２）	プッチーニ作曲のオペラ 作品鑑賞

⑭ 授業のまとめ 期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内、または GoogleClassroom で指示します。GoogleClassroom のコードは、授業支援システム (Hoppii) で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

GoogleClassroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内、または GoogleClassroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（期限内に提出された課題含む）（70 %）と期末課題（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分り易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能（大学の Office 365 に入っています）を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via GoogleClassroom; GoogleClassroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (about 70%) and the final assignment (about 30%).

LIT200LA

文学と社会 L A

2017 年度以降入学者

梶 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。

「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を探り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超越して、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団の心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われる。

【到達目標】

・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。

・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。（事情がある場合は、オンライン参加も可とします。）小説の構成に喩えれば、テーマに沿って 2～3 回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。

気軽な質疑応答の時間や、（時々）リアクションペーパーにより感想を記す時間を十分に採り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	民俗学的な日本文学研究について、概説
第 2 回	桜の文学と民俗（1）	季節感と古典文学との関わり、またその源流と考えられる民俗について
第 3 回	桜の文学と民俗（2）	前回の続きとまとめ
第 4 回	「女歌」の特色と源流（1）	男女の恋の贈答歌における女性の歌の特色と、その源と考えられる「歌垣」の習俗について
第 5 回	「女歌」の特色と源流（2）	前回の続きとまとめ
第 6 回	恋歌の虚構性	万葉集・額田王の蒲生野の恋歌を例に
第 7 回	古代女性の巫女的性格と文学（1）	古代女性の「神」に仕える役割と古典文学、歴史との関係

- 第8回 古代女性の巫女的性格 前回の続き
と文学（2）
- 第9回 古代女性の巫女的性格 前回の続きとまとめ
と文学（3）
- 第10回 「恋（こひ）」の生活と 「魂乞い」・名前の民俗ほか、和歌
靈魂信仰（1） や物語から恋愛に関わる靈魂信仰
（生命観）を探る
- 第11回 「恋（こひ）」の生活と 前回の続きとまとめ
靈魂信仰（2）
- 第12回 「誕生」「成人」——年 昔の日本人にとっての「誕生」
齡通過儀礼と文学 「成人」の意義と文学への反映
（1）
- 第13回 「誕生」「成人」——年 前回の続きとまとめ
齡通過儀礼と文学
（2）
- 第14回 総括と授業内試験 話してきた例題のポイントを振り
返ったあと、まとめのテストを行
う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学に高校までの授業のイメージを持たずに、現代語訳でもいいので、日頃からその世界に親しんでほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに随時アップする資料プリントをもって代えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 %。その他（質問や、時々行うリアクションペーパーの内容等） 15 %

【学生の意見等からの気づき】

3年ぶりの開講のため、略します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

"Folk" (folklore) refers to the way of life and mindset that has been collectively formed in the lives of ordinary people in a certain community or a specific community and has been passed down through the ages.

increase. The range of "region (local)" can be set in various ways, such as one village for small and Japan in the world (global) for large. In this class, from the perspective of Japan in the world, the world of Japanese literature research that incorporates "folklore" that targets such "folklore" will be discussed in "Manyoshu," "Kojiki," and "Nihonshoki." We will introduce examples mainly from the literature of the upper generation and used, such as "Fudoki," "Kokin Wakashū", and "Genji Monogatari". Folklore Japanese literature research transcends the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works, and is the bottom of our hearts today.

Folklore Japanese literature research leaves behind a collective spirit that is thought to be transmitted to the bottom of our hearts today, transcending the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works. It can be said that it is an attempt to explore through the linguistic expressions that have been made. Because of this personality, it seems unsuitable for those who expect to pursue the artistry of "individuals" (one author or work).

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.
- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. I would like you to become familiar with the world on a daily basis, as you can use a modern translation without having the image of a class up to high school in classical literature.

Grading criteria

Final exam 85%. Others (questions, content of reaction papers sometimes asked, etc.) 15%

LIT200LA

文学と社会 L B

2017 年度以降入学者

梶 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

梶「文学と社会 LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。A よりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かした持続可能な地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とし、オンライン参加も可能にする予定の、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。気軽な質疑応答の時間や、（時々）リアクションペーパーにより感想を記す時間を十分に採り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	日本文学の民俗学的な見方について、概説
第 2 回	季節行事と文学（1）	具体例として、古典文学における七夕と、七夕関連行事・民俗について
第 3 回	季節行事と文学（2）	日本固有のタナバタ説話について／2 回のまとめ
第 4 回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の国」（1）	古事記の用例をめぐって、語の意味・由来、背景に考えられる民族移動・渡来歴史など
第 5 回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の国」（2）	別視点：「異族結婚」が多かった時代の記憶の反映／2 回のまとめ
第 6 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（1）	万葉集・記紀・風土記などに見える用例 明・暗両面性
第 7 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（2）	比較事例として沖縄離島における「ニライカナイ」を紹介／明暗両面の意味の考察
第 8 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（3）	異郷からの訪問者（神など）の特色／3 回のまとめ

第 9 回	「貴種流離譚」（1）	神（またはそれに近い高貴な存在）がさすらう物語の類型をめぐって
第 10 回	「貴種流離譚」（2）	古代的な生命観・霊魂信仰や異郷意識（他界観）との関わり／2 回のまとめ
第 11 回	「異郷」「他界」と「転生」	第 4 回～11 回にも関連する、日本人の生命観にかかわる考察
第 12 回	「神話」が生きる島（1）	祭事・信仰などに古代的要素が残っている日本の離島の例を紹介
第 13 回	「神話」が生きる島（2）	前回の続き
第 14 回	総括の授業と授業内試験	話してきた例題のポイントを振り返ったあと、まとめのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学と「民俗」との関連を知ることきっかけに、地域の伝統行事を見学することなども奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。随時、学習支援システムにアップする資料プリントをもって代えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 %。その他（質問、リアクションペーパー等）15 %。

【学生の意見等からの気づき】

3 年ぶりの開講のため、略します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

This class is same as "Literature and Society LA" by Kaji. However, the specific content is different as described in the "Class Plan". The content focuses on the "folk" (= folklore) part rather than A. A close-up introduction to the festivals and beliefs of the remote islands of Okinawa, which still retains the character of the mother of "literature" and is considered to be an important hint when considering the "ancientity" of Japanese literature. If I have more time, I would like to consider the role of festivals and linguistic tradition in the sustainable regional formation that make use of traditional culture.

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.
- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. We also encourage you to visit traditional events in the area by learning about the relationship between classical literature and "folklore".

Grading criteria

Final exam 85%. Others (questions, content of reaction papers sometimes asked, etc.) 15%

LIT200LA

文学と社会 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】

江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いにすること）のノウハウを解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について
2	テキスト『御存商売物』の解説	・外国人から見た江戸 ・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る
7	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の慣習 ・江戸の街並み
8	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の繁華街「吉原」 ・浮世絵と鑑賞の基礎知識

- 9 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・現在と異なる暦
・江戸の教養を支えた書物の読解
- 10 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の土産物
・江戸時代の夫婦喧嘩の読解
- 11 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の占い
・江戸のおまじないの読解
- 12 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の学問書
・江戸時代の情報伝達の読解
- 13 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸時代の流行り廃りの読解
・江戸の刑罰の読解
- 14 授業のまとめ
・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。
くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。くずし字読解の準備として 2 時間、復習に 2 時間、計 4 時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布します

【参考書】

くずし字読解のための参考文献は以下の 2 冊ですが、読解に必要なプリントは別途授業中に配布します。
・笠間影印叢刊行会『字かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 % 筆記試験（最後の授業時に一回）40 % 平常点（授業への取り組み・発言）20 % として評価します。
詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【Outline (in English)】

In this class, we read through the literary work "Gozonji-no-shobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in in the region & the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.

The main goal of this course is to understand the characteristic culture, customs, and sensations of the Edo period through the textbook "Gozonji-no-shobaimono".

Another goal is to be able to read simple publications and printed matter written in cursive script (Hentaigana).

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time, and read them before class. It takes 2 hours to prepare for reading comprehension and 2 hours to review, for a total of 4 hours.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40 %, Term-end examination 40 %, in class contribution 20 %

LIT200LA

文学と社会 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の絵入り本で読む百人一首

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

浮世絵が添えられた絵本『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。最近では競技としての知名度が上がってきた百人一首が、いつ、どのようにして成立し、また現在まで人々に愛されてきたのか。江戸時代の人々が楽しんだ百人一首を読み解き、和歌の解釈と描かれた歌人について学んでいきます。

【到達目標】

くずし字で書かれた和歌（ひらかなの部分とその字母）を判読し、解釈することが各受講生の目標です。

各自の担当する和歌について、1：字母を確認しながら翻字をする、2：解釈（意味や技法）する、という 2 点から考察・発表をし、『錦百人一首あづま織』という絵本の成立を理解し、和歌の知識を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめは百人一首と『錦百人一首あづま織』について講義を行います。その後は受講生がそれぞれ分担する和歌についての読解・解釈を順番に発表します。発表者以外はそれぞれの読解・解釈を準備しておき、発表内容に対して授業内掲示板で意見交換をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキスト『錦百人一首あづま織』
	百人一首とは何か	の発表順番決定
	くずし字読解の方法と解釈	
2	テキスト『錦百人一首あづま織』の構成について解説	テキストに関する講義
3	テキスト『錦百人一首あづま織』の読解方法	方法・内容
4	勅撰和歌集に関する講義 1 および受講者による発表 1 回目	・勅撰和歌集とは何か：八代集 ・担当者による発表
5	勅撰和歌集に関する講義 2 および受講者による発表 2 回目	・勅撰和歌集にまつわる逸話 ・担当者による発表
6	歌合に関する講義 1 および受講者による発表 3 回目	・歌合とは何か ・担当者による発表
7	歌合に関する講義 2 および受講者による発表 4 回目	・歌合に賭けた歌人たち ・担当者による発表
8	歌道に関する講義および受講者による発表 5 回目	・歌道とは何かー和歌の変化 ・担当者による発表

- 百人一首の中世写本に 関する講義および受講者による発表 6 回目
- 百人一首の近世写本に 関する講義および受講者による発表 7 回目
- 百人一首版本に関する 講義 1 および受講者による発表 8 回目
- 百人一首版本に関する 講義 2 および受講者による発表 9 回目
- 百人一首版本に関する 講義 3 および受講者による発表 1 0
- テキスト『錦百人一首あづま織』のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者にはこちらから発表分担となる和歌を指定します。受講生は各自が分担する和歌の翻字と読解・解釈を指定日までに提出してください。分担以外の和歌については、それぞれ読解しておいてください。各自の読解に基づいて発表内容に対する意見交換をします。くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。テキストのくずし字読解として 2 時間、授業で扱った和歌の字母確認・復習に 2 時間を毎回必要とします。

【テキスト（教科書）】

『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227>

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の 2 冊ですが、読解用のプリントは教材にアップロードします。文学と社会 LC 既習者は同じプリントになります。

・笠間影印叢刊行会『字かな』笠間書院

・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

分担発表の内容 30 % 平常点（授業内での意見内容）40 % 期末レポート 30 % として評価します。分担する和歌の翻字と読解・解釈の未提出、発表内容に関する意見交換がない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻字すること、内容を読み解くこと、どちらも謎解きのように楽しかった」という感想が寄せられています。くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもの。語学習得に似ているものの、ひと味異なる独特の達成感を味わって下さい。

【その他の重要事項】

関連部分があるので文学と社会 LC を履修していることが望ましいものの、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのどれかがあれば秋学期のみの履修も可能。

【Outline (in English)】

In this class, we read the original book of "Nishiki Hyakunin Isshu Azuma Ori" <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> with ukiyo-e. Hyakunin Isshu has been loved by people, and recently it has gained recognition as a sport. We will read Hyakunin Isshu which was made in the Edo period, and learn about the interpretation of waka and the singer drawn.

The main goal of this lesson is to read and interpret waka (the hirakana part and its character) written in cursive script.

About the waka poems that each person is in charge of

1: Transliterate while checking the character

2: Interpret (meaning and technique),

We will consider and present from these two points, understand the formation of the text, and deepen our knowledge of waka.

Students will be assigned a waka poem to be shared by the instructor. Students are requested to submit the transliteration, reading comprehension, and interpretation of the waka poems that they share by the designated date. Please read each of the waka poems other than the division. We will exchange opinions on the content of the presentation based on each person's reading comprehension.

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time and read them before class. It takes 2 hours to read the text and 2 hours to check and review the waka characters used in the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30 %), in-class contribution (40 %), and term-end examination (30 %)

However, if there is no transliteration of the shared waka poem, unsubmitted reading comprehension / interpretation, and no exchange of opinions regarding the content of the presentation, it will not be evaluated.

LIT200LA

文学と社会 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本近代現代文学—小説を読む技術

中澤 忠之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面による講義です。

（初回のみ Zoom によるオンライン講義です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第 3 回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第 4 回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第 5 回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治 10 から 20 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 6 回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治 30 から 40 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 7 回	文学史第 1 期（明治 20～40 年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。

第 8 回	文学史第 2 期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第 9 回	文学史第 3 期（1920 年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第 10 回	文学史第 3 期（1920 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 11 回	文学史第 4 期（1930 年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第 12 回	文学史第 4 期（1930 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 13 回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるのかを考察する。
第 14 回	まとめ	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人は TSUTAYA の棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはずです。AKB48 のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはずです。文学も同じです。小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の 3 冊を読み比べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に提出してもらうレポートが評価の主要な対象となります。各回ごとの課題（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後のレポートが 70 %、課題を 30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature. How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

【Learning activities outside of classroom】

Please read even a little literary work. I recommend reading while being aware of the genre. If you don't know the genre, check the shelves in the bookstore.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA

文学と社会 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文学における性表現と差別表現

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎週配信するオンデマンドのラジオ講義と資料配布によって進めていきます。課題の提出は、学習支援システム（HOPPII）の「課題」から行います（詳細は最初の講義で解説します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第 3 回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第 4 回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 5 回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 6 回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 7 回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第 8 回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第 9 回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。
第 10 回	差別表現と規制③	戦後の日本における差別の歴史を振り返る。

第 11 回 差別表現と規制④	差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。
第 12 回 差別表現と規制⑤	差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現（Metoo 運動など）を考える。
第 13 回 差別表現と規制⑥	最近話題になる嫌韓・嫌中の「ヘイトスピーチ」について考察する。
第 14 回 まとめ	これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。 また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話題は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。

ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に提出してもらうレポートが評価の主要な対象となります。各回ごとの課題（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後のレポートが 70 %、課題を 30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。
映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline (in English)】

【Course outline】【Learning objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

Our goal is to acquire a culture that allows us to understand topics such as freedom of expression and violence of expression through legal regulations and the history of expression.

【Learning activities outside of classroom】

Please contact literary works and video works. And since the topic of freedom of expression and expression regulation is always news, please contact the discussion in newspapers and the web.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を観賞しながら、原作小説を講読します。2021 年に劇場公開された以下の 6 作品を取りあげる予定です。

文学表現と映像表現を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を解説する力の獲得を目指します。

竹宮ゆゆこ『砕け散るところを見せてあげる』（SABU 監督）

西加奈子『漁港の肉子ちゃん』（渡辺歩監督）

村上春樹『ドライブ・マイ・カー』（濱口竜介監督）

佐藤正午『鳩の撃退法』（タカハタ秀太監督）

瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』（前田哲監督）

中山七里『護られなかった者たちへ』（瀬々敬久監督）

*劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンルの小説を深く読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的に表現することができるようになります。

加えて、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を観賞しながら、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品はすべて文庫化されていますので、事前に読んだ上で授業に臨む形がベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読 (1)	小説の講読&分析&考察
3	映画観賞 (1)	原作の映画鑑賞&分析&考察
4	原作小説の講読 (2)	小説の講読&分析&考察
5	映画観賞 (2)	原作の映画鑑賞&分析&考察
6	原作小説の講読 (3)	小説の講読&分析&考察
7	映画観賞 (3)	原作の映画鑑賞&分析&考察
8	原作小説の講読 (4)	小説の講読&分析&考察
9	映画観賞 (4)	原作の映画鑑賞&分析&考察
10	原作小説の講読 (5)	小説の講読&分析&考察
11	映画観賞 (5)	原作の映画鑑賞&分析&考察
12	原作小説の講読 (6)	小説の講読&分析&考察
13	映画観賞 (6)	原作の映画鑑賞&分析&考察
14	春学期授業のまとめ	春学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直すことで、作品の理解を深めるよう努めてください。

レポート提出のための事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う以下の文庫本。

- ・竹宮ゆゆこ『砕け散るところを見せてあげる』（新潮文庫 nex）
- ・西加奈子『漁港の肉子ちゃん』（幻冬舎文庫）
- ・村上春樹『ドライブ・マイ・カー』（文春文庫『女のいない男たち』収録）
- ・佐藤正午『鳩の撃退法』（小学館文庫）
- ・瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』（文春文庫）
- ・中山七里『護られなかった者たちへ』（宝島社文庫）

【参考書】

参考書・参考文献は指示します。

必要な資料は別途配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストや宿題はありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。

専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

本授業は曜日や時限を設けないオンライン授業となります。履修は抽選になります。春学期の抽選期間に必ず申し込みを行ってください。

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】**Outline and objectives**

We read the original novel after having watched movie work that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2021.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 titles after carefully selecting from the works released in 2021.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We aim to acquire the ability to read novels from the perspective of "what literature-specific expressions are."

Reading novels in a variety of genres representing contemporary Japanese literature, you will be able to extract, organize, analyze, and express in their own words various elements from the works as complex linguistic structures.

Please read the works carefully, take notes on what you notice, and summarize your questions.

Grading will be decided based on report 100 %.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：新海誠の文学世界

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 3 位、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えました。2019 年には最新作『天気の子』が封切られ、前作同様の評価を得ました。そして今秋、最新作『すずめの戸締まり』が公開予定で、期待が高まります。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人との繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。アニメーションというジャンルの枠を超えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとらえ直す必要があります。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作のノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者による映画版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的」に観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンごとに分析的に解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他人の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーションを合わせた形で行います。新海誠作品を初期から最新作まで（場合によっては作品の一部を）を観賞し、各シーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのはシーンを構成する一つひとつのカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーションや科白や対話）です。本授業では新海作品の言葉に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用しあい、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく見ていきます。

新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
2	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
3	『ほしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
4	『雲のむこう、約束の場所』	装置としての SF
5	『秒速 5 センチメートル』	風景と速度をめぐる物語
6	『星を追う子ども』	異界への移動と帰還
7	『言の葉の庭』	映像美学を支える文学性
8	『小説 言の葉の庭』	ノベライズの方法
9	短編作品 & CM 作品	新海誠のアザーワークス
10	『君の名は。』前半	すれ違いと入れ替わりの趣向をめぐる
11	『君の名は。』後半	共苦する魂のゆくえ
12	『天気の子』前半	東京オリンピック後のもう一つの未来
13	『天気の子』後半	人身御供譚としての構成
14	『すずめの戸締まり』	最新作について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アニメーションを観たり小説を読む際に、ただ受動的に観賞するのではなく、作品の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。実在する場所が物語のシーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

榎本正樹『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ』（KADOKAWA、2021 年）

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライズ作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速 5 センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』とも、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>

その他の参考書・参考文献や参考サイトは別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストや宿題はありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた新海監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。

可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

本授業は曜日や時限を設けないオンライン授業となります。履修は抽選になります。春学期の抽選期間に必ず申し込みを行ってください。

アニメーションや現代日本文学に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. In 2019, his latest work "Weathering With You" was released. And a new film "Suzume no Tojimari" will be released this fall. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints. The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher animation as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation. Please watch the films we will discuss in class repeatedly, take notes on what you notice, and summarize your questions. Grading will be decided based on report 100 %.

LIN200LA

音声学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野は「言語学」と呼ばれています。この「言語」の表現面である「音声を使ったコミュニケーション」のあらゆる側面を研究するのが音の科学、すなわち「音声学」です。

音そのものがある特定のイメージを喚起する現象を「音象徴」といいます。この授業では、音象徴という現象を題材に、「音声学」をできるだけ分かりやすく解説することを目指します。

【到達目標】

1. ヒトが音声を使って話すときに何が起きているか、個々の音（子音・母音）とその連続を発音するしくみを理解する。
2. 音がどのような音響振動として現れるか、障害音、共鳴音、圧力変化などの概念から理解する。
3. 音象徴の例を通して、母音や濁音の調音と音響を理解する。
4. 身近な音象徴の例を自ら発見し、分析する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういうものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、「音象徴」と呼ばれる現象の分析に入ります。具体的には、音声がある振る舞いをする時に「なぜそのような振る舞いをするのか」を、音声学で必要になる概念や道具立てを使って分析・研究・理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 1	言語とは
2	導入 2	音声とは
3	優しい音、ツンツンした音	どこでどのように発音するか
4	障害音、共鳴音、圧力変化	障害音、共鳴音の物理学的な定義
5	大きな音、小さい音	聞き取ってみる 調音してみる
6	母音の調音と音響	母音の発音の仕方と「大きさのイメージ」
7	濁音と向かい合う	聞き取ってみる 調音してみる
8	濁音の調音と音響	母音の発音の仕方と「大きい」イメージ
9	その他の音象徴 1	音象徴の具体例の「音声学」の概念による理解 1
10	その他の音象徴 2	音象徴の具体例の「音声学」の概念による理解 2

11	音象徴研究の実際 1	音象徴研究の例 1
12	音象徴研究の実際 2	音象徴研究の例 2
13	音象徴・音声学とその 関連分野	より広い視点から音象徴・音声学 を考える
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。発音するしぐみを理解し、再現できるよう努めてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』 ひつじ書房

川原繁人 (2018) 『ビジュアル音声』 三省堂

J.C. キャットフォード、竹林滋 ほか (訳) (2006) 『実践音声学入門』 大修館書店

国際音声学会 (編)、竹林滋・神山孝夫 (訳) (2003) 『国際音声記号ガイドブックー国際音声学会案内ー』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Language is a system of linguistic symbols that combines the expressive aspect of the form of speech with the content aspect of the form of meaning. The academic field that focuses on the clarification of this system is called "linguistics". The science of sound, or phonetics, studies all aspects of communication using speech, the expressive aspect of language.

The phenomenon in which sound itself evokes a certain image is called "sound symbolism". In this class, we aim to explain phonetics as clearly as possible using the phenomenon of sound symbolism as a subject.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To understand what happens when humans speak using speech sounds, and how individual sounds (consonants and vowels) and their sequences are pronounced.
2. To understand how sounds appear as acoustic vibrations, based on concepts such as inhibitory sounds, resonant sounds, and pressure changes.
3. To understand the articulation and acoustics of vowels and murmurs through examples of sound symbols.
4. To learn how to discover and analyze examples of familiar sound symbols.

【Learning activities outside of classroom】

Phonetics is just like sports. Even if you can't pronounce something, you can learn to do it with practice. Please try to understand the mechanism of pronunciation and try to reproduce it.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

PHL200LA

哲学ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン (1)	「イデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン (2)	『饗宴』アリストファネスの話
4	プラトン (3)	『饗宴』ソクラテスの話
5	西田幾多郎 (1)	『善の研究』-『知即愛』の命題
6	西田幾多郎 (2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎 (1)	『倫理学』-「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎 (2)	「矛盾の統一」としての人間存在
9	和辻哲郎 (3)	『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎 (4)	主体としての風土
11	ブーバー (1)	『我と汝』
12	ブーバー (2)	「汝」としての世界
13	ブーバー (3)	「本質行為」としての人間
14	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL200LA

哲学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエイトすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司	生命的自然観－自己形成的存在論の前哨として
3	その 2	今西錦司『生物の世界』を読む
4	アリストテレス	自己形成的存在論としての形而上学
5	その 2	アリストテレス『形而上学』を読む
6	自己形成的存在論の展開としての近代哲学	近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルトの近代的世界観	近代的主体二元論とは？
8	デカルト (2)	『省察』を読む
9	デカルト (3)	デカルトの機械論的自然観-「近代的分裂」の予告としての近代的主体二元論
10	「近代的分裂」の予告としての近代的主体二元論	近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル (2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル (3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル (4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。
今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL200LA

哲学ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。

哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学（Ⅰ）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 (哲学の出発点 1)	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 (哲学の出発点 2)	ソクラテスの無知の自覚

6	哲学の歴史 3 (哲学の出発点 3)	懐疑、驚き、絶望… (デカルト～ヤスパース)
7	哲学の歴史 4 (哲学の究極)	愛についての考察・アイデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 (哲学とは何か・まとめ)	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 (哲学と科学 1)	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 (哲学と科学 2)	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 (哲学と科学 3)	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 (哲学と科学 4)	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 (哲学と科学 5)	主体知と客体知・相補性
14	哲学 I まとめと学期末試験	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみることを。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験（レポート）（60 %）によって評価する。試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学（Ⅱ）では、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探究する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができよう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とことと「知る」とことの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることということがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリント配信を用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーストックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。できるだけ、分かりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出やコメントを重視する。課題やコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教

2	哲学の基本的性格 1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場
3	哲学の基本的性格 2 (宗教の予備学習 1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 (宗教の予備学習 2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 (哲学と宗教 1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 2 (哲学と宗教 2)	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 3 (哲学と宗教 3)	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 4 (哲学と宗教 4)	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 5 (哲学と宗教 5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福 1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福 2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福 3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各々2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020 年から 2022 年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2022 年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウィルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われている。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気醸し出している。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性的な問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980 年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1) 「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2) 「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3) 「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4) 「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	第1章 生きることの倫理①	・生きることの質（QOL）
3	第1章 生きることの倫理②	・健康であることの意味
4	第1章 生きることの倫理③	・死ぬことの意味
5	第1章 生きることの倫理④	・死に立ち会うこと
6	第1章 生きることの倫理⑤	・ペットロス
7	第1章 生きることの倫理⑥	・死への準備教育（Death Education）
8	第2章 「ケア」の倫理①	・「ケア」の思想①——メイヤロフ『ケアの本質』
9	第2章 「ケア」の倫理②	・「ケア」の思想②——義理ガン『もう一つの声』
10	第2章 「ケア」の倫理③	・〈心〉が傷ついた人のケア
11	第2章 「ケア」の倫理④	・スピリチュアルケア（spiritual care）——〈いたみ〉を分かち合うこと
12	第3章 支え合うことの倫理	・ケア意識の発達
13	第3章 支え合うことの倫理	・ケアする人を支えるために
14	まとめ	・「自己へのケア」から「他者へのケア」へ、そして「支え合いとしてのケア」へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的な問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000 年）
・森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020 年）
・Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加を見る小テスト（40 %）や授業内で行うレポート課題（30 %）と期末試験（30 %）によって、総合的に評価する。
〈要注意〉

・リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業内や学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVD など AV 機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわってれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「〈癒しと救い〉」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならないことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution(40 %).

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ケアの倫理からケアの形而上学へ

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020 年から 2022 年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2022 年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウイルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しく〉ない。雰囲気を醸し出しているといえよう。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980 年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・受講上の注意 ・「ケアの倫理」入門
2	第 1 章 暴力被害者のケア①	・〈生き残ること〉と〈生き延びること〉 ・「こども虐待」という〈社会・政治的暴力〉
3	第 1 章 暴力被害者のケア②	・「新たな傷つきし者」の出現——「社会・政治的トラウマ」の問題 ・〈情動を抱える生〉の〈ケアの倫理〉
4	第 2 章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の実①	・哲学的課題としての「認知症」 ・「認知症」が問いかけるもの
5	第 2 章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の実②	・「社会的疾患」としての「認知症」 ・「認知症」における〈こころ〉と脳
6	第 2 章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の実③	・認知症ケアの倫理
7	第 3 章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理①	・「孤独死」の現在 ・「ひとりで死ぬこと」の意味
8	第 3 章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理②	・「何も共有していない者たちの共同体」の倫理 ・〈他者としての死者〉を抱えて〈生き延びる〉こと
9	第 3 章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理③	・アボリアの経験 ・喪の倫理
10	第 4 章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理①	・〈からだ〉という問題圏 ・東洋的心身論の試み
11	第 4 章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理②	・富士谷御杖の思想 ・〈身〉と〈言〉 ・〈身〉と〈こころ〉 ・「言霊」の〈力〉
12	第 5 章 「生存の美学」としてのケア①	・アウトサイダーとアーと・セラピー ・ヘンリー・ダーガーの世界
13	第 5 章 「生存の美学」としてのケア②	・他者への配慮 ・レベッカ・ブラウンの「贈与」
14	第 5 章 「生存の美学」としてのケア③	・デヴィッド・グレーバーの価値論について ・贈与としてのケア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの形而上学』、大修館書店、2020 年

【参考書】

森村修『ケアの倫理』、大修館書店、2000 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（40 %）、小テスト（30 %）と期末試験あるいはレポート（30 %）によって、総合的に評価する。

※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、変更の可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、インターネットなどの必要な設備が必要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution(40 %).

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関して説明する。
第2回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の3つのレベルについて、その概要を説明する。
第3回	バイオエシックスの誕生	1970年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第4回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第5回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第6回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第7回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第8回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第9回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。

第10回	社会ダーウィニズムと人種主義	優生思想と社会ダーウィニズムとの関係を解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。
第11回	人工授精と体外受精	具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。
第12回	ウォーノック報告と自由主義	英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。
第13回	凍結保存の倫理的意味	配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。
第14回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第4版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50％）定期試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の視点から考察する。
第2回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態かを確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第3回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第4回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第5回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第6回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第7回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的視点から考察する。
第8回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第9回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。
第10回	パターンナリズム	自律原理に基づく医療とは対置されるパターンナリズムの内容とその問題点を明らかにする。

第 11 回 自己決定の問題	安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。
第 12 回 「判断能力」の有無	自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。
第 13 回 「人格」概念	人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。
第 14 回 まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。また授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門〔第 4 版〕』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %）定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学 L I では、情報社会における倫理的問題の中でも、特に「ネットにおけるコミュニケーション」、「メディア・リテラシー」、「情報技術とセキュリティ」、「インターネットと犯罪」「個人情報と知的財産」、「SNS と情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とします。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報と情報社会と情報倫理	授業ガイダンスを行う。また、情報と情報社会と情報倫理についての概説も行います。
第 2 回	情報通信社会とインターネット	情報通信社会とインターネットの進化と変遷を概観し、その中で生じてきた倫理的問題について検討します。
第 3 回	ネット時代のコミュニケーション	ネットにおけるコミュニケーションとマナーについて倫理的に検討します。
第 4 回	メディアの変遷とメディア・リテラシー	メディアの変遷とメディア・リテラシーについて倫理的に検討します。
第 5 回	情報技術とセキュリティ	情報セキュリティとネット被害の問題を倫理的に検討します。
第 6 回	インターネットと犯罪	ネット社会におけるトラブルと犯罪について倫理的に検討します。
第 7 回	個人情報とプライバシー	個人情報の流出と保護の問題について倫理的に検討します。
第 8 回	知的所有権とコンテンツ	知的財産の問題と知的財産権について倫理的に検討します。
第 9 回	企業と情報倫理	企業の社会的責任や企業倫理について倫理的に検討します。
第 10 回	科学技術と倫理	科学技術と倫理の問題や技術者倫理について検討します。
第 11 回	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	デジタルデバイドの問題とユニバーサルデザインについて倫理的に検討します。
第 12 回	SNS と情報モラル	ソーシャルネットワークサービス（SNS）と情報モラルについて倫理的に検討します。
第 13 回	情報社会とリテラシー	情報社会を生き抜くリテラシーについて倫理的に検討します。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係するプリントを配付します。

【参考書】

- ・高橋慈子他著『情報倫理—ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）
- ・情報教育学会『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』（実務出版）
- ・勢力尚雅編著『科学技術時代の倫理学』（梓出版社）
- ・大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。

評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。

倫理学 L II も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学Ⅱでは、＜身体＞というパースペクティブから、特に「人工知能（AI）」、「ロボット、アンドロイド、サイボーグ」という問題を中心に、他にも「技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）」、「2045 年問題」、「Google」、「SNS」、「ウェアラブル」など現代を生きるための情報社会に関連する様々な倫理的問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目指します。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と 2045 年問題	授業ガイダンスを行う。また、情報社会と技術的特異点の問題についての概説も行います。
第 2 回	技術的特異点という倫理学的問題（1） 一切の状況と指数関数的な爆発	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 3 回	技術的特異点という倫理学的問題（2） 来るべき未来と終末論	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 4 回	マスメディアの終焉とメディア史観	マスメディアの終焉とメディア史観について倫理的に検討します。
第 5 回	グーグルによる「汎知」の企図と哲学の終焉	「汎知」の思想史を概観しながら、「グーグル」という問題について倫理的に検討します。
第 6 回	ビッグデータの社会哲学的位相	ビッグデータをめぐる倫理的問題について検討します。
第 7 回	SNS によるコミュニケーションの変様と社会システム論	SNS によるコミュニケーションの変様について、社会システム論的見地を踏まえ、倫理的に検討します。
第 8 回	ロボットから倫理を考える	ロボットをめぐる倫理的問題について検討します。
第 9 回	人間をつくり変える？	クローン、サイボーグ、アンドロイドをめぐる倫理的問題について検討します。
第 10 回	人工知能とロボットの新たな次元	人工知能とロボットの展開（未来）について、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 11 回	情報社会において倫理は可能か？	情報社会において倫理は可能かどうかを、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 12 回	メルロ＝ポンティと身体哲学	メルロ＝ポンティと身体哲学について倫理的に検討します。
第 13 回	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学について検討します。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分らなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係するプリントを配付します。

【参考書】

- ・ニック・ポストロム著『スーパーインテリジェンス 超絶 AI と人類の命運』（日本経済新聞出版社）
- ・レイ・カーツワイル著『ポスト・ヒューマン誕生 コンピュータが人類の知性を超えるとき』（NHK 出版）
- ・大黒岳彦著『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）
- ・ジャン＝ガブリエル・ガナシア著『そろそろ、人工知能の真実を話そう』（早川書房）
- ・三宅陽一郎著『人工知能のための哲学塾』（BNN 新社）
- ・久木田水生他著『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会）
- ・岡本裕一郎著『12 歳からの現代思想』（ちくま新書）
- ・松田卓也著『2045 年問題 コンピュータが人類を超える日』（廣済堂新書）
- ・松尾豊著『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』（角川 EPUB 選書）
- ・弥永真生他編『ロボット・AI と法』（有斐閣）
- ・岡本裕一郎著『人工知能に哲学を教えたなら』（SB 新書）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。倫理学 L I も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those. In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業で行う。資料を配付し、それに沿って講義をする。講義終了後、コメントカードを書いてもらう。次回の授業では、最初にそのコメントカードに対してリアクションしながら復習をして、当日の内容に入ってゆく。このパターンで授業を進める。

学期中に 2 度ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：問題設定	単位取得方法、および講義の概要についての説明；他者という問題。なぜ「他者」が問題なのか。
第 2 回	デカルトの他者論（その 1）	デカルト哲学の紹介
第 3 回	デカルトの他者論（その 2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第 4 回	デカルトの他者論（その 3）	それまでの議論を振り返りつつ、あらためてデカルトにおける他者の不在について考察する。
第 5 回	フッサールの他者論（その 1）	フッサール哲学の紹介
第 6 回	フッサールの他者論（その 2）	フッサールの他者論へ 間主観性・共現前という問題
第 7 回	フッサールの他者論（その 3）	フッサールの他者論の問題点と可能性（自己移入論、超越論的間主観性という立論）
第 8 回	シェーラーの他者論（その 1）	シェーラー哲学の紹介、シェーラーの類推説・自己移入論批判
第 9 回	シェーラーの他者論（その 2）	「体験流」からの出発、共同感情について
第 10 回	ハイデガーの他者論（その 1）	ハイデガー哲学の紹介
第 11 回	ハイデガーの他者論（その 2）	顧慮の気遣い、本来的な他者

第12回	ディルタイの他者論 (その1)	ディルタイの思想の紹介
第13回	ディルタイの他者論 (その2)	ディルタイの他者論
第14回	レポートについての説明	レポートの書き方、内容について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2/3以上参加してください。
学期末のレポート（65%）と授業への積極的な貢献度【コメントカードの記述など】（35%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。
コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。
「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点は注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%)

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、サルトル、和辻哲郎、M・ブーバー、E・レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。
基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。
2回ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題（デカルト、カント、フッサールの問題設定）
第3回	サルトルの他者論（その1）	サルトル哲学の紹介
第4回	サルトルの他者論（その2）	サルトルの対他存在
第5回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とベルソナ」について
第6回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第7回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第8回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第9回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第10回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第11回	E・レヴィナスの他者論（その1）	レヴィナス哲学の紹介
第12回	E・レヴィナスの他者論（その2）	レヴィナスの他者論（顔、他者）

第13回 E・レヴィナスの他者 レヴィナスの他者論の問題点論（その3）

第14回 レポートについての説明 レポートのテーマ、書き方についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2/3以上参加してください。学期末のレポート（70%）と授業への積極的な貢献度〔コメントカードの記述など〕（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答します。

コメントペーパーを見ていると、9月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点に注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%).

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生きることと死ぬことを考える

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life) とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生／死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。現代では、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、新型出生前診断、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、自然の摂理という観点から見れば反自然的な行為と言いうる。だからと言って、簡単に善悪の判断を下すことはできない。私たちの日常生活においては、こうした論理や合理性だけでは解決し難い問題がたくさんある。「いのち」の問題は、私たちが生きていく中で、いずれどこかで関わる身近な問題であり、避けては通ることのできない重要な問題である。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

① 生命、死、存在、医療、QOL などの言葉を相互に関連づけながら思考する力を身につける。
② 生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。
③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

(1) Acquire the ability to think about life, death, existence, medical care, QOL, and other terms while relating them to each other.

(2) By learning the various values of bioethics, students will acquire the ability to grasp the ideas of various positions from multiple perspectives.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of issues. The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking skills as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後にコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明 生命倫理学とは？ 自然界の生命に医学（医療）が介入すること
第 2 回	倫理学の基礎理論①—幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？ 善く生きるの「善い」とは？
第 3 回	バイオエシックスの成立	医療と倫理 バイオエシックス／生命倫理はどのような背景から出てきたか
第 4 回	倫理学の基礎理論②—功利主義	「最大多数の最大幸福」 平等原理は存在するか？
第 5 回	人間の生命と人格①	生物学的生命と人格的生命 人格とは何か？
第 6 回	人間の生命と人格②	人格と責任能力 胎児に人格はあるか？ 自己意識と生存の権利
第 7 回	人間の生命と人格③	パーソン論とは 人工妊娠中絶は殺人か？
第 8 回	生存の義務と死ぬ権利	私たちは死ぬ権利をもつことができるか 自己決定権と生命 医療と人体実験
第 9 回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセント 情報開示と自己決定権
第 10 回	命は誰のものか？	医療とパターナリズム 患者の権利と医師の義務——生命の維持と自己決定権
第 11 回	医療と倫理と法	看護業務と医療事故 様々な医療事故の裁判例
第 12 回	誰が生／死を決定するのか	患者の自己決定権 宗教・信条と生命
第 13 回	医療の倫理と法	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤
第 14 回	まとめ	生きることと死ぬことの倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

塩野寛、清水恵子『生命倫理への招待』南山堂、2012 年。
曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。
H・T・エンゲルハート『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988/2005。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

【Outline (in English)】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death. Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/ medical issues.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「いのち」を多角的に考える

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていきながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点をもって、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

- ① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。
- ② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。
- ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

1) Acquire the ability to think about life, death, personality, medicine, religion, and other terms while relating them to each other in one's mind.

2) To acquire the ability to think about bioethics from various perspectives by learning about various ways of life and various values based on religious thought.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of the issues.

The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking ability as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後にコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生命倫理学とは何か？
第 2 回	生命の誕生と倫理①	生殖医療の倫理——生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第 3 回	生命の誕生と倫理②	生殖医療の倫理——体外受精と卵子の老化
第 4 回	生命の誕生と倫理③	生殖技術の倫理——精子バンクとインターネット
第 5 回	生命の誕生と倫理④	生殖技術の倫理——代理母の在り方
第 6 回	生命と医学①	再生医療とクローン技術
第 7 回	生命と医学②	遺伝子技術と生命倫理 デザイナーベビーとは
第 8 回	生命と医学③	遺伝子とゲノム ゲノム解析とは
第 9 回	生命と医学④	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換、LBGT
第 10 回	宗教と生命倫理①	宗教とは何か？ 宗教的価値観と倫理的判断
第 11 回	宗教と生命倫理②	神道における死後観と人間観
第 12 回	宗教と生命倫理③	ヒンドゥー教の死生観
第 13 回	宗教と生命倫理④	キリスト教と生命倫理
第 14 回	まとめ	宗教／非宗教から生命倫理を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。
小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50％）、期末試験またはレポート（50％）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学 L 1 から継続して受講すると理解しやすく、知識も深まります。

(倫理学 L2 を受講した後に、次年度の倫理学 L1 を受講することも可能です。)

ただし倫理学が初めての人でも、分かりやすく説明するので受講することは可能です。

It is recommended that students take Ethics LI before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【Outline (in English)】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎知識を学び、応用倫理学の内容に親しむとともに、具体的な倫理問題について議論する。

【到達目標】

倫理学の基本的な考え方や主要な理論（功利主義、義務論、徳倫理学、社会契約論、正義論）および応用倫理学の内容を把握し、それをもとに具体的な倫理問題について議論することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とコメントペーパーへの応答。

この授業は 4 月 28 日（火）から行います。

連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学を学ぶ意味	なぜ倫理学を学ぶ必要があるのかについて説明する
2	倫理学の三大理論（1） 功利主義	ミルの自由論を基軸に功利主義について説明する
3	倫理学の三大理論（2） 徳倫理学と義務論	アリストテレスとカントの倫理学の概要を紹介する
4	倫理学と政治哲学（1） 社会契約論	ホッブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を概説する
5	倫理学と政治哲学（2） 正義論	ロールズ、ノージック、サンデルらの正義論を紹介する
6	倫理学と公共哲学	公共性について倫理学の視点から論じる
7	応用倫理学（1）生命倫理学	脳死と臓器移植、医師・患者関係 フォームドコンセントを中心に説明する
8	応用倫理学（2）情報倫理学	情報化社会の倫理問題について紹介する
9	応用倫理学（3）環境倫理学	環境問題への倫理学からのアプローチについて紹介する
10	応用倫理学の多様な広がり	技術者倫理、研究倫理、脳神経倫理、宇宙倫理などを紹介する
11	対話型講義（1）市民の力	社会に対する市民の力について議論する
12	対話型講義（2）内部告発	内部告発について議論する
13	対話型講義（3）21 世紀の労働倫理	IT・AI の時代がもたらす新たな労働倫理について議論する

14 対話型講義（4）21 IT・AI の時代の教育のあり方に
世紀の教育 ついて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997 年
新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社、2000 年
宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫、2019 年
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社、1994 年
國分功一郎『近代政治哲学』ちくま新書、2015 年
児玉聡『功利と直観』勁草書房、2010 年
梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善、2002 年

【成績評価の方法と基準】

試験（50 %）、書評レポート（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生から意見がありませんでした。

【Outline (in English)】

This course deals with ethics and applied ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学の基本的文献の内容を紹介する。このなかから各自の興味のある文献を読み、レポートを書いてもらう。

【到達目標】

環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの構えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜、ディスカッションを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
2	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
3	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
4	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
5	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
6	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
7	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
8	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
9	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
10	環境論を問いなおす	環境論に批判を加えている文献を紹介する
11	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
12	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
13	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
14	都市の環境倫理をめざして	都市の環境倫理の構想を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のなかで紹介している文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】

試験（50 %）と書評レポート（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL200LA

論理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：論理的読解のトレーニング

佐々木 護

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の 2 点です。

- （1）新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
- （2）上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出答案は添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証術の 2 つの流れがあることを理解する。
第 2 回	論理的説明と論証	トゥールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第 3 回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第 4 回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第 5 回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。
第 6 回	隠れた前提	論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。
第 7 回	論証の評価（1）	論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。
第 8 回	論証の評価（2）	論証を検討する仕方を実践的に身につける。

第9回	誤った論証	論証の誤りの代表的なパターンを理解する。
第10回	論証への反論（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。
第11回	論証への反論（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第12回	文章読解と見解論述（1）	現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。
第13回	文章読解と見解論述（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第14回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 毎回、講義内容に関連した課題が課されます。
 毎回配信する資料にはよく目を通しておいください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002年）
 野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。
 評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「他の学生の答案を見て、意見や表現方法を学ぶことができたのが良かった」「文章を読むときにどういうところに気をつければよいかが分かってきた」「授業を通して、少しずつ自分の文章力がついてきたと実感した」などの感想がありました。

今まで文章を書く機会の少なかった受講者の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline (in English)】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The grading are evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

PHL200LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：批判的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批判的思考（クリティカル・シンキング）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出す訓練を行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- （1）統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- （2）与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出答案は添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第2回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押さえる。
第3回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第4回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第5回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。
第6回	価値前提	それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。
第7回	対策提言の評価（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。
第8回	対策提言の評価（2）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。

- 第9回 立論・批判・異論（1） 対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方をつける。
- 第10回 立論・批判・異論（2） 批判と異論の違いを見きわめる。
- 第11回 立論・批判・異論（3） あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。
- 第12回 立論・批判・異論（4） 前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
- 第13回 誤った二分法 二分法が陥りがちな罠を理解する。
- 第14回 試験日 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 配信された資料にはよく目を通しておいください。
 また、日頃から政治や経済、社会等のニュースに関心を持ち、批判的にチェックする習慣を身につけていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002年）
 野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。
 評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「文章の書き方などを学べたことはもちろん、毎回の授業や課題においてテーマとなる社会問題について考え文章にすることが、自分の意見を持つ大変いい機会となった」「ただ論理の立て方を学ぶだけではなく時事を用いて学ぶことができて大変勉強になった」などの感想がありました。
 テーマに関連したアウトプットを繰り返す授業形式を通して、考えて書く力がアップしたと感じる受講者が多かったようです。

【Outline (in English)】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The grading are evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

HIS200LA

東洋史 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古代の国家構造

岡安 勇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個人身身的支配）という概念で理解されている。しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。
 また「例外において本質が顕現する」（C. シュミット）と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。
 つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。
 漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

【到達目標】

中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周～秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかになる。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明確に理解できるようになる。
 なお、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。
 試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がり、教師と学生が常に対面できるという利点もある。
 講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）で行う。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。
 なお、授業の概要、重要事項などを確認するリアクションペーパーの提出を義務づけているが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二王の後とはなにか	授業内容:春学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について

第 2 回	伝説上の王朝について	堯・舜・禹の伝説上の帝王間の政権交替についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 3 回	実在する最古の王朝について	夏王朝から殷王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 4 回	殷王朝から周王朝へ	殷王朝から周王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 5 回	周王朝から秦王朝へ	周王朝から秦王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 6 回	秦王朝から漢王朝へ	秦王朝から漢王朝への王朝交替についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 7 回	漢王朝初期	漢王朝初期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 8 回	漢の武帝の初期	漢の武帝初期の二王の後礼遇の再建についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 9 回	漢の武帝期②	漢の武帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 10 回	漢の宣帝・元帝期	漢の宣帝・元帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 11 回	漢の成帝期	漢の成帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 12 回	王莽時代	王莽時代の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 13 回	後漢・三国時代 まとめ	後漢・三国時代の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 14 回	試験・まとめと解説	春学期講義のまとめおよび結論。試験についての説明を行った後、試験実施　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。
なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらおうとよい。

【テキスト（教科書）】

テキスト：岡安勇『中国古代の国家構造』Hoppii（学習支援システム）内の教材からダウンロードすること。
参考資料：Hoppii（学習支援システム）内の教材からダウンロードすること。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

参考図書などについてはテキストで紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 %

平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のためのリアクションペーパー提出）

合計：100 %

成績は毎時間に提出するリアクションペーパーによる平常点と期末試験で評価する。リアクションペーパーを一定枚数以上提出した者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

上記の予定が 2022 年度春学期に実行できず、春学期がオンラインでの開講となった場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを解明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できると思われる。そのため、履修者には通年での履修を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course is designed to lecture on "descendants of the previous two dynasties (二王之後)" in ancient China.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to understand the National structure of ancient China.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Short reports: 30%.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国古代の国家構造

岡安 勇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題に注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禪譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。

そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。

なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

【到達目標】

中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。

一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。

中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。

なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢語への理解や漢文の読み方が上達すると考えられる。

試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がり、教師と学生が常に対面できるという利点もある。講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）で行う。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。

なお、授業の概要、重要事項などを確認するリアクションペーパーの提出を義務づけているが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容:秋学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について	授業内容ガイダンスと君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 2 回	君臣間の席次	君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 3 回	階層化する君臣間の席次	階層化する君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 4 回	賓主間の席次	賓主間の席次のうち基本的なものについてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 5 回	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点の確認と理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 6 回	賓主間から君臣間の席次への移行	賓主間から君臣間への席次の移行の意味についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 7 回	複雑な賓主間の席次	複雑な賓主間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 8 回	複雑な賓主間の席次の上下関係	複雑な賓主間の席次の上下関係についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 9 回	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 10 回	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 11 回	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝の意味についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 12 回	賓客の席を与えられた臣下の変化	臣下が賓客の席に着くことにより皇帝との関係が主客関係に変化していくこととその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 13 回	席次から見た王朝交替まとめ	賓主間の席次に着く皇帝の意味から王朝交替のメカニズムを明らかにすることとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介 秋学期講義のまとめおよび結論
第 14 回	試験・まとめと解説	試験についての説明を行った後、試験実施　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。

なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらとうよい。

【テキスト（教科書）】

岡安勇『中国古代の国家構造』Hoppii（学習支援システム）内の教材からダウンロードすること。

参考資料：Hoppii（学習支援システム）内の教材からダウンロードすること。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

参考図書などについてはテキストに紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 %

平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のためのリアクションペーパー提出）

合計：100 %

成績は毎時間に提出するリアクションペーパーによる平常点と期末試験で評価する。リアクションペーパーを一定枚数以上提出した者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

上記の予定が2022年度秋学期に実行できず、秋学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを解明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できるとと思われる。そのため、履修者には通年での履修を勧める。

【Outline (in English)】

【Course Outline】This course is designed to lecture on the National structure in ancient China through the precedence between Sovereign and Subject, Guest and Host.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to understand the Dynasty Change in ancient China.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200LA

東洋史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、イスラームが誕生した7世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律、そして世界秩序観などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本学の方針に基づき、初回を除き、すべて対面授業とする（初回はオンライン授業）。ただし、大学からの指示により、オンライン授業に変更される可能性もある。課題等に対するフィードバックは、対面授業の際は教室で、オンライン授業の際は学習支援システムないしは google classroom で、それぞれ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	預言者ムハンマド	ムハンマドの生涯を概観する。
第3回	六信五行	イスラームの信仰箇条と行為義務を概観する。
第4回	聖典『クルアーン』	イスラームの聖典を概観する。
第5回	スンナ派とシーア派	イスラームの宗派を概観する。
第6回	ウマイヤ朝とアッバース朝	7世紀から8世紀までのイスラーム地域を概観する。
第7回	シャリーアとフィクフ	イスラームの法と法学を概観する。
第8回	ウラマーとマドラサ	イスラームの法の担い手とその養成方法を概観する。
第9回	マムルークとイクター制	9世紀から11世紀までのイスラーム地域を概観する。
第10回	スーフィーと聖者	イスラームの神秘主義と聖者を概観する。
第11回	スンナ派の時代	12世紀のイスラーム地域を概観する。
第12回	モンゴルの時代	13世紀のイスラーム地域を概観する。
第13回	オスマン朝とティムール朝	14世紀から15世紀までのイスラーム地域を概観する。
第14回	イスラームの普及	アフリカ、インド、東南アジア、中国へのイスラームの普及を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
 準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
 復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

【参考書】

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年。
 東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996 年。
 屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】

100%: 期末レポート

期末レポートは、turnitin を用いて、不正の有無を確認する。悪質な剽窃行為の場合、本科目は E 評価となり、停学（3 カ月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

前々年度の受講生から、「レジュメは概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは授業に出席しない（オンライン授業の場合は動画を視聴しない）受講生が出てくる可能性があるため、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

念のため、オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「東洋史 LII（イスラーム史 2）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report 100%.

HIS200LA

東洋史 L II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った 16 世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300 頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本学の方針に基づき、初回を除き、すべて対面授業とする（初回はオンライン授業）。ただし、大学からの指示により、オンライン授業に変更される可能性もある。課題等に対するフィードバックは、対面授業の際は教室で、オンライン授業の際は学習支援システムないしは google classroom で、それぞれ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第 2 回	オスマン史の全体像	オスマン史の時代区分（形成、拡張、変容、刷新、崩壊）を紹介する。
第 3 回	形成の時代 1 ー戦士集団から君侯国へ	13 世紀から 15 世紀中葉までのオスマン史を概観する。
第 4 回	形成の時代 2 ーコンスタンティノーブルの征服	コンスタンティノーブルの征服を概観する。
第 5 回	拡張の時代 1 ー世界帝国への道	15 世紀中葉から 16 世紀前半までのオスマン史を概観する。
第 6 回	拡張の時代 2 ースレイマンの時代	16 世紀中葉のオスマン史を概観する。
第 7 回	拡張の時代 3 ー支配組織の確立	16 世紀の支配組織を概観する。
第 8 回	変容の時代 1 ー兵制と税制の変容	16 世紀後半から 17 世紀前半までのオスマン史を概観する。
第 9 回	変容の時代 2 ー対外関係の変容	17 世紀後半から 18 世紀までのオスマン史を概観する。
第 10 回	刷新の時代 1 ー改革の序章	19 世紀前半のオスマン史を概観する。
第 11 回	刷新の時代 2 ー二つのナショナリズム	オスマン帝国のナショナリズムを概観する。
第 12 回	刷新の時代 3 ー社会秩序の変容	19 世紀中葉のオスマン史を概観する。

- 第13回 崩壊の時代 1 一専制と革命 19世紀後半から20世紀初頭までのオスマン史を概観する。
- 第14回 崩壊の時代 2 一帝国の終焉 20世紀前半のオスマン史を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
 準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
 復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。
 大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
 小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。
 鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。
 鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。
 永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998年。
 林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997年。
 林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

100%: 期末レポート

期末レポートは、turnitinを用いて、不正の有無を確認する。悪質な剽窃行為の場合、本科目はE評価となり、停学（3カ月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

前々年度の受講生から、「レジュメは概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは授業に出席しない（オンライン授業の場合は動画を視聴しない）受講生が出てくる可能性があるため、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

念のため、オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史 LI（イスラーム史 1）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report 100%.

HIS200LA

西洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

後藤 篤子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、古代ローマ帝国の宗教世界について学びます。多神教であったローマ帝国の一隅で、一神教のユダヤ教から分離し成立したキリスト教は、時に迫害されながらも発展していき、紀元後4世紀末にはローマ帝国の「国教」とされるに至ります。ただし初期キリスト教もまた多様性を孕んでおり、その中から中世カトリック＝キリスト教へとつながる流れが形成されていきます。それらの経緯を学ぶ中で、宗教的寛容・非寛容の問題や、宗教間対立・宗派間対立が生じる背景について考える力を養います。

【到達目標】

古代ローマの宗教世界に関する基本的知識を習得し、ローマの伝統宗教が「国家宗教」と言われる理由、初期カトリシズムの形成過程、ローマ帝国におけるキリスト教徒「迫害」の実態とその変化の要因、ローマ皇帝の「改宗」がローマ帝国の宗教世界に与えた種々の影響などについて、考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進め、講義レジュメは授業の数日前までに学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業で全体講評・質疑応答を行います。ただし、当該回の講義時間を圧迫し過ぎる恐れがある場合は、学習支援システムの授業内掲示板等を利用したフィードバック方法に切り換えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「異教」という用語、および古代ローマ史の大きな流れについて説明する。
第2回	古代ローマの「国家宗教」	古代ローマの伝統的宗教観を史料から読み取り、アウグストゥスの宗教政策を概観する。
第3回	ローマ帝政前期の宗教世界の多様性	種々の「東方密儀宗教」の隆盛と、属州各地の「土着宗教」の存続について概観する。
第4回	一神教の出現	ユダヤ略史と古代ユダヤ教の確立について概観する。
第5回	キリスト教の成立	イエスの死後、ユダヤ教から分離してキリスト教が成立していく過程を概観する。
第6回	初期キリスト教世界の展開	パウロの思想およびパウロ以後の状況について概観する。
第7回	初期キリスト教世界の多様性	「異端」の出現と初期カトリシズムの形成について概観する。
第8回	1～3世紀初頭のローマ帝国とキリスト教の関係	帝政前期のキリスト教徒迫害事例を概観し、その実態を考える。

第9回 「3世紀の危機」と宗教世界の変化	「軍人皇帝」たちの宗教的模索、新プラトン主義、マニ教、禁欲主義への志向について概観する。
第10回 迫害から公認へ	「最後のキリスト教徒大迫害」を概観し、コンスタンティヌス大帝の「改宗」について考える、
第11回 ローマ帝国の「キリスト教化」の進展	コンスタンティヌス帝以後、テオドシウス1世による国教化に至るまでの諸皇帝の宗教政策を概観する。
第12回 「異教」の終焉？	皇帝の「改宗」が「異教」世界に与えた影響について考える。
第13回 古代キリスト教から中世キリスト教へ	国家権力との結びつきがキリスト教世界に与えた影響について考える。
第14回 試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義レジュメは前もって学習支援システムの教材欄にアップするので、事前によく目を通し、知らない人名や事項についてはできる限り自分で調べたうえで講義に臨むこと。授業後は講義内容や質疑応答等を踏まえてレジュメを見直し、疑問点が残っていたり新たな疑問点が出てきた場合は、まず参考書などで自分で調べてみる。それでも残る疑問点については授業時に質問して解決を図ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義内容および関連史料・図版等を記載したレジュメのPDFファイルを、学習支援システムを介して事前配布します。

【参考書】

弓削達『ローマ帝国とキリスト教』（世界の歴史5）、河出文庫、1989年。
小川英雄『ローマ帝国の神々―光はオリエントより』、中公新書、2003年。
山我哲雄『聖書時代史―旧約篇』、岩波現代文庫、2003年。
佐藤研『聖書時代史―新約篇』、岩波現代文庫、2003年。
後藤篤子「ローマ帝国における『異教』とキリスト教」、歴史学研究會編『地中海世界史1・古代地中海世界の統一と変容』（青木書店、2000年）所収。
その他の参考文献は、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、平常点（リアクションペーパーの提出等）20%で評価します。
期末筆記試験は、基本的知識の習得度を確認するための語句等の説明50点、到達目標に即して事前発表する幾つかの論題から1題を選択して答える論述問題50点とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< **Course Outline** > This course deals with the history of religions in ancient Rome and the problem of 'Christianization' of the Roman Empire.

< **Learning Objectives** > By the end of the course, students are expected to acquire accurate knowledges of religions in the Roman Empire, including early Christianity, and to be able to explain the historical process of the so-called 'Christianization' of the Roman Empire.

< **Learning Activities outside of Classroom** > Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< **Grading Criteria** > Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高澤 紀恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史家たちはヨーロッパの過去に対してどのような問いを投げかけ、どのように歴史を描こうとしてきたのでしょうか。この授業は、二宮宏之『マルク・ブロックを読む』を共通テキストに、フランスと日本の歴史家たちの営みから、この問題を考えたいと思います。ヨーロッパの歴史に親しむだけでなく、歴史を学ぶ意味、歴史を捉える方法について一緒に学んでいきましょう。

【到達目標】

歴史が過去に問いかける人の営みによって描かれ、伝えられることを、ひとりのフランス人歴史家（マルク・ブロック）とひとりの日本人歴史家（二宮宏之）との知的対話を通して学びましょう。それはまた、中・近世のヨーロッパについての知見を深め、日本・フランスの二〇世紀史について学ぶことに繋がるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の開始までにテキストを読んできてください。

第一回目に担当を決め、二回目以降は担当者による発表、質疑、議論によって授業を進めます。レジュメは、必ず前日までに学習支援システムにアップしてください。レジュメの書き方などは初回授業で説明します。人数が多い場合は、グループ報告になります。毎回、出席をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。そこで出された質問などへの応答（フィードバック）は、次の授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介 報告グループの割り当て
第2回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(1)	講読・質疑・解説
第3回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(2)	講読・質疑・解説
第4回	レジスタンスを考える	ディスカッション
第5回	第二講「学問史のなかのブロック」(1)	講読・質疑・解説
第6回	第二講「学問史のなかのブロック」(2)	講読・質疑・解説
第7回	第三講「作品の仕組みを読む」(1)	講読・質疑・解説
第8回	第三講「作品の仕組みを読む」(2)	講読・質疑・解説
第9回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(1)	講読・質疑・解説
第10回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(2)	講読・質疑・解説
第11回	第五講「生きられた歴史」(1)	講読・質疑・解説

第12回 第五講「生きられた歴史」(2)

第13回 20世紀の学問を考え ディスカッション

第14回 総括 小エッセイの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生に割り当てて、テキストの概要を報告してもらいますので、事前にテキストを入手し、読んできて下さい。

自分は何の箇所を担当したいかを考えながら、疑問をもちながら読むことをおすすめします。

本授業の予習・復習時間は、各二時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店、(岩波現代文庫版) 2016年。

【参考書】

高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮——「社会史誕生」の歴史的位相」『思想』1048号、2011年10月号。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表(40%)

議論への参加(20%)

最終回におけるエッセイ(40%)

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業ですので、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to understand how historians have treated and described the past of Europe. We will focus on the struggle of Japanese and French historians in the 20th century and today like Marc Bloch, Hiroyuki Ninomiya and so on.

Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the class. Your study time will be more than four hours for a class at least.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

Presentation (40%), the quality of the performance in the class (20%), and a final essay (40%).

HIS200LA

西洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル:

新井 隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀末から20世紀前半にかけて、欧米列強による植民地獲得競争が激化し、アフリカやアジアなど世界各地に欧米列強や日本が勢力を拡大させていきました。さらに、植民地支配の流れは、太平洋の島々にも押し寄せていきました。欧米諸国や日本と太平洋世界の関わりには、植民地化以前にも、探検航海や捕鯨船、貿易商人、宣教師などによるものがあり、時代を経ながら羨望と侮蔑が入り混じっていったのです。本授業では、これら太平洋の島々に対する欧米諸国や日本の認識について、俯瞰的な視野で学習していきます。

【到達目標】

太平洋世界に対する欧米諸国や日本の認識の変遷について、歴史的な背景を踏まえながら自らの理解が深まることを目標とします。西洋や日本の「他者」に対するイメージは、しばしば羨望と侮蔑が入り混じるものですが、そうした他者認識の方法は太平洋の島々に対しても顕著なものでした。この授業では、太平洋に関する映像や図像などに注目することで、西洋世界の他者認識の変遷が掴めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では内容理解の確認とフィードバックのために、適宜ワークシートを配布するので、各自授業内容のポイントを振り返りながら適宜気づいた点や気になった点を書き込んで提出してもらいます。ワークシートの記載内容は、授業のフィードバックに活用すると同時に、期末試験の際に参照可とするので、各自その点を踏まえた上で取り組むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要説明ならびに簡単なアイスブレイク
第2回	西洋と太平洋の邂逅(I) 「開かれた海」における人の移動と西洋による太平洋イメージの登場	接触以前における太平洋世界の概要に触れながら、西洋側の太平洋世界に対するイメージがはじめは曖昧なかたちしか持っていなかったことを確認します。
第3回	西洋と太平洋の邂逅(II) 徐々に浮かび上がる太平洋に対する西洋のまなざし	大航海時代をきっかけに太平洋と関わりを持つようになった西洋世界が数々の航海を通して、この大洋の概要を掴もうとしたことを理解します。
第4回	浮き彫りになる太平洋の全体像と探検航海 西洋世界における探検航海の意味	ようやく太平洋横断が可能になった西洋がクックをはじめとする探検航海の進展により、さらに明確な太平洋像を作り上げていったことを押さえます。

第 5 回	強まる西洋と太平洋世界のつながり (I) 捕鯨船、貿易、キリスト教伝道	探検航海後に登場した捕鯨船や貿易、キリスト教伝道が進展するにつれて、西洋から見た太平洋世界には、羨望と侮蔑が入り混じっていたことを理解します。
第 6 回	強まる西洋と太平洋世界のつながり (II) 太平洋における資本主義の拡大と海のグローバル化	西洋が太平洋世界と関わる中で形成されたヒトやモノの動きは、確かに双方の世界の結びつきを強めました。しかし、その裏には前者による後者の搾取という側面があったことを改めて確認します。
第 7 回	西洋諸国による太平洋の分割 拡大する植民地化の波と太平洋世界	19 世紀末から 20 世紀はじめにかけて、欧米列強は世界各地で植民地獲得競争に明け暮れ、その波は太平洋世界をも飲み込んでいきました。ここでは、欧米諸国による本格的な太平洋進出が現地社会の在り方を大きく変容させたことを理解します。
第 8 回	南洋をまなざす日本の眼 日本と太平洋の関わり	植民地支配の潮流が世界を覆う中で、日本は国際連盟の C 式委任統治領として南洋群島を支配下に置くことになります。ここでは、欧米諸国の太平洋認識にも触れつつ、日本の認識にも太平洋に対する羨望と侮蔑が入り混じっていた様子を確認します。
第 9 回	軍事衝突の舞台となった太平洋 太平洋における日米の相剋	欧米列強や日本が太平洋にも勢力を伸張させる中で、やがて軍事的対立を深めていく過程を太平洋認識との関わりで理解します。
第 10 回	太平洋に対する列強諸国の軍事的まなざしの系譜 (I) 植民地支配・戦争・冷戦をくぐった太平洋の島々	第二次世界大戦後の太平洋（ミクロネシア）では、アメリカが国際連合下の戦略的信託統治領として、同地域を管轄していました。ここでは、太平洋の島々が日米を中心とする各国から軍事的な要衝として認識されてきたことの歴史的系譜を掴みます。
第 11 回	太平洋に対する列強諸国の軍事的まなざしの系譜 (II) 核実験の場と化した太平洋と映画の表象	戦後アメリカやフランス、イギリスなどが太平洋の島々で多くの核実験を実施しました。その影響は実際の被害だけでなく、映像作品などを通じた太平洋認識にも及ぶものであったことを理解します。
第 12 回	南国の楽園としての太平洋イメージ (I) 観光化される太平洋	欧米諸国による太平洋イメージの系譜を眺めてみると、憧憬・羨望と侮蔑が隣り合わせになって登場してきます。そうした認識は植民地化や戦争を通じて醸成されたとともに、観光化によってさらに強化されているということを確認します。
第 13 回	南国の楽園としての太平洋イメージ (II) 南国の楽園としてのハワイ・グアム	太平洋の観光化には、しばしば「南国の楽園」という他者イメージが強く作用しています。ここではハワイやグアムの事例を取り上げながら、特に日米による太平洋認識の一端を確認します。
第 14 回	島嶼国「独立」に見る太平洋イメージ 狭小な存在として認識される太平洋世界（マイクロ・ステートと MIRAB 経済）	第二次世界大戦後にも欧米諸国による支配の影響が続いていた太平洋地域ですが、これまで見てきた太平洋認識がどのようなかたちで残存しているのか、島嶼国「独立」後の様子を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。参考書の欄にあげた文献や授業中に紹介した文献などを自主的に読み、授業で取り上げるテーマについての理解を深めましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

- ・石川榮吉『日本人のオセアニア発見』平凡社、1992 年 5,600 円
- ・石森大知・丹羽典生編著『エリア・スタディーズ 176 太平洋諸島の歴史を知るための 60 章—日本とのかかわり』明石書店、2019 年 税別 2,000 円
- ・印東道子編著『エリア・スタディーズ 51 ミクロネシアを知るための 60 章【第 2 版】』明石書店、2015 年 税別 2,000 円
- ・春日直樹編『太平洋世界叢書 2 オセアニア・ポストコロニアル』国際書院、2002 年 税別 2,800 円
- ・金澤周作監修・藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年 税別 3,200 円
- ・ジェームズ・クック（増田義郎訳）『クック 太平洋探検 1～6』岩波文庫、2004～2005 年 税別各 800 円
- ・小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史「近現代」』ミネルヴァ書房、2011 年 税別 2,800 円
- ・佐藤幸男編『太平洋世界叢書 1 世界史のなかの太平洋』国際書院、1998 年 税別 2,800 円
- ・塩田光喜『太平洋文明航海記—キャプテン・クックから米中の制海権をめぐる争いまで』明石書店、2014 年 税別 2,200 円
- ・エティエンヌ・タイユミット（増田義郎監修、中村健一訳）『知の再発見双書 33 太平洋探検史—幻の大陸を求めて』創元社、1993 年 1,359 円
- ・瀧田佳子編『変貌するアメリカ太平洋世界 6 太平洋世界の文化とアメリカ—多文化主義・土着・ジェンダー』彩流社、2005 年 税別 3,800 円
- ・中山京子編著『エリア・スタディーズ 105 グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』明石書店、2012 年 税別 2,000 円
- ・増田義郎『太平洋—開かれた海の歴史』集英社新書、2004 年 税別 700 円
- ・矢口祐人『ハワイの歴史と文化—悲劇と誇りのモザイクの中で』中公新書、2002 年 税別 840 円
- 『憧れのハワイ—日本人のハワイ観』中央公論新社、2011 年 税別 2,000 円
- ・山内昌之・古田元夫編『日本イメージの交錯—アジア太平洋のトボス』東京大学出版会、1997 年 税別 1,800 円
- ・山口誠『グアムと日本人—戦争を埋立てた楽園』岩波新書、2007 年 税別 740 円
- ・山中速人『イメージの「楽園」—観光ハワイの文化史』筑摩書房、1992 年 税別 1,359 円
- 『ハワイ』岩波新書、1993 年 税別 620 円
- 『世界史リブレット 64 ヨーロッパからみた太平洋』山川出版社、2004 年 税別 729 円
- ・吉岡政徳・石森大知編著『エリア・スタディーズ 82 南太平洋を知るための 58 章』明石書店、2010 年 税別 2,000 円
- ・和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014 年 税別 3,000 円

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点（毎回のワークシートの提出状況・記述状況、受講態度）30 %ならびに試験 70 %の割合で、(1) 毎回の授業に積極的に参加しているかどうか (2) 太平洋をめぐる欧米諸国や日本の認識について関心と理解が深められているかどうかを判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業は西洋史 LB との関わりが大きいので、関心のある学生は西洋史 LB の受講も勧めます。

【Outline (in English)】

授業概要（Course outline）

From the end of the 19th century to the first half of the 20th century, the race to acquire colonies by Western powers intensified, and Western powers and Japan expanded their power in Africa, Asia, and other parts of the world. The involvement of Western nations and Japan with the Pacific world, even before colonization, was through exploratory voyages, whaling ships, traders, and missionaries, and over the ages, envy and contempt were mixed together. The aim of this course is to help students acquire a bird's-eye view about Western and Japanese perceptions of these Pacific islands.

到達目標 (Learning Objectives)

The goal of this course is to deepen our own understanding of the change of Western and Japanese perceptions toward the Pacific world in the context of historical background. Western and Japanese images of the “other” have often been a mixture of envy and contempt, and this way of perceiving the other has also been evident in the Pacific islands. At the end of the course, students are expected to grasp a part of the change of the Western world's perception of the “other”.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Students are encouraged to deepen their understanding of the topics to be covered in the class by independently reading the references listed in the reference section and other literature introduced in the class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution (submission and description of worksheets at each session, and course attitude): 30%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

新井 隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀前半にかけて、欧米列強による植民地獲得競争が激化し、アフリカやアジアなど世界各地に欧米列強や日本が勢力を拡大させていきました。その結果生じた列強間の対立はやがて二度の世界大戦につながり、太平洋の島々にも植民地支配と戦争が大きな影響を与えることになりました。本授業ではこれらの歴史的背景を踏まえた上で、太平洋の地域形成について、特に 19-20 世紀における日米との関わりを中心に学習します。

【到達目標】

19-20 世紀における太平洋地域形成の流れについて、歴史的な背景を踏まえながら、自らの理解が深まることを目標とします。現在太平洋に関する名称については、オセアニアやミクロネシア、ポリネシア、メラネシアなどいくつかの呼称が用いられています。これらの呼び名が用いられるようになった背景には、欧米諸国や日本による植民地支配や戦争の影響が色濃く見られます。この授業では、太平洋をめぐる各国の相剋の事例をいくつか取り上げながら、太平洋地域形成の流れが掴めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では内容理解の確認とフィードバックのために、適宜ワークシートを配布するので、各自授業内容のポイントを振り返りながら適宜気づいた点や気になった点を書き込んで提出してもらいます。ワークシートの記載内容は、授業のフィードバックに活用すると同時に、期末試験の際に参照可とするので、各自その点を踏まえた上で取り組むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要説明ならびに簡単なアイスブレイク
第 2 回	西洋と太平洋の関わり (I) 西洋世界の太平洋認識のはじまり	大航海時代からクックらによる探検航海の進展までを通じて、西洋世界が太平洋を認識するようになり、関わりを深めていく過程を概観します。
第 3 回	西洋と太平洋の関わり (II) 西洋世界による太平洋像の把握	数々の探検航海により太平洋の全体像を把握していった西洋世界が捕鯨船、貿易、キリスト教伝道、植民地化などを通じて、一つの地域として太平洋を認識していく過程を押さえます。

第 4 回	西洋諸国による太平洋進出の論理 列強による世界分割の論理と太平洋の地域形成	19 世紀末から 20 世紀はじめにかけて、欧米列強は世界各地で植民地獲得競争に明け暮れ、太平洋地域でも各国の勢力争いが繰り広げられました。ここでは欧米諸国や日本が太平洋に各々の勢力を伸張させたねらいを押さえながら、太平洋の地域形成の流れを確認します。	第 14 回	太平洋をめぐる地域形成の系譜とオセアニア・オリエンタリズム 太平洋を語る主体とは	太平洋をめぐることは、これまでに欧米諸国や日本から様々な名称で呼ばれてきました。ここでは、太平洋をめぐる呼称の裏に、植民地支配や戦争など様々な歴史的背景が絡んでいたことを改めて確認するとともに、そうした呼称の主体が太平洋の地域形成と密接に関わっていたことを理解します。
第 5 回	アメリカによる太平洋進出の論理 (I) マニフェスト・デスティニー (明白なる天命) と西漸運動の拡大	アメリカ合衆国の領土拡大と密接な関わりを持っていたマニフェスト・デスティニーが太平洋への進出にもつながっていったことを確認します。	【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。参考書の欄にあげた文献や授業中に紹介した文献などを自主的に読み、授業で取り上げるテーマについての理解を深めましょう。		
第 6 回	アメリカによる太平洋進出の論理 (II) 太平洋におけるアメリカの覇権拡大の端緒	19 世紀末の米西戦争やハワイ王国の転覆・併合を通して、海外領土の獲得に踏み切っていくアメリカ合衆国の太平洋との関わりについて、軍事的政治的な観点を踏まえて理解します。	【テキスト (教科書)】 教科書は特に指定しない。		
第 7 回	日本による太平洋進出の論理 (I) 日本のミクロネシア占領と南洋群島	日本は第一次世界大戦を契機にミクロネシア地域を軍事占領し、のちに「南洋群島」として支配下に置きます。ここでは、日本が南洋群島として同地域を規定していく過程を概観します。	【参考書】 ・麻田貞雄『両大戦間の日米関係―海軍と政策決定過程』東京大学出版会、1993 年 定価 7,828 円 ・麻田貞雄編・訳『マハン海上権力論集』講談社学術文庫、2010 年 税別 920 円 ※同書は『アメリカ古典文庫 8 アルフレッド・T・マハン』研究社出版、1977 年をもとに「解説」などの加筆修正を行い、再編集されたものである ・浅野豊美編『南洋群島と帝国・国際秩序』慈学社出版、2007 年 税別 6,000 円 ・ロニー・アレキサンダー『大きな夢と小さな島々―太平洋島嶼国の非核化にみる新しい安全保障観』国際書院、1992 年 3,200 円 ・池上大祐『アメリカの太平洋戦略と国際信託統治―米國務省の戦後構想 1942～1947』法律文化社、2014 年 税別 3,700 円 ・石森大知・丹羽典生編著『エリア・スタディーズ 176 太平洋諸島の歴史を知るための 60 章』明石書店、2019 年 税別 2,000 円 ・今泉裕美子「日本の軍政期南洋群島統治 (1914-22)」『国際関係学研究』(17) (別冊)、1990 年 ―「日本軍による支配の実態と民衆の抵抗―ミクロネシア」『歴史評論』(508)、1992 年 ―「南洋群島委任統治政策の形成」大江志乃夫・浅田喬二ほか編『岩波講座 近代日本と植民地 4 統合と支配の論理』岩波書店、1993 年 ―「太平洋の「地域」形成と日本―日本の南洋群島統治から考える」大津透・桜井英治・藤井譲二ほか編『岩波講座 日本歴史 第 20 巻 地域論 (テーマ巻 1)』岩波書店、2014 年 ・印東道子編著『エリア・スタディーズ 51 ミクロネシアを知るための 60 章【第 2 版】』明石書店、2015 年 税別 2,000 円 ・遠藤泰生・油井大三郎編『変貌するアメリカ太平洋世界 1 太平洋世界の中のアメリカ―対立から共生へ』彩流社、2004 年 税別 3,800 円 ・大庭三枝『アジア太平洋地域形成への道程―境界国家日豪のアイデンティティ模索と地域主義』ミネルヴァ書房、2004 年 税別 6,000 円 ・春日直樹編『太平洋世界叢書 2 オセアニア・ポストコロニアル』国際書院、2002 年 税別 2,800 円 ・春日直樹編『オセアニア・オリエンタリズム』世界思想社、1999 年 税別 3,500 円 ・金澤周作監修・藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年 税別 3,200 円 ・キース・L・カマチョ (西村明・町泰樹訳)『戦禍を記念する―グアム・サイパンの歴史と記憶』岩波書店、2016 年 税別 5,400 円 ・紀平英作・油井大三郎編著『シリーズ・アメリカ研究の越境 第 5 巻 グローバリゼーションと帝国』ミネルヴァ書房、2006 年 税別 3,500 円 ・ジェームズ・クック (増田義郎訳)『クック 太平洋探検 1～6』岩波文庫、2004～2005 年 税別各 800 円 ・熊谷圭知・塩田光喜編『マタンギ・パシフィック―太平洋島嶼国の政治・社会変動』アジア経済研究所、1994 年 4,800 円 ・小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉―ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂、1994 年 定価 3,811 円 ・小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』ミネルヴァ書房、2011 年 税別 2,800 円 ・酒井一臣『近代日本外交とアジア太平洋秩序』昭和堂、2009 年 税別 4,700 円 ・佐藤幸男編『太平洋世界叢書 1 世界史のなかの太平洋』国際書院、1998 年 税別 2,800 円		
第 8 回	日本による太平洋進出の論理 (II) 日本の南洋群島支配と太平洋地域形成	植民地支配の潮流が世界を覆う中で、日本は国際連盟の C 式委任統治領として南洋群島を支配下に置くことになります。ここでは、日米の政治的な緊張関係の醸成が太平洋の地域形成に与えた影響を理解します。			
第 9 回	日米の軍事的相剋と太平洋地域形成の容変 太平洋における日米の軍事的なせめぎ合い	日米が互いに太平洋に勢力を伸張させる中で、やがて軍事的対立を深めていく過程を太平洋地域形成との関わりで理解します。			
第 10 回	戦後太平洋世界における地域形成 (I) 戦略的信託統治領としての太平洋	第二次世界大戦後の太平洋 (ミクロネシア) では、アメリカが国際連合下の戦略的信託統治領として、同地域を管轄していました。ここでは、冷戦対立が深まる戦後世界における太平洋地域形成について理解を深めます。			
第 11 回	戦後太平洋世界における地域形成 (II) 冷戦下における太平洋の島々と核実験	戦後アメリカやフランス、イギリスなどが太平洋の島々で多くの核実験を実施しました。その影響について、戦後における太平洋地域形成との関わりで理解します。			
第 12 回	太平洋島嶼国の「独立」と地域形成 (I) 太平洋における脱植民地化の進展と課題	1970 年代から 90 年代にかけて、太平洋地域でも脱植民地化の流れが進み、「独立」を達成する国も登場してきます。しかし、その独立に至る過程を眺めてみると、大国との関係構築が決して一筋縄ではいかなかった様子が見えてきます。ここでは、主に戦後におけるアメリカと太平洋島嶼国・地域との関係構築の変遷を追っていきます。			
第 13 回	太平洋島嶼国の「独立」と地域形成 (II) 軍事化・観光化された「南国の楽園」	太平洋の島々では、しばしば「南国の楽園」という他者イメージが強く作用することで観光化が進んだり、主に米軍による島の軍事化が推進されたりしてきました。ここではハワイやグアムの事例を取り上げながら、太平洋地域における軍事化・観光化と地域形成のつながりを理解します。			

・塩田光喜編『海洋島嶼国家の原像と変貌』アジア経済研究所、1997年 定価 4,738 円
・塩田光喜『太平洋文明航海記—キャプテン・クックから米中の制海権をめぐる争いまで』明石書店、2014 年 税別 2,200 円
・清水昭俊・吉岡政徳編『オセアニア 3 近代に生きる』東京大学出版会、1993 年 3,090 円
・エティエンヌ・タイユミット（増田義郎監修、中村健一訳）『知の再発見双書 33 太平洋探検史—幻の大陸を求めて』創元社、1993 年 税別 1,359 円
・高橋章『アメリカ帝国主義成立史の研究』名古屋大学出版会、1999 年 税別 5,800 円
・田所昌幸・阿川尚之編『海洋国家としてのアメリカ—パクス・アメリカ—ナへの道』千倉書房、2013 年 税別 3,400 円
・等松春夫『日本帝国と委任統治—南洋群島をめぐる国際政治 1914-1947』名古屋大学出版会、2011 年 税別 6,000 円
・長島怜央『アメリカとグアム—植民地主義、レイシズム、先住民』有信堂高文社、2015 年 税別 6,000 円
・中野聡『歴史経験としてのアメリカ帝国—米比関係史の群像』岩波書店、2007 年 税別 3,500 円
・原貴美恵『サンフランシスコ平和条約の盲点—アジア太平洋地域の冷戦と「戦後未解決の諸問題」』溪水社、2005 年 税別 3,500 円
・藤原帰一『デモクラシーの帝国—アメリカ・戦争・現代世界』岩波新書、2002 年 税別 740 円
・古矢旬『アメリカニズム—「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会、2002 年 5,800 円
—『アメリカ 過去と現在の間』岩波新書、2004 年 税別 740 円
・古矢旬・山田史郎編著『シリーズ・アメリカ研究の越境 第 2 巻 権力と暴力』ミネルヴァ書房、2007 年 税別 3,500 円
・ジョン・C・ペリー（北太平洋国際関係史研究会訳）『西へ！—アメリカ人の太平洋開拓史』PHP 研究所、1998 年 3,780 円
・増田義郎『太平洋—開かれた海の歴史』集英社新書、2004 年 税別 700 円
・松島泰勝『ミクロネシア—小さな島々の自立への挑戦』早稲田大学出版部、2007 年
・矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶の水書房、1999 年 8,000 円
・矢野暢『「南進」の系譜：日本の南洋史観』千倉書房、2009 年（新版） 税別 5,000 円
※初版は、『「南進」の系譜』1975 年ならびに『日本の南洋史観』1979 年として、いずれも中公新書から出版されている
・山中速人『世界史リブレット 64 ヨーロッパからみた太平洋』山川出版社、2004 年 税別 729 円
・山本吉宣編『変貌するアメリカ太平洋世界 3 アジア太平洋の安全保障とアメリカ』彩流社、2005 年 税別 3,800 円
・油井大郎『好戦の共和国アメリカ—戦争の記憶をたどる』岩波新書、2008 年 税別 780 円
・渡辺昭夫『アジア・太平洋の国際関係と日本』東京大学出版会、1992 年 定価 3,708 円

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点（毎回のワークシートの提出状況・記述状況、受講態度）30 % ならびに試験 70 % の割合で、（1）毎回の授業に積極的に参加しているかどうか（2）欧米諸国や日本との歴史的な関わりを踏まえつつ、太平洋地域形成の変容について各自の関心と理解が深められているかどうかを判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業は西洋史 LA との関わりが深いため、同授業も受講しておく、より理解が深まります。

【Outline (in English)】

授業概要（Course outline）

From the end of the 19th century to the first half of the 20th century, the race to acquire colonies by Western powers intensified, and Western powers and Japan expanded their power in Africa, Asia, and other parts of the world. As a result, the conflict between the powers eventually led to two world wars, and colonial rule and warfare had a major impact on the Pacific islands. Based on these historical backgrounds, the aim of this course is to help students acquire their own understanding of the regional formation in the Pacific Ocean, especially its relationship with Japan and the U.S. in the 19th and 20th centuries.

到達目標（Learning Objectives）

The goal of this course is to deepen their own understanding of the formation of the Pacific region in the 19th and 20th centuries, while providing historical background. Currently, several names are used to refer to the Pacific Ocean, including Oceania, Micronesia, Polynesia, and Melanesia. The background to the use of these names is strongly influenced by the colonial rule and wars waged by Western countries and Japan. At the end of the course, students are expected to grasp the flow of the formation of the Pacific region by discussing several examples of conflicts among countries over the Pacific Ocean.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Students are encouraged to deepen their understanding of the topics to be covered in the class by independently reading the references listed in the reference section and other literature introduced in the class.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution (submission and description of worksheets at each session, and course attitude): 30%

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	パラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	試験・まとめと解説	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history

2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.

3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：古代アテナイの法と社会—殺人訴訟を中心に—

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市国家アテナイでは、紀元前 6 世紀末から前 4 世紀後半まで、高度に発達した民主政の下で人々が生活していた。民主政アテナイにおいては様々な行政制度が精緻に整備され、司法制度も例外ではなかった。本講義では、アテナイ民主政の成立と発展を概観したのち、アテナイの司法制度、特に殺人訴訟の事例に注目することで、当時の司法制度運用の実態と、殺人事件への人々の対応について考察する。その際、法制度の枠に留まらず、当時の倫理規範や宗教観念が、殺人訴訟に対してどのような影響を与えたのかという点についても論じる。

【到達目標】

古代アテナイ民主政の仕組みを理解するとともに、アテナイで行われた殺人訴訟の事例の検討を通じて、アテナイの司法制度の運用実態に関する知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いて講義形式で進める。必要に応じて授業内で質問やリアクションペーパーの記入を求めることもある。質問は主なものを取り上げ、次回授業でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の目的と概要について説明する。
第 2 回	アテナイ民主政の成立と発展①	アテナイの司法制度を理解するための前提として、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 3 回	アテナイ民主政の成立と発展②	第 2 回に引き続き、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 4 回	アテナイ司法制度概観①	アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 5 回	アテナイ司法制度概観②	第 4 回に引き続き、アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 6 回	アテナイ殺人法概観①	古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 7 回	アテナイ殺人法概観②	第 6 回に引き続き、古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 8 回	アテナイの殺人訴訟① — 一意思殺人・殺意を有する傷害・毒殺・放火	アレオス・パゴス評議会で裁かれた殺人事件について説明する。
第 9 回	アテナイの殺人訴訟② — 無意志殺人・殺人計画・在留外人、外国人、奴隷の殺害	パッラディオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。

第 10 回	アテナイの殺人訴訟③ — 合法殺人	デルフィニオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 11 回	アテナイの殺人訴訟④ — 国外追放中の殺人犯が犯した別の殺人に対する訴訟	ブレアトスの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 12 回	アテナイの殺人訴訟⑤ — 犯人不明、動物、無生物による殺人	ブリュタネイオンで裁かれた殺人事件について説明する。
第 13 回	アテナイの殺人訴訟⑥ — 特殊事例 全体のまとめ	民衆法廷で裁かれた殺人事件、および殺人に関連した罪について説明する。授業全体をまとめる。
第 14 回	試験	筆記試験を行う。＊履修人数によっては試験は行わず期末レポートを課す。その場合、第 14 回に全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。必要に応じて参考書や配布プリントを読み、予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『民主主義の源流』、橋場弦、講談社学術文庫、2016 年
他の文献は授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % ＊出席の他、必要に応じて授業内で行う小テストやリアクションペーパーの内容によって評価する。
最終試験又はレポート 50 % ＊履修者の人数に応じてどちらにするか決定する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うため、オンライン授業を履修するために必要なデバイスおよび通信環境。

【その他の重要事項】

第 2 回以降は対面形式を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する可能性がある。その際は前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > After overviewing the development of ancient Athenian democracy, we will focus on Athenian legal system and how it works. In particular, homicide trials will be discussed in detail.

< Learning objectives > Students are able to understand ancient Athenian legal system and how it works.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
Final examination or report (TBA): 50%

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	パラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	試験・まとめと解説	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history

2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.

3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：古代アテナイの法と社会—殺人訴訟を中心に—

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市国家アテナイでは、紀元前 6 世紀末から前 4 世紀後半まで、高度に発達した民主政の下で人々が生活していた。民主政アテナイにおいては様々な行政制度が精緻に整備され、司法制度も例外ではなかった。本講義では、アテナイ民主政の成立と発展を概観したのち、アテナイの司法制度、特に殺人訴訟の事例に注目することで、当時の司法制度運用の実態と、殺人事件への人々の対応について考察する。その際、法制度の枠に留まらず、当時の倫理規範や宗教観念が、殺人訴訟に対してどのような影響を与えたのかという点についても論じる。

【到達目標】

古代アテナイ民主政の仕組みを理解するとともに、アテナイで行われた殺人訴訟の事例の検討を通じて、アテナイの司法制度の運用実態に関する知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いて講義形式で進める。必要に応じて授業内で質問やリアクションペーパーの記入を求めることもある。質問は主なものを取り上げ、次回授業でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の目的と概要について説明する。
第 2 回	アテナイ民主政の成立と発展①	アテナイの司法制度を理解するための前提として、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 3 回	アテナイ民主政の成立と発展②	第 2 回に引き続き、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 4 回	アテナイ司法制度概観①	アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 5 回	アテナイ司法制度概観②	第 4 回に引き続き、アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 6 回	アテナイ殺人法概観①	古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 7 回	アテナイ殺人法概観②	第 6 回に引き続き、古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 8 回	アテナイの殺人訴訟① — 有意殺人・殺意を有する傷害・毒殺・放火	アレオス・バゴス評議会で裁かれた殺人事件について説明する。
第 9 回	アテナイの殺人訴訟② — 無意志殺人・殺人計画・在留外人、外国人、奴隷の殺害	パッラディオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。

第 10 回	アテナイの殺人訴訟③ — 合法殺人	デルフィニオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 11 回	アテナイの殺人訴訟④ — 国外追放中の殺人犯が犯した別の殺人に対する訴訟	ブレアトスの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 12 回	アテナイの殺人訴訟⑤ — 犯人不明、動物、無生物による殺人	ブリュタネイオンで裁かれた殺人事件について説明する。
第 13 回	アテナイの殺人訴訟⑥ — 特殊事例 全体のまとめ	民衆法廷で裁かれた殺人事件、および殺人に関連した罪について説明する。授業全体をまとめる。
第 14 回	試験	筆記試験を行う。＊履修人数によっては試験は行わず期末レポートを課す。その場合、第 14 回に全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。必要に応じて参考書や配布プリントを読み、予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『民主主義の源流』、橋場弦、講談社学術文庫、2016 年
他の文献は授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % ＊出席の他、必要に応じて授業内で行う小テストやリアクションペーパーの内容によって評価する。
最終試験又はレポート 50 % ＊履修者の人数に応じてどちらにするか決定する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うため、オンライン授業を履修するために必要なデバイスおよび通信環境。

【その他の重要事項】

第 2 回以降は対面形式を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > After overviewing the development of ancient Athenian democracy, we will focus on Athenian legal system and how it works. In particular, homicide trials will be discussed in detail.

< Learning objectives > Students are able to understand ancient Athenian legal system and how it works.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
Final examination or report (TBA): 50%

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の耕地と集落（村）の史的展開

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に学習することができる。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代が重点となる。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品で、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を読み、その重要性を理解するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを学ぶことができる。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

【到達目標】

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通し、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に対面授業の講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主として適宜配信または配布した資料により、シラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本史における耕地と集落の意義 日本史研究の基礎
第2回	日本史学入門	歴史資料の提示、解説、歴史資料の内容解説、背景
第3回	文化財保護法と耕地と集落	文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
第4回	弥生・古墳時代の村	縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
第5回	古代の政治と経済	古代の村と領主支配との関係
第6回	古代の村	古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
第7回	中世の政治と経済	中世の村と領主支配との関係
第8回	中世の村	村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係
第9回	近世の村の景観	村の基本構成要素、様々な村のかたち

第10回	近世の村の機能	村で作成される様々な文書、ムラの運営
第11回	幕藩領主の農政と近世の村（1）	近世中期までの領主財政と年貢収奪
第12回	幕藩領主の農政と近世の村（2）	吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
第13回	近現代の村	地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村、農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落
第14回	試験と解説	まとめとして、日本における耕地と集落（村）とは何かを、総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〈1〉準備学習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。

〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

〈3〉本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。

【参考書】

〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983年 そしえて）

〈2〉『日本の農業150年 1850～2000年』暉峻衆三編著（2003年 有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20%）と期末試験（80%）で、評価を決める。
授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末試験は課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

形式的な説明になるオンデマンド授業資料（音声付属）に関しては、口頭で追加の情報資源を伝える予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the features of the Japanese village society from the perspective of people's life and an abundant historical and geographic image.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the historical features of the Japanese village society.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short class reports : 20%.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸時代転換期における政治・経済・社会
日本の江戸時代の歴史のうち、おもに転換期となる享保改革期から田沼政治期の政治・経済・社会（農村・都市）について、地域環境の変化に留意しながら学ぶことができる。具体的には、最近の成果を取り入れながら、一般的に知られているこの時期の諸事象と諸政策が歴史上どのような意義をもつのかを理解することを学習・教育目標とする。また、江戸時代における地域の諸相や地域基礎単位であり、町人や武家の生業生活の場である「都市」および農民の生産生活の場である「村」に注目しながら、日本近世史を学ぶことができる。（学問分野：日本近世史、日本地域史、日本都市史、日本都市近郊農村史）

【到達目標】

江戸時代研究の重要な情報資源である近世文書や江戸時代の政治（幕政・藩政）・経済・社会（都市江戸および江戸近郊・周辺農村）に関する学習などを通し、教科書的な理解を越え当該期に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主として資料の配信または配付によりシラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第 2 回	吉宗政権の成立	家康～吉宗の時代推移と地域 吉宗政権の性格
第 3 回	行政機構の改革と法令の整備	老中制度及び勘定所機構の整備 法令集の編さん
第 4 回	享保改革期の農政	農政の特徴
第 5 回	都市政策の前提	都市江戸の成立と河川 武家屋敷の展開
第 6 回	都市政策の展開	江戸の防火政策 経済政策 風俗・出版統制
第 7 回	田沼政権の成立	家重政権時代の意次 意次権力の拡大
第 8 回	通貨制度の改革	江戸時代の通貨の特徴 田沼政権発行の貨幣
第 9 回	間接税の導入	百姓一揆と財政窮乏策 株仲間の役割
第 10 回	幕政と藩政（1）	幕府の銅貿易と秋田藩の産銅政策
第 11 回	幕政と藩政（2）	幕府の通貨政策と秋田藩の銭鑄造

第 12 回 江戸近郊の地域史

江戸の青物市場 江戸近郊農村における蔬菜生産と下肥流通
利根川の歴史と流域住民の共生
まとめとして、享保改革・田沼政権はなぜ転換期と呼ばれるのか、江戸と近郊・周辺地域との関係は如何なるものなのかを、総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

第 13 回 江戸周辺の地域史

第 14 回 試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配信または配布した資料などを改めて読みなおすなど、次回に備えるようにしてもらいたい。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。適宜資料を配信・配布する。

【参考書】

〈1〉『幕藩体制の展開と動揺 上（日本歴史大系 10）』井上光貞ほか著（山川出版社）
〈2〉『大江戸歴史の風景』加藤貴編著（山川出版社）
その他、参考となる文献は、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20 %）と期末試験（80 %）で、評価を決める。授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末試験は課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業で利用する資料を、対面授業教室のみではなく、オンラインでの配布を求める意見があり、今年度は実行する予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the administration, the economy and the society of Japan in the early modern period including the social system of Edo and its surrounding areas.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the economy and the society of Japan in the early modern period.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short class reports : 20%,

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。幕府内部で繰り返された内紛と、幕府の政治意志決定のあり方を中心に、関連する史料を読みながら検討していく。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を使用したオンライン授業で、講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配信するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。

学期内（2 回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて期限内に提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明。
2	源頼朝執政期の幕府政治 (1)	寿永 2 年 10 月宣旨、文治勅許など。
3	源頼朝執政期の幕府政治 (2)	頼朝上洛、建久 7 年の政変、頼朝執政期の評定など。
4	將軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治 (1)	比企氏事件、頼家・実朝期の評定など。
5	將軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治 (2)	和田合戦、承久の乱、政子期の評定など。
6	執権北条泰時・経時代の幕府政治 (1)	伊賀氏事件、連署制など。
7	執権北条泰時・経時代の幕府政治 (2)	評定、御成敗式目など。
8	執権北条泰時・経時代の幕府政治 (3)	経時の訴訟制度改革など。
9	執権北条時頼・長時代の幕府政治 (1)	寛元の政変、宝治合戦など。
10	執権北条時頼・長時代の幕府政治 (2)	引付、得宗時頼など。
11	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治 (1)	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動など。
12	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治 (2)	霜月騒動、平禅門の乱など。
13	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治 (3)	貞時の訴訟制度改革、評定・寄合など。

14 まとめ

授業内容のまとめと学期内リポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配信する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008 年）

川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009 年）

小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009 年）

近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016 年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のリポートで総合評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整える。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies political history of the Kamakura Shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

2 mid-term reports and 1 term-end report:100%

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の基本法である御成敗式目を読む。その内容は多岐にわたるが、ここでは犯罪や訴訟手続きに関する条文を読み、鎌倉幕府法の特徴を考えていく。

【到達目標】

鎌倉幕府法の特徴を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を使用したオンライン授業で、講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配信するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。

学期内（2回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて期限内に提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	御成敗式目について (1)	御成敗式目制定の目的などの解説。
2	御成敗式目について (2)	御成敗式目の条文構成などの解説。
3	御成敗式目第 3 条	守護について。
4	御成敗式目第 5 条	地頭について。
5	御成敗式目第 9・10 条	謀叛と殺害・刃傷の罪について。
6	御成敗式目第 11 条	夫の罪科の妻への縁坐について。
7	御成敗式目第 33 条	強盗・窃盗の罪について。
8	御成敗式目第 34 条	密懐の罪について。
9	御成敗式目第 12 条	悪口の罪について。
10	御成敗式目第 13・14 条	殴人の罪および地頭代の罪について。
11	御成敗式目第 15 条	謀書の罪について。
12	御成敗式目第 51 条	問状狼藉について。
13	御成敗式目第 35 条	召文違背の罪について。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配信する。

【参考書】

『中世政治社会思想 上』（日本思想大系 21、岩波書店、1972 年）

笠松宏至編『中世を考える 法と訴訟』（吉川弘文館、1992 年）

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（新体系日本史 2、山川出版社、2001 年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のレポートで総合評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整える。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies law of the Kamakura shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

2 mid-term reports and 1 term-end report:100%

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

貫井 裕恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅡもあわせて受講することを推奨します。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて、日本の中世社会への理解を深める。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を知る。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに回答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	日本における歴史学の発達史と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特質とユネスコ記憶遺産について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	文書管理（アーカイブズ）	中世寺院における文書管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ

8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	荘園制について学び、現存する荘園絵図から中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が守り伝えられる意義と方法を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003 年
- ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史ⅡⅡもあわせて受講することを推奨します。

日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。

【Outline (in English)】

【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparing and reviewing each class.【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
サブタイトル：	
貫井 裕恵	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 5/Mon.5	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史Ⅰもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を知る。
- ・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世史料として伝存する寺院史料を概観し、東寺百合文書の特徴を探索
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業から蒙古襲来までの歴史を学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ

8	文書の管理と利用	中世寺院における文書・聖教の管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	室町期に発達した寺院における芸能を学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・使用テキストは事前に予習しておく。（各回 2 時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
- ・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回 2 時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
- ・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003 年
 - ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年
- このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史Ⅰもあわせて受講することを推奨します。日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修を多くお待ちしております。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】 You spend 2hours preparating and reviewing each class. 【Grading Criteria /Policy】 You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデーターを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン、対面授業などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更につ

いては、本講義の開始日に説明する。また、講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。
2	空襲と国民	空襲の残した爪痕について「戦後」も含めて考察する。
3	日本近代史の中の病気	「流感」やその他の病気が、日本近代史に与えた社会的影響について考える。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	皇族と戦前の日本	皇族たちの近代史について考える。
6	第一次世界大戦と日本	近年の研究動向をふまえ、100 年以上前の戦争の記憶について考える。
7	皇族と三種の神器	三種の神器や賢所、宮中の制度などについて考える。
8	満州事変と日本外交	「満州事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	戦争と捕虜	「捕虜」「俘虜」などの定義などについて考える。
10	二・二六事件と陸軍	二・二六事件とその思想的背景について考える。

11	日独伊三国同盟と重臣	いわゆる「三国同盟」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。また、同盟理論についても考察を深める。
12	「アジア・太平洋戦争」の時代	戦前の朝鮮・台湾・アジアとの関係について考える。
13	シベリア抑留と日ソ関係	近衛文隆や宇野宗佑、三波春夫など、多くの人が抑留されました。抑留中に歌われた音楽やナヴォイ劇場にまつわる言説についても取り上げます。
14	原爆投下について考える	原爆投下についての論争などについて整理し「戦後」の問題も考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%

簡単な小レポート（複数回、70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 70%

Class participation (weekly comments) 30%

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイントを使用します。対面の場合は、レジュメと史料のコピーを配布します。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考えます。
2	老病死の「終戦史」	「病気」「身体」といった要因が政治に与えた影響を考える。
3	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
4	真珠湾攻撃と日米戦争	2021 年の 80 周年にあたってのメディアや記憶について考える。
5	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観します。
6	東条英機と「東京裁判」	国際政治の文脈から「東京裁判」を考えます。
7	昭和天皇と平沼騏一郎	平沼騏一郎とその政治グループの位置づけについて考えます。
8	55 年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考えます。
9	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考えます。
10	風化する戦争体験と「五感」	五感を歴史学の文脈で語ることは難しいです。空襲警報の音や、戦争における「匂い」などについて考えます。
11	政治とシンボル	「国家」「陸軍」「海軍」は見えなくても、シンボルは目に見えます。国旗、軍旗、軍艦、日本刀、石碑、いろいろなものについて考えてみたいと思います。
12	日中国交正常化と高度成長	戦後の日中・日台関係について概観します。

- 13 冷戦の終結と日米関係 日米関係を長期的視点から考察します。
- 14 21 世紀の日本外交 日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%

小レポート（複数回）70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 70%

Class participation (weekly comments) 30%

PHL200LA

宗教論Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

須藤 孝也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代までの宗教論の歴史について学ぶ。現代の宗教論の前提になっており、現代の宗教論をよく理解するために不可欠だからである。

【到達目標】

- ① 主要な宗教論について説明することができる。
- ② 宗教論の歴史的展開の概要について説明することができる。
- ③ 様々な理論を批判的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回 1 人（時に 2 人）ずつ思想家をとりあげ、その宗教論について説明する。講義形式を予定している。

フィードバック方法：授業中ないしメールで対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や進め方、宗教論の概要について説明する。
2	ソクラテス、プラトン	ソクラテスとプラトンの宗教論について解説する。
3	アリストテレス	アリストテレスの宗教論について解説する。
4	トマス・アキナス	トマス・アキナスの宗教論について解説する。
5	エックハルト	エックハルトの宗教論について解説する。
6	ホッブズ、スピノザ	ホッブズとスピノザの宗教論について解説する。
7	ジョン・ロック	ジョン・ロックの宗教論について解説する。
8	カント	カントの宗教論について解説する。
9	ヘーゲル	ヘーゲルの宗教論について解説する。
10	フォイエルバッハ	フォイエルバッハの宗教論について解説する。
11	キルケゴール宗教論の概要	の宗教論について解説する。
12	キルケゴール宗教論まとめ	キルケゴールの宗教論について解説する。
13	シモーヌ・ヴェイユ	シモーヌ・ヴェイユの宗教論について解説する。
14	補足と総括	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に挙げる文献リストから 1 冊を選んで読んでもらいます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

適宜、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業態度 40%と小論文（3000 字程度）60%で評価します。授業態度は積極的に議論に参加している者を評価します。小論文は、説得的に立論しているものを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり学生にも話す機会を与えようと思っています。

【その他の重要事項】

履修者数等、状況に応じて、授業の進め方は柔軟に変更します。質問があればご遠慮なくお問い合わせください。

takaya.suto.87〔アット〕hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

We learn the history of theories of religion until modern times in this class. These knowledge is necessary to understand contemporary arguments well.

Goal: ① One can explain major theories of religion. ② One can explain how theories of religion had developed historically. ③ One can examine theories critically.

Students have to read at least one book that is included in the literature list shown in classes. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grading criteria: class performance(40%) + term end paper(60%)

PHL200LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

須藤 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

G. ジンメルの宗教論について学ぶ。
現代宗教論の一つとして重要であるため。

【到達目標】

- ①ジンメルの宗教論について説明することができる。
- ②学術書を正確に読むことができる。
- ③批判的に考察し、議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『ジンメル宗教論集』所収の論文を毎回 1 つずつ読み進めます。
受講者数によって授業形式は柔軟に変更します。いずれにしても予
習は必須です。議論の骨子を捉える。意味がよくとれなかったとこ
ろはどこか、質問できるようにしておくこと。
フィードバック方法：授業中に／メールで対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や進め方、宗教論の概 要について説明する。
2	「宗教社会学のために」	内容の確認、解説、議論。
3	「宗教社会学のために」	内容の確認、解説、議論。
4	「汎神論について」	内容の確認、解説、議論。
5	「魂の救いについて」	内容の確認、解説、議論。
6	「生の対立と宗教」	内容の確認、解説、議論。
7	「宗教哲学の一問題」	内容の確認、解説、議論。
8	「神の人格」	内容の確認、解説、議論。
9	「キリスト教と芸術」	内容の確認、解説、議論。
10	「レンブラントの宗教 芸術」	内容の確認、解説、議論。
11	「宗教の根本思想と近 代科学」	内容の確認、解説、議論。
12	「宗教的状況の問題」	内容の確認、解説、議論。
13	「現代文化の葛藤」	内容の確認、解説、議論。
14	「宗教」	内容の確認、解説、議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は、各 2 時間を標準とします。次回に扱うところ
は必ず読んできてください。議論の骨子をつかみ、不明なところを
ピックアップし、質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『ジンメル宗教論集』、深澤英隆訳、岩波文庫、2021 年。

【参考書】

ありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%で評価します。

文献の内容を正確に理解しようとしている者、積極的に議論に参加
している者を評価します。
期末試験は行いませんし、レポートも課しません。その分、各回、真
剣に取り組んでください。

【学生の意見等からの気づき】

学術文献を正確に読む力に乏しい学生が少なくないため、精読する
トレーニングが必要だと認識しました。

【その他の重要事項】

履修者数等、状況に応じて、授業の進め方は柔軟に変更します。
質問があればご遠慮なくお問い合わせください。

takaya.suto.87 [アット] hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

We learn G. Simmel's theory of religion. Because his argument
is one of the most important in contemporary religious studies.
Goal:① One can explain Simmel's theory of religion. ② One can
read academic literatures precisely. ③ One can consider and
discuss critically.

The standard preparation and review time for this class is 2
hours each. Be sure to read the next section. Try to understand
the point, pick up where you don't understand, and be ready to
ask questions.

Grading criteria: class performance(100%)

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第 6 回	法の分類	法の分類と法源
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権
1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
3 (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3 (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷 實編『エッセンシャル法学 第 7 版』成文堂、2019 年、¥3,190

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』2021 年、ミネルヴァ書房、2750 円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。

これらにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

情報量の多いテキストを用いるが、読みこなして欲しい。文字が多くとっつきにくいという意見があったので、より簡易な参考書を先に読んでおくことを推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	権利能力と行為能力	民法の基礎
第 5 回	契約自由の原則	債権法 1
第 6 回	契約の成立と効力	債権法 2
第 7 回	不法行為と損害賠償	不法行為 1
第 8 回	過失責任の原則	不法行為 2
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容・社会保険・労働保険
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編『エッセンシャル法学第 7 版』成文堂、2019 年、3,190 円

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルバ書房、2021 年、2750 円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

民法改正について、追加資料を用意して、学習支援システムで配布した。社会保障制度は労働法など、制度改定が頻繁な単元についても、追加資料を用意することとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Gov など）で閲覧すると良い。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下での平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する。

詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下での平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する。

詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下での平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する。

詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学Ⅰでは、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原則と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。なおオンライン授業に変更することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法とは何か	法と社会との関係 道德等との関係 法の目的 権利義務との関係
第 3 回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第 4 回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第 5 回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第 6 回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原則 現代憲法の特徴
第 7 回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特徴 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第 8 回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治

第 9 回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第 10 回 基本的人権①

人権総論
包括的基本権
法の下での平等

第 11 回 基本的人権②

自由権
社会権
参政権及び国務請求権

第 12 回 権力分立①

国会
議院内閣制
内閣

第 13 回 権力分立②

裁判所
違憲審査制
財政

第 14 回 授業内試験（教室レポート）

レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。なおオンライン授業に変更することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。なおオンライン授業に変更することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪と法①	刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第 2 回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第 3 回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第 4 回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第 5 回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第 6 回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第 7 回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第 8 回	家族関係と法②	親子 扶養 相続

第 9 回 労働と法①

労働法の概観
労働関係の当事者
労働条件の決定
労働契約の成立
人事
賃金

第 10 回 労働と法②

第 11 回 国際社会と法①

主体
国家の主権
国際法の存在形式
国際法の国内的实施
国際法の国際的実施
領域

第 12 回 国際社会と法②

第 13 回 国際社会と法③

海洋
南極と上空
人権

第 14 回 授業内試験（教室レポート）

レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第 3 版〕』（有斐閣ストウディア、有斐閣、2019 年）

井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

野村豊弘『民事法入門〔第 8 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣ストウディア、有斐閣、2022 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。なおオンライン授業に変更することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。
- ④ EU 法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。

毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、リアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
オンライン	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
オンライン	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
オンライン	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
オンライン	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
オンライン	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
オンライン	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について

オンライン	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について
オンライン	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
オンライン	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
オンライン	憲法と私人	憲法は何を保障するか。憲法が保障する基本的人権について
オンライン	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
オンライン	EU とはどのようなものか	EU の成立と法制度について
オンライン	EU における司法制度	EU の裁判の特徴を理解し、国内裁判との違いを理解する。また、判決文を見る
オンライン	まとめ	春学期の重要な点について再度、検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）
なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版〕』（有斐閣双書、2009 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20 %）とし、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を測り評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

パワーポイントだけではなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows

(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.

(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.

4) Understand the basics of EU law.

(Learning activities outside of classroom)

Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわかる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくに EU 法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
オンライン	ガイダンス	受業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業

/online

オンライン	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について

/online

オンライン	働く場合の法律	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金

/online

オンライン	働く場合の法律	休む 休憩・休息時間・休日・休暇について

/online

オンライン	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇

/online

オンライ ン	働く場合の法律	最近の問題
/online		
オンライ ン	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
/online		
オンライ ン	安全に働く	労働災害・過労死について知る
/online		
オンライ ン	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
/online		
オンライ ン	国と国の関係と働くこ と	グローバル化の中で労働はどのよ うに変わってきているのか
/online		
オンライ ン	EU 諸国と働くこ と	EU 市民と EU 加盟国はどのよう な関係にあるのか
/online		
オンライ ン	EU の制度概略	EU 指令の制度、EU 加盟国の立 法権、EU 裁判所の制度
/online		
オンライ ン	EU と人権	EU において人権や働く権利、私 生活はどのように保障されている のか。
/online		
オンライ ン	働くことと法	働く状況が大きく変わる中で、ど のような法が求められるのだろう か検討する
/online		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）（改訂版が出た場合は最新のものとする）
このほか今年度版の六法を用意すること。
六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、春学期間に提出されたレポート（20 %）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、② EU 法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A +、あるいは S と単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】

EU やフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったのが今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。
また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったため、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will study legal relations in labor law, From the time you are a student, working part-time or looking for a job, the law has had a lot to do with your work. However, there are not many opportunities to learn about labor and law.

In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, Workplace accidents, and Rescission of employment offer. In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, work-related accidents, and employment offers and their revocation. Next, we will examine important issues related to work, such as wages, working hours, reassignment, and dismissal. We will also examine constitutional issues related to labor. Students will also learn about EU labor law, including human rights, equality, and regulations under EU labor law.

(Learning Objectives)

Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.

Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.

Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.

(Learning activities outside of classroom)

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第 14 回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストによって、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する（100 %）。なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけではなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system. The goals of this course are to learn the basic concepts of jurisprudence and to understand the basic structure of modern law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the score of term-end online examination (100%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第 3 回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第 4 回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第 5 回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第 6 回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第 7 回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第 8 回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第 9 回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第 10 回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第 11 回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第 12 回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第 13 回	社会保障法	社会保障法の基礎知識について学ぶ。
第 14 回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）
末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストによって、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価する（100%）。なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law. The goals of this course are to learn the basic concepts of jurisprudence and to understand the basic structure of modern law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the score of term-end online examination (100%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の成立や国家の統治構造の基礎、具体的な紛争の解決方法について講義を実施する。

講義前半（第1～第7回）は対面型講義とする。法の成立や国家の統治構造の基礎を学ぶ。

講義後半（第8回～第14回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第8回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学 I では、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

法学 I の具体的な学習目標は以下の通りである。

①何故、法が社会に必要とされるのかを理解できるようになること。

②国家の成立過程を理解し、国家の役割が何かを理解できるようになること。

③法的紛争の解決において、相対する紛争当事者の双方の主張を読みとり、どちらの主張が妥当であるのかを判断する際に、論理的思考ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	法とは何か（対面型）	社会規範としての法の特徴と役割を学ぶ。
2	国家の成立（対面型）	国家が存在しない状態を理解し、国家権力の存在意義を学ぶ。
3	国家の役割①（対面型）	国家により策定された法制度が国民意識の醸成や秩序の維持などどのように役立つのかを学ぶ。
4	国家の役割②（対面型）	国家の役割が法を通じて人々の権利自由を保護するところにあることを学ぶ。
5	法による国家権力の統制（対面型）	国家権力が強力である必要とそれを法に縛る必要性を学ぶ。
6	立憲主義（対面型）	立憲主義に関する基礎的な知識を学ぶ。
7	統治構造の基礎（対面型）	権力分立が人権保障に果たす役割について学ぶ。

8	憲法の基本原理①（オンデマンド型）	国民主権の基礎知識について学ぶ。
9	憲法の基本原理②（オンデマンド型）	基本的人権の尊重の基礎知識について学ぶ。
10	統治の仕組み①（オンデマンド型）	法の策定機関である国会と法の執行機関である内閣に関する基礎知識を学ぶ。
11	統治の仕組み②（オンデマンド型）	法を解釈する機関である裁判所に関する基礎知識を学ぶ。
12	法の策定と統治機構（オンデマンド型）	主要な統治機関（国会、内閣、裁判所）が法とどのように関わっているのかを学ぶ。
13	社会変動と法（オンデマンド型）	社会の変化に法が如何に対応すべきかを学ぶ。
14	グローバル化と法（オンデマンド型）	グローバル化による法規制の緩和が人々にもたらした影響を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。参照文献は講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2つの課題によって、到達目標欄に記載した3点の達成度を測ることで評価する。内訳は講義前半（対面型講義）の課題（50%）と講義後半（オンデマンド講義）の課題（50%）である。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の講義では、法学の基礎知識が社会問題に如何に結びつくのかについて、よく理解できたとの反応があった。今年度も時事問題と絡めて、講義知識がいかに役に立つのかを分かり易く伝えていくことに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義に関する質問は講義の前後に受け付ける。

または、ウェブシステムを通じての質問も随時受け付ける。

あわせて、講義に関して受けた質問のポイントの解説も授業の中で適宜行う

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to give lectures to beginners in law about the enactment of law, the basics of the governing structure of the state, and specific methods of resolving disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

The specific learning goals of Jurisprudence I are as follows.

- (1) To be able to understand why the law is needed by society.
- (2) To be able to understand the process of formation of the nation and understand what the role of the nation is.
- (3) In resolving legal disputes, be able to read the claims of both parties to the conflict and be able to think logically when deciding which claim is appropriate.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

Grades are evaluated by two tasks. The breakdown is the first half of the lecture (face-to-face lecture) (50%) and the second half of the lecture (on-demand lecture) (50%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の基礎知識を教授し、それが具体的に法的紛争の解決に如何に用いられるのかを学ぶ。

講義前半（第1～第7回）は対面型講義とする。法の基礎知識を学ぶ。

講義後半（第8回～第14回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。オンデマンド型の講義では、法的紛争解決に必要な基礎知識を学ぶ。

法学Ⅰでは、法的視点から紛争を解決する方法を身に着けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、に多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

本講義の具体的到達目標は以下の通りである。

- ①法学に関する基礎知識を獲得する。
- ②法的紛争の解決に必要な知見を獲得する。
- ③法的視点に基づく論理的思考（自らの主張を説得的に展開するために必要な思考）を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブのOATubeに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国家と権利の保障①（対面型）	国家による権利侵害と権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
2	国家と権利の保障②（対面型）	国家による権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
3	権利保障の特色（対面型）	人権の類型や権利の分類などについて学ぶ。
4	権利保障の限界（対面型）	権利保障が如何なる場合に制約されるのかを学ぶ。
5	社会の変動と権利保障①（対面型）	私人間における人権侵害の危険性について学ぶ。
6	社会の変動と権利保障②（対面型）	グローバル化推進による規制緩和（自由の追求）がもたらした権利自由の侵害について学ぶ。
7	社会の変動と権利保障③（対面型）	法によって明記されていない権利の保障について学ぶ。
8	平等原則（オンデマンド型）	平等に関する基礎知識を学ぶ。
9	性差別と法（オンデマンド型）	性差別に関する主要判例を学ぶ。

10	男女共同参画（オンデマンド型）	男女共同参画の法制度をめぐる功罪について学ぶ。
11	平等と逆差別（オンデマンド型）	アファーマティブアクションの是非を考える。
12	家族関係と法（オンデマンド型）	家族関係における別異取扱を婚外子の事例を挙げて学ぶ。
13	宗教と法（オンデマンド型）	信教の自由や政教分離原則の基礎知識を学ぶ。
14	経済活動の自由（オンデマンド型）	経済活動の自由の追求と国民生活の安全について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。
講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2つの課題によって、到達目標欄に記載した3点の達成度を測ることで評価する。内訳は講義前半の対面型に関する課題（50 %）と講義後半のオンデマンド講義で出題する課題（50 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

法学の知識が社会問題に如何に応用できるのかがよく分かったとの回答を受講生からもらった。今年度も法学の基礎知識を時事問題に如何に応用していくのかを受講生に分かり易く伝えたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の前後に質問を受け付ける。また、ウェブシステムを通じて、随時質問を受け付ける。講義に関して受けた質問のポイントの解説も授業の中で適宜行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to teach beginners in law the basic knowledge of law and how it can be used specifically to resolve legal disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

The specific goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire basic knowledge about law. It was
- (2) Acquire the knowledge necessary to resolve legal disputes.
- (3) Acquire logical thinking based on a legal perspective (thinking necessary to persuasively develop one's claim).

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

The evaluation is made by measuring the achievement level of the three points described in the achievement target column according to the two tasks. The breakdown is the face-to-face assignments in the first half of the lecture (50%) and the assignments given in the on-demand lecture in the second half of the lecture (50%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。
なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の受け方、法を学ぶこと
第 2 回	法とは何か	法の種類、法形式、法分野
第 3 回	憲法とは何か	国家の成立と憲法の役割
第 4 回	選挙と参政権	民主主義と日本の選挙制度
第 5 回	国会	国会の権限とその憲法上の位置付け
第 6 回	内閣	内閣の仕組みとその権限
第 7 回	裁判所	裁判所の権限と裁判員制度
第 8 回	人権総論	人権とは何か
第 9 回	新しい人権	憲法 13 条の意義と自己決定権
第 10 回	平等と憲法 1	平等の意味と判断枠組み
第 11 回	平等と憲法 2	同性婚と選択的夫婦別姓
第 12 回	学校と憲法	教育を受ける権利と学問の自由
第 13 回	裁判と憲法	人身の自由と刑事手続
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
【事前学習】ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。
【事後学習】ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。

なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価することで行う。

ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。

授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria/Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。

授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	刑事法の基本的考え方
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基本原則 1	権利能力と行為能力
第 5 回	民法の基本原則 2	契約自由の原則
第 6 回	財産と法	物権とその変動
第 7 回	取引と法	契約の成立と効力
第 8 回	不法行為と損害賠償	不法行為の成立要件
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土、国際法と国内法
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

〔事前学習〕ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。

〔事後学習〕ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。

なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価することで行う。

ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。

授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria /Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日のトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第2回	法の特徴	道徳等との関係 権利義務との関係 法の分類
第3回	憲法の特徴	法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第4回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第5回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第6回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則

第 7 回 統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第 8 回 統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第 9 回 統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第 10 回 基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回 基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回 基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務
第 13 回 平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障
第 14 回 まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）により、「到達目標」に掲げた「憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けること」等の達成度を評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to understand the basic structure of the legal system centered on the Constitution and to acquire basic legal knowledge. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日のトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第 2 回	法の特徴	道徳等との関係 権利義務との関係 法の分類
第 3 回	憲法の特徴	法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則

第7回 統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第8回 統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第9回 統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第10回 基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第11回 基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第12回 基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務
第13回 平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障
第14回 まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）及び授業内小レポート（20%）により、「到達目標」に掲げた「憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けること」等の達成度を評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to understand the basic structure of the legal system centered on the Constitution and to acquire basic legal knowledge. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的國家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブのOATubeに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

- 13 日本国憲法と人権保障 法の下の平等（総論）
③
- 14 日本国憲法と人権保障 法の下の平等（各論）
④ 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する評価する。

【学生の意見等からの気づき】

科目担当者の交代により、前年度のフィードバックはできない。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国民の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と県央の意義を学ぶ
4	国家の役割	国家が果たすべき役割について学ぶ
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障	人権保障の特色について学ぶ

①

12	日本国憲法と人権保障	私人間における人権保障について
	②	学ぶ
13	日本国憲法と人権保障	法の下での平等（総論）
	③	
14	日本国憲法と人権保障	法の下での平等（各論）
	④	日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度から担当者が変わったため、フィードバックできない。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

村舘 靖之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰ・Ⅱではミクロ経済学の基礎と応用を通年で学びます。経済学Ⅰではミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の基礎を学び、消費者行動の理論と生産者理論の基礎について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。講義にあたって微分・積分は極力つかいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学とは
2	需要と供給	需要曲線と供給曲線の復習
3	消費者理論 1	無差別曲線と予算制約 代替と補完
4	消費者理論 2	需要曲線の導出
5	生産者理論 1	生産関数と利潤
6	生産者理論 2	費用曲線と等量曲線
7	生産者理論 3	独占
8	生産者理論 4	寡占、クールノー均衡とベルトラン均衡
9	交換理論	エッジワースの箱とパレート効率性
10	市場理論	生産可能性集合と一般均衡
11	外部経済の理論	外部性とコースの定理
12	公共財の理論	公共財の2つの性質、リンダール均衡
13	行動経済学入門	参照点、損失回避
14	ふりかえり	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハル・R・ヴァリアン（2015）『入門ミクロ経済学（原著第9版）』勁草書房（4000 円＋税）

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

最終テスト 100 満点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：内閣府経済部局にてエコノミストとして四年間勤務。

【Outline (in English)】

Economics I is the intermediate microeconomic theory class. The goals of this course are to understand basic microeconomic theory(Theory of Consumer Behavior and Theory of Firm). Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100%.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

村舘 靖之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅱでは、経済学Ⅰの履修を前提に、より進んだ中級のマクロ経済学を学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の応用、情報とゲームの理論の初歩を学び、よりよい選択ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。微積分は極力使いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームと情報の経済学とは
2	異時点間の選択	時間選好、異時点間の予算集合、利子
3	ゲーム理論 1	標準形ゲーム、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論 2	展開形ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	オークション理論	メカニズムデザイン
6	非対称情報の経済学 1	レモンの原理、逆選択
7	非対称情報の経済学 2	モラルハザード、シグナリング
8	情報技術の経済学	ネットワーク外部性と収穫増
9	一般均衡	厚生経済学の第一基本定理、第二基本定理
10	個人的選択と社会的評価	アローの定理、社会的厚生関数
11	双対性アプローチ	消費者理論と生産者理論を双対性アプローチで捉え直す
12	行動経済学 1	フレーミング、損失回避、参照点
1	行動経済学 2	ナッジと経済政策
14	総復習	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハル・R・ヴァリアン (2015)『入門ミクロ経済学 (原著第 9 版)』勁草書房 (4000 円 + 税)

【参考書】

奥野正寛・鈴木興太郎 (1985)『ミクロ経済学Ⅰ』岩波書店
奥野正寛・鈴木興太郎 (1988)『ミクロ経済学Ⅱ』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最終テスト 100 満点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：内閣府経済部局にてエコノミストとして四年間勤務。

【Outline (in English)】

Economics II is the class that studies advanced microeconomic theory.

The goals of this course are to understand advanced microeconomic theory (Economics of Information and Game Theory).

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立つて、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できる基礎力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、受講生の理解を深める。リアクションペーパーを2回行い、経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	ナッシュ均衡、囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ（坂井2013）
12	経済学と家族	子育て、働き方などの視点から少子化を学ぶ
13	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書

坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書

田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%（2回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からゲームの理論を取り上げる講義を2回に増やしたが、受講生の関心が高いので今年度も継続する。経済学があてはまる身の回りの事例を取り上げているが、これが理解に役立ったとの意見が多数に上ったので、具体例の紹介を今年度も続ける。経済学を具体的な計算問題で理解することを希望するとの声が寄せられたので、これまでよりも機会を増やすかどうかは講義の中で確認していく。講義を復習するクイズを授業中に実施することが内容の理解につながると好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンが必要。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。

コロナ禍の状況によっては、対面とオンラインの併用授業またはオンラインのみの授業となることがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。毎回の授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、理解に役立たせる。リアクションペーパーを2回実施し、マクロ経済学的重要用語が正しく理解できるかを試す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ（第13章）
10	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ（第14章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているかを理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第 4 版）日本評論社

【参考書】

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%（2 回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心を踏まえ昨年度から雇用の講義を増やして 2 回行い、最新の動きを取り上げるようにしたところ、関心にマッチしていたので、今年度も内容を充実させていきたい。講義中に実施する復習のためのクイズは内容理解を助けるとの意見が多いので、継続する。期末試験には簡単な計算問題を出題するが、講義の中で計算問題を練習する機会を増やしてほしいとの声があったので、講義を進めながら試してみる予定である。春学期のミクロ経済学に比べると、マクロ経済学は身の回りで実感することが少ない事象を扱うので慣れるのに時間がかかるかもしれないが、政策的には重要な内容なのでじっくり履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンが必要。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。
コロナ禍の状況によっては、対面とオンラインの併用授業またはオンラインのみの授業となることがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければいいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは2 マクロ経済を観察する1 (GDP)	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する2 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場1 金融市場2	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場3 貨幣の機能と中央銀行の役割1	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	貨幣の機能と中央銀行の役割2	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割3 財政の仕組みと機能1	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能2	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能3	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 9 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します

5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきなのかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

とくに今学期の最初の 4 回の授業内容は対面での講義希望が多かったため、対面での授業を実施します。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the final exam, which can be brought in. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければいいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する1 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する2 (GDP)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する3 (物価)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場3	貨幣の機能と中央銀行の役割1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam.

In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 9 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します

5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きているかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

とくに今学期の最初の 4 回の授業内容は対面での講義希望が多かったため、対面での授業を実施します。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the final exam, which can be brought in. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

- (a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
 (b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
 /intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。

（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り

第9回	意識の階層（1）	臨床心理学
第10回	意識の階層（2）	神経心理学
第11回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第12回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第13回	自己と社会性（2）	社会心理学
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
- ・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（Dから加点されCになった）、あるいは成績が上がった（Aから加点されSになった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」＊）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。（＊桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 （「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争 （「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも 悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・ 「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点

第 11 回	私を殺さないものは、 私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における 心の健康	個人差の観点
第 13 回	3つの「生きる」	生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（Dから加点されCになった）、あるいは成績が上がった（Aから加点されSになった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎週「学習支援システム：教材」にパワーポイントによる資料を掲載します。オンデマンド形式なので、学期末まで資料を閲覧できます。各章ごとに、復習問題を提示するので、各自資料を参考にして教科書をよく読み、取り組んでください。

尚、資料掲載は基本的に月曜日13時をめどとしますが、早まることもありますので学習支援システムを適宜チェックしてください。質問は「学習支援システム：授業掲示板」より受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶

第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的 報酬	動機づけのメカニズム、学習への 報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認 知・思考、動機づけの観点から総 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房、2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ、2010 年

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題の提示は 6 月末になりますので「学習支援システム：課題」を
チェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため、学生から授業
に対する意見等を得ることができませんでした。

課題に対するレポート提出を数回求めましたが、理解度は概ね合格
基準に達していましたので、オンライン授業を継続することもよい
のではないかと思います。

【その他の重要事項】

教科書は必ず購入してください。

心理学Ⅰ、心理学Ⅱを通じて同じ教科書を使います。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly
development of language, intelligence, thinking, motivation,
as it relates to psychology, through short reports on related
literature and texts.

By the end of the course, students should be able to do the
followings:

Understand the development of language, cognition and
thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Students will be expected to interest in environment of
children.

Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria: Term end report(100%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・
other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は
2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は
4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期
間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結
果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、
必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、
子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあて
る。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるよう
にする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム教材に ppt の資料を掲載します。ppt の資料を参
考にして教科書をよく読み、各章ごとに提示される復習問題に各自
取り組んでください。質問等は学習支援システムの授業掲示板で受
け付けます。

基本的に資料は月曜日 13 時をめぐりに掲載しますが、早まることも
ありますので、適宜学習支援システムをチェックしてください。オン
デマンド形式なので、資料は学期末まで閲覧できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明す る。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニ ングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例

第13回 遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回 まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。
課題提示は12月中旬を目安としますので、学習支援システムの課題をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度は履修者数が多かったため、オンライン授業でした。学生から意見を得ることはできませんでしたが、課題に対するレポートは概ね合格基準に達していました。
オンライン授業でも、学生は授業内容を理解して行けることが示されたのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end report(100%)

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。
（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第3回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学

第4回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第5回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第6回	思考と個人差 (1)	学習心理学
第7回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学
第8回	中間レポート	第3回～第7回授業の振り返り
第9回	意識の階層 (1)	臨床心理学
第10回	意識の階層 (2)	神経心理学
第11回	意識の階層 (3)	パーソナリティ心理学
第12回	自己と社会性 (1)	パーソナリティ心理学
第13回	自己と社会性 (2)	社会心理学
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」＊）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。（＊桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 （「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学

第 3 回	人間欲求としての戦争 （「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも 悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカ ニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義す る	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・ 「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点

第 10 回 愛こそはすべて 関係性の観点

第 11 回 私を殺さないものは、
私を一層強くする 臨床的観点

第 12 回 大量消費社会における
心の健康 個人差の観点

第 13 回 3 つの「生きる」 生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（Dから加点されCになった）、あるいは成績が上がった（Aから加点されSになった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ／DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第3回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第4回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障害が描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第5回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第6回	無意識の心理学（フロイト①）－精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。

第7回	無意識の心理学（フロイト②）－心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第8回	無意識の心理学（フロイト③）－精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第9回	無意識の心理学（ユング①）－無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第10回	無意識の心理学（ユング②）－無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第11回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）－その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第12回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）－心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第13回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」(TOPIC3)	夜回り先生・水谷修のDVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロア理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ／DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①－さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②－行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①－基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。

第 6 回	ゲシュタルト心理学と「気づき」を重視するゲシュタルト療法② — ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法① — 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法② — 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について① — 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について② — 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について③ — 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖崎秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『フロー体験の心理学』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこれらの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）ー 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。

第 7 回	無意識の心理学（フロイト②）ー 心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③）ー 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学（ユング①）ー 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②）ー 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）ー その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）ー 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもん だよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもん だよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういつた心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法① — さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法② — 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづく、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法① — 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。

第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法② — ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」（TOPIC1）	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法① — 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法② — 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について（TOPIC2）	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について① — 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について② — 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考え
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について③ — 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand
(a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
(b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。

（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学
第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学

第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でベース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」＊）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。（＊桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点

第 10 回 愛こそはすべて 関係性の観点

第 11 回 私を殺さないものは、私を一層強くする 臨床的観点

第 12 回 大量消費社会における心の健康 個人差の観点

第 13 回 3 つの「生きる」 生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確保するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（Dから加点されCになった）、あるいは成績が上がった（Aから加点されSになった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第3回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第4回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第5回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第6回	思考と個人差（1）	学習心理学
第7回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学

第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」＊）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。（＊桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点

第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点

第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	3 つの「生きる」	生物学的観点

第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
< 授業形式について >
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5人1組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（Dから加点されCになった）、あるいは成績が上がった（Aから加点されSになった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが1から2になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への報酬、人間関係の影響
第13回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房、2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ、2010 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を
得ることはできませんでした。課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライ
ン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。

講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。

ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業内のショートレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が 100 名以内でしたが、オンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】

心理学 I を履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

高木 正、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。学習支援システムでの授業開始は、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績要素の配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木 正、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ 地理学って何だろう
第 2 回	地理学が扱う諸問題	事象の説明 動画からわかる世界
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ あなたの服はどこで作られた
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 プラタモリの世界ー
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境 なぜ、北海道の米がうまくなった
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境 産業・経済と環境のジレンマ
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	餃子で考える、食文化と環境決定論、可能論の世界
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	日本はこんなに世界から遅れてたんだ・・・DX, AI 社会ほか
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	A) AI、ビックデータ、GIS で遅れた日本を B) 失敗した観光の実態
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ 新たな産業とって 30 年
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	災害を GoogleMap やハザードマップから考える
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	グローバル社会の分断と混乱 地理学的な考え方で考える？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	カーボンニュートラルの可能性と混乱
第 14 回	試験 まとめと解説	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。2022 年 2 月以降の世界での出来事や日本国内の様々な出来事にも興味を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

体面授業予定ですので、期末の授業内試験（80 %：持ち込み可）授業での平常点（20 %）としますが、感染の拡大等からレポートの変わる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思ひます。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信などを行います。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期のⅠでは地理学の基礎、秋学期のⅡはグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、通年でなくとも、Ⅰ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思ひます。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、対面授業形式の利点に AL や今後の将来でも生かせる GD などとも試みたいと思ひます。あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察すること、アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、日本や世界の身近な課題等を地理学をとおして多様な持続可能な考え方として尊重することも考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業中心となります。基本は「世界を知ろう」です。身近なことから地理学・地誌学的に世界を知ろうということですが。本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思ひます。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。また、授業アシスタントの人も予定していますので、いろいろ相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	ビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	アフターコロナ後のグローバル社会について考えてみよう
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	試験 まとめと解説	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

体面授業が中心となります。期末の授業内試験（持ち込み可：80 %）、授業時の平常点（20 %）として総合的に評価します。なお、感染の拡大等から試験をレポートに変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。対面授業形式ですが、先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本ですので、タブレット以上に慣れてください

【その他の重要事項】

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで AL も楽しみましょう。また、授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ～プラタモリにみる地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	モスクワとサンクトペテルブルク ロシアの二大都市の生活・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	ロシアによるウクライナ侵攻・戦争
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	日本と世界におけるツーリズム（観光）の歴史と発展 シベリア鉄道の旅

第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～日本のツーリズム（観光）と歴史地理
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるツーリズム（観光）と地域のあり方
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在、その関係性 EU・NATO とロシア
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係 複雑な問題をかかえる民族紛争 試験・まとめと解説
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート課題 100%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:100%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？～地誌＝地域像・世界像の構築
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明～日本とロシアの地誌とは？
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第6回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関する NHK スペシャル → 内容をレジュメで紹介する
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第8回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第10回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第12回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるように、PC やスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:100%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。環境問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策

- 第9回 現代社会の情報・通信・観光 世界・日本の海洋教育
- 第10回 日本社会における諸問題 地理学的な考え方を学ぶには？ 題（1）
- 第11回 日本社会における諸問題 日本の諸地域を事例として 題（2）
- 第12回 グローバル社会における諸問題 地理学的な考え方を学ぶには？ 題（1）
- 第13回 グローバル社会における諸問題 世界の諸地域を事例として 題（2）
- 第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022年4月3日（日）10：00～6日（水）9：00、結果発表は4月6日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸域の開発とその問題
第4回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク

第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状と課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で顕在化してきています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境	世界における生態・環境（1）
第 6 回	現代世界における生態・環境	日本における生態・環境（2）
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々

第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目指します。全 14 回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本における島嶼政策の展開とその問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家

第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :

reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目はこのコースを取る学生に社会学の基礎を提供し、社会のさまざまな分野の問題に対して社会学的な見方を醸成する。家族、ジェンダー、労働および医療などを扱う。

【到達目標】

コース修了時、以下を達成できる。
社会学の基本的な概念や理論を理解する。
社会現象をミクロとマクロの両面から考察できる。
社会の複層性に対する理解を深め、社会的事柄の成り立ちを多角的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第2回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第3回	行為と集団	行為の類型、群衆・公衆・大衆
第4回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第5回	多様化する家族	誰を家族とするか
第6回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第7回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第8回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第9回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第10回	社会福祉と社会保障	福祉国家・貧困・福祉政策
第11回	貧困と社会的排除	日本における社会保障
第12回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第13回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する
第14回	薬害を考える	サリドマイド事件再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学【第3版】』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%と期末レポート 50%を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides students taking this course with a foundation in sociology and develops a sociological perspective on issues in various areas of society. Topics include family, gender, labor, and health care.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro

perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースを取る学生に社会学の基礎を提供し、社会のさまざまな分野の問題に対して社会学的な見方を醸成する。この科目は社会学Ⅰに続く内容であり、消費、宗教、犯罪、教育、メディアなど社会学の各論を展開する。

【到達目標】

この科目を修了する時には、以下を達成できる。

社会学の基本的な概念や理論を理解する。

社会現象をミクロとマクロの両面から考察できる。

社会の複層性に対する理解を深め、社会的事柄の成り立ちを多角的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第2回	消費社会を生きる	ポストフォードイズムと超越性
第3回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第4回	国家とグローバルゼーション	グローバル化、ネーション、ナショナリズム
第5回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第6回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第7回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第8回	教育と社会	現代における教育、教育格差
第9回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第10回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第11回	マスコミュニケーション	マスコミの効果・影響
第12回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第13回	メディア	公共性、メディア論の視点
第14回	総括	「個人と社会」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）をアップする。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学【第3版】』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーもしくは小課題などの平常点 50 %、期末レポート 50 % を成績評価の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a continuation of Sociology I. It develops various sociological theories such as consumption, religion, crime, education, and media.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。

第5回 「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第6回 ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第7回 沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第8回 「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第9回 社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第10回 流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習する。
第11回 ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第12回 「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第13回 経済・政治構造の変化と政治社会学	太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に、経済、政治構造の変化を学習する。
第14回 振り返りと総括	春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組む、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員との質疑を通して対話形式で授業に参加する。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティの反転」	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と≪産業・自然・地域の人びと≫	1960年代～70年代前半の地域開発(第一・二次全国総合開発計画)が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画(三全総)が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	農山村の存続可能性と地域自治	マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。
第14回	振り返りと総括	秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009年)

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019年)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容(85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献(15%)、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できるPCないしタブレット。

・学習支援システムへの登録(授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。

第 14 回 現代の社会について考える 4 今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

1-3 学生は「社会的なもの」について考えます

4 自分が社会について考えるための題材を決めます

5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます

7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます

11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます

12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます

13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます

14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30 %).

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅰでは、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第1、2章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。

第 5 回 「市民」運動

「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。

第 6 回 ウーマンリブ

ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。

第 7 回 沖縄から見た「沖縄返還」

沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。

第 8 回 「情報化社会」

メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。

第 9 回 社会階層

階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。

第 10 回 流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ

消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。

第 11 回 ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む

普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。

第 12 回 「社会のテーマパーク化」と自己意識

自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。

第 13 回 経済・政治構造の変化と政治社会学

太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に、経済、政治構造の変化を学習する。

第 14 回 振り返りと総括

春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員との質疑を通して対話形式で授業に参加する。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティ」の反転	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と ≪ 産業・自然・地域の結びと ≫	1960年代～70年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画（三全総）が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	農山村の存続可能性と地域自治	マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。
第14回	振り返りと総括	秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるといふ課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付＋ ZOOM での講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。

- 第12回 現代の社会について考 旅を題材として、現代の社会につ
える 2 いて考えてみます。
- 第13回 現代の社会について考 住宅を題材として、現代の社会に
える 3 ついて考えてみます。
- 第14回 現代の社会について考 今後の課題を確認します。
える 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50%）、および期末レポート（50%）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria / Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付+ZOOMでの講義+オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30%）、および中間レポート（30%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツウの家族」は普通なのか	第3章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わりうるか	第4章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説
12	環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか	第6章発展編
13	医療・保健・福祉	テキスト第7章概説
14	病いや障害は「不幸」なことなのか	第7章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。
 ・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。
 またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021 年刊、2800 円＋税。
 他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき 2 回ワンセットとし、半期で 7 セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
	逸脱と社会病理	テキスト第 8 章概説
2	私たちはなぜ「よくないこと」をしないのか	第 8 章発展編
3	階層・階級・不平等	テキスト第 9 章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第 9 章発展編
5	都市とコミュニティ	テキスト第 10 章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第 10 章発展編
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第 11 章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第 11 章発展編
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第 13 章概説
10	「民意を問う」とはどのようなことか	第 13 章発展編
11	社会運動と NPO/NGO	テキスト第 14 章概説
12	市民は社会を変革できるか	第 14 章発展編

13 国家・権力・公共性 テキスト第 15 章概説

14 パラリンピックはなにを夢見るのか 第 15 章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。

またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021 年刊、2800 円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容は春学期の続き（テキスト第 8 章以降）であるが、扱うテーマは独立したもので、秋学期のみの受講でも差し支えない。ただし開講前に、社会学の基本的視座を示したテキスト第 1 章を読んでおくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型〕を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショリナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

参考書は以下を参照すること。
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 成績評価方法
・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
・予習・復習課題を課す。
・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。
- (2) 成績評価基準・評価の配分
・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型〕を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダンティーン』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法・基準

(1) 成績評価方法

- ・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
- ・予習・復習課題を課す。
- ・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
- ・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

- ・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が表示されている」の三つの段階で評価する。
- ・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型〕を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショリナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

参考書は以下を参照すること。
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 成績評価方法
・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
・予習・復習課題を課す。
・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。
- (2) 成績評価基準・評価の配分
・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「対面授業」を基本とする、数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法・基準

(1) 成績評価方法

- ・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
- ・予習・復習課題を課す。
- ・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
- ・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

- ・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
- ・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税
『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）
『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）
『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

Yon will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
 『戦後政治史 第4版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25% とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
 杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Analyse japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
 佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
 南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
 (感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
 試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Analyse japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 準備学習: 資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
 復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Analyse japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

Yon will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
 『戦後政治史 第4 版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25% とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3 回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。必要に応じて、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荏部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）。砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、
リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性の政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。必要に応じて、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011年）。
川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012年）。

砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意識的に授業の中で設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire of the fundamental principles of political science. This course deals with the basic concepts of the political science.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれに対する回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意識的に授業の中で設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with the modern politics in Japan.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習: 資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Analyse japanese politics with comparing another developed country

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

谷 憲一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は、フィールドワークという方法を中心に据えながら、「他者」を理解するための理論を築き上げてきました。この授業では一九世紀後半から現代までの人類学の展開を概観すると同時に、そこで中心となっている人類学のエッセンスとも言える考え方＝理論を繰り返し提示していきます。その上で、それぞれの授業で取り上げた理論を自分の関心に結びつけて思考できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な理論について理解し、理論を自分自身にとって身近で具体的な事例と結びつけて説明することができるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない、適宜関連する映像資料を用いる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
一	文化人類学とは何か	隣接領域と比較からみる文化人類学の特徴
二	文化人類学とフィールドワーク	フィールドワークという方法の特徴
三	進化主義と伝搬主義	19 世紀後半から 20 世紀前半における人類学理論とその問題
四	機能主義	デュルケム社会学と人類学の機能主義
五	文化相対主義の意義とその批判	自文化を相対的に眺める考え方について
六	構造主義（1）	構造主義の理解に必要な言語学的前提知識について
七	構造主義（2）	レヴィ＝ストロースの構造主義とその問題
八	文化の翻訳（1）	意味論の基礎について
九	文化の翻訳（2）	「文化の翻訳」論と民族誌における展開
一〇	ポストコロニアル状況と文化人類学	植民地主義批判がもたらした人類学的営みに対する批判
一一	モダニティ論	グローバル化や「伝統の創造」論、再帰的近代などモダニティに関する議論
一二	現代社会と人類学	人類学が伝統的に扱ってきた対象とは異なる対象についての近年の人類学の展開
一三	公共人類学	人類学と人類学外との相互交流のあり方

一四 総括

これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点（30 %）および最終レポート（70 %）により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方について、随時受講生の意見を聞き、授業に反映させます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いて資料を配布することがあります。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更があります。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology has developed theories for understanding the "other" while focusing on the method of fieldwork. In this class, we will gain an overview of the development of anthropology from the latter half of the 19th century to the present, and at the same time, we will continually consider the ideas that can be said to be the essence of anthropology. The goal is for students to be able to think about the theories discussed in each class in relation to their own research interests.

The class will be conducted in a lecture format, and related video materials will be used as appropriate. Students will be asked to submit reaction papers in order to grasp their level of understanding and interest, and feedback will be given to the entire class on the contents of the papers and questions raised. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated comprehensively based on their reaction papers and attitude toward the class (30%) and final report (70%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

北原 卓也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」とらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面とオンライン組み合わせで行います。

配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによってディスカッションを行うことがあります。

また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。

提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
4	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	中間のまとめのフィードバック	中間のまとめについてフィードバックを行う
9	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する
10	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する

11	ジェンダーとセクシュアリティ	男性と女性という分け方だけでは捉えられない多様な性差について考える
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010年。

『詳論 文化人類学』、桑山敬己・綾部真雄（編）、ミネルヴァ書房、2018年。

『文化人類学キーワード〔改訂版〕』、山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：40%、平常点（コメントシート）：30%

2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.

The goal of this course are:

- (1) to understand the concept of Cultural Anthropology and research method
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture.
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語と方言	言語人類学の基礎理論および日本の方言について解説する。
4	民族植物学	言語人類学の応用分野として、民族植物学について解説する。
5	世界の言語	世界の言語と文化との関係について解説する。
6	日本の民俗社会	日本の民俗社会の特色について解説する。
7	社会と親族	社会構造についての基礎理論を解説し、世界の親族システムについて概観する。
8	世界の通過儀礼	世界の伝統社会における通過儀の実態について解説する。
9	日本の通過儀礼	日本の通過儀礼の特色について解説する。
10	農耕と文化	農耕と生産経済、文化との関係について解説する。
11	環境と文化	自然環境と人類の文化との関係、環境人類学の基礎について解説する。
12	環境問題の将来	これからの環境問題について、文化人類学的な観点からの開設をおこなう。

13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内に実施する試験の結果（100 %）によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic theories of cultural anthropology.

Learning objectives: The goal of this course are to understand of basic theories on cultural anthropology.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policies: You overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 100%.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らし方や「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」(hoppii)の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。質問等は、学習支援システム「授業内掲示板」にお願いします。寄せられる質問・コメントには、できる限り迅速に回答をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

5	言葉と認識:言葉が違 うと世界も違って見え る?	文化相対主義に影響を受け培われ た言語相対論について学びます。
6	ケガレとタブー:「きた なさ」の正体をさぐる	日常生活で私たちの行動を方向づ ける衛生観念について、その根拠 を探りながら検討します。
7	ケガレと吉祥:スリラン カ女性のライフサイ クルと身体	スリランカ女性のライフサイクル に生じる身体上の変化を題材に、 ケガレがもつダイナミズム、多義 性について考えます。
8	贈与交換と絆:社会を つくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なも のの一つである贈与交換を題材 に、社会の作られ方人びとの繋が り方について考えます。
9	布施が支える社会福 祉:スリランカ仏教寺 院に集まる金とソー シャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布 施が地域の社会福祉に還元されて いる事例から、宗教と経済の関係 について考えます。
10	不幸の説明と呪術:医 学や科学が発達して も、占いやお守りがな くならないのはなぜだ ろう?	突然に起こる不幸な出来事に対し て生じる「なぜ?」という問いに 対し寄せられる様々な説明のスタ イルについて考えます。
11	癒しと呪術:スリラン カの悪魔祓い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑 賞しながら、病いとは何か、癒し とは何か、笑いと共同性は人びと の生に何をもたらすのか考えま す。
12	ジェンダー	文化的に構築された性差としての ジェンダーについて、「男」「女」 という二元的な性差に当てはまら ない人たちの振る舞いに注目しな がら検討します。
13	自己に住まう他者: 「私」と「あなた」の 境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学び ながら、社会関係の中で培われる 自己のありようについて考えま す。
14	ケアが支える社会	人生のある期間、人は誰もが誰か に依存することによってしか生き ることができないという事実にと ち戻り、労働や社会のあり方につ いて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに寄せられるコメントには、できる限り迅速に対応をしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires students to collect life history of your family, friends or other relationships based on interview research.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report of life history(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会現象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム（hoppii）」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

5	言葉と認識:言葉が違いうと世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。
6	ケガレとタブー:「きたなさ」の正体をさぐる	日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
7	ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体	スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
8	贈与交換と絆:社会をつくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がりに方について考えます。
9	布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
10	不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくならないのはなぜだろう?	突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
11	癒しと呪術:スリランカの悪魔祓い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
12	ジェンダー	文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
13	自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。
14	ケアが支える社会	人生のある期間、人は誰もが誰かに依存することによってしか生きることができないという事実立ち戻り、労働や社会のあり方について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに寄せられるコメントには、できる限り迅速に対応をしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires students to collect life history of your family, friends or other relationships based on interview research.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report of life history(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

廣田 龍平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、世界中のさまざまな環境に生きる人々が、どのように社会生活をいとなみ、自分たちや自分たち以外の人々やもの（生き物や死者、神霊など）と交流しているのかを、多様な側面から明らかにすることを目的とする学問です。私たちは世界のどこでも同じように生きているわけではありません。グローバル化が進む現在、自分たちと「他人」とのあいだにある「差異」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのが急速に模索されています。そのひとつの糸口となりうるのが、他者・他文化について学ぶことを通して自己・自文化さえをも問い直そうとする文化人類学的な思考です。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の出来事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。毎回、授業終了前に短いコメントを提出してもらい、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文化人類学の基本的な考え方である「文化相対主義」と、文化人類学の基本的な方法であるフィールドワークについて概要を説明する。
2	言語と民俗分類	言葉によって世界を認識する方法が大きく異なってくることを、主に民俗分類の観点から理解する。
3	親族と社会集団	文化人類学の基本である、集団の作り方についての理論や概念を、親族関係を中心に学ぶ。
4	狩猟採集と食べ物	生業や環境との関係の複雑さを、狩猟採集民の事例を通して学ぶ。
5	経済と贈与交換	金銭による取引以外にもさまざまな経済的行為があることを、贈与交換を中心として理解する。
6	宗教と儀礼	宗教が、単に何かを信じることでなく、世界観を形づくり、日常に区切りを入れるものでもあることを、儀礼的行為を通して理解する。

7	呪術と占い	人間が世界を操作したり予測したりするために作りだしてきた方法としての呪術や占いの多様性を説明する。
8	構造主義の基礎	文化人類学の理論としてもっとも影響があったレヴィ＝ストロースの構造主義について基礎を説明する。
9	神話と民間説話	人間は物語を語る動物であると言われる。世界の成り立ちや現状を説明する神話が存在することの意義を探索する。
10	政治と戦争	どのような社会にも政治は存在し、争いごともある。国家の成立も視野に入れ、社会がどのように維持され破壊されるのかを理解する。
11	芸術とテクノロジー	いわゆる「未開芸術」に対する見方の変遷を、問題は「美しさ」ではないとするアルフレッド・ジェルの議論を中心にして見ていく。
12	医療と身体とジェンダー	動物としての人間と、文化をもつ人間という2つの側面をまたがる領域を学ぶ。
13	LGBTQ とマイノリティ	セクシュアリティやジェンダーの多様性や社会的な位置づけの問題について学ぶ。
14	科学技術と物質性	現代の文化人類学がどのように科学技術を理解するのかを、アクターネットワーク理論を中心に説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業では見られない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、ニュース報道やSNSで流れてくる海外の映像などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】

以下の2冊が参考になります。
桑山敬己、綾部真雄（編）2018年『詳論 文化人類学』ミネルヴァ書房
波平恵美子（編）2021年『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（60%）
期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic themes of cultural anthropology to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand and explain other cultures and your own culture through the viewpoints of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end paper: 40%, Short reports : 60%

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第5回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第6回	環境と生業	人と自然の関係について
第7回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第8回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第9回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第10回	国家とエスニシティ	集団意識について
第11回	医療	病いと癒やし
第12回	芸術	歌う、描く、作る
第13回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（本年度授業担当者変更のため）

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、国際協力、科学技術、芸術と物質文化、観光と文化創造などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は「オンデマンド型／資料・教材コンテンツ配布型授業（全14回）」です。履修生のみなさんには学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第8回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第9回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第10回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第11回	地球温暖化と海面上昇	ツバルの事例から
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第13回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。
 岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018 年。
 梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017 年。
 波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第 3 版）』医学書院、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・学期末のレポートを提出しなかった場合、E 評価になります。
 ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. At the end of the course, students are expected to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。（1）功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。（2）それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。（3）社会の望ましいあり方に関して自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（1）毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。（2）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義（2）	功利主義への批判
第 4 回	リバタリアニズム（1）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リバタリアニズム（2）	リバタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義（1）	自由を平等に行使できる社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義（2）	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開（1）	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開（2）	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義（1）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義（2）	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義（1）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。どれか 1 冊が手元にあると、予習・復習をしやすと思います。
 ※授業内容との関連という点では、（1）→（4）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（4）→（1）という順番で読みやすいと思います。
 （1）W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴雄（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005 年
 （2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019 年
 （3）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012 年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

※木曜日3時限目の社会思想Ⅰ（授業コード：Q2215）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。(2) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困・格差・社会保障 (1)	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第4回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第5回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第6回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第7回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第8回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第9回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第10回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第11回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第12回	教育と差別	グループディスカッション
第13回	障害	障害と社会的包摂
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※(1)の本と(2)の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3)は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
(1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年
(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。(3) グループディスカッションのやり方についても、前年度にいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行いますが、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

※木曜日3時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2216）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予告するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について

6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%
複数回の小レポート：30%
定期試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の側面を理解することの意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を收拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解をもって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。（1）功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。（2）それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。（3）社会の望ましいあり方に関して自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（1）毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。（2）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第2回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義（2）	功利主義への批判
第4回	リベタリアニズム（1）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リベタリアニズム（2）	リベタリアニズムへの批判
第6回	リベラルな平等主義（1）	自由を平等に行使できる社会の構想
第7回	リベラルな平等主義（2）	人々が公正に協働する社会の構想
第8回	平等主義の展開（1）	「何の平等か？」をめぐる論争
第9回	平等主義の展開（2）	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第10回	運の平等主義（1）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第11回	運の平等主義（2）	運の平等主義への批判
第12回	関係論的平等主義（1）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第13回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義への批判
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を4冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすと思います。※授業内容との関連という点では、（1）→（4）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（4）→（1）という順番で読みやすいと思います。（1）W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年（2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年（3）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。
※金曜日4時限目の社会思想Ⅰ（授業コード：Q2211）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。(2) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困・格差・社会保障 (1)	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第4回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第5回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第6回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第7回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第8回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第9回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第10回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第11回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第12回	教育と差別	グループディスカッション
第13回	障害	障害と社会的包摂
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※(1)の本と(2)の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3)は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
(1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学 勁草書房、2016年
(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。(3) グループディスカッションのやり方についても、前年度にいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行いますが、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

※金曜日4時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2212）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では19世紀から20世紀にかけての現代フランス思想の歴史を学びます。

19世紀後半から世紀転換期、20世紀をへて現代まで、フランスの思想はドイツ哲学の影響の下、大きな変貌を遂げてきました。この授業ではこの時代の主要な思想家の言説を取り上げながら世紀末から現代にいたるフランス思想の動きを理解することを目的とします。

【到達目標】

19世紀後半から世紀転換期をへて現代までのヨーロッパの歴史を学ぶことができる。そしてその歴史を背景としたフランス思想の動きを学ぶことができる。

具体的にはヘーゲルから20世紀にかけてのドイツ哲学をふまえて、その影響を受けたフランスの思想家たちの考え方を学ぶ。たとえば、サルトル、フーコー、バタイユ、ラカン、アルチュセール、ドゥルーズ＝ガタリ、デリダなどの思想を学ぶことができる。

また、レヴィ＝ストロースの人類学、ロラン・バルトの言語思想にも視野を広げて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては主に講義形式を取る。授業を数回進めるごとにリアクション・ペーパーを提出してもらい、それに対してフィードバックしながら授業を進めていく。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で学ぶ内容についての概説と授業の進め方、成績評価の方法
2	歴史的背景	19世紀以後のヨーロッパ史
3	前提としてのドイツ哲学	フッサールからハイデガーへ
4	フランスへの導入	サルトルにおける実存と主体
5	人類学	レヴィ＝ストロースと構造
6	精神分析	ラカンとフロイトへの回帰
7	言語思想	バルトとテキスト理論
8	エロスとシュルレアリスム	バタイユとブルトン
9	認識論的切斷	アルチュセール
10	権力と主体	フーコー
11	欲望からリゾームへ	ドゥルーズ＝ガタリ
12	グラマトロジー	デリダの思想 (1)
13	正義としての脱構築	デリダの思想 (2)
14	現代思想は可能か	今後のフランス思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業の中で適宜、指定し、配布していきます。

【成績評価の方法と基準】

4 回のリアクションペーパー（40 %）と
期末レポート（60 %）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces a history of modern French ideas.

This course aims to grasp the essence of French ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけてのドイツ現代思想の歴史を学びます。19 世紀後半から世紀転換期をへて、20 世紀の 2 度にわたる世界戦争での敗北の経験はドイツ思想に強く刻印されています。この授業ではこの時代の主要な思想家の言説を取り上げながら、19 世紀から現代にいたるドイツ思想の動きを理解することを目的とします。

【到達目標】

19 世紀後半から世紀転換期をへて現代までのヨーロッパの歴史を学ぶことができる。そしてその歴史を背景とした思想の動きを学ぶ。具体的には、19 世紀のヘーゲル思想の解体と、その後のマルクス、ニーチェ、フロイト、ウェーバーの思想を学ぶ。そしてそれを前提としてドイツの戦後思想を学ぶ。
例えば、フロム、ホルクハイマー、ベンヤミン、アドルノ、ハバーマスなどの思想家の考え方を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。授業を数回進めるごとにリアクションペーパーを提出してもらい、授業の中でそれに対してフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で学ぶ内容の概説、授業の進め方、成績評価の方法
2	導入	19 世紀から 20 世紀のドイツ史
3	ヘーゲルから世紀転換期	ヘーゲルからマルクスへ
4	現代思想の源流（1）	ニーチェとフロイト
5	現代思想の源流（2）	マルクスとウェーバー
6	世界戦争という出来事	世界戦争とナチズム
7	西洋の没落	ルカーチとシュペングラー
8	批判理論の成立	フロムとホルクハイマー
9	危機における批評	ベンヤミンと批評
10	歴史哲学テーゼ	ベンヤミンと歴史の天使
11	啓蒙の弁証法	アドルノとホルクハイマー
12	ナチズムとアウシュヴィッツ	アドルノと戦後ドイツ
13	批判理論の展開	ハバーマス
14	フランクフルト学派	アメリカでの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に適宜、指定し、資料を配布していきます。

【成績評価の方法と基準】

4回提出するリアクションペーパー（40％）と
期末レポート（60％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces a history of modern German ideas.

This course aims to grasp the essence of modern German ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40％), and one term-end report (60％).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レトリックの戦後批評史——レトリックはたんなる文飾ではなかった。人はレトリックによって、思考の枠組みを形づくるのではない。とりわけ言論の自由が奪われていた戦中期、多くの文学者や批評家がレトリックを駆使して作品を書いた。秘匿しながら開陳するその文体は、戦後世界で大きく開花し、すぐれた作品を数多く生み出すことになる。高等学校のテキストから選り抜いた、もう一つの「文章講読」講義。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようにする。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降の授業で発表し、フィードバックとする。受講学生の数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概観	授業の進め方を提示しながら、批評的文章を読むことの意義を再確認する。
2	はじめに：レトリックに何ができるのか？	レトリックがたんなる技術ではなく、思想の枠組みの形成にかかわることを確認する。
3	「墮落」のすすめ：坂口安吾（1906-55 年）	戦後世界にとどろいた無頼派の逆説的な宣言は、多くの人々の喝采を受けた（「墮落論」1946 年）。
4	演じられる「弱さ」：太宰治（1909-48 年）	自意識との葛藤を作品化した作家が、パロディに託したものは何だったのか？（「瘤取り」1945 年）。
5	「饒舌」体の反骨：石川淳（1899-1987 年）	膨大な知識と教養に裏打ちされた作家の創作の秘密を、独自の文章で読み解く（「文章の形式と内容」1940 年）。
6	「警句（アフォリズム）」の快楽：小林秀雄（1902-84 年）	短く言い切ることで数々の名言を残した批評家の文章を堪能する（「無常という事」1942 年）。

7	プロレタリア文学の「側面」：中野重治（1902-79 年）	言い切らない表現の奥に見える人間性と、強靱な精神の在り処を探る（「ささやかな記憶」1957 年）。
8	「反語（イロニー）」を生きる思想：林達夫（1896-1984 年）	戦時下に反語的順応主義を貫いた編集者の真の意図とは何だったのか？（「反語的精神」1946 年）。
9	「仮託」という目くらまし：花田清輝（1909-79 年）	目くるめくような知識と韜晦の後ろに隠されていた真理を見極める！（「極大・極小——スウィフト」1942 年）。
10	保守「主義」なんてもない：福田恆存（1912-94 年）	左翼的な論調が幅を利かすなか、孤高の保守を貫いた思想家の生き方（「一匹と九十九匹と」）。
11	「比喩」の政治学：丸山眞男（1914-96 年）	卓抜な譬えを用いて戦後世界に風雲を巻き起こした政治学のスターの一面（「肉体文学から肉体政治まで」1949 年）。
12	「転向」したのか、しないのか？：清水幾太郎（1907-88 年）	急進的なマルクス主義からの転向は、社会学書のなかで秘かに行われていた（「レジャー」1966 年）。
13	「美」に殉じる生：三島由紀夫（1925-70 年）	耽美的な作品から軍事的組織の結成まで、理念を肉体化した文学者の独白に迫る（「重症者の兇器」1948 年）。
14	まとめ：授業全体の総まとめ	レトリックが生み出した「真実」とは何か？ レトリカルな文章が潰えてしまったのはなぜか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

坂口安吾『墮落論・日本文化私観 他二十二篇』（岩波文庫、2008 年）
 太宰治『お伽草紙・新釈諸国噺』（岩波文庫、2004 年）
 『石川淳評論選』（ちくま文庫、2007 年）
 小林秀雄『モオツァルト・無常という事』（新潮文庫、1961 年）
 『中野重治評論集』（平凡社ライブラリー、1996 年）
 『林達夫評論集』（岩波文庫、1982 年）
 花田清輝『復興期の精神』（講談社文芸文庫、2008 年）
 福田恆存『保守とは何か』（文春学芸ライブラリー、2013 年）
 『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー、2010 年）
 清水幾太郎『現代思想』上・下（岩波全書、1966 年）絶版
 三島由紀夫『小説家の休暇』（新潮文庫、1982 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

戦後すぐ（70 年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦労するかもしれない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスしダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: The History of Rhetorical Criticism in the Postwar Period—Rhetoric is not just a technique for decorating a text, but a means of shaping the framework of thought. Especially during the war years, when freedom of speech was deprived, many writers and critics used rhetoric to write their works. This style of writing, which is secretive and open, flourished in the postwar world and produced many outstanding works. This lecture will be a fresh and interesting "reading of texts" selected from high school textbooks.

Learning Objectives: By reading basic postwar criticisms, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society. Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義のバリ解読—— 19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想史的に読み解いていく。

【到達目標】

20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降に発表し、フィードバックとする。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 20 世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」」。

7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③）。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」①）。
13	オスマン対コミュン	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュンの夢が一瞬だけ実現するが……（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」②）。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション 1』ちくま学芸文庫、1995 年、所収）を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

Learning Objectives: By reading the work of Walter Benjamin, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.

Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について

6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%
複数回の小レポート：30%
定期試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を收拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	パークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の基礎理論を速習する

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*第 1 回講義の形態は学習支援システム（Hoppit）にログインして『経済学 LA』（担当:中平）内にある「お知らせ」で確認してください。第 2 回講義からは、教室で行います。

この講義は、春学期開講『経済学 LA』（担当:中平）です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』（担当:中平）に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

【到達目標】

・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。

・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を大別すると、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ（マイクロ）経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの 2 分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ（マイクロ）経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ（マイクロ）的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ（マイクロ）経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ（マイクロ）的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第 02 回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第 03 回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (I)
第 04 回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第 05 回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第 06 回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第 07 回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第 08 回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第 09 回	消費関数	消費と消費関数
第 10 回	投資関数	投資と投資関数
第 11 回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第 12 回	IS・LM 曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS 曲線・LM 曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第 13 回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第 14 回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

- ・塩澤修平（著）『基礎コース 経済学（第 2 版）』新世社、2011 年。

【参考書】

- ・浅田統一郎（著）『マクロ経済学基礎講義（第 3 版）』中央経済社、2016 年。
- ・浅田統一郎（著）『ミクロ経済学の基礎（第 2 版）』中央経済社、2017 年。
- ・井原哲夫／桜本光／辻村和佑／牧厚志（著）『経済学入門－現実の経済を理解するために（第 2 版）』日本評論社、2008 年。
- ・井堀利宏（著）『入門経済学（第 4 版）』新世社、2021 年。
- ・ステイグリッツ、ジョセフ・E. / ウォルシュ、カール・E.（著）、蔵下史郎/ 秋山太郎/ 蟻川靖浩/ 大久保博/ 木立力/ 宮田亮/ 清野一治（訳）『ステイグリッツ入門経済学（第 4 版）』東洋経済新報社、2012 年。
- ・福岡正夫（著）『ゼミナール経済学入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2008 年。
- ・マンキュー、N. グレゴリー（著）、足立英之/ 石川城太/ 小川英治/ 地主敏樹/ 中馬宏之/ 柳川隆（訳）『マンキュー入門経済学（第 3 版）』東洋経済新報社、2019 年。
- ・Bade, Robin and Michael Parkin, *Foundation of Economics*(8th ed.)(pap.), Pearson, 2018.
- ・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer, *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information*(7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Essentials of Economics*(6th ed.), Pearson, 2018.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Economics*(8th ed.), Pearson, 2022.
- ・Krugman, Paul and Robin Wells, *Essentials of Economics*(6th ed.), Worth Publishers, 2021.

【成績評価の方法と基準】

- ・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
- ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
- ・行事参加や疾病などによる欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

- ・出席確認を行いますので注意してください。
- ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
- ・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】

- ・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

- ・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

* This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
- think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。
観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ（マイクロ）・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	観光の現状と課題、SNA	観光のもたらす課題、SNA の概念と観光統計 (1)
第 02 回	SNA と観光統計 (2)	SNA の基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第 03 回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第 04 回	消費理論と観光 (1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第 05 回	消費理論と観光 (2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第 06 回	投資理論と観光 (1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第 07 回	投資理論と観光 (2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第 08 回	消費者行動と観光 (1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第 09 回	消費者行動と観光 (2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第 10 回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第 11 回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第 12 回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第 13 回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第 14 回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦／藪田雅弘（編著）『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017 年。

【参考書】

・M.T. シンクレア／M. スタブラー（著）、小沢健市（監訳）『観光の経済学』学文社、2001 年。
・ジェームズ・マック（著）、瀧口／藤井（監訳）『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。
・中崎茂（著）『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院、2002 年。
・スティーブン・J. ページ（著）、木谷／松下／図師（訳）『交通と観光の経済学』日本経済評論社、2001 年。
・A. ブル（著）、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井（訳）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社、1998 年。
・Bull, Adrian(1995), *The Economics of Travel and Tourism*(2nd revised ed.), Longman.
・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer(2020), *Tourism Economics and Policy*(2nd ed.), Channel View Books.
・Hall, C. Michael and Allan M. Williams(2008), *Tourism and Innovation*, Routledge.
・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair(2009), *The Economics of Tourism*(2nd ed.), Routledge.
・Sullivan, Charlotte(ed.)(2016), *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.
・Tribe, John(2020), *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism*(6th ed.), Routledge.
・Vanhove, Norbert(2017), *The Economics of Tourism Destinations*(3rd ed.), Routledge.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・行事参加や疾病などによる欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・春学期のリベラルアーツ科目『経済学 LA』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.
*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:
－ explain the fundamental problems of tourism economics;
－ think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.
* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ファイナンス入門（金融を学ぼう）

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に付けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。ただし、金融は奥が深く、春学期の授業はその入り口に立ったに過ぎない、さらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現在の感染が終息していない状況に鑑み、オンライン（オンデマンド）で実施する。したがって、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらう形で授業を進める。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分がある。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためである。また、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ

3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第 1 章、第 2 章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第 3 章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ
7	債券投資の理論（第 10 章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第 10 章） 続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第 1 講から第 8 講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第 11 章）とポートフォリオ理論（第 12 章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポートフォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第 12 章と第 13 章）	2 資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させ CAPM について学習する
12	コーポレートファイナンス①（第 7 章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第 7 章）	企業の資金調達におけるモジリアニ＝ミラーの定理（MM 理論）を学習する。
14	期末試験	Hoppi 上でこれまで学習した範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見て理解しただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30 分でも日々の生活で経済事象を知ること、は、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20 %）、2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。中間試験と期末試験は Hoppi 上で行う。また、各回のクイズも Hoppi 上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。

【Outline (in English)】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ファイナンス基礎（もう少し詳しく学ぶ）

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は主として金融の「入門レベル（経済学 LA）」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に付けてほしい。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1. 歴史的な金融の発展、2. 身近な金融活動の発見、3. 金融の意義と意味、4. 自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。秋学期の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、記事の内容が概ね理解できることを目標としたい。経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学 LA）を経て、金融基礎知識を固める初級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面で授業を実施する。ただし、感染状況によりオンライン（オンデマンド）で実施する場合もある。対面授業ではあるが、履修生の皆さんには資料を Hoppii 経由で配信し授業で教科書とともに使用する予定である。ファイナンスは自分で理解する上で問題を解くことが重要である。そこで、授業内容により学習後にクイズ（試験ではない）を行い、理解を深めるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利子率、将来価値、現在価値（第 1 章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
2	債券入門（第 2 章）①	様々の利子率と債券市場、債券の分類について学ぶ。本講義でも今学期から参加した学生も理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
3	債券入門（第 2 章）②、 債券分析の基礎（第 3 章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。 金利変動要因とデュレーションについて（復習）学習する。
4	債券分析の基礎（第 3 章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。

5	株式入門（第4章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
6	株式入門（第4章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、リスクとリターン（一部経済学 LA の復習）、株式投資の方法
7	中間テスト	これまで学習した範囲についてテスト（60分）を行う。ただし、感染状況によっては Hoppii 上で行う可能性もある。
8	先物入門（第5章）	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
9	先物入門（第5章） オプション入門（第6章）	先物取引による裁定取引、オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
10	オプション入門（第6章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定
11	ポートフォリオ理論入門①（第8章）	経済学 LA においてファイナンスで利用する基礎統計学は学習している、その前提で2つの危険資産によるポートフォリオを作成する。
12	ポートフォリオ理論入門②（第8章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPM の導出を行う。
13	ポートフォリオ理論入門③（第8章）と効率的市場仮説（第11章）	市場モデルと CAPM の類似点と相違点を整理する。市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲の試験を行う。ただし、感染状況によっては Hoppii 上で行う可能性もある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいる、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】

手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5

大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の3つの項目に基づいて行う。

- 1、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20％）、
- 2、第8回に実施する中間テスト（40％）、
- 3、第15回に実施する期末テスト（40％）である。

中間試験と期末試験は原則教室で実施する予定であるが、感染状況により Hoppii 上で行う場合もある。

授業に関連したクイズは不定期に行う。実施予告の指示に従って受験してほしい。

成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。
S:特に優れた成績である者、概ね90％以上、A:優れた成績であるもの、概ね80％以上、B:秀でた成績である者、概ね70％以上、C:平均的な水準である者、概ね60％以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

経済学 LA（春学期）はオンデマンドであるが、経済学 LB(秋学期)は原則対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等は Hoppii 上に掲示（授業開始から1週間のみダウンロード可）する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験においてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】

配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。是非、日々の経済金融活動に興味を持ってほしい。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recommend you to acquire a financial literacy for your life.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済入門

陳 文挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、with コロナ、after コロナの東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域問題に対する分析力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。また、中国武漢で発生した新型コロナウイルスによる東アジア地域の経済社会の混乱に対してどう対応すればよいかを考える機会も提供し、危機対応型思考力を鍛えることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画によって春学期は対面式で開講する予定。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もある。詳細は学習支援システム（Hoppii）内で前をもってお知らせする。
2. 一回の講義で基本的に 1 つの論題について議論、展開し、検証を行う。
3. 情報時代のニーズに応えるため、事例や図表、統計を用いる分析が多用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化の歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバリゼーションの形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証
6	農業の発展と人口問題	マルサスの人口論とその検証：人口問題の基本考え方

7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」と人口問題の両面性
8	農業の発展と制限	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」の失敗から「輸出振興」の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、世界の工場の形成と空洞化
12	経済成長と所得格差	クズネッツの「逆 U 字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差問題	ジニ係数の計算を通じて格差の本質を考える
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『現代東アジア経済論』、三重野文晴・深川由起子（編集）、ミネルヴァ書房。
『開発経済学—諸国民の貧困と富』、速水佑次郎（著）、創文社。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加状況
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況
 3. 期末レポートの完成状況
- 等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
2. 課題やレポートに対してできるだけ早くフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン（Zoom 方式）授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（パソコンなど）の用意が必要。

【その他の重要事項】

秋期『経済学 LB：中国経済入門』の継続履修を勧める。

【Outline (in English)】

The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years.

This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国経済入門

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の経済規模は 2010 年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第 2 位に上り詰めた。2019 年に中国の GDP は日本の 2.8 倍、アメリカの 3 分の 2 まで拡大した。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常態」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第 2 位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1, 大学の授業計画によって春学期は対面式で開講する予定。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もある。詳細は学習支援システム（Hoppii）内で前をもってお知らせする。

2, 一回の講義で基本的に 1 つの論題について議論、展開し、検証を行う。

3, 情報時代のニーズに応えるため、事例や図表、統計を用いる分析が多用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	近代中国革命運動①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	近代中国革命運動②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争とその日中両国に与える影響：ソ連の対中援助と「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	大躍進、人民公社と文化大革命：経済建設から政治闘争へ
6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	農村地域の「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界工場」礎の形成
7	中国の経済発展戦略研究	鄧小平氏の「先富論」と成長と格差：先発地域と後発地域との格差拡大問題

8	中間進捗状況確認	前半の復習：「効率」か「平等」か＝「共同富裕」ができるのか	1, in-class contribution (30%)
9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール (Haier) 社の事例研究	2, Reaction paper or homework (40%)
10	対外開放：国際貿易と外資導入	日本企業の中国進出と日中貿易	3, Term-end report (30%)
11	情報技術革新とネットビジネスの興隆	ネット通販巨人アリババの事例、BATH (百度、アリババ、テンセント、華為) 研究	
12	中国の「新経済」とニュービジネス：S級 B 級論	経済のサービス化、デジタル化、スマホ決済、シェア経済、EV、自動運転など	
13	高度成長の終焉と社会の成熟化	米中「新冷戦」、新型コロナウイルス、「三次分配」と「共同富裕」、少子高齢化問題など	
14	復習とまとめ	中国経済再考、期末レポート作成要領	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK 出版新書。
『中国 S 級 B 級論 ―発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

1, 授業参加状況；
2, リアクションペーパーや課題の提出状況；
3, 期末レポートの完成状況
等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1、学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
2、オンライン授業において基礎操作や通信環境等様々な問題を柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン (Zoom 方式) 授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器 (パソコンなど) の用意が必要。

【その他の重要事項】

1, 前期の『経済学 LA : 東アジア経済入門』とのセットにして履修してほしいが、特に必要事項ではない。
2, 中国経済の話題が中心だが、政治、社会、歴史、文化、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ取ってほしい。

【Outline (in English)】

This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of China economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ゼロ金利とグローバリゼーション I

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に付けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には春学期の経済学 LA ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象、秋学期ではグローバリゼーションの功罪について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいのかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できないでいる。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようにする。

春学期と秋学期を通じて履修することで、ゼロ金利とグローバリゼーションがいかに密接に絡み合っていることが理解できる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバリゼーションが経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、2016 年にトランプ大統領が誕生し、その後バイデン大統領がトランプに勝利したことでグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に付けることができる。

秋学期の「経済学 LB」と合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業で行う（ただし大学の方針に従う）。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』（東洋経済新報社、水野和夫、2022 年）の「序章」と第 1 章「ゼロ金利と『蒐集』」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期と秋学期を通じて、講義全体の流れを説明	経済学の考え方とはなにかについて、概略の説明、社会の下部構造としての経済
第 2 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）①	西欧史はコレクションの歴史であり、コレクションの歴史は金利の歴史である。目的は社会秩序の維持、対象は土地、霊魂、資本。『次なる 100 年』の「はじめに」を参照

第 3 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）②例外と常態	ゼロ金利は常態か例外かー近代では例外、ポスト近代では常態。『次なる 100 年』の「序章」を参照
第 4 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）③「蒐集」できなると何が起きるか	歴史の危機（ブルクハルト）一過去 3 回の危機と第 4 回目の 21 世紀。『次なる 100 年』の第 1 章第 1 節を参照
第 5 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）④ゼロ金利と「異次元金融緩和」	金融自由化と電子・金融空間の誕生、金融経済の肥大化現象。『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節を参照
第 6 回	21 世紀の「歴史の危機」①「中心」と「周辺」の関係	ニクソンショック（1971）とコペルニクスの宇宙論（1543）。『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 7 回	21 世紀の「歴史の危機」②米中新冷戦について	欧米の支配基準は何かーキリスト教と非キリスト教徒、文明国と非文明国、債権国と債務国。『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 8 回	21 世紀の「歴史の危機」③国際収支発展段階説	対外純債権と所得収支の関係。債権国の定義とは。債権国が債務国を支配する。『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 9 回	21 世紀の「歴史の危機」④GAFA と米国の絶望死とサハラ砂漠以南での児童労働	アダム・スミスの「共感」は 21 世紀も通用しているか。『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 10 回	米中新冷戦の背景	帝国と覇権国の違い。『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 11 回	国民国家と帝国	インターナショナルゼーションとグローバリゼーション。『次なる 100 年』も第 1 章第 2 節と第 2 章第 1 節
第 12 回	債権国と債務国ー所得収支と対外純資産の関係	米国と中国のねじれ現象。2030 年代に米中で所得収支が逆転する可能性はありなのか。『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 13 回	公式の帝国と非公式の帝国	「帝国主義に免疫性のある社会経済構成体などは皆無」（リヒトハイム）。『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 14 回	まとめ	春学期全体のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジュメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、春学期の授業は下記の本の序章と 1 章を中心に進める。『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022
<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>
『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末試験（感染状況次第では期末レポート）60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価（リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択）

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。
内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Students are graded by attendance attitude (40%) and the Term-end examination (60%).

ECN200LA

経済学Ⅰ B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ゼロ金利とグローバリゼーションⅡ

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には秋学期の経済学ⅠB ではグローバリゼーションの功罪について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいのかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようにする。

なお、春学期ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象などについて学ぶことができる。

春学期と秋学期を通じて履修することで、ゼロ金利とグローバリゼーションがいかに密接に絡み合っていることが理解できる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバリゼーションが経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、2016 年にトランプ大統領が誕生し、その後バイデン大統領がトランプに勝利したことでグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に着けることができる。

春学期の「経済学ⅠA」と合わせて受講することで、秋学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業を行う（ただし大学の方針に従う）。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』（東洋経済新報社、水野和夫、2022 年）の第 2 章「グローバリゼーションと帝国」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の全体の流れを説明	グローバリゼーションと帝国 vs. インターナショナルゼーションと国民国家（『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節）

第 2 回	グローバリゼーションの起源	インターナショナルリゼーションよりも起源は古いグローバリゼーション「住まいはせまくとも、思いは広し」(『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節)
第 3 回	中世が呼び寄せた資本主義	東方貿易、胡椒、金持ちの誕生(『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節)
第 4 回	13 世紀の数量革命と都市化	「資本は文明の別名にすぎない」(『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節)
第 5 回	21 世紀のグローバリゼーションと近代システム	近代は持続性を欠き、かつ矛盾に満ちたシステム(『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)
第 6 回	近代と機械化—進歩とは	あらゆるものを機械(マシーン、メカニズム)に見立てる近代社会(『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)
第 7 回	グローバリゼーションの定義とイデオロギー性	「グローバリゼーションは 21 世紀の妖怪である」(『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)
第 8 回	GAF A はマモンか	海賊ドレイク(イギリスの資本家第 1 号) vs. GAF A (『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)
第 9 回	帝国とは—支配と被支配の関係	国民国家における私的所有権と国際関係における「全世界の債権者」(『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 10 回	私的所有権	ラ・フォンテーヌ「財産を失った守銭奴」、ジョン・ロック『統治二論』、トルストイ「ホルストメー」(『次なる 100 年』の「終章」)
第 11 回	グローバリゼーションの暴力性	「ショック・ドクトリン」(惨事便乗型資本主義)、パンデミック、「絶望死」、エレファントカーブ(Oxfam レポート)(『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 12 回	日米の IS バランス—投資の日本と消費の米国	1985 年のプラザ合意と 1995 年の「強いドル」政策、弾けさせるためにつくられるバブル(『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 13 回	ケインズの経済思想—経済学はモラルサイエンスである	「若き日の信条」「わが孫たちの経済的可能性」
第 14 回	まとめ	春学期・秋学期のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、秋学期の授業は下記の本の 2 章を中心に進める。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末レポート(感染状況次第では期末レポート) 60 %
 受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価(リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択)

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。

内閣府(内閣府大臣官房審議官)および内閣官房(内閣審議官)での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reason. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class

(Grading Criteria / Policy) Students are graded by attendance attitude (40%) and the Term-end examination (60%).

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I/II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講すること、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウド スペース を併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウド スペース になりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法

第 2 回	レジリエンスとは何か	レジリエンス研究の歴史 認知心理学、発達心理学ほか
第 3 回	「ABC 分析」で自分を 知る（1）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 4 回	「ABC 分析」で自分を 知る（2）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 5 回	「ABC 分析」で自分を 知る（3）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 6 回	「思考のワナ」から抜 け出す	学習心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク ②〕
第 7 回	「氷山思考」を探り当 てる	深層心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク ③〕
第 8 回	中間レポート講評	第 2 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自分の「思い込み」に 挑む（1）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク ④〕
第 10 回	自分の「思い込み」に 挑む（2）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク ④〕
第 11 回	未来の「シナリオ」を 書き直す	臨床心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク ⑤〕
第 12 回	一瞬で心を静める	マインドフルネス 〔テキスト レジリエンスワーク ⑥〕
第 13 回	窮地で自分の思考に反 論する	総合 〔テキスト レジリエンスワーク ⑦〕
第 14 回	期末レポート説明	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）
<https://www.subarusya.jp/book/b251379.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
< 授業形式について >
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

心理学 LA・LB 共に、中間レポートは個人ワーク、期末レポートはグループワークで実施することを考えています。ただし、前年度の心理学 LB の期末レポートで、初の試みとして、5 人 1 組となるグループワークを行ったところ、学期末の成績評価では、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標（Learning Objectives）】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I / II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方と方法
第 2 回	ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイング研究の歴史 臨床心理学、文化心理学ほか

第3回	「こころの健康」を理解する	ポジティブ心理学的観点 〔テキスト 第1章〕
第4回	「こころの健康」を高める (1)	ポジティブ感情 〔テキスト 第2章 Part 1〕
第5回	「こころの健康」を高める (2)	エンゲージメント 〔テキスト 第2章 Part 2〕
第6回	「こころの健康」を高める (3)	良好な人間関係 〔テキスト 第2章 Part 3〕
第7回	「こころの健康」を高める (4)	人生の意味・意義 〔テキスト 第2章 Part 4〕
第8回	「こころの健康」を高める (5)	達成感、成功 〔テキスト 第2章 Part 5〕
第9回	中間レポート講評	第3回～第8回授業の振り返り
第10回	「こころの健康」を高める (6)	活力、身体 の健康 〔テキスト 第2章 プラス a〕
第11回	「こころの健康」を支援する (1)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第12回	「こころの健康」を支援する (2)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第13回	「こころの健康」を支援する (3)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第14回	期末レポート	第10回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『人生を豊かにするウェルビーイングノート：ポジティブサイコロジー × 解決志向アプローチでこころの健康を育てる』
(松隈信一郎著、金剛出版、2022年)
<https://www.kongoshuppan.co.jp/book/b596381.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
- ・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

心理学 LA・LB 共に、中間レポートは個人ワーク、期末レポートはグループワークで実施することを考えています。ただし、前年度の心理学 LB の期末レポートで、初の試みとして、5人1組となるグループワークを行ったところ、学期末の成績評価では、グメンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標（Learning Objectives）】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I/II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法

第 2 回	レジリエンスとは何か	レジリエンス研究の歴史 認知心理学、発達心理学ほか
第 3 回	「ABC 分析」で自分を 知る（1）	認知行動療法ほか [テキスト レジリエンスワーク①]
第 4 回	「ABC 分析」で自分を 知る（2）	認知行動療法ほか [テキスト レジリエンスワーク ①]
第 5 回	「ABC 分析」で自分を 知る（3）	認知行動療法ほか [テキスト レジリエンスワーク ①]
第 6 回	「思考のワナ」から抜 け出す	学習心理学ほか [テキスト レジリエンスワーク ②]
第 7 回	「氷山思考」を探り当 てる	深層心理学ほか [テキスト レジリエンスワーク ③]
第 8 回	中間レポート講評	第 2 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自分の「思い込み」に 挑む（1）	認知行動療法ほか [テキスト レジリエンスワーク ④]
第 10 回	自分の「思い込み」に 挑む（2）	認知行動療法ほか [テキスト レジリエンスワーク ④]
第 11 回	未来の「シナリオ」を 書き直す	臨床心理学ほか [テキスト レジリエンスワーク ⑤]
第 12 回	一瞬で心を静める	マインドフルネス [テキスト レジリエンスワーク ⑥]
第 13 回	窮地で自分の思考に反 論する	総合 [テキスト レジリエンスワーク ⑦]
第 14 回	期末レポート説明	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみようとお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）
<https://www.subarusya.jp/book/b251379.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

心理学 LA・LB 共に、中間レポートは個人ワーク、期末レポートはグループワークで実施することを考えています。ただし、前年度の心理学 LB の期末レポートで、初の試みとして、5 人 1 組となるグループワークを行ったところ、学期末の成績評価では、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標（Learning Objectives）】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I / II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方と方法
第 2 回	ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイング研究の歴史 臨床心理学、文化心理学ほか

第3回	「こころの健康」を理解する	ポジティブ心理学的観点 〔テキスト 第1章〕
第4回	「こころの健康」を高める(1)	ポジティブ感情 〔テキスト 第2章 Part 1〕
第5回	「こころの健康」を高める(2)	エンゲージメント 〔テキスト 第2章 Part 2〕
第6回	「こころの健康」を高める(3)	良好な人間関係 〔テキスト 第2章 Part 3〕
第7回	「こころの健康」を高める(4)	人生の意味・意義 〔テキスト 第2章 Part 4〕
第8回	「こころの健康」を高める(5)	達成感、成功 〔テキスト 第2章 Part 5〕
第9回	中間レポート講評	第3回～第8回授業の振り返り
第10回	「こころの健康」を高める(6)	活力、身体の健康 〔テキスト 第2章 プラスa〕
第11回	「こころの健康」を支援する(1)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第12回	「こころの健康」を支援する(2)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第13回	「こころの健康」を支援する(3)	ポジティブ心理学的介入 〔テキスト 第3章〕
第14回	期末レポート	第10回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『人生を豊かにするウェルビーイングノート：ポジティブサイコロジー × 解決志向アプローチでこころの健康を育てる』
(松隈信一郎著、金剛出版、2022年)

<https://www.kongoshuppan.co.jp/book/b596381.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に係るアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に係るアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

心理学 LA・LB 共に、中間レポートは個人ワーク、期末レポートはグループワークで実施することを考えています。ただし、前年度の心理学 LB の期末レポートで、初の試みとして、5人1組となるグループワークを行ったところ、学期末の成績評価では、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第1回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標（Learning Objectives）】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な研究方法、考え方、方法論などについて学ぶ。さまざまなテーマを取り上げてそれを考えていく。特に環境問題に重点を置いて、授業を進めていく。

【到達目標】

さまざまなテーマと話題を取り上げながら、地理学の方法論や考え方を学び、身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、毎回プリントを配布して講義をおこなう。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業内容の説明、成績評価の方法などを解説する。
2	文化・生態・環境	地理学と生態・環境問題との関係について解説する。
3	都市の生態環境①	都市の生態環境の特色について解説する。
4	都市の生態環境②	都市の生態環境の特色について解説する。
5	都市の生態環境③	都市の生態環境の特色について解説する。
6	日本の野生動物相①	日本の野生動物相の特色について解説する。
7	日本の野生動物相②	日本の野生動物相の特色について解説する。
8	日本の植生①	日本の植生の特色について解説する。
9	日本の植生②	日本の植生の特色について解説する。
10	生業条件と生態環境	生業経済と生態環境との関係について解説する。
11	森林問題①	都市の森林問題、里山林の問題などについて解説する。
12	森林問題②	都市の森林問題について解説する。

13 調査とレポート フィールドワークの方法について

解説する。

14 全体的な補足

全体的な補足をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習および復習を自宅でおこなうことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業内で必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査結果などを参照し、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な考え方、研究方法などを学ぶために、さまざまな話題を取り上げ、解説をおこなう。特に環境問題に重点を置いて講義をおこなう。

【到達目標】

地理学的な物の見方とは、どういうことをいっているのか、あるいはその視点・立脚点とはどのようなものか、などなどを身につけることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回異なったテーマを取り上げる。プリントを配布し、それをテキストとして用いながら授業を進めていく。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などについて解説する。
2	文化・生態・環境	授業を構成する文化・生態・環境の三つのキーワードについて解説する。
3	焼畑農業	焼畑農業の持つ諸課題について解説する。
4	農業の起源と赤米①	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
5	農業の起源と赤米②	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
6	海辺の環境①	海辺の環境の特色について解説する。
7	海辺の環境②	海辺の環境の特色について解説する。
8	海辺の環境③	海辺の環境の特色について解説する。
9	海辺の環境④	海辺の環境の特色について解説する。
10	海辺の環境⑤	海辺の環境と漁業問題について解説する。

11	森林問題	森林問題、里山林の環境的特性などについて解説する。
12	調査とレポート	フィールドワークの方法などについて解説する。
13	まとめ	全体的なまとめをおこない、総括する。
14	補足	補足的なテーマを適宜選んで取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習・復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学の基本から学びますので、高校時代に地理を選択していなかった学生も遠慮なく履修してください。

【Outline (in English)】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界、とりわけ低開発諸国、地域の地域問題について学んでいきます。

【到達目標】

食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。低開発諸国、地域のそれら問題は先進諸国との関係性の中で生じており、授業を通して先進諸国と低開発諸国、諸地域の関係を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「発展」から取り残されている地域・国を事例にして、現代世界の地域・社会問題を考えていきます。主としてアジア諸地域を例に挙げて、「発展」の仕組みを、その「裏側」から考えていくつもりです。取り扱うテーマは世界の食料、人口、貧困にかかわる諸問題です。それらの出来事は個別に存在するわけではなく、相互に関連し、問題を複雑化させています。したがって結論や解決策を単純に見いだすことはできません。現実の「構造」を知ることができるようにしていきたいと思います。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧問題 (1)	先進国と途上国の食料自給率
第 2 回	世界の食糧問題 (2)	食糧輸出国と輸入国
第 3 回	世界の食糧問題 (3)	農業生産性の向上－「緑の革命」－
第 4 回	世界の人口 (1)－人口の趨勢－	人口爆発とその後－ 70 億人突破－
第 5 回	世界の人口 (2)－二つの人口論－	マルサスとマルクス
第 6 回	世界の人口 (3)－死亡率・出生率変化の検討－	死亡率の急減と出生率低下の緩慢さ
第 7 回	世界の人口 (4)	人口問題と人権
第 8 回	貧困と援助・協力 (1)	世界の貧困－先進国、途上国それぞれに貧困－
第 9 回	貧困と援助・協力 (2)	衛生問題－乳児死亡率の地域差と女性の権利－
第 10 回	貧困と援助協力 (3)	教育の不平等－教育と識字率－
第 11 回	貧困と援助協力 (4)	難民問題の拡大と日本
第 12 回	貧困と援助協力 (5)	ODA と日本、世界の児童労働
第 13 回	貧困と飢饉	飢饉発生の構造的要因

第 14 回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「食料」「人口」「貧困」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、さらにそれら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えようとして下さい。時間をとって机に向かうことも重要ですが、それら問題を普段から意識することがより重要です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料プリントを配布します。場合によっては PowerPoint を使用します。

【参考書】

西川 潤 (2008) 『データブック 食料』、同『データブック 人口』、同『データブック 貧困』いずれも岩波ブックレット。その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 % で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントの多さに対する意見もありますが、必要ならば配布せざるを得ません。また使用データの古さも指摘されました。しかし途上国のデータは信頼性に欠ける場合もあり、新しいから正確というわけでもないのです。日本の労働に関する、特に近年の統計の杜撰さ（改ざん等）、隠蔽・歪曲体質を思い出せば、それは容易に想像できるはずです。データは読みこなさなければなりません。

また、配布資料のサイズが異なることがしばしばあり、統一して欲しい旨の意見もあります。なるべくサイズを統一したいのですが、できない場合もあります。予めご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

初回の授業はオンライン授業（教材提示）で実施します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is aimed at broadening students' basic knowledge of the current factors of underdeveloped countries and regions. It has three focuses, :1) food problems, :2) population problems, :3) poverty problems in underdeveloped countries and regions.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to help students understand the structural relationships (political and economic relationships) between developed countries and underdeveloped countries and regions.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100 %).

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の地域問題に関して、様々な問題群、その構造的要因について学んでいきます。具体的には第一次～第五次全国総合開発計画に代表される地域開発政策、同時期に生じた公害問題、地域格差等を指標として検討していきます。

【到達目標】

日本の高度経済成長期における全国総合開発計画に代表される地域開発政策、公害問題、地域格差等を手がかりにして、日本の地域問題の構造的要因に迫っていきます。多くの場合、それら問題は地域開発政策に代表される政治、経済に関わる要因に規定されています。授業を通して、日本の地域問題は構造的であることが理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

国籍の如何に関わらず、日本居住者は日本のことを「知っている」と思い込んでいます。しかし現代日本の地域・社会問題を「知っている」「理解している」人がどれくらい居るでしょうか。地域居住者の「権利」を侵害するような問題は、いつの時代も、どの地域でも発生していますし、発生するように「仕組まれ」ているといわなければなりません。具体例を挙げ、日本の「裏側」から日本の地域・社会問題に迫っていきましょう。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の地域性 (1)	「裏日本」の形成
第 2 回	日本の地域性 (2)	「裏日本」の役割
第 3 回	戦後日本の経済と地域	経済成長の内実
第 4 回	地域格差とその指標 (1)	格差の指標
第 5 回	地域格差とその指標 (2)	経済格差と指標
第 6 回	様々な地域格差	様々な地域格差－女性、高齢者、若者、外国人等－
第 7 回	日本の地域開発 (1)	地域開発前史
第 8 回	日本の地域開発 (2)	全国総合開発計画（全総、新全総、三全総、四全総、グランドデザイン）
第 9 回	地域経済の実態	経済の地域間相互依存
第 10 回	公害と地域 (1)	イタイイタイ病と神岡鉱山
第 11 回	公害と地域 (2)	イタイイタイ病訴訟
第 12 回	公害と地域 (3)	水俣病の「発見」とチッソ

第 13 回 公害と地域 (4) 水俣病訴訟

第 14 回 まとめ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の「地域問題」「社会問題」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、それら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えて下さい。それら問題は「身近」に存在しています。それら問題について普段から関心を持って下さい。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業時に資料プリントを配布します。

【参考書】

政野淳子（2013）『四大公害病』中公新書

その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントの多さに対する意見もありますが、必要ならば配布せざるを得ません。また使用データの古さも指摘されました。しかし途上国のデータは信頼性に欠ける場合もあり、新しいから正確というわけでもないのです。「先進国」と思われている日本において、日本の労働に関する、特に近年の統計の杜撰さ（改ざん等）、隠蔽・歪曲体質を思い出せば、それは容易に想像できるはずです。データは読みこなさなければなりません。

また、配布資料のサイズが異なることがしばしばあり、統一して欲しい旨の意見もあります。なるべくサイズを統一したいのですが、できない場合もあります。予めご承知おき下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the regional problems in Japan. It has two main focuses; 1) regional development policies in Japan's highest economic growth, 2) as a result environmental pollution problems and regional disparities in Japan.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students understand the structural factors (political and economic factors) of regional problems during the period of Japan's high economic growth.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100 %).

GEO200LA

地理学ⅠC

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高木 正、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

【到達目標】

現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。配布したプリントで進めていきます。学習支援システムで授業を開始するのは、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
I	はじめにー地理学の学問的性格	高校時代とは異なる地理学本来の特徴を押さえる。
Ⅱ－1	単線的発展史観	ロストウの単線的発展史観を紹介する。
Ⅱ－2	両極的発展史観	A・G・フランクの両極的発展史観を紹介します。
Ⅲ－3	世界システム	現代世界を世界システムとして捉える視点を紹介します。
Ⅲ－1	ヨーロッパ世界経済の成立	大航海時代に始まるヨーロッパ世界経済を捉えなおします。
Ⅲ－2	産業資本主義段階と植民地支配	ヨーロッパの工業化、植民地支配、パックス・ブリタニカ
Ⅲ－3	社会主義諸国の形成	ロシア革命から 20 世紀における社会主義諸国の形成をみます。
Ⅲ－4	第2次世界大戦後の先進国	パックス・アメリカナの形成を解説します。
Ⅲ－5	ヨーロッパの統合	EU の成立と拡大、通貨統合をみます。
Ⅲ－6	植民地の独立と発展戦略	発展途上国の成立過程をみます。
Ⅲ－7	発展途上国の多様化	いわゆる南南問題を理解します。
Ⅲ－8	冷戦の終結	社会主義諸国の変容と冷戦の終結をみます。
Ⅲ－9	地域紛争	現在の地域紛争を概観します。
Ⅳ	まとめ	復習と試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間は復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

室井義雄『南北・南南問題』世界史リブレット 56（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Course outline: Studying in the style of deepening their understanding of the modern world through geography.

Learning objectives: The purpose of this course is to provide students with a broad understanding of world affairs.

Learning activities outside of classroom: Your study time will be more than 4 hours for a class.

Grading Criteria: Term-end report:80% Contribution to class:20%

GEO200LA

地理学ⅡD

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高木 正、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学ⅡD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

【到達目標】

アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
I - 1	アフリカの概観と辺境化	アフリカの概要理解と歴史的背景を理解します。
I - 2	モノカルチャー経済の実態－①	コートジボアールのカカオ豆を扱います。
I - 3	モノカルチャー経済の実態－②	マリの綿花を扱います。
I - 4	南アフリカ共和国の現状－①	アパルトヘイト政策を振り返ります。
I - 5	南アフリカ共和国の現状－②	アパルトヘイト以上の経緯をみます。
II - 1	南アフリカ共和国の現状－③	南アの現状をみます。
II - 2	パレスチナ問題－①	歴史的経緯をみます。
II - 3	パレスチナ問題－②	中東戦争、レバノン戦争をみます。
II - 4	パレスチナ問題－③	オスロ合意から現在までの流れをみます。
II - 5	西アジアの石油資源	石油資源の開発をみます。
II - 6	資源ナショナリズム	産油国とメジャーの対立、OPEC と石油ショックを理解します。
II - 7	石油開発の主導権の移りかわり	OPEC の弱体化、湾岸戦争、価格決定権の変化などをみます。
II - 8	近年の西アジア・北アフリカ情勢	「アラブの春」以降を概観します。
III	まとめ	授業内容の復習。試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも1時間は復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

松本仁一『アフリカ・レポート』岩波新書 1146、ダニエル・ヤーギン『石油の世紀』（日本放送出版会）

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Main Course outline: Recognizing the diversity of the world
Learning activities: Understanding the current situation in Africa and West Asia.

Outside of classroom: Your study time will be more than 4 hours for a class.

Grading Criteria: Term-end report:80% contribution to class:20%

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

【到達目標】

授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、プリントを配布して授業を進めていくことにする。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方、おおまかな計画について解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本的なテーマである三つのキーワードについて解説する。
3	都市の生態環境（1）	都市の生態環境の特色をとらえるため、タンポポの生態について注目してみる。
4	都市の生態環境（2）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
5	都市の生態環境（3）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
6	日本の野生動物相（1）	日本の野生動物の特色について解説する。
7	日本の野生動物（2）	日本の野生動物、とくにオオカミについて注目してみる。
8	日本の植生（1）	日本の植生のうち、特に落葉広葉樹林帯について解説する。
9	日本の植生（2）	日本の植生のうち、特に照葉樹林帯について解説する。
10	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
11	補足（2）	全体も歴な補足をおこなう。
12	調査とレポート	地理学的な調査方法と成果のまとめ方について解説する。
13	まとめ（1）	全体のまとめと総括をおこなう。
14	まとめ（2）	全体のまとめと総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (100%) によって評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望を極力取り入れて授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

【到達目標】

全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回、プリントを配布して解説をおこなう。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などを解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本テーマであるこの三つのキーワードについて解説する。
3	日本の焼畑農業	日本の農業問題、特に焼畑農業について解説する。
4	稲作農業と赤米（1）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題を解説する。
5	稲作農業と赤米（2）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題解説する。
6	生業条件と資源	生業条件と資源環境の問題について注目する。
7	海岸の環境（1）	海をめぐる環境問題について解説する。
8	海岸の環境（2）	海をめぐる環境問題について解説する。
9	海岸の環境（3）	海をめぐる環境問題について解説する。
10	海岸の環境（4）	海をめぐる環境問題について解説する。
11	里山の環境	里山環境と人間生活の歴史について解説する。
12	補足	全体の補足をおこなう。
13	調査とレポート	地理学的な調査方法とそのまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめと試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）およびレポート（50%）によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望は極力取り入れ、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身近なグローバル社会を地理学で考える

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は世界や日本の身近な課題を地理学をとおして発見や問題意識の醸成などを旨とするを目的としている。そして、秋学期の LD でそうした課題の解決方法の一端を共に考えるという方向を考えている。具体的にはコロナで顕在化した世界や日本の格差や DX、AI など社会的課題を身近なところから一緒に地理学で考えます。これは、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

【到達目標】

皆さんが、身近なことから論理的に課題を見つけ、その背景や要因などを自ら多様性の中で考え、解決の方向性に活用できることを目標としたい。グローバリゼーションやコロナの影響等から社会が格差・分断、また不寛容になりつつあります。また、日本が世界から様々な視点で遅れたり、異なっていたこともあらためて理解されたかもしれません。今後のアフターコロナ下の AI 時代において皆さんはどうすべきでしょうか。問題の解決には知識だけでなく自分の目でみつけ、考えるという必要性が突きつけられている気がします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業の予定である。コロナ下で日本は様々な課題が顕在化、表面化した。こうしたマクロ的な課題や問題を概観しながら、高校までの授業とは違った視点、学際的に広がった地理学的視点から考えていく。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれません。一方的な授業ではない、知識からの応用である AL やフィールドワークはなかなか無理かもしれないが、可能な段階などで試みたい。なお、教材等は授業支援システムなどで指示しますので、注意してください。場合により、支援システム以外で Googleclassroom を併用する可能性があります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを身近なことから考える
2	グローバリゼーション・パンデミック・21 世紀	コロナで大きく変化した世界とさまざまな課題が顕在化した日本
3	グローバル化と産業	大量生産社会からの変貌と 21 世紀型産業 21 世紀の
4	21 世紀のボーダレス化と地域社会	GAFA・国際分業・市場
5	世界から遅れた日本	先進国が 様々な分野で遅れていることが・・・日本
6	世界の課題を日本から見る 1	若者の格差・貧困と地域社会
7	世界の課題を日本から見る 2	子ども・女性の貧困格差と連鎖社会的弱者

8	世界の課題を日本から見る 3	少子高齢化の課題と格差貧困
9	グローバリゼーションの課題 1	AI/第 4 次産業革命と格差社会・・・立地や仕事が変わる
10	グローバリゼーションの課題 2	AI/IOT/Big Data 社会とこれまで
11	グローバリゼーションの課題 3	世界の分断と今後の社会
12	グローバリゼーションの課題 4	環境か経済か カarbonニュートラルで産業が生まれるか
13	グローバリゼーションの課題 5	分断と共生 世界各国の分断やウクライナ問題などから考えてみよう
14	試験 まとめと解説	授業内試験（持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アフターコロナ以降は世界は大きく変わる可能性があります。普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。内外のことを新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

授業時や支援システム等に指示

【成績評価の方法と基準】

原則的には、期末の授業内試験（70 %持ち込み可）授業での平常点（30 %）を予定していますが、感染拡大などによりレポートに代替するなど変更点があるとは思いますが、お知らせなどに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等や映像を多用するため、これらや事前、事後に関連性のある情報、資料等を各自調べるなど活用してもらいたい。ほかの科目でも予想されるが、WEB 授業等に係るものは用意されたほうが・・・

【その他の重要事項】

秋学期の地理学 LD と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わないが、先に春学期の LC での問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期の LD で知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。学生の授業アシスタントも予定しますので相談してみてください。あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで楽しみましょう。支援システムの掲示板などをみんなで使いましょう。人数次第で Googleclassroom を開設する場合もあります。

【Outline (in English)】

Course outline: This course is to discover familiar issues in the world and Japan through geography, and to foster an awareness of these issues.

Learning objectives: The goal is to be able to find issues logically from familiar things, to think about the background and factors of the issues in a diverse context, and to apply this to the direction of solutions.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 70% Contribution to class: 30%

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：地域再生を地理学で考える

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、地域の課題解決の方向性を考えます。具体的には、グローバル化・ゼーションなどで衰退する日本を地域再生論やコミュニティデザインなど地理学の視点を中心に考えます。解決策モデル等を紹介しながら、その糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会の実現を模索、検討できることを目的としています。対面形式中心ですのでインプット型の学ばではなく、むしろ地理学を材料に、アクティブに一緒に考えることを目指します。

【到達目標】

秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、学生が自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になることを到達目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業の利点を如何にいかすかが問われます。地域再生を軸とした解決方法のモデル的介绍も含めて、一部講義形式となる可能性がありますが、それだけならオンデマンドで十分かもしれません。多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のために皆さんと考えていきたいと思います。初めての受講でも心配ありません。教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。また、授業アシスタントの人も予定していますので、不安な場合は相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アフターコロナの未来社会をみんなで考えよう
2	日本の課題再考 1	AI の判断する 2050 の日本・・TOKYO か地方
3	課題再考 2 地域社会の崩壊か	極点社会という少子高齢化社会
4	解決の方向 1 問題の可視化	RESAS というビックデータ・オープンデータ
5	解決の方向 2 具体化と人	工夫をする地域社会 ソーシャルビジネス
6	都市再生 1	TOKYO からの脱出 移住とりモートワーク
7	都市再生 2	失敗から学ぶ コンパクト・スーパシティの試み
8	都市再生 3	RESAS から考える観光の失敗可視化すると

9	地域再生 1	ハロウィンなどイベント再生
10	地域再生 2	地域戦略をビックデータ、GIS 等で、コミュニティ論再考
11	地域再生 3	AKIBA というコミュニティと場の重要性
12	地域再生 4	関係人口と地域へのかかわりかたコミュニティ再考
13	地域再生 5	震災から 11 年 復興ができたのか
14	試験 まとめと解説	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも 1 つの方法が正解ではありません。日本はどんどん世界から遅れ始めていることに気が付いていますか。将来の自分が想像できますか、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが使用する場合は、授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

期末の授業内試験（70 %）、授業での平常点（30 %）で総合的に評価する予定でいる。状況により変更の場合などもあり得るかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

通信環境と、スマホよりはパソコン使用を。このため、この授業以外のためにも大学からの貸し出しなどは積極的に申し込んでください。授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいです。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで楽しみましょう。また、できれば地理学 LC と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わない。楽かどうかは皆さん次第ですが、アフターコロナで生き残るためには、知識だけではなく自ら考え行動することが必要な気がします。なお、学生アシスタント等の協力で大学の情報なども充実させていきたい。

【Outline (in English)】

Course outline: The lecture will consider the direction of solutions to local issues.

Learning objectives: We would like to make it an attainable goal for students to be able to indicate the direction of various problem solving with diversity from community design and social business related to the local community.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 70% Contribution to class: 30%

SOC200LA

社会学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文化の社会学

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化社会学、特に表象文化を対象とする社会学について学ぶ。文化を研究するためには、それを対象として捉え、記述するための概念・視角（＝文化理論）についての理解が不可欠となる。国内外の文化社会学や文化研究の古典とされる重要文献を取り上げながら、文化を社会学するための視座・着眼点の獲得を目指す。

【到達目標】

・文化を社会的に考察するための理論（基本的な着眼点や問題設定など）について理解できる。
・文化的作品（または作家の営み、生産・流通・受容など）の具体的な特徴を捉え、その社会的文脈性を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進める。受講生には毎回のテーマに関する課題提出を課す。提出物へのフィードバックは、次回授業の冒頭やまとめの回でいくつかピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	文化社会学へのイントロダクション
第 2 回	遊戯	井上俊『遊びの社会学』を中心に
第 3 回	欲望	作田啓一『個人主義の運命』を中心に
第 4 回	記号	R・バルト『神話作用』を中心に
第 5 回	表象とイデオロギー	マルクス主義的アプローチの系譜
第 6 回	文化テキストの分析（1）	『君の名は。』の構造分析
第 7 回	文化テキストの分析（2）	『スワロウテイル』と 1990 年代東京
第 8 回	文化テキストの分析（3）	『ナビの恋』と南島イメージ
第 9 回	文化テキストの分析（4）	『ゴジラ』と『シン・ゴジラ』の比較分析
第 10 回	メディア文化	ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」を中心に
第 11 回	文化と卓越化	ブルデュー『ディスタンスション』および『芸術の規則』について
第 12 回	受容と流用	カルチュラルスタディーズの展開
第 13 回	コンヴァージエンス・カルチャー	参加型文化の時代
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足、および課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題に取り組むとともに、授業で紹介するテキストや作品を熟読・鑑賞し、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・井上俊／長谷正人編『文化社会学入門』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・栗谷佳司／太田健二編『表現文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50 %）＋期末レポート（50 %）
記述の具体性・独自性・妥当性などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度以来オンデマンド型（資料）での実施だったが、受講生の反応を見る限り概ね好評であったように思う。今後も工夫を重ねていきたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course introduces students to the key concepts in sociology of culture and to the ways of thinking about culture in the contemporary world.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand key concepts in cultural theory and fundamental approaches of the sociology of culture.

- analyze artworks (artists, cultural production/distribution/reception, and so on) in its social context.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

SOC200LA

社会学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代社会論

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な現代社会論について学びます。現代社会に生起する諸々の現象・問題について、歴史的・構造的な視点をもって、分析・記述・考察するための社会学的視野の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・基本的な現代社会の理論について理解し、具体的な事象に応用できる。
- ・現代社会において生起するさまざまな事象について取り上げ、その背景・帰結とともに考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。毎回、提出課題（小レポート）を課し、具体的な事例についてまとめてもらうなどします。課題についてのフィードバックは、次回授業冒頭やまとめの回にて、いくつかの答案をピックアップする形でを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明、初回アンケートほか
第 2 回	リスク社会論	ベックのリスク社会論の要点と応用
第 3 回	消費社会論	ボードリヤールの記号消費論の要点と応用
第 4 回	格差社会論	〈格差〉から考える現代社会
第 5 回	監視社会論	管理／監視の技術から考える現代社会
第 6 回	情報社会論	インターネットが切り拓いた社会的地平
第 7 回	再帰的近代化論	ギデンズのモダニティ論を中心に
第 8 回	昭和ノスタルジア	『ALWAYS 三丁目の夕日』から考える現代社会
第 9 回	ポスト・トゥルース	陰謀論の時代
第 10 回	排除型社会	J・ヤングの著作を中心に
第 11 回	コンプライアンス社会	フラット化する文化と社会
第 12 回	平成史	平成とはいかなる時代だったか
第 13 回	アフター・コロナ	コロナ禍から考える現代日本社会
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマに沿った具体的事例の収集、考察、まとめに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- ・長谷川公一ほか『社会学 [新版]』（有斐閣、2019 年）
- ・本田由紀編『現代社会論—社会学で探る私たちの生き方』（有斐閣、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50 %）＋期末レポート（50 %）。
記述の具体性・妥当性・独自性を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度以来オンデマンド型での実施となったが、受講生の反応を見る限り概ね好評であったように思う。今後も丁寧な資料作成を心がけたい。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives]

This course introduces students to the key concepts of contemporary social theories and to the ways of thinking about current social changes.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand fundamental approaches and theoretical arguments of contemporary social theories.
- think about social issues (cultural phenomena and so on) in contemporary context.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

SOC200LA

社会学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治と社会における「問題の発見」

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では政治と社会に関わる様々な事例を取り上げながら、政治と社会を動かしている原理を理解するとともに隠れている問題の発見に努める。これらを通して、社会や政治、広くは時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付けることを目指す。問題解決能力は問題を発見する能力とそれを解決する能力に区分できる。問題解決能力の中心は「問題の発見」にある。診断ができれば治療することもできない医者のように、多くの領域において「問題解決」の主題は「問題の発見」である。この「問題の発見」こそが創造的な問題解決の出発点である。

【到達目標】

- ・政治と社会を動かしている原理と問題が発見できる。
- ・発見した問題を自分の言葉で論理的に発表、論述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「対面授業」を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、成績評価の方法と基準
2	ライト・ミルズ『社会「社会学的想像力」の役割を学ぶ	
3	何が私たちの行動を規制するのか	道徳的圧力と同調圧力
4	政治と規範	正義論の系譜
5	逸脱の政治	社会的烙印
6	税と正義	宝くじの政治社会学
7	中間テストおよび中間まとめ	中間テストおよび中間まとめ
8	戦争について	テキストの「社会的失明の時代」の講読
9	歴史について	テキストの「失敗の意味」の講読
10	解放について	テキストの「人間の場所」の講読
11	自由について	テキストの「選択と選別の間」の講読
12	日本の近代の始まりについて	藤田省三「維新の精神」の講読
13	歴史とナショナリズム	丸山眞男「超国家主義の論理と心」の講読
14	複製技術とナショナリズム	ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

参考書とレジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。

・事前学習 2 時間：概念の調べ、教科書や参考文献を事前に読んでおく。

・事後学習 2 時間：ノートの整理、教科書の他、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

市村弘正・杉田敦（2005）『社会の喪失』（中公新書、858 円）。

この他、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

ベネディクト・アンダーソン（1997）『増補版 想像の共同体』NTT 出版。

杉田敦（2009）『政治への想像力』岩波書店。

森達也（2003）『放送禁止歌』知恵の森文庫。

山本七平（2018）『「空気」の研究』文春文庫。

【成績評価の方法と基準】

(1) 成績評価方法

・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。

・予習・復習課題を課す。

・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。

・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。

・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

How should we understand the relationship between society and politics? The purpose of this class is to understand the principles that move society and politics and to find hidden problems by taking various examples related to society and politics.

The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic issues, principles, and approaches of political sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC200LA

社会学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：国家と市民の役割—政治葛藤の社会学的理解

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家の本質、機能、市民の役割などについて学ぶ。具体的には、マックス・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念を手掛かりに、歴史上登場した国家論の変遷と共に「市民」や政治制度の「民主主義」に関する理論を取り上げる。これらを通して受講者自らの「国家」と「市民」、「民主主義」に関する見解と比較してみることで、自らの考え方を少しでも明瞭にすることが目的である。

【到達目標】

- ・政治社会学の基本的な概念を自分の言葉で論理的に発表、論述することができる。
- ・近代における国家論の変遷を歴史的な文脈で理解できる。
- ・政治葛藤の社会学的な理解力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「対面授業」を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政治社会学の概要	主な問題関心とテーマの概説
2	古典講読①	マックス・ウェーバー『職業としての政治』を手掛かりに基礎概念の理解する
3	古典講読②	マックス・ウェーバー「支配の三類型」について学ぶ
4	トマス・ホブズ『リヴァイアサン』	国家主義国家論の基礎を学ぶ
5	ジョン・ロック『統治二論』	自由主義国家論①
6	アダムスミス『国富論』	自由主義国家論②
7	中間テストおよび中間まとめ	中間テストおよび中間まとめ
8	ジャン＝ジャック・ルソー『人間不平等起源論』	自由と平等の相互関係について学ぶ
9	カール・マルクス『共産党宣言』	階級国家論、国家消滅論—解放の方法や在り方に関する議論を学ぶ
10	カール・ポパー『開かれた社会とその敵』	民主主義に対する考え方を学ぶ
11	オルテガ・イ・ガセツト『大衆の反逆』	大衆民主主義論の基本を学ぶ
12	エリック・フロム『自己からの逃走』	自発的服従について学ぶ

13 ヘンリー・デイヴィッド 「市民的不服従」について学ぶ
ド・ソロー『市民の反抗』

14 ラインホルド・ニー 個人道徳と社会道徳の違いを理解
バ『道徳の人間と非道徳的社会』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

参考書とレジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。

・事前学習 2 時間：概念の調べ、教科書や参考文献を事前に読んでおく。

・事後学習 2 時間：ノートの整理、教科書の他、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

マックス・ウェーバー（1919 = 2018）野口雅弘訳「仕事としての政治」『仕事としての学問・仕事としての政治』講談社。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方（第 2 版）』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

(1) 成績評価方法

・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。

・予習・復習課題を課す。

・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。

・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。

・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand the interrelationship between politics and social structure from a macroscopic point of view. We will learn the basics of classical theories on civil society and state, political ideology and class conflict, and look at various topics of civil society from an institutional and cultural perspective.

The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic issues, principles, and approaches of political sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%)、in class contribution(20%).

POL200LA

政治学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：フォークミュージックの政治学

音楽における政治的抵抗について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

ミシェル・フーコーについての基本的知識を得ること。

US のフォークミュージックと政治との関係について理解すること
19 世紀以降の US の政治と社会、特に人種差別についての基本的知識を得ること。【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	ミシェル・フーコー (1)	フーコーの権力論
#3	ミシェル・フーコー (2)	フーコーのパレーシア
# 4	ミシェル・フーコー (3)	フーコーのキュニコス派論
# 5	西洋の歴史における キュニコス派	キュニコス派と抵抗：「シェイク スピアとボブ・ディラン」
# 6	民俗学の政治学	フォークの概念の成立
# 7	US のフォークミュー ジック	真のフォークとフォークミュー ジックの追求
#8	WW I 後のフォーク ミュージック	フォークミュージックの政治経済 学
# 9	黒人音楽と抵抗 (1)	「奇妙な果実」：US の人種差別
#10	黒人音楽と抵抗 (2)	スピリチュアルと抵抗
#11	ブルースの系譜学 (1)	Before the Blues
# 12	ブルースの系譜学 (2)	ジム・クロウ体制とブルース
# 13	ブルースの系譜学 (3)	真正なブルースの追求
# 14	Outro.	春学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。

紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラーミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

しかしながら、洋楽やボブ・ディランについての知識がない学生に配慮して授業を行います。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

授業時間外の質問はメールや ZOOM によるミーティングで対応します。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Theme: Politics of folk music

This course deals with political resistance in music.

The fundamental aim of this course to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering political resistance in music.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of Michel Foucault

To understand relationships between American folk music and politics

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States,

especially racism, since the nineteenth century

< Learning activities outside of classroom >

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

Final grade will be calculated according to term-end report.

POL200LA

政治学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランと US 政治の関係について考察する。

ボブ・ディランと US 政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW II 以降の US の政治と社会についての基本的知識を得ること。
ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォークミュージックの追求	ローマックス親子とレッド・ベリーの
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ピート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラージュの政治学
#7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965 年	US のニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ピート・ジュネレーション	文学による政治の変容
#10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
#11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」
# 12	Slow Train Coming	Bob Dylan の改宗と US の政治と社会
# 13	Things Have Changed.	終末論と US の政治と社会

#14 Outro.

秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。
紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年、760 円＋税）

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

授業時間外の質問はメールや ZOOM によるミーティングで対応します。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Theme: Bob Dylan and Politics

This course deals with the political world of Bob Dylan.

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan

< Learning activities outside of classroom >

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policy >

Final grade will be calculated according to term-end report.

CUA200LA	
文化人類学 L	2017 年度以降入学者
サブタイトル：「同時代」をめぐる問い	
ベル 裕紀	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 3/Wed.3	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。

【到達目標】

学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと 80 年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。
第二回	「負い目」の政治学	D. グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。

第四回 暴力の人類学

暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。

第五回 ことばと政治

第六回 病とケアと身体

P. ファーマーの「構造的暴力」と病の関係性の指摘や田辺繁治のタイのエイズ患者の自助組織を対象とした研究などを例にしながら、病とケアのあり方について理解を深める。

第七回 機械と工業の人類学

工場は労働力と機械とモノの流通の結節点として捉えることができる。工場で作られる製品はそうした流通と生産のネットワークの中で捉えることができる。この授業では、人類学における科学技術論などを参照しながら、製品のオーサーシップやあるいは機械そのものに対する理解を深める。

第八回 都市人類学

都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第九回 グローバル化の人類学

人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。

第十回 社会運動論と人類学

1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。

第十一回 人権と人類学

難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。

第十二回 移住労働の人類学

第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形で労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。

第十三回 文化と権利

文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宗教人類学

谷 憲一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる社会・文化の研究を通じて展開してきた文化人類学は、他者理解・自己理解の学問です。本講義では人類学的な宗教研究の基本的なアプローチを学説史的に概観し現代の宗教現象に対して人類学的にアプローチする方法を学びます。後半では、現代のイスラームの事例を通じて、人類学的なアプローチから宗教についての理解を深めます。

【到達目標】

宗教人類学における主要な理論について、自分自身の身近な事例と結び付けながら自分の言葉で説明することができる。世界の様々な宗教について知るとともに、自らの宗教観についても批判的に見つめなおすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない、適宜関連する音声教材、映像資料を用いる。講義全体の前半部で人類学の古典的ともいえるテーマを取り上げ、後半部で今日的な問題意識に基づいたテーマを取り上げる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	宗教の人類学的研究の特徴	文化人類学の基本的な考え方、宗教という対象について
②	進化論アプローチ	タイラーやフレイザーらの議論とその問題
③	デュルケームの宗教論	デュルケームによる宗教論とその展開
④	モースの贈与論	モースの贈与論とその展開
⑤	機能主義アプローチ	エヴァンス＝プリチャードの妖術論、合理性論争
⑥	通過儀礼・象徴論	ファンヘネップ、ターナー、ダグラス
⑦	解釈人類学	ウェーバーの理解社会学からギアツの解釈学的アプローチへ
⑧	「宗教」概念の系譜学	アサドによるギアツ批判
⑨	世俗化と宗教復興	近代社会における宗教をめぐる相反する見解について
⑩	イスラームの人類学（1）	イスラームの教義の基礎について
⑪	イスラームの人類学（2）	世界のムスリムの実践の多様性と言説的伝統
⑫	イスラームの人類学（3）	ヒジャーブ問題と世俗主義
⑬	イスラームの人類学（4）	現代イランのホセイン追悼儀礼の事例分析

⑭ 総括

これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点（30％）および最終レポート（70％）により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方について随時受講生の意見を聞き、授業に反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いて資料を配布することがあります。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更があります。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology, which has been developed through the study of different societies and cultures, is the study of understanding others/ourself. In this course, we will review the basic approaches to the study of religion from an anthropological perspective, thus learning how to approach contemporary religious phenomena from an anthropological perspective. In the second half of the course, we will apply our anthropological approach to understanding religion to the case study of contemporary Islam.

The class will be conducted in a lecture format, and related video materials will be used as appropriate. Students will be asked to submit reaction papers in order to grasp their level of understanding and interest, and feedback will be given to the entire class on the contents of the papers and questions raised. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated comprehensively based on their reaction papers and attitude toward the class (30%) and final report (70%).

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

北原 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化人類学で扱われる現在の我々の生活に密接な医療、スポーツ、観光といったトピックについて考える。また、オセアニアという地域に焦点をあて、地域から文化的な事象をみていく。普段、何気なく接している事柄を新たな視点から捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学で扱われるトピックについて理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」ととらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面とオンライン組み合わせで行います。

配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによってディスカッションを行うことがあります。

また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。

提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：講義の目的と概要	授業の進め方と目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	医療	医療を文化の視点から捉えられるようになる
3	スポーツ	スポーツを文化の視点から捉えられるようになる
4	観光	文化現象としての観光を理解する
5	贈与	贈与という行為について身近な事例と世界の事例を比較しながら理解する
6	開発	開発と文化をめぐる諸問題について考察する視点を獲得
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	中間のまとめのフィードバック	中間のまとめについてフィードバックを行う
9	人の移動	移民や難民について理解する
10	コミュニティ	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する

11	オセアニアの人類学 1: オセアニアとはどこか	オセアニアの地理と歴史について概観し、各地域の文化の背景を理解する
12	オセアニアの人類学2 ：タトゥーを入れる人々	身体変工についてポリネシア地域で見られるタトゥー文化の事例から理解する
13	オセアニアの人類学3 ：トンガ王国の祝祭	祝祭についてトンガ王国の戴冠式の事例から理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010年。

『オセアニア史』山本真鳥（編）、山川出版会、2000年。

『オセアニアの人類学-海外移住・民主化・伝統の政治』須藤健一、風響社、2008年。

『太平洋諸島の歴史を知るための60章-日本とのかかわり』石森大地・丹羽典生（編）、明石書店、2019年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：40%、平常点（コメントシート）：30%

2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.

The goal of this course are:

- (1) to understand the topics of Cultural Anthropology
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA200LA

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：Cultural Anthropology L

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基礎について学ぶ。人間と文化との関係の構造的な理解をめざし、さまざまなテーマからそれを見ていく。

【到達目標】

文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的なテーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討して試みることにする。この作業を通じて、文化人類学的な物の考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義して試みたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ひとつずつ基本テーマを取り上げ、それに関する詳細情報やデータ類を提示しつつ、解説と検討をおこなう。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	プロローグ	受講にあたっての注意事項、授業の全体計画などについて解説。
②	焼畑と植生Ⅰ	日本の焼畑農業の実態を長野県秋山郷を例に解説する。
③	焼畑と植生Ⅱ	日本の焼畑農業の実態を山梨県奈良田を例に解説する。
④	住居と生活空間	住居と居住空間の多様性、その文化的拌啓などについて学ぶ。
⑤	年中行事の構造	日本の年中行事の特色を、その構造分析の側面から開設する。
⑥	民間信仰と文化変容	宗教人類学および日本の民間信仰の特性について学ぶ。
⑦	台湾の社会と民族問題	台湾における多民族社会の実情と問題点について学ぶ。
⑧	アミ族の社会変化	母系制社会の変容の実態をアミ族を例に解説する。
⑨	ブヌン族の社会変化	父系制社会の変容の実態をブヌン族を例に解説する。
⑩	東京のイスラム	日本におけるイスラム教徒の実情を、タータル人社会を例に解説する。
⑪	沖縄文化の特色	沖縄の固有文化の特色とその国際性について学ぶ。
⑫	冬季フィールドワーク解説	冬休みのフィールドワークとレポート作成について解説。

- ⑬ 文化人類学の将来 全体の補足解説として、これからの文化人類学研究の課題・方向性を述べる。
- ⑭ 秋学期授業のまとめ 秋学期授業の全体的な総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での復習をおこない、配布されたプリント資料などを通読し、整理しておくこと。教員への質問事項なども用意しておくことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用せず、そのかわりに毎回、教室でプリント資料を配布する。それが、いわばテキストがわりとなる。

【参考書】

必要な文献資料や読んでおくべき参考書類は、授業時間内に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末授業時間内試験によって成績評価をおこなう（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果を尊重し、極力受講者からの要望を取り入れ、つねに授業内容の改善につとめていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: about general theory of cultural anthropology, basic problems on cross cultural and environmental facts.

Learning objectives: We will consider the "relationship between humans and culture" as the most fundamental research question of cultural anthropology, presenting a variety of specific themes.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 100%.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「同時代」をめぐる問い

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。

【到達目標】

学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回アクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと 80 年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。
第二回	「負い目」の政治学	D. グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。

第四回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
第五回	ことばと政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第六回	病とケアと身体	P. ファーマーの「構造的暴力」と病の関係性の指摘や田辺繁治のタイのエイズ患者の自助組織を対象とした研究などを例にしながら、病とケアのあり方について理解を深める。
第七回	機械と工業の人類学	工場は労働力と機械とモノの流通の結節点として捉えることができる。工場で作られる製品はそうした流通と生産のネットワークの中で捉えることができる。この授業では、人類学における科学技術論などを参照しながら、製品のオーサーシップやあるいは機械そのものに対する理解を深める。
第八回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第九回	グローバル化の人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
第十回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
第十一回	人権と人類学	1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第十二回	難民の人類学	難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十三回	移住労働の人類学	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
第十四回	文化と権利	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梅村 絢美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主にインドとスリランカにおける伝統的な身体観やヘルスケア実践、現代医療の諸相について紹介しながら、南アジアにおける身体を取り巻く諸事象について総合的に学習します。これを通じて、南アジア特有の身体のあるようについての知識を蓄積するのみならず、受講生自身の実体験と関連付けながら理解することを最終的な目標とします。「遠い世界に住む自分と関係ない人たちのこと」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

【到達目標】

本授業は、以下の到達目標のもと進めていきます。

- (1) 文化人類学の思考の枠組みを理解し実生活のなかで実践できる。
- (2) 自身のもつヘルスケアに対する考え方や衛生観、身体観を相対化し、様々な社会におけるヘルスケア実践をその文脈に即して理解することができる。
- (3) 文化人類学の思考の枠組みを用いて自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者にに向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文化としての病気と健康	病気や健康といった価値は、それをそうまなぞ社会に固有のものであるとする人類学的な「ものの見方」について考えます。
2	南アジア社会における身体とヘルスケア	南アジア社会の地理的環境や歴史、社会、ヘルスケア実践について触れながら概要を紹介しします。
3	手で診る、手で癒す：スリランカ伝承医療の実践	私（担当教員）が調査研究をしているスリランカの伝承医療の治療家による「手」という身体部位を用いた診療について紹介しします。
4	アーユルヴェーダの身体観①宇宙と連動する身体	宇宙や自然環境と相互作用しながら調和が保たれた状態＝健康とするアーユルヴェーダに特有の身体観について紹介しします。

5	アーユルヴェーダの身体観②薬草の力、身体の健康	アーユルヴェーダの薬草を用いた治療法について、薬草の持つ効力と身体内のバランスに注目しながら解説しします。
6	ヨーガの身体観①宇宙を取り込み循環させる	ヨーガの成り立ちについて解説した上で、人体を小宇宙として捉えるヨーガ特有の身体観について紹介しします。
7	ヨーガの身体観②瞑想からヘルスケアへ	瞑想法としてのヨーガがヘルスケア実践として意味が大きく変容していった過程について紹介した上で、ヨーガチキッサー（ヨガ療法）とも称されるアシュタンガヨガの身体の浄化を志向して組織された連続するアーサナ（ポーズ）について検討しします。
8	活かすための武術：カハリパヤットとマルマ療法	南インドの伝統武術カハリパヤットの実践について、その目的と武術の中に取り入れられたマルマ療法に注目しながら解説しします。
9	身体の熱と冷	儀礼や家庭生活において見られる熱と冷のレトリックについて、初潮儀礼と家庭でのヘルスケア実践に注目しながら考えます。
10	癒しと呪術	スリランカにおける悪魔祓いをはじめとした呪術的な癒しについて、私（担当教員）がフィールドで見てきた事例について映像を交えて紹介しします。
11	罪と不浄：南アジアのヴェジタリアニズム	輪廻転生を基本とする南アジアの諸宗教に特徴的な業食主義について、不殺生と不浄観に注目しながら考えます。
12	ナショナリズムと健康：ガーンディーのヘルスケア実践	インド独立の父として知られる M.K. ガーンディーの独立思想は、自身の心身を自身で律するという意味でのヘルスケアの実践でもありました。今回はガーンディーの遺したヘルスケア指南書を紐解きながら、スワラージ（自治）としての健康というガーンディー独自のヘルスケアについて考えます。
13	医療とツーリズム	グローバルに展開する南アジアのヘルスケアについて、伝統医療と生物医療（いわゆる西洋医療）をめぐるツーリズムに注目しながら検討しします。
14	消費される身体	インドにおける生殖医療ツーリズムについて、主に代理母出産に注目しながら考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

田辺明生ほか編著『南アジア社会を学ぶ人のために』、2010 年、世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60%）および各回の小レポートの内容（40%）にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて寄せられるコメントには、可能な限り迅速に回答していきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】 This lecture will comprehensively study various phenomena surrounding the body in South Asia, while mainly introducing the traditional view of the body in India and Sri Lanka, practical health care, and various aspects of modern medicine. Through this, the ultimate goal is not only to accumulate knowledge about the physical condition peculiar to South Asia, but also to understand it in relation to the students' own actual experiences.

【Learning activities outside of classroom】

students need to read books or papers related to South Asian Studies or self health care out side of classroom.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宗教人類学

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。

世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド配信。学習支援システムを利用して資料を配布する。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	宗教人類学	宗教的なものについて
第 3 回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第 4 回	アニミズム	アニミズムと自然
第 5 回	シャーマニズム	自と他
第 6 回	身体①	儀礼とインタラクション
第 7 回	身体②	儀礼と認識の変容
第 8 回	生と死	境界づける
第 9 回	呪物	モノから宗教を考える
第 10 回	科学と宗教	現実とはなにか
第 11 回	経済	資本主義と宗教
第 12 回	政治	国家と宗教
第 13 回	偶然性	現代世界の宗教的なもの
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。

人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（本年度授業担当者変更のため）

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：妖怪と存在論的転回

廣田 龍平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代の文化人類学において重要な潮流の一つである、いわゆる「存在論的転回」について、妖怪・怪異や幽霊などの非日常的な存在と人間との関係性をおして学んでいきます。私たちが生きる現代社会は、自然と文化、知識と信念、合理性と非合理性など、物事にさまざまな区分をすることによって成り立っていますが、世界には、そのような区分とは大きく違ったかたちで自分たちの環境を生きている人々の社会もあります（アニミズムなど）。この授業では、日本に限らず、妖怪や幽霊など現代社会では実在しないとされるものの事例をおして、世界のさまざまな生き方を学んでいきます。

【到達目標】

現代の文化人類学で展開しているさまざまな理論や概念を学ぶことにより、異文化のみならず自文化についても基礎的なレベルから理解する方法を身につける。さらに、妖怪や幽霊など、実在しないとされる対象がどのように扱われているのかを学ぶことにより、大衆文化の表象や身近な経験について、文化人類学的な側面から表現できるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。授業終了後、すみやかに短いコメントを提出してもらい、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	現代の文化人類学と妖怪研究と「存在論的転回」の関係を説明する。
2	日本の妖怪研究史	過去半世紀にわたる文化人類学的な妖怪研究を概観する。境界論を中心に学ぶ。
3	アニミズムと化ける動物たち	異類婚姻譚や妖狐譚など、生き物が人間に変身する話を、アニミズム理論を用い、世界的な視野から理解する。
4	トーテミズムと動物の祖先	オーストラリア先住民にとっての、人間と人間以外の存在との関係のあり方を学ぶ。
5	アナロジズムと万物照応の世界	古代・中世のヨーロッパや日本などの社会で、権力が古い怪異と結びついていた実態を説明する。

6	自然と文化からハイブリッドへ	文化人類学の基礎にある「自然と文化」という二分法の成り立ちや、それに対する批判を解説する。
7	アクターネットワーク理論	存在論的転回にとって重要な理論を学ぶ。
8	科学と俗信と民俗学	アクターネットワーク理論などを用い、科学と俗信の関係や、俗信を研究してきた民俗学的実践を理解する。
9	都市伝説と学校の怪談	20 世紀後半の日本やアメリカの都市社会における妖怪や怪異の展開を学ぶ。
10	ネットロアとクリーピーバスタ	21 世紀、インターネットの時代におけるグローバルな妖怪や怪異のあり方を学ぶ。
11	比較妖怪学	これまでの授業を踏まえ、日本の妖怪を中心として、国外の怪物や妖精と比較する人類学的視点を説明する。
12	心霊主義と超常現象	近現代の妖怪・怪異を支えてきた思想が非近代的なものとどのように違うのかを理解する。
13	合理性と非合理性、文明と未開、自己と他者	妖怪を語るとき使われる合理性と非合理性という二分法を考え直していく。
14	全体のまとめ	存在論的転回と妖怪の関係についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業では見られない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、聞いたことのある神話伝説や妖怪・怪異などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】

フィリップ・デスコラ 2020 年『自然と文化を越えて』水声社
ブリュノ・ラトゥール 2019 年『社会的なものを組み直す』法政大学出版局
マイケル・ディラン・フォスター 2017 年『日本妖怪考』森話社
香川雅信 2022 年『日本妖怪史』河出書房新社

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（60%）
期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the ontological turn in cultural anthropology to students taking this course. In doing so, this course takes cases primarily from relationships of human with nonhuman beings around the world, especially with ghosts and mysterious beings in Japan (so-called *yōkai*).

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding other cultures by applying concepts and theories of contemporary anthropology.
- B. Explaining various representations of nonhuman beings in popular culture as well as your personal experiences through anthropological concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end paper: 40%, Short reports : 60%

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梅村 絢美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主にインドとスリランカにおける伝統的な身体観やヘルスケア実践、現代医療の諸相について紹介しながら、南アジアにおける身体を取り巻く諸事象について総合的に学習します。これを通じて、南アジア特有の身体のありようについての知識を蓄積するのみならず、受講生自身の実体験と関連付けながら理解することを最終的な目標とします。「遠い世界に住む自分と関係ない人たちのこと」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

【到達目標】

本授業は、以下の到達目標のもと進めていきます。

- （1）文化人類学の思考の枠組みを理解し実生活のなかで実践できる。
- （2）自身のもつヘルスケアに対する考え方や衛生観、身体観を相対化し、様々な社会におけるヘルスケア実践をその文脈に即して理解することができる。
- （3）文化人類学の思考の枠組みを用いて自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文化としての病気と健康	病気や健康といった価値は、それをそうまなず社会に固有のものであるとする人類学的な「ものの見方」について考えます。
2	南アジア社会における身体とヘルスケア	南アジア社会の地理的環境や歴史、社会、ヘルスケア実践について触れながら概要を紹介いたします。
3	手で診る、手で癒す：スリランカ伝承医療の実践	私（担当教員）が調査研究をしているスリランカの伝承医療の治療家による「手」という身体部位を用いた診療について紹介いたします。
4	アーユルヴェーダの身体観①宇宙と連動する身体	宇宙や自然環境と相互作用しながら調和が保たれた状態＝健康とするアーユルヴェーダに特有の身体観について紹介いたします。

5	アーユルヴェーダの身体観②薬草の力、身体 の健康	アーユルヴェーダの薬草を用いた治療法について、薬草の持つ効力と身体内のバランスに注目しながら解説します。
6	ヨーガの身体観①宇宙 を取り込み循環させる	ヨーガの成り立ちについて解説した上で、人体を小宇宙として捉えるヨーガ特有の身体観について紹介します。
7	ヨーガの身体観②瞑想 からヘルスケアへ	瞑想法としてのヨーガがヘルスケア実践として意味が大きく変容していった過程について紹介した上で、ヨーガチキッサー（ヨガ療法）とも称されるアシュタンガヨガの身体の浄化を志向して組織された連続するアーサナ（ポーズ）について検討します。
8	活かすための武術：カ ラリパヤットとマルマ 療法	南インドの伝統武術カラリパヤットの実践について、その目的と武術の中に取り入れられたマルマ療法に注目しながら解説します。
9	身体の熱と冷	儀礼や家庭生活において見られる熱と冷のレトリックについて、初潮儀礼と家庭でのヘルスケア実践に注目しながら考えます。
10	癒しと呪術	スリランカにおける悪魔祓いをはじめとした呪術的な癒しについて、私（担当教員）がフィールドで見てきた事例について映像を交えて紹介します。
11	罪と不浄：南アジアの ヴェジタリアニズム	輪廻転生を基本とする南アジアの諸宗教に特徴的な菜食主義について、不殺生と不浄観に注目しながら考えます。
12	ナショナリズムと健康 ：ガーンディーのヘル スケア実践	インド独立の父として知られるM.K. ガーンディーの独立思想は、自身の心身を自身で律するという意味でのヘルスケアの実践でもありました。今回はガーンディーの遺したヘルスケア指南書を紐解きながら、スワラージ（自治）としての健康というガーンディー独自のヘルスケアについて考えます。
13	医療とツーリズム	グローバルに展開する南アジアのヘルスケアについて、伝統医療と生物医療（いわゆる西洋医療）をめぐるツーリズムに注目しながら検討します。
14	消費される身体	インドにおける生殖医療ツーリズムについて、主に代理母出産に注目しながら考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

田辺明生ほか編著『南アジア社会を学ぶ人のために』、2010 年、世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および各回の小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて寄せられるコメントには、可能な限り迅速に回答していきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】 This lecture will comprehensively study various phenomena surrounding the body in South Asia, while mainly introducing the traditional view of the body in India and Sri Lanka, practical health care, and various aspects of modern medicine. Through this, the ultimate goal is not only to accumulate knowledge about the physical condition peculiar to South Asia, but also to understand it in relation to the students' own actual experiences.

【Learning activities outside of classroom】

students need to read books or papers related to South Asian Studies or self health care out side of classroom.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：開発と文化の人類学

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発人類学、すなわち開発援助および国際協力のテーマを文化人類学の視点から取り上げる。現在、世界の各地で、2015 年に国連で定められた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けたさまざまな取り組みが実施され、その有効性に関する調査・研究も進んでいる。21 世紀において人類に課せられた課題は数多くあるが、貧困撲滅、健康向上（国際保健）、環境問題などへの対処は重要である。本授業では、これらの同時代的なグローバル・イシューを通して、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・同時代的なグローバル・イシューを理解するとともに、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について自らの視点から考察・検討する視点を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は「オンデマンド型／資料・教材コンテンツ配布型授業（全 14 回）」です。履修生のみさんには学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	開発概念と関連理論①	開発の誕生
第 3 回	開発概念と関連理論②	社会開発への転換
第 4 回	開発援助と ODA, そ	開発援助とのかかわり方して人類学者
第 5 回	貧困撲滅の取り組み①	貧しい／豊かとは何か
第 6 回	貧困撲滅の取り組み②	マイクロファイナンス
第 7 回	健康な生活①	プライマリヘルスケア

第 8 回	健康な生活②	感染症対策と DOTS
第 9 回	森林開発と環境問題①	近代化と環境破壊
第 10 回	森林開発と環境問題②	ソロモン諸島の植林事業
第 11 回	温暖化と環境言説①	ツバルの「海面上昇」
第 12 回	温暖化と環境言説②	ツバルの浸水被害と海岸浸食
第 13 回	観光開発と自然環境	エコツーリズムを考える
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や開発人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。
 佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
 佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005 年。
 青柳まちこ編『開発の文化人類学』古今書院、2000 年。
 関根久雄『開発と向き合う人びと』東洋出版、1997 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価とします）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・学期末のレポートを提出しなかった場合、E 評価とします。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of development anthropology, which seeks to the application of anthropological perspectives to the multidisciplinary branch of development studies. The goals of this course are to obtain basic knowledge about the development anthropology, and understand the impacts of development on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOS200LA

社会思想ⅡA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と日本のなかのレイシズムについて学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3 ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3 ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、レイシズムについての考え方を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業を進めるごとに数回リアクションペーパーを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、成績評価の方法
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	発生	日本の近代と在日朝鮮人の発生
4	レイシズム（1）	レイシズムの起源
5	レイシズム（2）	レイシズムの展開
6	コミュニティ	朝鮮人コミュニティの変容
7	強制動員	戦時下の在日朝鮮人
8	戦後	占領政策
9	帰国	帰国運動
10	二世（1）	二世たちの挑戦
11	二世（2）	転換期の思想と文化
12	グローバル化（1）	多民族化する日本社会
13	グローバル化（2）	国民の論理を超えて
14	まとめ	在日朝鮮人と日本の進む道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに指定するテキストを事前に読んでおくことと理解の助けになります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布します。

【成績評価の方法と基準】

4 回提出してもらうリアクションペーパー（40 %）と期末レポート（60 %）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the Korean residents and racism in Japan to students taking this course.

This course aims to grasp the history of Zainichi and racism in Japan.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3 ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3 ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業を進めるごとに数回リアクションペーパーを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、成績評価の方法
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	事件	歴史的背景
4	1960 年代（1）	民族の問題
5	1960 年代（2）	民族責任
6	小松川事件（1）	李珍宇の犯罪
7	小松川事件（2）	李珍宇の手紙
8	金嬉老事件（1）	事件の発生
9	金嬉老事件（2）	事件の意味
10	詩と文学（1）	金時鐘と金石範
11	詩と文学（2）	鷺沢萌・柳美里・崔実
12	映画（1）	崔洋一と大島渚
13	映画（2）	浦山桐郎と井筒和幸
14	音楽	在日音楽の百年

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業ごとに指定されたテキストを読んでおくことで理解が進みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布します。

【成績評価の方法と基準】

4 回提出してもらいアクションペーパー（40 %）と期末レポート（60 %）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course.

This course aims to grasp the essence of the history of Zainichi and their thoughts.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS200LA

社会思想ⅠA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヨーロッパの近代社会思想史を学びます。

16 世紀から 19 世紀初頭の思想家たち、例えばホッブズ、ルソー、カント、ヘーゲルらが生きた西洋の歴史を背景として、その上で各思想家の思考方法、政治社会の構成、個人と社会の関係や経済社会の構造などについての考えかたを学ぶことを目的とします。

【到達目標】

近代の骨格を作る思想家たちのものの見方、考え方を身につけることができる。

歴史的思考について学び、思想家たちの目を通して、現在わたしたちが生きている現代社会の政治、経済、社会のあり方を根本原理から学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業を進めるごとに数回リアクションペーパーを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらい、進め方、成績評価の方法
第 2 回	導入（1）	ヨーロッパ、歴史、近代、社会、思想、言語などの基礎概念（1）
第 3 回	導入（2）	ヨーロッパ、歴史、近代、社会、思想、言語などの基礎概念（2）
第 4 回	ホッブズ（1）	リヴァイアサン（1）
第 5 回	ホッブズ（2）	リヴァイアサン（2）
第 6 回	ルソー（1）	人間不平等起源論
第 7 回	ルソー（2）	社会契約論
第 8 回	カント（1）	純粋理性批判
第 9 回	カント（2）	実践理性批判
第 10 回	カント（3）	永遠平和のために
第 11 回	ヘーゲル（1）	精神現象学（1）
第 12 回	ヘーゲル（2）	精神現象学（2）
第 13 回	ヘーゲル（3）	法の哲学
第 14 回	ヘーゲル（4）	ヘーゲル左派

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に適宜、指定、配布して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

4 回提出してもらいアクションペーパー（40 %）と期末レポート（60 %）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the history of ideas of modern western philosophers.

This course aims to grasp the essence of modern western ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヨーロッパにおける世紀転換期の思想史を学びます。西洋の 19 世紀末から 20 世紀初頭という転換期の歴史を踏まえて、マルクス、キルケゴール、ニーチェ、ウェーバー、フロイト、ベンヤミンらが根源から考察した人間、社会、歴史、芸術、政治についての思想史を学ぶことがこの授業の目的です。

【到達目標】

世紀転換期の思想家たちのものの見方、考え方を身につけることができる。

ヨーロッパ近現代の歴史を理解し、もう一つの転換期である現代社会を思想家の目を通して自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業を進めるごとに数回リアクションペーパーを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらい、進め方、成績評価の方法等の説明
第 2 回	導入（1）	現代という時代の思想経験（1）
第 3 回	導入（2）	現代という時代の思想経験（2）
第 4 回	マルクス（1）	初期マルクス（1）
第 5 回	マルクス（2）	初期マルクス（2）
第 6 回	マルクス（3）	資本論の世界
第 7 回	ニーチェ（1）	ニヒリズム
第 8 回	ニーチェ（2）	力への意志
第 9 回	ウェーバー（1）	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
第 10 回	ウェーバー（2）	職業としての政治・職業としての学問
第 11 回	フロイト（1）	精神分析の誕生
第 12 回	フロイト（2）	認められたいの正体
第 13 回	ベンヤミン（1）	19 世紀の首都―パリ
第 14 回	ベンヤミン（2）	歴史哲学テーゼ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回の授業ガイダンス時に説明します。

【参考書】

講義の中で適宜、指定、配布して説明します。

【成績評価の方法と基準】

4 回提出してもらいアクションペーパー（40 %）と期末レポート（60 %）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the history of modern western ideas of the turn of the century from 19's to 20's.

This course aims to grasp the essence of modern western ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。

第 9 回 巡回群
第 10 回 連立合同式

オイラーの定理について学ぶ。
異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
2 つの素数の積について調べる。
RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらった評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。

第 9 回 巡回群
第 10 回 連立合同式

オイラーの定理について学ぶ。
異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
2 つの素数の積について調べる。
RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらった評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第 13 回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第 14 回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第 06 回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。
第 07 回	エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。

第 08 回 計算の一般化

行列の基本的な定義や計算を理解する。

第 09 回 行列計算の応用

行列の計算を利用して、日本の 2030 年人口の予測を行う。

第 10 回 動的計画法

動的計画法の基本的な考え方を理解する。

第 11 回 ナップサック問題

ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。

第 12 回 予習時間計画問題

試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。

第 13 回 編集距離

2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。

第 14 回 まとめと解説

講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 03 回	グラフの応用例 (1)	リーグ戦の対戦スケジュールを作成する方法を紹介する。
第 04 回	グラフの応用例 (2)	3 つの容器を使って水を分けるパズルを解く方法を紹介する。
第 05 回	プリム法	東京 23 区区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第 06 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 07 回	オイラーの定理	一筆書きが可能か判定するための定理を紹介する。
第 08 回	一筆書きの構成 (1)	到達目標欄に記載した問題に答える方法を学ぶ。

第 09 回	一筆書きの構成 (2)	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第 10 回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第 11 回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第 12 回	構成的な組合せ論	可能な限り沢山のマッチングを行う方法を学ぶ。
第 13 回	母関数	100 円の両替パターンの総数を求める。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

教養数学 A

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

教養数学 A

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は演習課題の採点を通して、学生諸氏が理解困難だと感じている事柄が把握できたので、2022 年度はそのような事柄について丁寧に説明したい。特に、基本的な式変形についても時間を割いて解説する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度に 9 回実施した演習課題で提出された答案の採点を通して、学生諸氏が理解に困難を感じている事項が把握できたので、2022 年度は式変形の途中をより丁寧に説明したい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は演習課題の採点を通して、学生諸氏が理解困難だと感じている事柄が把握できたので、2022 年度はそのような事柄について丁寧に説明したい。特に、基本的な式変形についても時間を割いて解説する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度に 9 回実施した演習課題で提出された答案の採点を通して、学生諸氏が理解に困難を感じている事項が把握できたので、2022 年度は式変形の途中をより丁寧に説明したい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修人数が教室の収容定員を超過したため、Zoom を利用したハイフレックス授業を行った。担当教員が Zoom に不慣れだったこともあり、授業支援アシスタント等の補助制度を活用する必要性を感じた。自由選択方式のハイフレックス授業にしたところオンラインでの参加に大きく偏り、対面参加を促す必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎数学Ⅰと同様に自由選択方式のハイフレックス授業を行ったところ、春学期以上にオンラインでの参加に偏った。さらにレコーディングの配信が対面参加の敬遠に拍車をかけた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、基礎数学Ⅰと基礎数学Ⅱの両方で期末試験を欠席して代替評価を受けた履修生がいた。そのような場合の公平な成績評価の在り方について大学全体で議論する必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修人数が教室の収容定員を超過したため、Zoom を利用したハイフレックス授業を行った。担当教員が Zoom に不慣れだったこともあり、授業支援アシスタント等の補助制度を活用する必要性を感じた。自由選択方式のハイフレックス授業にしたところオンラインでの参加に大きく偏り、対面参加を促す必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎数学Ⅰと同様に自由選択方式のハイフレックス授業を行ったところ、春学期以上にオンラインでの参加に偏った。さらにレコーディングの配信が対面参加の敬遠に拍車をかけた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、履修生の約 6 分の 1 が期末試験を欠席して代替評価を受けたため、公平な成績評価に苦慮した。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。

授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
サブタイトル：原子から宇宙まで A	
石川 壮一	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 3/Tue.3	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。

10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.

At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。

・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著 （サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 60% とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探究することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるか自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：クォーク、オーロラそして宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントラレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。

授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで見られる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探究することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエンルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるか自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用するパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：クォーク、オーロラそして宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントラレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。
本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私たちの生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私たちの「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の 3 項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	1 3 回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週 1 時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週 1 時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週 1 時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約 (200 字要約) のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回 (13 回まで) 授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回 神経回路の可塑性

記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子との関係について考えてみましょう。

第 5 回 本能行動

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 6 回 意識と神経

第 7 回 ミームの進化

第 8 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 9 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。

第 10 回 発生・分化

多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

第 11 回 再生

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

第 12 回 生態学的生命観

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

第 13 回 種と多様性

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

第 14 回 まとめ

13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上） 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上） 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の 3 項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上）以上を合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それによって毎回（13 回まで）授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象の一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 5 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 6 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 7 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 8 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 10 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 11 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 12 回	生態学と生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 13 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 14 回	まとめ	13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上）以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約して H O P P I I のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられていますが、大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。
第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
 - ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）
- 【成績に関わるルール】
200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。
授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第 11 回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

第 13 回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第 14 回 種と多様性

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。これにより、学生がニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学の基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野で是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学の基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナウイルスの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の下承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	演習：1 ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについてグループワークを通して考えます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用	遺伝子組み換えやクローニング技術は、人間による生物利用のあり方を大きく変えました。身近な例として食料生産に関連する動植物への適用事例から現状を解説します。
第 12 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を獲得してきました。それは、医療などの分野で新たな可能性を生み出すと同時に倫理的課題も浮き彫りにしてきました。今後が期待される技術について倫理的観点から考えます。
第 13 回	演習 2：科学技術は誰のもの？	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方についてグループワークを通して考えます。
第 14 回	生命科学の発展と社会的課題	生物分野の発展と科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら、春学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体的学びの機会を設けることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保。オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学B

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。これにより、学生がニュースなどで日常的に接する機会のある自然環境・資源関連の課題についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、問題解決への考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1）社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識を取得すること。2）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナウイルスの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）はZoomによるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第2回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第3回	生態系のはたらき1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。

第 4 回	生態系のはたらき 2 : 物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	演習 1：森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	演習 2：多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の 2 つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標 1）を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標 2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で 60% 以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問などへの対応に Hoppii の機能をより効果的に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 1/Fri.1	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。これにより、学生がニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野で是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナウイルスの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の下承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	演習：1 ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについてグループワークを通して考えます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用	遺伝子組み換えやクローニング技術は、人間による生物利用のあり方を大きく変えました。身近な例として食料生産に関連する動植物への適用事例から現状を解説します。
第 12 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を獲得してきました。それは、医療などの分野で新たな可能性を生み出すと同時に倫理的課題も浮き彫りにしてきました。今後が期待される技術について倫理的観点から考えます。
第 13 回	演習 2：科学技術は誰のもの？	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方についてグループワークを通して考えます。
第 14 回	生命科学の発展と社会的課題	生物分野の発展と科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら、春学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体的学びの機会を設けることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保。オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。これにより、学生がニュースなどで日常的に接する機会のある自然環境・資源関連の課題についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、問題解決への考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1）社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識を取得すること。2）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）はZoomによるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第2回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第3回	生態系のはたらき1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。

第 4 回	生態系のはたらき 2 : 物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	演習 1：森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	演習 2：多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問などへの対応に Hoppii の機能をより効果的に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回 生命情報

DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回 ウイルスと生命

単なる物質とも生命体ともとえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。

第 9 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。

第 10 回 食糧問題とバイオテクノロジー

遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。

第 11 回 ゲノムと医療

個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。

第 12 回 遺伝子治療

人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。

第 13 回 クローン技術と iPS 細胞

細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。

第 14 回 移植医療・再生医療

臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第 11 回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

第 13 回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第 14 回 種と多様性

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業は、対面とそのウェブ配信によるハイフレックス方式で行います。
・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回 生命情報

DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回 ウイルスと生命

単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。

第 9 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。

第 10 回 食糧問題とバイオテクノロジー

遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。

第 11 回 ゲノムと医療

個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。

第 12 回 遺伝子治療

人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。

第 13 回 クローン技術と iPS 細胞

細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。

第 14 回 移植医療・再生医療

臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。
授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第 11 回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

第 13 回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第 14 回 種と多様性

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	電子の発見	電気を運んだり、二つの原子を結びつける粒子について
第 4 回	電子と電磁波	電子の軌道と電磁波のエネルギーについて
第 5 回	同位体と原子の壊変	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線を遮断する物質の特徴について
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びついて分子を形成する仕組みについて
第 9 回	有機化合物とその表記	カフェインやカプサイシンなど身近な化学物質の化学構造について
第 10 回	炭素材料	カーボンナノチューブやグラフェンの特徴について
第 11 回	燃焼と消火	燃焼に必要な要素や火薬の成分について
第 12 回	水と物質	氷やメタンハイドレートの構造について
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goal of the course are to improve students' science literacy. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goals of the course is to understand about causes of environmental problems and to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年4月11日（月）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第10回	10. 物質の状態② 11. 放射性元素①	溶液の性質 放射壊変とは
第11回	11. 放射性物質② 12. 地球温暖化①	放射線の影響、トリチウムとは 地球温暖化の現状
第12回	12. 地球温暖化②	地球温暖化の仕組みと原因物質、温暖化による将来リスク
第13回	12. 地球温暖化③	温暖化の影響
第14回	12. 地球温暖化④ 13. 大気・水質・土壌	エネルギー、温暖化の将来予測 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年9月26日(月)朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、 燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
第13回	13. 生体内の化学反応	代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第1回目はオンライン形式により、第2回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第4回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第5回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第6回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第7回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。

第8回 ^{235}U の誘導核分裂 ^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。

第9回 ^{239}Pu の誘導核分裂 ^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。

第10回 核エネルギー 核反応にともなって反応系に入ったりするエネルギーについて考察する。

第11回 原子力発電所の構造 原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。

第12回 原子力発電所の種類（1） 最も一般的な軽水炉について学習する。

第13回 原子力発電所の種類（2） 高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。

第14回 まとめ 本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

・ 上述のとおり、第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第1回目はオンライン形式により、第2回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識がなくても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。

第8回 CO₂ の排出量

CO₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。

第9回 石炭

石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第10回 石油

石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第11回 天然ガス

天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。

第12回 その他の化石燃料

オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。

第13回 温暖化・酸性雨

化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。

第14回 まとめ

本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

上述のとおり、第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第 3 回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第 5 回	イオン	イオンのでき方を理解する
第 6 回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第 7 回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第 8 回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第 9 回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第 10 回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第 11 回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質質量の概念を理解する
第 12 回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第 13 回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのような関わっているかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
- To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第 3 回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第 4 回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第 5 回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第 6 回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第 7 回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第 8 回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第 9 回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第 10 回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第 11 回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第 12 回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第 13 回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年4月11日（月）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第10回	10. 物質の状態② 11. 放射性元素①	溶液の性質 放射壊変とは
第11回	11. 放射性物質② 12. 地球温暖化①	放射線の影響、トリチウムとは 地球温暖化の現状
第12回	12. 地球温暖化②	地球温暖化の仕組みと原因物質、温暖化による将来リスク
第13回	12. 地球温暖化③	温暖化の影響
第14回	12. 地球温暖化④ 13. 大気・水質・土壌汚染	エネルギー、温暖化の将来予測 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年9月26日(月)朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
第13回	13. 生体内の化学反応	代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第 3 回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第 5 回	イオン	イオンのでき方を理解する
第 6 回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第 7 回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第 8 回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第 9 回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第 10 回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第 11 回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質質量の概念を理解する
第 12 回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第 13 回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのような関わっているかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第 3 回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第 4 回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連を学ぶ
第 5 回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第 6 回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第 7 回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第 8 回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第 9 回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第 10 回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について考える
第 11 回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第 12 回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第 13 回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
- To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。

14 ブラックホール 超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/327306485_](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)

Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_](https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese)
on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。毎週、資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第 3 回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第 4 回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第 5 回	気候変動	地球温暖化だけでなく、地球の 46 億年の歴史における様々な気候変動について学ぶ。
第 6 回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第 7 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第 8 回	太陽系と惑星（1）	太陽系全体を概観し、地球型惑星について学ぶ。
第 9 回	太陽系と惑星（2）	木星型惑星、準惑星、太陽系小天体（彗星など）について学ぶ。
第 10 回	星形成	恒星の誕生について学ぶ。
第 11 回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。超新星・中性子星・ブラックホールなど。
第 12 回	ブラックホール	ブラックホールに焦点を当てる。

第 13 回 様々な望遠鏡

講義で登場した様々な望遠鏡についてまとめる。

第 14 回 期末試験

オンラインで期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

状況のよっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで動画を視聴し資料を閲覧するためのパソコンやタブレット等の情報機器。

【その他の重要事項】

昨年度は履修者が多すぎたため、本年度は定員を設けた。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, earth, solar system, stars.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. We focus on the Earth, solar system, and stars in the spring semester.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。

天文学 B は天文学 A からの続きである。必ずしも天文学 A を事前に受講する必要はないが、天文学 A と B を両方受講すると理解は深まるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。毎週、資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	銀河の構造	銀河系をはじめとする銀河の構造を学ぶ。
第 3 回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第 4 回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 5 回	銀河団	銀河の集まりである銀河団について学ぶ。
第 6 回	ハッブル・ルメートルの法則と宇宙膨張	ハッブル・ルメートルの法則について学び、宇宙膨張の概念を導入する。
第 7 回	宇宙年齢とビッグバン	宇宙の年齢とビッグバンについて学ぶ。
第 8 回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探索について学ぶ。
第 9 回	宇宙の地平線と宇宙の未来	宇宙の「果て」と未来について議論する。

第 10 回 宇宙マイクロ波背景放射 宇宙マイクロ波背景放射の観測と宇宙論における意味について学ぶ。

第 11 回 宇宙背景放射 ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。

第 12 回 地球外生命探査 地球外生命探査の現状と展望について議論する。

第 13 回 宇宙のふしぎ 天文学 A と B を通じて残された「素朴な疑問」について考える。

第 14 回 期末試験 期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

状況のよっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで動画を視聴し資料を閲覧するためのパソコンやタブレット等の情報機器。

【その他の重要事項】

昨年度は履修者が多すぎたため、本年度は定員を設けた。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, the Milky way, galaxy, cosmology.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。

14 ブラックホール 超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/327306485_](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)

Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_](https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese)
on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心にみていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2)／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2)／19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2)／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時にしてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術は多くの成果とともに、解決すべき新しい課題を社会にもたらしてきました。本授業では、科学・技術の社会的側面に注目しながらその歴史を概観し、特に近現代の科学・技術がもたらした社会問題を分析的に説明できるようになることを目指します。それを通して、科学・技術がもたらした新しい課題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・科学・技術と社会の関係について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
- ・科学・技術と社会の関係について、政治・経済・文化などの観点をもとに具体的に説明できる。
- ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	科学・技術と社会をめぐる諸理論	科学・技術の社会的側面を考察するための代表的な諸理論を紹介します。
第 3 回	科学・技術の歴史的概観	近代にいたるまでの科学・技術の歴史を概観します。
第 4 回	科学・技術の制度化	科学・技術が制度化した歴史的過程を概観します。
第 5 回	科学・技術と産業	科学・技術と産業の関係について歴史的観点を踏まえながら検討します。
第 6 回	科学・技術と国家①	科学・技術と近代国家の関係について歴史的に概観します。
第 7 回	科学・技術と国家②	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第 8 回	科学・技術と価値①	科学・技術の価値中立性について、歴史的観点を踏まえながら検討します。

第 9 回	科学・技術と価値②	科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、具体例を取り上げながら考察します。
第 10 回	科学・技術と環境①	環境思想の高まりについて歴史的に概観します。
第 11 回	科学・技術と環境②	科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。
第 12 回	科学・技術と環境③	環境倫理学の主張を取り上げながら科学・技術と環境の関係について考察します。
第 13 回	科学・技術と私たち	科学・技術とどのようにかわるのか、またどのようにかわるべきなのかについて考察します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げててください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

古川安『科学の社会史：ルネサンスから 20 世紀まで』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2018 年
中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
小林傳司『公共のための科学技術』玉川大学出版部、2002 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Science and technology have brought many achievements as well as new problems to be solved to society. In this course, we will overview the history of science and technology, paying attention to its social aspects, and aim to be able to analytically explain the social problems brought about by science and technology, especially in modern times. Through this, students will build a foundation of thinking to deal with new issues that science and technology can bring.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the relationship between science, technology and society in concrete terms from a historical perspective.
- Explain the relationship between science, technology and society from the perspective of politics, economics, and culture.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、事例研究を通して現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
 ・本授業で扱う事例について、自らの考えを他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	事例研究の進め方	具体例を用いながらケーススタディ、ケースメソッドについて説明します。
第 3 回	事例「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。
第 4 回	事例「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第 5 回	事例「BSE 問題」	BSE 問題を事例として研究します。
第 6 回	事例「Winny 事件」	Winny 事件を事例として研究します。
第 7 回	事例「フォード・ピント事件」	フォード・ピント事件を事例として研究します。
第 8 回	事例「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第 9 回	事例「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。
第 10 回	仮想事例「The Lab」	仮想事例 The Lab を通して問題を検討します。
第 11 回	事例「アミノノクロウサギ訴訟」	アミノノクロウサギ訴訟を事例として研究します。

第 12 回	事例「モーゼスの橋」	モーゼスの橋を事例として研究します。
第 13 回	科学・技術と私たち	科学・技術とどのようにかわるのか、またどのようにかわるべきなのかについて考察します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
 野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
 藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005 年
 伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology through case studies, and aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Explain your own ideas to others about the cases dealt with in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2)／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2)／19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2)／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時にしてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取することを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心にみていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2)／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2)／19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2)／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時にしてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1 変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が 1 変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2 変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分 1	微分の定義と基本性質
第 3 回	微分 2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第 4 回	微分 3	陰関数の微分
第 5 回	微分 4	曲線の傾きと極値
第 6 回	微分の応用 1	曲線の凹凸と変曲点
第 7 回	微分の応用 2	テイラー展開
第 8 回	微分の応用 3	マクローリン展開
第 9 回	微分の応用 4	近似計算
第 10 回	積分 1	定積分と不定積分
第 11 回	積分 2	リーマン積分
第 12 回	積分 3	微分積分法の基本定理
第 13 回	積分の応用 1	図形の面積
第 14 回	積分の応用 2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011) は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	多変数関数とは
第3回	2変数関数2	平面のグラフ
第4回	2変数関数3	曲面のグラフ
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	極限値
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と接平面
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学ⅠⅡ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1 変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1 変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算などが上手くいかないときは、悲観的に考える必要は全くなく、むしろ自力を高める良い機会だと思いますので気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分1	偏微分とその意味
第05回	偏微分2	偏導関数の計算
第06回	偏微分3	全微分と接平面
第07回	偏微分4	2変数関数と最適化
第08回	偏微分5	社会科学への応用
第09回	極値の計算1	2階偏導関数の計算
第10回	極値の計算2	2変数関数の極値の計算
第11回	極値の計算3	公務員試験の例題
第12回	極値の計算4	データサイエンスへの応用
第13回	極値の計算5	制約条件付きの極値問題
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算などが上手くいかないときは、悲観的に考える必要は全くなく、むしろ自力を高める良い機会だと思いますので気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 6 割とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 6 割とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	17 世紀のガリレオの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	17 世紀のケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 4 回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	1960 年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトル計画	1980 年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000 年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第 10 回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第 11 回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第 12 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。
第 13 回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

第 14 回 まとめ

全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	17 世紀のガリレオの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	17 世紀のケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 4 回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	1960 年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトル計画	1980 年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000 年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第 10 回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第 11 回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第 12 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。
第 13 回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

第 14 回 まとめ

全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 6 割とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY200LA

教養物理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：放射線の性質と利用

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

放射線は我々の身近に存在している。自然界では、放射線は宇宙から降り注いでいるだけでなく、地殻や大気、さらには食品中にも放射線を出す物質がごく微量ながら含まれている。さらに、放射線は、社会において広く利用されている。例えば医学では、放射線の性質を利用したがんの治療などが代表例である。他にも、様々なところで放射線は利用されており、放射線を理解することは、現代の科学技術を理解する上でも非常に重要である。一方、放射線と聞くと、人体への影響を心配するかも知れない。人体にどのような影響があり、それをどのようにコントロールすれば良いのか。それを理解するためにも、放射線の性質を科学的に理解することが重要である。本授業を通して、学生は、現代物理学の知見に基づいて放射線を理解するとともに、社会での利用例について、放射線の性質と関連付けて理解する。

【到達目標】

- ・放射線がどのような性質を持つのか、その発生原理とともに理解できる。
- ・原子炉や加速器の原理を理解することができる。
- ・放射線の利用例について、放射線の性質と関連付けて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	放射線とは何かを説明するとともに、授業内容の概観を示す。
第 2 回	物理学の基礎知識	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、力学の基礎と光の性質を中心に解説する。
第 3 回	原子の構造	原子がどのような構造を持つのか解説する。
第 4 回	原子核	原子核の性質や構造について解説する。
第 5 回	放射性崩壊	原子核の崩壊について解説する。

第 6 回	特殊相対論と質量エネルギー	放射線を学ぶ上で必要な知識として特殊相対論の概略を紹介するとともに、質量エネルギーについて解説する。
第 7 回	X 線の発生	これまでの内容を踏まえ、X 線の発生原理を解説する。
第 8 回	放射線と物質との相互作用（1）	主に荷電粒子線と物質の相互作用について説明する。
第 9 回	放射線と物質との相互作用（2）	主に X 線と物質の相互作用について説明する。
第 10 回	放射線と物質との相互作用（3）	主に中性子と物質の相互作用について解説する。
第 11 回	原子炉	原子炉の原理や原子炉内で起こる核反応について説明する。
第 12 回	加速器	加速器について紹介するとともに、その原理や利用例を説明する。
第 13 回	社会における放射線	放射線の人体への影響や放射線の検出方法などを説明する。また、放射線の社会における利用についても紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学・技術に関連するニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規開講科目のため、特にありません。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the radiation physics. It also helps students acquire understand how to use the radiation and the related techniques in the modern society.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain properties of radiation and radiation sources
- ・ Explain the principle and utilization of nuclear reactor and accelerator

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

BIO200LA	
教養生物学 L A	2017 年度以降入学者
サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き	
沼田 治	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1 単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の体は、37 兆 2 千億個の細胞から構成されている。この授業では、我々の体を構成する細胞の理解を目的とする。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得するしくみ、エネルギーを利用して運動するしくみなどを、細胞レベルから理解することを目指す。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。また、新型コロナの感染、発症、予防などについて細胞レベルで説明する。随時、沼田の研究内容、「細胞のエネルギー産生を活性化する発酵茶ポリフェノール（MAF）の生理作用」を紹介して、健康について細胞レベルで考察する。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。また、新型コロナの感染、発症、予防について細胞レベルの理解を目指す。さらに細胞のエネルギー産生と健康維持の関係についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

リアルタイムのオンライン講義を主に授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2 回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3 回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを生産するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を生産する葉緑体の働きを理解する。
4 回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。

5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮と細胞のアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。
10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後に分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントなどの資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」
著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著
出版社： 化学同人
出版年： 2012 年第 1 版発行
価格： 3,000 円

【参考書】

書名：誰も知らない紅茶の秘密
著者：沼田治
出版社：幻冬舎
出版年：2021 年 4 月 15 日
価格：880 円

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問やコメントを提出してもらい、授業改善に役立てる。

課題、授業に関する質問、コメントに対するフィードバックは次の授業で行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：月曜日の4時限終了後、16：40から18：00まで

【Outline (in English)】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body. I will also discuss the infection, development, and prevention of new coronas at the cellular level.

【Learning activities outside of classroom】

Materials such as PowerPoint presentations for use in class will be presented in the Teaching Materials section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are required to thoroughly review the class content and answer the assignments presented in class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

Assignments will be given after class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による遺伝子再編成などの発見がなされている。沼田はテトラヒメナを用いて発酵茶ポリフェノール (MAF) がミトコンドリアの酸素呼吸を活性化することを発見した。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君は研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナのご不思議を理解してもらいたい。授業では上記に加えて、MAF の効果や、新型コロナウイルスの最新情報についても言及する。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生の謎の解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。さらに、発酵茶 MAF の生理作用や新型コロナウイルスの情報から、私たちの健康について生物学的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

リアルタイムのオンライン講義を主に授業は進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。課題、質問、コメントに対するフィードバックは次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナのご不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナの核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。

3 回	テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？	テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。
4 回	テトラヒメナの繊毛を動かすモータータンパク質	精子の鞭毛運動や、テトラヒメナの繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
5 回	染色体末端構造テロメアの発見	染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメラゼの発見について紹介する。
6 回	テロメアは生物の寿命を決めるか？	生物の寿命とは何か？ 生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
7 回	酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見	テトラヒメナの RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
8 回	リボザイムはセントラルドグマを覆すか？	セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？ タンパク質からか？ それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。
9 回	大核分化で生じる DNA 再編成	接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
10 回	大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA	大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
11 回	遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾	大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
12 回	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発分化の調節について解説する。
13 回	テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成	テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
14 回	テトラヒメナが教えてくれたこと	45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントなどの資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力
著者： 沼田治
出版社： 慶応義塾大学出版会
出版年： 2018 年 10 月 12 日
価格： 1,800 円

【参考書】

書名：誰も知らない紅茶の秘密
著者：沼田治
出版社：幻冬舎
出版年：2021 年 4 月 15 日
価格：880 円

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問やコメントを提出してもらい、授業改善に役立てる。
課題、授業に関する質問、コメントに対するフィードバックは次回の授業で行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline (in English)】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

【Learning activities outside of classroom】

Materials such as PowerPoint presentations for use in class will be presented in the Teaching Materials section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are required to thoroughly review the class content and answer the assignments presented in class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

Assignments will be given after class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き

沼田 治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の体は、37 兆 2 千億個の細胞から構成されている。この授業では、我々の体を構成する細胞の理解を目的とする。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得するしくみ、エネルギーを利用して運動するしくみなどを、細胞レベルから理解することを目指す。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。また、新型コロナの感染、発症、予防などについて細胞レベルで説明する。随時、沼田の研究内容、「細胞のエネルギー産生を活性化する発酵茶ポリフェノール（MAF）の生理作用」を紹介して、健康について細胞レベルで考察する。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。また、新型コロナの感染、発症、予防について細胞レベルの理解を目指す。さらに細胞のエネルギー産生と健康維持の関係についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

リアルタイムのオンライン講義を主に授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2 回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3 回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを生産するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を生産する葉緑体の働きを理解する。
4 回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。

5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮と細胞のアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。
10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後に分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントなどの資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」
著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著
出版社： 化学同人
出版年： 2012 年第 1 版発行
価格： 3,000 円

【参考書】

書名：誰も知らない紅茶の秘密
著者：沼田治
出版社：幻冬舎
出版年：2021 年 4 月 15 日
価格：880 円

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問やコメントを提出してもらい、授業改善に役立てる。

課題、授業に関する質問、コメントに対するフィードバックは次の授業で行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：月曜日の4時限終了後、16：40から18：00まで

【Outline (in English)】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body. I will also discuss the infection, development, and prevention of new coronas at the cellular level.

【Learning activities outside of classroom】

Materials such as PowerPoint presentations for use in class will be presented in the Teaching Materials section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are required to thoroughly review the class content and answer the assignments presented in class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

Assignments will be given after class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による遺伝子再編成などの発見がなされている。沼田はテトラヒメナを用いて発酵茶ポリフェノール (MAF) がミトコンドリアの酸素呼吸を活性化することを発見した。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君は研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナのご不思議を理解してもらいたい。授業では上記に加えて、MAF の効果や、新型コロナウイルスの最新情報についても言及する。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生の謎の解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。さらに、発酵茶 MAF の生理作用や新型コロナウイルスの情報から、私たちの健康について生物学的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

リアルタイムのオンライン講義を主に授業は進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。課題、質問、コメントに対するフィードバックは次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナのご不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナの核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。

- 3 回 テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？ テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。
- 4 回 テトラヒメナの繊毛を動かすモータータンパク質 精子の鞭毛運動や、テトラヒメナの繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
- 5 回 染色体末端構造テロメアの発見 染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメラーゼの発見について紹介する。
- 6 回 テロメアは生物の寿命を決めるか？ 生物の寿命とは何か？ 生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
- 7 回 酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見 テトラヒメナの RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
- 8 回 リボザイムはセントラルドグマを覆すか？ セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？ タンパク質からか？ それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。
- 9 回 大核分化で生じる DNA 再編成 接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
- 10 回 大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA 大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
- 11 回 遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾 大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
- 12 回 ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。 ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発分化の調節について解説する。
- 13 回 テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成 テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
- 14 回 テトラヒメナが教えてくれたこと 45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントなどの資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力
著者： 沼田治
出版社： 慶応義塾大学出版会
出版年： 2018 年 10 月 12 日
価格： 1,800 円

【参考書】

書名：誰も知らない紅茶の秘密
著者：沼田治
出版社：幻冬舎
出版年：2021 年 4 月 15 日
価格：880 円

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問やコメントを提出してもらい、授業改善に役立てる。
課題、授業に関する質問、コメントに対するフィードバックは次回の授業で行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：月曜日の 4 時限終了後、16：40 から 18：00 まで

【Outline (in English)】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

【Learning activities outside of classroom】

Materials such as PowerPoint presentations for use in class will be presented in the Teaching Materials section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are required to thoroughly review the class content and answer the assignments presented in class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

Assignments will be given after class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにかからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、オンデマンド/資料・教材コンテンツ配布型です。授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式（動画配信型）で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。

第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、オンデマンド/資料・教材コンテンツ配布型です。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式（動画配信型）で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。

第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第 3 回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりにふれながら概説します。
第 4 回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 8 回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 9 回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第 10 回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第 11 回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第 12 回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第 13 回	人間とはなにものか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにかからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらししているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。

ただし、初回を含めて数回はオンライン授業となる予定です。詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

また、受講希望者数が教室定員を超えた場合には、抽選を実施する予定です。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に揭示しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。

第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。

ただし、初回を含めて数回はオンライン授業となる予定です。詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

また、受講希望者数が教室定員を超えた場合には、抽選を実施する予定です。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。

第 3 回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりにふれながら概説します。
第 4 回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 8 回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 9 回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第 10 回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第 11 回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第 12 回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第 13 回	人間とはなにものか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

CHM200LA

教養化学ⅠA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文の pdf ファイルを授業支援システムにアップロードする予定です。

高校などにおける理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第 3 回	電子の発見	ふたつの原子を結びつける電子の働きについて
第 4 回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第 5 回	同位体と原子の壊変	原子核の壊変と放射線について
第 6 回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第 7 回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界について
第 8 回	光と電子のエネルギー	電磁波の性質と光子量子仮説について
第 9 回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみと、物質の持つエネルギーについて
第 10 回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造
第 11 回	エネルギー物質	燃焼によって発生するエネルギーと、爆薬の化学構造、爆発事故について
第 12 回	燃料電池	水素分子と酸素分子から得られるエネルギーについて
第 13 回	元素の循環	物質変化に伴うエネルギーの吸収と放出について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や Web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業毎に資料を配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The goals of this course are to understand about energy and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA

教養化学ⅠA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーと化学

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について取り上げます。

原子の構造から放射能や原子力を学び、化学結合からなぜ燃えると熱が発生するのか、太陽電池や燃料電池も原子や分子の中の電子の動きで理解することができます。

原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化の関係も理解しておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

【到達目標】

原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？ 温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点とは何か？ 水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、個々のエネルギー源が現状抱えている課題を知識として得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関して化学の基礎から講義形式で解説し、あわせて社会的な問題も考察したいと考えています。原則として教室での対面授業とし、必要に応じてリアルタイムでの Zoom 配信も行う予定です。なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の基礎（1）	原子の構造と電子配置について振り返ります。
第 2 回	化学の基礎（2）	原子量と質量数、モルの考え方を理解します。
第 3 回	原子力エネルギーとその源は何か	質量がエネルギーに変換されること、どういう核変化がエネルギーを生み出すのかを学びます。
第 4 回	放射能とは何か	どういう物質が放射能を持つのか、放射能の特質と核分裂反応との関係を学びます。
第 5 回	放射能の人体に与える影響について	過去に日本や海外で起こった原子力関連の事故を振り返り、人体への影響を学びます。
第 6 回	原子力発電の構造と種類	原子力発電の構造を理解し、その特徴を学びます。
第 7 回	原子力の問題点	プルトニウムやその他の放射性廃棄物の処理について考察します。
第 8 回	化石燃料の種類と分子構造の違い	石油、石炭、天然ガスの特徴を学びます。

第 9 回	燃焼による発熱の仕組み	共有結合の考え方、酸素との反応によるエネルギーの発生の仕組みを学びます。
第 10 回	化石燃料の問題点	化石燃料の利用に伴う問題点（二酸化炭素による温暖化を含む）を考察します。
第 11 回	既存のエネルギーシステムの問題点	原子力、火力、水力発電のエネルギー変換効率の低さや電力の貯蔵が難しいなどその問題点を整理します。
第 12 回	自然エネルギーの利用と問題点	太陽光、風力、地熱発電などの自然エネルギーの特徴を学びます。
第 13 回	水素エネルギーと燃料電池	エネルギー源として水素の利用に伴う問題点を学びます。
第 14 回	まとめ	授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。テーマや内容に記載のある項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習してくるとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜プリントを配布します。

【参考書】

この分野は日々新しい技術が生まれていて、適当な書籍は見当たりません。授業内で配布する資料で不明なことは授業内での質問やメール等を通じていつでも問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出内容（30 %）と期末試験の成績（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年 3 月の大震災のため特に興味を持って授業に臨む学生さんが多く、原子力に関しては今年もできるだけ詳しく解説したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

使いません。

【その他の重要事項】

専門用語がいろいろ出てきます。もちろん、始めに説明をしますが、同じ説明は二度も行いません。従って、欠席や遅刻があれば、それ以降の内容が理解できなくなることが予想されます。

【Outline (in English)】

This course introduces the mechanism of producing energy from atomic energy and fossil fuels and also environmental issues related with them to students taking this course. It also deals with performance of new energy sources such as solar, wind, geothermal energies, and especially hydrogen energy. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境化学

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、日用品などの製品化、あるいは技術が生み出され応用されて来ている。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

【到達目標】

過去の公害問題の概要を理解する。

生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持って機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。

体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。

合成物が生命に与える影響を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面による講義形式での授業とします。必要に応じてリアルタイムでの Zoom 配信も行う予定です。

なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。質問等は適宜授業内で受け付けますが、メールでの対応も可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、授業の進め方など	この講義の概要と、これからの授業の進め方、注意点等について説明します。
第 2 回	日本の過去の公害事例（1）	明治に始まる鉱山、精錬からの環境問題について解説します。
第 3 回	日本の過去の公害事例（2）	昭和の高度成長期にあった工場廃液、排ガスによる環境問題について解説します。
第 4 回	有機化合物の基礎	有機化合物の結合と構造、反応性について解説します。
第 5 回	日本の過去の公害事例（3）	有機塩素系化合物による環境汚染について学びます。
第 6 回	糖質（1）	エネルギー源としての利用だけではない糖質の多様性を学びます。

第 7 回 糖質（2）

砂糖の歴史や合成甘味料などの食品添加物の紹介と味覚についての話題を紹介します。

第 8 回 脂質（1）

脂質の特徴と洗剤のしくみについて学びます。

第 9 回 脂質（2）

コレステロールや、ステロイドなどのドーピングの話題を紹介しします。

第 10 回 窒素化合物の働きと代謝（1）

生命にとって重要な働きのあるアミノ酸とタンパク質の働きを学び、老化との関係について解説します。

第 11 回 窒素化合物の働きと代謝（2）

核酸と核酸塩基の多様な働き、呼吸によるエネルギーの獲得について学びます。

第 12 回 体内での物質認識

アレルギー、免疫反応の仕組みを学びます。

第 13 回 薬物汚染

大麻、覚せい剤、麻薬など、その危険性について学びます。

第 14 回 まとめ

全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

テーマや内容に関係する項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習するとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

特に使いません、適宜プリントを配布します。

【参考書】

取り上げる項目が多岐にわたるため、適当な参考書が見当たらない。気になるキーワードを使用して図書館で検索してみてください。必要に応じて授業内で紹介することも可能です。

【成績評価の方法と基準】

基本的には期末試験の成績（70 %）をもとにしますが、毎回科す課題の取り組み（30 %）も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な物質を例に挙げて説明をしていますが、網羅的になりすぎて、その関係の理解が難しいと感じる人が多いようです。ポイントをもっと明確にする必要があると考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces the functions of chemical compounds related with life and also the risk of synthetic chemicals applied to foods, cosmetics or drugs to students taking this course. It also enhances the mechanism of material recognition in our body. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境問題を考えるための化学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、地球が直面している環境問題は深刻です。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切です。そのためには基本的な化学の理解が必須であると私は思います。本講座は環境問題を考えることを最終目的としていますが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的としています。

【到達目標】

環境問題の化学的メカニズムを理解してもらうことが最終目的ですが、そのために必要な化学的知識も併せて身につけてもらうことを目的としています。知識を身につけたうえで、自分はどうか考えるかということまで到達できることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

今年度もこの授業はオンデマンドに決定しています。毎週私が作成した約 1 時間の動画を視聴することで学習してください。Hoppii にアップロードした課題を Hoppii 経由で提出してください。これが出席点となります。課題は動画を視聴すれば誰でも答えられます。課題に自分で勉強したことや感想、質問を記入してもらって構いません。課題と共に記入されている質問や素晴らしい感想には Hoppii 経由で必ず回答を返します。もちろんメールで質問してもらっても構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	本講座を理解するのに必要な基本的な化学法則、構造式、単位などをざっと説明。
No.2	化学基礎 1	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎 2	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	世界の環境問題	大きなトピックとして話すほどではないが、これまで質問の多かった環境問題を取り上げる
No.5	オゾン層破壊	オゾン層破壊のメカニズムについて
No.6	酸性雨	酸性雨の原因と対策
No.7	大気汚染の健康への影響	大気汚染全般の原因と人体への影響

No.8	温室効果ガス 1	温室効果ガスとはなにか
No.9	温室効果ガス 2	温室効果ガスとはなにか
No.10	ゴミ問題から土壌汚染まで	なぜゴミの分別が必要なのか。環境を破壊するゴミ問題に関して
No.11	水質汚染	汚染水に含まれる化学物質
No.12	水質浄化	水質浄化のアイデア
No.13	現在のエネルギー	現行の発電方法について
No.14	未来のエネルギー	新エネルギーについて学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクションペーパーやレポート作成のため、学期中を通じて週約 30 時間の授業外学習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は約 70 分前後の動画視聴になります。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜プリントを配布します。講義で使うパワーポイントは Hoppii に事前にアップします。

【参考書】

参考書はありません。もう少し学びたい人向けに、授業中に書籍を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テストは行いません。最終レポート (40 %)、毎回のリアクションペーパー (60 %) を総合的に評価します。レポートは最終授業終了後に課します。リアクションペーパーは毎回の授業ごとに提出してもらいます。初回のガイダンスを除いて、課題を 3 回以上提出しない場合最終レポートを提出しても単位は取れません。(2 回までは問題ありません) それだけ毎回の課題を重視しています。成績は、「きちんと考えているか」ということを重視しています。具体的には毎週の課題に「自分の意見」をきちんと記入してください。そして、最終レポートで、授業を通じて考えたことを表現してもらえば良い成績に繋がります。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。です。で、どうしても動画が長くなってしまいます。オンデマンド授業の良さは、「わからなかったら動画を止めて、自分がわかるまで視聴できる」ことだと思います。化学が少し苦手と思っている人こそ、ゆっくりじっくり一緒に学んでいきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できる環境。

【その他の重要事項】

昨年度の受講人数が多かったため、今年度は抽選で受講者を決める予定です。必ずしも化学が好きである必要はありませんが、新しいことを知りたいという熱意があることが望ましいです。

【Outline (in English)】

One of the most pressing issues the Earth is facing is environmental problems. Such environmental problems are universal issues, so all the people on the earth should cooperate to solve these problems. At the beginning of this course, each environmental problem will be focused from the chemical viewpoint. Then, the students with different backgrounds will delve into the matters. The ultimate goal of this course is that we think about these problems deeply by sharing possible solutions with each other.

【Learning activities outside of classroom】University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria】Reaction Paper (60%) and Final test (40%). Class attendance is the most important in this class. If you don't submit the reaction paper more than three times, you cannot get the credit.

CHM200LA

教養化学ⅠA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド型の形態によって行われます。すなわち、毎週、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされる学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。学習メモには、内容を解説した期間限定動画の URL が記載されていますので、そちらも視聴して学習を進めてください。質問等は、HOPPII の掲示板を通して受付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。第 1 回授業の資料は、2022 年 4 月 8 日（金）に学習支援システム（HOPPII）にアップロードする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第 4 回	反応熱・エネルギー	化学反応にともなって反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。

第 5 回 石炭

現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。

第 6 回 石油（1）

現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。

第 7 回 石油（2）

現代文明で大きな役割を演じている石油の用途について学習する。

第 8 回 天然ガス

現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。

第 9 回 その他の化石燃料

オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。

第 10 回 水素経済社会（1）

将来のエネルギー資源の候補である水素について、性質や用途を学習する。

第 11 回 水素経済社会（2）

水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。

第 12 回 メタノール経済社会（1）

将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびジメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。

第 13 回 メタノール経済社会（2）

メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。

第 14 回 まとめ

本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

・ 書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンデマンド授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

基盤科目（100 番台）の「入門化学 A・B」（1 年生はクラス指定有り）、リベラルアーツ科目（200 番台）の「教養化学ⅠC・ⅠD」、総合科目（300 番台）の「物質の科学 A・B」および「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. After each class, students will be expected to have completed the required assignments that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Studying time will be more than two hours for a class. Overall grade in the class will be decided based on the assignments submitted (100%).

CHM200LA

教養化学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：細菌の化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020 年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため感染予防に有効なワクチンはまだ十分に流通していません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会は COVID-19 から大きな影響を受けはじめています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する種々の有機化合物についてご紹介します。それらが集合して構成される生体の最小単位である細胞について学習し、細菌や細菌によって引き起こされる疾病について学びます。ウイルスが増殖する舞台である細胞について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるよう配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第 1 回目はオンライン形式により、第 2 回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	化学結合論	原子がどのようなルールによって結合し分子を形成するかを学習する。
第 4 回	多重結合	化学結合論に基づいて形成される様々な化学結合の種類について学習する。
第 5 回	生体を構成する有機化合物	生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、および、核酸について学習する。

第 6 回	分子の立体構造	種々の化学結合がなす角度と結合距離について学習し、分子の立体構造について理解を深める。
第 7 回	分子の立体構造と物質の性質（1）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第 8 回	分子の立体構造と物質の性質（2）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第 9 回	生体分子の立体構造（1）	タンパク質の立体構造について学習する。
第 10 回	生体分子の立体構造（2）	脂質や糖質の立体構造について学習する。
第 11 回	生体分子の立体構造（3）	核酸の立体構造について学習する。
第 12 回	細胞	生物とウイルスの違いや生体の基本単位である細胞について学習する。
第 13 回	細菌	細菌の種類や細菌によって引き起こされる疾病について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養化学 L D」を合わせて受講することをお勧めします。

・ 上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective vaccine has not yet been distributed sufficiently. This situation will continuously cause severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, various organic compounds that comprise living organisms will be presented. Then, students will learn about the cell that is the minimum unit of the living organisms, and bacteria and its related diseases. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of cell that is the place of multiplication of virus from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA

教養化学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ウイルスの化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020 年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため感染予防に有効なワクチンはまだ十分に流通していません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会は COVID-19 から大きな影響を受けはじめています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する最小単位である細胞がどのような活動をおこなっているかを学習します。次に、ウイルスがその細胞に侵入して増殖するメカニズムなどを学習します。ウイルスの性質や活動について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるよう配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第 1 回目はオンライン形式により、第 2 回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	化学結合論と分子の立体構造	化学結合論によって原子同士がつながって分子が生成すること、および、分子の立体構造によって物質の性質が決まることを学習する。
第 3 回	生体を構成する有機化合物	生体を構成する種々の有機化合物について学習し、それらの分子構造について理解を深める。
第 4 回	遺伝情報の発現（1）	生物の遺伝子 DNA を RNA に転写する過程について学習する。

第 5 回	遺伝情報の発現（2）	mRNA が持つ遺伝情報をタンパク質に翻訳する過程について学習する。
第 6 回	遺伝情報の発現（3）	細胞分裂の際に行われる遺伝子 DNA の複製について学習する。
第 7 回	生化学の研究手法	生化学を学習する際の研究手法について学習する。
第 8 回	ウイルスの構造	種々のウイルスについて基本的な構造を理解する。
第 9 回	λ ファージ	λ ファージの生活環について学習する。
第 10 回	HIV	ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の生活環について学習する。
第 11 回	インフルエンザウイルス	インフルエンザウイルスの構造や増殖過程について学習する。
第 12 回	新型コロナウイルス	新型コロナウイルスについて最新の研究成果を学習する。
第 13 回	ウイルス治療薬	ウイルス治療薬開発の概要について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養化学 L C」を合わせて受講することをお勧めします。

・ 上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective vaccine has not yet been distributed sufficiently. This situation will continuously cause severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, students will learn the processes of expression and transmission of genetic information that is fundamental for living organisms, and then that of multiplication of viruses utilizing such the processes of the host cell. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of viruses from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA

教養化学Ⅰ E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：薬の科学

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬の開発は人間の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるか、など、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】

薬の働きについての学習を通して、有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要について説明
第 2 回	薬の歴史	古代から現代までの薬、薬の働き方の簡単な概説
第 3 回	化学の基礎	原子と分子、化学結合について
第 4 回	有機化合物	有機化合物の構造と表記方法について
第 5 回	DNA とタンパク質	アミノ酸の化学構造と、タンパク質や DNA の立体構造について
第 6 回	酵素と代謝	タンパク質や炭水化物などを分解する酵素について
第 7 回	生活習慣病の薬	糖尿病や高脂血症の薬について
第 8 回	抗炎症薬①	非ステロイド薬とステロイド薬の作用機構について
第 9 回	抗炎症剤②	花粉症などアレルギーの薬、抗ヒスタミン薬の分子設計と、副作用改善について
第 10 回	化学療法薬と抗生物質	病原細菌に作用する薬と、その作用メカニズムについて
第 11 回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズの薬について
第 12 回	がんの薬	様々な抗がん薬の働きと副作用、標的物質について。
第 13 回	うつ病の薬と危険ドラッグ	脳で働く分子について。
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験がレポート課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確かめながら進めていく予定です。

【Outline (in English)】

Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduce the basic principles of medical supplies using organic chemistry.

The goals of this course are to understand about organic compounds and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（24 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学ではプリントを配布して授業を進めます。
物理では、プリントとワークシートを配布します。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。
物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（24 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。
物理学では、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回ごとに参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（24 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の 仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。
物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。
物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第3週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第5週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になるとと思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第3週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第5週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3	
単位数：2 単位	
※定員制 (24 名)	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の 仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第3週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第5週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 4/Thu.4	
単位数：2 単位	
※定員制 (24 名)	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の 仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第3週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第5週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週 電気エネルギーと熱エネルギー（物理学） 電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第8週 落体実験（物理学） 物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第9週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第10週 燃焼から見る反応理解の変遷（化学） 物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ

第11週 銅の反応実験（化学） 銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第12週 マグネシウム金属の燃焼実験（化学） 燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第13週 酸化還元反応と電池の仕組み（化学） 電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。

第14週 燃料電池の発電効率の測定（化学） 燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 4/Fri.4	
単位数：2 単位	
※定員制（24 名）	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999. 物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見出したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になるとと思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見つけたかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学では、必要に応じて紹介します。

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見つけたかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽）光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第11週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第12週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第13週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第14週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（24 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第 6 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	植物と光 1 (太陽) 光と生態系 (生物学)	生物と (太陽) 光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第 12 週	植物と光 2 光合成の 仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第 13 週	動物と光 1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第 14 週	動物と光 2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第 11 週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第 12 週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第 13 週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第 14 週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第11週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNAの関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第12週	生物の設計図としてのDNA（生物学）	DNAの構造とその機能について学び、DNAの二重らせんモデルを作成する。DNAからタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第13週	DNAの抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞からDNAを抽出する。得られた物質がDNAであることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第14週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週 LEDの実験（物理学） LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週 燃焼から見る反応理解の変遷（化学） 物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ

第7週 銅の反応実験（化学） 銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第8週 マグネシウム金属の燃焼実験（化学） 燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第9週 燃料電池の発電効率の測定（化学） 燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第10週 遺伝子とは何か（生物学） 遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。

第11週 細胞分裂と染色体（生物学） 細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNAの関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第12週 生物の設計図としてのDNA（生物学） DNAの構造とその機能について学び、DNAの二重らせんモデルを作成する。DNAからタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。

第13週 DNAの抽出実験（生物学） ブロッコリーを用いて、細胞からDNAを抽出する。得られた物質がDNAであることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。

第14週 ゲノム時代への対応（生物学） 遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見つけたかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザ光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

物理学では必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。
物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。
物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1（太陽光と生態系生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器（生物学）	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED をういて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1（太陽光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器（生物学）	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1（太陽光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器（生物学）	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気との歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1（太陽光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器（生物学）	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気との歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実験と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 巧

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、健康問題に関する考え方について理解する。

【到達目標】

1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について多角的な視点から考えることができる。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に各テーマの学習を進める。2-3 回に 1 回程度の頻度で全 5 回、授業終了時にテーマに関する自身の考えや意見を問うミニレポート課題を出す。課題の提出締め切り後の授業にて、レポートにどのような考えや意見が書かれていたかを集約し、紹介・解説する形で全体にフィードバックをおこなう。また、テーマに沿って自身の考えを他者と共有する機会を授業内で作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要説明
第 2 回	本邦の高齢化の現状	高齢化の実態と課題
第 3 回	高齢期の健康 1	高齢期の生活機能と体力
第 4 回	高齢期の健康 2	老年症候群（転倒、尿失禁、閉じこもり）の現状と予防
第 5 回	高齢期の健康 3	低栄養の現状と予防
第 6 回	高齢期の健康 4	認知症の現状と予防
第 7 回	高齢期の健康 5	フレイルの現状と予防
第 8 回	高齢期の健康 6	ロコモティブシンドロームとフレイルの現状と予防
第 9 回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加 1	高齢期の運動
第 10 回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加 2	高齢期の食習慣と社会参加
第 11 回	地域・職域での健康づくり 1	地域に介護予防の取り組みを広げる方法と事例の紹介
第 12 回	地域・職域での健康づくり 2	地域での介護予防の実践プロセス
第 13 回	高齢期の健康行動	高齢者の行動特性
第 14 回	まとめ	今後の健康づくり・介護予防の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後におこなうべき課題や復習等は、教員からの指示に従って実践するものとし、各 2 時間を標準とする。また、日ごろから高齢者の健康に関連する話題に目を向けることも準備学習となりうる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業テーマに合わせた資料を配布する。

【参考書】

適宜、関連する書籍などを授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート課題（50%：10%×5）、最終レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、健康づくりの課題について考える機会を設ける予定である。これは、ミニレポート課題における回答（意見）を教員がまとめ、それを紹介しフィードバックする際などにおこなう。自身と異なる考えや気が付かなかった視点を把握し、改めて自身の考えを見直す機会とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況および授業実施方法（対面・オンライン）について若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

【Course outline】The Health Science LA aims to learn about health promotion among older adults. Japan has been a super-aged society. This class provides the opportunity to understand public issues related to a declining birth rate and an aging population in Japan. This will help students comprehend how to think about health-related ones.

【Learning Objectives】1) Being able to think about health-related issues in older adults and prevention/treatment methods for them from multiple perspectives. 2) Being able to use the health knowledge in daily life.

【Learning activities outside of classroom】The teacher will announce what students should do and review, and students will spend about two hours doing it. Paying attention to health-related issues in older adults leads to preparing for a class.

【Grading Criteria/Policy】Mini-reports (50% : 10% * 5) and the final report (50%)

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

藤平 杏子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「健康の科学 LA」では、「生涯にわたる健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康長寿に必要な食事・運動・休養・社会参加に関する基礎的な事項を理解できるようにする。

【到達目標】

1. 健康の維持・増進に興味を持ち、健康づくりに関する基礎的な知識を習得する。
2. 本授業で学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義を中心に各テーマの学習を進める。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめた小レポートの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容や進め方についてオリエンテーションを行う。
2	日本の健康問題	日本の医療や健康に関わる背景、生活習慣病
3	肥満とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームとは何か
4	高血圧	高血圧の診断、要因と予防法
5	糖尿病と脂質異常症	糖尿病、脂質異常症の診断、要因と予防法
6	骨や歯の病気	骨粗鬆症、要因と予防法 歯周病、歯の病気の予防
7	心の病気	ストレスの捉え方、鬱と対処法
8	生活習慣病の予防と体力	生活習慣病の予防、日本で行われているヘルスプロモーション
9	健康づくりのための食事	健康づくりに必要な食事方法
10	健康づくりのための運動	健康づくりに必要な運動方法、健康づくりのための身体活動基準
11	健康づくりのための休養	健康づくりに必要な休養方法、睡眠、ストレスへの対処
12	健康づくりのための社会参加	健康づくりに必要な人との関わり
13	生涯にわたる健康づくり	年代別の健康問題、予防法、喫煙と飲酒が健康に及ぼす影響
14	まとめ	授業全体の総括と総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての予習や授業後に行う課題や授業内容の復習等は、各 2 時間を標準とする。授業に向けた予習や復習内容は、授業中に提示する。

【テキスト（教科書）】

本授業では教科書を使用しない。授業に必要なスライドは適宜、配布もしくは配信する。

【参考書】

授業の中で参考になる図書等は紹介するが、購入が必須ではない。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業終了時に小レポートの提出を求める。小レポートの内容と提出状況で成績評価の 5 割、最終レポートの内容と提出状況が残りの 5 割とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すときの調べ学習をしたときに将来に必要な知識も定着することが出来た、という授業改善アンケート結果から、学生の生活に関わるトピックを授業時間内に取り上げ、課題学習に使用する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のため、学習支援システムもしくはメールを使用する。

【その他の重要事項】

感染症などの流行状況を鑑み、上記の授業の進め方を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The main theme of this course is "lifelong health promotion". By taking this course, students will be able to understand the basic issues related to diet, exercise, rest, and social participation necessary for healthy longevity.

【Learning Objectives】 By the end of this course, students should be able to:

1. Develop an interest in the maintenance and promotion of health and acquire basic knowledge about health promotion.
2. To be able to use what they have learned in this class to improve the health of themselves and their families.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecturer's instructions regarding assignments to be done after class and preparation for the next class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 In this course, students will be asked to submit a short report at the end of each class. The content and submission status of the small report will account for 50% of the grade, and the content and submission status of the final report will account for the remaining 50%.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	健康観・健康概念の多様化	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて理解を深める。
第 3 回	日本における健康観の変遷	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて理解を深める。
第 4 回	ホリスティック・ヘルスとは	ホリスティック・ヘルスの視点から現代人の心身の健康について考える。
第 5 回	心身の健康とストレス特性	自己の身体的・精神的・社会的ストレス度を測り、ストレス特性を知る。
第 6 回	ストレスマネジメント	自己のストレス特性に応じたストレス対処、セルフマネジメントについて学ぶ。
第 7 回	ストレスマネジメント実践編	日常生活で実践しやすいストレスマネジメントの方法を学ぶ。
第 8 回	日本人の生活と健康	我が国の健康政策から日本人の生活と健康課題について理解を深める。

第 9 回	0 次予防とは	0 次予防、健康のための環境づくりの考え方について学ぶ。
第 10 回	健康のための環境づくり	健康のための環境づくりの先進事例をととして地域の課題について考える。
第 11 回	ライフサイクルと健康	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について理解を深める。
第 12 回	ライフスタイルと健康	ライフコース、ライフスタイルの多様化とワークライフバランスについて考える。
第 13 回	人生 100 年時代をどう生きるか	超高齢社会におけるウェルビーイングについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー） 70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including “ikigai” and human dignity is becoming an important concept. Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactively.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

- 1.Introduce students to the field of Health Sciences of body, mind, and spirit
- 2.Provide a basic understanding of the theory and specific issues of biopsychosocial health
- 3.Encourage students to practice for health promotion in their life and community

【Learning activities outside of classroom】

- 1.Get information on current health issues from newspapers and news
- 2.Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
- ・ Year-end report 30%

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康はいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識、健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
- ・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストと各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	生活習慣・健康度チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第 3 回	健康的なウエイトコントロール	適正体重やボディイメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第 4 回	エネルギー必要量と摂取量	エネルギー必要量と摂取量、食事内容をチェックし、改善点を認識する。
第 5 回	食と健康	スポーツ栄養、食の安全やサプリメント等のトピックから、食と健康について考える。
第 6 回	生活習慣病の予防	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防について学ぶ。
第 7 回	運動・スポーツの意義と役割	現代社会における運動・スポーツの重要性について理解を深める。
第 8 回	運動・スポーツによるトレーニング効果	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。
第 9 回	適切な運動量と運動内容	適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を認識する。
第 10 回	生体リズムと健康	生体リズムと健康の関係について理解を深める。

第 11 回	日本人の生活と健康	経済格差と健康、企業の健康経営など時事的なトピックから、日本人の生活と健康について考える。
第 12 回	ウェルエイジング	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第 13 回	超高齢社会と健康	人生 100 年時代におけるウェルビーイングについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO) To maintain a healthy body and mind is an essential life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

1. Provide students the foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle
2. Encourage students to practice for health promotion in their life

【Learning activities outside of classroom】

1. Get information on current health issues from newspapers and news
2. Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
- ・ Year-end report 30

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。
- ・第 1 回授業は、大人数が教室に集中するのを避けるため、「リアルタイム配信型」授業（ZOOM 授業）です。前日までに、Hoppii「お知らせ」欄に、Zoom の URL をお知らせします。「対面型授業」を基本としますが、「リアルタイム配信型」授業も行います。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国語です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

「リアルタイム配信型」授業の視聴、ならびに教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2022 年 4 月 12 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして下さい。初回授業は、「リアルタイム配信型」(ZOOM)で行います。定員を超えた場合、「仮登録」者の中から抽選します。受講希望者は、初回授業を必ず受講すること。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。単なるお試しだけで、仮登録をした方は、別途、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 12 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %,little exams:25%,in class contribution: 25%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制（30 人）です。受講希望者は、春学期のはじめ（2022 年 4 月 12 日）までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。受講許可者（本登録許可者）は、4 月 19 日までに Hoppii に掲示します。単なるお試しで、仮登録を行った方は、別途、ご連絡下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25%, in class contribution: 25%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者**梁 禮先**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などにつ	授業の進め方について説明します いてと簡単な復習
第二回	今日も友達に会います	読む練習と否定形について か 1
第三回	今日も友達に会います	発音について か 2
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか	発音練習と読む練習について 1
第七回	ここはデパートですか	連体形について 2
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでも良し。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。
- ・第 1 回授業は、大人数が教室に集中するのを避けるため、「リアルタイム配信型」授業（ZOOM 授業）です。前日までに、Hoppii「お知らせ」欄に、Zoom の URL をお知らせします。「対面型授業」を基本としますが、「リアルタイム配信型」授業も行います。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国語です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
 - ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

「リアルタイム配信型」授業の視聴、ならびに教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2022 年 4 月 12 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして下さい。初回授業は、「リアルタイム配信型」(ZOOM)で行います。定員を超えた場合、「仮登録」者の中から抽選します。受講希望者は、初回授業を必ず受講すること。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。単なるお試しだけで、仮登録をした方は、別途、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 12 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %,little exams:25%,in class contribution: 25%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・ 正確に発音できるようになる。
- ・ ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・ 身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・ 授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・ 簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・ 毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 授業の復習を必ずしてください。
- ・ 疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・ わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・ 歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制（30 人）です。受講希望者は、春学期のはじめ（2022 年 4 月 12 日）までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。受講許可者（本登録許可者）は、4 月 19 日までに Hoppii に掲示します。単なるお試しで、仮登録を行った方は、別途、ご連絡下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25%, in class contribution: 25%.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどのようなものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「カタカナ」について	分析の材料として「カタカナ」を取り上げます

9	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
10	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
11	「丁寧体と普通体」について	分析の材料として「丁寧体と普通体」を取り上げます
12	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
13	「外国の人の日本語」について	分析の材料として「外国の人の日本語」について取り上げます
14	授業内試験	以上 13 回分の内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANj300LA

日本語コミュニケーション B

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことばは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i	きもち・権力・会話を取り入れることで新たに与えられる発話を取り扱います
6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii	きもち・権力・会話を取り入れることで新たに与えられる発話を取り扱います
7	「非流ちょう性」について i	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます

8	「非流ちょう性」について ii	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のこま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のこま切れ発話」について i	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します
11	「文節単位のこま切れ発話」について ii	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します
12	国語教育・日本語教育における「文節」	「文節単位のこま切れ発話」の規則性が国語教育・日本語教育の文脈において意味するところについて解説します
13	まとめ	これまで学んできた内容についてまとめ、ミスコミュニケーションが起こる原因や理由について議論します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「コミュニケーション」における日本語という言葉について、日本の言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、試験の得点 30 点、レポートの得点 40 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LIT300LA

漢字・漢文学A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰

第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩識」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

漢字・漢文学B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 「ゆめ」の多義性 ・ 中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・ 誕生の予言 ・ 優れた人材を教示 ・ 栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・ 死期を悟る ・ 病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・ 国家滅亡の暗示 ・ 不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・ 文学的才能の獲得と喪失 ・ 創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・ 夢と夢主 ・ 夢と現実の関連性 ・ 宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・ 死者の訴え ・ 前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・ 生者に託した復讐 ・ 死者による復讐 ・ 復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・ 助命嘆願 ・ 報恩と復讐 ・ 逆恨み

第 10 回 夢と恋愛文学

- ・ 夢での逢瀬
- ・ 恋愛成就の神
- ・ 夫婦の別離と再会

第 11 回 夢の世界の冒険

- ・ 怪異との接触
- ・ 儚い栄達
- ・ 動物への変身

第 12 回 他人と共有された夢

- ・ 「二人同夢」
- ・ 危機の通達
- ・ 夢での邂逅

第 13 回 日本における夢

- ・ 他人が見る夢
- ・ 日本文学における夢

第 14 回 まとめ

全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めよう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでももらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『白雪姫』を王女の視点から語るとどうなるのか？

この授業では、物語を書き直す意味について考えながら、小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな作品（あるいは好きではない作品）を選び、違う視点から物語を書き直すという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。

後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4/8 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第2回	4/15 小説とは何？	小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第3回	4/22 小説の読み方/書き方 (1)	テーマを決める。
第4回	5/6 小説の読み方/書き方 (2)	書き出しについて考える。
第5回	5/13 小説の読み方/書き方 (3)	時間と場所の設定について考える。
第6回	5/20 小説の読み方/書き方 (4)	語り手と視点について考える。
第7回	5/27 小説の読み方/書き方 (5)	読者について、そして結末の書き方について考える。
第8回	6/3 小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第9回	6/10 小説を書く (2)	小説を書きはじめる。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第10回	6/17 小説を書く (3)	小説を書き続ける。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第11回	ブラッシュアップ	最終原稿の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第12回	講評 1	作品をみんなで読み、講評する。
第13回	講評 2	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	7/15 まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークと合評への参加度 (40 %)、学期末までに完成させた小説 (60 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while focusing on the meaning of "rewriting." Students will choose a work of fiction they like(or one they do not like) and rewrite the story from a different perspective.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Analyze literary works.
- Understand the basics of writing a novel.
- Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Group work: 40%

Final project: 60%

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 自分の書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決める。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書く。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第 2 回	9/30 テーマの決め方	グループでブレインストーミングを行う。
第 3 回	10/7 ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第 4 回	10/14 小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第 5 回	10/21 小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第 6 回	10/28 時間と場所の移動	物語の設定について考える。
第 7 回	11/11 天気、名前、リスト	物語の詳細について考える。
第 8 回	11/18 小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 9 回	11/25 小説を書く (2)	小説を書きはじめる。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	12/2 小説を書く (3)	小説を書き続ける。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	12/9 ブラッシュアップ	最終原稿の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第 12 回	12/16 講評 (1)	作品をみんなで読み、講評する。
第 13 回	12/23 講評 (2)	作品をみんなで読み、講評する。
第 14 回	1/20 まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室—伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出 書房新社、2018 年）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークと合評への参加度（40 %）、学期末までに完成させた小説（60 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Group work: 40%

Final project: 60%

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

なお、授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏑馬～」
「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	グループ A の発表

第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収するリアクションペーパーによります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時にリアクションペーパーに記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式の授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式授業とします。

受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。受講を希望する人は、第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、それに従ってください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

日本芸能論B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

※定員制（40名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

なお、授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOIソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラームーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。

第9回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第10回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第11回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第12回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第13回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収するリアクションペーパーによります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時にリアクションペーパーに記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式の授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式授業とします。

受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。受講を希望する人は、第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、それに従ってください。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について

- 13 モダン・ダンス（2） ペジャール、パウシユ、フォーサ
イス等の実践について
- 14 講義のまとめ 春学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）

シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）

シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）

日本演劇学会『ベスト・プレイズ西洋古典戯曲』（相田書房）

岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）

鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）

長野由紀『バレエの見方』（新書館）

三浦雅士『バレエ入門』（新書館）

舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート 50 %: 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama and ballet, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre or ballet critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・ 大衆文化における各種の身体表現について分析し、記述できる。
- ・ 身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・ 大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン身体表現について
3	レビュー	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20 世紀日本のアンガラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
9	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
10	ミュージック・ビデオ	ミュージック・ビデオの形成過程と身体表現について
11	テーマ・パーク	ディズニー・ランドの空間構成と身体表現について
12	アニメーション	アニメーションの歴史と身体表現について

- 13 事例研究 (1) 『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』を素材に、男性が女性をプロデュースすることと身体表現の関係を考察する。
- 14 事例研究 (2) 『ミー・アンド・マイガール』を素材に、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から舞台鑑賞をするように努める。(映像を含む)
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アビニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チェーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will demonstrate the ability of analyzing various body expressions seen in the field of popular culture, connecting them with social aspects of body movements. Accordingly, they will provide a critical overview of the human body used in popular media.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many shows as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final Paper 50%.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業内容の違いですが、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

授業当日の出席及び実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

授業内容に関する質問については Google Form で、一般的な質問や相談については Google Classroom を通じてお願いします。

オンラインミーティング・講評会

みなさんからのリクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/11	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/18	古代美術 (原始美術/先史美術、 メソポタミア美術、エ ジプト美術、エーゲ美 術、ギリシャ美術、 ローマ美術)	文字の生まれる以前=先史時代の 美術や、西洋美術史の出発点とな るメソポタミアやエジプトなどの 最古の文明から生まれた美術など 古代美術について学びます。
4/25	中世美術 (初期キリスト美術、 ビザンティン美術、初 期中世美術、ロマネス ク美術、ゴシック美 術)	ルネサンス以前の、多くの民族や 地域とキリスト教美術が結びつい た中世美術について学びます。

5/9	近世美術 (ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術)	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、バロック美術で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
5/16	ワークショップ 1	単元の復習 (古代美術、中世美術、近世美術) ワークショップ「伝える方法・絵から文字へ」
5/23	近代美術 1 (新古典主義、ロマン主義、写実主義)	古典 (ルネサンス) への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義について学びます。
5/30	近代美術 2 (印象派、新印象派、ポスト印象派)	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。
6/6	ワークショップ 2	単元の復習 (近代美術 1、近代美術 2) ワークショップ「デッサンの手法」
6/13	近代美術 3 (野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー)	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
6/20	近代美術 4 (未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・ステイル、バウハウス、ロシア構成主義)	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動 (前衛芸術) である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。この時代には現代アート の基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
6/27	ワークショップ 3	近代美術 3 近代美術 4 単元の復習 ワークショップ「シュルレアリスムの実験」
7/4	現代美術 1 (レトリズム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオダダ、ポップアート)	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/11	現代美術 2 (ミニマルアート、コンセプチュアルアート、新表現主義、YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート)	1960 年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワーパワー・ジェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント (Young British Artist / リレーショナルアート) についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

7/18	ワークショップ 4	現代美術 1 現代美術 2 単元の復習 ワークショップ「テキストとアート」

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点 (授業への取り組み)、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content
Planning of art exhibitions・Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業内容の違いですが、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

授業当日の出席及び実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

授業内容に関する質問や相談については Google Form で、一般的な質問や相談については Google Classroom を通じてお願いします。オンラインミーティング・講評会

みなさんからのリクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/26	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
10/3	近現代美術 1 (印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリスム)	近代美術の萌芽とも言える時代の美術、印象派からシュルレアリスムまでを学びます。
10/10	近現代美術 2 (抽象表現主義からコンセプチュアル・アート・新表現主義)	第二次世界大戦から戦後、20 世紀の後半までの現代美術の様々な実験が行われた時代の美術を学びます。

10/17	近現代美術 3 (YBA・リレーショナル・アート・ソーシャル・エンゲージド・アート)	ミレニアム前夜にイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント (Young British Artist とリレーショナルアート) についての理解を深めます。次に、2010 年代からソーシャル・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという言葉が美術の世界で盛んに使われるようになりましたが、それらの動向について紹介します。
10/24	ワークショップ (1)	近現代美術 1-3 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
10/31	古代美術 (縄文・弥生・古墳時代、飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代)	先史時代の縄文・弥生・古墳時代、仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代 について学びます。
11/7	中世美術 (鎌倉・室町時代、桃山・江戸時代)	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代、支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代 について学びます。
11/14	ワークショップ (2)	古代美術、中世美術 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
11/21	近代美術のはじまり (明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画)	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
11/28	戦後美術 (アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房、もの派)	第二次世界大戦の終戦後の 1950 年代に実験工房、具体美術協会、続いてアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房が 1960 年代にはもの派など新しい芸術運動が始まります。
12/5	ワークショップ (3)	近代美術のはじまり、戦後美術 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
12/12	1960-1980 年代 (もの派以降、インスタレーション・パフォーマンス)	1960 年代から 1970 年代にの美術に大きな影響力を持ったもの派以後について学びます。1980 年代には若いアーティストがインスタレーション・パフォーマンスによる制作を試みました。
12/19	1990-2020 年代 (1990 年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010 年以降)	1990 年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
1/16	ワークショップ (4)	1960-1980 年代、1990-2020 年代 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点 (授業への取り組み)、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (50 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表现を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 アベル・ガンズ
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック ハウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	フランク・キャブラ 濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック ミケランジェロ・アントニオーニ
13	鏡を見る	オーソン・ウェルズ 吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

平常点は単に出席したことだけでなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を实践し、受講資格を得た学生が受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (50 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、都市や自然の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につけ、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拓げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、指定した映画断片についてのコメントを宿題として毎回課す。

初回に、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	キング・ヴィダー フリッツ・ラング
3	迷宮都市	オーソン・ウェルズ ジャック・タチ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	溝口健二 ジャン・ヴィゴ
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 宮崎駿
10	水の宇宙	ジャン＝リュック・ゴダール アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン グル・ダッド
12	動物	ロバート・フラハティ アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間 A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。

毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 プラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4 つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第 7 回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第 8 回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経第 9 回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉第 10 回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』
第 11 回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』「慈しみ」他
第 12 回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すバーラドヴァージャ」
他第 13 回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い第 14 回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料等の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことでしょう。先入見を持たずに、原典（和訳）資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解していただく。解説は丁寧にを行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 （本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第 6 回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第10回 大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽經』 『稻芊經』
第11回 大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種觀察法 『稻芊經』・『稻芊經註』
第12回 大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1
第13回 大乘仏教（7）	到達目標・理想的境地・中道 大乘仏教・後期中観思想の人生観 2
第14回 まとめ・授業内試験	仏陀・經典の權威について 筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013年

桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60％）と授業内容確認小テストの成績（30％）と平常点（10％）により評価します。

授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想を初めて学び、その思想（人生観等）に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になり、専門用語が若干多くなりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

また、第1回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第1回授業から参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. SarvAstivAdin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
3. DharmakIrti's and later MAdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

学生はインパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を受けることができます。また、高画質のDVD動画の投射により学習もできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行います。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題小レポートも予定し、パターン別に整理して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
第 3 回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
第 6 回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
第 7 回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
第 12 回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
第 13 回	III 行為の根源	自己創造的行為とは？
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from Japanese.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least four hours for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これから国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題小レポートも予定し、パターン別に整理して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12 回	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。

第 13 回 自己創造としての変身 ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。

第 14 回 まとめ 行為の理論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。山口誠一著『ニーチェとヘーゲル』、法政大学出版局、2010 年など。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。拙著『ニーチェとヘーゲル』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

セメスター末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from Japanese.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least four hours for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-finalexamination(70%), Mid-term reports (15%) and in-class contribution(15%).

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代思想——精神分析と現代哲学

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

現代思想という文脈の中で、活発に思想的活動を続けている人物のひとりに東欧のスロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジック（1949-）がいる。彼は、哲学や精神分析（特に、ジャック・ラカンの構造主義的精神分析）を盾に、映画や芸術から現代政治に至るまで、幅広く論じる稀有な論客である。その彼が、英語で初めて書いた著作が『イデオロギーの崇高な対象』（1986）である。同書はマルクスからフロイト、ヘーゲルなどの思想を縦横無尽に論じ、極めて刺激的な著作である。そこで 2022 年春学期は、同書を基本的なテキストにして、ジジックの思想に触れてみたい。

【到達目標】

① 哲学的なテキストを読むことができる。

③ レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) 基本的に「演習」形式で行う。

(2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

(3) 授業の進め方

① 特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

② それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

・ 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ 授業の進め方についての説明 ・ 発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 部 症候①	1. いかにしてマルクスは症候を 発明したか① ・ マルクスとフロイト
第 3 回	第 1 部 症候②	1. いかにしてマルクスは症候を 発明したか② ・ イデオロギー
第 4 回	第 1 部 症候③	2. 症候からサントムへ① ・ 症候の弁証法
第 5 回	第 1 部 症候④	2. 症候からサントムへ② ・ 現実的なものとしての症候
第 6 回	第 2 部 他者の欠如 ①	3. 汝何を欲するか ・ 同一性
第 7 回	第 2 部 他者の欠如 ②	3. 汝何を欲するか ・ 同一化、同一化を超えて

第 8 回 第 2 部 他者の欠如 4. 汝は二度死ぬ

③

第 9 回 第 3 部 主体①

第 10 回 第 3 部 主体②

第 11 回 第 3 部 主体③

第 12 回 第 3 部 主体③

第 13 回 第 3 部 主体④

第 14 回 第 4 部 主体⑤

5. 〈現実界〉のどの主体か？
・ 「〈メタ言語〉は存在しない」男
根のシニフィアン

5. 〈現実界〉のどの主体か？ ②
・ 対象としての「ワルシャワの
レーニン」〈現実界〉としての拮抗
自由の強制された選択、反対物の
一致

・ 〈現実界〉からの応答として主体
6. 「実体としてだけでなく主体と
しても」

7. 「実体としてだけでなく主体と
しても」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員
に提出すること。

・ 特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を 3 つ以上考え、
簡単な質問表を作ってくる（発表当日でよい）

・ それ以外の参加者は、該当箇所について質問を 1 つは考え、当日の
議論に参加する準備をすること。

・ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スラヴォイ・ジジック『イデオロギーの崇高な対象』、河出文庫、
2015 年

【参考書】

◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 個別報告発表（30 %）（回数および内容による評価）

・ 特定質問担当（30 %）（質問内容による評価）

・ 討論参加（40 %）（内容による評価）

※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

※ 要注意

・ リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準
も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見
受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解
く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきであ
る。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影するこ
とであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテ
キストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテ
キストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなけ
れば、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキ
ストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下
調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質
問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているのであり、テキ
ストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に
参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているた
めに、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基
づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとっ
て必須のものと心得てもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

One of the most active thinkers in the context of contemporary thought is Slavoj Žižek (1949-). He studies philosophy and psychoanalysis (especially the structuralist psychoanalysis of Jacques Lacan) to discuss a wide range of topics, from film and art to contemporary politics.

The first book he wrote in English was "The Sublime Object of Ideology" (1986). This book is an extremely stimulating work that discusses the ideas of Marx, Freud, Hegel, and others in an inexhaustible manner. Therefore, in the spring semester of 2022, I would like to use this book as a basic text to touch upon Žižek's thought.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to read a philosophical text and discuss the philosophical topics.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代思想——精神分析と現代哲学

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（15 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

教養ゼミⅡは、春学期教養ゼミⅠに引き続き、ジジェクの重要文献を読んでいく。

現代思想という文脈の中で、活発に思想的活動が続いている人物のひとりに東欧のスロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジェク（1949-）がいる。彼は、哲学や精神分析（特に、ジャック・ラカンの構造主義的精神分析）を盾に、映画や芸術から現代政治に至るまで、幅広く論じる稀有な論客である。

本授業では、『否定的なもののもとへの滞留』（1993）を読む。同書はカント、ヘーゲルからイデオロギー批判を含み、さらにジジェクが得意とする映画などへの言及が増えていき、ますます読解することが難しいが、相変わらず、極めて刺激的な著作である。そこで2022 年秋学期は、同書を基本的なテキストにして、ジジェクの思想やラカンの精神分析も触れてみたい。

【到達目標】

①哲学的なテキストを読むことができる。

③レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（1）基本的に「演習」形式で行う。

（2）毎回、担当を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

（3）授業の進め方

①特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

②それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

（4）フィードバックの方法

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 部 コギト①	第一章「考える私あるいは彼あるいはそれ（〈モノ〉）① ・カントからヘーゲル
第 3 回	第 1 部 コギト②	第一章「考える私あるいは彼あるいはそれ（〈モノ〉）② ・消滅する媒介者
第 4 回	第 1 部 コギト③	第二章 コギトと性的差異① ・普遍の中のカント的ひび割れ
第 5 回	第 1 部 コギト④	第二章 コギトと性的差異② ・性化の定式

第 6 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理①	第三章 根源的〈悪〉と関連する 事柄 ・カントとベンサム
第 7 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理②	第三章 根源的〈悪〉と関連する 事柄 ・無限判断
第 8 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理③	第四章 イデオロギーの理論とし てのヘーゲルの「本質の論理」① ・不充足根拠率
第 9 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理④	第四章 イデオロギーの理論とし てのヘーゲルの「本質の論理」② ・即自から対自へ
第 10 回	第 3 部 われあり①	第五章 「おまえを傷つけたその 槍だけが、その傷を癒すことがで きる」① ・現実的なものの応答
第 11 回	第 3 部 われあり②	第五章 「おまえを傷つけたその 槍だけが、その傷を癒すことがで きる」② ・ワグナー的行為遂行性
第 12 回	第 3 部 われあり③	第六章 汝のネーションを汝自身 として享樂せよ ・享樂の盗み
第 13 回	第 3 部 われあり④	第六章 汝のネーションを汝自身 として享樂せよ ・スピノザ主義、あるいは、後期 資本主義のイデオロギー
第 14 回	ジジェクの思想とはな らなかったのか？	ジジェク思想の発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
- ・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること（発表当日でよい）
- ・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スラヴォイ・ジジェク『否定的なもののもとへの滞留』、ちくま学芸文庫、2006 年

【参考書】

- ◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・個別報告発表（30 %）（回数および内容による評価）
- ・特定質問担当（30 %）（質問内容による評価）
- ・討論参加（40 %）（内容による評価）
- ※ 以上に基づいて、総合的に評価する。
- ※ なお、無断欠席は認めない。
- ※ 要注意
- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

One of the most active thinkers in the context of contemporary thought is Slavoj Žižek (1949-). He studies philosophy and psychoanalysis (especially the structuralist psychoanalysis of Jacques Lacan) to discuss a wide range of topics, from film and art to contemporary politics.

In this class, we will read "Tarrying with the Negative: Kant, Hegel, and the Critique of Ideology" (1993). The book contains the critique of Kant and Hegel to the critique of ideology and is increasingly difficult to read and understand. However, the book is still an extremely stimulating work. In the fall semester of 2022, I would like to use this book as a basic text and touch on Žižek's thought and Lacan's psychoanalysis.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to read a philosophical text and discuss the philosophical topics.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%.

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z 会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【その他の重要事項】

万一オンライン実施に変更となった場合、YouTube 等による録画配信や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的に長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けていただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z 会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【その他の重要事項】

万が一オンライン実施に変更となった場合、YouTube 等による録画配信や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985 年）
林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
迫塩千尋『国分寺の中世展開』（吉川弘文館、1996 年）
勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of social services by Buddhism in ancient Japan and the Tang Dynasty.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How Buddhism of the Japanese ancient was related to social welfare, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる日本で最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略が変化する一方で、日本政府の意図の元で米軍基地が維持され、沖縄は負担を強いられ続けています。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずで

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ禍でも可能な限り、教室を使用したリアルな授業の開催を目指します。授業では「Zoom」を併用し、市ヶ谷キャンパス以外の学生の履修や、欠席者の受講にも配慮します。毎回の授業後に、簡単な感想や質問などをまとめたリアクションペーパーの提出を求め、その後の授業に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	NHKの番組を参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A Book」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>
 ・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50%）
 期末レポート（50%）
 指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点で沖縄の現状への理解から見える日本の政治や外交のあり方も提示したいと考えています。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、メディア業界に就職を希望する学生への支援活動にも取り組んできました。最近では、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）の実行委員や、出版社の「週刊金曜日」と連携してメディア業界に進む学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史 B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia is changing, the US military base is being maintained under the intention of the Japanese government, and Okinawa continues to be burdened. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

【Learning Objectives】

Students will:

- ・ Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.
- ・ Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.
- ・ Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.
- ・ Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017 年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア太平洋には多くの島嶼・島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」からの沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第 2 回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第 3 回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第 4 回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第 5 回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第 6 回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。

第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題について議論します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・環太平洋の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・環太平洋の安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：環太平洋の自然と環境	環太平洋の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目―沖縄、占領の今―』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比取『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす―記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門によって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、Eメール：mizakiko@tsuda.ac.jp 宛にご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 50%, Short presentation for the research report: 20%, comments to fill in every class: 30%

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 A

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制（20名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第1章：在日朝鮮人世界の形成。1～3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第1章：在日朝鮮人社会の形成。4～6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第2章：協和会体制と戦争動員。1～3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第2章：協和会体制と戦争動員4～5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像
7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学
8	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成1（戦後在日朝鮮人の出発）	学生によるテキストの報告、映像

9	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成2, 3 (占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人)	学生によるテキストの報告、映像
10	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成4 (帰国運動)	学生によるテキストの報告、映像
11	第4章：2世たちの模索1 (日韓会談と在日社会)	学生によるテキストの報告、映像
12	第4章：2世たちの模索2～4 (在日社会の変容)	学生によるテキストの報告、映像
13	終章：グローバル化の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』（岩波新書）860 円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かしてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 B

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゼミ形式で進めます。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉	学生によるテキストの報告、映像文化
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像
8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像

12	在日コリアンとスポー	学生によるテキストの報告、映像 ツ選手
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の 課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（100 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4/13 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	第一派フェミニズムからポストフェミニズムへと	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第3回	日本における#MeToo運動	日本と韓国を比較しながら#MeToo運動について考える。
第4回	5/11 クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの誕生や基本概念について講義する。
第5回	5/18 ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第6回	5/25 インターセクショナリティ	インターセクショナリティについて考える。
第7回	6/1 カミングアウト	具体的な例を挙げながらカミングアウトについて考える。
第8回	6/8 ストーンウォールの暴動から考える	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第9回	6/15 クィアな空間	クィア映画祭やアートについて考える。
第10回	6/22 クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。

第 11 回	6/29 児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 12 回	7/6 『Queer Japan』	映画『Queer Japan』について考える。
第 13 回	7/13 メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象	文学や映画におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 14 回	7/20 まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

森山至貴『LGBT を読みとく〜クィア・スタディーズ入門〜』（ちくま新書、2017 年）

トッド・マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』（原書房、2022 年）

岩淵功一（編）『多様性と対話ーダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70 %、コメントペーパー 30 %で総合的に評価します。

学期末レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Have basic knowledge about queer studies.
- Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 30%

Final essay: 70%

GDR300LA

クィア・スタディーズ B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（100 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について復習する。
第 2 回	9/30 フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第 3 回	10/7 文学と性暴力	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第 4 回	10/14 文学とミソジニー	松田青子の作品を取り上げる。
第 5 回	10/21 表象分析実践	松田青子『女が死ぬ』を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート 1 を提出する。
第 6 回	10/28 文学と身体	文学作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 7 回	11/11 アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 8 回	11/18 男性性	ヘゲモニックな男性性について考える。
第 9 回	11/25 ゲイ解放運動	映画における LGBT 運動の表象について考える。
第 10 回	12/2 ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』を取り上げる。
第 11 回	12/9 表象分析実践	よしながふみ『きのう何食べた？』を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート (2) を提出する。

- 第12回 12/16 ヘテロノーマ 『彼らが本気で編むときは、』を取り
ティヴィティと家族 上げる。
- 第13回 12/23 カミングアウト 『カランコエの花』を観て、グルー
とアウトティング プでディスカッションを行う。
- 第14回 1/20 まとめ まとめを行う。小レポート(3)を
提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』（晃洋書房、2016年）
菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021.

【成績評価の方法と基準】

グループワークとディスカッション 10%

小レポート(1):松田青子「女が死ぬ」についての小レポート
(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(2):『きのう何食べた?』（ドラマ版）の8話について、
小レポート(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(3) 授業に取り上げられた具体的な作品を分析した小レ
ポート(2,000文字程度) 40%

小レポートについて授業内で詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, and comics, while reviewing what we learned in Queer Studies A, held during the spring semester.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
- Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、キリスト教という宗教およびその思想の成立を、歴史的背景から概観します。とりわけ、ユダヤ教からキリスト教が生成してくるそのプロセス、聖書において叙述されるキリスト教の主要な特徴、中世におけるキリスト教思想の展開について、検討します。その際キリスト教は、信仰されるべき真理というよりも、学問的な知の対象として考察されることになります。授業を通して、キリスト教思想の成立について基本的な学問的知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

- キリスト教思想の成立を、歴史的背景から理解できる。
- キリスト教思想の成立を、学問的な知の対象として考察できる。
- キリスト教思想について理解したこと・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	キリスト教思想史を学ぶとは	キリスト教思想史を学問的な知の対象として扱うとはどういうことかの考察
第3回	ユダヤ教の成立と特色	ユダヤ教の成立史の概観 一神教としての独自性
第4回	ユダヤ教の展開	ユダヤ教の展開の概観 ユダヤ教の律法主義
第5回	イエスの生涯	イエスの生涯と活動 その誕生と死、復活
第6回	イエスの思想	弟子たちへのイエスの教え 処刑と復活についての考察
第7回	使徒と原始キリスト教	イエスの死と使徒たち パウロによる教義の定式化
第8回	聖書の成立	文書としての「聖書」の成立史 聖書の構成とその意義
第9回	古代から中世へ（1）	教父たちによる教義の形成 三位一体論をめぐる論争

第10回	古代から中世へ（2）	アウグスティヌスの思想 カトリック思想体系の成立
第11回	中世キリスト教（1）	教皇とカトリックの位階制度 正統と異端
第12回	中世キリスト教（2）	修道院の展開 ドミニコ会とスコラ学
第13回	東方のキリスト教	正教の成立と特色 イコンをめぐる問題
第14回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望めます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望めます。

【テキスト（教科書）】

谷口静浩『諸宗教の歩み 事実と本質のあいだで』晃洋書房。

【参考書】

・『岩波キリスト教辞典』岩波書店
・小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社〔講談社学術文庫〕
・木村凌二『多神教と一神教』岩波書店〔岩波新書〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the history of Christian thought from the Judaism to the Middle Ages.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the history of Christian thought, (B) examine it academically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、キリスト教という宗教およびその思想の展開を、歴史的背景から概観します。とりわけ、中世から近代にかけて生じた宗教改革、近代の敬虔主義やキリスト教をめぐる神学・哲学の展開、近代から現代にかけての「世俗化」プロセスとキリスト教の関係について、検討します。その際キリスト教は、信仰されるべき真理というよりも、学問的な知の対象として考察されることになります。授業を通して、キリスト教思想の展開について基本的な学問的知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

- (A) キリスト教思想の展開を、歴史的背景から理解できる。
- (B) キリスト教思想の展開を、学問的な知の対象として考察できる。
- (C) キリスト教思想について理解したこと・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	宗教改革の背景	教皇権威の弱体化 聖書翻訳と人文主義
第3回	宗教改革の展開	ルターからカルヴァンへ プロテスタンティズムの成立
第4回	啓蒙思想とキリスト教(1)	キリスト教の相対化 自然宗教と啓示宗教
第5回	啓蒙思想とキリスト教(2)	神の存在証明 理性的なキリスト教理解
第6回	キリスト教の敬虔主義(1)	内面的体験の重視 シュペーナーの敬虔主義
第7回	キリスト教の敬虔主義(2)	シュライエルマッハーの思想 直観と感情としての宗教
第8回	キリスト教の脱神話化(1)	ヘーゲルとキリスト教の歴史化 自由主義神学の展開
第9回	キリスト教の脱神話化(2)	フォイエルバッハの思想 キリスト教の人間学化

第10回	キリスト教という「不条理」	キルケゴールのキリスト教論
第11回	キリスト教と「神の死」	20世紀の弁証法神学 ニーチェのキリスト教論
第12回	「世俗化」とキリスト教	系譜学と「神の死」の洞察 ヴェーバーの宗教論
第13回	現代におけるキリスト教	「脱魔術化」されるキリスト教 ポスト世俗化と多元主義
第14回	まとめ、課題もしくは試験	(諸)宗教の対話の可能性 秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

谷口静浩『諸宗教の歩み 事実と本質のあいだで』晃洋書房。

【参考書】

・『岩波キリスト教辞典』岩波書店
・小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社〔講談社学術文庫〕
・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（大塚久雄訳）岩波書店〔岩波文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the history of Christian thought from the Middle Ages to the Modern World.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the history of Christian thought, (B) examine it academically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIN300LA

異文化コミュニケーション論A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
- ・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第2回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第4回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第5回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第6回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第7回	日本語と外国語①	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語（ネオロジー）

第 8 回	日本語と外国語②	・ 人称 ・ 指示詞 ・ 感情の表現
第 9 回	言語政策	・ 母語に対する認識 ・ 各国の言語政策 ・ 外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ ラジオ型言語とテレビ型言語 ・ 文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・ 音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・ 無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・ 自然との闘い／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・ マイノリティ問題 ・ グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・ 第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでもおくこと。
・ 「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・ 本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
発表	30%
期末試験	40%

・ 4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

・ グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・ インターネット接続可能な機器：P C、タブレット端末、スマートフォン。

・ ZOOM M 授業内の発表には P C が好ましい。

★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：y7u3zjb

★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 11 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。

★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻繁にチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互によりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について (学生発表と質疑応答。以下13回まで)
第4回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト
第5回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテーク ・パラ言語

第6回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第7回	言語コミュニケーション②	・誘い方と断り方
第8回	言語コミュニケーション③	・自己紹介と自己開示
第9回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第10回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第11回	非言語コミュニケーション③	・空間と対人距離
第12回	非言語コミュニケーション④	・時間感覚
第13回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことばー文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参 15 %
リアクションペーパー 15 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
- ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・最新情報を Hoppii で確認すること。 また、法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：女性の視点からみる近現代日本文学

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった「家族」にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

グループに分かれて指定作品を分析し発表することで、自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を追求します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。本学期の後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	清水紫琴の試み「こわれ指環」を中心に	女性の言文一致 グループワークと討議
対面授業	樋口一葉①「十三夜」	「空白」を読む／グループワークと討議
対面授業	樋口一葉②「わかれ道」	女性の「出世」とは／グループワークと討議
対面授業	田澤稲舟「しろばら」	明治期の性被害／グループワークと討議

対面授業	平塚らいてうを中心に	大正期における女性の課題／グループワークと討議
対面授業	田村俊子①「炮烙の刑」	新しい自我の覚醒／グループワークと討議
対面授業	田村俊子②「枸杞の実の誘惑」	少女の性を考える／グループワークと討議
対面授業	素木しず「三十三の死」	女性の「障がい」／グループワークと討議
対面授業	尾崎みどり「歩行」	「女性文学」のモダニズム／グループワークと討議
対面授業	まよめのグループ発表のための準備①グループディスカッション	作品を選んでグループワーク
対面授業	まよめのグループ発表のための準備②レジメ作成	レジメの作成
対面授業	まよめのグループ発表①	まよめの発表と討議
対面授業	まよめのグループ発表② 授業のまとめ	まよめの発表と討議／期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

樋口一葉の対象作品は全集等で読めるので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、その他の入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、菁柿堂）、『新編』日本女性文学全集 全 12 巻（矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が 50 %、期末レポートが 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて、必要に応じて資料を配布します。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：女性の視点からみた近現代日本文学

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった「家族」にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

グループに分かれて指定作品を分析し発表することで、自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を追求します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめたレジメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学期の振り返り
対面授業	佐多稲子『くれない』	戦争の時代における女性の「二重労働」／報告者による報告と討議
対面授業	津島佑子『龍児』	想像妊娠という装置／報告者による報告と討議
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	新たな家族像／報告者による報告と討議
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性概念の解体／報告者による報告と討議

対面授業	桐野夏生『錆びる心』	<主婦>の居場所／報告者による報告と討議
対面授業	角田光代『対岸の彼女』	女性と分断／報告者による報告と討議
対面授業	津村記久子『ポストライムの舟』	ロスジェネの文学／報告者による報告と討議
対面授業	林真理子『下流の宴』	格差社会と文学／報告者による報告と討議
対面授業	小山田浩子『穴』	行為主体を問う／報告者による報告と討議
対面授業	今村夏子『こちらあみ子』	女性と狂気／報告者による報告と討議
対面授業	村田沙耶香『コンビニ人間』	新しいヒト／報告者による報告と討議
対面授業	宇佐見りん『推し、燃ゆ』	現代の病／報告者による報告と討議
対面授業	授業のまとめ	春秋学期を通じた振り返り／期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

どれも入手しやすい作品なので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、菁柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全 12 巻（矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が 50 %、期末レポートが 50 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて、必要に応じて資料を配布します。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21 世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考えることなしに理解することはできない。イギリス帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考えること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 1：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 3 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 2：南アフリカ戦争の時代まで	18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 4 回	イギリス帝国と統治 1：統治体制	イギリスがどのように帝国を統治していたのかを学ぶ。
第 5 回	イギリス帝国と統治 2：帝国を統治した人々	帝国を統治した人々とそこで使用された技法を学ぶ。
第 6 回	イギリス帝国と経済 1：商業と金融	帝国の経済基盤を商業と金融の観点から学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と経済 2：移民と労働	帝国を支えた移民とその労働形態を学ぶ。
第 8 回	イギリス帝国と文化 1：支配の文化、文化の支配	イギリス人の支配者意識と文化を通じた支配について学ぶ。
第 9 回	イギリス帝国と文化 2：批判の文化	帝国支配を批判する文化とその同時代における意義を学ぶ。
第 10 回	帝国からコモンウェルスへ 1：コモンウェルスの成立と二つの大戦	コモンウェルスが成立する過程を学ぶ。

第 11 回	帝国からコモンウェルスへ 2 : 帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化	脱植民地化を通じた帝国＝コモンウェルスの変容を学ぶ。
第 12 回	脱植民地化の時代 1 : 脱植民地化の諸相	脱植民地化の多様な形態とその影響を学ぶ。
第 13 回	脱植民地化の時代 2 : 植民地責任	現在のイギリスと旧植民地が帝国支配の過去をどうとらえているのかを学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004 ～ 2009 年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
- ・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British Empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アフリカ戦争（1899 ～ 1902）は、帝国主義戦争の典型ともいわれ、イギリス本国、南アフリカ、イギリス帝国全体に大きな影響を及ぼした。この授業では、南アフリカ戦争に焦点をあて、それをさまざまな角度から分析することを通じて、その歴史的意義を考察したい。そうすることで、イギリスとその帝国の歴史の一断面を、重層的な文脈に位置づけて理解することを目指す。

【到達目標】

- ・南アフリカ戦争という歴史的事象を、さまざまな歴史の文脈に照らして考察する歴史的思考力を身につける。
- ・具体的なテーマを素材に歴史学を「実践」することで、その方法や問題、意義などを体験的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。なお、春学期に開講する「イギリスと帝国 A」を事前に履修することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	南アフリカ戦争の概要	戦争の背景と展開を概観する。
第 3 回	南アフリカ戦争の起源	開戦の原因とそれをめぐる論争について考える。
第 4 回	南アフリカ戦争の経験 1 : 兵士と帝国臣民	兵士と帝国の人々が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 5 回	南アフリカ戦争の経験 2 : 女性たち	女性たちが戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 6 回	南アフリカ戦争の経験 3 : アフリカ人	アフリカ人が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 7 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 1 : 帝国意識	イギリス本国の戦争支持の世論を帝国意識の観点から考える。
第 8 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 2 : 親ボア派	イギリス本国の戦争批判の世論を親ボア派に着目して考える。
第 9 回	南アフリカ戦争の影響 1 : イギリス	戦争がイギリス本国に与えた影響を学ぶ。
第 10 回	南アフリカ戦争の影響 2 : 南アフリカ	戦争が南アフリカに与えた影響を学ぶ。
第 11 回	南アフリカ戦争の影響 3 : 帝国	戦争がイギリス帝国と他の植民地に与えた影響を学ぶ。

- 第12回 世界史のなかの南アフリカ戦争 戦争を同時代の世界史の文脈に位置づけて考える。
- 第13回 南アフリカ戦争の歴史 南アフリカ戦争の意義をさまざまな歴史的な文脈に即して考える。
- 第14回 まとめ 授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年（とくに第1巻と第2巻）
 前川一郎『イギリス帝国と南アフリカ—南アフリカ連邦の形成』ミネルヴァ書房、2006年
 歴史学研究会編『強者の論理—帝国主義の時代』（講座世界史5）東京大学出版会、1995年
 木畑洋一『支配の代償—英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course examines the South African War (1899-1902) from multiple perspectives. In doing so, it considers significance and impact of this great colonial war the British empire had even fought. It also aims to provide students with opportunities to experience practice of historical research first hand, through which they can learn methodology, problems, and importance of 'doing history'

< Learning objectives >

- 1) Students are able to understand the significance and impact of the South African War in multiple historical contexts.
- 2) Students are able to acquire basic skills of historical analysis through practice of 'doing history'.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

※定員制（15名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィリアム・マクニール著『疫病と世界史』を読んで、疫病と国家と宗教の関係を歴史的に考察することを目指す。
 現代世界のパンデミックを過去のパンデミックと比較して考察することを目指す。

【到達目標】

文明世界の誕生から現在に至る、疫病と国家（政治）と宗教の間の相互関係の歴史を学ぶことによって、感染症が人類の歴史に与えた影響と今後の展望について考えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
#2	文献講読と議論：3つの疫病	ミシェル・フーコーの3つの疫病モデルについて扱う
#3	文献講読と議論：人類の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第1章
#4	文献講読と議論：都市の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の前半
#5	文献講読と議論：都市文明と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の後半
#6	文献講読と議論：4つの文明世界と疫病	『疫病と世界史（上）』第3章の前半
#7	文献講読と議論：疫病と宗教	『疫病と世界史（上）』第3章後半
#8	文献講読と議論：文明間の交流と疫病	『疫病と世界史（下）』第4章の前半
#9	文献講読と議論：モンゴル帝国の平和と黒死病	『疫病と世界史（下）』第4章の後半
#10	文献講読と議論：黒死病後の世界	『疫病と世界史（下）』第5章の前半
#11	文献講読と議論：新大陸における疫病	『疫病と世界史（下）』第5章の後半
#12	文献講読と議論：科学の発展と疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の前半
#13	文献講読と議論：現代の疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の後半
#14	総括	ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを4時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

ウィリアム・H・マクニール『疫病の世界史（上）（下）』（中公文庫、）

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度 100 %

Final grade will be calculated according to the quality of the students' performance in a class. 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。
シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline (in English)】

< Outline >

Theme: Relations between Plague, State and Religion

The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between plague, state and religion.

< Goal >

The goal of this course is to consider the impact of infectious diseases on human history and future prospects of them by studying relationships between pandemics, states and religion since the birth of a civilized world.

< Work to be done outside of class >

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and prepare the paper. Your required study time is four hours for each class meeting.

ECN300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：スミス・マルクス・ケインズから現代経済を考える A

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領（当時）が2018年9月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。バイデン大統領は民主主義国家対専制国家と位置付けている。

いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいつさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、アダム・スミス、カール・マルクス、J・M・ケインズの経済についての考え方を学ぶことで、現在の経済現象（グローバリゼーションやゼロ金利）の理解を深めることができる。

スミスの「共感」、「分業」、「交換」、「労働価値説」についての考え方、マルクスの「利子搾取論」世界市場についての考え方、ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」、「財産としての貨幣愛」についての考え方などを学び、現在のグローバリゼーションの課題を考え、どういう社会にすることが望ましいのか、学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。春学期の最終回に各個人（ないし各グループ）は1回ないし2回のプレゼンをする。

授業は原則対面で実施（大学の方針に従う）。リアクションペーパー提出の機会を設け、翌週に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第2回	基礎的概念の説明Ⅰ	経常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第3回	基礎概念の説明Ⅱ	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第4回	基礎概念の説明Ⅲ	「例外」（ゼロ金利）と「常態」（経済成長）—「例外がいつさいを証明する」（『政治神学』シュミット）
第5回	アダム・スミスの「共感」	『道徳感情論』における「共感」と児童労働が増加している現状

第 6 回	アダム・スミース「分業」と「交換」	『国富論』における富の創造—労働生産性の向上
第 7 回	アダム・スミース「労働価値説」	「労働価値説」（客観的価値説）と「効用価値説」（主観的価値説）
第 8 回	マルクス「利子搾取説」	利子搾取説 VS. 利子時差説（バヴェルク）
第 9 回	マルクス『経済学批判』	資本主義のどこが問題なのか—労働の疎外
第 10 回	マルクス—世界市場の見方	グローバルゼーションに対するマルクスの考え方
第 11 回	ケインズ—古典派（新古典派も含む）批判（『一般理論』）	有効需要理論、市場の限界
第 12 回	ケインズ「わが孫たちの経済的可能性」	ケインズは 2030 年をどうみていたのか—労働よりも自由時間を重視（週 15 時間労働）、明日のことなど心配しない社会、
第 13 回	ケインズ「若き日の信条」	ムーアの宗教の受容と道徳の拒否
第 14 回	まとめ	プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使ったレジメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

『スミス・マルクス・ケインズ よみがえる危機の処方箋』ウルリケ・ヘルマン、鈴木直訳、みすず書房、2020 年

<https://www.msz.co.jp/book/detail/08867/>

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『政治神学』（C・シュミット、原著 1934、未来社、田中浩・原田武雄訳、1971）

<http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式のため、授業の冒頭で毎回学生の意見・質問を聞いて、進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

【到達目標（Learning Objectives）】 The goals of this course are to A, B, and C.

A. Learn Adam Smith's and Marx's Keynes's way of thinking

B. The Ideology of Globalization

C. What does zero interest rate mean?

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】 Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50%, presentation : 50 %

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スミス・マルクス・ケインズから現代経済を考える B

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本ではゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領（当時）が 2018 年 9 月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。バイデン大統領は民主主義国家対専制国家と位置付けている。

いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、アダム・スミス、カール・マルクス、J・M・ケインズの経済についての考え方を学ぶことで、現在の経済現象（グローバリゼーションやゼロ金利）の理解を深めることができる。

スミスの「共感」、「分業」、「交換」、「労働価値説」についての考え方、マルクスの「利子搾取論」世界市場についての考え方、ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」、「財産としての貨幣愛」についての考え方などを学び、現在のグローバリゼーションの課題を考え、どのような社会にすることが望ましいのか、学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。秋学期の最後に各個人（ないし各グループ）は 1 回ないし 2 回のプレゼンをする。

授業は原則対面で実施（大学の方針に従う）。リアクションペーパー提出の機会を設け、翌週に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	私的所有権について（企業）	内部留保金 484 兆円はいかにして増えてきたのか
第 2 回	私的所有権について（企業家計）	個人金融資産 2000 兆円はいかにしてふてきたのか、王朝仮説 VS. ライフサイクル仮説
第 3 回	ジョン・ロックの所有権について	正義と慈愛について
第 4 回	国家と海賊の違いについて	国家は暴力装置、資本の暴力性
第 5 回	資本について①	資本の二つの機能－唯物論者の資本と資金主義者の資本
第 6 回	資本について②	マルクスの G-W-G'
第 7 回	利子について	利子の源泉について－13 世紀、オリヴィーの「資本論」

第 8 回	利子の歴史	13 世紀に利子が要因された背景、金利が最も低い国は何を意味しているのか
第 9 回	ゼロ金利は何を意味しているのか	人類史上初の日本とドイツのゼロ金利について
第 10 回	グローバリゼーションについて	グローバリゼーションの起源－印刷資本主義、テンブル教団
第 11 回	21 世紀のグローバリゼーション	実物投資空間と電子・金融空間
第 12 回	グローバリゼーションの功罪	GAFA と Oxfam レポート
第 13 回	春学期と秋学期通じて	グループ討議とプレゼンの準備のまとめ①
第 14 回	春学期と秋学期通じて	グループごとのプレゼンのまとめ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジュメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年
<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>
『スミス・マルクス・ケインズ よみがえる危機の処方箋』ウルリケ・ヘルマン、鈴木直訳、みすず書房、2020 年
<https://www.ms2.co.jp/book/detail/08867/>
『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年）
<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>
『政治神学』（C・シュミット、原著 1934、未来社、田中浩・原田武雄訳、1971）
<http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135>
『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式のため、授業の冒頭で毎回学生の意見・質問を聞いて、進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

【到達目標（Learning Objectives）】 The goals of this course are to A, B, and C.

A. Learn adam smith's and Marx's Keynes's way of thinking
 B. The Ideology of Globalization
 C. What does zero interest rate mean?

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】 Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50%, presentation : 50 %

SOC300LA

福祉社会論 A

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、社会福祉の基本的な考え方（必要原則と貢献原則、主観的な必要と客観的な必要、社会資源の供給と再配分など）を提供し、福祉に関連する概念として、専門主義や官僚制および福祉国家論などを取り上げる。後半は、障害に焦点を当て、福祉ロボット、当事者運動、障害学生の学びについて考える。

【到達目標】

この授業で、学生には下記のことと期待される。

- A. 社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想する。
- B. 社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再配分	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	福祉と科学技術	介護ロボット、身体能力の補完、エンハンスメント
11	障害の概念と社会制度	障害に関わる制度と多様な見方
12	障害者運動と生命倫理	優生思想、自立生活運動
13	障害者と学び	障害学生を取り巻く状況と当事者の語り
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）、DIPEX-Japan「障害学生の語り」<https://www.dipex-j.org/shougai/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたりリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course will provide basic concepts of social welfare (e.g., principles of necessity and contribution, subjective and objective needs, supply and redistribution of social resources) and will cover concepts related to welfare such as professionalism, bureaucracy, and welfare state theory. The second half of the course will focus on disabilities, and will consider welfare robots, movements of people with disabilities, and the learning of students with disabilities.

【Learning Objectives】

In this class, students are expected to do the following

- A. Understand the concept of social welfare and conceptualize what a welfare-oriented society is.
- B. Consider what welfare by society means, paying attention to sources of welfare other than the government, specifically families and businesses, and develop the ability to view social welfare from a meta-perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は子ども家庭福祉の歴史と法制度を紹介し、母子保健、少子化、保育、教育などの子育てのインフラを説明する。その上で、障碍、子ども虐待、里子および養子、貧困などの社会問題について検討する。

【到達目標】

この科目の目標は下記の通りである。

- A. 子ども家庭福祉の成り立ちと実践の概要を説明できる。
- B. 子どもを取り巻く主な社会問題を把握し解決に向けた考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の回の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	子どもの福祉を考えるということ
2	子どもの福祉の歴史	前近代から現代、日本の子どもの福祉
3	子どもの権利・福祉・法制度	子どもの権利条約、児童福祉法
4	生命倫理と母子保健	母子保健の概要、優生保護法
5	少子化対策と子育て支援	子ども数の減少、子育て家庭への経済的支援、ネウボラ
6	現代における保育とは	保育・子育て支援ニーズ、社会福祉における保育
7	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業、外国籍の子どもと家族への対応
8	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族、ヤングケアラー
9	子ども虐待	子ども虐待に対応する制度、虐待予防
10	女性と福祉	ドメスティックバイオレンス、女性の貧困
11	社会的養護	社会的養護のかかわる施設、施設養護から家庭養護へ
12	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、子どもの貧困対策法
13	ひとり親家族の福祉	ひとり親家庭とその現状、子どもにとっての養育費施策
14	子ども家庭福祉の実践	子ども家庭福祉の専門職、ボランティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども家庭福祉—子ども・家族・社会をどうとらえるか』垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020 年）2,200 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判断基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will introduce the history and legal system of child and family welfare, and explain the infrastructure of child rearing, including maternal and child health, declining birthrates, childcare, and education. Then, social issues such as disabilities, child abuse, foster and adopted children, and poverty will be discussed.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows

A. To be able to give an overview of the origins and practice of child and family welfare.

B. To be able to understand the major social problems surrounding children and to consider solutions.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』第 4 巻～第 8 巻のなかから、受講生が学習したい区を選び、その歴史地理を学びます。各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 4 巻～8 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。

大学の方針に従って、対面授業（オンライン授業は最大 7 回まで）とします。資料の配布やパワーポイントは、学習支援システムおよび Google クラウドスライドを利用し、紙での配布はしません。授業の進め方は、ガイダンスで説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	地帯編を読む⑨	品川区・大田区
第 12 回	地帯編を読む⑩	目黒区・世田谷区
第 13 回	地帯編を読む⑪	渋谷区・杉並区・中野区
第 14 回	地帯編を読む⑫	荒川区・葛飾区

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、各自での現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年

『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 6 巻地帯編 3 品川区・大田区・目黒区・世田谷区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 7 巻地帯編 4 渋谷区・中野区・杉並区。板橋区・練馬区・豊島区・北区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 8 巻地帯編 5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』吉川弘文館、2020 年

B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、発表・レポートの内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ハイフレックス（教室での対面授業と Zoom でのオンライン）授業は、受講者の発表内容の理解がすすまないため、毎回ごとにどちらかに統一して行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布は学習支援システムおよび Google クラウドスライドを利用します。PC など閲覧用の機器を持参してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents. Students choose a ward from the textbook "History of Tokyo: Geography", Volumes 4 to 8, and study the historical geography of that ward.

【Learning Objectives】 Students will gain an understanding of the basic geographical events that make up Edo-Tokyo and learn the geography of Edo-Tokyo.

【Learning activities outside of classroom】 Your study times will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Presentation by Power Point 50%, in class contribution 50%

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸東京の各地域の歴史地理について、明治 30 年～40 年代に出版された日本初のグラフィック雑誌『風俗画報』別冊のなかから『新撰東京名所図会』の各区部の記述をもとに学びます。

【到達目標】

江戸東京の歴史地理について、明治期の資料をもとに深く理解し、現在に生きる歴史景観、失われてしまった景観とはなにか、過去から現在の地理を考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式です。履修者が多い場合はグループワークとします。資料を丹念に読みながら地図上で確認し、江戸東京を構成する地域の歴史地理（主に法政大学周辺から旧東京 15 区の中心部）を理解するため、議論しながらすすめます。大学の方針に従って、対面授業（オンライン授業は最大 7 回まで）とします。資料の配布やパワーポイントは、学習支援システムおよび Google クラウドスライドを利用し、紙での配布はしません。授業の進め方は、ガイダンスで説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、担当の分担
第 2 回	名所図会とは？	江戸名所図会から東京名所図会へ概要を講義
第 3 回	新撰東京名所図会を読む	麹町区・神田区
第 4 回	新撰東京名所図会を読む	牛込区・四谷区
第 5 回	新撰東京名所図会を読む	赤坂区・芝区
第 6 回	新撰東京名所図会を読む	小石川区・本郷区
第 7 回	新撰東京名所図会を読む	京橋区・日本橋区
第 8 回	新撰東京名所図会を読む	浅草区・下谷区
第 9 回	新撰東京名所図会を読む	上野公園・後楽園など
第 10 回	新撰東京名所図会を読む	隅田川・吉原など
第 11 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する
第 12 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する
第 13 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する

第 14 回 まとめ

授業内容の復習・まとめ・今後の課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当箇所を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめてください。現地調査後のレポートも作成してください。1 回の授業につき、準備・復習時間は合計 2 時間です。

【テキスト（教科書）】

『風俗画報別冊 新撰東京名所図会』

12 階の地理学科事務室に備えておきますので、必要な部分を適宜、コピーしてください。なお、デジタル版は法政大学図書館のデータベースからダウンロードもしくは印刷できます。

【参考書】

参考論文：

米家志乃布「近代の名所図会にみる江戸イメージ」『法政地理』第 52 号、2020 年

同「名所図会の挿絵・写真にみる「旧観」江戸と「新景」東京」『法政地理』第 54 号、2022 年

授業のなかで、他の名所図会などの史資料も適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、発表やレポートの内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ハイフレックス（教室での対面授業と Zoom でのオンライン）授業は、受講者の発表内容の理解がすすまないため、毎回ごとにどちらかに統一して行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布は学習支援システムおよび Google クラウドスライドを利用します。PC など閲覧用の機器を持参してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will learn about the historical geography of each area of Edo-Tokyo based on the descriptions of each ward section in "Shin-Sen-Tokyo Meisho Zue" from the separate volume of "Fuzoku Gaho", Japan's first graphic magazine published in the 30s and 40s of Meiji era.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to gain a deeper understanding of the historical geography of Edo-Tokyo, based on materials from the Meiji period, and to consider the historical landscape that lives on today, what has been lost, and the geography from the past to the present.

【Learning activities outside of classroom】 Your study times will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Presentation by Power Point 50%, in class contribution 50%

CUA300LA

文化人類学方法論B

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態	観光＋人類学とは何か
第 3 回	観光と文化	（文献の発表と討論）観光の現場で創られる文化
第 4 回	観光と開発	（文献の発表と討論）観光と地域開発の結びつき
第 5 回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第 6 回	観光におけるホストとゲスト	（文献の発表と討論）ホスト／ゲスト論の再検討
第 7 回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメーজの創造
第 8 回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第 9 回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か
第 10 回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム

第 11 回	宗教と観光②	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第 12 回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）世界遺産、ロングステイ
第 13 回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）テーマパーク、アニメ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006 年。
 山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
 山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
 鏡味治也ほか編『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011 年。
 橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2016 年。
 （以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70 %）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30 %）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の心理学として、研究・実践ともに世界で隆盛を極める「ポジティブ心理学（positive psychology）」について、通年で専門的に履修するゼミとなります。同内容では、2022 年度が初開講となります。ポジティブ心理学は「ウェルビーイングの科学（the science of well-being）」と定義され、ウェルビーイングについて、唯一、包括的かつ体系的な科学研究を行っている分野です。ポジティブ心理学を通して、ウェルビーイングや、「フラーリッシュ（flourish、他分野の学術訳で「開花繁栄」、宇野の意識で「持続的幸福」）」という概念について、また、ゼミ生一人ひとりのウェルビーイングやフラーリッシュについて、理解を深めていきます。

【到達目標】

前期（人間行動学 A）では、ポジティブ心理学に関する全般的な議論を、後期（人間行動学 B）では、主要なポジティブ心理学研究について、前期で触れたテーマのなかから一、二を選定し、より深掘りする形で議論を進めていきます。本年度の後期では、「主観的幸福感（subjective well-being）」について議論します。テキストはいずれも、信頼の置ける心理学研究に基づく内容のものを厳選します。これは、ポジティブ心理学に限らず、どの分野にも当てはまる現象のようですが、分野が人気を博するにつれて関与者が増える結果、正しい知識情報（伝達者の恣意を排した、知識情報の源泉からのメッセージ）に触れることがますます難しくなっています。正しい知識情報は、真の（オーセンティックな）学びへの探究心をさらに高めてくれます。ゼミ生には、「ポジティブ心理学のリテラシー」を高めてもらうことを通して、ポジティブ心理学のもつ醍醐味に触れてもらうことを、本ゼミの到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンラインゼミ（「オンデマンド型」と「リアルタイム配信型（火曜 5 限）」の組み合わせ）となります。第 1 回ゼミはオンデマンド型によるガイダンスとなりますが、第 2 回ゼミ以降はコホート（少人数のグループ）を組成し、Zoom によるリアルタイム型でディスカッションを中心に進めていきます。どうしてもコホートワークが苦手という方は、相談の上、個人ワークを認めます（第 1 回ゼミ終了後にアンケートを実施し、皆さんの希望を拝聴します）。オンラインゼミのために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。その他の詳細については第 1 回ゼミのガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ概要、ゼミの進め方と方法（終了後、アンケート実施）
第 2 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評

第 3 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 4 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 5 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 6 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 7 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 8 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 9 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 10 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 11 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 12 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 13 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 14 回	総括	第 2 回～第 13 回の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで扱うテーマについて、ゼミを離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本ゼミの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『しあわせ仮説：古代の知恵と現代科学の知恵』（ジョナサン・ハイト著、藤澤隆史・藤澤玲子訳、新曜社、2011 年）
<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b455766.html>
 「心理学 I/II」のテキストでもある『ポジティブ心理学入門』と並び、世界中のポジティブ心理学の授業で使用されている 2 大テキストの一つです。原題は、The Happiness Hypothesis: Finding Modern Truth in Ancient Wisdom.

【参考書】

『ポジティブ心理学の挑戦：“幸福”から“持続的幸福”へ』（マーティン・セリグマン著、宇野カオリ訳、ディスカヴァー・トゥエンティワン）
<https://d21.co.jp/book/detail/978-4-7993-1576-7>
 ポジティブ心理学の創始者による、ポジティブ心理学の「今」と未来の方向性を伝える一冊です。ただし、原文に、著者本人を取り巻く背景事情が分からないと理解しにくい箇所があるため、必要に応じて解説します。原題は、Flourish: A New Understanding of Happiness and Well-Being.

【成績評価の方法と基準】

レポートにおける理解度や、コホートワーク（あるいは個人ワーク）による発表やディスカッションでの参加姿勢や貢献度を総合的に評価します。成績評価の項目についてはガイダンスで説明します。なお、試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で画面共有を行いますので、スマホよりはパソコンでの受講が望ましいかもしれません。

【その他の重要事項】

Zoom によるリアルタイム型ゼミのときにも、カメラオンは任意とし、強要はしません（マイクオンは、ディスカッションの際に必要となります）。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Starting from the spring semester of 2022, this year-long course (a seminar with limited number of students or “zemi” in Japanese) will focus on positive psychology, an emerging field in psychological science that has been making remarkable contributions to conventional psychology, both in research and in practice. Positive psychology is defined as the science of well-being, and it is the only field so far that encompasses comprehensive and systematic scientific research on well-being. In addition to discussing the substantive content of positive psychology, attention will be given to enhancing students' well-being – a way to flourish.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In the spring semester, this course reviews a general discussion on positive psychology. In the fall semester, one or two major topics on positive psychology research will be selected and dealt in more depth. This year, the topic will be “subjective well-being.” All the selected textbooks are based on reliable psychological research. Since right knowledge and information will further enhance the pursuit of true (authentic) learning, the goal of this course is to have students experience the genuine pleasure of getting to know positive psychology with right knowledge and information.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Students will be evaluated based on their level of understanding reflected on reports, and their participation and contribution shown in presentations and discussions through cohort work (or individual work). More details will be explained in the first lecture of each semester. There will be no exam.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

21 世紀の心理学として、研究・実践ともに世界で隆盛を極める「ポジティブ心理学 (positive psychology)」について、通年で専門的に履修するゼミとなります。同内容では、2022 年度が初開講となります。ポジティブ心理学は「ウェルビーイングの科学 (the science of well-being)」と定義され、ウェルビーイングについて、唯一、包括的かつ体系的な科学研究を行っている分野です。ポジティブ心理学を通して、ウェルビーイングや、「フラーリッシュ (flourish. 他分野の学術訳で「開花繁栄」、宇野の意識で「持続的幸福」)」という概念について、また、ゼミ生一人ひとりのウェルビーイングやフラーリッシュについて、理解を深めていきます。

【到達目標】

前期 (人間行動学 A) では、ポジティブ心理学に関する全般的な議論を、後期 (人間行動学 B) では、主要なポジティブ心理学研究について、前期で触れたテーマのなかから一、二を選定し、より深掘りする形で議論を進めていきます。本年度の後期では、「主観的幸福感 (subjective well-being)」について議論します。テキストはいずれも、信頼の置ける心理学研究に基づく内容のものを厳選します。これは、ポジティブ心理学に限らず、どの分野にも当てはまる現象のようですが、分野が人気を博するにつれて関与者が増える結果、正しい知識情報 (伝達者の恣意を排した、知識情報の源泉からのメッセージ) に触れることがますます難しくなっていきます。正しい知識情報は、真の (オーセンティックな) 学びへの探究心をさらに高めてくれます。ゼミ生には、「ポジティブ心理学のリテラシー」を高めてもらうことを通して、ポジティブ心理学のもつ醍醐味に触れてもらうことを、本ゼミの到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンラインゼミ (「オンデマンド型」と「リアルタイム配信型 (火曜 5 限)」の組み合わせ) となります。第 1 回ゼミはオンデマンド型によるガイダンスとなりますが、第 2 回ゼミ以降はコホート (少人数のグループ) を組成し、Zoom によるリアルタイム型でディスカッションを中心に進めていきます。どうしてもコホートワークが苦手という方は、相談の上、個人ワークを認めます (第 1 回ゼミ終了後にアンケートを実施し、皆さんの希望を拝聴します)。オンラインゼミのために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。その他の詳細については第 1 回ゼミのガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスゼミ概要、ゼミの進め方と方法	(終了後、アンケート実施)
第 2 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評

第 3 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 4 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 5 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 6 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 7 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 8 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 9 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 10 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 11 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 12 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 13 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 14 回	総括	第 2 回～第 13 回の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで扱うテーマについて、ゼミを離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本ゼミの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

※詳細は、前期第 1 回ゼミのガイダンスのときに説明します。

『幸せを科学する：心理学からわかったこと』

(大石繁宏著、新曜社、2009 年)

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b455844.html>

『これからの幸福について：文化的幸福観のすすめ』

(内田由紀子著、新曜社、2020 年)

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b510165.html>

【参考書】

『ポジティブ心理学の挑戦：“幸福”から“持続的幸福”へ』

(マーティン・セリグマン著、宇野カオリ訳、ディスカヴァー・トゥエンティワン)

<https://d21.co.jp/book/detail/978-4-7993-1576-7>

ポジティブ心理学の創始者による、ポジティブ心理学の「今」と未来の方向性を伝える一冊です。ただし、原文に、著者本人を取り巻く背景事情が分からないと理解しにくい箇所がありますので、必要に応じて解説します。原題は、Flourish: A New Understanding of Happiness and Well-Being.

【成績評価の方法と基準】

レポートにおける理解度や、コホートワーク（あるいは個人ワーク）による発表やディスカッションでの参加姿勢や貢献度を総合的に評価します。成績評価の項目の詳細についてはガイダンスで説明します。なお、試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で画面共有を行うなどしますので、スマホよりはパソコンでの受講が望ましいかもしれません。

【その他の重要事項】

Zoom によるリアルタイム型ゼミのときにも、カメラオンは任意とし、強要はしません（マイクオンは、ディスカッションの際に必要となります）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Starting from the spring semester of 2022, this year-long course (a seminar with limited number of students or “zemi” in Japanese) will focus on positive psychology, an emerging field in psychological science that has been making remarkable contributions to conventional psychology, both in research and in practice. Positive psychology is defined as the science of well-being, and it is the only field so far that encompasses comprehensive and systematic scientific research on well-being. In addition to discussing the substantive content of positive psychology, attention will be given to enhancing students' well-being – a way to flourish.

【到達目標（Learning Objectives）】

In the spring semester, this course reviews a general discussion on positive psychology. In the fall semester, one or two major topics on positive psychology research will be selected and dealt in more depth. This year, the topic will be “subjective well-being.” All the selected textbooks are based on reliable psychological research. Since right knowledge and information will further enhance the pursuit of true (authentic) learning, the goal of this course is to have students experience the genuine pleasure of getting to know positive psychology with right knowledge and information.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Students will be evaluated based on their level of understanding reflected on reports, and their participation and contribution shown in presentations and discussions through cohort work (or individual work). More details will be explained in the first lecture of each semester. There will be no exam.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、沖縄の施政権が日本に返還されてから 50 年という節目の年である。沖縄の「日本復帰」の意味について考える場となるような講義も設定する予定である。

なお、本授業はオンラインで実施され複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフードバックは、学期末に学習支援システム等を使って行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	沖縄を知るための基礎知識①（担当：大里知子）	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	考古学からみる、琉球・沖縄史①（担当：石井龍太）	考古学からみる琉球史概説
5	考古学からみる、琉球・沖縄史②（担当：石井龍太）	考古学からみる首里城
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定

11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	春学期のまとめ（担当：大里知子）	春学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（30 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、沖縄の施政権が日本に返還されてから 50 年という節目の年である。沖縄の「日本復帰」の意味について考える場となるような講義も設定する予定である。

なお、本授業はオンラインで実施され複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、学期末に学習支援システム等を使って行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	未定	未定
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	秋学期のまとめ（担当：大里知子）	秋学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。

3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（30 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法と現代社会 A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、感染状況によっては、ZOOM を用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第 2 回	近代立憲主義の成立①	基本文献の輪読
第 3 回	近代立憲主義の成立②	報告と討論
第 4 回	日本憲法史①	基本文献の輪読
第 5 回	日本憲法史②	報告と討論
第 6 回	天皇制①	基本文献の輪読
第 7 回	天皇制②	報告と討論
第 8 回	平和主義①	基本文献の輪読
第 9 回	平和主義②	報告と討論
第 10 回	人権総論①	基本文献の輪読
第 11 回	人権総論②	報告と討論
第 12 回	思想・良心の自由①	基本文献の輪読
第 13 回	思想・良心の自由②	報告と討論
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020 年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reports (50%), and the quality of the students' experimental performance (50%).

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法と現代社会 B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「教養ゼミⅠ：憲法学入門A」に引き続き、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第2回	表現の自由①	基本文献の輪読
第3回	表現の自由②	報告と討論
第4回	職業選択の自由①	基本文献の輪読
第5回	職業選択の自由②	報告と討論
第6回	包括的基本権①	基本文献の輪読
第7回	包括的基本権②	報告と討論
第8回	平等原則①	基本文献の輪読
第9回	平等原則②	報告と討論
第10回	国会・内閣①	基本文献の輪読
第11回	国会・内閣②	報告と討論
第12回	裁判所①	基本文献の輪読
第13回	裁判所②	報告と討論
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50％）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50％）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reports (50%), and the quality of the students' experimental performance (50%).

ENV300LA	
自然環境のしくみとその変貌 A	2017 年度以降入学者
加藤 美雄	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月 2/Mon.2
単位数：2 単位	
※定員制 (40 名)	
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による気候とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって気候が変化した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。

3	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の気候の1（ヒートアイランド I）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の気候の2（ヒートアイランド II）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の気候の3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本、佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択、江守正多著、角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
- ・新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト・小レポート：40%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連するため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Quizzes・Short reports: 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策 1（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表された IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策 2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、一昨年度、日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策 2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

・地球温暖化時代の異常気象、吉野正敏著、成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－、日本気象学会 地球環境問題委員会編、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Quizzes : 40%、in Class

Participation: 20%.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。（例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?）その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算できる言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組みについて解説する。
第 04 回	計算できる言語 (2)	日常の文書編集で正規言語の選択構文を活用する。
第 05 回	計算できる言語 (3)	日常の文書編集で正規言語の繰返し構文を活用する。
第 06 回	計算機の理論 (1)	チューリング機械の仕組みと計算の動作を解説する。
第 07 回	計算機の理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係を解説する。

第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数、2 の補数表現による整数の表現方法を説明する。
第 10 回	自然言語と AI (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 11 回	自然言語と AI (2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 12 回	自然言語と AI (3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
第 13 回	自然言語と AI (4)	学習済みモデルを用いてシラバスの文章を分析する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りには問題がはむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機と数学 (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 03 回	計算機と数学 (2)	級数の公式を利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。
第 08 回	線形計画法 (2)	シンプレックス法の解法とプログラムを紹介する。
第 09 回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。

第 10 回 暗号の数理 (1)

基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。
公開鍵暗号を使った暗号通信の実験を行う。

第 11 回 暗号の数理 (2)

第 12 回 機械学習の事例 (1)

Python で機械学習プログラムを実行する手順を学ぶ。

第 13 回 機械学習の事例 (2)

重回帰分析に基づく機械学習の実験を行う。

第 14 回 まとめと解説

講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY300LA

相対性理論と宇宙A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは 2 地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。

[11]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[12]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすぐ離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのかを考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena..

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 3 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 4 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する

第 5 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 5 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 7 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第 8 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 9 回	原子構造（1）	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第 10 回	原子構造（2）	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第 11 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 12 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 13 回	春学期のまとめ（1）	春学期授業のまとめを行う。また、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する。
第 14 回	春学期のまとめ（2）	第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を中心に、春学期の授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する

第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第 10 回	宇宙における元素合成（1）	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成（2）	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成（3）	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期授業のまとめを行う。第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。

第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつ仕組みについて紹介する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊に伴うエネルギーについて紹介する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第 5 回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等、核融合反応の応用の可能性について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している、素粒子の種類や分類について紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第 12 回 宇宙の進化

ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。

第 13 回 宇宙の大規模構造と宇宙論

宇宙論などの最新の研究について紹介する。

第 14 回 まとめ

全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：自然史～ヒトと生物の関係性：ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～Ⅰ

川上 裕司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館・動物園・水族館・植物園など博物学や生物学を学ぶ施設を利用して、見学実習をベースに、生命の星地球に暮らす様々な生物と私達ヒトの関係を見つめ直し、現代の生物としての人間の生活の在り方を考察する。1）現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか。2）人間は他の生物とどのように異なる存在であるのか。3）地球の自然生態系と、それを知るための考え方や方法とは何か。4）自然との関わり合いの中でヒトは生きる術として農業、林業、水産業、養蜂業、養蚕業、畜産業などの産業を営み、様々な文化をどのように発展させていったのか。5）その過程で、どうして争いごと（戦争）が生じたのか。6）産業の発展に伴って生じた環境破壊（地球温暖化）にどのように取り組むべきか。といった問題を一緒に考えていく。本ゼミの主題は「生命とは何か」を生物学的な側面から考察することである。

【到達目標】

「生命とは何か」を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表形式でまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に見学実習の方法（記録法）や研究テーマの設定などを説明し、授業およびゼミ形式で行う。受講者の都合に合わせて、博物館等に足を運んでいただき、各自、記録用紙に記録する。見学実習後に、発表・討論、授業およびゼミ形式で行う。前期の終わりに中間発表を行い、後期の最後に最終発表を行うと共に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」としてまとめて、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	見学・調査の進め方とデータの収集法	博物館・動物園・水族館・植物園など博物学や生物学を学ぶ施設を利用しての見学実習の進め方について。研究テーマの選択について。見学・調査の進め方と資料（データ）の収集とまとめ方について。
生物学概論	生物学の基礎を学ぶ	見学実習を行う上で必要な生物学の基礎について講義する。
博物学概論	博物学の基礎を学ぶ（学名とは何か）	見学実習を行う上での博物学の基礎。生物の名前の付け方について講義する。
第一次産業概論	農林水産業と文化の発展	文化の礎となってきた第一次産業と農学など学問としての歴史について講義する。

各自見 研究テーマの選定
学実習 テーマを決めるための見学実習を各自で行う。

(1) 各自見 研究テーマの予備調査
学実習 各自で決めたテーマに沿った見学実習を行う。

(2) 各自見 研究テーマの本調査
学実習 各自で決めたテーマに沿った見学実習を行う。

(3) グルー 研究テーマの選定理由
プワー の中間発表 研究テーマを選定した理由についての各自の発表と今後の進め方について討論する。

グルー 研究テーマに基づく調
プワー 査の中間発表 最初の見学実習を終えての各自の発表と今後の進め方について討論する。

各自見 研究テーマに基づく追
学実習 加調査 中間発表に基づいてテーマを再確認し、再度、同じ施設での見学実習を行う。

(4) 各自見 研究テーマに基づく最
学実習 終調査 研究テーマを考える上で、重要と考える展示物に関する最終見学実習を行う。

(5) 論文の データのまとめ方と論
作成法 文の書き方 データのまとめ方と論文の書き方について、事例をまじえて講義する。

研究発表 PowerPoint を使った
の方法 発表法 データのまとめ方とスライドの作成法について講義する。

総合討 PowerPoint を使って
論 各自発表 各自の研究成果を「スライド」としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前に知らせるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、最終レポートを課すので、スライド作成と共に準備してください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

実習についてのスライド作成とレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

見学実習（研究テーマ）については、積極的に疑問点などについて自分で調べることが大切です。適切な参考書が知りたい場合には、担当講師に遠慮なく相談してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料（スライド）の作成を行って頂きますので、モバイルパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

1) 博物館等で見学実習のための交通費および入館料が必要です（大学指定の博物館は学生証の提示で無料となります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので、受講希望者は最初の授業に必ず出席して下さい。受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には再度選抜を行います。

3) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

【Outline (in English)】

We consider the dynamism of human culture as the relationship between humans, nature and living organism creates.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：自然史～ヒトと生物の関係性：ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～2

川上 裕司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館・動物園・水族館・植物園など博物学や生物学を学ぶ施設を利用して、見学実習をベースに、生命の星地球に暮らす様々な生物と私達ヒトの関係を見つめ直し、現代の生物としての人間の生活の在り方を考察する。1）現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか。2）人間は他の生物とどのように異なる存在であるのか。3）地球の自然生態系と、それを知るための考え方や方法とは何か。4）自然との関わり合いの中でヒトは生きる術として農業、林業、水産業、養蜂業、養蚕業、畜産業などの産業を営み、様々な文化をどのように発展させていったのか。5）その過程で、どうして争いごと（戦争）が生じたのか。6）産業の発展に伴って生じた環境破壊（地球温暖化）にどのように取り組むべきか。といった問題を一緒に考えていく。本ゼミの主題は「生命とは何か」を生物学的な側面から考察することである。

【到達目標】

「生命とは何か」を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表形式でまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に見学実習の方法（記録法）や研究テーマの設定などを説明し、授業およびゼミ形式で行う。受講者の都合に合わせて、博物館等に足を運んでいただき、各自、記録用紙に記録する。見学実習後に、発表・討論、授業およびゼミ形式で行う。前期の終わりに中間発表を行い、後期の最後に最終発表を行うと共に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」としてまとめて、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	見学・調査の進め方とデータの取集法	前期のセミナーⅠを踏まえて、博物学や生物学を学ぶ施設（博物館・動物園・水族館・植物園など）を利用しての見学実習の進め方について。前期の研究テーマに基づき、更に深く見学・調査を行うための手法と最終報告書（論文）まとめ方について講義する。
生命科学概論	生命科学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での生命科学の基礎（生命誕生と DNA 学の発展）について講義する。
微生物概論	微生物学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での微生物学の基礎（食と感染症）について講義する。

生命哲学概論 生命哲学の基礎を学ぶ

環境学概論 環境学の基礎を学ぶ

各自見学実習 研究テーマの分析

(1) 各自見学実習 研究テーマの考察

(2) 各自見学実習 研究テーマの総括

(3) グループ 研究テーマの報告

パワーポイント (1) グループ 研究テーマのまとめ方

パワーポイント (2) 論文の作成法の検討

論文の作成 データのまとめと論文作成

最終発表会 PowerPoint を使った最終発表

総合討論 生命とは何かについて

見学実習をより深く行う上での生命哲学の基礎（生物学から見た宗教史）について講義する。

見学実習をより深く行う上での環境学の基礎（自然環境と室内環境）について講義する。

各自の研究テーマを深く掘り下げる（分析）を目的とした見学実習を行う。

各自の研究テーマを深く掘り下げる（考察）を目的とした見学実習を行う。

各自の研究テーマを深く掘り下げる（総括）を目的とした見学実習を行う。

前期からの見学実習を終えての各自の報告と今後まとめ方について討論する。

各自の研究報告に基づいてまとめ方について討論する。

データのまとめと論文の作成について講義する。

データのまとめ方と論文の書き方に基づいて論文を作成する。

各自 PowerPoint を使った最終発表を行う。

自然史～ヒトと生物の関係性：ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～Ⅰ&Ⅱを終えての総合討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前に知らせるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、最終レポートを課すので、スライド作成と共に準備してください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

実習についてのスライド作成とレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

見学実習（研究テーマ）については、積極的に疑問点などについて自分で調べることが大切です。適切な参考書が知りたい場合には、担当講師に遠慮なく相談してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料（スライド）の作成を行って頂きますので、モバイルパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

- 1) 博物館等に見学実習のための交通費および入館料が必要です（大学指定の博物館は学生証の提示で無料となります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので、受講希望者は最初の授業に必ず出席して下さい。受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には再度選抜を行います。
- 3) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

【Outline (in English)】

We consider the dynamism of human culture as the relationship between humans, nature and living organism creates.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメーjing

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物が好きで、自分でいろいろ調べたり実験してみたいという人に向いている授業です。実際の生き物の観察を通じて、生きる様子やしくみを調べます。その為に必要なのは、簡単な撮影道具と、皆さんの探究心です。予めこちらで用意したツールとしては、種子の発芽の観察、テントウムシの飛翔の観察、プラナリアの再生の観察などがあります。でも、せっかく少人数で行う教養ゼミですから、こちらで決めたとおりにやるだけで無く、皆さんのご提案を実現するためのプロジェクトにも取り組めればと思っています。これらの生き物の観察、その結果の分析を通じて、生きる仕組みを考察する過程で、皆さんがプロジェクト遂行能力を身につけることを目指しています。

【到達目標】

1. 基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
2. 規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、プラナリアの再生 など）を通じた問題解決手順の修得
3. ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業となります。

全ての班が同じ規定課題を行います。規定課題は、ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔などを、材料調達のタイミングを見ながら約2週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーjingの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。
⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。

⑦	アリの歩行②	昆虫の6本足歩行について、画像解析します。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	プラナリアの再生①	プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	プラナリアの再生②	プラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心にを行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。予習・復習合計4時間以上行う事を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。

成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。

評価の基準は、授業内の活動の評価が 50 %、ノートの充実度が 50 % になります。

単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。

なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件ありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.

(Learning Objectives)

Finally students will find the most interesting phenomena as their own research subject.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

class activities 50%

note taking quartiles 50%

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメージング

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物が好きで、自分でいろいろ調べたり実験してみたいという人に向いている授業です。実際の生き物の観察を通じて、生きる様子やしぐみを調べます。その為に必要なのは、簡単な撮影道具と、皆さんの探究心です。予めこちらで用意したツールとしては、種子の発芽の観察、テントウムシの飛翔の観察、プラナリアの再生の観察などがあります。でも、せっかく少人数で行う教養ゼミですから、こちらで決めたとおりにやるだけで無く、皆さんのご提案を実現するためのプロジェクトにも取り組めればと思っています。

これらの生き物の観察、その結果の分析を通じて、生きる仕組みを考察する過程で、皆さんがプロジェクト遂行能力を身につけることを目指しています。

【到達目標】

生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。

1. 実験の計画立案とその企画書の作成能力
2. 計画実施能力
3. 完遂力
4. プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業となります。

班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。

全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表 についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。

最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。

⑧	中間発表	各班による中間発表と討論を行います。
⑨	実験日④	班ごとに、実験観察を行います。
⑩	実験日⑤	班ごとに、実験観察を行います。
⑪	データ整理・画像処理	主として画像関係のデータの解析を行います。
⑫	ポスター作成	研究結果をポスターとして発表します。
⑬	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。
⑭	班活動の総括・発表	最終プレゼンを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心にを行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。予習・復習合計 4 時間以上行う事を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。

成績は、授業内の活動 (50%) と、最後に提出するレポート (50 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている **Macintosh** は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planing to the final presentation.

(Learning Objectives)

Finally students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

class activities 50%

note taking quartiles 50%

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察 (小レポート) を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種元素固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	色のついた小さなガラス玉の作成
第 8 回	イオンの色	水を含むことで発色するイオンについて
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの沈殿反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	様々なイオンが溶けた水溶液からの、特定イオンの分離
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点（配分 80%）を評価し、学期末の実技試験（配分 20%）とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

席に限りがあることや、感染症対策、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点（配分 80%）とし、学期末試験（配分 20%）とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

席に限りがあることや、感染症対策、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。オーロラや虹など自然界に見られる現象を科学的に理解する。光の性質を利用した便利グッズの仕組みを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間分の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1（放電管・蛍光灯・電球）	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2（LED）	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。

第10回	生物発光	ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
第11回	化学発光（実験）	ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
第12回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第13回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第14回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。人間の目が色を認識する仕組みは生物的な知識が、オーロラや虹の仕組みは物理の知識が必要で、物体の色は原子や分子の構造に関係します。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（24 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。秋学期の B の内容も春の初回到説明します。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせて、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

物質が吸収する光と物質の色の関係を理解する。
色のあるものとなないものの違いが何に起因するのか理解できる。
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚とともに解説します。
第2回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第3回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第4回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第5回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第6回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第7回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第8回	染料分子の構造	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第9回	自然界の色	自然界で利用されているいろいろな色素の種類と構造を学びます。

第10回 光合成と呼吸	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。
第11回 染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第12回 染色実験	草木染を実際に行います。
第13回 身の回りの色	銀塩写真やボラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。
第14回 まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30％）と期末試験の結果（70％）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期のこの科目は「色」に関する話題を提供しますが、春学期の「光」と密接なつながりがあるので、AとB、両方の受講が望まれます。いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係でこの科目は定員（24名）を設けています。履修希望者が多かった場合は、春学期の履修者を優先し、春学期の段階で定員が満たされる場合もあります。秋学期のBについて定員枠に余裕がある場合はシラバス、またはHoppii等を通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

物質の科学A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。

第 7 回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第 9 回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 10 回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 11 回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第 12 回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第 13 回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第 14 回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学 B (秋学期開講) で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト (教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25 %)、各テーマ毎に提出するレポート (25 %)、および、平常点 (50 %) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学 B」を引き続き受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生はオンラインで開講される第 1 回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム (HOPPII) の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム (HOPPII) からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム (HOPPII) を通して提出します。提出していただいた課題については次の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第 6 回	けん化価 (1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習します。
第 7 回	けん化価の測定 (1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 1 回)

第 8 回	けん化価の測定 (2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 2 回)
第 9 回	けん化価 (2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第 10 回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第 11 回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第 12 回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第 13 回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第 14 回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学 A」から連続して受講してください。受講希望者が定員（24 名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学 A」の第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

PRI300LA

IT リテラシー

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制（35 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、IT リテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ（1）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ（2）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が 40%、平常点が 60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクトに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制（35 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、学生が現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かさない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度ははかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）はZoomによるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。

第 4 回 エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第 5 回 「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回 生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第 7 回 演習 1：持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。
第 8 回 近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回 食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回 資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回 「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回 演習 2：多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回 持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回 地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、学生からの質問への対応などに Hoppii の機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that the classes will be given in the face-to-face format; however, classes will be held in the online format via Zoom in the following cases: 1) First class (in order to assess the number of students); 2) University decides to shift to the online format (to cope with, for example, a change in the COVID situation); and 3) In-class activities requires the online format (in order to, for example, minimize the COVID infection risk). Also note that students who are unable to attend classes in the face-to-face format due to such problems as health issues and issues associated with entering Japan may attend the classes in the online format with permission of the university/instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline (in English)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

ボルボックス生物論 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（28 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・初回授業のみ Zoom を用いたリアルタイム・オンライン形式で行います。
- ・第 2 回以降は、まず各回のテーマについて説明します。その後、各自実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・授業ノートは数回に分けて Hoppii の「課題」から提出していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を Hoppii の「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・質問は授業内のほか、Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、回答します。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは Hoppii を通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物を紹介しします。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法・暗視野法で生物を観察しします。
第 4 回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、周りの水流を観察しします。
第 5 回	淡水産プランクトン①	池や川の水を顕微鏡で観察し、どのような生き物がいるか調べます。
第 6 回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察します。
第 7 回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第 8 回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。

第9回 プラナリア②	切断したプラナリアの一週間後のようすを観察・記録します。
第10回 プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回 走光性①	ボルボックスが光の方向を感知して向きを変える「走光性」を観察します。
第12回 走光性②	「鞭毛」の動きで作られる水流を観察し、光に対する変化を調べます。
第13回 走光性③	光を感知する「眼点」を観察し、走光性のしくみを考察します。
第14回 まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70%（提出状況・理解度等を評価します）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、感染状況等を考慮して、オンデマンド方式と対面方式から毎回どちらかを選べる形にしました。他の授業との兼ね合いや体調に応じて選べるため安心して学習に取り組むことができたとの感想をいただきました。また、オンデマンドはじっくり集中して受講・観察でき、対面は実際に手を動かして実験を体験できるというそれぞれに良い点があったようです。本年度は全員対面方式が基本となるため、対面方式の良い点を大いに活用していきます。

また、授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、本年度も皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきたいです。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

※定員制（28名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・初回授業のみ Zoom を用いたリアルタイム・オンライン形式で行います。
- ・第2回以降は、まず各回のテーマについて説明します。その後、各自実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・授業ノートは数回に分けて Hoppii の「課題」から提出していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を Hoppii の「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・質問は授業内のほか、Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、回答します。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは Hoppii を通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化における多細胞化	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物を紹介します。
第2回	生活環と形態形成①	ボルボックスの丸い形の形成過程「インバージョン」について学びます。
第3回	生活環と形態形成②	インバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第4回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみと進化について考えます。
第5回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第6回	有性生殖とその進化②	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖（接合）の過程を観察します。
第7回	有性生殖とその進化③	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。

第 8 回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第 9 回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察します。
第 10 回	粘菌の行動③	粘菌が移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第 11 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究方法について学びます。
第 12 回	突然変異体の研究への利用②	単細胞生物クラミドモナスの様々な突然変異体を観察し、特徴を調べます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用③	突然変異体解析による研究の実例を示します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70%（提出状況・理解度等を評価します）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、感染状況等を考慮して、オンデマンド方式と対面方式から毎回どちらかを選べる形にしました。他の授業との兼ね合いや体調に応じて選べるため安心して学習に取り組むことができたとの感想をいただきました。また、オンデマンドはじっくり集中して受講・観察でき、対面は実際に手を動かして実験を体験できるというそれぞれに良い点があったようです。本年度は全員対面方式が基本となるため、対面方式の良い点を大いに活用していきます。

また、授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、本年度も皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システム（HOPPII）に課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざままで	「異なる世界観のはざままで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。
第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。

第 11 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (2)	「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
第 12 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (3)	「民主主義はいずこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
第 13 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー ― エネルギー・ウェブの時代
著者名：ジェレミー・リフキン
訳者名：柴田裕之
出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24 名）を超える場合は抽選をおこないますので、オンラインで行われる第 1 回授業に必ず参加してください。本授業は、第 1 回授業のみオンライン形式（Zoom を使用する双方向型）により行われ、第 2 回授業からは対面形式により行われます。本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思ひます。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

CHM300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかにわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システム（HOPPII）に課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池――ミニ発電所」を学習する。
第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ（HEW）」を学習する。
第 9 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (4)	「車を発電所に」を学習する。
第 10 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (1)	「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」～「共有財産としての水素」を学習する。
第 11 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (2)	「エネルギーの民主化」～「理論から実践へ」を学習する。
第 12 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (3)	「貧しい人びとにパワーを」～「安心」を見直す」を学習する。
第 13 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (4)	「地政学に基づく政治から生物圏に基づく政治へ」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー ― エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24 名）を超える場合は抽選をおこないますので、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）の第 1 回授業（オンライン開講）に必ず参加してください。

本授業は、第 1 回授業のみオンライン形式（Zoom を使用する双方向型）により行われ、第 2 回授業からは対面形式により行われます。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していききたいと思います。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

LANe300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（15 名）

他学部公開：○ グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate

8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues:Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language acquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP)Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（15 名）

他学部公開：○ グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing	【Outline (in English)】 This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion	
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate	
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion	
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate	
12	Various topics	Students'individual presentations and class feedback	
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due	
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 50%

Presentation: 20%

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit the course may do so with the permission of the instructor.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に応じた柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見る
こと。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 発音とアクセント	発音の仕方 綴りの基本 ドイツ語の主語について du,ihr,Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の冠詞について	所有冠詞
第 6 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配
第 8 回	Lektion4 ドイツ語の es について	非人称の es を用いた表現

第 9 回 Lektion5 動詞の 3 基本形

過去形について

第 10 回 Lektion5 人称による過去形の動詞の形

ドイツ語の過去人称変化について

第 11 回 Lektion6 現在完了形と接続詞

ドイツ語の現在完了形について

第 12 回 Lektion 6 zu 不定詞の用法

ドイツ語の zu 不定詞について

第 13 回 春学期ドイツ語学習の Plus 文法と文法の確認

振り返りと総復習

第 14 回 春学期期末試験、解説 春学期期末試験、解説とまとめ
まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について

成績配分は期末試験 50 %、平常点（確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

Goal:By the end of the course, students should be able to :

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Work to be done outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に沿った柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見る

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化と構文について
第 2 回	Lektion 7	未来形の用法と文
第 3 回	Lektion 8	分離・非分離動詞について
第 4 回	Lektion 8	受動文の用法と形式について
第 5 回	Lektion 9	命令形とその用法について
第 6 回	Lektion 9	不規則変化動詞の用法について
第 7 回	Lektion 10	接続法第 2 式の用法と形式について

第 8 回	Lektion 10	婉曲話法と接続法第 2 式の用法について
第 9 回	Lektion 11	再帰代名詞の人称変化について
第 10 回	Lektion 11	比較級・最上級の用法と形態について
第 11 回	Lektion 12	定関係代名詞について
第 12 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞について
第 13 回	Plus 文法と振り返り	Plus 文法と別冊練習問題を使つての文法事項の確認
第 14 回	期末試験、まとめと解説	期末試験、文法事項を中心としたまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

自分の試訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。

期末試験 50 %

平常点（訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加）50 %

出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

Goal: By the end of the course, students should be able to :

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Work to be done outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

PHL300LA

ドイツの思想A

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「批判理論」の成立の過程を、ドイツ語圏の哲学・思想の文脈から概観します。「批判理論」（あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」）と呼ばれる思想潮流は、20 世紀、ドイツ語圏出身のユダヤ系の思想家たちによって構想されました。授業においては、M・ホルクハイマー、Th・W・アドルノといった哲学者たちの言説を中心に、「批判理論」という思考様式がいかに定式化されたのかを理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 批判理論の成立の過程を、ドイツ語圏の哲学・思想の文脈から理解できる。
(B) 批判理論の成立に関わる哲学者たちの思想内容を考察できる。
(C) 批判理論の成立について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	「批判理論」について導入	ドイツ語圏哲学・思想の文脈からみる「批判理論」
第 3 回	批判理論の背景 (1)	ドイツ観念論とその挫折 哲学の学問化・専門化
第 4 回	批判理論の背景 (2)	マルクス主義とフロイト思想 ドイツ語圏におけるユダヤ思想
第 5 回	批判理論の生成 (1)	時代の「危機」意識 社会研究所と『社会研究誌』
第 6 回	批判理論の生成 (2)	亡命と破局の経験 同時代思想との対決
第 7 回	批判理論の定式化 (1)	ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」(1937 年)
第 8 回	批判理論の定式化 (2)	アドルノ『否定弁証法』(1966 年)と「非同一的なもの」の思考
第 9 回	批判理論の実践 (1)	『啓蒙の弁証法』(1947 年)における啓蒙の自己省察

第 10 回	批判理論の実践 (2)	『本来性の隠語』(1963 年)におけるハイデッガーとの対決
第 11 回	批判理論の影響 (1)	亡命からの帰国 戦後思想におけるプレゼンス
第 12 回	批判理論の影響 (2)	68 年運動における「批判理論」 ハーバーマスによる批判的継承
第 13 回	批判理論の展開	「批判理論」の批判 未完のプロジェクトとしての近代
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すしておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・細見和之『フランクフルト学派 ホルクハイマー、アドルノから 21 世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
・『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学 [20 世紀 I]』中央公論新社
・『社会思想史事典』丸善出版
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of Critical Theory in the context of German philosophy.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of Critical Theory, (B) examine it philosophically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会哲学上の幾つかのテーマに沿って、20 世紀ドイツ語圏の「批判理論」の議論を紹介・考察します。現実の矛盾と対決する「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）の哲学者たちは、近現代の社会における幾つかの諸問題について、傾聴に値する議論を展開しています。授業においては、近代化と啓蒙、宗教と道徳、芸術と文化、国家と政治といった諸テーマについて、「批判理論」の議論を参照しながら、現代社会の問題を視野に入れつつ考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 批判理論における社会哲学上の議論を理解できる。
 (B) 扱われた議論について理解したことを、自らの言葉で叙述できる。
 (C) 扱われた議論を、自分が生きる現実の社会と関連させて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	「批判理論」について確認	ドイツ語圏における「批判理論」とその社会哲学上の議論について
第 3 回	近代化と啓蒙 (1)	カントにおける「未成年状態からの脱出」としての啓蒙
第 4 回	近代化と啓蒙 (2)	野蛮に陥る啓蒙 近代化の両義性
第 5 回	近代化と啓蒙 (3)	「未完のプロジェクト」としての近代
第 6 回	宗教と道徳 (1)	近代における信と知 社会の世俗化
第 7 回	宗教と道徳 (2)	生の意味の喪失 宗教の脱魔術化と再魔術化
第 8 回	宗教と道徳 (3)	ポスト世俗の時代の宗教と道徳 宗教的言語の翻訳 (不) 可能性
第 9 回	芸術と文化 (1)	近代における芸術の自律化 「芸術のための芸術」

第 10 回	芸術と文化 (2)	芸術と「文化産業」 政治的美学化と美学の政治化
第 11 回	芸術と文化 (3)	「アウシュヴィッツ以後」の芸術の可能性の模索
第 12 回	国家と政治 (1)	近代的「国家」と民族主義 権威主義と伝統
第 13 回	国家と政治 (2)	ナショナリズムの同一性を超えた政治共同体の可能性の模索
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』（徳永恂訳）、岩波書店〔岩波文庫〕
 - ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』（三島憲一訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
 - ・『社会思想史事典』丸善出版
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of Critical Theory regarding the topics of social philosophy.
 Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the social philosophy of Critical Theory, (B) explain it properly, and (C) examine it in the contemporary context.
 Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 A** 2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【ディズニーとドイツ——〈危険な関係〉？】**

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作として作られた映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、春学期の授業では、ドイツ語圏の児童文学とディズニー作品との関係をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストの内容と文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ 「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など）
第 2 回	『グリム童話集』の歴史	グリム兄弟による成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史
第 3 回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する
第 4 回	『雪白姫』と『白雪姫』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈
第 5 回	『雪白姫』と『白雪姫』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 6 回	『灰かぶり姫』と『シンデレラ』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈

第 7 回	『灰かぶり姫』と『シンデレラ』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 8 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈
第 9 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 10 回	『パンピ』——ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ (1)	原作小説（ザルテン作）と映画の成立過程——その文化的・社会的文脈
第 11 回	『パンピ』——ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ (2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 12 回	ドイツにおけるディズニー	ディズニーがヴァイマル共和国に熱狂を巻き起こす
第 13 回	ディズニー vs ドイツ？	第二次世界大戦中のディズニーとドイツ
第 14 回	ディズニーとドイツ（まとめにかえて）	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を可能な限り設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

Germany and Disney - 'les liaisons dangereuses'?

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on German children's literature and its film adaptation by Disney.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 B** 2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【映画になったハイジたち——児童文学とその映画化から見えてくるドイツ語圏の文化】**

この授業では、ドイツ語圏の児童文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思えます。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、秋学期の授業では、ドイツ語圏の児童文学の名作といわれる小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、ドイツ語圏の文化や歴史について学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストの内容と文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話し（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返りと秋学期の予定
第 2 回	ハイジは誰のもの？	シュベリ『ハイジ』：成立当時の
	(1)	文化的文脈解説／テキスト読解
第 3 回	ハイジは誰のもの？	ハリウッドとスイスでの映画化：
	(2)	原作との差異とその要因・効果
第 4 回	ハイジは誰のもの？	日本に渡ったハイジ：アニメ版の
	(3)	原作との差異とその要因・効果
第 5 回	ケストナー I：『点子 ちゃんとアントン』、 あるいは格差社会と子 供 (1)	エーリヒ・ケストナー：激動の時 代を生きた作家

第 6 回	ケストナー I：『点子 ちゃんとアントン』、 あるいは格差社会と子 供 (2)	原作成立過程の解説／テキスト読 解と映画との比較
第 7 回	ケストナー II：『ふた りのロッテ』、ふたつ の映画化 (1)	成立過程と文化的・社会的文脈の 解説／テキスト読解
第 8 回	ケストナー II：『ふた りのロッテ』、ふたつ の映画化 (2)	ドイツとアメリカでの映画化作品 ：原作小説との差異・その要因と 効果
第 9 回	エンデ I：『はてしな い物語』と『ネバーエ ンディングストー リー』のあいだ (1)	ミヒャエル・エンデとドイツ語圏 の文化・社会／原作小説の成立過 程解説
第 10 回	エンデ I：『はてしな い物語』と『ネバーエ ンディングストー リー』のあいだ (2)	テキスト読解と映画との比較：そ の要因と効果
第 11 回	エンデ II：『モモ』— 一小説・映画・時間 (1)	原作の成立過程とその社会的・文 化的文脈／テキスト読解
第 12 回	エンデ II：『モモ』— 一小説・映画・時間 (2)	原作抜粋と該当する映画シーンの 比較：その差異と要因・効果
第 13 回	魔法を映像化する？ 映画『小さい魔女とワ ルブルギスの夜』とそ の原作	プロイスラーの原作小説テキスト 読解と映画との比較
第 14 回	講義内容のまとめ	児童文学とその映画化から見えて くるドイツ語圏の文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業であつた文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通してください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を可能な限り設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。
春学期・秋学期をととした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Heidi and Her Friends in the Movie: German Children's Literature Read Along with the Film Adaptations"

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on masterpieces of German children's literature and films based on these novels. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA

比較文化 A

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	予備考察（1）	「人間とは食べるところのものである」とは？ 食文化と人間 団体主義社会と個人主義社会
②	予備考察（2）	「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（1）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（2）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（1）	<i>Foodfilm</i> とは何か
⑪	文学と映画における食文化（2）	伊丹十三『タンポポ』などについて

- ⑫ 文学と映画における食文化（3） 小説『バベットの晩餐会』について
- ⑬ 文学と映画における食文化（4） 映画『バベットの晩餐会』について
- ⑭ 総復習 課題に対する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

（Learning Objectives）

- ・ To deepen understanding of different cultures and own culture.
- ・ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- ・ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

（Learning activities outside of classroom）

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

（Grading Criteria /Policies）

Grading will be decided based on worksheets (100%).

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- ・ 人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・ 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・ 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について 課題、ディスカッション
⑩	北欧神話と動物（1）	カラス、オオカミについて
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	課題に対するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

（Learning Objectives）

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

（Learning activities outside of classroom）

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

（Grading Criteria /Policies）

Grading will be decided based on worksheets (100%).

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。 取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。 取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。 取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。 取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。 取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。 取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4 ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。 取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第10回	音楽編5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ	19世紀末から20世紀初めの新しい音楽の世界。 取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク
第11回	建築編1 教会建築にみる様式の発展	ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで
第12回	建築編2 ブランデンブルク門と新古典主義	ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。
第13回	建築編3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義	「メルヘン王」ルートヴィヒ2世の道楽が観光資源になるまで。
第14回	建築編4 ユーゲン・トシュティルから表現主義建築へ	19世紀末から20世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

Introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない？ —とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45年）を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治的美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀から20世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第2回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第3回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第4回	第一次大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第5回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。

第 6 回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第 7 回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実際を明らかにする。
第 8 回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第 9 回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第 10 回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第 11 回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第 12 回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第 13 回	「ベルリンの壁」の建設（1961 年）	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第 14 回	「ベルリンの壁」の崩壊（1989-90 年）	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明 ※オンライン実施予定
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ	・ニューススポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ (室内 競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケッボール	・バスケットボール理論と実践
8	バラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ（室内競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べること、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Term-end examination: 40%、
 in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	市谷体育館 1 階会議室「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	「バドミントンの歴史とルールを知り」バドミントンのラケットとシャトルに慣れ、半面シングルスを行う
3	バドミントン基本練習とゲーム	基本練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）とダブルスゲーム
4	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	卓球	基本練習とダブルスゲーム
6	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
7	バレーボール	対面により「基本練習とゲーム」
8	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
9	バスケットボール	基本練習とゲーム

10	フットサル	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	フットサル	基本練習とゲーム
12	ユニホック	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
13	ユニホック	基本練習とゲーム
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」市谷体育館1階会議室

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しみを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・熱中症）を学ぶことで、健康の知識を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、コミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	市谷体育館1階会議室「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	「バドミントンの歴史とルールを知り」バドミントンのラケットとシャトルに慣れ、半面シングルスを行う
3	バドミントン基本練習とゲーム	基本練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）とダブルスゲーム
4	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	卓球	基本練習とダブルスゲーム
6	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
7	バレーボール	対面により「基本練習とゲーム」
8	バスケット	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
9	バスケットボール	基本練習とゲーム

10	フットサル	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	フットサル	基本練習とゲーム
12	ユニホック	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
13	ユニホック	基本練習とゲーム
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」市谷体育館1階会議室

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・熱中症）を学ぶことで、健康の知識を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、コミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	スポーツ科学とは？	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
3	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール

4	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
5	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
8	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	サクセスフルエイジング	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
11	実技 ：ターゲット型②	ストレッチ・体操（フィットネス） ボッチャ、ペタンクの基本的技術とルール
12	実技 ：その他の種目①	ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジボール、フリスビー、ユニ ホッケーの基本技術とルール
13	実技 ：その他の種目②	ストレッチ・体操（フィットネス） フットサル、カバディ、3on3（ス トリートバスケットボール）の基 本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40 %).

HSS300LA	
スポーツ科学 B	2017 年度以降入学者
サブタイトル：スポーツレクリエーション	
白井 隆長	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 3/Wed.3	
単位数：2 単位	
※定員制（20～30 名）	
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題（少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など）や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目指す。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技とオンラインによる講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	健康とは？ ～ WHO の健康の概念とその変遷～	WHO の健康の概念 JAMA 身体を健康を維持するしくみ
3	実技 ：卓球①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
4	実技 ：バスケットボール①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術とルール

5	実技 ：バスケットボール②	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの実践的技術と応用
6	生活習慣病とスポーツ医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 ：卓球①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
8	実技 ：インディアカ①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） インディアカの基本的技術とルール
9	実技 ：インディアカ①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） インディアカの応用的技術と戦術
10	筋の構造と特性を活かしたコンディショニング	骨格筋の量・質的变化 トレーニング適応 コンディショニング
11	実技 ドッジビー①	レクリエーションスポーツ ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジビーの基本的技術と戦術
12	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
13	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

[Learning activities outside of classroom] Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoomで行う)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨーガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨーガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。

- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設け、形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。
オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. ヨガの考え方を取り入れたストレッチングが理解できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつづいて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoom で行う)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。

4	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガ思想と歴史 (講義および実習)	ヨガ思想の起源や歴史について概説し、原始ヨガ、古典ヨガ、後期ヨガなどを理解する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。 アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を理解し実践する。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガニードラについて説明し、実践を通じて、身体的、精神的変化を感じる。 またヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義ははじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日15時～16時30分の1.5時間を設け、形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内（市谷体育館1階会議室）容・場所等）」
2	バドミントンを知る。	対面により「歴史とルールの説明」と打ってみる
3	バドミントンの基本練習	ネットを挟み1対1で打ち合う。
4	バドミントンの基本練習	ショット練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）
5	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習と半面シングルスゲーム（リーグ戦）
6	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習とオールコートのシングルスゲーム（リーグ戦）
7	ダブルスゲーム	ダブルスのルール説明とゲーム
8	ダブルスのゲーム	ダブルスのゲーム（ペアは一回一回トランプで決める）

9	ダブルスのゲーム	学生がペアを決めてリーグ戦を行う
10	トリプルのゲーム	トリプルのルール説明とゲーム（トランプでペアを決める）
11	基本練習	苦手なショットの練習
12	団体戦	学生達により班を決める（シングルス・ダブルス・トリプル）
13	ゲームフリー	ゲーム（行いたいゲームをこじんできめて行う）
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」AEDの動画を観て使えるようにする）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況70%。

「2」課題・レポート30%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの歴史とルールを下調べ・動画を観てイメージをつける。それにより競技を理解してから実技しているので、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内（市谷体育館1階会議室）容・場所等）」
2	バドミントンを知る。	対面により「歴史とルールの説明」と打ってみる
3	バドミントンの基本練習	ネットを挟み1対1で打ち合う。
4	バドミントンの基本練習	ショット練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）
5	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習と半面シングルスゲーム（リーグ戦）
6	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習とオールコートのシングルスゲーム（リーグ戦）
7	ダブルスゲーム	ダブルスのルール説明とゲーム
8	ダブルスのゲーム	ダブルスのゲーム（ペアは一回一回トランプで決める）

9	ダブルスのゲーム	学生がペアを決めてリーグ戦を行う
10	トリプルのゲーム	トリプルのルール説明とゲーム（トランプでペアを決める）
11	基本練習	苦手なショットの練習
12	団体戦	学生達により班を決める（シングルス・ダブルス・トリプル）
13	ゲームフリー	ゲーム（行いたいゲームをこじんできめて行う）
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」AEDの動画を観て使えるようにする）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）

地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況70%。

「2」課題・レポート30%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの歴史とルールを調べ、動画を観てイメージをつける。それにより競技を理解してから実技しているので、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集团的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集团的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第 10 回	集团的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第 11 回	集团的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第 12 回	集团的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。

第 13 回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第 14 回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リークでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学 B）は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	バレーボールニングについて・体力測定の意義（講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、体力測定の意義について講義する。
第 3 回	ビーチバレーのルールについて（講義）	ビーチバレーのルールについて資料を配布し説明する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 12 回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツ

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ・身体活動を通して、生涯に渡って健康的な生活を営むために必要な知識の習得と生活習慣の形成を目指す。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③様々なスポーツ参加の方法について学び、ライフステージに応じた運動習慣を自ら考えることができる力を身につける。
- ④運動・スポーツを通じて他者とのコミュニケーションをはかり、協調性やチームワークを通じた問題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 9 回程度、教室での講義を 5 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。また、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング・ストレッチ（講義および実習）	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
4	卓球（基礎）（講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス（講義および実習）	卓球のテクニック・試合について学ぶとともに、視覚障害のある人に親しまれている卓球について学ぶ。
6	体づくりとトレーニング（講義および実習）	健康的な体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。

7	スポーツ栄養学 (基礎) (講義)	健康的な生活を送るために必要な 栄養学の基礎知識を習得する。
8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学 び、安全に配慮したゲームを行 う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎につ いて学び、安全に配慮したゲーム を行う。
10	様々なスポーツ参加の 方法とパラ (障害者) スポーツ (講義)	様々なスポーツ参加の可能性につ いて、パラスポーツを基に考え る。
11	ボッチャ (講義および実習)	パラリンピック競技の1つである ボッチャについて学ぶ。
12	バレーボール・シッ ティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基本について学ぶ とともに、パラリンピック競技の 1つであるシッティングバレー ボールについて学ぶ。
13	スポーツ栄養学 (応用) (講義)	第7回の授業を踏まえ、豊かな食 生活を心がけるために必要な実践 的な知識を身につける。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互い に意見を交換を行い、授業全体の 総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire the knowledge and form the lifestyles necessary to lead a lifelong healthy life through exercise, sports, and physical activity.

【Learning Objectives】

(1) To acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.

(2) To acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student and social life.

(3) To learn about various ways to participate in sports and to acquire the ability to develop their own exercise habits according to their life stages.

(4) To communicate with others through exercise and sports, and to acquire problem-solving skills through cooperation and teamwork.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on the following: 60% on assignments (reaction papers, subtests, reports, etc.), 20% on final reports, and 20% on class participation. If you are absent from class or submit assignments after the deadline, your grade will be lowered. If attendance is less than two-thirds of the total number of times the class is held, the grade will be E because it is considered to be less than the number of hours required to obtain credit.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツ

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ・身体活動を通して、生涯に渡って健康的な生活を営むために必要な知識の習得と生活習慣の形成を目指す。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③様々なスポーツ参加の方法について学び、ライフステージに応じた運動習慣を自ら考えることができる力を身につける。
- ④運動・スポーツを通じて他者とのコミュニケーションをはかり、協調性やチームワークを通じた問題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 9 回程度、教室での講義を 5 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講に対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今の新型コロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。特に、春学期のスポーツ科学 A（生涯スポーツ）からの継続履修者がいる場合は、内容が多少変わる可能性がある。また、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング・ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
4	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のテクニック・試合について学ぶとともに、視覚障害のある人に親しまれている卓球について学ぶ。

6	体づくりとトレーニング (講義および実習)	健康的な体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
7	スポーツ栄養学 (基礎) (講義)	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。
8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	様々なスポーツ参加の方法とパラ（障害者）スポーツ (講義)	様々なスポーツ参加の可能性について、パラスポーツを基に考える。
11	ボッチャ (講義および実習)	パラリンピック競技の 1 つであるボッチャについて学ぶ。
12	バレーボール・シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の 1 つであるシッティングバレーボールについて学ぶ。
13	スポーツ栄養学 (応用) (講義)	第 7 回の授業を踏まえ、豊かな食生活を心がけるために必要な実践的な知識を身につける。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire the knowledge and form the lifestyles necessary to lead a lifelong healthy life through exercise, sports, and physical activity.

【Learning Objectives】

- (1) To acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (2) To acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student and social life.
- (3) To learn about various ways to participate in sports and to acquire the ability to develop their own exercise habits according to their life stages.
- (4) To communicate with others through exercise and sports, and to acquire problem-solving skills through cooperation and teamwork.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on the following: 60% on assignments (reaction papers, subtests, reports, etc.), 20% on final reports, and 20% on class participation. If you are absent from class or submit assignments after the deadline, your grade will be lowered. If attendance is less than two-thirds of the total number of times the class is held, the grade will be E because it is considered to be less than the number of hours required to obtain credit.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法
5	安全講習と機器の使用	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係（講義及び実習）
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント（講義及び実習）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）

10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングにつ いて学ぶ (講義及び実習)
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングにつ いて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作 成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題： 40 %
2. 授業への参画状況・各授業で取り組みアクションペーパー： 60 %

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階会議室の予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Report assignments imposed during the final class: 40%.
2. Status of participation in classes , reaction papers to be tackled in each class: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定（講義及び実習）
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）

10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題：40 %

2. 授業への参画状況・各授業で取り組むリアクションペーパー：60 %

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Report assignments imposed during the final class: 40%.
2. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。
- ④就業力（信頼関係構築や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず 2 年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技（卓球）	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
4	講義及び実技（バドミントン）	体力についての講義及びバドミントンの実践
5	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワークについての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技（フットサル）	リーダーの役割についての講義及びフットサルの実践
7	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
8	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
9	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングについての講義及び筋力トレーニングの実践
10	講義及び実技（アルティメット）	コミュニケーションについての講義及びアルティメットの実践

11	講義及び実技（卓球）	メンタルヘルスケアについての講義及び卓球の実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	エネルギー（栄養・水分）の補給についての講義及びバスケットボール実践 レポート課題の提示
13	講義「休養（睡眠）と健康」	休養（睡眠）と健康についての講義
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
- ②課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力（信頼関係や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成される。毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定的重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技（卓球）	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
4	講義及び実技（バドミントン）	体力についての講義及びバドミントンの実践
5	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワークの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技（フットサル）	リーダーの役割についての講義及びフットサルの実践
7	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
8	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
9	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングについての講義 及び筋力トレーニングの実践

10	講義及び実技（アルティメット）	コミュニケーションの重要性についての講義及びアルティメットの実践
11	講義及び実技（卓球）	メンタルヘルスケアについての講義及び卓球の実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	エネルギー（栄養・水分）の補給についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及び「休養と健康」	休養（睡眠）と健康についての講義
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの科学と実践・基礎

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

このゼミナールは 2 年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的に応じたトレーニング方法に着目した研究を計画し、その効果を検証**していくゼミナールです。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形態でゼミを開講します。しかし、Covid-19 の感染状況によっては、対面形態とオンライン形態を組み合わせたブレンド型で開講します。ブレンド型とは、ゼミ 14 回のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する方式です。

Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合は、ゼミの開講計画を変更し、学習支援システム（通称：Hoppii）で提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii または LINE などを通じて行う予定です。また、ゼミに関するリアクションペーパーなどにおいて税民相互に共有すべきと判断されたコメントは時間内で紹介しゼミ活動に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施

2	課題検討期Ⅰ・測定	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・測定結果の評価	<教室> ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期Ⅲ・トレーニング方法	<教室> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期Ⅰ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラム作成	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期Ⅰ・トレーニング種目の仮決定	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期Ⅱ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期Ⅲ・トレーニング強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の決定	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する

13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 **2 時間**（計 **4 時間**）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも **自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

このゼミナールの単位を認定する評価は、**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. リアクションペーパーおよびレポート：**30 %**
2. 成果発表（レジュメ、発表のための資料、発表の態度など）：**70 %**

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は少人数制の教養ゼミであるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていたと思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて履修したようで、**2017 年度**および**2018 年度**の履修者は**25 名以上**となり、ゼミ中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、**2019 年度**のゼミにおいては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的なゼミ活動にしました。

しかしながら、**2020 年度**および**2021 年度**は **Covid-19** の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、オンラインのリアルタイム双方向方式を導入したため、計画していた対面形態のゼミを断念した回がありました。

このゼミを履修した皆さんからの意見は、最終回のアンケートによって把握しました。その結果、オンラインに対する評価や感想は非常に良かった印象です。対面においても自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンラインの方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2022 年度は **2021 年度**の反省を踏まえ、新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が10名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a seminar for students to enhance their education on health promotion in the future. The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

【Learning Objectives】

- 1: Safe use of training equipment
- 2: Able to use various measurement methods applied to training equipment.
- 3: To be able to evaluate training effects based on measurement results
- 4: To be able to implement training methods according to the purpose
- 5: To be able to record the results of training correctly
- 6: To be able to present the learning process of verifying the training effect.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation for awarding credits for this seminar will be based on the following criteria for the five items indicated in the achievement objectives.

- 1) Reaction papers and reports: 30%.
- 2) Presentation of results (resume, materials for the presentation, attitude toward the presentation, etc.): 70%.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの科学と実践・応用

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な開講形態は教養ゼミⅠと同様ですが、各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形態でゼミを開講します。しかし、Covid-19の感染状況によっては、対面形態とオンライン形態を組み合わせたブレンド型で開講します。ブレンド型とは、ゼミ14回のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する方式です。

Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合は、ゼミの開講計画を変更し、学習支援システム（通称：Hoppii）で提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii または LINE などを通じて行う予定です。また、ゼミに関するリアクションペーパーなどにおいて税民相互に共有すべきと判断されたコメントは時間内で紹介しゼミ活動に活かします。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期 Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期 Ⅲ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワーク ②授業の1回目および2回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 Ⅰ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 Ⅱ・トレーニング方法の再検討	＜教室＞ ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン＞ ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ③測定結果を分析・評価する ④リアクションペーパー作成
13	発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析	＜トレセン＞ ①グループワーク ②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する ③リアクションペーパー作成
14	発表・共有期Ⅱ、総括	＜教室＞ ①グループワーク ②トレーニング効果の検証結果を発表する ③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

このゼミナールの単位を認定する評価は、**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. リアクションペーパーおよびレポート：**30%**
2. 成果発表（レジュメ、発表のための資料、発表の態度など）：**70%**

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は少人数制の教養ゼミであるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていたと思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて履修したように、**2017年度および2018年度**の履修者は**25名以上**となり、ゼミ中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、**2019年度**のゼミにおいては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的なゼミ活動にしました。

しかしながら、**2020年度および2021年度**は**Covid-19**の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、オンラインのリアルタイム双方向方式を導入したため、計画していた対面形態のゼミを断念した回がありました。

このゼミを履修した皆さんからの意見は、最終回のアンケートによって把握しました。その結果、オンラインに対する評価や感想は非常に良かった印象です。対面においても自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンラインの方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしなかったなどの意見も寄せられました。

2022年度は2021年度の反省を踏まえ、新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a seminar for students to enhance their education on health promotion in the future. The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

【Learning Objectives】

1: Be able to implement training methods according to objectives.

2: To be able to create a step-by-step plan to help achieve goals.

3: To be able to implement the step-by-step plan

4: To be able to verify the effects of training after a certain period of time.

5: To be able to present the verified training effects

【Learning activities outside of classroom】

Students have to take active acts in class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation for awarding credits for this seminar will be based on the following criteria for the five items indicated in the achievement objectives.

1) Reaction papers and reports: 30%.

2) Presentation of results (resume, materials for the presentation, attitude toward the presentation, etc.): 70%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。

4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせる実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ※オンライン予定	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニュースポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ (室内 競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル ・バスケットボール	・フットサル/バスケットボール理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	バラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ（室内競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル ・バスケットボール	・フットサル/バスケットボール理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同様の授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エビデンスから学ぶ運動・食事と身体の変化

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」、「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」、「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 6 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 7 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第 8 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する（演習）
第 9 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第 10 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 11 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第 12 回	身体活動によって変化する生理的要因 5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ

第 13 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ(演習)
第 14 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成(骨格筋の増減など)に向けた身体活動案を提案する(プレゼンテーション)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践(田中喜代次・大蔵倫博 編/金芳堂/2006)

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度(授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価)：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、可能な限り対面での授業を実施しましたが、履修者が少なく、測定等は時間をかけて実施できた一方、当初計画していた種々の演習が出来ない状況でした。そのため、履修学生の皆さんには、予定していた受講生間のディスカッションの機会を十分に提供することができませんでした。次年度の授業は、実際に自らの身体を測定・評価したり、食事内容を確認したりしながら、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：心身の健康を可能にする情報・実践を探る

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制(20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状態を学ぶ
第 4 回	様々な対象における健康の考え方 3	健康行動(運動実践・食事改善)を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する(演習)
第 5 回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第 6 回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第 7 回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する(演習)
第 8 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第 9 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ
第 10 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「分析・評価」する手法を学ぶ
第 11 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する(演習)
第 12 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する(演習)
第 13 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する(演習)
第 14 回	探求テーマに関する集約結果の報告	探求テーマについて情報を集約・検討した結果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第11～13回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高点」（課題数 × 100）】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2021年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションがほぼできない状況でした。そのため、履修してくれた学生の期待に沿えなかった部分が多々あったと感じています。次年度は、2021年度から内容を少し変更していますが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：こころと体のコンディショニング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上、傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解できる。コンディショニングの要素となる身体的因子、環境的因子、心理的因子について、説明できる。コンディショニングの評価の必要性及び評価の方法について説明できる。トレーニング計画とコンディショニングについて理解し、ピリオダイゼーションの理論や背景について、説明でき、自身のトレーニング計画を立案できる。競技力向上のためのコンディショニングの具体的な方法について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoomで行う)	講義全体のガイダンスとして今後の予定を含めて行う。 またコンディショニングの総論に関する講義を行う。
2	コンディショニングの要素	コンディショニングの要素である、身体的因子、環境的因子、心理的因子に関する講義を行う。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷および障害）について、説明し、その原因を対策について説明する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、損傷細胞の修復メカニズムについて説明する。
6	スポーツ外傷の応急処置	RICE処置について、生体における効果（変化）を説明し、実際にアイシングを試してみる。

7	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの実践	コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニングについて、方法を学び実践する。
8	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実習を行う。
9	スポーツマッサージとコンディショニング	マッサージの歴史や生理学的効果を学習するとともに、学生同士実践する。 セルフマッサージの手法を説明し学生自身で実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手（愛好家）が比較的によく利用する、鍼灸について、治効理論を説明し、実際の場面を実演する。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割（効果）について講義を行う。
12	睡眠とコンディショニング	睡眠が果たすコンディショニングの役割について、その効果やメカニズムについて講義を行う。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割を説明する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。講義前日までに学習支援システム上に講義資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6（予防とコンディショニング）
2. 人体の不思議、日経サイエンス社
3. ヨガ根本経典、佐保田鶴治、平河出版社
4. iRest Yoga Nidra、リチャード・ミラー

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの具体的な例を挙げ、実技を取り入れながら講義を行うことで、理解が深まりやすいと考えられる。
実技のポイントは繰り返し言葉にできるように心がける。
提出された課題の内容について、授業の最初にフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設け、形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students are expected to understand states of “condition” and learn the purposes, elements, evaluation methods of conditioning. Being in the good condition leads athletes to the better performance, resulting in the better competitive outcomes. This lecture guides student athletes to learn the basic conditioning program and competition preparation program and helps them acquire the ability to practice such programs.

【Learning Objectives】

Understand the many different types of conditioning.

To be able to explain the physical, environmental, and psychological factors that constitute conditioning.

To be able to explain the necessity of condition assessment and methods of assessment.

Understand training plans and conditioning, and be able to explain the theory and background of periodization, and formulate their own training plans.

Understand and be able to practice specific methods of conditioning to improve athletic performance.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進捗の調整

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂版）』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。
宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30 %

②期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent. The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents. Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級 I と継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・ 命令形 ・ 時の表現 人・ものを描写する ・ IR 動詞（つづき） ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	中間まとめ	・ これまでの学習事項を総復習 ・ 進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂版）』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

① 平常点（ミニ課題など）：30 %

② 期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ポピュリズムと世界 ～Go Global に疲れたあなたへ～

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化への反発を含むポピュリズムが、世界各国の政治を揺り動かしています。春学期科目であるこの教養ゼミ I 「ポピュリズムと世界 ～Go Global に疲れたあなたへ～」では、外国人嫌悪や、いわゆるアイデンティティ政治へのバックラッシュ、そして文化的「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてます。「21 世紀の社会において、私たちは、どのような文化を欲しているのか？」を中心的な課題としつつ、学生の皆さんから提供された話題や質問、意見交換を中心に、組み立てられているセミナーです。

【到達目標】

このセミナーの目標は、英語、日本語、またはその他の言語の使用に習熟することにはありません。コースの終わりに、学生の皆さんは次のことができるようになるはずです：

- 1) 21 世紀の私たちの社会にどのような民主主義文化がふさわしいかという考え（シティズンシップ）を身につけるための第一歩を踏み出している。
- 2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なるが、こうした異なる意味合いに関する基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。
- 4) Google スライド、Google ドキュメント、Zoom の画面共有を使用したプレゼンテーションを通じて、自分の考えや気持ちを適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) このシラバスを執筆している 2022 年 2 月 10 日の時点では、2022 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難です。感染状況が落ち着いている限り、対面授業をおこないますが、HyFlex や Zoom 録画を利用するなどして、欠席者にも配慮します。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。昨年度のこの授業でじっさいに提供された話題の一部を下記に掲載しますので、参考にしてください。

(ウ) 教科書の内容にかんする教員の説明と、学生からの質問や意見の交換をおこないます。

【昨年度のこの授業「教養ゼミ I」で学生の皆さんが提供してくださった話題（一部）】

漫画『ドラゴン桜』における桜井のスピーチとポピュリズムの比較；TV シリーズ「ファルコン&ウィンター・ソルジャー」において、国境を廃して富を分配することを目的とし、世界に溢れる移民・難民から支持されるテロ集団フラグスマッシューズ；小説『野良ビトたちの燃え上がる肖像』において、大企業を中心に富の集中が進み、野良ビトたちへの迫害が激化する世界で、生きるためにともに戦うヒトとネコ；『人新世の資本論』における気候ファシズム；アルゼンチンアリの世界をまたぐスーパーコロニー；漫画『ゴールデンカムイ』における入れ墨争奪戦、等

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ポピュリズムの指導者②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画 / Schedule】で予定されている教科書のページをあらかじめ読む。

(イ) 指定する LMS (Google Classroom) の場所に、話題提供用の資料（リンクなどを含む）を授業開始時刻より前に貼りつける。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

この教科書は法政大学図書館に所蔵がありますが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵があります。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵があります。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できます。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx?sogo>

【参考書】

クリストファー・ラッシュ『エリートの反逆』森下伸也訳、新曜社、1997 年。

E・E・シャットシュナイダー『半主権人民』内山秀夫訳、而立書房、1972年。
マイケル・ヤング『メリトクラシー』窪田鎮夫&山元卯一郎訳、講談社エディトリアル、2021年。

Raphaël Doan, Quand Rome inventait le populisme, Les Éditions du Cerf, 2019.

Olivier Dard, Christophe Boutin, Frédéric Rouvillois, Le Dictionnaire des populismes, Les Éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供1回3点）55%
2. 授業参加の積極性（授業中の討論における発言や質問）30%
3. その他（授業運営への貢献など）15%

【学生の意見等からの気づき】

【授業の進め方と方法】に記載した【昨年度のこの授業「教養ゼミⅠ」で学生の皆さんが提供してくださった話題】から多くを学びました。これらの話題についての討論が授業時間のかなりの部分を占めています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や学生からの話題提供に、Google Classroom や Hoppii、Zoom を使うため、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器と、自宅から接続する場合は、こうした機器やサービスを利用するうえで、十分な情報環境が必要です。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミⅠ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語Ⅰ」や「時事フランス語Ⅱ」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Presentations by students (3 points per topic) - 55%
2. Active participation in class (comments and questions during class debates) - 30%.
3. Other contributions to class management - 15%.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会と「文化や宗教の違い」をめぐる議論

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国境をまたいだ人の移住が多い今日の社会において、「文化や宗教の違い」を受け入れるとは、どういうことでしょうか？ 移民など少数派のあらゆる文化や宗教を、多数派が例外なしにすべて受け入れなければならないということでしょうか。逆に、少数派の側が、受け入れ国の文化や宗教に完全に同化しなければならない、ということでしょうか。秋学期科目である、この教養ゼミⅡでは、こうした「文化や宗教の違い」をめぐる理想と現実について、伝統的にリベラルかつ寛容な社会として知られてきたオランダにおける政策転換をひとつの事例としつつ、議論します。この科目は、学生の皆さんから提供された話題や質問、意見交換を中心に、組み立てられているセミナーです。

【到達目標】

このセミナーの目標は、英語、日本語、またはその他の言語に習熟することにはありません。コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるはずです：

- 1) 人口 1700 万人強のオランダが、なぜ（英語というよりは）オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう非ヨーロッパ系の移民に対し求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けつつ、ひとつの答えを構想することができる。
- 2) 「文化」や「宗教」が、国や歴史時代によっても異なる意味合いについて、基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。
- 4) Google スライド、Google ドキュメント、Zoom の画面共有を使用したプレゼンテーションを通じて、自分の考えや気持ちを適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) このシラバスを執筆している 2022 年 2 月 10 日の時点では、2022 年 9-12 月期の感染拡大状況を予測することは困難です。感染状況が落ち着いている限り、対面授業をおこないますが、HyFlex や Zoom 録画を利用するなどして、欠席者にも配慮します。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。昨年度のこの授業でじっさいに提供された話題の一部を下記に掲載しますので、参考にしてください。

(ウ) 教科書の内容にかんする教員の説明と、学生からの質問や意見の交換をおこないます。

【昨年度のこの授業「教養ゼミⅡ」で学生の皆さんが提供してくださった話題（一部）】

イギリス・フランス・日本のワクチン政策や水際対策の違い； Milli 「塩と胡椒と鳥と思想警察」のおしゃれな旋律と、同化の凄惨さ；黒人初のルイ・ヴィトン・メンズラインのディレクターとなったヴァージル・アブロー；武蔵野市の外国人の住民投票を認める条例案にかんするメディア報道のあり方；『虐殺器官』におけるジョン・ボールの「文法」とポピュリズム；日本における移民の労働先としての某チェーン店；Mika の楽曲「Relax, Take It Easy」におけるレバノン内戦中に片目と夫を失った女性の語り；英仏海峡における移民対策をめぐる対立；ペラルーシのルカシェンコ大統領による移民のポーランド国境への誘導；ラジ・リ監督の映画『レ・ミゼラブル』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈 列柱社会／オランダにおける「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルティン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルティン党の躍進とフォルティン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画 / Schedule】で予定されている教科書のページをあらかじめ読む。

(イ) 指定する LMS (Google Classroom) の場所に、話題提供用の資料（リンクなどを含む）を授業開始時刻より前に貼りつける。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

※図書館からの貸し出しを利用する場合は、下記を参考にしてください。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993年。

永吉希久子『移民と日本社会』中公新書、2020年。

Jan Willem Duyvendak et Marieke Slootman, « Les musulmans à l'intérieur de la « Maison néerlandaise » », Hommes & migrations, 1316 | 2017, 9-15.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1回3点）55%
2. 授業参加の積極性（授業中の討論における発言や質問）30%
3. その他（授業運営への貢献など）15%

【学生の意見等からの気づき】

【授業の進め方と方法】に記載した【昨年度のこの授業「教養ゼミⅡ」で学生の皆さんが提供して下さった話題】から多くを学びました。これらの話題についての討論が授業時間のかなりの部分を占めています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や学生からの話題提供に、Google Classroom や Hoppii、Zoom を使うため、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器と、自宅から接続する場合は、こうした機器やサービスを利用するうえで、十分な情報環境が必要です。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

（※）この「教養ゼミⅡ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語Ⅰ」や「時事フランス語Ⅱ」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.

2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.

3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.

4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Presentations by students (3 points per topic) - 55%
2. Active participation in class (comments and questions during class debates) - 30%.
3. Other contributions to class management - 15%.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Au premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié sur quelques séances pour permettre un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1 ou plus) ou "kentei-shiken".

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- note de synthèse.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants

③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopies, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà. (仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence peuvent être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (リポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faut apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux.

Le travail par groupes est organisé en fonction du nombre des étudiants.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL. Mais les étudiants sont libres d'apporter ordinateur ou smartphone pour utilisation en cours (recherches sur internet, enregistrement de son ou d'image, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présentiel.

【Prerequisite】

Un niveau A2 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline (in English)】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from two to four hours.

This seminar-type course prepares directly for French proficiency tests (B1 or B2 levels) or for a stay in a french-speaking university.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), oral presentation (30%), final paper (30%).

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; la gestion de la crise Covid ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1 ou plus) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

Le travail par groupes sera organisé en fonction du nombre d'inscrits à ce cours.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'utiliser ordinateur personnel ou smartphone (recherches sur internet, enregistrement de sons ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours d'automne se déroule en présenciel.

【Prerequisite】

Un niveau A2 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline (in English)】

During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; Covid crisis in France; etc.

This is a seminar aimed at developing academic skills.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from two to four hours.

This seminar-type course prepares directly for French proficiency tests (B1 or B2 levels) or for a stay in a french-speaking university.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), oral presentation (30%), final paper (30%).

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準2級・2級) ainsi qu'aux séjours en France comme le Study Abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse en confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle lui permet aussi de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

Les corrections d'exercices ou de tests seront faites en classe mais l'on pourra aussi utiliser le système LMS (授業支援システム) pour une offre de documents supplémentaires ou des compléments de correction.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Faisons connaissance ! Présentation de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : C'est la vie (1)	Se présenter, parler de sa vie ; le passé composé
3	Unité 1 : C'est la vie (2)	Sorties et loisirs ; la phrase négative
4	Unité 1 : C'est la vie (3)	Le temps libre ; quizz
5	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (1)	Le(s) souvenir(s) ; l'imparfait
6	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (2)	Souvenirs de vacances ; pronoms de lieu "y" et "en"
7	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (3)	Souvenirs de lieux ; préparation au DELF A2 (compréhension des écrits)
8	Unité 3 : À la recherche d'un toit (1)	Le logement ; les pronoms relatifs

9	Unité 3 : À la recherche d'un toit (2)	Se loger à Montréal ou à Paris ; la comparaison
10	Unité 3 : À la recherche d'un toit (3)	Logements insolites ou futuristes ; les pronoms possessifs
11	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (1)	Les innovations des sciences et techniques ; le futur simple
12	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (2)	Smartphone et technologies de la communication ; la condition avec "si"
13	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (3)	Internet ; le pronom "on"
14	Récapitulatif du 1er semestre	Préparation du DELF A2 (la production écrite) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (au moins deux heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

Un dictionnaire - sous forme de livre - sera préféré à une application sur portable (ex. Le Dico, Hakusuisha).

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel).

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), tests, assigned papers & presentations (60%).

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours continue de s'adresser à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準 2 級・2 級).

Il prépare aussi activement à un séjour en pays francophone.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

Les corrections d'exercices ou de tests seront faites en classe mais l'on pourra aussi utiliser le système LMS (授業支援システム) pour une offre de documents supplémentaires ou des compléments de correction.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation du 2nd semestre	Obligation et interdiction Le corps
	Unité 5 : En forme ? (1)	
2	Unité 5 : En forme ? (2)	Le subjonctif (1) La santé
3	Unité 5 : En forme ? (3)	Le subjonctif (2) Santé et médecine
4	Unité 6 : Côté cuisine (1)	Le pronom "en" Les aliments
5	Unité 6 : Côté cuisine (2)	Le superlatif Le restaurant
6	Unité 6 : Côté cuisine (3)	L'adverbe Spécialités gastronomiques
7	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (1)	Lequel ? Le physique

8	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (2)	Adjectifs indéfinis Le caractère
9	Unité 8 : L'actu en direct (1)	Cause et conséquence L'information
10	Unité 8 : L'actu en direct (2)	La place des pronoms COD et COI La presse et les médias
11	Unité 10 : On part en voyage ? (1)	Passé composé et imparfait Le voyage
12	Unité 10 : On part en voyage ? (2)	Les pronoms démonstratifs Le tourisme
13	Unité 12 : L'appel de la nature (1)	L'expression du but L'environnement
14	Unité 12 : L'appel de la nature (2)	La forme passive Les animaux

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (au moins deux heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

Un dictionnaire - sous forme de livre - sera préféré à une application sur portable

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel).

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is designed for students with an A1 level (2 or 3 semesters of French already completed). Reading, listening, speaking and writing are actively worked on. This course also presents elements of French society and culture.

This course allows A1 level students to methodically progress to a full A2 level. It also actively prepares for a language stay in France.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), tests, assigned papers & presentations (60%).

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者**木部 敬**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A 2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2（基本レベル）の受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介	テキストの読解、質疑応答、文法復習
2	職業	テキストの読解、質疑応答、文法復習
3	国籍	テキストの読解、質疑応答、文法復習
4	外国語	テキストの読解、質疑応答、文法復習
5	家族	テキストの読解、質疑応答、文法復習
6	街の中：モスクワ	テキストの読解、質疑応答、文法復習
7	モスクワ大学	テキストの読解、質疑応答、文法復習
8	モスクワのお店	テキストの読解、質疑応答、文法復習
9	お買い物	テキストの読解、質疑応答、文法復習
10	天気予報	テキストの読解、質疑応答、文法復習
11	ロシアの気候	テキストの読解、質疑応答、文法復習
12	好きな季節	テキストの読解、質疑応答、文法復習

13 復習

文法練習

14 期末試験

筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、出席および宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)、Zoom 授業になる場合に WiFi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	健康・お体調	テキストの読解、会話練習
2	病院・ロシアの医療体制	テキストの読解、会話練習
3	普通の日	テキストの読解、会話練習
4	「運命の出会い」	テキストの読解、会話練習
5	ロシアの週末	テキストの読解、会話練習
6	ダーチャの文化	テキストの読解、会話練習
7	赤広場	テキストの読解、会話練習
8	モスクワの美術館	テキストの読解、会話練習
9	ロシアの文学	テキストの読解、会話練習
10	ロシアのクラシック音楽	テキストの読解、会話練習
11	ロシアのスポーツ	テキストの読解、会話練習
12	ロシアの年中行事	テキストの読解、会話練習
13	お祝い	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介し、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業のプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)、Zoom 授業になる場合に WiFi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K II) A2 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 基本レベル (T P K II A2) の受験に向けて準備できること。

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介	会話練習、リスニング
2	週のスケジュール	会話練習、リスニング
3	1 日の流れ	会話練習、リスニング
4	趣味	会話練習、リスニング
5	街を歩く	会話練習、リスニング
6	モスクワの見物	会話練習、リスニング
7	買い物-1（値段）	会話練習、リスニング
8	買い物-2（お店にて）	会話練習、リスニング
9	食べ物	会話練習、リスニング
10	レストランの注文	会話練習、リスニング
11	家の話	会話練習、リスニング
12	部屋の話	会話練習、リスニング
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

There will be homework using the audio data in each lesson. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業の場合にスマートフォンやタブレット端末かパソコン、ヘッドセット及びインターネット環境が必要です。授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。

対面授業の場合にも Hoppi 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更されます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study in Russia or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the T P K II A2, as well as for those who have already passed the test in order to maintain their language skills.

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K II) A2 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験基本レベル (T P K II A2) の受験に向けて準備できること。

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは学習支援システムにてダウンロードができます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「映画」	リスニング練習、会話練習
2	「私の行くところ」	リスニング練習、会話練習
3	「週末に行くところ」	リスニング練習、会話練習
4	「私の旅」	リスニング練習、会話練習
5	移動動詞のまとめ	リスニング練習、会話練習
6	「空港で」	リスニング練習、会話練習
7	「ロシアの祭日」	リスニング練習、会話練習
8	「プレゼントの文化」	リスニング練習、会話練習
9	「学習」	リスニング練習、会話練習
	動詞の体：プロセス	
	対 結果	
10	「私のするべきこと」	リスニング練習、会話練習
	動詞の体：反復 対	
	「今回」	
11	動詞の体：まとめ	リスニング練習、会話練習
12	体調の話	リスニング練習、会話練習
13	「病院で」	リスニング練習、会話練習
14	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

There will be homework using the audio data in each lesson.

The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験範囲ははっきりしています。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業の場合にスマートフォンやタブレット端末かパソコン、ヘッドセット及びインターネット環境が必要です。授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。

対面授業の場合にも Hoppi 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更されます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills. This course is recommended for students who want to study in Russia or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the T P K II A2, as well as for those who have already passed the test in order to maintain their language skills.

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その 1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その 2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その 3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する 19 世紀科学」
7	テキスト講読（その 4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その 5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その 6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その 7）歴史	短文「アレクサンドル 1 世」、「ニコライ 2 世」
11	テキスト講読（その 8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その 9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その 10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節）」
3	テキスト講読（その3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」

11	テキスト講読（その11）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳（翻訳）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業はテーマ群ごとに 2 回の授業で構成する。1 回目の授業は課題配信型（オンライン）とし、各自で記事の翻訳を行い、教員がその内容を添削する。2 回目の授業は対面形式で行い、記事の内容（文法事項・語彙も含む）の確認およびディスカッションを行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	内政②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	外交①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	外交②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	宗教①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	宗教②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	文化①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	文化②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	ビジネス①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	ビジネス②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	テクノロジー①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	テクノロジー②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業はテーマ群ごとに 2 回の授業で構成する。1 回目の授業は課題配信型（オンライン）とし、各自で記事の翻訳を行い、教員がその内容を添削する。2 回目の授業は対面形式で行い、記事の内容（文法事項・語彙も含む）の確認およびディスカッションを行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	社会②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	司法①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	司法②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	経済①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	経済②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	環境①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	環境②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	スポーツ①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	スポーツ②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	ナショナリズム①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	ナショナリズム②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。
e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。**【成績評価の方法と基準】**

- ① 期末試験 : 50 %
② 「e 宿題」（予習・復習状況）: 20 %
③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, e 宿題: 20%, in class contribution: 30%

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。**【成績評価の方法と基準】**

- ① 期末試験 : 50 %
② 「e 宿題」（予習・復習状況）: 20 %
③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, e 宿題: 20%, in class contribution: 30%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭ですとと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60 %）と発表（40 %）で評価される。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 中訳スキル リプロセッシングとパラフレーズ 1	L 1 の逐次通訳演習 L 2 東京案内 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 2 の逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳 3 数字、固有名詞、リサーチ	L 3 の逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳 3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳 4 通訳 短期記憶強化 リプロセッシングとパラフレーズ 2	L 5 の逐次通訳演習 L 6 日本事情 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 4 時事翻訳 1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳 5 既習単元の逐次通訳演習	L 6 の逐次通訳演習 L 1～6 の復習
13	翻訳 5 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に参考となる web サイト等は指定することがある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答状況 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

中国語の読解力がついた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 日中の制度等の違いを 踏まえて通訳する 他	L 8 教育
3	翻訳 1	時事翻訳 1
4	通訳 2 分訳 パブリック・スピーキング	L 8 の逐次通訳演習 L 9 友好都市交流
5	翻訳 2	時事翻訳 2
6	通訳 3 外来語	L 9 の逐次通訳演習 L 10 ファッション
7	翻訳 3	時事翻訳 3
8	通訳 4 固有名詞・作品タイトル 接続詞処理	L 10 の逐次通訳演習 L 11 日本のポップカルチャー
9	翻訳 4	時事翻訳 4
10	通訳 5 IT 関連用語 数字	L 11 の逐次通訳演習 L 12 中国の IT 市場
11	翻訳 5	時事翻訳 5

12	通訳 6 既習単元の逐次通訳演習	L 12 の逐次通訳演習 L 8～12 逐次通訳演習
13	翻訳 6	時事翻訳 6
14	通訳 翻訳 総復習 到達度チェック	既習内容の総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に、参考となる web サイト等を指定することはある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答	10 %
課題提出状況	20 %
期末テスト	70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

通訳スキルの習得が非常に参考になった。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time	10%
Submission of assignments	20%
Final examination	70%

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期は HSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。

※初回と最終回はオンラインで、それ以外は対面（ハイフレックス型を含む）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）

そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（授業内で扱った内容の確認テスト）50 %

②授業参加度（取り組み状況、単語の確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料なども提示しながら、文章の内容をイメージできるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期は HSK 4、5 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（授業内で扱った内容の確認テスト）50 %

②授業参加度（取り組み状況、単語の確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料なども提示しながら、文章の内容をイメージできるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANc300LA

資格中国語中級A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取る。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.

(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.

・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語上級A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック HSK 合格の基準 HSK 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のまとめ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習（400 字） 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第 6 回	HSK5 級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第 7 回	HSK5 級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第 8 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400 字）
第 9 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第 10 回	HSK5 級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第 11 回	HSK5 級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第 12 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習（400 字）
第 13 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第 14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されていました。続けてこのやり方でやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めることを目指します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、次の授業の時に全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
12 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その文法を学習してきちんとした課題を提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』および、「吃貨（くいしんぼう）」のための食エッセイ『吃貨辞典』（崔岱遠著、2014 年、商務印書館/邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）などを教材として用いながら、中国の食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・中国の映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・中国の地理、地域の特徴、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して中国の食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特徴のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1、崔岱遠『吃貨辞典』2014 年、商務印書館（邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）の中から、料理をいくつかピックアップして一緒に読んでいきます。内容について事前に複数人にあてますので、簡単に調べて発表してもらう予定です。

2、適宜、「舌尖上的中国」の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を事前に配布しますので、各自で予習をしてください。映像を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行い、内容への理解を深めます。

3、毎回授業の終わりに授業内容に関するリアクションペーパーを提出してもらいます。

翌週の授業内で前回のリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

中国語文献をあつかう際は読解に重点を置いてゆっくり進めます。初修中国語（1 年間）の学習歴が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	北京の「炸醬麵」（1）	『吃貨辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「炸醬麵」にかんする調査・発表
3	北京の「炸醬麵」（2）	前回のつづき。 （「炸醬麵」にかんする映像資料『中国麵ロードを行く』等）
4	清明節の行事食「青团」	『吃貨辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「青团」にかんする調査・発表

5	端午節の行事食「粽子」（1）	『吃貨辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「粽子」にかんする調査・発表
6	端午節の行事食「粽子」（2）	前回のつづき。 （「粽子」にかんする映像資料『舌尖上的中国』）
7	天津の「煎餅果子」（1）	紅さんの露店の「煎餅果子」にまつわる物語（映像資料『舌尖上的中国』）
8	天津の「煎餅果子」（2）	紅さんの露店の「煎餅果子」の秘訣（映像資料『舌尖上的中国』）
9	天津の「煎餅果子」（3）	地域に愛される紅さんの露店の「煎餅果子」（映像資料『舌尖上的中国』）
10	「煎餅果子」（4）	『吃貨辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「煎餅」にかんする調査・発表
11	広州の早茶と「叉焼包」（1）	陳助がつくる「叉焼包」（映像資料『舌尖上的中国』）
12	広州の早茶と「叉焼包」（2）	陳助がつくる「叉焼包」と点心四天王（映像資料『舌尖上的中国』）
13	ふりかえり	春学期のふりかえりと復習
14	まとめ	期末レポートの（中間）発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で指示します。

【参考書】

崔岱遠著『吃貨辞典』、2014 年、商務印書館（邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）
CCTV「舌尖上的中国」

【成績評価の方法と基準】

①授業参加度：60 %（担当箇所の発表・翻訳や感想の提出状況）
②期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料などを使い、分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper: 40%, in class contribution: 60%

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』および、「吃货（くいしんぼう）」のための食エッセイ『吃货辞典』（崔岱遠著、2014 年、商務印書館/邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）などを教材として用いながら、中国の食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・中国の映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・中国の地理、地域の特徴、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して中国の食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特徴のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1、崔岱遠『吃货辞典』2014 年、商務印書館（邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）の中から、料理をいくつかピックアップして一緒に読んでいきます。内容について事前に複数人にあてますので、簡単に調べて発表してもらう予定です。

2、適宜、「舌尖上的中国」の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を事前に配布しますので、各自で予習をしてください。映像を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行い、内容への理解を深めます。

3、毎回授業の終わりに授業内容に関するリアクションペーパーを提出してもらいます。

翌週の授業内で前回のリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

中国語文献をあつかう際は読解に重点を置いてゆっくり進めます。初修中国語（1 年間）の学習歴が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	「苦」味を代表する「陳皮」（1）	「陳皮」について（映像資料『舌尖上的中国』等）
3	「苦」味を代表する「陳皮」（2）	澳門のあるレストランの「陳皮鴨」（映像資料『舌尖上的中国』）
4	「酸」味を引き出す調味料	鎮江の黒醋について（映像資料『舌尖上的中国』）
5	「辣」味を引き出す調味料	豆板醤について（映像資料『舌尖上的中国』）
6	豆板醤を使った「宮保丁鶏」	『吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「宮保丁鶏」にかんする調査・発表

7	「麻辣」味の料理	「藤椒魚」と重慶の「麻辣火鍋」（映像資料『舌尖上的中国』）
8	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」（1）	『吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「燙干糸」にかんする調査・発表
9	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」（2）	吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「獅子頭」にかんする調査・発表
10	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」（3）	治春茶社の「燙干糸」と「獅子頭」（映像資料『舌尖上的中国』）
11	甘肅省蘭州の「牛肉麵」（1）	『吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「牛大碗」にかんする調査・発表
12	甘肅省蘭州の「牛肉麵」（2）	蘭州「牛肉麵」の作り方（映像資料『舌尖上的中国』等）
13	ふりかえり	秋学期のふりかえりと復習
14	まとめ	期末レポートの（中間）発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で指示します。

【参考書】

崔岱遠著『吃货辞典』、2014 年、商務印書館（邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）
CCTV「舌尖上的中国」

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度：60 %（担当箇所の発表・翻訳や感想の提出状況）
- ②期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料等を使用しながら、分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper: 40%, in class contribution: 60%

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	自己紹介	リスニングと会話練習、スペイン語圏の名前
4	職業	名詞の性数、冠詞、数詞 11～20
5	曜日	リスニングと会話練習、スペインのバル
6	スペイン語圏諸国	数詞 21～30、形容詞、主格人称代名詞、動詞 ser
7	人や物の描写	リスニングと会話練習、市場での買い物
8	小テスト、頻度表現	数詞 31～100、直説法現在規則動詞
9	習慣	リスニングと会話練習
10	服装・持ち物	指示詞、所有詞
11	日付、時刻	リスニングと会話練習、年中行事
12	場所を表す表現	動詞 ser, estar, hay
13	方角	リスニングと会話練習、道順、住居の間取り
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（10 %）、期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。

家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process;

in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。

簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。

スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	日常生活	数詞 101～、直説法現在不規則動詞、直接目的格人称代名詞
2	旅行	リスニングと会話練習、スペイン語圏の世界遺産
3	買い物	語幹母音変化動詞、間接目的格人称代名詞
4	依頼、許可の表現	リスニングと会話練習、
5	義務の表現	動詞 tener, oír, decir, venir, ir
6	趣味	gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞
7	体調	リスニングと会話練習
8	小テスト 天候	不定語・否定語、天候の表現
9	スペイン語圏の気候と自然	比較・最上級、リスニングと会話練習
10	一日のスケジュール	再帰動詞
11	道順	無人称文、序数
12	料理のレシピ	数量表現、動詞の復習
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージの書き方
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同友社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同友社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %)、小テスト (10 %)、期末試験 (40 %) から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。

家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process;

in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

スペイン語上級A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語上級B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックはHoppiiを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの結婚式の祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式の祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のカトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りするPDFのお新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので、授業に臨む前に今一度目を通していただくが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマのPPを使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The spring semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.
2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ZOOM でリアルタイムで行う。

Break Out Room を使って、決まった質問の練習から始める。その後復習をしてから、リスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習で新しい文章の理解を深めていく。最後に日本語からスペイン語への翻訳トレーニングもやる。

本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマスと新年の祝賀」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックはHoppiiを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス 宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス シーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス イブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過 ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの大晦日の年 越しはどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年 越しはどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣 の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢 人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの1月6日 の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス 休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることとBreak Out Room で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくことです。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマのPPを使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The fall semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.

2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史をテーマとし、春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディスカッション、そして学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディスカッションへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

- ・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
- ・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディスカッション、そして学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ

歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディスカッションへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧
に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力
の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台
とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれによ
り、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつ
かの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するもの
とする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じ
て行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの
混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムで
のオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援
システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等 の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習
8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 表現	教科書第 3 課の表現確認

10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べるなど）や宿題（教
科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各
2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学
びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN:
978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に
評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the
Spanish grammar develop their understanding and knowledge,
through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the
followings:

- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to
spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following
process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla) : 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla) : 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla) : 文法	教科書第 6 課の文法復習
8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認

12 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の表現確認

13 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の文法復習

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

【到達目標】

Students will practice skills needed to make effective use of their voices to achieve more natural communication. Students will also practice speaking in "ideas" rather than words. The course will use TED Talks and current news articles to enable students become more effective and proficient in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. We will also practice speaking through chanting of English poetry.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Outline of course, grading criteria and class policies. Access Google Classroom
2	Unit 1: Technology	Introduction of technology related Vocabulary; Practice A++ to encourage longer speaking
3	Technology	Discussions of Technology: Building on Original statements (BOOST)
4	Technology: Reading	BBC Articles - Transport systems. Practice different questions Yes/No/Key/Or
5	Technology: Presentation skills	TED Talk: Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
6	Unit 3: Culture	Introduction of Culture related Vocabulary; Oral Practice A++. Introduce Clancy

7	Culture	Theme Discussions. Build on Original Statement. Continue Clancy
8	Culture Research a country	Theme-related topic study. Negative Questions and TAG questions. Prepare a short presentation on main elements of culture
9	Culture:	Presentation Skills: Present about another culture using presentation aids.
10	Unit 5: Beliefs	Introduce key vocabulary for Belief systems. Discuss beliefs and culture. Clancy ... cont.
11	Beliefs	Listening and Shadowing. Prepare a short presentation. Clancy ... cont.
12	Beliefs	Make a short presentation about beliefs
13	Presentation	Make a presentation of Clancy of the Overflow. with rhythm and meter.
14	Review and Recap	Watch a TED Presentation and evaluate.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation; There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of the total course value.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be issued during semester.

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 30%

In-Class Worksheets 30%

Presentations 20%

Group /Pair / Class Participation 20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

Change of textbook from previous years.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hosi Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. Students will be required to join the subject using "Classroom".

The Classroom Code for this subject is: msaidox

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者
II

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. Students will practice making both formal and informal presentations. Students will practice using punctuation to join and separate ideas and using gesture to emphasize ideas. Students will practice techniques to increase eye contact during presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. Students will gain critical thinking skills through comparison of different articles on the same topic. Students will also practice presentation skills including gesture, voice control, eye contact, using notes and timing of presentation.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Review Presentation Techniques; Presentation Practice
2	Unit 7: The News	Introduction of Theme - related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost.
3	The News	Listening and Shadowing / Discussions of different News media.
4	The News	Prepare a small group presentation on the News. Introduce Ballads

5	TED Talk	How to make people WANT to listen. Analysis and Discussion of Presentation Skills.	The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.
6	Unit 9: Ecotourism	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice A++ and Boost.	
7	Ecotourism	Shadowing with Text Ballad presentation preparaation	
8	Ecotourism	Presentation or Debate about Eco-Tourism. Ballad Preparation	
9	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills	
10	Unit 11: Environment	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost	
11	Environment	Environmental issues Discussions and Shadowing	
12	Environment	BBC Articles - synthetic Foods Presentation	
13	Ballad Presentation	Small group presentation: Analysis of a Ballad.	
14	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like it to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised during course.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

In-Class Worksheets: 30%

Presentations: 20%

Pair and Group Participation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Nil

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. The Classroom Code for this subject is: 6s4gqmv

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

ELIKO M KOSAKA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書の各ユニットで紹介される会話内容を用いて、リスニング力、語彙力、読解力を向上させることを目的とする。更に英語発音を上達させ、会話に役立てる語彙やフレーズを理解し、使いこなすためのアクティビティを通して、練習する。

【到達目標】

①役に立つような英語運用能力を習得することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ①各 Unit で使用される語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②英語の会話内容を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ダイアログ内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、口頭発表等を行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①オリエンテーション, ② Unit 1(dialogue and drills)
第 2 回	Unit 1, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 3 回	Unit 2	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 2 (dialogue and drills)
第 4 回	Unit 2, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 5 回	Unit 3	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 3 (dialogue and drills)
第 6 回	Unit 3, continued	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 7 回	Unit 4	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 4 (dialogue and drills)

第 8 回	Mid-term exam	1). mid-term exam
第 9 回	Unit 4, continued.	2). summary and feedback ① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 10 回	Unit 5	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 5 (dialogue and drills)
第 11 回	Unit 5, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 12 回	Unit 6	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 6 (dialogue and drills)
第 13 回	Unit 6, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 14 回	Final Exam	1). Final exam 2). summary and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

著書： CitiPals in New York: New Edition of Survival English
著者： Mary Tadokoro
出版社：朝日出版社
出版年：2018 年 第 5 刷発行
I S B N： 978-4-255-15492-3

【参考書】

授業時に伝える。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 積極的な参加 20%、中間試験・期末試験 20%、提出課題 20%、小テスト 20%、音読・グループライティング 20%
Active participation 20%, midterm and Finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生と教員がお互いに協調して、有意義な授業時間を実現するために積極的かつ生産的にコミュニケーションを取ることが肝心である。

【Outline (in English)】

Using the "CitiPals in New York" textbook as a base point, the aim of the course is to improve the learner's pronunciation through various in-class exercises, establish a stronger command of vocabulary necessary to engage in effective conversation and foster the learner's ability to become more flexible and adaptable to various social settings. This will enable the learner to flexibly and comfortably converse in a diverse range of social settings and situations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Active participation 20%, midterm and Finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者 II

ELIKO M KOSAKA

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書の各ユニットで紹介される会話内容を用いて、リスニング力、語彙力、読解力を向上させることを目的とする。更に英語発音を上達させ、会話に役立てる語彙やフレーズを理解し、使いこなすためのアクティビティを通して、練習する。

【到達目標】

①役に立つような英語運用能力を習得することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法

- ①各 Unit で使用される語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②英語の会話内容を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ダイアログ内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、口頭発表等を行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 8	①ガイダンス
目		② Unit 8 Airport (dialogue and drills)
第 2 回	Unit 8, continued.	① Vocabulary & grammar exercises
目		② Recitation exercise
		③ Conversation/discussion/debate exercise
第 3 回	Unit 9	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)
目		② Unit 9 (dialogue and drills)
第 4 回	Unit 9, continued	① Vocabulary & grammar exercises
目		② Recitation exercise
		③ Conversation/discussion/debate exercise
第 5 回	Unit 10	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)
目		② Unit 10 (dialogue and drills)
第 6 回	Unit 10, continued.	① Vocabulary & grammar exercises
目		② Recitation exercise
		③ Conversation/discussion/debate exercise

第 7 回 Unit 11

目

① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)

② Unit 11 (dialogue and drills)

第 8 回 Mid-term exam

目

① 中間試験

② まとめと解説

第 9 回 Unit 11, continued.

目

① Vocabulary & grammar exercises

② Recitation exercise

③ Conversation/discussion/debate exercise

第 10 回 Unit 12

目

① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)

② Unit 12 (dialogue and drills)

第 11 回 Unit 12, continued.

目

① Vocabulary & grammar exercises

② Recitation exercise

③ Conversation/discussion/debate exercise

第 12 回 Unit 13

目

① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)

② Unit 13 (dialogue and drills)

第 13 回 Unit 13, continued.

目

① Vocabulary & grammar exercises

② Recitation exercise

③ Conversation/discussion/debate exercise

第 14 回 Final Exam

目

① 期末試験

② まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

著書：CitiPals in New York: New Edition of Survival English

著者：Mary Tadokoro

出版者：朝日出版社

出版年：2018 年 第 5 刷発行

I S B N：978-4-255-15492-3

【参考書】

授業時に提示する

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 積極的な参加 20%、中間試験・期末試験 20%、提出課題 20%、小テスト 20%、音読・グループライティング 20%

Active participation 20%, midterm and finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生と教員がお互いに協調して、有意義な授業時間を実現するために積極的かつ生産的にコミュニケーションを取ることが肝心である。

【Outline (in English)】

Using the "CitiPals in New York" textbook as a base point, the aim of the course is to improve the learner's pronunciation through various in-class exercises, establish a stronger command of vocabulary necessary to engage in effective conversation and foster the learner's ability to become more flexible and adaptable to various social settings. This will enable the learner to flexibly and comfortably converse in a diverse range of social settings and situations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Active participation 20%, midterm and finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning practical English for communicating in a global society

【到達目標】

Although emphasis is on oral communication, students will practice and improve proficiency in all four language skills. Students should be able to express themselves clearly in discussions and during presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that encourage listening and speaking English. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations given by students on various topics of interest.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: People and Events	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work. Instructions on writing a short paragraph.
3	Unit 1 Video: Role models	Video Worksheet activities. Discussion and pair work. Reading homework.
4	Unit 2: Holidays and Festivals	Grammar review. Discussion. Review writing tips.
5	Unit 2: Celebrations	Video. Instructions on preparing for and giving presentations.
6	Unit 3: Trends and entertainment	Grammar review. Reading and discussion in small groups.
7	Unit 3: Trends pt. 2	Video content and worksheet: A hotel manager. Discussion. Quiz on Units 1-3.

8	Unit 4: Identity & Personality	Lecture: Describing people and their characteristics. Grammar review. Writing assignment.
9	Unit 4: Identity & Personality Pt. 2	Writing review. Video & worksheet Discussion
10	Student Presentations	Students will give short presentations in pairs/groups on topics from the previous 4 chapters.
11	Unit 5: Future Plans	Reading comprehension and vocabulary practice. Dialogue practice and writing.
12	Unit 5: Future Plans Pt.2	Students perform dialogues in class. Discussion about future goals and plans. Presentation preparations.
13	Unit 6: Changes & Life experiences	Reading and vocabulary review. Student give mini-presentations on topics TBA.
14	Unit 6 Changes & Life Experiences pt 2	Final quiz on Units 4-6. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments prior to the next class session. Approximately 1-2 hours of homework is required of students every week.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind Level 2 (MacMillan publishing)

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Student Presentations: 50%

Quizzes, and other speaking and written assignments: 30%

Class Participation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide more online feedback when necessary for students.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.

Arriving late to class twice = one absence (except for a good reason, such as illness or late trains)

【Outline (in English)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students may also be required to write paragraphs and short essays.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop practical oral communication skills for students to express themselves in English.

【到達目標】

Students will improve their ability to express themselves in English in order to participate effectively in discussion and will learn to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities, but emphasis will be on listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and other homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online the University LMS. Students may also correspond with the instructor using e-mail or visit during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Work and Careers	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports. Reading and discussion on working lives.
2	Unit 7: Work & Careers Pt.2	Instructions and Practice in writing a resume or CV.
3	Unit 8: Hobbies and Pastimes	Video & Worksheet activities and discussion. Research assignment.
4	Unit 8 Pt. 2	Students report on research. Writing essays review.
5	Unit 9: Housing and Living arrangements	Reading assignment and discussion on types of housing. Next Presentation instruction.
6	Unit 9: Housing Pt. 2	Students give presentations in pairs. Review for midterm quiz.
7	Unit 10: Health & Wellbeing	Quiz on Units 7-9. Reading and discussion on study habits and work-life balance. Writing assignment
8	Unit 10: Wellbeing Pt. 2	Writing assignment due. Video content & worksheet. Discussion.

9	Unit 11: Recycling and the Environment	Lecture and discussion. Vocabulary practice.
10	Unit 11: Environment Pt. 2	Pairwork: writing dialogues. Students perform dialogue in class. Review tips on giving effective presentations.
11	Unit 12: Social Groups	Textbook Reading activities. Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 12 Social groups and Networking.	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment due and vocabulary review.
13	Student Presentations	Quiz on Units 9-12. Student presentations
14	Class wrap up-End of year celebration	Return all quizzes and essays. Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare by reading ahead in the textbook, looking up unfamiliar vocabulary, and completing other activities assigned in class.

Approximately 1-2 hours of weekly homework are required of students in this class.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind level 2 (MacMillan)

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Student Presentations: 50%

Quizzes and other speaking activities: 30%

Class participation: 20%

In principle, students are allowed no more than 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc.

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide students with more online feedback when necessary.

【Outline (in English)】

While some attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will engage in classroom discussions, dialogue practice, and give short presentations on topics of interest.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュ I 2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after

which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 1: Pleased to meet you (1-6)	Introducing people Pages 7-10
3	Unit 1: Pleased to meet you (7-12)	Introducing people Pages 10-13
4	Unit 2: Who do you work for? (1-6)	Describing companies Pages 15-18
5	Unit 2: Who do you work for? (7-12)	Describing companies Pages 18-21
6	Unit 3: What do you do? (1-6)	Describing occupations Pages 23-25
7	Unit 3: What do you do? (7-12)	Describing occupations Pages 26-29
8	Unit 4: Can I leave a message (1-6)	Phone conversations Pages 31-34
9	Unit 4: Unit 4: Can I leave a message (7-12)	Phone conversations Pages 34-36
10	Unit 5: It's tough managing my time (1-6)	Describing time and schedules Pages 39-42
11	Unit 5: It's tough managing my time (7-12)	Describing time and schedules Pages 42-46
12	Unit 6 What do you call that thing? (1-6)	Talking about difficult words Pages 49-51

13	Unit 6 What do you call that thing? (7-12)	Talking about difficult words Pages 52-55
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 7: How much is that in Korean Won? (1-6)	Talking about money Pages 57-59
3	Unit 7: How much is that in Korean Won? (7-12)	Talking about money Pages 59-62
4	Unit 8: You need to download a form (1-6)	Giving instructions Pages 65-67
5	Unit 8: You need to download a form (7-12)	Giving instructions Pages 68-72
6	Unit 9: Do you like Indonesian food? (1-6)	Describing food Pages 75-77
7	Unit 9: Do you like Indonesian food? (7-12)	Describing food Pages 77-81
8	Unit 10: Do you have the sales figures? (1-6)	Working with large numbers Pages 83-86
9	Unit 10: Do you have the sales figures? (7-12)	Working with large numbers Pages 86-91
10	Unit 11: Make sure you keep all receipts (1-6)	Giving advice / Business trips Pages 93-95

11	Unit 11: Make sure you keep all receipts (7-12)	Giving advice / Business trips Pages 96-99
12	Unit 12 When's the trade fair? (1-6)	Describing future plans Pages 101-103
13	Unit 12 When's the trade fair? (7-12)	Describing future plans Pages 103-108
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者
I

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will also acquire ability to handle discussions about some text topics related to economic, political, and current events related issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Sustainable communities I	Keeping the social peace	Examining social goals for societies. Exploring cultural bonds.
Sustainable communities II	Social peace	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts.
Dilemma for a responsible tourist I	Tourists and value they bring to societies	How tourism affects our lives in both positive and negative ways.
Dilemma for a responsible tourist II	New trends of tourism	Ponder tourism negatives and positive outcomes

Protecting our world heritage

I

Looking at historical buildings and the events they show

II

Engineered food and possible consequences

I

Scientists develop strains and their goals

II

Corruption and its problems

I

Witness to government waste

II

Bad laws the law

I

Well meaning laws the law

I

Taking a look at useful words learned

How buildings are preserved and design shows our history

Why are these buildings important for remembering history?

Quiz 1
Researching food sources and why variety is important

Science and its end goals and how they might ruin our health

Looking at corporate problems and how difficult they are to solve

Trying to eliminate waste

Examining when do you have an obligation to protest

Quiz 2
Researching laws that don't cover all circumstances
Reviewing useful vocabulary and its parameters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido
ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Blog work

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者
II

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will acquire discussion skills to handle discussions about economic, political, and current events topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Food politics	Food politics	How do we get our food?
Food politics II	Sourcing our food	Positives and negatives of climate change on food sourcing
Food in-equality I	Food and its effects on society	Look at how inequalities affect our food
Recycling	recycling and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce waste
Recycling II	Covering aspects of structure and use of waste	Looking at waste usage
Blowing whistles	Whistle blowing vs leaking	How whistle blowing affects us
Blowing whistles II	Consequences of leaking	Government actions vs leaking
Protesting	Protesting	Reasons why people protest

Protesting Handling protests

II

Fake news Where does fake news come from?

Fake news II Social media and fake news

review Review course of unit themes

ques-

tions

I

review Review course of unit themes

issues

and

Sum-

mary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare presentation material and review vocabulary lists.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter- Kinseido

ISBN 978-4-7647-4061-7

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

Require more use of English by students

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

Blog work assigned

【Outline (in English)】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

LANe200LA	English Reading and Vocabulary	2017 年度以降入学者
I		
ERIC J RITTER		
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金 3/Fri.3	
単位数：1 単位		
レベル 4 / ※定員制 (36 名)		
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. Students will understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
3. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This will be an online class so students should be prepared to use Zoom. Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
5	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.

6	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion Feedback
7	Midterm	
8	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Homework: prepare for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation
No more than 3 absences or missed assignments are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Internet enabled device to participate in class with Zoom. Students should also be familiar with Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者
II

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
2. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 14	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 15	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 16	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
5	Unit 17	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
6	Unit 18	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

7	Unit 19	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Midterm Exam	Feedback
9	Unit 20	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 21	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 22	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 23	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 24	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hour a week for a two-credit class for a 2 hour class and 1 hour a week for a 1 hour class.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition).
Perfect Paperback

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation
In principle, no more than 3 absences are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to recognize the elements of academic essays in order to perform successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of pursuing a question with the systematic and rigorous process expected in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a completely online course. For details, please see HOPPII, the University's Learning Management System. Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
One	Thesis: What question do you want to explore? Is it the kind of question that you can answer in one semester? Remember: A good question includes a hint of the answer.	This class is based on Gordon Harvey's Elements of the Academic Essay. ・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.

Two	Motive: How did you choose your question, and why should it be interesting to other people?	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus. ・ Homework: You will receive a template, which you will use to complete your homework (always one page of 200-400 words). Your homework always addresses these 4 "learning cycle" questions: (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. You will email the template with your classwork and homework to the instructor at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Three	Evidence: What kinds of facts or examples will you use to support your thesis?	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Four	Analysis: How do you explain the evidence you found?	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Five	Keyterms: Have you explained the main terms and assumptions that you use in your essay?	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Six	Structure: In general, are the sections in your essay in a logical order? Does your essay follow a storyline or roadmap?	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Seven	Stitching: In particular, are there clear connections between the parts of your essay? For example, "In the previous section, ..." "In the next section, ..." and so on.	・ Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.

Eight	Sources: What have other people written about your topic? Have you showed where you agree and disagree with other people's research, and have you acknowledged these people in the citations and references parts of your essay?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Nine	Reflecting: Have you presented and explained perspectives that contradict your perspective?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Ten	Orienting: Have you provided sufficient explanation for your readers to understand how you explored your topic and why you interpret the information as you do?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Eleven	Stance: Have you maintained a consistent style of communication with your readers from the beginning to the end of your essay?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Twelve	Style: Do you express your ideas in clear and simple terms?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Thirteen	Title: Does your title provide the right amount of information to make readers curious? Your title should give readers the general direction, but also make them want to know more.	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.
Fourteen	Based on the elements of academic essays that you have studied this semester, what question or problem would you choose for your essay?	· Classwork: You will receive a template, which you will use to complete your classwork (always one page of 200-400 words) about the theme of this class described in the syllabus.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Preparation and review should be around one hour per week. Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. The paper is based on (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class.

【テキスト（教科書）】

No textbook required this semester.

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. The classwork requires answering 3-4 questions in the textbook each week. You can always find the classwork assignment for each class in the syllabus. You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. Your classwork each week will be one page (200-400 words). As written above, you will submit your classwork together with your homework by the end of each class by email to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

All homework must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. You will write your homework using a template that I will give you. Your homework each week will also consist of one page (200-400 words). You will submit your homework together with your classwork by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete and submit all the classwork and homework on time, you can expect a correspondingly good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【Outline (in English)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

LANe200LA

English Academic Writing II

2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to recognize the elements of academic essays in order to perform successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of pursuing a question with the systematic and rigorous process expected in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a completely online course. For details, please see HOPPII, the University's Learning Management System. Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
One	Thesis: What question do you want to explore? Is it the kind of question that you can answer in one semester? Remember: A good question includes a hint of the answer.	You will receive a template, which you will use to complete the first element of your essay. You will email this first part of your essay by the end of class to the instructor at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Two	Motive: How did you choose your question, and why should it be interesting to other people?	You will receive a template, which you will use to complete the second element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

Three	Evidence: What kinds of facts or examples will you use to support your thesis?	You will receive a template, which you will use to complete the third element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Four	Analysis: How do you explain the evidence you found?	You will receive a template, which you will use to complete the fourth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Five	Keyterms: Have you explained the main terms and assumptions that you use in your essay?	You will receive a template, which you will use to complete the fifth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Six	Structure: In general, are the sections in your essay in a logical order? Does your essay follow a storyline or roadmap?	You will receive a template, which you will use to complete the sixth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Seven	Stitching: In particular, are there clear connections between the parts of your essay? For example, "In the previous section, ..." "In the next section, ..." and so on.	You will receive a template, which you will use to complete the seventh element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Eight	Sources: What have other people written about your topic? Have you showed where you agree and disagree with other people's research, and have you acknowledged these people in the citations and references parts of your essay?	You will receive a template, which you will use to complete the eighth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Nine	Reflecting: Have you presented and explained perspectives that contradict your perspective?	You will receive a template, which you will use to complete the ninth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Ten	Orienting: Have you provided sufficient explanation for your readers to understand how you explored your topic and why you interpret the information as you do?	You will receive a template, which you will use to complete the tenth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

- Eleven Stance: Have you maintained a consistent style of communication with your readers from the beginning to the end of your essay? You will receive a template, which you will use to complete the eleventh element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
- Twelve Style: Do you express your ideas in clear and simple terms? You will receive a template, which you will use to complete the twelfth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
- Thirteen Title: Does your title provide the right amount of information to make readers curious? Your title should give readers the general direction, but also make them want to know more. You will receive a template, which you will use to complete the thirteenth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
- Fourteen Confirm that your essay includes all the elements of academic essays that were covered this semester. Submit the final version of your essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook required this semester.

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. The classwork requires answering 3-4 questions in the textbook each week. You can always find the classwork assignment for each class in the syllabus. You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. Your classwork each week will be one page (200-400 words). As written above, you will submit your classwork together with your homework by the end of each class by email to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

All homework must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. You will write your homework using a template that I will give you. Your homework each week will also consist of one page (200-400 words). You will submit your homework together with your classwork by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete and submit all the classwork and homework on time, you can expect a correspondingly good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【その他の重要事項】

Nothing in particular.

【Outline (in English)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing I subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 1a	Writing a paragraph about me	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write expository paragraphs and topic sentences
Unit 1b	Analysis of written assignment 1	Reading and selecting best paper. Focusing on paragraph format
Unit 2a	Writing a paragraph about another students possible career	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write logical conclusions
Unit 2b	Analysis of written assignment 2	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of conjunctions
Unit 3a	Writing a paragraph about your partner's future success	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to support topic sentences with facts and examples

Unit 3b	Analysis of written assignment 3	Reading and selecting best paper. Focusing on direct and indirect speech
Unit 4a	Writing a paragraph about an invention	preparation, brainstorming main ideas, how to write definition paragraphs and attention getters
Unit 4b	Analysis of written assignment 4	Reading and selecting best paper. Focusing on avoiding repetition
Unit 5a	Writing a paragraph about an important event in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write cause-and-effect and introductory paragraphs
Unit 5b	Analysis of written assignment 5	Reading and selecting best paper. Focusing on cause-and-effect words
Unit 6a	Writing a paragraph about an exciting destination	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write process paragraphs and make suggestions
Unit 6b	Analysis of written assignment 6	Reading and selecting best paper. Focusing on using modifiers
End-term assignment	Final assignment feedback	Final assignment feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing II subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 7a	Writing a research report about your classmates	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write classification and concluding paragraphs
Unit 7b	Analysis of written assignment 7	Reading and selecting best paper. Focusing on punctuation
Unit 8a	Writing an article about good and bad interview techniques	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write comparison and contrast paragraphs
Unit 8b	Analysis of written assignment 8	Reading and selecting best paper. Focusing on giving advice
Unit 9a	Writing a letter to your future self about your goals	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write persuasive paragraphs

Unit 9b	Analysis of written assignment 9	Reading and selecting best paper. Focusing on parallel construction
Unit 10a	Writing a composition about your own dorm design	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write division paragraphs
Unit 10b	Analysis of written assignment 10	Reading and selecting best paper. Focusing on articles
Unit 11a	Writing a composition about an important person in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to link paragraphs
Unit 11b	Analysis of written assignment 11	Reading and selecting best paper. Focusing on subject-verb agreement
Unit 12a	Writing a newspaper article	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write in objective, persuasive or entertaining styles
Unit 12b	Analysis of written assignment 12	Reading and selecting best paper. Focusing on verb variety
End-term assignment	Final assignment	Analysis of end-term assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

【到達目標】

The student will be able to prepare a paragraph with the basic structure of: Topic sentence (with Main Idea), supporting ideas and detail sentences.

Students will be able to communicate his/her thoughts, in written format, to an Academic audience. The course will cover: paragraph development, grammar structures for different paragraph styles and paragraph organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work in pairs or groups to develop paragraphs. In-class worksheets and homework assignments will check the students understanding of the different paragraph styles. Videos of Academic presentations will be used to compare the similarities between written and oral presentations.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing	Six Steps of Academic Writing. Using outlines
3.	Getting ready: Mini-Test	Choosing a Topic Brainstorming Editing Describing a photograph
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence
5.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example.
6.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing.

7.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.
8.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors.
9.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
12.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review.
13.	Using Causal Adverbs	Describing causes and effects in paragraphs.
14.	Presentation	Present your paragraphs to your peers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph. Pre-reading of articles.

All assignments written in digital format and submitted via Google Classroom.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

Worksheet Assignments: 30%

Pair and Group Participation: 20%

Presentation: 10%

Mini-test: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Course Code is: quedeq"

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process."

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills for interview situations and written English tests (IELTS / TOFEL) where candidates have a limited time to prepare an essay. A final document will be a document suitable for submission as an academic essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in pair work and small groups. Students will also practice using peer editing with online documents. In a final presentation, the student will demonstrate their understanding of the features of an academic essay.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Comparing Paragraphs	Structures to compare similar ideas
3.	Contrasting Paragraphs	Structures to contrast dissimilar ideas
4.	Block Organization vs Point-by Point Organization	Different ways to present similar / contrasting ideas
5.	Advantages / Disadvantages	Making arguments for and against proposals
6.	Conditional Statements	Using conditional statements to support an argument.
7.	Problem / Solution Paragraphs	Linking problems with solutions

8.	Writing Essays TOEIC Writing Test	Thesis statements
9.	Writing Essays	Writing thesis statements
10.	Outlining Essays TOEFL Writing Test	Using modern software to create an essay outline.
11.	Outline development	Filling in the details
12.	Developing the Introduction and conclusion IELTS Writing Test	The introduction to thesis statement. Linking the Conclusion to the thesis
13.	Presentation	Present your Essay to the class
14.	Review	Present your Essay to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 or more short Homework assignments will be set. There will also be preparation of a presentation identifying the key components of an academic essay.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays from Paragraph to Essay" by D.E. Zemach and Lisa A Ghulldu, MACMILLIAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework assignments: 20%

Classroom Worksheets: 20%

Pair and Group Participation:20%

Presentation:10%

Writing Tests: 30%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download "Google Classroom" to your laptop or tablet at the start of semester. The Course Code is: dwd36fk

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process."

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。1 章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	A Life Without Plastic プラナシ生活を始めよう（前半）	記事を講読します。
第 3 回	A Life Without Plastic プラナシ生活を始めよう（後半）	記事を講読します。
第 4 回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません（前半）	記事を講読します。
第 5 回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません（後半）	記事を講読します。

第 6 回 An Epidemic of Overweight Africans 記事を講読します。

ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇（前半）

第 7 回 An Epidemic of Overweight Africans 記事を講読します。

ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇（後半）

第 8 回 課題の振り返り これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。

第 9 回 West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside 記事を講読します。

タイ発：危険なりサイクル（前半）

第 10 回 West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside 記事を講読します。

タイ発：危険なりサイクル（後半）

第 11 回 College Cheating, A Global Business 記事を講読します。

宿題はゴーストライターにお任せ（前半）

第 12 回 College Cheating, A Global Business 記事を講読します。

宿題はゴーストライターにお任せ（後半）

第 13 回 まとめ方を考察する 記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

第 14 回 期末テスト 講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。（2,100 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト（40%）

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合、初回の授業時に選抜を行う可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースを進めることを目標とします。1 章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信中（前半）	記事を講読します。
第 3 回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信中（後半）	記事を講読します。

第 4 回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を目指す旅（前半）	記事を講読します。
第 5 回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を目指す旅（後半）	記事を講読します。
第 6 回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（前半）	記事を講読します。
第 7 回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（後半）	記事を講読します。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（前半）	記事を講読します。
第 10 回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（後半）	記事を講読します。
第 11 回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（前半）	記事を講読します。
第 12 回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（後半）	記事を講読します。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。（2,100 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題（60%）

期末テスト（40%）

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。

授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の多様な動向を題材とする英文を通して、そこで提起される問題について知識や国際的な視野を養いながら、大学レベルで求められる英文を読み通す力を身につけることを目的とします。英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、リスニング力、表現力の向上も目指します。

【到達目標】

- (1) 現代社会の多様な問題を扱う英文を読んで、構成・内容を効果的に把握し、説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できる
- (3) 伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (4) 英文で取り上げられる現代社会の多様な問題について理解・関心を深め、自分の見解を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。文章全体と各パラグラフの構成に注目しつつ要旨の把握を主眼とし、リーディング・スキルの向上を目指します。教材の英文を、意味内容を理解する対象としてだけでなく、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙・構文をピックアップし、語彙力・表現力の向上を目指します。ペアやグループで、日本語や英語での要約練習や意見交換を練習します。付属音声を発音や音読のモデルとして意識して活用し、（読解にも役立つ）音読練習を行います。単語の強勢・抑揚・間の取り方などに留意して、自然で明瞭な発音を目指します。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。また、BBC や TED などを活用した関連テーマについてのリスニングも練習します。※ 2 回の授業で 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方・評価について。
2	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
3	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
4	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
5	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング

6	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come? 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
7	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come? 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
8	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
9	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body 理解と考察 Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。テーマ関連リスニング。
10	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
11	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。テーマ関連リスニング。
12	Unit 10 Happiness: What is the secret? 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
13	Unit 10 Happiness: What is the secret? 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。テーマ関連リスニング。
14	期末試験。春学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、予習して目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

①予習：(1) テキスト問題を解き、根拠も言えるよう準備 (2) 文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を練習する (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する ②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。重要表現などは書いたり声に出して定着させる (2) ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言ってみる (4) 題材に対する自分の意見を言ってみる (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報収集、知識・視野を広げる ※指示されたりスニング教材は、(1) まずスクリプトなしで大意の把握を目指し (2) 次にスクリプト付きで細部の確認を目指して、繰り返し聞く

【テキスト（教科書）】

Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、本体 1,900 円 ※関連資料は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）70%、期末テスト 30%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3)(4) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

幅広いトピックや意見交換が有益だった、文章構成や使える表現への着目が役立ったなどの意見があり、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図っていききたいと思います

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください。授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず初回授業に出席してください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today and thinking critically about them. Students will also improve their listening skills through listening to short talks and conversations on a variety of related topics.

The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including reading the text, answering questions and listening to a recording) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (70%), final examination (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 /※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の多様な動向を題材とする英文を通して、そこで提起される問題について知識や国際的な視野を養いながら、大学レベルで求められる英文を読み通す力を身につけることを目的とします。英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、リスニング力、表現力の向上も目指します。

【到達目標】

- (1) 現代社会の多様な問題を扱う英文を読んで、構成・内容を効果的に把握し、説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できる
- (3) 伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (4) 英文で取り上げられる現代社会の多様な問題について理解・関心を深め、自分の見解を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。文章全体と各パラグラフの構成に注目しつつ要旨の把握を主眼とし、リーディング・スキルの向上を目指します。教材の英文を、意味内容を理解する対象としてだけでなく、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙・構文をピックアップし、語彙力・表現力の向上を目指します。ペアやグループで、日本語や英語での要約練習や意見交換を練習します。付属音声を発音や音読のモデルとして意識して活用し、(読解にも役立つ) 音読練習を行います。単語の強勢・抑揚・間の取り方などに留意して、自然で明瞭な発音を目指します。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。また、BBC や TED などを活用した関連テーマについてのリスニングも練習します。※ 2 回の授業で 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
2	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
3	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak? 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
4	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak? 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング

5	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
6	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
7	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy 導入 Unit 6 Tricks of the Trade: How companies get us to spend 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
8	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy 理解と考察 Unit 6 Tricks of the Trade: How companies get us to spend 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
9	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money? 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
10	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money? 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
11	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age 導入	語彙・大意把握・意見交換。関連リスニング
12	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age 理解と考察	要約・詳細と表現・意見交換。関連リスニング
13	Unit 17 Vaccines: A history of keeping us safe	大意把握・要約・詳細と表現・意見交換
14	期末試験。秋学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、予習して目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

①予習：(1) テキスト問題を解き、根拠も言えるよう準備 (2) 文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を練習する (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する ②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。重要表現などは書いたり声に出して定着させる (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言ってみる (4) 題材に対する自分の意見を言ってみる (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報収集、知識・視野を広げる ※指示されたリスニング教材は、(1) まずスクリプトなしで大意の把握を目指し (2) 次にスクリプト付きで細部の確認を目指して、繰り返し聞く

【テキスト（教科書）】

Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、本体 1,900 円 ※関連資料は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）70%、期末テスト 30% の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3)(4) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

幅広いトピックや意見交換が有益だった、文章構成や使える表現への着目が役立ったなどの意見があり、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図っていききたいと思います

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください。授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず初回授業に出席してください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today and thinking critically about them. Students will also improve their listening skills through listening to short talks and conversations on a variety of related topics.

The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including reading the text, answering questions and listening to a recording) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (70%), final examination (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第 2 回	Chapter 1	Going Viral
第 3 回	Chapter 2	Tourist Traps
第 4 回	Chapter 3	Deal Me In
第 5 回	Chapter 1 ～ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ～ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティング
第 6 回	Chapter 4	Full Contact
第 7 回	Chapter 5	Fake News
第 8 回	Chapter 6	Dead as a Dodo
第 9 回	Chapter 7	It's a Dry Heat
第 10 回	Chapter 4 ～ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ～ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティング
第 11 回	Chapter 8	Man's Best Friend
第 12 回	Chapter 9	The Wild West
第 13 回	Chapter 10	Man versus Beast
第 14 回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。

語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回に、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各 Chapter の本文は 900words 程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第 2 回	Chapter 11	A Perfect World
第 3 回	Chapter 12	Modern Frankenstein
第 4 回	Chapter 13	Tinted Lenses
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティング
第 6 回	Chapter 14	Get Well Soon
第 7 回	Chapter 15	The Need for Speed
第 8 回	Chapter 16	Time Travel
第 9 回	Chapter 17	The Great Unknown
第 10 回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティング
第 11 回	Chapter 18	The Endgame
第 12 回	Chapter 19	Heads Up
第 13 回	Chapter 20	Destination Mars
第 14 回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各 Chapter の本文は 900words 程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The Japan News, Newsweek, The Guardian を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選択必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読

3	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読
4	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論後半部講読
9	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験あるいはレポート、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60 %）と平常点（40 %）とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であてた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたいと思います。

【Outline (in English)】

・ This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed. The aim of this course is to help students improve English reading and listening skills, deepen the knowledge about political and other aspects of modern society in various countries, and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the designated articles. Required study time is at least one hour for each class meeting.

・ Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程度の基本的リスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Newsweek, The Guardian, The New York Times を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選択必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読
3	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読

4	リスニング演習＋記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアジアあるいは中 東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習＋記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアジアあるいは中 東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の序論部講読
7	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の本論前半部講読
8	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の本論後半部講読
9	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の結論部講読
10	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The New York Times のアメリ カに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The New York Times のアメリ カに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The New York Times のアメリ カに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The New York Times のアメリ カに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授 業内試験あるいはレポート、まと めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60 %）と平常点（40 %）とから総合的に評価する。欠
席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達する
ごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから
30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、
交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ
高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中あてた際一
人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材
やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働
きかけを心掛けたいと思います。

【Outline (in English)】

・ This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed. The aim of this course is to help students improve English reading and listening skills, deepen the knowledge about political and other aspects of modern society in various countries, and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the designated articles. Required study time is at least one hour for each class meeting.

・ Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイディアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして文化、また人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会、そして文化について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業は Zoom にて行われます。また、毎回の授業についての詳細は Hoppii に掲示しますので、必ず確認して Zoom 授業に参加して下さい。】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部: Lesson A では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部: Lesson B では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部として、第 1 部、第 2 部で学習した事柄をまとめ、更にリサーチを進め、TED talk に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

【第 1 部】

第 2 週 Topic: Interdisciplinary

第 5 週 Topic: Business/ Leadership

第 8 週 Topic: Life Science

第 11 週 Topic: Sociology/ Fashion

【第 2 部】

第 3 週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

[https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?](https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja)

language=ja

第 9 週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 12 週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第 3 部】

第 4 週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 7 週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

[https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?](https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja)

language=ja

第 10 週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 13 週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	What is TED?
第 2 週	Unit 1: Life Changes	Lesson A Topic: Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第 3 週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第 4 週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions
第 5 週	Unit 2: Team Power	Lesson A Topic: Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc.
第 6 週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec Lesson B Academic Skills: Understanding stages in a process, ...etc.
第 7 週	Unit 2: Team Power	Check sheet summarizing and stating opinions
第 8 週	Unit 3: Ocean Wonders	Lesson A Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents
第 9 週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas and key details,... etc.

第10週	Unit 3: Ocean Wonders	Check sheet summarizing and stating opinions
第11週	Unit 4: What We Wear	Lesson A Topic:Sociology/ Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process
第12週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Lesson B Academic Skills: Recognizing point of view
第13週	Unit 4: What We Wear	Check sheet summarizing and stating opinions
第14週	final test	final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：扱った TED talk の要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、配布資料

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および Hoppii quiz）40 %、チェックシート 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、Zoom の授業に参加せずに課題のみの提出は出席と認められません。

【学生の意見等からの気づき】

英語を用いる場をなるべく多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、パソコン等の端末及びマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

This Online English course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Zoom and Hoppii.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills

・ understand English sentences without translating into Japanese

・ identify main ideas

・ clarify the structure of a paragraph

・ develop global and cross-cultural awareness

・ develop creative and critical thinking skills

・ effectively express their opinions on current issues

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria /Policy]

Grading criteria for this course will be based on the following:

Class participation: 40% (Zoom meeting activities + Unit quizzes) / assignment : 30 % / Final test: 30%

Every week students are required to attend the zoom session and submit an assignment to Hoppii. Just submitting the assignment (without participating in the Zoom session) will be counted as absence.

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業は Zoom にて行われます。また、毎回の授業についての詳細は Hoppii に掲示しますので、必ず確認して Zoom 授業に参加して下さい。】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、セメスター終盤には、第 3 部として、学習したトピックをひとつ選び、更にリサーチを進め、TED での発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

【第 1 部】

第 2 週 Topic: Architecture and Design

第 5 週 Topic: Communication/ Sociology

第 8 週 Topic: Visual Arts/ Sociology

【第 2 部】

第 3 週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 9 週 : TED TALK by Candy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【第 3 部】

第 4 週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 7 週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 10 週 : TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

第 11 週~13 週 : Your favorite TED Talk

<https://www.ted.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第 2 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Topic:Architecture and Design Lesson A Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第 3 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Lesson B: Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 4 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Expressing ideas on the topic
第 5 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Topic:Communication/ Sociology Lesson A Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第 6 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 7 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Expressing ideas on the topic
第 8 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson A Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 9 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson B Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 10 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Expressing ideas on the topic
第 11 週	Your favorite TED talk	Finding your favorite TED talk.

第 12 週	Your favorite TED talk	The Summary of the talk
第 13 週	Your favorite TED talk	Your own idea on the talk
第 14 週	final test	final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識（テキストに記載）を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、**checksheet** に記入しておく。
復習：扱った TED talk の要約をし、**checksheet** に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、資料配布

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および Hoppii quiz）40 %、チェックシート 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、Zoom の授業に参加せずに課題のみの提出は出席と認められません。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多く英語を使う場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、パソコン等の端末及びマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

This Online English course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Zoom and Hoppii.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand English sentences without translating into Japanese
- ・ identify main ideas
- ・ clarify the structure of a paragraph
- ・ develop global and cross-cultural awareness
- ・ develop creative and critical thinking skills
- ・ effectively express their opinions on current issues

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Grading criteria for this course will be based on the following:
Class participation: 40% (Zoom meeting activities + Unit quizzes) / assignment : 30 % / Final test: 30%

Every week students are required to attend the zoom session and submit an assignment to Hoppii. Just submitting the assignment (without participating in the Zoom session) will be counted as absence.

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを発表などを通して身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業では各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み、Answer sheet を配布するので帰りに解答を記入して Hoppii を通して提出する。2 回目の授業では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、自分の考えをまとめる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 1,4,5,7,8,10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 履修者の決定	ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答して LMS を通して提出すること。
2	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 4/20

3	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong	本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
4	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 5/11
5	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	Unit 1 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
6	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 5/23
7	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	Unit 4 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
8	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 6/8
9	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	Unit 5 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
10	Unit 8 Social Media: Big Tech's addiction to addiction	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 6/22
11	Unit 8 Social Media: Big Tech's addiction to addiction	Unit 7 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
12	Unit 10 Happiness: What is the secret?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 7/6
13	Unit 10 Happiness: What is the secret?	Unit 8 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期末試験	Unit 10 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿った TF 問題に真剣に取り組む。(Key Vocabulary, TF は採点する。) 本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解に関する課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today 現代を取り巻く新しい真実

Dave Rear 著

成美堂 2090 円（税込み）

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1 点×10 問＝10 点（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%

●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを発表などを通して身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業では各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み、Answer sheet を配布するので帰りに解答を記入して Hoppii を通して提出する。2 回目の授業では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、自分の考えをまとめる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 13, 14, 15, 17, 18, 20

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming Up	ここで履修者を決定する時事問題 プリント教材
2	Unit 13 Mentalism: Mastering the human brain	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 10/5
3	Unit 13 Mentalism: Mastering the human brain	本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。

4	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 10/19
5	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak	Unit 13 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
6	Unit 15 Memory Hack: The One Study habit every student needs to know	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/2
7	Unit 15 Memory Hack: The One Study habit every student needs to know	Unit 14 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
8	Unit 17 Vaccines: A History of keeping us safe	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/16
9	Unit 17 Vaccines: A History of keeping us safe	Unit 15 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
10	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/30
11	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?	Unit 17 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
12	Unit 20 Helping Hands: The growing role of robots in Japan	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 12/15
13	Unit 20 Helping Hands: The growing role of robots in Japan	Unit 18 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期 末試験	Unit 20 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各 Unit の **Key Vocabulary** を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿った **TF** 問題に真剣に取り組む。(Key Vocabulary, TF は採点する。) 本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解に関しての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today 現代を取り巻く新しい真実
Dave Rear 著
成美堂 2090 円（税込み）

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1 点×10 問＝10 点（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%

●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement. You will have many opportunities to express your thoughts in a concise and logical manner. You will try various ways to make your opinions more persuasive.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentations using easy editing software on your phone or PC to share with the class. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.

3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.
9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students wanted more time to prepare presentations.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. . You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentation using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work /life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.

2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more computer presentations.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give self introduction presentation
3	Unit 1 A good friend (Pages 8-11)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 1 A good friend (Pages 12-15)	- Organizing ideas - Adding impact techniques
5	Unit 1 A good friend (Pages 16-17)	- Developing presentation techniques
6	Unit 1 A good friend (Pages 18-19)	Presentation: "A good friend"
7	Unit 2 A favorite place (Pages 20-23)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 2 A favorite place (Pages 24-27)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 2 A favorite place (Pages 28-29)	- Developing presentation techniques
10	Unit 2 A favorite place (Pages 30-31)	Presentation: "My Favorite Place"
11	Unit 3 A prized possession (Pages 32-37)	- Exploring the topic - Focusing on language
12	Unit 3 A prized possession (Pages 38-41)	- Organizing ideas - Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 3 A prized possession (Pages 42-43)	Presentation: "My Prized Possession"

14	14 Make-up Presentations/ Course Review	Finalize spring semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment

answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self introduction presentation
3	Unit 4 A memorable experience (Pages 44-47)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 4 A memorable experience (Pages 48-51)	- Organizing ideas - Adding impact
5	Unit 4 A memorable experience (Pages 52-53)	- Developing presentation techniques
6	Unit 4 A memorable experience (Pages 54-55)	Presentation: "My Memorable Experience"
7	Unit 5 I'll show you how (Pages 56-59)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 5 I'll show you how (Pages 61-63)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 5 I'll show you how (Pages 64-65)	- Developing presentation techniques
10	Unit 5 I'll show you how (Pages 66-67)	Presentation: "How to _____"
11	Unit 6 Screen magic (Pages 68-73)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas

12	Unit 6 Screen magic (Pages 73-77)	- Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 6 Screen magic (Pages 78-79)	Presentation: "Movie or TV Show Review"
14	Make-up Presentations/ Course Review	Finalize fall semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/text pgs. 4-12	Talk about spring break. Getting started.
2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.

4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.	【Outline (in English)】 Students will prepare and deliver presentations during class time.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.	
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.	
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.	
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.	
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.	
10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.	
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.	
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.	
13	Final presentations HW/None	Prepare and perform final presentations	
14	Final presentations	End of term evaluation	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Student Book MacMillan ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are held online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.
2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.

4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

LeBeau. Charles. Speaking of Speech Level 2. MacMillan. 2015.

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are held online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the confidence and basic ability to deliver effective presentations in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able to get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	Posture	Learners prepare and present a presentation about a city they like
Unit 2	Gesture	Learners prepare and present a presentation describing the layout of an interesting place
Unit 3	Use of voice	Learners prepare and present a presentation about a recipe
Section review	Review of the physical message	Review of the physical message
Unit 4	Effective visuals	Learners prepare a presentation comparing two countries

Unit 5	Explaining visuals	Learners prepare clear explanations for slides and charts
Section review	Review of the visual message	Learners deliver a presentation comparing two countries
Unit 6	Introduction	Learners prepare and present the introduction to a product comparison presentation
Unit 7	Body	Learners prepare and present the the body a product comparison presentation
Unit 8	Conclusion	Learners prepare and present the conclusion to a product comparison presentation
Section review	Review of presentation structure	Review of presentation structure
Final performance preparation	Final performance preparation	Final performance preparation
Final performance	Final performance	Final performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech New Edition, David Harrington and Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student number.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

レベル 4 / ※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	What are the options?	Learners prepare option presentations
Unit 2	Performance 1	Option presentations and peer feedback.
Unit 3	Job hunting	Learners prepare a proposal presentation
Unit 4	Performance 2	Proposal presentations and peer feedback.
Unit 5	Have I got your attention?	Learners prepare sales presentations
Unit 6	Performance 3	Sales presentations and peer feedback.
Unit 7	Technical problems and solutions	Learners prepare technical presentations

Unit 8	Performance 4	Technical presentations and peer feedback.
Unit 9	Cite your sources	Learners prepare academic presentations
Unit 10	Performance 5	Academic presentations and peer feedback.
Unit 11	Creative innovations	Learners prepare team presentations
Unit 12	Performance 6	Team presentations and peer feedback.
End-term review	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2, Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6515-9

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student numbers.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017 年度以降入学者 I

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 /※定員制（36 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱うエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。コンテキストを正しく捉える力を養う。

抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

辞書が活用できるようになる。

最終的に、英語の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に授業を行います。授業では、学生がパラグラフの要約、または内容の説明を行いそれについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。フィードバックに関しては、学生が発表するたびに教師がコメントを出し、さらにそのコメントについてクラスで話し合います。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明。	授業に関する説明の後、パラグラフの構造について理解する。
2	Session 1 What a Painting Can Tell Us 本エッセイの展望	この論文では、絵画に隠された物語を読み解く際の、筆者の論理的展開の方法に注意し、芸術作品の解釈の方法や説得力のある主張の仕方を学ぶ。リーディングスキルとしては、パラグラフの構造を理解する。筆者の主張を裏付けるトピックセンテンスと、その根拠を示す支持文を区別することによって、パラグラフの内容を大まかにつかみ要約する力を養い、論理的な文章を効果的に読むことができるようにする。 トピックセンテンスのないパラグラフにもトピックが存在することを理解する。

3	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフの構造を学ぶ	パラグラフが主題文、指示文、結論文から成ることを理解し、実際の英文の中でその構造を確認する。これを理解した上で、ピックセンテンスを見つけ、それが何故トピックセンテンスなのか、自分の言葉で説明する。	11	Session 9 On Speaking on Speaking 言語変化の担い手は誰か	言語の変化の担い手が子どもだという事実を検証する。 形式主語の it を見破る方法を学ぶ。
4	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフリーディングの実践	トピックセンテンスと論証部分がどのような関係になっているのか、自分の言葉で説明する。特に最後のパラグラフでは、フェルメールの絵がトピックに対してどのような論拠を与えているのか自分の言葉で説明する。	12	Session 9 On Speaking on Speaking のまとめ Session 14 Teenage Nation 本エッセイ展望	On Speaking on Speaking に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合う。 Teenager という概念が現れた背景を歴史的に考察する論文を読む。 Teenager の出現には、産業革命による労働形態の変化、教育の普及、大量消費社会の到来など、大きな社会的変革が関わっていることを理解する。現在では常識とされている事柄でも、過去においては極めて希少・斬新であったことを知るにより、新たな事実を理解するためには現在の常識を疑わなくてはならないということ学ぶ。 リーディングスキルとしては、パラグラフ内の論理的展開に留意することにより論拠の妥当性を緊密に検証し、批判的に文章を読む術を学習する。
5	Session 1 What a Painting Can Tell Us のまとめ Session 2 Split-Brain Research 本エッセイの展望	What a Painting Can Tell Us に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合う。 Session 2 では、右脳・左脳の機能の違いを世に知らしめた有名な事例を紹介する論文を読む。両脳間の機能上の最大の違いは、片方の脳のみが言語を扱うということに起因するという興味深い事実を学ぶ。リーディングスキルとしては、科学的論文の構造を理解する。また、図解を参照しながら英文を読む訓練をする。 実験の手順を記述するパラグラフには、トピックセンテンスがないことを理解する。	13	Session 14 Teenage Nation 子供が存在と教育の関係	ティーンネージャーという概念出来上がった背景には、子供が労働力から教育を受ける存在に変わったという事実があることを知る。
6	Session 2 Split-Brain Research プロセスの記述を読む	実験の手順を詳細に記述した文を読み、実験の内容を正確に理解する。	14	試験日	春学期試と解説
7	Session 2 Split-Brain Research 図を見ながら本文を理解する	図と英語の記述を対応させることによって、左脳の構造を視覚的に理解する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。 予習は、テキストの該当箇所を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。 特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。 復習は、授業で扱ったパラグラフの構造を復習し理解した上で、最低 5 回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるよう準備します。		
8	Session 2 Split-Brain Research 記述内容を具体的に読む	実験の結果に関する記述が具体的に実験の何を指し示すのかを理解する。抽象的な記述を具体的に理解し説明する読みを実践する。つまり文脈をたどる訓練をする。	【テキスト（教科書）】 『The Universe of English』東京大学英語教室編（東京大学出版会）		
9	Session 9 On Speaking on Speaking 本エッセイの展望	Split-Brain Research に関する意見を発表し、クラスで話し合う。 Session 9 では、言語の変化生成に関する仮説を扱う論文を読む。言語は原初の形を痕跡として残しつつ絶えず変化し続けること、人間には言語を生み出す普遍的能力があることを学ぶ。また、一般的には理解されていない、あらゆる言語に見られる普遍的性質のいくつかを知る。 リーディングスキルとしては、トピックセンテンスと支持文の関係をより深く理解し、筆者の主張をより正確に把握する能力を養う。パラグラフの内容を自分の言葉で要約できるようする。さらに、パラグラフ間のつながりにも留意することによって、論理的展開の仕方を学ぶ。	【参考書】 なし。		
10	Session 9 On Speaking on Speaking 言語とは何か	言語は絶えず変化すること、しかも原初の要素を残しながら、別の言語に変わってしまうかのように変化していくことを知る。	【成績評価の方法と基準】 授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価します。 授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。 一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていきます。 4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。 オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。		
【学生の意見等からの気づき】 できるだけ、学生中心の授業をしたいと思います。					
【学生が準備すべき機器他】 英和辞典を持参してください。					
【その他の重要事項】 できるだけ教師と学生の対話を通して、知的に楽しくて為になる、双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。					
【Outline (in English)】 The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it. The goal of this course is for students to be able to read and					

Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.
Final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017 年度以降入学者Ⅱ

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱うエッセイを読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。コンテクストを正しく捉える力を養う。

抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

辞書が活用できるようになる。

最終的に、英語の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に授業を行います。授業では、学生がパラグラフの要約、または内容の説明を行いそれについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。フィードバックに関しては、学生が発表するたびに教師がコメントを出し、さらにそのコメントについてクラスで話し合います。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	パラグラフの構造を理解する。
2	Session 17 Ecology 本エッセイの展望	エコロジーの入門書的論文を読む。この論文はコンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説している。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考える。 リーディングスキルとしては、トピックセンテンスの無いパラグラフのトピックを理解する術を学ぶ。
3	Session 17 Ecology 概念を定義するタイプの パラグラフ	概念の定義を行うパラグラフ構造を知る。

4	Session 17 Ecology 抽象と具体の説得力	エコロジーの定義と具体例を読み、両者の関係と説得力について考える。	11	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land 本エッセイの展望	ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読む。ディズニーランドの背後には、アメリカを中心とした歴史観、アメリカを代表する中西部の白人中流階層の保守的な理念があることを学ぶ。リーディングスキルとしては、エッセイ内のパラグラフ群が互いにどのような関係になっていて、どのように有機的な読み物を作り上げているのかを考察し、エッセイ全体のテーマを理解する術を学ぶ。
5	Session 17 Ecology 内容を要約できないパラグラフに関する説明	トピックがはっきりせず要約不能なパラグラフでも、そこには作者の意図があることを知り、それを言葉で説明する。 生態遷移という概念を具体例から理解する。	12	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランド人気の理由	ディズニーの世界観がどのようにディズニー・ランドに反映されているのかを知る。 また、エッセイ冒頭で示されたテーマとの関係を考察する。
6	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 本エッセイの展望	コロンブスが歴史上の偉人から、南米を侵略し社会を破壊した悪人に評価が変わった原因を考察する論文を読む。この論文は、コロンブスの評価の変化の背景を追うことによって、歴史そのものがいかに作り出されるかということにも言及しており、極めて興味深い。歴史が産出される構造を知ることで、歴史的事実とは決して客観的事実なのではなく、政治的意図が反映されたものの見方、すなわちある特権的な視点から事象を見るひとつの解釈であることを理解し、ひいては歴史とは何かを考察する。 リーディングスキルとしては、論理的に難解な文章を読む際に必要な文脈のたどり方に重点を置く。ある文の意味を理解するということ、その文脈を理解することであるということ、言い換えると、文の意味は文脈によって作り出されるという基本的事実を理解する。 パラグラフ内に見一トピックと関係ないように見える文も、必ずトピックと関連付けていることを知り、それを自分の言葉で表現できるように努力する。	13	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランドの神話的意義	ディズニーランドが単なるレジャーランドを超えて、アメリカの神話作りには貢献しているという説の論拠を知る。 また、エッセイ冒頭で示されたテーマと各パラグラフの関連を考えることによって、エッセイ全体の構造とその主張をより深く理解する。
7	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy クロノジカルな記述を読む	歴史的記述における視点を考える。西洋中心に考えたときの「アメリカ発見」の歴史的意義を学ぶ。 トピックセンテンスの内容が言い換えによって説明されることを学ぶ。 また、主格関係と目的格関係を表す前置詞 of の用法を学び、名詞句の内容を理解できるようにする。コロンブスの評価が英雄から人類最悪の男に凋落した理由として筆者が援用する歴史観について考察する。筆者が提示した理論を本文に当てはめると何を読みとることができるのか考えてみる。	14	試験日	秋学期試験を行う。まとめと解説
8	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 歴史とは何か	コロンブス以前のアメリカが理想郷として描き出されている現状の背後に隠された意図を知り、それを批判する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。 予習は、テキストの該当箇所を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。 復習は、授業で扱ったパラグラフの構造を復習し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるよう準備します。 【テキスト（教科書）】 東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会） 【参考書】 なし。 【成績評価の方法と基準】 授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価します。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。 一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていきます。 オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。 欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。		
9	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 反コロンブス神話とは	コロンブス以前のアメリカが理想郷として描き出されている現状の背後に隠された意図を知り、それを批判する。	【学生の意見等からの気づき】 学生が話し合って問題を解決する機会を増やします。 【学生が準備すべき機器他】 辞書を持参してください。 【その他の重要事項】 できるだけ教師と学生の対話を通して、知的に楽しくて為になる、双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。 【Outline (in English)】 The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it.		
10	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy コロンブスとは何なのか	コロンブスが「歴史的コマ」として、現代の政治ゲームの中でどのように利用されているか、具体的に記述の中で理解する。。 「発見」された側がコロンブスを歴史上傑出した悪人だと非難する、本当の理由を知る。			

The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them.

Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.

Final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 /※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC Test listening part の速度に慣れ、重要点（設問部分）をチェックできるよう練習したい。

自習用オーディオファイルを何度も聞いて、音と速さ、設問形式になじんでほしい。

授業外の学習時間 2 時間が必要。成績は授業時の提出物 20%、Final Report (TOEIC 形式の問題を提示)20%として最終評価する。

【到達目標】

TOEIC Test の listening part の速度に慣れ、単語ではなくフレーズの塊を聞き取れるようになる。

既習の文法事項を復習し再確認する。

ビジネス関連の語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う予定ですが、状況に応じて大学の方針に従います。変更がある場合は、学習支援システムで、その都度指示します。

初回授業に出席（または初回授業までに事前登録）して登録を許可された方は、指定のテキストを購入して授業準備を始めてください。定員を超えた場合は、授業掲示板で連絡いたします。授業日にその回のテキスト問題及び単語テストを毎回提出してもらい、授業内で問題の解説をします。提出物が平常点となりますので、しっかり学習してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	preparation test	プリントを配布し TOEIC テストの形式を確認する
2	U.1 動詞の使い方 1	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。自動詞と他動詞の使い方を復習する。
3	U.2 動詞の使い方 2	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。動詞の時制に注意する。
4	U.3 動詞の使い方 3	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。完了形の復習。idiom review のプリントを配布。
5	U.4 品詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。形容詞と副詞の使い方に注意。review プリントを提出する。
6	U.5 準動詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。準動詞の意味と使い方に注意する。
7	U.6 準動詞 2	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。準動詞の名使用法を復習する。idiom review プリントを配布する。

8	U.7 準動詞 3	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。pp 形と ing 形の意味と使い方に注意する。 review プリントを提出する。
9	U.8 準動詞 4	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。分詞構文の使い方を復習する。
10	U.9 比較級と最上級	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。語形変化と強調語の使い方に注意。 idiom review プリントを配布。
11	U.10 代名詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。不定代名詞の使い方に注意。 review プリントを提出する。
12	U.11 関係詞 1	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。基本の関係詞を復習する。
13	U.12 関係詞 2	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。関係詞の特殊用法に注意する。 idiom review プリントを配布。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ review プリントを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は併せて 1 時間を標準とします。かならず事前の語彙チェックをしましょう。毎回、ユニットの **vocabulary build-up** から **vocabulary quiz** を行います。

また、**listening** 練習用に音声ファイルがダウンロードできますので、繰り返し聞いて問題をチェックしてください。授業時には何度も音声チェックをする時間的な余裕がありませんので、事前にしっかり音を聞いてください。3 ユニット終了するごとに熟語のまとめプリントを配布し、宿題として提出していただきます。そのほか、必要に応じて文法プリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

Welcome to the TOEIC L&R Test—New Edition(Asahi Press)
1800 円

【参考書】

特に指定しない。随時、リスニングスクリプトと文法プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回テキスト問題およびボキャブラリークイズの解答を提出し、この点数が平常点 (80%) となる。**Review Test**(20% TOEIC 形式の問題を予定) と併せて、最終評価する。ただし 4 回分以上課題を提出しない、あるいは 4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。提出物の点が評価の大きな割合を占めるので、しっかり予習して点数を積み上げていってほしい。テキストのリスニング問題は音声ストリーミング配信で聞くことができるので、何度も聞き、問題を解いてみよう。

ボキャブラリークイズは各ユニットの **Vocabulary Build-up** から問題を出すので、しっかり確認し、語義と発音をチェックしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】

予習用にリスニングパートのスクリプトを配布していますが、何段階かに分けて使用していただければと思います。

まず音声ファイルのリスニングのみで問題を解いてみる、聞き取りにくい箇所をスクリプトを見ながら再度聞いてみる、スクリプトを見ながら音声ファイルと同時に声を出して読んでみる、というようにです。

じぶんで発音できれば、耳で聞いて意味をとりやすくなります。プリントは採点して返却しますので、疑問点があれば授業時に質問して下さい。歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。ただし、辞書は必ず携帯してください（通信機器は使用しないでください）。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携帯すること。

提出物の累計が平常点となるので、欠席しないよう注意してください。

【Outline (in English)】

Try to accustomed to each part of TOEIC questions and to the speed of announcement. You can download listening file on the publisher's website. Please get well-prepared for the class.

You are require to prepare for/review class activities for 2 hours.

You will be assessed with assignments (vocabulary quiz and answers for each Unit of the textbook) and Final Report (TOEIC-type test).

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 /※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音の脱落・連結音など聞き取りにくい音になじみ、より正確に設問の意図をつかむよう練習したい。

必要に応じて文法プリントや追加の reading 問題を配布し、リーディングの基礎を固めていきたい。

【到達目標】

とくに Part III のように会話の流れと設問が前後するような問題でも、聞きながら情報を整理して、回答できるようにする。

Reading part では、設問から記事のポイントを押さえて、重要点を採るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習としてテキスト各ユニットの重要単語を使ったボキャブラリークイズ、テキストのリスニングおよびリーディングパートの解答を毎回提出してもらい、平常点とします。そのほかに Idiom の復習プリントまたは Extra Questions のプリントを配布します。授業ではテキストの解説を行い、その際に質問等のフィードバックをします。課題を授業支援システムを通じて提出していただいた場合は、支援システムでフィードバックを行います。対面授業を行う予定ですが、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	U.1 Sightseeing / Guide Tour	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。主語と述語動詞に注意する。
2	U.2 Restaurant	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。人称の単数・複数に注意。
3	U.3 Hotel / Service	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の時制に注意する。idiom review プリントを配布。
4	U.4 Employment	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の種類に注意。
5	U.5 Entertainment	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。形容詞用法分詞を復習する。
6	U.6 Shopping / Purchases	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。文の要素に注意する。Idiomu Review プリントを配布する。
7	U.7 Sports / Health	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。補語と目的語に注意する。

8	U.8 Doctor's Office / Pharmacy	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞の用法に注意する。
9	U.9 Hobbies / Art	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞の使い方。idiom review プリントを配布。
10	U.10 Education / Schools	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。関係詞に注意する。
11	U.11 Technology / Office Supplies	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。比較級と最上級に注意する。
12	U.12 Transportation	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。仮定法と倒置に注意する。idiom review プリントを配布。
13	U.13 Travel / Airport	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。不定詞と動名詞の使い方に注意する。
14	U.14 Housing / Construction Review of Autumn Term Mini Test	学期のまとめ Mini Test の解答を提出する。 Idiomu Review プリントを配布。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は併せて 1 時間を標準とする。】毎回ボキャブラリークイズを行い、テキストの解答も提出してもらいます。事前にテキストの問題にしっかり目を通し、難解な語彙・語法をチェックしておいて下さい。また listening part のスクリプトを配布しますので、出版社のホームページから音声ファイルをダウンロードして、予習に役立ててください。また、テキストの問題に使われている熟語を復習する idiom review のプリントを宿題として配布し、提出してもらいます。（これらも評価点に含まれます。）

【テキスト（教科書）】

Progressive Strategy for the TOEIC L & R Test (成美堂 2000 円)

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物 80 %、Mini Test(最終回提出物)20 % として評価する。

授業時の提出物には各ユニットのボキャブラリークイズ、テキスト問題の解答、宿題として idiom review のプリントが含まれる。平常の提出物の評価割合が大きいため、欠席しないよう気をつけましょう。4 回以上欠席した場合、評価の対象としません。

You will be assessed: Assignments (vocabulary quiz and answers to each

Units of the textbook) 80%

Mini Test(Final Test) 20%

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit. When you come late for the class 3times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

授業内でできるだけ多くの問題をこなしてもらいたいと考えていますが、もうすこし基本的な文法の復習と説明が必要かと考えています。Listening part の予習の際、何度も繰り返して聞く、スクリプトを参考にして音読する、という練習が必要だと思います。（聞き取るためには発音練習が必要です。）

また、Reading part、特に part VII では速読と重要語句のピックアップが必要になりますが、予習の際にはきちんと文を読み込む、できれば音読する、という準備が必要ではないかと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。ただし、リスニングパートの音声は各自ダウンロードまたはストリーミング配信を利用して、予習に使用してください。対面での授業時には CD で音声を流します。

【その他の重要事項】

授業時は辞書を携行してください。

対面授業では、毎回授業の最初にボキャブラリークイズを行います。対面授業が困難、またはオンラインで受講する方がいらっしゃる場合は、事前に問題を提示して授業前日までに学習支援システムを利用して提出していただくことになります。提出物の点数が平常点となりますので、提出漏れのないように、注意してください。遅刻した場合、回数に応じて欠席にカウントされます。

Please carry dictionary in the class.

Take care not to fail to submit Assignments, for the scores of assignments take the most part of final estimation.

When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【Outline (in English)】

We will try to get accustomed to reduction of sounds and to check out WHAT kind of answer we are supposed to make. In questions of Part III, the questions do not necessarily come to the order of the topic in the conversation. You have to get the information while listening and check up the choices on the page. Please listen to the listening file repeatedly and get accustomed to the reduction of pronunciation. You will be given additional Reading Parts questions in the class and practice quick reading. You are required to prepare for/review class activities for 1 hour. You will be assessed by the assignments (vocabulary quiz and answers for each units:80%) and final Test(20%).

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 /※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検準 1 級の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力をバランス良く強化することを目指します。授業の後半では TOEFL, IELTS の紹介と基礎演習も行います。英語検定試験受験予定者はもちろんのこと、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(この授業の形態は演習です)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検, TOEFL, IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. News mini-presentation (News in Levels についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Learning Paragraph Structure 2 Paragraph reading practice 2 Listening practice
5 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

6 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
7 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
8 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
9 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2 Reading practice 3 Listening practice
10 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

(各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検, TOEFL, IELTS の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力をバランス良く強化することを目指します。英語検定試験受験予定者はもちろんのこと、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to make a mini presentation
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(この授業の形態は演習です)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検, TOEFL, IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED の内容等についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
5 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

6 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
7 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice
8 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL テストについて) 2 Reading practice 3 Listening practice
9 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice
10 回	TOEFL: Learning presentation skills	1 Learning an effective presentation 2 Making a presentation
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 /※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test600 点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600 点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。

【到達目標】

- ・TOEIC Listening & Reading Test を受験し、600 点以上をとる。
- ・TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することが出来る。
- ・苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを授業中に解き、解説を行います。授業終了後、解説・フィードバックを受けて適宜自分のミスを復習し、自宅学習用教材を使ってトレーニングを進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。また、受講者の自己紹介を行い、各自この授業での目標を立てる。
2	Unit 1	Vocabulary quiz < Listening part > Restaurant
3	Unit 1 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Restaurant
4	Unit 2	Vocabulary quiz < Listening part > Department Store
5	Unit 2 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Department Store Unit 1 & 2 Test
6	Unit 3	Vocabulary quiz < Listening part > Train Station
7	Unit 3 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Train Station
8	Unit 4	Vocabulary quiz < Listening part > Transportation

9	Unit 4 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Transportation Unit 3 & 4 Test
10	Unit 5	Vocabulary quiz < Listening part > Post Office
11	Unit 5 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Post Office < Listening part >
12	Unit 6	Bank < Reading part >
13	Unit 6 cont.	Bank Unit 5 & 6 Test
14	Final	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回から第 11 回までは毎回授業で単語クイズを行います。単語練習をして授業に参加すること。授業で間違った箇所を分析し、復習をすること。また、リンガボルタを使用した宿題が課せられますので、次の授業までに必ず行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

単語帳：『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』（TEX 加藤）朝日新聞出版

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

また必須テキストとして指定する『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』が難しい者は、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』、物足りない者は『TOEIC L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』を用意することもすすめる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%), Weekly Vocabulary Quiz (10%), 期末試験 (60%)
原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。
遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。
遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リンガボルタという学習ツールを使用しますので、宿題にパソコンが必要になります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for the students who aim to achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are 3 goals for this course. 1) Achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your own weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class Participation (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), Final Exam (50%)

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / ※定員制 (36 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test600 点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600 点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。前期の「英語検定試験対策Ⅰ」受講による自身の到達度を確認し、より効果的な学習プランを立てましょう。

【到達目標】

- ・TOEIC Listening & Reading Test を受験し、600 点以上をとる。
- ・TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを授業中に解き、解説を行います。授業終了後、解説・フィードバックを受けて適宜自分のミスを復習し、自宅学習用教材を使ってトレーニングを進めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。受講者は自分の前期到達度を確認し、後期の自己目標を立てる。
2	Unit 7	Vocabulary quiz < Listening part > Airport
3	Unit 7 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Airport
4	Unit 8	Vocabulary quiz < Listening part > Hotel
5	Unit 8 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Hotel Unit 7 & 8 Test
6	Unit 9	Vocabulary quiz < Listening part > Hospital
7	Unit 9 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Hospital
8	Unit 10	Vocabulary quiz < Listening part > Events and Performances
9	Unit 10 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Events and Performances Unit 9 & 10 Test

10	Unit 11	Vocabulary quiz < Listening part > College
11	Unit 11 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > College
12	Unit 12	< Listening part > Office
13	Unit 12 cont.	< Reading part > Office
14	Final	Unit 11 & 12 Test 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回から第11回までは毎回授業で単語クイズを行います。単語練習をして授業に参加すること。授業で間違った箇所を分析し、復習をすること。また、リングボルトを使用した宿題がかけられますので、次の授業までに必ず行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

単語帳：『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』（TEX 加藤）朝日新聞出版

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

また必須テキストとして指定する『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』が難しい者は、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』、物足りない者は『TOEIC L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』を用意することもすすめる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%), Weekly Vocabulary Quiz (10%), 期末試験 (60%)
原則として、学期期間中に4回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から30分までとし、30分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻2回で欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リングボルトという学習ツールを使用しますので、宿題にばパソコンが必要になります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for the students who aim to achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are 3 goals for this course. 1) Archive 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your own weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class Participation (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), Final Exam (50%)

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

レベル 2,3 /※定員制 (36名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650点を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を詳しく説明していく
2	文法説明 第1課	TOEIC(R)で必要とする基礎的文法の説明
3	第1課 レストラン	リスニング レストランでの会話
4	第1課 レストラン	リーディング 動詞の時制
5	第2課 デパート	第1課小テスト リスニング デパートでの会話
6	第2課 デパート	リーディング 自動詞と他動詞
7	第3課 駅	第2課小テスト リスニング 駅での会話
8	第3課 駅	リーディング 主語と時制の一致
9	第4課 交通機関	第3課小テスト リスニング 電車・バスなどでの会話
10	第4課 交通機関	リーディング 動名詞
11	第5課 郵便局	第4課小テスト リスニング 郵便局での会話

12	第5課 郵便局	リーディング 不定詞
13	第6課 銀行	第5課小テスト リスニング 銀行での会話
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
リスニング（教科書付属のCDその他）
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

All-Round Training For The TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円
ISBN978-4-7919-7213-5

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
成美堂（1700 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は3回で欠席1回に換算される。
各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 /※定員制（36 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650 点台の英単語を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期に引き続き授業を進めていく
2	第7課 空港	リスニング 空港での会話
3	第7課 空港	リーディング 分詞
4	第8課 ホテル	第7課小テスト リスニング ホテルでの会話
5	第8課 ホテル	リーディング 名詞の可算・不可算
6	第9課 病院	第8課小テスト リスニング 病院での会話
7	第9課 病院	リーディング 代名詞
8	第10課 イベント	第9課小テスト リスニング 様々なイベントでの会話
9	第10課 イベント	リーディング 接続詞と接続副詞
10	第11課 大学	第10課小テスト リスニング 大学での会話
11	第11課 大学	リーディング 受動態と使役

12	第 12 課 オフィス	第 11 課小テスト リスニング 職場での会話
13	第 12 課 オフィス	リーディング 形容詞
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
リスニング（教科書付属の CD その他）
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

All-Round Training For The TOEIC L&R TEST 成美堂 2200 円
ISBN978-4-7919-7213-5

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
成美堂（1700 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【その他の重要事項】

秋学期のみ登録予定の学生も、教科書は春学期に購入すること

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA

Oral Communication I

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

Intermediate / ※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、「ソーシャルメディア」「ビジネス」「ストーリー」にまつわるトピックについて、楽しみながら英語で聞き、読み、話す練習をし、それぞれの授業の終わりには、その日のトピックについて自信を持って英語で話せるようになることを目指します。

【到達目標】

日常生活やビジネスで役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回、その日のトピックについて、まずはリスニングとリーディングを通して主要な語彙や言い回しに慣れ親しみます（＝インプット）。その後、音読やリテリング（自分の言葉で説明する）などのアクティビティを通してインプットした表現を定着させ、最終的に自分が考えた内容を英語で自信を持って話せるようにします（＝アウトプット）。これらを、随時ペアワークやグループワークによって行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第 2 回	Unit 1 What is important to you?	SNS で自分の大切なものを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 3 回	Unit 2 My morning routine	動画サイトでモーニングルーティンを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 4 回	Unit 3 Your recommended restaurant	グルメサイトでおすすめのレストランを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 5 回	Unit 4 The best film ever	映画レビューサイトでお気に入りの映画を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 6 回	Unit 5 What is a true friend?	Q&A サイトで悩み相談に答える、という設定で英語を話す練習をします。
第 7 回	Unit 6 The best pizza in town	新メニュー開発に向けてユニークなピザを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 8 回	Unit 7 An ideal private tour plan	ニーズに合わせたツアープランを企画する、という設定で英語を話す練習をします。
第 9 回	Unit 8 Useful apps for your smartphone	あったらいいなと思うアプリの機能をプレゼンする、という設定で英語を話す練習をします。
第 10 回	Unit 9 A proposal for new flavors	データをもとにヒット商品の新しい味を提案する、という設定で英語を話す練習をします。

第 11 回	Unit 10 A great figure in the business world	ビジネス界の偉人を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 12 回	Unit 11 Cheese for Uncle David	クスッと笑える小噺を英語で話す練習をします。
第 13 回	Unit 12 The baby sitter	英語でストーリーの展開を予測して伝える練習をします。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業でおぼえた表現を用いた試験を行い、試験結果に応じたフィードバックを通して授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の Unit で解説したポイントをよく復習して、期末試験でどの Unit のテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれの Unit の内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking Steps『スピーキング・ステップ～英語を話すための 3 ステップ～』（金星堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけで、うれしいです。

【Outline (in English)】

In this course, students are encouraged to listen to, read and speak English on various enjoyable topics regarding 'social media', 'business' and 'stories' so that they can speak confidently about a specific topic in English by the end of each class. The goal of this course is learning useful expressions for daily life and business and improving speaking skills in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

LANe200LA

Oral Communication II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

Intermediate / ※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、様々な架空の設定やトピックで英語を楽しく話すアクティビティを行うことで、日常会話で役立つ英語表現に慣れ親しみ、様々なトピックについて英語で自信をもって話せるようになることを目指します。

【到達目標】

日常生活や旅行で役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

それぞれの回のテーマに沿った架空の設定で英会話を行えるような、様々なアクティビティをペアワークやグループワークを取り入れながら行います。その際、随所でリスニングや簡単なライティングを取り入れながら日常会話や旅行で使える便利な表現をおぼえることで、様々なトピックについて自信をもって英語で話せるようにします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第 2 回	Unit 1 You and your classmates	自己紹介・他己紹介に関連した英会話の練習をします。
第 3 回	Unit 2 You, going out to eat	外食に関連した英会話の練習をします。
第 4 回	Unit 3 You, shopping	買い物に関連した英会話の練習をします。
第 5 回	Unit 4 You, out on the town	街での外出に関連した英会話の練習をします。
第 6 回	Unit 5 You, planning a trip	旅行の計画に関連した英会話の練習をします。
第 7 回	Unit 6 You, hotel guest	ホテル滞在に関連した英会話の練習をします。
第 8 回	Unit 7 You, world traveler	海外旅行に関連した英会話の練習をします。
第 9 回	Unit 8 You, living with others	ホームステイやシェアハウスに関連した英会話の練習をします。
第 10 回	Unit 9 You, job hunting	就職活動に関連した英会話の練習をします。
第 11 回	Unit 10 You, giving good advice	誰かに助言をする際の英会話の練習をします。
第 12 回	Unit 11 You, solving world problems	世界の諸問題に関連した英会話の練習をします。
第 13 回	Unit 12 You, inventor for the future	画期的な発明に関連した英会話の練習をします。

第 14 回 期末試験とまとめ

授業でおぼえた表現を用いた試験を行い、試験結果に応じたフィードバックを通して授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の Unit で解説したポイントをよく復習して、期末試験でどの Unit のテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれの Unit の内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Starting off with role play and discussion『これからの英語コミュニケーション講座』（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【その他の重要事項】

前学期の Oral Communication I を取っていないくても受講可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students speak English in various role-plays in imaginary situations and discussions on enjoyable topics so that they can familiarize themselves with useful daily life expressions in English and speak confidently about various topics in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

LANe200LA

Oral Communication I

2017 年度以降入学者

R. G. ジェイムズ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

Intermediate / ※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To promote the development of communication skills in English

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based.

In the case of online classes, worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Zoom)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Family	Discuss family, family life and family members. Task: Pros and cons of living alone
Lesson 3	Friends	Discuss friends from different stages of life. Task: Assessing friendship
Lesson 4	House and Home	Discuss houses, homes and locations. Task: Deciding on a place for a permanent home.
Lesson 5	Transportation	Discuss travel and transport for work and leisure Task: Assessing Japanese public transport.
Lesson 6	Restaurants	Eating out; restaurant dishes, public smoking, cost and recommendation: Task: where to take foreign visitor.
Lesson 7	Mid-term test	Prepare a speech describing your personal lifestyle
Lesson 8	Mid-term test	Present your speech to students and teacher.
Lesson 9	School life	Discuss student lifestyles and study Task: Assessing a university curriculum

Lesson 10	Media and reading	Discuss personal tastes in clothes and fashion Task: Assess the role and usefulness of uniforms
Lesson 11	Fashion	Discuss personal tastes in clothes and fashion Task: Assess the role and usefulness of uniforms
Lesson 12	Sports	leisure or entertainment Task: Assess the relationship of sports and lifestyle.
Lesson 13	Vacations	Discuss memorable vacations. Task: Exploring ideal vacation places and activities.
Lesson 14	Review and test preparation	Review recent topics and prepare 2nd test speech.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer

【参考書】

Any topic-based elementary conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

2 x essays: one at mid-term and one end-of-term. These essays will express in further detail your opinions about the topics discussed.

2 x 50% = 100%

In addition, students need to follow campus guidelines for attendance: in principle, no more than three (3) absences are permitted in per semester.

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussion of online study material, particularly podcasts, the Olympics and comparisons of Eastern and Western culture.

【学生が準備すべき機器他】

In the case of online classes, students will need a Skype client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

Students should check the Hoppii system regularly to obtain any study material necessary for completing weekly tasks.

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to speak fairly fluently about themselves and their life as a student.

LANe200LA

Oral Communication II

2017 年度以降入学者

R. G. ジェイムズ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

Intermediate / ※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To promote the development of communication skills in English

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based.

In the case of online classes, worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Skype)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Movies	Discuss movie genres and favorite examples Task: Movie review.
Lesson 3	Jobs and work	Discuss careers, jobs and job hunting Task: Assessing criteria for choosing a company to work for.
Lesson 4	:Money	Discuss personal uses of money and obtaining it Task: Assess different countries' approach to financing students
Lesson 5	Music	Discuss tastes in music and musical styles Task: Assessing music sources in the digital age.
Lesson 6	Holidays	Discuss national holidays and traditional celebrations Task: Exploring free time and how to use it
Lesson 7	Mid-term test	Prepare a speech giving more detailed opinions about the topics discussed so far.
Lesson 8	Mid-term test	Present your speech to students and teacher, and answer any questions.

Lesson 9	The academic year	Discuss study schedules and time management Task: Pros and Cons of adopting international semester times.
Lesson 10	Traditional and virtual classrooms	Discuss what and how to study. Task: Pros and Cons of traditional school curriculum.
Lesson 11	Alternative energy.	Discuss traditional sources of energy and how they are used Task: Pros and Cons of new and alternative energy sources.
Lesson 12	Crime and safety	Discuss common types of crime in Japan and safety measures. Task: Discuss and decide on appropriate punishment for various crimes.
Lesson 13	Christmas	Discuss Christmas traditions in Japan and elsewhere Task: Selecting and justifying gifts and gift-giving.
Lesson 14	Review and test preparation	Review recent topics and prepare 2nd test speech again exploring in greater depth any topic of interest.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

Any topic-based elementary conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

2 x essays: one at mid-term, and one at end-of-term. These essays will express your opinion on the topics studied during the preceding weeks.

2 x 50% = 100%

In addition, students need to follow campus guidelines for attendance: in principle, no more than three (3) absences are permitted in per semester.

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussion of online study material, particularly podcasts, the Olympics and comparisons of Eastern and Western culture.

【学生が準備すべき機器他】

In the case of online classes, students will need a Skype client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

Students should regularly check the Hoppii system to obtain the study material each week.

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to speak fairly fluently about themselves and their life as a student.

LANe200LA

English through Movies and Drama I

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine は、映画の中の食文化について書かれたエッセイ集です。エッセイを精読し、storytelling の基礎力を養います。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容と食文化について理解を深めます。
3. 語句や文法の知識を正確に身につけます。
4. 自分が書いたり話したりするときのモデルとしてエッセイを活用します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
 2. エッセイの音読の練習をします。
 3. 映画の見どころを解説します。
 4. ショートエッセイを書いてみます。
- ①個人別フィードバックを行います。
②課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してもフィードバックを行います。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。)
第 2 回	Chapter 1: <i>Kramer vs. Kramer</i> 『クレイマー、クレイマー』	Daddy's French Toast 時制について学ぶ
第 3 回	Chapter 2: <i>The Devil Wears Prada</i> 『ブラダを着た悪魔』	New Yorkers' Street Food 比較について学ぶ
第 4 回	Chapter 3: <i>Super Size Me</i> 『スーパーサイズ・ミー』	Fast Food and Obesity 動名詞について学ぶ
第 5 回	Chapter 4: <i>Kamome Shokudo</i> 『かもめ食堂』	Japanese Cuisine in Finland 分詞について学ぶ
第 6 回	Chapter 5: <i>The Road Home</i> 『初恋のきた道』	A Lunchbox Filled with Love 代名詞について学ぶ
第 7 回	Chapter 6: <i>Notting Hill</i> 『ノッティングヒルの恋人』	The Last Brownie 仮定法について学ぶ

第 8 回	Chapter 7: <i>No Reservations</i> 『幸せのレシピ』	A Recipe for Happiness 接続詞について学ぶ
第 9 回	ショートエッセイの書き方 (テーマ編)	どのようなテーマ設定が可能か、全員でディスカッションします。
第 10 回	ショートエッセイの書き方 (文章編)	英文エッセイの書き方を指導します。
第 11 回	Chapter 8: <i>Dear Frankie</i> 『Dear フランキー』	Fish & Chips with Daddy 不定詞について学ぶ
第 12 回	エッセイ・フィードバック (1)	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 13 回	エッセイ・フィードバック (2)	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 14 回	エッセイ・フィードバック (3) と秋学期授業 (English through Movies & Drama II) の予告	個別の提出課題から抽出したポイントを、全体にフィードバックします。 秋学期の課題映画について解説します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの essay reading と exercises は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。期末に英文エッセイ (300 語～400 語程度の予定) を書けるよう、スケジュール管理してください。

【テキスト (教科書)】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (Asahi Press)

【参考書】

本橋哲也著『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』(大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %) と期末課題 (50 %) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」、「個別のフィードバックが貴重だった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309) 教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom でも動画共有を行うので、使用機器 (PC 利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加と静逸な環境での参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、Hoppii も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to read intensively essays in *A Flavor of English: Cinema and Cuisine* as a basis for storytelling. You are expected to get used to intensive reading and storytelling. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and essay writing(50%).

LANe200LA
English through Movies and Drama II 2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine は、映画の中の食文化について書かれたエッセイ集です。エッセイを精読し、storytelling の基礎力を養うとともに、自分の考えを英語で伝える練習をします。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容と食文化について理解を深めます。
2. 語句や文法の知識を正確に身につけます。
3. 自分が書いたり話したりするときのモデルとしてエッセイを活用します。
4. 興味深く説得力のあるエッセイを書く練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
 2. エッセイの音読の練習をします。
 3. 映画の見どころを解説します。
 4. ショートエッセイを書いてみます。
- ①個人別フィードバックを行います。
②課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してもフィードバックを行います。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。)
第 2 回	Chapter 9: <i>Seabiscuit</i> 『シービスケット』	Hard to Bite, Hard to Ride 受動態について学ぶ
第 3 回	Chapter 10: <i>Charlie and the Chocolate Factory</i> 『チャーリーとチョコレート工場』	The Sweetest Treat 疑問詞について学ぶ
第 4 回	Chapter 11: <i>Everybody's Fine</i> 『みんな元気』	Coming Together for Christmas Turkey 前置詞について学ぶ
第 5 回	Chapter 12: <i>The Witch of the West Is Dead</i> 『西の魔女が死んだ』	Making Strawberry Jam with Grandma 使役動詞・知覚動詞について学ぶ
第 6 回	Chapter 13: <i>A Simple Life</i> 『桃さんのしあわせ』	His Favorite Poached Ox Tongue 助動詞について学ぶ

第 7 回	Chapter 14: A Touch of Spice 『タッチ・オブ・スパイス』	A Spice for Life 関係代名詞・関係副詞について学ぶ
第 8 回	映画の原作を読んでいる	Charlie and the Chocolate Factory の一部を原作（英国児童文学）で読みます。
第 9 回	ショートエッセイの書き方（文章編）	英文エッセイの書き方を指導します。
第 10 回	英語の台詞（1）	公式 Video Clips を用いて、英語の台詞を学びます。
第 11 回	英語の台詞（2）	公式 Video Clips を用いて、英語の台詞を学びます。
第 12 回	エッセイ・フィードバック（1）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 13 回	エッセイ・フィードバック（2）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 14 回	エッセイ・フィードバック（3）	個別の提出課題から抽出したポイントを、全体にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの essay reading と exercises は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。期末に英文エッセイ (300 語～400 語程度の予定) を書けるよう、スケジュール管理してください。

【テキスト（教科書）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (Asahi Press)

【参考書】

本橋哲也著『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末課題（50 %）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」、「個別のフィードバックが貴重だった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309) 教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom でも動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加と静逸な環境での参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、Hoppii も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to read intensively essays in A Flavor of English: Cinema and Cuisine as a basis for storytelling and essay writing. You are expected to get used to intensive reading, storytelling and essay writing. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and essay writing(50%).

LANe200LA
English through Movies and Drama I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、CD でスクリプトを聞き、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、スクリプトの音源の CD を聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

教科書の英文を読み、各エクササイズに答えてもらいます。予習を前提にした授業を行う。教科書の問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習支援システム（ホッピー）にアップされている Youtube の予告編を見る。	予告編を何度も見て、どんな映画か想像してレポートを提出する。テキストを買っておく。
2	Unit 1 A Boy and a Man	ふたりの男子。テキストの予習復習をする。
3	Unit 2 Will joins SPAT	ウィル SPAT に入会。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 You Need a Backup	支えが要るんだ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	ウィルとマーカスの奇妙な友情。テキストの予習復習をする。
6	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	マーカスを変身させよう。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Will's First Real Christmas	初めての本物のクリスマス。テキストの予習復習をする
8	Unit 7 The Boys Get Crushes	ふたりが同時に恋をした。テキストの予習復習をする。
9	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	お母さんへの贈り物。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 No Man Is an Island	人は孤島ではない。テキストの予習復習をする。
12	Unit 1-5 復習	英語字幕で、映画の前半を復習する

13	Unit 6-10 & Unit 1 冒頭	英語字幕で、映画の後半を、復習する。その後、日本語字幕で、映画の最初の場面を復習する
14	Unit 1 途中から Unit 10	日本語字幕で、Unit 1 の先週の続きから、最後まで、一気に見て復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストの予習復習をする。予習として、テキストの問題を解き、辞書を引きながらスクリプトに目を通して、注を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/ Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子、Kim R.Kanel 『About a Boy』松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

最初の授業のレポートに加えて、各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を 5 0 %、学期末のレポートを 5 0 % で採点する。
各課題未提出、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいましたようです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called About a Boy, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA

English through Movies and Drama II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マイク・ニューウェル監督、ヒュー・グラント、アンディ・マクドローウェル主演のイギリスのラブコメディ映画『Four Weddings and a Funeral』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプトと問題をあらかじめ予習している状態で、映画の一部を見て、テキストのスクリプトを読み、問題を解いて理解を深める。なお、最初の課題レポートと、最後のレポート課題は、Hoppii に提出していただきます。フィードバックは、Hoppii から行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Hoppii にアップされている映画のトレーラー（Youtube）を各自で見て、それについて、Hoppii に課題レポートを書く。テキストを買っておく。
2	Week 1 Prologue	Wedding 1 へ。テキストの予習復習をする。
3	Week 2 Reception	披露宴。テキストの予習復習をする。
4	Week 3 After the reception	披露宴後。テキストの予習復習をする。
5	Week 4 Wedding 2	2 つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
6	Week 5 Reception	2 つ目の結婚式の披露宴。テキストの予習復習をする。
7	Week 6 A Day Off	休日。テキストの予習復習をする。
8	Week 7 Wedding 3	3 つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
9	Week 8 Funeral	葬式。テキストの予習復習をする。
10	Week 9 Wedding 4 (1)	4 つ目の結婚式の前半。テキストの予習復習をする。
11	Week 10 Wedding 4 (2)	4 つ目の結婚式の後半 & Epilogue。テキストの予習復習をする。

12	映画の前半を通して見る。	英語字幕付きで、映画の前半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。
13	映画の後半を通して見る。&日本語字幕で、映画の冒頭のシーンを復習する。	英語字幕付きで、映画の後半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。日本語字幕で、映画の最初の部分を復習する。
14	日本語字幕で、映画を最後まで復習する	テキストの最初から最後まで復習しておく。授業の後、まとめのレポートを書いてもらい、ホッピーで提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、辞書を引きながら、テキストのスク립トに目を通して、各課の問題を解いておく。

【テキスト（教科書）】

Richard Curtis ed. & notes by Tomoko Otani, 『Four Wedding and a Funeral』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

最初の授業のレポートに加えて、各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を50%、学期末のレポートを50%で採点する。各課題未提出、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいたようです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called *Four Weddings and a Funeral*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.
Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA

TOEIC(R) I

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「TOEIC®って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC®形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、e-learning による個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期・秋学期の概要とレベルの説明。
第2回	Unit 1: Travel (名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第3回	Unit 2: Dining Out (形容詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第4回	Unit 3: Media (副詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第5回	Unit 4: Entertainment (時制を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第6回	Unit 1~4	復習のためのクイズやタスクと問題演習
第7回	Unit 5: Purchasing (主語と動詞の一致を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第8回	Unit 6: Clients (能動態・受動態を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第9回	Unit 7: Recruiting (動名詞・不定詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第 10 回	Unit 8: Personnel (現在分詞・過去分詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 11 回	Unit 5～8	復習のためのクイズやタスクと問題演習
第 12 回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認します。
第 13 回	春学期末テストと復習	春学期に学んだ単語・フレーズについて筆記試験を行います。
第 14 回	春学期の総括	期末テストを返却して解説します。秋学期授業の予告、夏季休暇中の勉強のしかたなどを説明し、個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。秋学期 12 月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate（金星堂）
そのほか、プリント教材

【参考書】

URL（例）
http://heathrow.com/
https://www.expedia.co.uk/
https://www.ox.ac.uk/gazette/ など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。少人数クラスならではのコミュニケーションが効果的だったのではと自負しています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309) 教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom 授業では、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom 授業では顔出し参加と静逸な環境での参加をお願いします。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will start with the introductory topic, 'What it is like the TOEIC® test?' Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will learn such knowledge and skills systematically from the spring semester. By the end of the course, students should get familiar with the testing types. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(50%) and final exams(50%).

LANe200LA

TOEIC(R) II

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC® で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC® の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12 月の TOEIC® 本試は全員に受験していただく予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC® 形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、e-learning による個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の学習内容の復習、秋学期の学習計画の説明などを行います。
第 2 回	Unit 9: Advertising (代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 3 回	Unit 10: Meetings (比較を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 4 回	Unit 11: Finance (前置詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 5 回	Unit 8～11	復習のためのクイズやタスク
第 6 回	Unit 12: Offices (接続詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 7 回	問題演習（1）	パート別に制限時間を設けての問題演習
第 8 回	問題演習（2）	パート別に制限時間を設けての問題演習
第 9 回	Unit 13: Daily Life (前置詞と接続詞の違いを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 10 回	Unit 14: Sales & Marketing (関係代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第 11 回	Unit 15: Events (語彙の結びつきを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 12 回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認します。
第 13 回	秋学期末テストと復習	秋学期に学んだ単語・フレーズについて筆記試験を行います。
第 14 回	秋学期の総括	期末テストを返却して解説します。 12 月の TOEIC® スコアレポート提出後、学生本人の希望に応じて個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。12 月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

『TOEIC® テスト公式問題集 新形式問題対応編』(Educational Testing Service)

『TOEIC® Test プラスマガジン』(リント)

URL (例)

<http://heathrow.com/>

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%)、Interview (25%)、期末テスト (25%)、12 月 TOEIC® 本試のスコア (25%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。少人数クラスならではのコミュニケーションが効果的だったのではと自負しています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309) 教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom 授業では、使用機器 (PC 利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom 授業では顔出し参加と静逸な環境での参加をお願いします。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will continue to learn such knowledge and skills systematically. Especially in the fall semester, we will focus on a variety of business situations. By the end of the course, students should reach their target score in the TOEIC® testing. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(50%) and final exams(50%).

LANe200LA

TOEIC(R) I

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人が苦手とするリスニングのポイントや読解に必要な文法事項の確認をしながら TOEIC® 形式の問題演習を行うことで、リスニング力・読解力の向上を目指します。

【到達目標】

TOEIC® の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC® スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC® の傾向と対策をおさえていきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC® の概要
第 2 回	教科書 Lesson 1 Headhunting	「音の消失」を含む英語のリスニング練習（破裂音同士）
第 3 回	教科書 Lesson 2 The Internet	動詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 4 回	教科書 Lesson 3 Weddings	「音の消失」を含む英語のリスニング練習（破裂音と鼻音、s, th 等）
第 5 回	教科書 Lesson 4 Corporate Culture	時制にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 6 回	教科書 Lesson 5 Music	応答の予測をしながらのリスニング練習
第 7 回	教科書 Lesson 6 Movies	形容詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 8 回	教科書 Lesson 7 Sightseeing	「音の同化」を含む英語のリスニング練習
第 9 回	教科書 Lesson 8 Recruiting	名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 10 回	教科書 Lesson 9 Shopping	「音の短縮」を含む英語のリスニング練習
第 11 回	教科書 Lesson 10 Forecasts	分詞構文にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 12 回	教科書 Lesson 11 Customs	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
第 13 回	教科書 Lesson 12 Crime	不定詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 14 回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。試験結果に応じてフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC ® Test （南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度（70%）と期末試験（30%）から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【Outline (in English)】

In this course, students will improve their listening and reading skills in English through preparing for TOEIC ®. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

LANe200LA

TOEIC(R) II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人が苦手とするリスニングのポイントや読解に必要な文法事項の確認をしながら TOEIC ® 形式の問題演習を行うことで、リスニング力・読解力の向上を目指します。

【到達目標】

TOEIC ® の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC ® スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC ® の傾向と対策をおさえていきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC ® の概要
第 2 回	教科書 Lesson 13 New Products	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
第 3 回	教科書 Lesson 14 Global Matters	動名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 4 回	教科書 Lesson 15 Health	「無声化する音」を含む英語のリスニング練習
第 5 回	教科書 Lesson 16 Parties	時制の一致や主語・動詞の一致にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 6 回	教科書 Lesson 17 Skiing	「有声化する音」を含む英語のリスニング練習
第 7 回	教科書 Lesson 18 Travel	関係詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 8 回	教科書 Lesson 19 Dating	「音の弱化」を含む英語のリスニング練習
第 9 回	教科書 Lesson 20 Hospitals	接続詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 10 回	教科書 Lesson 21 Advertising	音の弱形と強形に注意しながらのリスニング練習
第 11 回	教科書 Lesson 22 Opportunities	仮定法にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 12 回	教科書 Lesson 23 Employment	類音語に注意しながらのリスニング練習
第 13 回	教科書 Lesson 24 Banking / Finance	否定にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 14 回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。試験結果に応じてフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC® Test（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度（70%）と期末試験（30%）から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【その他の重要事項】

前学期の「TOEIC I」を取っていないなくても受講可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students will improve their listening and reading skills in English through preparing for TOEIC®. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検準 1 級の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力をバランス良く強化することを目指します。授業の後半では TOEFL, IELTS の紹介と基礎演習も行います。英語検定試験受験予定者はもちろんのこと、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検, TOEFL, IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. News mini-presentation (News in Levels についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Learning Paragraph Structure 2 Paragraph reading practice 2 Listening practice
5 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping 2 Prosodic shadowing 3 Contents shadowing

6 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
7 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
8 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
9 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2 Reading practice 3 Listening practice
10 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

(各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検、TOEFL、IELTS の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力をバランス良く強化することを目指します。英語検定試験受験予定者はもちろんのこと、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3 Be able to make a mini presentation
- 4 Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検、TOEFL、IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED の内容等についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping 2 Prosodic shadowing 3 Contents shadowing
5 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

6 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
7 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice
8 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL テストについて) 2 Reading practice 3 Listening practice
9 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice
10 回	TOEFL: Learning presentation skills	1 Learning an effective presentation 2 Making a presentation
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

Business Communication I 2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず、TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めに Listening 小テストを毎回行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネス DVD 視聴、英文書類、E メール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Academic English と Business English	Business Communication に必要な英語について概説する
第 2 回	TOEIC® Listening Test	TOEIC® の Listening 問題を一回分 (100 問) 解き、答え合わせを行う
第 3 回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題 1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1 (文法)
第 4 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2 (語彙)
第 5 回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題 1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1 (単一文書単語補充)
第 6 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2 (単一文書読解)
第 7 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3 (複数文書の関連付け)
第 8 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4 (図表・伝票を含む複数文書)

第 9 回 Listening 7
英文帳票作成

第 10 回 Listening 8
社内文書作成

第 11 回 Listening 9
社交文書作成 1

第 12 回 Listening 10
社交文書作成 2

第 13 回 就職活動文書作成

第 14 回 期末試験

英語音声聴解
Leave Request
Domestic/Oversea Travel Form
英語音声聴解
Interoffice Memo
Notice
英語音声聴解
会合連絡への返信英文メール作成
英語音声聴解
礼状、悔やみ状などの英文レター作成
履歴書作成
応募カバーレター
紹介状・推薦状
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を引きながら読み、問題の答えを考えてくることが必要。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC® 問題、Listening 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用する。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題である。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0 点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万が一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

前年度まで使用していた商業英語の Dictation 教材英文がやや古いというご意見をいただいた。確かにビジネスで使用される英語にも変化があるので、できるだけ実情に即したものにしたい方と考える。よって、今年度からは TOEIC® 形式ミニテストまたは実際の Listening 問題スクリプトをもとにして作成したプリントを使用する。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レター Writing を行う際、備付 PC のない教室が割り当てられた場合は各自のモバイル PC を持ち込むことになる。PC の都合がつかない学生には PC 貸与を受けるなど方策をとるので、PC の有無で受講を控える必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA

Business Communication II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めに Listening 小テストを毎回行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネス DVD 視聴、英文書類、E メール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。なお、春学期とは別の問題を使って授業を進めるため、秋学期からの履修も可能で不利は一切ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Business English と TOEIC® 等各種資格試験	Business Communication に必要な英語と TOEIC®, ビジネス英語検定試験等について解説する
第 2 回	TOEIC® Listening Test	TOEIC® の Listening 問題を一回分 (100 問) 解き、答え合わせを行う
第 3 回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題 1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1(文法)
第 4 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2(語彙)
第 5 回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題 1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1(単一文書単語補充)
第 6 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2(単一文書読解)
第 7 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3(複数文書の関連付け)

第 8 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英 語文書に慣れる 4(図表・伝票を 含む複数文書)
第 9 回	Listening 7 英文帳票作成 1	英語音声聴解 Cash Advanced Payment, Expense Report, Cash Payment Request
第 10 回	Listening 8 英文帳票作成 2	英語音声聴解 Receipt を使った経費申告
第 11 回	Listening 9 貿易書類作成	英語音声聴解 Packing List, Invoice
第 12 回	Listening 10 英語電話メモ作成	英語音声聴解 英語電話の聴解と英語による伝言 メモ作成 1
第 13 回	国際ビジネス文書	ビジネス取引に関する英文レター 作成
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を調べながら読み、問題の答えを考えてることが必要。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC®問題、Listening 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20%を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

前年度まで使用していた商業英語の Dictation 教材英文がやや古いというご意見をいただいた。確かにビジネスで使用される英語にも変化があるので、できるだけ実情に即したものにしたい方と考える。よって、今年度からは TOEIC®形式ミニテストまたは実際の Listening 問題スクリプトをもとにして作成したプリントを使用する。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レター Writing を行う際、備付 PC のない教室が割り当てられた場合は各自のモバイル PC を持ち込むことになる。PC の都合がつかない学生には PC 貸与を受けるなど方策をとるので、PC の有無で受講を控える必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student’s overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA

ニュース英語 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、音読やシャドーイングの練習も行う。基本文法や語彙の補強も行い、確実に読解力、リスニング力のレベルアップを図る。また、ニュース記事について自分の意見を平易な英語で書くことも到達目標の 1 つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。教科書は VOA(Voice of America) Learning English という英語学習者向けのニュース（通常より 3 割程度遅いスピードの放送）からなる。これを聞いたり、読んだり、発話練習を行いながら、記事の内容を正確に理解した上で、自分の意見を伝える練習も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050 (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 3 回	Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050 (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 4 回	Unit 3: Is Your Plan Sustainable? (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 5 回	Unit 3: Is Your Plan Sustainable? (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 6 回	Unit 4: : Saving Wild Areas May Have Unexpected Results (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 7 回	Unit 4: Saving Wild Areas May Have Unexpected Results (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”

第 8 回	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 9 回	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 10 回	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 11 回	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 12 回	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 13 回	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension” & 発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・教科書の予習や英文のチャンク分け、シャドーイング練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Enhance your English Skills with Shadowing VOA Learning English（三修社, 2018）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

少人数ではあったが、熱意のある学生が多かった。自らに課題を課して学習する自律的な姿勢が見受けられた。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading / shadowing practice. Shadowing is a language learning technique in which you listen to a model and repeat what you hear with as little delay as possible. The main benefits of this training are 1) improved speech perception, 2) fluency in pronunciation and speech, and 3) enhanced speed and accuracy in reading comprehension.

This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and shadowing at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe200LA

ニュース英語Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、音読やシャドーイングの練習も行う。基本文法や語彙の補強も行い、確実に読解力、リスニング力のレベルアップを図る。また、パラグラフの構成を意識して自分の意見を書くことも到達目標の 1 つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。教科書は VOA(Voice of America) Learning English という英語学習者向けのニュース（通常より 3 割程度ゆっくりとしたスピードの放送）からなる。これを聞いたり、読んだり、発話練習を行いながら、記事の内容を正確に理解した上で、自分の意見を伝える練習も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 1: Learning How to Ask Questions (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 3 回	Unit 1: Learning How to Ask Questions (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 4 回	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 5 回	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”
第 6 回	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 7 回	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, & “Reading Comprehension”

第 8 回	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food (1)	"For Shadowing " & "Listening comprehension"
第 9 回	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food (2)	"Fill-in-the-blank Quiz", "Vocabulary", & "Reading Comprehension"
第 10 回	Unit 18: WHO: 80% of Urban Residents Breathe Unsafe Air (1)	"For Shadowing " & "Listening comprehension"
第 11 回	Unit 18: WHO: 80% of Urban Residents Breathe Unsafe Air (2)	"Fill-in-the-blank Quiz", "Vocabulary", & "Reading Comprehension"
第 12 回	Unit 20: Unit 20: Twenty-one Percent of World's Plants Could Disappear (1)	"For Shadowing " & "Listening comprehension"
第 13 回	Unit 20: Twenty-one Percent of World's Plants Could Disappear (2) & 発表	"Fill-in-the-blank Quiz", "Vocabulary", & "Reading Comprehension" & 発表
第 14 回	期末試験 (筆記)	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
 ・教科書の予習や英文のチャンク分け、シャドーイング練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト (教科書)】

Enhance your English Skills with Shadowing VOA Learning English (三修社, 2018)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (筆記) 50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

少人数ではあったが、意欲的な学生が多かった。学生同士で考えたり互いの学習成果をチェックする機会を設けたところ、毎回の確かなコメントを伝え合っていた。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading / shadowing practice. Shadowing is a language learning technique in which you listen to a model and repeat what you hear with as little delay as possible. The main benefits of this training are 1) improved speech perception, 2) fluency in pronunciation and speech, and 3) enhanced speed and accuracy in reading comprehension.

This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read and listen efficiently.

・ Students will develop critical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and shadowing at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

ARSe200LA

日本語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。
 普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ります。
 その際、日本語学、認知言語学、語用論などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。
 ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

事前課題➡資料を用いた学習・議論➡課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス	授業ガイダンス
②	日本語における格 「ト私だけ愛してた」 ～誰が誰を愛してた？	日本語における格を考える
③	「犯人はルパンだ」 vs 「犯人がルパンだ」、 「ルパンが犯人だ」 vs 「ルパンは犯人だ」	「は」と「が」の機能の違いを考える 「は」と「が」の機能の違いを考える
④	で、「は」と「が」っ でどうやって使いわけ ればいいのか？	日本語学習者に「は」と「が」の違いを教えるにはどうすればいいか考える
⑤	「プレステ5、また売 り切れだっ」「え、 昨日、ヨドバシ に／ で あったよ。」～こ ういう場合、デでもO Kなんですかね？	場所を表す助詞二とデの違いを考える え、え
⑥	「あ、お湯がわいて (い)る」 vs 「あ、お 湯がわいた」は同じ出 来事を表している？	「てい(る)」と「た」の違いから 日本語における出来事の様相の捉え方を考える

- ⑦ 「あ、レポート、今日 「た」から日本語の時間認識を考
までだった！」～今日 える
のことなのに何でタッ
て言うの？
- ⑧ 「大学へ行った」は○、「へ」「に」「で」から場所に関連
「風呂へ入った」は△、する助詞の機能の違いを考える
「電車へ乗った」は
×、の不思議
- ⑨ 「犯人はルパンにちが 根拠に基づく主張を表す文の違い
いない」 vs 「犯人はル 考える
パンのはずだ」
- ⑩ 「あ～何だか体がだる 「はずだ」の意味と機能を考える
い。風邪を引いたはず
だ。」とは言えないの
はなぜ？
- ⑪ 学生「先生、「あの一」「あの一」と「えーと」の機能を
の意味ってなんで 考える
すか？」
先生「えーと、「あ
の一」の意味はです
ね、あの一…」
- ⑫ 「あ、0 点」 vs 「え、0 感動詞が表す「心の働き」を考え
点」 vs 「お、0 点」 る
- ⑬ A「この授業、退屈 「でも」と「ところが」の違いを
だね」 考える
B「うん。|でも／??と
ころが、試験は簡単
らしいよ。」
- ⑭ 学期のまとめ まとめと期末課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
 本授業の準備学習・復習時間は、1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題、事前課題）60%、期末課題 40%で、評価を決める。
 期末課題は選択制（複数の課題の中から 2 つ選び、授業内容を踏まえ解答する）。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。
 また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。
 言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。
 日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。
 言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。
 なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（討論での発言、リアクション・ペーパーなど）60%、期末レポート 40%で、評価を決める。

出席率が 70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識はありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

ARSe200LA

日本の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、「生（生命・生活）」をテーマに、安楽死、障害者差別、生活保障（生活保護／ベーシックインカム）、（私たちの生を支える）食に関する倫理的問題を取り上げます。授業では、例えば、「（積極的）安楽死の是非」「障害」は「障害者」の能力（の不足・欠如）の問題なのか」「生活保護を受けることは恥ずかしいことなのか」「食べ物」であれば何を食べても倫理的に問題ないのか」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深めること。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えること。
（授業では積極的に自分の意見を表明することが求められますが、口頭で意見を述べることを苦手とする学生でも、コメントシートなどを活用し、書くことによって、自分の意見を表明することが出来れば問題なく授業に参加することができます。）
3. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。
4. 異なる文化的出自を持つ学生との議論を通し、自文化を相対化する観点を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）

②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く

③②を踏まえ、再度議論を行う。

学期後半では、②を学生が担当する可能性もあります。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する。
②	議論の練習①：	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する

③	安楽死について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
④	安楽死について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑤	安楽死について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑥	障害者差別について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑦	障害者差別について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑧	障害者差別について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑨	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑩	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑪	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑫	食の倫理について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑬	食の倫理について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑭	食の倫理について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

宮下洋一（2017）『安楽死を遂げるまで』小学館

立岩真也（2008）『よい死』筑摩書房

竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる 13 章 優生思想の克服のために』生活思想社

安藤祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

スナウラ・テイラー（2020）『荷を引く獣たち 動物の解放と障害者の解放』世界思想社

立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社

稲葉剛（2014）『生活保護から考える』岩波書店

萱野嘉人編著（2012）『ベーシックインカムは究極の社会保障か：「競争」と「平等」のセーフティネット』堀之内出版

原田泰『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』中央公論

ロナルド・L・サンドラー（2019）『食物倫理（フード・エシックス）入門：食べることの倫理学』ナカニシヤ出版

枝廣淳子（2018）『アニマルウェルフェアとは何か——倫理的消費と食の安全』岩波書店

その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）

出席率が 70 % 以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

ARSe200LA

日本の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、格差、差別、不平等をテーマに、ジェンダー格差、人種差別、性的マイノリティ差別の問題を取り上げます。例えば、「[〇〇女子]という言い方に問題はあるか」「同性婚は法制化すべきか」「日本に人種差別は存在しないのか」といった問いについて議論し、文献を読み、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深めること。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えること。（授業では積極的に自分の意見を表明することが求められますが、口頭で意見を述べることを苦手とする学生でも、コメントシートなどを活用し、書くことによって、自分の意見を表明することが出来れば問題なく授業に参加することができます。）
3. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。
4. 異なる文化的出自を持つ学生との議論を通し、自文化を相対化する観点を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する。
②	議論の練習①：「制服」についてどのような観点から論じられるか考える	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
③	議論の練習②：「〇〇男子／女子」という言葉に問題はあるか	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する

④	「女らしさ／男らしさ」～「女の子みたいにボールを投げて」と言われたらどうする？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑤	男女に仕事の向き不向きはある？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑥	女性は管理職に就くことを望んでいない？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑦	同性婚の法制化は必要か	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑧	SOGI とは何か	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑨	アウトティング／カムアウトについて	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑩	日本は外国人に寛容な国で人種差別は存在しない？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑪	「日本人」とは何か？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑫	発表①	文献紹介または自由発表
⑬	発表②	文献紹介または自由発表
⑭	発表③	文献紹介または自由発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を全て読む、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）
 佐藤文香監修（2019）『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店
 加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣
 大沢真知子（2017）『なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える』青弓社
 稲原美苗他（2020）『フェミニスト現象学入門』ナカニシヤ出版
 森山至貴（2017）『LGBT を読みとくークィア・スタディーズ入門』筑摩書房
 砂川秀樹（2018）『カミングアウト』朝日出版社
 堀江有里（2015）『レズビアン・アイデンティティーズ』洛北出版
 杉山 麻 里子（2016）『ルポ同性カップルの子どもたち アメリカ「ゲイバーブーム」を追う』岩波書店
 ハントンヒョン（2019）『外国人・移民 包摂型社会を経ない排除型社会で起きていること』、小熊英二編『平成史【完全版】』河出書房新社
 望月優大（2019）『ふたつの日本 「移民国家」の建前と現実』講談社
 梁聖型（2020）『レイシズムとは何か』筑摩書房
 下地ローレンス（2018）『混血』と「日本人」ーハーフ・ダブル・ミックスの社会史ー 青土社
 その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）
 出席率が 70 % 以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。
 今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。
 また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。
 日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung

⑭ 全体のまとめとテスト Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）

本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
	道を探ねる (簡単な表現)	
④	旅行のためのドイツ語 2	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
	道を探ねる (ほかの表現・会話の練習)	
⑤	旅行のためのドイツ語 3	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
	ホテルで (簡単な表現)	
⑥	旅行のためのドイツ語 4	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
	ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	
⑦	旅行のためのドイツ語 5	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)
	レストランで (簡単な表現)	

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の 練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の 練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	復習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インタネット上の練習問題）

本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話に苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞

7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）
提出してもらうドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

Zoomで接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

※定員制（20名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。・会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります。パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク：大学紹介を書く
1		

10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。
予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50 %) and written homework (50 %)

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動画で学ぶドイツ語

YouTube 学習チャンネルのショートアニメとドイツ映画教材などの視聴覚教材を見聞きしながら、世界への視野を広めるとともにドイツ語の理解力を高める。

【到達目標】

- ・動画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（1）	ショートアニメ教材の紹介、練習問題
2	オリエンテーション（2）	映画教材の紹介、練習問題
3	アニメ <i>Über Filme sprechen</i>	映画について話すための表現、課題1
4	映画 <i>Lola rennt</i> （1）	ドイツ映画の台詞を読解、課題2
5	アニメ <i>Ein Tag im Leben eines Superhelden</i>	一日の行動に関する表現、課題3
6	映画 <i>Lola rennt</i> （2）	ドイツ映画の台詞を読解、課題4
7	Ich muss zum Arzt（1）	病気に関する表現
8	Ich muss zum Arzt（2）	応用練習、課題
9	Vorstellungsgespräch（1）	面接に関する表現
10	Vorstellungsgespräch（2）	応用練習、課題
11	Über Filme sprechen（1）	映画についての表現
12	Über Filme sprechen（2）	応用練習、課題
13	einen Filmausschnitt lesen	ドイツ映画の台詞を読解

14 総復習 課題に対するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

"German through short animation" as theme, the goal of this class is to use YouTube's free learning channel to learn natural German and at the same time to raise the attitude and awareness toward different cultures.

(Learning Objectives)

- Improving your reading and listening skills in German.
- Acquire basic knowledge about German audiovisual culture.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).
- You will be able to study by yourself using the teaching materials on the Web.

(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 1hour in total.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (100%).

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動画で学ぶドイツ語

YouTube 学習チャンネルのショートアニメとドイツ映画教材などの視聴覚教材を見聞きしながら、世界への視野を広めるとともにドイツ語の理解力を高める。

【到達目標】

- 動画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	サンプル動画、サンプル課題
2	Ein Gericht nach Rezept kochen (1)	料理のレシピに関する表現
3	Ein Gericht nach Rezept kochen (2)	応用練習、課題
4	Karneval und Halloween (1)	祝祭の表現
5	Karneval und Halloween (2)	応用練習、課題
6	Am Flughafen (1)	交通に関する語彙
7	Am Flughafen (2)	応用練習、課題
8	Mein Mann hatte einen Unfall (1)	家の事故についての表現
9	Mein Mann hatte einen Unfall (2)	応用練習、課題
10	Über Musik sprechen (1)	音楽について話す
11	Über Musik sprechen (2)	応用練習、課題
12	Songtext lesen (1)	歌詞を読解する
13	Songtext lesen (2)	応用練習、課題
14	総復習	課題に対するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

"German through short animation" as theme, the goal of this class is to use Youtube's free learning channel to learn natural German and at the same time to raise the attitude and awareness toward different cultures.

(Learning Objectives)

- Improving your reading and listening skills in German.
- Acquire basic knowledge about German audiovisual culture.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).
- You will be able to study by yourself using the teaching materials on the Web.

(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 1 hour in total.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (100%).

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語 I

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界共通のアジェンダである＜SDGs＞を取り上げ、ドイツ語を学びながら、＜SDGs＞に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、＜SDGs＞についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。

現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

履修希望者が 2022 年度の特別教室収容定員を考慮した数を超えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修を希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に学習支援システムを通して周知します。そのため、第 1 回はオンラインで行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観
2	SDGs-Ziel 1:Armut in jeder Form und überall beenden 目標 1 貧困をなくそう	内容確認 文法の説明
3	SDGs-Ziel 2:Ernährung weltweit sichern 目標 2 飢餓をゼロに	内容確認 文法の説明

4	SDGs-Ziel 3:Gesundheit und Wohlergehen 目標 3 すべての人に健康と福 祉を	内容確認 文法の説明
5	Ziel 4: Hochwertige Bildung weltweit 目標 4 質の高い教育を みんなに	内容確認 文法の説明
6	Ziel 5: Gleichstellung von Frauen und Männern 目標 5 ジェンダー平等 を実現しよう	内容確認 文法の説明
7	Ziel 6: Ausreichend Wasser in bester Qualität 目標 6 安全な水とトイ レを世界中に	内容確認 文法の説明
8	Ziel 7: Bezahlbare und saubere Energie 目標 7 エネルギーをみ んなに そしてクリー ンに	内容確認 文法の説明
9	Ziel 8: Nachhaltig wirtschaften als Chance für alle 目標 8 働きがいも経済 成長も	内容確認 文法の説明
10	Ziel 9: Industrie, Innovation und Infrastruktur 目標 9 産業と技術革新 の基盤をつくろう	内容確認 文法の説明
11	Ziel 10: Weniger Ungleichheiten 目標 10 人や国の不平 等をなくそう	内容確認 文法の説明
12	Ziel 11: Nachhaltige Städte und Gemeinden 目標 11 住み続けられ るまちづくりを	内容確認 文法の説明
13	Ziel 12: Nachhaltig produzieren und konsumieren 目標 12 つくる責任つ かう責任	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs – eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

<https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/>

zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

秋学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界共通のアジェンダである＜SDGs＞を取り上げ、ドイツ語を学びながら、＜SDGs＞に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、＜SDGs＞についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているのかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した＜SDGs＞を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

履修希望者が2022年度の特別教室収容定員を考慮した数を超えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修を希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に学習支援システムを通して周知します。そのため、第1回はオンラインで行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観 目標 1～12 の振り返り
2	SDGs-Ziel 13: Weltweit Klimaschutz umsetzen 目標 13 気候変動に具体的な対策を	内容確認 文法の説明

3	SDGs-Ziel14: Leben unter Wasser schützen 目標 14 海の豊かさを守ろう	内容確認 文法の説明
4	SDGs-Ziel 15: Leben an Land 目標 15 陸の豊かさを守ろう	内容確認 文法の説明
5	Ziel 16: Starke und transparente Institutionen fördern 目標 16 平和と公正をすべての人に	内容確認 文法の説明
6	Ziel 17: Globale Partnerschaft 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう	内容確認 文法の説明
7	オーストリアの SDGs ①	内容確認 文法の説明
8	オーストリアの SDGs ②	内容確認 文法の説明
9	オーストリアの SDGs ③	内容確認 文法の説明
10	スイスの SDGs ①	内容確認 文法の説明
11	スイスの SDGs ②	内容確認 文法の説明
12	スイスの SDGs ③	内容確認 文法の説明
13	大学の SDGs	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs – eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

春学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅰ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC)
Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (60 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理, 言語, その他
3.	ドイツ語圏の世界 2	プレゼンテーション
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ？ 映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
6.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015)
7.	スイスと日本	ハイジ in Japan プレゼンテーション
8.	戦争映画 1	第一次世界大戦 西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
9.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)

10.	戦争映画 2	第二次世界大戦 プレゼンテーション ディスカッション
11.	映画の中のヒトラー	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl 1993
12.	戦後直後のドイツ社会	第二次世界大戦直後の東西ドイツ
13.	50 年代のドイツ社会	サッカーを通して見る戦後ドイツ 社会 映画：ベルンの奇跡 Das Wunder von Bern (2003)
14.	プレゼンテーション	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を事前に読む。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

・映画鑑賞

・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを配布

【参考書】

・森井 裕一（著、編）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ

151）

・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための 60 章』（エリア・スタディーズ 128）

・広瀬 佳一編著、今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章

【第 2 版】（エリア・スタディーズ 19）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。

ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（60 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。

・各時代の思想的・文化的背景を理解する。

・映画の解釈方法を身につける。

・異文化理解能力を高める。

・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。

・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	60 年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
2.	70 年代の西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マインホフ/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
3.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 映画： 善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006) グンダーマン 優しき裏切り者の 歌 Gundermann (2018)
4.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン！ Good Bye Lenin (2003)
5.	ドイツ統一	プレゼンテーション ディスカッション
6.	青春	児童文学の映画化

7.	青春	映画：50年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っていいのか？	ヒトラーについて笑っていいのか？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織 NSU 映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017)
10.	ドイツ極右組織	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞
11.	ドイツ以外のドイツ語圏の映画	スイス映画・オーストリア映画と映画祭
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
14.	まとめ	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を事前に読む（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

・映画鑑賞

本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを配布

【参考書】

・森井裕一（著，編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）

・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための 60 章』（エリア・スタディーズ

128）

・広瀬 佳一編著，今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章

【第 2 版】（エリア・スタディーズ 19

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ： 50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー： 50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。

ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんですか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思いつくのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々なキーワードの背後にある、社会や歴史的要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。しかし毎回のテーマについて皆さんが知っていることを積極的に伺いますので、対話に参加して下さることを期待します。コロナの状況が許せば、グループワークなどもやってみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ語の歴史	ドイツ語の歴史について。
第 3 回	ドイツ語の地域性	さまざまな地域のドイツ語について。
第 4 回	ビールの現状	ドイツのビールの現状について。
第 5 回	ビールの歴史	ドイツ語圏のビールの歴史について。
第 6 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 7 回	ハイジのおんじ	スイスの歴史と傭兵輸出について。
第 8 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 9 回	アウトバーン	ドイツの自動車交通について。
第 10 回	ドイツの自動車産業	ドイツの工業化と自動車産業の展開について。
第 11 回	ドイツの教育制度	マイスターを生むドイツの教育制度について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民（およびその子孫）たちについて。
第 13 回	休暇	ドイツの戦後復興と休暇について。

第 14 回 まとめ

これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習：次回のキーワードについて思いつくことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー：40%

授業への積極的参加：10%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

個々のキーワードをなるべく有機的につなげるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

毎回最初の 10 分ほどでブレインストーミングを行い、最後の 10 分ほどで議論を行うので、積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of German-speaking countries.

【Course outline】

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2 hours of learning activities outside of the classroom.

Before the course: think about images you associate with the keyword of the next session.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria / Policy】

Reaction papers : 40%

Active participation : 10%

Term paper : 50%

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツの文化と社会の関係を社会についての思想を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、ドイツ語圏の思想が、

1. さまざまな歴史的社会的な事情との関連で展開してきたこと、および、
 2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。
- なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。

【到達目標】

この授業を通じて、

- ・ 20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題についての概観を得ることが出来ます
- ・ ドイツの社会思想について概観を得ることが出来ます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の	ドイツ語圏の 20 世紀について、
	20 世紀の歴史の概観	高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフ	ランクトルト学派
		の研究の背景を大戦間期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ナチスの台頭とフラン	クフルト学派
		1933 年以降のドイツの政治状況を概観し、それがドイツの大学に与えた影響を考察します。
第 4 回	19 世紀から 20 世紀	にかけてのウィーンの文化
第 5 回	ウィーン学団	ウィーンの歴史を文化の側面から見たときのウィーン学団の位置について概観します。
第 6 回	亡命知識人の哲学 1:	アメリカのフランクフルト学派
		ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。アメリカ東部の亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。
第 7 回	亡命知識人の哲学 1:	アメリカのフランクフルト学派
		フランクフルト学派が西部に移動したことを概観し、カルフォルニア地域の亡命知識人の状況について概観します。

第 8 回	亡命知識人の哲学 2:	ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
	英語圏の科学哲学	
第 9 回	亡命知識人の哲学 2:	ウィーンから渡米した哲学者たちが、アメリカに定住していく様子を概観します。
	英語圏の科学哲学	
第 10 回	戦後のフランクフルト学派	第 2 次世界対戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。
第 11 回	68 年世代の哲学	ドイツの学生運動が隆盛を迎えた 1968 年代当時の哲学的状況を概観します。
第 12 回	歴史家論争	第 2 次世界大戦戦後のドイツが、第 2 次世界大戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
第 13 回	ナチス期にドイツに残った哲学者たち	亡命した研究者の残した空席を埋めた研究者について概観し、彼らの第 2 次世界大戦後を確認します。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。適宜、レジュメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%

レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生の要望により、ウィーンやフランクフルトの都市の歴史を少し多めに授業しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。ただし、春学期で学んだことは絶対に無駄になりませんので、春学期に履修した方の積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2 hours of learning activities outside of the classroom.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction papers : 50%

Term paper : 50%

ARSa200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の拡がりを知ることとする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土の「地域圏」を単位として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界の拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることが出来るわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

1. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円＋税

II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス, 地方を巡る旅)』駿河台出版社, 2017 年, 本体 1900 円 + 税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅: 改訂版)』駿河台出版社, 2019 年, 本体 2300 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (コメントシートなど) : 30 %

②期末レポート : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%, term-end report: 70%.

ARSa200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

廣松 勲

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は「フランス語」を介して、フランスの世界の広がりをすることを主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー (フランス語圏)」と呼ばれる。本授業ではそのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化 (歴史建造物、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。

2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界の広がりについて理解できる。

3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション: フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など

3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説 ：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域圏に関する解説 ：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説 ：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス 語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフラン コフォニーに関する解説：地理・ 歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス 語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけ るフランコフォニーに関する解説 ：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス 語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコフォ ニーに関する解説：地理・歴史・ 言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス 語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフラン コフォニーに関する解説：地 理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス 語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコ フォニー（旧仏領）に関する解説 ：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス 語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコ フォニー（旧仏領およびベルギー 領）に関する解説：地理・歴史・ 言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス 語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコ フォニー（旧ベルギー領）に関す る解説：地理・歴史・言語・諸文 化など
13	ヨーロッパのフランス 語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォ ニーに関する解説：地理・歴史・ 言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス 語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォ ニーに関する解説：地理・歴史・ 言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることが出来るわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。

- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税

II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税

- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年。本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシート等）：30 %
②期末レポート：70 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会的文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

- ・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%,
term-end report: 70%.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Parler d'un besoin	必要なことを言う
2	Saluer et se présenter	挨拶する
3	Excuser et s'excuser	謝る・許す
4	Téléphoner à un ami	友達に電話する
5	Téléphoner 2. Dans une entreprise	会社で電話する
6	Donner des instructions : au club de gym	指示を出す。スポーツセンターで
7	Donner des instructions : Dans un jardin public	指示を出す。公園で
8	Nier	否定する
9	Inviter, accepter, refuser : entre voisins	誘う・承諾する・断る 近所の人と
10	Inviter, accepter, refuser : au travail	誘う・承諾する・断る 会社で
11	Demander à quelqu'un de faire quelque chose	依頼する
12	Proposer	提案する
13	Parler de sa santé	自分の健康の話する

14 Révisions

復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 % (授業中の発言 50%及び宿題の提出 50 %)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANf200LA

フランス語コミュニケーション (初級) II 2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Parler de sa santé : Une jambe cassée	自分の健康についてはます。骨折した足
2	Parler de sa santé : Chez le médecin	自分の健康についてはます。病院で
3	Parler de ses goûts	自分の好き嫌いについて話す
4	Parler de son curriculum vitae	自分の履歴について話す
5	Demander et donner son opinion	意見を言う
6	Exprimer la surprise	驚きを表現する
7	Exprimer la certitude ou l'incertitude : entre deux mères	確実性を表現する お母さん同士
8	Exprimer la certitude ou l'incertitude : enquête policière	確実性を表現する 捜査
9	Décrire une personne	人の外見を説明する
10	Faire des compliments	賞賛する
11	Féliciter	祝福する
12	Consoler et encourager	慰める・励ます
13	Critiquer	批判する
14	Exprimer l'admiration	感嘆の気持ちを表現する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発言 50%や宿題の提出 50%)。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better of French grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquiescer, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyū.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériels disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores - les transports; Nos langues et le français
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores - des sons étranges; Nadine se présente.

Séance 3	Entamer une conversation en français; Les symboles de la République française	« Le métro : avec qui ? » ; « Ici, en République »
Séance 4	Parler avec un étudiant étranger; Mondialisation et produits « made in France »	« Les catacombes : avec qui ? » ; « Nous allons vivre à la française »
Séance 5	Connaître le monde francophone; s'intéresser à la mode de vie française.	« En terrasse : avec qui ? » ; « Guadeloupe, couleurs Caraïbes »
Séance 6	Culture Hip-hop et le français; manger c'est important.	« La brasserie Mollard : avec qui ? » ; « Youtubeurs et engagés »
Séance 7	Découvrir une architecture à Paris; Namur, c'est où ?	« L'église Saint-Eustache : avec qui ? » ; « La maison »
Séance 8	Que veulent dire les titres d'un journal ? ; Comprendre les différentes fonctions dans un monde professionnel - journalisme	« Les titres du journal (2 janvier 2019) » ; « Les professions »
Séance 9	Expressions typiques dans une émission d'information (rejoindre, l'Une, etc.); Région Rhône-Alpes	« Les titres du journal en français facile du 04 février 2019 » ; « Grammaire : le présent de l'indicatif »
Séance 10	S'intéresser aux régions du monde que vous ne connaissez pas bien (Asie du sud, etc.) ; Vocabulaire informatique	« Les titres du journal en français facile du 1er mars 2019 » ; « Comment stopper la haine sur les réseaux ? »
Séance 11	Rwanda, Palestine et Paris Saint-Germain; égalité des genres	« Les titres du journal en français facile du 07 avril 2019 » ; « Droits des femmes : à quand l'égalité ? »
Séance 12	Festival de Cannes ; Canada et coronavirus	« En direct de la Croisette » ; « Canada : la pandémie aggrave la crise sociale »
Séance 13	Regarder le Japon de l'extérieur; Guerres au Moyen-Orient	« Être jeune à Damas » ; « Destination Japon »
Séance 14	Crise sanitaire mondiale; mobilisation des citoyens	« L'évolution du coronavirus » ; « Des bénévoles mobilisés au Maroc »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. <https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dU6ltm5to96nAp7FNHAVAehjQHwkbBLFzVXmd8pn3CM/edit?usp=sharing> (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
 2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
 3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
 4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
 5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
- Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Une connexion internet stable et illimitée ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notation sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimitée ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notes sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

- 1) 「【難しいそうだし...】とこの科目の受講を迷っている方へ：プレイスメント・テスト」 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
- 2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 Outline and objectives

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【到達目標】 Goal

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【授業の進め方と方法】 Method(s)

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo. <https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dU6ltm5to96nAp7FNHAVAehjQHwkfBLFzVXmd8pn3CM/edit?usp=sharing> (available only to Hosei students)

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【参考書】 References

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】 Grading criteria

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【学生の意見等からの気づき】 Changes following student comments

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can check some scores on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【学生が準備すべき機器他】 Equipment student needs to prepare

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【その他の重要事項】 Others

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquérir, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériels disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores : les animaux; Les langues de la classe (atelier 2 - français langue maternelle)
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores : les lieux; Sous le ciel de Paris - Zaz

Séance 3	Entamer une conversation en français; jouer au journaliste en classe	« La mode : avec qui ? » ; « Flash infos (12/16) »
Séance 4	Parler avec un étudiant étranger; s'interroger sur les stéréotypes	« Le fromage : avec qui ? » ; « Un travail d'homme et de femme »
Séance 5	La vie à l'école - Cantine; parler avec une étudiante étrangère	« Les puces : avec qui ? » ; « À table (10/16) »
Séance 6	Parler du quotidien avec des mots simples; comment mange-t-on le midi ?	« La Poste : avec qui ? » ; « Les Français à table »
Séance 7	Raisonnement par analogie; Connaître le monde francophone	« Faire un portrait chinois de la Joconde » ; « Nous nous informons en français »
Séance 8	Danse et combat; profiter d'une visite guidée dans un monument architectural	« Un fan de capoeira » ; « Le Paris des grands magasins »
Séance 9	Cultiver des légumes dans un jardin; essayer de comprendre les gros titres d'une émission d'information	« Les titres du journal (11 novembre 2020) » ; « Un potager de champion »
Séance 10	Vocabulaires de base pour le journalisme politique (referendum, etc.); Le numérique à Abidjan	« Les titres du journal (01 juillet 2020) » ; « La presse et les médias »
Séance 11	Vaccinations contre le Covid-19; Construire des maisons en Afrique	« Les titres du journal (2 décembre 2020) » ; « Burkina Faso : des toits en terre »
Séance 12	Armée française et soldats africains; Populisme au Brésil	« Rendre justice aux tirailleurs sénégalais » ; « Manifestations anti-confinement à Rio »
Séance 13	Connaissez-vous le rodéo ?; La Macédoine et Albert Londres	« « Yi ha ! » » ; « Destination Les Balkans »
Séance 14	Hydroxychloroquine et George Floyd; Politique de puissance ou démocratie entre les peuples ?	« Les titres du journal (3 juin 2020) » ; « La procédure de nomination du secrétaire général de l'ONU »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. <https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dU6ltm5to96nAp7FNHAVAehjQHwkbBLFzVXmd8pn3CM/edit?usp=sharing> (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)
- 2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

- 1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo. <https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dU6ltm5to96nAp7FNHAVAehjQHwkbBLFzVXmd8pn3CM/edit?usp=sharing> (available only to Hôsei students)
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Depuis quelques années, il y a de plus en plus de personnes qui s'inscrivent à ce cours pour qui la langue japonaise n'est pas nécessairement la langue qu'ils maîtrisent le mieux. La plupart d'entre eux n'éprouve pas de difficulté pour la communication orale en japonais, alors que la langue écrite peut parfois leur poser des problèmes. C'est pourquoi je propose le français non seulement comme « langue cible » (celle que l'étudiant.e souhaite apprendre) mais aussi comme « langue médiatrice » (celle qu'on utilise en classe).

【学生が準備すべき機器他】

Une connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notation sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

- 1) 「難しそうだし…」とこの科目の受講を迷っている方へ：プレイメント・テスト】 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
- 2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 Outline and objectives

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【到達目標】 Goal

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【授業の進め方と方法】 Method(s)

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

【参考書】 References

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note : Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】 Grading criteria

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【学生の意見等からの気づき】 Changes following student comments

In recent years, there are more and more people who enroll in this course for whom the Japanese language is not necessarily the language they are most comfortable with. Most of them have no difficulty in communicating orally in Japanese, while the written language can sometimes be a problem for them. That is why I propose French not only as a "target language" (the one the student wants to learn) but also as a "mediating language" (the one used in class).

【学生が準備すべき機器他】 Equipment student needs to prepare

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can check some scores on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【その他の重要事項】 Others

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

ARSa200LA

フランスの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に付けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら採り当てる習慣を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。教室での授業を予定していますが、状況によっては Zoom による遠隔授業もありえます。いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリカ』1 2001 年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリカ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？

3	『アメリカ』3 トットとカンヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロンの主演のフランス・イタリア ア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。邦題タイトルについて。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽のせい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作：原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 『邦題タイトルについて』その2
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベルモンドとジーン・セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグ その2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシリーズ
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる女優は アクロバットもこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ 14 世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ
14	『女優マルキーズ』3 舞台に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリカの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17 世紀の俳優について調べる。
 - 13：17 世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with various aspects of lives in France with the aide of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21 世紀に入って大ヒットしたいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

教室での授業もしくは Zoom による授業、あるいはその組み合わせによる授業を予定しています。

いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、	「ふたり」とはどんなひとたち？
	『最強のふたり』1：	
	2011 年のヒット作	
2	『最強のふたり』2：	パリの郊外とは？
	格差社会と移民	富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』3：	「介護者」と「パートナー」：助
	北の海岸での出会い	ける人とお膳立てする人

- 4 『シェルブールの雨傘』 誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽；
フランスのミュージカル；
1960年代のフランスの地方都市カル；
原題そのままの邦題は何を意味しているのか
- 5 『シェルブールの雨傘』 アルジェリア戦争：様々な分断
2 フランスにとっての
1960年代はじめ
- 6 『シェルブールの雨傘』 「曖昧な」結末：雪のクリスマス
3 での再会と別れ
Westside Story の向こうを張った？
- 7 『天井桟敷の人々』 1 伝説的な名優勢ぞろい
1945年の大作
19世紀のパリの下町という空間
- 8 『天井桟敷の人々』 2 「言葉」の俳優とバントマイム役者
庶民にとっての劇場
- 9 『天井桟敷の人々』 3 またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
カーニバルという空間
- 10 『おかしなおかしな訪問者』 1 フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
中世からのタイムスリップ。
ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演
- 11 『おかしなおかしな訪問者』 2 お笑い映画の定番的な演出と筋書。終わったようで終わらない？
めでたしめでたしの結末？
- 12 『シラノ』 1： フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、
17世紀の実在の人物をモデルにした 19世紀末の芝居
コンプレックスが恋を妨げる
- 13 『シラノ』 2： préciosité とアラスの包囲
17世紀の宮廷と社会状況
- 14 『シラノ』 3： 「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学
普遍的な価値

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
 - 13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, and to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film.

After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：18 - 19 世紀フランスの観光・風景・建築

河村 英和

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランス語圏 (フランスだけでなく、スイス、ベルギーも) の観光資源の歴史を学ぶ。山、海、森、川、湖、温泉といった自然風景のジャンル・地域別での観光リゾート地の派生、その発展期である 19 世紀から 20 世紀初頭 (ベル・エボック期：1880-1914) にかけて好まれた建築様式や、愛国的なナショナリズムの高揚とともに増加する偉人像・モニュメントの数々、最後に余暇の発生源でもあるロクス・アモエヌス (心地良い場所) や幸福な島々、そして表裏一体としてのカタストロフ (破壊的事象) の風景についても考える。

【到達目標】

フランスの観光リゾート地の派生・発展からみた文化史を、当時の社会思想を踏まえつつ、関連する芸術作品 (絵画、文学、音楽、建築) の事例から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。学期期間中、都内の美術館で開催されているフランス風景画展の見学を推奨する。意見や質問、提出物 (リアクションペーパー) に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス観光旅行のイメージと歴史的背景	イントロダクションとして、本講義のテーマであるフランス観光旅行の現状イメージを確認しつつ、その史的背景と全体像を概観する。
第 2 回	山へ	パルナッソス、ヴァントゥー山、プロヴァンスの山々
第 3 回	アルプスへ	シャモニーとモンブラン、グリオン、コー、レザン、モンタナ
第 4 回	レマン湖	著名人たちゆかりのレマン湖畔の町 (ジュネーヴ、ローザンヌ、モントルー、ヴヴェ、ヴィルヌーヴ)
第 5 回	学外授業、展覧会見学	上野の国立西洋美術館収蔵のフランス風景絵画の見学を予定
第 6 回	田園・田舎・牧歌的風景	フェット・シャンペトル、ミルク小屋、スイス風シャレー、アルカション
第 7 回	森と岩	ファンテーヌブローの森とバルビゾン派、芸術家たちを惹きつけた岩場の風景

第 8 回	海へ：ノルマンディーとコート・ダジュール	芸術家たちの題材となった海の風景と海浜リゾート・ノルマンディーと冬の避寒・結核転地療養地から夏の海水浴リゾートへの転身するコート・ダジュール
第 9 回	水辺と温泉	画家の題材となった川辺の風景、温泉リゾート (スバ、ヴィシー、エヴィアン)
第 10 回	学外授業、展覧会見学	フランス風景に関する展覧会 (於：新宿の SOMPO 美術館) の見学を予定
第 11 回	中世復興、歴史主義と折衷主義のパリ	文化財保護の誕生、中世趣味の流行 (トゥルバドール様式絵画、ネオ・ロマネスク建築、ゴシック大聖堂の再評価)、古代ローマ風、ネオ・ルネサンス、ネオ・バロック建築で溢れる 19 世紀パリ大改造とグランド・ホテル
第 12 回	マリアンヌ、ジャンヌ、ヴィエルジュ	ナショナリズムが台頭する 19 世紀に、愛国のシンボルとして急増したマリアンヌ、ジャンヌ・ダルク、聖母 (ヴィエルジュ) 像について
第 13 回	国家の記念碑	ナポレオン像、偉人たちの墓、エッフェル塔など国家の威信をかけたモニュメント
第 14 回	楽園とカタストロフ	ロクス・アモエヌスとしての島々と破壊的事象 (カタストロフ) の風景への関心

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

気になる (なった) ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎講義ごとに資料を配布する。Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『観光大国スイスの誕生－「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013 年
河村英和『タワーの文化史』丸善出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加で 30 点、レポート 70 点による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要があります。

【その他の重要事項】

講義期間中に行う美術館見学は 2 種の展覧会 (各講義 1 回分相当、合計 2 回分相当で、現地集合現地解散) があり、一部観覧料 (1,000 円程度) の実費がかかる場合もあります。事情により展覧会見学に参加できない方には、代替レポート課題を授業中に指示します。
※定員は目安です。本授業は選抜は行いません。
履修を希望する学生は、履修登録期間中に学生自身で履修登録してください。

※日程は以下のとおりです。

8 月 1 日 (月) 3・4 限：第 1・2 回 <オンライン>
8 月 2 日 (火) 3・4 限：第 3・4 回 <対面>
8 月 3 日 (水) 3・5 限：第 5・6 回 <見学+オンライン>
8 月 4 日 (木) 3~5 限：第 7~9 回 <対面>
8 月 5 日 (金) 3・5 限：第 10・11 回 <見学+オンライン>
8 月 6 日 (土) 3~5 限：第 12~14 回 <オンライン>

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will study the history of tourism in French-speaking countries (not only in France, but also in Switzerland, and Belgium), including the tourist spot in the different genres of the natural landscape: mountains, seas, forests, rivers, lakes, and hot springs. Finally, we will consider the origin of the leisure idea, as locus amoenus: the Fortunate Isles, until its antithesis: the catastrophic landscapes.

【Learning Objectives】 Understand the cultural history from the perspective of the derivation and development of tourist resorts in France with examples of related works of art (paintings, literature, music, architecture) based on the social ideas at that time.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading Criteria / Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：古（いにしえ）のフランス人のイタリア旅行

河村 英和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の都パリ」という言い回しが普及する以前、ヨーロッパ人にとっての芸術の都はローマであり、ローマ留学を支援するフランス政府の権威ある奨学制度の「ローマ賞」は芸術家の登竜門だった。イタリア各地を旅したフランス人たちはその体験を数々の芸術作品（絵画、彫刻、文学、音楽、建築）に反映させてきた。この授業では、おもに 18～19 世紀のフランス人たちがいかにイタリアの風景や芸術・文化に魅せられ、影響を受けていたかを、絵画、彫刻、建築、音楽、文学といった複数のジャンルから学んでゆく。

【到達目標】

フランス文化に多大なる影響を与えたイタリアの風景・芸術・建築を、フランス人芸術家（文人、画家、彫刻家、建築家、作曲家）たちのイタリア滞在体験と関連作品を知ることによってその理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。意見や質問、提出物（リアクションペーパー）に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	18～19 世紀のフランス人がイメージする旅行先としてのイタリアとは？
第 2 回	理想郷（アルカディア）	ローマ平原をモデルに理想風景を描く在ローマのフランス人画家たちとその作品
第 3 回	ローマの廃墟	ローマの廃墟に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 4 回	サド侯爵のイタリア	小説『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』で知られるサド侯爵が、イタリア旅行中に訪れたところと作品に生かされたスポット
第 5 回	ローマ平原とチョチャリーア地方	ローマ平原とチョチャリーア地方の風景と美しい民族衣装を描く 19 世紀のフランス人画家たちとその作品、この地を舞台にしたフランスオペラやバレエ
第 6 回	スタール夫人とスタンダールのイタリア	当時はイタリア観光ガイドブックのように読まれたスタール夫人の小説『コリンヌ』に描かれるローマとナポリ、『バルムの僧院』で知られるスタンダールのイタリア滞在中のオペラ通いやローマ散歩について

第 7 回	ヴェスヴィオ噴火とナポリの漁師	ヴェスヴィオ火山の噴火シーンを専門とするフランス人画家、オペールのオペラ『ボルティチの囁娘』、若きナポリの漁師を描くフランス人画家や彫刻家
第 8 回	デュマのナポリ	ナポリに滞在していたアレクサンドル・デュマの旅行記『コリッコロ』、歴史小説『寵愛された女性の思い出』など、数々の著作に描かれる当時のナポリとは
第 9 回	幸あるカンパーニア	イスキア、プロチダ、カプリ、ソレント、アマルフィの海浜風景と民族衣装の娘に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 10 回	ヴェネツィア	ジョルジュ・サンド、アルフレード・ミュセ、プルースト、レニエ、モネなど、水都ヴェネツィアに魅せられた文人・芸術家とその作品、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』など
第 11 回	中世・ルネサンスの再発見ーローマ・フィレンツェ	ダンテやルネサンス時代のイタリア美術をテーマにしたフランス人による芸術作品、ペルリオーズのオペラ『ペンベヌート・チェッリーニ』など
第 12 回	ローマ賞とフランスのイタリア風建築	ローマ留学あるいはイタリア旅行経験のあるフランス人建築家がフランスに残したイタリア風建築について
第 13 回	ゾラ、ロマン・ロラン、ジイドのイタリア	エミール・ゾラ『ローマ』、ロマン・ロラン『ローマの春』、アンドレ・ジイド『背徳者』『法王庁の抜け穴』に描かれるイタリア（とくにローマ）とは
第 14 回	総括	過去の講義のテーマに沿った類似・追加事例を各自で紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気になる（なった）ことを調べたり、授業で出てきた場所を、ゲルストリートビューで歩いてみる。

【テキスト（教科書）】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『イタリア旅行ー「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011 年
河村英和『カプリ島ー地中海観光の文化史』白水社、2008 年
佐藤直樹編『ローマ（西洋近代の都市と芸術 1）』竹林舎、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要がある。

【その他の重要事項】

諸事情により、オンライン回と対面回の入替え変更（対面 7 回の規程は保持）があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Before the Paris reputation as the "City of Art" became widespread, the city of art for Europeans was Rome, and the "Prix de Rome", the prestigious scholarship system of the French government to support studying in Rome, was the gateway to become a great artist. French artists who have traveled through Italy have reflected their Italian experiences in their masterpieces (paintings, sculptures, literature, music, architecture). In this course, we will learn how French people of the 18th and 19th centuries were fascinated by and influenced by the Italian landscape, art and culture.

【Learning Objectives】 Understand the Italian landscape, art, and architecture, which had a significant influence on French culture, by learning about the experiences of French artists staying in Italy, with their related works of literature, painters, sculptors, architects, composers.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランスの食文化

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。毎回授業後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー（前編）
第 7 回	「美食」は誰のものか	「おいしい」の評価の変遷：ガス
		トロンミー（後編）
		食」

第 8 回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴し、その後感想等の意見をまとめてもらいます。
第 9 回	ディスカッション	第 8 回授業の映像資料についての感想や意見を全員に発表してもらいます。疑問に感じたことも互いに交換しましょう。
第 10 回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第 11 回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第 12 回	映像資料で見るフランスの美食その 2	映像資料の視聴（第 2 回）その後感想や意見を書く時間を設けます。
第 13 回	ディスカッション 2	第 12 回授業の映像資料の感想を中心に、全員で意見を交換しましょう。
第 14 回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料配布を行いません。資料はすべて Hoppii を通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。
- ③北山晴一『世界の食文化① フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、授業中はどうしても教員から伝えることが多くなっていますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきたいと思いますので、コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット端末等を持参すること。接触機会を減らすため、教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 31 人を超えてしまった場合、定員が 30 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ画像を用意して進めていきます。

毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第 9 回	20 世紀半ば	全国の美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食

第 11 回 日本食文化のフランス 美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり

第 12 回 フランス食文化の日本 「洋食」誕生物語
食文化への影響

第 13 回 まとめ・ミニディス 「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか／これまでの授業を受けての感想や意見の交換
カッション

第 14 回 レポート作成の手引き レポート作成の手引きを行ないます。残った時間で、フランスの食文化に関わる映像資料を視聴します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。

②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。

③北山晴一『世界の食文化⑯ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしまいますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきますので、ぜひ、コメントカードを存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。接触機会を減らすため、教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 31 名を超えてしまった場合、定員が 30 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。なお、SA ロシアの事前学習も兼ねるので、SA ロシアの2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第 2 回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第 3 回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。
第 4 回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第 5 回	ロシア・バレエの世界 1	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第 6 回	ロシア・バレエの世界 2	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第 7 回	ロシアの音楽：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	19 世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。
第 8 回	ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第 9 回	ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。
第 10 回	ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半	ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。
第 11 回	ロシア文学：19 世紀後半～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第 12 回	ロシア文学：19 世紀後半～ 20 世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴアンギャルド、フォルマリズム）	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。
第 13 回	ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	
第 14 回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AV ライブラリーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の 60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います、多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみなさん一人ひとりが行うことになります。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／ロシアの歴史 1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝の治世について。
第 2 回	ロシアの歴史 2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第 3 回	ロシアの歴史 3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第 4 回	ロシアの歴史 4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第 5 回	ロシアの歴史 5	雪解けから停滞へ、パレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第 6 回	ソ連映画 1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第 7 回	ソ連映画 2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

第 8 回	ソ連映画 3	反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF 映画を概観するとともに、ペレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第 9 回	ロシア映画 4	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第 10 回	ロシア映画 5	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
第 11 回	ロシア・アニメ 1	黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
第 12 回	ロシア・アニメ 2	アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。
第 13 回	ロシア美術 1	イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。
第 14 回	ロシア美術 2	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AV ライブラリーの利用を勧めます。期末レポートの作成には 1 週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付するか、もしくは学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場や学習支援システムで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の 60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %), Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第 2 回	発音	ピンインの復習
第 3 回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第 4 回	人称代名詞と指示代名詞	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第 5 回	会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第 6 回	述語	「是」その他
第 7 回	授業内発表（1）	在と有
第 8 回	受け答え	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第 9 回	場所と方位	ものの尋ね方
第 10 回	数量詞と連体修飾語	レストランでの会話を作成する
第 11 回	疑問文	副詞と時間詞を学ぶ
第 12 回	会話（2）	講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第 13 回	連用修飾語	「了」の様々を知る
第 14 回	授業内発表（2）	買い物する時の会話パターンを作成する
第 15 回	完了と変化	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第 16 回	会話（3）	三量補語と離合詞
第 17 回	助動詞と前置詞構造	三量補語と離合詞
第 18 回	授業内発表（3）	口頭テストを行う
第 19 回	三量補語	
第 20 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回 1 時間ほどの予習・復習をする。また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

またそれぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。

日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第 2 回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第 3 回	比較と連動	比較文と連動文
第 4 回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第 5 回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第 6 回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第 7 回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第 8 回	結果補語	結果補語の説明
第 9 回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第 10 回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第 11 回	処置と倒置	処置文と倒置文
第 12 回	複文一	複文の様々な知る
第 13 回	複文二	複文の後半
第 14 回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週 1 時間を目途に予習・復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test: 60%

presentation: 40%

LANc200LA

中国語作文初級 I

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

※定員制（15 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳ができる段階まで力をつけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを事前に配り、予習してもらいます。授業中にチェックします。必要に応じて授業後の指導もできます。

社会情勢に合わせてオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合もあります。その時、「学習支援システム」でお知らせします。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	数字の使い方（一）	例文解説
3 回	数詞の使い方（二）	翻訳の練習
4 回	「是」の使い方（一）	例文解説
5 回	「是」の使い方（二）、 一日の行動	翻訳の練習
6 回	連体修飾語 + 的 + 被修飾語	例文解説、翻訳の練習
7 回	「有」構文、「在」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	疑問詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	程度補語の使い方	例文解説、翻訳の練習
12 回	アスペクト（一）	例文解説
13 回	アスペクト（二）	翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業にてプリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施し 40 % にします。ふだんの成績は 60 % にします。再開されなかった場合には、毎回の課題の実施状況によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって、内容を調整する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(40%), in-class contribution(60%).

LANc200LA

中国語作文初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

※定員制（15 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳できる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず中国語作文の基礎を理解してもらい、基本的な文法事項や重要な文型について詳しく説明します。それを基に、単文を中心とした練習問題を解くことによって基礎的な作文能力を高めていきます。必要に応じて授業後の指導もできます。

社会情勢に合わせてオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合もあります。その時、「学習支援システム」でお知らせします。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	能願動詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
2 回	方向補語	例文解説、翻訳の練習
3 回	結果補語	例文解説、翻訳の練習
4 回	可能補語	例文解説、翻訳の練習
5 回	兼語文	例文解説、翻訳の練習
6 回	受身文	例文解説、翻訳の練習
7 回	「是……的」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	存現文	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	「把」構文	例文解説、翻訳の練習
12 回	動量補語・時量補語	例文解説、翻訳の練習
13 回	複文・「了」の使い方	例文解説、翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施し、40 %にし、ふだんの成績は 60 %にする。再開されなかった場合には、毎回の課題の出来具合によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高く評価された。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって内容を調整することがあります。

【Outline (in English)】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(40%), in-class contribution(60%).

LANc200LA

中国語視聴覚初級 I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制（35 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検 3 級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第 1 課	文法理解と応用
3	第 1 課	会話と応用
4	第 1 課	読解文の理解と応用
5	第 2 課	文法理解と応用
6	第 2 課	会話と応用
7	第 2 課	読解文の理解と応用
8	第 3 課	文法理解と応用
9	第 3 課	会話と応用
10	第 3 課	読解文の理解と応用
11	第 4 課	文法理解と応用
12	第 4 課	会話と応用
13	第 4 課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度、小テスト）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC 等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制（35 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第5課	文法理解と応用
3	第5課	会話と応用
4	第5課	読解文の理解と応用
5	第6課	文法理解と応用
6	第6課	会話と応用
7	第6課	読解文の理解と応用
8	第7課	文法理解と応用
9	第7課	会話と応用
10	第7課	読解文の理解と応用
11	第8課	文法理解と応用
12	第8課	会話と応用
13	第8課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度、小テスト）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK（☐☐水平考☐）1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

中国語が好きな人が集まりますので、情報交換もできて、いつも楽しいクラスです。

【到達目標】

春学期は HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。

秋学期は HSK3 - 4 級合格を目指します。

毎年多くの学生が合格しています。

この授業には中国語が好きな学生が集まってきます。中華圏のアイドルの話で盛り上がることもあります。

リラックスした雰囲気の中、マイペースで学習してもらえるように工夫していきます。

ただストレスのない雰囲気なので、非常にストイックな人は向かないかもしれません。初回の授業に出てから履修を決めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。

今年度から単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めてもらいます。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます

13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

過去問はプリントを配布します。
今年度から以下のテキストを使用します。大学生協を通じて購入すると割引価格で購入できます。かなり安くなるので、生協からの購入をおすすめします。
初回授業では使用しません。履修を決めてから購入してください。
HSK/中検対応
『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社

【参考書】

HSK 過去問、HSK 公式アプリ単語

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。
積極的な学生には加点します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。
同時にリスニングのトレーニングを多く行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。
この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。
中国語が好きな、意欲的な学生の参加を歓迎します。
いつも楽しいクラスです。
ほぼ全員が 3 級に合格しています。

【到達目標】

HSK 3－4 級合格以上を目指します。
毎年多くの人が合格しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3 級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
2	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
3	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
4	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
5	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
6	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
7	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
8	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
9	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
10	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
11	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
12	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
13	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
14	授業の総まとめと期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。
今年度から以下の単語帳テキストを使用します。
大学生協から購入すると大きな割引があるので、大学生協からの購入をおすすめします。
『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

平常点のみで評価します。

HSK 合格者は S ランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から単語帳テキストを使用します。

またリスニング教材をより一層充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe200LA

中国語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (60 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語ということばを通して、中国文化、また、中国という国について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみえる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。

教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。

質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、大学の学修支援システムやメールを利用します。

受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおもいます。

なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととします。

詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ことばとは何か	あまりにも身近すぎて気づきにくいことばのはたらきについて考えます。
②	類型論からみた中国語	英語や日本語と比較した中国語の特徴
③	中国語の音韻体系－その1	声調・韻母・声母
④	中国語の音韻体系－その2	有声音・無声音等
⑤	中国語文法概説－その1	品詞分類
⑥	中国語文法概説－その2	形態素・単語・フレーズ・センテンス
⑦	中国語文法概説－その3	承前
⑧	中国語の語彙－その1	語彙からみる中国的発想法
⑨	中国語の語彙－その2	外来語・新語・流行語
⑩	中国語の語彙－その3	中国語になった日本語と日本語になった中国語
⑪	文語と白話	書き言葉と話し言葉
⑫	中国語の方言	言語の変化－その1

- ⑬ 大陸の中国語と台湾の 言語の変化－その2
中国語
- ⑭ まとめと試験 論述式の試験をおこないます。ま
まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のまとめや課題をトピック毎に提出してもらいます。
一般的に大学の基準では、授業時間のほか、準備・復習、合わせて
4 時間が標準的学習時間とされています。
本授業もそれを前提におこないます。

【テキスト（教科書）】

教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。
また学修支援システムにも PDF を UP します。

【参考書】

・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』，大修館，1967 年
・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』，光生館，1986 年
・木村英樹，『中国語はじめての一步』，ちくま新書，1996 年
・藤堂明保，『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3），光生館，
1971 年
・阿辻哲次，『図説漢字の歴史』（普及版），1989 年
・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』，三省堂，1995 年

【成績評価の方法と基準】

まとめと課題（30 %）、期末試験（70 %）
まとめは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本
的にトピック毎に提出してもらいます。
期末試験としてレポート（3200 字程度）を提出してもらいます。
レポートの題目は自身で設定してください。
ただし、以下の 3 点、すべてについて具体例をあげながら考察する
こと。

- ①「中国語ということば」
- ②「外国語を学ぶということ」
- ③「人間にとってことばとは」

評価の基準は、

- (1) 講義の内容をふまえているか、
- (2) ことばをめぐる問題を多様な角度から捉えているか、
- (3) 自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、

の 3 点です。

レポートは「まとめ」や「課題」を利用して作成できるよう、普段
から心がけておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国
語を母語とする人もいます。受講理由は様々でしょうが、中国語を
学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって
面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【その他の重要事項】

※ 4 月 30 日（木）に最初の資料をアップロードする予定です。
※ それまでは参考文献にあげた文献を読むなどしてください。
（かなり難しいものも含まれていますのでかならずしも挙げたもので
なくともかまいません。

また書籍以外でも中国語に関するものであればなんでもかまいま
せん）

※ それまでの連絡は掲示板、もしくはメールにてどうぞ。

今年是对面での授業ができずに残念ですが、その分、より丁寧に、よ
り分かりやすい授業となるよう心がけたいと思います。

このような形式での授業は初めてですので色々試行錯誤するとおも
いますがどうぞよろしくお願いします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through Chinese language, we will think about Chinese
culture and view of the world.

【Learning Objectives】

I hope that we will realize how different the world seen through
the Chinese language is from the world seen through the
Japanese language. We

will also try to make new discoveries about ourselves.

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Summary and assignments (30%), final exam (70%)

The summary is to check your understanding of the lecture,
and is to be submitted basically for each topic.

You will be required to submit a report (about 3200 words) as
the final exam.

The evaluation criteria are as follows

(1) Whether the content of the lecture has been taken into
account.

(2) Do you understand the issues surrounding language from
various angles?

(3) Do you have your own ideas and express them in your
own words?

ARSe200LA

中国語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (60 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典や中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国的思考法を中国語や漢字という文字体系といかに結びつけているのか、を理解してもらえればとおもいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。
教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。
質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、大学の学修支援システムやメールを利用します。
受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおもいます。
なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととします。
詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国文化の思考基底－その1	中国的世界観・人間観の特徴
②	中国文化の思考基底－その2	儒家思想と中国の歴史・文化①
③	中国文化の思考基底－その3	儒家思想と中国の歴史・文化②
④	中国文化の思考基底－その4	中国文化における道家思想の役割
⑤	中国文化の思考基底－その5	古い中国と新しい中国①
⑥	中国文化の思考基底－その6	古い中国と新しい中国②
⑦	漢字学の伝統－その1	中国の伝統的学問分類と漢字学の位置づけ
⑧	漢字学の伝統－その2	『説文解字』と許慎
⑨	漢字の歴史－その1	甲骨文・金文・戦国文字
⑩	漢字の歴史－その2	小篆・隸書・楷書
⑪	漢字の歴史－その3	文字の社会的機能の変遷
⑫	漢字の歴史－その4	新中国における文字改革
⑬	日本人と漢字	日本における漢字の受容
⑭	まとめと試験	論述形式の試験をおこないます。 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
・木村英樹、『中国語はじめての一步』、ちくま新書、1996 年
・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30 %）、期末試験（70 %）

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②漢字という文字、書写言語と音声言語との違い、人間にとって文字とは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の 3 点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々でしょうが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through the classics and characteristics of Chinese characters, we will understand Chinese thinking process and view of the world.

【Learning Objectives】

To understand how the Chinese way of thinking is connected to the Chinese language and the Chinese character system.

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Summary and assignments (30%), final exam (70%)

The summary is to check your understanding of the lecture, and is to be submitted basically for each topic.

You will be required to submit a report (about 3200 words) as the final exam.

The evaluation criteria are as follows

(1) Whether the content of the lecture has been taken into account.

(2) Do you have a variety of perspectives on issues such as the Chinese character, the difference between written and spoken language, and what writing means to humans?

(3) Do you have your own ideas and express them in your own words?

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (60 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。
毎回コメントペーパーを出してもらいます。
最終回にはレポートを提出してもらいます。
課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 1 回)
第 6 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめとレ ポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (60 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008 年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回講義形式で行います。

毎回課題としてコメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 1 回）
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 2 回）
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 3 回）
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 1 回）
第 6 回	レポート映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 2 回）
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 3 回）
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 1 回）
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 2 回）
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 3 回）
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 1 回）
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 2 回）
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 3 回）
第 14 回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は 12 個程度である。

2 回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章を Hoppii で提出する。受け取った Feedback をよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi nombre 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi nombre 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mi familia 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mi familia 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi ciudad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi ciudad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi universidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi universidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Un día normal 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Un día normal 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Descripciones 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Descripciones 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	春学期の総復習	春学期の総復習

14 春学期の理解度の確認 春学期の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した 12 個程度の短文を次の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価:30 %

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題:30 %

期末試験:40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the spring term the course will be held online, in real time using ZOOM.

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 12.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your pairs.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 12 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は 12 個程度である。

2 回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章を Hoppii で提出する。受け取った Feedback をよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi mejor viaje 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi mejor viaje 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mis gustos 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mis gustos 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi mejor regalo 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi mejor regalo 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi personaje preferido 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi personaje preferido 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Después de mi graduación 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Después de mi graduación 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Navidad 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Navidad 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習

13 秋学期の総合復習 秋学期の総合復習

14 秋学期の理解度の確認 秋学期の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した 12 個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価:30 %

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題:30 %

期末試験:40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the fall term the course will be held online, in real time using ZOOM.

We will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 12.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your pears.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 12 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

現代のスペイン語 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおりませっていく。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》 Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), term-end examination(50%), and quizzes (20%).

LANs200LA

現代のスペイン語Ⅱ

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養うことを目的とする。特に、この授業では、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項の解説を織りまぜながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

秋学期が始まるまでに「学習支援システム」で指示する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 %、学期末試験：50 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修希望者は春学期の「現代のスペイン語Ⅰ」で選抜を受けること。
秋学期の本授業のみの履修を希望する場合も同様である。
・辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》 Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination(50%).

ARSa200LA

スペイン語の世界Ⅰ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採用。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
5	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
6	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
7	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
8	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
9	担当者によるプレゼンテーション (例：EU とスペイン)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する

10	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexit のスペインへの余波)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
11	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
13	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。
また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.
Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

ARSa200LA

スペイン語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。
また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採用。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	担当者によるプレゼンテーション (例：メキシコの映画産業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
5	担当者によるプレゼンテーション (例：アルゼンチンのスポーツ事情)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
6	担当者によるプレゼンテーション (例：キューバの現在)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
7	担当者によるプレゼンテーション (例：ラテンアメリカの文学)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
8	担当者によるプレゼンテーション (例：フィリピンに残るスペイン語)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する

9	担当者によるプレゼンテーション (例：日本のスペイン語話者)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
10	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスタートアップ企業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
11	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏の中の日本企業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
12	担当者によるプレゼンテーション (例：コスタリカについて)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
13	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏での日本発サブカルチャーの受容)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

LANK200LA

朝鮮語 3 C I (コミュニケーション 2017 年度以降入学者)

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

原則対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習他
2	第 1 課	語基の復習他
3	第 1 課	語基の復習他
4	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
5	第 2 課	長い不可能形、助詞「～に」の用法など
6	中間試験	中間試験
7	第 3 課	文中の疑問形、強調表現
8	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞など
9	第 4 課	もうひとつの意思・推量形、シオッ不規則用言
10	第 4 課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる語尾など
11	第 5 課	用言の体言形、「～することはする」
12	第 5 課	いくつかの助詞、「～する方だ」など
13	春学期のまとめ	春学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。その際の復習時間の目安は 1 回につき 30 分以上となります。

【テキスト（教科書）】

『しくみで学ぶ中級朝鮮語』、内山政春著、白水社、2022 年、2600 円

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20 %
 中間試験 40 %
 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ペアワークの時間を増やすこと。

【その他の重要事項】

第 1 回はオンラインで行います。第 2 回目以降は原則対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

It aims to comprehensively improve each ability of "reading, writing, listening, talking" on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3CⅡ (コミュニケーション) 2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力 (=言いたいことが言える力) をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

原則対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 6 課	疑問詞の不定詞的用法など
2	第 6 課	大過去形など
3	第 6 課	へヨ体の命令形など
4	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形など
5	第 7 課	接続形「～ながら」、指定詞の第Ⅲ語基など
6	中間試験	中間試験
7	第 8 課	指定詞の否定形を用いた接続形など
8	第 8 課	間接話法その 1 など
9	第 9 課	ハンダ体、間接話法その 2 など
10	第 9 課	態と受身形など
11	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基など
12	第 10 課	「～について、関して」、もう 1 つの過去連体形など
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。その際の復習時間の目安は 1 回につき 30 分以上となります。

【テキスト (教科書)】

『しくみで学ぶ中級朝鮮語』, 内山政春著, 白水社, 2022 年, 2600 円

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20 %

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

ペアワークの時間を増やすこと。

【その他の重要事項】

第1回はオンラインで行います。第2回目以降は原則対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

Continuing from the spring semester, it aims to comprehensively improve each ability of "Reading, Writing, Listening, Talking".

LANk200LA

朝鮮語 4 B I (視聴覚)

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。
 一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通じ、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

ZOOM と Google Classroom を用いる。学習支援システムで詳細を確認すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さん とオモニ ①② シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さん とオモニ ③④ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さん とオモニ ⑤⑥ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さん とオモニ ⑦⑧ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さん とオモニ ⑨⑩ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	歌など 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

7	サランバンのお客さん とオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さん とオモニ ⑬⑭ テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さん とオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さん とオモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さん とオモニ ⑲⑳ シークレットガーデン 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さん とオモニ 最終回 シークレットガーデン 8	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40 %、テスト 60 %
4 回以上の欠席で単位は出ない

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

pc あるいは tablet

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生のレベルが高くなる傾向があります。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

【Grading criteria /policy】

Participation20%, Assignments20%, Exam60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA

朝鮮語 4 B II（視聴覚）

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

授業形態は変更の可能性もあるため、学習支援システムで詳細を確認すること。オンラインの場合は、Zoom と Google Classroom を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 4 小テスト	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 5 テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

9	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	華麗なる遺産 7 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産 8 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 9	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は 2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40 %、テスト 60 %
4 回欠席の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

☑か tablet

【その他の重要事項】

2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生のレベルが高くなる傾向があります。課題も多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA

朝鮮語 5 A I（講読）

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。短いエッセイから、短編までさまざまな作家の文章を幅広く読むとともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や韓国の文化についても考察する。

日本で翻訳されている韓国文学と合わせ授業中に自ら原書のテキストを読むことで、各学習者が好きな韓国文学に出会えることを目標とする。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引きながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

指定したエッセイや短編小説を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていきます。原則として、各自日本語訳した文章を授業内で確認する予習型です。

初回の授業では、韓国文学の文献リストを配布するとともに、韓国文学に関する互いの関心を共有します。

第 2・3 回の授業ではハムニダ体の文章を題材として、ストーリーのある文章を読みます。

第 4 回以降、エッセイや短編作品を中心に韓国語の文章を読みます。授業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で読める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。

第 14 回（最終授業）では、アクティブラーニングとして各履修者が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、韓国文学の文献リストの配布
2	ハムニダ体の講読	ストーリーのある文章を読んで、読解に慣れる。
3	ハムニダ体の講読・ディスカッション (2)	ストーリーのある文章を読んで、読解に慣れる。
4	エッセイの講読・ディスカッション (1)	エッセイを読んで、内容について議論する
5	エッセイの講読・ディスカッション (2)	エッセイを読んで、内容について議論する
6	エッセイの講読・ディスカッション (3)	エッセイを読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション (1)	小説を読んで、内容について議論する

8	小説の講読・ディス カッション (2)	小説を読んで、内容について議論 する
9	小説の講読・ディス カッション (3)	小説を読んで、内容について議論 する
10	小説の講読・ディス カッション (4)	小説を読んで、内容について議論 する
11	小説の講読・ディス カッション (5)	小説を読んで、内容について議論 する
12	小説の講読・ディス カッション (6)	小説を読んで、内容について議論 する
13	小説の講読・ディス カッション (7)	小説を読んで、内容について議論 する
14	アクティブ・ラーニン グ 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

チョン・イヒョン、イ・ギホ、キム・ジュンヒョク、チャン・リュジン、
チェ・ウニョン、パク・サンヨン、チャン・ガンミョン、チョン・
ソンテなど日本でも翻訳されている作家を中心に、エッセイ、短
編を扱う。
講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

『完全版 韓国・フェミニズム・日本』斎藤真理子編集（2019、河
出書房新社）
『シソンから』チョン・セラン著、斎藤真理子訳（2021、亜紀書房）

『どきどき僕の人生』キム・エラン著、きむふな訳（2013、クオン）
『マスイートソウル』チョン・イヒョン著、清水由希子訳（2007、
講談社）
『韓国が嫌いで』チャン・ガンミョン著、吉良佳奈江訳（2020、こ
ろから）
『ショウコの微笑』チェ・ウニョン著、吉川 風監修、
牧野 美加、横本 麻矢、小林 由紀 翻訳（2018、クオン）
『まだまだという言葉』クォン・ヨソン著、斎藤真理子訳（2020、河
出書房）

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度 40%、課題 40%発表、アクティブラーニング
20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に講読テキストに関連した朝鮮語の文章を配布し、読解の練
習をしてもらう場合もあるため、辞書は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

長い文章の講読は少しハードルが高いかもしれませんが、韓国で話
題になっている本やエッセイを読むことは、韓国社会や韓国文化に
対するより深い理解へとつながります。
初級・中級レベルの朝鮮語の学習を終えてエッセイや小説の読解に
挑戦してみたいという学生の他に、韓国に留学したことがあって読
解力をもっと高めたいという学生や、文学作品の翻訳に関心がある
韓国の留学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

In the class, intermediate learners of Korean use dictionaries
to read modern Korean literature.
The ultimate goal is to find out what Korean literature each
learner likes by reading various Korean textbooks.

LAnk200LA

朝鮮語 5 A II（講読）

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学
に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。
ドラマの原作や映画のシナリオなども扱い、さまざまな作家の文章
を幅広く読むとともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や
韓国の文化についても考察する。

【到達目標】

1. 書き言葉と問接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解する
ことができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を
引きながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問
題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学
部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

指定したエッセイや短編小説、長編小説の一部を、文法内容や関連
語彙を確認しながら読み解いていきます。原則として、各自日本語
訳した文章を授業内で確認する予習型です。
初回の授業では、春学期に読んだテキストを踏まえて、韓国文学に
関する互いの関心を共有します。
第 2 回以降、短編作品を中心に韓国語の文章読解を進めますが、授
業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で読
める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。
第 14 回（最終授業）では、アクティブラーニングとして各履修者
が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション エッセイの講読	関心の共有 エッセイを読んで、内容について 議論する
2	小説の講読・ディス カッション (1)	小説を読んで、内容について議論 する
3	小説の講読・ディス カッション (2)	小説を読んで、内容について議論 する
4	小説の講読・ディス カッション (3)	小説を読んで、内容について議論 する
5	小説の講読・ディス カッション (4)	小説を読んで、内容について議論 する
6	小説の講読・ディス カッション (5)	小説を読んで、内容について議論 する
7	小説の講読・ディス カッション (6)	小説を読んで、内容について議論 する
8	小説の講読・ディス カッション (7)	小説を読んで、内容について議論 する
9	小説の講読・ディス カッション (8)	小説を読んで、内容について議論 する

10	小説の講読・ディスカッション (9)	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション (10)	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション (11)	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション (12)	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブ・ラーニング 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

チョン・イヒョン、イ・ギホ、キム・ジュンヒョク、チャン・リュジン、チェ・ウニョン、パク・サンヨン、チャン・ガンミョン、チョン・ソントンなど日本でも翻訳されている作家を中心に、エッセイ、短編を扱う。

講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

『完全版 韓国・フェミニズム・日本』斎藤真理子編集（2019、河出書房新社）

『シンソンから』チョン・セラン著、斎藤真理子訳（2021、亜紀書房）

『どきどき僕の人生』キム・エラン著、きむふな訳（2013、クオン）

『マイスイートソウル』チョン・イヒョン著、清水由希子訳（2007、講談社）

『韓国が嫌いで』チャン・ガンミョン著、吉良佳奈江訳（2020、ころから）

『ショウコの微笑』チェ・ウニョン著、吉川 風監修、牧野 美加、横本 麻矢、小林 由紀 翻訳（2018、クオン）

『まだまだという言葉』クォン・ヨソン著、斎藤真理子訳（2020、河出書房）

【成績評価の方法と基準】

・授業の出席・参加度 40 %、課題 40 %、アクティブラーニング 20 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に予習なしで購読する場合もあるため、辞書は必ず持参すること。
ハングル入力ができることが望ましい。

【その他の重要事項】

大学で朝鮮語を学んでいない学生も履修は可能です。レベルについては事前に教員に相談してください。
文学作品に関心のある留学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

In the class, intermediate learners will try to understand Korean society by reading Korean literature.
The ultimate goal is to find out the favorite Korean literature for each learner.

LANk200LA

朝鮮語 5 B I（表現法）

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。

韓国の時事ニュースに触れ、時事単語、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。学生のレベルに合わせ、導入用に朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読み、伝統文化への理解も深めたりする。中級向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をすることで、話すことに慣れていく。慣れてきたら、PPT を作成してプレゼンテーションの練習も随時していきたい。後半は昔話や時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「おひさまおつきさま」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「トラと干し柿」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』 BTS、KPOP 再燃するか。	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	『時事韓国語』 韓国映画 1000 万人、	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	『時事韓国語』 正月番組特集	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	『時事韓国語』 南北合同チーム初登場	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』 「シェアハウス人気」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 「無人化加速」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』 「小 1 保護者 10 時出勤」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

11	『時事韓国語』「二つの母国語」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』「高齢者10人に1人認知症」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』「変わる採用試験場」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習・復習すること。知らない単語を確認しておく。毎回、身近な話題について韓国語で話しますので、話題を準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『KBS ニュースで学ぶ時事韓国語』浜之上幸監修、白帝社、2019年、2400円+税。昔話は授業時にプリントを配布。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80 %.

LANK200LA

朝鮮語5BⅡ（表現法）

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1単位

※定員制（30名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解を深めたり、時事ニュースに触れ、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をする。言葉がすぐ出てくるよう、とにかく話すことに慣れること。その後は、時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明
	『時事韓国語』	・レベルチェック
	11「政府、原発新設白紙化問題」	・自己紹介
2	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング
	12「はじめて呼ぶお父さん、お母さん」、	グ、内容理解
	13「国政の安定化、協力と統合」	
3	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング
	14「南北 65 年ぶり終戦宣言」	グ、内容理解
	15「気候変動とウミガメ」	
4	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング
	16「日本の公衆トイレ」	グ、内容理解
	17「米朝 70 年の対立に終止符」	
5	18「監視カメラ」	会話、リスニング、リーディング
	19「5 G 先取り競争」	グ、内容理解
6	20「気象ニュース」	会話、リスニング、リーディング
	21「ヨイドの桜」	グ、内容理解

7	22「珍道犬」 23「仮想通貨」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』 24「変わる採用試験現場」 25「不動産事情、ソウル、地方」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 26「経済成長と就業者の増加」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』 31「ワールドカップ韓国サッカー旋風」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』 32「野球ニュースロケット 5 連勝中」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』 33「ニュース解説、巨大な壁を打ち破った英雄」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』 34「ドラマの名所ソウル桂洞」 35「蚊を追ひ払う方法、ご存知？」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	36「そば粉バスタ、干しだらのカルグクス」 ●学習のまとめ	内容理解、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、身近な話題について、簡単な会話をしますので、話題を準備をしておくこと。毎回、課題の復習を十分すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『KBS ニュースで学ぶ時事韓国語』浜之上幸監修、白帝社、2400 円＋税。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80 %.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。

ひとつのテーマについて 2 週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと 2 週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第 2 回	解説と映画鑑賞①－朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へー南北分断のリアル DMZ
第 3 回	解説と映画鑑賞②－朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像するー南北兵士の心理描写
第 4 回	韓国映画史－時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第 5 回	解説と映画鑑賞③－激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を個人史で綴るー「最も平凡な父の最も偉大な話」
第 6 回	解説と映画鑑賞④－激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」－朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第 7 回	韓国近現代史と映画－日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第 8 回	解説と映画鑑賞⑤－日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城（現ソウル）を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写ー親日派暗殺作戦
第 9 回	解説と映画鑑賞⑥－日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現

第10回	最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画	時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
第11回	解説と映画鑑賞⑦ー青春の思い出	初恋のロマンス、青春の思い出
第12回	解説と映画鑑賞⑧ー青春の思い出	青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
第13回	映画と講義について	映画は学習手段のひとつとして有効かー韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
第14回	春学期のまとめと期末レポートの提示	期末レポートの提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

韓国映画100年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、リアクションペーパー、感想文など）50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

・第1回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM 情報は授業開始の前週までに HOPPI でお知らせします。

・第2回目以降の授業の実施形態については第1回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.

The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。

ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと2週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ一究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおして韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画ー高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画ー犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯についてー被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値ー人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。
第9回	解説と映画鑑賞⑥ー宗教とは	宗教とは何か、人間とは何かー人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第10回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力についてー2010年代韓国政府を実例に

- 第 11 回 解説と映画鑑賞⑦ー ド 国家とは何か。
キュメンタリー映画 国家の存在理由ー国民の生命・財産の保護。
- 第 12 回 解説と映画鑑賞⑧ー ド 真実究明と記者・言論の役割と力
ドキュメンタリー映画
- 第 13 回 韓国映画史を振り返るー 100 年史 創成期ールネサンス期まで
- 第 14 回 秋学期のまとめとレポートの提示 レポートの提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

韓国映画 100 年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017 年、3520 円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015 年、3680 円

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、リアクションペーパー、感想文など）50%、期末レポート 50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM 情報は授業開始の前週までに HOPPI でお会知らせします。
- ・第 2 回目以降の授業の実施形態については第 1 回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.
The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

